(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2021-186425
(P2021-186425A)
(43)公開日　令和3年12月13日(2021.12.13)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A63F 7/02	(2006.01)	A63F	7/02	304D	2C088

審査請求 未請求　請求項の数 3　OL　（全 947 頁）

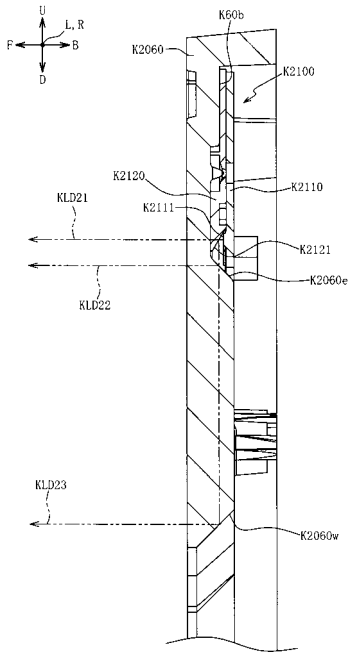
(21)出願番号　特願2020-96640(P2020-96640)
(22)出願日　令和2年6月3日(2020.6.3)

(71)出願人　000144522
株式会社三洋物産
愛知県名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
(74)代理人　110000534
特許業務法人しんめいセンチュリー
(72)発明者　清水　拓
名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
株式会社三洋物産内

Fターム(参考)　2C088 EB78

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【要約】
【課題】光照射手段の配置を改善できる遊技機を提供すること。
【解決手段】光照射装置Ｋ２１００からの光はベース板Ｋ２０６０の厚さ方向に対して交差する方向でベース板Ｋ２０６０に進入し得る位置に配置されることから、ベース板Ｋ２０６０の厚さ幅の内側で光の照射範囲を拡げられ、光により照らす面積を増大させることができることからベース板Ｋ２０６０を明るく視認させることができると共に、光照射装置Ｋ２１００をベース板Ｋ２０６０の後方に離して配置する必要がないので、ベース板Ｋ２０６０の背面側に可動役物の配設スペースを十分確保することができる。即ち、光照射装置Ｋ２１００の配置を改善することができる。
【選択図】図４２２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
正面側に遊技領域が形成される遊技盤と、その遊技盤に光を照射する光照射手段と、を備え、
前記光照射手段は、前記遊技盤の厚さ方向に対して交差する方向で光が前記遊技盤に進入し得る位置に配置されることを特徴とする遊技機。
【請求項２】
前記光照射手段は、前記遊技盤の後方に配設されることを特徴とする請求項１記載の遊技機。
【請求項３】
前記遊技盤は前記遊技領域が形成される範囲外において背面側に凹設される凹設部を備え、その凹設部により形成される空間に前記光照射手段が配置されることを特徴とする請求項１又は２に記載の遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パチンコ機などの遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
パチンコ機等の遊技機において、遊技盤の背面側に発光基板が配設され、発光基板に配設されるＬＥＤ等の発光手段から正面側へ向けて光が照射されることで、遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材を明るく照らすように構成される遊技機がある（特許文献１）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００６－３３３８８７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、上述した従来の遊技機では、光照射手段の配置に改善の余地があるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、光照射手段の配置を改善できる遊技機を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
この目的を達成するために請求項１記載の遊技機は、正面側に遊技領域が形成される遊技盤と、その遊技盤に光を照射する光照射手段と、を備え、前記光照射手段は、前記遊技盤の厚さ方向に対して交差する方向で光が前記遊技盤に進入し得る位置に配置される。
【０００６】
請求項２記載の遊技機は、請求項１記載の遊技機において、前記光照射手段は、前記遊技盤の後方に配設される。
【０００７】
請求項３記載の遊技機は、請求項１又は２に記載の遊技機において、前記遊技盤は前記遊技領域が形成される範囲外において背面側に凹設される凹設部を備え、その凹設部により形成される空間に前記光照射手段が配置される。
【発明の効果】
【０００８】
請求項１記載の遊技機によれば、光照射手段の配置を改善できる。
【０００９】
請求項２記載の遊技機によれば、請求項１記載の遊技機の奏する効果に加え、光照射手

段を遊技盤で隠すように配設することができ、見栄えを良くすることができる。
【００１０】
請求項３記載の遊技機によれば、請求項１又は２に記載の遊技機の奏する効果に加え、遊技盤の背面側のスペースを確保し易くすることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１１】
【図１】第１実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図２】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図３】パチンコ機の背面図である。
【図４】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図５】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図６】遊技盤及び動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図７】動作ユニットの正面図である。
【図８】動作ユニットの正面図である。
【図９】動作ユニットの正面図である。
【図１０】動作ユニットの正面図である。
【図１１】動作ユニットの正面図である。
【図１２】動作ユニットの正面図である。
【図１３】第１動作ユニットの正面斜視図である。
【図１４】第１動作ユニットの背面斜視図である。
【図１５】第１動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１６】第１動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１７】回転動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図１８】回転動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図１９】（ａ）及び（ｂ）は、回転動作ユニットの背面図である。
【図２０】（ａ）及び（ｂ）は、回転動作ユニットの背面図である。
【図２１】第１動作ユニットの正面図である。
【図２２】第１動作ユニットの正面図である。
【図２３】第１動作ユニットの正面図である。
【図２４】第１動作ユニットの背面図である。
【図２５】第１動作ユニットの背面図である。
【図２６】第１動作ユニットの背面図である。
【図２７】第２動作ユニットの正面斜視図である。
【図２８】第２動作ユニットの背面斜視図である。
【図２９】第２動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図３０】第２動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図３１】回転動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図３２】回転動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図３３】（ａ）及び（ｂ）は、回転動作ユニットの背面図である。
【図３４】（ａ）及び（ｂ）は、回転動作ユニットの背面図である。
【図３５】第３動作ユニットの正面斜視図である。
【図３６】第３動作ユニットの背面斜視図である。
【図３７】第３動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図３８】第３動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図３９】開閉動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図４０】開閉動作ユニットの分解背面斜視図である。
【図４１】第３動作ユニットの開閉動作ユニットの背面図である。
【図４２】第３動作ユニットの開閉動作ユニットの背面図である。
【図４３】導光板ユニットの分解正面斜視図である。
【図４４】導光板ユニットの分解背面斜視図である。

【図４５】補助導光板ユニットの分解正面斜視図である。
【図４６】補助導光板ユニットの分解背面斜視図である。
【図４７】補助導光板ユニットの背面図である。
【図４８】（ａ）は、図４７のＸＬＶＩＩＩａ－ＸＬＶＩＩＩａ線における補助導光板ユニットの断面図であり、（ｂ）は、図４７のＸＬＶＩＩＩｂ－ＸＬＶＩＩＩｂ線における補助導光板ユニットの断面図である。
【図４９】（ａ）から（ｆ）は、補助導光板ユニットの模式正面図である。
【図５０】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図５１】遊技盤の分解背面斜視図である。
【図５２】補助導光板ユニットの分解正面斜視図である。
【図５３】補助導光板ユニットの分解背面斜視図である。
【図５４】補助導光板ユニットの正面図である。
【図５５】図５４のＬＶ－ＬＶ線における補助導光板ユニットの断面図である。
【図５６】下流側案内部材の分解正面斜視図である。
【図５７】下流側案内部材の分解背面斜視図である。
【図５８】視認態様変化シートの構成を模式的に示す模式図である。
【図５９】（ａ）及び（ｂ）は、方向視の違いによる下流側案内部材の見え方の変化を示す模式図である。
【図６０】第２実施形態における第１動作ユニットの背面図である。
【図６１】第３実施形態における第１動作ユニットの模式背面図である。
【図６２】第１動作ユニットの模式背面図である。
【図６３】第１動作ユニットの模式背面図である。
【図６４】（ａ）及び（ｂ）は、第４実施形態における球案内ユニットの断面図である。
【図６５】（ａ）及び（ｂ）は、第５実施形態における回転動作ユニットの背面図である。
【図６６】第６実施形態における流路前側構成部材の断面図である。
【図６７】第７実施形態におけるパチンコ機の背面図である。
【図６８】基板ボックスの正面斜視図である。
【図６９】基板ボックスの背面斜視図である。
【図７０】基板ボックスの正面図である。
【図７１】（ａ）は、基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図７１（ａ）の矢印ＬＸＩｂ方向視における基板ボックスの側面図である。
【図７２】（ａ）は、基板ボックスの部分正面斜視図であり、（ｂ）は、基板ボックスの部分背面斜視図である。
【図７３】（ａ）及び（ｂ）は、基板ボックスの部分正面図であり、（ｃ）及び（ｄ）は、基板ボックスの部分背面図である。
【図７４】（ａ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶａ－ＬＸＸＩＶａ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図７５】（ａ）は、基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、基板ボックスの部分背面図である。
【図７６】図７５（ｂ）のＬＸＸＶＩ－ＬＸＸＶＩ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図７７】（ａ）は、基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、基板ボックスの部分背面図である。
【図７８】（ａ）は、第８実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図７８（ａ）のＬＸＸＶＩＩＩｂ－ＬＸＸＶＩＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、第９実施形態における保護カバーの部分断面図である。
【図７９】（ａ）は、第１０実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図７９（ａ）のＬＸＸＩＸｂ－ＬＸＸＩＸｂ線における基板ボックスの部分断面図で

あり、（ｃ）は、図７９（ａ）のＬＸＸＩＸｃ－ＬＸＸＩＸｃ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｄ）は、図７９（ａ）のＬＸＸＩＸｄ－ＬＸＸＩＸｄ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図８０】（ａ）から（ｃ）は、第１１実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｄ）は、第１２実施形態における基板ボックスの部分断面図である。
【図８１】（ａ）は、第１３実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図８１（ａ）のＬＸＸＸＩｂ－ＬＸＸＸＬｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図８２】（ａ）は、第１４実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、第１５実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｃ）は、図８２（ｂ）のＬＸＸＸＩＩｃ－ＬＸＸＸＩＩｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図８３】（ａ）は、第１６実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、図８３（ａ）のＬＸＸＸＩＩＩｃ－ＬＸＸＸＩＩＩｃ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、基板ボックスの部分断面図である。
【図８４】（ａ）は、第１７実施形態における基板ボックスの保護カバーの正面図であり、（ｂ）は、図８４（ａ）の矢印ＬＸＸＸＩＶｂ方向視における保護カバーの側面図であり、（ｃ）は、図８４（ｂ）の矢印ＬＸＸＸＩＶｃ方向視における保護カバーの背面図である。
【図８５】（ａ）は、基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図８５（ａ）の矢印ＬＸＸＸＶｂ方向視における基板ボックスの側面図であり、（ｃ）は、図８５（ｂ）のＬＸＸＸＶｃ－ＬＸＸＸＶｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図８６】（ａ）は、第１８実施形態における基板ボックスの保護カバーの側面図であり、（ｂ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図８７】（ａ）は、第１９実施形態における基板ボックスの保護カバーの正面図であり、（ｂ）は、図８７（ａ）の矢印ＬＸＸＸＶＩＩｂ方向視における保護カバーの側面図であり、（ｃ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図８８】（ａ）は、第２０実施形態における基板ボックスの保護カバーの部分背面図であり、（ｂ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、第２１実施形態における保護カバーの部分背面図であり、（ｄ）は、図８８（ｃ）のＬＸＸＸＶｉｉｉｄ－ＬＸＸＸＶＩＩＩｄ線における保護カバーの部分断面図である。
【図８９】（ａ）は、第２２実施形態における保護カバーＷｇ５００の部分背面図であり、（ｂ）は、図８９（ａ）のＬＸＸＸＩＸｂ－ＬＸＸＸＩＸｂ線における保護カバーの部分断面図であり、（ｃ）は、第２３実施形態における基板ボックスの部分背面図である。
【図９０】（ａ）は、第２４実施形態における基板ボックスの保護カバーの側面図であり、（ｂ）は、基板ボックスの側面図であり、（ｃ）は、図９０（ｂ）のＸＣｃ－ＸＣｃ線における基板ボックスの断面図である。
【図９１】（ａ）は、第２５実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図９１（ａ）の矢印ＸＣＩｂ方向視における基板ボックスの部分側面図であり、（ｃ）は、保護カバーの背面図である。
【図９２】（ａ）及び（ｃ）は、図９１（ａ）のＸＣＩＩａ部における基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図９２（ａ）のＸＣＩＩｂ－ＸＣＩＩｂ線における基板ボックスＷｊ１００の部分断面図であり、（ｄ）は、図９２（ｃ）のＸＣＩＩｄ－ＸＣＩＩｄ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図９３】（ａ）は、図９１（ａ）のＸＣＩＩａ部における基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図９３（ａ）のＸＣＩＩＩｂ－ＸＣＩＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図９４】（ａ）は、第２６実施形態における基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）

は、図９４（ａ）のＸＣＩＶｂ－ＸＣＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、図９４（ａ）のＸＣＩＶｃ－ＸＣＩＶｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図９５】（ａ）及び（ｃ）は、図９４（ａ）のＸＣＩＶｂ－ＸＣＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）及び（ｄ）は、図９４（ａ）のＸＣＩＶｃ－ＸＣＩＶｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図９６】（ａ）は、第２７実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩｂ－ＸＣＶＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩｃ－ＸＣＶＩｃ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｄ）は、保護カバーの背面図であり、（ｅ）は、図９６（ｄ）のＸＣＶＩｅ－ＸＣＶＩｅ線における保護カバーの断面図である。
【図９７】（ａ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩＩａ部における基板ボックスの背面図であり、（ｂ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩｂ－ＸＣＶＩｂ線における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩｃ－ＸＣＶＩｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図９８】（ａ）は、第２８実施形態における基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、図９８（ａ）のＸＣＶＩＩＩｂ－ＸＣＶＩＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図９９】（ａ）は、第２９実施形態における基板ボックスの部分正面図であり、（ｂ）は、図９９（ａ）の矢印ＸＣＩＸｂ方向視における保護カバーの側面図であり、（ｃ）は、図９９（ａ）のＸＣＩＸｃ－ＸＣＩＸｃ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１００】（ａ）は、第３０実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１００（ａ）のＣｂ－Ｃｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１０１】第３１実施形態における保護カバーの背面図である。
【図１０２】（ａ）は、第３２実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１０２（ａ）のＣＩＩｂ－ＣＩＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１０３】（ａ）は、第３３実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、第３４実施形態における基板ボックスの部分断面図である。
【図１０４】（ａ）は、第３５実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１０４（ａ）のＣＩＶｂ－ＣＩＶｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１０５】第３６実施形態における基板ボックスの部分背面図である。
【図１０６】（ａ）は、第３７実施形態における基板ボックスの部分背面図であり、（ｂ）は、図１０６（ａ）のＣＶＩｂ－ＣＶＩｂ線における基板ボックスの部分断面図である。
【図１０７】（ａ）は、第３８実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｂ）は、第３９実施形態における基板ボックスの部分断面図であり、（ｃ）は、第４０実施形態における基板ボックスの保護カバーの部分背面図である。
【図１０８】第４１実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１０９】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１１０】パチンコ機の背面図である。
【図１１１】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１１２】経路構成装置の分解正面斜視図である。
【図１１３】経路構成装置の部分拡大正面図である。
【図１１４】（ａ）及び（ｂ）は、図１１３のＣＸＩＶａ－ＣＸＩＶａ線における経路構成装置の部分断面図である。
【図１１５】（ａ）及び（ｂ）は、図１１３の範囲ＣＸＶａにおける経路構成装置の部分正面図である。
【図１１６】（ａ）及び（ｂ）は、図１１３の範囲ＣＸＶａにおける経路構成装置の部分

正面図である。
【図１１７】（ａ）及び（ｂ）は、図１１３の範囲ＣＸＶａにおける経路構成装置の部分正面図である。
【図１１８】（ａ）及び（ｂ）は、図１１３の範囲ＣＸＶａにおける経路構成装置の部分正面図である。
【図１１９】図１０９の範囲ＣＸＩＸにおける遊技盤の部分正面図である。
【図１２０】（ａ）は、主制御装置内のＲＯＭの電気的構成を示すブロック図であり、（ｂ）は、第１当たり種別カウンタと特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、（ｃ）は、第２当たり乱数カウンタと普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。
【図１２１】（ａ）から（ｄ）は、普通入賞口（スルーゲート）における球の通過の検出と、電動役物の状態の計時変化の一例を示した図である。
【図１２２】第４２実施形態における遊技盤の分解正面斜視図である。
【図１２３】（ａ）は、正面ユニットの正面図であり、（ｂ）は、正面ユニットの背面図である。
【図１２４】正面ユニットの分解正面斜視図である。
【図１２５】正面ユニットの分解背面斜視図である。
【図１２６】（ａ）は、振分けユニットの正面図であり、（ｂ）は、振分けユニットの背面図である。
【図１２７】（ａ）は、図１２６（ａ）のＣＸＸＶＩＩａ－ＣＸＸＶＩＩａ線における振分けユニットの断面図であり、（ｂ）は、図１２７（ａ）のＣＸＸＶＩＩｂ－ＣＸＸＶＩＩｂ線における振分けユニットの断面図である。
【図１２８】（ａ）及び（ｂ）は、図１２７（ａ）のＣＸＸＶＩＩｂ－ＣＸＸＶＩＩｂ線における振分けユニットの断面図である。
【図１２９】（ａ）から（ｄ）は、検出装置における球の通過の検出と、羽部材の状態の計時変化の一例を示した図である。
【図１３０】図１２３（ａ）のＣＸＸＸ－ＣＸＸＸ線における遊技盤の断面図である。
【図１３１】（ａ）及び（ｂ）は、図１３０のＣＸＸＸＩａ－ＣＸＸＸＩａ線における入賞口ユニット及び送球ユニットの部分断面図である。
【図１３２】第４３実施形態における遊技盤の部分正面図である。
【図１３３】第４４実施形態における遊技盤の部分正面図である。
【図１３４】第４５実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図１３５】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図１３６】パチンコ機の背面図である。
【図１３７】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図１３８】入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１３９】入賞ユニットの背面斜視図である。
【図１４０】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４１】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４２】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４３】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４４】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４５】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４６】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図１４７】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図１４８】（ａ）は、入賞ユニットの正面図であり、（ｂ）は、図１４８（ａ）の矢印ＣＸＬＶＩＩＩｂ方向視における入賞ユニットの側面図であり、（ｃ）は、図１４８（ａ）の矢印ＣＸＬＶＩＩＩｃ方向視における入賞ユニットの上面図である。
【図１４９】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８（ｃ）のＣＸＬＩＸａ－ＣＸＬＩＸａ線における入賞ユニットの断面図である。

【図１５０】図１４８（ｃ）のＣＬ－ＣＬ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５１】図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５２】図１４８（ｃ）のＣＬＩＩ－ＣＬＩＩ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５３】図１４８（ｃ）のＣＬ－ＣＬ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５４】図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５５】図１４８（ｃ）のＣＬＩＩ－ＣＬＩＩ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５６】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８（ｃ）のＣＬＶＩａ－ＣＬＶＩａ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１５７】（ａ）から（ｄ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１５８】（ａ）から（ｄ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１５９】（ａ）から（ｄ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１６０】（ａ）から（ｄ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１６１】（ａ）及び（ｂ）は、入賞ユニットの正面斜視図である。
【図１６２】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８（ｂ）のＣＬＸＩＩａ－ＣＬＸＩＩａ線における入賞ユニットの部分断面図である。
【図１６３】（ａ）及び（ｂ）は、図１４８（ｂ）のＣＬＸＩＩａ－ＣＬＸＩＩａ線における入賞ユニットの部分断面図である。
【図１６４】（ａ）から（ｃ）は、電動役物の状態の計時変化の一例を示した図である。
【図１６５】保留種別、遊技状態、特別図柄の種別および変動時間の関係を説明する図である。
【図１６６】図１５６（ａ）のＣＬＸＶＩ－ＣＬＸＶＩ線におけるスライド部材、傾倒部材及び伝達部材の断面図である。
【図１６７】図１５６（ａ）のＣＬＸＶＩ－ＣＬＸＶＩ線におけるスライド部材、傾倒部材及び伝達部材の断面図である。
【図１６８】図１５６（ａ）のＣＬＸＶＩ－ＣＬＸＶＩ線におけるスライド部材、傾倒部材及び伝達部材の断面図である。
【図１６９】図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における板部材、ベース板、スライド部材、傾倒部材及び伝達部材の断面図である。
【図１７０】（ａ）及び（ｂ）は、図１３５の範囲ＣＬＸＸａにおける上側可変入賞装置の拡大正面図である。
【図１７１】（ａ）から（ｃ）は、図１３５の範囲ＣＬＸＸａにおける上側可変入賞装置の拡大正面図である。
【図１７２】（ａ）から（ｃ）は、図１３５の範囲ＣＬＸＸａにおける上側可変入賞装置の拡大正面図である。
【図１７３】（ａ）から（ｃ）は、図１７０（ａ）のＣＬＸＸＩＩＩａ－ＣＬＸＸＩＩＩａ線における移動上蓋部材及び移動床部材の断面図である。
【図１７４】（ａ）から（ｃ）は、図１７０（ａ）のＣＬＸＸＩＩＩａ－ＣＬＸＸＩＩＩａ線における移動上蓋部材及び移動床部材の断面図である。
【図１７５】（ａ）は、第１の特別作動パターンにおける第２特定入賞口の計時変化を示した図であり、（ｂ）は、第２の特別作動パターンにおける第２特定入賞口の計時変化を示した図であり、（ｃ）は、第３の特別作動パターンにおける第２特定入賞口の計時変化を示した図である。
【図１７６】（ａ）は、主制御装置内のＲＯＭの電気的構成を示すブロック図であり、（ｂ）は、第１当たり乱数テーブルの内容を模式的に示した模式図であり、（ｃ）は、特別図柄１乱数テーブルにおける第１当たり乱数カウンタと判定値との対応関係を模式的に示した模式図であり、（ｄ）は、特別図柄２乱数テーブルにおける第１当たり乱数カウンタと判定値との対応関係を模式的に示した模式図である。
【図１７７】（ａ）は、第１当たり種別選択テーブルにおける第１当たり種別カウンタと

特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、（ｂ）は、第２当たり乱数テーブルにおける第２当たり乱数カウンタと普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。
【図１７８】正面枠及び外枠の上面図である。
【図１７９】（ａ）は、表示画面の領域区分設定と有効ライン設定とを模式的に示した図であり、（ｂ）は、実際の表示画面を例示した図である。
【図１８０】（ａ）は、大当たり演出の流れの一例を説明するための概略図であり、（ｂ）は、エンディング演出の流れの一例を説明するための概略図であり、（ｃ）、（ｄ）及び（ｅ）は、大当たり演出の一部であるエンディング演出において表示されるエンディング表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１８１】（ａ）は、エンディング演出において表示される社名表示演出の表示画面を例示した図であり、（ｂ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１８２】（ａ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図であり、（ｂ）は、エンディング演出終了直後における表示画面を例示した図である。
【図１８３】エンディング演出と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図である。
【図１８４】図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における第４６実施形態における入賞ユニットの断面図である。
【図１８５】図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における入賞ユニットの断面図である。
【図１８６】（ａ）は、第４７実施形態における入賞ユニットを模式的に示す模式図であり、（ｂ）は、入賞ユニットの別例を模式的に示す模式図である。
【図１８７】（ａ）及び（ｂ）は、第４８実施形態における入賞ユニットを模式的に示す模式図である。
【図１８８】（ａ）及び（ｂ）は、図１３５の範囲ＣＬＸＸａにおける第４９実施形態における上側可変入賞装置の正面図である。
【図１８９】（ａ）及び（ｂ）は、第５０実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１９０】エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１９１】（ａ）及び（ｂ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１９２】（ａ）及び（ｂ）は、第５１実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１９３】エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１９４】（ａ）及び（ｂ）は、第５２実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１９５】エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。
【図１９６】カード忘れ防止表示演出における枠ボタン表示の計時変化、枠ボタンの操作の有効性の計時変化および枠ボタンの操作の一例を示した図である。
【図１９７】第５３実施形態における遊技盤の正面図である。
【図１９８】下側フレームの正面斜視図である。
【図１９９】下側フレームの背面斜視図である。
【図２００】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図２０１】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図２０２】下側フレームの上面図である。
【図２０３】下側フレームの正面図である。

【図２０４】下側フレームの背面図である。
【図２０５】（ａ）は、図２０３の矢印ＣＣＶａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図２０３の矢印ＣＣＶｂ方向視における下側フレームの側面図である。
【図２０６】図２０２のＣＣＶＩ－ＣＣＶＩ線における下側フレームの断面図である。
【図２０７】図２０２のＣＣＶＩ－ＣＣＶＩ線における下側フレームの断面図である。
【図２０８】図２０３のＣＣＶＩＩＩ－ＣＣＶＩＩＩ線における下側フレームの断面図である。
【図２０９】（ａ）は、図２０６のＣＣＩＸａ部における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、図２０２のＣＣＩＸｂ－ＣＣＩＸｂ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２１０】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図２０２のＣＣＶＩ－ＣＣＶＩ線における断面に対応する。
【図２１１】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図２０２のＣＣＶＩ－ＣＣＶＩ線における断面に対応する。
【図２１２】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図２０２のＣＣＶＩ－ＣＣＶＩ線における断面に対応する。
【図２１３】第５４実施形態における下側フレームの正面斜視図である。
【図２１４】下側フレームの背面斜視図である。
【図２１５】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図２１６】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図２１７】下側フレームの上面図である。
【図２１８】下側フレームの正面図である。
【図２１９】下側フレームの背面図である。
【図２２０】（ａ）は、図２１８の矢印ＣＣＸＸａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図２１８の矢印ＣＣＸＸｂ方向視における下側フレームの側面図である。
【図２２１】図２１７のＣＣＸＸＩ－ＣＣＸＸＩ線における下側フレームの断面図である。
【図２２２】図２１７のＣＣＸＸＩ－ＣＣＸＸＩ線における下側フレームの断面図である。
【図２２３】図２１９のＣＣＸＸＩＩＩ－ＣＣＸＸＩＩＩ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２２４】図２１９のＣＣＸＸＩＶ－ＣＣＸＸＩＶ線における下側フレームの部分拡大断面図でる。
【図２２５】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図２１７のＣＣＸＸＩ－ＣＣＸＸＩ線における断面に対応する。
【図２２６】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図２１７のＣＣＸＸＩ－ＣＣＸＸＩ線における断面に対応する。
【図２２７】振分部材による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームの部分拡大断面図であり、図２１７のＣＣＸＸＩ－ＣＣＸＸＩ線における断面に対応する。
【図２２８】図２２７（ｂ）のＣＣＸＸＶＩＩＩ－ＣＣＸＸＶＩＩＩ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２２９】第５５実施形態における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２３０】下側フレームの背面図である。
【図２３１】第５５実施形態における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２３２】下側フレームの背面図である。
【図２３３】（ａ）は、第５６実施形態における皿部材の上面図であり、（ｂ）は、図２３３（ａ）のＣＣＸＸＸＩＩＩｂ－ＣＣＸＸＸＩＩＩｂ線における皿部材の断面図であり、（ｃ）は、図２３３（ａ）のＣＣＸＸＸＩＩＩｃ－ＣＣＸＸＸＩＩＩｃ線における皿部材の断面図である。

【図２３４】（ａ）は、第５７実施形態における下側フレームの断面図であり、図２１９のＣＣＸＸＩＶ－ＣＣＸＸＩＶ線における断面に対応し、（ｂ）は、第５８実施形態における下側フレームの断面図であり、図２１９のＣＣＸＸＩＶ－ＣＣＸＸＩＶ線における断面に対応する。
【図２３５】第５９実施形態における遊技盤の正面図である。
【図２３６】下側フレームの正面斜視図である。
【図２３７】下側フレームの背面斜視図である。
【図２３８】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図２３９】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図２４０】下側フレームの上面図である。
【図２４１】下側フレームの正面図である。
【図２４２】下側フレームの背面図である。
【図２４３】（ａ）は、図２４１の矢印ＣＣＸＬＩＩＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図２４１の矢印ＣＣＸＬＩＩＩｂ方向視における下側フレームの側面図である。
【図２４４】（ａ）は、下側フレームの部分拡大断面図であり、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応し、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図２４５】（ａ）は、下側フレームの部分拡大断面図であり、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応し、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図２４６】（ａ）は、下側フレームの部分拡大断面図であり、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応し、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図２４７】（ａ）は、図２４０のＣＣＸＬＶＩＩａ－ＣＣＸＬＶＩＩａ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、図２４０のＣＣＸＬＶＩＩｂ－ＣＣＸＬＶＩＩｂ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｃ）は、図２４４のＣＣＸＬＶＩＩｃ－ＣＣＸＬＶＩＩｃ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２４８】（ａ）及び（ｂ）は、第６０実施形態における下側フレームの断面図である。
【図２４９】（ａ）及び（ｂ）は、第６１実施形態における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２５０】（ａ）及び（ｂ）は、第６２実施形態における下側フレームの部分拡大背面図である。
【図２５１】第６３実施形態における下側フレームの部分拡大背面図である。
【図２５２】第６４実施形態における下側フレームの分解正面斜視図である。
【図２５３】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図２５４】下側フレームの正面図である。
【図２５５】（ａ）及び（ｂ）は、下側フレームの部分拡大断面図であり、（ａ）は、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応し、（ｂ）は、図２４４のＣＣＸＬＶＩＩｃ－ＣＣＸＬＶＩＩｃ線における断面に対応する。
【図２５６】（ａ）から（ｃ）は、第６５実施形態における下側フレームの部分拡大背面図である。
【図２５７】（ａ）及び（ｂ）は、第６６実施形態における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２５８】（ａ）は、図２５７（ａ）のＣＣＬＶＩＩＩａ－ＣＣＬＶＩＩＩａ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、図２５７（ｂ）のＣＣＬＶＩＩＩｂ－ＣＣＬＶＩＩＩｂ線における下側フレームの部分拡大断面図である。
【図２５９】下側フレームの部分拡大断面図であり、図２４４のＣＣＸＬＶＩＩｃ－ＣＣＸＬＶＩＩｃ線における断面に対応する。

【図２６０】第６７実施形態における遊技盤の正面図である。
【図２６１】下側フレームの正面斜視図である。
【図２６２】下側フレームの背面斜視図である。
【図２６３】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図２６４】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図２６５】下側フレームの上面図である。
【図２６６】下側フレームの正面図である。
【図２６７】下側フレームの背面図である。
【図２６８】（ａ）は、図２６６の矢印ＣＣＬＸＶＩＩＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図２６６の矢印ＣＣＬＸＶＩＩＩｂ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｃ）は、図２６６のＣＣＬＸＶＩＩＩｃ－ＣＣＬＸＶＩＩＩｃ線における下側フレームの断面図である。
【図２６９】（ａ）は、正面部材の図示が省略された状態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、背面側カバー部材の図示が省略された状態における下側フレームの部分拡大背面図であり、（ｃ）は、下側フレームの上面図である。
【図２７０】（ａ）は、図２６９（ｃ）のＣＣＬＸＸａ－ＣＣＬＸＸａ線における下側フレームの断面図であり、は、図２７０（ａ）のＣＣＬＸＸｂ－ＣＣＬＸＸｂ線における下側フレームの断面図であり、（ｃ）は、下側フレームの部分拡大下面図である。
【図２７１】（ａ）は、正面部材の図示が省略された状態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、背面側カバー部材の図示が省略された状態における下側フレームの部分拡大背面図であり、（ｃ）は、下側フレームの上面図である。
【図２７２】（ａ）は、図２７１（ｃ）のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における下側フレームの断面図であり、（ｂ）は、図２７２（ａ）のＣＣＬＸＸＩＩｂ－ＣＣＬＸＸＩＩｂ線における下側フレームの断面図であり、（ｃ）は、下側フレームの部分拡大下面図である。
【図２７３】第６８実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図２６９のＣＣＬＸＸａ－ＣＣＬＸＸａ線における断面に対応する。
【図２７４】（ａ）は、振分通路の正面斜視図であり、（ｂ）は、図２７４（ａ）の矢印ＣＣＬＸＸＩＶｂ方向視における振分通路の正面図であり、（ｃ）は、図２７４（ｂ）の矢印ＣＣＬＸＸＩＶｃ方向視における振分通路の下面図であり、（ｄ）は、図２７４（ｂ）の矢印ＣＣＬＸＸＩＶｄ方向視における振分通路の側面図である。
【図２７５】第６９実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図２６９のＣＣＬＸＸａ－ＣＣＬＸＸａ線における断面に対応する。
【図２７６】（ａ）は、第７０実施形態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図２７７】（ａ）は、第７０実施形態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図２７８】（ａ）は、第７１実施形態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図２７９】下側フレームの上面図である。
【図２８０】（ａ）は、第７１実施形態における下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図２８１】下側フレームの上面図である。
【図２８２】（ａ）は、第７２実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図２７１（ｃ）のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における断面に対応し、（ｂ）は、第７３実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図２７１（ｃ）のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における断面に対応し、（ｃ）は、第７４実施形態における下側フレームの部分拡大断面図であり、図２７１（ｃ）のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における断面に対応する。
【図２８３】（ａ）は、第７５実施形態における下側フレームの部分上面図であり、（ｂ

）は、第７６実施形態における下側フレームの部分上面図である。
【図２８４】（ａ）は、振分通路の正面斜視図であり、（ｂ）は、第７８実施形態における振分通路の振分通路に垂直な方向視の図であり、（ｃ）は、第７９実施形態における振分通路の振分通路に垂直な方向視の図であり、（ｄ）は、第８０実施形態における振分通路の部分拡大断面図であり、図２７１（ｃ）のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における断面に対応し、（ｅ）は、第８１実施形態における振分通路の部分拡大断面図であり、図２７１（ｃ）のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における断面に対応する。
【図２８５】（ａ）は、第８２実施形態における下側フレームの部分拡大上面図であり、（ｂ）は、第８３実施形態における下側フレームの部分拡大上面図である。
【図２８６】第８４実施形態における遊技盤の正面図である。
【図２８７】下側フレームの正面斜視図である。
【図２８８】下側フレームの背面斜視図である。
【図２８９】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図２９０】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図２９１】（ａ）は、確定通路の分解正面斜視図であり、（ｂ）は、駆動手段の分解正面斜視図である。
【図２９２】（ａ）は、確定通路の分解背面斜視図であり、（ｂ）は、駆動手段の分解背面斜視図である。
【図２９３】下側フレームの上面図である。
【図２９４】下側フレームの正面図である。
【図２９５】下側フレームの背面図である。
【図２９６】（ａ）は、図２９４の矢印ＣＣＸＣＶＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図２９４の矢印ＣＣＸＣＶＩｂ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｃ）は、図２９４のＣＣＸＣＶＩｃ－ＣＣＸＣＶＩｃ線における下側フレームの断面図である。
【図２９７】（ａ）は、下側フレームの部分拡大正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図２９８】（ａ）は、下側フレームの部分拡大正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図２９９】変位部材の部分上面図である。
【図３００】下側フレームの正面図である。
【図３０１】（ａ）は、下側フレームの背面図であり、（ｂ）は、図３０１（ａ）の矢印ＣＣＣＩｂ方向視における下側フレームの側面図でありる。
【図３０２】下側フレームの正面図である。
【図３０３】（ａ）は、下側フレームの背面図であり、（ｂ）は、図３０３（ａ）の矢印ＣＣＣＩＩＩｂ方向視における下側フレームの側面図である。
【図３０４】（ａ）及び（ｃ）は、第８５実施形態における下側フレームの部分拡大正面図であり、（ｂ）及び（ｄ）は、下側フレームの部分拡大上面図である。
【図３０５】（ａ）及び（ｂ）は、第８６実施形態における下側フレームの部分拡大背面図である。
【図３０６】（ａ）は、第８７実施形態における下側フレームの上面図であり、（ｂ））は、下側フレームの部分拡大正面図である。
【図３０７】（ａ）は、下側フレームの上面図であり、（ｂ））は、下側フレームの部分拡大正面図である。
【図３０８】第８８実施形態における遊技盤の正面図である。
【図３０９】下側フレームの正面斜視図である。
【図３１０】下側フレームの背面斜視図である。
【図３１１】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図３１２】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図３１３】変位手段の分解正面斜視図である。

【図３１４】変位手段の分解背面斜視図である。
【図３１５】下側フレームの上面図である。
【図３１６】下側フレームの正面図である。
【図３１７】下側フレームの背面図である。
【図３１８】（ａ）は、図３１６の矢印ＣＣＣＸＶＩＩＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図３１６の矢印ＣＣＣＸＶＩＩＩｂ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｃ）は、図３１６のＣＣＣＸＶＩＩＩｃ－ＣＣＣＸＶＩＩＩｃ線における下側フレームの断面図である。
【図３１９】（ａ）は、下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図３２０】（ａ）は、下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図３２１】（ａ）は、下側フレームの正面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図３２２】左側変位部材の部分上面図である。
【図３２３】第８９実施形態における遊技盤の正面図である。
【図３２４】下側フレームの正面斜視図である。
【図３２５】下側フレームの背面斜視図である。
【図３２６】下側フレームの分解正面斜視図である。
【図３２７】下側フレームの分解背面斜視図である。
【図３２８】振分手段の分解正面斜視図である。
【図３２９】振分手段の分解背面斜視図である。
【図３３０】下側フレームの上面図である。
【図３３１】下側フレームの正面図である。
【図３３２】下側フレームの背面図である。
【図３３３】（ａ）は、図３３１の矢印ＣＣＣＸＸＸＩＩＩａ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｂ）は、図３３１の矢印ＣＣＣＸＸＸＩＩＩｂ方向視における下側フレームの側面図であり、（ｃ）は、図３３１のＣＣＣＸＸＸＩＩＩｃ－ＣＣＣＸＸＸＩＩＩｃ線における下側フレームの断面図である。
【図３３４】（ａ）は、図３３３（ｃ）のＣＣＣＸＸＸＩＶａ－ＣＣＣＸＸＸＩＶａ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図３３５】（ａ）は、図３３３（ｃ）のＣＣＣＸＸＸＩＶａ－ＣＣＣＸＸＸＩＶａ線における下側フレームの部分拡大断面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大背面図である。
【図３３６】下側フレームの部分上面図である。
【図３３７】下側フレームの部分上面図である。
【図３３８】（ａ）は、第９０実施形態における下側フレームの断面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図３３９】（ａ）は、下側フレームの断面図であり、（ｂ）は、下側フレームの背面図である。
【図３４０】（ａ）、（ｃ）及び（ｅ）は、第６通路部材の第４通路部、中間通路部材の転動面、振分手段の変位通路部材および第２変位通路の第２変位通路部の上面模式図であり、（ｂ）、（ｄ）及び（ｆ）は、第６通路部材の第４通路部、中間通路部材の転動面、振分手段の変位通路部材および第２変位通路の第２変位通路部の正面模式図である。
【図３４１】第９１実施形態における下側フレームの部分拡大上面図である。
【図３４２】（ａ）は、第９２実施形態における下側フレームの部分拡大上面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大正面図である。
【図３４３】（ａ）は、下側フレームの部分拡大上面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大正面図である。

【図３４４】（ａ）は、第９３実施形態における下側フレームの部分拡大上面図であり、（ｂ）は、下側フレームの部分拡大正面図である。
【図３４５】第９４実施形態における下側フレームの背面斜視図である。
【図３４６】下側フレームの部分拡大上面図である。
【図３４７】第９５実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図３４８】パチンコ機の背面図である。
【図３４９】外枠に対して内枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図３５０】外枠に対して内枠を開放した状態で裏パックを内枠に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図３５１】外枠に対して内枠を閉鎖すると共に正面枠を開放（展開）した状態を示すパチンコ機の正面斜視図である。
【図３５２】正面枠を取り外した状態におけるパチンコ機の正面図である。
【図３５３】遊技盤および内枠の分解正面斜視図である。
【図３５４】正面枠の分解斜視正面図である。
【図３５５】正面枠の分解斜視背面図である。
【図３５６】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図３５７】第９６実施形態におけるパチンコ機の正面図である。
【図３５８】パチンコ機の遊技盤の正面図である。
【図３５９】遊技盤及び動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図３６０】遊技盤の分解正面斜視図である。
【図３６１】入賞ユニットの分解正面斜視図である。
【図３６２】入賞ユニットの分解背面斜視図である。
【図３６３】図３５８のＣＣＣＬＸＩＩＩ部における遊技盤の部分拡大正面図である。
【図３６４】図３６３のＣＣＣＬＸＩＶ－ＣＣＣＬＸＩＶ線における遊技盤の断面図である。
【図３６５】入賞ユニットの斜視図である。
【図３６６】入賞ユニットの斜視図である。
【図３６７】入賞ユニットの斜視図である。
【図３６８】入賞ユニットの斜視図である。
【図３６９】遊技盤の背面斜視図である。
【図３７０】遊技盤の分解背面斜視図である。
【図３７１】動作ユニットの分解正面斜視図である。
【図３７２】動作ユニットの正面図である。
【図３７３】動作ユニットの正面図である。
【図３７４】動作ユニットの正面図である。
【図３７５】動作ユニットの正面図である。
【図３７６】動作ユニットの正面図である。
【図３７７】動作ユニットの正面図である。
【図３７８】動作ユニットの正面図である。
【図３７９】前層側可動装置の正面分解斜視図である。
【図３８０】前層側可動装置の背面分解斜視図である。
【図３８１】第１可動装置の分解正面斜視図である。
【図３８２】第１可動装置の分解背面斜視図である。
【図３８３】昇降装置の分解正面斜視図である。
【図３８４】昇降装置の分解背面斜視図である。
【図３８５】長尺装置の分解正面斜視図である。
【図３８６】長尺装置の分解背面斜視図である。
【図３８７】移動装置の分解正面斜視図である。
【図３８８】移動装置の分解背面斜視図である。

【図３８９】（ａ）及び（ｂ）は、前層側可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９０】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９１】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９２】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９３】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９４】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９５】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９６】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９７】第１可動装置の部分拡大正面図である。
【図３９８】第１可動装置の部分拡大背面図である。
【図３９９】第１可動装置の部分拡大背面図である。
【図４００】（ａ）、（ｂ）、（ｃ）及び（ｄ）は、第１可動装置の部分正面図である。
【図４０１】第２可動装置の分解正面斜視図である。
【図４０２】第２可動装置の分解背面斜視図である。
【図４０３】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図４０４】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図４０５】（ａ）及び（ｂ）は、第２可動装置の正面図である。
【図４０６】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、上下スライド部材、追従可能部材及び連動部材の模式正面図である。
【図４０７】後層側可動装置の分解正面斜視図である。
【図４０８】後層側可動装置の分解背面斜視図である。
【図４０９】第３可動装置の分解正面斜視図である。
【図４１０】第３可動装置の分解背面斜視図である。
【図４１１】（ａ）、（ｂ）及び（ｃ）は、上後カバー部材、延設回転部材、基端側スライド部材及びピニオンの正面図である。
【図４１２】後層側可動装置の部分拡大正面図である。
【図４１３】後層側可動装置の正面図である。
【図４１４】後層側可動装置の正面図である。
【図４１５】後層側可動装置の正面図である。
【図４１６】（ａ）から（ｆ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図４１７】（ａ）から（ｅ）は、パチンコ機の模式正面図である。
【図４１８】第９７実施形態におけるベース板及び光照射装置の背面図である。
【図４１９】ベース板及び光照射装置の背面斜視図である。
【図４２０】ベース板及び光照射装置の分解背面斜視図である。
【図４２１】ベース板及び光照射装置の分解正面斜視図である。
【図４２２】図４１８のＣＤＸＸＩＩ－ＣＤＸＸＩＩ線におけるベース板及び光照射装置の部分断面図である。
【図４２３】パチンコ機の模式正面図である。
【図４２４】第９８実施形態におけるベース板及び光照射装置の分解背面斜視図である。
【図４２５】ベース板及び光照射装置の分解正面斜視図である。
【図４２６】図４１８のＣＤＸＸＩＩ－ＣＤＸＸＩＩ線に対応する線におけるベース板及び光照射装置の部分断面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１２】
以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１から図５５を参照し、第１実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１は、第１実施形態におけるパチンコ機１０の正面図であり、図２はパチンコ機１０の遊技盤Ａ１３の正面図であり、図３はパチンコ機１０の背面図である。
【００１３】

なお、以下の説明では、図１に示す状態のパチンコ機１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１に示す状態のパチンコ機１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図２参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【００１４】

図１に示すように、パチンコ機１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠１１と、その外枠１１と略同一の外形形状に形成され外枠１１に対して開閉可能に支持された内枠１２とを備えている。外枠１１には、内枠１２を支持するために正面視（図１参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１８が取り付けられ、そのヒンジ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠１２が正面手前側へ開閉可能に支持されている。

【００１５】

内枠１２には、多数の釘や入賞口６３，６４等を有する遊技盤Ａ１３（図２参照）が裏面側から着脱可能に装着される。この遊技盤Ａ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠１２には、球を遊技盤Ａ１３の正面領域に発射する球発射ユニット１１２ａ（図４参照）やその球発射ユニット１１２ａから発射された球を遊技盤Ａ１３の正面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。

【００１６】

内枠１２の正面側には、その正面上側を覆う正面枠１４と、その下側を覆う下皿ユニット１５とが設けられている。正面枠１４及び下皿ユニット１５を支持するために正面視（図１参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１９が取り付けられ、そのヒンジ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠１４及び下皿ユニット１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠１２の施錠と正面枠１４の施錠とは、シリンダ錠２０の鍵穴２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。

【００１７】

正面枠１４は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部１４ｃが設けられている。正面枠１４の裏面側には２枚の板ガラスを有するガラスユニット１６が配設され、そのガラスユニット１６を介して遊技盤Ａ１３の正面がパチンコ機１０の正面側に視認可能となっている。

【００１８】

正面枠１４には、球を貯留する上皿１７が正面側へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿１７の底面は正面視（図１参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿１７に投入された球が球発射ユニット１１２ａ（図４参照）へと案内される。また、上皿１７の上面には、枠ボタン２２が設けられている。この枠ボタン２２は、例えば、第３図柄表示装置８１（図２参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【００１９】

正面枠１４には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部１４ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部２９～３３が設けられている。パチンコ機１０においては、これら電飾部２９～３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部２９～３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、正面枠１４の正面視（図１参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプ３４が設けられている。

【００２０】
また、右側の電飾部３２下側には、正面枠１４の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓３５が形成され、遊技盤Ａ１３正面の貼着スペースＫ１（図２参照）に貼付される証紙等がパチンコ機１０の正面から視認可能とされている。また、パチンコ機１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部２９～３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材３６が取り付けられている。
【００２１】
窓部１４ｃの下方には、貸球操作部４０が配設されている。貸球操作部４０には、度数表示部４１と、球貸しボタン４２と、返却ボタン４３とが設けられている。パチンコ機１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタン４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿１７に供給される。返却ボタン４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。
【００２２】
上皿１７の下側に位置する下皿ユニット１５には、その左側部に上皿１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿５０の右側には、球を遊技盤Ａ１３の正面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドル５１が配設される。
【００２３】
操作ハンドル５１の内部には、球発射ユニット１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチ５１ｂと、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドル５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ａ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドル５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサ５１ａおよび発射停止スイッチ５１ｂがオフとなっている。
【００２４】
下皿５０の正面下方部には、下皿５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバー５２が設けられている。この球抜きレバー５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバー５２の操作は、通常、下皿５０の下方に下皿５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿５０の右方には、上述したように操作ハンドル５１が配設され、下皿５０の左方には灰皿５３が取り付けられている。
【００２５】
図２に示すように、遊技盤Ａ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ａ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、可変入賞装置６５、スルーゲート６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１参照）の裏面側（又は表面側）に取り付けられる。
【００２６】

ベース板Ａ６０は、木製の板部材から形成される。一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板Ａ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ａ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。なお、ベース板Ａ６０を光透過性の樹脂材料から構成しても良い。この場合、その正面側からベース板Ａ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能となる。

【００２７】

遊技盤Ａ１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図２を参照して、遊技盤Ａ１３の構成について説明する。

【００２８】

遊技盤Ａ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤Ａ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ａ１３とガラスユニット１６（図１参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ａ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ａ１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【００２９】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図４参照）から発射された球を遊技盤Ａ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図２の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ａ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図２の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【００３０】

遊技領域の正面視左側下部（図２の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、主制御装置１１０（図４参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、球が、第１入賞口６４へ入賞したか、第２入賞口６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ｂが作動するように構成されている。

【００３１】

また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【００３２】

尚、本パチンコ機１０では、第１入賞口６４及び第２入賞口６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の

判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【００３３】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【００３４】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【００３５】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【００３６】

電動役物６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる。電動役物６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ａ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球が第２入賞口６４０側へ入球可能となり、電動役物６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口６４０に入球し難くなる（左方へ流される）ように構成される。

【００３７】

なお、電動役物６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、下端部に回転軸を備え、遊技領域側へ傾倒または起立する態様で回転変位する開閉板の開閉動作により生じるようにしても良い。この場合、電動役物６４０ａが開放状態の時は、開閉板の上面を伝って球が第２入賞口６４０に案内され易く構成され、電動役物６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口６４０に入球し難くなるように構成することができる。

【００３８】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、１回の当たり

で電動役物６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであってもよい。

【００３９】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分を通して視認可能な位置（ベース板Ａ６０の窓部の後方）に、可変表示装置ユニット８０が配設されている。可変表示装置ユニット８０には、第１入賞口６４及び第２入賞口６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、スルーゲート６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、ベース板６０には、第３図柄表示装置８１を正面視で囲むようにして、センターフレームＡ８６が配設されている。

【００４０】

第３図柄表示装置８１は９インチサイズから１９インチサイズ程度の大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図４参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図４参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。

【００４１】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲート６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球がスルーゲート６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【００４２】

パチンコ機１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【００４３】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口６４０の電動役物６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【００４４】

なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【００４５】
スルーゲート６７は、可変表示装置ユニット８０の右側の領域において遊技盤Ａ１３に組み付けられ、遊技盤Ａ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲート６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。
【００４６】
球のスルーゲート６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。
【００４７】
なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。
【００４８】
また、スルーゲート６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲート６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。
【００４９】
また、スルーゲート６７の組み付け位置は可変表示装置ユニット８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニット８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。
【００５０】
可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口６４が配設されている。この第１入賞口６４へ球が入賞すると遊技盤Ａ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図４参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ａで示される。
【００５１】
一方、スルーゲート６７の正面視右下側には、球が入賞し得る第２入賞口６４０が配設されている。この第２入賞口６４０へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図４参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ｂで示される。なお、第２入賞口６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側でも良い。
【００５２】
また、第１入賞口６４および第２入賞口６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。
【００５３】

第２入賞口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲート６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口６４０へ入賞しやすい状態となる。

【００５４】

上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。

【００５５】

ここで、第１入賞口６４に球が入賞した場合と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大当たりとなる確率は、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口６４は、第２入賞口６４０にあるような電動役物６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【００５６】

よって、通常中においては、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口６４０に入賞しづらいので、電動役物６４０ａのない第１入賞口６４へ向けて、可変表示装置ユニット８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【００５７】

一方、確変中や時短中は、スルーゲート６７に球を通過させることで、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲート６７を通過させて電動役物６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【００５８】

なお、本実施形態におけるパチンコ機１０とは異なり、遊技盤１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。

【００５９】

一方で、本実施形態におけるパチンコ機１０では、「右打ち」では第１入賞口６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲート６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。

【００６０】

第１入賞口６４の右方には可変入賞装置６５（図２参照）が配設されており、その略中

央部分に特定入賞口６５ａが設けられている。パチンコ機１０においては、第１入賞口６４又は第２入賞口６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置３７Ａ又は第１図柄表示装置３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【００６１】

この特定入賞口６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【００６２】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口６５ａの開放中に、球が特定入賞口６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口６４の下方右側や、第１入賞口６４の下方左側や、可変表示装置ユニット８０の左方または右方や、上方でも良い。

【００６３】

遊技盤Ａ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠１４の小窓３５（図１参照）を通じて視認することができる。

【００６４】

遊技盤Ａ１３には、アウト口７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口６３，６４，６５ａ，６４０にも入賞しなかった球は、アウト口７１を通って図示しない球排出路へと案内される。

【００６５】

遊技盤Ａ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。

【００６６】

図３に示すように、パチンコ機１０の背面側には、制御基板ユニット９０，９１と、裏パックユニット９４とが主に備えられている。制御基板ユニット９０は、主基板（主制御装置１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置１１３）と表示制御基板（表示制御装置１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニット９１は、払出制御基板（払出制御装置１１１）と発射制御基板（発射制御装置１１２）と電源基板（電源装置１１５）とカードユニット接続基板１１６とが搭載されてユニット化されている。

【００６７】

裏パックユニット９４は、保護カバー部を形成する裏パック９２と払出ユニット９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【００６８】

なお、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３及び表示制御装置１１４、払出制

御装置１１１及び発射制御装置１１２、電源装置１１５、カードユニット接続基板１１６は、それぞれ基板ボックス１００～１０４に収納されている。基板ボックス１００～１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【００６９】

また、基板ボックス１００（主制御装置１１０）及び基板ボックス１０２（払出制御装置１１１及び発射制御装置１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックス１００，１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックス１００，１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックス１００，１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【００７０】

払出ユニット９３は、裏パックユニット９４の最上部に位置して上方に開口したタンク１３０と、タンク１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール１３１と、タンクレール１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール１３２と、ケースレール１３２の最下流部に設けられ、払出モータ２１６（図４参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置１３３とを備えている。タンク１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレール１３１には、当該タンクレール１３１に振動を付加するためのバイブレータ１３４が取り付けられている。

【００７１】

また、払出制御装置１１１には状態復帰スイッチ１２０が設けられ、発射制御装置１１２には可変抵抗器の操作つまみ１２１が設けられ、電源装置１１５にはＲＡＭ消去スイッチ１２２が設けられている。状態復帰スイッチ１２０は、例えば、払出モータ２１６（図４参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチ１２２は、パチンコ機１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【００７２】

次に、図４を参照して、本パチンコ機１０の電気的構成について説明する。図４は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【００７３】

主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。

【００７４】

なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【００７５】

ＲＡＭ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【００７６】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【００７７】

主制御装置１１０のＭＰＵ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２０４を介して入出力ポート２０５が接続されている。入出力ポート２０５には、払出制御装置１１１、音声ランプ制御装置１１３、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口６５ａの開閉板を前後方向に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物６４０ａを駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイド２０９が接続され、ＭＰＵ２０１は、入出力ポート２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【００７８】

また、入出力ポート２０５には、図示しないスイッチ群およびスライド位置検出センサＳや回転位置検出センサＲを含むセンサ群などからなる各種スイッチ２０８、電源装置１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路２５３が接続され、ＭＰＵ２０１は各種スイッチ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【００７９】

払出制御装置１１１は、払出モータ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵ２１１は、そのＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２１３とを有している。

【００８０】

払出制御装置１１１のＲＡＭ２１３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３と同様に、ＭＰＵ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭ２１３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１と同様、ＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【００８１】

払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバ

スライン２１４を介して入出力ポート２１５が接続されている。入出力ポート２１５には、主制御装置１１０や払出モータ２１６、発射制御装置１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置１１１に接続されるが、主制御装置１１０には接続されていない。

【００８２】

発射制御装置１１２は、主制御装置１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドル５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット１１２ａを制御するものである。球発射ユニット１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドル５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【００８３】

音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。

【００８４】

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２などがそれぞれ接続されている。その他装置２２８には駆動モータＡＭＴ１，ＡＭＴ２，ＡＭＴ３，ＡＭＴ４等が含まれる。

【００８５】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置１１３は、枠ボタン２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。

【００８６】

また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。

【００８７】

表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３及び第３図柄表示装置８１が接続され、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置１１４は、第３図柄表示装置８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置１１３へ送信する。音声ランプ制御装置１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置８１の表示と音声出力装置２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【００８８】

電源装置１１５は、パチンコ機１０の各部に電源を供給するための電源部２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路２５２と、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図３参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路２５３とを有している。電源部２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置１１０～１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチ２０８などの各種スイッチや、ソレノイド２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置１１０～１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【００８９】

停電監視回路２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１及び払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路２５２は、電源部２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＳＧ１を主制御装置１１０及び払出制御装置１１１へ出力する。停電信号ＳＧ１の出力によって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置１１０及び払出制御装置１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【００９０】

ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３は、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図３参照）が押下された場合に、主制御装置１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置１１０は、パチンコ機１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置１１１に対して送信する。

【００９１】

次いで、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＡ２００の構造について説明する。図５は、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＡ２００の分解正面斜視図であり、図６は、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＡ２００の分解背面斜視図である。なお、図５及び図６では、背面ケースＡ２１０の開口Ａ２１１ａに配設される液晶表示装置（可変表示装置ユニット８０）の図示が省略され、開口Ａ２１１ａを通して奥側を視認可能に図示される。また、図５及び図６の説明においては、図２を適宜参照する。

【００９２】

動作ユニットＡ２００は、底壁部Ａ２１１と、その底壁部Ａ２１１の外縁から立設される外壁部Ａ２１２とから正面側が開放された箱状に形成される背面ケースＡ２１０を備える。背面ケースＡ２１０は、底壁部Ａ２１１の中央に矩形状の開口Ａ２１１ａが開口形成されることで、正面視矩形の枠状に形成される。開口Ａ２１１ａは、第３図柄表示装置８１の表示領域の外形（外縁）に対応した（即ち、第３図柄表示装置８１の表示領域を正面

視で区切ることが可能な）大きさに形成される。
【００９３】
背面ケースＡ２１０は、外壁部Ａ２１２の正面側端部に遊技盤Ａ１３の背面に沿う（例えば、平行に配置される）平面板として延設され、組立状態（図２参照）において遊技盤Ａ１３に面で支持される支持板部Ａ２１３を備える。
【００９４】
その支持板部Ａ２１３が遊技盤Ａ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ａ１３のベース板Ａ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ａ１３と動作ユニットＡ２００とを一体的に固定することができるので、遊技盤Ａ１３及び動作ユニットＡ２００の全体としての剛性の向上を図ることができる。
【００９５】
背面ケースＡ２１０の背面側には、一対の変位規制装置Ａ２１４が配設される。変位規制装置Ａ２１４は、背面ケースＡ２１０の背面からの手動操作により、突出状態と没入状態とで状態変化可能に構成されており、突出状態において、後述する可動役物（第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００）が演出待機状態から移動開始することを規制する。
【００９６】
変位規制装置Ａ２１４を採用することにより、本実施形態のように、ベース板Ａ６０の中央の開口が導光板ユニットＡ７００で閉塞される場合であっても、パチンコ機１０の出荷や搬送を容易とすることができる。
【００９７】
詳述すると、従来、可動役物が変位する範囲に緩衝材（わた等のクッション部材）を詰めるなどして可動役物の変位を抑制し、遊技ホールに到着した後で緩衝材を抜き取るという手段により、出荷時や搬送時に可動役物が変位することを防止する場合があった。しかし、ベース板Ａ６０の中央の開口部が本実施形態のように閉塞されていると緩衝材を抜き取るための貫通箇所が無いため、遊技盤Ａ１３と背面ケースＡ２１０とを分解しないと緩衝材を抜き取ることができず、遊技ホールの負担が多大となる可能性がある。
【００９８】
この対策として、本実施形態では変位規制装置Ａ２１４を採用している。これにより、遊技盤Ａ１３及び背面ケースＡ２１０の固定を解除することなく、可動役物の移動を規制する突出状態と、その規制が解除される没入状態とで変位規制装置Ａ２１４の状態を切り替えることができる。
【００９９】
なお、一対の変位規制装置Ａ２１４は、それぞれ異なる可動役物の移動を規制する部材として配設されている。即ち、可動役物の個数が増減すれば、変位規制装置Ａ２１４の個数を増減させることで対応することができる。
【０１００】
ベース板Ａ６０は、光透過性の樹脂材料から板状に形成されており、正面側からベース板Ａ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させ易いように構成される。これにより、ベース板Ａ６０の形状や配置に関わらず、その背面側に配設される構造体を視認させ、各種演出に利用することができる。なお、遊技者に対して見せたくない箇所がある場合には、光透過性の低い（又は光不透過の）シール部材を貼り付ける等して対処すれば良い。
【０１０１】
動作ユニットＡ２００は、遊技盤Ａ１３の背面側に配置され、各種発光手段や、各種動作ユニットが内部に配設されている。即ち、動作ユニットＡ２００は、背面ケースＡ２１０と、その背面ケースＡ２１０の正面視内側右部および正面視内側上部に配設されると共に背面ケースＡ２１０の手前側寄りに配設される第１動作ユニットＡ４００と、背面ケースＡ２１０の正面視内側左部および正面視内側上部に配設されると共に第１動作ユニットＡ４００と背面ケースＡ２１０の底壁部Ａ２１１との間に配設される第２動作ユニットＡ

５００と、背面ケースＡ２１０の正面視内側下部に配設される第３動作ユニットＡ６００と、第１動作ユニットＡ４００の前側において背面ケースＡ２１０の外壁部Ａ２１２の前端面に締結固定される導光板ユニットＡ７００と、を備える。

【０１０２】

具体的には、第３動作ユニットＡ６００は、開口Ａ２１１ａの下方位置において、第２動作ユニットＡ５００は、開口Ａ２１１ａの左方位置および上方位置において、それぞれ背面ケースＡ２１０の底壁部Ａ２１１に締結固定される。また、第１動作ユニットＡ４００は、開口Ａ２１１ａの右方位置において背面ケースＡ２１０の底壁部Ａ２１１に締結固定され、開口Ａ２１１ａの上方位置において第２動作ユニットＡ５００の前側面に締結固定される。まず、この動作ユニットＡ２００の動作制御の概要について説明する。

【０１０３】

図７から図１２は、動作ユニットＡ２００の動作制御の一例を示す動作ユニットＡ２００の正面図である。図７では、演出待機状態の第１動作ユニットＡ４００、第２動作ユニットＡ５００及び第３動作ユニットＡ６００が図示され、図８では、張出状態の第１動作ユニットＡ４００と、演出待機状態の第２動作ユニットＡ５００及び第３動作ユニットＡ６００とが図示される。

【０１０４】

また、図９では、張出状態の第２動作ユニットＡ５００と、演出待機状態の第１動作ユニットＡ４００及び第３動作ユニットＡ６００とが図示され、図１０では、張出状態の第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００と、演出待機状態の第３動作ユニットＡ６００とが図示され、図１１では、張出状態の第３動作ユニットＡ６００と、演出待機状態の第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００とが図示される。

【０１０５】

また、図１２では、演出待機状態から外形の変化を生じずに回転動作した後の第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００と、演出待機状態における外形を維持したまま上昇した後における第３動作ユニットＡ６００とが図示される。

【０１０６】

また、図７から図１２において、導光板ユニットＡ７００の補助導光板ユニットＡ７００ｂの縁部と、装飾部材Ａ８０８の縁部と、センターフレームＡ８６の縁部とで囲む形状が想像線で図示される。この想像線で囲まれる形状が、正面視で第３図柄表示装置８１を視認可能な実際の大きさであり、この想像線で囲まれる形状よりも外側においては（特に左右側においては）、導光板ユニットＡ７００の補助導光板ユニットＡ７００ｂや装飾部材Ａ８０８に目隠しされるので、退避状態における第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００の視認性を低下させることができる。

【０１０７】

図８から図１０に図示されるように、第１動作ユニットＡ４００の変位軌跡と第２動作ユニットＡ５００の変位形跡とが、正面視で部分的に重なるが、第１動作ユニットＡ４００の変位軌跡と第２動作ユニットＡ５００の変位軌跡とが前後でずれている（上面視で重ならない）ので、第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００は、動作中に互いに衝突しない。そのため、図１０に図示されるように、第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００の双方を張出状態とすることができる。

【０１０８】

図８から図１１に図示されるように、第１動作ユニットＡ４００又は第２動作ユニットＡ５００の変位軌跡と、第３動作ユニットＡ６００の変位軌跡とは、正面視で部分的に重なる。そのため、例えば、第１動作ユニットＡ４００又は第２動作ユニットＡ５００が張出状態の時に、第３動作ユニットＡ６００が演出待機状態から状態変化すると、衝突する可能性がある。

【０１０９】

これに対して、本実施形態では、第１動作ユニットＡ４００や第２動作ユニットＡ５００の演出待機状態からの状態変化を、第３動作ユニットＡ６００が演出待機状態であるこ

とを条件として実行可能に制御したり、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態からの状態変化を、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態であり且つ第２動作ユニットＡ５００が演出待機状態であることを条件として実行可能に制御したりすることで、第１動作ユニットＡ４００又は第２動作ユニットＡ５００と、第３動作ユニットＡ６００とが衝突することを避けることができる。これにより、第１動作ユニットＡ４００、第２動作ユニットＡ５００及び第３動作ユニットＡ６００の配置自由度を向上することができる（変位軌跡が正面視で重なることを許容できる）。

【０１１０】

第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００の動作態様は、回転動作中に、回転される回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの縦横の長さが変化する態様で実行されるよう構成されるが、詳細は後述する。

【０１１１】

第３動作ユニットＡ６００の動作態様は、開閉動作ユニットＡ６００ｂの昇降動作と、移動部材Ａ６５０の開閉動作とが、異なるタイミングで実行可能となるように構成される。即ち、開閉動作ユニットＡ６００ｂが上側終端位置に配置された状態で、移動部材Ａ６５０の開閉動作が実行されるように制御される。

【０１１２】

上述したように、本実施形態では、衝突の可能性がある場合を見越して各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の動作タイミングをずらすように制御する場合があるが、衝突の可能性をはじめから排除できていれば同時に駆動させることは当然可能であり、図１２に示すのは、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００が演出待機状態から同時に駆動され、互いに衝突しない位置まで移動した場合に相当する。

【０１１３】

即ち、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の演出待機状態から図１２に示す状態まで移動させる状態変化を、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００がそれぞれ演出待機状態であることを条件として、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００をそれぞれ駆動させる駆動装置を駆動させることで実現可能に構成されているので、複数の動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００による一体感のある動作演出を実現可能となる。

【０１１４】

図１２に示す状態では、第１動作ユニットＡ４００及び第２動作ユニットＡ５００は、回転動作中に回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの縦横の長さが変化し始める直前の姿勢となっている。即ち、これ以上の傾倒動作が生じた場合には回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの縦横の長さを変化させることに駆動力が消化されることになるので、回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの動作抵抗が上昇することになる。そのため、その動作抵抗が変化し始める姿勢となる図１２の姿勢において動作ユニットＡ４００，Ａ５００を停止させることを容易とすることができる。

【０１１５】

更に傾倒動作が進めば、回転動作ユニットＡ４００ｂ，Ａ５００ｂの縦横の長さの変化量は益々大きくなることから、動作抵抗は益々大きくなる。この抵抗により、バネ弾性による弾性力に似た動作抵抗の変化を生じさせることができるので、図１２の姿勢に動作ユニットＡ４００，Ａ５００を維持したり、傾倒し過ぎた場合であっても戻したりしやすくすることができる。

【０１１６】

第３動作ユニットＡ６００については、後述するように、昇降動作に利用される駆動装置と、移動部材Ａ６５０を開閉させる駆動装置とは別であるので、昇降動作に利用される駆動装置の駆動のみ実行し、移動部材Ａ６５０の駆動を実行しないことにより、第３動作ユニットＡ６００を図１２の状態で停止させる制御を容易に行うことができる。

【０１１７】

このようにして、第１動作ユニットＡ４００、第２動作ユニットＡ５００及び第３動作

ユニットＡ６００を同時に駆動させる制御を実行可能とし、一体感のある動作を実現しながら、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００が衝突することを避けることができる。

【０１１８】

各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の配置に対応して、その後方に配置されている第３図柄表示装置８１の表示が見える範囲が変わる。即ち、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の全てが演出待機状態にある場合が第３図柄表示装置８１の表示が見える範囲（面積）が最大の状態（図７参照）であり、張出状態となる動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００に対応して、第３図柄表示装置８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なるように構成される。

【０１１９】

演出待機状態からの各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００の張出程度によっても、第３図柄表示装置８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なる。また、例えば、同じ動作ユニット（例えば、第１動作ユニットＡ４００）が動作する場合であっても、図８に示す状態と、図１２に示す状態とでは、動作量も、回転動作ユニットＡ４００ｂの外形も異なる（張出位置側の方が大きい）ことから、第３図柄表示装置８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なっている。

【０１２０】

また、例えば、同じ動作ユニット（例えば、第３動作ユニットＡ６００）が動作する場合であっても、図１１に示す状態と、図１２に示す状態とでは、上下位置は同じであるが、移動部材Ａ６５０の左右配置が異なることで第３図柄表示装置８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なっている。

【０１２１】

また、例えば、複数の同じ動作ユニット（例えば、第１動作ユニットＡ４００と第２動作ユニットＡ５００）が動作する場合であっても、図１０に示す状態と、図１２に示す状態とでは、複数の動作ユニットＡ４００，Ａ５００が交差しているか否かが異なることで、第３図柄表示装置８１の表示領域のうち複数の動作ユニットＡ４００，Ａ５００に隠されない範囲として連続的に視認される範囲の個数（図１０では上下左右の４個、図１２では１個）が異なっている。

【０１２２】

このように、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００により第３図柄表示装置８１の表示領域を隠す範囲を複数種類設けることにより、第３図柄表示装置８１の表示と各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００とを合わせて視認させる演出のバリエーションを多くすることができる。

【０１２３】

即ち、第３図柄表示装置８１では、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００により隠されていない範囲において表示演出を展開するように制御されているところ、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００により隠される範囲が複数種類で変化することから、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００，Ａ６００により隠されていない範囲における表示演出のバリエーションを多くすることができ、表示演出の演出効果を向上させることができる。

【０１２４】

例えば、図１２のように、大きな範囲に広がる連続的に視認可能な表示領域が保持される場合には、全画面でアニメーションを流して遊技者に視認させることで遊技者をリラックスさせることができる一方、図８、図９又は図１０等のように表示領域が分割されているように視認される場合には、各分割された範囲における表示を区別させて（例えば、有利展開と不利展開とで区別された表示として）、それらの表示のうちいずれかが選択されて以後の演出展開が決まるように演出すれば、各分割された範囲における表示への注目力を向上させることができる。

【０１２５】

次いで、図１３から図２６を参照して、第１動作ユニットＡ４００について説明する。図１３は、第１動作ユニットＡ４００の正面斜視図であり、図１４は、第１動作ユニットＡ４００の背面斜視図である。

【０１２６】

第１動作ユニットＡ４００は、背面ケースＡ２１０（図５参照）に保持される支持ユニットＡ４００ａと、その支持ユニットＡ４００ａに正面視右側下部に配置される回転軸棒ＡＪ１を中心に回転動作可能に支持される回転動作ユニットＡ４００ｂと、を備える。

【０１２７】

第１動作ユニットＡ４００では、駆動モータＡＭＴ１が左上側に配設されており、回転軸棒ＡＪ１が右下側に配設されている。これにより、回転軸棒ＡＪ１の付近に駆動モータＡＭＴ１を配設する場合に比較して、回転軸棒ＡＪ１周辺の構造を簡素化でき、回転軸棒ＡＪ１の配置を右隅に寄せることができる。

【０１２８】

更に、回転軸棒ＡＪ１の付近に駆動モータＡＭＴ１を配設する場合に見られるような、回転動作ユニットＡ４００ｂの前側または後側に駆動モータＡＭＴ１を配設する場合に比較して、第１動作ユニットＡ４００の前後幅を短くすることができる。従って、背面ケースＡ２１０（図５参照）の前後方向に複数の可動役物を積層配置する場合のスペースを十分に確保することができる。

【０１２９】

図１５は、第１動作ユニットＡ４００の分解正面斜視図であり、図１６は、第１動作ユニットＡ４００の分解背面斜視図である。図１５及び図１６では、支持ユニットＡ４００ａが分解されており、回転動作ユニットＡ４００ｂは非分解の状態で図示される。

【０１３０】

支持ユニットＡ４００ａは、背面ケースＡ２１０（図５参照）に締結固定される固定支持ユニットＡ４１０と、その固定支持ユニットＡ４１０に配置が固定される駆動モータＡＭＴ１を有し、その駆動モータＡＭＴ１の駆動力を回転動作ユニットＡ４００ｂに伝達可能に構成される駆動伝達ユニットＡ４２０と、を備える。

【０１３１】

固定支持ユニットＡ４１０は、背面ケースＡ２１０（図５参照）の底壁部Ａ２１１の正面視右部に締結固定される縦長部材Ａ４１１と、その縦長部材Ａ４１１の上端側部と前後方向で対向配置される横長部材Ａ４１３と、その横長部材Ａ４１３と縦長部材Ａ４１１の間に配設される板金部材が前方に折曲形成される補強部材Ａ４１５と、その補強部材Ａ４１５の折曲形成された部分を横長部材Ａ４１３との間に挟み込む配置で横長部材Ａ４１３に締結固定される上カバー部材Ａ４１７と、を備える。

【０１３２】

縦長部材Ａ４１１は、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転軸棒ＡＪ１が挿通される筒状支持部Ａ４１１ａと、右下側に配設される変位規制装置Ａ２１４（図６参照）の突出先端が挿入される非演出用孔Ａ４１１ｂと、メンテナンス用に締結ネジを付け外しできる大きさに貫通形成される補修用孔Ａ４１１ｃと、回転動作ユニットＡ４００ｂの配置を検出することで第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態または張出状態であることを検出するための検出センサＡ４１１ｄと、を備える。

【０１３３】

非演出用孔Ａ４１１ｂは、正面視において右側の装飾部材Ａ８０８に目隠しされる箇所に形成される（図８参照）。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの配置に関わらず、非演出用孔Ａ４１１ｂを通して変位規制装置Ａ２１４（図６参照）が遊技者に視認されることを避け易くすることができる。

【０１３４】

なお、このような目隠しの効果は、上側の変位規制装置Ａ２１４についても同様に生じる。即ち、上側の変位規制装置Ａ２１４は第２動作ユニットＡ５００の変位を規制するためのものであるが、これについても上側の装飾部材Ａ８０８に目隠しされることで、変位

規制装置Ａ２１４が遊技者に視認されることを避け易くすることができる。
【０１３５】
検出センサＡ４１１ｄとしては、通常、フォトカプラ形式のセンサが利用されるが、これに限られるものではない。例えば、磁気センサでも良いし、接触式のセンサでも良い。
【０１３６】
横長部材Ａ４１３は、樹脂材料から横長板状に形成される板状本体Ａ４１３ａと、その板状本体Ａ４１３ａに貫通形成される案内長孔Ａ４１４と、板状本体Ａ４１３ａの左端側において前方側に膨出された膨出部に駆動モータＭＴ１を支持可能に貫通形成されるモータ支持孔Ａ４１３ｂと、板状本体Ａ４１３ａの上端部から前方に板状に延設され、その延設先端側に雌ネジが形成された複数の突設部Ａ４１３ｃが形成される板状延設部Ａ４１３ｄと、を備える。
【０１３７】
補強部材Ａ４１５は、金属板から折曲形成される部材であって、板状本体Ａ４１３ａの背面側に張り合わせるように配置され組立状態（図１３参照）において縦長部材Ａ４１１と横長部材Ａ４１３との間に挟まれる板状本体Ａ４１５ａと、その板状本体Ａ４１５ａの上端から正面側へ折曲形成され複数の突設部Ａ４１３ｃを挿通可能な複数の貫通孔Ａ４１５ｂが穿設される折曲板Ａ４１５ｃと、その折曲板Ａ４１５ｃから折曲形成され金属棒ＡＭＢ１が挿通される貫通孔が形成される一対の保持用折曲部Ａ４１５ｄと、案内長孔Ａ４１４を外側から囲む形状で穿設される長孔Ａ４１５ｅと、を備える。
【０１３８】
上カバー部材Ａ４１７は、樹脂材料から形成される部材であって、横長部材Ａ４１３との間に補強部材Ａ４１５を挟む位置関係で貫通孔Ａ４１５ｂに挿通される突設部Ａ４１３ｃの雌ネジに螺入される締結ネジにより横長部材Ａ４１３に締結固定される板状本体Ａ４１７ａと、その板状本体Ａ４１７ａに一端が支持される付勢バネＡ４１７ｂと、その付勢バネＡ４１７ｂの他端が支持され、付勢バネＡ４１７ｂの付勢力で左右方向に延びる可動域の右端に付勢されるダンパ部材Ａ４１７ｃと、を備える。
【０１３９】
駆動伝達ユニットＡ４２０は、駆動モータＡＭＴ１が左端側に支持される板金部材であって左右両端部において横長部材Ａ４１３に締結固定される支持部材Ａ４２１と、その支持部材Ａ４２１の正面側に回転可能に支持される複数の回転部材から構成される伝達機構Ａ４２３と、その伝達機構Ａ４２３の回転部材を正面側から覆うように支持部材Ａ４２１に締結固定される被覆カバーＡ４２５と、伝達機構Ａ４２３と回転動作ユニットＡ４００ｂとを連結する連結機構Ａ４２７と、を備える。
【０１４０】
伝達機構Ａ４２３は、内周側に歯が形成される環状のベルトＡ４２３ａと、そのベルトＡ４２３ａの歯と噛み合う形状の歯が外周側に形成され、ベルトＡ４２３ａを緩み無く支持可能となるように支持部材Ａ４２１の柱状部Ａ４２１ａに回転可能に支持される左右一対のプーリーＡ４２３ｂ，Ａ４２３ｃと、駆動モータＡＭＴ１の駆動軸に相対動作不能に固定される駆動ギアＡ４２３ｄと、左プーリーＡ４２３ｃの背面側に形成されるギア部Ａ４２３ｅおよび駆動ギアＡ４２３ｄに歯合されるように支持部材Ａ４２１の柱状部Ａ４２１ａに回転可能に支持される伝達ギアＡ４２３ｆと、を備える。
【０１４１】
被覆カバーＡ４２５は、支持部材Ａ４２１の本体板部に形成される雌ネジと締結固定されるだけでなく、プーリーＡ４２３ｂ，Ａ４２３ｃや伝達ギアＡ４２３ｆを支持する柱状部Ａ４２１ａの先端に形成される雌ネジにも締結固定される。これにより、柱状部Ａ４２１ａの剛性を向上させることができ、プーリーＡ４２３ｂ，Ａ４２３ｃや伝達ギアＡ４２３ｆの回転を安定させることができる。
【０１４２】
連結機構Ａ４２７は、回転動作ユニットＡ４００ｂの上端側部が連結されると共に正面側の凹部Ａ４２７ｂで金属棒ＡＭＢ１を受け入れることで動作方向が左右方向とされる連

結部材Ａ４２７ａと、その連結部材Ａ４２７ａの凹部Ａ４２７ｂを正面側から塞ぐように連結部材Ａ４２７ａに締結固定されることで連結部材Ａ４２７ａとの間からの金属棒ＡＭＢ１の脱落を防止する防止部材Ａ４２７ｃと、その防止部材Ａ４２７ｃとの間にベルトＡ４２３ａを挟む配置で防止部材Ａ４２７ｃに締結固定されるベルト固定部材Ａ４２７ｄと、を備える。

【０１４３】

一対の凹部Ａ４２７ｂには、金属棒ＡＭＢ１が挿通される円筒状のカラーＡ４２７ｆが配設され、そのカラーに挿通された状態の金属棒ＡＭＢ１を外周の溝部で支持する滑車Ａ４２７ｇが回転可能に連結部材Ａ４２７ａに支持されている。これにより、金属棒ＡＭＢ１に対する連結部材Ａ４２７ａの姿勢がずれることを防止し易くできると共に、動作抵抗を低減させることができる。

【０１４４】

ベルト固定部材Ａ４２７ｄのベルトＡ４２３ａと対向配置される上面部には、ベルトＡ２３ａの内周側に形成される歯形状に対応する係合突部Ａ４２７ｈが形成される。この係合突部Ａ４２７ｈとベルトＡ４２３ａの歯とが噛み合うようにベルトＡ４２３ａを配置させ、ベルトＡ４２３ａの外周側（上のベルトＡ４２３ａの上側）に防止部材Ａ４２７ｃを対向配置させるようにしてベルト固定部材Ａ４２７ｄと防止部材Ａ４２７ｃとを締結固定させる。

【０１４５】

これにより、ベルトＡ４２３ａが係合突部Ａ４２７ｈから脱落することを避けることができる。また、ベルトＡ４２３ａを押圧するようにして固定する場合と異なり、ベルトＡ４２３ａの耐久性を向上させながら、ベルトＡ４２３ａが連結機構Ａ４２７に対して滑ることを防止することができる。

【０１４６】

このような構造により、連結機構Ａ４２７は、駆動モータＡＭＴ１が駆動回転され、歯合伝達により左プーリーＡ４２３ｃが回転されることでベルトＡ４２３ａの左右に延びている箇所が左右方向に移動されることに伴って、金属棒ＡＭＢ１に案内されて左右方向に移動される。

【０１４７】

連結部材Ａ４２７ａは、回転動作ユニットＡ４００ｂの柱状突設部Ａ４４８が挿通される上下方向に延びる案内長孔Ａ４２７ｅを備える。回転動作ユニットＡ４００ｂの柱状突設部Ａ４４８は、案内長孔Ａ４２７ｅ及び固定支持ユニットＡ４１０の案内長孔Ａ４１４に挿通されることで、連結機構Ａ４２７が左右方向に移動されることに伴って、回転動作ユニットＡ４００ｂの柱状突設部Ａ４４８が上下方向かつ左右方向に移動される。

【０１４８】

このように左右方向に移動する連結機構Ａ４２７を介して、回転動作ユニットＡ４００ｂに駆動力が伝達され、回転動作ユニットＡ４００ｂが変位される。以下、回転動作ユニットＡ４００ｂの詳細について説明する。

【０１４９】

図１７は、回転動作ユニットＡ４００ｂの分解正面斜視図であり、図１８は、回転動作ユニットＡ４００ｂの分解背面斜視図である。図１７及び図１８に図示されるように、回転動作ユニットＡ４００ｂは、下端側に回転軸棒ＡＪ１が嵌合される基礎板部材Ａ４３０と、回転軸棒ＡＪ１と直交する平面上において回転軸棒ＡＪ１を通る直線方向にスライド移動可能となるように基礎板部材Ａ４３０に連結される移動部材Ａ４４０と、基礎板部材Ａ４３０及び移動部材Ａ４４０に挿通され移動部材Ａ４４０のスライド移動時に、そのスライド移動と直交する方向に移動可能とされる方向切替部材Ａ４５０と、その方向切替部材Ａ４５０の移動により配置または姿勢が変化されることで回転動作ユニット４００ｂの短手方向の長さが変化するように遊技者に見せるための装飾部材Ａ４６０と、基礎板部材Ａ４３０との間に形成される空間に方向切替部材Ａ４５０を配置するようにして基礎板部材Ａ４３０に嵌合または締結固定され方向切替部材Ａ４５０を正面側から覆う形状で形成

される覆設部材Ａ４７０と、を備える。
【０１５０】
基礎板部材Ａ４３０は、回転軸棒ＡＪ１が嵌合される長尺板状の板状本体Ａ４３１と、その板状本体Ａ４３１に回転軸棒ＡＪ１を通る同一直線上に穿設される上下一対の案内長孔Ａ４３２と、その一対の案内長孔Ａ４３２の間の位置において案内長孔Ａ４３２の延びる方向と直交する方向に延びるように穿設される複数の補助長孔Ａ４３３と、上側の案内長孔Ａ４３２の下端付近における板状本体Ａ４３１の短手方向端部に案内長孔Ａ４３２と平行な長孔として形成される一対の支持長孔Ａ４３４と、板状本体Ａ４３１から背面側に筒状に突設される誤動作防止筒部Ａ４３５と、案内長孔Ａ４３２が配置される直線と平行に延びる形状で板状本体Ａ４３１の下端部正面から突設される一対の案内延設部Ａ４３６と、板状本体Ａ４３１の下端部から下方へ板状に張り出す板状検出片Ａ４３７と、を備える。
【０１５１】
誤動作防止筒部Ａ４３５は、右側の変位規制装置Ａ２１４（図６参照）の突出先端が挿通可能な大きさで形成される貫通孔である。この誤動作防止筒部Ａ４３５は、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態において非演出用孔Ａ４１１ｂ（図８参照）の前方に配置されている。
【０１５２】
変位規制装置Ａ２１４の突出先端が前方に突出する突出状態にされると、その突出先端は非演出用孔Ａ４１１ｂを通り誤動作防止筒部Ａ４３５に挿通されることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作が規制される。
【０１５３】
板状検出片Ａ４３７は、検出センサＡ４１１ｄ（図１５参照）の検出溝に配置可能となる前後位置に形成されている。板状検出片Ａ４３７は、回転軸棒ＡＪ１が支持される側（背面側）において形成されている。これにより、回転軸棒ＡＪ１の変形等により回転軸棒ＡＪ１が曲がる（傾斜する）事態が生じた場合であっても、板状検出片Ａ４３７の位置ずれを最小限にとどめることができるので、板状検出片Ａ４３７が検出センサＡ４１１ｄの検出溝に収まる前後位置から外れる位置に配置されることを回避し易くすることができる。
【０１５４】
検出センサＡ４１１ｄ（図１５参照）により板状検出片Ａ４３７の配置が検出されることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢を把握することができるので、複数の動作ユニットＡ４００～Ａ６００が個別の駆動源で駆動される場合であっても、互いに衝突する事態が生じることを回避できる。
【０１５５】
移動部材Ａ４４０は、内部に配設される発光基板の発光手段から照射される光によって正面側の装飾板Ａ４４１を明るく照らす演出を実行可能に構成され、その装飾板Ａ４４１との間で発光基板を挟むように配設される板状本体Ａ４４２と、その板状本体Ａ４４２の背面に突設される一対の挿通突部Ａ４４３と、基礎板部材Ａ４３０の補助長孔Ａ４３３に対応する位置において上下方向と左右傾斜する方向とを組合せた形状で穿設される複数の機能長孔Ａ４４４と、一対の挿通突部Ａ４４３が配置される直線と平行に延設される延設部Ａ４４５と、板状本体Ａ４２２の右上隅部から背面側に突設され駆動伝達ユニットＡ４２０の案内長孔Ａ４２７ｅ（図１５参照）に挿通される柱状突設部Ａ４４８と、を備える。
【０１５６】
装飾板Ａ４４１は、短手方向中央部において長手方向に延びる透光性領域Ａ４４１ａと、その透光性領域Ａ４４１ａの短手方向両側において鍍金が塗布されている鍍金領域Ａ４４１ｂと、を備える。
【０１５７】
これにより、機能長孔Ａ４４４を形成する関係上、基板の配置が短手方向中央部寄りに

制限される場合であっても、発光演出については短手方向中央部寄りの透光性領域Ａ４４１ａで行い、その他の鍍金領域Ａ４４１ｂでは鍍金からの反射で演出を行うことで、演出効果の低下を避けることができる。

【０１５８】

挿通突部Ａ４４３は、基礎板部材Ａ４３０の案内長孔Ａ４３２に挿通されると共に先端に螺入されるネジ及びカラー部材ＡＣ１により案内長孔Ａ４３２からの脱落が防止されるよう構成される。

【０１５９】

機能長孔Ａ４４４は、上下一対の長孔と、一対の挿通突部Ａ４４３を結ぶ直線で反転した形状となるもう一組の上下一対の長孔との、４つの長孔から構成されており、各長孔の形状は、反転の関係を除き共通とされている。

【０１６０】

複数の機能長孔Ａ４４４のうち、上下一対の長孔は、一方の長孔を、一対の挿通突部Ａ４４３を結ぶ直線に沿って平行移動させた位置に形成されている。即ち、上下一対の長孔の対応する箇所は、同一直線上に延びるか、平行配置される関係が維持される。

【０１６１】

延設部Ａ４４５は、基礎板部材Ａ４３０の一対の案内延設部Ａ４３６の間隔よりも若干短い幅長さで形成され、移動部材Ａ４４０の移動時のガイドとして機能している。また、延設部Ａ４４５は、延設方向断面が正面側を開放したコの字状に形成されているが、この形状により、剛性の向上だけでなく、基板に接続される配線Ａ４４９の断線防止にも機能している。即ち、コの字の開放された側から延設部Ａ４４５に配線Ａ４４９を保持させることにより、他の動作部材と配線Ａ４４９との接触を避けることができる。

【０１６２】

配線Ａ４４９は、フラットケーブルで構成されており、回転軸棒ＡＪ１周りの回転に対応する方向に撓み可能な配線と、延設部Ａ４４５の延びる方向に撓み可能な配線とで構成される。

【０１６３】

本実施形態では、駆動モータＡＭＴ１を回転軸棒ＡＪ１から離れた位置に配設していることから（図１４参照）、回転軸棒ＡＪ１周りにスペースを確保し易くでき、このスペースを配線Ａ４４９が撓むためのスペースとして利用できる。これにより、配線Ａ４４９に無理な負荷が加えられることを避けることができ、配線Ａ４４９の耐久性を向上させることができる。

【０１６４】

方向切替部材Ａ４５０及び装飾部材Ａ４６０についてまとめて説明する。方向切替部材Ａ４５０は、左右一対の部材から構成されており、板状本体Ａ４５１と、その板状本体Ａ４５１の左右内側部において背面から上下一対で突設される柱状部Ａ４５２と、板状本体Ａ４５１の左右外側部において穿設される上下一対の貫通孔Ａ４５３と、を備える。

【０１６５】

柱状部Ａ４５２は、移動部材Ａ４４０の機能長孔Ａ４４４と、基礎板部材Ａ４３０の補助長孔Ａ４３３とに順に挿通されており、移動部材Ａ４４０の配置に応じて、一対の挿通突部Ａ４４３を結ぶ直線と直交する方向に変位可能となっている。即ち、移動部材Ａ４４０の配置に応じて、方向切替部材Ａ４５０は、一対の挿通突部Ａ４４３を結ぶ直線と直交する方向に変位され得る（移動部材Ａ４４０の移動方向に対して直交する方向に変位され得る）。

【０１６６】

装飾部材Ａ４６０は、左右一対の平行移動部材Ａ４６１と、左右一対の回転移動部材Ａ４６５と、を備える。平行移動部材Ａ４６１は、板状本体Ａ４６２と、その板状本体Ａ４６２の左右外側における下方隅部から背面側へ突設される柱状部Ａ４６３と、板状本体Ａ４６２の左右外側における中央側部から背面側へ突設される長尺柱状部Ａ４６４と、を備える。

【０１６７】
回転移動部材Ａ４６５は、板状本体Ａ４６６と、その板状本体Ａ４６６の上端部において背面から突設される柱状部Ａ４６７と、その柱状部Ａ４６７よりも下側において穿設される貫通孔Ａ４６８と、を備える。
【０１６８】
柱状部Ａ４６３は、先端に雌ネジが形成されている。その雌ネジに方向切替部材Ａ４５０の下側の貫通孔Ａ４５３に挿通される締結ネジが螺入されることで、装飾部材Ａ４６０と方向切替部材Ａ４５０とが締結固定される。
【０１６９】
長尺柱状部Ａ４６４は、先端に雌ネジが形成されているが、締結固定に利用されるものではなく、部材の脱落を防ぐ目的で利用される。即ち、長尺柱状部Ａ４６４が挿通される回転移動部材Ａ４６５は、平行移動部材Ａ４６１に対して回転動作可能に構成される。
【０１７０】
長尺柱状部Ａ４６４は、先に方向切替部材Ａ４５０の上側の貫通孔Ａ４５３に挿通され、その後から回転移動部材Ａ４６５の貫通孔Ａ４６８に挿通される。長尺柱状部Ａ４６４の先端にネジ頭の大きなネジが固定されることにより、回転移動部材Ａ４６５が長尺柱状部Ａ４６４から脱落することを防止することができる。
【０１７１】
回転移動部材Ａ４６５の柱状部Ａ４６７は、基礎板部材Ａ４３０の支持長孔Ａ４３４に支持されることで、変位は小さくされる。このように構成することで、貫通孔Ａ４６８を変位させる方向切替部材Ａ４５０の変位よりも、回転移動部材Ａ４６５の柱状部Ａ４６７の反対側の端部（下端部）の変位を大きくすることができる。
【０１７２】
覆設部材Ａ４７０は、短手方向中央部において長手方向に延びる透光性領域Ａ４７１と、その透光性領域Ａ４７１の短手方向両側において鍍金が塗布されている鍍金領域Ａ４７２と、を備える。
【０１７３】
これにより、方向切替部材Ａ４５０や装飾部材Ａ４６０が配設されることで移動部材Ａ４４０側から照射される光が遮られ易い短手方向両側位置においても演出効果を高く維持することができる。即ち、発光演出については短手方向中央部寄りの透光性領域Ａ４７１で行い、その他の鍍金領域Ａ４７２では鍍金からの反射で演出を行うことで、演出効果の低下を避けることができる。
【０１７４】
覆設部材Ａ４７０は、下端部において背面側に突設される一対の突設部Ａ４７３を備える。突設部Ａ４７３は、基礎板部材Ａ４３０の案内延設部Ａ４３６の正面側端部と対応する位置に配置される。
【０１７５】
このように配置することにより、組立状態において、覆設部材Ａ４７０と基礎板部材Ａ４３０とで移動部材Ａ４４０の延設部Ａ４４５が挿通される開口部を形成することができる。これにより、移動部材Ａ４４０の移動方向を延設部Ａ４４５の延設方向に安定させることができる。
【０１７６】
図１９（ａ）、図１９（ｂ）、図２０（ａ）及び図２０（ｂ）は、回転動作ユニットＡ４００ｂの背面図である。図１９（ａ）、図１９（ｂ）、図２０（ａ）及び図２０（ｂ）では、回転動作ユニットＡ４００ｂの移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動する様子が時系列で図示される。
【０１７７】
即ち、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態（図７参照）における回転動作ユニットＡ４００ｂ（図１９（ａ）参照）から、張出状態（図８参照）における回転動作ユニットＡ４００ｂ（図２０（ｂ）参照）までの、相対移動の様子が図示される。なお、図１９

及び図１９の紙面における上下は、実際の上下方向とは異なっており、移動部材Ａ４４０のスライド移動の方向が紙面の上下と合致する姿勢で図示されている。

【０１７８】

機能長孔Ａ４４４は、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線に対して平行に延びる第１平行部Ａ４４４ａと、その第１平行部Ａ４４４ａに一端が連なるように形成され第１平行部Ａ４４４ａに対して傾斜する方向に直線状に延びる傾斜部Ａ４４４ｂと、その傾斜部Ａ４４４ｂの他端に連なるように形成され第１平行部Ａ４４４ａの延びる方向に対して平行に延びる第２平行部Ａ４４４ｃと、を備える。

【０１７９】

ここで、図１９（ａ）では、方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が第１平行部Ａ４４４ａの端部側に配置された状態が図示され、図１９（ｂ）では、方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が第１平行部Ａ４４４ａと傾斜部Ａ４４４ｂとの交差位置に配置された状態が図示され、図２０（ａ）では、方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が傾斜部Ａ４４４ｂと第２平行部Ａ４４４ｃとの交差位置に配置された状態が図示され、図２０（ｂ）では、方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が第２平行部Ａ４４４ｃの端部側に配置された状態が図示される。

【０１８０】

第１平行部Ａ４４４ａの長さは十分に長く形成されている。これにより、移動部材Ａ４４０が、図１９（ａ）に示す状態から、基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動を開始しても、暫くは（図１９（ｂ）に示す状態までは）、方向切替部材Ａ４５０が移動部材Ａ４４０の短手方向に移動されることが無く、短手方向幅の短い外観を維持した状態で回転動作ユニットＡ４００ｂを回転動作させることができる。

【０１８１】

傾斜部Ａ４４４ｂは、第１平行部Ａ４４４ａが形成される位置から移動部材Ａ４４０の短手方向外側へ向けて延びる。そのため、第１平行部Ａ４４４ａに方向切替部材Ａ４５０の柱状部Ａ４５２が配置されている状態から移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動し、柱状部Ａ４５２が傾斜部Ａ４４４ｂに入ると、方向切替部材Ａ４５０が移動部材Ａ４４０の短手方向外側へ向けて移動する。

【０１８２】

方向切替部材Ａ４５０の一対の柱状部Ａ４５２は、一対の補助長孔Ａ４３３に挿通されており、一対が平行に案内される。そのため、方向切替部材Ａ４５０の基礎板部材Ａ４３０に対する相対移動は、基礎板部材Ａ４３０の短手方向への平行移動となる。

【０１８３】

その移動の速度は、傾斜部Ａ４４４ｂが直線状に形成されていることにより、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動する速度に対して比例する。そのため、移動部材Ａ４４０と、方向切替部材Ａ４５０及び装飾部材Ａ４６０とが、連動する動作演出を実行させ易くすることができる。

【０１８４】

第２平行部Ａ４４４ｃは、第１平行部Ａ４４４ａ程の長さは無く、必要最小限の長さで形成される。第２平行部Ａ４４４ｃを形成する目的は、回転動作ユニットＡ４００ｂの演出効果の向上のためである。

【０１８５】

即ち、第１動作ユニットＡ４００が張出状態まで駆動され駆動モータＡＭＴ１（図１５参照）が停止された場合に、ダンパ部材Ａ４１７ｃに付勢バネＡ４１７ｂから与えられる付勢力で連結機構Ａ４２７が若干押し戻され、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して逆方向（戻る方向）に相対移動した場合であっても、第２平行部Ａ４４４ｃがあることで、移動部材Ａ４４０の短手方向における方向切替部材Ａ４５０の位置を変化させないようにすることができる。

【０１８６】

これにより、第１動作ユニットＡ４００の張出状態において駆動モータＡＭＴ１の駆動

を停止させるという制御を採用する場合に生じ得る付勢バネＡ４１７ｂの付勢力による押し戻し動作が、生じた場合であっても、張出状態における第１動作ユニットＡ４００の外観（回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向の長さ）を維持し易くすることができる。

【０１８７】

図１９（ａ）に示す状態では、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第１長さＡＤ１とされ、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度は第１角度Ａθ１とされる。

【０１８８】

図１９（ｂ）に示す状態では、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第２長さＡＤ２とされ、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度は第２角度Ａθ２とされる。

【０１８９】

第２長さＡＤ２は第１長さＡＤ１よりも長くなるよう構成される（第１長さＡＤ１＜第２長さＡＤ２）。第２角度Ａθ２は第１角度Ａθ１よりも小さくなるよう構成される（第１角度Ａθ１＞第２角度Ａθ２）。

【０１９０】

図２０（ａ）に示す状態では、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第３長さＡＤ３とされ、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度は第３角度Ａθ３とされる。

【０１９１】

第３長さＡＤ３は第２長さＡＤ２よりも長くなるよう構成される（第１長さＡＤ１＜第２長さＡＤ２＜第３長さＡＤ３）。第３角度Ａθ３は第２角度Ａθ２よりも小さくなるよう構成される（第１角度Ａθ１＞第２角度Ａθ２＞第３角度Ａθ３）。

【０１９２】

図２０（ｂ）に示す状態では、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第４長さＡＤ４とされ、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度は第４角度Ａθ４とされる。

【０１９３】

第４長さＡＤ４は第３長さＡＤ３よりも長くなるよう構成される（第１長さＡＤ１＜第２長さＡＤ２＜第３長さＡＤ３＜第４長さＡＤ４）。第４角度Ａθ４は第３角度Ａθ３よりも小さくなるよう構成される（第１角度Ａθ１＞第２角度Ａθ２＞第３角度Ａθ３＞第４角度Ａθ４）。

【０１９４】

従って、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態から張出状態となるまでにおいて、回転動作ユニットＡ４００ｂは、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が徐々に長くなるように変化され、それに伴い、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を通る直線と、一対の挿通突部Ａ４４３を通る直線との間の角度が徐々に小さくなるように変化される。

【０１９５】

図２１、図２２及び図２３は、第１動作ユニットＡ４００の正面図である。図２１、図２２及び図２３では、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態から張出状態へ向けて駆動される様子が時系列で図示される。

【０１９６】

図２１では、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態が図示され、図２２では、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態と張出状態との間の状態であって、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観が姿勢変化を除いて演出待機状態と同じとなる状態が図示され、図２３では、第１動作ユニットＡ４００の張出状態が図示される。

【０１９７】

図２１に示す状態では、板状検出片Ａ４３７が検出センサＡ４１１ｄの検出溝に配置される。これにより、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態にあることを、対応する制

御装置に把握させることができる。

【０１９８】

案内長孔Ａ４１４は、図２２に示す柱状突設部Ａ４４８よりも右側に形成される回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧形状に沿う円弧部Ａ４１４ａと、図２２に示す柱状突設部Ａ４４８よりも左側において直線状に形成され円弧部Ａ４１４ａと滑らかに連なる（連なる部分における円弧部Ａ４１４ａの接線方向に延びる）直線部Ａ４１４ｂと、を備える。

【０１９９】

即ち、柱状突設部Ａ４４８が円弧部Ａ４１４ａに配置されている状態では（図２１及び図２２参照）、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作が生じても、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離は第１長さＡＤ１（図１９（ａ）参照）に維持され、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じないので、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観は維持される。

【０２００】

図２２に示す状態から、図２３に示す状態への回転動作の過程において、回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向に回転移動部材Ａ４６５が張り出すように、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観が変化される。

【０２０１】

図２２に示す状態から図２３に示す状態までの間において、柱状突設部Ａ４４８が案内される直線部Ａ４１４ｂは、回転軸棒ＡＪ１を中心とする円と１点で交差する配置とされているので、柱状突設部Ａ４４８の配置と、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８の間の距離とが、一対一で対応する。

【０２０２】

回転移動部材Ａ４６５の張出量は、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８の間の距離に対応するよう構成されているので（図１９及び図２０参照）、回転移動部材Ａ４６５が張出始める柱状突設部Ａ４４８の位置や、柱状突設部Ａ４４８の位置に対応した回転移動部材Ａ４６５の張出量を、構造面から特定できる。

【０２０３】

そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢変化と回転移動部材Ａ４６５の張出とを個別の駆動源で実行する場合に問題となり得る、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢の変化量（角度）が不十分な状態で回転移動部材Ａ４６５が張り出して背面ケースＡ２１０（図５参照）と衝突するという事態を回避することができる。

【０２０４】

駆動モータＡＭＴ１（図１５参照）の駆動力が伝達されベルトＡ４２３ａが動作されると、連結機構Ａ４２７が金属棒ＡＭＢ１に案内されて左右方向にスライド変位される。本実施形態では、駆動モータＡＭＴ１の駆動量の制御によって、回転動作ユニットＡ４００ｂが図２１に示す状態と図２２に示す状態とを往復するように動作させたり、回転動作ユニットＡ４００ｂが図２２に示す状態と図２３に示す状態とを往復するように動作させたり、回転動作ユニットＡ４００ｂが図２１に示す状態と図２３に示す状態とを往復するように動作させたりすることができる。

【０２０５】

張出状態の側（左側）において、連結機構Ａ４２７はダンパ部材Ａ４１７ｃと当接し付勢バネＡ４１７ｂからの弾性力で減速される。これにより、第１動作ユニットＡ４００を張出状態とする向きでベルトＡ４２３ａを高速で動作させた場合であっても、連結機構Ａ４２７が張出状態の側（左側）で跳ね返る等して、ベルトＡ４２３ａに過大な負荷が加えられることを回避し易くすることができ、ベルトＡ４２３ａ及び連結機構Ａ４２７の耐久性を向上させることができる。

【０２０６】

図２１に示す第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態から回転動作ユニットＡ４００ｂが始動する場合、柱状突設部Ａ４４８の始動方向は回転軸棒ＡＪ１を中心とし柱状突設部Ａ４４８を通る円の接線方向ＡＴ１へ向くことになる。

【０２０７】
本実施形態では、図２１に示す状態において、接線方向ＡＴ１と金属棒ＡＭＢ１が延びる方向（左右方向）との成す角度が小さくなるように構成されているので、駆動モータＡＭＴ１の駆動力を効率的に伝達して回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作を実行させることができる。
【０２０８】
図２２に示す状態において、接線方向ＡＴ１の向きが直線部Ａ４１４ｂと平行となる。そのため、図２２に示す状態から回転動作ユニットＡ４００ｂを正面視反時計回りに回転動作させる場合の回転方向の抵抗を小さくすることができる。
【０２０９】
図２２に示す状態から図２３に示す状態までの間に、接線方向ＡＴ１の向きと、金属棒ＡＭＢ１が延びる方向（左右方向）との成す角度が漸増し、接線方向ＡＴ１の下方向の成分が大きくなる。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂを回転動作させる力は自重の割合が増え、駆動モータＡＭＴ１の駆動力に余剰が生まれる。この余剰分の駆動力を、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動に利用することができる。
【０２１０】
このように、駆動モータＡＭＴ１の駆動力を、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作にも、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動にも、利用するという構成を採用しながら、それら複数の動作に駆動力が必要となるタイミングをずらすように構成することで、一時点で必要とされる駆動力の最大値を下げることができ、駆動モータＡＭＴ１の小形化を図ることができる。
【０２１１】
図２３に示すように、回転軸棒ＡＪ１と、駆動力の伝達箇所としての柱状突設部Ａ４４８とを結ぶ直線と金属棒ＡＭＢ１の延びる方向とが成す角度よりも、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動する方向としての移動方向ＡＭ１と金属棒ＡＭＢ１の延びる方向とが成す角度の方が小さくなるように構成される。
【０２１２】
本実施形態では、移動方向ＡＭ１と金属棒ＡＭＢ１の延びる方向とが成す角度が鋭角とされており、金属棒ＡＭＢ１の延びる方向で伝達される駆動モータＡＭＴ１の駆動力の移動方向ＡＭ１へ向く成分を確保し易くすることができるので、移動部材Ａ４４０の基礎板部材Ａ４３０に対する相対移動よりも先に、回転動作ユニットＡ４００ｂを回転動作させる方向で駆動力が伝達されてしまい、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作抵抗が大きくなる事態が発生することを避けることができる。なお、本実施形態では、移動方向ＡＭ１が、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向と一致する。
【０２１３】
柱状突設部Ａ４４８に駆動モータＡＭＴ１からの負荷が左右方向で伝達されると、その負荷は移動方向ＡＭ１で移動部材Ａ４４０を相対移動させる下向きの負荷と、回転動作ユニットＡ４００ｂを回転軸棒ＡＪ１中心に回転させる（起こす）方向の上向きの負荷とに分解される。駆動モータＡＭＴ１からの負荷が左右方向（真横方向）であるからこそ、このように、上下方向への負荷の分解をスムーズに生じさせることができる。
【０２１４】
この時、移動方向ＡＭ１に分解される負荷の方向には、回転軸棒ＡＪ１は配置されていないので、その負荷も、回転軸棒ＡＪ１を中心として回転動作ユニットＡ４００ｂを回転させるように作用する。
【０２１５】
即ち、本実施形態では、柱状突設部Ａ４４８が、回転軸棒ＡＪ１を通り移動方向ＡＭ１と平行な直線からずれた位置に配置されているので、移動部材Ａ４４０を移動方向ＡＭ１で相対移動させる成分の負荷が、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転方向にも生じるので、柱状突設部Ａ４４８から回転軸棒ＡＪ１に向かう負荷が過大になる場合のように、回転動作不良が生じることを回避し易くすることができる。

【０２１６】
図２４、図２５及び図２６は、第１動作ユニットＡ４００の背面図である。図２４、図２５及び図２６では、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態から張出状態へ向けて駆動される様子が時系列で図示され、縦長部材Ａ４１１の図示が省略される。
【０２１７】
図２４では、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態が図示され、図２５では、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態と張出状態との間の状態であって、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観が姿勢変化を除いて演出待機状態と同じとなる状態が図示され、図２６では、第１動作ユニットＡ４００の張出状態が図示される。
【０２１８】
即ち、図２４が、図２１に示す状態の回転動作ユニットＡ４００ｂの背面図に相当し、図２５が、図２２に示す状態の回転動作ユニットＡ４００ｂの背面図に相当し、図２６が、図２３に示す状態の回転動作ユニットＡ４００ｂの背面図に相当する。
【０２１９】
主に図２５を参照して、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態を起点とした回転動作ユニットＡ４００ｂの動作について説明する。なお、図１９及び図２０を適宜参照する。
【０２２０】
図２５に示す状態から、回転動作ユニットＡ４００ｂが背面視時計回りに回転され、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第２長さＡＤ２（図１９（ｂ）参照）になるまでにおいては、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じるが、移動部材Ａ４４０の短手方向への方向切替部材Ａ４５０の移動は生じない。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観は、長手方向に延びるように変化し、短手方向の変化は生じない。
【０２２１】
回転動作ユニットＡ４００ｂが背面視時計回りに更に回転され、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第２長さＡＤ２の状態から第３長さＡＤ３（図２０（ａ）参照）になるまでにおいては、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じ、更に移動部材Ａ４４０の短手方向への方向切替部材Ａ４５０の移動が生じる。
【０２２２】
そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観は、長手方向に延びるように変化し、且つ、短手方向の幅が広くなるように変化する。このように、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観の変化は、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作中において、長手方向のみが変化する状態と、長手方向が変化すると共に短手方向が変化する状態とで、２段階で生じるように構成される。
【０２２３】
回転動作ユニットＡ４００ｂが背面視時計回りに更に回転され、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８との間の距離が第３長さＡＤ３の状態から第４長さＡＤ４（図２０（ｂ）参照）になるまでにおいては、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じるが、移動部材Ａ４４０の短手方向への方向切替部材Ａ４５０の移動は生じない。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの外観は、長手方向に延びるように変化し、短手方向の変化は生じない。
【０２２４】
これにより、第１動作ユニットＡ４００の張出状態（図２６参照）において駆動モータＡＭＴ１の駆動を停止させるという制御を採用する場合に生じ得る、付勢バネＡ４１７ｂ（図２１参照）の付勢力による押し戻し動作が生じた場合であっても、張出状態における第１動作ユニットＡ４００の外観（回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向の長さ）を維持し易くすることができる。
【０２２５】
このように、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒動作においては、各区間で基礎板部材

Ａ４３０に対して相対動作する部材の個数が異なる。この相対動作する部材の個数に対応させて駆動モータＡＭＴ１の制御負荷を切り替えるよう制御することで（例えば、部材の個数が多くなる範囲で制御負荷を増加させ、部材の個数が少なくなる範囲で制御負荷を減少させることで）、動作抵抗の変化の影響を抑えることができ、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作速度が局所的に変化することを防止し易くすることができる。

【０２２６】

図２５に示す状態から、柱状突設部Ａ４４８が左方の速度成分が一定で移動する場合における、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転角度の変化について説明する。まず、図２５に示す状態において、回転軸棒ＡＪ１及び柱状突設部Ａ４４８を結ぶ直線と、案内長孔Ａ４１４の直線部Ａ４１４ｂとは、直交する。

【０２２７】

図２５に示す状態から、柱状突設部Ａ４４８が左方の速度成分が一定で移動する場合、柱状突設部Ａ４４８が案内長孔Ａ４１４の直線部Ａ４１４ｂに案内されることから、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転角度Ａφ１は、図２６に示すように、回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８とを結ぶ直線を斜辺とし、図２５に示す回転軸棒ＡＪ１と柱状突設部Ａ４４８とを結ぶ直線を底辺とし、直線部Ａ４１４ｂに沿う直線を高さＡＸ１とする直角三角形の鋭角の角度として特定される。

【０２２８】

ここで、第１長さＡＤ１を単位長さと仮定した場合、直角三角形の関係式として三角関数から式１［ｔａｎＡφ１＝ＡＸ１］が成立するので、その逆関数として式２［Ａφ１＝ａｒｃｔａｎＡＸ１］が成立する。

【０２２９】

式２から、柱状突設部Ａ４４８が左方の速度成分一定で移動することに伴い高さＡＸ１が一定速度で増加する場合、回転角度Ａφ１の変化量は漸減することになる。従って、本実施形態において、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させ、連結機構Ａ４２７の連結部材Ａ４２７ａ（図２１参照）を一定速度で左右方向に移動させる場合に、図２５に示す状態から図２６に示す状態へ向けての始動時における回転角度Ａφ１の変化量を最大として、徐々に回転角度Ａφ１の変化量が減少するという動作態様で回転動作ユニットＡ４００ｂを回転動作させることができる。

【０２３０】

即ち、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させるという単純な制御を採用しながら、回転動作ユニットＡ４００ｂについては、回転速度を徐々に減少させるという動作態様を実現することができる。

【０２３１】

これにより、第１動作ユニットＡ４００が演出待機状態から張出状態へ向けて動作する場合には、始動時は高速で回転させつつも、張出状態に近づく程、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転速度を減少させる。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの登場時の驚きを遊技者に与えつつ、張出状態においては回転動作ユニットＡ４００ｂの配置や姿勢を維持することで遊技者の視界に残し易くすることを、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させる制御で実現することができる。

【０２３２】

一方、第１動作ユニットＡ４００が張出状態から演出待機状態へ向けて動作する場合には、始動時は遅速で回転させつつも、演出待機状態へ近づく程、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転速度を増加させる。そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂの退避側への始動時の余韻を残しつつ、演出待機状態付近においては回転動作ユニットＡ４００ｂの回転速度を高速とすることで、回転動作ユニットＡ４００ｂを速やかに退避させることを、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させる制御で実現することができる。

【０２３３】

これにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作として、回転方向の変位と直動方向の変位とを同時に生じさせながら、回転方向の変位が目立つ（回転速度が大きい）動作状態

と、回転方向の変位が目立たない（回転速度が小さい）状態であって直動方向の変位が目立つ動作状態とを、構成することができる。

【０２３４】

即ち、第１動作ユニットＡ４００の演出待機状態（図２４参照）から背面視時計回りの回転動作を実行させる場合に、図２５に示す状態までは、移動部材Ａ４４０の基礎板部材Ａ４３０に対する相対移動をほとんど生じさせないようにされ、更に、図２５に示す状態からの回転動作において、駆動モータＡＭＴ１を一定速度で駆動させる場合における第１動作ユニットＡ４００の回転速度が漸減するようにされている。

【０２３５】

これにより、第２長さＡＤ２の直線の先端が案内長孔Ａ４１４の中心線と一致する位置に柱状突設部Ａ４４８が配置される状態を境とする、回転方向の変位が目立つ動作状態と、回転方向の変位が目立たずに直動方向の変位が目立つ動作状態との、動作状態の移行を違和感なく且つスムーズに生じさせることができる。

【０２３６】

図２４から図２６に示すように、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作にあたっては、図２４からの回転開始時から図２５に示す状態までは、柱状突設部Ａ４４８が円弧部Ａ４１４ａに案内されることから、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動は生じず、回転動作のみが生じる。

【０２３７】

図２５に示す状態から図２６に示す状態までは、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作に伴い、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動が生じる。相対移動の態様は、図１９及び図２０に示す順序で生じる。

【０２３８】

図２５では、図１９及び図２０に図示される第１長さＡＤ１、第２長さＡＤ２、第３長さＡＤ３、第４長さＡＤ４が、対応して図示される。図２５に図示される第１長さＡＤ１、第２長さＡＤ２、第３長さＡＤ３、第４長さＡＤ４の姿勢が、図１９及び図２０に図示される第１長さＡＤ１、第２長さＡＤ２、第３長さＡＤ３、第４長さＡＤ４の各状態における回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢に対応する。

【０２３９】

即ち、図２５に示す状態から、第２長さＡＤ２の姿勢まで回転動作ユニットＡ４００ｂが回転する際には、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動のみが生じる（図１９（ａ）及び図１９（ｂ）参照）。

【０２４０】

更に、第２長さＡＤ２の姿勢から第３長さＡＤ３の姿勢まで回転動作ユニットＡ４００ｂが回転する際には、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動に加え、方向切替部材Ａ４５０の相対移動も生じる（図１９（ｂ）及び図２０（ａ）参照）。

【０２４１】

更に、第３長さＡＤ３の姿勢から第４長さＡＤ４の姿勢まで回転動作ユニットＡ４００ｂが回転する際には、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動のみが生じる（図２０（ａ）及び図２０（ｂ）参照）。

【０２４２】

このように、本実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作に伴い、他の複数の部材の相対動作も生じるように構成されているが、各部材の相対動作の開始タイミングが同じではなく、互いにずれるように構成されている。これにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作に必要な駆動力が急激に増大することを避けることができる。

【０２４３】

図２５に図示される第１長さＡＤ１、第２長さＡＤ２、第３長さＡＤ３、第４長さＡＤ４の長さの変化と、姿勢の変化との対応関係について説明する。右側に図示される第１長さＡＤ１と第２長さＡＤ２との間の角度と、第２長さＡＤ２と第３長さとの間の角度とは、ほとんど変わらないが（約１８度）、第１長さＡＤ１と第２長さＡＤ２との差と、第２

長さＡＤ２と第３長さＡＤ３との差は、後者の方が前者よりも３倍以上ある。
【０２４４】
そのため、回転動作ユニットＡ４００ｂが右側に図示される第１長さＡＤ１の姿勢から第２長さＡＤ２の姿勢まで回転する場合の、単位角度あたりの基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の移動長さよりも、回転動作ユニットＡ４００ｂが第２長さＡＤ２の姿勢から第３長さＡＤ３の姿勢まで回転する場合の、単位角度あたりの基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の移動長さの方が３倍以上長くなる。
【０２４５】
更に、回転動作ユニットＡ４００ｂが第２長さＡＤ２の姿勢から第３長さＡＤ３の姿勢まで回転する場合の、単位角度あたりの基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の移動長さよりも、回転動作ユニットＡ４００ｂが第３長さＡＤ３の姿勢から第４長さＡＤ４の姿勢まで回転する場合の、単位角度あたりの基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の移動長さの方が長くなる。
【０２４６】
これにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作態様を、回転動作が主の状態から、基礎板部材Ａ４３０に対する移動部材Ａ４４０の相対移動（直線的な動作）が主の状態へ、段階的に移行させることができる。
【０２４７】
ここで、第１動作ユニットＡ４００の張出状態へ向けた回転動作の終盤（例えば、図２５の第３長さＡＤ３の姿勢から第４長さＡＤ４の姿勢までの状態）において、回転軸棒ＡＪ１を中心として背面視時計回り方向に移動する柱状突設部Ａ４４８に対して、移動方向ＡＭ１を背面視反時計回り方向に戻すように構成される（図１９及び図２０参照）。
【０２４８】
即ち、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転角度を部分的に相殺するように、柱状突設部Ａ４４８と移動方向ＡＭ１との間の角度が小さくされるので、図２６に示される状態における移動方向ＡＭ１（図２３参照）の角度変化をおさえることができる。これにより、例えば、ダンパ部材Ａ４１７ｃを介して付勢バネＡ４１７ｂの付勢力で回転動作ユニットＡ４００ｂが若干押し戻されたとしても（図２３参照）、それによる移動方向ＡＭ１の角度変化を抑えることができる。
【０２４９】
これにより、第１動作ユニットＡ４００の張出状態において、回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向幅が変化し難いように構成される（図２０参照）だけでなく、移動方向ＡＭ１の角度変化も抑えることができるので、第１動作ユニットＡ４００を張出状態で安定させ易くすることができる。
【０２５０】
また、回転動作ユニットＡ４００ｂによれば、張出状態へ向かうほど長手方向に長くなるように構成されているので、回転動作ユニットＡ４００ｂに回転方向からかけられる空気抵抗は傾倒終端側ほど大きくなる。そのため、空気抵抗による制動作用を効果的に生じさせることができる。
【０２５１】
更に、回転動作ユニットＡ４００ｂによれば、張出状態へ向かうほど方向切替部材Ａ４５０や装飾部材Ａ４６０が短手方向に張り出すことで、前後方向視の面積が大きくなる。そのため、前後方向への倒れに対する空気抵抗を大きくすることができるので、回転動作ユニットＡ４００ｂの前後方向への倒れを防止し易くすることができる。
【０２５２】
次いで、図２７から図３４を参照して、第２動作ユニットＡ５００について説明する。図２７は、第２動作ユニットＡ５００の正面斜視図であり、図２８は、第２動作ユニットＡ５００の背面斜視図である。
【０２５３】
第２動作ユニットＡ５００は、背面ケースＡ２１０（図５参照）に保持される支持ユニ

ットＡ５００ａと、その支持ユニットＡ５００ａに正面視左側下部に配置される回転軸棒ＡＪ２を中心に回転動作可能に支持される回転動作ユニットＡ５００ｂと、を備える。

【０２５４】

第２動作ユニットＡ５００では、駆動モータＡＭＴ２が右上側に配設されており、回転軸棒ＡＪ２が左下側に配設されている。これにより、回転軸棒ＡＪ２の付近に駆動モータＡＭＴ２を配設する場合に比較して、回転軸棒ＡＪ２周辺の構造を簡素化でき、回転軸棒ＡＪ２の配置を左隅に寄せることができる。

【０２５５】

更に、回転軸棒ＡＪ２の付近に駆動モータＡＭＴ２を配設する場合に見られるような、回転動作ユニットＡ５００ｂの前側または後側に駆動モータＡＭＴ２を配設する場合に比較して、第２動作ユニットＡ５００の前後幅を短くすることができる。従って、背面ケースＡ２１０（図５参照）の前後方向に複数の可動役物を積層配置する場合のスペースを十分に確保することができる。

【０２５６】

更に、駆動モータＡＭＴ２の軸線の方向を上下方向とすることで、前後幅を駆動モータＡＭＴ２の本体部の直径程度の前後幅に抑えている。これにより、第２動作ユニットＡ５００の前後幅を短くすることができる。

【０２５７】

また、駆動モータＡＭＴ１（図１４参照）の軸線の方向と駆動モータＡＭＴ２の軸線の方向とを直交させていることにより、片方の駆動モータＡＭＴ１の駆動時に生じる振動（軸線と直交する平面上の振動）により、もう片方の駆動モータＡＭＴ２が動かされる（誤動作される）ことを回避し易くすることができる。

【０２５８】

図２９は、第２動作ユニットＡ５００の分解正面斜視図であり、図３０は、第２動作ユニットＡ５００の分解背面斜視図である。図２９及び図３０では、支持ユニットＡ５００ａが分解されており、回転動作ユニットＡ５００ｂは非分解の状態で図示される。

【０２５９】

支持ユニットＡ５００ａは、背面ケースＡ２１０（図５参照）に締結固定される固定支持ユニットＡ５１０と、その固定支持ユニットＡ５１０に配置が固定される駆動モータＡＭＴ２を有し、その駆動モータＡＭＴ２の駆動力を回転動作ユニットＡ５００ｂに伝達可能に構成される駆動伝達ユニットＡ５２０と、を備える。

【０２６０】

固定支持ユニットＡ５１０は、背面ケースＡ２１０（図５参照）の底壁部Ａ２１１の正面視右部に締結固定される縦長部材Ａ５１１と、その縦長部材Ａ５１１の上端側部に締結固定される横長部材Ａ５１３と、その横長部材Ａ５１３の背面側に配設される板金部材から折曲形成される補強部材Ａ５１５と、縦長部材Ａ５１１の下側部に配設され回転動作ユニットＡ５００ｂの下端部を前側から覆うように構成される覆設部材Ａ５１７と、を備える。

【０２６１】

横長部材Ａ５１３は、樹脂材料から横長板状に形成される板状本体Ａ５１３ａと、その板状本体Ａ５１３ａに貫通形成される案内長孔Ａ５１４と、板状本体Ａ５１３ａの右端側において前方側に二股状に突出された突出部で駆動伝達ユニットＡ５２０の駆動ギアＡ５２３ｄを支持可能に形成される支持部Ａ５１３ｂと、その板状本体Ａ５１３ａに一端が支持される付勢バネＡ５１３ｃと、その付勢バネＡ５１３ｃの他端が支持され、付勢バネＡ５１３ｃの付勢力で左右方向に延びる可動域の左端に付勢されるダンパ部材Ａ５１３ｄと、を備える。

【０２６２】

なお、案内長孔Ａ５１４の形状は、第１動作ユニットＡ４００で上述した案内長孔Ａ４１４（図２４参照）の形状と左右対称とされる。これにより、回転動作ユニットＡ５００ｂの回転動作の関係（回転角度と長手方向の移動幅との関係）は、左右対称であることを

除き、回転動作ユニットＡ４００ｂで説明した回転動作（図２１から図２６参照）と同じなので、第２動作ユニットＡ５００についての回転動作の説明は省略する。

【０２６３】

なお、案内長孔Ａ５１４は、上側の変位規制装置Ａ２１４（図６参照）の突設先端が挿通される箇所に相当する。上側の変位規制装置Ａ２１４が突出状態とされると、その突設先端が柱状突設部Ａ５４６（図２８参照）と干渉し、柱状突設部Ａ５４６の移動を制限するように構成される。

【０２６４】

補強部材Ａ５１５は、金属板から折曲形成される部材であって、板状本体Ａ５１３ａの背面側に張り合わせるように配置される板状本体Ａ５１５ａと、その板状本体Ａ５１５ａから折曲形成され金属棒ＡＭＢ２が挿通される貫通孔が形成される一対の保持用折曲部Ａ５１５ｂと、案内長孔Ａ５１４を外側から囲む形状で穿設される長孔Ａ５１５ｃと、を備える。

【０２６５】

覆設部材Ａ５１７は、樹脂材料から形成される部材であって、板状部の左右側端部および下側端部が背面側に延設される形状から形成される本体部Ａ５１７ａと、その本体部Ａ５１７ａに形成され回転動作ユニットＡ５００ｂの回転軸棒ＡＪ２が挿通される筒状支持部Ａ５１７ｂと、回転動作ユニットＡ５００ｂの配置を検出することで第２動作ユニットＡ５００が演出待機状態または張出状態であることを検出するための検出センサＡ５１７ｃと、を備える。

【０２６６】

検出センサＡ５１７ｄとしては、通常、フォトカプラ形式のセンサが利用されるが、これに限られるものではない。例えば、磁気センサでも良いし、接触式のセンサでも良い。

【０２６７】

駆動伝達ユニットＡ５２０は、横長部材Ａ５１３の右端部に締結固定され駆動モータＡＭＴ２が支持される支持部材Ａ５２１と、その支持部材Ａ５２１の上面側において回転可能に支持される複数の回転部材から構成される伝達機構Ａ５２３と、その伝達機構Ａ５２３の左端の回転部材を保持し横長部材Ａ５１３に締結固定される左端保持部材Ａ５２５と、伝達機構Ａ５２３と回転動作ユニットＡ５００ｂとを連結する連結機構Ａ５２７と、を備える。

【０２６８】

伝達機構Ａ５２３は、内周側に歯が形成される環状のベルトＡ５２３ａと、そのベルトＡ５２３ａの歯と噛み合う形状の歯が外周側に形成され、ベルトＡ５２３ａを緩み無く支持可能となるように支持部材Ａ５２１及び左端保持部材Ａ５２５を介して横長部材Ａ５１３に回転可能に支持される左右一対のプーリーＡ５２３ｂ，Ａ５２３ｃと、駆動モータＡＭＴ２の駆動軸に相対動作不能に固定される駆動ギアＡ５２３ｄと、右プーリーＡ５２３ｂの下面から回転軸線を中心とする筒状に延設される筒状部の下端部に形成されるギア状部であって駆動ギアＡ５２３ｄと噛み合う伝達ギア部Ａ５２３ｅと、を備える。

【０２６９】

プーリー５２３ｂ，５２３ｃ及び駆動ギアＡ５２３ｄの回転軸線は、互いに平行に構成される。これにより、駆動モータＡＭＴ２が駆動され、駆動ギアＡ５２３ｄが回転されると、その回転が伝達ギア部Ａ５２３ｅに伝達されることで右プーリーＡ５２３ｂが回転されることで、ベルトＡ５２３ａの左右方向に延びている箇所が左右方向に移動される態様でベルトＡ５２３ａが駆動される。

【０２７０】

左端保持部材Ａ５２５は、樹脂材料から形成され板状本体Ａ５１３ａに締結固定され左プーリーＡ５２３ｃを回転可能に支持する上側部材Ａ５２５ａと、金属材料から形成され上側部材Ａ５２５ａとの間で左プーリーＡ５２３ｃを挟み込む配置で上側部材Ａ５２５ａに締結固定される下側部材Ａ５２５ｂと、を備える。

【０２７１】

連結機構Ａ５２７は、回転動作ユニットＡ５００ｂの上端側部が連結されると共に正面側の凹部Ａ５２７ｂで金属棒ＡＭＢ２を受け入れることで動作方向が左右方向とされる連結部材Ａ５２７ａと、その連結部材Ａ５２７ａの凹部Ａ５２７ｂを正面側から塞ぐように連結部材Ａ５２７ａに締結固定されることで連結部材Ａ５２７ａとの間からの金属棒ＡＭＢ２の脱落を防止する防止部材Ａ５２７ｃと、を備える。

【０２７２】

連結部材Ａ５２７ａは、上端部にベルト５２３ａの後面と当接される平面板状の当接部Ａ５２７ｄを備え、防止部材Ａ５２７ｃは、当接部Ａ５２７ｄと対応する位置に鋸歯状の鋸状当接部Ａ５２７ｅを備える。

【０２７３】

当接部Ａ５２７ｄがベルトＡ５２３ａの平面状部（外周側部）と対向配置され、鋸状当接部Ａ５２７ｅがベルトＡ５２３ａの鋸歯状部（内周側部）と対向配置される状態で、当接部Ａ５２７ｄ及び鋸状当接部Ａ５２７ｅでベルトＡ５２３ａを挟み込むようにすることで、ベルトＡ５２３ａに対する平面当接部Ａ５２７ｄ及び鋸状当接部Ａ５２７ｅの滑りによる位置ずれを防止することができる。

【０２７４】

防止部材Ａ５２７ｃとの締結固定のために連結部材Ａ５２７ａには柱状の締結部が形成されるが、その内の一つに滑車Ａ５２７ｇが回転可能に支持され、滑車Ａ５２７ｇの外周の溝に金属棒ＡＭＢ２が配置されるよう連結機構Ａ５２７が設計される。これにより、連結機構Ａ５２７と金属棒ＡＭＢ２との間で生じる動作抵抗を低減することができるので、第２動作ユニットＡ５００を動作させるために駆動モータＡＭＴ２に要求される駆動力を低減することができ、駆動モータＡＭＴ２の小形化を図ることができる。

【０２７５】

このような構造により、連結機構Ａ５２７は、駆動モータＡＭＴ２が駆動回転され、歯合伝達により右プーリーＡ５２３ｂが回転されることでベルトＡ５２３ａの左右に延びている箇所が左右方向に移動することに伴って、金属棒ＡＭＢ２に案内されて左右方向に移動される。

【０２７６】

連結部材Ａ５２７ａは、回転動作ユニットＡ５００ｂの柱状突設部Ａ５４６が挿通される上下方向に延びる案内長孔Ａ５２７ｆを備える。回転動作ユニットＡ５００ｂの柱状突設部Ａ５４６は、案内長孔Ａ５２７ｆ及び固定支持ユニットＡ５１０の案内長孔Ａ５１４に挿通されることで、連結機構Ａ５２７が左右方向に移動されることに伴って、回転動作ユニットＡ５００ｂの柱状突設部Ａ５４６が上下方向かつ左右方向に移動される。

【０２７７】

このように左右方向に移動する連結機構Ａ５２７を介して、回転動作ユニットＡ５００ｂに駆動力が伝達され、回転動作ユニットＡ５００ｂが変位される。以下、回転動作ユニットＡ５００ｂの詳細について説明する。

【０２７８】

図３１は、回転動作ユニットＡ５００ｂの分解正面斜視図であり、図３２は、回転動作ユニットＡ５００ｂの分解背面斜視図である。図３１及び図３２に図示されるように、回転動作ユニットＡ５００ｂは、下端側において回転軸棒ＡＪ２に回転可能に支持される基礎部材Ａ５３０と、回転軸棒ＡＪ２と直交する平面上において回転軸棒ＡＪ２を通る直線方向にスライド移動可能となるように基礎部材Ａ５３０に連結される移動部材Ａ５４０と、基礎部材Ａ５３０及び移動部材Ａ５４０に挿通され移動部材Ａ５４０のスライド移動時に、そのスライド移動と直交する方向に移動可能とされる方向切替部材Ａ５５０と、その方向切替部材Ａ５５０の移動により配置または姿勢が変化されることで回転動作ユニット５００ｂの短手方向の長さが変化するように遊技者に見せるための変化部材Ａ５６０と、その変化部材Ａ５６０よりも前側に配設固定され基礎部材Ａ５３０との間に形成される空間に移動部材Ａ５４０及び方向切替部材Ａ５５０を配置するようにして固定支持部材Ａ５６５を介して基礎部材Ａ５３０に固定される覆設部材Ａ５７０と、を備える。

【０２７９】
基礎部材Ａ５３０は、長尺板状の板状本体Ａ５３１と、その板状本体Ａ５３１の長尺方向と平行な長孔として穿設される上下一対の案内長孔Ａ５３２と、その一対の案内長孔Ａ５３２の間の位置において上下方向と左右傾斜する方向とを組合せた形状で穿設される複数の機能長孔Ａ５３３と、板状本体Ａ５３１との間に空間を形成するようにして板状本体Ａ５３１の下端部の短手方向両端に締結固定される空間構成部材Ａ５３４と、その空間構成部材Ａ５３４に前後方向で穿設され回転軸棒ＡＪ２に支持される支持孔Ａ５３５と、空間構成部材Ａ５３４が締結固定される位置よりも上側において板状本体Ａ５３１の短手方向に張り出すように形成され締結ネジの挿通部として機能する一対の張出挿通部Ａ５３６と、を備える。
【０２８０】
機能長孔Ａ５３３は、上下一対の長孔と、その一対の長孔に対して反転した形状となるもう一組の上下一対の長孔との、４つの長孔から構成されており、各長孔の形状は、反転の関係を除き共通とされている。
【０２８１】
複数の機能長孔Ａ５３３のうち、上下一対の長孔は、一方の長孔を、案内長孔Ａ５３２の長手方向に沿って平行移動させた位置に形成されている。即ち、上下一対の長孔の対応する箇所は、同一直線上にあるか、平行配置される関係が維持される。
【０２８２】
機能長孔Ａ５３３のうち、上下一対の長孔と、もう一組の上下一対の長孔とは、案内長孔Ａ５３２の延びる方向に沿って、配置がずらされている。このように構成することで、配置がずらされていない場合に比較して空きスペースを利用し易くなり、板状本体Ａ５３１の短手方向の長さを抑えながら板状本体Ａ５３１の短手方向の機能長孔Ａ５３３の長さを確保し易くすることができる。
【０２８３】
空間構成部材Ａ５３４は、正面側下端部を起点として支持孔Ａ５３５から離れる方向に板状に張り出す板状検出片Ａ５３４ａを備える。板状検出片Ａ５３４ａは、検出センサＡ５１７ｃ（図３０参照）の検出溝に配置可能となる前後位置に形成されている。
【０２８４】
板状検出片Ａ５３４ａは、回転軸棒ＡＪ２が支持される側（正面側）において形成されている。これにより、回転軸棒ＡＪ２の変形等により回転軸棒ＡＪ２が曲がる（傾斜する）事態が生じた場合であっても、板状検出片Ａ５３４ａの位置ずれを最小限にとどめることができるので、板状検出片Ａ５３４ａが検出センサＡ５１７ｃの検出溝に収まる前後位置から外れる位置に配置されることを回避し易くすることができる。
【０２８５】
検出センサＡ５１７ｃにより板状検出片Ａ５３４ａの配置が検出されることで、回転動作ユニットＡ５００ｂの姿勢を把握することができるので、複数の動作ユニットＡ４００～Ａ６００が個別の駆動源で駆動される場合であっても、互いに衝突する事態が生じることを回避できる。
【０２８６】
移動部材Ａ５４０は、樹脂材料から形成される板状本体Ａ５４１と、その板状本体Ａ５４１の正面側に締結固定され正面側に複数のＬＥＤ等の発光手段が配設される発光基板Ａ５４２と、発光基板Ａ５４２の上側部を覆う形状とされ発光基板Ａ５４２の発光手段からの光を透過可能な部分を有するように構成され板状本体Ａ５４１に締結固定される装飾部材Ａ５４３と、基礎部材Ａ５３０の案内長孔Ａ５３２に挿通される程度に突設される一対の挿通突部Ａ５４４と、基礎部材Ａ５３０の機能長孔Ａ５３３に対応する位置において案内長孔Ａ５３２の延びる方向と直交する方向に延びるように穿設される複数の補助長孔Ａ５４５と、板状本体Ａ５４１の左上隅部から背面側に突設され駆動伝達ユニットＡ５２０の案内長孔Ａ５２７ｆ（図３０参照）に挿通される柱状突設部Ａ５４６と、を備える。
【０２８７】

移動部材Ａ５４０をこのように構成することで、発光基板Ａ５４２に配設される発光手段から照射される光によって装飾部材Ａ５４３を明るく照らす演出が実行可能となる。加えて、発光基板Ａ５４２に配設されるＬＥＤ等の発光手段は、光軸が前向き（基板前面と直交する方向）に配置されるＬＥＤだけでなく、特に短手方向端部において、光軸が横向き（基板前面と平行な方向）に配置されるＬＥＤを備える。これにより、光を利用した演出効果を向上させることができるが、詳細は後述する。

【０２８８】

移動部材Ａ５４０の下端部は、第２動作ユニットＡ５００の演出待機状態（図２７参照）において、基礎部材Ａ５３０の板状本体Ａ５３１と空間構成部材Ａ５３４との間に形成される空間に配置される。即ち、正面視で、移動部材Ａ５４０が支持孔Ａ５３５に挿通される回転軸棒ＡＪ２と重なり得るよう構成されており、移動部材Ａ５４０の配置自由度を向上させることができる。

【０２８９】

装飾部材Ａ５４３は、短手方向中央部において長手方向に延びる透光性領域Ａ５４３ａと、その透光性領域Ａ５４３ａの短手方向両側において鍍金が塗布されている鍍金領域Ａ５４３ｂと、を備える。

【０２９０】

これにより、機能長孔Ａ５３３や補助長孔Ａ５４５を形成する関係上、基板の配置が短手方向中央部寄りに制限される場合であっても、正面向きの発光演出については短手方向中央部寄りの透光性領域Ａ５４３ａで行い、その他の鍍金領域Ａ５４３ｂでは鍍金からの反射で演出を行うことで、演出効果の低下を避けることができる。

【０２９１】

また、装飾部材Ａ５４３の短手方向端部は背面側へは延びておらず、発光基板Ａ５４２の側面を覆っていない。これにより、発光基板Ａ５４２の横方向に照射される光が装飾部材Ａ５４３で減衰されることなく、発光演出において、対象物を十分に照らすことができる。

【０２９２】

挿通突部Ａ５４４は、基礎部材Ａ５３０の案内長孔Ａ５３２に挿通されると共に先端に螺入されるネジ及びカラー部材ＡＣ１により案内長孔Ａ５３２からの脱落が防止されるよう構成される。このように構成することで、移動部材Ａ５４０が、案内長孔Ａ５３２に沿って基礎部材Ａ５３０に対して相対移動可能に構成される。

【０２９３】

方向切替部材Ａ５５０は、左右対応する部材の組から構成されており、対応する板状本体Ａ５５１と、その板状本体Ａ５５１の左右内側部において正面側へ突設される長手方向に一対で配置される正面柱状部Ａ５５２と、その正面柱状部Ａ５５２の突設方向と同一直線上で背面側へ突設される長手方向に一対で配置される背面柱状部Ａ５５３と、板状本体Ａ５５１の左右外側部において長手方向に穿設される貫通孔Ａ５５４と、板状本体Ａ５５１との間に移動部材Ａ５４０を配置可能な空間を保つようにして板状本体Ａ５５１の左右外側および上側の外周端部において板状本体Ａ５５１に締結固定される移動装飾部材Ａ５５５と、その移動装飾部材Ａ５５５の下端部から長手方向（貫通孔Ａ５５４と平行な方向）に穿設される貫通孔Ａ５５６と、を備える。

【０２９４】

本実施形態では、板状本体Ａ５５１及び移動装飾部材Ａ５５５は、演出を考慮して有色透明の光透過性の樹脂材料から形成される。特に、樹脂の色を黄色で構成していることから、移動部材Ａ５４０の鍍金領域Ａ５４３ｂ（金色の鍍金）との色の連続性を良くすることができ、動作時の発光演出効果を向上することができる。

【０２９５】

板状本体Ａ５５１及び移動装飾部材Ａ５５５は、全く違わない同形状の部材で構成することができれば、部材を共通化できる可能性があり好ましい場合がある。これに対し、本実施形態では、板状本体Ａ５５１及び移動装飾部材Ａ５５５は対応する２部材で構成され

ており、全く同じ形状で構成されているものではないが、この形状の違いは機能的な要求から設計されたものである。

【０２９６】

例えば、上端部における形状の違いは、移動部材Ａ５４０の柱状突設部Ａ５４６がある側において、柱状突設部Ａ５４６との干渉を避けるための切欠きが形成されていることで、異なる形状となっている。

【０２９７】

また、例えば、正面柱状部Ａ５５２や背面柱状部Ａ５５３の配置の違いは、機能長孔Ａ５３３や補助長孔Ａ５４５が左右非対称な位置に配設されていることで、異なる形状となっている。

【０２９８】

このような機能的な要求を背面側の構成に受け持たせることにより、遊技者に視認される移動装飾部材Ａ５５５の正面側の形状の設計自由度を向上させることができ、本実施形態では左右対称形状とすることで、回転動作ユニットＡ５００ｂの演出効果を向上させることができる。

【０２９９】

正面柱状部Ａ５５２は、移動部材Ａ５４０の補助長孔Ａ５４５に挿通され、背面柱状部Ａ５５３は、基礎部材Ａ５３０の機能長孔Ａ５３３に挿通されている。これにより、方向切替部材Ａ５５０は、基礎部材Ａ５３０に対する移動部材Ａ５４０の配置に応じて、補助長孔Ａ５４５の延びる方向に変位可能となっている。

【０３００】

背面柱状部Ａ５５３は、基礎部材Ａ５３０の機能長孔Ａ５３３に挿通されると共に先端に螺入されるネジ及びカラー部材ＡＣ１により機能長孔Ａ５３３からの脱落が防止されるよう構成される。

【０３０１】

一方で、基礎部材Ａ５３０に対して、移動部材Ａ５４０は挿通突部Ａ５４４により連結され、方向切替部材Ａ５５０は背面柱状部Ａ５５３により連結されることで脱落の防止としては十分なので、正面柱状部Ａ５５２においては、移動部材Ａ５４０との間にカラー部材ＡＣ１が配設され、ネジの螺入による脱落の防止は行われていない。

【０３０２】

これにより、発光基板Ａ５４２を補助長孔Ａ５４５のすぐ近くまで形成させても、カラー部材ＡＣ１と発光基板Ａ５４２との擦れが生じることが無いので、発光基板Ａ５４２の耐久性が落ちることは無く、発光基板Ａ５４２の形状の設計自由度を向上させることができる。

【０３０３】

また、ネジ頭が移動装飾部材Ａ５５５と干渉することを避けることができ、移動装飾部材Ａ５５５と移動部材Ａ５４０との前後間隔を短くすることができる。これにより、方向切替部材Ａ５５０の前後厚さを短くすることができる。

【０３０４】

変化部材Ａ５６０は、左右一対の部材から構成されており、方向切替部材Ａ５５０の貫通孔Ａ５５４に変位可能（回転変位および貫通孔Ａ５５４の延びる方向の変位が可能）に支持される案内支持部材Ａ５６１と、その案内支持部材Ａ５６１が背面側に締結固定される翼状部材Ａ５６２と、その翼状部材Ａ５６２に回転可能に支持される中間変位部材Ａ５６３と、その中間変位部材Ａ５６３を翼状部材Ａ５６２との間に挟む配置で翼状部材Ａ５６２に締結固定される固定部材Ａ５６４と、基礎部材Ａ５３０の張出挿通部Ａ５３６に締結固定され中間変位部材Ａ５６３を回転可能に支持する固定支持部材Ａ５６５と、その固定支持部材Ａ５６５との間に中間変位部材Ａ５６３を挟む配置で固定支持部材Ａ５６５に締結固定される固定部材Ａ５６６と、を備える。

【０３０５】

翼状部材Ａ５６２は、中間変位部材Ａ５６３を回転可能に支持する柱状部であって、先

端部に形成される雌ネジに締結ネジが螺入されることで固定部材Ａ５６４が締結固定される支持締結部Ａ５６２ａと、案内支持部材Ａ５６１が締結固定される被締結部Ａ５６２ｂと、を備える。

【０３０６】

中間変位部材Ａ５６３は、板状に形成される部材であって、支持締結部Ａ５６２ａが挿通される第１貫通孔Ａ５６３ａと、固定支持部材Ａ５６５が挿通され固定支持部材Ａ５６５に回転可能に支持される第２貫通孔Ａ５６３ｂと、方向切替部材Ａ５５０の貫通孔Ａ５５６に挿通され変位可能（回転変位および貫通孔Ａ５５６の延びる方向の変位が可能）に支持される挿通突部Ａ５６３ｃと、を備える。

【０３０７】

固定支持部材Ａ５６５は、円弧状部の外周部から直線上の一対の脚部が形成される左右対称形状とされ、脚部の下端から背面側へ柱状に突設され基礎部材Ａ５３０の張出挿通部Ａ５３６に締結固定される柱状固定部Ａ５６５ａと、円弧状部の左右上端部において背面側に突設される柱状部であって中間変位部材Ａ５６３の第２貫通孔Ａ５６３ｂを回転可能に支持する柱状支持部Ａ５６５ｂと、を備える。

【０３０８】

柱状支持部Ａ５６５ｂは、先端に雌ネジが形成されており、その雌ネジに固定部材Ａ５６６の挿通孔Ａ５６６ａに挿通された締結ネジが螺入されることで、中間変位部材Ａ５６３の固定支持部材Ａ５６５からの脱落を防止する態様で固定支持部材Ａ５６５に固定部材Ａ５６６を締結固定することができる。

【０３０９】

なお、本実施形態では、固定部材Ａ５６６の締結ネジの挿通部として、挿通孔Ａ５６６ａのみではなく、間に他の部材を挟むことなく固定支持部材Ａ５６５と締結固定するための締結ネジを挿通する挿通孔Ａ５６６ｂも用意されている。

【０３１０】

そのため、締結ネジの螺入位置は、臨機応変に変更することができる。例えば、挿通孔Ａ５６６ａ，Ａ５６６ｂの全てに締結ネジを挿通し螺入しても良い。この場合、柱状支持部Ａ５６５ｂの強度を締結ネジの強度により向上することができるので、柱状支持部Ａ５６５ｂが破損して中間変位部材Ａ５６３が抜け落ちることを回避し易くすることができる。

【０３１１】

また、例えば、挿通孔Ａ５６６ａ又は挿通孔Ａ５６６ｂのいずれか一方に締結ネジを挿通し螺入しても良い。この場合、締結ネジの必要個数を削減することができるので、製品の製造コストを低減することができる。

【０３１２】

覆設部材Ａ５７０は、短手方向中央部において長手方向に延びる透光性領域Ａ５７１と、その透光性領域Ａ５７１の短手方向両側において鍍金が塗布されている鍍金領域Ａ５７２と、その鍍金領域Ａ５７２の背面側において短手方向外側端部から背面側へ延設され、その延設端部から折曲形成される一対の爪状部Ａ５７３と、固定支持部材Ａ５６５に締結固定される複数の被締結柱状部Ａ５７４と、を備える。

【０３１３】

透光性領域Ａ５７１及び鍍金領域Ａ５７２により、発光基板Ａ５４２の形状が補助長孔Ａ５４５と干渉しない形状に制限される場合においても、発光演出の演出効果を高く維持することができる。即ち、発光演出については短手方向中央部寄りの透光性領域Ａ５７１で行い、その他の鍍金領域Ａ５７２では鍍金からの反射で演出を行うことで、演出効果の低下を避けることができる。

【０３１４】

爪状部Ａ５７３は、移動部材Ａ５４０の装飾部材Ａ５４３の短手方向両側を案内可能に支持するよう構成される。これにより、移動部材Ａ５４０の前後方向の位置ずれを抑制することができるので、特に、張出状態（図９参照）において移動部材Ａ５４０が基礎部材

Ａ５３０に対して前倒れしたり後倒れしたりすることを防止し易くすることができる。
【０３１５】
被締結柱状部Ａ５７４は、固定支持部材Ａ５６５の一対の脚部の中央側部および円弧状部の中央部に対応する位置に配置され、各位置において固定支持部材Ａ５６５に挿通される締結ネジが螺入されることで、固定支持部材Ａ５６５に締結固定される。
【０３１６】
図３３（ａ）、図３３（ｂ）、図３４（ａ）及び図３４（ｂ）は、回転動作ユニットＡ５００ｂの背面図である。図３３（ａ）、図３３（ｂ）、図３４（ａ）及び図３４（ｂ）では、回転動作ユニットＡ５００ｂの移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して相対移動する様子が時系列で図示される。なお、図３３（ａ）、図３３（ｂ）、図３４（ａ）及び図３４（ｂ）では、カラー部材ＡＣ１の図示が省略される。
【０３１７】
図３３（ａ）、図３３（ｂ）、図３４（ａ）及び図３４（ｂ）では、第２動作ユニットＡ５００の演出待機状態（図７参照）における回転動作ユニットＡ５００ｂ（図３３（ａ）参照）から、張出状態（図９参照）における回転動作ユニットＡ５００ｂ（図３４（ｂ）参照）までの、相対移動の様子が図示される。
【０３１８】
案内長孔Ａ５３２は、平行に延びる一対の長孔であるが、一直線上に形成されているものではない。上側の案内長孔Ａ５３２は基礎部材Ａ５３０の短手方向中央部に形成される一方、下側の案内長孔Ａ５３２は回転軸棒ＡＪ２を避けるように短手方向中央部から少しずれた位置に配設される。
【０３１９】
このように、案内長孔Ａ５３２を若干ずらした場合であっても、移動部材Ａ５４０を一対の案内長孔Ａ５３２で支持しているので、移動部材Ａ５４０を案内長孔Ａ５３２の延びる方向にスムーズに移動させることができる。また、このように案内長孔Ａ５３２の配置をずらすことで、回転軸棒ＡＪ２を基礎部材Ａ５３０の短手方向中央位置に配設することができる。
【０３２０】
機能長孔Ａ５３３は、案内長孔Ａ５３２が延びる方向に対して平行に延びる第１平行部Ａ５３３ａと、その第１平行部Ａ５３３ａに一端が連なるように形成され第１平行部Ａ５３３ａに対して傾斜する方向に直線状に延びる傾斜部Ａ５３３ｂと、その傾斜部Ａ５３３ｂの他端に連なるように形成され第１平行部Ａ５３３ａの延びる方向に対して平行に延びる第２平行部Ａ５３３ｃと、を備える。
【０３２１】
ここで、図３３（ａ）では、方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が第１平行部Ａ５３３ａの端部側に配置された状態が図示され、図３３（ｂ）では、方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が第１平行部Ａ５３３ａと傾斜部Ａ５３３ｂとの交差位置に配置された状態が図示され、図３４（ａ）では、方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が傾斜部Ａ５３３ｂと第２平行部Ａ５３３ｃとの交差位置に配置された状態が図示され、図３４（ｂ）では、方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が第２平行部Ａ５３３ｃの端部側に配置された状態が図示される。
【０３２２】
第１平行部Ａ５３３ａの長さは十分に長く形成されている。これにより、移動部材Ａ５４０が、図３３（ａ）に示す状態から、基礎部材Ａ５３０に対して相対移動を開始しても、暫くは（図３３（ｂ）に示す状態までは）、方向切替部材Ａ５５０が移動部材Ａ５４０の短手方向に移動し難いように構成される。
【０３２３】
第２動作ユニットＡ５００の動作において、移動部材Ａ５４０の基礎部材Ａ５３０に対する相対移動は、回転軸棒ＡＪ２を中心とする回転動作ユニットＡ５００ｂの回転動作と同時に行われることになるが、図３３（ａ）に示す状態から図３３（ｂ）に示す状態まで

は、短手方向幅の短い外観を維持した状態で回転動作ユニットＡ５００ｂを回転動作させることができる。

【０３２４】

傾斜部Ａ５３３ｂは、第１平行部Ａ５３３ａが形成される位置から基礎部材Ａ５３０の短手方向外側へ向けて延びる。そのため、第１平行部Ａ５３３ａに方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３が配置されている状態から移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して相対移動し、背面柱状部Ａ５５３が傾斜部Ａ５３３ｂに入ると、方向切替部材Ａ５５０が移動部材Ａ５４０の短手方向外側へ向けて移動する。

【０３２５】

方向切替部材Ａ５５０の一対の背面柱状部Ａ５５３は、一対の補助長孔Ａ５４５（図３２参照）に挿通されており、一対が平行に案内される。そのため、方向切替部材Ａ５５０の移動部材Ａ５４０に対する相対移動は、移動部材Ａ５４０の短手方向への平行移動となる。

【０３２６】

その移動の速度は、傾斜部Ａ５３３ｂが直線状に形成されていることにより、移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して相対移動する速度に対して比例する。そのため、移動部材Ａ５４０及び方向切替部材Ａ５５０が連動する動作演出を実行させ易くすることができる。

【０３２７】

第２平行部Ａ５３３ｃは、第１平行部Ａ５３３ａ程の長さは無く、必要最小限の長さで形成される。第２平行部Ａ５３３ｃを形成する目的は、回転動作ユニットＡ５００ｂの演出効果の向上のためである。

【０３２８】

即ち、第２動作ユニットＡ５００が張出状態まで駆動され駆動モータＡＭＴ２（図２９参照）が停止された場合に、ダンパ部材Ａ５１３ｄに付勢バネＡ５１３ｃから与えられる付勢力で連結機構Ａ５２７が若干押し戻され、移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して逆方向（戻る方向）に相対移動した場合であっても、第２平行部Ａ５３３ｃがあることで、移動部材Ａ５４０の短手方向における方向切替部材Ａ５５０の位置を変化させないようにすることができる。

【０３２９】

これにより、第２動作ユニットＡ５００の張出状態において駆動モータＡＭＴ２の駆動を停止させるという制御を採用する場合に生じ得る、付勢バネＡ５１３ｃ（図２９参照）の付勢力による押し戻し動作が生じた場合であっても、張出状態における第２動作ユニットＡ５００の外観（回転動作ユニットＡ５００ｂの短手方向の長さ）を維持し易くすることができる。

【０３３０】

ここで、第２動作ユニットＡ５００の回転動作ユニットＡ５００ｂと、第１動作ユニットＡ４００の回転動作ユニットＡ４００ｂとの違いについて説明する。まず、回転動作ユニットＡ５００ｂでは、案内長孔Ａ５３２が一直線上に配置されていないことは上述した通りである。

【０３３１】

第２動作ユニットＡ５００の回転動作ユニットＡ５００ｂでは、機能長孔Ａ５３３が基礎部材Ａ５３０の短手方向に並べられるのではなく、長手方向に配置がずらされている。これにより、基礎部材Ａ５３０の長手方向に並設される機能長孔Ａ５３３間の隙間に短手方向反対側に形成される機能長孔Ａ５３３の一部を入り込ませることができるので、基礎部材Ａ５３０の短手方向の長さを短くすることができる。

【０３３２】

方向切替部材Ａ５５０の背面柱状部Ａ５５３の配置は、機能長孔Ａ５３３の配置の上下ずれの寸法に合わせて、上下にずれるように構成している。これにより、左右の方向切替部材Ａ５５０の相反する方向（移動部材Ａ５４０の短手方向）への動作タイミングを合致

させることができる。
【０３３３】
回転動作ユニットＡ４００ｂでは、移動部材Ａ４４０に機能長孔Ａ４４４が形成されていたが、回転動作ユニットＡ５００ｂでは、機能長孔Ａ５３３が基礎部材Ａ５３０に形成されている。
【０３３４】
このことから、第１動作ユニットＡ４００では、回転動作ユニットＡ４００ｂが回転動作し移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動することに伴い機能長孔Ａ４４４も基礎板部材Ａ４３０に対して相対移動したが（図１９及び図２０参照）、第２動作ユニットＡ５００では、回転動作ユニットＡ５００ｂが回転動作し移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して相対移動しても、機能長孔Ａ５３３の配置は基礎部材Ａ５３０に対して相対移動することは無い。
【０３３５】
逆に、第１動作ユニットＡ４００では基礎板部材Ａ４３０に補助長孔Ａ４３３（図１７参照）が形成されていたのが、第２動作ユニットＡ５００では移動部材Ａ５４０に補助長孔Ａ５４５が形成されおり（図３２参照）、対応関係が逆となっている。
【０３３６】
この関係から、第２動作ユニットＡ５００の回転動作ユニットＡ５００ｂに形成される機能長孔Ａ５３３は、第１動作ユニットＡ４００の回転動作ユニットＡ４００ｂに形成される機能長孔Ａ４４４と上下の関係が逆になっている。
【０３３７】
このように、機能長孔Ａ４４４，Ａ５３３と補助長孔Ａ４３３，Ａ５４５の配置の対応関係が逆とされていることに、機能長孔Ａ４４４，Ａ５３３の上下の関係を逆にして対応することで、回転動作ユニットＡ５００ｂにおいても、長手方向に延びる過程で回転動作ユニットＡ５００ｂの短手方向の長さが増大するという、回転動作ユニットＡ４００ｂと同様の動作態様を実現させることができる。
【０３３８】
第２動作ユニットＡ５００では、回転動作ユニットＡ５００ｂの長手方向における方向切替部材Ａ５５０の配置は、移動部材Ａ５４０の補助長孔Ａ５４５の配置に対応することになる。そのため、移動部材Ａ５４０が基礎部材Ａ５３０に対して回転動作ユニットＡ５００ｂの長手方向に相対移動することに伴い、方向切替部材Ａ５５０は、移動部材Ａ５４０の移動量と同様の移動量で回転動作ユニットＡ５００ｂの長手方向に移動し、それと同時に、移動部材Ａ５４０の短手方向に移動する。
【０３３９】
即ち、方向切替部材Ａ５５０の移動は、移動部材Ａ５４０に対しては移動部材Ａ５４０の短手方向（案内長孔Ａ５３２の延びる方向と直交する方向）への相対移動となり、基礎部材Ａ５３０に対しては機能長孔Ａ５３３の形成方向に沿う相対移動となる。
【０３４０】
変化部材Ａ５６０は、第２貫通孔Ａ５６３ｂが基礎部材Ａ５３０に固定される固定支持部材Ａ５６５の柱状支持部Ａ５６５ｂに支持される一方、挿通突部Ａ５６３ｃは変位可能な方向切替部材Ａ５５０の貫通孔Ａ５５６に支持され、案内支持部材Ａ５６１は変位可能な貫通孔Ａ５５４に支持される。これにより、変化部材Ａ５６０に対して、基礎部材Ａ５３０を支点とする移動部材Ａ５４０の短手方向への変位量に対応して回転するという、移動部材Ａ５４０の変位とも方向切替部材Ａ５５０の変位とも異なる変位を生じさせることができる。
【０３４１】
なお、第２動作ユニットＡ５００が演出待機状態から張出状態となるまでにおいて、回転動作ユニットＡ５００ｂは、回転軸棒ＡＪ２と柱状突設部Ａ５４６との間の距離が徐々に長くなるように変化され、それに伴い、回転軸棒ＡＪ２及び柱状突設部Ａ５４６を通る直線と、回転動作ユニットＡ５００ｂの長手方向（移動部材Ａ５４０の移動方向）に延び

る直線との間の角度が徐々に小さくなるように変化されることは、図１９及び図２０を参照して第１動作ユニットＡ４００の説明で上述したのと同じであるので、ここでは説明を省略する。

【０３４２】

次いで、図３５から図４２を参照して、第３動作ユニットＡ６００について説明する。図３５は、第３動作ユニットＡ６００の正面斜視図であり、図３６は、第３動作ユニットＡ６００の背面斜視図である。

【０３４３】

第３動作ユニットＡ６００は、背面ケースＡ２１０（図５参照）に保持される支持ユニットＡ６００ａと、その支持ユニットＡ６００ａに昇降動作可能に支持される開閉動作ユニットＡ６００ｂと、を備える。

【０３４４】

図３７は、第３動作ユニットＡ６００の分解正面斜視図であり、図３８は、第３動作ユニットＡ６００の分解背面斜視図である。図３７及び図３８では、支持ユニットＡ６００ａが分解されており、開閉動作ユニットＡ６００ｂは非分解の状態で図示される。

【０３４５】

支持ユニットＡ６００ａは、背面ケースＡ２１０（図５参照）に締結固定される固定支持ユニットＡ６１０と、その固定支持ユニットＡ６１０に配置が固定される駆動モータＡＭＴ３を有し、その駆動モータＡＭＴ３の駆動力を開閉動作ユニットＡ６００ｂに伝達可能に構成される駆動伝達ユニットＡ６２０と、を備える。

【０３４６】

固定支持ユニットＡ６１０は、背面ケースＡ２１０（図５参照）の底壁部Ａ２１１の正面視下部に締結固定される横長部材Ａ６１１と、その横長部材Ａ６１１の右上側部に締結固定される装飾部材Ａ６１３と、その装飾部材Ａ６１３の下側において横長部材Ａ６１１に締結固定される右側部材Ａ６１５と、横長部材Ａ６１１の左側部との間に駆動伝達ユニットＡ６２０が移動可能な空間を空けて締結固定される左側部材Ａ６１７と、を備える。

【０３４７】

横長部材Ａ６１１は、板状本体Ａ６１１ａと、その板状本体Ａ６１１ａの上下端部から正面側に折曲形成される一組の支持形成部Ａ６１１ｂと、その支持形成部Ａ６１１ｂに上下方向で挿通され固定される金属製の円柱状部材から形成される昇降支持棒Ａ６１１ｃと、を備える。

【０３４８】

昇降支持棒Ａ６１１ｃは、開閉動作ユニットＡ６００ｂの背面側部に挿通された状態で支持形成部Ａ６１１ｂに支持されることで、開閉動作ユニットＡ６００ｂの昇降の方向を案内し、板状本体Ａ６１１ａに対する開閉動作ユニットＡ６００ｂの前後方向の配置を維持するように機能する。

【０３４９】

装飾部材Ａ６１３は、背面側が開放された箱状に形成される本体部Ａ６１３ａと、その本体部Ａ６１３ａの正面側側面の左側端部から左方へ張り出し形成される張出部Ａ６１３ｂを備える。張出部Ａ６１３ｂは、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態における開閉動作ユニットＡ６００ｂの前倒れを抑制するよう機能するが、詳細は後述する。

【０３５０】

右側部材Ａ６１５は、左側部材Ａ６１７と共同で、導光板ユニットＡ７００（図５参照）を支持し、導光板ユニットＡ７００が締結固定される部材である。即ち、開閉動作ユニットＡ６００ｂは、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態において導光板ユニットＡ７００の後方に配置され、張出状態へ状態変化されることで導光板ユニットＡ７００の中央側へ向けて上昇変位されるよう構成される。

【０３５１】

左側部材Ａ６１７は、板状本体Ａ６１７ａと、その板状本体Ａ６１７ａの背面側から円柱状に突設形成される支持部Ａ６１７ｂと、その支持部Ａ６１７ｂを中心とする円弧に沿

って穿設される扇状貫通孔Ａ６１７ｃと、支持部Ａ６１７ｂと同軸となる配置で板状本体Ａ６１７ａに配設される金属棒に巻かれ、一端が固定され他端が扇状貫通孔Ａ６１７ｃを臨む位置に配設される上昇方向付勢の捩りバネＡ６１７ｄと、板状本体Ａ６１７ａの下側において背面側が開放された箱状に形成される箱状部Ａ６１７ｅと、その箱状部Ａ６１７ｅの背面側から円柱状に突設形成される支持部Ａ６１７ｆと、駆動モータＡＭＴ３の駆動ギアＡＭＧ３を挿通可能な大きさで箱状部Ａ６１７ｅに穿設される挿通孔Ａ６１７ｇと、その挿通孔Ａ６１７ｇの下側縁部から背面側へ断面円弧状で延設され延設端部において挿通孔Ａ６１７ｇを部分的に覆う覆設部Ａ６１７ｈと、支持部Ａ６１７ｆ側に検出隙間を向ける姿勢で箱状部Ａ６１７ｅの背面側に締結固定される検出センサＡ６１７ｉと、を備える。

【０３５２】

覆設部Ａ６１７ｈは、駆動ギアＡＭＧ３が駆動モータＡＭＴ３の駆動軸から抜けて、駆動ギアＡＭＧ３が背面側へ脱落することを防止するストッパとして機能する。これにより、駆動ギアＡＭＧ３が駆動モータＡＭＴ３から脱落する事態を回避することができる。

【０３５３】

検出センサＡ６１７ｉは、駆動伝達ユニットＡ６２０の配置を検出することで、第３動作ユニットＡ６００が演出待機状態なのか、張出状態なのかを、把握可能とするための装置である。

【０３５４】

駆動伝達ユニットＡ６２０は、横長部材Ａ６１１と左側部材Ａ６１７との間において回転動作可能となるように支持部Ａ６１７ｂに支持され開閉動作ユニットＡ６００ｂに連結される回転動作部材Ａ６２１と、その回転動作部材Ａ６２１に駆動モータＡＭＴ３の駆動力を伝達可能となるように支持部Ａ６１７ｆに回転可能に支持される伝達部材Ａ６２５と、を備える。

【０３５５】

回転動作部材Ａ６２１は、板状本体Ａ６２１ａと、その板状本体Ａ６２１ａの端部において左側部材Ａ６１７の支持部Ａ６１７ｂを挿通可能に穿設される挿通孔Ａ６２１ｂと、長手方向の直線が挿通孔Ａ６２１ｂを通る長孔として穿設される伝達長孔Ａ６２１ｃと、挿通孔Ａ６２１ｂに近い上端部から正面側に突設され捩りバネＡ６１７ｄの他端を受けるバネ受突部Ａ６２１ｄと、板状本体Ａ６２１ａの挿通孔Ａ６２１ｂが配設される端部と反対側の端部において正面側に円柱状に突設され開閉動作ユニットＡ６００ｂに挿通される挿通突部Ａ６２１ｅと、を備える。

【０３５６】

回転動作部材Ａ６２１は、支持部Ａ６１７ｂが挿通孔Ａ６２１ｂに挿通されることで、左側部材Ａ６１７に回転可能に支持される。支持部Ａ６１７ｂの先端に螺入される抜け止め用のネジは、横長部材Ａ６１１の貫通孔Ａ６１１ｄを通して付け外し可能な構成となっている。即ち、本実施形態では、左側部材Ａ６１７を横長部材Ａ６１１に締結固定した後で、支持部Ａ６１７ｂの先端にネジを螺入させるという組立手順を採用することができる。

【０３５７】

伝達部材Ａ６２５は、駆動ギアＡＭＧ３と歯合される本体ギア部Ａ６２５ａと、その本体ギア部Ａ６２５ａの背面側において全周からフランジ状に張り出す張出部Ａ６２５ｂと、その張出部Ａ６２５ｂの外周側端部から背面側に円柱状に突設される挿通突部Ａ６２５ｃと、張出部Ａ６２５ｂの外周側端部から折曲形成され回転軸から離れる方向に延設される延設部Ａ６２５ｄと、を備える。

【０３５８】

挿通突部Ａ６２５ｃは、カラー部材ＡＣ１を介して回転動作部材Ａ６２１の伝達長孔Ａ６２１ｃに挿通される。これにより、伝達部材Ａ６２５の回転と回転動作部材Ａ６２１の回転とを連動させることができる。

【０３５９】

延設部Ａ６２５ｄは、検出センサＡ６１７ｉの検出隙間を横切ることが可能な位置に配設される。即ち、延設部Ａ６２５ｄが検出センサＡ６１７ｉの検出隙間に配置されているか否かにより、伝達部材Ａ６２５の姿勢を対応する制御装置に把握させることができる。

【０３６０】

図３９は、開閉動作ユニットＡ６００ｂの分解正面斜視図であり、図４０は、開閉動作ユニットＡ６００ｂの分解背面斜視図である。開閉動作ユニットＡ６００ｂは、樹脂材料から形成される板状部材Ａ６３０と、その板状部材Ａ６３０との間に空間を形成するように板状部材Ａ６３０の正面側に締結固定される空間形成部材Ａ６４０と、板状部材Ａ６３０と空間形成部材Ａ６４０との間の空間に移動可能に支持される一対の移動部材Ａ６５０と、板状部材Ａ６３０に締結固定される駆動モータＡＭＴ４と、その駆動モータＡＭＴ４の駆動力を移動部材Ａ６５０に伝達可能に構成される駆動伝達ユニットＡ６６０と、その駆動伝達ユニットＡ６６０を板状部材Ａ６３０との間に挟むように板状部材Ａ６３０に締結固定される背面カバー部材Ａ６７０と、その背面カバー部材Ａ６７０との間で昇降支持棒Ａ６１１ｃを挟むように背面カバー部材Ａ６７０に締結固定される案内ユニットＡ６８０と、を備える。

【０３６１】

板状部材Ａ６３０は、板状本体Ａ６３１と、その板状本体Ａ６３１の背面側に円柱状に突設される突設支持部Ａ６３２と、その突設支持部Ａ６３２を中心とする円弧状に穿設される一対の円弧状孔Ａ６３３と、突設支持部Ａ６３２と平行に突設される突設支持部Ａ６３４と、背面カバー部材Ａ６７０との間の空間を形成するために板状本体Ａ６３１の外縁部に沿う枠状で背面側へ突設される枠状部Ａ６３５と、を備える。

【０３６２】

空間形成部材Ａ６４０は、骨組みを形成する本体部材Ａ６４１と、その本体部材Ａ６４１の正面側に締結固定される透光性の透光部材Ａ６４２と、その透光部材Ａ６４２を囲むように内部がくり抜かれ正面側に鍍金が塗布された状態で本体部材Ａ６４１に締結固定される非透過性の鍍金部材Ａ６４３と、透光部材Ａ６４２の全域に光を照射可能に形成され本体部材Ａ６４１に締結固定される発光基板Ａ６４４と、移動部材Ａ６５０の配置を検出するために本体部材Ａ６４１の背面側に配設される検出センサＡ６４５と、を備える。

【０３６３】

本体部材Ａ６４１は、背面側に左右方向に長い一対の案内溝部Ａ６４１ａと、その案内溝部Ａ６４１ａの端部付近に突設形成されるストッパ部Ａ６４１ｂと、を備える。案内溝部Ａ６４１ａは、上下に平行に並べられる一対の溝であり、左上から右下へ向かう直線状の長尺溝であって、移動部材Ａ６５０の移動を案内可能に構成される。ストッパ部Ａ６４１ｂは、移動部材Ａ６５０が空間形成部材Ａ６４０から脱落することを防止するための突部であり、移動範囲の終端位置に配置された移動部材Ａ６５０と係合可能に構成される。

【０３６４】

発光基板Ａ６４４から延びるフラットケーブルＡ６４４ａにより、移動部材Ａ６５０への電力供給が可能となっている。本実施形態では、フラットケーブルＡ６４４ａが案内溝部Ａ６４１ａの長尺方向に沿って延びるように配設されている。これにより、移動部材Ａ６５０の移動時にフラットケーブルＡ６４４ａに過大な負荷が与えられることを回避し易くすることができ、フラットケーブルＡ６４４ａの耐久性を向上させることができる。

【０３６５】

移動部材Ａ６５０は、回転対称に配置される同一形状の一対の部材から構成され骨組みを形成する本体部材Ａ６５１と、異なる形状で形成され対応する本体部材Ａ６５１に締結固定される装飾部材Ａ６５５と、を備える。

【０３６６】

このように構成することで、駆動力が伝達される箇所については形状を共通化することで、伝達機構の簡素化および樹脂型の兼用を図ることができる一方で、遊技者に視認される側には装飾部材Ａ６５５を配設することで、簡素化された形状が演出面にまで影響を与えることを避けることができる。

【０３６７】
本体部材Ａ６５１は、長尺方向を案内溝部Ａ６４１ａの長尺方向に沿わせる姿勢で配設され左右方向外側への移動時に先頭になる側から正面側へ延設されることで上面視Ｌ字状に形成される長尺本体部Ａ６５２と、回転可能に構成され案内溝部Ａ６４１ａの内側に配置可能な大きさで形成される一対のローラー部材Ａ６５３と、を備える。
【０３６８】
長尺本体部Ａ６５２は、左右方向外側への移動時にストッパ部Ａ６４１ｂと対向配置され当接し得る被ストッパ部Ａ６５２ａと、長手方向略中央部から短手方向に板状に張り出す被検出部Ａ６５２ｂと、短手方向に延びる矩形状で背面側から凹設される凹設部Ａ６５２ｃと、を備える。
【０３６９】
被検出部Ａ６５２ｂは、検出センサＡ６４５の検出溝を横切ることができる形状で配設される。被検出部Ａ６５２ｂが検出センサＡ６４５の検出溝に配置されることで、移動部材Ａ６５０が移動終端に配置されたことを対応する制御装置に把握させることができる。
【０３７０】
本実施形態では、検出センサＡ６４５は下側の本体部材Ａ６５１の下側にのみ配置されているので、被検出部Ａ６５２ｂは下側の本体部材Ａ６５１に配設されていれば十分であり、上側の本体部材Ａ６５１には被検出部Ａ６５２ｂは不要であるが、樹脂型を共通化する関係上、上側の本体部材Ａ６５１にも被検出部Ａ６５２ｂが形成されている。
【０３７１】
ローラー部材Ａ６５３は、移動部材Ａ６５０の案内溝部Ａ６４１ａに対する動作抵抗を低下させるように機能する。即ち、移動部材Ａ６５０が案内溝部Ａ６４１ａに対して摺動する場合に比較して、ローラー部材Ａ６５３が転がることで摩擦力を低減することができるので、移動部材Ａ６５０の移動をスムーズに行わせることができる。
【０３７２】
装飾部材Ａ６５５は、本体部材Ａ６５１の被ストッパ部Ａ６５２ａが配設される側の端部とは反対側の端部の前側部に締結固定される部材であって、光透過性の樹脂材料から形成される透光部材Ａ６５６と、その透光部材を囲む枠状に形成される枠状部材Ａ６５７と、透光部材Ａ６５６及び枠状部材Ａ６５７側に光を照射するＬＥＤ等の発光手段を備える発光基板Ａ６５８と、を備える。
【０３７３】
装飾部材Ａ６５５と本体部材Ａ６５１との締結により、上面視で左右方向の一方が開放されたコの字を形成することができる。このコの字の内側にフラットケーブルＡ６４４ａが配設され、フラットケーブルＡ６４４ａの一端が発光基板Ａ６５８に接続される。このように構成することで、フラットケーブルＡ６４４ａが本体部材Ａ６５１や装飾部材Ａ６５５の外方にはみ出し、遊技者から視認されることを回避することができる。
【０３７４】
装飾部材Ａ６５５は、互いに近接配置される移動部材Ａ６５０の閉状態（図７参照）では、透光部材Ａ６４２の前側を覆うように配設され、互いに離れる移動部材Ａ６５０の開状態（Ｂ５参照）では、透光部材Ａ６４２の前側から退き透光部材Ａ６４２及び装飾部材Ａ６５５を同時に視認させるように配設される。
【０３７５】
即ち、装飾部材Ａ６５５のみを視認させて発光演出を行う状態と、装飾部材Ａ６５５の間に透光部材Ａ６４２を配置させ、これらを同時に視認させて発光演出を行う状態と、を移動部材Ａ６５０の配置に応じて切り替えることができる。
【０３７６】
駆動伝達ユニットＡ６６０は、駆動モータＡＭＴ４の駆動軸に相対回転不能に固定される駆動ギアＡ６６１と、板状部材Ａ６３０の突設支持部Ａ６３２に回転可能に支持される回転板部材Ａ６６２と、板状部材Ａ６３０の突設支持部Ａ６３４に回転可能に支持され駆動ギアＡ６６１と回転板部材Ａ６６２とを連動させる伝達ギアＡ６６３と、を備える。

【０３７７】
回転板部材Ａ６６２は、突設支持部Ａ６３２を挿通可能に穿設される貫通孔Ａ６６２ａと、その貫通孔Ａ６６２ａを中心とする扇状に形成される一対の扇状板部Ａ６６２ｂと、一方の扇状板部Ａ６６２ｂの円弧状部に伝達ギアＡ６６３と歯合されるギア歯が形成される円弧状ギア部Ａ６６２ｃと、貫通孔Ａ６６２ａを中心とする回転対称となる位置（本実施形態では、１８０度ずれた位置）において扇状板部Ａ６６２ｂの正面側に円柱状に突設される一対の突設部Ａ６６２ｄと、を備える。
【０３７８】
回転板部材Ａ６６２が、円形の円板状部材では無く、円の一部をくり抜いたような形状から形成されていることにより、回転板部材Ａ６６２と板状本体Ａ６３１との間で擦れが生じる面積を低減することができる。これにより、回転板部材Ａ６６２の回転時に生じる抵抗を低減することができるので、駆動モータＡＭＴ４に要求される駆動力を低減させることができる。
【０３７９】
突設部Ａ６６２ｄは、板状部材Ａ６３０の円弧状孔Ａ６３３を通り、移動部材Ａ６５０の凹設部Ａ６５２ｃに挿通される。即ち、突設部Ａ６６２ｄの配置が変化されることで、凹設部Ａ６５２ｃの配置が連動して変化されることに伴い移動部材Ａ６５０の移動が生じる。
【０３８０】
背面カバー部材Ａ６７０は、板状部材Ａ６３０の枠状部Ａ６３５と同一形状の外形を有し板状部材Ａ６３０に締結固定される板状本体Ａ６７１と、その板状本体Ａ６７１の右端から板状に張り出す張出部Ａ６７２と、板状本体Ａ６７１の背面側に突設され案内ユニットＡ６８０の回転部材の回転軸を支持する上下一対の突設支持部Ａ６７３と、回転板部材Ａ６６２の回転軌跡と関連して板状本体Ａ６７１に穿設される複数の円弧状貫通孔Ａ６７４と、を備える。
【０３８１】
張出部Ａ６７２は、演出待機状態において張出部Ａ６１３ｂ（図３７参照）の後方に配置される部分であって、仮に開閉動作ユニットＡ６００ｂが前倒れした状態で張出状態から演出待機状態に戻る場合等において、張出部Ａ６１３ｂから後ろ向きの負荷を受けることで、開閉動作ユニットＡ６００ｂの姿勢を元に戻す（後倒れさせる）部分として機能する。
【０３８２】
案内ユニットＡ６８０は、正面側が開放された箱状に形成される箱状本体Ａ６８１と、その箱状本体Ａ６８１の内部に配置される左右方向に延びる回転軸で回転可能に構成される上下一対のローラー部材Ａ６８２と、箱状本体Ａ６８１の内部に配置され前後方向に延びる回転軸で回転可能に構成される左右一組が上下一対で配設される滑車状部材Ａ６８３と、左右に長い形状で穿設される長尺貫通孔Ａ６８４と、を備える。
【０３８３】
ローラー部材Ａ６８２が箱状本体Ａ６８１の貫通孔Ａ６８１ａから背面側にはみ出すよう構成されているので、箱状本体Ａ６８１の背面が固定支持ユニットＡ６１０（図３７参照）の板状本体Ａ６１１ａと対向配置された場合に、板状本体Ａ６１１ａとの接触の関係を、箱状本体Ａ６８１の擦れではなく、ローラー部材Ａ６８２の転がりとすることができる。これにより、開閉動作ユニットＡ６００ｂの昇降動作時に固定支持ユニットＡ６１０から受ける抵抗を低減し易くすることができる。
【０３８４】
滑車状部材Ａ６８３の間には、箱状本体Ａ６８１の凹設部Ａ６８１ｂを通された昇降支持棒Ａ６１１ｃ（図３７参照）が配設される。これにより、案内ユニットＡ６８０は昇降支持棒Ａ６１１ｃに案内されて上下方向に昇降動作されることから、開閉動作ユニットＡ６００ｂの動作方向を安定させることができる。
【０３８５】

長尺貫通孔Ａ６８４は、回転動作部材Ａ６２１の挿通突部Ａ６２１ｅ（図３７参照）が挿通される長孔である。即ち、長尺貫通孔Ａ６８４を介して、駆動モータＡＭＴ３（図３７参照）の駆動力が開閉動作ユニットＡ６００ｂに伝達される。

【０３８６】

図４１及び図４２は、第３動作ユニットＡ６００の開閉動作ユニットＡ６００ｂの背面図である。図４１では、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態における開閉動作ユニットＡ６００ｂが図示され、図４２では、第３動作ユニットＡ６００の張出状態における開閉動作ユニットＡ６００ｂが図示される。

【０３８７】

なお、図４１及び図４２では、理解を容易とするために、背面カバー部材Ａ６７０及び案内ユニットＡ６８０の図示が省略され、背面カバー部材Ａ６７０の円弧状貫通孔Ａ６７４の配置が想像線で図示され、回転板部材Ａ６６２の突設部Ａ６６２ｄの配置が想像線で図示される。

【０３８８】

図４１及び図４２に示すように、開閉動作ユニットＡ６００ｂの動作態様は、回転板部材Ａ６６２の回転に伴い突設部Ａ６６２ｄの配置が突設支持部Ａ６３２を中心とする円弧に沿って変化することに伴い、一対の移動部材Ａ６５０が突設支持部Ａ６３２の上側および下側で、対応する案内溝部Ａ６４１ａ（図４０参照）の形成方向（互いに平行な方向）に沿って、逆方向に平行移動するというものである。

【０３８９】

ここで、上述のように、移動部材Ａ６５０の本体部材Ａ６５１は、回転対称に配置される同一形状の一対の部材から構成されており、且つ、突設部Ａ６６２ｄの配置も、本体部材Ａ６５１の回転対称の回転軸となる突設支持部Ａ６３２を中心に対称な位置とされているので、突設部Ａ６６２ｄから移動部材Ａ６５０に与えられる影響は、一対の部材で共通に与えられる。

【０３９０】

即ち、例えば、回転板部材Ａ６６２が高速で回転すれば、一対の移動部材Ａ６５０が共通の速度で高速で平行移動するし、回転板部材Ａ６６２が突然反転動作（回転方向を変える動作）する場合でも、一対の移動部材Ａ６５０を同時に反転動作させることができる。

【０３９１】

回転板部材Ａ６６２の扇状板部Ａ６６２ｂと、背面カバー部材Ａ６７０の円弧状貫通孔Ａ６７４との配置関係について説明する。扇状板部Ａ６６２ｂと円弧状貫通孔Ａ６７４とが前後方向で重なる面積は回転板部材Ａ６６２の回転の過程で変化する。扇状板部Ａ６６２ｂと背面カバー部材Ａ６７０との間には挟まれる空気による空気抵抗が生じるが、背面カバー部材Ａ６７０に円弧状貫通孔Ａ６７４が形成されている箇所においては、その空気抵抗が低減されることになる。

【０３９２】

図４２に、第３動作ユニットＡ６００の演出待機状態における回転板部材Ａ６６２の扇状板部Ａ６６２ｂの配置範囲（図４１参照）の角度幅が第１領域ＡＥ２１で図示され、図４１に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転された後の扇状板部Ａ６６２ｂの配置範囲の角度幅が第２領域ＡＥ２２で図示され、その第２領域ＡＥ２２に扇状板部Ａ６６２ｂに配置された状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転された後の扇状板部Ａ６６２ｂの配置範囲の角度幅が第３領域ＡＥ２３で図示され、第３動作ユニットＡ６００の張出状態における回転板部材Ａ６６２の扇状板部Ａ６６２ｂの配置範囲の角度幅が第４領域ＡＥ２４で図示される。

【０３９３】

図４１に示すように、本実施形態では、回転板部材Ａ６６２の姿勢に関わらず、一方の扇状板部Ａ６６２ｂは少なくとも１つの円弧状貫通孔Ａ６７４と対向配置される。そのため、図４１に示す状態（扇状板部Ａ６６２ｂが第１領域ＡＥ２１に配置される状態）は、扇状板部Ａ６６２ｂと円弧状貫通孔Ａ６７４との重なる面積が最も小さい状態、即ち、扇

状板部Ａ６６２ｂにかけられる空気抵抗が最大となる状態として図示される。
【０３９４】
第１領域ＡＥ２１に配置される状態において、扇状板部Ａ６６２ｂの背面視時計回り側の縁部は、円弧状貫通孔Ａ６７４と調度重ならない位置に配置される。そのため、回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転を開始すると、扇状板部Ａ６６２ｂと元々重なっていた円弧状貫通孔Ａ６７４（左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４）に加えて、他の円弧状貫通孔Ａ６７４（上下に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４）とも重なり始め、その状態は扇状板部Ａ６６２ｂが第２領域ＡＥ２２に配置される状態まで継続される。
【０３９５】
他の円弧状貫通孔Ａ６７４と扇状板部Ａ６６２ｂとの重なる面積は、回転板部材Ａ６６２の回転角度が大きくなるにつれて大きくなるので、回転板部材Ａ６６２の回転開始から空気抵抗を徐々に小さくでき、更に回転が進むにつれて回転板部材Ａ６６２にかけられる空気抵抗が更に小さくなるようにすることができる。これにより、回転板部材Ａ６６２の回転および移動部材Ａ６５０の移動をスムーズに実行することができる。
【０３９６】
扇状板部Ａ６６２ｂが第２領域ＡＥ２２に配置される状態では、扇状板部Ａ６６２ｂの背面視反時計回り側の縁部は、調度、左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４の背面視反時計回り側の縁部に重なる位置に配置される。即ち、回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転すると、扇状板部Ａ６６２ｂの背面視反時計回り側の縁部が背面視で円弧状貫通孔Ａ６７４の内部に入り込むことになる。
【０３９７】
そのため、回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転を継続すると、左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４と扇状板部Ａ６６２ｂとの重なる面積が徐々に小さくなるが、一方で、他の円弧状貫通孔Ａ６７４（上下に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４）と扇状板部Ａ６６２ｂとの重なる面積は徐々に大きくなる。これらは、同じ角度ずつの変化となるので、結局のところ、円弧状貫通孔Ａ６７４と扇状板部Ａ６６２ｂとの重なる面積は一定に維持される。
【０３９８】
この状態は、扇状板部Ａ６６２ｂが第３領域ＡＥ２３に配置される状態まで継続される。即ち、扇状板部Ａ６６２ｂが第２領域ＡＥ２２に配置される状態から、第３領域ＡＥ２３に配置される状態までは、回転板部材Ａ６６２にかかる空気抵抗を一定に維持することができる。
【０３９９】
扇状板部Ａ６６２ｂが第３領域ＡＥ２３に配置される状態から、扇状板部Ａ６６２ｂが第４領域ＡＥ２４に配置される状態までは、扇状板部Ａ６６２ｂが左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４と重なる面積が徐々に小さくなることから、回転板部材Ａ６６２の回転が進むにつれて回転板部材Ａ６６２にかけられる空気抵抗が大きくなるようにすることができるので、回転板部材Ａ６６２及び移動部材Ａ６５０の減速をスムーズに行うことができる。
【０４００】
扇状板部Ａ６６２ｂが第４領域ＡＥ２４に配置される状態は、扇状板部Ａ６６２ｂの背面視反時計回り側の縁部が左右に配置される円弧状貫通孔Ａ６７４の背面視時計回り側の縁部に調度重なる位置とされる。
【０４０１】
そのため、図４２に示す状態から背面視反時計回り方向に回転板部材Ａ６６２を回転させる場合（第３動作ユニットＡ６００の張出状態における配置から演出待機状態における配置に動作させる場合）においても、上述と同様の空気抵抗の変化を生じさせることができる。
【０４０２】
従って、図４１に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転動作する場

合か、図４２に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視反時計回りに回転動作する場合かに関わらず、双方向で、上述のような空気抵抗の変化を生じさせることができる。

【０４０３】

また、回転板部材Ａ６６２を介する駆動力伝達により動作される移動部材Ａ６５０は上下に一対で構成されており、移動部材Ａ６５０から回転板部材Ａ６６２に与えられる荷重の向きは、回転板部材Ａ６６２の動作方向に関わらず同じである。

【０４０４】

即ち、図４１に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転動作する場合には、上側の移動部材Ａ６５０からの負荷が左向きに生じ、下側の移動部材Ａ６５０からの負荷が右向きに生じる一方で、図４２に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視反時計回りに回転動作する場合には、上側の移動部材Ａ６５０からの負荷が右向きに生じ、下側の移動部材Ａ６５０からの負荷が左向きに生じる。

【０４０５】

即ち、回転板部材Ａ６６２に与えられる負荷は、方向が逆転しているだけで、回転方向の違いによる変化はない。従って、図４１に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視時計回りに回転動作する場合か、図４２に示す状態から回転板部材Ａ６６２が背面視反時計回りに回転動作する場合かに関わらず、双方向で、生じる動作抵抗を同じとすることができ、動作速度を共通化とすることができる。

【０４０６】

次いで、図４３から図４８を参照して、導光板ユニットＡ７００について説明する。図４３は、導光板ユニットＡ７００の分解正面斜視図であり、図４４は、導光板ユニットＡ７００の分解背面斜視図である。

【０４０７】

図４３及び図４４に示すように、導光板ユニットＡ７００は、背面ケースＡ２１０（図５参照）に保持され背面ケースＡ２１０の正面側開口の大部分を覆う大きさで形成される覆設導光板ユニットＡ７００ａと、その覆設導光板ユニットＡ７００ａの左側部に締結固定される補助導光板ユニットＡ７００ｂと、を備える。

【０４０８】

覆設導光板ユニットＡ７００ａは、板状の導光板Ａ７０１と、その導光板Ａ７０１に向けて光を照射するＬＥＤ等の複数の発光手段を有し導光板Ａ７０１の左側に配設される左発光基板Ａ７０２と、導光板Ａ７０１に向けて光を照射するＬＥＤ等の複数の発光手段を有し導光板Ａ７０１の上側に配設される上発光基板Ａ７０３と、それら導光板Ａ７０１、左発光基板Ａ７０２及び上発光基板Ａ７０３の位置ずれを防止するように固定する前後一組の枠状部材Ａ７１０と、を備える。

【０４０９】

導光板Ａ７０１は、光透過性の樹脂材料から矩形の平板状に形成され、右下部に切り欠きＡ７０１ａを備える。導光板Ａ７０１の裏面には、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭に沿って溝部が形成されており、左発光基板Ａ７０２や上発光基板Ａ７０３から導光板Ａ７０１へ光が入射されると、その溝部で光が屈折され、遊技者に対して特定のキャラクター等の輪郭に沿うライン状の光を視認させることができる。

【０４１０】

左発光基板Ａ７０２及び上発光基板Ａ７０３は、複数のＬＥＤの光軸が、導光板Ａ７０１の端面に直角に入射するように配設される。導光板Ａ７０１に入射する方向を２方向で構成していることで、上述のライン状の光は、少なくとも、左発光基板Ａ７０２からの光のみを入射する場合と、上発光基板Ａ７０３からの光のみを入射する場合との２種類を生じさせることができる。

【０４１１】

枠状部材Ａ７１０は、矩形の枠状から導光板Ａ７０１の切り欠きＡ７０１ａが分断された形状から形成され、背面ケースＡ２１０（図５参照）の外壁部Ａ２１２の前端部に締結固定される一組の左右固定部Ａ７１１と、第３動作ユニットＡ６００（図５参照）の右側

部材Ａ６１５や左側部材Ａ６１７に締結固定される一対の下固定部Ａ７１２と、第１動作ユニットＡ４００の支持部材Ａ４２１（図１３参照）に前後方向で当接する当接支持部Ａ７１３と、を備える。

【０４１２】

当接支持部Ａ７１３は、上下に並ぶベルトＡ４２３ａ（図１５参照）の間に配置される。上側のベルトＡ４２３ａに連結機構Ａ４２７が配設されることから、当接支持部Ａ７１３を下側のベルトＡ４２３ａ寄りの位置に配設させることで、連結機構Ａ４２７の移動を阻害することなく、枠状部材Ａ７１０の当接支持部Ａ７１３の支持に支持部材Ａ４２１の剛性を利用することができる。

【０４１３】

図４５は、補助導光板ユニットＡ７００ｂの分解正面斜視図であり、図４６は、補助導光板ユニットＡ７００ｂの分解背面斜視図である。補助導光板ユニットＡ７００ｂは、表裏面にＬＥＤが配設される板状の発光基板Ａ７２０と、光透過性の樹脂材料から板状に形成され発光基板Ａ７２０のＬＥＤから照射される光を受光可能となるように発光基板Ａ７２０の正面側に配設される前側板部材Ａ７３０と、光透過性の樹脂材料から板状に形成され発光基板Ａ７２０のＬＥＤから照射される光を受光可能となるように発光基板Ａ７２０の背面側に配設される後側板部材Ａ７４０と、光透過性の樹脂材料から形成され発光基板Ａ７２０との間に前側板部材Ａ７３０を挟むように配設される前カバー部材Ａ７５０と、を備える。

【０４１４】

発光基板Ａ７２０は、上下に長尺の板状本体Ａ７２１と、その板状本体Ａ７２１から右方に先端円弧状に膨らむように形成される複数の膨出板部Ａ７２２と、その膨出板部Ａ７２２と対応する位置で板状本体Ａ７２１の左側部において凹設される複数の凹設部Ａ７２３と、板状本体Ａ７２１の正面側において上下に並べられる複数の指向性の高いＬＥＤ等の発光手段であって光軸が左方へ向けられる複数の正面発光部Ａ７２４と、その正面発光部Ａ７２４に対応する板状本体Ａ７２１の背面側の位置（矢印Ｆ－Ｂ上で平行移動させた位置）において上下に並べられる指向性の低いＬＥＤ等の発光手段であって光軸が左方へ向けられる複数の背面発光部Ａ７２５と、を備える。

【０４１５】

膨出板部Ａ７２２が上下方向の複数位置に形成されていることで、前側板部材Ａ７３０や後側板部材Ａ７４０と発光基板Ａ７２０との支持面積（互いに面接触する面積）を大きく確保することができる。これにより、組立状態における発光基板Ａ７２０の姿勢の安定を図ることができる。

【０４１６】

正面発光部Ａ７２４からの光は、前側板部材Ａ７３０に受光される。複数の正面発光部Ａ７２４の光の光軸は、それぞれ左方を向き互いに平行とされるので、前側板部材Ａ７３０を広い範囲で均一に光らせることができる。

【０４１７】

背面発光部Ａ７２５からの光は、後側板部材Ａ７４０に受光される。複数の背面発光部Ａ７２５の光の光軸は、それぞれ左方を向き互いに平行とされるので、後側板部材Ａ７４０を広い範囲で均一に光らせることができる。

【０４１８】

上述のように、正面発光部Ａ７２４と背面発光部Ａ７２５とが、前後方向で対応する位置に配置されているので、正面発光部Ａ７２４により照らされる前側板部材Ａ７３０の範囲と、背面発光部Ａ７２５により照らされる後側板部材Ａ７４０の範囲とを対応させることができる。

【０４１９】

これにより、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５の両方を発光させた場合には、それらの光が合わさることで、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０における正面発光部Ａ７２４又は背面発光部Ａ７２５に照らされる範囲を、より明るく視認させるこ

とができる。
【０４２０】
一方で、正面発光部Ａ７２４又は背面発光部Ａ７２５の片側を発光させる場合においても、前側板部材Ａ７３０又は後側板部材Ａ７４０の明るくなる箇所は、位置ずれすることが無いので、演出の違和感を生じさせにくくすることができる。
【０４２１】
正面発光部Ａ７２４又は背面発光部Ａ７２５により明るく照らされる範囲が同じにされるので、例えば、正面発光部Ａ７２４のみを発光させた状態から、背面発光部Ａ７２５のみを発光させる状態へ移行させたとしても、遊技者が受ける平面的な光の明暗のパターン（正面視でどの位置が明るく、どの位置が暗くなるかというパターン）が変化することを避けることができる。これにより、遊技者の疲労間を低減させることができる。
【０４２２】
前側板部材Ａ７３０は、正面側側面が平滑面として形成される板状本体Ａ７３１と、その板状本体Ａ７３１の背面側側面において、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭に沿って形成されるライン状溝部Ａ７３２と、板状本体Ａ７３１の背面側に円柱状に突設され先端に形成される雌ネジにネジが螺入されることで枠状部材Ａ７１０（図４３参照）に締結固定される複数の締結部Ａ７３３と、前カバー部材Ａ７５０との締結固定のために円形に穿設される挿通貫通孔Ａ７３４と、前カバー部材Ａ７５０との位置合わせのために上下方向に長い長孔上に穿設される位置合わせ長孔Ａ７３５と、を備える。
【０４２３】
正面発光部Ａ７２４からの光が前側板部材Ａ７３０に受光された場合、ライン状溝部Ａ７３２で光が屈折されることにより、上記イラストの形状の輪郭がライン状に明るく視認される。
【０４２４】
後側板部材Ａ７４０は、前側板部材Ａ７３０の正面視外形と同一形状で光透過性の樹脂材料から形成される板状本体Ａ７４１と、その板状本体Ａ７４１の正面視外形と同一形状から形成され板状本体Ａ７４１の背面側に配設される光不透過（又は透過性の低い）白色のシートＡ７４２と、板状本体Ａ７４１の正面視外形と同一形状から形成され板状本体Ａ７４１の正面側に配設される光透過性の薄肉樹脂板Ａ７４３と、左上隅部において板状本体Ａ７４１、シートＡ７４２及び薄肉樹脂板Ａ７４３を前後方向に貫くように同位置に形成される第１貫通孔Ａ７４１ａ，Ａ７４２ａ，Ａ７４３ａと、下側部において板状本体Ａ７４１、シートＡ７４２及び薄肉樹脂板Ａ７４３を前後方向に貫くように同位置に形成される第２貫通孔Ａ７４１ｂ，Ａ７４２ｂ，Ａ７４３ｂと、を備える。
【０４２５】
板状本体Ａ７４１は、正面側側面が平滑面で形成され、背面側側面に無数のシボが形成される。これにより、板状本体Ａ７４１に受光された光のうち、背面側へ抜けた光がシートＡ７４２に反射されると、その光は無数のシボで拡散され、面発光される。これにより、板状本体Ａ７４１の背面側部を効率的に明るくすることができる。
【０４２６】
薄肉樹脂板Ａ７４３には、ライン状溝部Ａ７３２の輪郭の元となるイラストが描かれており、本実施形態では、イラストに対応する色が塗られている。そのため、背面発光部Ａ７２５からの光が後側板部材Ａ７４０に受光された場合、薄肉樹脂板Ａ７４３に描かれたイラストが、板状本体Ａ７４１の背面側のシボにより面発光で明るく視認される。
【０４２７】
前カバー部材Ａ７５０は、背面側に無数の半球状の突設部が形成される板状本体Ａ７５１と、その板状本体Ａ７５１の上縁部および右縁部から背面側に板状に延設される延設縁部Ａ７５２と、板状本体Ａ７５１の左端部において発光基板Ａ７２０の位置合わせに利用される突設部および締結に利用される雌ネジ部から構成される締結部Ａ７５３と、板状本体Ａ７５１の右端部から背面側に円柱状に突設される複数の円柱状締結部Ａ７５４と、その円柱状締結部Ａ７５４よりも細径で突設長さが短い突設部Ａ７５５と、正面側に装飾が

施され板状本体Ａ７５１の正面側に貼り付けられる光透過性の装飾シールＡ７５６と、を備える。

【０４２８】

組立において、突設部Ａ７５５が前側板部材Ａ７３０の位置合わせ長孔Ａ７３５に挿通され、円柱状締結部Ａ７５４が前側板部材Ａ７３０の挿通貫通孔に挿通されることで、前側板部材Ａ７３０を前カバー部材Ａ７５０に対して位置合わせすることができる。

【０４２９】

更に続けて、前側板部材Ａ７３０に重ねるようにして発光基板Ａ７２０を締結部Ａ７５３で位置合わせし、その発光基板Ａ７２０に重ねるようにして後側板部材Ａ７４０を配置する。この時、円柱状締結部Ａ７５４が後側板部材Ａ７４０の第１貫通孔Ａ７４１ａ，Ａ７４２ａ，Ａ７４３ａに挿通され、前側板部材Ａ７３０の右下の締結部Ａ７３３が後側板部材Ａ７４０の第２貫通孔Ａ７４１ｂ，Ａ７４２ｂ，Ａ７４３ｂに挿通されることで、後側板部材Ａ７４０を前側板部材Ａ７３０に対して位置合わせすることができる。

【０４３０】

前カバー部材Ａ７５０に前側板部材Ａ７３０、発光基板Ａ７２０及び後側板部材Ａ７４０を位置合わせした状態で、補助導光板ユニットＡ７００ｂを覆設導光板ユニットＡ７００ａ（図４３参照）に締結固定する場合、前側板部材Ａ７３０の締結部Ａ７３３及び前カバー部材Ａ７５０の円柱状締結部Ａ７５４に押圧力（締結力）がかけられる。

【０４３１】

本実施形態では、締結部Ａ７３３及び円柱状締結部Ａ７５４が、発光基板Ａ７２０の外方に配設されているので、組立において押圧力（締結力）が意図せず過大になった場合であっても、発光基板Ａ７２０が割れたり破損したりする事態を回避し易くすることができる。

【０４３２】

前カバー部材Ａ７５０の右上に配置される円柱状締結部Ａ７５４により、前側板部材Ａ７３０、後側板部材Ａ７４０及び前カバー部材Ａ７５０の位置合わせと、発光基板Ａ７２０に対する前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の押し付け（押圧）とを、一箇所で行うことができる。これにより、組立の工数を削減することができる。

【０４３３】

図４７は、補助導光板ユニットＡ７００ｂの背面図であり、図４８（ａ）は、図４７のＸＬＶＩＩＩａ－ＸＬＶＩＩＩａ線における補助導光板ユニットＡ７００ｂの断面図であり、図４８（ｂ）は、図４７のＸＬＶＩＩＩｂ－ＸＬＶＩＩＩｂ線における補助導光板ユニットＡ７００ｂの断面図である。図４８（ａ）では、円柱状締結部Ａ７５４の中心を通る断面が図示される。

【０４３４】

補助導光板ユニットＡ７００ｂの組立時には、前カバー部材Ａ７５０に前側板部材Ａ７３０を位置合わせして組み付けた後で、発光基板Ａ７２０を前カバー部材Ａ７５０に組み付ける際に、締結部Ａ７５３の雌ネジが形成される締結部の端面と、膨出板部Ａ７２２が面で当接する前側板部材Ａ７３０の背面側側面との高さ（前後方向位置）が合うようになっており、発光基板Ａ７２０の姿勢が安定するようになっている。

【０４３５】

更に、発光基板Ａ７２０の後ろから後側板部材Ａ７４０を組み付けると、後側板部材Ａ７４０の前側側面が膨出板部Ａ７２２と広範囲で面で当接することで、後側板部材Ａ７４０の姿勢の安定と、局所的な負荷の低減とを図っている。

【０４３６】

図４７及び図４８（ａ）に示すように、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０とが発光基板Ａ７２０と重なる形状が同じとなるように形成されているので、円柱状締結部Ａ７５４に螺入される締結ネジによる押圧力が、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０を介して発光基板Ａ７２０にバランスよく伝えられる。押圧力が、発光基板Ａ７２０をせん断する力として機能することを避けることができるので、発光基板Ａ７２０の割れや

欠けを避けることができる。
【０４３７】
発光基板Ａ７２０の縁部に前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０から押圧力をかけられることで、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０とが、発光基板Ａ７２０の表裏面に押し付けられる。
【０４３８】
これにより、発光基板Ａ７２０の板状本体Ａ７２１に対する前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の前後位置を正確に合わせることで、正面発光部Ａ７２４に対する前側板部材Ａ７３０の前後位置および背面発光部Ａ７２５に対する後側板部材Ａ７４０の前後位置を容易に合わせることができるので、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０への受光位置を合わせ易くすることができる。
【０４３９】
円柱状締結部Ａ７５４は、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５の光軸と重ならない位置（間の位置）に配設される。これにより、前側板部材Ａ７３０に受光される正面発光部Ａ７２４からの光の光軸を円柱状締結部Ａ７５４が遮ることが無いので、前側板部材Ａ７３０を利用した発光演出の演出効果を向上させることができる。
【０４４０】
図４８（ｂ）は、下から３個目の背面発光部Ａ７２５の中心を通る断面として図示される。図４７及び図４８（ｂ）に示すように、締結部Ａ７３３は、背面発光部Ａ７２５の光軸と重なる位置に配設されている。
【０４４１】
このように締結部Ａ７３３を配設する場合であっても、締結部Ａ７３３は前側板部材Ａ７３０を貫通するような部分では無く、正面発光部Ａ７２４の光を遮ることはない。また、後側板部材Ａ７４０で受光される光は、後側板部材Ａ７４０を面発光させるために指向性を若干低くされることから（指向性の低いＬＥＤが選定され易いので）、光軸上に締結部Ａ７３３が配置されていたとしても光が完全に遮られるものではないので、発光演出への影響を少なくすることができる。即ち、後側板部材Ａ７４０を利用した発光演出の演出効果を下げることなく、前側板部材Ａ７３０の締結部Ａ７３３の配設自由度を向上させることができる。
【０４４２】
前カバー部材Ａ７５０に対する後側板部材Ａ７４０の締結固定においては、板状本体Ａ７４１の正面側面が薄肉樹脂板Ａ７４３の左側縁部を板状本体Ａ７２１の背面側面との間で挟むように締結固定されることで、薄肉樹脂板Ａ７４３が板状本体Ａ７４１から浮き上がることが防止される。
【０４４３】
この場合、薄肉樹脂板Ａ７４３に与えられる負荷が、締結ネジのように点で生じる負荷ではなく、発光基板Ａ７２０の板状本体Ａ７２１との間で薄肉樹脂板Ａ７４３の左側縁部に沿って線（面）で生じる負荷となるので、薄肉樹脂板Ａ７４３にかけられる単位面積当たりの押圧力を低減させることができる。これにより、薄肉樹脂板Ａ７４３の割れや欠けを回避し易くすることができる。
【０４４４】
図４８（ａ）及び図４８（ｂ）で示すように、指向性の高いＬＥＤから選定される正面発光部Ａ７２４からの照射光の進行経路ＡＬ１は、前側板部材Ａ７３０に受光された後、前側板部材Ａ７３０の前後面で全反射する態様でライン状溝部Ａ７３２に到達するまでは左右方向に延び、ライン状溝部Ａ７３２に到達すると屈折され、正面側へ向きが変えられる。
【０４４５】
そのため、正面側から前側板部材Ａ７３０を視認する際に正面発光部Ａ７２４から光が照射されている場合には、ライン状溝部Ａ７３２から正面側に向かう光が遊技者の目に届くので、ライン状溝部Ａ７３２の元となる形状としての、特定のキャラクターやロゴ等を

含むイラストの形状の輪郭が光っているように視認させることができる。
【０４４６】
背面発光部Ａ７２５からの光は、正面発光部Ａ７２４からの光よりも指向性が低いものとされているので、背面発光部Ａ７２５からの光は後側板部材Ａ７４０内を全反射する態様にはなく、後側板部材Ａ７４０を均一に照らすように機能する。
【０４４７】
図４８に示すように、前側板部材Ａ７３０の正面発光部Ａ７２４側の端部および後側板部材Ａ７４０の背面発光部Ａ７２５側の端部は、発光基板Ａ７２０の正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５の照射方向側（右側）の端部よりも、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５側に配置される。
【０４４８】
これにより、発光基板Ａ７２０の板状本体Ａ７２１を遮蔽板として利用することができるので、正面発光部Ａ７２４（背面発光部Ａ７２５）から照射された光が前側板部材Ａ７３０（後側板部材Ａ７４０）に受光される前に漏れることを避けることができる。これにより、例えば、正面発光部Ａ７２４から照射される光が後側板部材Ａ７４０に受光される事態や、背面発光部Ａ７２５から照射される光が前側板部材Ａ７３０に受光される事態を回避し易くすることができ、発光演出が不良となることを避け易くすることができる。
【０４４９】
板状本体Ａ７５１は、背面側に形成される無数の半球状の突設部Ａ７５１ａにより、正面側からの光を受光した場合に、その光を拡散させて面発光させる。これにより、光演出の効果を向上させることができると共に、前カバー部材Ａ７５０の背面側の視認性を低くできるので、発光基板Ａ７２０の目隠しとして利用することができる。
【０４５０】
板状本体Ａ７５１の背面側には発光基板Ａ７２０の正面発光部Ａ７２４が配設されるが、正面発光部Ａ７２４から照射される光は板状本体Ａ７５１側へ向く方向と直交する方向で前側板部材Ａ７３０に入射され、前側板部材Ａ７３０内で全反射されることから、板状本体Ａ７５１は正面発光部Ａ７２４から照射される光で照らされにくい構成となっており、暗く視認され、演出領域として使いにくいという事情がある。
【０４５１】
これに対し、本実施形態では、板状本体Ａ７５１の背面側に形成される無数の半球状の突設部Ａ７５１ａにより、受光した光を拡散させることができるので、遊技者に板状本体Ａ７５１を明るい状態で視認させることができる。
【０４５２】
更に、板状本体Ａ７５１の正面側面全域を覆う形状の装飾シールＡ７５６が板状本体Ａ７５１の正面側に貼り付けられることで、光により板状本体Ａ７５１の背面側に形成される無数の突設部Ａ７５１ａの形状が目立つ効果を低減し、明るく照らされた装飾シールＡ７５６の正面側の装飾の視認性を良くすることができる。
【０４５３】
図４９（ａ）から図４９（ｆ）は、補助導光板ユニットＡ７００ｂの視認態様を模式的に示す補助導光板ユニットＡ７００ｂの模式正面図である。説明の便宜上、補助導光板ユニットＡ７００ｂを矩形状の外形で図示し、その内側に三角形のイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２が図示される場合として模式的に図示する。この三角形のイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２が、薄肉樹脂板Ａ７４３やライン状溝部Ａ７３２（図４６参照）により形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭の一例に該当する。
【０４５４】
図４９（ａ）から図４９（ｆ）では、正面発光部Ａ７２４（図４５参照）の点灯または消灯の違いや、背面発光部Ａ７２５（図４６参照）の点灯または消灯の違いによる、補助導光板ユニットＡ７００ｂの見映えの違いの一例が図示される。
【０４５５】
図４９（ａ）では、正面発光部Ａ７２４（図４５参照）が消灯され、背面発光部Ａ７２

５（図４６参照）が消灯される場合が図示される。この場合には、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２が視認可能とされる。

【０４５６】

図４９（ｂ）では、正面発光部Ａ７２４（図４５参照）が消灯され、背面発光部Ａ７２５（図４６参照）が点灯される場合が図示される。この場合には、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２が照らされた状態で視認可能とされる。

【０４５７】

図４９（ｃ）では、正面発光部Ａ７２４（図４５参照）が点灯され、背面発光部Ａ７２５（図４６参照）が消灯される場合が図示される。この場合には、ライン状溝部Ａ７３２（図４６参照）に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２の形状の輪郭が照らされ、ライン状の光として視認されることになる。この場合、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１，ＡＩＬ２の形状はライン状の光により遮られ、視認性が低下される。

【０４５８】

図４９（ｄ）では、正面発光部Ａ７２４（図４５参照）が点灯され、背面発光部Ａ７２５（図４６参照）が点灯される場合が図示される。この場合には、図４９（ｃ）に図示される状態よりも、補助導光板ユニットＡ７００ｂの正面側部の明るさを向上させることができる。

【０４５９】

図４９（ｅ）では、板状本体Ａ７２１の上下半分位置よりも上側の正面発光部Ａ７２４（図４５参照）が消灯され、板状本体Ａ７２１の上下半分位置よりも下側の正面発光部Ａ７２４が点灯され、板状本体Ａ７２１の上下半部位置よりも上側の背面発光部Ａ７２５（図４６参照）が点灯され、板状本体Ａ７２１の上下半部位置よりも下側の背面発光部Ａ７２５（図４６参照）が消灯される場合が図示される。

【０４６０】

この場合には、補助導光板ユニットＡ７００ｂの上側半分では、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１が照らされた状態で視認可能とされ、補助導光板ユニットＡ７００ｂの下側半分では、ライン状溝部Ａ７３２（図４６参照）に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ２の形状の輪郭が照らされ、ライン状の光として視認される。

【０４６１】

図４９（ｆ）では、板状本体Ａ７２１の上下半分位置よりも上側の正面発光部Ａ７２４（図４５参照）が点灯され、板状本体Ａ７２１の上下半分位置よりも下側の正面発光部Ａ７２４が消灯され、背面発光部Ａ７２５（図４６参照）が消灯される場合が図示される。

【０４６２】

この場合には、補助導光板ユニットＡ７００ｂの上側半分では、ライン状溝部Ａ７３２（図４６参照）に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ１の形状の輪郭が照らされ、ライン状の光として視認され、補助導光板ユニットＡ７００ｂの下側半分では、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストＡＩＬ２が視認可能とされる。

【０４６３】

図４９（ａ）から図４９（ｆ）に示すように、本実施形態では、補助導光板ユニットＡ７００ｂの正面側の視認態様を、正面発光部Ａ７２４（図４５参照）の点灯、消灯、及び背面発光部Ａ７２５（図４６参照）の点灯、消灯の組合せのバリエーションに対応して変化させることができる。

【０４６４】

図５０は、遊技盤Ａ１３の分解正面斜視図であり、図５１は、遊技盤Ａ１３の分解背面斜視図である。図５０及び図５１に示すように、遊技盤Ａ１３は、ベース板Ａ６０の窓部

Ａ６０ａにセンターフレームＡ８６が正面側から締結固定され、そのセンターフレームＡ８６の左右を遊技球が流下可能となるように構成されている。

【０４６５】

遊技盤Ａ１３は、光透過性の樹脂材料から遊技球の流下を分岐させる突設部を有する形状で形成されセンターフレームＡ８６の左上側に配設される流下分岐部材Ａ８０１と、光透過性の樹脂材料から遊技球の流下を案内する流路として左右に並んで設けられる２本の案内流路を構成する形状で形成されセンターフレームＡ８６の右方前側に配設される案内部材Ａ８０２と、その案内部材Ａ８０２の下方においてベース板Ａ６０に固定され光透過性の樹脂材料から遊技球の流下を案内する流路として左右に並んで設けられる２本の案内流路を構成する形状で形成される下流側案内部材Ａ８０３と、センターフレームＡ８６の内側に配設される光透過性の装飾部材Ａ８０８の背面側に配設され装飾部材Ａ８０８に光を照射可能に構成される補助導光板ユニットＡ８１０と、を備える。

【０４６６】

流下分岐部材Ａ８０１は、センターフレームＡ８６がベース板Ａ６０に配設された場合において窓部Ａ６０ａの内側の領域の前方に配置される。この場合、補助導光板ユニットＡ８１０から流下分岐部材Ａ８０１へ向かう光は、ベース板Ａ６０を通らず、ベース板Ａ６０の板厚よりも薄いセンターフレームＡ８６を通り流下分岐部材Ａ８０１に到達することになるので、流下分岐部材Ａ８０１に到達する光の減衰を抑えることができる。

【０４６７】

案内部材Ａ８０２は、ベース板Ａ６０の窓部Ａ６０ａの右上領域Ａ６０ｂを正面側から覆う形状から形成される板状本体Ａ８０２ａと、その板状本体Ａ８０２ａから正面側に板状に延設される一対の延設板Ａ８０２ｂと、遊技球を減速させるために板状本体Ａ８０２ａ又は延設板Ａ８０２ｂから突設される複数の減速突部Ａ８０２ｃと、を備え、右上領域Ａ６０ｂの上下位置においてベース板Ａ６０に締結固定される。

【０４６８】

案内部材Ａ８０２の背面側には、右上領域Ａ６０ｂに収められベース板Ａ６０の板厚よりも板厚の薄いセンターフレームＡ８６の張出板部Ａ８６ａを挟んで、補助導光板ユニットＡ８１０が配設される。この場合、補助導光板ユニットＡ８１０から案内部材Ａ８０２へ向かう光は、ベース板Ａ６０を通らず、ベース板Ａ６０の板厚よりも薄いセンターフレームＡ８６の張出板部Ａ８６ａを通り案内部材Ａ８０２に到達することになるので、案内部材Ａ８０２に到達する光の減衰を抑えることができる。

【０４６９】

減速突部Ａ８０２ｃは、左側の流路については、向かい合う一対の延設板Ａ８０２ｂの両方から突設されており、これにより流下する遊技球を左右に揺らすことができる。右側の流路については、右側の延設板Ａ８０２ｂから突設されると共に、板状本体Ａ８０２ａから前方に突設されており、これにより流下する遊技球を左右および前後方向に揺らすことができる。

【０４７０】

このように、案内部材Ａ８０２により形成される２本の流路を流下する遊技球は、どちらも減速突部Ａ８０２ｃからの減速を受けるが、その流下態様は、どちらの流路を流下するかによって異なる。これにより、遊技者は、遊技球の流下態様を見ることで、遊技球がどちらの流路を流下しているかを即座に把握することができる。

【０４７１】

また、このように構成することで、外縁部材７３（図２参照）に減速突部を形成する必要が無いので、外縁部材７３を共通部品として構成することができる。これにより、製品のコスト削減を図ることができる。

【０４７２】

本実施形態では、案内部材Ａ８０２により、一本の流路よりも左右幅の広い二本の流路を構成することになるので、強度面での問題が生じやすい。これに対し、本実施形態では、流路を形成する延設板Ａ８０２ｂが板状本体Ａ８０２ａの中央に配置されており、案内

部材Ａ８０２の補強材としての役割も担っている。これにより、案内部材Ａ８０２を厚みの薄い部材として構成しても、強度不足となることを避け易くすることができる。

【０４７３】

下流側案内部材Ａ８０３は、板状本体Ａ８０３ａと、その板状本体Ａ８０３ａの背面から延設される延設板Ａ８０３ｂと、を備え、それらの前後関係が案内部材Ａ８０２と逆とされる。

【０４７４】

案内部材Ａ８０２により形成される２本の流路と異なり、下流側案内部材Ａ８０３により形成される２本の案内流路は、その流路形状自体が、左右で異なる。即ち、左側の流路は、左下方に傾斜する流路であるが、右側の流路は、左右に蛇行する経路として形成される。これにより、いずれの流路を流下するかにより、遊技球の流下態様を大きく変化させることができる。

【０４７５】

図５２は、補助導光板ユニットＡ８１０の分解正面斜視図であり、図５３は、補助導光板ユニットＡ８１０の分解背面斜視図である。補助導光板ユニットＡ８１０は、表面にＬＥＤが配設される一組の板状の正面発光基板Ａ８２０と、裏面にＬＥＤが配設される一組の板状の背面発光基板Ａ８３０と、光透過性の樹脂材料から板状に形成され正面発光基板Ａ８２０のＬＥＤから照射される光を受光可能となるように正面発光基板Ａ８２０の正面側に配設される前側板部材Ａ８４０と、光透過性の樹脂材料から板状に形成され背面発光基板Ａ８３０のＬＥＤから照射される光を受光可能となるように背面発光基板Ａ８３０の背面側に配設される後側板部材Ａ８５０と、光透過性の低い白色の樹脂材料から形成され背面発光基板Ａ８３０との間に後側板部材Ａ８５０を挟むように配設されるベース部材Ａ８６０と、を備える。

【０４７６】

正面発光基板Ａ８２０は、上側に配設される上側基板Ａ８２１と、右側に配設される右側基板Ａ８２５と、を備える。上側基板Ａ８２１は、板状本体Ａ８２２と、板状本体Ａ８２２の正面側において右下隅部に並べられる複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が右側へ向けられる複数のエッジ発光部Ａ８２３と、そのエッジ発光部Ａ８２３よりも左側に配設される複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が正面側へ向けられる複数の面発光部Ａ８２４と、を備える。

【０４７７】

エッジ発光部Ａ８２３からの光は、前側板部材Ａ８４０に受光される。複数のエッジ発光部Ａ８２３の光の光軸は、それぞれ右側を向き、前側板部材Ａ８４０の前平面に対して平行とされるので、前側板部材Ａ８４０を広い範囲で光らせることができる。

【０４７８】

更に、エッジ発光部Ａ８２３は複数のＬＥＤから構成されており、各ＬＥＤの光軸は真右を向くのではなく、光軸の間隔が右側ほど広がるような放射状方向に向くように構成されている。これにより、エッジ発光部Ａ８２３からの光を前側板部材Ａ８４０の広範囲に導光させることができる。

【０４７９】

面発光部Ａ８２４からの光は、正面側に配設される装飾部材Ａ８０８（図５０参照）に受光される。複数の面発光部Ａ８２４の光の光軸は、それぞれ正面側を向き互いに平行とされるので、装飾部材Ａ８０８を広い範囲で均一に光らせることができる。

【０４８０】

右側基板Ａ８２５は、板状本体Ａ８２６と、板状本体Ａ８２６の正面側において左上隅部に並べられる複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が上側へ向けられる複数のエッジ発光部Ａ８２７と、そのエッジ発光部Ａ８２７よりも下側に配設される複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が正面側へ向けられる複数の面発光部Ａ８２８と、を備える。

【０４８１】

エッジ発光部Ａ８２７からの光は、前側板部材Ａ８４０に受光される。複数のエッジ発

光部Ａ８２７の光の光軸は、それぞれ上側を向き、前側板部材Ａ８４０の前平面に対して平行とされるので、前側板部材Ａ８４０を広い範囲で光らせることができる。

【０４８２】

更に、エッジ発光部Ａ８２７は複数のＬＥＤから構成されており、各ＬＥＤの光軸は真上を向くのではなく、光軸の間隔が上側ほど広がるような放射状方向に向くように構成されている。これにより、エッジ発光部Ａ８２７からの光を前側板部材Ａ８４０の広範囲に導光させることができる。

【０４８３】

上側基板Ａ８２１のエッジ発光部Ａ８２３からの光が前側板部材Ａ８４０の左端から受光されるのに対し、エッジ発光部Ａ８２７からの光は前側板部材Ａ８４０の下端から受光されるようになっているので、前側板部材Ａ８４０が正面視で中央側において括れ部Ａ８４４を有するように括れた形状となっている場合であっても、前側板部材Ａ８４０の全域に光が届き易くすることができる。

【０４８４】

面発光部Ａ８２８からの光は、正面側に配設される装飾部材Ａ８０８（図５０参照）に受光される。複数の面発光部Ａ８２８の光の光軸は、それぞれ正面側を向き互いに平行とされるので、装飾部材Ａ８０８を広い範囲で均一に光らせることができる。

【０４８５】

背面発光基板Ａ８３０は、上側に配設される上側基板Ａ８３１と、右側に配設される右側基板Ａ８３５と、を備える。上側基板Ａ８３１は、板状本体Ａ８３２と、板状本体Ａ８３２の背面側において右下隅部に並べられる複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が右側へ向けられる複数のエッジ発光部Ａ８３３と、を備える。

【０４８６】

エッジ発光部Ａ８３３からの光は、後側板部材Ａ８５０に受光される。複数のエッジ発光部Ａ８３３の光の光軸は、それぞれ右側を向き、後側板部材Ａ８５０の前平面に対して平行とされるので、後側板部材Ａ８５０を広い範囲で均一に光らせることができる。

【０４８７】

更に、エッジ発光部Ａ８３３は複数のＬＥＤから構成されており、各ＬＥＤの光軸は真右を向くのではなく、光軸の間隔が右側ほど広がるような放射状方向に向くように構成されている。これにより、エッジ発光部Ａ８３３からの光を後側板部材Ａ８５０の広範囲に導光させることができる。

【０４８８】

右側基板Ａ８３５は、板状本体Ａ８３６と、板状本体Ａ８３６の正面側において左上隅部に並べられる複数のＬＥＤ等の発光手段であって光軸が上側へ向けられる複数のエッジ発光部Ａ８３７と、を備える。

【０４８９】

エッジ発光部Ａ８３７からの光は、後側板部材Ａ８５０に受光される。複数のエッジ発光部Ａ８３７の光の光軸は、それぞれ上側を向き、後側板部材Ａ８５０の前平面に対して平行とされるので、後側板部材Ａ８５０を広い範囲で均一に光らせることができる。

【０４９０】

更に、エッジ発光部Ａ８３７は複数のＬＥＤから構成されており、各ＬＥＤの光軸は真上を向くのではなく、光軸の間隔が上側ほど広がるような放射状方向に向くように構成されている。これにより、エッジ発光部Ａ８３７からの光を後側板部材Ａ８５０の広範囲に導光させることができる。

【０４９１】

上側基板Ａ８３１のエッジ発光部Ａ８３３からの光が後側板部材Ａ８５０の左端から受光されるのに対し、エッジ発光部Ａ８３７からの光は後側板部材Ａ８５０の下端から受光されるようになっているので、後側板部材Ａ８５０が正面視で中央側において括れた形状となっている場合であっても、後側板部材Ａ８５０の全域に光が届き易くすることができる。

【０４９２】
正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７と、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７とが、前後方向で対応する位置（矢印Ｆ－Ｂ上で平行移動させた位置）に配置されているので、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７により照らされる前側板部材Ａ８４０の範囲と、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７により照らされる後側板部材Ａ８５０の範囲とを対応させることができる。
【０４９３】
これにより、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７と、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７との両方を発光させた場合には、それらの光が合わさることで、前側板部材Ａ８４０及び後側板部材Ａ８５０におけるエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７又はエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７に照らされる範囲を、より明るく視認させることができる。
【０４９４】
一方で、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７又は背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７の片側を発光させる場合においても、前側板部材Ａ８４０又は後側板部材Ａ８５０の明るくなる箇所は、位置ずれすることが無いので、演出の違和感を生じさせにくくすることができる。
【０４９５】
正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７又は背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７により明るく照らされる範囲が同じにされるので、例えば、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７のみを発光させた状態から、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７のみを発光させる状態へ移行させたとしても、遊技者が受ける平面的な光の明暗のパターン（正面視でどの位置が明るく、どの位置が暗くなるかというパターン）が変化することを避けることができる。これにより、遊技者の疲労間を低減させることができる。
【０４９６】
前側板部材Ａ８４０は、正面側側面が平滑面として形成される板状本体Ａ８４１と、その板状本体Ａ８４１の背面側側面において、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭に沿って形成されるライン状溝部Ａ８４２と、ベース部材Ａ８６０との締結固定のために円形に穿設される挿通貫通孔Ａ８４３と、板状本体Ａ８４１の中腹部が括れるように形成される括れ部Ａ８４４と、を備える。
【０４９７】
正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７からの光が前側板部材Ａ８４０に受光された場合、ライン状溝部Ａ８４２で光が屈折されることにより、上記イラストの形状の輪郭がライン状に明るく視認される。
【０４９８】
括れ部Ａ８４４を有する板状本体Ａ８４１の形状は、ライン状溝部Ａ８４２の元となるイラストの形状の外形に合わせた結果の形状である。即ち、ライン状に光る形状は、板状本体Ａ８４１の全域で視認されることになるので、板状本体Ａ８４１に演出上無駄な箇所を生じさせないようにすることができる。
【０４９９】
後側板部材Ａ８５０は、前側板部材Ａ８４０の正面視外形と同一形状で光透過性の樹脂材料から形成される板状本体Ａ８５１と、その板状本体Ａ８５１の正面視外形と同一形状から形成され板状本体Ａ８５１の正面側に配設される光透過性の薄肉樹脂板Ａ８５５と、左上隅部において板状本体Ａ８５１及び薄肉樹脂板Ａ８５５を前後方向に貫くように同位置に形成される第１貫通孔Ａ８５１ａ，Ａ８５５ａと、下側部において板状本体Ａ８５１及び薄肉樹脂板Ａ８５５を前後方向に貫くように同位置に形成される第２貫通孔Ａ８５１ｂ，Ａ８５５ｂと、を備える。
【０５００】
板状本体Ａ８５１は、前側板部材Ａ８４０の括れ部Ａ８４４と対応する位置において括

れ部Ａ８４４と同様の形状から形成される括れ部Ａ８５２を備え、正面側側面が平滑面で形成され、背面側側面に無数のシボが形成される。これにより、板状本体Ａ８５１に受光された光のうち、背面側へ抜けた光が白色のベース部材Ａ８６０に反射されると、その光は無数のシボで拡散され、面発光される。これにより、板状本体Ａ８５１の背面側部を効率的に明るくすることができる。

【０５０１】

板状本体Ａ８５１は、括れ部Ａ８５２を備えており、括れ部Ａ８５２の片側から受光された光が括れ部Ａ８５２を通過した後においては括れ部Ａ８５２の幅に制限された範囲で進行し易いため、本実施形態の板状本体Ａ８５１のように、括れ部Ａ８５２の両側において括れ部Ａ８５２の幅よりも幅広に形成される場合には、括れ部Ａ８５２の片側から受光された光を板状本体Ａ８５１の全域に広げることは難しい。

【０５０２】

そこで、本実施形態では、括れ部Ａ８５２の上側においてはエッジ発光部Ａ８３３からの光が板状本体Ａ８５１に受光され、括れ部Ａ８５２の下側においてはエッジ発光部Ａ８３７からの光が板状本体Ａ８５１に受光されるように構成することで、括れ部Ａ８５２を採用しながらも、括れ部Ａ８５２の上側または下側のみから光を受光する場合に比較して、板状本体Ａ８５１の全域に光を受光させることを可能にしている。これにより、板状本体Ａ８５１の全域を効率的に明るくすることができる。

【０５０３】

薄肉樹脂板Ａ８５５には、ライン状溝部Ａ８４２の輪郭の元となるイラストが描かれており、本実施形態では、イラストに対応する色が塗られている。そのため、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７からの光が後側板部材Ａ８５０に受光された場合、薄肉樹脂板Ａ８５５に描かれたイラストが、板状本体Ａ８５１の背面側のシボにより面発光で明るく視認される。

【０５０４】

ベース部材Ａ８６０は、白色の樹脂材料から形成される部材であって、正面視略Ｌ字状に形成される板状本体Ａ８６１と、その板状本体Ａ８６１に支持される後側板部材Ａ８５０の位置合わせを行う位置合わせ突部Ａ８６２と、後側板部材Ａ８５０が締結固定される締結部Ａ８６３と、背面発光基板Ａ８３０が位置合わせ及び締結固定される基板締結部Ａ８６４と、板状本体Ａ８６１から正面側に台状に形成される台部Ａ８６５と、板状本体Ａ８６１の正面から台部Ａ８６５の正面側側面に合う高さで円柱状に突設され先端に雌ネジが形成される円柱状締結部Ａ８６６と、板状本体Ａ８６１の正面から円柱状に突設され先端に雌ネジが形成され、円柱状締結部Ａ８６６の突設長さよりも正面発光基板Ａ８２０の厚さ分突設方向に長くされる板挟み締結部Ａ８６７と、を備える。

【０５０５】

補助導光板ユニットＡ８１０の組立は、ベース部材Ａ８６０に対して、後側板部材Ａ８５０、背面発光基板Ａ８３０、正面発光基板Ａ８２０、前側板部材Ａ８４０の順で締結固定されることで行われる。

【０５０６】

まず、ベース部材Ａ８６０に対する後側板部材Ａ８５０の締結固定について説明する。ベース部材Ａ８６０に対する後側板部材Ａ８５０の締結固定は、対応する位置合わせ突部Ａ８６２に第１貫通孔Ａ８５１ａ及び第２貫通孔Ａ８５１ｂを挿通させた状態で板状本体Ａ８５１に挿通される締結ネジが締結部Ａ８６３に螺入されることで、行われる。

【０５０７】

この時、締結ネジは板状本体Ａ８５１には挿通されるが、薄肉樹脂板Ａ８５５には挿通されない。そのため、板状本体Ａ８５１をベース部材Ａ８６０に締結固定した状態で、対応する位置合わせ突部Ａ８６２に第１貫通孔Ａ８５５ａ及び第２貫通孔Ａ８５５ｂを挿通させることで、ベース部材Ａ８６０及び板状本体Ａ８５１に対する薄肉樹脂板Ａ８５５の位置合わせを容易に行うことができる。

【０５０８】

更に、締結時の押圧力により薄肉樹脂板Ａ８５５が割れる事態を避けることができる。また、板状本体Ａ８５１の締結は維持したままで、薄肉樹脂板Ａ８５５の交換を行うことも可能となる。

【０５０９】

次に、ベース部材Ａ８６０に対する背面発光基板Ａ８３０の締結固定について説明する。ベース部材Ａ８６０に対する背面発光基板Ａ８３０の締結固定は、背面発光基板Ａ８３０が基板締結部Ａ８６４に締結固定されることで行われる。

【０５１０】

基板締結部Ａ８６４は、それぞれ後側板部材Ａ８５０の貫通孔Ａ８５３に挿通されていることで、後側板部材Ａ８５０のベース部材Ａ８６０に対する位置合わせとしても機能する。

【０５１１】

ベース部材Ａ８６０に対する背面発光基板Ａ８３０の締結固定においては、上側基板Ａ８３１の板状本体Ａ８３２の背面側面が薄肉樹脂板Ａ８５５の左側縁部を板状本体Ａ８５１の正面側面との間で挟むように締結固定され、右側基板Ａ８３５の板状本体Ａ８３６の背面側面側が薄肉樹脂板Ａ８５５の右下側縁部を板状本体Ａ８５１の正面側面との間で挟むように締結固定されることで、薄肉樹脂板Ａ８５５が板状本体Ａ８５１から浮き上がることが防止される。

【０５１２】

この場合、薄肉樹脂板Ａ８５５に与えられる負荷が、締結ネジのように点で生じる負荷ではなく、左側縁部に沿って線（面）で生じる負荷となるので、薄肉樹脂板Ａ８５５にかけられる単位面積当たりの押圧力を低減させることができる。これにより、薄肉樹脂板Ａ８５５の割れや欠けを回避し易くすることができる。

【０５１３】

上述のように、背面発光基板Ａ８３０の締結固定においては、板状本体Ａ８３２の背面側面が後側板部材Ａ８５０の正面側面と面で当接するように構成しているので、背面発光基板Ａ８３０のエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７の光軸と、後側板部材Ａ８５０との、前後方向（後側板部材Ａ８５０の正面側面が向く方向）における位置合わせを容易に行うことができる。これにより、後側板部材Ａ８５０への受光を良好とすることができる。

【０５１４】

次に、ベース部材Ａ８６０に対する正面発光基板Ａ８２０の締結固定について説明する。ベース部材Ａ８６０に対する正面発光基板Ａ８２０の締結固定は、正面発光基板Ａ８２０の背面側面の左下側部が台部Ａ８６５に面で当接された状態で、正面発光基板Ａ８２０が円柱状締結部Ａ８６６に締結固定されることで行われる。

【０５１５】

正面発光基板Ａ８２０と背面発光基板Ａ８３０とは平行となるように配設されており、それらの間には間隔が開けられているので、正面発光基板Ａ８２０と、背面発光基板Ａ８３０及び後側板部材Ａ８５０との間では、押圧力が生じないように構成される。

【０５１６】

次に、ベース部材Ａ８６０に対する前側板部材Ａ８４０の締結固定について説明する。ベース部材Ａ８６０に対する前側板部材Ａ８４０の締結固定は、前側板部材Ａ８４０が板挟み締結部Ａ８６７に締結固定されることで行われる。

【０５１７】

板挟み締結部Ａ８６７の配置は、正面発光基板Ａ８２０の外方かつ近傍とされているので、板挟み締結部Ａ８６７への締結固定時に生じる押圧力が、点での荷重として正面発光基板Ａ８２０に与えられることを避けることができる。これにより、正面発光基板Ａ８２０の割れや欠けを防止することができる。

【０５１８】

前側板部材Ａ８４０には、正面発光基板Ａ８２０に配設されるエッジ発光部Ａ８２３等のＬＥＤの配置位置を確保するための貫通孔Ａ８４５が形成されており、この貫通孔Ａ８

４５を除く板状本体Ａ８４１の背面側面が、正面発光基板Ａ８２０の板状本体Ａ８２２，Ａ８２６に対して面で押圧力をかけるようにして、ベース部材Ａ８６０に締結固定される。これにより、正面発光基板Ａ８２０の板状本体Ａ８２２，Ａ８２６を利用して、前側板部材Ａ８４０の支持面積を増大させることができる。

【０５１９】

ベース部材Ａ８６０に対する前側板部材Ａ８４０の締結固定においては、前側板部材Ａ８４０の板状本体Ａ８４１の背面側面が正面発光基板Ａ８２０の正面側面と面で当接するように構成しているので、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７の光軸と、前側板部材Ａ８４０との、前後方向（前側板部材Ａ８４０の正面側面が向く方向）における位置合わせを容易に行うことができる。これにより、後側板部材Ａ８５０への受光を良好とすることができる。

【０５２０】

上述のように、正面発光基板Ａ８２０、背面発光基板Ａ８３０、前側板部材Ａ８４０及び後側板部材Ａ８５０は、それぞれ、ベース部材Ａ８６０に形成される各構成部分に位置合わせされ、締結固定される。これにより、ベース部材Ａ８６０の正面側面と平行な方向における正面発光基板Ａ８２０、背面発光基板Ａ８３０、前側板部材Ａ８４０及び後側板部材Ａ８５０の位置合わせを容易に行うことができる。

【０５２１】

また、基板が前後に並ぶ一組ずつの正面発光基板Ａ８２０及び背面発光基板Ａ８３０で構成される場合であっても、光が受光される部材として対応する前側板部材Ａ８４０又は後側板部材Ａ８５０と、前後方向で当接するように締結固定させることで、ベース部材Ａ８６０の正面側面と交差する方向における正面発光基板Ａ８２０、背面発光基板Ａ８３０、前側板部材Ａ８４０及び後側板部材Ａ８５０の位置合わせを容易に行うことができる。

【０５２２】

図５４は、補助導光板ユニットＡ８１０の正面図であり、図５５は、図５４のＬＶ－ＬＶ線における補助導光板ユニットＡ８１０の断面図である。図５４では、装飾部材Ａ８０８の外形および右上領域Ａ６０ｂ（図５０参照）の外形が想像線で図示され、正面発光基板Ａ８２０の外形の内で前側板部材Ａ８４０と重なる箇所が隠れ線で図示され、図５５では、ベース部材Ａ８６０の中央側に配置される円柱状締結部Ａ８６６（図５２参照）の中心を通る断面が図示される。

【０５２３】

図５４に示すように、正面発光基板Ａ８２０は、正面視で装飾部材Ａ８０８の外形内に収まるよう配設されており、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７からの光を受光する前側板部材Ａ８４０は、正面視で装飾部材Ａ８０８からはみ出して配設されている。

【０５２４】

これにより、正面発光基板Ａ８２０を装飾部材Ａ８０８で目隠ししながら、補助導光板ユニットＡ８１０全体の前後厚さを抑えることができる。即ち、補助導光板ユニットＡ８１０の前側板部材Ａ８４０の背面側に発光基板を配置して前側板部材Ａ８４０の発光演出を行う場合、前側板部材Ａ８４０を発光させるのに適切な距離だけ離して発光基板を配置する必要があるので、ユニットの前後幅が嵩むことになり、その後方に動作役物を配置するスペースが削られることになる。

【０５２５】

これに対し、本実施形態では、正面発光基板Ａ８２０の配置を前側板部材Ａ８４０の後方ではなく、前側板部材Ａ８４０に対して左右または前後方向にずらした位置とすることで、補助導光板ユニットＡ８１０の前後幅を短くすることができるので、補助導光板ユニットＡ８１０の後方に動作役物を配置するスペースを十分に確保することができる。

【０５２６】

本実施形態では、案内部材Ａ８０２（図５０参照）を採用することで、窓部Ａ６０ａの右上領域Ａ６０ｂの前方にも遊技領域が形成される。補助導光板ユニットＡ８１０の右端

部は、右上領域Ａ６０ｂに入り込んでいる。即ち、前後方向でベース板Ａ６０の板厚よりも内側に配置されている。

【０５２７】

これにより、ベース板Ａ６０の後方に補助導光板ユニットＡ８１０が配置される場合に比較して、遊技盤Ａ１３（図５０参照）の前後厚さを低減させることができる。更に、ベース板Ａ６０の後方に補助導光板ユニットＡ８１０が配置されベース板Ａ６０の板厚分を透過して遊技領域に到達する光に比較して、遊技領域に進入する光の減衰が生じ難くなるようにすることができるので、右上領域Ａ６０ｂの前方の遊技領域を明るく照らすことができる。

【０５２８】

前側板部材Ａ８４０は、正面発光基板Ａ８２０の縁部と重なる形状から形成される。即ち、前側板部材Ａ８４０が正面発光基板Ａ８２０の正面側からベース部材Ａ８６０に締結固定される際に前側板部材Ａ８４０から正面発光基板Ａ８２０に与えられる押圧力は、正面発光基板Ａ８２０の縁部に沿って分けられることになるので、単位面積あたりの荷重を低減させることができる。

【０５２９】

これにより、正面発光基板Ａ８２０と前側板部材Ａ８４０との間にかけられる負荷が過剰となることを避けながら、正面発光基板Ａ８２０と前側板部材Ａ８４０とを面接触させることができるので、正面発光基板Ａ８２０のエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７の光軸と、前側板部材Ａ８４０との位置合わせを容易に行うことができる。

【０５３０】

図５５で示すように、指向性の高いＬＥＤから選定されるエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７からの照射光の進行経路ＡＬ２は、前側板部材Ａ８４０に受光された後、前側板部材Ａ８４０の前後面で全反射する態様でライン状溝部Ａ８４２に到達するまでは左右方向に延び、ライン状溝部Ａ８４２に到達すると屈折され、正面側へ向きが変えられる。

【０５３１】

そのため、正面側から前側板部材Ａ８４０を視認する際にエッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７から光が照射されている場合には、ライン状溝部Ａ８４２から正面側に向かう光が遊技者の目に届くので、ライン状溝部Ａ８４２の元となる形状としての、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状の輪郭が光っているように視認させることができる。

【０５３２】

なお、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７（図５３参照）を構成するＬＥＤは、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７を構成するＬＥＤよりも指向性の低いＬＥＤが採用される。これにより、後側板部材Ａ８５０の全域を均一に発光させることができる。

【０５３３】

即ち、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７（図５３参照）からの光は、後側板部材Ａ８５０からの光は後側板部材Ａ８５０内を全反射する態様にはなく、後側板部材Ａ８５０を均一に照らすように機能する。

【０５３４】

図２に戻って説明する。図２に示すように、正面視におけるセンターフレームＡ８６の右下側に、下流側案内部材Ａ８０３が配設される。下流側案内部材Ａ８０３は、案内部材Ａ８０２に案内された遊技球が、スルーゲート６７を通過するか否かに関わらず案内される流路を構成する。

【０５３５】

図５６は、下流側案内部材Ａ８０３の分解正面斜視図であり、図５７は、下流側案内部材Ａ８０３の分解背面斜視図である。なお、図５６及び図５７では、下流側案内部材Ａ８０３が固定されるベース板Ａ６０の一部のみが図示され、ベース板Ａ６０のその他の部分についての図示が省略される。

【０５３６】

下流側案内部材Ａ８０３は、板状本体Ａ８０３ａと、その板状本体Ａ８０３ａの背面か

ら延設される延設板Ａ８０３ｂと、を有する前側部材Ａ８０３ｚと、その前側部材Ａ８０３ｚの背面側に配置され前側部材Ａ８０３ｚとの間に遊技球が流下可能な経路を形成するように前側部材Ａ８０３ｚに締結固定された状態でベース板Ａ６０に締結固定される光透過性の樹脂材料から形成される後側部材Ａ８０４と、前側部材Ａ８０３ｚの板状本体Ａ８０３ａの前面に貼り付けられる装飾板部材Ａ８０５と、を備え、組立状態（図２参照）において、案内部材Ａ８０２に案内された遊技球が、板状本体Ａ８０３ａと後側部材Ａ８０４との間の領域を流下可能に構成される。

【０５３７】

延設板Ａ８０３ｂは、板状本体Ａ８０３ａの左縁部から延設され上下方向に延びる板部と左下方向に延びる傾斜板部から形成される左延設板Ａ８０３ｃと、その左延設板Ａ８０３ｃと対応する形状から形成されると共に対向配置され左延設板Ａ８０３ｃとの間の領域に左側流路ＡＴＬ１を形成する中側左延設板Ａ８０３ｄと、その中側左延設板Ａ８０３ｄの途中位置から枝分かれして右方に延設される部分を有し左右に屈曲しながら下方へ延びるように形成される中側右延設板Ａ８０３ｅと、その中側右延設板Ａ８０３ｅと対向配置され中側右延設板Ａ８０３ｅとの間の領域に右側流路ＡＴＬ２を形成する右延設板Ａ８０３ｆと、を備える。

【０５３８】

左側流路ＡＴＬ１を流下する遊技球は、左延設板Ａ８０３ｃ及び中側左延設板Ａ８０３ｄの延びる方向である左下方向へ流下する途中で、左延設板Ａ８０３ｃと中側左延設板Ａ８０３ｄとの間に配設され組立状態において後側部材Ａ８０４のセンサ支持部Ａ８０４ａに保持される球検出用の検出センサＡＳＥ１を通過して、後側部材Ａ８０４の開口部Ａ８０４ｂを通りベース板Ａ６０の後方へ向けて排出される。そのため、左側流路ＡＴＬ１に流入した遊技球は、第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ（図２参照）に案内されることはない。

【０５３９】

左側流路ＡＴＬ１の延びる方向（左下方向）は、右側流路ＡＴＬ２から離れる方向なので、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方が視認可能な場合に左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【０５４０】

検出センサＡＳＥ１で遊技球が検出された場合の制御としては、種々の態様が考えられるが、本実施形態では、検出センサＡＳＥ１で遊技球の通過が検出された場合、１個の賞球が払い出されるように制御される。

【０５４１】

なお、賞球の個数は一例であり、１個に限られることはなく、２個でも、それ以上の個数でも良い。一方で、本実施形態のように賞球個数を１個とすることで、右打ちされた遊技球が左側流路ＡＴＬ１を流れた場合の球減りを抑えることができる。

【０５４２】

また、賞球の個数が２個またはそれ以上の個数の場合には、発射球を差し引いても、遊技者に払い出される賞球により遊技者の持ち球が増加する。これにより、左側流路ＡＴＬ１に球が流入した場合の残念感を低減することができる。

【０５４３】

右側流路ＡＴＬ２に流入した遊技球は、中側右延設板Ａ８０３ｅの上流側において右下方向へ延びる傾斜面Ａ８０３ｅ１に沿って流下する。この場合、球の流下する向きは右側流路ＡＴＬ２と隣り合って設けられる左側流路ＡＴＬ１から離れる向きとなるので、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方が視認可能な場合に、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【０５４４】

傾斜面Ａ８０３ｅ１を転動する球は板状本体Ａ８０３ａの上縁付近を右方に流れるので

、自由落下と類似の態様で球を流下させる左側流路ＡＴＬ１を流下する球に比較して、下流側案内部材Ａ８０３を上から覗き込むような方向視で見る場合の球の視認性を高くすることができる。換言すれば、下流側案内部材Ａ８０３を上から覗き込むような方向視で球が視認される期間を引き延ばすことができる。

【０５４５】

右側流路ＡＴＬ２を流下する遊技球は、右延設板Ａ８０３ｆの内側から左方へ延設される延設板Ａ８０３ｆ１を転動し、その転動球を受け入れるように円弧状に湾曲形成される中側右延設板Ａ８０３ｅの湾曲面Ａ８０３ｅ２に沿って流下する。

【０５４６】

延設板Ａ８０３ｆ１を転動する球は左側流路ＡＴＬ１に近づく向きで流下することになるが、湾曲面Ａ８０３ｅ２が左側流路ＡＴＬ１との間に隙間を空けて配置されており、湾曲面Ａ８０３ｅ２に沿って流下する球は左側流路ＡＴＬ１から離れる向きで流下するように構成されることから、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【０５４７】

また、左側流路ＡＴＬ１を流下する球の流下態様が重力方向に沿って左に傾斜しながら流下する態様であるのに対して、右側流路ＡＴＬ２を流下する球の流下態様が左右に蛇行しながら流下する態様であることからも、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方が視認可能な場合に、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【０５４８】

また、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とで、下流側案内部材Ａ８０３の内部流路に滞在する期間を異ならせることができる。例えば、左側流路ＡＴＬ１と右側流路ＡＴＬ２とに同時に球が流入した場合に、左側流路ＡＴＬ１を流下する球は素早く下方へ流され、右側流路ＡＴＬ２を流下する球は左右方向に蛇行することから、左側流路ＡＴＬ１と右側流路ＡＴＬ２とを流下する球が同じ高さに位置する期間を短くすることができる（球の高さ位置を異ならせることができる）。これにより、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球と、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球とを見間違えることを回避し易くすることができる。

【０５４９】

右側流路ＡＴＬ２を通過した遊技球は、ベース板Ａ６０の正面側を下方へ流下し、第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ（図２参照）側へ向けて案内される。そのため、下流側案内部材Ａ８０３を流下する球の内、右側流路ＡＴＬ２を流下した球に限って、第２入賞口６４０又は特定入賞口６５ａに入球し得るように構成される。

【０５５０】

上述したように、右側流路ＡＴＬ２は左右に蛇行する流路として形成されているので、球が自由落下する場合に比較して、球の上下方向の速度を低減させることができる。これにより、第２入賞口６４０又は特定入賞口６５ａに到達した時における球の上下方向の速度を低減させることができるので、球との衝突で電動役物６４０ａの開閉板や可変入賞装置６５の開閉板が破損する事態の発生を防止し易くすることができる。

【０５５１】

装飾板部材Ａ８０５は、樹脂材料から形成され、視認させる方向に関わらず同程度に光を透過させる透明シートＡ８０５ａと、視認させる方向により光の透過性が変化するように構成される視認態様変化シートＡ８０６と、を備える。

【０５５２】

視認態様変化シートＡ８０６は、正面視で左側流路ＡＴＬ１を含む大きさで形成され、透明シートＡ８０５ａは、正面視で右側流路ＡＴＬ２を含む大きさで形成されており、視認態様変化シートＡ８０６及び透明シートＡ８０５ａから構成される装飾板部材Ａ８０５が板状本体Ａ８０３ａの外縁部よりも若干小さな領域を占めるような形状から形成される。

【０５５３】
図５８は、視認態様変化シートＡ８０６の構成を模式的に示す模式図である。視認態様変化シートＡ８０６は、視野角制御シートとも言い換えることができるものであり、透明シリコーンゴムＡ８０６ａと黒色シリコーンゴムＡ８０６ｂとを交互に配置したルーバーフィルムの表裏に透明樹脂フィルムＡ８０６ｃを張り合わせた構造とされており、製造時に黒色シリコーンゴムＡ８０６ｂの配置間隔や姿勢を異ならせることにより透過する光の角度範囲（視野角）を設計することが可能となっている。
【０５５４】
視認態様変化シートＡ８０６は、図５６に示すように板状本体Ａ８０３ａの正面側に貼り付けられるシートであり、ガラスユニット１６との間の隙間という限られた範囲に配置されるものであるため、その肉厚は非常に薄いことが求められる。本実施形態においても、透明樹脂フィルムＡ８０６ｃはポリカーボネートを材料とする厚さ約０．２ｍｍのフィルムで、黒色シリコーンゴムＡ８０６ｂの配置間隔（ピッチ）は約０．１ｍｍという、微細に設計されたシートが利用される。
【０５５５】
図５９（ａ）及び図５９（ｂ）は、方向視の違いによる下流側案内部材Ａ８０３の見え方の変化を示す模式図である。図５９（ａ）では、図５８の矢印ＡＥＬ１方向視における見え方が図示され、図５９（ｂ）では、図５８の矢印ＡＥＬ２方向視における見え方が図示される。なお、図５９では、方向視の違いによる外形の変化が生じ得るが、便宜上外形の変化を無視し同形状で図示される。また、図５９では、視認態様変化シートＡ８０６を透過して視認される左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の内側面が実線で図示される。
【０５５６】
本実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６を透過させて視認態様変化シートＡ８０６の奥側を視認可能な視野角が約３０度になるように黒色シリコーンゴムＡ８０６ｂ（図５８参照）の配置間隔や姿勢を設計している。
【０５５７】
即ち、図５９（ａ）に示すように、矢印ＡＥＬ１（図５８参照）の方向視で視認態様変化シートＡ８０６を視認させた場合（下流側案内部材Ａ８０３の真正面から視認させた場合）には、視認態様変化シートＡ８０６を透過させて奥側に配置されている左側流路ＡＴＬ１を視認させることができる。
【０５５８】
一方で、図５９（ｂ）に示すように、視野角よりも大きな角度の矢印ＡＥＬ２（図５８参照）の方向視で視認態様変化シートＡ８０６を視認させた場合（下流側案内部材Ａ８０３の真正面から横にずれた位置、例えば、第３図柄表示装置８１（図２参照）の真正面から斜めに視認させた場合）には、視認態様変化シートＡ８０６を透過させることができず視認態様変化シートＡ８０６の正面側を視認させることになるので（表面に図形やイラスト等の装飾が施されている場合にはその装飾を視認させることになるので）、左側流路ＡＴＬ１を流下する球を視認させ難くすることができる。
【０５５９】
このように、本実施形態では、矢印ＡＥＬ２の方向視で下流側案内部材Ａ８０３を視認させる場合よりも、矢印ＡＥＬ１の方向視で下流側案内部材Ａ８０３を視認させる場合の方が、遊技者は左側流路ＡＴＬ１を流下する遊技球を視認し易い。
【０５６０】
上述したような視認態様変化シートＡ８０６の機能を利用して、下流側案内部材Ａ８０３を通る球の内、遊技者にとって利益の大きな側の球のみを遊技者に視認させるように演出することができる。このことについて詳述する。
【０５６１】
パチンコ機１０で遊技を行う遊技者は、基本的には、第３図柄表示装置８１（図２参照）の表示領域や、その手前側を動作する可動役物（例えば、動作ユニットＡ４００～Ａ６

００）により展開される演出を視認しながら遊技を行うため、遊技領域の特定の範囲を凝視することは稀となることが多く、下流側案内部材Ａ８０３についても、第３図柄表示装置８１を正面から視認するそのままの姿勢で横目に見る（例えば、図５８の矢印ＡＥＬ２の方向視で見る）ということが多くなる。

【０５６２】

例えば、第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ（図２参照）へ向けて球を発射するために右打ち遊技を行う時短中や確変中においても、遊技者は第３図柄表示装置８１（図２参照）の表示領域における演出に注目したいため、下流側案内部材Ａ８０３を横目に見て遊技球が確かに流下していることを確認したら、下流側案内部材Ａ８０３から視線を外して、第３図柄表示装置８１の表示領域に注目することが通常である。

【０５６３】

そのような短い時間でしか視認されない下流側案内部材Ａ８０３において、本実施形態では、左側流路ＡＴＬ１に流入した遊技球は第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ（図２参照）側へは流れず遊技領域から排出されてしまう。このような構成は、パチンコ機１０の単位時間当たりの賞球性能を規格内に収めるために（遊技の時間調整や賞球調整のために）採用されるものであるが、遊技者にとっては、左側流路ＡＴＬ１に流れる球は余り好ましい球では無い。

【０５６４】

そのような好ましくない球の流下を見せられることにより、遊技者の興趣は下げられてしまい、再びパチンコ機１０を遊技しようという意欲を削ぐ結果を招き易く、好ましくない場合がある。

【０５６５】

これに対し、本実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、遊技者が下流側案内部材Ａ８０３を横目に見るような方向視（例えば、矢印ＡＥＬ２の方向視）では、左側流路ＡＴＬ１を流れる遊技球については視認させず、右側流路ＡＴＬ２を流れる遊技球のみを視認させるようにしている。

【０５６６】

即ち、下流側案内部材Ａ８０３を横目に見る場合には右側流路ＡＴＬ２を流下する球しか見せないようにすることで、下流側案内部材Ａ８０３を遊技球が流下する流路を左側流路ＡＴＬ１と右側流路ＡＴＬ２との複数で用意しながら、遊技者に右側流路ＡＴＬ２を流下する遊技球のみを視認させることができるので、遊技者に対して、発射した球の全てが第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ側へ案内されている（無駄なく案内されている）ように思わせることができ、遊技者の興趣を向上させることができるので、遊技者の再遊技の意欲を向上させることができる。

【０５６７】

このように、本実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６の利用により、第３図柄表示装置８１の表示領域で展開される表示演出を視認しながら遊技をしている遊技者が、左側流路ＡＴＬ１を流下する不利益な球（第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ側へ案内されない球）を見ないで済むように構成でき、右側流路ＡＴＬ２を流下する都合の良い球（第２入賞口６４０や特定入賞口６５ａ側へ案内される球）のみを見られるようにすることができる。

【０５６８】

一方、遊技者によっては、左側流路ＡＴＬ１を流下するような不利益な球についても、視認したいと要望する。この場合には、第３図柄表示装置８１の前方から頭を動かして、下流側案内部材Ａ８０３の正面からの方向視（図５８の矢印ＡＥＬ１の方向視）で見ることで左側流路ＡＴＬ１を流れる球を視認することができるので、左側流路ＡＴＬ１を流下するような不利益な球についても視認したいと要望する遊技者の不満が蓄積することを回避することができ、このような遊技者の再遊技の意欲が低減されることを防止することができる。

【０５６９】

図６０を参照して、第２実施形態について説明する。第１実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の回転動作ユニット４００ｂが、傾倒動作に伴い長手方向（回転軸棒ＡＪ１と回転先端とを結ぶ方向）に延びるように構成される場合を説明したが、第２実施形態の第１動作ユニットＡ２４００では、回転動作ユニット４００ｂの傾倒動作に伴い長手方向に延びたり縮んだりするように構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【０５７０】

図６０は、第２実施形態における第１動作ユニットＡ２４００の背面図である。図６０では、演出待機状態における第１動作ユニットＡ２４００が図示される。なお、第２実施形態における第１動作ユニットＡ２４００では、回転動作ユニット４００ｂは第１実施形態と同一である一方で、支持ユニットＡ２４００ａは第１実施形態の支持ユニットＡ４００ａに対して、特に案内長孔Ａ２４１４が異なる。なお、図６０の説明では、図１９及び図２０を適宜参照する。

【０５７１】

支持ユニットＡ２４００ａは、第１実施形態で上述した案内長孔Ａ４１４の代わりに、回転動作ユニットＡ４００ｂの柱状突設部Ａ４４８が案内される案内長孔Ａ２４１４を備える。

【０５７２】

案内長孔Ａ２４１４は、右端部から左方へ円弧状に延びる第１円弧部Ａ２４１４ａと、その第１円弧部Ａ２４１４ａよりも左側において第１円弧部Ａ２４１４ａよりも半径の短い円弧状に形成される第２円弧部Ａ２４１４ｂと、その第２円弧部Ａ２４１４ｂよりも左側において第１円弧部Ａ２４１４ａよりも半径の長い円弧状に形成される第３円弧部Ａ２４１４ｃと、第１円弧部Ａ２４１４ａの左端部と第２円弧部Ａ２４１４ｂの右端部とを繋ぐ直線孔状に形成される第１直線部Ａ２４１４ｄと、第２円弧部Ａ２４１４ｂの左端部と第３円弧部Ａ２４１４ｃの右端部とを繋ぐ直線孔状に形成される第２直線部Ａ２４１４ｅと、を備える。

【０５７３】

第１円弧部Ａ２４１４ａは、半径が第２長さＡＤ２（図１９（ｂ）参照）とされる第２半径ＡＲ２の回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧状に形成され、第２円弧部Ａ２４１４ｂは、半径が第１長さＡＤ１（図１９（ａ）参照）とされる第１半径ＡＲ１の回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧状に形成され、第１直線部Ａ２４１４ｄは、傾斜した直線状に形成される。

【０５７４】

そのため、第１動作ユニットＡ２４００の演出待機状態から駆動モータＡＭＴ１が駆動され、回転動作ユニットＡ４００ｂが傾倒動作を開始すると、柱状突設部Ａ４４８が第１円弧部Ａ２４１４ａを移動する間は回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向の長さは変化せず回転動作のみが継続される。

【０５７５】

更に、柱状突設部Ａ４４８が第１直線部Ａ２４１４ｄを移動する間は回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向の長さが縮む方向に変化しながら回転動作が継続されるので、駆動抵抗が増加する。

【０５７６】

更に、柱状突設部Ａ４４８が第２円弧部Ａ２４１４ｂを移動する間は回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向の長さは変化せず回転動作が継続されるので、その分、駆動抵抗が減少する。

【０５７７】

このように、案内長孔Ａ２４１４によれば、柱状突設部Ａ４４８が第１直線部Ａ２４１４ｄに進入する際に駆動抵抗を増加させるように構成されていることから、柱状突設部Ａ４４８が第１直線部Ａ２４１４ｄに進入する際の姿勢で回転動作ユニットＡ４００ｂを急停止させるような動作制御を容易に行うことができる。

【０５７８】
柱状突設部Ａ４４８が、第１円弧部Ａ２４１４ａ、第１直線部Ａ２４１４ｄ、第２円弧部Ａ２４１４ｂの順で移動する際には、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向の長さが変化するだけであり（図１９（ａ）及び図１９（ｂ）参照）、回転動作ユニットＡ４００ｂの幅方向の長さの変化は生じない。
【０５７９】
第２直線部Ａ２４１４ｅは、回転軸棒ＡＪ１の中心を通る直線ＡＶＬ２上を延びる傾斜した直線状に形成される。そのため、第２直線部Ａ２４１４ｅを柱状突設部Ａ４４８が移動する際には、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作は停止され、長手方向に延びる変位のみが生じる。
【０５８０】
第２直線部Ａ２４１４ｅを柱状突設部Ａ４４８が左側へ向けて移動する間に、柱状突設部Ａ４４８と回転軸棒ＡＪ１との間の長さが第２長さＡＤ２よりも長くなると、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向に延びる変位に加えて、回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向に広がる変位が生じる（方向切替部材Ａ４５０及び装飾部材Ａ４６０の左右外側への変位、図２０参照）。
【０５８１】
そのため、柱状突設部Ａ４４８が第２直線部Ａ２４１４ｅを移動する間において、駆動モータＡＭＴ１にかけられる抵抗として、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向に延びる変位に伴う抵抗がかけられる状態から、その抵抗に加えて回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向に広がる変位に伴う抵抗がかけられる状態へ移行される。
【０５８２】
これにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの変位の抵抗を増加させることができるので、駆動モータＡＭＴ１からの駆動力が一定とされる場合において、回転動作ユニットＡ４００ｂに生じる変位の速度を変化させることができる。即ち、柱状突設部Ａ４４８と回転軸棒ＡＪ１との間の長さが第２長さＡＤ２よりも短い状態に比較して、柱状突設部Ａ４４８と回転軸棒ＡＪ１との間の長さが第２長さＡＤ２よりも長い状態における変位の速度を遅くさせることができるので、回転動作ユニットＡ４００ｂの短手方向の変位を遊技者に印象付けることができる。
【０５８３】
第３円弧部Ａ２４１４ｃは、半径が第４長さＡＤ４（図２０（ｂ）参照）とされる第４半径ＡＲ４の回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧状に形成され、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒先端側ほど下側に配置される。
【０５８４】
これにより、柱状突設部Ａ４４８が第２直線部Ａ２４１４ｅから第３円弧部Ａ２４１４ｃに進入した後は、回転動作ユニットＡ４００ｂが長手方向にも短手方向にも最大まで変位した状態（図２０（ｂ）参照）における、回転動作（傾倒動作）を生じさせることができるので、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作の迫力を大きくすることができる。
【０５８５】
なお、第３円弧部Ａ２４１４ｃの左端部の位置は、第１実施形態における案内長孔Ａ４１４の左端部と同じ位置とされる。第３円弧部Ａ２４１４ｃの左端部に柱状突設部Ａ４４８が配置される状態から、回転動作ユニットＡ４００ｂを傾倒動作させる方向とは逆方向に駆動モータＡＭＴ１を駆動させた場合に、柱状突設部Ａ４４８が案内長孔Ａ２４１４を右側へ案内されることで回転動作ユニットＡ４００ｂが起き上がる方向に回転動作されることは、第１実施形態における第１動作ユニットＡ４００と同様である。
【０５８６】
図６１から図６３を参照して、第３実施形態について説明する。第１実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の回転動作ユニット４００ｂが、起立した状態から傾倒動作に伴い倒れていくように動作する場合を説明したが、第３実施形態の第１動作ユニットＡ３４００では、水平方向に延びる状態から傾倒動作に伴い倒れていくように動作するように構

成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【０５８７】

図６１から図６３は、第３実施形態における第１動作ユニットＡ３４００の模式背面図である。図６１では、第１動作ユニットＡ３４００の第１の演出待機状態が模式的に図示され、図６２では、第１動作ユニットＡ３４００の張出状態が模式的に図示され、図６３では、第１動作ユニットＡ３４００の第２の演出待機状態が模式的に図示される。また、図６１から図６３では、配置関係の把握を容易とするために、背面ケースＡ２１０（図７参照）の外形位置（下側部において図示が一部省略されている）と、第３図柄表示装置８１（図２参照）の外形位置とが想像線で図示される。

【０５８８】

第１動作ユニットＡ３４００は、背面ケースＡ２１０の内側において背面ケースＡ２１０に締結固定される支持部材Ａ３４００ａと、その支持部材Ａ３４００ａに固定配置される回転軸棒ＡＪ３を中心として回転動作可能に支持される回転動作ユニットＡ３４００ｂと、を備える。

【０５８９】

支持部材Ａ３４００ａは、回転動作ユニットＡ３４００ｂの変位を案内するための案内長孔Ａ３４１４を備えている。案内長孔Ａ３４１４は、回転軸棒ＡＪ３を中心とする円弧状に形成される円弧部Ａ３４１４ａと、その円弧部Ａ３４１４ａの下端部から直線状に延設され延設先端側の方が回転軸棒ＡＪ３に近い直線部Ａ３４１４ｂと、その直線部Ａ３４１４ｂの下側端部から下方に凹設される凹設部Ａ３４１４ｃと、を備える。

【０５９０】

なお、支持部材Ａ３４００ａと回転動作ユニットＡ３４００ｂとが重なって図が見難くなることを避ける目的で、支持部材Ａ３４００ａは、外形が想像線で図示され、その外形の内側においては案内長孔Ａ３４１４を除き図示が省略される。

【０５９１】

回転動作ユニットＡ３４００ｂは、回転軸棒ＡＪ３に回転可能に支持される基端側部材Ａ３４３０と、その基端側部材Ａ３４３０の回転先端側に配設され基端側部材Ａ３４３０に対して回転軸棒ＡＪ１を中心とする円の径方向に変位可能に構成される先端側部材Ａ３４４０と、を備える。

【０５９２】

先端側部材Ａ３４４０は、移動本体Ａ３４４１と、その移動本体Ａ３４４１の回転軸棒ＡＪ３に近い側から前後方向に突設され、案内長孔Ａ３４１４に挿通される被案内突部Ａ３４４２と、を備える。

【０５９３】

第３実施形態における駆動力の伝達は、第１実施形態においてベルトＡ４２３ａに案内される連結部材Ａ４２７ａの案内長孔Ａ４２７ｅが左右方向に移動することに伴い、柱状突設部Ａ４４８（図１５及び図１６参照）に駆動力が左右方向にかけられることで回転動作ユニットＡ４００ｂが変位されるのと同様に構成される。

【０５９４】

即ち、第３実施形態における第１動作ユニットＡ３４００では、ベルトＡ４２３ａ、連結部材Ａ４２７ａ及び案内長孔Ａ４２７ｅ（図示せず）の姿勢を９０度変化させて上下方向に移動させるように構成しており、これらが上下方向に移動することに伴い、案内長孔Ａ４２７ｅに挿通されている被案内突部Ａ３４４２に駆動力が上下方向にかけられることで回転動作ユニットＡ３４００ｂが変位される。

【０５９５】

第１動作ユニットＡ３４００の、第１の演出待機状態からの回転動作について説明する。第１の演出待機状態（図６１参照）から被案内突部Ａ３４４２を下方へ移動させるように駆動力が生じると、回転動作ユニットＡ３４００ｂは回転軸棒ＡＪ３を中心とする回転動作を開始する。

【０５９６】
ここで、被案内突部Ａ３４４２が案内長孔Ａ３４１４の円弧部Ａ３４１４ａに案内されている間は、基端側部材Ａ３４３０に対する先端側部材Ａ３４４０の相対移動（回転動作ユニットＡ３４００ｂの長手方向の変位）は生じない（図６２参照）。
【０５９７】
図６２に図示される状態から更に、被案内突部Ａ３４４２を下方へ移動させるように駆動力が生じると、被案内突部Ａ３４４２が案内長孔Ａ３４１４の直線部Ａ３４１４ｂに入ることになるので、回転が進むほど被案内突部Ａ３４４２が回転軸棒ＡＪ３に近づくことになる。
【０５９８】
そのため、回転動作ユニットＡ３４００ｂは回転軸棒ＡＪ３を中心とする回転動作に加えて、先端側部材Ａ３４４０が基端側部材Ａ３４３０に近づく方向への相対移動が開始されるので、駆動抵抗が増加する。
【０５９９】
回転動作ユニットＡ３４００ｂの傾倒が終端まで進むと、図６３に図示されるように、被案内突部Ａ３４４２が案内長孔Ａ３４１４の凹設部Ａ３４１４ｃに入り込む分、直線部Ａ３４１４ｂの下端側に配置されている場合に比較して、被案内突部Ａ３４４２と回転軸棒ＡＪ３との間の距離が長くなる方向に先端側部材Ａ３４４０が基端側部材Ａ３４３０に対して相対移動する。
【０６００】
即ち、第１の演出待機状態から回転動作ユニットＡ３４００ｂが傾倒動作する場合、回転動作ユニットＡ３４００ｂの先端側部材Ａ３４４０は、基端側部材Ａ３４３０に対して相対移動しない状態から基端側部材Ａ３４３０に対して近づく方向に相対移動する状態へ移行し、その後、基端側部材Ａ３４３０に対して近づく方向に相対移動する状態から基端側部材Ａ３４３０に対して離れる方向に相対移動する状態へ移行する。このように、回転動作ユニットＡ３４００ｂが傾倒動作する場合における先端側部材Ａ３４４０の基端側部材Ａ３４３０に対する相対移動のバリエーションを増加させることができる。
【０６０１】
図６３に図示される状態において、被案内突部Ａ３４４２の回転軸棒ＡＪ３を中心とする回転方向への移動は凹設部Ａ３４１４ｃにより防止される。そのため、回転動作ユニットＡ３４００ｂの傾倒動作を高速で実行させた場合であっても、回転方向の戻り動作（反動による逆方向の回転動作）が生じることを、被案内突部Ａ３４４２が凹設部Ａ３４１４ｃに食い止められることにより防止することができる。
【０６０２】
なお、図６３に図示される状態から上方向の駆動力を生じさせることにより、被案内突部Ａ３４４２が逆方向に案内される態様で回転動作ユニットＡ３４００ｂを回転動作（起き上がり動作）させることができる。
【０６０３】
上述のように、第３実施形態では、回転動作ユニットＡ３４００ｂの傾倒動作の方向が自重で回転動作するような方向に設定されるので、傾倒動作開始時に要求される駆動力を低減することができる。
【０６０４】
また、傾倒動作中に回転動作ユニットＡ３４００ｂが長手方向に縮むという外観の変化を生じさせることができる。これにより、傾倒動作中に回転動作ユニットＡ３４００ｂをコンパクトにする側に変形させる演出を実行することができ、その演出の際に生じる遠心力を低減させることで、途中で停止させる位置や、終端における停止を安定させることができる。
【０６０５】
また、先端側部材Ａ３４４０の変位を規定するための案内長孔Ａ３４１４が回転軸棒ＡＪ３の近傍に配置されるので、案内長孔Ａ３４１４を形成するための支持部材Ａ３４００

ａを小形化することができる。加えて、背面ケースＡ２１０における回転動作ユニットＡ３４００ｂの回転先端側の領域（図６１において第３図柄表示装置８１よりも右側の領域）にまで第１動作ユニットＡ３４００の構成を配設することを不要とすることができるので、背面ケースＡ２１０における動作ユニットの配置の自由度を向上させることができる。

【０６０６】

図６４を参照して、第４実施形態について説明する。第１実施形態では、固定された下流側案内部材Ａ８０３により遊技領域を流下する球の視認性が変化する場合を説明したが、第４実施形態の球案内ユニットＡ４９００では、球の視認性を変化させる部分が変位可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【０６０７】

図６４（ａ）及び図６４（ｂ）は、第４実施形態における球案内ユニットＡ４９００の断面図である。図６４（ａ）では、電動役物６４０ａが閉鎖された状態が図示され、図６４（ｂ）では、電動役物６４０ａが開放された状態が図示される。

【０６０８】

図６４では、電動役物６４０ａの中間部を通り左右方向と直交する平面における断面図が図示され、理解を容易とするために、ベース板Ａ６０及びガラスユニット１６が想像線で図示され、電動役物６４０ａについては開閉板のみが図示されその他の駆動機構についての図示が省略される。

【０６０９】

図６４に示すように、球案内ユニットＡ４９００は、ガラスユニット１６とベース板Ａ６０との間において球の流下経路を形成するユニットであって、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ａ６０に締結固定される流路形成部材Ａ４９１０と、その流路形成部材の前面に沿って昇降動作可能に構成され光透過性の樹脂材料から形成される導光変位部材Ａ４９２０と、その導光変位部材Ａ４９２０を流路形成部材Ａ４９１０とは反対側から挟むように配設され光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ａ６０に締結固定される覆設部材Ａ４９３０と、導光変位部材Ａ４９２０を駆動させるためのソレノイドＡ４９４０と、を備える。

【０６１０】

流路形成部材Ａ４９１０は、ベース板Ａ６０の表面に沿って形成される背面側板部Ａ４９１１と、その背面側板部Ａ４９１１の正面側に球の直径よりも若干長い間隔を空けて平行配置される正面側板部Ａ４９１２と、背面側板部Ａ４９１１及び正面側板部Ａ４９１２の下端部を繋ぐ肉厚本体部Ａ４９１３と、を備える。

【０６１１】

背面側板部Ａ４９１１には、電動役物６４０ａを貫通させる貫通孔Ａ４９１１ａが形成されており、その貫通孔Ａ４９１１ａにより電動役物６４０ａが正面側板部Ａ４９１２に近接配置される閉鎖状態（図６４（ａ）参照）と、後方に退避される開放状態（図６４（ｂ）参照）とで、前後に平行移動可能に構成される。

【０６１２】

導光変位部材Ａ４９２０は、流路形成部材Ａ４９１０の正面側板部Ａ４９１２の前側面に対向配置され前側面に変位を案内される被案内板部Ａ４９２１と、その被案内板部Ａ４９２１の下端部から後方へ延設される延設部Ａ４９２２と、を備える。

【０６１３】

被案内板部Ａ４９２１は、上側部の背面側から溝状に切りかかれる複数のライン状溝部Ａ４９２１ａを備える。ライン状溝部Ａ４９２１ａは、被案内板部Ａ４９２１の端部から入射した光を屈折させ正面側へ向けて出射させるように機能する（第１実施形態で上述したライン状溝部Ａ７３２（図４８参照）と同様の機能を有する）。

【０６１４】

覆設部材Ａ４９３０は、被案内板部Ａ４９２１の前側面に対向配置され、流路形成部材

Ａ４９１０の正面側板部Ａ４９１２と共に被案内板部Ａ４９２１の変位を案内するように構成される前側案内板部Ａ４９３１と、その前側案内板部Ａ４９３１の下端部から後方へ延設され後端部がベース板Ａ６０に締結固定される延設部Ａ４９３２と、その延設部Ａ４９３２の前側端部の上面側に固定配置され上方へ向けて光を照射するＬＥＤ等の発光手段Ａ４９３３ａを有する発光基板Ａ４９３３と、を備える。

【０６１５】

発光手段Ａ４９３３ａは、光軸が導光変位部材Ａ４９２０の被案内板部Ａ４９２１の延設方向（上下方向）に沿うように配置および設計され、光が被案内板部Ａ４９２１の下端部から被案内板部Ａ４９２１の内側を上方向に導光されるように構成される。即ち、発光手段Ａ４９３３ａから照射された光は、ライン状溝部Ａ４９２１ａまで到達するように構成される。

【０６１６】

本実施形態では、発光手段Ａ４９３３ａから光が照射されると、ライン状溝部Ａ４９２１ａで屈折された光が正面側へ進行することになるので、ライン状溝部Ａ４９２１ａが明るく発光し、ライン状溝部Ａ４９２１ａを通した視認性が低下する。

【０６１７】

そのため、ライン状溝部Ａ４９２１ａと重なる方向視で視認する場合には、その後方を流下する球の視認性が低下する。ライン状溝部Ａ４９２１ａを前後方向の方向視で視認するよりも、ライン状溝部Ａ４９２１ａを斜め下方に見下ろすような方向ＡＤＬ１の方向視で視認する方が、電動役物６４０ａ上を転動する球を視認し易くなる。

【０６１８】

一方、図６４（ａ）において電動役物６４０ａの上面を転動する球を斜め上方から視認する方向ＡＤＬ１の方向視における位置から目の位置を変えずに、電動役物６４０ａよりも下側を転動する球（図６４（ｂ）で図示される位置の球に相当）を斜め上方から視認するために方向ＡＤＬ２の方向視で視認しようとする場合には、目線上にライン状溝部Ａ４９２１ａが入り込むことになり、球の視認性が悪くなる。

【０６１９】

そのため、球を視認性良く見たい遊技者は、電動役物６４０ａの開閉の度に目の位置を変える必要が生じることになるので、球の発射は右打ち遊技を行えばよいので遊技者の遊技負担を減らせているが、目の位置を頻繁に変えることによる遊技負担が増大することになる。

【０６２０】

これに対し、本実施形態では、電動役物６４０ａの動作タイミングとソレノイドＡ４９４０の駆動タイミングとが同期するように制御される。即ち、電動役物６４０ａが開放状態となるのに合わせて、ソレノイドＡ４９４０が駆動され、導光変位部材Ａ４９２０が下方へ変位することで、電動役物６４０ａよりも下側を転動する球への視線をライン状溝部Ａ４９２１ａが遮る状態を解消するようにしている。

【０６２１】

これにより、遊技者は、目の位置を変えずに視線の方向を方向ＡＤＬ１と方向ＡＤＬ２とで変えるだけでも、電動役物６４０ａの開閉に応じて球の転動位置が変わっても球の視認性が損なわれることは無いので、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【０６２２】

なお、図６４（ａ）に示す状態において球案内ユニットＡ４９００を前後方向視で見る場合、電動役物６４０ａよりも下側を転動する球がある場合には、その球への視線はライン状溝部Ａ４９２１ａに遮られることはない。そのため、電動役物６４０ａが開放状態から閉鎖状態に切り替えられた直後に電動役物６４０ａの真下を流下する球が存在する場合（例えば、オーバー入賞球が存在する場合）、その球については、前後方向視で遊技者に視認させることで、球を問題なく視認させることができる。

【０６２３】

図６４（ａ）に示す状態に比較し、図６４（ｂ）に示す状態の方が、発光手段Ａ４９３

３ａと被案内板部Ａ４９２１との間の距離が短い。そのため、発光手段Ａ４９３３ａからの光が被案内板部Ａ４９２１へ向けて照射される場合に、図６４（ａ）に示す状態に比較して図６４（ｂ）に示す状態の方が光の漏れが少ないことから、発光手段Ａ４９３３ａから照射される光量が同じでも図６４（ａ）に示す状態に比較して図６４（ｂ）に示す状態の方がライン状溝部Ａ４９２１ａを明るく照らすことができる。

【０６２４】

一方、図６４（ｂ）に示す状態に比較して、図６４（ａ）に示す状態の方が、ライン状溝部Ａ４９２１ａの位置を遊技者側（上側）に寄せることができるので、ライン状溝部Ａ４９２１ａにより屈折される光により照らされる覆設部材Ａ４９３０の範囲をより遊技者側（上側）に寄せることができる。

【０６２５】

覆設部材Ａ４９３０の前側案内板部Ａ４９３１の前側面には図形やイラスト等の装飾が施されており、この装飾の照らされる範囲をより遊技者側（上側）に寄せるようにすることができるので、前側案内板部Ａ４９３１による演出効果を向上させることができる。

【０６２６】

図６５を参照して、第５実施形態について説明する。第１実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の柱状突設部Ａ４４８が移動部材Ａ４４０の背面側から突設形成されており、板状本体Ａ４４２に対して相対移動し得ない場合を説明したが、第５実施形態の第１動作ユニットＡ５４００では、移動部材Ａ５４４０に対して相対移動可能に配設される柱状突設部材Ａ５４４８が構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【０６２７】

図６５（ａ）及び図６５（ｂ）は、第５実施形態における回転動作ユニットＡ５４００ｂの背面図である。図６５（ａ）では、演出待機状態（図７参照）に対応する状態における回転動作ユニットＡ５４００ｂの様子が図示され、図６５（ｂ）では、張出状態（図７参照）に対応する状態における回転動作ユニットＡ５４００ｂの様子が図示される。

【０６２８】

以下では、第１実施形態で説明した回転動作ユニットＡ４００ｂとの違いに焦点を当てて、回転動作ユニットＡ５４００ｂの構成について説明する。本実施形態における回転動作ユニットＡ５４００ｂでは、第１実施形態における柱状突設部Ａ４４８と対応する部材として、柱状突設部材Ａ５４４８が移動部材Ａ５４４０に対して相対移動可能に配設されている。

【０６２９】

即ち、柱状突設部材Ａ５４４８は、移動部材Ａ５４４０の板状本体Ａ５４４２に穿設される案内長孔Ａ５４４２ａに突設先端部分（背面側端部）が後方へ向けて挿通されて張り出す一方で、突設基端部（正面側部）が案内長孔Ａ５４４２ａよりも大きな形状から形成されることで抜け止めとして機能する結果、柱状突設部材Ａ５４４８が板状本体Ａ５４４２に対して案内長孔Ａ５４４２ａに沿って相対移動可能に構成される。

【０６３０】

柱状突設部材Ａ５４４８は、一方向の付勢力を生じるバネなどの付勢部材（図示せず）により案内長孔Ａ５４４２ａの右側端部（図６５（ｂ）において柱状突設部材Ａ５４４８が配置される端部）へ向けて付勢される。

【０６３１】

案内長孔Ａ５４４２ａは、演出待機状態において回転軸棒ＡＪ１を中心とする円弧に沿って延びる湾曲した長孔として形成される。これにより、柱状突設部材Ａ５４４８の配置が案内長孔Ａ５４４２ａの内部で変化した場合であっても、その変化によって柱状突設部材Ａ５４４８が案内長孔Ａ４１４の円弧部Ａ４１４ａ（図２４参照）から外れることを回避することができる。

【０６３２】

これにより、演出待機状態から回転動作ユニットＡ５４００ｂが傾倒動作する場合に、

柱状突設部材Ａ５４４８と円弧部Ａ４１４ａとの間で生じる動作抵抗が増加することを回避し易くすることができる。

【０６３３】

回転動作ユニットＡ５４００ｂでは、基礎板部材Ａ５４３０が、長手方向先端部（図６５（ａ）上側端部）の短手方向片側（図６５（ａ）左側）から延設される延設案内部Ａ５４３８を備える。

【０６３４】

延設案内部Ａ５４３８は、案内長孔Ａ５４４２ａのどこに柱状突設部材Ａ５４４８が配置されている場合であっても、柱状突設部材Ａ５４４８と当接し得る位置まで延設されており、当接時に生じる荷重により柱状突設部材Ａ５４４８を案内長孔Ａ５４４２ａに沿って移動させることができるようになっている。

【０６３５】

即ち、図６５（ｂ）に図示されるように柱状突設部材Ａ５４４８が案内長孔Ａ５４４２ａの一端（図６５（ｂ）紙面左側端部）に配置されている状態から、移動部材Ａ５４４０が基礎板部材Ａ５４３０に対して回転軸棒ＡＪ１側へ移動する場合に、その移動途中で柱状突設部材Ａ５４４８が延設案内部Ａ５４３８の上側面に当接することで荷重を受けて案内長孔Ａ５４４２ａの他端（図６５（ａ）紙面右側端部）へ向けて移動される。そして、最終的には、移動部材Ａ５４４０の移動方向としての回転軸棒ＡＪ１を通る直線上に柱状突設部材Ａ５４４８が配置される。

【０６３６】

上述のような構成により、第１動作ユニットＡ５４００の演出待機状態からの傾倒動作時における、回転動作ユニットＡ５４００ｂへの駆動力伝達を良好とすることができることについて説明する。

【０６３７】

ここで、張出状態からの駆動力伝達においては、第１実施形態で上述した通り、柱状突設部Ａ４４８に与えられる荷重のうちの、移動部材Ａ４４０の基礎板部材Ａ４３０に対する相対移動方向（回転軸棒ＡＪ１を通る直線方向）に平行な成分は、回転軸棒ＡＪ１を通らず、回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転方向の力を生じさせるので、回転動作ユニットＡ４００ｂの張出状態からの移動を良好とすることができる。

【０６３８】

第１実施形態では、この効果を生じさせるために、敢えて柱状突設部Ａ４４８の配置を移動部材Ａ４４０の短手方向の中心からずらしている。一方で、柱状突設部Ａ４４８の配置がずれた状態のまま回転動作ユニットＡ４００ｂを起立させ、その起立状態を柱状突設部Ａ４４８で支えて維持する場合、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向が鉛直方向に向く姿勢ではバランスが取りにくく、若干傾斜した姿勢にしがちである（図２４参照）という難点があった。

【０６３９】

これに対し、本実施形態によれば、柱状突設部材Ａ５４４８を移動部材Ａ５４４０に対して相対移動可能に構成しているので、回転動作ユニットＡ５４００ｂを起立させる際に（図６５（ａ）参照）、回転動作ユニットＡ４００ｂの長手方向が鉛直方向に向く姿勢でバランスを取り易くすることができる。

【０６４０】

本実施形態では、案内長孔Ａ５４４２ａの長さの設計次第で、回転動作ユニットＡ５４００ｂを起立させる状態における回転動作ユニットＡ５４００ｂの姿勢を任意に設計することができる。このように、本実施形態では、張出状態からの駆動力伝達を良好とする効果を維持しながら、演出待機状態における姿勢の設計自由度を向上させることができる。

【０６４１】

図６６を参照して、第６実施形態について説明する。第１実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、方向視が左右方向に角度変化した場合における球流下経路（遊技領域）の見え方が変化する場合を説明したが、第６実施形態の流路前側構成部材Ａ６９０

０では、方向視が上下方向に角度変化した場合における球流下経路（遊技領域）の見え方が変化するように構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【０６４２】

図６６は、第６実施形態における流路前側構成部材Ａ６９００の断面図である。図６６では、球が通過可能な箇所において、上下方向の辺と前後方向の辺とにより構成される平面で流路前側構成部材Ａ６９００が断面視される。なお、流路前側構成部材Ａ６９００と対向配置されるベース板Ａ６０の前後側面が想像線で図示される。

【０６４３】

流路前側構成部材Ａ６９００は、ベース板Ａ６０の前側に対向配置され非透過性の樹脂材料から形成される目隠し部材Ａ６９１０と、その目隠し部材Ａ６９１０の正面側に貼り付けられる（又は締結固定される）光透過性の樹脂材料から形成される板状部材であって、正面側に装飾が施される化粧板Ａ６９２０と、目隠し部材Ａ６９１０をベース板Ａ６０に締結固定する締結固定用部Ａ６９３０と、を備える。

【０６４４】

目隠し部材Ａ６９１０は、上下方向に板状に延びる一対の板状本体Ａ６９１１（図６６にはその片側が図示されている）と、その一対の板状本体Ａ６９１１の間を左右方向に延び、一対の板状本体Ａ６９１１とで左右方向に延びる矩形長孔Ａ６９１２を構成する複数のルーバー部Ａ６９１３と、を備える。

【０６４５】

矩形長孔Ａ６９１２及びルーバー部Ａ６９１３の左右方向長さは、球の直径よりは長くされており、配置箇所における遊技領域の左右幅に対応させた長さで形成される。また、ルーバー部Ａ６９１３の上下間隔は、球の直径よりも小さくなるように設計されている。

【０６４６】

目隠し部材Ａ６９１０の製造方法としては、種々の態様が例示される。例えば、板状本体Ａ６９１１に複数のルーバー部Ａ６９１３が固定されるような態様でも良いし、板状本体Ａ６９１１の前後長さに対応する厚みの板にドリル加工等で孔を空けて矩形長孔Ａ６９１２を形成した残りの部分として複数のルーバー部Ａ６９１３が形成されるような態様でも良い。

【０６４７】

ルーバー部Ａ６９１３は、前後方向に若干幅広に形成されており、その上下側面に装飾用のイラストが施されている。矢印ＡＥＬ６１の方向視で流路前側構成部材Ａ６９００を視認した場合、ルーバー部Ａ６９１３に視線が遮られることとなるので、その背面側を流下する球ＡＢ６１を視認し難い状況が生まれる。この場合、遊技者にはルーバー部Ａ６９１３の上側面に施されるイラストを視認させることにより演出効果の低下を避けている。

【０６４８】

一方、矢印ＡＥＬ６２の方向視（前後方向に沿う方向視）で流路前側構成部材Ａ６９００を視認した場合、ルーバー部Ａ６９１３の上下側面と視線とが重なることは無く、ルーバー部Ａ６９１３の上下厚みで隠される以外の部分、即ち、矩形長孔Ａ６９１２を通して球ＡＢ６１を視認させることができる。

【０６４９】

本実施形態では、図６６に示すように、ルーバー部Ａ６９１３が前後幅よりも上下厚みが短い形状とされているので、矢印ＡＥＬ６２の方向視で流路前側構成部材Ａ６９００を視認させる場合の方が、矢印ＡＥＬ６１の方向視で流路前側構成部材Ａ６９００を視認させる場合に比較して、流路前側構成部材Ａ６９００の後方を流下する球ＡＢ６１の視認性を向上させることができる。

【０６５０】

次いで、図６７から図７７を参照して、本発明の第７実施形態における基板ボックスＷ１００について説明する。まず、図６７から図７１を参照して、基板ボックスＷ１００の概略構成について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付

してその説明を省略する。

【０６５１】

図６７は、第７実施形態におけるパチンコ機Ｗ１０の背面図であり、図６８は、基板ボックスＷ１００の正面斜視図であり、図６９は、基板ボックスＷ１００の背面斜視図であり、図７０は、基板ボックスＷ１００の正面図であり、図７１（ａ）は、基板ボックスＷ１００の背面図であり、図７１（ｂ）は、図７１（ａ）の矢印ＬＸＸＩｂ方向視における基板ボックスＷ１００の側面図であり、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外された状態が図示される。図７２（ａ）は、基板ボックスＷ１００の部分正面斜視図であり、図７２（ｂ）は、基板ボックスＷ１００の部分背面斜視図であり、図７２（ａ）及び図７２（ｂ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００及び封印シールＷＳＬが取り外された状態が図示される。

【０６５２】

なお、図６７から図７１における矢印Ｆ－Ｂ、矢印Ｌ－Ｒ及び矢印Ｕ－Ｄは、基板ボックスＢ１００の前後方向、左右方向および上下方向をそれぞれ示している。なお、以下の各図においても同様であるので、その説明は省略する。

【０６５３】

また、第７実施形態におけるパチンコ機Ｗ１０は、第１実施形態におけるパチンコ機１０に対し、基板ボックスＷ１００を除き、その他の構成は同一とされる。よって、その他の説明は省略する。

【０６５４】

図６７から図７１に示すように、基板ボックスＷ１００は、ボックスカバーＷ２００と、そのボックスカバーＷ２００により開口が覆われるボックスベースＷ３００と、それらボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００を開封不能に連結（かしめ構造による連結）する封印ユニットＷ４００と、その封印ユニットＷ４００により連結されたボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の封印ユニットＷ４００とは反対側の端部に配設される保護カバーＷ５００及び封印シールＷＳＬとを備え、主制御基板（図示せず）が収納される。なお、基板ボックスＷ１００はに、サブ制御基板、発光演出または放音演出に伴う基板、各種スイッチ、コネクタ、遊技盤、役物または役物を駆動させるための駆動モータが収納されても良い。

【０６５５】

封印ユニットＷ４００には、回転軸Ｗ４１０が形成される。回転軸Ｗ４１０は、基板ボックスＷ１００を内枠１２（図１参照）の背面側に回転可能に軸支するための軸であり、基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に平行、且つ、基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に直交する軸として形成される。

【０６５６】

また、回転軸Ｗ４１０は、背面視（矢印Ｆ方向視）において、基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される。なお、回転軸Ｗ４１０を基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の左方側（矢印Ｌ方向側）に配設しても良く、回転軸Ｗ４１０を基板ボックスＷ１００（ボックスカバーＷ２００）の上方側（矢印Ｕ方向側）、下方側（矢印Ｄ方向側）、正面側（矢印Ｆ方向側）、或いは、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設しても良い。

【０６５７】

ボックスカバーＷ２００は、正面視略横長矩形の板状に形成される背面壁部Ｗ２０１と、その背面壁部Ｗ２０１の４辺からボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）へ向けて立設され板状に形成される壁部（上壁部、下壁部、それら上壁部および下壁部を連結する左壁部Ｗ２０２及び右壁部）と、左壁部Ｗ２０２から左方側へ突出されるカバー側被係合部Ｗ２１０とを主に備える。ボックスカバーＷ２００は、各壁部によりボックスベースＷ３００側が開放された箱状に形成される。なお、ボックスカバーＷ２００は、光透過性の

樹脂材料を素材とし、樹脂成形型を用いて成形される。

【０６５８】

カバー側被係合部Ｗ２１０には、後述するベース側被係合部Ｗ３１０と共に、保護カバーＷ５００が取り付けられる。カバー側被係合部Ｗ２１０は、左壁部Ｗ２０２から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出されるベース部Ｗ２１１と、ベース部Ｗ２１１の突出先端部に形成される側壁部Ｗ２１２と、側壁部Ｗ２１２から封印ユニットＷ４００とは反対側へ突出される平面部Ｗ２２０、上側張出部Ｗ２１３ａ及び下側張出部Ｗ２１３ｂと、ベース部Ｗ２１１及び平面部Ｗ２２０の背面からボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出されるカバー部Ｗ２１４とを主に備える。

【０６５９】

ベース部Ｗ２１１は、左壁部Ｗ２０２と側壁部Ｗ２１２とを連結するための部位であり、板状に形成される。側壁部Ｗ２１２は、保護カバーＷ５００の封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）への変位を規制するための部位であり、板状に形成される。

【０６６０】

側壁部Ｗ２１２には、上側張出部Ｗ２１３ａ、下側張出部Ｗ２１３ｂ及び平面部Ｗ２２０が配設される。上側張出部Ｗ２１３ａは、平面部Ｗ２２０よりも上方側（矢印Ｕ方向側）となる位置に配設され、下側張出部Ｗ２１３ｂは、平面部Ｗ２２０よりも上側張出部Ｗ２１３ａとは反対側（矢印Ｄ方向側）となる位置に配設される。

【０６６１】

下側張出部Ｗ２１３ｂの背面は、側壁部Ｗ２１２の背面および後述する保護カバーＷ５００の立設部Ｗ５４０よりもボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【０６６２】

平面部Ｗ２２０は、封印シールＷＳＬが貼着される部位であり、板状に形成される。平面部Ｗ２２０は、ボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される突起Ｗ２２１及び一対の立設部Ｗ２２２と、平面部Ｗ２２０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の両端に配設される一対の両端壁部Ｗ２２３と、平面部Ｗ２２０の背面に凹設される凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂと、平面部Ｗ２２０の板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して穿設される一対の締結孔Ｗ２２５と、平面部Ｗ２２０の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）における端部に切り欠かれる切欠き部Ｗ２２６（図７６参照）とを主に備える。

【０６６３】

突起Ｗ２２１は、保護カバーＷ５００の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）への変位を規制するための突起である。突起Ｗ２２１には、封印ユニットＷ４００とは反対側から封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれてボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗ２２１ａが形成される。

【０６６４】

立設部Ｗ２２２及び両端壁部Ｗ２２３は、側壁部Ｗ２１２と保護カバーＷ５００との間に形成される隙間から不正に挿入された針金が平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着を解除することを抑制するための部位である。

【０６６５】

一対の立設部Ｗ２２２は、側壁部Ｗ２１２から所定の距離を隔てて上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びて形成される。上下方向における一対の立設部Ｗ２２２の両端部は、一対の両端壁部Ｗ２２３に接合され、一対の立設部Ｗ２２２と一対の両端壁部Ｗ２２３との間には隙間が非形成とされる。

【０６６６】

一対の両端壁部Ｗ２２３は、板状に形成され、一対の両端壁部Ｗ２２３の板厚方向が対向された姿勢で上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における平面部Ｗ２２０の両端部に配設される。一対の両端壁部Ｗ２２３のボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）の端部およびボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）の端部は、平面部Ｗ２２０の正面お

よび背面よりもボックスベースＷ３００側およびボックスベースＷ３００とは反対側へそれぞれ突出して形成される。また、一対の両端壁部Ｗ２２３の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部は、平面部Ｗ２２０の封印ユニットＷ４００とは反対側の端部よりも封印ユニットＷ４００とは反対側へ突出して形成される。なお、一対の両端壁部Ｗ２２３の正面は、立設部Ｗ２２２の突出面と略同一面上に配設される。

【０６６７】

凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂは、封印シールＷＳＬの貼着面と平面部Ｗ２２０との間に空間を形成させるための部位である。凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂがそれぞれ分離して形成されることにより、平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとが貼着される面積を大きくできる。

【０６６８】

なお、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂは、それぞれ連結して形成されても良い。これにより、ボックスカバーＷ２００の成形性を確保し易くできると共に、製造コストを低減できる。また、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂは、平面部Ｗ２２０の板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成されても良い。これにより、ボックスカバーＷ２００の成形性を確保し易くできる。

【０６６９】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹部Ｗ２２４ａの寸法は、後述する保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ａの左右方向における寸法と略同一またはやや大きく形成され、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における凹部Ｗ２２４ａの寸法は、連結片Ｗ５３１ａの上下方向における寸法の略３倍の大きさに形成される。上下方向における凹部Ｗ２２４ｂの寸法は、保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ｂの上下方向における寸法と略同一またはやや大きく形成され、左右方向における凹部Ｗ２２４ｂの寸法は、連結片Ｗ５３１ｂの左右方向における寸法の略３倍の大きさに形成される。

【０６７０】

一対の締結孔Ｗ２２５は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００を締結するねじ（図示せず）が挿入される孔である。一対の締結孔Ｗ２２５を挿通したねじがボックスベースＷ３００に締結されることにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００が締結される。

【０６７１】

切欠き部Ｗ２２６は、後述するボックスベースＷ３００の切欠き部Ｗ３２５と共に、封印シールＷＳＬの貼着面側（矢印Ｒ方向側）に空間を形成させるための部位である。切欠き部Ｗ２２６は、平面部Ｗ２２０の上端から下端にかけて連続して形成される。また、切欠き部Ｗ２２６は、側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて切欠き部Ｗ３２５とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜して形成される。

【０６７２】

カバー部Ｗ２１４は、ベース部Ｗ２１１及び平面部Ｗ２２０からボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて立設され板状に形成される壁部（上壁部、下壁部、それら上壁部および下壁部の右方側の端部を連結する右壁部）と、上壁部、下壁部および右壁部の立設先端部を連結する背面壁部Ｗ２１４ａとを主に備える。カバー部Ｗ２１４及び平面部Ｗ２２０により封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）が開放された箱状に形成される。

【０６７３】

上壁部および下壁部は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びて形成され、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、突起Ｗ２２１及び一対の立設部Ｗ２２２の間にそれぞれ配設される。背面壁部Ｗ２１４ａは、板状に形成される。背面壁部Ｗ２１４ａの封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部は、突起Ｗ２２１よりも封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）に配設され、背面視（矢印Ｆ方向視）において、突起Ｗ２２１は、視認可能とされる。これにより、突起Ｗ２２１と後述する保護カバーＷ５００の係合孔Ｗ５

３３との係合を視認可能とでき、ボックスカバーＷ２００と保護カバーＷ５００との係合状態を確認できる。

【０６７４】

なお、背面視において、背面壁部Ｗ２１４ａの封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部が突起Ｗ２２１に重なる位置まで背面壁部Ｗ２１４ａが突出して形成されても良い。これにより、突起Ｗ２２１と係合孔Ｗ５３３との係合を解除させ難くできる。

【０６７５】

ボックスベースＷ３００は、正面視略横長矩形の板状に形成される正面壁部Ｗ３０１と、その正面壁部Ｗ３０１の４辺からボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けて立設され板状に形成される壁部（上壁部、下壁部、それら上壁部および下壁部を連結する左壁部Ｗ３０２及び右壁部）と、左壁部Ｗ３０２から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ突出されるベース側被係合部Ｗ３１０とを主に備える。ボックスベースＷ３００は、各壁部により背面側が開放された箱状に形成される。なお、ボックスベースＷ３００は、光透過性の樹脂材料を素材とし、樹脂成形型を用いて成形される。

【０６７６】

ベース側被係合部Ｗ３１０には、カバー側被係合部Ｗ２１０と共に、保護カバーＷ５００が取り付けられる。ベース側被係合部Ｗ３１０は、左壁部Ｗ３０２から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ突出される上側張出部Ｗ３１１、カバー部Ｗ３１２及び平面部Ｗ３２０を主に備える。

【０６７７】

上側張出部Ｗ３１１は、正面視（矢印Ｂ方向視）において、カバー側被係合部Ｗ２１０の上側張出部Ｗ２１３ａに対応する位置に配設される。また、上側張出部Ｗ３１１の正面は、正面壁部Ｗ３０１の正面と略同一面上に配設される。

【０６７８】

カバー部Ｗ３１２は、板状に形成される正面壁部Ｗ３１２ａと、封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）の辺を除く正面壁部Ｗ３１２ａの３辺からボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けて立設され板状に形成される壁部（上壁部、下壁部、それら上壁部および下壁部の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部を連結する左壁部Ｗ３１２ｂ）とを主に備える。上壁部、下壁部および左壁部Ｗ３１２ｂは、板状に形成され、それら上壁部、下壁部および左壁部Ｗ３１２ｂの立設先端部は平面部Ｗ３２０に接合される。

【０６７９】

正面壁部Ｗ３１２ａの背面には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて一対の突起Ｗ３１２ｃがボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。一対の突起Ｗ３１２ｃは、保護カバーＷ５００の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）への変位を規制するための突起である。一対の突起Ｗ３１２ｃには、封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）から封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれてボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗ３１２ｄが形成される。

【０６８０】

左壁部Ｗ３１２ｂには、側面視（矢印Ｒ方向視）において、一対の突起Ｗ３１２ｃに対応する位置に一対の挿通孔Ｗ３１２ｅが板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に貫通して穿設される。一対の挿通孔Ｗ３１２ｅの内形は、一対の突起Ｗ３１２ｃの外形よりも大きく形成され、側面視において、一対の突起Ｗ３１２ｃが視認可能とされる。

【０６８１】

平面部Ｗ３２０は、封印シールＷＳＬが貼着される部位であり、板状に形成される。平面部Ｗ３２０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における平面部Ｗ３２０の両端部に配設される一対の両端壁部Ｗ３２１と、平面部Ｗ３２０の板厚方向に（矢印Ｆ－Ｂ方向）にに貫通して穿設される一対の締結孔Ｗ３２２と、平面部Ｗ３２０からボックスカバーＷ２００

とは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される一対の抑制部Ｗ３２３と、平面部Ｗ３２０からボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される突出部Ｗ３２４とを主に備える。

【０６８２】

一対の両端壁部Ｗ３２１は、板状に形成され、一対の両端壁部Ｗ３２１の板厚方向を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿わせた姿勢で平面部Ｗ３２０に配設される。一対の両端壁部Ｗ３２１のボックスカバーＷ２００とは反対側（矢印Ｆ方向側）の端部は、平面部Ｗ３２０の正面よりも突出して形成される。また、一対の両端壁部Ｗ３２１の封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）の端部は、平面部Ｗ３２０の封印ユニットＷ４００とは反対側の端部よりも突出して形成される。

【０６８３】

一対の締結孔Ｗ３２２は、ボックスカバーＷ２００に穿設される一対の締結孔Ｗ２２５を挿通したねじ（図示せず）が締結される孔であり、一対の締結孔Ｗ３２２の内周にはめねじが設けられる。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００が締結される。

【０６８４】

一対の抑制部Ｗ３２３は、保護カバーＷ５００と封印シールＷＳＬとが当接することを抑制するための部位である。一対の抑制部Ｗ３２３の突出長さは、封印シールＷＳＬ厚さ寸法よりも長く形成される。上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、一対の抑制部Ｗ３２３は、一対の挿通孔Ｗ３１２ｅに対応する位置に配設される。

【０６８５】

突出部Ｗ３２４は、封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）における平面部Ｗ３２０の端部に配設され、突出部Ｗ３２４の突出先端部には、切欠き部Ｗ３２５が切欠き形成される（図７６参照）。突出部Ｗ３２４のボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）へ向けての突出長さは、平面部Ｗ２２０の正面に対する一対の両端壁部Ｗ２２３の突出長さと同一に形成される。これにより、突出部Ｗ３２４及び平面部Ｗ２２０が当接した状態において、一対の両端壁部Ｗ３２１と一対の両端壁部Ｗ２２３との間に隙間が形成されることを抑制できる。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の内側に針金が不正に挿入されることを抑制できる。

【０６８６】

切欠き部Ｗ３２５は、ボックスカバーＷ２００の切欠き部Ｗ２２６と共に、封印シールＷＳＬの貼着面側（矢印Ｒ方向側）に空間を形成させるための部位である。切欠き部Ｗ３２５は、平面部Ｗ３２０（突出部Ｗ３２４）の上端から下端にかけて連続して形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において切欠き部Ｗ２２６に対向して配設される。また、切欠き部Ｗ３２５は、左壁部Ｗ３０２側（矢印Ｒ方向側）から封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて切欠き部Ｗ２２６とは反対側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜して形成される。

【０６８７】

保護カバーＷ５００は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に貼着された封印シールＷＳＬを遮蔽するためのものであり、正面視略縦長矩形の板状に形成される背面壁部Ｗ５１０と、その背面壁部Ｗ５１０から正面側（矢印Ｆ方向側）へ所定の間隔を隔てて対向され正面視略縦長矩形の板状に形成される正面壁部Ｗ５２０と、右方側（矢印Ｒ方向側）を除く背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の３辺を連結する壁部（上壁部、下壁部Ｗ５０１および左壁部Ｗ５０２）と、背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０に連結され板状に形成される係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂと、下壁部Ｗ５０１から下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて立設され板状に形成される立設部Ｗ５４０とを主に備える。

【０６８８】

保護カバーＷ５００は、各壁部により右方側（矢印Ｒ方向側）が開放された箱状に形成される。なお、保護カバーＷ５００は、光透過性の樹脂材料を素材とし、樹脂成形型を用いて成形される。

【０６８９】
左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の長さは、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０の長さよりも長く形成される。また、背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向間の距離は、ボックスカバーＷ２００の両端壁部Ｗ２２３の背面からボックスベースＷ３００の両端壁部Ｗ３２１の正面までの距離と略同一またはやや大きく形成される。また、保護カバーＷ５００の上壁部および下壁部Ｗ５０１の対向間の距離は、一対の両端壁部Ｗ２２３（両端壁部Ｗ３２１）の対向面とは反対側の面どうしの距離よりも大きく形成される。
【０６９０】
これらにより、保護カバーＷ５００の内側にカバー側被係合部Ｗ２１０及びベース側被係合部Ｗ３１０が配設可能とされると共に、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられた状態において前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における保護カバーＷ５００の変位が規制される。
【０６９１】
背面壁部Ｗ５１０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って断続して形成され、本実施形態では、１箇所において非形成とされる。背面壁部Ｗ５１０は、上下方向において非形成とされる側であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる端縁部から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて立設されるリブ部Ｗ５１１と、そのリブ部Ｗ５１１の先端どうしを連結する連結部Ｗ５１２とを主に備える。
【０６９２】
背面壁部Ｗ５１０の背面は、ボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２の背面よりもやや正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。これにより、背面壁部Ｗ５１０の背面が側壁部Ｗ２１２の背面よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、背面壁部Ｗ５１０が側壁部Ｗ２１２よりも背面側へ突出した態様で背面壁部Ｗ５１０及び側壁部Ｗ２１２の間に段差が形成されることを抑制できる。その結果、かかる段差を利用してボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外すことを抑制できる。
【０６９３】
リブ部Ｗ５１１及び連結部Ｗ５１２は、係合部Ｗ５３０ａを支持するための部位である。リブ部Ｗ５１１が背面壁部Ｗ５１０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる端縁部から立設されることにより、背面壁部Ｗ５１０及び係合部Ｗ５３０ｂの隙間から不正に挿入された針金が平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着を解除することを抑制できる。
【０６９４】
リブ部Ｗ５１１の立設長さは、ボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０に対する両端壁部Ｗ２２３の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての突出長さよりも短く形成される。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられた状態において、リブ部Ｗ５１１が封印シールＷＳＬに当接し、封印シールＷＳＬが破損することを抑制できる。
【０６９５】
連結部Ｗ５１２は、左方側（矢印Ｌ方向側）におけるリブ部Ｗ５１１どうしを連結して配設され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における連結部Ｗ５１２の長さは、背面壁部Ｗ５１０の長さよりも短く形成される。
【０６９６】
正面壁部Ｗ５２０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って断続的に形成され、本実施形態では、２箇所において非形成とされる。なお、上下方向において背面壁部Ｗ５１０に非形成部が形成される位置は、正面壁部Ｗ５２０に非形成部が形成される位置とは異なる位置とされる。正面壁部Ｗ５２０は、上下方向において非形成とされる側であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる端縁部から背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて立設されるリブ部Ｗ５２１と、そのリブ部Ｗ５２１の先端どうしを連結する連結部Ｗ５２２とを主に備える。

【０６９７】
正面壁部Ｗ５２０の正面は、ボックスベースＷ３００の上側張出部Ｗ３１１の正面と略同一面上またはやや背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、正面壁部Ｗ５２０の正面が上側張出部Ｗ３１１の正面よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設され、正面壁部Ｗ５２０が上側張出部Ｗ３１１よりも正面側へ突出した態様で正面壁部Ｗ５２０及び上側張出部Ｗ３１１の間に段差が形成されることを抑制できる。その結果、かかる段差を利用してボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外すことを抑制できる。
【０６９８】
リブ部Ｗ５２１及び連結部Ｗ５２２は、係合部Ｗ５３０ｂを支持するための部位である。リブ部Ｗ５２１が正面壁部Ｗ５２０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる端縁部から立設されることにより、正面壁部Ｗ５２０及び係合部Ｗ５３０ａの隙間から不正に挿入された針金が平面部Ｗ３２０と封印シールＷＳＬとの貼着を解除することを抑制できる。
【０６９９】
リブ部Ｗ５２１の立設長さは、ボックスベースＷ３００の平面部Ｗ３２０に対する両端壁部Ｗ３２１の正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての突出長さよりも短く形成される。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられた状態において、リブ部Ｗ５２１が封印シールＷＳＬに当接し、封印シールＷＳＬが破損することを抑制できる。
【０７００】
連結部Ｗ５２２は、左方側（矢印Ｌ方向側）におけるリブ部Ｗ５２１どうしを連結して配設され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における連結部Ｗ５２２の長さは、正面壁部Ｗ５２０の長さよりも短く形成される。
【０７０１】
係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂは、保護カバーＷ５００をボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に係合させるための部位である。本実施形態では、保護カバーＷ５００における背面壁部Ｗ５１０側には一つの係合部Ｗ５３０ａが配設され、正面壁部Ｗ５２０側には上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて一対（二つ）の係合部Ｗ５３０ｂが配設される。
【０７０２】
係合部Ｗ５３０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において一対の係合部Ｗ５３０ｂの間に配設される。これにより、上下方向において、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００と保護カバーＷ５００との係合位置を分散させることができ、不正にボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を取り外しにくくできる。
【０７０３】
係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの左方側（矢印Ｌ方向側）の端部に形成される複数（本実施形態では、３個）の連結片Ｗ５３１と、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂにおける連結片Ｗ５３１とは反対側（矢印Ｒ方向側）の端部に形成される傾斜部Ｗ５３２と、その傾斜部Ｗ５３２と連結片Ｗ５３１との間に穿設される係合孔Ｗ５３３とを主に備える。
【０７０４】
係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂは、連結片Ｗ５３１を介して背面壁部Ｗ５１０（リブ部Ｗ５１１）又は正面壁部Ｗ５２０（リブ部Ｗ５２１）に連結される。これにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂは、背面壁部Ｗ５１０又は正面壁部Ｗ５２０よりも背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向間側に配設される。その結果、係合部Ｗ５３０ａ（係合部Ｗ５３０ｂ）が背面壁部Ｗ５１０（正面壁部Ｗ５２０）と略同一面上に配設される場合と比較して、保護カバーＷ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた（係合された）状態では、係合部Ｗ５３０ａ（係合部Ｗ５３０ｂ）及び封印シールＷＳＬの対向間の距離を小さくできる。
【０７０５】

係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの右方側（矢印Ｒ方向側）の端部は、正面壁部Ｗ５２０及び背面壁部Ｗ５１０の右方側の端部よりも右方側へ突出して形成される。係合部Ｗ５３０ａに形成される傾斜部Ｗ５３２及び係合孔Ｗ５３３は、係合部Ｗ５３０ｂに形成される傾斜部Ｗ５３２及び係合孔Ｗ５３３と形状が異なるものの、本実施形態では、同一の符号を付して説明する。

【０７０６】

連結片Ｗ５３１のうち、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの左方側（矢印Ｌ方向側）の端部から左方側へ向けて突出される連結片Ｗ５３１を連結片Ｗ５３１ａ、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの左方側における上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の両端部から上下方向へ向けて突出される一対の連結片Ｗ５３１を連結片Ｗ５３１ｂとそれぞれ定義する。連結片Ｗ５３１ａは、背面壁部Ｗ５１０又は正面壁部Ｗ５２０の連結部Ｗ５１２，Ｗ５２２に支持され、一対の連結片Ｗ５３１ｂは、背面壁部Ｗ５１０又は正面壁部Ｗ５２０のリブ部Ｗ５１１，Ｗ５２１に接合される。

【０７０７】

連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂは、背面視において略矩形の板状に形成される。板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの厚さ寸法は、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂと略同一に形成され、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの正面および背面は、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの正面および背面と略同一面上にそれぞれ配設される。即ち、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂとの間には、段差が非形成とされる。これにより、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂとの間に段差が形成される場合と比較して、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂとの間に応力集中が生じることを抑制でき、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの強度を確保できる。

【０７０８】

連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂにおいて封印シールＷＳＬに対向する面および封印シールＷＳＬに対向する面とは反対側の面を連結する一対の面（以下「連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの側面」と定義する）は、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの封印シールＷＳＬに対向する面および封印シールＷＳＬに対向する面とは反対側の面に直交して形成される。なお、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの正面および背面とは、保護カバーＷ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた（係合された）状態において、封印シールＷＳＬに対し平行に形成される面であり、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの一対の側面は、封印シールＷＳＬに対し直交して形成される面である。

【０７０９】

ここで、連結片Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ｂの先端部との間の距離は、連結片Ｗ５３１ｂと係合部Ｗ５３０ａの先端部との間の距離よりも大きく形成される。また、上述したように、板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における係合部Ｗ５３０ｂの厚さ寸法は、係合部Ｗ５３０ａの厚さ寸法よりも小さく形成される。これらにより、係合部Ｗ５３０ｂは、係合部Ｗ５３０ａよりも弾性変形し易く形成される。

【０７１０】

傾斜部Ｗ５３２は、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂを弾性変形させ易くするための部位であり、右方側（矢印Ｒ方向側）から左方側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）に傾斜して形成される。

【０７１１】

係合孔Ｗ５３３は、ボックスカバーＷ２００の突起Ｗ２２１又はボックスベースＷ３００の突起Ｗ３１２ｃを取り囲むための部位である。係合孔Ｗ５３３の内周面と突起Ｗ２２１，Ｗ３１２ｃの右方側（矢印Ｒ方向側）の面とが当接することにより、保護カバーＷ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）への変位が規制される。

【０７１２】

立設部Ｗ５４０は、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）で保護カバーＷ５００がボックス

カバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられることを抑制するための部位である。

【０７１３】

立設部Ｗ５４０は、下壁部Ｗ５０１から上壁部とは反対側（矢印Ｄ方向側）へ向けて突出され、立設部Ｗ５４０の突出長さは、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１と上側張出部Ｗ２１３ａとの間の距離よりも大きく形成される。

【０７１４】

また、立設部Ｗ５４０は、下側張出部Ｗ２１３ｂよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させた場合において、立設部Ｗ５４０と下側張出部Ｗ２１３ｂとが当接することを抑制でき、保護カバーＷ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられる。

【０７１５】

一方で、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）で保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させた場合、立設部Ｗ５４０と上側張出部Ｗ３１１とが当接され、保護カバーＷ５００の右方側への変位が規制される。これにより、保護カバーＷ５００が右方側へ向けて変位され、係合部Ｗ５３０ａとボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３１２ｂとが当接する、又は、係合部Ｗ５３０ｂとボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２とが当接することを抑制できる。その結果、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが破損することを抑制できる。なお、立設部Ｗ５４０は、非形成とされても良い。

【０７１６】

封印シールＷＳＬは、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封を抑制するためのものであり、シート状に形成される。封印シールＷＳＬは、上面視において略コ字状に折り曲げられ、平面部Ｗ２２０、平面部Ｗ３２０及び突出部Ｗ３２４にかけて貼着される。封印シールＷＳＬは、裏面側に接着剤が塗布される接着シートと、表面側に識別情報がプリントされる表示シートとを主に備え、接着シートの表面と表示シートの裏面とが貼着されて形成される。

【０７１７】

上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの寸法は、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１の対向間の距離よりもやや小さく形成される。封印シールＷＳＬが平面部Ｗ２２０、平面部Ｗ３２０及び突出部Ｗ３２４にかけて貼着されることにより、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１側を除いて、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が封印シールＷＳＬにより遮蔽される。従って、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５を視認させ難くでき、不正を行う者が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５を利用して封印シールＷＳＬを容易に切断させ難くできる。

【０７１８】

接着シートの裏面は、ボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０及びボックスベースＷ３００の平面部Ｗ３２０に貼着される部位であり、接着シートと表示シートとの接着力よりも接着シートと平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０との接着力が強く形成される。これにより、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０から封印シールＷＳＬを剥がそうとする場合、接着シートと表示シートとの接着が解除され、接着シートから表示シートが分離され、接着シートと平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０との接着が維持される。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封を抑制し易くできる。

【０７１９】

表示シートの表面には、識別情報として、複数の数字、パチンコ機Ｗ１０の名称（機種名）、メーカー名、又は、基板情報等が記載される（図示せず）。識別情報は、平面部Ｗ２２０に貼着される位置に記載される。これにより、内枠１２（図１参照）が開放されることにより識別情報が視認可能とされる。その結果、識別情報が平面部Ｗ３２０に貼着される位置に記載される場合と比較して、識別情報を視認するために内枠１２に対し基板ボ

ックスＷ１００を回転させる操作を不要とできる。
【０７２０】
また、表示シートの表面には、紫外線などといった特定の波長の光が照射されることにより視認可能となる特殊インキが模様を成して塗布される。
【０７２１】
封印シールＷＳＬの外周縁は、鋸刃状に形成される。これにより、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０から封印シールＷＳＬを剥がす場合、鋸刃状の凹部に応力集中を生じさせ易くでき、封印シールＷＳＬを分断させ易くできる。その結果、封印シールＷＳＬの少なくとも一部を平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０に貼着させた状態に維持させ易くでき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封を抑制し易くできる。
【０７２２】
なお、封印シールＷＳＬは、ＩＣチップを備えても良い。ＩＣチップに格納されるＩＤ情報をスキャナーで受信することにより、基板ボックスＷ１００が不正に取り換えられていないかを確認できる。また、不正を試みる者が封印シールＷＳＬを不正に入手することや、封印シールＷＳＬを偽造することを一層困難とできる。
【０７２３】
次いで、図７３及び図７４を参照して、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００への保護カバーＷ５００の取り付けについて説明する。図７３（ａ）及び図７３（ｂ）は、基板ボックスＷ１００の部分正面図であり、図７３（ｃ）及び図７３（ｄ）は、基板ボックスＷ１００の部分背面図である。図７４（ａ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶａ－ＬＸＸＩＶａ線における基板ボックスＷ１００の部分断面図であり、図７４（ｂ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線における基板ボックスＷ１００の部分断面図である。
【０７２４】
なお、図７３（ａ）及び図７３（ｃ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられる前の状態が図示され、図７３（ｂ）及び図７３（ｄ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００が取り付けられた後の状態が図示される。また、図７３（ａ）及び図７３（ｂ）では、突起Ｗ３１２ｃが破線により図示され、図７３（ｃ）及び図７３（ｄ）では、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが破線により図示される。また、一対の係合部Ｗ５３０ｂと一対の突起Ｗｓ３２８との係合の態様については、一方（上方）及び他方（下方）において同一であるため、一方における断面図を図示して説明し、他方における説明は省略する。
【０７２５】
図７３（ａ）及び図７３（ｃ）に示すように、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３の位置をボックスカバーＷ２００の突起Ｗ２２１及びボックスベースＷ３００の突起Ｗ３１２ｃの位置に合わせた状態から（図７２参照）、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させる。
【０７２６】
保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗ５３０ａの傾斜部Ｗ５３２と突起Ｗ２２１の傾斜部Ｗ２２１ａとが当接し、係合部Ｗ５３０ｂの傾斜部Ｗ５３２と突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄとが当接する（図７２参照）。係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの傾斜部Ｗ５３２と突起Ｗ２２１の傾斜部Ｗ２２１ａ及び突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄとが当接された状態から保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される。
【０７２７】
係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形されることにより、保護カバーＷ５００を背面側へ向けて回転させ易くできる。これにより、係合部Ｗ５３０ａが背面側（正面側）へ向けて弾性変形され、係合部Ｗ５３０ｂが正面側（背面側）へ向けて弾性変形される場合と比較して、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの弾性変形

量を小さくできる。その結果、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの破損を抑制し易くできる。

【０７２８】

係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される状態から続けて保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、図７３（ｂ）、図７３（ｄ）及び図７４に示すように、係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗ２２１が配設され（係合部Ｗ５３０ａと突起Ｗ２２１とが係合され）、一対の係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３の内側に一対の突起Ｗ３１２ｃが配設される（一対の係合部Ｗ５３０ｂと一対の突起Ｗ３１２ｃとが係合される）。これにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの弾性変形が解除される。

【０７２９】

以下、係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗ３１２ｃが配設され、係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗ２２１が配設された状態を規制状態と定義する。なお、一対の係合部Ｗ５３０ｂと一対の突起Ｗ３１２ｃとの係合の態様については、一方側（上方側）及び他方側（下方側）において同一であるため、一方側における断面のみを図示し、他方側における断面図は省略して説明する。

【０７３０】

背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向間の距離は、ボックスカバーＷ２００の両端壁部Ｗ２２３の背面からボックスベースＷ３００の両端壁部Ｗ３２１の正面までの距離と略同一またはやや大きく形成されるため、規制状態では、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における保護カバーＷ５００の変位が規制される。これにより、係合部Ｗ５３０ａ（係合部Ｗ５３０ｂ）と突起Ｗ２２１（突起Ｗ３１２ｃ）との係合が解除されることが抑制される。

【０７３１】

また、規制状態では、突起Ｗ２２１の傾斜部Ｗ２２１ａとは反対側（矢印Ｒ方向側）の面と係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側面とが当接し、突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄとは反対側（矢印Ｒ方向側）の面と係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３の内周面とが当接することにより、保護カバーＷ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）への変位が規制される。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に貼着された封印シールＷＳＬが露出されることを抑制できる。

【０７３２】

また、規制状態では、背面視において、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設される。詳細には、連結片Ｗ５３１ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、凹部Ｗ２２４ａの略中央となる位置に配設され、連結片Ｗ５３１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、凹部Ｗ２２４ｂの略中央となる位置に配設される。

【０７３３】

また、規制状態では、背面壁部Ｗ５１０の右方側（矢印Ｒ方向側）の端部および正面壁部Ｗ５２０の右方側の端部がボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２及びボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２に当接される。また、係合部Ｗ５３０ａの右方側の端部が側壁部Ｗ２１２に当接される。これらにより、保護カバーＷ５００の右方側への変位が規制される。なお、背面壁部Ｗ５１０の右方側の端部、係合部Ｗ５３０ａの右方側の端部あるいは正面壁部Ｗ５２０の右方側の端部の少なくともいずれか一つがボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２或いはボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２に当接されても良い。

【０７３４】

ここで、保護カバーＷ５００の加工精度（寸法公差）等の要因に起因して、背面壁部Ｗ５１０の右方側の端部とボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２との間に隙間が形成され、かかる隙間を利用して保護カバーＷ５００の内側へ針金が不正に挿入される虞がある。これにより、平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着が不正に解除される虞がある

。
【０７３５】
これに対し、平面部Ｗ２２０に一対の立設部Ｗ２２２が配設されることにより、保護カバーＷ５００の内側へ針金が不正に挿入された場合であっても、その不正に挿入された針金を一対の立設部Ｗ２２２に当接させることができる。これにより、平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着が不正に解除されることを抑制できる。
【０７３６】
また、一対の両端壁部Ｗ２２３の正面は、立設部Ｗ２２２の突出面と略同一面上に配設されるため、一対の両端壁部Ｗ２２３の正面（立設部Ｗ２２２の突出面）と背面壁部Ｗ５１０の内面とが当接した状態において、立設部Ｗ２２２の突出面（一対の両端壁部Ｗ２２３の正面）と背面壁部Ｗ５１０の内面との間に隙間が形成されることを抑制できる。これにより、かかる隙間を利用して針金が不正に挿入され、平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着が解除されることを抑制できる。
【０７３７】
次いで図７５から図７７を参照して、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷ５００の取り外しについて説明する。図７５（ａ）は、基板ボックスＷ１００の部分正面図であり、図７５（ｂ）は、基板ボックスＷ１００の部分背面図である。図７６は、図７５（ｂ）のＬＸＸＶＩ－ＬＸＸＶＩ線における基板ボックスＷ１００の部分断面図である。図７７（ａ）は、基板ボックスＷ１００の部分正面図であり、図７７（ｂ）は、基板ボックスＷ１００の部分背面図である。
【０７３８】
なお、図７５（ａ）及び図７５（ｂ）では、保護カバーＷ５００から係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断された状態が図示される。また、図７７（ａ）及び図７７（ｂ）では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外された状態が図示され、保護カバーＷ５００から切断された係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが二点鎖線により図示される。
【０７３９】
また、図７６では、係合部Ｗ５３０ａの一対の連結片Ｗ５３１ｂの一方が図示され、一対の連結片Ｗ５３１ｂの一方における切断について説明するが、一対の連結片Ｗ５３１ｂの他方および連結片Ｗ５３１ａの切断の態様については、一対の連結片Ｗ５３１ｂの一方と同一であるため、一対の連結片Ｗ５３１ｂの他方および連結片Ｗ５３１ａの切断の説明は省略する。また、係合部Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの切断については、係合部Ｗ５３０ａの態様と同一であるため、係合部Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの切断の説明は省略する。
【０７４０】
図７５に示すように、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断工具（図示せず）により切断されることで、保護カバーＷ５００（背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０）から係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが分離される。なお、切断工具としては、ニッパー、ハサミ、カッターナイフ又はナイフ等が例示される。
【０７４１】
例えば、切断工具がニッパーやハサミから構成され、一対の刃の間に連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを挟み込んで連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断する場合は、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの一対の側面に一対の刃がそれぞれ当接され、一対の側面の対向側へ向けて一対の刃が変位することで連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断される。
【０７４２】
また、例えば、切断工具がカッターナイフやナイフから構成され、単一の刃を用いて連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断する場合は、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂの一対の側面の一方に刃を当接させ、一対の側面の他方へ向けて刃が変位することで連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断される。
【０７４３】

上述したように、背面視において、保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ｂは、凹部Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設される（図７３参照）。即ち、図７６に示すように、凹部Ｗ２２４ｂは、封印シールＷＳＬを介して係合部Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ｂと対向して封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される。これにより、封印シールＷＳＬと凹部Ｗ２２４ｂとの間に空間を形成でき、連結片Ｗ５３１ｂを切断するために背面壁部Ｗ５１０及び係合部Ｗ５３０ａの間に切断工具の先端（図示せず）が挿入された場合、切断工具の先端を凹部Ｗ２２４ｂに受け入れ可能とできる。その結果、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【０７４４】

即ち、連結片Ｗ５３１ｂが切断された場合に、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）を形成できる。これにより、封印シールＷＳＬの痕跡の有無に基づいて、封印シールＷＳＬの状態（封印シールＷＳＬが新品であるか再利用したものであるか）を確認可能とできる。また、封印シールＷＳＬに痕跡が形成されることで、封印シールＷＳＬが再利用されることを抑制できる。

【０７４５】

また、連結片Ｗ５３１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹部Ｗ２２４ｂの略中央となる位置に配設される。また、連結片Ｗ５３１ｂは、背面視において、凹部Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設される（図７３参照）。従って、連結片Ｗ５３１ｂを切断するために切断工具（図示せず）の先端が連結片Ｗ５３１ｂの側面側に配設された状態において、切断工具の先端を凹部Ｗ２２４ｂに受け入れ易くできる。その結果、連結片Ｗ５３１ｂの切断動作により封印シールＷＳＬが破損させ易くでき、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）を作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０７４６】

また、係合部Ｗ５３０ａ（連結片Ｗ５３１ｂ）は、リブ部Ｗ５１１に連結されるため、背面壁部Ｗ５１０と封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）との対向間隔よりも、連結片Ｗ５３１ｂと封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）との対向間隔が小さく形成される。これにより、切断工具の先端を封印シールＷＳＬに近づけることができ、凹部Ｗ２２４ｂに受け入れ易くできる。その結果、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【０７４７】

なお、上述したように、背面視において、保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ａは、凹部Ｗ２２４ａに重なる位置に配設される（図７３参照）。これにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断するのと同様、連結片Ｗ５３１ａを切断するために、背面壁部Ｗ５１０及び係合部Ｗ５３０ａの間に切断工具の先端（図示せず）が挿入された場合、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【０７４８】

連結片Ｗ５３１ａは、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂから左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出され、連結片Ｗ５３１ｂは、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂから上下方向へ向けて突出される。これにより、連結片Ｗ５３１ａを切断する場合と連結片Ｗ５３１ｂを切断する場合とで切断工具（図示せず）の向きを変更させる必要が生じる。その結果、不正を行う者が連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断するために要する時間を引き延ばすことができ、不正行為の抑制を図ることができる。

【０７４９】

図７７に示すように、保護カバーＷ５００から係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断されることにより、規制状態が解除され、保護カバーＷ５００が左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位可能とされる。

【０７５０】

このように、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断する際に切断工具の先端（図示せず）で封印シールＷＳＬが破損され易くすることで、例えば、不正に連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断され（係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが分離され）保護カバーＷ５００が取り外された後、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが接着剤により接合された保護カバーＷ

５００が取り付けられた状態であっても、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）により連結片Ｗ５３１ｂが切断されたこと、即ち、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０７５１】

なお、不正を行う者が連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断されていない状態の保護カバーＷ５００を所持し、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断された保護カバーＷ５００に代えて、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断されていない状態の保護カバーＷ５００を取り付けた状態であっても、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）により不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０７５２】

また、不正を行う者が平面部Ｗ２２０（平面部Ｗ３２０）から封印シールＷＳＬを不正に剥がし主制御基板（図示せず）に不正操作を行った後、その剥がした封印シールＷＳＬを平面部Ｗ２２０（平面部Ｗ３２０）に再び貼着することにより封印シールＷＳＬの貼着の解除を作業者（店員）に認識させ難くする場合であっても、不正を行う者による主制御基板への不正操作の虞を封印シールＷＳＬの痕跡（破損）により作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０７５３】

ここで、保護カバーＷ５００と比較して、不正を試みる者が封印シールＷＳＬを不正に入手することや、封印シールＷＳＬを偽造することは困難である。従って、本実施形態のように、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外す際、封印シールＷＳＬを破損させ易く（痕跡を付与し易く）することで主制御基板（図示せず）への不正操作の虞を作業者（店員）に認識させ易くすることが特に有効となる。

【０７５４】

また、基板ボックスＷ１００が内枠１２（図１参照）の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設（軸支）され、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが基板ボックスＷ１００の背面側を構成するボックスカバーＷ２００に形成されるため、内枠１２が開放され内枠１２の背面側が視認可能とされた状態では、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）が視認可能とされる。これにより、例えば、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが基板ボックスＷ１００の正面側（矢印Ｆ方向側）を構成するボックスベースＷ３００（平面部Ｗ３２０）に凹設され、内枠１２に対し基板ボックスＷ１００を回転させることにより封印シールＷＳＬの破損が視認可能とされる場合と比較して、作業者（店員）に封印シールＷＳＬの痕跡（破損）を容易に認識させ易くできる。

【０７５５】

封印シールＷＳＬに痕跡（破損）が無い場合は、封印シールＷＳＬに不正操作が施されていない可能性が高いと判断できる。一方で、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）が有る場合には、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外され、封印シールＷＳＬが剥がされた後に封印シールＷＳＬが再度、貼着された可能性が高いと判断できる。又は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外され、その際に封印シールＷＳＬに痕跡（破損）が形成されたことにより、不正を試みた可能性が高いと判断できる。

【０７５６】

次いで、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封について説明する。ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００が取り外された状態において、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００と封印シールＷＳＬとの貼着を解除する、又は、ボックスカバーＷ２００（平面部Ｗ２２０）及びボックスベースＷ３００（突出部Ｗ３２４）の境界において、封印シールＷＳＬを切断する。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００が開封される。

【０７５７】

ここで、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０に切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が形成され

、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が対向して配設されることにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００が組み合わされた状態では、断面視において、略Ｖ字状の空間が封印シールＷＳＬの貼着面側（矢印Ｒ方向側）に形成される。これにより、切断工具の先端を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させ易くでき、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる（図７６参照）。また、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００を組み合わせることにより、封印シールＷＳＬの貼着面側に空間を容易に形成でき、突出部Ｗ３２４に凹部を形成する場合と比較して、ボックスベースＷ３００の製造コストを低減できる。

【０７５８】

また、切欠き部Ｗ２２６が側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）から平面部Ｗ２２０の先端側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて切欠き部Ｗ３２５とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜して形成され、切欠き部Ｗ３２５が左壁部Ｗ３０２側（矢印Ｒ方向側）から平面部Ｗ３２０の先端側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて切欠き部Ｗ２２６とは反対側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜して形成されることにより、平面部Ｗ２２０及び突出部Ｗ３２４の境界において、平面部Ｗ２２０及び突出部Ｗ３２４と封印シールＷＳＬとの間に非貼着とされる領域が形成される（図７６参照）。その結果、封印シールＷＳＬを切断することにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の係合を解除させ易くできる。

【０７５９】

次いで、図７８（ａ）及び図７８（ｂ）を参照して、本発明の第８実施形態における基板ボックスＷ２１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０７６０】

図７８（ａ）は、第８実施形態における基板ボックスＷ２１００の部分背面図であり、図７８（ｂ）は、図７８（ａ）のＬＸＸＶＩＩＩｂ－ＬＸＸＶＩＩＩｂ線における基板ボックスＷ２１００の部分断面図である。なお、図７８（ａ）では、ボックスカバーＷ２２００の両端壁部Ｗ２２３及び両端突出部Ｗ２２２３ａが破線により図示され、図７８（ｂ）では、保護カバーＷ２５００から係合部Ｗ２５３０ａ，Ｗ２５３０ｂが切断された状態が図示される。

【０７６１】

図７８（ａ）及び図７８（ｂ）に示すように、第８実施形態における基板ボックスＷ２１００の保護カバーＷ２５００では、連結片Ｗ２５３１ｂが背面壁部Ｗ２５１０及び正面壁部Ｗ２５２０に接続される。

【０７６２】

連結片Ｗ２５３１ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における背面壁部Ｗ２５１０及び正面壁部Ｗ２５２０の端縁部から前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる垂下部Ｗ２５３１ｃと、その垂下部Ｗ２５３１ｃの先端から上下方向に延びる平行部Ｗ２５３１ｄとを備え、断面視において略Ｌ字状に形成される。また、第７実施形態における背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０と比較して、背面壁部Ｗ２５１０及び正面壁部Ｗ２５２０の対向間の距離が大きく形成される。

【０７６３】

ボックスカバーＷ２２００の一対の両端壁部Ｗ２２３は、両端壁部Ｗ２２３から背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される両端突出部Ｗ２２２３ａを備え、ボックスベースＷ２３００の一対の両端壁部Ｗ３２１は、両端壁部Ｗ３２１から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される両端突出部Ｗ２３２１ａを備える。

【０７６４】

両端突出部Ｗ２２２３ａの突出長さは、両端壁部Ｗ２２３及び背面壁部Ｗ５１０の対向間の距離と略同等またはやや小さく形成される。また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における両端突出部Ｗ２２２３ａの長さは、両端壁部Ｗ２２３の略１／３に形成され、側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）における両端突出部Ｗ２２２３ａの一端は、側壁部Ｗ２１２に当接して配設される。

【０７６５】
両端突出部Ｗ２３２１ａの突出長さは、両端壁部Ｗ３２１及び正面壁部Ｗ５２０の対向間の距離と略同等またはやや小さく形成される。また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における両端突出部Ｗ２３２１ａの長さは、両端壁部Ｗ３２１の略１／３に形成され、カバー部Ｗ３１２側（矢印Ｒ方向側）における両端突出部Ｗ２３２１ａの一端は、左壁部Ｗ３１２ｂに当接して配設される（図７２参照）。
【０７６６】
これらにより、規制状態においては、両端突出部Ｗ２２２３ａ（両端突出部Ｗ２３２１ａ）及び背面壁部Ｗ５１０（正面壁部Ｗ５２０）が当接することにより、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における保護カバーＷ２５００の変位が規制される。その結果、係合部Ｗ５３０ａ（係合部Ｗ５３０ｂ）と突起Ｗ２２１（突起Ｗ３１２ｃ）との係合が解除されることが抑制される（図７４参照）。
【０７６７】
ボックスカバーＷ２２００及びボックスベースＷ２３００からの保護カバーＷ２５００の取り外しは、連結片Ｗ５３１ａ及び連結片Ｗ２５３１ｂの垂下部Ｗ２５３１ｃが切断工具（図示せず）により切断され、保護カバーＷ２５００から係合部Ｗ２５３０ａ，Ｗ２５３０ｂが分離されることにより行われる。
【０７６８】
左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、保護カバーＷ２５００が両端突出部Ｗ２２２３ａ（両端突出部Ｗ２３２１ａ）よりも側壁部Ｗ２１２（左壁部Ｗ３１２ｂ）とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ変位された状態では、両端突出部Ｗ２２２３ａ（両端突出部Ｗ２３２１ａ）及び背面壁部Ｗ５１０（正面壁部Ｗ５２０）が非当接とされ、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における保護カバーＷ２５００の変位の規制が解除される。
【０７６９】
ここで、連結片Ｗ２５３１ｂに垂下部Ｗ２５３１ｃが形成されることにより、連結片Ｗ２５３１ｂに垂下部Ｗ２５３１ｃが非形成の場合と比較して、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において垂下部Ｗ２５３１ｃに形成される切断部と封印シールＷＳＬとの対向間の距離を小さくできる。これにより、切断工具の先端や（図示せず）、連結片Ｗ２５３１ｂの切断部を封印シールＷＳＬに当接させ易くでき、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。
【０７７０】
また、垂下部Ｗ２５３１ｃに形成される切断部を封印シールＷＳＬに対向させることができ、ボックスカバーＷ２２００及びボックスベースＷ２３００から保護カバーＷ２５００を取り外す際、垂下部Ｗ２５３１ｃに形成される切断部により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。これらにより、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【０７７１】
次いで、図７８（ｃ）を参照して、本発明の第９実施形態における保護カバーＷ３５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【０７７２】
図７８（ｃ）は、第９実施形態における保護カバーＷ３５００の部分断面図であり、図７８（ａ）のＬＸＸＶＩＩＩｂ－ＬＸＸＶＩＩＩｂ線における断面図に対応する。
【０７７３】
図７８（ｃ）に示すように、第９実施形態における保護カバーＷ３５００では、背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と係合部Ｗ３５３０ａ（係合部Ｗ３５３０ｂ）とが略同一面上に形成され、連結片Ｗ３５３１ｂを介して背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と係合部Ｗ３５３０ａ（係合部Ｗ３５３０ｂ）とが連結される。
【０７７４】
連結片Ｗ３５３１ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗ３５３０ａ，Ｗ３５３０ｂ、背面壁部Ｗ３５１０及び正面壁部Ｗ３５２０の端縁部から背面壁部Ｗ３５１

０及び正面壁部Ｗ３５２０の対向側へ向けて延びる一対の垂下部Ｗ３５３１ｃと、一対の垂下部Ｗ３５３１ｃの先端どうしを連結する平行部Ｗ３５３１ｄとを備え、断面視において略コ字状に形成される。

【０７７５】

ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷ３５００の取り外しは（図７８（ｂ）参照）、連結片Ｗ３５３１ｂの平行部Ｗ３５３１ｄが切断工具（図示せず）により切断され、保護カバーＷ３５００から係合部Ｗ３５３０ａ，Ｗ３５３０ｂが分離されることにより行われる。

【０７７６】

背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と係合部Ｗ３５３０ａ（係合部Ｗ３５３０ｂ）とが略同一面上に形成されることにより、背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と係合部Ｗ３５３０ａ（係合部Ｗ３５３０ｂ）との間に段差が形成されることを抑制できる。これにより、保護カバーＷ３５００に指を引っ掛け難くでき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外すことを抑制し易くできる。

【０７７７】

一対の垂下部Ｗ３５３１ｃが形成されることにより、背面壁部Ｗ３５１０（正面壁部Ｗ３５２０）と封印シールＷＳＬとの対向間隔よりも、連結片Ｗ３５３１ｂと封印シールＷＳＬとの対向間隔が小さく形成される（図７８（ｂ）参照）。これにより、切断工具の先端を封印シールＷＳＬに近づけることができ、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０７７８】

次いで、図７９を参照して、本発明の第１０実施形態における基板ボックスＷ４１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０７７９】

図７９（ａ）は、第１０実施形態における基板ボックスＷ４１００の部分背面図であり、図７９（ｂ）は、図７９（ａ）のＬＸＸＩＸｂ－ＬＸＸＩＸｂ線における基板ボックスＷ４１００の部分断面図であり、図７９（ｃ）は、図７９（ａ）のＬＸＸＩＸｃ－ＬＸＸＩＸｃ線における基板ボックスＷ４１００の部分断面図であり、図７９（ｄ）は、図７９（ａ）のＬＸＸＩＸｄ－ＬＸＸＩＸｄ線における基板ボックスＷ４１００の部分断面図である。

【０７８０】

図７９に示すように、第１０実施形態における基板ボックスＷ４１００の保護カバーＷ４５００は、突起Ｗ４５３４を備える。突起Ｗ４５３４は、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂの突出先端において、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向側へ向けて四角錐状に突出して形成される。

【０７８１】

なお、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂに突起Ｗ４５３４が形成されることにより、平面部Ｗ４２２０（平面部Ｗ４３２０）が突起Ｗ４５３４の突出量だけ正面側（背面側）に形成される。これにより、ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００に保護カバーＷ４５００を取り付ける際、突起Ｗ４５３４と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【０７８２】

また、突起Ｗ４５３４が係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂの突出先端に配設されるため、規制状態において、突起Ｗ４５３４は、封印シールＷＳＬよりも側壁部Ｗ２１２側（カバー部Ｗ３１２側）に配設される。

【０７８３】

ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００から保護カバーＷ４５００を

不正に取り外すために、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂを切断せず、係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂを弾性変形させることにより係合部Ｗ４５３０ａ（係合部Ｗ４５３０ｂ）と平面部Ｗ４２２０の突起Ｗ２２１（平面部Ｗ４３２０の突起Ｗ３１２ｃ）との係合を解除することが考えられる。

【０７８４】

本実施形態では、突起Ｗ４５３４が係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向側へ向けて突出して形成されるため、ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００からの保護カバーＷ４５００の取り外しの際、突起Ｗ４５３４及び封印シールＷＳＬを当接させ易くできる。また、突起Ｗ４５３４が四角錐状に形成されるため、突起Ｗ４５３４及び封印シールＷＳＬが当接することにより、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【０７８５】

また、突起Ｗ４５３４が封印シールＷＳＬよりも側壁部Ｗ２１２側（カバー部Ｗ３１２側）に配設されるため、ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００からの保護カバーＷ４５００の取り外しの際、封印シールＷＳＬの貼着面および貼着面に対向する表面を連結する側面に突起Ｗ４５３４を当接させることができる。

【０７８６】

これにより、封印シールＷＳＬの表面に突起Ｗ４５３４が当接され、突起Ｗ４５３４が封印シールＷＳＬの表面を滑りながら（突起Ｗ４５３４が封印シールＷＳＬを破損させないまま）ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００からの保護カバーＷ４５００が取り外される場合と比較して、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【０７８７】

また、突起Ｗ４５３４は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂの両端部に一対が形成される。一対の突起Ｗ４５３４により封印シールＷＳＬが破損された場合、係合部Ｗ４５３０ａ（係合部Ｗ４５３０ｂ）と背面壁部Ｗ５１０（正面壁部Ｗ５２０）との隙間から封印シールＷＳＬの破損を視認させ易くできる。

【０７８８】

これらにより、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０７８９】

また、突起Ｗ４５３４を利用することにより、ボックスカバーＷ４２００及びボックスベースＷ４３００の開封（封印シールＷＳＬの切断）を容易に行うことができる。詳細に説明すると、保護カバーＷ４５００から係合部Ｗ４５３０ａ（係合部Ｗ４５３０ｂ）を分離させ、突起Ｗ４５３４を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させることにより、封印シールＷＳＬを切断し易くできる。

【０７９０】

これにより、切断工具（図示せず）の携行を不要とできる。また、係合部Ｗ４５３０ａ（係合部Ｗ４５３０ｂ）は、保護カバーＷ４５００に対し小さく形成されるため、一対の両端壁部Ｗ２２３や一対の両端壁部Ｗ３２１との干渉を抑制できるので、封印シールＷＳＬの切断作業を容易に行うことができる。その結果、封印シールＷＳＬの切断を好適に行うことができる。

【０７９１】

次いで、図８０（ａ）から図８０（ｃ）を参照して、本発明の第１１実施形態における基板ボックスＷ５１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。また、図８０（ａ）から図８０（ｃ）では、係合孔Ｗ５３３が破線により図示される。また、図８０（ａ）から図８０（ｃ）の説明においては、図７３（ｃ）を適宜参照する。

【０７９２】

図８０（ａ）から図８０（ｃ）は、第１１実施形態における基板ボックスＷ５１００の部分断面図であり、図７３（ｂ）のＬＸＸＸａ－ＬＸＸＸａ線における断面図に対応する

。なお、図８０（ａ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００に保護カバーＷ５５００を取り付けるために係合部Ｗ５５３０ｂが弾性変形された状態が図示され、図８０（ｂ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００から保護カバーＷ５５００を不正に取り外すために係合部Ｗ５５３０ｂが弾性変形され、突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合が解除された状態が図示され、図８０（ｃ）は、図８０（ｂ）における状態から保護カバーＷ５５００が左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位された状態が図示される。

【０７９３】

図８０（ａ）から図８０（ｃ）に示すように、第１１実施形態における基板ボックスＷ５１００のボックスベースＷ５３００は、凹部Ｗ５３２６を備え、保護カバーＷ５５００は、突起Ｗ５５３４を備える。

【０７９４】

なお、係合部Ｗ５５３０ｂに突起Ｗ５５３４が形成されることにより、平面部Ｗ５３２０が突起Ｗ５５３４の突出量だけ背面側に形成される。これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００に保護カバーＷ５５００を取り付ける際、突起Ｗ５５３４と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【０７９５】

凹部Ｗ５３２６は、封印シールＷＳＬの貼着面と平面部Ｗ５２２０との間に空間を形成させるための部位であり、平面部Ｗ５３２０の正面に凹設される。凹部Ｗ５３２６は、規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成され、右方側（矢印Ｒ方向側）における凹部Ｗ５３２６の内側面は、突起Ｗ５５３４よりも右方側に配設される。

【０７９６】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹部Ｗ５３２６の長さは、ボックスベースＷ５３００の突起Ｗ３１２ｃの左右方向における寸法よりも大きく形成され、係合孔Ｗ５３３が突起Ｗ３１２ｃよりも左方側（矢印Ｌ方向側）となる位置まで保護カバーＷ５５００が左方側へ向けて変位された状態においても、左方側における凹部Ｗ５３２６の内側面は、突起Ｗ５５３４よりも左方側に配設される。

【０７９７】

突起Ｗ５５３４は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００から保護カバーＷ５５００を不正に取り外すために係合部Ｗ５５３０ｂを弾性変形させた際、封印シールＷＳＬを破損させるための突起であり、封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出して形成される。

【０７９８】

即ち、突起Ｗ５５３４が箱状に形成される保護カバーＷ５５００の内側へ向けて突出されるため、基板ボックスＷ５１００や保護カバーＷ５５００の製造作業や運搬作業等において、作業者（店員）が突起Ｗ５５３４に接触し、負傷することを抑制できる。

【０７９９】

突起Ｗ５５３４は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗ５５３０ｂの両端側に一対が形成される。これにより、係合部Ｗ５５３０ｂと正面壁部Ｗ５２０との隙間から封印シールＷＳＬの破損を視認させ易くできる（図７３（ｃ）参照）。

【０８００】

次いで、図８０（ｂ）を参照して、係合部Ｗ５５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて不正に弾性変形された状態について説明する。図８０（ｂ）に示すように、突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるため、係合部Ｗ５５３０ｂが不正に突起Ｗ３１２ｃの突出寸法よりも大きく封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形された状態では、一対の突起Ｗ５５３４の先端が凹部Ｗ５３２６により形成される空間に配設され、一対の突起Ｗ５５３４により封印シールＷＳＬが破損される。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０８０１】
図８０（ｃ）は、図８０（ｂ）における状態から係合部Ｗ５５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて不正に弾性変形された状態を維持しつつ保護カバーＷ５５００を左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させ、係合孔Ｗ５３３が突起Ｗ３１２ｃよりも左方側に位置した状態（係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合が解除された状態）が図示される。
【０８０２】
上述したように、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹部Ｗ５３２６の長さは、突起Ｗ３１２ｃの寸法よりも大きく形成されるため、係合孔Ｗ５３３が突起Ｗ３１２ｃよりも左方側（矢印Ｌ方向側）となる位置まで保護カバーＷ５５００が左方側へ向けて変位された状態においても、凹部Ｗ５３２６により形成される空間に一対の突起Ｗ５５３４の先端を配設させることができる。これにより、封印シールＷＳＬが破損される領域を大きくでき、封印シールＷＳＬの破損を作業者（店員）に認識させ易くできる。
【０８０３】
このように、係合部Ｗ５５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断することなく、係合部Ｗ５５３０ｂを弾性変形させて係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合を解除させる場合には、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）が付与され易くできる。
【０８０４】
次いで、図８０（ｄ）を参照して、本発明の第１２実施形態における基板ボックスＷ６１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。また、図８０（ｄ）では、係合孔Ｗ５３３が破線により図示される。
【０８０５】
図８０（ｄ）は、第１２実施形態における基板ボックスＷ６１００の部分断面図であり、図７３（ｂ）のＬＸＸＸａ－ＬＸＸＸａ線における断面図に対応する。なお、図８０（ｄ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００を不正に取り外すために係合部Ｗ５５３０ｂが弾性変形され、突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合が解除された状態が図示される。
【０８０６】
図８０（ｄ）に示すように、第１２実施形態における基板ボックスＷ６１００のボックスベースＷ６３００は、凹部Ｗ６３２６を備える。凹部Ｗ６３２６は、第１１実施形態における凹部Ｗ５３２６と比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹設寸法が短く形成される。なお、本実施形態では、凹部Ｗ６３２６の凹設形状は、保護カバーＷ５５００の突起Ｗ５５３４の外形と略同一に形成される。また、凹部Ｗ６３２６は、規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される。
【０８０７】
これらにより、係合部Ｗ５５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて不正に弾性変形された状態では、突起Ｗ５５３４の先端が凹部Ｗ６３２６により形成される空間に配設され、突起Ｗ５５３４が凹部Ｗ６３２６の内側に当接することにより、保護カバーＷ５５００の左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けての変位が規制される。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００が不正に取り外されることを抑制できる。
【０８０８】
また、係合部Ｗ５５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて不正に弾性変形された状態では、一対の突起Ｗ５５３４の先端が凹部Ｗ６３２６により形成される空間に配設され、一対の突起Ｗ５５３４により封印シールＷＳＬが破損される。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【０８０９】
次いで、図８１を参照して、本発明の第１３実施形態における基板ボックスＷ７１００

について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０８１０】

図８１（ａ）は、第１３実施形態における基板ボックスＷ７１００の部分背面図であり、図８１（ｂ）は、図８１（ａ）のＬＸＸＸＩｂ－ＬＸＸＸＬｂ線における基板ボックスＷ７１００の部分断面図である。なお、図８１（ａ）では、一対の締結孔Ｗ７２２５が破線により図示される。

【０８１１】

図８１に示すように、第１３実施形態における基板ボックスＷ７１００の平面部Ｗ７２２０及び平面部Ｗ７３２０には、一対の締結孔Ｗ７２２５及び一対の締結孔Ｗ７３２２が保護カバーＷ５００の連結片Ｗ５３１ｂと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される。即ち、一対の締結孔Ｗ７３２２は、封印シールＷＳＬを介して係合部Ｗ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ｂと対向して封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて穿設される。

【０８１２】

締結孔Ｗ７３２２は、背面視において、円状に形成され、締結孔Ｗ７３２２の直径は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも大きく形成される。

【０８１３】

これらにより、ボックスカバーＷ７２００及びボックスベースＷ７３００を締結させるねじと封印シールＷＳＬとの間に空間を形成でき、連結片Ｗ５３１ｂを切断するために背面壁部Ｗ５１０及び係合部Ｗ５３０ａの間に切断工具の先端（図示せず）が挿入された場合、切断工具の先端を締結孔Ｗ７３２２に受け入れ可能とできる。その結果、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くでき、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０８１４】

締結孔Ｗ７３２２を利用して（切断工具の先端を締結孔Ｗ７３２２に受け入れ可能として）ボックスカバーＷ７２００及びボックスベースＷ７３００を締結するためのねじに対応する位置に封印シールＷＳＬの痕跡（破損）が形成されるため、封印シールＷＳＬによりボックスカバーＷ７２００及びボックスベースＷ７３００を締結するためのねじが遮蔽される場合であっても、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）に基づいてかかるねじの位置を把握できる。これにより、ねじの締結を解除する作業の作業性を向上できる。

【０８１５】

また、ボックスカバーＷ７２００及びボックスベースＷ７３００を締結するためのねじを挿通させるための機能と、切断工具の先端（図示せず）を配設させるための空間を形成するための機能とを一対の締結孔Ｗ７２２５に兼用させることができる。これにより、平面部Ｗ７２２０に凹部Ｗ２２４ｂ（図７２参照）を形成することを抑制でき、製造コストを低減できる。

【０８１６】

次いで、図８２（ａ）を参照して、本発明の第１４実施形態における保護カバーＷ８５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０８１７】

図８２（ａ）は、第１４実施形態における基板ボックスＷ８１００の部分断面図であり、図７６（ａ）のＬＸＸＩＩａ部における断面に対応する。

【０８１８】

図８２（ａ）に示すように、第１４実施形態における保護カバーＷ８５００の連結片Ｗ８５３１ｂは、断面視において平行四辺形に形成される。本実施形態では、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し傾斜して形成される。

【０８１９】

詳細には、封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｂ方向側）から封印シールＷＳＬ側（矢

印Ｆ方向側）へ向かうにつれて右方側（矢印Ｒ方向側）に傾斜して形成される。なお、封印シールＷＳＬとは反対側から封印シールＷＳＬ側へ向かうにつれて左方側（矢印Ｌ方向側）に傾斜して形成されても良い。

【０８２０】

これにより、切断工具（図示せず）を用いて連結片Ｗ８５３１ｂを切断する際、封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｂ方向側）から封印シールＷＳＬ側（矢印Ｆ方向側）へ向かう方向に対し右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて切断工具の先端を回転させ易くできる。その結果、切断工具の先端を凹部Ｗ２２４ｂに受け入れ可能とでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。従って、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０８２１】

次いで、図８２（ｂ）及び図８２（ｃ）を参照して、本発明の第１５実施形態における保護カバーＷ９５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０８２２】

図８２（ｂ）は、第１５実施形態における基板ボックスＷ９１００の部分背面図であり、図８２（ｃ）は、図８２（ｂ）のＬＸＸＸＩＩｃ－ＬＸＸＸＩＩｃ線における基板ボックスＷ９１００の部分断面図である。

【０８２３】

図８２（ｂ）及び図８２（ｃ）に示すように、第１５実施形態における保護カバーＷ９５００の連結片Ｗ９５３１ｂは、断面視において前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延び縦長略矩形に形成される第１部Ｗ９５３１ｂ１と、その第１部Ｗ９５３１ｂ１の係合部Ｗ５３０ａ及びリブ部Ｗ５１１（連結部Ｗ５１２）側の端部に配設され、リブ部Ｗ５１１（連結部Ｗ５１２）の延びる方向に沿って延び、断面視において、横長略矩形に形成される第２部Ｗ９５３１ｂ２とを備える。

【０８２４】

第１部Ｗ９５３１ｂ１は、第２部Ｗ９５３１ｂ２の延びる方向における略中央に配設される。第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の封印シールＷＳＬとは反対側に形成される面は、略同一面上に配設され、第１部Ｗ９５３１ｂ１と封印シールＷＳＬとの間の対向間隔よりも第２部Ｗ９５３１ｂ２と封印シールＷＳＬとの間の対向間隔が小さくされる。

【０８２５】

これにより、切断工具（図示せず）により第１部Ｗ９５３１ｂ１を切断する際、切断工具の先端を凹部Ｗ２２４ｂにより形成される空間に受け入れさせ易くでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。従って、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【０８２６】

また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、第１部Ｗ９５３１ｂ１は、第２部Ｗ９５３１ｂ２よりも小さく形成される。これにより、第２部Ｗ９５３１ｂ２よりも第１部Ｗ９５３１ｂ１を切断し易くできる。

【０８２７】

なお、断面視において、第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の断面積は、略同一に形成される。これにより、保護カバーＷ９５００を樹脂金型により成形する際には、第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の断面積の相違を抑制でき、保護カバーＷ９５００（連結片Ｗ９５３１ｂ）の成形性を確保できる。

【０８２８】

次いで、図８３を参照して、本発明の第１６実施形態における基板ボックスＷａ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０８２９】

図８３（ａ）及び図８３（ｃ）は、第１６実施形態における基板ボックスＷａ１００の部分断面図であり、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線における断面に対応する。図８３（ｂ）は、図８３（ａ）のＬＸＸＸＩＩＩｃ－ＬＸＸＸＩＩＩｃ線における基板ボックスＷａ１００の部分断面図である。なお、図８３（ｃ）は、図８３（ａ）における状態から保護カバーＷａ５００が左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位された状態が図示される。また、図８３の説明においては、図７３を適宜参照する。

【０８３０】

図８３（ａ）及び図８３（ｂ）に示すように、第１６実施形態における基板ボックスＷａ１００の保護カバーＷａ５００は、その保護カバーＷａ５００の左壁部Ｗ５０２の内側面から突出される切断部Ｗａ５５０を備える。切断部Ｗａ５５０は、封印シールＷＳＬを切断するための部位である。

【０８３１】

切断部Ｗａ５５０が左壁部Ｗ５０２の内側面から突出されることにより、保護カバーＷａ５００（の左壁部Ｗ５０２）の強度を向上できる。これにより、保護カバーＷａ５００を破損させ難くできる。

【０８３２】

切断部Ｗａ５５０の突出量は、規制状態における左壁部Ｗ５０２と封印シールＷＳＬとの対向間の距離よりも小さく形成される。これにより、規制状態において、切断部Ｗａ５５０が封印シールＷＳＬを切断することを抑制できる。

【０８３３】

切断部Ｗａ５５０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０に形成される切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向して配設される。上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における切断部Ｗａ５５０の寸法は、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１の対向間の距離よりもやや小さく形成され、上下方向における封印シールＷＳＬの両端の間の距離よりも大きく形成される。

【０８３４】

また、切断部Ｗａ５５０は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における左壁部Ｗ５０２の略中央から背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ偏った位置に配設される。これにより、例えば、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）で保護カバーＷａ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた場合、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向して配設されることを抑制できる。従って、切断部Ｗａ５５０の機能を奏することを抑制できる。

【０８３５】

切断部Ｗａ５５０は、保護カバーＷａ５００の内側面から切断部Ｗａ５５０の突出先端側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における寸法が小さく形成される。また、切断部Ｗａ５５０の突出先端側（矢印Ｒ方向側）は、図８３（ｂ）に示す断面視において、鋸刃状に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に屈曲を繰り返して形成される。これらにより、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に形成される空間へ向けて切断部Ｗａ５５０が変位されることで、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【０８３６】

図８３（ａ）に示すように、保護カバーＷａ５００の背面壁部Ｗａ５１０及び正面壁部Ｗａ５２０は、第７実施形態における保護カバーＷ５００の背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０と比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法が小さく形成される。これにより、規制状態において、背面壁部Ｗａ５１０の右方側（矢印Ｒ方向側）の端部および正面壁部Ｗａ５２０の右方側の端部とボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２及びボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２との間には隙間が形成される（図７３（ｂ）及び図７３（ｄ）参照）。かかる隙間は、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状において、封印シールＷＳＬとは反対側に形成される凹部と封印シールＷＳＬとの間の距離よりも大きく形成される。

【０８３７】
一方で、係合部Ｗ５３０ａの右方側（矢印Ｒ方向側）の端部がボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２に当接される。これにより、保護カバーＷａ５００の右方側への変位が規制され、規制状態が維持される。なお、係合部Ｗ５３０ｂの右方側（矢印Ｒ方向側）の端部がボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２に当接されることにより（図７４参照）、保護カバーＷａ５００の右方側への変位が規制されても良い。
【０８３８】
次いで、図８３（ｃ）を参照して、切断部Ｗａ５５０による封印シールＷＳＬの切断について説明する。図８３（ｃ）に示すように、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断されることにより（図７５参照）、保護カバーＷａ５００は、封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側、図６８参照）へ向けて変位可能とされる。保護カバーＷａ５００を封印ユニットＷ４００側へ向けて変位させることにより、切断部Ｗａ５５０は、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に受け入れ可能とされ、切断部Ｗａ５５０により封印シールＷＳＬが切断される。
【０８３９】
ここで、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１と背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０とが当接されることにより、保護カバーＷａ５００が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位されることを抑制できる。従って、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向された状態を維持でき、切断部Ｗａ５５０による封印シールＷＳＬの切断が容易とされる。
【０８４０】
本実施形態では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷａ５００を取り外すために係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂを切断する作業と保護カバーＷａ５００を封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側、図６８参照）へ向けて変位可能とさせる作業とを別々に行う必要がなく、一連の作業として効率的に行うことができる。
【０８４１】
上述したように、規制状態において、背面壁部Ｗａ５１０の右方側（矢印Ｒ方向側）の端部および正面壁部Ｗａ５２０の右方側の端部とボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２及びボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２との間に形成される隙間は、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状において、封印シールＷＳＬとは反対側に形成される凹部と封印シールＷＳＬとの間の距離よりも大きく形成されるため、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状の全体を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に受け入れ可能とできる。これにより、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの両端の間において封印シールＷＳＬが切断され、封印シールＷＳＬが平面部Ｗ２２０側と平面部Ｗ３２０側とに分離される。
【０８４２】
また、保護カバーＷａ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、背面壁部Ｗａ５１０の右方側（矢印Ｒ方向側）の端部および正面壁部Ｗａ５２０の右方側の端部とボックスカバーＷ２００の側壁部Ｗ２１２及びボックスベースＷ３００の左壁部Ｗ３０２とが当接される（図７４参照）。これにより、保護カバーＷａ５００の右方側へ向けての変位が規制される。
【０８４３】
なお、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に当接されることにより、保護カバーＷａ５００の右方側へ向けての変位が規制されても良い。この場合、切断部Ｗａ５５０により切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に封印シールＷＳＬを貼着させることができる。言い換えると、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５から封印シールＷＳＬを剥がしにくくできる。これにより、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５から封印シールＷＳＬを剥がす際、封印シールＷＳＬを破損させ易くでき、封印シールＷＳＬの痕跡（破損）を作業者（店員）に認識させ易くできる。
【０８４４】

本実施形態では、保護カバーＷａ５００を側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより封印シールＷＳＬを容易に切断できる。これにより、例えば、作業者（店員）が切断工具を所持していない場合であっても、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封作業を容易に行うことができる。

【０８４５】

切断部Ｗａ５５０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０に形成される切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向して配設されるため、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が遮蔽された状態であっても、切断部Ｗａ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させ易くできる。

【０８４６】

切断部Ｗａ５５０は、左壁部Ｗ５０２の内側面から突出されるため、箱状に形成される保護カバーＷａ５００から露出されることを抑制できる。これにより、封印シールＷＳＬの切断作業、基板ボックスＷａ１００や保護カバーＷａ５００の製造作業や運搬作業等において、作業者（店員）が切断部Ｗａ５５０に接触し、負傷することを抑制できる。

【０８４７】

また、切断部Ｗａ５５０は、左壁部Ｗ５０２の内側面から突出されるため、切断部Ｗａ５５０は、保護カバーＷａ５００と比較して小さく形成される。言い換えると、保護カバーＷａ５００は、切断部Ｗａ５５０と比較して大きく形成される。従って、作業者（店員）は、保護カバーＷａ５００を把持することにより切断部Ｗａ５５０を用いて封印シールＷＳＬを切断でき、切断作業を容易に行える。

【０８４８】

保護カバーＷａ５００（切断部Ｗａ５５０）は、樹脂材料を素材とし、樹脂成形型を用いて成形されるため、例えば、金属材料を用いて鋭利に形成される切断工具と比較して封印シールＷＳＬの切断性が低い。これに対し、封印シールＷＳＬの貼着面側に切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５による空間が形成されるため、切断部Ｗａ５５０の切断性が低い場合であっても、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【０８４９】

次いで、図８４及び図８５を参照して、本発明の第１７実施形態における基板ボックスＷｂ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０８５０】

図８４（ａ）は、第１７実施形態における基板ボックスＷｂ１００の保護カバーＷｂ５００の正面図であり、図８４（ｂ）は、図８４（ａ）の矢印ＬＸＸＸＩＶｂ方向視における保護カバーＷｂ５００の側面図であり、図８４（ｃ）は、図８４（ｂ）の矢印ＬＸＸＸＩＶｃ方向視における保護カバーＷｂ５００の背面図である。図８５（ａ）は、基板ボックスＷｂ１００の背面図であり、図８５（ｂ）は、図８５（ａ）の矢印ＬＸＸＸＶｂ方向視における基板ボックスＷｂ１００の側面図であり、図８５（ｃ）は、図８５（ｂ）のＬＸＸＸＶｃ－ＬＸＸＸＶｃ線における基板ボックスＷｂ１００の部分断面図である。

【０８５１】

なお、図８４及び図８５では、係合部Ｗｂ５３０ａ，Ｗｂ５３０ｂが保護カバーＷｂ５００から切断された状態が図示される。また、図８４では、係合部Ｗｂ５３０ａ，Ｗｂ５３０ｂが二点鎖線により図示され、図８５（ｂ）では、切断部Ｗｂ５５０及びガイド部Ｗｂ５６０が破線により図示される。また、保護カバーＷｂ５００から係合部Ｗｂ５３０ａ，Ｗｂ５３０ｂが切断されることにより、保護カバーＷｂ５００に形成される空間をそれぞれ空間ＷＳ１，ＷＳ２と定義する。

【０８５２】

図８４に示すように、第１７実施形態における基板ボックスＷｂ１００の保護カバーＷｂ５００は、背面壁部Ｗ５１０に連結される係合部Ｗｂ５３０ａ及び切断部Ｗｂ５５０と、正面壁部Ｗ５２０に連結される係合部Ｗｂ５３０ｂ及びガイド部Ｗｂ５６０とをを備える。

【０８５３】
係合部Ｗｂ５３０ａは、逃がし部Ｗｂ５３４ａを備える。逃がし部Ｗｂ５３４ａは、係合部Ｗｂ５３０ａと切断部Ｗｂ５５０との当接を抑制するための部位であり、背面視において、切断部Ｗｂ５５０に重なる位置において係合部Ｗｂ５３０ａの上面から下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて凹設される。
【０８５４】
逃がし部Ｗｂ５３４ａの底面（下方側に形成される面）は、後述する切断部Ｗｂ５５０の刃部Ｗｂ５５２よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における逃がし部Ｗｂ５３４ａの側面は、後述する切断部Ｗｂ５５０の支持部Ｗｂ５５１及び刃部Ｗｂ５５２よりも左右方向両端側に形成される。これにより、係合部Ｗｂ５３０ａと切断部Ｗｂ５５０との当接が抑制される。
【０８５５】
係合部Ｗｂ５３０ａが切断される前の状態において、逃がし部Ｗｂ５３４ａは、切断部Ｗｂ５５０を取り囲んで形成される。これにより、作業者（店員）が切断部Ｗａ５５０に接触し、負傷することを抑制できる。
【０８５６】
切断部Ｗｂ５５０は、封印シールＷＳＬを切断するための部位であり、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設されるリブ部Ｗ５１１から係合部Ｗｂ５３０ａ側（矢印Ｄ方向側）へ向けて突出される支持部Ｗｂ５５１と、その支持部Ｗｂ５５１の突出先端部から係合部Ｗｂ５３０ａの先端側（矢印Ｒ方向側）へ向けて突出される刃部Ｗｂ５５２とを備える。
【０８５７】
支持部Ｗｂ５５１は、リブ部Ｗ５１１と刃部Ｗｂ５５２との間に所定の間隔を設けて刃部Ｗｂ５５２を支持するための部位である。刃部Ｗｂ５５２は、支持部Ｗｂ５５１に支持され円柱状に形成される基部とその基部の突出先端部において、円錐状に形成される先端部とを備える。先端部が円錐状に形成されることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。
【０８５８】
なお、切断部Ｗｂ５５０は、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されるリブ部Ｗ５１１から係合部Ｗｂ５３０ａ側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出され、逃がし部Ｗｂ５３４ａは、係合部Ｗｂ５３０ａの下面から上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて凹設されても良い。
【０８５９】
係合部Ｗｂ５３０ｂは、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される一対のリブ部Ｗ５２１及び連結部Ｗ５２２に連結され、逃がし部Ｗｂ５３４ｂを備える。逃がし部Ｗｂ５３４ｂは、係合部Ｗｂ５３０ｂとガイド部Ｗｂ５６０との当接を抑制するための部位であり、正面視において、ガイド部Ｗｂ５６０に重なる位置において係合部Ｗｂ５３０ｂの下面から上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて凹設される。
【０８６０】
逃がし部Ｗｂ５３４ｂの底面（上方側に形成される面）は、ガイド部Ｗｂ５６０の突出先端部よりも上方側（矢印Ｕ方向側）に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における逃がし部Ｗｂ５３４ｂの側面は、ガイド部Ｗｂ５６０の左右方向における側面よりも左右方向両端側に形成される。これにより、係合部Ｗｂ５３０ｂとガイド部Ｗｂ５６０との当接が抑制される。
【０８６１】
また、逃がし部Ｗｂ５３４ｂが形成されることにより、係合部Ｗｂ５３０ｂが保護カバーＷｂ５００から分離された状態では、係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合を解除させるため（図７３参照）、係合部Ｗｂ５３０ｂを変位させる際の係合部Ｗｂ５３０ｂとガイド部Ｗｂ５６０との当接を抑制させ易くでき、ボックスベースＷｂ３００からの係合部Ｗｂ５３０ｂの取り外しを容易とできる。
【０８６２】
ガイド部Ｗｂ５６０は、切断部Ｗｂ５５０により封印シールＷＳＬを切断する際、保護

カバーＷｂ５００の姿勢を維持させるための部位であり、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される一対のリブ部Ｗ５２１のうちの下方側（矢印Ｄ方向側）に配設されるリブ部Ｗ５２１から上方側へ向けて突出される。ガイド部Ｗｂ５６０は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、切断部Ｗｂ５５０の刃部Ｗｂ５５２先端部よりも左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される。

【０８６３】

なお、ガイド部Ｗｂ５６０は、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される一対のリブ部Ｗ５２１のうちの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設されるリブ部Ｗ５２１から下方側へ向けて突出され、係合部Ｗｂ５３０ｂは、逃がし部Ｗｂ５３４ｂは、下方側に配設される一対のリブ部Ｗ５２１及び連結部Ｗ５２２に連結される係合部Ｗｂ５３０ｂの上面から下方側へ向けて凹設されても良い。

【０８６４】

次いで、図８５を参照して、保護カバーＷｂ５００（切断部Ｗｂ５５０）による封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、本実施形態では、ボックスベースＷｂ３００の突出部Ｗｂ３２４の突出長さが第７実施形態における突出部Ｗ３２４の突出長さよりも小さく形成され、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０の対向する側の面とは反対側の面どうしの間隔が小さく形成される。また、平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０には、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１（図７２参照）が非形成とされる。

【０８６５】

図８５は、係合部Ｗｂ５３０ａ，Ｗｂ５３０ｂが切断されて空間ＷＳ１，ＷＳ２が形成された保護カバーＷｂ５００を矢印ＬＸＸＸＶｂ方向視において、反時計回りに回転させ、空間ＷＳ１，ＷＳ２に平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０が配設され、切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に刃部Ｗｂ５５２が配設された状態が図示される。

【０８６６】

このように、本実施形態では、保護カバーＷｂ５００は、切断部Ｗｂ５５０を備えるため、作業者（店員）が切断工具を所持していない場合であっても、ボックスカバーＷｂ２００及びボックスベースＷｂ３００の開封作業を容易に行うことができる。

【０８６７】

切断部Ｗｂ５５０は、空間ＷＳ１に配設されることにより、視認可能とされる。これにより、切断部Ｗｂ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設し易くでき、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【０８６８】

また、空間ＷＳ２に平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０が配設されることにより、ガイド部Ｗｂ５６０と突出部Ｗ３２４とを当接させることができる。これにより、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回転軸として保護カバーＷｂ５００が回転されることを抑制でき、切断部Ｗｂ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設し易くできる。

【０８６９】

切断部Ｗｂ５５０は、保護カバーＷｂ５００のリブ部Ｗ５１１から突出されるため、切断部Ｗｂ５５０は、保護カバーＷｂ５００と比較して小さく形成される。言い換えると、保護カバーＷｂ５００は、切断部Ｗｂ５５０と比較して大きく形成される。従って、作業者（店員）は、保護カバーＷｂ５００を把持することにより切断部Ｗｂ５５０を用いて封印シールＷＳＬを切断でき、切断作業を容易に行える。

【０８７０】

次いで、図８６を参照して、本発明の第１８実施形態における基板ボックスＷｃ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０８７１】

図８６（ａ）は、第１８実施形態における基板ボックスＷｃ１００の保護カバーＷｃ５００の側面図であり、図８６（ｂ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線に

おける基板ボックスＷｃ１００の部分断面図である。なお、図８６（ｂ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｂ３００から取り外された保護カバーＷｃ５００を用いて封印シールＷＳＬを切断する状態が図示される。

【０８７２】

図８６（ａ）に示すように、第１８実施形態における基板ボックスＷｃ１００の保護カバーＷｃ５００は、切断部Ｗｃ５５０を備える。切断部Ｗｃ５５０は、封印シールＷＳＬを切断するための部位であり、立設部Ｗｃ５４０の下方側（矢印Ｄ方向側）の端部において背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成される。

【０８７３】

保護カバーＷｃ５００の下壁部Ｗ５０１に対する立設部Ｗｃ５４０の下壁部Ｗ５０１とは反対側（矢印Ｄ方向側）への立設長さは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０の背面と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成される。

【０８７４】

次いで、図８６（ｂ）を参照して、保護カバーＷｃ５００（切断部Ｗｃ５５０）による封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、図８６（ｂ）では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から取り外された保護カバーＷｃ５００の姿勢が変更された状態とされる。詳細には、切断部Ｗｃ５５０（立設部Ｗｃ５４０）が左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かう姿勢とされる。

【０８７５】

保護カバーＷｃ５００は、切断部Ｗｃ５５０を備えるため、作業者（店員）が切断工具を所持していない場合であっても、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封作業を容易に行うことができる。

【０８７６】

上述したように、下壁部Ｗ５０１に対する立設部Ｗｃ５４０の下壁部Ｗ５０１とは反対側（矢印Ｄ方向側）への立設長さは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０の背面と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬを介して下壁部Ｗ５０１を平面部Ｗ２２０に当接させることにより、切断部Ｗｃ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に対向させることができる。言い換えると、切断部Ｗｃ５５０の位置と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間の位置とが前後方向において略同一となる。

【０８７７】

これにより、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が遮蔽された状態であっても、切断部Ｗｃ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させ易くできる。下壁部Ｗ５０１と平面部Ｗ２２０との当接を維持しつつ、保護カバーＷｃ５００を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へスライド変位させることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【０８７８】

切断部Ｗｃ５５０は、保護カバーＷｃ５００の立設部Ｗｃ５４０から突出されるため、切断部Ｗｃ５５０は、保護カバーＷｃ５００と比較して小さく形成される。言い換えると、保護カバーＷｃ５００は、切断部Ｗｃ５５０と比較して大きく形成される。従って、作業者（店員）は、保護カバーＷｃ５００を把持することにより切断部Ｗｃ５５０を用いて封印シールＷＳＬを切断でき、切断作業を容易に行える。

【０８７９】

次いで、図８７を参照して、本発明の第１９実施形態における基板ボックスＷｄ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０８８０】

図８７（ａ）は、第１９実施形態における基板ボックスＷｄ１００の保護カバーＷｄ５００の正面図であり、図８７（ｂ）は、図８７（ａ）の矢印ＬＸＸＸＶＩＩｂ方向視における保護カバーＷｄ５００の側面図であり、図８７（ｃ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線における基板ボックスＷｄ１００の部分断面図である。なお、図８７（ｂ）は、切断された係合部Ｗｄ５３０ａが立設部Ｗｄ５４０に取り付けられた状態が図示され、図８７（ｃ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｂ３００から取り外された保護カバーＷｄ５００を用いて封印シールＷＳＬを切断する状態が図示される。

【０８８１】

図８７（ａ）及び図８７（ｂ）に示すように、第１９実施形態における基板ボックスＷｄ１００の保護カバーＷｄ５００は、ガイド部Ｗｄ５６０を備える。立設部Ｗｄ５４０は、左壁部Ｗ５０２の板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、下壁部Ｗ５０１の略中央となる位置に配設される。

【０８８２】

左壁部Ｗ５０２の板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における立設部Ｗｄ５４０の寸法は、下壁部Ｗ５０１の板厚方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗｄ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の寸法と略同一またはやや小さく形成される。また、背面壁部Ｗ５１０と正面壁部Ｗ５２０との対向方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における立設部Ｗｄ５４０の寸法は、左壁部Ｗ５０２の板厚方向における係合孔Ｗ５３３の内側面どうしの寸法と略同一またはやや小さく形成される。これらにより、図８７（ｂ）に示すように、立設部Ｗｄ５４０を係合孔Ｗ５３３に嵌合（係合）でき、保護カバーＷｄ５００から切断された係合部Ｗｄ５３０ａを保護カバーＷｄ５００に取り付ける（保持する）ことができる。

【０８８３】

なお、左壁部Ｗ５０２の板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における立設部Ｗｄ５４０の寸法が下壁部Ｗ５０１の板厚方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における係合部Ｗｄ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の寸法よりもやや大きく形成され、背面壁部Ｗ５１０と正面壁部Ｗ５２０との対向方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における立設部Ｗｄ５４０の寸法が左壁部Ｗ５０２の板厚方向における係合孔Ｗ５３３の内側面どうしの寸法よりもやや大きく形成されても良い。立設部Ｗｄ５４０を弾性変形させつつ立設部Ｗｄ５４０と係合孔Ｗ５３３とが係合されることにより、保護カバーＷｄ５００から係合部Ｗｄ５３０ａが外れることを抑制できる。また、保護カバーＷｄ５００に係合部Ｗｄ５３０ａが取り付けられた状態において、保護カバーＷｄ５００に対する係合部Ｗｄ５３０ａの姿勢が変化させることを抑制できる。その結果、係合部Ｗｄ５３０ａを用いて封印シールＷＳＬを切断することを容易に行える。

【０８８４】

立設部Ｗｄ５４０に正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）で保護カバーＷ５００がボックスカバーＷｂ２００及びボックスベースＷｂ３００に取り付けられることを抑制する機能と係合部Ｗｄ５３０ａを取り付ける（保持する）機能とを兼用させることができ、これらの機能を備えた部位がそれぞれ保護カバーＷｄ５００に配設される場合と比較して保護カバーＷｄ５００の製造コストを低減できる。また、係合部Ｗｄ５３０ａの取り付け部（保持部）を簡素化できる。また、保護カバーＷｄ５００の外面に配設される部位を低減させることができ、保護カバーＷｄ５００の配設の自由度を向上させることができる。

【０８８５】

背面壁部Ｗ５１０には連結部Ｗ５１２が非形成とされ（図７２参照）、係合部Ｗｄ５３０ａの連結片Ｗ５３１ａが左壁部Ｗ５０２に連結される。また、連結部Ｗ５１２が非形成とされることにより、第７実施形態における係合部Ｗ５３０ａと比較して（図７３参照）、左壁部Ｗ５０２の板厚方向における係合部Ｗｄ５３０ａの寸法が大きく形成される。本実施形態では、連結片Ｗ５３１ａ側（矢印Ｌ方向側）における係合孔Ｗ５３３の内側面と連結片Ｗ５３１ａと間の距離が、正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）における立設部Ｗｄ５４０の正面と背面壁部Ｗ５１０とは反対側に形成される正面壁部Ｗ５２０の正面との

間の距離よりも大きく形成される。
【０８８６】
これにより、係合部Ｗｄ５３０ａを保護カバーＷｄ５００に取り付けた状態において、連結片Ｗ５３１ａの切断面を正面壁部Ｗ５２０よりも背面壁部Ｗ５１０とは反対側へ配設できる。
【０８８７】
ガイド部Ｗｄ５６０は、保護カバーＷｄ５００（係合部Ｗｄ５３０ａ）を用いて封印シールＷＳＬを切断する際、平面部Ｗ２２０の切欠き部Ｗ２２６及び平面部Ｗ３２０の切欠き部Ｗ３２５により形成される空間に係合部Ｗｄ５３０ａの連結片Ｗ５３１ａを配設させ易くするための部位である。ガイド部Ｗｄ５６０は、板状に形成され、そのガイド部Ｗｄ５６０の板厚方向を左壁部Ｗ５０２の板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿わせた姿勢で配設される。
【０８８８】
ガイド部Ｗｄ５６０における下壁部Ｗ５０１側（矢印Ｄ方向側）に形成されるガイド面Ｗｄ５６１と下壁部Ｗ５０１の外側面との間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０の背面と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成される（図８７（ｃ）参照）。
【０８８９】
次いで、図８７（ｃ）を参照して、保護カバーＷｄ５００（係合部Ｗｄ５３０ａ）による封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、図８７（ｃ）では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｂ３００から取り外された保護カバーＷｄ５００の姿勢が変更された状態とされる。詳細には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において正面壁部Ｗ５２０がボックスベースＷ３００の突出部Ｗ３２４に対向した姿勢とされる。
【０８９０】
上述したように、ガイド部Ｗｄ５６０における下壁部Ｗ５０１側（矢印Ｄ方向側）に形成されるガイド面Ｗｄ５６１と下壁部Ｗ５０１の外側面との間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスカバーＷ２００の平面部Ｗ２２０の背面と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬを介してガイド部Ｗｄ５６０のガイド面Ｗｄ５６１を平面部Ｗ３２０の正面に当接させることにより、切断された係合部Ｗｄ５３０ａの連結片Ｗ５３１ａを切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に対向させることができる。言い換えると、連結片Ｗ５３１ａの位置と切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間の位置とが前後方向において略同一となる。
【０８９１】
これにより、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５が遮蔽された状態であっても、連結片Ｗ５３１ａを切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に配設させ易くできる。ガイド面Ｗｄ５６１と平面部Ｗ３２０の正面との当接を維持しつつ、保護カバーＷｄ５００を上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へスライド変位させることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。
【０８９２】
保護カバーＷｄ５００は、係合部Ｗｄ５３０ａよりも大きく形成されるため、作業者（店員）は、保護カバーＷｄ５００を把持することにより係合部Ｗｄ５３０ａ（連結片Ｗ５３１ａ）を用いて封印シールＷＳＬを切断でき、切断作業を容易に行える。
【０８９３】
次いで、図８８（ａ）及び図８８（ｂ）を参照して、本発明の第２０実施形態における基板ボックスＷｅ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【０８９４】
図８８（ａ）は、第２０実施形態における基板ボックスＷｅ１００の保護カバーＷｅ５００の部分背面図であり、図８８（ｂ）は、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ

線における基板ボックスＷｅ１００の部分断面図である。なお、図８８（ｂ）は、切断された係合部Ｗｄ５３０ａを用いて封印シールＷＳＬを切断する状態が図示される。

【０８９５】

図８８（ａ）に示すように、第２０実施形態における基板ボックスＷｅ１００の保護カバーＷｅ５００は、連結片Ｗ５３１ｂが非形成とされ（図７２参照）、係合部Ｗｅ５３０ａと連結部Ｗ５１２と連結する一対の連結片Ｗｅ５３１ａを備える。

【０８９６】

係合部Ｗｅ５３０ａと連結部Ｗ５１２との間の距離、即ち、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの延設長さは、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間の凹設深さよりも短く形成される。

【０８９７】

切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５は、平面部ｅ２２０及び突出部Ｗｅ３２４の対向面とは反対側へ向けてそれぞれ凹設して形成され、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間は、断面視において、略コ字状に形成される。切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の対向間の距離は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における一対の連結片Ｗｅ５３１ａの幅寸法と略同等またはやや大きく形成される。これにより、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に切断された一対の連結片Ｗｅ５３１ａを受け入れ可能とできる。

【０８９８】

また、側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けての切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の切欠き寸法は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における一対の連結片Ｗｅ５３１ａの延設寸法よりもやや大きく形成される。

【０８９９】

一対の連結片Ｗｅ５３１ａの対向間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスベースＷｅ３００の平面部Ｗｅ３２０の正面と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成される（図８８（ｂ）参照）。

【０９００】

次いで、図８８（ｂ）を参照して、係合部Ｗｅ５３０ａによる封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、図８８（ｂ）では、保護カバーＷｅ５００から分離された係合部Ｗｅ５３０ａの姿勢が変更された状態とされる。詳細には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において係合部Ｗｅ５３０ａの一対の連結片Ｗｅ５３１ａがボックスベースＷｅ３００の突出部Ｗｅ３２４に対向した姿勢とされる。

【０９０１】

上述したように、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの対向間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスベースＷｅ３００の平面部Ｗｅ３２０の正面と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬを介して一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方の対向面を平面部Ｗｅ３２０の正面に当接させることにより、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に対向させることができる。言い換えると、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方の位置と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間の位置とが前後方向において略同一となる。

【０９０２】

これにより、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５が遮蔽された状態であっても、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方における一対の連結片Ｗｅ５３１ａの対向面を平面部Ｗｅ３２０の正面に当接させることにより、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に受け入れ可能とできる（配設できる）。一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方の対向面と平面部Ｗｅ３２０の正面との当接を維持しつつ、係合部Ｗｅ５３０ａを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へスライド変位させることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【０９０３】

また、側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けての切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の切欠き寸法は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における一対の連結片Ｗｅ５３１ａの延設寸法よりもやや大きく形成されることにより、切断された一対の連結片Ｗｅ５３１ａの切断側の端部が側壁部Ｗ２１２側における切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の底面と当接することを抑制でき、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５の破損を抑制できる。

【０９０４】

このように、本実施形態では、保護カバーＷｅ５００に対し小さく形成される係合部Ｗｅ５３０ａを用いて封印シールＷＳＬを切断できるので、係合部Ｗｅ５３０ａと平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０の一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１（図７２参照）との干渉を抑制して、封印シールＷＳＬの切断を容易に行うことができる。

【０９０５】

また、一対の連結片Ｗｅ５３１ａが保護カバーＷｅ５００に連結される状態（一対の連結片Ｗｅ５３１ａが切断される前の状態）では、一対の連結片Ｗｅ５３１ａには切断部が非形成とされるため、作業者（店員）が一対の連結片Ｗｅ５３１ａの切断部に接触し、負傷することを抑制できる。

【０９０６】

次いで、図８８（ｃ）及び図８８（ｄ）を参照して、本発明の第２１実施形態における保護カバーＷｆ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０９０７】

図８８（ｃ）は、第２１実施形態における保護カバーＷｆ５００の部分背面図であり、図８８（ｄ）は、図８８（ｃ）のＬＸＸＸＶｉｉｉｄ－ＬＸＸＸＶＩＩＩｄ線における保護カバーＷｆ５００の部分断面図である。

【０９０８】

図８８（ｃ）及び図８８（ｄ）に示すように、第２１実施形態における保護カバーＷｆ５００の係合部Ｗｆ５３０ａは、切断部Ｗｆ５５０を備える。

【０９０９】

係合部Ｗｆ５３０ａは、第７実施形態における係合部Ｗ５３０ａと比較して（図７３参照）、連結片Ｗ５３１ｂが連結部Ｗ５１２と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて所定の距離だけ変位されて配設され、連結部Ｗ５１２側（矢印Ｌ方向側）における係合部Ｗｆ５３０ａの端部に切断部Ｗｆ５５０が形成される。なお、切断部Ｗｆ５５０は、一対のリブ部Ｗ５１１に対向して一対形成される。

【０９１０】

切断部Ｗｆ５５０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、係合部Ｗｆ５３０ａの中央側から両端側へ向かうにつれて板厚方向における寸法が小さく形成される。即ち、切断部Ｗｆ５５０の先端部は、鋭利に形成される。これにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【０９１１】

一方で、切断部Ｗｆ５５０は、一対の連結片Ｗ５３１ｂよりも連結部Ｗ５１２側（矢印Ｌ方向側、係合孔Ｗ５３３とは反対側）に配設されるため、係合孔Ｗ５３３とボックスカバーＷ２００の突起Ｗ２２１との係合に影響を与えない（図７４参照）。言い換えると、切断部Ｗｆ５５０が形成されることにより、係合部Ｗｆ５３０ａの弾性が小さくされることを抑制できる。

【０９１２】

従って、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００（図７３参照）に保護カバーＷｆ５００を取り付けるための係合力が、切断部Ｗｆ５５０の形成により低下されることを抑制できる。

【０９１３】

また、切断部Ｗｆ５５０は、リブ部Ｗ５１１及び連結部Ｗ５１２に対向して配設される。これにより、保護カバーＷｆ５００から係合部Ｗｆ５３０ａが分離される前の状態にお

いて、作業者（店員）が切断部Ｗｆ５５０に接触し、負傷することを抑制できる。
【０９１４】
次いで、図８９（ａ）及び図８９（ｂ）を参照して、本発明の第２２実施形態における保護カバーＷｇ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【０９１５】
図８９（ａ）は、第２２実施形態における保護カバーＷｇ５００の部分背面図であり、図８９（ｂ）は、図８９（ａ）のＬＸＸＸＩＸｂ－ＬＸＸＸＩＸｂ線における保護カバーＷｇ５００の部分断面図である。
【０９１６】
図８９（ａ）及び図８９（ｂ）に示すように、第２２実施形態における保護カバーＷｇ５００は、連結片Ｗ５３１ｂが非形成とされ（図７２参照）、係合部Ｗｇ５３０ａと連結部Ｗ５１２と連結する一対の連結片Ｗｇ５３１ａを備える。
【０９１７】
一対の連結片Ｗｇ５３１ａは、連結部Ｗ５１２側および係合部Ｗｇ５３０ａ側からその連結部Ｗ５１２および係合部Ｗｇ５３０ａの対向間へ向かうにつれて図８９（ｂ）に示す断面視において断面積が小さく形成される。言い換えると、一対の連結片Ｗｇ５３１ａは、連結部Ｗ５１２側および係合部Ｗｇ５３０ａ側からその連結部Ｗ５１２および係合部Ｗｇ５３０ａの対向間へ向けて一対の四角錐台が連結された形状に形成される。
【０９１８】
これにより、保護カバーＷｇ５００から係合部Ｗｇ５３０ａを分離させる際、一対の連結片Ｗｇ５３１ａを切断し易くできる。また、一対の連結片Ｗｇ５３１ａの切断面は、連結部Ｗ５１２および係合部Ｗｇ５３０ａの対向間において図８９（ｂ）に示す断面積が一定に形成される場合と比較して小さく形成されるので、一対の連結片Ｗｇ５３１ａの切断部が鋭利に形成される。その結果、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。
【０９１９】
次いで、図８９（ｃ）を参照して、本発明の第２３実施形態における基板ボックスＷｈ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【０９２０】
図８９（ｃ）は、第２３実施形態における基板ボックスＷｈ１００の部分背面図である。
【０９２１】
図８９（ｃ）に示すように、第２３実施形態における基板ボックスＷｈ１００の保護カバーＷｈ５００は、規制部Ｗｈ５７０を備える。
【０９２２】
規制部Ｗｈ５７０は、係合部Ｗ５３０ａが不正に弾性変形されることを規制するための部位である。規制部Ｗｈ５７０は、一対の連結片Ｗ５３１ｂよりも係合部Ｗ５３０ａの先端側（矢印Ｒ方向側）に配設され、係合部Ｗ５３０ａよりも正面壁部Ｗ５２０（図７２参照）とは反対側（矢印Ｂ方向側）に配設される。
【０９２３】
これにより、平面部Ｗ２２０の突起Ｗ２２１と係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３との係合解除するために係合部Ｗ５３０ａが不正に弾性変形された場合であっても、係合部Ｗ５３０ａと規制部Ｗｈ５７０とが当接することで係合部Ｗ５３０ａの弾性変形を規制できる。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００（図７２参照）から保護カバーＷｈ５００が不正に取り外されることを抑制し易くできる。
【０９２４】
次いで、図９０を参照して、本発明の第２４実施形態における基板ボックスＷｉ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０９２５】
図９０（ａ）は、第２４実施形態における基板ボックスＷｉ１００の保護カバーＷｉ５００の側面図であり、図９０（ｂ）は、基板ボックスＷｉ１００の側面図であり、図９０（ｃ）は、図９０（ｂ）のＸＣｃ－ＸＣｃ線における基板ボックスＷｉ１００の断面図である。なお、図９０では、保護カバーＷｉ５００から係合部Ｗ５３０ａが分離された状態が図示される。
【０９２６】
図９０（ａ）に示すように、第２４実施形態における基板ボックスＷｉ１００の保護カバーＷｉ５００は、第７実施形態における保護カバーＷ５００の正面壁部Ｗ５２０に代えて、背面壁部Ｗ５１０が配設される。詳細に説明すると、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における左壁部Ｗ５０２の両端部に一対の背面壁部Ｗ５１０が配設される。なお、一対の背面壁部Ｗ５１０は、図９０（ａ）に示す側面視において対称となる姿勢で配設される。また、一対の背面壁部Ｗ５１０は，第２０実施形態における係合部Ｗｅ５３０及び一対の連結片Ｗｅ５３１ａを備える（図８８（ｃ）及び図８８（ｄ）参照）。
【０９２７】
次いで、図９０（ｂ）及び図９０（ｃ）を参照して、保護カバーＷｉ５００による封印シールＷＳＬの切断について説明する。なお、図９０（ｂ）及び図９０（ｃ）では、保護カバーＷｉ５００の姿勢が変更された状態とされる。詳細には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において保護カバーＷｉ５００の一対の連結片Ｗｅ５３１ａがボックスベースＷｅ３００の突出部Ｗｅ３２４に対向した姿勢とされる。なお、本実施形態では、連結部Ｗ５１２側よりも係合部Ｗｅ５３０ａ側において一対の連結片Ｗｅ５３１ａが切断された状態が図示される。
【０９２８】
一対の連結片Ｗｅ５３１ａの対向間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスベースＷｅ３００の平面部Ｗｅ３２０の正面と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬを介して一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方の対向面を平面部Ｗｅ３２０の正面に当接させることにより、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に対向させることができる。言い換えると、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方の位置と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間の位置とが前後方向において略同一となる。
【０９２９】
これにより、封印シールＷＳＬにより切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５が遮蔽された状態であっても、一対の連結片Ｗｅ５３１ａの他方を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に配設させ易くできる。一対の連結片Ｗｅ５３１ａの一方の対向面と平面部Ｗｅ３２０の正面との当接を維持しつつ、係合部Ｗｅ５３０ａを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へスライド変位させることにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。
【０９３０】
本実施形態では、保護カバーＷｉ５００に形成される一対の連結片Ｗｅ５３１ａを用いて封印シールＷＳＬを切断させることにより、第２０実施形態における係合部Ｗｅ５３０ａに形成される一対の連結片Ｗｅ５３１ａを用いて封印シールＷＳＬを切断させる場合と比較して作業者（店員）は、保護カバーＷｉ５００を把持し易く、切断作業を容易に行える。
【０９３１】
次いで、図９１から図９３を参照して、本発明の第２５実施形態における基板ボックスＷｊ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【０９３２】
図９１（ａ）は、第２５実施形態における基板ボックスＷｊ１００の部分背面図であり、図９１（ｂ）は、図９１（ａ）の矢印ＸＣＩｂ方向視における基板ボックスＷｊ１００

の部分側面図であり、図９１（ｃ）は、保護カバーＷｊ５００の背面図である。図９２（ａ）及び図９２（ｃ）は、図９１（ａ）のＸＣＩＩａ部における基板ボックスＷｊ１００の背面図であり、図９２（ｂ）は、図９２（ａ）のＸＣＩＩｂ－ＸＣＩＩｂ線における基板ボックスＷｊ１００の部分断面図であり、図９２（ｄ）は、図９２（ｃ）のＸＣＩＩｄ－ＸＣＩＩｄ線における基板ボックスＷｊ１００の部分断面図である。図９３（ａ）は、図９１（ａ）のＸＣＩＩａ部における基板ボックスＷｊ１００の背面図であり、図９３（ｂ）は、図９３（ａ）のＸＣＩＩＩｂ－ＸＣＩＩＩｂ線における基板ボックスＷｊ１００の部分断面図である。

【０９３３】

なお、図９１（ａ）及び図９１（ｂ）では、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｊ５００が取り外された状態が図示される。また、図９２（ａ）、図９２（ｃ）及び図９３（ａ）では、背面壁部Ｗｊ２１４ａの図示が一部省略される。

【０９３４】

図９１（ａ）及び図９１（ｂ）に示すように、第２５実施形態における基板ボックスＷｊ１００のボックスカバーＷｊ２００は、第７実施形態における突起Ｗ２２１に代えて（図７２参照）、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０を備える。

【０９３５】

カバー部Ｗｊ２１４の背面壁部Ｗｊ２１４ａは、第７実施形態における背面壁部Ｗ２１４ａよりも突出先端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成され、背面視において、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０に重なる位置に配設される。背面壁部Ｗｊ２１４ａの正面には、後述する第２規制状態において、第２規制部Ｗｊ２５０に対向する位置に第２規制部Ｗｊ２５０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される規制壁部Ｗｊ２１４ｂが形成される。規制壁部Ｗｊ２１４ｂは、保護カバーＷｊ５００の係合部Ｗｊ５３０ａの弾性変形を規制するための部位である。

【０９３６】

平面部Ｗｊ２２０には、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０に対応する位置に切欠きＷｊ２２７が形成され、その切欠きＷｊ２２７により形成される空間に後述する弾性変形規制手段Ｗｊ２３０の第２規制部Ｗｊ２５０が配設される。

【０９３７】

上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における平面部Ｗｊ２２０及び平面部Ｗｊ３２０の寸法は、第７実施形態における平面部Ｗ２２０及び平面部Ｗ３２０の寸法（図７２参照）よりも小さく形成され、保護カバーＷｊ５００の内側に平面部Ｗｊ２２０及び平面部Ｗｊ３２０が配設された状態において、保護カバーＷｊ５００は、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００に対し上下方向に変位可能とされる。

【０９３８】

弾性変形規制手段Ｗｊ２３０は、規制状態において保護カバーＷｊ５００の係合部Ｗｊ５３０ａが不正に弾性変形されることを抑制するためのものであり、第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０とを備える。なお、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０の説明においては、図９２及び図９３を適宜参照する。

【０９３９】

第１規制部Ｗｊ２４０は、規制状態において、左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けての保護カバーＷｊ５００の変位を規制するための部位であり、平面部Ｗｊ２２０の背面から背面壁部Ｗｊ２１４ａ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。第１規制部Ｗｊ２４０には、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面壁部Ｗｊ２１４ａ側へ傾斜する傾斜部Ｗｊ２４１が形成される。

【０９４０】

第２規制部Ｗｊ２５０は、規制状態において、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けての保護カバーＷｊ５００の変位を規制するための部位であり、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において第１規制部Ｗｊ２４０に対向して配設される。第２規制部Ｗｊ２５０は、切欠きＷｊ

２２７により形成される平面部Ｗｊ２２０の側壁から第１規制部Ｗｊ２４０側（矢印Ｄ方向側）へ向けて突出される板状の支持部Ｗｊ２５１と、その支持部Ｗｊ２５１の突出先端部から規制壁部Ｗｊ２１４ｂ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される係合部Ｗｊ２５２とを備える。

【０９４１】

支持部Ｗｊ２５１は、その支持部Ｗｊ２５１の板厚方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせた姿勢で配設され、支持部Ｗｊ２５１の板厚は、平面部Ｗｊ２２０の板厚よりも小さく形成される。これにより、前後方向における外力が第２規制部Ｗｊ２５０に作用された場合、平面部Ｗｊ２２０に対して支持部Ｗｊ２５１を弾性変形させることができる。

【０９４２】

係合部Ｗｊ２５２は、第１規制部Ｗｊ２４０側（矢印Ｄ方向側）から第１規制部Ｗｊ２４０とは反対側（矢印Ｕ方向側）へ向かうにつれて規制壁部Ｗｊ２１４ｂ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて傾斜して形成される。第１規制部Ｗｊ２４０とは反対側（矢印Ｕ方向側）に形成される係合部Ｗｊ２５２の上面は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に直交して形成される。

【０９４３】

図９１（ｃ）に示すように、保護カバーＷｊ５００の係合部Ｗｊ５３０ａは、第７実施形態における係合部Ｗ５３０ａと比較して上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における寸法が小さく形成される。これにより、保護カバーＷｊ５００の内側に平面部Ｗｊ２２０及び平面部Ｗｊ３２０が配設された状態から、保護カバーＷｊ５００を上下方向に変位させた場合であっても係合部Ｗｊ５３０ａとカバー部Ｗｊ２１４との当接を抑制できる。

【０９４４】

次いで、図９２及び図９３を参照して、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００への保護カバーＷｊ５００の取り付けについて説明する。まず、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、カバー部Ｗｊ２１４の規制壁部Ｗｊ２１４ｂが形成されていない位置に保護カバーＷｊ５００の係合部Ｗｊ５３０ａを対向させ、保護カバーＷｊ５００をボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させる。

【０９４５】

係合部Ｗｊ５３０ａの先端部と第１規制部Ｗｊ２４０の傾斜部Ｗｊ２４１とが当接することにより、係合部Ｗｊ５３０ａは、第１規制部Ｗｊ２４０の突出先端側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される。

【０９４６】

図９２（ａ）及び図９２（ｂ）に示すように、背面壁部Ｗｊ５１０と側壁部Ｗ２１２とが当接することにより、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００に対する右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けての保護カバーＷｊ５００の変位が規制される（以下「第１規制状態」と称す）。

【０９４７】

第１規制状態においては、保護カバーＷｊ５００の係合孔Ｗ５３３の内側に第１規制部Ｗｊ２４０が配設され、係合部Ｗｊ５３０ａの弾性変形が解除される。また、第１規制状態においては、係合孔Ｗ５３３の内壁と第１規制部Ｗｊ２４０の右方側（矢印Ｒ方向側）に形成される面とが当接することにより、保護カバーＷｊ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けての変位が規制される。

【０９４８】

次いで、図９２（ｃ）及び図９２（ｄ）に示すように、第１規制状態から保護カバーＷｊ５００を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗｊ５３０ａの上端部と第２規制部Ｗｊ２５０の係合部Ｗｊ２５２とが当接し、第２規制部Ｗｊ２５０がカバー部Ｗｊ２１４の背面壁部Ｗｊ２１４ａとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて弾性変形される。

【０９４９】

ここで、支持部Ｗｊ２５１の板厚が平面部Ｗｊ２２０の板厚よりも小さく形成されるため、係合部Ｗｊ５３０ａの上端部により支持部Ｗｊ２５１が弾性変形され、保護カバーＷｊ５００の上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けての変位が許容される。

【０９５０】

次いで、図９３（ａ）及び図９３（ｂ）に示すように、係合孔Ｗ５３３の内壁と第１規制部Ｗｊ２４０の下方側（矢印Ｄ方向側）に形成される面とが当接することにより、保護カバーＷｊ５００の上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けての変位が規制される（以下「第２規制状態」と称す）。

【０９５１】

第２規制状態においては、係合孔Ｗ５３３の内壁と係合部Ｗｊ２５２の上方側（矢印Ｕ方向側）に形成される面とが当接することにより、保護カバーＷｊ５００の下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けての変位が規制される。その結果、第２規制状態から第１規制状態へ向けての保護カバーＷｊ５００の変位が規制される。

【０９５２】

また、第２規制状態においては、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において係合部Ｗｊ５３０ａの少なくとも一部が規制壁部Ｗｊ２１４ｂに重なる位置に配設される。従って、係合部Ｗｊ５３０ａの背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が規制壁部Ｗｊ２１４ｂに当接することにより規制される。言い換えると、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００から保護カバーＷｊ５００を不正に取り外すために、第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０と係合部Ｗｊ５３０ａ（係合孔Ｗ５３３）と係合が解除されることが規制壁部Ｗｊ２１４ｂにより規制される。

【０９５３】

上述したように、背面視において、背面壁部Ｗｊ２１４ａが弾性変形規制手段Ｗｊ２３０に重なる位置に配設されるため、第２規制部Ｗｊ２５０を遮蔽できる。これにより、第２規制部Ｗｊ２５０を不正に弾性変形させ、第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０と係合部Ｗｊ５３０ａ（係合孔Ｗ５３３）との係合を解除させ難くできる。

【０９５４】

これらにより、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００から保護カバーＷｊ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【０９５５】

次いで、図９４及び図９５を参照して、本発明の第２６実施形態における基板ボックスＷｋ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０９５６】

図９４（ａ）は、第２６実施形態における基板ボックスＷｋ１００の部分正面図であり、図９４（ｂ）は、図９４（ａ）のＸＣＩＶｂ－ＸＣＩＶｂ線における基板ボックスＷｋ１００の部分断面図であり、図９４（ｃ）は、図９４（ａ）のＸＣＩＶｃ－ＸＣＩＶｃ線における基板ボックスＷｋ１００の部分断面図である。図９５（ａ）及び図９５（ｃ）は、図９４（ａ）のＸＣＩＶｂ－ＸＣＩＶｂ線における基板ボックスＷｋ１００の部分断面図であり、図９５（ｂ）及び図９５（ｄ）は、図９４（ａ）のＸＣＩＶｃ－ＸＣＩＶｃ線における基板ボックスＷｋ１００の部分断面図である。

【０９５７】

なお、図９４では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００が取り外された状態が図示される。また、本実施形態では、保護カバーＷ５００において、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される係合部Ｗ５３０ｂを係合部Ｗ５３０ｂ１、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される係合部Ｗ５３０ｂを係合部Ｗ５３０ｂ２とそれぞれ異なる符号を付して説明する（図７２参照）。

【０９５８】

図９４に示すように、第２６実施形態における基板ボックスＷｋ１００のボックスベースＷｋ３００は、第７実施形態における一対の突起Ｗ３１２ｃのうちの下方側（矢印Ｄ方

向側）に配設される突起Ｗ３１２ｃに代えて（図７３参照）、突起Ｗｋ３１２ｃを備える。また、ボックスベースＷｋ３００のカバー部Ｗｋ３１２は、係止部Ｗｋ３１２ｆを備える。

【０９５９】

突起Ｗｋ３１２ｃは、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗｋ３１２ｄを備える。突起Ｗｋ３１２ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において突起Ｗ３１２ｃよりも左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される。詳細には、傾斜部Ｗｋ３１２ｄと正面壁部Ｗ３１２ａとの境界は、突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄと正面壁部Ｗ３１２ａとの境界よりも左方側に形成され、右方側に形成される突起Ｗｋ３１２ｃの側面は、右方側に形成される突起Ｗ３１２ｃの側面よりも左方側に形成される。また、左右方向における突起Ｗｋ３１２の寸法は、左右方向における突起Ｗ３１２の寸法の略１／２に形成される。

【０９６０】

これらにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００に保護カバーＷ５００を取り付ける際、係合部Ｗ５３０ｂ１と突起Ｗ３１２ｃとの当接よりも係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとの当接を早く行える（図９５参照）。また、係合部Ｗ５３０ｂ１と突起Ｗ３１２ｃとの係合（係合部Ｗ５３０ｂ１の係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗ３１２ｃが配設されること）よりも係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとの係合を早く行える。また、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合された状態において、保護カバーＷ５００を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位させることができる。

【０９６１】

係止部Ｗｋ３１２ｆは、背面側（矢印Ｂ方向側）への係合部Ｗ５３０ｂの変位を規制するための部位であり、左壁部Ｗ３０２から左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出される。係止部Ｗｋ３１２ｆは、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗｋ３１２ｇを備える。

【０９６２】

左右方向における係止部Ｗｋ３１２ｆと突起Ｗｋ３１２ｃとの間の距離は、係合部Ｗ５３０ｂと係合孔Ｗ５３３の内側面との間の距離よりも大きく設定される。また、傾斜部Ｗｋ３１２ｇは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において突起Ｗｋ３１２に重なる位置に形成される。これらにより、係合部Ｗ５３０ｂが突起Ｗｋ３１２ｃに係合された状態から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて保護カバーＷ５００を変位させることにより、係合部Ｗ５３０ｂの先端部を傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接させることができる。

【０９６３】

次いで、図９５を参照して、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００への保護カバーＷ５００の取り付けについて説明する。なお、図９５（ａ）及び図９５（ｂ）は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００へ保護カバーＷ５００が取り付けられる途中であり、係合部Ｗ５３０ｂ１が弾性変形された状態が図示され、図９５（ｃ）及び図９５（ｄ）は、規制状態における基板ボックスＷｋ１００が図示される。

【０９６４】

上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ１，Ｗ５３０ｂ２の係合孔Ｗ５３３の位置をボックスカバーＷ２００の突起Ｗ２２１及びボックスベースＷｋ３００の突起Ｗ３１２ｃ，Ｗｋ３１２ｃの位置に合わせた状態から（図７２及び図７３参照）、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が突起Ｗｋ３１２ｃの傾斜部Ｗｋ３１２ｄに当接する。係合部Ｗ５３０ｂ２が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形されることにより、保護カバーＷ５００の右方側へ向けての変位が許容される。

【０９６５】

次いで、係合部Ｗ５３０ｂ２の係合孔Ｗ５３３の内側に突起Ｗｋ３１２ｃが配設されることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が解除され、図９５（ｂ）に示すように、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合される

。
【０９６６】
上述したように、突起Ｗｋ３１２ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において突起Ｗ３１２ｃよりも左方側（矢印Ｌ方向側）に配設されるため、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合された状態では、図９５（ａ）に示すように、係合部Ｗ５３０ｂ１の先端部が突起Ｗ３１２ｃの傾斜部Ｗ３１２ｄに当接し、係合部Ｗ５３０ｂ１は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形された状態とされる。
【０９６７】
また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における突起Ｗｋ３１２の寸法は、左右方向における突起Ｗ３１２の寸法の略１／２に形成されるため、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合された状態において、保護カバーＷ５００の右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けての変位が許容される。
【０９６８】
次いで、係合部Ｗ５３０ｂ２と突起Ｗｋ３１２ｃとが係合された状態から保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、図９５（ｃ）に示すように、係合部Ｗ５３０ｂ１と突起Ｗ３１２ｃとが係合され、係合部Ｗ５３０ｂ１の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が解除され、基板ボックスＷｋ１００が規制状態となる。
【０９６９】
上述したように、傾斜部Ｗｋ３１２ｇは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において突起Ｗｋ３１２に重なる位置に形成されるため、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、図９５（ｄ）に示すように、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接し、係合部Ｗ５３０ｂ２が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて弾性変形される。その結果、係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が規制される。
【０９７０】
このように、本実施形態では、係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が規制されることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２が背面側へ向けて不正に弾性変形され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００が不正に取り外されることを抑制できる。
【０９７１】
また、保護カバーＷ５００を右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての弾性変形が規制されるため、保護カバーＷ５００をボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００に取り付ける動作（保護カバーＷ５００の右方側へ向けての変位）と係合部Ｗ５３０ｂ２の背面側へ向けての弾性変形を規制させる動作とを同一とでき、基板ボックスＷｋ１００の規制状態への動作を容易とできる。
【０９７２】
なお、係合部Ｗ５３０ｂ１と突起Ｗ３１２ｃとが係合とが係合されることにより、保護カバーＷ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けての変位が規制され、係合部Ｗ５３０ｂ２の正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての弾性変形が解除されることを抑制できる。
【０９７３】
また、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接されることにより、保護カバーＷ５００を正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位させることができ、背面壁部Ｗ５１０と立設部Ｗ２２２との間に隙間が形成されることを抑制できる。これにより、背面壁部Ｗ５１０と立設部Ｗ２２２との間に形成される隙間から不正に挿入された針金が平面部Ｗ２２０と封印シールＷＳＬとの貼着を解除することを抑制し易くできる。
【０９７４】
次いで、図９６及び図９７を参照して、本発明の第２７実施形態における基板ボックス

Ｗｌ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０９７５】

図９６（ａ）は、第２７実施形態における基板ボックスＷｌ１００の部分背面図であり、図９６（ｂ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩｂ－ＸＣＶＩｂ線における基板ボックスＷｌ１００の部分断面図であり、図９６（ｃ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩｃ－ＸＣＶＩｃ線における基板ボックスＷｌ１００の部分断面図であり、図９６（ｄ）は、保護カバーＷｌ５００の背面図であり、図９６（ｅ）は、図９６（ｄ）のＸＣＶＩｅ－ＸＣＶＩｅ線における保護カバーＷｌ５００の断面図である。図９７（ａ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩＩａ部における基板ボックスＷｌ１００の背面図であり、図９７（ｂ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩｂ－ＸＣＶＩｂ線における基板ボックスＷｌ１００の部分断面図であり、図９７（ｃ）は、図９６（ａ）のＸＣＶＩｃ－ＸＣＶＩｃ線における基板ボックスＷｌ１００の部分断面図である。

【０９７６】

なお、図９６（ａ）から図９６（ｃ）では、ボックスカバーＷｌ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｌ５００が取り外された状態が図示される。また、図９７（ａ）では、先端部Ｗｌ４３６が破線により図示される。

【０９７７】

図９６（ａ）から図９６（ｃ）に示すように、第２７実施形態における基板ボックスＷｌ１００のボックスカバーＷｌ２００は、第７実施形態における突起Ｗ２２１に代えて（図７２参照）、弾性変形規制手段Ｗｌ２３０を備える。

【０９７８】

弾性変形規制手段Ｗｌ２３０は、ボックスカバーＷｌ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｌ５００が不正に取り外されることを抑制するためのものであり、平面部Ｗ２２０から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される第１規制部Ｗｌ２４０と、第２規制部Ｗｌ２５０とを備える。

【０９７９】

第１規制部Ｗｌ２４０及び第２規制部Ｗｌ２５０は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、後述する保護カバーＷｌ５００の連結部Ｗｌ５３５の上下方向における寸法だけ隔てて配設される。これにより、第１規制部Ｗｌ２４０及び第２規制部Ｗｌ２５０の対向間に連結部Ｗｌ５３５が配設可能とされる。

【０９８０】

第１規制部Ｗｌ２４０には、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する傾斜部Ｗｌ２４１が形成される。左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において傾斜部Ｗｌ２４１とは反対側に形成される面である係止面Ｗｌ２４２は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って形成される。

【０９８１】

第２規制部Ｗｌ２５０には、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する第１傾斜部Ｗｌ２５１及び第１傾斜部Ｗｌ２５１における右方側の端部から右方側へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜する第２傾斜部Ｗｌ２５２が形成される。上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、第１規制部Ｗｌ２４０の係止面Ｗｌ２４２に重なる位置に第２傾斜部Ｗｌ２５２が配設される。

【０９８２】

図９６（ｄ）及び図９６（ｅ）に示すように、保護カバーＷｌ５００の係合部Ｗｌ５３０ａは、連結部Ｗｌ５３５と、その連結部Ｗｌ５３５の先端に配設される先端部Ｗｌ５３６とを備える。

【０９８３】

連結部Ｗｌ５３５は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における係合部Ｗｌ５３０ａの略中央から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて突出される。連結部Ｗｌ５３５の突出寸法は、左

右方向における第１規制部Ｗｌ２４０の寸法よりも大きく形成され、左右方向における第２規制部Ｗｌ２５０の寸法よりも小さく形成される。

【０９８４】

連結部Ｗｌ５３５の下面に形成される傾斜部Ｗｌ５３５ａは、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜して形成される。即ち、連結部Ｗｌ５３５は、先端部Ｗｌ５３６との連結部よりも係合部Ｗｌ５３０ａとの連結部が小さく形成される。これにより、係合部Ｗｌ５３０ａに対し連結部Ｗｌ５３５（先端部Ｗｌ５３６）を変形させ易くできる。

【０９８５】

先端部Ｗｌ５３６は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びて形成される。本実施形態では、連結部Ｗｌ５３５よりも上方側（矢印Ｕ方向側）における先端部Ｗｌ５３６を上側先端部Ｗｌ５３６ａ、連結部Ｗｌ５３５よりも下方側（矢印Ｄ方向側）における先端部Ｗｌ５３６を下側先端部Ｗｌ５３６ｂとそれぞれ符号を付して説明する。

【０９８６】

次いで、図９７を参照して、規制状態における基板ボックスＷｌ１００について説明する。上述したように、連結部Ｗｌ５３５の突出寸法は、左右方向における第１規制部Ｗｌ２４０の寸法よりも大きく形成されるため、第１規制部Ｗｌ２４０は、係合部Ｗｌ５３０ａと上側先端部Ｗｌ５３６ａとの間に形成される空間に配設される。

【０９８７】

一方で、連結部Ｗｌ５３５の突出寸法は、左右方向における第２規制部Ｗｌ２５０の寸法よりも小さく形成されるため、第２規制部Ｗｌ２５０の第２傾斜部Ｗｌ２５２と下側先端部Ｗｌ５３６ｂとが当接する。これにより、連結部Ｗｌ５３５（先端部Ｗｌ５３６）は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として回転され（捩じられ）、下側先端部Ｗｌ５３６ｂが背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて変位され、上側先端部Ｗｌ５３６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位される。

【０９８８】

上述したように、傾斜部Ｗｌ５３５ａは、左方側（矢印Ｌ方向側）から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向かうにつれて背面側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜して形成されるため、係合部Ｗｌ５３０ａに対し連結部Ｗｌ５３５（先端部Ｗｌ５３６）を回転させ易くできる。

【０９８９】

上側先端部Ｗｌ５３６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位されることにより、上側先端部Ｗｌ５３６ａと第１規制部Ｗｌ２４０との係合量を大きくできる（左右方向における上側先端部Ｗｌ５３６ａと第１規制部Ｗｌ２４０との重なりを大きくできる）。これにより、ボックスカバーＷｌ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｌ５００を不正に取り外し難くできる。

【０９９０】

また、下側先端部Ｗｌ５３６ｂと第２規制部Ｗｌ２５０と係合を不正に解除するために、下側先端部Ｗｌ５３６ｂを背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて変位させる場合、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として回転され（捩じられ）上側先端部Ｗｌ５３６ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位されるため、上側先端部Ｗｌ５３６ａと第１規制部Ｗｌ２４０との係合量を大きくできる。これにより、ボックスカバーＷｌ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｌ５００を不正に取り外し難くできる。

【０９９１】

次いで、図９８を参照して、本発明の第２８実施形態における基板ボックスＷｍ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【０９９２】

図９８（ａ）は、第２８実施形態における基板ボックスＷｍ１００の部分正面図であり、図９８（ｂ）は、図９８（ａ）のＸＣＶＩＩＩｂ－ＸＣＶＩＩＩｂ線における基板ボックスＷｍ１００の部分断面図である。なお、本実施形態における封印シールＷＳＬは、第

７実施形態における封印シールＷＳＬに対し上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における寸法が小さい以外は同一に形成されるため、同一の符号を付して説明する。また、図９８（ａ）では、ボックスカバーＷｍ２００及びボックスベースＷｍ３００から保護カバーＷｍ５００が取り外された状態が図示される。

【０９９３】

図９８に示すように、第２８実施形態における基板ボックスＷｌ１００のボックスベースＷｍ３００は、一対の弾性変形規制手段Ｗｍ３３０を備える。なお、平面部Ｗｍ３２０には、弾性変形規制手段Ｗｍ３３０に対応する位置に切欠きＷｍ３２７が形成され、その切欠きＷｍ３２７により形成される空間に弾性変形規制手段Ｗｍ３３０が配設される。また、ボックスカバーＷｍ２００の平面部Ｗｍ２２０は、規制突起Ｗｍ２２８を備え、保護カバーＷｍ５００の係合部Ｗｍ５３０ｂは、突起Ｗｍ５３４を備える。

【０９９４】

弾性変形規制手段Ｗｍ３３０は、規制状態において保護カバーＷｍ５００の係合部Ｗｍ５３０ｂが不正に弾性変形されることを抑制するためのものであり、切欠きＷｍ３２７から突出される連結部Ｗｍ３３１と、その連結部Ｗｍ３３１の突出先端部から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される延設部Ｗｍ３３２と、その延設部Ｗｍ３３２の両端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される当接部Ｗｍ３３３及び規制部Ｗｍ３３４とを備える。

【０９９５】

連結部Ｗｍ３３１は、板状であり、切欠きＷｍ３２７により形成される平面部Ｗｍ３２０の側壁から封印シールＷＳＬ側へ向けて突出される。連結部Ｗｍ３３１の正面に形成される傾斜部Ｗｍ３３１ａは、上方側（矢印Ｕ方向側）から下方側（矢印Ｄ方向側）へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜して形成される。即ち、連結部Ｗｍ３３１は、延設部Ｗｍ３３２との連結部よりも平面部Ｗｊ２２０の側壁との連結部が小さく形成される。これにより、平面部Ｗｊ２２０の側壁に対し延設部Ｗｍ３３２（当接部Ｗｍ３３３及び規制部Ｗｍ３３４）を変形させ易くできる。

【０９９６】

当接部Ｗｍ３３３は、後述する保護カバーＷｍ５００の突起Ｗｍ５３４が当接される部位であり、延設部Ｗｍ３３２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における延設部Ｗｍ３３２の一方側（矢印Ｌ方向側）の端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。

【０９９７】

規制部Ｗｍ３３４は、延設部Ｗｍ３３２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における当接部Ｗｍ３３３とは反対側（矢印Ｒ方向側）の端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出され、規制状態において、保護カバーＷｍ５００の係合部Ｗｍ５３０ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）となる位置に形成される。

【０９９８】

平面部Ｗｍ２２０の規制突起Ｗｍ２２８は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向向けての弾性変形規制手段Ｗｍ３３０の変位を規制するための突起であり、平面部Ｗｍ２２０からボックスベースＷｍ３００の平面部Ｗｍ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、規制突起Ｗｍ２２８は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）におい延設部Ｗｍ３３２の略中央に重なる位置に配設される。なお、規制突起Ｗｍ２２８は、前後方向において、連結部Ｗｍ３３１又は規制部Ｗｍ３３４に重なる位置に配設されても良い。

【０９９９】

保護カバーＷｍ５００の突起Ｗｍ５３４は、弾性変形規制手段Ｗｍ３３０を変形（回転）させるための突起であり、係合部Ｗｍ５３０ｂの背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｍ５３４は、係合部Ｗｍ５３０ｂの先端部から弾性変形規制手段Ｗｍ３３０の延設部Ｗｍ３３２の延設寸法と略同等の距離を隔てて配設される。これにより、規制状態において、当接部Ｗｍ３３３及び規制部Ｗｍ３３４の正面側（矢印Ｆ方向側）に係合部Ｗｍ５３０ｂの先端部および突起Ｗｍ５３４を配設できる。

【１０００】
図９８（ｂ）に示すように、規制状態において、係合部Ｗｍ５３０ｂの突起Ｗｍ５３４と弾性変形規制手段Ｗｍ３３０の当接部Ｗｍ３３３とが当接当接する。これにより、連結部Ｗｍ３３１（延設部Ｗｍ３３２）は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回転軸として回転され（捩じられ）、当接部Ｗｍ３３３が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて変位され、規制部Ｗｍ３３４が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位される。
【１００１】
上述したように、傾斜部Ｗｍ３３１ａは、上方側（矢印Ｕ方向側）から下方側（矢印Ｄ方向側）へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）へ傾斜して形成されるため、平面部Ｗｊ２２０の側壁に対し連結部Ｗｍ３３１（延設部Ｗｍ３３２）を回転させ易くできる。
【１００２】
規制部Ｗｍ３３４が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位されることにより、規制部Ｗｍ３３４と係合部Ｗｍ５３０ｂの先端部との間の距離を小さくできる。これにより、係合部Ｗｍ５３０ｂを不正に弾性変形させ難くできる。なお、規制状態において、規制部Ｗｍ３３４は、係合部Ｗｍ５３０ｂの背面に当接されても良い。
【１００３】
上述したように、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、規制突起Ｗｍ２２８が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）におい延設部Ｗｍ３３２の略中央に重なる位置に配設されるため、規制突起Ｗｍ２２８と延設部Ｗｍ３３２とが当接することにより延設部Ｗｍ３３２（当接部Ｗｍ３３３及び規制部Ｗｍ３３４）が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて変位されることを規制できる。これにより、係合部Ｗｍ５３０ｂを不正に弾性変形させ難くできる。
【１００４】
次いで、図９９を参照して、本発明の第２９実施形態における基板ボックスＷｎ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１００５】
図９９（ａ）は、第２９実施形態における基板ボックスＷｎ１００の部分正面図であり、図９９（ｂ）は、図９９（ａ）の矢印ＸＣＩＸｂ方向視における保護カバーＷｎ５００の側面図であり、図９９（ｃ）は、図９９（ａ）のＸＣＩＸｃ－ＸＣＩＸｃ線における基板ボックスＷｎ１００の部分断面図である。なお、図９９（ａ）では、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００から保護カバーＷｎ５００が取り外された状態が図示され、保護カバーＷｎ５００の突起Ｗｎ５３４及び一対の壁部Ｗｎ５３８が破線により図示される。
【１００６】
図９９に示すように、第２９実施形態における基板ボックスＷｎ１００のボックスベースＷｍ３００は、一対の爪部Ｗｍ３４０を備え、保護カバーＷｎ５００の係合部Ｗｎ５３０ｂは、突起Ｗｎ５３４及び一対の壁部Ｗｎ５３８を備える。
【１００７】
ボックスベースＷｍ３００の正面壁部Ｗｎ３１２ａには、一対の爪部Ｗｍ３４０に対応する位置に切欠きが形成され、その切欠きにより形成される空間に一対の爪部Ｗｍ３４０が配設される。一対の爪部Ｗｍ３４０は、正面壁部Ｗｎ３１２ａの背面から左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成され、正面壁部Ｗｎ３１２ａよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。
【１００８】
一対の爪部Ｗｍ３４０は、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００に保護カバーＷｎ５００を係合させるための部位であり、規制状態では、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、保護カバーＷｎ５００の係合部Ｗｎ５３０ｂに重なる位置に配設される。一対の爪部Ｗｍ３４０には、その爪部Ｗｍ３４０の突出先端側（矢印Ｌ方向側）となる位置に係合孔Ｗｍ３４１が穿設される。
【１００９】

係合孔Ｗｍ３４１は、後述する保護カバーＷｎ５００の突起Ｗｎ５３４の外形よりもやや大きく形成され、係合孔Ｗｍ３４１の内側に突起Ｗｎ５３４が配設（係合孔Ｗｍ３４１に突起Ｗｎ５３４が係合）されることにより、保護カバーＷｎ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００に係合される。

【１０１０】

係合部Ｗｎ５３０ｂは、その係合部Ｗｎ５３０ｂの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における両端部において、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離を隔てて一対の連結片Ｗ５３１ｂをそれぞれ備える。これにより、係合部Ｗｎ５３０ｂの弾性変形が抑制される。

【１０１１】

また、係合部Ｗｎ５３０ｂは、第７実施形態における係合部Ｗ５３０ｂと比較して正面側（矢印Ｆ方向側）に形成され、本実施形態では、正面壁部Ｗ５２０と略同一面上に配設される。

【１０１２】

突起Ｗｎ５３４は、係合部Ｗｎ５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｎ５３４は、規制状態では、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、係合孔Ｗｍ３４１に重なる位置に配設される。これにより、保護カバーＷｎ５００をボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００に係合できる。

【１０１３】

一対の壁部Ｗｎ５３８は、正面壁部Ｗ５２０と係合部Ｗｎ５３０ｂとの間に形成される隙間から不正に挿入された針金が係合孔Ｗｍ３４１と突起Ｗｎ５３４との係合を解除することを抑制するための部位である。一対の壁部Ｗｎ５３８は、係合部Ｗｎ５３０ｂにおいて、正面壁部Ｗ５２０に対向する側の端部に形成される。これにより、一対の壁部Ｗｎ５３８の対向間に突起Ｗｎ５３４が配設される。また、一対の壁部Ｗｎ５３８は、係合部Ｗｎ５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。

【１０１４】

図９９（ｃ）に示すように、規制状態において、係合孔Ｗｍ３４１の内側に突起Ｗｎ５３４が配設され、係合孔Ｗｍ３４１の内側壁と突起Ｗｎ５３４とが当接することにより、保護カバーＷｎ５００の左方側（矢印Ｌ方向側）への変位が規制される。

【１０１５】

また、係合部Ｗｎ５３０ｂは、正面壁部Ｗ５２０と略同一面上に配設され、一対の爪部Ｗｍ３４０は、正面壁部Ｗｎ３１２ａよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるため、規制状態において、係合部Ｗｎ５３０ｂよりも背面壁部Ｗ５１０側（矢印Ｂ方向側）に一対の爪部Ｗｍ３４０が配設される。従って、保護カバーＷｎ５００により一対の爪部Ｗｍ３４０が遮蔽される。これにより、一対の爪部Ｗｍ３４０が不正に弾性変形されることを抑制でき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｎ３００から保護カバーＷｎ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【１０１６】

次いで、図１００を参照して、本発明の第３０実施形態における基板ボックスＷｏ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１０１７】

図１００（ａ）は、第３０実施形態における基板ボックスＷｏ１００の部分背面図であり、図１００（ｂ）は、図１００（ａ）のＣｂ－Ｃｂ線における基板ボックスＷｏ１００の部分断面図である。なお、図１００（ａ）では、抜け止めピンＷｏ５８０の図示が省略される。

【１０１８】

図１００に示すように、第３０実施形態における基板ボックスＷｏ１００の保護カバーＷｏ５００は、抜け止めピンＷｏ５８０を備え、平面部Ｗｑ２２０は、凹部Ｗｏ２２９を備える。

【１０１９】

なお、保護カバーＷｏ５００が抜け止めピンＷｏ５８０を備えることにより、平面部Ｗｏ２２０は、係合部Ｗｏ５３０ａに対する正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての抜け止めピンＷｏ５８０の突出量だけ正面側に形成される。これにより、抜け止めピンＷｏ５８０と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１０２０】

カバー部Ｗｏ２１４の背面壁部Ｗｏ２１４ａは、第７実施形態における背面壁部Ｗ２１４ａよりも突出先端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成される（図７３参照）。背面壁部Ｗｏ２１４ａには、規制状態における背面視において、係合部Ｗｏ５３０ａの係合孔Ｗ５３３に重なる位置に突起Ｗｏ２１４ｂが平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｏ２１４ｂは、ボックスカバーＷｏ２００と保護カバーＷｏ５００（係合部Ｗｏ５３０ａ）とを係合させるため（保護カバーＷｏ５００の側壁部Ｗ２１２とは反対側への変位を規制するため）の部位である。

【１０２１】

平面部Ｗｏ２２０には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、抜け止めピンＷｏ５８０に重なる位置に凹部Ｗｏ２２９が凹設される。凹部Ｗｏ２２９は、平面部Ｗｏ２２０の背面からボックスベースＷ３００の平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される。これにより、凹部Ｗｏ２２９と封印シールＷＳＬとの間に空間が形成される。

【１０２２】

凹部Ｗｏ２２９は、背面視において、円状に形成され、凹部Ｗｏ２２９の内径は、後述する頭部Ｗｏ５８１の外径と略同一またはやや大きく形成される。これにより、係合部Ｗｏ５３０ａが変位（弾性変形）されると、凹部Ｗｏ２２９の内側へ抜け止めピンＷｏ５８０の一部を受け入れ可能とできる。

【１０２３】

保護カバーＷｏ５００の係合部Ｗｏ５３０ａは、連結片Ｗ５３１ａと係合孔Ｗ５３３との対向間に挿通孔Ｗｏ５３８を備える。挿通孔Ｗｏ５３８は、後述する抜け止めピンＷｏ５８０のピン部Ｗｏ５８２を挿通させるための孔であり、背面視において、円状に形成される。

【１０２４】

抜け止めピンＷｏ５８０は、樹脂材料を素材とし、板状に形成される頭部Ｗｏ５８１と、その頭部Ｗｏ５８１から板厚方向に立設され板状に形成される一対のピン部Ｗｏ５８２と備える。

【１０２５】

頭部Ｗｏ５８１は、背面視において、円状に形成され、頭部Ｗｏ５８１の外径は、挿通孔Ｗｏ５３８の内径よりも大きく形成される。

【１０２６】

一対のピン部Ｗｏ５８２の立設長さは、封印シールＷＳＬとは反対側における係合部Ｗｏ５３０ａの背面と封印シールＷＳＬとの間の寸法よりも小さく形成される。一対のピン部Ｗｏ５８２は、板厚方向に所定の間隔を隔てて配設される。また、一対のピン部Ｗｏ５８２はたわみ変形可能な板厚に形成され、一対のピン部Ｗｏ５８２は、互いに近接する方向に変形可能とされる。

【１０２７】

ピン部Ｗｏ５８２の立設先端部には、対向面側とは反対側へ向けて突出される係止部Ｗｏ５８３が形成される。係止部Ｗｏ５８３の対向面側とは反対側の部位には、立設先端側へ向かうにつれて係止部Ｗｏ５８３の対向面側へ傾斜して形成される傾斜部ｏ５８４が形成され、立設先端側における係止部Ｗｏ５８３の外形は、挿通孔Ｗｏ５３８を挿通可能な大きさに形成される。

【１０２８】

頭部Ｗｏ５８１側（立設先端側とは反対側）における係止部Ｗｏ５８３の外形は、挿通孔Ｗｏ５３８を挿通不能な大きさに形成される。また、頭部Ｗｏ５８１側における係止部Ｗｏ５８３の外形は、一対のピン部Ｗｏ５８２が互いに近接する方向へ向けてたわみ変形

された場合には、挿通孔Ｗｏ５３８を挿通可能な大きさに形成される。また、立設先端側における係止部Ｗｏ５８３の外形は、挿通孔Ｗｏ５３８を挿通可能な大きさに形成される。

【１０２９】

これらにより、抜け止めピンＷｏ５８０は、一対のピン部Ｗｏ５８２が互いに近接する方向へ向けてたわみ変形されることにより、係止部Ｗｏ５８３が挿通孔Ｗｏ５３８を挿通される。一方で、一対のピン部Ｗｏ５８２のたわみ変形が解除されることにより、係止部Ｗｏ５８３は、係合部Ｗｏ５３０ａに当接され、挿通方向（矢印Ｆ方向）とは反対方向（矢印Ｂ方向）への変位が規制される。

【１０３０】

傾斜部ｏ５８４が立設先端側へ向かうにつれて係止部Ｗｏ５８３の対向面側へ傾斜して形成されるため、傾斜部ｏ５８４と挿通孔Ｗｏ５３８の内周とが当接することにより、一対のピン部Ｗｏ５８２が互いに近接する方向へ向けてたわみ変形される。

【１０３１】

頭部Ｗｏ５８１の外径は、挿通孔Ｗｏ５３８の内径よりも大きく形成されることにより、頭部Ｗｏ５８１が係合部Ｗｏ５３０ａに当接し、抜け止めピンＷｏ５８０の挿通方向（矢印Ｆ方向）への変位が規制される。これにより、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接し、封印シールＷＳＬが破損することを抑制できる。

【１０３２】

一方で、ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００から不正に保護カバーＷｏ５００を取り外すために、係合部Ｗｏ５３０ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて不正に弾性変形された場合では、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接する。これにより、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての係合部Ｗｏ５３０ａの弾性変形が規制され、ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷｏ５００の取り外しが抑制される。

【１０３３】

また、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接することにより、封印シールＷＳＬが破損される。これにより、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１０３４】

なお、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、抜け止めピンＷｏ５８０（一対のピン部Ｗｏ５８２）に重なる位置における平面部Ｗｏ２２０には、封印シールＷＳＬとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹部が凹設されても良い。これにより、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接することにより、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１０３５】

次いで、ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００への保護カバーＷｏ５００の取り付けについて説明する。ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００へ保護カバーＷｏ５００を取り付ける際は、保護カバーＷｏ５００に抜け止めピンＷｏ５８０が非係合とされ、ボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷｏ５００が取り付けられた状態において、保護カバーＷｏ５００に抜け止めピンＷｏ５８０を係合させる。

【１０３６】

これにより、抜け止めピンＷｏ５８０が係合された保護カバーＷｏ５００がボックスカバーＷｏ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられる場合と比較して、抜け止めピンＷｏ５８０（係止部Ｗｏ５８３）による封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１０３７】

次いで、図１０１を参照して、本発明の第３１実施形態における保護カバーＷｐ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１０３８】
図１０１は、第３１実施形態における保護カバーＷｐ５００の背面図である。なお、本実施形態では、保護カバーＷｐ５００が取り付けられるボックスカバー及びボックスベースの図示は省略し、ボックスカバー及びボックスベースからの保護カバーＷｐ５００の取り外しの概念について説明する。また、図１０１の説明においては、図１００を適宜参照する。
【１０３９】
図１０１に示すように、第３３実施形態における保護カバーＷｐ５００は、第２係合部Ｗｐ５９０を備える。保護カバーＷｐ５００は、保護カバーＷｐ５００の上壁部および下壁部Ｗ５０１の略中央において上壁部（下壁部Ｗ５０１）と平行な面に対し対称（図１０１上下対称）に一対が形成される。また、保護カバーＷｐ５００の正面壁部Ｗｐ５２０には係合部Ｗ５３０ｂが非形成とされる（図７２参照）。
【１０４０】
係合部Ｗｐ５３０ａは、その係合部Ｗｐ５３０ａの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における両端部において、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離を隔てて一対の連結片Ｗ５３１ｂをそれぞれ備える。一対の連結片Ｗ５３１ｂのうちの左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される連結片Ｗ５３１ｂは、背面壁部Ｗｐ５１０に連結され、一対の連結片Ｗ５３１ｂのうちの右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される連結片Ｗ５３１ｂは、第２係合部Ｗｐ５９０に連結される。
【１０４１】
第２係合部Ｗｐ５９０は、抜け止めピンＷｏ５８０が係合される部位である。第２係合部Ｗｐ５９０は、挿通孔Ｗｏ５３８、連結片Ｗ５３１ａ及び一対の連結片Ｗ５３１ｂを備える。連結片Ｗ５３１ａは、第２係合部Ｗｐ５９０の左方側（矢印Ｌ方向側）の端部と背面壁部Ｗｐ５１０とに連結され、連結片Ｗ５３１ｂは、第２係合部Ｗｐ５９０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の両端部と係合部Ｗｐ５３０ａの上端部（下端部）及び上壁部（下壁部Ｗ５０１）とに連結される。
【１０４２】
ボックスカバー及びボックスベースには、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、一対の係合部Ｗｐ５３０ａ一方の係合孔Ｗ５３３に対応する位置に、その係合孔Ｗ５３３に係合される突起をそれぞれ備える。それら突起は、背面壁部Ｗｐ５１０及び正面壁部Ｗｐ５２０の略中央において背面壁部Ｗｐ５１０（正面壁部Ｗｐ５２０）と平行な面に対し対称に配設される。
【１０４３】
これにより、ボックスカバーに形成される突起と一対の係合部Ｗｐ５３０ａの一方（他方）の係合孔Ｗ５３３とが係合可能された状態では、ボックスベースに形成される突起および一対の係合部Ｗｐ５３０ａの他方（一方）の係合孔Ｗ５３３は非係合とされる。
【１０４４】
ボックスカバーに形成される突起と一対の係合部Ｗｐ５３０ａの一方（他方）の係合孔Ｗ５３３とが係合可能された状態では、一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａに連結される第２係合部Ｗｐ５９０の挿通孔Ｗｏ５３８に抜け止めピンＷｏ５８０が挿通され、第２係合部Ｗｐ５９０と抜け止めピンＷｏ５８０とが係合される。
【１０４５】
ボックスカバー及びボックスベースから不正に保護カバーＷｐ５００を取り外すために、一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて不正に弾性変形された場合では、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接する。これにより、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａの弾性変形が規制され、ボックスカバー及びボックスベースからの保護カバーＷｐ５００の取り外しが抑制される。
【１０４６】
また、一対のピン部Ｗｏ５８２の立設先端部と封印シールＷＳＬとが当接することによ

り、封印シールＷＳＬが破損される。これにより、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１０４７】

ボックスカバー及びボックスベースからの保護カバーＷｐ５００の取り外しは、一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａ及び第２係合部Ｗｐ５９０に連結される連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが切断工具（図示せず）により切断され、保護カバーＷｐ５００から一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａ及び第２係合部Ｗｐ５９０が分離されることにより行われる。

【１０４８】

ここで、一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａ及び第２係合部Ｗｐ５９０が分離された保護カバーＷｐ５００は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として１８０度回転（反転）させることにより、ボックスベースに形成される突起および一対の係合部Ｗｐ５３０ａの他方（一方）の係合孔Ｗ５３３とが係合可能とされる。

【１０４９】

これにより、ボックスカバー及びボックスベースの開封を抑制するために、保護カバーＷｐ５００を２回用いることが（再利用）できる。その結果、ボックスカバー及びボックスベースの開封する毎に保護カバーＷｐ５００が廃棄される場合と比較して、パチンコ機Ｗ１０のメンテナンスコストを低減できる。

【１０５０】

また、保護カバーＷｐ５００から一方（他方）の係合部Ｗｐ５３０ａ及び第２係合部Ｗｐ５９０が分離されているか否かにより、保護カバーＷｐ５００が再利用されてボックスカバー及びボックスベースに取り付けられる状態か、新しい保護カバーＷｐ５００がボックスカバー及びボックスベースに取り付けられる状態かを区別できる。従って、パチンコ機Ｗ１０のメンテナンス記録と照合することにより、例えば、メンテナンス記録では、保護カバーＷｐ５００が再利用される状態が記載されているのに対し、新しい保護カバーＷｐ５００をボックスカバー及びボックスベースに取り付けられている場合、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１０５１】

次いで、図１０２を参照して、本発明の第３２実施形態における基板ボックスＷｑ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１０５２】

図１０２（ａ）は、第３２実施形態における基板ボックスＷｑ１００の部分背面図であり、図１０２（ｂ）は、図１０２（ａ）のＣＩＩｂ－ＣＩＩｂ線における基板ボックスＷｑ１００の部分断面図である。

【１０５３】

図１０２に示すように、第３２実施形態における基板ボックスＷｑ１００の保護カバーＷｑ５００は、第２係合部Ｗｑ５９０及び一対の突起Ｗｑ５３４を備える。なお、保護カバーＷｑ５００が第２係合部Ｗｑ５９０を備えることにより、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における背面壁部Ｗｑ５１０の寸法が第７実施形態における背面壁部Ｗ５１０の寸法よりも短く形成される。

【１０５４】

また、係合部Ｗｑ５３０ａに一対の突起Ｗｑ５３４が形成されることにより、平面部Ｗｑ２２０が一対の突起Ｗｑ５３４の突出量だけ正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。これにより、ボックスカバーＷｑ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷｑ５００を取り付ける際、一対の突起Ｗｑ５３４と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１０５５】

平面部Ｗｑ２２０には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、一対の突起Ｗｑ５３４に重なる位置に凹部Ｗｑ２２９が凹設される。凹部Ｗｑ２２９は、平面部Ｗｑ２２０の背

面からボックスベースＷ３００の平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される。これにより、凹部Ｗｑ２２９と封印シールＷＳＬとの間に空間が形成される。

【１０５６】

カバー部Ｗｑ２１４の背面壁部Ｗｑ２１４ａは、第７実施形態における背面壁部Ｗ２１４ａよりも突出先端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成される（図７３参照）。背面壁部Ｗｑ２１４ａには、規制状態における背面視において、係合部Ｗｑ５３０ａの係合孔Ｗ５３３（図７３参照）に重なる位置に突起Ｗｑ２１４ｂが平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｑ２１４ｂは、ボックスカバーＷｑ２００と保護カバーＷｑ５００（係合部Ｗｑ５３０ａ）とを係合させるため（保護カバーＷｑ５００の側壁部Ｗ２１２とは反対側への変位を規制するため）の部位である。また、カバー部Ｗｑ２１４には、下方側（矢印Ｄ方向側）における側壁が非形成とされる。

【１０５７】

第２係合部Ｗｑ５９０は、係合部Ｗｑ５３０ａの下方側（矢印Ｄ方向側）における端部に配設され、一対の突起Ｗｑ５３４は、係合部Ｗｑ５３０ａにおける第２係合部Ｗｑ５９０とは反対側（矢印Ｕ方向側）の端部に配設される。また、一対の突起Ｗｑ５３４は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離を隔てて配設される。

【１０５８】

第２係合部Ｗｑ５９０には、挿通孔Ｗｏ５３８が穿設される（図１００参照）。その挿通孔Ｗｏ５３８を挿通して抜け止めピンＷｏ５８０のピン部Ｗｏ５８２が挿通された状態で、抜け止めピンＷｏ５８０が第２係合部Ｗｑ５９０に係合される。

【１０５９】

次いで、ボックスカバーＷｑ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷｑ５００の取り外しについて説明する。保護カバーＷｑ５００から係合部Ｗｑ５３０ａが分離された状態において、ボックスカバーＷｑ２００から係合部Ｗｑ５３０ａを取り外す場合、カバー部Ｗｑ２１４には下方側（矢印Ｄ方向側）における側壁が非形成とされるため、係合部Ｗｑ５３０ａを下方側へ向けて変位させることでボックスカバーＷｑ２００からの係合部Ｗｑ５３０ａの取り外しが容易とされる。

【１０６０】

ここで、係合部Ｗｑ５３０ａの係合孔Ｗ５３３と背面壁部Ｗｑ２１４ａの突起Ｗｑ２１４ｂとの係合を解除するために、係合部Ｗｑ５３０ａを平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位させる必要がある。

【１０６１】

一方で、第２係合部Ｗｑ５９０に抜け止めピンＷｏ５８０が係合され、ピン部Ｗｏ５８２の突出先端部が第２係合部Ｗｑ５９０よりも平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）に配設されるため、ピン部Ｗｏ５８２の突出先端部が背面壁部Ｗｑ５１０に当接され易い。

【１０６２】

従って、ピン部Ｗｏ５８２の突出先端部と背面壁部Ｗｑ５１０との当接を抑制するために、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として抜け止めピンＷｏ５８０が平面部Ｗ３２０とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて回転される。これにより、一対の突起Ｗｑ５３４が平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて回転され、一対の突起Ｗｑ５３４により封印シールＷＳＬが破損される。

【１０６３】

また、一対の突起Ｗｑ５３４が封印シールＷＳＬと凹部Ｗｑ２２９との間に形成される空間に受け入れられ易く、一対の突起Ｗｑ５３４により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。また、封印シールＷＳＬにおいて、一対の突起Ｗｑ５３４により破損された領域を大きくできる。

【１０６４】

このように、本実施形態では、ボックスカバーＷｑ２００からの係合部Ｗｑ５３０ａの取り外しにおいて、封印シールＷＳＬを破損させ易くすることで主制御基板（図示せず）への不正操作の虞を作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１０６５】
次いで、図１０３（ａ）を参照して、本発明の第３３実施形態における基板ボックスＷｒ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１０６６】
図１０３（ａ）は、第３３実施形態における基板ボックスＷｒ１００の部分断面図であり、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶｂ－ＬＸＸＩＶｂ線に対応する。なお、図１０３（ａ）の説明においては、図７４（ａ）を適宜参照する。
【１０６７】
図１０３（ａ）に示すように、第３３実施形態における基板ボックスＷｒ１００のボックスカバーＷｒ２００は、第７実施形態における突起Ｗ２２１に代えて（図７２参照）、突起Ｗｒ２１４ｂを備える。
【１０６８】
なお、平面部Ｗｒ２２０には突起Ｗ２２１が非形成とされ、背面視において、係合部Ｗ５３０ａに重なる位置には係合孔Ｗ５３３よりも側壁部Ｗ２１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）となる位置まで切欠きが形成される。これにより、係合部Ｗ５３０ａが平面部Ｗｒ２２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて弾性変形された場合においても、係合部Ｗ５３０ａが平面部Ｗｒ２２０に当接し、係合部Ｗ５３０ａの弾性変形が規制されることを抑制できる。
【１０６９】
カバー部Ｗｒ２１４の背面壁部Ｗｒ２１４ａは、第７実施形態における背面壁部Ｗ２１４ａよりも突出先端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出して形成される（図７３参照）。背面壁部Ｗｒ２１４ａには、背面視において、係合部Ｗ５３０ａの係合孔Ｗ５３３に重なる位置に突起Ｗｒ２１４ｂが平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される。突起Ｗｒ２１４ｂは、ボックスカバーＷｒ２００と保護カバーＷｒ５００（係合部Ｗ５３０ａ）とを係合させるため（保護カバーＷｒ５００の側壁部Ｗ２１２とは反対側への変位を規制するため）の部位である。
【１０７０】
突起Ｗｒ２１４ｂが背面壁部Ｗｒ２１４ａから平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出されることにより、ボックスカバーＷｒ２００と保護カバーＷｒ５００とを係合させるために係合部Ｗ５３０ａを正面壁部Ｗ５２０側（平面部Ｗｒ２２０側）へ向けて弾性変形させることができる。
【１０７１】
一方で、一対の係合部Ｗ５３０ｂは、ボックスベースＷ３００と保護カバーＷｒ５００とを係合させるために背面壁部Ｗ５１０側（平面部Ｗ３２０側、矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される（図７４（ａ）参照）。従って、ボックスカバーＷｒ２００及びボックスベースＷ３００と保護カバーＷ５００との係合を不正に解除させるために係合部Ｗ５３０ａを弾性変形（変位）させる方向（矢印Ｆ方向）と一対の係合部Ｗ５３０ｂを弾性変形（変位）させる方向（矢印Ｂ方向）とを反対方向とすることができる。
【１０７２】
これにより、係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）と突起Ｗｒ２１４ｂ（一対の突起Ｗ３１２ｃ）との係合を解除させるために係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）を弾性変形（変位）させると、その係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）の弾性変形（変位）に伴い一対の係合部Ｗ５３０ｂ（係合部Ｗ５３０ａ）を一対の突起Ｗ３１２ｃ（突起Ｗｒ２１４ｂ）との係合を維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷｒ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷｒ５００が不正に取り外されることを抑制できる。
【１０７３】
また、突起Ｗｒ２１４ｂが背面壁部Ｗｒ２１４ａから平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出されることにより、突起Ｗｒ２１４ｂと係合孔Ｗ５３３との係合が背面壁部Ｗｒ２１４ａにより遮蔽される。これにより、突起Ｗｒ２１４ｂと係合孔Ｗ５３３との

係合が不正に解除され難くできる。

【１０７４】

次いで、図１０３（ｂ）を参照して、本発明の第３４実施形態における基板ボックスＷｓ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１０７５】

図１０３（ｂ）は、第３４実施形態における基板ボックスＷｓ１００の部分断面図であり、図７３（ｂ）のＬＸＸＩＶａ－ＬＸＸＩＶａ線に対応する。なお、図１０３（ｂ）の説明においては、図７４（ｂ）を適宜参照する。

【１０７６】

図１０３（ｂ）に示すように、第３４実施形態における基板ボックスＷｓ１００のボックスベースＷｓ３００は、第７実施形態における一対の突起Ｗ３１２ｃに代えて（図７３参照）、一対の突起Ｗｓ３２８を備える。なお、一対の係合部Ｗ５３０ｂと一対の突起Ｗｓ３２８との係合の態様については、一方（上方）及び他方（下方）において同一であるため（図７３参照）、一方における断面図を図示して説明し、他方における説明は省略する。

【１０７７】

ボックスベースＷｓ３００の正面壁部Ｗ３１２ａには、突起Ｗ３１２ｃが非形成とされ、正面視において、一対の係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３に重なる位置まで平面部Ｗｓ３２０が伸びて形成される。その平面部Ｗｓ３２０の延出先端部には、正面視において、一対の係合部Ｗ５３０ｂの係合孔Ｗ５３３に重なる位置に一対の突起Ｗｓ３２８が平面部Ｗ２２０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。一対の突起Ｗｓ３２８は、ボックスベースＷｓ３００と保護カバーＷ５００（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）とを係合させるため（保護カバーＷ５００の左壁部Ｗ３０２とは反対側への変位を規制するため）の部位である。

【１０７８】

一対の突起Ｗｓ３２８が平面部Ｗｓ３２０から正面壁部Ｗ３１２ａとは反対側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出されることにより、ボックスベースＷｓ３００と保護カバーＷ５００とを係合させるために一対の係合部Ｗ５３０ｂを正面壁部Ｗ３１２ａ側（平面部Ｗ２２０とは反対側）へ向けて弾性変形させることができる。

【１０７９】

一方で、係合部Ｗ５３０ａは、ボックスカバーＷ２００と保護カバーＷ５００とを係合させるために正面壁部Ｗ５２０とは反対側（平面部Ｗ２２０とは反対側、矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形される（図７４（ｂ）参照）。従って、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｓ３００と保護カバーＷ５００との係合を不正に解除させるために係合部Ｗ５３０ａを弾性変形（変位）させる方向（矢印Ｂ方向）と一対の係合部Ｗ５３０ｂを弾性変形（変位）させる方向（矢印Ｆ方向）とを反対方向とすることができる。

【１０８０】

これにより、係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）と突起Ｗ２２１（一対の突起Ｗｓ３２８）との係合を解除させるために係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）を弾性変形（変位）させると、その係合部Ｗ５３０ａ（一対の係合部Ｗ５３０ｂ）の弾性変形（変位）に伴い一対の係合部Ｗ５３０ｂ（係合部Ｗ５３０ａ）を一対の突起Ｗｓ３２８（突起Ｗ２２１）との係合を維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｓ３００から保護カバーＷ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【１０８１】

次いで、図１０４を参照して、本発明の第３５実施形態における基板ボックスＷｔ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１０８２】

図１０４（ａ）は、第３５実施形態における基板ボックスＷｔ１００の部分背面図であり、図１０４（ｂ）は、図１０４（ａ）のＣＩＶｂ－ＣＩＶｂ線における基板ボックスＷｔ１００の部分断面図である。なお、図１０４では、基板ボックスＷｔ１００から保護カバーＷ５００が取り外された状態が図示される。

【１０８３】

図１０４に示すように、第３５実施形態における基板ボックスＷｔ１００のボックスカバーＷｔ２００（平面部Ｗｔ２２０）は、第７実施形態における凹部Ｗ２２４ｂに代えて、（図７３参照）、突部Ｗｔ２２４ｂを備える。

【１０８４】

突部Ｗｔ２２４ｂは、平面部Ｗｔ２２０の背面から平面部Ｗ３２０とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出し、断面視において、略矩形状に形成される。突部Ｗｔ２２４ｂにより、平面部Ｗｔ２２０の強度を確保できる。

【１０８５】

突部Ｗｔ２２４ｂには、一対の切欠きＷｔ２２４ｂ１が形成される。切欠きＷｔ２２４ｂ１により形成される突部Ｗｔ２２４ｂの対向面どうしの間に形成される空間を切断空間ＷＳ３と定義する。切断空間ＷＳ３は、規制状態では、背面視において、係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂに重なる位置に配設される。

【１０８６】

切欠きＷｔ２２４ｂ１により形成される突部Ｗｔ２２４ｂの対向面どうしの間の距離は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における連結片Ｗ５３１ｂ（図７３参照）の延設寸法と略同等またはやや大きく形成される。これにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断する際、切断工具（図示せず）の先端を切断空間ＷＳ３に受け入れ可能とできる。

【１０８７】

突部Ｗｔ２２４ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延び一対の両端壁部Ｗ２２３を連結して形成される。これにより、切断空間ＷＳ３を除き、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの両端の間において封印シールＷＳＬを突部Ｗｔ２２４ｂに貼着できる。従って、上下方向における封印シールＷＳＬの両端側が突部Ｗｔ２２４ｂに貼着されない場合と比較して、封印シールＷＳＬにしわが生じることを抑制でき、平面部Ｗｔ２２０の背面と封印シールＷＳＬとの間に空間が生じることを抑制できる。その結果、平面部Ｗｔ２２０の背面から封印シールＷＳＬが剥がされ易くなることを抑制できる。

【１０８８】

また、突部Ｗｔ２２４ｂと一対の両端壁部Ｗ２２３とが連結されることにより、一対の両端壁部Ｗ２２３の強度を確保できる。

【１０８９】

なお、突部Ｗｔ２２４ｂは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、封印シールＷＳＬの両端よりも一対の両端壁部Ｗ２２３側に延びて形成されていれば、一対の両端壁部Ｗ２２３に非連結とされても良い。

【１０９０】

上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの突設先端部と一対の両端壁部Ｗ２２３の突出先端部との間の距離は、係合部Ｗ５３０ａの正面（正面壁部Ｗ５２０に対向する面）と背面壁部Ｗ５１０の正面（正面壁部Ｗ５２０に対向する面）との間の距離よりも大きく形成される（図７２参照）。これにより、ボックスカバーＷｔ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷ５００を取り付ける際、突部Ｗｔ２２４ｂに貼着された封印シールＷＳＬと係合部Ｗ５３０ａとが当接し、封印シールＷＳＬが破損することを抑制できる。

【１０９１】

なお、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの突設先端部と一対の両端壁部Ｗ２２３の突出先端部との間の距離は、係合部Ｗ５３０ａの正面（正面壁部Ｗ５２０に対向する面）と背面壁部Ｗ５１０の正面（正面壁部Ｗ５２０に対向する面）との間の距離が略同一に形成されても良い。

【１０９２】
左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法は、係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂの寸法と略同一に形成される。
【１０９３】
次いで、突部Ｗｔ２２４ｂへの封印シールＷＳＬの貼着について説明する。封印シールＷＳＬは、突部Ｗｔ２２４ｂの突出形状に沿って貼着され、突部Ｗｔ２２４ｂの突出先端面と平面部Ｗｔ２２０とを連結する一対の側面および突出先端面に貼着される。
【１０９４】
一方で、封印シールＷＳＬは、切欠きＷｔ２２４ｂ１により形成される突部Ｗｔ２２４ｂの対向面や切断空間ＷＳ３における平面部Ｗｔ２２０には貼着されない。従って、封印シールＷＳＬは、切断空間ＷＳ３を取り囲んだ態様で突部Ｗｔ２２４ｂに貼着される。
【１０９５】
これにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断する際（図７３参照）、切断工具（図示せず）の先端を切断空間ＷＳ３に配設させ易くできる。その結果、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。
【１０９６】
また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法は、係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂの寸法と略同一に形成されるため、封印シールＷＳＬに対向する態様で切断工具（図示せず）の先端を配設させることができる。これにより、封印シールＷＳＬに形成される痕跡（破損）を大きくできる。
【１０９７】
次いで、図１０５を参照して、本発明の第３６実施形態における基板ボックスＷｕ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１０９８】
図１０５は、第３６実施形態における基板ボックスＷｕ１００の部分背面図であり、図７３（ｂ）のＬＸＸＸａ－ＬＸＸＸａ線における断面図に対応する。
【１０９９】
図１０５に示すように、第３６実施形態における基板ボックスＷｕ１００の保護カバーＷｕ５００は、突起Ｗｕ５３４を備える。突起Ｗｕ５３４は、第１１実施形態における突起Ｗ５５３４に対し、係合部Ｗｕ５３０ｂの突出先端側（矢印Ｒ方向側）に形成される突起Ｗｕ５３４の側面Ｗｕ５３４ｃが突出先端側へ向けて凸となる円弧上に湾曲して形成される。係合部Ｗｕ５３０ｂの突出先端とは反対側（矢印Ｌ方向側）に形成される突起Ｗｕ５３４の側面Ｗｕ５３４ｄは、係合部Ｗｕ５３０ｂ及び突起Ｗｕ５３４の突出先端を直線状に連結して形成される。
【１１００】
これにより、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００に保護カバーＷｕ５００を取り付けるために係合部Ｗｕ５３０ｂが封印シールＷＳＬ側（矢印Ｂ方向側）へ向けて弾性変形されると、突起Ｗｕ５３４の側面Ｗｕ５３４ｃが封印シールＷＳＬに対向される。従って、ボックスベースＷ５３００や保護カバーＷｕ５００の加工精度（寸法公差）等の要因に起因して、突起Ｗｕ５３４の側面Ｗｕ５３４ｃと封印シールＷＳＬとが当接される場合においても、保護カバーＷｕ５００をカバー部Ｗ３１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させる際、封印シールＷＳＬが破損されることを抑制し易くできる。
【１１０１】
言い換えると、保護カバーＷｕ５００が突起Ｗｕ５３４を備える場合であっても、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００への保護カバーＷｕ５００の取り付け時においては、封印シールＷＳＬの破損が抑制され易い。
【１１０２】
一方で、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００から保護カバーＷｕ５００を不正に取り外すために、係合部Ｗｕ５３０ｂを弾性変形させつつ保護カバーＷｕ５

００をカバー部Ｗ３１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させる場合、側面Ｗｕ５３４ｃ，Ｗｕ５３４ｄの連結部（突起Ｗｕ５３４の突出先端部）により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１１０３】

このように、本実施形態では、保護カバーＷｕ５００が突起Ｗｕ５３４を備え、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００から保護カバーＷｕ５００を不正に取り外す場合、封印シールＷＳＬが破損され易い構成であっても、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００に保護カバーＷｕ５００を取り付ける際、封印シールＷＳＬが破損されることを抑制し易くできる。

【１１０４】

なお、側面Ｗｕ５３４ｄは、側面Ｗｕ５３４ｃ側（矢印Ｒ方向側）へ向けて凹状に湾曲して形成されても良い。これにより、側面Ｗｕ５３４ｃ及び側面Ｗｕ５３４ｄの連結部を鋭利に形成でき、封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【１１０５】

次いで、図１０６を参照して、本発明の第３７実施形態における基板ボックスＷｖ１００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１１０６】

図１０６（ａ）は、第３７実施形態における基板ボックスＷｖ１００の部分背面図であり、図１０６（ｂ）は、図１０６（ａ）のＣＶＩｂ－ＣＶＩｂ線における基板ボックスＷｖ１００の部分断面図である。なお、図１０６（ａ）では、凹部Ｗｖ２２９及び封印シールＷＳＬの外形が破線により図示される。また、図１０６の説明においては、図１０２を適宜参照する。

【１１０７】

図１０６に示すように、第３７実施形態における基板ボックスＷｖ１００のボックスカバーＷｖ２００は、第３２実施形態におけるボックスカバーＷｑ２００に加え、凹部Ｗｖ２２９を備える。

【１１０８】

凹部Ｗｖ２２９は、規制状態における背面視において、抜け止めピンＷｏ５８０に重なる位置に凹設される。凹部Ｗｖ２２９は、背面視において、円状に形成され、凹部Ｗｖ２２９の内径は、頭部Ｗｏ５８１の外径よりもやや大きく形成される。封印シールＷＳＬは、凹部Ｗｖ２２９よりも側壁部Ｗ２１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）において平面部Ｗｖ２２０に貼着される。言い換えると、封印シールＷＳＬは、凹部Ｗｖ２２９には非貼着とされる。

【１１０９】

また、保護カバーＷｖ５００（係合部Ｗｖ５３０ａ）に形成される一対の突起Ｗｖ５３４の突出量は、第３２実施形態における一対の突起Ｗｑ５３４よりも短く形成される。詳細には、保護カバーＷｖ５００に抜け止めピンＷｏ５８０が配設（係合）された状態において、一対の突起Ｗｖ５３４の突出先端部は、抜け止めピンＷｏ５８０の係止部Ｗｏ５８３の突出先端部よりもボックスベースＷ３００とは反対側（矢印Ｂ方向側）に形成される。

【１１１０】

また、一対の突起Ｗｖ５３４のうち、左壁部Ｗ５０２側（矢印Ｌ方向側）に配設される突起Ｗｖ５３４は、背面視において、封印シールＷＳＬに重なる位置に配設される。これにより、一対の突起Ｗｖ５３４がボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）向けて変位（回転）された場合、左壁部Ｗ５０２側に配設される突起Ｗｖ５３４と封印シールＷＳＬとの当接させることができる。

【１１１１】

なお、係合部Ｗｖ５３０ａに一対の突起Ｗｖ５３４が形成されることにより、平面部Ｗｖ２２０が一対の突起Ｗｖ５３４の突出量だけボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側

）に形成される。これにより、ボックスカバーＷｖ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷｖ５００を取り付ける際、一対の突起Ｗｖ５３４と封印シールＷＳＬとの当接を抑制でき、封印シールＷＳＬの破損を抑制できる。

【１１１２】

一方で、規制状態において、保護カバーＷｖ５００に抜け止めピンＷｏ５８０が配設（係合）されることにより、抜け止めピンＷｏ５８０の係止部Ｗｏ５８３の突出先端部は、一対の突起Ｗｖ５３４の突出先端部よりもボックスベースＷ３００側（矢印Ｆ方向側）に配設される。これにより、係止部Ｗｏ５８３の突出先端部は、凹部Ｗｖ２２９により形成される空間に受け入れられる。

【１１１３】

これらにより、ボックスカバーＷｖ２００及びボックスベースＷ３００に保護カバーＷｖ５００を取り付ける際は、抜け止めピンＷｏ５８０が非配設（非係合）とされた状態の係合部Ｗｖ５３０ａを弾性変形させ、係合部Ｗｖ５３０ａの係合孔Ｗ５３３（図１０３（ａ）参照）とボックスカバーＷｖ２００の突起Ｗｑ２１４ｂとが係合できる。

【１１１４】

規制状態において、保護カバーＷｖ５００に抜け止めピンＷｏ５８０が配設（係合）された状態では、係止部Ｗｏ５８３が凹部Ｗｖ２２９の底面に当接することにより係合部Ｗｖ５３０ａの弾性変形が規制される。これにより、係合部Ｗｖ５３０ａとボックスカバーＷｖ２００との係合の解除が抑制される。

【１１１５】

また、係合部Ｗｖ５３０ａの係合孔Ｗ５３３（図７３参照）と背面壁部Ｗｑ２１４ａの突起Ｗｑ２１４ｂとの係合を解除するために、係合部Ｗｖ５３０ａを不正に弾性変形させた状態で保護カバーＷｖ５００を側壁部Ｗ２１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させた場合、係止部Ｗｏ５８３が凹部Ｗｖ２２９の内周面に当接されることにより保護カバーＷｖ５００の側壁部Ｗ２１２とは反対側へ向けての変位が規制される。これにより、ボックスカバーＷｖ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷｖ５００の取り外しを抑制できる。

【１１１６】

次いで、ボックスカバーＷｖ２００及びボックスベースＷ３００からの保護カバーＷｖ５００の取り外しについて説明する。保護カバーＷｖ５００から係合部Ｗｖ５３０ａが分離された状態において、ボックスカバーＷｖ２００から係合部Ｗｖ５３０ａを取り外す場合、係合部Ｗｖ５３０ａの係合孔Ｗ５３３と背面壁部Ｗｑ２１４ａの突起Ｗｑ２１４ｂとの係合を解除すると共に、ピン部Ｗｏ５８２の突出先端部と凹部Ｗｖ２２９の内周面との当接を抑制するために、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として抜け止めピンＷｏ５８０が平面部Ｗ３２０とは反対側（矢印Ｂ方向側）へ向けて回転される。これにより、一対の突起Ｗｖ５３４が平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて回転される。この状態から係合部Ｗｖ５３０ａを側壁部Ｗ２１２とは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させることにより、一対の突起Ｗｖ５３４と封印シールＷＳＬとが当接され、封印シールＷＳＬが破損される。

【１１１７】

このように、本実施形態では、ボックスカバーＷｖ２００からの係合部Ｗｖ５３０ａの取り外しにおいて、封印シールＷＳＬを破損させ易くすることで主制御基板（図示せず）への不正操作の虞を作業者（店員）に認識させ易くできる。

【１１１８】

次いで、図１０７（ａ）を参照して、本発明の第３８実施形態における保護カバーＷｗ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。

【１１１９】

図１０７（ａ）は、第３８実施形態における基板ボックスＷｗ１００の部分断面図であり、図７６（ａ）のＬＸＸＸＩＩａ部における断面に対応する。

【１１２０】
図１０７（ａ）に示すように、第３８実施形態における保護カバーＷｗ５００の連結片Ｗｗ５３１ｂは、異なる樹脂材料を用いて二色成形により成形される。言い換えると、連結片Ｗｗ５３１ｂが剛性の異なる複数（本実施形態では、２種類）の部位から形成される。
【１１２１】
連結片Ｗｗ５３１ｂは、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１及び第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１とは異なる剛性を有する樹脂材料から形成される第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２から構成され、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１及び第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２は、係合部Ｗ５３０ａ（図７６参照）の突出方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並んで配設される。
【１１２２】
これにより、切断工具（図示せず）を用いて連結片Ｗｗ５３１ｂを切断する際、切断工具の先端を回転させ易くできる。詳細には、例えば、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１が第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２よりも硬度が高い樹脂材料を用いて成形され、切断工具がニッパーやハサミから構成され、一対の刃の間に連結片Ｗｗ５３１ｂを挟み込んで連結片Ｗｗ５３１ｂを切断する場合、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２が切断され易い。
【１１２３】
従って、第１連結片Ｗｗ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｗ５３１ｂ２を切断させ易くでき、切断工具の刃を回転させ易くできる。これにより、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１１２４】
次いで、図１０７（ｂ）を参照して、本発明の第３９実施形態における保護カバーＷｘ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１１２５】
図１０７（ｂ）は、第３９実施形態における基板ボックスＷｘ１００の部分断面図であり、図７６（ａ）のＬＸＸＸＩＩａ部における断面に対応する。
【１１２６】
図１０７（ｂ）に示すように、第３９実施形態における保護カバーＷｘ５００の連結片Ｗｘ５３１ｂは、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１及び正面壁部Ｗ５２０から背面壁部Ｗ５１０へ向かう方向（矢印Ｆ－Ｂ方向、図７６参照）における寸法が第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１よりも小さく形成される第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２から構成される。
【１１２７】
第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１及び第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２は、係合部Ｗ５３０ａ（図７６参照）の突出方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並んで配設され、断面視において、連結片Ｗｘ５３１ｂは略Ｌ字状に形成される。
【１１２８】
これにより、切断工具がニッパーやハサミから構成され、一対の刃の間に連結片Ｗｘ５３１ｂを挟み込んで連結片Ｗｘ５３１ｂを切断する場合、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２を切断させ易くでき、切断工具の刃を回転させ易くできる。これにより、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。その結果、不正を行う者により主制御基板（図示せず）に不正操作が行われた虞があることを作業者（店員）に認識させ易くできる。
【１１２９】
次いで、図１０７（ｃ）を参照して、本発明の第４０実施形態における保護カバーＷｙ５００について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付してその説明を省略する。
【１１３０】

図１０７（ｃ）は、第４０実施形態における基板ボックスＷｙ１００の保護カバーＷｙ５００の部分背面図である。なお、図１０７（ｃ）の説明においては、図８８（ｂ）を適宜参照する。

【１１３１】

図１０７（ｃ）に示すように、第４０実施形態における基板ボックスＷｙ１００の保護カバーＷｙ５００は、切断部Ｗｙ５５０を備える。また、連結片Ｗｅ５３１ａが切断部Ｗｙ５５０と所定の距離を隔てて配設される。

【１１３２】

切断部Ｗｙ５５０は、係合部Ｗｙ５３０ａから連結部Ｗ５１２側（矢印Ｌ方向側）へ向かうにつれて一対の連結片Ｗ５３１ｂを連結する方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における幅寸法が小さく形成される。言い換えると、切断部Ｗｙ５５０は、背面視において、鋭角状に形成される。これにより、封印シールＷＳＬを切断させ易くできる。

【１１３３】

なお、保護カバーＷｙ５００に係合部Ｗｙ５３０ａが連結された状態では、切断部Ｗｙ５５０が背面壁部Ｗ５１０及び連結部Ｗ５１２に取り囲まれて配設される。これにより、作業者（店員）が切断部Ｗｙ５５０に接触し、負傷することを抑制できる。

【１１３４】

連結片Ｗ５３１ａ及び切断部Ｗｙ５５０の対向間の距離は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）におけるボックスベースＷｅ３００の平面部Ｗｅ３２０の正面と切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間との間の距離と略同一に形成される（図８８（ｂ）参照）。

【１１３５】

これにより、保護カバーＷｙ５００から係合部Ｗｙ５３０ａを分離させ、切断部Ｗｙ５５０側（矢印Ｄ方向側）における連結片Ｗｅ５３１ａの側面を平面部Ｗｅ３２０の正面に当接させることにより、切断部Ｗｙ５５０を切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５により形成される空間に受け入れ可能とできる（配設できる）。その結果、切欠き部Ｗｅ２２６，Ｗｅ３２５を探す手間を抑制でき、封印シールＷＳＬの切断作業を容易に行うことができる。

【１１３６】

以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図１０８から図１２１を参照し、第４１実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１０８は、第４１実施形態におけるパチンコ機１０の正面図であり、図１０９はパチンコ機１０の遊技盤１３の正面図であり、図１１０はパチンコ機１０の背面図である。

【１１３７】

なお、以下の説明では、図１０８に示す状態のパチンコ機１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１０８に示す状態のパチンコ機１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１０９参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【１１３８】

図１０８に示すように、パチンコ機１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠２と、その外枠２と略同一の外形形状に形成され外枠２に対して開閉可能に支持された内枠４とを備えている。外枠２には、内枠４を支持するために正面視（図１０８参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１８が取り付けられ、そのヒンジ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠４が正面手前側へ開閉可能に支持されている。

【１１３９】

内枠４には、多数の釘や入賞口６３，６４等を有する遊技盤１３（図１０９参照）が裏面側から着脱可能に装着される。この遊技盤１３の前面を球（遊技球）が流下することに

より弾球遊技が行われる。なお、内枠４には、球を遊技盤１３の前面領域に発射する球発射ユニット１１２ａ（図１１１参照）やその球発射ユニット１１２ａから発射された球を遊技盤１３の前面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。

【１１４０】

内枠４の前面側には、その前面上側を覆う前扉５と、その下側を覆う下皿ユニット１５とが設けられている。前扉５および下皿ユニット１５を支持するために正面視（図１０８参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジ１９が取り付けられ、そのヒンジ１９が設けられた側を開閉の軸として前扉５および下皿ユニット１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠４の施錠と前扉５の施錠とは、シリンダ錠２０の鍵穴２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。

【１１４１】

前扉５は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部５ｃが設けられている。前扉５の裏面側には２枚の板ガラス８を有するガラスユニット１６が配設され、そのガラスユニット１６を介して遊技盤１３の前面がパチンコ機１０の正面側に視認可能となっている。

【１１４２】

前扉５には、球を貯留する上皿１７が前方へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿１７の底面は正面視（図１０８参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿１７に投入された球が球発射ユニット１１２ａ（図１１１参照）へと案内される。また、上皿１７の上面には、枠ボタン２２が設けられている。この枠ボタン２２は、例えば、第３図柄表示装置８１（図１０９参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【１１４３】

前扉５には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部５ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部２９～３３が設けられている。パチンコ機１０においては、これら電飾部２９～３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部２９～３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、前扉５の正面視（図１０８参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプ３４が設けられている。

【１１４４】

また、右側の電飾部３２下側には、前扉５の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓３５が形成され、遊技盤１３前面の貼着スペースＫ１（図１０９参照）に貼付される証紙等がパチンコ機１０の前面から視認可能とされている。また、パチンコ機１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部２９～３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材３６が取り付けられている。

【１１４５】

窓部５ｃの下方には、貸球操作部４０が配設されている。貸球操作部４０には、度数表示部４１と、球貸しボタン４２と、返却ボタン４３とが設けられている。パチンコ機１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタン４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿１７に供給される。返却ボタン４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カード

ユニットを介さずに球貸し装置等から上皿１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１１４６】

上皿１７の下側に位置する下皿ユニット１５には、その中央部に上皿１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿５０の右側には、球を遊技盤１３の前面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドル５１が配設される。

【１１４７】

操作ハンドル５１の内部には、球発射ユニット１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチ５１ｂと、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドル５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤１３の前面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドル５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサ５１ａおよび発射停止スイッチ５１ｂがオフとなっている。

【１１４８】

下皿５０の正面下方部には、下皿５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバー５２が設けられている。この球抜きレバー５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバー５２の操作は、通常、下皿５０の下方に下皿５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿５０の右方には、上述したように操作ハンドル５１が配設され、下皿５０の左方には灰皿５３が取り付けられている。

【１１４９】

図１０９に示すように、遊技盤１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車の他、レール６１，６２、一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、可変入賞装置６５、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７、可変表示装置ユニット８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠１２（図１０８参照）の裏面側に取り付けられる。

【１１５０】

ベース板６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口６３、第１入賞口６４、第２入賞口６４０、可変入賞装置６５、可変表示装置ユニット８０は、ルータ加工によってベース板６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１１５１】

なお、ベース板６０の構成は樹脂材料に限られるものではない。例えば、薄い板材を張り合わせた木材からなり、その正面側からベース板６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に目視できないように形成されるようにしても良い。

【１１５２】

遊技盤１３の正面中央部分は、正面枠１４の窓部１４ｃ（図１０８参照）を通じて内枠１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１０９を参照して、遊技盤１３の構成について説明する。

【１１５３】

遊技盤１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レール６２が植立され、その外レール６２の内側位置には外レール６２と同様に帯状の金属板で形成

した円弧状の内レール６１が植立される。この内レール６１と外レール６２とにより遊技盤１３の正面外周が囲まれ、遊技盤１３とガラスユニット１６（図１０８参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤１３の正面であって２本のレール６１，６２とレール間を繋ぐ樹脂製の円弧部材７０とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【１１５４】

なお、上述の遊技領域は狭義の解釈であり、広義の意味として、遊技領域を、流下した遊技球により遊技者に与えられる利益が確定するまでの遊技球の流下領域として表現しても良い。この意味において、遊技領域は、遊技盤１３の正面側の領域に限られるものではない。例えば、後述するセンサＳＥの上流側に配置される経路も遊技領域に含まれる。

【１１５５】

２本のレール６１，６２は、球発射ユニット１１２ａ（図１１１参照）から発射された球を遊技盤１３上部へ案内するために設けられたものである。内レール６１の先端部分（図１０９の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レール６２の先端部（図１０９の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴム６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴム６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。また、内レール６１の右下側の先端部と外レール６２の右上側の先端部との間には、レール間を繋ぐ円弧を内面側に設けて形成された樹脂製の円弧部材７０がベース板６０に打ち込んで固定されている。

【１１５６】

以下、入賞に基づく抽選について詳しく説明する。本実施形態におけるパチンコ機１０では、第１入賞口６４、および第２入賞口６４０へ入賞（遊技者に対して何らかの利益（例えば、賞球の払い出し、抽選の実行、更に有利な状態への移行の利益等）の付与が期待できる入球）があったことを契機として特別図柄（第１図柄）の抽選が行われ、球が普通入賞口６６，６７（又は後述する普通入賞口（スルーゲート）７６５）を通過した場合に普通図柄（第２図柄）の抽選が行われる。第１入賞口６４、および第２入賞口６４０への入球に対して行われる特別図柄の抽選では、特別図柄の大当たりか否かの当否判定が行われると共に、特別図柄の大当たりと判定された場合にはその大当たり種別の判定も行われる。

【１１５７】

なお、本パチンコ機１０では、特別図柄の低確率状態では、例えば、３２０分の１の確率で特別図柄の大当たりと判定され、特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変状態とも称する）では、例えば、６０分の１の確率で特別図柄の大当たりと判定される。なお、説明の便宜上、第１入賞口６４へ入球した遊技球が後述するセンサＳＥに検出された場合に行われる特別図柄の抽選を「特別図柄１の抽選」と称し、第２入賞口６４０への入球した遊技球が下流側のセンサ（図示せず）に検出された場合に行われる特別図柄の抽選を「特別図柄２の抽選」と称する。

【１１５８】

特別図柄の大当たりになると、パチンコ機１０が特別遊技状態へ移行すると共に、通常時には閉鎖されている特定入賞口６５ａが所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される動作が最大１５回（１５ラウンド）繰り返される。その結果、特定入賞口６５ａに多量の球が入賞するので、通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。なお、特定入賞口６５ａへの入球に伴い賞球の払い出しがあることや、払い出し個数については後述する。

【１１５９】

なお、特別図柄の大当たり種別としては、「大当たりＡ」、「大当たりＢ」、「大当たりＣ」、「大当たりａ」、「大当たりｂ」、「大当たりｃ」の６種類が設けられている。詳細については後述するが、大当たり種別によって、特別遊技のラウンド数や、特別遊技

終了後における電動役物６４０ａの作動パターンが異なるように構成される。
【１１６０】
特別図柄（第１図柄）の抽選が行われると、第１図柄表示装置３７において特別図柄の変動表示が開始されて、所定時間（例えば、１１秒～６０秒など）が経過した後に、抽選結果を示す特別図柄が停止表示される。第１図柄表示装置３７において変動表示が行われている間に球が第１入賞口６４、または第２入賞口６４０へと入球すると、その入球回数は入賞口の種別毎にそれぞれ最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置３７により示されると共に、第３図柄表示装置８１においても示される。第１図柄表示装置３７において変動表示が終了した場合に、第１入賞口６４についての保留球数（特別図柄１の保留球数）、または第２入賞口６４０についての保留球数（特別図柄２の保留球数）が残っていれば、次の特別図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。なお、特別図柄１の保留球数と特別図柄２の保留球数が共に残っている場合は、特別図柄２の保留球に基づく抽選が優先的に実行される。
【１１６１】
なお、本実施形態では、特別図柄１の保留球数と特別図柄２の保留球数が共に残っている場合は、特別図柄２の保留球に基づく抽選が優先的に実行されるように構成したが、これに限られるものではなく、例えば、特別図柄の取得順（入球順）に優先的に抽選を実行しても良いし、特別図柄１と特別図柄２とで交互に抽選を実行しても良いし、特別図柄１と特別図柄２とで同時に抽選を実行しても良い。
【１１６２】
普通図柄（第２図柄）の抽選では、普通図柄の当たりか否かの当否判定が行われる。普通図柄の当たりになると、所定時間（例えば、０．２秒または１秒）だけ第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが駆動され、第２入賞口６４０へ球が入球し易い状態になる。つまり、普通図柄の当たりになると、球が第２入賞口６４０へ入球し易くなり、その結果、特別図柄の抽選が行われ易くなる。
【１１６３】
また、普通図柄（第２図柄）の抽選が行われると、第２図柄表示装置８３において普通図柄の変動表示が開始されて、所定時間（例えば、０．１秒または１秒など）が経過した後に、抽選結果を示す普通図柄が停止表示される。第２図柄表示装置８３において変動表示が行われている間に球が普通入賞口６６，６７，７６５を通過すると、その通過回数は最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置３７により表示されると共に、第２図柄保留ランプ８４においても示される。第２図柄表示装置８３において変動表示が終了した場合に、普通入賞口６６，６７，７６５についての保留球数が残っていれば、次の普通図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。
【１１６４】
本実施形態では、大当たり終了後の付加価値として、その大当たり終了後から次に大当たりとなるまでの間、パチンコ機１０が特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変中）へ移行するように構成される場合（例えば、後述する大当たりＡ、大当たりＢ、大当たりａ、大当たりｂ）と、大当たり遊技の後に、特別図柄の抽選が１００回終了するまで普通図柄の時短状態となる場合（例えば、後述する大当たりＣ、大当たりｃ）と、が用意されている。
【１１６５】
なお、本実施形態では、特別遊技状態の終了後に特別図柄の確変状態が付与される場合に、その特別図柄の確変状態が次に大当たりとなるまでの間継続される場合を説明したが、これに限られるものではなく、例えば、特別遊技状態が終了してから特別図柄の抽選が１００回終了するまで特別図柄の確変状態（高確率状態）が付与され、特別図柄の抽選が１００回終了して以降は通常状態に設定されるようにしても良い。
【１１６６】
なお、上述した特別図柄の確変状態（高確率状態）が付与される特別図柄の抽選回数は、１００回に限られるものではない。例えば、５０回でも良いし、２００回でも良い。

【１１６７】
　また、上述した普通図柄の時短状態となる特別図柄の抽選回数は、１００回に限られる物ではない。例えば、５０回でも良いし、５回でも良いし、０回でも良い。
【１１６８】
　ここで、「特別図柄の高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変中）は、普通図柄（第２図柄）の当たり確率は変化しないが、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。一方、「特別図柄の低確率状態」とは、特別図柄の確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、特別図柄の確変中よりも大当たり確率が低い状態をいう。
【１１６９】
　また、「普通図柄の時短状態（時短中）」とは、普通図柄の当たり確率は変化しないが、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。また、「通常状態」とは、特別図柄の確変中でも普通図柄の時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も普通図柄（第２図柄）の当たり確率も変化しておらず、第２入賞口６４０へ球が入賞し易いわけでもない状態）のことをいう。
【１１７０】
　特別図柄の確変中や、普通図柄の時短中では、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間が変更され、通常状態に比較して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが励磁された状態（励磁状態、後述する移動板部材６４１が前側位置に配置され第１送球経路ＫＲ１に進入している状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが非励磁とされ退避した状態（非励磁状態、後述する移動板部材６４１が後側位置に配置され第１送球経路ＫＲ１から退避している状態）にある場合と比較して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中は、第２入賞口６４０へ球が入球し易い状態となる。即ち、特別図柄の抽選が行われやすくなる。
【１１７１】
　なお、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、普通図柄の当たりとなった場合における電動役物６４０ａの開放回数を、通常状態よりも増やすように構成してもよい。
【１１７２】
　また、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、普通図柄（第２図柄）の当たり確率はアップして、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間、および電動役物６４０ａの開放回数のうち少なくとも一方を変更するものとしてもよい。
【１１７３】
　また、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、電動役物６４０ａの開放回数は変更せず、普通図柄（第２図柄）の当たり確率だけを、通常状態に比較してアップするように構成してもよい。
【１１７４】
　遊技領域の正面視左側下部（図１０９の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤおよび7セグメント表示器を備える第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、主制御装置１１０（図１１１参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、球が、第１入賞口６４へ入賞したか、第２入賞口６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置３７Ｂが作動するように構成されている。

【１１７５】
また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機１０の各種遊技状態を示唆することができる。
【１１７６】
この第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて特別図柄（第１図柄）の変動表示が行われている間に球が第１入賞口６４、または第２入賞口６４０へと入球した場合、その入球回数は入賞口の種別毎にそれぞれ最大４回まで保留され、その保留球数は第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより示されると共に、第３図柄表示装置８１においても示される。なお、本実施形態においては、第１入賞口６４の下流側に配置されるセンサＳＥ、および第２入賞口６４０への入球は、それぞれ最大４回まで保留されるように構成したが、最大保留回数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。
【１１７７】
なお、本パチンコ機１０では、第１入賞口６４の下流側に配置されるセンサＳＥ、第２入賞口６４０のいずれかに入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、８Ｒ確変大当たり、４Ｒ通常大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。
【１１７８】
ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「８Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が８ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。
【１１７９】
また、「４Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことであり、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。
【１１８０】
また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。
【１１８１】
「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで電動役物６４０ａの作動パターンが変化すること（又は第２図柄（普通図柄）の当たり確率がアップすること）で第２入賞口６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２入賞口６４０への入賞のし易さもアップしていない状態）である。

【１１８２】
確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。
【１１８３】
なお、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしてもよい。また、確変中や時短中において、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが開放される時間や、１回の当たりで電動役物６４０ａを開放する回数はせず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであってもよい。
【１１８４】
遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニット８０が配設されている。
【１１８５】
可変表示装置ユニット８０には、第１入賞口６４、第２入賞口６４０のいずれかの入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置８１と、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置８３と、普通入賞口６６，６７を遊技球が通過した回数に対応する保留球数を点灯状態により示す第２図柄保留ランプ８４と、が設けられている。
【１１８６】
また、可変表示装置ユニット８０には、第３図柄表示装置８１の外周を囲むようにして、センターフレーム８６が配設されている。このセンターフレーム８６の中央に開口される開口部から第３図柄表示装置８１が視認可能とされる。
【１１８７】
第３図柄表示装置８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置１１４（図１１１参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中および下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。
【１１８８】
本実施形態の第３図柄表示装置８１は、主制御装置１１０（図１１１参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置８１を構成するようにしても良い。
【１１８９】
本実施形態では、第３図柄は、「０」から「９」の数字を付した１０種類の主図柄により構成されている。本実施形態のパチンコ機１０においては、後述する主制御装置１１０（図１１１参照）により行われる特別図柄の抽選結果が大当たりであった場合に、同一の主図柄が揃う変動表示（同一の主図柄が揃った状態で最終的に停止する変動表示）が行わ

れ、その変動表示が終わった後に大当たりが発生（特別遊技状態への移行が開始）するよう構成されている。一方、特別図柄の抽選結果が外れであった場合は、同一の主図柄が揃わない変動表示（揃わない状態で最終的に停止する変動表示）が行われる。

【１１９０】

例えば、特別図柄の抽選結果が通常大当たりであれば、偶数番号である「０，２，４，６，８」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。一方、確変大当たりであれば、奇数番号も加えたすべての番号「０，１，２，３，４，５，６，７，８，９」のうちいずれかの番号が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。一方、特別図柄の抽選結果が外れであれば、同一番号の主図柄が揃わない変動表示が行われる。

【１１９１】

次に、第３図柄表示装置８１に表示される、遊技盤１３の右側の経路（流路）を狙って球を打ち出すように促す表示（右打ちナビ）について説明する。

【１１９２】

本実施形態のパチンコ機１０では、特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態となった場合に、電動役物６４０ａにより遊技球が案内され易くなるので、電動役物６４０ａが配置される遊技盤１３の右側へと球を打ち出す（右打ちする）ことにより、第２入賞口６４０へと球を入球させやすくなる。また、詳細については後述するが、第２入賞口６４０へと球が入球したことに基づいて行われる特別図柄の抽選（特別図柄２の抽選）により大当たりとなると、第１入賞口６４へと球が入球したことに基づいて行われる特別図柄の抽選（特別図柄１の抽選）により大当たりとなる場合に比較して、最大賞球個数を獲得できる大当たり（大当たりａ，ｂ，ｃ）となりやすい。

【１１９３】

よって、大当たりの終了後に付与される特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態では、右打ちを実行することにより、遊技者にとって有利となる。換言すれば、特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態に設定されたとしても、遊技者が右打ちしなければ第２入賞口６４０へと球を入球させることが難しいため、特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態の恩恵を遊技者が十分に受けることができなくなってしまう。

【１１９４】

そこで、本実施形態では、特別図柄の確変状態や、普通図柄の時短状態においては、特定の画像（右打ちナビ）を表示させることにより、遊技者が特別図柄の確変状態や普通図柄の時短状態となることによる恩恵を確実に得られるように構成している。

【１１９５】

右打ちナビでは、第３図柄表示装置８１に「右を狙え！！」との文字が表示されると共に、その文字の上下に右向きの矢印が３つずつ表示される。これらの文字、および矢印が表示されることにより、遊技者に対して球を遊技盤１３の右側に設けられた経路（流路）へと打ち出すべきであると感じさせることができる。よって、遊技者に対して、特別図柄の確変状態、および普通図柄の時短状態となることによる恩恵を確実に獲得させることができる。

【１１９６】

次に、本実施形態のパチンコ機１０において第３図柄表示装置８１に対して表示される警告画像の一例について説明する。この警告画像は、遊技者が遊技盤１３の右側に設けられた経路（流路）へと球を打ち出す（右打ちする）べき期間でないにもかかわらず、右打ちを実行していると判別された場合に第３図柄表示装置８１に対して表示される画像（右打ち警告画像）である。より具体的には、通常状態（特別図柄の確変状態でも、普通図柄の時短状態でもない状態）において、遊技者が右打ちを行っていると判別した場合に表示される。

【１１９７】

本実施形態のパチンコ機１０では、通常状態において電動役物６４０ａが第２入賞口６４０に球を案内し難いよう制御される（右打ちを行ったとしても第２入賞口６４０へと球を入球させにくい）。このため、通常状態において右打ちを行うと、左打ちにより第１入

賞口６４を狙って球を打ち出す場合に比較して、特別図柄の抽選を受ける機会が少なくなってしまう。即ち、通常状態において右打ちを行うと、大当たりとなりにくくなるので、遊技者にとって損となってしまう。よって、右打ち警告画像を表示させて左打ちを促すことにより、遊技者が損をしてしまうことを防止（抑制）できるように構成している。

【１１９８】

通常状態において遊技者が右打ちを行っていると判別した場合には、第３図柄表示装置８１に対して、「警告」との文字と、「左打ちで遊技してね！！」との文字とが表示される。これらの文字が表示されることにより、遊技者に対して右打ちをすべきではない（左打ちを行うべきである）と気付かせることができる。また、ホールの店員も右打ち警告画面の有無を確認することにより、通常状態において右打ちを行う変則的な遊技方法を実行している遊技者がいるか否かを容易に判別することができる。

【１１９９】

本実施形態では、右打ちを行っているか否かの判断方法として、右打ちを行った場合に球が流入し得る普通入賞口（スルーゲート）６７（図１０９参照）に対して球が入球したか否かによって判断する。

【１２００】

本実施形態では、通常状態において普通入賞口（スルーゲート）６７（図１０９参照）に球が入球したことを検出した場合に、右打ち警告画像を表示させるように構成していたが、これに限られるものではない。例えば、特別遊技状態（大当たり状態）以外の状態において、特定入賞口６５ａへと球が入賞（入球）したことを検出した場合に、不正遊技（右打ち遊技に限らず、例えば、可変入賞装置６５に負荷を与えて特定入賞口６５ａを開放させ、遊技球を無理やり入球させる遊技態様も含む）が行われていると判別して、右打ち警告画像を表示させるように構成してもよい。これにより、ホールの店員は右打ち警告画像の有無を確認するだけで容易に不正の有無を判別することができる。

【１２０１】

また、例えば、特別遊技状態（大当たり状態）以外の状態において、特定入賞口６５ａへと球が入球したことを検出した場合に、ホールコンピュータに対して不正が行われていることを示す信号を出力するように構成してもよい。これにより、ホールコンピュータの操作者は容易に不正が行われている可能性の有無、および不正行為が行われているパチンコ機１０の台番号（位置）を判断することができる。

【１２０２】

また、例えば、可変表示装置ユニット８０の右側流路を狭めることで、遊技球が通過せざるを得ない範囲を構成し、その範囲に、遊技球の通過を検出可能な検出センサを配設するようにしても良い。この場合、その検出センサにより遊技球の通過が検出されたことに基づいて、右打ちが行われていると判断することができる。

【１２０３】

また、例えば、可変表示装置ユニット８０の最上位置（図１０９における左右中心位置に相当）よりも左側に配置される可動部材（例えば、風車）の変位を検出可能な検出センサを配設しても良い。この場合、遊技球の打ち出しが行われている場合に、予想される動作タイミングを過ぎても可動部材の変位が検出されないことに基づいて、右打ちが行われていると判断することができる。

【１２０４】

次に、可変入賞装置６５において異常が発生していることを検知した場合に表示される警告画像について説明する。ここで、可変入賞装置６５の異常とは、例えば、特別遊技状態（大当たり状態）でないにもかかわらず特定入賞口６５ａへの入球を検出した場合などが例示される。

【１２０５】

可変入賞装置６５において異常が発生していると判別した場合は、第３図柄表示装置８１の中央部分に「警告」との文字が大きく表示される。また、その下部には、「ゲートエラー係員を呼んで下さい」との文字が表示される。これらの文字により、遊技者は、パチ

ンコ機１０においてエラーが発生していると判別することができるので、ホールの店員等に対して迅速に修理等を依頼することができる。

【１２０６】

第２図柄表示装置８３は、球が普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を通過する毎に表示図柄（第２図柄）としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球が普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を通過したことが検出されると、第２図柄の当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【１２０７】

パチンコ機１０は、第２図柄表示装置８３における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口６４０に付随された電動役物６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【１２０８】

第２図柄の変動表示にかかる時間（変動時間）は、遊技状態が通常状態中よりも、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中の方が短くなるように設定される。これにより、特別図柄の確変中、および普通図柄の時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、普通図柄（第２図柄）の抽選を通常状態中よりも多く行うことができる。よって、普通図柄の当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口６４０の電動役物６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。従って、特別図柄の確変中、および普通図柄の時短中は、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【１２０９】

なお、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中において、当たり確率をアップさせたり、電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を増やしたりするなど、その他の方法によって第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中において、通常状態中よりも短く設定する場合は、普通図柄の当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、１回の普通図柄の当たりに対する電動役物６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【１２１０】

普通入賞口（スルーゲート）６６，６７は、可変表示装置ユニット８０の両側の領域において遊技盤に組み付けられ、遊技盤に発射された球のうち、遊技盤を流下する球の一部が通過可能に構成されている。また、普通入賞口（スルーゲート）７６５は、経路構成装置７００の内部流路を流下する遊技球を検出可能に配設される。

【１２１１】

普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【１２１２】

球の普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ８４においても点灯表示される。第２図柄保留ランプ８４は、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置８１の下方に左右対称に配設されている。

【１２１３】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置８３において複

数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ及び第３図柄表示装置８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプ８４の点灯を第３図柄表示装置８１の一部で行うようにしても良い。

【１２１４】

また、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、ベース板６０に配設される普通入賞口（スルーゲート）６６，６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、１つでも良いし、その他の複数（例えば、３つ以上）であっても良い。

【１２１５】

また、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７の組み付け位置は可変表示装置ユニット８０の左右両側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニット８０の左右いずれか一方でも良いし、可変表示装置ユニット８０の上方や下方でも良い。また、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプ８４により点灯表示を行わないものとしてもよい。

【１２１６】

可変表示装置ユニット８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口６４が配設されている。この第１入賞口６４へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチとしてのセンサＳＥがオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図１１１参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ａで示される。

【１２１７】

一方、第１入賞口６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口６４０が配設されている。第２入賞口６４０へ球が入賞すると遊技盤１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置１１０（図１１１参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置３７Ｂで示される。

【１２１８】

また、第１入賞口６４及び第２入賞口６４０は、それぞれ、球が入賞すると、第１入賞口スイッチとしてのセンサＳＥ又は第２入賞口スイッチ（流下する球が連続で通過することが無いよう配置される各スイッチ）がオンとなることに基づいて５個の球が賞球として払い出される入賞口（賞球口）の１つにもなっている。

【１２１９】

なお、本実施形態においては、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。また、賞球数や賞球数の大小関係を逆にしても良い。

【１２２０】

第２入賞口６４０には電動役物６４０ａが付随されている。この電動役物６４０ａはスライド移動可能に構成されており、通常は電動役物６４０ａが非励磁状態（退避状態）となって、球が第２入賞口６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置８３に表示された場合、電動役物６４０ａが励磁状態（進入状態）となり、球が第２入賞口６４０へ入賞しやすい状態となる。

【１２２１】

なお、上述した通り、特別図柄の確変中および普通図柄の時短中は、通常状態中に比較して普通図柄の当たり確率が高く、また、普通図柄の変動表示にかかる時間も短いので、

普通図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなるようにしても良い。即ち、電動役物６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、特別図柄の確変中および普通図柄の時短中は、電動役物６４０ａが開放される時間も、通常状態中より長くなるようにしても良い。

【１２２２】

特別図柄の確変中および普通図柄の時短中は、通常状態に比較して、第２入賞口６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。一方、第１入賞口６４は、第２入賞口６４０に設けられているような電動役物は有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１２２３】

ここで、第１入賞口６４に球が入賞した場合と第２入賞口６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として最大の利益（特別遊技状態における賞球個数）が得られる大当たり（大当たりＡ，ａ，ｂ，ｃ）となる確率は、第２入賞口６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口６４は、第２入賞口６４０にあるような電動役物６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１２２４】

よって、通常中においては、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが非励磁状態（退避状態）にある場合が多く、第２入賞口６４０に入賞しづらいので、電動役物６４０ａのない第１入賞口６４へ向けて、可変表示装置ユニット８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１２２５】

一方、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中は、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５に球を通過させることで、第２入賞口６４０に付随する電動役物６４０ａが励磁状態（進入状態）となりやすく、第２入賞口６４０に入賞しやすい状態であるので、電動役物６４０ａが配設される側へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、普通入賞口（スルーゲート）６７を通過させて電動役物６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口６４０への入賞によって大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１２２６】

このように、本実施形態のパチンコ機１０は、パチンコ機１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができる。よって、遊技者に対して、球の打ち方に変化をもたらすことができるので、遊技を楽しませることができる。

【１２２７】

第１入賞口６４の下側には可変入賞装置６５が配設されており、その略中央部分に横長矩形状の特定入賞口（大開放口）６５ａが設けられている。

【１２２８】

パチンコ機１０においては、第１入賞口６４、または第２入賞口６４０への入賞に起因して行われた特別図柄の抽選で大当たりになると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置３７Ａ又は第１図柄表示装置３７Ｂを点灯させる。加えて、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置８１に表示させて、大当たりの発生が報知される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される。

【１２２９】

この特定入賞口６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可

能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量（本実施形態では、１個の球の入賞に基づき１５個）の賞球の払い出しが行われる。

【１２３０】

可変入賞装置６５は、具体的には、特定入賞口６５ａを覆う横長矩形状の開閉板と、その開閉板を前後方向に開閉駆動するための大開放口ソレノイド（図示せず）とを備えている。特定入賞口６５ａは、通常時は、球が入賞できないか又は入賞し難い閉状態になっている。大当たりの際には大開放口ソレノイドを駆動して開閉板を後方に退避させ、球が特定入賞口６５ａに入賞しやすい開状態を一時的に形成し、その開状態と通常時の閉状態との状態を交互に繰り返すように作動する。

【１２３１】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口６５ａの開放中に、球が特定入賞口６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）配置しても良く、また配置位置も第１入賞口６４の下側に限らず、例えば、可変表示装置ユニット８０の左右側や上側でも良い。

【１２３２】

遊技盤１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠１４の小窓３５（図１０８参照）を通じて視認することができる。

【１２３３】

遊技盤１３には、第１アウト口７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口６３，６４，６５ａ，６４０にも入賞しなかった球は、第１アウト口７１を通って図示しない球排出路へと案内される。第１アウト口７１は、第１入賞口６４の下方に配設される。

【１２３４】

遊技盤１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。

【１２３５】

図１１０に示すように、パチンコ機１の背面側には、制御基板ユニット９０，９１と、裏パックユニット９４とが主に備えられている。制御基板ユニット９０は、主基板（主制御装置１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置１１３）と表示制御基板（表示制御装置１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニット９１は、払出制御基板（払出制御装置１１１）と発射制御基板（発射制御装置１１２）と電源基板（電源装置１１５）とカードユニット接続基板１１６とが搭載されてユニット化されている。

【１２３６】

裏パックユニット９４は、保護カバー部を形成する裏パック９２と払出ユニット９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【１２３７】

なお、主制御装置１１０、音声ランプ制御装置１１３および表示制御装置１１４、払出制御装置１１１および発射制御装置１１２、電源装置１１５、カードユニット接続基板１１６は、それぞれ基板ボックス１００～１０４に収納されている。基板ボックス１００～

１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【１２３８】

また、基板ボックス１００（主制御装置１１０）および基板ボックス１０２（払出制御装置１１１および発射制御装置１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックス１００，１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックス１００，１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックス１００，１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【１２３９】

払出ユニット９３は、裏パックユニット９４の最上部に位置して上方に開口したタンク１３０と、タンク１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール１３１と、タンクレール１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール１３２と、ケースレール１３２の最下流部に設けられ、払出モータ２１６（図１１１参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置１３３とを備えている。タンク１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレール１３１には、当該タンクレール１３１に振動を付加するためのバイブレータ１３４が取り付けられている。

【１２４０】

また、払出制御装置１１１には状態復帰スイッチ１２０が設けられ、発射制御装置１１２には可変抵抗器の操作つまみ１２１が設けられ、電源装置１１５にはＲＡＭ消去スイッチ１２２が設けられている。状態復帰スイッチ１２０は、例えば、払出モータ２１６（図１１１参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチ１２２は、パチンコ機１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【１２４１】

次に、図１１１を参照して、本パチンコ機１０の電気的構成について説明する。図１１１は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【１２４２】

主制御装置１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ２０１が搭載されている。ＭＰＵ２０１には、該ＭＰＵ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ２０２と、そのＲＯＭ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置１１０では、ＭＰＵ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂおよび第３図柄表示装置８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機１０の主要な処理を実行する。

【１２４３】

なお、払出制御装置１１１や音声ランプ制御装置１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【１２４４】

ＲＡＭ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるス

タックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭ２０３は、パチンコ機１０の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【１２４５】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路２５２からの停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１２４６】

主制御装置１１０のＭＰＵ２０１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスライン２０４を介して入出力ポート２０５が接続されている。入出力ポート２０５には、払出制御装置１１１、音声ランプ制御装置１１３、第１図柄表示装置３７Ａ，３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口６５ａの開閉板の下辺を軸として前方側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイド２０９が接続され、ＭＰＵ２０１は、入出力ポート２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。

【１２４７】

また、入出力ポート２０５には、図示しないスイッチ群およびスライド位置検出センサＳや回転位置検出センサＲを含むセンサ群などからなる各種スイッチ２０８、電源装置１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路２５３が接続され、ＭＰＵ２０１は各種スイッチ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【１２４８】

払出制御装置１１１は、払出モータ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵ２１１は、そのＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２１３とを有している。

【１２４９】

払出制御装置１１１のＲＡＭ２１３は、主制御装置１１０のＲＡＭ２０３と同様に、ＭＰＵ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭ２１３は、パチンコ機１の電源の遮断後においても電源装置１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１と同様、ＭＰＵ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路２５２から停電信号ＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＳＧ１がＭＰＵ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【１２５０】

払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスライン２１４を介して入出力ポート２１５が接続されている。入出力ポート２１５には、主制御装置１１０や払出モータ２１６、発射制御装置１１２などがそれぞれ接続され

ている。また、図示はしないが、払出制御装置１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置１１１に接続されるが、主制御装置１１０には接続されていない。

【１２５１】

発射制御装置１１２は、主制御装置１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドル５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニット１１２ａを制御するものである。球発射ユニット１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドル５１に触れていることをタッチセンサ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドル５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドル５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【１２５２】

音声ランプ制御装置１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部２９～３３、表示ランプ３４など）２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置１１４で行われる第３図柄表示装置８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵ２２１は、そのＭＰＵ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭ２２３とを有している。

【１２５３】

音声ランプ制御装置１１３のＭＰＵ２２１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスライン２２４を介して入出力ポート２２５が接続されている。入出力ポート２２５には、主制御装置１１０、表示制御装置１１４、音声出力装置２２６、ランプ表示装置２２７、その他装置２２８、枠ボタン２２などがそれぞれ接続されている。

【１２５４】

音声ランプ制御装置１１３は、主制御装置１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置１１３は、枠ボタン２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタン２２が操作された場合は、第３図柄表示装置８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置１１４は、この音声ランプ制御装置１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置８１に各種の画像を表示する。

【１２５５】

また、音声ランプ制御装置１１３は、表示制御装置１１４から第３図柄表示装置８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置１１３では、表示制御装置１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置２２７の点灯および消灯を制御する。

【１２５６】

表示制御装置１１４は、音声ランプ制御装置１１３および第３図柄表示装置８１が接続され、音声ランプ制御装置１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置１

１４は、第３図柄表示装置８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置１１３へ送信する。音声ランプ制御装置１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置８１の表示と音声出力装置２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【１２５７】

電源装置１１５は、パチンコ機１０の各部に電源を供給するための電源部２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路２５２と、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１１０参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路２５３とを有している。電源部２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置１１０～１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチ２０８などの各種スイッチや、ソレノイド２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧およびバックアップ電圧を各制御装置１１０～１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【１２５８】

停電監視回路２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置１１０のＭＰＵ２０１および払出制御装置１１１のＭＰＵ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路２５２は、電源部２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＳＧ１を主制御装置１１０および払出制御装置１１１へ出力する。停電信号ＳＧ１の出力によって、主制御装置１１０および払出制御装置１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置１１０および払出制御装置１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【１２５９】

ＲＡＭ消去スイッチ回路２５３は、ＲＡＭ消去スイッチ１２２（図１１０参照）が押下された場合に、主制御装置１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置１１０は、パチンコ機１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置１１１に対して送信する。

【１２６０】

図１１２から図１１４を参照して、経路構成装置７００の全体構成について説明をする。図１１２は、経路構成装置７００の分解正面斜視図であり、図１１３は、経路構成装置７００の部分拡大正面図であり、図１１４（ａ）及び図１１４（ｂ）は、図１１３のＣＸＩＶａ－ＣＸＩＶａ線における経路構成装置７００の部分断面図である。

【１２６１】

図１１３では、振分け部材７６０の内周面、シーソー部材７６２、連通孔７５１及び回収孔７５２の外形が破線で図示される。また、図１１４（ａ）では、電動役物６４０ａが後述する第１送球経路ＫＲ１から退避している退避状態が図示され、図１１４（ｂ）では、電動役物６４０ａが第１送球経路ＫＲ１に進入している進入状態が図示される。

【１２６２】

図１１２に示すように、経路構成装置７００は、遊技盤１３のセンターフレーム８６の下側に配設され、ベース板６０に対して正面側に配置される正面側形成部７１０と、ベース板６０に対して背面側に配置される背面側形成部７２０と、を主に備えて形成される。

【１２６３】

正面側形成部７１０は、ベース板６０の正面側に取着される入賞部材７３０と、その入

賞部材７３０の左右両側における正面側に配設される屈曲部材７４０と、を主に備えて形成される。

【１２６４】

背面側形成部７２０は、ベース板６０の背面側に取着される介設部材７５０と、その介設部材７５０の背面側に配設される振分け部材７６０と、介設部材７５０にソレノイド６４０ｓが固定配置される電動役物６４０ａと、を主に備えて形成される。

【１２６５】

入賞部材７３０は、ベース板６０の板正面に配設され貫通孔６０ａを覆う形状で薄肉に形成されベース板６０に装着される覆設板部７１１と、その覆設板部７１１の左右中央位置において前後方向に穿設される上側球通過孔７１３と、その上側球通過孔７１３の下側に配置され前後方向に穿設される下側球通過孔７１４と、覆設板部７１１の左右方向中央上部に位置する第１入賞口６４と、その第１入賞口６４の下側（下側球通過孔７１４の下側）に位置する第２入賞口６４０と、左右方向両側に位置し前後方向に貫通形成される貫通孔７３１と、その貫通孔７３１の下側に位置し前後方向に貫通形成される下側挿通孔７３２と、右側の下側挿通孔７３２よりも左側において前後方向に貫通形成される球通過孔７３４ａを有する第１球送球部７３４と、その第１球送球部７３４の下縁部右端から右上方向に延びる長孔として前後方向に貫通形成される貫通孔７３５と、右側の下側挿通孔７３２よりも右側において前後方向に貫通形成される球通過孔７３６ａを有する第２球送球部７３６と、上側球通過孔７１３を基準として第１球送球部７３４と左右対称に形成される第３球送球部７３７と、を主に備えて形成される。

【１２６６】

貫通孔７３１は、その内部に後述する屈曲部材７４０の上側突出部７４１が挿通される部材であり、上側突出部７４１の背面視における外形よりも少し大きく開口する正面視略矩形状に形成される。

【１２６７】

下側挿通孔７３２は、背面側に配設される介設部材７５０の回収孔７５２と連通される孔であり、介設部材７５０の回収孔７５２と対向する位置に形成される。また、下側挿通孔７３２は、下面側が湾曲される正面視略Ｄ字形状に開口される。

【１２６８】

下側挿通孔７３２の背面には、球の通過を検知するセンサＳＥは配設される。センサＳＥは、正面視略矩形状に形成されると共に、その側面に球の直径よりも少し大きい直径の貫通孔が形成される部材であり、その貫通孔の内部を球が通過することで球の通過を検出することができる。センサＳＥは、貫通孔の軸が下側挿通孔７３２の下面側の円弧軸と同軸上に位置して配設される。これにより、貫通孔の開口方向を背面側に向かうに従って少し下方に傾斜する様態とすることができるので、センサＳＥの貫通孔内部を通過する球が貫通孔の内側に留まることを抑制できる。

【１２６９】

第１球送球部７３４は、介設部材７５０の第１傾斜溝７５５の上流側端部に連通される位置に配置される球通過孔７３４ａと、その球通過孔７３４ａの正面視Ｕ字形状の縁部が正面側に突設される突設縁部７３４ｂと、その突設縁部７３４ｂの下流側部において球経路側に突設され、その突設先端が背面側へ傾斜する形状であることから流下してきた球を背面側に送球可能とされる下流側送球部７３４ｃと、を備える。

【１２７０】

貫通孔７３５は、移動板部材６４１が前後方向に挿通可能な形状から形成される。即ち、移動板部材６４１の右側案内部６４３及び左側案内部６４５とそれらを連結する連結部との正面視における外形よりも若干大きな形状で形成される。

【１２７１】

これにより、移動板部材６４１の退避状態では、貫通孔７３５により移動板部材６４１の前端部が支持され、移動板部材６４１の進入状態では、貫通孔７３５により移動板部材６４１の後端側が支持されることで、移動板部材６４１の配置を安定させることができる

。
【１２７２】
第２球送球部７３６は、介設部材７５０の第２傾斜溝７５７の上流側端部に連通される位置に配置される球通過孔７３６ａと、その球通過孔７３６ａの正面視Ｕ字形状の縁部が正面側に突設される突設縁部７３６ｂと、その突設縁部７３６ｂの下流側部において球経路側に突設され、その突設先端が背面側へ傾斜する形状であることから流下してきた球を背面側に送球可能とされる下流側送球部７３６ｃと、を備える。
【１２７３】
第３球送球部７３７は、第１球送球部７３４の左右対称に形成される一方で、電動役物６４０ａにより遊技球が案内されるようには構成されていない。左方向からの球の入球を許容する形状であり、球の入球の頻度を少なくすることができる。第３球送球部７３７は一般入賞口６３（図１０９参照）と同様の機能を有している。即ち、球の入球により、５個～１５個の球が賞球として払い出される。なお、第３球送球部７３７への入球が稀なことから、入球した場合の遊技者の利益の最大化を図るために、賞球個数は最大（１５個）で設定される。
【１２７４】
屈曲部材７４０は、上述した入賞部材７３０の貫通孔７３１と下側挿通孔７３２との正面側に配設される部材であり、正面視におけるベース板６０（図１０９参照）の左右方向略中央位置を対称に２つ配設され、その外形形状は概略左右対称に形成される。
【１２７５】
また、屈曲部材７４０は、正面視において、遊技領域を形成する内レール６１（図１０９参照）との間に、球が通過可能な大きさの隙間が形成される位置に配置される。これにより、屈曲部材７４０の下側の遊技領域を流下する球が、屈曲部材７４０と内レール６１との間に挟まれて遊技領域に留まることが抑制される。
【１２７６】
屈曲部材７４０は、正面視略矩形の板状体から形成され、その背面から突出する上側突出部７４１と、その上側突出部７４１よりも下方から突出する下側突出部７４３と、上側突出部７４１及び下側突出部７４３の対向間に形成される開口７４４と、を備えて形成される。
【１２７７】
上側突出部７４１は、背面視において下側が開放する略Ｕ字形状に形成され、その外形が、入賞部材７３０の貫通孔７３１の内形よりも少し小さく設定される。これにより、屈曲部材７４０を入賞部材７３０に配置する際には、上側突出部７４１を貫通孔７３１の内部に挿入して配設できる。よって、屈曲部材７４０を入賞部材７３０へ配置する際には、上側突出部７４１を挿入して位置決めすることができるので、その組み付け工程を簡易にできる。
【１２７８】
下側突出部７４３は、上側突出部７４１の下側に形成されると共に、上側が開放される背面視略Ｕ字形状に形成される。即ち、背面視すると、上側突出部７４１と下側突出部７４３との互いの開放部分が上下方向に対向する様態に形成される。
【１２７９】
下側突出部７４３は、入賞部材７３０の貫通孔７３１から屈曲部材７４０側に送球される球を入賞部材７３０の下側挿通孔７３２に送球するための経路（以下、「第２送球経路ＫＲ２」と称す）を形成するための部材であり、下側挿通孔７３２と前後方向に対向する位置に形成される。
【１２８０】
下側突出部７４３の背面側への突出距離は、球の直径よりも大きい寸法に設定される。また、下側突出部７４３の突出先端面が入賞部材７３０と当接した状態で屈曲部材７４０が入賞部材７３０に配置される。よって、屈曲部材７４０と入賞部材７３０との対向間の距離寸法が球の直径よりも大きくされ、屈曲部材７４０と入賞部材７３０との対向間に球

が鉛直方向に送球される送球路（以下、「第１送球経路ＫＲ１」と称す）が形成される。
【１２８１】
屈曲部材７４０には、上側突出部７４１の上部内面から下側突出部７４３の下部内面に亘って突出する案内部７４２が形成される。案内部７４２は、側面視において背面側が開放される略Ｕ字形状に突出される。
【１２８２】
案内部７４２は、入賞部材７３０の貫通孔７３１から屈曲部材７４０（第１送球経路ＫＲ１）に送球される球を鉛直方向に送球した後に、入賞部材７３０の下側挿通孔７３２に送球する突壁であり、下側の内縁部の上下方向高さは、背面に配置される下側挿通孔７３２の下側の内縁部の高さよりも少し小さく形成される。
【１２８３】
案内部７４２は、背面側に配置される貫通孔７３１の正面視における左右方向中央線に沿って形成される。これにより、案内部７４２と当接して案内（背面側に折り返し）されるので、球を容易に左右方向に位置ずれさせることができる。
【１２８４】
開口７４４は、上側突出部７４１と下側突出部７４３との対向間に形成される所定の隙間であり、背面視における左右方向両側に形成される。また、開口７４４は、側面視において、背面側が開放する略Ｕ字形状に形成される。
【１２８５】
開口７４４は、背面側端部の上端の高さが、同じ前後位置の案内部７４２の先端側部と略同一の上下方向高さに設定されると共に、背面側端部の下端の高さが、移動板部材６４１の右側案内部６４３の下側面と略同一の上下方向高さに設定される。開口７４４は、第１送球経路ＫＲ１と第４送球経路ＫＲ４との連結部分の左右方向の側面に開口して形成される。
【１２８６】
振分け部材７６０は、正面視横長矩形に形成されると共に、正面側が開放された箱状体に形成される。また、振分け部材７６０は、正面視において左右方向略中央位置で屈曲されており、左右方向略中央位置から左右方向外側に向かうに従って下側に傾斜して形成される。また、振分け部材７６０の左右方向の両端部は、上述した入賞部材７３０の貫通孔７３１と対向する位置に設定される。
【１２８７】
振分け部材７６０は、正面視における左右方向中央位置から左右両側へ向けて下方傾斜する一対の傾斜面７６１と、その互いの傾斜面７６１の中央に配置されるシーソー部材７６２と、シーソー部材７６２の上方に形成される送球口７６３と、シーソー部材７６２の回転を規制するための規制壁部７６４と、右側の傾斜面７６１に案内される球が通過可能な位置に配設される普通入賞口（スルーゲート）７６５と、を主に備えて形成される。
【１２８８】
一対の傾斜面７６１は、左右反対方向に延びる傾斜面であって、水平面に対する傾斜角度が左右対称となるように形成される。なお、本実施形態では、上流側において若干急な傾斜角度となる領域を設け、その下流側において傾斜角度が緩やかとなる領域の傾斜角度が水平面に対して５度で形成される。
【１２８９】
送球口７６３は、振分け部材７６０の正面側に開口を形成するための部材であり、入賞部材７３０の第１入賞口６４と対向する位置に形成される。これにより、振分け部材７６０が後述する介設部材７５０に配設されると、送球口７６３と介設部材７５０との対向間に空間を形成することができる。
【１２９０】
その空間は、球の外径よりも大きい空間（即ち、球が通過可能な空間）に形成されると共に、ベース板６０に穿設された貫通孔６０ｂを介して入賞部材７３０の第１入賞口６４の内部空間と連結される。これにより、第１入賞口６４に入賞される球を送球口７６３と

介設部材７５０との対向間の空間に送球して、その空間の内部を送球させることができる。

【１２９１】

軸部７６２ｂは、シーソー部材７６２を軸周りに回転させるための軸支部であり、円柱形状に形成されると共に、シーソー部材７６２の円環内側に挿通される。この状態で、軸部７６２ｂが、介設部材７５０と振分け部材７６０との間に挟持されることで、シーソー部材７６２は軸部７６２ｂを軸に回転可能に配置される。

【１２９２】

突起７６２ａは、上述した送球口７６３と介設部材７５０との対向間の空間から球が送球される際に、球を左右の傾斜面７６１に交互に一球ずつ振り分けるための突起であり、中央部の突起７６２ａの先端が位置する方向と左右方向反対側に球が送球される。両端に突設される突起７６２ａは、シーソー部材７６２の変位を規制すると共に、球の通過した際にかかる重みにより、中央部の突起７６２ａの先端が位置する方向を変位させる（シーソー部材７６２を回転させる）部材であり、突起７６２ａの先端面と規制壁部７６４とが当接することでシーソー部材７６２の回転が規制される。

【１２９３】

一方、規制壁部７６４と当接していない突起７６２ａは、球が中央部の突起７６２ａに案内されると、案内された球がその突起７６２ａと衝突して下方に押し下げられる。これにより反対側の突起７６２ａが上方に変位されると共に、下方に変位された突起７６２ａの先端が規制壁部７６４と当接してその変位が規制される。

【１２９４】

傾斜面７６１は、上述したシーソー部材７６２によって左右に振り分けられた球が転動して送球される経路（以下、「第３送球経路ＫＲ３」と称す）の転動面であり、振分け部材７６０の左右方向中央位置から外側に向かって下降傾斜して形成される。これにより、振分け部材７６０のシーソー部材７６２によって左右に振り分けられた球は、傾斜面７６１上を転動されて、傾斜面７６１の下降側の端部に送球（転動）される。

【１２９５】

傾斜面７６１の下降側の端部には、その端部に向かうに従って、背面側の側面が前方に厚みを増すように介設部材７５０へ近接する方向へ傾斜して形成される。これにより、傾斜面７６１を転動してその端部まで送球された球を、振分け部材７６０の前方に配設される介設部材７５０の連通孔７５１に送球することができる。

【１２９６】

普通入賞口（スルーゲート）７６５は、介設部材７５０と振分け部材７６０との間に配設され、介設部材７５０と振分け部材７６０とが連結固定されることで内側に固定配置される。

【１２９７】

普通入賞口（スルーゲート）７６５の球通過孔の内側面であって、傾斜面７６１に沿う側の面が、傾斜面７６１の上面と面位置となるように、普通入賞口（スルーゲート）７６５の配置は設計される。

【１２９８】

これにより、球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過する際に、球に与えられる抵抗を最小限に抑えることができ、普通入賞口（スルーゲート）７６５が配設される右側の傾斜面７６１を流下する球と、普通入賞口（スルーゲート）７６５が配設されていない左側の傾斜面７６１を流下する球との、流下速度を均一化することができる。

【１２９９】

普通入賞口（スルーゲート）７６５の機能は、上述した普通入賞口（スルーゲート）６６，６７と共通である。即ち、普通入賞口（スルーゲート）７６５は、球が通過した場合に普通図柄（第２図柄）の抽選が行われる検出口としての機能を有する。

【１３００】

また、第２図柄表示装置８３において変動表示が行われている間に球が普通入賞口（ス

ルーゲート）７６５を通過すると、その通過回数は、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７の通過回数と共同で最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置３７により表示されると共に、第２図柄保留ランプ８４においても示される。

【１３０１】

なお、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。

【１３０２】

第２図柄表示装置８３は、球が普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を通過する毎に表示図柄（第２図柄）としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機１０では、球が普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を通過したことが検出されると、第２図柄の当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置８３において、第２図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【１３０３】

第２図柄表示装置８３において変動表示が終了した場合に、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５についての保留球数が残っていれば、次の普通図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。

【１３０４】

介設部材７５０は、屈曲部材７４０と振分け部材７６０との前後間に介在する部材であって、正面視横長矩形状に形成されると共に、正面視における左右方向の中央下部に上述した可変入賞装置６５と、左右両側に前後方向に貫通される連通孔７５１と、その連通孔７５１の下側に開口される回収孔７５２と、連通孔７５１及び回収孔７５２の間で前後方向に左右長尺の形状で貫通形成される支持凹部７５３と、左右中央位置を下流側端部として正面視左側へ向かって下降傾斜する直線状の第１傾斜溝７５５と、その第１傾斜溝７５５の下方において左右中央位置を下流側端部として正面視左側へ向かって下降傾斜する直線状の第２傾斜溝７５７と、その第２傾斜溝７５７の下方に配置される第２回収孔７５８と、を主に備えて形成される。

【１３０５】

連通孔７５１は、振分け部材７６０の左右両端部の正面側に形成されると共に、入賞部材７３０の貫通孔７３１の背面側に形成される。よって、振分け部材７６０の左右両端部の空間と、入賞部材７３０の貫通孔７３１の内部空間とが連通孔７５１を介して連結される。従って、上述した振分け部材７６０の傾斜面７６１の上部を転動する球を、連通孔７５１を通過させて、入賞部材７３０の貫通孔７３１に送球する経路（以下、「第４送球経路ＫＲ４」と称す）を形成することができる。

【１３０６】

回収孔７５２は、上述したように、入賞部材７３０の下側挿通孔７３２の背面側に開口形成される開口である。即ち、回収孔７５２は、センサＳＥの背面側に連結されており、センサＳＥを通過する球が、その回収孔７５２の開口に送球される。回収孔７５２は、店舗に設置される球を循環する装置に連結されており、回収孔７５２に回収された球は、循環装置により循環されて遊技球として再び球発射ユニット１１２ａから打出しされる。

【１３０７】

支持凹部７５３は、移動板部材６４１の右側案内部６４３が前後方向に移動するために十分な空間を確保するために形成される凹設溝部である。右側案内部６４３の下面と上下方向で対向する支持凹部７５３の下底面は、左右方向に水平な平面形状で形成される。また、右側案内部６４３の上面と上下方向で対向する支持凹部７５３の上天面は、傾斜面６４３ａと同様の傾斜角度の平面形状で形成される。

【１３０８】

即ち、支持凹部７５３は、左側から右側へ凹設されており、左側が広く右側が狭い楔形状に形成され、機能的には、正面視における右側案内部６４３の上下幅よりも若干大きな上下幅（若干大きな楔形状）から形成される。

【１３０９】

これにより、移動板部材６４１の利用において、前後方向にスライド移動させる際には、右側案内部６４３が支持凹部７５３の内側を案内されることになるので移動をスムーズに実行することができ、右側案内部６４３を第１送球経路ＫＲ１に進入させて流下してきた球を受け止める際には、支持凹部７５３の下底面により右側案内部６４３を下支えすることができる。即ち、支持凹部７５３は、移動板部材６４１の移動を円滑にさせる効果と、移動板部材６４１の上下位置を安定させる効果とを奏する。

【１３１０】

第１傾斜溝７５５は、上流側端部が球通過孔７３４ａに連通する位置に配設され、下流側端部に到達した球を正面側形成部７１０の上側球通過孔７１３を通して正面側に送球可能な形状で構成される。

【１３１１】

第２傾斜溝７５７は、上流側端部が球通過孔７３６ａに連通する位置に配設され、下流側端部に到達した球を正面側形成部７１０の下側球通過孔７１４を通して正面側に送球可能な形状で構成される。

【１３１２】

本実施形態では、第１傾斜溝７５５及び第２傾斜溝７５７は、直線状溝形状で形成され、各溝が沿う直線が互いに平行となる関係で形成される。

【１３１３】

第２回収孔７５８は、第２入賞口６４０に入球した球が送球される開口であり、第２入賞口スイッチ（図示せず）よりも上流側に配設される。第２回収孔７５８は、店舗に設置される球を循環する装置に連結されており、第２回収孔７５８に回収された球は、循環装置により循環されて遊技球として再び球発射ユニット１１２ａから打出しされる。

【１３１４】

上側球通過孔７１３と下側球通過孔７１４とは、鉛直方向に沿う直線上に並べられ、その同一直線上における下側球通過孔７１４の下側に第２入賞口６４０が配置される（図１１３参照）。

【１３１５】

そのため、上側球通過孔７１３を通して正面側に送球された球は下側球通過孔７１４の正面側を通過して第２入賞口６４０に入球する。また、下側球通過孔７１４を通して正面側に送球された球は、上側球通過孔７１３から正面側に送球された球の流下経路と合流し、第２入賞口６４０に入球する。

【１３１６】

球の流下経路の合流位置において、上側球通過孔７１３から流下する球の流下方向は鉛直方向となっており、合流位置における落下速度を大きくすることができるので、上側球通過孔７１３及び下側球通過孔７１４から案内された球が合流位置に同時に到達したとしても、上側球通過孔７１３から流下する球を勢いで下方に通過させることができるので、球詰まりが生じることを回避し易い。

【１３１７】

また、下側球通過孔７１４の左右縁部から正面側に延設される壁部７１４ａにより、合流位置から球が左右に逸れることを防止し易くすることができる。また、壁部７１４ａは、左右外側から第２入賞口６４０へ球が入球することを防止するようにも作用する。

【１３１８】

上側球通過孔７１３の左右縁部および上側縁部から正面側に延設される壁部７１３ａにより、上側球通過孔７１３から正面側に送球された直後の球に対して、ベース板６０の正面側を流下してきた球が衝突することを防止することができる。また、壁部７１３ａは、ベース板６０の正面側を流下してきた球が第２入賞口６４０側へ向けて流下することを妨

げるようにも作用する。
【１３１９】
電動役物６４０ａは、介設部材７５０に固定配置されるソレノイド６４０ｓと、そのソレノイド６４０ｓと連動可能に連結され、ソレノイド６４０ｓの駆動により前後方向にスライド移動する移動板部材６４１と、を備える。
【１３２０】
移動板部材６４１は、ソレノイド６４０ｓの駆動力が伝達される板状部であって上下方向に延設される伝達板部６４２と、その伝達板部６４２の正面側端部に配設され正面側に突設形成される左側案内部６４５と、その左側案内部６４５の右方に延設される右側案内部６４３と、を備える。
【１３２１】
右側案内部６４３は、球の転動面となる上面が右側へ向けて下降傾斜する傾斜面６４３ａとして形成され、正面視で連通孔７５１と回収孔７５２との間に配設される。
【１３２２】
左側案内部６４５は、球の転動面となる上面が左側へ向けて下降傾斜する傾斜面６４５ａとして形成され、正面視で屈曲部材７４０と第１球送球部７３４とを繋ぐように配設される。傾斜面６４５ａの下流側端部の上面は、第１球送球部７３４の突設縁部７３４ｂの下側端部の上面と面位置となるよう配置される。
【１３２３】
第１送球部７３４の突設縁部７３４ｂが上方に開放された皿状ではなく、開放側は右側に向けられることで上側に蓋がある形状となっているので、左側案内部６４５で転動する球の受入をスムーズに行いながら、左側案内部６４５で跳ねた球や、第１送球部７３４に上側から到達するような経路で流下する球が、球通過孔７３４ａに飛び込み入球することは生じ難いようにすることができる。なお、突設蓋部７３４ｂの形状を皿状に形成して、上側からの球の飛び込みを可能とする形状を採用しても良い。
【１３２４】
なお、左側案内部６４５に着地した球であっても、跳ね返りが収まるまでは第１送球部７３４に入りにくい。そのため、左側案内部６４５での跳ね返りを小さくする構成を採用することが好ましい。
【１３２５】
例えば、左側案内部６４５の上方において球と衝突可能な釘を密に配置したり、覆設板部７１１の正面側に突設される減速凸部を複数配置したりすることで、球の流下の勢いを予め落とすようにしても良い。また、傾斜面６４５ａにクッション性の高いシート部材を貼り付けるようにして、球のバウンドを抑制するようにしても良い。
【１３２６】
移動板部材６４１は、ソレノイド６４０ｓが非励磁とされる非励磁状態では、第１送球経路ＫＲ１から退避する退避状態とされ（図１１４（ａ）参照）、ソレノイド６４０ｓの励磁状態（駆動力が生じている状態）では、第１送球経路ＫＲ１に進入する進入状態とされる（図１１４（ｂ）参照）。
【１３２７】
以上のように構成される経路構成装置７００により、遊技球が次のように送球される。第１入賞口６４から入る球は、振分け部材７６０に送球されて振分け部材７６０のシーソー部材７６２により左右方向どちらか一方の第３送球経路ＫＲ３に送球される。第３送球経路ＫＲ３を送球される球は、その第３送球経路ＫＲ３の端部まで送球されると、正面側に配置される介設部材７５０の連通孔７５１の内部の第４送球経路ＫＲ４に送球される。第４送球経路ＫＲ４を送球される球は、屈曲部材７４０の背面側の第１送球経路ＫＲ１に送球される。第１送球経路ＫＲ１を送球される球は、屈曲部材７４０の下側突出部７４３に案内されて第２送球経路ＫＲ２に送球される。第２送球経路ＫＲ２を送球される球は、入賞部材７３０の下側挿通孔７３２を通過して介設部材７５０の回収孔７５２に送球され、センサＳＥの内部を通過する。

【１３２８】
第４送球経路ＫＲ４から第１送球経路ＫＲ１に送球される球は、ベース板６０の正面側へ向けて流下することになり、その球は、遊技者視線で遊技者に近づいてきているように見える。これにより、遊技領域を下方に流下する他の遊技球との流下態様の違いが明確化されるので、第４送球経路ＫＲ４から第１送球経路ＫＲ１に送球される球の存在感を高めることができる。
【１３２９】
次いで、図１１５及び図１１６を参照して、球の流下態様の設定について説明する。図１１５（ａ）、図１１５（ｂ）、図１１６（ａ）及び図１１６（ｂ）は、図１１３の範囲ＣＸＶａにおける経路構成装置７００の部分正面図である。
【１３３０】
図１１５（ａ）、図１１５（ｂ）、図１１６（ａ）及び図１１６（ｂ）では、第１入賞口６４に３個の球Ｐ１～Ｐ３が間を空けずに連続で入球した場合における流下態様が、０．５秒間隔の時系列で図示される。
【１３３１】
即ち、図１１５（ａ）の状態から０．５秒後の状態として図１１５（ｂ）が図示され、図１１５（ｂ）の状態から０．５秒後の状態として図１１６（ａ）が図示され、図１１６（ａ）の状態から０．５秒後の状態として図１１６（ｂ）が図示される。なお、一例として、図１１５（ａ）では、中央部の突起７６２ａの先端が左側を向いた状態が図示される。
【１３３２】
図１１５（ａ）に図示するように、球Ｐ１が中央部の突起７６２ａに案内されると、案内された球Ｐ１が両端部の突起７６２ａの一方と衝突して下方に押し下げられる。これにより反対側の突起７６２ａが上方に変位されると共に、下方に変位された突起７６２ａの先端が規制壁部７６４と当接してその変位が規制される（図１１５（ｂ）参照）。
【１３３３】
この状態で、シーソー部材７６２を押し下げた球Ｐ１は右側へ向けて流下しており、同時に次の球Ｐ２が中央部の突起７６２ａに案内される。この時、球Ｐ２が中央部の突起７６２ａに到達すると同時に、先にシーソー部材７６２を押し下げた球Ｐ１は普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過する（図１１５（ｂ）参照）。
【１３３４】
球Ｐ２は、シーソー部材７６２によって左側へ向けて流下され、同時に次の球Ｐ３が中央部の突起７６２ａに案内される。この時、球Ｐ３が中央部の突起７６２ａに到達すると同時に、球Ｐ１は右側案内部６４３の下側に配置される（図１１６（ａ）参照）。その後、球Ｐ３は、シーソー部材７６２によって右側へ向けて流下される（図１１６（ｂ）参照）。
【１３３５】
このように、本実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）７６５の配置が電動役物６４０ａの配置との関係で規定されている。即ち、球Ｐ１が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過してから、右側案内部６４３の下側に配置されるまでの間に、次の球Ｐ３が普通入賞口（スルーゲート）７６５に到達しないように設計されている。
【１３３６】
ここで、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されると、予め設定されている作動パターンに基づいて電動役物６４０ａの動作が実行される。電動役物６４０ａの動作は、作動パターンの途中で割り込みが生じるというものではない。作動パターンに基づく電動役物６４０ａの動作が継続されている時に普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されたとしても、その検出に因る電動役物６４０ａの動作の実行は、現在実行されている作動パターンに基づく電動役物６４０ａの動作が完了するまで保留される。
【１３３７】

そのため、球の流下時間を基準として普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球へ影響を与えられるように電動役物６４０ａの作動パターンを設定しても、電動役物６４０ａの動作の実行が保留される事態が生じると、普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球へ与える影響が予想外のものになる可能性がある。

【１３３８】

これに対し、本実施形態では、球が右側案内部６４３に到達するまでの時間幅で電動役物６４０ａの作動パターンを設定するという前提において、次の球Ｐ３が普通入賞口（スルーゲート）７６５に検出される時まで、先の球Ｐ１が普通入賞口（スルーゲート）７６５に検出されたことに伴う電動役物６４０ａの動作が継続されている事態を回避することができる（事前に電動役物６４０ａの動作が終了する）。

【１３３９】

従って、球の通過が普通入賞口（スルーゲート）７６５で検出されたら、電動役物６４０ａの動作の実行が保留されることなく即座に、予め設定されている作動パターンに基づいて電動役物６４０ａの動作を実行させることができる。これにより、普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球へ与える影響が予想外のものになる可能性を低くすることができる。

【１３４０】

図１１７（ａ）、図１１７（ｂ）、図１１８（ａ）及び図１１８（ｂ）は、図１１３の範囲ＣＸＶａにおける経路構成装置７００の部分正面図である。図１１７（ａ）及び図１１７（ｂ）と、図１１８（ａ）及び図１１８（ｂ）とでは、右側の傾斜面７６１を球が流下する様子の異なる一例が、時系列で図示される。

【１３４１】

即ち、図１１７（ａ）では、球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過している状態が図示され、図１１７（ｂ）では、球の通過時に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した退避状態（図１１４（ａ）参照）で維持され、球が回収孔７５２に案内されている状態が図示される。

【１３４２】

また、図１１８（ａ）では、球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過している状態（図１１７（ａ）と同様の状態）が図示され、図１１８（ｂ）では、球の通過直前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入する進入状態とされ（図１１４（ｂ）参照）、球が第２球送球部７３６側に案内される状態が図示される。

【１３４３】

なお、図１１８（ｂ）において移動板部材６４１にドットが描画されているのは、移動板部材６４１が正面側にスライド移動しており手前側を球が通過することを許容しない状態であることを模式的に示すものである。

【１３４４】

ここで、移動板部材６４１は、ソレノイド６４０ｓが非励磁とされる非励磁状態では、第１送球経路ＫＲ１から退避する退避状態とされ（図１１４（ａ）参照）、ソレノイド６４０ｓの励磁状態（駆動力が生じている状態）では、第１送球経路ＫＲ１に進入する進入状態とされる（図１１４（ｂ）参照）から、非励磁状態では、正面視で移動板部材６４１の上面に到達した球は移動板部材６４１の正面側を通過して下方向に流下する一方で、励磁状態では、正面視で移動板部材６４１の上面に到達した球は移動板部材６４１の傾斜面６４３ａ又は傾斜面６４５ａを転動して左右方向に流下する。

【１３４５】

例えば、図１１８（ｂ）に示す矢印に沿って流下する。詳述すれば、移動板部材６４１の励磁状態において、第１送球経路ＫＲ１に到達した球は傾斜面６４３ａの上面を転動して開口７４４を通過後落下して第２球送球部７３６に受け入れられる。

【１３４６】

なお、移動板部材６４１の励磁状態において、右側の屈曲部材７４０と第１球送球部７３４との間を流下しようとする球は傾斜面６４５ａの上面を転動して球通過孔７３４ａに

案内され、第２入賞口６４０に入球することになる。
【１３４７】
図１１９は、図１０９の範囲ＣＸＩＸにおける遊技盤１３の部分正面図である。図１１９では、ソレノイド６４０ｓが励磁状態とされ移動板部材６４１の進入状態が図示されている。
【１３４８】
上述したように、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の機能は共通であるので、経路構成装置７００に入球した球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過することに因る場合に限らず、上述の右打ち遊技を行う場合に、球が普通入賞口（スルーゲート）６７を通過することに因っても電動役物６４０ａは作動する。
【１３４９】
この場合、右打ち遊技で発射された遊技球は第１入賞口６４に案内される球よりも右側の屈曲部材７４０の天井面に到達する球の方が多くなるので（約１０倍となるので）、移動板部材６４１の進入状態において、球は、電動役物６４０ａの右側案内部６４３よりも左側案内部６４５に到達し易い。
【１３５０】
左側案内部６４５に到達した球は、流下して第１球送球部７３４に到達するまでソレノイド６４０ｓが励磁状態で維持されていれば第２入賞口６４０に入球することになり、第１球送球部７３４に到達する前にソレノイド６４０ｓが非励磁状態に切り替えられたとしても、その真下に流下するだけであり、球が回収孔７５２に案内されることは無い。即ち、球が左側案内部６４５に到達した球により特別図柄１の抽選を獲得する事態を防止することができる。
【１３５１】
進入状態における左側案内部６４５に到達した球は、着地位置に関わらず約１．０秒あれば、第１球送球部７３４に受け入れられる。一方で、０．５秒等のごく短い時間で移動板部材６４１が退避状態に変化する場合には、進入状態における左側案内部６４５の左端付近に球が着地した場合であっても、第１球送球部７３４への入球が阻害される可能性がある。
【１３５２】
そのため、第１入賞口６４に入球せずに流下する球が、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５での球の検出による抽選の結果動作されて進入状態とされる左側案内部６４５にタイミングよく到達した場合に、その球が第１球送球部７３４に受け入れられるかどうかは、電動役物６４０ａの作動態様による。
【１３５３】
特に、通常状態における作動パターン（後述する第４の作動パターン）では、移動板部材６４１が進入状態とされる期間が０．５秒よりも短いため、球が第１球送球部７３４に受け入れられる確率は極端に低くされている。
【１３５４】
第１入賞口６４に入球した球においては、第１送球経路ＫＲ１に到達したタイミングで移動板部材６４１が進入状態であれば、右側案内部６４３に案内されて最終的に第２入賞口６４０に入球することになるので、センサＳＥ（図１１４（ｂ）参照）を通過することはなく、特別図柄１の抽選を獲得する事態を防止することができる。一方で、球が第１送球経路ＫＲ１に到達したタイミングで移動板部材６４１が退避状態であれば、第２送球経路ＫＲ２に案内されてセンサＳＥを通過することから、特別図柄１の抽選を獲得することになる。
【１３５５】
このように、本実施形態の電動役物６４０ａによれば、球が右側案内部６４３に到達し得る経路（第１入賞口６４に入球した後の経路）で流下するか、左側案内部６４５に到達し得る経路で流下するか、によって、その球による特別図柄１の抽選の獲得の可能性（特別図柄２の抽選の獲得の可能性）を異ならせることができる。

【１３５６】
また、右側案内部６４３へは、球が間隔をあけて到達することは上述した通りであるが、左側案内部６４５へは、シーソー部材７６２の作用で間隔が空けられるものではないので、普通入賞口（スルーゲート）６７側を流下した複数の球が同時に到達し得る。従って、左側案内部６４５は、右側案内部６４３に比較して丈夫に形成しておくことが好ましい。
【１３５７】
そのため、本実施形態では、左側案内部６４５を伝達板部６４２（図１１２参照）に配設させるという構成を採用している。即ち、ソレノイド６４０ｓに近い側（駆動力伝達経路の上流側）である伝達板部６４２に左側案内部６４５を配設させることで、左側案内部６４５の姿勢変化を抑制するようにしている。これにより、左側案内部６４５に複数の球が乗ることで重みがかけられた場合であっても、左側案内部６４５が過度に姿勢変化して移動板部材６４１の動作抵抗が上昇することを避けることができる。
【１３５８】
なお、左側案内部６４５を丈夫に形成する手段は、上述したものに限られるものではない。例えば、左側案内部６４５の板厚を右側案内部６４３の板厚よりも厚く形成しても良いし、左側案内部６４５の下部と伝達板部６４２とを連結するリブを形成しても良い。
【１３５９】
図１２０を参照して、ＲＯＭ２０２（図１１１参照）の内容について説明する。図１２０（ａ）は、主制御装置１１０内のＲＯＭ２０２の電気的構成を示すブロック図であり、図１２０（ｂ）は、第１当たり種別カウンタＣ２と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、図１２０（ｃ）は、第２当たり乱数カウンタＣ４と普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。
【１３６０】
図１２０（ａ）に示すように、主制御装置１１０のＲＯＭ２０２には、上記した固定値データの一部として、第１当たり乱数テーブル２０２ａ、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂ、第２当たり乱数テーブル２０２ｃ、および変動パターン選択テーブル２０２ｄが少なくとも記憶されている。
【１３６１】
第１当たり乱数テーブル２０２ａは、定期的（例えば、２ｍｓｅｃごと）に更新される第１当たり乱数カウンタの大当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。始動入賞に基づいて取得した第１当たり乱数カウンタの値が、第１当たり乱数テーブル２０２ａに規定されているいずれかの判定値と一致した場合に、特別図柄の大当たりであると判別される。
【１３６２】
第１当たり種別選択テーブル２０２ｂ（図１２０（ｂ）参照）は、大当たり種別を決定するための判定値が記憶されているデータテーブルであり、第１当たり種別カウンタＣ２の判定値が、各大当たり種別、および特別図柄の抽選契機となった入賞口の種別に対応付けて規定されている。本実施形態のパチンコ機１０では特別図柄の大当たりと判定された場合に、始動入賞に基づいて取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値と、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂとが比較され、第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応する大当たり種別が選択される。
【１３６３】
具体的には、特別図柄１の抽選（第１入賞口６４への入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲には、大当たりＡが対応付けられて規定されている（図１２０（ｂ）の２０２ｂ１参照）。
【１３６４】
大当たりＡとなった場合は、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第１の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。

【１３６５】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～４９」の範囲には、大当たりＢが対応付けられて規定されている（図１２０（ｂ）の２０２ｂ２参照）。
【１３６６】
大当たりＢとなった場合は、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第２の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【１３６７】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲には、大当たりＣが対応付けられて規定されている（図１２０（ｂ）の２０２ｂ３参照）。
【１３６８】
大当たりＣとなった場合は、４ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。
【１３６９】
特別図柄１の抽選（第１入賞口６４への入球に基づく抽選）に基づく大当たりでは、２０％の確率で１５ラウンドの大当たりを獲得できる一方、５０％の確率で４ラウンドの大当たりとなるので、基本的には、大量の賞球を期待することはできない。一方で、４ラウンドの大当たり遊技は、１５ラウンドの大当たり遊技に比較して短時間で終了するので、その後の大当たりの獲得を狙うための球の打ち出しを、早期に開始することができる。
【１３７０】
一方、特別図柄２の抽選（第２入賞口６４０への入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲には、大当たりａが対応付けられて規定されている（図１２０（ｂ）の２０２ｂ４参照）。
【１３７１】
大当たりａとなった場合は、大当たりＡの時と同様に、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第１の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【１３７２】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～４９」の範囲には、大当たりｂが対応付けられて規定されている（図１２０（ｂ）の２０２ｂ５参照）。
【１３７３】
大当たりｂとなった場合は、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第１の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【１３７４】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲には、大当たりｃが対応付けられて規定されている（図１２０（ｂ）の２０２ｂ６参照）。
【１３７５】
大当たりｃとなった場合は、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物６４０ａの作動パターンが後述する第３の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。
【１３７６】
上述したように、特別図柄２の抽選（第２入賞口６４０への入球に基づく抽選）で大当たりとなると、大当たり種別に関わらず１５ラウンドの大当たり遊技を実行可能である一方で、大当たり遊技終了後の電動役物６４０ａの作動パターンの振分けが特別図柄１の抽選で大当たりとなった場合と異なるように設定される。特に、大当たりｃで違いが顕著となるが、詳細は後述する。
【１３７７】

第２当たり乱数テーブル２０２ｃ（図１２０（ｃ）参照）は、普通図柄の当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。具体的には、普通図柄の通常状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２０４」が規定されている（図１２０（ｃ）の２０２ｃ１参照）。また、普通図柄の高確率状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２０４」が規定されている（図１２０（ｃ）の２０２ｃ２参照）。

【１３７８】

本実施形態のパチンコ機１０では、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５を球が通過することに基づいて取得される第２当たり乱数カウンタＣ４の値と、第２当たり乱数テーブル２０２ｃとを参照し、普通図柄の当たりであるか否かを判定している。変動パターン選択テーブル２０２ｄは、変動パターンの表示態様を決定するための変動種別カウンタの判定値が表示態様毎にそれぞれ規定されているデータテーブルである。

【１３７９】

図１２１（ａ）から図１２１（ｄ）は、普通入賞口（スルーゲート）７６５における球の通過の検出と、電動役物６４０ａの状態の計時変化の一例を示した図である。なお、図１２１（ａ）では、第１の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１２１（ｂ）では、第２の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１２１（ｃ）では、第３の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１２１（ｄ）では、第４の作動パターンにおける計時変化が図示される。

【１３８０】

なお、第４の作動パターンは、通常中や、大当たりＣ，ｃ（図１２０（ｂ）参照）の終了後に特別図柄の抽選が１００回終了した後において採用される作動パターンである。

【１３８１】

図１２１（ａ）から図１２１（ｄ）では、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されたことによる第２図柄の変動表示がされ（本実施形態では約０．１秒後）、「○」の図柄が第２図柄表示装置８３に表示された場合、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出された時を基準とする電動役物６４０ａの各作動パターンの内、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１（本実施形態では約０．５秒）の時間長さにおける電動役物６４０ａの状態の意味について詳述する。

【１３８２】

基準時間Ｔｄ１の長さは、球が普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過してから右側案内部６４３を通過するまでの時間に該当する時間として設定されている。

【１３８３】

図１２１（ａ）に示すように、第１の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５で球の通過が検出されてから、第２図柄の変動表示の終了後（普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから０．１秒経過後）において基準時間Ｔｄ１に亘って電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した進入状態（図において、「進」とも示す。以降の図において同様である）で維持される。

【１３８４】

第１の作動パターンでは、基準時間Ｔｄ１を超えて、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから約３．０秒後まで電動役物６４０ａが第１送球経路ＫＲ１に進入した状態が維持される（普通図柄の変動終了までに約３．０秒経過する）。

【１３８５】

これにより、右打ちの実行により普通入賞口（スルーゲート）６７により球の通過が検出される場合に、左側案内部６４５に到達した球を第１球送球部７３４に案内するのに十分な長さで移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態を維持することができる。これにより、球を第２入賞口６４０に入球させ易くすることができる。

【１３８６】

加えて、普通入賞口（スルーゲート）７６５で通過が検出された球が右側案内部６４３

を通過する前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態にすることができるので、球を右側案内部６４３の上面で転動させ、右側に流すことで第２球送球部７３６に案内し易くすることができる。

【１３８７】

これにより、第１入賞口６４に入球した球の内、シーソー部材７６２によって右側に流された球が、センサＳＥに検出され特別図柄１の抽選を獲得する事態に比較して、第２入賞口６４０に入球され特別図柄２の抽選を獲得する事態の方が、生じ易くすることができる。

【１３８８】

図１２１（ｂ）に示すように、第２の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５で球の通過が検出されてから、基準時間Ｔｄ１の経過直前に電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態に変化し、基準時間Ｔｄ１の経過直後に電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した退避状態（図において、「退」とも示す。以降の図において同様である）に変化する。

【１３８９】

第２の作動パターンでは、基準時間Ｔｄ１を超えて、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから約１．０秒後まで電動役物６４０ａが第１送球経路ＫＲ１に進入した状態が維持される（普通図柄の変動終了までに約１．０秒経過する）。

【１３９０】

これにより、右打ちの実行により普通入賞口（スルーゲート）６７により球の通過が検出される場合に、左側案内部６４５に球が到達した場合であっても、球を第１球送球部７３４に案内するのに十分な長さで移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態を維持するとは言えないため、右打ち遊技で球を第２入賞口６４０に入球させ易くすることはできない。

【１３９１】

一方、普通入賞口（スルーゲート）７６５で通過が検出された球が右側案内部６４３を通過する前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態にすることができるので、球を右側案内部６４３の上面で転動させ、右側に流すことで第２球送球部７３６に案内し易くすることができる。球が右側案内部６４３に到達してから０．５秒間は、移動板部材６４１が進入状態に維持されるので、球を第２球送球部７３６側へ安定して送球することができる。

【１３９２】

これにより、第１入賞口６４に入球した球の内、シーソー部材７６２によって右側に流された球が、センサＳＥに検出され特別図柄１の抽選を獲得する事態に比較して、第２入賞口６４０に入球され特別図柄２の抽選を獲得する事態の方が、生じ易くすることができる。

【１３９３】

図１２１（ｃ）に示すように、第３の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５で球の通過が検出されてから、第２図柄の変動表示の終了後（普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから０．１秒経過後）、電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態で維持され、基準時間Ｔｄ１の経過直前に電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した状態（図において、「退」とも示す。以降の図において同様である）に変化し、基準時間Ｔｄ１の経過直後に電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態に変化する。

【１３９４】

第３の作動パターンでは、基準時間Ｔｄ１経過後において、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから約３．０秒間に到達するまで電動役物６４０ａが第１送球経路ＫＲ１に進入した状態が維持される（普通図柄の変動終了までに約３．０秒経過する）。

【１３９５】
これにより、右打ちの実行により普通入賞口（スルーゲート）６７により球の通過が検出される場合に、左側案内部６４５に到達した球を第１球送球部７３４に案内するのに十分な長さで移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態を維持することができる。これにより、球を第２入賞口６４０に入球させ易くすることができる。
【１３９６】
一方、普通入賞口（スルーゲート）７６５で通過が検出された球が右側案内部６４３を通過する前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した状態にすることができるので、球を右側案内部６４３の上面で転動させ、右側に流すことで第２球送球部７３６に案内する事態の発生を抑えることができる。
【１３９７】
これにより、第１入賞口６４に入球した球の内、シーソー部材７６２によって右側に流された球が、センサＳＥに検出され特別図柄１の抽選を獲得する事態に比較して、第２入賞口６４０に入球され特別図柄２の抽選を獲得する事態の方が、生じ難くすることができる。
【１３９８】
なお、シーソー部材７６２によって右側に流された球が普通入賞口（スルーゲート）７６５に検出されるタイミングで普通図柄（第２図柄）の変動が継続中であった場合には、その球が第１送球経路ＫＲ１に到達する際に電動役物６４０ａが進入状態とされることは生じ得る。この場合は、シーソー部材７６２により右側に流された球が第２入賞口６４０に入球され、特別図柄２の抽選を獲得することができる。
【１３９９】
図１２１（ｄ）に示すように、第４の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５で球の通過が検出されてから、電動役物６４０ａの移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した退避状態で維持され、移動板部材６４１が進入状態に変化した後、基準時間Ｔｄ１の経過直前に再び電動役物６４０ａの移動板部材６４１が退避状態に変化する。第４の作動パターンでは、基準時間Ｔｄ１で制御が完結する（普通図柄の変動終了までに約０．５秒経過する）。
【１４００】
これにより、右打ちの実行により普通入賞口（スルーゲート）６７により球の通過が検出される場合に、左側案内部６４５に球が到達した場合であっても、球を第１球送球部７３４に案内するのに十分な長さで移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入した状態を維持するとは言えないため、右打ち遊技で球を第２入賞口６４０に入球させ易くすることはできない。
【１４０１】
一方、普通入賞口（スルーゲート）７６５で通過が検出された球が右側案内部６４３を通過する前に移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避した状態にすることができるので、球を右側案内部６４３の上面で転動させ、右側に流すことで第２球送球部７３６に案内する事態の発生を抑えることができる。
【１４０２】
これにより、第１入賞口６４に入球した球の内、シーソー部材７６２によって右側に流された球が、センサＳＥに検出され特別図柄１の抽選を獲得する事態に比較して、第２入賞口６４０に入球され特別図柄２の抽選を獲得する事態の方が、生じ難くすることができる。即ち、第１入賞口６４に複数の球が入球した場合に、特別図柄１の抽選が繰り返し獲得されるよう構成することができる。
【１４０３】
以上詳述した各作動パターンによれば、特別図柄１又は特別図柄２の抽選の獲得により大当たりの獲得を目指す遊技状態において、異なる態様における特別図柄の抽選の獲得パターンを作ることができる。
【１４０４】

例えば、第１の作動パターン及び第３の作動パターンでは、右打ち遊技において特別図柄２の抽選の獲得を目指すことができるので、第３図柄表示装置８１において上述した「右打ちナビ」を表示することが好ましい。

【１４０５】

更に、第１の作動パターンでは、移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入している状態（図１１４（ｂ）参照）で維持される期間が長く、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入している状態とされるので、第１入賞口６４に入球した場合であっても、シーソー部材７６２で右側に流された球の一部で特別図柄２の抽選を獲得することができる。これにより、右打ち遊技中に第１入賞口６４に球が入球した場合に遊技者が受ける不利益を低く抑えることができる。

【１４０６】

一方、第３の作動パターンでは、移動板部材６４１が進入状態（図１１４（ｂ）参照）で維持される期間が長いが、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１から退避している退避状態とされるので、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球の通過と同時に普通図柄（第２図柄）の変動が開始される場合において、その球は移動板部材６４１の正面側を通過して、センサＳＥに案内される。

【１４０７】

即ち、第１入賞口６４に入球した場合に、シーソー部材７６２で右側に流された球で特別図柄２の抽選を獲得する可能性を低くすることができる。これにより、右打ち遊技中に第１入賞口６４に球が入球した場合に遊技者が受ける不利益を第１の作動パターンでの場合に比較して高くすることができる。

【１４０８】

例えば、第２の作動パターン及び第４の作動パターンでは、右打ち遊技において特別図柄２の抽選の獲得を目指すことは、電動役物６４０ａの動作時間が短すぎることから困難であるので、第３図柄表示装置８１において上述した「右打ちナビ」を表示することはせず、左打ち遊技を推奨することが好ましい。

【１４０９】

この場合において、第２の作動パターンでは、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が第１送球経路ＫＲ１に進入している進入状態（図１１４（ｂ）参照）とされるので、第１入賞口６４に入球した場合であっても、シーソー部材７６２で右側に流された球の一部で特別図柄２の抽選を獲得することができる。

【１４１０】

これにより、左打ち遊技中に第１入賞口６４に球が入球した場合に遊技者が獲得できる特別図柄の抽選を、特別図柄１と特別図柄２との交互で生じさせることができる。なお、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が進入状態とされる場合に特別図柄２の抽選を獲得できるのは、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球の通過と同時に普通図柄（第２図柄）の変動が開始される場合なので、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出された時に普通図柄（第２図柄）の変動が継続している場合には、特別図柄２の抽選を獲得し易いという効果を奏することができない。

【１４１１】

一方で、第２の作動パターン（又は第４の作動パターン）では、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球の検出から電動役物６４０ａの動作制御の終了までが０．５秒間で設定されるので、同時間幅が３秒間で設定される第１，第３の作動パターンに比較して、普通図柄（第２図柄）の変動が保留される事態が生じる可能性を低くすることができる。従って、特別図柄２の抽選を獲得し易いという効果を高確率で奏することができる。

【１４１２】

一方、第４の作動パターンでは、移動板部材６４１の進入状態（図１１４（ｂ）参照）は第２の作動パターン同様に短いことに加え、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球の通過が検出されてから基準時間Ｔｄ１経過時において移動板部材６４１が退避状態とされるので、第１入賞口６４に入球した場合に、シーソー部材７６２で右側に流された球で特別図柄２の抽選を獲得する可能性を低くすることができる。これにより、左打ち遊技中に第１入賞口６４に球が入球した場合に遊技者が獲得できる特別図柄の抽選のほとんどを、特別図柄１の抽選で占めることができる。

【１４１３】

以上詳述したように、各作動パターンによれば、特別図柄１又は特別図柄２の抽選の獲得により大当たりの獲得を目指す遊技状態において、異なる態様における特別図柄の抽選の獲得パターンを作ることができる。

【１４１４】

図１２０（ｂ）に戻って特別図柄１の大当たりと特別図柄２の大当たりとの、遊技者が得られる利益の違いについて説明する。

【１４１５】

まず、最大ラウンド（本実施形態において、１５ラウンド）の大当たりを獲得する確率は、特別図柄２の方が高い。特別図柄１の大当たりの内、最大ラウンドの大当たりは２０％であるのに比較して、特別図柄２の大当たりは１００％で最大ラウンドとなる。従って、少なくとも賞球個数の面から、特別図柄２の大当たりにより遊技者が得られる利益の方が、特別図柄１の大当たりにより遊技者が得られる利益に比較して大きい。

【１４１６】

また、大当たり遊技終了後に高確率状態となる場合において、特別図柄２の大当たりであれば１００％で右打ち遊技となり、特別図柄２の抽選を繰り返し獲得することができるが、特別図柄１の大当たりの内の３０％（大当たりＢ）では、右打ち遊技とはならず左打ち遊技が推奨され、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選が交互に生じることになる。

【１４１７】

この場合、左打ち遊技では、右打ち遊技に比較して特別図柄の抽選を獲得する時間効率が落ちることに加え、１／２で特別図柄１の抽選が実行されることから最大ラウンドの大当たりを獲得するまでのハードルが多くなる。

【１４１８】

また、大当たり遊技終了後に低確率状態となる場合において、特別図柄２の大当たり（大当たりｃ）であれば右打ち遊技となり、特別図柄２の抽選を繰り返し獲得することができるが、特別図柄１の大当たり（大当たりＣ）では、右打ち遊技とはならず左打ち遊技が推奨され、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選が交互に生じることになる。

【１４１９】

この場合、左打ち遊技では、右打ち遊技に比較して特別図柄の抽選を獲得する時間効率が落ちることに加え、１／２で特別図柄１の抽選が実行されることから最大ラウンドの大当たりを獲得するまでのハードルが多くなる。

【１４２０】

更に、特別図柄の抽選が１００回という条件は同じであるが、大当たりｃであれば特別図柄２の抽選を１００回獲得することが容易であることに対して、大当たりＣでは、特別図柄１の抽選が５０回、特別図柄２の抽選が５０回で１００回の抽選が終了してしまうので、実質的には特別図柄２の抽選を５０回しか獲得することができない。

【１４２１】

まとめると、特別図柄２の抽選による大当たりは、特別図柄１の抽選による大当たりに比較して、少なくとも、第１に、最大ラウンドの大当たりを獲得し易いこと、第２に、特別図柄２の抽選を繰り返し獲得する遊技状態にし易いこと、第３に、右打ち遊技により特別図柄の抽選を獲得する時間効率を高い状態で維持し易いこと、という有利な点を有する。

【１４２２】

上記第４１実施形態では、特別図柄２での抽選が優先的に実行される場合において、抽選に係る変動時間が３秒～５分程度の選択肢から確率で選択される前提で説明したが、これに限定されるものではない。例えば、特別図柄１と特別図柄２とで同時に抽選を実行する場合において、特別図柄２の抽選に係る変動時間を意図的に長く設定する遊技状態を構成しても良い。

【１４２３】

即ち、例えば、大当たりＢの終了後や、大当たりＣの終了後の特別図柄の１００回の抽選において、特別図柄２の抽選の変動時間が常に１０分で設定されるようにしても良い。この場合、第１入賞口６４に入球した球がセンサＳＥを通過する場合と、第２入賞口６４０を通過する場合とが交互に生じる前提において、特別図柄２の保留個数が満タンとなった後に第１入賞口６４に入球させると、球が第２入賞口６４０を通過しても特別図柄２の抽選を獲得することができず、特別図柄１の抽選が繰り返し実行されることになる。

【１４２４】

また、遊技者は、特別図柄２の保留個数が満タンの場合には第１入賞口６４には入球させないように遊技することもできるが、この場合には遊技の時間効率を悪くすることができ、同一時間内における大当たりの発生回数を低減させることができる。これにより、遊技機店側の経営が赤字となることを回避し易くすることができる。

【１４２５】

上述の遊技状態では、シーソー部材７６２から右側に流される球は、特別図柄２の保留個数が満タンになるまでは、特別図柄２の抽選を獲得する利益と賞球の払い出しを受ける利益とを遊技者に与えるので、特別図柄１の抽選を獲得する利益と賞球の払い出しを受ける利益とを遊技者に与えるものとしての、シーソー部材７６２から左側に流される球よりも遊技者が得られる利益が大きい。

【１４２６】

一方で、特別図柄２の保留個数が満タンになっている状態では、シーソー部材７６２から右側に流される球は、賞球の払い出しを受ける利益を遊技者に与えるのみとなるので、特別図柄１の抽選を獲得する利益が加算されている分だけシーソー部材７６２から左側に流される球よりも遊技者が得られる利益が小さい。

【１４２７】

即ち、シーソー部材７６２から右側に流される球と、左側に流される球との、遊技者に与えられる利益の大小を、特別図柄２の保留個数が満タンか否かにより切り替えることができる。

【１４２８】

なお、上述の遊技状態において、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球が検出されたことに基づく移動板部材６４１の動作は複数の作動パターンから抽選で選択されるよう構成しても良い。

【１４２９】

例えば、第２の作動パターンでの動作が５％であり、残りの９５％は第４の作動パターンで動作するように制御しても良い。この場合、第２の作動パターンで移動板部材６４１が動作すれば特別図柄２の抽選を獲得できるという利点があるので、移動板部材６４１に対する注目力を向上することができる。

【１４３０】

一方で、特別図柄２の保留個数が満タンの場合には、第４の作動パターンで動作すれば特別図柄１の抽選を獲得できる一方で、第２の作動パターンで移動板部材６４１が動作すると特別図柄１，２の抽選共に獲得することができないという不利益があるので、この場合にも移動板部材６４１に対する注目力を向上することができる。即ち、特別図柄２の保留個数が満タンである場合も、満タンでない場合も、移動板部材６４１に対する注目力を向上することができる。

【１４３１】

なお、特別図柄１と特別図柄２とで同時に抽選を実行する場合において、特別図柄１の

抽選に係る変動時間を意図的に長く設定する遊技状態を構成しても良い。例えば、特別図柄１の抽選の変動時間を常に１０分で設定することで、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選との両方が生じ得る遊技状態において、特別図柄１の抽選の結果が出る前に特別図柄２の抽選を複数回実行することができる。これにより、特別図柄１の抽選による大当たりが意図せず発生し、遊技者に不利益を与える可能性を低くすることができる。

【１４３２】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【１４３３】

普通入賞口（スルーゲート）７６５が配設される右側の傾斜面７６１を流下する球と、普通入賞口（スルーゲート）７６５が配設されていない左側の傾斜面７６１を流下する球との、流下速度の均一化を図ることができる。

【１４３４】

また、第１入賞口６４に入球した球が第２入賞口６４０側の流路に分岐される位置（例えば、第１送球経路ＫＲ１）や、第２入賞口６４０側に落下する位置（例えば、上側球通過孔７１３、下側球通過孔７１４）において、球の流下方向が前後方向成分を有する。これにより、第２入賞口６４０への球の流下に関係が深い箇所を目立たせることができる。

【１４３５】

また、第２入賞口６４０への経路は下側球通過孔７１４の正面側で合流することになるが、この合流位置は移動板部材６４１から十分離れている。これにより、合流位置で衝突した球からの負荷が移動板部材６４１に付与される事態を避けることができる。なお、上側球通過孔７１３と下側球通過孔７１４との左右位置をずらすと共に第２入賞口６４０の左右幅を球２個分以上に拡大することで、下側球通過孔７１４の正面側における流路の合流を避けるようにしても良い。

【１４３６】

また、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球が検出されてから普通図柄の変動表示が終了するまでに、次の球が普通入賞口（スルーゲート）７６５で検出されないように管理することが可能な場合を形成可能である。これにより、普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球に、その球が検出されたことにより動作制御される電動役物６４０ａをタイミングよく作用させることができる。

【１４３７】

また、移動板部材６４１は、普通入賞口（スルーゲート）７６５を通過した球に対しても、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７を通過した球に対しても作用可能に配設される。これにより、移動板部材６４１の利用可能性を高めることができる。

【１４３８】

即ち、移動板部材６４１を、第１入賞口６４への入球を狙う左打ち遊技が推奨される遊技状態においても、普通入賞口（スルーゲート）６７への入球を狙う右打ち遊技が推奨される遊技状態においても、有効に利用することができる。なお、これは左右対称盤面に限定された効果ではなく、例えば、非対称盤面（例えば、普通入賞口（スルーゲート）６６が省略された構成）においても奏する効果である。

【１４３９】

また、移動板部材６４１に乗る球の個数について、左側案内部６４５では同時に複数の球が乗り得る一方で、右側案内部６４３に乗る球の個数を１個に限定している。これにより、左側案内部６４５よりも右側案内部６４３を丈夫に構成することで、移動板部材６４１の耐久性を向上させることができる。

【１４４０】

また、電動役物６４０ａの作動パターンを複数用意することで、異なる態様における特別図柄の抽選の獲得パターンを作ることができる。例えば、第１入賞口６４に繰り返し入球した場合に、特別図柄１の抽選が繰り返し獲得されるパターンと、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に獲得されるパターンと、を切り替えることができる。

【１４４１】

また、特別図柄の抽選の獲得パターンとして、右打ち遊技を推奨する場合において、図らずも第１入賞口６４に入球した場合に、特別図柄１の抽選を繰り返し獲得し易いパターンと、シーソー部材７６２で右側に流された球については高確率で特別図柄１の抽選の獲得が回避されるパターンと、を切り替えることができる。

【１４４２】

次いで、図１２２から図１３１を参照して、第４２実施形態について説明する。第４１実施形態では、経路構成装置７００により振り分けられる一方の経路を球が流下する場合に普通入賞口（スルーゲート）７６５を球が通過する場合を説明したが、第４２実施形態の振分ユニット９８０では、球が振り分けられる複数の経路において球が普通入賞口（スルーゲート）としての検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を通過するよう構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１４４３】

図１２２は、第４２実施形態における遊技盤１３の分解正面斜視図である。なお、図１２２では、ベース板６０に配設される入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０以外のユニットの図示が省略される。

【１４４４】

図１２２に示すように、ベース板６０には、センターフレーム８６（図１０９参照）が取り付けられる中央開口の下側にベース板６０の厚み方向に貫通する貫通孔２０６０ａがルータ加工によって形成される。

【１４４５】

貫通孔２０６０ａは、後述する正面ユニット９４０の正面視における外形よりも若干小さく形成され、内側に正面ユニット９４０に配設される駆動ユニット９６０及び特定入賞口ユニット９５０が挿入される。

【１４４６】

ベース板６０には、遊技領域（正面）側から入賞口ユニット９３０が配設され、遊技領域と反対（背面）側から送球ユニット９７０が配設され、それぞれタッピングネジ等により締結固定される。なお、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０の詳細な構成については後述する。

【１４４７】

入賞口ユニット９３０は、正面ユニット９４０と、その正面ユニット９４０の背面側に配設される特定入賞口ユニット９５０と、その特定入賞口ユニット９５０の背面側に配設される駆動ユニット９６０と、その駆動ユニット９６０の駆動力で上下方向に動作可能に構成される変位部材９６６とを主に備えて形成される。なお、変位部材９６６の説明は後述する。

【１４４８】

特定入賞口ユニット９５０は、正面ユニット９４０に形成される特定入賞口６５ａの内側に一部が挿入されており、特定入賞口６５ａを介して遊技球を特定入賞口ユニット９５０の内側に送球可能とされる。

【１４４９】

駆動ユニット９６０は、特定入賞口ユニット９５０の背面側に配設されると共に、変位部材９６６を介して正面ユニット９４０に配設される羽部材９４５に連結される。これにより、駆動ユニット９６０の駆動力で変位部材９６６を動作させることに伴い、羽部材９４５を回転変位させることができる。なお、羽部材９４５の動作についての詳しい説明は後述する。

【１４５０】

次いで、図１２３から図１２５を参照して、正面ユニット９４０の詳細な説明をする。図１２３（ａ）は、正面ユニット９４０の正面図であり、図１２３（ｂ）は、正面ユニット９４０の背面図である。図１２４は、正面ユニット９４０の分解正面斜視図であり、図１２５は、正面ユニット９４０の分解背面斜視図である。なお、図１２３（ａ）及び図１２３（ｂ）では、羽部材９４５の外形が隠れ線で図示される。

【１４５１】
図１２３から図１２５に示すように、正面ユニット９４０は、ベース板６０に締結される背面ベース９４１と、その背面ベース９４１に遊技球の直径よりも大きい距離を隔てて配設される正面ベース９４３と、背面ベース９４１及び正面ベース９４３の対向間に回転可能な状態で配設される２個（一対）の羽部材９４５とを主に備えて形成される。
【１４５２】
背面ベース９４１は、正面視における外形が上下反対向きの略Ｔ字状に形成されると共に、所定の板厚を備える板状体から形成される。また、背面ベース９４１は、無色透明の樹脂材料から形成されており、入賞口ユニット９３０（正面ユニット９４０）がベース板６０に配設された状態において、背面ベース９４１を介してベース板６０の貫通孔２０６０ａの内部を視認できる。
【１４５３】
背面ベース９４１は、下端部に切り欠き形成される第１アウト口７１と、その第１アウト口７１の上方に位置し水平方向に長い矩形状に貫通形成される特定入賞口６５ａと、その特定入賞口６５ａの上方に貫通形成される第２入賞口６４０と、第１アウト口７１と反対側の縁部（上縁部）に切り欠き形成される第１入賞口６４とを主に備える。
【１４５４】
背面ベース９４１は、外縁部に板厚方向に貫通する貫通孔９４１ａを複数個備える。貫通孔９４１ａは、正面側から背面側に向かって縮径する第１貫通孔９４１ａ１と、背面側から正面側に向かって縮径する第２貫通孔９４１ａ２とから形成される。
【１４５５】
第１貫通孔９４１ａ１は、背面ベース９４１（入賞口ユニット９３０）をベース板６０に締結固定するためのタッピングネジを挿通する孔であり、内径がタッピングネジの螺入部分の外径よりも大きく設定される。
【１４５６】
また、第１貫通孔９４１ａ１は、上述したように、正面側から背面側に向かって縮径して形成されるので、タッピングネジの頭部を正面側の拡径部分に収容することができる。従って、タッピングネジの頭部が遊技領域に突出することを抑制できる。さらに、第１貫通孔９４１ａ１の近傍には、背面ベース９４１の背面から円柱状に突出する位置決め突起９４２ａが形成される。
【１４５７】
位置決め突起９４２ａは、ベース板６０の貫通孔２０６０ａの周囲に形成される位置決め孔に対応する位置に形成されると共に、位置決め孔の内径と略同一の外径に形成される。これにより、背面ベース９４１（入賞口ユニット９３０）をベース板６０に対して位置決めして配設できる。
【１４５８】
第２貫通孔９４１ａ２は、背面ベース９４１と正面ベース９４３とを締結するためのネジを背面ベース９４１側から挿通する孔であり、内径がネジの螺入部分の外径よりも大きく設定される。即ち、正面ベース９４３は、背面ベース９４１の背面側からネジで締結される。この場合、正面ベース９４３の背面ベース９４１からの取り外しの作業は、入賞口ユニット９３０をベース板６０から取り外した状態とする必要がある。従って、遊技者が不正をして遊技盤１３の前面側（遊技領域側）から正面ベース９４３のみを取り外すことを抑制できる。
【１４５９】
また、第２貫通孔９４１ａ２は、上述したように、背面側から正面側に向かって縮径して形成されるので、ネジの頭部を背面側の拡径部分に収容することができる。従って、背面ベース９４１の背面側にネジの頭部が突出することを抑制できる。その結果、背面ベース９４１の背面側に後述する特定入賞口ユニット９５０を配設する場合に、ネジの頭が特定入賞口ユニット９５０に当接することを抑制できる。
【１４６０】

背面ベース９４１は、重力方向下側端部の外形が、遊技盤１３の内レール６１（図１０９参照）の内縁に沿って形成される。第１アウト口７１は、切欠き底部の縁部（重力方向上側の縁部）が内レール６１の内縁と遊技球の直径以上離間する寸法に形成される。これにより、遊技盤１３の前面に形成される遊技領域を流下する遊技球のうち第１入賞口６４、第２入賞口６４０、特定入賞口６５ａ及び一般入賞口６３（図１０９参照）のいずれにも流入しなかった遊技球を、第１アウト口７１を介して遊技盤１３の背面側（遊技領域の反対側）に送球できる。

【１４６１】

第１入賞口６４は、第１アウト口７１と反対側の端部を半円形状に切り欠いて形成される。また、第１入賞口６４は、その内縁の寸法が遊技球の直径よりも大きい寸法に形成される。これにより、後述する第１受部９４１ｇの内部に流入する遊技球を第１入賞口６４を介して背面側（遊技領域の反対側（図１２３（ｂ）紙面手前側）に送球できる。

【１４６２】

第１入賞口６４の縁部には、遊技領域側（図１２３（ａ）紙面手前側）に突出すると共にカップ状に形成される第１受部９４１ｇと、遊技領域と反対側（図１２３（ｂ）紙面手前側）に断面Ｕ字状に突出する第１送球部９４２ｇとが形成される。

【１４６３】

第１受部９４１ｇは、内側に１球分の遊技球を受け入れ可能な大きさに形成される。これにより、第１受部９４１ｇ（第１入賞口６４）の重力方向上側から遊技領域を流下する遊技球を第１受部９４１ｇの内側に流入させることができる。

【１４６４】

また、第１受部９４１ｇは、底面が背面側に下降傾斜して形成される。これにより、第１受部９４１ｇに流入した遊技球を第１入賞口６４を介して背面側（第１送球部９４２ｇ側）に送球できる。

【１４６５】

さらに、第１受部９４１ｇは、ベース板６０の短手方向（図１２３左右方向）両端の上端部から、下側に向けて左右方向外側に傾斜して延設される案内部９４１ｇ１を備える。案内部９４１ｇ１は、所定の厚みを備える板状体に形成されると共に、遊技領域と反対側（背面側）の側面が、背面ベース９４１の前面側に連結される。これにより、第１受部９４１ｇの剛性を高めることができ、流下領域を流下する遊技球が第１受部９４１ｇに衝突して、第１受部９４１ｇが破損することを抑制できる。

【１４６６】

また、背面ベース９４１に第１入賞口６４、第２入賞口６４０及び特定入賞口６５を一体に形成すると、遊技領域を流下する遊技球に変化を与える遊技釘の配置が足りなくなる可能性があるため、遊技球の流下方向を変化させ難くなる。従って、遊技者の興趣が損なわれる恐れがあるところ、案内部９４１ｇ１に遊技球を衝突させることで、遊技球の流下方向に変化を与えることができ、遊技者の興趣が損なわれることを抑制できる。

【１４６７】

さらに、案内部９４１ｇ１は、背面ベース９４１の正面側を第２入賞口６４０側に向かって流下する遊技球が衝突した場合に、その遊技球を左右方向外側に案内できる。これにより、第２入賞口６４０に遊技球が入球する確率が過度に高くなることを防止することができる。

【１４６８】

第１送球部９４２ｇは、重力方向上側が開放するＵ字に形成されており、その内縁の対向間の距離寸法が遊技球の直径よりも大きく形成される。また、第１送球部９４２ｇは、底面が背面側に向かって下降傾斜して形成されると共に、突出先端側が、後述する送球ユニット９７０の流入口９８２ｄの縁部に当接される。これにより、第１受部９４１ｇの内側から第１入賞口６４を介して第１送球部９４２ｇに送球される遊技球を背面側に転動させて、送球ユニット９７０に送球することができる。

【１４６９】

第１送球部９４２ｇは、突出先端の上方端部が、側面視矩形状に切り欠かれる第１凹欠部９４２ｇ１を備える。第１凹欠部９４２ｇ１は、後述する送球ユニット９７０の第２突起９８２ｄ１が載置される切欠きであり、第２突起９８２ｄ１の側面視形状と略同一の大きさに凹欠される。なお、第１送球部９４２ｇ及び送球ユニット９７０の配置についての詳しい説明は後述する。

【１４７０】

第２入賞口６４０は、正面視において上方が湾曲した略Ｄ字状に貫通形成されると共に、内縁が遊技球の外径よりも大きく形成される。これにより、後述する羽部材９４５の対向間に送球される遊技球を第２入賞口６４０から背面側に送球できる。

【１４７１】

第２入賞口６４０には、その縁部に、正面側に突出する正面側壁部９４１ｂと、背面側に突出する第２送球部９４２ｃとが形成される。

【１４７２】

正面側壁部９４１ｂは、ベース板６０の短手方向における第２入賞口の両側縁部に沿って形成される。正面側壁部９４１ｂは、その突出先端面が後述する正面ベース９４３の送球ガイド部９４３ｄと当接する大きさに設定される。

【１４７３】

第２送球部９４２ｃは、第２入賞口６４０の下側縁部の両端のそれぞれに背面視略Ｌ字に屈曲して形成される。第２送球部９４２ｃは、重力方向（図１２３（ｂ）上下方向）における寸法が遊技球の半径よりも大きく設定される。これにより、後述する正面ベース９４３の転動部９４３ａを転動する遊技球が転動部９４３ａの上面から落下することを抑制できる。

【１４７４】

一対の第２送球部９４２ｃは、ベース板６０の短手方向（図１２３（ｂ）左右方向）における対向間の距離寸法が後述する正面ベース９４３の転動部９４３ａのベース板６０の短手方向（図１２３（ｂ）左右方向）における長さ寸法と略同一に設定され、内側に転動部９４３ａが配設される。

【１４７５】

第２送球部９４２ｃは、組立状態において変位部材９６６の内側に配置され、上下左右方向で変位部材９６６と対向配置される。第２送球部９４２ｃの外側面間の左右幅が変位部材９６６の第２開口９６６ｃの内側面間の左右幅よりも若干短く形成される。これにより、第２送球部９４２ｃにより、変位部材９６６の左右方向変位を制限することができる。

【１４７６】

背面ベース９４１は、第２入賞口６４０の近傍の上側（第１入賞口６４側）に、背面ベース９４１の遊技領域側から遊技領域と反対側に向かって円形状に２箇所に凹設される第１軸孔９４１ｄと、その第１軸孔９４１ｄの軸を中心に湾曲して背面ベース９４１に貫通形成される２箇所の第１開口９４１ｅと、その２箇所の第１開口９４１ｅの対向方向外側に位置し背面側に突設される第１ガイド壁９４２ｂと、を備えて形成される。

【１４７７】

第１軸孔９４１ｄは、後述する羽部材９４５を軸支する軸部材９４５ａを支持可能とされ、軸部材９４５ａの外径と略同一の内径に形成される。これにより、軸部材９４５ａの一端を第１軸孔９４１ｄに挿入して支持できる。

【１４７８】

第１開口９４１ｅは、第１軸孔９４１ｄの中心を軸とする円弧状に開口される。また、第１開口９４１ｅは、羽部材９４５の突起９４５ｂを挿通可能とされ、羽部材９４５の回転軸（挿通孔９４５ｃ）の径方向における突起９４５ｂの最大幅寸法よりも大きく設定される。これにより、羽部材９４５が回転した際に突起９４５ｂが第１開口９４１ｅの内面に当接することを抑制できる。

【１４７９】

一対の第１ガイド壁９４２ｂは、後述する変位部材９６６が変位される際に、変位部材９６６の上下方向変位を案内する壁であり、一対の第１ガイド壁９４２ｂの対向間における距離寸法が、変位部材９６６の短手方向（左右方向）の距離寸法よりも若干大きく設定される。

【１４８０】

また、一対の第１ガイド壁９４２ｂは、背面視略Ｌ字に形成され、屈曲部分が互いに近づく方向に延設される。これにより、変位部材９６６の突出部９６６ａを第１ガイド壁９４２ｂの屈曲部分に当接させて、変位部材９６６の変位距離を規制できる。

【１４８１】

特定入賞口６５ａは、一対の羽部材９４５の対向方向（図１２３（ｂ）左右方向）に長い矩形状に開口形成されており、その開口の内側に後述する特定入賞口ユニット９５０の開閉板が配設される。

【１４８２】

背面ベース９４１は、特定入賞口６５ａと第２送球部９４２ｃとの対向間に膨出する膨出部９４２ｈと、特定入賞口６５ａの外枠から第１ガイド壁９４２ｂ側（図１２３（ｂ）上側）に突出する第２ガイド壁９４２ｄとを備える。

【１４８３】

膨出部９４２ｈは、背面ベース９４１の背面側に膨出すると共に、特定入賞口６５ａの外枠と第２送球部９４２ｃとに連結される。これにより、後述する変位部材９６６を背面ベース９４１の背面側に配設した場合に、変位部材９６６と背面ベース９４１の背面との接触面積を小さくすることができ、変位部材９６６の摩擦（摺動）抵抗を抑えることができる。

【１４８４】

第２ガイド壁９４２ｄは、変位部材９６６の下端部分の変位を案内する壁面であり、一対の第２ガイド壁９４２ｄの対向間の距離寸法が変位部材９６６の短手方向の距離寸法よりも若干大きく設定される。従って、変位部材９６６を一対の第２ガイド壁９４２ｄの対向間に配設した場合に、変位部材９６６の下端部分の変位部材９６６の短手方向（左右方向）への変位距離を規制できる。

【１４８５】

従って、変位部材９６６は、上述した第２送球部９４２ｃが内側に配置されて左右方向の変位が制限されるだけでなく、第２ガイド壁９４２ｄが外側に配置されて左右方向の変位が制限される。これにより、変位部材９６６の左右方向変位を長期間にわたって制限することができる。

【１４８６】

背面ベース９４１は、特定入賞口６５ａの左右両端の上側縁部に下側に向かって半円状に切り欠いて形成される第２アウト口９４１ｆを備える。第２アウト口９４１ｆは、正面ベース９４３に形成される第３受部９４４ａに流入した遊技球をベース板６０の背面側に送球するための切り欠きであり、遊技球の直径よりも大きい形状に形成される。

【１４８７】

また、第２アウト口９４１ｆの縁部には、背面視略Ｕ字状に形成され背面側に突出する第３送球部９４２ｅが形成される。これにより、第２アウト口９４１ｆの内側を介して背面側に送球した遊技球を第３送球部９４２ｅの内側に送球できる。

【１４８８】

第３送球部９４２ｅは、背面視Ｕ字の湾曲部分（下側部分）が背面側に突出するに従って重力方向下側に傾斜して形成されており、第２アウト口９４１ｆから送球された遊技球を背面側に転動させることができる。

【１４８９】

背面ベース９４１は、第１開口９４１ｅの上側端部から上方に直線的に延びる形状で貫通形成される第３貫通孔９４１ｉと、その第３貫通孔９４１ｉの上端部から左右外側へ向けて第１軸孔９４１ｄの軸を中心とする円弧形状で貫通形成される第４貫通孔９４１ｊと

、一対の第３貫通孔９４１ｉの間に遊技球が通過可能な大きさで穿設される送球孔９４１ｋと、その送球孔９４１ｋの下縁部を基端として背面側へ延びる転動板部９４１ｌと、を備えて形成される。

【１４９０】

第３貫通孔９４１ｉは、羽部材９４５の組み付け時に延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅを背面側へ通すための貫通孔である。また、第４貫通孔９４１ｊは、羽部材９４５の動作時に延設部９４５ｄの変位を許容するための貫通孔であり、正面視（軸部材９４５ａの軸方向視）における延設部９４５ｄの変位軌跡を丸ごと含む形状で穿設される。なお、板状部９４５ｅは背面ベース９４１を通過して背面側に配置されているので、板状部９４５ｅの変位軌跡まで考慮することは不要である。

【１４９１】

送球孔９４１ｋは、羽部材９４５の開放状態において板状部９４５ｅの上面を転動した球を正面側に送球するための開口である。送球孔９４１ｋの正面側においては送球孔９４１ｋの下方が開け放されているので（図１２４及び図１２５参照）、送球孔９４１ｋに正面側から球が進入する可能性を低くすることができる。

【１４９２】

即ち、送球孔９４１ｋの前側領域を、板状部９４５ｅの上面を転動した球と、羽状本体９４５の上面を転動した球との合流位置として形成しながら、送球孔９４１ｋを通しての球の流れは専ら正面側へ向く流れとすることができる。

【１４９３】

転動板部９４１ｌは、背面側へ向けて上昇傾斜する傾斜板として形成されており、延設先端側で乗った球を基端側（正面側）へ流下させるよう構成されている。転動板部９４１の上面を転動して基端側まで到達した球は、送球孔９４１ｋを通って背面ベース９４１の正面側（背面ベース９４１と正面ベース９４３との間の空間）に到達し、その後、流下することになる。

【１４９４】

正面ベース９４３は、正面視における外形が背面ベースよりも小さい上下反対の略Ｔ字状に形成される。また、正面ベース９４３は、無色透明な板状体から形成される。これにより、正面ベース９４３と背面ベース９４１との対向間を流下する遊技球を遊技者に視認させることができる。

【１４９５】

正面ベース９４３は、上述した背面ベース９４１の第２入賞口６４０及び第２アウト口９４１ｆのそれぞれに対応する位置に突設される第２受部９４３ｃ及び第３受部９４４ａを主に備えて形成される。

【１４９６】

第２受部９４３ｃは、背面視略Ｕ字に形成され、正面視において内側に背面ベース９４１の第２入賞口６４０が配置される。また、第２受部９４３ｃの開放側（Ｕ字の開放側）には、後述する一対の羽部材９４５が配設される。

【１４９７】

さらに、第２受部９４３ｃの背面ベース９４１側への突出距離は、遊技球の直径よりも大きく設定される。よって、背面ベース９４１及び正面ベース９４３の対向間に遊技球を送球することができると共に、遊技球が後述する一対の羽部材９４５の対向間の外側から第２入賞口６４０に流入することを抑制できる。

【１４９８】

また、第２受部９４３ｃは、その内縁から内側に突設される送球ガイド部９４３ｄと、湾曲部分の内側から背面ベース側に突設される転動部９４３ａとを備える。

【１４９９】

送球ガイド部９４３ｄは、一対の羽部材９４５の下側に一対形成される。また、一対の送球ガイド部９４３ｄは、背面ベース９４１の正面側壁部９４１ｂと対応する位置にそれぞれ形成されており、背面ベース９４１と正面ベース９４３とが組み合わされると、その

端面同士が当接される。これにより、一対の羽部材９４５の対向間に流入した遊技球を送球ガイド部９４３ｄの対向間に送球できる。

【１５００】

転動部９４３ａは、一対の送球ガイド部９４３ｄの対向間の下側に形成されると共に、上側の端面９４３ａ１が背面ベース９４１側に向かって下降傾斜して形成される。また、上述したように、転動部９４３ａは、背面ベース９４１と正面ベース９４３とが締結された（組み合わされた）状態において、第２入賞口６４０の内側下端に配置されると共に、先端が背面ベース９４１の背面側に突出される。

【１５０１】

これにより、一対の送球ガイド部９４３ｄの対向間に送球された遊技球を転動部９４３ａの端面９４３ａ１に送球できると共に、その遊技球を端面９４３ａ１の上部を転動させて、背面ベース９４１の背面側に送球できる。

【１５０２】

また、正面ベース９４３は、第２受部９４３ｃの開口側（上側）に、背面ベース９４１の第１軸孔９４１ｄと対向する位置に円環状に突設される円環突起９４３ｂを備える。円環突起９４３ｂは、その内縁の第２軸孔９４３ｂ１を備え、その第２軸孔９４３ｂ１の内側に後述する羽部材９４５を軸支する軸部材９４５ａの他端を挿入できる。上述したように、軸部材９４５ａは、一端が背面ベース９４１の第１軸孔９４１ｄに挿入される。よって、背面ベース９４１と正面ベース９４３との対向間に軸部材９４５ａを挟持して支持できる。

【１５０３】

第３受部９４４ａは、背面視略Ｕ字形成されており、その内側に背面ベース９４１の第２アウト口９４１ｆが配置される。これにより、遊技盤１３の遊技領域を流下する遊技球を第３受部９４４ａの内側に流入させることができると共に、第３受部９４４ａに流入した遊技球を第２アウト口９４１ｆを介して背面側に送球することができる。

【１５０４】

羽部材９４５は、正面視において、背面ベース９４１に形成される第２入賞口６４０を間に挟んで一対配設される。羽部材９４５は、有色の半透明材料から形成されており、正面ベース９４３を介して遊技者から視認可能とされる。

【１５０５】

羽部材９４５は、正面視略三角形状に形成されると共に、背面ベース９４１と正面ベース９４３との対向間幅よりも厚みが小さく形成される羽状本体９４５ｍと、その羽状本体９４５ｍの背面側から突出する突起９４５ｂと、羽状本体９４５ｍの厚み方向（背面ベース９４１側から正面ベース９４３側）に貫通形成される挿通孔９４５ｃと、羽状本体９４５ｍの端部であって挿通孔９４５ｃが配置される側とは反対側の端部から背面側へ延設される連結部９４５ｄと、その延設部９４５ｄの先端側から羽状本体９４５ｍの長手方向（図１２３（ａ）上下方向）に板状で延設される板状部９４５ｅと、を主に備える。

【１５０６】

延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅは、組立状態（図１２３（ａ）参照）において貫通孔９４１ｉ，９４１ｊを通過し、振分ユニット９８０の内部において動作可能に構成される部分であるが、詳細は後述する。

【１５０７】

挿通孔９４５ｃは、背面ベース９４１と正面ベース９４３との対向間に支持される軸部材９４５ａの外径よりも大きい内径に形成される。よって、背面ベース９４１と正面ベース９４３とを締結（組立）する際に、挿通孔９４５ｃに軸部材９４５ａを挿通させることで、羽部材９４５を回転可能な状態で背面ベース９４１と正面ベース９４３との対向間に配設できる。これにより、羽部材９４５は、回転先端側が近接する閉鎖状態（図１２３（ａ）参照）と、回転先端側が左右両外側に開くように変位される開放状態とで変位可能とされる。

【１５０８】

突起９４５ｂは、後述する変位部材９６６の摺動溝９６６ａ２に挿通され、駆動ユニット９６０の駆動力が伝達される伝達部分である。突起９４５ｂは、その先端が背面ベース９４１の第１開口９４１ｅを通って背面ベース９４１の背面側に突出して、摺動溝９６６ａ２に挿通可能な寸法に設定される。

【１５０９】

変位部材９６６は、正面視において上側が開放したコ字形状で形成されており、上側端部から左右方向外側に突出する突出部９６６ａと、下側端部から背面側に膨出する膨出部９６６ｂと、を備え、正面視略中央位置に第２開口９６６ｃが貫通形成される。

【１５１０】

第２開口９６６ｃは、正面視における内縁の形状が第２入賞口６４０よりも大きく形成されると共に、内側に第２入賞口６４０が配置される。これにより、第２入賞口６４０を介して遊技領域と反対側に送球される遊技球が変位部材９６６の内縁に衝突することを抑制できる。

【１５１１】

突出部９６６ａは、変位部材９６６の短手方向両外側に位置すると共に長手方向に延設される当接部９６６ａ１と、変位部材９６６の板厚方向に貫通して形成される摺動溝９６６ａ２と、を備える。

【１５１２】

摺動溝９６６ａ２は、内側に上述した羽部材９４５の突起９４５ｂが挿入される長孔であり、変位部材９６６の短手方向に長い長穴に形成される。また、摺動溝９６６ａ２は、幅寸法が羽部材９４５の回転軸（挿通孔９４５ｃ）の径方向における突起９４５ｂの幅寸法よりも大きく設定される。これにより、羽部材９４５が回転した際に、突起９４５ｂが摺動溝９６６ａ２の幅方向に対向する両内面に当接して、羽部材９４５の動作が規制されることを抑制できる。

【１５１３】

膨出部９６６ｂは、背面側（背面ベース９４１側）に膨出して形成されると共に、背面視における内側部分に横長矩形の連結孔９６６ｂ１が形成される。連結孔９６６ｂ１は、駆動ユニット９６０の伝達部材が挿入される開口であり、内縁の形状が、伝達部材の先端の外形よりも大きく設定される。

【１５１４】

駆動ユニット９６０の伝達部材を介して変位部材９６６が下側位置に配置されることに対応して、羽部材９４５は閉鎖状態とされる。一方で、駆動ユニット９６０の伝達部材を介して変位部材９６６が上側位置に配置されることに対応して、羽部材９４５は開放状態とされる。

【１５１５】

次いで、図１２６及び図１２７を参照して、振分けユニット９８０について説明する。図１２６（ａ）は、振分けユニット９８０の正面図であり、図１２６（ｂ）は、振分けユニット９８０の背面図であり、図１２７（ａ）は、図１２６（ａ）のＣＸＸＶＩＩａ－ＣＸＸＶＩＩａ線における振分けユニット９８０の断面図であり、図１２７（ｂ）は、図１２７（ａ）のＣＸＸＶＩＩｂ－ＣＸＸＶＩＩｂ線における振分けユニット９８０の断面図である。

【１５１６】

振分けユニット９８０は、背面ベース９８５と、その背面ベース９８５の遊技者側に配設される正面ベース９８１と、その正面ベース９８１と背面ベースとの間に回転可能な状態で配設される振分け部９８３と、を主に備えて形成される。なお、振分け部９８３は、第４１実施形態におけるシーソー部材７６２に対応する部材である。

【１５１７】

背面ベース９８５は、有色半透明（本実施形態では、青色）の樹脂材料から形成され、板状体に形成されるベース部９８５ａと、そのベース部９８５ａの厚み方向に貫通する複数の開口（開口９８５ｂ～９８５ｇ）と、その複数の開口の上側に凹設される凹部９８５

ｈと、その凹部９８５ｈの反対面から突出する収容部９８６ｂとを主に備えて形成される。

【１５１８】

ベース部９８５ａは、正面視縦長矩形に形成され、その外縁部に円形状に貫通する複数の締結孔９８６ｃ及び９８６ｄと、を備えて形成される。締結孔９８６ｃは、後述する正面ベース９８１を挿通したネジを螺合する孔である。これにより、正面ベース９８１及び背面ベース９８５を締結固定することができる。また、締結孔９８６ｄは、後述する通路ユニット９９０を挿通するネジを螺合する孔である。これにより、背面ベース９８５（振分けユニット９８０）及び通路ユニット９９０を締結固定することができる。

【１５１９】

凹部９８５ｈは、ベース部９８５ａの短手方向（左右方向）略中央位置において正面ベース９８１側から背面側に向かって凹設される。また、凹部９８５ｈは、内側に後述する振分け部９８３の一部を収容可能な大きさに形成されると共に、底面に円環状に突出する軸受部９８５ｊを備える。軸受部９８５ｊは、振分け部９８３を軸支する軸部材９８８ａの一端が挿入される孔であり、軸部材９８８ａの外径よりも大きい内径に形成される。

【１５２０】

開口９８５ｂ及び開口９８５ｃは、それぞれベース部９８５ａの短手方向両端部に形成されるとともに、内縁の寸法が遊技球の直径よりも大きく設定される。また、開口９８５ｂ及び開口９８５ｃは、下側内面が正面ベース９８１側と反対側に向かうにつれて下降傾斜して形成される。これにより、正面ベース９８１側から流入する遊技球を正面ベース９８１の反対側（背面側）に転動させることができる。

【１５２１】

開口９８５ｅは、左右中央位置よりも開口９８５ｂ側に形成され、開口９８５ｆは、左右中央位置よりも開口９８５ｃ側に形成される。以下において、開口９８５ｅ，９８５ｆでは同様の構成が採用されるので、第２通路ＴＲ２を流下した球を受け入れ可能な開口９８５ｆのについて詳細な説明を行い、第１通路ＴＲ１を流下した球を受け入れ可能な開口９８５ｅの説明は省略する。

【１５２２】

開口９８５ｆは、正面ベース９８１側に開口する空間の流入通路９８５ｆ１と、正面ベース９８１側と反対側に開口する空間の排出通路９８５ｆ３と、重力方向に延設され流入通路９８５ｆ１及び排出通路９８５ｆ３を連結する中間通路９８５ｆ２と、その中間通路９８５ｆ２において遊技球の送球方向（重力方向）と略直交する方向に凹設される凹設部９８５ｆ４と、を主に備えて形成される（図１２６（ｂ）及び図１２７（ａ）参照）。

【１５２３】

流入通路９８５ｆ１は、後述する正面ベース９８１と背面ベース９８５との対向間に形成される第２通路ＴＲ２に連結されると共に、遊技球が通過可能な大きさに形成される。これにより、第２通路ＴＲ２を流下する遊技球を流入通路９８５ｆ１に流入させることができる。

【１５２４】

中間通路９８５ｆ２は、重力方向に延設して形成され、上側が流入通路９８５ｆ１に連通されると共に、遊技球が通過可能な大きさに形成される。これにより、流入通路９８５ｆ１を通過する遊技球を中間通路９８５ｆ２に流入させることができる。

【１５２５】

凹設部９８５ｆ４は、その内側に後述する検出装置ＳＥ３を配設するための切り欠きであり、背面視において検出装置ＳＥ３の外形と略同一に設定される。これにより、検出装置ＳＥ３をベース部９８５ａの背面側（正面ベース９８１と反対側）から挿入して配設することができる。

【１５２６】

検出装置ＳＥ３は、遊技球の通過を検知する装置であり、その厚み方向に遊技球よりも若干大きい内径の検出孔ＳＥ１ａが貫通形成される。検出孔ＳＥ１ａは、検出装置ＳＥ３

の長手方向の一方に偏って形成されており、検出孔ＳＥ１ａが形成されていない長手方向の他方に検出装置ＳＥ１を制御する検出基板ＳＥ１ｂが配設される。

【１５２７】

また、検出装置ＳＥ３は、検出孔ＳＥ１ａの軸方向が中間通路９８５ｆ２の延設方向に平行に設定されると共に、検出孔ＳＥ１ａの内部空間と中間通路９８５ｆ２の空間とが略一致する位置に配置される。これにより、遊技球が中間通路９８５ｆ２の上側から流下する場合に、検出装置ＳＥ３の検出孔ＳＥ１ａを通過させることができる。これにより、第２通路ＴＲ２を通過する遊技球を検出することができる。

【１５２８】

また、検出装置ＳＥ３は、検出孔ＳＥ１ａの軸方向が重力方向と平行に形成されるので、遊技球を検出孔ＳＥ１ａに送球する際に、遊技球の自重を利用しやすくできる。その結果、遊技球が中間通路９８５ｆ２及び検出孔ＳＥ１ａとの連結部分に引っ掛ることを抑制できる。

【１５２９】

凹設部９８５ｆ４は、流入通路９８５ｆ１及び排出通路９８５ｆ３の空間と連なって形成される。即ち、中間通路９８５ｆ２は、検出装置ＳＥ３を利用して形成される。これにより、中間通路９８５ｆ２の重力方向の長さ寸法が大きくなることを抑制できる。その結果、背面ベース９８５が重力方向に大型化することを抑制できる。

【１５３０】

排出通路９８５ｆ３は、中間通路９８５ｆ２の下側に連結されると共に、遊技球が通過可能な大きさに形成される。また、排出通路９８５ｆ３は、振分けユニット９８０及び通路ユニット９９０が組み合わされた状態において、通路ユニット９９０の挿通孔に連結される。これにより、中間通路９８５ｆ２を通過する遊技球を、排出通路９８５ｆ３に流入させることができると共に、その空間を通過させて通路ユニット９９０に送球できる。

【１５３１】

開口９８５ｇは、左右中央位置における背面ベース９８５の下端部に形成される。また、開口９８５ｇは、下側の内面が正面ベース９８１側と反対側に向かって下降傾斜して形成される。これにより、正面ベース９８１側から流入する遊技球を正面ベース９８１と反対側に転動させることができる。

【１５３２】

流入通路９８５ｆ１は、後述する正面ベース９８１と背面ベース９８５との対向間に形成される第２通路ＴＲ２に連結されると共に、遊技球が通過可能な大きさに形成される。これにより、第２通路ＴＲ２を流下する遊技球を流入通路９８５ｆ１に流入させることができる。

【１５３３】

収容部９８６ｂは、一対の半円環体から形成される。また、収容部９８６ｂは、後述する磁性体９８８ｂを内側に収容する部分であり、その内径が、円柱体に形成される磁性体９８８ｂの外径と略同一に設定される。また、収容部９８６ｂの突設寸法は、磁性体９８８ｂの軸方向寸法よりも大きく設定される。これにより、収容部９８６ｂの内側に磁性体９８８ｂを収容できる。また、収容部９８６ｂは、一対の半円環体から形成されるので、磁性体９８８ｂの外径が製造の誤差により微小に大きく形成された場合でも、一対の半円環体を弾性変形させて磁性体９８８ｂを配設できる。

【１５３４】

磁性体９８８ｂは、磁石から形成されており、収容部９８６ｂに配設されることで、ベース部９８５ａを介して正面ベース９８１側に磁界を発生させることができる。これにより、後述する振分け部９８３に配設される磁性体９８８ｃを反発させて振分け部９８３を変位させやすくできる。

【１５３５】

背面ベース９８５は、後述する第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２に検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を配置するための切り欠きである開口部９８５ｋが、背面視において検出装置ＳＥ

４，ＳＥ５の外形と略同一の形状で形成される。これにより、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５をベース部９８５ａの背面側（正面ベース９８１と反対側）から挿入して配設することができる。なお、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５の構造は検出装置ＳＥ３の構造として上述したものと同様なので、説明は省略する。

【１５３６】

また、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５は、検出孔ＳＥ１ａの軸方向が第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２の延設方向に平行に設定されると共に、検出孔ＳＥ１ａの内部空間と第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の空間とが略一致する位置に配置される。

【１５３７】

これにより、遊技球が第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の上側から流下する場合に、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５の検出孔ＳＥ１ａを通過させることができる。これにより、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を通過する遊技球を検出することができる。

【１５３８】

また、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５は、検出孔ＳＥ１ａの軸方向が重力方向と平行に形成されるので、遊技球を検出孔ＳＥ１ａに送球する際に、遊技球の自重を利用しやすくできる。その結果、遊技球が第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２と検出孔ＳＥ１ａとの連結部分に引っ掛ることを抑制できる。

【１５３９】

検出装置ＳＥ４，ＳＥ５は、検出孔ＳＥ１ａに球が通過したと検出された場合に普通図柄（第２図柄）の抽選が行われる装置として構成される。

【１５４０】

開口部９８５ｋは、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の空間と連なって形成される。即ち、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２は、検出装置ＳＥ３を利用して形成される。これにより、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の重力方向の長さ寸法が大きくなることを抑制できる。その結果、背面ベース９８５が重力方向に大型化することを抑制できる。

【１５４１】

正面ベース９８１は、有色半透明（本実施形態では、青色）の樹脂材料から形成される。また、正面ベース９８１は、正面視において背面ベース９８５よりも大きい略矩形状に形成されると共に、ベース板９８１ａとそのベース板９８１ａから遊技者側（背面ベース９８５の反対側）に膨出する膨出部９８２と、を主に備えて形成される。

【１５４２】

ベース板９８１ａは、正面視略矩形状の板部材に形成され、その外周縁部に板厚方向に貫通する複数の挿通孔９８１ｇと、背面ベース９８５側に向けて突設される第１ガイド壁９８１ｆと、膨出部９８２の重力方向一側（重力方向下側）に板厚方向に貫通する貫通孔９８１ｃとを主に備えて形成される。

【１５４３】

挿通孔９８１ｇは、組み立て状態の送球ユニット９７０をベース板６０（図１２２参照）に締結するネジ（図示しない）を挿通する孔であり、ネジの先端部分の外径よりも大きい内径に設定される。

【１５４４】

第１ガイド壁９８１ｆは、半円の円環形状に形成されると共に、後述する膨出部９８２を間に挟む状態で短手方向に一対形成される。また、第１ガイド壁９８１ｆは、半円の開放部分をベース板９８１ａの短手方向略中央側に向けて形成される。

【１５４５】

貫通孔９８１ｃは、一辺が遊技球の直径よりも大きい正方形に貫通形成される。また、貫通孔９８１ｃは、その縁部に沿って正面側に立設される側壁部９８１ｂを備えて形成される。

【１５４６】

また、貫通孔９８１ｃは、上述した入賞口ユニット９３０の第２入賞口６４０に連通する部分であり、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０がベース板６０に装着され

た状態において、第２入賞口６４０に流入した遊技球の転動方向と重なる位置に形成される。

【１５４７】

側壁部９８１ｂは、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０がベース板６０に装着された状態において、立設先端面が入賞口ユニット９３０の第２送球部９４２ｃ（図１２５参照）と当接する寸法に形成される。また、側壁部９８１ｂは、下側の内面の転動面９８１ｃ１が、転動部９４３ａの端面９４３ａ１（図１２５参照）よりも下側に位置されると共に、背面ベース９８５側に向かって下降傾斜して形成される。

【１５４８】

膨出部９８２は、ベース板９８１ａから膨出するドーム状に形成されると共に、その内側に遊技球を挿通可能な大きさに設定され、その内側に流入口９８２ｄから流入される遊技球が通過する送球通路ＴＲ０と、その送球通路ＴＲ０から分岐する第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２とを備えて形成される。

【１５４９】

膨出部９８２は、正面視縦長矩形に形成されると共に、上端部を切り欠いて形成される流入口９８２ｄと、正面視略左右中央位置において背面ベース９８５側に向かって延びる壁状に形成される立設壁９８２ａと、重力方向下の複数箇所において遊技球を背面側へ送球可能な湾曲面として形成される凹部９８２ｅ～９８２ｊとを主に備えて形成される。

【１５５０】

また、膨出部９８２は、立設壁９８２ａの下側において前後方向で穿設される送球開口９８２ｋと、その送球開口９８２ｋの左右両側において前後方向に縦長矩形状で穿設される挿通開口９８２ｌと、その挿通開口９８２ｌの上端部から左右外側に延設される形状で穿設される回転許容開口９８２ｍと、を備える。

【１５５１】

流入口９８２ｄは、正面視略Ｕ字状に切り欠き形成される。また、流入口９８２ｄは、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０がベース板６０に装着された状態において、内縁部分が、入賞口ユニット９３０の第１入賞口６４に流入した遊技球の転動方向と重なる位置に形成される。

【１５５２】

また、流入口９８２ｄは、上側縁部に背面ベース９８５側と反対側に突出する第２突起９８２ｄ１を備える。第２突起９８２ｄ１は、上述した入賞口ユニット９３０の第１凹欠部９４２ｇ１（図１２５参照）の内縁形状に形成されており、入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０がベース板６０に配設された場合に、第１凹欠部９４２ｇ１の内縁に第２突起９８２ｄ１が当接される。

【１５５３】

また、第２突起９８２ｄ１から流入口９８２ｄの下側端面までの距離寸法Ｌ１４（図１２６（ａ）参照）は、第１凹欠部９４２ｇ１の内縁から第１送球部９４２ｇの下側内縁までの距離寸法Ｌ１５（図１２３（ｂ）参照）までの距離寸法よりも大きく設定される。これにより、第１入賞口６４を介して第１送球部９４２ｇに送球された遊技球が、流入口９８２ｄに流入する際に、流入口９８２ｄ（膨出部９８２）と第１送球部９４２ｇとの間に挟まりにくくできる。

【１５５４】

立設壁９８２ａは、正面視において膨出部９８２の外縁形状と所定の間隔を隔てる矩形状に形成される。また、立設壁９８２ａは、流入口９８２ｄの下側に形成されると共に、上側に立設方向視三角形状に形成される当接部９８２ａ１を備えて形成される。

【１５５５】

立設壁９８２ａは、膨出部９８２の外周部分の内縁との水平方向間隔が遊技球の直径よりも大きく設定されており、その対向間に遊技球が通過可能な空間の第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２が形成される。

【１５５６】

第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２は、後述する振分け部９８３の下流側に形成されており、振分け部９８３を通過する遊技球がどちらかに送球される。振分け部９８３は、流入口９８２ｄに流入する遊技球を、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２に交互に送球可能に設定される。これにより、第１入賞口６４に流入する遊技球の送球が単調になることを抑制できる。その結果、遊技者の興趣が損なわれることを抑制できる。

【１５５７】

立設壁９８２ａの上側には、膨出部９８２の内側面から背面ベース９８５側に円環状に突出する軸受部９８２ｃが形成される。軸受部９８２ｃは、後述する振分け部９８３を軸支する軸部材９８８ａの他端側を支持する部分であり、内径が軸部材９８８ａの外径と略同一に設定される。よって、軸部材９８８ａを軸受部９８２ｃに挿入することで、軸部材９８８ａの他端側を支持できる。

【１５５８】

また、上述したように、軸部材９８８ａの一端側は、背面ベース９８５の軸受部９８５ｊに挿入されるので、正面ベース９８１及び背面ベース９８５を組み合わせる際に、軸部材９８８ａの一端を軸受部９８５ｊに挿入すると共に、軸部材９８８ａの他端側を軸受部９８２ｃに挿入することで、軸部材９８８ａを正面ベース９８１及び背面ベース９８５の間に支持できる。

【１５５９】

当接部９８２ａ１は、後述する振分け部９８３の回転軌跡上に形成されており、振分け部９８３の作用部９８３ａが当接することで、振分け部９８３の回転変位量が規制される。

【１５６０】

凹部９８２ｅ及び凹部９８２ｆは、膨出部９８２の下側の内側面から第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２の延設方向と略直交する方向に凹設される。また、凹部９８２ｅ及び凹部９８２ｆの内側には、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２と連通する空間の第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２が形成される。

【１５６１】

第１分岐通路ＢＫ１は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において背面ベース９８５の開口９８５ｂと連通される。従って、第１分岐通路ＢＫ１は、第１通路ＴＲ１を流下する遊技球を受け入れ可能に形成されると共に、その受け入れた遊技球を背面ベース９８５の開口９８５ｂに流入可能とされる。

【１５６２】

第２分岐通路ＢＫ２は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において背面ベース９８５の開口９８５ｃと連通される。従って、第２分岐通路ＢＫ２は、第２通路ＴＲ２を流下する遊技球を受け入れ可能に形成されると共に、その受け入れた遊技球を背面ベース９８５の開口９８５ｃに流入可能とされる。

【１５６３】

第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内された球は、図示しない球排出路へと案内される。即ち、第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内された球は、第１アウト口７１に流入した球と同様、いかなる利益を遊技者に与えることなく排出される。

【１５６４】

なお、第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内された球により遊技者に与えられる利益については、種々の変更が可能である。例えば、予め設定された個数の賞球が払い出される利益として設計しても良いし、普通図柄の抽選や大当たり抽選を行うための検出装置に球が検出されることで得られる利益として設計しても良い。

【１５６５】

凹部９８２ｈ及び凹部９８２ｊは、膨出部９８２の下側の内側面から第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２の延設方向に凹設される。即ち、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２は、凹部９８２ｈ及び凹部９８２ｊの分、下側に延設される。

【１５６６】
第１通路ＴＲ１は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において背面ベース９８５の開口９８５ｅと連通される。従って、第１通路ＴＲ１は、流入口９８２ｄに流入した遊技球が流入されると共に、その流入された遊技球を背面ベース９８５の開口９８５ｅに流入可能とされる。
【１５６７】
第２通路ＴＲ２は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において背面ベース９８５の開口９８５ｆと連通される。従って、第２通路ＴＲ２は、流入口９８２ｄに流入した遊技球が流入されると共に、その流入された遊技球を背面ベース９８５の開口９８５ｆに流入可能とされる。
【１５６８】
送球開口９８２ｋは、凹部９８２ｈ及び凹部９８２ｊの間に形成される。また、送球開口９８２ｋの内側には、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２と連通する空間の第３分岐通路ＢＫ３が形成される。よって、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２に連通する第３分岐通路ＢＫ３が、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２の間に形成されるので、振分けユニット９８０の小型化を図ることができる。
【１５６９】
第３分岐通路ＢＫ３の下側に形成される転動面９８２ｇは、正面側に向けて下降傾斜する傾斜面として形成される。これにより、第３分岐通路ＢＫ３は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５が組み合わされた状態において、正面ベース９８１の背面側を流下した遊技球が正面ベース９８１の正面側に通過可能となる通路となる。
【１５７０】
本実施形態では、第３分岐通路ＢＫ３は、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下する遊技球を受け入れ可能に形成されており、その受け入れた遊技球は、送球開口９８２ｋ及び送球孔９４１ｋ（図１２３（ａ）参照）を通して正面側へ流れ、第２入賞口６４０に入球可能となるように構成されている。
【１５７１】
膨出部９８２の傾斜部９８２ｂは、膨出部９８２の下側に形成されると共に、下側に向かって背面ベース９８５側に傾斜して延設される。また、傾斜部９８２ｂは、正面ベース９８１及び背面ベース９８５を組み合わせた状態において、膨出部９８２の左右幅方向に亘って形成される。
【１５７２】
これにより、第１通路ＴＲ１、第２通路ＴＲ２、第１分岐通路ＢＫ１及び第２分岐通路ＢＫ２を流下する遊技球を傾斜部９８２ｂに当接させることで、流下する遊技球を開口９８５ｂ～９８５ｆ側（背面側）に案内して開口９８５ｂ～９８５ｆに流入させ易くできる。
【１５７３】
一方、第３分岐通路ＢＫ３を流下する遊技球を転動面９８２ｇに当接させることで、流下する遊技球を送球開口９８２ｋ側（正面側）に案内して、送球開口９８２ｋに流入させ易くすることができる。
【１５７４】
転動面９８２ｇは、正面視で左右対称形状ではなく、左側部の方が右側部よりも下側に形成されることで左右非対称形状とされる。これにより、第３分岐通路ＢＫ３に左右から同時に球が到達した場合に第３分岐通路ＢＫ３において球が左右に並ぶことを避け易くすることができ、球の並ぶ方向（直列方向）が上下方向成分を有するようにすることができる。これにより、第３分岐通路ＢＫ３で球詰まりが生じることを避け易くすることができ、球詰まりと関連して羽部材９４５が動作不能となる事態を避けることができる。
【１５７５】
挿通開口９８２ｌは、ベース部材６０に入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０を組み付ける際に、羽部材９４５の延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅを膨出部９８２の

背面側へ挿通させるための開口である。
【１５７６】
即ち、入賞口ユニット９３０の組立状態において背面ベース９４１の第３貫通孔９４１ｉに挿通され背面側に張り出した延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅ（図１２３（ｂ）参照）は、送球ユニット９７０の挿通開口９８２ｌにも挿通され、延設部９４５ｄが挿通開口９８２ｌを貫いている状態で、膨出部９８２の背面側に板状部９４５ｅが配置される。
【１５７７】
回転許容開口９８２ｍは、膨出部９８２を貫いている延設部９４５ｄの変位が規制されることを避けるために必要となる範囲に貫通形成される開口である。回転許容開口９８２ｍが最小限の大きさ（遊技球の直径よりも小さな幅）で形成されることにより、回転許容開口９８２ｍを通して遊技球が正面側に送球されることを避けることができる。次いで、図１２８を参照して羽部材９４５の開閉動作に伴う板状部９４５ｅの変位について説明する。
【１５７８】
図１２８（ａ）及び図１２８（ｂ）は、図１２７（ａ）のＣＸＸＶＩＩｂ－ＣＸＸＶＩＩｂ線における振分けユニット９８０の断面図である。図１２８（ａ）では、閉鎖状態における羽部材９４５（板状部９４５ｅ）が図示され、図１２８（ｂ）では、開放状態における羽部材９４５（板状部９４５ｅ）が図示される。
【１５７９】
図１２８（ａ）に示すように、羽部材９４５の閉鎖状態では、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２から退避されており、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下する球は開口９８５ｅ，９８５ｆに流される。そのため、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下した球が第３分岐通路ＢＫ３側に案内されることの防止を図ることができる。
【１５８０】
図１２８（ｂ）に示すように、羽部材９４５の開放状態では、第１通路ＴＲ１及び第２通路ＴＲ２に板状部９４５ｅが進入しており、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下する球は第３分岐通路ＢＫ３側に流される。そのため、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下した球が開口９８５ｅ，９８５ｆに案内されることの防止を図ることができる。
【１５８１】
即ち、羽部材９４５は、開放状態と閉鎖状態とで切り替えられることで、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を流下する球が案内される側を切り替え可能に構成される。換言すれば、羽部材９４５は、羽状本体９４５ｍ（図１２４参照）が配置される背面ベース９４１と正面ベース９４３との間の領域を流下する球の案内方向を切り替えるように作用するのみならず、板状部９４５ｅが配置される振分ユニット９８０の内部領域を流下する球の案内方向を切り替えるように作用する。
【１５８２】
球が上流分岐位置ＢＫ０に到達した直後に羽部材９４５が開閉動作する場合について説明する。上流分岐位置ＢＫ０は、流下する球が羽部材９４５の作用を受ける位置の直前の位置として設定される。羽部材９４５の開放状態において球が上流分岐位置ＢＫ０に到達した直後に、羽部材９４５が閉鎖状態へ向けて開閉動作すると、球は板状部９４５ｅにより第３分岐通路ＢＫ３側に押し込まれる。
【１５８３】
一方で、羽部材９４５の閉鎖状態において球が上流分岐位置ＢＫ０に到達した直後に、羽部材９４５が開放状態へ向けて開閉動作すると、球は開口９８５ｅ，９８５ｆに案内されるか、第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内される。
【１５８４】
このように、羽部材９４５の動作方向側が閉塞されることなく、動作方向側に球を案内可能な程度の空間が形成されるので、羽部材９４５と膨出部９８２との間で球が挟まることで球詰まりが生じる事態の発生を回避し易くすることができる。
【１５８５】

開口９８５ｅ，９８５ｆに案内された場合には、球は検出装置ＳＥ３に検出されることで特別図柄１の抽選を獲得可能であり、賞球の払い出しの利益を受けることができるが、第１分岐通路ＢＫ１又は第２分岐通路ＢＫ２に案内された場合には、特別図柄１の抽選も、賞球の払い出しの利益も、得ることはできない。

【１５８６】

従って、羽部材９４５が閉鎖状態の時に上流分岐位置ＢＫ０に球が到達した場合には、その直後に羽部材９４５が開閉動作することにより遊技者が不利益を受ける可能性がある。そのため、上流分岐位置ＢＫ０及び羽部材９４５に対する注目力を向上することができる。

【１５８７】

図１２８（ｂ）に示すように、羽部材９４５及び羽状部９４５ｅは左右対称形状で構成されるので、第１通路ＴＲ１で流下した球と、第２通路ＴＲ２で流下した球とで、羽部材９４５による拾い易さに差は生じないようにすることができる。なお、左右から同時に球が案内された場合における球詰まりの防止は、第３分岐通路ＢＫ３の転動面としての転動面９８２ｇの形状を上述したように左右非対称とすることにより図っている。

【１５８８】

図１２６及び図１２７に戻って説明する。振分け部９８３は、正面ベース９８１及び背面ベース９８５の対向間の寸法よりも若干小さい厚みに設定されると共に、正面視略Ｔ字状に形成される。また、振分け部９８３は、Ｔ字状の一辺側の作用部９８３ａと、その作用部９８３ａの延設方向略中央位置から突出する中間板９８３ｂと、作用部９８３ａ及び中間板９８３ｂの連結部分に貫通される貫通孔９８３ｃと、その貫通孔９８３ｃの軸を中心に円形状に膨出する当接部９８３ｄと、作用部９８３ａ及び中間板９８３ｂの背面ベース９８５側に連結して形成される壁部９８３ｅとを主に備えて形成される。

【１５８９】

貫通孔９８３ｃは、正面ベース９８１及び背面ベース９８５の対向間に支持される軸部材９８８ａが挿入される孔であり、軸部材９８８ａの外径よりも若干大きく形成される。これにより、正面ベース９８１及び背面ベース９８５を組み上げる場合に、軸部材９８８ａを振分け部９８３の貫通孔９８３ｃに挿入した状態とすることで、振分け部９８３が回転可能な状態で正面ベース９８１及び背面ベース９８５の対向間に配設される。

【１５９０】

中間板９８３ｂは、貫通孔９８３ｃの径方向外側に向かって延設して形成されると共に、振分け部９８３の変位が一方または他方に回転して規制された状態において、その先端から中間板９８３ｂの内側までの離間距離Ｌ１７（図１２７（ｂ）参照）が遊技球の直径よりも小さい寸法とされる。これにより、遊技球の送球が第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２の一方または他方のどちらかに規制される。

【１５９１】

また、中間板９８３ｂは、振分け部９８３が貫通孔９８３ｃを中心に回転されることで、第１通路ＴＲ１の一方に遊技球の送球を規制した状態から第２通路ＴＲ２の他方に遊技球の送球を規制した状態に切り換えられる。

【１５９２】

作用部９８３ａは、正面視において中間板９８３ｂの延設方向と略直交する方向に延設して形成される。また、作用部９８３ａは、当接部９８３ｄとの連結位置が、中間板９８３ｂの当接部９８３ｄとの連結位置よりも下側に設定される。これにより、流入口９８２ｄを介して振分け部９８３に送球される遊技球は、作用部９８３ａ側に荷重をかけた状態とされる。その結果、振分け部９８３は、貫通孔９８３ｃを中心に回転変位される。

【１５９３】

壁部９８３ｅは、作用部９８３ａ及び中間板９８３ｂに連結されると共に、貫通孔９８３ｃの軸方向視において略半円状の板状に形成される。壁部９８３ｅは、貫通孔９８３ｃの軸と直交する方向において作用部９８３ａ及び中間板９８３ｂよりも外側に突出して形成されると共に、厚み寸法が上述した背面ベース９８５の凹部９８５ｈの凹設寸法よりも

小さく設定される。
【１５９４】
よって、背面ベース９８５及び正面ベース９８１の対向間に振分け部９８３を配設した状態において、凹部９８５ｈの内部に壁部９８３ｅを配置できる。これにより、流入口９８２ｄから振分けユニット９８０の内部に送球される遊技球が、凹部９８５ｈの内部に引っ掛ることで、その遊技球の流下が阻害されることを抑制できる。
【１５９５】
また、壁部９８３ｅは、中間板９８３ｂの背面側であって、貫通孔９８３ｃから径方向外側端部に、中間板９８３ｂ側に向かって凹設される収容部９８３ｅ１を備える。収容部９８３ｅ１は、円柱状体に形成される磁性体９８８ｃを内側に収容する部分であり、磁性体９８８ｃの外径と略同一の内径の円形に凹設される。また、収容部９８３ｅ１は、背面ベース９８５側から正面ベース９８１側に向かって凹設されており、磁性体９８８ｃが背面ベース９８５側から内部に収容される。
【１５９６】
磁性体９８８ｃは、磁石から形成されており、背面ベース９８５に配設される磁性体９８８ｂと反発する状態で配設される。これにより、振分け部９８３は、磁性体９８８ｃが背面ベース９８５に配設される磁性体９８８ｂから磁力が作用されて、貫通孔９８３ｃを軸に回転して作用部９８３ａの延設方向を一方または他方に傾いた状態にできる。
【１５９７】
また、磁性体９８８ｃと磁性体９８８ｂとが反発される状態に配設されると共に、収容部９８３ｅ１が正面側に向かって凹設されるので、収容部９８３ｅ１に挿入する磁性体９８８ｃが収容部９８３ｅ１から抜け出ることを抑制できる。即ち、収容部９８３ｅ１に挿入される磁性体９８８ｃを係止する部分を必要としないので、振分け部９８３の構造を簡易にできると共に、振分け部９８３への磁性体９８８ｃの配設を簡易にできる。
【１５９８】
なお、磁性体９８８ｂ及び磁性体９８８ｃの磁力は、遊技球の荷重よりも小さい磁着力に設定される。これにより、振分けユニット９８０の内側を送球される遊技球が磁性体９８８ｂ及び磁性体９８８ｃに磁着して、振分けユニット９８０の内側に停滞することを抑制できる。
【１５９９】
次いで、駆動ユニット９６０の駆動による羽部材９４５の作動パターンについて説明する。まず、図１２８を参照して、第１入賞口６４に入球した球の流下に要する時間の関係について説明する。
【１６００】
第１入賞口６４に入球した球は、送球通路ＴＲ０に到達した後、振分け部９８３を傾倒動作させて左右片側に流下される。この傾倒動作は、図１１５（ａ）及び図１１５（ｂ）においてシーソー部材７６２の動作として説明した内容と重複するので説明は省略するが、本実施形態では、その傾倒動作に要する時間を十分長く確保する目的で、磁性体９８８ｂ，９８８ｃの磁力が大きくなるように設計している。即ち、本実施形態では、振分け部９８３の傾倒動作（図１１５（ａ）に示す状態から図１１５（ｂ）に示す状態までの動作）に少なくとも０．８秒かかるように設計されている。
【１６０１】
振分け部９６３の傾倒動作後、球が送球通路ＴＲ０から第１通路ＴＲ１側に流れた場合、その球が検出装置ＳＥ４に検出されるまでに０．４秒間要するように通路が設計される。また、振分け部９６３の傾倒動作後、球が送球通路ＴＲ０から第２通路ＴＲ２側に流れた場合、その球が検出装置ＳＥ５に検出されるまでに０．２秒間要するように通路が設計される。即ち、検出センサＳＥ４と検出センサＳＥ５との上下方向の距離は、球の流下速度で０．２秒間を要する距離として設定される。
【１６０２】
流下する球が羽部材９４５の作用を受ける直前の位置として、上流分岐位置ＢＫ０が左

右一対で設定される。送球通路ＴＲ０から第１通路ＴＲ１側又は第２通路ＴＲ２側に球が流れてから、上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに０．６秒間を要するように設計される。

【１６０３】

即ち、検出装置ＳＥ４に球が検出されてから、その球が上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに０．２秒間を要する。また、検出装置ＳＥ５に球が検出されてから、その球が上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに０．４秒間を要する。

【１６０４】

上流分岐位置ＢＫ０に球が到達したタイミングで羽部材９４５が閉鎖状態であれば、球は開口９８５ｂ，９８５ｃ又は開口９８５ｅ，９８５ｆを通過する一方で、上流分岐位置ＢＫ０に球が到達したタイミングで羽部材９４５が開放状態であれば、球は第３分岐通路ＢＫ３側に案内され、送球開口９８２ｋ（図１２６（ａ）参照）を通過する。

【１６０５】

上述のような流路構成によれば、駆動ユニット９６０の駆動による羽部材９４５の作動パターンを、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出されてから０．６秒よりも短い時間で終了する作動パターンで設計するようにすれば、第１入賞口６４に間隔をあけずに複数の球が入球した場合であっても、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出したら即座に普通図柄の変動を開始することができる。

【１６０６】

例えば、第１入賞口６４に複数の球が間隔をあけずに入球した場合において、先の球が第１通路ＴＲ１側に流れて検出装置ＳＥ４で検出された場合、次の球が第２通路ＴＲ２側に流れるまでには０．８秒の空きがあり、検出装置ＳＥ５の方が０．２秒分だけ検出装置ＳＥ４よりも上側にあるとしても０．６秒の空きが確保される。即ち、先の球が検出装置ＳＥ４で検出されてから、次の球が検出装置ＳＥ５で検出されるまでに０．６秒を要する。

【１６０７】

例えば、第１入賞口６４に複数の球が間隔をあけずに入球した場合において、先の球が第２通路ＴＲ２側に流れて検出装置ＳＥ５で検出された場合、次の球が第１通路ＴＲ１側に流れるまでには０．８秒の空きがあり、検出装置ＳＥ４の方が０．２秒分だけ検出装置ＳＥ５よりも下側にあるので１．０秒の空きが確保される。即ち、先の球が検出装置ＳＥ５で検出されてから、次の球が検出装置ＳＥ４で検出されるまでに１．０秒を要する。

【１６０８】

このように、第１入賞口６４に複数の球が間隔をあけずに入球した場合において、先の球が左右どちらに流れた場合であっても、球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される間隔は０．６秒以上となる。

【１６０９】

この前提のもと、本実施形態で説明する第１１の作動パターン～第１４の作動パターンは、それぞれ球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で検出されてから０．５秒で完了する（普通図柄の変動表示の終了までに０．５秒を要する）ように設計されているので、第１入賞口６４に間隔をあけずに複数の球が入球した場合であっても、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出したら即座に普通図柄の変動を開始することができる。そのため、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５での球の検出から羽部材９４５の動作が実行されるまでに時間遅れが生じることを防止することができる。

【１６１０】

図１２９（ａ）から図１２９（ｄ）は、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５における球の通過の検出と、羽部材９４５の状態の計時変化の一例を示した図である。なお、図１２９（ａ）では、第１１の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１２９（ｂ）では、第１２の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１２９（ｃ）では、第１３の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１２９（ｄ）では、第１４の作動パターンにおける計時変化が図示される。

【１６１１】
図１２９（ａ）から図１２９（ｄ）では、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されたことによる第２図柄の変動表示（０．１秒）の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置８３（図１０９参照）に表示された場合における羽部材９４５の状態の計時変化について説明する。
【１６１２】
図１２９（ａ）に示すように、第１１の作動パターンでは、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されてから普通図柄が停止表示された後（０．１秒後）に羽部材９４５が開放状態（図において、「開」とも示す。以降の図において同様である）とされ、その開放状態が０．４秒間維持される。
【１６１３】
これにより、第１入賞口６４に入球した球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される場合に、検出装置ＳＥ４に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．２秒後においても、検出装置ＳＥ５に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．４秒後においても、羽部材９４５が開放状態で維持される。
【１６１４】
これにより、第１入賞口６４に入球した球が第１通路ＴＲ１で流下するか第２通路ＴＲ２で流下するかに関わらず、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することができ、第２入賞口６４０に入球させ易くすることができる。即ち、第１入賞口６４への入球に基づいて獲得される抽選は、特別図柄１の抽選よりも特別図柄２の抽選の方が多くなる。
【１６１５】
図１２９（ｂ）に示すように、第１２の作動パターンでは、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されてから普通図柄が停止表示された後（０．１秒後）に羽部材９４５が開放状態（図において、「開」とも示す。以降の図において同様である）とされ、その開放状態が０．２秒間維持される。その後の０．２秒間は、閉鎖状態（図において、「閉」とも示す。以降の図において同様である）とされる。
【１６１６】
これにより、第１入賞口６４に入球した球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される場合に、検出装置ＳＥ４に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．２秒後においては羽部材９４５が開放状態で維持されるが、検出装置ＳＥ５に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．４秒後においては羽部材９４５が閉鎖状態とされる。
【１６１７】
これにより、第１入賞口６４に入球した球が第１通路ＴＲ１で流下する場合には、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することができ、第２入賞口６４０に入球させ易くすることができるが、球が第２通路ＴＲ２で流下する場合には、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することはできず、第２入賞口６４０に入球させることはできないので、その球は検出装置ＳＥ３（図１２７（ａ）参照）に検出される。
【１６１８】
即ち、第１入賞口６４への入球に基づいて獲得される抽選は、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に生じる。球が第１通路ＴＲ１で流下する場合が特別図柄２の抽選に対応する。
【１６１９】
図１２９（ｃ）に示すように、第１３の作動パターンでは、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されてから普通図柄が停止表示された後（０．１秒後）、０．２秒後に羽部材９４５が開放状態（図において、「開」とも示す。以降の図において同様である）とされ、その開放状態が０．２秒間維持される。その後、閉鎖状態（図において、「閉」とも示す。以降の図において同様である）とされる。
【１６２０】
これにより、第１入賞口６４に入球した球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される場合

に、検出装置ＳＥ４に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．２秒後においては羽部材９４５が閉鎖状態とされるが、検出装置ＳＥ５に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．４秒後においては羽部材９４５が開放状態で維持される。

【１６２１】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が第１通路ＴＲ１で流下する場合には、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することはできず、第２入賞口６４０に入球させることはできないので、その球は検出装置ＳＥ３（図１２７（ａ）参照）に検出されるが、球が第２通路ＴＲ２で流下する場合には、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することができ、第２入賞口６４０に入球させ易くすることができる。

【１６２２】

即ち、第１入賞口６４への入球に基づいて獲得される抽選は、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に生じる。球が第２通路ＴＲ１で流下する場合が特別図柄２の抽選に対応する。

【１６２３】

図１２９（ｄ）に示すように、第１４の作動パターンでは、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球の通過が検出されてから普通図柄が停止表示された後（０．１秒後）、０．４秒が経過する直前に羽部材９４５が開放状態（図において、「開」とも示す。以降の図において同様である）とされ、その直後に閉鎖状態（図において、「閉」とも示す。以降の図において同様である）とされる。

【１６２４】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が検出装置ＳＥ４，ＳＥ５に検出される場合に、検出装置ＳＥ４に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．２秒後においても、検出装置ＳＥ５に検出されてから上流分岐位置ＢＫ０に到達するまでに経過する０．４秒後においても、羽部材９４５が閉鎖状態で維持される。

【１６２５】

これにより、第１入賞口６４に入球した球が第１通路ＴＲ１で流下するか第２通路ＴＲ２で流下するかに関わらず、その球を第３分岐通路ＢＫ３側に案内することはできず、第２入賞口６４０に入球させ易くすることはできない。即ち、第１入賞口６４への入球に基づいて獲得される抽選は、特別図柄２の抽選よりも特別図柄１の抽選の方が多くなる。

【１６２６】

図１２９（ａ）から図１２９（ｄ）に示すように、羽部材９４５の作動パターンを異ならせることにより、第１入賞口６４に入球した場合に獲得される抽選が、特別図柄１の抽選となるか特別図柄２の抽選となるかを切り替えることができる。

【１６２７】

即ち、第１１の作動パターンで羽部材９４５が動作する場合には、特別図柄２の抽選を連続で獲得可能とされる。また、第１４の作動パターンで羽部材９４５が動作する場合には、特別図柄１の抽選を連続で獲得可能とされる。

【１６２８】

第１２の作動パターン又は第１３の作動パターンで羽部材９４５が動作する場合には、第１通路ＴＲ１で流下する球と第２通路ＴＲ２で流下する球とで獲得される抽選の特別図柄が異なり、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に獲得されることになる。

【１６２９】

ここで、特別図柄１の抽選による大当たりで遊技者が得られる利益と、特別図柄２の抽選による大当たりで遊技者が得られる利益とが異なる場合、その大当たりが特別図柄１の抽選によるものか、特別図柄２の抽選によるものかについての遊技者の注目度合いは大きい。

【１６３０】

従来、振分け部９８３で左右に球が振り分けられる遊技機では、振分け部９８３により左右一方側（通常は左側）に流された球により特別図柄１の抽選を獲得でき、左右他方側

（通常は右側）に流された球により特別図柄２の抽選を獲得できるように構成されていた。

【１６３１】

そのため、振分け部９８３により球が左右どちらに流されるかを確認できれば、その後は球から目を離しても、これから実行される抽選が特別図柄１の抽選か特別図柄２の抽選かを把握することができた。この場合、振分け部９８３の下流側における球の流下経路に対する注目力が低下することになり、遊技領域を演出領域として有効利用できていないという問題点が生じる。

【１６３２】

これに対し、本実施形態では、第１２の作動パターンでは第１通路ＴＲ１で流下する球により特別図柄２の抽選を獲得でき、第１３の作動パターンでは第２通路ＴＲ２で流下する球により特別図柄２の抽選を獲得できる。そのため、球が振分け部９８３により左右どちらに流されるかを確認するだけでは、その球が特別図柄１の抽選を獲得できるのか、特別図柄２の抽選を獲得できるのかを把握することはできない。

【１６３３】

即ち、振分け部９８３の下流側において、球が羽部材９４５の板状部９４５ｅに拾われるか否かを確認したり、球が送球孔９４１ｋ（図１２５参照）を通り手前側に流れて第２入賞口６４０に入球するか否かを確認したりしないと、その球が特別図柄１の抽選を獲得できるのか、特別図柄２の抽選を獲得できるのかを把握することはできないように構成できる。これにより、振分け部９８３の下流側における球の流下経路に対する注目力を向上することができ、遊技領域を演出領域として有効利用することができる。

【１６３４】

なお、各作動パターンにおいて、主に第１入賞口６４に入球した球と羽部材９４５との関係について説明したが、羽部材９４５の羽状本体９４５ｍは背面ベース９４１（図１２２参照）よりも正面側に配置されていることから、背面ベース９４１の正面側を流下する球が、羽部材９４５が開放状態となったタイミングでちょうどよく羽部材９４５に到達した場合には、その球が第２入賞口６４０に案内されることは当然生じ得る。

【１６３５】

図１３０は、図１２３（ａ）のＣＸＸＸ－ＣＸＸＸ線における遊技盤１３の断面図であり、図１３１（ａ）及び図１３１（ｂ）は、図１３０のＣＸＸＸＩａ－ＣＸＸＸＩａ線における入賞口ユニット９３０及び送球ユニット９７０の部分断面図である。

【１６３６】

図１３１（ａ）では、羽部材９４５の閉鎖状態が図示され、図１３１（ｂ）では、羽部材９４５の開放状態が図示される。なお、図１３０及び図１３１の説明では、図１２９を適宜参照する。

【１６３７】

図１３０に示すように、振分ユニット９８０の送球開口９８２ｋよりも転動板部９４１ｌ及び送球孔９４１ｋが正面側に配置されるので、振分ユニット９８０の内部流路で第３分岐通路ＢＫ３に案内された球は正面側へ向けて流下する。

【１６３８】

この球は、遊技者目線で自分側に近づいてくるように見えるので、遊技領域を下方に流下する球や、第１入賞口６４や第３受部９４４ａ等に入球する球のように後方へと流れることで、遊技者から遠ざかるように見える球とは明確に異なる流下態様で視認される。

【１６３９】

これにより、遊技者に、自分側に近づいてくるように見える球に注目して遊技させることで、遊技者は、第１入賞口６４に入球した球が振分ユニット９８０の内部流路から抜け出して第２入賞口６４０側へ流れる事態が生じた場合に、その事態の発生に容易に気づくことができる。

【１６４０】

従って、遊技者が気づかないうちに球が第２入賞口６４０に入球し、遊技者が気づかな

いうちに特別図柄２の抽選が実行される事態の発生を回避し易くすることができる。
【１６４１】
また、振分ユニット９８０の正面側（背面ベース９４１の正面側）において流下する球は遊技者の視線を遮るように作用し得る。そのため、振分ユニット９８０の内部経路を流下している時の球の視認性を低下させ易くすることができるので、第３分岐通路ＢＫ３に案内され、自分側に近づいてくるように見える遊技球をより一層目立たせることができる。
【１６４２】
なお、送球孔９４１ｋは正面ベース９４３の背面側に配置されるので、正面ベース９４３が不透明の樹脂材料から形成される場合には、送球孔９４１ｋ及び送球孔９４１ｋを通り正面側に案内される球の視認性を低下させることができる。
【１６４３】
この場合、第１入賞口６４に入球する球は容易に確認できるが、その球が送球孔９４１ｋを正面側に流下することの把握を困難とすることができるので、第１入賞口６４に入球した球が、遊技者が気づかないうちに第２入賞口６４０に入球し、特別図柄２の抽選が実行される事態を容易に発生させることができる。
【１６４４】
図１３０に示すように、第２入賞口６４０の下流側（背面側）には、球の通過を検出可能な検出装置ＳＥ６が配設される。検出装置ＳＥ６は、検出装置ＳＥ３と同様の構成からなる遊技球の通過を検知する装置であり、その厚み方向に遊技球よりも若干大きい内径の検出孔ＳＥ１ａが貫通形成される。
【１６４５】
検出装置ＳＥ３に球が通過することにより獲得できる抽選が特別図柄１の抽選であることに対して、検出装置ＳＥ６に球が通過することにより獲得できる抽選は、特別図柄２の抽選とされる。
【１６４６】
第１１の作動パターン～第１４の作動パターン（図１２９参照）の内、どの作動パターンで羽部材９４５が動作するかは、第１当たり種別選択テーブル２０２ｂ（図１２０参照）に基づいて、予め設定される。
【１６４７】
本実施形態では、大当たり種別が大当たりＡ，ａ，ｂの場合に、その後の羽部材９４５の作動パターンが第１１の作動パターンに設定される。大当たり種別が大当たりＢ，Ｃの場合に、その後の羽部材９４５の作動パターンが第１２の作動パターンに設定される。大当たり種別が大当たりｃの場合に、その後の羽部材９４５の作動パターンが第１３の作動パターンに設定される。第１１～第１３の作動パターンの継続期間以外の期間においては、羽部材９４５の作動パターンが第１４の作動パターンに設定される。
【１６４８】
これにより、第１入賞口６４に入球し左右側に球が振り分けられるという同一の事象に対して、球により特別図柄１の抽選を獲得できるのか、特別図柄２の抽選を獲得できるのかを、どの作動パターンで動作するかにより変化させることができる。従って、第１入賞口６４に入球した球の流下経路に対する注目力を向上することができ、遊技者の視線を引き付けることができる。
【１６４９】
図１２９で図示した他に、羽部材９４５の作動パターンとしては、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５や普通入賞口（スルーゲート）６６，６７（図１０９参照）で球が検出されたタイミングから羽部材９４５が長時間（約２秒間）開放する長開放の作動パターンも用意されている。
【１６５０】
長開放の作動パターンで羽部材９４５が動作される場合には、ベース板６０（図１２２参照）の手前側を流下した球が羽状本体９４５ｍ（図１２４参照）で拾われ易くすること

ができる。加えて、第１入賞口６４に入球した球が第３分岐通路ＢＫ３側に案内され易くすることができる（図１２８（ｂ）参照）。

【１６５１】

このように、羽状本体９４５ｍに拾われた球が第２入賞口６４０に繰り返し入球する状態を構成し易い。これに加え、第１入賞口６４に一旦入球した球を板状部９４５ｅ（図１２８（ｂ）参照）によって第３分岐通路ＢＫ３側に案内して最終的には第２入賞口６４０に入球するように構成し易い。従って、特別図柄１での抽選を避け、特別図柄２での抽選を繰り返し獲得する遊技態様を遊技者に提供することができる。

【１６５２】

図１３１（ｂ）に示すように、羽部材９４５の開放状態において、背面ベース９４１の正面側において羽状本体９４５ｍに乗った球Ｐ２１と、背面ベース９４１の背面側において板状部９４５ｅに乗った球Ｐ２２とを、異なる前後位置（切り分けられた位置）で同時に案内することができる。

【１６５３】

そのため、この状態で羽部材９４５が閉鎖状態に変化しても、球Ｐ２１と球Ｐ２２とが衝突する事態が発生することを回避できる。これにより、羽部材９４５の開閉動作を球が邪魔して、開閉動作が完了しないという動作不良を避けることができる。

【１６５４】

更に、羽状本体９４５ｍに同時に乗せられる球Ｐ２１の個数（本実施形態では、片側に１個）よりも、板状部９４５ｅの球Ｐ２２を乗せられる分、羽部材９４５の開放状態において同時に案内可能な球の個数を増やすことができる。

【１６５５】

例えば、全球を羽部材９４５へ向けて発射する遊技態様では、羽部材９４５が開放状態の時に片側の羽部材９４５の羽状本体９４５ｍに同時に乗せられる球は１個であり、複数の球を同時に乗せることは困難である。

【１６５６】

一方で、一部の球を羽部材９４５へ向けて発射して、残りの球を第１入賞口６４へ向けて発射する遊技態様では、羽状本体９４５ｍに球が乗っているか否かに関わらず、板状部９４５ｅに球を乗せることができるので、片側の羽部材９４５に球が同時に乗る状態となり易い。

【１６５７】

即ち、全球を羽部材９４５へ向けて発射する遊技態様か、一部の球を羽部材９４５の他に第１入賞口６４へ向けて発射する遊技態様かで、羽部材９４５に同時に乗せられる球の個数を変化させることができる。

【１６５８】

第１入賞口６４を経由して羽部材９４５に到達する球Ｐ２２と、第１入賞口６４を経由せずに羽部材９４５に到達する球Ｐ２１とでは、到達前の球の流下方向が異なることから、到達後の球の流下速度が異なることから、同時に到達した球でも見え方が異なる。

【１６５９】

即ち、球Ｐ２２は、第１通路ＴＲ１又は第２通路ＴＲ２を鉛直下方に流下して、羽部材９４５の板状部９４５ｅに到達する一方、球Ｐ２１は、案内部９４１ｇ１（図１２３（ａ）参照）よりも左右外側から左右内側に向く速度成分を有する流下方向で羽状本体９４５ｍに到達する。

【１６６０】

従って、左右方向の速度成分が大きい分だけ、球Ｐ２１の方が球Ｐ２２に比較して、羽部材９４５到達後の左右内側への流下速度が速くなる。従って、球Ｐ２１と球Ｐ２２とが羽部材９４５に同時に到達したとしても、球Ｐ２１と球Ｐ２２とが正面視で重なる時間を短くすることができるので、羽部材９４５を転動する球の視認性を向上させることができる。

【１６６１】

球Ｐ２２が転動板部９４１ｌの上面を転動して送球孔９４１ｋを通過して背面ベース９４１の正面側に流れるタイミングによっては、球Ｐ２１と衝突し得る（経路が合流する）。

【１６６２】

ここで、送球孔９４１ｋの下縁の上下位置よりも、羽部材９４５の回転基端側における上面高さ上下位置の方が下側に配置される。これにより、転動板部９４１ｌを転動した球が背面ベース９４１の正面側に飛び込む上下位置と、羽状本体９４５ｍを転動した球が一対の羽部材９４５の間の空間に飛び込む上下位置とを、上下方向でずらすことができる。

【１６６３】

そのため、球同士が衝突した場合に、それらの球の上下位置をずらすことができるので、自重に任せて流下させることで複数の球を順番に流下させることができる。これにより、球詰まりの抑制を図ることができる。

【１６６４】

なお、羽部材９４５の長開放の作動パターンでは、開放の継続期間が０．６秒を超えていることからも分かるように、例えば第１入賞口６４に間隔をあけずに複数の球が入球した場合において普通図柄の変動開始に待ち時間が生じる（普通図柄の変動が保留され得る）。

【１６６５】

そのため、図１２９で説明したような、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出されたタイミングと羽部材９４５の開閉タイミングとを球の流下に要する時間と対応させて設定した場合と異なり、球の配置と羽部材９４５の開閉とを対応させることが困難となる。

【１６６６】

従って、全ての球を第２入賞口６４０側に案内できるものではなく、第１入賞口６４に入球する球の内、いくつかは羽部材９４５が閉鎖状態（図１２８（ａ）参照）のタイミングで上流分岐位置ＢＫ０に到達する可能性はある。

【１６６７】

一方で、長開放の作動パターンにおいて、羽部材９４５が閉鎖状態で維持される時間（動作待ち時間、動作後待ち時間）を短時間（例えば、０．１秒）に設定することで、羽部材９４５が閉鎖状態（図１２８（ａ）参照）のタイミングで上流分岐位置ＢＫ０に到達する事態が生じる確率を極力低下させることができる。

【１６６８】

板状部９４５ｅの上面を転動する球Ｐ２２は、振分け部９８３の動作の影響で、少なくとも１．８秒間隔をあけて球が到達する。即ち、複数の球が同時に乗ることは無いように構成される。

【１６６９】

一方で、羽状本体９４５ｍに球Ｐ２１が到達する間隔は何ら制限されているものではなく、同時に複数の球が到達し得る。そのため、板状部９４５ｅに比較して羽状本体９４５ｍを丈夫に形成することが好ましい。

【１６７０】

この点、本実施形態では、板状部９４５ｅよりも羽状本体９４５ｍの方が、板厚が大きく形成されることで、丈夫に形成されている。また、羽状本体９４５ｍは軸部材９４５ａに直接支持されることで、球の重みによる前後方向の姿勢変化や撓みを抑制することができる。

【１６７１】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【１６７２】

ベース板６０の正面側に配設される羽部材９４５の羽状本体９４５ｍから背面側に板状部９４５ｅを張り出させることで、ベース板６０の内部に配設される振分けユニット９８０の内部を流下する遊技球に作用可能とすることができる。

【１６７３】

即ち、羽部材９４５は、ベース板６０の正面側を流下する遊技球を第２入賞口６４０側に案内し易い状態と、第２入賞口６４０側への流下を防止する状態とを切り替えることに加えて、第１入賞口６４に入球した遊技球を第２入賞口６４０側に案内し易い状態と、第２入賞口６４０側への流下を防止する状態とを切り替えることができる。

【１６７４】

更に、羽状本体９４５ｍの上面を転動している球と、板状部９４５ｅの上面を転動している球との間には、仕切り板として機能する背面ベース９４１が配設されており、球同士の任意の位置での衝突を回避することができる。

【１６７５】

これにより、羽状本体９４５ｍを転動している球と板状部９４５ｅを転動している球とが衝突することで球が羽部材９４５から零れる（第２入賞口６４０に案内される側の反対側に零れる）事態が発生することを回避することができる。

【１６７６】

また、第１入賞口６４に入球した球が第２入賞口６４０側の流路に分岐される位置（例えば、第３分岐通路ＢＫ３）において、球の流下方向が前後方向成分を有する。これにより、第２入賞口６４０への球の流下に関係が深い箇所を目立たせることができる。

【１６７７】

また、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で球が検出されてから普通図柄の変動表示が終了するまでに、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５で検出されないように管理することが可能な場合を形成可能である。これにより、検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を通過した球に、その球が検出されたことにより動作制御される羽部材９４５をタイミングよく作用させることができる。

【１６７８】

第１通路ＴＲ１に球が送球されるタイミングと、第２通路ＴＲ２に球が送球されるタイミングとは、少なくとも０．８秒間隔が空けられるので、第３分岐通路ＢＫ３に左右から同時に球が進入することは無いが、加えて転動面９８２ｇが左右非対称に形成されることで、第３分岐通路ＢＫ３で球詰まりが生じることをより避け易くすることができる。これにより、球の流下経路の合流位置が羽部材９４５に近い構成であっても、球詰まりを原因とする羽部材９４５の動作不良が生じることを防止することができる。

【１６７９】

また、ベース板６０の正面側において羽部材９４５の上面を転動する球の速度と、ベース板６０の内部において羽部材９４５の上面を転動する球の速度とが異なるように構成される。これにより、前後で球が重なった状態が持続的に続くことを避けることができ、羽部材９４５の上面を転動している球の個数を把握し易くすることができる。

【１６８０】

また、羽部材９４５に乗る球の個数について、羽状本体９４５ｍでは同時に複数の球が乗り得る一方で、板状部９４５ｅに乗る球の個数を１個に限定している。これにより、板状部９４５ｅよりも羽状本体９４５ｍを丈夫に構成することで、羽部材９４５の耐久性を向上させることができる。

【１６８１】

また、電動役物６４０ａの作動パターンを複数用意することで、異なる態様における特別図柄の抽選の獲得パターンを作ることができる。例えば、第１入賞口６４に繰り返し入球した場合に、特別図柄１の抽選が繰り返し獲得されるパターンと、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に獲得されるパターンと、特別図柄２の抽選が繰り返し獲得されるパターンと、を切り替えることができる。

【１６８２】

また、特別図柄１の抽選と特別図柄２の抽選とが交互に獲得されるパターンにおいて、左右どちらの遊技球が特別図柄２の抽選に対応するかが反対となるパターンを形成することができる。これにより、振分け部９８３で球が左右どちらに流れたかを確認するだけでは情報として不十分となるので、振分け部９８３の下流側の領域に対する注目力を向上させることができる。

【１６８３】
また、特別図柄の抽選の獲得パターンとして、右打ち遊技を推奨する場合において、図らずも第１入賞口６４に入球した場合に、特別図柄１の抽選を獲得し易いパターンと、高確率で特別図柄１の抽選の獲得が回避されるパターンと、を切り替えることができる。
【１６８４】
次いで、図１３２を参照して、第４３実施形態について説明する。第４１実施形態では、経路構成装置７００により振り分けられる一方の経路を球が流下する場合に普通入賞口（スルーゲート）７６５を球が通過する場合を説明したが、第４３実施形態の経路構成装置３７００では、他方の経路を球が流下する場合に球の通過を検出可能な普通入賞口（スルーゲート）３７６５が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【１６８５】
図１３２は、第４３実施形態における遊技盤１３の部分正面図である。経路構成装置３７００では、振分け部材７６０により左右に振り分けられる経路の内、左側の経路に普通入賞口（スルーゲート）３７６５が配設される。
【１６８６】
普通入賞口（スルーゲート）３７６５は、シーソー部材７６２からの左右方向距離が、シーソー部材７６２と普通入賞口（スルーゲート）７６５との左右方向距離と同じとなるように配設される。
【１６８７】
第１入賞口６４に入球した遊技球が右側に流れる場合だけでなく、左側に流れる場合も普通図柄の抽選を獲得することができるので、電動役物６４０ａの動作頻度を高めることができる。
【１６８８】
上記第４１実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５の通過回数が最大４回まで保留される場合を説明した。この場合、保留が途切れることなく電動役物６４０ａを連続動作させ易く、右打ち遊技をスムーズに実行させることができるという利点がある。
【１６８９】
これに対し、本実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）６６，６７，７６５，３７６５の通過回数が最大１回まで保留されるように構成される。そして、保留球数が０個の時において普通図柄の抽選で選択される作動パターンと、保留球数が１個の時において普通図柄の抽選で選択される作動パターンとが、異なるように構成されている。保留球数が満タン（１個）という状態は、保留球数が４個の場合に比較して生じ易いので、作動パターンの違いが頻繁に生じる。
【１６９０】
本実施形態では、一例として、確変状態において、普通図柄の保留球数が０個の時には、第２の作動パターンが選択され易く、普通図柄の保留球数が１個の時には、第１の作動パターンが選択され易いよう構成される。
【１６９１】
この前提で、第１入賞口６４に連続で入球した場合（図１１５及び図１１６参照）に、３個目の球Ｐ３が移動板部材６４１に到達するタイミングで電動役物６４０ａを進入状態に維持し易くすることができる。
【１６９２】
即ち、球Ｐ１が普通入賞口（スルーゲート）７６５に検出され、その検出から基準時間Ｔｄ１が経過するよりも前に球Ｐ２が普通入賞口（スルーゲート）３７６５に検出されることになるので、球Ｐ２の検出による普通図柄の抽選で選択される作動パターンは第１の作動パターンになり易い。
【１６９３】
そのため、球Ｐ３が移動板部材６４１に到達する前から電動役物６４０ａが進入状態で

維持されることになるので、図１１５（ａ）に示すような状態から、球Ｐ１，Ｐ２の双方を第２球送球部７３６に案内することができる。

【１６９４】

なお、図１１５（ａ）では、球Ｐ１が右側に流れる場合を説明したが、シーソー部材７６２の傾きが逆となっており、球Ｐ１が左側に流れる場合においても、球Ｐ２の検出による普通図柄の抽選で選択される作動パターンは第１の作動パターンになり易い。そのため、球Ｐ２が移動板部材６４１に到達する前から電動役物６４０ａが進入状態で維持されることになるので、球Ｐ２を第２球送球部７３６に案内することができる。

【１６９５】

なお、本実施形態では、一例として普通図柄の保留球数が１個の場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第４１実施形態での説明と同様に、普通図柄の保留球数を４個で設定しても良い。

【１６９６】

次いで、図１３３を参照して、第４４実施形態について説明する。第４１実施形態では、移動板部材６４１が、第１入賞口６４に入球した遊技球を案内する右側案内部６４３と、第１入賞口６４に入球しなかった遊技球を案内する左側案内部６４５と、を備え、案内部６４３，６４５間が仕切られる場合を説明したが、第４４実施形態の経路構成装置４７００では、第１入賞口６４に入球しなかった遊技球が右側案内部６４３側まで案内可能に構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【１６９７】

図１３３は、第４４実施形態における遊技盤１３の部分正面図である。図１３３に示すように、電動役物４６４０ａの状態が退避状態と進入状態とで切り替えられることで前後方向にスライド移動する移動板部材４６４１が、右側案内部６４３と、その右側案内部６４３の傾斜面６４３ａの傾斜に沿って右側案内部６４３の左側端部から左上方向に延設される上流側案内部４６４５と、を備える。

【１６９８】

上流側案内部４６４５は、球を転動させる傾斜面４６４５ａが右側へ向けて下降傾斜しており、その傾斜角度が右側案内部６４３の傾斜角度と同じ角度（水平に対して約５度）で形成される。

【１６９９】

本実施形態では、屈曲部材７４０の左右内側壁部に、移動板部材４６４１の上面を転動する球が通過可能となる大きさの開口が形成される。即ち、開口７４４（図１１４（ａ）参照）と同様の開口部が、屈曲部材７４０の左右内側壁部（右側案内部６４３の左側の壁部）に貫通形成される。

【１７００】

これにより、第１送球経路ＫＲ１への流入経路として、第１入賞口６４を通過した球の経路の他に、上流側案内部４６４５を転動して右側案内部６４３に至る経路を用意することができる。

【１７０１】

図１３３に示すように、上流側案内部４６４５から右側案内部６４３を経て球が転動する場合、移動板部材４６４１の動作タイミング次第で、球が回収孔７５２に受け入れられる場合もあるし、第２球送球部７３６に受け入れられる場合もある。

【１７０２】

即ち、球が第１送球経路ＫＲ１上に配置されている時に電動役物４６４０ａが退避状態に切り替えられると、球は回収孔７５２へ向けて流下する。一方で、球がＫＲ１上に配置されている時に依然として電動役物４６４０ａが進入状態を維持していると、球は右側案内部６４３を右側に通過し、第２球送球部７３６へ向けて流下する。即ち、厳雄板部材４６４１の上面を右側へ転動する球を、回収孔７５２又は第２球送球部７３６へ向けて流下させることができる。

【１７０３】
移動板部材４６４１は、右下方向に下降傾斜しているが、右打ちにより発射された球が屈曲部材７４０の上方を左方に通過して移動板部材４６４１に到達する場合、左方向への勢いで移動板部材４６４１を左向きに通過する可能性がある。
【１７０４】
これに対し、本実施形態では、第１球送球部７３４の突設縁部７３４ｂが、移動板部材４６４１の左端部よりも上側に張り出すように配設される。即ち、移動板部材４６４１の左端部を通過しそうになった球を突設縁部７３４ｂに衝突させることで、球を跳ね返らせることができ、移動板部材４６４１の上面において球が右向きに転動する状態を形成し易くすることができる。
【１７０５】
更に、球の跳ね返りの反発力が右向きに大きくなるほど、球が移動板部材４６４１の右端に到達するまでの時間を短縮することができる。即ち、突設縁部７３４ｂによって、球が移動板部材４６４１の左端部から零れ落ちることを防止する効果だけでなく、移動板部材４６４１が進入状態で維持されている間に球を移動板部材４６４１の右端部まで到達させ易くすることができる。
【１７０６】
なお、移動板部材４６４１の左端部は球通過孔７３４ａよりも上側に配置されている。そのため、電動役物４６４０ａが進入状態の時に、球が移動板部材４６４１の上面を左側に進行して、左側端部に到達する直前に移動板部材４６４１が退避状態に変化する場合、球が放物線を描いて左向きに飛ぶことになり、低確率ではあるが、第１球送球部７３４の球通過孔７３４ａに球を入球させることができる。
【１７０７】
次いで、図１３４から図１８３を参照し、第４５実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｂ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図１３４は、第４５実施形態におけるパチンコ機Ｂ１０の正面図であり、図１３５はパチンコ機Ｂ１０の遊技盤Ｂ１３の正面図であり、図１３６はパチンコ機Ｂ１０の背面図である。
【１７０８】
なお、以下の説明では、図１３４に示す状態のパチンコ機Ｂ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図１３４に示す状態のパチンコ機Ｂ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図１３５参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｂ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。
【１７０９】
図１３４に示すように、パチンコ機Ｂ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｂ１１と、その外枠Ｂ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｂ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｂ１２とを備えている。外枠Ｂ１１には、内枠Ｂ１２を支持するために正面視（図１３４参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジＢ１８が取り付けられ、そのヒンジＢ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｂ１２が正面手前側へ開閉可能に支持されている。
【１７１０】
内枠Ｂ１２には、多数の釘ＢＫＧ１や入賞口Ｂ６３，Ｂ６４等を有する遊技盤Ｂ１３（図１３５参照）が着脱可能に装着される。この遊技盤Ｂ１３の前面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。なお、内枠Ｂ１２には、球を遊技盤Ｂ１３の前面領域に発射する球発射ユニットＢ１１２ａ（図１３７参照）やその球発射ユニットＢ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｂ１３の前面領域まで誘導する発射レール（図示せず）等が取り付けられている。
【１７１１】

なお、釘ＢＫＧ１の図示は、特に詳述しない限り釘ＢＫＧ１の長さ方向視における外形を示す。即ち、釘ＢＫＧ１は一般的には正面側の先端部が膨らんだ形状（まち針に類似の形状）で形成されるが、その膨らんだ部分の形状が図示されており、ベース板Ｂ６０に打ち込まれる細径部の形状は図示されていない。従って、図１３５において、釘ＢＫＧ１間の隙間が球の直径未満の長さであった場合でも、釘ＢＫＧ１の図示されていない細径部の間の隙間が球の直径以上の長さであれば、球が通過することはあり得る。

【１７１２】

内枠Ｂ１２の前面側には、その前面上側を覆う正面枠Ｂ１４と、その下側を覆う下皿ユニットＢ１５とが設けられている。正面枠Ｂ１４および下皿ユニットＢ１５を支持するために正面視（図１３４参照）左側の上下２カ所に金属製のヒンジＢ１９が取り付けられ、そのヒンジＢ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｂ１４および下皿ユニットＢ１５が正面手前側へ開閉可能に支持されている。なお、内枠Ｂ１２の施錠と正面枠Ｂ１４の施錠とは、シリンダ錠Ｂ２０の鍵穴Ｂ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。

【１７１３】

正面枠Ｂ１４は、装飾用の樹脂部品や電気部品等を組み付けたものであり、その略中央部には略楕円形状に開口形成された窓部Ｂ１４ｃが設けられている。正面枠Ｂ１４の裏面側には２枚の板ガラスを有するガラスユニットＢ１６が配設され、そのガラスユニットＢ１６を介して遊技盤Ｂ１３の前面がパチンコ機Ｂ１０の正面側に視認可能となっている。

【１７１４】

正面枠Ｂ１４には、球を貯留する上皿Ｂ１７が前方へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｂ１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿Ｂ１７の底面は正面視（図１３４参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｂ１７に投入された球が球発射ユニットＢ１１２ａ（図１３７参照）へと案内される。また、上皿Ｂ１７の上面には、枠ボタンＢ２２が設けられている。この枠ボタンＢ２２は、例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１（図１３５参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【１７１５】

正面枠Ｂ１４には、その周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて、点灯又は点滅することにより発光態様が変更制御され、遊技中の演出効果を高める役割を果たす。窓部Ｂ１４ｃの周縁には、ＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｂ２９～Ｂ３３が設けられている。パチンコ機Ｂ１０においては、これら電飾部Ｂ２９～Ｂ３３が大当たりランプ等の演出ランプとして機能し、大当たり時やリーチ演出時等には内蔵するＬＥＤの点灯や点滅によって各電飾部Ｂ２９～Ｂ３３が点灯または点滅して、大当たり中である旨、或いは大当たり一歩手前のリーチ中である旨が報知される。また、正面枠Ｂ１４の正面視（図１３４参照）左上部には、ＬＥＤ等の発光手段が内蔵され賞球の払い出し中とエラー発生時とを表示可能な表示ランプＢ３４が設けられている。

【１７１６】

また、右側の電飾部Ｂ３２下側には、正面枠Ｂ１４の裏面側を視認できるように裏面側より透明樹脂を取り付けて小窓Ｂ３５が形成され、遊技盤Ｂ１３前面の貼着スペースＢＫ１（図１３５参照）に貼付される証紙等がパチンコ機Ｂ１０の前面から視認可能とされている。また、パチンコ機Ｂ１０においては、より煌びやかさを醸し出すために、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材Ｂ３６が取り付けられている。

【１７１７】

窓部Ｂ１４ｃの下方には、貸球操作部Ｂ４０が配設されている。貸球操作部Ｂ４０には、度数表示部Ｂ４１と、球貸しボタンＢ４２と、返却ボタンＢ４３とが設けられている。パチンコ機Ｂ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｂ４０が操作されると、その操作に応じて球

の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｂ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。球貸しボタンＢ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｂ１７に供給される。返却ボタンＢ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｂ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｂ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｂ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【１７１８】

上皿Ｂ１７の下側に位置する下皿ユニットＢ１５には、その中央部に上皿Ｂ１７に貯留しきれなかった球を貯留するための下皿Ｂ５０が上面を開放した略箱状に形成されている。下皿Ｂ５０の右側には、球を遊技盤Ｂ１３の前面へ打ち込むために遊技者によって操作される操作ハンドルＢ５１が配設される。

【１７１９】

操作ハンドルＢ５１の内部には、球発射ユニットＢ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＢ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＢ５１ｂと、操作ハンドルＢ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＢ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＢ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｂ１３の前面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＢ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＢ５１ａおよび発射停止スイッチＢ５１ｂがオフとなっている。

【１７２０】

下皿Ｂ５０の正面下方部には、下皿Ｂ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＢ５２が設けられている。この球抜きレバーＢ５２は、常時、右方向に付勢されており、その付勢に抗して左方向へスライドさせることにより、下皿Ｂ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＢ５２の操作は、通常、下皿Ｂ５０の下方に下皿Ｂ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。下皿Ｂ５０の右方には、上述したように操作ハンドルＢ５１が配設され、下皿Ｂ５０の左方には灰皿Ｂ５３が取り付けられている。

【１７２１】

図１３５に示すように、遊技盤Ｂ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｂ６０に、球案内用の多数の釘ＢＫＧ１や風車ＢＷＦの他、レールＢ６１，Ｂ６２、一般入賞口Ｂ６３、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０、第３入賞口Ｂ６４ｂ、可変入賞装置Ｂ６５、上側可変入賞装置Ｂ７００、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７、可変表示装置ユニットＢ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｂ１２（図１３４参照）の裏面側に取り付けられる。

【１７２２】

ベース板Ｂ６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側からベース板Ｂ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｂ６３、第１入賞口Ｂ６４及び第２入賞口Ｂ６４０が配設される入賞ユニットＢ４００、第３入賞口Ｂ６４ｂが配設される可変入賞装置Ｂ６５、上側可変入賞装置Ｂ７００、可変表示装置ユニットＢ８０は、ルータ加工によってベース板Ｂ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｂ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【１７２３】

なお、ベース板Ｂ６０の構成は樹脂材料に限られるものではない。例えば、薄い板材を

張り合わせた木材からなり、その正面側からベース板Ｂ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に目視できないように形成されるようにしても良い。

【１７２４】

遊技盤Ｂ１３の正面中央部分は、正面枠Ｂ１４の窓部Ｂ１４ｃ（図１３４参照）を通じて内枠Ｂ１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図１３５を参照して、遊技盤Ｂ１３の構成について説明する。

【１７２５】

遊技盤Ｂ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＢ６２が植立され、その外レールＢ６２の内側位置には外レールＢ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＢ６１が植立される。この内レールＢ６１と外レールＢ６２とにより遊技盤Ｂ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｂ１３とガラスユニットＢ１６（図１３４参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ｂ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｂ１３の正面であって２本のレールＢ６１，Ｂ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｂ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【１７２６】

なお、上述の遊技領域は狭義の解釈であり、広義の意味として、遊技領域を、流下した遊技球により遊技者に与えられる利益が確定するまでの遊技球の流下領域として表現しても良い。この意味において、遊技領域は、遊技盤Ｂ１３の正面側の領域に限られるものではない。例えば、後述する検出センサＢ４６２の上流側経路も遊技領域に含まれ得る。

【１７２７】

２本のレールＢ６１，Ｂ６２は、球発射ユニットＢ１１２ａ（図１３７参照）から発射された球を遊技盤Ｂ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レールＢ６１の先端部分（図１３５の左上部）には戻り球防止部材６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ｂ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レールＢ６２の先端部（図１３５の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＢ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＢ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。また、内レールＢ６１の右下側の先端部と外レールＢ６２の右上側の先端部との間には、レール間を繋ぐ円弧を内面側に設けて形成された樹脂製の円弧部材Ｂ７０がベース板Ｂ６０に打ち込んで固定されている。

【１７２８】

遊技盤Ｂ１３の正面側における遊技領域Ｂ３０１は、内側中央位置に配置されるセンターフレームＢ８６に対して、左側遊技領域Ｂ３０２、右側遊技領域Ｂ３０３及び下側遊技領域Ｂ３０４で大きく分かれている。

【１７２９】

左側遊技領域Ｂ３０２は、遊技球の発射強度を抑えて発射する左打ちをされた遊技球が流下する遊技領域であり、右側遊技領域Ｂ３０３は、左打ちよりも遊技球の発射強度を増大させて発射する右打ちをされた遊技球が流下する遊技領域である。また、下側遊技領域Ｂ３０４は、左側遊技領域Ｂ３０２又は右側遊技領域Ｂ３０３を通過した遊技球が流下する遊技領域である。

【１７３０】

以下、入賞に基づく抽選について詳しく説明する。本実施形態におけるパチンコ機Ｂ１０では、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入賞（遊技者に対して何らかの利益（例えば、賞球の払い出し、抽選の実行、更に有利な状態への移行の利益等）の付与が期待できる入球）があったことを契機として特別図柄（第１図柄）の抽選が行われ、球が普通入賞口Ｂ６６，Ｂ６７を通過した場合に普通図柄（第２図柄）の抽選が行われる。

【１７３１】

第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に対して行われる特別図柄の抽選（

特別図柄１の抽選）では、特別図柄の大当たりか否か（外れか）の当否判定が行われると共に、特別図柄の大当たりと判定された場合にはその大当たり種別の判定も行われる。

【１７３２】

第２入賞口Ｂ６４０への入球に対して行われる特別図柄の抽選（特別図柄２の抽選）では、特別図柄の大当たりか、外れか、又は小当たりかの当否判定が行われると共に、特別図柄の大当たりと判定された場合にはその大当たり種別の判定も行われ、特別図柄の小当たりと判定された場合にはその小当たり種別の判定も行われる。

【１７３３】

即ち、第２入賞口Ｂ６４０への入球に対して行われる特別図柄の抽選では、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に対して行われる特別図柄の抽選により大当たりか否かの判定が行われることに加えて、大当たりでは無い場合に、小当たりか外れかの判定が行われる。

【１７３４】

本実施形態では、外れ以外であるが、大当たりとは異なる性質の当選として小当たりが用意されている。即ち、大当たりは、高確率状態や時短状態などに遊技状態を移行させる契機（遊技の節目）を発生させるが、小当たりは、遊技状態を移行させる契機を発生しない。

【１７３５】

なお、高確率状態で小当たりに当選しても、その小当たりの終了を契機として高確率状態が終了することはなく（上限回数に達した場合を除く）、通常状態や時短状態で小当たりに当選しても、その小当たりの終了を契機として高確率状態に移行することはない。但し、小当たりは、大当たりと同様に可変入賞装置Ｂ６５を作動させる条件を満たすものとして位置づけられている。

【１７３６】

なお、本パチンコ機Ｂ１０では、特別図柄の低確率状態では、３２０分の１の確率で特別図柄の大当たりと判定され、特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変状態とも称する）では、３２分の１の確率で特別図柄の大当たりと判定される。なお、大当たりの確率は一例であり、特別図柄の低確率状態における確率が特別図柄の高確率状態における確率の１０分の１未満にならない関係を満たす限りにおいて、種々の数値で設定可能である。

【１７３７】

なお、説明の便宜上、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ遊技球が入球した場合に行われる特別図柄の抽選を「特別図柄１の抽選」と称し、第２入賞口Ｂ６４０へ遊技球が入球した場合に行われる特別図柄の抽選を「特別図柄２の抽選」と称する。

【１７３８】

また、本パチンコ機Ｂ１０では、特別図柄の低確率状態では、３２０分の３１８の確率で特別図柄２の抽選において特別図柄の小当たりと判定され、特別図柄の高確率状態では、３２０分の３０９の確率で特別図柄２の抽選において特別図柄の小当たりと判定される。なお、小当たりの確率は一例であり、種々の数値で設定可能である。

【１７３９】

特別図柄の小当たりになる（当選する）と、小当たり遊技が行われて可変入賞装置Ｂ６５が開閉動作する。遊技者は小当たり遊技中に可変入賞装置Ｂ６５の内側に配置される特定入賞口Ｂ６５ａに遊技球を入球させることで、ある程度の賞球を獲得することができる。本実施形態の小当たり遊技は、可変入賞装置Ｂ６５が開放されてから１．８秒後に閉鎖するという動作が実行される。

【１７４０】

なお、特別図柄の小当たりにおける可変入賞装置Ｂ６５の作動パターンとしては、単一のパターンとしても良いし、複数種類のパターンを設けても良い。例えば小当たり種別によって、特定入賞口Ｂ６５ａの開閉動作の回数や、開放および閉鎖時間により設定される作動パターンが異なるように構成されるようにしても良い。具体的には、１．８秒間の開放する作動パターンでも良いし、０．１２秒間の開放が数秒間隔で１５回（累計１．８秒

間の開放）繰り返される作動パターンでも良いし、その他の作動パターンでも良い。
【１７４１】
特別図柄の大当たりになる（当選する）と、パチンコ機Ｂ１０が特別遊技状態へ移行すると共に、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｂ６５ａ又は上側可変入賞装置Ｂ７００の第２特定入賞口Ｂ７００ａが所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される動作が最大１５回（１５ラウンド）繰り返される。その結果、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａに多量の球が入賞するので、通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。なお、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球に伴い賞球の払い出しがあることや、払い出し個数については後述する。
【１７４２】
なお、特別図柄の大当たり種別としては、「大当たりＡ」、「大当たりＢ」、「大当たりＣ」、「大当たりａ」、「大当たりｂ」、「大当たりｃ」の６種類が設けられている。詳細については後述するが、大当たり種別によって、特別遊技のラウンド数や、特別遊技終了後における電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが異なるように構成される。
【１７４３】
特別図柄（第１図柄）の抽選が行われると、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて特別図柄の変動表示が開始されて、所定時間（例えば、１１秒～６０秒など）が経過した後に、抽選結果を示す特別図柄が停止表示される。第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて変動表示が行われている間に球が第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ、または第２入賞口Ｂ６４０へと入球すると、その入球回数は入賞口への入球に基づいて行われる抽選に対応する特別図柄の種別（特別図柄１又は特別図柄２）毎にそれぞれ最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより示されると共に、第３図柄表示装置Ｂ８１においても示される。第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて変動表示が終了した場合に、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂについての保留球数（特別図柄１の保留球数）、または第２入賞口Ｂ６４０についての保留球数（特別図柄２の保留球数）が残っていれば、次の特別図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。
【１７４４】
本実施形態では、特別図柄１の保留球数と特別図柄２の保留球数が共に残っている場合であっても、特別図柄１と特別図柄２とは、対応する先の特別図柄（特別図柄１又は特別図柄２）の変動表示が終了した場合に、対応する次の特別図柄（特別図柄１又は特別図柄２）の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。換言すれば、対応しない特別図柄（例えば、特別図柄１に対する特別図柄２）の変動が終了していなくても、対応する先の特別図柄の変動表示が終了すれば、対応する次の特別図柄の抽選が行われる。
【１７４５】
なお、本実施形態では、特別図柄１の保留球数と特別図柄２の保留球数が共に残っている場合であっても、特別図柄１と特別図柄２とは、対応する先の特別図柄の変動表示が終了した場合に、対応する次の特別図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始されるよう構成したが、これに限られるものではなく、例えば、特別図柄の取得順（入球順）に優先的に抽選を実行しても良いし、特別図柄１と特別図柄２とで交互に抽選を実行しても良い。
【１７４６】
また、特別図柄２の保留球に基づく抽選が特別図柄１の保留球に基づく抽選よりも優先的に実行されるように構成しても良く、この場合は、特別図柄２の保留球が０個よりも多い状態が維持される間、特別図柄１の保留球に基づく抽選が実行されることを回避できる。
【１７４７】
普通図柄（第２図柄）の抽選では、普通図柄の当たりか否かの当否判定が行われる。普

通図柄の当たりになると、所定時間（例えば、０．２秒、２．０秒または３．９秒）だけ第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａが駆動され、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入球し得る状態になる。つまり、普通図柄の当たりになると、球が第２入賞口Ｂ６４０へ入球し得る状態となり、その結果、特別図柄の抽選が行われ易くなる。

【１７４８】

また、普通図柄（第２図柄）の抽選が行われると、第２図柄表示装置Ｂ８３において普通図柄の変動表示が開始されて、所定時間（例えば、０．０５秒または１秒など）が経過した後に、抽選結果を示す普通図柄が停止表示される。第２図柄表示装置Ｂ８３において変動表示が行われている間に球が普通入賞口Ｂ６６，Ｂ６７を通過すると、その通過回数は最大４回まで保留され、その保留球数が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより表示されると共に、第２図柄保留ランプＢ８４においても示される。第２図柄表示装置Ｂ８３において変動表示が終了した場合に、普通入賞口Ｂ６６，Ｂ６７についての保留球数が残っていれば、次の普通図柄の抽選が行われると共に、その抽選に応じた変動表示が開始される。

【１７４９】

本実施形態では、大当たり終了後の付加価値として、その大当たり終了後から次に大当たりとなるまでの間、パチンコ機Ｂ１０が特別図柄の特殊確変状態（高頻度で小当たりを伴う特別図柄の確変中）へ移行するように構成される場合（例えば、後述する大当たりＡ、大当たりａ）と、パチンコ機Ｂ１０が特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変中）へ移行するように構成される場合（例えば、後述する大当たりＢ、大当たりｂ、大当たりｃ）と、大当たり遊技の後に、特別図柄の抽選が１００回終了するまで普通図柄の時短状態となる場合（例えば、後述する大当たりＣ、大当たりｃ）と、が用意されている。

【１７５０】

なお、本実施形態では、特別遊技状態の終了後に特別図柄の確変状態が付与される場合に、その特別図柄の確変状態が次に大当たりとなるまでの間継続される場合を説明したが、これに限られるものではなく、例えば、特別遊技状態が終了してから特別図柄の抽選が１００回終了するまで特別図柄の確変状態（高確率状態）が付与され、特別図柄の抽選が１００回終了して以降は通常状態に設定されるようにしても良い。

【１７５１】

なお、上述した特別図柄の確変状態（高確率状態）が付与される特別図柄の抽選回数は、１００回に限られるものではない。例えば、５０回でも良いし、２００回でも良い。

【１７５２】

また、上述した普通図柄の時短状態となる特別図柄の抽選回数は、１００回に限られる物ではない。例えば、５０回でも良いし、５回でも良いし、０回でも良い。また、時短状態となる特別図柄の抽選回数と、特別図柄の確変状態が付与される特別図柄の抽選回数とが異なるように設定されても良い。

【１７５３】

ここで、「特別図柄の高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。

【１７５４】

本実施形態における「特別図柄の特殊確変状態（高頻度で小当たりを伴う特別図柄の確変中）」は、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時であり、且つ、高頻度で小当たりを伴う状態であり、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い状態で遊技を行いながら、特別遊技状態へ移行する前から、小当たり遊技によってまとまった数の賞球を獲得することができる遊技の状態のことである。普通図柄（第２図柄）の当たり確率はアップして、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態として形成される。電動役物Ｂ６４０ａは、後述する第３の作動パターンで動作される。

【１７５５】

本実施形態における「特別図柄の高確率状態（特別図柄の確変中）」は、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。普通図柄（第２図柄）の当たり確率はアップして、第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞し易い遊技の状態として形成される。電動役物Ｂ６４０ａは、後述する第２の作動パターンで動作される。

【１７５６】

一方、「特別図柄の低確率状態」とは、特別図柄の確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、特別図柄の確変中よりも大当たり確率が低い状態をいう。

【１７５７】

また、「普通図柄の時短状態（時短中）」とは、特別図柄の低確率状態の一態様であり、普通図柄の当たり確率はアップして、後述する入賞ユニットＢ４００の作用により第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。電動役物Ｂ６４０ａは、後述する第２の作動パターンで動作される。

【１７５８】

また、「通常状態」とは、特別図柄の低確率状態（高確率状態ではない状態）の一態様であり、普通図柄の時短中ではない遊技の状態（大当たり確率も普通図柄（第２図柄）の当たり確率も変化しておらず、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞し易いわけでもない状態）のことをいう。電動役物Ｂ６４０ａは、後述する第１の作動パターンで動作される。

【１７５９】

特別図柄の特殊確変中や、特別図柄の確変中や、普通図柄の時短中では、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが変更され、基本的に通常状態に比較して、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ側に遊技球が案内され易い状態が長い時間維持されるよう設定される。

【１７６０】

本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａが非励磁とされた状態（非励磁状態、即ち、後述する移動板部材Ｂ６４１が前側位置に配置され第１送球経路ＢＫＲ１に進入している状態）にある場合は、その電動役物Ｂ６４０ａが励磁された状態（励磁状態、即ち、後述する移動板部材Ｂ６４１が後側位置に配置され第１送球経路ＢＫＲ１から退避している状態）にある場合と比較して、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ側に遊技球が案内され易い状態となる。よって、特別図柄の特殊確変中、特別図柄の確変中、及び普通図柄の時短中は、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入球し易い状態となり、特別図柄の抽選が行われやすくなる。

【１７６１】

なお、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、普通図柄の当たりとなった場合における電動役物Ｂ６４０ａの開放回数を、通常状態よりも増やすように構成してもよい。

【１７６２】

また、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、普通図柄（第２図柄）の当たり確率は変化せずに、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａが開放される時間、および電動役物Ｂ６４０ａの開放回数のうち少なくとも一方を変更するものとしてもよい。

【１７６３】

また、特別図柄の確変中や普通図柄の時短中において、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａが開放される時間や、電動役物Ｂ６４０ａの開放回数は変更せず、普通図柄（第２図柄）の当たり確率だけを、通常状態に比較してアップするように構成してもよい。

【１７６４】

遊技領域の正面視左側下部（図１３５の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤおよび７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂは、主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｂ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入賞したか、第２入賞口Ｂ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｂ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｂ３７Ｂが作動するように構成されている。

【１７６５】

また、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｂ１０が特殊確変中か確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が特殊確変大当たりに対応した図柄か確変大当たりに対応した図柄か通常大当たりに対応した図柄か小当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｂ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【１７６６】

この第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて特別図柄（第１図柄）の変動表示が行われている間に球が第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ、または第２入賞口Ｂ６４０へと入球した場合、その入球回数は入賞口の種別毎（即ち特別図柄の種別ごとであって、特別図柄１に対応する第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球回数と、特別図柄２に対応する第２入賞口Ｂ６４０への入球回数とが別々）にそれぞれ最大４回まで保留され、その保留球数は第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより示されると共に、第３図柄表示装置Ｂ８１においても示される。

【１７６７】

なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球、及び第２入賞口Ｂ６４０への入球は、それぞれ最大４回まで保留されるように構成したが、最大保留回数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。

【１７６８】

なお、本パチンコ機Ｂ１０では、第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ又は第２入賞口Ｂ６４０のいずれかに入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｂ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ特殊確変大当たり、８Ｒ確変大当たり、４Ｒ大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【１７６９】

ここで、「１５Ｒ特殊確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に特殊確変状態（高頻度で小当たりを伴う特別図柄の高確率状態）へ移行する確変大当たりのことであり、「８Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が８ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。

【１７７０】

また、「４Ｒ大当たり」は、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる

か、又は、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する大当たりのことである。

【１７７１】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｂ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＢ８０が配設されている。

【１７７２】

可変表示装置ユニットＢ８０には、第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ、第２入賞口Ｂ６４０のいずれかの入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｂ８１と、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置Ｂ８３と、普通入賞口Ｂ６６，Ｂ６７を遊技球が通過した回数に対応する保留球数を点灯状態により示す第２図柄保留ランプＢ８４と、が設けられている。

【１７７３】

また、可変表示装置ユニットＢ８０には、第３図柄表示装置Ｂ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＢ８６が配設されている。このセンターフレームＢ８６の中央に開口される開口部から第３図柄表示装置Ｂ８１が視認可能とされる。

【１７７４】

第３図柄表示装置Ｂ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｂ１１４（図１３７参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば左、中および右の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に縦スクロールして第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。

【１７７５】

本実施形態の第３図柄表示装置Ｂ８１は、主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｂ８１を構成するようにしても良い。

【１７７６】

本実施形態では、第３図柄は、「０」から「９」の数字を付した１０種類の主図柄により構成されている。本実施形態のパチンコ機Ｂ１０においては、後述する主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）により行われる特別図柄の抽選結果が大当たりであった場合に、同一の主図柄が揃う変動表示（同一の主図柄が揃った状態で最終的に停止する変動表示）が行われ、その変動表示が終わった後に大当たりが発生（特別遊技状態への移行が開始）するよう構成されている。

【１７７７】

一方、特別図柄の抽選結果が外れであった場合は、同一の主図柄が揃わない変動表示（揃わない状態で最終的に停止する変動表示）が行われる。また、特別図柄の抽選結果が小当たりであった場合は、特定の小当たり用図柄が最終的に停止する変動表示が行われる。

【１７７８】

例えば、特別図柄の抽選結果が通常大当たりであれば、偶数番号である「０，２，４，６，８」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。一方、特殊確変大当たり又は確変大当たりであれば、奇数番号も加えたすべての番号「０，１，２，３，４，５，６，７，８，９」のうちいずれかの番号が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。一方、特別図柄の抽選結果が外れであれば、同一番号の主図柄が揃わない変動表示が行われる。また、特別図柄の抽選結果が小当たりであれば、「賞球用意」との文字が付加された図柄が表示装置の表示領域の中央に停止する変動表示が行われる。

【１７７９】
第２図柄表示装置Ｂ８３は、球が普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄）としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｂ１０では、球が普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過したことが検出されると、第２図柄の当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置Ｂ８３において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置Ｂ８３において、第２図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。
【１７８０】
パチンコ機Ｂ１０は、第２図柄表示装置Ｂ８３における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｂ６４０に付随された電動役物Ｂ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。
【１７８１】
第２図柄の変動表示にかかる時間（変動時間）は、遊技状態が通常状態中よりも、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中の方が短くなるように設定される。これにより、特別図柄の確変中、および普通図柄の時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、普通図柄（第２図柄）の抽選を通常状態中よりも多く行うことができる。よって、普通図柄の当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの上流側に配置される電動役物Ｂ６４０ａに遊技球が拾われる機会を遊技者に多く与えることができる。従って、特別図柄の確変中、および普通図柄の時短中は、第３入賞口Ｂ６４ｂ又は第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。
【１７８２】
なお、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中において、当たり確率をアップさせたり、電動役物Ｂ６４０ａの開放時間や開放回数を増やしたりするなど、その他の方法によって第３入賞口Ｂ６４ｂ又は第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、特別図柄の確変中、または普通図柄の時短中において、通常状態中よりも短く設定する場合は、普通図柄の当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、１回の普通図柄の当たりに対する電動役物Ｂ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。
【１７８３】
普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７は、可変表示装置ユニットＢ８０の両側の領域において遊技盤に組み付けられ、遊技領域Ｂ３０１に発射された球の内、左側遊技領域Ｂ３０２又は右側遊技領域Ｂ３０３を流下する球が必ず通過する位置に配設されている（上流側の釘ＢＫＧ１配置が、球を普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７に集めるように構成されている）。
【１７８４】
なお、遊技領域Ｂ３０１に発射された球と普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７との関係はこれに限られるものではない。例えば、遊技領域Ｂ３０１に発射された球のうち、流下する球の一部が普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過するように構成しても良い。
【１７８５】
球の普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプＢ８４においても点灯表示される。第２図柄保留ランプＢ８４は、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｂ８１の下方に左右対称に配設されている。
【１７８６】
なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置Ｂ８３において

複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｂ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプＢ８４の点灯を第３図柄表示装置Ｂ８１の一部で行うようにしても良い。また、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプＢ８４により点灯表示を行わないものとしてもよい。

【１７８７】

また、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、ベース板Ｂ６０に配設される普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、１つでも良いし、その他の複数（例えば、３つ以上）であっても良い。

【１７８８】

また、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＢ８０の左右両側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＢ８０の左右いずれか一方でも良いし、可変表示装置ユニットＢ８０の上方や下方でも良い。

【１７８９】

可変表示装置ユニットＢ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｂ６４が配設されている。この第１入賞口Ｂ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｂ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（後述する検出センサＢ４４２）に球の通過が検出され、第１入賞口スイッチがオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）で特別図柄１の抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａで示される。

【１７９０】

一方、第１入賞口Ｂ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｂ６４０が配設されている。第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｂ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（後述する検出センサＢ４６２）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）で特別図柄２の抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｂ３７Ｂで示される。

【１７９１】

なお、第２入賞口Ｂ６４０へは、入賞ユニットＢ４００の内部を経由した球のみが入賞するよう構成され、入賞ユニットＢ４００を介さない入賞が防止されるよう構成されているが、詳細は後述する。

【１７９２】

また、第２入賞口Ｂ６４０の正面視下方には、球が入賞し得る第３入賞口Ｂ６４ｂが配設されている。第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞すると遊技盤Ｂ１３の裏面側に設けられる第３入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第３入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）で特別図柄１の抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｂ３７Ａで示される。

【１７９３】

なお、第３入賞口Ｂ６４ｂへは、入賞ユニットＢ４００の内部を経由した球のみが入賞するよう構成され、入賞ユニットＢ４００を介さない入賞が防止されるよう構成されているが、詳細は後述する。

【１７９４】

また、第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ及び第２入賞口Ｂ６４０は、それぞれ、球が入賞すると、第１入賞口スイッチ、第３入賞口スイッチ又は第２入賞口スイッチがオンとなることに基づいて５個の球が賞球として払い出される入賞口（賞球口）の１つにもなっている。

【１７９５】

なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞

球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。また、賞球数や賞球数の大小関係を逆にしても良い。

【１７９６】

第２入賞口Ｂ６４０（及び第３入賞口Ｂ６４ｂ）には電動役物Ｂ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｂ６４０ａは、通常は電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態（前進閉鎖状態）となって、球が第２入賞口Ｂ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置Ｂ８３に表示された場合、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態（後退開放状態）となり、球が第２入賞口Ｂ６４０へ入賞しやすい状態となる。

【１７９７】

特別図柄の特殊確変中は、通常状態に比較して、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。一方、第１入賞口Ｂ６４は、第２入賞口Ｂ６４０に設けられているような電動役物Ｂ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。

【１７９８】

ここで、第１入賞口Ｂ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は、低確率状態であっても高確率状態でも同一である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として最大の利益（特別遊技状態における賞球個数）が得られる大当たり（大当たりＡ，ａ）となる確率は、第２入賞口Ｂ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｂ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。

【１７９９】

よって、通常中においては、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの上流側に配置される電動役物Ｂ６４０ａにより、遊技球が第２入賞口Ｂ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ｂ６４０ａのない第１入賞口Ｂ６４へ球が到達し易い発射強度で球を発射し、第１入賞口Ｂ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１８００】

一方、特別図柄の特殊確変中や特別図柄の確変中や普通図柄の時短中は、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの上流側に配置される電動役物Ｂ６４０ａが動作制御された場合に電動役物Ｂ６４０ａに球が拾われ易く、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂに入賞しやすい状態であるので、電動役物Ｂ６４０ａへ球が到達し易い発射強度で球を発射し、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過させて電動役物Ｂ６４０ａを動作させると共に、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入賞によって大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１８０１】

このように、本実施形態のパチンコ機Ｂ１０は、パチンコ機Ｂ１０の遊技状態（特殊確変状態であるか、確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか等）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を、第１入賞口Ｂ６４に球が到達し易い発射強度での発射と、電動役物Ｂ６４０ａへ球が到達し易い発射強度での発射とに変えさせることができる。よって、遊技者に対して、球の打ち方に変化をもたらすことができるので、遊技を楽しませることができる。

【１８０２】

なお、本実施形態では、大当たり遊技中においては、電動役物Ｂ６４０ａが特別図柄の

通常状態と同様の作動パターンで駆動される。そのため、大当たり遊技中において第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに入球し難いよう構成することができる。

【１８０３】

なお、本実施形態では、左側遊技領域Ｂ３０２を流下した球も、右側流下領域Ｂ３０３を流下した球も、第１入賞口Ｂ６４又は電動役物Ｂ６４０ａに到達し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｂ６４へは左側流下領域Ｂ３０２を流下した球のみが到達し、電動役物Ｂ６４０ａへは右側流下領域Ｂ３０３を流下した球のみが到達するよう構成しても良い。

【１８０４】

この場合、通常中においては、第１入賞口Ｂ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＢ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｂ６４への入賞によって大当たりの抽選の機械を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１８０５】

一方、特別図柄の特殊確変中や特別図柄の確変中や普通図柄の時短中は、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｂ６４０に付随する電動役物Ｂ６４０ａが動作制御された場合に電動役物Ｂ６４０ａに球が拾われ易く、第２入賞口Ｂ６４０に入賞しやすい状態であるので、電動役物Ｂ６４０ａが配置される側へ向けて、可変表示装置ユニットＢ８０の右方を球が通過するように球を発射し（所謂「右打ち」）、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６７を通過させて電動役物Ｂ６４０ａを動作させると共に、第２入賞口Ｂ６４０への入賞によって大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【１８０６】

これにより、パチンコ機Ｂ１０の遊技状態に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができる。よって、遊技者に対して、球の打ち方に変化をもたらすことができるので、遊技を楽しませることができる。

【１８０７】

また、この場合、「右打ち」を行うべき状況において、第３図柄表示装置Ｂ８１に特定の画像（右打ちナビ）を表示させることにより、遊技者が特別図柄の（特殊）確変状態や普通図柄の時短状態となることによる恩恵を確実に得られるように構成しても良い。

【１８０８】

右打ちナビでは、第３図柄表示装置Ｂ８１に「右を狙え！！」との文字が表示されると共に、その文字の上下に右向きの矢印が３つずつ表示される。これらの文字、および矢印が表示されることにより、遊技者に対して球を遊技盤Ｂ１３の右側に設けられた経路（流路）へと打ち出すべきであると感じさせることができる。よって、遊技者に対して、特別図柄の確変状態、および普通図柄の時短状態となることによる恩恵を確実に獲得させることができる。

【１８０９】

また、「左打ち」をすべき状況にも関わらず、遊技者が「右打ち」を実行している場合に、推奨される遊技態様と、実行中の遊技態様とが異なることを遊技者に対して報知できることが好ましい。例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１において警告画像を表示するようにしても良い。

【１８１０】

この警告画像は、遊技者が遊技盤Ｂ１３の右側に設けられた経路（流路）へと球を打ち出す（右打ちする）べき期間でないにもかかわらず、右打ちを実行していると判別された場合に第３図柄表示装置Ｂ８１に対して表示される画像（右打ち警告画像）である。より具体的には、通常状態（特別図柄の確変状態でも、普通図柄の時短状態でもない状態）において、遊技者が右打ちを行っていると判別した場合に表示される。

【１８１１】

例えば、通常状態において電動役物Ｂ６４０ａが第２入賞口Ｂ６４０に球を案内し難い

よう制御される（右打ちを行ったとしても第２入賞口Ｂ６４０へと球を入球させにくい）パチンコ機を想定する。この場合、通常状態において右打ちを行うと、左打ちにより第１入賞口Ｂ６４を狙って球を打ち出す場合に比較して、特別図柄の抽選を受ける機会が少なくなってしまう。即ち、通常状態において右打ちを行うと、大当たりとなりにくくなるので、遊技者にとって損となってしまう。よって、右打ち警告画像を表示させて左打ちを促すことにより、遊技者が損をしてしまうことを防止（抑制）できるように構成する。

【１８１２】

通常状態において遊技者が右打ちを行っていると判別した場合には、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面に、「警告」との文字と、「左打ちで遊技してね！！」との文字とが表示される。これらの文字が表示されることにより、遊技者に対して右打ちをすべきではない（左打ちを行うべきである）と気付かせることができる。また、ホールの店員も右打ち警告画面の有無を確認することにより、通常状態において右打ちを行う変則的な遊技方法を実行している遊技者がいるか否かを容易に判別することができる。

【１８１３】

右打ちを行っているか否かの判断方法としては、右打ちを行った場合に球が流入し得る普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６７（図１３５参照）に対して球が入球したか否かによって判断するようにすれば良い。

【１８１４】

また、通常状態において普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６７（図１３５参照）に球が入球したことを検出した場合に、右打ち警告画像を表示させるように構成することが容易だが、これに限られるものではない。例えば、大当たり遊技中や小当たり遊技中以外の状態において、特定入賞口Ｂ６５ａへと球が入賞（入球）したことを検出した場合に、不正遊技（右打ち遊技に限らず、例えば、可変入賞装置Ｂ６５に負荷を与えて特定入賞口Ｂ６５ａを開放させ、遊技球を無理やり入球させる遊技態様も含む）が行われていると判別して、右打ち警告画像を表示させるように構成してもよい。これにより、ホールの店員は右打ち警告画像の有無を確認するだけで容易に不正の有無を判別することができる。

【１８１５】

また、例えば、大当たり遊技中や小当たり遊技中以外の状態において、特定入賞口Ｂ６５ａへと球が入球したことを検出した場合に、ホールコンピュータに対して不正が行われていることを示す信号を出力するように構成してもよい。これにより、ホールコンピュータの操作者は容易に不正が行われている可能性の有無、および不正行為が行われているパチンコ機Ｂ１０の台番号（位置）を判断することができる。

【１８１６】

また、例えば、可変表示装置ユニットＢ８０の右側流路を狭めることで、遊技球が通過せざるを得ない範囲を構成し、その範囲に、遊技球の通過を検出可能な検出センサを配設するようにしても良い。この場合、その検出センサにより遊技球の通過が検出されたことに基づいて、右打ちが行われていると判断することができる。

【１８１７】

また、例えば、可変表示装置ユニットＢ８０の最上位置（図１３５における左右中心位置に相当）よりも左側に配置される可動部材（例えば、風車）の変位を検出可能な検出センサを配設しても良い。この場合、遊技球の打ち出しが行われている場合に、予想される動作タイミングを過ぎても可動部材の変位が検出されないことに基づいて、右打ちが行われていると判断することができる。

【１８１８】

本実施形態では、第１入賞口Ｂ６４の下側には可変入賞装置Ｂ６５が配設されており、その略中央部分に横長矩形状の特定入賞口（大開放口）Ｂ６５ａが設けられている。

【１８１９】

パチンコ機Ｂ１０においては、第２入賞口Ｂ６４０への入賞に起因して行われた特別図柄の抽選で小当たりになると、所定時間（変動時間）が経過した後に、小当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｂ３７Ｂを点灯させる。加

えて、その小当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｂ８１に表示させて、小当たりの発生が報知される。その後、球が入賞し易い小当たり遊技が実行される。この小当たり遊技として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｂ６５ａが、所定時間（例えば、１．８秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される。

【１８２０】

また、パチンコ機Ｂ１０においては、第１入賞口Ｂ６４、第３入賞口Ｂ６４ｂ、または第２入賞口Ｂ６４０への入賞に起因して行われた特別図柄の抽選で大当たりになると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｂ３７Ｂを点灯させる。加えて、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｂ８１に表示させて、大当たりの発生が報知される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個（規定個数）入賞するまで）開放される。

【１８２１】

この特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量（本実施形態では、１個の球の入賞に基づき１５個）の賞球の払い出しが行われる。

【１８２２】

可変入賞装置Ｂ６５は、具体的には、特定入賞口Ｂ６５ａを覆う横長矩形状の開閉板と、その開閉板を開閉駆動するための大開放口ソレノイド（図示せず）とを備えている。特定入賞口Ｂ６５ａは、通常時は、球が入賞できないか又は入賞し難い閉状態になっている。大当たりの際には大開放口ソレノイドを駆動して開閉板を前方に傾倒させ、球が特定入賞口Ｂ６５ａに入賞しやすい開状態を一時的に形成し、その開状態と通常時の閉状態との状態を交互に繰り返すように作動する。なお、第２特定入賞口Ｂ７００ａの開閉態様については後述する。

【１８２３】

可変入賞装置Ｂ６５は、入賞ユニットＢ４００の内部を経由した球のみでなく、入賞ユニットＢ４００には入球せずに入賞ユニットＢ４００の左右外方を釘ＢＫＧ１に案内されて流下する球も入球し得るように、横方向の長さが設計されている。即ち、特定入賞口Ｂ６５ａの横幅は、入賞ユニットＢ４００の横幅よりも長くなるように設計されている。

【１８２４】

入賞ユニットＢ４００の内部に案内され易いか否かは、入賞ユニットＢ４００よりも上流側に配設される釘ＢＫＧ１の状態によって変化するが、本実施形態では、釘ＢＫＧ１の状態によって、遊技者が有利になりすぎたり不利になりすぎたりすることを防止することができる（有利さのバランスをとることができる）。

【１８２５】

即ち、例えば、入賞ユニットＢ４００の内部に球が高い確率で案内され易い場合、入賞ユニットＢ４００の内部を介して球が案内される第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに球を通過させて抽選を受ける時短中や、確変中においては、特別図柄の抽選を頻繁に受けることができ遊技者にとって有利となる。

【１８２６】

一方で、大当たり遊技や小当たり遊技において可変入賞装置Ｂ６５に球を入球させる場合には、入賞ユニットＢ４００の内部に入った球は可変入賞装置Ｂ６５に到達する前に第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに拾われてしまい、特定入賞口Ｂ６５ａにまで到達する球は少なくなる。加えて、入賞ユニットＢ４００から逸れて、入賞ユニットＢ４００の左右外方を流下する球も少ないとなれば、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球により頻度よく賞球の払い出しを受けるという遊技には不利である。

【１８２７】
　また、例えば、入賞ユニットＢ４００の内部に球が案内される確率が低い場合、入賞ユニットＢ４００の内部を介して球が案内される第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに球を通過させて抽選を受ける時短中や、確変中においては、特別図柄の抽選を受ける間隔が長くなり易く、遊技効率の面から遊技者にとって不利となる。
【１８２８】
　一方で、大当たり遊技や小当たり遊技において可変入賞装置Ｂ６５に球を入球させる場合には、入賞ユニットＢ４００の内部に入る球自体が少ないので、第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂに拾われてしまい、特定入賞口Ｂ６５ａにまで到達することができないという球自体が少なくなる。加えて、入賞ユニットＢ４００から逸れて、入賞ユニットＢ４００の左右外方を流下する球は多くなるので、特定入賞口Ｂ６５ａが開状態となった時に、多数の球を特定入賞口Ｂ６５ａに入球させ、多量の賞球の払い出しを受けることが期待できるので、遊技者にとって有利となる。
【１８２９】
　このように、釘ＢＫＧ１の状態によって入賞ユニットＢ４００の内部に球が案内され易い場合と球が案内され難い場合とが生じたとしても、釘ＢＫＧ１の状態が、特別図柄の抽選を獲得し大当たりを目指す期間において遊技者にとって有利に働く場合には、大当たり遊技中において遊技者にとって不利に働かせることができる一方で、釘ＢＫＧ１の状態が、特別図柄の抽選を獲得し大当たりを目指す期間において遊技者にとって不利に働く場合には、大当たり遊技中において遊技者にとって有利に働かせることができる。これにより、釘ＢＫＧ１の状態によって、遊技者が有利になりすぎたり不利になりすぎたりすることを防止することができる（有利さのバランスをとることができる）。
【１８３０】
　なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａの開放中に、球が特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。
【１８３１】
　また、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａは２つに限るものではなく、１つや、３以上の複数（例えば３つ）配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｂ６４の下側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＢ８０の左右側や上側でも良い。
【１８３２】
　遊技盤Ｂ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＢＫ１が設けられ、貼着スペースＢＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｂ１４の小窓Ｂ３５（図１３４参照）を通じて視認することができる。
【１８３３】
　遊技盤Ｂ１３には、第１アウト口Ｂ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｂ６３，Ｂ６４，Ｂ６４ｂ，Ｂ６５ａ，Ｂ６４０，Ｂ７００ａにも入賞しなかった球は、第１アウト口Ｂ７１、左アウト口Ｂ７１Ｌ又は右アウト口Ｂ７１Ｒを通って図示しない球排出路へと案内される。
【１８３４】
　第１アウト口Ｂ７１は、第１入賞口Ｂ６４の下方に配設される。左アウト口Ｂ７１Ｌは、特定入賞口Ｂ６５ａの左方に配設され、右アウト口Ｂ７１Ｒは、特定入賞口Ｂ６５ａの右方に配設される。
【１８３５】
　本実施形態では、特定入賞口Ｂ６５ａの配置を遊技領域の下縁付近としているので、内

レールＢ６１と特定入賞口Ｂ６５ａとの間の隙間が狭い。そのため、特定入賞口Ｂ６５ａの左右外方において遊技領域の下縁を転動する複数の球が全て第１アウト口Ｂ７１へ向かうように構成すると、内レールＢ６１と特定入賞口Ｂ６５ａとの間に球詰まりが生じる可能性があり、遊技を中断させる要因となる。

【１８３６】

これに対し、本実施形態では、左アウト口Ｂ７１Ｌ及び右アウト口Ｂ７１Ｒが配設されることで、特定入賞口Ｂ６５ａの左右外方において遊技領域の下縁を転動する球が第１アウト口Ｂ７１へ向かう前に、その球を、左アウト口Ｂ７１Ｌ又は右アウト口Ｂ７１Ｒを通って図示しない球排出路へと排出することができる。これにより、内レールＢ６１と特定入賞口Ｂ６５ａとの間で球詰まりが生じる事態を回避することができるので、遊技が中断することを回避することができる。

【１８３７】

遊技盤Ｂ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘ＢＫＧ１が植設されているとともに、風車ＢＷＦ等の各種部材（役物）とが配設されている。

【１８３８】

図１３６に示すように、パチンコ機Ｂ１０の背面側には、制御基板ユニットＢ９０，Ｂ９１と、裏パックユニットＢ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＢ９０は、主基板（主制御装置Ｂ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｂ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｂ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＢ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｂ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｂ１１２）と電源基板（電源装置Ｂ１１５）とカードユニット接続基板Ｂ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【１８３９】

裏パックユニットＢ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＢ９２と払出ユニットＢ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。

【１８４０】

なお、主制御装置Ｂ１１０、音声ランプ制御装置Ｂ１１３および表示制御装置Ｂ１１４、払出制御装置Ｂ１１１および発射制御装置Ｂ１１２、電源装置Ｂ１１５、カードユニット接続基板Ｂ１１６は、それぞれ基板ボックスＢ１００～Ｂ１０４に収納されている。基板ボックスＢ１００～Ｂ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。

【１８４１】

また、基板ボックスＢ１００（主制御装置Ｂ１１０）および基板ボックスＢ１０２（払出制御装置Ｂ１１１および発射制御装置Ｂ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＢ１００，Ｂ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＢ１００，Ｂ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＢ１００，Ｂ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。

【１８４２】

払出ユニットＢ９３は、裏パックユニットＢ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＢ１３０と、タンクＢ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＢ１３１と、タンクレールＢ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレール

Ｂ１３２と、ケースレールＢ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＢ２１６（図１３７参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｂ１３３とを備えている。タンクＢ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｂ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＢ１３１には、当該タンクレールＢ１３１に振動を付加するためのバイブレータＢ１３４が取り付けられている。

【１８４３】

また、払出制御装置Ｂ１１１には状態復帰スイッチＢ１２０が設けられ、発射制御装置Ｂ１１２には可変抵抗器の操作つまみＢ１２１が設けられ、電源装置Ｂ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＢ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＢ１２０は、例えば、払出モータＢ２１６（図１３７参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＢ１２１は、発射ソレノイドの発射力を調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＢ１２２は、パチンコ機Ｂ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。

【１８４４】

次に、図１３７を参照して、本パチンコ機Ｂ１０の電気的構成について説明する。図１３７は、パチンコ機Ｂ１０の電気的構成を示すブロック図である。

【１８４５】

主制御装置Ｂ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵＢ２０１が搭載されている。ＭＰＵＢ２０１には、該ＭＰＵＢ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭＢ２０２と、そのＲＯＭＢ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭＢ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｂ１１０では、ＭＰＵＢ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂおよび第３図柄表示装置Ｂ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｂ１０の主要な処理を実行する。

【１８４６】

なお、払出制御装置Ｂ１１１や音声ランプ制御装置Ｂ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｂ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｂ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。

【１８４７】

ＲＡＭＢ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＢ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＢ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＢ２０３は、パチンコ機Ｂ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｂ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＢ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。

【１８４８】

停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＢ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＢ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｂ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＢ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＢ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＢ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｂ２５２からの停電信号ＢＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＢＳＧ１がＭＰＵＢ２０１へ入力されると、停電時処

理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【１８４９】
主制御装置Ｂ１１０のＭＰＵＢ２０１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスラインＢ２０４を介して入出力ポートＢ２０５が接続されている。入出力ポートＢ２０５には、払出制御装置Ｂ１１１、音声ランプ制御装置Ｂ１１３、第１図柄表示装置Ｂ３７Ａ，Ｂ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｂ６５ａの開閉板の下辺を軸として前方側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＢ２０９が接続され、ＭＰＵＢ２０１は、入出力ポートＢ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。
【１８５０】
また、入出力ポートＢ２０５には、図示しないスイッチ群およびスライド位置検出センサＳや回転位置検出センサＲを含むセンサ群などからなる各種スイッチＢ２０８、電源装置Ｂ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｂ２５３が接続され、ＭＰＵＢ２０１は各種スイッチＢ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｂ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＢＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。
【１８５１】
払出制御装置Ｂ１１１は、払出モータＢ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＢ２１１は、そのＭＰＵＢ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＢ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＢ２１３とを有している。
【１８５２】
払出制御装置Ｂ１１１のＲＡＭＢ２１３は、主制御装置Ｂ１１０のＲＡＭＢ２０３と同様に、ＭＰＵＢ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＢ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＢ２１３は、パチンコ機Ｂ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｂ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＢ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｂ１１０のＭＰＵＢ２０１と同様、ＭＰＵＢ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｂ２５２から停電信号ＢＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＢＳＧ１がＭＰＵＢ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【１８５３】
払出制御装置Ｂ１１１のＭＰＵＢ２１１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスラインＢ２１４を介して入出力ポートＢ２１５が接続されている。入出力ポートＢ２１５には、主制御装置Ｂ１１０や払出モータＢ２１６、発射制御装置Ｂ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｂ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｂ１１１に接続されるが、主制御装置Ｂ１１０には接続されていない。
【１８５４】
発射制御装置Ｂ１１２は、主制御装置Ｂ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＢ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＢ１１２ａを制御するものである。球発射ユニットＢ１１２ａは、図示しない発射ソレノイドおよび電磁石を備えており、その発射ソレノイドおよび電磁石は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＢ５１に触れていることをタッチセンサＢ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＢ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＢ５１の回動操作量（回動位置）に対応して発射ソレノイドが励磁され、操作ハンドルＢ５１の操作量に応じた強さで球が発射される。

【１８５５】
音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカなど）Ｂ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｂ２９～Ｂ３３、表示ランプＢ３４など）Ｂ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｂ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｂ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＢ２２１は、そのＭＰＵＢ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＢ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＢ２２３とを有している。
【１８５６】
音声ランプ制御装置Ｂ１１３のＭＰＵＢ２２１には、アドレスバスおよびデータバスで構成されるバスラインＢ２２４を介して入出力ポートＢ２２５が接続されている。入出力ポートＢ２２５には、主制御装置Ｂ１１０、表示制御装置Ｂ１１４、音声出力装置Ｂ２２６、ランプ表示装置Ｂ２２７、その他装置Ｂ２２８、枠ボタンＢ２２などがそれぞれ接続されている。
【１８５７】
音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、主制御装置Ｂ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｂ１１４へ通知する。また、音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、枠ボタンＢ２２からの入力を監視し、遊技者によって枠ボタンＢ２２が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｂ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｂ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｂ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｂ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｂ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｂ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｂ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｂ８１に各種の画像を表示する。
【１８５８】
また、音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、表示制御装置Ｂ１１４から第３図柄表示装置Ｂ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｂ１１３では、表示制御装置Ｂ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｂ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｂ２２７の点灯および消灯を制御する。
【１８５９】
表示制御装置Ｂ１１４は、音声ランプ制御装置Ｂ１１３および第３図柄表示装置Ｂ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｂ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｂ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｂ１１４は、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｂ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｂ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示と音声出力装置Ｂ２２６からの音声出力とをあわせることができる。
【１８６０】
電源装置Ｂ１１５は、パチンコ機Ｂ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｂ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｂ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＢ１２２（図１３６参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｂ２５３とを有している。電源部Ｂ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｂ１１０～Ｂ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｂ２５１は、

外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＢ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＢ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧およびバックアップ電圧を各制御装置Ｂ１１０～Ｂ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【１８６１】

停電監視回路Ｂ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｂ１１０のＭＰＵＢ２０１および払出制御装置Ｂ１１１のＭＰＵＢ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＢＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｂ２５２は、電源部Ｂ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＢＳＧ１を主制御装置Ｂ１１０および払出制御装置Ｂ１１１へ出力する。停電信号ＢＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｂ１１０および払出制御装置Ｂ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｂ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｂ１１０および払出制御装置Ｂ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【１８６２】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｂ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＢ１２２（図１３６参照）が押下された場合に、主制御装置Ｂ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＢＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｂ１１０は、パチンコ機Ｂ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＢＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータをクリアすると共に、払出制御装置Ｂ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｂ１１１に対して送信する。

【１８６３】

次いで、入賞ユニットＢ４００の全体構成について説明する。図１３８は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図であり、図１３９は、入賞ユニットＢ４００の背面斜視図である。図１３８及び図１３９に示すように、入賞ユニットＢ４００は、ベース板Ｂ６０（図１３５参照）の開口部を塞ぐようにしてベース板Ｂ６０の正面に締結固定される場合にベース板Ｂ６０に螺入される締結ネジが挿通される複数の挿通孔Ｂ４１１が穿設される板部材Ｂ４１０を備える。

【１８６４】

即ち、板部材Ｂ４１０よりも正面側の部分は、ベース板Ｂ６０（図１３５参照）とガラスユニットＢ１６（図１３４参照）との間に配設される部分であり、板部材Ｂ４１０よりも背面側の部分は、ベース板Ｂ６０のガラスユニットＢ１６に対向する前側面よりも背面側に配設される部分である。

【１８６５】

入賞ユニットＢ４００の板部材Ｂ４１０は、上端部左右中央位置に、上方からの球を受け、その球を後方へ送球可能な形状で形成される球受部Ｂ４１２を備え、球受部Ｂ４１２から後方へ送球された球が遊技盤Ｂ１３の第１入賞口Ｂ６４（図１３５参照）に入球する。

【１８６６】

入賞ユニットＢ４００の内側に案内された球の内、一部の球は第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）に入賞するよう構成されている。その球は、入賞ユニットＢ４００の内側において一度後方へ送球されてから、流下方向が前後逆転し、再び板部材Ｂ４１０の正面側に配置された後で、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入賞するが、球の流下の詳細は後述する。

【１８６７】

図１４０及び図１４２は、入賞ユニットＢ４００の分解正面斜視図であり、図１４１及

び図１４３は、入賞ユニットＢ４００の分解背面斜視図である。図１４０及び図１４１では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態（前進閉鎖状態）が図示され、図１４２及び図１４３では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）が図示される。なお、非励磁状態と励磁状態とにおける電動役物Ｂ６４０ａの配置の詳細については後述する。

【１８６８】

図１４０から図１４３に図示されるように、入賞ユニットＢ４００は、ベース板Ｂ６０（図１３５参照）に締結固定される板部材Ｂ４１０と、その板部材Ｂ４１０の正面側に配設され板部材Ｂ４１０に締結固定される前意匠部材Ｂ４２０と、板部材Ｂ４１０の背面側に配設され板部材Ｂ４１０に締結固定される中段部材Ｂ４３０と、その中段部材Ｂ４３０の上側に配設され中段部材Ｂ４３０に締結固定される上段部材Ｂ４４０と、中段部材Ｂ４３０と上段部材Ｂ４４０との間において中段部材Ｂ４３０に前後スライド移動可能に支持され電動役物Ｂ６４０ａを構成するスライド部材Ｂ４５０と、を備える。

【１８６９】

板部材Ｂ４１０は、光透過性の樹脂材料から形成され、左右中央位置において球が通過可能の左右幅で上下方向に長い略矩形状で穿設される中央開口部Ｂ４１３と、その中央開口部Ｂ４１３の上端部よりも右上側においてスライド部材Ｂ４５０の前側先端部に乗った後の球が通過可能な大きさで穿設される球通過開口Ｂ４１４と、その球通過開口Ｂ４１４の下側に連続的に形成され球通過開口Ｂ４１４の左右幅よりも左右外側に拡大されスライド部材Ｂ４５０が挿通可能とされる摺動開口Ｂ４１５と、その摺動開口Ｂ４１５の下側に連続的に形成され中段部材Ｂ４３０の突出部Ｂ４３７ａの外形に対応する略矩形状で穿設され突出部Ｂ４３７ａが挿通支持される支持開口Ｂ４１６と、その支持開口Ｂ４１６の下側に連続的に形成され球が通過可能な左右幅で穿設される球排出開口Ｂ４１７と、を備える。

【１８７０】

なお、球通過開口Ｂ４１４、摺動開口Ｂ４１５、支持開口Ｂ４１６及び球排出開口Ｂ４１７は、左右対称に構成されることから、左側の構成については同じ符号を付し、説明を省略する。

【１８７１】

中央開口部Ｂ４１３は、中段部材Ｂ４３０の中央流路Ｂ４３１に案内され正面側へ流下した球が正面側に通過する開口である。また、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）では、球が背面側に通過して第２入賞口スイッチ（後述する検出センサＢ４６２）に案内される開口としても機能するが、詳細は後述する。

【１８７２】

球通過開口Ｂ４１４は、板部材Ｂ４１０の正面側において非励磁状態（図１３８参照）におけるスライド部材Ｂ４５０に乗った球が通過可能となる開口である。即ち、スライド部材Ｂ４５０上に受け止められた球は球通過開口Ｂ４１４を通過することで板部材Ｂ４１０の背面側に案内される。

【１８７３】

摺動開口Ｂ４１５は、スライド部材Ｂ４５０の前後動作時においてスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１を摺動させる態様で支持する開口である。板部材Ｂ４１０は、摺動開口Ｂ４１５の左右端部から、摺動開口Ｂ４１５の内側面の形状を維持しながら後方に延設されるスライド支持部Ｂ４１８を備える。これにより、摺動開口Ｂ４１５よりも後方位置でスライド部材Ｂ４５０を支持することができるので、スライド部材Ｂ４５０が摺動開口Ｂ４１５の前後幅以上の変位幅でスライド変位する場合であっても、スライド部材Ｂ４５０の変位を安定させることができる。

【１８７４】

支持開口Ｂ４１６を通して、中段部材Ｂ４３０の突出部Ｂ４３７ａが正面側に張り出される。中段部材Ｂ４３０の突出部Ｂ４３７ａには、板部材Ｂ４１０よりも前側において球の通過を検出可能な検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａが配設されている。即ち、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０に受け止められた球の内、スライド部材Ｂ４５０が励磁状

態とされる前に球通過開口Ｂ４１４を通過しなかった球は、その真下において支持開口Ｂ４１６の前側に配設される開口Ｂ４３５ａを通過する。

【１８７５】

球排出開口Ｂ４１７は、支持開口Ｂ４１６の前側に配設される開口Ｂ４３５ａを通過した球の通過を許容して、背面側に送球するための開口部である。

【１８７６】

前意匠部材Ｂ４２０は、光透過性の樹脂材料から形成され、意匠面を構成する前板部Ｂ４２１と、その前板部Ｂ４２１の左右中央位置上端部において球受部Ｂ４１２の下縁部を受け入れ可能な形状で背面側に突設形成される接合部Ｂ４２２と、その接合部Ｂ４２２の下端部から左右一対で下方に延設される一対の仕切り板Ｂ４２３と、その仕切り板Ｂ４２３の下側部において中段部材Ｂ４３０の突出部Ｂ４３７ａを支持可能な高さ位置で左右外方に突出形成される支持部Ｂ４２４と、その支持部Ｂ４２４よりも下側において球の流下経路を構成する湾曲壁として前板部Ｂ４２１から後方に突出形成される湾曲壁部Ｂ４２５と、接合部Ｂ４２２の上縁部から左右外側へ向けて突設形成され球の流下方向を変化可能に形成される左右一対の軒部Ｂ４２６と、その軒部Ｂ４２６よりも左右外側かつ下側において前板部Ｂ４２１の後側面から後側に突設形成される左右一対の球案内突条Ｂ４２７と、を備える。

【１８７７】

前意匠部材Ｂ４２０が光透過性の樹脂材料から形成されていることから、前板部Ｂ４２１が前側から覆う態様であっても、前板部Ｂ４２１を通してその背面側の構成や、流下する球を視認することができる。即ち、電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０や、傾倒部材Ｂ４７０）の状態や、前板部Ｂ４２１の背面側における球の流下態様を、遊技者は視認することができる。

【１８７８】

接合部Ｂ４２２が、板部材Ｂ４１０の球受部Ｂ４１２の下縁との継ぎ目が目立たないように球受部Ｂ４１２を受入可能な形状から形成されているので、球受部Ｂ４１２と前板部Ｂ４２１とを正面視で一体的に見せることができる（図１３８参照）。

【１８７９】

そのため、球受部Ｂ４１２と前板部Ｂ４２１とに別々の意匠を形成する設計ばかりでなく、球受部Ｂ４１２と前板部Ｂ４２１とを組み合わせて完成する意匠を形成するよう設計しても良い。

【１８８０】

接合部Ｂ４２２は、板部材Ｂ４１０の正面側における球の流下方向を制限する機能をも有している。即ち、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０上に受け止められた球が左右内側に流下する勢いで、直接左右中央位置に流れ込むことは、接合部Ｂ４２２と衝突することにより防止される。即ち、スライド部材Ｂ４５０上に受け止められた球の流下経路は、スライド部材Ｂ４５０の状態と、接合部Ｂ４２２とにより制限されることになる。

【１８８１】

そのため、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０に受け止められた球はスライド部材Ｂ４５０に乗って後方へ案内されるか、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられることで、支持開口Ｂ４１６の前側に配設される開口Ｂ４３５ａへ案内されることになる。

【１８８２】

仕切り板Ｂ４２３は、板部材Ｂ４１０の正面側における球の流下方向を制限する機能を有している。即ち、仕切り板Ｂ４２３が配設されることにより、中央開口部Ｂ４１３を正面側に通過した球が左右外側に排出されることを防止して、専ら下方に流下するように球の流下経路を制限している。

【１８８３】

湾曲壁部Ｂ４２５は、球の流下経路が左右外側へ流れるように形成されている。これにより、湾曲壁部Ｂ４２５に案内されて球排出開口Ｂ４１７を通り後方へ流れる球と、中央開口部Ｂ４１３を通り後方へ流れる球と、を正面視で区別し易くしている。

【１８８４】
また、球の流下経路が左右外側へ流れないよう形成される場合と異なり、中央開口部Ｂ４１３の前後位置と球排出開口Ｂ４１７の前後位置との左右間隔を空けることで、特定の部材を配置するスペースを確保することができる。なお、本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａに駆動力を伝達させるための部材（第１部材Ｂ４８１）を配置するためのスペース（受入凹部Ｂ４６５）が形成されるが、詳細は後述する。
【１８８５】
軒部Ｂ４２６は、上側面が、接合部Ｂ４２２の上側面と同一傾斜の平滑面として形成され、接合部Ｂ４２２の左右側上側面に乗った球の流下方向を左右外側方向へ切り替える部分として機能するが、詳細は後述する。
【１８８６】
球案内突条Ｂ４２７は、スライド部材Ｂ４５０に乗った球の内、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａへ向けて流下する球の流下経路に沿って形成されており、流下する球と接触する部分として機能する。
【１８８７】
これにより、長期間使用して球と擦れることにより前板部Ｂ４２１の後側面が摩耗してすり減る場合であっても、球案内突条Ｂ４２７の先端部からすり減らすことができるので、球と前板部Ｂ４２１の後側面との接触面積を小さいまま維持することができる。
【１８８８】
また、前意匠部材Ｂ４２０は光透過性の樹脂材料から形成されているので、正面側に生じるか背面側に生じるかに寄らず、擦り傷により透過の程度が低下する。換言すれば、擦り傷が発生する面積が大きいほど、前意匠部材Ｂ４２０を通して前意匠部材Ｂ４２０の後ろ側に配設される部材を視認し難くなる。本実施形態では、前意匠部材Ｂ４２０の背面側を流下する球の視認性を確保するために、前意匠部材Ｂ４２０の透過の程度を高く維持しておくことが望ましい。
【１８８９】
これに対し、本実施形態では、擦り傷の発生箇所を、球案内突条Ｂ４２７に限定することができるので、前意匠部材Ｂ４２０に生じる擦り傷を最低限に抑え、且つ、流下する球の視認性を確保することができる。
【１８９０】
中段部材Ｂ４３０は、スライド部材Ｂ４５０を下支えする部材であって、スライド部材Ｂ４５０に左右方向から挟まれる位置に形成される中央流路Ｂ４３１と、非励磁状態におけるスライド部材Ｂ４５０の下側に配設される左右一対の検出センサＢ４３５と、を備える。
【１８９１】
中央流路Ｂ４３１は、球の直径よりも若干長い左右幅で形成され正面側へ向けて下降傾斜する底面部Ｂ４３１ａと、底面部Ｂ４３１ａの左右において球の通過を防止するように上方へ立設される左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３と、底壁部４３１ａの後方において球の通過を防止するように上方へ立設される後壁部Ｂ４３４と、を備える。
【１８９２】
左壁部Ｂ４３２は、後壁部Ｂ４３４との間に球の直径よりも若干長い前後幅の隙間Ｂ４３２ａを確保するよう構成され、右壁部Ｂ４３３は、後壁部Ｂ４３４との間に球の直径よりも若干長い前後幅の隙間Ｂ４３３ａを確保するよう構成される。
【１８９３】
隙間Ｂ４３３ａは、隙間Ｂ４３２ａよりも正面側にずれた位置に配置されている。本実施形態では、隙間Ｂ４３２ａの前側端部と隙間Ｂ４３３ａの後側端部との前後方向位置がおおよそ合致するよう隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａが配設される。
【１８９４】
左壁部Ｂ４３２は、後端部から上半部が切り欠かれたような形状で位置合わせ部Ｂ４３２ｂが形成される。右壁部Ｂ４３３は、後端部から上半部が切り欠かれたような形状で位

置合わせ部Ｂ４３３ｂが形成される。位置合わせ部Ｂ４３２ｂ，Ｂ４３３ｂは、上段部材Ｂ４４０を中段部材Ｂ４３０に組み付ける際の位置合わせに利用されるが、詳細は後述する。

【１８９５】

左壁部Ｂ４３２は、後側部において、中央流路Ｂ４３１に面する右側面は平滑面とされる一方で、中央流路Ｂ４３１に面していない左側面に前側部よりも左右幅が短くなるよう切欠き部Ｂ４３２ｃが形成される。

【１８９６】

右壁部Ｂ４３３は、後側部において、中央流路Ｂ４３１に面する左側面は平滑面とされる一方で、中央流路Ｂ４３１に面していない右側面に前側部よりも左右幅が短くなるよう切欠き部Ｂ４３３ｃが形成される。

【１８９７】

切欠き部Ｂ４３２ｃ，Ｂ４３３ｃは、同様の前後幅で形成され、スライド移動時のスライド部材Ｂ４５０の傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａとの干渉を回避するよう機能するが、詳細は後述する。

【１８９８】

後壁部Ｂ４３４は、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの後端部を結ぶ湾曲壁部として形成される。これにより、隙間Ｂ４３２ａを通過して後壁部Ｂ４３４に当接した球を、正面側へ滑らかに方向転換させることができる。

【１８９９】

検出センサＢ４３５は、球の通過が検出されても図柄の抽選を伴わない検出センサとして構成される。即ち、球が検出センサＢ４３５を通過した場合に、特別図柄の抽選も普通図柄の抽選も実行されず、賞球の払い出しが実行される。本実施形態では、検出センサＢ４３５に１個の球の入賞が検出されることに対応して、５個の賞球が払い出されるよう制御される。

【１９００】

上段部材Ｂ４４０は、光透過性の樹脂材料から形成され、球受部Ｂ４１２に受け入れられた球が流下するための後方へ下降傾斜する流路を構成する上側流路構成部Ｂ４４１と、その上側流路構成部Ｂ４４１を流下した球を検出する検出センサＢ４４２と、上側流路構成部Ｂ４４１の上蓋として締結固定され検出センサＢ４４２を上側流路構成部Ｂ４４１に固定するための上蓋部材Ｂ４４３と、少なくとも中段部材Ｂ４３０の中央流路Ｂ４３１の天井部を構成する天井構成部Ｂ４４４と、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球の流下を案内する左側壁部Ｂ４４５及び右側壁部Ｂ４４６と、を備える。

【１９０１】

上段部材Ｂ４４０が光透過性の樹脂材料から形成されていることで、ベース板Ｂ６０を介して入賞ユニットＢ４００を見下ろす遊技者視線において、上段部材Ｂ４４０の下側にある球流路（中央流路Ｂ４３１及びスライド部材Ｂ４５０に案内される流路）を、上段部材Ｂ４４０越しに視認させることができる。即ち、遊技者は、スライド部材Ｂ４５０上を転動し、中央流路Ｂ４３１を流下する球を視認することができる。

【１９０２】

検出センサＢ４４２は、第１入賞口Ｂ６４（図１３５参照）に入球した球を検出する。即ち、球が検出センサＢ４４２を通過した場合に、特別図柄１の抽選が実行され、賞球の払い出しが実行される。

【１９０３】

上蓋部材Ｂ４４３は、左側へ球が流れる経路が左側壁部Ｂ４４５の後端部よりも後側に配置されている。これにより、上側流路構成部Ｂ４４１を流下する球が左壁部４４５により案内される流路の上側に配置される事態が生じることを回避することができる。これにより、左壁部４４５により案内される球の視認性が、上側流路構成部Ｂ４４１を流下する球により低下することを回避することができる。

【１９０４】

左側壁部Ｂ４４５は、前後方向に延び、後方端部で左右中央側へ向けて湾曲する壁部として形成される。湾曲部分の左右中央側の先端部の前後位置は、中段部材Ｂ４３０の後壁部Ｂ４３４の左側端部の前後位置と合致する。

【１９０５】

右側壁部Ｂ４４６は、前後方向に延び、後方端部で左右中央側へ向けて湾曲する壁部として形成される。湾曲部分の左右中央側の先端部の前後位置は、中段部材Ｂ４３０の後壁部Ｂ４３４の右側端部の前後位置と合致する。

【１９０６】

即ち、左側壁部Ｂ４４５及び右側壁部Ｂ４４６は共に、中段部材Ｂ４３０の隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの後端部を形成する後壁部Ｂ４３４と連なるように形成され、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａに球を案内するよう構成されている。つまり、左側壁部Ｂ４４５の後端部よりも、右側壁部Ｂ４４６の後端部の方が、正面側にずれた位置に配置されている。

【１９０７】

スライド部材Ｂ４５０は、非透過性の樹脂材料から形成され、左右一対の先端部Ｂ４５１と、その先端部Ｂ４５１の左右内側部から後方に延設される左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３と、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３を後方端部において連結固定する中央固定部Ｂ４５４と、を備える。

【１９０８】

スライド部材Ｂ４５０が非透過性の樹脂材料から形成されることにより、スライド部材Ｂ４５０の下側を流下する球（例えば、下段部材Ｂ４６０の左右経路Ｂ４６３を流下する球）をスライド部材Ｂ４５０により隠す（見え難いように遮蔽する）ことができる。これにより、中段部材Ｂ４３０が光透過性の樹脂材料から形成される場合においても、スライド部材Ｂ４５０上を転動する球と、スライド部材Ｂ４５０の下側を流下する球（例えば、下段部材Ｂ４６０の左右経路Ｂ４６３を流下する球）とが、遊技者目線（入賞ユニットＢ４００を正面側から斜め下方向に見下ろす目線）方向で重なって見える事態の発生を回避することができる。

【１９０９】

一対の先端部Ｂ４５１は、中央流路Ｂ４３１を挟んで左右対称形状に形成されると共に、中央流路Ｂ４３１を挟んで左右対称の位置に配置され、水平に対する同角度で左右一対が左右内側へ向けて下降傾斜し、且つ、後側へ向けて左右一対が同角度で下降傾斜する姿勢の板状に形成されている。

【１９１０】

左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３は、先端部Ｂ４５１の傾斜に従いながら後方へ延設されており、その延設長さは、左案内板部Ｂ４５２の方が右案内板部Ｂ４５３よりも長い。従って、後端部における上下位置は、左案内板部Ｂ４５２の方が、右案内板部Ｂ４５３よりも低い。

【１９１１】

左案内板部Ｂ４５２は、後側略半部の右縁部付近に、板上面の右方へ向けた下降傾斜の程度が大きくなるように形成される傾斜面部Ｂ４５２ａを備える。また、右案内板部Ｂ４５３は、後側略半部の左縁部付近に、板上面の左方へ向けた下降傾斜の程度が大きくなるように形成される傾斜面部Ｂ４５３ａを備える。

【１９１２】

傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａは、スライド部材Ｂ４５０が、非励磁状態か、励磁状態かに関わらず、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａに対して左右方向で対向配置されるのに十分な前後幅で形成される。

【１９１３】

即ち、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球が隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａを通過するタイミングにおいて、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態か、励磁状態かに関わらず、球を傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａの傾斜に沿って流すことができるので、流下方向を左右内側へ向く方向に寄せることができる。

【１９１４】
右案内板部Ｂ４５３の方が延設長さを短くされることから、右案内板部Ｂ４５３の後側にスペースを確保することが可能である。本実施形態では、その空いたスペースに電動役物Ｂ６４０ａを駆動するためのソレノイドＢＳＯＬ４１を配設することで、入賞ユニットＢ４００をソレノイドＢＳＯＬ４１の収まりよく（上面視で略正方形となる形状で）構成することができる。
【１９１５】
なお、傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａの形成幅（左右幅）は任意に設定可能とされる。例えば、中央流路Ｂ４３１の底面部Ｂ４３１ａの上方側まで張り出し、上面視で部分的に重なるように構成しても良い。この場合、球の流下をスムーズにすることができる。
【１９１６】
図１４４及び図１４６は、入賞ユニットＢ４００の分解正面斜視図であり、図１４５及び図１４７は、入賞ユニットＢ４００の分解背面斜視図である。図１４４から図１４７では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、中段部材Ｂ４３０よりも下層の部材についても分解して図示される。また、図１４４及び図１４５では、入賞ユニットＢ４００を斜め上から視認する状態が図示され、図１４６及び図１４７では、入賞ユニットＢ４００を斜め下から視認する状態が図示される。
【１９１７】
入賞ユニットＢ４００は、中段部材Ｂ４３０の下側に配設され中段部材Ｂ４３０に締結固定される下段部材Ｂ４６０と、中段部材Ｂ４３０と下段部材Ｂ４６０との間において下段部材Ｂ４６０に前後傾倒可能に支持され電動役物Ｂ６４０ａを構成する傾倒部材Ｂ４７０と、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力をスライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０に伝達する伝達部材Ｂ４８０と、を備える。
【１９１８】
まず、図１４４から図１４７を参照して、入賞ユニットＢ４００の、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０、中段部材Ｂ４３０、上段部材Ｂ４４０及びスライド部材Ｂ４５０の構成について追加の説明をする。
【１９１９】
前意匠部材Ｂ４２０は、一対の仕切り板Ｂ４２３の左右中間位置から左右外側に若干ずれた位置において、球の流下を案内する一対の突条部として形成される球案内突条Ｂ４２８を備える。
【１９２０】
球案内突条Ｂ４２８の突設先端部（後端部）は、前側へ向けて下降傾斜する形状とされているので、後側から到達した球が案内される場合に、球に下向きの負荷を与えやすくすることができ、球が後側に跳ね返ることを回避し易くすることができる。
【１９２１】
球案内突条Ｂ４２８は、板部材Ｂ４１０の中央開口部Ｂ４１３を正面側に通過した球の流下経路に沿って形成されており、流下する球と接触する部分として機能する。球案内突条Ｂ４２８は、流下する球の左右中心よりも左右外側にずれた一対の突条から形成されている。これにより、球案内突条Ｂ４２８の左右内側角部に球が接触し易くすることができるので、球案内突条Ｂ４２８の摩耗が角部から生じるようにすることができる。これにより、球案内突条Ｂ４２８の左右中央部の破損を抑制することができる。
【１９２２】
これにより、長期間使用して球と擦れることにより前板部Ｂ４２１の後側面が摩耗してすり減る場合であっても、球案内突条Ｂ４２８の先端部からすり減らすことができるので、球と前板部Ｂ４２１の後側面との接触面積を小さいまま維持することができる。
【１９２３】
また、前意匠部材Ｂ４２０は光透過性の樹脂材料から形成されているので、正面側に生じるか背面側に生じるかに寄らず、擦り傷により透過の程度が低下する。換言すれば、擦り傷が発生する面積が大きいほど、前意匠部材Ｂ４２０を通して前意匠部材Ｂ４２０の後

ろ側に配設される部材を視認し難くなる。本実施形態では、前意匠部材Ｂ４２０の背面側を流下する球の視認性を確保するために、前意匠部材Ｂ４２０の透過の程度を高く維持しておくことが望ましい。

【１９２４】

これに対し、本実施形態では、擦り傷の発生箇所を、球案内突条Ｂ４２８に限定することができるので、前意匠部材Ｂ４２０に生じる擦り傷を最低限に抑え、且つ、流下する球の視認性を確保することができる。

【１９２５】

中段部材Ｂ４３０は、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３よりも左右外側に延設され検出センサＢ４３５を上側から押さえて支える支持延設部Ｂ４３６と、検出センサＢ４３５を乗せる板形状部材であって支持延設部Ｂ４３６が左右端部において締結固定されるベース板Ｂ４３７と、を備える。

【１９２６】

左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の間に配置される底面部Ｂ４３１ａの反対面側（下面側）において、後端側寄りの位置から鉛直下方に向けて係止板部Ｂ４３１ｂが板状に突設される。係止板部Ｂ４３１ｂは、スライド部材Ｂ４５０の移動終端を規定する部分として機能するが、詳細は後述する。

【１９２７】

支持延設部Ｂ４３６は、上側面が前後方向に沿う平滑面として形成され、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａの上方を開放し球が通過可能な矩形状で穿設される開口部Ｂ４３６ａと、上側面に左右方向に延びる態様で上方へ向けて突設形成される突条部Ｂ４３６ｂと、を備える。

【１９２８】

突条部Ｂ４３６ｂは、中段部材Ｂ４３０の組立状態（図１４２参照）において前側面が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａの縁部と滑らかに連通する位置に配設される。これにより、スライド部材Ｂ４５０の励磁状態（図１４２参照）において先端部Ｂ４５１の正面側を下方に流れる球が先端部Ｂ４５１と検出センサＢ４３５との隙間に入り込んでしまい、意図せず流下が滞ることを回避することができる。即ち、突条部Ｂ４３６ｂにより球の流下を案内することができ、球の流下を滑らかにすることができる。

【１９２９】

また、突条部Ｂ４３６ｂは、スライド部材Ｂ４５０の非励磁状態（図１４０参照）において、先端部Ｂ４５１と左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３とのつなぎ目の真下に配置される。そのため、先端部Ｂ４５１に球が乗った場合に、その球の重みで先端部Ｂ４５１と左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３とが前倒れする方向に撓み変形する事態になったとしても、先端部Ｂ４５１と左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３とのつなぎ目を突条部Ｂ４３６ｂで下から支えることができるので、上記撓み変形を抑制することができる。

【１９３０】

ベース板Ｂ４３７は、所々、上下方向に穿設されることで開口部が形成される。即ち、検出センサＢ４３５を配設させるために前側に突出形成される突出部Ｂ４３７ａには、検出センサＢ４３５の開口よりも大きな開口が検出センサＢ４３５の開口を塞がない配置で穿設され、右後端部では、嵌合支持されるソレノイドＢＳＯＬ４１の下側部においてソレノイドＢＳＯＬ４１のプランジャーＢＳＯＬ４１ａを貫通させるための開口部Ｂ４３７ｂが形成され、中央後端部では、伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５を貫通させ変位を許容するために十分な前後幅の開口部Ｂ４３７ｃが形成される。

【１９３１】

ベース板Ｂ４３７は、下側面において、傾倒部材Ｂ４７０に駆動力を伝達する伝達部材Ｂ４８０の第１部材Ｂ４８１を受け入れるための部分として前後方向に延びる受入凹部Ｂ４３７ｄと、下段部材Ｂ４６０に案内される球の経路の天井を構成し後方へ向けて下降傾斜する傾斜面部Ｂ４３７ｅと、その傾斜面部Ｂ４３７ｅの左右端部から下方に延設される

一対の延設壁の前端部において後方へ向けて下降傾斜する傾斜ストッパＢ４３７ｆと、を備える。

【１９３２】

傾斜ストッパＢ４３７ｆにより、傾倒部材Ｂ４７０の非励磁状態における姿勢を真上に起立する姿勢よりも若干傾斜した姿勢に設定しつつも、球の経路を塞ぐことができるので、傾倒部材Ｂ４７０の開閉角度を小さく抑えることができる。これにより、傾倒部材Ｂ４７０の開閉動作に要する時間を短縮できることから、球噛みの発生を抑えることができるが、詳細は後述する。

【１９３３】

上段部材Ｂ４４０の天井構成部Ｂ４４４は、中段部材Ｂ４３０の底面部Ｂ４３１ａと上下方向で対向配置され前方へ向かう程上昇傾斜する傾斜面部Ｂ４４４ａと、その傾斜面部Ｂ４４４ａよりも左右両側に配置される部分の後端部から断面Ｌ字形状で下方へ延設される一対の延設部Ｂ４４４ｂと、を備える。

【１９３４】

傾斜面部Ｂ４４４ａは、中央流路Ｂ４３１の天井部を構成しており、傾斜面部Ｂ４４４ａが前方へ向かう程上昇傾斜していることから、中央流路Ｂ４３１の断面積（開口面積）が前方へ向かう程大きくなる。即ち、下流側へ向かう程に流路面積が大きくなるので、中央流路Ｂ４３１を前方へ向けて流れるという流下態様において、球詰まりの発生を抑制することができる。

【１９３５】

延設部Ｂ４４４ｂは、上段部材Ｂ４４０を中段部材Ｂ４３０に組み付ける場合に、後端部の左右内側端部を中段部材Ｂ４３０の位置合わせ部Ｂ４３２ｂ，Ｂ４３３ｂに係合させることで位置合わせ可能に設計されている。

【１９３６】

このように組み付けることで、延設部Ｂ４４４ｂの後側面の前後位置が、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の後端部（隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの前端）の前後位置と一致する。即ち、延設部Ｂ４４４ｂには、前後方向で対向配置される左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６との間に隙間Ｂ４４４ｃが設けられ、この隙間Ｂ４４４ｃは、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの真上に配置され隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａと連続的につながるよう構成される。

【１９３７】

換言すれば、球が通過する開口の下側部を隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａが構成し、その隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａが下側部を構成する開口の上側部は、隙間Ｂ４４４ｃにより構成される。これにより、隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａの上側部が開放され、球が跳ねた場合には隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａを飛び越えて球が流下できる場合と異なり、球が隙間Ｂ４３２ａ，Ｂ４３３ａ，Ｂ４４４ｃから外れた位置を通過することを防止することができる。

【１９３８】

スライド部材Ｂ４５０は、前後方向に延びる態様で左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の下側面から下方に突設形成される一対の突条部Ｂ４５５を備える。突条部Ｂ４５５は、左右幅が左案内板部Ｂ４５２や右案内板部Ｂ４５３の左右幅よりも細く設計され、突設端部（下端部）が、スライド部材Ｂ４５０の移動方向（前後方向）に沿う形状とされている。

【１９３９】

スライド部材Ｂ４５０の前後移動時には、突条部Ｂ４５５が中段部材Ｂ４３０の支持延設部Ｂ４３６に下支えされるが、この場合に、スライド部材Ｂ４５０と支持延設部Ｂ４３６との接触面積を抑えることができるのでスライド部材Ｂ４５０の移動抵抗を抑えることができると共に、左案内板部Ｂ４５２や右案内板部Ｂ４５３が上面に乗る球の重さによる前倒れ変位（変形）を抑制することができる。

【１９４０】

突条部Ｂ４５５は、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３に沿って形成され、リブとして機能することで、前後方向に長尺の左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の剛性を高めることができる。

【１９４１】

突条部Ｂ４５５は、先端部Ｂ４５１よりも後方に配設される。換言すれば、先端部Ｂ４５１の下側面に突条部Ｂ４５５は形成されておらず、先端部Ｂ４５１の剛性までを高めるものではない。

【１９４２】

これにより、スライド部材Ｂ４５０の弾性変形のし易さを、部位ごとに変化させることができる。即ち、先端部Ｂ４５１は、ある程度の弾性変形は許容するよう構成することで、例えばスライド部材Ｂ４５０が前方へ移動する場合に、スライド部材Ｂ４５０の前端部と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が噛み込んだとしても、先端部Ｂ４５１の弾性変形および弾性回復により生じる負荷により球の噛み込みを早期に解消することができる。

【１９４３】

先端部Ｂ４５１が弾性変形する場合に、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３までもが弾性変形すると、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３が前後方向に長尺な形状であることも影響し、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の上面を流下する球の流下経路の断面積が狭められる可能性がある。

【１９４４】

この場合、既に球通過開口Ｂ４１４を通過済みであって左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の上面を転動する球の流下抵抗が大きくなり、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の上面を球が通過する時間が通常より長くなる要因となり得る。

【１９４５】

これに対し、本実施形態では、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３には突条部Ｂ４５５が形成されており、その突条部Ｂ４５５がリブとして機能することで左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３までもが弾性変形することを回避することができる。これにより、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の上面を流下する球の流下経路の断面積の大きさを維持することができ、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の上面を球が通過する時間を管理し易くすることができる。

【１９４６】

従って、先端部Ｂ４５１が弾性変形し易いことによる効果と、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３が弾性変形し難いことによる効果と、の両方を同時に奏することができる。

【１９４７】

次に、入賞ユニットＢ４００の、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０、中段部材Ｂ４３０、上段部材Ｂ４４０及びスライド部材Ｂ４５０以外の構成について説明する。

【１９４８】

下段部材Ｂ４６０は、球の転動経路を複数構成する。即ち、下段部材Ｂ４６０は、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球を転動させる中央経路Ｂ４６１と、検出センサＢ４３５を通過した球を転動させる左右経路Ｂ４６３と、を備える。中央経路Ｂ４６１を転動した球は、その後方に配設される検出センサＢ４６２に通過を検出される。

【１９４９】

検出センサＢ４６２は、第２入賞口Ｂ６４０（図１３５参照）に入球した球の通過を検出する。即ち、球が検出センサＢ４６２を通過した場合に、特別図柄２の抽選が実行され、賞球の払い出しが実行される。

【１９５０】

また、下段部材Ｂ４６０は、傾倒部材Ｂ４７０を傾倒可能に軸支する受部の下半部を構成する軸受部Ｂ４６４と、傾倒部材Ｂ４７０に駆動力を伝達する伝達部材Ｂ４８０の第１部材Ｂ４８１を受け入れるための部分として前後方向に延びる受入凹部Ｂ４６５と、スライド部材Ｂ４５０に駆動力を伝達する伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５を傾倒可能に

軸支する受部の下半部を構成する軸受部Ｂ４６６と、を備える。
【１９５１】
軸受部Ｂ４６４は、上方が開放される凹部として構成され、傾倒部材Ｂ４７０の被支持突部Ｂ４７３が配置された状態で中段部材Ｂ４３０が下段部材Ｂ４６０に締結固定されることで、軸受部Ｂ４６４と中段部材Ｂ４３０とによって傾倒部材Ｂ４７０が傾倒可能に軸支される。
【１９５２】
受入凹部Ｂ４６５は、前後方向に長い第１部材Ｂ４８１を受け入れるために前後方向に十分に長く、且つ、第１部材Ｂ４８１の上下方向変位を許容するために十分な深さを有する領域として、中央経路Ｂ４６１と左右経路Ｂ４６３との間の位置に形成される。受入凹部Ｂ４６５から第１部材Ｂ４８１が脱落することが防止されることで、第１部材Ｂ４８１の左右方向への変形を抑制することができる。
【１９５３】
軸受部Ｂ４６６は、上方が開放される凹部として構成され、伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５が配置された状態で中段部材Ｂ４３０が下段部材Ｂ４６０に締結固定されることで、軸受部Ｂ４６６と中段部材Ｂ４３０とによって第２部材Ｂ４８５が傾倒可能に軸支される。
【１９５４】
傾倒部材Ｂ４７０は非励磁状態では、図１４４に示すように起き上がり、中央経路Ｂ４６１側への入球を規制する姿勢とされる一方、励磁状態では傾倒変位し（図１４２参照）、中央経路Ｂ４６１側への入球を許容する姿勢とされる。
【１９５５】
傾倒部材Ｂ４７０は、先端へ向かう程に緩やかに内巻き（上向き）に湾曲する板状部Ｂ４７１と、その板状部Ｂ４７１の下端部において左右方向に円柱形状で突設される一対の円柱部Ｂ４７２と、その円柱部Ｂ４７２の左右端部から円柱部Ｂ４７２と同軸かつ円柱部Ｂ４７２よりも小径の円柱形状で突設される被支持突部Ｂ４７３と、右側の円柱部Ｂ４７２の外周部から側面視でＣ字形状に延設され伝達部材Ｂ４８０の第１部材Ｂ４８１と当接して負荷伝達を受ける被伝達部Ｂ４７４と、を備える。
【１９５６】
板状部Ｂ４７１は、球の直径程度の左右幅で形成されており、複数の球が同時に着地することを防止できるように構成される。
【１９５７】
円柱部Ｂ４７２は、被支持突部Ｂ４７３と同様に、下段部材Ｂ４６０に回転可能に軸支される部分である。円柱部Ｂ４７２が構成されることで、回転時の摺動負荷や、球からの負荷により生じる重力方向の負荷を受け持つ面積を確保することができるので、被支持突部Ｂ４７３だけで軸支される場合に比較して、機械的な摩耗を抑えることができる。
【１９５８】
伝達部材Ｂ４８０は、後端部においてプランジャーＢＳＯＬ４１ａが左右方向で差し込まれることで上下方向での脱落が規制されるよう構成される第１部材Ｂ４８１と、その第１部材Ｂ４８１と連動する第２部材Ｂ４８５と、を備える。
【１９５９】
プランジャーＢＳＯＬ４１ａがベース板Ｂ４３７の開口部Ｂ４３７ｂにより上下方向を除く前後左右への移動が制限されており、そのプランジャーＢＳＯＬ４１ａが左右方向で差し込まれる第１部材Ｂ４８１は、受入凹部Ｂ４６５により左右方向への移動が制限されることから、第１部材Ｂ４８１とプランジャーＢＳＯＬ４１ａとが左右方向で脱落する等して連結が解除されることを防止し易くすることができる。
【１９６０】
ソレノイドＢＳＯＬ４１の励磁状態が切替られプランジャーＢＳＯＬ４１ａが上下方向に変位することで、第１部材Ｂ４８１は、上下方向に変位し、第２部材Ｂ４８５は、前後に傾倒する方向で変位するが、詳細は後述する。

【１９６１】
図１４８（ａ）は、入賞ユニットＢ４００の正面図であり、図１４８（ｂ）は、図１４８（ａ）の矢印ＣＸＬＶＩＩＩｂ方向視における入賞ユニットＢ４００の側面図であり、図１４８（ｃ）は、図１４８（ａ）の矢印ＣＸＬＶＩＩＩｃ方向視における入賞ユニットＢ４００の上面図である。
【１９６２】
図１４８（ａ）から図１４８（ｃ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示される。また、図１４８（ｂ）及び図１４８（ｃ）には、入賞ユニットＢ４００が組み付けられるベース板Ｂ６０の前後側面の位置が想像線で図示される。本実施形態では、ベース板Ｂ６０の前側面の正面側を流下した球が、入賞ユニットＢ４００に到達する。
【１９６３】
図１４８（ｃ）に示すように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態では、軒部Ｂ４２６よりも左右外側にスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１が配置され、その先端部Ｂ４５１は、図１４８（ｂ）に示すように後方へ向けて下降傾斜している。
【１９６４】
そのため、ベース板Ｂ６０の正面側を流下する球が球受部Ｂ４１２から逸れて、軒部Ｂ４２６を介して先端部Ｂ４５１に乗った球や、軒部Ｂ４２６を介さず直接的に先端部Ｂ４５１に乗った球（飛び込み球）は、先端部Ｂ４５１の傾斜に沿って後方に寄せられる。そして、球が球通過開口Ｂ４１４（図１４４参照）を通過可能な位置に到達した場合には、先端部Ｂ４５１の傾斜に沿ってスライド部材Ｂ４５０の上面を伝って左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３側へ流れる。
【１９６５】
図１４９（ａ）及び図１４９（ｂ）は、図１４８（ｃ）のＣＸＬＩＸａ－ＣＸＬＩＸａ線における入賞ユニットＢ４００の断面図である。図１４９（ａ）では、電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の非励磁状態が図示され、図１４９（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示される。また、図１４９（ａ）及び図１４９（ｂ）では、ベース板Ｂ６０に植設される一部の釘ＢＫＧ１が図示される。
【１９６６】
スライド部材Ｂ４５０の状態の切り替えは、前後方向へのスライド移動であり、正面視で非励磁状態と励磁状態との違いを判別し難いよう構成される。これにより、スライド部材Ｂ４５０へ向けて流下する遊技球がスライド部材Ｂ４５０の上面を転動するか先端部Ｂ４５１の正面側を下方へ流れるかを予想し難くすることができる。
【１９６７】
傾倒部材Ｂ４７０の状態の切り替えは、傾倒動作であり、非励磁状態と励磁状態との違いを判別し易いよう構成される。これにより、球が第２入賞口Ｂ６４０（図１３５参照）に入球し得る状態か否かの判別を容易とすることができる。
【１９６８】
図１４９（ａ）及び図１４９（ｂ）を参照して、入賞ユニットＢ４００に到達する球の流下態様について説明する。なお、図１４９（ａ）及び図１４９（ｂ）で図示される断面において入賞ユニットＢ４００は左右対称形状から形成されるので、左右片側での説明に留め、反対側の説明は省略する。
【１９６９】
図１４９（ａ）に示すように、球受部Ｂ４１２を逸れて流下する球は、例えば軒部Ｂ４２６を介して流れる経路ＢＤＲ１で流下する。この場合、軒部Ｂ４２６に遮られることで球通過開口Ｂ４１４への最短距離で球が流下することはなく、先端部Ｂ４５１上での滞在時間が延ばされる。また、軒部Ｂ４２６の傾斜により左右外側への速度成分を有して流下するので、スライド部材Ｂ４５０に着地して跳ねた後の球は、左右外側へ向けて跳ね返り易い。
【１９７０】
これに対して、本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の上面が左右内側へ向けて下降

傾斜していることから、球の跳ね返りの方向を左右内側に寄せることができる。これにより、経路ＢＤＲ１で流下した球がスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の左右外側に零れる事態を回避し易くすることができる。

【１９７１】

更に、本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１を左右外側へ向けて流れる球と対向する位置に釘ＢＫＧ１が植設されている。そのため、球が先端部Ｂ４５１の左右外側へ向けて流れた場合であっても、勢いの大きな球ほど、釘ＢＫＧ１との衝突によりスライド部材Ｂ４５０側に戻り易いようにすることができる。先端部Ｂ４５１の左右外側へ向けて球が流れた場合に、その球の勢いが不十分であると、釘ＢＫＧ１との衝突によっても跳ね戻らず、釘ＢＫＧ１とスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１との間を球が流下することになる。

【１９７２】

経路ＢＤＲ１とは異なる経路で流下する場合も、釘ＢＫＧ１の配置との影響から、通常は経路ＢＤＲ１がスライド部材Ｂ４５０に到達する地点と同一の地点ＢＤＲ１ａに到達し、スライド部材Ｂ４５０に案内される。

【１９７３】

スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球と対向配置される位置に連なって植設される釘ＢＫＧ１の上を流下して地点ＢＤＲ１ａに到達する球は、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１が釘ＢＫＧ１側に張り出して形成されていることから、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１と釘ＢＫＧ１との間に脱落することが抑制される。

【１９７４】

なお、釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされた球が先端部Ｂ４５１の左右内側部（球通過開口Ｂ４１４の前方位置）へ向かって飛ぶ場合もあるが、その球と軒部Ｂ４２６とが衝突し易いよう軒部Ｂ４２６の配置が設計されている。即ち、本実施形態では、球が釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされることによるイレギュラーな流下態様においても、球が地点ＢＤＲ１ａを経由せずに球通過開口Ｂ４１４の前方位置に到達する事態の発生を抑制している。本実施形態では、釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされて、地点ＢＤＲ１ａを経由せずに球通過開口Ｂ４１４の前方位置に到達する球の頻度は、釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされる球の１０個に１個程度となるように調整して設計される。

【１９７５】

図１４９（ｂ）に示すように、電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の励磁状態において球が経路ＢＤＲ１で流下する場合、球はスライド部材Ｂ４５０に着地することはなく、軒部Ｂ４２６の傾斜により生じた左右方向の速度成分を維持しつつ流れる。

【１９７６】

スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の左右外側への張出代がない分、釘ＢＫＧ１との間の隙間を狭くする作用を見込むことができず、球は開口部Ｂ４３６ａの左右外方へ逸れて流下する。また、上述した軒部Ｂ４２６の設計から、球が釘ＢＫＧ１で跳ね飛ばされることによるイレギュラーな流下態様で、球が球通過開口Ｂ４１４の前方位置に到達する事態の発生は抑制されており、球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過する事態の発生が抑制されている。

【１９７７】

即ち、経路ＢＤＲ１に例示されるように球が流下する場合、スライド部材Ｂ４５０の非励磁状態であれば球は先端部Ｂ４５１の上面を左右内側へ案内され易く、スライド部材Ｂ４５０の励磁状態でれば球は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａに直接入球する事態は生じ難く、前意匠部材Ｂ４２０の左右外側を流下し易い。

【１９７８】

次いで、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流下態様について説明する。スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗った球が、先端部Ｂ４５１の傾斜に沿って左右内側へ向けて流れ、球通過開口Ｂ４１４を通過するまでスライド

部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持される場合には、その球は問題なく先端部Ｂ４５１よりも後側へ流れ、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）に入球する可能性が高まる。

【１９７９】

それ以外の場合として、球が先端部Ｂ４５１に乗っている間にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられる場合を説明する。

【１９８０】

図１４９（ａ）の球配置ＢＢ１は、スライド部材Ｂ４５０の左右外側端部に乗っている状態として図示される。球配置ＢＢ１に球がある場合にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、その球の後方は板部材Ｂ４１０により遮られているので、スライド部材Ｂ４５０の移動と共にその球が後方に移動することはできず、その球は前意匠部材Ｂ４２０の左右外側を流下する。

【１９８１】

図１４９（ｂ）の球配置ＢＢ２は、中段部材Ｂ４３０の開口部Ｂ４３６ａの左右外側縁部の上方に球の中心が配置される状態として図示される。球配置ＢＢ２に球がある場合にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、その球の後方は板部材Ｂ４１０により遮られているので、スライド部材Ｂ４５０の移動と共にその球が後方に移動することはできない。

【１９８２】

一方で、前意匠部材Ｂ４２０の左右外側を流下するか、開口部Ｂ４３６ａ側へ流下するかは、その時の球の勢いや、球の中心位置の偏りにより変化する。開口部Ｂ４３６ａ側へ流下した球は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過し、遊技者には賞球の払い出しが行われる。

【１９８３】

そのため、球配置ＢＢ２に球がある時にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた場合の球の行方は不確定であり、且つ、球の行方次第で遊技者が得られる利益が変化するので、球配置ＢＢ２に球がある時のスライド部材Ｂ４５０に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【１９８４】

図１４９（ｂ）の球配置ＢＢ３は、球通過開口Ｂ４１４の正面に球が配置される状態として図示される。球配置ＢＢ３に球がある場合にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、その球の後方は球通過開口Ｂ４１４で開放されているので、スライド部材Ｂ４５０の移動と共にその球がスライド部材Ｂ４５０から受ける負荷により後方に移動する（スライド部材Ｂ４５０により押し込まれる形で後方に移動する）。

【１９８５】

即ち、球配置ＢＢ３に球が配置される時にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられたとしても、その球（１個のみ）については、球通過開口Ｂ４１４の後方へ流下させることができる。この場合において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の上側面は後方へ向けて下降傾斜しているので、スライド部材Ｂ４５０の移動中に球が前側に零れることを防止し易くすることができる。

【１９８６】

なお、本実施形態によれば、球配置ＢＢ３は左右対称に形成されるので、左右両側の球配置ＢＢ３の両方に球が乗っている状態でスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、球は２個ともスライド部材の移動と共に後方に移動し、球通過開口Ｂ４１４の後方へ流下する。

【１９８７】

このように、本実施形態によれば、先端部Ｂ４５１に球が乗っている状態からスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられるという同様の状態変化であっても、先端部Ｂ４５１上の球の配置次第で、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた後の球の流下経路が変化するよう構成されている。そのため、先端部Ｂ４５１に球が乗っている状態

において、その球およびスライド部材Ｂ４５０の移動態様に対する注目力を向上させることができる。

【１９８８】

そして、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられる時の球配置ＢＢ１～ＢＢ３は、下流側（球配置ＢＢ３側）へ向かう程、遊技者が得られる可能性のある利益は大きくなる。そのため、スライド部材Ｂ４５０上に球が乗った後も、遊技者が得られる可能性のある利益は増大し続けることになるので、その球の流下に対する注目力を向上させることができる。

【１９８９】

また、スライド部材Ｂ４５０上の球は、１個に限定されるものではなく、例えば、球配置ＢＢ１と球配置ＢＢ３とに同時に球が配置される可能性もある。この場合は、球配置ＢＢ３の球が球通過開口Ｂ４１４を後方へ通過し、球配置ＢＢ１の球が球配置ＢＢ３側へ到達するまで（本実施形態では約０．２秒間）、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持されている方が遊技者の得られる可能性のある利益は高くなるので、球およびスライド部材Ｂ４５０の動きに対する注目力を向上させることができる。

【１９９０】

図１５０は、図１４８（ｃ）のＣＬ－ＣＬ線における入賞ユニットＢ４００の断面図であり、図１５１は、図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における入賞ユニットＢ４００の断面図であり、図１５２は、図１４８（ｃ）のＣＬＩＩ－ＣＬＩＩ線における入賞ユニットＢ４００の断面図である。図１５０から図１５２では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態（前進閉鎖状態）が図示される。

【１９９１】

電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態（前進閉鎖状態）では、図１５０から図１５２に示すように、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置され、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に配置される。

【１９９２】

まず、図１５０及び図１５２を参照して、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球の流路の構成について説明する。スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されると、前意匠部材Ｂ４２０とスライド部材Ｂ４５０との間の前後幅が球の直径未満になるので、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａへの球の流入は防止されることになり、先端部Ｂ４５１に乗った球は球通過開口Ｂ４１４の後方へ導入される。

【１９９３】

球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、中段部材Ｂ４３０と上段部材Ｂ４４０とに囲まれる領域に沿ってスライド部材Ｂ４５０上を転動する。上段部材Ｂ４４０は、スライド部材Ｂ４５０の上面に対向配置される天井面Ｂ４４７を備える。

【１９９４】

天井面Ｂ４４７は、スライド部材Ｂ４５０の上面の傾斜とは異なり、前後方向（本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の変位方向）に沿って延設される平面として形成される。そのため、天井面Ｂ４４７とスライド部材Ｂ４５０との上下間に形成される流路の断面積が後方側（下流側）へ向かう程大きくなるので、球詰まりの発生を抑制することができたり、球の流下抵抗が上昇することを回避したりすることができる。

【１９９５】

また、これにより、スライド部材Ｂ４５０上を後方へ向けて転動する球が上方へ跳ねた場合や、球が後方に押される負荷を受けて後方へ跳ねた場合であっても、球が天井面Ｂ４４７と衝突する事態が生じることを回避し易くすることができる。

【１９９６】

図１５２に示すように、天井面Ｂ４４７の上下位置よりも天井構成部Ｂ４４４の傾斜面部Ｂ４４４ａの上下位置の方が下側とされる。そのため、天井面Ｂ４４７近くまで球が跳ねていた場合であっても、隙間Ｂ４４４ｃを通って球が中央流路Ｂ４３１に合流する前に、球の高さ位置を傾斜面部Ｂ４４４ａまで落とすことができる。

【１９９７】
即ち、球の勢いを落としてから中央流路Ｂ４３１に合流させることができる。これにより、中央流路Ｂ４３１に左右から球が任意のタイミングで導入され、衝突し得るような場合であっても、新たに中央流路Ｂ４３１に案内される球から中央流路Ｂ４３１に既に配置されていた球に対して、その球を逆流させる程の大きな負荷が与えられる事態が発生することを回避し易くすることができる。従って、中央流路Ｂ４３１内での球の逆流を抑制し、球流れを円滑化（スムーズに）することができる。
【１９９８】
なお、この作用は、天井面Ｂ４４７の高さ位置は左右で同一とされることから、右案内板部Ｂ４５３に案内される球だけでなく、左案内板部Ｂ４５２に案内される球にも同様に生じる。
【１９９９】
天井面Ｂ４４７は、後端部において湾曲面として形成され左側壁部Ｂ４４５及び右側壁部Ｂ４４６と滑らかに連結される湾曲案内部Ｂ４４７ａを備える。球がスライド部材Ｂ４５０の上面で跳ねて湾曲案内部Ｂ４４７ａと衝突した場合、湾曲案内部Ｂ４４７ａの形状に沿って球の流下方向を下方に向けることができるので、球をスライド部材Ｂ４５０側に近づけることができる。
【２０００】
これにより、球を傾斜面部Ｂ４４４ａの上下位置よりも下側にスムーズに変位させることができるので、中央流路Ｂ４３１への球の合流をスムーズに行わせることができる。
【２００１】
図１５０及び図１５２に示すように、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動する球の前後方向の移動幅は、数センチメートル（約３～５センチメートル）におよぶが、ベース板Ｂ６０の正面側で占める長さ（左右幅）は、左右片側において約１～２センチメートルに抑えられている（図１４９参照）。
【２００２】
即ち、スライド部材Ｂ４５０は、球を案内する経路長さに比較して、ベース板Ｂ６０の正面側においてスライド部材Ｂ４５０が配設される範囲（正面視で占める面積）を小さくすることができるよう構成される。これにより、球をスライド部材Ｂ４５０で案内する長さを十分に確保しながら、スライド部材Ｂ４５０が占める遊技領域のスペースを小さくすることができるので、他の電動役物や、入賞口等を配設するスペースを遊技領域に確保することができる。
【２００３】
図１５２に示すように、上段部材Ｂ４４０の傾斜面部Ｂ４４４ａと、スライド部材Ｂ４５０の右案内板部Ｂ４５３（及び左案内板部Ｂ４５２、図１５０参照）とは、前後方向の傾斜角度が同一とされている。これにより、右案内板部Ｂ４５３から中央流路Ｂ４３１へ球が通過する右開口部ＢＲＴ（右側の隙間Ｂ４４４ｃ、傾斜面部Ｂ４４４ａ及び右案内板部Ｂ４５３に区画される開口部）と、左案内板部Ｂ４５２から中央流路Ｂ４３１へ球が通過する左開口部ＢＬＴ（左側の隙間Ｂ４４４ｃ、傾斜面部Ｂ４４４ａ及び左案内板部Ｂ４５２に区画される開口）との面積が同一に確保される。
【２００４】
即ち、左右の開口部ＢＬＴ，ＢＲＴは前後位置が異なるため、後方の左開口部ＢＬＴの方が傾斜面部Ｂ４４４ａの上下位置が低くなることで開口部ＢＬＴ，ＢＲＴの面積（上下幅）が小さくなる可能性があるが、本実施形態では、傾斜面部Ｂ４４４ａの上下位置が低くなることに対応してスライド部材Ｂ４５０の右案内板部Ｂ４５３（及び左案内板部Ｂ４５２、図１５０参照）の上下位置が同様に低くなるので、左右の開口部ＢＬＴ，ＢＲＴの上下幅を同一に確保することができる。
【２００５】
これにより、球が右案内板部Ｂ４５３に案内されるか、左案内板部Ｂ４５２に案内されるかによって、球が中央流路Ｂ４３１に合流する際の流下抵抗が変化する事態の発生を防

止し易くすることができる。
【２００６】
一方で、球が右案内板部Ｂ４５３に案内されるか、左案内板部Ｂ４５２に案内されるかによって、スライド部材Ｂ４５０上を球が転動する前後長さは異なる（左案内板部Ｂ４５２の方が右案内板部Ｂ４５３に比較して約１１ｍｍ（球の直径分）以上長い）ので、球通過開口Ｂ４１４を球が通過してから中央流路Ｂ４３１に合流するまでに要する時間は異なるが、球の流下に要する時間についての詳細は後述する。
【２００７】
なお、図１５０～図１５２では、左右の開口部ＢＬＴ，ＢＲＴが、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されている場合の開口配置として想像線で図示される。また、他の実線との重なりを避けるために若干小さく図示されるが、形状が小さいものに限定する意図では無く、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３から中央流路Ｂ４３１に滑らかに案内されるのに十分な大きさ及び配置で形成される。
【２００８】
次いで、図１５１を参照して、中央流路Ｂ４３１について説明する。スライド部材Ｂ４５０に案内された球は、左右両側において前後で位置が異なる開口部ＢＬＴ，ＢＲＴで、傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａの傾斜に沿って中央流路Ｂ４３１に導入される。
【２００９】
その導入された球は、中央流路Ｂ４３１に沿って正面側へ向けて流下し、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置にある場合には、球案内突条Ｂ４２８に衝突した後で下方へ流下し、入賞ユニットＢ４００から脱落して第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）へ向けて流下する。
【２０１０】
ここで、上側流路構成部Ｂ４４１には球受部Ｂ４１２に受け入れられた球が順番に流下することから、突然に球の個数が増えることは無く、上蓋部材Ｂ４４３の傾斜は上側流路構成部Ｂ４４１と平行となっている。一方で、中央流路Ｂ４３１には左右から同時に球が案内される等、同時期に中央流路Ｂ４３１に複数の球が配置され、球が連なったり、球同士で生じる負荷により球が浮き上がったりする可能性がある。
【２０１１】
これに対し、本実施形態では、中央流路Ｂ４３１の天井部を構成する傾斜面部Ｂ４４４ａは、前方へ向かう程上昇傾斜していることから、中央流路Ｂ４３１の断面積（開口面積）が前方へ向かう程大きくなる。即ち、下流側へ向かう程に流路面積が大きくなるので、中央流路Ｂ４３１を前方へ向けて流れるという流下態様において、球詰まりの発生を抑制することができる。即ち、途中位置で球が合流するという流路構成であっても、流路面積が大きく確保されていることから、球の流下抵抗が上昇することを回避することができる。
【２０１２】
図１５３は、図１４８（ｃ）のＣＬ－ＣＬ線における入賞ユニットＢ４００の断面図であり、図１５４は、図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における入賞ユニットＢ４００の断面図であり、図１５５は、図１４８（ｃ）のＣＬＩＩ－ＣＬＩＩ線における入賞ユニットＢ４００の断面図である。図１５３から図１５５では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）が図示される。
【２０１３】
なお、図１５３～図１５５では、左右の開口部ＢＬＴ，ＢＲＴが、図１５０～図１５２での図示と同様に、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されている場合の開口配置として想像線で図示される。
【２０１４】
電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）では、図１５３から図１５５に示すように、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置され、傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に配置される。
【２０１５】

図１５３及び図１５５に示すように、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置されると、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１は板部材Ｂ４１０の前側面よりも後方に配置される。これにより、スライド部材Ｂ４５０への新たな球の着地を防止することができる。

【２０１６】

即ち、スライド部材Ｂ４５０の下流側に配置される中央流路Ｂ４３１よりも下流側に配置される第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）へ向けた新たな球の導入が生じない。そのため、スライド部材Ｂ４５０に乗っていた球が傾倒部材Ｂ４７０の正面側を流れきるまでに要する時間を超えて励磁状態を維持すれば、入賞ユニットＢ４００に案内されている球は全て傾倒部材Ｂ４７０に拾われ得る。加えて、スライド部材Ｂ４５０に案内される球が加算されることはないので、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球個数が過大となることを防止できる。なお、球の入球制御の詳細については後述する。

【２０１７】

図１５３及び図１５５に示すように、スライド部材Ｂ４５０の下面には細幅の突条部Ｂ４５５が形成されており、その細幅の突条部４４５が中段部材Ｂ４３０の支持延設部Ｂ４３６に下支えされている。これにより、スライド部材Ｂ４５０が前後方向に傾倒する姿勢変化を抑制すると共に、スライド部材Ｂ４５０の前後移動時のスライド部材Ｂ４５０と支持延設部Ｂ４３６との接触面積を低減することで摩擦抵抗を低減することができる。

【２０１８】

スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられ、前進位置から後退位置に変位する時に左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に球が乗っている場合、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の上面が後方へ向けて下降傾斜していることから球滑りが抑制され、スライド部材Ｂ４５０と一体的に（スライド部材Ｂ４５０の変位量と同一の変位量で）後方へ移動する。加えて、スライド部材Ｂ４５０を介して与えられる負荷により球が後方へ加速される。

【２０１９】

一方で、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態から非励磁状態に切り替えられ、後退位置から前進位置に変位する時に左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に球が乗っている場合、スライド部材Ｂ４５０の上面の傾斜との関係により、球が配置される前後位置におけるスライド部材Ｂ４５０の上下高さは下降し、スライド部材Ｂ４５０と球との上下間隔が広げられる。

【２０２０】

即ち、球はスライド部材Ｂ４５０に対して浮いた状態を介して、再びスライド部材Ｂ４５０に着地することになり、球がスライド部材Ｂ４５０と一体的に前方に移動することは回避される。

【２０２１】

加えて、スライド部材Ｂ４５０の変位開始時（球とスライド部材Ｂ４５０との上下間隔が空く前）に球に前転方向のスピンがかけられる場合には、スライド部材Ｂ４５０上の球の流下速度を増加させることができる。

【２０２２】

スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態から励磁状態に切り替えられる際、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に既に乗っている球は、そのまま左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に乗ったままとされ、より下流側で流下経路の分岐が確定する。

【２０２３】

一方、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態から励磁状態に切り替えられる際、球通過開口Ｂ４１４の前方に配置された球は、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａへ向けて落下する可能性があることは、図１４９で上述した通りである。即ち、球通過開口Ｂ４１４の前方の位置において、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過して遊技領域外に排出されるか、別の流下経路で流れるかという、球の流下経路の分岐が確定する可能性がある。

【２０２４】
本実施形態では、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａの方が、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３よりも正面側に位置するよう構成されている。これにより、検出センサＢ４３５への注目力を向上させることができ、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａ側に流下経路が分岐し、開口Ｂ４３５ａを通過する球を視認し易くすることができる。
【２０２５】
図１５４に示すように、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置されている場合であっても、傾斜面部Ｂ４５２ａが左開口部ＢＬＴに配置される。即ち、傾斜面部Ｂ４５２ａは、スライド部材Ｂ４５０の配置に関わらず左開口部ＢＬＴに配置されるのに十分な前後幅で形成される。傾斜面部Ｂ４５３ａも同様である。
【２０２６】
中央流路Ｂ４３１に導入された球が中央流路Ｂ４３１を通過した時に、依然として傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に配置されている場合、その球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われて検出センサＢ４６２を通過する。
【２０２７】
即ち、傾倒部材Ｂ４７０の前方の位置は、球が検出センサＢ４６２を通過して遊技領域外に排出されるか、別の流下経路で流れるかという、球の流下経路の分岐が確定する位置である。
【２０２８】
本実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０の方が、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３よりも正面側に位置するよう構成されている。これにより、傾倒部材Ｂ４７０への注目力を向上させることができ、検出センサＢ４６２側に流下経路が分岐し、検出センサＢ４６２側へ流下する球を視認し易くすることができる。
【２０２９】
このように、入賞ユニットＢ４００では、球の流下経路の分岐が確定する位置を正面側に配置するように構成している。更に、球の流下経路の分岐が確定する複数の位置（球通過開口Ｂ４１４の前方の位置や、傾倒部材Ｂ４７０の前方の位置）を、球が間を空けずに通過するのではなく、十分な時間を空けて通過するよう構成することで、球に注目する遊技者が視線を動かす余裕を作ることができる。
【２０３０】
加えて、球の流下経路の分岐が確定する複数の位置（球通過開口Ｂ４１４の前方の位置や、傾倒部材Ｂ４７０の前方の位置）間の、正面視における間隔を狭める（図１４９参照）ことにより、球に注目する遊技者が視線を動かす余裕を作ることができる。
【２０３１】
図１５４に示すように、傾倒部材Ｂ４７０の回転軸としての被支持突部Ｂ４７３は、中央流路Ｂ４３１の前端部よりも後方に奥まった位置に配置されている。加えて、閉鎖位置における傾倒部材Ｂ４７０は、中段部材Ｂ４３０の傾斜ストッパＢ４３７ｆの傾斜に対応して若干前倒れしている（図１５１参照）。
【２０３２】
これにより、閉鎖位置における傾倒部材Ｂ４７０の前方に流下中の球が配置されている時に、傾倒部材Ｂ４７０が励磁状態とされ開放位置へ向けて変位したとしても、傾倒部材Ｂ４７０の前面は既に前方へ向けて傾斜しているので、球に対して下方向の負荷を与えやすく、球を早期に下方へ排出することができる。即ち、球が傾倒部材Ｂ４７０と前意匠部材Ｂ４２０との間で挟まり、傾倒部材Ｂ４７０の開放位置への変位が阻害される時間が長引く事態を回避し易くすることができる。
【２０３３】
また、傾倒部材Ｂ４７０の開閉動作における回転角度を小さくすることができるので、開閉動作に要する時間を短くすることができる。従って、開閉のタイミングを制御し易くすることができると共に、過入球を防止し易くすることができる。
【２０３４】

本実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０の板状部Ｂ４７１の左右幅が球の直径程度の長さで形成され（図１４９参照）、開放位置から閉鎖位置へ変位する間において複数の球を拾うことはできないように構成されていることからも、過入球を防止し易くすることができる。

【２０３５】

傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が流下する流路の天井部を構成する傾斜面部Ｂ４３７ｅは、後側部において中央経路Ｂ４６１と平行な傾斜面として形成され、傾倒部材Ｂ４７０に近い側としての前側部において、前方へ向けた上昇傾斜の角度が増すように構成されている。

【２０３６】

これにより、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が傾倒部材Ｂ４７０との衝突により跳ねた場合であっても、その球を中央経路Ｂ４６１と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間の経路にスムーズに導入させることができる。従って、傾倒部材Ｂ４７０に乗った球の重さや、その球の中央経路Ｂ４６１と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間の経路への流入抵抗が高いことにより球に変位を妨げられることにより、傾倒部材Ｂ４７０の閉鎖位置へ向けた変位が遅れる事態の発生を回避することができる。

【２０３７】

図１５５に示すように、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられると、同一の前後位置におけるスライド部材Ｂ４５０の上下位置が上がるので、右開口部ＢＲＴの下縁がせり上がり、球が通過可能な面積が小さくなる。左開口部ＢＬＴも同様である。

【２０３８】

この時、左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６の後端部に到達した球は、その位置においてスライド部材Ｂ４５０の上下位置が上がることの影響で、跳ね上がる。これにより、球の運動エネルギーが増大する可能性がある。

【２０３９】

一方で、傾斜面部Ｂ４４４ａとスライド部材Ｂ４５０との上下間隔は、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されていた状態よりも狭められることで球の流下抵抗が上がり、傾斜面部Ｂ４４４ａにより球の勢いが落とされる作用が増強されている。これにより、球の勢い（運動エネルギー）を十分に落としてから中央流路Ｂ４３１に球を案内することができる。

【２０４０】

図１５６（ａ）及び図１５６（ｂ）は、図１４８（ｃ）のＣＬＶＩａ－ＣＬＶＩａ線における入賞ユニットＢ４００の断面図である。図１５６（ａ）では、電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の非励磁状態が図示され、図１５６（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示される。なお、図１５６（ａ）及び図１５６（ｂ）では、隙間Ｂ４４４ｃの前後方向の中間位置を通る断面が図示される。

【２０４１】

本実施形態では、左開口部ＢＬＴと右開口部ＢＲＴとが前後に位置ずれしているため、左右の開口部が左右方向に延びる直線上に配置される場合にしばしばみられるような、開口部を通過する球同士が左右方向で衝突し、球同士で生じさせ合う負荷が左右方向外側に向くことでバランスしてしまい、球の流下が滞るという不具合を回避することができる。

【２０４２】

一方、本実施形態では、左案内板部Ｂ４５２上の球が中央流路Ｂ４３１に導入される左開口部ＢＬＴよりも正面側に配置される右開口部ＢＲＴを通して、右案内板部Ｂ４５３上の球が中央流路Ｂ４３１に導入されるよう構成されるので、右開口部ＢＲＴを通過しようとする球と、中央流路Ｂ４３１を流下している球とが衝突する可能性がある（図１５６（ａ）参照）。この場合、流路形状上はそうなり難いように設計していても、球が互いに与え合う負荷がバランスしてしまい球の流れが停止する事態が生じる可能性がある。

【２０４３】

これに対し、本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられ後退位

置へ変位する場合に、中央流路Ｂ４３１を流下している球の上下位置には影響しない一方で、右案内板部Ｂ４５３に乗っている球の上下位置が上げられることで、中央流路Ｂ４３１に配置されている球と、右案内板部Ｂ４５３に乗っている球との間に一瞬ではあるが間隔を空けることができる。この間に中央流路Ｂ４３１に配置されている球が中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って流れることで、球が互いに与え合う負荷のバランスを崩すことができる。

【２０４４】

また、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態に切り替えられ前進位置へ変位する場合に、中央流路Ｂ４３１を流下している球の上下位置には影響しない一方で、右案内板部Ｂ４５３の上下位置が下げられることで、右案内板部Ｂ４５３の上方の球と右案内板部Ｂ４５３との間に一瞬ではあるが間隔を空けることができる（浮かせることができる）。この間隔を埋めるように右案内板部Ｂ４５３の上方の球が下方へ変位する際に、その球は中央流路Ｂ４３１に配置されている球からの負荷に押されて左右外側へ変位すると考えられるので、球が互いに与え合う負荷のバランスを崩すことができる。

【２０４５】

このように、本実施形態では、中央流路Ｂ４３１への合流位置で球が互いに与え合う負荷がバランスする事態が生じたとしても、スライド部材Ｂ４５０の状態が切り替えられることで、負荷がバランスしている一方の球の配置を変えることができ、負荷のバランスを崩すことができるよう構成されている。これにより、スライド部材Ｂ４５０から中央流路Ｂ４３１を介する球の流れをスムーズに保つことができる。

【２０４６】

なお、上述の負荷のバランスを崩す作用は、スライド部材Ｂ４５０の状態が切り替えられるタイミングで生じることから、この作用を見込んで、スライド部材Ｂ４５０の作動パターンを設計しても良い。即ち、スライド部材Ｂ４５０の状態の切り替えの頻度が高い方が、流下中の球同士の負荷のバランスを崩し易いので、球の流下を滑らかにすることができる。

【２０４７】

次いで、図１５７から図１６１を参照して、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１が配置される位置に到達した球の流下経路のバリエーションについて説明する。

【２０４８】

図１５７（ａ）から図１５７（ｄ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１５７（ａ）から図１５７（ｄ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流れが時系列で図示される。なお、図１５７（ａ）から図１５７（ｄ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。

【２０４９】

上述したように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１への球の着地は、図１５７（ａ）に示すように先端部Ｂ４５１の左右外側部（球配置ＢＢ１、図１４９（ａ）参照）において生じ易い。先端部Ｂ４５１に着地した球はその後、図１５７（ｂ）に示すように球通過開口Ｂ４１４を通過して、スライド部材Ｂ４５０上を上段部材Ｂ４４０の左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６に沿って流下する。

【２０５０】

その後、図１５７（ｃ）に示すようにスライド部材Ｂ４５０の傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａを介して中央流路Ｂ４３１に流入し、中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って正面側へ流下する。その後、図１５７（ｄ）に示すように、中央流路Ｂ４３１の前端側で中央開口部Ｂ４１３を通過した球は下方へ流下する。

【２０５１】

図１５７（ａ）から図１５７（ｄ）に示すように、入賞ユニットＢ４００を球が通過す

る期間に亘って電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態で維持される場合、先端部Ｂ４５１に着地した球は中央開口部Ｂ４１３の前側を落下して第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）へ向けて流下する。

【２０５２】

図１５８（ａ）から図１５８（ｄ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１５８（ａ）及び図１５８（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、図１５８（ｃ）及び図１５８（ｄ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示され、図１５８（ａ）から図１５８（ｄ）では、先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流れが時系列で図示される。なお、図１５８（ａ）から図１５８（ｄ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。

【２０５３】

上述したように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１への球の着地は、図１５８（ａ）に示すように先端部Ｂ４５１の左右外側部（球配置ＢＢ１、図１４９（ａ）参照）において生じ易い。先端部Ｂ４５１に着地した球はその後、球通過開口Ｂ４１４の正面側へ向けて左右内側へ流下し、図１５８（ｂ）に示すように球配置ＢＢ２（図１４９（ａ）参照）を経由する。

【２０５４】

流下中の球が球配置ＢＢ２に配置されている時に、図１５８（ｃ）に示すように電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられると、球は慣性で左右内側へ流れ、図１５８（ｄ）に示すように球は球通過開口Ｂ４１４の正面側を下方へ流下して、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過する。

【２０５５】

図１５８（ａ）から図１５８（ｄ）に示すように、先端部Ｂ４５１に球が乗った後、短時間の内に電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられた場合、先端部Ｂ４５１に乗っていた球は球通過開口Ｂ４１４の前側を落下して検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過し得る。

【２０５６】

もっとも、慣性が左右内側に作用しないほど極めて短時間の内に電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられた場合には、先端部Ｂ４５１に乗っていていた球は開口Ｂ４３５ａから外れて検出センサＢ４３５の左右外側を流下し得る。

【２０５７】

図１５９（ａ）から図１５９（ｄ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１５９（ａ）及び図１５９（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、図１５９（ｃ）及び図１５９（ｄ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示され、図１５９（ａ）から図１５９（ｄ）では、先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流れが時系列で図示される。なお、図１５９（ａ）から図１５９（ｄ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。

【２０５８】

上述したように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１への球の着地は、図１５９（ａ）に示すように先端部Ｂ４５１の左右外側部（球配置ＢＢ１、図１４９（ａ）参照）において生じ易い。先端部Ｂ４５１に着地した球はその後、図１５９（ｂ）に示すように球通過開口Ｂ４１４を通過して、スライド部材Ｂ４５０上を上段部材Ｂ４４０の左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６に沿って流下する。

【２０５９】

その後、図１５９（ｃ）に示すようにスライド部材Ｂ４５０の傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａを介して中央流路Ｂ４３１に流入し、中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って正面側へ流下する。その後、図１５９（ｄ）に示すように、中央流路Ｂ４３１の前端側で中央開口

部Ｂ４１３を通過した球は下方へ流下して、傾倒部材Ｂ４７０に拾われて後方へ流下する。

【２０６０】

図１５９（ａ）から図１５９（ｄ）に示すように、入賞ユニットＢ４００を球が通過する間に電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態から励磁状態に切り替えられ、励磁状態で維持される場合、先端部Ｂ４５１に着地した球は中央開口部Ｂ４１３の前側を落下して傾倒部材Ｂ４７０に拾われ第２入賞口Ｂ６４０（傾倒部材Ｂ４７０により開閉される開口、図１３５参照）に入球する。

【２０６１】

図１６０（ａ）から図１６０（ｄ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１６０（ａ）、図１６０（ｂ）及び図１６０（ｄ）では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、図１６０（ｃ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示され、図１６０（ａ）から図１６０（ｄ）では、先端部Ｂ４５１に乗った後の球の流れが時系列で図示される。なお、図１６０（ａ）から図１６０（ｄ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。

【２０６２】

上述したように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１への球の着地は、図１６０（ａ）に示すように先端部Ｂ４５１の左右外側部（球配置ＢＢ１、図１４９（ａ）参照）において生じ易い。先端部Ｂ４５１に着地した球はその後、図１６０（ｂ）に示すように球通過開口Ｂ４１４を通過して、スライド部材Ｂ４５０上を上段部材Ｂ４４０の左側壁部Ｂ４４５又は右側壁部Ｂ４４６に沿って流下する。

【２０６３】

その後、図１６０（ｃ）に示すようにスライド部材Ｂ４５０の傾斜面部Ｂ４５２ａ，Ｂ４５３ａを介して中央流路Ｂ４３１に流入し、中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って正面側へ流下する。この時点では、図１５９（ｃ）に示すのと同様に、図１６０（ｃ）に示すように電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態とされている。

【２０６４】

その後、中央流路Ｂ４３１の前端側で中央開口部Ｂ４１３を球が通過するよりも前に、図１６０（ｄ）に示すように電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態に切り替えられる。その後、図１６０（ｄ）に示すように、中央流路Ｂ４３１の前端側で中央開口部Ｂ４１３を通過した球は下方へ流下する。

【２０６５】

図１６０（ａ）から図１６０（ｄ）に示すように、入賞ユニットＢ４００を球が通過する間に電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態から励磁状態に切り替えられ、再び非励磁状態に切り替えられた場合、先端部Ｂ４５１に着地した球は中央開口部Ｂ４１３の前側を落下して第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）へ向けて流下する。

【２０６６】

このように、本実施形態では、球通過開口Ｂ４１４を球が通過した後で電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられた時点では、その球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われるか否かが不明とされる。

【２０６７】

即ち、球通過開口Ｂ４１４を球が通過してからの傾倒部材Ｂ４７０の状態変化の態様次第で、球が傾倒部材Ｂ４７０の正面側を落下して第３入賞口Ｂ６４ｂへ向けて流下するか、傾倒部材Ｂ４７０に拾われて第２入賞口Ｂ６４０へ向けて流下するかが変わるのであり、どちらへ向けて流下するかは球が傾倒部材Ｂ４７０に到達するまで不明とされる。これにより、球通過開口Ｂ４１４を通過して傾倒部材Ｂ４７０の正面側位置へ向けて流下する球に対する注目力を高い状態で維持することができる。

【２０６８】

先端部Ｂ４５１に球が乗る時には、その球が球通過開口Ｂ４１４へ流入するか否かの分岐点となることから注目力を向上し、球が中央開口部Ｂ４１３を通過する時には、その球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われるか否かの分岐点として注目力を向上することができる。これにより、入賞ユニットＢ４００の内部を流下する球に対する注目力を複数位置で向上させることができる。

【２０６９】

図１６１（ａ）及び図１６１（ｂ）は、入賞ユニットＢ４００の正面斜視図である。図１６１（ａ）及び図１６１（ｂ）では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示され、先端部Ｂ４５１の正面側を流下する球の流れが矢印で図示される。なお、図１６１（ａ）及び図１６１（ｂ）では、流下する球の視認性を向上するために、板部材Ｂ４１０、前意匠部材Ｂ４２０及び上段部材Ｂ４４０の図示が省略されており、球の流下を案内する箇所について想像線で図示されている。

【２０７０】

図１６１（ａ）に示すように、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合には先端部Ｂ４５１の左右外側部に着地する左右位置（球配置ＢＢ１、図１４９(ａ)参照）を通る経路で球が流下した場合、球は開口部Ｂ４３６ａの左右外側へ流れる。即ち、球は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過しない。

【２０７１】

図１６１（ｂ）に示すように、スライド部材Ｂ４５０の前側位置へ向けて、左右内方への速度成分を有する球が飛び込むように流下する場合、その球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａに入球する可能性はある。

【２０７２】

一方で、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の配置が後方に奥まっていることから（図１５３参照）、飛び込むように流下する球が先端部Ｂ４５１に乗ることは防止されている。この防止の作用は、球通過開口Ｂ４１４と先端部Ｂ４５１とで囲われる開口面積が減少されることによっても強化されている。

【２０７３】

即ち、先端部Ｂ４５１が後方へ向けて下降傾斜するよう形成されていることから、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合（図１５０参照）において球通過開口Ｂ４１４と共に開口部を形成するスライド部材Ｂ４５０の部分（先端部Ｂ４５１の後縁部に相当）の上下位置よりも、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される場合（図１５３参照）において球通過開口Ｂ４１４と共に開口部を形成し得るスライド部材Ｂ４５０の部分（先端部Ｂ４５１の前縁部に相当）の上下位置の方が、高い。

【２０７４】

そのため、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される方が、球通過開口Ｂ４１４と先端部Ｂ４５１とで囲われる開口の下辺（先端部Ｂ４５１により形成される辺に相当）の上下位置が上がることで、開口面積が減少される。これにより、スライド部材Ｂ４５０の前側位置へ向けて左右内方への速度成分を有する球が飛び込むように流下する場合に、その球が先端部Ｂ４５１側に進入することを防止し易くすることができる。

【２０７５】

このように、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態においてスライド部材Ｂ４５０の前側位置を流下する球は、概ね入賞ユニットＢ４００の左右外側へ逸れて流れ、一部は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａに入球する。

【２０７６】

一方で、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態においてスライド部材Ｂ４５０の前側位置を流下する球はスライド部材Ｂ４５０上に乗ることは防止されるので、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態においてスライド部材Ｂ４５０の下流側に配置される第２入賞口Ｂ６４０（図１３５参照）や第３入賞口Ｂ６４ｂへ向けた新たな球の導入が行われる事態を回避することができる。

【２０７７】

図１５７から図１６１に示すように、入賞ユニットＢ４００は、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗った球の流下を複数位置で分岐させることができる。まず、非励磁状態のスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に球が乗った直後において（第１の分岐位置）、スライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた場合、その球は検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａへ向けて流下し得る（図１５８（ｃ）参照）。

【２０７８】

一方で、開口Ｂ４３５ａに流下しなかった球は、先端部Ｂ４５１から傾斜に沿って流れる。その球が、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３に乗っている時にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた場合には、その球は、依然としてスライド部材Ｂ４５０に乗ったままとなる。また、底面部Ｂ４３１ａに乗っている時にスライド部材Ｂ４５０が励磁状態に切り替えられた場合（図１５９（ｃ）参照）には、その球は、依然として底面部Ｂ４３１ａに乗ったままとなる。

【２０７９】

左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３を後方へ向けて流下する球は、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の前後幅全域に亘って形成される左右方向の傾斜によって、常時左右内側に寄せられながら、後方へ向けて流下する。これにより、球が左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の後端部に到達するよりも前から、球を下流の中央流路Ｂ４３１側に寄せることができる。従って、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３の後端部に球が到達してから初めて中央流路Ｂ４３１側に方向転換するよりも、中央流路Ｂ４３１側への球の流入をスムーズにすることができる。

【２０８０】

中央流路Ｂ４３１に流入した球は、中央流路Ｂ４３１の傾斜に沿って前方へ向けて転動する。中央流路Ｂ４３１の前端部から球が落下する際に（第２の分岐位置）、電動役物Ｂ６４０ａの傾倒部材Ｂ４７０が非励磁状態で閉鎖位置に配置されていれば、球は下方へ落下し（図１５７（ｄ）参照）、電動役物Ｂ６４０ａの傾倒部材Ｂ４７０が励磁状態で開放位置に配置されていれば、球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われて後方へ流下する（図１５９（ｄ）参照）。

【２０８１】

本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０を転動する遊技球の流下方向を前後方向を含むように設定することで、正面視におけるスライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０の寸法以上の経路長さで遊技球を転動させることができる。

【２０８２】

パチンコ機Ｂ１０の開発の条件として、例えば、電動役物Ｂ６４０ａの正面視における幅寸法は無制限に延ばせるものではなく、長さの限界が設定される（例えば、５５ｍｍ）が、本実施形態によれば、正面視における電動役物Ｂ６４０ａの左右幅寸法はパチンコ機Ｂ１０の開発の条件を満たしつつ、電動役物Ｂ６４０ａを介する実際の球の転動長さを更に延ばすことができる。これにより、電動役物Ｂ６４０ａ上を流れて下流側の入賞口へ球が案内される構成において、正面視における電動役物Ｂ６４０ａの配置スペースを狭めながら、球の流下に要する時間を長くすることができる。

【２０８３】

更に、電動役物Ｂ６４０ａとして、流下する遊技球に当接する箇所（先端部Ｂ４５１及び傾倒部材Ｂ４７０）を離れた位置に設けている。これにより、その間の中央流路Ｂ４３１の長さの分、電動役物Ｂ６４０ａの形状を超えて遊技球の流下長さを稼ぐことができる。

【２０８４】

図１６２（ａ）及び図１６２（ｂ）は、図１４８（ｂ）のＣＬＸＩＩａ－ＣＬＸＩＩａ線における入賞ユニットＢ４００の部分断面図である。図１６２（ａ）では、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置された状態（非励磁状態）が図示され、図１６２（ｂ）では、図１６２（ａ）に示す状態からスライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態（励磁状態）に切り替えられた直後の状態が図示される。また、図１６２（ａ）及び図１６２

（ｂ）では、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時にスライド部材Ｂ４５０又は中央流路Ｂ４３１に球が配置されていた球について図示される。

【２０８５】

図１６２（ａ）及び図１６２（ｂ）に示すように、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時に左案内板部Ｂ４５２に乗っていた球は、スライド部材Ｂ４５０と共にスライド移動の変位量だけ後方に変位する。更に、左案内板部Ｂ４５２が後方へ向けて下降傾斜する傾斜面を構成するので（図１５０参照）、球に後向きの負荷が与えられ、球は加速される。

【２０８６】

一方で、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時に中央流路Ｂ４３１に乗っていた球は、特段後方に変位することもなく、固定の床面を転動する。従って、同様の経路を球が流下する場合であっても、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動する時に左案内板部Ｂ４５２に乗っていた球と、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動する時に左案内板部Ｂ４５２に乗っておらず中央流路Ｂ４３１に乗っていた球とでは、流下に要する時間が異なるが、要する時間の違いの詳細については後述する。

【２０８７】

なお、図１６２（ａ）及び図１６２（ｂ）では、スライド部材Ｂ４５０及び中央流路Ｂ４３１により形成される流下領域に２個の球が配置される場合において、スライド部材Ｂ４５０及び中央流路Ｂ４３１にそれぞれ１個ずつ球が配置される状態が図示されているが、これに限られるものではない。例えば、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３にのみ球が配置される場合も考えられるし、中央流路Ｂ４３１にのみ球が配置される場合も考えられる。また、配置される球の個数は２個に限られるものではなく、１個の場合もあるし、３個以上の複数の場合もある。

【２０８８】

図１６３（ａ）及び図１６３（ｂ）は、図１４８（ｂ）のＣＬＸＩＩａ－ＣＬＸＩＩａ線における入賞ユニットＢ４００の部分断面図である。図１６３（ａ）では、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置された状態（非励磁状態）が図示され、図１６３（ｂ）では、図１６３（ａ）に示す状態からスライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態（励磁状態）に切り替えられた直後の状態が図示される。また、図１６３（ａ）及び図１６３（ｂ）では、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時にスライド部材Ｂ４５０又は中央流路Ｂ４３１に球が配置されていた球について図示される。

【２０８９】

図１６３（ａ）及び図１６３（ｂ）に示すように、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時に右案内板部Ｂ４５３に乗っていた球は、左案内板部Ｂ４５２に乗っていた球と同様に、スライド部材Ｂ４５０と共にスライド移動の変位量だけ後方に変位する。更に、右案内板部Ｂ４５３が後方へ向けて下降傾斜する傾斜面を構成するので（図１５２参照）、球に後向きの負荷が与えられ、球は加速される。

【２０９０】

一方で、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動した時に中央流路Ｂ４３１に乗っていた球は、特段後方に変位することもなく、固定の床面を転動する。従って、同様の経路を球が流下する場合であっても、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動する時に右案内板部Ｂ４５３に乗っていた球と、スライド部材Ｂ４５０がスライド移動する時に右案内板部Ｂ４５３に乗っておらず中央流路Ｂ４３１に乗っていた球とでは、流下に要する時間が異なるが、要する時間の違いの詳細については後述する。

【２０９１】

球がスライド部材Ｂ４５０上を流下して中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでに要する時間について説明する。本実施形態では、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が右案内板部Ｂ４５３を転動して流下する場合、球の流下中にスライド部材Ｂ４５０のスライド動作が生じなければ、球通過開口Ｂ４１４を通過した球は約２．０秒で中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【２０９２】
一方、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が左案内板部Ｂ４５２を転動して流下する場合、球の流下中にスライド部材Ｂ４５０のスライド動作が生じなければ、球通過開口Ｂ４１４を通過した球は約２．４秒で中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。
【２０９３】
スライド部材Ｂ４５０は、球通過開口Ｂ４１４を通過してから中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでの経路の半分を構成する。即ち、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が右案内板部Ｂ４５３上を流下する場合、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．０秒を経過する前にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、その球はスライド部材Ｂ４５０から負荷を受ける一方、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．０秒を経過した後にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、その球はスライド部材Ｂ４５０から負荷を受けることはない。
【２０９４】
また、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が左案内板部Ｂ４５２上を流下する場合、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．２秒を経過する前にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、その球はスライド部材Ｂ４５０から負荷を受ける一方、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．２秒を経過した後にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、その球はスライド部材Ｂ４５０から負荷を受けることはない。
【２０９５】
本実施形態では、左右一対の球通過開口Ｂ４１４に球が同じタイミングで入球した場合であっても、スライド部材Ｂ４５０のスライド動作のタイミングによっては、球がスライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受ける場合と、球がスライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けない場合とが同時に生じ得る。
【２０９６】
即ち、球が球通過開口Ｂ４１４を通過してから約１．０秒を経過した後であって、約１．２秒を経過する前にスライド部材Ｂ４５０がスライド動作する場合には、左案内板部Ｂ４５２上を流下していた球が後向きの負荷を受け、右案内板部Ｂ４５３上を流下していた球は後向きの負荷を受けない。
【２０９７】
球がスライド部材Ｂ４５０に乗っている時にスライド部材Ｂ４５０が後方へ向けてスライド動作した場合、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでに要する時間が約０．５秒短縮される。
【２０９８】
この０．５秒の内訳としては、概略で、スライド部材Ｂ４５０の前後方向の変位量（約１２ｍｍ）により約０．３秒短縮され、スライド部材Ｂ４５０から球に与えられる負荷による加速により０．２秒短縮される。
【２０９９】
左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３を後方へ向けて転動した球は、隙間Ｂ４３２ａ又は隙間Ｂ４３３ａを通り（図１５７（ｂ）参照）、中央流路Ｂ４３１に流入する。隙間Ｂ４３２ａと隙間Ｂ４３３ａとが、前後に位置ずれしていることから、隙間Ｂ４３２ａにおける球の通過と、隙間Ｂ４３３ａにおける球の通過とが同時に生じた場合に、それらが左右方向で正面衝突を起こすことを避けることができる。これにより、隙間Ｂ４３２ａ又は隙間Ｂ４３３ａを通過した球が、球との衝突により押し戻されて逆流する事態を避けることができる。
【２１００】
電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態においてスライド部材Ｂ４５０の前側位置を流下する球がスライド部材Ｂ４５０上に到達することは防止されるので（図１６１参照）、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態に切り替えられてから傾倒部材Ｂ４７０に到達するまでに最も時間がかかるのは、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態への切り替え時点にスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１上に乗っていた球であり、その球以降は傾倒部材Ｂ４７０に球が到達す

ることはない。

【２１０１】

図１６４（ａ）から図１６４（ｃ）は、電動役物Ｂ６４０ａの状態の計時変化の一例を示した図である。なお、図１６４（ａ）では、第１の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１６４（ｂ）では、第２の作動パターンにおける計時変化が図示され、図１６４（ｃ）では、第３の作動パターンにおける計時変化が図示される。

【２１０２】

図１６４（ａ）から図１６４（ｃ）では、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７で球の通過が検出されたことにより動作制御される電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンについて説明する。

【２１０３】

なお、図１３５に示すように、本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａへ向けて流下する球は漏れなく普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過するように釘配置が設計され、球の発射間隔（０．６秒間隔）に比較して、球が普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を通過すること（普通図柄の単一の抽選）を契機とする電動役物Ｂ６４０ａの作動時間（基準の作動パターンでの作動時間、普通図柄の抽選の間隔に相当）の方が長くされるので、弾球遊技中は普通図柄の保留球数が途切れ難く、普通図柄の保留球数が常に０よりも多い状態で維持され易い。そのため、電動役物Ｂ６４０ａの動作は、基準の作動パターンが間隔を空けずに繰り返し実行される。

【２１０４】

図１６４（ａ）に示すように、第１の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ１ａ（本実施形態では０．１秒間）でスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態（前進位置）で維持され、その後、動作時間Ｂｔ１ｂ（本実施形態では３．９秒間）でスライド部材Ｂ４５０が励磁状態（後退位置）で維持されるパターンを基準の作動パターンＢＲＰ１として、これが繰り返される。

【２１０５】

なお、詳細には、非励磁状態を構成する０．１秒間の内訳として、０．０５秒間で第２図柄の変動表示が行われ、その終了後に０．０５秒間スライド部材Ｂ４５０が前進位置で維持されている。

【２１０６】

スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されると、球はスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗ることができるが、０．１秒間は、球が球配置ＢＢ１から球配置ＢＢ３（図１４９（ａ）参照）まで変位するのに要する時間（約０．２秒間）に比較して十分ではない。

【２１０７】

そのため、電動役物Ｂ６４０ａが第１の作動パターンで動作制御される状態では、球が球通過開口Ｂ４１４を通過することが防止され、球が中央流路Ｂ４３１に導入されることが防止されるので、球が第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）に入球することを防止することができる。

【２１０８】

図１６４（ｂ）に示すように、第２の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ２ａ（本実施形態では１．８秒間）でスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態（前進位置）で維持され、その後、動作時間Ｂｔ２ｂ（本実施形態では０．２秒間）でスライド部材Ｂ４５０が励磁状態（後退位置）で維持され、その後、待機時間Ｂｔ２ａでスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態（前進位置）で維持され、その後、動作時間Ｂｔ２ｂでスライド部材Ｂ４５０が励磁状態（後退位置）で維持されるパターンを、基準の作動パターンＢＲＰ２として、これが繰り返される。

【２１０９】

なお、詳細には、非励磁状態を構成する１．８秒間の内訳として、０．０５秒間で第２図柄の変動表示が行われ、その終了後に１．７５秒間スライド部材Ｂ４５０が前進位置で

維持されている。
【２１１０】
スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されると、球はスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗ることができ、その後もスライド部材Ｂ４５０が０．２秒間前進位置で維持されていれば、球は球通過開口Ｂ４１４を通過してスライド部材Ｂ４５０上を転動し、中央流路Ｂ４３１側へ案内される。
【２１１１】
球が到達する位置およびタイミングと、球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでに経過する時間との対応関係について説明する。球配置ＢＢ１からＢＢ３に到達するまでに約０．２秒を要するので、球が球通過開口Ｂ４１４を通過し始めるのはスライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから０．２秒後である。
【２１１２】
球が左案内板部Ｂ４５２に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第１左入球期間ＢＴＩＬ１（本実施形態では０．２～０．６秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、その２．４秒後である第１左排出期間ＢＴＯＬ１（本実施形態では２．６～３．０秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。この場合、球は、スライド部材Ｂ４５０が動作する前に中央流路Ｂ４３１に到達するので、スライド部材Ｂ４５０からの負荷による球の流下速度変化は生じない。
【２１１３】
また、球が左案内板部Ｂ４５２に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第２左入球期間ＢＴＩＬ２（本実施形態では０．６秒～１．８秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、スライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けることで通過期間が０．５秒短縮されて、球通過開口Ｂ４１４を通過してから１．９秒後である第２左排出期間ＢＴＯＬ２（本実施形態では２．５～３．７秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。
【２１１４】
一方、球が右案内板部Ｂ４５３に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第１右入球期間ＢＴＩＲ１（本実施形態では０．２～０．８秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、その２．０秒後である第１右排出期間ＢＴＯＲ１（本実施形態では２．２～２．８秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。この場合、球は、スライド部材Ｂ４５０が動作する前に中央流路Ｂ４３１に到達するので、スライド部材Ｂ４５０からの負荷による球の流下速度変化は生じない。
【２１１５】
また、球が右案内板部Ｂ４５３に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第２右入球期間ＢＴＩＲ２（本実施形態では０．８秒～１．８秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、スライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けることで通過期間が短縮されて、球通過開口Ｂ４１４を通過してから１．５秒後である第２右排出期間ＢＴＯＲ２（本実施形態では２．３～３．３秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。
【２１１６】
そのため、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで動作制御される状態では、球が球通過開口Ｂ４１４を通過した場合に、球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するタイミングで電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態（スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置され、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に配置される状態）とされているので、球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われないことから第２入賞口Ｂ６４０（図１３５参照）へは案内されず、第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）側へ案内される。
【２１１７】
このように、本実施形態では、球の配置によって（遅く入球した球に対して）、スライド部材Ｂ４５０の動作時に球に負荷が与えられ、球の通過に要する時間が短縮される。これにより、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持される場合に球通過開口Ｂ４１４を

通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するのに要する時間（左案内板部Ｂ４５２を介して流下する場合に要する時間（本実施形態では約２．４秒間））よりも短い周期の作動パターンでスライド部材Ｂ４５０を動作させながらも、そのスライド部材Ｂ４５０の作動パターンの周期内で、球を中央流路Ｂ４３１の前端から通過させることができる。

【２１１８】

従って、１回目（ｎ回目）に前進位置にスライド部材Ｂ４５０が配置されている状態において球通過開口Ｂ４１４を通過した球を、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される状態を経由して、２回目（ｎ＋１回目）に前進位置にスライド部材Ｂ４５０が配置されている状態において中央流路Ｂ４３１の前端から通過させることができる。

【２１１９】

即ち、球通過開口Ｂ４１４の球の通過と、中央流路Ｂ４３１の前端からの球の通過とを、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されるｎ回目の状態およびｎ＋１回目の状態を１セットで完結させることができる。

【２１２０】

図１６４（ｃ）に示すように、第３の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ３ａ（本実施形態では２．０秒間）でスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態（前進位置）で維持され、その後、動作時間Ｂｔ３ｂ（本実施形態では２．０秒間）でスライド部材Ｂ４５０が励磁状態（後退位置）で維持されるパターンを基準の作動パターンＢＲＰ３として、これが繰り返される。

【２１２１】

なお、詳細には、非励磁状態を構成する２．０秒間の内訳として、０．０５秒間で第２図柄の変動表示が行われ、その終了後に１．９５秒間スライド部材Ｂ４５０が前進位置で維持されている。

【２１２２】

スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されると、球はスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に乗ることができ、その後もスライド部材Ｂ４５０が０．２秒間前進位置で維持されていれば、球は球通過開口Ｂ４１４を通過してスライド部材Ｂ４５０上を転動し、中央流路Ｂ４３１側へ案内される。

【２１２３】

球が到達する位置およびタイミングと、球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するまでに経過する時間との対応関係について説明する。球配置ＢＢ１からＢＢ３に到達するまでに約０．２秒を要するので、球が球通過開口Ｂ４１４を通過し始めるのはスライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから０．２秒後である。

【２１２４】

球が左案内板部Ｂ４５２に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第３左入球期間ＢＴＩＬ３（本実施形態では０．２～０．８秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、その２．４秒後である第３左排出期間ＢＴＯＬ３（本実施形態では２．６～３．２秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【２１２５】

また、球が左案内板部Ｂ４５２に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第４左入球期間ＢＴＩＬ４（本実施形態では０．８秒～２．０秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、スライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けることで通過期間が短縮されて、球通過開口Ｂ４１４を通過してから１．９秒後である第４左排出期間ＢＴＯＬ４（本実施形態では２．７～３．９秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【２１２６】

一方、球が右案内板部Ｂ４５３に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第３右入球期間ＢＴＩＲ３（本実施形態では０．２～１．０秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、その２．０秒後である第３右排出期間ＢＴＯＲ３（本実施形態では２．２～３．０秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。

【２１２７】
また、球が右案内板部Ｂ４５３に案内される場合、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されてから第４右入球期間ＢＴＩＲ４（本実施形態では１．０秒～２．０秒）後に球通過開口Ｂ４１４を通過した球は、スライド部材Ｂ４５０から後向きの負荷を受けることで通過期間が短縮されて、球通過開口Ｂ４１４を通過してから１．５秒後である第４右排出期間ＢＴＯＲ４（本実施形態では２．５～３．５秒）後に中央流路Ｂ４３１の前端を通過する。
【２１２８】
そのため、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで動作制御される状態では、球が球通過開口Ｂ４１４を通過した場合に、球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するタイミングで電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態（スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置され、傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に配置される状態）とされているので、球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われて、漏れなく第２入賞口Ｂ６４０（図１３５参照）に案内され、第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）側へは案内されない。
【２１２９】
このように、本実施形態では、球の配置によって（遅く入球した球に対して）、スライド部材Ｂ４５０の動作時に球に負荷が与えられ、球の通過に要する時間が短縮される。これにより、スライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持される場合に球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するのに要する時間（左案内板部Ｂ４５２を介して流下する場合に要する時間（本実施形態では約２．４秒間））よりも、スライド部材Ｂ４５０が後退位置で維持される期間が短い作動パターンであっても、スライド部材Ｂ４５０が後退位置で維持される間に球を中央流路Ｂ４３１の前端から通過させることができる。
【２１３０】
従って、基準の作動パターンにおいて、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において前進位置に配置されるスライド部材Ｂ４５０に乗り中央流路Ｂ４３１側へ流下した球を、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態において開放位置に配置される傾倒部材Ｂ４７０で拾いきることができる。即ち、球通過開口Ｂ４１４の球の通過と、中央流路Ｂ４３１の前端からの球の通過とを、基準の作動パターンＢＲＰ３で完結させることができる。
【２１３１】
上述したように、電動役物Ｂ６４０ａに案内された球は、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンに対応して、異なる入球口を通過することになる。まず、第１の作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作制御される場合、球は球通過開口Ｂ４１４を通過せず、検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過するか、開口Ｂ４３５ａから逸れて落下する。
【２１３２】
そのため、特別図柄の抽選に関するサポートが生じるものではなく、特別図柄の抽選は専ら第１入賞口Ｂ６４への入球によるものとなるので、特別図柄の抽選を間隔を空けずに頻繁に生じさせることは難しい。スライド部材Ｂ４５０の正面側を流下した球が開口Ｂ４３５ａを通過した場合に賞球の払い出しが生じることで遊技者の手持ちの遊技球を増やす面でのサポートのみが生じる。
【２１３３】
次に、第２の作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作制御される場合、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するタイミングでは電動役物Ｂ６４０ａは非励磁状態とされ、傾倒部材Ｂ４７０は閉鎖位置に配置されるので、球は傾倒部材Ｂ４７０の正面側を第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）側へ向けて流下する。
【２１３４】
そのため、特別図柄１の抽選を頻繁に生じさせることができる。また、第３入賞口Ｂ６４ｂに球が入球した場合に賞球の払い出しが生じることで遊技者の手持ちの遊技球を増やす面でのサポートも生じる。
【２１３５】

次に、第３の作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作制御される場合、球通過開口Ｂ４１４を通過した球が中央流路Ｂ４３１の前端を通過するタイミングでは電動役物Ｂ６４０ａは励磁状態とされ、傾倒部材Ｂ４７０は開放位置に配置されるので、球は傾倒部材Ｂ４７０に拾われて第２入賞口Ｂ６４０（図１３５参照）へ向けて、即ち、検出センサＢ４６２（Ｅ５参照）へ向けて流下する。

【２１３６】

そのため、特別図柄２の抽選を頻繁に生じさせることができる。また、第２入賞口Ｂ６４０に球が入球した場合に賞球の払い出しが生じることで遊技者の手持ちの遊技球を増やす面でのサポートも生じる。

【２１３７】

このように第１の作動パターンから第３の作動パターンが設定可能とされることで、電動役物Ｂ６４０ａが常時開閉駆動される設計においても、第２入賞口Ｂ６４０への入球が生じる場合と、第２入賞口Ｂ６４０への入球が防止される場合とを、切り替えることができる。

【２１３８】

即ち、電動役物Ｂ６４０ａの駆動制御が、第１の作動パターン又は第２の作動パターンで実行される場合には、球の第２入賞口Ｂ６４０への入球が防止され、電動役物Ｂ６４０ａの駆動制御が、第３の作動パターンで実行される場合には、球の第２入賞口Ｂ６４０への入球が頻繁に生じる。

【２１３９】

図１６５は、保留種別、遊技状態、特別図柄の種別および変動時間の関係を説明する図である。なお、理解を容易とするために、特別図柄２についてのみ図示し、特別図柄１についての図示を省略する。

【２１４０】

特別図柄１では、変動時間は、低確率状態でも高確率状態でも同様に設定されており、特別図柄１の保留に基づいて外れ図柄が決定された場合、変動時間は５秒または２０秒に決定され、特別図柄１の保留に基づいて大当たり図柄が決定された場合、変動時間は２０秒に決定される。

【２１４１】

一方、本実施形態では、特別図柄２の抽選の状態が上述した低確率状態または高確率状態のいずれかに設定され、設定されている遊技状態に基づいて変動時間が異なるようにして遊技が進行する。

【２１４２】

図１６５に示すように、低確率状態（本実施形態における通常状態または時短状態）において、特別図柄２の保留に基づいて外れ図柄が決定された場合または小当たり図柄が決定された場合、変動時間は１０分間に決定される。一方で、低確率状態において、特別図柄２の保留に基づいて大当たり図柄が決定された場合、変動時間は２０秒に決定される。

【２１４３】

変動時間を１０分と長い時間で設定しているのは、低確率状態において第２入賞口Ｂ６４０に球が入球した場合に遊技者が得られる利益を低くするためである。これにより、入賞ユニットＢ４００の内部を流下する球が偶発的に第２入賞口Ｂ６４０に入球する事態が生じたとしても、遊技状態が高確率状態に移行されない限り、特別図柄２の変動を長引かせることができるので、特別図柄２の抽選による利益を遊技者が得られ難いようにすることができる。

【２１４４】

本実施形態では、特別図柄２の保留球数は４個まで許容されるので、特別図柄２の保留球で大当たり図柄が決定されている場合、その決定に基づく大当たりが１０分後～３０分後に発生する（特別図柄の変動が停止する）という事態が生じ得る。

【２１４５】

そのため、特別図柄２の保留に基づいて大当たり図柄が決定されたタイミングで遊技を

している遊技者と、その保留された特別図柄２に基づく大当たりが発生したタイミングで遊技をしている遊技者が異なる事態や、大当たりが発生するタイミングで遊技をしている遊技者がいない事態が生じ得る。

【２１４６】

このような場合、大当たりが発生したタイミングで即座に特別遊技状態に移行すると、現在遊技をしている遊技者や、近くの別のパチンコ機で遊技をしている遊技者が、突然特別遊技が始まったことに驚いてしまい、遊技者に故障かと疑われる可能性がある。

【２１４７】

これに対し、大当たりが決定された場合において、特別遊技状態に移行する条件を定めることができる。本実施形態では、大当たりが決定された後（特別図柄の変動が停止した後）で第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に表示される指示に従いスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球を通過させることで、特別遊技状態に移行させることができる。

【２１４８】

即ち、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球が通過するまでは、特別遊技状態へ移行されることは無いように制御されることで、遊技者に故障かと疑われる可能性を低くすることができる。なお、特別遊技状態へ移行させるために球を通過させる箇所はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に限定されるものではなく、例えば、一般入賞口Ｂ６３を球が通過することで、特別遊技状態に移行されるように制御しても良い。

【２１４９】

また、高確率状態（本実施形態における確変状態または特殊確変状態）において、特別図柄２の保留に基づいて外れ図柄が決定された場合、変動時間は５秒または２０秒に決定される。

【２１５０】

また、高確率状態において、特別図柄２の保留に基づいて小当たり図柄が決定された場合、変動時間は２秒に決定される。一方、高確率状態において、特別図柄２の保留に基づいて大当たり図柄が決定された場合、変動時間は２０秒に決定される。

【２１５１】

高確率状態では、特に特別図柄２の保留に基づいて小当たり図柄が決定された場合の変動時間が短く設定されているので、第２入賞口Ｂ６４０に球が頻繁に入球する状態（本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａの駆動制御が第３の作動パターンで実行される場合）では、遊技者は、頻繁に小当たり遊技を実行させ特定入賞口Ｂ６５ａを開放させることができるので、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に基づく賞球を頻繁に得ることができる。

【２１５２】

なお、特別図柄の変動時間の設定はこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、各図柄の変動時間として多種多様なバリエーションを加えても良いし、特別図柄の保留個数に対応して変動時間の長短が変わるようにしても良い。特別図柄の保留個数に対応して変動時間の長短が変わる場合には、一般的には、保留個数が少ない場合の方が、保留個数が多い場合（満タンに近い場合）に比較して、変動時間が長くなるように設定される。

【２１５３】

本実施形態では、従来の機種に見られたような、不適切なタイミングで特別図柄２の抽選を獲得するように球を発射することで遊技者に不測の利益が生じるという問題点を解消することができる。

【２１５４】

即ち、従来の機種においても、本実施形態のように特別図柄１の抽選に係る第１入球口への入球頻度が高くなる状態と、特別図柄２の抽選に係る第２入球口への入球頻度が高くなる状態とを切り替えられるように構成する例が見られた。

【２１５５】

しかし、電動役物Ｂ６４０ａの設置個数が１個に限定される場合、第１入球口または第２入球口の何れか一方に付随するよう電動役物Ｂ６４０ａが設置され、他方の入球口には

電動役物Ｂ６４０ａが設置されず、常に球が入球可能な状態とされることが想定される。
【２１５６】
この場合において、遊技盤Ｂ１３の中央に配置される一方の入球口（第１入賞口Ｂ６４に相当、図１３５参照）よりも、他方の入球口の入球効率が高い場合や、他方の入球口への入球による抽選で大当たりとなった場合に遊技者が得られる利益が極めて高い場合などには、パチンコ機Ｂ１０が提供するゲームとしては一方の入球口に球を入賞させるべきタイミングであると報知していても、遊技者が他方の入球口へ向けて球を発射する可能性がある。
【２１５７】
低確率状態における特別図柄２の変動時間を超長期とすることで他方の入球口の入球に基づく変動の消化効率を下げるという対策を行ったとしても、特別図柄２の保留個数に因らず特別図柄１の保留に基づく変動が開始される場合には、予め他方の入球口に入球させて特別図柄２を変動させた上で一方の入球口に球を入賞させるゲームを進行させることで、パチンコ機Ｂ１０が提供する遊技を行っている間に特別図柄２の変動時間を消化させることができるとすれば、その抑止力は低いと言える。
【２１５８】
パチンコ機Ｂ１０が提供するゲームとしては一方の入球口に球を入賞させるべきタイミングであっても、他方の入球口への入球により大当たりとなると特別遊技状態に移行することになり、パチンコ機Ｂ１０が提供するゲームとして意図されていない利益を遊技者に与えることになるとすれば、遊技の公平性の面で問題がある。
【２１５９】
これに対し、本実施形態では、単一のソレノイドＢＳＯＬ４１により駆動される電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）により、特別図柄１の抽選に係る第１入球口（第３入賞口Ｂ６４ｂに相当）への入球頻度を上げるようにサポートする状態（電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動制御される状態）では、特別図柄２の抽選に係る第２入球口（第２入賞口Ｂ６４０に相当）への入球頻度を下げることができる一方で、特別図柄２の抽選に係る第２入球口への入球頻度を上げるようにサポートする状態（電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで駆動制御される状態）では、特別図柄１の抽選に係る第１入球口への入球頻度を下げることができる。
【２１６０】
更に、特別図柄１の抽選に係る第１入球口（第３入賞口Ｂ６４ｂに相当）への入球頻度も、特別図柄２の抽選に係る第２入球口（第２入賞口Ｂ６４０に相当）への入球頻度も、共に低くする状態（電動役物Ｂ６４０ａが第１の作動パターンで駆動制御される状態）を構成することもできる。
【２１６１】
これにより、パチンコ機Ｂ１０が提供するゲームとして意図されていない利益を遊技者に与えることを防止することができ、遊技の公平性の面で改良することができる。
【２１６２】
図１６６から図１６８は、図１５６（ａ）のＣＬＸＶＩ－ＣＬＸＶＩ線におけるスライド部材Ｂ４５０、傾倒部材Ｂ４７０及び伝達部材Ｂ４８０の断面図である。図１６６から図１６８では電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態から励磁状態への切替動作が時系列で図示されており、図１６６では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態が図示され、図１６７では、第１部材Ｂ４８１が上昇する一方でスライド部４５０の配置が前進位置で維持される状態が図示され、図１６８では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態が図示される。また、図１６６から図１６８では、配置の参考として板部材Ｂ４１０の外形が想像線で図示される。
【２１６３】
図１６６から図１６８で図示されるように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態から励磁状態への切替動作は、スライド部材Ｂ４５０の動作タイミングと傾倒部材Ｂ４７０の動作タイミングとにずれがある。
【２１６４】

即ち、動作開始から途中位置までは傾倒部材Ｂ４７０のみが動作し（図１６６及び図１６７参照）、途中位置からは傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０が動作する（図１６７及び図１６８参照）。この時、動作終了タイミングは、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とでほぼ同時となる（図１６８参照）。

【２１６５】

以下で詳しく説明する。第１部材Ｂ４８１は、ソレノイドＢＳＯＬ４１のプランジャーＢＳＯＬ４１ａ（図１４４参照）と一体的に動作することから、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動タイミングに同期して上下動作する。

【２１６６】

一方で、第１部材Ｂ４８１の後端部に形成される一対の伝達板部Ｂ４８２を介して第１部材Ｂ４８１から第２部材Ｂ４８５への駆動力伝達が行われる構成において、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態では、上板部Ｂ４８２ａが第２部材Ｂ４８５の偏心突部Ｂ４８６と当接される一方で、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６との間に隙間が確保されている。

【２１６７】

第２部材Ｂ４８５は、回転軸部Ｂ４８５ａを中心に回転動作可能に支持されており、スライド部材Ｂ４５０を介して係止板部Ｂ４３１ｂに係止される（図１５１参照）ことで、非励磁状態（図１６６参照）における配置が前転方向変位の終端位置となるように構成されている。

【２１６８】

非励磁状態から第１部材Ｂ４８１が上昇する過程において、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６とが当接されるまでは第２部材Ｂ４８５の姿勢およびスライド部材Ｂ４５０の配置は維持され、傾倒部材Ｂ４７０のみが傾倒動作する。即ち、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力は傾倒部材Ｂ４７０に集中して伝達される。

【２１６９】

第１部材Ｂ４８１が上昇する過程において、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６とが当接した後は、下板部Ｂ４８２ｂに偏心突部Ｂ４８６が持ち上げられる態様で第２部材Ｂ４８５が回転軸部Ｂ４８５ａを中心に後転方向に回転動作する。

【２１７０】

このように、同一のソレノイドＢＳＯＬ４１（図１４４参照）の駆動力を利用しながら、電動役物Ｂ６４０ａを励磁状態から非励磁状態に切り替える場合に、傾倒部材Ｂ４７０に駆動力が必要となるタイミングと、スライド部材Ｂ４５０に駆動力が必要となるタイミングとをずらしている。

【２１７１】

特に、スライド部材Ｂ４５０への駆動力伝達が開始される状態（図１６７参照）以降において、第１部材Ｂ４８１の上方から傾倒部材Ｂ４７０の被伝達部Ｂ４７４が退避されていることから、傾倒部材Ｂ４７０の動作は自重に任せ、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力がスライド部材Ｂ４５０の移動に費やされる。

【２１７２】

また、上述のように、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態から励磁状態への切替動作において、傾倒部材Ｂ４７０の傾倒動作が先行して開始されるので、スライド部材Ｂ４５０の動作抵抗によらず傾倒部材Ｂ４７０の傾倒動作を開始することができる。

【２１７３】

従って、スライド部材Ｂ４５０に球が乗っている場合であっても、その球の重さの影響で傾倒部材Ｂ４７０の傾倒動作が遅れるという事態の発生を回避することができるので、傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に配置されることにより球が第２入賞口Ｂ６４０へ向けて案内される期間の開始タイミングが制御とずれる事態の発生を回避することができる。

【２１７４】

また、傾倒部材Ｂ４７０の変位開始時に正面側に球が配置されており、傾倒部材Ｂ４７０と前意匠部材Ｂ４２０（図１５１参照）との間で球を挟むような場合であっても、スラ

イド部材Ｂ４５０に駆動力が割り振られることなく傾倒部材Ｂ４７０に駆動力が伝達されていることから、球を下方に排斥するのに十分な力を生じさせることができる。そのため、傾倒部材Ｂ４７０と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が挟まった状態を早期に解消することができる。

【２１７５】

一方で、スライド部材Ｂ４５０にソレノイドＢＳＯＬ４１（図１４５参照）の駆動力が伝達される段階では（図１６７及び図１６８参照）、傾倒部材Ｂ４７０へ割り振られる駆動力は極めて少なくなり駆動力をスライド部材Ｂ４５０に集中させることができるので、スライド部材Ｂ４５０上に球が配置されている場合に、その球に対してスライド部材Ｂ４５０を介して与えられる後向きの負荷を確保することができる。

【２１７６】

本実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０へ向けて流下する球の経路が板部材Ｂ４１０と前意匠部材Ｂ４２０とに囲まれ、球が傾倒部材Ｂ４７０から逸れないように構成されている（図１５４参照）。そのため、図１６７に示すように、傾倒部材Ｂ４７０が全開放する前の状態であっても、傾倒部材Ｂ４７０に球の重みが与えられることで傾倒部材Ｂ４７０が開放位置へ変位される（押し下げられる）ことから、球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われ易く構成することができる。

【２１７７】

電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態から非励磁状態への切替動作（図１６８から図１６６へ戻る動作）においても、スライド部材Ｂ４５０の動作タイミングと傾倒部材Ｂ４７０の動作タイミングとにずれがある。

【２１７８】

即ち、動作開始（図１６８参照）から途中位置（図１６７参照）までは伝達部材Ｂ４８０の第１部材Ｂ４８１に傾倒部材Ｂ４７０の被伝達部Ｂ４７４が押し下げられると共に、第１部材Ｂ４８１の下板部Ｂ４８２ｂに第２部材Ｂ４８５の係止突設部Ｂ４８７が押し下げられることで、傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０が共に動作する。一方で、途中位置（図１６７参照）でスライド部材Ｂ４５０が前進位置に既に到達しているので、途中位置からは傾倒部材Ｂ４７０のみが動作される。

【２１７９】

これにより、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態から非励磁状態への切替動作において、傾倒部材Ｂ４７０の動作完了よりも先にスライド部材Ｂ４５０を前進位置に配置させることができる。そのため、球が先端部Ｂ４５１に乗り易いようにすることができる（先端部Ｂ４５１に球が拾われる期間をなるべく延ばすことができる）と共に、傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われ易くすることができる（傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に到達するまでの期間を引き延ばすことができる）。

【２１８０】

また、本実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１の下側には突条部Ｂ４５５が形成されておらず、先端部Ｂ４５１において上下方向の弾性変形が許容される。そのため、励磁状態（図１６８参照）から非励磁状態（図１６６参照）への切替動作において、スライド部材Ｂ４５０と前意匠部材Ｂ４２０（図１５３参照）との間に球が挟まり、スライド部材Ｂ４５０の変位が抑制され得る事態が生じたとしても、先端部Ｂ４５１を弾性変形させてスライド部材Ｂ４５０の前方変位を継続することができるので、スライド部材Ｂ４５０と連動する傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作が不良となることを回避し、傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作を確実に完了させることができる。

【２１８１】

本実施形態では上述のように、同一のソレノイドＢＳＯＬ４１（図１４４参照）の駆動力を利用しながら、電動役物Ｂ６４０ａを非励磁状態から励磁状態に切り替える場合に、傾倒部材Ｂ４７０に駆動力が必要となるタイミングと、スライド部材Ｂ４５０に駆動力が必要となるタイミングとをずらしている。

【２１８２】

上述のように、本実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａが非励磁状態から励磁状態に切替動作される場合には、傾倒部材Ｂ４７０の動作開始が先行し、その後でスライド部材Ｂ４５０の動作が開始され、傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０の動作終了のタイミングはほぼ同じとなるように設定されている。

【２１８３】

スライド部材Ｂ４５０側からの負荷伝達について説明する。図１６６に示すように、第２部材Ｂ４８５の下端部（回転軸部Ｂ４８５ａの下方の部分）には回転軸部Ｂ４８５ａの軸方向に沿って係止突設部Ｂ４８７が突設形成される。

【２１８４】

係止突設部Ｂ４８７は、前後方向で第１部材Ｂ４８１の下板部Ｂ４８２ｂと当接するよう配設される。この当接部分に生じる摩擦力により、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態における第１部材Ｂ４８１の意図せぬ上昇（浮き上がり）を抑制することができ、傾倒部材Ｂ４７０を閉鎖位置に維持し易くすることができる。

【２１８５】

更に、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０を後ろ向きに移動させ、連動して第２部材Ｂ４８５を後転方向に回転変位させる方向の負荷（後向きの負荷）がスライド部材Ｂ４５０に与えられた場合であっても、係止突設部Ｂ４８７の移動方向に下板部Ｂ４８２ｂが配置されていることにより、第２部材Ｂ４８５の回転変位が止められ、スライド部材Ｂ４５０の後方への変位も止められる。

【２１８６】

この場合において、係止突設部Ｂ４８７の移動方向（回転軸部Ｂ４８５ａを中心とした円に沿う方向）と、第１部材Ｂ４８１の移動方向（上下方向）とが交差する（直交する）ことから、係止突設部Ｂ４８７を介して伝達される負荷によって第１部材Ｂ４８１が上下方向に変位することを防止している。これにより、非励磁状態において、スライド部材Ｂ４５０が予期せず後方に変位する事態の発生を回避し易くすることができる。

【２１８７】

これにより、例えば、パチンコ機Ｂ１０（図１３４参照）の外部から遊技領域内に不正に金属細線（ピアノ線や針金等）を進入させて、その金属細線を介してスライド部材Ｂ４５０に負荷を与え、電動役物Ｂ６４０ａの配置を変化させる不正行為への対策とすることができる。

【２１８８】

特に、非励磁状態においてベース板Ｂ６０（図１３５参照）の正面側に張り出しており、不正行為を行う者が負荷を与えることが容易であると考えるであろうスライド部材Ｂ４５０について対策を行うことで、不正行為の継続の抑制を図ることができる。

【２１８９】

図１６９は、図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における板部材Ｂ４１０、ベース板Ｂ４３７、スライド部材Ｂ４５０、傾倒部材Ｂ４７０及び伝達部材Ｂ４８０の断面図である。図１６９では、構造の理解を容易とするための入賞ユニットＢ４００の不要な構成の図示が省略されており、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態から非励磁状態に切り替えられる途中において傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間に球が挟まることで傾倒部材Ｂ４７０の動作が一時的に停止した状態が図示される。

【２１９０】

上述したように、傾倒部材Ｂ４７０とスライド部材Ｂ４５０との動作は伝達部材Ｂ４８０を仲立ちとして連動する。本実施形態では、図１６９に示すように、傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間で球が挟まった（球噛みが生じた）場合において、スライド部材Ｂ４５０の前進が抑えられており、板部材Ｂ４１０の球通過開口Ｂ４１４（図１４９参照）の正面側を流下する球が、スライド部材Ｂ４５０に拾われにくいように構成されている。

【２１９１】

従って、傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間で球が挟まった（球噛みが生じ

た）場合に、入賞ユニットＢ４００の内部に想定外に多量の球が滞留する事態が生じることを回避し易くすることができる。

【２１９２】

これにより、傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとの間に球が挟み込まれた場合に、スライド部材Ｂ４５０に次々に球が拾われ、傾倒部材Ｂ４７０側に向けて次々に球が流下して、傾倒部材Ｂ４７０と傾斜面部Ｂ４３７ｅとで挟み込まれた球に対して後追いの球が次々に重なり、傾倒部材Ｂ４７０の動作不良を引き起こす事態が生じることを回避することができる。

【２１９３】

図１３５に戻って説明する。本実施形態では、遊技領域の左右幅略中央位置において、センターフレームＢ８６の上側部を構成するようにして、上側可変入賞装置Ｂ７００が配設される。レールＢ６１，Ｂ６２に沿って打ち出された球の一部は、釘に衝突しながら上側可変入賞装置Ｂ７００に到達する。

【２１９４】

図１７０（ａ）及び図１７０（ｂ）は、図１３５の範囲ＣＬＸＸａにおける上側可変入賞装置Ｂ７００の拡大正面図である。図１７０（ａ）では、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態が図示され、図１７０（ｂ）では、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態が図示される。

【２１９５】

上側可変入賞装置Ｂ７００は、ベース板Ｂ６０に前後方向で穿設される開口を塞ぐようにベース板Ｂ６０に締結固定されガラスユニットＢ１６（図１３４参照）との間で球を流下させる経路を構成する基礎板部材Ｂ７１０と、その基礎板部材Ｂ７１０の上側部に前後方向で穿設される逆Ｖ字開口Ｂ７１１を通って前後方向にスライド移動可能とされる移動上蓋部材Ｂ７３０と、その移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した遊技球が通過（入賞）可能に構成される第２特定入賞口Ｂ７００ａが形成される検出センサと、基礎板部材Ｂ７１０の下側部に前後方向で穿設される矩形開口Ｂ７１２を通って前後方向にスライド移動可能とされる移動床部材Ｂ７４０と、球が通過可能な開口部Ｂ７５１が基礎板部材Ｂ７１０の正面側に配置され基礎板部材Ｂ７１０の正面側を流下する球の通過を検出可能に構成される複数の検出センサＢ７５０と、を備える。

【２１９６】

また、移動床部材Ｂ７４０の正面側を通過した遊技球は、内レールＢ６１や外レールＢ６２と同様に帯状の金属板で湾曲形状に形成されベース板Ｂ６０の正面側に植立される中間レール部材Ｂ７８１に受け止められる。

【２１９７】

中間レール部材Ｂ７８１の最下端部の後方位置において、ベース板Ｂ６０に球抜き開口Ｂ７８２が形成されている。中間レール部材Ｂ７８１に受け止められた球は球抜き開口Ｂ７８２を通って、図示しない球排出路へと案内される。

【２１９８】

上側可変入賞装置Ｂ７００は、正面側に配設されるガラスユニットＢ１６との間で遊技領域を形成するように配置される。ガラスユニットＢ１６は透明なため、遊技者は正面視で第２特定入賞口Ｂ７００ａや検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を視認することができる。

【２１９９】

なお、ガラスユニットＢ１６の背面側に、正面視で第２特定入賞口Ｂ７００ａや検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１と重なる大きさの樹脂板部材を配置し、その樹脂板部材と基礎板部材Ｂ７１０との間で球が流下するように構成しても良い。この場合、樹脂板部材として透過性の部材を採用するか、不透過性の部材を採用するかで、遊技球の視認性を異ならせることができる。例えば、不透過性の部材を採用した場合には、上側可変入賞装置Ｂ７００を、特定入賞口７００ａや開口部Ｂ７５１への球の通過を視認困難なものとして構成することができる。

【２２００】
基礎板部材Ｂ７１０は、上側部において左右端部がセンターフレームＢ８６の左右中央側の端部に近接する細幅の逆Ｖ字形状で穿設される逆Ｖ字開口Ｂ７１１と、下側部において左右長尺の矩形状で穿設される矩形開口Ｂ７１２と、逆Ｖ字開口Ｂ７１１の下側において正面側に延設される板状部であって第２特定入賞口Ｂ７００ａ側へ向けて下降傾斜する左右一対の傾斜転動板部Ｂ７１３と、その傾斜板部７１３よりも下側かつ検出センサＢ７５０よりも左右外側の位置において正面側に延設される板状部であって検出センサＢ７５０側へ向けて下降傾斜する左右一対の傾斜外壁板部Ｂ７１４と、第２特定入賞口Ｂ７００ａの下方において第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球を受け入れ可能な間隔を空けて正面側に延設される一対の板状部であって下端部が矩形開口Ｂ７１２に近接配置される左右一対の貯留板部Ｂ７１５と、検出センサＢ７５０の下方において開口部Ｂ７５１を通過した球を内側に受け入れ可能な左右幅のＵ字形状で正面側に延設される左右一対の受入部Ｂ７１６と、その受入部Ｂ７１６の内側の形状で前後方向に穿設され受入部Ｂ７１６で受け入れられた球を背面側へ排出する左右一対の排出開口Ｂ７１７と、を備える。
【２２０１】
傾斜転動板部Ｂ７１３、傾斜外壁板部Ｂ７１４、貯留板部Ｂ７１５及び受入部Ｂ７１６は、ガラスユニットＢ１６との間に球をこぼさないために十分な位置まで延設される。即ち、正面視において、球は傾斜転動板部Ｂ７１３、傾斜外壁板部Ｂ７１４、貯留板部Ｂ７１５及び受入部Ｂ７１６を貫通することはなく、その形状に沿って流下する。
【２２０２】
傾斜外壁板部Ｂ７１４は、検出センサＢ７５０の上側において傾斜転動板部Ｂ７１３との間に球が入り込み得る隙間を構成する。これにより、検出センサＢ７５０の上側において左右外側へ逸れた球を、傾斜に沿って検出センサＢ７５０側へ案内することができる。
【２２０３】
貯留板部Ｂ７１５は、第２特定入賞口Ｂ７００ａの中心軸から左右に同距離だけ離れた位置に配置される。即ち、第２特定入賞口Ｂ７００ａの中心軸が、貯留板部Ｂ７１５の左右側面と平行な平面であって一対の貯留板部Ｂ７１５の中間位置に配置される平面上に配置される。これにより、第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に流入し易くすることができる。
【２２０４】
移動上蓋部材Ｂ７３０は、左右外側へ向けて下降傾斜する正面視逆Ｖ字形状に屈曲した板部Ｂ７３１を有し、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態では板部Ｂ７３１がベース板Ｂ６０の正面側に張り出し、移動上蓋部材Ｂ７３０に乗った球は板部Ｂ７３１の傾斜に沿って左右外側へ流される。
【２２０５】
上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態に切り替えられると、板部Ｂ７３１はベース板Ｂ６０の前端面よりも後方に退避され、板部Ｂ７３１上に乗っていた球は傾斜転動板部Ｂ７１３へ向けて落下する。
【２２０６】
この時、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態において板部Ｂ７３１の傾斜に沿って流下していた球は左右外側へ向けた速度を有しているため、傾斜転動板部Ｂ７１３の左右外側部に着地し易い。その上で、傾斜転動板部Ｂ７１３の左右内側へ向けた傾斜に沿って流れて、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過することになる。
【２２０７】
即ち、板部Ｂ７３１の上面を流れる球の流下方向を、第２特定入賞口Ｂ７００ａに最短距離で向かう方向に比べて迂回した方向にさせ易く、第２特定入賞口Ｂ７００ａを球が通るまでの時間を長引かせることができる。
【２２０８】
移動上蓋部材Ｂ７３０が左右両側に傾斜していることで、第２特定入賞口Ｂ７００ａを球が通るまでの時間を長引かせるという上記の効果を複数経路で生じさせることができる

ので、球の流下が遅くなることによって球の流下が滞ることを抑制することができる。
【２２０９】
つまり、球が通るまでの時間を長引かせつつも、球の滑らかな流下を保ち易いので、球詰まりを疑って遊技者が球の発射を止めるという事態の発生を避けることができる。即ち、球の発射を促進することができる。
【２２１０】
更に、球が通るまでの時間を長引かせることで複数の球が第２特定入賞口Ｂ７００ａの上側近辺に配置された場合であっても、それらは必ず第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するという構成なので、遊技者は第２特定入賞口Ｂ７００ａを視界に入れておくことで、移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過した球を見失う事を避けられる。
【２２１１】
なお、板部Ｂ７３１と傾斜転動板部Ｂ７１３との上下間隔は、左右中央側において最長となり、左右外側へ向かうにつれて短くなるよう構成されている。更に、左右外側端部においては、その上下間隔は球の直径未満となるように構成されている。
【２２１２】
そのため、例えば、球が傾斜転動板部Ｂ７１３の左右外側端部に乗っている場合に、上側可変入賞装置Ｂ７００が閉鎖状態に切り替えられることで移動上蓋部材Ｂ７３０の板部Ｂ７３１が正面側にスライド移動すると、板部Ｂ７３１から球に対して左右内側へ押し込む方向の負荷が生じる。
【２２１３】
これにより、板部Ｂ７３１の正面側を通過した球が傾斜転動板部Ｂ７１３の左右外側端部で滞留することを回避できると共に、その球が第２特定入賞口Ｂ７００ａに到達するまでの期間が過度に長くなることを回避することができる。
【２２１４】
移動上蓋部材Ｂ７３０と、移動床部材Ｂ７４０とは、後述するソレノイドＢ７６３の駆動力により、同期して前後反対方向に動作する。図１７０（ａ）及び図１７０（ｂ）では、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の外形は、ガラスユニットＢ１６との間の隙間が、球を通過させないための長さとして十分に短い場合には実線で図示され、ガラスユニットＢ１６との間を球が通り得る程度にガラスユニットＢ１６との間の隙間が長い場合には想像線で図示される。
【２２１５】
即ち、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態では、移動床部材Ｂ７４０は後側へ退避され、貯留板部Ｂ７１５の下方へ球が排出可能とされ（図１７０（ａ）参照）、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態では、移動床部材Ｂ７４０は前側へ張り出され、貯留板部Ｂ７１５の下方への球の排出が不能とされる（図１７０（ｂ）参照）。
【２２１６】
上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態において移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を流下した球が第２特定入賞口Ｂ７００ａに通過を検出されると賞球の払い出しが行われる一方、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１は、入球を契機として遊技状態を変化させるための特定領域として機能する。即ち、大当たり遊技中に球が開口部Ｂ７５１を通過したことを要件として、大当たり遊技終了後の遊技状態を高確率状態とするように制御されるが、詳細は後述する。
【２２１７】
図１７１（ａ）から図１７１（ｃ）は、図１３５の範囲ＣＬＸＸａにおける上側可変入賞装置Ｂ７００の拡大正面図である。図１７１（ａ）から図１７１（ｃ）では、上側可変入賞装置Ｂ７００への球の入球態様の一例が時系列で図示される。
【２２１８】
図１７１（ａ）から図１７１（ｃ）において、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の外形が、実線で図示される意味と、想像線で図示される意味とは、図１７０（ａ）及び図１７０（ｂ）での図示における意味と同様である。

【２２１９】
図１７１（ａ）に示すように、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態では、移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過した球は、傾斜転動板部Ｂ７１３を転動し第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するか、または、例えば第２特定入賞口Ｂ７００ａの真上から落下するような球は傾斜転動板部Ｂ７１３を介さずに第２特定入賞口Ｂ７００ａに直接流入する。
【２２２０】
第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は、図１７１（ｂ）に示すように貯留板部Ｂ７１５と移動床部材Ｂ７４０とにより構成される領域に順番に貯留される。そして、球で貯留板部Ｂ７１５の上端付近まで満たされた場合に（貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に４個目で第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球ＢＰ１が配置された状態で）、球ＢＰ１の後追いで第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球ＢＰ２は、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に入球することはできず、左右に流れて開口部Ｂ７５１を通過する（図１７１（ｃ）参照）。
【２２２１】
即ち、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近まで球で満たされた場合に、貯留板部Ｂ７１５の内側に配置された球ではなく、その後追いで貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に到達した球が開口部Ｂ７５１を通過する。
【２２２２】
図１７１に示す例によれば、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過すれば、球は開口部Ｂ７５１を通過することになる。
【２２２３】
図１７２（ａ）から図１７２（ｃ）は、図１３５の範囲ＣＬＸＸａにおける上側可変入賞装置Ｂ７００の拡大正面図である。図１７２（ａ）から図１７２（ｃ）では、上側可変入賞装置Ｂ７００への球の入球態様の一例が時系列で図示される。
【２２２４】
図１７２（ａ）から図１７２（ｃ）において、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の外形が、実線で図示される意味と、想像線で図示される意味とは、図１７０（ａ）及び図１７０（ｂ）での図示における意味と同様である。
【２２２５】
図１７２（ａ）に示すように、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態では、貯留板部Ｂ７１５と移動床部材Ｂ７４０とにより構成される領域に球が貯留されている状態が維持され、移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過した球は、傾斜転動板部Ｂ７１３を転動し第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するか、または、例えば第２特定入賞口Ｂ７００ａの真上から落下するような球は傾斜転動板部Ｂ７１３を介さずに第２特定入賞口Ｂ７００ａに直接流入する。
【２２２６】
図１７２（ａ）に示す状態は、図１７１（ｂ）に示す状態と同様に、貯留板部Ｂ７１５の間に貯留される球に乗ることで貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に配置され得る球ＢＰ１が流下している。
【２２２７】
この状態で、上側可変入賞装置Ｂ７００が閉鎖状態に切り替えられると、移動床部材Ｂ７４０が後方へ退避し、貯留板部Ｂ７１５の間の領域に貯留されていた球が下から順に排出される（図１７２（ｂ）参照）。
【２２２８】
図１７２（ｂ）及び図１７２（ｃ）では、球が１個だけ排出された状態が図示されるが、排出される球の個数は、移動床部材Ｂ７４０が後方へ退避している時間の長さに対応しており、短時間であれば一部の球が排出され、長時間であれば全球が排出される。
【２２２９】
貯留板部Ｂ７１５の間の領域から球が排出されていることから、４個目で第２特定入賞

口Ｂ７００ａを通過した球ＢＰ１は、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近よりも球一つ分（即ち、排出個数分）だけ下方に配置され、図１７２（ｃ）に示すように球ＢＰ１の後追いで第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球ＢＰ２も、貯留板７１５の間の領域に入球することになり、球ＢＰ２が貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に配置されることになる。

【２２３０】

図１７２（ｃ）に示す状態から、更に球ＢＰ２の後追いで第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に入球することはできず、左右に流れて開口部Ｂ７５１を通過する。

【２２３１】

即ち、図１７２に示す例によれば、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過したとしても、必ずしも球は開口部Ｂ７５１を通過するとは限らない。

【２２３２】

球が開口部Ｂ７５１を通過するか否かは、後追いの球ＢＰ２が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過して貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に到達するまで、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に球ＢＰ１が配置されている状態（図１７１（ｃ）参照）が維持されるか否かに因る。

【２２３３】

貯留板部Ｂ７１５からの球の排出は、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖されるタイミングで生じ（図１７２（ｂ）参照）、排出される球の個数は開閉動作の長さに関係するので、移動上蓋部材Ｂ７３０の開閉動作の発生が頻繁であるほど、また、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖される時間が長いほど、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に球ＢＰ１が配置されている状態（図１７１（ｃ）参照）が維持され難くなり、球が開口部Ｂ７５１を通過し難くなる。なお、移動上蓋部材Ｂ７３０の動作制御の詳細については後述する。

【２２３４】

図１７３（ａ）から図１７３（ｃ）は、図１７０（ａ）のＣＬＸＸＩＩＩａ－ＣＬＸＸＩＩＩａ線における移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の断面図である。図１７３（ａ）から図１７３（ｃ）では、ベース板Ｂ６０の前端面および後端面が想像線で図示され、上側可変入賞装置Ｂ７００が閉鎖状態から開放状態へ切り替えられる様子が時系列で図示される。なお、図１７３（ａ）から図１７３（ｃ）では、理解を容易とするために、駆動伝達装置Ｂ７６０が断面図ではなく、右方向から視認する側面図として図示される。

【２２３５】

駆動伝達装置Ｂ７６０は、ベース板Ｂ６０の背面側寄りの位置で固定配置される回転軸ＢＪ１に軸支される第１部材Ｂ７６１と、ベース板Ｂ６０の正面側寄りの位置で固定配置される回転軸ＢＪ２に軸支される第２部材Ｂ７６２と、電磁力によりプランジャ－Ｂ７６３ａを上下方向にスライド移動可能に構成されるソレノイドＢ７６３と、そのソレノイドＢ７６３のプランジャ－Ｂ７６３ａが嵌め込まれそのプランジャ－Ｂ７６３ａのスライド移動に同期して上下方向にスライド移動する伝達部材Ｂ７６４と、を備える。

【２２３６】

上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態（図１７３（ａ）参照）では、第１部材Ｂ７６１が前倒姿勢でベース部材６０側の下支え部（図示せず）に下支えされ、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置され、第２部材Ｂ７６２が後倒姿勢でベース部材６０側の下支え部（図示せず）に下支えされ、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置される。

【２２３７】

上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態（図１７３（ｃ）参照）では、第１部材Ｂ７６１が後倒姿勢とされ、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置され、第２部材Ｂ７６２が前倒姿勢とされ、移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置される。

【２２３８】

第１部材Ｂ７６１は、右側面から右方に突設部Ｂ７６１ａが断面円形状で突設形成され

、伝達部材Ｂ７６４は、突設部Ｂ７６１ａの下方に位置するように突設部Ｂ７６１ａ側（本実施形態では、後側）に延設される後方延設部Ｂ７６４ａと、その後方延設部Ｂ７６４ａの上側において後方延設部Ｂ７６４ａと平行に突設部Ｂ７６１ａ側に延設され先端が屈曲形成される屈曲延設部Ｂ７６４ｂと、を備える。

【２２３９】

第２部材Ｂ７６２は、右側面から右方に突設部Ｂ７６２ａが断面円形状で突設形成され、伝達部材Ｂ７６４は、突設部Ｂ７６２ａの上方に位置するように突設部Ｂ７６２ａ側（本実施形態では、後側）に延設される後方延設部Ｂ７６４ｃと、その後方延設部Ｂ７６４ｃの下側において後方延設部Ｂ７６４ｃと平行に突設部Ｂ７６２ａ側に延設され先端が屈曲形成される屈曲延設部Ｂ７６４ｄと、を備える。

【２２４０】

ソレノイドＢ７６３は、電磁力が発生することで（励磁状態）、プランジャーＢ７６３ａを上方に引き上げるよう構成され、電磁力が消えると（非励磁状態）、コイルバネの付勢力および重力によってプランジャーＢ７６３ａが下方に下ろされる。

【２２４１】

移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の連動について説明する。図１７３（ａ）に示すように、ソレノイドＢ７６３の非励磁状態においてプランジャーＢ７６３ａが下方側終端位置に配置されることに伴い、駆動伝達装置Ｂ７６０の伝達部材Ｂ７６４が下方側終端位置に配置される。

【２２４２】

ソレノイドＢ７６３が励磁状態とされることで、伝達部材Ｂ７６４が上方へスライド移動されるが、そのスライド移動の過程で、まず屈曲延設部Ｂ７６４ｄの上面に突設部Ｂ７６２ａが押し上げられる態様で第２部材Ｂ７６２が前転方向に回動し始める（図１７３（ｂ）参照）。

【２２４３】

この間、後方延設部Ｂ７６４ａも同様に上方へスライド移動されるが、後方延設部Ｂ７６４ａと突設部Ｂ７６１ａとの隙間が埋められるに留まり、突設部Ｂ７６１ａは後方延設部Ｂ７６４ａから負荷を与えられない。即ち、第１部材Ｂ７６１は依然として前倒姿勢を維持している。

【２２４４】

図１７３（ｂ）の状態から更に伝達部材Ｂ７６４が上方へスライド移動すると、後方延設部Ｂ７６４ａの上面に突設部Ｂ７６１ａが押し上げられる態様で第１部材Ｂ７６１が後転方向に回動し、後倒姿勢に変化する（図１７３（ｃ）参照）。

【２２４５】

本実施形態では、第１部材Ｂ７６１が前倒姿勢から後倒姿勢まで到達するまでに伝達部材Ｂ７６４に要求される上下方向変位量と、第２部材Ｂ７６２が後倒姿勢から前倒姿勢まで到達するまでに伝達部材Ｂ７６４に要求される上下方向変位量とが同じとされる。

【２２４６】

そのため、第１部材Ｂ７６１が後倒姿勢になる前に、第２部材Ｂ７６２は前倒姿勢になる。本実施形態では、屈曲延設部Ｂ７６４ｄの後方への延設長さが、第２部材Ｂ７６２の前倒姿勢における突設部Ｂ７６２ａの前端部を超えない長さとされているので、第２部材Ｂ７６２が前倒姿勢となった後において屈曲延設部Ｂ７６４ｄから第２部材Ｂ７６２へ上向きの負荷が生じることが防止される。

【２２４７】

更に、屈曲延設部Ｂ７６４ｄの後端側において下方へ延びる部分の後面が突設部Ｂ７６２ａと当接し、斜め前下方への変位を規制することで、第２部材Ｂ７６２の後転方向への回動を防止している。

【２２４８】

この場合において、突設部Ｂ７６２ａから伝達部材Ｂ７６４にかけられる負荷は主に前後方向の負荷となるので、突設部Ｂ７６２ａを介して伝達される負荷により伝達部材Ｂ７

６４が上下方向に変位することを防止し易くすることができ、伝達部材Ｂ７６４の配置を維持し易くすることができる。

【２２４９】

図１７３（ａ）から図１７３（ｃ）に示すように、上側可変入賞装置Ｂ７００の閉鎖状態から開放状態への切替動作は、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に動作するものではなく、動作タイミングに時間差がある。

【２２５０】

即ち、事前に移動床部材Ｂ７４０が前進位置へ向けた動作を開始し、その後で移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置へ向けた動作を開始する。これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に変位した直後に移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を球が通過したとしても、その時には既に移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されているようにすることができる。

【２２５１】

これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した球が通り過ぎるまで移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されず、球が移動床部材Ｂ７４０の正面側を通り過ぎてしまい、貯留板部Ｂ７１５の間に球が貯留されない事態を回避することができる。

【２２５２】

なお、これに加えて、本実施形態では移動上蓋部材Ｂ７３０の形状から、板部Ｂ７３１の上面を転動した球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するまでの期間が長くなるように図っていることからも、貯留板部Ｂ７１５の間に球が貯留されない事態を回避することができる。

【２２５３】

図１７４（ａ）から図１７４（ｃ）は、図１７０（ａ）のＣＬＸＸＩＩＩａ－ＣＬＸＸＩＩＩａ線における移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の断面図である。図１７４（ａ）から図１７４（ｃ）では、ベース板Ｂ６０の前端面および後端面が想像線で図示され、上側可変入賞装置Ｂ７００が開放状態から閉鎖状態へ切り替えられる様子が時系列で図示される。なお、図１７４（ａ）から図１７４（ｃ）では、理解を容易とするために、駆動伝達装置Ｂ７６０が断面図ではなく、右方向から視認する側面図として図示される。

【２２５４】

移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の連動について説明する。図１７４（ａ）に示すように、ソレノイドＢ７６３の励磁状態においてプランジャ－Ｂ７６３ａが上方側終端位置に配置されることに伴い、駆動伝達装置Ｂ７６０の伝達部材Ｂ７６４が上方側終端位置に配置される。

【２２５５】

ソレノイドＢ７６３が非励磁状態とされることで、ソレノイドＢ７６３に設けられるコイルバネの付勢力および重力によりプランジャ－Ｂ７６３ａが下方へ移動され、伝達部材Ｂ７６４が下方へスライド移動されるが、そのスライド移動の過程で、まず屈曲延設部Ｂ７６４ｂの下面に突設部Ｂ７６１ａが押し下げられる態様で第１部材Ｂ７６１が前転方向に回動し始める（図１７４（ｂ）参照）。

【２２５６】

この間、後方延設部Ｂ７６４ｃも同様に下方へスライド移動されるが、後方延設部Ｂ７６４ｃと突設部Ｂ７６２ａとの隙間が埋められるに留まり、突設部Ｂ７６２ａは後方延設部Ｂ７６４ｃから負荷を与えられない。即ち、第２部材Ｂ７６２は依然として前倒姿勢を維持している。

【２２５７】

図１７４（ｂ）の状態から更に伝達部材Ｂ７６４が下方へスライド移動すると、後方延設部Ｂ７６４ｃの下面に突設部Ｂ７６２ａが押し下げられる態様で第２部材Ｂ７６２が後転方向に回動し、後倒姿勢に変化する（図１７４（ｃ）参照）。

【２２５８】

本実施形態では、第１部材Ｂ７６１が後倒姿勢から前倒姿勢まで到達するまでに伝達部

材Ｂ７６４に要求される上下方向変位量と、第２部材Ｂ７６２が前倒姿勢から後倒姿勢まで到達するまでに伝達部材Ｂ７６４に要求される上下方向変位量とが同じとされる。

【２２５９】

そのため、第２部材Ｂ７６２が後倒姿勢になる前に、第１部材Ｂ７６１は前倒姿勢になる。本実施形態では、屈曲延設部Ｂ７６４ｂの後方への延設長さが、第１部材Ｂ７６１の前倒姿勢における突設部Ｂ７６１ａの前端部を超えない長さとされているので、第１部材Ｂ７６１が前倒姿勢となった後において屈曲延設部Ｂ７６４ｂから第１部材Ｂ７６１へ下向きの負荷が生じることが防止される。

【２２６０】

更に、屈曲延設部Ｂ７６４ｂの後端側において上方へ延びる部分の後面が突設部Ｂ７６１ａと当接し、斜め前上方への変位を規制することで、第１部材Ｂ７６１の後転方向への回動を防止している。

【２２６１】

この場合において、突設部Ｂ７６１ａから伝達部材Ｂ７６４にかけられる負荷は主に前後方向の負荷となるので、突設部Ｂ７６１ａを介して伝達される負荷により伝達部材Ｂ７６４が上下方向に変位することを防止し易くすることができ、伝達部材Ｂ７６４の配置を維持し易くすることができる。

【２２６２】

図１７４（ａ）から図１７４（ｃ）に示すように、上側可変入賞装置Ｂ７００の開放状態から閉鎖状態への切替動作は、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に動作するものではなく、動作タイミングに時間差がある。

【２２６３】

即ち、事前に移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置へ向けた動作を開始し、その後で移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ向けた動作を開始する。これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖するきっかけとなる球（例えば、規定個数目で第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過する球）について、その球が貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に到達するまでの時間を引き延ばすことができる。

【２２６４】

即ち、移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ移動され、貯留板部Ｂ７１５から球が排出され始めるまでの時間を引き延ばすことができるので、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖するきっかけとなる球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過する可能性を高めることができる。

【２２６５】

特に、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖するきっかけとなる球は、板部Ｂ７３１の前側を通過するので、板部Ｂ７３１の傾斜の影響を受けておらず、左右内側向きの速度を有したまま流下することが多い。そのため、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの到達までの期間を短くすることができるので、移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ変位する前に貯留板部Ｂ７１５の上端部付近に到達することへの遊技者の期待感を高めることができる。

【２２６６】

更に、本実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａから検出センサＢ７５０までの距離が短いことに加え、貯留板部Ｂ７１５の上端部付近が第２特定入賞口Ｂ７００ａの真下に配置されることから、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通りさえすれば、その球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過するかもしれないと思わせることができ、遊技者の期待感を上げることができる。

【２２６７】

次いで、図１７５を参照して、本実施形態の大当たり遊技における１ラウンド目に開放される第２特定入賞口Ｂ７００ａの開放パターンについて説明する。なお、図１７５の説明では、図１３５、図１３７及び図１７０から図１７４を適宜参照する。

【２２６８】

図１７５（ａ）は、第１の特別作動パターンにおける第２特定入賞口Ｂ７００ａの計時

変化を示した図であり、図１７５（ｂ）は、第２の特別作動パターンにおける第２特定入賞口Ｂ７００ａの計時変化を示した図であり、図１７５（ｃ）は、第３の特別作動パターンにおける第２特定入賞口Ｂ７００ａの計時変化を示した図である。

【２２６９】

ＭＰＵＢ２０１（図１３７参照）は、大当たりを決定した場合には、特図変動表示(図柄変動演出)の終了後に、決定した種類の大当たり遊技の制御を開始する。以下、大当たり遊技が付与される場合に行われる移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の作動制御について説明する。

【２２７０】

なお、図１７５（ａ）から図１７５（ｃ）において、上開下閉は、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置されており且つ移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されている状態を意味し、上閉下開は、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置されており且つ移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置されている状態を意味する。本実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の変位のタイミングがずれることは上述の通りであるが、図１７５（ａ）から図１７５（ｃ）では、タイミングのずれを表現しない形で簡略して図示される。

【２２７１】

まず、第１の特別作動パターンの動作が実行される場合について説明する。本実施形態では、後述するように、第１の特別作動パターンに基づいて移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が動作するようＭＰＵＢ２０１がソレノイドＢ７６３を駆動制御する大当たり種別が用意されている。この大当たり種別の大当たりを決定した場合、ＭＰＵＢ２０１は、特図変動表示(図柄変動演出)が終了すると、タイマ手段(図示せず)が所定のオープニング時間ＢＯＰ１(１０秒)が経過するまで移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置に保持するようソレノイドＢ７６３を駆動制御し、オープニング時間ＢＯＰ１の経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【２２７２】

すなわち、第１の作動時間ＢＴ１(最大３０秒)をタイマ手段で計測を開始すると共に移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置から後退位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを開放するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、移動上蓋部材Ｂ７３０に長時間動作を行わせる。

【２２７３】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件(ラウンド遊技時間(第１の作動時間ＢＴ１の最大値である３０秒間)の経過または規定個数（本実施絵形態では１０個）のパチンコ球の入賞)が満たされた場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを閉鎖するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【２２７４】

第１の特別作動パターンでは、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置された状態が常に継続されるので、図１７１を参照して上述したように、規定個数の球を第２特定入賞口Ｂ７００ａに通過させる過程において、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球を貯留板部Ｂ７１５側へ向けて流下させることができる。従って、球が開口部Ｂ７５１を通過する場合を容易に生じさせることができる。

【２２７５】

１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段は、ラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１(２．０秒)が経過するまで移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置に保持するようソレノイドＢ７６３を駆動制御し、ラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１の経過後に、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【２２７６】

ラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１は、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置へ変

位される直前に移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過した球が移動床部材Ｂ７４０の前側を通過するのに十分な時間として設定されればよく、本実施形態では約２秒間とされる。

【２２７７】

２ラウンド目では、１ラウンド目の開始と同様に、第１の作動時間ＢＴ１(最大３０秒)をタイマ手段で計測を開始すると共に特定入賞口Ｂ６５ａが開放される。そして、ラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件(ラウンド遊技時間(第１の作動時間ＢＴ１の最大値である３０秒間)の経過または規定個数のパチンコ球の入賞)が満たされた場合に、特定入賞口Ｂ６５ａを閉鎖し、２ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【２２７８】

以降は同様に、各ラウンド遊技Ｒの間にラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１を挟んで3ラウンド目～最大１５ラウンド目のラウンド遊技Ｒが繰り返されて、特定入賞口Ｂ６５ａが開閉される。

【２２７９】

そして、最終ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了すると、タイマ手段がラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１およびエンディング時間ＥＤ(例えば、１１秒)が経過するまで特定入賞口Ｂ６５ａが閉鎖状態で保持され、当該時間の経過に伴って大当り遊技が終了する。

【２２８０】

次に、第２の特別作動パターンの動作が実行される場合について説明する。本実施形態では、後述するように、第２の特別作動パターンに基づいて移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が動作するようＭＰＵＢ２０１がソレノイドＢ７６３を駆動制御する大当たり種別が用意されている。この大当たり種別の大当たりを決定した場合、ＭＰＵＢ２０１は、特図変動表示(図柄変動演出)が終了すると、タイマ手段(図示せず)が所定のオープニング時間ＢＯＰ１(１０秒)が経過するまで移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置に保持するようソレノイドＢ７６３を駆動制御し、オープニング時間ＢＯＰ１の経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【２２８１】

すなわち、第１の作動時間ＢＴ１(最大３０秒)をタイマ手段で計測を開始すると共に移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置から後退位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを開放するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、移動上蓋部材Ｂ７３０に長時間動作を行わせる。

【２２８２】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件(ラウンド遊技時間(第１の作動時間ＢＴ１の最大値である３０秒間)の経過または規定個数（本実施絵形態では１０個）のパチンコ球の入賞)が満たされた場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを閉鎖するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【２２８３】

第２の特別作動パターンでは、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置されると共に移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置される状態と、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置されると共に移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置される状態とが約１秒毎に切り替えられる。

【２２８４】

換言すれば、第２特定入賞口Ｂ７００ａ側へ球を誘導できると共に貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を貯留可能な状態と、第２特定入賞口Ｂ７００ａ側への球の誘導が制限されると共に貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留された球が排出される状態とが約１秒毎に切り替えられる。

【２２８５】

本実施形態では、貯留板部Ｂ７１５の間の位置からの球の排出は１個当たり約０．２秒で完了されるよう形成される。そのため、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に約１秒間配置

されている間に貯留板部Ｂ７１５の間の位置から最大で５個の球が移動床部材Ｂ７４０の前側を流下可能となる。また、パチンコ機Ｂ１０に許容される球の発射間隔（本実施形態では、０．６秒間隔）から考えて、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に約１秒間配置されている間に移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過する球の個数は多くて３個程度である。

【２２８６】

そのため、図１７２を参照して上述したように、規定個数の球を第２特定入賞口Ｂ７００ａに通過させる過程において、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留された球が排出され得る状態が構成される。その上で、単位時間（約１秒間）当たりに貯留板部Ｂ７１５の間の隙間側へ誘導できる球の個数よりも、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間から排出できる球の個数の方が多いので、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球を貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留させる状態を構成することが困難である。従って、球が開口部Ｂ７５１を通過する場合を生じさせることが困難である。

【２２８７】

一方で、見かけ上は開口部Ｂ７５１が閉鎖されていないことから、球のイレギュラーな流下態様や、パチンコ機Ｂ１０の設置時の傾斜等により、稀に開口部Ｂ７５１への入球が生じる可能性があるかもしれないと遊技者に思わせることができるので、上側可変入賞装置Ｂ７００に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２２８８】

なお、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了した後の制御は、第１の特別作動パターンで動作する場合と同様なので、説明を省略する。

【２２８９】

次に、第３の特別作動パターンの動作が実行される場合について説明する。本実施形態では、後述するように、第３の特別作動パターンに基づいて移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が動作するようＭＰＵＢ２０１がソレノイドＢ７６３を駆動制御する大当たり種別が用意されている。この大当たり種別の大当たりを決定した場合、ＭＰＵＢ２０１は、特図変動表示(図柄変動演出)が終了すると、タイマ手段(図示せず)が所定のオープニング時間ＢＯＰ１(１０秒)が経過するまで移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置に保持するようソレノイドＢ７６３を駆動制御し、オープニング時間ＢＯＰ１の経過後に、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒを開始する。

【２２９０】

すなわち、第１の作動時間ＢＴ１(最大３０秒)をタイマ手段で計測を開始すると共に移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置から後退位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを開放するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、移動上蓋部材Ｂ７３０に長時間動作を行わせる。

【２２９１】

そして、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいてラウンド終了条件(ラウンド遊技時間(第１の作動時間ＢＴ１の最大値である３０秒間)の経過または規定個数（本実施絵形態では１０個）のパチンコ球の入賞)が満たされた場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置へ変位させて第２特定入賞口Ｂ７００ａを閉鎖するようソレノイドＢ７６３を駆動制御して、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する。

【２２９２】

第３の特別作動パターンでは、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおいて移動上蓋部材Ｂ７３０を後退位置で、且つ移動床部材Ｂ７４０を前進位置で約１秒間維持する状態と、移動上蓋部材Ｂ７３０を前進位置で、且つ移動床部材Ｂ７４０を後退位置で約０．２秒間維持する状態とが、交互に切り替えられる。

【２２９３】

換言すれば、第２特定入賞口Ｂ７００ａ側へ球を誘導できると共に貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を貯留可能な状態が約1秒間維持される態様と、第２特定入賞口Ｂ７００ａ側への球の誘導が制限されると共に貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留された球が排出さ

れる状態が約０．２秒間維持される態様とが、交互に繰り返される。この時間設定によれば、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置される状態は、１ラウンド目のラウンド遊技において最大で約２５回形成可能とされる。

【２２９４】

本実施形態では、貯留板部Ｂ７１５の間の位置からの球の排出は１個当たり約０．２秒で完了されるよう形成される。そのため、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に約０．２秒間配置されている間に貯留板部Ｂ７１５の間の位置から最大で１個の球が移動床部材Ｂ７４０の前側を流下可能となる。また、パチンコ機Ｂ１０に許容される球の発射間隔（本実施形態では、０．６秒間隔）から考えて、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に１秒間配置されている間に移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過する球の個数は多くて３個程度である。

【２２９５】

そのため、図１７２を参照して上述したように、規定個数の球を第２特定入賞口Ｂ７００ａに通過させる過程において、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留された球が排出され得る状態が構成される。

【２２９６】

その上で、単位時間（約１秒間）当たりに貯留板部Ｂ７１５の間の隙間側へ誘導できる球の個数よりも、第２単位時間（約０．２秒間）当たりに貯留板部Ｂ７１５の間の隙間から排出できる球の個数の方が少ないので、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留され得る球の最大個数（本実施形態では、４個）よりも多い個数の球を貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留させる状態を構成することが、第２の特別作動パターンで上述する場合よりも容易とされる。従って、球が開口部Ｂ７５１を通過する場合を第２の特別作動パターンで上述する場合よりも生じさせることが容易とされる。

【２２９７】

一方で、貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留された球は移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の変位が生じる毎に（約１．２秒間隔）、１個の割合で排出されるので、移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を球が通過する頻度や、時間間隔によっては、球が開口部Ｂ７５１を通過せずに１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了する場合も生じうる。

【２２９８】

本実施形態における第３の特別作動パターンによれば、球が移動上蓋部材Ｂ７３０の前側を通過する頻度を上げることで、球が開口部Ｂ７５１を通過する可能性を高めることができるので、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒにおける遊技における球の発射態様を継続打ち（球の発射を止めることなく、パチンコ機Ｂ１０に許容される球の発射間隔（本実施形態では、０．６秒間隔）で球を連続で発射させる態様）にさせ易い。

【２２９９】

これにより、遊技者が単発打ち（超過賞球等の利益を得るための技術介入として、球の発射を意図的に止めて０．６秒間隔以上の間隔を空けて球を一発ずつ発射する態様）を行うことを防止し易くすることができので、遊技者の経験の多少に関わらず遊技者が得られる利益の均一化を図ることができる。

【２３００】

なお、１ラウンド目のラウンド遊技Ｒが終了した後の制御は、第１の特別作動パターンで動作する場合と同様なので、説明を省略する。

【２３０１】

図１７６を参照して、ＲＯＭＢ２０２（図１３７参照）の内容について説明する。図１７６（ａ）は、主制御装置Ｂ１１０内のＲＯＭＢ２０２の電気的構成を示すブロック図である。図１７６（ａ）に示すように、主制御装置Ｂ１１０のＲＯＭＢ２０２には、上記した固定値データの一部として、第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａ、第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂ、第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃ、および変動パターン選択テーブルＢ２０２ｄが少なくとも記憶されている。

【２３０２】

第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａは、定期的（例えば、２ｍｓｅｃごと）に更新され

る第１当たり乱数カウンタの大当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。始動入賞に基づいて取得した第１当たり乱数カウンタの値が、第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａに規定されているいずれかの判定値と一致した場合に、特別図柄の大当たりであると判別される。

【２３０３】

変動パターン選択テーブルＢ２０２ｄは、変動パターンの表示態様を決定するための変動種別カウンタの判定値が表示態様毎にそれぞれ規定されているデータテーブルである。なお、第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂ及び第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃの詳細は後述する。

【２３０４】

図１７６（ｂ）は、第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａの内容を模式的に示した模式図であり、図１７６（ｃ）は、特別図柄１乱数テーブルＢ２０２ａ１における第１当たり乱数カウンタＣ３と判定値との対応関係を模式的に示した模式図であり、図１７６（ｄ）は、特別図柄２乱数テーブルＢ２０２ａ２における第１当たり乱数カウンタＣ３と判定値との対応関係を模式的に示した模式図である。

【２３０５】

第１当たり乱数テーブルＢ２０２ａは、図１７６（ｂ）に示す通り、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ遊技球が入球することにより取得される第１当たり乱数カウンタＣ３の値が、大当たりであるか否かを判別するための特別図柄１乱数テーブルＢ２０２ａ１と、第２入賞口Ｂ６４０へ遊技球が入球することにより取得される第１当たり乱数カウンタＣ３の値が、大当たりであるか否かを判別するための特別図柄２乱数テーブルＢ２０２ａ２とが設定されたテーブルである。

【２３０６】

具体的には、特別図柄１乱数テーブルＢ２０２ａ１は、図１７６（ｃ）に示す通り、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に基づく、特別図柄１の抽選において、当たりと判定される乱数値（判定値）が設定されたテーブルである。特別図柄１の抽選では、取得した第１当たり乱数カウンタＣ３の値が「０」であるかが判別されて、「０」であれば、大当たりであると判別される。また、取得した第１当たり乱数カウンタＣ３の値が「１～３１９」の値であると判別された場合は、外れであると判別される。

【２３０７】

一方、特別図柄２乱数テーブルＢ２０２ａ２は、図１７６（ｄ）に示す通り、第２入賞口Ｂ６４０への入球に基づく、特別図柄２の抽選において、当たりと判定される乱数値（判定値）が設定されたテーブルである。特別図柄２の抽選では、取得した第１当たり乱数カウンタＣ３の値が「０」であるかが判別されて、「０」であれば、大当たりであると判別される。また、取得した第１当たり乱数カウンタＣ３の値が「１～３１８」であるか判別されて、「１～３１８」であれば小当たりであると判別される。その他、「３１９」であると判別された場合は、外れであると判別される。

【２３０８】

このように、本制御例のパチンコ機Ｂ１０における第１当たり乱数カウンタＣ３は、０～３１９の範囲の、２バイトのループカウンタとして構成されている。この第１当たり乱数カウンタＣ３において、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に基づく特別図柄１の抽選時に、特別図柄１の大当たりとなる乱数値は１個であり、乱数値の総数が３２０ある中で、大当たりとなる乱数値の総数が１なので、特別図柄１の大当たりとなる確率は、「１／３２０」となる。

【２３０９】

一方で、第２入賞口Ｂ６４０への入球に基づく特別図柄２の抽選時に、特別図柄２の大当たりとなる乱数値は１個であり、乱数値の総数が３２０ある中で、大当たりとなる乱数値の総数が１なので、特別図柄２の大当たりとなる確率は、「１／３２０」となる。また、小当たりとなる乱数値の総数は３１８であるので、特別図柄２の小当たりとなる確率は「３１８／３２０」となる。

【２３１０】
特別図柄１乱数テーブルＢ２０２ａ１及び特別図柄２乱数テーブルＢ２０２ａ２における上記の説明は、本実施形態における低確率状態に該当する。高確率状態では、「０」に加えて更に、取得した第１乱数カウンタＣ３の値が「１～９」であれば大当たりであると判別されるよう変更される。従って、高確率状態において特別図柄１又は特別図柄２の大当たりとなる確率は、「１／３２」となる。
【２３１１】
図１７７（ａ）は、第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂにおける第１当たり種別カウンタＣ２と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図であり、図１７７（ｂ）は、第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃにおける第２当たり乱数カウンタＣ４と普通図柄における当たりとの対応関係を模式的に示した模式図である。
【２３１２】
第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂ（図１７７（ａ）参照）は、大当たり種別を決定するための判定値が記憶されているデータテーブルであり、第１当たり種別カウンタＣ２の判定値が、各大当たり種別、および特別図柄の抽選契機となった入賞口の種別に対応付けて規定されている。本実施形態のパチンコ機Ｂ１０では特別図柄の大当たりと判定された場合に、始動入賞に基づいて取得した第１当たり種別カウンタＣ２の値と、第１当たり種別選択テーブルＢ２０２ｂとが比較され、第１当たり種別カウンタＣ２の値に対応する大当たり種別が選択される。
【２３１３】
具体的には、特別図柄１の抽選（第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～１９」の範囲には、大当たりＡが対応付けられて規定されている（図１７７（ａ）のＢ２０２ｂ１参照）。
【２３１４】
大当たりＡとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第１の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が容易に通過する。１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【２３１５】
この場合、遊技状態は単なる確変中ではなく、特殊確変中（高頻度で小当たりを伴う特別図柄の確変中）に対応する。そのため、遊技者は、次の大当たりを獲得する前に、小当たりにより開放される特定入賞口Ｂ６５ａに球を入賞させることができ、多くの賞球の払い出しを受けることができる。
【２３１６】
なお、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。
【２３１７】
１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しないというシチュエーションは、上側可変入賞装置Ｂ７００への球の発射が満足にされずに、所定時間（例えば、３０秒）が経過して１ラウンド目のラウンド遊技が終了した場合が想定される。
【２３１８】
球発射ユニットＢ１１２ａの球詰まりや、遊技領域における球詰まりにより、そのような事態が生じる可能性はある。これに対し、本実施形態では、特別図柄の大当たりが決定された場合に、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７を球が通過するまでは大当たり遊技が開始されないように制御されているので、球詰まりに気づかずに大当たり遊技が開始される状況

を避け易くすることができる。
【２３１９】
なお、特別図柄の大当たりが決定された後における第３図柄表示装置Ｂ８１での表示は、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７を狙うのか、上側可変入賞装置Ｂ７００を狙うのか、遊技者が混乱しないように工夫することが好ましい。例えば、大当たりが決定された直後は、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７及び上側可変入賞装置Ｂ７００の位置に向けた矢印を表示する等して狙わせ、大当たり遊技が開始された後はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７の位置に向けた矢印の表示を消し、上側可変入賞装置Ｂ７００の位置に向けた矢印の表示のみを残すようにしても良い。これにより、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球を通過させた後で上側可変入賞装置Ｂ７００に球を入球させるという遊技の流れをスムーズに行わせることができる。
【２３２０】
なお、上側可変入賞装置Ｂ７００へ向けて発射された球は、上側可変入賞装置Ｂ７００が閉鎖状態であれば、移動上蓋部材Ｂ７３０の傾斜に沿って左右に流され、遊技領域Ｂ３０１を流れてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過することになる。
【２３２１】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「２０～４９」の範囲には、大当たりＢが対応付けられて規定されている（図１７７（ａ）のＢ２０２ｂ２参照）。
【２３２２】
大当たりＢとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第１の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が容易に通過する。１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【２３２３】
この場合、遊技状態は確変中に対応する。そのため、遊技者は、基本的には次の大当たりを獲得する前に多くの賞球の払い出しを受けることはできないので、短時間で次の大当たりを獲得できるようにと遊技を進行させることになる。
【２３２４】
なお、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。
【２３２５】
第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲には、大当たりＣが対応付けられて規定されている（図１７７（ａ）のＢ２０２ｂ３参照）。
【２３２６】
大当たりＣとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第２の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が通過することが困難とされるので、４ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。
【２３２７】
この場合、遊技状態は時短中に対応する。そのため、遊技者は、基本的には次の大当たりを獲得する前に多くの賞球の払い出しを受けることはできないので、短時間で次の大当たりを獲得できるようにと遊技を進行させることになる。
【２３２８】
また、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが大当たりＢの後の遊技状態と同一とされるので、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかは、電動役物Ｂ６４０

ａの動作態様からは判別できない。そのため、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを報知しなければ、遊技者に予想させるという遊技態様を構成することができる。一方で、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを報知するようにしても良い。

【２３２９】

特別図柄１の抽選（第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球に基づく抽選）に基づく大当たりでは、２０％の確率で１５ラウンドの大当たりを獲得できる一方、５０％の確率で４ラウンドの大当たりとなるので、基本的には、大量の賞球を期待することはできない。一方で、４ラウンドの大当たり遊技は、１５ラウンドの大当たり遊技に比較して短時間で終了するので、その後の大当たりの獲得を狙うための球の打ち出しを、早期に開始することができる。

【２３３０】

一方、特別図柄２の抽選（第２入賞口Ｂ６４０への入球に基づく抽選）で大当たりとなった場合には、第１当たり種別カウンタＣ２の値が「０～２９」の範囲には、大当たりａが対応付けられて規定されている（図１７７（ａ）のＢ２０２ｂ４参照）。

【２３３１】

大当たりａとなった場合は、大当たりＡの時と同様に、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第１の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が容易に通過する。１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンに設定される状態（特殊確変中に対応する）が、次に大当たりを獲得するまで継続する。

【２３３２】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「３０～４９」の範囲には、大当たりｂが対応付けられて規定されている（図１７７（ａ）のＢ２０２ｂ５参照）。

【２３３３】

なお、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、１５ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。

【２３３４】

大当たりｂとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第１の特別作動パターンとされ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が容易に通過する。１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態（確変中に対応する）が、次に大当たりを獲得するまで継続する。

【２３３５】

第１当たり種別カウンタＣ２の値が「５０～９９」の範囲には、大当たりｃが対応付けられて規定されている（図１７７（ａ）のＢ２０２ｂ６参照）。

【２３３６】

なお、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、８ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。

【２３３７】

大当たりｃとなった場合は、１ラウンド目における上側可変入賞装置Ｂ７００の作動パターンが第３の特別作動パターンとされ、遊技者の球の発射態様次第で、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が通過する場合と、開口部Ｂ７５１を球が通過しない場合とが形成される。

【２３３８】
１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過した場合、４ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態（確変中に対応する）が、次に大当たりを獲得するまで継続する。
【２３３９】
一方、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過しなかった場合、４ラウンドの大当たり遊技（特別遊技）を実行した後における遊技状態が低確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態（時短中に対応する）が、特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続する。
【２３４０】
このいずれの場合も、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンで同じなので、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかは、電動役物Ｂ６４０ａの動作態様からは判別できない。そのため、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを報知しなければ、遊技者に予想させるという遊技態様を構成することができる。
【２３４１】
一方で、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを報知するようにしても良い。現に、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかは、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を球が通過するか否かに因るので、開口部Ｂ７５１を遊技者が視認可能とされる本実施形態のパチンコ機Ｂ１０においては、遊技者は、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを把握できている場合が多い。
【２３４２】
そのため、仮に、現在実行中の遊技状態が高確率状態なのか低確率状態なのかを遊技者が把握できていないという前提で第３図柄の変動演出を設計する場合には、１ラウンド目において開口部Ｂ７５１を視認し難くする工夫や、開口部Ｂ７５１から目を逸らさせるような工夫を設けることが好ましい。
【２３４３】
例えば、開口部Ｂ７５１を視認し難くする工夫としては、上側可変入賞装置Ｂ７００に光を照射する照射手段の光量を、特に開口部Ｂ７５１付近において落としたり、開口部Ｂ７５１付近において極めて強くして眩しくさせたりすることで、開口部Ｂ７５１自体の視認性を落とすようにしても良いし、第３図柄表示装置Ｂ８１で実行する演出に遊技者の視線を集めることで、開口部Ｂ７５１への注目力を相対的に低下させるようにしても良い。
【２３４４】
特別図柄２の抽選（第２入賞口Ｂ６４０への入球に基づく抽選）に基づく大当たりでは、３０％の確率で１５ラウンドの大当たりを獲得できる一方、５０％の確率で４ラウンドの大当たりとなるので、基本的には、大量の賞球を期待することはできない。
【２３４５】
一方で、１５ラウンドの大当たりを獲得できる可能性が、特別図柄１の抽選に比較して高く設定されている。そのため、特別図柄１の抽選を受ける状況に比較して、特別図柄２の抽選を受ける状況の方が、１５ラウンドの大当たりが獲得できるかもしれないという期待感を高めることができる。
【２３４６】
第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃ（図１７７（ｂ）参照）は、普通図柄の当たり判定値が記憶されているデータテーブルである。具体的には、普通図柄の通常状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２０４」が規定されている（図１７７（ｂ）のＢ２０２ｃ１参照）。また、普通図柄の高確率状態において、普通図柄の当たりとなる判定値として、「５～２３９」が規定されている（図１７７（ｂ）のＢ２０２ｃ２参照）。

【２３４７】
本実施形態のパチンコ機Ｂ１０では、普通入賞口（スルーゲート）Ｂ６６，Ｂ６７を球が通過することに基づいて取得される第２当たり乱数カウンタＣ４の値と、第２当たり乱数テーブルＢ２０２ｃとを参照し、普通図柄の当たりであるか否かを判定している。
【２３４８】
そして、普通図柄の高確率状態でも、普通図柄の低確率状態でも、頻繁に普通図柄の当たりとなる。そのため、電動役物Ｂ６４０ａが頻繁に作動する状態を構成させることができる。
【２３４９】
次いで、本実施形態におけるエンディング演出について説明する。まず、パチンコ機Ｂ１０の上皿Ｂ１７と、上皿Ｂ１７付近に配置される操作ボタン群について説明する。
【２３５０】
図１７８は、正面枠Ｂ１４及び外枠Ｂ１１の上面図である。正面枠Ｂ１４には、球を貯留する上皿Ｂ１７が前方へ張り出して上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｂ１７に賞球や貸出球などが排出される。上皿Ｂ１７の底面は正面視（図１３４参照）右側に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｂ１７に投入された球が球発射ユニットＢ１１２ａ（図１３７参照）へと案内される。
【２３５１】
また、上皿Ｂ１７の上面には、枠ボタンＢ２２が設けられている。この枠ボタンＢ２２は、例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１（図１３５参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作されることが一般的であるが、本実施形態では、大当たり遊技中（大当たり演出中）に操作されることで特定の演出を実行させるために利用されるものであり、詳細は後述する。
【２３５２】
また、上皿Ｂ１７の上面には、上述の貸球操作部Ｂ４０と同様の機能を有する第２貸球操作部Ｂ４０ｂが配設されている。第２貸球操作部Ｂ４０ｂには、第２度数表示部Ｂ４１ｂと、第２球貸しボタンＢ４２ｂと、第２返却ボタンＢ４３ｂとが設けられている。
【２３５３】
パチンコ機Ｂ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で第２貸球操作部Ｂ４０ｂが操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。
【２３５４】
具体的には、第２度数表示部Ｂ４１ｂはカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。第２球貸しボタンＢ４２ｂは、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｂ１７に供給される。第２返却ボタンＢ４３ｂは、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。
【２３５５】
なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｂ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では第２貸球操作部Ｂ４０ｂが不要となるが、この場合には、第２貸球操作部Ｂ４０ｂの設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。
【２３５６】
また、上皿Ｂ１７の上面における第２貸球操作部Ｂ４０ｂの左方には球抜き操作部Ｂ４４が配設される。球抜き操作部Ｂ４４を押込み操作すると、球を上皿Ｂ１７から下皿Ｂ５０（図１３４参照）へ向けて流下させることができるので、遊技者は、上皿Ｂ１７に貯留された球を全球発射せずとも、任意のタイミングで遊技を終了することができる。
【２３５７】

また、上皿Ｂ１７の上面における枠ボタンＢ２２の右方には、方向操作部Ｂ４５が配設される。方向操作部Ｂ４５は、上面視で上下左右の各方向に対応した位置に配置される独立操作可能な４個の操作部を有しており、例えば、パチンコ機Ｂ１０から出力される音量の大小の調整を行ったり、第３図柄表示装置Ｂ８１等の表示装置やＬＥＤ等の発光手段の発光強度の調整を行ったり、遊技に関する演出（例えば変動演出）のタイプを複数態様で切り替え可能とされる場合にその切り替えを行ったりする場合に、遊技者等により操作される。

【２３５８】

ここで、図１７９を参照して、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示内容について説明する。図１７９は、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面を説明するための図面であり、図１７９（ａ）は、変動演出の表示画面の領域区分設定と有効ライン設定とを模式的に示した図であり、図１７９（ｂ）は、実際の表示画面を例示した図である。

【２３５９】

第３図柄は、「０」から「９」の数字を付した１０種類の主図柄により構成されている。各主図柄は、木箱よりなる後方図柄の上に「０」から「９」の数字を付して構成され、そのうち奇数番号（１，３，５，７，９）を付した主図柄は、木箱の前面ほぼ一杯に大きな数字が付加されている。これに対し、偶数番号（０，２，４，６，８）を付した主図柄は、木箱の前面ほぼ一杯にかんな、風呂敷、ヘルメット等のキャラクタを模した付属図柄が付加されており、付属図柄の右下側に偶数の数字が緑色で小さく、且つ、付属図柄の前側に表示されるように付加されている。

【２３６０】

また、本実施形態のパチンコ機Ｂ１０においては、主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）により行われる特別図柄の抽選結果が大当たりであった場合に、同一の主図柄が揃う変動表示が行われ、その変動表示が終わった後に大当たりが発生するよう構成されている。一方、特別図柄の抽選結果が外れであった場合は、同一の主図柄が揃わない変動表示が行われる。

【２３６１】

例えば、特別図柄の抽選結果が「大当たりＡ」又は「大当たりａ」（図１７７参照）であれば奇数番号「７」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。また、「大当たりＢ」又は「大当たりｂ」（図１７７参照）であれば、「７」を除く奇数番号である「１，３，５，９」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われ、「大当たりＣ」又は「大当たりｃ」（図１７７参照）であれば偶数番号である「０，２，４，６，８」が付加された主図柄が揃う変動表示が行われる。

【２３６２】

一方、特別図柄の抽選結果が外れであれば、同一番号の主図柄が揃わない変動表示が行われる。なお、本実施形態では、特別図柄の抽選結果が外れである場合に、特別図柄の大当たりになる可能性が高いことを示唆（予告）する連続予告演出が行われることがあり、その場合には、変動表示が行われると、所定の主図柄の組み合わせ（例えば、有効ラインＬＢ１上に、主図柄の組み合わせが左図柄列ＢＺ１から順に「３」「４」「１」）である、所謂「チャンス目」が必ず表示される。

【２３６３】

図１７９（ａ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面は、大きくは上下に２分割され、下側の２／３が第３図柄を変動表示する主表示領域ＢＤｍ、それ以外の上側の１／３が予告演出、キャラクタおよび保留球数などを表示する副表示領域ＢＤｓとなっている。

【２３６４】

主表示領域ＢＤｍは、左・中・右の３つの表示領域ＢＤｍ１～ＢＤｍ３に区分けされており、その３つの表示領域ＢＤｍ１～ＢＤｍ３に、それぞれ３つの図柄列ＢＺ１，ＢＺ２，ＢＺ３が表示される。各図柄列ＢＺ１～ＢＺ３には、上述した第３図柄が規定の順序で表示される。即ち、各図柄列ＢＺ１～ＢＺ３には、数字の昇順または降順に主図柄が配列

され、各図柄列ＢＺ１～ＢＺ３毎に周期性をもって上から下へとスクロールして変動表示が行われる。特に、左図柄列ＢＺ１においては主図柄の数字が降順に現れるように配列され、中図柄列ＢＺ２及び右図柄列ＢＺ３においては主図柄の数字が昇順に現れるように配列されている。

【２３６５】

また、主表示領域ＢＤｍには、各図柄列ＢＺ１～ＢＺ３毎に上・中・下の３段に第３図柄が表示される。この主表示領域ＢＤｍの中段部が有効ラインＬＢ１として設定されており、毎回の遊技に際して、左図柄列ＢＺ１→右図柄列ＢＺ３→中図柄列ＢＺ２の順に、有効ラインＬＢ１上に第３図柄が停止表示される。その第３図柄の停止時に有効ラインＬＢ１上に大当たり図柄の組合せ（本実施形態では、同一の主図柄の組合せ）で揃えば大当たりとして大当たり動画が表示される。

【２３６６】

一方、副表示領域ＢＤｓは、主表示領域ＢＤｍよりも上方に横長に設けられており、さらに左右方向に３つの小領域ＢＤｓ１～ＢＤｓ３に等区分されている。このうち、小領域ＢＤｓ１は、第１入賞口Ｂ６４，第３入賞口Ｂ６４ｂ又は第２入賞口Ｂ６４０に入球された球のうち変動が未実行である球（保留球）の数である保留球数を表示する領域であり、小領域ＢＤｓ２およびＤｓ３は、予告演出画像を表示する領域である。

【２３６７】

実際の表示画面では、図１７９（ｂ）に示すように、主表示領域ＢＤｍに第３図柄の主図柄が合計９個表示される。副表示領域ＢＤｓにおいては、右の小領域ＢＤｓ３に動画（図示せず）が表示され、通常より大当たりへ遷移し易い状態であることが遊技者に示唆される。中央の小領域ＢＤｓ２では、通常は、所定のキャラクタ（本実施形態ではハチマキを付けた少年）が所定動作をし、時として所定動作とは別の特別な動作をしたり、別のキャラクタが現出する等して予告演出が行われる。

【２３６８】

第３図柄表示装置Ｂ８１（第１図柄表示装置３７）にて変動表示が行われている間に球が第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球した場合、その入球回数は最大４回まで保留され、その保留球数は第１図柄表示装置３７により示されると共に、副表示領域ＢＤｓの小領域ＢＤｓ１においても示される。小領域ＢＤｓ１には、保留球数１球につき１つの保留球数図柄（本実施形態では、「麦わら帽子」の図柄）が表示され、その保留球数図柄の表示数に応じて、保留球数が表示される。即ち、小領域ＢＤｓ１に１つの保留球数図柄が表示されている場合は、保留球数が１球であることを示し、４つの保留球数図柄が表示されている場合は、保留球数が４球であることを示す。また、小領域ＢＤｓ１に保留球数図柄が表示されていない場合は、保留球数が０球である、即ち、保留球が存在しないことを示す。

【２３６９】

同様に、第３図柄表示装置Ｂ８１（第１図柄表示装置３７）にて変動表示が行われている間に球が第２入賞口Ｂ６４０へ入球した場合、その入球回数は最大４回まで保留され、その保留球数は第１図柄表示装置３７により示されると共に、副表示領域ＢＤｓの小領域ＢＤｓ１においても示される。小領域ＢＤｓ１には、保留球数１球につき１つの保留球数図柄（本実施形態では、「星形状」の図柄）が表示され、その保留球数図柄の表示数に応じて、保留球数が表示される。即ち、小領域ＢＤｓ１に１つの保留球数図柄が表示されている場合は、保留球数が１球であることを示し、４つの保留球数図柄が表示されている場合は、保留球数が４球であることを示す。また、小領域ＢＤｓ１に保留球数図柄が表示されていない場合は、保留球数が０球である、即ち、保留球が存在しないことを示す。

【２３７０】

本実施形態では、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球した場合の保留球数が小領域ＢＤｓ１の上半部に横並びで表示されるのに対し（図１７９（ｂ）参照）、第２入賞口Ｂ６４０へ入球した場合の保留球数が小領域ＢＤｓ１の下半部に横並びで表示される。

【２３７１】
なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｂ６４又は第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球、及び第２入賞口Ｂ６４０への入球は、それぞれ最大４回まで保留されるように構成したが、最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、小領域ＢＤｓ１における保留球数図柄の表示に代えて、保留球数を第３図柄表示装置Ｂ８１の一部に数字で、或いは、４つに区画された領域を保留球数分だけ異なる態様（例えば、色や点灯パターン）にして表示するようにしても良い。また、第１図柄表示装置３７により保留球数が示されるので、第３図柄表示装置Ｂ８１に保留球数を表示させないものとしてもよい。更に、可変表示装置ユニットＢ８０に、保留球数を示す保留ランプを最大保留数分の４つ設け、点灯状態の保留ランプの数に応じて、保留球数を表示するものとしてもよい。
【２３７２】
続けて、図１８０を参照して、第３図柄表示装置Ｂ８１において行われる大当たり演出について説明する。図１８０（ａ）は、大当たり演出の流れの一例を説明するための概略図であり、図１８０（ｂ）は、エンディング演出の流れの一例を説明するための概略図であり、図１８０（ｃ）、図１８０（ｄ）及び図１８０（ｅ）は、大当たり演出の一部であるエンディング演出において表示されるエンディング表示演出の表示画面を例示した図である。
【２３７３】
主制御装置Ｂ１１０では、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂへ球が入球（始動入賞）すると、それをトリガとして、特別図柄の抽選が行われ、その後、第１図柄表示装置３７において特別図柄（第１図柄）の変動表示が実行される。更に、図１８０（ａ）に示すように、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ変動パターンコマンドおよび停止種別コマンドが送信され、その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、第１図柄表示装置３７の変動表示に応じて第３図柄の変動表示が行われる。
【２３７４】
第３図柄表示装置Ｂ８１において第３図柄の変動表示が行われる場合には、まず、第３図柄の高速変動表示が開始され、その後、予め定められた時間（例えば、１秒～６０秒など）が経過すると、第３図柄の中速変動表示へ切り替わり、更に、第３図柄の低速変動表示へ切り替わる。ここで、特別図柄の抽選結果が大当たりである場合には、同一番号の主図柄（第３図柄）が揃う停止表示が行われ変動演出が終了し、続けて、大当たり演出が開始される。一方、特別図柄の抽選結果が外れである場合には、同一番号の主図柄（第３図柄）が揃わない停止表示が行われて変動演出が終了し、保留されている始動入賞があれば、次の特別図柄の抽選が行われると共に、次の変動演出が開始される。
【２３７５】
図１８０（ａ）に示すように、大当たり演出は、ファンファーレ演出が行われる期間と、ラウンド演出が行われる期間と、エンディング演出が行われる期間との３つの期間に分けられる。
【２３７６】
ファンファーレ演出は、これからパチンコ機Ｂ１０が特別遊技状態へ移行して、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが繰り返し開放されることを遊技者に報知して、遊技者の期待感を高めるための演出であり、ラウンド演出は、これから開始されるラウンド数を遊技者に報知し、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａに向けて球を発射させるように促し、多数の賞球を払い出すことを報知するための演出である。
【２３７７】
図１８０（ｂ）に示すように、エンディング演出では、特別遊技状態の終了を遊技者に報知すると共に、大当たり終了後に遊技者に付与される遊技価値（特別図柄の大当たり確率の大小、次の大当たりを獲得するまでにまとまった賞球の払い出しが期待できるか否か

、普通図柄の時短期間等）を遊技者に報知するエンディング表示演出が実行される。
【２３７８】
また、エンディング演出には、場合に応じて、パチンコ機Ｂ１０の製造会社を報知する社名表示演出や、遊技終了時や離席時に残額が存在するカード等（記録媒体、他にコイン等）の返却のための操作するように示唆するカード忘れ防止表示演出が、実行されるが、詳細は後述する。
【２３７９】
第３図柄表示装置Ｂ８１において大当たり演出が行われる場合には、図１８０（ａ）に示すように、まず、第３図柄の停止表示がなされるタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へファンファーレコマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、変動演出に続けて、ファンファーレ演出が開始される。
【２３８０】
次に、ファンファーレ演出が終了するタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ第１ラウンドを示すラウンド数コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、ファンファーレ演出に続けて、第１ラウンドに対応するラウンド演出が開始される。本実施形態では、パチンコ機Ｂ１０が特別遊技状態へ移行した後、その状態は、特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａの開閉が大当たり種別に応じた回数だけ繰り返されるまで（最大１５ラウンド、図１７７（ａ）参照）継続される。
【２３８１】
第１ラウンドが開始され、第２特定入賞口Ｂ７００ａが開放された後、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）が経過すると、第２特定入賞口Ｂ７００ａが閉鎖されると共に、第１ラウンドが終了する。すると、ラウンド間インターバル時間Ｉｎｔ１（図１７５参照）を挟んで直ぐに第２ラウンドの開始タイミングとなり、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ第２ラウンドを示すラウンド数コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、第１ラウンドに対応するラウンド演出に続けて、第２ラウンドに対応するラウンド演出が開始される。
【２３８２】
第２ラウンドが開始され、特定入賞口Ｂ６５ａが開放された後、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）が経過すると、特定入賞口Ｂ６５ａが閉鎖されると共に、第２ラウンドが終了する。すると、ラウンド間インターバル時間Ｉｎｔ１（図１７５参照）を挟んで直ぐに第３ラウンドの開始タイミングとなり、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ第３ラウンドを示すラウンド数コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、第２ラウンドに対応するラウンド演出に続けて、第３ラウンドに対応するラウンド演出が開始される。
【２３８３】
第３ラウンドが開始されると、第２ラウンドの場合と同様に、特定入賞口Ｂ６５ａの開閉制御が行われる。その後は、新たなラウンドが開始されるタイミングとなる毎に、新たなラウンド数を示すラウンド数コマンドが主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ送信されると共に、特定入賞口Ｂ６５ａの開閉制御が行われる。これにより、第１ラウンドから最終ラウンド（最大１５ラウンド）までの各ラウンド演出が順番に実行される。
【２３８４】
そして、最終ラウンドの特定入賞口Ｂ６５ａの開閉が終了したタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へエンディングコマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、エンディング演出が開始される。上述したように、エンディング演出では、特別遊技状態の終了が遊技者に報知されると共に、エンディング表示演出において大当たり終了後に遊技者に付与される遊技価値（特別図柄の大当たり確率の大小、次の大当たりを獲得するまでにまとまった賞球の払い出しが期待でき

るか否か、普通図柄の時短期間等）が遊技者に報知される。
【２３８５】
エンディング表示演出では、例えば、図１８０（ｃ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央よりも若干上寄りの位置で、大当たり遊技において払い出された賞球個数を示す賞球表示Ｂ８０１が表示され、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面右下に、「チャンス１００回」との内容を示す識別表示Ｂ８０２が表示される。また、その識別表示Ｂ８０２の上側に「まだ諦めるな」との内容を示す信頼度表示Ｂ８０３が表示され、識別表示Ｂ８０２の下側に後述する時間表示Ｂ８１１が表示される。
【２３８６】
時間表示Ｂ８１１は、エンディング演出（エンディング表示演出のみの場合を含む）の終了時を報知する役割を有し、適切なタイミングから終端位置Ｂ８１２へ向けて右端部が移動するが、詳細は後述する。
【２３８７】
この画面は、特別図柄の抽選がなされ、抽選結果が「大当たりＣ」（図１７７参照）である場合か、抽選結果が「大当たりｃ」であって大当たり遊技中に検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１（図１７０参照）を球が通過しなかった場合に表示されるものであり、識別表示Ｂ８０２が、大当たり終了後から特別図柄の抽選が１００回終了するまでは電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで動作制御される状態が継続され、特別図柄の大当たり確率は低確率（本実施形態では、３２０分の１）であることを意味する。
【２３８８】
このように表示を構成することで、識別表示Ｂ８０２の意味を遊技者が理解できない場合であっても、信頼度表示Ｂ８０３により、次回大当たりの可能性が少ないながらあることを遊技者は認識することができる。
【２３８９】
即ち、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面のエンディング表示演出を視認することで、遊技者に次回大当たりの期待感を持たせることができるので、意欲的に遊技を継続させることができる。
【２３９０】
また、エンディング表示演出では、例えば、図１８０（ｄ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央よりも若干上寄りの位置で、大当たり遊技において払い出された賞球個数を示す賞球表示Ｂ８０１が表示され、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面右下に、「確率変動突入」との内容を示す識別表示Ｂ８０２が表示される。また、その識別表示Ｂ８０２の上側に「期待大」との内容を示す信頼度表示Ｂ８０３が表示され、識別表示Ｂ８０２の下側に後述する時間表示Ｂ８１１が表示される。
【２３９１】
この画面は、特別図柄の抽選がなされ、抽選結果が「大当たりＢ」又は「大当たりｂ」（図１７７参照）である場合に表示されるものであり、識別表示Ｂ８０２が、大当たり終了後から特別図柄の次回大当たりとなるまでは、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで動作制御される状態が継続され、特別図柄の大当たり確率は高確率（本実施形態では、３２分の１）であることを意味する。
【２３９２】
また、この画面における識別表示Ｂ８０２、信頼度表示Ｂ８０３及び時間表示Ｂ８１１は、抽選結果が「大当たりｃ」であって大当たり遊技中に検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１（図１７０参照）を球が通過した場合にも表示されるが、その場合には、賞球表示Ｂ８０１が図１８０（ｄ）に示す数値と異なり、図１８０（ｃ）に示す「６００」とされる。
【２３９３】
このように表示を構成することで、識別表示Ｂ８０２の意味を遊技者が理解できない場合であっても、信頼度表示Ｂ８０３により、次回大当たりに期待できることを遊技者は認識することができる。

【２３９４】
即ち、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面のエンディング表示演出を視認することで、遊技者に次回大当たりの期待感を持たせることができるので、意欲的に遊技を継続させることができる。
【２３９５】
なお、識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３の内容は、これに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、識別表示Ｂ８０２に「次回大当たり確定」と表示し、信頼度表示Ｂ８０３に「更なる賞球準備中」と表示するようにしても良い。
【２３９６】
また、エンディング表示演出では、例えば、図１８０（ｅ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央よりも若干上寄りの位置で、大当たり遊技において払い出された賞球個数を示す賞球表示Ｂ８０１が表示され、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面右下に、「ラッシュ突入」との内容を示す識別表示Ｂ８０２が表示される。また、その識別表示Ｂ８０２の上側に「超期待大」との内容を示す信頼度表示Ｂ８０３が表示され、識別表示Ｂ８０２の下側に後述する時間表示Ｂ８１１が表示される。
【２３９７】
この画面は、特別図柄の抽選がなされ、抽選結果が「大当たりＡ」又は「大当たりａ」（図１７７参照）である場合に表示されるものであり、識別表示Ｂ８０２が、大当たり終了後から特別図柄の次回大当たりとなるまでは、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで動作制御される状態が継続され、特別図柄の大当たり確率は高確率（本実施形態では、３２分の１）であることを意味する。
【２３９８】
このように表示を構成することで、識別表示Ｂ８０２の意味を遊技者が理解できない場合であっても、信頼度表示Ｂ８０３により、次回大当たりに期待できることに加えて、それ以上の利益を獲得可能であることを遊技者は認識することができる。
【２３９９】
即ち、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面のエンディング表示演出を視認することで、遊技者に次回大当たりの期待感に加えて、それ以上の利益（例えば、次の大当たりを獲得する前の段階において、小当たりを利用した入賞により賞球の増加が見込めること）に対する期待感を持たせることができるので、意欲的に遊技を継続させることができる。
【２４００】
このように、識別表示Ｂ８０２は、大当たり遊技終了後の遊技状態に対応して表示を変化させるように構成されており、遊技者は、エンディング表示演出を視認することで、大当たり遊技終了後に得られる利益の予想を立てることができる。
【２４０１】
なお、識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３の内容は、これに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、「ラッシュ突入」に代えて、「超確変突入」でも良いし、「小当たりラッシュ突入」でも良いし、「超有利モード」等の特有の名称を付して表示しても良い。
【２４０２】
次いで、エンディング演出における社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出について説明する。図１８０（ｂ）に示す例におけるエンディング演出では、エンディング表示演出が終了するタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へ社名表示コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、エンディング表示演出に続けて、社名表示演出が開始される。
【２４０３】
次に、社名表示演出が終了するタイミングに合わせて、主制御装置Ｂ１１０から音声ランプ制御装置Ｂ１１３へカード忘れ防止表示コマンドが送信される。その結果、第３図柄表示装置Ｂ８１では、社名表示演出に続けて、カード忘れ防止表示演出が開始される。
【２４０４】

カード忘れ防止表示演出が終了することで、エンディング演出が終了する。エンディング演出の終了後は、保留されている始動入賞があれば、次の特別図柄の抽選が行われると共に、次の変動演出が開始される。一方で、保留されている始動入賞が無ければ（保留球数が０個であれば）、第３図柄表示装置Ｂ８１では変動待機画面が表示される。

【２４０５】

図１８１（ａ）は、エンディング演出において表示される社名表示演出の表示画面を例示した図であり、図１８１（ｂ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１８１（ａ）及び図１８１（ｂ）では、エンディング表示演出に次いで社名表示演出が実行され、その社名表示演出に次いでカード忘れ防止表示演出が実行される場合（図１８０（ｂ）参照）について説明する。

【２４０６】

図１８１（ａ）及び図１８１（ｂ）で示す例では、エンディング演出の実行時間が、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出でそれぞれ均等に分けられ、エンディング演出の実行時間が１５秒に設定される。この場合には、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出はそれぞれ５秒ずつ割り当てられる。

【２４０７】

図１８１（ａ）に示すように、社名表示演出では、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の中央付近における特定表示Ｂ８１０として、パチンコ機Ｂ１０の製造会社名（Ａカンパニー）が表示される。

【２４０８】

また、図１８１（ｂ）に示すように、カード忘れ防止表示演出に切り替わると、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の中央付近における特定表示Ｂ８１０として、カードユニットの差込口からカードが返却される様子を示す静止画（又は動画）が表示され、その下方に「カードの取り忘れにご注意下さい」とのコメントが表示される。

【２４０９】

図１８１（ａ）及び図１８１（ｂ）で示す例におけるエンディング演出では、５秒間実行されるエンディング表示演出の終了後、社名表示演出が５秒間実行され、カード忘れ防止表示演出が５秒間実行されることから、エンディング表示演出の終了時から次の変動演出の開始まで１０秒の間が空くことになる。本実施形態では、その空いた時間を有効に利用することができるよう工夫されている。

【２４１０】

図１８１（ａ）及び図１８１（ｂ）に図示されるように、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の実行中に共通して、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の下端部付近には時間経過とともに右先端部が右方へ移動する時間表示Ｂ８１１が表示され、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の右上隅部には枠ボタンＢ２２を模式的に示す枠ボタン表示Ｂ８１３が表示され、その枠ボタン表示Ｂ８１３の右側には目盛りが上下に並んでおり現在の発光強度（パチンコ機Ｂ１０に配設されるＬＥＤ（例えば、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３や表示ランプＢ３４（図１３４参照））等の発光手段の発光強度や、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の明るさ）の設定値を遊技者に把握可能に表示する（５段階の内、上から２番目の設定値であると表示する）目盛り表示Ｂ８１４が表示され、枠ボタン表示Ｂ８１３及び目盛り表示Ｂ８１４の下方には「長時間の光に注意して下さい」という内容の注意コメント表示Ｂ８１５が表示される。

【２４１１】

本実施形態では、エンディング演出中では、枠ボタン表示Ｂ８１３が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面に表示されている場合において、枠ボタンＢ２２の押し込み操作が有効になるように制御される。即ち、エンディング演出中では、枠ボタン表示Ｂ８１３が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面に表示されていない場合における枠ボタンＢ２２の操作は無効とされる。

【２４１２】

第３図柄表示装置Ｂ８１の画面において、枠ボタン表示Ｂ８１３及び目盛り表示Ｂ８１４は、カード忘れ防止表示演出の途中（残り４秒の時点）で非表示とされるが、特定表示Ｂ８１０、時間表示Ｂ８１１及び注意コメント表示Ｂ８１５は、カード忘れ防止表示演出が終了するまで表示が継続される。

【２４１３】

ここで、遊技球が第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂに入球したとしても、エンディング演出の実行中は特別図柄の変動が停止されるので、特別図柄の保留球数が減少しない。そのため、特別図柄の保留球数が満タンの場合に第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂに入球しても、遊技者は特別図柄の抽選を受けることができない。一方で、エンディング演出が終了した後であれば、特別図柄の変動が開始されるので、特別図柄の保留球数が満タンから減少し、始動口に球を入球させることで遊技者が特別図柄の抽選を受けることができる可能性が高まる。

【２４１４】

また、エンディング演出中を含む大当たり遊技中は、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが通常中の作動パターンとされる。本実施形態では、第１の作動パターン（図１６４（ａ）参照）となるので、遊技球がスライド部材Ｂ４５０に拾われ難い。一方で、エンディング演出が終了すれば、大当たり種別に対応した作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが駆動されることになるので、遊技球がスライド部材Ｂ４５０に拾われ易くなるので、遊技球が第２入賞口Ｂ６４０又は第３入賞口Ｂ６４ｂ（図１３５参照）に入球し易くなる。

【２４１５】

このような事情から、遊技者は、ラウンド遊技が終了した後は、エンディング演出の終了後に球を発射開始した方が、損が少ないと考え易いところ、従来の遊技機では、エンディング演出がいつ終わるのかが分かり難かった。即ち、遊技結果としてはエンディング表示演出で示されているので、遊技者としてはすぐに変動演出が始まると思いやすく、エンディング表示演出から画面が切り替わるや否や球を発射すると考えられるが、実は社名表示演出やカード忘れ防止表示演出の分だけエンディング演出が残っている場合があり、そのことに気付いた時には既に球は発射されており、遊技者はエンディング演出中に発射して数発の球を無駄にしたと不満に感じる可能性がある。

【２４１６】

これに対し、本実施形態では、時間表示Ｂ８１１の移動態様は、エンディング演出の終了と同時に時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するように設定されている。即ち、時間表示Ｂ８１１の右端部が時間経過と共に右方へ移動し、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達した後で変動演出が開始されるので、エンディング演出の長さと、エンディング演出の終了時を把握し易くすることができるので、エンディング演出中に球を発射するという事態を回避し易くすることができる。

【２４１７】

なお、時間表示Ｂ８１１の移動態様は何ら限定されるものではないが、本実施形態では、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２の表示態様が、時間表示Ｂ８１１の左端部と終端位置Ｂ８１２との間の長さを１０秒分の長さの目安として設計されている。エンディング演出の開始時にエンディング演出の終了までが１０秒以上である場合には、エンディング演出の終了まで約１０秒となるタイミングまでは、時間表示Ｂ８１１の右端部は停止されたままとなるか極めて遅い速度で移動するように設定され、エンディング演出の終了まで約１０秒となるタイミングで、時間表示Ｂ８１１の右端部が時間経過と共に右方へ等速で移動を開始するように設定される。

【２４１８】

一方で、エンディング演出の開始時にエンディング演出の終了までが１０秒未満である場合には、時間表示Ｂ８１１の右端部は即座に移動開始される。この場合において、時間表示Ｂ８１１の移動速度は、エンディング演出の終了と同時に時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達する速度として設定される（即ち、エンディング演出の終了までが５秒であれば、１０秒間かけて終端位置Ｂ８１２まで移動する場合の速度の２倍の速

度で設定される）。
【２４１９】
なお、本実施形態では、図１８１（ａ）及び図１８１（ｂ）に示すように、終端位置Ｂ８１２の上方に遊技球の打ち出し開始を示唆する「ＧＯ」の文字が常に表示されるようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達した時または時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達する数秒前（例えば、発射された球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達するまでに要する平均的な秒数前）に「ＧＯ」の文字を表示させるようにしても良い。この場合の表示は、「ＧＯ」の文字が非表示の状態から表示されるものでも良いし、「ＧＯ」が半透明で表示される状態から実体化するように表示されるものでも良い。
【２４２０】
この場合、「ＧＯ」の文字が表示されることを目印にして球の発射を開始すれば、エンディング演出の終了前に球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過することを回避し易くすることができるので、遊技者は移動する時間表示Ｂ８１１を目で追う必要が無くなる。これにより、遊技者の遊技負担を低減させることができる。
【２４２１】
なお、「ＧＯ」の文字の表示態様は、何ら限定されるものではない。例えば、「球発射開始」や、「バーが到達したら打ち出し開始」というコメントと入れ替えても良い。また、「ＧＯ」の文字の大きさが常に同じである必要はない。例えば、時間表示Ｂ８１１の右端部が移動するにつれて「ＧＯ」の文字が徐々に大きくなっていく態様でも良い。この場合において、「ＧＯ」の文字の最大の大きさが半透明で表示されており、徐々に大きくなる「ＧＯ」の文字の大きさが、半透明で示される最大の大きさと一致するタイミングを、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングと合わせるように制御しても良い。
【２４２２】
図１８１に示す状態において、遊技者が枠ボタンＢ２２の操作を実行しなかった場合には、図１８１（ｂ）に示すカード忘れ防止表示演出の継続中に時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達した後で、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面は図１７９（ｂ）に示したような画面に切り替わり、変動演出が開始される。
【２４２３】
図１８１に示すように、枠ボタン表示Ｂ８１３が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面に表示されている場合、一般的には枠ボタンＢ２２の操作が可能であることを示している。図１８１に示す状態において、遊技者が枠ボタンＢ２２の操作を実行した場合の第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の切り替わりについて説明する。
【２４２４】
図１８２（ａ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図であり、図１８２（ｂ）は、エンディング演出終了直後における表示画面を例示した図である。
【２４２５】
図１８２（ａ）では、図１８１（ｂ）に示す状態（枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されている状態）において、遊技者が枠ボタンＢ２２（図１７８参照）を操作した場合に切り替えられる第３図柄表示装置Ｂ８１の画面が図示される。
【２４２６】
枠ボタンＢ２２を操作して第３図柄表示装置Ｂ８１の画面が図１８２（ａ）に示す状態に切り替えられた場合も、枠ボタンＢ２２を操作しなかった場合と同様に、時間表示Ｂ８１１の右端部が時間経過と共に右方へ移動し、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達した後で第３図柄表示装置Ｂ８１の画面は図１８２（ｂ）に示したような画面に切り替わり、変動演出が開始される。
【２４２７】
図１８２（ａ）に示すように、遊技者が枠ボタンＢ２２を操作すると、特定表示Ｂ８１

０としての、カードユニットの差込口からカードが返却される様子を示す静止画（又は動画）及び「カードの取り忘れにご注意下さい」とのコメントは、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の左上隅に移動されると共に、表示態様が縮小される。これにより、特定表示Ｂ８１０の識別性を低下させることができ、遊技者の注意力を特定表示Ｂ８１０以外の部分に向けさせ易くすることができる。

【２４２８】

画面の中央付近には方向操作部Ｂ４５を模式的に示す方向操作部表示Ｂ８１６が表示され、その方向操作部表示Ｂ８１６の左側には、目盛りが上下に並んでおり現在の発光強度の設定値を遊技者に把握可能に表示する（５段階の内、上から２番目の設定値であると表示する）縦目盛り表示Ｂ８１７が表示され、方向操作部表示Ｂ８１６の下側には、目盛りが左右に並んでおり現在の音量の大小の設定値を遊技者に把握可能に表示する（５段階の内、上（右）から３番目の設定値であると表示する）横目盛り表示Ｂ８１８が表示される。

【２４２９】

更に、注意コメント表示Ｂ８１５の下側には、「長時間の音に注意して下さい」という内容の第２注意コメント表示Ｂ８１９が表示される。注意コメント表示Ｂ８１５及び第２注意コメント表示Ｂ８１９は、遊技者が設定値を確認できる対象の種類に対応して表示されている。

【２４３０】

図１８２（ａ）に示すように、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面に表示されている状態では、方向操作部Ｂ４５の上下方向のボタンを操作することで、縦目盛り表示Ｂ８１７の設定値を変更することができる。即ち、目盛りが並ぶ方向と、目盛りの設定値を変更するために操作するボタンの方向とが対応しており、遊技者に操作方法を容易に理解させることができる。

【２４３１】

図１８２（ａ）に示すように、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面に表示されている状態では、方向操作部Ｂ４５の左右方向のボタンを操作することで、横目盛り表示Ｂ８１８の設定値を変更することができる。即ち、目盛りが並ぶ方向と、目盛りの設定値を変更するために操作するボタンの方向とが対応しており、遊技者に操作方法を容易に理解させることができる。

【２４３２】

また、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面に表示されていない状態では方向操作部Ｂ４５の操作は無効となるように制御されている。これにより、遊技者は、方向操作部表示Ｂ８１６の有無を確認するだけで現在行う方向操作部Ｂ４５の操作が有効か無効かを認識することができる。

【２４３３】

縦目盛り表示Ｂ８１７の端部付近に電球を模した表示がされており、縦目盛り表示Ｂ８１７により発光強度（パチンコ機Ｂ１０に配設されるＬＥＤ（例えば、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３や表示ランプＢ３４（図１３４参照））等の発光手段の発光強度や、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の明るさ）を設定可能であることを遊技者に容易に理解させることができる。また、横目盛り表示Ｂ８１８の端部付近に音符を模した表示がされており、横目盛り表示Ｂ８１８により音量の大小を設定可能であることを遊技者に容易に理解させることができる。

【２４３４】

図１８２（ｂ）に示す状態では、特別図柄の変動演出が開始される状態として同様とされる図１７９（ｂ）に示す状態と異なり、方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛り表示Ｂ８１８が縮小された状態で小領域ＢＤｓ３に配置される。

【２４３５】

そのため、エンディング演出が終了して、変動演出が実行された後もしばらくは、方向操作部表示Ｂ８１６が継続して表示され、発光強度の設定を変更したり、音量の大小の設

定を変更したりすることができる。
【２４３６】
本実施形態では、方向操作部表示Ｂ８１６は、エンディング演出の終了後に開始される１回目の変動演出の高速変動表示中には継続して表示され、その変動演出の高速変動表示終了後に非表示とされる。
【２４３７】
これにより、少なくとも、図柄が停止表示され変動演出が終了するタイミングでは方向操作部表示Ｂ８１６は非表示とされ、方向操作部Ｂ４５の操作は無効とされることから、遊技者が方向操作部Ｂ４５を操作する事態は生じないので、方向操作部Ｂ４５を操作することに集中しており図柄の停止表示を見逃すという事態を避けることができる。
【２４３８】
また、高速変動中は、保留球数に空きができることから、特別図柄の抽選を受けるために遊技者は球の発射を開始することになるが、方向操作部Ｂ４５は片手操作が可能とされるので、球の発射を害することを回避することができる。遊技者が球を数発発射している間に（発射している状態を経て）、方向操作部表示Ｂ８１６は非表示とされる。
【２４３９】
エンディング演出の終了後に開始される２回目の変動演出からは、方向操作部表示Ｂ８１６が非表示とされる。即ち、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面は図１７９（ｂ）に示すような状態とされ、変動演出が実行される。
【２４４０】
図１８３は、エンディング演出と特別図柄における大当たり種別との対応関係を模式的に示した模式図である。図１８３に示すように、本実施形態では、エンディング表示演出は、大当たり種別に関わらず実行される（図１８３中、○で表記）。
【２４４１】
また、社名表示演出は、大当たり遊技終了後に突入する遊技状態が、遊技者にとって最も有利な状態となる場合に実行されるので、社名表示演出を視認した遊技者に対して、大当たり遊技終了後の遊技状態に対する期待感を持たせることができる。
【２４４２】
本実施形態では、大当たり遊技終了後に特殊確変状態に突入する大当たり種別である「大当たりＡ」又は「大当たりａ」のエンディング演出において社名表示演出が実行され（図１８３中、○で表記）、その他の大当たり種別の大当たり遊技のエンディング演出において社名表示演出は実行されない（図１８３中、×で表記）。
【２４４３】
なお、社名表示演出の実行の条件は、大当たり遊技終了後に突入する遊技状態に対応するものであり、大当たり遊技における払い出し個数に対応するものではない。即ち、大当たり遊技における払い出し個数が例えば０個であっても、社名表示演出は実行される。
【２４４４】
なお、本実施形態では、「大当たりＡ」又は「大当たりａ」の大当たり遊技における払い出し個数は全大当たり種別の内で最大個数であるので、社名表示演出が実行された場合に、遊技者に対して、払出賞球個数が最大個数の大当たり遊技が実行されたことを実感させることができる。
【２４４５】
また、カード忘れ防止表示演出は、大当たり遊技における払い出し個数が８ラウンド分の個数以上（所定の個数以上）である場合に実行されるので、カード忘れ防止表示演出を視認した遊技者に対して、多くの賞球を獲得した喜びを実感させることができる。
【２４４６】
本実施形態では、１５ラウンドの大当たり種別である「大当たりＡ」又は「大当たりａ」及び８ラウンドの大当たり種別である「大当たりＢ」又は「大当たりｂ」のエンディング演出においてカード忘れ防止表示演出が実行され（図１８３中、○で表記）、その他の大当たり種別の大当たり遊技のエンディング演出においてカード忘れ防止表示演出は実行

されない（図１８３中、×で表記）。
【２４４７】
このように、本実施形態では、大当たり種別に対応して、エンディング演出の内容が異なる。エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出は、それぞれ５秒間の演出となるので、組み合わせの違いに対応して、エンディング演出の実行時間が異なることになる。
【２４４８】
例えば、大当たり種別が「大当たりＡ」又は「大当たりａ」の大当たり遊技におけるエンディング演出は、１５秒間かけて実行され、大当たり種別が「大当たりＢ」又は「大当たりｂ」の大当たり遊技におけるエンディング演出は、１０秒間をかけて実行され、大当たり種別が「大当たりＣ」又は「大当たりｃ」の大当たり遊技におけるエンディング演出は、５秒間をかけて実行される。
【２４４９】
このような事情から、遊技者からすると、エンディング演出の終了時点を図りがたく球の発射タイミングに迷う可能性があるが、本実施形態では、時間表示Ｂ８１１（図１８１参照）によりエンディング演出の終了時点を把握可能になっている。
【２４５０】
即ち、エンディング演出の時間が違っても、時間表示Ｂ８１１の右端部の移動スピードが変更されること（又は、時間表示Ｂ８１１の移動開始点が変更されること）により、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達した時にエンディング演出が終了することは同一とされており、時間表示Ｂ８１１を視認することで、遊技者が球の発射タイミングに迷うことがないようにすることができる。これにより、遊技者の遊技負担を軽減することができる。
【２４５１】
なお、大当たり種別に対応して規定され不変なのはエンディング演出の実行時間であり、エンディング演出中における内容は可変である。例えば、実行時間としては１５秒のエンディング演出であっても、ある条件が満たされれば（又はランダムで）、エンディング表示演出を１０秒として、残りの５秒で社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出を実行するようにしても良い。特に、初回の大当たり時には、エンディング表示演出を長めに設定することで、遊技者の興趣を向上させることができる。
【２４５２】
次いで、図１８４及び図１８５を参照して、第４６実施形態について説明する。第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００において中央流路Ｂ４３１を流下する球を下支えする部分としての底面部Ｂ４３１ａが固定の板部として構成される場合を説明したが、第４６実施形態の入賞ユニットＢ２４００では、中央流路Ｂ２４３１を流下する球を下支えする部分の形状が変化するよう構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【２４５３】
図１８４及び図１８５は、図１４８（ｃ）のＣＬＩ－ＣＬＩ線における第４６実施形態における入賞ユニットＢ２４００の断面図である。図１８４では、電動役物Ｂ６４０ａの非励磁状態（前進閉鎖状態）が図示され、図１８５では、電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態（後退開放状態）が図示される。
【２４５４】
電動役物Ｂ６４０ａは、第４５実施形態と同じ傾倒部材Ｂ４７０と、第４５実施形態のスライド部材Ｂ４５０と部分的に形状が異なるスライド部材Ｂ２４５０と、を備える。なお、スライド部材Ｂ２４５０は形状が部分的に異なるだけであり、動作態様は第４５実施形態のスライド部材Ｂ４５０と同じである。
【２４５５】
スライド部材Ｂ２４５０の、第４５実施形態におけるスライド部材Ｂ４５０との違いについて説明する。スライド部材Ｂ２４５０は、中央固定部Ｂ４５４の前端部から下方に突

設される下突設部Ｂ２４５６と、中央固定部Ｂ４５４の前端部から前方に突設される前突設部Ｂ２４５７と、を備える。

【２４５６】

第４５実施形態における入賞ユニットＢ４００では、図１５４に示すように、中央固定部Ｂ４５４の配置と、中段部材Ｂ４３０の後壁部Ｂ４３４の配置とが、上下方向で重なっておらず、中段部材Ｂ４３０にスライド部材Ｂ４５０を上から被せるようにして組み付けることが可能であったが、第４６実施形態における入賞ユニットＢ２４００では、前突設部Ｂ２４５７が後壁部Ｂ４３４の後端部よりも前側に張り出す形状とされており、そのままでは組み付け方法を流用することができない。

【２４５７】

これに対して、本実施形態では、図１８４に示す断面を中心とする左右幅（本実施形態では、約３ｍｍ程度の左右幅）で、底面部Ｂ４３１ａ、係止板部Ｂ４３１ｂ及び後壁部Ｂ４３４に連続的に切れ込みＢ２４３１ｄが形成される。即ち、切れ込みＢ２４３１ｄは、後壁部Ｂ４３４の上端部から下端部までを切り、その位置から底面部Ｂ４３１ａの途中位置まで、且つ、係止板部Ｂ４３１ｂの途中位置まで続く開放部として形成される。

【２４５８】

切れ込みＢ２４３１ｄの左右幅が、前突設部Ｂ２４５７の左右幅よりも若干長い左右幅として形成されていることで、図１８５に示す配置において、スライド部材Ｂ２４５０の前突設部Ｂ２４５７の配置と、中段部材Ｂ２４３０の切れ込みＢ２４３１ｄの配置とを重ねることができる。

【２４５９】

そのため、切れ込みＢ２４３１ｄを通してスライド部材Ｂ２４５０の前突設部Ｂ２４５７は中段部材Ｂ２４３０を上下方向に通過することができるので、中段部材Ｂ２４３０にスライド部材Ｂ２４５０を上から被せるようにして組み付けることが可能となっている。

【２４６０】

下突設部Ｂ２４５６は、切れ込みＢ２４３１ｄの外側における係止板部Ｂ４３１ｂの後面と当接可能な位置まで突設される、スライド部材Ｂ２４５０の前側移動終端を規定するための部分である。

【２４６１】

第４５実施形態では、中央固定部Ｂ４５４の前端部が係止板部Ｂ４３１ｂの後面に突き当たる位置でスライド部材Ｂ４５０の前側移動終端が規定されていたが（図１５１参照）、第４６実施形態においても、中央固定部Ｂ４５４の前端部から真下に突設される下突設部Ｂ２４５６の前面が係止板部Ｂ４３１ｂの後面に突き当たる位置でスライド部材Ｂ２４５０の前側移動終端が規定されるので、第４６実施形態におけるスライド部材Ｂ２４５０の前側移動終端位置と、第４５実施形態におけるスライド部材Ｂ４５０の前側移動終端位置とは、同じ位置とされる。

【２４６２】

前突設部Ｂ２４５７は、上方へ向けて突設される一対の球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂを備える。球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂは、切れ込みＢ２４３１ｄに進入可能な左右位置において前後に並ぶように配設されており、後側の球干渉突設部Ｂ２４５８ｂよりも、前側の球干渉突設部Ｂ２４５８ａの方が、上端位置が低くなるように形成される。

【２４６３】

球干渉突設部Ｂ２４５８ｂの上端位置と、球干渉突設部Ｂ２４５８ａの上端位置とを通る直線の前後方向傾斜角度は、中段部材Ｂ２４３０の底面部Ｂ４３１ａの上面の前後方向傾斜角度と同じとなるように形成される。

【２４６４】

球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂの突設長さは、スライド部材Ｂ２４５０が前進位置に配置された場合に、底面部Ｂ４３１ａの上面から上方に１～２ｍｍだけ張り出す程度の長さとされている（図１８４参照）。これにより、スライド部材Ｂ２４５０が後退

位置に配置された場合に、底面部Ｂ４３１ａの上面からはみ出さないように、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂの上端位置を切れ込みＢ２４３１ｄの内側（中段部材Ｂ２４３０の上下方向の肉厚寸法の内側）に収めることができる。

【２４６５】

これにより、スライド部材Ｂ２４５０が前進位置に配置される場合には、中央流路Ｂ２４３１を流下する球に対して、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂを当接させることができる一方、スライド部材Ｂ２４５０が後退位置に配置される場合には、中央流路Ｂ２４３１を流下する球と、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂとが当接しないよう構成することができる。

【２４６６】

図１８４及び図１８５で説明した構成により、第４６実施形態における入賞ユニットＢ２４００では、第４５実施形態で説明した入賞ユニットＢ４００により生じる作用に加えて、中央流路Ｂ２４３１を流下する球の流下速度を場合により変化させることができる。

【２４６７】

例えば、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）になった場合には、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが中央流路Ｂ２４３１の外方に退避するので、中央流路Ｂ２４３１を流下する球が球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂとの当接により減速されることはなくなる。

【２４６８】

加えて、第４５実施形態で上述したように、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）に変化する際に左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３（図１４０参照）に乗っている球は、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３により後方に押し込まれることで流下方向（矢印Ｂ方向）に加速される。

【２４６９】

従って、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）に変化した場合には、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路の全区域において、球の流下速度が速くなり易い。

【２４７０】

また、例えば、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）になった場合には、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが底面部Ｂ４３１ａの上面から中央流路Ｂ２４３１側に張り出すので、中央流路Ｂ２４３１を流下する球が球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂに当接し減速される。これにより、中央流路Ｂ２４３１での球の流下の減速作用が、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）である場合に比較して生じ易くなり、球の流下態様を落ち着かせることができる（整流させることができる）。

【２４７１】

加えて、第４５実施形態で上述したように、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）に変化する際に左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３（図１４０参照）に球が乗っていたとしても、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３は球との間に隙間を生じさせる方向（球を押込まない方向、矢印Ｆ方向）に変位するので、球の流下速度の変化は抑制される（加速されるわけではない）。

【２４７２】

従って、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）に変化した場合には、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路の全区域において、球の流下速度が遅くなり易い。

【２４７３】

このように、本実施形態では、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）に変化した場合には、球の流下速度を速める作用が、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路の全体で生じる一方で、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）に変化した場合には、球の流下速度を遅くする作用が、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、

により構成される球の流下経路の全体で生じる。
【２４７４】
そのため、スライド部材Ｂ２４５０が非励磁状態（前進位置）に変化した場合と、スライド部材Ｂ２４５０が励磁状態（後退位置）に変化した場合とで、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３と、中央流路Ｂ２４３１と、により構成される球の流下経路を通過するのに要する期間の違い（長短の差）を大きくすることができる。
【２４７５】
次いで、図１８６を参照して、第４７実施形態について説明する。第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００において内部流路が前後に延びる流路として形成される場合を説明したが、第４７実施形態の入賞ユニットＢ３４００では、内部流路が左右に延びる流路として形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【２４７６】
図１８６（ａ）は、第４７実施形態における入賞ユニットＢ３４００を模式的に示す模式図であり、図１８６（ｂ）は、入賞ユニットＢ３４００の別例として入賞ユニットＢ３４００ｂを模式的に示す模式図である。なお、図１８６において、釘ＢＫＧ１は、ベース板Ｂ６０に打ち込まれる細径部が実線で図示され、正面側先端部の膨らんだ部分が想像線で図示される。
【２４７７】
入賞ユニットＢ３４００は、例えば、右側遊技領域Ｂ３０３（図１３５参照）におけるスルーゲートＢ６７の下流側などに配置され、遊技領域Ｂ３０１に配置される球の流下を案内するユニットとして構成される。
【２４７８】
入賞ユニットＢ３４００は、遊技盤Ｂ１３のベース板Ｂ６０（図１３５参照）とガラスユニットＢ１６（図１３４参照）との間に配設される板状部材から形成される流路構成部Ｂ３４１０と、遊技領域の内方に配置される突出状態（前進位置の状態に相当）と遊技領域の外方に退避する退避状態（後退位置の状態に相当）とで状態変化するように前後方向にスライド変位されるスライド部材Ｂ３４２０と、を備える。
【２４７９】
スライド部材Ｂ３４２０は、流路構成部Ｂ３４１０の球入口Ｂ３４１１付近の第１スライド部材Ｂ３４２１と、球出口Ｂ３４１２付近の第２スライド部材Ｂ３４２２と、が分かれて配置されており、これらが背面側で一体的に構成されることで、一体的にスライド変位する。
【２４８０】
即ち、第１スライド部材Ｂ３４２１が突出状態となるのに同期して第２スライド部材Ｂ３４２２が突出状態となり、第１スライド部材Ｂ３４２１が退避状態となるのに同期して第２スライド部材Ｂ３４２２が退避状態となるように、スライド部材Ｂ３４２０が一体的に構成される。
【２４８１】
入賞ユニットＢ３４００に入球した球の流下態様のバリエーションについて説明する。球入口Ｂ３４１１を通り入球した球が第１スライド部材Ｂ３４２１と干渉する位置に到達した時に、第１スライド部材Ｂ３４２１が退避状態であった場合や、第１スライド部材Ｂ３４２１が突出状態であったとしても極めて短時間（球が右側に案内されるのに要する時間（例えば、０．２秒）よりも短い時間）で退避状態に切り替えられた場合には、球は途中排出部Ｂ３４１３から流路構成部Ｂ３４１０の外方（左側外方）に排出される。途中排出部Ｂ３４１３を通過した球は、本実施形態では、第２入賞口Ｂ６４０や第３入賞口Ｂ６４ｂを逸れて流下するように構成される。
【２４８２】
一方、球入口Ｂ３４１１を通り入球した球が第１スライド部材Ｂ３４２１と干渉する位置に到達した時に、第１スライド部材Ｂ３４２１が、球を案内するのに十分な長さ（例え

ば、０．２秒）で突出状態を維持した場合、球は流路構成部Ｂ３４１０の内部に案内される。

【２４８３】

流路構成部Ｂ３４１０の内部に案内された球が球出口Ｂ３４１２に到達するタイミングで第２スライド部材Ｂ３４２２が突出状態となっているか、退避状態となっているかで、その後の球の流下経路が変化する。

【２４８４】

即ち、第２スライド部材Ｂ３４２２が突出状態となっていれば、球は第２入賞口Ｂ６４０の真上を第２スライド部材Ｂ３４２２の上面を転動しながら通過して、第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下する。なお、本実施形態では、第３入賞口Ｂ６４ｂの上流側に球の通過を検出可能な検出センサＢＳＥ１が配置されており、この検出センサＢＳＥ１が第４５実施形態における検出センサＢ４４２（図１４０参照）と同様の働きをする。

【２４８５】

即ち、検出センサＢＳＥ１により、球が球通過開口ＢＳＥ１ａを通過したことが検出されると、第１入賞口スイッチがオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）で特別図柄１の抽選がなされるよう構成される。

【２４８６】

一方で、第２スライド部材Ｂ３４２２が退避状態となっていれば、球は第２入賞口Ｂ６４０側へ流下する。なお、本実施形態では、第２入賞口Ｂ６４０の上流側に球の通過を検出可能な検出センサＢＳＥ２が配置されており、この検出センサＢＳＥ２が第４５実施形態における検出センサＢ４６２（図１４４参照）と同様の働きをする。

【２４８７】

即ち、検出センサＢＳＥ２により、球が球通過開口ＢＳＥ２ａを通過したことが検出されると、第２入賞口スイッチがオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｂ１１０（図１３７参照）で特別図柄２の抽選がなされるよう構成される。

【２４８８】

第２スライド部材Ｂ３４２２の真下に第２入賞口Ｂ６４０が配置されており、球が第２入賞口Ｂ６４０に入り易い配置となっているが、検出センサＢＳＥ２とその真上の釘ＢＫＧ１との間隔や、その反対側（右側）における検出センサＢＳＥ２と流路構成部Ｂ３４１０との間隔は、球の直径よりも長くなるように設計されている。即ち、第２スライド部材Ｂ３４２２が退避状態とされており、第２入賞口Ｂ６４０側へ流下した球の内の何個かは、第２入賞口Ｂ６４０から逸れて流下し得るよう構成される。

【２４８９】

なお、図示はしていないが、入賞ユニットＢ３４００の下側に小当たり遊技で開閉動作される可変入賞装置Ｂ６５が配設されることで、入賞ユニットＢ３４００よりも下方に流れた球（第２入賞口Ｂ６４０にも第３入賞口Ｂ６４ｂにも入球せずに逸れた球、例えば、途中排出部Ｂ３４１３側に流れた球）を小当たり遊技で開放された特定入賞口Ｂ６５ａに入球させることができる。

【２４９０】

図１８６（ｂ）に示すように、途中排出部Ｂ３４１３の形成を省略し、第１スライド部材Ｂ３４２１の真下に一般入賞口Ｂ６３を配置しても良い。この時、球入口Ｂ３４１１を通り入球した球が第１スライド部材Ｂ３４２１と干渉する位置に到達した時に、第１スライド部材Ｂ３４２１が退避状態であった場合や、第１スライド部材Ｂ３４２１が突出状態であったとしても極めて短時間（球が右側に案内されるのに要する時間（例えば、０．２秒）よりも短い時間）で退避状態に切り替えられた場合には、その球は一般入賞口Ｂ６３に入球する。

【２４９１】

なお、図１８６（ｂ）に示す実施形態では、一般入賞口Ｂ６３の上流側に球の通過を検出可能な検出センサＢＳＥ３が配置されており、この検出センサＢＳＥ３が第４５実施形態における検出センサＢ４３５（図１４４参照）と同様の働きをする。即ち、検出センサ

ＢＳＥ３により、球が球通過開口ＢＳＥ３ａを通過したことが検出されると、特別図柄の抽選も普通図柄の抽選も実行されず、賞球の払い出しが実行される。

【２４９２】

図１８６（ｂ）に示すように、球出口Ｂ３４１２から左側へ排出された球を零すことが無いように、入賞口を近接配置させるようにしても良い。なお、図１８６（ｂ）に示す実施形態では、球出口Ｂ３４１２に第３入賞口Ｂ６４ｂが近接配置されることで、第２スライド部材Ｂ３４２２の突出状態において流路構成部Ｂ３４１０の外方（左方）に案内された球が確実に第３入賞口Ｂ６４ｂに入球される。

【２４９３】

これにより、釘ＢＫＧ１に衝突して流下経路が変化する等して第３入賞口Ｂ６４ｂから球が逸れる事態が生じ得る図１８６（ａ）に示す実施形態に比較して、第２スライド部材Ｂ３４２２の突出状態において流路構成部Ｂ３４１０の外方（左方）に案内された球による賞球が得られない事態が発生することを避けることができる。

【２４９４】

次いで、図１８７を参照して、第４８実施形態について説明する。第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００において電動役物Ｂ６４０ａが離れて配置される複数の部材から構成され、上流側の部材が球に当たるタイミングと下流側の部材が球に当たるタイミングとの間隔を長くする場合を説明したが、第４８実施形態の入賞ユニットＢ４４００では、電動役物Ｂ４４２０が単一の部材から構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２４９５】

図１８７（ａ）及び図１８７（ｂ）は、第４８実施形態における入賞ユニットＢ４４００を模式的に示す模式図である。図１８７（ａ）では、電動役物Ｂ４４２０が、ベース板Ｂ６０（図１３５参照）とガラスユニットＢ１６（図１３４参照）との間の領域（遊技領域）に張り出して配置される前進位置とされる状態が図示され、図１８７（ｂ）では、電動役物Ｂ４４２０が、遊技領域から退避して後方に配置される後退位置とされる状態が図示される。

【２４９６】

図１８７（ａ）及び図１８７（ｂ）では、電動役物Ｂ４４２０の部分の内、入賞ユニットＢ４４００の内部において、球の通過を遮る位置に配置されている部分の外形を実線で図示すると共に内部をドット模様で塗って図示する一方、球の通過を遮らない（許容する）位置に配置されている部分の外形を想像線で図示する。

【２４９７】

なお、図１８７において、釘ＢＫＧ１は、ベース板Ｂ６０に打ち込まれる細径部が実線で図示され、正面側先端部の膨らんだ部分が想像線で図示される。

【２４９８】

入賞ユニットＢ４４００は、遊技盤Ｂ１３のベース板Ｂ６０（図１３５参照）とガラスユニットＢ１６（図１３４参照）との間に配設される板状部材から形成され球の流下経路を構成する流路構成部Ｂ４４１０と、その流路構成部Ｂ４４１０の内方に配置され球の流下経路を変化させる電動役物Ｂ４４２０と、を備える。

【２４９９】

電動役物Ｂ４４２０は、球を転動させる上面を有し前後方向に変位可能に案内される転動板部Ｂ４４２１と、その転動板部Ｂ４４２１の下流側端部から突出形成され、球の流下を妨害可能な程度の強度で形成される妨害棒部Ｂ４４２５と、を備える。

【２５００】

本実施形態では、流路構成部Ｂ４４１０の上流側端部に開放形成される球入口Ｂ４４１１を通り流路構成部Ｂ４４１０に入った球が電動役物Ｂ４４２０の配置される位置に到達した時に、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されているか、後退位置に配置されているかで、球の流下経路が異なる。

【２５０１】

まず、流路構成部Ｂ４４１０に入った球が電動役物Ｂ４４２０の配置される位置に到達した時に電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されている場合（図１８７（ａ）参照）、球は転動板部Ｂ４４２１の上面を転動して流路構成部Ｂ４４１０を左側（特定入賞口Ｂ６５ａ側）へ流れる。

【２５０２】

この時、妨害棒部Ｂ４４２５は、ベース板Ｂ６０の前面に対して球の直径の１．５倍以上に離れた位置に配置される。例えば、流路構成部Ｂ４４１０とガラスユニットＢ１６との間に配設され流路構成部Ｂ４４１０を前側から覆う板状部材に形成される開口部に入り込むことで、流路構成部Ｂ４４１０内を流下する球の流下を妨害しない位置に配置される。

【２５０３】

一方、流路構成部Ｂ４４１０に入った球が電動役物Ｂ４４２０の配置される位置に到達した時に電動役物Ｂ４４２０が後退位置に配置されている場合（図１８７（ｂ）参照）、球は転動板部Ｂ４４２１の正面側を流下して流路構成部Ｂ４４１０を下側（第２入賞口Ｂ６４０側）へ流れる。

【２５０４】

この時、妨害棒部Ｂ４４２５は、流路構成部Ｂ４４１０を流下する球と衝突し球の通過を妨害（防止）可能な前後位置に配置される。これにより、電動役物Ｂ４４２０が後退位置に配置されている場合（図１８７（ｂ）参照）において、流路構成部Ｂ４４１０の板状部（例えば、転動板部Ｂ４４２１の下側に配置される板状部Ｂ４４１２）で跳ねた球が妨害棒部Ｂ４４２５に向けて飛んだとしても、その妨害棒部Ｂ４４２５を超えて（通過して）、特定入賞口Ｂ６５ａ側へ球を案内する案内部Ｂ４４１３を流れることを防止することができる。

【２５０５】

即ち、妨害棒部Ｂ４４２５に向けて飛んだ球は、その妨害棒部Ｂ４４２５に左方への勢いを殺され、真下に落下して第２入賞口Ｂ６４０に入球するか、又は右方へ跳ね返された後に、板状部Ｂ４４１２の上面を転動して第２入賞口Ｂ６４０に入球することになる。

【２５０６】

このように、本実施形態では、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されるか後退位置に配置されるかによって、球入口Ｂ４４１１に入球した球は、電動役物Ｂ４４２０を下方へ通過して板状部Ｂ４４１２上を転動して流下する方向か、電動役物Ｂ４４２０を左方へ通過して案内部Ｂ４４１３上を転動して流下する方向か、のいずれかの方向に分けられる。

【２５０７】

入賞ユニットＢ４４００のように経路および入賞口Ｂ６５ａ，Ｂ６４０を形成する目的の一つに、球入口Ｂ４４１１に入球した球の大多数を特定入賞口Ｂ６５ａ側に案内する状態（案内状態）と、球入口Ｂ４４１１に入球した球の大多数を特定入賞口Ｂ６５ａ側に案内しない状態（非案内状態）と、を切り替え可能に電動役物Ｂ４４２０の動作を制御することが考えられる。

【２５０８】

この制御は、電動役物Ｂ４４２０の作動パターン（開閉の長さ）を切り替えることにより達成可能だが、電動役物Ｂ４４２０の転動板部Ｂ４４２１の左右長さが短いと、非案内状態とされていても、球が特定入賞口Ｂ６５ａ側に案内される事態が生じ易い。

【２５０９】

例えば、転動板部Ｂ４４２１が前進位置に配置される時間を、転動板部Ｂ４４２１が前進位置に配置された数秒後に到達した球が転動板部Ｂ４４２１を通過するのに要する時間よりも短く設定したとしても、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されるのと同時に球が到達した場合（球の到達タイミングと電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されるタイミングとのずれがほとんど無い場合）や、球が通常よりも勢いが大きい状態（例えば、加速する方向の回転が生じている状態）で到達した場合には、転動板部Ｂ４４２１が前進位

置に配置されている内に球が案内部Ｂ４４１３側へ通過してしまう事態が生じ得る。
【２５１０】
この対策として、第１に、通常は左右長さが５５ｍｍ以下で設計される転動板部Ｂ４４２１の左右長さを、それ以上の長さ（例えば、７７ｍｍや、１００ｍｍ）で設計しても良い。この場合、電動役物Ｂ４４２０の非案内状態として、転動板部Ｂ４４２１が前進位置に配置される時間の設計自由度を向上させることができる。
【２５１１】
また、転動板部Ｂ４４２１の左右幅を長く設計することにより、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置されている状態において転動板部Ｂ４４２１に乗る球の個数を増加させることができる。
【２５１２】
通常の左右長さ（５５ｍｍ以下）で転動板部Ｂ４４２１が形成されている場合、転動板部Ｂ４４２１に同時に乗る球はせいぜい２個～３個といったところであるが、それ以上の長さ（例えば、１００ｍｍ）で転動板部Ｂ４４２１が形成される場合、転動板部Ｂ４４２１に同時に４個以上の球が乗る状態を生じさせることができる。
【２５１３】
転動板部Ｂ４４２１に同時に４個以上の球が乗っている状態で電動役物Ｂ４４２０が後退位置に変位すると、４個以上の球が一度に第２入賞口Ｂ６４０側へ案内されるので、短時間で特別図柄２の保留個数を４個（満タン）にすることができる。
【２５１４】
また、第４５実施形態で説明したように、球が１個ずつ電動役物６４０に案内される場合と異なり、電動役物Ｂ４４２０の上面に乗っている複数個の球は、電動役物Ｂ４４２０が後退位置に変位した直後に同時に第２入賞口Ｂ６４０側へ落下するので、複数個の球を第２入賞口Ｂ６４０側に流下させるために電動役物Ｂ４４２０が後退位置に配置を維持することが要求される時間長さを短くすることができる。即ち、電動役物Ｂ４４２０の作動パターンの設計自由度を向上させることができる。
【２５１５】
次の対策として、第２に、転動板部Ｂ４４２１が前進位置から後退位置へ変位する間際に転動板部Ｂ４４２１の下流側端部から案内部Ｂ４４１３へ移る球の流れを、妨害棒部Ｂ４４２５により断ち切ることができるよう構成することができる。
【２５１６】
即ち、妨害棒部Ｂ４４２５の配設位置が、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部よりも案内部Ｂ４４１３側へ張り出す位置（本実施形態では、転動板部Ｂ４４２１の上面と直交して斜め左上方向に張り出すことで案内部Ｂ４４１３側に張り出している）とすることで、電動役物Ｂ４４２０の案内状態（図１８７（ａ）参照）において転動板部Ｂ４４２１の下流側端部を球が通過しようとする場合であっても、その直後に電動役物Ｂ４４２０が非案内状態（図１８７（ｂ）参照）とされれば、その通過した球の流れを妨害棒部Ｂ４４２５により遮ることができる。
【２５１７】
これにより、転動板部Ｂ４４２１の左右長さが短い場合であっても、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置される状態から、後退位置に配置される状態に切り替わる直前に、案内部Ｂ４４１３へ移る球が特定入賞口Ｂ６５ａ側に案内されがたくすることができる。
【２５１８】
換言すれば、転動板部Ｂ４４２１を左側に通過しようとする球を妨害棒部Ｂ４４２５により第２入賞口Ｂ６４０側に引き戻すことができる。これにより、転動板部Ｂ４４２１の左右長さを最大限に使って、電動役物Ｂ４４２０が前進位置に配置される状態において電動役物Ｂ４４２０に乗る球の個数を増やすことができ、電動役物Ｂ４４２０が後退位置に配置されることで第２入賞口Ｂ６４０側へ落下させる球の個数を増やすことができる。
【２５１９】
また、これにより、転動板部Ｂ４４２１の左右長さから想定される球の個数よりも多く

の球を、電動役物Ｂ４４２０が前進位置から後退位置に変位した直後に第２入賞口Ｂ６４０側に流下させることができる。

【２５２０】

即ち、転動板部Ｂ４４２１に乗っている球に加えて、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部を通過しかけた後で妨害棒部Ｂ４４２５に引き戻される（逆流させられる）球をも第２入賞６４０側に流下させることができるので、第２入賞口Ｂ６４０の入賞頻度を向上させることができる。

【２５２１】

一方で、流路構成部Ｂ４４１０は、球入口Ｂ４４１１を除き電動役物Ｂ４４２０側に球が流入しないように流路を上から覆う態様で天井部Ｂ４４１４が形成される。即ち、電動役物Ｂ４４２０への球の導入は、球入口Ｂ４４１１に限定されることから、電動役物Ｂ４４２０上に滞留する球の個数が想定を超えて多くなる事態（例えば、球が２段以上に積み重なるような態様で滞留する事態）の発生を防止することができる。

【２５２２】

このように、本実施形態によれば、転動板部Ｂ４４２１上を球が通過するか否かで球の流下経路が切り替えられる。即ち、電動役物Ｂ４４２０が前進位置で維持される期間が、転動板部Ｂ４４２１上を球が通過するのに要する時間を超える場合に、初めて球が特定入賞口Ｂ６５ａ側へ流れることになる。

【２５２３】

この点は、上述の第４５実施形態で説明したように、先端部Ｂ４５１さえ通過していれば左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３上を球が通過していようがいまいが、球の流下経路の切り替えには影響しない場合とは異なる。

【２５２４】

なお、図１８７（ａ）に図示される電動役物Ｂ４４２０の状態が、上述した第４５実施形態における電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の非励磁状態に相当し、図１８７（ｂ）に図示される電動役物Ｂ４４２０の状態が、上述した第４５実施形態における電動役物Ｂ６４０ａ（スライド部材Ｂ４５０及び傾倒部材Ｂ４７０）の励磁状態に相当する。この場合において、転動板部Ｂ４４２１がスライド部材Ｂ４５０に相当し、妨害棒部Ｂ４４２５が傾倒部材Ｂ４７０に相当する。

【２５２５】

次いで、図１８８を参照して、第４９実施形態について説明する。第４５実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００が、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間へ向かって流下する場合を説明したが、第４９実施形態の上側可変入賞装置Ｂ５７００では、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球の流下を切り替えるための切替装置Ｂ５７７０が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２５２６】

図１８８（ａ）及び図１８８（ｂ）は、図１３５の範囲ＣＬＸＸａにおける第４９実施形態における上側可変入賞装置Ｂ５７００の正面図である。図１８８（ａ）では、上側可変入賞装置Ｂ５７００の閉鎖状態が図示され、図１８８（ｂ）では、上側可変入賞装置Ｂ５７００の開放状態が図示される。

【２５２７】

図１８８（ａ）及び図１８８（ｂ）に示すように、第４９実施形態における上側可変入賞装置Ｂ５７００は、第４５実施形態における基礎板部材Ｂ７１０の構成を部分的に流用して形成される基礎板部材Ｂ５７１０を備える。

【２５２８】

基礎板部材Ｂ５７１０は、傾斜外壁板部Ｂ７１４から下側の構成の配置を下方に下げ、それにより傾斜転動板部Ｂ７１３と傾斜外壁板部Ｂ７１４との間にできた空間に、左右一対の中間板部Ｂ５７１８と、その中間板部Ｂ５７１８の一部と縁部が沿う形状で前後方向に穿設され中間板部Ｂ５７１８に受け入れられた球を背面側へ排出する左右一対の排出開

口Ｂ５７１９と、を備える。
【２５２９】
中間板部Ｂ５７１８は、傾斜転動板部Ｂ７１３と傾斜外壁板部Ｂ７１４との間にできた空間に向けて正面側に延設される板状部であって、左右外側端部からの球の零れを防止するための防止壁部Ｂ５７１８ａと、その防止壁部Ｂ５７１８ａの下端部と接続され第２特定入賞口Ｂ７００ａの左右方向位置側へ向けて上昇傾斜する方向に延設される傾斜板部Ｂ５７１８ｂと、その傾斜板部Ｂ５７１８ｂの延設端部と接続され切替装置Ｂ５７７０の球受回転部材Ｂ５７７１の回転軸ＢＪ５１を中心として球受回転部材Ｂ５７７１の半径よりも若干長い曲率半径の円弧形状で形成される円弧板部Ｂ５７１８ｃと、を備える。
【２５３０】
切替装置Ｂ５７７０は、回転軸ＢＪ５１を回転中心として回転動作可能に構成される球受回転部材Ｂ５７７１と、その球受回転部材Ｂ５７７１に左右から対向配置される位置に左右一対で配設される流下規制部材Ｂ５７７８と、を備える。
【２５３１】
流下規制部材Ｂ５７７８は、回転軸ＢＪ５１を中心として球受回転部材Ｂ５７７１の半径よりも若干長い曲率半径の円弧形状で形成され、基礎板部材Ｂ５７１０の部材前面よりも正面側に張り出して球受回転部材Ｂ５７７１から排出される球の通過を規制する前進位置と、基礎板部材Ｂ５７１０の部材前面よりも背面側に退避して球受回転部材Ｂ５７７１から排出される球の通過を許容する後退位置と、で変位可能に構成される。
【２５３２】
球受回転部材Ｂ５７７１は、第２特定入賞口Ｂ７００ａの左右中心の真下に配置され前後方向に延びる回転軸ＢＪ５１を中心に回転動作可能とされる円板形状部材であって、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球を受け入れ可能となるように外周側から凹設される球受凹部Ｂ５７７２が９０度間隔で４箇所形成される。
【２５３３】
球受回転部材Ｂ５７７１を駆動する駆動装置と、流下規制部材Ｂ５７７８を駆動する駆動装置とは、ソレノイドＢ７６３（図１７３参照）とは異なる駆動装置（図示せず）が利用される。この場合において、球受回転部材Ｂ５７７１を駆動する駆動装置が流下規制部材Ｂ５７７８を駆動する駆動装置に兼用されても良い。
【２５３４】
本実施形態では、１ラウンド目のラウンド遊技において、ソレノイドＢ７６３は第１の特別作動パターン（図１７５（ａ）参照）で駆動され、球受回転部材Ｂ５７７１は、９０度／秒の回転速度で時計回り方向に常時回転される。
【２５３５】
流下規制部材Ｂ５７７８は、１ラウンド目のラウンド遊技における動作態様が、大当たり種別に応じて変化可能に設定される。例えば、大当たりＡ，Ｂ，ａ，ｂ（図１７７参照）では、常に前進位置で固定され、大当たりＣでは、常に後退位置で固定され、大当たりｃでは、１秒ごとに前進位置と後退位置とが切り替えられるよう駆動される。
【２５３６】
第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球の流下態様について説明する。本実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は、球受回転部材Ｂ５７７１のいずれかの球受凹部Ｂ５７７２に必ず受け入れられる。
【２５３７】
球が球受凹部Ｂ５７７２に受け入れられた状態で球受回転部材Ｂ５７７１が回転することで、球受凹部Ｂ５７７２の配置の変化に伴って、球受凹部Ｂ５７７２に受け入れられた球も変位する。
【２５３８】
球受回転部材Ｂ５７７１の回転中において、球受凹部Ｂ５７７２の下側縁部（球受凹部Ｂ５７７２の回転軸ＢＪ５１を中心とした径方向外側端部における一対の縁部の内の下側の縁部。球の流下面を形成する側）が傾斜板部Ｂ５７１８ｂの上面と面一になった時に、

流下規制部材Ｂ５７７８が後退位置に配置されている場合、傾斜板部Ｂ５７１８ｂと面一になった球受凹部Ｂ５７７２から球が排出されることになり、その球は排出開口Ｂ５７１９を通り上側可変入賞装置Ｂ５７００から排出される。このように排出される球は、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に貯留されることは無い。

【２５３９】

一方、球受回転部材Ｂ５７７１の回転中において、球受凹部Ｂ５７７２の下側縁部が傾斜板部Ｂ５７１８ｂの上面と面一になった時に、流下規制部材Ｂ５７７８が前進位置に配置されている場合、球の排出が流下規制部材Ｂ５７７８により規制され、球受凹部Ｂ５７７２から球が排出されることなく球受回転部材Ｂ５７７１の回転が継続される。その後、球受凹部Ｂ５７７２が左右一対の円弧板部Ｂ５７１８ｃの間の位置に配置されると、球は一対の円弧板部Ｂ５７１８ｃの隙間を通って、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間へ向かって流下し、貯留され得る。

【２５４０】

即ち、本実施形態では、切替装置Ｂ５７７０の動作態様に対応して、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間へ向かって流下する場合と、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に到達することなく排出される場合と、を構成することができる。

【２５４１】

そのため、第１の特別作動パターンで移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が駆動されることで、ラウンド遊技中は一対の貯留板部Ｂ７１５の間の隙間に案内された球が排出されずに貯留される態様であっても、特に大当たりｃの場合のように、ラウンド遊技中における流下規制部材Ｂ５７７８の配置が切り替わる場合には、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球タイミング次第で、一対の貯留板部Ｂ７１５に案内される球の個数が十分多くなる場合（本実施形態では、５個以上となる場合）と、それよりも少ない場合とが生じ得るので、遊技者の上側可変入賞装置Ｂ７００に対する注目力を向上させることができる。

【２５４２】

また、切替装置Ｂ５７７０から一対の貯留板部Ｂ７１５側に球が１個通過すれば良いのではなく、１対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置を満タンにする個数を超える個数（本実施形態では５個以上）の球が通過して初めて開口部Ｂ７５１に球を確実に通過させることができるようになるので、遊技者の上側可変入賞装置Ｂ７００に対する注目力を長い間高い状態で維持することができる。

【２５４３】

本実施形態によれば、球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過するまでよりも、球が第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過して球受回転部材Ｂ５７７１により変位されている時の方が、球の流下速度が遅くされる。これにより、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に到達するまでの時間を遅らせることができる。従って、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置された直後に移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した球が即座に一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に到達することを回避することができる。

【２５４４】

次いで、図１８９から図１９１を参照して、第５０実施形態について説明する。第４５実施形態では、時間表示Ｂ８１１により大当たり遊技のエンディング演出の終了時を把握できる場合を説明したが、第５０実施形態における発射時間表示Ｂ６８１１では、エンディング演出の終了時直前における適切な球の発射タイミングを把握できるように第３図柄表示装置Ｂ８１の表示が設計される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２５４５】

図１８９（ａ）及び図１８９（ｂ）は、第５０実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１８９（ａ）

では、枠ボタンＢ２２（図１７８参照）を操作することにより特定表示Ｂ８１０が中央から移動された後における表示画面が図示され、図１８９（ｂ）では、図１８９（ａ）に示す状態において枠ボタンＢ２２を操作することで切り替えられた後における表示画面が図示される。

【２５４６】

本実施形態では、図１８９（ｂ）に示すように、カード忘れ防止表示演出の実行中に枠ボタンＢ２２を操作すると、方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛表示８１８が、球を発射して狙うと遊技者が利益を得られる可能性がある位置を示唆する発射位置示唆表示Ｂ６８２０に切り替えられ、時間表示Ｂ８１１に重ねて、発射時間表示Ｂ６８１１が表示される。

【２５４７】

発射位置示唆表示Ｂ６８２０は、遊技領域（の少なくとも一部）のイラストや写真等を（模式的に）表示する遊技領域表示Ｂ６８２１と、その遊技領域表示Ｂ６８２１の一部を矢印などで指し示し、球を発射して狙うべきであることが遊技者に分かるように表示する目標示唆表示Ｂ６８２２と、を備える。

【２５４８】

本実施形態では、発射位置示唆表示Ｂ６８２０は、遊技領域表示Ｂ６８２１として、遊技盤Ｂ１３（図１３５参照）の全体が表示され、目標示唆表示Ｂ６８２２として、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７（図１３５参照）が指し示されると共に「ここを狙って」とのコメントが表示される。

【２５４９】

なお、発射位置示唆表示Ｂ６８２０はこれに限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遊技領域表示Ｂ６８２１として遊技盤Ｂ１３の全体を表示するのではなく、遊技盤Ｂ１３の一部を表示するようにしても良い。例えば、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７を含む一部として、風車ＢＷＦ（図１３５参照）よりも上側の部分のみが表示されるようにしても良いし、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７周辺（又はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７のいずれかの周辺）のみが表示されても良い。

【２５５０】

遊技盤Ｂ１３の一部を表示するような場合において、遊技領域表示Ｂ６８２１は静止画として表示されても、動画として表示されても良い。例えば、発射位置示唆表示Ｂ６８２０において、これから発射される球の周辺を模式的に表示するものとして遊技領域表示Ｂ６８２１を構成し、その球が発射されて流下してスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達するという経路に沿って遊技領域表示Ｂ６８２１を動かして（動画として表示して）、球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達したら遊技領域表示Ｂ６８２１をスルーゲートＢ６６，Ｂ６７周辺の表示で固定する（静止画として表示する）ようにしても良い。

【２５５１】

また、例えば、目標示唆表示Ｂ６８２２として、球を発射して狙う位置を指し示すために矢印を表示するのではなく、その位置を光らせるように表示しても良いし、その位置を除く他の部分を暗く表示することで相対的に目立たせるように表示しても良い。

【２５５２】

また、目標示唆表示Ｂ６８２２により指し示される位置は初めから固定されても良いし、移動した後で固定されるようにしても良い。例えば、球が発射される経路に沿って光を移動させて、その光がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７まで到達したら、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達した位置で光を固定するようにしても良い。

【２５５３】

このように、発射位置示唆表示Ｂ６８２０が表示されることで、遊技者は、エンディング演出の終了後にどこを狙って球を発射するべきなのかを容易に把握することができる。これにより、エンディング演出の終了後における遊技の進行をスムーズにすることができる。

【２５５４】

発射時間表示Ｂ６８１１は、時間表示Ｂ８１１と同様に、時間経過とともに右先端部が右方へ移動するものとして表示され、その移動速度は時間表示Ｂ８１１の移動速度と同じとされる。また、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部は、時間表示Ｂ８１１の右先端部よりも終端位置Ｂ８１２側に配置されており、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するよりも前に、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達する。

【２５５５】

本実施形態では、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングから、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングまでに経過する時間長さは、球が発射されてからスルーゲートＢ６６，Ｂ６７（目標示唆表示Ｂ６８２２により指し示される位置）に到達するまでに経過する平均的な長さよりも若干長くなるように設計される。

【２５５６】

そのため、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングで発射された球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するまでに、現在実行中の大当たり遊技のエンディング演出が終了する。

【２５５７】

このように、発射時間表示Ｂ６８１１を目安にして球を発射することで、発射した球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を大当たり遊技中（エンディング演出の終了前）に通過することを避けることができる。これにより、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球が検出されることにより実行される第２図柄の抽選において遊技者が得られる利益の最大化を図ることができる。

【２５５８】

即ち、一般的には大当たり遊技中にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に球が検出されることにより実行される第２図柄の抽選は、通常中の確率で行われるので、遊技者が得られる利益は最小となる。大当たり遊技の終了後であれば、大当たり種別に応じて第２図柄の抽選の確率が上昇し得るので、球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を大当たり遊技中に通過することを避けることで、第２図柄の抽選において遊技者が得られる利益（電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンの違いにより変化する利益）の最大化を図ることができる。

【２５５９】

更に、発射時間表示Ｂ６８１１を目安にして球を発射することで、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達してから球を発射する場合に比較して、大当たり遊技終了から、その大当たり遊技終了後において球が初めてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するまでの時間長さを短くすることができる。

【２５６０】

このように、発射時間表示Ｂ６８１１を目安にして球を発射することで、大当たり遊技終了間際に発射した球が大当たり遊技中（エンディング演出の終了前）にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過する事態の発生を最小限に抑えることで遊技者が得られる利益の最大化を図りながら、大当たり遊技終了後に球がスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するまでの期間を短縮することで遊技の進行をスムーズにすることができる。

【２５６１】

図１９０は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１９０では、図１８９（ｂ）に示す状態から発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達した時における表示画面が図示される。

【２５６２】

図１９０に示すように、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達すると、目標示唆表示Ｂ６８２２の表示態様が切り替わる。本実施形態では、目標示唆表示Ｂ６８２２においてコメントを囲む枠の形状が変化されると共に、「狙って」の部分が拡大される。

【２５６３】

即ち、目標示唆表示Ｂ６８２２の「狙って」の部分が拡大されるタイミングは、発射示唆表示６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングと一致する。そのため、遊技者に発射時間表示Ｂ６８１１を視認させずとも、発射位置示唆表示Ｂ６８２０を視認させるようにすれば、目標示唆表示Ｂ６８２２の変化のタイミングから適切な発射タイミングで球を発射させるように遊技者に促すことができる。

【２５６４】

これにより遊技者は、発射位置示唆表示Ｂ６８２０を視認することで、球を発射して狙う位置だけでなく、球を発射するタイミングをも把握することができる。従って、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示から必要な上方を取捨選択して遊技する遊技者の遊技負担を低減することができる。

【２５６５】

図１９１（ａ）及び図１９１（ｂ）は、エンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１９１（ａ）では、図１８９（ａ）に示す状態からエンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球の通過が検出された場合に切り替えられる表示画面が図示される。

【２５６６】

また図１９１（ｂ）では、図１９１（ａ）の表示から時間が経過して、仮に発射示唆表示６８１１が表示されていた場合に発射示唆表示６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングにおける表示が図示される。即ち、図１９１（ｂ）における時間表示Ｂ８１１の右先端部の配置は、図１９０における時間表示Ｂ８１１の右先端部の配置と同じである。

【２５６７】

図１９１（ａ）に示すように、図１８９（ａ）に表示される状態から枠ボタンＢ２２（図１７８参照）を操作することなく遊技者が球を発射した場合において、エンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球の通過が検出された場合、方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛表示８１８が、遊技者に球の発射を停止することを促すための遊技停止示唆表示Ｂ６８３１に切り替えられる。

【２５６８】

本実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１として、鉄道の踏切に設置される遮断機を模したイラストであって、遮断機が降りている状態の静止画が表示されると共に、「止めろ」とのコメントが表示される。これにより、球の発射を止めることを遊技者に促すことができるので、エンディング演出の終了前に発射される球の個数を減少させることができる。

【２５６９】

図１９１（ｂ）に示すように、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示された状態から時間が経過すると、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１は、遊技者に球の発射の準備を促すための遊技準備示唆表示Ｂ６８４１に切り替えられる。

【２５７０】

本実施形態では、遊技準備示唆表示Ｂ６８４１として、鉄道の踏切に設置される遮断機を模したイラストであって、遮断機が上がっている状態の静止画が表示されると共に、「始め」とのコメントが表示される。これにより、球の発射を停止する期間が終了したことを遊技者に把握させることができ、遊技者に球の発射の準備をするように促すことができる。

【２５７１】

本実施形態では、遊技者が枠ボタンＢ２２を操作しない場合には発射時間表示Ｂ６８１１（図１８９（ｂ）参照）は表示されないが、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１から遊技準備示唆表示Ｂ６８４１に切り替えられるタイミングは、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングと一致する。

【２５７２】

そのため、図１８９（ａ）に示す状態で枠ボタンＢ２２を操作することで得られる利益

（即ち、発射時間表示Ｂ６８１１を視認することで適切な球の発射タイミングを把握できる利益）と同様の利益を、エンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球が検出された場合に得ることができる。

【２５７３】

これにより、例えば、枠ボタンＢ２２の故障などにより枠ボタンＢ２２の操作が行われない場合に、遊技者が得られる利益が過度に減少することを避けることができる。即ち、枠ボタンＢ２２の操作が行われないことで発射位置示唆表示Ｂ６８２０（図１８９（ａ）参照）の表示が行われないために、遊技者が適切な球の発射タイミングを把握することができずに、エンディング演出の終了前にも関わらず遊技者が球の発射を開始した場合であっても、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１又は遊技準備示唆表示Ｂ６８４１が表示されることで、遊技者に球の発射を停止させたり、適切なタイミングで遊技者に球の発射の準備をさせたりすることができる。

【２５７４】

なお、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１や遊技準備示唆表示Ｂ６８４１の態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遮断機のイラストではなく、パチンコ機Ｂ１０のハンドルＢ５１（図１３４参照）の絵に×マークが付されたイラストを表示するようにしても良い。例えば、静止画ではなく動画として構成しても良い。例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の一部ではなく表示画面の全体で表示するように構成しても良い。

【２５７５】

なお、注意コメント表示Ｂ８１５や第２注意コメント表示Ｂ８１９の内容は、図１９１に図示した内容に限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、球の発射に対応した内容としても良い。即ち、ハンドルＢ５１（図１３４参照）を模したイラストを表示して、ハンドルＢ５１に反時計回りの矢印を併記することで、球の発射を停止することを示唆するようにしたり、ハンドルＢ５１に時計回りの矢印を併記することで、球の発射開始タイミングを示唆するようにしたりしても良い。また、特別図柄の保留球数に対応するコメント（「満タン」、とか「空き１個あり」とか）を表示するようにしても良い。

【２５７６】

次いで、図１９２及び図１９３を参照して、第５１実施形態について説明する。第４５実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中に枠ボタンＢ２２を操作すると、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛り表示Ｂ８１８が表示され、光量の強弱や音量の大小の調整が可能となる場合を説明したが、第５１実施形態における状況示唆表示Ｂ７８２１では、遊技者により行われた光量や音量の設定に対する、現在実行中の光量や音量の設定についてのコメントが表示されるように設計される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２５７７】

図１９２（ａ）、図１９２（ｂ）及び図１９３は、第５１実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を例示した図である。図１９２（ａ）及び図１９３では、エンディング演出として同じタイミング（時間表示Ｂ８１１の右先端部の位置が同じタイミング）の異なる大当たり遊技における表示画面が図示され、図１９２（ｂ）では、図１９２（ａ）に示す状態から時間が経過した後における表示画面が図示される。

【２５７８】

本実施形態では、図１９２（ａ）に示すように、エンディング演出における枠ボタン表示Ｂ８１３（図１８１（ｂ）参照）に従って枠ボタンＢ２２（図１７８参照）を操作すると、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に方向操作部表示Ｂ８１６、縦目盛り表示Ｂ８１７及び横目盛り表示Ｂ８１８が表示されると共に、その上方に状況示唆表示Ｂ７８２１が表示される。

【２５７９】
状況示唆表示Ｂ７８２１は、種々のコメントが表示されるように設計されているが、図１９２（ａ）では「キャンセル」と記載されており、光量や音量の設定の変更が初期化された（最大値に戻された）ことを示唆している。
【２５８０】
即ち、本実施形態では、光量や音量の設定が、設定変更の実行から規定の時間が経過することにより音声ランプ制御装置Ｂ１１３（図１３７参照）により初期化される（最大値に戻される）よう設定されており、その初期化が実行された後における最初の大当たり遊技のエンディング演出において、状況示唆表示Ｂ７８２１に「キャンセル」のコメントが表示されるようになっている。
【２５８１】
これにより、例えば、方向操作部Ｂ４５（図１７８参照）の左スイッチ及び下スイッチ（音量や光量を弱める側に変化させるために操作するスイッチ）は機能するが、右スイッチ及び上スイッチ（音量や光量を強める側に変化させるために操作するスイッチ）は故障している場合に、光量や音量を一度最低まで下げたら、それ以降は遊技者が変わっても光量や音量を一切上げることができないという事態の発生を避けることができる。
【２５８２】
遊技者は状況示唆表示Ｂ７８２１に「キャンセル」のコメントが表示されたことを視認することで、光量や音量の設定の変更が初期化された（最大値に戻された）ことを把握できる。直前に光量や音量の設定の変更を行った遊技者と、現在遊技を行っている遊技者とが同じ場合、光量や音量の設定を、初期化（最大値に戻される）の直前の状態に戻したいと考えると思われる。
【２５８３】
これに対し、本実施形態では、その初期化が実行された後における最初の大当たり遊技のエンディング演出において、その初期化（最大値に戻される）の直前の状態における光量の設定が、縦目盛り表示Ｂ８１７に過去光量表示Ｂ７８１７として残され（薄塗りで図示される部分に相当）、その初期化（最大値に戻される）の直前の状態における音量の設定が、横目盛り表示Ｂ８１８に過去音量表示Ｂ７８１８として残される（薄塗りで図示される部分に相当）。
【２５８４】
そのため、遊技者は、過去光量表示Ｂ７８１７を目印に方向操作部Ｂ４５を操作して光量の設定変更を行い、且つ過去音量表示Ｂ７８１８を目印に方向操作部Ｂ４５を操作して音量の設定変更を行うことで、光量や音量の設定を、初期化（最大値に戻される）の直前の状態に容易に復帰させることができる。
【２５８５】
上述したように、過去光量表示Ｂ７８１７及び過去音量表示Ｂ７８１８は、光量や音量の初期化が音声ランプ制御装置Ｂ１１３（図１３７参照）により実行された後における最初の大当たり遊技のエンディング演出において表示される一方で、そのタイミングを逃すと表示が消失するように設定され、光量や音量の設定の変更の手間が増える（難易度が上がる）ようになっている。
【２５８６】
これにより、過去光量表示Ｂ７８１７及び過去音量表示Ｂ７８１８が表示されているタイミングで方向操作部Ｂ４５を操作するように遊技者に仕向けることができるので、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に対する遊技者の注目力を向上させることができる。
【２５８７】
図１９２（ｂ）に示すように、遊技者が方向操作部Ｂ４５を操作することで光量や音量の設定が初期化（最大値に戻される）の直前の状態に復帰されると、状況示唆表示Ｂ７８２１の「キャンセル」とのコメントが、「復帰完了」とのコメントに切り替えられる。
【２５８８】
遊技者は状況示唆表示Ｂ７８２１に「復帰完了」のコメントが表示されたことを視認す

ることで、光量や音量の設定が、初期化（最大値に戻される）の直前の状態に復帰できたことを把握することができる。これにより、設定変更が実行できたので、規定の時間が経過するまでは、音声ランプ制御装置Ｂ１１３（図１３７参照）による光量や音量の初期化（最大値に戻される）は行われない。

【２５８９】

図１９３に示す表示では、状況示唆表示Ｂ７８２１に「自動継続」とのコメントが表示されており、音量や光量の設定は、遊技者により設定された状態で維持されている。そのため、遊技者は音量や光量の設定の変更を行う必要が無いので、時間表示Ｂ８１１の動きに注視し、球の発射タイミングを図ることに集中することができる。

【２５９０】

このように、エンディング演出における状況示唆表示Ｂ７８２１の内容を変化させ、その内容次第で、遊技者に光量や音量の設定の変更のための方向操作部Ｂ４５の操作を促せるように構成することで、エンディング演出に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【２５９１】

次いで、図１９４から図１９６を参照して、第５２実施形態について説明する。第４５実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中において常に枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されており枠ボタンＢ２２の操作が可能となる場合を説明したが、第５２実施形態における枠ボタン表示Ｂ８８１３は、カード忘れ防止表示演出の実行中における、更に限定された期間において実体として表示され、枠ボタンＢ２２の操作が可能となる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２５９２】

図１９４（ａ）、図１９４（ｂ）及び図１９５は、第５２実施形態におけるエンディング演出において表示されるカード忘れ防止表示演出の表示画面を時系列で例示した図である。図１９４（ａ）、図１９４（ｂ）及び図１９５では、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示は、半透明に表示されている場合が想像線で図示され、実体として表示されている場合が実線で図示される。

【２５９３】

本実施形態においてカード忘れ防止表示演出が開始されると、図１９４（ａ）に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に特定表示Ｂ８１０が表示されることに加えて、複数の半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が表示画面の縁部付近に点在するように表示される。枠ボタン表示Ｂ８８１３は、時間経過に伴って表示画面の中央に向けて移動する。

【２５９４】

半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に到達して合体すると、図１９４（ｂ）に示すように枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化する。枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化した状態において枠ボタンＢ２２の入力が有効となるように制御されており、枠ボタンＢ２２の入力が有効に検出されると第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に操作有効表示Ｂ８８１３ａ（本実施形態では、「Ｇｏｏｄ」とのコメント）が表示され、その後、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面が第４５実施形態で説明した図１８２（ａ）に図示される状態に移行する。

【２５９５】

遊技者が枠ボタンＢ２２の操作を実行して、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面を図１８２（ａ）に図示される状態に移行させたい場合、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化するタイミングを図るために、遊技者は移動する枠ボタン表示Ｂ８８１３を目で追うことになる。

【２５９６】

枠ボタン表示Ｂ８８１３の移動経路上には特定表示Ｂ８１０が表示されているので、枠ボタン表示Ｂ８８１３を目で追う遊技者の視界に特定表示Ｂ８１０が入るように仕向けることができる。また、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化する位置を特定表示Ｂ８１０が表

示される位置と重ねることで、遊技者が枠ボタン表示Ｂ８８１３の背後に表示される特定表示Ｂ８１０に注目するように仕向けることができる。

【２５９７】

そもそも、カード忘れ防止表示演出が開始されてから、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化するまでの期間は、特定表示Ｂ８１０が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に表示されるので、カード忘れ防止表示演出の開始直後に枠ボタンＢ２２を操作可能とされ特定表示Ｂ８１０を即座に表示画面の隅に移動させられる場合に比較して、特定表示Ｂ８１０が遊技者の視界に入り易くすることができる。

【２５９８】

枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化した状態で枠ボタンＢ２２を操作しなかった場合、図１９５に示すように、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央位置から外側へ向けて半透明に表示される枠ボタン表示Ｂ８８１３が移動する。

【２５９９】

図１９５に示す状態では、枠ボタンＢ２２の入力が無効となるように制御されており、枠ボタンＢ２２が入力操作されても第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に操作無効表示Ｂ８８１３ｂ（本実施形態では、「Ｍｉｓｓ」とのコメント）が表示されるだけであり、表示画面は図１８２（ａ）に図示される状態には移行されず、特定表示Ｂ８１０が表示画面の中央に配置される状態で維持される。

【２６００】

このように、本実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中における枠ボタンＢ２２の操作タイミングを限定することで、以下のような好ましい作用を生じさせることができる。

【２６０１】

即ち、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示態様が半透明の表示から実体としての表示に変わることで枠ボタンＢ２２を操作可能なタイミングを示唆する場合において、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示態様が変わるまでは特定表示Ｂ８１０が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に配置され、遊技者の視界に入り易いように構成されているので、特定表示Ｂ８１０に対する注目力を向上することができる。

【２６０２】

更に、カード忘れ防止表示演出の途中において枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体としての表示から半透明の表示に切り替えられることで、枠ボタンＢ２２を操作して表示画面が図１８２（ａ）に図示される状態に移行されるタイミングから、カード忘れ防止表示演出期間の終端までの期間が短くなりすぎることを回避することができる。

【２６０３】

これにより、遊技者が枠ボタンＢ２２を有効に操作したにも関わらず、カード忘れ防止表示演出が終了するまでに光量や音量の設定を変更するのに十分な時間を確保できなかったために、光量や音量を好みの設定まで変更させることができない事態が生じることを避けることができる。

【２６０４】

従って、せっかく枠ボタンＢ２２を操作しても光量や音量の設定を好みの状態まで変更させることができなかったという経験をした遊技者が、枠ボタンＢ２２の操作の価値を低く見積もるという事態が発生することを避けることができる。これにより、遊技者の枠ボタンＢ２２の操作（エンディング演出中の操作のみならず、遊技中における操作）に対する意欲が低下するという事態の発生を未然に回避することができる。

【２６０５】

なお、枠ボタン表示Ｂ８８１３に音符のマークや、電球のマークを付属させることで、枠ボタンＢ２２の操作により調整できる対象を示唆するようにしても良い。この場合、遊技者が音量の調整をしたいと考えている時には、音符のマークが付属されている場合には枠ボタン表示Ｂ８８１３への注目力を向上させることができ、電球のマークが付属されている場合には枠ボタン表示Ｂ８８１３から注意を逸らすことができる。

【２６０６】
図１９６は、カード忘れ防止表示演出における枠ボタン表示Ｂ８８１３の計時変化、枠ボタンＢ２２の操作の有効性の計時変化および枠ボタンＢ２２の操作の一例を示した図である。図１９６では、一例として、カード忘れ防止表示演出の期間を等分に三分割し、半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が点在する第１期間ＢＴ８１（図１９４（ａ）参照）と、枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体して実体化する第２期間ＢＴ８２（図１９４（ｂ）参照）と、再び半透明になり枠ボタン表示Ｂ８８１３が点在する第３期間ＢＴ８３（図１９５参照）と、にそれぞれ割り当てられた場合が図示されている。
【２６０７】
カード忘れ防止表示演出の期間中にいつでも枠ボタンＢ２２を操作できた第４５実施形態と異なり、本実施形態では、第２期間ＢＴ８２においてのみ枠ボタンＢ２２の操作が有効とされる。第２期間ＢＴ８２で枠ボタンＢ２２を操作すれば、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面が図１８２（ａ）に図示される状態に移行され、光量や音量の設定変更が可能となる。一方で、第１期間ＢＴ８１や第３期間ＢＴ８３で枠ボタンＢ２２をいくら操作しても、光量や音量の設定変更は不可能となるように制御されている。
【２６０８】
図１９６では、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３が同じ場合を図示したが、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さは目的に応じて種々の態様に変更可能とされる。以下、第１期間８１の長さの変化または第３期間ＢＴ８３の長さの変化により期待できる作用の一例について説明する。
【２６０９】
例えば、第１期間ＢＴ８１をより短く設定することで、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる第２期間ＢＴ８２への移行が早まる。そのため、光量や音量の設定の変更に費やせる期間の最大長さを長くすることができる。
【２６１０】
第１期間ＢＴ８１を短くする設定は、例えば、初当り（連荘の一回目の大当たり）の大当たり遊技におけるエンディング演出で採用することが効果的である場合がある。時短状態や確変状態や大当たり遊技中においては、特定の歌が流れる場合があり、通常状態における音声には興味が無いが、特定の歌は聞きたいという遊技者がいる。
【２６１１】
このような遊技者は、通常状態では音量を下げて遊技を行っていても、通常状態から大当たり遊技状態を経て、時短状態や確変状態へ移行する場合において、特定の歌が聞こえる程度まで音量を上げたいと考えている。
【２６１２】
そのため、特に、初当りの大当たり遊技におけるエンディング演出において、光量や音量の設定の変更に費やせる期間の最大長さを長くすることで、通常状態から大当たり遊技状態を経て、時短状態や確変状態へ移行する適切なタイミングにおいて音量の設定変更を行うことが容易となり、上記特定の歌は聞きたいという遊技者の遊技に対する満足感を向上させることができる。
【２６１３】
また、例えば、第１期間ＢＴ８１をより長く設定することで、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる第２期間ＢＴ８２への移行が遅くなる一方で、特定表示Ｂ８１０が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に表示される期間を長く維持することができる。
【２６１４】
第１期間ＢＴ８１を長くする設定は、例えば、連荘中の大当たり遊技におけるエンディング演出で採用することが効果的である場合がある。音量や光量の設定変更は、初当り時に行えば多くの場合十分であり、連荘中に音量や光量の設定変更をしたくなる事態が発生する可能性は低いため、第２期間ＢＴ８２への移行が遅くなることで音量や光量の設定変更に費やせる期間の最大長さが短くなっても、遊技者が受ける不利益は少ない。
【２６１５】

一方で、連荘が続く程、遊技者の興奮の度合いは高くなるので、興奮のあまり、遊技を終了する際にカードユニットに挿入されたカード等の返却を忘れる可能性が高くなる。これに対し、第１期間ＢＴ８１が長く設定されている場合、カード忘れ防止表示演出中において特定表示Ｂ８１０が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の中央に表示される期間を長く維持できるので、遊技者がカード等の返却に意識を向けるように仕向けることができる。

【２６１６】

また、例えば、第２期間ＢＴ８２をより短く設定することで、枠ボタンＢ２２が操作され図１８２（ａ）に図示される状態に移行されることを困難とすることができる。この場合、移動する枠ボタン表示Ｂ８８１３で遊技者の視線を特定表示Ｂ８１０に誘導できることに加え（図１９４（ａ）参照）、複数の枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体した状態での操作を失敗するように仕向けることができ、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面を図１９５に示す状態まで移行させる可能性を高くすることができる。

【２６１７】

これにより、カード忘れ防止表示演出中に亘り特定表示Ｂ８１０を表示画面の中央に維持することができることに加えて、枠ボタン表示Ｂ８８１３が移動することで、特定表示Ｂ８１０に遊技者の視線を誘導する効果を期待できる。従って、枠ボタン表示Ｂ８８１３が無い場合に比較して、遊技者に特定表示Ｂ８１０の印象を強く残すことができる。

【２６１８】

また、例えば、第２期間ＢＴ８２をより長く設定することで、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる期間を長く維持することができるので、枠ボタンＢ２２の操作機会を確保することができる。

【２６１９】

また、例えば、第３期間ＢＴ８３をより短く設定することで、相対的にＴ８２を長くすることができ、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる期間を長く維持することができるので、枠ボタンＢ２２の操作機会を確保することができる。

【２６２０】

また、例えば、第３期間ＢＴ８３をより長く設定することで、第２期間ＢＴ８２において枠ボタンＢ２２を操作することで図１８２（ａ）に図示される状態に移行した後の、カード忘れ防止表示演出の残り期間を長く確保することができるので、光量や音量の設定の変更が中途半端になることを回避し易くすることができる。

【２６２１】

なお、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さを、上記した理由以外の理由で変更するようにしても良い。例えば、大当たり遊技中において既に第１図柄の抽選が済んでいる保留球に大当たりがある場合に、第１期間ＢＴ８１が極めて短くされ、その分だけ第２期間ＢＴ８２が長くなるように制御されるようにしても良い。

【２６２２】

この場合、カード忘れ防止表示演出が、図１９４（ａ）の状態を経由せずに、図１９４（ｂ）の状態から開始されたかのように遊技者に見せることができるので、遊技者に違和感を与えることができる。この違和感により保留球に大当たりがあることを把握することができるようになると遊技者に分からせることで、カード忘れ防止表示演出に遊技者が注目するように仕向けることができるので、カード忘れ防止表示演出に対する注目力を向上させることができる。これにより、カードユニットに挿入されたカード等の返却について遊技者に意識させることができ、実際に遊技者がカード等を忘れる事態の発生を抑制することができる。

【２６２３】

次いで、図１９７から図２１２を参照して、第５３実施形態におけるセンターフレームＣ８６について説明する。

【２６２４】

上記各実施形態では、センターフレーム８６が一部品から構成される場合を説明したが

、第５３実施形態におけるセンターフレームＣ８６は、上側フレームＣ８６ａと下側フレームＣ８６ｂとの２部材から構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２６２５】

図１９７は、第５３実施形態における遊技盤Ｃ１３の正面図である。図１９７に示すように、センターフレームＣ８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１４９参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＣ８６ａと下側フレームＣ８６ｂとを備える。

【２６２６】

上側フレームＣ８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１４９参照）における上側（図１９７上側）及び左右（図１９７左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＣ８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１９７下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＣ８６ａ及び下側フレームＣ８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１が視認可能とされる。

【２６２７】

なお、上側フレームＣ８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図１９７下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＣ８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。

【２６２８】

次いで、下側フレームＣ８６ｂについて説明する。図１９８は、下側フレームＣ８６ｂの正面斜視図であり、図１９９は、下側フレームＣ８６ｂの背面斜視図である。なお、図１９８及び図１９９では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＣ８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。

【２６２９】

図１９８及び図１９９に示すように、下側フレームＣ８６ｂには、球を受け入れ可能な開口として形成される受入口ＣＯＰｉｎと、その受入口ＣＯＰｉｎに連通される第１通路ＣＲｔ１と、その第１通路ＣＲｔ１を案内された球が流下される第２通路ＣＲｔ２と、その第２通路ＣＲｔ２を案内された球（第２通路ＣＲｔ２をその長手方向に沿って往復動した球）が流下される第３通路ＣＲｔ３と、その第３通路ＣＲｔ３を案内された球が振分部材Ｃ１７０により振り分けられて流下される第４通路ＣＲｔ４及び第５通路ＣＲｔ５と、第４通路ＣＲｔ４を案内された球が流下される第６通路ＣＲｔ６と、第５通路ＣＲｔ５を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＣＯＰｏｕｔとが形成される（図２０６及び図２０７参照）。

【２６３０】

なお、上側フレームＣ８６ａには、上側フレーム通路ＣＲｔ０（図１９７参照）が形成される。上側フレーム通路ＣＲｔ０は、遊技領域のうちの正面視左側（図１９７左側）の領域（センターフレームＣ８６（上側フレームＣ８６ａ）とレール６１との間の領域）から流入（入球）された球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＣＲｔ０の下流端に下側フレームＣ８６ｂの受入口ＣＯＰｉｎが連通される。

【２６３１】

即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＣＲｔ０に流入（入球）した球は、受入口ＣＯＰｉｎを介して、上側フレーム通路ＣＲｔ０から下側フレームＣ８６ｂの第１通路ＣＲｔ１へ流入（入球）される。

【２６３２】

下側フレームＣ８６ｂには、球の重さにより動作する振分部材Ｃ１７０が配設されており（図２０６及び図２０７参照）、連なった状態の球が第３通路ＣＲｔ３を案内される場合には、先行する球が第４通路ＣＲｔ４へ振り分けられる一方、後行する球が第５通路ＣＲｔ５へ振り分けられる。なお、球の連なる間隔が所定量よりも大きい場合は、先行する

球および後行する球の両球が第４通路ＣＲｔ４へ振り分けられる。
【２６３３】
ここで、第５通路ＣＲｔ５の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＣＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図１９７参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第５通路ＣＲｔ５へ振り分けられた球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【２６３４】
一方、第６通路ＣＲｔ６には、その第６通路ＣＲｔ６を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に中央流出面Ｃ１８１が形成（配置）されるだけでなく、第１入賞口６４の鉛直方向上方から遊技盤１３の幅方向（図１９７左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、側方流出面Ｃ１８２が形成（配置）される。また、第６通路ＣＲｔ６には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ１８２が形成され、起伏の頂部に中央流出面Ｃ１８１が形成される。
【２６３５】
そのため、第４通路ＣＲｔ４へ振り分けられた球は、第６通路ＣＲｔ６において、中央流出面Ｃ１８１から遊技領域へ流出する確率よりも、側方流出面Ｃ１８２から遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第５通路ＣＲｔ５へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。
【２６３６】
このように、本実施形態における下側フレームＣ８６ｂは、連なった状態の球が第３通路ＣＲｔ３へ流入された場合に、先行する球は通常の通路（第４通路ＣＲｔ４）へ振り分けられる一方、後行する球が第１入賞口６４に入賞し易い通路（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる通路（第５通路ＣＲｔ５））へ振り分けられる。よって、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、球が連なった状態が形成されることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【２６３７】
次いで、図１９８から図１９９に加え、図２００から図２１２を参照して、下側フレームＣ８６ｂの詳細構成について説明する。
【２６３８】
図２００は、下側フレームＣ８６ｂの分解正面斜視図であり、図２０１は、下側フレームＣ８６ｂの分解背面斜視図である。図２０２は、下側フレームＣ８６ｂの上面図であり、図２０３は、下側フレームＣ８６ｂの正面図であり、図２０４は、下側フレームＣ８６ｂの背面図である。図２０５（ａ）は、図２０３の矢印ＣＣＶａ方向視における下側フレームＣ８６ｂの側面図であり、図２０５（ｂ）は、図２０３の矢印ＣＣＶｂ方向視における下側フレームＣ８６ｂの側面図である。
【２６３９】
図２０６及び図２０７は、図２０２のＣＣＶＩ－ＣＣＶＩ線における下側フレームＣ８６ｂの断面図であり、図２０８は、図２０３のＣＣＶＩＩＩ－ＣＣＶＩＩＩ線における下側フレームＣ８６ｂの断面図である。図２０９（ａ）は、図２０６のＣＣＩＸａ部における下側フレームＣ８６ｂの部分拡大断面図であり、図２０９（ｂ）は、図２０２のＣＣＩＸｂ－ＣＣＩＸｂ線における下側フレームＣ８６ｂの部分拡大断面図である。なお、図２０６では、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態が、図２０７では、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。
【２６４０】
図１９８から図２０９に示すように、下側フレームＣ８６ｂは、正面部材Ｃ１１０と、その正面部材Ｃ１１０の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される皿部材Ｃ１２０と、正面部材Ｃ１１０の背面（矢印Ｂ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向配置される背面部材Ｃ１３０と、その背面部材Ｃ１３０の正面（矢印Ｆ方向側の面）に配設される第１中間部材Ｃ１４０と、背面部材Ｃ１３０の正面（矢印Ｆ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向

配置される第２中間部材Ｃ１５０と、背面部材Ｃ１３０及び第２中間部材Ｃ１５０の対向間に介設される第１介設部材Ｃ１６０及び振分部材Ｃ１７０と、正面部材Ｃ１１０並びに第１及び第２中間部材Ｃ１４０，Ｃ１５０の対向間に介設される第２介設部材Ｃ１８０と、背面部材Ｃ１３０の背面に配設される装飾部材Ｃ１９０及び迂回部材Ｃ２００と、を備える。

【２６４１】

なお、下側フレームＣ８６ｂは、各部材どうしが、それぞれタッピングネジにより締結固定されると共に、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０が背面部材Ｃ１３０に回転可能に軸支されることで、一つ（単体）のユニットとして構成される（図１９８参照）。

【２６４２】

また、下側フレームＣ８６ｂは、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０を除く他の部材が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＣＲｔ１から第６通路ＣＲｔ６を通過する球を遊技者に視認させると共に、振分部材Ｃ１７０による振り分け動作とその動作に伴う装飾部材Ｃ１９０の変位を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【２６４３】

この場合、下側フレームＣ８６ｂは、第１中間部材Ｃ１４０または第２中間部材Ｃ１５０の少なくとも一方または両方が光透過性の樹脂材料から構成されていれば足りる。第３通路ＣＲｔ３における球の連なり状態（先行する球と後行する球の間隔が所定量よりも小さい間隔か否か）と、振分部材Ｃ１７０による振り分け動作との少なくとも一方または両方を遊技者に視認させられる一方で、後行する球が振分部材Ｃ１７０により第５通路ＣＲｔ５に振り分けられたことを視認できれば、かかる球は流出口ＣＯＰｏｕｔから第１入賞口６４へ高確率で（本実施形態ではほぼ全球が）入球するため、第５通路ＣＲｔ５を案内される球を遊技者に視認させなくても足りるためである。

【２６４４】

なお、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０は、光透過性（又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【２６４５】

また、一方で、第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０の少なくとも一方または両方が有色の樹脂材料から構成される、或いは、第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０の少なくとも一方または両方に塗装が施されたりシールが添付されていても良い。即ち、第３通路ＣＲｔ３を通過する球や振分部材Ｃ１７０が正面側から遊技者に視認不能となるように構成されていても良い。

【２６４６】

正面部材Ｃ１１０は、正面を形成する板状の正面部Ｃ１１１と、その正面部Ｃ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｃ１１２と、それら正面部Ｃ１１１及び底面部Ｃ１１２の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される連結部Ｃ１１３とを備える。

【２６４７】

正面部Ｃ１１１には、その正面部Ｃ１１１の下側（矢印Ｄ方向側）の外縁に沿って複数の挿通孔Ｃ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＣ８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｃ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。

【２６４８】

正面部Ｃ１１１には、第１入賞口６４（図１９７参照）の鉛直方向上方となる位置に流出口ＣＯＰｏｕｔが開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＣＯＰｏｕｔは、上述したように、第５通路ＣＲｔ５を案内された球が遊技領域へ流出される際の出口となる開口である。

【２６４９】
底面部Ｃ１１２は、その上面に第２介設部材Ｃ１８０の底面が対向配置され、底面部Ｃ１１２と第２介設部材Ｃ１８０（凹部Ｃ１８３）との対向間に第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される。よって、例えば、第２介設部材Ｃ１８０に貫通形成した貫通孔を第５通路ＣＲｔ５の一部とする場合と比較して、構造を簡素化して、製品コストを抑制できる。
【２６５０】
底面部Ｃ１１２は、正面部Ｃ１１１の長手方向全域にわたって連続的に形成され、その底面部Ｃ１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）が、第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０の正面に当接される。これにより、針金等の異物の侵入が抑制される。
【２６５１】
連結部Ｃ１１３には、受入口ＣＯＰｉｎが開口形成（板厚方向に穿設）される。受入口ＣＯＰｉｎは、上述したように、上側フレームＣ８６ａの上側フレーム通路ＣＲｔ０から球を受け入れる開口である。なお、ベース板６０にセンターフレームＣ８６を取り付けた（配設した）状態では、上側フレームＣ８６ａの背面が正面部Ｃ１１１及び連結部Ｃ１１３の正面に重ね合わされ、両者がタッピングネジにより締結固定される。これにより、上側フレーム通路ＣＲｔ０の下流端と受入口ＣＯＰｉｎとが連通される。
【２６５２】
皿部材Ｃ１２０は、通路の底面を形成する上側底面部Ｃ１２１及び下側底面部Ｃ１２２と、通路の側壁を形成する上側側壁部Ｃ１２３及び下側側壁部Ｃ１２４とを備える。
【２６５３】
上側底面部Ｃ１２１は、上面視において略直線状の通路として左右方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、受入口ＣＯＰｉｎから離間する方向（矢印Ｒ方向）へ向けて下降傾斜して形成される。なお、上側底面部Ｃ１２１は、受入口ＣＯＰｉｎよりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向側）に位置し、上側フレーム通路ＣＲｔ０との間に鉛直方向の段差が形成される。即ち、皿部材Ｃ１２０は、上側フレーム通路ＣＲｔ０から上側底面部Ｃ１２１へ球を自由落下させる構成とされる。
【２６５４】
上側底面部Ｃ１２１には、その幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央に断面コ字状の凹溝Ｃ１２１ａが凹設される（図２０９参照）。凹溝Ｃ１２１ａは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設される。凹溝Ｃ１２１の溝幅（矢印Ｌ－Ｒ方向の寸法）は、球の直径よりも小さくされると共に、凹溝Ｃ１２１ａの溝深さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、凹溝Ｃ１２１ａの底面に球が接触しない深さに設定される。
【２６５５】
これにより、上側底面部Ｃ１２１上の球を２箇所（上側底面部Ｃ１２１と凹溝Ｃ１２１ａとが交わる一対の稜線部分）で支持することができる。よって、凹溝Ｃ１２１ａが非形成の場合（即ち、１箇所のみで球を支持する場合）と比較して、球と通路との接触面積を大きくできる。よって、上側フレーム通路ＣＲｔ０から落下した球の衝撃を緩衝する（受け止める）と共に、球が転動する際の抵抗を大きくできる。
【２６５６】
上述のように、上側フレーム通路ＣＲｔ０から上側底面部Ｃ１２１へ球を落下させると共に、上側底面部Ｃ１２１上の球を２箇所で支持する構成とすることで、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側フレーム通路ＣＲｔ０から上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）へ流入（落下）する場合に、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）において、先行する球の流下を遅らせて、後行する球を先行する球に追いつかせ易くできる。よって、先行する球と後行する球との間隔を減少させることができる。
【２６５７】
上側側壁部Ｃ１２３は、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）の上流側および下流側の端部と、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設

定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。
【２６５８】
上側側壁部Ｃ１２３には、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）の下流側の端部に切り欠き部Ｃ１２３ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｃ１２３ａを介して、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）から下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）へ球が流下可能とされる。
【２６５９】
下側底面部Ｃ１２２は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図２０９（ｂ）参照）。
【２６６０】
下側側壁部Ｃ１２４は、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の長手方向（球を案内する方向）における一端側および他端側の端部と、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。
【２６６１】
下側底面部Ｃ１２２は、上面視において、上側底面部Ｃ１２１と平行に並設され、上側底面部Ｃ１２１の下流端（矢印Ｂ方向側の端部）と下側底面部Ｃ１２２の長手方向における一端側（矢印Ｂ方向側の端部）とが隣り合う位置に配設される。
【２６６２】
上側側壁部Ｃ１２３における切り欠き部Ｃ１２３ａに対応する位置では、下側側壁部Ｃ１２４が非形成とされ、上述したように、切り欠き部Ｃ１２３ａを介して、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）から下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）へ球が流下可能とされる。
【２６６３】
下側側壁部Ｃ１２４には、円弧状に湾曲した下側底面部Ｃ１２２の底部（鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に対応する位置に切り欠き部Ｃ１２４ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｃ１２４ａを介して、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）から底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ球が流下可能とされる。
【２６６４】
下側底面部Ｃ１２２は、上述したように、円弧状に湾曲して形成され、その上昇傾斜側（下側底面部Ｃ１２２の長手方向における一端側）に上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）から球が流下されるので、かかる流下された球を、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の長手方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、切り欠き部Ｃ１２４ａから底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ球を流下させることができる。
【２６６５】
これにより、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側底面部Ｃ１２１（第１通路ＣＲｔ１）から下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）へ流入する場合に、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。
【２６６６】
下側底面部Ｃ１２２には、切り欠き部Ｃ１２４ａに対応する位置（即ち、鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に流出面Ｃ１２２ａが凹設される。流出面Ｃ１２２ａは、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）を案内される球を、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出させるための部位であり、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ向けて下降傾斜する凹面として形成される。

【２６６７】
よって、下側底面部Ｃ１２２を往復動した後、その転動速度が低下した球を、流出面Ｃ１２２ａを利用して、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へスムーズに流出（流下）させることができる。即ち、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球と後行する球との間隔が減少された球（連なった状態の球）を、その連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させることができる。
【２６６８】
なお、流出面Ｃ１２２ａは、上面視において、その凹面の幅（下側底面部Ｃ１２２を往復動する球の転動方向に沿う方向の寸法、矢印Ｆ－Ｂ方向の寸法）が、切り欠き部Ｃ１２４ａに近い側ほど大きい形状に形成される（図２０２参照）。
【２６６９】
また、上面視において、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ１２４に球を当接させた状態では、球が流出面Ｃ１２２ａ上を転動する（横切る）。即ち、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）を転動（往復動）する球が、切り欠き部Ｃ１２４ａから最も離間した位置（球の側方の頂部を下側側壁部Ｃ１２４に当接させる位置）を転動する状態でも、上面視において、球の中心と重なる範囲まで流出面Ｃ１２２ａが形成される（球が下側底面部Ｃ１２２を転動する際の球の下方の頂部の軌跡である転動線が流出面Ｃ１２２ａを横切る）。
【２６７０】
一方で、下側底面部Ｃ１２２に流出面Ｃ１２２ａが凹設（形成）されていると、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）に流下した球が、かかる下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）を一度も往復動することなく、又は、十分な回数だけ往復動する前に、流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用により、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）する虞がある。即ち、先行する球と後行する球との間隔を減少させず、両球が間隔を隔てたまま底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）する虞がある。
【２６７１】
これに対し、本実施形態では、下側底面部Ｃ１２２が切り欠き部Ｃ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成される（図２０９参照）。これにより、下側底面部Ｃ１２２の傾斜の作用により、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）で転動（往復動）させることができる。
【２６７２】
これにより、球の転動速度が十分に低くなる前に、球が流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用で底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）することを抑制できる。即ち、球の転動速度が十分に低くなるまでの間、流出面Ｃ１２２ａを乗り越え易く（横切らせ易く）して、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）に沿って球を十分に往復動させ易くできる。その結果、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことを確実化できる。
【２６７３】
なお、下側底面部Ｃ１２２の円弧形状（下側底面部Ｃ１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状であって、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧形状、図２０９（ｂ）参照）は、その長手方向の一端側および他端側における円弧形状の半径が、それら一端側および他端側の間の領域（流出面Ｃ１２２ａを含む領域）における円弧形状の半径よりも小さくされる。即ち、流出面Ｃ１２２ａを含む領域における円弧形状の半径が大きくされる。
【２６７４】
これにより、初期段階（長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（長手方向の一端側および他端側ま

たはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。

【２６７５】

なお、皿部材Ｃ１２０は、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の延設方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせる姿勢で配設されるところ、ベース板６０の窓部６０ａ内に配置されるので、窓部６０ａにより形成された前後方向のスペースを有効に活用できる。よって、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）の全長を確保して、球を連ならせ易くできる。

【２６７６】

背面部材Ｃ１３０は、板状に形成される本体部Ｃ１３１と、その本体部Ｃ１３１の正面から立設される下ストッパ部Ｃ１３２、上ストッパ部Ｃ１３３及び軸支座部Ｃ１３４とを備える。

【２６７７】

本体部Ｃ１３１には、その本体部Ｃ１３１の正面側と背面側とに形成される通路（第５通路ＣＲｔ５）を連通するための開口である開口Ｃ１３１ａが開口形成される。開口Ｃ１３１ａの下方には、本体部Ｃ１３１の外縁を窪ませた凹部Ｃ１３１ｂが形成される。凹部Ｃ１３１ｂは、迂回部材Ｃ２００との対向間に第５通路ＣＲｔ５の一部を形成する。

【２６７８】

下ストッパ部Ｃ１３２は、振分部材Ｃ１７０が下方へ変位された際に、その振分部材Ｃ１７０の下面に当接可能に形成され、振分部材Ｃ１７０の第２位置を規定する（図２０７参照）。一方、上ストッパ部Ｃ１３３は、振分部材Ｃ１７０が上方へ変位された際に、その振分部材Ｃ１７０の上面に当接可能に形成され、振分部材Ｃ１７０の第１位置（所定位置）を規定する（図２０６参照）。

【２６７９】

軸支座部Ｃ１３４は、軸Ｃ１９２を回転可能に軸支する軸支部（軸受）として形成される。なお、軸Ｃ１９２は、装飾部材Ｃ１９０に固着されており、本体部Ｃ１３１の背面から挿通された軸Ｃ１９２に振分部材Ｃ１７０が回転不能に連結されることで、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０が一体となって本体部Ｃ１３１（軸支座部Ｃ１３４）に回転可能に軸支される。また、軸Ｃ１９２は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で軸支座部Ｃ１３４に軸支される。

【２６８０】

第１中間部材Ｃ１４０は、板状の本体部Ｃ１４１と、その本体部Ｃ１４１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から立設される底面部Ｃ１４２、天面部Ｃ１４３及び通路部Ｃ１４４とを備え、背面部材Ｃ１３０の正面視左側に配設される。

【２６８１】

第１中間部材Ｃ１４０が背面部材Ｃ１３０に配設された状態では、底面部Ｃ１４２、天面部Ｃ１４３及び通路部Ｃ１４４の立設先端（矢印Ｂ方向側）が背面部材Ｃ１３０の正面に当接される。これにより、背面部材Ｃ１３０と第１中間部材Ｃ１４０（本体部Ｃ１４１、底面部Ｃ１４２及び天面部Ｃ１４３）とに区画された空間により第３通路ＣＲｔ３が形成されると共に、背面部材Ｃ１３０と第１中間部材Ｃ１４０（通路部Ｃ１４４）と第２位置にある振分部材Ｃ１７０とにより区画された空間により第４通路ＣＲｔ４が形成される（図２０７参照）。

【２６８２】

なお、底面部Ｃ１４２は、皿部材Ｃ１２０側から振分部材Ｃ１７０側へ向けて下降傾斜される。また、通路部Ｃ１４４は、第２位置にある振分部材Ｃ１７０に対向する位置に形成される対向部Ｃ１４４ａと、球の転動面を形成する底面部Ｃ１４４ｂとを備え、底面部Ｃ１４４ｂは、第２位置にある振分部材Ｃ１７０側から対向部Ｃ１４４ａ側へ向けて下降傾斜されると共に、背面部材Ｃ１３０側から正面部材Ｃ１１０側へ向けて下降傾斜して形

成される。よって、第２位置へ変位した振分部材Ｃ１７０から球を第４通路ＣＲｔ４に受け入れると共にその球を第６通路ＣＲｔ６へ流出（転動）させることができる。

【２６８３】

ここで、皿部材Ｃ１２０の下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）は前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って球を転動させ、皿部材Ｃ１２０から底面部Ｃ１４２へは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って（本実施形態では右方向へ）球が流下され、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）は皿部材Ｃ１２０から流下された球を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って（本実施形態では右方向へ）転動させる。

【２６８４】

この場合、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）における往復動によって先行の球ＣＢ１及び後行の球ＣＢ２（図２１０参照）の間隔が決定されるところ、それら両球ＣＢ１，ＣＢ２は、下側底面部Ｃ１２２（第２通路ＣＲｔ２）から底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ左右方向に沿って流下されると共に、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）を左右方向に沿って流下（転動）されるので、両球ＣＢ１，ＣＢ２の間隔を正面視により確認可能とし、遊技者に視認させ易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【２６８５】

第２中間部材Ｃ１５０は、板状の本体部Ｃ１５１と、その本体部Ｃ１５１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から立設される底面部Ｃ１５２とを備え、背面部材Ｃ１３０の正面視右側に配設される。第２中間部材Ｃ１５０が背面部材Ｃ１３０に配設された状態では、底面部Ｃ１５２の立設先端（矢印Ｂ方向側）が背面部材Ｃ１３０の正面に当接される。

【２６８６】

本体部Ｃ１５１には、その外縁を窪ませた凹部Ｃ１５１ａが形成される。底面部Ｃ１５２は、その下面に迂回部材Ｃ２００（樋部Ｃ２０３）が対向配置され、凹部Ｃ１５１ａ及び底面部Ｃ１５２と迂回部材Ｃ２００（樋部Ｃ２０３）との対向間に第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される。よって、例えば、迂回部材Ｃ２００を筒状に形成して第５通路ＣＲｔ５の一部とする場合と比較して、構造を簡素化して、製品コストを抑制できる。

【２６８７】

第１介設部材Ｃ１６０は、第５通路ＣＲｔ５の一部における球の転動面を形成する部材であり、背面部材Ｃ１３０と第２中間部材Ｃ１５０との対向間に介設される。即ち、背面部材Ｃ１３０と第２中間部材Ｃ１５０（本体部Ｃ１５１）と第１介設部材Ｃ１６０とに区画された空間により第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される。

【２６８８】

第１介設部材Ｃ１６０は、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図２０７参照）。よって、振分部材Ｃ１７０によって第１介設部材Ｃ１６０（第５通路ＣＲｔ５）に振り分けられた球を、第１介設部材Ｃ１６０上で往復動させた後、開口Ｃ１３１ａへ流出させることができる。

【２６８９】

これにより、例えば、振分部材Ｃ１７０によって振り分けられた球を開口Ｃ１３１ａへ直接流出させる構成と比較して、開口Ｃ１３１ａへ流出するまでに要する時間を長くすることができる。即ち、第１入賞口６４に入球（入賞）する確率が高い状態の形成を期待する遊技者に対し、かかる状態が形成されたことを気づかせ易くできると共に、かかる状態を楽しむ時間を確保させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【２６９０】

なお、第１介設部材Ｃ１６０には、背面部材Ｃ１３０の開口Ｃ１３１ａに対応する位置（即ち、第１介設部材Ｃ１６０の転動面の内の鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に流出面Ｃ１６０ａが凹設される。流出面Ｃ１６０ａは、第１介設部材Ｃ１６０を案内される球を、開口Ｃ１３１ａへ流出させるための部位であり、開口Ｃ１３１ａへ向けて下降傾斜する凹面として形成される。

【２６９１】
振分部材Ｃ１７０は、嵌合穴Ｃ１７１ａが一側に形成される本体部Ｃ１７１と、その本体部Ｃ１７１の嵌合穴Ｃ１７１ａが形成される側と反対側となる他側に形成される受入部Ｃ１７２と、本体部Ｃ１７１の上面側に形成される転動部Ｃ１７３とを備え、嵌合穴Ｃ１７１ａに嵌合された軸Ｃ１９２（軸支座部Ｃ１３４）を中心として回転可能とされる。
【２６９２】
嵌合穴Ｃ１７１ａは、断面Ｄ字状の穴として形成され、その断面形状に一致した断面形状を有する軸Ｃ１９２が嵌合されることで、本体部Ｃ１７１に軸Ｃ１９２が回転不能に固着される。軸Ｃ１９２は、装飾部材Ｃ１９０にも回転不要に固着されており、よって、軸Ｃ１９２を介して、本体部Ｃ１７１（振分部材Ｃ１７０）と装飾部材Ｃ１９０とが一体化（１のユニットとして形成）される。
【２６９３】
この場合、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０からなるユニットは、その重心位置が回転中心（軸Ｃ１９２）に対して一側（軸Ｃ１９２を挟んで振分部材Ｃ１７０と反対側、図２０６右側）に偏心される。よって、無負荷状態では、振分部材Ｃ１７０は、受入部Ｃ１７２側が上昇され（正面視において軸Ｃ１９２を中心として時計回りに回転され）、上ストッパ部Ｃ１３３に回転が規制された状態（第１位置（所定位置）に配置された状態）とされる（図２０６参照）。
【２６９４】
一方、振分部材Ｃ１７０の受入部Ｃ１７２に球が受け入れられた状態では、その球の重さにより、全体としての重心位置が回転中心（軸Ｃ１９２）に対して他側（軸Ｃ１９２に対して振分部材Ｃ１７０が配設される側、図２０６左側）に偏心される。よって、受入部Ｃ１７２に球を受け入れた状態では、振分部材Ｃ１７０は、受入部Ｃ１７２側が下降され（正面視において軸Ｃ１９２を中心として反時計回りに回転され）、下ストッパ部Ｃ１３２に回転が規制された状態（第２位置に配置された状態）とされる（図２０７参照）。
【２６９５】
装飾部材Ｃ１９０は、本体部Ｃ１９１の少なくとも一部が遊技者から視認可能とされ、振分部材Ｃ１７０の第１位置と第２位置との間の変位（回転）に伴って、装飾部材Ｃ１９０（本体部Ｃ１９１）も回転され、遊技者から視認される位置（形態）が変化される。よって、かかる装飾部材Ｃ１９０の位置（形態）に基づいて、振分部材Ｃ１７０の状態（即ち、球の振り分け方向）を遊技者に認識させることができる。また、振分部材Ｃ１７０を変位させるための錘としての役割と、球の振り分け方向を認識させる部位としての役割とを装飾部材Ｃ１９０に兼用させることができ、その分、製品コストを低減できる。
【２６９６】
なお、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された後、受入部Ｃ１７２から第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ球が排出（流出）されると、振分部材Ｃ１７０は、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０からなるユニットの自重（重心位置の軸Ｃ１９２からの偏心）の作用により、第１位置（所定位置）へ復帰される。
【２６９７】
このように、振分部材Ｃ１７０の第１位置への変位（復帰）は、振分部材Ｃ１７０及び装飾部材Ｃ１９０からなるユニットの自重（重量）により行われるので、例えば、付勢ばねを設けて、その付勢ばねにより振分部材Ｃ１７０を第１位置へ向けて付勢する場合と比較して、構造を簡素化できる。
【２６９８】
また、付勢ばねを利用する場合と比較して、振分部材Ｃ１７０の第１位置への変位（復帰動作）を低速とできるので、後行する球ＣＢ２を転動部Ｃ１７３上に到達させ易くできる。即ち、振分部材Ｃ１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位（回転）を開始してから、後行する球ＣＢ２が転動部Ｃ１７３上へ流入不能となる位置まで変位（回転）されるのに要する時間を長くできる。更に、後行する球ＣＢ２の更に後続となる第３の球も転動部Ｃ１７３へ到達させる可能性を付与できる（図２１０から図２１２参照）。

【２６９９】
受入部Ｃ１７２は、第１位置において第３通路ＣＲｔ３に対向する位置に形成される対向部Ｃ１７２ａと、第１位置において受け入れた球を支持すると共に第２位置において通路部Ｃ１４４へ向けて球を転動させるための転動面を形成する底面部Ｃ１７２ｂとを備える。
【２７００】
受入部Ｃ１７２は、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、対向部Ｃ１７２ａが、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２の延設方向に略直交し、底面部Ｃ１７２ｂが、対向部Ｃ１７２ａから第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２へ向けて上昇傾斜するように形成される（図２０６参照）。
【２７０１】
ここで、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ１７２ａが、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２の延設方向と直交する方向に対して傾斜（対向部Ｃ１７２ａの転動部Ｃ１７３側が底面部Ｃ１７２ｂ側よりも第３通路ＣＲｔ３から離間される方向へ傾斜）されていると、対向部Ｃ１７２ａに衝突した球が上方へ跳ね上げられて、第３通路ＣＲｔ３へ逆流する虞がある。
【２７０２】
これに対し、対向部Ｃ１７２ａは、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態において、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２の延設方向に略直交されているので、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から受け入れた球を対向部Ｃ１７２ａにより受け止めて、第３通路ＣＲｔ３へ逆流することを抑制できる。
【２７０３】
また、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態において、底面部Ｃ１７２ｂが、対向部Ｃ１７２ａから第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（通路部Ｃ１４４）へ向けて下降傾斜するように形成されていると、受入部Ｃ１７２に受け入れた球が早期に第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ流出されてしまい、球の重さを利用できなくなることで、振分部材Ｃ１７０を第２位置に到達させられない虞がある。
【２７０４】
これに対し、底面部Ｃ１７２ｂは、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ１７２ａから第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２へ向けて上昇傾斜するように形成されているので、少なくとも振分部材Ｃ１７０が第１位置から所定量だけ回転するまでの間は、底面部Ｃ１７２ｂに球を保持しておくことができる。これにより、受入部Ｃ１７２に受け入れた球が第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ流出されるまでの時間を遅らせることができる。その結果、球の重さを有効に利用して、振分部材Ｃ１７０を第２位置に確実に到達させることができる。
【２７０５】
なお、上述した理由（第３通路ＣＲｔ３への逆流防止）により、対向部Ｃ１７２ａを、転動部Ｃ１７３側が底面部Ｃ１７２ｂ側よりも第３通路ＣＲｔ３へ近接する方向へ傾斜させても良い。
【２７０６】
受入部Ｃ１７２は、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態では、底面部Ｃ１７２ｂが、対向部Ｃ１７２ａから第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ向けて下降傾斜するように形成される（図２０７参照）。これにより、受入部Ｃ１７２に受け入れた球を、第１中間部材Ｃ１４０の通路部Ｃ１４４へ確実に流出させることができる。
【２７０７】
また、球が底面部Ｃ１７２ｂを転動している間、その球の重量を振分部材Ｃ１７０に作用させ、振分部材Ｃ１７０を第２位置（即ち、後行する球を転動部Ｃ１７３（第５通路ＣＲｔ５）へ案内可能な状態）に維持しやすくできる。
【２７０８】
転動部Ｃ１７３は、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）を転

動する球を、第２介設部材Ｃ１６０（第５通路ＣＲｔ５）へ案内する（振り分ける）ための部位であり、振分部材Ｃ１７０が第２位置へ配置された状態において、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）の下流端と、第２介設部材Ｃ１６０（第５通路ＣＲｔ５）の上流端との間に位置（架設）される。

【２７０９】

転動部Ｃ１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）は、受入部Ｃ１７２の対向部Ｃ１７２ａから突出して形成される。即ち、転動部Ｃ１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）には、対向部Ｃ１７２ａから上流側（第１中間部材Ｃ１４０（第３通路ＣＲｔ３）側、矢印Ｌ方向）へ向けて突出される板状の部位が形成される。この板状の部位が球ＣＢ１と球ＣＢ２との間に挿入されることで、両球（球ＣＢ１，ＣＢ２）を切り離すことができる。

【２７１０】

振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）における高さ位置に対し、転動部Ｃ１７３（転動面）の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）における高さ位置が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に位置される。即ち、底面部Ｃ１４２の下流端と転動部Ｃ１７３の上流端との間には段差が形成され、第２位置に配置された振分部材Ｃ１７０が第１位置へ向けて所定量（所定回転角）だけ変位（回転）された場合に、底面部Ｃ１４２の下流端と転動部Ｃ１７３の上流端とが同一の高さ位置に配置される。

【２７１１】

ここで、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）を転動する球が受入部Ｃ１７２へ流入されると、その球の重量で振分部材Ｃ１７０が第１位置から下方へ変位（回転）され、振分部材Ｃ１７０の下面が下ストッパ部Ｃ１３２に当接されることで、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置される。

【２７１２】

この場合、下ストッパ部Ｃ１３２に下面が衝突した際の衝撃で振分部材Ｃ１７０が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上げられる虞があり、振分部材Ｃ１７０の上方への跳ね上がりにより、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端における高さ位置に対し、転動部Ｃ１７３（転動面）の上流端における高さ位置が、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に位置されると、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から転動部Ｃ１７３へ球を流入（転動）させることができなくなる虞がある。

【２７１３】

特に、上方へ跳ね上げられた振分部材Ｃ１７０（転動部Ｃ１７３の上流側の端面）に球が衝突し、その球の衝突による衝撃で振分部材Ｃ１７０が更に上方へ跳ね上げられると（球により振分部材Ｃ１７０が更に上方へ押し上げられると）、その球が、本来は転動部Ｃ１７３へ流入（転動）されるべき球であったにも関わらず、受入部Ｃ１７２に流入される（受け入れられる）される虞がある。

【２７１４】

これに対し、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態では、上述したように、底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端と転動部Ｃ１７３（転動面）の上流端との間には段差が形成されるので、衝撃により振分部材Ｃ１７０が上方へ跳ね上げられた場合でも、両者の間の段差の分、底面部Ｃ１４２の下流端よりも転動部Ｃ１７３の上流端が鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に位置することを抑制できる。即ち、両者の段差の分だけ、振分部材Ｃ１７０が上方へ跳ね上げられることを許容できる。よって、転動部Ｃ１７３へ流入（転動）されるべき球（先行の球ＣＢ１との間の間隔が所定量以下とされる後行の球ＣＢ２）を、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から転動部Ｃ１７３へ流入（転動）させ易くできる。

【２７１５】

更に、振分部材Ｃ１７０は、転動部Ｃ１７３の上流側の端面（第１中間部材Ｃ１４０に対向する側の面、矢印Ｌ方向側の面）が、転動部Ｃ１７３から第１中間部材Ｃ１４０（底面部Ｃ１４２）へ向けて下降傾斜して形成される。即ち、転動部Ｃ１７３の上流側の端面は、転動部Ｃ１７３の転動面側の縁部よりも、受入部Ｃ１７２（対向部Ｃ１７２ａ）側の

縁部の方が、第１中間部材Ｃ１４０に近接される形状に形成される。
【２７１６】
これにより、上方へ跳ね上げられた振分部材Ｃ１７０（転動部Ｃ１７３の上流側の端面）に球が衝突した場合には、その球から振分部材Ｃ１７０（転動部Ｃ１７３の上流側の端面）に作用する力の方向を、振分部材Ｃ１７０を下方へ押し下げる方向の力とすることができる。その結果、転動部Ｃ１７３へ流入（転動）されるべき球（先行の球ＣＢ１との間の間隔が所定量以下とされる後行の球ＣＢ２）を、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から転動部Ｃ１７３へ流入（転動）させ易くできる。
【２７１７】
受入部Ｃ１７２と転動部Ｃ１７３とは、Ｃ１９２に対して、同じ側（球の重量により振分部材Ｃ１７０を回転させる方向が同じとなる側）に配置される。よって、受入部Ｃ１７２に受け入れた球の重量により振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された後、球が受入部Ｃ１７２から排出されたとしても、転動部Ｃ１７３を転動する球の重量を利用して、振分部材Ｃ１７０を第２位置に維持することができる。即ち、第５通路ＣＲｔ５へ案内する球がある場合、その球の重量を利用して、振分部材Ｃ１７０の姿勢を、球を第５通路ＣＲｔ５へ案内するための姿勢に維持させることとができる。
【２７１８】
よって、受入部Ｃ１７２に受け入れた球（底面部Ｃ１７２ｂを転動する球）の重量を利用して、振分部材Ｃ１７０を第２位置に維持する必要がなく、かかる底面部Ｃ１７２ｂの延設長さを短くすることができ、その分、振分部材Ｃ１７０を小型化できる。その結果、振分部材Ｃ１７０の配置の自由度を高めることができる。
【２７１９】
ここで、振分部材Ｃ１７０は、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）から受入部Ｃ１７２へ向けて球が転動する方向（受入部Ｃ１７２が球を受け入れる方向、矢印Ｒ方向）と、受入部Ｃ１７２から通路部Ｃ１４４へ球が転動する方向（受け入れた球を転動させる方向、矢印Ｌ方向）とが逆方向とされる。即ち、受入部Ｃ１７２において、球の流下（転動）方向を反転（方向転換）させる構成とされる。
【２７２０】
これにより、受入部Ｃ１７２が球を受け入れる方向と受入部Ｃ１７２から通路部Ｃ１４４へ球が転動する方向とが同方向とされる場合と比較して、反転に要する時間の分、球が振分部材Ｃ１７０（受入部Ｃ１７２）に滞留する時間を確保でき、その受入部Ｃ１７２に滞留される球の重量を利用して振分部材Ｃ１７０を第２位置に維持し易くできる。その結果、転動部Ｃ１７３において球を安定して転動させることができる。
【２７２１】
また、球の反転を利用して、その滞留時間を確保できることで、その分、受入部Ｃ１７２における底面部Ｃ１７２ｂの延設長さを短くして、振分部材Ｃ１７０を小型化できる。その結果、振分部材Ｃ１７０の配置の自由度を高めることができる。
【２７２２】
第２介設部材Ｃ１８０は、第６通路ＣＲｔ６における球の転動面を形成する部材であり、正面部材Ｃ１１１と第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０との対向間に介設される。即ち、正面部材Ｃ１１０と第１中間部材Ｃ１４０及び第２中間部材Ｃ１５０と第２介設部材Ｃ１８０とに区画された空間により第６通路ＣＲｔ６が形成される。
【２７２３】
第２介設部材Ｃ１８０の上面（転動面）には、上述したように、第２介設部材Ｃ１８０（第６通路ＣＲｔ６）を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｃ１８１及び側方流出面Ｃ１８２）が形成される。また、第６通路ＣＲｔ６の上面（転動面）には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ１８２が配置される一方、起伏の頂部に中央流出面Ｃ１８１が配置される。
【２７２４】

なお、正面部材Ｃ１１０の正面部Ｃ１１１の上縁（矢印Ｕ方向の縁部）は、中央流出面Ｃ１８１及び側方流出面Ｃ１８２が形成される領域を除き、第２介設部材Ｃ１８０の上面（転動面）よりも上方（矢印Ｕ方向）へ突出される。即ち、第２介設部材Ｃ１８０の上面（転動面）を転動する球は、中央流出面Ｃ１８１又は側方流出面Ｃ１８２からのみ遊技領域へ流出（流下）される。

【２７２５】

第２介設部材Ｃ１８０の底面には、凹部Ｃ１８３が凹設され、上述したように、かかる凹部Ｃ１８３と正面部材Ｃ１１０の底面部Ｃ１１２との対向間に第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される。

【２７２６】

装飾部材Ｃ１９０は、板状に形成される本体部Ｃ１９１と、その本体部Ｃ１９１に固着される軸Ｃ１９２とを備え、上述したように、軸Ｃ１９２を介して、振分部材Ｃ１７０に連結（一体化）される。なお、本体部Ｃ１９１の正面には、キャラクターなどの図柄が印刷やシールの添付により表示され、そのキャラクターの動き（変位）に基づいて、振分部材Ｃ１７０の動作が遊技者に視認可能とされる。

【２７２７】

なお、軸Ｃ１９２は、ベース板６０（図１９７参照）に直交する姿勢で配置される。よって、下側フレームＣ８６ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）寸法の小型化を図ることができる。

【２７２８】

迂回部材Ｃ２００は、板状の本体部Ｃ２０１と、その本体部Ｃ２０１の正面（矢印Ｆ方向側の面）から立設される壁面部Ｃ２０２と、その壁面部Ｃ２０２の一部を正面側へ更に延設して形成される樋部Ｃ２０３とを備え、開口Ｃ１３１ａに対向する位置において、背面部材Ｃ１３０の背面側に配設される。

【２７２９】

迂回部材Ｃ２００が背面部材Ｃ１３０に配設された状態では、壁面部Ｃ２０２の立設先端（矢印Ｆ方向側）が背面部材Ｃ１３０（本体部Ｃ１３１）の背面に当接され、且つ、樋部Ｃ２０３の立設先端（矢印Ｆ方向側）が第２中間部材Ｃ１５０（本体部Ｃ１５１）の背面に当接されると共に、樋部Ｃ２０３の縁部が第２中間部材Ｃ１５０（底面部Ｃ１５２）の底面に当接される。

【２７３０】

これにより、背面部材Ｃ１３０（本体部Ｃ１３１）と迂回部材Ｃ２００（本体部Ｃ２０１及び壁面部Ｃ２０２）とに区画された空間、及び、第２中間部材Ｃ１５０（底面部Ｃ１５２）と迂回部材Ｃ２００（樋部Ｃ２０３）とに区画された空間により第５通路ＣＲｔ５の一部が形成される（図２０８参照）。

【２７３１】

なお、樋部Ｃ２０３は、背面部材Ｃ１３０側から第２中間部材Ｃ１５０側へ向けて下降傾斜される。よって、背面部材Ｃ１３０の開口Ｃ１３１ａから迂回部材Ｃ２００内へ流入された球を樋部Ｃ２０３上を転動させて、正面部材Ｃ１１０の底面部Ｃ１１２と第２介設部材Ｃ１８０（凹部Ｃ１８３）との間に形成される第５通路ＣＲｔ５へ流入させることができる。

【２７３２】

次いで、振分部材Ｃ１７０による球の振り分け動作について説明する。図２１０から図２１２は、振分部材Ｃ１７０による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームＣ８６ｂの部分拡大断面図であり、図２０２のＣＣＶＩ－ＣＣＶＩ線における断面に対応する。

【２７３３】

なお、図２１０（ａ）及び図２１０（ｂ）は、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態を示し、図２０６に対応する。図２１１（ｂ）及び図２１２は、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態を示し、図２０７に対応する。

【２７３４】

図２１０（ａ）に示すように、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、受入部Ｃ１７２は、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２を転動する球ＣＢ１を受け入れ可能（球ＣＢ１が流入可能）な位置に配置される。

【２７３５】

即ち、受入部Ｃ１７２は、底面部Ｃ１４２（転動面）を延長した延長線と交差する位置に対向部Ｃ１７２ａが配置され、底面部Ｃ１４２（転動面）を延長した延長線よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）となる位置に底面部Ｃ１７２ｂが配置される。

【２７３６】

なお、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ１７３の底面（転動面と反対側の面、矢印Ｄ方向側の面）における上流端（矢印Ｌ方向側の端部）との間の間隔が、球の直径よりも大きな寸法（球が通過可能な寸法）に設定される。

【２７３７】

一方、転動部Ｃ１７３は、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２を転動する球ＣＢ１を受け入れ不能（球ＣＢ１が流入不能）な位置に配置される。

【２７３８】

即ち、転動部Ｃ１７３は、底面部Ｃ１４２（転動面）を延長した延長線よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）となる位置（一段高い位置）に底面部Ｃ１７２ｂが配置される。なお、転動部Ｃ１７３と、底面部Ｃ１４２（転動面）を延長した延長線との間の鉛直方向における間隔（段差の高さ）は、球の半径よりも大きな寸法に設定される。これにより、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ１７０の転動部Ｃ１７３に流入することを抑制できる。

【２７３９】

なお、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ１４０の天面部Ｃ１４３の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）との間の間隔が、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定される。これにより、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ１７０の転動部Ｃ１７３に流入することを抑制できる。但し、かかる間隔を球の直径よりも大きな間隔としても良い。

【２７４０】

第１中間部材Ｃ１４０の底面部Ｃ１４２を球ＣＢ１（先行する球）と球ＣＢ２（先行する球との間に所定の間隔を隔てて後行する球）とが転動する場合、図２１０（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が振分部材Ｃ１７０の受入部Ｃ１７２に流入され（受け入れられ）、球ＣＢ１は、対向部Ｃ１７２ａに当接され（受け止められ）、受入部Ｃ１７２に保持される。

【２７４１】

また、球ＣＢ１，ＣＢ２の間の間隔が比較的小さい場合には、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付き、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接される。上述したように、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、天面部Ｃ１４３の下流端と、転動部Ｃ１７３の上流端との間の間隔が、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定されるので、球ＣＢ２が、球ＣＢ１を乗り越えて、転動部Ｃ１７３へ流入されることを抑制できる。即ち、球ＣＢ２を球ＣＢ１の後方（上流側）に待機させることができる。

【２７４２】

図２１０（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が受入部Ｃ１７２に受け入れられると、図２１１（ａ）に示すように、球ＣＢ１の重量により振分部材Ｃ１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）される。また、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付いている場合には、その球ＣＢ２の重量も振分部材Ｃ１７０に作用される。

【２７４３】

ここで、受入部Ｃ１７２は、対向部Ｃ１７２ａの底面部Ｃ１７２ｂに連結される側の領

域と、底面部Ｃ１７２ｂの対向部Ｃ１７２ａに結される側の領域とが、即ち、対向部Ｃ１７２ａと底面部Ｃ１７２ｂとの連結部分が、軸Ｃ１９２側へ向けて凸となり球の外形と略同一形状（球と略同径）となる円弧状に湾曲して形成され、その円弧状に湾曲した部分により球を保持可能とされる。

【２７４４】

また、振分部材Ｃ１７０（底面部Ｃ１７２ｂの下流端（矢印Ｌ方向側の端部））と第１中間部材Ｃ１４０（底面部Ｃ１４２と対向部Ｃ１４４ａとの連結部分）との間の間隔は、振分部材Ｃ１７０が第１位置に配置された状態では、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定され、振分部材Ｃ１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）されることで、漸次拡大される。

【２７４５】

即ち、振分部材Ｃ１７０が第１位置と第２位置との間の所定中間位置（図２１１（ａ）と図２１１（ｂ）との間の位置）まで変位（回転）されると、上述の振分部材Ｃ１７０（底面部Ｃ１７２ｂの下流端（矢印Ｌ方向側の端部））と第１中間部材Ｃ１４０（底面部Ｃ１４２と対向部Ｃ１４４ａとの連結部分）との間の間隔が球の直径と略同一の寸法（球が通過可能な寸法）まで拡大され、振分部材Ｃ１７０が所定中間位置から第２位置へ向けて更に変位（回転）されると、上述した間隔が、更に拡大され、第２位置において最大の間隔が形成される。

【２７４６】

よって、振分部材Ｃ１７０が第１位置から所定中間位置まで変位（回転）される間は、受入部Ｃ１７２に球ＣＢ１を受け入れた状態が維持される。即ち、振分部材Ｃ１７０は、第１位置から所定中間位置までの間は、受入部Ｃ１７２に球ＣＢ１を受け入れた状態で変位（回転）される。これにより、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接された状態を維持して、球ＣＢ２が底面部Ｃ１４２の下流端に位置する状態を維持できる。

【２７４７】

この場合、底面部Ｃ１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ１７３の底面（転動面と反対側の面、矢印Ｄ方向側の面）における上流端（矢印Ｌ方向側の端部）との間の間隔は、振分部材Ｃ１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）されることで、漸次縮小され、振分部材Ｃ１７０が所定中間位置に到達する前に、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定される。よって、球ＣＢ２が受入部Ｃ１７２へ流入する（受け入れられる）ことを抑制できる。

【２７４８】

また、振分部材Ｃ１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）される場合、受入部Ｃ１７２（対向部Ｃ１７２ａと底面部Ｃ１７２ｂとの連結部分）に保持された球ＣＢ１の軌跡の外縁（軸Ｃ１９２と反対側の外縁）よりも、転動部Ｃ１７３の底面（転動面と反対側の面、矢印Ｄ方向側の面）における上流端（矢印Ｌ方向側の端部）の軌跡が、軸Ｃ１９２に近い側を通過するように構成される。

【２７４９】

よって、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接された状態を維持して、球ＣＢ２が底面部Ｃ１４２の下流端に位置する状態を維持できると共に、転動部Ｃ１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）により球ＣＢ２を押し戻す（押し返す）ことができる。即ち、転動部Ｃ１７３の上流端を球ＣＢ１と球ＣＢ２との間に挿入して、両球を切り離すことができる。よって、球ＣＢ２が受入部Ｃ１７２へ流入される（受け入れられる）ことを抑制できる。また、球ＣＢ２を徐々に転動部Ｃ１７３へ転動させ、その後の転動を安定させることができる。

【２７５０】

図２１１（ａ）に示す状態から振分部材Ｃ１７０が第２位置へ向けて更に変位（回転）されると、球ＣＢ１が通路部Ｃ１４４へ向けて底面部Ｃ１７２ｂを転動されると共に、球ＣＢ２が転動部Ｃ１７３に流下される（転動部Ｃ１７３に受け入れられる）。

【２７５１】

図２１１（ｂ）及び図２１２に示すように、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置される

と、球ＣＢ１が受入部Ｃ１７２から通路部Ｃ１４４（第４通路ＣＲｔ４）へ流入されると共に、球ＣＢ２が転動部Ｃ１７３を転動して、第１介設部材Ｃ１６０（第５通路ＣＲｔ５）へ流入される。

【２７５２】

球ＣＢ１，ＣＢ２が第４通路ＣＲｔ４及び第５通路ＣＲｔ５へ流入された後は、振分部材Ｃ１７０が第２位置から第１位置へ向けて自重により復帰（変位）される。なお、振分部材Ｃ１７０が第２位置に配置された状態で、或いは、振分部材Ｃ１７０が第２位置から第１位置への変位（回転）を開始した後であっても、第３の球が転動部Ｃ１７３到達し、その転動部Ｃ１７３の転動面に流入した場合には、第３の球が転動部Ｃ１７３を転動して第５通路ＣＲｔ５へ流入（案内）される。

【２７５３】

上述したように、転動部Ｃ１７３の上流側の端面（第１中間部材Ｃ１４０に対向する側の面、矢印Ｌ方向側の面）は、転動部Ｃ１７３から第１中間部材Ｃ１４０（底面部Ｃ１４２）へ向けて下降傾斜して形成されるので、振分部材Ｃ１７０が第２位置から第１位置へ変位（回転）を開始した後であっても、転動部Ｃ１７３の上流側の傾斜面（端面）を利用して、第３の球を転動部Ｃ１７３へ流入させ易くできる。

【２７５４】

なお、振分部材Ｃ１７０は、１球の重量のみで、第１位置から第２位置まで変位（回転）可能に構成される。よって、球ＣＢ１と球ＣＢ２との間隔が所定量よりも大きな場合には、これら球ＣＢ１及び球ＣＢ２の両球が、受入部Ｃ１７２に順に受け入れられ、それぞれ上述した振り分け動作を経て第４通路ＣＲｔ４へ振り分けられる。

【２７５５】

以上のように、第５３実施形態における下側フレームＣ８６ｂによれば、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量以下（両球が密着する間隔が０の場合を含む）の間隔を隔てて連なる場合には、球ＣＢ１を第４通路ＣＲｔ４へ振り分け（案内し）、且つ、球ＣＢ１の重量で第２位置へ変位される振分部材Ｃ１７０により球ＣＢ２を第５通路ＣＲｔ５へ振り分ける（案内する）ことができる一方、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、両球（球ＣＢ１及び球ＣＢ２）を第４通路ＣＲｔ４へ振り分ける（案内する）ことができる。このように、球ＣＢ１，ＣＢ２の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔が所定量を超えるか否か）に応じて案内する通路を変化させられるので、興趣の向上を図ることができる。

【２７５６】

次いで、図２１３から図２２８を参照して、第５４実施形態におけるセンターフレームＣ２０８６について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２７５７】

図２１３は、第５４実施形態における下側フレームＣ２０８６ｂの正面斜視図であり、図２１４は、下側フレームＣ２０８６ｂの背面斜視図である。なお、図２１３及び図２１４では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＣ２０８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。

【２７５８】

図２１３及び図２１４に示すように、下側フレームＣ２０８６ｂには、球を受け入れ可能な開口として形成される受入口ＣＯＰ２０００ｉｎと、その受入口ＣＯＰ２０００ｉｎに連通される第１通路ＣＲｔ２００１と、その第１通路ＣＲｔ２００１を案内された球（第１通路ＣＲｔ２００１をその長手方向に沿って往復動した球）が流下される第２通路ＣＲｔ２００２と、その第２通路ＣＲｔ２００２を案内された球が振分部材Ｃ２１７０により振り分けられて流下される第３通路ＣＲｔ２００３及び第４通路ＣＲｔ２００４と、第３通路ＣＲｔ２００３を案内された球および第４通路ＣＲｔ２００４から落下した球（第４通路ＣＲｔ２００４の終端に到達しなかった球）が流下される第６通路ＣＲｔ２００６と、第４通路ＣＲｔ２００４を案内された球（第４通路ＣＲｔ２００４の終端に達した球

）が流下される第５通路ＣＲｔ２００５と、その第５通路ＣＲｔ２００５を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＣＯＰ２０００ｏｕｔとが形成される（図２２１及び図２２２参照）。

【２７５９】

なお、第５４実施形態におけるセンターフレームは、上側フレーム（図示せず）と下側フレームＣ２０８６ｂとから構成される。第５４実施形態における上側フレームは、その上側フレーム通路（図示せず）の形状が、第５３実施形態における上側フレームＣ８６ａの上側フレーム通路ＣＲｔ０と異なる点を除き、他の構成は第５３実施形態における上側フレームＣ８６ａと同一の構成であるので、その説明は省略する。

【２７６０】

上側フレーム通路は、遊技領域のうちの正面視左側（図１９７左側）の領域（センターフレーム（上側フレーム）とレール６１（図１９７参照）との間の領域）から流入（入球）された球を案内する通路であり、その上側フレーム通路の下流端に下側フレームＣ２０８６ｂの受入口ＣＯＰ２０００ｉｎが連通される。即ち、遊技領域から上側フレーム通路に流入（入球）した球は、受入口ＣＯＰ２０００ｉｎを介して、上側フレーム通路から下側フレームＣ２０８６ｂの第１通路ＣＲｔ２００１へ流入（入球）される。

【２７６１】

下側フレームＣ２０８６ｂには、球の重さにより動作する振分部材Ｃ２１７０が配設されており（図２２１及び図２２２参照）、連なった状態の球が第２通路ＣＲｔ２００２を案内される場合には、先行する球が第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分けられる一方、後行する球が第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分けられる。なお、球の連なる間隔が所定量よりも大きい場合は、先行する球および後行する球の両球が第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分けられる。

【２７６２】

ここで、第４通路ＣＲｔ４の終端に達した球は、第５通路ＣＲｔ５へ流下されるところ、第５通路ＣＲｔ２００５の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＣＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図１９７参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第５通路ＣＲｔ２００５を案内された球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【２７６３】

一方、第６通路ＣＲｔ２００６には、その第６通路ＣＲｔ２００６に案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に中央流出面Ｃ１８１が形成（配置）されるだけでなく、第１入賞口６４の鉛直方向上方から遊技盤１３の幅方向（図１９７左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、側方流出面Ｃ１８２が形成（配置）される。また、第６通路ＣＲｔ２００６には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ１８２が形成され、起伏の頂部に中央流出面Ｃ１８１が形成される。

【２７６４】

そのため、第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分けられた球は、第６通路ＣＲｔ２００６において、中央流出面Ｃ１８１から遊技領域へ流出する確率よりも、側方流出面Ｃ１８２から遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第５通路ＣＲｔ２００５を案内される球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【２７６５】

このように、本実施形態における下側フレームＣ２０８６ｂは、第５３実施形態の場合と同様に、連なった状態の球が第２通路ＣＲｔ２００２へ流入された場合に、先行する球は通常の通路（第３通路ＣＲｔ２００３）へ振り分けられる一方、後行する球が第１入賞口６４に入賞し易い通路（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる通路（第５通路ＣＲｔ２００５））へ球を流下させる第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分けられる。よって、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、球が連なった状態が形成されることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることが

できる。
【２７６６】
更に、本実施形態では、第４通路ＣＲｔ２００４を案内される球が途中で第６通路へ落下可能に形成され、落下せずに第４通路ＣＲｔ２００４の終端に達した球のみが第５通路ＣＲｔ２００５へ流下（流入）可能とされる。そのため、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、連なった状態の球のうちの後行する球が第４通路ＣＲｔ２００４に振り分けられた後は、かかる第４通路ＣＲｔ２００４の終端まで球が落下せずに達することを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【２７６７】
次いで、図２１３から図２１４に加え、図２１５から図２２８を参照して、下側フレームＣ２０８６ｂの詳細構成について説明する。
【２７６８】
図２１５は、下側フレームＣ２０８６ｂの分解正面斜視図であり、図２１６は、下側フレームＣ２０８６ｂの分解背面斜視図である。図２１７は、下側フレームＣ２０８６ｂの上面図であり、図２１８は、下側フレームＣ２０８６ｂの正面図であり、図２１９は、下側フレームＣ２０８６ｂの背面図である。図２２０（ａ）は、図２１８の矢印ＣＣＸＸａ方向視における下側フレームＣ２０８６ｂの側面図であり、図２２０（ｂ）は、図２１８の矢印ＣＣＸＸｂ方向視における下側フレームＣ２０８６ｂの側面図である。
【２７６９】
図２２１及び図２２２は、図２１７のＣＣＸＸＩ－ＣＣＸＸＩ線における下側フレームＣ２０８６ｂの断面図である。図２２３は、図２１９のＣＣＸＸＩＩＩ－ＣＣＸＸＩＩＩ線における下側フレームＣ２０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２２４は、図２１９のＣＣＸＸＩＶ－ＣＣＸＸＩＶ線における下側フレームＣ２０８６ｂの部分拡大断面図である。なお、図２２１では、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態が、図２２２では、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。
【２７７０】
図２１３から図２２４に示すように、下側フレームＣ２０８６ｂは、正面部材Ｃ２１１０と、その正面部材Ｃ２１１０の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される皿部材Ｃ２１２０と、正面部材Ｃ２１１０の背面（矢印Ｂ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向配置される背面部材Ｃ２１３０と、その背面部材Ｃ２１３０の正面（矢印Ｆ方向側の面）に配設される第１中間部材Ｃ２１４０、第２中間部材Ｃ２１５０、第１介設部材Ｃ２１６０、磁性部Ｃ２４００及び受け部材Ｃ２５００と、背面部材Ｃ２１３０及び第１中間部材Ｃ２１４０の対向間に介設される振分部材Ｃ２１７０と、正面部材Ｃ２１１０及び背面部材Ｃ２１３０の対向間に介設される第２介設部材Ｃ２１８０と、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設される迂回部材Ｃ２２００及び磁石Ｃ２３００と、を備える。
【２７７１】
なお、下側フレームＣ２０８６ｂは、各部材どうしそれぞれタッピングネジにより締結固定されると共に、振分部材Ｃ２１７０が背面部材Ｃ２１３０及び第１中間部材Ｃ２１４０に回転可能に軸支されることで、一つ（単体）のユニットとして構成される（図２１３参照）。
【２７７２】
また、下側フレームＣ２０８６ｂは、振分部材Ｃ２１７０を除く他の部材が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、振分部材Ｃ２１７０が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＣＲｔ２００１から第６通路ＣＲｔ２００６を通過する球を遊技者に視認させると共に、振分部材Ｃ２１７０による振り分け動作を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【２７７３】
この場合、下側フレームＣ２０８６ｂは、少なくとも第１中間部材Ｃ２１４０が光透過性の樹脂材料から構成されていれば足りる。第２通路ＣＲｔ２００２における球の連なり状態（先行する球と後行する球の間隔が所定量よりも小さい間隔か否か）と、振分部材Ｃ

２１７０による振り分け動作とを遊技者に視認させられると共に、後行する球が振分部材Ｃ２１７０により第４通路ＣＲｔ２００４に振り分けられたことを視認できれば、かかる球は流出口ＣＯＰｏｕｔから第１入賞口６４へ高確率で（本実施形態では第５通路ＣＲｔ２００５に流入されれば、ほぼ全球が）入球するため、第５通路ＣＲｔ２００５を案内される球を遊技者に視認させなくても足りるためである。

【２７７４】

なお、振分部材Ｃ２１７０は、光透過性（又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【２７７５】

また、一方で、第１中間部材Ｃ２１４０が有色の樹脂材料から構成される、或いは、第１中間部材Ｃ２１４０に塗装が施されたりシールが添付されていても良い。即ち、第３通路ＣＲｔ２００３を通過する球や振分部材Ｃ２１７０が正面側から遊技者に視認不能となるように構成されていても良い。

【２７７６】

正面部材Ｃ２１１０は、正面を形成する板状の正面部Ｃ１１１と、その正面部Ｃ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｃ１１２とを備える。

【２７７７】

正面部Ｃ１１１には、その正面部Ｃ１１１の下側（矢印Ｄ方向側）の外縁に沿って複数の挿通孔Ｃ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＣ２０８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｃ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。

【２７７８】

正面部Ｃ１１１には、第１入賞口６４（図１９７参照）の鉛直方向上方となる位置に流出口ＣＯＰｏｕｔが開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＣＯＰｏｕｔは、上述したように、第５通路ＣＲｔ２００５を案内された球が遊技領域へ流出される際の出口となる開口である。

【２７７９】

底面部Ｃ１１２は、その上面に第２介設部材Ｃ２１８０の底面が対向配置される。なお、底面部Ｃ１１２には、流出口ＣＯＰｏｕｔに連通する筒状の部位が形成され、この筒状の部位が第５通路ＣＲｔ２００５の一部とされる。よって、第５通路ＣＲｔ２００５の内壁面に正面部材Ｃ２１１０と第２介設部材Ｃ１８０との重なり部分（継ぎ目）が形成されないので、流出口ＣＯＰｏｕｔから第５通路ＣＲｔ２００５内を遊技者が覗き込んだ際の外観を良くすることができると共に、重なり部分（継ぎ目）から針金等の異物が侵入されることを回避できる。

【２７８０】

底面部Ｃ１１２は、正面部Ｃ１１１の長手方向全域にわたって連続的に形成され、その底面部Ｃ１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）が、第１中間部材Ｃ２１４０及び第１介設部材Ｃ２１６０の正面に当接される。これにより、針金等の異物の侵入が抑制される。

【２７８１】

皿部材Ｃ２１２０は、通路の底面を形成する上側底面部Ｃ２１２１及び下側底面部Ｃ２１２２と、通路の側壁を形成する側壁部Ｃ２１２４を備える。

【２７８２】

上側底面部Ｃ２１２１は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設されると共に、受入口ＣＯＰ２０００ｉｎから離間する方向（矢印方向）へ向けて下降傾斜して形成される。

【２７８３】

下側底面部Ｃ２１２２は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる

円弧状に湾曲して形成される（図２０９（ｂ）参照）。
【２７８４】
側壁部Ｃ２１２４は、上側底面部Ｃ２１２１（第１通路ＣＲｔ２００１）の通路幅と、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）の長手方向（球を案内する方向）における一端側および他端側の端部と、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。
【２７８５】
下側底面部Ｃ２１２２は、上面視において、上側底面部Ｃ２１２１と略９０度に交差され、上側底面部Ｃ２１２１の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と下側底面部Ｃ２１２２の長手方向における一端側（矢印Ｆ方向側の端部）とが隣り合う位置に配設される。
【２７８６】
側壁部Ｃ２１２４には、円弧状に湾曲した下側底面部Ｃ２１２２の底部（鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に対応する位置に切り欠き部Ｃ１２４ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｃ１２４ａを介して、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）から底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ球が流下可能とされる。
【２７８７】
下側底面部Ｃ２１２２は、上述したように、円弧状に湾曲して形成され、その上昇傾斜側（下側底面部Ｃ２１２２の長手方向における一端側）に上側底面部Ｃ２１２１から球が流下されるので、かかる流下された球を、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）の長手方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、切り欠き部Ｃ１２４ａから底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ球を流下させることができる。
【２７８８】
これにより、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側底面部Ｃ２１２１から下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）へ流入する場合に、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。
【２７８９】
下側底面部Ｃ２１２２には、切り欠き部Ｃ１２４ａに対応する位置（即ち、鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に流出面Ｃ１２２ａが凹設される。流出面Ｃ１２２ａは、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）を案内される球を、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出させるための部位であり、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ向けて下降傾斜する凹面として形成される。
【２７９０】
よって、下側底面部Ｃ２１２２を往復動した後、その転動速度が低下した球を、流出面Ｃ１２２ａを利用して、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へスムーズに流出（流下）させることができる。即ち、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）における往復動を利用して、先行する球と後行する球との間隔が減少された球（連なった状態の球）を、その連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）させることができる。
【２７９１】
なお、流出面Ｃ１２２ａは、上面視において、その凹面の幅（下側底面部Ｃ２１２２を往復動する球の転動方向に沿う方向の寸法、矢印Ｆ－Ｂ方向の寸法）が、切り欠き部Ｃ１２４ａに近い側ほど大きい形状に形成される（図２１７参照）。
【２７９２】
また、上面視において、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ２１２４に球を当接させた状態では、球が流出面Ｃ１２２ａ上を転動する（横切る）。即ち、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）を転動（往復動）する球

が、切り欠き部Ｃ１２４ａから最も離間した位置（球の側方の頂部を下側側壁部Ｃ２１２４に当接させる位置）を転動する状態でも、上面視において、球の中心と重なる範囲まで流出面Ｃ１２２ａが形成される（球が下側底面部Ｃ２１２２を転動する際の球の下方の頂部の軌跡である転動線が流出面Ｃ１２２ａを横切る）。

【２７９３】

一方で、下側底面部Ｃ２１２２に流出面Ｃ１２２ａが凹設（形成）されていると、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）に流下した球が、かかる下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）を一度も往復動することなく、又は、十分な回数だけ往復動する前に、流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用により、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）する虞がある。即ち、先行する球と後行する球との間隔を減少させず、両球が間隔を隔てたまま底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）する虞がある。

【２７９４】

これに対し、本実施形態では、下側底面部Ｃ２１２２が切り欠き部Ｃ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成される（図２２１参照）。これにより、下側底面部Ｃ２１２２の傾斜の作用により、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する側壁部Ｃ２１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）で転動（往復動）させることができる。

【２７９５】

これにより、球の転動速度が十分に低くなる前に、球が流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用で底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）することを抑制できる。即ち、球の転動速度が十分に低くなるまでの間、流出面Ｃ１２２ａを乗り越え易く（横切らせ易く）して、下側底面部Ｃ２１２２（第１通路ＣＲｔ２００１）に沿って球を十分に往復動させ易くできる。その結果、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことを確実化できる。

【２７９６】

なお、下側底面部Ｃ２１２２の円弧形状（下側底面部Ｃ２１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状であって、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧形状、図２０９（ｂ）及び図２２０（ｂ）参照）は、その長手方向の一端側および他端側における円弧形状の半径が、それら一端側および他端側の間の領域（流出面Ｃ１２２ａを含む領域）における円弧形状の半径よりも小さくされる。即ち、流出面Ｃ１２２ａを含む領域における円弧形状の半径が大きくされる。

【２７９７】

これにより、初期段階（長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）へ流出（流下）させ易くできる。

【２７９８】

背面部材Ｃ２１３０は、板状に形成される本体部Ｃ２１３１と、その本体部Ｃ２１３１の正面から立設される軸支座部Ｃ２１３４とを備える。

【２７９９】

本体部Ｃ２１３１には、その本体部Ｃ２１３１の正面側と背面側とに形成される通路（第５通路ＣＲｔ２００５）を連通するための開口である開口Ｃ２１３１ａと、振分部材Ｃ２１７０（錘Ｃ２１７５）との干渉を回避するための開口である開口Ｃ２１３１ｃとが開口形成される。開口Ｃ２１３１ａの下方には、本体部Ｃ２１３１の外縁を窪ませた凹部Ｃ２１３１ｂが形成される。凹部Ｃ２１３１ｂは、迂回部材Ｃ２２００との対向間に第５通路ＣＲｔ２００５の一部を形成する。

【２８００】
軸支座部Ｃ２１３４は、振分部材Ｃ２１７０の軸Ｃ２１７４を回転可能に軸支する軸支部（軸受）として形成される。なお、軸Ｃ２１７４は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で軸支座部Ｃ２１３４と第１中間部材Ｃ２１４０の軸支座部Ｃ２１４１ｂとに軸支される。
【２８０１】
第１中間部材Ｃ２１４０は、板状の本体部Ｃ２１４１と、その本体部Ｃ２１４１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から立設される底面部Ｃ２１４２、天面部Ｃ２１４３、通路部Ｃ２１４４及び下ストッパ部Ｃ２１４５とを備え、背面部材Ｃ２１３０の正面視左側に配設される。
【２８０２】
本体部Ｃ２１４１には、その本体部Ｃ２１４１の正面側と背面側とに形成される通路（第３通路ＣＲｔ２００３及び第６通路ＣＲｔ２００６）を連通するための開口である開口Ｃ２１４１ａが形成される。また、本体部Ｃ２１４１の背面からは、軸支座部Ｃ２１４１ｂが立設される。軸支座部Ｃ２１４１ｂは、振分部材Ｃ２１７０の軸Ｃ２１７４を回転可能に軸支する軸支部（軸受）として形成される。
【２８０３】
第１中間部材Ｃ２１４０が背面部材Ｃ２１３０に配設された状態では、底面部Ｃ２１４２及び天面部Ｃ２１４３の立設先端（矢印Ｂ方向側）が背面部材Ｃ２１３０の正面に当接される。これにより、背面部材Ｃ２１３０と第１中間部材Ｃ２１４０（本体部Ｃ２１４１、底面部Ｃ２１４２及び天面部Ｃ２１４３）とに区画された空間により第２通路ＣＲｔ２００２が形成されると共に、背面部材Ｃ２１３０と第１中間部材Ｃ２１４０（底面部Ｃ２１４２及び通路部Ｃ２１４４）と第２位置にある振分部材Ｃ２１７０とにより区画された空間により第３通路ＣＲｔ２００３が形成される（図２２２参照）。
【２８０４】
底面部Ｃ２１４２は、皿部材Ｃ２１２０側から振分部材Ｃ２１７０側へ向けて下降傾斜される。また、通路部Ｃ２１４４は、第２位置にある振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）と開口Ｃ２１４１ａとの対向間に位置し、第２位置にある振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）側から開口Ｃ２１４１ａ側へ向けて下降傾斜して形成される。よって、通路部Ｃ２１４４は、第２位置へ変位した振分部材Ｃ２１７０から球を受け入れると、その球を開口Ｃ２１４１ａを介して第６通路ＣＲｔ２００６へ流出（転動）させることができる。
【２８０５】
なお、底面部Ｃ２１４２は、振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）が上方へ変位された際に、その振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）の上面に当接可能に形成され、振分部材Ｃ２１７０の第１位置を規定する（図２２１参照）。一方、下ストッパ部Ｃ２１４５は、振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）が下方へ変位された際に、その振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂ）の下面に当接可能に形成され、振分部材Ｃ２１７０の第２位置を規定する（図２２２参照）。
【２８０６】
なお、振分部材Ｃ２１７０は、第１位置から第２位置に変位（回転）されると、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）が上方へ変位（上昇）される。即ち、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態における底面部Ｃ２１７３は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態における底面部Ｃ２１７３の上面（転動面）よりも上方（矢印Ｕ側）に位置される。
【２８０７】
第２中間部材Ｃ２１５０は、板状の本体部Ｃ２１５１と、その本体部Ｃ２１５１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から立設される底面部Ｃ２１５２及び壁面部Ｃ２１５３，Ｃ２１５４とを備え、第１中間部材Ｃ２１４０との間に所定の間隔を隔てつつ、背面部材Ｃ２１３０の正面視右側に配設される。

【２８０８】
なお、本実施形態では、第１中間部材Ｃ２１４０と第２中間部材Ｃ２１５０との間の対向間隔（矢印Ｌ－Ｒ方向の間隔）が、受け部材Ｃ２５００の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）寸法に球の直径の少なくとも２倍以上の大きさを加算した寸法よりも大きな値に設定される。よって、受け部材Ｃ２５００の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側（第１中間部材Ｃ２１４０との間、及び、第２中間部材Ｃ２１５０との間の両方）に、球が通過可能な空間をそれぞれ確保することができる。よって、球の流下する方向の種類（バリエーション）を増やし、遊技の興趣を高めることができる。
【２８０９】
第２中間部材Ｃ２１５０が背面部材Ｃ２１３０に配設された状態では、底面部Ｃ２１５２が、背面部材Ｃ２１３０の開口Ｃ２１３１ａに連通可能となる位置に配置されると共に、開口２１３１ａへ向けて下降傾斜される。よって、底面部Ｃ２１５２は、第４通路ＣＲｔ２００４の終端に達した球（磁性部Ｃ２４００の終端から落下した球）を受け入れると、その球を開口Ｃ２１３１ａ内へ流入（転動）させることができる。即ち、底面部Ｃ２１５２の上面側に第５通路ＣＲｔ２００５の一部が形成される。
【２８１０】
第２中間部材Ｃ２１５０が背面部材Ｃ２１３０に配設された状態では、底面部Ｃ２１５２及び壁面部Ｃ２１５３，Ｃ２１５４の立設先端（矢印Ｂ方向側）が背面部材Ｃ２１３０の正面に当接される。また、底面部Ｃ２１５２の上面（転動面）の縁部に沿って本体部Ｃ２１５１及び壁面部Ｃ２１５３，Ｃ２１５４が所定量だけ上方（矢印Ｕ方向）へ突出される。
【２８１１】
磁性部Ｃ２４００から遠い側に位置する壁面部Ｃ２１５３は、第４通路ＣＲｔ２００４を案内される球の移動方向（磁性部Ｃ２４００の下縁（球を吸着する縁部）に沿う方向）の延長線と交差する面を形成する。これにより、第４通路ＣＲｔ２００４から排球された（磁性部Ｃ２４００から落下した）球を、壁面部Ｃ２１５３により直接受け止めて、或いは、底面部Ｃ２１５２でバウンドした（跳ね上がった）後に壁面部Ｃ２１５３により受け止めて、底面部Ｃ２１５２上へ落下させることができる。なお、実施形態では、壁面部Ｃ２１５３は、磁性部Ｃ２４００の終端（矢印Ｒ方向の端部）における下縁（球が吸着される縁部）よりも高い位置まで形成される。
【２８１２】
一方、底面部Ｃ２１５２の上面からの突出寸法は、磁性部Ｃ２４００に近い側に位置する壁面部Ｃ２１５４の突出寸法、及び、本体部Ｃ２１５１の突出寸法が、磁性部Ｃ２４００から遠い側に位置する壁面部Ｃ２１５３の突出寸法よりも小さく（低く）される。これにより、底面部２１５２（第５通路ＣＲｔ２００５）から第１介設部材Ｃ２１６０又は第２介設部材Ｃ２１８０（第６通路ＣＲｔ２００６）へ球が落下可能として、遊技の興趣を高められる。なお、壁面部Ｃ２１５４及び本体部Ｃ２１５１の突出寸法は、球の直径よりも小さくされることが好ましい。
【２８１３】
受け部材Ｃ２５００は、上面（転動面）を形成する第１底面部Ｃ２５０１及び第２底面部Ｃ２５０２を備え、第１中間部材Ｃ２１４０と第２中間部材２１５０との対向間であって、磁性部Ｃ２４００の下方（矢印Ｕ方向側）となる位置に配設される。よって、第４通路ＣＲｔ２００４（磁性部Ｃ２４００）から落下した球を第１底面部Ｃ２５０１及び第２底面部Ｃ２５０２で受け止めて、第１介設部材Ｃ２１６０へ流下（転動）させることができる。
【２８１４】
第１底面部Ｃ２５０１は、第２底面部Ｃ２５０２との接続部から第１中間部材Ｃ２１４０側（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成され、第２底面部Ｃ２５０２は、第１底面部Ｃ２５０１との接続部から第２中間部材Ｃ２１５０側（矢印Ｒ方向）へ向けて下降傾斜して形成される。また、第１底面部Ｃ２５０１及び第２底面部Ｃ２５０２は、受け部材Ｃ

２５００の正面側から背面側（背面部材Ｃ２１３０側）へ向けて下降傾斜される（図２２４参照）。

【２８１５】

上述したように、受け部材Ｃ２５００の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側には、第１中間部材Ｃ２１４０及び第２中間部材Ｃ２１５０との間に少なくとも球１個分の空間がそれぞれ形成される。

【２８１６】

よって、第４通路ＣＲｔ２００４（磁性部Ｃ２４００）から落下した球を、第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に転動させて、第１介設部材Ｃ２１６０へ流下させることができる。この場合、第４通路ＣＲｔ２００４（磁性部Ｃ２４００）から落下した球を受け止めた部位（第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２）に応じて、その球を流下させる方向を異ならせることができる。

【２８１７】

また、第４通路ＣＲｔ２００４（磁性部Ｃ２４００）から落下した球を、第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に転動させた上で、それら第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２の下流端から第１介設部材Ｃ２１６０へ流下させることができる。これにより、かかる球を、第１介設部材Ｃ２１６０の長手方向に沿って転動させ易くできる。

【２８１８】

なお、第１底面部Ｃ２５０１及び第２底面部Ｃ２５０２の少なくとも一方または両方は、受け部材Ｃ２５００の正面側から背面側（背面部材Ｃ２１３０側）へ向けて上昇傾斜されていても良く、或いは、受け部材Ｃ２５００の正面側から背面側（背面部材Ｃ２１３０側）へ向けて非傾斜（即ち、水平）とされていても良い。

【２８１９】

また、受け部材Ｃ２５００は、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一側のみに球が通過可能な空間が確保される形態（即ち、第１中間部材Ｃ２１４０又は第２中間部材Ｃ２１５０の一方との間のみに球が流下（通過）可能な空間が形成され、他方との間では球の流下（通過）が不能とされる形態）でも良い。この場合には、第１底面部Ｃ２５０１又は第２底面部Ｃ２５０２の長手方向寸法を確保して、その分、球の転動時間を長くできる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【２８２０】

第１介設部材Ｃ２１６０は、受け部材Ｃ２５００から流下された球を、第２介設部材Ｃ２１８０へ流下させる転動面を形成する部材であり、第１中間部材Ｃ２１４０と第２中間部材Ｃ２１５０との対向間に介設される。

【２８２１】

第１介設部材Ｃ２１６０の上面（転動面）には、球を第２介設部材Ｃ２１８０へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｃ２１６１及び側方流出面Ｃ２１６２）が形成される。中央流出面Ｃ２１６１は、第２介設部材Ｃ２１８０の中央流出面Ｃ１８１（即ち、第１入賞口６４）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）され、側方流出面Ｃ２１６２は、中央流出面Ｃ２１６１から遊技盤１３の幅方向（図１９７左右方向）へ位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。また、第１介設部材Ｃ２１６０の上面（転動面）には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ２１６２が形成され、起伏の頂部に中央流出面Ｃ２１６１が形成される。

【２８２２】

なお、側方流出面Ｃ２１６２は、第２介設部材Ｃ２１８０の側方流出面Ｃ１８２に対して、遊技盤１３の幅方向（図１９７左右方向）における外側（矢印Ｌ方向または矢印Ｒ方向）へ位置を異ならせて形成（配置）される。よって、側方流出面Ｃ２１６２から流下される球を、第２介設部材Ｃ２１８０の側方流出面Ｃ１８２よりも外側（即ち、側方流出面Ｃ１８２へ向けて下降傾斜する第２介設部材Ｃ２１８０の上面（転動面））へ流下させることができる。従って、かかる球を、第２介設部材Ｃ２１８０の長手方向に沿って転動さ

せ易くできる。その結果、第２介設部材Ｃ２１８０の中央流出面Ｃ１８１から流下させる（即ち、第１入賞口６４へ入球（入賞）する）機会を形成して、遊技の興趣を高めることができる。

【２８２３】

振分部材Ｃ２１７０は、軸Ｃ２１７４が軸支される本体部Ｃ２１７１と、その本体部Ｃ２１７１の一側に形成される受入部Ｃ２１７２と、本体部Ｃ２１７１の上面側に形成される転動部Ｃ２１７３と、軸Ｃ２１７４を挟んで受入部Ｃ２１７２と反対側となる位置において本体部Ｃ２１７１に配設（取着）される真鍮製の錘Ｃ２１７５とを備え、軸Ｃ２１７４（軸支座部Ｃ２１３４，Ｃ２１４１ｂ）を中心として回転可能とされる。

【２８２４】

振分部材Ｃ２１７０は、その重心位置が回転中心（軸Ｃ２１７４）に対して他側（錘Ｃ２１７５が配設される側、即ち、軸Ｃ２１７４を挟んで受入部Ｃ２１７２０と反対側、図２２１右側）に偏心される。よって、無負荷状態では、振分部材Ｃ２１７０は、受入部Ｃ２１７２側が上昇され（正面視において軸Ｃ２１７４を中心として時計回りに回転され）、底面部Ｃ２１４２に回転が規制された状態（第１位置に配置された状態）とされる（図２２１参照）。

【２８２５】

一方、振分部材Ｃ２１７０の受入部Ｃ２１７２に球が受け入れられた状態では、その球の重さにより、全体としての重心位置が回転中心（軸Ｃ２１７４）に対して一側（受入部Ｃ２１７２が形成される側、即ち、軸Ｃ２１７４に対して錘Ｃ２１７５と反対側、図２２２左側）に偏心される。よって、受入部Ｃ２１７２に球を受け入れた状態では、振分部材Ｃ２１７０は、受入部Ｃ２１７２側が下降され（正面視において軸Ｃ２１７４を中心として反時計回りに回転され）、下ストッパ部Ｃ２１４５に回転が規制された状態（第２位置に配置された状態）とされる（図２２２参照）。

【２８２６】

なお、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された後、受入部Ｃ２１７２から第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ球が排出（流出）されると、振分部材Ｃ２１７０は、振分部材Ｃ２１７０の自重（重心位置の軸Ｃ２１７４からの偏心）の作用により、第１位置へ復帰される。

【２８２７】

このように、振分部材Ｃ２１７０の第１位置への変位（復帰）は、振分部材Ｃ２１７０の自重（重量）により行われるので、例えば、付勢ばねを設けて、その付勢ばねにより振分部材Ｃ２１７０を第１位置へ向けて付勢する場合と比較して、構造を簡素化できる。

【２８２８】

また、付勢ばねを利用する場合と比較して、振分部材Ｃ２１７０の第１位置への変位（復帰動作）を低速とできるので、後行する球ＣＢ２を転動部Ｃ２１７３上に到達させ易くできる。即ち、振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位（回転）を開始してから、後行する球ＣＢ２が転動部Ｃ２１７３上へ流入不能となる位置まで変位（回転）されるのに要する時間を長くできる。更に、後行する球ＣＢ２の更に後続となる第３の球も転動部Ｃ２１７３へ到達させる可能性を付与できる（図２２５から図２２７参照）。

【２８２９】

受入部Ｃ２１７２は、第１位置において第２通路ＣＲｔ２００２に対向する位置に形成される対向部Ｃ２１７２ａと、第１位置において受け入れた球を支持すると共に第２位置において通路部Ｃ２１４４へ向けて球を転動させるための転動面を形成する底面部Ｃ２１７２ｂとを備える。

【２８３０】

受入部Ｃ２１７２は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、対向部Ｃ２１７２ａが、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２の延設方向に略直交し、底面部Ｃ２１７２ｂが、対向部Ｃ２１７２ａから第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２へ向けて上昇傾斜するように形成される（図２２１参照）。

【２８３１】
ここで、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ２１７２ａが、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２の延設方向と直交する方向に対して傾斜（対向部Ｃ２１７２ａの転動部Ｃ２１７３側が底面部Ｃ２１７２ｂ側よりも第２通路ＣＲｔ２００２から離間される方向へ傾斜）されていると、対向部Ｃ２１７２ａに衝突した球が上方へ跳ね上げられて、第２通路ＣＲｔ２００２へ逆流する虞がある。
【２８３２】
これに対し、対向部Ｃ２１７２ａは、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２の延設方向に略直交されているので、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から受け入れた球を対向部Ｃ２１７２ａにより受け止めて、第３通路ＣＲｔ２００３へ逆流することを抑制できる。
【２８３３】
また、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、底面部Ｃ２１７２ｂが、対向部Ｃ２１７２ａから第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（通路部Ｃ２１４４）へ向けて下降傾斜するように形成されていると、受入部Ｃ２１７２に受け入れた球が早期に第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ流出されてしまい、球の重さを利用できなくなることで、振分部材Ｃ２１７０を第２位置に到達させられない虞がある。
【２８３４】
これに対し、底面部Ｃ２１７２ｂは、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ２１７２ａから第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２へ向けて上昇傾斜するように形成されているので、少なくとも振分部材Ｃ２１７０が第１位置から所定量だけ回転するまでの間は、底面部Ｃ２１７２ｂに球を保持しておくことができる。これにより、受入部Ｃ２１７２に受け入れた球が第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ流出されるまでの時間を遅らせることができる。その結果、球の重さを有効に利用して、振分部材Ｃ２１７０を第２位置に確実に到達させることができる。
【２８３５】
この場合、本実施形態では、底面部Ｃ２１７２ｂは、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、対向部Ｃ２１７２ａに接続される基端側（図２２１右側、矢印Ｒ方向側）の領域における上昇傾斜の角度が、対向部Ｃ２１７２ａと反対側となる先端側（図２２１左側、矢印Ｌ方向側）の領域における上昇傾斜の角度よりも大きな角度に設定される。また、言い換えると、底面部Ｃ２１７２ｂは、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態において、対向部Ｃ２１７２ａと反対側となる先端側（図２２１左側）の領域における下降傾斜の角度が、対向部Ｃ２１７２ａに接続される基端側（図２２１右側）の領域における下降傾斜の角度よりも大きな角度に設定される。
【２８３６】
よって、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ変位（回転）される初期段階では、底面部Ｃ２１７２ｂの基端側（図２２１右側）の領域における上昇傾斜を利用して、受入部Ｃ２１７２（底面部Ｃ２１７２ｂ）における球の保持を確実としつつ、後期段階では、底面部Ｃ２１７２ｂの先端側（図２２１左側）の領域における下降傾斜を利用して、通路部Ｃ２１４４（第３通路ＣＲｔ２００３）への球の排球をスムーズに行わせることができる。
【２８３７】
なお、上述した理由（第２通路ＣＲｔ２００２への逆流防止）により、対向部Ｃ２１７２ａを、転動部Ｃ２１７３側が底面部Ｃ２１７２ｂ側よりも第２通路ＣＲｔ２００２へ近接する方向へ傾斜させても良い。
【２８３８】
受入部Ｃ２１７２は、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態では、底面部Ｃ２１７２ｂが、対向部Ｃ２１７２ａから第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ向けて下降傾斜するように形成される（図２２２参照）。これにより、受入部Ｃ２１７２に

受け入れた球を、第１中間部材Ｃ２１４０の通路部Ｃ２１４４へ確実に流出させることができる。

【２８３９】

また、球が底面部Ｃ２１７２ｂを転動している間、その球の重量を振分部材Ｃ２１７０に作用させ、振分部材Ｃ２１７０を第２位置（即ち、後行する球を転動部Ｃ２１７３（第４通路ＣＲｔ４）へ案内可能な状態）を維持しやすくできる。

【２８４０】

転動部Ｃ２１７３は、受入部Ｃ２１７２（底面部２１７２ｂ）に対して軸Ｃ２１７４を挟んで反対側となる領域に形成される。即ち、受入部Ｃ２１７２に受け入れられた球の重量により振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ変位（回転）されると、その回転に伴って上方（矢印Ｕ方向）へ上昇される領域を少なくとも含む領域に転動部Ｃ２１７３が形成される。即ち、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ変位（回転）されると、転動部Ｃ２１７３の下流側が上方へ持ち上げられ、磁性部Ｃ２４００との間の距離が短縮される。よって、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）易くできる。

【２８４１】

この場合、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、転動部Ｃ２１７３が、軸Ｃ２１７４を挟んで水平方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）反対側のみに形成されていると、底面部２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３に球が流下された際に、その球の重量や落下の勢いによって、振分部材Ｃ２１７０が第１位置へ向けて回転される虞がある。よって、転動部Ｃ２１７３の高さ位置（鉛直方向位置）が下がり、磁性部Ｃ２４００との間の距離が拡大されることで、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）られない虞がある。

【２８４２】

これに対し転動部Ｃ２１７３は、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、軸Ｃ２１７４と鉛直方向において重なる範囲（領域）にわたって形成される（図２２２参照）。即ち、転動部Ｃ２１７３の上流側（第２通路ＣＲｔ２００２側）の領域は、軸Ｃ２１７４よりも水平方向一側（矢印Ｌ方向側）に位置し、その上流側を転動する球の重量を、振分部材Ｃ２１７０を第２位置に維持する方向の力として作用させることができる。

【２８４３】

よって、底面部２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３に球が流下された際に、その球の重量や落下の勢いを利用して、第２位置にある状態を維持させる方向の慣性力を振分部材Ｃ２１７０に作用させ、その慣性力の作用により第２位置にある状態を維持する方向へ振分部材Ｃ２１７０が変位（回転）しようとしている間に、球を転動部Ｃ２１７３の下流側の領域まで転動させることができる。その結果、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）易くできる。

【２８４４】

受入部Ｃ２１７２の底面部Ｃ２１７２ｂの延設長さ（球を案内する方向の長さ）は、転動部Ｃ２１７３の延設長さよりも大きな寸法に設定される。よって、転動部Ｃ２１７３を球が転動する間、同時に、受入部Ｃ２１７２の底面部Ｃ２１７２ｂを別の球が転動する状態を形成しやすくできる。即ち、転動部Ｃ２１７３を球が転動する間、受入部Ｃ２１７２の底面部Ｃ２１７２ｂに別の球の重量を振分部材Ｃ２１７０に作用させておくことができる。

【２８４５】

これにより、転動面Ｃ２１７３を球が転動する際に、その球の重量によって振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位される（転動面Ｃ２１７３の下流側が下方へ変位される）ことを抑制できる。その結果、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）易くできる。

【２８４６】

特に、受入部Ｃ２１７２の底面部Ｃ２１７２ｂは、軸Ｃ２１７４から離間する方向（軸Ｃ２１７４に直交する方向）へ延設されるので、底面部Ｃ２１７２ｂを球が転動するに従って、力の作用点（球の重量が作用する位置）と支点（回転中心）との距離を大きく（増加）させることができる。即ち、底面部Ｃ２１７２ｂを球が転動するに従って、振分部材Ｃ２１７０を第２位置へ維持し易くできる（第２位置に配置された振分部材Ｃ２１７０を第１位置へ変位（回転させる）のに必要な力を大きくできる）。

【２８４７】

これにより、転動面Ｃ２１７３を球が転動する際に、その球の重量によって振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位される（転動面Ｃ２１７３の下流側が下方へ変位される）ことを抑制できる。その結果、転動部Ｃ２１７３を転動する球を磁性部Ｃ２４００に飛び移らせ（吸着させ）易くできる。

【２８４８】

ここで、振分部材Ｃ２１７０は、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から受入部Ｃ２１７２へ向けて球が転動する方向（受入部Ｃ２１７２が球を受け入れる方向、矢印Ｒ方向）と、受入部Ｃ２１７２を球が転動する方向（受け入れた球を転動させる方向、矢印Ｌ方向）とが逆方向とされる。即ち、受入部Ｃ２１７２において、球の流下（転動）方向を反転（方向転換）させる構成とされる。

【２８４９】

これにより、受入部Ｃ２１７２が球を受け入れる方向と受入部Ｃ２１７２を球が転動する方向とが同方向とされる場合と比較して、反転に要する時間の分、球が振分部材Ｃ２１７０（受入部Ｃ２１７２）に滞留する時間を確保でき、その受入部Ｃ２１７２に滞留される球の重量を利用して振分部材Ｃ２１７０を第２位置に維持し易くできる。その結果、転動部Ｃ２１７３において球を安定して転動させることができる。

【２８５０】

転動部Ｃ２１７３は、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）を転動する球を、磁性部Ｃ２４００（第４通路ＣＲｔ２００４）へ案内する（振り分ける）ための部位であり、振分部材Ｃ２１７０が第２位置へ配置された状態において、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）の下流端と、磁性部Ｃ２４００（第４通路ＣＲｔ２００４）の上流端との間に位置（架設）される。

【２８５１】

上述したように、転動部Ｃ２１７３は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置と第２位置との間で変位（回転）されることで、その上面（転動面）の高さ位置が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ）方向へ変位（昇降）される。これにより、転動部Ｃ２１７３を磁性部Ｃ２４００よりも下方となる位置に配置できる。

【２８５２】

その結果、振分部材Ｃ２１７０を第２位置に配置して、転動部Ｃ２１７３を上方へ変位（上昇）させることで、磁性部Ｃ２４００に近づけて、重力の作用に抗して、球を吸着させ易くできる一方、振分部材Ｃ２１７０を第１位置に配置して、転動部Ｃ２１７３を下方へ変位（上昇）させることで、磁性部Ｃ２４００から離間させて、重力の作用も利用して、球を吸着させない態様を確実に形成できる。

【２８５３】

転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）と受入部Ｃ２１７２の対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分は、上流側（第１中間部材Ｃ２１４０（第２通路ＣＲｔ２００２）側、矢印Ｌ方向）へ向けて突出される鋭角な突部形状に形成される。この突部形状の部位が球ＣＢ１と球ＣＢ２との間に挿入されることで、両球（球ＣＢ１，ＣＢ２）を切り離すことができる。

【２８５４】

振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）における高さ位置に対し、転動部Ｃ２１７３（転動面）の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）における高さ位置が、鉛直方向

下方（矢印Ｄ方向）に位置される。即ち、底面部Ｃ２１４２の下流端と転動部Ｃ２１７３の上流端との間には段差が形成され、第２位置に配置された振分部材Ｃ１７０が第１位置へ向けて所定量（所定回転角）だけ変位（回転）された場合に、底面部Ｃ２１４２の下流端と転動部Ｃ２１７３の上流端とが同一の高さ位置に配置される。

【２８５５】

ここで、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）を転動する球が受入部Ｃ２１７２へ流入されると、その球の重量で振分部材Ｃ２１７０が第１位置から下方へ変位（回転）され、振分部材Ｃ２１７０の下面が下ストッパ部Ｃ２１４５に当接されることで、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置される。

【２８５６】

この場合、下ストッパ部Ｃ２１４５に下面が衝突した際の衝撃で振分部材Ｃ２１７０が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上げられる虞があり、振分部材Ｃ２１７０の上方への跳ね上がりにより、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端における高さ位置に対し、転動部Ｃ２１７３（転動面）の上流端における高さ位置が、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に位置されると、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ球を流入（転動）させることができなくなる虞がある。

【２８５７】

特に、上方へ跳ね上げられた振分部材Ｃ２１７０（転動部Ｃ２１７３の上流側の端面）に球が衝突し、その球の衝突による衝撃で振分部材Ｃ２１７０が更に上方へ跳ね上げられると（球により振分部材Ｃ２１７０が更に上方へ押し上げられると）、その球が、本来は転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）されるべき球であったにも関わらず、受入部Ｃ２１７２に流入される（受け入れられる）される虞がある。

【２８５８】

これに対し、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態では、上述したように、底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端と転動部Ｃ２１７３（転動面）の上流端との間には段差が形成されるので、衝撃により振分部材Ｃ２１７０が上方へ跳ね上げられた場合でも、両者の間の段差の分、底面部Ｃ２１４２の下流端よりも転動部Ｃ２１７３の上流端が鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に位置することを抑制できる。即ち、両者の段差の分だけ、振分部材Ｃ２１７０が上方へ跳ね上げられることを許容できる。よって、転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）されるべき球（先行の球ＣＢ１との間の間隔が所定量以下とされる後行の球ＣＢ２）を、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）させ易くできる。

【２８５９】

なお、第５３実施形態の場合と同様に、転動部Ｃ２１７３の上流側の端面（第１中間部材Ｃ２１４０に対向する側の面、矢印Ｌ方向側の面）を、転動部Ｃ２１７３から第１中間部材Ｃ２１４０（底面部Ｃ２１４２）へ向けて下降傾斜させても良い。即ち、転動部Ｃ２１７３の上流側の端面を、転動部Ｃ２１７３の転動面側の縁部よりも、受入部Ｃ２１７２（対向部Ｃ２１７２ａ）側の縁部の方が、第１中間部材Ｃ２１４０に近接される断面形状としても良い。

【２８６０】

これにより、上方へ跳ね上げられた振分部材Ｃ２１７０（転動部Ｃ２１７３の上流側の端面）に球が衝突した場合には、その球から振分部材Ｃ２１７０（転動部Ｃ２１７３の上流側の端面）に作用する力の方向を、振分部材Ｃ２１７０を下方へ押し下げる方向の力とすることができる。その結果、転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）されるべき球（先行の球ＣＢ１との間の間隔が所定量以下とされる後行の球ＣＢ２）を、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ流入（転動）させ易くできる。

【２８６１】

磁性部Ｃ２４００は、金属製の長尺板状体であり、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設された磁石Ｃ２３００から作用する磁力を利用して、球を吸着可能とされる。なお、磁石Ｃ

２３００は、磁性部Ｃ２４００の長手方向に沿って複数が配列される。
【２８６２】
振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ球が流下されると、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）を転動した球が、転動部Ｃ２１７３の下流端から磁性部Ｃ２４００の上流端へ飛び付く。即ち、磁性部Ｃ２４００の下縁（正面（矢印Ｆ方向の面）と下面（矢印Ｄ方向の面）とが交差して形成される稜線）に吸着される（図２２８参照）。磁性部Ｃ２４００に吸着された球は、飛び付き（転動）による球の勢いと、磁性部Ｃ２４００の下降傾斜による重力の作用により、磁性部Ｃ２４００の下縁（長手方向）に沿って移動される。
【２８６３】
この場合、球の状態（振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７３から磁性部Ｃ２４００へ飛び付く際の球の速度や球の位置、球の回転状態など）に応じて、磁性部Ｃ２４００の下縁から球が落下する可能性（終端まで球が到達できない可能性）を持たせた不安定な状態を形成できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【２８６４】
特に、磁性部Ｃ２４００（第４通路ＣＲｔ２００４）は、振分部材Ｃ２１７０と第５通路ＣＲｔ２００５との間の通路を形成するので、遊技の興趣を高めることができる。即ち、振分部材Ｃ２１７０によって第４通路ＣＲｔ２００４に振り分けられる球は、先行する球ＣＢ１との間の距離が所定量より小さい状態（即ち、先行する球ＣＢ１と連なった状態）で第２通路ＣＲｔ２００２を流下（転動）する球（後行する球ＣＢ２）だけであり、かかる後行する球Ｂ２が発生する可能性は比較的低い。そのような低い可能性を経て振分部材Ｃ２１７０に到達した球（後行する球Ｂ２）を、落下する可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）がある不安定な状態で変位させることで、無事に通過することを遊技者に期待させて、遊技の興趣を向上できる。
【２８６５】
磁性部Ｃ２４００の厚み寸法は、球の直径よりも小さい値（本実施形態では、球の直径の６％）に設定される。よって、磁性部Ｃ２４００の下縁に外面点ＣＰ１が吸着された球は、位置ＣＰ１よりも下方となる位置の外面点ＣＰ２が本体部Ｃ２１３１の正面に当接される。この場合、球の重心は、外面点ＣＰ２よりも本体部Ｃ２１３１の正面から離れて位置するので、球の自重（重心に作用する重力）が、外面点ＣＰ１を支点として、外面点ＣＰ２を本体部２１３１の正面に押し当てる方向の力（即ち、図２２８において外面点ＣＰ１を中心として球を右回り（時計まわり）に回転させる力）として作用される（図２２８参照）。
【２８６６】
これにより、磁性部Ｃ２４００に球が吸着されると、かかる球を、外面点ＣＰ１と外面点ＣＰ２との２点で支持することができ、その結果、磁性部Ｃ２４００の下縁（長手方向）に沿った球の移動を安定化できる。また、外面点ＣＰ２における本体部２１３１の正面との間の摩擦抵抗を利用して、球の移動速度を緩やか（低速化）することができる。よって、これによっても、球の移動を安定化できると共に、第４通路ＣＲｔ２００４の通過に要する時間を嵩ませて、球が落下せずに第５通路ＣＲｔ２００５に到達することを期待する遊技者の興趣を向上させることができる。
【２８６７】
このように、背面部材Ｃ２１３０の本体部ｃ２１３１を挟んで、磁石Ｃ２３００と磁性部Ｃ２４００を配設し、磁性部Ｃ２４００に沿って球を移動（摺動）させる構成とすることで、吸着力の調整と摩擦力の適正化とを容易としつつ、球の通過経路を簡素な構造で形成できる。
【２８６８】
第２介設部材Ｃ２１８０は、第６通路ＣＲｔ２００６における球の転動面を形成する部材であり、正面部材Ｃ２１１０と第１中間部材Ｃ２１４０及び第１介設部材Ｃ２１６０と

の対向間に介設される。即ち、正面部材Ｃ２１１０と第１中間部材Ｃ２１４０及び第１介設部材Ｃ２１６０と第２介設部材Ｃ２１８０に区画された空間により第６通路ＣＲｔ２００６が形成される。

【２８６９】

第２介設部材Ｃ２１８０の上面（転動面）には、上述したように、第２介設部材Ｃ２１８０（第６通路ＣＲｔ２００６）を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｃ１８１及び側方流出面Ｃ１８２）が形成される。また、第６通路ＣＲｔ２００６の上面（転動面）には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｃ１８２が配置される一方、起伏の頂部に中央流出面Ｃ１８１が配置される。

【２８７０】

なお、正面部材Ｃ２１１０の正面部Ｃ１１１の上縁（矢印Ｕ方向の縁部）は、中央流出面Ｃ１８１及び側方流出面Ｃ１８２が形成される領域を除き、第２介設部材Ｃ２１８０の上面（転動面）よりも上方（矢印Ｕ方向）へ突出される。即ち、第２介設部材Ｃ２１８０の上面（転動面）を転動する球は、中央流出面Ｃ１８１又は側方流出面Ｃ１８２からのみ遊技領域へ流出（流下）される。

【２８７１】

第２介設部材Ｃ２１８０の底面には、凹部Ｃ１８３が凹設され、上述したように、かかる凹部Ｃ１８３と正面部材Ｃ２１１０の底面部Ｃ１１２との対向間に第５通路ＣＲｔ２００５の一部が形成される。

【２８７２】

迂回部材Ｃ２２００は、板状の本体部Ｃ２２０１と、その本体部Ｃ２２０１の正面（矢印Ｆ方向側の面）から立設される壁面部Ｃ２２０２と、その壁面部Ｃ２２０２の一部を正面側へ更に延設して形成される樋部Ｃ２２０３とを備え、開口Ｃ２１３１ａに対向する位置において、背面部材Ｃ２１３０の背面側に配設される。

【２８７３】

迂回部材Ｃ２２００が背面部材Ｃ２１３０に配設された状態では、壁面部Ｃ２２０２の立設先端（矢印Ｆ方向側）が背面部材Ｃ２１３０（本体部Ｃ２１３１）の背面に当接され、且つ、樋部Ｃ２２０３の立設先端（矢印Ｆ方向側）が第２介設部材Ｃ２１８０の背面に当接されると共に、樋部Ｃ２２０３の縁部が第１介設部材Ｃ２１６０の底面に当接される。

【２８７４】

これにより、背面部材Ｃ２１３０（本体部Ｃ２１３１）と迂回部材Ｃ２２００（本体部Ｃ２２０１及び壁面部Ｃ２２０２）とに区画された空間、及び、第１介設部材Ｃ２１６０と迂回部材Ｃ２２００（樋部Ｃ２２０３）とに区画された空間により第５通路ＣＲｔ２００５の一部が形成される（図２２３及び図２２４参照）。

【２８７５】

なお、樋部Ｃ２２０３は、背面部材Ｃ２１３０側から第２介設部材Ｃ２１８０側へ向けて下降傾斜される。よって、背面部材Ｃ２１３０の開口Ｃ２１３１ａから迂回部材Ｃ２２００内へ流入された球を樋部Ｃ２２０３上を転動させて、正面部材Ｃ２１１０の底面部Ｃ１１２と第２介設部材Ｃ２１８０（凹部Ｃ１８３）との間に形成される第５通路ＣＲｔ２００５へ流入させることができる。

【２８７６】

次いで、振分部材Ｃ２１７０による球の振り分け動作について説明する。図２２５から図２２７は、振分部材Ｃ２１７０による球の振り分け動作の遷移を示す下側フレームＣ２０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２１７のＣＣＸＸＩ－ＣＣＸＸＩ線における断面に対応する。図２２８は、図２２７（ｂ）のＣＣＸＸＶＩＩＩ－ＣＣＸＸＶＩＩＩ線における下側フレームＣ２０８６ｂの部分拡大断面図である。

【２８７７】

なお、図２２５（ａ）及び図２２５（ｂ）は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置さ

れた状態を示し、図２２１に対応する。図２２７（ａ）及び図２２７（ｂ）は、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態を示し、図２２２に対応する。

【２８７８】

図２２５（ａ）に示すように、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、受入部Ｃ２１７２は、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２を転動する球ＣＢ１を受け入れ可能（球ＣＢ１が流入可能）な位置に配置される。

【２８７９】

即ち、受入部Ｃ２１７２は、底面部Ｃ２１４２（転動面）を延長した延長線と交差する位置に対向部Ｃ２１７２ａが配置され、底面部Ｃ２１４２（転動面）を延長した延長線よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）となる位置に底面部Ｃ２１７２ｂが配置される。

【２８８０】

なお、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部、転動部Ｃ２１７３と対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分）との間の間隔が、球の直径よりも大きな寸法（球が通過可能な寸法）に設定される。

【２８８１】

一方、転動部Ｃ２１７３は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２を転動する球ＣＢ１を受け入れ不能（球ＣＢ１が流入不能）な位置に配置される。

【２８８２】

即ち、転動部Ｃ２１７３は、底面部Ｃ２１４２（転動面）を延長した延長線よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）となる位置（一段高い位置）に底面部Ｃ２１７２ｂが配置される。なお、転動部Ｃ２１７３と、底面部Ｃ２１４２（転動面）を延長した延長線との間の鉛直方向における間隔（段差の高さ）は、球の半径よりも大きな寸法に設定される。これにより、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７２ｂに流入することを抑制できる。

【２８８３】

なお、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、第１中間部材Ｃ２１４０の天面部Ｃ２１４３の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部）との間の間隔が、球の直径よりも大きな寸法（球が通過可能な寸法）に設定される。これにより、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７２ｂに流入することを許容できる。

【２８８４】

この場合、振分部材Ｃ２１７０が第１位置にある状態では、転動部Ｃ２１７３が、水平方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、軸Ｃ２１７４を挟んで、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）と反対側に位置し、且つ、底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から離間する方向（矢印Ｒ方向）へ向かって下降傾斜される。

【２８８５】

よって、球が段差を乗り越えて、第１位置にある振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７２ｂに流入したとしても、かかる球により、振分部材Ｃ２１７０が第２位置へ向けて回転される（即ち、転動部Ｃ２１７３が上方へ持ち上げられる）ことを抑制できると共に、転動部Ｃ２１７３の下降傾斜に沿って球を第２中間部材２１５０側（第６通路ＣＲｔ２００６）へ落下させることができる。その結果、段差を乗り越えた球が磁性部Ｃ２４００に飛び付いて（吸着されて）、第４通路ＣＲｔ２００４を流下する（第５通路ＣＲｔ２００５へ到達する）ことを抑制できる。

【２８８６】

但し、段差を乗り越えた球が磁性部Ｃ２４００に飛び付く（吸着される）ことが可能な位置に磁性部Ｃ２４００が配設されていても良い。即ち、球ＣＢ１，ＣＢ２の間の間隔が比較的小さく、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付き、球ＣＢ２が球ＣＢ１を乗り越える場合に、球ＣＢ２が磁性部Ｃ２４００に飛び付き（吸着）可能な位置に磁性部Ｃ２４００が配設

されていても良い。球ＣＢ２は、本来は、第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分けられるべき球であるので、かかる球が第２中間部材２１５０側（第６通路ＣＲｔ２００６）へ落下されることを抑制して、遊技者に不利になることを抑制できる。

【２８８７】

第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２を球ＣＢ１（先行する球）と球ＣＢ２（先行する球との間に所定の間隔を隔てて後行する球）とが転動する場合、図２２５（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が振分部材Ｃ２１７０の受入部Ｃ２１７２に流入され（受け入れられ）、球ＣＢ１は、対向部Ｃ２１７２ａに当接され（受け止められ）、受入部Ｃ２１７２に保持される。

【２８８８】

また、球ＣＢ１，ＣＢ２の間の間隔が比較的小さい場合には、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付き、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接される。これにより、球ＣＢ２を球ＣＢ１の後方（上流側）に待機させることができる。

【２８８９】

図２２５（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が受入部Ｃ２１７２に受け入れられると、図２２６（ａ）に示すように、球ＣＢ１の重量により振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）される。また、球ＣＢ２が球ＣＢ１に追い付いている場合には、その球ＣＢ２の重量も振分部材Ｃ２１７０に作用される。

【２８９０】

ここで、受入部Ｃ２１７２は、対向部Ｃ２１７２ａの底面部Ｃ２１７２ｂに連結される側の領域と、底面部Ｃ２１７２ｂの対向部Ｃ２１７２ａに連結される側の領域とが、即ち、対向部Ｃ２１７２ａと底面部Ｃ２１７２ｂとの連結部分が、軸Ｃ２１７４側へ向けて凸となり球の外形と略同一形状（球と略同径）となる円弧状に湾曲して形成され、その円弧状に湾曲した部分により球を保持可能とされる。

【２８９１】

また、振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂの転動面における上流側（矢印Ｒ方向側）の領域）と第１中間部材Ｃ２１４０（底面部Ｃ２１４２の下流側（矢印Ｒ方向側）の端部）との間の間隔は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置に配置された状態では、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定され、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）されることで、漸次拡大される。

【２８９２】

即ち、振分部材Ｃ２１７０が第１位置と第２位置との間の所定中間位置（図２２６（ａ）と図２２６（ｂ）との間の位置）まで変位（回転）されると、上述の振分部材Ｃ２１７０（底面部Ｃ２１７２ｂの転動面における上流側（矢印Ｒ方向側）の領域）と第１中間部材Ｃ２１４０（底面部Ｃ２１４２の下流側（矢印Ｒ方向側）の端部）との間の間隔が球の直径と略同一の寸法（球が通過可能な寸法）まで拡大され、振分部材Ｃ２１７０が所定中間位置から第２位置へ向けて更に変位（回転）されると、上述した間隔が、更に拡大され、第２位置において最大の間隔が形成される。

【２８９３】

よって、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から所定中間位置まで変位（回転）される間は、受入部Ｃ２１７２に球ＣＢ１を受け入れた状態が維持される。即ち、振分部材Ｃ２１７０は、第１位置から所定中間位置までの間は、受入部Ｃ２１７２に球ＣＢ１を受け入れた状態で変位（回転）される。これにより、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接された状態を維持して、球ＣＢ２が底面部Ｃ２１４２の下流端に位置する状態を維持できる。

【２８９４】

この場合、底面部Ｃ２１４２（転動面）の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部、対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分）との間の間隔は、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）されることで、漸次縮小され、振分部材Ｃ２１７０が所定中間位置に到達する前に、球の直径よりも小さな寸法（球が通過不能な寸法）に設定される。よって、球ＣＢ２が受入部Ｃ２１７２へ流

入する（受け入れられる）ことを抑制できる。
【２８９５】
また、振分部材Ｃ２１７０が第１位置から第２位置へ向けて変位（回転）される場合、受入部Ｃ２１７２（対向部Ｃ２１７２ａと底面部Ｃ２１７２ｂとの連結部分）に保持された球ＣＢ１の軌跡の外縁（軸Ｃ２１７４と反対側の外縁）よりも、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部、対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分）の軌跡が、軸Ｃ２１７４に近い側を通過するように構成される。
【２８９６】
よって、球ＣＢ２が球ＣＢ１に当接された状態を維持して、球ＣＢ２が底面部Ｃ２１４２の下流端に位置する状態を維持できると共に、転動部Ｃ２１７３の上流端（矢印Ｌ方向側の端部、対向部Ｃ２１７２ａとの連結部分）により球ＣＢ２を押し戻す（押し返す）ことができる。即ち、転動部Ｃ２１７３の上流端を球ＣＢ１と球ＣＢ２との間に挿入して、両球を切り離すことができる。よって、球ＣＢ２が受入部Ｃ２１７２へ流入される（受け入れられる）ことを抑制できる。また、球ＣＢ２を徐々に転動部Ｃ２１７３へ転動させ、その後の転動を安定させることができる。
【２８９７】
図２２６（ａ）に示す状態から振分部材Ｃ２１７０が第２位置へ向けて更に変位（回転）されると、図２２６（ｂ）に示すように、球ＣＢ１が通路部Ｃ２１４４へ向けて底面部Ｃ２１７２ｂを転動されると共に、球ＣＢ２が転動部Ｃ２１７３に流下される（転動部Ｃ２１７３に受け入れられる）。
【２８９８】
図２２７（ａ）及び図２２７（ｂ）に示すように、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置されると、球ＣＢ１が受入部Ｃ２１７２から通路部Ｃ２１４４（第３通路ＣＲｔ２００３）へ流入されると共に、転動部Ｃ２１７３を転動した球ＣＢ２が、磁性部Ｃ２４００に飛び移り（吸着され）、第４通路ＣＲｔ２００４へ流入される。
【２８９９】
球ＣＢ１，ＣＢ２が第３通路ＣＲｔ２００３及び第４通路ＣＲｔ２００４へ流入された後は、振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置へ向けて自重により復帰（変位）される。
【２９００】
なお、振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態で、或いは、振分部材Ｃ２１７０が第２位置から第１位置への変位（回転）を開始した後であっても、第３の球が転動部Ｃ２１７３到達し、その転動部Ｃ２１７３の転動面に流入した場合には、第３の球が転動部Ｃ２１７３を転動する。この場合、球ＣＢ１が受入部Ｃ２１７２（底面部Ｃ２１７２ｂ）上にあるか否か、第３の球の転動速度（勢い）などに起因して、第２中間部材２１５０側（第６通路ＣＲｔ２００６）へ落下されるか、磁性部Ｃ２４００に飛び移り（吸着され）、第４通路ＣＲｔ２００４へ流入されるかが決定される。即ち、２つの状態を形成可能とできる。
【２９０１】
なお、振分部材Ｃ２１７０は、１球の重量のみで、第１位置から第２位置まで変位（回転）可能に構成される。よって、球ＣＢ１と球ＣＢ２との間隔が所定量よりも大きな場合には、これら球ＣＢ１及び球ＣＢ２の両球が、受入部Ｃ２１７２に順に受け入れられ、それぞれ上述した振り分け動作を経て第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分けられる。
【２９０２】
以上のように、第５４実施形態における下側フレームＣ２０８６ｂによれば、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量以下の間隔を隔てて連なる場合には、球ＣＢ１を第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分け（案内し）、且つ、球ＣＢ１の重量で第２位置へ変位される振分部材Ｃ２１７０により球ＣＢ２を上方へ持ち上げて第４通路ＣＲｔ２００４へ振り分ける（案内する）ことができる一方、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、両球（球ＣＢ１及び球ＣＢ２）を第３通路ＣＲｔ２００３へ振り分ける（案内す

る）ことができる。このように、球ＣＢ１，ＣＢ２の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔が所定量を超えるか否か）に応じて案内する通路を変化させられるので、興趣の向上を図ることができる。

【２９０３】

次いで、図２２９から図２３２を参照して、第５５実施形態におけるセンターフレームＣ３０８６について説明する。

【２９０４】

上記第５３実施形態では、振分部材Ｃ１７０が回転される場合を説明したが、第５４実施形態における振分部材Ｃ３１７０は、スライド変位される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２９０５】

図２２９及び図２３１は、第５５実施形態における下側フレームＣ３０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２３０及び図２３２は、下側フレームＣ３０８６ｂの背面図である。なお、図２２９及び図２３０では、振分部材Ｃ３１７０が第１位置に配置された状態が、図２３１及び図２３２では、振分部材Ｃ３１７０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。また、図２２９及び図２３１は、図２０２のＣＣＶＩ－ＣＣＶＩ線における断面に対応する。

【２９０６】

ここで、第５５実施形態における下側フレームＣ３０８６ｂは、第５３実施形態における下側フレームＣ８６ｂに対し、振分部材Ｃ３１７０を変位させる構造および振分部材Ｃ３１７０に装飾部材Ｃ３１９０を連動ささせる構造が異なる点を除き、その他の構成は同一に構成される。

【２９０７】

図２２９から図２３２に示すように、背面部材Ｃ３１３０の本体部Ｃ１３１には、直線状の２本の案内溝Ｃ３１３１ｃが互いに平行な姿勢で上下方向に沿って延設される。これら２本の案内溝Ｃ３１３１ｃは、下方側（矢印Ｄ方向側）ほど第１中間部材Ｃ１４０に近接する方向に傾斜する姿勢で配設される。

【２９０８】

即ち、第２位置における振分部材Ｃ３１７０の水平方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）位置は、第１位置における振分部材Ｃ３１７０の水平方向位置よりも中間部材Ｃ１４０に近接する側（矢印Ｌ側）に位置されるる。

【２９０９】

振分部材Ｃ３１７０には、上下一対を一組とする合計４本の軸Ｃ３１７１ａが本体部Ｃ３１７１の背面から突出される。軸Ｃ３１７１ａは、案内溝Ｃ３１３１ｃに摺動可能に挿通される被案内部であり、かかる軸Ｃ３１７１ａが案内溝Ｃ３１３１ｃに沿って摺動されることで、振分部材Ｃ３１７０が第１位置と第２位置との間をスライド変位（直動）される。

【２９１０】

左右の案内溝Ｃ３１３１ｃには、軸Ｃ３１７１ａが一組ずつ配設される。よって、振分部材Ｃ３１７０は、回転による姿勢の変化を生じさせずに（即ち、底面部Ｃ１７２ｂ及び転動部Ｃ１７３の傾斜角度を一定に維持させたまま）、第１位置と第２位置との間をスライド変位可能とされる。

【２９１１】

なお、案内溝Ｃ３１３１ｃに挿通された軸Ｃ３１７１ａの先端には、案内溝Ｃ３１３１ｃの溝幅よりも大径のカラーＣＷが配設され、かかるカラーＣＷが、軸Ｃ３１７１ａが案内溝Ｃ３１３１ｃから抜け出ることを規制する抜け止めとされる。

【２９１２】

振分部材Ｃ３１７０は、案内溝Ｃ３１３１ｃの上端（矢印Ｕ方向の端部）に軸ｃ３１７１ａが当接して、上方への変位が規制されることで、第１位置に規定（配置）され（図２２９及び図２３０参照）、振分部材Ｃ３１７０の下面に下ストッパ部Ｃ１３２が当接して

、下方への変位が規制されることで、第２位置に規定（配置）される（図２３１及び図２３２参照）。

【２９１３】

装飾部材Ｃ３１９０は、本体部Ｃ１９１と一体に形成され、軸Ｃ１９２を中心として径方向外方へ延設されるアーム部Ｃ３１９３を備え、アーム部Ｃ３１９３には、直線状の案内溝Ｃ３１９３ａが軸Ｃ１９２を中心とする径方向に沿って延設される。案内溝Ｃ３１９３ａには、軸Ｃ３１７１ａが摺動可能に挿通される。

【２９１４】

装飾部材Ｃ３１９０は、その重心位置が回転中心（軸Ｃ１９２）に対して一側（軸Ｃ１９２を挟んで振分部材Ｃ３１７０と反対側、図２３０左側）に偏心される。よって、無負荷状態では、装飾部材Ｃ３１９０は、アーム部Ｃ３１９３を上方へ持ち上げた姿勢とされ（背面視において軸Ｃ１９２を中心として反時計回りに回転され、図２３０参照）、振分部材Ｃ３１７０は、アーム部Ｃ３１９３により軸Ｃ３１７１ａが上方へ押し上げられることで、第１位置に配置された状態とされる（図２２９及び図２３０参照）。

【２９１５】

一方、振分部材Ｃ３１７０の受入部Ｃ１７２に球が受け入れられた状態では、その球の重さにより、振分部材Ｃ３１７０及び装飾部材Ｃ３１９０全体としての重心位置が回転中心（軸Ｃ１９２）に対して他側（軸Ｃ１９２に対して振分部材Ｃ３１７０が配設される側、図２３２右側）に偏心される。即ち、受入部Ｃ１７２に球を受け入れた状態では、振分部材Ｃ３１７０は、球の重量により案内溝Ｃ３１３１ｃに沿って下降され、第２位置に配置される。また、装飾部材Ｃ３１９０は、アーム部Ｃ３１９３が軸Ｃ３１７１ａにより下方へ押し下げられ、背面視において軸Ｃ１９２を中心として時計回りに回転された状態とされる（図２３２参照）。

【２９１６】

第２位置において、受入部Ｃ１７２から通路部Ｃ１４４へ球が排球されると、装飾部材Ｃ３１９０が、その重心位置の偏心を利用して、背面視において軸Ｃ１９２を中心として反時計回りに回転され、アーム部Ｃ３１９３を上方へ持ち上げた姿勢とされる。これに伴い、アーム部Ｃ３１９３により軸Ｃ３１７１ａが上方へ押し上げられることで、振分部材Ｃ３１７０が第１位置に配置（復帰）される（図２２９及び図２３０参照）。

【２９１７】

振分部材Ｃ３１７０が第１位置と第２位置との間でスライド変位されることによる球ＣＢ１及び球ＣＢ２の振り分け動作については、上述した第５３実施形態の場合と同様であるので、その説明は省略する。

【２９１８】

以上のように、第５５実施形態における下側フレームＣ３０８６ｂによれば、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量以下（両球が密着する間隔が０の場合を含む）の間隔を隔てて連なる場合には、球ＣＢ１を第４通路ＣＲｔ４へ振り分け（案内し）、且つ、球ＣＢ１の重量で第２位置へ変位される振分部材Ｃ１７０により球ＣＢ２を第５通路ＣＲｔ５へ振り分ける（案内する）ことができる一方、球ＣＢ１と球ＣＢ２とが所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、両球（球ＣＢ１及び球ＣＢ２）を第４通路ＣＲｔ４へ振り分ける（案内する）ことができる。このように、球ＣＢ１，ＣＢ２の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔が所定量を超えるか否か）に応じて案内する通路を変化させられるので、興趣の向上を図ることができる。

【２９１９】

ここで、第５３実施形態の場合のように、振分部材Ｃ１７０が軸Ｃ１９２を中心として回転される構造では、受入部Ｃ１７２の変位量を確保する（第３通路ＣＲｔ３に対面する位置と第４通路ＣＲｔ４に対面する位置との間を変位可能とする）ために、軸Ｃ１９２と受入部Ｃ１７２との間の長さ（距離）を大きくする必要があり、幅方向（軸Ｃ１９２と受入部Ｃ１７２とを結ぶ方向）における振分部材Ｃ１７０の大型化を招く。

【２９２０】

これに対し、本実施形態では、振分部材Ｃ３１７０を上下方向にスライド変位させるので、受入部Ｃ１７２の変位量を確保（即ち、第３通路ＣＲｔ３に対面する位置と第４通路ＣＲｔ４に対面する位置との間を変位可能と）しつつ、回転中心（軸Ｃ１９２）と受入部Ｃ１７２とを連結する部位を設ける必要がない分、幅方向における振分部材Ｃ３１７０の小型化を図ることができる。即ち、振分部材Ｃ３１７０の幅方向の寸法を、転動部Ｃ１７３の転動面の長さ寸法（矢印Ｌ－Ｒ方向寸法）とすることができる。

【２９２１】

次いで、図２３３を参照して、第５６実施形態における皿部材Ｃ４１２０について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２９２２】

図２３３（ａ）は、第５６実施形態における皿部材Ｃ４１２０の上面図であり、図２３３（ｂ）は、図２３３（ａ）のＣＣＸＸＸＩＩＩｂ－ＣＣＸＸＸＩＩＩｂ線における皿部材Ｃ４１２０の断面図であり、図２３３（ｃ）は、図２３３（ａ）のＣＣＸＸＸＩＩＩｃ－ＣＣＸＸＸＩＩＩｃ線における皿部材Ｃ４１２０の断面図である。

【２９２３】

皿部材Ｃ４１２０は、通路の底面を形成する上側底面部Ｃ４１２１及び下側底面部Ｃ４１２２と、通路の側壁を形成する上側側壁部Ｃ４１２３及び下側側壁部Ｃ４１２４を備える。

【２９２４】

上側底面部Ｃ４１２１は、上面視において略直線状の通路（第１通路ＣＲｔ４００１）として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設されると共に、下側底面部Ｃ４１２２へ近接する方向（矢印Ｒ方向）へ向けて下降傾斜して形成される。

【２９２５】

上側側壁部Ｃ４１２３は、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）の通路幅を区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。但し、通路幅は、複数の球を並列の状態で案内可能な寸法（球の２倍よりも大きい寸法）であっても良い。

【２９２６】

上側側壁部Ｃ４１２３には、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）の下流側の端部に切り欠き部Ｃ４１２３ａが切り欠き形成され、この切り欠き部ｃ４１２３ａを介して、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）から下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）へ球が流下可能とされる。

【２９２７】

下側底面部Ｃ４１２２は、上面視において、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設され、その延設方向一端側および他端側における形状が略直線状の直線部Ｃ４１２２ａと、それら一対の直線部Ｃ４１２２ａの間において、上面視において、流出面Ｃ１２２ａ側が凹となる円弧状に湾曲する円弧部Ｃ４１２２ｂとから形成される。なお、円弧部Ｃ４１２２ｂは、前後方向の略中央において、上側底面部Ｃ４１２１の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）上流側（矢印Ｌ方向側）へ最も張り出した形状とされる。

【２９２８】

また、下側底面部Ｃ４１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、一対の直線部Ｃ４１２２ａでは円弧部Ｃ４１２２ｂへ向かうにつれて鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて下降傾斜する平面として形成され、円弧部Ｃ４１２２ｂでは略水平に形成される。即ち、円弧部Ｃ４１２２ｂの上面（転動面）は、鉛直方向に直交する平面として形成される。

【２９２９】

下側側壁部Ｃ４１２４は、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）の長手方向（球を案内する方向）における一端側および他端側の端部と、下側底面部Ｃ４１２２（

第２通路ＣＲｔ４００２）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。

【２９３０】

下側底面部Ｃ４１２２の直線部Ｃ４１２２ａは、上面視において、上側底面部Ｃ４１２１に対し、略直交して配設され、上側底面部Ｃ４１２１の下流端（矢印Ｒ方向側の端部）と下側底面部Ｃ４１２２の長手方向における一端側（矢印Ｂ方向側の端部、直線部Ｃ４１２２ａの上昇傾斜側）とが隣り合う位置に配設される。

【２９３１】

上側側壁部Ｃ４１２３における切り欠き部Ｃ４１２３ａに対応する位置では、下側側壁部Ｃ４１２４が非形成とされ、上述したように、切り欠き部Ｃ４１２３ａを介して、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）から下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）へ球が流下可能とされる。

【２９３２】

円弧部Ｃ４１２２ｂの内径側（上面視における円弧の中心側、矢印Ｒ方向側）における下側側壁部Ｃ４１２４には、円弧部Ｃ４１２２ｂの前後方向の略中央（湾曲形状の矢印Ｌ方向に最も張り出した位置）に切り欠き部Ｃ１２４ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｃ１２４ａを介して、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）から底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３、図２０６参照）へ球が流下可能とされる。

【２９３３】

下側底面部Ｃ４１２２は、上述したように、一対の直線部Ｃ４１２２ａ及び円弧部Ｃ４１２２ｂから形成され、直線部Ｃ４１２２ａの上昇傾斜側（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向における一端側）に上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）から球が流下されるので、かかる流下された球を、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）の長手方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、切り欠き部Ｃ１２４ａから底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３、図２０６参照）へ球を流下させることができる。

【２９３４】

これにより、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側底面部Ｃ４１２１（第１通路ＣＲｔ４００１）から下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）へ流入する場合に、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。

【２９３５】

下側底面部Ｃ４１２２の円弧部Ｃ４１２２ｂには、切り欠き部Ｃ１２４ａに対応する位置（即ち、円弧部Ｃ４１２２ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における略中央（湾曲形状の矢印Ｌ方向に最も張り出した位置）に流出面Ｃ１２２ａが凹設される。流出面Ｃ１２２ａは、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）を案内される球を、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出させるための部位であり、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ向けて下降傾斜する凹面として形成される（図２０６参照）。

【２９３６】

よって、下側底面部Ｃ４１２２を往復動した後、その転動速度が低下した球を、流出面Ｃ１２２ａを利用して、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へスムーズに流出（流下）させることができる。即ち、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）における往復動を利用して、先行する球と後行する球との間隔が減少された球（連なった状態の球）を、その連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させることができる（図２０６参照）。

【２９３７】

なお、流出面Ｃ１２２ａは、上面視において、その凹面の幅（下側底面部Ｃ４１２２を往復動する球の転動方向に沿う方向の寸法、矢印Ｆ－Ｂ方向の寸法）が、切り欠き部Ｃ１

２４ａに近い側ほど大きい形状に形成される。
【２９３８】
また、上面視において、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側、矢印Ｌ方向側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４に球を当接させた状態では、球が流出面Ｃ１２２ａ上を転動する（横切る）。即ち、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）を転動（往復動）する球が、切り欠き部Ｃ１２４ａから最も離間した位置（球の側方の頂部を下側側壁部Ｃ４１２４に当接させる位置）を転動する状態でも、上面視において、球の中心と重なる範囲まで流出面Ｃ１２２ａが形成される（球が下側底面部Ｃ４１１２を転動する際の球の下方の頂部の軌跡である転動線が流出面Ｃ１２２ａを横切る）。
【２９３９】
一方で、下側底面部Ｃ４１２２に流出面Ｃ１２２ａが凹設（形成）されていると、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）に流下した球が、かかる下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）を一度も往復動することなく、又は、十分な回数だけ往復動する前に、流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用により、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）する虞がある。即ち、先行する球と後行する球との間隔を減少させず、両球が間隔を隔てたまま底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）する虞がある。
【２９４０】
これに対し、本実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２が円弧状に湾曲して形成され、その円弧部Ｃ４１２２ｂの内径側（上面視における円弧の中心側、矢印Ｒ方向側）に切り欠き部Ｃ１２４ａが形成される。よって、円弧部Ｃ４１２２ｂを転動する球には切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４へ向けて遠心力が作用され、これにより、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）で転動（往復動）させることができる。
【２９４１】
これにより、球の転動速度が十分に低くなる前に、球が流出面Ｃ１２２ａの傾斜の作用で底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３、図２０６参照）へ流出（流下）することを抑制できる。即ち、球の転動速度が十分に低くなるまでの間、流出面Ｃ１２２ａを乗り越え易く（横切らせ易く）して、下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）に沿って球を十分に往復動させ易くできる。その結果、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことを確実化できる。
【２９４２】
次いで、図２３４（ａ）を参照して、第５７実施形態における下側フレームＣ５０８６ｂについて説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【２９４３】
図２３４（ａ）は、第５７実施形態における下側フレームＣ５０８６ｂの断面図であり、図２１９のＣＣＸＸＩＶ－ＣＣＸＸＩＶ線における断面に対応する。なお、図２３４（ａ）では、下側フレームＣ５０８６ｂの背面部材Ｃ２１３０、磁石Ｃ２３００及び磁性部Ｃ５４００の断面のみ図示される。
【２９４４】
磁性部Ｃ５４００は、金属製の長尺体であり、背面部材Ｃ２１３０と反対側（矢印Ｆ方向側）における端部から突部が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に突設される。よって、磁性部Ｃ５４００は、断面形状が略Ｌ字状に形成される。また、磁性部Ｃ５４００の突部は、背面部材Ｃ２１３０側の端部が背面部材Ｃ２１３０の正面から球の半径よりも大きな間隔を隔てた位置に配設されると共に、磁性部Ｃ５４００の底面の断面形状は、幅方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に直線状に形成される。
【２９４５】
磁性部Ｃ５４００は、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設された磁石Ｃ２３００から作用

する磁力を利用して、球を吸着可能とされる。なお、磁石Ｃ２３００は、磁性部Ｃ５４００の長手方向に沿って複数が配列される。

【２９４６】

振分部材Ｃ２１７０が第２位置に配置された状態において、第１中間部材Ｃ２１４０の底面部Ｃ２１４２（第２通路ＣＲｔ２００２）から転動部Ｃ２１７３へ球が流下されると、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）を転動した球が、転動部Ｃ２１７３の下流端から磁性部Ｃ５４００の上流端へ飛び付く（図２２７参照）。即ち、磁性部Ｃ５４００の突部の底面に吸着される。磁性部Ｃ５４００に吸着された球は、飛び付き（転動）による球の勢いと、磁性部Ｃ５４００の下降傾斜による重力の作用により、磁性部Ｃ５４００の長手方向に沿って磁性部Ｃ５４００の下流端へ移動される。これにより、磁性部Ｃ５４００に沿って流下された球を第５通路ＣＲｔ２００５（図２２２参照）へ案内できる。

【２９４７】

上述したように、磁性部Ｃ５４００の突部は、背面部材Ｃ２１３０側の端部が背面部材Ｃ２１３０の正面から球の半径よりも大きな距離隔てた位置に配設されるため、磁性部Ｃ５４００に沿って流下される球と背面部材Ｃ２１３０とが当接することが抑制される。よって、球に摩擦力が作用されることが抑制できるので、球の流下速度を高くすることができる。また、球が背面部材Ｃ２１３０の正面に支持されないことで、流下する際に球が揺れる態様を形成できると共に、球が磁性部Ｃ５４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。その結果、球の挙動を遊技者に注目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【２９４８】

次いで、図２３４（ｂ）を参照して、第５８実施形態における下側フレームＣ６０８６ｂについて説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２９４９】

図２３４（ｂ）は、第５８実施形態における下側フレームＣ６０８６ｂの断面図であり、図２１９のＣＣＸＸＩＶ－ＣＣＸＸＩＶ線における断面に対応する。なお、図２３４（ｂ）では、下側フレームＣ６０８６ｂの背面部材Ｃ２１３０、磁石Ｃ２３００及び磁性部Ｃ６４００の断面のみ図示される。

【２９５０】

第５８実施形態における磁性部Ｃ６４００は、第５７実施形態における磁性部Ｃ５４００に対し、磁性部Ｃ６４００の突部の底面が、背面部材Ｃ２１３０を向く傾斜面（即ち、鉛直方向上方ほど背面部材Ｃ２１３０に近接する面）として形成される点を除き、他の構成は第５７実施形態における磁性部Ｃ５４００と同一の構成である。

【２９５１】

磁性部Ｃ６４００の突部の底面に吸着された球は、その底面の傾斜と、磁石部Ｃ２３００から直接作用される磁力との効果により、背面部材Ｃ２１３０に当接される。従って、球に摩擦力を作用させることができ、磁性部Ｃ６４００に沿って流下する球の流下速度を遅くできる。これにより、球の移動時間を長くでき、遊戯の興趣を高めることができる。

【２９５２】

また、磁性部Ｃ６４００の突部と背面部材Ｃ２１３０とで球を挟み込むことができ、球が磁性部Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。

【２９５３】

次いで、図２３５から図２４７を参照して、第５９実施形態におけるセンターフレームＤ８６について説明する。

【２９５４】

上記各実施形態では、センターフレーム８６が一部品から構成される場合を説明したが、第５９実施形態におけるセンターフレームＤ８６は、上側フレームＤ８６ａと下側フレームＤ８６ｂとの２部材から構成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【２９５５】
図２３５は、第５９実施形態における遊技盤Ｄ１３の正面図である。図２３５に示すように、センターフレームＤ８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１４９参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＤ８６ａと下側フレームＤ８６ｂとを備える。
【２９５６】
上側フレームＤ８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１４９参照）における上側（図２３５上側）及び左右（図２３５左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＤ８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図２３５下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＤ８６ａ及び下側フレームＤ８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１が視認可能とされる。
【２９５７】
なお、上側フレームＤ８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図２３５下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＤ８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。
【２９５８】
次いで、下側フレームＤ８６ｂについて説明する。図２３６は、下側フレームＤ８６ｂの正面斜視図であり、図２３７は、下側フレームＤ８６ｂの背面斜視図である。なお、図２３６及び図２３７では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＤ８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。
【２９５９】
図２３６及び図２３７に示すように、下側フレームＤ８６ｂには、球を受け入れ可能な開口として形成される受入口ＤＯＰｉｎと、その受入口ＤＯＰｉｎに連通される第１通路ＤＲｔ１と、その第１通路ＤＲｔ１を案内された球が流下される第２通路ＤＲｔ２と、その第２通路ＤＲｔ２を案内された球（第２通路ＤＲｔ２をその長手方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って往復動した球）が流下される第３通路ＤＲｔ３と、その第３通路ＤＲｔ３を案内された球（第３通路ＤＲｔ３をその長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って往復動した球）が、第３通路ＤＲｔ３から流下される位置に応じて振り分けられる第４通路ＤＲｔ４、第５通路ＤＲｔ５及び第６通路ＤＲｔ６と、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５を案内された球が流下される第７通路ＤＲｔ７と、第６通路ＤＲｔ６を案内された球が流下される第８通路ＤＲｔ８と、第８通路ＤＲｔ８を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＤＯＰｏｕｔとが形成される（図２４４から図２４６参照）。
【２９６０】
なお、第６通路ＤＲｔ６及び第８通路ＤＲｔ８は、第６通路ＤＲｔ６の下流端に第８通路ＤＲｔ８の上流端が連通（接続）されており、１本の通路を形成する。即ち、該通路は、上流側の一部（前半）が第６通路ＤＲｔ６により、下流側の一部（後半）が第８通路ＤＲｔ８により、それぞれ形成される。
【２９６１】
また、上側フレームＤ８６ａには、上側フレーム通路ＤＲｔ０（図２３５参照）が形成される。上側フレーム通路ＤＲｔ０は、遊技領域のうちの正面視左側（図２３５左側）の領域（センターフレームＤ８６（上側フレームＤ８６ａ）とレール６１との間の領域）から流入（入球）された球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＤＲｔ０の下流端に下側フレームＤ８６ｂの受入口ＤＯＰｉｎが連通される。
【２９６２】
即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＤＲｔ０に流入（入球）した球は、受入口ＤＯＰｉｎを介して、上側フレーム通路ＤＲｔ０から下側フレームＤ８６ｂの第１通路ＤＲｔ１へ流入（入球）される。

【２９６３】
第３通路ＤＲｔ３の通路幅は、所定間隔を隔てて対向する側壁（中間部材Ｄ１４０の側壁部Ｄ１４２と背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２と）により区画されるところ、これら通路幅を区画する側壁の一方（背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２）は、一部が分断され（側壁が非形成とされ）、その分断された領域と上面視において隣接する位置に、球が流下可能な流下口ＤＯＰｆｌが開口される。
【２９６４】
第３通路ＤＲｔ３を案内された球（第３通路ＤＲｔ３をその長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って往復動した球）は、流下口ＤＯＰｆｌを介して、第４通路ＤＲｔ４、第５通路ＤＲｔ５又は第６通路ＤＲｔ６のいずれかへ流下（入球）可能とされる。
【２９６５】
流下口ＤＯＰｆｌは、第３通路ＤＲｔ３の長手方向と直交する方向（矢印Ｂ方向）へ張り出し、第３通路ＤＲｔ３の長手方向に沿って延設される上面視略矩形の空間（開口）として形成される。なお、流下口ＤＯＰｆｌは、背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１及び連結部Ｄ１３３により区画される。
【２９６６】
流下口ＤＯＰｆｌには、第３通路ＤＲｔ３の長手方向に沿って、第４通路ＤＲｔ４、第第６通路ＤＲｔ６及び５通路ＤＲｔ５の上流端（上流側の開口）が順に並設される。即ち、第６通路ＤＲｔ６の上流端（上流側の開口）は、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向中央に位置し、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５の上流端（上流側の開口）は、第６通路ＤＲｔ６の上流端を挟んで、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向一側（矢印Ｌ方向側）及び他側（矢印Ｒ方向側）にそれぞれ位置する。
【２９６７】
よって、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に沿って往復動し、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央を含む領域へ流下する球は、第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）され、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向一側（矢印Ｌ方向側）又は他側（矢印Ｒ方向側）を含む領域へ流下する球は、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５へ流入（入球）される。即ち、第３通路ＤＲｔ３を案内される球が、第４通路ＤＲｔ４から第６通路ＤＲｔ６のいずれに振り分けられるかは、第３通路ＤＲｔ３から流下する位置（領域）に応じて決定される。
【２９６８】
ここで、第６通路ＤＲｔ６を案内された球は、第８通路ＤＲｔ８へ流下（流入）されるところ、第８通路ＤＲｔ８の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＤＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図２３５参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第６通路ＤＲｔ６へ振り分けられた球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【２９６９】
一方、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５を案内された球は、第７通路ＤＲｔ７へ流下（流入）されるところ、第７通路ＤＲｔ７には、その第７通路ＤＲｔ７を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に中央流出面Ｄ１５１が形成（配置）されるだけでなく、第１入賞口６４の鉛直方向上方から遊技盤１３の幅方向（図２３５左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、側方流出面Ｄ１５２が形成（配置）される。また、第７通路ＤＲｔ７には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｄ１５２が形成され、起伏の頂部に中央流出面Ｄ１５１が形成される。
【２９７０】
そのため、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５に振り分けられた球は、第７通路ＤＲｔ７において、中央流出面Ｄ１６１から遊技領域へ流出する確率よりも、側方流出面Ｄ１６２から遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第６通路ＤＲｔ６へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低

い）。
【２９７１】
このように、本実施形態における下側フレームＤ８６ｂは、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に沿って往復動する球が第６通路ＤＲｔ６に振り分けられることで、第１入賞口６４に入賞しやすくする（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる）ことができる。よって、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に沿って球が往復動する際には、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、第６通路ＤＲｔ６に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【２９７２】
ここで、本実施形態における下側フレームＤ８６ｂでは、第６通路ＤＲｔ６の上流端（上流側の開口）に、一対の変位部材Ｄ１８０が開閉可能（閉鎖位置と開放位置との間で変位可能）に配設される。一対の変位部材Ｄ１８０は、基端側が回転可能に軸支され、基端側の反対側となる先端側が上方側（矢印Ｕ方向側）となる姿勢で配設され、基端側を回転軸として、先端側を互いに近接または離間する方向へ変位（回転）させることで、閉鎖位置と開放位置との間で変位（回転）とされる。
【２９７３】
一対の変位部材Ｄ１８０は、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定間隔を隔てて配置され、それら一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に流入（入球）した球は、第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）され、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に流入（入球）されなかった球は、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５へ流入（入球）される。
【２９７４】
一対の変位部材Ｄ１８０の先端側の対向間隔は、開放位置での対向間隔が閉鎖位置での対向間隔よりも大きくされ、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に変位（回転）されると、閉鎖位置にある場合と比較して、第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）可能な領域が拡大され、第４及び第５通路ＤＲｔ４，ＤＲｔ５に流入（入球）可能な領域が縮小される。即ち、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の間隔（寸法）に対し、一対の変位部材Ｄ１８０の先端側の対向間隔が占める割合は、開放位置における割合が閉鎖位置における割合よりも大きくされる。よって、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置にある状態では、閉鎖位置にある状態と比較して、第６通路ＤＲｔ６へ球が流入（入球）されやすい。
【２９７５】
この場合、一対の変位部材Ｄ１８０は、後述するように、第６通路ＤＲｔ６に球が流入（入球）されると、その球の重量（質量）を利用して、閉鎖位置から開放位置へ変位（回転）される。具体的には、第６通路ＤＲｔ６には、転動部材Ｄ１７０が配設され、その転動部材Ｄ１７０上を球が転動している間は、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置（変位）され、転動部材Ｄ１７０上に球が存在しない間は、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置（変位）される。
【２９７６】
このように、本実施形態における下側フレームＤ８６ｂは、第６通路ＤＲｔ６に球が流入（入球）された場合に、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に変位（回転）され（第６通路ＤＲｔ６へ球が入球されやすくされ）、これにより、第６通路ＤＲｔ６へ入球された球に後行する球（例えば、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に往復動する球、後続の球）を第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすくできる。
【２９７７】
よって、第６通路ＤＲｔ６へ第１の球が入球されれば、一対の変位部材Ｄ１８０の開放位置への変位（回転）により、後行する第２の球が第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすい状態を形成でき、後行する第２の球が第６通路ＤＲｔ６へ入球されれば、その後行する第２の球の第６通路ＤＲｔ６への入球に起因して（第２の球の重量を利用した変位部材Ｄ１８０の開放位置への変位により）、次に後行する第３の球（第２の球の後続となる第３の球）が第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすい状態を形成でき、以降、これらの態様を繰り返すことができる。よって、第６通路ＤＲｔ６への球の入球により、第６通路ＤＲｔ６への入

球の連鎖の発生を遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【２９７８】

なお、本実施例では、一対の変位部材Ｄ１８０は、閉鎖位置に変位（回転）された状態では、対向間隔の最小値が球の直径よりも若干大きな寸法（例えば、球の直径の１．３倍）に設定され、開放位置に変位（回転）された状態では、先端側における対向間隔が球の直径の約３倍に設定される。

【２９７９】

次いで、図２３６から図２３７に加え、図２３８から図２４７を参照して、下側フレームＤ８６ｂの詳細構成について説明する。

【２９８０】

図２３８は、下側フレームＤ８６ｂの分解正面斜視図であり、図２３９は、下側フレームＤ８６ｂの分解背面斜視図である。図２４０は、下側フレームＤ８６ｂの上面図であり、図２４１は、下側フレームＤ８６ｂの正面図であり、図２４２は、下側フレームＤ８６ｂの背面図である。

【２９８１】

図２４３（ａ）は、図２４１の矢印ＣＣＸＬＩＩＩａ方向視における下側フレームＤ８６ｂの側面図であり、図２４３（ｂ）は、図２４１の矢印ＣＣＸＬＩＩＩｂ方向視における下側フレームＤ８６ｂの側面図である。

【２９８２】

図２４４（ａ）、図２４５（ａ）及び図２４６（ａ）は、下側フレームＤ８６ｂの部分拡大断面図であり、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応する。図２４４（ｂ）、図２４５（ｂ）及び図２４６（ｂ）は、下側フレームＤ８６ｂの部分拡大背面図である。

【２９８３】

なお、図２４４（ａ）及び図２４４（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が、図２４６（ａ）及び図２４６（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【２９８４】

また、図２４５（ａ）及び図２４５（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）から第２位置（又は第２位置から初期位置（第１位置））へ向けて変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置（又は開放位置から閉鎖位置）へ向けて変位（回転）される際の変位途中の状態が図示される。

【２９８５】

また、図２４５（ａ）及び図２４６（ａ）では、転動部材Ｄ１７０上を転動する球の図示が省略され、図２４４（ｂ）、図２４５（ｂ）及び図２４６（ｂ）では、迂回部材Ｄ２００が取り外された状態が図示される。

【２９８６】

図２４７（ａ）は、図２４０のＣＣＸＬＶＩＩａ－ＣＣＸＬＶＩＩａ線における下側フレームＤ８６ｂの部分拡大断面図であり、図２４７（ｂ）は、図２４０のＣＣＸＬＶＩＩｂ－ＣＣＸＬＶＩＩｂ線における下側フレームＤ８６ｂの部分拡大断面図であり、図２４７（ｃ）は、図２４４のＣＣＸＬＶＩＩｃ－ＣＣＸＬＶＩＩｃ線における下側フレームＤ８６ｂの部分拡大断面図である。

【２９８７】

図２３６から図２４７に示すように、下側フレームＤ８６ｂは、正面部材Ｄ１１０と、その正面部材Ｄ１１０の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される皿部材Ｄ１２０と、正面部材Ｄ１１０の背面（矢印Ｂ方向側の面）に所定間隔を隔てて対向配置される背面部材Ｄ１３０と、正面部材Ｄ１１０及び背面部材Ｄ１３０の対向間に介設され、正面部材Ｄ１１０の背面および背面部材Ｄ１３０の正面（矢印Ｆ方向側の面）に所定間隔を隔てて対

向配置される中間部材Ｄ１４０と、正面部材Ｄ１１０及び中間部材Ｄ１４０の対向間に介設される第１介設部材Ｄ１５０と、中間部材Ｄ１４０及び背面部材Ｄ１３０の対向間に介設される第２介設部材Ｄ１６０と、中間部材Ｄ１４０及び背面部材Ｄ１３０の対向間に配設される転動部材Ｄ１７０及び変位部材Ｄ１８０と、背面部材Ｄ１３０の背面側に配設される伝達部材Ｄ１９０及び迂回部材Ｄ２００と、背面部材Ｄ１３０に変位可能に配設（回転可能に軸支）され、一側（矢印Ｆ方向側）に変位部材Ｄ１８０が固着されると共に他側（矢印Ｂ側側）が伝達部材Ｄ１９０に当接可能とされる軸支部材Ｄ２１０と、を備える。

【２９８８】

転動部材Ｄ１７０及び変位部材Ｄ１８０は、中間部材Ｄ１４０及び背面部材Ｄ１３０の対向間において、変位（回転）可能に配設され、伝達部材Ｄ１９０は、背面部材Ｄ１３０の背面側において、変位（回転）可能に配設される。

【２９８９】

なお、下側フレームＤ８６ｂは、各部材どうしが、それぞれタッピングネジにより締結固定されると共に、転動部材Ｄ１７０、変位部材Ｄ１８０及び伝達部材Ｄ１９０が背面部材Ｄ１３０にそれぞれ変位可能に配設（回転可能に軸支）されることで、一つ（単体）のユニットとして構成される（図２３６参照）。

【２９９０】

また、下側フレームＤ８６ｂは、変位部材Ｄ１８０及び伝達部材Ｄ１９０を除く他の部材が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、変位部材Ｄ１８０及び伝達部材Ｄ１９０が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＤＲｔ１から第８通路ＤＲｔ８を通過する球を遊技者に視認させると共に、変位部材Ｄ１８０の開閉動作（開閉状態）を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【２９９１】

この場合、下側フレームＤ８６ｂは、変位部材Ｄ１８０又は転動部材Ｄ１７０の少なくとも一方の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する部材が光透過性の樹脂材料から構成されていれば足りる。或いは、変位部材Ｄ１８０又は転動部材Ｄ１７０の少なくとも一方の一部の正面側に位置する領域のみが光透過性の樹脂材料から構成される形態でも良い。変位部材Ｄ１８０を視認できれば、その開閉状態に基づいて、第６通路ＤＲｔ６へ球が流下（入球）されやすい状態か否かを遊技者が把握でき、仮に、変位部材Ｄ１８０が視認できなくても、転動部材Ｄ１７０を視認できれば、その転動部材Ｄ１７０の回転状態（転動する球の有無により変化する姿勢）に基づいて、変位部材Ｄ１８０の開閉状態を遊技者が把握でき、遊技の興趣を高めることができるからである。

【２９９２】

よって、転動部材Ｄ１７０を有色の樹脂材料から構成することが好ましい。転動部材Ｄ１７０の回転状態（転動する球の有無により変化する姿勢）を遊技者に視認させやすくできるからである。

【２９９３】

なお、転動部材Ｄ１７０、変位部材Ｄ１８０及び伝達部材Ｄ１９０は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【２９９４】

また、一方で、下側フレームＤ８６ｂは、変位部材Ｄ１８０又は転動部材Ｄ１７０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する部材が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、これら変位部材Ｄ１８０又は転動部材Ｄ１７０が正面側から遊技者に視認不能となるように構成されていても良い。

【２９９５】

正面部材Ｄ１１０は、正面を形成する板状の正面部Ｄ１１１と、その正面部Ｄ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｄ１１２と、それら正面部Ｄ１１１及び底面部Ｄ１１２の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設される連結部Ｄ１１３とを備える。

【２９９６】
正面部Ｄ１１１には、その正面部Ｄ１１１の下側（矢印Ｄ方向側）及び側方側（矢印Ｌ方向側）の外縁に沿って複数の挿通孔Ｄ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＤ８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｄ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。
【２９９７】
正面部Ｄ１１１には、第１入賞口６４（図２３５参照）の鉛直方向上方となる位置に流出口ＤＯＰｏｕｔが開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＤＯＰｏｕｔは、上述したように、第８通路ＤＲｔ８を案内された球が遊技領域へ流出される際の出口となる開口である。
【２９９８】
底面部Ｄ１１２は、その上面に第１介設部材Ｄ１５０の底面が対向配置され、底面部Ｄ１１２と第１介設部材Ｄ１５０（凹部Ｄ１５３）との対向間に第８通路ＤＲｔ８の一部（最下流となる部分）が形成される。よって、例えば、第１介設部材Ｄ１５０に貫通形成した貫通孔を第８通路ＤＲｔ８の一部とする場合と比較して、構造を簡素化して、製品コストを抑制できる。
【２９９９】
底面部Ｄ１１２は、正面部Ｄ１１１の長手方向全域にわたって連続して形成され、その底面部Ｄ１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）が、中間部材Ｄ１４０における底面部Ｄ１４４の立設先端（矢印Ｆ方向側）に全域にわたって当接される。これにより、下側フレームＤ８６ｂの底面側からの針金等の異物の侵入が抑制される。
【３０００】
なお、底面部Ｄ１１２は、第８通路ＤＲｔ８を区画する部分の正面部Ｄ１１１からの立設寸法が、底面部Ｄ１１２の他の部分における立設寸法よりも大きくされ、底面部Ｄ１１２のうちの第８通路ＤＲｔ８を区画する部分は、その立設先端が、中間部材Ｄ１４０の本体部Ｄ１４１の正面に当接される。
【３００１】
連結部Ｄ１１３の上面側（矢印Ｕ方向側）には、皿部材Ｄ１２０が配設され、タッピングネジにより締結固定される。
【３００２】
皿部材Ｄ１２０は、受入口ＤＯＰｉｎと、その受入口ＤＯＰｉｎから受け入れた球を案内する通路の底面を形成する上側底面部Ｄ１２１及び下側底面部Ｄ１２２と、通路の側壁を形成する上側側壁部Ｄ１２３及び下側側壁部Ｄ１２４とを備える。
【３００３】
受入口ＤＯＰｉｎは、上述したように、上側フレームＤ８６ａの上側フレーム通路ＤＲｔ０から球を受け入れる開口である（図２３５参照）。なお、ベース板６０にセンターフレームＤ８６を取り付けた（配設した）状態では、上側フレームＤ８６ａの背面が正面部Ｄ１１１及び連結部Ｄ１１３の正面に重ね合わされ、両者がタッピングネジにより締結固定される。これにより、上側フレーム通路ＤＲｔ０の下流端と受入口ＤＯＰｉｎとが連通される。
【３００４】
上側底面部Ｄ１２１は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、受入口ＤＯＰｉｎから離間する方向（矢印Ｂ方向）へ向けて下降傾斜して形成される。なお、上側底面部Ｄ１２１は、上側フレーム通路ＤＲｔ０の下流端よりも鉛直方向下方側（矢印Ｄ方向側）に位置し、上側フレーム通路ＤＲｔ０の下流端との間に鉛直方向の段差が形成される。即ち、皿部材Ｄ１２０は、上側フレーム通路ＤＲｔ０から上側底面部Ｄ１２１へ球を自由落下させる構成とされる。
【３００５】
上側底面部Ｄ１２１には、その幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央に断面コ字状の凹溝Ｄ１

２１ａが凹設される（図２０９参照）。凹溝Ｄ１２１ａは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設される。凹溝Ｄ１２１ａの溝幅（矢印Ｌ－Ｒ方向の寸法）は、球の直径よりも小さくされると共に、凹溝Ｄ１２１ａの溝深さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、凹溝Ｄ１２１ａの底面に球が接触しない深さに設定される。

【３００６】

これにより、上側底面部Ｄ１２１上の球を２箇所（上側底面部Ｄ１２１と凹溝Ｄ１２１ａとが交わる一対の稜線部分）で支持することができる。よって、凹溝Ｄ１２１ａが非形成の場合（即ち、１箇所のみで球を支持する場合）と比較して、球と通路との接触面積を大きくできる。よって、上側フレーム通路ＤＲｔ０から落下した球の衝撃を緩衝する（受け止める）と共に、球が転動する際の抵抗を大きくできる。

【３００７】

上述のように、上側フレーム通路ＤＲｔ０から上側底面部Ｄ１２１へ球を落下させると共に、上側底面部Ｄ１２１上の球を２箇所で支持する構成とすることで、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側フレーム通路ＤＲｔ０から上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）へ流入（落下）する場合に、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）において、先行する球の流下を遅らせて、後行する球を先行する球に追いつかせ易くできる。よって、先行する球と後行する球との間隔を減少させることができる。

【３００８】

上側側壁部Ｄ１２３は、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）の下流側（矢印Ｂ方向側）の端部と、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）の通路幅とをそれぞれ区画する壁部であり、鉛直方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に立設された板状体として形成される。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。

【３００９】

上側側壁部Ｄ１２３には、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）の下流側の端部に切り欠き部Ｄ１２３ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｄ１２３ａを介して、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）から下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）へ球が流下可能とされる。

【３０１０】

下側底面部Ｄ１２２は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図２４６参照）。

【３０１１】

なお、下側底面部Ｄ１２２は、上側底面部Ｄ１２１の下流端（切り欠き部Ｄ１２３ａが形成される部分）よりも鉛直方向下方側（矢印Ｄ方向側）に位置し、上側底面部Ｄ１２１の下流端との間に鉛直方向の段差が形成される。即ち、皿部材Ｄ１２０は、上側底面部Ｄ１２１から下側底面部Ｄ１２２へ球を自由落下させる構成とされる。

【３０１２】

下側側壁部Ｄ１２４は、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の長手方向（球を案内する方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）における一端側および他端側の端部と、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の通路幅とをそれぞれ区画する。なお、通路幅は、球の直径と同等または球の直径よりも若干大きな寸法（少なくとも球の直径の２倍よりも小さい寸法、好ましくは、球の直径の１．３倍よりも小さい寸法）に設定され、複数の球を直列の状態でのみ案内可能とする。

【３０１３】

下側底面部Ｄ１２２は、上面視において、上側底面部Ｄ１２１と平行に並設され、上側底面部Ｄ１２１の下流端（矢印Ｂ方向側の端部）と下側底面部Ｄ１２２の長手方向における一端側（矢印Ｂ方向側の端部）とが隣り合う位置に配設される。

【３０１４】
上側側壁部Ｄ１２３における切り欠き部Ｄ１２３ａに対応する位置では、下側側壁部Ｄ１２４が非形成とされ、上述したように、切り欠き部Ｄ１２３ａを介して、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）から下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）へ球が流下（落下）可能とされる。
【３０１５】
下側側壁部Ｄ１２４には、円弧状に湾曲した下側底面部Ｄ１２２の底部（鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に対応する位置に切り欠き部Ｄ１２４ａが切り欠き形成され、この切り欠き部Ｄ１２４ａを介して、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）から第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ球が流下可能とされる。
【３０１６】
下側底面部Ｄ１２２は、上述したように、円弧状に湾曲して形成され、その一方の上昇傾斜側（下側底面部Ｄ１２２の長手方向における一端側）に上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）から球が流下されるので、かかる流下された球を、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の長手方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、切り欠き部Ｄ１２４ａから第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ球を流下させることができる。
【３０１７】
これにより、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、上側底面部Ｄ１２１（第１通路ＤＲｔ１）から下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）へ流入する場合に、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。
【３０１８】
下側底面部Ｄ１２２には、切り欠き部Ｄ１２４ａに対応する位置（即ち、鉛直方向における高さ位置が最も低い位置）に流出面Ｄ１２２ａが凹設される。流出面Ｄ１２２ａは、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）を案内される球を、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ流出させるための部位であり、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ向けて下降傾斜する凹面として形成される。
【３０１９】
よって、下側底面部Ｄ１２２を往復動した後、その転動速度が低下した球を、流出面Ｄ１２２ａを利用して、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へスムーズに流出（流下）させることができる。即ち、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球と後行する球との間隔が減少された球（連なった状態の球）を、その連なった状態を維持させつつ、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ流出（流下）させることができる。
【３０２０】
なお、流出面Ｄ１２２ａは、上面視において、その凹面の幅（下側底面部Ｄ１２２を往復動する球の転動方向に沿う方向の寸法、矢印Ｆ－Ｂ方向の寸法）が、切り欠き部Ｄ１２４ａに近い側ほど大きい形状に形成される（図２４０参照）。
【３０２１】
また、上面視において、切り欠き部Ｄ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｄ１２４に球を当接させた状態では、球が流出面Ｄ１２２ａ上を転動する（横切る）。即ち、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）を転動（往復動）する球が、切り欠き部Ｄ１２４ａから最も離間した位置（球の側方の頂部を下側側壁部Ｄ１２４に当接させる位置）を転動する状態でも、上面視において、球の中心と重なる範囲まで流出面Ｄ１２２ａが形成される（球が下側底面部Ｄ１２２を転動する際の球の下方の頂部の軌跡である転動線が流出面Ｄ１２２ａを横切る）。
【３０２２】
本実施形態では、下側底面部Ｄ１２２は、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に直交し鉛

直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に平行な平面での断面形状が、水平方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に平行な直線形状に形成される。但し、上述した実施形態の場合（図２０９参照）のように、下側底面部Ｄ１２２を切り欠き部Ｄ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜させても良い。

【３０２３】

流出面Ｄ１２２ａの形成位置は、下側底面部Ｄ１２２の長手方向（下側底面部Ｄ１２２を往復動する球の転動方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）中央よりも一端側（本実施形態では、上側底面部Ｄ１２１の下流端側、矢印Ｂ方向側）に偏った（近接した）位置に配設される（図２４６参照）。

【３０２４】

この場合、下側底面部Ｄ１２２の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置は、長手方向一端側（矢印Ｂ方向側の端部）と他端側（矢印Ｆ方向側の端部）とで同一とされ、下側底面部Ｄ１２２の円弧形状（下側底面部Ｄ１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状であって、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧形状）は、長手方向一端側（矢印Ｂ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の曲率が、長手方向他端側（矢印Ｆ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の曲率よりも大きくされる。即ち、長手方向一端側（矢印Ｂ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の半径が、長手方向他端側（矢印Ｆ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の半径よりも小さくされる。

【３０２５】

これにより、長手方向他端側（矢印Ｆ方向側）と流出面Ｄ１２２ａとの間の領域において、先行する球に後行する球を追いつかせ易くできると共に、追いついた際の衝突を緩やかとして（即ち、後行の球が先行の球に衝突した際の衝撃で、両球の間隔が広がることを抑制して）、先行する球と後行する球とが連なった状態を形成し易くできる。その結果、両球を、連なった状態で、第１介設部材Ｄ１５０（第３通路ＤＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。

【３０２６】

なお、皿部材Ｄ１２０は、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の延設方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせる姿勢で配設されるところ、ベース板６０の窓部６０ａ内に配置されるので、窓部６０ａにより形成された前後方向のスペースを有効に活用できる。よって、下側底面部Ｄ１２２（第２通路ＤＲｔ２）の全長を確保して、球を連ならせ易くできる。

【３０２７】

背面部材Ｄ１３０は、板状に形成される本体部Ｄ１３１と、本体部Ｄ１３１よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置すると共に本体部Ｄ１３１と平行な姿勢で配設され板状に形成される側壁部Ｄ１３２と、それら本体部Ｄ１３１及び側壁部Ｄ１３２を連結する連結部Ｄ１３３と、本体部Ｄ１３１の背面から立設される区画壁Ｄ１３４と、を備える。

【３０２８】

本体部Ｄ１３１には、転動部材Ｄ１７０の軸Ｄ１７１を軸支する軸支部Ｄ１３１ａと、軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１を軸支する軸支孔Ｄ１３１ｂと、伝達部材Ｄ１９０の胴部Ｄ１９２が挿通される挿通孔Ｄ１３１ｃと、球を通過可能とする開口Ｄ１３１ｄ，Ｄ１３１ｅと、球に当接可能とされる突部Ｄ１３１ｆとが形成される。

【３０２９】

軸支部Ｄ１３１ａは、本体部Ｄ１３１の正面（矢印Ｆ方向側の面）に軸受として形成され、中間部材Ｄ１４０の背面には、軸支部Ｄ１３１ａに対面する位置に、軸支部Ｄ１４１ａが形成される。転動部材Ｄ１７０は、その幅方向（前後方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）一側の側面および他側の側面から軸Ｄ１７１の端部がそれぞれ突出される。軸Ｄ１７１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢に配設され、その軸Ｄ１７１の両端が、背面部材Ｄ１３０の軸支部Ｄ１３１ａと中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ａとにそれぞれ軸支される。これにより、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との対向間に転動部材Ｄ１７０が回

転可能に配設される。
【３０３０】
軸支孔Ｄ１３１ｂは、本体部Ｄ１３１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通する孔として形成され、中間部材Ｄ１４０の背面には、軸支孔Ｄ１３１ｂに対面する位置に、軸支部Ｄ１４１ｂが形成される。軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で、本体部Ｄ１３１の軸支孔Ｄ１３１ｂと変位部材Ｄ１８０の軸孔とに順に挿通され、変位部材Ｄ１８０の一側（中間部材Ｄ１４０側）の側面から突出された軸Ｄ２１１の一端が、中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｂに軸支される。これにより、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との対向間に変位部材Ｄ１８０が回転可能に配設される。
【３０３１】
挿通孔Ｄ１３１ｃは、本体部Ｄ１３１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成され、伝達部材Ｄ１９０の胴部Ｄ１９２の回転を許容する大きさの開口（孔）として形成される。伝達部材Ｄ１９０は、胴部Ｄ１９２の軸方向（前後方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）一側の端面および他側の端面から軸Ｄ１９１の端部がそれぞれ突出され、これら軸Ｄ１９１の両端が、中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｃと迂回部材Ｄ２００の軸支部Ｄ２０１とにそれぞれ軸支される。これにより、中間部材Ｄ１４０と迂回部材Ｄ２００との対向間であって、背面部材Ｄ１３０の背面側において、伝達部材Ｄ１９０が回転可能に配設される。
【３０３２】
開口Ｄ１３１ｄ，Ｄ１３１ｅは、球の通過を許容する大きさの開口（孔）として、本体部Ｄ１３１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。即ち、本体部Ｄ１３１の正面側と背面側とに形成される通路（第５通路ＤＲｔ５及び第８通路ＤＲｔ８）を連通するための開口として形成される。なお、開口Ｄ１３１ｄ，Ｄ１３１ｅは、１球のみが通過可能（同時に２球が通過不能）な大きさに設定される。
【３０３３】
ここで、第６通路ＤＲｔ６は、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の正面側（中間部材Ｄ１４０との対向間）に形成され、第８通路ＤＲｔ８は、上流側（前半部分）が背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の背面側（迂回部材Ｄ２００との対向間）に形成されると共に、下流側（後半部分）が背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の正面側（中間部材Ｄ１４０の内部、正面部材Ｄ１１０及び第１介設部材Ｄ１５０の対向間）に形成される。
【３０３４】
よって、第６通路ＤＲｔ６の下流端と第８通路ＤＲｔ８の上流端とが開口Ｄ１３１ｄにより接続され、第８通路ＤＲｔ８の上流側（前半部分）と下流側（後半部分）とが開口Ｄ１３１ｅにより接続される。即ち、第６通路ＤＲｔ６を流下（案内）された球は、開口Ｄ１３１ｄを通過することで、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の正面側から背面側へ移動され、第８通路ＤＲｔ８へ流入される。また、第８通路ＤＲｔ８の上流側（前半部分）を流下（案内）された球は、開口Ｄ１３１ｅを通過することで、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の背面側から正面側へ移動され、第８通路ＤＲｔ８の下流側（後半部分）へ流入される。
【３０３５】
突部Ｄ１３１ｆは、本体部Ｄ１３１の正面（矢印Ｆ方向側の面）から突設されると共に鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って直線状に延設される突条（細長いすじ状の突部）として形成され、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って所定間隔（本実施形態では等間隔）を隔てつつ複数箇所（本実施形態では５箇所）に配設される（図２４７（ｃ）参照）。なお、突部Ｄ１３１ｆの突設寸法および断面形状は、その延設方向（鉛直方向）に沿って同一とされる。
【３０３６】
突部Ｄ１３１ｆの下端（矢印Ｄ方向側の端部）は、正面視において、第２位置に配置された転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面との間の距離が球の半径よりも小さくなる位置に設定される（図２４６参照）。よって、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置された状態であっても、球と突部Ｄ１３１ｆとが当接可能とされる。

【３０３７】
また、突部Ｄ１３１ｆの上端（矢印Ｕ方向側の端部）は、正面視において、初期位置（第１位置）に配置された転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面との間の距離が球の直径よりも大きくなる位置に設定される（図２４４参照）。よって、第２位置に配置された転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）の上面から球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がった状態であっても、球と突部Ｄ１３１ｆとが当接可能とされる。
【３０３８】
複数の突部Ｄ１３１ｆの配設間隔（矢印Ｌ－Ｒ方向の間隔）は、本実施形態では、球の直径と略同等の間隔に設定される。また、複数の突部Ｄ１３１ｆは、中間部材Ｄ１４０（本体部Ｄ１４１）の背面から突設される複数の突部Ｄ１４１ｇに対し、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って位置を異ならせて配設される。即ち、背面部材Ｄ１３０の突部Ｄ１３１ｆと中間部材Ｄ１４０の突部Ｄ１４１ｇとは、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って千鳥状に配置される（図２４７（ｃ）参照）。これにより、第６通路ＤＲｔ６における球の転動を遅延させることができる。
【３０３９】
即ち、第６通路ＤＲｔ６を通過する球に対して作用する作用手段として突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇが機能し、その作用により球に抵抗が付与されることで、球の速度を低くすることができる。よって、球が第６通路ＤＲｔ６（転動部材Ｄ１７０）を通過するのに要する時間を長くでき、その分、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用する時間（即ち、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやすくされた状態）を維持し易く（長く）できる。
【３０４０】
突部Ｄ１３１ｆの突設先端は、断面円弧状に湾曲して形成される。但し、突部Ｄ１３１ｆの断面形状を略矩形状としても良い。また、突部Ｄ１３１ｆは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に対して傾斜する方向に延設される直線形状であっても良く、円弧状に湾曲して延設される曲線形状を少なくとも一部に含む形状であっても良い。
【３０４１】
なお、突部Ｄ１３１ｆを、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に対して傾斜する方向に延設される直線形状とする場合には、球の転動面（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面）よりも上方（矢印Ｕ方向）側の方が第６通路ＤＲｔ６の上流側（矢印Ｒ方向側）に位置する方向に傾斜させることが好ましい。転動面から跳ね上がった球が突部Ｄ１３１ｆに衝突された場合に、球を転動方向と反対側（上流側）へ押し戻す方向の力成分を球に作用させ、球を遅延させやすくできるからである。
【３０４２】
側壁部Ｄ１３２は、その上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部が、第２介設部材Ｄ１６０の上面よりも上方（矢印Ｕ方向）となる高さ位置に配設され、中間部材Ｄ１４０の側壁部Ｄ１４２と共に第３通路ＤＲｔ３の通路幅を区画する。
【３０４３】
区画壁Ｄ１３４は、本体部Ｄ１３１及び迂回部材Ｄ２００と共に第８通路ＤＲｔ８を区画する。即ち、本体部Ｄ１３１に迂回部材Ｄ２００が対向配置され、その対向間であって区画壁Ｄ１３４により区画された領域が第８通路ＤＲｔ８とされる。区画壁Ｄ１３４により区画される領域は、背面視（矢印Ｆ方向視）において、横長の略矩形状に形成され、長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）に開口Ｄ１３１ｄが、長手方向他端側（矢印Ｒ方向側）に開口Ｄ１３１ｅが、それぞれ配設されると共に、長手方向一端側から他端側へ向けて下降傾斜される。
【３０４４】
中間部材Ｄ１４０は、板状に形成される本体部Ｄ１４１と、本体部Ｄ１４１よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置すると共に本体部Ｄ１４１と平行な姿勢で配設され板状に形成される側壁部Ｄ１４２と、それら本体部Ｄ１４１及び側壁部Ｄ１４２を連結する連結部Ｄ

１４３と、本体部Ｄ１４１の正面から立設される底面部Ｄ１４４と、本体部Ｄ１４１の背面から立設される区画壁（第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ、第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒ、第６通路区画壁Ｄ１４６、第８通路区画壁Ｄ１４７）と、を備える。

【３０４５】

本体部Ｄ１４１には、転動部材Ｄ１７０の軸Ｄ１７１を軸支する軸支部Ｄ１４１ａと、軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１を軸支する軸支部Ｄ１４１ｂと、伝達部材Ｄ１９０の軸Ｄ１９１を軸支する軸支部Ｄ１４１ｃと、球を通過可能とする開口Ｄ１４１ｄ，Ｄ１４１ｅ，Ｄ１４１ｆと、球に当接可能とされる突部Ｄ１４１ｇとが形成される。

【３０４６】

軸支部Ｄ１４１ａ，Ｄ１４１ｂ，Ｄ１４１ｃは、本体部Ｄ１４１の背面（矢印Ｂ方向側の面）に軸受として形成され、上述したように、背面部材Ｄ１３０の軸支部Ｄ１３１ａ、軸支孔Ｄ１３１ｂ及び迂回部材Ｄ２００の軸支部Ｄ２０１と対面する位置にそれぞれ形成される。

【３０４７】

即ち、背面部材Ｄ１３０の軸支部Ｄ１３１ａと中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ａとに転動部材Ｄ１７０の軸Ｄ１７１が、背面部材Ｄ１３０の軸支孔Ｄ１３１ｂと中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｂとに軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１が、中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｃと迂回部材Ｄ２００の軸支部Ｄ２０１とに伝達部材Ｄ１９０の軸Ｄ１９１が、それぞれ軸支される。なお、転動部材Ｄ１７０の軸Ｄ１７１、軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１、伝達部材Ｄ１９０のいずれも、その軸方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせる姿勢で配設される。

【３０４８】

開口Ｄ１４１ｄ，Ｄ１４１ｅ，Ｄ１４１ｆは、球の通過を許容する大きさの開口（孔）として、本体部Ｄ１４１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。

【３０４９】

開口Ｄ１４１ｄ，Ｄ１４１ｅは、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５の出口（第７通路ＤＲｔ７へ球を流出させる開口）としてそれぞれ形成され、第１介設部材Ｄ１５０の上面（球の転動面）よりも上方に形成される。即ち、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５を案内された球は、開口Ｄ１４１ｄ，Ｄ１４１ｅを介して、第７通路ＤＲｔ７へ流出（流下）される。

【３０５０】

開口Ｄ１４１ｆは、中間部材Ｄ１４０（本体部Ｄ１４１）の背面側に位置する第８通路ＤＲｔ８の下流端と、中間部材Ｄ１４０（本体部Ｄ１４１）の正面側に位置する第８通路ＤＲｔ８の上流端とを連通させる連通口（開口）として形成される。即ち、開口Ｄ１４１ｄは、中間部材Ｄ１４０の本体部Ｄ１４１を貫通する通路（第８通路ＤＲｔ８）の一部として形成される。

【３０５１】

突部Ｄ１４１ｇは、本体部Ｄ１４１の背面（矢印Ｂ方向側の面）から突設されると共に鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って直線状に延設される突条（細長いすじ状の突部）として形成され、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って所定間隔（本実施形態では等間隔）を隔てつつ複数箇所（本実施形態では６箇所）に配設される（図２４７（ｃ）参照）。なお、突部Ｄ１４１ｇの突設寸法および断面形状は、その延設方向（鉛直方向）に沿って同一とされる。

【３０５２】

複数の突部Ｄ１４１ｇの配設間隔（矢印Ｌ－Ｒ方向の間隔）は、本実施形態では、球の直径と略同等の間隔に設定される。また、複数の突部Ｄ１４１ｇは、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の正面から突設される複数の突部Ｄ１３１ｆに対し、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って位置を異ならせて配設される。即ち、背面部材Ｄ１３０の突部Ｄ１３１ｆと中間部材Ｄ１４０の突部Ｄ１４１ｇとは、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体

部Ｄ１７２の長手方向）に沿って千鳥状に配置される（図２４７（ｃ）参照）。これにより、第６通路ＤＲｔ６における球の転動を遅延させることができる。

【３０５３】

即ち、第６通路ＤＲｔ６を通過する球に対して作用する作用手段として突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇが機能し、その作用により球に抵抗が付与されることで、球の速度を低くすることができる。よって、球が第６通路ＤＲｔ６（転動部材Ｄ１７０）を通過するのに要する時間を長くでき、その分、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用する時間（即ち、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され球が入球されやい状態）を維持し易く（長く）できる。

【３０５４】

本実施形態では、背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１の正面と中間部材Ｄ１４０の本体部Ｄ１４１の背面との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）は、球の直径よりも大きい寸法に設定され、複数の突部Ｄ１３１ｆの先端を連ねた仮想面（平面）と、複数の突部Ｄ１４１ｇの先端を連ねた仮想面（平面）との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）は、球の直径と略同一または球の直径よりも若干小さい寸法に設定される。但し、両仮想面の間の対向間隔を球の直径よりも大きい寸法に設定しても良い。

【３０５５】

突部Ｄ１４１ｇの突設先端は、断面円弧状に湾曲して形成される。但し、突部Ｄ１４１ｇの断面形状を略矩形状としても良い。また、突部Ｄ１４１ｇは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に対して傾斜する方向に延設される直線形状であっても良く、円弧状に湾曲して延設される曲線形状を少なくとも一部に含む形状であっても良い。

【３０５６】

なお、突部Ｄ１４１ｇを、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に対して傾斜する方向に延設される直線形状とする場合には、球の転動面（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面）よりも上方（矢印Ｕ方向）側の方が第６通路ＤＲｔ６の上流側（矢印Ｒ方向側）に位置する方向に傾斜させることが好ましい。転動面から跳ね上がった球が突部Ｄ１４１ｇに衝突された場合に、球を転動方向と反対側（上流側）へ押し戻す方向の力成分を球に作用させ、球を遅延させやすくできるからである。

【３０５７】

側壁部Ｄ１４２は、その上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部が、第２介設部材Ｄ１６０の上面よりも上方（矢印Ｕ方向）となる高さ位置に配設され、上述したように、背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２と共に第３通路ＤＲｔ３の通路幅を区画する。

【３０５８】

連結部Ｄ１４３は、側壁部Ｄ１４２の下方側（矢印Ｄ方向側）の縁部と本体部Ｄ１４１の上方側（矢印Ｕ方向側）の縁部とを長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の全域にわたって連続して連結し、その連結部Ｄ１４３の上面側（矢印Ｕ方向側）に第２介設部材Ｄ１６０が配設される。

【３０５９】

連結部Ｄ１４３は、中間部材Ｄ１４０の第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ及び第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒと上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定間隔を隔てて対向し、それらの対向間に第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５がそれぞれ形成される。即ち、連結部Ｄ１４３は、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５の上面（上側の内面）を形成する。

【３０６０】

底面部Ｄ１４４は、開口Ｄ１４１ｆを除く領域において、本体部Ｄ１４１の縁部に沿って連続して形成され、その底面部Ｄ１４４の立設先端（矢印Ｆ方向側）が、正面部材Ｄ１１０における底面部Ｄ１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）に当接される。即ち、底面部Ｄ１４４は、開口Ｄ１４１ｆが開口される領域およびその近傍の領域において分断して形成される。

【３０６１】

底面部Ｄ１４４が分断された領域（開口Ｄ１４１ｆを含む領域）では、上述したように

、正面部材Ｄ１１０における底面部Ｄ１１２のうちの第８通路ＤＲｔ８を区画する部分の立設先端が、開口Ｄ１４１ｆの下方側（矢印Ｄ方向側）と左右の側方側（矢印Ｌ方向側および矢印Ｒ方向側）とにおいて、本体部Ｄ１４１の正面に当接される。

【３０６２】

第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌは、本体部Ｄ１４１と背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１及び連結部Ｄ１３３と共に第４通路ＤＲｔ４を区画する部位であり、上面が球の転動面とされる部位（転動部）と、その転動部（転動面）を転動した球を内壁面で受け止めて球の転動終点を規定する部位（縦壁部）とを形成する。

【３０６３】

即ち、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌは、転動部が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設され、転動部は、長手方向一端側（矢印Ｒ方向側）が上面視において流下口ＤＯＰｆｌに重なる位置（流下口ＤＯＰｆｌに入球（流下）された球を受け入れ（受け止め）可能な位置）に配設されると共に、長手方向他端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて下降傾斜され、長手方向他端側が開口Ｄ１４１ｄの下縁と重なる位置まで延設され、その延設端（長手方向他端）には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿う縦壁部が連結される。

【３０６４】

なお、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌは、長手方向他端側（矢印Ｌ方向側）の一部（開口Ｄ１４１ｄと重なる領域）が開口Ｄ１４１ｄへ向けても下降傾斜され、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ（転動面）の長手方向他端に達した球を開口Ｄ１４１ｄへ向けて転動可能とされる。

【３０６５】

よって、流下口ＤＯＰｆｌから第４通路ＤＲｔ４へ入球された球は、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌの長手方向一端側（矢印Ｒ方向側）に受け入れ（受け止め）られ、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ上を長手方向他端側（矢印Ｌ方向側）へ向けて転動される。長手方向他端に到達した球は、長手方向他端に連結される縦壁部に当接され（受け止められ）、転動が規制された後、開口Ｄ１４１ｄを介して、第７通路ＤＲｔ７（第１介設部材Ｄ１５０）へ流出（流下）される。

【３０６６】

第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒは、本体部Ｄ１４１と背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１及び連結部Ｄ１３３と共に第５通路ＤＲｔ５を区画する部位であり、上面が球の転動面とされる部位（転動部）と、その転動部（転動面）を転動した球を内壁面で受け止めて球の転動終点を規定する部位（縦壁部）とを形成する。

【３０６７】

なお、第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒは、正面視において、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌに対して、変位部材Ｄ１８０を中心として、左右対称に形成され、その構成および作用は、上述した第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌの構成および作用と実質同一であるので、説明を省略する。

【３０６８】

第６通路区画壁Ｄ１４６は、本体部Ｄ１４１と第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌと背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１と転動部材Ｄ１７０と共に第６通路ＤＲｔ６を区画する部位であり、上面が球の転動面とされる部位（転動部）と、その転動部（転動面）を転動した球を内壁面で受け止めて球の転動終点を規定する部位（縦壁部）とを形成する。

【３０６９】

即ち、第６通路区画壁Ｄ１４６は、転動部材Ｄ１７０の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側、転動部材Ｄ１７０を転動する球の転動方向の延長線上）に並設され、その転動部材Ｄ１７０を転動した球を受け入れ可能に形成される転動部と、その転動面の端部（転動部材Ｄ１７０と反対側）に連結され上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って形成される縦壁部とを備える。

【３０７０】

なお、第６通路区画壁Ｄ１４６は、転動部の上面（転動面）が開口Ｄ１４１ｆへ向けて

下降傾斜され、転動部材Ｄ１７０から受け入れた球を開口Ｄ１４１ｆへ向けて転動可能とされる。

【３０７１】

よって、流下口ＤＯＰｆｌから第６通路ＤＲｔ６へ入球され、転動部材Ｄ１７０を転動した球は、第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（転動面）に受け入れられ、その転動部の端部に連結される縦壁部に当接され（受け止められ）、転動が規制された後、開口Ｄ１４１ｆを介して、第８通路ＤＲｔ８へ流出（流下）される。

【３０７２】

第８通路区画壁Ｄ１４７は、第８通路ＤＲｔ８の一部（背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との間に形成される部分）を区画する部位であり、断面略矩形（枠状）の筒状に形成され、開口Ｄ１４１ｆと背面部材Ｄ１３０の開口Ｄ１３１ｅとを連通させる。即ち、背面部材Ｄ１３０の開口Ｄ１３１ｅから流出された球は、第８通路区画壁Ｄ１４７により区画される通路（空間）へ流入され、その通路（空間）を流下（転動）した後、開口Ｄ１４１ｆから流出され、第８通路ＤＲｔ８の残部（正面部材Ｄ１１０と第１介設部材Ｄ１５０との間に形成される部分）へ流入される。

【３０７３】

第１介設部材Ｄ１５０は、第７通路ＤＲｔ７における球の転動面を形成する部材であり、正面部材Ｄ１１０と中間部材Ｄ１４０との対向間に介設される。即ち、正面部材Ｄ１１０と中間部材Ｄ１４０と第１介設部材Ｄ１５０とに区画された空間により第７通路ＤＲｔ７が形成される。第１介設部材Ｄ１５０の上面（転動面）は、正面視において、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成され、第４通路ＤＲｔ４（開口Ｄ１４１ｄ）又は第５通路ＤＲｔ５（開口Ｄ１４１ｅ）から流下された球が湾曲に沿って往復動可能とされる。

【３０７４】

第１介設部材Ｄ１５０の上面（転動面）には、上述したように、第１介設部材Ｄ１５０（第７通路ＤＲｔ７）を案内される球を遊技領域へ流出させるために正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｄ１５１及び側方流出面Ｄ１５２）が形成される。また、第７通路ＤＲｔ７の上面（転動面）には、起伏が形成され、起伏の底部に側方流出面Ｄ１５２が配置される一方、起伏の頂部に中央流出面Ｄ１５１が配置される。

【３０７５】

なお、正面部材Ｄ１１０の正面部Ｄ１１１の上縁（矢印Ｕ方向の縁部）は、中央流出面Ｄ１５１及び側方流出面Ｄ１５２が形成される領域を除き、第１介設部材Ｄ１５０の上面（転動面）よりも上方（矢印Ｕ方向）へ突出される。即ち、第１介設部材Ｄ１５０の上面（転動面）を転動する球は、中央流出面Ｄ１５１又は側方流出面Ｄ１５２からのみ遊技領域へ流出（流下）される。

【３０７６】

第１介設部材Ｄ１５０の底面には、凹部Ｄ１５３が凹設され、上述したように、かかる凹部Ｄ１５３と正面部材Ｄ１１０の底面部Ｄ１１２との対向間に第８通路ＤＲｔ８の一部が形成される。

【３０７７】

第２介設部材Ｄ１６０は、第３通路ＤＲｔ３における球の転動面を形成する部材であり、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との対向間に介設される。即ち、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０と第２介設部材Ｄ１６０とに区画された空間により第３通路ＤＲｔ３が形成される。第２介設部材Ｄ１６０の上面（転動面）は、正面視において、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成され、第２通路ＤＲｔ２から流下された球が湾曲に沿って往復動可能とされる。

【３０７８】

なお、本実施形態では、第２介設部材Ｄ１６０の上面（転動面）は、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央（一対の変位部材Ｄ１８０の対向空間）に対応する位

置が最も低くされ、第２介設部材Ｄ１６０（第３通路ＤＲｔ３）の長手方向一端側または他端側（矢印Ｌ方向側または矢印Ｒ方向側）へ向かうに従って高さ位置が高くなるように形成される。

【３０７９】

即ち、第２介設部材Ｄ１６０の上面（転動面）は、一対の変位部材Ｄ１８０の対向空間に対応する位置から長手方向一端側または他端側（矢印Ｌ方向側または矢印Ｒ方向側）へ向けて上昇傾斜して形成される。よって、第３通路ＤＲｔ３の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って球が往復動可能とされる。

【３０８０】

第２介設部材Ｄ１６０の上面（転動面）には、球を第２介設部材Ｄ１６０（第３通路ＤＲｔ３）から流下口ＤＯＰｆｌへ流出させるために背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面（中央流出面Ｄ１６１及び側方流出面Ｄ１６２）が形成（凹設）される。

【３０８１】

中央流出面Ｄ１６１は、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央（一対の変位部材Ｄ１８０の対向空間）に対応する位置に配設（形成）される。一方、側方流出面Ｄ１６２は、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０の対向空間よりも第２介設部材Ｄ１６０（第３通路ＤＲｔ３）の長手方向一端側または他端側（矢印Ｌ方向側または矢印Ｒ方向側）となり、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０の対向空間に対応する（変位部材Ｄ１８０の先端よりも対向空間の中央側となる）位置に配設（形成）される。

【３０８２】

よって、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、中央流出面Ｄ１６１から流下口ＤＯＰｆｌへ流下する球は一対の変位部材Ｄ１８０の対向間（即ち、第６通路ＤＲｔ６）へ入球可能とされ、側方流出面Ｄ１６２から流下口ＤＯＰｆｌへ流下する球は第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５へ入球可能とされる。

【３０８３】

一方、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態では、中央流出面Ｄ１６１から流下口ＤＯＰｆｌへ流下する球と、側方流出面Ｄ１６２から流下口ＤＯＰｆｌへ流下する球との両者が、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間（即ち、第６通路ＤＲｔ６）へ入球可能とされる。

【３０８４】

本実施形態では、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の寸法は、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態において、第４通路ＤＲｔ４及び第５通路ＤＲｔ５へ球が流下（入球）可能な寸法に設定される。

【３０８５】

即ち、開放位置に配置された変位部材Ｄ１８０の先端と背面部材Ｄ１３０の連結部Ｄ１３３との間には、上面視において、球の直径よりも大きな隙間（間隔）が流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に確保（形成）される。これにより、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置されても、第６通路ＤＲｔ６だけでなく、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５への球の流下（入球）も可能とできる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【３０８６】

但し、流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の寸法を、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態において、第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５の少なくとも一方へ球が流下（入球）不能な寸法に設定しても良い。

【３０８７】

即ち、開放位置に配置された変位部材Ｄ１８０の先端と背面部材Ｄ１３０の連結部Ｄ１３３との間の隙間（間隔）を、上面視において、球の直径よりも小さい寸法（球が通過不能な寸法）としても良い。これにより、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された場合に

は、第６通路ＤＲｔ６のみへ球を流下（入球）可能とできる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【３０８８】

中央流出面Ｄ１６１は、上面視において、その凹面の延設長さ（第３通路ＤＲｔ３を往復動する球の転動方向に直交する方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の寸法）が、側方流出面Ｄ１６２（凹面）の延設長さよりも大きくされる。また、中央流出面Ｄ１６１は、上面視において、その凹面の幅（第３通路ＤＲｔ３を往復動する球の転動方向に沿う方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の寸法）が、側方流出面Ｄ１６２（凹面）の幅よりも大きくされる。

【３０８９】

よって、中央流出面Ｄ１６１の形成個数（１箇所）が、側方流出面Ｄ１６２の形成個数（２箇所）よりも少ない場合であっても、第３通路ＤＲｔ３を往復動する球が中央流出面Ｄ１６１から流下口ＤＯＰｆｌ（第６通路ＤＲｔ６）へ流下（入球）する確率を確保できる。

【３０９０】

なお、凹面の延設長さ及び幅を、中央流出面Ｄ１６１と側方流出面Ｄ１６２とにおいて、同一に設定しても良い。また、本実施形態とは逆に、中央流出面Ｄ１６１（凹面）の延設長さを側方流出面Ｄ１６２（凹面）の延設長さよりも小さくしても良い。これらの場合には、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、第３通路ＤＲｔ３を往復動する球を流下口ＤＯＰｆｌ（第６通路ＤＲｔ６）へ流下（入球）させ難くして、相対的に、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された場合の有利度を顕著とできる。

【３０９１】

また、中央流出面Ｄ１６１又は側方流出面Ｄ１６２の少なくとも一方または両方の形成（第２介設部材Ｄ１６０の上面への凹設）を省略しても良い。第３通路ＤＲｔ３を往復動する球が、流下口ＤＯＰｆｌへ流下する位置を流下口ＤＯＰｆｌの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って均等として、第４通路ＤＲｔ４、第５通路ＤＲｔ５又は第６通路ＤＲｔ６のいずれの通路へ球が流下（入球）するかのランダム性を高めることができる。

【３０９２】

転動部材Ｄ１７０は、軸Ｄ１７１と、その軸Ｄ１７１が長手方向一端側に配設される長尺板状の本体部Ｄ１７２と、その本体部Ｄ１７２の長手方向他端側（軸Ｄ１７１が配設される側と反対側）に配設される伝達部Ｄ１７３と、軸Ｄ１７１を挟んで伝達部Ｄ１７３（本体部Ｄ１７２）の反対側に配設される錘部Ｄ１７４とを備え、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との間に軸Ｄ１７１を中心として回転可能に配設される。

【３０９３】

軸Ｄ１７１は、上述したように、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で配設される。よって、軸Ｄ１７１を中心に転動部材Ｄ１７０が変位（回転）されることで、本体部Ｄ１７２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（昇降）される。

【３０９４】

本体部Ｄ１７２は、その上面が第６通路ＤＲｔ６における球の転動面を形成する部位であり、長手方向一端側（軸Ｄ１７１が配設される側、矢印Ｌ方向側）を、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）に並設させると共に、長手方向他端側（軸Ｄ１７１が配設される側と反対側、矢印Ｒ方向側）を、上面視において変位部材Ｄ１８０と重なる位置（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に入球（流下）された球を受け入れ（受け止め）可能な位置）に配設される。

【３０９５】

本体部Ｄ１７２は、初期位置（第１位置）から第２位置までのいずれの状態（姿勢）にあっても、その長手方向一端側（軸Ｄ１７１が配設される側、矢印Ｌ方向側）の上面が、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）の上面と略同一の高さ位置または若干上方側（矢印Ｕ方向側）となる高さ位置に配置される。

【３０９６】

軸Ｄ１７１は、本体部Ｄ１７２の内部に埋設され、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は

、軸Ｄ１７１を越える位置まで形成される。即ち、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球は、軸Ｄ１７１の上方側（矢印Ｕ方向側）を通過した後、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部へ転動（流入）される。

【３０９７】

本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１の上方側（矢印Ｕ方向側）となる位置を境として、伝達部Ｄ１７３側が平坦面として形成され、錘部Ｄ１７４側が軸Ｄ１７１を中心とする湾曲面として形成される。即ち、本体部Ｄ１７２の上面は、軸Ｄ１７１に直交する平面で切断した形状が、伝達部Ｄ１７３側では直線形状とされ、錘部Ｄ１７４側では軸Ｄ１７１と同芯の円弧形状とされる（図２４４参照）。

【３０９８】

本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１よりも伝達部Ｄ１７３側が平坦面として形成されるので、その領域を転動する球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がることを抑制できる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、錘部Ｄ１７４の作用により本体部Ｄ１７２が上方へ変位されることを未然に防止できる。

【３０９９】

なお、本体部Ｄ１７２の上面は、断面直線である必要はなく、段差が非形成であれば足り、球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面（曲線どうし又は曲線と直線とが滑らかに連なる断面形状、例えば、正弦波（正弦曲線）形状）として形成されていても良い。

【３１００】

ここで、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球を、軸Ｄ１７１に到達する前に、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）へ転動（流入）させる構成も考えられる。しかしながら、このような構成では、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球の重量の作用によって、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位されている状態（転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）が初期位置（第１位置）に復帰される前の状態）で、球が本体部Ｄ１７２の上面から排球されるため、球の排球に伴う慣性力の影響（球の重量が瞬間的に作用されなくなる影響）を受け、転動部材Ｄ１７０にばたつきが発生する。転動部材Ｄ１７０がばたつくと、変位部材Ｄ１８０の開閉状態が不安定となり、遊技の興趣の低下を招く。

【３１０１】

これに対し、本実施形態では、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球は、軸Ｄ１７１の上方（矢印Ｕ方向）となる位置を越えて転動されるため、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球の重量の作用を抑制し、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２が初期位置（第１位置）に復帰された状態で、球を本体部Ｄ１７２の上面から排球させることができる。よって、球の排球に伴う慣性力の影響（球の重量が瞬間的に作用されなくなる影響）を受けても、転動部材Ｄ１７０にばたつきが発生することを抑制できる。その結果、変位部材Ｄ１８０の開閉状態を安定させ、遊技の興趣を向上できる。

【３１０２】

なお、本実施形態では、上述したように、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１の上方（矢印Ｕ方向）となる位置を境として、錘部Ｄ１７４側が軸Ｄ１７１を中心とする湾曲面として形成される。よって、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が軸Ｄ１７１の上方（矢印Ｕ方向）を通過した後は、本体部Ｄ１７２の上面への球の重量は非作用とされる。即ち、本実施形態では、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）は、軸Ｄ１７１の上方側（矢印Ｕ方向側）となる位置よりも伝達部Ｄ１７３側の領域とされ、軸Ｄ１７１の上方となる位置よりも錘部Ｄ１７４側となる領域は、転動面としては機能されない。

【３１０３】

伝達部Ｄ１７３は、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）を伝達部材Ｄ１９０へ伝達するための部位であり、本体部Ｄ１７２の長手方向他端側から軸Ｄ１７１と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて延設される。伝達部Ｄ１７３の延設先端側（矢印Ｒ方向側）は、伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３の上方側（矢印Ｕ方向側）に配設（上面視において重なる位置に配設）される。

【３１０４】
よって、転動部材Ｄ１７０がその上面を転動する球の重量によって軸Ｄ１７１を中心に変位（回転）され、伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）されると、伝達部Ｄ１７３によって伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３が下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、伝達部材Ｄ１９０が軸Ｄ１９１を中心として変位（回転）される（図２４４から図２４６参照）。
【３１０５】
錘部Ｄ１７４は、転動部材Ｄ１７０の重心位置を偏心させるための部位であり、本体部Ｄ１７２の長手方向一端側から本体部Ｄ１７２の延設方向と反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて延設されると共に、内部に金属製（本実施形態では真鍮製）の錘が埋設される。
【３１０６】
転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）に球の重量が作用されていない無負荷状態（本体部Ｄ１７２上を球が転動していない状態）では、転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が、軸Ｄ１７１よりも錘部Ｄ１７４側に位置（偏心）される。その結果、転動部材Ｄ１７０は、錘部Ｄ１７４の重さ（重心位置の軸Ｄ１７１からの偏心）を利用して、無負荷状態では、初期位置（第１位置）に配置された姿勢の維持が可能とされると共に、初期位置から変位（回転）された後は、自重による初期位置への復帰が可能とされる。
【３１０７】
即ち、転動部材Ｄ１７０は、無負荷状態（本体部Ｄ１７２上に球の重量が作用されない状態）では、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）され（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として反時計回りに回転され）、初期位置（第１位置）に配置されると共に、初期位置（第１位置）に維持される。これにより、転動部材Ｄ１７０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【３１０８】
一方、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２上を球が転動する際には、その球の重量により、転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が本体部Ｄ１７２側（軸Ｄ１７１を挟んで錘部Ｄ１７４と反対側）に位置（偏心）される。これにより、転動部材Ｄ１７０は、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）され（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として時計回りに回転され）、第２位置に配置される。
【３１０９】
なお、転動部材Ｄ１７０の第１位置（初期位置）は、本体部Ｄ１７２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）の端面が、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６（転動部の縦壁部と反対側の端面）に当接されることで規定される。即ち、転動部材Ｄ１７０は、本体部Ｄ１７２が第６通路区画壁Ｄ１４６に当接されることで、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３の上方への変位（軸Ｄ１７１を中心とする正面視反時計回りの回転）が規制され、第１位置（初期位置）に配置される（図２４４参照）。
【３１１０】
一方、転動部材Ｄ１７０の第２位置は、錘部Ｄ１７４の上面が、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６（転動部の下面）に当接されることで規定される。即ち、転動部材Ｄ１７０は、錘部Ｄ１７４が第６通路区画壁Ｄ１４６に当接されることで、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３の下方への変位（軸Ｄ１７１を中心とする正面視時計回りの回転）が規制され、第２位置に配置される（図２４６参照）。
【３１１１】
転動部材Ｄ１７０は、第１位置に配置された状態では、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜され、第２位置に配置された状態においても、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜される。よって、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）上の球を開口Ｄ１４１ｆ（第８通路ＤＲｔ８）へ向けて確実に転動させることができる。
【３１１２】

このように、転動部材Ｄ１７０は、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）の下降傾斜を利用して、球を転動させるところ、転動部材Ｄ１７０は、軸Ｄ１７１を中心として回転可能に軸支され、本体部Ｄ１７２の上面の水平面に対する下降傾斜の角度は、球が転動されている状態（球の重量を受けている状態）における下降傾斜の角度が、球が非転動の状態（球の重量を受けていない無負荷状態）における下降傾斜の角度よりも小さくされる。

【３１１３】

これにより、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球に勢いが付与されることを抑制できる。よって、球が本体部Ｄ１７２の上面を通過するのに要する時間を嵩ませる（長くする）ことができる。その結果、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）に球の重量が作用されいてる時間を長くして、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態（少なくとも一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔が、閉鎖位置に配置された状態における対向間隔よりも広くされた状態）を維持しやすく（長く）できる。

【３１１４】

本実施形態では、転動部材Ｄ１７０は、１球の球の重量が本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央に作用された状態において、軸Ｄ１７１を中心として、錘部Ｄ１７４側の重量と本体部Ｄ１７２側の重量とがつり合うように形成される（転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１を通過する鉛直線上に位置される）。

【３１１５】

よって、１球の球のみが転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２を転動する場合、その球が、本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央よりも伝達部Ｄ１７３側（軸Ｄ１７１と反対側）に位置する状態では、転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１よりも本体部Ｄ１７２側に位置（偏心）され、その重心位置の偏心により、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）される（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として時計回りに回転される）。

【３１１６】

一方、球が、本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央よりも軸Ｄ１７１側（伝達部Ｄ１７３と反対側）に位置する状態では、転動部材Ｄ１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１よりも錘部Ｄ１７４側に位置（偏心）され、その重心位置の偏心により、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）される（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として反時計回りに回転される）。

【３１１７】

転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２を２球以上の球が転動する場合（本体部Ｄ１７２に２球以上の球の重量が作用される場合）には、それら各球の転動位置（本体部Ｄ１７２の長手方向における位置）に関わらず、転動部材Ｄ１７０の重心位置が、軸Ｄ１７１よりも本体部Ｄ１７２側に位置（偏心）され、その重心位置の偏心により、本体部Ｄ１７２及び伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）される（正面視において、軸Ｄ１７１を中心として時計回りに回転される）。

【３１１８】

このように、転動部材Ｄ１７０の転動面（本体部Ｄ１７２）の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の途中（本実施形態では長手方向中央）につり合い位置を設けることで、そのつり合い位置を球が通過した後は、転動部材Ｄ１７０を第２位置から第１位置へ徐々に変位（回転）させることができる。その結果、変位部材Ｄ１８０を開放位置から閉鎖位置へ徐々に変位（回転）させることができる。

【３１１９】

なお、１球の球の重量が作用した場合に、軸Ｄ１７１を中心として、錘部Ｄ１７４側の重量と本体部Ｄ１７２側の重量とがつり合う位置は、本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央よりも軸Ｄ１７１側であっても良く、本体部Ｄ１７２の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央よりも伝達部Ｄ１７３側であっても良い。

【３１２０】

変位部材Ｄ１８０は、第３通路ＤＲｔ３から流下口ＤＯＰｆｌへ流下（入球）された球

を第６通路ＤＲｔ６へ向けて案内するための部材であり、上述したように、軸支部材Ｄ２１０に軸支され、閉鎖位置と開放位置との間で変位（回転）される。

【３１２１】

軸支部材Ｄ２１０は、変位部材Ｄ１８０の基端側に固着される軸Ｄ２１１と、その軸Ｄ２１１の軸方向と直交する方向（径方向外方）へ張り出す張出部Ｄ２１２と、その張出部Ｄ２１２から軸Ｄ２１１と平行な姿勢（矢印Ｆ－Ｂ方向に沿う姿勢）で突出され、伝達部材Ｄ１９０に連結される連結ピンＤ２１３とを備える。

【３１２２】

軸支部材Ｄ２１０は、上述したように、軸Ｄ２１１が中間部材Ｄ１４０（本体部Ｄ１４１）の軸支部Ｄ１４１ｂ及び背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の軸支孔Ｄ１３１ｂに軸支される。張出部Ｄ２１２は、背面部材Ｄ１３０（本体部Ｄ１３１）の背面側に配設され、連結ピンＤ２１３は、軸Ｄ２１１と平行な姿勢で背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される。

【３１２３】

軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１は、変位部材Ｄ１８０に固着される。また、連結ピンＤ２１３は、軸Ｄ２１１に対して軸方向と直交する方向（径方向）に位置を異ならせる（軸Ｄ２１１に対して偏心した位置に配置される）。よって、伝達部材Ｄ１９０の変位（回転）に伴い、連結ピンＤ２１３が変位されると、その連結ピンＤ２１３の変位が軸Ｄ２１１の回転に変換され、軸Ｄ２１１と共に変位部材Ｄ１８０が変位（回転）される。

【３１２４】

なお、連結ピンＤ２１３は、軸Ｄ２１１よりも外側（一対の変位部材Ｄ１８０が対向する空間と反対側）に配設される。よって、連結ピンＤ２１３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位される（押し下げられる）ことで、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位（回転）され、連結ピンＤ２１３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位される（押し上げられる）ことで、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ向けて変位（回転）される。

【３１２５】

変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置および開放位置は、変位部材Ｄ１８０の基端側の外面が、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ及び第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒの側面に当接されることで規定される。即ち、変位部材Ｄ１８０は、基端側の外面が、第４通路区画壁Ｄ１４５Ｌ及び第５通路区画壁Ｄ１４５Ｒの側面に当接されることで、一対の変位部材Ｄ１８０どうしを互いに近接させる方向（対向間隔が小さくなる方向）又は互いに離間させる方向（対向間隔が大きくなる方向）への変位が規制され、閉鎖位置または開放位置に配置される（（図２４４から図２４６参照）。

【３１２６】

また、変位部材Ｄ１８０及び軸支部材Ｄ２１０は、変位部材Ｄ１８０の基端側に軸支部材Ｄ２１０の軸Ｄ２１１が固着されることで、一体化（ユニット化）される。

【３１２７】

これら変位部材Ｄ１８０及び軸支部材Ｄ２１０が一体化された部品（以下「変位部材Ｄ１８０ユニット」と称す）は、少なくとも閉鎖位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０ユニット全体としての重心位置が、軸Ｄ２１１よりも他方の変位部材Ｄ１８０ユニット側に位置（偏心）される。即ち、軸Ｄ２１１（矢印Ｆ－Ｂ）方向視において、軸Ｄ２１１を通過する仮想線よりも他方の変位部材Ｄ１８０ユニット側に重心位置が位置（偏心）される。

【３１２８】

その結果、変位部材Ｄ１８０ユニットは、重心位置の軸Ｄ２１１からの偏心を利用して（即ち、重心位置の偏心が、一対の変位部材Ｄ１８０を互いに近接させる方向へ回転させる力として作用され）、閉鎖位置に配置された姿勢の維持が可能とされる。

【３１２９】

伝達部材Ｄ１９０は、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）を変位部材Ｄ１８０（軸支部材Ｄ２１０）へ伝達するための部材であり、軸Ｄ１９１と、その軸Ｄ１９１が軸方向一側（

矢印Ｆ方向側）の端面および他側（矢印Ｂ方向側）の端面から突出される円柱状の胴部Ｄ１９２と、その胴部Ｄ１９２の軸方向一側の外周面から径方向外方へ延設される被伝達部Ｄ１９３と、胴部Ｄ１９２の軸方向他側の外周面から径方向外方へ延設される本体部Ｄ１９４及び錘部Ｄ１９５とを備える。

【３１３０】

軸Ｄ１９１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ）に沿う姿勢で配設され、上述したように、軸Ｄ１９１の一端は、胴部Ｄ１９２が背面部材Ｄ１３０の挿通孔Ｄ１３１ｃに挿通されることで、中間部材Ｄ１４０の軸支部Ｄ１４１ｃに軸支され、軸Ｄ１９１の他端は、迂回部材Ｄ２００の軸支部Ｄ２０１に軸支される。

【３１３１】

被伝達部Ｄ１９３は、転動部材Ｄ１７０（伝達部Ｄ１７３）から転動部材Ｄ１７０の変位（回転）が伝達される部位であり、背面部材Ｄ１３０における本体部Ｄ１３１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【３１３２】

上述したように、被伝達部Ｄ１９３の延設先端側（矢印Ｌ方向側）は、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設（上面視において重なる位置に配設）され、伝達部Ｄ１７３が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）されると、伝達部Ｄ１７３によって伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３が下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、伝達部材Ｄ１９０が軸Ｄ１９１を中心として変位（回転）される（図２４４から図２４６参照）。

【３１３３】

ここで、伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３と転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、所定の隙間が形成され、球の重量を受けた転動部材Ｄ１７０が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）される場合には、上述した所定の隙間を埋めた後に、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３が伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３に当接可能とされる。即ち、転動部材Ｄ１７０は、上述した隙間を埋めるだけの変位（下降）をしなければ、伝達部材Ｄ１９０の被伝達部Ｄ１９３を下方へ押し下げることができない。

【３１３４】

これにより、転動部材Ｄ１７０の変位が比較的小さい場合には、転動部材Ｄ１７０の変位を変位部材Ｄ１８０へ伝達させないようにすることができる。よって、例えば、遊技機を叩いて転動部材Ｄ１７０を変位（下降）させることや、針金等の異物で転動部材Ｄ１７０を変位（下降）させようとする不正を成功し難くできる。

【３１３５】

本体部Ｄ１９４は、伝達部材Ｄ１９０の変位（回転）を軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３へ伝達するための部位であり、背面部材Ｄ１３０における本体部Ｄ１３１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。

【３１３６】

本体部Ｄ１９４には、溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒが形成され、これら溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒには、軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３がそれぞれ摺動可能に挿通される。よって、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）が伝達され、伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）されると、伝達部材Ｄ１９０の挿通溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒにおける内壁面により連結ピンＤ２１３が下方または上方へ変位される（押し下げ又は押し上げられる）。これにより、変位部材Ｄ１８０ユニットが変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が開放位置または閉鎖位置に配置される。

【３１３７】

溝Ｄ１９４Ｒは、軸Ｄ１９１方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）視において、溝の幅寸法（連結ピンＤ２１３が相対的に摺動変位する方向と直交する方向の寸法）が、連結ピンＤ２１３の直径と略同等または若干大きな寸法に設定され、軸Ｄ１９１を中心とする円弧と交差する方向に沿って直線状に延設される。よって、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２

１３は、伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）されている間、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって下方または上方へ変位される（押し下げ又は押し上げられる）。

【３１３８】

溝Ｄ１９４Ｌは、軸Ｄ１９１方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）視において、軸Ｄ１９１側に中心を有する円弧状に湾曲する形状に延設され、下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側の端部、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態において、連結ピンＤ２１３が位置する側の端部）における溝の幅寸法が、連結ピンＤ２１３の直径と略同等または若干大きな寸法に設定され、上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の端部、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態において、連結ピンＤ２１３が位置する側の端部）へ向かうに従って溝の幅寸法が増加される。

【３１３９】

詳細には、溝Ｄ１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面のうちの軸Ｄ１９１から遠い側の内壁面は、軸Ｄ１９１を中心とする円弧に沿った形状（軸Ｄ１９１を中心とする円形状を所定の中心角で分断した形状）とされ、軸Ｄ１９１に近い側の内壁面は、下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側の端部）から上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の端部）へ向かうに従って軸Ｄ１９１からの距離が大きくされる円弧状に湾曲して形成される。

【３１４０】

なお、軸支部材Ｄ２１０は、軸Ｄ２１１に対して連結ピンＤ２１３が偏心されるため、連結ピンＤ２１３と伝達部材Ｄ１９０の軸Ｄ１９１との間の距離は、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態において最大とされ、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位されるに従って減少される。即ち、連結ピンＤ２１３は、下方（矢印Ｄ方向）へ変位された（押し下げられた）状態ほど、伝達部材Ｄ１９０の軸Ｄ１９１との間の距離が小さくされる。

【３１４１】

よって、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態（即ち、連結ピンＤ２１３が最も上方（矢印Ｕ方向）へ変位された（押し上げされた）状態、図２４４参照）から伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）される場合には、連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面の両者から作用を受けない（当接されない）。

【３１４２】

一方、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態（即ち、連結ピンＤ２１３が最も下方（矢印Ｄ方向）へ変位された（押し下げられた）状態、図２４６参照）から伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）される場合には、連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面のうちの軸Ｄ１９１に近い側の内壁面から作用を受け（当接され）、その作用により徐々に上方（矢印Ｕ方向）へ変位される（押し上げられる）。

【３１４３】

このように、連結ピンＤ２１３は、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、伝達部材Ｄ１９０が変位（回転）されても、溝Ｄ１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面から作用を受けないため、下方へ変位されず（押し下げられず）、溝Ｄ１９４Ｌの上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の端部）に達してから（図２４５参照）、その上方側の延設端部における内壁面によって下方へ変位される（押し下げられる）。

【３１４４】

これにより、一対の変位部材Ｄ１８０の動作態様（変位態様）を互いに異ならせることができる。即ち、一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方を停止させつつ他方のみを変位（回転）させる状態を形成できる。

【３１４５】

即ち、本実施形態では、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態では、連結ピンＤ２１３と溝Ｄ１９４Ｌの上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側における端部、内壁面）との間に所定の間隔が形成される（図２４４参照）。

【３１４６】

転動部材Ｄ１７０が球の重量を受けて初期位置（第１位置）から変位（回転）され、伝達部材Ｄ１９０の変位（回転）が開始されると、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方）の閉鎖位置からの変位（回転）が開始される。

【３１４７】

一方、溝Ｄ１９４Ｌに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｌの上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の延設端部、内壁面）に達するまでの間は、下方へ変位されず（押し下げられず）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの他方）が閉鎖位置に維持される。

【３１４８】

転動部材Ｄ１７０の初期位置（第１位置）からの変位（回転）に伴って、伝達部材Ｄ１９０が更に変位（回転）されると、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって引き続き下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方）の閉鎖位置から開放位置への変位（回転）が継続される。

【３１４９】

一方、溝Ｄ１９４Ｌに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｌの上方側の延設端部（矢印Ｕ方向側の端部、内壁面）に達すると（図２４５参照）、その上方側の延設端部（内壁面）により下方へ変位され（押し下げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの他方）の閉鎖位置からの変位が開始される。

【３１５０】

その後は、いずれの連結ピンＤ２１３も下方へ変位され（押し下げられ）、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位（回転）され、転動部材Ｄ１７０が第２位置に達すると、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置される。

【３１５１】

このように、本実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ向けて変位（回転）を開始するタイミングを異ならせる（一方に対し他方を遅らせる）ことができる。これにより、変位部材Ｄ１８０の開放位置への変位（即ち、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球））を期待する遊技者に対し、開放状態に変化を形成でき、遊技の興趣を高めることができる。

【３１５２】

錘部Ｄ１９５は、伝達部材Ｄ１９０の重心位置を偏心させるための部位であり、本体部Ｄ１９４の長手方向一端側から軸Ｄ１９１と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて延設されると共に、内部に金属製（本実施形態では真鍮製）の錘が埋設される。

【３１５３】

伝達部材Ｄ１９０は、錘部Ｄ１９５の重量により、伝達部材Ｄ１９０全体としての重心位置が、軸Ｄ１９１よりも錘部Ｄ１９５側に位置（偏心）される。その結果、伝達部材Ｄ１９０は、錘部Ｄ１９５の重さ（重心位置の軸Ｄ１９１からの偏心）を利用して、初期位置（変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置とする位置、図２４４参照）に配置された姿勢の維持が可能とされると共に、初期位置から変位（回転）された後は、自重による初期位置への復帰（即ち、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置への復帰）が可能とされる。

【３１５４】

即ち、伝達部材Ｄ１９０は、被伝達部Ｄ１９３が転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３によって下方（矢印Ｄ方向）へ変位されて（押し下げられて）いない状態では、本体部Ｄ１９４が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）され（背面視において、軸Ｄ１９１を中心として反時計回りに回転され）、初期位置に配置される（変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置に配置させる）と共に、初期位置に維持される。これにより、伝達部材Ｄ１９０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【３１５５】
迂回部材Ｄ２００は、背面部材Ｄ１３０の区画壁Ｄ１３４による区画領域よりも背面視において大きな外形を有する板状に形成され、区画壁Ｄ１３４の立設先端面（矢印Ｂ方向側の面）に配設されることで、区画壁Ｄ１３４と共に第８通路ＤＲｔ８を区画する。また、迂回部材Ｄ２００には、区画壁Ｄ１３４による区画領域よりも背面視において外方となる領域に、軸支部Ｄ２０１が形成される。
【３１５６】
次いで、図２４４から図２４６と図２４７（ｃ）とを参照して、変位部材Ｄ１８０の開閉動作について説明する。
【３１５７】
図２４４に示すように、流下口ＤＯＰｆｌから第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球が流入（入球）されていない状態では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置される。そのため、伝達部材Ｄ１９０は、転動部材Ｄ１７０から作用を受けず、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置される。
【３１５８】
この状態において、流下口ＤＯＰｆｌから第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球（図示せず）が流入（入球）されると、かかる球は、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間を通過（流下）し、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２における長手方向他端側（軸Ｄ１７１と反対側、矢印Ｒ方向側）の上面（転動面）に落下された後、本体部Ｄ１７２の上面を長手方向一端側（軸Ｄ１７１側、矢印Ｌ方向側）へ向けて転動される。
【３１５９】
図２４５に示すように、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を球が転動する状態では、その球の重量を受けて、転動部材Ｄ１７０が第２位置へ向けて変位（回転）され、図２４６に示すように、転動部材Ｄ１７０が更に変位（回転）されて第２位置に達すると、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置され、それら変位部材Ｄ１８０の対向間隔が最大に拡大される。
【３１６０】
転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球（図示せず）は、本体部Ｄ１７２の長手方向一端側（軸Ｄ１７１側、矢印Ｌ側）から、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）へ転動（流入）され、開口Ｄ１３１ｄを介して、第８通路ＤＲｔ８へ転動（流入）される。
【３１６１】
その後、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）に球が存在しなくなると、転動部材Ｄ１７０が自重により初期位置（第１位置）へ復帰され、これに伴って、伝達部材Ｄ１９０が自重により初期位置へ復帰されることで、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ配置される（図２４４参照）。
【３１６２】
このように、本実施形態では、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）が軸Ｄ１７１を中心として回転可能に軸支され、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ流入（入球）された球が、軸Ｄ１７１側（矢印Ｌ方向側）へ向けて転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動される。
【３１６３】
上述したように、転動部材Ｄ１７０は、長手方向他端側（軸Ｄ１７１が配設される側と反対側、矢印Ｒ方向側）を、上面視において変位部材Ｄ１８０と重なる位置（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に入球（流下）された球を受け入れ（受け止め）可能な位置）に配設される。
【３１６４】
よって、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）した球を、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）に落下させることができる。
【３１６５】

ここで、例えば、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球の転動方向が、軸Ｄ１７１から離間する方向に設定される構造では、球が転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）を転動する初期段階では、球の重量が作用する位置（力点）と軸Ｄ１７１（支点）との距離が近いため、球が所定距離だけ転動して軸Ｄ１７１からの距離（力点と支点との間の距離）が確保されるまでの間は、錘部Ｄ１７４の重量に対抗することができず、球の重量によって転動部材Ｄ１７０を初期位置（第１位置）から変位（回転）させることができない。

【３１６６】

これに対し、本実施形態によれば、球が本体部Ｄ１７２の上面を転動する際に、その初期段階において、球の重量が作用する位置（力点）と軸Ｄ１７１（支点）との距離を確保して、錘部Ｄ１７４の影響を小さくできるので、球の重量によって転動部材Ｄ１７０を初期位置（第１位置）から変位（回転）させやすくできる。

【３１６７】

即ち、球が第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入された直後に、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）を初期位置（第１位置）から変位（回転）させ、変位部材Ｄ１８０の開放位置へ向けた変位（及び開放位置への配置）を速やかに行わせることができる。

【３１６８】

特に、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入された球を、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）に直接落下させることができるので、球の重量の作用のみでなく、球の落下する勢い（運動エネルギー）を利用して、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）を初期位置（第１位置）から変位（回転）させることができる。この点においても、変位部材Ｄ１８０の開放位置へ向けた変位（及び開放位置への配置）を速やかに行わせることができる。

【３１６９】

よって、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）への球の流下（入球）を見届けた遊技者に対し、その直後に変位部材Ｄ１８０の開放位置への変位を開始させることができ、テンポの良い演出を行うことができる。

【３１７０】

また、第３通路ＤＲｔ３上を複数の球が転動する場合に、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ入球された第１の球と、その第１の球に後行する第２の球（第６通路ＤＲｔ６へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的小さい場合に、後行する第２の球を第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）されやすくできる。

【３１７１】

転動部材Ｄ１７０は、その上面（転動面）を球が転動する方向が、軸Ｄ１７１へ近づく方向とされるので、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面を球が転動するに従って、球の重量が作用する位置（力点）と軸Ｄ１７１（支点）との距離を徐々に短くして、錘部Ｄ１７４の影響を大きくできる。よって、転動部材Ｄ１７０を第２位置から初期位置（第１位置）へ向けて徐々に復帰させることができる。

【３１７２】

即ち、球の転動が進行するに従って、開放位置に配置されていた変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置へ向けて徐々に変位（回転）させることができる。これにより、例えば、第３通路ＤＲｔ３上を他の球が往復動されている場合に、その他の球の第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）への流入（入球）が、変位部材Ｄ１８０が開放されている有利な状態（少なくとも閉鎖位置に配置された状態よりも開放量が大きい状態）に間に合うか否かを遊技者に着目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【３１７３】

更に、転動部材Ｄ１７０は、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）された球が転動部材Ｄ１７０に落下される場合に、落下された球を、転動部

材Ｄ１７０の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における変位量が大きい側（軸Ｄ１７１から離間された側）で受け止めることができる。

【３１７４】

よって、落下された球の運動エネルギーを、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）、即ち、錘部Ｄ１７４を上方へ持ち上げるためのエネルギーとして吸収（消費）できる。その結果、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）に落下した球が上方へ跳ね上がることを抑制できる。その結果、球の重量を転動部材Ｄ１７０に安定して作用させ、変位部材Ｄ１８０の状態を安定させる（例えば、閉鎖位置へ向けて変位部材Ｄ１８０が一時的に変位（回転）されることを抑制）できる。

【３１７５】

また、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）した球を、転動部材Ｄ１７０とは別の部材（固定された非変位の部材、例えば、背面部材Ｄ１３０や中間部材Ｄ１４０の一部）に落下させる場合には、その別の部材の破損を招きやすくなるところ、上述のように、落下された球の運動エネルギーを、転動部材Ｄ１７０の変位により吸収（消費）できることで、球の衝突による転動部材Ｄ１７０やその転動部材Ｄ１７０を軸支する背面部材Ｄ１３０及び中間部材Ｄ１４０の破損を抑制できる。その結果、球の落下を許容できる分（球の落下高さの上限を緩やかとできる分）、設計の自由度を高めることができる。

【３１７６】

第６通路ＤＲｔ６の側壁（内側面）を形成する背面部材Ｄ１３０の本体部Ｄ１３１及び中間部材Ｄ１４０の本体部Ｄ１４１には、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇ（作用手段）が突設され、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球に作用可能に形成される。

【３１７７】

即ち、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇは、所定間隔を隔てて対向配置される本体部Ｄ１３１，Ｄ１４１から第６通路ＤＲｔ６内へ向けて突設されると共に上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って直線状に延設され、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って所定間隔を隔てつつ複数が配設される。

【３１７８】

よって、球が第６通路ＤＲｔ６を通過する際には、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する場合だけでなく、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面（転動面）から浮いた状態で移動する場合であっても、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを球に当接させ、抵抗を付与することで、球の速度を低くすることができる。

【３１７９】

その結果、球が第６通路ＤＲｔ６（転動部材Ｄ１７０）を通過するのに要する時間を長くでき、その分、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用される時間（即ち、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやい状態）を維持し易く（長く）できる。

【３１８０】

この場合、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇは、第６通路ＤＲｔ６（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２）を挟んだ両側に形成され、第６通路ＤＲｔ６における球の転動方向（転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向）に沿って千鳥状に配置されるので、球が第６通路ＤＲｔ６を通過する際に、球を突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇに交互に当接させることができる。

【３１８１】

これにより、球に抵抗を付与するだけでなく、球の速度成分に横方向（転動方向に直交する方向）の速度成分を付加することができる（球の進路を、直進ではなく、ジグザグとできる）。よって、球が第６通路ＤＲｔ６を通過するのに要する時間を長くできる。従って、この点からも、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用される時間（即ち、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやい状態）を維持し易く（長く

）できる。
【３１８２】
一方で、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って延設されるので、鉛直方向へ移動する球には抵抗が付与され難くできる。よって、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）の上面（転動面）から球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がった場合には、その球を下方（転動面）へ速やかに落下させることができる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、錘部Ｄ１７４の作用により転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２が上方へ変位された場合でも、かかる転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２に球の重量を速やかに作用させ、本体部Ｄ１７２を元の状態に速やかに復帰させることができる。
【３１８３】
その結果、転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２を球が通過する間は、本体部Ｄ１７２に球の重量を作用させ、変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやい状態を維持し易くできる。
【３１８４】
転動部材Ｄ１７０は、本体部Ｄ１７２の上面（転動面）が平坦面として形成される。即ち、本体部Ｄ１７２の上面は、球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面として形成され、段差が非形成とされる。よって、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がることを抑制できる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、錘部Ｄ１７４の作用により本体部Ｄ１７２が上方へ変位されることを未然に防止できる。
【３１８５】
以上のように、本実施形態によれば、変位部材Ｄ１８０が変位（回転）可能に形成され、その変位（回転）によって、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のされやすさを変化させる構造において、変位部材Ｄ１８０は、第６通路ＤＲｔ６へ球が入球された場合に、第６通路ＤＲｔ６へ球が入球されやすくなる側（開放位置）へ変位されるので、第６通路ＤＲｔ６へ１の球が入球されれば、その球に後行する球（例えば、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に往復動する球、後続の球）を第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすくできる。
【３１８６】
即ち、第６通路ＤＲｔ６へ第１の球が流入（入球）されれば、その第１の球の第６通路ＤＲｔ６への入球により変位部材Ｄ１８０が変位され、後行する第２の球（第１の球の後続となる第２の球）が第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすい状態を形成でき、第２の球が第６通路ＤＲｔ６へ入球されれば、その第２の球の第６通路ＤＲｔ６への入球により変位部材Ｄ１８０が変位され、後行する第３の球（第２の球の後続となる第３の球）が第６通路ＤＲｔ６へ入球されやすい状態を形成でき、第３の球の以降も、これらの態様を繰り返すことができる。
【３１８７】
よって、第６通路ＤＲｔ６への１の球の流入（入球）により、第６通路ＤＲｔ６への球の入球の連鎖が発生することを遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【３１８８】
この場合、変位部材Ｄ１８０の球が入球されやすくなる側（開放位置）への変位は、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）された球の重量を利用して行われる。よって、変位部材Ｄ１８０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【３１８９】
特に、本実施形態では、第６通路ＤＲｔ６の球の転動面を転動部材Ｄ１７０により形成し、転動する球の重量の作用により転動部材Ｄ１７０が変位（回転）される構成であるので、球の重量を利用できる時間を確保できる。その結果、第６通路ＤＲｔ６へ球が流入（入球）されやすくされた状態を維持しやすくできる。
【３１９０】
次いで、図２４８を参照して、第６０実施形態について説明する。第５９実施形態では

、変位部材Ｄ１８０が外部から強制的に開放可能とされたが、第６０実施形態の変位部材Ｄ１８０は、外部から強制的に開放されることを規制可能とされる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３１９１】

図２４８（ａ）及び図２４８（ｂ）は、第６０実施形態における下側フレームＤ２０８６ｂの断面図であり、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応する。なお、図２４８（ａ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が、図２４８（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【３１９２】

図２４８に示すように、伝達部材Ｄ２１９０は、係合部Ｄ２１９６を備える。なお、伝達部材Ｄ２１９０は、第５９実施形態における伝達部材Ｄ１９０に対し、係合部Ｄ２１９６を更に備える点のみで相違し、その他の構成は同一である。

【３１９３】

係合部Ｄ２１９６は、転動部材Ｄ１７０の初期位置（第１位置）から第２位置への変位（回転）を許容し、且つ、転動部材Ｄ１７０が初期値（第１位置）に配置された状態において、閉鎖位置にある変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位（回転）されることを規制するための部位であり、被伝達部Ｄ１９３の上面（矢印Ｕ方向側の面）から立設され、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３の延設先端（矢印Ｒ方向側の端部）に外面（軸Ｄ１９１と反対側の面）を対面させて配設される。

【３１９４】

係合部Ｄ２１９６の外面（軸Ｄ１９１と反対側の面）は、転動部材Ｄ１７０が軸Ｄ１７１を中心として回転される際の伝達部Ｄ１７３の延設先端（矢印Ｒ方向側の端部）の変位軌跡と交差しない形状（変位軌跡に接する形状、又は、変位軌跡との間に隙間を有する形状）に形成される。よって、転動部材Ｄ１７０の初期位置（第１位置）から第２位置への変位（回転）が許容される（図２４８（ｂ）参照）。

【３１９５】

よって、第６通路ＤＲｔ６へ球が流入（入球）され、その球が転動部材Ｄ１７０の本体部Ｄ１７２の上面を転動する際には、その球の重量を利用して、転動部材Ｄ１７０を第２位置へ変位させることができる。その結果、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３により伝達部材Ｄ２１９０の被伝達部Ｄ１９３を下方へ変位させ（押し下げ）、変位部材Ｄ１８０を開放位置へ変位（回転）させることができる。

【３１９６】

また、係合部Ｄ２１９６の外面（軸Ｄ１９１と反対側の面）は、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態において、伝達部材Ｄ２１９０が正面視反時計回り（図２４８（ａ）左回り、即ち、開放位置に配置された変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位される方向）の回転を規制可能な形状に形成される。

【３１９７】

具体的には、伝達部材Ｄ２１９０が正面視反時計回り（図２４８（ａ）左回り）に回転され、係合部Ｄ２１９６の外面（軸Ｄ１９１と反対側の面）が、転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３の延設先端（矢印Ｒ方向側の端部）に当接して押圧する際に、その伝達部Ｄ１７３の延設先端が軸Ｄ１７１へ向かう方向へ押圧される（伝達部Ｄ１７３の延設先端に係合部Ｄ２１９６から作用される力の延長線上に軸Ｄ１７１が位置される）。

【３１９８】

よって、転動部材Ｄ１７０を変位（回転）させるための力成分が形成されず、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に維持される（回転不能とされる）ことで、伝達部材Ｄ２１９０の正面視反時計回り（図２４８（ａ）左回り）の回転が規制される（図２４８（ａ）参照）。即ち、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置から開放位置へ向けての変位（回転）が

規制される。
【３１９９】
このように、本実施形態によれば、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態（即ち、球の重量が作用されていない状態）では、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置から開放位置へ向けた変位（回転）を規制することができる。即ち、例えば、針金等の異物を挿入して、閉鎖位置にある変位部材Ｄ１８０を、開放位置へ向けて強制的に変位させる不正（第６通路ＤＲｔ６へ球が流入（入球）しやすくする不正）を抑制できる。
【３２００】
この場合、本実施形態では、転動部材Ｄ１７０を利用する（転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３に伝達部材Ｄ２１９０の係合部Ｄ２１９６を係合させる）ことで、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置から開放位置へ向けた変位（回転）が規制される。よって、変位部材Ｄ１８０が強制的に変位（回転）されることを規制するための部品を別途設ける必要がなく、伝達部材Ｄ１９０を流用することができるので、その分、変位部材Ｄ１８０を強制的に変位させる不正を抑制するための構造を簡素化できる。
【３２０１】
次いで、図２４９を参照して、第６１実施形態について説明する。第５９実施形態では、転動部材Ｄ１７０を転動する球の転動方向が軸Ｄ１７１へ近づく方向とされたが、第６１実施形態の転動部材Ｄ３１７０は、球の転動方向が軸Ｄ３１７１から遠ざかる（離間される）方向とされる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【３２０２】
図２４９（ａ）及び図２４９（ｂ）は、第６１実施形態における下側フレームＤ３０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応する。なお、図２４９（ａ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が、図２４９（ｂ）では、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態が、それぞれ図示される。
【３２０３】
図２４９に示すように、転動部材Ｄ３１７０は、軸Ｄ３１７１と、その軸Ｄ３１７１が長手方向他端側（矢印Ｒ方向側）に配設される長尺板状の本体部Ｄ３１７２と、その本体部Ｄ３１７２の長手方向他端側（軸Ｄ３１７１が配設される側）に配設される錘部Ｄ３１７４と、その錘部Ｄ３１７４を挟んで本体部Ｄ３１７２の反対側に配設される伝達部Ｄ３１７３とを備え、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０との間に軸Ｄ３１７１を中心として回転可能に配設される。
【３２０４】
なお、転動部材Ｄ３１７０の各部Ｄ３１７１～Ｄ３１７４は、第５９実施形態における転動部材Ｄ１７０の各部Ｄ１７１～Ｄ１７４に対し、機能は実質的に同一であり、配置のみが相違する。また、伝達部材Ｄ３１９０は、第５９実施形態における伝達部材Ｄ３１９０に対し、被伝達部Ｄ３１９３の向き（延設方向）のみが相違し、その他の構成は同一である。
【３２０５】
軸Ｄ３１７１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で配設され、背面部材Ｄ１３０と中間部材Ｄ１４０とに形成される軸支部（図示せず）に軸支される。よって、軸Ｄ３１７１を中心に転動部材Ｄ３１７０が変位（回転）されることで、本体部Ｄ３１７２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（昇降）される。
【３２０６】
本体部Ｄ３１７２は、その上面が第６通路ＤＲｔ６における球の転動面を形成する部位であり、長手方向一端側（軸Ｄ３１７１が配設される側と反対側、矢印Ｌ方向側）を、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）に並設させると共に、長手方向他端側（軸Ｄ３１７１が配設される側、矢印Ｒ方向側）を、上面

視において変位部材Ｄ１８０と重なる位置（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に入球（流下）された球を受け入れ（受け止め）可能な位置）に配設される。
【３２０７】
本体部Ｄ３１７２は、第２位置に配置された状態（姿勢）では、その長手方向一端側（軸Ｄ３１７１が配設される側と反対側、矢印Ｌ方向側）の上面が、中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部（上面が転動面とされる部位）の上面と略同一の高さ位置または若干上方側（矢印Ｕ方向側）となる高さ位置に配置される。
【３２０８】
本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）は、平坦面として形成される。よって、転動する球が上方（矢印Ｕ方向）へ跳ね上がることを抑制できる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、錘部Ｄ３１７４の作用により本体部Ｄ３１７２が上方へ変位されることを未然に防止できる。
【３２０９】
なお、本体部Ｄ３１７２の上面は、平坦面（軸Ｄ３１７１に直交する平面で切断した断面が断面直線）である必要はなく、段差が非形成であれば足り、球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面（曲線どうし又は曲線と直線とが滑らかに連なる断面形状、例えば、正弦波（正弦曲線）形状）として形成されていても良い。
【３２１０】
錘部Ｄ３１７４は、転動部材Ｄ３１７０の重心位置を偏心させるための部位であり、本体部Ｄ３１７２の長手方向他端側（軸Ｄ３１７１が配設される側）から本体部Ｄ３１７２の延設方向と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて延設されると共に、内部に金属製（本実施形態では真鍮製）の錘が埋設される。
【３２１１】
伝達部Ｄ３１７３は、転動部材Ｄ３１７０の変位（回転）を伝達部材Ｄ３１９０へ伝達するための部位であり、錘部Ｄ３１７４の延設方向端部（矢印Ｒ方向側の端部）から軸Ｄ３１７１と反対側（矢印Ｒ方向側）へ向けて更に延設される。伝達部Ｄ３１７３の延設先端側（矢印Ｒ方向側）は、伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設（上面視において重なる位置に配設）される。
【３２１２】
よって、転動部材Ｄ３１７０がその上面を転動する球の重量によって軸Ｄ３１７１を中心に変位（回転）され、伝達部Ｄ３１７３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）されると、伝達部Ｄ３１７３によって伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３が上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、伝達部材Ｄ３１９０が軸Ｄ３１９１を中心として変位（回転）される。その結果、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ変位される。
【３２１３】
なお、本実施形態では、伝達部Ｄ３１７３から被伝達部Ｄ３１９３へ向けて突起が突設（立設）される。但し、被伝達部Ｄ３１９３から伝達部Ｄ３１７３へ向けて突起が突設（立設）されても良い。即ち、転動部材Ｄ３１７０の変位（回転）が、伝達部Ｄ３１７３及び被伝達部Ｄ３１９３を介して、伝達部材Ｄ３１９０に伝達可能とされれば足りる。
【３２１４】
転動部材Ｄ３１７０（本体部Ｄ３１７２）に球の重量が作用されていない無負荷状態（本体部Ｄ３１７２上を球が転動していない状態）では、転動部材Ｄ３１７０全体としての重心位置が、軸Ｄ３１７１よりも錘部Ｄ３１７４（及び伝達部Ｄ３１７３）側に位置（偏心）される。その結果、転動部材Ｄ３１７０は、錘部Ｄ３１７４（及び伝達部Ｄ３１７３）の重さ（重心位置の軸Ｄ３１７１からの偏心）を利用して、無負荷状態では、初期位置（第１位置）に配置された姿勢の維持が可能とされると共に、初期位置から変位（回転）された後は、自重による初期位置への復帰が可能とされる（図２４９（ａ）参照）。
【３２１５】
即ち、転動部材Ｄ３１７０は、無負荷状態（本体部Ｄ３１７２上に球の重量が作用されない状態）では、本体部Ｄ３１７２が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）され（正面視に

おいて、軸Ｄ３１７１を中心として時計回りに回転され）、初期位置（第１位置）に配置されると共に、初期位置（第１位置）に維持される。これにより、転動部材Ｄ３１７０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【３２１６】

一方、転動部材Ｄ３１７０の本体部Ｄ３１７２上を球が転動する際には、その球の重量により、転動部材Ｄ３１７０全体としての重心位置が本体部Ｄ３１７２側（軸Ｄ３１７１を挟んで錘部Ｄ３１７４と反対側）に位置（偏心）される。これにより、転動部材Ｄ３１７０は、本体部Ｄ３１７２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）され（正面視において、軸Ｄ３１７１を中心として反時計回りに回転され）、第２位置に配置される。

【３２１７】

なお、転動部材Ｄ３１７０の第１位置（初期位置）は、本体部Ｄ３１７２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）の下面（矢印Ｄ方向側の面）が、中間部材Ｄ１４０から突出されるストッパ部に当接されることで規定される。即ち、転動部材Ｄ３１７０は、本体部Ｄ３１７２がストッパ部に当接されることで、本体部Ｄ３１７２の下方への変位（軸Ｄ３１７１を中心とする正面視反時計回りの回転）が規制され、第１位置（初期位置）に配置される（図２４９（ａ）参照）。

【３２１８】

一方、転動部材Ｄ３１７０の第２位置は、錘部Ｄ３１７４の下面（矢印Ｄ方向側の面）が、中間部材Ｄ１４０から突出されるストッパ部に当接されることで規定される。即ち、転動部材Ｄ３１７０は、錘部Ｄ３１７４がストッパ部に当接されることで、本体部Ｄ３１７２の上方への変位（軸Ｄ３１７１を中心とする正面視反時計回りの回転）が規制され、第２位置に配置される（図２４９（ｂ）参照）。

【３２１９】

転動部材Ｄ３１７０は、第１位置に配置された状態では、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜され、第２位置に配置された状態においても、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜される。よって、転動部材Ｄ３１７０（本体部Ｄ３１７２）上の球を開口Ｄ１３１ｄ（第８通路ＤＲｔ８）へ向けて確実に転動させることができる。

【３２２０】

このように、転動部材Ｄ３１７０は、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）の下降傾斜を利用して、球を転動させるところ、転動部材Ｄ３１７０は、軸Ｄ３１７１を中心として回転可能に軸支され、本実施形態では、本体部Ｄ３１７２の上面の水平面に対する下降傾斜の角度は、球が転動されている状態（球の重量を受けている状態）における下降傾斜の角度が、球が非転動の状態（球の重量を受けていない無負荷状態）における下降傾斜の角度よりも大きくされる。

【３２２１】

即ち、本実施形態では、第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）した球は、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）であって、軸Ｄ３１７１の近傍となる位置に落下され、本体部Ｄ３１７２の上面を軸Ｄ３１７１から離間される方向（遠ざかる方向）へ向けて転動される。

【３２２２】

これにより、球が転動部材Ｄ３１７０の本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）を転動する初期段階では、球の重量が作用する位置（力点）と軸Ｄ３１７１（支点）との距離を短くし、錘部Ｄ３１７４の重量を支配的としておき、球が本体部Ｄ３１７２の上面を転動するに従って、軸Ｄ１９１からの距離（力点と支点との間の距離）を徐々に大きく（長く）し、錘部Ｄ１７４の重量に対抗させることができる。その結果、転動部材Ｄ３１７０を初期位置（第１位置）から第２位置へ徐々に変位（回転）させることができる。

【３２２３】

即ち、球の転動が進行するに従って、変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置から開放位置へ徐々に変位（回転）させ、その開放量（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔）を徐々に増加さ

せることができる。これにより、例えば、第２の球が第３通路ＤＲｔ３を往復動する場合に、その第２の球が第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ流入（入球）する期待を徐々に高まらせることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【３２２４】

また、第６通路ＤＲｔ６へ入球された第１の球と、その第１の球に後行する第２の球（第６通路ＤＲｔ６へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的大きい場合でも、後行する第２の球を第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）させやすくできる。

【３２２５】

一方で、転動部材Ｄ３１７０の上面（転動面）を球が転動する方向が、軸Ｄ１７１から遠ざかる（離間する）方向とされることで、少なくとも球が本体部Ｄ３１７２の終端（長手方向一端側、矢印Ｌ方向側の端部）に達した際には、転動部材Ｄ３１７０が第２位置に配置された状態とされる。

【３２２６】

即ち、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）から中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部へ球が転動（流入）される直前の状態では、軸Ｄ１９１からの距離（力点と支点との間の距離）が最大とされ、球の重量が本体部Ｄ３１７２に最大に作用されていたところ、本体部Ｄ３１７２の上面から第６通路区画壁Ｄ１４６の転動部へ球が転動（流入）されると、球の重量の作用が瞬間的になくなり、錘部Ｄ３１７４の作用のみとなる。

【３２２７】

そのため、転動部材Ｄ３１７０が第２位置から初期位置（第１位置）へ最大の速度で復帰させ、開放位置に配置されていた変位部材Ｄ１８０を即座に閉鎖位置に配置させることができる。よって、テンポの良い演出を行うことができる。また、第２の球の第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）への流入（入球）が、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて徐々に変位（回転）されている間に合うか否かを遊技者に着目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【３２２８】

なお、本実施形態の転動部材Ｄ３１７０は、本体部Ｄ３１７２の上面（転動面）を転動する球が１球とされる場合には、その球が本体部Ｄ３１７２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側の端部）へ向けて転動されるに従って転動部材Ｄ３１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ向けて徐々に変位（回転）され、球が本体部Ｄ３１７２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側の端部）に達した際には（少なくとも球が中間部材Ｄ１４０の第６通路区画壁Ｄ１４６へ転動（流入）する前に）、転動部材Ｄ３１７０が第２位置に配置されるように構成される。

【３２２９】

次いで、図２５０を参照して、第６２実施形態について説明する。第５９実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの経路（第６通路ＤＲｔ６及び第８通路ＤＲｔ８により形成される通路）中に転動部材Ｄ１７０のみが配設されたが、第６２実施形態における一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの経路（第６通路ＤＲｔ６及び第８通路ＤＲｔ８により形成される通路）中には、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３２３０】

図２５０（ａ）及び図２５０（ｂ）は、第６２実施形態における下側フレームＤ４０８６ｂの部分拡大背面図であり、軸Ｄ４２２１に直交する平面で区画壁Ｄ４１３４及び第２転動部材Ｄ４２２０を切断した状態が図示される。

【３２３１】

なお、図２５０（ａ）では、第２転動部材Ｄ４２２０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が、図２５０（ｂ）では、第２転動部材Ｄ４２２０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態が、

それぞれ図示される。

【３２３２】

図２５０に示すように、背面部材Ｄ４１３０は、その背面から立設される区画壁Ｄ４１３４を備える。

【３２３３】

区画壁Ｄ４１３４は、本体部Ｄ１３１、迂回部材Ｄ２００及び第２転動部材Ｄ４２２０と共に第８通路ＤＲｔ８を区画する。即ち、本体部Ｄ１３１に迂回部材Ｄ２００が対向配置され、その対向間であって区画壁Ｄ４１３４と第２転動部材Ｄ４２２０により区画された領域が第８通路ＤＲｔ８とされる。

【３２３４】

第２転動部材Ｄ４２２０は、軸Ｄ４２２１と、その軸Ｄ４２２１が長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）に配設される長尺板状の本体部Ｄ４２２２と、その本体部Ｄ４２２２の長手方向一端側（軸Ｄ４２２１が配設される側）に配設される錘部Ｄ４２２４と、その錘部Ｄ４２２４を挟んで本体部Ｄ４２２２の反対側に配設される伝達部Ｄ４２２３とを備え、背面部材Ｄ４１３０と迂回部材Ｄ２００との間に軸Ｄ４２２１を中心として回転可能に配設される。

【３２３５】

なお、第２転動部材Ｄ４２２０の各部Ｄ４２２１～Ｄ４２２４は、第５９実施形態における転動部材Ｄ１７０の各部Ｄ１７１～Ｄ１７４に対し、機能は実質的に同一であり、配置のみが相違する。また、背面部材Ｄ４１３０の区画壁Ｄ４１３４は、第５９実施形態における区画壁Ｄ１３４に対し、球の転動面を形成する壁部の一部が省略される（第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ４２２２に置き換えられる）点で相違し、その他の構成は同一である。

【３２３６】

軸Ｄ４２２１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で配設され、背面部材Ｄ４１３０と迂回部材Ｄ２００とに形成される軸支部（図示せず）に軸支される。よって、軸Ｄ４２２１を中心に第２転動部材Ｄ４２２０が変位（回転）されることで、本体部Ｄ４２２２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（昇降）される。

【３２３７】

本体部Ｄ４２２２は、その上面が第８通路ＤＲｔ８における球の転動面を形成する部位であり、長手方向一端側（軸Ｄ４２２１が配設される側、矢印Ｌ方向側）を、開口Ｄ１３１ｅへ球を転動させる区画壁Ｄ４１３４の転動部（上面が転動面となる部位）に並設させると共に、長手方向他端側（軸Ｄ４２２１が配設される側と反対側、矢印Ｒ方向側）を、開口Ｄ１３１ｄの下流側（開口Ｄ１３１ｄから流下する球を受け入れ（受け取り）可能な位置）に配設される。

【３２３８】

本体部Ｄ４２２２は、初期位置（第１位置）から第２位置までのいずれの状態（姿勢）にあっても、その長手方向一端側（軸Ｄ４２２１が配設される側、矢印Ｌ方向側）の上面が、開口Ｄ１３１ｅへ球を転動させる区画壁Ｄ４１３４の転動部（上面が転動面となる部位）の上面と略同一の高さ位置または若干上方側（矢印Ｕ方向側）となる高さ位置に配置される。

【３２３９】

軸Ｄ４２２１は、本体部Ｄ４２２２の内部に埋設され、本体部Ｄ４２２２の上面（転動面）は、軸Ｄ４２２１を越える位置まで形成される。即ち、本体部Ｄ４２２２の上面を転動する球は、軸Ｄ４２２１の上方側（矢印Ｕ方向側）を通過した後、開口Ｄ１３１ｅへ球を転動させる区画壁Ｄ４１３４の転動部へ転動（流入）される。

【３２４０】

錘部Ｄ４２２４は、第２転動部材Ｄ４２２０の重心位置を偏心させるための部位であり、本体部Ｄ４２２２の長手方向一端側（軸Ｄ４２２１が配設される側）から本体部Ｄ４２２２の延設方向と反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて延設されると共に、内部に金属製（本

実施形態では真鍮製）の錘が埋設される。
【３２４１】
伝達部Ｄ４２２３は、第２転動部材Ｄ４２２０の変位（回転）を伝達部材Ｄ１９０へ伝達するための部位であり、錘部Ｄ４２２４の延設方向端部（矢印Ｒ方向側の端部）から伝達部材Ｄ１９０（錘部Ｄ１９５）へ向けて延設される。伝達部Ｄ４２２３の延設先端側（矢印Ｕ方向側）は、伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設（上面視において重なる位置に配設）される。
【３２４２】
よって、第２転動部材Ｄ４２２０がその上面を転動する球の重量によって軸Ｄ４２２１を中心に変位（回転）され、伝達部Ｄ４２２３が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）されると、伝達部Ｄ４２２３によって伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５が上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、伝達部材Ｄ１９０が軸Ｄ１９１を中心として変位（回転）される。その結果、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ変位される。
【３２４３】
第２転動部材Ｄ４２２０（本体部Ｄ４２２２）に球の重量が作用されていない無負荷状態（本体部Ｄ４２２２上を球が転動していない状態）では、第２転動部材Ｄ４２２０全体としての重心位置が、軸Ｄ４２２１よりも錘部Ｄ４２２４（及び伝達部Ｄ４２２３）側に位置（偏心）される。その結果、第２転動部材Ｄ４２２０は、錘部Ｄ４２２４（及び伝達部Ｄ４２２３）の重さ（重心位置の軸Ｄ４２２１からの偏心）を利用して、無負荷状態では、初期位置（第１位置）に配置された姿勢の維持が可能とされると共に、初期位置から変位（回転）された後は、自重による初期位置（第１位置）への復帰が可能とされる（図２５０（ａ）参照）。
【３２４４】
即ち、第２転動部材Ｄ４２２０は、無負荷状態（本体部Ｄ４２２２上に球の重量が作用されない状態）では、本体部Ｄ４２２２が上方（矢印Ｕ方向）へ変位（上昇）され（正面視において、軸Ｄ４２２１を中心として反時計回りに回転され）、初期位置（第１位置）に配置されると共に、初期位置（第１位置）に維持される。これにより、第２転動部材Ｄ４２２０を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【３２４５】
一方、第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ４２２２上を球が転動する際には、その球の重量により、第２転動部材Ｄ４２２０全体としての重心位置が本体部Ｄ４２２２側（軸Ｄ４２２１を挟んで錘部Ｄ４２２４と反対側）に位置（偏心）される。これにより、第２転動部材Ｄ４２２０は、本体部Ｄ４２２２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）され（正面視において、軸Ｄ４２２１を中心として時計回りに回転され）、第２位置に配置される。
【３２４６】
なお、第２転動部材Ｄ４２２０の第１位置（初期位置）は、本体部Ｄ４２２２の長手方向一端側（矢印Ｌ方向側）の端面（矢印Ｌ方向側の面）が、第２転動部材Ｄ４２２０の第２位置は、本体部Ｄ４２２２の長手方向他端側（矢印Ｒ方向側）の下面（矢印Ｄ方向側の面）が、それぞれ区画壁Ｄ４１３４に当接されることで規定される。
【３２４７】
第２転動部材Ｄ４２２０は、第１位置に配置された状態では、本体部Ｄ４２２２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜され、第２位置に配置された状態においても、本体部Ｄ４２２２の上面（転動面）が、長手方向他端側から長手方向一端側へ向けて下降傾斜される。よって、第２転動部材Ｄ４２２０（本体部Ｄ４２２２）上の球を開口Ｄ１３１ｅへ向けて確実に転動させることができる。
【３２４８】
このように、本実施形態によれば、第６通路ＤＲｔ６に転動部材Ｄ１７０が配設されると共に、その第６通路ＤＲｔ６の下流となる第８通路ＤＲｔ８に第２転動部材Ｄ４２２０が配設される。よって、第５９実施形態と比較して、経路（通路、即ち、一対の変位部材

Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの区間）の長さが同一であっても、第２転動部材Ｄ４２２０が配設される分、球の重量を利用できる区間を確保（長く）できる。その結果、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位された状態（変位部材Ｄ１８０が少なくとも閉鎖位置よりも開放され、球が入球されやすくされた状態）を維持（長く）しやすくできる。

【３２４９】

ここで、１の部材（転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２））の長手方向寸法（上面（転動面）の長さ）を延長して、球の重量を利用できる区間を確保（長く）する構成では、下側フレームＤ８６ｂの限られたスペース（幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）寸法）に、長手方向寸法を延長した転動部材Ｄ１７０を配設することが困難となる。一対の変位部材Ｄ１８０の配設位置を下側フレームＤ８６ｂの幅方向一側（矢印Ｌ方向側）に偏らせれば、その分、転動部材Ｄ１７０（本体部Ｄ１７２）の長手方向寸法（上面（転動面）の長さ）を延長することは可能であるが、その延長できる長さには限界がある。また、第３通路ＤＲｔ３を球が往復動可能な形状とすることができず、遊技の興趣が低下する。

【３２５０】

これに対し、本実施形態によれば、複数の部材（本実施形態では、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０）を配設して、球の重量を利用できる区間を確保（長く）する構成であるので、下側フレームＤ４０８６ｂの限られたスペースを有効に活用して、球の重量を利用できる区間を十分に確保（長く）できる。また、第３通路ＤＲｔ３を球が往復動可能な形状とでき、遊技の興趣を向上できる。

【３２５１】

即ち、転動部材Ｄ１７０の背面側（矢印Ｂ方向側）に第２転動部材Ｄ４２２０を配設し、これらを前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に重ねる構成であるので、下側フレームＤ４０８６ｂのデッドスペースとなる前後方向の厚みを有効に活用して、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０により、球の重量を利用できる区間を確保（長く）できる。

【３２５２】

また、このように、球の重量を利用できる区間を確保（長く）しつつ、一対の変位部材Ｄ１８０を下側フレームＤ４０８６ｂの幅方向（矢印Ｌ－Ｒ）中央に配設できるので、第３通路ＤＲｔ３を球が往復動可能な形状（幅方向中央へ向けて下降傾斜する形状）とでき、遊技の興趣を向上できる。

【３２５３】

経路（通路、即ち、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの区間）に１の部材（転動部材Ｄ１７０）のみが配設される構成では、その経路を１の球が通過する間に変位部材Ｄ１８０の所定の変位（球の重量により閉鎖位置から開放位置へ配置され、球の通過後に閉鎖位置へ復帰される変位態様）が１回形成されるのみであるが、複数の部材（転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０）が経路（通路）に配設される構成であれば、その経路を１の球が通過する間に変位部材Ｄ１８０の上述した所定の変位を複数回（本実施形態では２回）形成できる。変位部材Ｄ１８０の開放と閉鎖を繰り返されることで、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）を期待する遊技者に、変位部材Ｄ１８０の変位状態と第３通路ＤＲｔ３上の他の球との関係を着目させ、遊技の興趣を向上できる。

【３２５４】

また、経路（通路、即ち、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの区間）に１の部材（転動部材Ｄ１７０）のみが配設される構成では、その経路を複数（２以上）の球が通過しても、変位部材Ｄ１８０の変位態様は１通り（即ち、球の重量により閉鎖位置から開放位置へ配置され、球の通過後に閉鎖位置へ復帰される変位態様）のみであるが、複数の部材（転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０）が経路（通路）に配設される構成であれば、その経路を複数の球が通過する間に形成できる変位部材Ｄ１８０の変位態様を複数通りとできる。即ち、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方と他方とに球の重量が作用するタイミング（球が転動するタイミング）の組み合わせにより、変位部材Ｄ１８０の変位態様を多様とできる。その結果、意外性のある演出を行うことができる。

【３２５５】
転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３は、伝達部材Ｄ１９０における被伝達部Ｄ１９３の上方側（矢印Ｕ方向側）に位置し、本体部Ｄ１７２に球の重量が作用した場合には、被伝達部Ｄ１９３を下方へ変位させる（押し下げる）。第２転動部材Ｄ４２２０の伝達部Ｄ４２２３は、伝達部材Ｄ１９０における錘部Ｄ１９５の下方側（矢印Ｄ方向側）に位置し、本体部Ｄ４２２２に球の重量が作用した場合には、錘部Ｄ１９５を上方へ変位させる（押し上げる）。
【３２５６】
即ち、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０が球の重量の作用により動作して、伝達部材Ｄ１９０を変位（回転）させる場合、伝達部材Ｄ１９０の変位（回転）方向が同方向とされ、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０の動作が対抗されない。同様に、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方が初期位置へ復帰する動作（球の重量が作用されず錘部Ｄ１７４，Ｄ４２２４の重量で変位（回転））する場合、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の他方の動作の状態に関わらず、一方の動作と他方の動作は対抗されない（一方の動作と他方の動作との両方が許容される）。
【３２５７】
このように、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０の球の重量が作用された場合の変位（回転）をそれぞれ個別に独立して伝達部材Ｄ１９０へ伝達でき、且つ、転動部材Ｄ１７０及び第２転動部材Ｄ４２２０の球の重量の作用が解除された場合の変位（回転）をそれぞれ個別に独立して行わせることができる。
【３２５８】
よって、経路（通路、即ち、一対の変位部材Ｄ１８０から流出口ＤＯＰｏｕｔまでの区間）を複数の球が通過する場合には、それら球の転動する位置に応じて、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方または他方の動作のみに起因して伝達部材Ｄ１９０を変位（回転）させることも、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方および他方の両者の動作に起因して伝達部材Ｄ１９０を変位（回転）させることもでき、これらの組み合わせにより、変位部材Ｄ１８０が変位する態様を多様化できる。
【３２５９】
例えば、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ向けて変位（回転）されている途中に、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方に球の重量が作用されれば、その一方の動作により変位部材Ｄ１８０を、閉鎖位置へ向けた変位の途中で、開放位置へ向けて変位させることができる。
【３２６０】
また、例えば、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の一方に球の重量が作用され、その一方の動作により変位部材Ｄ１８０が開放位置へ向けて変位（回転）されている途中に、転動部材Ｄ１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の他方に球の重量が作用され、その他方の方が球の重量の作用が大きい（変位部材Ｄ１８０を変位させる力が強い）場合には、他方の動作により、変位部材Ｄ１８０を、より速い変位速度で、開放位置へ変位させることができる。
【３２６１】
また、本実施形態によれば、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）を変位部材Ｄ１８０へ伝達するための部材（伝達手段）と、第２転動部材Ｄ４２２０の変位（回転）を変位部材Ｄ１８０へ伝達するための部材（伝達手段）とを別々に設ける必要がなく、かかる部材（伝達手段）として、伝達部材Ｄ１９０を共用できる。よって、部品点数を低減して、構造の簡素化を図ることができる。その結果、動作の信頼性の向上と製品コストの低減とを達成できる。
【３２６２】
次いで、図２５１を参照して、第６３実施形態について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【３２６３】

図２５１は、第６３実施形態における下側フレームＤ５０８６ｂの部分拡大背面図であり、迂回部材Ｄ２００が取り外された状態が図示される。なお、図２５１（ａ）では、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態が図示される。

【３２６４】

図２５１に示すように、本体部Ｄ５１９４には、溝Ｄ５１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒが形成され、これら溝Ｄ５１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒには、軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３がそれぞれ摺動可能に挿通される。

【３２６５】

なお、伝達部材Ｄ５１９０は、第５９実施形態における伝達部材Ｄ１９０に対し、溝Ｄ１９４Ｌの形状のみが相違し、その他の構成は同一である。

【３２６６】

溝Ｄ５１９４Ｌは、軸Ｄ１９１方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）視において、軸Ｄ１９１側に中心を有する円弧状に湾曲する形状に延設され、溝の幅寸法が連結ピンＤ２１３の直径よりも大きな寸法に設定される。溝の幅寸法は、溝Ｄ５１９４Ｌの延設方向に沿って一定とされる。

【３２６７】

詳細には、溝Ｄ５１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面は、軸Ｄ１９１から遠い側の内壁面と軸Ｄ１９１に近い側の内壁面との両者が、軸Ｄ１９１を中心とする円弧に沿った形状（軸Ｄ１９１を中心とする円形状を所定の中心角で分断した形状）とされる。

【３２６８】

よって、連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ５１９４Ｌの延設方向に沿う内壁面の両者から作用を受けず（当接されず）、溝Ｄ５１９４Ｌの下方側または上方側の延設端部（矢印Ｄ方向側または矢印Ｕ方向側の端部）からのみ作用を受ける（下方側または上方側の延設端部における内壁面によって上方または下方へ変位される（押し下げ又は押し下げられる）。

【３２６９】

これにより、本実施形態によれば、変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置から開放位置へ変位させる場合だけでなく、開放位置から閉鎖位置へ変位させる場合においても、一対の変位部材Ｄ１８０の動作態様（変位態様）を互いに異ならせることができる（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方を停止させつつ他方のみを変位（回転）させる状態を形成できる）。

【３２７０】

具体的には、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態では、連結ピンＤ２１３と溝Ｄ５１９４Ｌの下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側における端部、内壁面）との間に所定の間隔が形成される（図２４６参照）。

【３２７１】

転動部材Ｄ１７０の第２位置から初期位置（第１位置）への変位（回転）が開始され、これに伴い、伝達部材Ｄ５１９０の初期位置への変位（回転）が開始されると、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方）の開放位置からの変位（回転）が開始される。

【３２７２】

一方、溝Ｄ５１９４Ｌに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ５１９４Ｌの下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側の延設端部、内壁面）に達するまでの間は、上方へ変位されず（押し上げられず）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの他方）が開放位置に維持される。

【３２７３】

転動部材の第２位置からの変位（回転）に伴って、伝達部材Ｄ５１９０が更に変位（回転）されると、溝Ｄ１９４Ｒに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ１９４Ｒの延設方向に沿う内壁面によって引き続き上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの一方）の開放位置から閉鎖位置

への変位（回転）が継続される。
【３２７４】
一方、溝Ｄ５１９４Ｌに挿通されている連結ピンＤ２１３は、溝Ｄ５１９４Ｌの下方側の延設端部（矢印Ｄ方向側の端部、内壁面）に達すると、その下方側の延設端部（内壁面）により上方へ変位され（押し上げられ）、これにより、対応する変位部材Ｄ１８０（一対の変位部材Ｄ１８０のうちの他方）の開放位置からの変位が開始される。
【３２７５】
その後は、いずれの連結ピンＤ２１３も上方へ変位され（押し上げられ）、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ向けて変位（回転）され、伝達部材Ｄ１９０が初期位置に達すると、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置される（図２４４参照）。
【３２７６】
このように、本実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ向けて変位（回転）を開始するタイミングだけでなく、開放位置から閉鎖位置へ向けて変位（回転）を開始するタイミングも異ならせる（一方に対し他方を遅らせる）ことができる。これにより、変位部材Ｄ１８０が開放された状態（即ち、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）がされやすい状態）を期待する遊技者に対し、閉鎖位置へ変位される態様に変化を持たせ、遊技の興趣を高めることができる。
【３２７７】
次いで、図２５２から図２５５を参照して、第６４実施形態における下側フレームＤ６０８６ｂについて説明する。
【３２７８】
第５９実施形態では、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）された球は全て第８通路ＤＲｔ８（流出口ＤＯＰｏｕｔ）へ案内される場合を説明したが、第６４実施形態の第６通路ＤＲｔ６には、その途中に第９通路ＤＲｔ９が接続され、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）された球が、第８通路ＤＲｔ８（流出口ＤＯＰｏｕｔ）又は第９通路ＤＲｔ９（流出口ＤＯＰ６ｏｕｔ）のいずれか一方へ案内される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【３２７９】
図２５２は、第６４実施形態における下側フレームＤ６０８６ｂの分解正面斜視図であり、図２５３は、下側フレームＤ６０８６ｂの分解背面斜視図である。図２５４は、下側フレームＤ６０８６ｂの正面図であり、図２５５（ａ）及び図２５５（ｂ）は、下側フレームＤ６０８６ｂの部分拡大断面図である。
【３２８０】
なお、図２５５（ａ）は、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応し、図２５５（ｂ）は、図２４４のＣＣＸＬＶＩＩｃ－ＣＣＸＬＶＩＩｃ線における断面に対応する。
【３２８１】
図２５２から図２５５に示すように、第６４実施形態における下側フレームＤ６０８６ｂは、第６通路ＤＲｔ６の途中に接続される第９通路ＤＲｔ９と、その第９通路ＤＲｔ９に案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＤＯＰ６ｏｕｔとが形成される。
【３２８２】
即ち、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）され、その第６通路ＤＲｔ６の終端に達した球は、第８通路ＤＲｔ８へ流入（入球）され、第８通路ＤＲｔ８を流下した後、流出口ＤＯＰｏｕｔから遊技領域へ流出される一方、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）され、その第６通路ＤＲｔ６の途中で第９通路ＤＲｔ８へ流入（入球）された球は、第９通路ＤＲｔ９を流下した後、流出口ＤＯＰ６ｏｕｔから遊技領域へ流出される。
【３２８３】
ここで、第８通路ＤＲｔ８の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＤＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図２３５参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）

される。そのため、第６通路ＤＲｔ６から第８通路ＤＲｔ８へ流下された球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【３２８４】

一方、第９通路ＤＲｔ９の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＤＯＰ６ｏｕｔは、第１入賞口６４（図２３５参照）に対して水平方向一側へ位置を異ならせて配設される（鉛直方向下方に第１入賞口６４が重ならない位置に形成（配置）される）。そのため、第６通路ＤＲｔ６から第９通路ＤＲｔ９へ流下された球は、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第８通路ＤＲｔ８へ流下された球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【３２８５】

このように、本実施形態における下側フレームＤ６０８６ｂは、第３通路ＤＲｔ３をその長手方向に沿って往復動する球が第６通路ＤＲｔ６に振り分けられた場合、その第６通路ＤＲｔ６を流下する球は、途中で第９通路ＤＲｔ９へ流下されず、第６通路ＤＲｔ６の終端に達することで、第１入賞口６４に入賞しやすくする（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる）ことができる。よって、第６通路ＤＲｔ６を球が流下する際には、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、途中で第９通路ＤＲｔ９へ流下されず、第６通路ＤＲｔ６の終端に達することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【３２８６】

また、第６通路ＤＲｔ６の終端まで球が流下されれば、球の重量（重さ）が転動部材Ｄ１７０に作用される時間を最大限確保して、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位（回転）された（第６通路ＤＲｔ６へ球が入球されやすくされた）状態を維持しやすくできる。一方、第６通路ＤＲｔ６を流下する球が、途中で第９通路ＤＲｔ９へ流下されると、球の重量（重さ）を転動部材Ｄ１７０へ作用させることができなくなり、一対の変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ変位（回転）される（第６通路ＤＲｔ６へ球が入球され難くなる）。よって、第６通路ＤＲｔ６を球が流下する際には、一対の変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位（回転）された状態を維持して、第３通路ＤＲｔ３から第６通路ＤＲｔ６へ球が振り分けられやすくするために、途中で第９通路ＤＲｔ９へ流下されず、第６通路ＤＲｔ６の終端に達することを遊技者に期待させることができ、この点からも遊技の興趣を高めることができる。

【３２８７】

正面部材Ｄ６１１０は、正面部Ｄ１１１に開口形成される開口ＤＯＰ６ｏｕｔと、正面部Ｄ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｄ６１１２を備え、中間部材Ｄ６１４０は、本体部Ｄ１４１の正面から立設される底面部Ｄ１４４と、本体部Ｄ１４１に開口形成される開口Ｄ６１４８と、を備える。

【３２８８】

底面部Ｄ６１１２は、正面部Ｄ１１１の長手方向全域にわたって連続して形成され、底面部Ｄ６１４４は、開口Ｄ１４１ｆを除く領域において、本体部Ｄ１４１の縁部に沿って連続して形成され、底面部Ｄ６１１２の立設先端（矢印Ｂ方向側）と底面部Ｄ６１４４の立設先端（矢印Ｆ方向側）とが全域にわたって当接される。これにより、下側フレームＤ６０８６ｂの底面側からの針金等の異物の侵入が抑制される。

【３２８９】

底面部Ｄ６１１２，Ｄ６１４４の一部（中間部材Ｄ６１４０における開口Ｄ６１４８の下方に位置する部分）は、第９通路ＤＲｔ９の転動面を形成する。かかる転動面を形成する部分は、第１介設部材Ｄ１５０の底面との間に所定間隔（球の直径よりも大きな間隔）を隔てて形成される。

【３２９０】

また、底面部Ｄ６１１２，Ｄ６１４４における上述した転動面を形成する部分は、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の略中央へ向けて下降傾斜して形成され、その鉛直方向における高さ位置が最も低い部分（長手方向の略中央となる部分）には、流出面Ｄ６１１２ａ

，Ｄ６１４４ａがそれぞれ凹設される。
【３２９１】
流出面Ｄ６１１２ａ，Ｄ６１４４ａは、底面部Ｄ６１１２，Ｄ６１４４（転動面を形成する部分）を案内される球を、流出口ＤＯＰ６ｏｕｔへ流出させるための部位であり、流出口ＤＯＰ６ｏｕｔへ向けて下降傾斜する凹面として一体に形成される。即ち、開口ＤＯＰ６ｏｕｔは、流出面Ｄ６１１２ａ，Ｄ６１４４ａに対応する位置（球が流出可能な位置）に開口形成される。
【３２９２】
中間部材Ｄ６１４０の開口Ｄ６１４８は、転動部材Ｄ１７０（第６通路ＤＲｔ６）を転動する球を第９通路ＤＲｔ９へ受け入れる開口（孔）として、本体部Ｄ１４１を板厚方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通して形成される。即ち、開口６１４８は、第６通路ＤＲｔ６を区画する一対の側壁のうちの一方の側壁に開口形成され、開口６１４８を介して、第６通路ＤＲｔ６の途中に第９通路ＤＲｔ９の上流端が接続される。
【３２９３】
開口Ｄ６１４８の転動部材Ｄ１７０の長手方向における寸法は、複数の球（本実施形態では３球）が同時に通過可能な大きさに設定される。また、開口Ｄ６１４８の下縁は、球の重量（重さ）により第２位置（最下方へ押し下げられた位置）に配置された転動部材Ｄ１７０の上面よりも下方（矢印Ｕ方向側）となる位置に形成され（図２５５（ａ）参照）、開口Ｄ６１４８の上縁は、球の重量（重さ）が作用されず初期位置（第１位置、最上方に復帰した位置）に配置された転動部材Ｄ１７０の上面との間に球の直径よりも大きな間隔を隔てる位置に形成される。よって、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）位置に関わらず、球が開口Ｄ６１４８を通過可能とされる。
【３２９４】
開口Ｄ６１４８の第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図２５５（ａ）右側）に位置する側縁（以下「上流側側縁」と称す）は、正面視において、転動部材Ｄ１７０の第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図２５５（ａ）右側）の縁部よりも下流側（矢印Ｌ方向側、図２５５（ａ）左側）に配設される。
【３２９５】
本実施形態では、開口Ｄ６１４８の上流側側縁は、一対の変位部材Ｄ１８０の基部における対向空間と鉛直方向において重ならない位置（下流側となる位置）に配設される。即ち、一対の変位部材Ｄ１８０のうちの第６通路ＤＲｔ６における下流側（矢印Ｌ方向側、図２５５（ａ）左側）に位置する変位部材Ｄ１８０の基部（上流側に位置する変位部材Ｄ１８０と対向する対向面）よりも所定距離（本実施形態では球の直径と略同等）だけ第６通路ＤＲｔ６における下流側に位置する。
【３２９６】
これにより、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に流入（入球）し、第６通路ＤＲｔ６に落下した球が即座に開口Ｄ６１４８を介して第９通路ＤＲｔ９へ流入（入球）されることを回避し、転動部材Ｄ１７０を球が転動する形態を形成できる。よって、球の重量（重さ）を転動部材Ｄ１７０に作用させ、一対の変位部材Ｄ１８０を開放位置へ変位（回転）させることができると共に、第６通路ＤＲｔ６の終端まで球が達するか否かを遊技者に着目させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【３２９７】
また、本体部Ｄ１４１には、開口Ｄ６１４８の上流側側縁に対して、第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図２５５（ｂ）右側）となる位置に突部Ｄ１４１ｇが突設される。よって、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間に流入（入球）し、第６通路ＤＲｔ６に落下した球が転動部材Ｄ１７０をその長手方向に沿って転動する際には、突部Ｄ１４１ｇの作用（当接）により球の転動を遅延させ（速度を低下させ）、転動部材Ｄ１７０を転動する球を遊技者に把握させやすくできると共に、突部Ｄ１４１ｇの作用（当接）により球を開口Ｄ６１４８と反対側（本体部Ｄ１３１側）へ移動させ、第６通路ＤＲｔ６の終端まで球が達することを遊技者に期待させることができる。よって、遊技の興趣を高める

ことができる。
【３２９８】
開口Ｄ６１４８の第６通路ＤＲｔ６における下流側（矢印Ｌ方向側、図２５５（ａ）左側）に位置する側縁（以下「下流側側縁」と称す）は、正面視において、転動部材Ｄ１７０の第６通路ＤＲｔ６における下流側（矢印Ｌ方向側、図２５５（ａ）左側）の縁部（軸Ｄ１７１）よりも上流側（矢印Ｒ方向側、図２５５（ａ）右側）に配設される。
【３２９９】
本実施形態では、開口Ｄ６１４８の下流側側縁は、開口Ｄ１３１ｄと正面視において重ならない位置（上流側となる位置）に配設される。即ち、開口Ｄ１３１ｄの第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図２５５（ａ）右側）の側縁よりも所定距離（本実施形態では球の直径と略同等）だけ第６通路ＤＲｔ６における上流側に位置する。
【３３００】
これにより、第６通路ＤＲｔ６の終端に球が達したにも関わらず、その球が開口Ｄ６１４８を介して第９通路ＤＲｔ９へ流入（入球）されることを回避できる。よって、開口Ｄ６１４８の下流側側縁を球が通過すれば、第８通路ＤＲｔ８へ球を確実に流入（入球）させられるとの安心感を遊技者に感じさせることができる。これにより、球の行方を遊技者に注視させ、遊技の興趣を高めることができる。
【３３０１】
但し、開口Ｄ６１４８の下流側側縁を、開口Ｄ１３１ｄと正面視において重なる位置（開口Ｄ１３１ｄの下流側側縁と重なる位置または下流側となる位置）に配設しても良い。この場合には、第６通路ＤＲｔ６の終端に球が達した後も、かかる球の流入（入球）先が第８通路ＤＲｔ８又は第９通路ＤＲｔ９のいずれとなるのかを未確定とできる。これにより、球の行方を遊技者に注視させ、遊技の興趣を高めることができる。
【３３０２】
また、上述したように、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇは千鳥状に配置され、開口Ｄ６１４８の上流側側縁よりも第６通路ＤＲｔ６における上流側には、突部Ｄ１３１ｆが本体部Ｄ１３１から突設される。よって、第６通路ＤＲｔ６に落下した球が転動部材Ｄ１７０を転動する際には、突部Ｄ１３１ｆの作用（当接）により球を開口Ｄ６１４８側（本体部Ｄ１４１側）へ移動（転動方向を変化）させることができる。即ち、突部Ｄ１３１ｆの作用を受けた球が、開口６１４８の上流側側縁よりも第６通路ＤＲｔ６における上流側（矢印Ｒ方向側、図２５５（ａ）及び図２５５（ｂ）右側）に位置する本体部Ｄ１４１に衝突（当接）し、開口Ｄ６１４８から離間する側へ球を跳ね返されるのか、或いは、開口Ｄ６１４８を介して、第９通路ＤＲｔ９へ流入（入球）されるのかを遊技者に注視させ、遊技の興趣を高めることができる。
【３３０３】
更に、開口Ｄ６１４８の上流側側縁および下流側側縁の間には、正面視において重なる位置に、本体部Ｄ１３１の複数の突部Ｄ１３１ｆが配設される（図２５５（ａ）参照）。これにより、転動部材Ｄ１７０を転動する球に突部Ｄ１３１ｆを作用（当接）させ、球の転動方向に変化（開口Ｄ６１４８側へ向く転動方向の成分）を付与することができる。これにより、突部Ｄ１３１ｆとの当接により、開口Ｄ６１４８を介して、第９通路ＤＲｔ９へ球が流入（入球）される可能性を形成して、遊技の興趣を高めることができる。
【３３０４】
ここで、パチンコ機１０は、鉛直方向に対して、１～２度程度、傾斜させた姿勢（所謂「寝かせ」が付与された姿勢、即ち、パチンコ機１０の底面に対して上面を背面側（矢印Ｂ方向側）に位置させた姿勢）で設置される。この場合、本実施形態では、開口Ｄ６１４８は、第６通路ＤＲｔ６を区画する壁部のうちの正面側（パチンコ機１０の正面側、矢印Ｆ方向側）に位置する壁部（本体部Ｄ１４１）に開口形成される。
【３３０５】
よって、転動部材Ｄ１７０をその長手方向に沿って球が転動する際には、パチンコ機１０の「寝かせ」の分、本体部Ｄ１３１側を通過させやすくでき、その結果、球に突部Ｄ１

３１ｆを作用させやすくできる。一方で、転動部材Ｄ１７０の転動面（上面）は、パチンコ機１０の「寝かせ」の分、本体部Ｄ１３１側から開口Ｄ６１４８側へ向けて上昇傾斜されるため、突部Ｄ１３１ｆの作用を受けて開口Ｄ６１４８へ向けて移動された球を、転動面（上面）の下降傾斜によって、本体部Ｄ１３１側へ移動させることができる。

【３３０６】

これにより、球に突部Ｄ１３１ｆが比較的強く作用（当接）された場合には、球が、開口Ｄ６１４８を介して、第９通路ＤＲｔ９へ流入（入球）される一方、球に突部Ｄ１３１ｆが比較的弱く作用（当接）された場合には、開口Ｄ６１４８側へ向かった球を、転動面（上面）の下降傾斜によって、本体部Ｄ１３１側へ戻すことができる。よって、突部Ｄ１３１ｆの球への作用の態様（当接する際の球の速度や球の進入角度など）に応じて、球の転動態様に変化を付与でき、遊技の興趣を高めることができる。

【３３０７】

また、このように、パチンコ機１０の「寝かせ」を利用することで、下側フレームＤ６０８６ｂの各部材を互いに直交する関係で構成できる。即ち、本体部Ｄ１３１と本体部Ｄ１４１とを平行に配置し、それら本体部Ｄ１３１，Ｄ１４１に対して、転動部材Ｄ１７０の転動面（上面）を直交させる（即ち、軸Ｄ１７１を本体部Ｄ１３１，Ｄ１４１に直交した姿勢で軸支させる）構成とできる。よって、これら各部材の一部の部材のみを他の部材に対して傾斜させた姿勢としたり、傾斜した姿勢で軸Ｄ１７１を軸支させたりする必要がなく、その分、構造の簡素化をして、各部品の成型性や組み立て性の向上を図ることができる。その結果、製品コストの低減を図ることができる。

【３３０８】

次いで、図２５６を参照して、第６５実施形態について説明する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３３０９】

図２５６（ａ）から図２５６（ｃ）は、第６５実施形態における下側フレームＤ７０８６ｂの部分拡大背面図であり、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）と第２位置との間で変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置と開放位置との間で変位（回転）される際の遷移状態が図示される。

【３３１０】

なお、図２５６（ａ）から図２５６（ｃ）では、迂回部材Ｄ２００が取り外された状態が図示される。また、図２５１（ａ）は、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態に（図２４４参照）、図２５６（ｃ）は、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態に（図２４６参照）、それぞれ対応する。図２５６（ｂ）は、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）から第２位置（又は第２位置から初期位置（第１位置））へ向けて変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置（又は開放位置から閉鎖位置）へ向けて変位（回転）される際の変位途中の状態（図２４５参照）に対応する。

【３３１１】

図２５６（ａ）から図２５６（ｃ）に示すように、第６５実施形態における伝達部材Ｄ７１９０は、本体部Ｄ１９４の外縁に配設され、その本体部Ｄ１９４の外縁から軸Ｄ１９１の軸方向と直交する方向へ延設される表示部Ｄ７１９７を備える。詳細には、表示部Ｄ７１９７は、軸Ｄ１９１と反対側の端部となる本体部Ｄ１９４の長手方向端部から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて延設される。

【３３１２】

ここで、背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）と、中間部材Ｄ１４０の側壁部Ｄ１４２の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）とは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における位置（高さ位置）が略同一とされる。

【３３１３】

図２５６（ａ）に示すように、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態（図２４４参照）では、伝達部材Ｄ７１９

０の変位（回転）に伴い、本体部Ｄ１９４の長手方向端部（軸Ｄ１９１と反対側の端部）が最も上方（矢印Ｕ方向側）に配置される。これにより、背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）よりも上方に表示部Ｄ７１９７の延設先端側（一部）が突出（配置）され、その突出した部分が遊技者から視認可能とされる。

【３３１４】

一方、図２５６（ｃ）に示すように、転動部材Ｄ１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態（図２４６参照）では、伝達部材Ｄ７１９０の変位（回転）に伴い、本体部Ｄ１９４の長手方向端部（軸Ｄ１９１と反対側の端部）が最も下方（矢印Ｄ方向側）に配置される。これにより、背面部材Ｄ１３０の側壁部Ｄ１３２の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）よりも下方に表示部Ｄ７１９７の全体が没入（配置）される（表示部Ｄ７１９７の全体が側壁部Ｄ１３２の背面側に配置される）。よって、表示部Ｄ７１９７を遊技者が直接視認することが不能とされる。なお、中間部材Ｄ１４０及び背面部材Ｄ１３０を通して表示部Ｄ７１９７を透視することは可能とされる。

【３３１５】

このように、背面部材Ｄ１３０（側壁部Ｄ１３２）の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）から表示部Ｄ７１９７の延設先端側（一部）が突出する突出量（突出寸法）は、図２５６（ａ）に示すように、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態（図２４４参照）において最大とされる。図２５６（ｂ）に示すように、転動部材Ｄ１７０に球の重量が作用され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置から開放位置へ向けて変位されるに従って、上述した突出量（遊技者から視認可能な部分の大きさ）が徐々に減少され、変位部材Ｄ１８０が開放に配置された状態（図２４６参照）において最小（非突出とされ遊技者から視認不能）とされる。

【３３１６】

よって、遊技者は、背面部材Ｄ１３０（側壁部Ｄ１３２）の上縁（矢印Ｕ方向側の縁部）よりも上方に表示部Ｄ７１９７の延設先端側（一部）が突出しているか否かを視認することで、変位部材Ｄ１８０の変位状態（開放位置または閉鎖位置のいずれにあるか）を把握することができる。更に、その突出量（突出寸法）を視認することで、変位部材Ｄ１８０の変位状態（開放位置から閉鎖位置までの間のいずれの位置にあるか）を把握することができる。

【３３１７】

次いで、図２５７から図２５９を参照して、第６６実施形態における下側フレームＤ８０８６ｂについて説明する。

【３３１８】

第６４実施形態では、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）位置に関わらず、転動部材Ｄ１７０側への突部Ｄ１３１ｆの突設量（突設寸法）が一定とされる場合を説明したが、第６６実施形態の突部Ｄ１３１ｆは、転動部材Ｄ１７０の変位（回転）位置に応じて、転動部材Ｄ８１７０側への突設量（突設寸法）が変化（増減）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３３１９】

ここで、第６６実施形態における下側フレームＤ８０８６ｂは、突部Ｄ１３１ｆが第２突部Ｄ１３１ｆａを備える点、及び、転動部材Ｄ８１７０の錘部Ｄ８１７４の重量が異なる点を除き、他の構成（例えば、形状や配設数）は第６４実施形態のＤ６０８６ｂの構成とされる。よって、第２突部Ｄ１３１ｆａ及び転動部材Ｄ６０８７を除く他の構成についての説明は省略する。

【３３２０】

図２５７（ａ）及び図２５７（ｂ）は、第６６実施形態における下側フレームＤ８０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２４０のＣＣＸＬＩＶａ－ＣＣＸＬＩＶａ線における断面に対応する。なお、図２５７（ａ）では、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態（図２４４参照）が、図２５７（ｂ）では、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が開放位置

に配置された状態（図２４６参照）が、それぞれ図示される。
【３３２１】
図２５８（ａ）は、図２５７（ａ）のＣＣＬＶＩＩＩａ－ＣＣＬＶＩＩＩａ線における下側フレームＤ８０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２５８（ｂ）は、図２５７（ｂ）のＣＣＬＶＩＩＩｂ－ＣＣＬＶＩＩＩｂ線における下側フレームＤ８０８６ｂの部分拡大断面図である。図２５９は、下側フレームＤ８０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２４４のＣＣＸＬＶＩＩｃ－ＣＣＸＬＶＩＩｃ線における断面に対応する。
【３３２２】
図２５７から図２５９に示すように、背面部材Ｄ８１３０に配設される複数（本実施形態では５本）の突部Ｄ１３１ｆには、所定（本実施形態では２本）の突部Ｄ１３１ｆから転動部材Ｄ８１７０へ向けて第２突部Ｄ１３１ｆａが突設される。なお、本実施形態では、第２突部Ｄ１３１ｆａが突設される（所定の）突部Ｄ１３１ｆは、正面視において中間部材Ｄ１４０の開口Ｄ６１４８と重なる３本の突部Ｄ１３１ｆのうちの下流側（矢印Ｌ方向側）に位置する２本の突部Ｄ１３１ｆとされる。
【３３２３】
転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２には、背面部材Ｄ８１３０と対向する側の側面（縁部）に、上面視において突部Ｄ１３１ｆの突設方向（突部Ｄ１３１ｆを受け入れる方向）へ凹設される凹部が形成される（図２５９参照）。凹部は、転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２の長手方向に沿って所定間隔（本実施形態では略等間隔）を隔てつつ複数箇所（本実施形態では４箇所）に配設される。即ち、凹部は、突部Ｄ１３１ｆに対向する位置にそれぞれ形成（凹設）される。
【３３２４】
なお、本実施形態では、凹部の上面視形状は、円弧状に湾曲した形状とされる。但し、矩形形状であっても良い。即ち、転動部材Ｄ８１７０が変位（回転）される際に、第２突部Ｄ１３１ｆａと干渉しない大きさであれば、その形状は限定されない。
【３３２５】
第２突部Ｄ１３１ｆａは、突部Ｄ１３１ｆの正面（矢印Ｆ方向側の面）から上述した転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の凹部へ向けて突設され、その第２突部Ｄ１３１ｆａの突設先端側（一部）が、上面視において（図２５９参照）、上述した転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の凹部に受け入れられる（凹部の内部空間に位置される）。即ち、上面視において、転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の上面（転動面）の一部が第２突部Ｄ１３１ｆａにより形成される。
【３３２６】
なお、第２突部Ｄ１３１ｆａの突設先端は、断面円弧状に湾曲して形成される。但し、第２突部Ｄ１３１ｆａの断面形状を略矩形状としても良い。また、第２突部Ｄ１３１ｆａの突設方向は、突部Ｄ１３１ｆの突設方向と同方向とされる。但し、第２突部Ｄ１３１ｆａの突設方向を、突部Ｄ１３１ｆの突設方向と異なる方向（傾斜する方向）としても良い。
【３３２７】
第２突部Ｄ１３１ｆａの高さ位置（矢印Ｕ－Ｄ方向位置）は、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態では、第２突部Ｄ１３１ｆａの上面（矢印Ｕ方向側の面）が、転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）と略同一または若干低い位置となり（図２５８（ａ）参照）、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置された状態では、第２突部Ｄ１３１ｆａの上面（矢印Ｕ方向側の面）が、転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）よりも高い位置となる（図２５８（ｂ）参照）ように設定される。
【３３２８】
即ち、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態では、第２突部Ｄ１３１ｆａの側面（第６通路ＤＲｔ６の上流側を向く面、図２５７（ａ）及び図２５７（ｂ）右側の面）が本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）よりも低い位置（矢印Ｄ方向側）

に配置され、第６通路ＤＲｔ６を通過する（本体部Ｄ１７２の上面を転動する）球に第２突部Ｄ１３１ｆａの側面を当接させない（作用させない）ようにできる。

【３３２９】

一方、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ向けて所定量だけ変位（回転）された状態では、第２突部Ｄ１３１ｆａの側面（第６通路ＤＲｔ６の上流側を向く面、図２５７（ａ）及び図２５７（ｂ）右側の面）の少なくとも一部が本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）よりも高い位置（矢印Ｕ方向側）に配置され、第６通路ＤＲｔ６を通過する（本体部Ｄ１７２の上面を転動する）球に第２突部Ｄ１３１ｆａの側面を当接させる（作用させる）ことができる。

【３３３０】

なお、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置された状態では、本体部Ｄ１７２の上面（球の転動面）よりも高い位置（矢印Ｕ方向側）に配置される第２突部Ｄ１３１ｆａの側面の面積が最大とされる。よって、この場合には、転動面をバウンドしながら球が転動（第６通路ＤＲｔ６を移動）する場合であっても、かかる球に第２突部Ｄ１３１ｆａの側面を当接（作用）させやすくできる。

【３３３１】

第２突部Ｄ１３１ｆａは、転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）を挟んで、開口Ｄ６１４８と反対側に形成される。即ち、第２突部Ｄ１３１ｆａは、開口Ｄ６１４８へ向けて突設される。本体部Ｄ１７２の上面（転動面）を転動する球が、第２突部Ｄ１３１ｆａから作用を受けると（第２突部Ｄ１３１ｆａに当接されると）、その作用（当接）の反動で開口Ｄ６１４８（第９通路ＤＲｔ９）へ転動され、かかる開口Ｄ６１４８（第９通路ＤＲｔ９）へ流入（入球）され易くなる。即ち、球が第６通路ＤＲｔ６の終端に到達し難くなる。

【３３３２】

転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）に球の重量が作用されていない無負荷状態（本体部Ｄ１７２上を球が転動していない状態）では、上述したように、転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が、軸Ｄ１７１よりも錘部Ｄ８１７４側に位置（偏心）され、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に維持（又は復帰）される。一方、転動部材Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２上を球が転動し、その球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が本体部Ｄ１７２側（軸Ｄ１７１を挟んで錘部Ｄ８１７４と反対側）に位置（偏心）される状態では、本体部Ｄ１７２が下方（矢印Ｄ方向）へ変位（下降）される（第２位置に配置される）。

【３３３３】

この場合、本実施形態では、本体部Ｄ１７２の位置ＤＰ（図２５７参照）に１球の球が位置する状態（１球の球の重量が位置ＤＰに作用する状態）において、その球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１上に位置するように、錘部Ｄ８１７４の重量が設定される。

【３３３４】

即ち、球が非転動とされる静的な状態を仮定すると、本体部Ｄ１７２の位置ＤＰよりも上流側（軸Ｄ１７１と反対側）に１球の球が位置する（１球の球の重量が位置ＤＰに作用する）状態では、転動部材Ｄ８１７０は第２位置へ向かう方向へ変位（回転）され、本体部Ｄ１７２の位置ＤＰ上に１球の球が位置する（球の重量が作用する）状態では、転動部材Ｄ８１７０は軸Ｄ１７１を中心として釣り合い（即ち、転動部材Ｄ８１７０を変位（回転）させる力が非形成とされ）、本体部Ｄ１７２の位置ＤＰよりも下流側（軸Ｄ１７１側）に１球の球が位置する（１球の球の重量が位置ＤＰに作用する）状態では、転動部材Ｄ８１７０は第１位置へ向かう方向へ変位（回転）される。

【３３３５】

このように構成される転動部材Ｄ８１７０によれば、第３通路ＤＲｔ３から１球の球が初期位置（第１位置）にある転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の上面（転動面）に流下されると、その球の重量（及び落下の勢い）により、本体部Ｄ１７２が下方（矢印Ｄ

方向）へ変位され、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置される。
【３３３６】
かかる球が本体部Ｄ１７２の上面を下流側（位置ＤＰ）へ向かって転動されると、球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１へ徐々に近接されることで、本体部Ｄ１７２が上方（矢印Ｕ方向）へ徐々に変位（回転）され、転動部材Ｄ８１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位（回転）される。
【３３３７】
本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が位置ＤＰに達すると、それまでの転動部材Ｄ８１７０の変位（回転）に伴う慣性力の影響により、転動部材Ｄ８１７０の第１位置へ向かう方向への変位（回転）が継続され、球が位置ＤＰを越えると、球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が錘部Ｄ８１７４側に偏心されることで、転動部材Ｄ８１７０の第１位置へ向かう方向への変位（回転）が加速される。
【３３３８】
本実施形態では、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が、位置ＤＰを越えた後、上流側（矢印Ｒ方向側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａに達する前に、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置される。即ち、１球の球のみが第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）された場合には、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球に第２突部Ｄ１３１ｆａは作用（当接）されない。
【３３３９】
但し、球の第３通路ＤＲｔ３からの流下位置や流下方向、流下途中での変位部材Ｄ１８０との衝突などの要素に起因して、下流側へ向かる球の速度（転動速度）が平均的な速度よりも速い場合には、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置される前に、本体部Ｄ１７２の上面を転動する球が上流側（又は下流側）の第２突部Ｄ１３１ｆａに到達して、球が第２突部Ｄ１３１ｆａから作用を受けることもある。即ち、１球のみの球が転動する場合であっても、第２突部Ｄ１３１ｆａの作用を球に付与できる場合を形成でき、上述した要素の影響を遊技者に着目させ、遊技の興趣を高めることができる。
【３３４０】
なお、本実施形態では、上流側（矢印Ｒ方向側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａと位置ＤＰとの間の距離は、球の直径の略２倍に設定される。但し、かかる距離は、任意に設定可能である。１球の球のみが転動される場合には、上述した距離を短くすることで、第２突部Ｄ１３１ｆａの作用を球に付与しやすくできる一方、上述した距離を長くすることで、第２突部Ｄ１３１ｆａの作用を球に付与し難くできる。
【３３４１】
ここで、本実施形態では、本体部Ｄ１７２上に２球の球が位置する状態（２球の球の重量が作用する状態）では、それら２球の球のそれぞれの位置に関わらず（例えば、２球とも位置ＤＰよりも下流側（軸Ｄ１７１と位置ＤＰとの間）に位置していたとしても）、それらの球を含む転動部材Ｄ８１７０全体としての重心位置が軸Ｄ１７１よりも本体部Ｄ１７２側に偏心するように、錘部Ｄ８１７４の重量が設定される。
【３３４２】
よって、例えば、１球の球のみが本体部Ｄ１７２上を転動し、その球の転動位置が位置ＤＰを越えたことで、転動部材Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態（即ち、球に第２突部Ｄ１３１ｆａが作用（当接）されず、第６通路ＤＲｔ６の終端への球の到達が期待される状態）であっても、他の球が第３通路ＤＲｔ３から第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）される（転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）の上面に２球の球が位置する状態とされる）と、転動部材Ｄ８１７０が第２位置に配置され（又は、少なくとも第２位置へ向けて変位（回転）され）、球に第２突部Ｄ１３１ｆａが作用（当接）可能な状態（第９通路ＤＲｔ９へ球が流入（入球）され易い状態）を形成できる。
【３３４３】
このように、本実施形態では、第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）した球（転動部材Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２）を転動する球）が１球のみであれば、球に第２突部Ｄ１３１ｆ

ａが作用（当接）し難くして、第６通路ＤＲｔ６の終端に球を到達させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞させることができる）一方、第１の球が転動されている状態で、更に第２の球が第６通路ＤＲｔ６へ流下（入球）されると、第１の球に第２突部Ｄ１３１ｆａを作用（当接）させ、第６通路ＤＲｔ６の終端に第１の球を到達させ難くすることができる。

【３３４４】

即ち、第６通路ＤＲｔ６の終端に達した球は、第８通路ＤＲｔ８を介して、第１入賞口６４（図２３５参照）に入賞されるため、遊技者は、転動部材Ｄ８１７０上に球が存在しない状態では、第３通路ＤＲｔ３から第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）を期待する。一方で、第１の球が第６通路ＤＲｔ６に流入（入球）した後は、その第１の球に第２突部Ｄ１３１ｆａが作用（当接）しないように、逆に、次の球（第２の球）が第６通路ＤＲｔ６に更に流入（入球）しないことを期待する。このように、常に第６通路ＤＲｔ６への流入（入球）を期待させるのではなく、第６通路ＤＲｔ６への球の入球数に応じて期待する状況を変化させて、遊技の興趣を向上できる。

【３３４５】

特に、本実施形態では、上述したように、第１の球が位置ＤＰへ近づくに従い、転動部材Ｄ８１７０が第２位置から第１位置へ向けて変位（回転）され、変位部材Ｄ１８０が開放位置から閉鎖位置へ徐々に変位（回転）される。第１の球が位置ＤＰを越えると、転動部材Ｄ８１７０が第１位置に配置され、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置される。

【３３４６】

即ち、第１の球が第２突部Ｄ１３１ｆａに近づくに従い、変位部材Ｄ１８０を徐々に閉鎖位置へ向けて変位（回転）させ、第２の球が第３通路ＤＲｔ３から第６通路ＤＲｔ６へ流入（入球）し難くできる。よって、第１の球が第６通路ＤＲｔ６の終端に達することの遊技者の期待度を高めることができる。

【３３４７】

次いで、図２６０から図２７２を参照して、第６７実施形態におけるセンターフレームＥ８６について説明する。

【３３４８】

図２６０は、第６７実施形態における遊技盤Ｅ１３の正面図である。図２６０に示すように、センターフレームＥ８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図１４９参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＥ８６ａと下側フレームＥ８６ｂとを備える。

【３３４９】

上側フレームＥ８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図１４９参照）における上側（図２６０上側）及び左右（図２６０左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＥ８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図２６０下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＥ８６ａ及び下側フレームＥ８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１が視認可能とされる。

【３３５０】

なお、上側フレームＥ８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図２６０下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＥ８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。

【３３５１】

次いで、図２６１から図２６２を参照して下側フレームＥ８６ｂについて説明する。図２６１は、下側フレームＥ８６ｂの正面斜視図であり、図２６２は、下側フレームＥ８６ｂの背面斜視図である。なお、図２６１及び図２６２では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＥ８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。また、図２６３から図２８１についても同様である。

【３３５２】
図２６１及び図２６２に示すように、下側フレームＥ８６ｂには、球を受け入れ可能な開口として形成される一対の受入口ＥＯＰｉｎと、その一対の受入口ＥＯＰｉｎに連通される一対の第１通路ＥＲｔ１と、その一対の第１通路ＥＲｔ１を案内された球が流下される一対の第２通路ＥＲｔ２と、その一対の第２通路ＥＲｔ２を案内された球が流下される一対の第３通路ＥＲｔ３と、その一対の第３通路ＥＲｔ３に案内された球が後述する振分通路Ｅ１５０に形成される突起部Ｅ１５１により振り分けられて流下される第４通路ＥＲｔ４、第５通路ＥＲｔ５及び第６通路ＥＲｔ６と、第５通路ＥＲｔ５若しくは第６通路ＥＲｔ６を案内された球が第４通路ＥＲｔ４へ案内される第７通路ＥＲｔ７と、第４通路ＥＲｔ４を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＥＯＰｏｕｔとが形成される。
【３３５３】
なお、一対の受入口ＥＯＰｉｎ、第１通路ＥＲｔ１、第２通路ＥＲｔ２及び第３通路ＥＲｔ３は、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図２６０左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２６０左右対称）にそれぞれ形成される。
【３３５４】
また、上側フレームＥ８６ａには、一対の上側フレーム通路ＥＲｔ０が配設される（図２６０参照）。上側フレーム通路ＥＲｔ０は、遊技領域を流下する球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＥＲｔ０の下流端に下側フレームＥ８６ｂの受入口ＥＯＰｉｎが連通される。
【３３５５】
即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＥＲｔ０に流入（入球）した球は、受入口ＥＯＰｉｎを介して、上側フレーム通路ＥＲｔ０から下側フレームＥ８６ｂの第１通路ＥＲｔ１へ流入（入球）される。
【３３５６】
下側フレームＥ８６ｂには、駆動モータＥ１９１により動作する振分通路Ｅ１５０が配設されており、球は、振分通路Ｅ１５０に形成される突起部Ｅ１５１に当接することによりその流下方向が変更（変化）され、第３通路ＥＲｔ３から第４通路ＥＲｔ４、第５通路ＥＲｔ５若しくは第６通路ＥＲｔ６のいずれかに振り分けられる。
【３３５７】
ここで、第４通路ＥＲｔ４の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＥＯＰｏｕｔは、第１入賞口６４（図２６０参照）の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第４通路ＥＲｔ４へ振り分けられた球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【３３５８】
また、第７通路ＥＲｔ７へ振り分けられた球は、第４通路ＥＲｔ４へ案内されるため、第１入賞口６４へ入賞し易い。
【３３５９】
また、第６通路ＥＲｔ６には、その第６通路ＥＲｔ６を案内される球を第７通路ＥＲｔ７へ案内するために背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第７通路ＥＲｔ７の正面側（矢印Ｆ方向側）に第１流出面Ｅ１４１ａが形成（配置）される。そのため、第６通路ＥＲｔ６の第１流出面Ｅ１４１ａに案内される球は、第１入賞口６４へ入賞し易い。
【３３６０】
一方、第５通路ＥＲｔ５は、第６通路ＥＲｔ６側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成され、第５通路ＥＲｔ５と第７通路ＥＲｔ７との境界の背面側（矢印Ｂ方向側）には一対の立て壁部Ｅ１３５ｃがそれぞれ配設される。従って、第５通路ＥＲｔ５へ振り分けられた球は、第７通路ＥＲｔ７よりも第６通路ＥＲｔ６へ案内され易い。
【３３６１】
第６通路ＥＲｔ６には、第１流出面Ｅ１４１ａに対して遊技盤Ｅ１３の幅方向（図２６

０左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第２流出面Ｅ１４１ｂが形成（配置）される。

【３３６２】

なお、第６通路ＥＲｔ６には、起伏が形成され、起伏の底部に第２流出面Ｅ１４１ｂが形成され、起伏の頂部に第１流出面Ｅ１４１ａが形成される。従って、第６通路ＥＲｔ６へ振り分けられた球は、第１流出面Ｅ１４１ａから第７通路ＥＲｔ７へ送球されるよりも第２流出面Ｅ１４１ｂから遊技領域へ流出され易い。

【３３６３】

即ち、第３通路ＥＲｔ３から第５通路ＥＲｔ５もしくは第６通路ＥＲｔ６へ振り分けられた球は、遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した第３通路ＥＲｔ３から第４通路ＥＲｔ４へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【３３６４】

このように、本実施形態における下側フレームＥ８６ｂは、球が振分通路Ｅ１５０に形成される突起部Ｅ１５１に当接することにより第４通路ＥＲｔ４から第６通路ＥＲｔ６のいずれかに振り分けられた場合に、第３通路ＥＲｔ３から第４通路ＥＲｔ４へ振り分けられた球は第１入賞口６４（図２６０参照）への入賞が容易となる（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させる）一方、第３通路ＥＲｔ３から第５通路ＥＲｔ５若しくは第６通路ＥＲｔ６へ振り分けられた球は、第７通路ＥＲｔ７（および第７通路ＥＲｔ７の下流に形成される第４通路ＥＲｔ４）を移動して第１入賞口６４へ入賞することが困難となる。よって、第１入賞口６４に球が入賞する確率を高める（確実に入賞させる）ために、第３通路ＥＲｔ３を案内される球が第４通路ＥＲｔ４に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【３３６５】

次いで、図２６１から図２６２に加え、図２６３から図２６８を参照して、下側フレームＥ８６ｂの詳細構成について説明する。

【３３６６】

図２６３は、下側フレームＥ８６ｂの分解正面斜視図であり、図２６４は、下側フレームＥ８６ｂの分解背面斜視図である。図２６５は、下側フレームＥ８６ｂの上面図であり、図２６６は、下側フレームＥ８６ｂの正面図であり、図２６７は、下側フレームＥ８６ｂの背面図である。図２６８（ａ）は、図２６６の矢印ＣＣＬＸＶＩＩＩａ方向視における下側フレームＥ８６ｂの側面図であり、図２６８（ｂ）は、図２６６の矢印ＣＣＬＸＶＩＩＩｂ方向視における下側フレームＥ８６ｂの側面図であり、図２６８（ｃ）は、図２６６のＣＣＬＸＶＩＩＩｃ－ＣＣＬＸＶＩＩＩｃ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図である。

【３３６７】

図２６１から図２６８に示すように、下側フレームＥ８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ１３０に配設される振分通路Ｅ１５０、中央通路Ｅ１６０及び一対の流路調整ブロックＥ１７０と、ベース部材Ｅ１３０の下面側（矢印Ｄ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されるカバー部材Ｅ１８０と、そのカバー部材Ｅ１８０の内側に配設される駆動手段Ｅ１９０と、を備える。

【３３６８】

駆動手段Ｅ１９０は、カバー部材Ｅ１８０に往復動可能に配設される。また、振分通路Ｅ１５０が駆動手段Ｅ１９０に係合されることで、振分通路Ｅ１５０は、ベース部材Ｅ１３０に往復動可能に配設される。

【３３６９】

中央通路Ｅ１６０、流路調整ブロックＥ１７０及びカバー部材Ｅ１８０は、タッピング

ネジによりベース部材Ｅ１３０にそれぞれ締結固定され、誘導部材Ｅ１２０及びベース部材Ｅ１３０は、タッピングネジにより正面部材Ｅ１１０にそれぞれ締結固定される。

【３３７０】

介設部材Ｅ１４０は、正面部材Ｅ１１０とベース部材Ｅ１３０とに挟持される。これらにより、下側フレームＥ８６ｂは、一つ（単体）のユニットとして構成される（図２６１参照）。

【３３７１】

また、下側フレームＥ８６ｂは、振分通路Ｅ１５０及び駆動手段Ｅ１９０を除く他の部材が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、振分通路Ｅ１５０及び駆動手段Ｅ１９０が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＥＲｔ１から第７通路ＥＲｔ７を移動する球を遊技者に視認させると共に、振分通路Ｅ１５０の往復動を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【３３７２】

なお、振分通路Ｅ１５０及び駆動手段Ｅ１９０は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【３３７３】

また、一方で、下側フレームＥ８６ｂは、駆動手段Ｅ１９０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する部材が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、駆動手段Ｅ１９０が正面側から遊技者に視認不能となるように構成されていても良い。

【３３７４】

正面部材Ｅ１１０は、正面を形成する板状の正面板Ｅ１１１と、その正面板Ｅ１１１の背面から立設される板状の底面部Ｅ１１２とを備える。

【３３７５】

正面板Ｅ１１１は、その長手方向両端に鉛直方向に延設される一対の鉛直部と、それら鉛直部どうしを連結し、長手方向両端から中央へ向けて鉛直方向下方に傾斜される傾斜部とから形成される。

【３３７６】

正面板Ｅ１１１には、その正面板Ｅ１１１の外縁に沿って複数の挿通孔Ｅ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＥ８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｅ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。

【３３７７】

正面板Ｅ１１１には、受入口ＥＯＰｉｎが開口形成（板厚方向に穿設）される。受入口ＥＯＰｉｎは、上述したように、上側フレーム通路ＥＲｔ０に流入（入球）した球を受け入れる開口である（図２６０参照）。

【３３７８】

正面板Ｅ１１１には、第１入賞口６４（図２６０参照）の鉛直方向上方となる位置に流出口ＥＯＰｏｕｔが開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＥＯＰｏｕｔは、正面視円状であり、球の外形よりもやや大きく形成される。流出口ＥＯＰｏｕｔは、上述したように、第４通路ＥＲｔ４を案内された球が遊技領域へ流出される際の出口となる開口である。

【３３７９】

正面板Ｅ１１１には、上述したように、第１流出面Ｅ１４１ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に張出し部Ｅ１１１ｂが突設される。また、第２流出面Ｅ１４１ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に正面視において第２流出面Ｅ１４１ｂと略同一の形状の切欠き部Ｅ１１１ｃが形成される。切欠き部Ｅ１１１ｃを通過することで、第６通路ＥＲｔ６を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される。

【３３８０】

正面板Ｅ１１１の背面には、傾斜部の長手方向外側に一対の規制部Ｅ１１１ｄが突設される。正面部材Ｅ１１０とベース部材Ｅ１３０との間には介設部材Ｅ１４０が挟持されており、規制部Ｅ１１１ｄが介設部材Ｅ１４０の転動部Ｅ１４１の上面に当接することで、介設部材Ｅ１４０がベース部材Ｅ１３０から上方（矢印Ｕ方向）へ脱離することを抑制できる。これにより、正面部材Ｅ１１０若しくはベース部材Ｅ１３０に対して介設部材Ｅ１４０をタッピングネジにより締結固定することを不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【３３８１】

底面部Ｅ１１２は、正面板Ｅ１１１の長手方向全域にわたって連続的に形成され、これにより、針金等の異物の侵入が抑制される。

【３３８２】

誘導部材Ｅ１２０は、正面部材Ｅ１１０と共に第１通路ＥＲｔ１を形成するためのものであり、一対の側面部Ｅ１２１と、一対の側面部Ｅ１２１を連結する背面部Ｅ１２２と、を備える。

【３３８３】

一対の側面部Ｅ１２１は、側面視縦長略矩形の板状体に形成される。一対の側面部Ｅ１２１は、短手方向一端側の面（矢印Ｆ方向側の面）が正面板Ｅ１１１（正面部材Ｅ１１０）の背面（矢印Ｂ方向側の面）に当接した状態で、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に球の直径よりも大きな間隔を隔てて対向配置される。

【３３８４】

背面部Ｅ１２２は、一対の側面部Ｅ１２１の短手方向他端どうし及び上端どうしを連結すると共に、側面部Ｅ１２１の短手方向一端から他端へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。

【３３８５】

誘導部材Ｅ１２０及び正面板Ｅ１１１（正面部材Ｅ１１０）によって球が移動（流下、落下）可能に区画された空間により、第１通路ＥＲｔ１が形成される。また、第１通路ＥＲｔ１の下方（矢印Ｄ方向）は開放される。これにより、受入口ＥＯＰｉｎを通過して第１通路ＥＲｔ１に流入した球の流下方向を下方に変更（変化）して第２通路ＥＲｔ２に案内できる。

【３３８６】

ベース部材Ｅ１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ１３７と、を備える。ベース部材Ｅ１３０については、図２６１から図２６８に加え、図２６９から図２７２を参照して詳細構成について説明する。

【３３８７】

湾曲部Ｅ１３１は、上面視において略直線状の通路として前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図２６８（ｃ）参照）。

【３３８８】

湾曲部Ｅ１３１には、鉛直方向における高さ位置が最も低い位置に流出面Ｅ１３１ａが凹設される。流出面Ｅ１３１ａは、湾曲部Ｅ１３１を案内される球を振分通路Ｅ１５０へ流出させるための部位であり、振分通路Ｅ１５０へ向けて下降傾斜する凹面として形成される。

【３３８９】

壁板Ｅ１３２には、切欠き部Ｅ１３２ａが振分通路Ｅ１５０側（一対の壁板Ｅ１３２の対向する側）に切欠き形成される。この切欠き部Ｅ１３２ａを通過することで湾曲部Ｅ１３１から振分通路Ｅ１５０へ球が流下可能とされる。また、切欠き部Ｅ１３２ａは、球の直径よりも大きく形成される（本実施形態では球の直径の約5倍の大きさ）。切欠き部Ｅ１３２ａの大きさが大きいほど、前後方向において任意の位置から球を振分通路Ｅ１５０へ流下できる。

【３３９０】

湾曲部Ｅ１３１と壁板Ｅ１３２とに区画された空間により第２通路ＥＲｔ２が形成される。なお、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）は、誘導部材Ｅ１２０（第１通路ＥＲｔ１）よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に配設され、第１通路ＥＲｔ１との間に鉛直方向の段差が形成される。即ち、第１通路ＥＲｔ１から第２通路ＥＲｔ２へ球が自由落下される。

【３３９１】

また、誘導部材Ｅ１２０（第１通路ＥＲｔ１）は、湾曲部Ｅ１３１の正面側（矢印Ｆ方向側）における鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される。従って、第１通路ＥＲｔ１から第２通路ＥＲｔ２の正面側の端部へ球を送球できる。

【３３９２】

これにより、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）の正面側の端部へ流下された球は、湾曲部Ｅ１３１の円弧状に湾曲した形状に沿って前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ往復動できる。これにより、前後方向への速度成分を有した状態で湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ球を送球できる。

【３３９３】

第１斜面部Ｅ１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ１３３には、挿通孔Ｅ１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂと、溝部Ｅ１３３ｃとが形成される。

【３３９４】

挿通孔Ｅ１３３ａは、第１斜面部Ｅ１３３の略中央に開口形成（板厚方向に穿設）され、後述する振分通路Ｅ１５０の被係合部Ｅ１５３が挿通可能に形成される（図２６３、図２７０（ｂ）参照）。

【３３９５】

規制部Ｅ１３３ｂは、第１斜面部Ｅ１３３の下面において挿通孔Ｅ１３３ａの正面側の縁から立設され、その下面は第１斜面部Ｅ１３３の傾斜面に対し平行に形成される（図２７０（ｂ）、図２７１（ｂ）参照）。

【３３９６】

溝部Ｅ１３３ｃは、第１斜面部Ｅ１３３の前後方向略中央において傾斜方向に沿って形成される溝であり、挿通孔Ｅ１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に一対形成される。溝部Ｅ１３３ｃには、後述する振分通路Ｅ１５０の被ガイド部Ｅ１５２が傾斜方向に摺動可能に配設される（図２６３、図２７０（ａ）、図２７２（ａ）参照）。溝部Ｅ１３３ｃの周囲には、溝部Ｅ１３３ｃの破損を抑制するためのガイド壁が立設される。

【３３９７】

第１斜面部Ｅ１３３には、振分通路Ｅ１５０を変位させるための複数（本実施形態では４個）の円柱体Ｅ２０１と、カバーＥ２０２とが配設される。

【３３９８】

円柱体Ｅ２０１は、第１斜面部Ｅ１３３における振分通路Ｅ１５０の変位を容易とするためのものであり、円柱状に形成され、また、その軸を中心として軸孔が形成される。軸孔に回転軸が挿通され、その回転軸が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った状態で第１斜面部Ｅ１３３に配設される。これにより、円柱体Ｅ２０１は、第１斜面部Ｅ１３３に回転可能に配設される。円柱体Ｅ２０１が軸周りに回転することにより、円柱体Ｅ２０１の外

周面に当接する振分通路Ｅ１５０は容易に変位できる。
【３３９９】
カバーＥ２０２は、円柱体Ｅ２０１を第１斜面部Ｅ１３３に保持するためのものであり、第１斜面部Ｅ１３３の外形よりやや小さい板状に形成される。カバーＥ２０２は、第１斜面部Ｅ１３３の挿通孔Ｅ１３３ａに対応する位置に挿通孔Ｅ１３３ａよりも大きな孔が穿設され、一対の溝部Ｅ１３３ｃに対応する位置に溝部Ｅ１３３ｃの外形と略同一の溝が形成される。また、円柱体Ｅ２０１に対応する位置に円柱体Ｅ２０１の外形よりもやや大きな孔が穿設される。
【３４００】
カバーＥ２０２は、その上面が第１斜面部Ｅ１３３の傾斜面と平行な状態で第１斜面部Ｅ１３３の上面に配設される。
【３４０１】
カバーＥ２０２の円柱体Ｅ２０１に対応する位置に穿設される孔よりも長い回転軸が円柱体Ｅ２０１に挿通され、円柱体Ｅ２０１及び回転軸を第１斜面部Ｅ１３３に配設し、タッピングネジにより第１斜面部Ｅ１３３とカバーＥ２０２とが締結固定されることで、カバーＥ２０２は、回転軸および回転軸が挿通された円柱体Ｅ２０１を第１斜面部Ｅ１３３に保持できる。
【３４０２】
なお、円柱体Ｅ２０１は、カバーＥ２０２に形成される孔を通して、その側面（外周面）の一部がカバーＥ２０２の上面から突出して配設され、これにより、円柱体Ｅ２０１と振分通路Ｅ１５０とが当接可能となる。
【３４０３】
取付け部Ｅ１３４は、第１斜面部Ｅ１３３の傾斜方向下降側の端部より鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）において略水平に形成される。また、取付け部Ｅ１３４の前端は、第１斜面部Ｅ１３３の前端より背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に配設される。
【３４０４】
取付け部Ｅ１３４及び第１斜面部Ｅ１３３と第２斜面部Ｅ１３５とを連結して湾曲部Ｅ１３４ａが配設され、湾曲部Ｅ１３４ａは、背面板Ｅ１３７側へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。
【３４０５】
第２斜面部Ｅ１３５は、第５通路ＥＲｔ５（の一部）を形成するための部位であり、取付け部Ｅ１３４よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）において背面板Ｅ１３７から正面部材Ｅ１１０へ向けて下降傾斜して形成される。第２斜面部Ｅ１３５には、挿通孔Ｅ１３５ａと、中央通路Ｅ１３５ｂと、一対の立て壁部Ｅ１３５ｃと、仕切り部Ｅ１３５ｄと、送球壁Ｅ１３５ｅとが形成される。
【３４０６】
第２斜面部Ｅ１３５と取付け部Ｅ１３４と湾曲部Ｅ１３４ａと背面板Ｅ１３７とに区画された空間に第５通路ＥＲｔ５が形成される。
【３４０７】
挿通孔Ｅ１３５ａは、第２斜面部Ｅ１３５の略中央に球の外形よりも大きく開口形成（板厚方向に穿設）される。挿通孔Ｅ１３５ａの外周には、後述する中央通路Ｅ１６０の円筒壁Ｅ１６３の下端を挿入するための凹部が挿通孔Ｅ１３５ａの外縁に沿って凹設される。
【３４０８】
中央通路Ｅ１３５ｂは、第７通路ＥＲｔ７を形成するための部位であり、鉛直方向下方へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成され、その湾曲形状は球の外形よりも大きく形成される。これにより、中央通路Ｅ１３５ｂに球が送球されると、中央通路Ｅ１３５ｂから第２斜面部Ｅ１３５の傾斜面へ球が送球（流出）されることを抑制できる。
【３４０９】
中央通路Ｅ１３５ｂは、第２斜面部Ｅ１３５の正面側（矢印Ｆ方向側）の縁と挿通孔Ｅ

１３５ａとを連結し、第２斜面部Ｅ１３５の正面側の縁から挿通孔Ｅ１３５ａへ向けて下降傾斜して形成される。これにより中央通路Ｅ１３５ｂに案内された球を挿通孔Ｅ１３５ａへ向けて送球できる。即ち、中央通路Ｅ１３５ｂの円弧状に湾曲した空間により第７通路ＥＲｔ７が形成される。

【３４１０】

なお、中央通路Ｅ１３５ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において第1流出面Ｅ１４１ａと重なる位置に配設される。これにより、第1流出面Ｅ１４１ａから送球される球を中央通路Ｅ１３５ｂへ案内できる。

【３４１１】

一対の立て壁部Ｅ１３５ｃは、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）と中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）とを区切るための部位であり、中央通路Ｅ１３５ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端の背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に向けて突設される。一対の立て壁部Ｅ１３５ｃの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の長さは、中央通路Ｅ１３５ｂの長さよりも短く形成され、中央通路Ｅ１３５ｂの挿通孔Ｅ１３５ａ側（矢印Ｂ方向側）に配設される。

【３４１２】

これにより、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球が一対の立て壁部Ｅ１３５ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）において第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）と中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）との境界を横切ることで、球は、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ案内される。一方、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球が一対の立て壁部Ｅ１３５ｃに当接することで、（第５通路ＥＲｔ５）と中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）との境界を横切ることが抑制され、球は、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下し第６通路ＥＲｔ６へ案内される。このように、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ球が送球され難くすることにより、遊技の興趣を高めることができる。

【３４１３】

仕切り部Ｅ１３５ｄは、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に向けて突設され、挿通孔Ｅ１３５ａの外縁と背面板Ｅ１３７とを連結して形成される。これにより、一方の振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から流下された球が、第２斜面部Ｅ１３５の他方の振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）側へ案内されることを抑制できる。

【３４１４】

送球壁Ｅ１３５ｅは、第２斜面部Ｅ１３５の下面から立設して形成される（図２７０（ａ）参照）。送球壁Ｅ１３５ｅは、挿通孔Ｅ１３５ａの背面側（矢印Ｂ方向側）の縁に沿った円弧部と、その円弧部の両端から正面側（矢印Ｆ方向側）に延設される直線部とから、下面視略Ｕ字状に形成される。これにより、送球壁Ｅ１３５ｅで囲まれた空間を球が送球可能に形成され、挿通孔Ｅ１３５ａを通過した球を後述するカバー部材Ｅ１８０の背面側通路Ｅ１８１ｂへ送球できる。

【３４１５】

張出し部Ｅ１３６は、湾曲部Ｅ１３１側から第２斜面部Ｅ１３５側へ向けて下降傾斜して形成され、張出し部Ｅ１３６には、ガイド部Ｅ１３６ａが形成される。

【３４１６】

ガイド部Ｅ１３６ａは、ベース部材Ｅ１３０への介設部材Ｅ１４０の組み付けを容易とするための部位であり、張出し部Ｅ１３６の対向する側（左右方向内側）の端部から鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に向けて突設される。一対のガイド部Ｅ１３６ａの対向間に後述する介設部材Ｅ１４０の下側通路Ｅ１４３が配設される。

【３４１７】

背面板Ｅ１３７は、正面視横長略矩形の板状から形成される。背面板Ｅ１３７は、一対の第１斜面部Ｅ１３３、一対の取付け部Ｅ１３４及び第２斜面部Ｅ１３５の背面側の端部に当接して配設され、背面板Ｅ１３７の上端は、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）及び第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球よりも上方（矢印Ｕ方向）に

位置する。これにより、背面板Ｅ１３７は、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）又は第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球が背面板Ｅ１３７の背面側（矢印Ｂ方向側）に案内されることを抑制できる。

【３４１８】

介設部材Ｅ１４０は、上面視において略直線状の通路として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設される転動部Ｅ１４１と、その転動部Ｅ１４１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて突設される板状の当接部Ｅ１４２と、その当接部Ｅ１４２の背面から立設される下側通路Ｅ１４３と、を備える。

【３４１９】

転動部Ｅ１４１は、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、延設方向中央に向けて下降傾斜して形成される。

【３４２０】

転動部Ｅ１４１の上面は、正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）からベース部材Ｅ１３０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、上述したように、転動部Ｅ１４１の上面には、背面側（矢印Ｂ方向）へ向けて下降傾斜して形成される第１流出面Ｅ１４１ａと、正面側（矢印Ｆ方向）へ向けて下降傾斜して形成される第２流出面Ｅ１４１ｂとが形成される。

【３４２１】

また、転動部Ｅ１４１には、起伏が形成され、その頂部が中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）の正面に配置される。起伏の底部に第２流出面Ｅ１４１ｂが配置される一方、起伏の頂部に第１流出面Ｅ１４１ａが配置される。従って、第１流出面Ｅ１４１ａは、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）の正面に配置される。

【３４２２】

なお、第１流出面Ｅ１４１ａは、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配置され、これにより、第１流出面Ｅ１４１ａを流下する球を中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ案内できる。

【３４２３】

転動部Ｅ１４１の上面の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端には切欠き部Ｅ１４１ｃが形成され、その切欠き部Ｅ１４１ｃには、正面部材Ｅ１１０の突設部Ｅ１１１ｅが当接される。また、介設部材Ｅ１４０は、張出し部Ｅ１３６の上面に当接して配設される。これにより、介設部材Ｅ１４０は、ベース部材Ｅ１３０（正面部材Ｅ１１０）に固定される。その結果、介設部材Ｅ１４０（転動部Ｅ１４１の上面）とベース部材Ｅ１３０と正面部材Ｅ１１０（正面板Ｅ１１１の背面）とに区画された空間により第６通路ＥＲｔ６が形成される。

【３４２４】

当接部Ｅ１４２には、流出口ＥＯＰｏｕｔの背面となる位置に通路口Ｅ１４２ａが開口形成（板厚方向に穿設）される。通路口Ｅ１４２ａは、正面視略矩形であり、球の外形よりもやや大きく形成される。

【３４２５】

下側通路Ｅ１４３は、通路口Ｅ１４２ａの外縁からカバー部材Ｅ１８０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突設され、その下側通路Ｅ１４３により区画された空間により第４通路ＥＲｔ４（の一部）が形成される。

【３４２６】

下側通路Ｅ１４３は、カバー部材Ｅ１８０側から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成され、下側通路Ｅ１４３の側面および下面は上面よりカバー部材Ｅ１８０側に突出して形成される。即ち、下側通路Ｅ１４３は、カバー部材Ｅ１８０側の上面が開放される。

【３４２７】

また、下側通路Ｅ１４３の下面には、その幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央に断面コ字状の凹溝Ｅ１４３ａが凹設される（図２６９（ａ）参照）。凹溝Ｅ１４３ａは、下側通路Ｅ

１４３の下面の突出方向に沿って略直線状に延設される。
【３４２８】
凹溝Ｅ１４３ａの溝幅（矢印Ｌ－Ｒ方向の寸法）は、球の直径よりも小さくされると共に、凹溝Ｅ１４３ａの溝深さ（下側通路Ｅ１４３の下面に垂直方向の寸法）は、凹溝Ｅ１４３ａの底面に球が接触しない深さに設定される。
【３４２９】
これにより、下側通路Ｅ１４３の下面上の球を２箇所（下側通路Ｅ１４３の下面と凹溝Ｅ１４３ａとが交わる一対の稜線部分）で支持することができる。よって、凹溝Ｅ１４３ａが非形成の場合（即ち、１箇所のみで球を支持する場合）と比較して、球を安定した状態で案内できる。詳しく説明すると、凹溝Ｅ１４３ａにより球が挟み込まれた態様となることで、幅方向に変位することを抑制された状態で幅方向中央を流下できる。
【３４３０】
その結果、寸法公差や組立公差に起因して流出口ＥＯＰｏｕｔと通路口Ｅ１４２ａとの中心位置がずれ、通路口Ｅ１４２ａの正面に正面部材Ｅ１１０（正面板Ｅ１１１）が一部配設された場合（通路口Ｅ１４２ａの外縁の一部が正面部材Ｅ１１０（正面板Ｅ１１１）に塞がれた状態）においても、下側通路Ｅ１４３（第４通路ＥＲｔ４）を流下した球は、流出口ＥＯＰｏｕｔを通過して遊技領域へ流出される。
【３４３１】
上述したように、下側通路Ｅ１４３は、張出し部Ｅ１３６の一対のガイド部Ｅ１３６ａの対向間に配設される。これにより、下側フレームＥ８６ｂの組立ての際、一対のガイド部Ｅ１３６ａに下側通路Ｅ１４３を当接させることで、ベース部材Ｅ１３０への下側通路Ｅ１４３（介設部材Ｅ１４０）の配設を容易に行える。
【３４３２】
振分通路Ｅ１５０は、その上面を球が移動（流下、転動）するためのものであり、第１斜面部Ｅ１３３（カバーＥ２０２）の上方（矢印Ｕ方向）に配設される。従って、第１斜面部Ｅ１３３と同様、振分通路Ｅ１５０は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して配設される。振分通路Ｅ１５０は、上面に突設される複数の突起部Ｅ１５１と、振分通路Ｅ１５０の下面から立設される一対の被ガイド部Ｅ１５２と、その一対の被ガイド部Ｅ１５２の間に立設される被係合部Ｅ１５３と、を備える。振分通路Ｅ１５０については、図２６１から図２６８に加え、図２６９から図２７２を参照して詳細構成について説明する。
【３４３３】
突起部Ｅ１５１は、球の移動（流下）方向を変化させるための部位であり、振分通路Ｅ１５０の上面に規則的に、それら突起部Ｅ１５１どうしの間を球が移動（流下、転動）可能な間隔を備えて複数配設される。突起部Ｅ１５１の形状は、振分通路Ｅ１５０に垂直な方向視において略六角形状に形成される。その略六角形状は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向に平行に配設される２辺が他の４辺よりも長い、言い換えると、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）よりも振分通路Ｅ１５０の傾斜方向に沿った方向に長く形成される。また、長く形成される２辺を除いた他の４辺は同一長さに形成される。また、突起部Ｅ１５１の側面は、振分通路Ｅ１５０に対し傾斜（本実施形態においては振分通路Ｅ１５０の上面に対して略４５度傾斜）して形成され、突起部Ｅ１５１は、六角錐の頭頂点側の一部が切り取られた態様に形成される。言い換えると、振分通路Ｅ１５０に平行な平面での断面積が、振分通路Ｅ１５０の上面から離れるに従い小さく形成される。
【３４３４】
突起部Ｅ１５１は、長い辺同士を平行にして前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の間隔（本実施形態においては振分通路Ｅ１５０の上面における対向間距離が球の直径の略４分の１）を隔てて形成される。また、前後方向に列をなして配設される一の組の突起部Ｅ１５１郡に対しその傾斜方向下降側に配設される一組の突起部Ｅ１５１郡は、突起部Ｅ１５１の前後方向における配設間距離の半分だけ前後方向にずれて配設される。即ち、前後方向において、傾斜方向下降側に配設される一組の突起部Ｅ１５１郡は、一の組の突起部Ｅ

１５１郡の対向間にそれぞれ配設される。これにより、前後方向における一対の突起部Ｅ１５１の長い辺の間を流下した球を、傾斜方向下降側に配設される突起部Ｅ１５１に当接させることができる。

【３４３５】

また、突起部Ｅ１５１の短い辺どうしの対向間隔は、突起部Ｅ１５１の長い辺同士の対向間隔と同一に形成される。これにより、一の突起部Ｅ１５１は、その周囲に配設される突起部Ｅ１５１から同一の距離だけ隔てた態様で振分通路Ｅ１５０に配設される。振分通路Ｅ１５０の上面および突起部Ｅ１５１の傾斜した側面Ｅ１５１ａに区画された空間により、第３通路ＥＲｔ３が形成される。

【３４３６】

なお、本実施形態における突起部Ｅ１５１の突設高さは、球の半径の略２分の１とされる。また、突設先端における突起部Ｅ１５１どうしの対向間隔は球の直径よりも小さく形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球は、隣り合う突起部Ｅ１５１の傾斜した側面Ｅ１５１ａどうしに当接した状態で振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）できる。即ち、突起部Ｅ１５１は、球が振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）に留まることを抑制できる。

【３４３７】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球は、突起部Ｅ１５１に当接することで球の流下方向が変更（変化）され、介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）もしくは背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に形成される突起部Ｅ１５１の対向間に案内される。このように、突起部Ｅ１５１は、傾斜方向に沿って流下した球の流下方向を変更（変化）できる。

【３４３８】

また、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に隣り合う突起部Ｅ１５１の長い辺どうしの間を移動（流下、転動）することで、球は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向に沿って湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０へ移動（流下、転動）できる。

【３４３９】

また、振分通路Ｅ１５０を流下する球は、突起部Ｅ１５１に当接することで、その流下速度が減少される。これにより、振分通路Ｅ１５０が突起部Ｅ１５１を備えない場合と比較して、振分通路Ｅ１５０を流下する球の流下時間を長くできる。

【３４４０】

また、突起部Ｅ１５１は、振分通路Ｅ１５０の上面から突設して形成されるため、遊技者に視認し易くできる。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させ易くできる。即ち、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面を移動（流下、転動）する球は比較的移動速度が低く、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面の移動（流下、転動）に比較的時間を要するところ、突起部Ｅ１５１との当接により球の移動（流下、転動）に要する時間を更に嵩ませることができる。その結果、球の移動（流下、転動）方向が変化（変更）される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【３４４１】

このように、本実施形態では、突起部Ｅ１５１により振分通路Ｅ１５０を流下する球の流下方向の変更（変化）と流下時間の延長（変化）とを行うことができ、遊技の興趣を高めることができる。また、流下方向の変更（変化）と流下時間の延長（変化）とを一つの部位（突起部Ｅ１５１）が行うことで、部品点数を削減して製品コストの削減を図ることができる。

【３４４２】

なお、振分通路Ｅ１５０は傾斜して配設されるため、球の流下速度が減少した場合においても、球の自重により流下速度が増加されることで、第３通路ＥＲｔ３を流下できる。

【３４４３】

振分通路Ｅ１５０の前後の縁に接して配設される突起部Ｅ１５１は、略六角形状の一部

のみ形成される、言い換えると、突起部Ｅ１５１の形状が振分通路Ｅ１５０の前後の縁で切り取られた態様に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０により多くの第３通路ＥＲｔ３を形成でき、遊技の興趣を高めることができる。

【３４４４】

被ガイド部Ｅ１５２は、振分通路Ｅ１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の略中央に被係合部Ｅ１５３を挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に一対配設される（図２７０（ａ）、図２７２（ａ）参照）。被ガイド部Ｅ１５２の前後方向の寸法は、ベース部材Ｅ１３０の溝部Ｅ１３３ｃの溝幅と同等またはやや小さく形成される。被ガイド部Ｅ１５２が溝部Ｅ１３３ｃに挿入されることで、振分通路Ｅ１５０のベース部材Ｅ１３０に対する前後方向への変位が規制される。

【３４４５】

上述したように、溝部Ｅ１３３ｃの周囲にはガイド壁が立設されるため、被ガイド部Ｅ１５２が溝部Ｅ１３３ｃのガイド壁に当接することで、溝部Ｅ１３３ｃが破損することを抑制できる。

【３４４６】

被係合部Ｅ１５３には、その背面が正面側（矢印Ｆ方向側）へ凹設される係合凹部Ｅ１５３ａと、被係合部Ｅ１５３の下端に正面に向けて突設される規制片Ｅ１５３ｂとが形成される（図２７０（ｂ）参照）。

【３４４７】

係合凹部Ｅ１５３ａは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設して形成される。規制片Ｅ１５３ｂは、第１斜面部Ｅ１３３（振分通路Ｅ１５０）の傾斜面に対し平行であり、第１斜面部Ｅ１３３の規制部Ｅ１３３ｂの下方（矢印Ｄ方向）に配設される。これにより、振分通路Ｅ１５０が傾斜方向に変位する場合、規制片Ｅ１５３ｂと規制部Ｅ１３３ｂとが当接することを抑制できる。一方、規制片Ｅ１５３ｂと規制部Ｅ１３３ｂとが当接することで、振分通路Ｅ１５０が上方（矢印Ｕ方向）に変位することを抑制できる。

【３４４８】

振分通路Ｅ１５０は、カバーＥ２０２の上面から突出する円柱体Ｅ２０１の側面と当接した状態で、第１斜面部Ｅ１３３の傾斜面と平行に配設される。円柱体Ｅ２０１がその軸を回転軸として回転することで、振分通路Ｅ１５０の変位を容易に行うことができる。

【３４４９】

また、振分通路Ｅ１５０は、少なくとも一部が湾曲部Ｅ１３１の下方に配設される、即ち、振分通路Ｅ１５０が湾曲部Ｅ１３１の下方から取付け部Ｅ１３４側へ抜けきらない位置に配設され、振分通路Ｅ１５０と湾曲部Ｅ１３１との間の距離は、球の半径よりも小さく配設される（図２７０（ａ）、図２７２（ａ）参照）。これにより、振分通路Ｅ１５０に送球された球が、湾曲部Ｅ１３１の下方からベース部材Ｅ１３０の長手方向両端から流出することを抑制できる。また、湾曲部Ｅ１３１と振分通路Ｅ１５０とで球が挟持されることを抑制できる。

【３４５０】

振分通路Ｅ１５０は、その傾斜面に垂直な方向視において傾斜方向に長い略矩形の板状体に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０の長手方向一端側（下降傾斜側）に配設される第2斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）若しくは中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）よりも短手方向である正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ球を送球し易くできる。

【３４５１】

また、振分通路Ｅ１５０の短手方向となる前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の長さは、少なくとも球の直径の２倍よりも大きい寸法、本実施形態においては球の直径の略４．５倍の寸法に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側に複数（本実施形態では２箇所）の球の移動（流下、落下）領域を形成できる。この結果、振分通路Ｅ１５０を流下した球が複数形成される通路（第４通路ＥＲｔ４、第５通路ＥＲｔ５及び第６通路ＥＲｔ６）の内、第１入賞口６４に球が入賞する確率の高い第４通路ＥＲｔ４へ振り分け

られることを期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【３４５２】
また、下側フレームＥ８６ｂに不正を行っても、その不正を働き難くできる。詳細に説明すると、第４通路ＥＲｔ４よりも第１入賞口６４に球が入賞する確率の低い第５通路ＥＲｔ５又は第６通路ＥＲｔ６の一方に第４通路ＥＲｔ４へ球が流下する不正を行っても、第５通路ＥＲｔ５又は第６通路ＥＲｔ６の他方を球が移動（流下、落下）することで、その不正を働き難くできる。
【３４５３】
振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側は、その正面側の一部に切欠き部Ｅ１５０ａが形成される。切欠き部Ｅ１５０ａを通過することで、振分通路Ｅ１５０を流下（落下）した球を流路調整ブロックＥ１７０に当接し易くできる。
【３４５４】
中央通路Ｅ１６０は、上面視において略直線状の通路として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設される架設通路Ｅ１６１と、その架設通路Ｅ１６１の左右方向略中央に開口形成（板厚方向に穿設）される上方孔Ｅ１６２と、架設通路Ｅ１６１の下面から上方孔Ｅ１６２に沿って立設される円筒壁Ｅ１６３と、架設通路Ｅ１６１の左右方向両端に配設される据付部Ｅ１６４と、を備える。
【３４５５】
架設通路Ｅ１６１の幅寸法（架設通路Ｅ１６１の延設方向および鉛直方向に垂直な方向、矢印Ｆ－Ｂ方向）は、球の直径よりも大きく形成される。
【３４５６】
架設通路Ｅ１６１は、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。これにより、架設通路Ｅ１６１に流下された球を架設通路Ｅ１６１の左右方向略中央（架設通路Ｅ１６１の鉛直方向の最下方）に形成される上方孔Ｅ１６２へ案内できる。
【３４５７】
架設通路Ｅ１６１には、その後端側（矢印Ｂ方向側）の縁から鉛直方向上方（矢印Ｆ方向）へ向けて立設される背面壁Ｅ１６１ａが形成される。これにより、架設通路Ｅ１６１に流下された球が、その背面側から落下することを抑制できる。
【３４５８】
架設通路Ｅ１６１は、その延設方向に直交する平面での断面形状が鉛直方向下方へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。これにより、架設通路Ｅ１６１に流下された球が、その正面側から流下（落下）することを抑制できる。
【３４５９】
上方孔Ｅ１６２は、上面視円状であり、第２斜面部Ｅ１３５に形成される挿通孔Ｅ１３５ａと略同一の大きさに、即ち、球の外形よりも大きく形成される。上方孔Ｅ１６２の周囲には上方へ向けて突設される突起部Ｅ１６２ａが形成される。これにより、架設通路Ｅ１６１を流下する球が上方孔Ｅ１６２に案内され難くできる。
【３４６０】
円筒壁Ｅ１６３は、上方孔Ｅ１６２と略同一の内径を有する円筒状に形成され、その下端が、第２斜面部Ｅ１３５の挿通孔Ｅ１３５ａの外周に凹設される凹部に挿入した状態で第２斜面部Ｅ１３５に配設される。これにより、円筒壁Ｅ１６３の下端と第２斜面部Ｅ１３５の上面との間に隙間が形成されることを抑制できる。また、第２斜面部Ｅ１３５に対し中央通路Ｅ１６０の位置決めを行うことができる。
【３４６１】
左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において中央通路Ｅ１３５ｂに対応する位置には、円筒壁Ｅ１６３に切欠き部Ｅ１６３ａが切欠き形成され、その切欠きは球の直径よりも大きく形成される。
【３４６２】

架設通路Ｅ１６１の円弧状に湾曲した空間および円筒壁Ｅ１６３により囲まれた空間により第４通路ＥＲｔ４（の一部）が形成される。

【３４６３】

据付部Ｅ１６４は、上面視縦長略矩形であり、中央通路Ｅ１６０がベース部材Ｅ１３０（取付け部Ｅ１３４）に固定（配設）された状態では、据付部Ｅ１６４の上面は、第１斜面部Ｅ１３３に配設されるカバーＥ２０２の上面と面一に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０が変位されても、振分通路Ｅ１５０と中央通路Ｅ１６０（据付部Ｅ１６４）とが当接することを抑制できる。

【３４６４】

流路調整ブロックＥ１７０は、球の流下方向を変更（変化）させるためのものであり、略三角錐状に形成される。流路調整ブロックＥ１７０には、ベース部材Ｅ１３０の正面と平行な正面壁Ｅ１７１と、湾曲部Ｅ１３４ａに対向する外壁Ｅ１７２と、中央通路Ｅ１３５ｂに対向する内壁Ｅ１７３とが形成される。一対の流路調整ブロックＥ１７０は、中央通路Ｅ１３５ｂの長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側にそれぞれ配設される。

【３４６５】

流路調整ブロックＥ１７０は、上面視、第２斜面部Ｅ１３５の傾斜方向下降側（矢印Ｆ方向側）へ向かうに従いその幅が大きくなる三角形状に形成され、正面壁Ｅ１７１とベース部材Ｅ１３０の正面とが面一に形成された状態で第２斜面部Ｅ１３５に配設される。これにより、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）を流下する球が流路調整ブロックＥ１７０に当接することを抑制できる。

【３４６６】

外壁Ｅ１７２は、湾曲部Ｅ１３４ａへ向けて凸状に湾曲して形成され、内壁Ｅ１７３は、中央通路Ｅ１３５ｂから流路調整ブロックＥ１７０の中心へ向けて凹状に湾曲して形成される。外壁Ｅ１７２と湾曲部Ｅ１３４ａとの間、内壁Ｅ１７３と中央通路Ｅ１３５ｂとの間は、球の外形よりも大きくそれぞれ配設され、これにより、外壁Ｅ１７２と湾曲部Ｅ１３４ａとの間、内壁Ｅ１７３と中央通路Ｅ１３５ｂとの間を球がそれぞれ流下できる。

【３４６７】

カバー部材Ｅ１８０は、ベース部材Ｅ１３０の下方（矢印Ｄ方向）に配設される正面側カバー部材Ｅ１８１と、その正面側カバー部材Ｅ１８１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される背面側カバー部材Ｅ１８２と、を備える。

【３４６８】

なお、カバー部材Ｅ１８０及び後述する駆動手段Ｅ１９０においては、図２６１から図２６８に加え、図２７０を適宜参照して説明する。

【３４６９】

正面側カバー部材Ｅ１８１には、正面視横長略矩形に形成される本体部Ｅ１８１ａと、本体部Ｅ１８１ａの長手方向略中央に正面側カバー部材Ｅ１８１側（矢印Ｆ方向側）から背面側カバー部材Ｅ１８２側（矢印Ｂ方向側）へ向けて凹設される背面側通路Ｅ１８１ｂと、本体部Ｅ１８１ａの長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に配設されるモータ取付け面Ｅ１８１ｃと、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される第１上面板Ｅ１８１ｄと、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの長手方向他側（矢印Ｒ方向側）において第１上面板Ｅ１８１ｄから鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて平行に配設される第１下面板Ｅ１８１ｅと、第１下面板Ｅ１８１ｅの長手方向他側（矢印Ｒ方向側）において鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の間隔を隔てて平行に立設される第2上面板Ｅ１８１ｆ及び第2下面板Ｅ１８１ｇと、第１下面板Ｅ１８１ｅ及び第2下面板Ｅ１８１ｇの上面に配設される複数の（本実施形態では５個）スライド突起Ｅ１８１ｈと、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における第１下面板Ｅ１８１ｅと第2下面板Ｅ１８１ｇとの間に配設される軸支部Ｅ１８１ｉとが形成される。

【３４７０】

なお、モータ取付け面Ｅ１８１ｃ、第１上面板Ｅ１８１ｄ、第１下面板Ｅ１８１ｅ、第2上面板Ｅ１８１ｆ及び第2下面板Ｅ１８１ｇは、本体部Ｅ１８１ａの背面から立設される

。
【３４７１】
背面側通路Ｅ１８１ｂには、その下面から立設される送球板Ｅ１８１ｂ１と、送球板Ｅ１８１ｂ１に対して長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に立設される一対の支持板Ｅ１８１ｂ２とが形成される。
【３４７２】
長手方向における送球板Ｅ１８１ｂ１は、第２斜面部Ｅ１３５の挿通孔Ｅ１３５ａの中心に対応する位置に配設され、送球板Ｅ１８１ｂ１の上面の背面側（矢印Ｂ方向側）には、背面側へ向けて上昇傾斜する送球傾斜部Ｅ１８１ｂ３が形成される。これにより、中央通路Ｅ１６０の円筒壁Ｅ１６３内を案内された球は、送球傾斜部Ｅ１８１ｂ３に当接し、その案内方向が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ変更（変化）される。
【３４７３】
一対の支持板Ｅ１８１ｂ２は、送球板Ｅ１８１ｂ１上を流下する球を案内するための部位であり、送球壁Ｅ１３５ｅの直線部の鉛直方向下方にそれぞれ形成される。
【３４７４】
背面側通路Ｅ１８１ｂの上面は、開口形成され、その開口を通して第２斜面部Ｅ１３５の送球壁Ｅ１３５ｅが背面側通路Ｅ１８１ｂに挿入され、第２斜面部Ｅ１３５の下面、送球板Ｅ１８１ｂ１、送球壁Ｅ１３５ｅ及び一対の支持板Ｅ１８１ｂ２に区画された空間により第４通路ＥＲｔ４（の一部）が形成される。
【３４７５】
モータ取付け面Ｅ１８１ｃは、後述する駆動手段Ｅ１９０の取付け部材Ｅ１９２が配設（固定）される部位であり、モータ取付け面Ｅ１８１ｃには、長手方向略中央に中央切欠きＥ１８１ｃ１が形成され、その切欠き形状は、背面側（矢印Ｂ方向側）が開口された上面視略Ｕ字状に形成される。
【３４７６】
第１上面板Ｅ１８１ｄと第2上面板Ｅ１８１ｆとは平行して配設される。従って、第１下面板Ｅ１８１ｅと第2下面板Ｅ１８１ｇとも平行に配設される。第１上面板Ｅ１８１ｄと第１下面板Ｅ１８１ｅとにより区画された空間、第2上面板Ｅ１８１ｆと第2下面板Ｅ１８１ｇとにより区画された空間は、後述する駆動手段Ｅ１９０の第１伝達部材Ｅ１９４、第２伝達部材Ｅ１９５をそれぞれ配設するための空間である。
【３４７７】
第１下面板Ｅ１８１ｅ及び第2下面板Ｅ１８１ｇの上面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に突起Ｅ１８１ｅ１がそれぞれ複数（本実施形態では第１下面板Ｅ１８１ｅは２箇所、第2下面板Ｅ１８１ｇは４箇所）形成される。突起Ｅ１８１ｅ１と第１伝達部材Ｅ１９４もしくは第２伝達部材Ｅ１９５とが当接することにより、第１下面板Ｅ１８１ｅと第１伝達部材Ｅ１９４との間、第2下面板Ｅ１８１ｇと第２伝達部材Ｅ１９５との間に発生する摩擦力を低減し、第１伝達部材Ｅ１９４又は第２伝達部材Ｅ１９５の変位を容易に行える（図２６９（ｂ）参照）。
【３４７８】
スライド突起Ｅ１８１ｈは、第１伝達部材Ｅ１９４又は第２伝達部材Ｅ１９５の変位をガイドするためのものであり、第１上面板Ｅ１８１ｄ、第１下面板Ｅ１８１ｅ、第2上面板Ｅ１８１ｆ及び第2下面板Ｅ１８１ｇに対して平行して配設される。
【３４７９】
軸支部Ｅ１８１ｉは、本体部Ｅ１８１ａの背面（矢印Ｂ方向側の面）に軸受として形成され、背面側カバー部材Ｅ１８２の正面には、軸支部Ｅ１８１ｉに対面する位置に、軸支部Ｅ１８２ｄが形成される。後述する駆動手段Ｅ１９０のピニオンギヤＥ１９６は、その側面（前後方向の面、矢印Ｆ－Ｂ方向の面）から軸Ｅ１９７の端部がそれぞれ突出される。軸Ｅ１９７は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢に配設され、その軸Ｅ１９７の両端が、正面側カバー部材Ｅ１８１の軸支部Ｅ１８１ｉと背面側カバー部材Ｅ１８２の軸

支部Ｅ１８２ｄとにそれぞれ軸支される。これにより、正面側カバー部材Ｅ１８１と背面側カバー部材Ｅ１８２との対向間にピニオンギヤＥ１９６が回動可能に配設される。

【３４８０】

背面側カバー部材Ｅ１８２には、正面視横長略矩形に形成される本体部Ｅ１８２ａと、本体部Ｅ１８２ａの長手方向一側（矢印Ｌ方向側）において本体部Ｅ１８２ａの正面から立設される第１上面板Ｅ１８２ｂと、本体部Ｅ１８２ａの長手方向他側（矢印Ｒ方向側）において本体部Ｅ１８２ａの正面から立設される第２上面板Ｅ１８２ｃと、正面側カバー部材Ｅ１８１の軸支部Ｅ１８１ｉに対面する位置において本体部Ｅ１８２ａの正面に配設される軸支部Ｅ１８２ｄと、を備える。

【３４８１】

第１上面板Ｅ１８２ｂ、第２上面板Ｅ１８２ｃには、正面側（矢印Ｆ方向側）が開口された第１切欠きＥ１８２ｂ１、第２切欠きＥ１８２ｃ１がそれぞれ形成される。第１切欠きＥ１８２ｂ１、第２切欠きＥ１８２ｃ１には、後述する第１伝達部材Ｅ１９４の係合ベースＥ１９４ｂ、第２伝達部材Ｅ１９５の係合ベースＥ１９４ｂがそれぞれ挿通される。

【３４８２】

軸支部Ｅ１８２ｄは、駆動手段Ｅ１９０の軸Ｅ１９７を軸支するためのものであり、本体部Ｅ１８２ａの正面（矢印Ｆ方向側の面）に軸受けとして形成され、上述したように、正面側カバー部材Ｅ１８１の軸支部Ｅ１８１ｉと対面する位置に形成される。

【３４８３】

即ち、正面側カバー部材Ｅ１８１の軸支部Ｅ１８１ｉと背面側カバー部材Ｅ１８２の軸支部Ｅ１８２ｄとに駆動手段Ｅ１９０の軸Ｅ１９７が軸支され、その軸方向は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせた姿勢とされる。

【３４８４】

駆動手段Ｅ１９０は、駆動力を発生させる駆動モータＥ１９１と、駆動モータＥ１９１の上方（矢印Ｕ方向）に配設される取付け部材Ｅ１９２と、駆動モータＥ１９１の軸に固着される駆動力伝達部材Ｅ１９３と、駆動力伝達部材Ｅ１９３に係合される第１伝達部材Ｅ１９４と、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される第２伝達部材Ｅ１９５と、第１伝達部材Ｅ１９４と第２伝達部材Ｅ１９５との間に介設されるピニオンギヤＥ１９６と、ピニオンギヤＥ１９６の軸心を挿通する軸Ｅ１９７と、を備える。

【３４８５】

駆動モータＥ１９１は、振分通路Ｅ１５０をその傾斜方向へ変位させるためのものであり、その軸を鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けた状態で配設される。これにより、軸を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ向けて配設する場合と比較して、前後方向における配設スペースを小さくできる。

【３４８６】

取付け部材Ｅ１９２は、駆動モータＥ１９１を正面側カバー部材Ｅ１８１に固定（配設）するためのものであり、取付け部材Ｅ１９２には、上面視略矩形の板状に形成されるベース部Ｅ１９２ａと、ベース部Ｅ１９２ａの外縁に沿って鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設される周壁部Ｅ１９２ｂとが形成される。

【３４８７】

ベース部Ｅ１９２ａには、その略中央に駆動モータＥ１９１の軸を挿通するための挿通孔が板厚方向に穿設され、その挿通孔に駆動モータＥ１９１の軸が挿通した状態で駆動モータＥ１９１が取付け部材Ｅ１９２に固定（配設）される。駆動モータＥ１９１の軸の上端は、周壁部Ｅ１９２ｂの上端よりも鉛直方向上方に配設される。

【３４８８】

駆動力伝達部材Ｅ１９３は、駆動モータＥ１９１の駆動力を第１伝達部材Ｅ１９４へ伝達するためのものであり、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの中央切欠きＥ１８１ｃ１の内形よりも小さい円柱状に形成され、その軸心には駆動モータＥ１９１の軸が固着される。駆動力伝達部材Ｅ１９３には、軸心とは異なる位置に配設される偏心軸Ｅ１９３ａと、駆動力伝達部材Ｅ１９３の側壁から突設されるフランジ部Ｅ１９３ｂとが形成される。

【３４８９】
偏心軸Ｅ１９３ａは、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される部位であり、駆動力伝達部材Ｅ１９３の直径よりも小さな円柱状に形成され、上面視、偏心軸Ｅ１９３ａの外縁は、駆動力伝達部材Ｅ１９３の外縁に内接して配設される。従って、偏心軸Ｅ１９３ａの軸心は、駆動力伝達部材Ｅ１９３の軸心とは異なる位置に配設される、即ち、駆動モータＥ１９１の軸に対し偏心して配設される。よって、駆動モータＥ１９１が駆動することで、偏心軸Ｅ１９３ａは、上面視、駆動力伝達部材Ｅ１９３の軸心（駆動モータＥ１９１の軸）を中心とした円状に変位する。
【３４９０】
フランジ部Ｅ１９３ｂは、駆動力伝達部材Ｅ１９３の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）への変位を規制するための部位であり、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において駆動モータＥ１９１側（矢印Ｄ方向側）の端部に配設される。フランジ部Ｅ１９３ｂの外形は、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの中央切欠きＥ１８１ｃ１の内形よりも大きな円状に形成され、これにより、フランジ部Ｅ１９３ｂは、モータ取付け面Ｅ１８１ｃに当接できる。その結果、モータ取付け面Ｅ１８１ｃの中央切欠きＥ１８１ｃ１に挿通された駆動力伝達部材Ｅ１９３がモータ取付け面Ｅ１８１ｃの上方側（矢印Ｕ方向側）へ脱離することを抑制できる。
【３４９１】
第１伝達部材Ｅ１９４及び第２伝達部材Ｅ１９５は、駆動モータＥ１９１の駆動力を振分通路Ｅ１５０へ伝達するためのものである。
【３４９２】
第１伝達部材Ｅ１９４には、上面視略矩形の板状に形成される本体部Ｅ１９４ａと、その本体部Ｅ１９４ａの上面から突設される係合ベースＥ１９４ｂと、係合ベースＥ１９４ｂから正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される係合部Ｅ１９４ｃと、本体部Ｅ１９４ａの他側（矢印Ｒ方向側）における側面から突設される第１ラック部Ｅ１９４ｄと、本体部Ｅ１９４ａの下面に凹設される伝達凹部Ｅ１９４ｅとが形成される。
【３４９３】
本体部Ｅ１９４ａは、駆動力伝達部材Ｅ１９３の上方（矢印Ｕ方向）に配設される。本体部Ｅ１９４ａの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の大きさは、駆動力伝達部材Ｅ１９３の外形よりも大きく形成され、本体部Ｅ１９４ａの前端と後端との間、即ち、上面視、本体部Ｅ１９４ａと重なる位置に駆動力伝達部材Ｅ１９３が配設される。
【３４９４】
係合部Ｅ１９４ｃは、正面視略円状であり、その外形は、係合凹部Ｅ１５３ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の内壁の対向間距離と同等またはやや小さく形成される。これにより、係合部Ｅ１９４ｃを係合凹部Ｅ１５３ａに挿入できる。係合部Ｅ１９４ｃと係合凹部Ｅ１５３ａの左右方向の内壁とが当接することにより、駆動モータＥ１９１の駆動力を振分通路Ｅ１５０へ伝達できる。
【３４９５】
また、係合凹部Ｅ１５３ａは、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設されるため、係合部Ｅ１９４ｃは、係合凹部Ｅ１５３ａ内を鉛直方向に変位できる。即ち、鉛直方向における駆動モータＥ１９１の駆動力を振分通路Ｅ１５０へ非伝達とできる。
【３４９６】
このように、係合部Ｅ１９４ｃは、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位を振分通路Ｅ１５０へ伝達する一方、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位を振分通路Ｅ１５０へ非伝達とすることで、振分通路Ｅ１５０は、ベース部材Ｅ１３０の第１斜面部Ｅ１３３の傾斜面に沿って変位できる。
【３４９７】
第１ラック部Ｅ１９４ｄには、その下面にピニオンギヤＥ１９６と歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設され、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位によりピニオンギヤＥ１９６が回動される。
【３４９８】

伝達凹部Ｅ１９４ｅは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延設され、正面端から背面端まで形成される。また、伝達凹部Ｅ１９４ｅの凹溝の幅（左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における内壁の対向間距離）は、偏心軸Ｅ１９３ａの外形と同等またはやや大きく形成される。偏心軸Ｅ１９３ａを伝達凹部Ｅ１９４ｅに挿入することで、駆動モータＥ１９１の駆動力が駆動力伝達部材Ｅ１９３を介して第１伝達部材Ｅ１９４に伝達される。

【３４９９】

詳細に説明すると、駆動モータＥ１９１が駆動することで、偏心軸Ｅ１９３ａは、上面視、駆動力伝達部材Ｅ１９３の軸心（駆動モータＥ１９１の軸）を中心として円状に変位する。伝達凹部Ｅ１９４ｅの左右方向の内壁と偏心軸Ｅ１９３ａとが当接することにより、駆動モータＥ１９１の駆動による偏心軸Ｅ１９３ａの左右方向の変位が第１伝達部材Ｅ１９４に伝達され、第１伝達部材Ｅ１９４が左右方向に変位する。

【３５００】

一方、伝達凹部Ｅ１９４ｅは、本体部Ｅ１９４ａの正面端から背面端まで形成される、即ち、駆動力伝達部材Ｅ１９３の外形よりも長く形成されるため、偏心軸Ｅ１９３ａと伝達凹部Ｅ１９４ｅの前後方向の内壁とは非当接とされる。従って、駆動モータＥ１９１の駆動による偏心軸Ｅ１９３ａの前後方向の変位は第１伝達部材Ｅ１９４に非伝達とされ、第１伝達部材Ｅ１９４が前後方向に変位することを抑制できる。

【３５０１】

また、偏心軸Ｅ１９３ａは、上面視円状に変位するため、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位を所定量に設定できる、即ち、第１伝達部材Ｅ１９４が所定量を超えて左右方向へ変位することを抑制できる。また、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向への変位を往復動とすることができる。

【３５０２】

第２伝達部材Ｅ１９５は、背面視横長略矩形の本体部Ｅ１９５ａと、その本体部Ｅ１９５ａの一側（矢印Ｌ方向側）における側面から突設される第２ラック部Ｅ１９５ｂと、本体部Ｅ１９５ａの長手方向略中央に配設されるガイド溝Ｅ１９５ｃと、本体部Ｅ１９５ａの他側（矢印Ｒ方向側）の上面から突設される係合ベースＥ１９４ｂと、係合ベースＥ１９４ｂの上端から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される係合部Ｅ１９４ｃとが形成される。

【３５０３】

第２ラック部Ｅ１９５ｂには、その上面にピニオンギヤＥ１９６と歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設され、ピニオンギヤＥ１９６の回動により、第２伝達部材Ｅ１９５が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ変位される。

【３５０４】

ガイド溝Ｅ１９５ｃは、長手方向（左右方向、矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設され、その内側に正面側カバー部材Ｅ１８１に形成され、正面側カバー部材Ｅ１８１と背面側カバー部材Ｅ１８２とを締結固定するための締結部が挿通される。正面側カバー部材Ｅ１８１の締結部がガイド溝Ｅ１９５ｃに挿通されることで、第２伝達部材Ｅ１９５の左右方向への変位をガイドできる。また、正面側カバー部材Ｅ１８１の締結部にはタッピングネジが螺合されるため、タッピングネジの剛性を利用して、正面側カバー部材Ｅ１８１の締結部とガイド溝Ｅ１９５ｃとの当接による破損を抑制できる。

【３５０５】

ピニオンギヤＥ１９６は、その軸方向が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿う姿勢で配設される。軸方向に穿設される挿通孔に軸Ｅ１９７が挿通され、軸Ｅ１９７が、正面側カバー部材Ｅ１８１及び背面側カバー部材Ｅ１８２に配設される軸支部Ｅ１８１ｉ，Ｅ１８２ｄに軸支されることで、ピニオンギヤＥ１９６は、カバー部材Ｅ１８０に回動可能に配設される。

【３５０６】

次いで、図２６９から図２７２を参照して、駆動手段Ｅ１９０による振分通路Ｅ１５０の変位（往復）動作について説明する。図２６９（ａ）及び図２７１（ａ）は、正面部材

Ｅ１１０の図示が省略された状態における下側フレームＥ８６ｂの正面図であり、図２６９（ｂ）及び図２７１（ｂ）は、背面側カバー部材Ｅ１８２の図示が省略された状態における下側フレームＥ８６ｂの部分拡大背面図であり、図２６９（ｃ）及び図２７１（ｃ）は、下側フレームＥ８６ｂの上面図である。

【３５０７】

図２７０（ａ）は、図２６９（ｃ）のＣＣＬＸＸａ－ＣＣＬＸＸａ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図であり、図２７０（ｂ）は、図２７０（ａ）のＣＣＬＸＸｂ－ＣＣＬＸＸｂ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図であり、図２７０（ｃ）は、下側フレームＥ８６ｂの部分拡大下面図である。図２７２（ａ）は、図２７１（ｃ）のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図であり、図２７２（ｂ）は、図２７２（ａ）のＣＣＬＸＸＩＩｂ－ＣＣＬＸＸＩＩｂ線における下側フレームＥ８６ｂの断面図であり、図２７２（ｃ）は、下側フレームＥ８６ｂの部分拡大下面図である。

【３５０８】

なお、図２６９及び図２７０では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態が、図２７１及び図２７２では、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【３５０９】

図２６９及び図２７０に示すように、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ１９４及び第２伝達部材Ｅ１９５は、ベース部材Ｅ１３０の長手方向において中央通路Ｅ１６０側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ１９４と第２伝達部材Ｅ１９５とは、互いに近づいた位置に配設され、従って一対の振分通路Ｅ１５０も互いに近づいた位置に配設される。

【３５１０】

第１位置に配置された状態において、中央通路Ｅ１６０の据付部Ｅ１６４の上方には振分通路Ｅ１５０が配置される。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球を架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ送球しやすくできる。

【３５１１】

また、振分通路Ｅ１５０の切欠き部Ｅ１５０ａは、上面視、流路調整ブロックＥ１７０の外壁Ｅ１７２に近づいた位置に配置される。よって、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球を外壁Ｅ１７２に当接させ易くできる。これにより、球の送球方向を変更（変化）でき、遊技の興趣を高めることができる。

【３５１２】

図２７１及び図２７２に示すように、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ１９４及び第２伝達部材Ｅ１９５は、ベース部材Ｅ１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において湾曲部Ｅ１３１側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ１９４と第２伝達部材Ｅ１９５とは、第１位置に配置された状態に比べ、互いに離間した位置に配設され、従って一対の振分通路Ｅ１５０も互いに離間した位置に配設される。

【３５１３】

第２位置に配置された状態において振分通路Ｅ１５０は、上面視その傾斜方向下降側の端部が、据付部Ｅ１６４の左右方向における略中央に配置される。よって、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を通過（流下、転動）した球は据付部Ｅ１６４の上面を転動できる。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ送球されるまでの時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【３５１４】

振分通路Ｅ１５０と第１伝達部材Ｅ１９４、第２伝達部材Ｅ１９５とは、被係合部Ｅ１５３の係合凹部Ｅ１５３ａに係合部Ｅ１９４ｃが挿入されることで係合される。上述したように、係合凹部Ｅ１５３ａは、背面視鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設して形成され

るため、係合凹部Ｅ１５３ａ内において、係合部Ｅ１９４ｃは鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位できる。これにより、第１伝達部材Ｅ１９４又は第２伝達部材Ｅ１９５が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位する場合においても、振分通路Ｅ１５０は、左右方向に変位すると共に、鉛直方向に変位できる。これにより、振分通路Ｅ１５０は、その傾斜方向（第１斜面部Ｅ１３３の傾斜方向）に沿って変位できる。即ち、振分通路Ｅ１５０の上面を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向と平行な方向（振分通路Ｅ１５０の湾曲部Ｅ１３１側の端部から中央通路Ｅ１６０側の端部へ向かう方向）に振分通路Ｅ１５０及びその上面に形成される突起部Ｅ１５１を変位（往復動）させることができる。その結果、球の移動（流下、転動）方向に変化（変更）を付与し易くできる。また、球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）を多様とできる。

【３５１５】

また、上述したように、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球が、突起部Ｅ１５１の傾斜した側面Ｅ１５１ａどうしに当接した状態で振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）可能に配設されるため、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）球が振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）に留まることを抑制できる。よって、球が振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）に留まることを抑制するために、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を複雑な軌跡で変位させることや、大きな変位量や変位速度で変位させることを抑制できる。その結果、駆動手段Ｅ１９０を簡素化できる。

【３５１６】

振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位は、駆動モータＥ１９１の駆動により、駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側（矢印Ｒ方向側）から湾曲部Ｅ１３１側（矢印Ｌ方向側）に変位することで行われる。

【３５１７】

上述したように、偏心軸Ｅ１９３ａを第１伝達部材Ｅ１９４の伝達凹部Ｅ１９４ｅに挿入されるため、偏心軸Ｅ１９３ａの変位と同様、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位する。これにより、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。

【３５１８】

また、第１伝達部材Ｅ１９４の中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側への変位により、第１ラック部Ｅ１９４ｄのラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６は、背面視時計回りに回動される。

【３５１９】

これにより、ピニオンギヤＥ１９６と歯合する第２ラック部Ｅ１９５ｂ、即ち、第２伝達部材Ｅ１９５は、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位し、第２伝達部材Ｅ１９５に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。

【３５２０】

このように、ピニオンギヤＥ１９６を介して第１伝達部材Ｅ１９４の変位が第２伝達部材Ｅ１９５へ伝達される。これにより、駆動モータＥ１９１の配設個数を抑制して、製品コストの削減を図ることができる。また、第１伝達部材Ｅ１９４の変位に連動して第２伝達部材Ｅ１９５が変位できる、即ち、第１伝達部材Ｅ１９４の変位と第２伝達部材Ｅ１９５の変位の同期を不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【３５２１】

また、ピニオンギヤＥ１９６を介するため、第１伝達部材Ｅ１９４と第２伝達部材Ｅ１９５との変位を逆方向（逆位相）とすることができる。即ち、ベース部材Ｅ１３０（第１斜面部Ｅ１３３）上において、一対の振分通路Ｅ１５０が変位（往復動）する際に発生する左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の振動を互いに打ち消すことができる。これにより、制振部材を不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【３５２２】

振分通路Ｅ１５０の第２位置から第１位置への変位は、第１位置から第２位置への変位

と同様、駆動モータＥ１９１の駆動により行われる。なお、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ１９４の変位の方向、第２伝達部材Ｅ１９５の変位の方向、及び、ピニオンギヤＥ１９６の回動の方向以外は第１位置から第２位置への変位と同様であるため、その説明は省略する。

【３５２３】

ここで、偏心軸Ｅ１９３ａの変位を同一方向に保つことで、振分通路Ｅ１５０を第１位置と第２位置との間で左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ往復動させることができる。詳細に説明すると、偏心軸Ｅ１９３ａの上面視円状の変位のうち、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側へ向かう変位では、振分通路Ｅ１５０を第１位置から第２位置へ変位させる。また、偏心軸Ｅ１９３ａの上面視円状の変位のうち、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側へ向かう変位では、振分通路Ｅ１５０を第２位置から第１位置へ変位させる。

【３５２４】

このように、偏心軸Ｅ１９３ａを上面視円状に変位させることで、偏心軸Ｅ１９３ａの変位を同一方向に保った状態で振分通路Ｅ１５０を第１位置と第２位置との間で往復動させることができる。これにより、駆動モータＥ１９１の駆動方向を切り替えることを抑制できる。その結果、駆動モータＥ１９１を制御するためのセンサを不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【３５２５】

また、偏心軸Ｅ１９３ａは上面視円状に変位するため、第１伝達部材Ｅ１９４が所定量を超えて左右方向への変位することを抑制できる。例えば、駆動力伝達部材Ｅ１９３を介せず、駆動モータＥ１９１が第１伝達部材Ｅ１９４に係合される形態では、駆動モータＥ１９１の誤作動やセンサの制御不良等で、第１伝達部材Ｅ１９４が所定量を超えて変位する虞がある。

【３５２６】

これに対し、本実施形態では、偏心軸Ｅ１９３ａは上面視円状に変位することで第１伝達部材Ｅ１９４は所定の範囲内において左右方向へ変位するため、第１伝達部材Ｅ１９４が他の部材（例えば、中央通路Ｅ１６０）に当接することを抑制できる。また、駆動モータＥ１９１の駆動方向の切り替え（駆動の停止や再駆動）による振動の発生を抑制でき、振分通路Ｅ１５０の往復動を滑らかにできる。

【３５２７】

図２６１から図２６８に戻って、下側フレームＥ８６ｂを流下する球について説明する。

【３５２８】

正面板Ｅ１１１に形成される受入口ＥＯＰｉｎを通過することで、球は、第１通路ＥＲｔ１へ案内され、次いで、球の自重により第１通路ＥＲｔ１を落下することで、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）へ案内される。

【３５２９】

湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）へ案内された球は、その形状により、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ往復動しつつ、壁板Ｅ１３２の切欠き部Ｅ１３２ａを通過することで、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ案内される。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ案内される球は、前後方向への速度成分を有した状態で切欠き部Ｅ１３２ａを通過できる。

【３５３０】

また、切欠き部Ｅ１３２ａは、球の直径よりも大きく形成されるため、切欠き部Ｅ１３２ａの任意の位置から振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ球を案内できる。

【３５３１】

これらにより、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）へ流下される球を不規則にでき、従って、遊技の興趣を高めることができる。

【３５３２】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球は、上述したように、突起部Ｅ１

５１に当接することによりその流下方向が変更（変化）される。ここで、球の流下方向が、背面側（矢印Ｂ方向側）に変更（変化）され、ベース部材Ｅ１３０の背面板Ｅ１３７に当接すると共に背面板Ｅ１３７の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される突起部Ｅ１５１の側面Ｅ１５１ａに当接する、即ち、背面板Ｅ１３７と突起部Ｅ１５１とに挟持されることで、球の流下が抑制される虞がある。

【３５３３】

これに対し、本実施形態においては、駆動モータＥ１９１により振分通路Ｅ１５０が振分通路Ｅ１５０（第１斜面部Ｅ１３３）の傾斜方向に沿って往復動するため、背面板Ｅ１３７と突起部Ｅ１５１とにより球が挟持されることを抑制できる。また、振分通路Ｅ１５０が変位（往復動）することで、球と突起部Ｅ１５１との当接を不規則にでき、振分通路Ｅ１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）を多様化できる。これにより、振分通路Ｅ１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）が単調となることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【３５３４】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球は、突起部Ｅ１５１に当接し、流下する球の速度が減少することで、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球の流下時間を延長（変化）できる。また、流下方向が変更（変化）されることで、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）のいずれかの通路に案内される。

【３５３５】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球が中央通路Ｅ１６０の架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に送球されると、架設通路Ｅ１６１の左右方向略中央に形成される上方孔Ｅ１６２へ向けて案内される。架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）を流下する球が、上方孔Ｅ１６２の周囲に突設される突起部Ｅ１６２ａによりその案内方向が変更（変化）されることなく流下することで、上方孔Ｅ１６２を通過し、円筒壁Ｅ１６３（第４通路ＥＲｔ４）内を鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ流下（落下）する。

【３５３６】

円筒壁Ｅ１６３内を流下（落下）した球は、第２斜面部Ｅ１３５の挿通孔Ｅ１３５ａを通過し、正面側カバー部材Ｅ１８１の背面側通路Ｅ１８１ｂ（第４通路ＥＲｔ４）へ案内され、送球板Ｅ１８１ｂ１の送球傾斜部Ｅ１８１ｂ３に当接することで、その案内方向が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ変更（変化）され、送球板Ｅ１８１ｂ１の上面を流下する（図２６８（ｃ）参照）。

【３５３７】

送球板Ｅ１８１ｂ１の上面を流下した球は、そのまま介設部材Ｅ１４０の下側通路Ｅ１４３（第４通路ＥＲｔ４）を流下し、当接部Ｅ１４２の通路口Ｅ１４２ａを通過し、正面部材Ｅ１１０の流出口ＥＯＰｏｕｔから遊技領域へ流出される。

【３５３８】

架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）を流下する球が、上方孔Ｅ１６２の周囲に突設される突起部Ｅ１６２ａによりその流下方向が変更（変化）される場合、架設通路Ｅ１６１の正面側（矢印Ｆ方向側）から第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球される。

【３５３９】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球が第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）に送球されると、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）もしくは中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ向けて案内される。

【３５４０】

第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）上を介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ向けて流下される球が、第２斜面部Ｅ１３５に配設される流路調整ブロックＥ１７０に当接することで、その流下方向が変更（変化）される。流路調整ブロックＥ１７０の内壁

Ｅ１７３に当接した球は、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ案内される可能性があり、これにより、遊技の興趣を高めることができる。

【３５４１】

第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）上を中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ向けて流下される球のうち、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）と中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）との境界の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される一対の立て壁部Ｅ１３５ｃに当接することで、球が中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に案内されることが抑制される。

【３５４２】

中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に案内された球は、その傾斜方向により第２斜面部Ｅ１３５の挿通孔Ｅ１３５ａ（矢印Ｂ方向）へ向けて流下し、挿通孔Ｅ１３５ａを通過して正面側カバー部材Ｅ１８１の背面側通路Ｅ１８１ｂ（第４通路ＥＲｔ４）へ案内される。

【３５４３】

ここで、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内される球のうち、中央通路Ｅ１６０よりも背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に送球された球は、円筒壁Ｅ１６３に当接することで、挿通孔Ｅ１３５ａを通過することが抑制される。

【３５４４】

また、第２斜面部Ｅ１３５に形成される仕切り部Ｅ１３５ｄに当接することにより、球が振分通路Ｅ１５０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）一側から他側もしくは他側から一側へ送球されることを抑制できる。これにより、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内される球が、取付け部Ｅ１３４の側面（左右方向に形成される面）に当接しその流下方向が変更（変化）されることで、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に案内されることを抑制できる。

【３５４５】

また、仕切り部Ｅ１３５ｄに当接することにより、球が円筒壁Ｅ１６３の背面側（矢印Ｂ方向側）を流下することを抑制できる。これにより、遊技者が第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球を見失うことを抑制できる。

【３５４６】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）の前端（矢印Ｆ方向側の端部）、もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）から送球される球は、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）の転動部Ｅ１４１を、その延設方向中央へ向けて転動する。ここで、転動部Ｅ１４１は、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、延設方向中央に向けて下降傾斜して形成されるため、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ流下された球は、転動部Ｅ１４１の形状に沿って延設方向（左右方向）へ往復動し、第１流出面Ｅ１４１ａから中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ案内される、もしくは第２流出面Ｅ１４１ｂから遊技領域へ流出（流下）される。

【３５４７】

なお、流路調整ブロックＥ１７０は、正面視左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において第２流出面Ｅ１４１ｂと重なる位置に配設される。これにより、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）を流下する球が、そのまま第２流出面Ｅ１４１ｂから遊技領域へ流出（流下）されることを抑制できる。従って、転動部Ｅ１４１を転動させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【３５４８】

上述したように、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）に突起部Ｅ１５１を形成することで、球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）できる。言い換えると、球の移動（流下、転動）方向にランダム性を付与できる。即ち、球が振分通路Ｅ１５０を通過する（振分通路Ｅ１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切る）ことを阻害する又は補助する手段として、突起部Ｅ１５１を機能させることができる。

【３５４９】

同様に、駆動手段Ｅ１９０を備えることで球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）でき、球が振分通路Ｅ１５０を通過する（振分通路Ｅ１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切る）ことを阻害する又は補助する手段として、駆動手段Ｅ１９０を機能させることができる。

【３５５０】

振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）し、中央通路Ｅ１６０側の端部を通過した（振分通路Ｅ１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切った）球は、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）のどちらかの通路に案内される。即ち、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下（流下方向側の端部を通過）した球が架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【３５５１】

ここで、振分通路Ｅ１５０の介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）の端部を通過した球は、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）、即ち、第１入賞口６４に球が入賞する確率の低い通路へ送球（案内）される。言い換えると、振分通路Ｅ１５０を長手方向に渡り切らなかった球は、第１入賞口６４に球が入賞する確率が低くなる。

【３５５２】

これにより、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側（流下方向側）の端部を通過し（振分通路Ｅ１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切る）、第１入賞口６４に球が入賞する確率の高い架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ球が送球（案内）されることを遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【３５５３】

また、突起部Ｅ１５１に当接することで振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球の流下速度を遅くでき、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【３５５４】

また、突起部Ｅ１６２ａにより、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に案内された球を第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）に送球できる。

【３５５５】

一方、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）に形成される中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）により、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）に案内された球を第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）背面側通路Ｅ１８１ｂ（第４通路ＥＲｔ４）に送球できる。これにより、球が遊技領域に流出（流下）されるまで、球が背面側通路Ｅ１８１ｂ（第４通路ＥＲｔ４）へ案内されることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【３５５６】

次いで、図２７３から図２７４を参照して、第６８実施形態における下側フレームＥ２０８６ｂについて説明する。

【３５５７】

上記第６７実施形態では、振分通路Ｅ１５０の上面に突起部Ｅ１５１が突設される場合を説明したが、第６８実施形態における振分通路Ｅ２１５０の上面は、円弧状に湾曲して形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３５５８】

図２７３は、第６８実施形態における下側フレームＥ２０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２６９のＣＣＬＸＸａ－ＣＣＬＸＸａ線における断面に対応する。なお、図２７３（ａ）は、振分通路Ｅ２１５０と湾曲部Ｅ１３１とが当接した状態を示し、図２７３（ｂ）は、図２７３（ａ）に対し、コイルばねとして構成される弾性ばねＥ２１９０が縮んだ

状態を示す。図２７４（ａ）は、振分通路Ｅ２１５０の正面斜視図であり、図２７４（ｂ）は、図２７４（ａ）の矢印ＣＣＬＸＸＩＶｂ方向視における振分通路Ｅ２１５０の正面図であり、図２７４（ｃ）は、図２７４（ｂ）の矢印ＣＣＬＸＸＩＶｃ方向視における振分通路Ｅ２１５０の下面図であり、図２７４（ｄ）は、図２７４（ｂ）の矢印ＣＣＬＸＸＩＶｄ方向視における振分通路Ｅ２１５０の側面図である。

【３５５９】

図２７３及び図２７４に示すように、下側フレームＥ２０８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ２１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ２１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ２１３０に配設される振分通路Ｅ２１５０、中央通路Ｅ１６０、一対の流路調整ブロックＥ１７０及び複数（本実施形態では２個）の弾性ばねＥ２１９０と、を備える（図２６１参照）。

【３５６０】

ベース部材Ｅ２１３０は、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の平面部Ｅ２１３３と、中央通路Ｅ１６０側において一対の平面部Ｅ２１３３の上方（矢印Ｕ方向）に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ２１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６（図２６３参照）と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ１３７と、を備える。

【３５６１】

平面部Ｅ２１３３は、上面視横長略矩形の板状体から形成され、複数（本実施形態では２個）の支持突起Ｅ２１３３ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、それら複数の支持突起Ｅ２１３３ａよりも中央通路Ｅ１６０側に複数（本実施形態では２個）の支持部Ｅ２１３３ｂがそれぞれ形成される。

【３５６２】

支持突起Ｅ２１３３ａは、円柱状に形成される。支持部Ｅ２１３３ｂは側面視略矩形の板状体であり、平面部Ｅ２１３３の上面から突設され、その突設方向先端側（矢印Ｕ方向側）には後述する支持軸Ｅ２０ｊを挿通するための挿通孔、即ち、支持軸Ｅ２０ｊの外形よりもやや大きな挿通孔が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設される。複数の支持突起Ｅ２１３３ａ及び複数の支持部Ｅ２１３３ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の間隔を隔ててそれぞれ配設される。

【３５６３】

振分通路Ｅ２１５０は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜し、その傾斜面に垂直な方向視において横長略矩形に形成される。振分通路Ｅ２１５０の下面には、複数（本実施形態では２個）の支持突起Ｅ２１５０ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、それら複数の支持突起Ｅ２１５０ａよりも中央通路Ｅ１６０側に複数（本実施形態では２個）の支持部Ｅ２１５０ｂがそれぞれ形成される。

【３５６４】

支持突起Ｅ２１５０ａは、上面視、支持突起Ｅ２１３３ａに対応する位置にそれぞれ配設される。支持部Ｅ２１５０ｂは、支持部Ｅ２１３３ｂに対し、上面視前後方向に異ならせた位置にそれぞれ配設される。詳細には、一対の支持部Ｅ２１３３ｂの対向間に支持部Ｅ２１５０ｂがそれぞれ配設される。

【３５６５】

支持部Ｅ２１５０ｂには、支持部Ｅ２１３３ｂに穿設される挿通孔と略同等の挿通孔が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設される。

【３５６６】

振分通路Ｅ２１５０の上面には、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から案内された

球が流下する転動面Ｅ２１５１が形成され、振分通路Ｅ２１５０の延設方向に垂直な平面での断面形状が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹となる円弧状に湾曲して形成される。この円弧状に湾曲した空間により第３通路ＥＲｔ２０３が形成される。

【３５６７】

介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側、図２６１参照）における転動面Ｅ２１５１の端部は、背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）における転動面Ｅ２１５１の端部よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に形成される。従って、転動面Ｅ２１５１を流下する球は、背面板Ｅ１３７側における転動面Ｅ２１５１の端部を通過して背面板Ｅ１３７に当接するよりも、介設部材Ｅ１４０側における転動面Ｅ２１５１の端部を通過して介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ送球され易い（図２６１参照）。

【３５６８】

弾性ばねＥ２１９０は、上述したように、コイルばねとして構成され、その内径は、支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａの外径と同等またはやや大きく形成される。支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａを弾性ばねＥ２１９０の内側に挿通することで、支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａは、弾性ばねＥ２１９０を支持できる。

【３５６９】

弾性ばねＥ２１９０が支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａにより支持された状態で支持部Ｅ２１３３ｂ，Ｅ２１５０ｂの挿通孔に支持軸Ｅ２０ｊを挿通することで、振分通路Ｅ２１５０を平面部Ｅ２１３３へ係合できる。

【３５７０】

なお、支持軸Ｅ２０ｊは、平面部Ｅ２１３３に対し前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を回動軸として振分通路Ｅ２１５０を回動可能に係合するためのものであり、支持部Ｅ２１３３ｂ，Ｅ２１５０ｂの挿通孔と同等またはやや小さな外径を有する棒状の円柱体として形成され、前後方向に沿った姿勢で支持部Ｅ２１３３ｂ，Ｅ２１５０ｂの挿通孔に挿通される。

【３５７１】

これらにより、一対の振分通路Ｅ２１５０は、中央通路Ｅ１６０側が回動可能に係合された状態で、弾性ばねＥ２１９０により長手方向両端側が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（往復動）される。即ち、一対の振分通路Ｅ２１５０は、ベース部材Ｅ２１３０（平面部Ｅ２１３３）に変位（回動、往復動）可能にそれぞれ係合される。また、一対の振分通路Ｅ２１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側は、湾曲部Ｅ１３１の下面に当接した状態でそれぞれ配設される。

【３５７２】

この状態では、弾性ばねＥ２１９０は縮んだ状態で配設され、弾性ばねＥ２１９０の弾性回復力を利用して湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０との当接状態が維持される。即ち、本実施形態においては、弾性ばねＥ２１９０は振分通路Ｅ２１５０の鉛直方向下方側（矢印Ｄ方向側）に配設され、振分通路Ｅ２１５０を鉛直方向上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位させる態様に形成される。

【３５７３】

また、この状態では、転動面Ｅ２１５１の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置は、中央通路Ｅ１６０の据付部Ｅ１６４の上面よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される。これにより、転動面Ｅ２１５１を流下した球と据付部Ｅ１６４との当接を抑制でき、転動面Ｅ２１５１を流下した球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内できる。

【３５７４】

次いで、振分通路Ｅ２１５０を流下する球について説明する。湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ往復動することにより前後方向への速度成分を有した状態で振分通路Ｅ２１５０に案内された球は、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）を前後方向へ往復動しつつ、傾斜方向に従い中央通路Ｅ１６０側へ向けて流下する。

【３５７５】
前後方向への往復動により、背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）における転動面Ｅ２１５１の端部を通過した球は、背面板Ｅ１３７と当接することで、再び転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）へ案内される。
【３５７６】
一方、前後方向への往復動により、介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）における転動面Ｅ２１５１の端部を通過した球は、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ案内される（図２６１参照）。
【３５７７】
転動面Ｅ２１５１の介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）における端部を通過せず、即ち、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ案内されず、転動面Ｅ２１５１の傾斜方向下降側の端部を通過した球は、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内される。
【３５７８】
このように、振分通路Ｅ２１５０の延設方向に垂直な平面での断面形状が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に転動面Ｅ２１５１が湾曲して形成されることで球の流下方向を変更（変化）でき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）のいずれかの通路に球を案内できる（図２６１参照）。即ち、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）を流下した球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【３５７９】
また、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から送球された球が、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）に当接（落下）することで、球の自重により振分通路Ｅ２１５０は、支持軸Ｅ２０ｊを回動中心として湾曲部Ｅ１３１側が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて回動する。即ち、振分通路Ｅ２１５０の傾斜が小さくなる。これにより、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）を流下する球の流下速度を遅くでき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。
【３５８０】
また、湾曲部Ｅ１３１は、上述したように、延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図２６８（ｃ）参照）ので、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）に案内された球を、延設方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）へ球を流下させることができる。よって、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）へ流入する場合に、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。これにより、先行する球が転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）を流下中に後行する球が転動面Ｅ２１５１（第３通路ＥＲｔ２０３）に案内されることで、先行する球の自重と後行する球の自重とにより振分通路Ｅ２１５０の傾斜をさらに小さくできる。その結果、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間をさらに長くでき、遊技の興趣を高めることができる。
【３５８１】
次いで、図２７５を参照して、第６９実施形態における下側フレームＥ３０８６ｂについて説明する。
【３５８２】
上記第６８実施形態では、振分通路Ｅ２１５０の上面が、円弧状に湾曲して形成される場合を説明したが、第６９実施形態における振分通路Ｅ３１５０の上面は、平面状に形成

される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３５８３】

図２７５は、第６９実施形態における下側フレームＥ３０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２６９のＣＣＬＸＸａ－ＣＣＬＸＸａ線における断面に対応する。なお、図２７５（ａ）は、振分通路Ｅ３１５０と湾曲部Ｅ１３１とが当接した状態を示し、図２７５（ｂ）は、図２７３（ａ）に対し、弾性ばねＥ２１９０が縮んだ状態を示す。

【３５８４】

図２７５に示すように、下側フレームＥ３０８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ３１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ３１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ３１３０に配設される振分通路Ｅ３１５０、中央通路Ｅ１６０、一対の流路調整ブロックＥ１７０及び複数（本実施形態では２個）の弾性ばねＥ２１９０と、ボールジョイントＥ３２００と、を備える（図２６１参照）。

【３５８５】

ベース部材Ｅ３１３０は、第６８実施形態におけるベース部材Ｅ２１３０に対し、支持部Ｅ２１３３ｂに代えてボールジョイントＥ３２００のソケットＥ３２２０が平面部Ｅ３１３３に配設される以外は同一に形成される。

【３５８６】

平面部Ｅ３１３３の支持突起Ｅ２１３３ａよりも中央通路Ｅ１６０側における平面部Ｅ３１３３の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）略中央には、ボールジョイントＥ３２００のソケットＥ３２２０が配設される。

【３５８７】

ここで、ボールジョイントＥ３２００について説明する。ボールジョイントＥ３２００は、ボール部材Ｅ３２１０と、ソケットＥ３２２０とから形成される。

【３５８８】

ボール部材Ｅ３２１０には、球状に形成される球部Ｅ３２１１と、その球部Ｅ３２１１に結合される固定部Ｅ３２１２とが形成される。ソケットＥ３２２０には、その上面に球部Ｅ３２１１の外径と同等またはやや大きく形成される受け口Ｅ３２２１が凹設される。球部Ｅ３２１１が受け口Ｅ３２２１に挿入されることで、ソケットＥ３２２０に対してボール部材Ｅ３２１０が、変位可能に係合される。

【３５８９】

振分通路Ｅ３１５０は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜し、その傾斜面に垂直な方向視において横長略矩形の板状体から形成される。振分通路Ｅ３１５０の下面には、複数（本実施形態では２個）の支持突起Ｅ２１５０ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、それら複数の支持突起Ｅ２１５０ａよりも中央通路Ｅ１６０側にボール部材Ｅ３２１０が形成される。

【３５９０】

支持突起Ｅ２１５０ａ及びボール部材Ｅ３２１０は、上面視、平面部Ｅ３１３３に形成される支持突起Ｅ２１３３ａ及びソケットＥ３２２０に対応する位置にそれぞれ配設される。

【３５９１】

板状体に形成される振分通路Ｅ３１５０の上面には、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から案内された球が流下する転動面Ｅ３１５１が形成される。転動面Ｅ３１５１により第３通路ＥＲｔ３０３が形成される。

【３５９２】

弾性ばねＥ２１９０が支持突起Ｅ２１３３ａ,Ｅ２１５０ａにより支持された状態で平面部Ｅ３１３３の上面に配設されるソケットＥ３２２０（受け口Ｅ３２２１）に振分通路Ｅ３１５０の下面に配設されるボール部材Ｅ３２１０（球部Ｅ３２１１）を挿入すること

で、振分通路Ｅ３１５０を平面部Ｅ３１３３へ係合できる。
【３５９３】
これらにより、一対の振分通路Ｅ３１５０は、中央通路Ｅ１６０側が回動可能に係合された状態で、弾性ばねＥ２１９０により長手方向両端側が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位（往復動）される。即ち、一対の振分通路Ｅ３１５０は、ベース部材Ｅ３１３０（平面部Ｅ３１３３）に変位（回動、往復動）可能にそれぞれ配設される。また、一対の振分通路Ｅ３１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端は、湾曲部Ｅ１３１の下面に当接した状態でそれぞれ配設される。
【３５９４】
この状態では、弾性ばねＥ２１９０は縮んだ状態で配設されており、弾性ばねＥ２１９０の弾性回復力を利用して湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ３１５０との当接状態が維持される。即ち、本実施形態においては、弾性ばねＥ２１９０は振分通路Ｅ２１５０の鉛直方向下方側（矢印Ｄ方向側）に配設され、振分通路Ｅ２１５０を鉛直方向上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位させる態様に形成される。
【３５９５】
また、この状態では、転動面Ｅ３１５１の傾斜方向下降側（矢印Ｄ方向側）の端部、即ち、転動面Ｅ３１５１の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置は、中央通路Ｅ１６０の据付部Ｅ１６４の上面よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される。これにより、転動面Ｅ３１５１を流下した球と据付部Ｅ１６４との当接を抑制でき、転動面Ｅ３１５１を流下した球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内できる。
【３５９６】
次いで、振分通路Ｅ３１５０を流下する球について説明する。湾曲部Ｅ１３１を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ往復動することにより前後方向への速度成分を有した状態で振分通路Ｅ３１５０に案内された球は、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を前後方向へ変位可能であり、傾斜方向に従い中央通路Ｅ１６０側へ向けて流下する。
【３５９７】
ここで、前後方向における転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）への球の当接（落下）位置により、振分通路Ｅ３１５０は、介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）もしくは背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）へ傾斜する（図２６１参照）。
【３５９８】
詳細に説明すると、ボールジョイントＥ３２００を介して振分通路Ｅ３１５０がベース部材Ｅ３１３０（平面部Ｅ３１３３）に係合されるため、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）の介設部材Ｅ１４０（図２６１参照）側へ球が当接（落下）した場合、振分通路Ｅ３１５０は、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側への下降傾斜に加え、球の自重により、背面板Ｅ１３７側から介設部材Ｅ１４０側へ向けて下降傾斜する。一方、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）の背面板Ｅ１３７側へ球が当接（落下）した場合、振分通路Ｅ３１５０は、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側への下降傾斜に加え、球の自重により、介設部材Ｅ１４０側から背面板Ｅ１３７側へ向けて下降傾斜する。即ち、前後方向において、球が当接（落下）した側へ転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）が下降傾斜する。
【３５９９】
これにより、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下する球の流下方向を変更（変化）でき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）（図２６１参照）のいずれかの通路に球を案内できる。即ち、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下した球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【３６００】
また、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から送球された球が、転動面Ｅ３１５１（

第３通路ＥＲｔ３０３）に当接（落下）することで、球の自重により振分通路Ｅ３１５０は、ボールジョイントＥ３２００を回動中心として湾曲部Ｅ１３１側が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて回動する。即ち、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における振分通路Ｅ３１５０の傾斜が小さくなる。これにより、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下する球の流下速度を遅くでき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【３６０１】

また、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）は、上述したように、延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される（図２６８（ｃ）参照）ので、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）に案内された球を、延設方向における一端側と他端側との間で往復動させた上で、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）へ球を流下させることができる。よって、所定の間隔を隔てた状態で、２球が、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）から転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）へ流入する場合に、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）における往復動を利用して、先行する球に後行する球を追いつかせ、それら先行する球と後行する球との間隔を減少させる（球を連ならせる）ことができる。これにより、先行する球が転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下中に、後行する球が転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）に案内されることで先行する球の自重と後行する球の自重とにより振分通路Ｅ３１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における傾斜をさらに小さくできる。その結果、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを遊技者に期待させる時間をさらに長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【３６０２】

また、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）へ球を流下させることで、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における振分通路Ｅ３１５０の傾斜方向を変更（変化）できる場合がある。

【３６０３】

例えば、先行する球が、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）の介設部材Ｅ１４０（図２６１参照）側を流下している状態において、後行する球が、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）の背面板Ｅ１３７側に当接（落下）した場合、前後方向における転動面Ｅ３１５１の傾斜の下降方向を介設部材Ｅ１４０側から背面板Ｅ１３７側に変更（変化）できる場合がある。このように、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を球が流下中に、前後方向における転動面Ｅ３１５１の傾斜方向が変更（変化）することで、球の送球先を変更でき、遊技の興趣を高めることができる。

【３６０４】

本実施形態においては、複数（本実施形態では２個）の支持突起Ｅ２１３３ａに、同一の弾性ばねＥ２１９０がそれぞれ配設される場合を説明したが、異なる弾性ばね、即ち、異なる弾性係数を有する弾性ばねがそれぞれ配設されてもよい。

【３６０５】

例えば、介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に配設される弾性ばねの弾性係数を背面板Ｅ１３７側（矢印Ｂ方向側）に配設される弾性ばねの弾性係数よりも小さくすることで、振分通路Ｅ３１５０を介設部材Ｅ１４０側に下降傾斜させ易くできる（図２６１参照）。これにより、転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下する球が、転動面Ｅ３１５１と背面板Ｅ１３７とに当接した（挟持された）状態で転動面Ｅ３１５１（第３通路ＥＲｔ３０３）を流下し、中央通路Ｅ１６０と背面板Ｅ１３７との間を流下（落下）して第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内されることを抑制できる。

【３６０６】

次いで、図２７６から図２７７を参照して、第７０実施形態における下側フレームＥ４０８６ｂについて説明する。

【３６０７】

上記第６７実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０が配設される場合を説明したが、第７０実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０に加え、一対の第２振分通路Ｅ４１５０が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３６０８】

図２７６（ａ）及び図２７７（ａ）は、第７０実施形態における下側フレームＥ４０８６ｂの正面図であり、図２７６（ｂ）及び図２７７（ｂ）は、下側フレームＥ４０８６ｂの背面図である。なお、図２７６及び図２７７は模式的に図示され、図２７６（ａ）及び図２７７（ａ）では、正面部材Ｅ１１０及び誘導部材Ｅ１２０の図示が省略される。また、図２７６（ｂ）及び図２７７（ｂ）では、理解を容易とするため、振分通路Ｅ１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び駆動手段Ｅ４１９０のみが表示される。また、図２７６では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態が、図２７７では、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【３６０９】

図２７６から図２７７に示すように、下側フレームＥ４０８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ４１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ４１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ４１３０に配設される振分通路Ｅ１５０、第２振分通路Ｅ４１５０、中央通路Ｅ１６０及び一対の流路調整ブロックＥ１７０と、ベース部材Ｅ４１３０の下面側（矢印Ｄ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されるカバー部材Ｅ４１８０と、そのカバー部材Ｅ４１８０の内側に配設される駆動手段Ｅ４１９０と、を備える（図２６１参照）。

【３６１０】

ベース部材Ｅ４１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１（図２６１参照）と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ４１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ４１３３の対向間に形成される一対の第３斜面部Ｅ４１３９と、その一対の第３斜面部Ｅ４１３９の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ４１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６（図２６３参照）と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ４１３７と、を備える。

【３６１１】

第３斜面部Ｅ４１３９が形成されるため、第６７実施形態における第１斜面部Ｅ１３３に対し第１斜面部Ｅ４１３３は、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設され、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）が短く形成される。

【３６１２】

第３斜面部Ｅ４１３９は、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において第１斜面部Ｅ４１３３と取付け部Ｅ１３４との間に配設され、第１斜面部Ｅ４１３３に平行に形成される。

【３６１３】

背面板Ｅ４１３７は、第１斜面部Ｅ４１３３と同様、第６７実施形態における背面板Ｅ１３７に対し鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して配設される。

【３６１４】

第２振分通路Ｅ４１５０は、振分通路Ｅ１５０に対し、傾斜方向における長さが短く形成され、その他は同一であるため、その説明は省略する。第２振分通路Ｅ４１５０に突起部Ｅ１５１が形成されることで、第２振分通路Ｅ４１５０に第３通路ＥＲｔ３が形成される。第２振分通路Ｅ４１５０は、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）と中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）との間に配設される。即ち、第２振分通路Ｅ４１５０は、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）であり、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）よりも鉛直方向上方

（矢印Ｕ方向）に配設される。
【３６１５】
駆動手段Ｅ４１９０は、駆動力を発生させる駆動モータＥ１９１と、駆動モータＥ１９１の上方（矢印Ｕ方向）に配設される取付け部材Ｅ１９２と、駆動モータＥ１９１の軸に固着される駆動力伝達部材Ｅ１９３と、駆動力伝達部材Ｅ１９３に係合される第１伝達部材Ｅ４１９４と、第１伝達部材Ｅ４１９４に係合される第２伝達部材Ｅ４１９５及び第３伝達部材Ｅ４１９８と、第２伝達部材Ｅ４１９５に係合される第４伝達部材Ｅ４１９９と、複数（本実施形態では３個）のピニオンギヤＥ１９６と、を備える。
【３６１６】
なお、本実施形態における複数のピニオンギヤＥ１９６は全て同一であるが、理解を容易とするため、第１伝達部材Ｅ４１９４と第２伝達部材Ｅ４１９５との間に介設されるピニオンギヤＥ１９６をピニオンギヤＥ１９６ａ、第１伝達部材Ｅ４１９４と第３伝達部材Ｅ４１９８との間に介設されるピニオンギヤＥ１９６をピニオンギヤＥ１９６ｂ、第２伝達部材Ｅ４１９５と第４伝達部材Ｅ４１９９との間に介設されるピニオンギヤＥ１９６をピニオンギヤＥ１９６ｃと符号を付して区別する。
【３６１７】
第１伝達部材Ｅ４１９４は、第６７実施形態における第１伝達部材Ｅ１９４に対し、係合ベースＥ４１９４ｂが鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成され、第１ラック部Ｅ４１９４ｄの上面にピニオンギヤＥ１９６ｂと歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設される。
【３６１８】
第２伝達部材Ｅ４１９５は、第６７実施形態における第２伝達部材Ｅ１９５に対し、係合ベースＥ４１９４ｂが鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成され、本体部Ｅ４１９５ａの上面であって長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）一方側（矢印Ｌ方向側）にピニオンギヤＥ１９６ｃと歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設される。
【３６１９】
第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９は、駆動モータＥ１９１の駆動力を第２振分通路Ｅ４１５０へ伝達するためのものである。
【３６２０】
第３伝達部材Ｅ４１９８には、本体部Ｅ４１９８ａと、その本体部Ｅ４１９８ａの上面から突設される係合ベースＥ１９４ｂと、係合ベースＥ１９４ｂの上端から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される係合部Ｅ１９４ｃ（図２６３参照）とが形成される。本体部Ｅ４１９８ａの下面には、ピニオンギヤＥ１９６ｂと歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設され、ピニオンギヤＥ１９６ｂの回動により、第３伝達部材Ｅ４１９８が左右方向へ変位される。
【３６２１】
第４伝達部材Ｅ４１９９には、本体部Ｅ４１９９ａと、その本体部Ｅ４１９９ａの上面から突設される係合ベースＥ１９４ｂと、係合ベースＥ１９４ｂの上端から正面部材Ｅ１１０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される係合部Ｅ１９４ｃ（図２６３参照）とが形成される。本体部Ｅ４１９９ａの下面には、ピニオンギヤＥ１９６ｃと歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設され、ピニオンギヤＥ１９６ｃの回動により、第４伝達部材Ｅ４１９９が左右方向へ変位される。
【３６２２】
図２７６に示すように、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ４１９４及び第２伝達部材Ｅ４１９５は、ベース部材Ｅ４１３０の長手方向において中央通路Ｅ１６０側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ４１９４と第２伝達部材Ｅ４１９５とは、互いに近づいた位置に配設され、従って、一対の振分通路Ｅ１５０も互いに近づいた位置に配設される。
【３６２３】
一方、第２振分通路Ｅ４１５０、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９

は、ベース部材Ｅ４１３０の長手方向において壁板Ｅ１３２側に位置する。即ち、第３伝達部材Ｅ４１９８と第４伝達部材Ｅ４１９９とは、互いに離間した位置に配設され、従って、一対の第２振分通路Ｅ４１５０も互いに離間した位置に配設される。

【３６２４】

なお、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態において、第２振分通路Ｅ４１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側の端部よりも壁板Ｅ１３２側に位置する、即ち、上面視、第２振分通路Ｅ４１５０の全体が振分通路Ｅ１５０と重なる位置に配置される。従って、第２振分通路Ｅ４１５０は、球の通路を非形成とする位置に配置される。

【３６２５】

これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球は、第２振分通路Ｅ４１５０を移動（流下、転動）せず、架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ送球（落下）される。即ち、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ球を流下（落下）させることができる。この結果、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から流下（落下）した球が、架設通路Ｅ１６１に当接し跳ね返ることで、架設通路Ｅ１６１から第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ流下（落下）させ易くできる。

【３６２６】

一方、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ球を流下（落下）させることで、架設通路Ｅ１６１を流下することなく、直接、上方孔Ｅ１６２へ球を送球できる場合がある。これにより、球が架設通路Ｅ１６１を転動して上方孔Ｅ１６２へ向けて流下する場合と比較して、突起部Ｅ１６２ａとの当接による第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）への流下（落下）することを抑制できる（図２６５参照）。

【３６２７】

このように、本実施形態では、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ球を流下（落下）させることで、第６７実施形態と比較して架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられた球を第１入賞口６４（図２６０参照）へ入賞し難くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率を低くできる）。

【３６２８】

一方、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から架設通路Ｅ１６１を流下することなく、即ち、球が突起部Ｅ１６２ａに当接することなく上方孔Ｅ１６２へ送球されることで、球が上方孔Ｅ１６２を通過し易くできる。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球が、架設通路Ｅ１６１を流下せず、直接、上方孔Ｅ１６２を通過することを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【３６２９】

図２７７に示すように、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ４１９４及び第２伝達部材Ｅ４１９５は、ベース部材Ｅ４１３０の長手方向において壁板Ｅ１３２側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ４１９４と第２伝達部材Ｅ４１９５とは、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態に比べ、互いに離間した位置に配設され、従って、一対の振分通路Ｅ１５０も互いに離間した位置に配設される。

【３６３０】

一方、第２振分通路Ｅ４１５０、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９は、ベース部材Ｅ４１３０の長手方向において中央通路Ｅ１６０側に位置する。即ち、第３伝達部材Ｅ４１９８と第４伝達部材Ｅ４１９９とは、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態に比べ、互いに近づいた位置に配設され、従って、一対の第２振分通路Ｅ４１５０も互いに近づいた位置に配設される。

【３６３１】

なお、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態において第２振分通路Ｅ４１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向上昇側の端部よりも上方孔Ｅ１６２側に位置する。即ち、上面視、第２振分通路Ｅ４１５０の一部は視認可能な位置に配設される。これにより、振分通路Ｅ１５０を流下した球を第２振分通路Ｅ４１５０に案内できる。その結果、第２振分通路Ｅ４１５０を流下した球を、架設通路Ｅ１６１を流下することなく、直接、上方孔Ｅ１６２へ送球し易くできる。

【３６３２】

ここで、第２振分通路Ｅ４１５０は、振分通路Ｅ１５０よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に配設されるため、球が第２振分通路Ｅ４１５０から架設通路Ｅ１６１へ流下（落下）された場合、振分通路Ｅ１５０から架設通路Ｅ１６１へ流下（落下）された場合と比較して、架設通路Ｅ１６１に当接することによる球の跳ね返り量を小さくできる。これにより、架設通路Ｅ１６１から第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）への流下（落下）を抑制できる。

【３６３３】

これらのように、振分通路Ｅ１５０から第２振分通路Ｅ４１５０へ案内されることで、架設通路Ｅ１６１（中央通路Ｅ１６０、第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられた球を第１入賞口６４（図２６０参照）へ入賞し易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率を高くできる）。よって、第２振分通路Ｅ４１５０に球が案内される（振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態において振分通路Ｅ１５０から球が送球される）ことを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【３６３４】

また、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態においては、第２振分通路Ｅ４１５０に第３通路ＥＲｔ３が形成されるため、第６７実施形態と比較して、第３通路ＥＲｔ３を流下する球の流下時間を延長（変化）できる。

【３６３５】

また、振分通路Ｅ１５０から第２振分通路Ｅ４１５０へ球を流下（落下）させることで、第２振分通路Ｅ４１５０に形成される突起部Ｅ１５１の上面に当接させることができる。従って、湾曲部Ｅ１３１から振分通路Ｅ１５０への流下（落下）に加え、振分通路Ｅ１５０から第２振分通路Ｅ４１５０へ球を流下（落下）させることで、突起部Ｅ１５１の上面を移動（流下、転動）させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向を多様とできる。詳しく説明すると、平面状に形成される突起部Ｅ１５１の上面を移動（流下、転動）することで、球が第３通路ＥＲｔ３を移動（流下、転動）することを抑制できるため、第３通路ＥＲｔ３を移動（流下、転動）する態様と第３通路ＥＲｔ３を移動（流下、転動）しない態様との両方を形成し易くできる。

【３６３６】

次いで、駆動手段Ｅ４１９０による振分通路Ｅ１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０の往復動作について説明する。

【３６３７】

第１伝達部材Ｅ４１９４及び第２伝達部材Ｅ４１９５と振分通路Ｅ１５０、及び、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９と第２振分通路Ｅ４１５０とは、係合部Ｅ１９４ｃが被係合部Ｅ１５３の係合凹部Ｅ１５３ａに挿入されることでそれぞれ係合される（図２７０参照）。

【３６３８】

振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第２振分通路Ｅ４１５０の壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側への変位は、駆動モータＥ１９１の駆動により、駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側（矢印Ｒ方向側）から壁板Ｅ１３２側（矢印Ｌ方向側）に変位することで行われる。

【３６３９】

駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側に変位することで、第１伝達部材Ｅ４１９４は中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側に

変位する。これにより、第１伝達部材Ｅ４１９４に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。

【３６４０】

また、第１伝達部材Ｅ４１９４の中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側への変位により、第１ラック部Ｅ４１９４ｄの下面に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６ａは、背面視時計回りに回動され、第１ラック部Ｅ４１９４ｄの上面に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６ｂは、背面視反時計回りに回動される。

【３６４１】

これにより、ピニオンギヤＥ１９６ａと歯合する第２伝達部材Ｅ４１９５（第２ラック部Ｅ１９５ｂ）は、中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側に変位し、第２伝達部材Ｅ４１９５に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。また、ピニオンギヤＥ１９６ｂと歯合する第３伝達部材Ｅ４１９８（本体部Ｅ４１９８ａ）は、壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側に変位し、第３伝達部材Ｅ４１９８に係合される第２振分通路Ｅ４１５０は、壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側に変位する。

【３６４２】

また、第２伝達部材Ｅ４１９５の中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側への変位により、第２伝達部材Ｅ４１９５の本体部Ｅ４１９５ａの上面に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６ｃは、背面視時計回りに回動される。

【３６４３】

これにより、ピニオンギヤＥ１９６ｃと歯合する第４伝達部材Ｅ４１９９の本体部Ｅ４１９９ａは、壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側に変位し、第４伝達部材Ｅ４１９９に係合される第２振分通路Ｅ４１５０は、壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側に変位する。

【３６４４】

振分通路Ｅ１５０の第２位置から第１位置への変位、及び、それに伴う第２振分通路Ｅ４１５０の中央通路Ｅ１６０側から壁板Ｅ１３２側への変位は、振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第２振分通路Ｅ４１５０の壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側への変位と同様、駆動モータＥ１９１の駆動により行われる。

【３６４５】

ここで、振分通路Ｅ１５０、第２振分通路Ｅ４１５０、第１伝達部材Ｅ４１９４から第４伝達部材Ｅ４１９９の変位方向およびピニオンギヤＥ１９６ａ，Ｅ１９６ｂ，Ｅ１９６ｃの回動方向以外は振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第２振分通路Ｅ４１５０の壁板Ｅ１３２側から中央通路Ｅ１６０側への変位と同様であるため、その説明は省略する。

【３６４６】

このように、本実施形態では、一つの駆動モータＥ１９１により、一対の振分通路Ｅ１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０を往復動できるため、駆動モータＥ１９１の配設個数を削減し、製品コストの削減を図ることができる。

【３６４７】

また、第１伝達部材Ｅ４１９４の変位により第２伝達部材Ｅ４１９５から第４伝達部材Ｅ４１９９を変位させることができる、即ち、第１伝達部材Ｅ４１９４から第４伝達部材Ｅ４１９９の変位を連動させることができる。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０と一対の第２振分通路Ｅ４１５０との変位を連動させることができる。その結果、一対の振分通路Ｅ１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０の往復動を制御するためのセンサを不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。

【３６４８】

次いで、図２７８から図２８１を参照して、第７１実施形態における下側フレームＥ５０８６ｂについて説明する。

【３６４９】

上記第６７実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０が配設される場合を説明したが、第７１実施形態では、振分通路Ｅ１５０に加え、一対の振分通路Ｅ１５０の対向間に第３振分通路Ｅ５１５０が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３６５０】

図２７８（ａ）及び図２８０（ａ）は、第７１実施形態における下側フレームＥ５０８６ｂの正面図であり、図２７８（ｂ）及び図２８０（ｂ）は、下側フレームＥ５０８６ｂの背面図である。図２７９及び図２８１は、下側フレームＥ５０８６ｂの上面図である。なお、図２７８から図２８１は模式的に図示され、図２７８（ａ）及び図２８０（ａ）では、正面部材Ｅ１１０及び誘導部材Ｅ１２０の図示が省略され、図２７９（ａ）及び図２８１（ａ）では、誘導部材Ｅ１２０の図示が省略される。また、理解を容易とするため、図２７８（ｂ）及び図２８０（ｂ）では、振分通路Ｅ１５０、第３振分通路Ｅ５１５０及び駆動手段Ｅ５１９０のみが表示される。また、図２７９（ｂ）及び図２８１（ｂ）では、第３振分通路Ｅ５１５０及び駆動手段Ｅ５１９０のみが図示されると共に、第３振分通路Ｅ５１５０は、その外形のみが図示される。また、図２７８及び図２７９では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態が、図２８０及び図２８１では、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態が、それぞれ図示される。

【３６５１】

図２７８から図２８１に示すように、下側フレームＥ５０８６ｂは、正面部材Ｅ１１０と、その正面部材Ｅ１１０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される誘導部材Ｅ１２０（図２６１参照）と、正面部材Ｅ１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されるベース部材Ｅ５１３０と、正面部材Ｅ１１０及びベース部材Ｅ５１３０の対向間に介設される介設部材Ｅ１４０と、ベース部材Ｅ５１３０に配設される振分通路Ｅ１５０、第３振分通路Ｅ５１５０、中央通路Ｅ１６０及び一対の流路調整ブロックＥ１７０と、ベース部材Ｅ５１３０の下面側（矢印Ｄ方向側）に所定の間隔を隔てて配設されるカバー部材Ｅ５１８０と、そのカバー部材Ｅ５１８０の内側に配設される駆動手段Ｅ５１９０と、を備える。

【３６５２】

ベース部材Ｅ５１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ５１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ５１３３の対向間に形成される一対の第３取付け部Ｅ５１３９と、その一対の第３取付け部Ｅ５１３９の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ５１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６（図２６３参照）と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ５１３７と、を備える。

【３６５３】

第３取付け部Ｅ５１３９が形成されるため、第６７実施形態における第１斜面部Ｅ１３３に対し第１斜面部Ｅ５１３３は、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設され、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）が短く形成される。

【３６５４】

第３取付け部Ｅ５１３９は、第３振分通路Ｅ５１５０を変位可能に係合するためのものであり、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において第１斜面部Ｅ５１３３と取付け部Ｅ１３４との間に配設され、その上面は水平に形成される。

【３６５５】

長手方向他側（矢印Ｒ方向側）における第３取付け部Ｅ５１３９の上面には、後述する第３振分通路Ｅ５１５０の被ガイド部Ｅ５１５２がスライド可能に挿通される第３ガイド部Ｅ５１３９ａが形成される。

【３６５６】

第３ガイド部Ｅ５１３９ａは、上面視縦長略矩形の板状体と、その板状体の延設方向（

矢印Ｆ－Ｂ方向）両端から第３取付け部Ｅ５１３９へ向けて突設される一対の板状体とから形成され、側面視コ字状に形成される。この第３ガイド部Ｅ５１３９ａと第３取付け部Ｅ５１３９とで囲まれた空間に被ガイド部Ｅ５１５２がスライド可能に挿通される。

【３６５７】

背面板Ｅ５１３７は、第１斜面部Ｅ５１３３と同様、第６７実施形態における背面板Ｅ１３７に対し鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して配設される。

【３６５８】

第３振分通路Ｅ５１５０は、その上面を球が流下するためのものであり、上面視横長略矩形の板状体から形成され、その上面に形成される突起部Ｅ１５１と、長手方向他側（矢印Ｒ方向側）に形成される被ガイド部Ｅ５１５２と、長手方向一側（矢印Ｌ方向側）に形成される被係合部Ｅ５１５３とを備える。

【３６５９】

第３振分通路Ｅ５１５０に突起部Ｅ１５１が形成されるため、第３振分通路Ｅ５１５０に第３通路ＥＲｔ３が形成される。また、第３振分通路Ｅ５１５０の上面への突起部Ｅ１５１の配設の態様は、振分通路Ｅ１５０の配設の態様と同様とされる。

【３６６０】

被ガイド部Ｅ５１５２は、上面視横長略矩形の板状体から形成され、上述したように、被ガイド部Ｅ５１５２が第３ガイド部Ｅ５１３９ａと第３取付け部Ｅ５１３９とで囲まれた空間に挿通されることで、第３振分通路Ｅ５１５０は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ変位できる。

【３６６１】

被係合部Ｅ５１５３は、駆動モータＥ１９１の駆動力を第３振分通路Ｅ５１５０へ伝達するためのものであり、第３振分通路Ｅ５１５０の長手方向一側（矢印Ｌ方向側）の端面から下方（矢印Ｄ方向）に突設される。被係合部Ｅ５１５３の下端であって長手方向他側（矢印Ｒ方向側）における側面にはラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設される。

【３６６２】

第３振分通路Ｅ５１５０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の寸法は、第２位置に配設された一対の振分通路Ｅ１５０の対向間よりも大きく形成される。従って、振分通路Ｅ１５０から流下（落下）した球が、第３振分通路Ｅ５１５０の長手方向両端に配設される被ガイド部Ｅ５１５２又は被係合部Ｅ５１５３に当接することを抑制できる。これにより、被ガイド部Ｅ５１５２又は被係合部Ｅ５１５３が破損することを抑制できる。

【３６６３】

被ガイド部Ｅ５１５２が第３ガイド部Ｅ５１３９ａに挿通され、被係合部Ｅ５１５３に刻設されるラックギヤＥ１９４ｄ１と後述する第２ピニオンギヤＥ５１９６とが歯合した状態で第３振分通路Ｅ５１５０は第３取付け部Ｅ５１３９（ベース部材Ｅ５１３０）に配設される。

【３６６４】

駆動手段Ｅ５１９０は、駆動力を発生させる駆動モータＥ１９１と、駆動モータＥ１９１の上方（矢印Ｕ方向）に配設される取付け部材Ｅ１９２と、駆動モータＥ１９１の軸に固着される駆動力伝達部材Ｅ１９３と、駆動力伝達部材Ｅ１９３に係合される第１伝達部材Ｅ５１９４と、第１伝達部材Ｅ４１９４に係合される第２伝達部材Ｅ５１９５と、ピニオンギヤＥ１９６と、第２ピニオンギヤＥ５１９６と、を備える。

【３６６５】

第１伝達部材Ｅ５１９４は、第６７実施形態における第１伝達部材Ｅ１９４に対し、係合ベースＥ５１９４ｂが鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成され、第１ラック部Ｅ５１９４ｄの正面（矢印Ｆ方向側の面）に第２ピニオンギヤＥ５１９６と歯合するラックギヤＥ１９４ｄ１が刻設される。

【３６６６】

第２伝達部材Ｅ４１９５は、第６７実施形態における第２伝達部材Ｅ１９５に対し、係合ベースＥ５１９４ｂが鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成される。

【３６６７】
第２ピニオンギヤＥ５１９６は、その軸方向が鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿う姿勢で配設され、ピニオンギヤＥ１９６に対し、軸方向における寸法（厚さ）が大きく形成される点で相違し、その他の構成は同一である。なお、第２ピニオンギヤＥ５１９６の軸方向における寸法（厚さ）は、第１伝達部材Ｅ５１９４の第１ラック部Ｅ５１９４ｄの鉛直方向における寸法と第３振分通路Ｅ５１５０の被係合部Ｅ５１５３の下端に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１の鉛直方向における寸法との合計よりも大きく形成される。これにより、第２ピニオンギヤＥ５１９６は、鉛直方向に位置を違えて第１ラック部Ｅ５１９４ｄと被係合部Ｅ５１５３とに歯合可能に形成される。
【３６６８】
図２７８及び図２７９に示すように、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ５１９４及び第２伝達部材Ｅ５１９５は、ベース部材Ｅ５１３０の長手方向において中央通路Ｅ１６０側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ５１９４と第２伝達部材Ｅ５１９５とは、互いに近づいた位置に配設され、従って、一対の振分通路Ｅ１５０も互いに近づいた位置に配設される。
【３６６９】
第３振分通路Ｅ５１５０は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において中央通路Ｅ１６０と背面板Ｅ５１３７との間に配設される（以下「第３位置」と称す）。これにより、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に案内されることで、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から中央通路Ｅ１６０と背面板Ｅ５１３７との間に流下（落下）される球が第５通路ＥＲｔ５に送球されることを抑制できる。その結果、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に案内された球が中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。また、第３振分通路Ｅ５１５０に第３通路ＥＲｔ３が形成されるため、第６７実施形態と比較して、第３通路ＥＲｔ３を流下する球の流下時間を延長（変化）できる。
【３６７０】
また、前後方向において第３振分通路Ｅ５１５０と背面板Ｅ５１３７との対向間距離は、球の半径よりも小さく形成される。これにより、第３振分通路Ｅ５１５０と背面板Ｅ５１３７とで球が挟持されることを抑制でき、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）上を球が流下できる。
【３６７１】
図２８０及び図２８１に示すように、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０、第１伝達部材Ｅ５１９４及び第２伝達部材Ｅ５１９５は、ベース部材Ｅ５１３０の長手方向において湾曲部Ｅ１３１側に位置する。即ち、第１伝達部材Ｅ５１９４と第２伝達部材Ｅ５１９５とは、第１位置に配置された状態に比べ、互いに離間した位置に配設され、従って、一対の振分通路Ｅ１５０も互いに離間した位置に配設される。
【３６７２】
第３振分通路Ｅ５１５０は、少なくともその一部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置、即ち、中央通路Ｅ１６０の上方（矢印Ｕ方向）に配設される（以下「第４位置」と称す）。これにより、振分通路Ｅ１５０から第３振分通路Ｅ５１５０に案内することで、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）に球が案内されることを抑制できる。なお、第３振分通路Ｅ５１５０に案内された球は、第３振分通路Ｅ５１５０の前端もしくは後端を横切って第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ送球される。
【３６７３】
また、第３振分通路Ｅ５１５０は、前後方向における背面板Ｅ５１３７との対向間距離が球の直径よりも大きく形成される位置に配設される。これにより、振分通路Ｅ１５０（第３通路ＥＲｔ３）から第３振分通路Ｅ５１５０と背面板Ｅ５１３７との間に流下される球を、第３振分通路Ｅ５１５０に当接することなく、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ案内できる。

【３６７４】
このように、本実施形態においては、第６７実施形態と比較して、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配設され、第３振分通路Ｅ５１５０が第３位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０から送球された球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し易くできる。一方、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配設され、第３振分通路Ｅ５１５０が第４位置に配置された状態では、振分通路Ｅ１５０から送球された球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し難くできる。即ち、第３振分通路Ｅ５１５０（振分通路Ｅ１５０）の配設位置により、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）への送球の難易度を変化でき、遊技の興趣を高めることができる。
【３６７５】
また、第３振分通路Ｅ５１５０は、一対の振分通路Ｅ１５０の対向間に配設されるため、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下した球を中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に案内できる場合がある。即ち、第３通路ＥＲｔ３を流下する球を、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）に加え、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）にも送球できることで、遊技の興趣を高めることができる。
【３６７６】
次いで、駆動手段Ｅ５１９０による振分通路Ｅ１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の往復動作について説明する。
【３６７７】
振分通路Ｅ１５０と第１伝達部材Ｅ５１９４及び第２伝達部材Ｅ５１９５とは、被係合部Ｅ１５３の係合凹部Ｅ１５３ａに係合部Ｅ１９４ｃが挿入されることでそれぞれ係合される（図２７０参照）。
【３６７８】
振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第３振分通路Ｅ５１５０の第３位置から第４位置への変位は、駆動モータＥ１９１の駆動により、駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側（矢印Ｒ方向側）から湾曲部Ｅ１３１側（矢印Ｌ方向側）に変位することで行われる。
【３６７９】
駆動力伝達部材Ｅ１９３の偏心軸Ｅ１９３ａが中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位することで、第１伝達部材Ｅ５１９４は中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位する。これにより、第１伝達部材Ｅ５１９４に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。
【３６８０】
また、第１伝達部材Ｅ５１９４の中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側への変位により、第１ラック部Ｅ５１９４ｄのラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合するピニオンギヤＥ１９６は、背面視時計回りに回動される。
【３６８１】
これにより、ピニオンギヤＥ１９６と歯合する第２伝達部材Ｅ５１９５の第２ラック部Ｅ１９５ｂは、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側に変位し、第２伝達部材Ｅ５１９５に係合される振分通路Ｅ１５０は、第１位置から第２位置へ変位する。
【３６８２】
また、第１伝達部材Ｅ５１９４の中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側への変位により、第１ラック部Ｅ５１９４ｄの正面（矢印Ｆ方向側の面）に形成されるラックギヤＥ１９４ｄ１と歯合する第２ピニオンギヤＥ５１９６は、上面視反時計回りに回動される。
【３６８３】
これにより、第２ピニオンギヤＥ５１９６と歯合する第３振分通路Ｅ５１５０の被係合部Ｅ５１５３は、背面板Ｅ５１３７側（矢印Ｂ方向側）から介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）へ変位し、これにより、第３振分通路Ｅ５１５０は、第３位置から第４位置へ変位する。

【３６８４】
振分通路Ｅ１５０の第２位置から第１位置への変位、及び、それに伴う第３振分通路Ｅ５１５０の第４位置から第３位置への変位は、振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第３振分通路Ｅ５１５０の第３位置から第４位置への変位と同様、駆動モータＥ１９１の駆動により行われる。
【３６８５】
なお、振分通路Ｅ１５０、第３振分通路Ｅ５１５０、第１伝達部材Ｅ５１９４及び第２伝達部材Ｅ５１９５の変位方向、ピニオンギヤＥ１９６及び第２ピニオンギヤＥ５１９６の回動方向以外は振分通路Ｅ１５０の第１位置から第２位置への変位、及び、それに伴う第３振分通路Ｅ５１５０の第３位置から第４位置への変位と同様であるため、その説明は省略する。
【３６８６】
このように、本実施形態では、一つの駆動モータＥ１９１により、一対の振分通路Ｅ１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を往復動できるため、駆動モータＥ１９１の配設個数を削減し、製品コストの削減を図ることができる。
【３６８７】
また、第１伝達部材Ｅ５１９４の変位により第２伝達部材Ｅ５１９５及び第３振分通路Ｅ５１５０を変位させることができる、即ち、第１伝達部材Ｅ５１９４、第２伝達部材Ｅ５１９５及び第３振分通路Ｅ５１５０の変位を連動させることがでる。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０と第３振分通路Ｅ５１５０との変位を連動させることができる。その結果、一対の振分通路Ｅ１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の往復動を制御するためのセンサを不要とでき、製品コストの削減を図ることができる。
【３６８８】
また、第２ピニオンギヤＥ５１９６には、鉛直方向に位置を違えて被係合部Ｅ５１５３と第１ラック部Ｅ５１９４ｄとが歯合される（本実施形態においては、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に被係合部Ｅ５１５３が歯合され、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に第１ラック部Ｅ５１９４ｄが歯合される）。これにより、第１伝達部材Ｅ５１９４と第３振分通路Ｅ５１５０との変位の方向を直交できる、即ち、第１伝達部材Ｅ５１９４がベース部材Ｅ５１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位すると共に、第３振分通路Ｅ５１５０をベース部材Ｅ５１３０の短手方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位できる。これにより、ピニオンギヤの配設個数を抑制でき、製品コストの削減を図ることができる。
【３６８９】
次いで、図２８２（ａ）を参照して、第７２実施形態における下側フレームＥ６０８６ｂについて説明する。
【３６９０】
上記第６７実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０がベース部材Ｅ１３０の第１斜面部Ｅ１３３に沿って（平行に）変位（往復動）される場合を説明したが、第７２実施形態では、第１斜面部Ｅ６１３３に対する振分通路Ｅ６１５０の配設角度が変化（変更）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【３６９１】
図２８２（ａ）は、第７２実施形態における下側フレームＥ６０８６ｂの部分拡大断面図である。なお、図２８２（ａ）は、図２７１（ｃ）のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における断面に対応する。また、下側フレームＥ６０８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図２６０左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２６０左右対称）に形成されるため、一方側（矢印Ｌ方向側）のみを図示する。
【３６９２】
第７２実施形態における下側フレームＥ６０８６ｂは、第６７実施形態おける下側フレームＥ８６ｂに対し、ベース部材Ｅ１３０及び振分通路Ｅ１５０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、ベース部材Ｅ６１３０及び振分通路Ｅ６１５０についてのみ説

明する。
【３６９３】
図２８２（ａ）に示すように、ベース部材Ｅ６１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ６１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ６１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ６１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ６１３７と、を備える（図２６３参照）。
【３６９４】
第１斜面部Ｅ６１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ６１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ６１３３には、挿通孔Ｅ１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図２７０（ｂ）、図２７１（ｂ）参照）と、溝部Ｅ１３３ｃと、突出部Ｅ６１３３ｄとが形成される。
【３６９５】
突出部Ｅ６１３３ｄは、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）におけるベース部材Ｅ６１３０の湾曲部Ｅ１３１側において第１斜面部Ｅ６１３３の上面から突出して形成される。
【３６９６】
第１斜面部Ｅ６１３３には、振分通路Ｅ６１５０を変位させるための複数（本実施形態では４個）の円柱体Ｅ６２０１と、カバーＥ６２０２とが配設される。
【３６９７】
円柱体Ｅ６２０１は、第６７実施形態における円柱体Ｅ２０１に対し外形が大きく形成される以外は同形状に形成される。これにより、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ６１５０の配設位置は、上方（矢印Ｕ方向）に配設される。
【３６９８】
カバーＥ６２０２は、円柱体Ｅ６２０１の外形が大きく形成された分、円柱体Ｅ６２０１に対応する位置に円柱体Ｅ６２０１の外形よりもやや大きな孔が穿設される。
【３６９９】
長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における中央通路Ｅ１６０側に配設される一対の円柱体Ｅ６２０１は、第１斜面部Ｅ６１３３に配設されるのに対し、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における湾曲部Ｅ１３１側に配設される一対の円柱体Ｅ６２０１は、突出部Ｅ６１３３ｄに配設される。これにより、第１斜面部Ｅ６１３３の傾斜角度に対し振分通路Ｅ６１５０の傾斜角度を異ならせる、詳細には、大きくすることができる。その結果、第１斜面部Ｅ６１３３に対し振分通路Ｅ６１５０の変位（往復動）を非平行とできる。
【３７００】
背面板Ｅ６１３７は、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ６１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第６７実施形態における背面板Ｅ１３７に対し上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成される。
【３７０１】
振分通路Ｅ６１５０は、上面に突設される複数の突起部Ｅ１５１と、振分通路Ｅ６１５０の下面から立設される一対の被ガイド部Ｅ６１５２と、その一対の被ガイド部Ｅ６１５２の間に立設される被係合部Ｅ６１５３と、を備える。
【３７０２】
上述したように、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ６１５０の配設位置が、上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第６７実施形態における被ガイド部Ｅ１５２及び被係合部Ｅ１５３に対し被ガイド部Ｅ６１５２及び被係合部Ｅ

６１５３は下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成される。被係合部Ｅ６１５３が下方に延設して形成されることにより、係合凹部Ｅ６１５３ａも被係合部Ｅ６１５３と同様、下方に延設して形成される。

【３７０３】

これにより、被ガイド部Ｅ６１５２が第１斜面部Ｅ７１３３の溝部Ｅ１３３ｃから抜け出ることを抑制し、振分通路Ｅ６１５０のベース部材Ｅ６１３０に対する前後方向への変位が規制される。また、係合凹部Ｅ１５３ａと第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃとが当接することを抑制できる。

【３７０４】

次いで、図２８２（ｂ）及び図２８２（ｃ）を参照して、第７３実施形態および第７４実施形態における下側フレームＥ７０８６ｂ，Ｅ８０８６ｂについて説明する。

【３７０５】

上記第６７実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０がベース部材Ｅ１３０の第１斜面部Ｅ１３３に沿って（平行に）変位（往復動）される場合を説明したが、第７３実施形態および第７４実施形態では、振分通路Ｅ７１５０，Ｅ８１５０の変位に伴い、振分通路Ｅ７１５０，Ｅ８１５０の配設角度が変化（変更）する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３７０６】

図２８２（ｂ）は、第７３実施形態における下側フレームＥ７０８６ｂの部分拡大断面図であり、図２８２（ｃ）は、第７４実施形態における下側フレームＥ８０８６ｂの部分拡大断面図である。なお、図２８２（ｂ）及び図２８２（ｃ）は、図２７１のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における断面に対応する。また、下側フレームＥ７０８６ｂ，Ｅ８０８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図２６０左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２６０左右対称）に形成されるため、一方側（矢印Ｌ方向側）のみを図示する。

【３７０７】

第７３実施形態および第７４実施形態における下側フレームＥ７０８６ｂ，Ｅ８０８６ｂは、第６７実施形態おける下側フレームＥ８６ｂに対し、ベース部材Ｅ１３０及び振分通路Ｅ１５０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、ベース部材Ｅ７１３０，Ｅ８１３０及び振分通路Ｅ７１５０，Ｅ８１５０についてのみ説明する。

【３７０８】

図２８２（ｂ）に示すように、第７３実施形態におけるベース部材Ｅ７１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ７１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ７１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ７１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ７１３７と、を備える（図２６３参照）。

【３７０９】

第１斜面部Ｅ７１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ７１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ７１３３には、挿通孔Ｅ１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図２７０（ｂ）、図２７１（ｂ）参照）と、溝部Ｅ１３３ｃとが形成される。

【３７１０】

第１斜面部Ｅ７１３３には、振分通路Ｅ１５０を変位させるための複数（本実施形態では２個）の円柱体Ｅ７２０１ａ及び複数（本実施形態では２個）の円柱体Ｅ７２０１ｂと、カバーＥ７２０２とが配設される。

【３７１１】

円柱体Ｅ７２０１ａは、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において同一位置に配設され、第１斜面部Ｅ７１３３の中央通路Ｅ１６０側に配設される。なお、円柱体Ｅ７２０１ａは、第６７実施形態における円柱体Ｅ２０１に対し外形が大きく形成される以外は同形状に形成される。これにより、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ６１５０の配設位置は、上方（矢印Ｕ方向）に配設される。

【３７１２】

円柱体Ｅ７２０１ｂは、長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において同一位置に配設され、第１斜面部Ｅ７１３３の湾曲部Ｅ１３１側に配設される。なお、円柱体Ｅ７２０１ｂの外形は、円柱体Ｅ７２０１ａの外形よりも大きく形成される。これにより、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ７１５０の配設位置は、上方（矢印Ｕ方向）に配設される。また、第１斜面部Ｅ７１３３の傾斜角度に対し振分通路Ｅ７１５０の傾斜角度を異ならせる、詳細には、大きくすることができる。その結果、第１斜面部Ｅ７１３３に対し振分通路Ｅ７１５０の変位（往復動）を非平行とできる。

【３７１３】

カバーＥ７２０２は、円柱体Ｅ７２０１ａ，７２０１ｂの外形が大きく形成された分、円柱体Ｅ７２０１ａ，７２０１ｂに対応する位置に円柱体Ｅ７２０１ａ，７２０１ｂの外形よりもやや大きな孔が穿設される。

【３７１４】

背面板Ｅ７１３７は、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ７１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第６７実施形態における背面板Ｅ１３７に対し上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成される。

【３７１５】

振分通路Ｅ７１５０は、上面に突設される複数の突起部Ｅ１５１と、振分通路Ｅ７１５０の下面から立設される一対の被ガイド部Ｅ７１５２と、その一対の被ガイド部Ｅ７１５２の間に立設される被係合部Ｅ７１５３と、湾曲部Ｅ１３１側における振分通路Ｅ７１５０の下面に形成される斜面部Ｅ７１５４と、を備える。

【３７１６】

上述したように、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ７１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第６７実施形態における被ガイド部Ｅ１５２及び被係合部Ｅ１５３に対し被ガイド部Ｅ７１５２及び被係合部Ｅ７１５３は下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成される。被係合部Ｅ７１５３が下方に延設して形成されることにより、係合凹部Ｅ７１５３ａも被係合部Ｅ７１５３と同様、下方に延設して形成される。

【３７１７】

これにより、被ガイド部Ｅ７１５２が第１斜面部Ｅ７１３３の溝部Ｅ１３３ｃから抜け出ることを抑制し、振分通路Ｅ７１５０のベース部材Ｅ７１３０に対する前後方向への変位が規制される。また、係合凹部Ｅ７１５３ａと第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃとが当接することを抑制できる。

【３７１８】

斜面部Ｅ７１５４は、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側に向かうにつれて下降傾斜して形成され、その斜面部Ｅ７１５４に円柱体７２０１ｂが当接する。従って、振分通路Ｅ７１５０は、第１位置から第２位置へ向かうにつれてその傾斜角度を大きくされる。即ち、振分通路Ｅ７１５０の上面を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向を変化（変更）できる。これにより、球の移動（流下、転動）方向を変化（変更）を多様化でき、球の移動（流下、転動）方向が単調となることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【３７１９】

図２８２（ｃ）に示すように、第７４実施形態におけるベース部材Ｅ８１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の

湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ８１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ８１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ８１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ８１３７と、を備える（図２６３参照）。

【３７２０】

第１斜面部Ｅ８１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ８１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ８１３３には、挿通孔Ｅ１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図２７０（ｂ）、図２７１（ｂ）参照）と、溝部Ｅ１３３ｃと、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄとが形成される。

【３７２１】

第１斜面部Ｅ８１３３には、振分通路Ｅ８１５０を変位させるための複数（本実施形態では２個）の円柱体７２０１ａと、カバーＥ８２０２とが配設される。

【３７２２】

カバーＥ８２０２は、円柱体Ｅ７２０１ａの外形が大きく形成された分、円柱体Ｅ７２０１ａに対応する位置に円柱体Ｅ７２０１ａの外形よりもやや大きな孔が穿設される。

【３７２３】

湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄは、振分通路Ｅ８１５０の傾斜角度を変化（変更）させるための部位であり、第１斜面部Ｅ８１３３の湾曲部Ｅ１３１側において湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄの上面から突出して形成され、その上面は下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹となる円弧状に湾曲して形成される。

【３７２４】

湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄの円弧状の湾曲面には、振分通路Ｅ８１５０の湾曲部Ｅ１３１側の端部が当接され、円柱体Ｅ７２０１ａと共に振分通路Ｅ８１５０を支持（保持）する。振分通路Ｅ８１５０が第１位置から第２位置へ向かうにつれて変位することにより、湾曲部Ｅ１３１側の端部は、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄの湾曲面に沿って上方側（矢印Ｕ方向側）に変位する。これにより、振分通路Ｅ８１５０の傾斜角度を大きくできる。即ち、振分通路Ｅ８１５０の上面を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向を変化（変更）できる。これにより、球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）を多様化でき、球の移動（流下、転動）方向が単調となることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【３７２５】

背面板Ｅ８１３７は、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ８１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第６７実施形態における背面板Ｅ１３７に対し上方（矢印Ｕ方向）に延設して形成される。

【３７２６】

振分通路Ｅ８１５０は、上面に突設される複数の突起部Ｅ１５１と、振分通路Ｅ８１５０の下面から立設される一対の被ガイド部Ｅ８１５２と、その一対の被ガイド部Ｅ８１５２の間に立設される被係合部Ｅ８１５３と、を備える。

【３７２７】

上述したように、第６７実施形態における振分通路Ｅ１５０の配設位置に対し振分通路Ｅ８１５０の配設位置が上方（矢印Ｕ方向）に配設されるため、第６７実施形態における被ガイド部Ｅ１５２及び被係合部Ｅ１５３に対し被ガイド部Ｅ８１５２及び被係合部Ｅ８１５３は下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成される。被係合部Ｅ８１５３が下方に延設して形成されることにより、係合凹部Ｅ８１５３ａも被係合部Ｅ８１５３と同様、下方に延設して形成される。

【３７２８】

これにより、被ガイド部Ｅ８１５２が第１斜面部Ｅ８１３３の溝部Ｅ１３３ｃから抜け

出ることを抑制し、振分通路Ｅ８１５０のベース部材Ｅ８１３０に対する前後方向への変位が規制される。また、係合凹部Ｅ８１５３ａと第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃとが当接することを抑制できる。

【３７２９】

次いで、図２８３を参照して、第７５実施形態および第７６実施形態における下側フレームＥ９０８６ｂ，Ｅ１００８６ｂについて説明する。

【３７３０】

上記第６７実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０がベース部材Ｅ１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って（平行に）変位（往復動）される場合を説明したが、第７５実施形態および第７６実施形態では、振分通路Ｅ１５０がベース部材Ｅ９１３０，Ｅ１０１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に非平行に変位（往復動）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３７３１】

図２８３（ａ）は、第７５実施形態における下側フレームＥ９０８６ｂの部分上面図であり、図２８３（ｂ）は、第７６実施形態における下側フレームＥ１００８６ｂの部分上面図である。なお、図２８３では理解を容易とするため、振分通路Ｅ１５０の図示が省略される。また、下側フレームＥ９０８６ｂ，Ｅ１００８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図２６０左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２６０左右対称）に形成されるため、一方側（矢印Ｌ方向側）のみを図示する。

【３７３２】

第７５実施形態および第７６実施形態における下側フレームＥ９０８６ｂ，Ｅ１００８６ｂは、第６７実施形態おける下側フレームＥ８６ｂに対し、ベース部材Ｅ１３０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、ベース部材Ｅ９１３０，Ｅ１０１３０についてのみ説明する。

【３７３３】

図２８３（ａ）に示すように、第７５実施形態におけるベース部材Ｅ９１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ９１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ９１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ９１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ１３７と、を備える（図２６３参照）。

【３７３４】

第１斜面部Ｅ９１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ９１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ９１３３には、挿通孔Ｅ９１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図２７０（ｂ）、図２７１（ｂ）参照）と、溝部Ｅ９１３３ｃとが形成される。

【３７３５】

第１斜面部Ｅ９１３３には、振分通路Ｅ１５０を変位させるための複数（本実施形態では４個）の円柱体Ｅ２０１と、カバーＥ９２０２とが配設される。

【３７３６】

円柱体Ｅ２０１は、溝部Ｅ９１３３ｃに沿って（平行に）配設され、カバーＥ９２０２は、円柱体Ｅ２０１に対応する位置に円柱体Ｅ２０１の外形よりもやや大きな孔が穿設され、挿通孔Ｅ９１３３ａに対応する位置に挿通孔Ｅ９１３３ａの外形と略同等またはやや大きな孔が穿設される。

【３７３７】

溝部Ｅ９１３３ｃは、挿通孔Ｅ９１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に

一対形成される。
【３７３８】
挿通孔Ｅ９１３３ａ及び一対の溝部Ｅ９１３３ｃは、ベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に非平行に延設される。詳細には、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側に向かうにつれて前方（矢印Ｆ方向）に傾斜して延設される。従って、振分通路Ｅ１５０（図２６５参照）は、溝部Ｅ９１３３ｃの延設方向に沿って（平行に）変位される。
【３７３９】
即ち、振分通路Ｅ１５０が第１位置から第２位置へ変位する場合、振分通路Ｅ１５０は中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側へ変位すると共に、後方側（矢印Ｂ方向側）へ変位される。これにより、振分通路Ｅ１５０の上面を移動（流下、転動）する球の前方側（矢印Ｆ方向側）に振分通路Ｅ１５０の突起部Ｅ１５１（図２６５参照）を当接させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向を後方側（矢印Ｂ方向側）へ変化（変更）させ易くできる。その結果、球が介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ送球し難くできる。
【３７４０】
一方、振分通路Ｅ１５０が第２位置から第１位置へ変位する場合、振分通路Ｅ１５０は湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０へ変位すると共に、前方側（矢印Ｆ方向側）へ変位される。これにより、振分通路Ｅ１５０の上面を移動（流下、転動）する球の後方側（矢印Ｂ方向側）に振分通路Ｅ１５０の突起部Ｅ１５１を当接させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向を前方側（矢印Ｆ方向側）へ変化（変更）させ易くできる。その結果、球が介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）へ送球し易くできる。
【３７４１】
なお、係合凹部Ｅ１５３ａ（図２７０（ａ）参照）に第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃが挿入されて係合されるため、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の変位（往復動）に対し振分通路Ｅ１５０が非平行、即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位（往復動）する場合においても係合凹部Ｅ１５３ａと係合部Ｅ１９４ｃとの係合を維持できる。
【３７４２】
このように、振分通路Ｅ１５０が第１位置から第２位置へ変位する場合と第２位置から第１位置へ変位する場合とで、球の移動（流下、転動）し易い方向を変化（変更）できるため、球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）を多様とできる。
【３７４３】
図２８３（ｂ）に示すように、第７６実施形態におけるベース部材Ｅ１０１３０は、上面視横長略矩形に形成され、その長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に形成される一対の湾曲部Ｅ１３１と、その湾曲部Ｅ１３１の外縁から立設される板状の壁板Ｅ１３２と、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間に形成される一対の第１斜面部Ｅ１０１３３と、その一対の第１斜面部Ｅ１０１３３の対向間に形成される一対の取付け部Ｅ１３４と、その一対の取付け部Ｅ１３４の対向間に形成される第２斜面部Ｅ１３５と、ベース部材Ｅ１０１３０の正面から立設される一対の板状の張出し部Ｅ１３６と、一対の湾曲部Ｅ１３１どうしを連結して形成される板状の背面板Ｅ１３７と、を備える（図２６３参照）。
【３７４４】
第１斜面部Ｅ１０１３３は、上面視横長略矩形の板状体であり、湾曲部Ｅ１３１側の端部が湾曲部Ｅ１３１の下面から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に所定の間隔を隔てた位置に配設される。また、第１斜面部Ｅ１０１３３は、湾曲部Ｅ１３１から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して形成される。第１斜面部Ｅ１０１３３には、挿通孔Ｅ１０１３３ａと、規制部Ｅ１３３ｂ（図２７０（ｂ）、図２７１（ｂ）参照）と、溝部Ｅ１０１３３ｃとが形成される。
【３７４５】
第１斜面部Ｅ１０１３３には、振分通路Ｅ１５０を変位させるための複数（本実施形態では４個）の円柱体Ｅ２０１と、カバーＥ１０２０２とが配設される。

【３７４６】
カバーＥ１０２０２は、円柱体Ｅ２０１に対応する位置に円柱体Ｅ２０１の外形よりもやや大きな孔が穿設され、挿通孔Ｅ１０１３３ａに対応する位置に挿通孔Ｅ１０１３３ａの外形と略同等またはやや大きな孔が穿設される。
【３７４７】
挿通孔Ｅ１０１３３ａは、第６７実施形態における挿通孔Ｅ１３３ａに対し前後方向の幅（開口部）が大きく形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０（図２６５参照）が長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位（往復動）すると共に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位（往復動）する場合においても、挿通孔Ｅ１０１３３ａと被係合部Ｅ１５３（図２７０（ａ）参照）とが当接することを抑制できる。
【３７４８】
溝部Ｅ１０１３３ｃは、第１斜面部Ｅ１０１３３に垂直な方向視において曲線が組み合わされた形状に形成される。また、溝部Ｅ１０１３３ｃは、挿通孔Ｅ１０１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に一対形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０が第１位置から第２位置および第２位置から第１位置へ変位する場合において、振分通路Ｅ１５０を長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位させると共に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させることができる。その結果、振分通路Ｅ１５０が第１位置から第２位置および第２位置から第１位置へ変位する過程において振分通路Ｅ１５０を前方側（矢印Ｆ方向側）へ変位させる態様と後方側（矢印Ｂ方向側））へ変位させる態様と作り出すことができ、球の移動（流下、転動）し易い方向の変化（変更）の回数を多くできる。
【３７４９】
なお、係合凹部Ｅ１５３ａ（図２７０（ａ）参照）に第１伝達部材Ｅ１９４の係合部Ｅ１９４ｃが挿入されて係合されるため、第１伝達部材Ｅ１９４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の変位（往復動）に対し振分通路Ｅ１５０が非平行、即ち、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位（往復動）する場合においても係合凹部Ｅ１５３ａと係合部Ｅ１９４ｃとの係合を維持できる。
【３７５０】
次いで、図２８４（ａ）及び図２７３を参照して、第７７実施形態における振分通路Ｅ１１１５０について説明する。
【３７５１】
上記第６８実施形態では、平面部Ｅ２１３３に対し前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を回動軸として振分通路Ｅ２１５０が回動される場合を説明したが、第７７実施形態では、平面部Ｅ２１３３に対し上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として振分通路Ｅ１１１５０が回動される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【３７５２】
図２８４（ａ）は、第７７実施形態における振分通路Ｅ１１１５０の正面斜視図である。振分通路Ｅ１１１５０は、第６８実施形態における振分通路Ｅ２１５０の支持部Ｅ２１５０ｂの配設個数および配設位置が異なる以外は振分通路Ｅ２１５０と同一に形成されるため、振分通路Ｅ１１１５０の支持部Ｅ１１１５０ｂ以外の説明は省略する。
【３７５３】
図２８４（ａ）に示すように、振分通路Ｅ１１１５０の支持部Ｅ１１１５０ｂは、振分通路Ｅ１１１５０の中央通路Ｅ１６０側における下面から中央通路Ｅ１６０側に向けて突出して形成される。支持部Ｅ１１１５０ｂは、振分通路Ｅ１１１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における略中央に配設される。
【３７５４】
支持部Ｅ１１１５０ｂには、支持部Ｅ２１５０ｂに穿設される挿通孔と略同等の挿通孔、即ち、支持軸Ｅ２０ｊの外形よりもやや大きな挿通孔が支持部Ｅ１１１５０ｂの上面に垂直な方向に穿設される。
【３７５５】

これにより、第７７実施形態における下側フレームＥ１１０８６ｂでは、平面部Ｅ２１３３に対し上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として振分通路Ｅ１１１５０を回動できる。詳細には、支持部Ｅ１１１５０ｂに穿設された挿通孔の軸心を回動軸として振分通路Ｅ１１１５０の湾曲部Ｅ１３１側を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位させることができる。これにより、振分通路Ｅ１１１５０の転動面Ｅ２１５１を移動（流下、転動）する球に前後方向への速度成分を付与でき、球の移動（流下、転動）を多様化できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向の変化が単調となることを抑制でき、遊技の興趣を向上できる。

【３７５６】

次いで、図２８４（ｂ）から図２８４（ｅ）を参照して、第７８実施形態から第８１実施形態における振分通路Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０について説明する。なお、第７８実施形態から第８１実施形態においては適宜、図２６１を参照して説明する。

【３７５７】

上記第６７実施形態では、突起部Ｅ１５１が振分通路Ｅ１５０に垂直な方向視において略六角形状に形成される場合を説明したが、第７８実施形態から第８１実施形態における振分通路Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の突起部Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１は、その形状が様々な態様に形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３７５８】

図２８４（ｂ）は、第７８実施形態における振分通路Ｅ１２１５０の振分通路Ｅ１２１５０に垂直な方向視の図であり、図２８４（ｃ）は、第７９実施形態における振分通路Ｅ１３１５０の振分通路Ｅ１３１５０に垂直な方向視の図であり、図２８４（ｄ）は、第８０実施形態における振分通路Ｅ１２１５０の部分拡大断面図であり、図２８４（ｅ）は、第８１実施形態における振分通路Ｅ１３１５０の部分拡大断面図である。なお、図２８４（ｄ）及び図２８４（ｅ）は、図２７１のＣＣＬＸＸＩＩａ－ＣＣＬＸＸＩＩａ線における断面に対応する。また、突起部Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１は、振分通路Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の上面に規則的に配設されるため、その一部のみを図示する。

【３７５９】

図２８４（ｂ）に示すように、第７８実施形態における振分通路Ｅ１２１５０の突起部Ｅ１２１５１は、振分通路Ｅ１２１５０の上面から球状に突出して形成される。これにより、振分通路Ｅ１２１５０の上面を移動（流下、転動）する球を突起部Ｅ１２１５１の外面に沿わせて移動（流下、転動）させることができ、球が傾斜方向上昇側へ変位（逆流、転動）することを抑制できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【３７６０】

なお、突起部Ｅ１２１５１どうしの対向間距離は、球の直径よりも大きく形成される。これにより、球は、振分通路Ｅ１２１５０に留まることを抑制でき、振分通路Ｅ１２１５０の湾曲部Ｅ１３１側の端部から中央通路Ｅ１６０側の端部へ向けて振分通路Ｅ１２１５０の傾斜方向に沿って（平行に）移動（流下、転動）できる。その結果、球が振分通路Ｅ１２１５０に留まることを抑制するために、振分通路Ｅ１２１５０を複雑な軌跡で変位させることや、大きな変位量や変位速度で変位させることを抑制でき、駆動手段Ｅ１９０を簡素化できる。

【３７６１】

図２８４（ｃ）に示すように、第７９実施形態における振分通路Ｅ１３１５０の突起部Ｅ１３１５１は、振分通路Ｅ１３１５０の上面から突出され、振分通路Ｅ１３１５０に垂直な方向視において略ひし形（四角形）状に形成される。また、突起部Ｅ１３１５１は、第６７実施形態における突起部Ｅ１５１と同様、四角錐の頭頂点側の一部が切り取られた

態様に形成される。言い換えると、振分通路Ｅ１３１５０に平行な平面での断面積が、振分通路Ｅ１３１５０の上面から離れるに従い小さく形成される。

【３７６２】

これにより、第６７実施形態における突起部Ｅ１５１に対し傾斜方向に沿って（平行に）形成される直線部を省略できるため、振分通路Ｅ１３１５０の上面において傾斜方向への球の移動（流下、転動）を少なくできる。言い換えると、振分通路Ｅ１３１５０の上面において傾斜方向に垂直な方向への球の移動（流下、転動）を多くできる。その結果、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）、第2斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）もしくは介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）のいずれかに案内されるまでに球の移動（流下、転動）方向の変化（変更）回数を増やすことができ、遊技の興趣を向上できる。

【３７６３】

図２８４（ｄ）に示すように、第８０実施形態における振分通路Ｅ１４１５０の突起部Ｅ１４１５１は、振分通路Ｅ１４１５０の上面から円錐状に突出して形成される。これにより、振分通路Ｅ１４１５０の上面を移動（流下、転動）する球を突起部Ｅ１４１５１の外面に沿わせて移動（流下、転動）させることができると共に、突起部Ｅ１４１５１を乗り越えて球が移動（流下、転動）することを抑制できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくできると共に、突起部Ｅ１４１５１による球の移動（流下、転動）方向の変化が単調となることを抑制でき、遊技の興趣を向上できる。

【３７６４】

図２８４（ｅ）に示すように、第８１実施形態における振分通路Ｅ１５１５０の突起部Ｅ１５１５１は、その側面が、突起部Ｅ１５１５１の中心に向けて凹設される。これにより、振分通路Ｅ１５１５０の上面を移動（流下、転動）する球が、突起部Ｅ１５１５１を乗り越え易くでき、球の移動（流下、転動）方向を多様とできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【３７６５】

次いで、図２８５（ａ）を参照して、第８２実施形態における下側フレームＥ１６０８６ｂについて説明する。

【３７６６】

上記第７０実施形態では、第２振分通路Ｅ４１５０の上面に突起部Ｅ１５１が形成され、球の流下（転動）方向が変化（変更）される場合を説明したが、第８２実施形態では、球が特定の位置へ向けて流下（転動）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３７６７】

図２８５（ａ）は、第８２実施形態における下側フレームＥ１６０８６ｂの部分拡大上面図である。なお、図２８５（ａ）は、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態が図示される。

【３７６８】

第８２実施形態おける下側フレームＥ１６０８６ｂは、第７０実施形態おける下側フレームＥ４０８６ｂに対し、第２振分通路Ｅ４１５０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、第２振分通路Ｅ１６１５０についてのみ説明する。

【３７６９】

図２８５（ａ）に示すように、第２振分通路Ｅ１６１５０は、正面視において振分通路Ｅ１５０に対し平行に配設される、即ち、第２振分通路Ｅ１６１５０は、壁板Ｅ１３２から取付け部Ｅ１３４へ向けて下降傾斜して配設される（図２７７（ａ）参照）。第２振分通路Ｅ１６１５０は、第２振分通路Ｅ１６１５０に垂直な方向視において略矩形の板状体に形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の長さは、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側における前後方向の長さと略同一に形成される。これにより、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態において、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過する球を第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）できる。言い換えると、振分通路Ｅ１

５０の介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）の端部、もしくは振分通路Ｅ１５０の切欠き部Ｅ１５０ａから流下した球が第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）されることを抑制できる。

【３７７０】

第２振分通路Ｅ１６１５０の外縁には、案内部Ｅ１６１５４が立設され、案内部Ｅ１６１５４には案内切欠き部Ｅ１６１５４ａが中央通路Ｅ１６０側に切欠き形成される。案内切欠き部Ｅ１６１５４ａは球の直径よりもやや大きく形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において中央通路Ｅ１６０（架設通路Ｅ１６１）に対応する位置に形成される。これにより、第２振分通路Ｅ１６１５０の案内切欠き部Ｅ１６１５４ａを通過した（第２振分通路Ｅ１６１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切った）球を中央通路Ｅ１６０（架設通路Ｅ１６１、第４通路ＥＲｔ４）へ送球（案内、落下）できる。

【３７７１】

また、案内部Ｅ１６１５４により、第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）された球が案内切欠き部Ｅ１６１５４ａ以外から送球（案内、落下）することを抑制でき、より確実に中央通路Ｅ１６０（架設通路Ｅ１６１、第４通路ＥＲｔ４）へ送球（案内、落下）できる。これにより、第２振分通路Ｅ１６１５０は、振分通路Ｅ１５０よりも球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）できる。

【３７７２】

このように、本実施形態においては、振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置される、即ち、振分通路Ｅ１５０から第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）可能な状態において、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過する球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）でき、遊技の興趣を高めることができる（図２６０参照）。

【３７７３】

一方、振分通路Ｅ１５０の介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）の端部、もしくは振分通路Ｅ１５０の切欠き部Ｅ１５０ａから流下した球が第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）されることを抑制できる。これにより、遊技者に球が振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過すること期待させることができる。

【３７７４】

また、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態においては、振分通路Ｅ１５０の端部から流下した球が第２振分通路Ｅ１６１５０に送球（案内）されることを抑制できる。これにより、遊技者に振分通路Ｅ１５０が第２位置に配置された状態において球が振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過することを期待させることができる。その結果、遊技性を多様化でき、遊技の興趣を高めることができる。

【３７７５】

次いで、図２８５（ｂ）を参照して、第８３実施形態における下側フレームＥ１７０８６ｂについて説明する。

【３７７６】

上記第７１実施形態では、第３振分通路Ｅ５１５０の上面に突起部Ｅ１５１が形成され、球の流下（転動）方向が変化（変更）される場合を説明したが、第８３実施形態では、球が特定の位置へ向けて流下（転動）される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【３７７７】

図２８５（ｂ）は、第８３実施形態における下側フレームＥ１７０８６ｂの部分拡大上面図である。なお、図２８５（ｂ）は、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態が図示される。

【３７７８】

第８３実施形態おける下側フレームＥ１７０８６ｂは、第７１実施形態おける下側フレームＥ５０８６ｂに対し、第３振分通路Ｅ５１５０が異なる以外は同一の構成により形成されるため、第３振分通路Ｅ１７１５０についてのみ説明する。

【３７７９】
図２８５（ｂ）に示すように、第３振分通路Ｅ１７１５０は、上面視において略直線状の通路として左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って延設されると共に、その延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成される。また、第３振分通路Ｅ１７１５０は、背面板Ｅ５１３７側（矢印Ｂ方向側）から介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して配設される。
【３７８０】
第３振分通路Ｅ１７１５０の外縁には、案内部Ｅ１７１５４が立設され、案内部Ｅ１７１５４には案内切欠き部Ｅ１７１５４ａが介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に切欠き形成される。案内切欠き部Ｅ１７１５４ａは球の直径よりもやや大きく形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において中央通路Ｅ１６０の上方孔Ｅ１６２に対応する位置に形成される。これにより、案内切欠き部Ｅ１７１５４ａを通過した（第２振分通路Ｅ１６１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に渡り切った）球を上方孔Ｅ１６２（第４通路ＥＲｔ４）、もしくは、中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球（案内、落下）できる。
【３７８１】
また、案内部Ｅ１７１５４により、第３振分通路Ｅ１７１５０に送球（案内）された球が案内切欠き部Ｅ１７１５４ａ以外から送球（案内、落下）することを抑制でき、より確実に上方孔Ｅ１６２（第４通路ＥＲｔ４）もしくは中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球（案内、落下）できる。これにより、第３振分通路Ｅ１７１５０は、振分通路Ｅ１５０よりも球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）できる。
【３７８２】
このように、本実施形態においては、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過し、且つ、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第３振分通路Ｅ１７１５０に送球（案内）された球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）でき、遊技の興趣を高めることができる（図２６０参照）。
【３７８３】
なお、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態においては、第３振分通路Ｅ１７１５０から上方孔Ｅ１６２（第４通路ＥＲｔ４）に送球（案内）でき、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態においては、第３振分通路Ｅ１７１５０から中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）に送球（案内）できる。即ち、振分通路Ｅ１５０が第１位置および第２位置のどちらに配置された状態においても、球を第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）できる。
【３７８４】
一方、振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過したものの、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）および第３振分通路Ｅ１７１５０に送球（案内）されなかった球、即ち、第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）に送球（案内）された球は、第１入賞口６４へ入賞し難く（第１入賞口６４へ入賞する確率を低く）される。これにより、遊技者に球が振分通路Ｅ１５０の中央通路Ｅ１６０側の端部を通過することに加え、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）もしくは第３振分通路Ｅ１７１５０に送球（案内）されることを期待させることができる。その結果、遊技性を多様化でき、遊技の興趣を高めることができる。
【３７８５】
次いで、図２８６から図３０３を参照して、第８４実施形態におけるセンターフレームＦ８６について説明する。
【３７８６】
図２８６は、第８４実施形態における遊技盤Ｆ１３の正面図である。図２８６に示すように、センターフレームＦ８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図７参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上

側フレームＦ８６ａと下側フレームＦ８６ｂとを備える。
【３７８７】
上側フレームＦ８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図７参照）における上側（図２８６上側）及び左右（図２８６左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＦ８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図２８６下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＦ８６ａ及び下側フレームＦ８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１（図１４４参照）が視認可能とされる。
【３７８８】
なお、上側フレームＦ８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図２８６下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＦ８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる（図１４４参照）。
【３７８９】
次いで、図２８６に加え、図２８７から図２８８を参照して下側フレームＦ８６ｂについて説明する。図２８７は、下側フレームＦ８６ｂの正面斜視図であり、図２８８は、下側フレームＦ８６ｂの背面斜視図である。なお、図２８７から図２８８では、ベース板６０の一部のみが部分的に図示されると共に、ベース板６０に下側フレームＦ８６ｂを締結固定するタッピングネジの図示が省略される。また、図２８７から図３０３についても同様である。
【３７９０】
図２８６から図２８８に示すように、下側フレームＦ８６ｂには、球が移動（流下、転動）可能に形成される第１通路ＦＲｔ１と、その第１通路ＦＲｔ１を案内された球が移動（流下、転動）される第２通路ＦＲｔ２及び一対の第３通路ＦＲｔ３と、第２通路ＦＲｔ２若しくは一対の第３通路ＦＲｔ３の一端側を案内された球が移動（流下、転動）される第４通路ＦＲｔ４と、一対の第３通路ＦＲｔ３の他端側もしくは第４通路ＦＲｔ４を案内された球が移動（流下、転動）される第５通路ＦＲｔ５と、第５通路ＦＲｔ５を案内された球が流下される第６通路ＦＲｔ６と、第１入賞口６４を案内された球が移動（流下、転動）される第７通路ＦＲｔ７と、第５通路ＦＲｔ５を案内された球が第６通路ＦＲｔ６へ案内（流入、送球）される開口として形成される流入口ＦＯＰｆ１（図２８９参照）と、第６通路ＦＲｔ６を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＦＯＰｏｕｔ１と、第７通路ＦＲｔ７を案内された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＦＯＰｏｕｔ２とが形成される。
【３７９１】
なお、一対の第３通路ＦＲｔ３は、遊技盤Ｆ１３の幅方向（図２８６左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２８６左右対称）に配設される。
【３７９２】
上側フレームＦ８６ａには、上側フレーム通路ＦＲｔ０が配設される（図２８６参照）。上側フレーム通路ＦＲｔ０は、遊技領域を流下する球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＦＲｔ０の下流端に第１通路ＦＲｔ１の上流端が連通される。
【３７９３】
即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ０に流入（入球）した球は、第１通路ＦＲｔ１の上流端を介して、上側フレーム通路ＦＲｔ０から下側フレームＦ８６ｂの第１通路ＦＲｔ１へ流入（入球）される。なお、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ０に流入（入球）した球は、上側フレーム通路ＦＲｔ０から下側フレームＦ８６ｂの第１通路ＦＲｔ１若しくは第５通路ＦＲｔ５へ流入（入球）されても良い。
【３７９４】
ここで、第６通路ＦＲｔ６の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第５通路ＦＲｔ５の流入口ＦＯＰｆ１（図２８９参照）を通過して第５通路ＦＲｔ５

から第６通路ＦＲｔ６へ振り分けられた（案内された）球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【３７９５】

なお、第５通路ＦＲｔ５には、第１入賞口６４に対して遊技盤Ｆ１３の幅方向（図２８６左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ１１２ｂが形成（配置）される。そのため、第５通路ＦＲｔ５の流出面Ｆ１１２ｂへ案内（送球、流下）される球は、遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した流入口ＦＯＰｆ１を通過して第５通路ＦＲｔ５から第６通路ＦＲｔ６へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【３７９６】

また、第５通路ＦＲｔ５には、起伏Ｆ１１２ａが形成され、起伏Ｆ１１２ａの底部に流出面Ｆ１１２ｂが形成される。また、起伏Ｆ１１２ａの頂部は、流入口ＦＯＰｆ１（図２８９参照）へ向けて下降傾斜される。従って、第５通路ＦＲｔ５のうち、起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられ、第５通路ＦＲｔ５の延設方向（図２８６左右方向）に沿って移動（流下、転動）される球は、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）されるよりも流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【３７９７】

一方、起伏Ｆ１１２ａの頂部の上方から起伏Ｆ１１２ａの頂部へ振り分けられた球は、流入口ＦＯＰｆ１（図２８９参照）へ向けての下降傾斜に沿って第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【３７９８】

第１通路ＦＲｔ１には、その第１通路ＦＲｔ１を案内される球を第２通路ＦＲｔ２、第３通路ＦＲｔ３へ案内するために正面側（図２８６紙面手前側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第１流出面Ｆ１１４ａ、第２流出面Ｆ１１４ｂがそれぞれ形成（配置）される。第２流出面Ｆ１１４ｂは、第１流出面Ｆ１１４ａに対して遊技盤Ｆ１３の幅方向（図２８６左右方向）に位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。

【３７９９】

なお、第１通路ＦＲｔ１には、起伏が形成され、起伏の底部に第２流出面Ｆ１１４ｂが形成され、起伏の頂部に第１流出面Ｆ１１４ａが形成される。従って、第１通路ＦＲｔ１へ振り分けられた球は、第１流出面Ｆ１１４ａから第２通路ＦＲｔ２へ送球されるよりも第２流出面Ｆ１１４ｂから第３通路ＦＲｔ３へ流出され易い。

【３８００】

第２通路ＦＲｔ２には、その第２通路ＦＲｔ２を案内される球を第４通路ＦＲｔ４へ案内するために第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂ（図２９３参照）が形成（配置）される。第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂは、上面視において、第４通路ＦＲｔ４の第１振り分け孔Ｆ１６１ａに重なる位置に配置される。これにより、第２通路ＦＲｔ２にへ振り分けられた球は、第４通路ＦＲｔ４の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過し易い。

【３８０１】

第４通路ＦＲｔ４には、その第４通路ＦＲｔ４を案内される球を第５通路ＦＲｔ５へ案内するために第１振り分け孔Ｆ１６１ａ及び複数（本実施形態においては２箇所）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂがそれぞれ形成（配置）される。

【３８０２】

第１振り分け孔Ｆ１６１ａは、第５通路ＦＲｔ５の起伏Ｆ１１２ａの頂部の上方に形成（配置）され、複数の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、遊技盤Ｆ１３の幅方向（図２８６左右方向）において、第５通路ＦＲｔ５の起伏Ｆ１１２ａの頂部と底部（流出面Ｆ１１２ｂ）との間にそれぞれ配置される。

【３８０３】

従って、第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過した球は、第５通路ＦＲｔ５において、流入

口ＦＯＰｆ１（図２８９参照）へ向けての起伏Ｆ１１２ａの下降傾斜に沿って移動（流下、転動）し、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易く（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させやすく）できる。従って、第２通路ＦＲｔ２に振り分けられた球は、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い。

【３８０４】

一方、複数の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過した球は、第５通路ＦＲｔ５において、その第５通路ＦＲｔ５の延設方向（図２８６左右方向）に沿って起伏Ｆ１１２ａの頂部から底部（流出面Ｆ１１２ｂ）へ向けて移動（流下、転動）し、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出され易い（本実施形態では、第１入賞口６４に球を入賞させ難い）。

【３８０５】

第３通路ＦＲｔ３には、その第３通路ＦＲｔ３を案内される球を第４通路ＦＲｔ４或いは第５通路ＦＲｔ５へ振り分ける（案内する）ために第３通路流出面Ｆ１３１ａ、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄがそれぞれ形成（配置）される。

【３８０６】

第３通路流出面Ｆ１３１ａは、第３通路ＦＲｔ３の延設方向において第４通路ＦＲｔ４側に形成され、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄは、第４通路ＦＲｔ４（第３通路流出面Ｆ１３１ａ）とは反対側に形成される。また、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄは、第５通路ＦＲｔ５の起伏Ｆ１１２ａの頂部および底部に対して遊技盤Ｆ１３の幅方向（図２８６左右方向）に位置を異ならせて形成される。従って、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄを通過して第５通路ＦＲｔ５へ振り分けられた球は、第５通路ＦＲｔ５の延設方向（図２８６左右方向）に沿って移動（流下、転動）する。

【３８０７】

また、第３通路ＦＲｔ３には起伏が形成され、起伏の頂部は、第１通路ＦＲｔ１の第２流出面Ｆ１１４ｂの鉛直方向（図２８６上下方向）における位置が最も低い位置よりも第４通路ＦＲｔ４側に配置される。従って、第３通路ＦＲｔ３へ振り分けられた（案内された）球は、第３通路流出面Ｆ１３１ａから第４通路ＦＲｔ４へ振り分けられる（案内される）よりも第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄから第５通路ＦＲｔ５へ振り分けられ（案内され）易い。

【３８０８】

第７通路ＦＲｔ７には、球の重さにより変位（回転）する可動通路Ｆ１９３が配設される（図３００参照）。可動通路Ｆ１９３の変位（回転）に連動して演出手段Ｆ１２０が動作することで、球が第７通路ＦＲｔ７に案内された（球が第１入賞口６４へ入賞された）ことを遊技者に視認させ易くできる。

【３８０９】

下側フレームＦ８６ｂには、球の重さにより変位（回転）する変位部材Ｆ１３０及びその変位部材Ｆ１３０の動作に連動する確定通路Ｆ１４０が配設される。なお、確定通路Ｆ１４０の一対の遮断部Ｆ１４３ａは、正面視において、流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも内側に配置され（図２９７参照）、第５通路ＦＲｔ５を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ１を通過し難い（第６通路ＦＲｔ６へ振り分けられ難い）。言い換えると、一対の遮断部Ｆ１４３ａは、第５通路ＦＲｔ５を移動（流下、転動）する球が流入口ＦＯＰｆ１を通過することを妨げ易い位置に配設される。

【３８１０】

なお、変位部材Ｆ１３０は、第３通路ＦＲｔ３に案内された球が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて移動（流下、転動）することで動作する。確定通路Ｆ１４０は、変位部材Ｆ１３０の動作に連動することで変位し、動作後においては、正面視、一対の遮断部Ｆ１４３ａは、流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも外側へ変位される（図２９８参照）。

【３８１１】

なお、本実施形態では、確定通路Ｆ１４０の遮断部Ｆ１４３ａが流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも内側に配置されることを確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を閉塞させる、遮断部Ｆ１４３ａが流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも外側へ変位されることを確定通路Ｆ１４０が

流入口ＦＯＰｆ１を開放させる、とそれぞれ定義する。
【３８１２】
従って、第３通路ＦＲｔ３に振り分けられた球が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて移動（流下、転動）することで確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を開放させた状態では（図２９８参照）、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離が大きくされる方向へ一対の遮断部Ｆ１４３ａが変位される。これにより、第５通路ＦＲｔ５を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ１を通過して第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。
【３８１３】
なお、確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を閉塞させた状態では（図２９７参照）、第３通路ＦＲｔ３の第３通路流出面Ｆ１３１ａから第４通路ＦＲｔ４へ案内（送球、流下）された球が第４通路ＦＲｔ４の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過する確率は、第３通路ＦＲｔ３の第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄから第５通路ＦＲｔ５へ案内（送球、流下）された球が第５通路ＦＲｔ５の流入口ＦＯＰｆ１を通過する確率よりも高く設定される。従って、第３通路ＦＲｔ３へ振り分けられた球は、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄよりも第３通路流出面Ｆ１３１ａへ向けて移動（流下、転動）する方が流入口ＦＯＰｆ１を通過して第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。
【３８１４】
このように、本実施形態における下側フレームＦ８６ｂは、第１通路ＦＲｔ１をその延設方向に沿って移動（流下、転動）する球が第２通路ＦＲｔ２に振り分けられる（案内される）ことで、第１入賞口６４に入賞し易く（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させ易く）できる。
【３８１５】
また、確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を閉塞させた状態において（図２９７参照）、第１通路ＦＲｔ１をその延設方向に沿って移動（流下、転動）する球が第３通路ＦＲｔ３に振り分けられ（案内され）、次いで、第３通路流出面Ｆ１３１ａから第４通路ＦＲｔ４に振り分けられる（案内される）ことで、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄから第５通路ＦＲｔ５に振り分けられる（案内される）場合よりも第１入賞口６４に入賞し易くできる。
【３８１６】
また、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄから第５通路ＦＲｔ５に振り分けられ（案内され）、第５通路ＦＲｔ５の延設方向に沿って球が移動（流下、転動）している状態において、その第５通路ＦＲｔ５を移動（流下、転動）する球の後続となる球が第３通路ＦＲｔ３を第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて移動（流下、転動）する（変位部材Ｆ１３０を動作させ、確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を開放させる）ことで、第５通路ＦＲｔ５を移動する（第３通路ＦＲｔ３を第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて移動する球の先行となる）球を第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）させ易くできる（第１入賞口６４に入賞し易くできる）。
【３８１７】
よって、第４通路ＦＲｔ４の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを非通過の球（第１入賞口６４へ入賞する確率が低い球）であっても、変位部材Ｆ１３０を変位（回転）させる（確定通路Ｆ１４０が流入口ＦＯＰｆ１を開放させる）ことで球を第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率が高められる）。これにより、第５通路ＦＲｔ５の延設方向に沿って球が移動（流下、転動）している状態において、変位部材Ｆ１３０を移動（流下、転動）する球の有無を遊技者に意識させ、遊技の興趣を高めることができる。
【３８１８】
次いで、図２８７から図２８８に加え、図２８９から図２９６を参照して、下側フレームＦ８６ｂの詳細構成について説明する。
【３８１９】
図２８９は、下側フレームＦ８６ｂの分解正面斜視図であり、図２９０は、下側フレー

ムＦ８６ｂの分解背面斜視図である。図２９１（ａ）は、確定通路Ｆ１４０の分解正面斜視図であり、図２９１（ｂ）は、駆動手段Ｆ１８０の分解正面斜視図であり、図２９２（ａ）は、確定通路Ｆ１４０の分解背面斜視図であり、図２９２（ｂ）は、駆動手段Ｆ１８０の分解背面斜視図である。図２９３は、下側フレームＦ８６ｂの上面図であり、図２９４は、下側フレームＦ８６ｂの正面図であり、図２９５は、下側フレームＦ８６ｂの背面図である。図２９６（ａ）は、図２９４の矢印ＣＣＸＣＶＩａ方向視における下側フレームＦ８６ｂの側面図であり、図２９６（ｂ）は、図２９４の矢印ＣＣＸＣＶＩｂ方向視における下側フレームＦ８６ｂの側面図であり、図２９６（ｃ）は、図２９４のＣＣＸＣＶＩｃ－ＣＣＸＣＶＩｃ線における下側フレームＦ８６ｂの断面図である。

【３８２０】

図２８７から図２９６に示すように、下側フレームＦ８６ｂは、通路部材Ｆ１１０と、その通路部材Ｆ１１０の正面板Ｆ１１１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される演出手段Ｆ１２０と、その演出手段Ｆ１２０に変位（回転）可能に係合（支持）され、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される一対の変位部材Ｆ１３０と、演出手段Ｆ１２０の背面側に配設される確定通路Ｆ１４０と、その確定通路Ｆ１４０の背面側に配設される背面部材Ｆ１５０と、その背面部材Ｆ１５０に固定され、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の正面側に配設される振分通路Ｆ１６０と、その振分通路Ｆ１６０に固定され、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の正面側に配設される第２通路部材Ｆ１７０と、背面部材Ｆ１５０の背面側に配設される駆動手段Ｆ１８０と、を備える。

【３８２１】

通路部材Ｆ１１０及び演出手段Ｆ１２０には流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び下方孔Ｆ１２１ａがそれぞれ形成され、それら流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び下方孔Ｆ１２１ａに確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂが挿通される。また、通路部材Ｆ１１０及び演出手段Ｆ１２０には第１切欠き部Ｆ１１３ｂ及び上方孔Ｆ１２１ｂがそれぞれ形成され、第１切欠き部Ｆ１１３ｂ及び上方孔Ｆ１２１ｂに振分通路Ｆ１６０の固定部Ｆ１６２が挿通される。

【３８２２】

変位部材Ｆ１３０は、演出手段Ｆ１２０に変位（回転）可能に係合（支持）される。変位部材Ｆ１３０には、確定通路Ｆ１４０の連結部材Ｆ１４５が回転不能に係合（固着）されており、変位部材Ｆ１３０が変位（回転）することで連結部材Ｆ１４５が変位（回転）する。これにより、確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３（遮断部Ｆ１４３ａ）が流入口ＦＯＰｆ１を開放させる。

【３８２３】

また、駆動手段Ｆ１８０には、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２が係合されており、駆動手段Ｆ１８０が駆動することで可動部材Ｆ１２２が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に往復動する。

【３８２４】

また、通路部材Ｆ１１０には背面部材Ｆ１５０がタッピングネジにより締結固定される。演出手段Ｆ１２０、確定通路Ｆ１４０、振分通路Ｆ１６０及び駆動手段Ｆ１８０は、タッピングネジにより背面部材Ｆ１５０にそれぞれ締結固定され、第２通路部材Ｆ１７０は、タッピングネジにより振分通路Ｆ１６０に締結固定される。これらにより、下側フレームＦ８６ｂは、一つ（単体）のユニットとして構成される（図２８７、図２８８参照）。

【３８２５】

また、通路部材Ｆ１１０の下方側（矢印Ｄ方向側）であって、演出手段Ｆ１２０の正面側（矢印Ｆ方向側）には、第７通路Ｆ１９０がタッピングネジによりベース板６０に締結固定される。

【３８２６】

下側フレームＦ８６ｂは、通路部材Ｆ１１０、背面部材Ｆ１５０、振分通路Ｆ１６０及び第２通路部材Ｆ１７０が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、演出手段Ｆ１２０、変位部材Ｆ１３０、確定通路Ｆ１４０及び駆動手

段Ｆ１８０が有色の樹脂材料から構成される。また、第７通路Ｆ１９０は、光透過性の樹脂材料から構成される。

【３８２７】

なお、変位部材Ｆ１３０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される壁部Ｆ１３２の上端は、変位部材Ｆ１３０を移動（流下、転動）する球の上端よりも低く形成される。よって、第１通路ＦＲｔ１から第７通路ＦＲｔ７を移動する球を遊技者に視認させると共に、変位部材Ｆ１３０、演出手段Ｆ１２０及び確定通路Ｆ１４０の動作を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【３８２８】

なお、演出手段Ｆ１２０、変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ１４０は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【３８２９】

また、一方で、下側フレームＦ８６ｂは、駆動手段Ｆ１８０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される演出手段Ｆ１２０が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、駆動手段Ｆ１８０が遊技者に視認不能とされる。なお、駆動手段Ｆ１８０は、演出手段Ｆ１２０が光透過性の樹脂材料から構成されることで、駆動手段Ｆ１８０が遊技者に視認可能となるように構成されても良い。

【３８３０】

通路部材Ｆ１１０は、第１通路ＦＲｔ１及び第５通路ＦＲｔ５を形成するためのものであり、正面を形成する板状の正面板Ｆ１１１と、その正面板Ｆ１１１の背面から突設される下側通路Ｆ１１２と、その下側通路Ｆ１１２の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設される立て壁部Ｆ１１３と、その立て壁部Ｆ１１３の背面から突設される上側通路Ｆ１１４と、下側通路Ｆ１１２及び上側通路Ｆ１１４の左右方向両端側の端部から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に突設される一対の留め部Ｆ１１５と、を備える。

【３８３１】

背面部材Ｆ１５０、立て壁部Ｆ１１３及び上側通路Ｆ１１４により区画された空間により第１通路ＦＲｔ１が形成され、正面板Ｆ１１１、下側通路Ｆ１１２及び立て壁部Ｆ１１３により区画された空間により第５通路ＦＲｔ５が形成される。

【３８３２】

正面板Ｆ１１１は、下側通路Ｆ１１２の上面を移動（流下、転動）する球が遊技領域へ流出されることを抑制するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される中央部と、その中央部の左右方向両端側から外側へ向けて鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に傾斜される傾斜部とから形成される。正面板Ｆ１１１の傾斜部の上端は、下側通路Ｆ１１２の上面よりも鉛直方向上方に形成される。これにより、下側通路Ｆ１１２の上面を移動（流下、転動）する球は、正面板Ｆ１１１の傾斜部の背面に当接可能となり、下側通路Ｆ１１２の上面を移動（流下、転動）する球の遊技領域への流出が抑制される。

【３８３３】

正面板Ｆ１１１には、その正面板Ｆ１１１の外縁に沿って複数の挿通孔Ｆ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＦ８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｆ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。

【３８３４】

正面板Ｆ１１１の中央部には、第１入賞口６４（図２８６参照）の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）となる位置に流出口ＦＯＰｏｕｔ１が開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、正面視略矩形状であり、球の外形よりもやや大きく形成される。上述したように、流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第６通路ＦＲｔ６を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される際の出口となる開口である。

【３８３５】

正面板Ｆ１１１には、流出口ＦＯＰｏｕｔ１の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に張出し部Ｆ１１１ｂが鉛直方向上方へ向けて突設される。また、正面視における形状が下側通路Ｆ１１２の流出面Ｆ１１２ｂの形状と略同一となる切欠き部Ｆ１１１ｃが流出面Ｆ１１２ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。張出し部Ｆ１１１ｂにより、下側通路Ｆ１１２の上面を移動（流下、転動）する球の遊技領域への流出が抑制され、切欠き部Ｆ１１１ｃを通過することで、第５通路ＦＲｔ５へ振り分けられた球が遊技領域へ流出（流下）される。

【３８３６】

下側通路Ｆ１１２は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、立て壁部Ｆ１１３側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、下側通路Ｆ１１２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、下側通路Ｆ１１２へ案内（送球、流下）された球を立て壁部Ｆ１１３に当接させつつ左右方向に沿って揺動（移動、転動）させることができる。

【３８３７】

なお、下側通路Ｆ１１２には、流入口ＦＯＰｆ１の正面側（矢印Ｆ方向側）となる位置に起伏Ｆ１１２ａが形成され、起伏Ｆ１１２ａの底部、言い換えると、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ向かうにつれて下降傾斜して形成される面と起伏Ｆ１１２ａとの境界には、一対の流出面Ｆ１１２ｂが凹面として形成（配置）される。起伏Ｆ１１２ａは、起伏Ｆ１１２ａの頂部から左右方向へ向けて下降傾斜されると共に、背面側（矢印Ｂ方向側、流入口ＦＯＰｆ１側）へ向けて下降傾斜して形成される。一方、流出面Ｆ１１２ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される。

【３８３８】

従って、起伏Ｆ１１２ａの頂部の上方（矢印Ｕ方向）から起伏Ｆ１１２ａへ案内（送球、流下）された球は、起伏Ｆ１１２ａの頂部を背面側（矢印Ｂ方向側、流入口ＦＯＰｆ１側）へ向けて移動（流下、転動）し、流入口ＦＯＰｆ１を通過して（流入口ＦＯＰｆ１へ流入して）第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され易い。一方、起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ案内（送球、流下）された球は、流出面Ｆ１１２ｂへ向けて移動（流下、転動）し、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出され易い。

【３８３９】

立て壁部Ｆ１１３は、下側通路Ｆ１１２と上側通路Ｆ１１４とを連結するための部位である。立て壁部Ｆ１１３には、下側通路Ｆ１１２の起伏Ｆ１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）となる位置に膨出部Ｆ１１３ａが形成され、その膨出部Ｆ１１３ａには、流入口ＦＯＰｆ１が開口形成（板厚方向に穿設）される。

【３８４０】

膨出部Ｆ１１３ａは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成される。これにより、立て壁部Ｆ１１３に当接しつつ下側通路Ｆ１１２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球が起伏Ｆ１１２ａを通過する際、その起伏Ｆ１１２ａを通過する球へ正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分を付与できる。その結果、起伏Ｆ１１２ａを通過する球を第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）させ難くできる（流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ難くできる）。

【３８４１】

流入口ＦＯＰｆ１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法は、球の外形よりも大きく形成され、詳細には、球の外形の略３倍の大きさに形成される。なお、正面視において流入口ＦＯＰｆ１の縁により囲まれた領域のうち、左右方向略中央を除いた領域には確定通路Ｆ１４０の一対の開閉部材Ｆ１４３（遮断部Ｆ１４３ａ）が配設される。これにより、下側通路Ｆ１１２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、第６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）され難い。

【３８４２】

なお、一対の開閉部材Ｆ１４３の対向間は球の外形よりもやや大きく形成され、一対の開閉部材Ｆ１４３の対向間を通過した（開閉部材Ｆ１４３の対向間へ流入した）球は、第

６通路ＦＲｔ６へ案内（送球、流下）される。
【３８４３】
流入口ＦＯＰｆ１の上方側（矢印Ｕ方向側）における内周面には、上方へ向けて切り欠かれる第１切欠き部Ｆ１１３ｂが形成され、その第１切欠き部Ｆ１１３ｂの上方側における内周面には、上方へ向けて切り欠かれる第２切欠き部Ｆ１１３ｃが形成される。また、流入口ＦＯＰｆ１の左右方向両端側における立て壁部Ｆ１１３には、一対の挿通孔Ｆ１１３ｄが板厚方向に開口形成（板厚方向に穿設）される。
【３８４４】
第１切欠き部Ｆ１１３ｂは、振分通路Ｆ１６０の固定部Ｆ１６２が挿通される切欠きであり、第２切欠き部Ｆ１１３ｃは、第２通路部材Ｆ１７０の固定部Ｆ１７２が挿通される切欠きである。また、一対の挿通孔Ｆ１１３ｄは、変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３が挿通される孔である。
【３８４５】
立て壁部Ｆ１１３の上端は、上側通路Ｆ１１４の上面よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に形成される。これにより、上側通路Ｆ１１４の上面を移動（流下、転動）する球を立て壁部Ｆ１１３の背面に当接させることができ、上側通路Ｆ１１４の上面を移動（流下、転動）する球が下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ流出（流下）されることを抑制できる。
【３８４６】
また、立て壁部Ｆ１１３には、正面視における形状が上側通路Ｆ１１４の第１流出面Ｆ１１４ａ及び第２流出面Ｆ１１４ｂの形状と略同一となる第３切欠き部Ｆ１１３ｅ及び第４切欠き部Ｆ１１３ｆが第１流出面Ｆ１１４ａ及び第２流出面Ｆ１１４ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）にそれぞれ形成される。
【３８４７】
第３切欠き部Ｆ１１３ｅを通過することで、第１通路ＦＲｔ１を案内された球が第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ案内（送球、流出）され、第４切欠き部Ｆ１１３ｆを通過することで、第１通路ＦＲｔ１を案内された球が変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流出）される。
【３８４８】
上側通路Ｆ１１４は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。
【３８４９】
なお、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における略中央には起伏が形成され、起伏の頂部から左右方向へ向かうにつれて下降傾斜される。また、起伏の頂部には第２通路部材Ｆ１７０側（正面側、矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第１流出面Ｆ１１４ａが形成（配置）され、起伏の底部、言い換えると、左右方向に下降傾斜して形成される面と起伏面との境界には、変位部材Ｆ１３０側（正面側、矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として一対の第２流出面Ｆ１１４ｂが形成（配置）される。
【３８５０】
従って、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）へ振り分けられた（案内された）球は、第１流出面Ｆ１１４ａから第３切欠き部Ｆ１１３ｅを通過して第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ案内されるよりも第２流出面Ｆ１１４ｂから第４切欠き部Ｆ１１３ｆを通過して変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流下）され易い。
【３８５１】
また、上側通路Ｆ１１４は、背面部材Ｆ１５０側（矢印Ｂ方向側）に向けて下降傾斜して形成される。これにより、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（流下、転動）する球は、第１流出面Ｆ１１４ａ又は第２流出面Ｆ１１４ｂを通過し易く、第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）若しくは変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流下）されることに要する時間を嵩ませる

ことができる。その結果、第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ振り分けられる（案内される）ことを遊技者に期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【３８５２】

留め部Ｆ１１５には、複数（本実施形態においては２箇所）の挿通孔Ｆ１１５ａが板厚方向に穿設され、その挿通孔Ｆ１１５ａに挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ１５０に締結されることで、通路部材Ｆ１１０に背面部材Ｆ１５０が固定（配設）される。

【３８５３】

演出手段Ｆ１２０は、球が第７通路ＦＲｔ７に案内された（第１入賞口６４へ入賞された）ことを遊技者に視認させ易くするためのものであり、固定部材Ｆ１２１と、その固定部材Ｆ１２１の下方（矢印Ｄ方向）であり、且つ、背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される可動部材Ｆ１２２と、固定部材Ｆ１２１及び可動部材Ｆ１２２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される着色部材Ｆ１２３と、を備える。

【３８５４】

固定部材Ｆ１２１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される本体部と、その本体部の左右方向両端側から下方（矢印Ｄ方向）へ向けて突出される突出部とから形成される。可動部材Ｆ１２２は、左右方向に延設される本体部と、その本体部の左右方向両端側から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突出される突出部とから形成される。固定部材Ｆ１２１の本体部および突出部と可動部材Ｆ１２２の本体部および突出部とにより囲まれた空間に開口部が形成される。

【３８５５】

詳細は後述するが、可動部材Ｆ１２２は上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に往復動可能に配設される。これにより、固定部材Ｆ１２１及び可動部材Ｆ１２２により形成される開口部の大きさが変化可能に形成される。なお、可動部材Ｆ１２２は、固定部材Ｆ１２１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設されることで、固定部材Ｆ１２１と可動部材Ｆ１２２との当接が抑制される。

【３８５６】

固定部材Ｆ１２１には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央に配設される下方孔Ｆ１２１ａと、その下方孔Ｆ１２１ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方孔Ｆ１２１ｂと、その上方孔Ｆ１２１ｂの左右方向両端側に配設される一対の挿通孔Ｆ１２１ｃとが開口形成（板厚方向に穿設）される。また、固定部材Ｆ１２１の背面には、一対の挿通孔Ｆ１２１ｃの左右方向中央側となる位置に一対の規制片Ｆ１２１ｄ（図２９７参照）が形成される。

【３８５７】

下方孔Ｆ１２１ａ及び上方孔Ｆ１２１ｂは、通路部材Ｆ１１０の流入口ＦＯＰｆ１及び第１切欠き部Ｆ１１３ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）にそれぞれ形成される。下方孔Ｆ１２１ａを介して確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３が固定部材Ｆ１２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。また、上方孔Ｆ１２１ｂを介して振分通路Ｆ１６０の第４通路部Ｆ１６１が通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の正面側に配設される。

【３８５８】

一対の挿通孔Ｆ１２１ｃは、変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３を挿通させるための孔であり、通路部材Ｆ１１０の第２流出面Ｆ１１４ｂの下方（矢印Ｄ方向）に穿設される。挿通孔Ｆ１２１ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）および背面側（矢印Ｂ方向側）における端部にはブッシュ（図示せず）がそれぞれ配設される。それらブッシュを介して軸Ｆ１３３が固定部材Ｆ１２１に回転可能に係合（軸支）される。

【３８５９】

一対の規制片Ｆ１２１ｄは、確定通路Ｆ１４０（連結部材Ｆ１４５）の変位（回転）を規制するための部位であり、連結部材Ｆ１４５の錘支持部Ｆ１４５ｃに当接可能に形成される（図２９７参照）。

【３８６０】

可動部材Ｆ１２２は、球の外形よりも大きく形成され、詳細には、可動部材Ｆ１２２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法が球の外形の略２０倍の大きさに形成される。これにより、球と比較して、可動部材Ｆ１２２の動作（変位）を遊技者に視認させ易くできる。

【３８６１】

可動部材Ｆ１２２は、駆動手段Ｆ１８０に係合されており、駆動手段Ｆ１８０が駆動することで可動部材Ｆ１２２は上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に往復動される。なお、駆動手段Ｆ１８０は、球が第７通路ＦＲｔ７に案内されたことを契機として駆動する。よって、可動部材Ｆ１２２が上下方向に往復動することで、球が第７通路ＦＲｔ７に案内された（球が第１入賞口６４へ入賞された）ことを遊技者に視認させ易くできる。

【３８６２】

着色部材Ｆ１２３は、駆動手段Ｆ１８０を遊技者に視認不能とさせるためのものであり、着色された板状体から形成される。着色部材Ｆ１２３の下端は、最も下方（矢印Ｄ方向）に位置した状態における可動部材Ｆ１２２の本体部の上端よりも下方に形成される。

【３８６３】

また、着色部材Ｆ１２３は、可動部材Ｆ１２２とは異なる色に着色される。これにより、可動部材Ｆ１２２の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における往復動を遊技者に視認させ易くでき、下側フレームＦ８６ｂに振り分けられた（案内された）球が第７通路ＦＲｔ７に案内された（球が第１入賞口６４へ入賞された）ことを遊技者に視認させ易くできる。

【３８６４】

変位部材Ｆ１３０は、確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３を動作（変位、回転）させるためのものであり、通路部Ｆ１３１と、その通路部Ｆ１３１の正面端に配設される壁部Ｆ１３２と、を備える。通路部Ｆ１３１、壁部Ｆ１３２及び通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３により区画された空間により第３通路ＦＲｔ３が形成される。また、変位部材Ｆ１３０には、軸Ｆ１３３が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った姿勢で配設（固着）される。

【３８６５】

通路部Ｆ１３１は、上側通路Ｆ１１４の第２流出面Ｆ１１４ｂから案内（送球、流下）された球を振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）もしくは通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分ける（案内させる）ための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される板状体から形成される。

【３８６６】

通路部Ｆ１３１には左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ向かうにつれて下降傾斜される起伏が形成され、起伏の頂部よりも振分通路Ｆ１６０側（左右方向中央側）が上述した第３通路流出面Ｆ１３１ａとして形成される。起伏の頂部よりも振分通路Ｆ１６０側（第３通路流出面Ｆ１３１ａとは反対側、左右方向両端側）には転動面Ｆ１３１ｂが形成され、第３通路流出面Ｆ１３１ａと転動面Ｆ１３１ｂとの境界が起伏の頂部として形成される。また、通路部Ｆ１３１には転動面Ｆ１３１ｂの先端となる位置に下方側（矢印Ｄ方向側）に凹設される凹部Ｆ１３１ｃが形成される。

【３８６７】

通路部Ｆ１３１の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、第３通路流出面Ｆ１３１ａに対向する位置（第３通路流出面Ｆ１３１ａの端部よりも左右方向中央側となる位置）には、振分通路Ｆ１６０における背面側（矢印Ｂ方向側）が配置される。これにより、第３通路流出面Ｆ１３１ａから振り分けられた（案内された）球を振分通路Ｆ１６０の中央とは異なる位置（偏心した位置）へ案内（送球、流下）できる。

【３８６８】

通路部Ｆ１３１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における幅寸法は、球の直径よりも大きく形成され、転動面Ｆ１３１ｂは、起伏の頂部から凹部Ｆ１３１ｃへ向かうにつれて前後方向における幅寸法が徐々に大きく形成される。

【３８６９】

第３通路流出面Ｆ１３１ａ及び転動面Ｆ１３１ｂは、通路部Ｆ１３１の延設方向（左右方向）において、起伏の頂部とは反対側へ向かうにつれて下降傾斜してそれぞれ形成される。また、転動面Ｆ１３１ｂは、壁部Ｆ１３２側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。これらにより、転動面Ｆ１３１ｂへ振り分けられた（案内された）球を壁部Ｆ１３２へ当接させつつ転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）させることができる。

【３８７０】

凹部Ｆ１３１ｃは、円筒状に形成され、その凹部Ｆ１３１ｃの底面Ｆ１３１ｃ１には上述した第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄが形成（穿設）される。言い換えると、底面Ｆ１３１ｃ１は、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの周囲に沿って連続して形成される。第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄは、球の直径よりもやや大きな直径を有する円状に形成され、その第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの中心は、凹部Ｆ１３１ｃの中心軸上に配置される。

【３８７１】

凹部Ｆ１３１ｃの内径は、球の直径の略１．５倍の大きさに形成され、凹部Ｆ１３１ｃの内周面と第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの内周面との間の距離は、球の半径よりも小さく形成される。これにより、凹部Ｆ１３１ｃへ案内（送球、流下）された球の重心を第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの内周面よりも中心側へ位置させることができ、球の重量を利用して凹部Ｆ１３１ｃへ案内（送球、流下）された球を、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ向けて変位させることができる。

【３８７２】

また、凹部Ｆ１３１ｃの凹設深さは、球の直径よりも小さく形成される。これにより、凹部Ｆ１３１ｃに案内（送球、流下）された球を遊技者に視認させることができる。また、凹部Ｆ１３１ｃの底面Ｆ１３１ｃ１は、平坦面に形成される。言い換えると、底面Ｆ１３１ｃ１の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さが第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの周囲に沿って連続して同一に設定される。

【３８７３】

上述したように、転動面Ｆ１３１ｂが壁部Ｆ１３２側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されるため、転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）する球を壁部Ｆ１３２に当接させつつ凹部Ｆ１３１ｃへ案内（送球、流下）できる。言い換えると、凹部Ｆ１３１ｃ（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄ）の中心軸に対し、偏心した位置（中心軸とは異なる位置）へ向けて球を移動（流下、転動）させることができる。

【３８７４】

これにより、球に作用する遠心力を利用して凹部Ｆ１３１ｃへ案内（送球、流下）された球を凹部Ｆ１３１ｃの内周面（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの周囲）に沿って移動（流下、転動）させることができる。また、凹部Ｆ１３１ｃの内周面（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの周囲）に当接した状態で球が移動（流下、転動）することで球の速度を低下させることができる。その結果、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ流入して凹部Ｆ１３１ｃから球が案内（送球、流下）されることを遅延させることができる（球が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ流入することに要する時間を嵩ませることができる）。

【３８７５】

また、通路部Ｆ１３１には、起伏の頂部よりもやや左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側となる位置に下方側（矢印Ｄ方向側）に突出する連結部が形成され、その連結部には断面Ｄ字状の穴として形成される嵌合穴Ｆ１３１ｅが連結部の背面から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される。嵌合穴Ｆ１３１ｅは、軸Ｆ１３３を回転不能に嵌合（固着）させるための孔である。

【３８７６】

壁部Ｆ１３２は、通路部Ｆ１３１の第３通路流出面Ｆ１３１ａ若しくは転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）が通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ移動（流下、落下）することを抑制するための部位である。

【３８７７】

壁部Ｆ１３２は、有色の樹脂材料から構成されており、通路部Ｆ１３１の起伏を遊技者

に視認不能とできる。これにより、通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流下）された球が第３通路流出面Ｆ１３１ａ若しくは転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）されるかを遊技者に判別させ難くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【３８７８】

一方、壁部Ｆ１３２の上端と通路部Ｆ１３１の上面との間の距離は球の直径よりも小さく形成される。これにより、通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）を移動（流下、転動）する球を遊技者に視認可能とできる。

【３８７９】

軸Ｆ１３３は、金属材料から棒状に形成され、その軸Ｆ１３３の延設方向を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせた姿勢でブッシュ（図示せず）を介して固定部材Ｆ１２１に回転可能に係合される。

【３８８０】

軸Ｆ１３３の前端側及び後端側は、嵌合穴Ｆ１３１ｅの断面形状および確定通路Ｆ１４０の連結本体部Ｆ１４５ａに穿設される挿通孔Ｆ１４５ａ１の断面形状に一致した外形にそれぞれ形成される。嵌合穴Ｆ１３１ｅに軸Ｆ１３３の前端側が嵌合（固着）されることで通路部Ｆ１３１に軸Ｆ１３３が回転不能に配設（軸支）され、挿通孔Ｆ１４５ａ１に軸Ｆ１３３の後端側が嵌合されることで連結本体部Ｆ１４５ａに軸Ｆ１３３が回転不能に配設（軸支）される。軸Ｆ１３３を介することで、変位部材Ｆ１３０と確定通路Ｆ１４０とが一体化（１のユニットとして形成）される。

【３８８１】

確定通路Ｆ１４０は、通路部材Ｆ１１０の流入口ＦＯＰｆ１を通過した（流入口ＦＯＰｆ１へ流入した）球を第１入賞口６４へ案内（送球、流下）するためのものであり、第６通路部材Ｆ１４１と、その第６通路部材Ｆ１４１に配設される軸Ｆ１４２と、その軸Ｆ１４２に回転可能に係合される開閉部材Ｆ１４３と、その開閉部材Ｆ１４３に係合するとともに左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位するスライド部材Ｆ１４４と、そのスライド部材Ｆ１４４と変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３とを連結する連結部材Ｆ１４５と、その連結部材Ｆ１４５に配設される錘Ｆ１４６と、を備える。

【３８８２】

第６通路部材Ｆ１４１は、取付け部Ｆ１４１ａと、その取付け部Ｆ１４１ａの正面から突設される通路部Ｆ１４１ｂ及び一対の球受け部Ｆ１４１ｃと、取付け部Ｆ１４１ａの背面から突設される軸受け部Ｆ１４１ｄと、その軸受け部Ｆ１４１ｄの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される複数（本実施形態においては４個）の締結部Ｆ１４１ｅと、を備える。

【３８８３】

取付け部Ｆ１４１ａは、正面視、横長略矩形の板状体から形成される。第６通路部材Ｆ１４１へ案内（送球、流下）された球が取付け部Ｆ１４１ａに当接することにより、球が背面側（矢印Ｂ方向側）へ変位することが規制される。

【３８８４】

通路部Ｆ１４１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される底面部Ｆ１４１ｂ１と、その底面部Ｆ１４１ｂ１の左右方向両端側から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突設される一対の壁部Ｆ１４１ｂ２と、を備え、正面視において略Ｕ字状に形成される。一対の壁部Ｆ１４１ｂ２の対向面間の距離は球の外形よりもやや大きく形成され、底面部Ｆ１４１ｂ１及び一対の壁部Ｆ１４１ｂ２により区画された空間により第６通路ＦＲｔ６が形成される。

【３８８５】

通路部Ｆ１４１ｂは、通路部材Ｆ１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過させることで、通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）を移動（流下、落下）する球が遊技領域へ流出（第１入賞口６４へ案内）される。

【３８８６】

底面部Ｆ１４１ｂ１の上面には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離だけ隔てて一対の突部Ｆ１４１ｂ３が突設される。突部Ｆ１４１ｂ３は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設されると共に、突部Ｆ１４１ｂ３の上面は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、一対の突部Ｆ１４１ｂ３の対向面間の距離は、球の直径よりも小さくされると共に、突部Ｆ１４１ｂ３の正面端における突設長さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、底面部Ｆ１４１ｂ１の上面に球が接触しない深さに設定される。

【３８８７】

これにより、底面部Ｆ１４１ｂ１上の球を２箇所（突部Ｆ１４１ｂ３の上端部における対向面側の一対の稜線部分）で位置決めすることができる。よって、一対の突部Ｆ１４１ｂ３が非形成の場合と比較して、通路部Ｆ１４１ｂの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における球の移動（流下、転動）位置を一定とし易くできる。よって、通路部材Ｆ１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過した球を第１入賞口６４へ入賞（案内）させ易くできる。

【３８８８】

球受け部Ｆ１４１ｃは、流入口ＦＯＰｆ１を通過した球を通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）するための部位である。球受け部Ｆ１４１ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される板状体から形成され、左右方向両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。

【３８８９】

球受け部Ｆ１４１ｃの下面は、通路部Ｆ１４１ｂの壁部Ｆ１４１ｂ２の上端に当接して配設される。これにより、壁部Ｆ１４１ｂ２に第６通路ＦＲｔ６を形成する機能と球受け部Ｆ１４１ｃを支持（補強）する機能とを兼用させることができ、球受け部Ｆ１４１ｃの破損を抑制し易くできる。

【３８９０】

軸受け部Ｆ１４１ｄは、軸Ｆ１４２を支持するための部位であり、その軸受け部Ｆ１４１ｄの上面には、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹部が凹設される。その凹部に軸Ｆ１４２の下端側が配設（係合）されることで、軸Ｆ１４２が軸受け部Ｆ１４１ｄに支持される。

【３８９１】

締結部Ｆ１４１ｅは、確定通路Ｆ１４０と背面部材Ｆ１５０とを締結固定するためのタッピングネジが螺合される部位である。締結部Ｆ１４１ｅが取付け部Ｆ１４１ａの背面から突設されることにより、取付け部Ｆ１４１ａと背面部材Ｆ１５０との間に所定の空間を形成することができる。その空間を利用して軸Ｆ１４２や一対のスライド部材Ｆ１４４が配設される。

【３８９２】

軸Ｆ１４２は、開閉部材Ｆ１４３を変位（回転）させる際の回転軸である。軸Ｆ１４２は、金属材料から円柱状に形成され、その軸Ｆ１４２の外径は、第６通路部材Ｆ１４１の軸受け部Ｆ１４１ｄに形成される挿通穴の内径よりもやや小さく形成される。

【３８９３】

開閉部材Ｆ１４３は、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ難くするためのものである。開閉部材Ｆ１４３は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される左側開閉部材Ｆ１４３Ｌと右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される右側開閉部材Ｆ１４３Ｒとから構成され、それら左側開閉部材Ｆ１４３Ｌ及び右側開閉部材Ｆ１４３Ｒは、一対の球受け部Ｆ１４１ｃの正面側（矢印Ｆ方向側）にそれぞれ配設される。

【３８９４】

左側開閉部材Ｆ１４３Ｌは、遮断部Ｆ１４３ａと、その遮断部Ｆ１４３ａの背面端から下方側（矢印Ｄ方向側）に突出する連結部Ｆ１４３ｂと、その連結部Ｆ１４３ｂの下端から背面側（矢印Ｂ方向側）に突設する突出部Ｆ１４３ｃと、を備える。

【３８９５】

右側開閉部材Ｆ１４３Ｒは、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌに対し、連結部Ｆ１４３ｂが省略

され、突出部Ｆ１４３ｃが遮断部Ｆ１４３ａの上端から背面側（矢印Ｂ方向側）に突出する点を除いて、遊技盤Ｆ１３の幅方向（図２８６左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２８６左右対称）に形成される。よって、右側開閉部材Ｆ１４３Ｒにおける左側開閉部材Ｆ１４３Ｌと対称に形成される部位には同一の符号を付してその説明は省略する。

【３８９６】

遮断部Ｆ１４３ａは、板状体から形成され、遮断部Ｆ１４３ａの上端側は背面側（矢印Ｂ方向側）に屈曲して形成される。その遮断部Ｆ１４３ａの屈曲された部位の背面端に連結部Ｆ１４３ｂが配設される。遮断部Ｆ１４３ａは、正面視において、通路部材Ｆ１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ１を介して遊技者から視認可能となる位置に配設される。言い換えると、遮断部Ｆ１４３ａは、流入口ＦＯＰｆ１の縁よりも内側に配設される。従って、遮断部Ｆ１４３ａは、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球と当接可能に配設される。

【３８９７】

一対（左側開閉部材Ｆ１４３Ｌ及び右側開閉部材Ｆ１４３Ｒ）の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離は、球の直径よりもやや大きく形成される。これにより、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ難くできる（第６通路ＦＲｔ６へ案内させ難くできる）。

【３８９８】

また、遮断部Ｆ１４３ａは、軸Ｆ１４２を中心とする円弧状に湾曲して形成される。言い換えると、遮断部Ｆ１４３ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から左右方向中央側へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）に凸となる湾曲状に形成される。

【３８９９】

これにより、遮断部Ｆ１４３ａに当接した球を通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）させると共に、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）させることができる。その結果、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を流出面Ｆ１１２ｂへ案内（送球、流下）し易くできる（第６通路ＦＲｔ６へ案内させ難くできる）。

【３９００】

連結部Ｆ１４３ｂは、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌの突出部Ｆ１４３ｃと右側開閉部材Ｆ１４３Ｒの突出部Ｆ１４３ｃとが当接することを抑制するための部位である。左側開閉部材Ｆ１４３Ｌに連結部Ｆ１４３ｂが形成されることで、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌに形成される突出部Ｆ１４３ｃが右側開閉部材Ｆ１４３Ｒに形成される突出部Ｆ１４３ｃの下方（矢印Ｄ方向）に配設される。

【３９０１】

突出部Ｆ１４３ｃは、軸Ｆ１４２に軸支されると共に、スライド部材Ｆ１４４に係合される部位である。突出部Ｆ１４３ｃの連結部Ｆ１４３ｂ側（正面側、矢印Ｆ方向側）には、軸支孔Ｆ１４３ｄが穿設され、その軸支孔Ｆ１４３ｄよりも背面側（矢印Ｂ方向側）となる位置には、係合孔Ｆ１４３ｅが穿設される。

【３９０２】

軸支孔Ｆ１４３ｄは、軸Ｆ１４２の外径と同等またはやや大きく形成され、軸支孔Ｆ１４３ｄに軸Ｆ１４２が挿通されることで、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌが軸Ｆ１４２を回転軸として回転可能に係合（軸支）される。

【３９０３】

係合孔Ｆ１４３ｅには、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの第１係合部Ｆ１４４ｃが挿通（係合）される。係合孔Ｆ１４３ｅは、上面視、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に長い長孔状に形成される。詳細には、係合孔Ｆ１４３ｅに左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの第１係合部Ｆ１４４ｃが挿通（係合）された状態において、係合孔Ｆ１４３ｅの内周面と第１係合部Ｆ１４４ｃとの間に左側開閉部材Ｆ１４３Ｌの回転（変位）による突出部Ｆ１４３ｃの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の変位量よりも大きな隙間が形成される。

【３９０４】
これにより、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への変位に対し、係合孔Ｆ１４３ｅの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における内周面と第１係合部Ｆ１４４ｃとが当接し、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌの回転（変位）が規制されることを抑制できる。
【３９０５】
スライド部材Ｆ１４４は、開閉部材Ｆ１４３を動作（変位、回転）させるためのものである。スライド部材Ｆ１４４は、左側開閉部材Ｆ１４３Ｌに係合される左側スライド部材Ｆ１４４Ｌと、右側開閉部材Ｆ１４３Ｒに係合される右側スライド部材Ｆ１４４Ｒとから構成される。
【３９０６】
左側スライド部材Ｆ１４４Ｌは、スライド本体部Ｆ１４４ａと、そのスライド本体部Ｆ１４４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の下端部から左右方向中央側へ向けて延設される延設部Ｆ１４４ｂと、その延設部Ｆ１４４ｂから上方（矢印Ｕ方向）へ突出される第１係合部Ｆ１４４ｃと、スライド本体部Ｆ１４４ａから正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される第２係合部Ｆ１４４ｄと、を備える。
【３９０７】
右側スライド部材Ｆ１４４Ｒは、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌに対し、延設部Ｆ１４４ｂがスライド本体部Ｆ１４４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の上端部から延設され、第１係合部Ｆ１４４ｃが下方（矢印Ｄ方向）へ向けて突出される点を除いて、遊技盤Ｆ１３の幅方向（図２８６左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２８６左右対称）に形成される。よって、右側スライド部材Ｆ１４４Ｒにおける左側スライド部材Ｆ１４４Ｌと対称に形成される部位には同一の符号を付してその説明は省略する。
【３９０８】
スライド本体部Ｆ１４４ａは、板状体から形成され、スライド本体部Ｆ１４４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部は背面側（矢印Ｂ方向側）に屈曲して形成される。その背面側に屈曲される部位には板厚方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に挿通孔Ｆ１４４ａ１がそれぞれ穿設される。
【３９０９】
挿通孔Ｆ１４４ａ１には、背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８が挿通（係合）され（図２９７参照）、これにより、スライド部材Ｆ１４４はスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位可能に配設（係合）される。
【３９１０】
左側スライド部材Ｆ１４４Ｌに形成される延設部Ｆ１４４ｂと右側スライド部材Ｆ１４４Ｒに形成される延設部Ｆ１４４ｂとは上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に所定の距離だけ隔てて配設される。これにより、右側スライド部材Ｆ１４４Ｒの第１係合部Ｆ１４４ｃ及び右側開閉部材Ｆ１４３Ｒの突出部Ｆ１４３ｃは、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの第１係合部Ｆ１４４ｃ及び左側開閉部材Ｆ１４３Ｌの突出部Ｆ１４３ｃの上方（矢印Ｕ方向）に配設される。これにより、第１係合部Ｆ１４４ｃ及び突出部Ｆ１４３ｃを上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置にそれぞれ配設でき、確定通路Ｆ１４０（開閉部材Ｆ１４３及びスライド部材Ｆ１４４）の設計の自由度を向上させることができる。
【３９１１】
第１係合部Ｆ１４４ｃは、開閉部材Ｆ１４３の係合孔Ｆ１４３ｅに挿通（係合）される部位であり、円柱状に形成される。左側スライド部材Ｆ１４４Ｌがスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位し係合孔Ｆ１４３ｅの内周面を押進することで、開閉部材Ｆ１４３が軸Ｆ１４２を回転軸として回転する。
【３９１２】
第２係合部Ｆ１４４ｄは、連結部材Ｆ１４５のスライド係合部Ｆ１４５ｂに挿通（係合）される部位であり、円柱状に形成される。第２係合部Ｆ１４４ｄとスライド係合部Ｆ１４５ｂとの係合により、連結部材Ｆ１４５の変位（回転）にスライド部材Ｆ１４４が連動

して変位する。
【３９１３】
連結部材Ｆ１４５は、スライド部材Ｆ１４４を動作（変位）させるためのものであり、連結本体部Ｆ１４５ａと、その連結本体部Ｆ１４５ａから下方（矢印Ｄ方向）へ突出されるスライド係合部Ｆ１４５ｂと、連結本体部Ｆ１４５ａから左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ突出される錘支持部Ｆ１４５ｃと、を備える。
【３９１４】
連結本体部Ｆ１４５ａは、円柱状に形成される。連結本体部Ｆ１４５ａには、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って断面Ｄ字状の孔として形成される挿通孔Ｆ１４５ａ１が穿設される。挿通孔Ｆ１４５ａ１に変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３が回転不能に配設（固着）されることで、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）に連動して連結部材Ｆ１４５を変位（回転）させることができる。
【３９１５】
スライド係合部Ｆ１４５ｂは、円柱状に形成され、そのスライド係合部Ｆ１４５ｂには、スライド部材Ｆ１４４の第２係合部Ｆ１４４ｄが挿通（係合）される挿通孔Ｆ１４５ｂ１が穿設される。
【３９１６】
挿通孔Ｆ１４５ｂ１は、正面視、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に長い長孔状に形成される。詳細には、挿通孔Ｆ１４５ｂ１にスライド部材Ｆ１４４の第２係合部Ｆ１４４ｄが挿通（係合）された状態において、挿通孔Ｆ１４５ｂ１の内周面と第２係合部Ｆ１４４ｄとの間に連結部材Ｆ１４５の変位（回転）によるスライド係合部Ｆ１４５ｂの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の変位量よりも大きな隙間が形成される。
【３９１７】
これにより、左側スライド部材Ｆ１４４Ｌの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への変位に対し、挿通孔Ｆ１４５ｂ１の上下方向における内周面とスライド部材Ｆ１４４の第２係合部Ｆ１４４ｄとが当接し、連結部材Ｆ１４５の変位（回転）が規制されることを抑制できる。
【３９１８】
錘支持部Ｆ１４５ｃは、背面側（矢印Ｂ方向側）から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される円筒状に形成され、錘支持部Ｆ１４５ｃの内周面は、錘Ｆ１４６の外径よりもやや大きく形成される。錘支持部Ｆ１４５ｃの内周面に錘Ｆ１４６が配設（係合）されることで、錘Ｆ１４６が連結部材Ｆ１４５に配設（支持）される。
【３９１９】
錘Ｆ１４６は、連結部材Ｆ１４５の重心の位置を調整するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。錘Ｆ１４６が挿通孔Ｆ１４５ａ１よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設されることで、連結部材Ｆ１４５及び錘Ｆ１４６の全体の重心は、挿通孔Ｆ１４５ａ１よりも左右方向両端側にに位置する。
【３９２０】
背面部材Ｆ１５０は、下側フレームＦ８６ｂの背面を形成するためのものであり、背面壁部Ｆ１５１と、その背面壁部Ｆ１５１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端、且つ、下端から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出される一対の第１固定部Ｆ１５２と、一対の第１固定部Ｆ１５２の上方（矢印Ｕ方向）において正面側へ向けて突出される一対の第２固定部Ｆ１５３と、一対の第２固定部Ｆ１５３の左右方向中央側において正面側へ向けて突出される一対の締結部Ｆ１５４と、一対の締結部Ｆ１５４の左右方向中央側において正面側へ向けて突出される一対の第１支持部Ｆ１５５と、一対の第１支持部Ｆ１５５の左右方向中央側において正面側へ向けて突出される第２支持部Ｆ１５６と、背面壁部Ｆ１５１の背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される突出部Ｆ１５７と、を備える。また、背面部材Ｆ１５０には、一対のスライド棒Ｆ１５８が配設（係合）される。
【３９２１】
背面壁部Ｆ１５１は、横長略矩形の板状体から構成され、背面壁部Ｆ１５１には、一対

の第１逃がし孔Ｆ１５１ａと、一対の第１逃がし孔Ｆ１５１ａよりも下方側（矢印Ｄ方向側）に形成される一対の第２逃がし孔Ｆ１５１ｂとが板厚方向にそれぞれ開口形成（板厚方向に穿設）される。また、背面壁部Ｆ１５１の下端には、切欠き部Ｆ１５１ｃが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて切欠き形成される。

【３９２２】

第１逃がし孔Ｆ１５１ａは、連結部材Ｆ１４５の錘支持部Ｆ１４５ｃの外形よりも大きく形成され、第１逃がし孔Ｆ１５１ａの内側に錘支持部Ｆ１４５ｃが配設される。これにより、下側フレームＦ８６ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の厚み寸法を小さくできる。

【３９２３】

第２逃がし孔Ｆ１５１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて凸となる半円状の湾曲部Ｆ１５１ｂ１と、その湾曲部Ｆ１５１ｂ１の左右方向中央側において上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設される直線部Ｆ１５１ｂ２とから構成される。湾曲部Ｆ１５１ｂ１は、駆動手段Ｆ１８０の連結部材Ｆ１８４の外形よりもやや大きく形成され、第２逃がし孔Ｆ１５１ｂ（湾曲部Ｆ１５１ｂ１）を挿通して背面部材Ｆ１５０の正面側（矢印Ｆ方向側）へ連結部材Ｆ１８４が配設される。

【３９２４】

直線部Ｆ１５１ｂ２は、駆動手段Ｆ１８０の連結部材Ｆ１８４が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に往復動するための逃がし孔である。直線部Ｆ１５１ｂ２の上端は、湾曲部Ｆ１５１ｂ１の上端と一体に形成され、直線部Ｆ１５１ｂ２の下端は、湾曲部Ｆ１５１ｂ１の下端よりも下方（矢印Ｄ方向）に形成される。これにより、連結部材Ｆ１８４が下方に変位した状態においては、連結部材Ｆ１８４の背面側（矢印Ｂ方向側）には背面壁部Ｆ１５１が位置する（湾曲部Ｆ１５１ｂ１が非形成とされる）。このように、背面壁部Ｆ１５１に開口形成（穿設）される湾曲部Ｆ１５１ｂ１を小さく形成することで、針金等の異物の侵入を抑制し易くできる。

【３９２５】

切欠き部Ｆ１５１ｃは、駆動手段Ｆ１８０の駆動モータＦ１８１と第７通路Ｆ１９０のスイッチＦ１９２とを電気的に接続する配線（図示せず）を挿通させる部位であり、これにより、背面部材Ｆ１５０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配置されるスイッチＦ１９２と背面部材Ｆ１５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置される駆動手段Ｆ１８０の駆動モータＦ１８１とが電気的に接続される。

【３９２６】

第１固定部Ｆ１５２は、ベース板６０に背面部材Ｆ１５０を締結固定するための部位であり、四角柱状に形成される。第１固定部Ｆ１５２には挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、背面部材Ｆ１５０がベース板６０に固定（配設）される。通路部材Ｆ１１０の正面板Ｆ１１１に加え、第１固定部Ｆ１５２がベース板６０に固定（配設）されることで、下側フレームＦ８６ｂのベース板６０に対する姿勢の安定化を図ることができる。

【３９２７】

また、第１固定部Ｆ１５２が背面壁部Ｆ１５１の下端に配設されるため、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、第１固定部Ｆ１５２と正面板Ｆ１１１との間の距離を大きく設定でき、下側フレームＦ８６ｂのベース板６０に対する姿勢の安定化を一層図ることができる。

【３９２８】

第２固定部Ｆ１５３及び締結部Ｆ１５４は、通路部材Ｆ１１０に背面部材Ｆ１５０を締結固定するための部位であり、第２固定部Ｆ１５３は四角柱状に、締結部Ｆ１５４は円柱状に、それぞれ形成される。

【３９２９】

留め部Ｆ１１５の挿通孔Ｆ１１５ａを挿通したタッピングネジが第２固定部Ｆ１５３に締結固定されることで、背面部材Ｆ１５０が通路部材Ｆ１１０に固定（配設）される。また、締結部Ｆ１５４には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って挿通孔が穿設され、その

挿通孔にタッピングネジが挿通されることで、背面部材Ｆ１５０が通路部材Ｆ１１０に固定（配設）される。
【３９３０】
第１支持部Ｆ１５５及び第２支持部Ｆ１５６は、スライド棒Ｆ１５８を支持するための部位である。第１支持部Ｆ１５５及び第２支持部Ｆ１５６には左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って挿通孔がそれぞれ穿設され、それら挿通孔にスライド棒Ｆ１５８が挿通されることで、背面部材Ｆ１５０にスライド棒Ｆ１５８が配設（支持）される。
【３９３１】
また、第２支持部Ｆ１５６には、その第２支持部Ｆ１５６の正面側（矢印Ｆ方向側）に、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って挿通孔Ｆ１５６ａが穿設され、第２支持部Ｆ１５６の正面端には係止部Ｆ１５６ｂが突出して形成される。
【３９３２】
挿通孔Ｆ１５６ａの内径は、軸Ｆ１４２の外径よりもやや大きく形成され、挿通孔Ｆ１５６ａに軸Ｆ１４２が挿通される。軸Ｆ１４２が確定通路Ｆ１４０の軸受け部Ｆ１４１ｄ及び第２支持部Ｆ１５６（挿通孔Ｆ１５６ａ）により支持（係合）されることで、軸Ｆ１４２が下側フレームＦ８６ｂに配設される。係止部Ｆ１５６ｂは、確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３の変位（回転）を規制する部位である。
【３９３３】
突出部Ｆ１５７は、駆動手段Ｆ１８０のガイド部材Ｆ１８５を挿通したタッピングネジが締結固定される部位であり、円柱状から形成される。突出部Ｆ１５７が背面壁部Ｆ１５１の背面から突出されることで、タッピングネジの締結代を大きくできる。
【３９３４】
スライド棒Ｆ１５８は、確定通路Ｆ１４０のスライド部材Ｆ１４４をスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位させるためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。スライド棒Ｆ１５８の外周面には、第１支持部Ｆ１５５よりもやや左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側となる位置に、径方向へ向けての切り込みが形成され、その切り込みには金属リング状のＣリング（図示せず）が嵌合される。これにより、スライド棒Ｆ１５８は、第１支持部Ｆ１５５及び第２支持部Ｆ１５６に抜去不能に支持される。
【３９３５】
スライド棒Ｆ１５８は、そのスライド棒Ｆ１５８の延設方向（軸方向）が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿った姿勢で第１支持部Ｆ１５５及び第２支持部Ｆ１５６に支持（配設）される。スライド棒Ｆ１５８がスライド部材Ｆ１４４の挿通孔Ｆ１４４ａ１に挿通（係合）されることで、スライド部材Ｆ１４４がスライド棒Ｆ１５８に配設（係合）される。
【３９３６】
振分通路Ｆ１６０は、振分通路Ｆ１６０に形成された複数の振り分け孔に応じて下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の異なる位置へ球を案内（送球、流下）するためのいわゆるクルーンと呼ばれる装置である。振分通路Ｆ１６０は、第４通路部Ｆ１６１と、その第４通路部Ｆ１６１の背面端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出して形成される固定部Ｆ１６２と、を備える。
【３９３７】
第４通路部Ｆ１６１は、上面視において円状であり、上方（矢印Ｕ方向）から下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹設して形成され、第４通路部Ｆ１６１の凹設底面は、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる湾曲状に形成される。また、第４通路部Ｆ１６１は、固定部Ｆ１６２から正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される。
【３９３８】
これらにより、第４通路部Ｆ１６１へ案内（送球、流下）された球を第４通路部Ｆ１６１の中央へ向けて移動（流下、転動）させると共に、その第４通路部Ｆ１６１の中央においては、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて移動（流下、転動）させることができる。

【３９３９】
第４通路部Ｆ１６１の凹設底面には、第１振り分け孔Ｆ１６１ａ及び複数（本実施形態においては２箇所）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂが板厚方向に穿設される。第１振り分け孔Ｆ１６１ａ及び複数の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に穿設され、これにより、第１振り分け孔Ｆ１６１ａ若しくは第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過した球を下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分ける（案内させる）ことができる。
【３９４０】
第１振り分け孔Ｆ１６１ａは、下側通路Ｆ１１２の起伏Ｆ１１２ａの頂部の上方（矢印Ｕ方向）となる位置に穿設される。複数の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において第１振り分け孔Ｆ１６１ａとは異なる位置であり、第１振り分け孔Ｆ１６１ａより正面側（矢印Ｆ方向側）に穿設される。
【３９４１】
第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過して下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）球は、起伏Ｆ１１２ａの頂部へ案内（送球、流下）されで、立て壁部Ｆ１１３の流入口ＦＯＰｆ１へ流入して確定通路Ｆ１４０（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。
【３９４２】
また、第１振り分け孔Ｆ１６１ａは、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂよりも第４通路部Ｆ１６１の流入口ＦＯＰｆ１側（矢印Ｂ方向側）に穿設される。これにより、第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過した球が起伏Ｆ１１２ａの頂部を移動（流下、転動）する距離を小さくでき、球を確定通路Ｆ１４０（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）させ易くできる。
【３９４３】
一方、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過して下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）球は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ案内（送球、流下）されるため、起伏Ｆ１１２ａの頂部から左右方向へ向けての下降傾斜に沿って移動（流下、転動）し、正面板Ｆ１１１の切欠き部Ｆ１１１ｃを通過して遊技領域に流出（流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。
【３９４４】
また、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、第１振り分け孔Ｆ１６１ａよりも第４通路部Ｆ１６１の遊技領域側（矢印Ｆ方向側、流入口ＦＯＰｆ１とは反対側）に穿設される。これにより、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過した球と流入口ＦＯＰｆ１との間の距離を大きくでき、球を流入口ＦＯＰｆ１へ案内させ難くできる（下側通路Ｆ１１２の流出面Ｆ１１２ｂへ案内させ易くできる）。
【３９４５】
従って、振分通路Ｆ１６０に振り分けられた球が第２振り分け孔Ｆ１６１ｂよりも第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【３９４６】
固定部Ｆ１６２は、振分通路Ｆ１６０を背面部材Ｆ１５０に締結固定させるためのものである。固定部Ｆ１６２の上面には下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凹設される凹部が形成され、その凹部に第２通路部材Ｆ１７０の固定部Ｆ１７２が挿入（内嵌）される。
【３９４７】
第２通路部材Ｆ１７０は、上側通路Ｆ１１４の第１流出面Ｆ１１４ａを案内された球を振分通路Ｆ１６０へ振り分ける（案内する）ためのものであり、通路部Ｆ１７１と、その通路部Ｆ１７１の下面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出される固定部Ｆ１７２と、を備える。
【３９４８】
通路部Ｆ１７１は、その通路部Ｆ１７１の上面を球が移動（流下、転動）する部位であ

り、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）に配設される。また、通路部Ｆ１７１は、第１流出面Ｆ１１４ａ（第３切欠き部Ｆ１１３ｅ）の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【３９４９】

また、通路部Ｆ１７１は、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて延設すると共に、正面側へ向かうにつれて下降傾斜して形成される。立て壁部Ｆ１１３との当接部を除く通路部Ｆ１７１の外縁には、立設部Ｆ１７１ａが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設され、その立設部Ｆ１７１ａに区画された空間により、第２通路ＦＲｔ２が形成される。

【３９５０】

通路部Ｆ１７１の先端には球の外形よりもやや大きく形成される第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂが穿設される。第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂは、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方（矢印Ｕ方向）に形成される（上面視において第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂと第１振り分け孔Ｆ１６１ａとが重なる位置に形成される）。第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを通過することで、通路部Ｆ１７１（第２通路ＦＲｔ２）へ振り分けられた（案内された）球は、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａへ案内される。

【３９５１】

通路部Ｆ１７１の上面には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離だけ隔てて一対の突部Ｆ１７１ｃが突設される。突部Ｆ１７１ｃは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設されると共に、突部Ｆ１７１ｃの上面は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、一対の突部Ｆ１７１ｃの対向面間の距離は、球の直径よりも小さくされると共に、突部Ｆ１７１ｃの正面端における突設長さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、通路部Ｆ１７１の上面に球が接触しない深さに設定される。

【３９５２】

これにより、通路部Ｆ１７１上の球を２箇所（突部Ｆ１７１ｃの上端部における対向面側の一対の稜線部分）で位置決めすることができる。よって、一対の突部Ｆ１７１ｃが非形成の場合と比較して、通路部Ｆ１７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における球の移動（流下、転動）位置を一定とし易くできる。これにより、第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを通過した球を振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａへ案内させ易くできる。

【３９５３】

固定部Ｆ１７２は、略矩形の直方体から形成され、固定部Ｆ１７２の外形は振分通路Ｆ１６０の固定部Ｆ１６２に形成される凹部の内形と同等またはやや小さく形成される。固定部Ｆ１７２が固定部Ｆ１６２に形成される凹部に配設（固定、内嵌）されることで、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方に（矢印Ｕ方向）に第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを配設し易く（正確に配設）できる。

【３９５４】

ここで、例えば、第２通路部材Ｆ１７０を背面部材Ｆ１５０に固定（配設）させる場合、背面部材Ｆ１５０へ振分通路Ｆ１６０及び第２通路部材Ｆ１７０を固定する際の誤差（組立公差）や背面部材Ｆ１５０、振分通路Ｆ１６０及び第２通路部材Ｆ１７０の加工精度（寸法公差）等の要因に起因して、第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂが振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方（矢印Ｕ方向）に配置されない（上面視において、第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂの中心と第１振り分け孔Ｆ１６１ａの中心とが一致しない）虞がある。この場合、第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを通過した球が第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過せず、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂへ振り分けられる（案内される）虞がある。

【３９５５】

これに対し、第２通路部材Ｆ１７０が振分通路Ｆ１６０に固定（配設）されることで、第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方に（矢印Ｕ方向）に第２通路部材Ｆ１７０の第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを配設し易く（正確に配設）でき、第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ案内された球は、第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過して確定通路Ｆ１４０（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞され易い）。

【３９５６】

駆動手段Ｆ１８０は、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２を動作させるためのものであり、駆動力を発生させる駆動モータＦ１８１と、その駆動モータＦ１８１を支持（固定）する支持部材Ｆ１８２と、その支持部材Ｆ１８２を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に貫通して配設される伝達軸Ｆ１８３と、その伝達軸Ｆ１８３の端部に係合される連結部材Ｆ１８４と、その連結部材Ｆ１８４の左右方向両端側において連結部材Ｆ１８４を係合（支持）するガイド部材Ｆ１８５と、を備える。なお、駆動手段Ｆ１８０の駆動については、図３０１及び図３０３を適宜参照して説明する。

【３９５７】

駆動モータＦ１８１は、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２を動作（上下方向に往復動）させる駆動力を与えるためのものであり、その駆動モータＦ１８１の軸を鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けた状態で配設される。これにより、軸を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ向けて配設する場合と比較して、前後方向における配設スペースを小さくできる。また、駆動モータＦ１８１の軸にはギア（図示せず）が配設（固着）される。

【３９５８】

支持部材Ｆ１８２は、駆動モータＦ１８１を支持（固定）するためのものであり、箱状に形成される。支持部材Ｆ１８２は、タッピングネジにより背面部材Ｆ１５０の背面に締結固定される。支持部材Ｆ１８２の下面には、駆動モータＦ１８１の外形よりもやや大きく形成される挿通孔が穿設され、その挿通孔を挿通して駆動モータＦ１８１の軸が支持部材Ｆ１８２の内側に配設される。

【３９５９】

伝達軸Ｆ１８３は、駆動モータＦ１８１の駆動力を連結部材Ｆ１８４へ伝達するためのものであり、軸部Ｆ１８３ａと、その軸部Ｆ１８３ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される伝達部Ｆ１８３ｂと、その伝達部Ｆ１８３ｂの左右方向両端側の端面から突出する偏心軸Ｆ１８３ｃと、を備える。

【３９６０】

軸部Ｆ１８３ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿った棒状に延設され、軸部Ｆ１８３ａは、支持部材Ｆ１８２を貫通して配設される。軸部Ｆ１８３ａには、支持部材Ｆ１８２の内側となる位置にギア（図示せず）が配設（固着）され、その軸部Ｆ１８３ａに配設されるギアと駆動モータＦ１８１の軸に配設されるギア（図示せず）とが噛合することで、駆動モータＦ１８１の駆動力が伝達軸Ｆ１８３に伝達される。

【３９６１】

伝達部Ｆ１８３ｂは、円柱状に形成され、その伝達部Ｆ１８３ｂの軸心は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿った姿勢で配設される。伝達部Ｆ１８３ｂの軸心に軸部Ｆ１８３ａが固定（配設）され、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心とは異なる位置に偏心軸Ｆ１８３ｃが配設される。即ち、偏心軸Ｆ１８３ｃは、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心に偏心して配設される。これにより、伝達部Ｆ１８３ｂが軸部Ｆ１８３ａを回転軸として回転することで、側面視において偏心軸Ｆ１８３ｃは、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心（軸部Ｆ１８３ａ）を中心とした円状に変位する。

【３９６２】

連結部材Ｆ１８４は、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２を動作（上下方向に往復動）させるためのものであり、本体部Ｆ１８４ａと、その本体部Ｆ１８４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端面から突出される一対の被ガイド部Ｆ１８４ｂと、本体部Ｆ１８４ａの正面に配設される取付け部Ｆ１８４ｃと、を備える。

【３９６３】

本体部Ｆ１８４ａには、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿ってスライド溝Ｆ１８４ａ１が開口形成される。スライド溝Ｆ１８４ａ１は、伝達軸Ｆ１８３の偏心軸Ｆ１８３ｃが配設可能に形成され、スライド溝Ｆ１８４ａ１の前後方向における長さは偏心軸Ｆ１８３ｃの前後方向における変位量と同等またはやや大きく形成される。これにより、伝達軸Ｆ１８３を介して駆動モータＦ１８１の駆動力が連結部材Ｆ１８４に伝達される。

【３９６４】

詳細に説明すると、駆動モータＦ１８１が駆動することで、側面視において、偏心軸Ｆ１８３ｃは、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心（軸部Ｆ１８３ａ）を中心として円状に変位する。スライド溝Ｆ１８４ａ１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った内壁を偏心軸Ｆ１８３ｃが押進することにより、偏心軸Ｆ１８３ｃの上下方向の変位が連結部材Ｆ１８４に伝達され、連結部材Ｆ１８４が上下方向に変位する。

【３９６５】

一方、スライド溝Ｆ１８４ａ１の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における長さは、偏心軸Ｆ１８３ｃの前後方向における変位量と同等またはやや大きく形成されるため、偏心軸Ｆ１８３ｃとスライド溝Ｆ１８４ａ１の前後方向両側に形成される内壁とは非当接とされる。従って、偏心軸Ｆ１８３ｃの前後方向の変位は連結部材Ｆ１８４に非伝達とされ、連結部材Ｆ１８４が前後方向に変位することを抑制できる。

【３９６６】

また、偏心軸Ｆ１８３ｃは、側面視において円状に変位するため、連結部材Ｆ１８４の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）への変位を所定量に設定できる、即ち、連結部材Ｆ１８４が所定量を超えて上下方向へ変位することを抑制できる。また、偏心軸Ｆ１８３ｃを一定方向に変位させることで上下方向における連結部材Ｆ１８４の変位を往復動とすることができる。これにより、駆動モータＦ１８１の駆動方向を切り替えるための制御を不要とできる。

【３９６７】

一対の被ガイド部Ｆ１８４ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の間隔を隔ててそれぞれ配設される。一対の被ガイド部Ｆ１８４ｂが一対のガイド溝Ｆ１８５ａにそれぞれ係合（挿通）されることで、ガイド部材Ｆ１８５に対する連結部材Ｆ１８４の回転が抑制される。

【３９６８】

取付け部Ｆ１８４ｃは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を板厚方向とする板状に形成される。取付け部Ｆ１８４ｃには、複数の挿通孔が板厚方向に穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２に締結されることで、連結部材Ｆ１８４に可動部材Ｆ１２２が固定（配設）される。

【３９６９】

ガイド部材Ｆ１８５は、連結部材Ｆ１８４が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）へ変位（往復動）することを案内（連結部材Ｆ１８４が前後方向へ変位することを規制）するためのものである。ガイド部材Ｆ１８５には、複数の挿通孔が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ１５０の突出部Ｆ１５７に締結されることで、背面部材Ｆ１５０にガイド部材Ｆ１８５が固定（配設）される。

【３９７０】

ガイド部材Ｆ１８５には、連結部材Ｆ１８４の一対の被ガイド部Ｆ１８４ｂに対応する位置に一対のガイド溝Ｆ１８５ａが穿設される。ガイド溝Ｆ１８５ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って延設され、ガイド溝Ｆ１８５ａの上下方向における延設長さは、被ガイド部Ｆ１８４ｂの上下方向における変位量よりもやや大きく形成される。ガイド溝Ｆ１８５ａに、被ガイド部Ｆ１８４ｂが挿通（配設）されることで、連結部材Ｆ１８４（被ガイド部Ｆ１８４ｂ）がガイド溝Ｆ１８５ａの延設方向（上下方向）に沿って変位可能とされると共に、連結部材Ｆ１８４（被ガイド部Ｆ１８４ｂ）の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）への変位が規制される。

【３９７１】

第７通路Ｆ１９０は、第１入賞口６４へ入賞した球を遊技領域へ流出（流下）させるためのものであり、背面通路部材Ｆ１９１と、その背面通路部材Ｆ１９１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設されるスイッチＦ１９２と、そのスイッチＦ１９２の上方（矢印Ｕ方向）に配設される可動通路Ｆ１９３と、を備える。

【３９７２】

背面通路部材Ｆ１９１は、第１入賞口６４へ入賞した球が背面側（矢印Ｂ方向側）に変

位することを規制するための部材であり、正面視において横長略矩形の板状体から形成される。背面通路部材Ｆ１９１は、ベース板６０の背面から球の外形よりもやや大きな距離だけ隔てて配設され、ベース板６０、背面通路部材Ｆ１９１及び可動通路Ｆ１９３により囲まれた空間により第７通路ＦＲｔ７が形成される。

【３９７３】

背面通路部材Ｆ１９１は、その背面通路部材Ｆ１９１の周縁部に配設される複数（本実施形態においては４個）の係合突部Ｆ１９１ａと、背面通路部材Ｆ１９１の下端に配設されるスイッチ受け部Ｆ１９１ｂと、を備える。また、背面通路部材Ｆ１９１の下端側には、切欠き部Ｆ１９１ｃが切欠き形成される。

【３９７４】

係合突部Ｆ１９１ａには、挿通孔が穿設されており、その挿通孔に挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。また、係合突部Ｆ１９１ａの突設長さは、球の外形よりも大きく形成され、係合突部Ｆ１９１ａの突設先端をベース板６０の背面に当接させることで、ベース板６０と背面通路部材Ｆ１９１との間に球を案内（送球、流下）可能な空間を形成できる。

【３９７５】

スイッチ受け部Ｆ１９１ｂは、背面通路部材Ｆ１９１の下端から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成され、スイッチ受け部Ｆ１９１ｂの上面にスイッチＦ１９２が支持（配設）される。切欠き部Ｆ１９１ｃは、可動通路Ｆ１９３の外形に沿った形状に切り欠かれ、これにより、背面通路部材Ｆ１９１と可動通路Ｆ１９３とが当接することが抑制される。

【３９７６】

スイッチＦ１９２は、駆動手段Ｆ１８０の駆動モータＦ１８１を駆動させる信号を出力するためのものであり、スイッチＦ１９２と駆動モータＦ１８１とは、配線（図示せず）により電気的に接続される。スイッチＦ１９２がオンされ、このオン動作に基づいて駆動モータＦ１８１へ信号が出力される。

【３９７７】

可動通路Ｆ１９３は、スイッチＦ１９２をオンするためのものであり、被軸支部Ｆ１９３ａと、その被軸支部Ｆ１９３ａから正面側に突設される軸Ｆ１９３ｂと、被軸支部Ｆ１９３ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の端部に形成される通路部Ｆ１９３ｃと、を備える。

【３９７８】

軸Ｆ１９３ｂがベース板６０に穿設される挿通孔に挿通されることで、可動通路Ｆ１９３は、ベース板６０に回転可能に支持される。また、可動通路Ｆ１９３の重心は、軸Ｆ１９３ｂよりも通路部Ｆ１９３ｃ側に位置し、通路部Ｆ１９３ｃがスイッチＦ１９２に当接することで、可動通路Ｆ１９３の変位（回転）が規制される。なお、可動通路Ｆ１９３（通路部Ｆ１９３ｃ）に球が非配設の状態においては、スイッチＦ１９２はオフの状態とされる。

【３９７９】

通路部Ｆ１９３ｃは、可動通路Ｆ１９３（第７通路ＦＲｔ７）へ案内（送球、流下）された球を遊技領域に流出（流下）させるための部位であり、通路部Ｆ１９３ｃには、通路部Ｆ１９３ｃの背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突出する壁部Ｆ１９３ｃ１と、通路部Ｆ１９３ｃの下面から下方（矢印Ｄ方向）へ向けて突出される押部Ｆ１９３ｃ２と、通路部Ｆ１９３ｃの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置に配設される流出面Ｆ１９３ｃ３と、が形成される。

【３９８０】

通路部Ｆ１９３ｃは、背面通路部材Ｆ１９１側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されると共に、下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる湾曲状に形成される。これにより、通路部Ｆ１９３ｃへ案内（送球、流下）された球を壁部Ｆ１９３ｃ１に当接させつつ左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（移動、転動）させることができ、球が遊技領

域に流出（流下）されることを遅延させることができる。
【３９８１】
また、通路部Ｆ１９３ｃの被軸支部Ｆ１９３ａとは反対側における端部が第１入賞口６４の下方（矢印Ｄ方向）に位置する。これにより、第１入賞口６４から通路部Ｆ１９３ｃへ案内（送球、流下）された球を通路部Ｆ１９３ｃに沿って揺動（移動、転動）させ易くできる。
【３９８２】
押部Ｆ１９３ｃ２は、スイッチＦ１９２をオンさせるための部位であり、スイッチＦ１９２に当接した状態で配設される。可動通路Ｆ１９３（通路部Ｆ１９３ｃ）に球が非配設の状態においては、スイッチＦ１９２はオフの状態であり、スイッチＦ１９２により可動通路Ｆ１９３の変位（回転）が規制される。可動通路Ｆ１９３（通路部Ｆ１９３ｃ）に球が振り分けられ、可動通路Ｆ１９３の重量が増加することで、可動通路Ｆ１９３は、軸Ｆ１９３ｂを中心軸として変位（回転）し、スイッチＦ１９２がオンされる。
【３９８３】
流出面Ｆ１９３ｃ３は、ベース板６０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として形成（配置）される。また、流出面Ｆ１９３ｃ３は、ベース板６０の流出口ＦＯＰｏｕｔ２の背面に形成され、これにより、通路部Ｆ１９３ｃへ案内（送球、流下）された球が流出口ＦＯＰｏｕｔ２へ流入して遊技領域へ流出（流下）される。
【３９８４】
なお、本実施形態におけるベース板６０は、上記各実施形態におけるベース板６０に対し、流出口ＦＯＰｏｕｔ２が穿設される以外は同一に形成されるため、同一の符号を付して説明する。
【３９８５】
次いで、図２９７から図２９８を参照して、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）に対する確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３の変位（回転）について説明する。図２９７（ａ）及び図２９８（ａ）は、下側フレームＦ８６ｂの部分拡大正面図であり、図２９７（ｂ）及び図２９８（ｂ）は、下側フレームＦ８６ｂの部分拡大背面図である。
【３９８６】
なお、図２９７は、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）前（以下「閉塞状態」と称す）における下側フレームＦ８６ｂが、図２９８は、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）後（以下「開放状態」と称す）における下側フレームＦ８６ｂが、それぞれ図示される。また、図２９７（ａ）及び図２９８（ａ）においては、通路部材Ｆ１１０の張出し部Ｆ１１１ｂの図示が省略され、図２９７（ｂ）及び図２９８（ｂ）においては、背面部材Ｆ１５０の図示が省略される。
【３９８７】
また、図２９８では、右方側（矢印Ｒ方向側）に配置された変位部材Ｆ１３０の変位（回転）後における下側フレームＦ８６ｂが図示されるが、左方側（矢印Ｌ方向側）に配置された変位部材Ｆ１３０が変位（回転）した状態や、一対の変位部材Ｆ１３０が変位（回転）した状態においても下側フレームＦ８６ｂの開放状態と定義する。
【３９８８】
図２９７に示すように、閉塞状態において、一対の開閉部材Ｆ１４３の遮断部Ｆ１４３ａの対向面側の側面が背面部材Ｆ１５０の係止部Ｆ１５６ｂに当接することで開閉部材Ｆ１４３の変位が規制される。
【３９８９】
上述したように、遮断部Ｆ１４３ａは、正面視において、通路部材Ｆ１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ１を介して遊技者から視認可能となる位置に配設される。従って、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ１へ流入し難く、確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され難い。
【３９９０】

一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離は、球の直径よりもやや大きく形成される。言い換えると、一対の遮断部Ｆ１４３ａは、流入口ＦＯＰｆ１の左右方向中央側には非配設とされ、流入口ＦＯＰｆ１で囲まれた領域における左右方向両側に配設される。

【３９９１】

これにより、閉塞状態においても、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球は、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入して、確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）可能となる。

【３９９２】

また、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間は、下側通路Ｆ１１２の起伏Ｆ１１２ａの頂部の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される。これにより、下側通路Ｆ１１２の起伏Ｆ１１２ａの頂部へ振り分けられた球は、起伏Ｆ１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての下降傾斜に沿って移動（流下、転動）し、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間へ流入して、確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い。

【３９９３】

閉塞状態において、変位部材Ｆ１３０、連結部材Ｆ１４５及び錘Ｆ１４６の全体の重心は、軸Ｆ１３３よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置する。これにより、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向する面と背面部材Ｆ１５０の係止部Ｆ１５６ｂとの当接状態が維持され、下側フレームＦ８６ｂが閉塞状態に維持される。

【３９９４】

以下に図２９１及び図２９２を適宜参照して詳細に説明する。変位部材Ｆ１３０、連結部材Ｆ１４５及び錘Ｆ１４６の全体の重心が軸Ｆ１３３よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置することで、変位部材Ｆ１３０には、軸Ｆ１３３を回転軸として凹部Ｆ１３１ｃ側（左右方向両端側、図２９３参照）が上方（矢印Ｕ方向）へ向けて回転する力が作用する。

【３９９５】

軸Ｆ１３３と連結部材Ｆ１４５とは回転不能に係合（固着）されるため、連結部材Ｆ１４５のスライド係合部Ｆ１４５ｂには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて回転する力が作用し、スライド係合部Ｆ１４５ｂに係合されるスライド部材Ｆ１４４（第２係合部Ｆ１４４ｄ）には、左右方向両端側へ向けて変位する力が作用する。

【３９９６】

スライド部材Ｆ１４４（第１係合部Ｆ１４４ｃ）には、開閉部材Ｆ１４３（係合孔Ｆ１４３ｅ）が係合されるため、スライド部材Ｆ１４４に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位する力が作用することで、開閉部材Ｆ１４３には、軸Ｆ１４２を回転軸として係合孔Ｆ１４３ｅが左右方向両端側へ向けて回転する力が作用する。

【３９９７】

なお、遮断部Ｆ１４３ａと係合孔Ｆ１４３ｅとは、軸Ｆ１４２を挟んで前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に配設される。従って、遮断部Ｆ１４３ａには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて回転する力が作用し、これにより、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向面側の側面と背面部材Ｆ１５０の係止部Ｆ１５６ｂとの当接状態が維持され、下側フレームＦ８６ｂが閉塞状態に維持される。

【３９９８】

次いで、下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態から開放状態への動作について説明する。上側通路Ｆ１１４の第２流出面Ｆ１１４ｂ（第１通路ＦＲｔ１）を案内された球が変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）され（図２８７参照）、球が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて移動（流下、転動）することで、転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）する球を含む変位部材Ｆ１３０、連結部材Ｆ１４５及び錘Ｆ１４６の全体の重心が、軸Ｆ１３３よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に位置する。

【３９９９】

これにより、変位部材Ｆ１３０は、軸Ｆ１３３を回転軸として凹部Ｆ１３１ｃ側（左右方向両端側、図２９３参照）が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて回転し、連結部材Ｆ１４５の連結本体部Ｆ１４５ａが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて回転する。上方へ回転した連結本体部Ｆ１４５ａが演出手段Ｆ１２０の規制片Ｆ１２１ｄに当接することで、変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ１４０の動作が規制され、下側フレームＦ８６ｂが開放状態に配置（維持）される。

【４０００】

なお、変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ１４０の各部材には上述した下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態の維持とは反対方向に力が作用することで下側フレームＦ８６ｂが開放状態へ動作されるため、その詳細な説明は省略する。

【４００１】

図２９８に示すように、下側フレームＦ８６ｂの開放状態において、遮断部Ｆ１４３ａは、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置される。言い換えると、遮断部Ｆ１４３ａは、正面視において、通路部材Ｆ１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ１を介して遊技者から視認不能となる位置に変位される。従って、下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態と比較して、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離が大きくなり、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ易くできる。

【４００２】

下側フレームＦ８６ｂの開放状態において、変位部材Ｆ１３０は、変位（回転）された状態に維持される。これにより、下側フレームＦ８６ｂの開放状態を遊技者に視認させ易くできる。

【４００３】

このように、通路部材Ｆ１１０の上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）を移動（流下、転動）する球が変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）されることで（図２８７参照）、球の重量を利用して変位部材Ｆ１３０が閉塞状態から開放状態へ向けて変位（回転）する。これにより、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を、一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ易くでき、確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）させ易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できる。

【４００４】

従って、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を球が移動（流下、転動）している場合に、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）する球の有無を遊技者に意識させ、興趣を高めることができる。

【４００５】

なお、下側フレームＦ８６ｂの解放状態から閉塞状態へ向けての動作は、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂから球が流出される（転動面Ｆ１３１ｂに球の重量が非作用となる）ことで行われる。下側フレームＦ８６ｂの解放状態から閉塞状態へ向けての力（重力）の作用、は閉塞状態の維持と同様であるためその説明は省略する。

【４００６】

このように、球の重量を利用して下側フレームＦ８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させることができるため、駆動装置を不要とでき、製造コストを低減できる。

【４００７】

ここで、遊技の興趣を高めるを高めるために、通路部材Ｆ１１０の上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）を移動（流下、転動）する球（以下「先行の球」と称す）が変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂへ振り分けられることで（図２８７参照）、その先行の球の後続となる球（以下「後続の球」と称す）が第２通路部材Ｆ１７０

（第２通路ＦＲｔ２）若しくは振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ振り分けられ易く（第１入賞口６４へ入賞され易く）なる場合が考えられる。

【４００８】

この場合、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）先行の球は、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出され易く（第１入賞口６４へ入賞し難く）、従って、遊技者に最後まで注視され難い。

【４００９】

これに対し、本実施形態では、後続の球が変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂ（第３通路ＦＲｔ３）へ振り分けられる（案内される）ことで、先行の球を一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ１へ流入させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞させ易くできる）。これにより、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた先行の球を遊技者に最後まで注視させることができる。

【４０１０】

また、後続の球が転動面Ｆ１３１ｂを移動（流下、転動）することで、先行の球だけでなくその先行の球よりも先に下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）球（以下「先々行の球」と称す）を第１入賞口６４へ入賞させ易くできる。

【４０１１】

従って、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ複数（２個以上）の球が振り分けられた（案内された）状態において、後続の球が転動面Ｆ１３１ｂへ振り分けられることで、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する複数の球の全てを第１入賞口６４へ入賞させ易くできるため、遊技の興趣を高めることができる。

【４０１２】

また、先行の球が変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂ（第３通路ＦＲｔ３）へ振り分けられる（案内される）ことで、先々行の球を第１入賞口６４へ入賞させ易くでき、先行の球が下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ振り分けられた（案内された）状態では、先行の球は第１入賞口６４へ入賞可能となる。このように、先々行の球を第１入賞口６４へ入賞させ易くする役割と第１入賞口６４へ入賞する役割とを兼用させることができ、球の価値を高めることができる。

【４０１３】

図２８７から図２９６に戻って、下側フレームＦ８６ｂを流下する球について説明する。遊技領域を流下する球のうち、上側フレームＦ８６ａに配設される上側フレーム通路ＦＲｔ０（図２８６参照）を案内された球は、通路部材Ｆ１１０の上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の上流端に流入（入球）される。

【４０１４】

上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の上流端に流入（入球）された球は、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って上側通路Ｆ１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）し、第１流出面Ｆ１１４ａ若しくは第２流出面Ｆ１１４ｂから第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）若しくは変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流出）される。

【４０１５】

第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）へ案内（送球、流出）された球は、通路部Ｆ１７１の突出方向（矢印Ｆ方向）に沿って移動（流下、転動）し、通路部Ｆ１７１に穿設される第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂを通過して振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ案内（送球、流出）される。

【４０１６】

変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流出）された球は、変位部材Ｆ１３０の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って第３通路流出面Ｆ１３１ａ若しくは転動面Ｆ１３１ｂ上を移動（流下、転動）する。第３通路流出面Ｆ１３１ａを移動（流下、転動）した球は、振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ案内（送球、流出）され、転動面Ｆ１３１ｂ上を移動（流下、転動）した球は、第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄを通過して通路

部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ案内（送球、流出）される。
【４０１７】
ここで、変位部材Ｆ１３０の通路部Ｆ１３１に形成される起伏の頂部（第３通路流出面Ｆ１３１ａと転動面Ｆ１３１ｂとの境界）は、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）の第２流出面Ｆ１１４ｂの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における位置が最も低い位置よりも振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）側となる位置に形成される。これにより、上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）から通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流下）された球は、第３通路流出面Ｆ１３１ａ（振分通路Ｆ１６０、第４通路ＦＲｔ４）よりも転動面Ｆ１３１ｂ（下側通路Ｆ１１２、第５通路ＦＲｔ５）へ案内（送球、流下）され易い。
【４０１８】
変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）へ案内（送球、流出）された球が転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）されることで、下側フレームＦ８６ｂが開放状態に配置され、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）させ易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できる。
【４０１９】
上述したように、変位部材Ｆ１３０の軸Ｆ１３３は、通路部材Ｆ１１０の第２流出面Ｆ１１４ｂの下方（矢印Ｄ方向）に配設されるため、第２流出面Ｆ１１４ｂから案内（送球、流下）された球を軸Ｆ１３３の上方（矢印Ｕ方向）における通路部Ｆ１３１へ案内（送球、流下）させることができる。これにより、通路部Ｆ１３１へ球が案内（送球、流下）された際の衝撃を通路部Ｆ１３１に加え軸Ｆ１３３により受け止めることができ、通路部Ｆ１３１の破損を抑制し易くできる。
【４０２０】
また、転動面Ｆ１３１ｂを球が転動（送球、流下）するに従って、変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ１４０を徐々に変位（回転）させることができる。これにより、連結部材Ｆ１４５の連結本体部Ｆ１４５ａと演出手段Ｆ１２０の規制片Ｆ１２１ｄとが当接する際の衝撃を小さくでき、連結本体部Ｆ１４５ａ又は規制片Ｆ１２１ｄの破損を抑制し易くできる。
【４０２１】
ここで、図２９９を参照して、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）された球の移動（流下、転動）について説明する。図２９９は、変位部材Ｆ１３０の部分上面図であり、図２９９（ａ）は、下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態、図２９９（ｂ）から図２９９（ｄ）は、下側フレームＦ８６ｂの開放状態における変位部材Ｆ１３０が図示される（図２９７、図２９８参照）。
【４０２２】
図２９９（ａ）に示すように、通路部材Ｆ１１０の上側通路Ｆ１１４（第１通路ＦＲｔ１）（図２９３参照）から変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の転動面Ｆ１３１ｂへ案内（送球、流下）された球ＣＢ１は、転動面Ｆ１３１ｂに形成される下降傾斜に沿って凹部Ｆ１３１ｃへ向けて移動（流下、転動）される。
【４０２３】
図２９９（ｂ）に示すように、転動面Ｆ１３１ｂが壁部Ｆ１３２側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されるため、球ＣＢ１は、壁部Ｆ１３２に当接しつつ凹部Ｆ１３１ｃへ向けて移動（流下、転動）される。このように、球ＣＢ１を壁部Ｆ１３２に当接しつつ移動（流下、転動）させることで、壁部Ｆ１３２との間に生じる摩擦力を利用して球の移動速度を低減できる。これにより、下側フレームＦ８６ｂの開放状態における期間を長くできる。
【４０２４】
図２９９（ｃ）に示すように、球ＣＢ１が壁部Ｆ１３２に当接しつつ移動（流下、転動）されることにより、球ＣＢ１は、凹部Ｆ１３１ｃにおける壁部Ｆ１３２側（矢印Ｆ方向

側）へ案内される。即ち、球ＣＢ１は、凹部Ｆ１３１ｃの軸心（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの中心）から偏心した位置へ向けて案内される。

【４０２５】

図２９９（ｄ）に示すように、凹部Ｆ１３１ｃの軸心（第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄの中心）から偏心した位置へ球ＣＢ１が案内されることで、球ＣＢ１は、凹部Ｆ１３１ｃの内周面に沿って周回され易い。これにより、球ＣＢ１が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ流入して変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）から流出（流下）されることを遅延させることができる。その結果、変位部材Ｆ１３０に球ＣＢ１の重量が作用している期間を長くでき、下側フレームＦ８６ｂの開放状態における期間を長くできる。

【４０２６】

また、凹部Ｆ１３１ｃの内周面に沿って球ＣＢ１を移動（流下、転動）させることで、凹部Ｆ１３１ｃの内周面との間に生じる摩擦力を利用して球の移動速度を低減でき、球ＣＢ１が第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄへ流入することを遅延させることができる。

【４０２７】

ここで、凹部Ｆ１３１ｃの内周面および底面Ｆ１３１ｃ１は、平坦面に形成される、言い換えると、凹部Ｆ１３１ｃの内周面が径方向において同一に形成され、底面Ｆ１３１ｃ１が鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において同一に形成される。従って、、凹部Ｆ１３１ｃの内周面および底面Ｆ１３１ｃ１に高低差が無く、球ＣＢ１を凹部Ｆ１３１ｃの内周面に沿って周回させ易くできる。

【４０２８】

また、凹部Ｆ１３１ｃの内周面および底面Ｆ１３１ｃ１が連続して形成される、言い換えると、凹部Ｆ１３１ｃの内周面および底面Ｆ１３１ｃ１に間欠部が非形成とされるため、球ＣＢ１を凹部Ｆ１３１ｃの内周面に沿って周回させ易くできる。

【４０２９】

図２８７から図２９６に戻って説明する。上述したように、通路部Ｆ１３１の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、第３通路流出面Ｆ１３１ａに対向する位置には、振分通路Ｆ１６０における背面側（矢印Ｂ方向側）が配置される。

【４０３０】

これにより、第３通路流出面Ｆ１３１ａ（第３通路ＦＲｔ３）から第４通路部Ｆ１６１（第４通路ＦＲｔ４）へ振り分けられた（案内された）球を円状に湾曲して形成される第４通路部Ｆ１６１の凹設側面に沿って移動（流下、転動）させることができ、第１振り分け孔Ｆ１６１ａ若しくは第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過して下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）へ案内（送球、流出）されることを遅延させることができる。その結果、遊技者に第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過することを期待させる時間を長くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【４０３１】

第２通路部材Ｆ１７０の第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂは、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａの上方（矢印Ｕ方向）に形成される（上面視において第２通路貫通孔Ｆ１７１ｂと第１振り分け孔Ｆ１６１ａとが重なる位置に形成される）ため（図２９３参照）、第２通路部材Ｆ１７０（第２通路ＦＲｔ２）から振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ振り分けられた（案内された）球は、振分通路Ｆ１６０の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過し易い。

【４０３２】

一方、振分通路Ｆ１６０の第４通路部Ｆ１６１は、固定部Ｆ１６２から正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成され、且つ、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂは、第１振り分け孔Ｆ１６１ａより正面側に穿設されるため、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）から振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）へ振り分けられた（案内された）球は、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過し易い。

【４０３３】

振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）の第１振り分け孔Ｆ１６１ａを通過した球は、

下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）に形成される起伏Ｆ１１２ａの頂部のへ案内（送球、流出）される。起伏Ｆ１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての下降傾斜により、起伏Ｆ１１２ａの頂部へ案内（送球、流出）された球は、流入口ＦＯＰｆ１へ向けて移動（流下、転動）し、開閉部材Ｆ１４３の一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間へ流入して確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞され易い）。

【４０３４】

一方、振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過、若しくは、変位部材Ｆ１３０（第３通路ＦＲｔ３）の第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄを通過した球は、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）に形成される起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ案内（送球、流出）される。

【４０３５】

下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の流出面Ｆ１１２ｂは、起伏Ｆ１１２ａの底部に形成されるため、起伏Ｆ１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられた球は、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（移動、転動）し、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）され易い。

【４０３６】

また、立て壁部Ｆ１１３には膨出部Ｆ１１３ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成されるため、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）する球は、膨出部Ｆ１１３ａに沿って移動（流下、転動）することで、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分が付与される。従って、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の左右方向中央側へ向けて移動（流下、転動）する球は、立て壁部Ｆ１１３に穿設される流入口ＦＯＰｆ１へ流入し難く、流出面Ｆ１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）され易い。

【４０３７】

ここで、下側フレームＦ８６ｂの閉塞状態では、一対の遮断部Ｆ１４３ａは、流入口ＦＯＰｆ１の縁部の内側に配設される。一方、下側フレームＦ８６ｂの開放状態では、遮断部Ｆ１４３ａは、通路部材Ｆ１１０の立て壁部Ｆ１１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置され、閉塞状態よりも一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間の距離が大きくされる。これにより、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、閉塞状態よりも開放状態において流入口ＦＯＰｆ１（一対の遮断部Ｆ１４３ａの対向間）へ流入し、確定通路Ｆ１４０の第６通路部材Ｆ１４１（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞され易い）。

【４０３８】

従って、下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を球が移動（流下、転動）している状態において、下側フレームＦ８６ｂが開放状態となることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４０３９】

流入口ＦＯＰｆ１（一対の遮断部Ｆ１４３ａの間）へ流入した球は、確定通路Ｆ１４０の第６通路部材Ｆ１４１（第６通路ＦＲｔ６）へ案内（送球、流下）され、第６通路部材Ｆ１４１の通路部Ｆ１４１ｂに形成された一対の突部Ｆ１４１ｂ３に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する。次いで、通路部材Ｆ１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過して第１入賞口６４へ入賞（案内、送球、流出）される。

【４０４０】

次いで、図３００から図３０３を参照して、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２の動作（上下方向の往復動）について説明する。図３００及び図３０２は、下側フレームＦ８６ｂの正面図である。図３０１（ａ）及び図３０３（ａ）は、下側フレームＦ８６ｂの背面図であり、図３０１（ｂ）は、図３０１（ａ）の矢印ＣＣＣＩｂ方向視における下側フレームＦ８６ｂの側面図であり、図３０３（ｂ）は、図３０３（ａ）の矢印ＣＣＣＩＩＩｂ方向視における下側フレームＦ８６ｂの側面図である。

【４０４１】
なお、図３００及び図３０１は、可動部材Ｆ１２２が最も下方（矢印Ｄ方向）に配置された状態が図示され、図３０２及び図３０３は、可動部材Ｆ１２２が最も上方（矢印Ｕ方向）に配置された状態が図示される。
【４０４２】
また、図３００及び図３０２においては、ベース板６０及び第７通路Ｆ１９０の背面通路部材Ｆ１９１の図示が省略され、図３０１及び図３０３においては、駆動手段Ｆ１８０のガイド部材Ｆ１８５の外形が二点鎖線で図示される。
【４０４３】
図３００及び図３０１に示すように、可動部材Ｆ１２２が最も下方（矢印Ｄ方向）に配置された状態では、固定部材Ｆ１２１の本体部および突出部と可動部材Ｆ１２２の本体部および突出部とにより囲まれた空間に開口部が形成され、その開口部から着色部材Ｆ１２３が露出される（着色部材Ｆ１２３が遊技者に視認可能とされる）。また、駆動手段Ｆ１８０の伝達軸Ｆ１８３に配設される偏心軸Ｆ１８３ｃ及び連結部材Ｆ１８４は、最も下方（矢印Ｄ方向）に位置する。
【４０４４】
次いで、可動部材Ｆ１２２の上方（矢印Ｕ方向）への動作（変位）について説明する。第１入賞口６４から第７通路Ｆ１９０（第７通路ＦＲｔ７）へ振り分けられた（案内された）球が可動通路Ｆ１９３の通路部Ｆ１９３ｃに案内（送球、流出）されることで、球および可動通路Ｆ１９３の重量により、可動通路Ｆ１９３は、軸Ｆ１９３ｂを回転軸として通路部Ｆ１９３ｃが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて変位（回転）する。
【４０４５】
これにより、スイッチＦ１９２がオンされ、駆動モータＦ１８１が駆動される。駆動モータＦ１８１の駆動により、伝達軸Ｆ１８３が回転し、偏心軸Ｆ１８３ｃが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて変位する。偏心軸Ｆ１８３ｃと連結部材Ｆ１８４のスライド溝Ｆ１８４ａ１との係合により、連結部材Ｆ１８４が上方（矢印Ｕ方向）へ向けて変位することで、連結部材Ｆ１８４に固定（配設）される可動部材Ｆ１２２が上方へ向けて動作（変位）する。
【４０４６】
可動部材Ｆ１２２の動作（変位）により、遊技者は、球が第１入賞口６４へ入賞（案内、送球、流出）されたことを視認でき、遊技者が第１入賞口６４を注視することを不要とできる。なお、可動通路Ｆ１９３へ案内（送球、流出）された球は、通路部Ｆ１９３ｃの流出面Ｆ１９３ｃ３からベース板６０の流出口ＦＯＰｏｕｔ２を通過して遊技領域へ流出（流下）される。
【４０４７】
図３０２及び図３０３に示すように、可動部材Ｆ１２２が最も下方（矢印Ｄ方向）に配置された状態と比較して、可動部材Ｆ１２２が最も上方（矢印Ｕ方向）に配置された状態では、固定部材Ｆ１２１の本体部および突出部と可動部材Ｆ１２２の本体部および突出部とにより囲まれた開口部は小さく、その開口部から露出される着色部材Ｆ１２３の露出面積が減少する。このように、可動部材Ｆ１２２の動作（変位）により、着色部材Ｆ１２３の露出面積が変化（減少あるいは増加）することで、可動部材Ｆ１２２が動作（変位）したこと、即ち、球が第１入賞口６４へ入賞（案内、送球、流出）されたことを遊技者に視認させ易くできる。
【４０４８】
なお、可動部材Ｆ１２２が最も上方（矢印Ｕ方向）に配置された状態では、可動部材Ｆ１２２の本体部の下端は、着色部材Ｆ１２３の下端よりも下方（矢印Ｄ方向）に配設され、可動部材Ｆ１２２の下方から着色部材Ｆ１２３が露出することが抑制される。これにより、可動部材Ｆ１２２が上方（矢印Ｕ方向）に変位するにつれて着色部材Ｆ１２３の露出面積を減少させ続ける（可動部材Ｆ１２２の下方から着色部材Ｆ１２３が露出されることを抑制する）ことができ、可動部材Ｆ１２２が動作（変位）したことを遊技者に視認させ

易くできる。
【４０４９】
次いで、図３０４を参照して、第８５実施形態における下側フレームＦ２０８６ｂについて説明する。上記第８４実施形態では、確定通路Ｆ１４０の開閉部材Ｆ１４３とスライド部材Ｆ１４４とが係脱不能に係合される場合を説明したが、第８５実施形態における確定通路Ｆ２１４０の開閉部材Ｆ２１４３とスライド部材Ｆ２１４４とは係脱可能に係合される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【４０５０】
図３０４（ａ）及び図３０４（ｃ）は、第８５実施形態における下側フレームＦ２０８６ｂの部分拡大正面図であり、図３０４（ｂ）及び図３０４（ｄ）は、下側フレームＦ２０８６ｂの部分拡大上面図である。なお、図３０４（ａ）及び図３０４（ｂ）は、下側フレームＦ２０８６ｂの閉塞状態が図示され、図３０４（ｃ）及び図３０４（ｄ）は、右方側（矢印Ｒ方向側）に配置された変位部材Ｆ１３０が変位（回転）した場合における下側フレームＦ２０８６ｂの開放状態が図示される。また、図３０４では、下側フレームＦ２０８６ｂの変位部材Ｆ１３０と、確定通路Ｆ２１４０の軸Ｆ１４２、開閉部材Ｆ２１４３、スライド部材Ｆ２１４４及び連結部材Ｆ１４５と、背面部材Ｆ１５０の一対のスライド棒Ｆ１５８と、が模式的に図示される。
【４０５１】
図３０４に示すように第８５実施形態における開閉部材Ｆ２１４３の遮断部Ｆ１４３ａには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側における背面から背面側（矢印Ｂ方向側）に突設する被規制部Ｆ２１４３ｆが形成される。また、スライド部材Ｆ２１４４のスライド本体部Ｆ１４４ａには、被規制部Ｆ２１４３ｆの背面側となる位置に正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出する規制部Ｆ２１４４ｅが形成される。
【４０５２】
また、開閉部材Ｆ２１４３の突出部Ｆ２１４３ｃに形成される係合孔Ｆ２１４３ｅには、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に切欠きＦ２１４３ｅ１が形成される。これらにより、不正に開閉部材Ｆ２１４３を操作して開閉部材Ｆ２１４３を変位（回転）させることを抑制できる。
【４０５３】
詳細に説明すると、図３０４（ａ）及び図３０４（ｂ）に示すように、外力により軸Ｆ１４２を回転軸として開閉部材Ｆ２１４３を回転させる場合、係合孔Ｆ２１４３ｅに切欠きＦ２１４３ｅ１が形成されるため、開閉部材Ｆ２１４３の突出部Ｆ２１４３ｃ（係合孔Ｆ２１４３ｅ）とスライド部材Ｆ２１４４の第１係合部Ｆ１４４ｃとは非係合となる。
【４０５４】
これにより、開閉部材Ｆ２１４３の回転に対し、スライド部材Ｆ２１４４は、背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位されず、閉塞状態の位置に留まる。その結果、被規制部Ｆ２１４３ｆと規制部Ｆ２１４４ｅとが当接し、開閉部材Ｆ２１４３の変位（回転）が抑制される。
【４０５５】
図３０４（ｃ）及び図３０４（ｄ）に示すように、変位部材Ｆ１３０の変位（回転）に連動してスライド部材Ｆ２１４４が背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位される場合、スライド部材Ｆ２１４４の規制部Ｆ２１４４ｅは、開閉部材Ｆ２１４３の被規制部Ｆ２１４３ｆの背面側（矢印Ｂ方向側）とは異なる位置へ変位する。これにより、開閉部材Ｆ２１４３が変位（回転）可能となり、スライド部材Ｆ２１４４の変位に連動して開閉部材Ｆ２１４３が変位（回転）される。
【４０５６】
なお、開閉部材Ｆ２１４３には、図示しない付勢ばね（例えば、ねじりばね）が係合され、その付勢ばねにより、開閉部材Ｆ２１４３の遮断部Ｆ１４３ａには左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて変位する付勢力が作用される。これにより、変位部材Ｆ１３０

（第３通路ＦＲｔ３）から球が流出（流下、落下）されると、下側フレームＦ２０８６ｂ（開閉部材Ｆ２１４３）は、開放状態から閉塞状態に動作される。

【４０５７】

次いで、図３０５を参照して、第８６実施形態における下側フレームＦ３０８６ｂについて説明する。第８６実施形態における下側フレームＦ３０８６ｂでは、確定通路Ｆ３１４０の錘支持部Ｆ３１４５ｃが破損して脱落した場合、スライド部材Ｆ３１４４の変位が規制される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４０５８】

図３０５（ａ）及び図３０５（ｂ）は、第８６実施形態における下側フレームＦ３０８６ｂの部分拡大背面図であり、図３０５（ａ）は、下側フレームＦ３０８６ｂの閉塞状態が図示され、図３０５（ｂ）は、下側フレームＦ３０８６ｂの開放状態が図示される。

【４０５９】

なお、図３０５（ｂ）では、右方側（矢印Ｒ方向側）に配置された変位部材Ｆ１３０が変位（回転）した場合における下側フレームＦ３０８６ｂの開放状態であり、左方側（矢印Ｌ方向側）に配置された確定通路Ｆ３１４０の錘支持部Ｆ３１４５ｃが破損して連結本体部Ｆ１４５ａから脱落した状態が模式的に図示される。

【４０６０】

また、図３０５では、演出手段Ｆ３１２０の固定部材Ｆ３１２１、変位部材Ｆ１３０、確定通路Ｆ３１４０、背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８及び振分通路Ｆ１６０のみが図示される。

【４０６１】

図３０５に示すように第８６実施形態における確定通路Ｆ３１４０は、スライド部材Ｆ３１４４のスライド本体部Ｆ３１４４ａの上面が背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８の上端と略同一の高さに形成され、スライド部材Ｆ３１４４には、スライド本体部Ｆ３１４４ａの上端から突設される規制部Ｆ３１４４ｅが形成される。

【４０６２】

規制部Ｆ３１４４ｅは、スライド部材Ｆ３１４４において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に形成され、その規制部Ｆ３１４４ｅの上端には、左右方向両端側へ向かうにつれて上昇傾斜する呼び込み部Ｆ３１４４ｆが形成される。

【４０６３】

また、演出手段Ｆ３１２０の固定部材Ｆ３１２１の背面には、規制部Ｆ３１２１ｅが形成される。規制部Ｆ３１２１ｅは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、スライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと対面して配設され、下側フレームＦ３０８６ｂの閉塞状態において、規制部Ｆ３１４４ｅと所定（連結部材Ｆ３１４５の錘支持部Ｆ３１４５ｃの外形よりもやや大きい寸法）の距離を隔てて配設される。

【４０６４】

確定通路Ｆ３１４０の錘支持部Ｆ３１４５ｃは、四角柱状に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、スライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと固定部材Ｆ３１２１の規制部Ｆ３１２１ｅとの間に配設される。

【４０６５】

本実施形態における下側フレームＦ３０８６ｂでは、錘支持部Ｆ３１４５ｃが演出手段Ｆ３１２０の規制片Ｆ１２１ｄに当接した際の衝撃や連結本体部Ｆ１４５ａから錘支持部Ｆ３１４５ｃを不正に切断する等により、連結部材Ｆ３１４５から錘支持部Ｆ３１４５ｃが脱落した場合、その錘支持部Ｆ３１４５ｃは、スライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと固定部材Ｆ３１２１の規制部Ｆ３１２１ｅとの間に落下される。脱落した錘支持部Ｆ３１４５ｃは、スライド部材Ｆ３１４４のスライド本体部Ｆ３１４４ａの上面および背面部材Ｆ１５０のスライド棒Ｆ１５８により支持される。

【４０６６】

連結部材Ｆ３１４５から錘支持部Ｆ３１４５ｃが脱落した場合、１のユニットとして形

成される変位部材Ｆ１３０及び確定通路Ｆ３１４０の全体の重心が軸Ｆ１３３よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に位置する。これにより、スライド部材Ｆ３１４４は、左右方向中央側へ向けて変位され、下側フレームＦ３０８６ｂは開放状態へ向けて動作（変位）する。

【４０６７】

ここで、本実施形態おける下側フレームＦ３０８６ｂでは、脱落した錘支持部Ｆ３１４５ｃがスライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと固定部材Ｆ３１２１の規制部Ｆ３１２１ｅとの間に落下することで、錘支持部Ｆ３１４５ｃによりスライド部材Ｆ３１４４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての変位が規制される。これにより、錘支持部Ｆ３１４５ｃの脱落に起因して下側フレームＦ３０８６ｂが開放状態となることを抑制できる。

【４０６８】

また、スライド部材Ｆ３１４４が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて変位され、スライド部材Ｆ３１４４の規制部Ｆ３１４４ｅと固定部材Ｆ３１２１の規制部Ｆ３１２１ｅとの間の距離が錘支持部Ｆ３１４５ｃの外形の寸法よりも小さい状態（下側フレームＦ３０８６ｂの開放状態）においては、錘支持部Ｆ３１４５ｃが呼び込み部Ｆ３１４４ｆに当接することで、スライド部材Ｆ３１４４を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位させることができる。これにより、下側フレームＦ３０８６ｂを閉塞状態とできる。言い換えると、錘支持部Ｆ３１４５ｃが脱落することにより、下側フレームＦ３０８６ｂが開放状態に維持されることを抑制できる。

【４０６９】

次いで、図３０６から図３０７を参照して、第８７実施形態における下側フレームＦ４０８６ｂについて説明する。第８７実施形態における下側フレームＦ４０８６ｂでは、変位部材Ｆ４１３０が変位（回転）することで、振分通路Ｆ１６０の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを球が通過することが抑制される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４０７０】

図３０６（ａ）及び図３０７（ａ）は、第８７実施形態における下側フレームＦ４０８６ｂの上面図であり、図３０６（ｂ）及び図３０７（ｂ）は、下側フレームＦ４０８６ｂの部分拡大正面図である。なお、図３０６は、下側フレームＦ４０８６ｂの閉塞状態が図示され、図３０７は、下側フレームＦ４０８６ｂの開放状態が図示される。また、図３０６及び図３０７では、変位部材Ｆ４１３０の抑制部Ｆ４１３４の一部が破線にて図示される。

【４０７１】

図３０６から図３０７に示すように第８７実施形態における変位部材Ｆ４１３０には、第８４実施形態における変位部材Ｆ１３０に加え、抑制部Ｆ４１３４が形成される。抑制部Ｆ４１３４は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる板状体から形成され、その抑制部Ｆ４１３４の左右方向両端側の端部は、通路部Ｆ１３１に連結される。抑制部Ｆ４１３４の左右方向中央側の端部は、振分通路Ｆ１６０の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂの下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて延設して形成される。また、抑制部Ｆ４１３４の左右方向中央側の端部には、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出する突出部Ｆ４１３４ａが突設される。

【４０７２】

突出部Ｆ４１３４ａは、円柱状から形成され、その突出部Ｆ４１３４ａの外径は、振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂの内径よりも小さく形成される。

【４０７３】

突出部Ｆ４１３４ａは、軸Ｆ１３３よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に配設され、軸Ｆ１３３を回転軸として変位部材Ｆ４１３０が変位（回転）することで、突出部Ｆ４１３４ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて回転（変位）される。

【４０７４】

また、図３０６に示すように、下側フレームＦ４０８６ｂの閉塞状態においては、突出部Ｆ４１３４ａは、振分通路Ｆ１６０の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂの内周面よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される。これにより、振分通路Ｆ１６０（第４通路ＦＲｔ４）の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過した球が突出部Ｆ４１３４ａに当接することを抑制できる。

【４０７５】

一方、図３０７に示すように、下側フレームＦ４０８６ｂの開放状態においては、軸Ｆ１３３を回転軸として変位部材Ｆ４１３０が変位（回転）することで、突出部Ｆ４１３４ａは、振分通路Ｆ１６０の第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを挿通した状態に配設される。

【４０７６】

従って、下側フレームＦ４０８６ｂの開放状態においては、第４通路部Ｆ１６１（第４通路ＦＲｔ４）へ案内された球は、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂを通過することが抑制され、第１振り分け孔Ｆ１６１ａへ案内（送球、流出）させることができる（第１入賞口６４へ入賞し易くできる）。

【４０７７】

本実施形態における下側フレームＦ４０８６ｂでは、開放状態において、通路部材Ｆ１１０の下側通路Ｆ１１２（第５通路ＦＲｔ５）を移動（流下、転動）する球を確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ振り分け易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できると共に、振分通路Ｆ１６０の第４通路部Ｆ１６１（第４通路ＦＲｔ４）を移動（流下、転動）する球を通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ振り分け易くできる。

【４０７８】

言い換えると、変位部材Ｆ４１３０の通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）へ振り分けられた球が、第３通路流出面Ｆ１３１ａ若しくは第３通路貫通孔Ｆ１３１ｄのどちらへ向けて移動（流下、転動）する場合であっても通路部Ｆ１４１ｂ（第６通路ＦＲｔ６）へ振り分け易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）でき、遊技の興趣を高めることができる。

【４０７９】

次いで、図３０８から図３２０を参照して、第８８実施形態における下側フレームＦ５０８６ｂについて説明する。上記第８４実施形態では、球が変位部材Ｆ１３０の通路部Ｆ１３１へ振り分けられる（案内される）ことで開閉部材Ｆ１４３が変位（回転）する場合を説明したが、第８８実施形態における下側フレームＦ５０８６ｂでは、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５に球が保持されることで開閉部材Ｆ５１５８が変位（回転）する。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４０８０】

図３０８は、第８８実施形態における遊技盤Ｆ５０１３の正面図である。図３０８に示すように、センターフレームＦ５０８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図７参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＦ５０８６ａと下側フレームＦ５０８６ｂとを備える。

【４０８１】

上側フレームＦ５０８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図７参照）における上側（図３０８上側）及び左右（図３０８左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＦ５０８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図３０８下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＦ５０８６ａ及び下側フレームＦ５０８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１（図１４４参照）が視認可能とされる。

【４０８２】

なお、上側フレームＦ５０８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図３０８下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＦ５０８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同

一の構成とされる。
【４０８３】
次いで、図３０８に加え、図３０９から図３１０を参照して下側フレームＦ５０８６ｂについて説明する。図３０９は、下側フレームＦ５０８６ｂの正面斜視図であり、図３１０は、下側フレームＦ５０８６ｂの背面斜視図である。
【４０８４】
図３０９から図３１０に示すように、下側フレームＦ５０８６ｂには、球が移動（流下、転動）可能に形成される第１通路ＦＲｔ５１と、その第１通路ＦＲｔ５１を案内された球が移動（流下、転動）される第２通路ＦＲｔ５２及び一対の第３通路ＦＲｔ５３と、第２通路ＦＲｔ５２若しくは一対の第３通路ＦＲｔ５３を案内された球が移動（流下、転動）される第４通路ＦＲｔ５４と、第４通路ＦＲｔ５４を案内された球が流下される第５通路ＦＲｔ５５と、第４通路ＦＲｔ５４を案内された球が第５通路ＦＲｔ５５へ案内（流入、送球）される開口として形成される流入口ＦＯＰｆ５１と、第５通路ＦＲｔ５５を流下された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＦＯＰｏｕｔ１とが形成される。
【４０８５】
なお、一対の第３通路ＦＲｔ５３は、遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図３０８左右方向）における中心に対し線（面）対称（図３０８左右対称）に配設される。
【４０８６】
上側フレームＦ５０８６ａには、上側フレーム通路ＦＲｔ５０が配設される（図３０８参照）。上側フレーム通路ＦＲｔ５０は、遊技領域を流下する球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＦＲｔ５０の下流端に第１通路ＦＲｔ５１の上流端が連通される。
【４０８７】
即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、第１通路ＦＲｔ５１の上流端を介して、上側フレーム通路ＦＲｔ５０から下側フレームＦ５０８６ｂの第１通路ＦＲｔ５１へ流入（入球）される。なお、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、上側フレーム通路ＦＲｔ５０から下側フレームＦ５０８６ｂの第１通路ＦＲｔ５１若しくは第４通路ＦＲｔ５４へ流入（入球）されても良い。
【４０８８】
ここで、第５通路ＦＲｔ５５の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第４通路ＦＲｔ５４の流入口ＦＯＰｆ５１を通過して第４通路ＦＲｔ５４から第５通路ＦＲｔ５５へ振り分けられた（案内された）球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【４０８９】
なお、第４通路ＦＲｔ５４には、第１入賞口６４に対して遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図３０８左右方向）に位置を異ならせた２箇所に、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ５１１２ｂが形成（配置）される。そのため、第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂへ案内（送球、流下）される球は、遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した流入口ＦＯＰｆ５１を通過して第４通路ＦＲｔ５４から第５通路ＦＲｔ５５へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。
【４０９０】
また、第４通路ＦＲｔ５４には、起伏Ｆ５１１２ａが形成され、起伏Ｆ５１１２ａの底部に流出面Ｆ５１１２ｂが形成され、起伏Ｆ５１１２ａの頂部は、第５通路ＦＲｔ５５（流入口ＦＯＰｆ５１）に向けて下降傾斜される。従って、第４通路ＦＲｔ５４のうち、起伏Ｆ５１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられ、第４通路ＦＲｔ５４の延設方向に沿って移動（流下、転動）される球は、第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）されるよりも流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【４０９１】
一方、起伏Ｆ５１１２ａの頂部へ振り分けられた球は、その起伏Ｆ５１１２ａの下降傾斜に沿って第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。
【４０９２】
第１通路ＦＲｔ５１には、その第１通路ＦＲｔ５１を案内される球を第２通路ＦＲｔ５２、第３通路ＦＲｔ５３へ案内するために正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として第１流出面Ｆ５１１４ａ、第２流出面Ｆ５１１４ｂがそれぞれ形成（配置）される。第２流出面Ｆ５１１４ｂは、第１流出面Ｆ５１１４ａに対して遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図３０８左右方向）に位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。
【４０９３】
なお、第１通路ＦＲｔ５１には、起伏が形成され、起伏の底部に第２流出面Ｆ５１１４ｂが形成され、起伏の頂部に第１流出面Ｆ５１１４ａが形成される。従って、第１通路ＦＲｔ５１へ振り分けられた球は、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路ＦＲｔ５２へ送球されるよりも第２流出面Ｆ５１１４ｂから第３通路ＦＲｔ５３へ流出され易い。
【４０９４】
第２通路ＦＲｔ５２及び第３通路ＦＲｔ５３には、その第２通路ＦＲｔ５２若しくは第３通路ＦＲｔ５３を案内される球を第４通路ＦＲｔ５４へ案内するために遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図３０８左右方向）の中央側から両端側へ向けて下降傾斜してそれぞれ形成される。
【４０９５】
第２通路ＦＲｔ５２の下流端には、案内された球の重さにより動作（変位）する変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５が配設され、動作（変位）後における変位部材Ｆ５１５５は、第４通路ＦＲｔ５４の起伏Ｆ５１１２ａの頂部とは異なる配置される。従って、第２通路ＦＲｔ５２へ案内された球は、第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂへ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。
【４０９６】
また、第３通路ＦＲｔ５３の下流端は、第４通路ＦＲｔ５４の起伏Ｆ５１１２ａの頂部に対して遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図３０８左右方向）に異ならせた位置にそれぞれ配置されるため、第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂへ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。
【４０９７】
下側フレームＦ５０８６ｂには、球の重さにより動作（変位）する変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８が配設される。なお、開閉部材Ｆ５１５８は、正面視において流入口ＦＯＰｆ５１の内周面よりも内側に配置され、第４通路ＦＲｔ５４を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ５１を通過して第５通路ＦＲｔ５５へ振り分けられ（案内され）難い。
【４０９８】
変位手段Ｆ５１５０は、第２通路ＦＲｔ５２を案内された球が変位部材Ｆ５１５５へ案内（送球、流下）されることで動作（変位）する。開閉部材Ｆ５１５８は、変位部材Ｆ５１５５の動作に連動することで変位し、正面視において流入口ＦＯＰｆ５１の内周面よりも外側へ変位される（図３２０参照）。
【４０９９】
従って、第２通路ＦＲｔ５２に振り分けられた球が変位部材Ｆ５１５５へ案内（送球、流下）され、変位部材Ｆ５１５５が動作（変位）している、言い換えると、開閉部材Ｆ５１５８が流入口ＦＯＰｆ１を開放させた状態では、第４通路ＦＲｔ５４を移動（流下、転動）する球は、流入口ＦＯＰｆ５１を通過して第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）され易くなる（第１入賞口６４へ入賞し易くなる）。
【４１００】

また、一対の開閉部材Ｆ５１５８の右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒは、一対の変位部材Ｆ５１５５の右側変位部材Ｆ５１５５Ｒに非連動とされ、第５通路ＦＲｔ５５へ少なくとも一球が案内（送球、流下）されるまで動作（変位）後における位置に留まり、右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒは流入口ＦＯＰｆ５１を開放させた状態となり続ける（図３２０参照）。

【４１０１】

このように、本実施形態における下側フレームＦ５０８６ｂは、第４通路ＦＲｔ５４の起伏Ｆ５１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられ（案内され）、第４通路ＦＲｔ５４の延設方向に沿って球が移動（流下、転動）している状態において、その第４通路ＦＲｔ５４の延設方向に沿って移動（流下、転動）する球の後続となる球が第２通路ＦＲｔ５２へ案内（送球、流下）され、変位部材Ｆ５１５５が動作（変位）することで、第４通路ＦＲｔ５４の延設方向に沿って移動する（変位部材Ｆ５１５５へ案内された球の先行となる）球を第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させやすくできる（第１入賞口６４に入賞し易くできる）。

【４１０２】

また、一対の変位部材Ｆ５１５５の右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが動作（変位）することで、第５通路ＦＲｔ５５へ少なくとも一球が案内（送球、流下）されるまで、第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させ易い（第１入賞口６４に入賞し易い）状態に維持できる。

【４１０３】

よって、第４通路ＦＲｔ５４の起伏Ｆ５１１２ａの頂部とは異なる位置へ振り分けられた（第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）球であっても、変位部材Ｆ５１５５が動作することで第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率が高められる）。その結果、第４通路ＦＲｔ５４を球が移動（流下、転動）している状態において、変位部材Ｆ５１５５、特に、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが動作することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４１０４】

次いで、図３０９から図３１０に加え、図３１１から図３１８を参照して、下側フレームＦ５０８６ｂの詳細構成について説明する。

【４１０５】

図３１１は、下側フレームＦ５０８６ｂの分解正面斜視図であり、図３１２は、下側フレームＦ５０８６ｂの分解背面斜視図である。図３１３は、変位手段Ｆ５１５０の分解正面斜視図であり、図３１４は、変位手段Ｆ５１５０の分解背面斜視図である。図３１５は、下側フレームＦ５０８６ｂの上面図であり、図３１６は、下側フレームＦ５０８６ｂの正面図であり、図３１７は、下側フレームＦ５０８６ｂの背面図である。図３１８（ａ）は、図３１６の矢印ＣＣＣＸＶＩＩＩａ方向視における下側フレームＦ５０８６ｂの側面図であり、図３１８（ｂ）は、図３１６の矢印ＣＣＣＸＶＩＩＩｂ方向視における下側フレームＦ５０８６ｂの側面図であり、図３１８（ｃ）は、図３１６のＣＣＣＸＶＩＩＩｃ－ＣＣＣＸＶＩＩＩｃ線における下側フレームＦ５０８６ｂの断面図である。

【４１０６】

図３０９から図３１８に示すように、下側フレームＦ５０８６ｂは、通路部材Ｆ５１１０と、その通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第２通路部材Ｆ５１２０と、通路部材Ｆ５１１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される背面部材Ｆ５１３０と、その背面部材Ｆ５１３０と通路部材Ｆ５１１０との間に配設される第５通路部材Ｆ５１４０と、背面部材Ｆ５１３０の背面側に配設される変位手段Ｆ５１５０と、その変位手段Ｆ５１５０の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される維持手段Ｆ５１６０と、を備える。

【４１０７】

通路部材Ｆ５１１０には流出口ＦＯＰｏｕｔ１が形成され、その流出口ＦＯＰｏｕｔ１に第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１が挿通される。また、通路部材Ｆ５１１０及び背面部材Ｆ５１３０には第１挿通孔Ｆ５１１３ｂ及び第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂ

がそれぞれ形成され、第１挿通孔Ｆ５１１３ｂ及び第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂに変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５が挿通される。

【４１０８】

また、背面部材Ｆ５１３０には第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ及び第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄが形成され、第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ及び第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄに変位手段Ｆ５１５０の一対の開閉部材Ｆ５１５８が挿通され、第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄに及び維持手段Ｆ５１６０の通路部材Ｆ５１６２が挿通される。

【４１０９】

動作（変位）後における一対の変位部材Ｆ５１５５の右側変位部材Ｆ５１５５Ｒは、維持手段Ｆ５１６０に係合されることで、その動作（変位）後における位置に留まる。維持手段Ｆ５１６０に球が案内（送球、流下）されることで、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒと維持手段Ｆ５１６０との係合が解除され、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒは、動作（変位）前の位置へ復帰する。

【４１１０】

通路部材Ｆ５１１０には、背面部材Ｆ５１３０及び第２通路部材Ｆ５１２０がタッピングネジによりそれぞれ締結固定される。第５通路部材Ｆ５１４０、変位手段Ｆ５１５０及び維持手段Ｆ５１６０は、タッピングネジにより背面部材Ｆ５１３０にそれぞれ締結固定される。これらにより、下側フレームＦ５０８６ｂは、一つ（単体）のユニットとして構成される（図３０９、図３１０参照）。

【４１１１】

下側フレームＦ５０８６ｂは、通路部材Ｆ５１１０、第２通路部材Ｆ５１２０及び維持手段Ｆ５１６０や変位部材Ｆ５１５５を除く変位手段Ｆ５１５０が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、第５通路部材Ｆ５１４０及び変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５が有色の樹脂材料から構成される。また、変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４は、その振り分け部材Ｆ５１５４の一部（表示部Ｆ５１５４ｄ）に塗装が施される。よって、第１通路ＦＲｔ５１から第５通路ＦＲｔ５５を移動する球を遊技者に視認させると共に、変位部材Ｆ５１５５及び振り分け部材Ｆ５１５４の表示部Ｆ５１５４ｄの動作を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４１１２】

なお、第５通路部材Ｆ５１４０及び変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【４１１３】

また、一方で、下側フレームＦ５０８６ｂは、維持手段Ｆ５１６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する第５通路部材Ｆ５１４０が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、維持手段Ｆ５１６０が正面側から遊技者に視認不能とできる。なお、維持手段Ｆ５１６０は、第５通路部材Ｆ５１４０が光透過性の樹脂材料から構成されることで、維持手段Ｆ５１６０が正面側から遊技者に視認可能となるように構成されても良い。

【４１１４】

通路部材Ｆ５１１０は、第１通路ＦＲｔ５１及び第４通路ＦＲｔ５４を形成するためのものであり、正面を形成する板状の正面板Ｆ５１１１と、その正面板Ｆ５１１１の背面から突設される下側通路Ｆ５１１２と、その下側通路Ｆ５１１２の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設される立て壁部Ｆ５１１３と、その立て壁部Ｆ５１１３の背面から突設される上側通路Ｆ５１１４と、下側通路Ｆ５１１２及び上側通路Ｆ５１１４の左右方向両端側の端部から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に突設される一対の留め部Ｆ５１１５と、を備える。

【４１１５】

背面部材Ｆ５１３０、立て壁部Ｆ５１１３及び上側通路Ｆ５１１４により区画された空

間により第１通路ＦＲｔ５１が形成され、正面板Ｆ５１１１、下側通路Ｆ５１１２及び立て壁部Ｆ５１１３により区画された空間により第４通路ＦＲｔ５４が形成される。

【４１１６】

正面板Ｆ５１１１は、下側通路Ｆ５１１２の上面を移動（流下、転動）する球が遊技領域へ流出されることを抑制するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される中央部と、その中央部の左右方向両端側から外側へ向けて鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に傾斜される傾斜部とから形成される。正面板Ｆ５１１１の傾斜部の上端は、下側通路Ｆ５１１２の上面よりも鉛直方向上方に形成される。これにより、下側通路Ｆ５１１２の上面を移動（流下、転動）する球は、正面板Ｆ５１１１の傾斜部の背面に当接可能となり、下側通路Ｆ５１１２の上面を移動（流下、転動）する球の遊技領域への流出が抑制される。

【４１１７】

正面板Ｆ５１１１には、その正面板Ｆ５１１１の外縁に沿って複数の挿通孔Ｆ１１１ａが板厚方向に穿設される。下側フレームＦ５０８６ｂは、組み立てた状態（ユニット化された状態）で、ベース板６０の正面から窓部６０ａに嵌め込まれ、挿通孔Ｆ１１１ａに挿通したタッピングネジがベース板６０に締結されることで、ベース板６０に固定（配設）される。

【４１１８】

正面板Ｆ５１１１の中央部には、第１入賞口６４（図３０８参照）の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）となる位置に流出口ＦＯＰｏｕｔ１が開口形成（板厚方向に穿設）される。流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第５通路ＦＲｔ５５を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される際の出口となる開口である。

【４１１９】

正面板Ｆ５１１１には、流出口ＦＯＰｏｕｔ１の鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に張出し部Ｆ５１１１ｂが鉛直方向上方へ向けて突設される。また、正面視における形状が下側通路Ｆ５１１２の流出面Ｆ５１１２ｂの形状と略同一となる切欠き部Ｆ５１１１ｃが流出面Ｆ５１１２ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。切欠き部Ｆ５１１１ｃを通過することで、第４通路ＦＲｔ５４を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される。

【４１２０】

下側通路Ｆ５１１２は、第８４実施形態における下側通路Ｆ１１２に対し、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における起伏Ｆ５１１２ａ及び一対の流出面Ｆ５１１２ｂの形状や、下側通路Ｆ５１１２の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における寸法が異なる以外は同一に形成されるため、その説明は省略する。

【４１２１】

起伏Ｆ５１１２ａは、第８４実施形態における起伏Ｆ１１２ａと比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）方向の幅寸法が大きく形成される。また、流出面Ｆ５１１２ｂは、第８４実施形態における流出面Ｆ１１２ｂと比較して、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向かうにつれて左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における凹設寸法が大きく形成される。従って、下側通路Ｆ５１１２（第１通路ＦＲｔ５１）の正面側を移動（流下、転動）する球は、流出面Ｆ５１１２ｂを左右方向に通過する（横切る）よりも流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出され易い。

【４１２２】

立て壁部Ｆ５１１３は、下側通路Ｆ５１１２と上側通路Ｆ５１１４とを連結するための部位である。立て壁部Ｆ５１１３には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に膨出部Ｆ５１１３ａが形成され、その膨出部Ｆ５１１３ａには、流入口ＦＯＰｆ５１が開口形成（板厚方向に穿設）される。

【４１２３】

また、立て壁部Ｆ５１１３には、流入口ＦＯＰｆ５１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される一対の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂと、その第１挿通孔Ｆ５１１３ｂの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される一対の第２挿通孔Ｆ５１１３ｃと、流入口ＦＯＰｆ５１

の上方に配設される第３挿通孔Ｆ５１１３ｄと、が開口形成（板厚方向に穿設）される。
【４１２４】
流入口ＦＯＰｆ５１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法は、球の外形よりも大きく形成され、詳細には、球の外形の略５倍の大きさに形成される。上述したように、流入口ＦＯＰｆ５１は、第４通路ＦＲｔ５４を案内された球が第５通路ＦＲｔ５５へ流出される際の出口となる開口である。なお、正面視において流入口ＦＯＰｆ５１の内周面により囲まれた領域のうち、左右方向左右方向略中央を除いた領域には変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８が配設される。これにより、下側通路Ｆ５１１２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球を第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させ難くできる。
【４１２５】
膨出部Ｆ５１１３ａは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成される。これにより、立て壁部Ｆ５１１３に当接しつつ下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球が起伏Ｆ５１１２ａを通過する際、起伏Ｆ５１１２ａを通過する球へ正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分を付与できる。その結果、起伏Ｆ５１１２ａを通過する球を第５通路ＦＲｔ５５へ案内（送球、流下）させ難くできる（流入口ＦＯＰｆ１を通過させ難くできる）。
【４１２６】
第１挿通孔Ｆ５１１３ｂは、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５を挿通させるための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて上昇傾斜して配設される。これにより、変位部材Ｆ５１５５を変位させる（変位部材Ｆ５１５５と第１挿通孔Ｆ５１１３ｂとが当接することを抑制する）ための開口を小さくでき、針金等の異物の侵入を抑制し易くできる。
【４１２７】
第１挿通孔Ｆ５１１３ｂには、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて切欠かれる切欠き部Ｆ５１１３ｂ１が切欠き形成される。その切欠き部Ｆ５１１３ｂ１へ変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５を変位させることで、変位手段Ｆ５１５０の第２軸受け部材Ｆ５１５２に対し、変位部材Ｆ５１５５を上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位させることができ、変位部材Ｆ５１５５と第２軸受け部材Ｆ５１５２との係合を解除できる。
【４１２８】
第２挿通孔Ｆ５１１３ｃには、タッピングネジが挿通され、その第２挿通孔Ｆ５１１３ｃを挿通したタッピングネジが第２通路部材Ｆ５１２０に締結されることで、第２通路部材Ｆ５１２０が立て壁部Ｆ５１１３に固定（配設）される。
【４１２９】
第３挿通孔Ｆ５１１３ｄは、変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４を挿通させるための部位であり、これにより、変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４が立て壁部Ｆ５１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。
【４１３０】
立て壁部Ｆ５１１３の上端は、上側通路Ｆ５１１４の上面よりも鉛直方向上方に形成される。これにより、上側通路Ｆ５１１４の上面を移動（流下、転動）する球は、立て壁部Ｆ５１１３の背面に当接可能となり、第４通路ＦＲｔ５４へ流出（流下）されることを抑制できる。
【４１３１】
また、立て壁部Ｆ５１１３の上端には、正面視における形状が上側通路Ｆ５１１４の第１流出面Ｆ５１１４ａ及び第２流出面Ｆ５１１４ｂの形状と略同一となる切欠きが第１流出面Ｆ５１１４ａ及び第２流出面Ｆ５１１４ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）にそれぞれ形成される。それら切欠きを通過することで、第１通路ＦＲｔ５１を案内された球が第２通路ＦＲｔ５２、或いは、第３通路ＦＲｔ５３へ流出（流下）される。
【４１３２】
上側通路Ｆ５１１４は、第８４実施形態における上側通路Ｆ１１４に対し、第１流出面

Ｆ５１１４ａ及び一対の第２流出面Ｆ５１１４ｂの形状や、上側通路Ｆ５１１４の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における寸法が異なる以外は同一に形成されるため、その説明は省略する。

【４１３３】

第１流出面Ｆ５１１４ａは、第８４実施形態における第１流出面Ｆ１１４ａと比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における幅寸法が大きく形成される。従って、上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、第１流出面Ｆ５１１４ａへ案内され易く、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路ＦＲｔ５２へ案内（送球、流下）され易い。

【４１３４】

一方、第２流出面Ｆ５１１４ｂは、第８４実施形態における第２流出面Ｆ１１４ｂと比較して、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向かうにつれて左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における幅寸法が大きく形成される。従って、上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の正面側を移動（流下、転動）する球は、第２流出面Ｆ１１４ｂを左右方向に通過する（横切る）よりも第２流出面Ｆ１１４ｂから第２通路部材Ｆ５１２０（第２通路ＦＲｔ５２）へ流出され易い。

【４１３５】

留め部Ｆ５１１５は、第８４実施形態における留め部Ｆ１１５に対し、留め部Ｆ５１１５の形状が異なることや、留め部Ｆ５１１５の板厚方向に穿設される挿通孔Ｆ１１５ａが１箇所であること以外は同一に形成されるため、その説明は省略する。

【４１３６】

第２通路部材Ｆ５１２０は、第２通路ＦＲｔ５２及び第３通路ＦＲｔ５３を形成するためのものであり、第２通路部Ｆ５１２１と、その第２通路部Ｆ５１２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される湾曲部Ｆ５１２２と、第２通路部Ｆ５１２１の正面端から突設される第２通路壁部Ｆ５１２３と、第２通路部Ｆ５１２１の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される一対の第３通路部Ｆ５１２４（図３１５参照）と、その第３通路部Ｆ５１２４の外縁に配設される第３通路壁部Ｆ５１２５と、一対の第３通路壁部Ｆ５１２５の間に配設される中央壁部Ｆ５１２６と、を備える。

【４１３７】

第２通路部Ｆ５１２１、第２通路壁部Ｆ５１２３及び通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３により区画された空間により第２通路ＦＲｔ５２が形成され、第３通路部Ｆ５１２４（図３１５参照）、第３通路壁部Ｆ５１２５及び通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３（膨出部Ｆ５１１３ａ）により区画された空間により第３通路ＦＲｔ５３が形成される。

【４１３８】

第２通路部Ｆ５１２１は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ延びる板状体から形成される。第２通路部Ｆ５１２１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側から両端側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、第２通路部Ｆ５１２１へ案内（送球、流下）された球を左右方向に沿って移動（流下、転動）させることができる。

【４１３９】

また、第２通路部Ｆ５１２１は、立て壁部Ｆ５１１３側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、第２通路部Ｆ５１２１を移動（流下、転動）する球が第３通路部Ｆ５１２４へ案内（送球、流出）されること、若しくは、湾曲部Ｆ５１２２に当接すること無く第２通路部Ｆ５１２１から移動（流下、落下）されることを抑制できる。

【４１４０】

また、第２通路部Ｆ５１２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側には、切欠き部Ｆ５１２１ａが切欠き形成される。切欠き部Ｆ５１２１ａは、通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３の第３挿通孔Ｆ５１１３ｄを挿通した変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５

１５４を第２通路部Ｆ５１２１の上面に配設させるための切欠きである。
【４１４１】
湾曲部Ｆ５１２２は、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球の変位の方向を変化させるための部位であり、上面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて凹となる湾曲状に形成される。湾曲部Ｆ５１２２に当接することで、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球の変位の方向が第２通路部Ｆ５１２１の延設方向先端側（左右方向両端側）から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変更される。
【４１４２】
第２通路壁部Ｆ５１２３は、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球が通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ移動（流下、落下）することを抑制するための部位であり、第２通路部Ｆ５１２１の正面端から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設して形成される。
【４１４３】
第２通路壁部Ｆ５１２３の立設高さは、球の外形よりもやや小さく形成され、これにより、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球が遊技者に視認可能とされる。なお、第２通路壁部Ｆ５１２３の立設高さは、球の外形よりもやや小さく形成されても良い。この場合においても、第２通路壁部Ｆ５１２３が光透過性の樹脂材料から構成されるため、第２通路部Ｆ５１２１の上面を移動（流下、転動）する球が遊技者に視認可能とされる。
【４１４４】
第３通路部Ｆ５１２４は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、第３通路部Ｆ５１２４は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側から両端側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、第３通路部Ｆ５１２４へ案内（送球、流下）された球を通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ案内（送球、流下）させることができる。
【４１４５】
第３通路壁部Ｆ５１２５は、第３通路部Ｆ５１２４の上面を移動（流下、転動）する球が通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ移動（流下、落下）することを抑制するための部位であり、第３通路部Ｆ５１２４の正面端及び左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の端部から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設して形成される。
【４１４６】
なお、第３通路壁部Ｆ５１２５は、第３通路部Ｆ５１２４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部には非形成であり、その非形成部を通過することで、第３通路部Ｆ５１２４の上面を移動（流下、転動）する球が通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ案内（送球、流下）される。
【４１４７】
また、第３通路壁部Ｆ５１２５の上方側（矢印Ｕ方向側）には、第２通路壁部Ｆ５１２３に連結する連結部Ｆ５１２５ａが形成される。連結部Ｆ５１２５ａが第２通路壁部Ｆ５１２３に連結されることで、第３通路壁部Ｆ５１２５に球が当接する等により第３通路壁部Ｆ５１２５が破損することを抑制し易くできる。
【４１４８】
なお、連結部Ｆ５１２５ａは、第３通路部Ｆ５１２４の上面から球の外形よりも大きな距離だけ上方側（矢印Ｕ方向側）に隔てた位置に配設され、これにより、第３通路部Ｆ５１２４の上面を移動（流下、転動）する球は、連結部Ｆ５１２５ａと第３通路部Ｆ５１２４との間を通過して通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ案内（送球、流下）される。
【４１４９】
中央壁部Ｆ５１２６は、上側通路Ｆ５１１４の第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部Ｆ５１２１へ案内（送球、流下）された球が通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ移動（流下、落下）することを抑制するための部位であり、一対の第３通路壁部Ｆ５１２５の間において、第２通路部Ｆ５１２１の正面端から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて立設し

て形成される。
【４１５０】
背面部材Ｆ５１３０は、下側フレームＦ５０８６ｂの背面を形成するためのものであり、背面壁部Ｆ５１３１と、その背面壁部Ｆ５１３１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から突出される一対の固定部Ｆ５１３２と、を備える。
【４１５１】
背面壁部Ｆ５１３１は、横長略矩形の板状体から構成され、背面壁部Ｆ５１３１には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に形成される第１逃がし孔Ｆ５１３１ａと、第１逃がし孔Ｆ５１３１ａよりも下方側（矢印Ｄ方向側）であって第１逃がし孔Ｆ５１３１ａよりも左右方向両端側に形成される一対の第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂと、右方側（矢印Ｒ方向側）に形成される第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂの下方側に形成される第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃと、左方側（矢印Ｌ方向側）に形成される第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂの下方側に形成される第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄと、が板厚方向にそれぞれ開口形成（板厚方向に穿設）される。
【４１５２】
第１逃がし孔Ｆ５１３１ａは、変位手段Ｆ５１５０の振り分け部材Ｆ５１５４及び第２係合部Ｆ５１５７ｃを挿通させるための部位であり、横長略矩形に形成される。
【４１５３】
第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂは、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５を挿通させるための部位であり、横長略矩形にそれぞれ形成される。第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて上昇傾斜してそれぞれ配設される。これにより、変位部材Ｆ５１５５を変位させる（変位部材Ｆ５１５５と第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂとが当接することを抑制する）ための開口を小さくでき、針金等の異物の侵入を抑制し易くできる。
【４１５４】
第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ及び第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄは、変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８を挿通させるための部位であり、横長略矩形に形成される。また、第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄには、維持手段Ｆ５１６０が挿通される。
【４１５５】
第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ及び第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて上昇傾斜してそれぞれ配設される。これにより、開閉部材Ｆ５１５８を変位させる（開閉部材Ｆ５１５８と第３逃がし孔Ｆ５１３１ｃ又は第４逃がし孔Ｆ５１３１ｄとが当接することを抑制する）ための開口を小さくでき、針金等の異物の侵入を抑制し易くできる。
【４１５６】
固定部Ｆ５１３２は、ベース板６０に背面部材Ｆ５１３０を締結固定するための部位である。通路部材Ｆ５１１０の正面板Ｆ５１１１に加え、固定部Ｆ５１３２がベース板６０に固定（配設）されることで、下側フレームＦ５０８６ｂのベース板６０に対する姿勢の安定化を図ることができる。
【４１５７】
また、通路部材Ｆ５１１０の留め部Ｆ５１１５に穿設される挿通孔Ｆ１１５ａを挿通したタッピングネジが固定部Ｆ５１３２に締結固定されることで、背面部材Ｆ５１３０が通路部材Ｆ５１１０に固定（配設）される。
【４１５８】
固定部Ｆ５１３２の正面端は、ベース板６０に当接して配設される。また、固定部Ｆ５１３２の下方端は、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５や開閉部材Ｆ５１５８よりも下方（矢印Ｄ方向）に配設される。これらにより、針金等の異物の侵入を抑制し易くでき、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５や開閉部材Ｆ５１５８を不正に操作することを抑制し易くできる。
【４１５９】

第５通路部材Ｆ５１４０は、第５通路ＦＲｔ５５を形成するためのものであり、第５通路部Ｆ５１４１と、その第５通路部Ｆ５１４１の背面側（矢印Ｂ方向側）であって、第５通路部Ｆ５１４１の上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される一対の誘導部Ｆ５１４２と、を備える。

【４１６０】

第５通路部Ｆ５１４１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される底面部Ｆ５１４１ａと、その底面部Ｆ５１４１ａの左右方向両端側から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突設される一対の壁部Ｆ５１４１ｂと、を備え、正面視において略Ｕ字状に形成される。また、底面部Ｆ５１４１ａの上面には、幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央から所定の距離だけ離れた位置に一対の突部Ｆ５１４１ｃがそれぞれ突設される。底面部Ｆ５１４１ａ及び一対の壁部Ｆ５１４１ｂにより区画された空間により第５通路ＦＲｔ５５が形成される。

【４１６１】

第５通路部Ｆ５１４１は、第８４実施形態における確定通路Ｆ１４０の通路部Ｆ１４１ｂに対し、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における延設長さが異なる以外は同一に形成されるため、その説明は省略する。

【４１６２】

第５通路部材Ｆ５１４０が背面部材Ｆ５１３０に固定された状態において、第５通路部Ｆ５１４１は、通路部材Ｆ５１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過させることで、第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）を移動（流下、落下）する球を遊技領域へ流出させることができる。

【４１６３】

誘導部Ｆ５１４２は、流入口ＦＯＰｆ５１を通過した球を維持手段Ｆ５１６０の通路部材Ｆ５１６２へ案内（送球、流下）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。

【４１６４】

変位手段Ｆ５１５０は、その変位手段Ｆ５１５０の動作（変位）に応じて通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２を移動（流下、落下）する球の第５通路部材Ｆ５１４０（第５通路ＦＲｔ５５）への案内のされ易さを変化させるためのものであり、第１軸受け部材Ｆ５１５１と、その第１軸受け部材Ｆ５１５１から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に所定の距離だけ隔てて配設される一対の第２軸受け部材Ｆ５１５２と、第１軸受け部材Ｆ５１５１及び第２軸受け部材Ｆ５１５２に固定（配設）されるスライド棒Ｆ５１５３と、第１軸受け部材Ｆ５１５１に回転可能に係合される振り分け部材Ｆ５１５４と、第２軸受け部材Ｆ５１５２に回転可能に係合される変位部材Ｆ５１５５と、その変位部材Ｆ５１５５に配設される錘Ｆ５１５６と、スライド棒Ｆ５１５３及び変位部材Ｆ５１５５に係合されるスライド部材Ｆ５１５７と、そのスライド部材Ｆ５１５７に係合される開閉部材Ｆ５１５８と、その開閉部材Ｆ５１５８を回転可能に保持する保持部材Ｆ５１５９と、を備える。

【４１６５】

本実施形態においては、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される変位部材Ｆ５１５５、スライド部材Ｆ５１５７及び開閉部材Ｆ５１５８を左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌ及び左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌと、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される変位部材Ｆ５１５５、スライド部材Ｆ５１５７及び開閉部材Ｆ５１５８を右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ及び右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒと、それぞれ符号を付して区別する。

【４１６６】

第１軸受け部材Ｆ５１５１は、第２軸受け部材Ｆ５１５２と共にスライド棒Ｆ５１５３を保持するためのものであり、第１軸受け部材Ｆ５１５１には、第１軸受け部材Ｆ５１５１の背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ突出して形成される規制部Ｆ５１５１ａと、第１軸受け部材Ｆ５１５１の上面から上方（矢印Ｕ方向）へ突出して形成される軸部Ｆ５１５１ｂとが形成される。

【４１６７】
また、第１軸受け部材Ｆ５１５１には、複数（本実施形態においては２箇所）の挿通孔が穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１に締結されることで、第１軸受け部材Ｆ５１５１が背面壁部Ｆ５１３１に固定（配設）される。
【４１６８】
規制部Ｆ５１５１ａは、板状体であり、第１軸受け部材Ｆ５１５１における下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される。規制部Ｆ５１５１ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて下降傾斜して形成される。また、規制部Ｆ５１５１ａには、スライド棒Ｆ５１５３を挿通するための挿通孔が形成される。
【４１６９】
軸部Ｆ５１５１ｂは、円柱状に形成され、軸部Ｆ５１５１ｂには、振り分け部材Ｆ５１５４が回転可能に係合される。これにより、振り分け部材Ｆ５１５４は、軸部Ｆ５１５１ｂを回転軸として回転（変位）可能に係合される。
【４１７０】
第２軸受け部材Ｆ５１５２は、背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１に固定（配設）される。なお、第２軸受け部材Ｆ５１５２は、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに対して垂直となる方向に所定（スライド棒Ｆ５１５３の軸方向寸法よりも小さい）距離だけ隔てた位置に配設される。
【４１７１】
第２軸受け部材Ｆ５１５２には、第２軸受け部材Ｆ５１５２の背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ突出して形成される規制部Ｆ５１５２ａが形成される。規制部Ｆ５１５２ａは、板状体であり、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに対し平行に配設される。また、規制部Ｆ５１５２ａには、スライド棒Ｆ５１５３を挿通するための挿通孔が形成される。
【４１７２】
規制部Ｆ５１５２ａ若しくは第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａにスライド部材Ｆ５１５７が当接することで、スライド部材Ｆ５１５７の変位が規制される。
【４１７３】
また、第２軸受け部材Ｆ５１５２には、複数（本実施形態においては２箇所）の挿通孔が穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１に締結されることで、第２軸受け部材Ｆ５１５２が背面壁部Ｆ５１３１に固定（配設）される。
【４１７４】
また、第２軸受け部材Ｆ５１５２には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向かうにつれて上昇傾斜する方向に突出する突出部（図示せず）が突設され、その突出部に玉軸受Ｆ５１５２ｂが配設される。
【４１７５】
玉軸受Ｆ５１５２ｂは、内輪と、その内輪の外周面に配設される複数の玉と、それら複数の玉を介して内輪に回転可能に配設される外輪と、から構成される。玉が自転することで、内輪の外周面と外輪の内周面とが当接する場合と比較して内輪と外輪との間に生じる摩擦が低くなり、内輪に対して外輪が容易に回転できる。第２軸受け部材Ｆ５１５２の突出部（図示せず）に内輪を外嵌することで、玉軸受Ｆ５１５２ｂは、突出部に支持（配設）される。
【４１７６】
スライド棒Ｆ５１５３は、そのスライド棒Ｆ５１５３の延設方向に沿ってスライド部材Ｆ５１５７を変位させるためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。スライド棒Ｆ５１５３の外周面には、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａよりもやや左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側となる位置および第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａよりもやや左右方向両端側となる位置に、径方向へ向けての切り込みがそれ

ぞれ形成される。
【４１７７】
第１軸受け部材Ｆ５１５１の軸部Ｆ５１５１ｂ及び第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａに穿設される挿通孔にスライド棒Ｆ５１５３を挿通した状態でスライド棒Ｆ５１５３に形成される切り込みに金属リング状のＣリング（図示せず）をそれぞれ嵌合することで、スライド棒Ｆ５１５３は、第１軸受け部材Ｆ５１５１及び第２軸受け部材Ｆ５１５２に抜去不能に支持される。
【４１７８】
また、スライド棒Ｆ５１５３は、そのスライド棒Ｆ５１５３の延設方向（軸方向）が第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａ（第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａ）に垂直な方向に沿った姿勢で第１軸受け部材Ｆ５１５１及び第２軸受け部材Ｆ５１５２に支持される。従って、スライド棒Ｆ５１５３は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて上昇傾斜した姿勢で配設される。
【４１７９】
振り分け部材Ｆ５１５４は、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）方向を変更させるためのものであり、被係合部Ｆ５１５４ａと、その被係合部Ｆ５１５４ａの正面端から立設される中間部Ｆ５１５４ｂと、その中間部Ｆ５１５４ｂの上端から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突設される振り分け部Ｆ５１５４ｃと、中間部Ｆ５１５４ｂの正面に配設される表示部Ｆ５１５４ｄと、を備える。
【４１８０】
被係合部Ｆ５１５４ａは、板状体から形成され、被係合部Ｆ５１５４ａのの背面側（矢印Ｂ方向側）における端部には挿通孔が穿設される。その挿通孔に第１軸受け部材Ｆ５１５１の軸部Ｆ５１５１ｂが挿通されることで、振り分け部材Ｆ５１５４は、第１軸受け部材Ｆ５１５１の軸部Ｆ５１５１ｂに軸支される。
【４１８１】
また、被係合部Ｆ５１５４ａの延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の略中央には、上方（矢印Ｕ方向）へ向けて軸部Ｆ５１５４ａ１が突設される。軸部Ｆ５１５４ａ１は、円柱状から形成され、軸部Ｆ５１５４ａ１には、スライド部材Ｆ５１５７の第２係合部Ｆ５１５７ｃが係合される。
【４１８２】
中間部Ｆ５１５４ｂは、板状体から形成され、通路部材Ｆ５１１０の第３挿通孔Ｆ５１１３ｄ及び第２通路部材Ｆ５１２０の切欠き部Ｆ５１２１ａを通過して通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３と第２通路部材Ｆ５１２０の中央壁部Ｆ５１２６との間に配設される。中間部Ｆ５１５４ｂの上端は、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１よりも上方（矢印Ｕ方向）に配設され、これにより、振り分け部Ｆ５１５４ｃは、第２通路部Ｆ５１２１の上方（矢印Ｕ方向）に配設される。
【４１８３】
また、中間部Ｆ５１５４ｂは、第２通路部材Ｆ５１２０の切欠き部Ｆ５１２１ａに沿って湾曲して形成される。これにより、振り分け部材Ｆ５１５４が回転（変位）した場合において、中間部Ｆ５１５４ｂと第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１とが当接することを抑制できる。
【４１８４】
振り分け部Ｆ５１５４ｃは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ延びる板状体から形成される。振り分け部Ｆ５１５４ｃの上面には起伏が形成され、起伏の頂部は、振り分け部Ｆ５１５４ｃの左右方向の略中央に配設される。起伏は、左右方向両端側へ向かうにつれて下降傾斜して形成され、振り分け部Ｆ５１５４ｃへ振り分けられた球は、その下降傾斜に沿って左右方向中央側から左右方向両端側へ向けて移動（流下、落下）する。
【４１８５】
表示部Ｆ５１５４ｄは、振り分け部Ｆ５１５４ｃの位置を示す部位であり、振り分け部

Ｆ５１５４ｃの下方（矢印Ｄ方向）に配設される。表示部Ｆ５１５４ｄは、着色されており、表示部Ｆ５１５４ｄ（振り分け部Ｆ５１５４ｃ）の位置を遊技者に視認させ易くできる。

【４１８６】

変位部材Ｆ５１５５は、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１から振り分けられた（案内された）球を通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ案内（送球、流下）するためのものであり、第２軸受け部材Ｆ５１５２の玉軸受Ｆ５１５２ｂに軸支（係合）される軸支部Ｆ５１５５ａと、その軸支部Ｆ５１５５ａの外周面から正面側（矢印Ｆ方向側）に突設する腕部Ｆ５１５５ｂと、軸支部Ｆ５１５５ａの外周面から背面側（矢印Ｂ方向側）に突設する錘支持部Ｆ５１５５ｃと、腕部Ｆ５１５５ｂの先端に配設される本体部Ｆ５１５５ｄと、その本体部Ｆ５１５５ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される保持部Ｆ５１５５ｅと、その保持部Ｆ５１５５ｅの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に配設される規制壁Ｆ５１５５ｆと、を備える。

【４１８７】

軸支部Ｆ５１５５ａは、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向に沿って凹設される円筒状に形成され、軸支部Ｆ５１５５ａの内周面は、玉軸受Ｆ５１５２ｂの外径よりもやや大きく形成される。軸支部Ｆ５１５５ａの内周面に玉軸受Ｆ５１５２ｂが内包されることで、変位部材Ｆ５１５５は、玉軸受Ｆ５１５２ｂに回転可能に軸支される。

【４１８８】

腕部Ｆ５１５５ｂは、板状体であり、背面部材Ｆ５１３０の第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂ及び通路部材Ｆ５１１０の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂを挿通して配設される。腕部Ｆ５１５５ｂの延設長さは、背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１と通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３との間の距離よりも長く形成される。これにより、軸支部Ｆ５１５５ａが玉軸受Ｆ５１５２ｂに軸支された状態において腕部Ｆ５１５５ｂの先端は、通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【４１８９】

また、パチンコ機１０（図１４３参照）に衝撃等が加えられた場合、腕部Ｆ５１５５ｂを撓ませ易く（軸支部Ｆ５１５５ａに対し、腕部Ｆ５１５５ｂの先端を変位させ易く）できる。

【４１９０】

腕部Ｆ５１５５ｂの外形は、背面部材Ｆ５１３０の第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂ及び通路部材Ｆ５１１０の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂよりも小さく形成される。これにより、腕部Ｆ５１５５ｂに外力が加えられた場合、腕部Ｆ５１５５ｂは、第２逃がし孔Ｆ５１３１ｂ及び第１挿通孔Ｆ５１１３ｂに挿通された状態において、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）又は上下方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位可能に配設される。

【４１９１】

また、軸支部Ｆ５１５５ａが玉軸受Ｆ５１５２ｂに軸支された状態では、腕部Ｆ５１５５ｂの上面と通路部材Ｆ５１１０の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂの上方側（矢印U方向側）における縁との間の距離は、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向寸法よりも小さく形成される。これにより、腕部Ｆ５１５５ｂが玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向に変位した場合において、軸支部Ｆ５１５５ａと玉軸受Ｆ５１５２ｂとの軸支が解除されることを抑制できる。

【４１９２】

なお、通路部材Ｆ５１１０の第１挿通孔Ｆ５１１３ｂに形成される切欠き部Ｆ５１１３ｂ１へ腕部Ｆ５１５５ｂを案内させることで、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向への腕部Ｆ５１５５ｂの変位量を大きくでき、軸支部Ｆ５１５５ａと玉軸受Ｆ５１５２ｂとの軸支を解除できる。

【４１９３】

錘支持部Ｆ５１５５ｃは、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向に沿って凹設される円筒状に形成され、錘支持部Ｆ５１５５ｃの内周面は、錘Ｆ５１５６の外径よりもやや大きく形成される。錘支持部Ｆ５１５５ｃの内周面に錘Ｆ５１５６が内包されることで、錘Ｆ５１５６

が錘支持部Ｆ５１５５ｃに配設（支持）される。
【４１９４】
　また、錘支持部Ｆ５１５５ｃの上面には、玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向に沿って突出する突出部Ｆ５１５５ｃ１が突設され、突出部Ｆ５１５５ｃ１がスライド部材Ｆ５１５７の第２挿通孔Ｆ５１５７ａ２に挿通されることで、変位部材Ｆ５１５５とスライド部材Ｆ５１５７とが係合される。
【４１９５】
　本体部Ｆ５１５５ｄは、着色され、これにより、変位部材Ｆ５１５５が動作（回転、変位）していることを遊技者に視認させ易くできる。本体部Ｆ５１５５ｄには、下方側（矢印Ｄ方向側）に円筒状に凹設される凹部Ｆ５１５５ｄ１が形成され、その凹部Ｆ５１５５ｄ１の底面には貫通孔Ｆ５１５５ｄ２が円状に穿設される。凹部Ｆ５１５５ｄ１と貫通孔Ｆ５１５５ｄ２とは同一軸上に配置される。
【４１９６】
　凹部Ｆ５１５５ｄ１の内径は、球の直径の略１．５倍の大きさに形成され、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面と貫通孔Ｆ５１５５ｄ２の内周面との間の距離は、球の半径よりも小さく形成される。これにより、凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球の重心を貫通孔Ｆ５１５５ｄ２の内周面よりも内側へ位置させることができ、球の自重を利用して凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球を、貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ向けて変位させることができる。
【４１９７】
　また、凹部Ｆ５１５５ｄ１の凹設深さは、球の直径よりも小さく形成される。これにより、凹部Ｆ５１５５ｄ１に球が案内（送球、流下）されたことを遊技者に視認させることができる。
【４１９８】
　保持部Ｆ５１５５ｅは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に球の直径よりも小さい距離だけ隔てて配設される一対の直線部Ｆ５１５５ｅ１と、一対の直線部Ｆ５１５５ｅ１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部どうしを連結する湾曲状の湾曲部Ｆ５１５５ｅ２とを備え、上面視において略Ｕ字状に形成される。
【４１９９】
　保持部Ｆ５１５５ｅは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、第２通路部材Ｆ５１２０の湾曲部Ｆ５１２２と第２通路壁部Ｆ５１２３との間であって、第２通路部Ｆ５１２１の正面側（矢印Ｆ方向側）且つ下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される。これにより、湾曲部Ｆ５１２２に案内（送球）され、湾曲部Ｆ５１２２と第２通路壁部Ｆ５１２３との間から正面側へ向けて移動（流下、落下）した球は、保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）される。
【４２００】
　保持部Ｆ５１５５ｅは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向かうにつれて上昇傾斜して配設される。これにより、正面側に配設される直線部Ｆ５１５５ｅ１に当接させることで、保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）された球の正面側へ向けての変位を規制できる。その結果、保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）された球が、保持部Ｆ５１５５ｅから通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２へ移動（流下、落下）することを抑制し易くできる。
【４２０１】
　また、保持部Ｆ５１５５ｅは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて下降傾斜して配設される。これにより、保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）された球を湾曲部Ｆ５１５５ｅ２に当接させた状態に維持でき、一対の直線部Ｆ５１５５ｅ１及び湾曲部Ｆ５１５５ｅ２により球を保持できる。
【４２０２】
　保持部Ｆ５１５５ｅは、本体部Ｆ５１５５ｄにおける背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、本体部Ｆ５１５５ｄの背面側における内周面へ向けた姿勢で配設される。言い換える

と、一対の直線部Ｆ５１５５ｅ１の略中央を本体部Ｆ５１５５ｄの中心軸とは異なる位置（偏心した位置）へ向けた姿勢で配設される。これにより、保持部Ｆ５１５５ｅから振り分けられた（案内された）球を本体部Ｆ５１５５ｄの凹部Ｆ５１５５ｄ１（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２）の中心軸とは異なる位置（偏心した位置）へ案内（送球、流下）でき、貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ流入することを遅延させることができる。

【４２０３】

規制壁Ｆ５１５５ｆは、板状体であり、上面視において、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて凸となる湾曲状に形成される。規制壁Ｆ５１５５ｆの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部は、保持部Ｆ５１５５ｅの背面側に配設される直線部Ｆ５１５５ｅ１の端部に連結され、規制壁Ｆ５１５５ｆの左右方向中央側の端部は、本体部Ｆ５１５５ｄの凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面の上方（矢印Ｕ方向）に配設される。

【４２０４】

これにより、規制壁Ｆ５１５５ｆに沿って保持部Ｆ５１５５ｅから本体部Ｆ５１５５ｄの凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球を凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面側、言い換えると、凹部Ｆ５１５５ｄ１（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２）の中心軸とは異なる位置へ球を案内（送球、流下）できる。その結果、凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球をその凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って変位させる（凹部Ｆ５１５５ｄ１の中心軸へ向けて変位させ難くする）ことができ、凹部Ｆ５１５５ｄ１へ案内（送球、流下）された球が貫通孔Ｆ５１５５ｄ２を通過することに要する時間を嵩ませることができる。

【４２０５】

錘Ｆ５１５６は、変位部材Ｆ５１５５の重心の位置を調整するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。錘Ｆ５１５６が玉軸受Ｆ５１５２ｂの回転軸よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に配設されることで、変位部材Ｆ５１５５及び錘Ｆ５１５６の全体の重心は、玉軸受Ｆ５１５２ｂよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置する。

【４２０６】

スライド部材Ｆ５１５７は、変位部材Ｆ５１５５と開閉部材Ｆ５１５８とを連結するためのものである。左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌは、スライド本体部Ｆ５１５７ａと、そのスライド本体部Ｆ５１５７ａの下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される第１係合部Ｆ５１５７ｂと、スライド本体部Ｆ５１５７ａの上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される第２係合部Ｆ５１５７ｃと、を備える。

【４２０７】

右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒは、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌに対し、第２係合部Ｆ５１５７ｃが省略されると共に、被係合部Ｆ５１５７ｄが配設される点を除いて、同一に形成される。よって、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒについては、被係合部Ｆ５１５７ｄについてのみ説明し、その他の部位における詳細な説明は省略する。

【４２０８】

スライド本体部Ｆ５１５７ａは、板状体から形成され、スライド本体部Ｆ５１５７ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端部は背面側に屈曲して形成される。その背面側に屈曲される部位には板厚方向に第１挿通孔Ｆ５１５７ａ１がそれぞれ穿設される。第１挿通孔Ｆ５１５７ａ１には、スライド棒Ｆ５１５３が挿通（係合）され、これにより、スライド部材Ｆ５１５７はスライド棒Ｆ５１５３の延設方向に沿って変位可能に係合される。

【４２０９】

また、スライド本体部Ｆ５１５７ａの下端部は、背面側に屈曲して形成され、その背面側に屈曲される部位には板厚方向に第２挿通孔Ｆ５１５７ａ２が穿設される。第２挿通孔Ｆ５１５７ａ２には、変位部材Ｆ５１５５の突出部Ｆ５１５５ｃ１が挿通（係合）され、これにより、スライド部材Ｆ５１５７と変位部材Ｆ５１５５とが係合される。

【４２１０】

第１係合部Ｆ５１５７ｂは、板状体であり、スライド本体部Ｆ５１５７ａの正面端から下方側（矢印Ｄ方向側）に延設される。また、第１係合部Ｆ５１５７ｂの下端は正面側（矢印Ｆ方向側）に屈曲して形成され、その屈曲された部位には、挿通孔Ｆ５１５７ｂ１が

穿設される。
【４２１１】
挿通孔Ｆ５１５７ｂ１には、開閉部材Ｆ５１５８の突出部Ｆ５１５８ｃが挿通（係合）され、これにより、スライド部材Ｆ５１５７と開閉部材Ｆ５１５８とが係合される。挿通孔Ｆ５１５７ｂ１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる長孔状に形成され、開閉部材Ｆ５１５８の突出部Ｆ５１５８ｃは、前後方向に変位可能に挿通（係合）される。
【４２１２】
第２係合部Ｆ５１５７ｃは、板状体であり、スライド本体部Ｆ５１５７ａの正面端から上方側（矢印Ｕ方向側）に延設される。また、第２係合部Ｆ５１５７ｃの上端は正面側（矢印Ｆ方向側）に屈曲して形成され、その屈曲された部位には、挿通孔Ｆ５１５７ｃ１が穿設される。挿通孔Ｆ５１５７ｃ１には、振り分け部材Ｆ５１５４の軸部Ｆ５１５４ａ１が挿通（係合）され、これにより、スライド部材Ｆ５１５７と振り分け部材Ｆ５１５４とが係合される。
【４２１３】
被係合部Ｆ５１５７ｄは、板状体から形成される。被係合部Ｆ５１５７ｄには挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが第１係合部Ｆ５１５７ｂに締結されることで、被係合部Ｆ５１５７ｄが第１係合部Ｆ５１５７ｂに固定（配設）される。
【４２１４】
被係合部Ｆ５１５７ｄの右方側（矢印Ｒ方向側）は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて屈曲して形成され、その屈曲部には磁性材料から構成される磁性体（図示せず）が配設される。その磁性体が維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４に磁着されることで、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒが磁性体Ｆ５１６４係合（固定）される。
【４２１５】
開閉部材Ｆ５１５８は、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、落下）する球が流入口ＦＯＰｆ５１を通過し難くするためのものであり、遮断部Ｆ５１５８ａと、その遮断部Ｆ５１５８ａの下端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて延設される連結部Ｆ５１５８ｂと、その連結部Ｆ５１５８ｂの下面から下方（矢印Ｄ方向）に突出する突出部Ｆ５１５８ｃと、を備える。
【４２１６】
遮断部Ｆ５１５８ａは、通路部材Ｆ５１１０の膨出部Ｆ５１１３ａに沿って湾曲して形成される。言い換えると、遮断部Ｆ５１５８ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向かうにつれて正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。
【４２１７】
これにより、遮断部Ｆ５１５８ａに当接することで、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、左右方向に沿って揺動（移動、転動）すると共に遮断部Ｆ５１５８ａの湾曲形状に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する。その結果、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球を流出面Ｆ５１１２ｂがへ案内（送球、流下）し易くでき、第５通路ＦＲｔ５５へ案内させ難くできる（流入口ＦＯＰｆ５１を通過させ難くできる）。
【４２１８】
連結部Ｆ５１５８ｂは、保持部材Ｆ５１５９に係合（軸支）されるための部位であり、背面側（矢印Ｂ方向側）における連結部Ｆ５１５８ｂには、挿通孔Ｆ５１５８ｂ１が穿設される。挿通孔Ｆ５１５８ｂ１には、保持部材Ｆ５１５９の軸支部Ｆ５１５９ｃが挿通（係合、軸支）され、これにより、開閉部材Ｆ５１５８は、軸支部Ｆ５１５９ｃに回転可能に係合（軸支）される。
【４２１９】
突出部Ｆ５１５８ｃは、円柱状に形成され、正面側（矢印Ｆ方向側）における連結部Ｆ５１５８ｂに配設される。突出部Ｆ５１５８ｃがスライド部材Ｆ５１５７の挿通孔Ｆ５１５７ｂ１に挿通されることで、開閉部材Ｆ５１５８とスライド部材Ｆ５１５７とが係合さ

れる。
【４２２０】
ここで、スライド部材Ｆ５１５７の挿通孔Ｆ５１５７ｂ１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる長孔状に形成されるため、スライド部材Ｆ５１５７が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位し、開閉部材Ｆ５１５８（突出部Ｆ５１５８ｃ）が保持部材Ｆ５１５９の軸支部Ｆ５１５９ｃ回転軸として回転する（前後方向に変位する）場合においても、係合部Ｆ５１５８ｃ１と挿通孔Ｆ５１５７ｂ１の内周面とが当接することを抑制できる。
【４２２１】
また、開閉部材Ｆ５１５８は、正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される突出部Ｆ５１５８ｃ及び背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される挿通孔Ｆ５１５８ｂ１により、スライド部材Ｆ５１５７及び保持部材Ｆ５１５９に係合（支持）される。これにより、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に距離を隔てた２箇所で開閉部材Ｆ５１５８を係合（支持）でき、開閉部材Ｆ５１５８の姿勢を安定化させることができる。
【４２２２】
保持部材Ｆ５１５９は、開閉部材Ｆ５１５８を回転可能に係合（軸支）するためのものであり、固定部Ｆ５１５９ａと、その固定部Ｆ５１５９ａから正面側（矢印Ｆ方向側）に突出する突出部Ｆ５１５９ｂと、その突出部Ｆ５１５９ｂから上方側（矢印Ｕ方向側）に突出する軸支部Ｆ５１５９ｃと、を備える。
【４２２３】
固定部Ｆ５１５９ａは、板状体から形成される。また、固定部Ｆ５１５９ａには挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ５１３０に締結されることで、保持部材Ｆ５１５９が背面部材Ｆ５１３０に固定（配設）される。突出部Ｆ５１５９ｂは、板状体から形成され、固定部Ｆ５１５９ａの正面から正面側（矢印Ｆ方向側）に突出して形成される。
【４２２４】
軸支部Ｆ５１５９ｃは、開閉部材Ｆ５１５８を回転可能に軸支するための部位であり、円柱状に形成される。軸支部Ｆ５１５９ｃは、その軸支部Ｆ５１５９ｃの軸方向が玉軸受Ｆ５１５２ｂの軸方向と平行となる姿勢で突出部Ｆ５１５９ｂに配設される。
【４２２５】
また、軸支部Ｆ５１５９ｃは、突出部Ｆ５１５９ｂの突出先端側（矢印Ｆ方向側）に配設される。これにより、開閉部材Ｆ５１５８の連結部Ｆ５１５８ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）への延設寸法を短くでき、開閉部材Ｆ５１５８が軸支部Ｆ５１５９ｃを回転軸として回転する際の開閉部材Ｆ５１５８の姿勢の安定化を図ることができる。
【４２２６】
維持手段Ｆ５１６０は、変位手段Ｆ５１５０の右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの変位後における状態を維持するためのものであり、軸配設部材Ｆ５１６１と、その軸配設部材Ｆ５１６１に回転可能に軸支される通路部材Ｆ５１６２及び係合部材Ｆ５１６３と、係合部材Ｆ５１６３に配設される磁性体Ｆ５１６４と、を備える。
【４２２７】
軸配設部材Ｆ５１６１は、板状体から形成され、背面部材Ｆ５１３０の背面壁部Ｆ５１３１に対し平行に配設される第１壁部Ｆ５１６１ａと、その第１壁部Ｆ５１６１ａの左方側（矢印Ｌ方向側）における端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて延設される第２壁部Ｆ５１６１ｂと、を備える。
【４２２８】
また、軸配設部材Ｆ５１６１には、挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ５１３０に締結されることで、維持手段Ｆ５１６０が背面部材Ｆ５１３０に固定（配設）される。なお、軸配設部材Ｆ５１６１に形成される挿通孔の一部は、保持部材Ｆ５１５９の固定部Ｆ５１５９ａに形成される挿通孔に対応する位置に形成される。これにより、保持部材Ｆ５１５９を背面部材Ｆ５１３０に固定（配設）するためのタッピングネジを軸配設部材Ｆ５１６１の固定（配設）に兼用でき、製品コストの削減を図

ることができる。
【４２２９】
第１壁部Ｆ５１６１ａには、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出する第１軸部Ｆ５１６１ｃが突設され、第２壁部Ｆ５１６１ｂには、左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて突出する第２軸部Ｆ５１６１ｄが突設される。第１軸部Ｆ５１６１ｃ及び第２軸部Ｆ５１６１ｄは、係合部材Ｆ５１６３及び通路部材Ｆ５１６２を軸支するための部位である。
【４２３０】
通路部材Ｆ５１６２は、係合部材Ｆ５１６３を変位（回転）させるためのものであり、通路部Ｆ５１６２ａと、その通路部Ｆ５１６２ａの背面から背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて延設される被軸支部Ｆ５１６２ｂと、その被軸支部Ｆ５１６２ｂの背面側の端部から右方側（矢印Ｒ方向側）へ向けて突出する伝達部Ｆ５１６２ｃと、を備える。
【４２３１】
通路部Ｆ５１６２ａは、板状体から形成され、正面側（矢印Ｆ方向側）を除く端部には、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出する壁部が形成される。通路部Ｆ５１６２ａは、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、通路部Ｆ５１６２ａ及び第５通路部Ｆ５１４１により区画された空間により第５通路ＦＲｔ５５が形成される。通路部Ｆ５１６２ａへ振り分けられた球は、壁部が非形成とされる正面側（矢印Ｆ方向側）の端部を通過して、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１へ案内（送球、流下）される。
【４２３２】
被軸支部Ｆ５１６２ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる棒状体から形成される。被軸支部Ｆ５１６２ｂには挿通孔が形成され、その挿通孔に第２軸部Ｆ５１６１ｄが挿通されることで、通路部材Ｆ５１６２が軸配設部材Ｆ５１６１に回転可能に軸支される。
【４２３３】
伝達部Ｆ５１６２ｃは、円柱状に形成される。伝達部Ｆ５１６２ｃと係合部材Ｆ５１６３の被伝達部Ｆ５１６３ｂとが係合することで、通路部材Ｆ５１６２の回転（変位）に伴い、係合部材Ｆ５１６３を変位（回転）させることができる。
【４２３４】
係合部材Ｆ５１６３は、変位手段Ｆ５１５０の右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの変位を規制するためのものであり、被軸支部Ｆ５１６３ａと、その被軸支部Ｆ５１６３ａの延設方向一端に配設される被伝達部Ｆ５１６３ｂと、被軸支部Ｆ５１６３ａの延設方向他端に配設される保持部Ｆ５１６３ｃと、を備える。
【４２３５】
被軸支部Ｆ５１６３ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる棒状体から形成される。被軸支部Ｆ５１６３ａには挿通孔が形成され、その挿通孔に第１軸部Ｆ５１６１ｃが挿通されることで、係合部材Ｆ５１６３が軸配設部材Ｆ５１６１に回転可能に軸支される。
【４２３６】
被伝達部Ｆ５１６３ｂは、通路部材Ｆ５１６２側（矢印Ｌ方向側）における被軸支部Ｆ５１６３ａの端部に配設される。被伝達部Ｆ５１６３ｂは、連結部Ｆ５１６３ｂ１と、その連結部Ｆ５１６３ｂ１の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における端部から平行に突出される一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２と、一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２の突出先端であって、一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２の対向面から突出する係合部Ｆ５１６３ｂ３と、を備える。
【４２３７】
一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３の突出先端は、湾曲して形成される。また、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３の突出先端の対向間の距離は、通路部材Ｆ５１６２の伝達部Ｆ５１６２ｃの外径と同等またはやや大きく形成される。一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３の間に伝達部Ｆ５１６２ｃが配設されることで被伝達部Ｆ５１６３ｂと伝達部Ｆ５１６２ｃとが上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において係合される。
【４２３８】
なお、一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２（係合部Ｆ５１６３ｂ３）は平行に配設されるため

、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３と伝達部Ｆ５１６２ｃとは前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において非係合とされる（一対の突出部Ｆ５１６３ｂ２に対して伝達部Ｆ５１６２ｃが前後方向に変位可能とされる）。これらにより、第２軸部Ｆ５１６１ｄを回転軸とする通路部材Ｆ５１６２の回転に対し、第１軸部Ｆ５１６１ｃを回転軸として係合部材Ｆ５１６３を回転させることができる。

【４２３９】

また、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３の突出先端が湾曲して形成され、伝達部Ｆ５１６２ｃが円柱状に形成されるため、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３と伝達部Ｆ５１６２ｃとの接触面積を小さくでき、一対の係合部Ｆ５１６３ｂ３と伝達部Ｆ５１６２ｃとの間に生じる摩擦力を低減できる。これにより、通路部材Ｆ５１６２又は係合部材Ｆ５１６３の動作不良や被伝達部Ｆ５１６３ｂ又は伝達部Ｆ５１６２ｃの破損を抑制できる。

【４２４０】

保持部Ｆ５１６３ｃは、磁性体Ｆ５１６４を保持（固定）するための部位である。保持部Ｆ５１６３ｃは、被伝達部Ｆ５１６３ｂとは反対側（矢印Ｒ方向側）における被軸支部Ｆ５１６３ａの端部から上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出して形成される。

【４２４１】

磁性体Ｆ５１６４は、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの変位を規制するためのものであり、鉄、コバルト、ニッケル又はそれらの合金等の磁性材料から構成される板状体に形成される。磁性体Ｆ５１６４には挿通孔が穿設され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが保持部Ｆ５１６３ｃに締結されることで、磁性体Ｆ５１６４が保持部Ｆ５１６３ｃに保持（固定）される。

【４２４２】

右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒが磁性体Ｆ５１６４側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位した場合、磁性体Ｆ５１６４と右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄに配設される磁性体（図示せず）とが磁着する。これにより、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒが変位前の状態へ復帰（変位）することを規制できる。

【４２４３】

ここで、維持手段Ｆ５１６０の通路部材Ｆ５１６２、係合部材Ｆ５１６３及び磁性体Ｆ５１６４の全体の重心は、軸配設部材Ｆ５１６１にの第２軸部Ｆ５１６１ｄよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置する。これにより、通路部材Ｆ５１６２は、第２軸部Ｆ５１６１ｄを回転軸として伝達部Ｆ５１６２ｃが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転（変位）し、通路部Ｆ５１６２ａが上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する。通路部Ｆ５１６２ａが第５通路部材Ｆ５１４０に当接することで、通路部材Ｆ５１６２の回転（変位）が規制される。

【４２４４】

次いで、図３１９から図３２１を参照して、変位手段Ｆ５１５０の変位部材Ｆ５１５５の変位（回転）に対する開閉部材Ｆ５１５８の変位（回転）について説明する。なお、開閉部材Ｆ５１５８の変位（回転）の説明においては、図３１３から図３１４を適宜参照して説明する。

【４２４５】

図３１９は、変位部材Ｆ５１５５（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ及び右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ）の変位（回転）前における下側フレームＦ５０８６ｂを、図３２０は、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの変位（回転）後における下側フレームＦ５０８６ｂを、図３２１は、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの変位（回転）後における下側フレームＦ５０８６ｂを、それぞれ図示しており、図３１９（ａ）、図３２０（ａ）及び図３２１（ａ）は、下側フレームＦ５０８６ｂの正面図であり、図３１９（ｂ）、図３２０（ｂ）及び図３２１（ｂ）は、下側フレームＦ５０８６ｂの背面図である。

【４２４６】

なお、図３１９から図３２１において、第２通路部材Ｆ５１２０の中央壁部Ｆ５１２６の図示が省略され、第３通路壁部Ｆ５１２５の一部が破断された状態が図示される。また

、下側フレームＦ５０８６ｂにおいて、変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）する前の状態を閉塞状態、変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）した後の状態を開放状態、とそれぞれ称す。

【４２４７】

図３１９に示すように、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態において、スライド部材Ｆ５１５７（左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌ及び右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ）のスライド本体部Ｆ５１５７ａが第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに当接することでスライド部材Ｆ５１５７の変位が規制され、開閉部材Ｆ５１５８の遮断部Ｆ５１５８ａは、正面視において、通路部材Ｆ５１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ１を介して遊技者から視認可能となる位置に配設される。言い換えると、規制部Ｆ５１５１ａは、流入口ＦＯＰｆ５１の縁よりも内側に配設される。

【４２４８】

なお、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向面間の距離は、球の直径よりもやや大きく形成される。言い換えると、一対の遮断部Ｆ５１５８ａは、流入口ＦＯＰｆ５１の左右方向中央側には非配設とされ、流入口ＦＯＰｆ５１で囲まれた領域における左右方向両側に配設される。

【４２４９】

これにより、閉塞状態においても、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球は、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入して、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）可能となる。

【４２５０】

また、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間は、下側通路Ｆ５１１２の起伏Ｆ５１１２ａの頂部の背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される。これにより、起伏Ｆ５１１２ａの頂部へ振り分けられた球は、起伏Ｆ５１１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けての下降傾斜に沿って移動（流下、転動）し、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間へ流入して、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）され易い。

【４２５１】

閉塞状態において、変位部材Ｆ５１５５、錘Ｆ５１５６、スライド部材Ｆ５１５７及び開閉部材Ｆ５１５８の全体の重心は、玉軸受Ｆ５１５２ｂよりも背面側（矢印Ｂ方向側）に位置する。玉軸受Ｆ５１５２ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向かうにつれて下降傾斜する方向へ傾いて配設されており、玉軸受Ｆ５１５２ｂよりも背面側が下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて変位する。

【４２５２】

これにより、スライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａには、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて変位する力が作用する。その結果、スライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａと第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａとの当接状態が維持され、下側フレームＦ５０８６ｂは、閉塞状態に維持される。

【４２５３】

次いで、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態から開放状態への動作について説明する。第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１を案内された球が変位部材Ｆ５１５５の保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）、保持されることで、変位部材Ｆ５１５５、錘Ｆ５１５６、スライド部材Ｆ５１５７及び開閉部材Ｆ５１５８に保持部Ｆ５１５５ｅに保持された球を加えた全体の重心が、正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する。

【４２５４】

これにより、変位部材Ｆ５１５５の本体部Ｆ５１５５ｄには、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて変位する力が作用し、スライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａには、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて変位する力が作用する。

【４２５５】

スライド本体部Ｆ５１５７ａが上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて変位し、第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａに当接することで、スライド部材Ｆ５１５７の変位が規制され、下側フレームＦ５０８６ｂが開放状態に配置（維持）される。

【４２５６】

ここで、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態への動作は、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）から振り分けられた（案内された）球が変位手段Ｆ５１５０の保持部Ｆ５１５５ｅへ案内（送球、流下）され、球と共に変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）することにより行われる。

【４２５７】

上述したように、本実施形態においては、腕部Ｆ５１５５ｂが撓み易く（軸支部Ｆ５１５５ａに対し、腕部Ｆ５１５５ｂの先端が変位し易く）形成され、保持部Ｆ５１５５ｅから球が移動（流下、落下）され易く形成される。

【４２５８】

ここで、第８４実施形態における下側フレームＦ８６ｂでは、球が変位部材Ｆ１３０の通路部Ｆ１３１（第３通路ＦＲｔ３）へ振り分けられる（案内される）ことで閉塞状態から開放状態へ動作される。従って、パチンコ機１０（図１４３参照）に衝撃等が加えられた場合、変位部材Ｆ１３０が変位することで第１入賞口６４へ入賞し易い状態（開放状態）となる。

【４２５９】

これに対し、本実施形態における下側フレームＦ５０８６ｂでは、変位手段Ｆ５１５０の保持部Ｆ５１５５ｅに保持されることで閉塞状態から開放状態へ動作され、パチンコ機１０（図１４３参照）に衝撃等が加えられた場合、保持部Ｆ５１５５ｅから球が移動（流下、落下）され易い。これにより、パチンコ機１０に衝撃等が加えられた場合、第１入賞口６４へ入賞し難い状態（閉塞状態）とできることで、パチンコ機１０に衝撃等が加えられることを抑制し易くできる。

【４２６０】

図３２０及び図３２１に示すように、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態において、遮断部Ｆ５１５８ａは、通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置される。言い換えると、遮断部Ｆ５１５８ａは、正面視において、通路部材Ｆ５１１０に形成される流入口ＦＯＰｆ５１を介して遊技者から視認不能となる位置に配設される。従って、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態と比較して、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間の距離が大きくなり、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球を一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入させ易くできる。

【４２６１】

下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態において、変位部材Ｆ５１５５は、変位（回転）された状態に維持される。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態を遊技者に視認させ易くできる。

【４２６２】

このように、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）を移動（流下、転動）する球が第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）されることで（図３０９参照）、球の重量を利用して変位部材Ｆ５１５５が閉塞状態から開放状態へ向けて変位（回転）する。これにより、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球を、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入させ易くでき、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）させ易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できる。

【４２６３】

従って、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を球が移動（流下、転動）している場合に、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）を移動（流下、転動）する球の

有無を遊技者に意識させ、興趣を高めることができる。
【４２６４】
なお、下側フレームＦ５０８６ｂの解放状態から閉塞状態へ向けての動作は、変位部材Ｆ５１５５から球が流出される（変位部材Ｆ５１５５に球の重量が非作用となる）ことで行われる。下側フレームＦ５０８６ｂの解放状態から閉塞状態へ向けての力（重力）の作用は開放状態の維持と同様であるためその説明は省略する。
【４２６５】
このように、球の重量を利用して下側フレームＦ５０８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させることができるため、駆動装置を不要とでき、製造コストを低減できる。
【４２６６】
ここで、閉塞状態において、振り分け部材Ｆ５１５４の振り分け部Ｆ５１５４ｃの起伏の頂部は、通路部材Ｆ５１１０の第１流出面Ｆ５１１４ａの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置よりも右方側（矢印Ｒ方向側）となる位置に配設される。
【４２６７】
これにより、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球は、振り分け部Ｆ５１５４ｃに案内され、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて移動（流下、転動）される。
【４２６８】
第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球が、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ振り分けられ、玉軸受Ｆ５１５２ｂを回転軸として左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが回転することで、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌが、左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位される。
【４２６９】
また、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌの第２係合部Ｆ５１５７ｃと振り分け部材Ｆ５１５４の被係合部Ｆ５１５４ａとは係合されるため、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌの変位に連動して振り分け部Ｆ５１５４ｃが左方側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位される。その結果、振り分け部Ｆ５１５４ｃの起伏の頂部は、第１流出面Ｆ５１１４ａの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置よりも左方側（矢印Ｌ方向側）となる位置に配設される。
【４２７０】
なお、開放状態のうち、振り分け部材Ｆ５１５４、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌ及び左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌが動作（回転、変位）した状態を「第１開放状態」と称す。
【４２７１】
従って、第１開放状態において、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球は、振り分け部Ｆ５１５４ｃに案内され、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）される。
【４２７２】
ここで、第１の球の重量が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに作用されている状態において、第２の球（第１の球に後行する球であって、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路ＦＲｔ５２へ流下される球）が、第２通路ＦＲｔ５２又は第３通路ＦＲｔ５３から左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて流下して、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ衝突されると、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから第１の球が脱落（流下）する虞がある。第１の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから脱落（流下）されると、遮断部Ｆ５１５８ａが閉塞状態に復帰されてしまい、流入口ＦＯＰｆ５１へ球が流入され難くなる。
【４２７３】

特に、第４通路ＦＲｔ５４上に第３の球がある状態で、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ第１の球の重量が作用され、遮断部Ｆ５１５８ａが開放状態となることで、流入口ＦＯＰｆ５１への第３の球の流入を遊技者が期待していた場合には、第１の球の脱落（遮断部Ｆ５１５８ａの遮蔽状態への復帰）は、期待を中断させ、遊技の興趣の低下を招く。

【４２７４】

これに対し、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用されている状態では、第２の球を、振り分け部Ｆ５１５４ｃの案内により、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）させることができる。即ち、第２の球が、左側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）することを規制（抑制）できる。

【４２７５】

これにより、第１の球の重量が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに作用されている状態において、かかる左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが第２の球の影響を受ける（第２の球が、第２通路ＦＲｔ５２又は第３通路ＦＲｔ５３から左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて流下して、別の第２の球の左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへの衝突により、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから第１の球が脱落（流下）する）ことを抑制できる。即ち、第２の球の衝突によって、遮断部Ｆ５１５８ａの状態が変化する（開放状態から閉塞状態となる）ことを抑制できる。その結果、流入口ＦＯＰｆ５１への球の流入のし易さが途中で変化されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【４２７６】

この場合、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用された状態では、第２の球を所定位置（例えば、第１通路ＦＲｔ５１上）に保留する（移動を停止させる）構成も考えられる。

【４２７７】

これに対し、振り分け部Ｆ５１５４ｃは、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用された状態において、第２の球を、所定位置に保留するのではなく、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ案内する（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌよりも右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ移動し易くする）ので、流入口ＦＯＰｆ５１への球（例えば、第４通路ＦＲｔ５４上にある第３の球）の流入のし易さの変化を継続させ易くできる。

【４２７８】

即ち、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用されている状態では、その状態が中断される（第２の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに衝突し、第１の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから脱落する）ことを抑制しつつ、第２の球を右側変位部材Ｆ５１５５Ｒに受け取らせ、その受け取った第２の球の重量が右側変位部材Ｆ５１５５Ｒに作用された状態を形成することで、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒによっても、流入口ＦＯＰｆ５１への球（第３の球）の流入がし易くされた状態を形成できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【４２７９】

また、第２通路ＦＲｔ５２及び第３通路ＦＲｔ５３の正面側（矢印Ｆ方向側）には、第２通路壁部Ｆ５１２３及び第３通路壁部Ｆ５１２５が立設されるので、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに第１の球の重量が作用されている状態において、第２通路ＦＲｔ５２又は第３通路ＦＲｔ５３から流下する球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの側面に衝突（当接）され難くできる。これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから第１の球が脱落（流下）することを抑制して、流入口ＦＯＰｆ５１への球の流入のし易さが途中で変化されることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。

【４２８０】

なお、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに重量を作用させていた第１の球に別の球（第２の球）が当接する場合には、第１の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから脱落しても、その第１球に代わって、別の球（第２の球）が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに重量を作用させることができる場合がある。また、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの上面（重量を作用させる球が保持または転動される部位、保持部５１５５ｅ又は凹部Ｆ５１５５ｄ１）に別の球（第２の

球）が当接する（受け取られる）場合には、重量を作用させていた第１の球に加え、或いは、第１の球に置き換わって、別の球（第２の球）が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに重量を作用させることができる場合がある。よって、別の球（第２の球）が少なくとも左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの側面へ衝突（当接）し難くできれば有効となる。即ち、玉軸受Ｆ５１５２ｂを回転軸として回転される左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに対し、第２通路壁部Ｆ５１２３及び第３通路壁部Ｆ５１２５が有効となる。

【４２８１】

この場合、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌは、玉軸受Ｆ５１５２ｂを回転軸として回転されることで、第２通路ＦＲｔ５２の流下部（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球を流下させる部位、第２通路壁部Ｆ５１２３が非形成とされる部位）及び第３通路ＦＲｔ５３の流下部（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球を流下させる部位、第３通路壁部Ｆ５１２５が非形成とされる部位）から離れる方向へ変位することができる。これにより、流下部から流下した別の球（第２の球）が左側変位部材Ｆ５１５５の側面に衝突（当接）し難くできる。

【４２８２】

なお、第２通路ＦＲｔ５２及び第３通路ＦＲｔ５３の通路長さは任意に設定可能であり、本実施形態の場合よりも短い長さに設定されることが好ましい。また、振り分け部Ｆ５１５４ｃの大きさ（矢印Ｌ，Ｒ方向寸法）を本実施形態の場合よりも大きくして、第１の球の重量が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに作用された状態では、第２流出面Ｆ５１１４ｂ（一対の第２流出面Ｆ５１１４ｂのうちの左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ側に位置するもの）から第２通路ＦＲｔ５２へ流下される球も右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ案内されるように構成しても良い。また、第２流出面Ｆ５１１４ｂの形成を省略しても良い。いずれの場合においても、第１の球の重量が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに作用されている状態において、かかる左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが第２の球の影響を受けることを抑制し易くできる。

【４２８３】

第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球は、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ振り分けられ、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ及び右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒが動作（回転、変位）することで下側フレームＦ５０８６ｂが開放状態となる。以下、開放状態のうち、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ及び右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒが動作（回転、変位）した状態を「第２開放状態」と称す。

【４２８４】

下側フレームＦ５０８６ｂの第２開放状態においては、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄに配設される磁性体（図示せず）が、維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４に磁着される。これにより、変位部材Ｆ５１５５の本体部Ｆ５１５５ｄから球が流出（流下）された状態においても、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ（右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒ）が動作（回転、変位）する（第２開放状態から閉塞状態へ動作する）ことを抑制できる。従って、下側フレームＦ５０８６ｂは、第２開放状態（一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間の距離が大きくされた状態）に維持される。

【４２８５】

これにより、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒから球が流出（流下）され、球の重量が右側変位部材Ｆ５１５５Ｒに非作用の状態においても、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球を一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入させ易い状態を維持できる。

【４２８６】

このように、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）から第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球が、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）することで、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて移動（流下、転動）する場合と比較して、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）する球が一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入されることを遊技者に期待させ易くでき、遊技

の興趣を高めることができる。
【４２８７】
また、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）から第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）された球（先行の球）が、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて移動（流下、転動）することで、その先行の球の後続となる球（後続の球）を右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ向けて移動（流下、転動）させることができる。言い換えると、先行の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ振り分けられてから所定の時間内に後続の球が上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）から第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流下）されることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【４２８８】
また、下側フレームＦ５０８６ｂの第２開放状態において、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒは、変位された状態に維持されるため、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態であることを遊技者に理解させ易くできる。
【４２８９】
次いで、第２開放状態から閉塞状態への動作（変位）について説明する。一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ流入した球が維持手段Ｆ５１６０の通路部Ｆ５１６２ａへ案内（送球、流下）されることで、通路部材Ｆ５１６２、係合部材Ｆ５１６３及び磁性体Ｆ５１６４に球を加えた全体の重心は軸配設部材Ｆ５１６１の第２軸部Ｆ５１６１ｄよりも正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する。これにより、通路部材Ｆ５１６２は第２軸部Ｆ５１６１ｄを回転軸として通路部Ｆ５１６２ａ（伝達部Ｆ５１６２ｃ）が下方側（上方側）へ向けて回転する。
【４２９０】
通路部Ｆ５１６２ａの下方側へ向けての回転により、係合部材Ｆ５１６３は第１軸部Ｆ５１６１ｃを回転軸として保持部Ｆ５１６３ｃが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転し、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒと維持手段Ｆ５１６０との係合（着磁）が解除される。その結果、下側フレームＦ５０８６ｂが閉塞状態に配置される。
【４２９１】
このように、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態（第１入賞口６４へ入賞され易い状態）へ動作されると、少なくとも一球が維持手段Ｆ５１６０の通路部Ｆ５１６２ａへ案内（送球、流下）される（第１入賞口６４へ入賞される）までの間、下側フレームＦ５０８６ｂを第２開放状態に維持することができる。
【４２９２】
これにより、第２開放状態において、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１への球の流入を確実化できる。言い換えると、一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間および流入口ＦＯＰｆ５１へ球が流入されないまま、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態から閉塞状態へ動作されることを抑制できる。その結果、遊技者に安心感を付与でき、遊技の興趣を高めることができる。
【４２９３】
次いで、下側フレームＦ５０８６ｂを流下する球について説明する。遊技領域を流下する球のうち、上側フレームＦ５０８６ａに配設される上側フレーム通路ＦＲｔ５０（図３０８参照）を案内された球は、通路部材Ｆ５１１０の上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の上流端に流入（入球）される。
【４２９４】
上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の上流端に流入（入球）された球は、上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って上側通路Ｆ５１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）し、第１流出面Ｆ５１１４ａ若しくは第２流出面Ｆ５１１４ｂから第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）若しくは第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）へ案内（送球、流出）される。

【４２９５】
第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流出）された球は、振り分け部材Ｆ５１５４の振り分け部Ｆ５１５４ｃの傾斜方向に沿って左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ側（矢印Ｌ方向側）へ向けて移動（流下、転動）し、湾曲部Ｆ５１２２に当接することで移動方向が正面側（矢印Ｆ方向側）へ変更される。これにより、第２通路部Ｆ５１２１の正面側に配設される左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球が案内（送球、流出）される。
【４２９６】
ここで、湾曲部Ｆ５１２２は、上面視において左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて凹となる湾曲状に形成されるため、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流出）された球の移動速度の大きさを維持したまま、球の移動の方向を正面側（矢印Ｆ方向側）へ変更できる。これにより、湾曲部Ｆ５１２２が非形成の場合と比較して、早く左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球を案内（送球、流出）できる。
【４２９７】
また、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌは、玉軸受Ｆ５１５２ｂに軸支されるため、玉軸受Ｆ５１５２ｂが非配設の場合と比較して、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ球が案内（送球、流出）されてから左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが回転（変位）するまでの時間を短くでき、第１開放状態となるまでの時間を短くできる。
【４２９８】
これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流出）された球の後続となる球が、続けて左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ向けて第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）を移動（流下、転動）する（振り分け部Ｆ５１５４ｃの変位前に第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部Ｆ５１２１へ案内される）場合であっても、後続の球が先行の球（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内された球）に当接することを抑制でき、先行の球が左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから落下（流出）することを抑制できる。
【４２９９】
左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流出）された球は、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと共に玉軸受Ｆ５１５２ｂを回転軸として回転（変位）し、流入口ＦＯＰｆ５１側（左右方向中央側）へ向けて変位される。
【４３００】
ここで、玉軸受Ｆ５１５２ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向かうにつれて下降傾斜して配設されるため、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌは、左右方向両端側から中央側へ向かうにつれて下方側（矢印Ｄ方向側）へ変位する。言い換えると、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌは、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２の傾斜部の傾斜方向に沿って変位する。
【４３０１】
これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが下側通路Ｆ５１１２と第２通路部材Ｆ５１２０との間において変位する場合であっても、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと下側通路Ｆ５１１２又は第２通路部材Ｆ５１２０とが当接することを抑制するための空間を小さくできる。即ち、下側通路Ｆ５１１２と第２通路部材Ｆ５１２０との配設間距離を小さくでき、下側フレームＦ５０８６ｂを小型化できる。
【４３０２】
また、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）と左側変位部材Ｆ５１５５Ｌとの距離（段差）を小さくできる。これにより、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）を移動（流下、転動）する球を左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流出）させ易くできる。
【４３０３】
また、鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）との距離を小さくできる。これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから振り分けられた球が下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）に当接す

る際の衝撃力を小さくでき、下側通路Ｆ５１１２の破損を抑制できる。
【４３０４】
左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流出）された球は、保持部Ｆ５１５５ｅに保持される。これにより、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの回転（変位）時、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから球が落下（流出）することを抑制できる。
【４３０５】
ここで、図３１９から図３２１に加え、図３２２を参照して、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの変位および左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流下）された球の移動（流下、転動）について説明する。図３２２は、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの部分上面図であり、図２９９（ａ）は、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態、図３２２（ｂ）から図３２２（ｄ）は、下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態における左側変位部材Ｆ５１５５Ｌが図示される。
【４３０６】
図３２２（ａ）に示すように、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）（図３１５参照）から左側変位部材Ｆ５１５５Ｌへ案内（送球、流下）された球ＣＢ５１は、保持部Ｆ５１５５ｅにより左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに保持される（保持部Ｆ５１５５ｅから変位することが抑制される）。
【４３０７】
図３２２（ｂ）に示すように、左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌのスライド本体部Ｆ５１５７ａが第２軸受け部材Ｆ５１５２の規制部Ｆ５１５２ａに当接することで左側スライド部材Ｆ５１５７Ｌ（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ）の変位が規制され、下側フレームＦ５０８６ｂは、第１開放状態に配置される。
【４３０８】
下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態において、球ＣＢ５１は、保持部Ｆ５１５５ｅに保持された状態に維持される。このように、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態から第１開放状態への動作において、球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が停止される（球ＣＢ５１が保持部Ｆ５１５５ｅに保持された状態に維持される）ことで、球ＣＢ５１が貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ流入することを抑制できる。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態における期間を長くできる。
【４３０９】
なお、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの変位が規制される（下側フレームＦ５０８６ｂが第１開放状態に配置される）ことで慣性力が作用することにより、保持部Ｆ５１５５ｅに保持された球ＣＢ５１は、本体部Ｆ５１５５ｄへ向けて移動（流下、転動）される。このように、球ＣＢ５１に作用する慣性力を利用して球ＣＢ５１が移動（流下、転動）を再開できる（保持部Ｆ５１５５ｅによる保持が解除される）ことで、保持部Ｆ５１５５ｅによる保持を解除させる駆動装置を不要とできる。
【４３１０】
また、下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態では閉塞状態と比較して、保持部Ｆ５１５５ｅの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれての下降傾斜の角度が小さく形成される。これにより、球ＣＢ５１の移動（流下、転動）を確実化させ易く（保持部Ｆ５１５５ｅによる保持が解除され易く）できる。
【４３１１】
図３２２（ｃ）に示すように、球ＣＢ５１が規制壁Ｆ５１５５ｆに当接しつつ移動（流下、転動）されることにより、球ＣＢ５１は、凹部Ｆ５１５５ｄ１における規制壁Ｆ５１５５ｆ側（矢印Ｂ方向側）へ案内される。即ち、球ＣＢ５１は、凹部Ｆ５１５５ｄ１の軸心（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２の中心）から偏心した位置へ案内される。
【４３１２】
図３２２（ｄ）に示すように、凹部Ｆ５１５５ｄ１の軸心（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２の中心）から偏心した位置へ球ＣＢ５１が案内されることで、球ＣＢ５１は、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って周回され易い。これにより、球ＣＢ５１が貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ

流入して左側変位部材Ｆ５１５５Ｌから流出（流下）されることを遅延させることができる。その結果、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌに球ＣＢ５１の重量が作用している期間を長くでき、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態における期間を長くできる。

【４３１３】

また、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って球ＣＢ５１を移動（流下、転動）させることで、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面との間に生じる摩擦力を利用して球の移動速度を低減でき、球ＣＢ５１が貫通孔Ｆ５１５５ｄ２へ流入することを遅延させることができる。

【４３１４】

ここで、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面および底面Ｆ５１５５ｄ３は、平坦面に形成される、言い換えると、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面が径方向において同一に形成され、底面Ｆ５１５５ｄ３が鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において同一に形成される。従って、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面および底面Ｆ５１５５ｄ３に高低差が無く、球ＣＢ５１を凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って周回させ易くできる。

【４３１５】

また、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面および底面Ｆ５１５５ｄ３が連続して形成される、言い換えると、凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面および底面Ｆ５１５５ｄ３に間欠部が非形成とされるため、球ＣＢ５１を凹部Ｆ５１５５ｄ１の内周面に沿って周回させ易くできる。

【４３１６】

図３１９から図３２１に戻って下側フレームＦ５０８６ｂを流下する球について説明する。下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態において、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの貫通孔Ｆ５１５５ｄ２（図３１５参照）は、通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の正面側（矢印Ｆ方向側）における上方（矢印Ｕ方向）に配設される。上述したように、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ案内（送球、流下）された球は、立て壁部Ｆ５１１３に当接しつつ左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（移動、転動）する、即ち、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の背面側（矢印Ｂ向側）を揺動（移動、転動）する。

【４３１７】

これにより、本体部Ｆ５１５５ｄ（貫通孔Ｆ５１５５ｄ２）から下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ振り分けられた球が下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を揺動（移動、転動）する球に当接することを抑制できる。

【４３１８】

また、下側フレームＦ５０８６ｂの第１開放状態において、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌの本体部Ｆ５１５５ｄは、通路部材Ｆ５１１０の流出面Ｆ５１１２ｂの上方（矢印Ｕ方向）に配設される。これにより、本体部Ｆ５１５５ｄから振り分けられた球を遊技領域へ流出（流下）させ易くできる。

【４３１９】

次いで、下側フレームＦ５０８６ｂの第２開放状態について説明する。下側フレームＦ５０８６ｂが第１開放状態に動作（変位）されると、振り分け部材Ｆ５１５４の振り分け部Ｆ５１５４ｃの頂部は第１流出面Ｆ５１１４ａの鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置よりも左方側（矢印Ｌ方向側）となる位置に配設される。これにより、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流出）された球は、振り分け部Ｆ５１５４ｃの傾斜方向に沿って右側変位部材Ｆ５１５５Ｒ側（矢印Ｒ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する。これにより、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ球が案内（送球、流出）される。

【４３２０】

球が右側変位部材Ｆ５１５５Ｒへ振り分けられてから下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ案内（送球、流出）されるまでの右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの動作（回転、変位）については、遊技盤Ｆ５０１３の幅方向（図３０８左右方向）における中心に対し左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと線（面）対称（図３０８左右対称）であるため、その詳細な説明については省略する。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態に動作

（変位）する。
【４３２１】
ここで、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが動作（回転、変位）することで、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒは、維持手段Ｆ５１６０の保持部Ｆ５１６３ｃへ向けて変位する。これにより、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄに配設される磁性体（図示せず）が維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４に磁着される。その結果、右側変位部材Ｆ５１５５Ｒから球が流出（流下）された状態においても、下側フレームＦ５０８６ｂは第２開放状態に維持される。
【４３２２】
次いで、図３１５を参照して、上側通路Ｆ５１１４（第１通路ＦＲｔ５１）に形成される第２流出面Ｆ５１１４ｂから案内（送球、流出）される球の動作（変位）について説明する。第２流出面Ｆ５１１４ｂから案内（送球、流出）された球は、まず、第２通路部材Ｆ５１２０の第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ振り分けられる（案内される）。
【４３２３】
第２流出面Ｆ５１１４ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されるため、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ振り分けられた（案内された）球は、正面側へ向けて移動（流下、転動）し、次いで、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）へ振り分けられる（案内される）。
【４３２４】
ここで、第２流出面Ｆ５１１４ｂから振り分けられた（案内された）球を一旦、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）へ案内（送球、流出）することで、第２通路部Ｆ５１２１（第２通路ＦＲｔ５２）を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて移動（流下、転動）する球に当接させることができる。
【４３２５】
これにより、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて移動（流下、転動）する球を第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）へ案内（送球、流出）可能とできる。言い換えると、第１流出面Ｆ５１１４ａから第２振り分けられた（案内された）球が変位部材Ｆ５１５５へ案内（送球、流出）不能とでき、下側フレームＦ５０８６ｂを開放状態（第１開放状態または第２開放状態）へ動作させ難くできる。
【４３２６】
その結果、第１流出面Ｆ５１１４ａから振り分けられた（案内された）球と第２流出面Ｆ５１１４ｂから振り分けられた（案内された）球とが非当接となることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【４３２７】
第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）へ案内（送球、流出）された球は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側から両端側へ向けて移動（流下、転動）し、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）の左右方向両端側の端部から通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ案内（送球、流下）される。
【４３２８】
ここで、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部の下方（矢印Ｄ方向）には、変位部材Ｆ５１５５の動作（変位）範囲が形成される。これにより、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）から振り分けられた（案内された）球が動作（変位）中の変位部材Ｆ５１５５の腕部Ｆ５１５５ｂに当接可能とできる。
【４３２９】
上述したように、腕部Ｆ５１５５ｂが撓み易く（軸支部Ｆ５１５５ａに対し、腕部Ｆ５１５５ｂの先端が変位し易く）形成されるため、球が腕部Ｆ５１５５ｂに当接することで、変位部材Ｆ５１５５の保持部Ｆ５１５５ｅに保持された球を落下（流出）させ易くできる。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂが閉塞状態から開放状態へ動作することを抑

制可能とできる。
【４３３０】
従って、第３通路部Ｆ５１２４（第３通路ＦＲｔ５３）から振り分けられた（案内された）球が変位部材Ｆ５１５５に非当接となることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【４３３１】
図３０９から図３１８に戻って説明する。通路部材Ｆ５１１０の下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ案内（送球、流下）された球は、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（流下、転動）し、開閉部材Ｆ５１５８の一対の遮断部Ｆ５１５８ａ及び流入口ＦＯＰｆ５１へ流入して第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内される、若しくは、下側通路Ｆ５１１２の流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）される。
【４３３２】
ここで、一対の遮断部Ｆ５１５８ａは、正面視において、流入口ＦＯＰｆ５１を介して遊技者から視認可能となる位置に配設される。言い換えると、一対の遮断部Ｆ５１５８ａは、流入口ＦＯＰｆ５１の縁部の内側に配設される。従って、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）へ振り分けられた（案内された）球は、流入口ＦＯＰｆ５１へ流入し難く、流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）され易い。
【４３３３】
また、立て壁部Ｆ５１１３には膨出部Ｆ５１１３ａが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出して形成されるため、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）する球は、膨出部Ｆ５１１３ａに当接することで、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分が付与される。従って、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）する球は、立て壁部Ｆ５１１３に穿設される流入口ＦＯＰｆ５１へ流入し難く、流出面Ｆ５１１２ｂから遊技領域へ流出（流下）され易い。
【４３３４】
ここで、下側フレームＦ５０８６ｂの閉塞状態では、一対の遮断部Ｆ５１５８ａは、流入口ＦＯＰｆ５１の縁部の内側に配設される。一方、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態では、遮断部Ｆ５１５８ａは、通路部材Ｆ５１１０の立て壁部Ｆ５１１３の背面側（矢印Ｂ方向側）に配置され、閉塞状態よりも一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間の距離が大きくされる。これにより、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球は、閉塞状態よりも開放状態において流入口ＦＯＰｆ５１（一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間）へ流入し、第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞され易い）。
【４３３５】
従って、下側通路Ｆ５１１２（第４通路ＦＲｔ５４）を移動（流下、転動）している状態において、下側フレームＦ５０８６ｂが開放状態となることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【４３３６】
流入口ＦＯＰｆ５１（一対の遮断部Ｆ５１５８ａの対向間）へ流入した球は、維持手段Ｆ５１６０の通路部Ｆ５１６２ａへ案内（送球、流下）される。上述したように、通路部Ｆ５１６２ａへ球が案内（送球、流下）されることで、係合部材Ｆ５１６３は第１軸部Ｆ５１６１ｃを回転軸として保持部Ｆ５１６３ｃが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転する。これにより、下側フレームＦ５０８６ｂが第２開放状態に配置される場合においては（図３２１参照）、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒと維持手段Ｆ５１６０との係合（着磁）が解除され、下側フレームＦ５０８６ｂが閉塞状態に配置される。
【４３３７】
維持手段Ｆ５１６０の通路部Ｆ５１６２ａへ案内（送球、流下）された球は、次いで、

第５通路部材Ｆ５１４０の第５通路部Ｆ５１４１（第５通路ＦＲｔ５５）へ案内（送球、流下）され、第５通路部Ｆ５１４１に形成された一対の突部Ｆ５１４１ｃに沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）し、通路部材Ｆ５１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過して第１入賞口６４へ入賞（案内、送球、流出）される。

【４３３８】

次いで、図３２３から図３３５を参照して、第８９実施形態における下側フレームＦ６０８６ｂについて説明する。上記第８４実施形態では、流入口ＦＯＰｆ１及び流出面Ｆ１１２ｂが同一の通路（第５通路ＦＲｔ５）に形成される場合を説明したが、第８９実施形態における下側フレームＦ６０８６ｂでは、流入口ＦＯＰｆ６１と流入口ＦＯＰｆ６２とが異なる通路にそれぞれ形成される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４３３９】

図３２３は、第８９実施形態における遊技盤Ｆ６０１３の正面図である。図３２３に示すように、センターフレームＦ６０８６は、ベース板６０の窓部６０ａ（図７参照）に嵌合可能な形状で構成され、タッピングネジ等によりベース板６０に締結固定される部材であり、上側フレームＦ６０８６ａと下側フレームＦ６０８６ｂとを備える。

【４３４０】

上側フレームＦ６０８６ａは、ベース板６０の窓部６０ａ（図７参照）における上側（図３２３上側）及び左右（図３２３左側及び右側）の内縁に沿って配設され、下側フレームＦ６０８６ｂは、ベース板６０の窓部６０ａにおける下側（図３２３下側）の内縁に沿って配設される。これら上側フレームＦ６０８６ａ及び下側フレームＦ６０８６ｂに取り囲まれた領域を介して第３図柄表示装置８１（図１４４参照）が視認可能とされる。

【４３４１】

なお、上側フレームＦ６０８６ａは、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６の一部（ベース板６０の窓部６０ａ（図７参照）における下側（図３２３下側）の内縁に沿って配設される部分、即ち、下側フレームＦ６０８６ｂが配設される部分）を省略した構成とされ、その省略された部分を除く他の部分は、上記各実施形態におけるセンターフレーム８６と同一の構成とされる。

【４３４２】

次いで、図３２３に加え、図３２４から図３２５を参照して下側フレームＦ６０８６ｂについて説明する。図３２４は、下側フレームＦ６０８６ｂの正面斜視図であり、図３２５は、下側フレームＦ６０８６ｂの背面斜視図である。

【４３４３】

図３２４から図３２５に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂには、球が移動（流下、転動）可能に形成される一対の第１通路ＦＲｔ６１と、一対の第１通路ＦＲｔ６１を案内された球が移動（流下、転動）される第２通路ＦＲｔ６２と、その第２通路ＦＲｔ６２を案内された球が移動（流下、転動）される一対の第３通路ＦＲｔ６３及び一対の第４通路ＦＲｔ６４と、一対の第３通路ＦＲｔ６３を案内された球が移動（流下、転動）される第５通路ＦＲｔ６５と、その第５通路ＦＲｔ６５を案内された球が流下される第６通路ＦＲｔ６６と、第５通路ＦＲｔ６５及び第２通路ＦＲｔ６２を案内された球が第６通路ＦＲｔ６６及び第４通路ＦＲｔ６４へ案内（流入、送球）される開口として形成される流入口ＦＯＰｆ６１及び流入口ＦＯＰｆ６２と、第６通路ＦＲｔ６６及び第４通路ＦＲｔ６４を流下された球が遊技領域へ流出するための開口として形成される流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び流出口ＦＯＰｏｕｔ６２とが形成される。

【４３４４】

なお、一対の第１通路ＦＲｔ６１、一対の第３通路ＦＲｔ６３及び一対の第４通路ＦＲｔ６４は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図３２３左右方向）における中心に対し線（面）対称（図３２３左右対称）にそれぞれ配設される。

【４３４５】

上側フレームＦ６０８６ａには、上側フレーム通路ＦＲｔ６０が配設される（図３２３

参照）。上側フレーム通路ＦＲｔ６０は、遊技領域を流下する球を案内する通路であり、その上側フレーム通路ＦＲｔ６０の下流端に第１通路ＦＲｔ６１の上流端が連通される。

【４３４６】

即ち、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ６０に流入（入球）した球は、第１通路ＦＲｔ６１の上流端を介して、上側フレーム通路ＦＲｔ６０から下側フレームＦ６０８６ｂの第１通路ＦＲｔ６１へ流入（入球）される。

【４３４７】

なお、図示は省略するが、上側フレーム通路ＦＲｔ６０は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図３２３左右方向）における中心に対し線（面）対称（図３２３左右対称）にそれぞれ配設される。従って、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ６０に流入（入球）した球は、遊技盤Ｆ６０１３の右方側（図３２３右方側）に配設された上側フレーム通路ＦＲｔ６０から遊技盤Ｆ６０１３の右方側に配設される第１通路ＦＲｔ６１へ流入（入球）される。

【４３４８】

ここで、第６通路ＦＲｔ６６の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に形成（配置）される。そのため、第５通路ＦＲｔ６５の流入口ＦＯＰｆ６１を通過して第５通路ＦＲｔ６５から第６通路ＦＲｔ６６へ振り分けられた球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【４３４９】

また、第２通路ＦＲｔ６２には、第１入賞口６４の鉛直方向上方となる位置に正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面としておが形成（配置）される。そのため、第２通路ＦＲｔ６２の流出面Ｆ６１１２ｂに沿って案内（送球、流下）される球は、第１入賞口６４へ入賞し易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が高い）。

【４３５０】

一方、第４通路ＦＲｔ６４の出口（遊技領域へ球を流出させる開口）である流出口ＦＯＰｏｕｔ６２は、第１入賞口６４に対して遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図３２３左右方向）に位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。そのため、第４通路ＦＲｔ６４へ案内（送球、流下）される球は、遊技領域へ流出する確率が高く、結果として、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した流入口ＦＯＰｆ１を通過して第５通路ＦＲｔ６５から第６通路ＦＲｔ６６へ振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【４３５１】

なお、第２通路ＦＲｔ６２には、起伏Ｆ６１１２ａが形成され、起伏Ｆ６１１２ａの底部は流入口ＦＯＰｆ６２の正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）に配設される。また、第２通路ＦＲｔ６２は、背面側（矢印Ｂ方向側、遊技領域とは反対側）へ向けて下降傾斜して形成されており、起伏の底部へ案内（送球、流下）される球は、第４通路ＦＲｔ６４へ振り分けられる確率が高い。

【４３５２】

また、流出面Ｆ６１１２ｂは起伏Ｆ６１１２ａの頂部に形成される。従って、第２通路ＦＲｔ６２へ振り分けられた球は、流出面Ｆ６１１２ｂから第１入賞口６４へ送球されるよりも起伏Ｆ６１１２ａの底部から第４通路ＦＲｔ６４へ流出され易い。

【４３５３】

結果として、起伏の底部へ案内（送球、流下）される球は、第１入賞口６４へ入賞し難い（上述した流入口ＦＯＰｆ６１を通過して第５通路ＦＲｔ６５から第６通路ＦＲｔ６６へ振り分けられた球や第２通路ＦＲｔ６２の流出面Ｆ６１１２ｂから振り分けられた球よりも第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【４３５４】

第３通路ＦＲｔ６３には、その第３通路ＦＲｔ６３へ振り分けられた球を第５通路ＦＲｔ６５へ案内（送球、流下）するための当接部Ｆ６１５４が形成（配置）される。第３通

路ＦＲｔ６３は、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に凹となる湾曲状に形成されており、当接部Ｆ６１５４は、第３通路ＦＲｔ６３において第１通路ＦＲｔ６１とは反対側の端部に配設される。

【４３５５】

第１通路ＦＲｔ６１から第３通路ＦＲｔ６３に振り分けられた球の速度（運動エネルギー）が所定量よりも大きい場合は、球は第３通路ＦＲｔ６３の湾曲面を鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて移動（流下、転動）し、当接部Ｆ６１５４に当接する。これにより、球の移動（流下、転動）方向が変更され、第５通路ＦＲｔ６５へ振り分けられる。

【４３５６】

なお、第３通路ＦＲｔ６３の湾曲底面には、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ６１１４ａが形成（配置）されており、球の速度（運動エネルギー）が所定量以下の場合は当接部Ｆ６１５４に当接できず、流出面Ｆ６１１４ａから第２通路ＦＲｔ６２へ振り分けられる。

【４３５７】

第５通路ＦＲｔ６５には、流入口ＦＯＰｆ６１及び一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂが形成（配置）されており、第５通路ＦＲｔ６５へ振り分けられた球は、流入口ＦＯＰｆ６１若しくは一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂを通過して第６通路ＦＲｔ６６若しくは第２通路ＦＲｔ６２へ案内（送球、流下）される。

【４３５８】

なお、一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂは、第２通路ＦＲｔ６２の起伏Ｆ６１１２ａの頂部（流出面Ｆ６１１２ｂ）に対して遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図３２３左右方向）に位置を異ならせた２箇所に形成（配置）される。そのため、一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂを通過した球は、第２通路ＦＲｔ６２の起伏Ｆ６１１２ａの頂部（流出面Ｆ６１１２ｂ）へ案内され難く、起伏Ｆ６１１２ａの底部から第４通路ＦＲｔ６４へ案内され易い（第１入賞口６４へ入賞する確率が低い）。

【４３５９】

下側フレームＦ６０８６ｂには、球の重さにより動作する振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３に形成される当接部Ｆ６１７３ｂが当接部Ｆ６１５４よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）となる位置に配設されており（図３３５参照）、当接部Ｆ６１７３ｂが第３通路ＦＲｔ６３に配置された状態においては、第３通路ＦＲｔ６３の湾曲面を鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が所定量以下の場合であっても当接部Ｆ６１７３ｂに当接することにより球の移動（流下、転動）方向が変更され、球は第４通路ＦＲｔ６４へ振り分けられる。

【４３６０】

よって、第３通路ＦＲｔ６３をその延設方向に沿って移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が所定量以下の場合であっても、振分手段Ｆ６１７０（変位部材Ｆ６１７３）が動作することで第５通路ＦＲｔ６５へ案内（送球、流下）させ易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率が高められる）。その結果、第３通路ＦＲｔ６３を球が移動（流下、転動）している状態において、振分手段Ｆ６１７０（変位部材Ｆ６１７３）が動作することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４３６１】

次いで、図３２４から図３２５に加え、図３２６から図３３３を参照して、下側フレームＦ６０８６ｂの詳細構成について説明する。

【４３６２】

図３２６は、下側フレームＦ６０８６ｂの分解正面斜視図であり、図３２７は、下側フレームＦ６０８６ｂの分解背面斜視図である。図３２８は、振分手段Ｆ６１７０の分解正面斜視図であり、図３２９は、振分手段Ｆ６１７０の分解背面斜視図である。図３３０は、下側フレームＦ６０８６ｂの上面図であり、図３３１は、下側フレームＦ６０８６ｂの正面図であり、図３３２は、下側フレームＦ６０８６ｂの背面図である。図３３３（ａ）は、図３３１の矢印ＣＣＣＸＸＸＩＩＩａ方向視における下側フレームＦ６０８６ｂの側

面図であり、図３３３（ｂ）は、図３３１の矢印ＣＣＣＸＸＩＩＩｂ方向視における下側フレームＦ６０８６ｂの側面図であり、図３３３（ｃ）は、図３３１のＣＣＣＸＸＩＩＩｃ－ＣＣＣＸＸＩＩＩｃ線における下側フレームＦ６０８６ｂの断面図である。

【４３６３】

図３２４から図３３３に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂは、通路部材Ｆ６１１０と、その通路部材Ｆ６１１０の立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される第５通路部材Ｆ６１２０と、通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２の下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される第６通路部材Ｆ６１３０と、その第６通路部材Ｆ６１３０の背面側（矢印Ｄ方向側）に配設される中間通路部材Ｆ６１４０と、その中間通路部材Ｆ６１４０の背面側に配設される背面部材Ｆ６１５０と、その背面部材Ｆ６１５０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に配設される一対の第１通路部材Ｆ６１６０と、背面部材Ｆ６１５０の背面側に配設される振分手段Ｆ６１７０と、を備える。

【４３６４】

通路部材Ｆ６１１０には流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び流出口ＦＯＰｏｕｔ６２が形成され、流出口ＦＯＰｏｕｔ１に第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１が挿通され、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２に第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２が挿通される。また、通路部材Ｆ６１１０には、流入口ＦＯＰｆ６１及び流入口ＦＯＰｆ６２が形成され、流入口ＦＯＰｆ６１及び流入口ＦＯＰｆ６２は、中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１及び第２凹部Ｆ６１４２に対応する位置にそれぞれ配設される。

【４３６５】

中間通路部材Ｆ６１４０及び背面部材Ｆ６１５０には貫通孔Ｆ６１４３が形成され、貫通孔Ｆ６１４３に振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４が挿通される。また、背面部材Ｆ６１５０には挿通孔Ｆ６１５１ｂが形成され、挿通孔Ｆ６１５１ｂに振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３が挿通される。

【４３６６】

通路部材Ｆ６１１０には第５通路部材Ｆ６１２０及び背面部材Ｆ６１５０がタッピングネジによりそれぞれ締結固定される。第６通路部材Ｆ６１３０は、タッピングネジにより中間通路部材Ｆ６１４０に締結固定され、中間通路部材Ｆ６１４０、第１通路部材Ｆ６１６０及び振分手段Ｆ６１７０は、タッピングネジにより背面部材Ｆ６１５０にそれぞれ締結固定される。これらにより、下側フレームＦ６０８６ｂは、一つ（単体）のユニットとして構成される（図３２４、図３２５参照）。

【４３６７】

下側フレームＦ６０８６ｂは、通路部材Ｆ６１１０、第５通路部材Ｆ６１２０、第６通路部材Ｆ６１３０、背面部材Ｆ６１５０、第１通路部材Ｆ６１６０及び振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４が光透過性（即ち、背面側の部材や球を透視可能な透明）の樹脂材料から構成され、中間通路部材Ｆ６１４０及び振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３が有色の樹脂材料から構成される。よって、第１通路ＦＲｔ６１から第６通路ＦＲｔ６６を移動する球を遊技者に視認させると共に、振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３の動作を遊技者に視認させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４３６８】

なお、中間通路部材Ｆ６１４０及び振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３は、光透過性（透明又は有色）の樹脂材料から構成され、その正面に塗装を施したもの、或いは、シールを添付したものであっても良い。

【４３６９】

また、一方で、下側フレームＦ６０８６ｂは、振分手段Ｆ６１７０の連結部材Ｆ６１７５の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する中間通路部材Ｆ６１４０が光非透過性の樹脂材料から構成される（或いは、塗装が施されたりシールが添付される）ことで、振分手段Ｆ６１７０の連結部材Ｆ６１７５が正面側から遊技者に視認不能とできる。なお、中間通路部材Ｆ６１４０が光透過性の樹脂材料から構成されることで、振分手段Ｆ６１７０の連結部材Ｆ６１７５が正面側から遊技者に視認可能となるように構成されても良い。

【４３７０】
通路部材Ｆ６１１０は、第２通路ＦＲｔ６２及び第３通路ＦＲｔ６３を形成するためのものであり、正面を形成する板状の正面板Ｆ６１１１と、その正面板Ｆ６１１１の背面から突設される下側通路Ｆ６１１２と、その下側通路Ｆ６１１２の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における略中央から鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に延設される立て壁部Ｆ６１１３と、その立て壁部Ｆ６１１３の端部から背面側（矢印Ｂ方向側）に延設される上側通路Ｆ６１１４と、下側通路Ｆ６１１２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の端部から鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に突設される一対の留め部Ｆ６１１５と、を備える。
【４３７１】
正面板Ｆ６１１１、下側通路Ｆ６１１２、立て壁部Ｆ６１１３及び背面部材Ｆ６１５０により区画された空間により第２通路ＦＲｔ６２が形成され、上側通路Ｆ６１１４及び背面部材Ｆ６１５０により区画された空間により第３通路ＦＲｔ６３が形成される。
【４３７２】
正面板Ｆ６１１１には、複数の挿通孔Ｆ１１１ａが板厚方向に穿設され、流出口ＦＯＰｏｕｔ１及び流出口ＦＯＰｏｕｔ６２が開口形成（板厚方向に穿設）される。本実施形態における流出口ＦＯＰｏｕｔ１は、第６通路ＦＲｔ６６を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される際の出口となる開口であり、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２は、第４通路ＦＲｔ６４を案内された球が遊技領域へ流出（流下）される際の出口となる開口である。
【４３７３】
正面板Ｆ６１１１には、正面視における形状が下側通路Ｆ６１１２の流出面Ｆ６１１２ｂの形状と略同一となる切欠き部Ｆ６１１１ｂが流出面Ｆ６１１２ｂの正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される。切欠き部Ｆ６１１１ｂを通過することで、第２通路ＦＲｔ６２を案内された球が第１入賞口６４へ送球される。
【４３７４】
下側通路Ｆ６１１２は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、下側通路Ｆ６１１２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流下）された球を背面部材Ｆ６１５０若しくは立て壁部Ｆ６１１３に当接させつつ左右方向に沿って揺動（移動、転動）させることができる。
【４３７５】
なお、下側通路Ｆ６１１２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における略中央には起伏Ｆ６１１２ａが形成され、起伏Ｆ６１１２ａの頂部には、正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ６１１２ｂが形成（配置）される。
【４３７６】
また、起伏Ｆ６１１２ａの底部、言い換えると、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成される部位と起伏Ｆ６１１２ａとの境界は、立て壁部Ｆ６１１３の流入口ＦＯＰｆ６２の正面（矢印Ｆ方向）に形成（配置）される。従って、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた球は、流出面Ｆ６１１２ｂから第１入賞口６４へ案内されるよりも起伏Ｆ６１１２ａの底部から立て壁部Ｆ６１１３の流入口ＦＯＰｆ６２を通過して第４通路ＦＲｔ６４へ案内され易い（遊技領域へ流出され易い）。
【４３７７】
立て壁部Ｆ６１１３は、下側通路Ｆ６１１２と上側通路Ｆ６１１４とを連結するための部位である。上側通路Ｆ６１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端は下側通路Ｆ６１１２と面一に形成されており、従って、立て壁部Ｆ６１１３は、左右方向における下側通路Ｆ６１１２の両端とは非連結に形成される。言い換えると、立て壁部Ｆ６１１３の左右方向における延設長さは、下側通路Ｆ６１１２の左右方向における延設長さよりも小さく形成される。

【４３７８】
立て壁部Ｆ６１１３には、流入口ＦＯＰｆ６１及び一対の流入口ＦＯＰｆ６２が開口形成（板厚方向に穿設）される。流入口ＦＯＰｆ６１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における寸法は、球の外形よりもやや大きく形成される。流入口ＦＯＰｆ６２の左右方向における寸法は、球の外形の略２倍の大きさに形成される。上述したように、流入口ＦＯＰｆ６１及び流入口ＦＯＰｆ６２は、第５通路ＦＲｔ６５を案内された球が第６通路ＦＲｔ６６へ流出される際の出口となる開口である。
【４３７９】
立て壁部Ｆ６１１３は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凸となる湾曲状に形成され、これにより、立て壁部Ｆ６１１３に当接しつつ下側通路Ｆ６１１２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球が下側通路Ｆ６１１２の起伏Ｆ６１１２ａを通過する際、その球へ正面側（矢印Ｆ方向側、遊技領域側）への速度成分が付与される。その結果、起伏Ｆ６１１２ａを通過する球を流出面Ｆ６１１２ｂ（第１入賞口６４）へ案内し易くでき、第４通路ＦＲｔ６４へ案内させ難くできる。
【４３８０】
立て壁部Ｆ６１１３の上端は、上側通路Ｆ６１１４の上面の形状と略同一に形成される。これにより、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内された球を上側通路Ｆ６１１４の正面から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ流出（流下、落下）させることができる。
【４３８１】
上側通路Ｆ６１１４は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、上側通路Ｆ６１１４は、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて凹となる湾曲状に形成される。また、上側通路Ｆ６１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端は、下側通路Ｆ６１１２の上面と面一に形成され、これにより、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）する球を上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ振り分け易く（案内し易く）できる。
【４３８２】
また、上側通路Ｆ６１１４は、背面部材Ｆ６１５０側（矢印Ｂ方向側）に向けて下降傾斜して形成される。これにより、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って移動（流下、転動）する球を下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ流出（流下、落下）させ難くできる。
【４３８３】
上側通路Ｆ６１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側における上方（矢印Ｕ方向）には、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４が配設される。左右方向両端側から中央側へ向けて上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が所定量よりも大きい場合、球は、当接部Ｆ６１５４に当接できる。
【４３８４】
一方、左右方向両端側から中央側へ向けて上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が所定量よりも小さい場合、球は、当接部Ｆ６１５４に非当接であり、上側通路Ｆ６１１４の湾曲形状に沿って左右方向両端側へ向けて移動（流下、転動）する。言い換えると、球は、上側通路Ｆ６１１４の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って揺動（移動、転動）する。
【４３８５】
なお、上側通路Ｆ６１１４の鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における高さ位置が最も低い位置（湾曲凹部）には、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される凹面として流出面Ｆ６１１４ａが形成（配置）される。従って、上側通路Ｆ６１１４へ振り分けられた球のうち、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に非当接となる球は、流出面Ｆ６１１４ａから下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流下）される。
【４３８６】
また、上側通路Ｆ６１１４の上方側（矢印Ｕ方向側）には、切欠きＦ６１１４ｂが形成

される。切欠きＦ６１１４ｂの内周面は、振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３に形成される当接部Ｆ６１７３ｂの外形よりもやや大きく形成され、切欠きＦ６１１４ｂを通過することで、当接部Ｆ６１７３ｂは、上側通路Ｆ６１１４の下面側から上面側へ変位可能に配設される。

【４３８７】

なお、上側通路Ｆ６１１４において、流出面Ｆ６１１４ａよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側における上側通路Ｆ６１１４を第１傾斜部Ｆ６１１４ｃ、左右方向両端側における上側通路Ｆ６１１４を第２傾斜部Ｆ６１１４ｄ、とそれぞれ符号を付して説明する。

【４３８８】

留め部Ｆ６１１５には、挿通孔Ｆ１１５ａが板厚方向に穿設され、その挿通孔Ｆ１１５ａに挿通したタッピングネジが背面部材Ｆ６１５０に締結されることで、通路部材Ｆ６１１０に背面部材Ｆ６１５０が固定（配設）される。

【４３８９】

留め部Ｆ６１１５は、ベース板６０の背面に当接して配設される。また、下側通路Ｆ６１１２は、正面板Ｆ６１１１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）一端から他端において連続的に形成される。これらにより、針金等の異物の侵入が抑制される。なお、留め部Ｆ６１１５は、ベース板６０の背面から所定の距離を隔てて配設され、留め部Ｆ６１１５とベース板６０の背面とが非当接とされても良い。

【４３９０】

第５通路部材Ｆ６１２０は、第５通路ＦＲｔ６５を形成するためのものであり、第５通路部Ｆ６１２１と、その第５通路部Ｆ６１２１の外縁から立設される壁部Ｆ６１２２と、その壁部Ｆ６１２２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端から背面部材Ｆ６１５０側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突設される連結部Ｆ６１２３と、を備える。また、壁部Ｆ６１２２の正面には有色部材Ｆ６１２４が配設される。第５通路部Ｆ６１２１、壁部Ｆ６１２２及び通路部材Ｆ６１１０の立て壁部Ｆ６１１３により区画された空間により第５通路ＦＲｔ６５が形成される。

【４３９１】

第５通路部Ｆ６１２１は、その上面を球が移動（流下、転動）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ延びる板状体から形成される。第５通路部Ｆ６１２１には、流出面Ｆ６１２１ａと、その流出面Ｆ６１２１ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に配設される一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂとが形成される。

【４３９２】

第５通路部Ｆ６１２１は、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。これにより、上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球が第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路部Ｆ６１２１）に当接することを抑制できる。また、第５通路部Ｆ６１２１は、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４よりも下方（矢印Ｄ方向）に配設される。これにより、当接部Ｆ６１５４に当接した球を第５通路部Ｆ６１２１へ案内（送球、流下）できる。

【４３９３】

第５通路部Ｆ６１２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて張り出して形成され、その張り出し部に一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂが穿設される。第５通路部Ｆ６１２１の背面側（矢印Ｂ方向側）の端部（立て壁部Ｆ６１１３）と挿通孔Ｆ６１２１ｂとの間の部位の寸法は球の外形よりも大きく形成され、かかる部位を球が移動（流下、転動）可能に形成される。

【４３９４】

第５通路部Ｆ６１２１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から中央側へ向けて下降傾斜して形成されると共に、立て壁部Ｆ６１１３側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。

【４３９５】

流出面Ｆ６１２１ａは、第５通路部Ｆ６１２１の左右方向略中央であって、立て壁部Ｆ６１１３の流入口ＦＯＰｆ６１の正面側（矢印Ｆ方向側）となる位置に形成される凹面として形成される。従って、第５通路部Ｆ６１２１へ案内（送球、流下）された球は、流出面Ｆ６１２１ａへ案内（送球、流出）され易く、中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（流入口ＦＯＰｆ６１）へ案内（送球、流出）され易い。

【４３９６】

挿通孔Ｆ６１２１ｂは、第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられた球を下側通路Ｆ６１１２へ流出（流下、落下）させるための部位である。これにより、第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられた球を中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（流入口ＦＯＰｆ６１）へ非案内とでき、遊技の興趣を高めることができる。

【４３９７】

なお、第５通路部Ｆ６１２１には、挿通孔Ｆ６１２１ｂが非形成とされても良い。これにより、第５通路部材Ｆ６１２０に案内（送球、流出）された球を確実に中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（第１入賞口６４）へ案内（送球、流下）できる。

【４３９８】

壁部Ｆ６１２２は、第５通路部Ｆ６１２１の上面を移動（流下、転動）する球が、下側通路Ｆ６１１２へ流出（流下）することを抑制するための部位であり、壁部Ｆ６１２２の突設高さは、球の外形よりも小さく形成される。これにより、第５通路部Ｆ６１２１の上面を移動（流下、転動）する球を遊技者に視認させ易くできる。

【４３９９】

壁部Ｆ６１２２には、流出面Ｆ６１２１ａの上方（矢印Ｕ方向）（一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂの対向間）となる位置に突部Ｆ６１２２ａが流入口ＦＯＰｆ６１側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出して形成される。突部Ｆ６１２２ａに当接することで、第５通路部Ｆ６１２１の上面を移動（流下、転動）する球を背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて移動（流下、転動）させることができ、挿通孔Ｆ６１２１ｂへ案内され難くできる。

【４４００】

連結部Ｆ６１２３は、第５通路部材Ｆ６１２０を背面部材Ｆ６１５０に固定（配設）させるための部位である。連結部Ｆ６１２３の下端と通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面との間の寸法は、球の外形よりも大きく形成される。これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球が連結部Ｆ６１２３に当接することを抑制できる。

【４４０１】

有色部材Ｆ６１２４は、有色の樹脂材料から構成される。これにより、第５通路部Ｆ６１２１を移動（流下、転動）する球が、流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１を通過して第６通路ＦＲｔ６６へ案内（送球、流出）される、或いは、挿通孔Ｆ６１２１ｂを通過して下側通路Ｆ６１１２へ流出（流下、落下）されることを遊技者に視認させ難くでき、遊技の興趣を高めることができる。

【４４０２】

第６通路部材Ｆ６１３０は、中間通路部材Ｆ６１４０から振り分けられた（案内された）球を遊技領域へ流出させるためのものであり、第６通路部材Ｆ６１３０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央に形成される第６通路部Ｆ６１３１と、その第６通路部Ｆ６１３１の左右方向両側に形成される一対の第４通路部Ｆ６１３２と、を備える。

【４４０３】

第６通路部Ｆ６１３１は、中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１から振り分けられた球を遊技領域へ流出させるための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される底面部Ｆ６１３１ａと、その底面部Ｆ６１３１ａの左右方向両端から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突設される一対の壁部Ｆ６１３１ｂと、を備え、正面視において略Ｕ字状に形成される。一対の壁部Ｆ６１３１ｂの対向面間の距離は球の外形よりもやや大きく形成され、底面部Ｆ６１３１ａ、一対の壁部Ｆ６１３１ｂ及び通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２により区画された空間により第６通路ＦＲｔ６６（の一部）が形成される。

【４４０４】
第６通路部Ｆ６１３１は、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、第６通路部Ｆ６１３１へ振り分けられた（案内された）球は、流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過し、を遊技領域へ流出される。
【４４０５】
底面部Ｆ６１３１ａの上面には、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離だけ隔てて一対の突部Ｆ６１３１ｃが突設される。突部Ｆ６１３１ｃは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って直線状に延設されると共に、突部Ｆ６１３１ｃの上面は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される。また、一対の突部Ｆ６１３１ｃの対向面間の距離は、球の直径よりも小さくされると共に、突部Ｆ６１３１ｃの正面端における突設長さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、底面部Ｆ６１３１ａの底面に球が接触しない深さに設定される。
【４４０６】
これにより、底面部Ｆ６１３１ａ上の球を２箇所（突部Ｆ６１３１ｃの上端部における対向面側の一対の稜線部分）で位置決めすることができる。よって、一対の突部Ｆ６１３１ｃが非形成の場合と比較して、第６通路部Ｆ６１３１の幅方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における球の移動（流下、転動）位置を一定とし易くできる。よって、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１を通過した球を第１入賞口６４へ入賞（案内）させやすくできる。
【４４０７】
第４通路部Ｆ６１３２は、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４から振り分けられた球を遊技領域へ流出させるための部位であり、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延設される底面部Ｆ６１３２ａと、その底面部Ｆ６１３２ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側の端部から上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突設される側壁部Ｆ６１３２ｂと、底面部Ｆ６１３２ａの背面側の端部から上方へ向けて突設される背面壁Ｆ６１３２ｃと、側壁部Ｆ６１３２ｂと背面壁Ｆ６１３２ｃとを連結する湾曲部Ｆ６１３２ｄと、背面壁Ｆ６１３２ｃの上面から上方へ向けて突設される規制壁Ｆ６１３２ｅと、を備える。底面部Ｆ６１３２ａ、側壁部Ｆ６１３２ｂ、背面壁Ｆ６１３２ｃ、湾曲部Ｆ６１３２ｄ及び通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２により区画された空間により第４通路ＦＲｔ６４（の一部）が形成される。
【４４０８】
第４通路部Ｆ６１３２は、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ６２の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、第４通路部Ｆ６１３２へ振り分けられた（案内された）球は、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２を通過し、を遊技領域へ流出される。
【４４０９】
底面部Ｆ６１３２ａの上面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って下方側（矢印Ｄ方向側）へ凹設する凹部Ｆ６１３２ａ１が形成される。凹部Ｆ６１３２ａ１は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜して形成され、これにより、球の自重を利用して第４通路部Ｆ６１３２へ案内（送球、流下）された球を遊技領域へ流出させることができる。
【４４１０】
また、凹部Ｆ６１３２ａ１は、底面部Ｆ６１３２ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央に形成される。これにより、第４通路部Ｆ６１３２へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）位置を第４通路部Ｆ６１３２の左右方向の略中央とできる。
【４４１１】
ここで、中間通路部材Ｆ６１４０へ第６通路部材Ｆ６１３０を固定する際の誤差（組立公差）やベース板６０へ通路部材Ｆ６１１０固定する際の誤差（組立公差）等の要因に起因して、第４通路部Ｆ６１３２と流出口ＦＯＰｏｕｔ６２との相対的位置が設計された位置とは異なって配設され、第４通路部Ｆ６１３２を移動（流下、転動）する球が通路部材Ｆ６１１０の正面板Ｆ６１１１へ当接する虞がある。この場合、第４通路部Ｆ６１３２に球が滞留し易くなり、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４から第４通路部Ｆ６１３２へ球が振り分けられ（案内され）難くなる。従って、変位通路部材Ｆ６１７４に球

が滞留する虞がある。
【４４１２】
これに対し、底面部Ｆ６１３２ａの上面に凹部Ｆ６１３２ａ１が形成され、第４通路部Ｆ６１３２の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の略中央を球が移動（流下、転動）することで、球が通路部材Ｆ６１１０の正面板Ｆ６１１１に当接することを抑制でき、第４通路部Ｆ６１３２を移動（流下、転動）する球を遊技領域に流出させ易くできる。その結果、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４から第４通路部Ｆ６１３２へ球を振り分け（案内され）易くでき、変位通路部材Ｆ６１７４に球が滞留することを抑制できる。
【４４１３】
背面壁Ｆ６１３２ｃには、挿通孔が形成され、その挿通孔に挿通したタッピングネジが中間通路部材Ｆ６１４０に締結されることで、第６通路部材Ｆ６１３０が中間通路部材Ｆ６１４０に固定（配設）される。
【４４１４】
湾曲部Ｆ６１３２ｄは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側（背面側）へ向けて凹となる湾曲状に形成される。湾曲部Ｆ６１３２ｄに当接することで、左右方向中央側へ向けて移動（流下、転動）する球の速さを小さくすることなく球を正面側（矢印Ｆ方向側）へ案内できる。これにより、第４通路部Ｆ６１３２に球を滞留させ難くでき、変位通路部材Ｆ６１７４に球を滞留させ難くできる。
【４４１５】
規制壁Ｆ６１３２ｅは、上面視において、略Ｌ字状に形成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される直線部とその直線部の左右方向中央側の端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて延設される屈曲部とから形成される。通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２から振り分けられた（案内された）球を規制壁Ｆ６１３２ｅの屈曲部に当接させることで球が左右方向両端側（振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４）へ向けて変位することを規制でき、流入口ＦＯＰｆ６２を通過した球が変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられる（案内される）ことに要する時間を嵩ませることができる。
【４４１６】
これにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた（案内された）球が変位通路部材Ｆ６１７４を移動（流下、転動）している状態において、言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４から第４通路部Ｆ６１３２へ振り分けられる（案内される）前に変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた球の後続となる球を下側フレームＦ６０８６ｂに案内（流入）させ易くできる。
【４４１７】
中間通路部材Ｆ６１４０は、第５通路部材Ｆ６１２０の第５通路部Ｆ６１２１や通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２から振り分けられた（案内された）球を第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１や振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４へ案内（送球、流下）させるためのものである。
【４４１８】
中間通路部材Ｆ６１４０は、その中間通路部材Ｆ６１４０の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）略中央に形成される第１凹部Ｆ６１４１と、その第１凹部Ｆ６１４１の左右方向両側に形成される一対の第２凹部Ｆ６１４２と、その第２凹部Ｆ６１４２の下方側（矢印Ｄ方向側）に形成される一対の貫通孔Ｆ６１４３と、を備える。
【４４１９】
第１凹部Ｆ６１４１及び通路部材Ｆ６１１０の立て壁部Ｆ６１１３により区画された空間により第６通路ＦＲｔ６６（の一部）が形成され、第２凹部Ｆ６１４２及び立て壁部Ｆ６１１３により区画された空間により第４通路ＦＲｔ６４（の一部）が形成される。
【４４２０】
第１凹部Ｆ６１４１は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて球の外形よりも大きく凹設して形成される。また、第１凹部Ｆ６１４１は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延設され、その第１凹部Ｆ６１４１の上端は、通路部材Ｆ６１１０の流入口ＦＯＰｆ６１の背面側に

、第１凹部Ｆ６１４１の下端は、第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１の背面側に、それぞれ配設される。これにより、球の自重を利用して、第５通路部材Ｆ６１２０の第５通路部Ｆ６１２１（通路部材Ｆ６１１０の流入口ＦＯＰｆ６１）から振り分けられた球を第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１へ案内（送球、流下）できる。

【４４２１】

第２凹部Ｆ６１４２は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて球の外形よりも大きく凹設して形成される。第２凹部Ｆ６１４２において球が当接する面として形成される転動面Ｆ６１４２ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、球の自重を利用して、通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（流入口ＦＯＰｆ６２）から振り分けられた球を振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４へ案内（送球、流下）できる。

【４４２２】

貫通孔Ｆ６１４３は、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４を挿通させるための部位である。貫通孔Ｆ６１４３を挿通することで、振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４を中間通路部材Ｆ６１４０の正面側（矢印Ｆ方向側）に配設できる。

【４４２３】

背面部材Ｆ６１５０は、第５通路部材Ｆ６１２０、中間通路部材Ｆ６１４０、第１通路部材Ｆ６１６０及び振分手段Ｆ６１７０を支持するためのものであり、背面板Ｆ６１５１と、その背面板Ｆ６１５１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端に配設される一対の側板Ｆ６１５２と、背面板Ｆ６１５１の下端に配設される下板Ｆ６１５３と、背面板Ｆ６１５１の正面から突設される当接部Ｆ６１５４と、背面板Ｆ６１５１の背面から突出される突出板Ｆ６１５５と、を備える。

【４４２４】

背面板Ｆ６１５１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる板状体から構成される。背面板Ｆ６１５１の左右方向中央側における下方側（矢印Ｄ方向側）には、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて凹設される凹部Ｆ６１５１ａが形成される。凹部Ｆ６１５１ａの上面は非形成とされ、言い換えると、凹部Ｆ６１５１ａは上方側が開放して形成され、その開放部を通過して振分手段Ｆ６１７０の連結部材Ｆ６１７５の下端が凹部Ｆ６１５１ａの正面側（矢印Ｆ方向側）に配設される。

【４４２５】

また、背面板Ｆ６１５１には、当接部Ｆ６１５４の下方側（矢印Ｄ方向側）であって、通路部材Ｆ６１１０の切欠きＦ６１１４ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）となる位置に挿通孔Ｆ６１５１ｂが板厚方向に穿設される。挿通孔Ｆ６１５１ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて延設して形成され、その挿通孔Ｆ６１５１ｂには、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂが挿通される。

【４４２６】

側板Ｆ６１５２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる板状体から構成され、側板Ｆ６１５２の下端は、下板Ｆ６１５３に連結して形成される。また、側板Ｆ６１５２の対向面とは反対側の面には一対の突起Ｆ６１５２ａがそれぞれ形成される。

【４４２７】

突起Ｆ６１５２ａは、円柱状に形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の距離だけ隔てて配設される。突起Ｆ６１５２ａに第１通路部材Ｆ６１６０の固定孔Ｆ６１６４ａが嵌合されることで、第１通路部材Ｆ６１６０が背面部材Ｆ６１５０に固定（配設）される。

【４４２８】

下板Ｆ６１５３は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延びる板状体から構成される。下板Ｆ６１５３は、一対の側板Ｆ６１５２に連結して配設され、下板Ｆ６１５３と一対の側板Ｆ６１５２との間には隙間が非形成とされる。

【４４２９】

また、下板Ｆ６１５３の正面と一対の側板Ｆ６１５２の正面とは面一に形成され、下板

Ｆ６１５３及び一対の側板Ｆ６１５２の正面は、ベース板６０の背面に当接される。これらにより、背面部材Ｆ６１５０の内側への針金等の異物の侵入が抑制される。

【４４３０】

なお、一対の側板Ｆ６１５２と下板Ｆ６１５３とは非連結（非当接）に配設され、下板Ｆ６１５３と一対の側板Ｆ６１５２との間には隙間が形成されても良い。また、下板Ｆ６１５３の正面と一対の側板Ｆ６１５２の正面とは非面一に形成され、下板Ｆ６１５３の正面または一対の側板Ｆ６１５２の正面は、ベース板６０の背面に非当接とされても良い。

【４４３１】

当接部Ｆ６１５４は、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球を第５通路部材Ｆ６１２０へ振り分けるための部位である。当接部Ｆ６１５４は、上側通路Ｆ６１１４の上面から所定の距離だけ隔てて配設される。なお、所定の距離とは、球の半径よりも大きく且つ球の直径よりも小さく設定される。これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球を当接部Ｆ６１５４に当接させることができる。また、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球が当接部Ｆ６１５４を乗り越えることを抑制できる。

【４４３２】

当接部Ｆ６１５４は、板状体から構成される。当接部Ｆ６１５４は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて下降傾斜して形成され、上側通路Ｆ６１１４の上面と略平行に配設される。当接部Ｆ６１５４の傾斜方向下側の面、言い換えると、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球に対向する面には、傾斜方向上側（上側通路Ｆ６１１４の上面を移動する球が近接する方向）へ向けて凹となる湾曲面Ｆ６１５４ａが湾曲して形成される。

【４４３３】

上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）し、当接部Ｆ６１５４の湾曲面Ｆ６１５４ａに当接した球は、その球の移動（流下、転動）方向が正面側（矢印Ｆ方向側）へ変更され、これにより、球が上側通路Ｆ６１１４から第５通路部材Ｆ６１２０へ振り分けられる（案内される）。

【４４３４】

突出板Ｆ６１５５は、振分手段Ｆ６１７０の錘支持部材Ｆ６１７６の変位を規制するための部位であり、板状体から構成される。突出板Ｆ６１５５の下面に錘支持部材Ｆ６１７６が当接することで、錘支持部材Ｆ６１７６の上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けての変位が規制される。

【４４３５】

第１通路部材Ｆ６１６０は、上側フレーム通路ＦＲｔ６０（図３２３参照）から振り分けられた（案内された）球を通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流下）させるためのものである。第１通路部材Ｆ６１６０は、上側フレーム通路ＦＲｔ６０の下流端に連通される溝部Ｆ６１６１と、その溝部Ｆ６１６１の下流端に連通される凹部Ｆ６１６２と、凹部Ｆ６１６２の下面から突設される案内部Ｆ６１６３及び固定部Ｆ６１６４と、を備える。溝部Ｆ６１６１や凹部Ｆ６１６２により区画された空間により第１通路ＦＲｔ６１が形成される。

【４４３６】

溝部Ｆ６１６１は、溝状に形成され、その溝部Ｆ６１６１の溝形状は、球の外形と略同等に形成（凹設）される。また、溝部Ｆ６１６１は、上流端（上側フレーム通路ＦＲｔ６０（図３２３参照）に連通される側の端部）から下流端（凹部Ｆ６１６２に連通される側の端部）へ向けて下降傾斜して形成される。これにより、球の自重を利用して、上側フレーム通路ＦＲｔ６０から振り分けられた球を凹部Ｆ６１６２へ向けて移動（流下、転動）させることができる。

【４４３７】

溝部Ｆ６１６１の溝深さ（矢印Ｕ－Ｄ方向の寸法）は、球の半径と略同等に形成される。これにより、上側フレーム通路ＦＲｔ６０（図３２３参照）から振り分けられた（案内

された）球を溝部Ｆ６１６１に沿って移動（流下、転動）させることができ、溝部Ｆ６１６１の下流端以外の部位（溝部Ｆ６１６１の上流端と下流端との間の部位）から凹部Ｆ６１６２へ案内（送球、流下）されることを抑制できる。

【４４３８】

溝部Ｆ６１６１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延設して形成される直線部と、その直線部の下流端から湾曲して形成される湾曲部と、から形成される。溝部Ｆ６１６１の湾曲部は、凹部Ｆ６１６２の凹設側面に連結して形成される。

【４４３９】

凹部Ｆ６１６２は、上方（矢印Ｕ方向）が開放された円筒状に形成され、その凹部Ｆ６１６２の底面は、下方側（矢印Ｄ方向側）へ凹となるすり鉢状に形成される。また、凹部Ｆ６１６２の底面には、凹設側面から球の外形よりも大きい距離だけ隔てて一対の挿通孔Ｆ６１６２ａが穿設される。

【４４４０】

上述したように、溝部Ｆ６１６１の湾曲部と凹部Ｆ６１６２の凹設側面とが連結して形成されることで、溝部Ｆ６１６１から振り分けられた（案内された）球を凹部Ｆ６１６２の内周面に沿って移動（流下、転動）させることができる。これにより、一対の挿通孔Ｆ６１６２ａを通過させ難くできる。その結果、一対の挿通孔Ｆ６１６２ａを通過する第１の球と、その第１の球の後続となる第２の球との間隔を所定量以下とし易くできる。

【４４４１】

挿通孔Ｆ６１６２ａは、凹部Ｆ６１６２から通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２へ球を振り分ける（案内する）ための部位であり、球の外形よりもやや大きく形成される。一対の挿通孔Ｆ６１６２ａは、凹部Ｆ６１６２の中心軸から前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に所定の間隔を隔てて形成される。

【４４４２】

なお、正面側（矢印Ｆ方向側）に形成される孔を挿通孔Ｆ６１６２ａ１、背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される孔を挿通孔Ｆ６１６２ａ２とそれぞれ異なる符合を付して区別する。挿通孔Ｆ６１６２ａ１は、通路部材Ｆ６１１０の立て壁部Ｆ６１１３よりも正面側（矢印Ｆ方向側）に穿設され、挿通孔Ｆ６１６２ａ２は、立て壁部Ｆ６１１３よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に穿設される。

【４４４３】

これにより、例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過して右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０へ向けて下側通路Ｆ６１１２の上面を移動（流下、転動）する。これに対し、左方側に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面を通過せず、下側通路Ｆ６１１２の左方側から左方側に形成される上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球、流出）される。

【４４４４】

案内部Ｆ６１６３は、凹部Ｆ６１６２の挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２を通過した球を通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流出）するための部位であり、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて下降傾斜して形成される。凹部Ｆ６１６２と下側通路Ｆ６１１２との間に案内部Ｆ６１６３を介設することで、下側通路Ｆ６１１２へ案内（送球、流出）される際の球の衝撃を小さくでき、下側通路Ｆ６１１２の破損を抑制できる。また、下側通路Ｆ６１１２に当接した際の跳ね返り量を小さくでき、通路部材Ｆ６１１０の正面板Ｆ６１１１を超えて下側通路Ｆ６１１２から遊技領域へ球が流出（流下、落下）されることを抑制できる。

【４４４５】

案内部Ｆ６１６３には、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２の下方側（矢印Ｄ方向側）となる位置に一対のガイド凹部Ｆ６１６３ａが下側通路Ｆ６１１２側（左右方向両端側）へ向けて凹設して形成される。ガイド凹部Ｆ６１６３ａは、球の外形と略同等の形状

に湾曲して形成され、これにより、案内部Ｆ６１６３に案内（送球、流出）された球は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）への変位が規制される。

【４４４６】

その結果、挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球が、上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球、流出）されることや、挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球が、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過することを抑制できる。

【４４４７】

固定部Ｆ６１６４は、第１通路部材Ｆ６１６０を背面部材Ｆ６１５０（側板Ｆ６１５２）へ固定（配設）させるための部位であり、固定部Ｆ６１６４には、一対の固定孔Ｆ６１６４ａが板厚方向に穿設される。固定孔Ｆ６１６４ａは、側板Ｆ６１５２の突起Ｆ６１５２ａが挿通可能に形成され、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる長孔状に形成される。これにより、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、通路部材Ｆ６１１０（下側通路Ｆ６１１２）に対する第１通路部材Ｆ６１６０の配設位置を変更可能とできる。

【４４４８】

その結果、一方の第１通路部材Ｆ６１６０に形成される挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球が、一方の第１通路部材Ｆ６１６０側に配設される上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球、流出）されることや、一方の第１通路部材Ｆ６１６０に形成される挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球が、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過し、他方の第１通路部材Ｆ６１６０へ向けて下側通路Ｆ６１１２を移動（流下、転動）する（立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過する）ことを生じさせることができる。

【４４４９】

振分手段Ｆ６１７０は、球の重さにより動作して、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球の移動方向を変更させるためのものであり、支持部材Ｆ６１７１と、その支持部材Ｆ６１７１に支持される第１軸Ｆ６１７２と、その第１軸Ｆ６１７２に軸支される一対の変位部材Ｆ６１７３と、その変位部材Ｆ６１７３に係合される一対の変位通路部材Ｆ６１７４と、その変位通路部材Ｆ６１７４と変位部材Ｆ６１７３とを連結する一対の連結部材Ｆ６１７５と、その連結部材Ｆ６１７５に配設される一対の錘支持部材Ｆ６１７６と、その錘支持部材Ｆ６１７６に配設される一対の錘Ｆ６１７７と、連結部材Ｆ６１７５を軸支する一対の第２軸Ｆ６１７８と、を備える。

【４４５０】

変位部材Ｆ６１７３、変位通路部材Ｆ６１７４、連結部材Ｆ６１７５、錘支持部材Ｆ６１７６、錘Ｆ６１７７及び第２軸Ｆ６１７８は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図３２３左右方向）における中心に対し線（面）対称（図３２３左右対称）にそれぞれ配設される。

【４４５１】

また、連結部材Ｆ６１７５を介することで、変位部材Ｆ６１７３と変位通路部材Ｆ６１７４とが一体化（１のユニットとして形成）される。なお、本実施形態においては、連結部材Ｆ６１７５に錘支持部材Ｆ６１７６が固定（配設）され、その錘支持部材Ｆ６１７６に錘Ｆ６１７７が配設（支持）されることで、変位部材Ｆ６１７３、変位通路部材Ｆ６１７４、連結部材Ｆ６１７５、錘支持部材Ｆ６１７６及び錘Ｆ６１７７が一体化（１のユニットとして形成）される。

【４４５２】

支持部材Ｆ６１７１は、板状体から構成され、支持部材Ｆ６１７１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側には、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて屈曲される一対の屈曲部Ｆ６１７１ａが形成される。屈曲部Ｆ６１７１ａには、挿通孔が板厚方向に穿設され、その挿通孔に第１軸Ｆ６１７２が挿通されることで、第１軸Ｆ６１７２が支持部材Ｆ６１７１に支持される。

【４４５３】

また、支持部材Ｆ６１７１の下端には、切欠きＦ６１７１ｂが上方（矢印Ｕ方向）へ向けて切欠き形成される。切欠きＦ６１７１ｂに錘支持部Ｆ６１７６ｂが当接することで、変位部材Ｆ６１７３（変位通路部材Ｆ６１７４）の変位が規制される。

【４４５４】
支持部材Ｆ６１７１及び一対の屈曲部Ｆ６１７１ａにより区画された空間に第１軸Ｆ６１７２、一対の変位部材Ｆ６１７３及び一対の連結部材Ｆ６１７５を配設することで、針金等の異物の侵入が抑制される。
【４４５５】
第１軸Ｆ６１７２は、一対の変位部材Ｆ６１７３を変位可能に係合（支持）するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。第１軸Ｆ６１７２には、支持部材Ｆ６１７１の一対の屈曲部Ｆ６１７１ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側となる位置に切り込みが形成され、その切り込みには金属リング状のＣリング（図示せず）が嵌合される。これにより、第１軸Ｆ６１７２は、支持部材Ｆ６１７１に抜去不能に支持される。
【４４５６】
変位部材Ｆ６１７３は、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球の移動方向を変更させるためのものであり、板状体から構成される本体部Ｆ６１７３ａと、その本体部Ｆ６１７３ａから正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて突出する当接部Ｆ６１７３ｂと、本体部Ｆ６１７３ａから背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出する被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄと、を備える。
【４４５７】
変位部材Ｆ６１７３は、着色されて構成される。これにより、変位部材Ｆ６１７３が変位したことを遊技者に視認させ易くできる。ここで、一対の変位部材Ｆ６１７３は、異なる色に着色される。これにより、一対の変位部材Ｆ６１７３の一方または他方が変位された状態を遊技者に視認させ易くできる。なお、一対の変位部材Ｆ６１７３は、同色に着色されても良い。
【４４５８】
本体部Ｆ６１７３ａは、板状体から構成され、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球が本体部Ｆ６１７３ａに当接することを抑制できる。
【４４５９】
なお、本体部Ｆ６１７３ａは、一対の変位部材Ｆ６１７３の一方と他方とで外形が異なるものの、その本体部Ｆ６１７３ａの外形は、変位部材Ｆ６１７３の機能に関与しないので同一の符号を付して説明する。
【４４６０】
当接部Ｆ６１７３ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向かうにつれて下降傾斜して形成され、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面と略平行に配設される。当接部Ｆ６１７３ｂの外形は、上側通路Ｆ６１１４の切欠きＦ６１１４ｂの内周面よりもやや小さく形成され、当接部Ｆ６１７３ｂは、切欠きＦ６１１４ｂの内側に配設される。
【４４６１】
当接部Ｆ６１７３ｂは、板状体から構成され、上側通路Ｆ６１１４の上面と略平行であると共に、略面一に配設される。当接部Ｆ６１７３ｂの傾斜方向下側の面、言い換えると、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球に対向する面には、傾斜方向上昇側（上側通路Ｆ６１１４の上面を移動する球が近接する方向）へ向けて凹となる湾曲面Ｆ６１７３ｂ１が湾曲して形成される。
【４４６２】
詳細は後述するが、当接部Ｆ６１７３ｂが通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面から所定の距離だけ隔てた位置に配設され、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球と当接可能な位置に変位された場合、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで、球の移動（流下、転動）方向が正面側（矢印Ｆ方向側）へ変更される。これにより、球が上側通路Ｆ６１１４から第５通路部材Ｆ６１２０へ振り分けられる（案内される）。
【４４６３】

なお、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向かうにつれて傾斜方向上昇側（上側通路Ｆ６１１４の上面を移動する球が近接する方向）へ傾斜して形成されても良い。

【４４６４】

被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄは、板状体からそれぞれ構成され、被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄには、板厚方向に穿設される挿通孔がそれぞれ形成される。それら挿通孔に第１軸Ｆ６１７２が挿通されることで、変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への変位が可能に支持される。

【４４６５】

なお、被支持部Ｆ６１７３ｃは、当接部Ｆ６１７３ｂの背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接した際の被支持部Ｆ６１７３ｃに生じるモーメントを低減でき、被支持部Ｆ６１７３ｃの破損を抑制できる。

【４４６６】

また、第１軸Ｆ６１７２に対し、被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄの２箇所により変位部材Ｆ６１７３を支持することで、第１軸Ｆ６１７２との支持が１箇所の場合と比較して、当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接した際の衝撃により被支持部Ｆ６１７３ｃ又は係合部Ｆ６１７３ｄが破損することを抑制し易くできる。

【４４６７】

また、被支持部Ｆ６１７３ｃ及び係合部Ｆ６１７３ｄは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に所定の距離だけ隔てて配設される。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接した際の変位部材Ｆ６１７３の姿勢の変化を抑制し易くできる。

【４４６８】

係合部Ｆ６１７３ｄには、係合部Ｆ６１７３ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて屈曲される屈曲部Ｆ６１７３ｄ１が形成される。その屈曲部Ｆ６１７３ｄ１には板厚方向に穿設される挿通孔Ｆ６１７３ｄ２が形成される。挿通孔Ｆ６１７３ｄ２は、連結部材Ｆ６１７５の被係合部Ｆ６１７５ｂ１が挿通可能に形成され、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる長孔状に形成される。これにより、変位部材Ｆ６１７３と変位通路部材Ｆ６１７４とが係合されると共に、被係合部Ｆ６１７５ｂ１は、挿通孔Ｆ６１７３ｄ２に対し、上下方向に変位可能に係合される。

【４４６９】

変位通路部材Ｆ６１７４は、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａを移動（流下、転動）する球を第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２へ振り分ける（案内する）ためのものであり、通路部Ｆ６１７４ａと、その通路部Ｆ６１７４ａの左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側の縁部から立設される外側壁部Ｆ６１７４ｂと、通路部Ｆ６１７４ａの正面側（矢印Ｆ方向側）の縁部から立設される正面壁部Ｆ６１７４ｃと、通路部Ｆ６１７４ａの左右方向中央側の縁部から立設される内側壁部Ｆ６１７４ｄと、通路部Ｆ６１７４ａの背面側（矢印Ｂ方向側）の縁部から立設される連結部Ｆ６１７４ｅと、を備える。

【４４７０】

通路部Ｆ６１７４ａは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる板状体から構成され、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて下降傾斜して配設される。通路部Ｆ６１７４ａには、その通路部Ｆ６１７４ａの上面から突設される突部Ｆ６１７４ａ１が形成される。

【４４７１】

突部Ｆ６１７４ａ１は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に延びる直線部と、その直線部の前端から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて屈曲される屈曲部と、から構成され、直線部の上面は、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向かうにつれて下降傾斜して形成され、屈曲部の上面は、左右方向中央側へ向かうにつれて下降傾斜して形成される。

【４４７２】

突部Ｆ６１７４ａ１の直線部は、外側壁部Ｆ６１７４ｂ及び内側壁部Ｆ６１７４ｄから球の半径よりも小さい距離だけ隔てて配設される。また、突部Ｆ６１７４ａ１の屈曲部は

、正面壁部Ｆ６１７４ｃ及び内側壁部Ｆ６１７４ｄの正面端から球の半径よりも小さい距離だけ隔てて配設される。これらにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた球は、突部Ｆ６１７４ａ１の上面を転動可能となり、球の自重を利用して第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２へ案内（送球、流下）される。

【４４７３】

外側壁部Ｆ６１７４ｂ及び正面壁部Ｆ６１７４ｃの突設高さは、球の半径よりも大きく形成される。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた球が外側壁部Ｆ６１７４ｂ及び正面壁部Ｆ６１７４ｃを乗り越え、ベース板６０と背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１との間に脱落することを抑制できる。また、正面壁部Ｆ６１７４ｃの突設高さは、球の直径よりも小さく形成される。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ振り分けられた球を遊技者に視認させ易くできる。

【４４７４】

また、外側壁部Ｆ６１７４ｂ及び内側壁部Ｆ６１７４ｄには、通路部Ｆ６１７４ａの突部Ｆ６１７４ａ１側（左右方向における通路部Ｆ６１７４ａの中央側）へ向けて突設する突起Ｆ６１７４ｂ１，Ｆ６１７４ｄ１がそれぞれ形成される。突起Ｆ６１７４ｂ１，Ｆ６１７４ｄ１は、突設先端へ向けて前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の幅寸法が小さくなるテーパ状に形成される。また、突起Ｆ６１７４ｂ１は、突起Ｆ６１７４ｄ１よりも背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される。

【４４７５】

突部Ｆ６１７４ａ１の上面を移動（流下、転動）する球が突起Ｆ６１７４ｂ１，Ｆ６１７４ｄ１に当接することで、その球の正面側（矢印Ｆ方向側）への移動（流下、転動）速度を小さくできる。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４へ案内（送球、流下）された球が変位通路部材Ｆ６１７４を通過することに要する時間を嵩ませることができる。

【４４７６】

また、突起Ｆ６１７４ｂ１に当接することで、突部Ｆ６１７４ａ１の上面を移動（流下、転動）する球に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて変位させることができる。これにより、突起Ｆ６１７４ｂ１に当接した球を突起Ｆ６１７４ｄ１に当接させ易くできる。

【４４７７】

連結部Ｆ６１７４ｅは、変位通路部材Ｆ６１７４と連結部材Ｆ６１７５とを締結固定するためのタッピングネジが螺合される部位である。変位通路部材Ｆ６１７４が連結部材Ｆ６１７５に固定され、連結部材Ｆ６１７５と変位部材Ｆ６１７３とが係合されることで、変位通路部材Ｆ６１７４の変位に連動して変位部材Ｆ６１７３を変位させることができる。

【４４７８】

連結部材Ｆ６１７５は、変位通路部材Ｆ６１７４の変位に変位部材Ｆ６１７３を連動させるためのものであり、被軸支部Ｆ６１７５ａと、その被軸支部Ｆ６１７５ａの外周面から上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて突出する第１連結部Ｆ６１７５ｂと、被軸支部Ｆ６１７５ａの外周面から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて突出する第２連結部Ｆ６１７５ｃと、を備える。

【４４７９】

被軸支部Ｆ６１７５ａは、円柱状に形成され、その被軸支部Ｆ６１７５ａの中心軸を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿わせた姿勢で配設される。また、被軸支部Ｆ６１７５ａには、被軸支部Ｆ６１７５ａの中心軸に沿って挿通孔が穿設され、その挿通孔に第２軸Ｆ６１７８が挿通されることで、連結部材Ｆ６１７５が第２軸Ｆ６１７８に軸支される。

【４４８０】

第１連結部Ｆ６１７５ｂは、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、第１軸Ｆ６１７２と変位部材Ｆ６１７３の屈曲部Ｆ６１７３ｄ１との間に配設される。第１連結部Ｆ６１７５ｂの上端部には、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて突出する被係合部Ｆ６１７５ｂ１が形成され、被係合部Ｆ６１７５ｂ１が変位部材Ｆ６１７３の挿通孔Ｆ６１７３ｄ２に挿通

されることで、変位部材Ｆ６１７３と変位通路部材Ｆ６１７４とが係合される。
【４４８１】
ここで、本実施形態における第１連結部Ｆ６１７５ｂは、第２軸Ｆ６１７８を回転軸として回転変位されるのに対し、変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２に左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）への変位が可能に支持される。よって、第１連結部Ｆ６１７５ｂ（被係合部Ｆ６１７５ｂ１）は、変位部材Ｆ６１７３に対して上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に相対変位しつつ変位部材Ｆ６１７３を左右方向へ変位させる。
【４４８２】
上述したように、変位部材Ｆ６１７３の挿通孔Ｆ６１７３ｄ２は、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に延びる長孔状に形成され、詳細には、挿通孔Ｆ６１７３ｄ２に被係合部Ｆ６１７５ｂ１が挿通された状態では、挿通孔Ｆ６１７３ｄ２の上下端と被係合部Ｆ６１７５ｂ１とが当接不能に形成される。
【４４８３】
これにより、振分手段Ｆ６１７０の動作時において、被係合部Ｆ６１７５ｂ１と挿通孔Ｆ６１７３ｄ２の側面（上下方向に延びる内周面）とが当接することで、変位部材Ｆ６１７３が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に変位される。一方、挿通孔Ｆ６１７３ｄ２の上下端と被係合部Ｆ６１７５ｂ１とが当接不能なため、変位部材Ｆ６１７３が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に変位することを抑制できる。
【４４８４】
また、変位部材Ｆ６１７３の屈曲部Ｆ６１７３ｄ１が係合部Ｆ６１７３ｄの背面側（矢印Ｂ方向側）の端部から左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて屈曲され、その屈曲部Ｆ６１７３ｄ１の正面側（矢印Ｆ方向側）に第１連結部Ｆ６１７５ｂが配設される。従って、屈曲部Ｆ６１７３ｄ１と第１連結部Ｆ６１７５ｂとの間に形成される隙間のうち、左右方向両端側が係合部Ｆ６１７３ｄにより遮蔽される。
【４４８５】
ここで、屈曲部Ｆ６１７３ｄ１と第１連結部Ｆ６１７５ｂとの間に形成される隙間が露出される場合、かかる隙間に針金等の異物を挟み入れることで第１連結部Ｆ６１７５ｂ又は変位部材Ｆ６１７３の変位が抑制される虞がある。これに対し、本実施形態では、係合部Ｆ６１７３ｄが第１連結部Ｆ６１７５ｂと屈曲部Ｆ６１７３ｄ１との間に形成される隙間のうち、少なくとも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側を遮蔽することで、針金等の異物が挟み込まれることを抑制し易くできる。
【４４８６】
第２連結部Ｆ６１７５ｃは、被軸支部Ｆ６１７５ａと変位通路部材Ｆ６１７４とを連結するための部位であり、第１連結部Ｆ６１７５ｂよりも正面側（矢印Ｆ方向側）において被軸支部Ｆ６１７５ａに配設される。第２連結部Ｆ６１７５ｃの上面には、下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて切欠きが形成され、これにより、第２連結部Ｆ６１７５ｃと錘支持部材Ｆ６１７６とが当接することを抑制できる。
【４４８７】
錘支持部材Ｆ６１７６は、錘Ｆ６１７７を支持するためのものであり、延設部Ｆ６１７６ａと、その延設部Ｆ６１７６ａの先端に形成される錘支持部Ｆ６１７６ｂと、を備える。
【４４８８】
延設部Ｆ６１７６ａは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ延びる板状体から構成され、延設部Ｆ６１７６ａの一端（基端）は、タッピングネジ等により連結部材Ｆ６１７５の第１連結部Ｆ６１７５ｂに締結固定される。なお、延設部Ｆ６１７６ａの延設方向は、連結部材Ｆ６１７５の第２連結部Ｆ６１７５ｃの延設方向とは反対側、即ち、第２連結部Ｆ６１７５ｃが被軸支部Ｆ６１７５ａから左右方向両端側へ向けて延設されるのに対し、延設部Ｆ６１７６ａは、連結部材Ｆ６１７５の第１連結部Ｆ６１７５ｂから左右方向中央側へ向けて延設される。
【４４８９】

延設部Ｆ６１７６ａの一端（基端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図３２３左右方向）における中心に対し、遊技盤Ｆ６０１３の一側に配設され、延設部Ｆ６１７６ａの他端（先端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向における中心に対し、遊技盤Ｆ６０１３の他側に配設される。言い換えると、延設部Ｆ６１７６ａの他端（先端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向における中心に対し、延設部Ｆ６１７６ａの一端（基端）とは反対側に配設される。

【４４９０】

例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される連結部材Ｆ６１７５の第１連結部Ｆ６１７５ｂに締結固定される延設部Ｆ６１７６ａの一端（基端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向（図３２３左右方向）における中心よりも左方側に配設され、延設部Ｆ６１７６ａの他端（先端）は、遊技盤Ｆ６０１３の幅方向における中心よりも右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される。

【４４９１】

ここで、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６は、連結部材Ｆ６１７５の正面に固定（配設）され、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６は、連結部材Ｆ６１７５の背面に固定（配設）される。これにより、一対の連結部材Ｆ６１７５が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設される場合においても一対の錘支持部材Ｆ６１７６が当接することを抑制できる。

【４４９２】

錘支持部Ｆ６１７６ｂは、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設される円筒状に形成され、錘支持部Ｆ６１７６ｂの内周面は、錘Ｆ６１７７の外径よりもやや大きく形成される。錘支持部Ｆ６１７６ｂの内周面に錘Ｆ６１７７が内包されることで、錘Ｆ６１７７が錘支持部Ｆ６１７６ｂに配設（支持）される。

【４４９３】

また、錘支持部Ｆ６１７６ｂが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設されるため、振分手段Ｆ６１７０が背面部材Ｆ６１５０に配設された（組み付けられた）状態においても、錘Ｆ６１７７を挿脱できる。

【４４９４】

錘Ｆ６１７７は、重心の位置を調整するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。錘Ｆ６１７７が錘支持部Ｆ６１７６ｂに配設されることで、１のユニットとして形成される変位部材Ｆ６１７３、変位通路部材Ｆ６１７４、連結部材Ｆ６１７５、錘支持部材Ｆ６１７６及び錘Ｆ６１７７の全体（以下「振分手段Ｆ６１７０の可動部」と称す）の重心が第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置する。

【４４９５】

第２軸Ｆ６１７８は、連結部材Ｆ６１７５を軸支（回転可能に係合）するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。第２軸Ｆ６１７８は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った姿勢で配設され、第２軸Ｆ６１７８は、連結部材Ｆ６１７５の被軸支部Ｆ６１７５ａに穿設される挿通孔に挿通される。これにより、連結部材Ｆ６１７５は第２軸Ｆ６１７８を回転軸として回転可能に形成される。

【４４９６】

連結部材Ｆ６１７５と変位部材Ｆ６１７３とが係合されることで、連結部材Ｆ６１７５の変位（回転）に連動して変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って変位可能に形成される。

【４４９７】

次いで、図３３４から図３３５を参照して、振分手段Ｆ６１７０の動作について説明する。図３３４（ａ）及び図３３５（ａ）は、図３３３（ｃ）のＣＣＸＸＸＩＶａ－ＣＣＸＸＸＩＶａ線における下側フレームＦ６０８６ｂの部分拡大断面図であり、図３３４（ｂ）及び図３３５（ｂ）は、下側フレームＦ６０８６ｂの部分拡大背面図である。

【４４９８】

なお、図３３４（ｂ）及び図３３５（ｂ）では、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５

１の図示が省略される。また、図３３４は、振分手段Ｆ６１７０の可動部の動作前における下側フレームＦ６０８６ｂを、図３３５は、振分手段Ｆ６１７０の可動部の動作後における下側フレームＦ６０８６ｂを、それぞれ図示しており、振分手段Ｆ６１７０の可動部が動作する前の状態を動作前状態、振分手段Ｆ６１７０の可動部が動作した後の状態を動作後状態、とそれぞれ定義する。

【４４９９】

図３３４に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、変位通路部材Ｆ６１７４の内側壁部Ｆ６１７４ｄが中間通路部材Ｆ６１４０の貫通孔Ｆ６１４３の内周面に当接することで変位通路部材Ｆ６１７４の動作（変位）が規制され、変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂは、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面に対し面一となる位置に配設される。

【４５００】

これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球が、当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することを抑制できる。また、上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球が、当接部Ｆ６１７３ｂの上面を移動（流下、転動）可能となり、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に当接可能となる。

【４５０１】

なお、当接部Ｆ６１７３ｂが上側通路Ｆ６１１４の上面と面一に形成された状態では、当接部Ｆ６１７３ｂは、上側通路Ｆ６１１４の一部とみなす。このように、当接部Ｆ６１７３ｂを上側通路Ｆ６１１４の一部とすることで、例えば、球を移動（流下、転動）可能とするために、切欠きＦ６１１４ｂに嵌め込み可能に形成される嵌め込み部材を省略でき、製造コストを低減できる。

【４５０２】

ここで、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、当接部Ｆ６１７３ｂが背面部材Ｆ６１５０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設され、当接部Ｆ６１７３ｂが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位される構成が考えられる。この場合、前後方向における振分手段Ｆ６１７０の寸法が大きくなり、下側フレームＦ６０８６ｂが大型化する虞がある。

【４５０３】

これに対し本実施形態における当接部Ｆ６１７３ｂは、上側通路Ｆ６１１４の上面と面一に形成されるため、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における振分手段Ｆ６１７０の寸法を小さくできる。また、上側通路Ｆ６１１４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側における空間を有効に活用でき、下側フレームＦ６０８６ｂを小型化できる。

【４５０４】

また、動作前状態において、振分手段Ｆ６１７０の可動部の重心は、第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置する。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４が上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する方向に重力が作用し、変位通路部材Ｆ６１７４の内側壁部Ｆ６１７４ｄと中間通路部材Ｆ６１４０の貫通孔Ｆ６１４３の内周面との当接が維持される。その結果、下側フレームＦ６０８６ｂは、動作前状態に維持される。

【４５０５】

次いで、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作について説明する。変位通路部材Ｆ６１７４に球が案内（送球、流下）されることで、球を加えた振分手段Ｆ６１７０の可動部の重心が第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に位置する。

【４５０６】

これにより、振分手段Ｆ６１７０の可動部には、変位通路部材Ｆ６１７４が下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転（変位）する方向に重力が作用し、錘支持部材Ｆ６１７６の錘支持部Ｆ６１７６ｂは、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する。

【４５０７】

その結果、変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方

向）両端側へ向けて変位し、当接部Ｆ６１７３ｂは、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面から所定の間隔だけ隔てた位置に変位し、上側通路Ｆ６１１４を移動（流下、転動）する球と当接可能な位置に配置される。なお、所定の間隔は、球の直径よりもやや小さい間隔に設定される。これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面と当接部Ｆ６１７３ｂとの間に球が挟まることを抑制できる。

【４５０８】

また、錘支持部Ｆ６１７６ｂは、背面部材Ｆ６１５０の突出板Ｆ６１５５や支持部材Ｆ６１７１に当接し、これにより、振分手段Ｆ６１７０の可動部の動作（変位）が規制され、下側フレームＦ６０８６ｂが動作後状態に配置（維持）される。

【４５０９】

上述したように、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の錘支持部材Ｆ６１７６は、連結部材Ｆ６１７５の正面に固定（配設）されるのに対し、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の錘支持部材Ｆ６１７６は、連結部材Ｆ６１７５の背面に固定（配設）される。そのため、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６の錘支持部Ｆ６１７６ｂは、背面部材Ｆ６１５０の突出板Ｆ６１５５とは非当接となる位置に配設される。

【４５１０】

これにより、振分手段Ｆ６１７０の可動部のうち、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６は、突出板Ｆ６１５５に当接し、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される錘支持部材Ｆ６１７６は、支持部材Ｆ６１７１の切欠きＦ６１７１ｂの内周面に当接する。従って、左方側と右方側とで、振分手段Ｆ６１７０の可動部の変位量が異なる虞がある。

【４５１１】

これに対し、支持部材Ｆ６１７１に切欠きＦ６１７１ｂが形成されることで、動作前状態における突出板Ｆ６１５５及び切欠きＦ６１７１ｂと一対の錘支持部Ｆ６１７６ｂとの間の距離を同一とできる。これにより、振分手段Ｆ６１７０の可動部の左方側と右方側とで動作（変位）量を同一とできる。

【４５１２】

また、振分手段Ｆ６１７０の可動部の動作時において、連結部材Ｆ６１７５の被係合部Ｆ６１７５ｂ１は、第２軸Ｆ６１７８の上方（矢印Ｕ方向）を横切って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側から左右方向両端側へ向けて変位する。これにより、被係合部Ｆ６１７５ｂ１が第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向中央側に位置する状態においては、被係合部Ｆ６１７５ｂ１は上方へ向けて変位し、被係合部Ｆ６１７５ｂ１が第２軸Ｆ６１７８よりも左右方向両端側に位置する状態においては、被係合部Ｆ６１７５ｂ１は下方（矢印Ｄ方向）へ向けて変位する。

【４５１３】

従って、長孔状に形成される挿通孔Ｆ６１７３ｄ２の上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における寸法を小さくでき、係合部Ｆ６１７３ｄ（屈曲部Ｆ６１７３ｄ１）を小さく形成できる。その結果、振分手段Ｆ６１７０の設計の自由度を向上や製品コストの削減を図ることができる。

【４５１４】

ここで、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、当接部Ｆ６１７３ｂが上側通路Ｆ６１１４の上面と面一に形成されるため、動作前状態から動作後状態における当接部Ｆ６１７３ｂの変位量を小さくでき、動作前状態から動作後状態への動作に要する時間を短縮できる。

【４５１５】

例えば、当接部Ｆ６１７３ｂが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変位される構成では、当接部Ｆ６１７３ｂの変位量は、球の直径よりも大きく設定される。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂの変位量を小さくでき、動作前状態から動作後状態への動作に要する時間を短縮できる。

【４５１６】
また、例えば、上側通路Ｆ６１１４の上面から球の直径よりも大きな間隔だけ隔てて当接部Ｆ６１７３ｂが配設される構成では、当接部Ｆ６１７３ｂの変位量は、球の半径よりも大きく設定される。また、かかる構成では、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作により、上側通路Ｆ６１１４の上面と当接部Ｆ６１７３ｂとの間に球が挟まる虞がある。
【４５１７】
図３３５に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態においては、変位部材Ｆ６１７３が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位され、変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂは、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球に当接可能な位置に配置される。
【４５１８】
当接部Ｆ６１７３ｂは、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される。これにより、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に当接不能な速度（運動エネルギー）であっても、当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）から第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分けられる。
【４５１９】
下側フレームＦ６０８６ｂの開放状態において、変位部材Ｆ６１７３は、変位された状態に維持される。これにより、下側フレームＦ６０８６ｂの開放状態を遊技者に視認させ易くできる。
【４５２０】
このように、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４の上面を移動（流下、転動）する球を当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接させることで、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の上面を移動（流下、転動）する球を第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）させ易く（第１入賞口６４へ入賞し易く）できる。これにより、下側フレームＦ６０８６ｂが動作後状態となる、言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４を移動する球の有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【４５２１】
また、当接部Ｆ６１７３ｂが流出面Ｆ６１１４ａよりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側、言い換えると、上側通路Ｆ６１１４の上面を球が上昇する位置に配置される。これにより、上側通路Ｆ６１１４の上面を上昇する球は徐々に速度が低下され、球の移動（流下、転動）と、球と当接部Ｆ６１７３ｂとの当接とを遊技者に視認させ易くできる。
【４５２２】
なお、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態から動作前状態へ向けての動作は、変位通路部材Ｆ６１７４から球が流出される（変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が非作用となる）ことで行われる。下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態から動作前状態へ向けての力（重力）の作用、は動作前状態の維持と同様であるためその説明は省略する。
【４５２３】
このように、球の重量を利用して下側フレームＦ６０８６ｂを動作前状態から動作後状態、或いは、動作後状態から動作前状態へ向けて動作させることができるため、駆動装置を不要とでき、製造コストを低減できる。
【４５２４】
図３２４から図３３３に戻って、下側フレームＦ６０８６ｂを流下する球について説明する。遊技領域を流下する球のうち、上側フレームＦ６０８６ａに配設される上側フレーム通路ＦＲｔ６０（図３２３参照）を案内された球は、第１通路部材Ｆ６１６０の溝部Ｆ６１６１（第１通路ＦＲｔ６１）の上流端に流入（入球）される。
【４５２５】

第１通路部材Ｆ６１６０の溝部Ｆ６１６１の上流端に流入（入球）された球は、凹部Ｆ６１６２へ案内（送球、流出）され、凹部Ｆ６１６２の底面に穿設される挿通孔Ｆ６１６２ａ１若しくは挿通孔Ｆ６１６２ａ２から通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流出）される。

【４５２６】

下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流出）された球は、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）の延設方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に沿って下側通路Ｆ６１１２の左右方向中央側へ向けて移動（流下、転動）する。

【４５２７】

なお、一方側（例えば、右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた（案内された）球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面（矢印Ｆ方向）を通過して、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）の他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）される。

【４５２８】

ここで、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）することや立て壁部Ｆ６１１３に当接することにより、球には摩擦力が作用し、球の速度（運動エネルギー）が減少する。

【４５２９】

これにより、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態においては、他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）され、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇する球は、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に当接不能とされる。従って、球は、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃと第２傾斜部Ｆ６１１４ｄとを往復動した後、他方側の上側通路Ｆ６１１４に形成される流出面Ｆ６１１４ａから下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）される。

【４５３０】

また、他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）された球は、凹面として形成される流出面Ｆ６１１４ａを通過することで球の速度（運動エネルギー）が減少される。

【４５３１】

これにより、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を移動（転動）する球と当接部Ｆ６１５４との当接を抑制し易くできる。このように、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ振り分けられた（案内された）球を下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）させる機能と、上側通路Ｆ６１１４を移動（転動）する球の速度（運動エネルギー）を減少させる機能とを流出面Ｆ６１１４ａに兼用させることができ、製品コストの削減を図ることができる。

【４５３２】

流出面Ｆ６１１４ａから下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）された球は、流出面Ｆ６１１２ｂから第１入賞口６４へ案内（送球、流下）される、若しくは、起伏Ｆ６１１２ａの底部から立て壁部Ｆ６１１３の流入口ＦＯＰｆ６２へ流入して中間通路部材Ｆ６１４０の第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）される。

【４５３３】

次いで、球が他方側（左方側）に配設される第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）された場合について説明する。

【４５３４】

他方側（左方側）に配設される第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）された球は、他方側に配設される振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）される。これにより、下側

フレームＦ６０８６ｂが動作前状態から動作後状態へ動作される。詳細には、他方側の変位部材Ｆ６１７３が変位された状態における動作後状態へ動作される。

【４５３５】

他方側（左方側）に配設される変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）された球は、次いで、他方側に配設される第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）される。これにより、下側フレームＦ６０８６ｂが動作後状態から動作前状態へ動作される。他方側に配設される第４通路部Ｆ６１３２（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）された球は、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ６２を通過して遊技領域へ流出される。

【４５３６】

なお、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態、詳細には、球が他方側（左方側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）を移動（流下、転動）している状態においては、その他方側に配設される変位通路部材Ｆ６１７４を移動する球（以下「第１の球」と称す）の後続となる球（以下「第２の球」と称す）であり、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ流入された第２の球は、他方側の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）される。

【４５３７】

ここで、図３３６を参照して、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球の移動（流下、転動）について説明する。図３３６は、下側フレームＦ６０８６ｂの部分上面図である。なお、図３３６では、変位部材Ｆ６１７３に形成される当接部Ｆ６１７３ｂを除く振分手段Ｆ６１７０の図示が省略される。

【４５３８】

図３３６（ａ）に示すように、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、当接部Ｆ６１７３ｂは、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する球ＣＢ６１に当接可能な位置に配設される。

【４５３９】

詳細には、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する球ＣＢ６１が最も上方側（矢印Ｕ方向側）へ到達する位置よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に当接部Ｆ６１７３ｂが配設される。

【４５４０】

次いで、図３３６（ｂ）に示すように、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球ＣＢ６１は、当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇すると共に、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）される。言い換えると、球ＣＢ６１には、正面側へ向けての速度成分が付与される。

【４５４１】

ここで、球ＣＢ６１が最も上方側（矢印Ｕ方向側）へ到達した位置では、球の速度が０となり（又は速度が小さくなり）球の勢いが弱い。そのため、球ＣＢ６１が最も上方側へ到達する位置に当接部Ｆ６１７３ｂが配設された場合、球ＣＢ６１が当接部Ｆ６１７３ｂに当接しても正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて案内されない虞がある。

【４５４２】

これに対し、本実施形態では、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する球ＣＢ６１が最も上方側（矢印Ｕ方向側）へ到達する位置よりも下方側（矢印Ｄ方向側）に当接部Ｆ６１７３ｂが配設されるため、球ＣＢ６１の勢いが強い（速度が確保される）。これにより、球ＣＢ６１の勢いを利用して、当接部Ｆ６１７３ｂに当接した球ＣＢ６１を正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて案内し易くできる。

【４５４３】

次いで、球ＣＢ６１が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位することにより、図３３６（ｃ）に示すように、球ＣＢ６１は、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられ、壁部Ｆ６１２２に当接することで、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての移動（流下、転動）が規制される。

【４５４４】

ここで、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態から動作前状態への動作では、当接部Ｆ６１７３ｂは、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側から左右方向中央側へ向けて変位される。また、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（当接部Ｆ６１７３ｂへ向けて移動する）球ＣＢ６１には、左右方向中央側および上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動する。従って、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態から動作前状態への動作における当接部Ｆ６１７３ｂの変位方向には、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを当接部Ｆ６１７３ｂへ向けて移動する球ＣＢ６１の移動方向成分が含まれる。

【４５４５】

これにより、球ＣＢ６１と当接部Ｆ６１７３ｂとの当接により球ＣＢ６１の移動方向（左右方向中央側へ向けての方向）へ当接部Ｆ６１７３ｂを変位させ（下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態における当接部Ｆ６１７３ｂの配設位置へ向けて後退させ）、衝撃を吸収できる。その結果、当接部Ｆ６１７３ｂの破損を抑制できる。

【４５４６】

次いで、図３３６（ｄ）に示すように、第５通路部Ｆ６１２１の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての下降傾斜に沿って球ＣＢ６１は移動（流下、転動）され、流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１へ流入される。或いは、挿通孔Ｆ６１２１ｂへ流入して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流出）される（図３２４参照）。

【４５４７】

図３２４から図３３３に戻って説明する。このように、下側フレームＦ６０８６ｂが動作後状態へ動作される（第１の球が変位通路部材Ｆ６１７４へ案内（送球、流下）される）ことで、第２の球や第２の球の後続となる球を第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分ける（案内させる）ことができる。上述したように、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分けられた（案内された）球は、第１入賞口６４へ入賞し易く、従って、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、第２の球や第２の球の後続となる球が下側フレームＦ６０８６ｂへ振り分けられる（案内される）ことを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４５４８】

また、球の当接により変位部材Ｆ６１７３に作用する力の方向と変位部材Ｆ６１７３の動作後状態から動作前状態への変位の方向（左右方向中央側）との少なくとも一部を一致させることができる。これにより、球が当接した際、変位部材Ｆ６１７３を動作前状態へ向けて変位させることで変位部材Ｆ６１７３に加わる衝撃力を小さくでき、変位部材Ｆ６１７３が破損することを抑制できる。

【４５４９】

なお、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過して他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）された球は、球の速度（運動エネルギー）が減少した状態で変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂに当接される。従って、球が当接した際の当接部Ｆ６１７３ｂに加わる衝撃力を小さくでき、変位部材Ｆ６１７３が破損することを抑制できる。

【４５５０】

次いで、他方側（左方側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）について説明する。他方側に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２から振り分けられた（案内された）球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面

（矢印Ｆ方向）を通過せず、他方側の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）される。

【４５５１】

この場合、挿通孔Ｆ６１６２ａ１から振り分けられた（案内された）球と比較して下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）する球の移動量が小さい。また、立て壁部Ｆ６１１３に非当接とされる。これらにより、球に作用する摩擦力が小さく、球の速度（運動エネルギー）の減少が抑制される。

【４５５２】

その結果、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、一方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）された球は、背面部材Ｆ６１５０の当接部Ｆ６１５４に形成される湾曲面Ｆ６１５４ａに当接可能となる。

【４５５３】

ここで、図３３７を参照して、下側フレームＦ６０８６ｂの動作前状態において、他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球の移動（流下、転動）について説明する。図３３７は、下側フレームＦ６０８６ｂの部分上面図である。なお、図３３７では、振分手段Ｆ６１７０の図示が省略される。

【４５５４】

図３３７（ａ）に示すように、第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２から振り分けられた（案内された）球ＣＢ６２は、挿通孔Ｆ６１６２ａ１から振り分けられた（案内された）球と比較して速度（運動エネルギー）が大きく、当接部Ｆ６１７３ｂに形成される湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接される。

【４５５５】

これにより、図３３７（ｂ）に示すように、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球ＣＢ６２は、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇すると共に、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて移動（流下、転動）される。言い換えると、球ＣＢ６２には、正面側へ向けての速度成分が付与される。

【４５５６】

次いで、図３３７（ｃ）に示すように、球ＣＢ６２は、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられ、壁部Ｆ６１２２に当接することで、正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けての移動（流下、転動）が規制される。

【４５５７】

なお、湾曲面Ｆ６１７３ｂ１は、その湾曲面Ｆ６１７３ｂ１の正面側（矢印Ｆ方向側）における先端が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて突出して形成されるため、当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接する場合と比較して（図３３６参照）、左右方向両端側における壁部Ｆ６１２２に当接する。

【４５５８】

第５通路部Ｆ６１２１は、背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成されるため、球ＣＢ６２は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）するに従い、背面側（壁部Ｆ６１１３）へ向けて移動（流下、転動）する。

【４５５９】

これにより、図３３７（ｄ）に示すように、球ＣＢ６２は、挿通孔Ｆ６１６２ａ１から振り分けられた（案内された）球と比較して挿通孔Ｆ６１２１ｂへ流入されるよりも流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１へ流入され易い。

【４５６０】

図３２４から図３３３に戻って説明する。下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、他方側（左方側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）については、上述した一方側（右方側）に配設される第１通路部材Ｆ６１

６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１から下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）振り分けられた（案内された）場合と同様であるため、その説明は省略する。

【４５６１】

なお、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球と他方側（左方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球とでは、他方側の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を移動（流下、転動）する球の速度（運動エネルギー）が異なる。詳細には、他方側の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、一方側の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球と比較して速度（運動エネルギー）が大きい。

【４５６２】

これにより、下側フレームＦ６０８６ｂの動作後状態において、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球と他方側（左方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球とで、変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂに当接した衝撃による変位部材Ｆ６１７３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての変位量を異ならせることができる。

【４５６３】

また、本実施形態においては、動作前状態から動作後状態へ向けての動作中において変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接可能とされる。これにより、変位部材Ｆ６１７３（変位通路部材Ｆ６１７４）の変位の程度により、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１への振り分け位置を異ならせることができる。言い換えると、壁部Ｆ６１２２への当接位置を異ならせることができる。

【４５６４】

これらにより、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分けられた（案内された）球が、第５通路部材Ｆ６１２０の流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１へ流入される、或いは、挿通孔Ｆ６１２１ｂへ流入して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流出）されるかを遊技者に判断させ難くすることができ、興趣を向上させることができる。

【４５６５】

流入口ＦＯＰｆ６１へ流入された球は、順に中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１、第６通路部材Ｆ６１３０の第６通路部Ｆ６１３１へ案内（送球、流下）され、通路部材Ｆ６１１０の流出口ＦＯＰｏｕｔ１から流出された後、第１入賞口６４へ入賞される。

【４５６６】

第５通路部材Ｆ６１２０の挿通孔Ｆ６１２１ｂから下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）された球の移動（流下、転動）については、上述した上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の流出面Ｆ６１１４ａから下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）された球の移動（流下、転動）と同一であるため、その説明は省略する。

【４５６７】

なお、複数（２球以上）の球（例えば、第１の球および第１の球の先行となる球）が変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ続けて案内（送球、流下）される、言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４に作用する球の重量が大きくなることで、変位部材Ｆ６１７３の当接部Ｆ６１７３ｂと球との当接による変位部材Ｆ６１７３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての変位量を小さくできる。

【４５６８】

これにより、例えば、球との当接による変位部材Ｆ６１７３の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けての変位量が小さい場合、球を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側における第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ振り分け易く（案内し易く）でき

る。その結果、挿通孔Ｆ６１２１ｂへ流入されるよりも流出面Ｆ６１２１ａから流入口ＦＯＰｆ６１へ流入させ易くできる。

【４５６９】

従って、複数の球が変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）に続けて案内（送球、流下）される、言い換えると、通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）する球が連なった状態で変位通路部材Ｆ６１７４（第４通路ＦＲｔ６４の一部）へ案内（送球、流下）されることを遊技者に期待させることができ、興趣を向上させることができる。

【４５７０】

また、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１と挿通孔Ｆ６１６２ａ２とが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に並設される。これにより、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）から通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた球が、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過するか否かを遊技者に視認させ難くできる。

【４５７１】

言い換えると、一方側（右方側）の第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）から通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた球が、一方側の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流下）される、もしくは、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過し他方側（左方側）の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流下）されるかを遊技者に視認させ難くできる。その結果、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられた球を遊技者に注視させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４５７２】

次いで、図３３８から図３４０を参照して、第９０実施形態における下側フレームＦ７０８６ｂについて説明する。第９０実施形態における下側フレームＦ７０８６ｂでは、第８９実施形態よりも動作後状態を長く維持するために、変位通路部材Ｆ７１７４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に第２変位通路Ｆ７１８０（第７通路ＦＲｔ７７）が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４５７３】

図３３８（ａ）及び図３３９（ａ）は、第９０実施形態における下側フレームＦ７０８６ｂの断面図であり、図３３８（ｂ）及び図３３９（ｂ）は、下側フレームＦ７０８６ｂの背面図である。図３４０は、第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａへの球の振り分けを模式的に図示したものであり、図３４０（ａ）、図３４０（ｃ）及び図３４０（ｅ）は、下側フレームＦ７０８６ｂの上面模式図であり、図３４０（ｂ）、図３４０（ｄ）及び図３４０（ｆ）は、図３４０（ａ）の矢印ＣＣＣＸＬｂ、図３４０（ｃ）の矢印ＣＣＣＸＬｄ及び図３４０（ｅ）の矢印ＣＣＣＸＬｆ方向視における下側フレームＦ７０８６ｂの正面模式図である。

【４５７４】

なお、図３３８（ａ）及び図３３９（ａ）は、第２変位通路Ｆ７１８０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）中央において前後方向に垂直な平面で切断した断面に対応する。また、図３３８は、振分手段Ｆ７１７０及び第２変位通路Ｆ７１８０の動作前における状態を、図３３９は、振分手段Ｆ７１７０及び左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第２変位通路Ｆ７１８０の動作後における状態を、それぞれ図示している。また、図３３８（ｂ）及び図３３９（ｂ）では、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１の図示が省略される。

【４５７５】

また、図３４０（ａ）、図３４０（ｃ）及び図３４０（ｅ）は、下側フレームＦ７０８６ｂにおける第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａの一部、振分手段Ｆ７１７０の変位通路部材Ｆ７１７４及び第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの一部のみが図示され、図３４０（ｂ）

、図３４０（ｄ）及び図３４０（ｆ）は、下側フレームＦ７０８６ｂにおける第６通路部材Ｆ６１３０の第４通路部Ｆ６１３２、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａの一部、正面壁部Ｆ６１７４ｃを除く振分手段Ｆ７１７０の変位通路部材Ｆ７１７４及び第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの一部のみが図示される。

【４５７６】

また、図３４０では、所定の間隔を隔てた２球が中間通路部材Ｆ６１４０の第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４）へ振り分けられた状態が図示され、図３４０（ａ）及び図３４０（ｂ）は、それら２球が第２凹部Ｆ６１４２の転動面Ｆ６１４２ａを移動（流下、転動）する状態、図３４０（ｃ）及び図３４０（ｄ）は、第４通路ＦＲｔ６４へ振り分けられた球のうち、先行となる球（以下「先行の球ＣＢ７１」と称す）が振分手段Ｆ７１７０の変位通路部材Ｆ７１７４へ振り分けられた状態、図３４０（ｅ）及び図３４０（ｆ）は、先行の球ＣＢ７１の後続となる球（以下「後続の球ＣＢ７２」と称す）が第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ振り分けられた状態、がそれぞれ図示される。

【４５７７】

図３３８から図３３９に示すように第９０実施形態における振分手段Ｆ７１７０には、第８９実施形態における振分手段Ｆ６１７０に加え、変位通路部材Ｆ７１７４の左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側となる位置に一対の第２変位通路Ｆ７１８０が配設される。

【４５７８】

第２変位通路Ｆ７１８０は、その第２変位通路Ｆ７１８０の変位（回転）により変位部材Ｆ６１７３を動作（変位）させるためのものであり、第２変位通路部材Ｆ７１８１と、その第２変位通路部材Ｆ７１８１を軸支する軸Ｆ７１８２と、第２変位通路部材Ｆ７１８１に配設される錘Ｆ７１８３と、を備える。

【４５７９】

第２変位通路部材Ｆ７１８１は、球の通路となる第２変位通路部Ｆ７１８１ａと、その第２変位通路部Ｆ７１８１ａに一端が固定（配設）される支持部Ｆ７１８１ｂと、その支持部Ｆ７１８１ｂの他端に固定（配設）される被軸支部Ｆ７１８１ｃと、その被軸支部Ｆ７１８１ｃに固定（配設）される錘支持部Ｆ７１８１ｄと、を備える。

【４５８０】

第２変位通路部Ｆ７１８１ａは、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａから振り分けられた（案内された）球が移動（流下、転動）するための部位であり、転動面Ｆ７１８１ａ１と、その転動面Ｆ７１８１ａ１の縁部から立設される壁部Ｆ７１８１ａ２と、を備える。転動面Ｆ７１８１ａ１及び壁部Ｆ７１８１ａ２により区画された空間により第７通路ＦＲｔ７７が形成される。

【４５８１】

転動面Ｆ７１８１ａ１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側が正面側（矢印Ｆ方向側）に屈曲される、上面視において略Ｌ字状の板状体から構成される。また、転動面Ｆ７１８１ａ１（第７通路ＦＲｔ７７）の延設長さは、変位通路部材Ｆ７１７４の延設長さの略３倍の延設長さに形成される（図３２８参照）。

【４５８２】

壁部Ｆ７１８１ａ２は、第２変位通路部Ｆ７１８１ａに案内（送球、流下）された球の変位を規制するための部位であり、変位通路部材Ｆ７１７４側（左右方向中央側）の端部（第２変位通路部Ｆ７１８１ａの上流端）および正面側（矢印Ｆ方向側）に屈曲される部位の正面側の端部（第２変位通路部Ｆ７１８１ａの下流端）を除く縁部から立設される。

【４５８３】

転動面Ｆ７１８１ａ１において、上流端に壁部Ｆ７１８１ａ２が非形成とされることで、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａから第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ球が案内（送球、流下）され、転動面Ｆ７１８１ａ１の下流端に壁部Ｆ７１８１ａ２が非形成とされることで、第２変位通路部Ｆ７１８１ａから遊技領域に球が流出される。

【４５８４】

なお、ベース板６０には、転動面Ｆ７１８１ａ１の下流端の正面（矢印Ｆ方向）となる位置に挿通孔（図示せず）が穿設され、かかる挿通孔を通過させることで、球が遊技領域に流出される。

【４５８５】

壁部Ｆ７１８１ａ２の突設高さは、球の半径よりも大きく形成される。これにより、第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ振り分けられた球が壁部Ｆ７１８１ａ２を乗り越え、ベース板６０と背面部材Ｆ６１５０との間に脱落することを抑制できる。

【４５８６】

支持部Ｆ７１８１ｂは、第２変位通路部Ｆ７１８１ａと被軸支部Ｆ７１８１ｃとを連結するための部位であり、棒状体から構成される。被軸支部Ｆ７１８１ｃは、筒状に形成され、その被軸支部Ｆ７１８１ｃの内周側に軸Ｆ７１８２が挿通される。これにより、軸Ｆ７１８２（被軸支部Ｆ７１８１ｃ）を回転軸として第２変位通路部材Ｆ７１８１が回転可能に形成される。

【４５８７】

錘支持部Ｆ７１８１ｄは、錘Ｆ７１８３を支持するための部位である。錘支持部Ｆ７１８１ｄは、一端（基端）が被軸支部Ｆ７１８１ｃに固定（配設）され、錘支持部Ｆ７１８１ｄの他端（先端）には錘Ｆ７１８３を固定（配設）するための凹部が正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて凹設して形成される。

【４５８８】

軸Ｆ７１８２は、第２変位通路部材Ｆ７１８１を回転可能に係合（軸支）するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。軸Ｆ７１８２は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿った姿勢で配設され、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１と下板Ｆ６１５３とにより支持される。これにより、第２変位通路部材Ｆ７１８１は軸Ｆ７１８２を回転軸として回転可能に形成される。

【４５８９】

錘Ｆ７１８３は、第２変位通路Ｆ７１８０の重心の位置を調整するためのものであり、金属材料から円柱状に形成される。錘Ｆ７１８３が錘支持部Ｆ７１８１ｄに配設されることで、第２変位通路Ｆ７１８０の重心は、軸Ｆ７１８２よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側に位置する。

【４５９０】

振分手段Ｆ７１７０の変位通路部材Ｆ７１７４は、第８９実施形態における変位通路部材Ｆ６１７４に対し外側壁部Ｆ７１７４ｂの突設高さが異なる以外は同一に形成され、その外側壁部Ｆ７１７４ｂの突設高さは、球の直径よりもやや大きく形成される。これにより、変位通路部材Ｆ７１７４に球が案内（送球、流下）された状態では、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において球の最も上方側（矢印Ｕ方向側）の部位は、外側壁部Ｆ７１７４ｂの突設先端よりも下方側（矢印Ｄ方向側）となる。

【４５９１】

また、外側壁部Ｆ７１７４ｂの突設高さは、動作後状態において、第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの上面よりも下方側（矢印Ｄ方向側）となる寸法に形成される。これにより、中間通路部材Ｆ６１４０の転動面Ｆ６１４２ａを移動（流下、転動）する球は、第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ振り分け可能とされる。

【４５９２】

次いで、第２変位通路Ｆ７１８０の動作について説明する。図３３８に示すように、下側フレームＦ７０８６ｂの動作前状態において、第２変位通路Ｆ７１８０の錘支持部Ｆ７１８１ｄと振分手段Ｆ７１７０の錘支持部材Ｆ６１７６とは当接、或いは、所定の距離（例えば、１ｍｍ）だけ隔てて配設される。また、第２変位通路Ｆ７１８０の壁部Ｆ７１８１ａ２の上端が背面部材Ｆ７１５０の側板Ｆ７１５２から突設される突部Ｆ７１５２ｂに当接することで第２変位通路Ｆ７１８０の動作（変位）が規制される。

【４５９３】

また、動作前状態において、一対の第２変位通路Ｆ７１８０の重心は、軸Ｆ７１８２よ

りも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側にそれぞれ位置する。これにより、第２変位通路Ｆ７１８０には、第２変位通路部Ｆ７１８１ａが上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する方向に重力が作用し、第２変位通路Ｆ７１８０の壁部Ｆ７１８１ａ２の上端と背面部材Ｆ７１５０の側板Ｆ７１５２から突設される突部Ｆ７１５２ｂとの当接が維持される。その結果、下側フレームＦ７０８６ｂは、動作前状態に維持される。

【４５９４】

次いで、下側フレームＦ７０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作について説明する。第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａに球が案内（送球、流下）されることで、球を加えた第２変位通路Ｆ７１８０の全体の重心が軸Ｆ７１８２よりも左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側に位置する。

【４５９５】

これにより、第２変位通路Ｆ７１８０には、第２変位通路部Ｆ７１８１ａが下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転（変位）する方向に重力が作用し、錘支持部Ｆ７１８１ｄは、上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて回転（変位）する。その結果、振分手段Ｆ７１７０の錘支持部材Ｆ６１７６が上方側へ向けて回転（変位）し、変位部材Ｆ６１７３は、第１軸Ｆ６１７２に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位される（下側フレームＦ７０８６ｂが動作後状態へ動作される）。

【４５９６】

ここで、図３４０を参照して第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａへの球の振り分けについて説明する。図３４０（ａ）及び図３４０（ｂ）に示すように、先行の球ＣＢ７１および後続の球ＣＢ７２が転動面Ｆ６１４２ａを移動（流下、転動）する状態（動作前状態）では、変位通路部材Ｆ７１７４の外側壁部Ｆ７１７４ｂの少なくとも一部が第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの上面よりも上方側（矢印Ｕ方向側）となる位置に配設される。これにより、先行の球ＣＢ７１は、外側壁部Ｆ７１７４ｂに当接可能となり、転動面Ｆ６１４２ａから第２変位通路部Ｆ７１８１ａへ案内される（変位通路部材Ｆ７１７４へ非案内とされる）ことを抑制できる。

【４５９７】

次いで、図３４０（ｃ）及び図３４０（ｄ）に示すように、先行の球ＣＢ７１が変位通路部材Ｆ７１７４へ案内（送球、流下）されることで、先行の球ＣＢ７１の重量により変位通路部材Ｆ７１７４が下方側（矢印Ｄ方向側）へ向けて回転（変位）し、下側フレームＦ７０８６ｂは、動作後状態へ動作される（図３３９参照）。

【４５９８】

ここで、先行の球ＣＢ７１は、変位通路部材Ｆ７１７４の突起Ｆ６１７４ｂ１に当接することで、先行の球ＣＢ７１の正面側（矢印Ｆ方向側）への移動（流下、転動）速度を小さくでき、また、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて移動（流下、転動）させることができる。これにより、図３４０（ｅ）及び図３４０（ｆ）に示すように、後続の球ＣＢ７２を第２変位通路Ｆ７１８０へ振り分けやすくできる。

【４５９９】

詳細には、先行の球ＣＢ７１が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて、即ち、後続の球ＣＢ７２へ向けて移動（流下、転動）することで、左右方向における先行の球ＣＢ７１と後続の球ＣＢ７２との距離を小さくできる。また、先行の球ＣＢ７１の正面側（矢印Ｆ方向側）への移動（流下、転動）速度を小さくすることで、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において先行の球ＣＢ７１と後続の球ＣＢ７２とが離間することを抑制できる。

【４６００】

これにより、突起Ｆ６１７４ｂ１が非形成の場合と比較して、先行の球ＣＢ７１の上方側（矢印Ｕ方向側）の部位に後続の球ＣＢ７２を当接（落下）させることができる。その結果、後続の球ＣＢ７２の下方側（矢印Ｄ方向側）への変位（落下、流下）量を小さくでき、第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａの上面へ後続の球ＣＢ７２を案内（送球、流下）し易くできる。

【４６０１】

図３３８から図３３９に戻って説明する。転動面Ｆ７１８１ａ１（第７通路ＦＲｔ７７）の延設長さは、変位通路部材Ｆ７１７４の延設長さよりも長く形成されるため（図３２８参照）、球が第２変位通路Ｆ７１８０の第２変位通路部Ｆ７１８１ａ（第７通路ＦＲｔ７７）を移動（流下、転動）することに要する時間を変位通路部材Ｆ７１７４を移動（流下、転動）することに要する時間よりも嵩ませることができる。これにより、変位通路部材Ｆ７１７４へ球が振り分けられる場合と比較して、第２変位通路部Ｆ７１８１ａ（第７通路ＦＲｔ７７）へ球が振り分けられることで動作後状態となる時間を嵩ませることができる。

【４６０２】

従って、通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を移動（流下、転動）する２球が所定の間隔よりも小さい間隔だけ隔てた状態で中間通路部材Ｆ６１４０の第２凹部Ｆ６１４２（第４通路ＦＲｔ６４）へ振り分けられることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４６０３】

次いで、図３４１を参照して、第９１実施形態における下側フレームＦ８０８６ｂについて説明する。第９１実施形態における下側フレームＦ８０８６ｂでは、動作前状態と動作後状態とで、第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球の第１入賞口６４への入賞し易さが異なる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４６０４】

図３４１は、第９１実施形態における下側フレームＦ８０８６ｂの部分拡大上面図であり、図３４１（ａ）は、動作前状態における下側フレームＦ８０８６ｂが、図３４１（ｂ）は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂが変位した動作後状態における下側フレームＦ８０８６ｂが、それぞれ図示される。

【４６０５】

図３４１に示すように、第９１実施形態における第５通路部材Ｆ８１２０の挿通孔Ｆ８１２１ｂは、第８９実施形態における挿通孔Ｆ６１２１ｂと比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側となる位置に穿設される。

【４６０６】

詳細には、動作後状態において、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂに当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）に案内（送球、流下）された球の移動方向の延長線上に穿設される。これにより、動作後状態において、当接部Ｆ６１７３ｂに当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）に案内（送球、流下）された球を挿通孔Ｆ８１２１ｂへ向けて移動（流下、転動）させ易くできる。

【４６０７】

また、第５通路部材Ｆ８１２０には、挿通孔Ｆ８１２１ｂの縁に沿って立設部Ｆ８１２１ｂ１が配設される。立設部Ｆ８１２１ｂ１の立設高さは、所定以上の速度を有する球が乗り越え可能な高さに形成される。

【４６０８】

また、背面部材Ｆ８１５０の当接部Ｆ８１５４に形成される湾曲面Ｆ８１５４ａの正面端は、第８９実施形態における湾曲面Ｆ６１５４ａの正面端と比較して、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側となる位置に形成される。これにより、動作前状態において、当接部Ｆ８１５４に当接することで第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）に案内（送球、流下）された球を一対の挿通孔Ｆ８１２１ｂの間へ向けて移動（流下、転動）させ易くできる。言い換えると、一対の挿通孔Ｆ８１２１ｂへ向けて移動（流下、転動）させ難くできる。

【４６０９】

本実施形態における下側フレームＦ８０８６ｂでは、動作後状態において、例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通

過して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）に振り分けられた球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面を通過せず、左方側に形成される上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）され、速度（運動エネルギー）の減少が抑制された状態で球が第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。

【４６１０】

上述したように、挿通孔Ｆ８１２１ｂは、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂに当接した球の移動方向の延長線上に穿設されるため、第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、挿通孔Ｆ８１２１ｂへ向けて移動（流下、転動）され易く、第５通路部材Ｆ８１２０の壁部Ｆ８１２２に当接され難い。

【４６１１】

これらにより、動作後状態において、一方側（上述の例では左方側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過し、当接部Ｆ６１７３ｂに当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、立設部Ｆ８１２１ｂ１を乗り越え挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過し易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【４６１２】

一方、動作後状態において、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）に振り分けられた球は、速度（運動エネルギー）が減少した状態で第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。

【４６１３】

従って、当接部Ｆ６１７３ｂに当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、立設部Ｆ８１２１ｂ１を乗り越え難く（挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過し難く）、流出面Ｆ６１２１ａから中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（第６通路ＦＲｔ６６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。

【４６１４】

また、動作前状態においては、背面部材Ｆ８１５０の当接部Ｆ８１５４は、当接部Ｆ６１７３ｂよりも上方側（矢印Ｕ方向側）に配設されるため、当接部Ｆ８１５４に当接した球は、速度（運動エネルギー）が減少した状態で第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。

【４６１５】

また、当接部Ｆ８１５４に当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、一対の挿通孔Ｆ８１２１ｂの間へ向けて移動（流下、転動）し、第５通路部材Ｆ８１２０の壁部Ｆ６１２２に当接され易く、挿通孔Ｆ８１２１ｂへ案内され難い。

【４６１６】

従って、当接部Ｆ８１５４に当接されることにより第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された球は、立設部Ｆ８１２１ｂ１を乗り越え難く（挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過し難く）、流出面Ｆ６１２１ａから中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（第６通路ＦＲｔ６６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。

【４６１７】

上述したように、動作前状態においては、一対の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球と比較して第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）され易く、第１入賞口６４へ入賞し易い。

【４６１８】

一方、動作後状態、例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０

の当接部Ｆ６１７３ｂが変位した動作後状態においては、左方側に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）された後、挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過して通路部材Ｆ６１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し難い）。

【４６１９】

このように、動作前状態と動作後状態とで、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球の第１入賞口６４への入賞し易さを変化させることで、動作前状態では、球が挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過することを遊技者に期待させ、動作後状態では、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂが変位した側（上述の例では左方側）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を球が通過しないことを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４６２０】

なお、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１を通過した球は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）から第５通路部材Ｆ８１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。この場合、球は、立設部Ｆ８１２１ｂ１を乗り越え難く（挿通孔Ｆ８１２１ｂを通過し難く）、流出面Ｆ６１２１ａから中間通路部材Ｆ６１４０の第１凹部Ｆ６１４１（第６通路ＦＲｔ６６）へ案内（送球、流下）され易い（第１入賞口６４へ入賞し易い）。

【４６２１】

従って、動作後状態では、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）へ振り分けられた（案内された）球は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０へ振り分けられた（案内された）球よりも第１入賞口６４へ入賞し易い。これにより、動作後状態を契機として、右方側に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）へ球が振り分ける（案内する）ことを遊技者に意図させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４６２２】

次いで、図３４２及び図３４３を参照して、第９２実施形態における下側フレームＦ９０８６ｂについて説明する。第９２実施形態における下側フレームＦ９０８６ｂでは、動作前状態と動作後状態とで、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球の第１入賞口６４への入賞し易さが異なる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４６２３】

図３４２（ａ）及び図３４３（ａ）は、第９２実施形態における下側フレームＦ９０８６ｂの部分拡大上面図であり、図３４２（ｂ）及び図３４３（ｂ）は、下側フレームＦ９０８６ｂの部分拡大正面図である。

【４６２４】

なお、図３４２は、動作前状態における下側フレームＦ９０８６ｂが、図３４３は、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂが変位した動作後状態における下側フレームＦ９０８６ｂが、それぞれ図示される。また、図３４２（ｂ）及び図３４３（ｂ）では、中間通路部材Ｆ９１４０に形成される連結孔Ｆ９１４４が破線で図示される。

【４６２５】

図３４２及び図３４３に示すように第９２実施形態における中間通路部材Ｆ９１４０には、中間通路部材Ｆ９１４０の上面と第１凹部Ｆ６１４１とを貫通する連結孔Ｆ９１４４が穿設される。また、連結孔Ｆ９１４４の上方側（矢印Ｕ方向側）における通路部材Ｆ９１１０には、挿通孔Ｆ９１１６が板厚方向に穿設される。

【４６２６】

また、右方側（矢印Ｒ方向側）における背面部材Ｆ９１５０には当接部Ｆ６１５４が配

設される一方、左方側（矢印Ｌ方向側）における背面部材Ｆ９１５０には当接部Ｆ６１５４が非配設とされる。

【４６２７】

次いで、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球の移動（流下、転動）について説明する。第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、通路部材Ｆ９１１０の下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）へ振り分けられ、立て壁部Ｆ６１１３の正面を通過せず、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ案内（送球、流出）される。従って、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）に振り分けられた球は、速度（運動エネルギー）の減少が抑制された状態で上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する。

【４６２８】

図３４２に示すように、動作前状態において、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、通路部材Ｆ９１１０の挿通孔Ｆ９１１６に到達し、中間通路部材Ｆ９１４０の連結孔Ｆ９１４４を介して第１凹部Ｆ６１４１（第６通路ＦＲｔ６６）へ案内（送球、流下）される。

【４６２９】

よって、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球を第１入賞口６４へ入賞し易く（本実施形態では、第１入賞口６４に球をほぼ確実に入賞させ易く）できる。

【４６３０】

一方、動作前状態において、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、背面部材Ｆ９１５０の当接部Ｆ６１５４に当接して第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。

【４６３１】

第５通路部材Ｆ６１２０の第５通路部Ｆ６１２１には、一対の挿通孔Ｆ６１２１ｂが穿設される。従って、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球と比較して右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、第１入賞口６４へ入賞し難い。

【４６３２】

次いで、図３４３に示すように、動作後状態において、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂに当接して第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。言い換えると、通路部材Ｆ９１１０の挿通孔Ｆ９１１６へ案内（送球、流下）されることが当接部Ｆ６１７３ｂに抑制される。従って、動作前状態と比較して第１入賞口６４へ入賞し難い。

【４６３３】

なお、動作後状態において、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過して上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上方側（矢印Ｕ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、振分手段Ｆ６１７０の当接部Ｆ６１７３ｂに当接して第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）へ案内（送球、流下）される。従って、動作前状態と動作後状態とで第１入賞口６４への入賞されやすさはほぼ同一である。

【４６３４】

このように、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路

ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、動作前状態では、ほぼ確実に第１入賞口６４へ入賞できるのに対し、動作後状態では、動作前状態と比較して第１入賞口６４へ入賞され難い。

【４６３５】

従って、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球が、動作前状態において、上側通路Ｆ６１１４を上方側へ向けて移動（流下、転動）することを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【４６３６】

次いで、図３４４を参照して、第９３実施形態における下側フレームＦ１００８６ｂについて説明する。第９３実施形態における下側フレームＦ１００８６ｂでは、第８９実施形態における下側フレームＦ６０８６ｂの当接部Ｆ６１５４が非配設とされる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４６３７】

図３４４（ａ）は、第９３実施形態における下側フレームＦ１００８６ｂの部分拡大上面図であり、図３４４（ｂ）は、下側フレームＦ１００８６ｂの部分拡大正面図である。

【４６３８】

なお、図３４４は、動作後状態における下側フレームＦ１００８６ｂが図示される。また、図３４４（ａ）では、変位部材Ｆ１０１７３の当接部Ｆ１０１７３ｂを除く振分手段の図示が省略され、図３４４（ｂ）では、第５通路部材Ｆ６１２０の図示が省略される。

【４６３９】

図３４４に示すように、第９３実施形態における当接部Ｆ１０１７３ｂには、上側通路Ｆ６１１４の傾斜における上昇方向（図３４４（ｂ）矢印Ｊ方向、以下「上昇方向」と称す）側に第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２が湾曲して形成される。第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２は、上側通路Ｆ６１１４の傾斜における下降方向（図３４４（ｂ）矢印Ｋ方向、以下「下降方向」と称す）側へ向けて凹設される。

【４６４０】

次いで、通路部材Ｆ６１１０の上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）へ振り分けられた（案内された）球の移動（流下、転動）について説明する。下側フレームＦ１００８６ｂの動作前状態において、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇方向（矢印Ｊ方向）へ向けて移動（流下、転動）する球は、当接部Ｆ１０１７３ｂにおける上側通路Ｆ６１１４と面一に形成される案内面Ｆ１０１７３ｂ３を通過して当接部Ｆ１０１７３ｂよりも上昇方向側へ案内される。

【４６４１】

上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を上昇方向（矢印Ｊ方向）へ向けて移動（流下、転動）する球は、次第に速度が小さくなり、一旦止まった後、下降方向（矢印Ｋ方向）へ向けて移動（流下、転動）する。上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を下降方向（矢印Ｋ方向）へ向けて移動（流下、転動）する球は、再度、当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を通過して当接部Ｆ１０１７３ｂよりも下降方向側へ案内される。

【４６４２】

一方、球が当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を通過して当接部Ｆ１０１７３ｂよりも上昇方向側（矢印Ｊ方向側）へ案内されてから当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）するまでの間に、下側フレームＦ１００８６ｂが動作後状態に動作された場合、当接部Ｆ１０１７３ｂは、球と当接可能となる位置へ向けて変位されるため、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）する球は、第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２に当接される。

【４６４３】

第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２に当接されることにより、球は、第２湾曲面Ｆ１０１７３

ｂ２の湾曲面に沿って正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて変位され、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられる。

【４６４４】

ここで、当接部Ｆ１０１７３ｂに第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２が非形成、例えば、上側通路Ｆ６１１４の上昇方向側（矢印Ｊ方向）が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に沿って平坦な面として形成される場合、その当接部Ｆ１０１７３ｂの平坦面に球が当接し、球の移動（流下、転動）が規制される虞がある。

【４６４５】

この場合、下側フレームＦ１００８６ｂが動作前状態に動作されることにより、球は、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）し、第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ球が振り分けられない（非案内となる）虞がある。

【４６４６】

従って、球が当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を通過して当接部Ｆ１０１７３ｂよりも上昇方向側（矢印Ｊ方向側）へ案内されてから当接部Ｆ１０１７３ｂの案内面Ｆ１０１７３ｂ３を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）するまでの間に、下側フレームＦ１００８６ｂが動作後状態に動作された場合であっても、球が第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ球が振り分けられず（非案内となり）、遊技の興趣が低下する虞がある。

【４６４７】

これに対し、本実施形態では、当接部Ｆ１０１７３ｂに第２湾曲面Ｆ１０１７３ｂ２が形成されるため、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）を下降方向側（矢印Ｋ方向側）へ向けて移動（流下、転動）球を第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられることができ、遊技の興趣が低下することを抑制できる。

【４６４８】

次いで、図３４５及び図３４６を参照して、第９４実施形態における下側フレームＦ１０８６ｂについて説明する。上記第８９実施形態では、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量を利用して、変位部材Ｆ６１７３が動作（変位）される場合を説明したが、第９４実施形態では、球の重量の利用に加え、アクチュエータ（ソレノイドＦ１１００２）の駆動力によっても、変位部材Ｆ６１７３が動作（変位）可能とされる。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【４６４９】

図３４５は、第９４実施形態における下側フレームＦ１１０８６ｂの背面斜視図であり、図３４６は、下側フレームＦ１１０８６ｂの部分拡大上面図である。第９４実施形態における下側フレームＦ１１０８６ｂは、第８９実施形態における下側フレームＦ６０８６ｂに対し、センサＦ１１００１と、ソレノイドＦ１１００２とを更に備える。

【４６５０】

なお、図３４６では、第１領域Ｆ１１００３ａ及び第２領域Ｆ１１００３ｂがハッチングを付した領域として模式的に図示される。第１領域Ｆ１１０３ａは、挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ球が流入可能な領域（位置）であり、挿通孔Ｆ６１６２ａ２と同心の円環状の範囲として定義される。第２領域Ｆ１１０３ｂは、挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ球が流入可能な領域（位置）であり、挿通孔Ｆ６１６２ａ１と同心の円環状の範囲として定義される。本実施形態では、第１領域Ｆ１１０３ａと第２領域Ｆ１１０３ｂとは同一の大きさとされる。

【４６５１】

図３４５及び図３４６に示すように、センサＦ１１０１は、挿通孔Ｆ６１６２ａ２（即ち、凹部Ｆ６１６２に穿設される一対の挿通孔Ｆ６１６２ａのうちの背面側（矢印Ｂ方向側）に形成される孔）を通過する球を検出するためのセンサ（貫通孔の内周を通過する球を検出する近接スイッチ）であり、挿通孔Ｆ６１６２ａ２に連なるガイド凹部Ｆ６１６３ａの下流端に配設される。

【４６５２】
なお、センサＦ１１０１は、一対（正面視左方側（矢印Ｌ方向側）及び右方側（矢印Ｒ方向側））の第１通路部材Ｆ６１６０における挿通孔Ｆ６１６２ａ２のそれぞれに配設される。また、センサＦ１１０１は、ガイド凹部Ｆ６１６３ａによる球の案内方向に影響を与えない態様で配設される。例えば、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の第１通路部材Ｆ６１６０の挿通孔Ｆ６１６２ａ２を通過した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面側ではなく、下側通路Ｆ６１１２から正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球、流出）される。
【４６５３】
ソレノイドＦ１１００２は、一対の変位部材Ｆ６１７３をそれぞれ独立して変位させるためのアクチュエータであり、背面板Ｆ６１５１の背面に一対が向かい合わせの姿勢（プランジャーＦ１１００２ｂを変位部材Ｆ６１７３に連結させた姿勢）で配設（固着、取着）される。
【４６５４】
ソレノイドＦ１１００２は、コイル、固定鉄心および戻りばねが収容されるケースＦ１１００２ａと、そのケースＦ１１００２ａに対して出没（直線変位）可能とされるプランジャーＦ１１００２ｂとを備え、プランジャーＦ１１００２ｂの直線変位の方向を第１軸Ｆ６１７２と平行とする姿勢で配設される。
【４６５５】
なお、ソレノイドＦ１１００２は、プル（吸引）ソレノイドとして構成される。即ち、非通電時には、戻りばねの弾性力によりプランジャーＦ１１００２ｂが突出した状態とされ、変位部材Ｆ６１７３が初期位置（当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接不能な位置）に配置され、通電時には、プランジャーＦ１１００２ｂがプル（吸引）動作されることで、変位部材Ｆ６１７３が第１軸Ｆ６１７２に沿って変位（スライド）され、かかる変位部材Ｆ６１７３が突出位置（上側通路Ｆ６１１４の上面から突出され、当接部Ｆ６１７３ｂに球が当接可能な位置）に配置される。
【４６５６】
なお、戻りばねの弾性力は、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用した場合に、その球の重量によっても、変位部材Ｆ６１７３を動作（変位）可能な大きさに設定される。但し、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用しても、その球の重量では、変位部材Ｆ６１７３を動作（変位）不能となるように構成しても良い。或いは、変位通路部材Ｆ６１７４及びその変位通路部材Ｆ６１７４の変位（球の重量が作用することによる変位）を変位部材Ｆ６１７３へ伝達する機構を省略しても良い（即ち、ソレノイドＦ１１００２の駆動によってのみ変位部材Ｆ６１７３が変位する構成としても良い）。
【４６５７】
本実施形態では、センサＦ１１００１によって球の通過が検出されたことを契機（条件）として、ソレノイドＦ１１００２の所定時間の通電が実行される。具体的には、センサＦ１１０００１により球の通過が検出されると、その検出から即座にソレノイドＦ１１００２の通電が実行され、かかる通電が５秒間継続される。
【４６５８】
なお、センサＦ１１０００１により球の通過が検出されてからソレノイドＦ１１００２の通電が開始されるまでの時間は、任意であり、球の通過の検出後、所定時間の経過を待って（待機して）、通電が開始されても良い。即ち、通電を開始するタイミングを球の通過の検出から遅延させても良い。後続の球に対する変位部材Ｆ６１７３（当接部Ｆ６１７３ｂ）の影響（後続の球が流入口ＦＯＰｆ６１へ流入し易くされる態様）を遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。この場合、遅延の時間として、複数種類を準備し、それら複数種類からランダムに設定されても良い。
【４６５９】
また、ソレノイドＦ１１００２の通電を継続する時間は任意であり、上記例示した時間（５秒）より短くても長くても良い。

【４６６０】
ソレノイドＦ１１００２の通電は、断続的に行われても良い。例えば、第１の時間（例えば、０．５秒）の通電と、第２の時間（例えば、1秒）の非通電とが所定時間（例えば、５秒）の間、繰り返される態様が例示される。この場合、第１の時間と第２の時間とはどちらが長くても良く、同じ長さでも良い。第１の時間および（又は）第２の時間が、毎回、異なる長さであっても良い。
【４６６１】
所定時間（例えば、５秒）の間、通電（例えば、０．５秒）と非通電（例えば、１秒）とを繰り返す態様を１セットとして、かかる１セットを複数回（例えば、１５回）実行しても良い。
【４６６２】
また、センサＦ１１００１によって球の通過が検出され、且つ、所定確率（例えば、１９９分の１）の抽選の結果、当選した場合に、ソレノイドＦ１１００２の通電が実行されるようにしても良い。
【４６６３】
ソレノイドＦ１１００２の通電を実行する条件は、上記各態様を組み合わせても良い。
【４６６４】
挿通孔Ｆ６１６２ａ２から下側通路Ｆ６１１２へ流入した球は、第８９実施形態の場合と同様に、挿通孔Ｆ６１６２ａ１から下側通路Ｆ６１１２へ流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ６１へ流入し易くされる。よって、第１通路部材Ｆ６１６０（凹部Ｆ６１６２）へ流入した球が、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２のどちらから下側通路Ｆ６１１２へ流入するか、即ち、球が流下する位置（第１領域Ｆ１１００３ａ又は第２領域Ｆ１１００３ｂ）を遊技者に注視（意識）させることができる。その結果、第１領域Ｆ１１０３ａ（挿通孔Ｆ６１６２ａ２）からの流下を遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【４６６５】
一方で、センサＦ１１００１によって球の通過が検出されたことを契機（条件）として、ソレノイドＦ１１００２の所定時間の通電が実行され、これにより、流入口ＦＯＰｆ６１へ球が流入し易くなるように、変位部材Ｆ６１７３の変位が行われる。よって、第２領域Ｆ１１０３ｂ（挿通孔Ｆ６１６２ａ１）からの流下であっても、流入口ＦＯＰｆ６１への流入の期待を遊技者に持たせることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【４６６６】
この場合、第１通路部材Ｆ６１６０（凹部Ｆ６１６２）は、第１領域Ｆ１１００３ａと第２領域Ｆ１１００３ｂとの間を球が移動可能に形成されるので、第１領域Ｆ１１００３ａ又は第２領域Ｆ１１００３ｂのどちらから球が流下されるのか、凹部Ｆ６１６２における球の移動を遊技者に注視させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【４６６７】
また、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２から変位部材Ｆ６１７３までの球の経路は、挿通孔Ｆ６１６２ａ２（第１領域Ｆ１１００３ａ）から流下した球が変位部材Ｆ６１７３まで移動する第１経路と、挿通孔Ｆ６１６２ａ１（第２領域Ｆ１１００３ｂ）から流下した球が変位部材Ｆ６１７３まで移動する第２経路とを備えるところ、これら第１経路と第２経路との間を球が移動可能に形成される。
【４６６８】
これにより、挿通孔Ｆ６１６２ａ２（第１領域Ｆ１１００３ａ）から流下した球が変位部材Ｆ６１７３へ到達可能な経路と、挿通孔Ｆ６１６２ａ１（第２領域Ｆ１１００３ｂ）から流下した球が変位部材Ｆ６１７３へ到達可能な経路との種類を、一定のスペース内において、より多く確保することができる。その結果、球の移動のバリエーションを多くして、遊技の興趣を高めることができる。

【４６６９】
なお、第１経路とは、例えば、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の第１通路部材Ｆ６１６０（凹部Ｆ６１６２）における挿通孔Ｆ６１６２ａ２（第１領域Ｆ１１００３ａ）から流下した球が、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の下側通路Ｆ６１１２における背面板Ｆ６１５１側の領域と、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の上側通路Ｆ６１１４とを、順に、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の変位部材Ｆ６１７３まで移動する経路である。
【４６７０】
一方、第２経路とは、例えば、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の第１通路部材Ｆ６１６０（凹部Ｆ６１６２）における挿通孔Ｆ６１６２ａ１（第２領域Ｆ１１００３ｂ）から流下した球が、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の下側通路Ｆ６１１２における正面板Ｆ６１１１側の領域と、正面視中央の下側通路Ｆ６１１２（正面板Ｆ６１１１と立て壁部Ｆ６１１３との間の領域）と、正面視右方側（矢印Ｒ方向側）の下側通路Ｆ６１１２における正面板Ｆ６１１１側の領域と、正面視右方側（矢印Ｒ方向側）の下側通路Ｆ６１１２における背面板Ｆ６１５１側の領域と、正面視右方側（矢印Ｒ方向側）の上側通路Ｆ６１１４とを、順に、正面視右方側（矢印Ｒ方向側）の変位部材Ｆ６１７３まで移動する経路である。
【４６７１】
また、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２から球が流下する際には、挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２への進入状態（進入角度、進入速度など）や進入時における挿通孔Ｆ６１６２ａ１，Ｆ６１６２ａ２の内周面との接触状態（接触角度、接触強さ等）等に起因して、流下方向や流下速度、球の回転方向が変化される。そのため、第１経路と第２経路との間で球が移動可能に形成されていることが有効となり、これにより、挿通孔Ｆ６１６２ａ２（挿通孔Ｆ６１６２ａ１）から流下したとした球が、第１経路の途中で第２経路へ（第２経路の途中で第１経路へ）移動するなどの種々の形態を形成することができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【４６７２】
ここで、下側通路Ｆ６１１２及び上側通路Ｆ６１１４とには、球の転動面から突設され球が当接可能に形成される１又は複数の突起（当接手段）が形成されていても良い。この場合には、第１経路または（及び）第２経路を移動する球が突起（当接手段）に当接されることで、球の移動方向に変化を付与して、第１経路と第２経路との間での球の移動を形成し易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【４６７３】
なお、突起（当接手段）の突設位置は、任意である。突起（当接手段）の配置としては、例えば、第１経路と第２経路との境界（例えば、正面視左方側（矢印Ｌ方向側）の下側通路Ｆ６１１２上であって、挿通孔Ｆ６１６２ａ２から流下した球が上側通路Ｆ６１１４へ向かう経路と挿通孔Ｆ６１６２ａ１から流下した球が正面視中央の下側通路Ｆ６１１２（正面板Ｆ６１１１と立て壁部Ｆ６１１３との間の領域）へ向かう経路とを隔て、正面板Ｆ６１１１と背面板Ｆ６１５１とに平行な仮想線）に沿って、所定間隔（球が間を通過可能な間隔）を隔てつつ、複数のが列設される形態が例示される。
【４６７４】
以下、本発明の実施形態について、添付図面を参照して説明する。まず、図３４７から図３５６を参照し、第９５実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｈ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。
【４６７５】
図３４７は、第９５実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図３４８は、パチンコ機Ｈ１０の背面図であり、図３４９は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放（展開）した状態を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図３５０は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を開放した状態で裏パックユニットＨ９４を内枠Ｈ１２に対して開放した状態（展開）を示すパチンコ機Ｈ１０の正面斜視図であり、図３５１は、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２を閉鎖すると共に正面枠Ｈ１４を開放（展開）した状態を示すパチンコ

機Ｈ１０の正面斜視図であり、図３５２は、正面枠Ｈ１４を取り外した状態におけるパチンコ機Ｈ１０の正面図であり、図３５３は、遊技盤Ｈ１３及び内枠Ｈ１２の分解正面斜視図であり、図３５４は、正面枠Ｈ１４の分解斜視正面図であり、図３５５は、正面枠Ｈ１４の分解斜視背面図である。なお、図３５２では、発射位置送球ユニットＨ１７０から球発射ユニットＨ１１２ａに球を送球するための背面側開口Ｈ１７２が２点鎖線で図示される。

【４６７６】

また、以下の説明では、図３４７に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図３４７に示す状態のパチンコ機Ｈ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図３４７参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｈ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【４６７７】

また、特段の説明がない限り、パチンコ機Ｈ１０を遊技する遊技者は、パチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置し、パチンコ機Ｈ１０の背面側（矢印Ｂ方向側）に視線を向けた状態（パチンコ機Ｈ１０の正面側と対面した状態）で遊技するものとして説明する。

【４６７８】

図３４７～図３５５に示すように、パチンコ機Ｈ１０は、略矩形状に組み合わせた木枠により外殻が形成される外枠Ｈ１１と、その外枠Ｈ１１と略同一の外形形状に形成され外枠Ｈ１１に対して開閉可能に支持された内枠Ｈ１２と、その内枠Ｈ１２と略同一の外形形状に形成され内枠Ｈ１２に対して開閉可能に支持された正面枠Ｈ１４とを主に備えている。

【４６７９】

外枠Ｈ１１には、内枠Ｈ１２を支持するために正面視（図３４７参照）左側（矢印Ｌ方向側）の上下（矢印Ｕ－Ｄ方向）２カ所に金属製のヒンジＨ１８が取り付けられ、そのヒンジＨ１８が設けられた側を開閉の軸として内枠Ｈ１２が正面枠Ｈ１４と共に正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている。

【４６８０】

パチンコ機Ｈ１０は、外枠Ｈ１１を島設備に取り付け固定することにより遊技場に設置される。なお、パチンコ機Ｈ１０において外枠Ｈ１１は必須の構成ではなく、外枠Ｈ１１又は外枠Ｈ１１と同一の内形を有し、外枠Ｈ１１の内枠Ｈ１２支持構造（ヒンジＨ１８等）及び施錠構造を有する部材が遊技場に備え付けられた構成としても良い。

【４６８１】

外枠Ｈ１１は、上方側（矢印Ｕ方向側）に配設される上方板Ｈ１１ａと、下方側（矢印Ｄ方向側）に配設される下方板Ｈ１１ｂと、それら上方板Ｈ１１ａ及び下方板Ｈ１１ｂの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両端同士を上下方向に連結する左方板Ｈ１１ｃ及び右方板Ｈ１１ｄとを組み合わせて枠状に形成される。

【４６８２】

なお、外枠Ｈ１１は、木材で形成されるものに限られるものではなく、アルミ等の金属材料やプラスチック等の樹脂材料で形成されていても良く、それら木材、金属材料、又は、樹脂材料から形成される部材（上方板Ｈ１１ａ，下方板Ｈ１１ｂ，左方板Ｈ１１ｃ，右方板Ｈ１１ｄ）を組み合わせて形成されるものであっても良い。

【４６８３】

また、本実施形態では、外枠Ｈ１１の正面視左側（矢印Ｌ方向側）にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視右側（矢印Ｒ方向側）を正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能とされるが、外枠Ｈ１１の正面視右側にヒンジＨ１８が取り付けられ、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視左側を正面手前側へ開閉可能としても良く、又、ヒンジＨ１８を外枠Ｈ１１の正面視下側（矢印Ｄ方向側）の左右（矢印Ｌ－Ｒ

方向）両端に取り付け、外枠Ｈ１１に対して内枠Ｈ１２の正面視上側（矢印Ｕ方向側）を正面手前側へ開閉可能とするものであっても良い。

【４６８４】

内枠Ｈ１２は、外枠Ｈ１１と外形がほぼ同一の長方形状に形成される枠形成ユニットＨ１２ａと、その枠形成ユニットＨ１２ａの背面側（矢印Ｂ方向側）に回動可能に支持される裏パックユニットＨ９４とを主に備えて形成され、裏パックユニットＨ９４が正面視で左側（矢印Ｌ方向側）を回動基端側（開閉基端側）とし、右側（矢印Ｒ方向側）を回動先端側（開閉先端側）として後方へ回動可能とされている（図３５０参照）。

【４６８５】

また、内枠Ｈ１２には、枠形成ユニットＨ１２ａと裏パックユニットＨ９４とで正面側（矢印Ｆ方向側）が開放する略箱状に形成された内側に多数の釘や入賞口Ｈ６３，Ｈ６４等を有する遊技盤Ｈ１３（図３５２及び図３５３参照）が配設される。この遊技盤Ｈ１３の正面を球（遊技球）が流下することにより弾球遊技が行われる。

【４６８６】

なお、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、左側（矢印Ｌ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の左端部を支持する目的の左端支持部Ｈ１２ａ１と、右側（矢印Ｒ方向側）の内面の上下隅部に遊技盤Ｈ１３の右端部を支持する目的の盤面支持装置Ｈ１２ａ２が配設される。遊技盤Ｈ１３は、左端支持部Ｈ１２ａ１にベース板Ｈ６０の左側端部が挿入されつつ内枠Ｈ１２の背面側（矢印Ｂ方向側）に押し込まれた後、盤面支持装置Ｈ１２ａ２が操作されて盤面支持装置Ｈ１２ａ２がベース板Ｈ６０の正面と係合する（ベース板Ｈ６０の正面を支持する）ことで内枠Ｈ１２の内側に固定される。

【４６８７】

また、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａは、球を遊技盤Ｈ１３の正面領域（遊技領域）に発射する球発射ユニットＨ１１２ａ（図３５２参照）と、正面枠Ｈ１４（上下皿ユニットＨ１５）に球を送球する皿通路形成部材Ｈ１６０と（図３５２参照）を主に備えて形成される。

【４６８８】

さらに、内枠Ｈ１２の枠形成ユニットＨ１２ａには、正面枠Ｈ１４を支持するために正面視左側（矢印Ｌ方向側）の上下２カ所に金属製のヒンジＨ１９が取り付けられ、そのヒンジＨ１９が設けられた側を開閉の軸として正面枠Ｈ１４が正面手前側（矢印Ｆ方向側）へ開閉可能に支持されている（図３５１参照）。なお、内枠Ｈ１２の施錠と正面枠Ｈ１４の施錠とは、枠形成ユニットＨ１２ａに配設されるシリンダ錠Ｈ２０の鍵穴Ｈ２１に専用の鍵を差し込んで所定の操作を行うことでそれぞれ解除される。

【４６８９】

球発射ユニットＨ１１２ａは、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０を介して１球ずつ所定のタイミングで送球される球を受け入れ可能に形成され、遊技盤Ｈ１３（内レールＨ６１及び外レールＨ６２）への球の送球方向に延設される発射レールＨ１１２ａ１と、回転可能に軸支され発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転して当接可能に形成される回転体Ｈ１１２ａ２と、その回転体Ｈ１１２ａ２を回転させるための駆動モータ（図示しない）とを主に備えて形成される。

【４６９０】

球発射ユニットＨ１１２ａから遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）への球の発射（送球）は、発射レールＨ１１２ａ１上に球が送球された後、回転体Ｈ１１２ａ２を回転させて発射レールＨ１１２ａ１上に送球された球に回転体Ｈ１１２ａ２を衝突させることで行われる。

【４６９１】

なお、本実施形態では、回転する回転体Ｈ１１２ａ２により球発射ユニットＨ１１２ａから球が発射（送球）されるが、球を発射する構造は回転する部材（回転体Ｈ１１２ａ２）に限られるものではない。例えば、球の発射方向にスライド変位可能なスライド体と、そのスライド体をスライド変位させるソレノイドとを備え、ソレノイドの励磁によりスラ

イド体を変位させて球に衝突させることで球の発射（送球）が行われるように構成しても良い。

【４６９２】

また、球発射ユニットＨ１１２ａは、内枠Ｈ１２に配設されるものに限られるものでなく、パチンコ機Ｈ１０の演出装置としてベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に（遊技盤Ｈ１３に）配設することも可能である。例えば、センターフレームＨ８６やベース板Ｈ６０に開口した開口部からベース板Ｈ６０の背面側に配設される発射レールＨ１１２ａ１上に球を送球して、その球を回転体Ｈ１１２ａ２により発射して第３図柄表示装置Ｈ８１の正面側を球が通過するように構成しても良い。

【４６９３】

皿通路形成部材Ｈ１６０は、図３５２に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１と本体側下皿通路部Ｈ１６２とを有している。本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２は、背面側（矢印Ｂ方向側）の端部が内枠Ｈ１２に前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に貫通される貫通孔と連通可能となるように背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて開放され、正面側（矢印Ｆ方向側）の端部が下方（矢印Ｄ方向）へ向けて開放されるように、内部で通路の方向が９０度変化する（前後方向から上下方向に変化する）湾曲通路を形成する。この構成において、払出装置Ｈ１３３から払い出された球は内枠Ｈ１２の貫通孔を通り、皿通路形成部材Ｈ１６０の背面側の端部から皿通路形成部材Ｈ１６０に進入し、正面側の端部から排出される。

【４６９４】

なお、皿通路形成部材Ｈ１６０の下側部分には、図３５２に示すように、本体側上皿通路部Ｈ１６１及び本体側下皿通路部Ｈ１６２からの球の流出を規制するシャッタＨ１６３が設けられている。シャッタＨ１６３は、両通路の出口部分を狭め球の流出を阻止する阻止位置と、球の流出を許容する許容位置との両位置に切り替え可能に設けられており、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を閉鎖した状態とされる場合に許容位置に配置され、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４を開放した状態（図３５１に示す状態）とされる場合に阻止位置に配置される。これにより、本体側上皿通路部Ｈ１６１又は本体側下皿通路部Ｈ１６２に球が貯留されている状態で正面枠Ｈ１４を開放した場合に、その貯留球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が回避されている。

【４６９５】

正面枠Ｈ１４は、金属板によって縦長の矩形枠状に形成される本体枠Ｈ１４ｄと、その本体枠Ｈ１４ｄに配設され、その本体枠Ｈ１４ｄの上方側（矢印Ｕ方向側）の正面に配設される上側装飾ユニットＨ１４ａと、その上側装飾ユニットＨ１４ａの左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両側から下方（矢印Ｄ方向側）に向けて延設される左側装飾ユニットＨ１４ｂ及び右側装飾ユニットＨ１４ｃと、本体枠Ｈ１４ｄの下方側の正面を覆う上下皿ユニットＨ１５と、本体枠Ｈ１４ｄを介して上下皿ユニットＨ１５の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設される通路形成ユニットＨ１４０と、その通路形成ユニットＨ１４０の背面側に配設される発射位置送球ユニットＨ１７０とを主に備えて構成され、内枠Ｈ１２に回動可能に取り付けられている。

【４６９６】

また、正面枠Ｈ１４の回動基端側には、図３５４及び図３５５に示すように、前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８が設けられ、この前扉取付金具Ｈ５７，Ｈ５８（前扉取付金具Ｈ５７は円柱状部、前扉取付金具Ｈ５８は軸孔を有する金属板）が内枠Ｈ１２に係合することにより、内枠Ｈ１２に対して正面枠Ｈ１４が回動可能に支持される。

【４６９７】

詳細には、前扉取付金具Ｈ５７は、内枠Ｈ１２の上側のヒンジＨ１９の下方位置において内枠Ｈ１２の正面側端部から正面側（矢印Ｆ方向側）へ延設され先端から背面側（矢印Ｂ方向側）へ前扉取付金具Ｈ５７が内嵌可能な大きさで凹設される嵌合凹部Ｈ１２ｅ１（図３５３参照）を有する軸支板部Ｈ１２ｅに軸支される。また、前扉取付金具Ｈ５８は、内枠Ｈ１２の下側のヒンジＨ１９から上方（矢印Ｕ方向）に突設される段付き円柱形状（

直径の違う円柱が上下に連設される構成において上側の円柱の直径の方が小さい形状）の支持ピンＨ１９ａに外嵌されることで軸支される。

【４６９８】

また、正面枠Ｈ１４には、上側装飾ユニットＨ１４ａと左側装飾ユニットＨ１４ｂと右側装飾ユニットＨ１４ｃと上下皿ユニットＨ１５とにより囲まれた領域の窓部Ｈ１４ｅが形成され、その窓部Ｈ１４ｅを塞ぐように正面枠Ｈ１４（本体枠Ｈ１４ｄ）の背面側（矢印Ｂ方向側）に２枚の板ガラスを有するガラスユニットＨ１６が配設される（図３４７参照）。なお、パチンコ機Ｈ１０は、ガラスユニットＨ１６（窓部Ｈ１４ｅ）を介してパチンコ機Ｈ１０の正面側から遊技盤Ｈ１３の正面が視認可能となっている。

【４６９９】

ガラスユニットＨ１６は、図３４７及び図３５１に示すように、窓部Ｈ１４ｅより大きな外形で光透過性（透明性）を有する前後一対の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂと、これら透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを一体化する固定枠（図示せず）と、を備えている。固定枠は、樹脂材料により透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂより一回り大きな環状に形成され、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの外周縁が固定枠に接着されることでガラスユニットＨ１６は一体化された複層ガラスとされている。

【４７００】

なお、ガラスユニットＨ１６は、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂによって無色透明に形成されているが、これに限定されることはなく樹脂材料によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機Ｈ１０前方からガラスユニットＨ１６を通じて遊技領域を視認可能であれば無色透明でなく有色透明に形成されていても良い。

【４７０１】

また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂは、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態で配設しても良い。透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に所定の隙間を有した状態とする場合には、それら２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間に変位可能な変位手段を配設して、遊技盤Ｈ１３よりも前方側（矢印Ｆ方向側）で変位手段による演出を可能にしても良い。この場合の変位手段とは、例えば、紙やナイロン等の部材から形成される複数の変位部材を固定枠に形成した孔から送り出す風により吹き飛ばす演出をするものや、固定枠に変位可能に配設した変位部材を音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）により２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの対向間で変位させるものである。また、２枚の透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂを固定する固定板に発光手段を配設し、その発光手段から出射される光を前方側の透明ガラスＨ１６ａまたは背面側（矢印Ｂ方向側）の透明ガラスＨ１６ｂの一方に照射して、透明ガラスＨ１６ａ，Ｈ１６ｂの一方に照射された光を遊技者に視認させる演出をするようにしても良い。

【４７０２】

正面枠Ｈ１４（上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃ）において窓部Ｈ１４ｅの周囲には、図３４７に示すようにＬＥＤ等の発光手段を内蔵した電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が複数設けられている。これら電飾部Ｈ２９～Ｈ３３では、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯や点滅が行われる。また、窓部Ｈ１４ｅの上側（矢印Ｕ方向側）の電飾部Ｈ３０には、払出球が不足する等の所定のエラー時に点灯する発光手段と、賞球払出中に点灯する発光手段とが内蔵されている。

【４７０３】

また、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃの電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３から出射される光を非透過とする非透過性の樹脂材料から形成される。これにより、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の発光（点灯や点滅）を遊技者に注目させやすい構造となっている。

【４７０４】

なお、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３が配設される領域以外の部分は、非透過に形成されるもの

に限られず、透過性の樹脂材料から形成して電飾部Ｈ２９～Ｈ３３に発光（点灯や点滅）があった場合に正面枠Ｈ１４の全体から光を出射（透過）可能に構成しても良い。また、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の周りの領域にクロムメッキを施したＡＢＳ樹脂製のメッキ部材を配設して煌びやかさを醸し出すように構成しても良い。

【４７０５】

上側装飾ユニットＨ１４ａの左側（矢印Ｌ方向側）及び右側（矢印Ｒ方向側）には（窓部Ｈ１４ｅの右上側及び左上側には）、遊技状態に応じた効果音などが出力されるスピーカー組立体（音声出力装置Ｈ２２６（図３５６参照））を覆うスピーカーカバーＨ２７（パンチングメタルから形成される薄板部材）が設けられており、スピーカーカバーＨ２７を介してスピーカーの音をパチンコ機Ｈ１０の正面側（矢印Ｆ方向側）に放音可能に構成されている。

【４７０６】

窓部Ｈ１４ｅの下方（矢印Ｂ方向）には、図３４７に示すように、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが手前側へ膨出して配置されると共にそれら上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とが上下に並設される上下皿ユニットＨ１５が配設される。

【４７０７】

上皿Ｈ１７は、上面を開放した略箱状に形成されており、この上皿Ｈ１７に賞球や貸出球などが排出される。また、上皿Ｈ１７は、払出装置Ｈ１３３（図３４８参照）より払い出された球を一旦貯留し、一列に整列させながら球発射ユニットＨ１１２ａ（図３５２参照）側へ導く機能を有しており、底面が正面視右側（矢印Ｒ方向側）に下降傾斜して形成され、その傾斜により上皿Ｈ１７に投入された球を発射位置送球ユニットＨ１７０へと案内可能に形成される。なお、上皿Ｈ１７から発射位置送球ユニットＨ１７０に送球された球は、発射位置送球ユニットＨ１７０の動作により１球ずつ球発射ユニットＨ１１２ａへ案内される。

【４７０８】

下皿Ｈ５０は、上面を開放した略箱状に形成され、上皿Ｈ１７内にて余剰となった球を貯留する機能を有している。また、下皿Ｈ５０の背面側（矢印Ｂ方向側）側面には、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に開口され球が下皿Ｈ５０に案内される球案内開口Ｈ５３が形成される。

【４７０９】

下皿Ｈ５０の正面側（矢印Ｆ方向側）の下方（矢印Ｄ方向）部には、下皿Ｈ５０に貯留された球を下方へ排出する際に操作するための球抜きレバーＨ５２が設けられている。この球抜きレバーＨ５２は、常時、右方向（矢印Ｒ方向）に付勢されており、その付勢に抗して左方向（矢印Ｌ方向）へスライドさせることにより、下皿Ｈ５０の底面に形成された底面口が開口して、その底面口から球が自然落下して排出される。この球抜きレバーＨ５２の操作は、通常、下皿Ｈ５０の下方に下皿Ｈ５０から排出された球を受け取る箱（一般に「千両箱」と称される）を置いた状態で行われる。

【４７１０】

なお、球抜きレバーＨ５２の操作により、千両箱に球を排出するものに限らず、島設備に連通する回収口に球を排出するものであっても良い。また、上皿Ｈ１７と下皿Ｈ５０とに分けて複数箇所に球を貯留する部位を設ける必要はなく、下皿Ｈ５０を廃止して上皿Ｈ１７のみとした１つの貯留部のみを有する構成としても良い。

【４７１１】

上皿Ｈ１７（球の貯留領域）の手前側（矢印Ｆ方向側）には、遊技者らにより手動操作される操作ユニットＨ１８０が設けられている。操作ユニットＨ１８０は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面等にて遊技者の操作に対応した演出が行われる場合に使用される操作装置である。

【４７１２】

この操作ユニットＨ１８０には、上面側にボタン部材Ｈ１８１が配設される。ボタン部材Ｈ１８１は、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に延設される軸を中心に下方側に向けて押圧

操作可能とされ、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１（図３５２参照）で表示される演出のステージを変更したり、スーパーリーチの演出内容を変更したりする場合などに、遊技者により操作される。

【４７１３】

なお、操作ユニットＨ１８０は、上皿Ｈ１７以外に下皿Ｈ５０周辺等の別の部位に設けられても良いし、複数箇所に設けられても良く、また、操作方法として押しボタン式のスイッチであっても良く、タッチセンサ、非接触式のセンサ等の別の操作方法によって情報入力可能な構成としても良い。

【４７１４】

操作ユニットＨ１８０の右側には、上下皿ユニットＨ１５の上面側に貸球操作部Ｈ４０（図３５４参照）と機能調整操作部Ｈ１９０と、球排出レバーＨ５４とが配設されている。貸球操作部Ｈ４０には、度数表示部Ｈ４１と、球貸しボタンＨ４２と、返却ボタンＨ４３とが設けられている。パチンコ機Ｈ１０の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）（図示せず）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部Ｈ４０が操作されると、その操作に応じて球の貸出が行われる。具体的には、度数表示部Ｈ４１はカード等の残額情報が表示される領域であり、内蔵されたＬＥＤが点灯して残額情報として残額が数字で表示される。

【４７１５】

球貸しボタンＨ４２は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿Ｈ１７に供給される。返却ボタンＨ４３は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿Ｈ１７に球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部Ｈ４０が不要となるが、この場合には、貸球操作部Ｈ４０の設置部分に飾りシール等を付加して部品構成は共通のものとしても良い。カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との共通化を図ることができる。

【４７１６】

機能調整操作部Ｈ１９０は、決定ボタンＨ１９１と、その決定ボタンＨ１９１を中心とする十字状の４方向外側の位置に配設される上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５と備える。

【４７１７】

機能調整操作部Ｈ１９０は、上側装飾ユニットＨ１４ａに配設されるスピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面の明るさ、上側装飾ユニットＨ１４ａ，左側装飾ユニットＨ１４ｂ，右側装飾ユニットＨ１４ｃに配設される電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさなどを変更するための操作部である。遊技者は、決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５を操作することで、自身（遊技者）の好みに合うように音量や明るさを変更可能とされる。

【４７１８】

また、音量や明るさを変更する際には、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部に音量や明るさの調整度合いが数値やボリューム等で表示されるようになっている。これにより、遊技者が別のパチンコ機Ｈ１０を遊技し始める場合に音量や明るさの調整を簡易に行うことができる。

【４７１９】

なお、機能調整操作部Ｈ１９０による変更は、音量や明るさに限られるものではなく、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される演出等を変更可能とするものであっても良い。また、音量や明るさの調整度合いを第３図柄表示装置Ｈ８１に表示するものに限られるものではなく、例えば、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示しなくても操作と同時に変更（調整）後の音や表示をして調整させるものでも良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に調整度合いを表示するものであっても良い。

【４７２０】

球排出レバーＨ５４は、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に送球する際に遊技者が操作するレバーであり、図示しない付勢手段（バネ）により上方側（矢印Ｕ方向側）に付勢された状態で配設される。なお、球排出レバーＨ５４は、操作される（下方側（矢印Ｄ方向側）に押し込まれる）ことにより上皿Ｈ１７から発射球送球ユニットＨ１７０に連通される通路を上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０（ファール球通路Ｈ１４５）に連通する状態に切替可能に構成される。これにより、上皿Ｈ１７に貯留された球を下皿Ｈ５０に排出することができる。

【４７２１】

下皿Ｈ５０の右側（矢印Ｒ方向側）には、遊技者が遊技時に操作する操作ハンドルＨ５１が配設される。操作ハンドルＨ５１の内部には、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動を許可するためのタッチセンサＨ５１ａと、押下操作している期間中には球の発射を停止する発射停止スイッチＨ５１ｂと、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）を電気抵抗の変化により検出する可変抵抗器（図示せず）などが内蔵されている。操作ハンドルＨ５１が遊技者によって右回りに回動操作されると、タッチセンサＨ５１ａがオンされると共に可変抵抗器の抵抗値が回動操作量に対応して変化し、その可変抵抗器の抵抗値に対応した強さ（発射強度）で球が発射され、これにより遊技者の操作に対応した飛び量で遊技盤Ｈ１３の正面へ球が打ち込まれる。また、操作ハンドルＨ５１が遊技者により操作されていない状態においては、タッチセンサＨ５１ａおよび発射停止スイッチＨ５１ｂがオフとなっている。

【４７２２】

通路形成ユニットＨ１４０は、樹脂材料により成形されており、上皿Ｈ１７に通じる前扉側上皿通路部Ｈ１４１と、下皿Ｈ５０に通じる前扉側下皿通路部Ｈ１４２と、ファール球通路部Ｈ１４５と、を有している。

【４７２３】

通路形成ユニットＨ１４０の上側隅部（正面枠Ｈ１４の回動基端側の隅部）には後方（矢印Ｂ方向）に突出し上方に開放された払出球受口部Ｈ１４３が形成されており、その払出球受口部Ｈ１４３が仕切壁Ｈ１４４によって左右に仕切られることで前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口と前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口とがそれぞれ形成されている（図３５４参照）。

【４７２４】

なお、前扉側上皿通路部Ｈ１４１の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側上皿通路部Ｈ１６１（図３５２参照）が連通されており、前扉側下皿通路部Ｈ１４２の通路入口には、内枠Ｈ１２の本体側下皿通路部Ｈ１６２（図３５２参照）が連通される。これにより、払出装置Ｈ１３３から送球される球は、上皿Ｈ１７又は下皿Ｈ５０に送球されることとなる。

【４７２５】

ファール球通路部Ｈ１４５（図３５４参照）は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球のうち遊技領域まで至らなかった球をファール球として下皿Ｈ５０に排出する通路を形成する部位である。

【４７２６】

ファール球通路部Ｈ１４５には、図３５５に示すように、上方側（矢印Ｕ方向側）が開放したファール球受口部Ｈ１４６が設けられる。このファール球受口部Ｈ１４６に受け入れられたファール球は、ファール球通路部Ｈ１４５（図３５４参照）の内部通路を流下した後で、下皿Ｈ５０に排出される。なお、ファール球通路部Ｈ１４５は、下皿Ｈ５０でなく、上皿Ｈ１７に接続され、ファール球が上皿Ｈ１７に排出される構成としても良い。

【４７２７】

また、ファール球通路部Ｈ１４５は、遊技者が球排出レバーＨ５４を操作することにより上皿Ｈ１７から下皿Ｈ５０に流下する未発射球が案内される通路である球抜き通路（図示しない）と合流するように形成される。

【４７２８】

発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７に貯留される球を１球ずつ球発射ユニッ

トＨ１１２ａに送球するためのユニットである。発射位置送球ユニットＨ１７０は、上皿Ｈ１７の送球経路の開口部に連なる正面側開口Ｈ１７１と、その正面側開口Ｈ１７１から流入した球を背面側から排出可能な背面側開口Ｈ１７２と、それら正面側開口Ｈ１７１から背面側開口Ｈ１７２までを通過する通路上に変位可能に配設される切替手段（図示しない）と、その切替手段を駆動させるソレノイド（図示しない）とを主に備えて形成される。

【４７２９】

発射位置送球ユニットＨ１７０の切替手段は、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが可能な位置と、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置とに変位可能に構成されており、上皿Ｈ１７から正面側開口Ｈ１７１に球を流入させることが不可能な位置に変位された場合に発射位置送球ユニットＨ１７０の通路上にある球を背面側開口Ｈ１７２から球発射ユニットＨ１１２ａ（発射レールＨ１１２ａ１）に流入可能に形成される。これにより、切替手段の位置の切り替え（１往復の変位）に伴って１球ずつ球を背面側開口Ｈ１７２から排出することが可能となっている。

【４７３０】

なお、背面側開口Ｈ１７２は、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１の上方（矢印Ｕ方向）の正面側（矢印Ｆ方向側）に位置する（図３５２参照）。従って、球発射ユニットＨ１１２ａの発射レールＨ１１２ａ１に発射位置送球ユニットＨ１７０から１球ずつ球が送球されることとなる。

【４７３１】

また、図３５２に示すように、背面側開口Ｈ１７２は、発射レールＨ１１２ａ１の球の送球方向における発射レールＨ１１２ａ１の両端部の間に形成される。従って、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１上に送球される球は、発射レールＨ１１２ａ１上を左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）の両方向に転動可能となるが、発射レールＨ１１２ａ１は一方側（回転体Ｈ１１２ａ２から離れる側）が上方（矢印Ｕ方向）に向かって傾斜した状態で配設されるので、背面側開口Ｈ１７２から発射レールＨ１１２ａ１に送球された球（回転体Ｈ１１２ａ２により発射前の球）が回転体Ｈ１１２ａ２から離れる方向に転動することが抑制される。

【４７３２】

図３５２に示すように、遊技盤Ｈ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｈ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車（図示せず）の他、レール部材Ｈ６１，Ｈ６２、一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変入賞装置Ｈ６５、スルーゲートＨ６７、可変表示装置ユニットＨ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２の裏面側に取り付けられる。

【４７３３】

ベース板Ｈ６０は光透過性の樹脂材料からなり、その正面側（矢印Ｆ方向側）からベース板Ｈ６０の背面側（矢印Ｂ方向側）に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能に形成される。一般入賞口Ｈ６３、第１入賞口Ｈ６４、第２入賞口Ｈ６４０、可変表示装置ユニットＨ８０は、ルータ加工によってベース板Ｈ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｈ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。

【４７３４】

なお、ベース板Ｈ６０は、光透過性の樹脂材料から形成されるものに限られるものではなく、薄い板材を張り合わせた木材から形成されるものであっても良いし、非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても良い。なお、これらの場合、装飾がされたシール等をベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）の全域に貼付してベース板Ｈ６０の装飾性を確保することが好ましい。

【４７３５】

遊技盤Ｈ１３の正面中央部分は、正面枠Ｈ１４の窓部Ｈ１４ｅ（図３４７参照）の一部を通じて内枠Ｈ１２の正面側（矢印Ｆ方向側）から視認することができる。以下に、主に図３５２を参照して、遊技盤Ｈ１３の構成について説明する。

【４７３６】
遊技盤Ｈ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＨ６２が植立され、その外レールＨ６２の内側位置には外レールＨ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＨ６１が植立される。この内レールＨ６１と外レールＨ６２とにより遊技盤Ｈ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｈ１３とガラスユニットＨ１６（図３４７参照）とにより前後（矢印Ｆ－Ｂ方向）が囲まれることにより、遊技盤Ｈ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｈ１３の正面であって２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｈ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。なお、２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２、金属板である必要なく、樹脂材料から帯状に形成されるものであっても良い。
【４７３７】
２本のレール部材Ｈ６１，Ｈ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａから発射された球を遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）へ案内するために設けられたものである。内レールＨ６１の先端部分（図３５２の左上部）には戻り球防止部材Ｈ６８が取り付けられる。
【４７３８】
戻り球防止部材Ｈ６８は、内レールＨ６１側から外レールＨ６２側に延設される樹脂製の板部材から形成され、内レールＨ６１側の一端側を軸に他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転可能とされる。また、戻り球防止部材Ｈ６８は、一端側に錘を備え、その錘により他端側が外レールＨ６２に近づく方向に付勢される。
【４７３９】
これにより、遊技盤Ｈ１３の上方側（矢印Ｕ方向側）に案内される球の勢いで戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２から離間する方向に回転させることができると共に、戻り球防止部材Ｈ６８を超える位置（遊技盤Ｈ１３の上方側）に球が案内された際に戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２に近づく方向に回転させることができ、一旦、遊技盤Ｈ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。
【４７４０】
なお、戻り球防止部材Ｈ６８は、樹脂材料から形成される必要はなく、金属材料から形成されていても良い。また、錘以外に磁石などの磁力やねじりバネなどの付勢力によって戻り球防止部材Ｈ６８の他端側を外レールＨ６２側に付勢する構成としても良い。
【４７４１】
外レールＨ６２の先端部（図３５２の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＨ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＨ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。
【４７４２】
遊技領域の正面視左側下部（図３５２の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、主制御装置Ｈ１１０（図３５６参照）で行われる各制御に応じた表示がなされるものであり、主にパチンコ機Ｈ１０の遊技状態の表示が行われる。本実施形態では、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞したか、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞したかに応じて使い分けられるように構成されている。具体的には、球が、第１入賞口Ｈ６４へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａが作動し、一方で、球が、第２入賞口Ｈ６４０へ入賞した場合には、第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂが作動するように構成されている。
【４７４３】
また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂは、ＬＥＤにより、パチンコ機Ｈ１０が確変中か時短中か通常中であるかを点灯状態により示したり、変動中であるか否かを点灯状態により示したり、停止図柄が確変大当たりに対応した図柄か普通大当たりに対応した図柄か外れ図柄であるかを点灯状態により示したり、保留球数を点灯状態により示すと共に

、７セグメント表示装置により、大当たり中のラウンド数やエラー表示を行う。なお、複数のＬＥＤは、それぞれのＬＥＤの発光色（例えば、赤、緑、青）が異なるよう構成され、その発光色の組み合わせにより、少ないＬＥＤでパチンコ機Ｈ１０の各種遊技状態を示唆することができる。

【４７４４】

尚、本パチンコ機Ｈ１０では、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｈ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ確変大当たり、４Ｒ確変大当たり、１５Ｒ通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【４７４５】

ここで、「１５Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことであり、「４Ｒ確変大当たり」とは、最大ラウンド数が４ラウンドの大当たりの後に高確率状態へ移行する確変大当たりのことである。また、「１５Ｒ通常大当たり」は、最大ラウンド数が１５ラウンドの大当たりの後に、低確率状態へ移行すると共に、所定の変動回数の間（例えば、１００変動回数）は時短状態となる大当たりのことである。

【４７４６】

なお、大当たりのラウンド数は、１５Ｒと４Ｒに限られるものではなく、パチンコ機Ｈ１０の機種により他のラウンド数に変更しても良く、又、２種以上のラウンド数を有するものであっても良い。また、時短状態における所定の変動回数は、１００変動回数に限られるものではなく、例えば、１変動回数や１０００変動回数に設定しても良い。

【４７４７】

また、「高確率状態」とは、大当たり終了後に付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確率変動中（確変中）の時をいい、換言すれば、特別遊技状態へ移行し易い遊技の状態のことである。本実施形態における高確率状態（確変中）は、後述する第２図柄の当たり確率がアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態を含む。「低確率状態」とは、確変中でない時をいい、大当たり確率が通常の状態、即ち、確変の時より大当たり確率が低い状態をいう。また、「低確率状態」のうちの時短状態（時短中）とは、大当たり確率が通常の状態であると共に、大当たり確率がそのままで第２図柄の当たり確率のみがアップして第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い遊技の状態のことをいう。一方、パチンコ機Ｈ１０が通常中とは、確変中でも時短中でもない遊技の状態（大当たり確率も第２図柄の当たり確率もアップしていない状態）である。

【４７４８】

確変中や時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｈ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、確変中や時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【４７４９】

なお、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間を変更するのではなく、または、その開放時間を変更することに加えて、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数を通常中よりも増やす変更を行うものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２図柄の当たり確率は変更せず、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間および１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａが開放する回数の少なくとも一方を変更するものとしても良い。また、確変中や時短中において、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間

や、１回の当たりで電動役物Ｈ６４０ａを開放する回数は変更せず、第２図柄の当たり確率だけを、通常中と比してアップするよう変更するものであっても良い。

【４７５０】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｈ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分には、可変表示装置ユニットＨ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＨ８０には、第１入賞口Ｈ６４及び第２入賞口Ｈ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｈ８１と、スルーゲートＨ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、可変表示装置ユニットＨ８０には、第３図柄表示装置Ｈ８１の外周を囲むようにして、センターフレームＨ８６が配設されている。

【４７５１】

なお、センターフレームＨ８６は、遊技領域を流下する球がベース板Ｈ６０の中央開口を介して第３図柄表示装置Ｈ８１側に流下することを防止するための部材であり、ベース板Ｈ６０の正面側（矢印Ｆ方向側）に張り出して形成される。また、センターフレームＨ８６の一部には、遊技領域を流下する球を受け入れると共に第３図柄表示装置Ｈ８１の周囲を通過させて第１入賞口Ｈ６４側から排出するワープ通路（図示せず）が一部に形成される。本実施形態では、ベース板Ｈ６０よりも正面側を球が通過するようにワープ通路が構成されるが、ベース板Ｈ６０よりも背面側を球が通過するようにワープ通路を形成することも可能である。

【４７５２】

第３図柄表示装置Ｈ８１は９インチサイズの大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図３５６参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。なお、第３図柄表示装置Ｈ８１は、９インチ以外のサイズで構成されていても、２枚以上の複数の液晶ディスプレイを並設して構成されていても良い。

【４７５３】

第３図柄表示装置Ｈ８１の各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｈ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図３５６参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｈ８１を構成するようにしても良い。

【４７５４】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＨ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｈ１０では、球がスルーゲートＨ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。なお、第２図柄表示装置は、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて図柄を表示されるものであって良いし、第３図柄表示装置Ｈ８１と別の表示装置とのどちらにも図柄を表示させるものであっても良く、本実施形態では、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示される。

【４７５５】

パチンコ機Ｈ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｈ６４０に付随された電動役物Ｈ６

４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。
【４７５６】
第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、確変中または時短中の方が短くなるように設定される。これにより、確変中および時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、確変中および時短中は、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。
【４７５７】
なお、確変中または時短中において、当たり確率を高める、１回に当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、確変中または時短中に第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としても良い。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、確変中または時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしても良いし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｈ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしても良い。
【４７５８】
スルーゲートＨ６７は、可変表示装置ユニットＨ８０の左右の領域において遊技盤Ｈ１３に組み付けられ、遊技盤Ｈ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＨ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。
【４７５９】
球のスルーゲートＨ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。なお、本実施形態では、第２図柄保留ランプは、第３図柄表示装置Ｈ８１の一部を用いて表示されるように構成されるが、第３図柄表示装置Ｈ８１とは別の表示装置に点灯表示するものであっても良い。例えば、スルーゲートＨ６７への球の通過に伴って点灯する４つのＬＥＤを第３図柄表示装置Ｈ８１の下方に配設して点灯表示するものであっても良い。
【４７６０】
また、スルーゲートＨ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け数は２つに限定されるものではなく、例えば１つであっても良い。また、スルーゲートＨ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＨ８０の左右に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示されるので、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしても良い。
【４７６１】
可変表示装置ユニットＨ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｈ６４が配設されている。この第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図３５６参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。
【４７６２】
一方、第１入賞口Ｈ６４の正面視下方には、球が入賞し得る第２入賞口Ｈ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｈ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図３５６参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応

じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。
【４７６３】
また、第１入賞口Ｈ６４および第２入賞口Ｈ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成しても良い。
【４７６４】
第２入賞口Ｈ６４０には電動役物Ｈ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｈ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｈ６４０ａが閉鎖状態（縮小状態）となって、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＨ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となり、球が第２入賞口Ｈ６４０へ入賞しやすい状態となる。
【４７６５】
なお、本実施形態では、第２入賞口Ｈ６４０の左右（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設され、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となった場合に第２入賞口Ｈ６４０の左右両側から球が第２入賞口Ｈ６４０に入賞可能に構成されるが、左右方向の一方側の流路を塞ぐ壁を形成して、他方側からのみ第２入賞口Ｈ６４０に球が入賞可能となるように構成しても良い。この場合、第２入賞口Ｈ６４０の他方側にのみ開閉する羽部材（電動役物Ｈ６４０ａ）が配設される。
【４７６６】
また、電動役物Ｈ６４０ａは、回転する羽部材に限られるものではなく、第２入賞口Ｈ６４０を開放する位置と閉鎖する位置とに移動するものであればスライド変位するものであっても良い。例えば、電動役物Ｈ６４０ａは、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）にスライド変位するものや、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向側）にスライド変位するものであっても良い。
【４７６７】
上述した通り、確変中および時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｈ６４０ａが開放状態（拡大状態）となる回数が増える。更に、確変中および時短中は、電動役物Ｈ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。
【４７６８】
本実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０は、遊技盤Ｈ１３の構成が左右対称とされるため、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「右打ち」）、第１入賞口Ｈ６４を狙うことも、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射して（所謂「左打ち」）第２入賞口Ｈ６４０を狙うこともできる。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｈ１０は、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることを不要にできる。よって、球の打ち方を変化させる煩わしさを解消することができる。
【４７６９】
なお、低確率状態であっても高確率状態でも大当たりとなる確率が変わらない（低確率状態の大当たり確率と高確率状態の大当たり確率とが同じ確率である）構成としても良い。この場合には、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ確変大

当たりとなる確率が、第２入賞口Ｈ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｈ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されるように構成すると共に、「左打ち」側の流路に第１入賞口Ｈ６４を配設し、「右打ち」側の流路に第２入賞口Ｈ６４０を配設する構成（遊技盤Ｈ１３の構成を左右非対称）とすることが好ましい。

【４７７０】

この構成によれば、通常中においては、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物が閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しづらいので、電動役物のない第１入賞口Ｈ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の左方（矢印Ｌ方向）を球が通過するように球を発射し（「左打ち」）、第１入賞口Ｈ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【４７７１】

一方、確変中や時短中は、スルーゲートＨ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｈ６４０に付随する電動役物Ｈ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｈ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｈ６４０へ向けて、可変表示装置ユニットＨ８０の右方（矢印Ｒ方向）を球が通過するように球を発射し（「右打ち」）、スルーゲートＨ６７を通過させて電動役物を開放状態にすると共に、第２入賞口Ｈ６４０への入賞によって１５Ｒ確変大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【４７７２】

従って、パチンコ機Ｈ１０の遊技状態（確変中であるか、時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えさせることができ、遊技者の興趣を維持できる。

【４７７３】

第１入賞口Ｈ６４の下方には可変入賞装置Ｈ６５（図３５２参照）が配設されており、その略中央部分に特定入賞口Ｈ６５ａが設けられている。パチンコ機Ｈ１０においては、第１入賞口Ｈ６４又は第２入賞口Ｈ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている特定入賞口Ｈ６５ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【４７７４】

この特定入賞口Ｈ６５ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放される。この特定入賞口Ｈ６５ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【４７７５】

なお、上記した形態に特別遊技状態は限定されるものではない。特定入賞口Ｈ６５ａとは別に開閉される大開放口を遊技領域に設け、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて大当たりに対応したＬＥＤが点灯した場合に、特定入賞口Ｈ６５ａが所定時間開放され、その特定入賞口Ｈ６５ａの開放中に、球が特定入賞口Ｈ６５ａ内へ入賞することを契機として特定入賞口Ｈ６５ａとは別に設けられた大開放口が所定時間、所定回数開放される遊技状態を特別遊技状態として形成するようにしても良い。また、特定入賞口Ｈ６５ａは１つに限るものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｈ６４の下方右側や、第１入賞口Ｈ６４の下方左側に限らず、例えば、可変表示装置ユニットＨ８０の左方でも良い。

【４７７６】

遊技盤Ｈ１３の下側における右隅部には、証紙や識別ラベル等を貼着するための貼着スペースＫ１が設けられ、貼着スペースＫ１に貼られた証紙等は、正面枠Ｈ１４のガラスユ

ニットＨ１６を介して視認することができる。
【４７７７】
遊技盤Ｈ１３には、アウト口Ｈ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０にも入賞しなかった球は、アウト口Ｈ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。アウト口Ｈ７１は、特定入賞口Ｈ６５ａの下方（矢印Ｄ方向側）に配設される。
【４７７８】
また、遊技盤Ｈ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車（図示しない）等の各種部材（役物）とが配設されている。さらに、第３図柄表示装置Ｈ８１を取り囲む態様でベース板Ｈ６０の中央開口部に配設されるセンターフレームＨ８６の一部は、上方側（矢印Ｕ方向側）の遊技領域まで背面側（矢印Ｂ方向側）の側面が延設され、その延設された領域に正面側（矢印Ｆ方向側）に向かって突出する突出部を複数備える。遊技盤Ｈ１３の遊技領域を流下する球は、多数の釘や、センターフレームＨ８６の突出部、風車等に衝突しつつ流下されることで、球の落下方向が適宜分散される。
【４７７９】
なお、本実施形態では、センターフレームＨ８６の一部が延設される方向が上方側（矢印Ｕ方向）に設定されているが、右側（矢印Ｒ方向側）や左側（矢印Ｌ方向側）に延設されていても良く、その延設部分に突出部だけでなくスルーゲートＨ６７や各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０を配置する構成としても良い。また、センターフレームＨ８６は、延設部分や突出部を備えない構成としても良い。
【４７８０】
風車は、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の軸を中心に回転可能に形成される。また、風車は、正面視において回転軸を中心とする円形に形成されベース板Ｈ６０の正面から１球分の距離を隔てた位置に配設される円盤部材と、その円盤部材の一部からベース板Ｈ６０側（矢印Ｂ方向側）に向かって突出され風車の回転方向に沿って所定の角度（本実施形態では１２０度）で分散配置される複数（本実施形態では３枚）の球当接部とを備えて形成されており、遊技盤Ｈ１３を流下する球が球当接部に当接した衝撃で回転しつつ当接した球を複数（２以上）の方向に案内可能に形成される。
【４７８１】
また、風車は、全体が光透過性の樹脂材料から形成される。これにより、球当接部に当接した球の流下方向を遊技者に視認させやすくできると共に、風車の回転方向を遊技者に認識させにくくできる。
【４７８２】
なお、遊技盤Ｈ１３は、ベース板Ｈ６０に必ずしも風車を備えている必要はなく風車を備えない構成としても良い。また、センターフレームＨ８６のワープ通路（図示しない）や、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ入球した球が通過する通路（図示しない）の通路途中に風車を配設して、風車により球の通路を変更するように構成することも可能である。さらに、風車は、一部が非透過性の樹脂材料から形成されるものであっても、全部が非透過性のアルミ等の金属製の材料から形成されるものであっても良く、球が当接した際に球を複数の方向に案内可能であれば形状、色、材質は何でも良い。例えば、風車は、１球ずつ交互に異なる方向に球を振り分け可能に構成されていても良い。
【４７８３】
図３４８に示すように、パチンコ機Ｈ１０の背面側には、制御基板ユニットＨ９０，Ｈ９１と、裏パックユニットＨ９４とが主に備えられている。制御基板ユニットＨ９０は、主基板（主制御装置Ｈ１１０）と音声ランプ制御基板（音声ランプ制御装置Ｈ１１３）と表示制御基板（表示制御装置Ｈ１１４）とが搭載されてユニット化されている。制御基板ユニットＨ９１は、払出制御基板（払出制御装置Ｈ１１１）と発射制御基板（発射制御装置Ｈ１１２）と電源基板（電源装置Ｈ１１５）とカードユニット接続基板Ｈ１１６とが搭載されてユニット化されている。

【４７８４】
裏パックユニットＨ９４は、保護カバー部を形成する裏パックＨ９２と払出ユニットＨ９３とがユニット化されている。また、各制御基板には、各制御を司る１チップマイコンとしてのＭＰＵ、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロックパルス発生回路等が、必要に応じて搭載されている。
【４７８５】
なお、主制御装置Ｈ１１０、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び表示制御装置Ｈ１１４、払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２、電源装置Ｈ１１５、カードユニット接続基板Ｈ１１６は、それぞれ基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４に収納されている。基板ボックスＨ１００～Ｈ１０４は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えており、そのボックスベースとボックスカバーとが互いに連結されて、各制御装置や各基板が収納される。
【４７８６】
また、基板ボックスＨ１００（主制御装置Ｈ１１０）及び基板ボックスＨ１０２（払出制御装置Ｈ１１１及び発射制御装置Ｈ１１２）は、ボックスベースとボックスカバーとを封印ユニット（図示せず）によって開封不能に連結（かしめ構造による連結）している。また、ボックスベースとボックスカバーとの連結部には、ボックスベースとボックスカバーとに亘って封印シール（図示せず）が貼着されている。この封印シールは、脆性な素材で構成されており、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を開封するために封印シールを剥がそうとしたり、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２を無理に開封しようとすると、ボックスベース側とボックスカバー側とに切断される。よって、封印ユニット又は封印シールを確認することで、基板ボックスＨ１００，Ｈ１０２が開封されたかどうかを知ることができる。
【４７８７】
払出ユニットＨ９３は、裏パックユニットＨ９４の最上部に位置して上方に開口したタンクＨ１３０と、タンクＨ１３０の下方に連結され下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレールＨ１３１と、タンクレールＨ１３１の下流側に縦向きに連結されるケースレールＨ１３２と、ケースレールＨ１３２の最下流部に設けられ、払出モータＨ２１６（図３５６参照）の所定の電気的構成により球の払出を行う払出装置Ｈ１３３とを備えている。タンクＨ１３０には、遊技ホールの島設備から供給される球が逐次補給され、払出装置Ｈ１３３により必要個数の球の払い出しが適宜行われる。タンクレールＨ１３１には、当該タンクレールＨ１３１に振動を付加するためのバイブレータＨ１３４が取り付けられており、このバイブレータＨ１３４の振動によりタンクレールＨ１３１内に球が詰まることが抑制される。なお、バイブレータＨ１３４は、タンクレールＨ１３１に取り付けられるだけでなく、他のレール部分（通路）に取り付けることも可能である。例えば、上皿Ｈ１７や下皿Ｈ５０に球を送球する球送通路（皿通路形成部材Ｈ１６０）や、上皿Ｈ１７から球発射装置Ｈ１１７ａに球を送球する送球通路（発射位置送球ユニットＨ１７０）に配設しても良い。
【４７８８】
また、払出制御装置Ｈ１１１には状態復帰スイッチＨ１２０が設けられ、発射制御装置Ｈ１１２には可変抵抗器の操作つまみＨ１２１が設けられ、電源装置Ｈ１１５にはＲＡＭ消去スイッチＨ１２２が設けられている。状態復帰スイッチＨ１２０は、例えば、払出モータＨ２１６（図３５６参照）部の球詰まり等、払出エラーの発生時に球詰まりを解消（正常状態への復帰）するために操作される。操作つまみＨ１２１は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）から放音される音の大きさを店舗側で調整するために操作される。ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２は、パチンコ機Ｈ１０を初期状態に戻したい場合に電源投入時に操作される。
【４７８９】
次に、図３５６を参照して、本パチンコ機Ｈ１０の電気的構成について説明する。図３

５６は、パチンコ機Ｈ１０の電気的構成を示すブロック図である。
【４７９０】
主制御装置Ｈ１１０には、演算装置である１チップマイコンとしてのＭＰＵ（マイクロプロセッサー）Ｈ２０１が搭載されている。ＭＰＵＨ２０１には、該ＭＰＵＨ２０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ（半導体メモリ）Ｈ２０２と、そのＲＯＭＨ２０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリであるＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）Ｈ２０３と、そのほか、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。主制御装置Ｈ１１０では、ＭＰＵＨ２０１によって、大当たり抽選や第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｈ８１における表示の設定、第２図柄表示装置における表示結果の抽選といったパチンコ機Ｈ１０の主要な処理を実行する。
【４７９１】
なお、払出制御装置Ｈ１１１や音声ランプ制御装置Ｈ１１３などのサブ制御装置に対して動作を指示するために、主制御装置Ｈ１１０から該サブ制御装置へ各種のコマンドがデータ送受信回路によって送信されるが、かかるコマンドは、主制御装置Ｈ１１０からサブ制御装置へ一方向にのみ送信される。
【４７９２】
ＲＡＭＨ２０３は、各種エリア、カウンタ、フラグのほか、ＭＰＵＨ２０１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。なお、ＲＡＭＨ２０３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２０３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。
【４７９３】
停電などの発生により電源が遮断されると、その電源遮断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタの値がＲＡＭＨ２０３に記憶される。一方、電源投入時（停電解消による電源投入を含む。以下同様）には、ＲＡＭＨ２０３に記憶される情報に基づいて、パチンコ機Ｈ１０の状態が電源遮断前の状態に復帰される。ＲＡＭＨ２０３への書き込みはメイン処理（図示せず）によって電源遮断時に実行され、ＲＡＭＨ２０３に書き込まれた各値の復帰は電源投入時の立ち上げ処理（図示せず）において実行される。なお、ＭＰＵＨ２０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源遮断時に、停電監視回路Ｈ２５２からの停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２０１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。
【４７９４】
主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２０４を介して入出力ポートＨ２０５が接続されている。入出力ポートＨ２０５には、払出制御装置Ｈ１１１、音声ランプ制御装置Ｈ１１３、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ、第２図柄表示装置、第２図柄保留ランプ、特定入賞口Ｈ６５ａの開閉板の下辺を軸として正面側に開閉駆動するための大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドなどからなるソレノイドＨ２０９が接続され、ＭＰＵＨ２０１は、入出力ポートＨ２０５を介してこれらに対し各種コマンドや制御信号を送信する。
【４７９５】
なお、ソレノイドＨ２０９は、大開放口ソレノイドや電動役物を駆動するためのソレノイドだけでなく、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源（駆動モータ）や、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、上皿Ｈ１７へ球を送球するための払出装置Ｈ１３３を駆動する駆動モータ（図示しない）等を含む構成としても良い。
【４７９６】
入出力ポートＨ２０５には、図示しないスイッチ群およびスルーゲートＨ６７を通過し

たことを検出するセンサ（スルーゲートＨ６７）、各入賞口Ｈ６３，Ｈ６４，Ｈ６５ａ，Ｈ６４０へ球が入賞したことを検知する入賞検出センサ（図示しない）、パチンコ機Ｈ１０に振動が入力されたことを検出する振動検出センサ（図示しない）、遊技盤Ｈ１３の遊技領域に磁石等が近づけられたことを検出する磁力検出センサ等のセンサ群などからなる各種スイッチＨ２０８、電源装置Ｈ１１５に設けられた後述のＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３が接続され、ＭＰＵＨ２０１は各種スイッチＨ２０８から出力される信号や、ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３より出力されるＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２に基づいて各種処理を実行する。

【４７９７】

なお、各種スイッチＨ２０８は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における枠ボタンＨ２２（操作ユニットＨ１８０の操作ボタン部材Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）を含む構成としても良い。

【４７９８】

払出制御装置Ｈ１１１は、払出モータＨ２１６を駆動させて賞球や貸出球の払出制御を行うものである。演算装置であるＭＰＵＨ２１１は、そのＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２１２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２１３とを有している。

【４７９９】

払出制御装置Ｈ１１１のＲＡＭＨ２１３は、主制御装置Ｈ１１０のＲＡＭＨ２０３と同様に、ＭＰＵＨ２１１の内部レジスタの内容やＭＰＵＨ２１１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種のフラグおよびカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）とを有している。ＲＡＭＨ２１３は、パチンコ機Ｈ１０の電源の遮断後においても電源装置Ｈ１１５からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、ＲＡＭＨ２１３に記憶されるデータは、すべてバックアップされる。なお、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１と同様、ＭＰＵＨ２１１のＮＭＩ端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路Ｈ２５２から停電信号ＨＳＧ１が入力されるように構成されており、その停電信号ＨＳＧ１がＭＰＵＨ２１１へ入力されると、停電時処理としてのＮＭＩ割込処理（図示せず）が即座に実行される。

【４８００】

払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２１４を介して入出力ポートＨ２１５が接続されている。入出力ポートＨ２１５には、主制御装置Ｈ１１０や払出モータＨ２１６、発射制御装置Ｈ１１２などがそれぞれ接続されている。また、図示はしないが、払出制御装置Ｈ１１１には、払い出された賞球を検出するための賞球検出スイッチが接続されている。なお、該賞球検出スイッチは、払出制御装置Ｈ１１１に接続されるが、主制御装置Ｈ１１０には接続されていない。

【４８０１】

発射制御装置Ｈ１１２は、主制御装置Ｈ１１０により球の発射の指示がなされた場合に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量に応じた球の打ち出し強さとなるよう球発射ユニットＨ１１２ａを制御するものである。

【４８０２】

球発射ユニットＨ１１２ａの回転体Ｈ１１２ａ２は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、遊技者が操作ハンドルＨ５１に触れていることをタッチセンサＨ５１ａにより検出し、球の発射を停止させるための発射停止スイッチＨ５１ｂがオフ（操作されていないこと）を条件に、操作ハンドルＨ５１の回動操作量（回動位置）に対応して駆動モータから駆動力が伝達され、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた速度で回転体Ｈ１１２ａ２が回転される。これにより、操作ハンドルＨ５１の操作量に応じた強さで球発射ユニットＨ１１２ａから内レールＨ６１及び外レールＨ６２の対向間に球が発射される。

【４８０３】
音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、音声出力装置（図示しないスピーカーなど）Ｈ２２６における音声の出力、ランプ表示装置（電飾部Ｈ２９～Ｈ３３など）Ｈ２２７における点灯および消灯の出力、変動演出（変動表示）や予告演出といった表示制御装置Ｈ１１４で行われる第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様の設定などを制御するものである。演算装置であるＭＰＵＨ２２１は、そのＭＰＵＨ２２１により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶したＲＯＭＨ２２２と、ワークメモリ等として使用されるＲＡＭＨ２２３とを有している。
【４８０４】
音声ランプ制御装置Ｈ１１３のＭＰＵＨ２２１には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスラインＨ２２４を介して入出力ポートＨ２２５が接続されている。入出力ポートＨ２２５には、主制御装置Ｈ１１０、表示制御装置Ｈ１１４、音声出力装置Ｈ２２６、ランプ表示装置Ｈ２２７、その他装置Ｈ２２８、ボタン部材Ｈ１８１などがそれぞれ接続されている。
【４８０５】
なお、その他装置Ｈ２２８には、遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の駆動源だけでなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示しない）や、第２入賞口Ｈ６４０の電動役物Ｈ６４０ａを含む構成としても良い。
【４８０６】
音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、主制御装置Ｈ１１０から受信した各種のコマンド（変動パターンコマンド、停止種別コマンド等）に基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示態様を決定し、決定した表示態様をコマンド（表示用変動パターンコマンド、表示用停止種別コマンド等）によって表示制御装置Ｈ１１４へ通知する。
【４８０７】
また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、ボタン部材Ｈ１８１からの入力を監視し、遊技者によってボタン部材Ｈ１８１が操作された場合は、第３図柄表示装置Ｈ８１で表示されるステージを変更したり、スーパーリーチ時の演出内容を変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。ステージが変更される場合は、変更後のステージに応じた背面画像を第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させるべく、変更後のステージに関する情報を含めた背面画像変更コマンドを表示制御装置Ｈ１１４へ送信する。ここで、背面画像とは、第３図柄表示装置Ｈ８１に表示させる主要な画像である第３図柄の背面側に表示される画像のことである。表示制御装置Ｈ１１４は、この音声ランプ制御装置Ｈ１１３から送信されるコマンドに従って、第３図柄表示装置Ｈ８１に各種の画像を表示する。
【４８０８】
さらに、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、機能調整操作部Ｈ１９０（決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５）からの入力を監視し、遊技者によって機能調整操作部Ｈ１９０が操作された場合は、スピーカー（音声出力装置Ｈ２２６）の音量を変更したり、第３図柄表示装置Ｈ８１の明るさを変更したり、電飾部Ｈ２９～Ｈ３３の明るさを変更したりするように、表示制御装置Ｈ１１４へ指示する。音量や明るさが変更される場合は、音量や明るさの調整度合いが第３図柄表示装置Ｈ８１に表示される主要な表示の前方側に数値やボリューム等で一時的に表示される。
【４８０９】
なお、図３５６では、操作ユニットＨ１８０の操作ボタン部材Ｈ１８１や機能調整操作部Ｈ１９０の決定ボタンＨ１９１，上ボタンＨ１９２，下ボタンＨ１９３，左ボタンＨ１９４，右ボタンＨ１９５をまとめて枠ボタンＨ２２として図示している。
【４８１０】
また、音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、表示制御装置Ｈ１１４から第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を表すコマンド（表示コマンド）を受信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３では、表示制御装置Ｈ１１４から受信した表示コマンドに基づき、第３図柄表示装置Ｈ

８１の表示内容に合わせて、その表示内容に対応する音声を音声出力装置Ｈ２２６から出力し、また、その表示内容に対応させてランプ表示装置Ｈ２２７の点灯および消灯を制御する。

【４８１１】

表示制御装置Ｈ１１４は、音声ランプ制御装置Ｈ１１３及び第３図柄表示装置Ｈ８１が接続され、音声ランプ制御装置Ｈ１１３より受信したコマンドに基づいて、第３図柄表示装置Ｈ８１における第３図柄の変動演出などの表示を制御するものである。また、表示制御装置Ｈ１１４は、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示内容を通知する表示コマンドを適宜音声ランプ制御装置Ｈ１１３へ送信する。音声ランプ制御装置Ｈ１１３は、この表示コマンドによって示される表示内容にあわせて音声出力装置Ｈ２２６から音声を出力することで、第３図柄表示装置Ｈ８１の表示と音声出力装置Ｈ２２６からの音声出力とをあわせることができる。

【４８１２】

なお、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８が、音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に接続されるように構成して、ＭＰＵＨ２２１が、各種スイッチＨ２０８から出力される信号に基づいて各種処理を実行しても良い。また、主制御装置Ｈ１１０における入出力ポートＨ２０５に接続される各種スイッチＨ２０８とは別に音声ランプ制御装置Ｈ１１３における入出力ポートＨ２２５に各種スイッチを接続しても良い。この場合には、主に遊技盤Ｈ１３に配設される役物装置の位置検出センサ等のセンサ群を各種スイッチとして構成することが好ましい。

【４８１３】

電源装置Ｈ１１５は、パチンコ機Ｈ１０の各部に電源を供給するための電源部Ｈ２５１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路Ｈ２５２と、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図３５６参照）が設けられたＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３とを有している。電源部Ｈ２５１は、図示しない電源経路を通じて、各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して各々に必要な動作電圧を供給する装置である。その概要としては、電源部Ｈ２５１は、外部より供給される交流２４ボルトの電圧を取り込み、各種スイッチＨ２０８などの各種スイッチや、ソレノイドＨ２０９などのソレノイド、モータ等を駆動するための１２ボルトの電圧、ロジック用の５ボルトの電圧、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電圧などを生成し、これら１２ボルトの電圧、５ボルトの電圧及びバックアップ電圧を各制御装置Ｈ１１０～Ｈ１１４等に対して必要な電圧を供給する。

【４８１４】

停電監視回路Ｈ２５２は、停電等の発生による電源遮断時に、主制御装置Ｈ１１０のＭＰＵＨ２０１及び払出制御装置Ｈ１１１のＭＰＵＨ２１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＨＳＧ１を出力するための回路である。停電監視回路Ｈ２５２は、電源部Ｈ２５１から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視し、この電圧が２２ボルト未満になった場合に停電（電源断、電源遮断）の発生と判断して、停電信号ＨＳＧ１を主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１へ出力する。停電信号ＨＳＧ１の出力によって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、停電の発生を認識し、ＮＭＩ割込処理を実行する。なお、電源部Ｈ２５１は、直流安定２４ボルトの電圧が２２ボルト未満になった後においても、ＮＭＩ割込処理の実行に充分な時間の間、制御系の駆動電圧である５ボルトの電圧の出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置Ｈ１１０及び払出制御装置Ｈ１１１は、ＮＭＩ割込処理（図示せず）を正常に実行し完了することができる。

【４８１５】

ＲＡＭ消去スイッチ回路Ｈ２５３は、ＲＡＭ消去スイッチＨ１２２（図３５６参照）が押下された場合に、主制御装置Ｈ１１０へ、バックアップデータをクリアさせるためのＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を出力するための回路である。主制御装置Ｈ１１０は、パチンコ機Ｈ１０の電源投入時に、ＲＡＭ消去信号ＨＳＧ２を入力した場合に、バックアップデータ

をクリアすると共に、払出制御装置Ｈ１１１においてバックアップデータをクリアさせるための払出初期化コマンドを払出制御装置Ｈ１１１に対して送信する。

【４８１６】

次いで、図３５７から図４１７を参照し、第９６実施形態として、本発明をパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）Ｋ１０に適用した場合の一実施形態について説明する。図３５７は、第９６実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０の正面図であり、図３５８はパチンコ機Ｋ１０の遊技盤Ｋ１３の正面図である。

【４８１７】

なお、以下の説明では、図３５７に示す状態のパチンコ機Ｋ１０に対して、紙面手前側を前方（正面）側として、紙面奥側を後方（背面）側として説明する。また、図３５７に示す状態のパチンコ機Ｋ１０に対して、上側を上方（上）側として、下側を下方（下）側として、右側を右方（右）側として、左側を左方（左）側としてそれぞれ説明する。さらに、図中（例えば、図３５８参照）の矢印Ｕ－Ｄ，Ｌ－Ｒ，Ｆ－Ｂは、パチンコ機Ｋ１０の上下方向，左右方向，前後方向をそれぞれ示している。

【４８１８】

なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。また、符号について、第９５実施形態におけるパチンコ機Ｈ１０が本実施形態ではパチンコ機Ｋ１０とされているように、共通の機能を有するものに対して類似の符号が設定されている。

【４８１９】

即ち、本実施形態では、パチンコ機Ｋ１０は、少なくとも、正面枠Ｋ１４（第９５実施形態の正面枠Ｈ１４に相当）と、ベース板Ｋ６０（第９５実施形態のベース板Ｈ６０に相当）と、内レールＫ６１（第９５実施形態の内レールＨ６１に相当）と、外レールＫ６２（第９５実施形態の外レールＨ６２に相当）と、一般入賞口Ｋ６３（第９５実施形態の一般入賞口Ｈ６３に相当）と、第１入賞口Ｋ６４（第９５実施形態の第１入賞口Ｈ６４に相当）と、第２入賞口Ｋ６４０（第９５実施形態の第２入賞口Ｈ６４０に相当）と、電動役物Ｋ６４０ａ（第９５実施形態の電動役物Ｈ６４０ａに相当）と、第１可変入賞装置Ｋ６５（第９５実施形態の可変入賞装置Ｈ６５に相当）と、第１特定入賞口Ｋ６５ａ（第９５実施形態の特定入賞口Ｈ６５ａに相当）と、スルーゲートＫ６７（第９５実施形態のスルーゲートＨ６７に相当）と、戻り球防止部材Ｋ６８（第９５実施形態の戻り球防止部材Ｈ６８に相当）と、返しゴムＫ６９（第９５実施形態の返しゴムＨ６９に相当）と、アウト口Ｋ７１（第９５実施形態のアウト口Ｈ７１に相当）と、を備える。

【４８２０】

更に、本実施形態では、パチンコ機Ｋ１０は、少なくとも、外縁部材Ｋ７３（第９５実施形態の外縁部材Ｈ７３に相当）と、可変表示装置ユニットＫ８０（第９５実施形態の可変表示装置ユニットＨ８０に相当）と、第３図柄表示装置Ｋ８１（第９５実施形態の第３図柄表示装置Ｈ８１に相当）と、センターフレームＫ８６（第９５実施形態のセンターフレームＨ８６に相当）と、を備える。

【４８２１】

図３５８に示すように、遊技盤Ｋ１３は、正面視略正方形状に切削加工したベース板Ｋ６０に、球案内用の多数の釘（図示せず）や風車ＫＷＦの他、レールＫ６１，Ｋ６２、一般入賞口Ｋ６３、第１入賞口Ｋ６４、第２入賞口Ｋ６４０、第１可変入賞装置Ｋ６５、第２可変入賞装置Ｋ６５０、スルーゲートＫ６７、可変表示装置ユニットＫ８０等を組み付けて構成され、その周縁部が内枠Ｈ１２（図３５７参照）の裏面側（又は表面側）に取り付けられる。

【４８２２】

ベース板Ｋ６０は、木製の板部材から形成される。一般入賞口Ｋ６３、第１入賞口Ｋ６４、第２入賞口Ｋ６４０、可変表示装置ユニットＫ８０は、ルータ加工によってベース板Ｋ６０に形成された貫通穴に配設され、遊技盤Ｋ１３の正面側からタッピングネジ等により固定されている。なお、ベース板Ｋ６０を光透過性の樹脂材料から構成しても良い。こ

の場合、その正面側からベース板Ｋ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させることが可能となる。

【４８２３】

遊技盤Ｋ１３の正面中央部分は、正面枠Ｋ１４に配設されるガラスユニットＨ１６（図３５７参照）を通じて内枠Ｈ１２の正面側から視認することができる。以下に、主に図３５８を参照して、遊技盤Ｋ１３の構成について説明する。

【４８２４】

遊技盤Ｋ１３の正面には、帯状の金属板を略円弧状に屈曲加工して形成した外レールＫ６２が植立され、その外レールＫ６２の内側位置には外レールＫ６２と同様に帯状の金属板で形成した円弧状の内レールＫ６１が植立される。この内レールＫ６１と外レールＫ６２とにより遊技盤Ｋ１３の正面外周が囲まれ、遊技盤Ｋ１３とガラスユニットＨ１６（図３５７参照）とにより前後が囲まれることにより、遊技盤Ｋ１３の正面には、球の挙動により遊技が行われる遊技領域が形成される。遊技領域は、遊技盤Ｋ１３の正面であって２本のレールＫ６１，Ｋ６２とレール間を繋ぐ樹脂製の外縁部材Ｋ７３とにより区画して形成される領域（入賞口等が配設され、発射された球が流下する領域）である。

【４８２５】

２本のレールＫ６１，Ｋ６２は、球発射ユニットＨ１１２ａ（図３５６参照）から発射された球を遊技盤Ｋ１３上部へ案内するために設けられたものである。内レールＫ６１の先端部分（図３５８の左上部）には戻り球防止部材Ｋ６８が取り付けられ、一旦、遊技盤Ｋ１３の上部へ案内された球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止される。外レールＫ６２の先端部（図３５８の右上部）には、球の最大飛翔部分に対応する位置に返しゴムＫ６９が取り付けられ、所定以上の勢いで発射された球は、返しゴムＫ６９に当たって、勢いが減衰されつつ中央部側へ跳ね返される。

【４８２６】

遊技領域の正面視左側下部（図３５８の左側下部）には、発光手段である複数のＬＥＤ及び７セグメント表示器を備える第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが配設されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの機能は第９５実施形態において説明したので、ここでは説明を省略する。

【４８２７】

尚、本パチンコ機Ｋ１０では、第１入賞口Ｋ６４及び第２入賞口Ｋ６４０へ入賞があったことを契機として抽選が行われる。パチンコ機Ｋ１０は、その抽選において、大当たりか否かの当否判定（大当たり抽選）を行うと共に、大当たりと判定した場合はその大当たり種別の判定も行う。ここで判定される大当たり種別としては、１５Ｒ時短有通常大当たり、４Ｒ時短有通常大当たり、１５Ｒ時短無し通常大当たりが用意されている。第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂには、変動終了後の停止図柄として抽選の結果が大当たりであるか否かが示されるだけでなく、大当たりである場合はその大当たり種別に応じた図柄が示される。

【４８２８】

本パチンコ機Ｋ１０では、時短中は、第２図柄の当たり確率がアップするだけではなく、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが開放される時間も変更され、通常中と比して長い時間が設定される。電動役物Ｋ６４０ａが開放された状態（開放状態）にある場合は、その電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖された状態（閉鎖状態）にある場合と比して、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態となる。よって、時短中は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞し易い状態となり、大当たり抽選が行われる回数を増やすことができる。

【４８２９】

電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる。電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも前方に張り出すことで、開閉板の上面を遊技球が転動可能となり、その転動した遊技球が第２入賞口Ｋ６４０へ入球可能となり、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖

状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球を第２入賞口Ｋ６４０まで橋渡しすることができなくなることで遊技球が第２入賞口Ｋ６４０に入球し難くなるように構成される。

【４８３０】

なお、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化が前後にスライド変位可能な開閉板の開閉動作により生じる例として、電動役物Ｋ６４０ａの下方に第２入賞口Ｋ６４０が配置され、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時に開閉板が後方に退避され、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時に開閉板が前方に張り出すように構成しても良い。即ち、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板がベース板Ｋ６０の前面よりも後方に退避され、遊技球が第２入賞口Ｋ６４０側へ入球可能となり、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｋ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｋ６４０に入球し難くなる（左方へ流される）ように構成されるようにしても良い。

【４８３１】

また、電動役物Ｋ６４０ａの開放状態と閉鎖状態との状態変化は、下端部に回転軸を備え、遊技領域側へ傾倒または起立する態様で回転変位する開閉板の開閉動作により生じるようにしても良い。この場合、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時は、開閉板の上面に拾われた遊技球が第２入賞口Ｋ６４０に案内され易く、電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態の時は、開閉板が遊技領域と第２入賞口Ｋ６４０との間を塞ぐことで球が第２入賞口Ｋ６４０に入球し難くなるように構成することができる。

【４８３２】

遊技領域には、球が入賞することにより５個から１５個の球が賞球として払い出される複数の一般入賞口Ｋ６３が配設されている。また、遊技領域の中央部分を通して視認可能な位置（ベース板Ｋ６０の窓部の後方）に、可変表示装置ユニットＫ８０が配設されている。可変表示装置ユニットＫ８０には、第１入賞口Ｋ６４及び第２入賞口Ｋ６４０への入賞（始動入賞）をトリガとして、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおける変動表示と同期させながら、第３図柄の変動表示を行う液晶ディスプレイ（以下単に「表示装置」と略す）で構成された第３図柄表示装置Ｋ８１と、スルーゲートＫ６７の球の通過をトリガとして第２図柄を変動表示するＬＥＤで構成される第２図柄表示装置（図示せず）とが設けられている。また、ベース板Ｋ６０には、第３図柄表示装置Ｋ８１を正面視で囲むようにして、センターフレームＫ８６が配設されている。

【４８３３】

第３図柄表示装置Ｋ８１は９インチサイズから１９インチサイズ程度の大型の液晶ディスプレイで構成されるものであり、表示制御装置Ｈ１１４（図３５６参照）によって表示内容が制御されることにより、例えば上、中及び下の３つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄（第３図柄）によって構成され、これらの第３図柄が図柄列毎に横スクロールして第３図柄表示装置Ｋ８１の表示画面上にて第３図柄が可変表示されるようになっている。本実施形態の第３図柄表示装置Ｋ８１は、主制御装置Ｈ１１０（図３５６参照）の制御に伴った遊技状態の表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂで行われるのに対して、その第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂの表示に応じた装飾的な表示を行うものである。なお、表示装置に代えて、例えばリール等を用いて第３図柄表示装置Ｋ８１を構成するようにしても良い。

【４８３４】

第２図柄表示装置は、球がスルーゲートＫ６７を通過する毎に表示図柄（第２図柄（図示せず））としての「○」の図柄と「×」の図柄とを所定時間交互に点灯させる変動表示を行うものである。パチンコ機Ｋ１０では、球がスルーゲートＫ６７を通過したことが検出されると、当たり抽選が行われる。その当たり抽選の結果、当たりであれば、第２図柄表示装置において、第２図柄の変動表示後に「○」の図柄が停止表示される。また、当たり抽選の結果、外れであれば、第２図柄表示装置において、第３図柄の変動表示後に「×」の図柄が停止表示される。

【４８３５】

パチンコ機Ｋ１０は、第２図柄表示装置における変動表示が所定図柄（本実施形態においては「○」の図柄）で停止した場合に、第２入賞口Ｋ６４０に付随された電動役物Ｋ６４０ａが所定時間だけ作動状態となる（開放される）よう構成されている。

【４８３６】

第２図柄の変動表示にかかる時間は、遊技状態が通常中の場合よりも、時短中の方が短くなるように設定される。これにより、時短中は、第２図柄の変動表示が短い時間で行われるので、当たり抽選を通常中よりも多く行うことができる。よって、当たり抽選において当たりとなる機会が増えるので、第２入賞口Ｋ６４０の電動役物Ｋ６４０ａが開放状態となる機会を遊技者に多く与えることができる。よって、時短中は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態とすることができる。

【４８３７】

なお、時短中において、当たり確率を高める、１回の当たりに対する電動役物Ｋ６４０ａの開放時間や開放回数を増やすなど、その他の方法によっても、時短中に第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態としている場合は、第２図柄の変動表示にかかる時間を遊技状態にかかわらず一定としてもよい。一方、第２図柄の変動表示にかかる時間を、時短中において通常中よりも短く設定する場合は、当たり確率を遊技状態にかかわらず一定にしてもよいし、また、１回の当たりに対する電動役物Ｋ６４０ａの開放時間や開放回数を遊技状態にかかわらず一定にしてもよい。

【４８３８】

スルーゲートＫ６７は、可変表示装置ユニットＫ８０の右側の領域において遊技盤Ｋ１３に組み付けられ、遊技盤Ｋ１３に発射された球の一部が通過可能に構成されている。スルーゲートＫ６７を球が通過すると、第２図柄の当たり抽選が行われる。当たり抽選の後、第２図柄表示装置にて変動表示を行い、当たり抽選の結果が当たりであれば、変動表示の停止図柄として「○」の図柄を表示し、当たり抽選の結果が外れであれば、変動表示の停止図柄として「×」の図柄を表示する。

【４８３９】

球のスルーゲートＫ６７の通過回数は、合計で最大４回まで保留され、その保留球数が上述した第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより表示されると共に第２図柄保留ランプ（図示せず）においても点灯表示される。第２図柄保留ランプは、最大保留数分の４つ設けられ、第３図柄表示装置Ｋ８１の下方に左右対称に配設されている。

【４８４０】

なお、第２図柄の変動表示は、本実施形態のように、第２図柄表示装置において複数のランプの点灯と非点灯を切り換えることにより行うものの他、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂ及び第３図柄表示装置Ｋ８１の一部を使用して行うようにしても良い。同様に、第２図柄保留ランプの点灯を第３図柄表示装置Ｋ８１の一部で行うようにしても良い。

【４８４１】

また、スルーゲートＫ６７の球の通過に対する最大保留球数は４回に限定されるものでなく、３回以下、又は、５回以上の回数（例えば、８回）に設定しても良い。また、スルーゲートＫ６７の組み付け数は１つに限定されるものではなく、例えば２つであっても良い。

【４８４２】

また、スルーゲートＫ６７の組み付け位置は可変表示装置ユニットＫ８０の右側に限定されるものではなく、例えば、可変表示装置ユニットＫ８０の左右や、下方でも良い。また、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにより保留球数が示される場合等には、第２図柄保留ランプにより点灯表示を行わないものとしてもよい。

【４８４３】

可変表示装置ユニットＫ８０の下方には、球が入賞し得る第１入賞口Ｋ６４が配設されている。この第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞すると遊技盤Ｋ１３の裏面側に設けられる第１入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第１入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図３５６参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表

示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ａで示される。
【４８４４】
一方、スルーゲートＫ６７の正面視左下側には、球が入賞し得る第２入賞口Ｋ６４０が配設されている。この第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞すると遊技盤Ｋ１３の裏面側に設けられる第２入賞口スイッチ（図示せず）がオンとなり、その第２入賞口スイッチのオンに起因して主制御装置Ｈ１１０（図３５６参照）で大当たりの抽選がなされ、その抽選結果に応じた表示が第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂで示される。なお、第２入賞口Ｋ６４０の配置は、これに限られるものではない。例えば、第１入賞口Ｋ６４の正面視下方でも良いし、遊技領域の左右中央よりも左側（例えば、第１入賞口Ｋ６４よりも正面視左下側）でも良い。
【４８４５】
また、第１入賞口Ｋ６４および第２入賞口Ｋ６４０は、それぞれ、球が入賞すると５個の球が賞球として払い出される入賞口の１つにもなっている。なお、本実施形態においては、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを同じに構成したが、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数とを異なる数、例えば、第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を３個とし、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合に払い出される賞球数を５個として構成してもよい。この場合の賞球個数の大小関係は逆転しても良い。
【４８４６】
第２入賞口Ｋ６４０には電動役物Ｋ６４０ａが付随されている。この電動役物Ｋ６４０ａは開閉可能に構成されており、通常は電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態（退避状態）となって、球が第２入賞口Ｋ６４０へ入賞しにくい状態となっている。一方、スルーゲートＫ６７への球の通過を契機として行われる第２図柄の変動表示の結果、「○」の図柄が第２図柄表示装置に表示された場合、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態（張出状態）となり、球が第２入賞口Ｋ６４０へ入賞しやすい状態となる。
【４８４７】
上述した通り、時短中は、通常中と比して第２図柄の当たり確率が高く、また、第２図柄の変動表示にかかる時間も短いので、第２図柄の変動表示において「○」の図柄が表示され易くなって、電動役物Ｋ６４０ａが開放状態（張出状態）となる回数が増える。更に、時短中は、電動役物Ｋ６４０ａが開放される時間も、通常中より長くなる。よって、確変中および時短中は、通常時と比して、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞しやすい状態を作ることができる。
【４８４８】
ここで、第１入賞口Ｋ６４に球が入賞した場合と第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合とで、大当たりとなる確率は同一（約１／３１９）である。しかしながら、大当たりとなった場合に選定される大当たりの種別として１５Ｒ時短有通常大当たりとなる確率は、第２入賞口Ｋ６４０へ球が入賞した場合のほうが第１入賞口Ｋ６４へ球が入賞した場合よりも高く設定されている。一方、第１入賞口Ｋ６４は、第２入賞口Ｋ６４０にあるような電動役物Ｋ６４０ａは有しておらず、球が常時入賞可能な状態となっている。
【４８４９】
よって、通常中においては、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが閉鎖状態にある場合が多く、第２入賞口Ｋ６４０に入賞しづらいので、電動役物Ｋ６４０ａのない第１入賞口Ｋ６４へ向けて、可変表示装置ユニットＫ８０の左方を球が通過するように球を発射し（所謂「左打ち」）、第１入賞口Ｋ６４への入賞によって大当たり抽選の機会を多く得て、大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。
【４８５０】
一方、時短中は、スルーゲートＫ６７に球を通過させることで、第２入賞口Ｋ６４０に付随する電動役物Ｋ６４０ａが開放状態となりやすく、第２入賞口Ｋ６４０に入賞しやすい状態であるので、第２入賞口Ｋ６４０へ向けて、可変表示装置８０の右方を球が通過す

るように球を発射し（所謂「右打ち」）、スルーゲートＫ６７を通過させて電動役物Ｋ６４０ａを開放状態にすると共に、第２入賞口Ｋ６４０への入賞によって１５Ｒ時短有通常大当たりとなることを狙った方が、遊技者にとって有利となる。

【４８５１】

なお、本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０とは異なり、遊技盤Ｋ１３の構成が左右対称とされる場合には、「右打ち」で第１入賞口Ｋ６４を狙うことも、「左打ち」で第２入賞口Ｋ６４０を狙うこともできる。この場合、遊技者から球の打ち方を変化させる煩わしさを取り去ることができる。

【４８５２】

一方で、本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０では、「右打ち」では第１入賞口Ｋ６４を狙うことはできないように構成され、「左打ち」で発射された球はスルーゲートＫ６７を通過しないように構成されている。そのため、本実施形態のパチンコ機Ｋ１０は、パチンコ機Ｋ１０の遊技状態（時短中であるか、通常中であるか）に応じて、遊技者に対し、球の発射の仕方を「左打ち」と「右打ち」とに変えることを要求することができる。よって、球の打ち方を変化させる遊技性を付加することで遊技が緩慢となることを防止することができる。

【４８５３】

第１入賞口Ｋ６４の右方には第２可変入賞装置Ｋ６５０（図３５８参照）が配設されており、その下流側位置に第２特定入賞口Ｋ６５０ａが設けられている。パチンコ機Ｋ１０においては、第１入賞口Ｋ６４又は第２入賞口Ｋ６４０への入賞に起因して行われた大当たり抽選が大当たりとなると、所定時間（変動時間）が経過した後に、大当たりの停止図柄となるよう第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ又は第１図柄表示装置Ｈ３７Ｂを点灯させると共に、その大当たりに対応した停止図柄を第３図柄表示装置Ｋ８１に表示させて、大当たりの発生が示される。その後、球が入賞し易い特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。この特別遊技状態として、通常時には閉鎖されている第２特定入賞口Ｋ６５０ａが、所定時間（例えば、３０秒経過するまで、或いは、球が１０個入賞するまで）開放される。

【４８５４】

この第２特定入賞口Ｋ６５０ａは、所定時間が経過すると閉鎖され、その閉鎖後、再度、その第２特定入賞口Ｋ６５０ａが所定時間開放される。この第２特定入賞口Ｋ６５０ａの開閉動作は、最高で例えば１５回（１５ラウンド）繰り返し可能にされている。この開閉動作が行われている状態が、遊技者にとって有利な特別遊技状態の一形態であり、遊技者には、遊技上の価値（遊技価値）の付与として通常時より多量の賞球の払い出しが行われる。

【４８５５】

抽選された大当たりが時短有通常大当たりだった場合、大当たり遊技終了後の時短中に右打ち遊技を行うことで、第２入賞口Ｋ６４０へ遊技球を入賞させることができる。本実施形態では、付与される時短の回数は３回とされ、第２入賞口Ｋ６４０に遊技球が入賞すると、約１／２の確率で小当たりが発生し、第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂにおいて小当たりに対応したＬＥＤが点灯する。この小当たりにより、第２特定入賞口Ｋ６５０ａよりも上流側に配置される第１特定入賞口Ｋ６５ａが所定時間開放され、その第１特定入賞口Ｋ６５ａの開放中に、球が第１特定入賞口Ｋ６５ａ内へ入賞し、その特定入賞口Ｋ６５ａの下流側の特定領域Ｋ６５ｃを通過することを契機として特別遊技状態（大当たり）に遊技状態が遷移する。

【４８５６】

このように、本パチンコ機Ｋ１０では、右打ち遊技において、第２入賞口Ｋ６４０へ遊技球が入球すると約１／２の確率で特別遊技状態へ遊技状態を遷移させることが可能になり、これは左打ち遊技における大当たり確率（約１／３１９）よりも著しく高い確率となるので、右打ち遊技状態に対する遊技者の興趣を向上させることができる。

【４８５７】

また、特定入賞口Ｋ６５ａ，Ｋ６５０ａの個数は限定されるものではなく、１つ若しくは２以上の複数（例えば３つ）を配置しても良く、また配置位置も第１入賞口Ｋ６４の右方に限らず、例えば、第１入賞口Ｋ６４の下方右側や、第１入賞口Ｋ６４の下方左側や、可変表示装置ユニットＫ８０の左方または右方や、上方でも良い。

【４８５８】

遊技盤Ｋ１３には、アウト口Ｋ７１が設けられている。遊技領域を流下する球であって、いずれの入賞口Ｋ６３，Ｋ６４，Ｋ６５ａ，Ｋ６４０，Ｋ６５０ａにも入賞しなかった球は、アウト口Ｋ７１を通って図示しない球排出路へと案内される。

【４８５９】

遊技盤Ｋ１３には、球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）とが配設されている。

【４８６０】

なお、本実施形態におけるその他装置Ｈ２２８（図３５６参照）には、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１や駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ，ＫＭＴ５１，ＫＭＴ６１，ＫＭＴ７１，ＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２等が含まれる。

【４８６１】

なお、本実施形態においても、その他装置Ｈ２２８（図３５６参照）には、上述の役物装置の駆動源だけではなく、球発射ユニットＨ１１２ａの駆動モータ（図示せず）や、第２入賞口Ｋ６４０の電動役物Ｋ６４０ａの駆動源等（駆動ソレノイドＫ２４７及び駆動ソレノイドＫ２５３等）を含む構成としても良い。

【４８６２】

また、本実施形態における各種スイッチＨ２０８（図３５６参照）には、検出センサＫ４１３，Ｋ４１８，Ｋ５５６ａ，Ｋ５５６ｂ，Ｋ５５６ｃ，Ｋ５６５，Ｋ７１１ｅ，Ｋ７１６，Ｋ８５８等が含まれる。

【４８６３】

次いで、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の構造について説明する。図３５９は、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＡ２００の分解正面斜視図である。なお、図３５９の説明においては、図３５８を適宜参照する。

【４８６４】

動作ユニットＫ３００は、遊技盤Ｋ１３の背面側に配置され、各種発光手段や、各種動作ユニットが内部に配設されているが、詳細は後述する。動作ユニットＫ３００の支持板部Ｋ３１３が遊技盤Ｋ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ｋ１３のベース板Ｋ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ｋ１３と動作ユニットＫ３００とが一体的に固定され、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の全体としての剛性の向上が図られている。

【４８６５】

ベース板Ｋ６０は、光透過性の樹脂材料から板状に形成されており、正面側からベース板Ｋ６０の背面側に配設された各種構造体を遊技者に視認させ易いように構成される。これにより、ベース板Ｋ６０の形状や配置に関わらず、その背面側に配設される構造体を視認させ、各種演出に利用することができる。なお、遊技者に対して見せたくない箇所がある場合には、光透過性の低い（又は光不透過の）シール部材を貼り付ける等して対処すれば良い。

【４８６６】

図３６０は、遊技盤Ｋ１３の分解正面斜視図である。図３６０では、入賞ユニットＫ２００から化粧カバーＫ２２０が分解された状態が図示されている。また、図３５８と同様に球案内用の釘の図示が省略されると共に、それと加えて風車ＫＷＦ（図３５８参照）の図示も省略されている。

【４８６７】

図３６１は、入賞ユニットＫ２００の分解正面斜視図であり、図３６２は、入賞ユニットＫ２００の分解背面斜視図である。図３６１及び図３６２に図示されるように、入賞ユニットＫ２００は、ベース板Ｋ６０の前面に締結固定されるベース部材Ｋ２０１と、その

ベース部材Ｋ２０１の正面側に配置されベース部材Ｋ２０１と共に球の流下経路を構成する化粧カバーＫ２２０と、ベース部材Ｋ２０１の背面側から進退動作する電動役物Ｋ６４０ａを有する第１電動役物Ｋ２４０と、その第１電動役物Ｋ２４０よりも下側においてベース部材Ｋ２０１の背面側に配設され、ベース部材Ｋ２０１の背面側から進退動作する可動板Ｋ２５１を有する第２可変入賞装置Ｋ６５０としての第２電動役物Ｋ２５０と、を備える。

【４８６８】

ベース部材Ｋ２０１は、背面側に突条状に形成される突条縁部の内側において光拡散形状が形成される板状本体Ｋ２０２と、その板状本体Ｋ２０２に穿設される案内開口Ｋ２０３と、案内開口Ｋ２０３の正面側を流下する球を減速させるよう正面側に突設される複数の減速突起Ｋ２０４と、案内開口Ｋ２０３よりも下側において板状本体Ｋ２０２に穿設される案内開口Ｋ２０５と、その案内開口Ｋ２０５の下縁に沿って正面側に突設される突条部Ｋ２０６と、案内開口Ｋ２０５の上側において板上本体Ｋ２０２に凹設される複数の減速凹部Ｋ２０７と、案内開口Ｋ２０３よりも下側であり案内開口Ｋ２０５よりも上側の位置において左右方向に長尺の突条状に形成される長尺突条Ｋ２０８と、案内開口Ｋ２０５の上縁に沿って背面側に延設される延設部Ｋ２０９と、案内開口Ｋ２０５よりも下側において球を背面側へ案内可能に形成される複数の球案内部Ｋ２１０と、板状本体Ｋ２０２の光拡散形状が形成されている箇所に光を照射可能なＬＥＤ等の複数の発光部Ｋ２１２を有しており板状本体Ｋ２０２の背面側に締結固定される電飾基板Ｋ２１１と、を備える。

【４８６９】

化粧カバーＫ２２０は、ベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２と共に球の流下経路の前後を区画する板状本体Ｋ２２１と、その板状本体Ｋ２２１から背面側へ延設され球の流下経路を形成する延設形成部Ｋ２２２と、その延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域の内側において板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成され流下経路を分岐させる分岐形成部Ｋ２２３と、延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域の内側において板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成されベース部材Ｋ２０１の案内開口Ｋ２０３へ向けて球を案内する傾斜面が後面に形成される傾斜形成部Ｋ２２４と、ベース部材Ｋ２０１の減速凹部Ｋ２０７の前方位置に対応して板状本体Ｋ２２１から背面側に突設形成される複数の減速突起Ｋ２２５と、延設形成部Ｋ２２２で縁取られる領域よりも下側の箇所に光を照射可能なＬＥＤ等の複数の発光部Ｋ２２８を有しており延設形成部Ｋ２２２の延設先端と略面一を形成することで板状本体Ｋ２２１と十分な距離を開けて化粧カバーＫ２２０に締結固定される電飾基板Ｋ２２７と、を備える。

【４８７０】

第１電動役物Ｋ２４０は、第２入賞口Ｋ６４０と、案内開口Ｋ２０３を通り前方に配置される張出状態（開放状態）において球を第２入賞口Ｋ６４０へ向けて案内可能な電動役物Ｋ６４０ａと、その電動役物Ｋ６４０ａを駆動させる駆動ソレノイドＫ２４７が内部に配設され電動役物Ｋ６４０ａを下側から支える支持箱部材Ｋ２４６と、電動役物Ｋ６４０ａが前後方向に変位できるように電動役物Ｋ６４０ａの上面を案内すると共に第２入賞口Ｋ６４０への経路の天井部を形成する上カバー部材Ｋ２４８と、を備える。

【４８７１】

電動役物Ｋ６４０ａは、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成され、左方へ向けて下降傾斜する第１形成面Ｋ２４１と、その第１形成面Ｋ２４１の下流側端部に連設され後方へ向けて下降傾斜する第２形成面Ｋ２４２と、その第２形成面Ｋ２４２における第１形成面Ｋ２４１に対する左右方向逆側（左側）において左前部を頂点として右方および後方へ向けて下降傾斜する第３形成面Ｋ２４３と、を備える。

【４８７２】

第２電動役物Ｋ２５０は、案内開口Ｋ２０５を通り前後方向に進退動作可能な可動板Ｋ２５１と、その可動板Ｋ２５１を駆動させる駆動ソレノイドＫ２５３が内部に配設され可動板Ｋ２５１を下側から支える支持箱部材Ｋ２５２と、を備える。

【４８７３】

可動板Ｋ２５１は、有色（本実施形態では赤色）不透明の樹脂材料から形成され、駆動ソレノイドＫ２５３が非励磁の状態において前方側に張り出す張出状態（閉鎖状態）では、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球が防止され、駆動ソレノイドＫ２５３が励磁された状態において後方に退避する退避状態（開放状態）では、第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入球が許容される。

【４８７４】

可動板Ｋ２５１の張出状態では、可動板Ｋ２５１を傾倒させる方向に球の重みが作用した場合に、突条部Ｋ２０６が可動板Ｋ２５１の下面と当接することで、その傾倒が防止される。

【４８７５】

更に、可動板Ｋ２５１の後端側上方には延設部Ｋ２０９が配設されているので、延設部Ｋ２０９が可動板Ｋ２５１の上面と当接することで、可動板Ｋ２５１の傾倒が防止される。このように、複数箇所での当接により、可動板Ｋ２５１の傾倒を防止することができる。

【４８７６】

図３６３は、図３５８のＣＣＣＬＸＩＩＩ部における遊技盤Ｋ１３の部分拡大正面図であり、図３６４は、図３６３のＣＣＣＬＸＩＶ－ＣＣＣＬＸＩＶ線における遊技盤Ｋ１３の断面図である。図３６３では、化粧カバーＫ２２０の内側の形状が想像線で図示される。

【４８７７】

図３６３に図示されるように、分岐形成部Ｋ２２３は、電動役物Ｋ６４０ａの右端部へ向けて上面に到達した球を案内可能に配置されている。また、傾斜形成部Ｋ２２４は、右側へ張り出す部分が、第１電動役物Ｋ２４０の第３形成面Ｋ２４３に対応して、正面視で右方へ向けて下降傾斜する。

【４８７８】

これにより、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａの張出状態において、電動役物Ｋ６４０ａの上面に球が衝突して電動役物Ｋ６４０ａに上下方向に跳ねるような変位が生じた場合における第３形成面Ｋ２４３と傾斜形成部Ｋ２２４との衝突を面での衝突とすることができるので、衝突時の荷重が点で生じる場合に比較して、第３形成面Ｋ２４３が受ける荷重を分散させることができ、電動役物Ｋ６４０ａの破損を回避し易くすることができる。

【４８７９】

図３６３では、化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１の正面側に施される大形意匠Ｋ２２１ａと、小形意匠Ｋ２２１ｂとが、図示される。ここで、本実施形態では大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの色として電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１と同じ赤が選択され、縁取り以外の部分は、基本的には無色透明とされ、特に電飾基板Ｋ２２７と前後で重なる位置においては白色で不透明に施され、小形意匠Ｋ２２１ｂは有色（本実施形態では白）不透明の装飾として形成される。これに対応して、大形意匠Ｋ２２１ａには赤色を示す網掛けを付し、小形意匠Ｋ２２１ｂには網掛けを付さずに図示する。

【４８８０】

小形意匠Ｋ２２１ｂは、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球の流下経路に沿う方向を示す矢印先端部形状（左下側に頂点を有するカッコ形状）としてデザインされており、小形意匠Ｋ２２１ｂを視認した遊技者に対して球の流下経路について示唆するよう機能する。

【４８８１】

このように、化粧カバーＫ２２０の装飾としての大形意匠Ｋ２２１ａと、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１との色を合わせることにより、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１を装飾の一部として遊技者に視認させることが可能となる。

【４８８２】

本実施形態では、図３６３に図示されるように、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５

１の傾斜の方向（左側へ向けて下降傾斜する方向）と、大形意匠Ｋ２２１ａの傾斜が揃っているので、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１と大形意匠Ｋ２２１ａとを合わせて「一つの装飾模様」として視認させることができる。そして、この場合において、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１の配置の違いによる見え方の違いを利用して、視認される上述の「一つの装飾模様」を変化させることができる。

【４８８３】

図３６３に図示されるように、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）の前方は、板状本体Ｋ２２１が無色透明とされており、視認性が良い。そのため、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１により案内される球の視認性を向上させることができる。

【４８８４】

更に、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）の上下位置の前方は、板状本体Ｋ２２１の大形意匠Ｋ２２１ａとして有色（本実施形態では赤）透明とされており、無色透明よりも視認性が低下されている。これにより、遊技者の視線を視認性の良い電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１による球の案内経路（上面に沿う経路）へ誘導することができるので、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１により球が案内されている場合に、その球を判別させ易くすることができる。

【４８８５】

図３６４では、第１電動役物Ｋ２４０及び第２電動役物Ｋ２５０の非励磁状態における電動役物Ｋ６４０ａ（退避状態）及び可動板Ｋ２５１（張出状態）の配置が実線で図示され、第１電動役物Ｋ２４０及び第２電動役物Ｋ２５０の励磁状態における電動役物Ｋ６４０ａ（張出状態）及び可動板Ｋ２５１（退避状態）の配置が想像線で図示される。

【４８８６】

電動役物Ｋ６４０ａは、励磁状態（張出状態）において上面が球の流下面として機能する。即ち、案内開口Ｋ２０３を通り第２入賞口Ｋ６４０（図３６１参照）へ案内される球は図３６４に想像線で図示される張出状態の電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する。

【４８８７】

そのため、電動役物Ｋ６４０ａよりも下側かつ可動板Ｋ２５１よりも上側に配置され電動役物Ｋ６４０ａを斜め下方に見下ろす方向視ＫＤＲ２１で視認する遊技者が視認可能な光を照射するＬＥＤとして図３６４に図示される発光部Ｋ２１２からの光が、電動役物Ｋ６４０ａを転動する球に隠されて遊技者の目に届かなくなる事態を回避することができる。

【４８８８】

即ち、図３６４に図示される発光部Ｋ２１２からの光は、電動役物Ｋ６４０ａよりも下側を通り遊技者の目に届くので、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球の有無により発光部Ｋ２１２からの光の視認態様が変化することが防止される。

【４８８９】

また、発光部Ｋ２１２からの光が電動役物Ｋ６４０ａ自体を明るく照らすように作用することで、電動役物Ｋ６４０ａ上を明るくすることができる。発光部Ｋ２１２からの光が電動役物Ｋ６４０ａに到達するよりも前に、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球に遮蔽されることは無いので、電動役物Ｋ６４０ａ上に球が有るか否かに因らず電動役物Ｋ６４０ａの明るさ（見映え）が変わることを防止できる。このように、電動役物Ｋ６４０ａ上に球が有るか否かに因らず電動役物Ｋ６４０ａを明るくすることができ、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の視認性を向上させることができる。

【４８９０】

この場合において、第１形成面Ｋ２４１の形成部のように板厚の寸法がより小さい部分において電動役物Ｋ６４０ａ上を明るくする程度を高めることができるので、電動役物Ｋ６４０ａの明るさは、第３形成面Ｋ２４３の形成部よりも第１形成面Ｋ２４１の形成部を明るくすることができる。

【４８９１】

これにより、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の流下経路の下流側よりも上流側に遊技者の視線を誘導することができ、分岐形成部Ｋ２２３における球の分岐に注目させることができる。

【４８９２】

これにより、分岐形成部Ｋ２２３の上面を左に流れて電動役物Ｋ６４０ａの上面に案内され得る球の存在と、分岐形成部Ｋ２２３の上面を右に流れて電動役物Ｋ６４０ａには案内されずに下流側へ流下する球の存在とを、遊技者に把握させることができるので、発射球数よりも第２入賞口Ｋ６４０（図３６１参照）へ案内される球数が少ないことから、遊技領域から球が漏れたり、球の発射が適切に行われなかったりという遊技機不良が生じていると思い込み、遊技者が遊技を止めてしまう事態が生じることを防止し易くすることができる。

【４８９３】

図３６４に図示されるように、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１は、左右縁部が前後方向に延びる突条状に下方に突設され、その突設先端がベース部材Ｋ２０１の突条部Ｋ２０６に下支えされることで、張出状態における可動板Ｋ２５１の前傾方向の姿勢変化が防止されている。

【４８９４】

また、可動板Ｋ２５１の上側には延設部Ｋ２０９が形成されており、可動板Ｋ２５１が前傾方向に姿勢変化する場合に、その姿勢変化を規制する。即ち、本実施形態では、可動板Ｋ２５１の姿勢変化を抑制するための形状部がベース部材Ｋ２０１に形成されており、化粧カバーＫ２２０には形成されていない。

【４８９５】

このように構成することで、可動板Ｋ２５１の姿勢変化を抑制するという作用は生じさせつつ、化粧カバーＫ２２０に凹凸形状が形成される領域を狭めることができるので、化粧カバーＫ２２０を介して球の流下経路を視認する場合における流下経路の視認性を向上させることができる。

【４８９６】

なお、延設部Ｋ２０９は、下面の形状が、前方または斜前上方向からの光を全反射させるように湾曲した形状とされている。これにより、延設部Ｋ２０９の基端部が配設される板状本体Ｋ２０２よりも後側に延びている可動板Ｋ２５１の後側部が遊技者に視認されることを避けることができ、可動板Ｋ２５１については、専ら、板状本体Ｋ２０２よりも前側に張り出している部分に注目させることができる。

【４８９７】

なお、本実施形態では、延設部Ｋ２０９の形状の設計により延設部Ｋ２０９の下側の構造物を視認させないようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設部Ｋ２０９の表面に、ミラーテープや、遮光テープを貼り付けることで、光の透過を防止するように構成しても良い。

【４８９８】

また、可動板Ｋ２５１付近を前後方向の方向視ＫＤＲ２２で視認する場合において、減速凹部Ｋ２０７の上縁部Ｋ２０７ａを介して張出状態における可動板Ｋ２５１の上面を視認できるように、減速凹部Ｋ２０７が形成される。即ち、上縁部Ｋ２０７ａが鏡のように機能して、可動板Ｋ２５１の色（本実施形態では赤色）で上縁部Ｋ２０７ａを視認させることができる。

【４８９９】

一方、可動板Ｋ２５１が退避状態とされると、可動板Ｋ２５１の先端は上縁部Ｋ２０７ａよりも後方に退避するので、上縁部Ｋ２０７ａが鏡のように機能して、突条部Ｋ２０６の上面付近の色（本実施形態では無色透明であり、上縁部Ｋ２０７ａと同じ）で上縁部Ｋ２０７ａを視認させることができる。

【４９００】

即ち、上縁部Ｋ２０７ａの視認態様（色味）を、可動板Ｋ２５１が張出状態とされるか

（赤色で視認される）、可動板Ｋ２５１が退避状態とされるか（無色透明で視認される）で変化させることができる。これにより、可動板Ｋ２５１の状態が変化した場合における可動板Ｋ２５１付近の視認態様の変化の程度を大きくすることができる。

【４９０１】

上縁部Ｋ２０７ａは、中央と右側の減速凹部Ｋ２０７では、可動板Ｋ２５１の上面に略平行なライン状で形成されているので、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球よりも若干上側において、球の流下方向に平行に延びる上縁部Ｋ２０７ａが可動板Ｋ２５１と同じ赤色で視認される。これにより、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球の流下方向を、可動板Ｋ２５１とは異なる位置にある上縁部Ｋ２０７ａにより遊技者に把握させることができる。

【４９０２】

更に、上縁部Ｋ２０７ａは、左側の減速凹部Ｋ２０７では、可動板Ｋ２５１の上面を左側へ案内された球が案内される流路（可動板Ｋ２５１よりも左側の流路）へ向けた左方向へ下降傾斜するライン状で形成されているので、可動板Ｋ２５１の左端部を過ぎて流下する球の流下方向に沿って延びる上縁部Ｋ２０７ａが可動板Ｋ２５１と同じ赤色で視認される。これにより、可動板Ｋ２５１の上面を左方へ通り過ぎた後の球の流下方向を、可動板Ｋ２５１とは異なる位置にある上縁部Ｋ２０７ａにより遊技者に把握させることができる。

【４９０３】

図３６３及び図３６４を参照して、更に上縁部Ｋ２０７ａについて説明する。上縁部Ｋ２０７ａが形成される減速凹部Ｋ２０７は、球が進入可能となるように上下幅が球の直径よりも長くなるように形成されている。

【４９０４】

そのため、遊技者が方向視ＫＤＲ２２で可動板Ｋ２５１付近を視認している場合に、可動板Ｋ２５１の上面を球が転動する場合であっても、その球により上縁部Ｋ２０７ａが隠されることはない。従って、可動板Ｋ２５１の上面を転動する球の上下において、可動板Ｋ２５１と、その可動板Ｋ２５１と同様に左下方へ傾斜する上縁部Ｋ２０７ａとにより、２本の赤色のライン状の装飾を遊技者に視認させることができる。

【４９０５】

ここで、方向視ＫＤＲ２２に対して上縁部Ｋ２０７ａが鏡として作用して可動板Ｋ２５１を視認させる場合の光の通り道は、減速凹部Ｋ２０７を通るので、可動板Ｋ２５１上を流下する球がある場合であっても、球が減速凹部Ｋ２０７に進入していなければ上縁部Ｋ２０７ａの視認態様に影響はない。

【４９０６】

また、球が減速凹部Ｋ２０７に進入している場合であっても、球は球体である一方で減速凹部Ｋ２０７の凹設側端部は平面であり、減速凹部Ｋ２０７が球により満たされることはないので、球に遮蔽されずに進行する光が上縁部Ｋ２０７ａで反射されて遊技者の目に届くことになる。

【４９０７】

従って、可動板Ｋ２５１上を球が流下する場合であっても、上縁部Ｋ２０７ａの視認態様の変化を小さくすることができる。即ち、上縁部Ｋ２０７ａが赤色で視認される状態は、可動板Ｋ２５１上に球が有る場合にも、無い場合にも、共通に生じさせることができる。

【４９０８】

図３６３に図示されるように、本実施形態では、化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に、上縁部Ｋ２０７ａ及び可動板Ｋ２５１が沿うように配置されており、化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの色と、可動板Ｋ２５１の色とは共通とされる。

【４９０９】

そのため、可動板Ｋ２５１が張出状態の場合には、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りを部分的に太くするように上縁部Ｋ２０７ａが作用し、可動板Ｋ２５１が退避状態の場合には、

上縁部Ｋ２０７ａが透明に視認されることで、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りが均一となるように視認される。

【４９１０】

大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りとして視認される形状が部分的に太い場合が可動板Ｋ２５１の張出状態に対応し、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りとして視認される形状の太さが均一である場合が可動板Ｋ２５１の退避状態に対応することから、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの太さを視認することで可動板Ｋ２５１の状態を把握することができる。

【４９１１】

可動板Ｋ２５１上を転動する球の流下経路の手前側には、化粧カバーＫ２２０の減速突起Ｋ２２５が位置する。減速凹部Ｋ２０７とは違い、減速突起Ｋ２２５の上下幅は球の直径よりも小さくされる（球の半径よりも小さくされる）。これにより、可動板Ｋ２５１上を球が転動する場合に、球が減速突起Ｋ２２５により隠されて（見え難くされて）、遊技者が球の位置を把握できなくなる事態を避けることができる。

【４９１２】

図３６５、図３６６、図３６７及び図３６８は、斜め下方に見下ろす方向視ＫＤＲ２１における入賞ユニットＫ２００の斜視図である。図３６５、図３６６、図３６７及び図３６８では、電動役物Ｋ６４０ａや可動板Ｋ２５１の配置の違いに伴う化粧カバーＫ２２０の大形意匠Ｋ２２１ａ及び小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様の違いを説明するために、化粧カバーＫ２２０については、板状本体Ｋ２２１の外形が想像線で図示されると共に大形意匠２２１ａおよび小形意匠Ｋ２２１ｂの位置が図示され、背面側に張り出す形状部としての分岐形成部Ｋ２２３、傾斜形成部Ｋ２２４及び減速突起Ｋ２２５の配置が想像線で図示される。

【４９１３】

また、図３６５、図３６６、図３６７及び図３６８では、赤色の大形意匠Ｋ２２１ａの縁取り、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１に、共通の網掛けが付される。なお、入賞ユニットＫ２００に案内された球の流下経路の詳細については図示が省略されているので、流下経路の詳細について図３６３を適宜参照する。

【４９１４】

図３６５では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが退避状態（非励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が張出状態（非励磁状態）とされる。この状態は、主に通常状態に対応する。

【４９１５】

図３６５に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図３６１参照）に案内されることは無く、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに案内されることもない（図３６３参照）状態である。

【４９１６】

この状態において、大形意匠Ｋ２２１ａは、縁取りの内側の上下中央部に可動板Ｋ２５１が進入しているように視認され、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状があたかも切断されているように遊技者に印象付けることができる。

【４９１７】

従って、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状があたかも切断されているように視認されている場合と、第２入賞口Ｋ６４０及び第２特定入賞口Ｋ６５０ａに球が案内されない状態とが対応するので、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下するかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。

【４９１８】

図３６６では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが張出状態（励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が張出状態（非励磁状態）とされる。この状態は、主に時短状態や確変状態において頻繁に生じる状態に対応する。

【４９１９】
図３６６に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図３６１参照）に案内され得る一方で、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに案内されることはない（図３６３参照）状態である。
【４９２０】
この状態において、小形意匠Ｋ２２１ｂは、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に進入しているように視認される電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される。この場合、図３６５で図示されるように背景色が無色の場合に比較して、白色の小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせることができる。
【４９２１】
従って、小形意匠Ｋ２２１ｂが電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される場合と、第２入賞口Ｋ６４０に球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球が第２入賞口Ｋ６４０に入球され得るかどうかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。
【４９２２】
ここで、化粧カバーＫ２２０に施される小形意匠Ｋ２２１ｂを判別し易い装飾とすると、その装飾が邪魔になり球自体の流れが見え難くなる可能性があり、逆に、球の流れを見え易くするために淡い装飾とすると、装飾としては見え難い演出効果の小さいものになる可能性がある。光照射により形状を浮かび上がらせる導光パネル等を利用する手もあるが、高価であったり、ある程度の厚みを要する等の設計に絡む条件から配置が限定されたりするといった問題点があり、万能ではない。
【４９２３】
これに対し、本実施形態では、化粧カバーＫ２２０の前面の装飾で完結させるのではなく、小形意匠Ｋ２２１ｂの見映えに、電動役物Ｋ６４０ａが影響を及ぼし得るように構成することで、装飾の見映えと、球の見え易さとを両立させている。
【４９２４】
即ち、小形意匠Ｋ２２１ｂ単体では目立たない装飾とすることで、電動役物Ｋ６４０ａが退避状態とされている場合には、小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせないことで化粧カバーＫ２２０の背面側を流下する球自体に注目させるようにする一方、電動役物Ｋ６４０ａが張出状態とされる場合には、小形意匠Ｋ２２１ｂ自体を目立たせて、第２入賞口Ｋ６４０への入球に期待させる装飾としての演出効果を向上させることができる。
【４９２５】
電動役物Ｋ６４０ａを背景として小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせる場合、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入すると、小形意匠Ｋ２２１ｂの見栄えが変化することが懸念される。
【４９２６】
ベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２と化粧カバーＫ２２０の板状本体Ｋ２２１（図３６１参照）とで形成される流路の前後幅は球の直径よりも十分に長くされていること（約１９ｍｍ）、パチンコ機Ｋ１０は一般的に数度（約１度）だけ後側へ傾斜されていること、を考慮すれば、電動役物Ｋ６４０ａの上面を転動する球は後側に配置されるベース部材Ｋ２０１の板状本体Ｋ２０２に接しながら流下する可能性が高いので、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入する前提となる球が化粧カバーＫ２２０側に寄る（前側寄りで流下する）事態が生じる可能性を低くすることができる。
【４９２７】
従って、小形意匠Ｋ２２１ｂと電動役物Ｋ６４０ａとの間に球が進入する事態を生じ難くすることができるので、電動役物Ｋ６４０ａ上を球が転動している状態における小形意匠Ｋ２２１ｂの見栄えの変化を防止し易くすることができる。
【４９２８】

図３６７では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが退避状態（非励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が退避状態（励磁状態）とされる。この状態は、主に特別遊技状態のラウンド遊技中の状態に対応する。

【４９２９】

図３６７に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図３６１参照）に案内されることは無く、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図３６３参照）に案内され得る状態である。

【４９３０】

退避状態の可動板Ｋ２５１は、先端部が案内開口Ｋ２０５の後側まで十分に収納され（図３６４参照）、方向視ＤＲ２１では視認不能とされる。また、退避状態の可動板Ｋ２５１の上側を覆う延設部Ｋ２０９（図３６４参照）の全反射の作用により、延設部Ｋ２０９を介して可動板Ｋ２５１を視認することが不可能とされるので、図３６７に図示される状態において、可動板Ｋ２５１を完全に隠すことができる。

【４９３１】

図３６７に図示される状態において、電動役物Ｋ６４０ａが小形意匠Ｋ２２１ｂの背景色を構成することはなく、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側において可動板Ｋ２５１が視認されることも無いので、遊技者に対して、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状を印象的に視認させることができる。

【４９３２】

従って、大形意匠Ｋ２２１ａ自体の形状が切断されない状態で視認されている場合と、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下するかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。

【４９３３】

なお、本実施形態では、方向視ＤＲ２１において、可動板Ｋ２５１が大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に視認されるか否かで状態の切替を把握可能に構成される一方で、方向視ＤＲ２２において、図３６３で上述したように、上縁部Ｋ２０７ａが赤色で視認されることで大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの太さが部分的に変化するか否かで状態の切替を把握可能に構成される。

【４９３４】

このように、本実施形態では、見栄えの変化を生じさせる主体は可動板Ｋ２５１で共通としつつも、見栄えが変わる対象を複数設けてあるので、遊技者が入賞ユニットＫ２００を視認する方向視が遊技中に変化したとしても、大形意匠Ｋ２２１ａの視認態様から入賞ユニットＫ２００に入球した球がどのように流下するかを予測させるという目的を達成させることができる。

【４９３５】

図３６８では、第１電動役物Ｋ２４０において電動役物Ｋ６４０ａが張出状態（励磁状態）とされ、第２電動役物Ｋ２５０において可動板Ｋ２５１が退避状態（励磁状態）とされる。この状態は、主に特別遊技状態のラウンド遊技中において、第２図柄の抽選で当たりとなり、電動役物Ｋ６４０ａが駆動された状態に対応する。

【４９３６】

図３６８に図示される状態は、入賞ユニットＫ２００を流下する球が、第２入賞口Ｋ６４０（図３６１参照）に案内され得るか、又は、第２特定入賞口Ｋ６５０ａ（図３６３参照）に案内され得る状態である。

【４９３７】

この状態において、小形意匠Ｋ２２１ｂは、大形意匠Ｋ２２１ａの縁取りの内側に進入しているように視認される電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される。この場合、図３６５で図示されるように背景色が無色の場合に比較

して、白色の小形意匠Ｋ２２１ｂを目立たせることができる。
【４９３８】
従って、小形意匠Ｋ２２１ｂが電動役物Ｋ６４０ａの赤色を背景色とするワンポイントの装飾のように視認される場合と、第２入賞口Ｋ６４０に球が案内され得る状態とが対応するので、遊技者は、小形意匠Ｋ２２１ｂの視認態様から、入賞ユニットＫ２００に入球した球が第２入賞口Ｋ６４０に入球され得るかどうかを予測することができる。そのため、入賞ユニットＫ２００に入球した球の流下の把握（予測）のために球自体を視認する必要がある場合に比較して、遊技者の疲労度合を低減させることができる。
【４９３９】
一方、特別遊技状態では電動役物Ｋ６４０ａの励磁時間が極端に短くされるので、実際に球が第２入賞口Ｋ６４０に入球する事態は発生し難いように構成されている。従って、電動役物Ｋ６４０ａを利用して、小形意匠Ｋ２２１ｂの見映えを変化させるだけの（第２入賞口Ｋ６４０への入球による賞球は発生させ難い）演出を実行させることができる。
【４９４０】
図３６９は、遊技盤Ｋ１３の背面斜視図であり、図３７０は、遊技盤Ｋ１３の分解背面斜視図である。図３６９に図示されるように、ベース板Ｋ６０は、内部においてセンターフレームＫ８６を内嵌可能な形状で開口形成される開口部Ｋ６０ｗを備えている。また、ベース板Ｋ６０は、内レールＫ６１及び外レールＫ６２（図３５８参照）により外縁が区画される遊技領域の形成範囲においては強度面から肉厚が十分に確保されており、遊技領域の形成範囲の外方において、背面側から凹設されるようにして肉厚が削られる形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄを備える。
【４９４１】
開口部Ｋ６０ｗは、センターフレームＫ８６を前後幅に亘って支持する目的から、ベース板Ｋ６０の厚み方向（前後方向）の位置が異なっても同一形状となるように形成される。これにより、センターフレームＫ８６を安定的に支持することができる。
【４９４２】
左上側の第１形成凹部Ｋ６０ａは、外レールＫ６２（図３５８参照）の左上側に配設される樹脂製の遮蔽部材Ｋ７４の後方に配置されており、遮蔽部材Ｋ７４により第１形成凹部Ｋ６０ａが目隠しされる。
【４９４３】
右上側の第２形成凹部Ｋ６０ｂは、外縁部材Ｋ７３（図３５８参照）及び外縁部材Ｋ７３よりも上側の範囲の後方に配置されており、外縁部材Ｋ７３により第２形成凹部Ｋ６０ｂが目隠しされる。
【４９４４】
左下側の第３形成凹部Ｋ６０ｃは、外レールＫ６２（図３５８参照）の左下側に配置され第１図柄表示装置Ｈ３７Ａ，Ｈ３７Ｂが内蔵される樹脂製の遮蔽部材Ｋ７５の後方に配置されており、遮蔽部材Ｋ７５により第３形成凹部Ｋ６０ｃが目隠しされる。
【４９４５】
図３７０に図示されるように、遊技盤Ｋ１３は、ベース板Ｋ６０の下側部の背面側に締結固定される左右長尺の樋用前側部材Ｋ９１と、その樋用前側部材Ｋ９１の背面側に締結固定され樋用前側部材Ｋ９１と共同で球を流下させる樋を構成する樋用後側部材Ｋ９２と、その樋用後側部材Ｋ９２の背面側に締結固定され正面側へ光を照射するＬＥＤが配置される電飾基板Ｋ９３と、その電飾基板Ｋ９３の取り外しを防止可能となるように電飾基板Ｋ９３を挟む用にして樋用後側部材Ｋ９２に締結固定される防止部材Ｋ９４と、その防止部材Ｋ９４と共同で球を流下させる樋を構成する補助部材Ｋ９５と、樋用後側部材Ｋ９２に製造条件から生じる不要な開口部を塞ぐ機能を有すると共に電気配線を結束バンドで束ねる支持部としての機能する閉塞部材Ｋ９６と、を備える。
【４９４６】
電飾基板Ｋ９３からの光は、遊技領域の左下側に配置される一般入賞口Ｋ６３へ向けて照射される。即ち、電飾基板Ｋ９３に配置されるＬＥＤを点灯させることにより、一般入

賞口Ｋ６３を明るく視認させることができるので、遊技者の一般入賞口Ｋ６３への注目力を、電飾基板Ｋ９３に配置されるＬＥＤの点灯または消灯により変化させることができる。

【４９４７】

右下側の第４形成凹部Ｋ６０ｄは、外レールＫ６２の下縁よりも下側において外縁部材Ｋ７３の下端側形成部Ｋ７３ａ（図３６０参照）の後方の領域を含むように配置されており、その下端側形成部Ｋ７３ａにより第４形成凹部Ｋ６０ｄの少なくとも一部が目隠しされる。

【４９４８】

第４形成凹部Ｋ６０ｄの後方には樋用前側部材Ｋ９１及び樋用後側部材Ｋ９２の左側部が配置されており、第４形成凹部Ｋ６０ｄの後方の領域を球が流下可能に構成されている。

【４９４９】

図３７１は、動作ユニットＫ３００の分解正面斜視図である。なお、図３７１の説明においては、図３５９を適宜参照する。動作ユニットＫ３００は、左右に長尺に形成され正面視で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の上側に配設される上側装飾部材Ｋ３３０と、上下に長尺で形成され正面視で第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の左側に配設される左側装飾部材Ｋ３５０と、上側装飾部材Ｋ３３０及び左側装飾部材Ｋ３５０が正面側に締結固定される前層側可動装置Ｋ４００と、その前層側可動装置Ｋ４００の後側に配設される後層側可動装置Ｋ８００と、前層側可動装置Ｋ４００及び後層側可動装置Ｋ８００が収容され締結固定される背面ケースＫ３１０と、を備える。

【４９５０】

背面ケースＫ３１０は、底壁部Ｋ３１１と、その底壁部Ｋ３１１の外縁から立設される外壁部Ｋ３１２とから正面側が開放された箱状に形成される。背面ケースＫ３１０は、底壁部Ｋ３１１の中央に矩形状の開口Ｋ３１１ａが開口形成されることで、正面視矩形の枠状に形成される。開口Ｋ３１１ａは、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の外形（外縁）に対応した（即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を正面視で区切ることが可能な）大きさに形成される。

【４９５１】

背面ケースＫ３１０は、外壁部Ｋ３１２の正面側端部に遊技盤Ｋ１３の背面に沿う（例えば、平行に配置される）平面板として延設され、組立状態（図３５８参照）において遊技盤Ｋ１３に面で支持される支持板部Ｋ３１３を備える。

【４９５２】

その支持板部Ｋ３１３が遊技盤Ｋ１３に面で支持された状態で、遊技盤Ｋ１３のベース板Ｋ６０に締結ネジを螺入することにより、遊技盤Ｋ１３と動作ユニットＫ３００とを一体的に固定することができるので、遊技盤Ｋ１３及び動作ユニットＫ３００の全体としての剛性の向上を図ることができる。

【４９５３】

前層側可動装置Ｋ４００は、左右長尺に構成され初期位置としての上端位置から上下移動可能な第１可動装置Ｋ４０１と、第１可動装置Ｋ４０１の下側の左右中心位置において昇降移動可能に構成される第２可動装置Ｋ７０１と、を備える。

【４９５４】

上側装飾部材Ｋ３３０は、内部に発光基板が配設され、発光基板から前側に照射される光が透光性の装飾部分に照射されることで発光演出を行う一方で、初期位置の第１可動装置Ｋ４０１を目隠しすることが可能な大きさで形成される。

【４９５５】

左側装飾部材Ｋ３５０は、内部に発光基板が配設され、発光基板から前側に照射される光が透光性の装飾部分に照射されることで発光演出を行う一方で、第１可動装置Ｋ４０１の左側における駆動力伝達機構を目隠しすることが可能な大きさで形成される。

【４９５６】

後層側可動装置Ｋ８００は、前側に前層側可動装置Ｋ４００が配置される関係上、その前層側可動装置Ｋ４００よりも背面ケースＫ３１０における奥側（後側）に配設されることから、前層側可動装置Ｋ４００よりも可変表示装置ユニットＫ８０に近い位置に配設される。

【４９５７】

後層側可動装置Ｋ８００は、前後に層状に配置される板状部材が左右方向にスライド移動されることで、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域を露出させたり、隠したりするように動作する第３可動装置Ｋ８０１を備える。

【４９５８】

後層側可動装置Ｋ８００は、背面ケースＫ３１０の底壁部Ｋ３１１に締結固定され、前層側可動装置Ｋ４００は、後層側可動装置Ｋ８００よりも外側を通る締結部を介して背面ケースＫ３１０の底壁部Ｋ３１１に締結固定されると共に、後層側可動装置Ｋ８００の非可動部分に締結固定される。まず、動作ユニットＫ３００の動作制御の概要について例示して説明する。

【４９５９】

図３７２から図３７８は、動作ユニットＫ３００の動作制御の一例を示す動作ユニットＫ３００の正面図である。図３７２では、第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１がそれぞれ演出待機状態である場合について図示される。即ち、図３７２において、第１可動装置Ｋ４０１は上側装飾部材Ｋ３３０に隠されており、第３可動装置Ｋ８０１は前層側可動装置Ｋ４００に隠されているため、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１を正面視で視認することはできない。

【４９６０】

図３７３では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態よりも下降された下降配置状態とされることで、空いたスペースに第１可動装置Ｋ４０１が進入するように落下することで第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態とされ、第３可動装置Ｋ８０１は演出待機状態とされる場合について図示される。

【４９６１】

第１可動装置Ｋ４０１の位置と第２可動装置Ｋ７０１の位置とが前後にずれておらず（上面視で重なっており）、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態のままだと落下後の第１可動装置Ｋ４０１と衝突してしまうことから、予め第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態とされた後で第１可動装置Ｋ４０１が落下するように駆動制御される。

【４９６２】

第１可動装置Ｋ４０１は、少なくとも最背面側の部材（長尺装置Ｋ５４０の本体部Ｋ５４１）が非透過となるように構成されているので、第１可動装置Ｋ４０１と重なる部分については第３図柄表示装置Ｋ８１による表示が隠される。従って、図３７３に示す状態において、遊技者は第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示を正面視で完全には視認することができない。

【４９６３】

図３７４では、第１可動装置Ｋ４０１及び第２可動装置Ｋ７０１がそれぞれ演出待機状態とされ、第３可動装置Ｋ８０１が第３図柄表示装置Ｋ８１の手前側を塞ぐ閉塞状態とされる場合について図示される。

【４９６４】

第３可動装置Ｋ８０１は、正面視矩形状に形成される板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１は、光透過性に形成されており、その透過の度合いを部分的に異ならせている。これにより、図３７４に示すように板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１により第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の全域が塞がれる場合に、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が視認され易い部分と、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に隠されて板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の表面の装飾が視認され易い部分とを構成することができる。

【４９６５】

図３７５では、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態における上下位置を保ったまま、移動装置Ｋ５６０が左側にスライド移動された後で、下降配置状態とされていた第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態に変化されており、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態とされる場合が図示される。

【４９６６】

移動装置Ｋ５６０を左右にスライド移動させ第２可動装置Ｋ７０１と干渉しない位置（図３７５参照）まで移動させた上で、第２可動装置Ｋ７０１を移動させることで、移動装置Ｋ５６０と第２可動装置Ｋ７０１との間隔を狭め、且つ、動作ユニットＫ３００の正面視中央側に第２可動装置Ｋ７０１を寄せて、第１可動装置Ｋ４０１及び第２可動装置Ｋ７０１を遊技者に視認させ易くしている。

【４９６７】

図３７５に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１の変位軌跡と第３可動装置Ｋ８０１の変位軌跡とが、正面視で部分的に重なるが、第１可動装置Ｋ４０１の変位軌跡と第３可動装置Ｋ８０１の変位軌跡とが前後でずれている（上面視で重ならない）ので、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１は、動作中に互いに衝突しない（干渉しない）。そのため、図３７５に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１を演出待機状態から落下位置状態へ変化させた状態において、第３可動装置Ｋ８０１を演出待機状態から閉塞状態に変化させることができる。

【４９６８】

このようにして、第１可動装置Ｋ４０１、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１を、それぞれ演出待機状態から駆動させる制御を実行可能とし、一体感のある動作を実現しながら、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１が衝突することを避けることができる。

【４９６９】

図３７５に示す状態では、第３可動装置Ｋ８０１の左側に描かれる装飾、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０に描かれる装飾、第２可動装置Ｋ７０１に描かれる装飾および入賞ユニットＫ２００の化粧カバーＫ２２０に描かれる装飾を一連で視認させることで意味を持たせる演出を実行可能とされる（第３可動装置Ｋ８０１に描かれる装飾については本図では図示を省略する。詳細は後述する）。

【４９７０】

図３７６では、第１可動装置Ｋ４０１及び第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態とされ、第２可動装置Ｋ７０１が上昇配置状態とされる場合が図示される。第２可動装置Ｋ７０１は、演出待機状態ではセンターフレームＫ８６の下側部と大部分が重なり視認性が悪いが（図３５８参照）、上昇配置状態では、半分以上がセンターフレームＫ８６の下側部よりも上側に配置されることで、第２可動装置Ｋ７０１の視認性が向上される。

【４９７１】

図３７７では、第２可動装置Ｋ７０１及び第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態とされ、第１可動装置Ｋ４０１の右側のみが途中位置まで落下した片側落下状態とされる場合が図示され、図３７８では、図３７７の状態から第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が可動域の右端部まで変位された場合が図示される。

【４９７２】

第１可動装置Ｋ４０１において、演出待機状態と片側落下状態との変化が生じる際には、移動装置Ｋ５６０の位置は左右方向中央側に維持される。これにより、昇降変位時に第１可動装置Ｋ４０１の左右バランスが崩れることを避けることができる。

【４９７３】

図３７８に図示される片側落下状態では、移動装置Ｋ５６０の姿勢が右斜め下に倒れる態様で傾くため、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠が傾いてしまい、見栄えが悪くなる。これに対し、本実施形態では、演出待機状態から片側落下状態へ変化し、更に演出待機状態に変化するまでの間、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠を回転させ続けるように制御される。これにより、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠が傾いて見栄えが悪くなるという事

態を避けることができる。
【４９７４】
本実施形態では、移動装置Ｋ５６０の正面側の意匠の回転は、移動装置Ｋ５６０が正面視右方に移動する際には正面視時計回り（右向き前転方向）とされ、移動装置Ｋ５６０が正面視左方に移動する際には正面視反時計回り（左向き前転方向）とされる。これにより、移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動と、回転動作とを遊技者に関連して把握させることができ、統一的な動作演出とすることができる。
【４９７５】
図３７２から図３７８に示すように、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の状態に対応して、その後方に配置されている第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が見える範囲が変わる。即ち、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の全てが演出待機状態にある場合が第３図柄表示装置Ｋ８１の表示が見え易い範囲（面積や位置）が最大の状態（図３７２参照）であり、演出待機状態から状態が変化される可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１に対応して、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なるように構成される。
【４９７６】
演出待機状態からの各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１の状態の変化の程度によっても、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なる。また、例えば、同じ可動装置（例えば、第１可動装置Ｋ４０１）が動作する場合であっても、図３７３に示す状態と、図３７８に示す状態とでは、動作量や、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域と重なる第１可動装置Ｋ４０１の面積や位置が異なることから、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域の隠される範囲（面積や位置）が異なっている。
【４９７７】
即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１では、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠されない範囲（可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１を透視することで表示を視認可能な範囲を含む）における表示演出を視認させるように制御が設計されているところ、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠される範囲（可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１を透視することで表示を視認可能な範囲を除く）が複数種類で変化することから、各可動装置Ｋ４０１，Ｋ７０１，Ｋ８０１により隠されない範囲における表示演出のバリエーションを多くすることができ、表示演出の演出効果を向上させることができる。
【４９７８】
次いで、図３７９から図４００を参照して、第１可動装置Ｋ４０１について説明する。図３７９は、前層側可動装置Ｋ４００の正面分解斜視図であり、図３８０は、前層側可動装置Ｋ４００の背面分解斜視図である。
【４９７９】
前層側可動装置Ｋ４００の内、第２可動装置Ｋ７０１を除く部分を構成する第１可動装置Ｋ４０１は、略左右対称形状の部材から左右一対で構成され背面ケースＫ３１０に締結固定される一対の支持部材Ｋ４１０と、その支持部材Ｋ４１０の下側部において回転可能に支持される一対の回転部材Ｋ４３０と、その回転部材Ｋ４３０を回転させる駆動力を発生させる一対の駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂと、回転部材Ｋ４３０の回転の状態に対応して昇降可能に構成される昇降装置Ｋ５００と、を備える。
【４９８０】
更に、第１可動装置Ｋ４０１は、支持部材Ｋ４１０の前方の開放部に蓋をするように支持部材Ｋ４１０に締結固定される左右一対の前カバー部材Ｋ４４０と、右側の前カバー部材Ｋ４４０に前側から締結固定され昇降装置Ｋ５００の動作態様を切り替える切替装置Ｋ４６０と、回転部材Ｋ４３０の回転の状態に対応して昇降装置Ｋ５００の下降を許容する許容状態と昇降装置Ｋ５００の下降を防止する防止状態とで変化される左右一対の状態変化装置Ｋ４７０と、を備える。
【４９８１】

更に、第１可動装置Ｋ４０１は、左側の前カバー部材Ｋ４４０の下側部に正面側から締結固定され光透過性樹脂から形成される装飾部材Ｋ４０２と、その装飾部材Ｋ４０２へ光を照射するＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板Ｋ４０３と、右側の前カバー部材Ｋ４４０の下側部に正面側から締結固定され光透過性樹脂から形成される装飾部材Ｋ４０４と、その装飾部材Ｋ４０４へ光を照射するＬＥＤ等の発光手段が配設される電飾基板Ｋ４０５と、前層側可動装置Ｋ４００の組立状態（図３７１参照）における支持部材Ｋ４１０及び前カバー部材Ｋ４４０と第２可動装置Ｋ７０１との隙間を上側から塞ぐ上カバー部材Ｋ４０６と、を備える。

【４９８２】

前カバー部材Ｋ４４０の詳細について説明する。前カバー部材Ｋ４４０は、略Ｌ字状に形成される板状本体Ｋ４４１と、その板状本体Ｋ４４１に上下方向に延びる長孔として穿設され昇降装置Ｋ５００の昇降を案内する案内長孔Ｋ４４２と、その案内長孔Ｋ４４２の下端部近傍に配設される樹脂部材であって昇降装置Ｋ５００の下降時の衝撃を吸収可能な吸収部材Ｋ４４３と、板状本体Ｋ４４１の背面から回転部材Ｋ４３０へ向けて突設される突設部Ｋ４４４と、案内長孔Ｋ４４２の前方に配置され案内長孔Ｋ４４４を前側に通過した昇降装置Ｋ５００の締結部Ｋ５３３に連結される連結部材Ｋ４４５と、を備える。

【４９８３】

図３８１は、第１可動装置Ｋ４０１の分解正面斜視図であり、図３８２は、第１可動装置Ｋ４０１の分解背面斜視図である。図３８１及び図３８２では、第１可動装置Ｋ４０１の内、支持部材Ｋ４１０、回転部材Ｋ４３０及び状態変化装置Ｋ４７０が図示され、前カバー部材Ｋ４４０及び切替装置Ｋ４６０の図示は省略される。

【４９８４】

図３８１及び図３８２に示すように、支持部材Ｋ４１０は、正面視略Ｌ字状に形成される本体部Ｋ４１１と、その本体部Ｋ４１１の下側部の正面側に円筒状に突設され回転部材Ｋ４３０を回転可能に支持する支持部Ｋ４１２と、その支持部Ｋ４１２の左右方向外側に回転部材Ｋ４３０の姿勢を検出するために配設される検出センサＫ４１３と、本体部Ｋ４１１の下端部の正面側に円筒状に突設され状態変化装置Ｋ４７０の下側回転部材Ｋ４７１を回転動作可能に支持する支持部Ｋ４１４と、昇降装置Ｋ５００を案内可能に上下方向に延びる長孔として形成される案内長孔Ｋ４１５と、その案内長孔Ｋ４１５に沿ってギア歯が形成されるラックＫ４１６と、本体部Ｋ４１１の背面側に上下方向に並べて形成され状態変化装置Ｋ４７０の連動部材Ｋ４７３の昇降移動を案内する案内突設部Ｋ４１７と、本体部Ｋ４１１の上端部の正面側に配設され昇降装置Ｋ５００が演出待機状態における位置に配置されているか否かを検出可能な検出センサＫ４１８と、本体部Ｋ４１１に上端部が吊り下げられ下端部が昇降装置Ｋ５００の鉤状部Ｋ５１５に引っかけられるコイルスプリングＫ４１９と、を備える。

【４９８５】

更に、支持部材Ｋ４１０は、昇降装置Ｋ５００の昇降動作を案内するものとして上下方向に延びる金属棒Ｋ４２１と、その金属棒Ｋ４２１の下端が差し込まれる支持受部Ｋ４２２と、金属棒Ｋ４２１に昇降装置Ｋ５００を沿わせるために昇降装置Ｋ５００との間で金属棒Ｋ４２１を挟む位置で昇降装置Ｋ５００に締結固定される被固定部材Ｋ４２３と、金属棒Ｋ４２１の上端が支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１から上方向および前方向に抜けないようにするための抜け止めとしての補助部材Ｋ４２４と、を備える。

【４９８６】

なお、本実施形態では、左側の金属棒Ｋ４２１に対しては前カバー部材Ｋ４４０の板状本体Ｋ４４１が補助部材Ｋ４２４と同様の機能を果たすように構成されることで、補助部材Ｋ４２４は右側にのみ配設されている。

【４９８７】

回転部材Ｋ４３０は、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂの駆動軸に固定される駆動ギアＫＧ４２の回転を支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１に支持される中間ギアＫＧ４３を介して伝達するために背面側の全周に亘ってギア歯Ｋ４３２が形成される円板状の本

体部Ｋ４３１と、その本体部Ｋ４３１の中心部において円形に穿設され支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１２が挿通される回転中心孔Ｋ４３３と、本体部Ｋ４３１の外周側縁部において回転部材Ｋ４３０の回転軸線と平行な回転軸線で回転自在に連結され昇降装置Ｋ５００を下支えする伝達筒状部Ｋ４３４と、回転中心孔Ｋ４３３の同心円形状の突条において支持部材Ｋ４１０の検出センサＫ４１３が検出可能な幅で形成される切り欠き部Ｋ４３５と、本体部Ｋ４３１の外周側付近において背面側に突設される一組の突条により形成される案内溝Ｋ４３６と、を備える。

【４９８８】

状態変化装置Ｋ４７０は、支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１４に回転動作可能に支持される下側回転部材Ｋ４７１と、その下側回転部材Ｋ４７１の左右内側端部から回転部材Ｋ４３０側へ向けて突設され案内溝Ｋ４３６に受け入れられる切替突部Ｋ４７２と、下側回転部材Ｋ４７１の左右外側端部に配設される軸部を介して互いに相対動作可能に連結される連動部材Ｋ４７３と、連動部材Ｋ４７３の上下端部を構成する板状部に上下に長い長孔として穿設され支持部材Ｋ４１０の案内突設部Ｋ４１７が挿通されることで連動部材Ｋ４７３の動作方向を上下方向とするための複数の案内長孔Ｋ４７４と、連動部材Ｋ４７３の上端部付近において正面側に突設される切替突部Ｋ４７５と、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１に回転動作可能に支持され切替突部Ｋ４７５の配置に対応して回転方向の姿勢が変化する上側回転部材Ｋ４７６と、を備える。

【４９８９】

昇降装置Ｋ５００は、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に下支えされた状態において、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４の上下位置が上方向に変化する際に持ち上げられることで、上昇移動可能に構成される。

【４９９０】

図３８３は、昇降装置Ｋ５００の分解正面斜視図であり、図３８４は、昇降装置Ｋ５００の分解背面斜視図である。昇降装置Ｋ５００は、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に直接的に押し上げられ得る左右一組の下側部材Ｋ５１０と、その下側部材Ｋ５１０の上端部の背面側に回転可能に支持される左右一対の変速ギアＫ５２０と、下側部材Ｋ５１０の昇降移動量が変速ギアＫ５２０により増減されて伝達されるように変速ギアＫ５２０に歯合されるラックＫ５３２を有しており下側部材Ｋ５１０と連動して昇降移動する左右一組の上側部材Ｋ５３０と、その上側部材Ｋ５３０に左右両端部が支持される長尺装置Ｋ５４０と、その長尺装置Ｋ５４０の長尺方向にスライド移動可能に構成される移動装置Ｋ５６０と、を備える。

【４９９１】

下側部材Ｋ５１０は、正面視略Ｌ字形状に形成される本体部Ｋ５１１と、その本体部Ｋ５１１の下端において下側部材Ｋ５１０の移動方向（上下方向）と直交する平面状に形成される平面部Ｋ５１２と、本体部Ｋ５１１の背面側から円筒状に突設される内部に雌ネジが形成されており変速ギアＫ５２０を支持可能に構成される支持締結部Ｋ５１３と、金属棒Ｋ４２１（図３８１参照）に案内される被案内部Ｋ５１４と、本体部Ｋ５１１の上端部の正面側に鉤形状に形成されコイルスプリングＫ４１９（図３８１参照）の下端部が引っかけられる鉤状部Ｋ５１５と、を備える。

【４９９２】

支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジは、変速ギアＫ５２０の抜け止めとして機能し、その頭部が支持部材Ｋ４１０の案内長孔Ｋ４１５の内側に配置される。これにより、支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジの頭部の張り出し分を吸収することができ、変速ギアＫ５２０の背面側面を支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の前側面で支持することができる。更に、支持締結部Ｋ５１３に締結されるネジの移動方向が案内長孔Ｋ４１５に制限されることによって、下側部材Ｋ５１０を安定して上下方向に移動させることができる。

【４９９３】

鉤状部Ｋ５１５を介して、下側部材Ｋ５１０は、コイルスプリングＫ４１９（図３８１参照）により上向きに付勢される。これにより、コイルスプリングＫ４１９の付勢力で昇

降装置Ｋ５００の上昇移動を補助することができる。
【４９９４】
変速ギアＫ５２０は、中間円板Ｋ５２１の背面側に第１ギアＫ５２２が形成され、中間円板Ｋ５２１の正面側に第１ギアＫ５２２と同軸で第２ギアＫ５２３が形成される。中間円板Ｋ５２１は、第１ギアＫ５２２の直径よりも直径が大きく、且つ、第２ギアＫ５２３の直径よりも直径が大きい円形状の板部として形成されており、これにより、第１ギアＫ５２２又は第２ギアＫ５２３と歯合している相手部材が前後方向に位置ずれして、反対の第２ギアＫ５２３又は第１ギアＫ５２２と歯合する事態が生じることが防止される。
【４９９５】
第１ギアＫ５２２は、支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６（図３８１参照）と歯合され、第２ギアＫ５２３は、上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２と歯合される。第１ギアＫ５２２の歯数は８であり、第２ギアＫ５２３の歯数は１２である。
【４９９６】
従って、下側部材Ｋ５１０が昇降移動した場合に、その下側部材Ｋ５１０の昇降移動量の１．５倍の移動量で、上側部材Ｋ５３０が下側部材Ｋ５１０に対して相対移動することになるが、昇降移動の詳細については後述する。
【４９９７】
上側部材Ｋ５３０は、上下方向に長尺の本体部Ｋ５３１と、その本体部Ｋ５３１の背面側において左右外側に向けて上下方向に延設されるラックＫ５３２と、本体部Ｋ５３１の正面側に上下一対で突設される円筒状部であって内部に雌ネジが形成される締結部Ｋ５３３と、本体部Ｋ５３１の背面側に円筒状に突設されており長尺装置Ｋ５４０を回転動作可能に支持する回転軸部Ｋ５３４と、その回転軸部Ｋ５３４と平行な方向で円筒状に突設される補助突部Ｋ５３５と、金属棒Ｋ４２１（図３８１参照）に案内される被案内部Ｋ５３６と、上側回転部材Ｋ４７６（図３８１参照）に下支えされる湾曲面として形成される湾曲受部Ｋ５３７と、を備える。
【４９９８】
締結部Ｋ５３３には、連結部材Ｋ４４５（図３７９参照）が締結固定される。即ち、前カバー部材Ｋ４４０の案内長孔Ｋ４４２（図３７９参照）を前側へ貫通した締結部Ｋ５３３の先端に連結部材Ｋ４４５が締結固定される。これにより、締結部Ｋ５３３の移動が案内長孔Ｋ４４２に制限されることになるので、上側部材Ｋ５３０の昇降移動を安定させることができる。
【４９９９】
上側部材Ｋ５３０は被案内部Ｋ５３６に、下側部材Ｋ５１０は被案内部Ｋ５１４によって、それぞれ金属棒Ｋ４２１（図３８１参照）に案内されるので、下側部材Ｋ５１０及び上側部材Ｋ５３０の前後左右方向の倒れを防止することができる。
【５０００】
図３８５は、長尺装置Ｋ５４０の分解正面斜視図であり、図３８６は、長尺装置Ｋ５４０の分解背面斜視図である。図３８５及び図３８６では、位置関係の理解を容易とするために上側部材Ｋ５３０及び移動装置Ｋ５６０が図示される。
【５００１】
長尺装置Ｋ５４０は、左右長尺の板状に形成される本体部Ｋ５４１と、その本体部Ｋ５４１の左右中央部において背面側に円筒状に突設される支持軸部Ｋ５４２と、その支持軸部Ｋ５４２に回転可能に支持される中央ギアＫ５４３と、支持軸部Ｋ５４２と平行な方向に円筒状に突設される複数の案内突設部Ｋ５４４と、その案内突設部Ｋ５４４に案内され本体部Ｋ５４１の長尺方向にスライド移動可能に構成される一対のスライドラックＫ５４５と、を備える。
【５００２】
本体部Ｋ５４１の前側部には、左右外側端部よりも内側に終端位置が形成される左右長尺の凹部Ｋ５４１ａが形成される。凹部Ｋ５４１ａは、長尺装置Ｋ５４０の組立状態（図３８３参照）において、移動装置Ｋ５６０の背面側下端部が受け入れられる部分として機

能している。
【５００３】
スライドラックＫ５４５は、図３８６に示す状態における左右外側の上下幅よりも左右内側の上下幅の方が短くされる左右一組の板状部材であって、左右外側端の下端部において前後方向に穿設され上側部材Ｋ５３０の回転軸部Ｋ５３４が受け入れられる受入部Ｋ５４６と、その受入部Ｋ５４６を中心とする円弧形状で穿設され補助突部Ｋ５３５が受け入れられる円弧状部Ｋ５４７と、図３８６に示す状態における左右方向に長い長孔形状で穿設され案内突設部Ｋ５４４が受け入れられる複数の案内長孔Ｋ５４８と、中央ギアＫ５４３に歯合されるラックＫ５４９と、を備える。
【５００４】
スライドラックＫ５４５のスライド移動方向は、案内長孔Ｋ５４８が延設される方向（図３８６に占めす状態における左右方向、本体部Ｋ５４１の長尺方向）に設定される。そのため、左右の上側部材Ｋ５３０の上下位置が一致している時（最近接位置）を基準として、上側部材Ｋ５３０同士の上下方向の位置ずれ寸法が大きくなるにつれて、本体部Ｋ５４１の長尺方向外側へ向けて相対移動することになるが、詳細は後述する。
【５００５】
更に、長尺装置Ｋ５４０は、本体部Ｋ５４１に正面側から締結固定される化粧部材Ｋ５５１と、その化粧部材Ｋ５５１の内部に配設され正面側に光を照射するＬＥＤが配設される電飾基板Ｋ５５２と、化粧部材Ｋ５５１の左側端部に締結固定されるモータ支持部材Ｋ５５３と、そのモータ支持部材Ｋ５５３に支持される駆動モータＫＭＴ５１の駆動力を伝達可能な伝達ギア群ＫＧ５２を介して回転されることで移動装置Ｋ５６０の軸線方向の位置を変化させるように構成されるネジ軸Ｋ５５４と、化粧部材Ｋ５５１の背面側においてネジ軸Ｋ５５４の両端部が回転可能に受け入れられる支持受部Ｋ５５５と、電飾基板Ｋ５５２の背面側において検出溝を背面側へ向けた姿勢で化粧部材Ｋ５５１の後側板部を貫通する位置に設けられるフォトカプラ形式の検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃと、を備える。
【５００６】
ネジ軸Ｋ５５４の軸線方向は本体部Ｋ５４１の長手方向と一致しており、移動装置Ｋ５６０のネジ軸Ｋ５５４の軸線方向の移動は、凹部Ｋ５４１ａの形成されている範囲に制限される。
【５００７】
検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃは、移動装置Ｋ５６０の配置を検出可能に構成されている。即ち、移動装置Ｋ５６０が、第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態における左右中央位置に配置されている場合には、中央検出センサＫ５５６ｂに検出され、移動装置Ｋ５６０が、ネジ軸５５４の軸線方向に沿って左右にスライド移動し、その移動範囲の右側終端位置に配置されている場合には右側検出センサＫ５５６ａに検出され、移動範囲の左側終端位置に配置されている場合には左側検出センサＫ５５６ｃに検出される。
【５００８】
図３８７は、移動装置Ｋ５６０の分解正面斜視図であり、図３８８は、移動装置Ｋ５６０の分解背面斜視図である。移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１と、その本体部Ｋ５６１の上端部に締結固定される前側受部Ｋ５７１と、その前側受部Ｋ５７１に後面側から締結固定される後側受部Ｋ５７２と、前側受部Ｋ５７１と後側受部Ｋ５７２との間に保持され自らの開口方向（図３８７における矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸とする回転が防止されるように構成されるナットＫＮＴ６１と、を備える。
【５００９】
ナットＫＮＴ６１は、長尺開口部ＫＮＴ６１ａの内周側において、ネジ軸Ｋ５５４（図３８５をご参照下さい）の外周に螺旋状に切られる溝部に対応するように形成される突条が、螺旋状に形成されている。
【５０１０】
これにより、長尺開口部ＫＮＴ６１ａにネジ軸Ｋ５５４が挿通されている状態でネジ軸

Ｋ５５４が回転駆動されると、その回転駆動量に対応して、ナットＫＮＴ６１はネジ軸Ｋ５５４の軸線方向に移動される。即ち、駆動モータＫＭＴ５１（図３８５参照）の駆動に対応して、移動装置Ｋ５６０のネジ軸Ｋ５５４の軸線方向の配置が変化するよう構成される（ボールネジの構造が流用される）。

【５０１１】

前側受部Ｋ５７１は、ナットＫＮＴ６１の配設位置よりも下方から正面側へ板状に突設される被検出板部Ｋ５７１ａを備える。長尺装置Ｋ５４０の検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃ（図３８６参照）の検出溝に被検出板部Ｋ５７１ａが位置する場合と、位置しない場合とで、検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃからの出力を異ならせることができる。この検出センサＫ５５６ａ～Ｋ５５６ｃの出力の違いから、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）に、移動装置Ｋ５６０が、第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態における左右中央位置に配置されているか、移動範囲の左右方向終端位置に配置されているか、そのいずれでもないか、を判断させることができる。

【５０１２】

更に、移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１の下端部に締結固定されるモータ受部Ｋ５７５と、そのモータ受部Ｋ５７５に保持される駆動モータＫＭＴ６１と、その駆動モータＫＭＴ６１の駆動軸に固定され本体部Ｋ５６１とモータ受部Ｋ５７５との間に配設される駆動ギアＫＭＧ６２と、その駆動ギアＫＭＧ６２に歯合される位置で本体部Ｋ５６１の支持軸部Ｋ５６２に回転可能に支持される伝達ギアＫＭＧ６３と、その伝達ギアＫＭＧ６３に歯合される終端ギアＫＭＧ６４と、本体部Ｋ５６１の円形開口部Ｋ５６３に挿通される中心挿通部Ｋ５７９が終端ギアＫＭＧ６４に締結固定される回転装飾部材Ｋ５７８と、を備える。

【５０１３】

更に、移動装置Ｋ５６０は、本体部Ｋ５６１の正面側に配設され円形開口部Ｋ５６３に対応する位置に円形開口Ｋ５６４ａが形成される電飾基板Ｋ５６４と、その電飾基板Ｋ５６４の円形開口Ｋ５６４ａに対応する位置に円形開口Ｋ５６７ａが形成され、光透過性の樹脂材料から形成され電飾基板Ｋ５６４からの照射光を屈折可能（乱反射可能）なカットが形成される受光部材Ｋ５６７と、を備える。

【５０１４】

電飾基板Ｋ５６４及び受光部材Ｋ５６７は、電飾基板Ｋ５６４、受光部材Ｋ５６７の順で本体部Ｋ５６１に重ねられ、円形開口部Ｋ５６３の中心軸線に円形開口Ｋ５６４ａ及び円形開口Ｋ５６７ａの中心軸線が合致するように配置され、本体部Ｋ５６１に締結固定される。

【５０１５】

電飾基板Ｋ５６４は、背面側にフォトカプラ形式の検出センサＫ５６５が配設される。検出センサＫ５６５の検出溝は、本体部Ｋ５６１に穿設される開口部Ｋ５６１ａの背面側に位置し、伝達ギアＫＭＧ６３の環状リブを受け入れ可能とされる。

【５０１６】

伝達ギアＫＭＧ６３の環状リブには切り欠き部ＫＭＧ６３ａが等間隔（１８０度間隔）で切り欠き形成されており、検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する場合と、位置しない場合とで、検出センサＫ５６５からの出力を異ならせることができる。この検出センサＫ５６５の出力の違いから、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）は伝達ギアＫＭＧ６３の位相を判断でき、回転装飾部材Ｋ５７８の位相を判断できる。

【５０１７】

本実施形態では、伝達ギアＭＧ６３の歯数に対する終端ギアＫＭＧ６４の歯数が１／２の関係にあるので、伝達ギアＭＧ６３が半回転することで終端ギアＫＭＧ６４が一回転する。検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する位相から伝達ギアＭＧ６３が半回転すると、再び検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する。

【５０１８】
即ち、検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが位置する場合、その切欠き部ＫＭＧ６３ａがどちらの切り欠き部ＫＭＧ６３ａであったとしても、終端ギアＫＭＧ６４及び回転装飾部材Ｋ５７８の位相は同じとされる。
【５０１９】
図３８９（ａ）及び図３８９（ｂ）は、前層側可動装置Ｋ４００の部分拡大正面図である。図３８９（ａ）及び図３８９（ｂ）では、主に切替装置Ｋ４６０が図示されており、便宜上、手前側の装飾部分を部分的に破り図示することで、内部構造を視認可能となるようにしている。図３８９（ａ）では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁とされる状態が図示され、図３８９（ｂ）では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態が図示される。
【５０２０】
図３８９（ａ）及び図３８９（ｂ）に図示されるように、切替装置Ｋ４６０は、右側の前カバー部材Ｋ４４０の板状本体Ｋ４４１に締結固定される基板部材Ｋ４６１と、基板部材Ｋ４６１に支持孔部Ｋ４６２ｂを中心とする回転動作が可能に支持されるストッパ部材Ｋ４６２と、基板部材Ｋ４６１に締結固定される駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１と、基板部材Ｋ４６１に支持孔部Ｋ４６３ｂを中心とする回転動作が可能に支持され、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の駆動力をストッパ部材Ｋ４６２に伝達可能に構成される伝達部材Ｋ４６３と、を備える。
【５０２１】
ストッパ部材Ｋ４６２は、支持孔部Ｋ４６２ｂが端部に穿設されるアーム部Ｋ４６２ａと、そのアーム部Ｋ４６２ａの長手方向に延びる長孔形状で穿設される案内長孔Ｋ４６２ｃと、アーム部Ｋ４６２ａの長手方向における支持孔部Ｋ４６２ｂが形成される端部の反対側の端部から背面側に突設される突設受部Ｋ４６２ｄと、を備える。
【５０２２】
伝達部材Ｋ４６３は、支持孔部Ｋ４６３ｂが形成されるアーム部Ｋ４６３ａと、そのアーム部Ｋ４６３ａとは異なる方向に支持孔部Ｋ４６３ｂから延びる補助アーム部Ｋ４６３ｃと、その補助アーム部Ｋ４６３ｃの延設先端部から後側に突設され駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の直進動作部ＫＳＯＬ４１ａの直進変位により伝達部材Ｋ４６３が回転動作される態様で連結される伝達基端突部Ｋ４６３ｄと、アーム部Ｋ４６３ａの先端部から後側に突設されストッパ部材Ｋ４６２の案内長孔Ｋ４６２ｃに受け入れられる伝達先端突部Ｋ４６３ｅと、を備える。
【５０２３】
切替装置Ｋ４６０の作用について説明する。基板部材Ｋ４６１は、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込まないよう連結部材Ｋ４４５よりも前側に配設されている一方で、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄは、基板部材Ｋ４６１よりも下側において基板部材Ｋ４６１よりも後側まで延びており、状態次第で、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込む。
【５０２４】
図３８９（ａ）に図示されるように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態では、突設受部Ｋ４６２ｄが案内長孔Ｋ４４２の前方に配置されており、連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に入り込む。
【５０２５】
即ち、図３８９（ａ）に図示される状態における連結部材Ｋ４４５の下降変位は、突設受部Ｋ４６２ｄにより途中停止される、この場合、連結部材Ｋ４４５を介して昇降装置Ｋ５００等の荷重が突設受部Ｋ４６２ｄにかけられることになるが、突設受部Ｋ４６２ｄが支持孔部Ｋ４６２ｂを起点とする鉛直下方（連結部材Ｋ４４５を介した荷重の方向）に配置されていることから、連結部材Ｋ４４５を介する昇降装置Ｋ５００等の荷重によりストッパ部材Ｋ４６２が回転動作することを回避し易くすることができる。
【５０２６】

これにより、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁の状態において、連結部材Ｋ４４５の移動を案内長孔Ｋ４４２の長さの途中位置で停止させることができる。また、連結部材Ｋ４４５の途中停止が頻繁に生じる動作制御を行う場合であっても、連結部材Ｋ４４５の途中停止のために駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１を励磁させる必要はないので、励磁状態とする回数の増加を抑えることができ、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の寿命の長期化を図ることができる。

【５０２７】

図３８９（ｂ）に図示されるように、図３８９（ａ）に図示される状態から駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁されると、直進動作部ＫＳＯＬ４１ａの上下変位により伝達部材Ｋ４６３が回転動作され、その回転動作と連動してストッパ部材Ｋ４６２が回転動作されることで、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避する。

【５０２８】

これにより、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態では、連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに停止されることはなく、連結部材Ｋ４４５が案内長孔Ｋ４４２の終端まで移動可能とされる。

【５０２９】

これにより、連結部材Ｋ４４５が締結固定される締結部Ｋ５３３を有する上側部材Ｋ５３０（図３８３参照）の移動可能量を、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が非励磁とされる状態（図３８９（ａ）参照）と、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１の励磁状態（図３８９（ｂ）参照）とで切り替えることができる。

【５０３０】

図３９０から図３９５は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大正面図である。図３９０から図３９５では、昇降装置Ｋ５００の右側部が、回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回り方向で回転動作される第１の動作態様に基づいて昇降移動する様子が時系列で図示される。

【５０３１】

なお、図３９０から図３９５では、可動部の理解を容易とするために、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の右下端部および右上部、下側部材Ｋ５１０の本体部Ｋ５１１の前側面部、変速ギアＫ５２０の中間円板Ｋ５２１及び第２ギアＫ５２３、及び、上側部材Ｋ５３０の本体部Ｋ５３１の前側面部が、部分的に破られて図示される。

【５０３２】

図３９０では、演出待機状態における第１可動装置Ｋ４０１が図示される。即ち、回転部材Ｋ４３０は切り欠き部Ｋ４３５（図３８２参照）が検出センサＫ４１３の検出溝に配置される位相とされ、上側部材Ｋ５３０は湾曲受部Ｋ５３７が進入状態の上側回転部材Ｋ４７６に下支えされることで上下移動が防止され、上側部材Ｋ５３０の上下移動が防止されることに伴い変速ギアＫ５２０の回転も防止され、その変速ギアＫ５２０が支持される下側部材Ｋ５１０の上下移動も防止される。

【５０３３】

即ち、図３９０に図示されるように、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４が下側部材Ｋ５１０の下方から退避している状態であっても、上側部材Ｋ５３０の上下移動が上側回転部材Ｋ４７６により防止されることで、下側部材Ｋ５１０の上下移動が防止されることになる。

【５０３４】

図３９１では、図３９０に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回りに回転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動される。回転部材Ｋ４３０の回転中において、伝達筒状部Ｋ４３４が突設部Ｋ４４４の湾曲面に対向配置される。突設部Ｋ４４４が伝達筒状部Ｋ４３４よりも回転部材Ｋ４３０の回転中心側に配設されること、及び、突設部Ｋ４４４の突設先端（後側先端）が回転部材Ｋ４３０の前側面と対向配置されることにより、伝達筒状部Ｋ４３４が回転部材Ｋ４３０の径方向に位置ずれするような姿勢ずれ（回転軸に対して回転部材Ｋ４３０が傾斜する姿勢ずれ）を防止することができる。

【５０３５】
これにより、回転部材Ｋ４３０が、偏心した位置において本体部Ｋ４３１を回転軸線に対して傾斜させる方向の荷重を受けた場合であっても、回転部材Ｋ４３０の姿勢変化を抑制することができるので、回転部材Ｋ４３０の回転抵抗を低減することができる。
【５０３６】
図３９１では、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が、依然として案内溝Ｋ４３６の大径溝Ｋ４３６ａに維持される。切替突部Ｋ４７２が大径溝Ｋ４３６ａに維持される間は、状態変化装置Ｋ４７０の状態は図３９０に図示される状態で維持されており、昇降装置Ｋ５００の上下位置も維持される。
【５０３７】
また、図３９０では、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図３８９（ｂ）参照）が非励磁の状態（図３８９（ａ）参照）が図示され、図３９１以降は、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡から退避するように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１が励磁された状態（図３８９（ｂ）参照）が図示される。
【５０３８】
図３９２では、図３９１に図示された状態から、回転部材Ｋ４３０が正面視反時計回りに回転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動され、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が受け入れられる部位が、案内溝Ｋ４３６の大径溝Ｋ４３６ａから小径溝Ｋ４３６ｂに切り替えられ、昇降装置Ｋ５００が落下を開始する直前の状態が図示される。
【５０３９】
切替突部Ｋ４７２が小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられるようになると、下側回転部材Ｋ４７１が支持部材Ｋ４１０の支持部Ｋ４１４を中心に回転動作され、下側回転部材Ｋ４７１の回転動作により連動部材Ｋ４７３及び切替突部Ｋ４７５が上下移動されることで、上側回転部材Ｋ４７６が支持孔Ｋ４７６ａを中心に進入状態から退避状態へ回転移動される。
【５０４０】
上側回転部材Ｋ４７６は、湾曲受部Ｋ５３７と対向配置される回転先端部Ｋ４７６ｂが、支持孔Ｋ４７６ａにおける回転中心を中心とする円弧形状面として形成されている。また、湾曲受部Ｋ５３７は、進入状態（図３９０参照）における上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂと面当たり可能な曲面形状から形成される。
【５０４１】
これにより、進入状態における上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂに湾曲受部Ｋ５３７が当接している状態から、上側回転部材Ｋ４７６を退避状態へ回転移動させる際に生じる抵抗を摩擦抵抗に限定することができ、抵抗が過大となることを防止することができる。
【５０４２】
また、進入状態における上側回転部材Ｋ４７６に対して湾曲受部Ｋ５３７を介して与えられる昇降装置Ｋ５００の自重は、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態へ向かう方向の反対方向（図３９２の反時計回り方向）の荷重として上側回転部材Ｋ４７６に付与される。
【５０４３】
従って、湾曲受部Ｋ５３７と上側回転部材Ｋ４７６との間の動作抵抗を小さくしながらも、湾曲受部Ｋ５３７を介して上側回転部材Ｋ４７６へ付与される昇降装置Ｋ５００の自重により上側回転部材Ｋ４７６が退避状態へ変化する事態が生じることを防止することができる。
【５０４４】
また、上述した上側回転部材Ｋ４７６の形状により、第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態のように左右バランスが崩れた場合に、自重のみではなく左右方向成分を有する荷重が湾曲受部Ｋ５３７から上側回転部材Ｋ４７６に与えられる場合に、その荷重を上側回転部材Ｋ４７６の回転中心へ向けるようにすることができる。これにより、上側回転部材Ｋ４７６の姿勢を安定させることができ、昇降装置Ｋ５００の支持を安定させることができ

る。
【５０４５】
図３９３では、図３９２に図示された状態から、昇降装置Ｋ５００が落下した後の状態としての落下位置状態（図３７３参照）が図示される。なお、落下位置状態に至るまでには、昇降装置Ｋ５００の右側部だけでなく、左側部も回転部材Ｋ４３０が回転され上側回転部材Ｋ４７６が回転移動されているが、左側部における回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様における回転方向は、右側部における回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様における回転方向（正面視反時計回り方向）の逆方向（正面視時計回り方向）になる。
【５０４６】
昇降装置Ｋ５００の落下による移動は、上側部材Ｋ５３０が前カバー部材Ｋ４４０の吸収部材Ｋ４４３（図３８０参照）に停止される位置まで生じるように構成されており、下側部材Ｋ５１０が回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に衝突するまで生じるようには構成されていない。
【５０４７】
そのため、昇降装置Ｋ５００の落下時の衝撃荷重が伝達筒状部Ｋ４３４に伝達される事態が生じることを回避することができる。即ち、昇降装置Ｋ５００の落下の衝撃が伝達筒状部Ｋ４３４や下側部材Ｋ５１０に伝達されることによる破損の発生を回避し易くすることができる。
【５０４８】
昇降装置Ｋ５００の下側部材Ｋ５１０、変速ギアＫ５２０及び上側部材Ｋ５３０の昇降移動の詳細について説明する。まず、下側部材Ｋ５１０及び上側部材Ｋ５３０は、それぞれ共通の金属棒Ｋ４２１によって上下方向にスライド移動可能に案内される。
【５０４９】
下側部材Ｋ５１０が図３９２に示す状態から下降する場合、変速ギアＫ５２０が支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６との歯合により回転され、その回転により上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２が変速ギアＫ５２０に対して上下方向に相対移動する。
【５０５０】
即ち、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０が上下方向に移動した場合に、下側部材Ｋ５１０の移動による変速ギアＫ５２０の上下方向の移動量に加えて、変速ギアＫ５２０の回転時に歯合する上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２の移動量分、下側部材Ｋ５１０に対して相対移動する。
【５０５１】
本実施形態では、上側部材Ｋ５３０のラックＫ５３２と歯合する第２ギアＫ５２３の歯数は、下側部材Ｋ５１０の移動に伴い支持部材Ｋ４１０のラックＫ４１６と歯合して回転する第１ギアＫ５２２の歯数の１．５倍に設計されているので、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０の移動量に下側部材Ｋ５１０の移動量の１．５倍の長さが加算された移動量で移動される。
【５０５２】
従って、上側部材Ｋ５３０は、下側部材Ｋ５１０の移動量ＫＶＤ１の２．５倍の移動量ＫＶＤ２で上下移動される（ＫＶＤ１：ＫＶＤ２＝２：５）。これにより、上側部材Ｋ５３０の上下方向の移動距離が、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ（図３８１参照）により回転される回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４の上下方向の移動距離に限定されることを避けることができる。
【５０５３】
即ち、回転部材Ｋ４３０の直径を小さく抑えつつ、上側部材Ｋ５３０の上下方向の移動距離は長く設計することができるので、上側部材Ｋ５３０や回転部材Ｋ４３０の配置の設計自由度を向上することができる。
【５０５４】
下側部材Ｋ５１０よりも左側において突設部Ｋ４４４が配設され、下側部材Ｋ５１０の左端部は突設部Ｋ４４４の右側平面部に上下方向に案内される。これにより、下側部材Ｋ

５１０の左側への位置ずれを突設部Ｋ４４４により防止することができる。
【５０５５】
図３９４では、図３９３に図示された状態から回転部材Ｋ４３０が更に反時計回り方向に回転されることで伝達筒状部Ｋ４３４により下側部材Ｋ５１０が持ち上げられ、且つ、依然として下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられている状態が図示される。
【５０５６】
回転部材Ｋ４３０の回転により伝達筒状部Ｋ４３４が下側部材Ｋ５１０の下面と擦れながら回転移動することになるが、下側部材Ｋ５１０の下面が平面部Ｋ５１２として形成されているので、伝達筒状部Ｋ４３４と下側部材Ｋ５１０との間で生じる動作抵抗を低減することができる。
【５０５７】
更に、コイルスプリングＫ４１９から下側部材Ｋ５１０に付与される上向きの付勢力により、下側部材Ｋ５１０から伝達筒状部Ｋ４３４へ向けて下向きに与えられる荷重が低減されることによっても、伝達筒状部Ｋ４３４と下側部材Ｋ５１０との間で生じる動作抵抗を低減することができる。
【５０５８】
図３９５では、図３９４に図示される状態から、回転部材Ｋ４３０が更に反時計回りに回転され、下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の大径溝Ｋ４３６ａに受け入れられている状態が図示される。
【５０５９】
図３９５では、上側回転部材Ｋ４７６が、図３９４に図示される退避状態から、進入状態へ変化している。この際、上側部材Ｋ５３０の湾曲受部Ｋ５３７が上側回転部材Ｋ４７６の回転先端部Ｋ４７６ｂよりも上側に配置されており、湾曲受部Ｋ５３７と回転先端部Ｋ４７６ｂとの間に隙間が生じている。これにより、上側回転部材Ｋ４７６の動作抵抗を低減することができる。
【５０６０】
ここで、退避状態の上側回転部材Ｋ４７６を進入状態に変化させるためには、自重に抵抗して連動部材Ｋ４７３を上方へ変位させる必要があるので、進入状態の上側回転部材Ｋ４７６を退避状態に変化させる場合よりも大きな力が必要となる。
【５０６１】
これに対し、本実施形態では、退避状態の上側回転部材Ｋ４７６を進入状態に変化させる場合において湾曲受部Ｋ５３７と回転先端部Ｋ４７６ｂとの間に隙間を生じさせることで、上側回転部材Ｋ４７６の動作抵抗を低減させ、状態の変化に必要な力が過大となることを回避している。
【５０６２】
図３９５に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に反時計回りに回転されると、図３９０に図示される状態に戻る。このように、回転部材Ｋ４３０が反時計回りに回転され続ける場合、昇降装置Ｋ５００の上下移動は循環可能とされる。即ち、回転部材Ｋ４３０の第１の動作態様は、昇降装置Ｋ５００の上下移動を循環させることができる動作態様である。
【５０６３】
図３９６及び図３９７は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大正面図である。図３９６及び図３９７では、図３９０に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が時計回りに回転されることに基づいて昇降装置Ｋ５００の右側部が下降する第２の動作態様の一部が時系列で図示される。
【５０６４】
第２の動作態様は、演出待機状態（図３９０参照）から図３９６、図３９７の順に変化した後で、回転部材Ｋ４３０を反時計回りに回転駆動させ演出待機状態に復帰するまでの動作態様である。

【５０６５】
なお、図３９６及び図３９７では、可動部の理解を容易とするために、支持部材Ｋ４１０の本体部Ｋ４１１の右下端部および右上部、下側部材Ｋ５１０の本体部Ｋ５１１の前側面部、変速ギアＫ５２０の中間円板Ｋ５２１及び第２ギアＫ５２３、及び、上側部材Ｋ５３０の本体部Ｋ５３１の前側面部が、部分的に破られて図示される。
【５０６６】
また、図３９６及び図３９７では、ストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが連結部材Ｋ４４５の移動軌跡に侵入するように、駆動ソレノイドＫＳＯＬ４１（図３８９（ａ）参照）が非励磁の状態が図示される。
【５０６７】
図３９６では、図３９０に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視時計回りに回転する方向に駆動ギアＫＧ４２が駆動される。下側回転部材Ｋ４７１の切替突部Ｋ４７２が回転部材Ｋ４３０の小径溝Ｋ４３６ｂに受け入れられることに基づいて、上側回転部材Ｋ４７６が退避状態に変化されているが、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に下側部材Ｋ５１０が下支えされることにより、昇降装置Ｋ５００は落下しない。
【５０６８】
即ち、下側部材Ｋ５１０は、自重により回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４に押し付けられる状態を維持しており、回転部材Ｋ４３０の回転に伴って、平面部Ｋ５１２と伝達筒状部Ｋ４３４との当接が維持されるように上下移動する。
【５０６９】
図３９７では、図３９６に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が正面視時計回りに回転され、連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに受け止められ下降が停止される状態が図示される。
【５０７０】
これにより、連結部材Ｋ４４５が締結固定される上側部材Ｋ５３０の下降も停止され、それに伴い下側部材Ｋ５１０の下降も停止されるので、図３９７に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に正面視時計回りに回転された場合には、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４は下側部材Ｋ５１０の平面部Ｋ５１２から離れる。
【５０７１】
図３９７に図示される状態から演出待機状態への復帰の際には、回転部材Ｋ４３０を反対方向（図３９７において反時計回り方向）に回転させ、伝達筒状部Ｋ４３４で下側部材Ｋ５１０を押し上げる。
【５０７２】
この場合において、回転部材Ｋ４３０の回転が図３９７に図示される状態から開始されるか、図３９７に図示される状態よりも回転部材Ｋ４３０が正面視時計回りに若干回転された状態から開始されるかに関わらず、昇降装置Ｋ５００から伝達筒状部Ｋ４３４にかけられる荷重は、図３９７に図示される状態から生じる。
【５０７３】
図３９７に図示される状態は、伝達筒状部Ｋ４３４が回転部材Ｋ４３０の回転軸としての支持部Ｋ４１２の真右に配置され、伝達筒状部Ｋ４３４の移動方向（伝達筒状部Ｋ４３４の移動軌跡に引かれた接線の方向）が上下方向を向く状態であるので、下側部材Ｋ５１０に対して上向きの荷重を効率的に付与することができる。これにより、図３９７に図示される状態からの演出待機状態への復帰動作を迅速に行わせることができる。
【５０７４】
なお、図３９７に図示される状態から回転部材Ｋ４３０が更に正面視時計回りに回転される場合、回転部材Ｋ４３０の伝達筒状部Ｋ４３４は下側部材Ｋ５１０の上面に当接し、下側部材Ｋ５１０に対して下側へ向く荷重を伝達させ得る。即ち、下側部材Ｋ５１０を上昇させる方向の荷重を生じさせることができないので、回転部材Ｋ４３０を正面視時計回りに回転させ続ける駆動制御では、昇降装置Ｋ５００の動作は循環しない。
【５０７５】

図３９８及び図３９９は、第１可動装置Ｋ４０１の部分拡大背面図である。図３９８では、演出待機状態（図３７２参照）における第１可動装置Ｋ４０１が図示され、図３９９では、片側落下状態（図３７７参照）における第１可動装置Ｋ４０１が図示される。

【５０７６】

図３９８に図示される第１可動装置Ｋ４０１の演出待機状態では、左右両側の上側部材Ｋ５３０が上側回転部材Ｋ４７６により支持される（図３９１参照）。一方、図３９９に図示される第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態では、左側の上側部材Ｋ５３０は上側回転部材Ｋ４７６により支持される一方で、右側の上側部材Ｋ５３０は、締結固定される連結部材Ｋ４４５がストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄに支持されることにより（図３９７参照）、長尺装置Ｋ５４０が傾けられる。

【５０７７】

図３９９に図示される状態では、図３９８に図示される状態から左右の回転軸部Ｋ５３４間の距離が延びており、この延びた寸法の分だけ、スライドラックＫ５４５が長尺装置Ｋ５４０の長手方向に変位する。

【５０７８】

一対のスライドラックＫ５４５は、互いに共通の中央ギアＫ５４３に歯合されており、長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿って相反する方向に変位することになるので、長尺装置Ｋ５４０の長手方向に沿う変位量は互いに共通である。

【５０７９】

即ち、演出待機状態からの右側のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａと、演出待機状態からの左側のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤｂとは同じである（ＫＳＤａ＝ＫＳＤｂ）。

【５０８０】

これにより、図３９８に図示される状態から、図３９９に図示される状態への変化における中央ギアＫ５４３の左右方向の位置ずれを抑制することができるので、その中央ギアＫ５４３を支持する本体部Ｋ５４１の左右方向の位置ずれを抑制することができる。

【５０８１】

ここで、第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態から落下位置状態へ変化される場合、左右の回転部材Ｋ４３０（図３８２参照）が第１の動作態様で回転駆動され、左右の上側回転部材Ｋ４７６（図３９２参照）が演出待機状態における進入状態から同時に退避状態に変化されることにより、左右の上側部材Ｋ５３０（図３９３参照）が同時に落下することが好ましい。更に、上昇動作時には、左右の回転部材Ｋ４３０が同じ回転角度で回転動作されることで、左右の高さのずれが無い状態で昇降装置Ｋ５００を上昇させることができる。

【５０８２】

しかし、左右の回転部材Ｋ４３０（図３８２参照）の動作抵抗を全く同じにすることは困難であるし、それぞれ対応する駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂ（図３８２参照）により駆動されるところ、駆動モータＫＭＴ４１ａ，ＫＭＴ４１ｂの品質により、同じ電圧を供給した場合であっても若干回転速度のずれが生じ得る。そのため、昇降装置Ｋ５００の上下動作にあたり、昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置にずれが生じる可能性がある。

【５０８３】

更に、本実施形態では、回転部材Ｋ４３０の回転による伝達筒状部Ｋ４３４の上下位置変化が、下側部材Ｋ５１０から上側部材Ｋ５３０へ伝達される際に２．５倍に増大させられる（図３９０から図３９５参照）。そのため、回転部材Ｋ４３０の位相のずれが小さくても、そのずれは２．５倍になって上側部材Ｋ５３０に支持される長尺装置Ｋ５４０の左右側の高さ位置のずれとして現れる。

【５０８４】

このように、本実施形態では、昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置のずれが生じ得る。昇降装置Ｋ５００の左右側の高さ位置のずれが生じる場合、昇降装置Ｋ５００の上下移

動中に長尺装置Ｋ５４０の姿勢が前後方向を向く直線を軸にして傾くことになり、見栄え悪くなり易い。

【５０８５】

これに対し、本実施形態では、上述したように左右のスライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂが同じになるように構成されているので、長尺装置Ｋ５４０の姿勢が傾いた場合であっても、長尺装置Ｋ５４０の左右中心位置の左右方向の位置ずれを抑制することができる。

【５０８６】

これにより、演出待機状態において長尺装置Ｋ５４０の左右中央位置に配置される移動装置Ｋ５６０の、昇降装置Ｋ５００の上下移動中における左右方向の位置ずれを抑制することができる。

【５０８７】

スライドラックＫ５４５は、回転軸部Ｋ５３４側における基端側の構造が共通とされる一方、中央ギアＫ５４３と歯合されるラックＫ５４９の配置は上下で異なるように構成されている。

【５０８８】

本実施形態では、図３９９に図示される片側落下状態が頻繁に生じるように制御される一方、その逆側（左側が下端となるように傾斜する姿勢）となるように制御されることは極めて少ない（無い）。

【５０８９】

そのため、本実施形態では、片側落下状態における中央ギアＫ５４３とラックＫ５４９との歯合状態を適正化し易いようにスライドラックＫ５４５を形成している。即ち、片側落下状態において、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側（回転軸部Ｋ５３４が上側となる側）のラックＫ５４９が中央ギアＫ５４３の上側に配置されるように形成している。

【５０９０】

更に、回転軸部Ｋ５３４をラックＫ５４９の下端に配置することにより、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側のラックＫ５４９の中央ギアＫ５４３側への張出量を長くしている。これにより、中央ギアＫ５４３に覆いかぶさる側のラックＫ５４９の自重により、そのラックＫ５４９と中央ギアＫ５４３との歯合態様を適正化し易くすることができる。

【５０９１】

図３９９に図示されるように、第１可動装置Ｋ４０１の片側落下状態は、演出待機状態から、左側の上側部材Ｋ５３０の回転軸部Ｋ５３４を基端側として傾倒することで変化される状態であって、その傾倒動作の基端側に駆動モータＫＭＴ５１が配設される。

【５０９２】

即ち、重量物としての駆動モータＫＭＴ５１の配置を基端側とすることで、重心を基端側に寄せることができ、演出待機状態から片側落下状態への変化の際に上下移動する傾倒動作の先端側（右側）の重量を軽くすることができる。これにより、片側落下状態において連結部材Ｋ４４５からストッパ部材Ｋ４６２の突設受部Ｋ４６２ｄが受ける荷重（図３９７参照）を低減することができる。

【５０９３】

図４００を参照して、移動装置Ｋ５６０の駆動制御の一例について説明する。図４００（ａ）、図４００（ｂ）、図４００（ｃ）及び図４００（ｄ）は、第１可動装置Ｋ４０１の部分正面図である。

【５０９４】

図４００（ａ）、図４００（ｂ）、図４００（ｃ）及び図４００（ｄ）では、第１可動装置Ｋ４０１の落下位置状態（図３７３参照）の上下位置に長尺装置Ｋ５４０が配置された状態における移動装置Ｋ５６０の移動が時系列で図示されており、移動装置Ｋ５６０の左右位置については、図４００（ａ）に図示される配置が図３７３の配置と同じであり、図４００（ｄ）に図示される配置が図３７５の配置と同じである。

【５０９５】

まず、図４００に図示される駆動制御が実行される場合には、第１可動装置Ｋ４０１の長尺装置Ｋ５４０が演出待機状態（図３７２参照）における上下位置から落下位置状態（図３７３参照）における上下位置まで下降（落下）移動される。この移動の開始から落下位置状態に到達した後も継続して、移動装置Ｋ５６０の回転装飾部材Ｋ５７８は、駆動モータＫＭＴ６１（図３８７参照）が正方向（正面視時計回り方向）に回転される際の駆動力により正面視時計回り方向に継続的に回転される。

【５０９６】

図４００（ａ）で図示されるように移動装置Ｋ５６０が左右中央位置ＫＣ４１に配置される状態で継続される回転中に、伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａ（図３８７参照）の検出センサＫ５６５（図３８８参照）の検出溝への配置間隔から、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）は、回転装飾部材Ｋ５７８の実際の回転速度ＫＶＲ１を検出する。

【５０９７】

その回転速度ＫＶＲ１が、予め規定される設計値に収まっていれば、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）による制御により、検出センサＫ５６５の検出間隔の中間のタイミング（図４００（ｂ）参照）で、駆動モータＫＭＴ５１（図３８５参照）が正方向（移動装置Ｋ５６０を右方へ移動させる方向、矢印Ｌの方向視時計回り方向）に回転駆動され、移動装置Ｋ５６０が速度ＫＶＳ１で移動される。

【５０９８】

図４００（ｂ）からの駆動モータＫＭＴ５１の駆動開始後、検出センサＫ５６５からの出力により検出センサＫ５６５の検出溝に伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａが配置されたと判定されたことに基づいて、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）は、駆動モータＫＭＴ６１（図３８７参照）及び駆動モータＫＭＴ５１（図３８５参照）の駆動を停止するように制御される。

【５０９９】

即ち、回転装飾部材Ｋ５７８の姿勢が検出センサＫ５６５の検出溝に切り欠き部ＫＭＧ６３ａが配置される際の適切な姿勢（上下左右の方向が合っている姿勢）で停止するタイミングと、移動装置Ｋ５６０の左右方向への移動が停止されるタイミングとを合致させることができる。

【５１００】

図４００（ｃ）に図示される右側途中位置ＫＲ４２に配置される状態から、駆動モータＫＭＴ６１（図３８７参照）が逆方向へ回転駆動されると同時に、駆動モータＫＭＴ５１（図３８５参照）が逆方向に回転駆動されることで、移動装置Ｋ５６０が図４００（ｄ）に図示される左側途中位置ＫＬ４３まで移動される。

【５１０１】

この時、駆動モータＫＭＴ６１の回転速度ＫＶＲ２は、回転速度ＫＶＲ１よりも遅く設定され、駆動モータＫＭＴ５１の回転速度は同じとされることで移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動速度は速度ＫＶＳ１に維持される。

【５１０２】

図４００（ｃ）から駆動モータＫＭＴ６１（図３８７参照）が回転駆動された後、最初に伝達ギアＫＭＧ６３の切り欠き部ＫＭＧ６３ａが検出センサＫ５６５の検出溝に配置されたことに基づいて、音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）は、駆動モータＫＭＴ６１（図３８７参照）及び駆動モータＫＭＴ５１（図３８５参照）の駆動を停止するように制御される。

【５１０３】

ここで、図４００（ｂ）から図４００（ｃ）までは回転装飾部材Ｋ５７８が半回転しており、図４００（ｃ）から図４００（ｄ）までは回転装飾部材Ｋ５７８が一回転している。そのため、速度関係が同じであれば、図４００（ｃ）に図示される右側途中位置ＫＲ４２と、図４００（ｄ）に図示される左側途中位置ＫＬ４３とは、左右中央位置ＫＣ４１を境に左右対称な位置となる。

【５１０４】
これに対し、本実施形態では、回転速度ＫＶＲ１よりも回転速度ＫＶＲ２の方が遅く設定されているので（ＫＶＲ１＞ＫＶＲ２）、左右中央位置ＫＣ４１から右側途中位置ＫＲ４２までの距離よりも、左右中央位置ＫＣ４１から左側途中位置ＫＬ４３までの距離の方が長くなる。このように、移動装置Ｋ５６０の停止位置を左右非対称に設定することができる。
【５１０５】
本実施形態では、移動装置Ｋ５６０が左側途中位置ＫＬ４３に配置された状態が、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝の外方に出始める配置に対応する（中央検出センサＫ５５６ｂの出力が切り替わる配置となる）。
【５１０６】
この場合、被検出部Ｋ５７１ａ（図３８７参照）は、移動装置Ｋ５６０の左右中心から左右方向に対称に延設されていることから、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂ（図３８６参照）の検出溝の外方に出るか否かは、左右いずれかに関わらず左右中央位置ＫＣ４１からの移動装置Ｋ５６０の移動量に因ることになる。
【５１０７】
即ち、図４００（ａ）、図４００（ｂ）及び図４００（ｃ）に図示される状態では、依然として被検出部Ｋ５７１ａ（図３８７参照）は中央検出センサＫ５５６ｂ（図３８６参照）の検出溝に配置されており、図４００（ｄ）に図示される状態で初めて、被検出部Ｋ５７１ａが中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝の外方に出る（この条件を満たす左右長さで被検出部Ｋ５７１ａが設計される）。
【５１０８】
図４００（ｄ）に図示される状態は、上述のように図３７５に図示される状態に対応しているので、中央検出センサＫ５５６ｂ（図３８６参照）の検出溝から被検出部Ｋ５７１ａが出ていること、及び中央検出センサＫ５５６ｂの検出溝から被検出部Ｋ５７１ａが出る際に駆動モータＫＭＴ５１（図３８５参照）が逆方向に駆動されていたと音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）で判定されたことに基づいて第２可動装置Ｋ７０１（図３７５参照）が駆動されることで、移動装置Ｋ５６０と第２可動装置Ｋ７０１が動作中に接触することを回避することができる。
【５１０９】
本実施形態では、上述の回転速度ＫＶＲ１，ＫＶＲ２及び速度ＫＶＳ１が、図４００に時系列で図示される一連の動作直後に被検出部Ｋ５７１ａ（図３８７参照）が中央検出センサＫ５５６ｂ（図３８６参照）の外方に配置されることを実現可能な関係の速度で設計される。
【５１１０】
以上、詳述したように、第１可動装置Ｋ４０１では、回転部材Ｋ４３０の回転に伴う伝達筒状部Ｋ４３４の変位が増大されて、昇降装置Ｋ５００の変位が生じる。これにより、回転部材Ｋ４３０の回転角度が小さい場合であっても、昇降装置Ｋ５００の変位量を大きく確保することができる。
【５１１１】
また、第１可動装置Ｋ４０１では、演出待機状態からの回転部材Ｋ４３０の回転方向により、２種類の変位態様で昇降装置Ｋ５００を変位させることができるように構成される。この時、昇降装置Ｋ５００の変位量を変化させるものとしての切替装置Ｋ４６０が同期して制御されることにより、昇降装置Ｋ５００の変位速度だけでなく、変位範囲を変化させることができるので、演出のバリエーションを増加させることができる。
【５１１２】
また、第１可動装置Ｋ４０１では、昇降装置Ｋ５００の左右側の上下方向のスライド量にずれが生じても、スライドラックＫ５４５の移動量ＫＳＤａ，ＫＳＤｂが同じになるように構成されることで移動装置Ｋ５６０の左右方向変位を抑制するよう構成される。これにより、昇降装置Ｋ５００の上下方向変位時の移動装置Ｋ５６０の左右位置のずれを抑え

ることができ、演出効果を向上させることができる。
【５１１３】
また、第１可動装置Ｋ４０１では、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動の速度や停止タイミングが、回転装飾部材Ｋ５７８の回転の速度や停止タイミングの検出を元に決められる。これにより、異なる駆動源で駆動される動作部材の動作を統一させることができ、演出に一体感を持たせることができる。
【５１１４】
移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動には、ボールネジに利用される構造を流用しているので、移動装置Ｋ５６０の移動速度や、停止位置の制御を正確に行うことができる。これにより、演出の再現性を向上させることができる。
【５１１５】
また、第１可動装置Ｋ４０１では、移動装置Ｋ５６０のスライド移動の方向と、回転装飾部材Ｋ５７８の回転動作の方向とが対応するように動作制御される。これにより、複数の可動部材の動作に一体感を持たせることができ、演出効果を向上させることができる。
【５１１６】
図３７９及び図３８０に戻って説明する。図３７９及び図３８０に図示されるように、前層側可動装置Ｋ４００には、第１可動装置Ｋ４０１の下側の左右中心位置において一対の支持部材Ｋ４１０を連結するように第２可動装置Ｋ７０１が配設される。以下で、第２可動装置Ｋ７０１の詳細について説明する。
【５１１７】
図４０１は、第２可動装置Ｋ７０１の分解正面斜視図であり、図４０２は、第２可動装置Ｋ７０１の分解背面斜視図である。第２可動装置Ｋ７０１は、骨格を構成する部材であって一対の支持部材Ｋ４１０（図３７９参照）に連結固定されるベース部材Ｋ７１０と、そのベース部材Ｋ７１０に対して上下方向にスライド移動可能に支持される上下スライド部材Ｋ７２０と、ベース部材Ｋ７１０に配設され上下スライド部材Ｋ７２０を駆動させる駆動力を発生させる駆動モータＫＭＴ７１と、その駆動モータＫＭＴ７１の駆動力を上下スライド部材Ｋ７２０に伝達する伝達装置Ｋ７３０と、上下スライド部材Ｋ７２０の正面側に配置され上下スライド部材Ｋ７２０に追従する移動が可能に構成される追従可能部材Ｋ７４０と、その追従可能部材Ｋ７４０及び上下スライド部材Ｋ７２０の両方に支持されており、追従可能部材Ｋ７４０及び上下スライド部材Ｋ７２０の移動に連動する一対の連動部材Ｋ７５０と、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０を挟むようにして正面側から上下スライド部材Ｋ７２０に締結固定される主装飾部材Ｋ７６０と、を備える。
【５１１８】
ベース部材Ｋ７１０は、正面視矩形状の本体部Ｋ７１１と、その本体部Ｋ７１１の正面側に互いに平行に突設される複数の円筒状の支持部Ｋ７１２と、上下方向に延びる姿勢で本体部Ｋ７１１の正面視左側に配設固定される金属棒Ｋ７１３と、金属棒Ｋ７１３の延設方向と平行な上下方向に延びる長孔Ｋ７１４と、ベース部材Ｋ７１０の背面側において長孔Ｋ７１４の後方と長孔Ｋ７１４の上端部から左方に延びる範囲の後方とで略Ｌ字に形成される支持領域Ｋ７１５と、ベース部材Ｋ７１０に配設され伝達装置Ｋ７３０が演出待機状態にあることを検出可能とされる検出センサＫ７１６と、ベース部材Ｋ７１０の背面側に固定部材Ｋ７１７により固定される中継基板Ｋ７１８と、を備える。
【５１１９】
本体部Ｋ７１１には、下端部において正面側から横長のカバー部材Ｋ７１１ａが締結固定される。カバー部材Ｋ７１１ａは、金属棒Ｋ７１３を前側から本体部Ｋ７１１に押さえる部材であって、金属棒Ｋ７１３の下方への脱落を防止する下側防止片Ｋ７１１ｂと、駆動モータＫＭＴ７１の駆動軸から駆動ギアＫＭＧ７２が脱落することを防止する前側防止片Ｋ７１１ｃと、を備える。
【５１２０】
また、本体部Ｋ７１１には、長孔Ｋ７１４の中間部右側位置において正面側へ張り出す張出部Ｋ７１１ｄが形成され、その張出部Ｋ７１１ｄの内側に検出溝が前側に配置される

検出センサＫ７１１ｅが配設される。また、金属棒Ｋ７１３の左側において正面側へ張り出す張出部Ｋ７１１ｆが形成される。検出センサＫ７１１ｅの出力の切替により、上下スライド部材Ｋ７２０が第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態にあるか否かを判別可能に構成されるが、詳細は後述する。

【５１２１】

支持部Ｋ７１２の内、第１支持部７１２ａは、駆動モータＫＭＴ７１の駆動軸に固定される駆動ギアＫＭＧ７２に歯合される伝達ギアＫＭＧ７３を回転可能に支持する。なお、他の支持部７１２ｂ～７１２ｄについては後述する。

【５１２２】

支持領域Ｋ７１５の左上終端部においてコイルスプリングＫＳＰ７４の一端が支持され、そのコイルスプリングＫＳＰ７４は、支持領域Ｋ７１５の交差位置の内側に円筒状に突設される支持部Ｋ７１５ａに回転可能に支持されるリング状のセットカラーＫＲＧ７５の外形円弧に沿って曲げられる。

【５１２３】

コイルスプリングＫＳＰ７４の他端は、長孔Ｋ７１４を貫通する上下スライド部材Ｋ７２０の締結部Ｋ７２３に締結固定されることで締結部Ｋ７２３と共に上下方向にスライド移動可能な被案内部材ＫＬＧ７６に引っかけられる。即ち、コイルスプリングＫＳＰ７４が、被案内部材ＫＬＧ７６を介して上下スライド部材７２０を上方向に向けて付勢するように構成される。

【５１２４】

検出センサＫ７１６は、演出待機状態において伝達装置Ｋ７３０の駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出溝に入ることに基づいて、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態であることを検出可能に構成される。

【５１２５】

中継基板Ｋ７１８は、支持領域Ｋ７１５の後側開放部を部分的に塞ぐように形成される。即ち、中継基板Ｋ７１８が支持領域Ｋ７１５の後側開放部を塞ぐことにより、コイルスプリングＫＳＰ７４が後側に脱落することを回避し易くすることができる。

【５１２６】

上下スライド部材Ｋ７２０は、板状の本体部Ｋ７２１と、その本体部Ｋ７２１の左下部において金属棒Ｋ７１３が挿通可能となるように上下方向に貫通される矩形の筒状に形成される被挿通部Ｋ７２２と、ベース部材Ｋ７１０の長孔Ｋ７１４に挿通され被案内部材ＫＬＧ７６が締結固定される上下一対の締結部Ｋ７２３と、互いに平行に左右方向に延びて連動部材Ｋ７５０の移動を案内する複数の長孔Ｋ７２４と、伝達装置Ｋ７３０の伝達終端部材Ｋ７３７を支持するために本体部Ｋ７２１の背面側へ円筒状に突設される複数の支持部Ｋ７２５と、位置検出に用いられ本体部Ｋ７２１の右上部から後方に延設される被検出片Ｋ７２６と、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の上端を吊り下げ可能な爪部を有するバネ支持部Ｋ７２７と、を備える。

【５１２７】

被挿通部Ｋ７２２が金属棒Ｋ７１３に案内されることにより、上下スライド部材Ｋ７２０は、金属棒Ｋ７１３の延設方向である上下方向に案内される。同様に、締結部Ｋ７２３がベース部材Ｋ７１０の長孔Ｋ７１４に案内されることによっても、上下スライド部材Ｋ７２０は上下方向に案内される。従って、上下スライド部材Ｋ７２０の移動方向は上下方向に制限される。

【５１２８】

伝達装置Ｋ７３０は、支持部Ｋ７１２の第２支持部Ｋ７１２ｂに回転可能に支持され前層ギア部Ｋ７３１ａが伝達ギアＫＭＧ７３に歯合される駆動側二層ギアＫ７３１と、支持部Ｋ７１２の第３支持部Ｋ７１２ｃに回転可能に支持され駆動側二層ギアＫ７３１の後層伝達部Ｋ７３１ｂと係合する伝達側二層ギアＫ７３３と、支持部Ｋ７１２の第４支持部Ｋ７１２ｄに回転可能に支持され伝達側二層ギアＫ７３３の前層ギア部Ｋ７３３ａと基端側ギア部Ｋ７３５ａが歯合されることで伝達側二層ギアＫ７３３の回転と連動して回転動作

するアーム部材Ｋ７３５と、そのアーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂに下側先端部Ｋ７３７ｃが連結される伝達終端部材Ｋ７３７と、を備える。

【５１２９】

駆動側二層ギアＫ７３１の後層伝達部Ｋ７３１ｂは、全周にギア歯が形成されるものではなく、一部にギア歯が形成されずに外形が回転軸を中心とする円弧状に形成される円弧状部Ｋ７３２を備え、その円弧状部Ｋ７３２の最外径部は回転軸と平行な方向である後方へ向けて延設されており、この円弧状部Ｋ７３２の延設先端が検出センサＫ７１６の検出溝に進入可能に構成される。

【５１３０】

伝達側二層ギアＫ７３３の後層伝達部Ｋ７３３ｂは、全周にギア歯が形成されるものではなく、一部にギア歯が形成されずに、回転軸側へ張り出す円弧状（凹形状）に形成される円弧状部Ｋ７３４を備え、この円弧状部Ｋ７３４と駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２とが面で当接可能に構成されるが、詳細は後述する。

【５１３１】

伝達終端部材Ｋ７３７は、板状に形成されており、支持部Ｋ７２５の内の上下スライド部材Ｋ７２０の上端部に形成される第１支持部Ｋ７２５ａに回転可能に支持される基端側支持孔Ｋ７３７ａと、その基端側支持孔Ｋ７３７ａを中心とする円弧状に形成され支持部Ｋ７２５の内の第２支持部Ｋ７２５ｂが挿通される案内孔Ｋ７３７ｂと、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂに対して相対回転可能に連結される下側先端部Ｋ７３７ｃと、を備える。

【５１３２】

追従可能部材Ｋ７４０は、板状に形成される本体部Ｋ７４１と、その本体部Ｋ７４１に上下方向に長い長孔上に穿設される複数（本実施形態では、左右中央と左右両端との３箇所）の上下長孔Ｋ７４２と、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と対応する位置において長孔Ｋ７２４の左右長さと同等の左右長さで形成され、本体部Ｋ７４１の左右中心側へ向けて下降傾斜する逆ハの字形状に形成される複数（本実施形態では、左右に上下一対ずつ）の傾斜長孔Ｋ７４３と、本体部Ｋ７４１の左端側下部から後方に延設される左側受部Ｋ７４４と、本体部Ｋ７４１の右端側下部から後方に延設される右側受部Ｋ７４５と、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の下端に吊り下げられる爪部を有するバネ支持部Ｋ７４６と、を備える。

【５１３３】

追従可能部材Ｋ７４０は、小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により上下スライド部材Ｋ７２０の動作に追従するように構成されている一方で、常に追従するのでは無く、上下スライド部材Ｋ７２０の上昇の途中で、左側受部Ｋ７４４が張出部Ｋ７１１ｆに、右側受部Ｋ７４５が張出部Ｋ７１１ｄにせき止められることで、追従可能部材Ｋ７４０が置き去りにされる態様での上下スライド部材Ｋ７２０の移動を構成可能とされるが、詳細は後述する。

【５１３４】

連動部材Ｋ７５０は、板状に形成される左右一対の本体部Ｋ７５１と、その本体部Ｋ７５１の背面側に上下一対で円筒状に突設される締結突設部Ｋ７５２と、を備える。

【５１３５】

締結突設部Ｋ７５２は、正面側から、追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４の順で挿通され、先端に形成される雌ネジに螺入されるネジのネジ頭により脱落が防止される。

【５１３６】

主装飾部材Ｋ７６０は、内部に電飾基板Ｋ７６１ａが配設され、その電飾基板Ｋ７６１ａからの光が照射される前側面が光透過性の板状部材から形成される本体部Ｋ７６１と、その本体部Ｋ７６１の背面から突設される複数の締結部Ｋ７６２と、を備える。

【５１３７】

締結部Ｋ７６２は、正面側から追従可能部材Ｋ７４０の上下長孔Ｋ７４２に挿通された

状態で、上下スライド部材Ｋ７２０の本体部Ｋ７２１に締結固定される。即ち、主装飾部材Ｋ７６０の上下配置は上下スライド部材Ｋ７２０の上下配置と同一とされ、上下スライド部材Ｋ７２０と追従可能部材Ｋ７４０との上下方向の相対移動量は、追従可能部材Ｋ７４０の上下長孔Ｋ７４２の寸法に制限される。

【５１３８】

図４０３（ａ）、図４０３（ｂ）、図４０４（ａ）及び図４０４（ｂ）は、第２可動装置Ｋ７０１の正面図である。なお、図４０３（ａ）、図４０３（ｂ）、図４０４（ａ）及び図４０４（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ変化する様子が時系列で図示されており、第２可動装置Ｋ７０１の構成の内、上下スライド部材Ｋ７２０が想像線で図示され、その上下スライド部材Ｋ７２０よりも手前側に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図４０１参照）の図示が省略される。

【５１３９】

図４０３（ａ）に図示されるように、第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態では、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２に対して、伝達側二層ギアＫ７３３の円弧状部Ｋ７３４が面で当接されている。

【５１４０】

この状態において、円弧状部Ｋ７３２は、円弧状部Ｋ７３４の最大径位置（円周方向の両端部）よりも伝達側二層ギアＫ７３３の回転軸に近い位置まで張り出していることにより、伝達側二層ギアＫ７３３の回転を規制することができる。これにより、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力の伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を停止した状態で安定させることができる。

【５１４１】

図４０３（ａ）に図示される第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態において、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が、検出センサＫ７１６の検出溝に入っている。本実施形態では、円弧状部Ｋ７３２の円弧方向の形成長さは検出溝を形成する検出センサＫ７１６の厚みよりも長い。そのため、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態を検出しても駆動側二層ギアＫ７３１の位相を正確に判定することはできない。

【５１４２】

一方、本実施形態では、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態においては伝達側二層ギアＫ７３３が回転することは無い（図４０３（ａ）に図示される状態を維持する）ように構成されている（歯合回転が開始されないようにギア歯の形成位置が設計されている）ので、その伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側にあるアーム部材Ｋ７３５や伝達終端部材Ｋ７３７が演出待機状態における配置にあるか否かの判定は、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が入っている状態を検出することで行うことができる。

【５１４３】

このように、検出センサＫ７１６に検出される状態における円弧状部Ｋ７３２の配置には許容幅を持たせつつも、検出センサＫ７１６に円弧状部Ｋ７３２が検出されてさえいれば、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態おける配置に維持されていると音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）に判定させることができるので、第２可動装置Ｋ７０１に演出待機状態を形成させる駆動側二層ギアＫ７３１の位相にある程度の幅を持たせることができる。

【５１４４】

換言すれば、図４０３（ａ）に図示される状態から、駆動側二層ギアＫ７３１が正逆方向にある程度（本実施形態では４５度未満の角度）回転し、位相がずれたとしても、伝達側二層ギアＫ７３３に回転は生じず、そのままの状態が維持されるよう構成されている。

【５１４５】

その前提に対応して、円弧状部Ｋ７３２は、駆動側二層ギアＫ７３１の回転軸を中心とする角度が９０度となるように形成されているので、検出センサＫ７１６が円弧状部Ｋ７

３２の円弧方向中央位置に配置される状態から、正逆方向に４５度未満の角度で回転したとしても、円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝に入っている状態が維持される。

【５１４６】

従って、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を、演出待機状態における配置にするための駆動側二層ギアＫ７３１の位相に約９０度分の許容幅を持たせることができる。そのため、駆動側二層ギアＫ７３１の停止時の位相が正確には定まりにくいほどの過大な速度での駆動から、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を瞬間的に停止させるような一般的には困難とされる動作態様を容易に実現することができる。

【５１４７】

即ち、駆動側二層ギアＫ７３１については約９０度分の許容幅で停止させれば良く、その許容幅における駆動側二層ギアＫ７３１の回転開始時から回転継続中に亘ってアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態に維持されることから、駆動側二層ギアＫ７３１が停止するよりも前にアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態における配置で停止させることができる。

【５１４８】

図４０３（ｂ）では、図４０３（ａ）に図示される状態から駆動側二層ギアＫ７３１が正面視反時計回りに４５度を超える角度で回転されることに伴い、伝達側二層ギアＫ７３３が回転し始めた状態が図示される。

【５１４９】

図４０３（ｂ）に図示される状態は、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝から出た瞬間に相当する。図４０３（ｂ）に図示される状態からはギア歯の歯合回転により駆動側二層ギアＫ７３１から伝達側二層ギアＫ７３３に駆動力が伝達されることになるので、検出センサＫ７１６の検出溝から円弧状部Ｋ７３２が出た時点から駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度を適切に制御することで、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７の配置を制御することができる。

【５１５０】

即ち、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５は、演出待機状態から、アーム部材Ｋ７３５が上側へ９０度回転した上昇配置状態まで回転動作可能とされることから、その回転動作に必要となる駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度をギア比の関係から予め算出しておき、その回転角度で駆動ギアＫＭＧ７２を回転させることにより、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を上昇配置状態の位置に配置することができる。従って、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が上昇配置状態の位置に配置されたことを検出するための検出装置を不要とすることができる。

【５１５１】

図４０４（ａ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ向けて動作する際の略中間の状態が図示されており、この状態において追従可能部材Ｋ７４０の右側受部Ｋ７４５（図４０２参照）がベース部材Ｋ７１０の張出部Ｋ７１１ｄ（図４０１参照）の下面に当接し、追従可能部材Ｋ７４０のそれ以上の上昇が防止される。なお、追従可能部材Ｋ７４０のそれ以上の上昇が防止されることによる演出効果については後述する。

【５１５２】

図４０４（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態が図示される。第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態では、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）及び伝達終端部材Ｋ７３７の基端側支持孔Ｋ７３７ａの中心（円形状の中心）が、略上下方向に延びる直線ＫＶＬ７８上に配置される。

【５１５３】
これにより、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態において上下スライド部材Ｋ７２０や上下スライド部材Ｋ７２０に配設される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０の重力方向（下向き）の変位を抑制することができる。
【５１５４】
換言すれば、上下スライド部材Ｋ７２０の第１支持部Ｋ７２５ａを介して伝達終端部材Ｋ７３７に伝達される重力方向（下向き）の負荷は、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）上およびアーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）上へ向かうことから、この負荷により伝達終端部材Ｋ７３７及びアーム部材Ｋ７３５が回転動作する事態を避け易くすることができる。
【５１５５】
これにより、駆動側二層ギアＫ７３１や伝達側二層ギアＫ７３３の回転を停止させるための荷重を要することなく第２可動装置Ｋ７０１を上昇配置状態で維持することができるので、第２可動装置Ｋ７０１を上昇配置状態で維持しながら駆動モータＫＭＴ７１（図４０１参照）を非励磁とすることができるので、駆動モータＫＭＴ７１の耐用年数を長くすることができる。
【５１５６】
図４０５（ａ）及び図４０５（ｂ）は、第２可動装置Ｋ７０１の正面図である。なお、図４０５（ａ）及び図４０５（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態（図４０３（ａ）参照）から動作開始してから下降配置状態へ変化する様子が時系列で図示されており、第２可動装置Ｋ７０１の構成の内、上下スライド部材Ｋ７２０が想像線で図示され、その上下スライド部材Ｋ７２０よりも手前側に配置される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０（図４０１参照）の図示が省略される。
【５１５７】
図４０５（ａ）では、図４０３（ａ）に図示される状態から駆動側二層ギアＫ７３１が正面視時計回りに４５度を超える角度で回転されることに伴い、伝達側二層ギアＫ７３３が回転し始めた状態が図示される。
【５１５８】
図４０５（ａ）に図示される状態は、駆動側二層ギアＫ７３１の円弧状部Ｋ７３２が検出センサＫ７１６の検出溝から出た瞬間に相当する。図４０５（ａ）に図示される状態からはギア歯の歯合回転により駆動側二層ギアＫ７３１から伝達側二層ギアＫ７３３に駆動力が伝達されることになるので、検出センサＫ７１６の検出溝から円弧状部Ｋ７３２が出た時点から駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度を適切に制御することで、伝達側二層ギアＫ７３３よりも駆動力伝達方向下流側に配設されるアーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７の配置を制御することができる。
【５１５９】
即ち、第２可動装置Ｋ７０１のアーム部材Ｋ７３５は、演出待機状態から、アーム部材Ｋ７３５が下側へ９０度回転した下降配置状態まで回転動作可能とされることから、その回転動作に必要となる駆動ギアＫＭＧ７２の回転角度をギア比の関係から予め算出しておき、その回転角度で駆動ギアＫＭＧ７２を回転させることにより、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７を下降配置状態の位置に配置することができる。従って、アーム部材Ｋ７３５及び伝達終端部材Ｋ７３７が下降配置状態の位置に配置されたことを検出するための検出装置を不要とすることができる。
【５１６０】
なお、本実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態に変化したことが、上下スライド部材Ｋ７２０の被検出片Ｋ７２６がベース部材Ｋ７１０の検出センサＫ７１１ｅの検出溝に入ることにより判定されるように構成される。検出センサＫ７１１ｅによる検出は、他の可動装置との連動を伴う動作制御で利用されることになるが、詳細は後述する。
【５１６１】

図４０５（ｂ）では、第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態が図示される。第２可動装置Ｋ７０１の下降配置状態では、ベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）及び伝達終端部材Ｋ７３７の基端側支持孔Ｋ７３７ａの中心（円形状の中心）が、略上下方向に延びる直線ＫＶＬ７８上に配置される。

【５１６２】

これにより、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態において上下スライド部材Ｋ７２０や上下スライド部材Ｋ７２０に配設される追従可能部材Ｋ７４０、連動部材Ｋ７５０及び主装飾部材Ｋ７６０の上向きの変位を抑制することができる。

【５１６３】

換言すれば、上下スライド部材Ｋ７２０の第１支持部Ｋ７２５ａを介して伝達終端部材Ｋ７３７に伝達されるコイルスプリングＫＳＰ７４による上向きの付勢力は、アーム部材Ｋ７３５の回転先端部Ｋ７３５ｂの中心（円形状の中心）からベース部材Ｋ７１０の第４支持部Ｋ７１２ｄの中心（円形状の中心）へ向かう方向とされることから、この付勢力により伝達終端部材Ｋ７３７及びアーム部材Ｋ７３５が回転動作する事態を避け易くすることができる。

【５１６４】

これにより、駆動側二層ギアＫ７３１や伝達側二層ギアＫ７３３の回転を停止させるための荷重を要することなく第２可動装置Ｋ７０１を下降配置状態で維持することができるので、第２可動装置Ｋ７０１を下降配置状態で維持しながら駆動モータＫＭＴ７１（図４０１参照）を非励磁とすることができるので、駆動モータＫＭＴ７１の耐用年数を長くすることができる。

【５１６５】

この場合、駆動モータＫＭＴ７１の駆動力で下降配置状態に変化させた後においてはコイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力の大小に関わらず下降配置状態で維持することができるので、コイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力の設計の幅を広げることができ、コイルスプリングＫＳＰ７４の付勢力を十分に大きく設定しておくことで、十分な補助が得られ、下降配置状態からの駆動開始に必要となる駆動力を低減することができる。

【５１６６】

図４０６（ａ）、図４０６（ｂ）及び図４０６（ｃ）は、上下スライド部材Ｋ７２０、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０の模式正面図である。図４０６（ａ）から図４０６（ｃ）では、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態から上昇配置状態へ変化するまでの上下スライド部材Ｋ７２０、追従可能部材Ｋ７４０及び連動部材Ｋ７５０の配置の変化が時系列で模式的に図示される。

【５１６７】

図４０６（ａ）に図示されるように、第２可動装置Ｋ７０１の演出待機状態においては、上下スライド部材Ｋ７２０に対して追従可能部材Ｋ７４０が小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により引き付けられており、上下スライド部材Ｋ７２０の上下方向動作に対して追従可能部材Ｋ７４０も一体的に動作する。

【５１６８】

連動部材Ｋ７５０の配置は上下スライド部材Ｋ７２０と追従可能部材Ｋ７４０との配置関係により決まるように構成されるため、上下スライド部材Ｋ７２０の上下方向動作に対して追従可能部材Ｋ７４０が一体的に動作する状況においては、連動部材Ｋ７５０も上下スライド部材Ｋ７２０と一体的に動作する。なお、連動部材Ｋ７５０の動作原理についての詳細は後述する。

【５１６９】

図４０６（ｂ）では、追従可能部材Ｋ７４０の右側受部Ｋ７４５がベース部材Ｋ７１０の張出部Ｋ７１１ｄの下面に当接した状態が図示される（図４０４（ａ）参照）。図４０６（ｂ）における配置が、追従可能部材Ｋ７４０の移動範囲の上端位置となっており、これ以上に上下スライド部材Ｋ７２０が上昇を続ける場合には、上下スライド部材Ｋ７２０

及び追従可能部材Ｋ７４０の一体性は崩れ、相対移動することになる。

【５１７０】

図４０６（ｃ）では、第２可動装置Ｋ７０１の上昇配置状態が図示される（図４０４（ｂ）参照）。図４０６（ｃ）に図示されるように、上昇配置状態では、演出待機状態に比較して追従可能部材Ｋ７４０に対して上下スライド部材Ｋ７２０が相対的に移動する。これにより、小形コイルスプリングＫＳＰ７７は引き延ばされ、上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３とが重なる左右位置が変化される。

【５１７１】

上下スライド部材Ｋ７２０の長孔Ｋ７２４と追従可能部材Ｋ７４０の傾斜長孔Ｋ７４３とが重なる位置に連動部材Ｋ７５０の締結突設部Ｋ７５２が配置されることから、追従可能部材Ｋ７４０に対して上下スライド部材Ｋ７２０が相対的に移動することに伴って連動部材Ｋ７５０の左右位置が変化する。即ち、左右内側の配置から、左右外側へ配置されるように左右位置が変化している。

【５１７２】

このように、第２可動装置Ｋ７０１の上昇動作と連動して、連動部材Ｋ７５０の左右方向の動作をさせるように構成されているので、単純に上昇動作するのみの可動役物に比較して、上昇動作時の注目力を向上させることができる。

【５１７３】

図４０６（ｃ）に図示される状態から上下スライド部材Ｋ７２０が下降される場合、図４０６（ｂ）に図示される状態に到達するまでは小形コイルスプリングＫＳＰ７７の付勢力により追従可能部材Ｋ７４０の配置が維持され、図４０３（ｂ）に図示される状態に到達してからは上下スライド部材Ｋ７２０及び追従可能部材Ｋ７４０が一体的に下降され、図４０６（ａ）に図示される状態に戻ることになる。即ち、上下スライド部材Ｋ７２０の下降動作は、図４０６（ｃ）、図４０６（ｂ）、図４０６（ａ）の順の時系列で生じる。

【５１７４】

以上、詳述したように、第２可動装置Ｋ７０１では、アーム部材Ｋ７３５の動作範囲の途中位置において、ある程度の角度範囲でアーム部材Ｋ７３５が回転した場合であっても、主装飾部材Ｋ７６０の位置が安定するように構成される。これにより、途中位置に主装飾部材Ｋ７６０を高速移動させ、停止させることが容易となる。

【５１７５】

また、第２可動装置Ｋ７０１では、アーム部材Ｋ７３５の動作範囲の終端位置では、荷重の方向をアーム部材Ｋ７３５の回転軸へ向く方向に設定することで、アーム部材Ｋ７３５を終端位置において安定させることができる。

【５１７６】

図３７１に戻って説明する。図３７１に図示されるように、前層側可動装置Ｋ４００よりも背面側において、背面ケースＫ３１０に後層側可動装置Ｋ８００が配設される。以下で、後層側可動装置Ｋ８００の詳細について説明する。なお、構造の説明を先に行うために、第３可動装置Ｋ８０１に形成される装飾についての図示は省略し、装飾の詳細については後述する。

【５１７７】

図４０７は、後層側可動装置Ｋ８００の分解正面斜視図であり、図４０８は、後層側可動装置Ｋ８００の分解背面斜視図である。後層側可動装置Ｋ８００は、第３図柄表示装置Ｋ８１（図３７３及び図３７４参照）の正面側を開閉動作可能に構成される第３可動装置Ｋ８０１と、その第３可動装置Ｋ８０１を背面側から支持する支持部材Ｋ８５０と、その支持部材Ｋ８５０の上側支持部材Ｋ８５１に正面側から第３可動装置Ｋ８０１を挟むように配設され上側支持部材Ｋ８５１に締結固定される上前カバー部材Ｋ８６１と、上側支持部材Ｋ８５１に背面側から締結固定される上後カバー部材Ｋ８６４と、を備える。

【５１７８】

更に、後層側可動装置Ｋ８００は、左右一対で配置される駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭ

Ｔ８２と、その駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の駆動力を伝達するために上側支持部材Ｋ８５１に回転可能に支持されるギア部材群であって上側支持部材Ｋ８５１と上後カバー部材Ｋ８６４との間に配設される左右一対の伝達装置Ｋ８７０と、その伝達装置Ｋ８７０の動作に伴い左右方向にスライド移動する左右一対の基端側スライド部材Ｋ８８０と、を備える。

【５１７９】

支持部材Ｋ８５０は、上述の上側支持部材Ｋ８５１と、伝達装置Ｋ８７０のギア群を回転可能に支持するように円筒状に突設される複数の支持部Ｋ８５２と、基端側スライド部材Ｋ８８０をスライド移動可能に支持するための左右方向に延設される複数の長孔Ｋ８５３と、正面側において左右方向に延びるようにギア歯が刻設される左右一対の上側延設ギア歯Ｋ８５４および下側延設ギア歯Ｋ８５５と、第３可動装置Ｋ８０１の金属棒ＫＭＢ８３，ＫＭＢ８４の左右端部を支持する端側支持部Ｋ８５６と、金属棒ＫＭＢ８３，ＫＭＢ８４の略中間位置を上側支持部材Ｋ８５１との間で挟持するように上側支持部材Ｋ８５１に締結固定される複数の中間支持部材Ｋ８５７と、上側支持部材Ｋ８５１の背面側に配設され基端側スライド部材Ｋ８８０が第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態における位置に配置されていることを検出する左右一対の検出センサＫ８５８と、第３可動装置Ｋ８０１の下端側を後側から支持する部材であって、背面ケースＫ３１０（図３７１参照）に締結固定される下側支持部材Ｋ８５９と、を備える。

【５１８０】

長孔Ｋ８５３は、右側においては二本、左側においては一本で形成されているが、基端側スライド部材Ｋ８８０を支持するという機能は共通である。即ち、右側の基端側スライド部材Ｋ８８０の形状が、長孔Ｋ８５３に挿通される複数の円柱状突部Ｋ８８２の上下位置が異なるため、対応する平行な二本の長孔Ｋ８５３が形成される一方、左側の基端側スライド部材Ｋ８８０の形状が、長孔Ｋ８５３に挿通される複数の円柱状突部Ｋ８８２の上下位置が同じため、左右に延びる長い一本の長孔Ｋ８５３に複数の円柱状突部Ｋ８８２が両方共支持される。

【５１８１】

上前カバー部材Ｋ８６１は、背面側から突設される複数の円柱状部Ｋ８６２を備える。円柱状部Ｋ８６２は、左右に一対ずつ形成されており、それぞれが左右方向に延びる一本の直線上に形成される。

【５１８２】

上後カバー部材Ｋ８６４は、左側の基端側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の移動を案内するために左右方向に延設されるように穿設される案内長孔Ｋ８６５を備える。左側の基端側スライド部材Ｋ８８０は、案内長孔Ｋ８６５から背面側へ貫通される抜け止め突部Ｋ８８８に抜け止め用のネジが固定され、この抜け止め用のネジのネジ頭が案内長孔Ｋ８６５に干渉することにより抜け止めされる。

【５１８３】

伝達装置Ｋ８７０は、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の回転軸に固定される駆動ギアＫ８７１と、その駆動ギアＫ８７１の回転が伝達される中間ギアＫ８７２，Ｋ８７３と、中間ギアＫ８７３と歯合する円周ギア部Ｋ８７５を有する延設回転部材Ｋ８７４と、を備える。

【５１８４】

延設回転部材Ｋ８７４は、上述の円周ギア部Ｋ８７５と、その円周ギア部Ｋ８７５よりも背面側において回転中心から径方向外側へ延設される延設部Ｋ８７６と、を備える。延設部Ｋ８７６には、その延設先端部において背面側へ円柱状に突設される円柱突部Ｋ８７６ａが形成される。

【５１８５】

伝達装置Ｋ８７０では、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２が回転駆動されると、駆動ギアＫ８７１から中間ギアＫ８７２，Ｋ８７３を介して延設回転部材Ｋ８７４へ駆動力が伝達され、延設部Ｋ８７６が回転動作されることに伴って、円柱突部Ｋ８７６ａが変位さ

れ、その変位により基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向に変位される。
【５１８６】
基端側スライド部材Ｋ８８０は、板状の本体部Ｋ８８１と、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３に案内される複数の円柱状突部Ｋ８８２と、左右中心側の円柱状突部Ｋ８８２の左右方向外側に配置され円柱状突部Ｋ８８２よりも正面側へ突設され第３可動装置Ｋ８０１のピニオンＫ８２５を回転可能に支持する回転支持部Ｋ８８３と、本体部Ｋ８８１に上下方向に延びる形状で前後方向に穿設される長孔Ｋ８８４と、左右方向外側端部から下方に延設され支持部材Ｋ８５０の検出センサＫ８５８の検出溝に進入可能に形成される被検出部Ｋ８８５と、を備える。
【５１８７】
左側の基端側スライド部材Ｋ８８０には、背面側へ円柱状に突設され上後カバー部材Ｋ８６４の案内長孔Ｋ８６５に挿通された上で、先端部から抜け止め用のネジ部材が締結固定される抜け止め突部Ｋ８８８を備える。
【５１８８】
図４０９は、第３可動装置Ｋ８０１の分解正面斜視図であり、図４１０は、第３可動装置Ｋ８０１の分解背面斜視図である。なお、図４０９及び図４１０の説明では、図４０７及び図４０８を適宜参照する。
【５１８９】
第３可動装置Ｋ８０１は、支持部材Ｋ８５０の端側支持部Ｋ８５６に固定される左右方向に長尺の金属棒ＫＭＢ８３に左右方向にスライド移動可能に案内される後側開閉部材Ｋ８１０と、金属棒ＫＭＢ８３よりも正面側において支持部材Ｋ８５０の端側支持部Ｋ８５６に固定される左右方向に長尺の金属棒ＫＭＢ８４に左右方向にスライド移動可能に案内される中側開閉部材Ｋ８２０と、その中側開閉部材Ｋ８２０よりも正面側において上前カバー部材Ｋ８６１の円柱状部Ｋ８６２（図４０８参照）に左右方向にスライド移動可能に支持される前側開閉部材Ｋ８３０と、を備える。
【５１９０】
後側開閉部材Ｋ８１０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８１１と、その板状部Ｋ８１１の上端部との間で金属棒ＫＭＢ８３を挟む位置に配置され板状部Ｋ８１１に締結固定され正面側に軸受構造が形成される軸受構造部材Ｋ８１３と、その軸受構造部材Ｋ８１３の上面にギア歯が刻設されるラック部Ｋ８１４に歯合され中側開閉部材Ｋ８２０の支持部Ｋ８２６に回転可能に支持されるピニオンＫ８１５と、支持部材Ｋ８５０の下側支持部材Ｋ８５９（図４０７参照）に締結固定され下側支持部材Ｋ８５９との間で板状部Ｋ８１１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する溝形成部材Ｋ８１８と、を備える。
【５１９１】
中側開閉部材Ｋ８２０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８２１と、その板状部Ｋ８２１の上端部との間で金属棒ＫＭＢ８４を挟む位置に配置され板状部Ｋ８２１に締結固定され板状部Ｋ８２１の上端部との間で軸受構造を形成する軸受構造部材Ｋ８２３と、板状部Ｋ８２１の背面側に突設される突設部の上面にギア歯が刻設されるラック部Ｋ８２４に歯合され基端側スライド部材Ｋ８８０の回転支持部Ｋ８８３に回転可能に支持されるピニオンＫ８２５と、を備える。
【５１９２】
更に、中側開閉部材Ｋ８２０は、板状部Ｋ８２１の背面側に円筒状に突設され後側開閉部材Ｋ８１０のピニオンＫ８１５を回転可能に支持すると共に先端に螺入されるネジのネジ頭によりピニオンＫ８１５の抜け止めを行う支持部Ｋ８２６と、板状部Ｋ８２１の上端側における左右外側端部から正面側に突設され前側開閉部材Ｋ８３０と左右方向で当接可能とされる突設部Ｋ８２７と、後側開閉部材Ｋ８１０の溝形成部材Ｋ８１８の正面側に締結固定され溝形成部材Ｋ８１８との間で板状部Ｋ８２１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する第２溝形成部材Ｋ８２８と、を備える。
【５１９３】
前側開閉部材Ｋ８３０は、上下に長尺の左右一対の板状部Ｋ８３１と、その板状部Ｋ８

３１の上端側で左右方向に延設される部分に左右方向長尺形状で前後方向に穿設され上前カバー部材Ｋ８６１の円柱状部Ｋ８６２（図４０８参照）に挿通されることで支持される長孔Ｋ８３３と、その長孔Ｋ８３３よりも下側において中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７を受け入れ可能に板状部Ｋ８３１に凹設される凹設部Ｋ８３５と、中側開閉部材Ｋ８２０の第２溝形成部材Ｋ８２８の正面側に締結固定され第２溝形成部材Ｋ８２８との間で板状部Ｋ８３１の下端部を案内する左右方向に延びる溝部を形成する第３溝形成部材Ｋ８３８と、を備える。

【５１９４】

上述の構成から第３可動装置Ｋ８０１に生じる駆動力伝達は以下のようになる。即ち、基端側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の移動量がピニオンＫ８２５を介して中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１に伝達され、その板状部Ｋ８２１の移動量がピニオンＫ８１５を介して後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１に伝達される。板状部Ｋ８２１及び板状部Ｋ８１１の移動は、歯合により生じる。

【５１９５】

また、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１の移動量が、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側面を押進することにより前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１に伝達される。板状部Ｋ８３１の移動は、中側開閉部材Ｋ８２０から押進されることにより生じる。

【５１９６】

従って、板状部Ｋ８２１の移動に伴い板状部Ｋ８１１は常時連動することになる一方で、板状部Ｋ８２１が移動しても、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側面を押進しない範囲においては、板状部Ｋ８３１は静止したままとなる。

【５１９７】

図４１１（ａ）、図４１１（ｂ）及び図４１１（ｃ）は、上後カバー部材Ｋ８６４、延設回転部材Ｋ８７４、基端側スライド部材Ｋ８８０及びピニオンＫ８２５の正面図である。図４１１（ａ）、図４１１（ｂ）及び図４１１（ｃ）では、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態からの延設回転部材Ｋ８７４の動作例が時系列で図示される。

【５１９８】

まず、図４１１（ａ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置される位置で、延設回転部材Ｋ８７４が回転方向で上後カバー部材Ｋ８６４の上側構成部Ｋ８６６に当接され、それ以上の回転が防止される。

【５１９９】

即ち、円柱突部Ｋ８７６ａが延設回転部材Ｋ８７４の回転中心よりも左右外側へ向けて回転する回転動作では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置される位置で停止され、それ以上の回転は生じないように構成される。

【５２００】

図４１１（ａ）に図示される状態から円柱突部Ｋ８７６ａが左右内側へ向けて回転すると、円柱突部Ｋ８７６ａの左右位置が変化することに伴い、円柱突部Ｋ８７６ａが挿通されている長孔Ｋ８８４を有する基端側スライド部材Ｋ８８０が連動して、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３（図４０８参照）に案内される左右方向にスライド移動し、図４１１（ｂ）に図示される連動切替状態へ移行する。

【５２０１】

図４１１（ｂ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の連動切替状態では、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの変位方向が左右方向に沿うことにより、基端側スライド部材Ｋ８８０へ伝達される左右方向の力が最大となる。

【５２０２】

図４１１（ｂ）に図示される状態から更に延設回転部材Ｋ８７４が回転されることにより、円柱突部Ｋ８７６ａの左右位置が変化することに伴い、円柱突部Ｋ８７６ａが挿通さ

れている長孔Ｋ８８４を有する基端側スライド部材Ｋ８８０が連動して、支持部材Ｋ８５０の長孔Ｋ８５３（図４０８参照）に案内される左右方向にスライド移動し、図４１１（ｃ）に図示される閉塞状態へ移行する。

【５２０３】

図４１１（ｃ）に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置される位置で、延設回転部材Ｋ８７４が回転方向で上後カバー部材Ｋ８６４の傾斜形成部Ｋ８６７に当接され、それ以上の回転が防止される。

【５２０４】

即ち、円柱突部Ｋ８７６ａが延設回転部材Ｋ８７４の回転中心よりも左右内側へ向けて回転する回転動作では、円柱突部Ｋ８７６ａの中心が、延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置される位置で停止され、それ以上の回転は生じないように構成される。

【５２０５】

これにより、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態へ移行した後において基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重において、延設回転部材Ｋ８７４の回転軸が受ける割合を減らすことができる。

【５２０６】

即ち、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの中心が延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線上に配置される場合、基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重の全てが延設回転部材Ｋ８７４の回転軸に与えられることになるので、延設回転部材Ｋ８７４の耐久性が低下する可能性がある。

【５２０７】

これに対し、本実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの中心が延設回転部材Ｋ８７４の回転中心を通る左右方向に延びる直線よりも上側に配置されるので、基端側スライド部材Ｋ８８０を介して延設回転部材Ｋ８７４に左右方向外側向きに生じる荷重が、延設回転部材Ｋ８７４の回転軸が受ける成分と、傾斜形成部Ｋ８６７が受ける成分とに分解されるので、荷重の集中を避けることができ、延設回転部材Ｋ８７４の耐久性を向上させることができる。

【５２０８】

なお、正面視左側における上側構成部Ｋ８６６及び正面視右側における傾斜形成部Ｋ８６７は、上側支持部材Ｋ８５１（図４０８参照）から背面側に突設形成されており、正面視左側における傾斜形成部Ｋ８６７及び正面視右側における上側構成部Ｋ８６６は、上後カバー部材Ｋ８６４の上縁部として形成されている。

【５２０９】

また、第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態において、円柱突部Ｋ８７６ａの中心と延設回転部材Ｋ８７４の回転中心とを結ぶ直線が、左右方向に延びる直線に対する角度は５度とされる。

【５２１０】

そのため、円柱突部Ｋ８７６ａの中心と延設回転部材Ｋ８７４の回転中心との長さを２５ｍｍとした場合に、延設回転部材Ｋ８７４が５°過回転することで基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向外側に戻る変位量は、０．１ｍｍであり（２５－２５ｃｏｓ（５°））、遊技者に認識されるほどの距離とはならないので、例えば、延設回転部材Ｋ８７４が過回転することにより板状部Ｋ８１１（図４０９参照）が左右方向外側に戻ることで演出効果が低下するといった事態が生じる可能性を低減できる。

【５２１１】

更に、基端側スライド部材Ｋ８８０の回転支持部Ｋ８８３に支持されるピニオンＫ８２５と、上側延設ギア歯Ｋ８５４及びラック部Ｋ８２４とのバックラッシュが０．１ｍｍ程度となるように設計しておけば、延設回転部材Ｋ８７４が５°過回転することによる基端

側スライド部材Ｋ８８０の左右方向の変位は上述のバックラッシュに収まり、ラック部Ｋ８２４を有する中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１や、その板状部Ｋ８２１と連動する後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１が左右方向外側に変位することを避けることができる。以下、図４１２を参照して、板状部Ｋ８２１と板状部Ｋ８１１との連動について説明する。

【５２１２】

図４１２は、後層側可動装置Ｋ８００の部分拡大正面図である。図４１２では、内部構造を分かり易くするために、上前カバー部材Ｋ８６１及び前側開閉部材Ｋ８３０の図示が省略され、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１が部分的に破られて図示されると共に中側開閉部材Ｋ８２０の外形が想像線で図示される。また、ピニオンＫ８１５は、上側において支持部材Ｋ８５０の下側延設ギア歯Ｋ８５５と歯合する大径ギアＫ８１５ａが図示され、下側において後側開閉部材Ｋ８１０のラック部Ｋ８１４と歯合する小径ギアＫ８１５ｂが図示される。

【５２１３】

図４１２を参照して、駆動力の伝達方法について説明する。まず、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２の駆動力が伝達され伝達装置Ｋ８７０の延設回転部材Ｋ８７４が回転動作されることにより基端側スライド部材Ｋ８８０が左右方向にスライド移動され（図４１１参照）、それにより移動される回転支持部Ｋ８８３を回転中心とするピニオンＫ８２５が上側延設ギア歯Ｋ８５４との噛み合いで回転される（図４１２において回転支持部Ｋ８８３が左側に移動する場合には正面視時計回りに回転される）。

【５２１４】

ピニオンＫ８２５の回転により、下側で歯合されているラック部Ｋ８２４が左方へ移動されることになるので、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１が左方へ移動する。この時、ピニオンＫ８２５が上側延設ギア歯Ｋ８５４と噛み合う歯数と、ピニオンＫ８２５がラック部Ｋ８２４と噛み合う歯数とが同じなので、回転支持部Ｋ８８３の左右方向の移動量の倍の移動量で中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１を移動させることができる。

【５２１５】

従って、板状部Ｋ８２１を目的の距離移動させるために必要な基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量を短くすることができるので、基端側スライド部材Ｋ８８０の配置に要するスペースを削減することができる。

【５２１６】

中側開閉部材Ｋ８２０が左右方向に移動されると、支持部Ｋ８２６に支持されるピニオンＫ８１５の大径ギアＫ８１５ａが下側延設ギアＫ８５５との噛み合いで回転される（図４１２において支持部Ｋ８２６が左側に移動する場合には正面視時計回りに回転される）。

【５２１７】

ピニオンＫ８１５の回転により、下側で小径ギアＫ８１５ｂと歯合されているラック部Ｋ８１４が左方へ移動されることになるので、後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１が左方へ移動する。

【５２１８】

この時、大径ギアＫ８１５ａの歯数が２３で形成される一方、小径ギアＫ８１５ｂの歯数が１１で形成されることから、支持部Ｋ８２６の左右方向の移動量の３４／２３倍の移動量で後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１を移動させることができる。

【５２１９】

このように構成することで、基端側スライド部材Ｋ８８０を介する駆動力伝達を、移動量の最も大きい後側開閉部材Ｋ８１０ではなく、中側開閉部材Ｋ８２０に対して行うことが可能となる。

【５２２０】

ここで、移動量の最も大きい後側開閉部材Ｋ８１０に基端側スライド部材Ｋ８８０を介して駆動力を伝達するようにしても第３可動装置Ｋ８０１の開閉動作は実行可能であると

ころ、この場合、基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量を後側開閉部材Ｋ８１０の移動量に合わせて長く設定する必要が生じるので、延設回転部材Ｋ８７４（図４１１参照）の長さが過大に必要となり、延設回転部材Ｋ８７４を利用した伝達機構を採用することができなくなる要因となる。

【５２２１】

こうなった場合、回転速度が同じであっても、延設回転部材Ｋ８７４（図４１１参照）の姿勢に対応して左右方向の速度が変化するという延設回転部材Ｋ８７４に特有の作用効果を生じさせることができなくなる。

【５２２２】

これに対し、本実施形態では、基端側スライド部材Ｋ８８０を介する駆動力伝達を中側開閉部材Ｋ８２０に対して行う構成を採用した上で、左右方向にスライド移動するピニオンＫ８１５を採用することにより、中側開閉部材Ｋ８２０の板状部Ｋ８２１の移動量よりも後側開閉部材Ｋ８１０の板状部Ｋ８１１の移動量を増大させることで、後側開閉部材Ｋ８１０の移動量を最大としている。

【５２２３】

これにより、板状部Ｋ８１１の移動量は大きく確保したまま、基端側スライド部材Ｋ８８０の移動量は抑えることができるので、延設回転部材Ｋ８７４（図４１１参照）の長さが過大となることを防止することができ、延設回転部材Ｋ８７４に特有の作用効果を生じさせることができる。

【５２２４】

図４１３、図４１４及び図４１５は、後層側可動装置Ｋ８００の正面図である。図４１３、図４１４及び図４１５では、演出待機状態から閉塞状態へ向けて第３可動装置Ｋ８０１の状態が変化する様子が時系列で図示される。

【５２２５】

即ち、図４１３では、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態が図示され（図３７３参照）、図４１４では、第３可動装置Ｋ８０１の連動切替状態が図示され、図４１５では、第３可動装置Ｋ８０１の閉塞状態が図示される（図３７４参照）。図４１３から図４１５では、連動の理解を容易にするために、中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７の配置と、前側開閉部材Ｋ８３０の凹設部Ｋ８３５の配置とが想像線で図示される。

【５２２６】

また、図４１３で図示される状態は図４１１（ａ）に図示される状態に対応しており、図４１４で図示される状態は図４１１（ｂ）に図示される状態に対応しており、図４１５で図示される状態は図４１１（ｃ）に図示される状態に対応している。

【５２２７】

図４１３に図示されるように、第３可動装置Ｋ８０１の演出待機状態では、中側開閉部材Ｋ８２０の突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右外側縁部と当接し、前側開閉部材Ｋ８３０の左右内側への移動が規制される。

【５２２８】

板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１が左右内側へ移動する過程（図４１２参照）において、図４１３に図示される演出待機状態から図４１４に図示される連動切替状態までは、突設部Ｋ８２７は凹設部Ｋ８３５の内部を移動し、左右内側縁部と当接することは無い。

【５２２９】

そのため、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じない。従って、図４１３に図示される状態から図４１４に図示される状態までにおいて、前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１の配置は維持される。

【５２３０】

また、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じないので、図４１３に図示される演出待機状態から中側開閉部材Ｋ８２０及び後側開閉部材Ｋ８１０を動作させるために要する駆動力を低減させることができる。

【５２３１】
更に、突設部Ｋ８２７を介する中側開閉部材Ｋ８２０と前側開閉部材Ｋ８３０との間での負荷伝達は生じないので、図４１３に図示される状態と図４１４に図示される状態との間で板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を往復させる態様で駆動させる場合（中間往復駆動）に駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図４０７参照）が受ける抵抗を低減させることができ、駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２に蓄積される疲労を低減させることができる。
【５２３２】
板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１が左右内側へ移動する過程（図４１２参照）において、図４１４に図示される連動切替状態から図４１５に図示される閉塞状態までは、突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の左右内側縁部を押進するように当接するので、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動に伴って前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１も左右内側へ向けて移動される。
【５２３３】
図４１４に図示される連動切替状態は、板状部Ｋ８３１が移動を開始する状態なので、板状部Ｋ８３１の静止摩擦を上回る駆動力を要することになるが、本実施形態では、連動切替状態において、延設回転部材Ｋ８７４の円柱突部Ｋ８７６ａの移動方向が板状部Ｋ８３１の移動方向である左右方向に向くようにされ、力を効率的に伝達することができるよう構成される（図４１１（ｂ）参照）。
【５２３４】
これにより、板状部Ｋ８３１の静止摩擦以上の十分な駆動力を板状部Ｋ８３１に伝達することができるので、板状部Ｋ８３１との連動開始時における板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動速度の減少量を抑えることができ、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１と板状部Ｋ８３１との連動を滑らかに生じさせることができる。
【５２３５】
図４１５に図示される閉塞状態から、突設部Ｋ８２７の左右方向外側へ向けた移動が生じた場合、その移動の開始から突設部Ｋ８２７が凹設部Ｋ８３５の内側を移動する間においては、突設部Ｋ８２７から前側開閉部材Ｋ８３０の板状部Ｋ８３１へ向けて駆動力が伝達されることは無く、板状部Ｋ８３１は図４１５に図示される配置で維持される。
【５２３６】
従って、図４１５に図示される閉塞状態から板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を左右方向外側へ向けて移動開始させる際には板状部Ｋ８３１からの抵抗を受けないので、板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１の移動に要する駆動モータＫＭＴ８１，ＫＭＴ８２（図４０７参照）の駆動力を低減することができる。同様のことが、図４１３に図示される演出待機状態から板状部Ｋ８２１，Ｋ８１１を左右方向内側へ向けて移動開始させる際にも言える。
【５２３７】
また、これにより、上述した延設回転部材Ｋ８７４の過回転（図４１１（ｃ）参照）による左右方向外側への戻り移動分がギアのバックラッシュに収まらない場合であっても、突設部Ｋ８２７の左右方向外側への移動により板状部Ｋ８３１が左右方向外側へ移動することを回避することができるので、板状部Ｋ８３１の配置を維持することができる。
【５２３８】
図４１３に図示される状態から図４１４に図示される状態に変化した後、延設回転部材Ｋ８７４の回転方向を変えるように駆動させ、図４１３に戻るように駆動制御させることも可能である。
【５２３９】
この場合、図４１４に図示される状態に変化するまで継続的に延設回転部材Ｋ８７４に駆動力を伝達させるように制御しても良いし、図４１４に図示される状態に変化するよりも前に駆動力の発生を停止させるように制御しても良い。
【５２４０】
後者の場合であっても、延設回転部材Ｋ８７４の自重により図４１１（ｂ）に図示される姿勢までは回転が継続され、且つ、図４１４に図示される状態で板状部Ｋ８３１の静止

摩擦がかけられることから延設回転部材Ｋ８７４を図４１１（ｂ）に図示される状態で停止させ易い。

【５２４１】

即ち、延設回転部材Ｋ８７４が図４１１（ｂ）に到達する程度の時間を空けて逆方向に駆動させるように制御する（パルス的に駆動力を発生させる）ことで、図３７７に図示される状態と図４１４に図示される状態とを往復する動作演出を実行することができる。

【５２４２】

以上、詳述したように、第３可動装置Ｋ８０１では、３枚の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を連動させる動作態様ながら、その連動のタイプを変えることができる。即ち、動作開始時は板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１のみの連動としながら、動作途中から板状部Ｋ８３１も連動させるように構成される。これにより、動作を複雑化し、演出効果を向上することができる。

【５２４３】

また、第３可動装置Ｋ８０１では、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を移動終端まで移動させた後で延設回転部材Ｋ８７４が過回転し、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１からの反動による荷重の全てが回転軸に与えられることを避けている。これにより、延設回転部材Ｋ８７４の耐用年数を上げることができる。

【５２４４】

更に、延設回転部材Ｋ８７４の過回転の寸法を、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の移動が生じない程度に抑えることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の戻り動作による演出効果の低下（板状部Ｋ８１１間に隙間が生じる等の問題）を避けることができる。

【５２４５】

図３５７に戻って説明する。本実施形態におけるパチンコ機Ｋ１０では、正面枠Ｋ１４の内側に配設されるガラスユニットＨ１６の上下左右を囲むようにして、表示ランプＫ９００が配設される。

【５２４６】

表示ランプＫ９００は、ガラスユニットＨ１６の上側に横長形状に形成されるトップランプＫ９１０と、ガラスユニットＨ１６の右側に縦長形状に形成される右側サイドランプＫ９２０と、ガラスユニットＨ１６の左側に縦長形状に形成される左側サイドランプＫ９３０と、を備える。

【５２４７】

表示ランプＫ９００は、パチンコ機Ｋ１０にエラーが発生している場合や、賞球の払い出しが生じている場合等に、パチンコ機Ｋ１０の内部状態に対応した機能用表示態様で発光したり、ガラスユニットＨ１６を通して視認される動作ユニットＫ３００（図３５９参照）や第３図柄表示装置Ｋ８１（図３５８参照）等で行われる演出に対応した演出用表示態様で発光したりするように音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）に制御される。以下で、パチンコ機Ｋ１０が演出用表示態様で制御される際の一例について説明する。

【５２４８】

図４１６（ａ）から図４１６（ｆ）及び図４１７（ａ）から図４１７（ｅ）は、パチンコ機Ｋ１０の模式正面図である。図４１６（ａ）から図４１６（ｆ）及び図４１７（ａ）から図４１７（ｅ）では、パチンコ機Ｋ１０で実行される演出制御の一例が時系列で図示される。

【５２４９】

図４１６（ａ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１で大当たりに対応した第３図柄が左右に揃った状態（停止していない状態）が表示され、大当たりが示唆されている状態が図示される。この状態において、表示ランプＫ９００は白色で発光され、遊技盤Ｋ１３は、背後からのＬＥＤ等照射により全体的に白色で発光される（白色の発光を第１の網掛けで図示する）。

【５２５０】

ここから、動作ユニットＫ３００及び第３図柄表示装置Ｋ８１における演出動作の後で、第３図柄が停止表示された状態を経て、大当たり遊技が開始される。演出動作の詳細について以下で説明する。

【５２５１】

図４１６（ｂ）では、検出センサＫ７１１ｅ（図４０５（ｂ）参照）からの出力が変化され、第３図柄表示装置Ｋ８１の正面側に配置される第２可動装置Ｋ７１０が下降配置状態になったと音声ランプ表示装置Ｈ１１３（図３５６参照）が判定した後で、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態に変化した状態が図示される。

【５２５２】

第１可動装置Ｋ４０１の回転装飾部材Ｋ５７８は、移動装置Ｋ５６０が落下動作される前から既に正面視時計回り方向に回転動作されており、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態に変化した後も回転動作が継続される。

【５２５３】

遊技領域の背面側では、動作ユニットＫ３００側からの発光が抑えられ、遊技盤１３が暗転しているように視認される。表示ランプＫ９００では、遊技者に虹色の光を視認させるように発光態様が制御される（虹色の発光を第２の網掛けで図示する）。これにより、パチンコ機Ｋ１０全体の煌びやかさは維持しながら、遊技者の視線を遊技領域ではなく第３図柄表示装置Ｋ８１の内側へ誘導することができる。

【５２５４】

図４１６（ｃ）では、移動装置Ｋ５６０の回転動作が継続される状態で、駆動モータＫＭＴ５１（図３８６参照）が正方向に駆動されることで移動装置Ｋ５６０が右方に移動され、右側検出センサＫ５５６ａ（図３８６参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動方向が逆方向に反転され、移動装置Ｋ５６０が左方に移動され、左側検出センサＫ５５６ｃ（図３８６参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動方向が正方向に反転され、移動装置Ｋ５６０が右方に移動され、中央検出センサＫ５５６ｂ（図３８６参照）の出力が変化されると、駆動モータＫＭＴ５１の駆動が停止される様子が図示される。

【５２５５】

この時、移動装置Ｋ５６０の回転装飾部材Ｋ５７８の回転方向は、移動装置Ｋ５６０が右方に移動している状態では右へ向けて前転する回転方向とされ、移動装置Ｋ５６０が左方に移動している状態では左へ向けて前転する回転方向とされる。これにより、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド移動と、回転装飾部材Ｋ５７８の回転方向とを対応させて、一体感のある動作演出を実行することができる。

【５２５６】

移動装置Ｋ５６０の電飾基板Ｋ５６４（図３８７参照）では、回転装飾部材Ｋ５７８を虹色に発光させるようにＬＥＤの発光色が設計される。なお、電飾基板Ｋ５６４に限らず、ＬＥＤによる光を虹色に視認させるための設計は、ＬＥＤの発光色を予め決めておいて遊技者が虹色に視認可能に発光させるＬＥＤを選択するように設定しても良いし、各ＬＥＤを複数の発光色で発光可能に構成して発光色の切替を遊技者に虹色に視認させ易い順番で行うようにしても良い。

【５２５７】

第３図柄表示装置Ｋ８１では、前側のレイヤーで移動装置Ｋ５６０の位置に対応する位置で移動装置Ｋ５６０の外形よりも若干大きな円形の虹色の渦巻きが表示される。即ち、渦巻きの表示も移動装置Ｋ５６０の左右方向の移動に伴い移動される。更に、後側のレイヤーで表示領域全体に虹色の雲状の表示がされる。

【５２５８】

遊技領域の背面側では、動作ユニットＫ３００側からの発光が抑えられ、遊技盤１３が暗転しているように視認される。表示ランプＫ９００では、遊技者に虹色の光を視認させるように発光態様が制御される。これにより、パチンコ機Ｋ１０全体の煌びやかさは維持しながら、遊技者の視線を遊技領域ではなく第３図柄表示装置Ｋ８１の内側へ誘導するこ

とができる。
【５２５９】
図４１６（ｄ）では、中央検出センサＫ５５６ｂの出力により移動装置Ｋ５６０が左右方向中央位置に配置されたことが把握されている状態で第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化された後の状態が図示される。
【５２６０】
第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化されるまでの間、回転装飾部材Ｋ５７８は正面視時計回り方向の回転が継続される。即ち、第１可動装置Ｋ４０１は、回転装飾部材Ｋ５７８が回転動作されている状態で長尺装置Ｋ５４０及び移動装置Ｋ５６０が上昇される。
【５２６１】
第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態へ変化され、移動装置Ｋ５６０が上側装飾部材Ｋ３３０に隠されると同時に、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図３６１参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図３７２参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図３７２参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図４０２参照）から一斉に光が照射される。更に、第３図柄表示装置Ｋ８１では、前側のレイヤーで男性キャラクターが力を溜める様子が表示される。
【５２６２】
図４１６（ｅ）では、第３図柄表示装置Ｋ８１を除く発光が、左右内側へ向けて消灯していく様子が図示される。即ち、右側サイドランプＫ９２０及び左側サイドランプＫ９３０から消灯し始め、次に、トップランプＫ９１０の左右外側、上側装飾部材Ｋ３３０（図３７２参照）の内部の発光基板における左右外側、左側装飾部材Ｋ３５０（図３７２参照）の内部の発光基板および入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図３６１参照）が消灯し、最後にトップランプＫ９１０の左右内側、上側装飾部材Ｋ３３０（図３７２参照）の内部の発光基板における左右内側および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図４０２参照）が消灯し、第３図柄表示装置Ｋ８１を除いてパチンコ機Ｋ１０が暗く視認される状態が形成される。
【５２６３】
これにより、遊技者の視線を徐々に遊技領域の中央側、即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の中央側へ誘導することができ、この後実行される演出に向けた期待感を上昇させることができる。そして、遊技者の視線を誘導し終えたタイミングで、第３図柄表示装置Ｋ８１に表示されていた男性キャラクターの溜めた力を開放する動作が表示されており、この直後に第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態から落下位置状態へ変化される。
【５２６４】
図４１６（ｆ）では、第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態へ変化された状態で、回転装飾部材Ｋ５７８の回転が維持されている様子が図示される。第１可動装置Ｋ４０１が落下位置状態へ変化されるのと同時に、パチンコ機Ｋ１０は全体的に明るく視認される。
【５２６５】
即ち、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図３６１参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図３７２参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図３７２参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図４０２参照）から一斉に光が照射される。この光の態様は、白色光でも良いし、虹色でも良いし、白色光から虹色に変化する発光態様でも良い。
【５２６６】
更に、第１可動装置Ｋ４０１においては、電飾基板Ｋ５６４（図３８７参照）からの光により回転装飾部材Ｋ５７８が虹色に視認されることに加えて、電飾基板Ｋ５５２（図３８５参照）から白色光が照射されることで化粧部材Ｋ５５１も全体的に明るく視認される。
【５２６７】
図４１７（ａ）では、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が回転装飾部材Ｋ５７

８を回転させながら右側途中位置ＫＲ４２（図４００（ｃ）参照）まで移動してから停止した状態が図示される。

【５２６８】

この状態において、遊技領域とその内側の範囲では、回転装飾部材Ｋ５７８のみが電飾基板５６４（図３８７参照）からの光で明るく照らされ、その他の電飾基板（入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図３６１参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図３７２参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図３７２参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図４０２参照）等）は消灯される。

【５２６９】

第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域では、前側のレイヤーにおいて回転装飾部材Ｋ５７８の周辺に集中させる形状の光が表示され、後側のレイヤーが黒背景で表示されることで、回転装飾部材Ｋ５７８に注目させる演出が実行される。

【５２７０】

図４１７（ｂ）では、第１可動装置Ｋ４０１の移動装置Ｋ５６０が回転装飾部材Ｋ５７８を回転させながら左側途中位置ＫＬ４３（図４００（ｄ）参照）まで移動してから停止した状態が図示される。

【５２７１】

この動作の過程で、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域において黒背景から白背景に表示が変化されることに合わせて、第３可動装置Ｋ８０１が演出待機状態から閉塞状態へ変化される。これにより、遊技領域よりも内側における視界が明るくされる。

【５２７２】

図４１７（ｃ）では、第１可動装置Ｋ４０１の被検出板部Ｋ５７１ａ（図３８７参照）が中央検出センサＫ５５６ｂ（図３８６参照）の検出溝から出たと、中央検出センサＫ５５６ｂの出力の変化から音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）に判定された場合において、第２可動装置Ｋ７０１が下降配置状態から演出待機状態へ変化させた状態が図示される。

【５２７３】

この状態において、第３図柄表示装置Ｋ８１では第３可動装置Ｋ８０１の板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾（図４１７（ｂ）中に「Ｓ」字の装飾として図示）を強調する表示が実行され、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１を通して表示が遊技者に視認されることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１のみが視認される場合とは異なる態様で視認される。

【５２７４】

図４１７（ｃ）に図示される状態において、遊技者に対して、「ＳＦＭＥ」（ＳｉｅｎｃｅＦｉｃｔｉｏｎＭｙＥｎｅｒｇｙの頭文字を想定）との文字の羅列からなる一連の演出表示を視認させることができる。なお、本実施形態では例としてローマ字の羅列による一連の表示として説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、仮名文字や漢字の羅列でも良いし、イラストや形状による羅列でもいい。

【５２７５】

また、図４１７（ｂ）から図４１７（ｃ）に変化する過程において、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図３６１参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図３７２参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図３７２参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図４０２参照）から一斉に白色光が照射される。更に、第１可動装置Ｋ４０１においては、電飾基板Ｋ５６４（図３８７参照）からの光により回転装飾部材Ｋ５７８が明るく視認されることに加えて、電飾基板Ｋ５５２（図３８５参照）から白色光が照射されることで化粧部材Ｋ５５１も全体的に明るく視認される。

【５２７６】

更に、図４１７（ｃ）に変化した後（第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態へ変化され各可動装置が停止した後）において、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された上記装飾に対応する第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域で虹色に表示される。それに加えて

、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２１２（図３６１参照）、上側装飾部材Ｋ３３０（図３７２参照）の内部の発光基板、左側装飾部材Ｋ３５０（図３７２参照）の内部の発光基板および第２可動装置Ｋ７０１の電飾基板Ｋ７６１ａ（図４０２参照）及び第１可動装置Ｋ４０１の電飾基板Ｋ５６４（図３８７参照）からの光により、パチンコ機Ｋ１０が全体で虹色を形成するように発光される。

【５２７７】

このように、各可動装置が停止する前と停止した後とで、発光態様を統一的に変化させることで、遊技者に対して、各可動装置が移動中である期間と、各可動装置の移動が停止された後とを区別し易くすることができるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【５２７８】

図４１７（ｄ）では、パチンコ機Ｋ１０が全体で虹色を形成するように発光される状態は維持されたままで、回転装飾部材Ｋ５７８が回転されながら移動装置Ｋ５６０が左右中央位置まで到達した状態が図示される。回転装飾部材Ｋ５７８の回転は、移動装置Ｋ５６０が左右中央に到達した後も継続される。

【５２７９】

図４１７（ｅ）では、第１可動装置Ｋ４０１が演出待機状態への変化を開始する（上昇移動する）のに合わせて第３可動装置Ｋ８０１が閉塞状態から演出待機状態へ向けて変化される。第３可動装置Ｋ８０１の状態が変化されるのに合わせて、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示は、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾を強調する表示から第３図柄が左右に揃った状態の表示に切り替えられる。

【５２８０】

即ち、第３図柄表示装置Ｋ８１の前側のレイヤーで板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１に施された装飾を強調する表示が板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の移動に追従するように移動されるように表示され、後側のレイヤーで第３図柄が左右に揃った後、停止表示される様子が表示される。即ち、図４１７（ｅ）に図示されるように停止図柄が第３図柄表示装置Ｋ８１に表示され、大当たりの発生が示された後で、大当たり遊技が開始される。

【５２８１】

第３図柄が表示されてから停止表示されるまでの間に、第１可動装置Ｋ４０１の検出センサＫ４１８（図３８１参照）の出力が変化され、昇降装置Ｋ５００が演出待機状態における高さに配置されていることが音声ランプ制御装置Ｈ１１３（図３５６参照）に判定され、第２可動装置Ｋ７０１が演出待機状態に変化させるように制御される。

【５２８２】

図４１８から図４２３を参照して、第９７実施形態について説明する。第９６実施形態では、ベース板Ｋ６０の背面側に形成される形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの内側が空間として機能する場合を説明したが、第９７実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの内側に光照射装置Ｋ２１００が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。

【５２８３】

図４１８は、第９７実施形態におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の背面図であり、図４１９は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の背面斜視図である。図４１８及び図４１９に図示されるように、光照射装置Ｋ２１００は、遊技領域を形成する領域の背面側におけるベース板Ｋ２０６０の厚み寸法内で収まるように第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂに配設されている。

【５２８４】

これにより、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図３５９参照）の配置位置が光照射装置Ｋ２１００により制限されることを回避することができる。換言すれば、光照射装置Ｋ２１００の有無に関係なく、動作ユニットＫ３００の配置をベース板Ｋ２０６０に寄せることができる。

【５２８５】
また、光照射装置Ｋ２１００がベース板Ｋ２０６０の正面側に形成される遊技領域の後方領域の外方に配設されていることから、遊技領域後方の視認性が光照射装置Ｋ２１００により低下されたり、視線が遮断されたりすることを防止することができる。即ち、光照射装置Ｋ２１００の有無に関わらず、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０を透視して背面側の動作ユニットＫ３００（図３５９参照）を容易に視認することができる。
【５２８６】
ベース板Ｋ２０６０は、形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの遊技領域側の縁部を構成すると共に遊技領域を形成する領域の外形の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅと、環状に形成される遊技領域の内側位置において、背面側へ向かうにつれて内形が拡大する方向の傾斜面が全周において形成される傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを備える。
【５２８７】
本実施形態では、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅは、形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設先端側（前側）における形状よりも、ベース板Ｋ２０６０の後端側における形状の方が一回り小さくされ、ベース板Ｋ２０６０を横断した場合の断面形状においてベース板Ｋ２０６０の後側面に対する傾斜角度が約４５度となるように形成される。
【５２８８】
また、傾斜開口部Ｋ２０６０は、ベース板Ｋ２０６０の前端側における形状よりも、ベース板Ｋ２０６０の後端側における形状の方が一回り大きくされ、ベース板Ｋ２０６０を横断した場合の断面形状においてベース板Ｋ２０６０の前側面に対する傾斜角度が約４５度となるように形成される。
【５２８９】
図４２０は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の分解背面斜視図であり、図４２１は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の分解正面斜視図である。
【５２９０】
光照射装置Ｋ２１００は、ＬＥＤ等からなる複数の発光手段Ｋ２１１１が配設される電飾基板Ｋ２１１０と、その電飾基板Ｋ２１１０が締結固定される部材であり、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ｋ２０６０に締結固定される中間部材Ｋ２１２０と、を備える。
【５２９１】
光照射装置Ｋ２１００は、共通の構成で共通の機能を有する部材の組が左右一対で配置されているので、右側の電飾基板Ｋ２１１０及び中間部材Ｋ２１２０の組について説明を行い、左側の電飾基板Ｋ２１１０及び中間部材Ｋ２１２０の組については説明を省略する。
【５２９２】
電飾基板Ｋ２１１０の正面視外形形状は、ベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状に沿って複数の発光手段Ｋ２１１１が間隔を空けて配置されている。
【５２９３】
中間部材Ｋ２１２０の正面視外形形状は、電飾基板Ｋ２１１０と同様にベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状部側において、発光手段Ｋ２１１１の前方の領域を含むようにライン状に傾斜面Ｋ２１２１が形成される。
【５２９４】
傾斜面Ｋ２１２１は、背面側ほど円弧形状の径が大きくなる方向で傾斜形成され、傾斜の角度が略４５度となるように設計されている。
【５２９５】
本実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設端面、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅ、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗ及び中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１に、無数の凹凸から形成されるシボ加工が施される。

【５２９６】
図４２２は、図４１８のＣＤＸＸＩＩ－ＣＤＸＸＩＩ線におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００の部分断面図である。図４２２では、一の発光手段Ｋ２１１１の中心を通ると共に外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの円弧と直角に交差する平面で断面視された形状が図示される。
【５２９７】
また、図４２２では、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の視認態様の違いが生じる原因となる、３段階で異なる位置を進行する進行方向ＫＬＤ２１～ＫＬＤ２３について図示される。
【５２９８】
図４２２に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１を透過する光は進行方向ＫＬＤ２１で進行するので、遊技者は遊技領域の外縁の後方に対応する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅよりも若干外側の位置を明るく視認することができる。
【５２９９】
傾斜面Ｋ２１２１及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの凹設端面には上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜面Ｋ２１２１の形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁の若干外側を明るく視認させることができる。
【５３００】
図４２２に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅで屈折された光は進行方向ＫＬＤ２２で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、遊技領域の外縁の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに対応する位置を明るく視認することができる。
【５３０１】
外形傾斜部Ｋ２０６０ｅには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁付近を明るく視認させることができる。
【５３０２】
図４２２に図示されるように、一の発光手段Ｋ２１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ２１２０の傾斜面Ｋ２１２１で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅを透過し、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射された光は進行方向ＫＬＤ２３で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部に対応する位置（センターフレームＫ８６（図３６０参照）の配置に対応する位置）を明るく視認することができる。
【５３０３】
傾斜開口部Ｋ２０６０ｗには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ２１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の中央部において遊技領域を区画するセンターフレームＫ８６の外縁部を明るく視認させることができる。
【５３０４】
図４２２に図示されるように、本実施形態によれば、電飾基板Ｋ２１１０を遊技領域の外方に配置しながら、電飾基板Ｋ２１１０の発光手段Ｋ２１１１からの光を遊技領域の外縁の若干外側、遊技領域の外縁付近およびセンターフレームＫ８６（図３６０参照）の外縁部を通して遊技者に視認させることができるので、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させることができる。
【５３０５】

このように、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させるために発光手段Ｋ２１１１を構成することで、発光手段Ｋ２１１１の配置スペースを低減できるので電飾基板Ｋ２１１０の小形化を図ることができる。

【５３０６】

また、図４２２に図示されるように、光照射装置Ｋ２１００がベース板Ｋ２０６０の板厚に収まる位置（光照射装置Ｋ２１００の後端面がベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面と面一）とされていることで、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図３５９参照）の配置自由度を向上させることができる。即ち、ベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面に密着する態様で動作ユニットＫ３００を配置したとしても、光照射装置Ｋ２１００を配設することが可能であり、ベース板Ｋ２０６０を明るく視認させることができる。

【５３０７】

図４２２に図示されるように、発光手段Ｋ２１１１からの光が遊技領域を通過する前に上下左右方向に進行する場合、その光の進行はベース板Ｋ２０６０の前端面よりも後側において生じる。即ち、上下左右方向に進行する範囲において、光は遊技領域を通過しないので、上下左右方向に進行する範囲において光が遊技領域に位置する球に遮られる事態は生じない。

【５３０８】

そのため、遊技領域における球の配置状況によって、進行方向ＫＬＤ２１～ＫＬＤ２３の光の量が変化することを回避することができるので、遊技領域の外方から遊技領域の内側へ向けて光を進行させる構成を採用しながら、弾球遊技中において球に光が遮蔽されてベース板Ｋ２０６０の明るさが低下するといった事態を回避することができる。

【５３０９】

なお、光照射装置Ｋ２１００の配設位置は、第１形成凹部Ｋ６０ａや第２形成凹部Ｋ６０ｂに限定されるものではなく、第３形成凹部Ｋ６０ｃに配設するようにしても良い。この場合、一般入賞口Ｋ６３（図３６０参照）に入球した球の流下経路に発光手段Ｋ２１１１からの光が進入し得るので、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合、その球により光が遮断される。

【５３１０】

この球による遮断の作用は、遊技領域の中央側へ進行する光の見え方に影響を与えることになる。即ち、発光手段Ｋ２１１１から照射され傾斜開口部Ｋ２０６０ｗまで進行する光が、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合に、その球に遮断されることで傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに届かなくなる。

【５３１１】

これにより、一般入賞口Ｋ６３への入球と、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの視認態様とが対応するので、遊技者は、一般入賞口Ｋ６３を視認せずとも、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを視認しておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球を把握することができる。

【５３１２】

この場合、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗは第３図柄表示装置Ｋ８１（図３５８参照）の前方の開口を縁取るセンターフレームＫ８６（図３５８参照）に対応する位置にあるので、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射される光を視認可能な視界としておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球の有無を把握しながら、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示演出を楽しんで視認することができる。

【５３１３】

なお、実際は、ベース板Ｋ２０６０で屈折したり、反射したりする関係上、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は屈折し得るが、図４２２においては、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は、理解を容易とするために上下左右方向で模式的に記載した。

【５３１４】

図４２３は、パチンコ機Ｋ１０の模式正面図である。図４２３では、パチンコ機Ｋ１０にベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ２１００を配設した場合における、視認態様が図

示される。
【５３１５】
図４２３に図示されるように、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される光照射装置Ｋ２１００からの光が傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを介してセンターフレームＫ８６に照射される。これにより、センターフレームＫ８６を明るく照らすことができる。
【５３１６】
この時、動作ユニットＫ３００に配設される電飾基板や発光基板に配設されるＬＥＤを消灯させた状態で、光照射装置Ｋ２１００からは光を照射させることで、センターフレームＫ８６を目立たせることができ、その内側に配置される第３図柄表示装置Ｈ８１に注目させることができる。
【５３１７】
また、センターフレームＫ８６は、上側装飾部材Ｋ３３０よりも前側に配置されているので、上側装飾部材Ｋ３３０の内部に配設される発光基板のＬＥＤを点灯させた状態で光照射手段Ｋ２１００から光を照射させることで、正面視において、発光される上側装飾部材Ｋ３３０がセンターフレームＫ８６に沿って視認される光により分断されているように見せることができる。
【５３１８】
図４２４から図４２６を参照して、第９８実施形態について説明する。第９６実施形態では、ベース板Ｋ６０の背面側に形成される形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの内側が空間として機能する場合を説明したが、第９８実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂの内側に光照射装置Ｋ３１００が配設される。なお、上述した各実施形態と同一の部分には同一の符号を付して、その説明は省略する。
【５３１９】
図４２４は、第９８実施形態におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の分解背面斜視図であり、図４２５は、ベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の分解正面斜視図である。
【５３２０】
光照射装置Ｋ３１００は、ＬＥＤ等からなる複数の発光手段Ｋ３１１１が配設される電飾基板Ｋ３１１０と、その電飾基板Ｋ３１１０が締結固定される部材であり、光透過性の樹脂材料から形成されベース板Ｋ２０６０に締結固定される中間部材Ｋ３１２０と、を備える。
【５３２１】
光照射装置Ｋ３１００は、共通の構成で共通の機能を有する部材の組が左右一対で配置されているので、右側の電飾基板Ｋ３１１０及び中間部材Ｋ３１２０の組について説明を行い、左側の電飾基板Ｋ３１１０及び中間部材Ｋ３１２０の組については説明を省略する。
【５３２２】
電飾基板Ｋ３１１０の正面視外形形状は、ベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように形状が設計されており、遊技領域の外縁に対応する円弧形状に沿って複数の発光手段Ｋ３１１１が間隔を空けて配置されている。
【５３２３】
中間部材Ｋ３１２０は、正面視外形形状が電飾基板Ｋ３１１０と同様にベース板Ｋ２０６０の第２形成凹部Ｋ６０ｂに収まるように設計されており、発光手段Ｋ３１１１の前方において、遊技領域の外縁に対応する円弧形状の中心側に開放側が向くＵ字形状に穿設される複数の開口部Ｋ３１２１と、その開口部Ｋ３１２１のＵ字形状の内側の構成部においてＵ字形状の凹端部へ向かうにつれて背面側へ傾斜するように形成される複数の傾斜面Ｋ３１２２と、を備える。
【５３２４】
傾斜面Ｋ３１２２は、中間部材Ｋ３１２０の遊技領域側の円弧と直交する方向で対向配置される開口部Ｋ３１２１の壁部との間隔が背面側へ向かう程狭くなる方向で傾斜形成さ

れ、傾斜の角度が略４５度となるように設計されている。
【５３２５】
本実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の形成凹部Ｋ６０ａ～Ｋ６０ｄの凹設端面、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅ及び傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに、無数の凹凸から形成されるシボ加工が施される。
【５３２６】
図４２６は、図４１８のＣＤＸＸＩＩ－ＣＤＸＸＩＩ線に対応する線におけるベース板Ｋ２０６０及び光照射装置Ｋ３１００の部分断面図である。図４２６では、一の発光手段Ｋ３１１１の中心を通ると共に外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの円弧と直角に交差する平面で断面視された形状が図示される。
【５３２７】
図４２６に図示されるように、光照射装置Ｋ３１００は、遊技領域を形成する領域の背面側におけるベース板Ｋ２０６０の厚み寸法内で収まるように第１形成凹部Ｋ６０ａ及び第２形成凹部Ｋ６０ｂに配設されている。
【５３２８】
また、図４２６では、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の視認態様の違いが生じる原因となる、３段階で異なる位置を進行する進行方向ＫＬＤ３１～ＫＬＤ３３について図示される。
【５３２９】
図４２６に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２を透過する光は進行方向ＫＬＤ３１で進行するので、遊技者は遊技領域の外縁の後方に対応する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅよりも若干外側の位置を明るく視認することができる。
【５３３０】
第２形成凹部Ｋ６０ｂの凹設端面には上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるが、開口部Ｋ３１２１で空間が閉じられていることにより光の拡散が開口部Ｋ３１２１内で抑制される。これにより、発光手段Ｋ３１１１の配置に対応した光であって、開口部Ｋ３１２１の大きさに拡大された点在光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁の若干外側を明るく視認させることができる。
【５３３１】
図４２６に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅで屈折された光は進行方向ＫＬＤ３２で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、遊技領域の外縁の後方に位置する外形傾斜部Ｋ２０６０ｅに対応する位置を明るく視認することができる。
【５３３２】
外形傾斜部Ｋ２０６０ｅには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ３１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の外縁付近を明るく視認させることができる。
【５３３３】
図４２６に図示されるように、一の発光手段Ｋ３１１１から前方へ向けて照射される光の内、中間部材Ｋ３１２０の傾斜面Ｋ３１２２で反射された後、外形傾斜部Ｋ２０６０ｅを透過し、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射された光は進行方向ＫＬＤ３３で進行するので、遊技者は、ベース板Ｋ２０６０の前面において、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部に対応する位置（センターフレームＫ８６（図３６０参照）の配置に対応する位置）を明るく視認することができる。
【５３３４】
傾斜開口部Ｋ２０６０ｗには上述のようにシボ加工が形成されており、光が拡散されるので、発光手段Ｋ３１１１の配置間隔に依存した点在する光ではなく、傾斜開口部Ｋ２０

６０ｗの形状に合うライン状の光として光を視認させることができる。これにより、遊技領域の中央部において遊技領域を区画するセンターフレームＫ８６の外縁部を明るく視認させることができる。

【５３３５】

図４２６に図示されるように、本実施形態によれば、電飾基板Ｋ３１１０を遊技領域の外方に配置しながら、電飾基板Ｋ３１１０の発光手段Ｋ３１１１からの光を遊技領域の外縁の若干外側、遊技領域の外縁付近およびセンターフレームＫ８６（図３６０参照）の外縁部を通して遊技者に視認させることができるので、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させることができる。

【５３３６】

このように、ベース板Ｋ２０６０を広範囲で明るく視認させるために発光手段Ｋ３１１１を構成することで、発光手段Ｋ３１１１の配置スペースを低減できるので電飾基板Ｋ３１１０の小形化を図ることができる。

【５３３７】

また、図４２６に図示されるように、光照射装置Ｋ３１００がベース板Ｋ２０６０の板厚に収まる位置（光照射装置Ｋ３１００の後端面がベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面と面一）とされていることで、ベース板Ｋ２０６０の背面側に配設される動作ユニットＫ３００（図３５９参照）の配置自由度を向上させることができる。即ち、ベース板Ｋ２０６０の板状部の後端面に密着する態様で動作ユニットＫ３００を配置したとしても、光照射装置Ｋ３１００を配設することが可能であり、ベース板Ｋ２０６０を明るく視認させることができる。

【５３３８】

図４２６に図示されるように、発光手段Ｋ３１１１からの光が遊技領域を通過する前に上下左右方向に進行する場合、その光の進行はベース板Ｋ２０６０の前端面よりも後側において生じる。即ち、上下左右方向に進行する範囲において、光は遊技領域を通過しないので、上下左右方向に進行する範囲において光が遊技領域に位置する球に遮られる事態は生じない。

【５３３９】

そのため、遊技領域における球の配置状況によって、進行方向ＫＬＤ３１～ＫＬＤ３３の光の量が変化することを回避することができるので、遊技領域の外方から遊技領域の内側へ向けて光を進行させる構成を採用しながら、弾球遊技中において球に光が遮蔽されてベース板Ｋ２０６０の明るさが低下するといった事態を回避することができる。

【５３４０】

なお、光照射装置Ｋ３１００の配設位置は、第１形成凹部Ｋ６０ａや第２形成凹部Ｋ６０ｂに限定されるものではなく、第３形成凹部Ｋ６０ｃに配設するようにしても良い。この場合、一般入賞口Ｋ６３（図３６０参照）に入球した球の流下経路に発光手段Ｋ３１１１からの光が進入し得るので、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合、その球により光が遮断される。

【５３４１】

この球による遮断の作用は、遊技領域の中央側へ進行する光の見え方に影響を与えることになる。即ち、発光手段Ｋ３１１１から照射され傾斜開口部Ｋ２０６０ｗまで進行する光が、一般入賞口Ｋ６３に球が入球した場合に、その球に遮断されることで傾斜開口部Ｋ２０６０ｗに届かなくなる。

【５３４２】

これにより、一般入賞口Ｋ６３への入球と、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの視認態様とが対応するので、遊技者は、一般入賞口Ｋ６３を視認せずとも、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗを視認しておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球を把握することができる。

【５３４３】

この場合、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗは第３図柄表示装置Ｋ８１（図３５８参照）の前方の開口を縁取るセンターフレームＫ８６（図３５８参照）に対応する位置にあるので、傾

斜開口部Ｋ２０６０ｗで反射される光を視認可能な視界としておくことで、一般入賞口Ｋ６３への入球の有無を把握しながら、第３図柄表示装置Ｋ８１の表示領域における表示演出を楽しんで視認することができる。

【５３４４】

なお、実際は、ベース板Ｋ２０６０で屈折したり、反射したりする関係上、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は屈折し得るが、図４２２においては、発光手段Ｋ２１１１からの光の進行方向は、理解を容易とするために上下左右方向で模式的に記載した。

【５３４５】

以上、上記実施形態に基づき本発明を説明したが、本発明は上記形態に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能であることは容易に推察できるものである。

【５３４６】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。以下に示す変形例（別実施形態）においても同様であり、一の変形例における構成の一部または全部を、他の変形例における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の変形例としても良い。以下に示す変形例の適用対象となる実施形態は任意であり、いずれの変形例（変形例の組み合わせ又は置き換え）をいずれの実施形態に適用しても良い。

【５３４７】

上記各実施形態において、一の実施形態における構成の一部または全部を、他の実施形態における構成の一部または全部の構成と組み合わせて或いは置き換えて、別の実施形態としても良い。

【５３４８】

上記第１実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂが傾倒と拡大とを合わせたような動作態様で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基礎板部材Ａ４３０の移動と移動部材Ａ４４０の移動とを利用して、左右方向にスライド移動する扉状の扉部材を移動させるようにしても良い。

【５３４９】

この場合、基礎板部材Ａ４３０の回転先端部から前方へ向けて突設される円柱状部を基礎板部材Ａ４３０の正面側に配置される第１扉部材に形成される上下方向に延びる長孔形状の第１支持部に支持させ、移動部材Ａ４４０の回転先端部から前方へ向けて突設される円柱状部を移動部材Ａ４４０の正面側に配置される第２扉部材に形成される上下方向に延びる長孔形状の第２支持部に支持させることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒動作と連動させる形で第１扉部材および第２扉部材を左右方向にスライド移動させることができる。

【５３５０】

第１扉部材は第２扉部材よりも第３図柄表示装置８１の表示領域の外方側に配置され、第１扉部材および第２扉部材のスライド移動中において、基礎板部材Ａ４３０の回転先端部は第１支持部を上下方向に案内され、移動部材Ａ４４０の回転先端部は第２支持部を上下方向に案内される。

【５３５１】

この場合における第１扉部材および第２扉部材の左右位置および移動速度は、基礎板部材Ａ４３０及び移動部材Ａ４４０の回転先端部の左右位置および移動速度に対応する。そのため、回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分に基づいて移動する第１扉部材に対して、回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分に加えて移動部材Ａ４４０の長手方向の延びの分だけ移動量が大きくなることから、第１扉部材の移動速度よりも第２扉部材の移動速度を大きく構成することができる。

【５３５２】

基礎板部材Ａ４３０が演出待機状態から張出状態へ向かうにつれて回転軸棒ＡＪ１を中

心とする回転変位の左右方向成分が徐々に小さくなることから、第１扉部材が左右外側に退避する位置からの第１扉部材の左右方向の移動速度も徐々に小さくなるように構成される（駆動モータＭＴ１の駆動速度が一定の場合に第１扉部材の左右方向の移動速度が徐々に小さくなる）。

【５３５３】

一方、移動部材Ａ４４０の回転軸棒ＡＪ１を中心とする回転変位の左右方向成分も、基本的には張出状態へ向かうにつれて徐々に小さくなるが、移動部材Ａ４４０は傾倒終端側に近づくほど長手方向に延びる量が大きくなる。そのため、第２扉部材が左右外側に退避する位置からの第２扉部材の左右方向の移動速度は、移動部材Ａ４４０の延びが生じる傾倒終端側で大きくなる（駆動モータＭＴ１の駆動速度が一定の場合に第２扉部材の左右方向の移動速度が駆動モータＭＴ１寄りに大きくなる）。

【５３５４】

そのため、特に回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒終端側において、同時点における第１扉部材の移動速度と第２扉部材の移動速度とを大きく異ならせることができ、扉部材を利用した演出の演出効果を向上させることができる。

【５３５５】

なお、本実施形態では、第１動作ユニットＡ４００と第２動作ユニットＡ５００とが左右一対で構成されているので、各動作ユニットＡ４００，Ａ５００でそれぞれ扉部材を動かすように構成し、第３図柄表示装置８１の正面側で扉を閉める（左右の扉部材の移動方向先端側の縁部の間に正面視で隙間が無い状態とする）演出を実行可能な演出装置を構成しても良い。

【５３５６】

また、第１動作ユニットＡ４００で左右方向に移動させる扉部材により第３図柄表示装置８１の表示領域の大部分（又は全体）を隠すことができるように構成しても良い。この場合において、第２動作ユニットＡ５００で左右方向に移動させる扉部材によっても第３図柄表示装置８１の表示領域の大部分（又は全体）を隠すことができるように構成しても良い。

【５３５７】

本実施形態では、第１動作ユニットＡ４００の方が第２動作ユニットＡ５００の手前側に配置されるので、例えば、第１動作ユニットＡ４００により移動される扉部材により第３図柄表示装置８１の表示領域の全体が隠されている状態で、第２動作ユニットＡ５００の配置を遊技者に分からせない（隠す）ように構成することもできる。これにより、第１動作ユニットＡ４００により移動される扉部材が第３図柄表示装置８１の手前側から退避するように動いたとしても、第２動作ユニットＡ５００により移動される扉部材によって第３図柄表示装置８１が隠されていたことで、第３図柄表示装置８１の表示を依然として見せない状態を構成することができる。これにより、遊技者の扉部材に対する注目力を向上させることができる。

【５３５８】

上記第１実施形態では、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、機能長孔Ａ４４４の形状により、移動部材Ａ４４０の長手方向への変位が先に生じ、その後で、移動部材Ａ４４０の長手方向と交差する方向への方向切替部材Ａ４５０の変位が生じたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、機能長孔Ａ４４４の形状を、第１平行部Ａ４４４ａを省略して、第１平行部Ａ４４４ａの長さ分だけ傾斜部Ａ４４４ｂの形成位置を移動部材Ａ４４０の回転先端側へ平行移動させ、同様に第２平行部Ａ４４４ｃも傾斜部Ａ４４４ｂの端部と連結されるように延ばすようにしても良い。このような形状によれば、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、移動部材Ａ４４０の変位と方向切替部材Ａ４５０の変位とが同時に生じる状態から開始され、その後で、移動部材Ａ４４０の変位のみ生じる状態へ移行するような変位を生じさせることができる。

【５３５９】

また、傾斜部Ａ４４４ｂの回転軸棒ＡＪ１側端部から、回転軸棒ＡＪ１に近づくほど移動部材Ａ４４０の短手方向中心側へ向けて傾斜する長孔により形成される逆傾斜部が形成されるようにしても良い。このような形状によれば、演出待機状態からの回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が、移動部材Ａ４４０が長手方向に延びる方向の変位と方向切替部材Ａ４５０が短手方向に広がる方向の変位とが同時に生じる状態から開始され、その後で、移動部材Ａ４４０が長手方向に延びる方向の変位と方向切替部材Ａ４５０が短手方向に近づく（中心側に寄る）方向の変位とが同時に生じる状態へ移行するような変位を生じさせることができる。

【５３６０】

上記第１実施形態では、機能長孔Ａ４４４の形状が、一対が対称形状で構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、一対を非対称で構成しても良い。この場合、左側の方向切替部材Ａ４５０が変位開始するタイミングや変位量と、右側の方向切替部材Ａ４５０が変位開始するタイミングや変位量とが異なる演出役物を構成することができるので、周囲の状況に合った変位態様を構成することができる（障害物に当たらないような変位量や変位タイミングを考慮して、左右で異なる変位を生じさせることができる）。

【５３６１】

上記第１実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂが回転動作する際に、移動部材Ａ４４０が基礎板部材Ａ４３０に対する直線方向に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作ユニットＡ４００ｂが回転動作する際に、回転動作ユニットＡ４００ｂに配設される別の回転部材が回転動作するように構成しても良い。この場合、回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化とは異なる視認態様の変化を生じさせることができる。

【５３６２】

上記第１実施形態では、傾倒開始時において回転動作ユニットＡ４００ｂの外形が変化しない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、傾倒開始時から回転動作ユニットＡ４００ｂの外形が変化されるように案内長孔Ａ４１４の形状を設計することで、傾倒開始時における回転動作ユニットＡ４００ｂの動作抵抗を増加させることができるので、傾倒開始時の姿勢での回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢維持を容易とすることができる。

【５３６３】

上記第１実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂの傾倒方向動作および起き上がり方向動作の双方を駆動力により動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、途中位置からは駆動力の発生を解除して自重で傾倒を実行させるなど、駆動力によらない移動態様を実行可能としても良い。この場合、駆動力で動作させる場合と駆動力に因らずに動作させる場合とで、回転動作ユニットＡ４００ｂの動作態様を異ならせ、動作のバリエーションを増やすことができる。更に、駆動の継続時間を短くすることができることから、駆動モータＡＭＴ１の耐用年数を延ばすことができる。

【５３６４】

上記第１実施形態では、基礎板部材Ａ４３０の正面側に移動部材Ａ４４０が部分的に重なるように配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基礎板部材Ａ４３０に回転先端方向へ延びる金属棒が配設されており、その金属棒の回転先端側に、金属棒の延びる方向にスライド変位可能に案内されるように移動部材Ａ４４０が配設されるようにすることで、基礎板部材Ａ４３０と移動部材Ａ４４０とが正面視で重ならないようにしても良い。この場合、基礎板部材Ａ４３０の正面側が移動部材Ａ４４０に隠されないので、基礎板部材Ａ４３０の正面側部分を演出に利用することができる。

【５３６５】

上記第１実施形態では、回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の変化が回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢に対応して生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、外形の変化の有無を切り替えるための別の駆動装置を用意しても良い。こ

の駆動装置により、案内長孔Ａ４１４の形状を切り替えたり、機能長孔Ａ４４４の形状を切り替えたりすることにより、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢に対応した回転動作ユニットＡ４００ｂの外形の態様を複数種類用意することができる。

【５３６６】

また別の駆動装置により、移動部材Ａ４４０と方向切替部材Ａ４５０とを駆動変位させるように構成することで、回転動作ユニットＡ４００ｂの姿勢の変化が生じていない時に移動部材Ａ４４０及び方向切替部材Ａ４５０を同時に変位可能に構成しても良い。例えば、回転動作ユニットＡ４００ｂが外形の変化を伴わずに傾倒終端に到達し、傾倒終端において別の駆動装置で移動部材Ａ４４０と方向切替部材Ａ４５０とを同時に駆動変位させることもできるように構成することで、回転動作ユニットＡ４００ｂの演出効果の向上を図ることができる。

【５３６７】

上記第１実施形態では、駆動モータＡＭＴ１の動作速度を一定とし、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作の角速度が漸減する態様で動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、角速度の減少量を考慮して、駆動モータＡＭＴ１の駆動速度を漸増させることで、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作の角速度が一定となる制御態様でも、回転動作ユニットＡ４００ｂの回転動作を実行可能にしても良い。

【５３６８】

上記第１実施形態では、回転板部材Ａ６６２にかかる空気抵抗の変化により、回転板部材Ａ６６２の動作抵抗が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転板部材Ａ６６２にかけられる摩擦抵抗（例えば、移動方向と直交する方向から当接する板部材による接触抵抗）が変化するようにしても良いし、回転板部材Ａ６６２にかけられる粘性抵抗（例えば、ダンパ部材等による抵抗）が変化するようにしても良い。

【５３６９】

上記第１実施形態では、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０に挟まれる発光基板Ａ７２０からの光照射について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光基板の照射面側が前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の端面と対向配置されるように配置されても良い。

【５３７０】

この場合において、前側板部材Ａ７３０（又は後側板部材Ａ７４０）には、発光基板Ａ７２０からの光照射（板の延びる方向に沿う方向への照射）が行われる一方、後側板部材Ａ７４０（又は前側板部材Ａ７３０）へは、その後側板部材Ａ７４０（又は前側板部材Ａ７３０）の光入射端面に光照射部の配置面が対向配置される別の発光基板（発光基板Ａ７２０に対して姿勢が９０度異なる発光基板）からの光照射が行われるように構成しても良い。これにより、発光基板Ａ７２０によっては対応が難しいと考えられる、前側板部材Ａ７３０又は後側板部材Ａ７４０の厚みが大きい場合にでも、適切な位置に光を入射させ易くすることができる。

【５３７１】

上記第１実施形態では、前カバー部材Ａ７５０の突設部Ａ７５１ａと発光基板Ａ７２０とは間隔を空けて配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、突設部Ａ７５１ａが発光基板Ａ７２０に押圧力を付与し得る寸法関係で設計しても良い。この場合、発光基板Ａ７２０にかけられる押圧力を突設部Ａ７５１ａの数だけ分割させることができるので、発光基板Ａ７２０の配置を安定させることができる。

【５３７２】

前カバー部材Ａ７５０の突設部Ａ７５１ａは、光を拡散させることを一つの目的とし、それぞれ同形状で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、正面発光部Ａ７２４よりも左側位置（照射方向の逆側位置、前側板部材Ａ７３０の外方側）における突設部Ａ７５１ａの曲率よりも、正面発光部Ａ７２４よりも右側位置（照射方向側の位置、前側板部材Ａ７３０の内方側）における突設部Ａ７５１ａの曲率

を大きくするように構成しても良い。この場合、前側板部材Ａ７３０に近い側における突設部Ａ７５１ａの拡散角を小さくできるので、拡散した光が前側板部材Ａ７３０を広く照らしてしまい、ライン状溝部Ａ７３２によるライン状の光の視認性を低下させることを避けることができる。

【５３７３】

上記第１実施形態では、発光基板Ａ７２０には前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０に光を照射する発光部Ａ７２４，Ａ７２５が配設されることについて説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、発光基板Ａ７２０から前カバー部材Ａ７５０に光を照射する発光部が配設されても良い。この場合、発光部Ａ７２４，Ａ７２５が発光基板Ａ７２０の端部付近に配設されていることから、発光部Ａ７２４，Ａ７２５から照射される光と干渉しない位置に前カバー部材Ａ７５０に光を照射する発光部を設けることを容易とすることができ、光の干渉を避けることができる。

【５３７４】

上記第１実施形態では、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状に合わせて前側板部材Ａ７３０のライン状溝部Ａ７３２が形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ライン状溝部Ａ７３２を、薄肉樹脂板Ａ７４３に形成されるイラストとは別の図形やイラストの形状で形成しても良い。この場合、ライン状溝部Ａ７３２が発光される場合（ライン状溝部Ａ７３２の形状が発光される場合）と、ライン状溝部Ａ７３２が発光されない場合（薄肉樹脂板Ａ７４３に形成されるイラストが見える場合）との見映えの違いを大きくすることができる。

【５３７５】

なお、前側板部材Ａ７３０のみではなく薄肉樹脂板Ａ７４３にもライン状溝部Ａ７３２を形成するようにしても良い（又は、発光基板Ａ７２０の前後に前側板部材Ａ７３０を配置しても良い）。この場合に、背面発光部Ａ７２５にも指向性の高いＬＥＤを採用すれば、薄肉樹脂板Ａ７４３においてもライン状の光を視認させる光演出を実現することができる。

【５３７６】

また、薄肉樹脂板Ａ７４３のみではなく前側板部材Ａ７３０にも特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストが形成されるようにしても良い（又は、発光基板Ａ７２０の前後に後側板部材Ａ７４０を配置しても良い）し、前側板部材Ａ７３０と後側板部材Ａ７４０の前後配置を逆にしても良い。

【５３７７】

これらの各場合において、正面発光部Ａ７２４や背面発光部Ａ７２５の指向性は目的に合わせて選択すれば良い（指向性を高くすれば全反射をさせ易く、指向性を低くすればば全反射が生じにくいので板部材の側面の広い範囲を光らせやすい）。また、発光基板Ａ７２０の前側に配置される部材と後側に配置される部材とで、形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状を同じにしても良いし、異ならせても良い。

【５３７８】

上記第１実施形態では、前カバー部材Ａ７５０から突設される部分により、前側板部材Ａ７３０、発光基板Ａ７２０及び後側板部材Ａ７４０が位置決めされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前側板部材Ａ７３０から前後に突設される部分により、前カバー部材Ａ７５０、発光基板Ａ７２０及び後側板部材Ａ７４０が位置決めされても良い。この場合、前側板部材Ａ７３０から突設される部分の突設長さを短くすることができるので、組立中に前側板部材Ａ７３０を落とす等して誤って突設部分を破損する可能性を低めることができる。

【５３７９】

また、後側板部材Ａ７４０から突設される部分により前側板部材Ａ７３０、発光基板Ａ７２０及び前カバー部材Ａ７５０が位置決めされるようにしても良い。後側板部材Ａ７４０はライン状溝部が形成される部材とは異なるので、突設される部分の位置がライン状溝

部により制限されることが無い。そのため、突設される部分の配置自由度を向上させることができる。

【５３８０】

また、発光基板Ａ７２０、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の位置決めのみを行い、前カバー部材Ａ７５０との間では位置決めを行わないようにしても良い。この場合、発光基板Ａ７２０、前側板部材Ａ７３０及び後側板部材Ａ７４０の位置は合わせたままで前カバー部材Ａ７５０を取り外すことができる。これにより、装飾部分としての前カバー部材Ａ７５０の取り替え（汚れた場合の取り替え、スペック変更に伴う取り替え等）を容易に行うことができる。

【５３８１】

位置決めのために突設される部分の形成位置は、種々の態様が例示される。例えば、前カバー部材Ａ７５０との位置決めを想定するのであれば前カバー部材Ａ７５０の後方位置に形成される方が良い。一方で、前カバー部材Ａ７５０との位置決めを想定しないのであれば、締結部Ａ７３３がそうであるように、前カバー部材Ａ７５０の後方位置とは異なる位置に形成しても良い。

【５３８２】

上記第１実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により左右方向での視線の方向の傾斜角度の違いにより、下流側案内部材Ａ８０３の後方流路を流下する球の視認性が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。左右方向での視線の方向の傾斜角度の違いで視認性を変化させる場合には、隣で遊技している遊技者に球の流下をのぞき見される可能性を低くできるという効果があるが、例えば、視認態様変化シートＡ８０６を、上下方向での視線の方向の傾斜角度の違いにより下流側案内部材Ａ８０３の後方流路を流下する球の視認性が変化するように構成する場合には、遊技者の後ろ側で立っている他者にのぞき見される可能性を低くできるという効果がある。

【５３８３】

上記第１実施形態では、前側部材Ａ８０３ｚの板状本体Ａ８０３ａの正面側に視認態様変化シートＡ８０６が貼り付けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設板Ａ８０３ｂの左右外側面に視認態様変化シートＡ８０６を貼り付けるようにしても良い。この場合、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２に対して左右方向側からの方向視で視認する場合に、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２を視認し易い方向視と、左側流路ＡＴＬ１や右側流路ＡＴＬ２を視認し難い方向視とをつくることができる。

【５３８４】

上記第１実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、第３図柄表示装置８１の正面側に頭を配置した遊技者が横目で下流側案内部材Ａ８０３側を見る場合における球の視認性の低下について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置８１の表示面全体に視認態様変化シートＡ８０６と同様の機能を生じるシートを貼り付け、下流側案内部材Ａ８０３の正面側に頭を配置した遊技者が横目で第３図柄表示装置８１の表示を見難い（視認態様変化シートＡ８０６に遮光される）ように構成しても良い。この場合、下流側案内部材Ａ８０３の後方を流下する球に注目している状況において第３図柄表示装置８１の表示を視認させないことで遊技者の気を散らさないようにすることができ、更に、第３図柄表示装置８１から照射される光が遊技者に到達しないような構成とすることができるので、遊技者は、眩しい光を目に受ける状況を回避することができ、目を休めることができる。

【５３８５】

上記第１実施形態では、視認態様変化シートＡ８０６により、左側流路ＡＴＬ１を視認し難い場合を構成するようにしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、視認し難い場合を構成するのは右側流路ＡＴＬ２としても良いし、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２としても良く、その選択は任意である。右側流路ＡＴＬ２は第２入賞口６４０へ球を案内する流路であるところ、左側流路ＡＴＬ１の形状を変形して左側流路ＡＴ

Ｌ１を流下した球が特定入賞口６５ａへ案内されるように構成することで、視認態様変化シートＡ８０６の設計次第で、第２入賞口６４０へ案内される球のみを視認し易くしたり、特定入賞口６５ａへ案内される球のみを視認し易くしたりするといった演出が可能となる。

【５３８６】

例えば、視認態様変化シートＡ８０６を左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の正面側を覆うように配置する前提において、左側流路ＡＴＬ１の正面側を覆う視認態様変化シートＡ８０６は正面視と左斜め方向からの方向視とでは透過性が高い一方で右斜め方向からの方向視では透過性が低くなるように設計され、右側流路ＡＴＬ２の正面側を覆う視認態様変化シートＡ８０６は正面視と右斜め方向からの方向視とでは透過性が高い一方で左斜め方向からの方向視では透過性が低くなるように設計される場合、正面視では左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の透過性を高くし、左斜め方向からの方向視では左側流路ＡＴＬ１の透過性は高くする一方で右側流路ＡＴＬ２の透過性を低くし、右斜め方向からの方向視では左側流路ＡＴＬ１の透過性は低くする一方で右側流路ＡＴＬ２の透過性を高くすることができる。

【５３８７】

また、この場合において、正面視では左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の透過性を低くするように構成しても良い。この場合、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の両方共を同時に視認可能な状況を排除することができるので、左側流路ＡＴＬ１及び右側流路ＡＴＬ２の双方を同時に見たい遊技者に対して下流側案内部材Ａ８０３を上側から覗き込ませるという遊技をさせるように仕向けることができる。

【５３８８】

視認態様変化シートＡ８０６の表面には、特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状等の装飾を付すようにしても良い。

【５３８９】

上記第１実施形態では、流下する球の視認性を視認態様変化シートＡ８０６により変化させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前後一対の光透過性板の間に光を非透過のルーバー板部が配置され、そのルーバーが首振り動作したり、撓んだりすることで、遊技者の視線を遮る場合と、透過させる場合とを切り替えられるようにしても良い。

【５３９０】

また、前後一対の非透過の板部材に開口が形成されており、例えば前側の板部材が後側の板部材に対して平行移動できるよう構成される場合に、各板部材に形成される開口の位置の正面視でのずれにより、前後の開口の内部を通る方向視については奥側を視認することができる一方で、前後いずれかの開口から外れる方向視については板部材に視線が遮られることで奥側を視認することができないように構成しても良い。

【５３９１】

上記第１実施形態では、検出センサＳＥ１に球が検出されることで賞球が払い出される場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、賞球の払い出しは無くても良い。賞球の払い出しが無い場合の用途として、例えば、検出センサＳＥ１での球の検出に基づいて大当たり遊技の種類（ラウンド数等）を選択させるような遊技機への利用が想定される。このような遊技機では、大当たり遊技の種類を選択させるタイミング以外では検出センサＳＥ１に対する注目力は極端に下がることが考えられるため、その前側に視認態様変化シートＡ８０６を配置して検出センサＳＥ１を隠すことに意味がある。

【５３９２】

また、賞球の払い出しが無い場合の別の用途として、例えば、検出センサＳＥ１が特定入賞口６５ａの下流側に配置され、大当たり遊技中に特定入賞口６５ａに入球した球の通過が検出された場合に大当たり終了後の遊技状態が所定の有利状態に移行するように制御される「Ｖ入賞口（特定領域）」として利用される遊技機への利用が想定される。このよ

うな遊技機では、大当たり遊技中以外では検出センサＳＥ１に球が案内されることは無いので、大当たり遊技中以外では検出センサＳＥ１に対する注目力は極端に下がることが考えられるため、その前側に視認態様変化シートＡ８０６を配置して検出センサＳＥ１を隠すことに意味がある。

【５３９３】

なお、大当たり中において、視認態様変化シートＡ８０６の正面位置に遊技者が頭を移動させれば、視認態様変化シートＡ８０６を透視して、その背面側の検出センサＳＥ１を視認することが可能となるので、大当たり遊技中において検出センサＳＥ１が見難いという不満を解消することができる。

【５３９４】

また、例えば、賞球の払い出しがある場合に、球の検出に対応して第３図柄表示装置８１において払い出し個数に対応した数字（「＋１」や「＋３」等）を表示するようにしても良い。この場合、遊技者は、下流側案内部材Ａ８０３の後方を流下する球を視認できない場合であっても、第３図柄表示装置８１の表示から賞球の払い出しが生じたことを理解することができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【５３９５】

上記第１実施形態では、補助導光板ユニットＡ８１０において、前側板部材Ａ８４０がライン状溝部Ａ８４２を備えることで光の輪郭を視認させるような光演出を可能とする一方で、後側板部材Ａ８５０にはライン状溝部Ａ８４２は形成されず、均一な面発光での光演出を行う場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【５３９６】

例えば、前側板部材Ａ８４０のみではなく後側板部材Ａ８５０にもライン状溝部Ａ８４２を形成するようにしても良い。この場合に、エッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７にも指向性の高いＬＥＤを採用すれば、後側板部材Ａ８５０においてもライン状の光を視認させる光演出を実現することができる。

【５３９７】

また、後側板部材Ａ８５０のみではなく前側板部材Ａ８４０にも特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストが形成されるようにしても良いし、前側板部材Ａ８４０と後側板部材Ａ８５０の前後配置を逆にしても良い。

【５３９８】

これらの各場合において、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７，Ａ８３３，Ａ８３７の指向性は目的に合わせて選択すれば良い（指向性を高くすれば全反射をさせ易く、指向性を低くすればば全反射が生じにくいので板部材の側面の広い範囲を光らせやすい）。また、前側板部材Ａ８４０と後側板部材Ａ８５０とで、形成される特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストの形状を同じにしても良いし、異ならせても良い。

【５３９９】

上記第１実施形態では、正面発光部Ａ７２４及び背面発光部Ａ７２５は、複数のＬＥＤの光軸がそれぞれ互いに平行とされるよう構成され、エッジ発光部Ａ８２３，Ａ８２７及びエッジ発光部Ａ８３３，Ａ８３７は、複数のＬＥＤの光軸がそれぞれ互いに放射状となる関係で構成される（進行方向先端側ほど隣の光軸との間隔が広がる態様で設定される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、これらの光軸の関係を、逆にしても良い。

【５４００】

上記第２実施形態では、案内長孔Ａ２４１４の直線状部が傾斜する方向に延びる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、直線状部の延びる方向が水平方向に延びるよう構成しても良い。この場合、往路と復路とでの動作抵抗の違いを小さくすることができる。

【５４０１】

上記第４実施形態では、導光変位部材Ａ４９２０を駆動させるソレノイドＡ４９４０を個別に用意する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動

役物６４０ａの駆動装置を兼用しても良い。この場合、電動役物６４０ａの動作タイミングと導光変位部材Ａ４９２０の動作タイミングとを合わせ易くすることができる。

【５４０２】

また、導光変位部材Ａ４９２０の代わりに、主には第３図柄表示装置８１の正面側に張り出す動作を行う可動役物（例えば、第１動作ユニットＡ４００）をセンターフレームＡ８６の内部領域を通してベース板Ａ６０の前側に張り出し可能に構成し、球の流路への視線を遮る位置まで移動可能に構成することで、可動役物を球の流路への視線を遮るために利用しても良い。この場合、可動役物に個別の駆動装置を、球の流路への視線を遮るための駆動装置に兼用すれば良いので、ソレノイドＡ４９４０を不要とすることができる。

【５４０３】

上記第４実施形態において、覆設部材Ａ４９３０の前側案内板部Ａ４９３１に特定のキャラクターやロゴ等を含むイラストを形成するようにすれば、そのイラストによりライン状溝部Ａ４９２１ａを見え難くすることができる。これにより、発光手段Ａ４９３３ａを点灯させていない場合における球案内ユニットＡ４９００の見映えを良くすることができる。また、前側案内板部Ａ４９３１に形成されるイラストに対応した形状でライン状溝部Ａ４９２１ａを形成することで、演出効果を向上させることができる。

【５４０４】

上記第４実施形態において、導光変位部材Ａ４９２０の被案内板部Ａ４９２１に視認態様変化シートＡ８０６を貼り付けるようにしても良い。この場合、遊技者の視線が変化しなくても、導光変位部材Ａ４９２０が変位することで遊技者の視線と視認態様変化シートＡ８０６との相対的な位置関係が変化するので、遊技者が視線を変化させていないにも関わらず、導光変位部材Ａ４９２０の後方を流下する球の視認性を変化させる場合を生じさせることができる。

【５４０５】

上記第４実施形態において、導光変位部材Ａ４９２０の被案内板部Ａ４９２１への光の入射、発光手段の個数や配置、点灯させる発光手段の選択、及び構造の設計に、第１実施形態で説明した補助導光板ユニットＡ７００ｂや補助導光板ユニットＡ８１０の構造の全て又は全部を流用するようにしても良い。

【５４０６】

上記第５実施形態では、延設案内部Ａ５４３８に柱状突設部材Ａ５４４８が押進されることで移動部材Ａ５４４０に対して相対変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転動作ユニットＡ５４００ｂの傾倒角度に基づいて歯合回転するギア及びラックと柱状突設部材Ａ５４４８とが連動するように構成することで、回転動作ユニットＡ５４００ｂの傾倒角度に対応して柱状突設部材Ａ５４４８を変位させても良いし、柱状突設部材Ａ５４４８を駆動させるための駆動装置を回転動作ユニットＡ５４００ｂに配設させて駆動装置の駆動制御により柱状突設部材Ａ５４４８を駆動変位させても良い。

【５４０７】

上記第７実施形態から第４０実施形態では、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０に一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが連結（配設）され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０に一対の（二つの）係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが連結（配設）される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ或いは係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが省略されても良い。

【５４０８】
上記第７実施形態から第４０実施形態において、凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂが平面部Ｗ３２０，Ｗ４３２０，Ｗｅ３２０，Ｗｊ３２０，Ｗｍ３２０，Ｗｓ３２０の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂ側における正面に凹設され、正面視おいて、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂが凹部Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂに重なる位置に配設されても良い。
【５４０９】
上記第７実施形態から第４０実施形態において、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００の背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０において正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０と対向する側の面に立設部Ｗ２２２が立設されても良い。立設部Ｗ２２２が背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０における先端側（左壁部Ｗ５０２とは反対側）に配設されることにより、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００を取り外す際、立設部Ｗ２２２により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。
【５４１０】
上記第７実施形態から第４０実施形態において、立設部Ｗ５４０，Ｗｃ５４０，Ｗｄ５４０を用いて封印シールＷＳＬを切断しても良く、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの傾斜部Ｗ５３２（突出先端部）を用いて封印シールＷＳＬを切断しても良い。これにより、傾斜部Ｗ５３２に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを弾性変形させ易くさせる機能と封印シールＷＳＬを切断する機能とを兼用させることができ、製造コストを低減できる。
【５４１１】
上記第７実施形態から第４０実施形態において、立設部Ｗ５４０，Ｗｃ５４０，Ｗｄ５４０が非成形とされ、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が前後反対とされた状態でボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００のカバー側被係合部Ｗ２１０及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００のベース側被係合部Ｗ３１０に受け入れ可能とされても良い。これにより、不正を行う者が誤って保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５０

０，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が前後反対とされた状態でボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００のカバー側被係合部Ｗ２１０及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００のベース側被係合部Ｗ３１０に係合させようと試み、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ，Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂと封印シールＷＳＬとを当接させ、封印シールＷＳＬを破損させる機会を付与できる。

【５４１２】

上記第７実施形態から第４０実施形態では、一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、二つ以上（複数）の係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設されても良い。係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが複数配設される場合、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａの少なくとも一つが第３３実施形態おけるカバー部Ｗｒ２１４の突起Ｗｒ２１４ｂにより係合される構成としても良い。即ち、複数の係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａにおいて、弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、例えば、第７実施形態おける突起Ｗ２２１との係合を解除させるために突起Ｗ２２１に係合される係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａを弾性変形（変位）させることにより、第３３実施形態おける突起Ｗｒ２１４ｂに係合される係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａを突起Ｗｒ２１４ｂとの係合が維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００から保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【５４１３】
上記第７実施形態から第４０実施形態では、一対（二つ）の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが一つ配設されても良く、三つ以上配設されても良い。係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが三つ以上配設される場合、係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの少なくとも一つが第３４実施形態おける平面部Ｗｓ３２０の突起Ｗｓ３２８により係合される構成としても良い。即ち、複数の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂにおいて、弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、例えば、第７実施形態おける突起Ｗ３１２ｃとの係合を解除させるために突起Ｗ３１２ｃに係合される係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを弾性変形（変位）させることにより、第３４実施形態おける突起Ｗｓ３２８に係合される係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂを突起Ｗｓ３２８との係合が維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００から保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００が不正に取り外されることを抑制できる。
【５４１４】
上記第７実施形態から第４０実施形態では、保護カバーＷ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００における背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側には一つの係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側には一対（二つ）の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが配設され、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側と正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側とで異なる数の係合部が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側と正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側とで係合部が同数だけ配設されても良い。例えば、背面壁部Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０側に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが二つ配設され、正面壁部Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０側に係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂが二つ配設されても良い。

【５４１５】
上記第７実施形態から第４０実施形態では、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）において一対の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの間に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、背面視において、一対の係合部Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂの一方に重なる位置に係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが配設されても良い。即ち、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａが上下方向において、一方に偏って配設されても良い。
【５４１６】
上記第７実施形態から第４０実施形態において、切欠き部Ｗ２２６，Ｗｅ２２６，Ｗ３２５，Ｗｅ３２５により形成される傾斜面が直線状に形成されても良く、封印シールＷＳＬの貼着面とは反対側へ向けて凹となる湾曲状に形成されても良い。
【５４１７】
上記第１０実施形態では、突起Ｗ４５３４が係合部Ｗ４５３０ａ，Ｗ４５３０ｂから背面壁部Ｗ５１０及び正面壁部Ｗ５２０の対向側へ向けて四角錐状に突出して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、三角錐状等の多角錐状、円錐状、四角柱や三角柱状等の多角柱状、円柱状に形成されても良い。多角柱状や円柱状に形成される場合、封印シールＷＳＬの破断面を引きちぎった形状とでき、破断（破損）された封印シールＷＳＬが再利用された場合、破断（破損）の痕跡を作業者に認識させ易くできる。
【５４１８】
上記第１０実施形態から第１２実施形態、第３２実施形態および第３７実施形態において、ボックスカバーＷ２００，Ｗ４２００，Ｗｑ２００，Ｗｖ２００及びボックスベースＷ３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００に保護カバーＷ４５００，Ｗ５５００，Ｗｑ５００，Ｗｖ５００を取り付ける際、突起Ｗ４５３４，Ｗ５５３４，Ｗｑ５３４，Ｗｖ５３４により、封印シールＷＳＬが破損されても良い。
【５４１９】
上記第１１実施形態および第１２実施形態において、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１の一部が非形成とされても良い。例えば、一対の両端壁部Ｗ２２３，Ｗ３２１において、封印ユニットＷ４００とは反対側（矢印Ｌ方向側）における一部が非形成とされる場合、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００，Ｗ６３００への保護カバーＷ５５００の取り付けにおいて係合部Ｗ５５３０ｂの係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとが係合される前の状態、又は、またはボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ５３００，Ｗ６３００からの保護カバーＷ５５００の取り外しにおいて係合孔Ｗ５３３と突起Ｗ３１２ｃとの係合が解除された後の状態では、保護カバーＷ５５００を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へ変位可能とされる。これにより、突起Ｗ５５３４を封印シールＷＳＬに当接させることができ、封印シールＷＳＬを破損させることができる。
【５４２０】
上記第１１実施形態および第１２実施形態において、保護カバーＷ５５００から切断された係合部Ｗ５５３０ｂの突起Ｗ５５３４を利用して封印シールＷＳＬを切断しても良い。これにより、切断工具（図示せず）の携行を不要とでき、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００の開封作業を容易とできる。
【５４２１】
上記第１２実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下

方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）に延びて形成されても良い。例えば、凹部Ｗ６３２６が突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの突起Ｗ３１２ｃ側（矢印Ｒ方向側）の半分（不正に取り外すために変位させる範囲のうちの前半部分）まで伸びて形成されることで、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）を形成することと、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００が取り外されることを抑制することを両立させることができる。

【５４２２】

即ち、連結片Ｗ５３１ａ，Ｗ５３１ｂを切断せずに係合部５５３０ｂを弾性変形させて突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合が解除された際には、突起Ｗ５５３４が凹部Ｗ６３２６に受け入れられるので、係合部５５３０ｂを突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けて変位させることで、封印シールＷＳＬに痕跡（破損）を形成できる。一方で、突起Ｗ５５３４が凹部Ｗ６３２６の突起Ｗ３１２ｃとは反対側の内壁に当接されることで、係合部５５３０ｂの突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）へ向けての変位が規制され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ６３００から保護カバーＷ５５００が取り外されることを抑制できる。

【５４２３】

上記第１２実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）において突起Ｗ３１２ｃ側（矢印Ｒ方向側）へ延びて形成されても良い。例えば、凹部Ｗ６３２６が突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）の半分（不正に取り外すために変位させる範囲のうちの後半部分）まで伸びて形成されても良い。

【５４２４】

上記第１２実施形態では、凹部Ｗ６３２６が規制状態において、突起Ｗ５５３４と上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に重なる位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突起Ｗ５５３４よりも突起Ｗ３１２ｃとは反対側（矢印Ｌ方向側）となる位置に形成されても良い。突起Ｗ３１２ｃと係合孔Ｗ５３３との係合を解除させるために保護カバーＷ５５００が変位される範囲のうちの途中に形成されても良い。

【５４２５】

上記第１４実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂの封印シールＷＳＬに対向する面または封印シールＷＳＬに対向する側とは反対側の面が封印シールＷＳＬに対し非平行に形成されても良い。

【５４２６】

上記第１４実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂにおける一対の側面の少なくとも一方が対向する側とは反対側へ向けて凸となる曲面に形成されても良い。これにより、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面の少なくとも一方に形成される曲面に沿って切断工具を回転させ易くでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【５４２７】

上記第１４実施形態において、連結片Ｗ８５３１ｂにおける一対の側面の少なくとも一方が対向する側へ向けて凹となる曲面に形成されても良い。

【５４２８】

上記第１４実施形態では、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し傾斜して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、連結片Ｗ８５３１ｂの一対の側面の一方が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し傾斜して形成され、一対の側面の他方が封印シールＷＳＬ（平面部Ｗ２２０）に対し直交して形成されても良い。

【５４２９】

上記第１５実施形態において、断面視では、連結片Ｗ９５３１ｂの第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２が略楕円形に形成されても良い。これにより、曲面に沿って切断工具を回転させ易くでき、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【５４３０】

上記第１５実施形態において、連結片Ｗ９５３１ｂの第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の境界に段部が形成される（第１部Ｗ９５３１ｂ１と第２部Ｗ９５３１ｂ２とが直接連結される）場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、第１部Ｗ９５３１ｂ１と第２部Ｗ９５３１ｂ２との間に、滑らかに連結する連結部が介設されても良い。即ち、介設部は、第１部Ｗ９５３１ｂ１から第２部Ｗ９５３１ｂ２へ向かうに従い、その介設部の断面形状が第１部Ｗ９５３１ｂ１の断面形状から第２部Ｗ９５３１ｂ２の断面形状に徐々に変化する形状の部位として形成される。これにより、第１部Ｗ９５３１ｂ１及び第２部Ｗ９５３１ｂ２の連結部に応力集中が生じることを抑制でき、連結片ＷＶ９５３１ｂの強度を確保できる。また、介設部により切断工具を第２部Ｗ９５３１ｂ２から第１部Ｗ９５３１ｂ１へ向けて変位させ易くできる。

【５４３１】

上記第１５実施形態において、係合部Ｗ５３０ａが不正に弾性変形された場合、第１部Ｗ９５３１ｂ１により封印シールＷＳＬを破損させても良い。

【５４３２】

上記第１６実施形態において、切断部Ｗａ５５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における左壁部Ｗ５０２の略中央から正面壁部Ｗ５２０側（矢印Ｆ方向側）へ偏った位置に配設され、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢（正面壁部Ｗ５２０の正面側に背面壁部Ｗ５１０が対向される姿勢）保護カバーＷａ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられた場合、切断部Ｗａ５５０が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向される位置に配設されても良い。これにより、係合部Ｗ５３０ａ，Ｗ５３０ｂが切断され、保護カバーＷａ５００が封印ユニットＷ４００側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させた状態においても、封印シールＷＳＬが切断させることを抑制できる。一方で、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００から保護カバーＷａ５００を取り外し、正面壁部Ｗ５２０と背面壁部Ｗ５１０とが反対の姿勢で保護カバーＷａ５００がボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷ３００に取り付けられることにより切断部Ｗａ５５０を切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５に対向される位置に配設でき、切断部Ｗａ５５０を用いて封印シールＷＳＬを切断できる。その結果、不正を行う者に切断部Ｗａ５５０を利用させ難くできる。

【５４３３】

上記第１６実施形態では、切断部Ｗａ５５０が鋸刃状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、直線状に形成されても良く、切断部Ｗａ５５０の突出先端部が、０度から１８０度までのｓｉｎ波を連結した形状から形成されても良い。なお、切断部Ｗａ５５０が直線状に形成される場合、封印シールＷＳＬに対し平行に形成されても良く、少なくとも一部が傾斜して形成されても良い。切断部Ｗａ５５０が封印シールＷＳＬに対し平行に形成されることにより、封印シールＷＳＬを切断する際、封印シールＷＳＬの破断面が引きちぎられた態様に形成できる。これにより、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難くできる。

【５４３４】

上記第１６実施形態では、切断部Ｗａ５５０に形成される鋸刃状の全体が切欠き部Ｗ２２６，Ｗ３２５により形成される空間に受け入れられ、封印シールＷＳＬが平面部Ｗ２２０側と平面部Ｗ３２０側とに分離される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、平面部Ｗ２２０側および平面部Ｗ３２０側における封印シールＷＳＬが一部において連結されても良い（少なくとも一部が切断されれば良い）。言い換えると、切断部Ｗａ５５０により封印シールＷＳＬにミシン目（上下方向において、所定の間隔を隔てて切断部

と連結部とが形成される形状）が形成されても良い。これにより、封印シールＷＳＬを切断（平面部Ｗ２２０側と平面部Ｗ３２０側とに分離）させ易くできる。一方で、封印シールＷＳＬに形成される連結部を切断（破断）させる際、その破断面を引きちぎった形状とでき、切断（破断）された封印シールＷＳＬが再利用された場合、切断の痕跡を作業者に認識させ易くできる。また、保護カバーＷａ５００を側壁部Ｗ２１２側（矢印Ｒ方向側）へ向けて変位させることにより封印シールＷＳＬにミシン目を形成することを容易に行うことができる。

【５４３５】

上記第１７実施形態では、刃部Ｗｂ５５２が円錐状に形成される先端部を備える場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではい。例えば、刃部Ｗｂ５５２の先端部が円柱状に形成され、刃部Ｗｂ５５２の先端部における断面形状が突出方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において一定とされても良い。言い換えると、刃部Ｗｂ５５２の先端部が鋭利に形成されなくても良い。これにより、刃部Ｗｂ５５２を用いて封印シールＷＳＬを切断する際、封印シールＷＳＬの破断面が引きちぎられた態様に形成できる。これにより、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難くできる。また、刃部Ｗｂ５５２の先端部が三角錐や四角錐等の多角錐状に形成されても良く、刃部Ｗｂ５５２の先端部が三角柱や四角柱等の多角柱状に形成されても良い。

【５４３６】

上記第１７実施形態から第２０実施形態、第２４実施形態および第４０実施形態において、ボックスカバーＷ２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００の平面部Ｗ２２０，Ｗｅ２２０又はボックスベースＷ３００，Ｗｅ３００の平面部Ｗ３２０，Ｗｅ３２０における封印シールＷＳＬが貼着される面（ガイド部Ｗｂ５６０，Ｗｄ５６０、下壁部Ｗ５０１又は連結片Ｗｅ５３１ａを沿わせる面）に凹凸が形成されても良い。これにより、ボックスカバーＷ２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００の平面部Ｗ２２０，Ｗｅ２２０又はボックスベースＷ３００，Ｗｅ３００の平面部Ｗ３２０，Ｗｅ３２０に沿ってガイド部Ｗｂ５６０，Ｗｄ５６０、下壁部Ｗ５０１又は連結片Ｗｅ５３１ａを一対の両端壁部Ｗ２２３の一方から他方へ向けて変位させた場合、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における封印シールＷＳＬの一端と他端との間において封印シールＷＳＬに形成される破断面の位置を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に変化させることができる。その結果、不正を行う者が封印シールＷＳＬの破断面どうしを隙間なく接合し、封印シールＷＳＬを再利用することを行い難くできる。

【５４３７】

上記第１９実施形態において、立設部Ｗｄ５４０と係合孔Ｗ５３３との嵌合（係合）に加え、保護カバーＷｄ５００が係合部Ｗｄ５３０ａを係合するための係合部を備えても良い。例えば、保護カバーＷｄ５００の背面壁部Ｗ５１０に係合部が形成され、係合部Ｗｄ５３０ａの連結片Ｗ５３１ａとは反対側（傾斜部Ｗ５３２側）の端部が背面壁部Ｗ５１０に形成される係合部に係合されても良い。これにより、保護カバーＷｄ５００の異なる２箇所において係合部Ｗｄ５３０ａを係合でき、保護カバーＷｄ５００に対する係合部Ｗｄ５３０ａの取り付けを強固にできる。また、係合部Ｗｄ５３０ａの姿勢を維持し易くできる。その結果、係合部Ｗｄ５３０ａを用いることによる封印シールＷＳＬの切断作業を容易に行うことができる。

【５４３８】

上記第２５実施形態では、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０（第１規制部Ｗｊ２４０及び第２規制部Ｗｊ２５０）が平面部Ｗｊ２２０に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０が平面部Ｗｊ３２０の背面側（矢印Ｂ方向側）の面に形成され、ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００が組み合わされることにより、規制状態において、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０が係合部Ｗｊ５３０ａの係合孔Ｗ５３３の内側となる位置に配設されても良い。ボックスカバーＷｊ２００及びボックスベースＷｊ３００が組み合わされることにより、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０と係合部Ｗｊ５３０ａとが係合される。ボックスカバーＷｊ２００は、カバー部Ｗｊ

２１４及び弾性変形規制手段Ｗｊ２３０を備えるため、ボックスカバーＷｊ２００の樹脂成形型が複雑化するのに対し、弾性変形規制手段Ｗｊ２３０がボックスベースＷｊ３００に形成されることにより、ボックスカバーＷｊ２００の樹脂成形型を簡略化できる。その結果、製造コストを低減できる。

【５４３９】

上記第２６実施形態において、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに非当接とされても良い（係合部Ｗ５３０ｂ２が弾性変形されなくても良い）。これにより、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方と他方とが異なる方向にそれぞれ弾性変形されることを抑制できる。その結果、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方（他方）の弾性変形量を小さくでき、一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方（他方）破損させ難くできる。

【５４４０】

上記第２６実施形態では、カバー部Ｗｋ３１２の係止部Ｗｋ３１２ｆがボックスベースＷｋ３００に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、係止部Ｗｋ３１２ｆが側壁部Ｗ２１２の正面側（矢印Ｆ方向側）の面に形成され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００が組み合わされることにより、規制状態において、係止部Ｗｋ３１２ｆが係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部に当接される位置に配設されても良い。ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００が組み合わされることにより、係合部Ｗ５３０ｂ２の先端部が係止部Ｗｋ３１２ｆの傾斜部Ｗｋ３１２ｇに当接される。ボックスベースＷｋ３００は、カバー部Ｗｋ３１２を備えるため、ボックスベースＷｋ３００の樹脂成形型が複雑化するのに対し、係止部Ｗｋ３１２ｆがボックスカバーＷ２００に形成されることにより、ボックスベースＷｋ３００の樹脂成形型を簡略化できる。その結果、製造コストを低減できる。

【５４４１】

上記第２６実施形態において、保護カバーＷ５００に係合部Ｗ５３０ｂ１又は係合部Ｗ５３０ｂ２が２箇所以上に形成され、ボックスベースＷｋ３００に突起Ｗ３１２ｃ又は突起Ｗｋ３１２ｃが２箇所以上に形成されても良い。例えば、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における保護カバーＷ５００の両端側に係合部Ｗ５３０ｂ２が一対形成され、それら一対の係合部Ｗ５３０ｂ２の間に係合部Ｗ５３０ｂ１が形成される場合、係合部Ｗ５３０ｂ１のボックスカバーＷ２００側（矢印Ｂ方向側）への弾性変形が係合部Ｗ５３０ｂ１の両端において抑制され易くでき、係合部Ｗ５３０ｂ１が不正に弾性変形され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外し難くできる。また、例えば、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における保護カバーＷ５００の両端側に係合部Ｗ５３０ｂ１が一対形成され、それら一対の係合部Ｗ５３０ｂ１の間に係合部Ｗ５３０ｂ２が形成される場合、背面視において、係合部Ｗ５３０ｂ２を係合部Ｗ５３０ａに重なる位置に配設できる。これにより、係合部Ｗ５３０ａを不正に弾性変形され、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｋ３００から保護カバーＷ５００を不正に取り外し難くできる。

【５４４２】

上記第２７実施形態において、連結部Ｗｌ５３５に切欠きが形成されても良い。これにより、連結部Ｗｌ５３５を回転させ（捩じられ）易くできる。

【５４４３】

上記第２８実施形態では、規制突起Ｗｍ２２８が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において延設部Ｗｍ３３２の略中央に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、規制部Ｗｍ３３４の下方に配設されても良い。これにより、係合部Ｗｍ５３０ｂを不正に弾性変形させ難くできる。

【５４４４】

上記第３４実施形態では、一対の突起Ｗｓ３２８を備える場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、一対の突起Ｗｓ３２８の一方（他方）のみが形成され、一対の突起Ｗｓ３２８の他方（一方）に対応する位置には、第７実施形態における突起Ｗ３１２ｃが形成されても良い。言い換えると、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）における一方（他方）

には突起Ｗｓ３２８が形成され、他方（一方）には突起Ｗ３１２ｃが形成されても良い。これにより、保護カバーＷ５００の一対の係合部Ｗ５３０ｂの一方と他方とで弾性変形させる方向を反対方向とできる。従って、一方（他方）の係合部Ｗ５３０ｂと突起Ｗｓ３２８（突起Ｗ３１２ｃ）との係合を解除させるために一方（他方）の係合部Ｗ５３０ｂを弾性変形（変位）させることにより、他方（一方）の係合部Ｗ５３０ｂと突起Ｗ３１２ｃ（突起Ｗｓ３２８）との係合を維持させる方向へ向けて変位させることができる。その結果、ボックスカバーＷ２００及びボックスベースＷｓ３００から保護カバーＷ５００が不正に取り外されることを抑制できる。

【５４４５】

上記第３５実施形態において、突部Ｗｔ２２４ｂに形成される一対の切欠きＷｔ２２４ｂ１に突部Ｗｔ２２４ｂどうしを連結する連結部が形成されても良い。これにより、突部Ｗｔ２２４ｂの強度を確保できる。

【５４４６】

上記第３５実施形態では、突部Ｗｔ２２４ｂが断面視において、略矩形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、断面視において、平面部Ｗｔ２２０とは反対側へ向けて凸となる湾曲状に形成されても良い。これにより、突部Ｗｔ２２４ｂに封印シールＷＳＬを貼着させ易くできる（突部Ｗｔ２２４ｂから封印シールＷＳＬが剥がれ難くできる）。

【５４４７】

上記第３５実施形態では、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）において、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が係合部Ｗ５３０ａの連結片Ｗ５３１ｂの寸法と略同一に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも小さく形成されても良く、大きく形成されても良い。

【５４４８】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも小さく形成される場合、突部Ｗｔ２２４ｂに貼着された封印シールＷＳＬが連結片Ｗ５３１ｂにより遮蔽され、不正を行う者から視認不能とできる。これにより、不正を行う者が切断工具により封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【５４４９】

左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における突部Ｗｔ２２４ｂの寸法が連結片Ｗ５３１ｂの寸法よりも大きく形成される場合、切断工具の先端を連結片Ｗ５３１ｂの一対の側面に対向させることにより、連結片Ｗ５３１ｂを切断する操作を行うことなく切断工具を封印シールＷＳＬに当接させることができ、封印シールＷＳＬを破損させることができる。

【５４５０】

上記第３７実施形態において、凹部Ｗｖ２２９が一対の突起Ｗｖ５３４とは反対側（矢印Ｄ方向側）へ向けて延びて形成されても良い。これにより、保護カバーＷｖ５００から分離された係合部Ｗｖ５３０ａをボックスカバーＷｖ２００から取り外す際、左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回転軸として突起Ｗｖ５３４が平面部Ｗ３２０側（矢印Ｆ方向側）へ向けて回転され、突起Ｗｖ５３４が封印シールＷＳＬに当接した状態を維持しつつ係合部Ｗｖ５３０ａを凹部Ｗｖ２２９の延びる方向（矢印Ｄ方向）へ向けて変位させることができる。その結果、封印シールＷＳＬに形成される痕跡（破損）を大きくできる。

【５４５１】

上記第３９実施形態において、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１及び第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２が異なる樹脂材料を用いて二色成形により成形されても良い。例えば、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１が第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２よりも高い剛性を有する樹脂材料を用いて成形される場合、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１の形状（第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２よりも正面壁部Ｗ５２０から背面壁部Ｗ５１０へ向かう方向における寸法が大きく形成される形状）に加え、剛性の高い樹脂材料を用いて成形されるため、第１連結片Ｗｘ５３１ｂ１に対し第２連結片Ｗｘ５３１ｂ２を切断させ易くでき、切断工具の刃を一層回転させ易くできる。これにより、切断工具の先端で封印シールＷＳＬを破損させ易くできる。

【５４５２】
上記第３９実施形態では、連結片Ｗｘ５３１ｂが断面視において、略Ｌ字状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限るものではく、断面視において、略コ字状に形成され、開放される側が封印シールＷＳＬに対向する姿勢で配設されても良い。これにより、切断中において、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における連結片Ｗｘ５３１ｂの切断抵抗を変化させることができ、切断工具（図示せず）を回転させ易くできる。
【５４５３】
上記各実施形態では、第１入賞口６４に入球した球が可動の電動役物６４０ａ又は羽部材９４５により第２入賞口６４０側に案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１入賞口６４に入球した球の流下経路に、球の流下のランダム性を上昇させるための釘が配設し、釘との衝突により確率で球が第２入賞口６４０側に案内されるようにしても良い。
【５４５４】
上記各実施形態では、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の動作は、普通図柄の抽選により決定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、パチンコ機１０の電源投入から一定パターンで動作するように制御されるものでも良い。この場合、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５に対する注目力を向上させることができる。
【５４５５】
また、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が一定動作する場合において、スルーゲート７６５や検出装置ＳＥ４，ＳＥ５を依然として配置するようにしても良い。例えば、球の通過が検出されることにより、第３図柄表示装置８１や音響装置やＬＥＤ等により、球が通過したことを遊技者に報知するように制御しても良い。この場合、球が電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の近くを流下するタイミングであることを遊技者が把握し易くすることができる。
【５４５６】
上記各実施形態では、普通図柄の抽選を保留可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、普通図柄の抽選が保留されず、普通図柄の変動中に普通入賞口６６等で球の通過が検出されたとしても、普通図柄の抽選がされないように構成しても良い。
【５４５７】
上記各実施形態では、球の流下経路の分岐位置にシーソー部材７６２又は振分け部９８３が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、分岐位置に釘を配置しても良いし、分岐位置に樹脂材料から形成される突設部を配置しても良い。これらと球とが衝突することで、球の流下経路を分岐させることができる。この場合、球が交互に流下する場合だけでなく、片側に連続で流下する場合（タイミング）を生じさせることができる。
【５４５８】
上記各実施形態では、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の動作時間を、０．５秒～３秒程度の短い時間で設定したが、必ずしもこれに限れるものではない。例えば、通常状態における普通図柄の抽選の内の約１０％の確率で、３秒よりも長い時間（例えば、５秒間）において、電動役物６４０ａが進入状態で維持され、又は、羽部材９４５が開放状態で維持されるような長開放作動パターンで動作されるよう設定しても良い。
【５４５９】
長開放作動パターンで動作されている場合、第１入賞口６４に入球した球を電動役物６４０ａ又は羽部材９４５により第２入賞口６４０側に案内し易くすることができる。そのため、長開放作動パターンで動作している時に発射した球（１分に１００球が上限という発射間隔から考えて限られた球数の球）の内、第１入賞口６４に入球した球が、第２入賞口６４０側へは案内されないという事態を回避することができる。
【５４６０】
長開放作動パターンで電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が動作している場合には、電

動役物６４０ａ又は羽部材９４５にめがけて球を発射する方が、特別図柄２の抽選を獲得し易いので遊技者にとって有利である。そのため、長開放作動パターンで電動役物６４０ａ又は羽部材９４５が動作開始する前に、第３図柄表示装置８１や、音響装置や、ＬＥＤ等の手段により、遊技者に電動役物６４０ａ又は羽部材９４５めがけて球を発射させるように、予め報知するように制御しても良い。

【５４６１】

報知は、電動役物６４０ａ又は羽部材９４５の配置次第で変更されるものであるが、第４１実施形態では、右打ちを示唆するよう報知する方が、球が電動役物６４０に到達し易いので望ましい。

【５４６２】

一方、第４２実施形態では、左打ち又は右打ちのどちらで球を発射しても羽部材９４５に到達し易さに差は無いが、それまでの発射状態を継続する意味で、左打ちを示唆するように報知する方が望ましい。なお、通常状態から右打ち遊技を行う遊技者向けに、発射を継続させるような内容で報知しても良い。

【５４６３】

上記第４１実施形態では、センサＳＥで通過が検出されることにより特別図柄１の抽選を獲得可能とされ、第２入賞口６４０を球が通過して下流側のスイッチに球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側のセンサＳＥで通過が検出される場合および第２入賞口６４０の下流側のスイッチで球が検出される場合に特別図柄１の抽選を獲得可能とし、右側のセンサＳＥで通過が検出される場合に特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良い。

【５４６４】

この場合、シーソー部材７６２により球が右側に流された場合に、電動役物６４０ａの退避状態において球が第１送球経路ＫＲ１を通過した方が遊技者の利益が大きくなるという遊技性を構成することができる。

【５４６５】

上記第４１実施形態では、シーソー部材７６２の回転動作（左右傾倒動作）が０．５秒よりも短い時間で完了する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転軸部のクリアランスを小さくする等して、動作抵抗を増加させ、シーソー部材７６２の回転動作にかかる時間を１．０秒以上に設定しても良い。この場合、第１入賞口６４に球が連球で入球したとしても、普通入賞口（スルーゲート）７６５で球が検出されたことによる変動表示が終了してから、次の球がシーソー部材７６２により左側に流されるという遊技性を構成することができる。

【５４６６】

上記第４１実施形態では、案内部７４２が上側突出部７４１の内部に形成される流路の左右中央位置に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、案内部７４２が左右に並列されるよう構成しても良い。この場合、互いの突出先端面は、互いの対向する面に近づくほど、基部側に向かって傾斜して形成されるようにすることで、２つの案内部７４２と当接して案内（背面側に折り返し）される球が、左右方向に位置ずれすることを効果的に抑制できる。

【５４６７】

上記第４１実施形態では、普通入賞口（スルーゲート）７６５と屈曲部材７４０との間が樹脂製の経路でつながれる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、釘で球を案内する経路を構成しても良い。この場合、球の流下速度をばらつかせることができる。

【５４６８】

上記第４１実施形態では、第１傾斜溝７５５及び第２傾斜溝７５７が平行な直線形状溝として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１傾斜溝７５５及び第２傾斜溝７５７が、非平行でも良い。また、湾曲経路で形成されても良い。湾曲の場合は、金属レールのように球の下側の案内面が湾曲する態様でも良いし

、前後に蛇行する態様で湾曲するものでも良い。
【５４６９】
上記第４１実施形態では、移動板部材６４１が進入状態の時に左側案内部６４５が覆設板部７１１の正面側に配置され、その上面を球が転動可能となる場合を説明した。この場合において、覆設板部７１１の正面側に球の転動経路と交差する方向に延びる突条が突設されても良い。これにより、左側案内部６４５の上面を転動する球を突条に衝突させることによる球の減速を図ることができる。
【５４７０】
上記第４１実施形態では、右側案内部６４３により右側に流された球は漏れなく第２球送球部７３６に受け入れられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右側案内部６４３が第２球送球部７３６の上側位置まで延長して形成されており、第２球送球部７３６の右隣に一般入賞口６３が配設されるようにしても良い。
【５４７１】
この場合、第２球送球部７３６の鉛直上方に球が配置されているタイミングで移動板部材６４１が退避状態に変化すれば球は第２球送球部７３６に受け入れられるが、第２球送球部７３６の鉛直上方に球が配置されているタイミングで移動板部材６４１が依然として進入状態で維持される場合には、球は第２球送球部７３６を右側に通過し、一般入賞口６３に受け入れられる。
【５４７２】
即ち、右側案内部６４３により球が右側に流された時点では、球が第２球送球部７３６に案内されるのか、一般入賞口６３に案内されるのか判別できないので、球に対する注目力を向上させることができる。
【５４７３】
上記第４１実施形態では、大当たり種別に対応した電動役物６４０ａの作動パターンが一つで制御される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり種別に対応して複数の作動パターンが予め設定されており、普通入賞口（スルーゲート）７６５での球通過検出時にいずれの作動パターンで制御されるかが確率で選択され、選択された作動パターンで電動役物６４０ａの動作が実行されるようにしても良い。
【５４７４】
上記第４１実施形態では、高確率状態における電動役物６４０ａの作動パターンが第１の作動パターンか第２の作動パターンで設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、高確率状態における電動役物６４０ａの作動パターンが第４の作動パターンとなる場合を含むようにしても良い。この場合、高確率状態なのか、低確率状態なのかの判別をし難くすることができる。
【５４７５】
上記第４１実施形態では、第１入賞口６４に入球した球がシーソー部材７６２を経由して下流側に流れる場合を説明したが必ずしもこれに限られるものではない。例えば、シーソー部材７６２及び左側流路の形成を省略するようにしても良い。即ち、第１入賞口６４及び右側経路のみから流路が構成去れるようにしても良い。
【５４７６】
この場合、連球で入球する場合を排除し難くなるが、例えば、センターフレーム８６から第１入賞口６４までの流下経路上に、前後方向の回転軸で一定速度で回転する回転体であって外周円の所定位置で球を収容可能な凹設部が配設される回転体を配設して、凹設部に収容された球が回転体の回転により第１入賞口６４の上方に到達した場合にのみ第１入賞口６４に球が受け入れられるように構成することで、第１入賞口６４への連球での入球を防止することができる。
【５４７７】
即ち、任意のタイミングでの第１入賞口６４への入球を回転体によって防止することができるので、第１入賞口６４への入球間隔を回転体の回転速度で規定することができる。
【５４７８】

上記第４１実施形態では、第１入賞口６４に入球した球は、右側案内部６４３に乗り、左側案内部６４５とは反対側に流下する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右側案内部６４３の傾斜が左側案内部６４５側に下降傾斜する形状とされ、第１入賞口６４に入球した球が右側案内部６４３から左側案内部６４５側に流れ、第１球送球部７３４に案内されるように構成しても良い。

【５４７９】

この場合、十分長く移動板部材６４１が進入状態で維持された場合に、第１送球経路ＫＲ１に配置されていた球を第１球送球部７３４に案内することができ、特別図柄２の抽選を獲得することができる。

【５４８０】

一方で、移動板部材６４１の進入状態が短い場合には第１球送球部７３４と屈曲部材７４０との間に球が落下することになるが、この位置に、球を受け入れることで遊技者に所定の利益を付与する受入口を配置しても良い。

【５４８１】

その受入口に球が入球した場合における利益は、賞球の払い出しでも良いし、特別図柄１又は特別図柄２の抽選でも良いし、普通図柄の抽選でも良いし、転落抽選（高確率状態から低確率状態へ遊技状態を変化させる抽選）でも良いし、その他の利益でも良い。いずれにせよ、移動板部材６４１の上面を転動する球に対する注目力を向上することができる。

【５４８２】

なお、右側案内部６４３の右端からより右側に上昇傾斜するように板を延長して、屈曲部材７４０の右側において落下した球を受け止め可能に構成しても良い。この場合において、屈曲部材７４０の右側から移動板部材６４１の上面を転動する球が第１送球経路ＫＲ１に到達するように構成される場合、球が第１送球経路ＫＲ１に配置されている状態で移動板部材６４１が退避状態となるように動作することで、球が第１送球経路ＫＲ１で落下してセンサＳＥに検出され、特別図柄１の抽選を獲得可能となる。

【５４８３】

上記第４１実施形態では、遊技領域の左側に普通入賞口（スルーゲート）６６が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側に配置される普通入賞口（スルーゲート）６６の配設を省略しても良い。この場合、左打ちで普通図柄の抽選を獲得するのは普通入賞口（スルーゲート）７６５に限定され、右打ちで普通図柄の抽選を獲得するのは普通入賞口（スルーゲート）６７，７６５とされる。

【５４８４】

即ち、左打ちで球を発射させることで、電動役物６４０ａの動作を普通入賞口（スルーゲート）７６５での普通図柄の抽選による動作に限定することができるので、第１の作動パターン又は第２の作動パターンで電動役物６４０ａが動作する場合に、右側案内部６４３に案内されずにセンサＳＥに検出される事態の発生を回避し易くすることができる。

【５４８５】

一方で、右打ちで球を発射させた方が、普通図柄の抽選は獲得し易いので、遊技効率を上げやすい。即ち、遊技者は、遊技効率は低下するがセンサＳＥに球が検出される事態の発生を回避し易いように遊技を実行するか、遊技効率は上がるがセンサＳＥに球が検出される可能性が若干上がる遊技を実行するか、好みで選択することができる。

【５４８６】

上記第４１実施形態では、移動板部材６４１が屈曲部材７４０の外方まで張り出す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左側案内部６４５の形成が省略されても良い。この場合において、第２球送球部７３６を第２入賞口６４０として機能させても良い。

【５４８７】

上記第４１実施形態では、右側案内部６４３へ球が振分け部材７６０により形成される経路から案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、

ベース板６０の正面側から右側案内部６４３に案内されるものでも良い。この場合、右側案内部６４３の左端部から同一傾斜で左側に板部が延設され、その板部の上面を転動する球が屈曲部材７４０の内部に進入できるように屈曲部材７４０の左側面に開口を形成すればよい。

【５４８８】

上記第４１実施形態では、移動板部材６４１の上面を転動し左右異なる方向に転動した球の経路が下流側で合流する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１傾斜溝７５５の下端側において球の通過を検出する検出装置が配設され、その検出装置に球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良いし、第２送球部７３６の後方に球の通過を検出する検出装置が配設され、その検出装置に球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能にしても良い。

【５４８９】

即ち、第２傾斜溝７５７の形成を省略する等して、左側案内部６４５の上面を転動した球を検出する位置と、右側案内部６４３の上面を転動した球を検出する位置とを別々に設けるようにしても良い。

【５４９０】

上記第４２実施形態では、羽部材９４５の上面を前後異なる位置で転動した球の経路が下流側で合流する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第３分岐通路ＢＫ３の後方に球通過孔が形成され、その下流側に検出装置が配設され、その検出装置により球の通過が検出されることで、検出装置ＳＥ６と同様に、特別図柄２の抽選を獲得可能としても良い。

【５４９１】

即ち、送球孔９４１ｋ及び送球開口９８２ｋの形成を省略する等して、羽状本体９４５ｍの上面を転動した球を検出する位置と、板状部９４５ｅの上面を転動した球を検出する位置とを別々に設けるようにしても良い。

【５４９２】

上記第４２実施形態では、板状部９４５ｅが羽部材９４５の回転先端側で羽状本体９４５ｍに連結固定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設部９４５ｄが羽部材９４５の回転基端側に形成されても良いし、回転径方向の中間位置で形成されても良い。特に、延設部９４５ｄの回転基端側に形成される場合には、第４貫通孔９４１ｊや回転許容開口９８２ｍの形成幅を小さくすることができ、孔形成に伴い生じる背面ベース９４１や膨出部９８２の強度低下を最小限に抑えることができる。

【５４９３】

なお、板状部９４５ｅに球が乗る場合、延設部９４５ｄを起点として板状部９４５ｅは撓み変形される可能性があるが、延設部９４５ｄが羽部材９４５の回転先端側に形成されている場合には、板状部９４５ｅが撓み変形から弾性回復する際に生じる弾性力が、球を第３分岐通路ＢＫ３側へ入れ込む方向で生じる。これにより、板状部９４５ｅの上面に到達した球を安定して第３分岐通路ＢＫ３側へ案内することができる。

【５４９４】

上記第４２実施形態では、一対の羽部材９４５の両方に延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、片方の羽部材９４５にのみ延設部９４５ｄ及び板状部９４５ｅが形成されても良い。

【５４９５】

上記第４２実施形態では、羽部材９４５の開放状態において、羽状本体９４５ｍの転動面と、板状部９４５ｅの転動面とが、同一の傾斜面で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部９４５ｅの傾斜角度の方が、羽状本体９４５ｍの傾斜角度に比較して、浅い（水平との角度が小さい）ように形成しても良い。

【５４９６】

この場合、羽状本体９４５ｍを転動する球の速度の方が、板状部９４５ｅを転動する球の速度よりも速くなり易くすることができる。そのため、前後に配置された球が正面視で

重なった状態が維持される事態を回避し易くすることができる。
【５４９７】
また、羽状本体９４５ｍに１個の球が乗っている場合に比較して、板状部９４５ｅに１個の球が乗っている場合の方が、球から羽部材９４５にかけられる動作抵抗が大きくなるようにすることができ、羽部材９４５の動作速度を低下させることができる。
【５４９８】
また、羽部材９４５が前後方向のスライド移動で出没するよう構成される場合において、同様に、羽状本体９４５ｍの傾斜角度と板状部９４５ｅの傾斜角度とを異ならせても良い。この場合、板状部９４５ｅ及び羽状本体９４５ｍに同時に球が乗った場合であっても、羽部材９４５の動作長さによっては、板状部９４５ｅ又は羽状本体９４５ｍの一方で転動する球が転動板部９４１ｌに到達する一方で、板状部９４５ｅ又は羽状本体９４５ｍの他方で転動する球が転動板部９４１ｌに到達する前に落下する状態を生じさせることができる。
【５４９９】
上記第４２実施形態では、羽部材９４５の開放状態における羽状本体９４５ｍの上面近傍から延設部９４５ｄが延設されることで羽状本体９４５ｍの上面と板状部９４５ｅの上面とが前後で重なって見える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状部９４５ｅの上面と、羽状本体９４５ｍの上面とを、上下でずらすように形成しても良い。この場合、板状部９４５ｅに球が乗っている状態で羽状本体９４５ｍに球が乗ったとしても、その上下位置にずれがあるので、前側の球で後側の球が完全に隠される事態を回避し易くすることができる。
【５５００】
上記第４２実施形態では、板状部９４５ｅが左右対称位置に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、羽状本体９４５ｍを左右対称形状としながら、左側の板状部９４５ｅよりも右側の板状部９４５ｅの方が上側に配置される（左右非対称で配置される）ように構成しても良い。この場合、正面から見易い羽状本体９４５ｍの見映えは左右対称を維持しながら、その背面側においてに配設される板状部９４５ｅの上面を転動する球の流下経路を左右非対称とすることができる。これにより、対称線上に球が到達した場合に左右方向の負荷がバランスして球詰まりが生じる事態を回避し易くすることができる。
【５５０１】
上記第４２実施形態では、磁性体９８８ｂ，９８８ｃを利用して振分け部９８３の動作抵抗を設計し、球の流下間隔の最短側を規定する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、センターフレーム８６から第１入賞口６４までの流下経路上に、前後方向の回転軸で一定速度で回転する回転体であって外周円の所定位置で球を収容可能な凹設部が配設される回転体を配設しても良い。この場合、凹設部に収容された球が回転体の回転により第１入賞口６４の上方に到達した場合にのみ第１入賞口６４に球が受け入れられるように構成することで、第１入賞口６４への連球での入球を防止することができる。
【５５０２】
即ち、任意のタイミングでの第１入賞口６４への入球を回転体によって防止することができるので、第１入賞口６４への入球間隔を回転体の回転速度で規定することができる。
【５５０３】
上記第４４実施形態では、上流側案内部４６４５の傾斜面４６４５ａと右側案内部６４３の傾斜面６４３ａとが、同一傾斜である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【５５０４】
例えば、傾斜面４６４５ａの傾斜角度が、傾斜面６４３ａの傾斜角度よりも大きくしても良い。この場合、傾斜面４６４５ａ上を転動する球の右側への加速を大きくすることができるので、第１送球経路ＫＲ１に球が配置されている状態で電動役物４６４０ａが退避

状態となったとしても、勢いで第２球送球部７３６側に流れるという状態を構成することができる。即ち、右方向の加速が大きくなることで、球が回収孔７５２に流下する事態を回避し易くすることができる。この意味で、第１入賞口６４に入球した球に比較して、傾斜面４６４５ａを転動して流下する球の方が、第２球送球部７３６に入球し易くすることができる。

【５５０５】

また、例えば、傾斜面４６４５ａの傾斜角度が、傾斜面６４３ａの傾斜角度よりも小さくしても良い。この場合、傾斜面６４３ａ上に球が滞在する時間を長くすることができるので、球が第１送球経路ＫＲ１に配置されている時に電動役物４６４０ａが退避状態に変化し、球が回収孔７５２に流下する事態が生じ易くなる。

【５５０６】

上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００の動作を複数態様で制御することで、入賞ユニットＢ４００の内部を通る球が、ほぼ第２入賞口Ｂ６４０に案内される状態と、ほぼ第３入賞口Ｂ６４ｂに案内される状態とを切り替え可能とされることを利用して、大当たり遊技後の遊技状態として、小当たり遊技が頻繁に生じる（ほぼ毎回の特別図柄の変動で生じる）よう設定され、小当たり遊技において開放された特定入賞口Ｂ６５ａに球を入賞させることで大当たり遊技に移行される前から多量の賞球の払い出しを受けることができる特殊確変状態と、小当たり遊技は頻繁には生じない確変状態とを構成可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、小当たり遊技が頻繁に生じるような設定とはされず（必ずしも特定入賞口Ｂ６５ａは必要とはされず）、入賞ユニットＢ４００を利用して、特別図柄１の抽選を受けるための入賞口（第３入賞口Ｂ６４ｂに相当）側に球を案内し易い状態と、特別図柄２の抽選を受けるための入賞口（第２入賞口Ｂ６４０に相当）側に球を案内し易い状態とで切り替え可能とされても良い。

【５５０７】

この場合、大当たり遊技終了後に移行される遊技状態において、遊技としては入賞ユニットＢ４００へ向けて球を発射するという共通の遊技態様としながら、大当たりを獲得した場合に期待される大当たりの大当たり種別の振分けを変えられるパチンコ機を構成することができる。

【５５０８】

上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００が、第２入賞口Ｂ６４０にも第３入賞口Ｂ６４ｂにも球を案内し難い第１の作動パターンか、第３入賞口Ｂ６４ｂに球を案内し易い第２の作動パターンか、第２入賞口Ｂ６４０に球を案内し易い第３の作動パターンか、で電動役物Ｂ６４０ａが動作可能に構成させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２入賞口Ｂ６４０及び第３入賞口Ｂ６４ｂの双方に球を案内し易い作動パターンで電動役物Ｂ６４０ａが動作可能としても良い。

【５５０９】

そのための実現手段としては、例えば、第３の作動パターンにおける基準の作動パターンＢＲＰ３の動作時間Ｂｔ３ｂを１．０秒として、残りの１．０秒はスライド部材Ｂ４５０が非励磁状態で維持されるようにすれば、待機時間Ｂｔ３ａの間に先端部Ｂ４５１に拾われた球が第２入賞口Ｂ６４０に案内される場合と、第３入賞口Ｂ６４ｂに案内される場合とを生じさせることができる。

【５５１０】

上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、前進位置に配置されたスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１に球が乗っている状態でソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させた場合に、先端部Ｂ４５１に乗っている球が先端部Ｂ４５１の上面に押し込まれる形で球通過開口Ｂ４１４を通過可能に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態では、先端部Ｂ４５１の上面と球通過開口Ｂ４１４の上縁との間の寸法が球の直径未満の長さに設計するようにしても良い。

【５５１１】

即ち、先端部Ｂ４５１の上面は、前方へ向かう程に上昇傾斜する傾斜面として形成されているところ、スライド部材Ｂ４５０の変位方向は前後方向なので、先端部Ｂ４５１の上面と球通過開口Ｂ４１４の上縁との間の寸法は、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合よりも、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される場合の方が短くなる。

【５５１２】

これを利用して、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合には球が球通過開口Ｂ４１４を通過可能とされる一方で、スライド部材Ｂ４５０が前進位置から後退位置に変位する際に先端部Ｂ４５１に乗っている球については、球通過開口Ｂ４１４の上縁部に球が引っかかる寸法関係で設計することで、スライド部材Ｂ４５０が前進位置から後退位置に変位する際に先端部Ｂ４５１に乗っている球が球通過開口Ｂ４１４を通過することを防止することができる。これにより、球通過開口Ｂ４１４への球の入球確率を下げることができる。

【５５１３】

上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３が球の左右方向の通過を遮る程度の高さで形成されており、左案内板部Ｂ４５２又は右案内板部Ｂ４５３から中央流路Ｂ４３１側への球の導入は、左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の後側に配置される左開口部ＢＬＴ又は右開口部ＢＲＴを通る態様に限定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上下高さを低く設計して、球が左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を通過可能にしても良い。

【５５１４】

また、例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置が、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合と後退位置に配置される場合とで異なることを利用して、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の高さを、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される場合（上面の上下位置が低い場合）には、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを遮るのに十分とする（例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置よりも左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置の方が上側となるように設計する）一方で、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置される場合（上面の上下寸法が高い場合）には、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを許容できる（球が通過可能とする、例えば、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置よりも左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置の方が下側となるように設計する）ようにしても良い。

【５５１５】

この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を転動して中央流路Ｂ４３１側へ流下する球の流下経路のバリエーションとして、左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の後側に配置される左開口部ＢＬＴ又は右開口部ＢＲＴを通る流下経路の他に、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置された状態において左壁部Ｂ４３２又は右壁部Ｂ４３３の上側を通る流下経路を構成することができる。

【５５１６】

また、スライド部材Ｂ４５０の上面の上下位置と、左壁部Ｂ４３２及び右壁部Ｂ４３３の上端の上下位置との関係を、左右で異ならせるようにしても良い。例えば、左壁部Ｂ４３２の上側を球が通過することを許容する状態で右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することは制限するように構成したり、右壁部Ｂ４３３の上側を球が通過することを許容する状態で右壁部４３２の上側を球が通過することは制限するように構成したりしても良い。

【５５１７】

この場合、スライド部材Ｂ４５０に案内される球の流下経路を、球が左側を流下するか、球が右側を流下するかで大きく異ならせることができる。

【５５１８】

上記第４５実施形態では、球を拾うための構造としてスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１と傾倒部材Ｂ４７０の板状部Ｂ４７１とを備え、先端部Ｂ４５１が正面視で板状部

Ｂ４７１の左右外側かつ上側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０の二股の構造をやめて、先端部Ｂ４５１に対応する部分が板状部Ｂ４７１の真上に配置されるようにしても良い。

【５５１９】

この場合、ベース板Ｂ６０とガラスユニットＢ１６との間の領域における先端部Ｂ４５１と板状部Ｂ４７１との間の位置に、球の通過を規制する固定の規制板を設けることで、先端部Ｂ４５１に拾われなかった球が板状部Ｂ４７１に拾われる入賞態様を避けることができる。

【５５２０】

これにより、入賞ユニットＢ４００の左右方向寸法を低減することができる。また、先端部Ｂ４５１を１つとすることで、入賞ユニットＢ４００内の経路において球の合流が生じることを無くせるので、入賞ユニットＢ４００の設計自由度を向上することができる（設計を簡素化することができる）。

【５５２１】

上記第４５実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が水平方向に延びるように形成されており、中央流路Ｂ４３１の上側に配置される天井構成部Ｂ４４４の傾斜面部Ｂ４４４ａが正面側へ向かうほど上昇傾斜する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【５５２２】

例えば、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が、後方へ向かう程に下降傾斜する面として構成しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を流下する球の流下経路の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）が大きくなりすぎて、流下中の球がバタつくことを避けることができる。

【５５２３】

例えば、スライド部材Ｂ４５０の上側に配置される天井面Ｂ４４７が、後方へ向かう程に上昇傾斜する面として構成しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の上面を流下する球の流下経路の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）を大きく確保することができるので、スライド部材Ｂ４５０が後方へ変位する際に、スライド部材Ｂ４５０の上面に乗っていた球が後方へ押し込まれてスライド部材Ｂ４５０の後方側位置における球の密度が高くなったとしても、それによってスライド部材Ｂ４５０の上側で球詰まりが生じる可能性を低くすることができる。

【５５２４】

例えば、中央流路Ｂ４３１の上側に配置される天井構成部Ｂ４４４が、正面側へ向かうほど下降傾斜するように構成しても良いし、水平方向に延びるように構成しても良い。この場合、中央流路Ｂ４３１の下流側における球の流下領域（球の通過可能な面積）が大きくなりすぎて、流下中の球がバタつくことを避けることができる。

【５５２５】

上記第４５実施形態では、スライド部材Ｂ４５０に拾われた球が通過する球通過開口Ｂ４１４や、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が通過する中央開口部Ｂ４１３の左右幅が、球の直径よりも若干長い程度とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４や中央開口部Ｂ４１３の左右幅を球の直径の複数倍（例えば、２倍）よりも若干長い程度の寸法で設計し、合わせて、スライド部材Ｂ４５０の左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３、中央流路Ｂ４３１及び傾倒部材Ｂ４７０の左右幅も同様の左右幅で設計しても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０や傾倒部材Ｂ４７０で一度に拾うことができる球の個数を増加させることができるので、入賞効率を上げることができる。

【５５２６】

上記第４５実施形態では、球通過開口Ｂ４１４の左右幅と、中央開口部Ｂ４１３の左右幅とを合わせている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４の左右幅を球の直径よりも若干長い程度で設計し、中央開口部Ｂ４１

３の左右幅を球の直径の複数倍よりも若干長い程度の寸法で設計するようにしても良く、合わせて中央流路Ｂ４３１の左右幅および傾倒部材Ｂ４７０の左右幅を中央開口部Ｂ４１３の左右幅と同様の思想で設計しても良い。

【５５２７】

この場合、中央流路Ｂ４３１から下流側の領域において球が左右に並んで流下できるようになるので、左右一対の球通過開口Ｂ４１４を同時に球が通過した場合であっても、中央流路Ｂ４３１で球が合流してしまい流下抵抗が増加するという事態を避け易くすることができる。

【５５２８】

また、例えば、球通過開口Ｂ４１４の左右幅を球の直径の複数倍よりも若干長い程度の寸法で設計し、中央開口部Ｂ４１３の左右幅を球の直径よりも若干長い程度で設計するようにしても良く、合わせてスライド部材Ｂ４５０の先端部Ｂ４５１、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の左右幅を球通過開口Ｂ４１４の左右幅と同様の思想で設計しても良い。

【５５２９】

この場合、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが連動するという条件下において、入賞ユニットＢ４００の内部経路の最上流側（入口側）における第１入球効率（スライド部材Ｂ４５０に球が拾われる効率）を向上しながら、その第１入球効率よりも入賞ユニットＢ４００の内部経路の最下流側（出口側）における第２入球効率（傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われる効率）を低減することができる。

【５５３０】

これにより、遊技者に対して、入賞ユニットＢ４００の入口に入る見かけ上の入球効率（第１入球効率）が高いように見せて、実際に傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われる確率（第２入球効率）は低減されるよう構成することができる。これにより、遊技者の入賞ユニットＢ４００への入球効率についての印象を良くすることができ、遊技者が遊技を継続するように仕向けることができる。

【５５３１】

上記第４５実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度と、右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度とが同じとなる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度を左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度よりも大きくしても良いし、左案内板部Ｂ４５２の傾斜角度を右案内板部Ｂ４５３の傾斜角度よりも大きくしても良い。

【５５３２】

特に、後者の場合、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の前後長さの違いによる球の流下時間の差を、球の流下速度で補わせることができるので、左右の先端部Ｂ４５１が同時に球を受けた場合に、それらの球が中央流路Ｂ４３１に到達するタイミングを合わせ易くすることができる。

【５５３３】

また、前者の場合は逆に、左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の前後長さの違いによる球の流下時間の差を、球の流下速度が助長することになるので、左右の先端部Ｂ４５１が同時に球を受けた場合に、それらの球が中央流路Ｂ４３１に到達するタイミングを異ならせ易くすることができる。

【５５３４】

上記第４５実施形態では、スライド部材Ｂ４５０が、遊技領域から球を受ける先端部Ｂ４５１のみでなく、その後方流路においても球を転動させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、先端部Ｂ４５１のみで球と接触し、先端部Ｂ４５１の下流側へ流れた球は、左案内板部Ｂ４５２や右案内板部Ｂ４５３等を上から覆う固定板部（変位しない部分）の上面を転動するようにしても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の変位により球が加速されたり減速されたりする範囲を狭くすることができる。

【５５３５】

また、この場合、先端部Ｂ４５１の構成および動作態様を変更し、前方に傾倒する動作態様（傾倒部材Ｂ４７０で例示される動作態様）としても良い。即ち、非励磁状態において、傾倒部材Ｂ４７０で説明した開放位置とされ、励磁状態において、傾倒部材Ｂ４７０で説明した閉鎖位置とされるように構成しても良い。

【５５３６】

上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、先端部Ｂ４５１に拾われた球が傾倒部材Ｂ４７０に到達するまでの経路において固定の底面部Ｂ４３１ａを転動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、底面部Ｂ４３１ａがスライド部材Ｂ４５０の動作と連動して動作するように構成しても良い。この場合、入賞ユニットＢ４００の内部流路において球詰まりが生じていたとしても、内部流路の全体で動作が生じることから、球をほぐすことができ、球詰まりの解消を図ることができる。なお、底面部Ｂ４３１ａの動作としては、スライド部材Ｂ４５０の逆方向に動作するものでも良いし、スライド部材Ｂ４５０と一体的に構成する等して同方向に動作するものでも良い。

【５５３７】

上記第４５実施形態では、固定の底面部Ｂ４３１ａが球を直線的に転動させる傾斜面として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限定されるものではない。例えば、底面部Ｂ４３１ａが湾曲形成されることで球の流下方向が湾曲するようにして球の流下速度の変化が顕著になるように構成しても良いし、流下中に球が落下する範囲を有するよう構成し球が跳ねることで流下態様がばらつくようにしても良いし、球が蛇行して流下するよう流路を繰り返し屈曲させることで球が通過するまでの時間を長くするようにしても良い。

【５５３８】

上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、球通過開口Ｂ４１４が単なる開口部である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球通過開口Ｂ４１４に球通過を検出する検出センサが配設され、球通過開口Ｂ４１４への入球を検出可能に構成しても良い。この場合、球通過開口Ｂ４１４への入球を検出した場合に、第３図柄表示装置Ｂ８１等で遊技者に対して報知することで、遊技者に対して球通過開口Ｂ４１４を球が通過したことに気付かせることができ、入賞ユニットＢ４００の注目力を向上させることができる。

【５５３９】

上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００において、先端部Ｂ４５１に拾われた球が必ず傾倒部材Ｂ４７０側まで案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、内部流路に排出用開口が形成され、一部の球は排出用開口を通り排出されることで、先端部Ｂ４５１に拾われた球の一部しか傾倒部材Ｂ４７０まで案内されることは無いように構成しても良い。この場合において、スライド部材Ｂ４５０は排出用開口を開閉させる部材としても機能するように構成しても良い。

【５５４０】

上記第４５実施形態では、スライド部材Ｂ４５０の左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３が、前後方向で同一傾斜の板状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、途中で傾斜が変わるようにしても良いし、上面が階段状に形成されるようにしても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０上における球の配置次第で、スライド部材Ｂ４５０が後方に変位した際に球が受ける負荷の大きさを変化させることができる（例えば、階段状に形成される場合に、段の近くに球が配置されており段の側面から負荷を受けるか、段から離れて球が配置されており段の上面と滑るようにして負荷を受けるかで異ならせることができる）。

【５５４１】

例えば、上流側（前側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度に比較して、下流側（後側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度を小さく形成する場合、上流側においてスライド部

材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷を、下流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷よりも大きくすることができる。これにより、スライド部材Ｂ４５０上の上流側および下流側に配置される複数の球の間隔を、スライド部材Ｂ４５０の変位により狭める（縮める、密にする）ことができる。

【５５４２】

また、例えば、上流側（前側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度に比較して、下流側（後側）における左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜角度を大きく形成する場合、上流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷を、下流側においてスライド部材Ｂ４５０の後方への変位により球が受ける負荷よりも小さくすることができる。これにより、スライド部材Ｂ４５０上の上流側および下流側に配置される複数の球の間隔を、スライド部材Ｂ４５０の変位により広げる（拡大する、疎にする）ことができる。

【５５４３】

また、例えば、流下経路に沿って左案内板部Ｂ４５２及び右案内板部Ｂ４５３の水平面に対する傾斜の大小が複数回変化するように構成しても良い。この場合、球の配置によって、スライド部材Ｂ４５０の変位により球同士の間隔が縮まる場合と、球同士の間隔が広がる場合との両方を生じさせることができる。

【５５４４】

また、例えば、左案内板部Ｂ４５２における上面の傾斜角度と、右案内板部４５２における上面の傾斜角度とを異ならせるようにしても良い。即ち、左案内板部Ｂ４５２の上面は前後方向で水平面に対する傾斜が同一の板状に形成される一方で、右案内板部Ｂ４５３の上面は水平面に対する傾斜が途中で変化するように形成されても良い。この場合、スライド部材Ｂ４５０の変位により球が受ける負荷の態様を、球が左案内板部Ｂ４５２上に配置されているか、球が右案内板部４５２上に配置されているかで異ならせることができる。

【５５４５】

上記第４５実施形態では、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが、伝達部材Ｂ４８０が間に介在することにより連動するものであり、スライド部材Ｂ４５０又は傾倒部材Ｂ４７０の一方で球噛み等の不具合が生じると、他方の動作にも影響を与える場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【５５４６】

例えば、伝達部材Ｂ４８０の第２部材Ｂ４８５の部分であってスライド部材Ｂ４５０と対向配置される回動先端部の前側と、スライド部材Ｂ４５０の中央固定部Ｂ４５４とが対向する位置（間の位置）に前後方向で伸縮可能なコイルスプリングを介在させるように構成する。常には、第２部材Ｂ４８５側にスライド部材Ｂ４５０がコイルスプリングの付勢力で押し付けられており第２部材Ｂ４８５とスライド部材Ｂ４５０とが連動するように構成する一方で、スライド部材Ｂ４５０の前端と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が挟み込まれた（球噛みした）場合には、スライド部材Ｂ４５０の前方への変位が妨害される分だけコイルスプリングが縮むことでカバーされるように構成することで、スライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置されていなくても第２部材Ｂ４８５を前方に傾倒させることができる。

【５５４７】

これにより、第１部材Ｂ４８１の動作が第２部材Ｂ４８５に妨害されることを回避することができるので、スライド部材Ｂ４５０側で生じた球噛みにより、傾倒部材Ｂ４７０の動作が途中で停止することを回避し易くすることができる。

【５５４８】

このように、伝達部材Ｂ４８０を利用して駆動力の伝達経路を複数設けるような場合であっても、一の伝達経路にコイルスプリング等の部材（緩衝材などでも良い）を介在させることで、一の伝達経路で生じた不具合が、他の伝達経路にまで伝わることを避けることができる。

【５５４９】
上記第４５実施形態では、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態から非励磁状態へ切替動作される場合に、下板部Ｂ４８２ｂに係止突設部Ｂ４８７が押し下げられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【５５５０】
例えば、係止突設部Ｂ４８７の形成を省略しても良い。電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態では、下板部Ｂ４８２ｂが第２部材Ｂ４８５の偏心突部Ｂ４８６と当接される一方で、上板部Ｂ４８２ａと偏心突部Ｂ４８６との間に隙間が確保されている。
【５５５１】
第２部材Ｂ４８５の自重による回転方向の負荷は、回転径方向外端部において第２部材Ｂ４８５に当接されるスライド部材Ｂ４５０と中段部材Ｂ４３０との間の静止摩擦を下回っており、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位することは防止される。即ち、下板部Ｂ４８２ｂと偏心突部Ｂ４８６との当接が解除されても、第２部材Ｂ４８５の姿勢は維持される。
【５５５２】
そのため、電動役物Ｂ６４０ａが励磁状態から非励磁状態へ切替動作される場合に、上板部Ｂ４８２ａに偏心突部Ｂ４８６が押し下げられるまでスライド部材Ｂ４５０が後退位置で維持され、傾倒部材Ｂ４７０のみが起き上がり動作する。即ち、ソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力は傾倒部材Ｂ４７０に集中して伝達される。この場合、スライド部材Ｂ４５０の動作開始タイミングと傾倒部材Ｂ４７０の動作開始タイミングとがずれることになる。
【５５５３】
即ち、動作開始から途中位置までは傾倒部材Ｂ４７０のみが動作し、途中位置からは傾倒部材Ｂ４７０及びスライド部材Ｂ４５０が動作する。第１部材Ｂ４８１が下降する過程において、上板部Ｂ４８２ａと偏心突部Ｂ４８６とが当接した後は、上板部Ｂ４８２ａに偏心突部Ｂ４８６が押し下げられる態様で第２部材Ｂ４８５が回転軸部Ｂ４８５ａを中心に前転方向に回転動作する。動作終了タイミングは、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とでほぼ同時となる。
【５５５４】
この場合、励磁状態から非励磁状態への切替動作において、スライド部材Ｂ４５０と前意匠部材Ｂ４２０との間に球が挟まり、スライド部材Ｂ４５０の変位が抑制され得る事態が生じたとしても、スライド部材Ｂ４５０の変位に先行して傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作が開始されているので、傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作まで抑制されることを防止することができる。
【５５５５】
これにより、スライド部材Ｂ４５０の変位が抑制されることと連動して、傾倒部材Ｂ４７０の起き上がり動作が遅れ、予期せぬタイミングで球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われる事態を回避し易くすることができる。
【５５５６】
なお、第２部材Ｂ４８５の自重による回転方向の負荷は、回転径方向外端部において第２部材Ｂ４８５に当接されるスライド部材Ｂ４５０と中段部材Ｂ４３０との間の静止摩擦を下回っており、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位することは防止される場合を例にしたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２部材Ｂ４８５の重心が傾倒先端側に寄るように設計されることで、第２部材Ｂ４８５が自重で前転方向に変位し得るようにしても良い。
【５５５７】
上記第４５実施形態では、スライド部材Ｂ４５０と傾倒部材Ｂ４７０とが単一のソレノイドＢＳＯＬ４１の駆動力により連動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、スライド部材Ｂ４５０を駆動する駆動装置と、傾倒部材Ｂ４７０を駆動する駆動装置とを別々に構成し、非連動で動作可能に構成しても良い。

【５５５８】
この場合において、例えば、スライド部材Ｂ４５０が後退位置に配置されてから約３秒経過（入賞ユニットＢ４００の内部に流入した球が通過しきるのに十分な時間が経過）してから傾倒部材Ｂ４７０が開放位置に変位されるようにし、その後でスライド部材Ｂ４５０が前進位置に配置される際には傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖位置に配置されるような作動パターンを追加しても良い。この場合、傾倒部材Ｂ４７０に球が拾われることを防止し易くすることができる。
【５５５９】
上記第４５実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０が閉鎖する際に球を挟んだ場合においても先端部Ｂ４５１で球を拾い難く構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、そもそも、傾倒部材Ｂ４７０に球が到達し得るタイミングにおいて傾倒部材Ｂ４７０の閉鎖動作が生じないようにソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させるように設定しても良い。この場合、傾倒部材Ｂ４７０の閉鎖をスムーズに実行することができる。
【５５６０】
また、傾倒部材Ｂ４７０に球が到達し得るタイミングにおいては、傾倒部材Ｂ４７０は開放動作のみが生じるようにソレノイドＢＳＯＬ４１を駆動させるように設定しても良い。この場合、球の重みが傾倒部材Ｂ４７０を開放させる方向に作用することから、傾倒部材Ｂ４７０の開放を補助することができると共に、傾倒部材Ｂ４７０から第１部材Ｂ４８１及び第２部材Ｂ４８５を介してスライド部材Ｂ４５０に負荷を伝達させることにより、スライド部材Ｂ４５０の後退位置へ向けた動作をスムーズに行わせることができる。
【５５６１】
上記第４５実施形態では、待機時間Ｂｔ１ａ～Ｂｔ３ａ及び動作時間Ｂｔ１ｂ～Ｂｔ３ｂから設定される作動パターンＢＲＰ１～ＢＲＰ３が繰り返し実行されることにより、入賞ユニットＢ４００を流下する球の流下経路が切り替えられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、基準の作動パターンとしては動作時間のみが設定され、待機時間の代わりに第２図柄の変動表示にかかる時間が設定されるようにしても良い。
【５５６２】
例えば、基準の作動パターンとして動作時間を３．９秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を０．１秒で設定する場合、その０．１秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第１の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。
【５５６３】
また、例えば、基準の作動パターンとして動作時間を０．２秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を１．８秒で設定する場合、その１．８秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第２の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。
【５５６４】
また、例えば、基準の作動パターンとして動作時間を２．０秒で設定し、第２図柄の変動表示にかかる時間を２．０秒で設定する場合、その２．０秒が非励磁状態で維持される時間となるので、結果的に第３の作動パターンで動作するのと同様の動作態様を実現できる。
【５５６５】
上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に釘ＢＫＧ１が配設され、釘ＢＫＧ１の状態次第で、入賞ユニットＢ４００の内部流路から下方へ流下した球の第３入賞口Ｂ６４ｂへの入球確率が変化される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。
【５５６６】
例えば、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に、第４９実施形態で説明した切替装置Ｂ５７７０が配設され、切替装置Ｂ５７７０の動作に対する球の入球タイミ

ング次第で、第３入賞口Ｂ６４ｂに入球されるか否かが決定されるものでも良い。この場合、釘ＢＫＧ１の状態に左右されずに第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球させることができる。

【５５６７】

また、例えば、入賞ユニットＢ４００と第３入賞口Ｂ６４ｂとの間に、２個（又はＮ個）に１個の割合で第３入賞口Ｂ６４ｂ側に球を導入する振分装置（例えば、シーソー機構）を配設しても良い。この場合、釘ＢＫＧ１の状態に左右されずに、振分装置により２個（又はＮ個）に１個は第３入賞口Ｂ６４ｂに入球させることができるので、遊技者は安心して遊技を行うことができる。

【５５６８】

上記第４５実施形態では、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７の上側を流下する球が、釘ＢＫＧ１によりスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に導かれるように構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への案内に、釘ＢＫＧ１に代えて、又は釘ＢＫＧ１と組み合わせて、樹脂材料による構造物を使用しても良い。この場合、樹脂材料による構造体が釘ＢＫＧ１よりも状態の変化が生じにくいので、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への球の案内を安定させることができる。

【５５６９】

また、例えば、釘ＢＫＧ１の配設個数を減らしたり、配設位置を変えたりすることにより、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７の上側を流下する球が全てスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を通過するのではなく、一部の球はスルーゲートＢ６６，Ｂ６７から逸れて流下するように構成しても良い。

【５５７０】

上記第４５実施形態では、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能であり、傾倒部材Ｂ４７０に拾われなかった球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することで特別図柄１の抽選を獲得可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【５５７１】

例えば、抽選を獲得可能な特別図柄の割り振りを逆転させる（傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄１の抽選を獲得可能であり、傾倒部材Ｂ４７０に拾われなかった球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することで特別図柄２の抽選を獲得可能とされる）ようにしても良い。この場合、大当たり終了後の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンを、大当たりＡ，ａの場合に第２の作動パターンとして、大当たりＢ，Ｃ，ｂ，ｃの場合に第３の作動パターンとすれば、第４５実施形態で説明した遊技性と同様の遊技性を保つことができる。更に、第４５実施形態で説明した場合と異なり、第３入賞口Ｂ６４ｂに球が入球し易い状態において小当たり遊技が発生し易く、特定入賞口Ｂ６５ａに球が入球し易いよう構成されることから、第３入賞口Ｂ６４ｂから零れた球が特定入賞口Ｂ６５ａに拾われる事態を生じさせ易くすることができる。

【５５７２】

また、例えば、傾倒部材Ｂ４７０に拾われた球が検出されることで特別図柄２の抽選を獲得可能な条件下で、第３入賞口Ｂ６４ｂに入球することでも特別図柄２の抽選を獲得可能としても良い。この場合、特定入賞口Ｂ６５ａを入賞ユニットＢ４００の左右外端よりも左右方向外側に張り出さない寸法および位置で配設するようにしても良い。

【５５７３】

電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下したほとんどの球が入賞ユニットＢ４００から排出され第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下する。一方で、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下したほとんどの球が傾倒部材Ｂ４７０に拾われることで、第３入賞口Ｂ６４ｂ側へは流れ出ない。そして、特定入賞口Ｂ６５ａは、入賞ユニットＢ４００から排出され第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下した球の内、第３入賞口Ｂ６４ｂから零れた球を受け入れるよう配設されることで、新たな遊技性を構成することができる。

【５５７４】
即ち、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動されるか、第３の作動パターンで駆動されるかに関わらず、特別図柄２の抽選を獲得可能とされる。そのため、小当たり遊技として特定入賞口Ｂ６５ａの開閉が頻繁に生じ得る。
【５５７５】
ここで、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動される場合には、先端部Ｂ４５１に拾われて入賞ユニットＢ４００の内部を流下した球のほとんどが第３入賞口Ｂ６４ｂ側へ流下するので、その内の何割かが第３入賞口Ｂ６４ｂから零れて特定入賞口Ｂ６５ａに入球することで、遊技者は多量の賞球の払い出しを受けることができる。
【５５７６】
一方、電動役物Ｂ６４０ａが第３の作動パターンで駆動される場合には、ほとんどの球が特定入賞口Ｂ６５ａ側に向かわない（傾倒部材Ｂ４７０に拾われる）ので、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球が生じ難く、遊技者は多量の賞球の払い出しを受けることはできない。
【５５７７】
このように、電動役物Ｂ６４０ａが第２の作動パターンで駆動されるか、第３の作動パターンで駆動されるかに関わらず、遊技者は特別図柄２の抽選を獲得可能とされることから特定入賞口Ｂ６５ａの開閉が頻繁に生じるが、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンの違いによって特定入賞口Ｂ６５ａへ球が案内される確率が変化することで、特定入賞口Ｂ６５ａの開放時（小当たり遊技発生時）に特定入賞口Ｂ６５ａに入球させ多量の賞球が得られる場合と、そうでない場合とを生じさせるという遊技性を構成することができる。
【５５７８】
上記第４５実施形態では、入賞ユニットＢ４００に流入した球により遊技者が得られる利益として、球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過した場合には特別図柄の抽選はされず、賞球の払い出しのみがされる一方で、球が第３入賞口Ｂ６４ｂを通過した場合には特別図柄１の抽選がされ、賞球の払い出しもされるよう設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球が検出センサＢ４３５の開口Ｂ４３５ａを通過した場合に特別図柄１の抽選がされ、賞球の払い出しもされる一方で、球が第３入賞口Ｂ６４ｂを通過した場合に特別図柄の抽選はされず、賞球の払い出しのみがされるよう設定しても良い。
【５５７９】
この場合、第１の作動パターンでは、球が稀に開口Ｂ４３５ａを通過することで、第１入賞口Ｂ６４への入球数に加えて開口Ｂ４３５ａを通過することで特別図柄１の抽選頻度が増加する。
【５５８０】
第２の作動パターンでは、球は先端部Ｂ４５１に拾われ電動役物Ｂ６４０ａの励磁状態において傾倒部材Ｂ４７０の正面側を通り第３入賞口Ｂ６４ｂに入賞しやすくされるので、入賞ユニットＢ４００に流入した球によって特別図柄の抽選頻度は増加されず、賞球の払い出しが多くなる。入賞ユニットＢ４００は、開口Ｂ４３５ａを球が通過可能に開放されている場合においても開口Ｂ４３５ａの球の通過は１０個に１個の割合とされることから、動作時間Ｂｔ２ｂの開口Ｂ４３５ａの開放では球が開口Ｂ４３５ａ側に流入することはほとんどない。そのため、第２の作動パターンにおいて、特別図柄１の抽選頻度の上昇はほとんど起きない。
【５５８１】
第３の作動パターンでは、待機時間Ｂｔ３ａにおいて先端部Ｂ４５１に拾われた球は、動作時間Ｂｔ３ｂにおいて傾倒部材Ｂ４７０に拾われ易いので、特別図柄２の抽選頻度が増加する。また、動作時間Ｂｔ３ｂにおいては、先端部Ｂ４５１の正面側を球が通り開口Ｂ４３５ａを通過し得るので、特別図柄１の抽選頻度も増加する。
【５５８２】
また、検出センサＢ４３５ａの開口Ｂ４３５ａを、アウト口（賞球の払い出し無し、図柄抽選無しであり、遊技領域から球を排出する開口部）として、単に球の通過を計数する

ためのセンサとして利用しても良い。この場合、開口Ｂ４３５ａにより、開口Ｂ４３５ａを球が通過する頻度を計測することができる。

【５５８３】

また、第２入賞口Ｂ６４０の機能と、第３入賞口Ｂ６４ｂの機能とを逆で設定しても良い。この場合、特殊確変状態とする場合の作動パターンを第２の作動パターンとし、確変状態とする場合の作動パターンを第３の作動パターンに設定すれば良く、第３入賞口Ｂ６４ｂに球が入球する抽選で小当たりを発生させ、第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れた球が特定入賞口Ｂ６５ａに入球し得るパチンコ機を構成することができる。

【５５８４】

これにより、第３入賞口Ｂ６４ｂの真上に配置される釘ＢＫＧ１の状態として、球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入り易ければ、小当たりは生じ易いが第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れる球は少ないために特定入賞口Ｂ６５ａの入賞数が過多となることは抑制できる一方で、第３入賞口Ｂ６４ｂの真上に配置される釘ＢＫＧ１の状態として、球が第３入賞口Ｂ６４ｂに入り難ければ、小当たりは生じ難いが第３入賞口Ｂ６４ｂから逸れる球は多いために一旦特定入賞口Ｂ６５ａが開放されれば多量の球を特定入賞口Ｂ６５ａに入球させ得る。即ち、第３入賞口Ｂ６４ｂへ入球し易いかどうか（有利不利）と、特定入賞口Ｂ６５ａへ入球し易いかどうか（不利有利）とがバランスするパチンコ機を構成することができる。

【５５８５】

上記第４５実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、貯留板部Ｂ７１５間に球が４個まで貯留可能な場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５が間に球を１個だけ配置可能な形状で形成されるようにしても良い。この場合、貯留板部Ｂ７１５間で停留される球は移動床部材Ｂ７４０に乗っており、その球に衝突した球を検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に流入させることができる。この場合、球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通り易い状態にあるか否かを、貯留板部Ｂ７１５間における球の有無を確認することで容易に把握することができるので、貯留板部Ｂ７１５間の球の個数を数える必要がある場合に比較して遊技者の遊技負担を低減することができる。

【５５８６】

上記第４５実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、貯留板部Ｂ７１５の左右両側において複数の検出センサＢ７５０が配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、検出センサＢ７５０の配設個数は１個でも良い。また、１個配置する場合において、貯留板部Ｂ７１５の左右に配置されるいずれかを残し、何れかを除外するようにしても良いし、貯留板部Ｂ７１５の前後に位置ずれして検出センサＢ７５０が配置されるようにしても良い。

【５５８７】

貯留板部Ｂ７１５の正面側に検出センサＢ７５０が配置される場合には開口部Ｂ７５１を通過する球を遊技者に見せ易くすることができる。一方、貯留板部Ｂ７１５の背面側に検出センサＢ７５０が配置される場合には開口部Ｂ７５１を通過する球が貯留板部Ｂ７１５に貯留される球に隠される作用を付加することができるので、開口部Ｂ７５１に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【５５８８】

上記第４５実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００において、ラウンド遊技における規定個数と貯留板部Ｂ７１５間に貯留可能な球の個数との関係が、１０個対４個である場合を説明したが、個数の関係は任意に定められるものであり、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、１０個対１０個とする場合、上側可変入賞装置Ｂ７００に対して、規定個数を超える個数の球の入賞（１１個以上の入賞、オーバー入賞）があった場合に、開口部Ｂ７５１を球が通過するパチンコ機を構成することができる。この場合、規定個数の入球に留まる場合に比較してラウンド遊技において得られる賞球個数が増加する喜びと、大当たり遊技が終了した後に移行される遊技状態が有利な状態になることに対する喜びとを、遊技者に同時に与えることができる。

【５５８９】
上記第４５実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０を駆動する駆動装置とは別で移動床部材Ｂ７４０を駆動する駆動装置を設けるようにしても良い。
【５５９０】
この場合の動作パターンは、上記第４５実施形態で説明したような動作パターンに加えて、多種多様な動作パターンを構成することができる。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を後退位置に配置することもできる。この場合、移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過した球が貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留されないようにすることができるので、球が開口部Ｂ７５１に入球する可能性を低めることができる。
【５５９１】
また、例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を単独で前後（繰り返し）動作させるようにしても良い。この場合において、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に維持される期間が０．２秒よりも長い場合には貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球を排出させることができ、一方、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に維持される期間が０．２秒よりも短い場合には貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を留めることができる。
【５５９２】
また、例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置された場合に、移動床部材Ｂ７４０を前進位置に配置することもできる。この場合、ラウンド遊技中に移動上蓋部材Ｂ７３０が開閉を繰り返すような駆動態様であっても、貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球が貯留される状態を維持することができる。更に、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置されてから、移動床部材Ｂ７４０を前進位置から後退位置に変位させるまでに数秒のタイムラグが生じるようにすることで、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される直前に多数の球がまとまって入球したような場合に、それらの球が開口部Ｂ７５１側に到達し、開口部Ｂ７５１を通過し得るタイミングまで貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球を排出しないようにすることができる。
【５５９３】
上記第４５実施形態では、上側可変入賞装置Ｂ７００は、大当たり遊技において開閉される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側可変入賞装置Ｂ７００が小当たり遊技において開閉されるよう構成し、検出センサＢ７５０を、開口部Ｂ７５１を球が通過することにより大当たり遊技を実行可能とするための検出センサとして構成しても良い。
【５５９４】
ここで、小当たり遊技における上側可変入賞装置Ｂ７００の開放時間の合計が１．８秒までとされる場合において、移動上蓋部材Ｂ７３０を後退位置に配置したら０．１２秒経過する度に前進位置に配置させるという規則で移動上蓋部材Ｂ７３０を前後に繰り返し変位させる状態において、移動上蓋部材Ｂ７３０を後退位置に１５回まで配置することができる（０．１２×１５＝１．８）。
【５５９５】
移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される場合において貯留板部Ｂ７１５の間の位置に配置される球が排出されないよう移動床部材Ｂ７４０が駆動される場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置される状態で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流下した球を貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留することができ、球を開口部Ｂ７５１に入球させ易い。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満とされる駆動態様に対応する。
【５５９６】
一方、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される場合において貯留板部Ｂ７１５の

間の位置に配置される球が排出され得るよう移動床部材Ｂ７４０が駆動される場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置に配置される状態で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流下した球が貯留板部Ｂ７１５の間の位置から次々に排出され、球を開口部Ｂ７５１に入球させ難い。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上とされる駆動態様に対応する。

【５５９７】

小当たり遊技は、予め規定された駆動パターンで移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０が開閉されることになる。移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合には、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間に多数の球を上側可変入賞装置Ｂ７００に入球させることが好ましいが、例えば、０．１秒と０．３秒との違いを見分けることは困難である。

【５５９８】

そこで、小当たり遊技の駆動パターンとして、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間よりも、発射した球が到達するまでの期間だけ前倒ししたタイミングで、上側可変入賞装置Ｂ７００へ向けて球を発射することを促す報知を実行するようにしても良い。この報知に従い球を発射すれば、貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球を貯留させ開口部Ｂ７５１に球を入球させ易くすることができる。このように、球の発射の適切なタイミングを報知するようにすることで、報知外のタイミングで球を発射することによる球損の発生を回避し易くすることができる。

【５５９９】

小当たり遊技の駆動パターンとして、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される期間が２回用意され、その間に移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上の状態が繰り返される期間が配置されるようにする場合、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される１回目の期間において球が開口部Ｂ７５１に入球しなかった場合に、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒未満の状態が繰り返される２回目の期間の前に、上側可変入賞装置Ｂ７００へ向けて球を発射することを促す報知を実行するようにしても良い。

【５６００】

この場合、例えば、球発射装置の詰まりなどで球を発射できていなかった場合においても、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される状態が０．２秒以上の状態が繰り返される期間が長めに（例えば、１５秒で）設定される場合には、その間に球発射装置の詰まりを修復できる可能性を高めることができる。

【５６０１】

なお、発射した球が到達するまでの期間だけ前倒ししたタイミングは、上側可変入賞装置Ｂ７００の配置次第で変更され得る。上記第４５実施形態のように遊技領域の上端部付近に配置される場合には１～２秒とされるが、遊技領域の右下端位置等に配置される場合にはもっと長く、その上流側における球経路（釘ＢＫＧ１により形成される経路または樹脂部材により流路形成される経路）の長さによっては、５～１０秒程度の長さまで幅が生じる。

【５６０２】

また、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが連動する場合を例示したが、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが独立で駆動するように構成される場合において、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置される期間が０．２秒未満となる駆動態様で繰り返し動作される期間を狙って、上述の報知を行うようにしても良い。

【５６０３】

この場合、移動床部材Ｂ７４０の動作態様と、移動上蓋部材Ｂ７３０の動作態様とは対応しないので、移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置に配置される期間の長さを見て、移動床部材Ｂ７４０の動作と対応付けることは困難となる。従って、上述の報知に対する注目力を向上させることができる。

【５６０４】
上記第４５実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球が貯留されている間において、球を開口部Ｂ７５１に入球させ易い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、動作により、開口部Ｂ７５１に球を誘導する誘導状態と、誘導しない非誘導状態とで状態が変化される状態変化手段が配設され、その状態変化手段の動作は、一対の貯留板部Ｂ７１５から排出された球の運動エネルギーにより行われるよう構成しても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間から球が排出された後において開口部Ｂ７５１に入球させ易くできる遊技機を構成することができる。
【５６０５】
上記第４５実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５への球の進入を、球によって妨害する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への球の入球の可否を切り替える開閉手段を配設しても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置が球で満タンになる前においても、開閉手段により一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球が進入できない状態を構成することができ、球が開口部Ｂ７５１を通過する事態を生じさせることができる。
【５６０６】
この場合において、開閉手段の大きさとして種々の態様を例示することができるが、正面視における大きさが球の大きさよりも小さくすることで、開閉手段を目立たせないようにすることができ、球が開口部Ｂ７５１へ流入するタイミングを遊技者に予測され難くすることができる。
【５６０７】
また、開閉手段の正面視における大きさを球の大きさよりも大きくすることで、開閉手段の状態を遊技者に把握させ易くすることができ、球が開口部Ｂ７５１へ流入するか否かを判別し易くすることができる。
【５６０８】
上記第４５実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域に高確率で案内される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５と第２特定入賞口Ｂ７００ａとの間に球と接触可能な配置で釘ＢＫＧ１が配設されるようにしても良い。
【５６０９】
これにより、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域が満タンになる前に、釘ＢＫＧ１と衝突した球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過するイレギュラー入賞が誘発され易くなるようにすることができる。特に、第２特定入賞口Ｂ７００ａを複数の球が連なって通過した時など、球同士の接触により流下が乱れた場合にイレギュラー入賞が誘発され易くなる。
【５６１０】
一方で、釘ＢＫＧ１は、一対の貯留板部Ｂ７１５に貯留されている球とは非接触となるような位置に配置される。これにより、一対の貯留板部Ｂ７１５に貯留された球の排出をスムーズに行わせることができる。
【５６１１】
なお、球と接触可能な配置で配設されるのは、必ずしも釘である必要はない。例えば、基礎板部材Ｂ７１０から前側に突設される突設部を構成し、この突設部と球とが衝突するようにしても良い。この場合、釘ＢＫＧ１の場合に比較して、突設部の形状の設計自由度を向上させることができる。例えば、左右方向に長く開口部Ｂ７５１に近づく程に下降傾斜する突条状に形成することで、開口部Ｂ７５１に球が案内される可能性を高めることができる。
【５６１２】
また、例えば、基礎板部材Ｂ７１０の正面側に可動部材を配設するようにし、その可動部材に衝突した球が、可動部材により勢いを付けられることで、球が開口部Ｂ７５１に案内され得るようにしても良い。可動部材の動作は、回転動作でも良いし、直線方向のスラ

イド動作でも良いし、それらの組合せによる動作でも良い。
【５６１３】
また、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａが左右方向に往復変位したり、検出センサＢ７５０及び貯留板部Ｂ７１５が左右方向に往復変位したりすることで、タイミング次第で、第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球が一対の貯留板部Ｂ７１５側ではなく、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１側に流れる場合が生じるようにしても良い。
【５６１４】
上記第４５実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａの真下に球が貯留される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａの下流側に斜め下方に延びる球通路が形成され、その球通路の下流側端部に検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１が形成され、球通路の途中位置において球貯留部が下方に延び、その球貯留部の下端に移動床部材Ｂ７４０が配設される構成において、球貯留部が満タンになると後追いの球が球貯留部の最上部の球の上を転動して球通路を下流側に流れ、その球が検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過するように構成しても良い。
【５６１５】
また、第２特定入賞口Ｂ７００ａの開口方向は斜め方向に向いていても良く、その第２特定入賞口Ｂ７００ａを開閉する部材はスライド変位するものでなくても、回動変位するもの（例えば、一対の開閉部材で構成されるチューリップタイプの一の開閉部材を利用したもの）でも良い。
【５６１６】
なお、第２特定入賞口Ｂ７００ａの下流側に斜め下方に延びる球通路の方向は何ら限定されるものではない。例えば、正面視で斜め下方（左右側へ向かうにつれて下方へ向かう斜め）でも良いし、左右方向視で斜め下方（前後側へ向かうにつれて下方へ向かう斜め）でも良い。
【５６１７】
特に、後側へ向かうにつれて下方へ向かう斜めの場合、開口部Ｂ７５１を、球貯留部よりも手前側に配置することができる。これにより、球貯留部に貯留される球よりも、開口部Ｂ７５１を通過する球を目立たせることができるので、開口部Ｂ７５１における球の通過を遊技者が視認し易くすることができる。
【５６１８】
上記第４５実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の上端部に球が配置されるために一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置する必要のある球の個数が一定である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間経過に合わせて移動床部材Ｂ７４０の上面の上下位置が上下方向に変化することや、移動床部材Ｂ７４０として貯留板部Ｂ７１５の下端の球を乗せる板部材が複数枚で上下方向に並設され上から順に開放されるように動作すること等により、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置される複数の球の内、最下端に配置される球の上下位置を変化させることで、一対の貯留板部Ｂ７１５の上端部に球が配置されるために一対の貯留板部Ｂ７１５の間に配置する必要のある球の個数が変化するようにしても良い。
【５６１９】
また、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が変化するように貯留板部Ｂ７１５が変位可能に構成されても良い。この場合において、左右間隔が球の直径よりも若干長い間隔である場合には４個で満タンになるとしても、左右間隔が球の直径の２倍よりも若干長い間隔である場合には８個で満タンになるので、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に球を通過させる難易度を変化させることができる。
【５６２０】
また、４個で満タンになるように構成する場合であっても、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が球の直径よりも若干長い間隔である場合に比較して、一対の貯留板部Ｂ７１５の左右間隔が球の直径の２倍よりも若干長い間隔である場合の方が、貯留板部Ｂ７１５の上下長さを半分にすることができるので、球を貯留するための高さ寸法を短くすることが

できる。これにより、貯留板部Ｂ７１５の設計自由度を向上させることができる。
【５６２１】
上記第４５実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に配置される球を常に視認できるよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５の間の位置における球の視認性を低下可能に構成する（例えば、可動部材で目隠しするように構成したり、光の加減で見え難くするように構成したりする）ようにしても良い。この場合、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置で球が満タンになるタイミングを遊技者に予想され難くすることができる。
【５６２２】
なお、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留される球の個数が４個の場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。０個でも良いし、１個でも良いし、３個でも良いし、５個以上でも良い。例えば８個（規定個数に近い数字）とすることで、第３の特別作動パターンにおいて検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１に球が通過する可能性を大きく低下させることができる。
【５６２３】
上記第４５実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留され、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置されることで流下される球は球抜き開口Ｂ７８２を通り遊技領域から排出される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置されることで流下される球が、複数孔を有するクルーンに排出されるようにしても良い。
【５６２４】
このクルーンは、複数孔の内の１つを検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１と同様の機能を有する特定孔とすることで、ラウンド遊技中に球が開口部Ｂ７５１を通過することが確認できないままに移動床部材Ｂ７４０が後退位置に配置され、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置から球が流されたとしても、遊技者はクルーンの特定孔に球が入球することによる利益を獲得できる可能性があるので、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置から流された球に対する注目力を向上させることができる。
【５６２５】
上記第４５実施形態では、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に貯留された球ではなく、その貯留された球の後追いの球が開口部Ｂ７５１を通過し得る場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、貯留板部Ｂ７１５の途中部分が開閉可能に構成されており、その開閉部分の下流側にも検出センサＢ７５０が配設されており、貯留板部Ｂ７１５の途中部分が開放されることで、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に貯留された球の内のいずれかが流され、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を通過し得るように構成しても良い。
【５６２６】
上記第４５実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０の駆動装置と移動床部材Ｂ７４０の駆動装置とが共にソレノイドＢ７６３であり、移動上蓋部材Ｂ７３０の動作と移動床部材Ｂ７４０の動作とが連動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動床部材Ｂ７４０の駆動用にソレノイドＢ７６３とは別の駆動装置を設け、互いに独立して動作可能にしても良い。この場合、上記第４５実施形態で説明した動作態様に加えて、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の双方が前進位置に配置される場合や、移動上蓋部材Ｂ７３０及び移動床部材Ｂ７４０の双方が後退位置に配置される場合を構成可能となる。
【５６２７】
上記第４５実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０が左右両側に下降傾斜する板形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０を一方向に傾斜する平板形状で形成しても良い。この場合であっても、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動床部材Ｂ７４０が前進位置へ変位するという動作の順番が好適に機能して、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置

に変位するのと同時に移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を流れた球が、移動床部材Ｂ７４０が前進位置に配置されるよりも前に移動床部材Ｂ７４０の正面側を通過するという事態を避けることができる。

【５６２８】

上記第４５実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動床部材Ｂ７４０が前進位置へ変位する動作順序である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に変位しても良いし、動作順序が逆でも良い。

【５６２９】

また、移動床部材Ｂ７４０が後退位置へ向けて変位開始するよりも若干早く移動上蓋部材Ｂ７３０が前進位置へ変位する動作順序である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０と移動床部材Ｂ７４０とが同時に変位しても良いし、動作順序が逆でも良い。

【５６３０】

上記第４５実施形態では、前進位置に配置される移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動する球の背面側に配設される基礎板部材Ｂ７１０の前面が平滑面である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動する球の流下方向と交差する方向（例えば、上下方向）に長尺な突条形状で基礎板部材Ｂ７１０の前面から正面側へ突設される複数の減速突起が、球の流下方向に沿って並べられるようにしても良い。この代わりに、又はこれに加えて、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を階段状に形成して、球の流下速度を減速させるように構成しても良い。

【５６３１】

これにより、移動上蓋部材Ｂ７３０の上面を転動流下する球の流下速度を低下させることができるので、移動上蓋部材Ｂ７３０の一度の開放（前進位置から後退位置に変位すること）で移動上蓋部材Ｂ７３０の正面側を通過する球の個数を多くすることができるので、移動上蓋部材Ｂ７３０が閉鎖状態（前進位置に配置された状態）とされた場合に一対の貯留板部Ｂ７１５の間から球が抜けていくという構成であっても、一対の貯留板部Ｂ７１５の間に球を溜めやすくすることができ、検出センサＢ７５０の開口部Ｂ７５１を球が通過する可能性を高めることができる。

【５６３２】

上記第４５実施形態では、移動上蓋部材Ｂ７３０の下流側に一対の貯留板部Ｂ７１５や移動床部材Ｂ７４０や検出センサＢ７５０が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、移動上蓋部材Ｂ７３０の構成を省略し、球が一対の貯留板部Ｂ７１５や移動床部材Ｂ７４０や検出センサＢ７５０の側へ常に流下可能な状態とされていても良い。

【５６３３】

上記第４５実施形態では、大当たり遊技において、１ラウンド目では移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能とされ、２ラウンド目以降のラウンド遊技では特定入賞口Ｂ６５ａが開放され特定入賞口Ｂ６５ａに入球可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。どのラウンド遊技でどちらの特定入賞口Ｂ６５ａ，Ｂ７００ａに入球可能となるように制御するかは任意に設定可能とされる。

【５６３４】

例えば、２ラウンド目以降のラウンド遊技においても移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御されても良い。この場合、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球が小当たり遊技でのみ生じるように構成することができる（全ラウンド遊技において移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される場合に相当）ので、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数の設定が、大当たり遊技における賞球個数に影響を与えることを回避することができる。

【５６３５】
そのため、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球に対する賞球の払い出し個数よりも、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数を多く設定することで、大当たり遊技による賞球個数を抑える一方で、小当たり遊技による賞球個数が増大される遊技機を構成することができる。
【５６３６】
また、例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球に対する賞球の払い出し個数よりも、特定入賞口Ｂ６５ａへの入球に対する賞球の払い出し個数を少なく設定することで、小当たり遊技による賞球個数を抑える（例えば、発射球と同等の賞球個数を維持する程度に抑える）一方で、大当たり遊技による賞球個数が増大される遊技機を構成することができる。
【５６３７】
なお、複数のラウンド遊技において移動上蓋部材Ｂ７３０が動作され第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される場合、大当たり遊技後の遊技状態が開口部Ｂ７５１に遊技球が通過するか否かで変化するという事象については、第２特定入賞口Ｂ７００ａに入球可能となるように制御される少なくとも１のラウンド遊技において遊技球が開口部Ｂ７５１を通過すれば、開口部Ｂ７５１に遊技球が通過したと認められる。
【５６３８】
上記第４５実施形態では、特別図柄１の抽選で小当たりと判定されない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない、例えば、特別図柄１でも特別図柄２でも小当たりと判定され得るようにしても良いし、特別図柄１で小当たりと判定され得る一方で特別図柄２では小当たりと判定され得ないように構成しても良い。
【５６３９】
上記第４５実施形態では、通常中の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第１の作動パターンとされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、通常中の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンとなるように構成しても良い。
【５６４０】
この場合、通常中（特別図柄の低確率状態）から第２入賞口Ｂ６４０に球が入球し得ることになるが、特別図柄の低確率状態における特別図柄２の変動時間は、大当たりを除き長期間（本実施形態では１０分）で設定されるので、特別図柄２の抽選で大当たりを獲得するようなことは稀であり、基本的には第１入賞口Ｂ６４への入球による特別図柄１の抽選で大当たりを目指す遊技性を構築することができる。
【５６４１】
この場合において、例えば、大当たりＢの大当たり遊技を実行した後における遊技状態が次に大当たりを獲得するまでは高確率状態とされ、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続するように設定すると、１０１回目の特別図柄の抽選以降において電動役物Ｂ６４０ａを第３の作動パターンで動作させることになり、これは大当たりＡの大当たり遊技を実行した後における遊技状態と同じである。即ち、大当たり遊技終了後に規定回数（上記第４５実施形態では１００回）の特別図柄の抽選を挟んで特殊確変状態に移行する場合を構成可能とすることができる。
【５６４２】
なお、大当たりＣの場合も、電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第２の作動パターンに設定される状態が特別図柄の抽選が１００回終了するまで継続するように構成され、１０１回目の特別図柄の抽選以降において電動役物Ｂ６４０ａは第３の作動パターンで動作するように制御されるが、特別図柄の低確率状態なので、単に通常状態へ移行することになる。
【５６４３】
上記第４５実施形態では、大当たり種別の振分けが特別図柄１と特別図柄２とで異なる

場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、特別図柄１と特別図柄２とで大当たり種別の振分けが同じとなるように設定しても良い。この場合、どちらの特別図柄で大当たりを獲得したとしても差が生じないので、特別図柄１の大当たりに係る抽選と特別図柄２の大当たりに係る抽選とを同一視することができる。この場合、例えば、特別図柄２の抽選が長時間変動で実行される場合（例えば、１０分の変動）を除外し、特別図柄１の抽選で選択される変動時間と同様の変動時間とすることで、あたかも、特別図柄の保留球数が８個（特別図柄１の保留球数４個と特別図柄２の保留球数４個との合計）である遊技機を構成することができる。

【５６４４】

また、例えば、特別図柄１の大当たりの内、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別と、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる大当たり種別との比率（上記第４５実施形態において１：１）と、特別図柄２の大当たりの内、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別と、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる大当たり種別との比率（上記第４５実施形態において１：１）とを異ならせるように構成しても良い。

【５６４５】

この場合において、特別図柄２の大当たりの方が、特別図柄１の大当たりに比較して、大当たり遊技終了後の遊技状態が高確率状態となる大当たり種別の割合が大きいように構成することで、特別図柄２の大当たりが連続して発生し易い状態に移行可能な遊技機を構成することができる。

【５６４６】

上記第４５実施形態では、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出の表示と同時に方向操作部表示Ｂ８１６を表示可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出の後に、方向操作部表示Ｂ８１６を表示して音量光量を調整可能となる調整期間を設けるようにしても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングは、調整期間の終了タイミングを意味すると同時に、大当たり遊技終了後の変動演出の開始タイミングを意味するので、遊技者は時間表示Ｂ８１１を視認しておけば、調整期間における音量光量の調整から変動演出の開始タイミング後の球発射までの行動を、適切なタイミングでスムーズに行うことができる。

【５６４７】

エンディング演出の期間は大当たり種別により規定されるところ、エンディング演出の内部構成については大当たり種別が同じであっても変更可能となる。調整期間を設ける場合、調整期間が設けられていない場合に比較して、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出を実行する期間が狭められることになるが、いずれかの演出の継続時間を短くしたり、複数の演出を同時に行ったりすることで、遊技者に違和感を与えることなくエンディング演出を実行することができる。

【５６４８】

調整期間を設けるか否かは、任意に設定することができるが、例えば、大当たり遊技中に実行される演出が、複数のバリエーションの内、特に光量が強くなり易い（光量最強）演出または特に音量が大きくなり易い（音量最大）とされた場合に、エンディング演出において調整期間を設けるようにしても良い。これにより、遊技者の遊技負担を低下させることができる。

【５６４９】

調整期間を設けるかどうかとは無関係に、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の長さを変更することができる。例えば、大当たりが連荘している最中において、短期間に何度も見ても情報量が増加するわけではない社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の長さを短くしたり同時に表示したりすれば、その分だけエンディング表示演出を長くすることができる。エンディング表示演出は、実際に獲得できた賞球個数（現在実行中の大当たり遊技のみでも良いし、連荘中における累積でも良い）や

、大当たり遊技終了後の遊技状態という、遊技者にとっての重要性が高い情報が表示されるので、表示期間を長くすることで、遊技者がその情報を見逃す可能性を低くすることができる。

【５６５０】

例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が低確率状態となる場合、連荘が途絶える可能性が高いので、その後遊技者が遊技を終えて離席する可能性が高い。そのため、エンディング演出においてカード忘れ防止表示演出の長さを長くすることで、遊技者がカードを持ち帰り忘れる可能性を低くすることができる。

【５６５１】

例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が特殊確変状態へ移行する場合、遊技者の出玉への期待感が最も高まっているタイミングであるので、このタイミングにおいて社名表示演出を視認させることで、現在遊技しているパチンコ機および製造会社への印象が良くなるように図ることができる。また、大当たりが連荘すれば、ますます遊技者の期待感が高まっていくことから、連荘数が上がっていくほどに社名表示演出を長くするように設定することで、印象をよりよくさせることができる。

【５６５２】

上記第４５実施形態では、エンディング演出において音量光量の調整が可能とされる場合について説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出において音量光量の調整が実行されたかを判定し、その判定結果が、エンディング演出終了後の変動演出の決定に影響を与えるよう構成しても良い。

【５６５３】

例えば、変動演出として、通常の主図柄停止の報知に比較して、光量や音量が大きくなり易い特定演出（一発告知演出など）が用意されている場合に、直前のエンディング演出中に光量を下げる調整が実行されたにも関わらず、特定演出を実行すると、ただでさえ光で目が疲労していると考えられる遊技者に対して、更なる疲労を与える可能性があり、途中で遊技を中断する可能性がある。そこで、直前のエンディング演出中に光量を下げる調整が実行された場合には、特定演出は実行されないように制御することで、遊技者の疲労の回復を待ちながら遊技を継続させることができる。

【５６５４】

また、大当たり遊技中において、大当たり遊技の終了後の遊技状態で流れる曲を変更する操作を遊技者が行った場合には、遊技者はその曲を聞きたいと感じているはずなので、現在実行中の大当たり遊技のエンディング演出において、方向操作部表示Ｂ８１６を表示する期間を確保するようにしても良い。

【５６５５】

上記第４５実施形態では、エンディング演出の終了タイミングで時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するように構成する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の終了タイミングにおいて普通図柄の変動表示が継続中であり、エンディング演出の終了タイミングと普通図柄の次変動の開始タイミングとの間に時間差がある場合には、その時間差の分、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングをエンディング演出の終了タイミングに対してずらす（遅らせる）ようにしても良い。これにより、エンディング演出の後で球を発射しているにも関わらず、大当たり遊技中から継続中の作動パターン（通常状態における作動パターン、第１の作動パターン）で電動役物Ｂ６４０ａが動作している状態の入賞ユニットＢ４００に球が入球するという事態を回避することができる。

【５６５６】

即ち、エンディング演出の後で発射した球を、大当たり遊技終了後から移行した後の作動パターン（第２の作動パターン又は第３の作動パターン）で電動役物Ｂ６４０ａが動作している状態の入賞ユニットＢ４００に入球させることができる。

【５６５７】

この場合においても、エンディング演出が終了したら、特別図柄の保留球があれば、エ

ンディング演出の終了後に特別図柄の変動が開始される。一方で、時間表示Ｂ８１１の表示は継続して残したいので、例えば、主表示領域ＢＤｍにおいてはエンディング演出の表示を継続し、副表示領域ＢＤｓの小領域ＢＤｓ３において特別図柄の変動を表示し、普通図柄の次変動が開始されるタイミングとなり次第、小領域ＢＤｓ３の表示が主表示領域ＢＤｍ３に拡大されながら移動するように構成しても良い。

【５６５８】

画面上で特別図柄を移動させることになるので、低速変動中（リーチ等）になる前段階で移動させることが好ましい。そのため、上述のような表示態様（特別図柄の移動）は、エンディング演出の終了タイミングから普通図柄の次変動の開始タイミングまでの時間差の方が、特別図柄の低速変動中に移行するまでにかかる時間よりも短いという特定の条件が整った場合にのみ行うようにしても良い。

【５６５９】

但し、変動演出の決定は、変動開始時にされるので、エンディング演出の終了よりも後になる。そのため、上述のような表示態様を行うことができるかどうかは、エンディング演出中には不明となるので、エンディング演出終了後に、上記特定の条件が整っていると音声ランプ制御装置Ｂ１１３に判定された場合に、終端位置Ｂ８１２を右方に移動させたり、「＋２秒」等の数字を表示させたりすることで、球発射タイミングが後倒れしたことを報知するように構成しても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達することで遊技者は球の発射を開始すると考えられるが、その直後に球発射タイミングが後倒れしたことの報知がされれば、それを見た遊技者は球の発射を停止させることができる。これにより、球損を最小限とさせることができる。

【５６６０】

上記第４５実施形態では、特定表示Ｂ８１０や枠ボタン表示Ｂ８１３等の表示が、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面の一部に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、表示画面の全体に表示される（全画面表示される）ように構成しても良いし、表示画面の異なる部分に表示されるようにしても良い。

【５６６１】

上記第４５実施形態では、エンディング演出において時間表示Ｂ８１１が初めから表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の途中から表示されても良いし、枠ボタンＢ２２の操作により表示されるようにしても良い。また、枠ボタンＢ２２の操作を行う度に、時間表示Ｂ８１１が表示されたり、時間表示Ｂ８１１の表示が消えたりするようにしても良い。

【５６６２】

上記第４５実施形態では、時間表示Ｂ８１１がバーとして表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、表示画面に任意の数字を表示し、その数字を目標値（例えば０（ゼロ））までカウントダウンさせていく表示としたり、目標値（例えば、６００）までカウントアップさせていく表示としても良い。この場合、表示が目標値となるタイミング（時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングに相当）を遊技者が図り易くすることができる。

【５６６３】

また、この表示は、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面において表示する場合に限られるものではない。例えば、第３図柄表示装置Ｂ８１とは別の第２の表示装置や、７セグメント表示器を用意して、それら第２の表示装置や、７セグメント表示器においてカウントダウン又はカウントアップさせる表示を実行しても良い。

【５６６４】

なお、時間表示Ｂ８１１を、バーとカウントダウン（カウントアップ）との両方で表現するようにしても良い。例えば、時間表示Ｂ８１１をバーとして表示することに加えて、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達する数秒前（例えば３秒前）から、表示画面に数字（例えば３）を表示し、その数字をカウントダウンさせていく表示を実行しても良い。この場合、表示が０（ゼロ）となるタイミング（時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位

置Ｂ８１２に到達するタイミングに相当）を遊技者が図り易くすることができる。
【５６６５】
上記第４５実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示画面に表示されている場合において、枠ボタンＢ２２の操作が有効になる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されていなくても枠ボタンＢ２２の操作が有効となる状態を構成可能としても良い。
【５６６６】
上記第４５実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示画面に表示されている場合において、枠ボタンＢ２２の操作が有効になる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２の内部に発光手段が配設され、枠ボタンＢ２２が操作可能なタイミングで発光手段が発光するように制御しても良い。この場合、操作対象（枠ボタンＢ２２）の位置を遊技者に把握させ易くすることができる。
【５６６７】
上記第４５実施形態では、エンディング演出において、社名表示演出は、大当たり遊技終了後に突入する遊技状態が、遊技者にとって最も有利な状態となる場合に実行され、カード忘れ防止表示演出は、大当たり遊技における払い出し個数が８ラウンド分の個数以上（所定の個数以上）である場合に実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出が実行される条件と、カード忘れ防止表示演出が実行される条件とを入れ替えても良い。
【５６６８】
また、社名表示演出またはカード忘れ防止表示演出の少なくとも一方は、大当たり種別によらず、大当たり遊技の度に常に実行されるように設定しても良いし、所定の大当たり回数目（例えば、連荘中において奇数回目の大当たりとか、３の倍数の大当たり等）で実行されるように設定しても良い。
【５６６９】
なお、エンディング演出の内容は、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出に限られるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、「パチンコは遊技です。のめり込みに注意しましょう」という、遊技者を落ち着かせるための文字列を表示したり、不慣れな遊技者等に向けて店員呼び出しボタンの説明をする動画を表示したり、可動役物を待機位置に復帰させるためのボタン操作について説明する動作を表示したりしても良い。これらいずれの表示を実行している間においても、枠ボタン表示Ｂ８１３を表示して枠ボタンＢ２２の操作を促したり、時間表示Ｂ８１１を表示して次演出への移行タイミングを報知したりすることができる。
【５６７０】
上記第４５実施形態では、遊技者にとって最も有利な状態は、特殊確変状態である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり遊技終了後の状態が、確変状態か時短状態（通常状態）かで異なる場合（特殊確変状態には移行しない場合）には、遊技者にとって最も有利な状態は確変状態とされる。
【５６７１】
また、大当たり遊技終了後の状態が時短状態のみであり、時短状態が継続する抽選回数に差がある場合には、時短状態が継続する抽選回数が最も多くなる状態が、遊技者にとって最も有利な状態とされる。
【５６７２】
また、大当たり遊技終了後の状態が確変状態のみであり、一方の大当たり種別では次回大当たりまで確変状態が継続される一方で、他方の大当たり種別では所定の抽選回数後は特殊確変状態に移行される場合（通常状態の電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが第３の作動パターンとされる場合等）には、他方の大当たり種別の方が特殊確変状態において小当たり遊技中に得られる賞球分有利なので、遊技者にとって最も遊技な状態とされるのは他方の大当たり種別の大当たり終了後の状態とされる。
【５６７３】

上記第４５実施形態では、エンディング演出において、エンディング表示演出が常に実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出が実行されない大当たり種別を構成しても良い。特に、賞球の払い出し個数が他の大当たり種別に比較して極端に少ない大当たり種別（例えば、突然確変大当たりや、突然通常大当たり等）の時には、エンディング表示演出を省略した方が賞球の払い出しが極端に少ないことを遊技者に意識させないようにすることができ、且つ、大当たり遊技終了後の図柄の変動を早期に開始させることができる。

【５６７４】

また、特に、特殊確変状態と大当たり遊技との境目を目立たせずに遊技を行わせるための演出（例えば、小当たり遊技における賞球個数と大当たり遊技における賞球個数とを合算して表記する演出）を構成する際には、連荘中にはエンディング表示演出を省略し、連荘の終了時にエンディング表示演出を実行することで、遊技者に対して特殊確変状態と大当たり遊技とをまとめて一つの有利状態として見せることができる。

【５６７５】

また、上述の内容はエンディング表示演出に限られるものではない。例えば、社名表示演出やカード忘れ防止表示演出についても、連荘に突入する最初の大当たりのエンディング表示において表示させる一方で、連荘中は大当たり種別に関わらず表示させないようにしても良い。

【５６７６】

上記第４５実施形態では、賞球表示Ｂ８０１と識別表示Ｂ８０２とが同じタイミングで画面に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、賞球表示Ｂ８０１が画面に表示されてから、表示が切り替わった後で識別表示Ｂ８０２が表示されるようにしても良い。この場合、大当たり遊技で獲得した利益と、大当たり遊技から移行された後で獲得できる利益とを、分けて遊技者に理解させることができるので、遊技者の遊技負担を軽減することができる。

【５６７７】

上記第４５実施形態では、エンディング演出におけるエンディング表示演出と、社名表示演出と、カード忘れ防止表示演出との長さをそれぞれ同一（５秒）に設定したが、必ずしもこれに限られるものではなく、各演出の長さは、大当たり種別ごとに任意に設定することができる。例えば、カード忘れ防止表示演出の実行期間を他の演出に比較して長くする（例えば、１０秒等）ようにしても良いし、カード忘れ防止表示演出を繰り返し実行するように構成しても良い。

【５６７８】

また、繰り返し実行する場合には、連続で繰り返しても良いし、他の演出を挟んで繰り返すようにしても良い。例えば、カード忘れ防止表示演出の終了後に、エンディング表示演出（２回目）を表示させるように構成しても良い。この時、１回目のエンディング表示演出では賞球表示Ｂ８０１は表示するが識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３を表示せず、２回目のエンディング表示演出において識別表示Ｂ８０２及び信頼度表示Ｂ８０３を表示して賞球表示は表示しないようにしても良い。

【５６７９】

これにより、大当たり遊技で遊技者が獲得できた利益（賞球個数）を報知するタイミングと、大当たり遊技の終了後における遊技の状態を報知するタイミングとを分けることができるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。また、エンディング演出の終盤に遊技者の興味関心の高い内容（上述の例では識別表示Ｂ８０２）を表示することで、エンディング演出に対する遊技者の注目力を高い状態で維持することができる。

【５６８０】

また、エンディング演出の所定のタイミングにおいて遊技者の興味関心の高い内容（上述の例では識別表示Ｂ８０２を表示可能とする場合に、その表示への切り替えタイミングの前に枠ボタンＢ２２の操作を実行させるように演出しても良い。即ち、枠ボタン表示Ｂ８１３を行うことで、第３図柄表示装置Ｂ８１に対する遊技者の注目力を高めると共に、

枠ボタンＢ２２の操作により遊技に参加している感覚を遊技者に与えることができ、枠ボタンＢ２２の操作直後に識別表示Ｂ８０２を表示することで遊技者が識別表示Ｂ８０２を見逃す事態を回避し易くすることができる。

【５６８１】

なお、エンディング演出の長さは数秒間に限定されるものではなく、その長さは任意に（例えば、大当たり種別に応じて）設定可能である。即ち、数秒で終了するエンディング演出の他に、数分を要するエンディング演出が用意されても良い。

【５６８２】

上記第４５実施形態では、エンディング演出におけるエンディング表示演出と、社名表示演出と、カード忘れ防止表示演出との長さをそれぞれ同一（５秒）に設定し、実行される演出の組合せ次第でエンディング演出の実行期間が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出の実行期間は固定にして、社名表示演出が短く設定される場合には、代わりにカード忘れ防止表示演出が長くなるように構成しても良い。

【５６８３】

この場合、社名表示演出が短い期間で終了したことを把握できた遊技者は、その時点でカード忘れ防止表示演出が長くなることを知ることができるので、音量や光量の設定変更にかけられる時間が長くなることを把握することができ、遊技者の枠ボタンＢ２２を操作する意欲を向上させることができる。

【５６８４】

上記第４５実施形態では、エンディング表示演出の後に社名表示演出が実行され、その社名表示演出の後に、カード忘れ防止表示演出が実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出の表示順は任意に設定可能であり、社名表示演出の前にカード忘れ防止表示演出が実行されるようにしても良い。

【５６８５】

また、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出のいずれか２つの演出が同時に実行される（並列で実行される）ように構成しても良い。この場合、表示の重なりを避けるために、第３図柄表示装置Ｂ８１における表示位置を分けるようにすると良い。これによれば、エンディング表示演出、社名表示演出およびカード忘れ防止表示演出が順に実行される（直列で実行される）場合に比較して、演出を同時に実行させている分だけエンディング演出に要する時間を短くすることができる。

【５６８６】

上記第４５実施形態では、社名表示演出が実行されるとカード忘れ防止表示演出が実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング表示演出と社名表示演出とが実行され、カード忘れ防止表示演出が省略される大当たり種別を用意しても良い。

【５６８７】

上記第４５実施形態では、エンディング表示演出の後で枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示され、設定を変更することができようになる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示され設定を変更することができる期間が経過した後で、エンディング表示演出が実行されるようにしても良い。

【５６８８】

この場合において、枠ボタン表示Ｂ８１３や方向操作部表示Ｂ８１６が表示される期間は、エンディング演出に入ってから（最終ラウンドのラウンド遊技が終了してから）開始されるようにしても良いし、大当たり遊技における終盤のラウンド遊技の消化中から開始されるようにしても良い。いずれの場合でも、エンディング表示演出から変動演出への移行をスムーズにすることができる。

【５６８９】

なお、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され方向操作部Ｂ４５を操作可能となるタイミングは、枠ボタンＢ２２を操作した後に限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されず、枠ボタンＢ２２の操作を介することなく、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され方向操作部Ｂ４５を操作可能とする場合があっても良い。

【５６９０】

上記第４５実施形態では、方向操作部表示Ｂ８１６が表示画面の中央に表示され、音量や光量の調整を行っている最中にも特定表示Ｂ８１０が表示画面の端側に移動した状態で視認可能とされており、カード忘れ防止表示演出が継続される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、離席しようとしている遊技者が音量や光量を改めて調整するはずがないという判断から、音量や光量の調整が実行されたらカード忘れ防止表示演出が消えるように構成しても良い。

【５６９１】

上記第４５実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８１３の表示中に枠ボタンＢ２２を操作したら調整画面に移行するように説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を押している間は調整画面に移行し、枠ボタンＢ２２を離すと操作前の画面に戻るようにしても良い。これにより、音量や光量の設定変更のためには両手操作が最適であることを遊技者に分からせることができ、ハンドルＢ５１から手を離させることができるので、エンディング演出中における球発射を抑制することができる。

【５６９２】

なお、遊技者が枠ボタンＢ２２を操作するまえから、「枠ボタンを押した状態で光量や音量の設定変更が可能です」と表示させても良い。これにより、両手操作が必要であることを遊技者に一度で把握させることができる。エンディング演出において両手操作をさせることで、発射しても遊技者にとって利益率の悪いタイミングにおける球の発射を抑制することができる。即ち、報知は、遊技球の発射を抑えた方が遊技者にとって利益が高くなる可能性があるタイミングにおいて、複数の操作手段を同時に操作させる態様で行うようにすれば良い。

【５６９３】

また、例えば、枠ボタンＢ２２を操作する度に、音量の設定変更が可能な状態（表示態様）と、光量の設定変更が可能な状態（表示態様）とを、切り替えられるようにしても良い。

【５６９４】

また、例えば、エンディング演出中は、枠ボタンＢ２２を押している間は調整画面に移行し、枠ボタンＢ２２を離すと操作前の画面に戻るように制御される一方で、エンディング演出が終了して変動演出の表示画面に移行したら、枠ボタンＢ２２を押していなくても音量や光量の調整を実行できるように制御しても良い。これにより、エンディング演出の終了後にまで両手操作が強いられることを防止することができるので、遊技者は、ハンドルＢ５１を操作しながら音量や光量の設定変更をすることができる。

【５６９５】

上記第４５実施形態では、カード忘れ防止表示演出の実行中に枠ボタン表示Ｂ８１３に従って枠ボタンＢ２２を操作した場合に特定表示Ｂ８１０が画面の端側に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、社名表示演出の実行中に枠ボタン表示Ｂ８１３に従って遊技者が枠ボタンＢ２２を操作した場合には、特定表示Ｂ８１０としての製造会社名（Ａカンパニー）が第３図柄表示装置Ｂ８１の画面の左上隅（端側）に移動され、それに続けて、特定表示Ｂ８１０にカード取り忘れ防止表示が表示されるようにしても良い。社名表示演出の実行中に、第３図柄表示装置Ｂ８１の画面中央に方向操作部表示Ｂ８１６を表示させ、遊技者に対して音量や光量の設定変更が可能であることを報知するようにしても良い。

【５６９６】

また、特定表示Ｂ８１０が表示画面の端側に表示された状態となっても、規定時間以内（例えば２秒以内）に音量や光量の設定変更が実行されなかった場合には、特定表示Ｂ８

１０が画面中央（移動前の配置）に戻るように設定しても良い。
【５６９７】
上記第４５実施形態では、エンディング演出において音量や光量の設定の変更を行うことができるよう構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、エンディング演出から移行する特殊確変中、確変中や時短中における特別図柄の変動演出のパターンにバリエーション（第１の態様、第２の態様）が設けられている場合に、そのいずれを選択するかの設定の変更を行うことができるようにしても良い。ここで、第１の態様と第２の態様との組合せとしては、任意に設定可能であるが、例えば、白黒表示態様とカラー表示態様との組合せや、漫画的な表示態様とアニメ的な表示態様との組合せや、枠ボタンＢ２２の連打操作を要求する表示態様と枠ボタンＢ２２の長押し操作を要求する表示態様との組合せ等が例示される。
【５６９８】
また、例えば、大当たり演出中や、変動演出中に流れる曲（主題歌等）の設定を変更可能な場合は、エンディング演出において曲の設定の変更を行うことができるようにしても良い。エンディング演出ではなく、ファンファーレ演出中でも良いし、ラウンド遊技中でも良いし、ラウンド間インターバル中でも良いし、それらを跨いだ期間でも良い。
【５６９９】
上記第４５実施形態では、エンディング演出中に、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２によってエンディング演出の終了タイミングを報知したり、枠ボタンＢ２２の操作に伴って表示演出が変化したりすることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、演出の終了タイミング又は発生タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、図柄の変動中やリーチ中に行われても良いし、エンディング演出を除く大当たり遊技中の演出中に行われても良い。
【５７００】
例えば、図柄の変動中やリーチ中に行われる場合において、報知される演出の終了タイミングは、特別図柄の変動が停止されるタイミングでも良いし、演出としての疑似連続変動が開始されるタイミングでも良い。前者の場合、特別図柄の保留球数が１減ることで新たな特別図柄の抽選を獲得できるようになるので、遊技者に対して球の発射を促すタイミングとして適切である。後者の場合、特別図柄の変動自体は数分にわたる場合に、その途中のタイミングで短く区切ることで、遊技者の集中力を保つことができる。
【５７０１】
リーチ終盤での枠ボタン表示Ｂ８１３に伴う枠ボタンＢ２２の操作が行われると、大当たりであれば大当たり用の表示画面に移行し、はずれであれば、はずれ用の表示画面に移行するように構成することで、枠ボタン表示Ｂ８１３を見ている遊技者に対して特別図柄の変動の結果を分からせ易くすることができる。
【５７０２】
例えば、エンディング演出を除く大当たり遊技中の演出中に行われるようにしても良い。ラウンド中における、枠ボタン表示Ｂ８１３及び枠ボタンＢ２２の操作は、例えば、昇格演出（例えば、ファンファーレ演出では４ラウンド大当たりであると演出上報知したが実際は１５ラウンド大当たりであることを報知する演出など、ファンファーレ演出での報知により遊技者が得られると予想される利益よりも高い利益を遊技者が得られる大当たりであることを報知する演出）に利用することができる。
【５７０３】
特に、上記第４５実施形態のように、ラウンド遊技において開口部Ｂ７５１を球が通過するか否かで大当たり遊技終了後の遊技状態が変化する場合において、そのラウンド遊技中に枠ボタン表示Ｂ８１３を表示するようにし、遊技者に対して枠ボタンＢ２２の操作を促すことで、遊技者の注意を開口部Ｂ７５１から逸らし、開口部Ｂ７５１を球が通過したか否かの確認をし損なう事態を生じさせることができる。
【５７０４】
パチンコ機Ｂ１０が、表示画面の正面側に張り出す可動役物を備える場合に、ラウンド

中の枠ボタン表示Ｂ８１３に従う枠ボタンＢ２２の操作があり、昇格演出を実行する時に可動役物が表示画面の正面側に張り出すように制御されると、遊技者としては可動役物の動きで昇格演出に成功したことが分かり易い。ラウンド中の枠ボタン表示Ｂ８１３に従う枠ボタンＢ２２の操作があったとしても、昇格演出を実行しない時（ファンファーレ演出での報知と実際の報知が同じである場合）には可動役物が表示画面の正面側に張り出さないように制御することで遊技者に対して昇格演出に失敗したことを分からせ易い。

【５７０５】

また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、所定時間第１図柄の抽選が行われないと実行される遊技説明表示演出（デモ画面）中に実行するようにしても良い。この場合、報知により、遊技説明表示演出が一巡したことを遊技者に分からせることができる。

【５７０６】

また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、所定時間内で所定の検出口に球を通過させる遊技に関する演出において、所定時間内において所定の検出口を依然として球が通過していない場合に実行するようにしても良い。この場合、報知により、遊技者に球が検出口を通過していないことに気付かせることができる。

【５７０７】

また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、大当たり遊技におけるファンファーレ演出中や、ラウンド間インターバルにおいて実行するようにしても良い。この場合、演出の終了タイミングで特定入賞口Ｂ６５ａ又は第２特定入賞口Ｂ７００ａが開放されることになるので、遊技者は、球を発射するのに適したタイミングを容易に把握することができる。

【５７０８】

また、例えば、演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化は、大当たり遊技におけるラウンド遊技およびラウンド間インターバルを複数含む期間中に行われるようにしても良い。これにより、単一のラウンド遊技やラウンド間インターバルとして設定される時間よりも長時間の演出を構成することができ、その長時間の演出の終了タイミングの報知や、枠ボタンＢ２２の操作に伴う表示される演出の変化を実行可能とすることにより、遊技者を飽きさせることなく遊技に集中させることができる。

【５７０９】

上記第４５実施形態では、カード忘れ防止表示演出がエンディング演出において実行される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１図柄の保留球数が０になってから、所定時間が経過した時に実行されるようにしても良い。この場合、大当たりを獲得する前の遊技者に対しても、カード忘れ防止表示演出を視認させることができる。

【５７１０】

また、例えば、長時間（例えば、６０秒以上）の第１図柄の変動開始時に実行されるようにしても良い。この場合、空き時間で飲み物等の購入をしようと考えている遊技者に対して、長時間の第１図柄の変動が開始されることを報知できると共に、離席時にカード忘れを起こさないように注意喚起することができる。

【５７１１】

上記第４５実施形態では、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間は、エンディング演出の終了までや、エンディング演出終了後の初回の変動中等までとされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１図柄の変動中における第３図柄の高速変動表示中や、第３図柄の中速変動表示中に設定されても良い。この場合、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間が終了するタイミングから、高速変動表示中から中速変動表示中へ移行するタイミングや、中速変動表示中から低速変動表示中（リーチ表示中等）へ移行するタイミングを

、遊技者は把握可能となる。
【５７１２】
また、特別図柄の変動中に亘って（低速変動表示中も含めて）、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間を構成可能としても良い。この場合において、方向操作部表示Ｂ８１６を小領域ＢＤｓ３に表示するようにしても良いし、小領域ＢＤｓ３と主表示領域ＢＤｍとで表示を入替可能としても良い。
【５７１３】
この場合において、特別図柄の変動表示中において、調整可能とされる期間が用意されていることを示唆する報知が実行され、その後でその期間の報知が実行され、枠ボタン表示Ｂ８１３等がされ、方向操作部表示Ｂ８１６を表示可能となり音量や光量の調整が可能とされるというように、報知を段階的に行うように構成しても良い。この場合、特別図柄の変動表示中であっても、遊技者の興味を段階的に移すことができるので、調整可能とされる期間が用意されていることに遊技者が気づかない事態が生じることを回避し易くすることができる。
【５７１４】
これに加えて、音量光量の調整が次変動以降も有効となるように制御しても良いし、音量光量の調整を行った際に変動していた特別図柄が大当たりとなった場合に、音量光量の調整を維持した状態で大当たり遊技を行うことができるように制御しても良い。
【５７１５】
また、例えば、初回の変動中までに限られず、複数回目の変動が終了するまでは光量や音量が調整可能とされる期間が継続するように構成しても良いし、第１図柄の変動が所定の態様（例えば、長時間の変動や、大当たりを獲得する変動など）となるまでは光量や音量が調整可能とされる期間が継続するように構成しても良い。
【５７１６】
また、大当たりとなった変動演出の後半においてや、ファンファーレ演出において、方向操作部表示Ｂ８１６が表示され光量や音量が調整可能とされる期間が用意されても良い。この場合、大当たり中の音量設定を行うことができ、期間の終了のタイミングから大当たり遊技の開始タイミングを遊技者は把握することができる。
【５７１７】
上記第４５実施形態では、終端位置Ｂ８１２が固定されており、時間表示Ｂ８１１が時間経過と共に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１の移動速度は一定速度とされても良いし、時間表示Ｂ８１１の移動速度が途中で変化可能に構成されても良い。また、例えば、時間表示Ｂ８１１の右端部が逆方向（左側）に移動する場合があるように構成しても良い。
【５７１８】
また、例えば、終端位置Ｂ８１２が動くことができるように構成しても良い。即ち、時間表示Ｂ８１１の移動中に、終端位置Ｂ８１２も移動することで、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達するまでの時間を予想し難くすることができる。
【５７１９】
なお、終端位置Ｂ８１２の移動は、時間表示Ｂ８１１が到達するのを待って、時間表示Ｂ８１１が到達した直後に移動するように構成しても良いし、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達する前において移動するように構成しても良い。
【５７２０】
また、時間表示Ｂ８１１の移動先としての終端位置Ｂ８１２の移動方向は、左右方向に限定されるものではない。例えば、上下方向に移動しても良いし、渦を巻くように移動しても良い。これにより、時間表示Ｂ８１１が終端位置Ｂ８１２に到達するまでの時間を予想され難くすることができる。
【５７２１】
上記第４５実施形態では、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで、方向操作部８１６が表示画面の中央に表示され、特定表示Ｂ８１０は表示画面に隅に移

動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を操作する前から特定表示Ｂ８１０が表示画面の隅に配置されていても良い。また、例えば、枠ボタンＢ２２を操作することで表示画面の中央付近まで可動役物が張り出し、その可動役物に隠されない位置に特定表示Ｂ８１０の表示位置が変化するようにしても良い。

【５７２２】

また、例えば、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで、特定表示Ｂ８１０が消えるように設定しても良いし、エンディング演出において枠ボタンＢ２２を操作することで始めて時間表示Ｂ８１１および終端位置Ｂ８１２が表示されるように構成しても良いし、これらの組合せでも良い。

【５７２３】

上記第４５実施形態では、エンディング演出において音量を変更した場合、表示画面における横目盛り表示Ｂ８１８の表示態様が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、これに加えて、又はこれに代えて、音量を変更した場合に所定のセリフが出力されるようにしても良い。

【５７２４】

例えば、「カードの取り忘れにご注意下さい」というセリフが出力されるように構成する場合、遊技者が音量を変更する度に、遊技者に対してカード忘れに対する注意喚起を行うことができる。

【５７２５】

また、セリフの内容、音量または音声（声色）が、変更後の音量に対応して変化するようにしても良い。特に、セリフの内容（例えば、「カードの取り忘れにご注意下さい」又は「カードを確実にお持ち帰り下さい」）や声色が変わる場合（例えば、異なるキャラクターの声色）には、遊技者が自分の好みの音量に設定することを容易にすることができる。

【５７２６】

上記第４５実施形態では、エンディング演出で注意コメント表示Ｂ８１５や第２注意コメント表示Ｂ８１９に表示されるコメントが、遊技者が設定変更できる対象と一致する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者が設定変更できる対象と一致しないコメントが表示されるようにしても良い。

【５７２７】

この場合において、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合に、注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に「大当たり！？」や「大チャンス発生中」という期待表示（大当たりが獲得可能であるかもしれないと遊技者に期待させるコメント表示）を行うことで、遊技者はエンディング演出中に次の大当たりの獲得に期待することができるので、エンディング演出に対する遊技者の注目力を向上させることができると共に、遊技者の枠ボタンＢ２２の操作意欲を高めることができる。

【５７２８】

注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に期待表示がされ、既に大当たりの獲得が期待できる場合、球の無駄打ちを避けるため、大当たり遊技が開始されるまでは球の発射を控えることが通常である。そのため、エンディング演出の終了時点に合わせて時間表示Ｂ８１１を終端位置Ｂ８１２に到達させるようにしても、遊技者の注目力を高めることができない可能性が高い。

【５７２９】

そこで、時間表示Ｂ８１１を、エンディング演出の終了時点で終端位置Ｂ８１２に到達させる態様ではなく、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成しても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２に対する遊技者の注目力を向上させることができる。

【５７３０】

この場合において、時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２は、エンディング演出にお

いて表示開始され大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングまで表示が継続されるようにしても良いし、エンディング演出においては表示されずにその後の変動演出への移行後に表示されるようにしても良い。

【５７３１】

前者の場合、エンディング演出を見ている段階から既に大当たりを獲得できていることに遊技者は気付けるので、大当たり遊技の終了直後に球を発射する必要性はないことを遊技者は把握することができる。そのため、遊技者は球の打ち出しを抑えることができる。

【５７３２】

後者の場合、エンディング演出から変動演出へ移行されたら大当たりとなる抽選の変動演出を待たずに時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２が表示されても良いし、大当たりとなる抽選の変動演出が開始された後または変動演出の開始と同時に表示されるようにしても良い。いずれの場合であっても、遊技者は、変動演出が終了する前から大当たりとなることを把握することができるので、例えば、変動演出が長時間となる（例えば、１変動に１０分を要する）場合であっても、遊技者は球の打ち出しを抑えることができるし、保留している始動入賞に大当たりがあることに気付かずに遊技機を離席するという事態を回避し易くすることができる。

【５７３３】

なお、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合に、エンディング演出では期待表示を表示しないが、変動演出中に時間表示Ｂ８１１及び終端位置Ｂ８１２が表示され、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成しても良い。

【５７３４】

なお、保留されている始動入賞の内に大当たりとなるものがある場合において、大当たりとなる始動入賞の個数に対応して表示態様を変えるようにしても良い。例えば、大当たりとなる始動入賞の個数が２個の場合に、「大当たり×２！？」との期待表示を注意コメント表示Ｂ８１５又は第２注意コメント表示Ｂ８１９に表示するようにしても良いし、「複数回大当たり！？」との期待表示として、複数の大当たりとなるが、大当たりとなる始動入賞が何個あるかは不明とするようにしても良い。これにより、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【５７３５】

この時、時間表示Ｂ８１１を、大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングで終端位置Ｂ８１２に到達させる態様で構成する場合には、エンディング演出の終了から最初に大当たりとなる抽選の変動演出が終了するタイミングとすることで、遊技者の気持ちを大当たり遊技へスムーズに移行させることができる。

【５７３６】

また、遊技者が設定変更できる対象と一致しないコメントの表示位置を、小領域ＢＤｓ３に設定し、枠ボタン表示Ｂ８１３の表示中に枠ボタンＢ２２が操作されることで枠ボタン表示Ｂ８１３が消えたら、そのコメントを視認可能とするように構成しても良いし、コメントの表示を表示画面全体（全画面表示）に設定しても良い。この場合、遊技者の枠ボタンＢ２２の操作意欲を高めることができる。

【５７３７】

上記第４５実施形態では、カード忘れ防止表示演出から次の変動演出に移行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、カード忘れ防止表示演出と次の変動表示画面との間に、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に一枚絵（静止画）を表示させるようにしても良い。この場合において、一枚絵の表示開始時点で、図柄変動が開始される場合には、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングは、一枚絵が表示開始される時点に合うように設定すると良い。

【５７３８】

また、大当たり遊技終了後の変動表示画面に移行してから暫くしてから図柄変動が開始されるようにしても良い。この場合には、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２

に到達するタイミングは、大当たり遊技終了後の変動表示画面に移行してからのタイミングに設定すると良い。

【５７３９】

上記第４５実施形態では、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達したタイミングを、遊技者が球を発射開始するのに適したタイミングとして構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１が、遊技者が球を発射することで所定の利益を得られる期間中に表示され、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達したタイミングを、遊技者が球の発射を終了するのに適したタイミングとして構成するようにしてもいい。この場合、時間表示Ｂ８１１が右方に移動している期間中において、遊技者に球を発射させることを促すことができ、且つ、適切なタイミングで球の発射を止めるように遊技者に促すことができる。

【５７４０】

また、この場合において、時間表示Ｂ８１１の右端部が終端位置Ｂ８１２に到達する前のタイミングにおいて規定の条件が満たされた場合には、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に「準備完了」等の文字列を表示したり、表示画面の表示を切り替えたりして、規定の条件が満たされたことを遊技者に報知するようにしても良い。この場合において、規定の条件が満たされた後においても時間表示Ｂ８１１の表示を維持したままにしても良いし、規定の条件が満たされた場合には時間表示Ｂ８１１の表示を消すようにしても良い。

【５７４１】

例えば、特別図柄１（特別図柄２、又は両方）の保留球数が４個（満タン）になることを条件として表示画面に文字列が表示されるように遊技機が制御されていれば、遊技者は文字列を確認することで、球をこれ以上発射しても特別図柄１（特別図柄２、又は両方）の抽選を獲得することができないことを把握することができる。これにより、時間表示Ｂ８１１の移動速度を急激に変化させる等の制御をすることなく、適切なタイミングで球の発射を止めるように遊技者に促すことができる。

【５７４２】

上記第４５実施形態では、枠ボタンＢ２２を押す前は注意コメント表示Ｂ８１５が表示されており、枠ボタンＢ２２を押した後で第２注意コメント表示Ｂ８１９が表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。

【５７４３】

例えば、枠ボタンＢ２２を押した後も注意コメント表示Ｂ８１５のみが表示され、方向操作部８１６及び縦目盛り表示Ｂ８１７は表示されるが、横目盛り表示Ｂ８１８の表示はされないように制御しても良い。この場合、枠ボタンＢ２２を押す前から表示されていた注意コメント８１５の内容と、枠ボタンＢ２２を操作することで設定の変更が可能になる対象（光量）が一致するので、枠ボタンＢ２２の操作に対する遊技者の満足感を高めることができる。

【５７４４】

例えば、枠ボタンＢ２２を押す前において注意コメント表示Ｂ８１５が消えており第２注意コメント表示Ｂ８１９のみが表示されている場合には、枠ボタンＢ２２を押した後も第２注意コメント表示Ｂ８１９が表示され注意コメント表示Ｂ８１５の表示はされず、方向操作部８１６及び横目盛り表示Ｂ８１８は表示されるが、縦目盛り表示Ｂ８１７の表示はされないように制御しても良い。この場合、枠ボタンＢ２２を押す前から表示されていた第２注意コメント８１９の内容と、枠ボタンＢ２２を操作することで設定の変更が可能になる対象（音量）が一致するので、枠ボタンＢ２２の操作に対する遊技者の満足感を高めることができる。

【５７４５】

これにより、遊技者は、自分が設定を変更したい対象（音量または光量）の設定を変更できるか否かを予め確認した上で、枠ボタンＢ２２を操作するか否かを選択することができるので、枠ボタンＢ２２の操作負担を低減することができる。

【５７４６】

また、枠ボタン表示Ｂ８１３と、枠ボタンＢ２２を操作した場合における操作対象とが別箇所に表示される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８１３の三角マークが音符になっている場合には、枠ボタンＢ２２の操作により音量の調整が可能である一方で、枠ボタン表示Ｂ８１３の三角マークが電球マークになっている場合には、枠ボタンＢ２２の操作により光量の調整が可能となるように制御しても良い。即ち、枠ボタン表示Ｂ８１３自体の表示態様を変化させることで、枠ボタンＢ２２の操作により調整可能となる対象を報知するようにしても良い。

【５７４７】

また、枠ボタンＢ２２に対応する操作手段が複数あり、それぞれ形状が異なる場合には、枠ボタン表示Ｂ８１３として異なる形状に対応した表示を構成することができるので、枠ボタン表示Ｂ８１３によりどの操作手段を操作すればよいかを遊技者に報知することができる。この場合において、操作される操作手段に対応して、調整可能となる対象が変わるように構成しても良い。

【５７４８】

上記第４６実施形態では、スライド部材Ｂ２４５０が前突設部Ｂ２４５７と一体成形される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、前突設部Ｂ２４５７とスライド部材Ｂ２４５０とが別体で成形され、スライド部材Ｂ２４５０が前後方向にスライド移動することに伴う負荷伝達により、前突設部Ｂ２４５７が上下方向に出没変位することで、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが底面部Ｂ４３１ａの上面から張り出す場合と、底面部Ｂ４３１ａの上面から張り出さない場合とが切り替えられるように構成しても良い。

【５７４９】

この場合、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが前後方向に変位する場合に比較して、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂから球に対して与えられる負荷の、中央流路Ｂ２４３１における球の流下方向に沿う成分を小さくすることができるので、球干渉突設部Ｂ２４５８ａ，Ｂ２４５８ｂが前方へ変位した際に誤って球を加速させる事態が生じることを避け易くすることができる。

【５７５０】

上記第４８実施形態では、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５とが一体形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、転動板部Ｂ４４２１に妨害棒部Ｂ４４２５を組み付け可能に構成することで、妨害棒部Ｂ４４２５を組み付けずに使用する場合と、妨害棒部Ｂ４４２５を転動板部Ｂ４４２１に組み付けて使用する場合とで、転動板部Ｂ４４２１を兼用することができ、転動板部Ｂ４４２１を共通部品化することによるコストダウンを図ることができる。

【５７５１】

また、例えば、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５とを別体で形成し、転動板部Ｂ４４２１の動作時に妨害棒部Ｂ４４２５が連動するよう構成しても良い。これにより、転動板部Ｂ４４２１と妨害棒部Ｂ４４２５との配置の自由度を向上することができる。なお、この場合において、転動板部Ｂ４４２１を駆動する駆動装置を、妨害棒部Ｂ４４２５を駆動する駆動装置と兼用するようにしても良いし、別の駆動装置を用意しても良い。

【５７５２】

上記第４８実施形態では、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部が、案内部Ｂ４４１３の右端部よりも右側に配置される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、転動板部Ｂ４４２１の下流側端部が左方に延長され、案内部Ｂ４４１３の上面に被さるように形成されても良い。この場合、転動板部Ｂ４４２１の上面を転動して流下する球をスムーズに案内部Ｂ４４１３に乗せることができる。即ち、球の重みで転動板部Ｂ４４２１の高さ位置が下がり（沈み込み）、転動板部Ｂ４４２１の上面が案内部Ｂ４４１３の上面よりも低位置に配置され、転動板部Ｂ４４２１の下流側に到達した球が案内部Ｂ４４１３側に移る際の流下抵抗が大きくなる事態が生じることを防止することができる。転動板部Ｂ４４２１の上流側端部や、可変入賞装置Ｂ６５の開閉部材の両端部においても

同様のことがいえる。
【５７５３】
上記第４８実施形態では、電動役物Ｂ４４２０が前後方向にスライド変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回動変位するように構成しても良い。回動変位の回転軸は、例えば、上記第４８実施形態において転動板部Ｂ４４２１が出没する開口部（流路構成部Ｂ４４１０の背面側に形成される横長の開口部）において開口部に沿う方向に延びるように配設されても良い。
【５７５４】
その回転軸から下方に垂れ下がるように横長矩形状の開閉板を形成する。開閉板が垂れ下がった状態が非案内状態に対応し、この状態において開閉板の下流側端部において妨害棒部Ｂ４４２５に対応するように球の通過を妨害可能な妨害部分が形成される。非案内状態から開閉板が起き上がる方向（後転方向）に９０度回動されることで、開閉板が案内部Ｂ４４１３側に球を案内可能な状態とされ、この状態が案内状態に対応する。この状態において、妨害部分は流路構成部Ｂ４４１０の背面側に退避される。
【５７５５】
このように構成することで、非案内状態において回転軸よりも板状部Ｂ４４１２側へ球が流れた場合であっても、開閉板が後転方向に変位する際の球の配置次第で、球を回転軸よりも上側に救い上げることができる。
【５７５６】
また、回動変位の回転軸は、例えば、上記第４８実施形態において転動板部Ｂ４４２１が出没する開口部の下端部において前後方向に延びるように配設されるようにしても良い。回転軸から、第４８実施形態における案内状態と同様の方向に開閉板が延びる状態を案内状態として構成する。案内状態から、回転軸を中心に反時計回りに９０度回転する状態（非案内状態に対応する）にまで開閉板が回動変位できるように、球入口Ｂ４４１１及び天井部Ｂ４４１４の上下配置が上方に引き上げられている。即ち、本構成によれば、案内状態から、開閉板が反時計回りに９０度回動された状態が非案内状態として構成されることとなり、第４８実施形態における転動板部Ｂ４４２１と、妨害棒部Ｂ４４２５とが、同じ部分により構成されることになる。
【５７５７】
このように構成することで、開閉板が案内状態から非案内状態へ向けて回動される場合に、案内状態において開閉板の上面に乗っている球を、残らず案内部Ｂ４４１３側へ案内することができる。これにより、第４８実施形態において電動役物Ｂ４４２０が案内状態から非案内状態へ向けてスライド変位される場合に、案内状態において転動板部Ｂ４４２１の上面に乗っている球がほとんど板状部Ｂ４４１２側に流下することに比較して、案内部Ｂ４４１３側へ球を容易に案内させることができる。
【５７５８】
上記第４９実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａと開口部Ｂ７５１との間に回転変位する球受回転部材Ｂ５７７１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右に首振り可能に構成される回動部から形成され、球の流下経路を左右いずれかに振り分けるように動作可能としても良い。
【５７５９】
また、例えば、スライド変位する開閉板を配設するようにしても良い。この場合において、開閉板を、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路または開口部Ｂ７５１の開閉に利用するようにしても良い。
【５７６０】
また、開閉板が、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路または開口部Ｂ７５１上に配置されるように構成することで、球の流下経路を切り替えるように構成しても良い。即ち、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路が開放される一方で開口部Ｂ７５１が閉鎖される状態と、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の領域への流路が閉鎖される一方で開口部Ｂ７５１が開放される状態と、を開閉板により切り替え可能に構成しても良い。

【５７６１】
上記第４９実施形態では、球受凹部Ｂ５７７２に球が１個ずつ受け入れられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、１を超える所定数（例えば、２個ずつ）受け入れられるように構成しても良い。この場合、球受回転部材Ｂ５７７１が一定速度で回転動作する場合に、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に複数個（所定数）の球をまとめて入球させることができる。
【５７６２】
上記第４９実施形態では、球受回転部材Ｂ５７７１が時計回り方向に常に回転動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、常時回転動作することは同じとして、所定間隔で反時計回り方向に回転する動作タイミングを入れるようにしても良い。この場合、例えば、球受凹部Ｂ５７７２と流下規制部材Ｂ５７７８との間で球噛みが生じた場合であっても、回転方向が反転することにより球噛みの解消を図ることができる。
【５７６３】
また、所定の大当たり種別の場合に、ラウンド遊技の初めの１０秒間は球受回転部材Ｂ５７７１が停止され、１０秒間が経過した後で球受回転部材Ｂ５７７１が回転動作されるようにしても良い。この場合、初めの１０秒間において一対の貯留板部Ｂ７１５側（開口部Ｂ７５１側）に球が流下しないようにすることができるので、釘ＢＫＧ１の状態として移動上蓋部材Ｂ７３０側に導かれる球よりも逸れる球の方が多いような状態の方が、初めの１０秒間における第２特定入賞口Ｂ７００ａの入球個数を減らせることから、開口部Ｂ７５１を球が通過する可能性を高めることができる。
【５７６４】
また、大当たり種別ごとに、球受回転部材Ｂ５７７１の回転方向や、回転速度（一定か可変かも含めて）や、回転方向の反転の有無等を設定するようにしても良い。この場合、球受回転部材Ｂ５７７１に対する注目力を向上させることができる。
【５７６５】
上記第４９実施形態では、第２特定入賞口Ｂ７００ａと球受回転部材Ｂ５７７１との間の距離が、第２特定入賞口Ｂ７００ａから球受凹部Ｂ５７７２に球が流れる際に球が横に零れない程度に狭い場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第２特定入賞口Ｂ７００ａと球受回転部材Ｂ５７７１との間の距離が球の直径よりも長くされ、球受凹部Ｂ５７７２が球で満たされている場合に第２特定入賞口Ｂ７００ａを通過した球は横に零れて傾斜板部Ｂ５７１８ｂへ流れるように構成しても良い。
【５７６６】
この場合、球受回転部材Ｂ５７７１の回転が停止されても第２特定入賞口Ｂ７００ａへの入球が滞ることが無いので、球受回転部材Ｂ５７７１を所定のタイミングで停止させる制御を行うことができる。
【５７６７】
ラウンド遊技中において球受回転部材Ｂ５７７１を停止させる時には、次に球受回転部材Ｂ５７７１が動作開始されるまで球が一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に流入しないようにすることができるので、一対の貯留板部Ｂ７１５の間の位置に球が導入されるタイミングや、開口部Ｂ７５１を球が通過するタイミングを遅らせることができる。
【５７６８】
上記第５０実施形態では、発射時間表示Ｂ６８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングから、時間表示Ｂ８１１の右先端部が終端位置Ｂ８１２に到達するタイミングまでに経過する所定の時間長さは、球が発射されてからスルーゲートＢ６６，Ｂ６７（目標示唆表示Ｂ６８２２により指し示される位置）に到達するまでに経過する平均的な長さよりも若干長くなるように設計される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、球が発射されてからスルーゲートＢ６６，Ｂ６７に到達するまでに経過する平均的な長さを比較対象として、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７への入球確率を加味して、より長い時間で上述の所定の時間長さを設計するようにしても良い。

【５７６９】
上記第５０実施形態では、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に目標示唆表示Ｂ６８２２としてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を狙うことを促す表示を構成したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、大当たり遊技や、時短状態、確変状態または特殊確変状態における遊技が右打ちで行われる遊技機では、目標示唆表示Ｂ６８２２の代わりに「右打ち」との表示を表示画面に表示させるようにしても良い。また、目標示唆表示Ｂ６８２２が拡大されるタイミングでは、「右打ち」の表示が全体として大型化されるように構成しても良い。または、エンディング演出中に亘り「右打ち」の表示が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面のどこかにされるよう構成しても良いし、エンディング演出の途中から「右打ち」の表示が第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面のどこかにされるよう構成しても良い。

【５７７０】
例えば、目標示唆表示Ｂ６８２２がファンファーレ演出で表示される場合、上側可変入賞装置Ｂ７００の第２特定入賞口Ｂ７００ａや開口部Ｂ７５１を狙うことを示唆するように目標示唆表示Ｂ６８２２を設計しても良い。この場合において、開口部Ｂ７５１で球の通過が検出されるまで、目標示唆表示Ｂ６８２２が、１ラウンド目のラウンド遊技中において表示画面に維持されるように設定される場合、遊技者は目標示唆表示Ｂ６８２２が消えることで球が開口部Ｂ７５１を通過したことを把握することができるため、目標示唆表示Ｂ６８２２に対する注目力を向上させることができる。

【５７７１】
また、目標示唆表示Ｂ６８２２のように表示画面においてスルーゲートＢ６６，Ｂ６７を狙うことを促す方法の他に、例えば、遊技盤Ｂ１３のスルーゲートＢ６６，Ｂ６７付近を発光させる発光手段を配設させておき、目標示唆表示Ｂ６８２２がされるタイミングに倣って発光手段を発光させるようにしても良い。これにより、遊技者は、光を頼りにして球を狙う位置を把握することができる。

【５７７２】
また、目標示唆表示Ｂ６８２２は、エンディング演出において表示される場合を説明したが、これに限られるものではない。例えば、エンディング演出から変動演出に移行する場合に、その変動演出においても、所定期間は継続して目標示唆表示Ｂ６８２２の表示を維持するように構成しても良い。また、目標示唆表示Ｂ６８２２の表示期間は、所定の時間幅で設定されても良いし、目標とされる入球口での球の入球が（所定個数、例えば第１図柄の保留球数として許容される個数、本実施形態では４個）検出されるまで継続されても良い。

【５７７３】
上記第５０実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が球の発射の停止を促すために使用される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１を、枠ボタンＢ２２の操作の停止を促すために使用するようにしても良い。これにより、枠ボタンＢ２２の操作として不適切なタイミングとは知らずに枠ボタンＢ２２を操作するような遊技者に対して、不適切なタイミングで枠ボタンＢ２２を操作していることを分からせることができるので、遊技負担を低減させることができる。

【５７７４】
また、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１を、「右打ち」の実行を停止させることを促し、「左打ち」については停止させないような表記（例えば、「左打ちに戻してください」というコメント）で構成しても良い。

【５７７５】
また、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１の代わりに、電飾部Ｂ２９～Ｂ３３や表示ランプＢ３４等を強烈に発光させたり、異常色（例えば、濃赤色）で発光させたりしても良いし、スピーカーから大音量で「球の発射を止めてください」とか「左打ちに戻してください」等のコメントを出力したりしても良い。

【５７７６】

上記第５０実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が、エンディング演出の終了前にスルーゲートＢ６６，Ｂ６７での球の通過が検出された場合に表示されると説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。即ち、所定の入球口への球の入球が予定されていない期間であるにも関わらず、所定の入球口での入球が検出された場合に表示するようにしても良い。

【５７７７】

所定の入球口としては、スルーゲートＢ６６，Ｂ６７に限られるものではなく、様々な入球口（一般入賞口Ｂ６３、第１入賞口Ｂ６４、第２入賞口Ｂ６４０、スルーゲートＢ６７、特定入賞口Ｂ６５ａ、第２特定入賞口Ｂ７００ａ、開口部Ｂ７５１等）が例示される。

【５７７８】

例えば、球の入球が予定されていない期間としては、エンディング演出の実行中の他に、右打ち機（時短状態など所定の期間において右打ちで遊技を行う遊技機）において、所定の期間以外の期間が例示される。即ち、所定の期間以外の期間に、遊技領域の右側に配置される入球口での入球が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示されるように設定することで、不適切なタイミングで遊技者が右打ちすることを抑止することができる。

【５７７９】

また、例えば、球の入球が予定されていない期間としては、大当たり遊技におけるファンファーレ演出中やラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１が例示される。即ち、ファンファーレ演出中やラウンド間第１インターバル時間ＢＩｎｔ１に、入球口での入球が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示されるように設定することで、特定入賞口Ｂ６５ａや第２特定入賞口Ｂ７００ａへの流下経路が開放されていない（閉鎖されている）タイミングにおける球の発射を抑制でき、無駄球の発生を最小限に抑えることができる。

【５７８０】

上記第５０実施形態では、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１により即時の球の発射の停止を促す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、所定の始動口（例えば、第２入賞口Ｂ６４０）の入球に伴う抽選の保留球数に対応して表示を変えるようにしても良い。

【５７８１】

即ち、例えば、球の発射により所定の始動口への入球が期待できるよう制御され、保留球数が満タン（４個）となるまで余裕がある場合には（例えば、保留球数が２個の場合には）、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１としてその余裕分として遊技者が把握できるコメントを表示したり（例えば、「あと２個」）、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１は表示せずに遊技準備示唆表示Ｂ６８４１を表示したりして、保留球数が満タンとなったら、上記第５０実施形態で説明したような遊技停止示唆表示Ｂ６８３１や、「準備完了」等のコメントのように球の発射が不要であることを示唆するように構成しても良い。

【５７８２】

上記第５０実施形態では、球の発射が検出された場合に遊技停止示唆表示Ｂ６８３１が表示され、球の発射の停止を促す場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技停止示唆表示Ｂ６８３１の代わりに、又は遊技停止示唆表示Ｂ６８３１に合わせて、遊技者に利益の有る情報が表示（報知）されるように構成しても良い。これにより、球を無駄打ちしたという残念感だけが遊技者に与えられる場合に比較して、遊技者の残念感を低減させることができる。そればかりか、場合によっては、エンディング演出において遊技者が好んで球を発射するように仕向けることができる。

【５７８３】

この場合において、遊技者に利益の有る情報としては、例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が第１図柄の低確率状態なのか第１図柄の高確率状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後の遊技状態が通常状態なのか時短状態なのか確変状態なのか特殊確変状態

なのかという情報や、大当たり遊技終了後に所定の抽選回数が経過した後に電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが変化するのか変化しないのかという情報や、現在保留されている第１図柄の抽選の保留球の中に大当たりとなるものがあるのか無いのかという情報や、遊技機が第１図柄の大当たり確率の設定を変更できる（例えば、低確率状態の大当たり確率を、１／３２０で設定する（設定１）か、１／２５６で設定する（設定２）かを変更でき、高確率状態の大当たり確率を、１／３２で設定する（設定１）か、１／２６で設定する（設定２）かを変更できる）よう構成される場合に現在の大当たり確率の設定が示唆される情報などが例示される。

【５７８４】

上記第５１実施形態では、光量や音量の設定変更を実行してから規定の時間が経過すると、設定変更がキャンセル（初期化）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、設定変更がキャンセルされる条件としては種々の態様が例示される。例えば、遊技が開始される前に表示画面において実行される遊技説明表示（所謂デモ画面）への移行を設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、時刻を判定できるように制御しておいて規定の時刻になることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、当日または複数日での大当たり回数が規定の大当たり回数とることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【５７８５】

また、所定のタイミング（例えば、遊技開始前における遊技説明表示において枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されているタイミングや、遊技中において枠ボタン表示Ｂ８１３が表示されていないタイミング等）において枠ボタンＢ２２が操作されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、エンディング演出中に所定の入賞口またはスルーゲートＢ６６，Ｂ６７で球の通過が検出されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、所定の大当たり種別の大当たりを獲得することを設定変更がキャンセルされる条件としても良いし、上皿Ｂ１７に貯留される球の量が許容量を超えた場合に報知される球抜き報知が実行されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【５７８６】

また、右打ち遊技すべきではないタイミングにおいてスルーゲートＢ６７で球の通過が検出されるなど球が右側遊技領域Ｂ３０３を流下していると判定された場合に行われるよう設定される報知であって、遊技者に左打ちで遊技を行うことを促すための報知（例えば、「左打ちに戻してください」等の音声を出力する報知、第３図柄表示装置Ｂ８１の表示画面に左向きの矢印と「左打ちに戻してください」というコメントを表示する報知）が実行されることを設定変更がキャンセルされる条件としても良い。

【５７８７】

上記第５１実施形態では、エンディング演出において音量も光量も設定変更可能である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、音量のみを変更できる状態と、光量のみを変更できる状態と、音量も光量も変更できる状態と、を切り替え可能に構成しても良い。この切り替えは、枠ボタンＢ２２の操作で切り替えても良いし、実行される演出に対応して音声ランプ制御装置Ｂ１１３により切り替えられるようにしても良い。

【５７８８】

上記第５１実施形態では、音量や光量の設定変更がキャンセルされる直前における音量や光量の設定が過去光量表示Ｂ７８１７や過去音量表示Ｂ７８１８により遊技者が把握可能とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、現在の状態と、直前の設定値との差を表す数値を、「＋１」や「－２」等の表示や音声で報知しても良い。この場合、キャンセルされる前の設定に戻すために必要な操作を遊技者に把握させ易くすることができる。

【５７８９】

上記第５１実施形態では、音量や光量の設定がキャンセルされる前の状態における設定を示唆する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技者が

音量や光量の設定変更を実行している際に、設定変更前の設定が示唆されるように構成しても良い。この場合、遊技者が意図的に変更をかけたとしても、実際変更してみたら気に入らなかったというのであれば、元の設定に容易に戻すことができる。そのため、音量や光量の設定変更に対するハードルを下げることができる。

【５７９０】

上記第５２実施形態では、点在する枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体したら実体化し、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる表示態様を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２の操作を促す表示としてではなく（操作に関わる表示であるか否かに関わらず）、エンディング演出の経過時間の目安となる演出として、半透明の枠ボタン表示Ｂ８８１３が所定のタイミングで実体化するように構成しても良い。

【５７９１】

また、例えば、半透明な単一の枠ボタン表示Ｂ８８１３が移動または停止しており、所定のタイミングで半透明な状態と実体化される状態とで切り替えられるように表示しても良い。この場合、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化されるタイミングを遊技者が予想し難くすることができるので、枠ボタン表示Ｂ８８１３に対する注目力を向上させることができる。

【５７９２】

上記第５２実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化するタイミングを枠ボタンＢ２２の操作タイミングとして表示する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、時間表示Ｂ８１１が移動する横長形状の枠に枠ボタンＢ２２の操作タイミングを示唆するマークやコメント（「ＰＵＳＨ」等）などを表示するようにしても良い。この場合、時間表示Ｂ８１１を、エンディング演出の終了タイミングを示唆する目的と、枠ボタンＢ２２の操作タイミングを示唆する目的とで兼用することができる。

【５７９３】

上記第５２実施形態では、点在している枠ボタン表示Ｂ８８１３が、移動して合体した後で更に離れる方向に移動する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８８１３が合体して実体化した後、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる期間を過ぎたら、枠ボタン表示Ｂ８８１３が消えるように制御しても良い。

【５７９４】

上記第５２実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３が半透明か実体化しているかが、枠ボタンＢ２２の操作が有効となるか無効となるかに対応する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタン表示Ｂ８８１３が実体化している期間において、枠ボタンＢ２２の操作が無効となる状態と、枠ボタンＢ２２の操作が有効となる状態とを構成しても良い。

【５７９５】

例えば、枠ボタンＢ２２の操作の有効または無効の切替のタイミングは上記第５２実施形態で説明した態様と同じに設定しながら、カード忘れ防止表示演出が開始された直後から枠ボタン表示Ｂ８８１３が表示画面の中央で実体化されて表示されるように構成しても良い。

【５７９６】

上記第５２実施形態では、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３が枠ボタンＢ２２の操作が無効になる期間と有効になる期間との区切りとして設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３はそれぞれ枠ボタンＢ２２の操作が有効とされ、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の違いは、枠ボタンＢ２２の操作により移行する演出態様の違いとして設定されるようにしても良い。

【５７９７】

即ち、第１期間ＢＴ８１において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更が可能となるが光量の設定変更は可能とならない調整表示画面に移行し、第２期間ＢＴ８２において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更も光量の設定変更も可能

となる調整表示画面に移行し、第３期間ＢＴ８３において枠ボタンＢ２２を操作した場合には、音量の設定変更が可能とならず光量の設定変更は可能となる調整表示画面に移行するようにしても良い。また、これとは別に、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の違いを、枠ボタンＢ２２の操作により移行する演出表示（表示が実行される動画）の違いとして設定されるようにしても良い。

【５７９８】

上記第５２実施形態では、各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３が同じ長さに設定される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さは任意に設定可能であり、その設定内容は種々の条件に対応させることができる。

【５７９９】

例えば、大当たり種別ごとに各期間ＢＴ８１，ＢＴ８２，ＢＴ８３の長さの設定を変えるようにしても良いし、確変状態が複数回続く連荘継続中においては今更設定を変更する可能性は少ないとして第２期間ＢＴ８２を短くするように設定しても良い。

【５８００】

また、特に音量や光量が大きくなる大当たり種別（最大ラウンドの大当たりや、格別に演出が激しい（長い）大当たり）の場合には設定変更を実行し易いように第２期間ＢＴ８２を長くするように設定しても良い。この場合において、第１期間ＢＴ８１を短く設定しておくと、エンディング演出において音量や光量の設定変更を実行する期間を長く確保することができるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【５８０１】

上記第５２実施形態では、枠ボタン表示Ｂ８８１３の表示態様に従い枠ボタンＢ２２を操作することで光量や音量の設定変更を実行可能となる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、枠ボタンＢ２２を操作することで、遊技者に利益の有る情報が表示されるようにしても良い。

【５８０２】

この場合において、遊技者に利益の有る情報としては、上述したのと同様に、例えば、大当たり遊技終了後の遊技状態が第１図柄の低確率状態なのか第１図柄の高確率状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後の遊技状態が通常状態なのか時短状態なのか確変状態なのか特殊確変状態なのかという情報や、大当たり遊技終了後に所定の抽選回数が経過した後に電動役物Ｂ６４０ａの作動パターンが変化するのか変化しないのかという情報や、現在保留されている第１図柄の抽選の保留球の中に大当たりとなるものがあるのか無いのかという情報や、遊技機が第１図柄の大当たり確率の設定を変更できる（例えば、低確率状態の大当たり確率を、１／３２０で設定する（設定１）か、１／２５６で設定する（設定２）かを変更でき、高確率状態の大当たり確率を、１／３２で設定する（設定１）か、１／２６で設定する（設定２）かを変更できる）よう構成される場合に現在の大当たり確率の設定が示唆される情報などが例示される。

【５８０３】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第１中間部材Ｃ１４０，Ｃ２１４０の底面部Ｃ１４２，Ｃ２１４２を球が直列に転動し、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０（受入部Ｃ１７２，Ｃ２１７２，Ｃ３１７２又は転動部Ｃ１７３，Ｃ２１７３，Ｃ３１７３）に同時に１球のみが流入される場合を説明したが、第１中間部材Ｃ１４０，Ｃ２１４０の底面部Ｃ１４２，Ｃ２１４２を２球以上が並列に転動可能とし、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０（受入部Ｃ１７２，Ｃ２１７２，Ｃ３１７２又は転動部Ｃ１７３，Ｃ２１７３，Ｃ３１７３）に同時に２球以上が流入される構成であっても良い。

【５８０４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、遊技領域のうちの正面視左側（図１９７左側）の領域（センターフレームＣ８６（上側フレームＣ８６ａ）とレール６１との間の領域）を流下される球が下側フレームＣ８６ｂ，Ｃ２０８６ｂ，Ｃ３０８６ｂに流入（入球）される場合を説明したが、これに代えて、又は、これに加えて、遊技領域のうちの正

面視右側（図１９７右側）の領域を流下される球が下側フレームＣ８６ｂ，Ｃ２０８６ｂ，Ｃ３０８６ｂに流入（入球）される構成であっても良い。

【５８０５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、受入口ＣＯＰｉｎ，ＣＯＰ２０００ｉｎに１本の上側フレーム通路ＣＲｔ０が連通される場合を説明したが、上側フレームＣ８６ｂに複数本の上側フレーム通路ＣＲｔ０を形成し、それらが受入口ＣＯＰｉｎ，ＣＯＰ２０００ｉｎに連通される構成であっても良い。

【５８０６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が自重により第１位置へ復帰される場合を説明したが、付勢手段を設け、その付勢手段の付勢力を、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が第１位置へ復帰する際の補助力として付与しても良い。或いは、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０が第２位置へ変位する際の補助力として付与しても良い。なお、付勢手段としては、コイルばね、ねじりばね、板ばね等が例示される。

【５８０７】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０が軸Ｃ１９２，Ｃ２１７４に直接軸支される場合を説明したが、振分部材Ｃ１７０，Ｃ２１７０をリンク機構により変位可能としても良い。この場合、リンク機構は、平行リンク機構であっても良い、不等長リンク機構であっても良い。

【５８０８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分部材Ｃ２１７０の転動部Ｃ２１７３を転動した球が通過する通路（第４通路ＣＲｔ２００４）が磁性部Ｃ２４００により形成される場合を説明したが、他の通路と同様に、球を転動面に沿って転動させて通過（流下）させる通路として第４通路ＣＲｔ２００４を形成しても良い。

【５８０９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、案内溝Ｃ３１３１ｃが直線状に形成される場合を説明したが、曲線状に湾曲して形成されていても良い。また、直線と曲線とを組み合わせた形状であっても良い。

【５８１０】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２の円弧部Ｃ４１２２ｂは、上面視における円弧形状が一様（同一の曲率）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、異なる半径を有する円弧形状が組み合わされて形成されてもよい。例えば、円弧部Ｃ４１２２ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の一端側および他端側における円弧の曲率が、それら一端側および他端側の間の領域（流出面Ｃ１２２ａを含む領域）における円弧の曲率よりも大きくされる、即ち、流出面Ｃ１２２ａを含む領域における円弧の曲率が小さくされてもよい。この場合、初期段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。

【５８１１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２の延設方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）と鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）とを含む平面での断面形状が、円弧部Ｃ４１２２ｂでは、略水平に形成される、即ち、円弧部Ｃ４１２２ｂの上面（転動面）は、鉛直方向に直交する平面として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる円弧状に湾曲して形成されてもよい。または、一対の直線部Ｃ４１２２ａと同様の下降傾斜する平面として形成されてもよ

く、一対の直線部Ｃ４１２２ａと異なる下降傾斜する平面として形成されてもよい。これらにより、初期段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍まで球が往復動する段階）では、球を往復動させ易くすると共に先行する球に後行する球を追いつかせ易くしつつ、往復動する球の転動速度が低くなった段階（下側底面部Ｃ４１２２の長手方向の一端側および他端側またはその近傍までは球が到達せず、流出面Ｃ１２２ａを含む比較的狭い領域で球が往復動する段階）では、先行する球と後行する球とが連なった状態を維持させ易くできる。その結果、両球が連なった状態を維持させつつ、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。

【５８１２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、下側底面部Ｃ４１２２（直線部Ｃ４１２２ａ及び円弧部Ｃ４１２２ｂ）が切り欠き部Ｃ１２４ａから離間する方向（矢印Ｌ方向）へ向けて下降傾斜して形成されてもよい。これにより、切り欠き部Ｃ１２４ａと反対側（対向する側）に位置する下側側壁部Ｃ４１２４に球を押し付けつつ、かかる球を下側底面部Ｃ４１２２（第２通路ＣＲｔ４００２）で転動（往復動）させることができる。

【５８１３】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、流出面Ｃ１２２ａの周囲に鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて突部が突設されてもよい。これにより、流出面Ｃ１２２ａから下側底面部Ｃ１２２，Ｃ２１２２，Ｃ４１２２の延設方向両端側へ球が転動することを抑制でき、底面部Ｃ１４２（第３通路ＣＲｔ３）へ流出（流下）させ易くできる。

【５８１４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、磁性部Ｃ５４００の底面の断面形状は、幅方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に直線状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、磁性部Ｃ５４００の突部の底面の断面形状は、円弧状に湾曲して形成されてもよい。その円弧形状が、球の半径と略同一の半径を有し、鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）へ向けて凸となる場合、球と磁性部Ｃ５４００との接触面積を増やすことができ、球が磁性部Ｃ５４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。一方、円弧形状が、鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）へ向けて凸となる場合、流下する際に球が揺れる態様を形成できると共に、球が磁性部Ｃ５４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。その結果、球の挙動を遊技者に注目させ、遊技の興趣を高めることができる。

【５８１５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、磁性部Ｃ６４００の突部の底面が、背面部材Ｃ２１３０を向く傾斜面（即ち、鉛直方向上方ほど背面部材Ｃ２１３０に近接する面）として形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、背面部材Ｃ２１３０とは反対側を向く傾斜面（即ち、鉛直方向上方ほど背面部材Ｃ２１３０から離間する面）として形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ６４００に吸着された球と背面部材Ｃ２１３０とが離間する位置に配設させることができ、磁性部Ｃ６４００に沿って流下される球と背面部材Ｃ２１３０とが当接することを抑制できる。

【５８１６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の本体部Ｃ２１３１が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に向かうに従い磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００側（矢印Ｆ方向側）に近づく傾斜面（即ち、鉛直方向下方ほど磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００側に近接する面）として形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００と背面部材Ｃ２１３０とで磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００に沿って流下される球を挟み込むことができ、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。

【５８１７】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設される磁石Ｃ２３００に加え、その鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に磁石Ｃ２３００が追加して配設されてもよい。追加された磁石Ｃ２３００が、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４

００に吸着された球の中心よりも鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に配設される場合、追加された磁石Ｃ２３００により球に作用する磁力の向きが鉛直方向上方側となるため、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。一方、追加された磁石Ｃ２３００が、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に吸着された球の中心よりも鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に配設される場合、追加された磁石Ｃ２３００により球に作用する磁力の向きが鉛直方向下方側となるため、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。

【５８１８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、背面部材Ｃ２１３０の背面に配設される磁石Ｃ２３００が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に延設して形成されてもよい。これにより、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に加え、磁石Ｃ２３００から直接作用される磁力の効果により球を吸着でき、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の下流端へ移動する前に落下することを抑制できる。

【５８１９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の磁力に強弱の差を設けてもよい。例えば、上流側に配設される磁石Ｃ２３００の磁力がその他の磁石Ｃ２３００の磁力に比べて強い場合、転動部Ｃ２１７３の上面（転動面）を転動した球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に吸着させ易くできる、即ち、第４通路ＣＲｔ２００４へ案内し易くできる。また、例えば、複数の磁石Ｃ２３００の一の磁石Ｃ２３００の磁力がその他の磁石Ｃ２３００の磁力に比べて弱い場合、その一の磁石Ｃ２３００を通過する球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。これにより、遊戯の興趣を高めることができる。

【５８２０】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の配列方向が変化されてもよい。例えば、上流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向に対し、下流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向が鉛直方向下方（矢印Ｄ方向）に傾斜して配列される、言い換えると、磁石Ｃ２３００が凸形状となる態様に配列される場合、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００に沿って流下する球を下流側に配列される磁石Ｃ２３００へ向かわせ易くでき、球が磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下することを抑制できる。一方、上流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向に対し、下流側に配列される磁石Ｃ２３００の配列方向が鉛直方向上方（矢印Ｕ方向）に傾斜して配列される、言い換えると、磁石Ｃ２３００が凹形状となる態様に配列される場合、磁石Ｃ２３００の上流側と下流側との境界において球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。また、磁石Ｃ２３００の配列形状は直線状に形成されてもよく、円弧状に形成されてもよい。また、磁石Ｃ２３００に代えて、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００が上記の形状（凸形状もしくは凹形状、且つ、直線状もしくは円弧状）に配列されてもよい。

【５８２１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の長手方向に沿って配列される複数の磁石Ｃ２３００の隣り合う磁石Ｃ２３００が離間して形成されてもよい。この場合、磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００の延設方向において球に磁力が作用されない区間を作ることができ、この区間において球を磁性部Ｃ２４００，Ｃ５４００，Ｃ６４００から落下される可能性（第５通路ＣＲｔ２００５に到達できない可能性）を高くできる。

【５８２２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１

７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が開放位置へ変位（回転）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ変位（回転）されるように形成しても良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置され、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が第２位置に配置された状態では、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置されるように形成しても良い。この場合には、第６通路ＤＲｔ６に球が流下（入球）されると、第６通路ＤＲｔ６に球が流下（入球）され難くなる側へ変位部材Ｄ１８０が変位（回転）される。よって、第１の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）し、その第１の球が第６通路ＤＲｔ６の終端に達するまでの間に、第２の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）されることを、第１の球が第６通路ＤＲｔ６に流下（入球）される場合よりも困難として、遊技の興趣を高めることができる。

【５８２３】

なお、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０に球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置へ変位（回転）されるように形成する場合には、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の初期位置（第１位置）から第２位置への変位（回転）が、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０に伝達される構造を、上述した場合（第５９実施形態から第６６実施形態の場合）と逆向きとすれば良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０が上述した場合と逆方向に回転されるように、伝達部Ｄ１７３，Ｄ３１７３と被伝達部Ｄ１９３，Ｄ３１９３の位置関係を設定すれば良い。

【５８２４】

具体的には、被伝達部Ｄ１９３を転動部材Ｄ１７０から離間する方向（図２４４（ａ）右側、矢印Ｒ方向）へ延設させるとと共に、その被伝達部Ｄ１９３の上方まで伝達部Ｄ１７３を延設し、転動部材Ｄ１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部Ｄ１７３が被伝達部Ｄ１９３を下方（矢印Ｄ方向）へ押し下げる（即ち、第５９実施形態の場合とは逆回り（図２４４（ａ）において時計回り）に伝達部材Ｄ１９０を回転させる）構成とすれば良い。

【５８２５】

また、被伝達部Ｄ３１９３を転動部材Ｄ１７０側（図２４９（ａ）左側、矢印Ｌ方向）へ延設させるとと共に、その被伝達部Ｄ３１９３の下方まで伝達部Ｄ３１７３を延設し、転動部材Ｄ３１７０が初期位置（第１位置）から第２位置へ変位（回転）される場合に、伝達部Ｄ３１７３が被伝達部Ｄ３１９３を上方（矢印Ｕ方向）へ押し上げる（即ち、第６１実施形態の場合とは逆回り（図２４９（ａ）において時計回り）に伝達部材Ｄ３１９０を回転させる）構成とすれば良い。

【５８２６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０を１の伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０により変位させる（転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を１の伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０により一対の変位部材Ｄ１８０へ伝達する）場合を説明したが、２の伝達部材を設け、一対の変位部材Ｄ１８０の一方を第１の伝達部材により、他方を第２の伝達部材により、それぞれ変位させる（転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を第１の伝達部材および第２の伝達部材により一対の変位部材Ｄ１８０の一方および他方へそれぞれ伝達する）構成としても良い。

【５８２７】

この場合、例えば、転動部材Ｄ１７０の変位を第１の伝達部材により、第２転動部材Ｄ４２２０の変位を第２の伝達部材により、それぞれ伝達する構成としても良い。これにより、変位部材Ｄ１８０の変位態様を多様化して、遊技の興趣を向上できる。

【５８２８】
上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第６通路ＤＲｔ６において、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面と中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って一定とされ、また、複数の突部Ｄ１３１ｆの先端を連ねた仮想面（平面）と、複数の突部Ｄ１４１ｇの先端を連ねた仮想面（平面）との間の対向間隔（矢印Ｆ－Ｂ方向の間隔）が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に沿って一定とされる場合を説明したが、これら両対向間隔のうちの少なくとも一方の対向間隔を上下方向に沿って変化させても良い。
【５８２９】
例えば、上方（矢印Ｕ方向、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２）の上面（転動面）から離間する方向）へ向かうに従って、対向間隔が狭くされるようにしても良い。これにより、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０（本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２）の上面（転動面）から跳ね上がった球を速やかに下降させ、球の重量を作用させやすくできる。かかる技術思想は、第８通路ＤＲｔ８における対向間隔においても同様である。
【５８３０】
上記第５３実施形態から第９４実施形態では、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面および中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面から突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇをそれぞれ突設する場合を説明したが、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０の本体部Ｄ１３１の正面および中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０の本体部Ｄ１４１の背面に凹部をそれぞれ凹設する構成としても良い。凹部によっても球の通過（転動）を遅延させることができる。
【５８３１】
上記第５３実施形態から第９４実施形態では、球の通過を遅延させる遅延手段の一例として、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを例示したが、他の手段を採用しても良い。他の手段としては、例えば、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２，Ｄ４２２２の上面（転動面）を通過（転動）する球が当接可能な位置に配設され、その当接により変位または変形される手段（例えば、風車、金属製の弾性ばね（板ばねやコイルばね）、樹脂製の弾性片、ゴムシートなど）が例示される。即ち、球との当接により発生するエネルギー（運動エネルギーや粘性抵抗）を利用して、球の通過を遅延させる手段が例示される。
【５８３２】
上記第５３実施形態から第９４実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２，Ｄ４２２２の上面（転動面）を平坦面とする場合を説明したが、その上面（転動面）に凹凸や段差を設けても良い。これにより、球に抵抗を付与して、その通過（転動）を遅延させられる。
【５８３３】
上記第５３実施形態から第９４実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に対して球の重量が作用されると、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球が流入（入球）しやすくされる場合を説明したが、これとは逆の構成としても良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の初期位置を開放位置とし、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に対して球の重量が作用されると、変位部材Ｄ１８０を閉鎖位置へ配置することで、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）へ球が流入（入球）され難くなるようにしても良い。この場合には、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）よりも第４通路ＤＲｔ４又は第５通路ＤＲｔ５への球の流入（入球）の方が有利な遊技状態としても良い。
【５８３４】
上記第５３実施形態から第９４実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を変位部材Ｄ１８０へ伝達する伝達部材Ｄ１９０

，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０を設ける場合を説明したが、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０を省略しても良い。即ち、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０と変位部材Ｄ１８０（変位部材Ｄ１８０ユニット）とを直接連結し、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０の変位を変位部材Ｄ１８０へ直接伝達する構成としても良い。

【５８３５】

例えば、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，８１７０又は第２転動部材Ｄ４２２０に、伝達部材Ｄ１９０（本体部Ｄ１９４）の溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒを設け、その溝Ｄ１９４Ｌ，Ｄ１９４Ｒに軸支部材Ｄ２１０の連結ピンＤ２１３を連結（挿通）させる。これにより、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０が省略される分、部品点数を削減して、製品コストを低減できる。

【５８３６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、初期位置（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態）において、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０の被伝達部Ｄ１９３と転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成される一方、伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３と転動部材Ｄ３１７０の伝達部Ｄ３１７３との間、及び、伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５と第２転動部材Ｄ４２２０の伝達部Ｄ４２２３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成されない場合を説明したが、これらを逆としても良い。

【５８３７】

即ち、初期位置（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態）において、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０の被伝達部Ｄ１９３と転動部材Ｄ１７０の伝達部Ｄ１７３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成されず、伝達部材Ｄ３１９０の被伝達部Ｄ３１９３と転動部材Ｄ３１７０の伝達部Ｄ３１７３との間、及び、伝達部材Ｄ１９０の錘部Ｄ１９５と第２転動部材Ｄ４２２０の伝達部Ｄ４２２３との間には、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の隙間が形成される構成としても良い。

【５８３８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０が回転可能とされる場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の少なくとも一方（又は両方）がスライド変位可能とされる構成でも良い。スライド変位される構成であっても、第６通路ＤＲｔ６への球の入球のしやすさを変化させ、遊技の興趣を向上できる。なお、スライド変位の態様としては、直線に沿って変位される態様、曲線に沿って変位される態様、直線と曲線とを組み合わせた形状に沿って変位される態様が例示される。

【５８３９】

この変位態様については、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、第２転動部材Ｄ４２２０、及び、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０についても同様であり、これらのうちの少なくとも１つ（又は全部）がスライド変位可能とされる構成でも良い。

【５８４０】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、第２転動部材Ｄ４２２０、及び、伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０が自重により初期位置へ復帰可能に構成される場合を説明したが、初期位置へ復帰させる方向へ付勢力を付与する付勢手段を設けても良い。これらの初期位置への復帰を速やかに行わせることができれば、変位部材Ｄ１８０の閉鎖位置への速やかな配置を可能とでき、遊技の興趣を向上できる。なお、付勢手段としては、コイルばね、板ばね、ねじりばね、ゴム状弾性体などが例示される。

【５８４１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、変位部材Ｄ１８０が一対配設される場合を説明したが、変位部材Ｄ１８０の配設数は、１個であっても良く、３個以上であっても

良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の変位によって第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化されれば足りる。

【５８４２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔が変化されることで、第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化される場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の対向間隔が変化されない形態であっても良い。例えば、一対の変位部材Ｄ１８０の一方と他方との変位（回転）方向が同方向とされる形態（対向間隔を一定としつつ、変位部材Ｄ１８０の先端側の開放部分の位置が左右（矢印Ｌ－Ｄ方向）に変位される形態）であっても良い。即ち、変位部材Ｄ１８０の変位によって第６通路ＤＲｔ６への球の流入（入球）のしやすさが変化されれば足りる。

【５８４３】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、一対の変位部材Ｄ１８０の一方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に常に連動し、一対の変位部材Ｄ１８０の他方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に所定の期間は非連動となる場合を説明したが、一対の変位部材Ｄ１８０の両方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に常に連動する構成としても良く、或いは、一対の変位部材Ｄ１８０の両方が伝達部材Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０の変位に所定の期間は非連動となる構成としても良い。

【５８４４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇが延設方向（上下方向）に沿って連続して形成される場合を説明したが、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを延設方向（上下方向）に沿って非連続に形成（断続的に形成）しても良い。球の上方への跳ね上がりに対して抵抗を付与しやすくできる。この場合、突部Ｄ１３１ｆ，Ｄ１４１ｇを延設方向（上下方向）に沿って千鳥状に配置しても良い。球の上方への跳ね上がりに対して抵抗をより付与しやすくできる。

【５８４５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、説明を省略したが、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）され、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２の上面へ落下した球が、本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２における転動方向と逆方向（矢印Ｒ方向）へ移動することを規制する規制手段を設けても良い。規制手段は、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０のいずれに設けても良い。また、規制手段としては、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０のいずれかから立設され、球に当接可能に形成される形状の部位が例示される。

【５８４６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）された球が、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２の上面へ落下される場合を説明したが、第６通路ＤＲｔ６（一対の変位部材Ｄ１８０の対向間）に流入（入球）された球が、背面部材Ｄ１３０，Ｄ４１３０，Ｄ８１３０、又は、中間部材Ｄ１４０，Ｄ６１４０に形成される部位（受け部）の上面に落下され、その受け部から転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２へ球が流入（転動）される構成でも良い。落下の衝撃が収まった（小さくなった）状態で、転動部材Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０の本体部Ｄ１７２，Ｄ３１７２が球を受け取れるので、球の重量が作用する初期段階での変位部材Ｄ１８０のばたつき（振動）を抑制できる。

【５８４７】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とが、上面視（矢印Ｄ方向視）において並列に配設（並設）される（即ち、

前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に位置を違えて配設される）場合を説明した。この場合には、下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂの上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）の寸法を抑制できる。但し、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とを、正面視（矢印Ｂ方向視）において並列に配設（並設）する（即ち、上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）に位置を違えて配設する）構成でも良い。この場合、第６通路ＤＲｔ６と第８通路ＤＲｔ８（上流側部分）とは、上面視（矢印Ｄ方向視）において、重なることが好ましい。その分、下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂの前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の寸法を抑制できる。

【５８４８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、転動部材Ｄ１７０と第２転動部材Ｄ４２２０とが上面視（矢印Ｄ方向視）において並列に配設（並設）される場合を説明したが、転動部材Ｄ１７０と第２転動部材Ｄ４２２０とを上面視（矢印Ｄ方向視）において直列に配設（長手方向に沿って直線状に配設）しても良い。

【５８４９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、表示部Ｄ７１９７を本体部Ｄ１９４に配設する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、表示部Ｄ７１９７を錘部Ｄ１９５に配設しても良い。即ち、表示部Ｄ７１９７を、錘部Ｄ１９５の外縁に配設し、その錘部Ｄ１９５の外縁から軸Ｄ１９１の軸方向と直交する方向へ延設させても良い。

【５８５０】

この場合には、表示部Ｄ９１９７の配置を上述した場合とは逆の配置とする（変位部材Ｄ１８０が閉鎖位置に配置された状態で表示部Ｄ７１９７を遊技者から視認不能とし、変位部材Ｄ１８０が開放位置に配置された状態で、表示部Ｄ７１９７の突出量を最大とする）ことができる。また、表示部Ｄ７１９７の重量を利用して、錘部Ｄ１９５に埋設する金属製の錘の量を減らす（又は省略する）ことができ、その分、部品点数を低減して、材料コストの低減を図ることができる。

【５８５１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第２突部Ｄ１３１ｆａが複数（本実施形態では５本）の突部Ｄ１３１ｆのうちの一部（本実施形態では２本）のみに形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２突部Ｄ１３１ｆａの形成本数は任意であり、１本であっても良く、３本以上であっても良い。複数の突部Ｄ１３１ｆの全部に第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良い。また、正面視において中間部材Ｄ１４０の開口Ｄ６１４８と重なる突部Ｄ１３１ｆのみに第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良く、正面視において中間部材Ｄ１４０の開口Ｄ６１４８と重ならない突部Ｄ１３１ｆのみに第２突部Ｄ１３１ｆａを形成しても良い。

【５８５２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、転動部材Ｄ８１７０が第１位置に配置された状態において、第２突部Ｄ１３１ｆａの上面が本体部Ｄ１７２の上面（転動面）から突出する寸法は、上流側（軸Ｄ１７１から遠い側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａほど大きな寸法とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、各第２突部Ｄ１３１ｆａにおいて同一の寸法としても良い。或いは、下流側（軸Ｄ１７１に近い側）に位置する第２突部Ｄ１３１ｆａほど大きな寸法としても良い。

【５８５３】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、介設部材Ｅ１４０の転動部Ｅ１４１の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）における湾曲部Ｅ１３４ａと流路調整ブロックＥ１７０との間に対応する位置には、転動部Ｅ１４１の上面が背面側（矢印Ｂ方向側）へ向けて下降傾斜して形成される傾斜面が形成されても良い。これにより、介設部材Ｅ１４０（第６通路ＥＲｔ６）を往復動する球を第２斜面部Ｅ１３５（第５通路ＥＲｔ５）へ送球する可能性を生じさせることができる。第５通路ＥＲｔ５へ送球された球は、第７通路ＥＲｔ７へ案内される可能性があるため、遊技の興趣を高めることができる。

【５８５４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、中央通路Ｅ１６０の架設通路Ｅ１６１に

は背面壁Ｅ１６１ａが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、背面壁Ｅ１６１ａに加え、架設通路Ｅ１６１の前端側（矢印Ｆ方向側）の縁から鉛直方向上方（矢印Ｆ方向）へ向けて立設される前面壁が形成されてもよい。これにより、架設通路Ｅ１６１に案内された球が、架設通路Ｅ１６１の前端側の縁を通過して第２斜面部Ｅ１３５へ流下（落下）されることを抑制できる。従って、架設通路Ｅ１６１に案内された球が上方孔Ｅ１６２を通過し易くできる、即ち、第４通路ＥＲｔ４を流下して第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率が高く）できる。

【５８５５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、正面板Ｅ１１１に張出し部Ｅ１１１ｂが突設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、張出し部Ｅ１１１ｂが突設されなくても良い。これにより、介設部材Ｅ１４０の転動部Ｅ１４１を転動する球が第１入賞口６４へ送球される可能性を生じさせることができる。即ち、転動部Ｅ１４１を転動する球が第１入賞口６４へ入賞する確率を高くできる。

【５８５６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、駆動モータＥ１９１により振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が変位（往復動）し、上記第５３実施形態から第９４実施形態では、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が変位（回動）する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、バイブレータにより振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が変位されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）へ変位（往復動）できるのに加え、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）へも変位（往復動）できる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１１１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０上を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）させ易くできる。また、上記第５３実施形態から第９４実施形態では、背面板Ｅ１３７と突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１との間に球が挟持されることを抑制できる。

【５８５７】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間において一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に並設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の湾曲部Ｅ１３１の対向間において一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に並設されても良い。

【５８５８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第１伝達部材Ｅ１９４の第１ラック部Ｅ１９４ｄと第２伝達部材Ｅ１９５の第２ラック部Ｅ１９５ｂとの間にピニオンギヤＥ１９６が一つ配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、複数のピニオンギヤが配設されてもよい。この場合、各ピニオンギヤの歯数を異ならせる、即ち、減速機として作用させることで、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ

１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の変位速度と第２伝達部材Ｅ１９５に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の変位速度とを異ならせることができる。また、ピニオンギヤが偶数個配設されることで、第１伝達部材Ｅ１９４に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）と第２伝達部材Ｅ１９５に係合される振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）との変位方向を同一にできる。

【５８５９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、挿通孔Ｅ１３３ａ，Ｅ９１３３ａ，Ｅ１０１３３ａを挟んで左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両側に形成される溝部Ｅ１３３ｃ，Ｅ９１３３ｃ，Ｅ１０１３３ｃが、同一形状である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、非同一形状に形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０を左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）に往復動させると共に、上面視において鉛直方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として回動する態様に変位させることができる。詳細には、被係合部Ｅ１５３（係合凹部Ｅ１５３ａ）を回動軸として振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の湾曲部Ｅ１３１側と中央通路Ｅ１６０側とで前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に異なる方向に変位させることができる。

【５８６０】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の上面から突設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の上面に凹設される凹部に形成されても良い。また、凹部は、その外縁が不連続とされても良く、突出される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１どうしの間に形成される空間が凹部とされても良い。

【５８６１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１５１５１は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に垂直な方向視において略六角形状に形成され、第７８実施形態では、突起部Ｅ１２１５１は、球状に形成され、第７９実施形態では、突起部Ｅ１３１５１は、振分通路Ｅ１３１５０に垂直な方向視において略ひし形（四角形）状に形成され、第８０実施形態では、突起部Ｅ１４１５１は、振分通路Ｅ１４１５０に垂直な方向視において円状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、略五角形状や略七角形状など略多角形状、もしくは、多角錐状に形成されても良い。また、円柱状に形成されても良い。また、直線と曲線とを組み合わせた形状に形成されても良い。また、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度は同一に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度が各側面でそれぞれ異なっていても良い。例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１

５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して傾斜方向下降側に形成される側面の傾斜角度を略直交とさせることで、球が傾斜方向上昇側へ変位（逆流、転動）することを抑制できる。また、例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して傾斜方向下降側に形成される側面の傾斜角度を傾斜方向上昇側に形成される側面の傾斜角度よりも小さくすることで、球を傾斜方向上昇側へ変位（逆流、転動）させ易くできる。その結果、球の移動（流下、落下）方向が変化（変更）される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【５８６２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に複数の突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、少なくとも一つの突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１がそれぞれ配設されれば良い。

【５８６３】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面の一部に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１がそれぞれ配設されても良い。

【５８６４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面への突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔は一定とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、各突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔がそれぞれ異なっても良い。例えば、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）中央側に配設される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の配設間隔を大きくすることで、前後方向両端側に送球された場合と比較して、球が突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接する回数を減らすことができる。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向中央側において、球は、傾斜方向に沿って流下し易くなる。即ち、球の流下方向が変更（変化）され難くできる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の前後方向中央側に送球された球を架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し易くできる。また、突起部Ｅ１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の対向間距離（配設間隔）が、球の直径の略４分の１より大きくてもよく、球の直径の略４分の１より小さくても良い。対向間距離（配設間隔）を大きくすることで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０

の上面を移動（流下、転動）する球の流下速度を大きくした状態で球を突起部Ｅ１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接させることができ、球の移動（流下、転動）方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくできる。

【５８６５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が連続的に変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータＥ１９１の駆動を断続的に行うことで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が断続的に変位されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を流下する球に慣性力を付与でき、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１に当接する際の衝撃力を変更（変化）でき、球の移動（流下、転動）方向の変更（変化）を多様とできる。

【５８６６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が駆動モータＥ１９１により駆動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、ソレノイドや弾性ばねにより駆動されても良い。

【５８６７】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、駆動モータＥ１９１の軸に駆動力伝達部材Ｅ１９３が固着され、駆動モータＥ１９１の一方向への回動により振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が往復動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータＥ１９１の駆動方向を切り換えることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０を往復動させても良い。

【５８６８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、球が流下可能に振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１により球の流下が抑制されても良い。これにより、後行する球は、流下が抑制された先行する球に当接することができ、後行する球の流下方向を変更（変化）できる。即ち、流下が抑制された先行する球は、後行する球に対して突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１と同様の効果を奏することができ、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を流下する球の移動（流下、転動）方向を変更（変化）できる。また、球の流下方向を不規則に変更（変化）できる。なお、流下が抑制された先行する球に後行して流下する球が当接することで、先行する球が流下を再開できる。

【５８６９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面は、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１

５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して略４５度傾斜して形成され、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の突設高さは、球の半径の略２分の１とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対して突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面が４５度よりも大きく傾斜しても良く、４５度よりも小さく傾斜しても良い。また、突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の突設高さは、球の半径の略２分の１よりも高く形成されても良く、球の半径の略２分の１よりも低く形成されてもよい。振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度を大きく、もしくは、突設高さを高くすることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）時間を長くできる。一方、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０の上面に対する突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の側面の傾斜角度を小さく、もしくは、突設高さを低くすることで振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）時間を長くできる。また、球が突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１を乗り越えて振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０を移動（流下、転動）し易くでき、球の移動（流下、転動）方向を多様とできる。

【５８７０】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０に規制片Ｅ１５３ｂが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、規制片Ｅ１５３ｂが形成されなくても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０はその傾斜面に対し垂直な方向に変位できる。詳細に説明すると、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０に流下（落下）する球の自重が作用することで、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０は、第１伝達部材Ｅ１９４，Ｅ４１９４，Ｅ５１９４、第２伝達部材Ｅ１９５，Ｅ４１９５，Ｅ５１９５、第３伝達部材Ｅ４１９８及び第４伝達部材Ｅ４１９９に係合される係合部Ｅ１９４ｃを軸として回動できる。その結果、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜角度を変更（変化）でき、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）を流下する球の移動（流下、転動）時間を延長（変化）できる。

【５８７１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１

５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０に切欠き部Ｅ１５０ａが形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、切欠き部Ｅ１５０ａが形成されなくても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０の上面に形成される突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１の数を増やすことができる。また、振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０から中央通路Ｅ１３５ｂ（第７通路ＥＲｔ７）へ送球し易くできる、即ち、第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率が高く）できる。

【５８７２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とが同一の態様に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とで、配設される突起部Ｅ１５１の配設個数又は配設間隔が異なっていても良い。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とで流下する球の流下時間や流下方向を異ならせることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【５８７３】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０がそれぞれ遊技盤Ｅ１３の幅方向（図２６０左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２６０左右対称）に変位する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び一対の第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の一方と他方とが非対称に変位しても良い。これにより、一対の振分通路Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０及び第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０（第３通路ＥＲｔ３）の一方と他方とで流下する球の流下時間や流下方向を異ならせることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【５８７４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０の上面に突起部Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１が形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化を多様とできる。

【５８７５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が弾性ばねＥ２１９０により変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０に加え、湾曲部Ｅ１３１及び壁板Ｅ１３２が弾性ばねＥ２１９０により変位されても良い。これにより、湾曲部Ｅ１３１（第２通路ＥＲｔ２）を移動（流下、転動）する球の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）の変位速度を変化（変更）させることができ、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０（第３通路ＥＲｔ３）を移動（流下、転動）する球の移動（流下、転動）方向の変化を多様とできる。

【５８７６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１

５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０とが当接される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０とが当接しなくても良い。この場合、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との対向間距離を球の直径よりも小さくすることで、球が湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間から流出することを抑制できる。

【５８７７】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、平面部Ｅ２１３３と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間に弾性ばねＥ２１９０が配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、湾曲部Ｅ１３１と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との間に弾性ばねＥ２１９０が配設されても良い。この場合、弾性ばねＥ２１９０は伸びた状態で配設され、弾性ばねＥ２１９０の弾性回復力を利用して湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との当接状態が維持される、もしくは、湾曲部Ｅ１３１の下面と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０との対向間距離を球の直径より小さい状態に維持される。

【５８７８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動モータやソレノイドにより変位されても良い。

【５８７９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、支持軸Ｅ２０ｊにより平面部Ｅ２１３３と振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０とが係合され、弾性ばねＥ２１９０がコイルばねとして構成され、弾性ばねＥ２１９０により振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０を鉛直方向上方側（矢印Ｕ方向側）へ変位（回動）させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、弾性ばねＥ２１９０がねじりばねとして構成されても良い。この場合、ねじりばねを支持軸Ｅ２０ｊに係合しておけばよく、これにより、弾性ばねＥ２１９０を係合するための支持突起Ｅ２１３３ａ，Ｅ２１５０ａの配設を抑制できる。その結果、製品コストの削減を図ることができる。

【５８８０】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を回動軸として回動され、第７７実施形態では、振分通路Ｅ１１１５０が上下方向（矢印Ｕ－Ｄ方向）を回動軸として回動される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０が左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）を回動軸として回動されても良い。これにより、振分通路Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０を移動（流下、転動）する球を前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に移動させ易くでき、球の移動（流下、転動）方向の変化を多様化できる。その結果、球の移動（流下、転動）方向の変化が単調となることを抑制でき、遊技の興趣を向上できる。

【５８８１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、平面部Ｅ２１３３の支持突起Ｅ２１３３ａが長手方向両端側にそれぞれ形成され、支持部Ｅ２１３３ｂが支持突起Ｅ２１３３ａよりも中央通路Ｅ１６０側に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、支持部Ｅ２１３３ｂが長手方向両端側にそれぞれ形成され、支持突起Ｅ２１３３ａが支持部Ｅ２１３３ｂよりも中央通路Ｅ１６０側に形成されても良い。また、支持突起Ｅ２１３３ａが長手方向両端側と、その支持突起Ｅ２１３３ａよりも長手方向中央側に形成され、長手方向におけるそれら支持突起Ｅ２１３３ａの間に支持部Ｅ２１３３ｂが形成されても良い。

【５８８２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に突起部Ｅ１５１が配設される場合を説明したが、必

ずしもこれに限られるものではなく、突起部Ｅ１５１が配設されなくても良い。即ち、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の上面が平坦に形成されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０から流下（落下）される球の変位を遊技者に予測し易くできる。また、第２振分通路Ｅ４１５０及び第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）の一部には突起部Ｅ１５１が配設され、残りの他部には突起部Ｅ１５１が配設されなくても良い。

【５８８３】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第２振分通路Ｅ４１５０が、振分通路Ｅ１５０に対し、傾斜方向における長さが短く形成され、その他は同一とされる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２振分通路Ｅ４１５０の前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における長さが、振分通路Ｅ１５０の前後方向における長さよりも大きく形成されても良い。これにより、第２振分通路Ｅ４１５０に移動（流下、転動）された球を介設部材Ｅ１４０へ案内（送球）し易くできる。

【５８８４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、振分通路Ｅ１５０が第１位置に配置された状態において第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側の端部よりも壁板Ｅ１３２側に位置する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０の傾斜方向下降側の端部は、振分通路Ｅ１５０の傾斜方向下降側の端部よりも上方孔Ｅ１６２（中央通路Ｅ１６０）側に位置しても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０を流下（落下）した球を第２振分通路Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０へ送球させ易くでき、中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ振り分けられた球を第１入賞口６４（図２６０参照）へ入賞し易くできる（第１入賞口６４へ入賞する確率を高くできる）。

【５８８５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が第４位置に配設されると、少なくとも第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０の一部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０は、短手方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）における全部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設されても良い。これにより、振分通路Ｅ１５０から送球された球を中央通路Ｅ１６０（第４通路ＥＲｔ４）へ案内し難くできる。

【５８８６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が第４位置に配設されると、少なくとも第３振分通路Ｅ５１５０の一部が上面視、中央通路Ｅ１６０に重なる位置に配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）において、第３振分通路Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０が、中央通路Ｅ１６０よりも介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に配設されても良い。これにより、第３振分通路Ｅ５１５０が第３位置に配設される場合と同様、第３振分通路Ｅ５１５０（第３通路ＥＲｔ３）に案内された球が架設通路Ｅ１６１（第４通路ＥＲｔ４）に振り分けられることを遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。

【５８８７】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、斜面部Ｅ７１５４が直線状に形成され、第７４実施形態では、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが円弧状に湾曲して形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、斜面部Ｅ７１５４が円弧状に湾曲して形成され、湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが直線状に形成されても良い。また、斜面部Ｅ７１５４又は湾曲ガイド部Ｅ８１３３ｄが直線と円弧を組み合わせた形状に形成されても良い。

【５８８８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、下側フレームＥ９０８６ｂは、遊技盤Ｅ１３の幅方向（図２６０左右方向）における中心に対し線（面）対称（図２６０左右対称

）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、下側フレームＥ９０８６ｂが非対称に形成されても良い。例えば、ベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方に形成される溝部Ｅ９１３３ｃは、湾曲部Ｅ１３１側から中央通路Ｅ１６０側へ向かうにつれて介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に傾斜して形成され、ベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の他方に形成される溝部Ｅ９１３３ｃは、中央通路Ｅ１６０側から湾曲部Ｅ１３１側へ向かうにつれて介設部材Ｅ１４０側（矢印Ｆ方向側）に傾斜して形成されても良い。例えば、上面視においてベース部材Ｅ９１３０の長手方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）の一方と他方とで溝部Ｅ９１３３ｃが同一に形成され、振分通路Ｅ１５０の変位の態様が同一であっても良い。

【５８８９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、溝部Ｅ１０１３３ｃは、第１斜面部Ｅ１０１３３に垂直な方向視において曲線が組み合わされた形状に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、単一の曲線から形成されても良く、また、直線と曲線とが組み合わされた形状に形成されても良い。

【５８９０】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第２振分通路Ｅ１６１５０、第３振分通路Ｅ１７１５０の外縁には、案内切欠き部Ｅ１６１５４ａ，Ｅ１７１５４ａを除き、案内部Ｅ１６１５４，Ｅ１７１５４が立設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、少なくとも外縁の一部に形成されれば良い。これにより、第２振分通路Ｅ１６１５０、第３振分通路Ｅ１７１５０の外縁に案内部Ｅ１６１５４，Ｅ１７１５４が非形成の場合と比較して、第１入賞口６４へ入賞し易く（第１入賞口６４へ入賞する確率を高く）でき、遊技の興趣を高めることができる。

【５８９１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、変位部材Ｆ１３０の壁部Ｆ１３２の背面または転動面Ｆ１３１ｂの上面に突部が形成されても良い。これにより、転動面Ｆ１３１ｂ（第３通路ＦＲｔ３）を移動（流下、転動）する球が凹部Ｆ１３１ｃへ振り分けられる（案内される）ことを遅延させることができる。

【５８９２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂ（確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａ）が変位（回転）されても良い。例えば、変位部材Ｆ１３０に検出手段が配設され、変位部材Ｆ１３０の転動面Ｆ１３１ｂへ球が案内された、又は、変位部材Ｆ１３０が変位（回転）されたことを検出手段が検出することで、駆動装置を駆動させても良い。

【５８９３】

なお、検出手段としては、カメラ、重量センサ、変位センサ、トルクセンサ等が挙げられる。また、例えば、ソレノイドがスライド部材Ｆ１４４のスライド本体部Ｆ１４４ａを左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）中央側へ向けて押進することや、駆動モータが開閉部材Ｆ１４３を回転させることで遮断部Ｆ１４３ａが変位（回転）される。

【５８９４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、一方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、他方側に配設される確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良く、一対の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良い。例えば、左方側（矢印Ｌ方向側）に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、右方側（矢印Ｒ方向側）に配設される確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良く、一対の遮断部Ｆ１４３ａが変位しても良い。

【５８９５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、伝達軸Ｆ１８３の偏心軸Ｆ１８３ｃが伝

達部Ｆ１８３ｂの軸心（軸部Ｆ１８３ａ）に偏心して配設され、伝達部Ｆ１８３ｂの軸心を中心とした円状に変位されることで、演出手段Ｆ１２０の可動部材Ｆ１２２が動作（上下方向に往復動）される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動手段Ｆ１８０がラックアンドピニオン機構（ラック部材およびピニオン部材）から構成されることで可動部材Ｆ１２２が動作されても良い。

【５８９６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、確定通路Ｆ１４０，Ｆ２１４０，Ｆ３１４０の遮断部Ｆ１４３ａが一対配設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、遮断部Ｆ１４３ａが１個配設されても良い。例えば、一方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、遮断部Ｆ１４３ａが一方側へ向けて変位され、他方側に配設される変位部材Ｆ１３０の変位（回転）により、遮断部Ｆ１４３ａが他方側へ向けて変位されることで遮断部Ｆ１４３ａの変位の態様を増やすことができる。

【５８９７】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、上側通路Ｆ１１４，Ｆ５１１４、或いは、下側通路Ｆ１１２，Ｆ５１１２へ送球されても良い。これにより、下側通路Ｆ１１２，Ｆ５１１２へ球が振り分けられ易くなり、下側フレームＦ８６ｂ，Ｆ２０８６ｂ，Ｆ３０８６ｂ，Ｆ４０８６ｂ，Ｆ５０８６ｂが開放状態に動作されることを遊技者に一層期待させることができる。

【５８９８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０は、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の幅方向における中心に対し線（面）対称に配設される、即ち、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３のの右方側に配設されても良く、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の幅方向における中心に対し線（面）対称にそれぞれ配設されても良い。従って、遊技領域から上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０に流入（入球）した球は、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の右方側に配設された上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０から遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の右方側に配設される第１通路ＦＲｔ１，ＦＲｔ５１へ流入（入球）されても良く、遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の左方側または右方側に配設された上側フレーム通路ＦＲｔ０，ＦＲｔ５０の一方から遊技盤Ｆ１３，Ｆ２０１３，Ｆ３０１３，Ｆ４０１３，Ｆ５０１３の左方側または右方側に配設される第１通路ＦＲｔ１，ＦＲｔ５１の一方へ流入（入球）されても良い。

【５８９９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合、かかる開閉部材Ｆ２１４３の変位（回転）を抑制する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合には、開閉部材Ｆ２１４３の変位（回転）に連動して変位（スライド又は回転）可能とされ、且つ、変位部材Ｆ１３０が球の重量により変位されることで、開閉部材Ｆ２１４３が変位（回転）された場合には、開閉部材Ｆ２１４３に連動せず、非変位とされる所定部材を流入口ＦＯＰｆ１よりも上流に設け、不正に開閉部材Ｆ２１４３が操作（開放方向へ変位（回転））された場合、所定部材が変位（スライド又は回転）され、かかる所定部材によって、流入口ＦＯＰｆ１へ球が流入し難くなるように構成しても良い。

【５９００】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ５０８６ｂを閉塞状態から開放状態、或いは、開放状態から閉塞状態へ向けて動作させる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により変位手段Ｆ５１５０の開閉部材Ｆ５１５８が変位（回転）されても良い。例えば、変位部材Ｆ５１５５に検出手段が配設され、変位部材Ｆ５１５５の本体部Ｆ５１５５ｄへ球が案内された、又は、

変位部材Ｆ５１５５が変位（回転）されたことを検出手段が検出することで、駆動装置を駆動させても良い。

【５９０１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒの被係合部Ｆ５１５７ｄと維持手段Ｆ５１６０の磁性体Ｆ５１６４とが磁着されることで右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ（右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒ）の動作（回転、変位）が規制される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａとスライド部材Ｆ５１５７のスライド本体部Ｆ５１５７ａとの対向間にソレノイドが突出されることでスライド部材Ｆ５１５７の変位が規制されることや、スライド本体部Ｆ５１５７ａに磁性体が配設され、その磁性体が第１軸受け部材Ｆ５１５１の規制部Ｆ５１５１ａに配設される電磁石に着磁されることで右側スライド部材Ｆ５１５７Ｒ（右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒ）の動作（回転、変位）が規制されても良い。

【５９０２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、球ＣＢ５１に作用する慣性力を利用して球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開される（保持部Ｆ５１５５ｅによる保持が解除される）場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、下側フレームＦ５０８６ｂの開放状態における保持部Ｆ５１５５ｅの下方（上方）となる位置に磁性体が配設され、その磁性体と球ＣＢ５１との間に作用する反発力により、球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開されても良い。また、下側フレームＦ５０８６ｂに駆動装置（例えば、ソレノイドや駆動モータ）が配設され、駆動装置の駆動により球ＣＢ５１が変位されることで球ＣＢ５１の移動（流下、転動）が再開されても良い。

【５９０３】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、変位部材Ｆ５１５５のうちの左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ及び右側変位部材Ｆ５１５５Ｒが同時に球を受け取り可能（第２通路ＦＲｔ５２から球が流入可能）に形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。

【５９０４】

例えば、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌと右側変位部材Ｆ５１５５Ｒとが連動するように構成し、且つ、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方が球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された状態では、他方が球を受け取り不能な位置（球の重量が作用した場合に変位可能な範囲の終端）に配置されるようにしても良い。即ち、左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方が球を受け取ると、その球の重量により、上記変位可能な範囲の終端へ向けて一方が変位されると共に、球を受け取り可能な位置（初期位置）へ向けて他方が変位され、球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された他方が球を受け取ると、その球の重量により、上記変位可能な範囲の終端へ向けて他方が変位されると共に、球を受け取り可能な位置（初期位置）へ向けて一方が変位される。

【５９０５】

この場合、球を受け取り可能な位置（初期位置）に配置された変位部材Ｆ５１５５（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの一方）に対応する開閉部材Ｆ５１５８（左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌ又は右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒの一方）は、流入口ＦＯＰｆ５１へ球を流入し難くさせる位置へ配置され、上記変位可能な範囲の終端に配置された変位部材Ｆ５１５５（左側変位部材Ｆ５１５５Ｌ又は右側変位部材Ｆ５１５５Ｒの他方）に対応する開閉部材Ｆ５１５８（左側開閉部材Ｆ５１５８Ｌ又は右側開閉部材Ｆ５１５８Ｒの他方）は、流入口ＦＯＰｆ５１へ球が流入し易くする位置へ配置される。但し、その逆の配置であっても良い。

【５９０６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、第１通路部材Ｆ６１６０（第１通路ＦＲｔ６１）の挿通孔Ｆ６１６２ａ１と挿通孔Ｆ６１６２ａ２とが前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）に並設される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、左右方向（矢

印Ｌ－Ｒ方向）に並設され、例えば、挿通孔Ｆ６１６２ａ１が挿通孔Ｆ６１６２ａ２よりも左右方向両端側に並設されても良い。これにより、球が挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ流入される、或いは、挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入されることを遊技者に視認させ易くできる。

【５９０７】

この場合、下側通路Ｆ６１１２（第２通路ＦＲｔ６２）を正面側（背面側）へ向けて下降傾斜される。これにより、一方側の挿通孔Ｆ６１６２ａ１へ流入した球は一方側の挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入した球と比較して正面側（背面側）へ向けての変位量が大きく、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過して他方側の上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球）され、挿通孔Ｆ６１６２ａ２へ流入した球は、立て壁部Ｆ６１１３の正面側（矢印Ｆ方向側）を通過せずに一方側の上側通路Ｆ６１１４へ案内（送球）される。

【５９０８】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、球が上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃと第２傾斜部Ｆ６１１４ｄとを往復動可能となる位置に当接部Ｆ６１７３ｂが配設されても良い。これにより、当接部Ｆ６１７３ｂと当接可能となる位置に球を複数回到達させることができ、球を流入口ＦＯＰｆ６１へ流入させ易くできる。

【５９０９】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作後状態において、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを上昇する（左右方向中央側へ向けて移動する）球ＣＢ６１が当接部Ｆ６１７３ｂの湾曲面Ｆ６１７３ｂ１に当接することで、球ＣＢ６１が第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上側通路Ｆ６１１４（第３通路ＦＲｔ６３）の第１傾斜部Ｆ６１１４ｃが正面側（矢印Ｆ方向側）へ向けて下降傾斜される、背面部材Ｆ６１５０の背面板Ｆ６１５１に電磁石が配設される、又は、背面板Ｆ６１５１に正面側へ向けて風を送る送風装置が配設されることにより、球ＣＢ６１が第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ振り分けられても良い。

【５９１０】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、変位通路部材Ｆ６１７４の通路部Ｆ６１７４ａ又は第２変位通路Ｆ７１８０の転動面Ｆ７１８１ａ１の上面に突部が形成されても良い。これにより、通路部Ｆ６１７４ａ又は転動面Ｆ７１８１ａ１から球が流出（流下、排出）されることを遅延させることができる。

【５９１１】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、球の重量を利用して下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂを動作前状態から動作後状態、或いは、動作後状態から動作前状態へ向けて動作される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、駆動装置により下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂが動作され（振分手段Ｆ６１７０の変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が変位され）ても良い。例えば、変位通路部材Ｆ６１７４又は第２変位通路Ｆ７１８０に検出手段が配設され、変位通路部材Ｆ６１７４の通路部Ｆ６１７４ａ又は第２変位通路Ｆ７１８０の転動面Ｆ７１８１ａ１へ球が案内された、又は、変位通路部材Ｆ６１７４又は第２変位通路Ｆ７１８０が変位（回転）したことを検出手段が検出することで、駆動装置が駆動されても良い。

【５９１２】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、動作後状態における振分手段Ｆ６１７０の状態を維持する（変位を規制する）ための維持手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂに形成されても良い。これにより、変位通路部材Ｆ６１７４から球が流出（流下、排出）された場合、

言い換えると、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用されない状態においても、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂを動作後状態に維持でき、遊技の興趣を高めることができる。例えば、変位通路部材Ｆ６１７４の底面に磁性体が配設され、貫通孔Ｆ６１４３の内周面に電磁石が配設され、それら磁性体と電磁石とが着磁されることで振分手段Ｆ６１７０の変位が規制される。

【５９１３】

なお、かかる維持手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂに形成される場合、少なくとも１球が流入口ＦＯＰｆ６１へ流入されることを契機として維持手段による振分手段Ｆ６１７０の変位の規制を解除する解除手段が下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂに形成されても良い。これにより、流入口ＦＯＰｆ６１への球の流入が確実化される。即ち、少なくとも１球が流入口ＦＯＰｆ６１へ流入されるまでの間、遊技者に安心感が付与され、興趣を高めることができる。

【５９１４】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作後状態から動作前状態への動作における当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂの変位方向には、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂへ向けて移動する球ＣＢ６１の移動方向成分が含まれる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、動作前状態から動作後状態への動作における当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂの変位方向に、第１傾斜部Ｆ６１１４ｃを当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂへ向けて移動する球ＣＢ６１の移動方向成分が含まれても良い。これにより、球ＣＢ６１と当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂとの当接により当接部Ｆ６１７３ｂ，Ｆ１０１７３ｂが動作前状態における配設位置へ変位されることを抑制でき、球ＣＢ６１を第１傾斜部Ｆ６１１４ｃから第５通路部材Ｆ６１２０（第５通路ＦＲｔ６５）の第５通路部Ｆ６１２１へ確実に振り分けることができる。

【５９１５】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、下側フレームＦ６０８６ｂ，Ｆ７０８６ｂ，Ｆ８０８６ｂ，Ｆ９０８６ｂ，Ｆ１００８６ｂ，Ｆ１１０８６ｂの動作前状態から動作後状態への動作において、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が第１軸Ｆ６１７２に沿って左右方向（矢印Ｌ－Ｒ方向）両端側へ向けて変位される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３が前後方向（矢印Ｆ－Ｂ方向）を軸として回転されても良い。これにより、変位部材Ｆ６１７３，Ｆ１０１７３を左右方向に変位させるための空間を不要とでき、設計の自由度を向上させることができる。

【５９１６】

上記第５３実施形態から第９４実施形態では、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により変位部材Ｆ６１７３を変位させ、流入口ＦＯＰｆ６１への球の流入のし易さを変化させる形態を説明したが、かかる形態を他の実施形態に適用しても良い。

【５９１７】

例えば、所定位置（例えば、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも上流（遊技盤Ｆ１３上の遊技領域（球の流下加納な領域））、又は、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも下流（下側フレームＦ８６ｂの遊技領域（球の流下加納な領域））にセンサＦ１１００１を配設し、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により開閉部材Ｆ１４３を変位（開放または閉鎖）させ、流入口ＦＯＰｆ１への球の流入のし易さを変化（流入し易くする、又は、流入し難くする）させても良い。

【５９１８】
また、例えば、所定位置（例えば、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも上流（遊技盤Ｆ１３上の遊技領域（球の流下加納な領域））、又は、上側フレーム通路ＦＲｔ０よりも下流（下側フレームＦ８６ｂの遊技領域（球の流下加納な領域））にセンサＦ１１００１を配設し、センサＦ１１００１により球の通過が検出された場合（又は球の通過が検出され、所定の条件を満たす場合）に、ソレノイドＦ１１００２の駆動力により抑制部Ｆ４１３４（変位部材Ｆ４１３０）を変位（開放または閉鎖）させ、第２振り分け孔Ｆ１６１ｂ（第１振り分け孔Ｆ１６１ａ、即ち、流入口ＦＯＰｆ１）への球の流入のし易さを変化（流入し易くする、又は、流入し難くする）させても良い。
【５９１９】
上記第５３実施形態から第９４実施形態では、センサＦ１１００１を挿通孔Ｆ６１６２ａ２に配設したが、その配設位置は任意に設定できる。例えば、挿通孔Ｆ６１６２ａ１に配設しても良い。
【５９２０】
上記第５３実施形態から第９４実施形態では、球の重量を利用して、所定の部材を変位させ、かかる所定の部材の変位により、他の球が第１の流入口へ入球し易くされ、その結果、かかる他の球が第２の流入口へ入球し易くなる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものでない。例えば、球の重量を利用して、所定の部材を変位させ、かかる所定の部材の変位により、他の球が第１の流入口へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が第２の流入口へ入球し易くなるように構成しても良い。
【５９２１】
例えば、第１入賞口６４を第５通路ＦＲｔ５の流出面Ｆ１１２ｂの鉛直方向下方に配置し、且つ、変位部材Ｆ１３０に球の重量が作用した場合、開閉部材Ｆ１４３（遮断部Ｆ１４３ａ）が流入口ＦＯＰｆ１を閉鎖させる（球を流入し難くさせる）方向へ変位される形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ１に流入せず流出面Ｆ１１２ｂから流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位部材Ｆ１３０を変位させ、かかる変位部材Ｆ１３０の変位（開閉部材Ｆ１４３による流入口ＦＯＰｆ１の閉鎖）により、他の球が流入口ＦＯＰｆ１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出面Ｆ１１２ｂを利用して、第１入賞口６４へ入球し易くされる。
【５９２２】
また、例えば、第１入賞口６４を第４通路ＦＲｔ５４の流出面Ｆ５１１２ｂの鉛直方向下方に配置し、且つ、変位部材Ｆ５１３０に球の重量が作用した場合、開閉部材Ｆ５１５８が流入口ＦＯＰｆ５１を閉鎖させる（球を流入し難くさせる）方向へ変位される形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ５１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ５１に流入せず流出面Ｆ５１１２ｂから流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位部材Ｆ５１３０を変位させ、かかる変位部材Ｆ５１３０の変位（開閉部材Ｆ５１５８による流入口ＦＯＰｆ５１の閉鎖）により、他の球が流入口ＦＯＰｆ５１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出面Ｆ５１１２ｂを利用して、第１入賞口６４へ入球し易くされる。
【５９２３】
また、例えば、第１入賞口６４を流出口ＦＯＰｏｕｔ６２の鉛直方向下方に配置し、且つ、変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用した場合、変位部材Ｆ６１７３が球に作用（当接）不能な位置に方向へ変位される（変位通路部材Ｆ６１７４に球の重量が作用していない状態では、変位部材Ｆ６１７３が球に作用（当接）可能な位置に配置（上側通路Ｆ６１１４の上面から突出されている）形態が例示される。かかる形態によれば、流入口ＦＯＰｆ６１に流入した球よりも、流入口ＦＯＰｆ６１に流入せず流出口ＦＯＰｏｕｔ６２から流出する球の方が第１入賞口６４へ入球する確率が高くなる。即ち、球の重量を利用して、変位通路部材Ｆ６１７４を変位させ、かかる変位通路部材Ｆ６１７４の変位（変位部材Ｆ６１７３に当接した他の球の進行方向が変更されることの回避）により、他の球が

流入口ＦＯＰｆ６１へ「入球し難く」され、その結果、かかる他の球が、流出口ＦＯＰｏｕｔ６２から第１入賞口６４へ入球し易くされる。

【５９２４】

上記各実施形態では、入賞ユニットＫ２００の第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態に応じて入賞ユニットＫ２００の見え方が変化する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御することにより、入賞ユニットＫ２００の見え方が変化するように構成しても良い。

【５９２５】

この時、入賞ユニットＫ２００の第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態に対応させるようにして、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御しても良いし、第１電動役物Ｋ２４０や第２電動役物Ｋ２５０の状態とは無関係に発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を変化させるように制御しても良い。

【５９２６】

例えば、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａが開放状態の時に光を強化するようにしたり、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１が開放状態の時に光を強化するようにしたりしても良いし、逆に弱くするようにしても良い。

【５９２７】

また、入賞ユニットＫ２００の発光部Ｋ２２８から照射される光の色や、光の強弱を、球が第２入賞口Ｋ６４０や第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球した場合に変化させるように制御しても良い。この場合、入賞ユニットＫ２００の見え方の違いから、第２入賞口Ｋ６４０又は第２特定入賞口Ｋ６５０ａへの入賞を把握させることができる。

【５９２８】

上記各実施形態では、入賞ユニットＫ２００の板状本体Ｋ２０２の裏側に拡散形状が形成されている場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、板状本体Ｋ２０２の裏側面または表裏面が平滑に形成されても良い。この場合、板状本体Ｋ２０２の透過性を向上させることができるので、入賞ユニットＫ２００内を流下する球や、第１電動役物Ｋ２４０の電動役物Ｋ６４０ａや、第２電動役物Ｋ２５０の可動板Ｋ２５１等の視認性を向上させることができる。

【５９２９】

上記各実施形態では、発光部Ｋ２２８からの光が電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球に遮られないものとして説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、発光部Ｋ２２８を、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球の経路の後方や、可動板Ｋ２５１上を転動する球の経路の後方に配置しても良い。この場合、発光部Ｋ２２８からの光が、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球や、可動板Ｋ２５１上を転動する球に遮られ得る。

【５９３０】

これにより、発光部Ｋ２２８を点灯制御させている場合に、光が明滅しているように視認させることができ、発光部Ｋ２２８からの光の見え方を変化させることができる。この時、電動役物Ｋ６４０ａ上を転動する球による光の明滅により、第２入賞口Ｋ６４０へ入球することを示唆することができる一方、可動板Ｋ２５１上を転動する球による光の明滅により、第２特定入賞口Ｋ６５０ａに入球せずに球が可動板Ｋ２５１上を左方に通過し得ることを示唆することができる。

【５９３１】

上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａや、可動板Ｋ２５１が、有色で不透明である場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１の少なくとも一方が、有色透明の樹脂材料から形成されても良い。この場合、化粧カバーＫ２２０と重ねて視認される場合の作用は維持しながら、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１を通過する光により入賞ユニットＫ２００の視認態様を変化させ易くすることができる。また、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１の少なくとも

一方が、無色透明の樹脂材料から形成されても良い。この場合であっても、電動役物Ｋ６４０ａ又は可動板Ｋ２５１を通過する光により入賞ユニットＫ２００の視認態様を変化させ易くすることができる。

【５９３２】

上記各実施形態では、可動板Ｋ２５１から反射した光が上縁部Ｋ２０７ａを介して視認可能に構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、電動役物Ｋ６４０ａから反射した光を電動役物Ｋ６４０ａとは異なる位置で反射させて遊技者に視認させ、電動役物Ｋ６４０ａの状態を把握可能とさせるための反射部を上縁部Ｋ２０７ａとは別で設けても良い。

【５９３３】

なお、反射部は入賞ユニットＫ２００の内側に配置されても良いし、入賞ユニットＫ２００の外方に配置されるようにしても良い。この場合、入賞ユニットＫ２００とは異なる位置を視認して、電動役物Ｋ６４０ａの状態を把握させることができる。また、上縁部Ｋ２０７ａの機能を奏する部分についても、入賞ユニットＫ２００の内側に限らず、入賞ユニットＫ２００の外方に配置されるようにしても良い。

【５９３４】

上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａや可動板Ｋ２５１が前後方向でスライドし、遊技者側に見せる面が変化しない場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右方向に沿う回転軸で前後方向に回転動作するように構成しても良い。この場合、閉状態で遊技者に見せる面（前面）と、開状態で遊技者に見せる面（閉状態での後面、開状態での上面）とが異なるので、表裏の面の態様を異ならせる（例えば、色を変える）ことで、開状態か閉状態かで、化粧カバーＫ２２０（小形意匠Ｋ２２１ｂ等）の背景色を変化させることができる。

【５９３５】

上記各実施形態では、電動役物Ｋ６４０ａ及び可動板Ｋ２５１が赤色で形成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではなく、電動役物Ｋ６４０ａと可動板Ｋ２５１とが異なる色で形成されても良いし、赤以外の青や黄色等あらゆる色を採用可能である。また、小形意匠Ｋ２２１ｂの色は白色に限定されるものでなく、金や黄色等あらゆる色を採用可能である。何れの色を採用した場合であっても、小形意匠Ｋ２２１ｂの背景色となる場合と、ならない場合とを構成でき、小形意匠Ｋ２２１ｂの見え方を変化させることができる。この時、色の選択として、相対的に判別しやすい関係で色を選択した方が、演出効果を向上させることができる。

【５９３６】

上記各実施形態では、昇降装置Ｋ５００の上下変位が回転部材Ｋ４３０の変位に対して増大されるように構成されたが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００の変位量が回転部材Ｋ４３０の変位量と一致しても良い。この場合、昇降装置Ｋ５００の動作をより安定させることができる。

【５９３７】

上記各実施形態では、切替装置Ｋ４６０により昇降装置Ｋ５００の右側構成部の下降が制限されることで、昇降装置Ｋ５００が右側を下方にする傾斜姿勢で片側落下状態を構成可能であることを説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００が右側を下方にする傾斜姿勢から、左側構成部を落下位置状態まで変位させることで、左側を下方にする第２の傾斜姿勢を構成可能にしても良い。この場合、演出待機状態から第２の傾斜姿勢に変化するように制御しても良い、片側落下状態を経由して第２の傾斜姿勢に変化するように制御しても良い。前者の方が、昇降装置Ｋ５００による状態変化を顕著にすることができる一方で、後者の方が、状態変化後の昇降装置Ｋ５００の姿勢を安定させ易くすることができる。

【５９３８】

上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度を方向に因らず一定として、移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド速度を変化させるよう制御する場合を説明したが、

必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度または移動装置Ｋ５６０の左右方向のスライド速度の少なくとも一方を、方向に対応して変化させるように制御するようにできれば良い。

【５９３９】

上記各実施形態では、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まっている場合の動作制御について説明したが、回転装飾部材Ｋ５７８の動作制御は必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まらなかった場合にエラー信号を出して演出役物の動作を実行しないようにするのではなく、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度から新たに駆動モータＫＭＴ５１の回転速度を算出して、その新たに算出された回転速度により移動装置Ｋ５６０を左右方向にスライド移動させるようにしても良い。これにより、回転装飾部材Ｋ５７８の回転後の停止位置と、移動装置Ｋ５６０の移動後の停止位置とを対応付けやすくすることができ、回転装飾部材Ｋ５７８の回転速度が予め規定される設計値に収まる場合と同様に、連動を適切に実行させることができる。

【５９４０】

なお、速度の再計算をするのではなく、回転装飾部材Ｋ５７８を停止させるタイミングを、移動装置Ｋ５６０のスライド移動を停止させるタイミングとずらすことができるように制御しても良い。

【５９４１】

上記各実施形態では、昇降装置Ｋ５００の昇降動作と、状態変化装置Ｋ４７０の動作とが、共通の回転部材Ｋ４３０の動作に基づいて生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、昇降装置Ｋ５００の昇降動作と、状態変化装置Ｋ４７０の動作とが、異なる駆動装置からの駆動力で動作されるように制御しても良い。

【５９４２】

上記各実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１において、アーム部材Ｋ７３５が回転動作する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、上下方向にスライド移動する可動ラックを構成し、この可動ラックの昇降量が主装飾部材Ｋ７６０に伝達されるようにしても良い。この場合、可動ラックにより左右幅を抑えて構成することができる。

【５９４３】

上記各実施形態では、第２可動装置Ｋ７０１において、円弧状部Ｋ７３２，Ｋ７３４が面で当接することでアーム部材Ｋ７３５の回転を抑制する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、アーム部材Ｋ７３５を途中位置で停止させる位置に配置可能な可動のストッパ部材を設けるようにしても良い。この場合、ストッパ部材の配置により、アーム部材Ｋ７３５を途中位置で停止させ易い場合と、途中停止させない場合とを構成することができる。

【５９４４】

上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４の回転開始は、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が左右方向に沿う姿勢から生じる場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が上方向を向く姿勢から生じさせるものでも良い。この場合、延設回転部材Ｋ８７４の長尺方向が下方向を向くまでの回転角度を大きくすることができる。

【５９４５】

上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４の過回転を小さく抑えることで、板状部Ｋ８１１，Ｋ８２１，Ｋ８３１の戻り動作が生じないように構成される場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、長孔Ｋ８８４の短手方向幅を十分に確保して円柱突部Ｋ８７６ａとの間に隙間を確保したり、円柱突部Ｋ８７６ａの回転軸側の肉部を削ることで長孔Ｋ８８４との隙間を確保したり、長孔Ｋ８８４の先端部に円柱突部Ｋ８７６ａの移動軌跡に沿う円弧形状部を設けることで円柱突部Ｋ８７６ａと長孔Ｋ８８４との干渉を避けるようにしても良い。

【５９４６】
上記各実施形態では、第３可動装置Ｋ８０１において、延設回転部材Ｋ８７４が回転終端で面と当接して止まる場合を説明したが必ずしもこれに限られるものではない。例えば、回転終端で円柱突部Ｋ８７６ａが凹部に収容させることで止まるように構成しても良い。
【５９４７】
上記各実施形態では、ベース板Ｋ２０６０の外形傾斜部Ｋ２０６０ｅや、傾斜開口部Ｋ２０６０ｗや、光照射装置Ｋ２１００の傾斜面Ｋ２１２１や、光照射装置Ｋ３１００の傾斜面Ｋ３１２２等の傾斜角度として一例を記載したが、必ずしもこれに限られるものではなく、光を屈折させたり反射させたりして、光らせる対象に光が届くような形状から形成されていればよい。
【５９４８】
上記各実施形態では、発光手段Ｋ２１１１，Ｋ３１１１が湾曲線に沿って並ぶ場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、左右や上下等の所定の方向に延びる直線上に並ぶように構成しても良い。
【５９４９】
上記各実施形態では、発光手段Ｋ２１１１，Ｋ３１１１からの光が正面側に進行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、遊技領域内方へ向けて光が進行するように形成されても良い。この場合、正面視では隠される範囲（遊技領域外方の範囲）からの光によっても遊技領域を照らすことができるので、遊技領域をより明るくすることができる。
【５９５０】
上記各実施形態では、光がベース板Ｋ２０６０の開口を通過する前における傾斜開口部Ｋ２０６０ｗにおいて光が反射または屈折し正面側に進行する場合を説明したが、必ずしもこれに限られるものではない。例えば、ベース板Ｋ２０６０の開口を通過した後における傾斜開口部Ｋ２０６０ｗの縁部における反射または屈折によっても光を正面側へ進行させるようにしても良い。また、ベース板Ｋ２０６０の開口内に、光を反射または屈折可能な物体を配置して、その物体によりベース板Ｋ２０６０の開口内で光の進行方向を変化させて正面側に光を進行させるようにしても良い。この場合、ベース板Ｋ２０６０の開口縁部以外の箇所からも遊技者へ光を届けることができる。
【５９５１】
本発明を上記各実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞させることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技を発生させるパチンコ機として実施してもよい。また、Ｖゾーン等の特別領域を有する入賞装置を有し、その特別領域に球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機に実施してもよい。更に、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機などの各種遊技機として実施するようにしても良い。
【５９５２】
なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する表示装置を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の変動表示が停止して確定表示され、その停止時の識別情報の組合せが特定のものであることを必要条件として、遊技者に所定の遊技価値

を付与する特別遊技を発生させるスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【５９５３】

また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する表示装置を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に所定の遊技価値を付与する特別遊技が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の球が払い出されるものである。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

【５９５４】

以下に、本発明の遊技機に加えて上述した実施形態に含まれる各種発明の概念を示す。

【５９５５】

＜回転中に外形が変化する変位手段＞

所定の回転軸を中心に傾倒可能に構成される変位手段を有する演出手段を備え、前記演出手段は、前記変位手段の傾倒中に、少なくとも前記回転軸から離れる方向に延びるような外形の変化を視認させることが可能に構成されることを特徴とする遊技機Ａ１。

【５９５６】

パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。

【５９５７】

しかし、上述した従来の遊技機では、変位手段が勢いよく傾倒するように演出したとしても、傾倒時に変位手段の外形が変化することはないので、迫力に欠け、演出効果の面で改善の余地があるという問題点があった。

【５９５８】

これに対し、遊技機Ａ１によれば、演出手段が、変位手段の傾倒中に外形を変化可能に構成されることから、変位手段が勢いよく傾倒している最中に外形を変化させるという迫力ある演出を実行することができ、演出効果を高めることができる。

【５９５９】

遊技機Ａ１において、前記変位手段の傾倒中に、傾倒中の前記変位手段の前記外形を維持させる第１状態から傾倒中の前記変位手段の前記外形を変化させる第２状態へ移行可能に構成されることを特徴とする遊技機Ａ２。

【５９６０】

遊技機Ａ２によれば、遊技機Ａ１の奏する効果に加え、変位手段の傾倒動作が進むほど、外形が維持される第１状態から外形が変化する第２状態へ移行されるので、傾倒し始めにおいて必要となる力を抑えることができ、傾倒動作をスムーズに開始し易くすることができる。

【５９６１】

遊技機Ａ２において、前記変位手段は、傾倒を開始する側の変位終端位置において前記第１状態となるように構成されることを特徴とする遊技機Ａ３。

【５９６２】

遊技機Ａ３によれば、遊技機Ａ２の奏する効果に加え、傾倒開始時に外形を変化させるための力を不要とできるので、傾倒開始時に必要となる力を傾倒に必要な力のみにできる

ことから、必要とされる力を低減することができる。
【５９６３】
遊技機Ａ２又はＡ３おいて、前記第１状態から前記第２状態へ移行する方向で前記変位手段が傾倒する過程で、前記変位手段の傾倒角度に対する前記外形の変化の度合いが増大する区間を備えることを特徴とする遊技機Ａ４。
【５９６４】
遊技機Ａ４によれば、遊技機Ａ２又はＡ３の奏する効果に加え、第２状態における変位手段の傾倒中における外形の変化が、第１状態で配置されていた側から離れる程に（傾倒する程に）大きくなるので、変位手段の傾倒の度合いと、変位手段の外形の変化の度合いとを対応付けることができる。
【５９６５】
遊技機Ａ１からＡ４のいずれかにおいて、前記変位手段は、前記所定の回転軸を中心に傾倒可能に支持される軸側手段と、その軸側手段に対して相対変位可能に構成される構成手段と、を備え、第１姿勢から傾倒することで第２姿勢となるよう構成され、前記第１姿勢よりも前記第２姿勢の方が、前記構成手段と前記所定の回転軸との距離が長くなるよう構成されることを特徴とする遊技機Ａ５。
【５９６６】
遊技機Ａ５によれば、遊技機Ａ１からＡ４のいずれかの奏する効果に加え、傾倒の方向に対応して、構成手段と所定の回転軸との距離の変化の方向が一方向に定められることで、傾倒の角度が大きくなるほど効果の度合いを大きくさせることができる。
【５９６７】
即ち、変位手段が傾倒するほど、構成手段が所定の回転軸から離れていくことになるので、変位手段の重心位置を傾倒先端側に移動させることができ、傾倒の勢いを変位手段の自重により補助することができるので、勢いよい傾倒動作を実現できることから、演出効果を高めることができる。
【５９６８】
更に、変位手段が傾倒の逆方向（起き上がり方向）に変位するほど、構成手段が所定の回転軸に近づいていくことになるので、変位手段の重心位置を回転軸側に移動させることができ、起き上がり動作に必要となる力を減少させることができる。
【５９６９】
遊技機Ａ５において、前記第１姿勢を終端姿勢とする所定角度の傾倒に対する前記構成手段と前記所定の回転軸との距離の変化の度合いよりも、前記第２姿勢を終端姿勢とする前記所定角度の傾倒に対する前記構成手段と前記所定の回転軸との距離の変化の度合いを大きくさせる度合い変化手段を備えることを特徴とする遊技機Ａ６。
【５９７０】
遊技機Ａ６によれば、遊技機Ａ５の奏する効果に加え、第２姿勢付近において、小さな傾倒角度であっても構成手段の所定の回転軸との距離を大きく変化させることができることから、所定の回転軸に対する変位手段の配置を大きくは変えずに、変位手段の外形を大きく変化させるという演出を行うことができる。
【５９７１】
更に、第２姿勢から第１姿勢へ起き上がる変位（傾倒とは逆方向の変位）を変位手段に生じさせる場合に、変位の開始後において構成手段と所定の回転軸との距離を大きく変化させる（短くする）ことができるので、変位手段の重心を早期に所定の回転軸側に寄せることができ、起き上がる変位に必要となる力を低減することができる。
【５９７２】
遊技機Ａ５又はＡ６において、前記構成手段は、前記所定の回動軸を中心とする円の径方向に変位可能な第１構成手段と、前記径方向と直交する方向に変位可能な第２構成手段と、を備えることを特徴とする遊技機Ａ７。
【５９７３】
遊技機Ａ７によれば、遊技機Ａ５又はＡ６の奏する効果に加え、第１姿勢と第２姿勢と

で、変位手段の外形を更に異ならせることができる。
【５９７４】
遊技機Ａ７において、前記変位手段の傾倒中において、前記第１構成手段の変位開始から遅れて、前記第２構成手段の変位が開始されることを特徴とする遊技機Ａ８。
【５９７５】
遊技機Ａ８によれば、遊技機Ａ７の奏する効果に加え、第１構成手段の変位と第２構成手段の変位とが同時に開始される場合に比較して、必要とされる力を低減させることができる。
【５９７６】
遊技機Ａ７又はＡ８において、前記第２構成手段は、前記軸側手段に配設されることを特徴とする遊技機Ａ９。
【５９７７】
遊技機Ａ９によれば、遊技機Ａ７又はＡ８の奏する効果に加え、所定の回転軸側が膨らんだ外観形状で、変位手段を視認させることができる。
【５９７８】
遊技機Ａ７又はＡ８において、前記第２構成手段は、前記構成手段に配設されることを特徴とする遊技機Ａ１０。
【５９７９】
遊技機Ａ１０によれば、遊技機Ａ７又はＡ８の奏する効果に加え、構成手段側の広い外観形状で、変位手段を視認させることができる。
【５９８０】
＜回転軸から離れた位置で駆動力伝達＞
所定の回転軸を中心に傾倒可能に構成される変位手段と、その変位手段を変位させる駆動手段と、を備え、前記所定の回転軸よりも前記変位手段の傾倒先端側に配置される配置部を介して前記駆動手段の駆動力が前記変位手段に伝達されるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ１。
【５９８１】
パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。
【５９８２】
しかし、上述した従来の遊技機では、第１軸線の側における変位手段の構造が大型化し易く、第１軸線を配置空間の隅に寄せて変位手段を配置することが困難となるという問題点があった。即ち、変位手段の配置に改善の余地があるという問題点があった。
【５９８３】
これに対し、遊技機Ｂ１によれば、駆動手段の駆動力が、変位手段の傾倒先端側に配置される配置部を介して伝達されることから、第１軸線の側における変位手段の構造を簡素化することができ、第１軸線を配置空間の隅に寄せて変位手段を配置することが容易となる。これにより、変位手段の配置を改善することができる。
【５９８４】
遊技機Ｂ１において、前記変位手段の傾倒中において、前記駆動手段による駆動力の方向を所定方向に維持しながら、前記配置部の変位方向を変化可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｂ２。
【５９８５】
遊技機Ｂ２によれば、遊技機Ｂ１の奏する効果に加え、駆動手段の駆動力の方向を維持している状態で、配置部の変位方向を変化可能に構成されるので、駆動手段の動作が単調であっても、配置部の変位を複雑にすることができる。
【５９８６】
遊技機Ｂ１又はＢ２において、前記変位手段が傾倒側の変位終端位置に近づくほど、前

記配置部に与えられる駆動力の方向が、前記所定の回転軸と前記配置部とを通る直線方向に近づくことを特徴とする遊技機Ｂ３。

【５９８７】

遊技機Ｂ３によれば、遊技機Ｂ１又はＢ２の奏する効果に加え、傾倒中に配置部に与えられる駆動力の方向を変化させることにより、変位手段が傾倒側の変位終端位置に近づく場合に、傾倒方向に生じる荷重が過大となることを避けることができる。

【５９８８】

これにより、変位手段の傾倒が高速で生じる場合であっても、変位手段が傾倒側の変位終端位置に到達する際の衝撃を和らげ易くすることができるので、変位手段の耐久性を向上することができる。また、衝撃吸収用の緩衝材を不要とできる。

【５９８９】

遊技機Ｂ１からＢ３のいずれかにおいて、前記駆動手段の駆動力の方向は、前記変位手段に対して所定の直線方向の負荷を生じるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ４。

【５９９０】

遊技機Ｂ４によれば、遊技機Ｂ１からＢ３のいずれかの奏する効果に加え、駆動力を安定させ易くすることができる。また、駆動力のうち、変位手段の傾倒方向へ向く成分と変位手段の傾倒方向に対して直交する方向へ向く成分との比は、変位手段の位置（姿勢）に対応して定まるので、変位手段の傾倒方向への負荷の大小を、変位手段の位置（姿勢）に対応させることができる。

【５９９１】

遊技機Ｂ４において、前記所定の直線方向と、前記配置部に当接される前記変位手段の当接部の移動方向のうちの前記所定の回転軸を中心とする回転方向成分との間の角度が大きくなるほど、前記配置部と、前記所定の回転軸との間の距離が長くなるよう構成されることを特徴とする遊技機Ｂ５。

【５９９２】

遊技機Ｂ５によれば、遊技機Ｂ４の奏する効果に加え、駆動力の方向と傾倒する変位手段の変位方向との間の角度が大きいという、傾倒方向の負荷を伝達し難い状況であっても、駆動力が伝達される配置部と所定の回転軸との間の距離を長くすることにより、変位手段の傾倒のための駆動力が不足することを回避し易くすることができる。

【５９９３】

即ち、変位手段の傾倒範囲において、傾倒に必要となる駆動力が局所的に増減することを抑制することにより、必要となる駆動力の変化幅を小さく抑え、駆動手段の選定を容易とすることができる。

【５９９４】

遊技機Ｂ４又はＢ５において、前記変位手段は、表示装置の前方位置と、表示装置の外方位置とで変位可能とされ、前記前方位置における前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度は、前記外方位置における前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度よりも大きいことを特徴とする遊技機Ｂ６。

【５９９５】

遊技機Ｂ６によれば、遊技機Ｂ４又はＢ５の奏する効果に加え、前方位置における回転方向の勢いを低減させることができるので、回転動作の停止を狙いの位置でさせ易い。そのため、回転途中では高速で回転動作させる一方、前方位置では回転をスムーズに止めるという動作を、容易に行うことができる。

【５９９６】

遊技機Ｂ６において、前記外方位置から前記前方位置へ向かう程、前記所定の回転軸を中心とする前記配置部の移動方向と前記所定の直線方向との間の角度が大きくなることを特徴とする遊技機Ｂ７。

【５９９７】

遊技機Ｂ７によれば、遊技機Ｂ６の奏する効果に加え、回転動作を段階的に減速させる

ことができる。
【５９９８】
遊技機Ｂ１からＢ７のいずれかにおいて、前記変位手段に接続させる電気配線は、前記所定の回転軸側から接続されることを特徴とする遊技機Ｂ８。
【５９９９】
遊技機Ｂ８によれば、遊技機Ｂ１からＢ７のいずれかの奏する効果に加え、駆動手段の配置を傾倒先端側にずらしたことにより空いたスペースを、電気配線の配置スペースとして有効利用することができる。
【６０００】
遊技機Ｂ１からＢ８のいずれかにおいて、前記配置部は、第２の所定の直線方向で移動されることで前記所定の回転軸との距離が変化可能に構成され、前記配置部を通る前記第２の所定の直線方向は、前記所定の回転軸を通らないように構成されることを特徴とする遊技機Ｂ９。
【６００１】
遊技機Ｂ９によれば、遊技機Ｂ１からＢ８のいずれかの奏する効果に加え、配置部を第２の所定の直線方向で移動させるための力を、変位手段を所定の回転軸を中心に回転動作させるためにも利用することができる。
【６００２】
遊技機Ｂ１からＢ９のいずれかにおいて、前記駆動手段の駆動力を伝達可能な無端ベルトを備えることを特徴とする遊技機Ｂ１０。
【６００３】
遊技機Ｂ１０によれば、遊技機Ｂ１からＢ９のいずれかの奏する効果に加え、変位手段の変位幅を大きく確保し易くすることができる。
【６００４】
＜抵抗感を範囲ごとに変化させる＞
変位可能な変位手段と、その変位手段を変位させる駆動手段と、を備える遊技機において、変位中の前記変位手段が受ける力の態様を、前記変位手段の位置に対応して変化させる態様変化手段を備えることを特徴とする遊技機Ｃ１。
【６００５】
パチンコ機等の遊技機において、第１軸線を中心として回転動作可能に構成される変位手段と、その変位手段を動作させる駆動手段と、を備え、変位手段が終端位置において付勢力を受けて制動されるよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１４－１４４２８３号公報を参照）。
【６００６】
しかし、上述した従来の遊技機では、変位中の変位手段が受ける力について何ら考慮されておらず、変位途中において駆動手段に与えられる負荷が急激に変化する等する可能性があり、改良の余地があるという問題点があった。即ち、変位手段の変位について改良の余地があるという問題点があった。
【６００７】
これに対し、遊技機Ｃ１によれば、態様変化手段により、変位中の変位手段が受ける力の態様を、変位手段の位置に対応して変化させることができることから、変位途中において変位手段に与えられる力を適切に調整することができ、駆動手段に与えられる負荷が急激に変化することを防止できる。これにより、変位手段の変位を改良することができる。
【６００８】
遊技機Ｃ１において、前記変位手段は、第１範囲と、その第１範囲と異なる第２範囲とを変位可能であって、前記態様変化手段により前記変位手段が受ける力は、前記第１範囲に配置される場合よりも、前記変位手段が前記第２範囲に配置される場合の方が大きくなることを特徴とする遊技機Ｃ２。
【６００９】
遊技機Ｃ２によれば、遊技機Ｃ１の奏する効果に加え、変位手段が受ける力の態様を範

囲ごとに変化させることができる。
【６０１０】
遊技機Ｃ２において、前記第１範囲または前記第２範囲は、前記変位手段の少なくとも一方の変位終端を含む範囲とされることを特徴とする遊技機Ｃ３。
【６０１１】
遊技機Ｃ３によれば、遊技機Ｃ２の奏する効果に加え、変位終端において変位手段が受ける力が変化することを防止することができる。
【６０１２】
遊技機Ｃ３において、前記第１範囲は、前記変位手段の前記変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ４。
【６０１３】
遊技機Ｃ４によれば、遊技機Ｃ３の奏する効果に加え、変位手段の変位終端からの変位に要する駆動力を低減させることができる。
【６０１４】
遊技機Ｃ４において、前記態様変化手段は、前記変位手段に対して相対変位可能な相対変位手段を備え、前記第２範囲において相対変位する前記相対変位手段の個数が、前記第１範囲において相対変位する前記相対変位手段の個数よりも多くされることを特徴とする遊技機Ｃ５。
【６０１５】
遊技機Ｃ５によれば、遊技機Ｃ４の奏する効果に加え、相対変位する相対変位手段の個数を変化させることで演出効果を高めながら、態様変化手段から生じる力の増減を生じさせることができる。
【６０１６】
遊技機Ｃ５において、前記相対変位手段は、第１の態様で相対変位する第１相対変位手段と、第２の態様で相対変位する第２相対変位手段と、を備え、前記変位手段が一方の変位終端から変位開始する場合に、前記第１相対変位手段の相対変位から生じることを特徴とする遊技機Ｃ６。
【６０１７】
遊技機Ｃ６によれば、遊技機Ｃ５の奏する効果に加え、複数態様で相対変位する相対変位手段が同時に相対変位を開始するのではなく、相対変位のタイミングがずらされることにより、変位手段の変位を安定させることができる。
【６０１８】
遊技機Ｃ６において、前記変位手段が他方の変位終端から変位開始する場合に、前記第２相対変位手段の相対変位から生じることを特徴とする遊技機Ｃ７。
【６０１９】
遊技機Ｃ７によれば、遊技機Ｃ６の奏する効果に加え、変位手段が変位を開始する終端ごとに、先に相対変位する相対変位手段を異ならせることで、演出効果の向上を図ることができる。
【６０２０】
遊技機Ｃ３において、前記第１範囲は、前記変位手段の少なくとも一方の変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ８。
【６０２１】
遊技機Ｃ８によれば、遊技機Ｃ３の奏する効果に加え、少なくとも一方の変位終端において、変位手段を減速させ易くすることができる。
【６０２２】
遊技機Ｃ８において、前記変位手段が受ける前記力は、所定の抵抗力であることを特徴とする遊技機Ｃ９。
【６０２３】
遊技機Ｃ９によれば、遊技機Ｃ８の奏する効果に加え、変位手段が受ける所定の抵抗力を変位終端で大きくし、変位途中で小さくするように構成することで、変位手段の変位の

迅速化を図ることができる。
【６０２４】
遊技機Ｃ８又はＣ９において、前記第１範囲は、前記変位手段の両方の変位終端を含むことを特徴とする遊技機Ｃ１０。
【６０２５】
遊技機Ｃ１０によれば、遊技機Ｃ８又はＣ９の奏する効果に加え、両変位終端において変位手段を減速させ易くすることができるので、両変位方向において変位手段の変位の迅速化を図ることができる。
【６０２６】
遊技機Ｃ１０において、前記変位手段は一対で構成され、その一対の前記変位手段から前記駆動手段側に伝達される荷重は、前記両方の変位終端において同じとされることを特徴とする遊技機Ｃ１１。
【６０２７】
遊技機Ｃ１１によれば、遊技機Ｃ１０の奏する効果に加え、両方の変位終端からの変位開始に要する駆動力を同じにすることができる。
【６０２８】
＜基板に位置合わせされる導光板に平行に光を照射＞
板状部材から構成される第１手段と、その第１手段の所定面側に配設される第１発光手段と、その第１発光手段の光を受光可能な板状の第１受光手段と、を備え、前記第１受光手段は、前記所定面と対向配置される側面が前記第１手段の前記所定面と当接されることを特徴とする遊技機Ｄ１。
【６０２９】
パチンコ機等の遊技機において、発光手段が配設される板状部材と、その板状部材の発光手段に対向配置され、発光手段の光が入射されるよう構成される板状部を有する受光手段と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１９８６７５号公報を参照）。
【６０３０】
しかし、上述した従来の遊技機では、受光手段を位置合わせするための他の部材が必要であり、構造が複雑化するという問題点があった。即ち、受光手段の配置に関して改善の余地があるという問題点があった。
【６０３１】
これに対し、遊技機Ｄ１によれば、第１手段と第１受光手段との当接により第１受光手段の第１手段に対する位置合わせを行うことができるので、第１受光手段を位置合わせするための構造を簡素化することができる。即ち、受光手段の配置に関して改善することができる。
【６０３２】
遊技機Ｄ１において、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が前記反対面と当接されることを特徴とする遊技機Ｄ２。
【６０３３】
遊技機Ｄ２によれば、遊技機Ｄ１の奏する効果に加え、第２受光手段についても第１手段との当接により第１手段に対する位置合わせを行うことができるので、第１受光手段および第２受光手段を位置合わせするための構造を簡素化することができる。即ち、受光手段の配置に関して更に改善することができる。
【６０３４】
遊技機Ｄ２において、前記第１受光手段および前記第２受光手段は、前記第１手段に、所定の押圧手段からの押圧により固定可能とされることを特徴とする遊技機Ｄ３。
【６０３５】
遊技機Ｄ３によれば、遊技機Ｄ２の奏する効果に加え、押圧手段からの押圧により３部材を固定可能とされるので、複数部材を固定するための固定箇所を減らすことができ、製

造工数を削減できる。
【６０３６】
遊技機Ｄ１からＤ３のいずれかにおいて、前記第１手段および前記第１受光手段を支持可能に構成される支持手段を備え、その支持手段は、前記第１手段に嵌合可能な第１突設部と、前記第１受光手段に嵌合可能な第２突設部と、を備えることを特徴とする遊技機Ｄ４。
【６０３７】
遊技機Ｄ４によれば、遊技機Ｄ１からＤ３のいずれかの奏する効果に加え、支持手段によって第１手段および第１受光手段を支持することで、第１手段の板面と平行な方向における第１手段と第１受光手段との位置ずれを防ぐことができる。
【６０３８】
なお、第２受光手段が配設される場合において、第２突設部が第２受光手段にも嵌合可能に構成するようにしても良い。この場合、第１手段の板面と平行な方向における第１受光手段と第２受光手段との位置ずれを防ぐことができる。
【６０３９】
遊技機Ｄ３又はＤ４において、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が前記反対面と当接され、前記第１手段は、前記第２突設部の外方に配置され、前記第１受光手段および前記第２受光手段は、前記第２突設部において所定の押圧手段により押圧され固定可能とされることを特徴とする遊技機Ｄ５。
【６０４０】
遊技機Ｄ５によれば、遊技機Ｄ３又はＤ４の奏する効果に加え、手段からの押圧力が第１手段の端部にかけられるようにすることができる。これにより、押圧力が過大になった場合でも、第１手段の端部が破損することで留めることができ、発光手段が配設される中央部側が破損することを避け易くすることができる。
【６０４１】
遊技機Ｄ５において、前記第１受光手段または前記第２受光手段は、第１手段と当接する当接部の形状が対応するように構成されることを特徴とする遊技機Ｄ６。
【６０４２】
遊技機Ｄ６によれば、遊技機Ｄ５の奏する効果に加え、所定の押圧手段からの押圧により第１受光手段を介して第１手段に力がかけられる部分と、第２受光手段を介して第１手段に力がかけられる部分とを対応させることができるので、第１手段にかけられる力の方向を面直方向にしやすく、表裏にかけられる力のバランスを良くすることができる。これにより、第１手段の面と傾斜する方向に力がかけられることによる第１手段の割れを防止することができる。
【６０４３】
遊技機Ｄ３からＤ６のいずれかにおいて、前記第１手段の前記所定面側とは反対側の反対面側に配設される第２発光手段と、前記第２発光手段の光を受光可能な板状の第２受光手段と、を備え、前記第２受光手段は、前記反対面と対向配置される側面が、前記反対面と当接され、前記第１発光手段は、前記第２発光手段に対応する位置に配置され、前記第２発光手段の照射方向に対して平行な方向に光を照射するよう構成されることを特徴とする遊技機Ｄ７。
【６０４４】
遊技機Ｄ７によれば、遊技機Ｄ３からＤ６のいずれかの奏する効果に加え、第１発光手段から第１受光手段に光が照射される位置と、第２発光手段から第２受光手段に光が照射される位置とを、対応させることができる。これにより、異なる発光部により照らされる位置を合わせることができるので、第１受光手段および第２受光手段の平面と直交する方向視における発光演出を良好とすることができる。
【６０４５】

遊技機Ｄ７において、前記第１発光手段は、複数の発光部を備え、それら複数の発光部からの光の光軸方向が互いに平行とされることを特徴とする遊技機Ｄ８。

【６０４６】

遊技機Ｄ８によれば、遊技機Ｄ７の奏する効果に加え、第１発光手段の光により第１手段を広範囲で均一に光らせることができる。

【６０４７】

遊技機Ｄ１からＤ８のいずれかにおいて、前記第１手段および前記第１発光手段を支持可能に構成される支持手段、を備え、前記第１受光手段は、前記第１手段が配設される側の反対側の被支持面が前記支持手段の支持面に支持されるよう構成され、前記被支持面または前記支持面は、複数の突起部を備え、その複数の突起部は、所定の発光手段からの光を受けて演出可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｄ９。

【６０４８】

遊技機Ｄ９によれば、遊技機Ｄ１からＤ８のいずれかの奏する効果に加え、複数の突起部を、光を受けて演出する演出面と、押圧力を分割可能な構造面とで利用することができる。

【６０４９】

遊技機Ｄ９において、前記所定の発光手段は、前記第１発光手段に対する前記第１受光手段の反対側に配置されることを特徴とする遊技機Ｄ１０。

【６０５０】

遊技機Ｄ１０によれば、遊技機Ｄ９の奏する効果に加え、所定の発光手段からの光と第１発光手段からの光とが干渉することを避けることができる。

【６０５１】

遊技機Ｄ１からＤ１０のいずれかにおいて、前記第１手段は、複数枚の板状部材を備えることを特徴とする遊技機Ｄ１１。

【６０５２】

遊技機Ｄ１１によれば、遊技機Ｄ１からＤ１０のいずれかの奏する効果に加え、第１受光手段へ光を照射する第１発光手段の配設箇所を増やすことができるので、第１受光手段の大きさの設計自由度を向上させることができる。

【６０５３】

遊技機Ｄ１からＤ１１のいずれかにおいて、前記第１受光手段の受光側端部は、前記第１発光手段の照射方向側の前記第１手段の端部よりも前記発光手段側に配置されることを特徴とする遊技機Ｄ１２。

【６０５４】

遊技機Ｄ１２によれば、遊技機Ｄ１からＤ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１手段を遮蔽部材として利用することで、第１受光手段に受光される前の光が漏れることを防止することができる。

【６０５５】

＜光を通す方向を制限する制限手段＞

前面側に遊技球が流下可能な領域を構成する流下手段と、その流下手段よりも正面側に設けられ、背面側に位置する前記領域を遊技球が流下する場合がある正面側手段と、を備え、前記正面側手段は、第１方向の方向視と、その第１方向の方向視よりも前記領域を流下する遊技球を視認し易い第２方向の方向視とで視認可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１。

【６０５６】

パチンコ機等の遊技機において、遊技球の流下経路の正面側に装飾用の文字や図形等が描かれた透明板が配設される遊技機がある（例えば、特開２０１７－２３５４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、装飾用の文字や図形越しに流下経路を流れる遊技球を視認することになるが、どちらか一方を見易くすると（例えば、装飾用の文字や図形を濃くすると）、他方の視認性が悪くなる（例えば、遊技球が見え難くなる）といった事態が生じ得ることになり、遊技中における遊技球の視認性について改善の余地があ

るという問題点があった。
【６０５７】
これに対し、遊技機Ｅ１によれば、正面側手段は、見る方向によって、流下手段を流下する遊技球を視認し易い状態と、視認し難い状態とを構成できる。即ち、第１方向視においては正面側手段の正面側を視認させる一方で、第２方向視において正面側手段越しに遊技球を視認させるようにすることで、正面側手段を採用したまま、遊技中における遊技球の視認性を改善することができる。
【６０５８】
遊技機Ｅ１において、前記正面側手段は、光透過性の樹脂材料から形成され、前記領域へ向かう前記第１方向の光を遮り、前記第２方向の光が前記領域へ向かうことを許容する方向選択手段を備えることを特徴とする遊技機Ｅ２。
【６０５９】
遊技機Ｅ２によれば、遊技機Ｅ１の奏する効果に加え、方向選択手段により、光が透過可能な方向を制限することにより、方向の違いによる視認性の程度の違いをより明確にすることができる。
【６０６０】
遊技機Ｅ２において、前記流下手段よりも正面側に配置され、遊技球が流下する領域の前側面を構成する前側面構成手段を備え、前記方向選択手段は、前記正面側手段と前記前側面構成手段との間の領域に配置され所定の厚みを有するよう構成されることを特徴とする遊技機Ｅ３。
【６０６１】
遊技機Ｅ３によれば、遊技機Ｅ２の奏する効果に加え、方向視の違いによる視認性の変化を、正面側手段と前側面構成手段との間という厚みの薄い領域に配置される方向選択手段により実現できるので、方向選択手段自体による光の減衰の影響を受け難くすることができ、第１方向の方向視と、第２方向の方向視との見え方の違いを顕著にすることができる。
【６０６２】
遊技機Ｅ１からＥ３のいずれかにおいて、前記方向選択手段により視認される方向で遊技球の視認性が変化する第１の流路と、視認される方向で遊技球の視認性が変化しない第２の流路とが隣り合って設けられることを特徴とする遊技機Ｅ４。
【６０６３】
遊技機Ｅ４によれば、遊技機Ｅ１からＥ３のいずれかの奏する効果に加え、所定範囲を視認する遊技者の視線の方向の違いにより、第２の流路に注目させ易い状態と、第１の流路および第２の流路の両方に同程度に注目させ易い状態とを生じさせることができる。
【６０６４】
遊技機Ｅ４において、前記第１の流路を流下する遊技球を検出可能な検出手段を備えることを特徴とする遊技機Ｅ５。
【６０６５】
遊技機Ｅ５によれば、遊技機Ｅ４の奏する効果に加え、方向選択手段により遊技球が第１の流路を流下したことを視認できない事態が生じても、検出手段により遊技球の流下が検出された場合に遊技者側に報知を行うように制御することが可能となるので、第１の流路を遊技球が流下したか否かを遊技者に把握させ易くすることができる。
【６０６６】
遊技機Ｅ４又はＥ５において、前記第１の流路に流入した遊技球は、前記第１の流路を介して遊技領域から排出されることを特徴とする遊技機Ｅ６。
【６０６７】
遊技機Ｅ６によれば、遊技機Ｅ４又はＥ５の奏する効果に加え、遊技領域から排出される予定の第１の流路を流下する遊技球に比較して、流下した後も遊技領域を流下し得る第２の流路を流下する遊技球に対して、より注目させることができる。
【６０６８】

遊技機Ｅ１からＥ６のいずれかにおいて、前記正面側手段は、前記領域へ向かう前記第１方向の光を遮り、前記第２方向の光が前記領域へ向かうことを許容する方向選択手段を備え、その方向選択手段は、その表面側を覆うように光透過性の樹脂部材が配置され、その樹脂部材の表面に装飾図形が形成されることを特徴とする遊技機Ｅ７。

【６０６９】

遊技機Ｅ７によれば、遊技機Ｅ１からＥ６のいずれかの奏する効果に加え、第１方向から領域側へ視線を送る遊技者に対して、樹脂部材の表面の装飾図形を視認させることができるので、正面側手段の演出効果を向上させることができる。

【６０７０】

遊技機Ｅ７において、前記方向選択手段は、積層配置される複数の板状部を有する板状手段から形成されることを特徴とする遊技機Ｅ８。

【６０７１】

遊技機Ｅ８によれば、遊技機Ｅ７の奏する効果に加え、前後方向の隙間寸法が大きい場合に、その隙間を方向選択手段により埋め易くすることができる。

【６０７２】

遊技機Ｅ１からＥ８のいずれかにおいて、光照射手段を備え、その光照射手段の光により前記正面側手段の視認性が変化されることを特徴とする遊技機Ｅ９。

【６０７３】

遊技機Ｅ９によれば、遊技機Ｅ１からＥ８のいずれかの奏する効果に加え、光照射手段の光を点灯させる場合と、消灯させる場合とで、正面側手段の視認性に変化を生じさせることができるので、領域を流下する遊技球の視認性の切り替えを、演出に対応させて実行させることができる。

【６０７４】

遊技機Ｅ９において、前記光照射手段の光により前記正面側手段の視認性が変化される範囲を切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１０。

【６０７５】

遊技機Ｅ１０によれば、遊技機Ｅ９の奏する効果に加え、光照射手段の照射態様を切り替えることにより、正面側手段の範囲ごとの視認性を変化させることができる。これにより、遊技球が流下する領域を視認性良く視認できる方向を、光照射手段により切り替えることができる。

【６０７６】

遊技機Ｅ１からＥ１０のいずれかにおいて、前記正面側手段は、変位可能に構成されることを特徴とする遊技機Ｅ１１。

【６０７７】

遊技機Ｅ１１によれば、遊技機Ｅ１からＥ１０のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が目線を動かさなくても、正面側手段が変位することにより遊技者の目線と正面側手段との間の角度が変化する場合を生じさせることができ、領域の視認性を変化させることができる。

＜基板ボックスＷ１００～Ｗ３１００，Ｗ７００～Ｗ９１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備え、前記係合部材が取り外されて、前記配設部材が取り外される遊技機において、前記係合部材が取り外されると、前記配設部材が取り外されたのと同等の状況が形成可能とされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－０。

【６０７８】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【６０７９】

ここで、取り外した配設部材が再び配設される場合がある。この場合には、配設部材の状態を確認できることが好ましいが、上述した遊技機では、配設部材の状態を確認可能とする上で未だ改善の余地がある。

【６０８０】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の状態を確認可能とすることができる遊技機を提供することを目的とする。

【６０８１】

遊技機ＷＡ１－０によれば、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６０８２】

この場合、係合部材が取り外されると、前記配設部材が取り外されたのと同等の状況が形成可能とされる。これにより、その状況に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【６０８３】

遊技機ＷＡ１－０において、前記係合部材は、本体部と、前記第１部材に係合される係合部と、前記本体部および前記係合部を連結する連結部と、を備え、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記連結部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ１－１。

【６０８４】

遊技機ＷＡ１－１によれば、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、連結部に対応する位置に形成されるので、連結部が切断される際に、凹部（空間）を利用して（連結部を切断するための工具の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を破損させやすくできる。即ち、切断部が切断された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【６０８５】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【６０８６】

なお、配設部材に痕跡が無い場合には、その配設部材が新品である可能性が高いと判断できる。配設部材に痕跡が有る場合には、第１部材および第２部材から係合部材が取り外される際に配設部材に痕跡が形成され、第１部材および第２部材から取り外されて、同一または別の第１部材および第２部材に再度配設（再利用）された配設部材である、又は、第１部材および第２部材または収納物に対して不正な操作を行うために、第１部材および第２部材から係合部材のみが取り外され、その係合部材の取り外しの際に痕跡が形成された配設部座合である可能性が高いと判断できる。

【６０８７】

遊技機ＷＡ１－１において、前記第１部材と前記第２部材とは、ねじの締結により連結され、前記ねじの頭部は、前記凹部に位置することを特徴とする遊技機ＷＡ１－２。

【６０８８】

遊技機ＷＡ１－２によれば、遊技機ＷＡ１－１の奏する効果に加え、第１部材と前記第２部材とは、ねじの締結により連結され、ねじの頭部は、凹部に位置するので、連結部が切断される際に形成される配設部材の痕跡を、ねじの頭部に対応する位置に形成することができる。よって、配設部材によりねじの頭部が隠れている場合でも、配設部材の痕跡に基づいて、ねじの位置を把握できる。その結果、ねじの締結を解除する作業の作業性を向上できる。

【６０８９】

遊技機ＷＡ１－１又はＷＡ１－２において、前記係合部材は、前記本体部と前記配設部材との間の対向間隔よりも前記連結部と前記配設部材との間の対向間隔が小さくされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－３。

【６０９０】

遊技機ＷＡ１－３によれば、遊技機ＷＡ１－１又はＷＡ１－２の奏する効果に加え、係合部材は、本体部と配設部材との間の対向間隔よりも連結部と配設部材との間の対向間隔が小さくされるので、連結部を切断するための工具の先端を配設部材に近づけることができ、連結部が切断される際に、配設部材を破損させやすくできる。

【６０９１】

遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－３のいずれかにおいて、前記連結部は、少なくとも一方の側面が傾斜して形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ１－４。

【６０９２】

遊技機ＷＡ１－４によれば、遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－３のいずれかの奏する効果に加え、連結片は、少なくとも一方の側面が傾斜して形成されるので、連結片が切断される際に、側面の傾斜に沿って工具を移動させることができる。よって、工具の先端を配設部材に当接させ、配設部材を破損させやすくできる。

【６０９３】

例えば、一対の刃の間に連結片を挟み込んで（一対の刃を両側面に当接させて）、連結片を切断する工具を使用する場合には、連結片が切断される際に、側面の傾斜に沿って工具を回転させ、その回転に伴って、工具の先端を配設部材に当接させやすくできる。

【６０９４】

遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－４のいずれかにおいて、前記連結部は、第１部分と、その第１部分よりも両側面の間の距離が小さくされる第２部分とを備え、前記第１部分と前記配設部材との間の対向間隔よりも前記第２部分と前記配設部材との間の対向間隔が小さくされることを特徴とする遊技機ＷＡ１－５。

【６０９５】

遊技機ＷＡ１－５によれば、遊技機ＷＡ１－１からＷＡ１－４のいずれかの奏する効果に加え、第２部分は、第１の部分よりも両側面間の距離が小さくされるので、第２部分の切断により、連結部の切断を容易とできる。

【６０９６】

この場合、第１部分と配設部材との間の対向間隔よりも第２部分と配設部材との間の対向間隔が小さくされるので、第２部分を切断するための工具の先端を配設部材に近づけることができ、第２部分が切断される際に、配設部材を破損させやすくできる。

【６０９７】

また、このように、第１部分と配設部材との間の対向間隔よりも第２部分と配設部材との間の対向間隔が小さくされる（即ち、第２部分を配設部材側へ延長できる）ことで、その分、第１部分と第２部分との横断面の面積の差を抑制できる。よって、係合部材を樹脂材料から形成する場合には、その成形性を確保できる。

＜基板ボックスＷ４１００～Ｗ６１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、前記第１部材に係合される係合部と、前記本体部および前記係合部を連結する連結部と、を備え、前記係合部材の係合部は、前記配設部材へ向けて突設される突部を備えることを特徴とする遊技機ＷＡ２－１。

【６０９８】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【６０９９】

ここで、取り外した配設部材が再び配設される場合がある。この場合には、配設部材の

状態を確認できることが好ましいが、上述した遊技機では、配設部材の状態を確認可能とする上で未だ改善の余地がある。

【６１００】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の状態を確認可能とすることができる遊技機を提供することを目的とする。

【６１０１】

遊技機ＷＡ２－１によれば、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６１０２】

この場合、係合部材は、配設部材へ向けて突設される突部を備えるので、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材との係合を解除しようとすると、突部により配設部材を破損させることができる。即ち、係合が解除されたか否かに関わらず、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【６１０３】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【６１０４】

なお、配設部材に痕跡が無い場合には、その配設部材が新品である可能性が高いと判断できる。配設部材に痕跡が有る場合には、第１部材および第２部材から係合部材が取り外される際に配設部材に痕跡が形成され、第１部材および第２部材から取り外されて、同一または別の第１部材および第２部材に再度配設（再利用）された配設部材である、又は、第１部材および第２部材または収納物に対して不正な操作を行うために、第１部材および第２部材から係合部材のみが取り外され、その係合部材の取り外しの際に痕跡が形成された配設部座合である可能性が高いと判断できる。

【６１０５】

遊技機ＷＡ２－１において、前記突部は、前記係合部の外縁側に位置されることを特徴とする遊技機ＷＡ２－２。

【６１０６】

遊技機ＷＡ２－２によれば、遊技機ＷＡ２－１の奏する効果に加え、突部は、係合部の外縁側に位置されるので、第１部材に係合部材が係合された状態であっても、配設部材の痕跡を視認しやすくできる。即ち、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）の確認を行いやすくできる。

【６１０７】

遊技機ＷＡ２－１又はＷＡ２－２において、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記突部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＡ２－３。

【６１０８】

遊技機ＷＡ２－３によれば、遊技機ＷＡ２－１又はＷＡ２－２の奏する効果に加え、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、突部に対応する位置に形成されるので、連結部を切断せずに、係合部の操作（弾性変形）により第１部材との係合が解除される際には、凹部（空間）を利用して（突部の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を突部により破損させやすくできる。即ち、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成しやすくできる。

【６１０９】

遊技機ＷＡ２－３において、前記係合部材は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、前記第１部材から取り外

し可能とされ、前記凹部は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、前記係合部材が前記所定方向へ前記所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲に少なくとも形成されていることを特徴とする遊技機ＷＡ２－４。

【６１１０】

遊技機ＷＡ２－４によれば、遊技機ＷＡ２－３の奏する効果に加え、係合部材は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、第１部材から取り外し可能とされ、凹部は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、係合部材が所定方向へ所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲に少なくとも形成されているので、配設部材の破損範囲を確保できる。

【６１１１】

即ち、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材と係合部材との係合が解除される際には、突部の先端が凹部に受け入れられた状態で、係合部材が所定方向へ変位されるので、その係合部材が所定方向へ所定距離を変位される間、凹部に受け入れられた突部の先端により配設部材を破損し続けることができる。よって、配設部材の破損範囲を確保できる。

【６１１２】

遊技機ＷＡ２－３において、前記係合部材は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、前記第１部材から取り外し可能とされ、前記凹部は、前記配設部材に近づく方向へ前記係合部が操作された状態で、前記係合部材が前記所定方向へ前記所定距離を変位される際の前記突部に対応する範囲のうちの前半部分のみに形成されていることを特徴とする遊技機ＷＡ２－５。

【６１１３】

遊技機ＷＡ２－５によれば、遊技機ＷＡ２－３の奏する効果に加え、係合部材は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、所定方向へ所定距離を変位されることで、第１部材から取り外し可能とされ、凹部は、配設部材に近づく方向へ係合部が操作された状態で、係合部材が所定方向へ所定距離を変位される際の突部に対応する範囲のうちの前半部分のみに形成されているので、配設部材の破損範囲の確保と、係合部材が第１部材から不正に取り外されることの抑制とを図ることができる。

【６１１４】

即ち、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材と係合部材との係合が解除される際には、突部の先端が凹部に受け入れられた状態で、係合部材が所定方向へ変位されるので、その係合部材が所定方向へ所定距離の前半部分を変位される間、凹部に受け入れられた突部の先端により配設部材を破損し続けることができる。よって、配設部材の破損範囲を確保できる。

【６１１５】

一方で、係合部材が所定方向へ所定距離の前半部分を変位された後は、凹部に受け入れられた突部の先端を凹部の終端に係合させることができる。これにより、係合部材の所定方向への変位を規制することができるので、係合部材が第１部材から不正に取り外されることを抑制できる。

＜基板ボックスＷａ１００～Ｗｃ１００，Ｗｉ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部が分離された前記本体部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－１。

【６１１６】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【６１１７】

上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。

【６１１８】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

【６１１９】

遊技機ＷＢ１－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、係合部が分離された本体部を使用して、配設部の配設状態を変更可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の本体部は、比較的大きく、把持がしやすいので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。

【６１２０】

遊技機ＷＢ１－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記本体部は、前記配設部材の所定領域に対応する位置に配設される変更手段を備え、前記連結部が切断された状態では、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接する位置まで前記本体部が前記第１部材および前記第２部材に対して変位可能とされることを特徴とする遊技機ＷＢ１－２。

【６１２１】

遊技機ＷＢ１－２によれば、遊技機ＷＢ１－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６１２２】

この場合、本体部は、配設部材の所定領域に対応する位置に配設される変更手段を備え、連結部が切断された状態では、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接する位置まで本体部が第１部材および第２部材に対して変位可能とされるので、連結部を切断した後であって、第１部材および第２部材から本体部を取り外す前に、本体部を変位させて、配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる（配設部材の配設状態を変更する）ことができる。即ち、連結部を切断し、本体部を第１部材および第２部材から取り外す作業と、取り外した本体部（変更手段）を使用して配設部材の配設状態を変更する作業とを別々に行う必要がなく、これらの作業を一連の作業として効率的に行うことができるので、配設部材の配設状態の変更を容易に行うことができる。

【６１２３】

また、変更手段が配設部材の所定領域に対応する位置に配設されるので、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け（取り外し）作業時、或いは、連結部材の切断により係合部が分離された本体部の廃棄処理時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【６１２４】

また、変更手段が本体部に形成される分、本体部の剛性を高めることができる。

【６１２５】

遊技機ＷＢ１－２において、前記本体部の前記変更手段は、前記配設部材の前記所定領域に対して少なくとも一部が傾斜して形成されていることを特徴とする遊技機ＷＢ１－３。

【６１２６】

遊技機ＷＢ１－３によれば、遊技機ＷＢ１－２の奏する効果に加え、本体部の変更手段は、配設部材の所定領域に対して少なくとも一部が傾斜して形成されているので、本体部を変位させて、配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させた際に、配設部材の配設状態を変更しやすくできる。

【６１２７】

遊技機ＷＢ１－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記本体部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記係合部に対向する位置に配設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ１－４。

【６１２８】

遊技機ＷＢ１－４によれば、遊技機ＷＢ１－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６１２９】

本体部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され係合部に対向する位置に配設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。

【６１３０】

この場合、変更手段は、係合部に対向する位置に配設され、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【６１３１】

また、変更手段が本体部に形成される分、本体部の剛性を高めることができる。

【６１３２】

遊技機ＷＢ１－４において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方は、被当接部を備え、前記本体部は、前記被当接部に当接可能に形成される当接部を備え、前記被当接部に前記当接部が当接されると、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－５。

【６１３３】

遊技機ＷＢ１－５によれば、遊技機ＷＢ１－４の奏する効果に加え、被当接部に当接部が当接されると、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接されるので、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる）際に、配設部材の所定領域の位置を探す手間を抑制できる。

【６１３４】

遊技機ＷＢ１－５において、前記被当接部は、その被当接部に当接された前記当接部が前記被当接部に沿って変位可能に形成され、前記被当接部に沿って前記当接部が変位されると、前記配設部材の所定領域に沿って前記変更手段が変位されることを特徴とする遊技機ＷＢ１－６。

【６１３５】

遊技機ＷＢ１－６によれば、遊技機ＷＢ１－５の奏する効果に加え、被当接部に沿って当接部が変位されると、配設部材の所定領域に沿って変更手段が変位されるので、被当接部をガイドとして利用して、配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域を変更手段で切断する）作業を容易とできる。

＜基板ボックスＷｅ１００～Ｗｇ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記本体部から分離された前記係合部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－１。

【６１３６】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【６１３７】
上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。
【６１３８】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。
【６１３９】
遊技機ＷＢ２－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、本体部から分離された係合部を使用して、配設部の配設状態を変更可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の係合部は、比較的小さく、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できるので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。
【６１４０】
遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記本体部に対向する位置に配設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－２。
【６１４１】
遊技機ＷＢ２－２によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【６１４２】
係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され本体部に対向する位置に配設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。
【６１４３】
この場合、変更手段は、本体部に対向する位置に配設され、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。
【６１４４】
遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成され前記配設部材へ向けて突設される変更手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－３。
【６１４５】
遊技機ＷＢ２－３によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【６１４６】
係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成され配設部材へ向けて突設される変更手段を備えるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。
【６１４７】
この場合、変更手段は、配設部材へ向けて突設され（即ち、配設部材に対向する位置に配設され）、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされるので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材およ

び第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。

【６１４８】

また、係合手段は、係合部から配設部材へ向けて突設されるので、連結部を切断せずに、係合部の操作により第１部材との係合を解除しようとすると、係合手段により配設部材を破損させることができる。即ち、係合が解除されたか否かに関わらず、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【６１４９】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【６１５０】

遊技機ＷＢ２－２又はＷＢ２－３において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方は、被当接部を備え、前記係合部は、前記被当接部に当接可能に形成される当接部を備え、前記被当接部に前記当接部が当接されると、前記配設部材の所定領域に前記変更手段が少なくとも当接されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－４。

【６１５１】

遊技機ＷＢ２－４によれば、遊技機ＷＢ２－２又はＷＢ２－３の奏する効果に加え、被当接部に当接部が当接されると、配設部材の所定領域に変更手段が少なくとも当接されるので、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域に変更手段を少なくとも当接させる）際に、配設部材の所定領域の位置を探す手間を抑制できる。

【６１５２】

遊技機ＷＢ２－４において、前記被当接部は、その被当接部に当接された前記当接部が前記被当接部に沿って変位可能に形成され、前記被当接部に沿って前記当接部が変位されると、前記配設部材の所定領域に沿って前記変更手段が変位されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－５。

【６１５３】

遊技機ＷＢ２－５によれば、遊技機ＷＢ２－４の奏する効果に加え、被当接部に沿って当接部が変位されると、配設部材の所定領域に沿って変更手段が変位されるので、被当接部をガイドとして利用して、配設部材の配設状態を変更する（配設部材の所定領域を変更手段で切断する）作業を容易とできる。

【６１５４】

遊技機ＷＢ２－１において、前記係合部材は、前記本体部および前記係合部を連結する連結部を備え、前記係合部は、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成される変更手段を備え、前記変更手段は、切断された前記連結部により形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ２－６。

【６１５５】

遊技機ＷＢ２－６によれば、遊技機ＷＢ２－１の奏する効果に加え、本体部および係合部が連結部により連結されるので、連結部を切断することにより、係合部を係合部材（本体部）から分離できる。これにより、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６１５６】

係合部は、配設部材の配設状態を変更可能に形成される変更手段を備え、変更手段は、切断された連結部により形成されるので、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで、変更手段を使用して配設部材の配設状態を変更することが可能となる。

【６１５７】

この場合、係合部材の係合部は、比較的小さく、連結部は係合部よりも更に小さいので、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できると共に、配設部材の配設状態を変更することに適した形状(例えば、鋭利な形状）を形成しやすい。よって、

配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすくできる。
【６１５８】
また、係合部が係合部材（本体部）から分離されることで変更手段が使用可能とされる（即ち、切断された連結部が変更手段となる）ので、係合部が係合部材（本体部）から分離される前の状態では、作業者の手が変更手段に触れることを抑制できる。よって、係合部材の製造時やその運搬時、第１部材および第２部材への係合部材の取り付け作業時に、作業者が変更手段で負傷することを抑制できる。
【６１５９】
遊技機ＷＢ２－６において、前記連結部は、前記係合部の一辺の一側の端部を前記本体部に連結する一側連結部と、前記係合部の前記一辺の前記一側と反対側の他側の端部を前記本体部に連結する他側連結部とを備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－７。
【６１６０】
遊技機ＷＢ２－７によれば、連結部は、係合部の一辺の一側の端部を本体部に連結する一側連結部と、係合部の一辺の一側と反対側の他側の端部を本体部に連結する他側連結部とを備えるので、配設部材の所定領域における一側には一側連結部を使用して係合部を一側へ変位させると共に、配設部材の所定領域における他側には他側連結部を使用して係合部を他側へ変位させることで、所定領域の配設状態を変更できる。即ち、係合部を持ち替えて係合部の向きを反転させなくても、周囲の部材（第１部材または第２部材）との干渉を抑制しつつ、所定領域の一側の端部および他側の端部まで、その配設状態を変更（切断）できる。よって、配設部材の所定領域における配設状態を効率的に変更できる。
【６１６１】
遊技機ＷＢ２－６又はＷＢ２－７において、前記連結部は、前記本体部に連結される側と前記係合部に連結される側との間に断面積が小さくされる部位を備えることを特徴とする遊技機ＷＢ２－８。
【６１６２】
遊技機ＷＢ２－８によれば、遊技機ＷＢ２－６又はＷＢ２－７の奏する効果に加え、連結部は、本体部に連結される側と係合部に連結される側との間に断面積が小さくされる所定部位を備えるので、所定部位の切断により、連結部の切断を容易とできる。また、配設部材の配設状態を変更することに適した形状（例えば、鋭利な形状）を、切断された連結部（所定部位）に形成しやすくできる。
＜基板ボックスＷｄ１００を一例とする発明の概念について＞
第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記本体部とその本体部から分離された前記係合部とが連結可能に形成され、前記本体部に連結された前記係合部を使用して、前記配設部材の配設状態を変更可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－１。
【６１６３】
第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。
【６１６４】
上述した遊技機では、配設部材の配設状態を変更する上で未だ改善の余地がある。
【６１６５】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。
【６１６６】
遊技機ＷＢ３－１によれば、係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され第１部材に係合される係合部と、を備え、本体部とその本体部から分離された係合部とが連結可能に形成され、本体部に連結された係合部を使用して、配設部の配設状態を変更

可能に形成されるので、配設部材の配設状態を変更するための工具（例えば、カッターナイフ）の携行を不要とできる。また、係合部材の本体部は、比較的大きく、把持がしやすい一方、係合部材の係合部は、比較的小さく、配設部材の周辺（第１部材または第２部材）との干渉を抑制できるので、配設部材の配設状態を変更する作業を行いやすい。よって、配設部材の配設状態の変更を好適に行うことができる。

【６１６７】

遊技機ＷＢ３－１において、前記係合部は、前記第１部材に係合される部位が前記本体部に連結されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－２。

【６１６８】

遊技機ＷＢ３－２によれば、遊技機ＷＢ３－１の奏する効果に加え、係合部は、第１部材に係合される部位が本体部に連結されるので、本体部と連結するための部位を係合部に別途設ける必要がない。即ち、第１部材に係合される部位を、本体部に連結される部位としても兼用できる。よって、係合部の形状を簡素化できる。

【６１６９】

遊技機ＷＢ３－１又はＷＢ３－２において、前記係合部材は、前記第１部材と係合する姿勢を規定可能に前記本体部に形成される規定部を備え、前記本体部は、前記規定部が前記係合部に連結されることを特徴とする遊技機ＷＢ３－２。

【６１７０】

遊技機ＷＢ３－３によれば、遊技機ＷＢ３－１又はＷＢ３－２の奏する効果に加え、係合部材は、第１部材と係合する姿勢を規定可能に本体部に形成される規定部を備え、本体部は、規定部が係合部に連結されるので、係合部と連結するための部位を本体部に別途設ける必要がない。即ち、係合部材の姿勢を規定する部位（規定部）を、係合部に連結される部位としても兼用できる。よって、係合部の形状を簡素化できる。

＜基板ボックスＷｊ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部が前記第１部材に係合された状態で、所定方向へ変位可能に形成され、前記第１部材または前記第２部材は、前記所定方向へ変位された前記係合部材に対し、前記第１部材との係合が解除される方向への前記係合部の変位を抑制可能に形成される抑制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－１。

【６１７１】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【６１７２】

上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余地がある。

【６１７３】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【６１７４】

遊技機ＷＣ１－１によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６１７５】

ここで、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、係合部材は、係合部が第１部材に係合された状態で、所定方向へ変位可能に形成され、第１部材または第２部材は、所定方向へ変位された係合

部材に対し、第１部材との係合が解除される方向への係合部の変位を抑制可能に形成される抑制手段を備えるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【６１７６】

遊技機ＷＣ１－１において、前記第１部材または前記第２部材は、前記抑制手段による前記係合部の変位の抑制が可能な位置から前記係合部材が前記所定方向と反対方向へ変位することを規制する規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－２。

【６１７７】

遊技機ＷＣ１－２によれば、遊技機ＷＣ１－１の奏する効果に加え、第１部材または第２部材は、抑制手段による係合部の変位の抑制が可能な位置から係合部材が所定方向と反対方向へ変位することを規制する規制手段を備えるので、係合部と第１部材との係合が不正に解除されることを抑制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【６１７８】

遊技機ＷＣ１－２において、前記規制手段は、前記所定方向へ変位された前記係合部材の前記係合部と係合可能に形成され、前記係合部と係合することで、前記係合部材が前記所定方向と反対方向へ変位することを規制可能とされることを特徴とする遊技機ＷＣ１－３。

【６１７９】

遊技機ＷＣ１－３によれば、遊技機ＷＣ１－２の奏する効果に加え、規制手段は、所定方向へ変位された係合部材の係合部と係合可能に形成され、係合部と係合することで、係合部材が所定方向と反対方向へ変位することを規制可能とされるので、係合部材を所定方向へ変位させるだけで、係合部材の変位が規制手段により規制された状態を形成でき、係合部材の組み付け作業の作業性を向上できる。

【６１８０】

遊技機ＷＣ１－３において、前記第１部材または前記第２部材は、前記規制手段を遮蔽する遮蔽手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ１－４。

【６１８１】

遊技機ＷＣ１－４によれば、遊技機ＷＣ１－３の奏する効果に加え、１部材または第２部材は、規制手段を遮蔽する遮蔽手段を備えるので、係合部と規制手段との係合が不正に解除されることを抑制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

＜基板ボックスＷｋ１００，Ｗｌ１００，Ｗｒ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方に係合可能に形成される係合部材と、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機において、前記第１部材または前記第２部材の少なくとも一方と前記係合部材とは、複数箇所で係合され、それら複数箇所の係合の相互作用により係合が解除され難く形成されることを特徴とする遊技機ＷＣ２－１。

【６１８２】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、第１部材および第２部材に配設される配設部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【６１８３】

上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余地がある。

【６１８４】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【６１８５】

遊技機ＷＣ２－１によれば、第１部材または第２部材の少なくとも一方と係合部材とは

、複数箇所で係合され、それら複数箇所の係合の相互作用により係合が解除され難く形成されるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【６１８６】

遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される第１係合部および第２係合部と、を備え、前記第１係合部および前記第２係合部は、前記係合部材の変位に伴って、前記第１係合部材が前記第１部材に係合された後に、前記第２係合部が前記第１部材に係合可能に形成され、前記第１部材は、前記第１部材との係合が解除される方向への前記第１係合部の変位を規制する規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＷＣ２－２。

【６１８７】

遊技機ＷＣ２－２によれば、本体部から第１係合部および第２係合部を分離（切断）することで、第１係合部および第２係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６１８８】

ここで、第１部材との係合が解除される方向へ第１係合部および第２係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と第１係合部および第２係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－２によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１係合部および第２係合部は、係合部材の変位に伴って、第１係合部材が第１部材に係合された後に、第２係合部が前記第１部材に係合可能に形成され、第１部材は、前記第１部材との係合が解除される方向への前記第１係合部の変位を規制する規制手段を備えるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【６１８９】

即ち、第１部材との係合が解除される方向への第１係合部の変位は、規制手段により規制でき、規制手段による第１係合部の変位の規制を解除する方向への係合部材の変位は、第１部材と第２係合部との係合により規制できる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【６１９０】

遊技機ＷＣ２－２において、前記第１係合部が前記第１部材に係合される際の前記係合部材の変位の方向と、前記第２係合部が前記第１部材に係合される際の前記係合部材の変位の方向とは、略同一の方向であることを特徴とする遊技機ＷＣ２－３。

【６１９１】

遊技機ＷＣ２－３によれば、遊技機ＷＣ２－２の奏する効果に加え、第１係合部が第１部材に係合される際の係合部材の変位の方向と、第２係合部が第１部材に係合される際の係合部材の変位の方向とは、略同一の方向であるので、例えば、第１の方向へ係合部材を変位させて、第１係合部を係合させた後、第２の方向へ係合部材を変位させて、第２係合部を係合させる２段階の操作を行う必要がなく、第１部材および第２部材へ係合部材を取り付ける際の一方向への操作のみで第１係合部と第２係合部との係合を行うことができる。よって、係合部材の取り付け操作を簡素化して、作業効率を高めることができる。

【６１９２】

また、２段階の操作が必要となる構成では、第２の方向への操作を作業者が失念すると、第２係合部が係合されず、第１部材および第２位部材から係合部材が不正に取り外される虞があるところ、第１部材および第２部材へ係合部材を取り付ける際の一方向への操作のみで第１係合部と第２係合部との係合を行うことができることで、必要な操作を作業者が失念することを抑制でき、第２係合部を確実に係合させることができる。

【６１９３】

遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される第１係合部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第２部材に係合される第２係合部と、を備え、前記第１係合部と前記第１部材との係合が

解除される前記第１係合部の変位の方向と、前記第２係合部と前記第２部材との係合が解除される前記第２係合部の変位の方向とが反対の方向とされることを特徴とする遊技機ＷＣ２－４。

【６１９４】

遊技機ＷＣ２－４によれば、本体部から第１係合部および第２係合部を分離（切断）することで、第１係合部および第２係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６１９５】

ここで、第１部材および第２部材との係合が解除される方向へ第１係合部および第２係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材および第２部材と第１係合部および第２係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－４によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１係合部と第１部材との係合が解除される第１係合部の変位の方向と、第２係合部と第２部材との係合が解除される第２係合部の変位の方向とが反対の方向とされるので、第１係合部または第２係合部の一方を係合が解除される方向へ変位させると、その一方の変位に伴う係合部材の変位によって、第１係合部または第２係合部の他方を係合が維持される方へ変位させることができる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

【６１９６】

遊技機ＷＣ２－１において、前記係合部材は、本体部と、前記本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記係合部は、前記係合部の第１部分および第２部分の２箇所が前記第１部材に係合され、前記第１部分または前記第２部分の一方と前記第１部材との係合が解除される方向へ前記係合部が変位されると、前記第１部分または前記第２部分の他方と前記第１部材との係合が維持される方向へ前記係合部が変位されることを特徴とする遊技機ＷＣ２－５。

【６１９７】

遊技機ＷＣ２－５によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。

【６１９８】

ここで、第１部分および第２部分と第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部（第１部分および第２部分）との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、遊技機ＷＣ２－５によれば、遊技機ＷＣ２－１の奏する効果に加え、第１部分または第２部分の一方と第１部材との係合が解除される方向へ係合部が変位されると、第１部分または第２部分の他方と第１部材との係合が維持される方向へ係合部が変位されるので、第１部材と係合部との係合を解除し難くできる。その結果、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。

＜基板ボックスＷｏ１００～Ｗｑ１００を一例とする発明の概念について＞

第１部材および第２部材と、少なくとも前記第１部材に係合可能に形成される係合部材と、を備えた遊技機において、取付部材を備え、前記係合部材は、本体部と、その本体部から分離可能に形成され前記第１部材に係合される係合部と、を備え、前記取付部材は、前記係合部に取り付け可能に形成され、前記第１部材と前記係合部との係合が解除される方向への前記係合部の変位が前記取付部材により抑制可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－１。

【６１９９】

第１部材および第２部材と、少なくとも第１部材に係合可能に形成される係合部材と、を備えた遊技機が知られている（特開２０１１－２４４９００号公報）。

【６２００】

上述した遊技機では、係合部材が不正に取り外されることを抑制する上で未だ改善の余

地がある。
【６２０１】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、係合部材が不正に取り外されることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。
【６２０２】
遊技機ＷＤ１－１によれば、本体部から係合部を分離（切断）することで、係合部が第１部材に係合された状態であっても、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を取り外すことができる。
【６２０３】
ここで、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位（弾性変形）させることで、第１部材と係合部との係合を解除して、第１部材および第２部材から係合部材を取り外す不正が行われる虞があるところ、取付部材は、係合部に取り付け可能に形成され、第１部材と係合部との係合が解除される方向への係合部の変位が取付部材により抑制可能に形成されるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【６２０４】
一方で、係合部に取付部材が取り付けられていても、本体部から係合部を分離（切断）することは可能であるので、正規の作業においては、係合部の分離（切断）により、第１部材および第２部材から係合部材（本体部）を容易に取り外すことができる。
【６２０５】
遊技機ＷＤ１－１において、前記係合部は、前記第１部材との係合が解除される方向へ変位されると、前記係合部の第１面側が前記第１部材へ近接され、前記取付部材は、前記係合部に取り付けられると、前記取付部材の一部が前記係合部の前記第１面と前記第１部材との間に配置されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－２。
【６２０６】
遊技機ＷＤ１－２によれば、遊技機ＷＤ１－１の奏する効果に加え、係合部は、第１部材との係合が解除される方向へ変位されると、係合部の第１面側が第１部材へ近接され、取付部材は、係合部に取り付けられると、取付部材の一部が係合部の第１面と第１部材との間に配置されるので、第１部材との係合が解除される方向へ係合部が変位可能な距離を、取付部材の一部が配置される分、短くすることができる。その結果、第１部材と係合部との係合を解除され難くできるので、第１部材および第２部材から係合部材が不正に取り外されることを抑制できる。
【６２０７】
遊技機ＷＤ１－２において、前記取付部材は、第１部材に係合された前記係合部に取り付け可能に形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－３。
【６２０８】
遊技機ＷＤ１－３によれば、遊技機ＷＤ１－２の奏する効果に加え、取付部材は、第１部材に係合された係合部に取り付け可能に形成されるので、第１部材に係合部を係合させる際に、係合部の変位が取付部材の一部によって阻害されない。よって、第１部材への係合部の係合（即ち、第１部材および第２部材への係合部材の装着）をスムーズに行うことができる。また、第１部材と係合部との係合代を大きくできるので、第１部材と係合部との係合が解除されることを抑制しやすくできる。
【６２０９】
遊技機ＷＤ１－２又はＷＤ１－３において、前記第１部材および前記第２部材に配設される配設部材を備え、前記係合部の取り付けられた前記取付部材の一部は、前記第１面から突設される突部として形成され、前記突部は、前記第１部材に配設される前記配設部材に向けて突設されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－４。
【６２１０】
遊技機ＷＤ１－４によれば、遊技機ＷＤ１－２又はＷＤ１－３の奏する効果に加え、第１部材および第２部材に配設される配設部材を備え、係合部の取り付けられた取付部材の

一部は、第１面から突設される突部として形成され、突部は、第１部材に配設される配設部材に向けて突設されるので、本体部から係合部を分離（切断）せずに、第１部材と係合部との係合を解除しようとすると（即ち、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位させようとすると）、突部により配設部材を破損させることができる。即ち、配設部材に痕跡を形成できる。これにより、配設部材の痕跡の有無に基づいて、配設部材の状態（配設部材が新品であるか再利用したものであるか、或いは、不正な操作の対象となったものか）を確認可能とできる。

【６２１１】

また、配設部材に痕跡が形成されることで、係る配設部材が再利用されることを抑制できる。

【６２１２】

遊技機ＷＤ１－４において、前記第１部材の前記配設部材が配設される部位には、前記突部に対応する位置に凹部が形成されることを特徴とする遊技機ＷＤ１－５。

【６２１３】

遊技機ＷＤ１－５によれば、遊技機ＷＤ１－４の奏する効果に加え、第１部材の配設部材が配設される部位には、凹部が形成されるので、配設部材と第１部材との間に空間を形成でき、また、凹部は、突部に対応する位置に形成されるので、本体部から係合部を分離（切断）せずに、第１部材と係合部との係合を解除しようとすると（即ち、第１部材との係合が解除される方向へ係合部を変位させようとすると）、凹部（空間）を利用して（突部の先端を凹部に受け入れ可能として）、配設部材を突部により破損させやすくできる。即ち、係合部が不正に操作された場合に、配設部材に痕跡を形成しやすくできる。

【６２１４】

＜無駄球を減らすための構成＞

遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて所定パターンで動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記検出手段を通過した遊技球を前記動作手段まで所定経路で案内する案内手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＡ１。

【６２１５】

パチンコ機等の遊技機において、検出領域で遊技球の通過を検出してから規定の時間経過後に開閉動作する可動役物を備える遊技機がある（例えば、特開２０１７－０００５６２号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、検出領域を通過した遊技球の流下経路は複数通りの流下態様で流下するので、遊技球の流下態様次第で、検出領域を通過した遊技球が可動役物に拾われる場合と、可動役物から零れる場合とがランダムに生じることになることから、可動役物から零れる遊技球が多い場合には、遊技者は遊技機店が遊技者に不利になる調整を行っているのではないかと誤解し易く、平等な環境で遊技することができていないと不満に思う可能性があるという問題点があった。

【６２１６】

これに対し、遊技機ＹＡ１によれば、検出手段を通過してからの遊技球の流下はランダムではなく、案内手段により遊技球が動作手段まで案内されるので、検出手段を通過した遊技球が動作手段に拾われるか、動作手段から零れるかの違いが、動作制御（入賞時に予め行われた抽選の当否に基づく制御）によるものであると遊技者に理解させることができる。即ち、案内手段の構成により規定される流下時間に基づいて、動作手段の動作制御のパターンが設定されているのであり、遊技機店の調整によるものではないと理解することができるので、平等な環境で遊技していると感じさせることができる。

【６２１７】

なお、遊技領域は、流下した遊技球により遊技者に与えられる利益が確定するまでの遊技球の流下領域を意味し、例えば、遊技盤の正面側の領域に限られるものではない。例えば、遊技球の通過を検出することで第１図柄の抽選がされる検出装置の上流側に形成され

る流路であって、遊技盤の内部や遊技盤の背面側に配設される流路も遊技領域に含まれる。

【６２１８】

遊技機ＹＡ１において、前記案内手段は、前記遊技領域の背面側を通るように配設されることを特徴とする遊技機ＹＡ２。

【６２１９】

遊技機ＹＡ２によれば、遊技機ＹＡ１の奏する効果に加え、案内手段で案内される遊技球を、遊技領域で流下する遊技球により隠すことができるので、案内手段から動作手段までの領域における注目力を向上することができる。

【６２２０】

遊技機ＹＡ２において、前記案内手段に案内される遊技球は、所定範囲において遊技領域を構成する遊技盤の正面側に向けて流下することを特徴とする遊技機ＹＡ３。

【６２２１】

遊技機ＹＡ３によれば、遊技機ＹＡ２の奏する効果に加え、案内手段に案内される遊技球が遊技盤の正面側に流下することから、遊技者に遊技球が近づいてくるように視認させることができる。そのため、通常の下方に流下するだけの遊技球との比較において、案内手段に案内される遊技球を目立たせることができる。

【６２２２】

遊技機ＹＡ１からＹＡ３のいずれかにおいて、前記案内手段は、遊技球が前記検出手段から前記動作手段まで流下するのに要する時間を管理可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＡ４。

【６２２３】

遊技機ＹＡ４によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ３のいずれかの奏する効果に加え、遊技球を動作手段で拾うパターンの動作制御と、零すパターンの動作制御とを、容易に設定することができる。

【６２２４】

遊技機ＹＡ１からＹＡ４のいずれかにおいて、前記動作手段は、閉鎖状態または開放状態において遊技球を転動させる態様で流下を案内するよう構成され、遊技球の流下方向の幅寸法が、遊技球の直径の２倍以下に設定される第１動作部を備え、その第１動作部に前記案内手段に案内された遊技球が誘導されることを特徴とする遊技機ＹＡ５。

【６２２５】

遊技機ＹＡ５によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ４のいずれかの奏する効果に加え、第１動作部によって、遊技球が動作手段に案内される時間を短縮することができると共に、動作手段で遊技球を１球ずつ案内することができる。動作手段の幅を短くすることができる。

【６２２６】

遊技機ＹＡ５において、前記動作手段は、第１動作部よりも長い第２動作部を備え、遊技球が前記第１動作部を転動するのに要する期間よりも、遊技球が前記第２動作部を転動するのに要する期間の方が長く構成されることを特徴とする遊技機ＹＡ６。

【６２２７】

遊技機ＹＡ６によれば、遊技機ＹＡ５の奏する効果に加え、同様に動作手段に到達した遊技球の案内態様として、動作手段が同様の動作パターンで動作している場合に、遊技球が第１動作部に到達するか、第２動作部に到達するかによって、遊技球が下流側にどのように流下するかを変えることができる。

【６２２８】

遊技機ＹＡ６において、前記第１動作部に案内される遊技球と、前記第２動作部に案内される遊技球とは、異なる流下領域に案内されることを特徴とする遊技機ＹＡ７。

【６２２９】

遊技機ＹＡ７によれば、遊技機ＹＡ６の奏する効果に加え、一の動作手段を利用して、球の案内方向を複数方向構成することができるので、動作手段による遊技球の案内時の見

映えを複数通りで実現することができる。
【６２３０】
遊技機ＹＡ７において、前記検出手段を通過した遊技球は、前記第１動作部に案内され得るよう構成され、前記検出手段を通過せずに流下した遊技球は、前記第２動作部に案内され得ることを特徴とする遊技機ＹＡ８。
【６２３１】
遊技機ＹＡ８によれば、遊技機ＹＡ７の奏する効果に加え、検出手段を通過した遊技球が、その他の遊技球に弾かれて案内不良が生じる不具合を防止することができる。
【６２３２】
遊技機ＹＡ６からＹＡ８のいずれかにおいて、前記第１動作部に案内される遊技球と、前記第２動作部に案内される遊技球とは、動作手段上での衝突が抑制されることを特徴とする遊技機ＹＡ９。
【６２３３】
遊技機ＹＡ９によれば、遊技機ＹＡ６からＹＡ８のいずれかの奏する効果に加え、動作手段上を転動する遊技球が衝突して、流下態様の不均一が生じることを回避し易くすることができる。
【６２３４】
なお、第１動作部上に配置される遊技球と、第２動作部上に配置される遊技球との間に壁が配置されることで隔離されても良いし、壁は無いとしても衝突しないような流下態様に管理されても良い。
【６２３５】
遊技機ＹＡ９において、前記第１動作部に案内される遊技球は、前記第２動作部に案内される遊技球の流下方向とは逆側へ流下することを特徴とする遊技機ＹＡ１０。
【６２３６】
遊技機ＹＡ１０によれば、遊技機ＹＡ９の奏する効果に加え、第１動作部に案内される遊技球と、第２動作部に案内される遊技球とが、同方向に流下する場合と異なり、遊技球の流下速度に関わらず遊技球の衝突を回避することができる。
【６２３７】
なお、遊技球の流下方向は、左右逆方向でも良いし、前後逆方向でも良い。また、所定軌跡（例えば、円形状軌跡）に沿う逆方向でも良い。
【６２３８】
遊技機ＹＡ１からＹＡ１０のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定経路として複数経路を備えることを特徴とする遊技機ＹＡ１１。
【６２３９】
遊技機ＹＡ１１によれば、遊技機ＹＡ１からＹＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動作パターンの種類は少なくしながら、遊技球の流下パターンを増やすことができる。
【６２４０】
＜８チャンスの経路にセンサが配置され不利側から有利側に球を引き抜く構成＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、遊技球の流下経路を構成する構成手段と、その構成手段の下流側に配設され遊技球が第１入球口に案内される第１経路と、前記構成手段の下流側に配設され遊技球が第２入球口に案内される第２経路と、を備える遊技機において、前記第１経路を流下する遊技球を前記第２経路側へ移動させる移動手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＢ１。
【６２４１】
パチンコ機等の遊技機において、入球口に遊技球が通る順番で、遊技球がどの経路に向かうかが周期的に変化する遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、入球口への入球の有利不利は遊技球が入球する周期でのみ変化することになり、全般的に有利な状態や、全般的に不利な状態を形成

することが困難であるという問題点があった。換言すれば、遊技者の有利度合いの変化幅が制限されるという問題点があった。

【６２４２】

これに対し、遊技機ＹＢ１によれば、移動手段によって、構成手段に構成される経路を流下した遊技球が第１入球口に入球するか、第２入球口に入球するかを無秩序に生じさせることができるので、遊技球が入球する入球口が周期的に変化する場合に比較して、遊技者の有利度合いの変化幅を拡大することができる。

【６２４３】

遊技機ＹＢ１において、前記構成手段に構成される経路は、分岐経路であることを特徴とする遊技機ＹＢ２。

【６２４４】

遊技機ＹＢ２によれば、遊技機ＹＢ１の奏する効果に加え、移動手段の作用により遊技球の流下態様に変化が生じるだけでなく、経路の分岐によっても遊技球の流下態様に変化を生じさせることができるので、構成手段に入球した遊技球に対する注目力を向上させることができる。

【６２４５】

遊技機ＹＢ１又はＹＢ２において、前記経路を流下する遊技球の通過を検出可能に構成される検出手段を備え、前記移動手段は、前記経路内における遊技球の流下に影響を与える態様で動作可能に構成される動作手段を備え、その動作手段は、第１状態の場合に遊技球が第１入球口へ向けて送球され、第２状態の場合に遊技球が第２入球口へ向けて送球されるよう構成され、前記検出手段で遊技球の通過が検出されることに基づいて動作制御可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ３。

【６２４６】

遊技機ＹＢ３によれば、遊技機ＹＢ１又はＹＢ２の奏する効果に加え、動作手段の動作パターン次第で、構成手段に入球した遊技球が第１入球口に入球するか、第２入球口に入球するかが切り替えられるので、遊技球が入球する入球口の周期性を低くし易くすることができる。これにより、遊技球が入球する入球口が周期的に変化する場合に比較して、遊技者の有利度合いの変化幅を拡大することができる。

【６２４７】

遊技機ＹＢ３において、前記動作手段は、前記構成手段の外側を流下する遊技球を案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ４。

【６２４８】

遊技機ＹＢ４によれば、遊技機ＹＢ３の奏する効果に加え、構成手段に構成される流路を流下する遊技球を案内する手段と、構成手段に構成される流路外で流下する遊技球を案内する手段と、を動作手段で兼用することができる。

【６２４９】

遊技機ＹＢ３又はＹＢ４において、前記構成手段の前記経路外に配設される第２検出手段を備え、前記検出手段を通過した遊技球の前記動作手段への案内態様と、前記第２検出手段を通過した遊技球の前記動作手段への案内態様と、が異なることを特徴とする遊技機ＹＢ５。

【６２５０】

遊技機ＹＢ５によれば、遊技機ＹＢ３又はＹＢ４の奏する効果に加え、動作手段への案内態様を複数種類で構成することができる。

【６２５１】

なお、案内態様の違いについては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遊技球の経路の違いであっても良いし、遊技球の流下速度の違いであっても良い。

【６２５２】

遊技機ＹＢ３からＹＢ５のいずれかにおいて、前記動作手段は、前記第１状態と前記第２状態との切り替えにより、遊技球の流下方向を上下方向と左右方向とで変化させること

を特徴とする遊技機ＹＢ６。
【６２５３】
遊技機ＹＢ６によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の流下方向の変化を遊技者が把握し易いようにすることができる。
【６２５４】
遊技機ＹＢ３からＹＢ６のいずれかにおいて、前記検出手段は、遊技球の通過に基づいて所定の図柄が所定期間変動するように制御され、前記所定期間は、遊技球が前記経路に入球してから前記検出手段を通過するまでに要する期間よりも短く設定されることを特徴とする遊技機ＹＢ７。
【６２５５】
遊技機ＹＢ７によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ６のいずれかの奏する効果に加え、構成手段の経路の入口から検出手段までの間に配置される遊技球が１個以下の状態を維持することにより、検出手段を遊技球が通過する時点において図柄が変動中であるという事態を回避することができる。従って、検出手段を遊技球が通過した直後に所定の図柄の変動を開始させることができる。
【６２５６】
従って、遊技球が検出手段を通過するタイミングと、遊技球が検出手段を通過したことに基づく動作手段の動作制御を開始するタイミングと、を合わせることができる。
【６２５７】
遊技機ＹＢ７において、前記動作手段は、前記検出手段で検出された遊技球を案内しない第１制御態様と、前記検出手段で検出された遊技球を案内する第２制御態様とで、制御態様が切替可能とされることを特徴とする遊技機ＹＢ８。
【６２５８】
遊技機ＹＢ８によれば、遊技機ＹＢ７の奏する効果に加え、動作手段の動作が実行されたとしても、制御態様の違いにより、動作手段に遊技球が案内される場合と、案内されない場合とを構成できるので、動作手段の動作に対する遊技者の注目力を向上させることができる。
【６２５９】
遊技機ＹＢ８において、前記制御態様の切替は、前記検出手段での検出の度に実行可能に構成され、切替可能な前記制御態様の種類は、大当たり遊技の度に変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＢ９。
【６２６０】
遊技機ＹＢ３からＹＢ９のいずれかにおいて、遊技球が前記第１入球口に入球することで遊技者が得られる利益と、遊技球が前記第２入球口に入球することで遊技者が得られる利益とが異なることを特徴とする遊技機ＹＢ１０。
【６２６１】
遊技機ＹＢ１０によれば、遊技機ＹＢ３からＹＢ９のいずれかの奏する効果に加え、動作手段に対する注目力を向上させることができる。
【６２６２】
＜動作手段に複数位置で流下する構成＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段は、遊技球が流下可能な第１流下位置と、その第１流下位置とは異なる第２流下位置と、を備え、前記第１流下位置を流下する遊技球の流下態様と前記第２流下位置を流下する遊技球の流下態様とが異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１。
【６２６３】
パチンコ機等の遊技機において、検出手段に遊技球が検出されることに基づいて可動役物が開放し、その可動役物により遊技球が入賞口へ案内される遊技機がある（例えば、特

開２０１５－１８１５７２号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、遊技球が可動役物に案内される態様は単調であり、可動役物の注目力を向上するという観点で改良の余地があるという問題点があった。

【６２６４】

これに対し、遊技機ＹＣ１によれば、動作手段が遊技球を流下させる複数の流下位置を備えており、遊技球がどの流下位置を流下するかで流下態様が異なるように構成されるので、遊技球が可動役物に案内される態様にバリエーションを設けることができ、可動役物の注目力を向上させることができる。

【６２６５】

遊技機ＹＣ１において、前記流下態様は、遊技球の流下速度、流下方向または流下間隔であることを特徴とする遊技機ＹＣ２。

【６２６６】

遊技機ＹＣ２によれば、遊技機ＹＣ１の奏する効果に加え、動作手段に沿って流下する遊技球の流れをばらつかせることができ、その遊技球への注目力を向上させることができる。

【６２６７】

遊技機ＹＣ１又はＹＣ２において、前記第１流下位置は、前記検出手段を通過した遊技球が流下可能な位置として設定されることを特徴とする遊技機ＹＣ３。

【６２６８】

遊技機ＹＣ３によれば、遊技機ＹＣ１又はＹＣ２の奏する効果に加え、第１流下位置に遊技球が到達していることを確認することで、遊技球が検出手段を通過したことを把握できるので、検出手段を視認する必要をなくすことができる。

【６２６９】

また、検出手段を通過した遊技球と、検出手段を通過しなかった遊技球とが、動作手段の別位置で流下するようにすることで、動作手段に同時に乗せることができる遊技球の個数を、全球が検出手段を通過するように狙う発射態様か、一部の遊技球は検出手段を逸らすことを狙う発射態様かで、変化させることができる。

【６２７０】

遊技機ＹＣ３において、前記検出手段を通過した遊技球の流下経路は、分岐しない経路として構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ４。

【６２７１】

遊技機ＹＣ４によれば、遊技機ＹＣ３の奏する効果に加え、第１流下位置に遊技球が到達したことを確認することで、その遊技球が検出手段を通過したことを把握することができる。

【６２７２】

遊技機ＹＣ１からＹＣ４のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下した遊技球の流下経路と、前記第２流下位置を流下した遊技球の流下経路とは、前記動作手段の下流側における所定の合流位置において合流することを特徴とする遊技機ＹＣ５。

【６２７３】

遊技機ＹＣ５によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ４のいずれかの奏する効果に加え、動作手段により流下された遊技球により遊技球が得られる利益を、その流下位置によらず同じとすることができる。

【６２７４】

遊技機ＹＣ５において、前記合流位置は、前記動作手段から離れた位置に配置されることを特徴とする遊技機ＹＣ６。

【６２７５】

遊技機ＹＣ６によれば、遊技機ＹＣ５の奏する効果に加え、合流時に遊技球で生じる負荷が動作手段の動作に与える影響を小さくすることができる。これにより、動作手段の動作を円滑に実行することができる。

【６２７６】

遊技機ＹＣ５において、前記合流位置は、前記動作手段に近接配置されることを特徴とする遊技機ＹＣ７。

【６２７７】

遊技機ＹＣ７によれば、遊技機ＹＣ５の奏する効果に加え、動作手段に沿って流下する遊技球の通過を検出する検出装置を、より上流側に配置することができるので、利益を早期に生じさせることができる。従って、動作手段に沿って遊技球が流下してから利益発生までの待ち時間を短縮することができる。

【６２７８】

遊技機ＹＣ５からＹＣ７のいずれかにおいて、前記合流位置で遊技球が下方に落下するよう構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ８。

【６２７９】

遊技機ＹＣ８によれば、遊技機ＹＣ５からＹＣ７のいずれかの奏する効果に加え、合流した後の球が逆流したり、球詰まりが生じたりする事態の発生を回避することができる。

【６２８０】

遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下する遊技球と、前記第２流下位置を流下する遊技球との、流下方向が同じように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ９。

【６２８１】

遊技機ＹＣ９によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかの奏する効果に加え、動作手段に到達した遊技球に注目する側を統一することができるので、遊技者が注目すべき箇所を容易に把握させることができる。

【６２８２】

遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかにおいて、前記第１流下位置を流下する遊技球と、前記第２流下位置を流下する遊技球との、流下方向が異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１０。

【６２８３】

遊技機ＹＣ１０によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ８のいずれかの奏する効果に加え、遊技球の流下する方向を視認することで、遊技球が第１流下位置を流下したか、遊技球が第２流下位置を流下したかを、判断することができるので、動作手段に近接配置される遊技球が前後に重なり見難い構成においても、動作手段よりも下流側において遊技球の流下方向を把握することができる。

【６２８４】

遊技機ＹＣ１からＹＣ１０のいずれかにおいて、遊技球が入球することで遊技者に第１の利益を付与可能に構成される第１入球口と、遊技球が入球することで遊技者に第１の利益よりも大きな第２の利益を付与可能に構成される第２入球口と、を備え、前記第１流下位置は、前記第１入球口に入球した遊技球の流下経路に配置され、前記動作手段は、前記第１流下位置を流下する遊技球を前記第２入球口側に案内可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＣ１１。

【６２８５】

遊技機ＹＣ１１によれば、遊技機ＹＣ１からＹＣ１０のいずれかの奏する効果に加え、動作手段によって、第１入球口に入球した遊技球により利益が付与される前に、その遊技球を第２入球口側に引き抜くことができる。

【６２８６】

これにより、例えば、左右対称盤面の遊技機（特別図柄の抽選のための入賞口や、特別遊技において開閉する入賞口が、左右中央位置に縦並びに配置され、それらの入賞口に左打ちでも右打ちでも入球させることができる盤面構成の遊技機）であっても、動作手段の動作によって、第１入球口への入球により利益が生じる頻度を落とすことができる。

【６２８７】

そのため、第１入球口への入球頻度を落とすために、第１入球口へ遊技球が案内されない右打ち経路を構成する必要性を下げることができ、遊技領域の設計自由度を向上させる

ことができる。
【６２８８】
＜分岐手段で分岐する第１流路と第２流路との有利不利を変化可能＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、所定の入球領域の下流側に第１流路および第２流路を構成する構成手段と、を備え、遊技球が前記第１流路を流下する場合に遊技者が得られる第１の利益と、遊技球が前記第２流路を流下する場合に遊技者が得られる第２の利益と、の大小関係を変化可能に構成される変化手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＤ１。
【６２８９】
パチンコ機等の遊技機において、所定の入球領域を流下した遊技球が左側に流下した場合と、右側に流下した場合とで、遊技者が得られると期待される利益に違いがある遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、遊技球が流下した場合に有利な方向が固定されているため、分岐位置における遊技球の流下方向さえ確認できればその後で得られる利益が予想できてしまい、実際に利益が確定する確定領域に遊技球が到達する前に遊技者の集中力のピークが来てしまうので、分岐位置から確定領域までの経路に対する注目力が低下することになり、遊技領域を演出領域として利用するという観点から改良の余地があるという問題点があった。
【６２９０】
これに対し、遊技機ＹＤ１によれば、変化手段によって、第１の利益と第２の利益との大小関係が切替可能とされることから、遊技者の集中力のピークを、遊技球が第１流路または第２流路に入球する時点ではなく、実際に利益が確定する確定領域に遊技球が入球する時点に持ってくることができるので、分岐領域から確定領域までの経路に対する注目力を高く維持することができる。これにより、遊技境域を演出領域として有効利用することができる。
【６２９１】
なお、利益が確定する時点としては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、遊技球が検出口（検出領域、特定領域等）を通過する時点としても良いし、遊技球が検出口を通過したことで確定した利益が遊技者側に報知される時点（遊技者が利益を認識できる時）としても良い。
【６２９２】
遊技機ＹＤ１において、前記第１の利益または前記第２の利益の内、大側の利益が遊技者に付与される場合に、遊技球を正面側に流下させる流下領域を備えることを特徴とする遊技機ＹＤ２。
【６２９３】
遊技機ＹＤ２によれば、遊技機ＹＤ１の奏する効果に加え、遊技球が通常の流下態様（下方に流下する流下態様）と異なる際に大側の利益が遊技者に付与されることから、遊技球を視認させることで、大側の利益が付与されたことを遊技者に把握させ易くすることができる。
【６２９４】
遊技機ＹＤ１又はＹＤ２において、前記第１流路および前記第２流路は合流可能に構成され、その合流位置への進入位置に上下方向の位置差があることを特徴とする遊技機ＹＤ３。
【６２９５】
遊技機ＹＤ３によれば、遊技機ＹＤ１又はＹＤ２の奏する効果に加え、第１流路および第２流路から、遊技球が合流位置に同時に進入した場合であっても、衝突時の負荷が上下方向（第１流路および第２流路と交差する方向）で生じるので、遊技球が逆流することを回避し易くすることができる。
【６２９６】
遊技機ＹＤ３において、前記進入位置は、遊技球の通過頻度が高い側が下側配置される

ことを特徴とする遊技機ＹＤ４。
【６２９７】
遊技機ＹＤ４によれば、遊技機ＹＤ３の奏する効果に加え、高頻度で所定の進入位置を通過する遊技球が、他の進入位置に誤って入球することを避け易くすることができる。
【６２９８】
遊技機ＹＤ１からＹＤ４のいずれかにおいて、前記第１流路および前記第２流路は、遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて所定パターンで動作制御される動作手段と、を備え、前記第１流路における前記検出手段と前記動作手段との間隔と、前記第２流路における前記検出手段と前記動作手段との間隔と、が異なるように構成されることを特徴とする遊技機ＹＤ５。
【６２９９】
遊技機ＹＤ５によれば、遊技機ＹＤ１からＹＤ４のいずれかの奏する効果に加え、動作手段の動作制御は同一としながら、第１流路を遊技球が流下する場合と、第２流路を遊技球が流下する場合とで、動作手段が遊技球に作用するか否かを異ならせることができる。
【６３００】
＜３状態で切替＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能に構成される第１入球口および第２入球口と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作する動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段の動作態様に対応して、遊技球が第１入球口に入球し易い第１状態と、遊技球が第２入球口に入球し易い第２状態と、遊技球が第１入球口および第２入球口に入球し易い第３状態と、で状態を切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＥ１。
【６３０１】
パチンコ機等の遊技機において、第１始動口および第２始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、第１始動口および第２始動口（第１の第２始動口）に入球し易い状態と、第２始動口（第２の第２始動口）のみに入球し易い状態と、で状態を切り替えることはできるが、第１始動口のみに入球し易い状態に切り替えることはできず、遊技球の入球態様の自由度が制限されるという問題点があった。
【６３０２】
これに対し、遊技機ＹＥ１によれば、動作手段の動作態様に対応して、第１入球口および第２入球口に入球し易い第３状態と、第２入球口に入球し易い第２状態だけでなく、第１入球口に入球し易い第１状態にも状態を切り替えることができるので、遊技球の入球態様の自由度を向上させることができる。
【６３０３】
遊技機ＹＥ１において、前記第３状態では、流下した遊技球が第１入球口に入球する場合と、第２入球口に入球する場合とが、交互に生じることを特徴とする遊技機ＹＥ２。
【６３０４】
遊技機ＹＥ２によれば、遊技機ＹＥ１の奏する効果に加え、第３状態における第１入球口への入球個数と第２入球口への入球個数とを均一化することができる。
【６３０５】
遊技機ＹＥ１又はＹＥ２において、流下した遊技球が、前記第１入球口または前記第２入球口に入球可能に形成される所定流路を備えることを特徴とする遊技機ＹＥ３。
【６３０６】
遊技機ＹＥ３によれば、遊技機ＹＥ１又はＹＥ２の奏する効果に加え、所定流路を遊技球が流下している時点では、その遊技球は第１入球口に入球する可能性も、第２入球口に入球する可能性も残されているので、所定流路を流下している遊技球に対する注目力を向上することができる。

【６３０７】
＜サポートで特１特２の両方が貯まる＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域を流下した遊技球が入球可能に構成される第１入球口および第２入球口と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作制御される動作手段と、を備える遊技機において、前記動作手段は、前記動作手段が配置される位置まで流下した遊技球の流下経路を、前記第１入球口側へ向かう第１経路と、前記第２入球口側へ向かう第２経路と、その他の経路と、に分岐可能に構成されることを特徴とする遊技機ＹＦ１。
【６３０８】
パチンコ機等の遊技機において、第１始動口および第２始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１４４７４１号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、可動片の開状態において第２始動口（第２の第２始動口）に入球し易い状態を形成することができるが、第１始動口へ入球し易い状態を形成することはできず、可動片による遊技球の案内態様に改良の余地があるという問題点があった。
【６３０９】
これに対し、遊技機ＹＦ１によれば、動作手段から下流側の流下経路として、第１経路と第２経路とが形成されることで、第１入球口へ遊技球を案内することも第２入球口へ遊技球を案内することもできるので、動作手段による遊技球の案内態様を改良することができる。
【６３１０】
遊技機ＹＦ１において、前記第１入球口に遊技球が入球した場合に遊技者に付与可能な利益よりも、前記第２入球口に遊技球が入球した場合に遊技者に付与可能な利益が大きく設定され、前記第１入球口は前記動作手段の中央側の下方に配置され、前記第２入球口は前記動作手段の端側の下方に配置されることを特徴とする遊技機ＹＦ２。
【６３１１】
遊技機ＹＦ２によれば、遊技機ＹＦ１の奏する効果に加え、動作手段の端側まで遊技球が流れきれば第２入球口に入球可能となるので、途中位置で落下する（タイミングよく動作手段が動作する）ことで第１入球口に入球する事態に比較して、第２入球口に遊技球が入球する事態を発生し易くすることができる。
【６３１２】
遊技機ＹＦ１又はＹＦ２において、動作手段の端部からの遊技球の零れを防止するための零れ防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＹＦ３。
【６３１３】
遊技機ＹＦ３によれば、遊技機ＹＦ１又はＹＦ２の奏する効果に加え、零れ防止手段によって動作手段から遊技球が勢い余って零れる事態を回避することができるので、動作手段に遊技球が到達した場合の遊技者の安心感を高めることができる。
【６３１４】
また、零れ防止手段で遊技球が高反発で跳ね返るようにすることで、動作手段の上面における遊技球の転動速度を高め、動作手段の上面を遊技球が短時間で通過し易くすることができる。
【６３１５】
＜振分け左右で構成違い＞
遊技球を発射する遊技球発射装置と、その遊技球発射装置により発射される遊技球が流下する遊技領域を形成する遊技領域構成手段と、前記遊技領域に配設され遊技球の通過を検出する複数の検出手段と、その検出手段で遊技球の通過が検出されたことに基づいて動作する動作手段と、その動作手段に案内された遊技球が入球可能に構成される被案内入球口と、を備える遊技機において、前記複数の検出手段は、前記動作手段の上流側に配設される第１検出手段と、その第１検出手段とは異なる位置に配設される第２検出手段と、を

備えることを特徴とする遊技機ＹＧ１。
【６３１６】
パチンコ機等の遊技機において、普図始動口を備える遊技機がある（例えば、特開２０１６－５４９７０号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、普図始動口に案内される経路と、開閉部材側に案内される経路とが、別経路とされ、それぞれの経路を遊技球が交互に流下するため、普図始動口の真上に配置される釘に遊技球が衝突して普図始動口から逸れる事態が生じると、次に普図始動口に遊技球が案内されるまでに期間が開いてしまうことから、開閉部材が閉じている時に開閉部材側に遊技球が流下するという、期待感の薄い状態になり易い。この場合、遊技が間延びしてしまい、遊技者の興趣を低下させる可能性があるという問題点があった。
【６３１７】
これに対し、遊技機ＹＧ１によれば、動作手段の上流側に配設される第１検出手段と、動作手段の上流側とは異なる位置に配設される第２検出手段と、を備えるので、遊技球が検出手段に検出される状況を頻繁に生じさせることができる。これにより、動作手段の動作頻度を向上させることができるので、遊技者の興趣を向上させることができる。
【６３１８】
遊技機ＹＧ１において、前記第１検出手段と前記動作手段との間に所定の流路が形成されることを特徴とする遊技機ＹＧ２。
【６３１９】
遊技機ＹＧ２によれば、遊技機ＹＧ１の奏する効果に加え、第１検出手段から動作手段への遊技球の流れを整流化することができる。
【６３２０】
遊技機ＹＧ１又はＹＧ２において、前記動作手段は、前記第２検出手段を通過する遊技球の流下経路側へ延びるように形成されることを特徴とする遊技機ＹＧ３。
【６３２１】
遊技機ＹＧ３によれば、遊技機ＹＧ１又はＹＧ２の奏する効果に加え、第２検出手段側の注目力が第１検出手段側の注目力との比較において低くなり過ぎることを回避することができる。
【６３２２】
＜遊技球を案内する手段が長い＞
入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を案内する案内手段と、その案内手段の下流側に配設され遊技球の通過を検出する第１検出手段と、前記案内手段の下流側に配設され遊技球の通過を検出した場合に、前記第１検出手段に遊技球の通過が検出されることに基づいて遊技者に与え得る利益とは異なる利益を遊技者に与え得る第２検出手段と、を備え、前記案内手段は、前記入球領域から流下した遊技球を受けるための所定部と、その所定部よりも下流側に配置され前記所定部の変位に対応して変位する下流側部と、を備え、少なくとも前記下流側部の配置に応じて、遊技球を前記第１検出手段に案内し易い第１状態と、遊技球を前記第２検出手段に案内し易い第２状態と、で状態変化可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１。
【６３２３】
パチンコ機等の遊技機において、所定の検出領域（第２始動入賞口２７）において遊技球の通過が検出された場合において、一定確率で開放されて奥側に配設される賞球口への遊技球の案内が可能となる可動役物（第２可変入賞装置３１）が配設され、その可動役物の開放動作を頻繁に生じさせて賞球口への入球が頻繁に生じることにより多量の賞球の払い出しを遊技者が獲得できる遊技状態が、通常状態よりも有利な遊技状態として設定される遊技機がある（例えば、特開２０１７－１６９６３０号公報を参照）。
【６３２４】
しかし、上述した従来の遊技機では、別の検出領域（可変始動入賞口２８ａ）に可動部材（開閉部材２８ｂ）が配設されていることを理由に、所定の検出領域を開閉する可動部材が配設されておらず、常に遊技球を所定の検出領域に通過可能に構成されている。通常

状態では遊技領域の左側に遊技球を流下させる遊技方法が推奨されているが、遊技初心者などは特に、誤って遊技領域の右側に遊技球を流下させるように発射してしまう場合がある。

【６３２５】

所定の検出領域において遊技球の通過が検出された場合、可動役物の開放動作の抽選（小当たりの抽選）の他に、特別図柄の抽選（大当たりの抽選）も行われ、特別図柄の抽選による大当たりが発生すると、大当たり終了後の遊技状態としてペナルティが課され、通常状態よりも不利な遊技を強いられることとなる。遊技初心者からすれば、理由もわからずペナルティを課されたと疑念を抱きかねず、遊技機に対する興味関心が薄れ、新規の遊技者を獲得し損なる状況を生み出しかねない。即ち、遊技初心者に優しくなく、平等性に欠けるという問題点があった。

【６３２６】

これに対し、遊技機ＢＡ１によれば、案内手段が第１状態で維持されることで、第１検出手段へ遊技球が案内され易い状態を構成することができ、この状態において第２検出手段（所定の検出領域）への遊技球の案内を抑制することができる。これにより、案内手段を利用することで、第２検出手段に遊技球を通過させることを防ぐことができ、遊技の平等性を高めることができる。

【６３２７】

なお、案内手段は、所定部と下流側部とが一体的に形成されるよう構成されても良いし、所定部と下流側部とが別体で形成されるよう構成されても良い。

【６３２８】

遊技機ＢＡ１において、前記下流側部は、前記第１状態において前記第２検出手段への遊技球の案内を防止可能とされ、前記第２状態において前記第１検出手段への遊技球の案内を防止可能とされるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ２。

【６３２９】

遊技機ＢＡ２によれば、遊技機ＢＡ１の奏する効果に加え、下流側部により、案内手段を介して流下する遊技球が通過する検出手段を切り替えることができる。

【６３３０】

遊技機ＢＡ１又はＢＡ２において、前記案内手段は、前記所定部が受けた遊技球を前記下流側部へ向けて流下させる中間部を備えることを特徴とする遊技機ＢＡ３。

【６３３１】

遊技機ＢＡ３によれば、遊技機ＢＡ１又はＢＡ２の奏する効果に加え、中間部により、案内手段を介して流下する遊技球が第１検出手段に案内されるのか、第２検出手段に案内されるのかが、不明確な状態を引き延ばすことができる。

【６３３２】

なお、中間部は、下流側部の変位に対応して変位可能に構成しても良いし、下流側部の変位に関わらず変位しないように構成しても良い。

【６３３３】

遊技機ＢＡ３において、前記中間部は、前記第１状態でも前記第２状態でも遊技球の流下方向が変化しないよう構成され、下流側において前記第１検出手段または前記第２検出手段への案内が行われることを特徴とする遊技機ＢＡ４。

【６３３４】

遊技機ＢＡ４によれば、遊技機ＢＡ３の奏する効果に加え、入球領域に入球した後の遊技球が中間部を案内されている時に案内手段が第１状態と第２状態とで切り替わったとしても、中間部における遊技球の流下方向に影響を与えないので、中間部を案内されている遊技球の流下態様の変化から案内手段の状態変化を把握されるという事態の発生を避けることができる。

【６３３５】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ４のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記第１状態において、前記所定部が前記入球領域から前記案内手段への入球を制限する位置に配置され、前

記第２状態において、前記所定部が前記入球領域から前記案内手段への入球を許容する位置に配置されることを特徴とする遊技機ＢＡ５。

【６３３６】

遊技機ＢＡ５によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ４のいずれかの奏する効果に加え、案内手段の状態の切り替えによって、案内手段への新たな遊技球の入球の可否を切り替えることができる。

【６３３７】

また、所定部における遊技球の通過と、下流側部における遊技球の通過と、のそれぞれに注目させることができる。即ち、遊技者の視線を複数位置で集めることができ、案内手段の注目箇所を増加させることができる。

【６３３８】

遊技機ＢＡ５において、前記所定部の配置の切り替えと、前記下流側部の配置の切り替えとは、同時に実行されることを特徴とする遊技機ＢＡ６。

【６３３９】

遊技機ＢＡ６によれば、遊技機ＢＡ５の奏する効果に加え、異なる位置で同時に切替が実行されることから、遊技者に、所定部における切り替えか、下流側部における切り替えか、いずれかを選択して視認させるという遊技性を付与することができる。

【６３４０】

遊技機ＢＡ５において、前記所定部の配置の切り替えと、前記下流側部の配置の切り替えとは、タイミングがずれて実行されることを特徴とする遊技機ＢＡ７。

【６３４１】

遊技機ＢＡ７によれば、遊技機ＢＡ５の奏する効果に加え、別タイミングで異なる位置における切り替えが実行されることから、遊技者に、所定部における切り替えと、下流側部における切り替えと、が視線をずらすことで視認することができるという遊技性を付与することができる。加えて、遊技者の視線の動きを誘導することができる。

【６３４２】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ７のいずれかにおいて、前記所定部は、前後方向にスライド変位することを特徴とする遊技機ＢＡ８。

【６３４３】

遊技機ＢＡ８によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ７のいずれかの奏する効果に加え、正面視における所定部の動きが目立つことを避けることができる。所定部は、案内手段への入球の可否を切り替える部分であり、第１検出手段に案内されるか、第２検出手段に案内されるかが決定される箇所ではないので、目立つことを避けることで、相対的に下流側部の動作を目立たせることができる。

【６３４４】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ８のいずれかにおいて、前記下流側部は、回転動作する態様で変位することを特徴とする遊技機ＢＡ９。

【６３４５】

遊技機ＢＡ９によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第１検出手段に案内されるか、第２検出手段に案内されるかが決定される箇所としての下流側部の動きを目立たせることができる。

【６３４６】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ９のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定部と前記下流側部との間の正面視における距離よりも、前記所定部から前記下流側部へ流下する遊技球の流下距離が長くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１０。

【６３４７】

遊技機ＢＡ１０によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ９のいずれかの奏する効果に加え、所定部から流れた遊技球が下流側部に到達する前に、遊技者が所定部から下流側部に視線を移動させ易くすることができる。

【６３４８】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１０のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記所定部を介さない遊技球が前記下流側部へ到達することを防止するための防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＡ１１。

【６３４９】

遊技機ＢＡ１１によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、防止手段により、下流側部へ到達する遊技球の流下経路を制限することができるので、遊技球が意図しない経路で下流側部に到達し、誤った検出手段に入球する事態の発生を避けることができる。

【６３５０】

遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１１のいずれかにおいて、前記案内手段は、前記入球領域からの複数の遊技球を前記所定部が受ける第１期間よりも、その第１期間に前記所定部が受けた前記複数の遊技球が前記下流側部を通過する第２期間を短縮可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１２。

【６３５１】

遊技機ＢＡ１２によれば、遊技機ＢＡ１からＢＢＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、案内手段により、所定部が遊技球を受けるタイミングのずれよりも、下流側部における遊技球の通過タイミングのずれを小さくすることができるので、下流側部での遊技球の流下方向の切替の精度を保ちながら、所定部において遊技球を受けるタイミングのずれの許容幅を拡大することができ、快適な遊技を提供し易くすることができる。

【６３５２】

遊技機ＢＡ１２において、前記所定部は、変位する際に、遊技球を加速させる方向の負荷を遊技球に負荷する形状から構成されることを特徴とする遊技機ＢＡ１３。

【６３５３】

遊技機ＢＡ１３によれば、遊技機ＢＡ１２の奏する効果に加え、所定部の変位が生じる際に遊技球を加速させる方向の負荷が生じることになるので、所定部が変位する前に所定部を通過した遊技球へ向けて、所定部が変位する際に所定部上に配置された遊技球を加速させることで、遊技球同士の間隔が縮まる状況を生じさせることができる。

【６３５４】

＜流下経路を引き延ばす＞

入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を下流側領域へ流下させる流下手段と、前記下流側領域を流下する遊技球の通過を検出する検出手段と、を備える遊技機において、前記流下手段は、遊技球を流下させる第１可動部と、その第１可動部よりも下流側に配置され遊技球を流下させる第２可動部と、前記第１可動部および前記第２可動部の間に配置され遊技球を流下させる所定部と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ１。

【６３５５】

パチンコ機等の遊技機において、遊技球が入球可能な検出センサと、その検出センサに遊技球を案内する可動部材と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－１８１５７２号公報を参照）。

【６３５６】

しかし、上述した従来の遊技機では、検出センサへ向けた遊技球の流下経路が可動部材の長さに限定されるので、遊技球の流下が単調となり易いので遊技者を飽きさせ易い可能性があることから、遊技球の流下態様について改良の余地があるという問題点があった。

【６３５７】

これに対し、遊技機ＢＢ１によれば、検出手段の上流側に配置される流下手段が、所定部を挟む複数の可動部を備えることから、可動部の長さや形状にバリエーションを持たせ易くでき、遊技球の流下態様について改良することができる。

【６３５８】

遊技機ＢＢ１において、前記第１可動部は、少なくとも下流側端部において前記所定部と上下方向で重なる重なり部を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ２。

【６３５９】

遊技機ＢＢ２によれば、遊技機ＢＢ１の奏する効果に加え、重なり部を介して所定部へ遊技球を流すことができるので、第１可動部と所定部との間で遊技球が脱落することを防止し易くすることができる。

【６３６０】

遊技機ＢＢ１又はＢＢ２において、前記第１可動部は、少なくとも下流側端部において、遊技球の流下する向きを前記所定部側へ向けさせるための傾斜部を備えることを特徴とする遊技機ＢＢ３。

【６３６１】

遊技機ＢＢ３によれば、遊技機ＢＢ１又はＢＢ２の奏する効果に加え、傾斜部によって遊技球の流下向きを所定部側へ寄せることができるので、遊技球の流下が乱れた場合であっても、第１可動部と所定部との間で遊技球が脱落することを防止し易くすることができる。

【６３６２】

＜下流側において遊技球を密集させる＞

入球領域と、その入球領域に入球した遊技球を下流側領域へ流下させる流下手段と、前記下流側領域を流下する遊技球の通過を検出する検出手段と、を備える遊技機において、前記流下手段は、前記入球領域に所定間隔で入球した複数の遊技球が、前記下流側領域を流下する間隔を、前記所定間隔よりも短くするための所定手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１。

【６３６３】

パチンコ機等の遊技機において、所定の入球領域から遊技球が流下した場合において、その遊技球から与えられる負荷により第１検出手段または前記第２検出手段への遊技球の案内が可能となる２種類の開放状態を構成可能な複数の可動役物が配設され、その可動役物は、それぞれ賞球口に所定個数の遊技球が入球した場合に機械的な負荷の伝達により開放状態から閉鎖するよう構成される遊技機がある（例えば、特開２０１６－２０２３３８号公報を参照）。

【６３６４】

しかし、上述した従来の遊技機では、通常時は第１検出手段にも第２検出手段にも遊技球を案内しない状態で維持されているので、遊技球を第１検出手段に案内する第１状態と、遊技球を第２検出手段に案内する第２状態と、合計で３つの状態に切り替えられるが、いずれの状態においても、入球領域に入球した後の遊技球の流下経路は一本道とされており、入球領域に入球するタイミング（間隔）と、その入球に伴う賞球の払い出しのタイミング（間隔）とがほぼ同じとされるので、遊技者に与えられる利益が発生するタイミングが遊技球の発射間隔（一定間隔）に制限されてしまい、遊技に緩急をつけることが難しく、遊技者の興趣を高めることが難しいという問題点があった。

【６３６５】

これに対し、遊技機ＢＢＺ１によれば、流下手段の所定手段により、遊技球が入球領域に入球する間隔よりも、遊技球が下流側領域を流下する間隔が短くなる場合を生じさせることができるので、遊技球の発射間隔よりも短い間隔で遊技球が下流側領域を流下する場合を生じさせることができる。これにより、遊技球が入球領域に入球したことで遊技者に与えられる利益の発生タイミングが一定間隔となることを避け易くすることができ、遊技に緩急をつけることで、遊技者の興趣を高めることができる。

【６３６６】

遊技機ＢＢＺ１において、前記所定手段は、前記入球領域側における遊技球の流下速度を、前記下流側領域側における遊技球の流下速度よりも大きくさせるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ２。

【６３６７】

遊技機ＢＢＺ２によれば、遊技機ＢＢＺ１の奏する効果に加え、所定手段により、下流側領域側を流下する遊技球が、入球領域側における遊技球に追いつかれるような状態を構成することができる。

【６３６８】
遊技機ＢＢＺ１又はＢＢＺ２において、前記流下手段は、一方向または他方向に変位可能に構成され、前記一方向における変位または前記他方向における変位によって、前記入球領域に入球した遊技球に対して前記下流側領域へ向けた所定の負荷を与え得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ３。
【６３６９】
遊技機ＢＢＺ３によれば、遊技機ＢＢＺ１又はＢＢＺ２の奏する効果に加え、流下手段が往復変位可能に構成されており、遊技手段は、流下手段が一方向に変位する場合に流下手段を流下するか、流下手段が他方向に変位する場合に流下手段を流下するかによって、流下態様を変化させることができる。
【６３７０】
遊技機ＢＢＺ３において、前記流下手段を流下する遊技球は、遊技球の流下方向に分岐が生じない非分岐位置と、遊技球の流下方向に分岐が生じ得る分岐位置と、のいずれかに配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ４。
【６３７１】
遊技機ＢＢＺ４によれば、遊技機ＢＢＺ３の奏する効果に加え、遊技球が流下手段を流下している間中において、遊技球が分岐位置に配置されている場合に比較して、遊技球を注視する遊技者の疲労を軽減させることができる。
【６３７２】
遊技機ＢＢＺ４において、前記分岐位置は、前記非分岐位置よりも視認性が高くなる側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ５。
【６３７３】
遊技機ＢＢＺ５によれば、遊技機ＢＢＺ４の奏する効果に加え、遊技球を注視する遊技者の疲労を軽減させることができる。
【６３７４】
なお、視認性が高くなる側としては、種々の態様が例示される。例えば、遊技者に近い側（前側）であっても良いし、遊技領域を流下する遊技球に隠され難い位置側であっても良いし、ＬＥＤ等の発光演出が生じた場合に眩しくならない側であっても良い。
【６３７５】
遊技機ＢＢＺ４又はＢＢＺ５において、前記分岐位置は、前記入球領域側の第１位置と、その第１位置よりも下流側の第２位置と、に配置され、前記第１位置と前記第２位置との間に前記非分岐位置が配置されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ６。
【６３７６】
遊技機ＢＢＺ６によれば、遊技機ＢＢＺ４又はＢＢＺ５の奏する効果に加え、遊技球が流下手段上を流下する場合において、分岐位置に２回、間隔をあけて配置されることから、１個の遊技球が流下手段に案内される場合に遊技者の注目力を２回のタイミングで向上させることができる。これにより、遊技球への注目力を効率よく向上させることができる。
【６３７７】
遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ６のいずれかにおいて、前記流下手段は、前記入球領域側の水平面に対する傾斜角度が、前記下流側領域側の水平面に対する傾斜角度よりも大きくされることを特徴とする遊技機ＢＢＺ７。
【６３７８】
遊技機ＢＢＺ７によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ６のいずれかの奏する効果に加え、流下手段を流下する遊技球が、入球領域側でより加速され、下流側領域側における遊技球との間隔と短くすることができる。
【６３７９】
遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ７のいずれかにおいて、前記入球領域は、前記下流側領域よりも大きいことを特徴とする遊技機ＢＢＺ８。
【６３８０】

遊技機ＢＢＺ８によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ７のいずれかの奏する効果に加え、入球領域に同時に複数の遊技球が入球し易くすることができ、それらの遊技球が下流側領域で密集する（連なる）状態が生じ易くなるようにすることができる。

【６３８１】

遊技機ＢＢＺ８において、前記入球領域は複数箇所に分割配置可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＢＺ９。

【６３８２】

遊技機ＢＢＺ９によれば、遊技機ＢＢＺ８の奏する効果に加え、遊技球の流下手段への入球箇所が複数用意されているので、流下手段への遊技球の入球頻度を高めることができる。

【６３８３】

遊技機ＢＢＺ９において、遊技球が入球する前記入球領域の違いに対応して、前記流下手段に流下される遊技球の流下経路が異なることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１０。

【６３８４】

遊技機ＢＢＺ１０によれば、遊技機ＢＢＺ９の奏する効果に加え、遊技球が流下手段を通過するまでの期間や、流下手段上の遊技球の配置等が、遊技球がいずれの入球領域に入球するかに対応して変化し得ることから、流下手段に入球した遊技球が、いずれの入球領域から入球したかについての遊技者の興味関心を高めることができ、入球領域への注目力を向上することができる。

【６３８５】

遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ１０のいずれかにおいて、前記流下手段を流下する遊技球が、前記下流側領域へ向けた流下経路から外れないようにするための流下経路制限手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＢＺ１１。

【６３８６】

遊技機ＢＢＺ１１によれば、遊技機ＢＢＺ１からＢＢＺ１０のいずれかの奏する効果に加え、流下経路制限手段により、入球領域に入球した遊技球が確実に下流側領域に到達するように構成することができる。

【６３８７】

＜入球領域から離れた位置で遊技球を受ける技術思想＞

遊技球を入球領域へ案内可能とする第１状態と、前記入球領域への遊技球の入球を制限する第２状態とで状態を切り替え可能とされる切替手段と、その切替手段へ向けて遊技球が流下可能な流下領域と、を備え、前記流下領域は、前記切替手段の前記入球領域から離れた側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＣ１。

【６３８８】

パチンコ機等の遊技機において、賞球口へ遊技球を案内可能とする状態と賞球口への遊技球の入球を制限する状態とで切り替えられる可動役物への、遊技球の着地位置が、賞球口付近の下流側位置と、その下流側位置よりも上流側の上流側位置とで複数あり、下流側位置に着地するか上流側位置に着地するかに関わらず、遊技球が賞球口を通過可能に構成される遊技機がある（例えば、特開２０１７－０２９５３１号公報を参照）。

【６３８９】

しかし、上述した従来の遊技機では、上流側位置に着地した遊技球が賞球口に近接するタイミングで下流側位置に別の遊技球が着地して、複数の遊技球がかたまって賞球口を通過しようとする場合に、球詰まりが生じたり、遊技球の流下抵抗が大きくなったりする可能性があるという問題点があった。換言すれば、遊技球の流下態様を向上するという観点で改良の余地があるという問題点があった。

【６３９０】

これに対し、遊技機ＢＣ１によれば、入球領域から離れた側において遊技球が切替手段に流下されるよう構成されているので（切替手段への遊技球の着地位置が制限されているので）、切替手段を流下する間に遊技球を整列させることができ、入球領域を通過しようとする場合に、球詰まりが生じたり、遊技球の流下抵抗が大きくなったりすることを回避

することができるので、遊技球の流下態様を向上するという観点で改良を図ることができる。

【６３９１】

遊技機ＢＣ１において、前記流下領域の外方における前記切替手段への流下を防止する防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ２。

【６３９２】

遊技機ＢＣ２によれば、遊技機ＢＣ１の奏する効果に加え、防止手段によって、遊技球が流下領域の外方を通って切替手段へ到達することを防止することができる。

【６３９３】

遊技機ＢＣ２において、前記切替手段は、遊技領域を構成する遊技盤前面よりも後側に少なくとも一部が配設されることを特徴とする遊技機ＢＣ３。

【６３９４】

遊技機ＢＣ３によれば、遊技機ＢＣ２の奏する効果に加え、遊技球が切替手段に着地する位置を少なくとも遊技領域側（遊技盤前面）に登場させ、その他の少なくとも一部を遊技盤前面よりも後側に配設することで、切替手段上の遊技球の流下長さを遊技盤前面よりも後側に確保しながら、切替手段が遊技領域を侵食する長さを狭めることができる。これにより、他の構成を配置する領域を広く確保し、遊技領域の設計自由度を向上させることができる。

【６３９５】

遊技機ＢＣ１からＢＣ３のいずれかにおいて、前記切替手段は、遊技球が転動可能な第１部と、その第１部よりも下流側に配置される第２部とを備え、前記流下領域から前記切替手段に着地する遊技球は、前記第１部に着地し易く構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ４。

【６３９６】

遊技機ＢＣ４によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ３のいずれかの奏する効果に加え、切替手段上を長距離で転動させることで遊技球の跳ねを抑え流下を落ち着かせることができると共に、入球領域までの流下長さを確保でき、遊技球への注目力を向上させることができる。

【６３９７】

遊技機ＢＣ４において、前記切替手段は、前記第１部と前記第２部との間に、前記第１状態および前記第２状態において遊技球を橋渡し可能な案内経路を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ５。

【６３９８】

遊技機ＢＣ５によれば、遊技機ＢＣ４の奏する効果に加え、切替手段の第１部に着地した後の遊技球について、切替手段の状態に関係なく遊技球の転動を維持させる箇所としての案内経路が配設されることから、切替手段の状態切替と、遊技球の流下態様の変化とが一対一で対応する場合に比較して、遊技球の流下のバリエーションを増加させることができる。

【６３９９】

遊技機ＢＣ５において、前記案内経路における遊技球の流下長さが複数種類構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ６。

【６４００】

遊技機ＢＣ６によれば、遊技機ＢＣ５の奏する効果に加え、遊技球の流下のバリエーションを増加させることができる。

【６４０１】

なお、案内経路における遊技球の流下長さが変化する要因としては、種々の態様が例示される。例えば、切替手段への入球位置の違いで変化するよう構成されても良いし、切替手段への入球のタイミングと切替手段の状態が切り替えられるタイミングとの相対的な関係により変化するよう構成されても良い。

【６４０２】

遊技機ＢＣ５又はＢＣ６において、前記切替手段は、前記案内経路よりも上流側における所定範囲に亘って、遊技球を案内経路側に接近するように移動させる接近手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ７。

【６４０３】

遊技機ＢＣ７によれば、遊技機ＢＣ５又はＢＣ６の奏する効果に加え、接近手段により、案内経路に遊技球が乗るタイミングよりも事前に案内経路側に遊技球を寄せることができるので、案内経路への橋渡し部分における遊技球の滞留を回避することができる。

【６４０４】

遊技機ＢＣ７において、前記接近手段は、前記切替手段の第１部または前記案内経路における遊技球の流下方向と直交する方向に遊技球を移動させる傾斜面であることを特徴とする遊技機ＢＣ８。

【６４０５】

遊技機ＢＣ８によれば、遊技機ＢＣ７の奏する効果に加え、切替手段の第１部または案内部における遊技球の流下方向と、傾斜面の傾斜方向とが直交することから、傾斜面により遊技球に与えられる負荷が、切替手段の第１部または案内部における遊技球の流下速度を加速も減速もさせず、影響を最小限に抑えることができる。

【６４０６】

遊技機ＢＣ４からＢＣ８のいずれかにおいて、前記第２部は、同時の複数個の遊技球の受入を制限するよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＣ９。

【６４０７】

遊技機ＢＣ９によれば、遊技機ＢＣ４からＢＣ８のいずれかの奏する効果に加え、第２部に想定以上の遊技球が入球する事態を回避し易くすることができる。

【６４０８】

遊技機ＢＣ１からＢＣ９のいずれかにおいて、前記切替手段は、前記流下領域側の端部側の所定区間に遊技球が着地してから、その遊技球が前記所定区間を通過するまでの間に状態が切り替えられた場合に、その遊技球が前記案内経路側に入球することを制限する入球制限手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ１０。

【６４０９】

遊技機ＢＣ１０によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ９のいずれかにおいて、切替手段が微小時間での状態切替を実行した場合に、遊技球が案内経路側に誤って入球することを回避し易くすることができる。

【６４１０】

遊技機ＢＣ１からＢＣ１０のいずれかにおいて、前記切替手段は、下流側部において遊技球の流下速度を減速させる減速手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＣ１１。

【６４１１】

遊技機ＢＣ１１によれば、遊技機ＢＣ１からＢＣ１０のいずれかの奏する効果に加え、切替手段の下流側において遊技球の流下態様を落ち着かせる（整流させる）ことができる。

【６４１２】

＜複数個目の入球が、先の入球に影響されて検出手段を通過し易い＞

遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通った遊技球が流下可能な第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記下流側領域に遊技球が配置されていない状態で前記流下領域から前記下流側領域に遊技球が流下する第１の場合よりも、前記下流側領域に遊技球が配置されている状態で前記流下領域から前記下流側領域に遊技球が流下する第２の場合の方が、遊技球が前記第２流下領域を流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ１。

【６４１３】

パチンコ機等の遊技機において、開閉手段の奥に入球口と特定入球口とが配置され、そ

の特定入球口は、スライド動作する板部材に塞がれる状態と、板部材が退避して遊技球の入球を許容する状態とで切り替えられるよう構成され、板部材が入球を許容する状態の場合には、開閉手段に受け入れられたほとんどの遊技球が特定入球口に入球するよう構成され、特定入球口への入球により後の遊技状態が遊技者にとって有利な遊技状態に設定される遊技機がある（例えば、特開２０１５－１５０１２２号公報の段落００３０～００３２を参照）。

【６４１４】

しかし、上述した従来の遊技機では、開閉手段に遊技球が１個受け入れられた時点で特定入球口へ入球するものと考えられるので、遊技者が安心できてしまい、２個目以降の開閉手段への入球に注目させることが困難であるという問題点があった。換言すれば、開閉手段に受け入れられる遊技球への注目力を持続させることが困難であるという問題点があった。

【６４１５】

これに対し、遊技機ＢＤ１によれば、下流側領域に受け入れられた遊技球の内、複数個目に受け入れられた遊技球の方が、１個目に受け入れられた遊技球よりも、第２流下領域に受け入れられる可能性が高くなるよう構成されるので、下流側領域に流下した遊技球に対する注目力を持続させることができる。

【６４１６】

遊技機ＢＤ１において、前記下流側領域に１球目で入球した遊技球よりも、２球目以降で入球した遊技球の方が、第２流下領域に入球し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ２。

【６４１７】

遊技機ＢＤ２によれば、遊技機ＢＤ１の奏する効果に加え、流下領域に流下した遊技球に対する遊技者の注目力を長い間維持することができる。

【６４１８】

遊技機ＢＤ１又はＢＤ２において、前記下流側領域に遊技球が複数個同時に配置されている場合に、前記第２流下領域を遊技球が流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ３。

【６４１９】

遊技機ＢＤ３によれば、遊技機ＢＤ１又はＢＤ２の奏する効果に加え、流下領域に流下した遊技球に対する遊技者の注目力を、遊技球が下流側領域に配置されている間において維持することができる。また、遊技球の発射態様を遊技者に意識させることができる。

【６４２０】

遊技機ＢＤ１からＢＤ３のいずれかにおいて、前記下流側領域に複数の遊技球が停留することで、第２流下領域に遊技球が受け入れられ易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ４。

【６４２１】

遊技機ＢＤ４によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ３のいずれかの奏する効果に加え、下流側領域における遊技球の配置態様に注目させることができる。

【６４２２】

遊技機ＢＤ１からＢＤ４のいずれかにおいて、流下領域からの遊技球の流下経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段を備え、前記下流側領域は、前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態へ切り替えられた直後において、前記第２流下領域側に遊技球が案内され難いように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ５。

【６４２３】

遊技機ＢＤ５によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ４のいずれかの奏する効果に加え、開閉手段が第１状態に切り替えられた後における下流側領域に対する遊技者の注目力の維持期間を長くすることができる。

【６４２４】

遊技機ＢＤ５において、前記開閉手段が前記第１状態に切り替えられた時点から、前記下流側領域に所定期間に入球した遊技球よりも、前記所定期間経過後に入球した遊技球の方が、第２流下領域を流下し易くなるように構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ６。

【６４２５】

遊技機ＢＤ６によれば、遊技機ＢＤ５の奏する効果に加え、下流側領域に対する注目力を開閉手段が第１状態に切り替えられた時点から長く持続させることができる。

【６４２６】

遊技機ＢＤ６において、前記開閉手段が前記第１状態に切り替えられた時点から前記所定期間が経過した後においては、前記流下領域を流下した遊技球が前記第２流下領域を流下するまでの期間の変化を抑制可能とされることを特徴とする遊技機ＢＤ７。

【６４２７】

遊技機ＢＤ７によれば、遊技機ＢＤ６の奏する効果に加え、開閉手段が第１状態に切り替えられ所定期間が経過した後における遊技球の流下態様（流下期間）を一定とすることで、下流側領域における注目力を下げ、遊技者をリラックスさせることができる。

【６４２８】

遊技機ＢＤ５からＢＤ７のいずれかにおいて、前記流下領域に、前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態に切り替えられてから数えて１個目で入球した遊技球を、前記第２流下領域側へ案内しないように構成される案内球選択手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＤ８。

【６４２９】

遊技機ＢＤ８によれば、遊技機ＢＤ５からＢＤ７のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域に遊技球を受け入れさせるために、開閉手段の第１状態において複数個の遊技球を入球させる必要が生じるので、開閉手段および開閉手段を通過する遊技球の個数に対する注目力を向上させることができる。

【６４３０】

遊技機ＢＤ１からＢＤ８のいずれかにおいて、前記第２流下領域に受け入れられる遊技球の個数と、前記第２流下領域に受け入れられない遊技球の個数とを同等とするよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ９。

【６４３１】

遊技機ＢＤ９によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ８のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域に全球入球する場合のように、過度に多くの遊技球が受け入れられる場合が生じることで、遊技者に過度な期待を持たせることを回避することができる。

【６４３２】

遊技機ＢＤ１からＢＤ９のいずれかにおいて、前記下流側領域が受入可能な遊技球の最大個数が設定され、その最大個数を超えた遊技球が前記第２流下領域に受け入れられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＤ１０。

【６４３３】

遊技機ＢＤ１０によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ９のいずれかの奏する効果に加え、下流側領域および第２流下領域に対する注目力を向上させることができる。

【６４３４】

遊技機ＢＤ１からＢＤ１０のいずれかにおいて、通過した遊技球が前記第１流下領域側に流入し易い位置に、流下領域を配置可能とされることを特徴とする遊技機ＢＤ１１。

【６４３５】

遊技機ＢＤ１１によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１０のいずれかの奏する効果に加え、下流側領域に配置された遊技球が第１流下領域側に流入し易い状態が構成され易い。

【６４３６】

遊技機ＢＤ１からＢＤ１１のいずれかにおいて、前記下流側領域に配置された遊技球を前記下流側領域で留めるための滞留手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＤ１２。

【６４３７】

遊技機ＢＤ１２によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１１のいずれかの奏する効果に加え、

第１流下領域に配置された遊技球が第２流下領域側へ流れることを滞留手段により制限することができる。

【６４３８】

遊技機ＢＤ１からＢＤ１２のいずれかにおいて、前記第２流下領域は、前記第１流下領域よりも上側に配置されることを特徴とする遊技機ＢＤ１３。

【６４３９】

遊技機ＢＤ１３によれば、遊技機ＢＤ１からＢＤ１２のいずれかの奏する効果に加え、第１流下領域に配置された遊技球が第２流下領域側へ流れることを、配置の高低差で防止することができる。

【６４４０】

＜遊技球との当接、非当接の切り替え＞

遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域を通過する遊技球の経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段と、前記流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通過した遊技球が流下可能に構成される第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球に当接可能な当接状態と、非当接となる非当接状態とで切り替え可能な当接可能手段と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記当接可能手段に遊技球が当接している状態で前記開閉手段を前記第１状態から前記第２状態に切り替え可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ１。

【６４４１】

パチンコ機等の遊技機において、開閉部材により開閉される入球口に入球した遊技球の流下経路において複数の可動部材が配設され、可動部材からの負荷を受けて遊技球の流下経路が変化し得る遊技機がある（例えば、特開２０１７－０００５６２号公報を参照）。

【６４４２】

しかし、上述した従来の遊技機では、可動部材は流下した遊技球と必ず当接し得るよう構成されているので、入球口に入球した遊技球の流下態様が変わり映えせず、遊技者を飽きさせる可能性が高く、遊技者の興趣を向上させる観点で改良の余地があるという問題点があった。

【６４４３】

これに対し、遊技機ＢＥ１によれば、当接可能手段が、下流側領域を通った遊技球に当接可能な当接状態と、非当接となる非当接状態とで切り替え可能とされるので、遊技球が当接可能手段に当接する場合と、当接可能手段に当接しない場合とで、遊技球の流下態様を大きく異ならせることができる。これにより、遊技球の流下態様のバリエーションを多くすることができ、遊技者の興趣を向上させる観点で改良することができる。

【６４４４】

遊技機ＢＥ１において、前記当接可能手段に当接している遊技球を介して負荷を受けた遊技球が、前記第２流下領域を流下し得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ２。

【６４４５】

遊技機ＢＥ２によれば、遊技機ＢＥ１の奏する効果に加え、下流側領域における遊技球の流下態様に対する注目力を向上させることができる。

【６４４６】

遊技機ＢＥ１又はＢＥ２において、前記当接可能手段に遊技球が当接している状態で前記開閉手段が前記第２状態から前記第１状態に切り替えられた場合において、前記流下領域から前記下流側領域に流下した遊技球が前記第２流下領域を流下し得るよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥ３。

【６４４７】

遊技機ＢＥ３によれば、遊技機ＢＥ１又はＢＥ２の奏する効果に加え、開閉手段が開放されるタイミングで当接可能手段に遊技球が当接している場合に、開閉手段が開放された

後で開閉手段を通過した遊技球が第２流下領域を流下し易くなることから、当接可能手段に対する注目力を向上させることができる。

【６４４８】

＜遊技球の通過を止められる状態を経て第２遊技領域に遊技球が受け入れられる＞

遊技球が流下可能な流下領域と、その流下領域を通過する遊技球の経路を開放する第１状態とその第１状態よりも経路を狭める第２状態とで切り替え可能な開閉手段と、前記流下領域の下流側に配設される下流側領域と、その下流側領域を通過した遊技球が流下可能に構成される第１流下領域と、前記下流側領域を通った遊技球であって前記第１流下領域を流下しない遊技球が流下可能に構成される第２流下領域と、を備え、前記第２流下領域を遊技球が流下した場合に所定の利益を遊技者に付与可能とされ、前記下流側領域の所定部における遊技球の通過が防止される状態から、前記第２流下領域に遊技球が流下可能な状態へ移行されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ１。

【６４４９】

パチンコ機等の遊技機において、開閉手段の奥に入球口と特定入球口とが配置され、その特定入球口は、スライド動作する板部材に塞がれる状態と、板部材が退避して遊技球の入球を許容する状態とで切り替えられるよう構成され、板部材が入球を許容する状態の場合には、開閉手段に受け入れられたほとんどの遊技球が特定入球口に入球するよう構成され、特定入球口への入球により遊技状態が遊技者にとって有利な遊技状態に設定される遊技機がある（例えば、特開２０１５－１５０１２２号公報の段落００３０～００３２を参照）。

【６４５０】

しかし、上述した従来の遊技機では、入球口と特定入球口との位置が、左右の違いがあるだけでほとんど変わらないので、遊技球が特定入球口に入球したかどうかを開閉手段越しには一目で把握させ難い。特定入球口へ遊技球が入球したことに起因して液晶装置に報知がされる場合には、液晶装置での表示の方が分かり易いので、遊技者の注目力が液晶装置に集中してしまうという問題点があった。換言すれば、開閉手段に受け入れられた遊技球への注目力を持続させることが困難であるという問題点があった。

【６４５１】

これに対し、遊技機ＢＥＺ１によれば、下流側領域の所定部において遊技球の通過が防止される状態を経て、第２流下領域に遊技球が流下するように構成されるので、第２流下領域への入球準備状態として下流側領域で停止している遊技球に遊技者の視線を集めることができ、開閉手段に受け入れられた遊技球への注目力を持続させることができる。

【６４５２】

遊技機ＢＥＺ１において、前記所定部は、前記第１流下領域に位置することを特徴とする遊技機ＢＥＺ２。

【６４５３】

遊技機ＢＥＺ２によれば、遊技機ＢＥＺ１の奏する効果に加え、所定の利益の付与には影響しない領域としての第１流下領域への入球に対する注目力を向上させることができる。

【６４５４】

遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２において、前記所定部は、所定の遊技球によって、遊技球の通過が防止されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ３。

【６４５５】

遊技機ＢＥＺ３によれば、遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２の奏する効果に加え、遊技球が第２流下領域から逸れて流下した場合であっても、所定部を塞ぐかもしれないという期待感から、その遊技球に対する注目力を高い状態で維持することができる。

【６４５６】

遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２において、前記所定部は、遊技球とは異なる所定部材によって、遊技球の通過が防止され、前記所定部材の正面視における大きさは、遊技球の大きさよりも小さく設定されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ４。

【６４５７】
遊技機ＢＥＺ４によれば、遊技機ＢＥＺ１又はＢＥＺ２の奏する効果に加え、遊技球の通過を防止する所定部材が、遊技球よりも目立たないようにすることができるので、遊技球に対する注目力を向上させることができる。
【６４５８】
遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ４のいずれかにおいて、前記第１流下領域が遊技球で満たされた状態を経て、後追いで到達する遊技球が前記第２流下領域へ受け入れられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ５。
【６４５９】
遊技機ＢＥＺ５によれば、遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ４のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の目線を第１流下領域に留める状態から、第２流下領域へ移行させることができるので、当初から第２流下領域に注目される場合に比較して、第２流下領域が視認される期間を長くすることができる。
【６４６０】
更に、第２流下領域への入球時には、第１流下領域が遊技球で満たされることから、第２流下領域へ入球した遊技球を見失ったとしても、一目で第２流下領域へ入球可能な状態であると把握することができる。
【６４６１】
遊技機ＢＥＺ５において、前記第１流下領域に遊技球を留める滞留状態と、前記第１流下領域から遊技球を排出する排出状態と、で切替可能とされる状態切替手段を備え、前記開閉手段の状態の切り替えに対応して、前記状態切替手段の状態が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＥＺ６。
【６４６２】
遊技機ＢＥＺ６によれば、遊技機ＢＥＺ５の奏する効果に加え、開閉手段と状態切替手段との状態の切り替えを関連付けることができるので、いずれか一方を視認することで、他方の状態を予測し易くすることができる。
【６４６３】
遊技機ＢＥＺ５又はＢＥＺ６において、前記第１流下領域に受け入れ可能な遊技球の上限個数が設定されていることを特徴とする遊技機ＢＥＺ７。
【６４６４】
遊技機ＢＥＺ７によれば、遊技機ＢＥＺ５又はＢＥＺ６の奏する効果に加え、第１流下領域に配置されている遊技球の個数を確認することで、あと何球の遊技球を流下領域に通過させれば第２流下領域に遊技球が受け入れられるかの予測を立て易くすることができる。
【６４６５】
遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ７のいずれかにおいて、変位可能に構成される変位手段を備え、その変位手段は、受け入れた遊技球を前記下流側領域に排出可能な排出可能状態と、受け入れた遊技球を前記下流側領域に排出不能な排出不能状態とで状態を切り替えるように変位することを特徴とする遊技機ＢＥＺ８。
【６４６６】
遊技機ＢＥＺ８によれば、遊技機ＢＥＺ１からＢＥＺ７のいずれかの奏する効果に加え、第２流下領域への遊技球の受入の前提として遊技者の注目力の高い下流側領域へ遊技球が排出されるか否かが、変位手段の状態により変化するように構成されることから、下流側領域および変位手段に対する注目力を向上させることができる。
【６４６７】
即ち、流下領域を通過した遊技球が下流側領域に確実に流下する場合には、遊技球が流下領域を通過する個数を把握すれば第２流下領域に遊技球が流下するタイミングを経験から予測することができるので、下流側領域にまでは視線をやらずに遊技をしても不利益は大きくない可能性があった。
【６４６８】

これに対し、変位手段の状態次第で下流側領域への遊技球の流下の有無が切り替えられる状況下では、流下領域を通過する遊技球の個数と、下流側領域に流下する遊技球の個数にずれが生じることから、下流側領域にも視線を向ける必要がある。これにより、下流側領域に対する注目力を向上させることができる。

【６４６９】

遊技機ＢＥＺ８において、前記変位手段は、受け入れた遊技球の流下速度を、流下領域を流下する遊技球の流下速度に比較して減速可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＥＺ９。

【６４７０】

遊技機ＢＥＺ９によれば、遊技機ＢＥＺ８の奏する効果に加え、変位手段に受け入れられた遊技球の流下速度を落とすことができるので、変位手段に受け入れられた遊技球を遊技者が見失う事態の発生を回避し易くすることができる。

【６４７１】

遊技機ＢＥＺ８又はＢＥＺ９において、前記変位手段は、遊技球を所定数まで受け入れ可能な球受部を備え、前記変位手段の変位により前記球受部に受け入れられた遊技球が変位することを特徴とする遊技機ＢＥＺ１０。

【６４７２】

遊技機ＢＥＺ１０によれば、遊技機ＢＥＺ８又はＢＥＺ９の奏する効果に加え、変位手段の変位に伴い変位する遊技球の個数を、球受部に対して所定数までに制限することができるので、変位手段の変位速度を所定の範囲に設定することで、所定期間において変位手段から下流側領域に排出され得る遊技球の個数を所定の範囲に抑えることができる。

【６４７３】

＜エンディングにおいて終了時点を知らせる報知手段＞

遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の継続期間の終わりを遊技者が把握可能に報知する報知手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ１。

【６４７４】

パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了したら特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技の終了時点が分かり難く、特図変動遊技が可能な状態に切り替わった直後に特別図柄の抽選を開始させたいという遊技者にとって、不満の元となっていた。

【６４７５】

例えば、一般的な遊技進行として、特別図柄１の抽選で大当たりとなった後で、大当たり遊技終了後に特別図柄１よりも有利な特別図柄２の抽選を獲得容易な状態に移行する振分けが存在する遊技機があるが、このような遊技機では、大当たり遊技終了直後は特別図柄２の抽選が未獲得な状態で始まるので、特別図柄１の抽選が保留されていると、大当たり遊技終了後に特別図柄１の抽選が実行されてしまい、万が一その抽選で大当たりを獲得すると、遊技者に不利益が生じる可能性があった。

【６４７６】

この事態を回避するため、大当たり終了後の特別図柄１の抽選による大当たりを獲得するよりも前に、大当たり終了後になるべく間隔を空けずに特別図柄２の抽選を獲得することが好ましいので、特別図柄２の抽選を獲得できる状態になるや否や遊技球の発射を開始することが望まれる。

【６４７７】

一方で、特別図柄２の抽選を獲得するために入球口は電動役物により開閉される場合が一般的であるが、その電動役物は大当たり遊技中には閉鎖状態で維持されており、大当たり遊技終了後に開放可能な状態となる。そのため、電動役物が開放される前に遊技球を発射しても、その多くは無駄球となり易い。

【６４７８】

このような事情から、大当たり遊技中に電動役物側へ遊技球を発射しても電動役物が閉鎖状態を維持しており特別図柄２の抽選を獲得できないので遊技球の発射は避けたいが、それにも増して特別図柄１の抽選による大当たりを獲得するよりも前に特別図柄２の抽選を獲得するために大当たり遊技が終了するや否や開放された電動役物の下流側にある入球口に遊技球を打ち込みたいと遊技者は思うと考えられる。

【６４７９】

これに対し、従来の遊技機では、いつ大当たり遊技が終了するのかが分かり難く、遊技球を発射させるタイミングを図りがたいという問題点があった。

【６４８０】

これに対し、遊技機ＢＧ１によれば、所定の演出の終了時点を遊技者が把握可能に報知する報知手段を備えるようにしたので、その報知手段の報知を目安として遊技球を発射させるタイミングを図り易くすることができる。

【６４８１】

遊技機ＢＧ１において、前記所定の演出は、第１演出またはその第１演出とは報知の内容が異なる第２演出の少なくとも一方が実行され、報知の組み合わせによって前記継続期間が変化可能とされ、前記報知手段は、前記所定の演出の前記継続期間の違いを遊技者に伝達可能に構成され、所定の演出の終了時点を示す終了手段と、現時点から前記終了時点までに経過する時間を示す時間報知手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ２。

【６４８２】

遊技機ＢＧ２によれば、遊技機ＢＧ１の奏する効果に加え、所定の演出の継続期間が複数種類用意されている場合においても、現在行われている所定の演出の継続期間と、その終了時点とを把握することができる。

【６４８３】

遊技機ＢＧ２において、前記時間報知手段は、現時点から前記所定の演出の終了時点までに経過する時間と、所定の時間差を設けた疑似時間を示す疑似時間報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＧ３。

【６４８４】

遊技機ＢＧ３によれば、遊技機ＢＧ２の奏する効果に加え、疑似時間報知手段により、所定の演出の終了時点よりも前の好ましいタイミングを遊技者に報知することができる。これにより、例えば、遊技球が発射されてから所定の入球口に到達するまでに経過し得る時間を所定の演出の実行中に消化することができ、所定の演出の終了直後に所定の入球口に遊技球を流入させるという遊技を実現させ易くすることができる。

【６４８５】

遊技機ＢＧ１からＢＧ３のいずれかにおいて、前記所定の演出は、少なくとも所定の特典遊技の終了直前に実行可能とされるものであり、前記特典遊技の種別に対応して、実行の態様が変化されることを特徴とする遊技機ＢＧ４。

【６４８６】

遊技機ＢＧ４によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ３のいずれかの奏する効果に加え、特典遊技の種別と、所定の演出とを対応付けることができる。

【６４８７】

遊技機ＢＧ１からＢＧ４のいずれかにおいて、前記報知手段は、前記所定の演出期間の終了時の所定期間前の時点を報知することを特徴とする遊技機ＢＧ５。

【６４８８】

遊技機ＢＧ５によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ４のいずれかの奏する効果に加え、報知手段により所定演出期間の終了時を前もって把握させることができる。

【６４８９】

なお、所定の演出期間のタイミングは、何ら限定されるものではなく種々の態様が例示される。例えば、所定の特定遊技中でも良いし、図柄変動中でも良いし、図柄変動待機中でも良い。

【６４９０】

遊技機ＢＧ１からＢＧ５のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時に、表示手段の表示領域に遊技者を冷静にさせるための所定の静止画または動画が表示されることを特徴とする遊技機ＢＧ６。

【６４９１】

遊技機ＢＧ６によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の遊技に対するのめり込みを効果的に抑制することができる。

【６４９２】

遊技機ＢＧ１からＢＧ６のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時の後において、表示手段の表示が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＧ７。

【６４９３】

遊技機ＢＧ７によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ６のいずれかの奏する効果に加え、表示が切り替えられることにより所定の演出の終了時を過ぎたことを遊技者に把握させ易くすることができる。

【６４９４】

遊技機ＢＧ７において、前記所定の演出の終了時の後において、前記所定の演出から継続して特定の演出を実行可能とされることを特徴とする遊技機ＢＧ８。

【６４９５】

遊技機ＢＧ８によれば、遊技機ＢＧ７の奏する効果に加え、所定の演出の終了時の後において新規で演出を実行する場合に比較して、所定の演出の実行中から特定の演出を実行することができるので、演出時間を長く確保することができる。

【６４９６】

遊技機ＢＧ１からＢＧ８のいずれかにおいて、前記所定の演出は、表示手段の表示領域の少なくとも一部において視認可能に実行されることを特徴とする遊技機ＢＧ９。

【６４９７】

遊技機ＢＧ９によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ８のいずれかの奏する効果に加え、表示手段の表示領域を視認すれば所定の演出を確認することができるので、表示手段の表示領域外（例えば、遊技領域の外方等）で所定の演出が実行される場合に比較して、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【６４９８】

遊技機ＢＧ８又はＢＧ９において、表示手段の表示領域における表示の、所定のタイミングにおける態様が異なる場合を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＢＧ１０。

【６４９９】

遊技機ＢＧ１０によれば、遊技機ＢＧ８又はＢＧ９の奏する効果に加え、所定のタイミングにおける態様に対する注目力を向上させることができる。

【６５００】

なお、所定のタイミングにおける異なる態様については、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定のタイミングで動作開始する場合と、所定のタイミングで停止維持される場合とで異なる場合や、所定のタイミングで操作可能となる場合と、所定のタイミングで操作不能とされる場合とで異なる場合等が例示される。

【６５０１】

遊技機ＢＧ８又はＢＧ９において、前記所定の演出の終了時よりも前において、終了時であるように錯覚させる錯覚演出を実行させることを特徴とする遊技機ＢＧ１１。

【６５０２】

遊技機ＢＧ１１によれば、遊技機ＢＧ８又はＢＧ９の奏する効果に加え、錯覚演出ごとに遊技者の集中力を高めることができる。

【６５０３】

遊技機ＢＧ８からＢＧ１１のいずれかにおいて、前記所定の演出の終了時から、所定の条件が満たされるまで表示手段の表示領域において遊技球の発射により所定の利益を獲得可能であることを示唆する示唆表示がされることを特徴とする遊技機ＢＧ１２。

【６５０４】

遊技機ＢＧ１２によれば、遊技機ＢＧ８からＢＧ１１のいずれかの奏する効果に加え、表示領域を視認する遊技者に対して、示唆表示により遊技球の発射に適したタイミングを知らせることができるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【６５０５】

なお、所定の条件の態様は、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定期間が経過することでも良いし、所定の入球口を所定個数の遊技球が通過したことや、その通過を検出したことでも良い。

【６５０６】

遊技機ＢＧ１２において、前記示唆表示は、所定の入球口またはその所定の入球口を開閉する電動役物の開閉の抽選を実行する開閉抽選入球口を狙うことを示唆する表示であることを特徴とする遊技機ＢＧ１３。

【６５０７】

遊技機ＢＧ１３によれば、遊技機ＢＧ１２の奏する効果に加え、示唆表示により、発射した遊技球の狙いが明確にされるので、遊技者の遊技負担を低減させることができる。

【６５０８】

遊技機ＢＧ１２又はＢＧ１３において、前記所定の演出において、所定の発射可能タイミングまで継続される表示が構成され、前記所定の発射タイミングを過ぎても発射がされない場合または所定の検出口で遊技球が検出されない場合、そのいずれかがされるまで所定の報知が継続されることを特徴とする遊技機ＢＧ１４。

【６５０９】

遊技機ＢＧ１４によれば、遊技機ＢＧ１２又はＢＧ１３の奏する効果に加え、所定の報知が継続されていることを確認すれば、所定の発射タイミングを過ぎてから、遊技球の発射がされていないか、所定の検出口で遊技球が検出されていないかのいずれかであることを、遊技者に把握させることができる。

【６５１０】

遊技機ＢＧ１２からＢＧ１４のいずれかにおいて、前記所定の演出中に所定個数の入球または前記所定個数以上の入球を検出した場合に、所定の報知をすることを特徴とする遊技機ＢＧ１５。

【６５１１】

遊技機ＢＧ１５によれば、遊技機ＢＧ１２からＢＧ１４のいずれかの奏する効果に加え、所定の報知により、所定の演出中に所定個数以上に入球が生じていることを遊技者に知らせることができるので、それをヒントに遊技者は遊技球の発射強度の調整等を行うことができ、遊技負担を軽減させることができる。

【６５１２】

なお、所定の報知の態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定の四字熟語が表示されるものでも良いし、遊技球の発射を躊躇させるための表示がされるものでも良いし、所定の発光手段を発光させるものでも良いし、所定の音声を出力するものでも良い。

【６５１３】

遊技機ＢＧ１からＢＧ１５のいずれかにおいて、前記所定の演出は、遊技者により行われる音量の設定に関わらず所定の音量で実行されるか、又は、遊技者により行われる発光強度の設定に関わらず所定の発光強度や所定の発光色で実行されることを特徴とする遊技機ＢＧ１６。

【６５１４】

遊技機ＢＧ１６によれば、遊技機ＢＧ１からＢＧ１５のいずれかの奏する効果に加え、遊技者の設定により、音や光に遊技者が気づかない事態が発生することを防止することができる。

【６５１５】

＜エンディングにおいて音量光量の変更期間を設定する＞

遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の実行中に、遊

技に関わる所定の設定を変更可能な変更可能状態を構成可能な変更手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＨ１。

【６５１６】

パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了して特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技におけるラウンド遊技の終了から特図変動遊技が可能な状態へ移行するまでの間に遊技者が手持無沙汰となるため、ハンドルを握ったままとなり易いが、この場合に誤って遊技球を発射してしまう事態が生じ易いという問題点があった。即ち、遊技球を有効に利用するという観点で改良の余地があるという問題点があった。

【６５１７】

これに対し、遊技機ＢＨ１によれば、所定の演出中に、変更可能状態を構成可能とされているので、所定の演出中における暇な時間を、所定の設定を変更させる時間に当てることができる。これにより、遊技者の手をハンドルから離させ易くすることができるので、遊技球の誤発射を防止し易くすることができる。即ち、遊技球を有効に利用するという観点で改良することができる。

【６５１８】

遊技機ＢＨ１において、前記所定の演出の継続期間の終わりを遊技者が把握可能に報知する報知手段を備え、前記変更可能状態において、前記報知手段による演出が継続されることを特徴とする遊技機ＢＨ２。

【６５１９】

遊技機ＢＨ２によれば、遊技機ＢＨ１の奏する効果に加え、所定の設定を変更させた後で、ハンドルを再び握ることが好ましいタイミングを遊技者に知らせることができる。これにより、適切なタイミングで遊技球を発射しないことによる不利益を遊技者が受けることを避け易くすることができる。

【６５２０】

遊技機ＢＨ１又はＢＨ２において、前記変更可能状態において、変更可能な前記所定の設定が切り替え可能な状態を構成可能であることを特徴とする遊技機ＢＨ３。

【６５２１】

遊技機ＢＨ３によれば、遊技機ＢＨ１又はＢＨ２の奏する効果に加え、変更可能な所定の設定が複数あることで、遊技者が暇となる時間が長い場合であっても、遊技者が手持無沙汰となることを避け易くすることができる。

【６５２２】

遊技機ＢＨ３において、前記変更可能状態において、変更可能な前記所定の設定または変更中の前記所定の設定が表示手段により表示されることを特徴とする遊技機ＢＨ４。

【６５２３】

遊技機ＢＨ４によれば、遊技機ＢＨ３の奏する効果に加え、遊技に関わる所定の設定の内の、変更される対象を表示により明確とすることができる。これにより、遊技者の遊技負担を低減することができる。

【６５２４】

遊技機ＢＨ１からＢＨ４のいずれかにおいて、前記変更可能状態において実行された所定の操作により、表示手段における所定の表示の視認可能領域が変化することを特徴とする遊技機ＢＨ５。

【６５２５】

遊技機ＢＨ５によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ４のいずれかの奏する効果に加え、遊技者が行った所定の操作により、表示手段における所定の表示の視認可能領域を変化させることで、遊技者が興味を持つと考えられる表示を遊技者の視線の先に配置させることができる。これにより、遊技者に視線を動かす煩わしさを感じさせることなく、遊技に集中させることができる。

【６５２６】

遊技機ＢＨ５において、前記変更可能状態において実行された所定の操作により、表示手段の表示領域の一部が視認不能とされる状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＢＨ６。

【６５２７】

遊技機ＢＨ６によれば、遊技機ＢＨ５の奏する効果に加え、所定の操作により表示手段の表示領域の一部が視認不能となることから、視認不能となる可能性がある表示を視認できる状態で維持したいと考える遊技者に対して、所定の操作を行うか否かを考えさせることができる。これにより、遊技者がむやみに所定の操作を行う事態を回避し易くすることができる。

【６５２８】

遊技機ＢＨ１からＢＨ６のいずれかにおいて、前記変更可能状態で前記所定の設定を変更した場合に、その変更が所定条件で戻される、又は前記変更が所定条件で無効化されるよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＨ７。

【６５２９】

遊技機ＢＨ７によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ６のいずれかの奏する効果に加え、所定条件の成立により所定の設定が戻される、又は無効化されるので、違和感から、所定条件が成立したことを遊技者に把握させることができる。

【６５３０】

なお、所定条件としては、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、大当たり遊技が開始されることでも良いし、大当たり遊技が所定回数継続されることでも良いし、所定期間に所定個数以上の遊技球を所定の検出手段で検出することでも良いし、所定のタイミングで所定の操作手段を操作することでも良い。

【６５３１】

遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、前記所定の設定の変更を実行するために操作した所定の操作手段の操作により達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ８。

【６５３２】

遊技機ＢＨ８によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作をすることで所定の設定の変更を戻す、又は無効化することができるので、所定の設定の変更を戻す、又は無効化することを意図的に行うことを容易にすることができる。

【６５３３】

遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、前記所定の設定の変更を実行したタイミングによらず、所定のタイミングで達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ９。

【６５３４】

遊技機ＢＨ９によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定条件が所定のタイミングで達成されるので、所定条件がいつまでたっても達成されないという事態を回避することができる。

【６５３５】

なお、所定のタイミングは、何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、特図変動が所定回数実行された場合でも良いし、所定の内容の報知がされた場合でも良いし、正午など所定の時刻とされても良い。

【６５３６】

遊技機ＢＨ７において、前記所定条件は、所定の状態が所定時間経過することにより達成されることを特徴とする遊技機ＢＨ１０。

【６５３７】

遊技機ＢＨ１０によれば、遊技機ＢＨ７の奏する効果に加え、所定の設定の変更が戻ること、又は無効化されることにより、所定の状態が所定時間経過したことを遊技者に把握させることができる。

【６５３８】

なお、所定の状態については何ら限定されるものではない。例えば、大当たり遊技が連荘した場合において獲得した大当たりの大当たり種別が同じ（又は所定のラウンド数以上

や以下）で繰り返されることでも良いし、操作手段の操作がされないことでも良いし、特図変動が実行されないことでも良い。

【６５３９】

遊技機ＢＨ１からＢＨ１０のいずれかにおいて、前記所定の設定に予め所定の目標量を設定可能とされ、前記変更可能状態において、前記所定の設定と前記目標量との差分を把握可能とする差分報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＨ１１。

【６５４０】

遊技機ＢＨ１１によれば、遊技機ＢＨ１からＢＨ１０のいずれかの奏する効果に加え、所定の設定の変更が戻された、又は無効となった場合であっても、遊技を行う遊技者が同じであれば、差分報知手段により目標量との差分を把握しながら所定の設定を変更することで、所定の設定を戻される前、又は無効とされる前の状態に容易に戻すことができる。

【６５４１】

これにより、遊技を行う遊技者が交代した場合に、所定の設定が前の遊技者の設定のままで維持されることで後の遊技者に与える遊技負担を考慮して所定の設定の変更が戻される、又は無効化されるよう遊技機が制御されている場合においても、所定の設定を前の状態に容易に戻すことができることから、遊技を行う遊技者が交代していないにも関わらず意図せず所定の設定が戻された、又は無効化されたとしても、所定の設定を前の状態に容易に戻すことができるので、遊技者に与える遊技負担を軽減することができる。

【６５４２】

＜同一の表示を状況によって表示態様変更＞

遊技に関する所定の表示演出を実行可能な演出実行手段を備え、前記所定の表示演出の実行中に前記所定の表示演出の表示位置または表示される大きさの変更が可能に構成されることを特徴とする遊技機ＢＩ１。

【６５４３】

パチンコ機等の遊技機において、表示装置の正面側に配置される可動役物と、表示装置の表示とを組み合わせて一体的な形状を視認させることができる遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、可動役物の配置位置、大きさ及び形状に合わせて、表示の配置位置、大きさ及び形状を決める必要があるので、表示装置の表示領域を有効に活用する観点で改良の余地があるという問題点があった。

【６５４４】

これに対し、遊技機ＢＩ１によれば、所定の表示演出の実行中に、所定の表示演出の表示位置または表示される大きさの変更が可能に構成されるので、可動役物の形状の影響を受けることなく、表示装置の表示領域を有効に活用する観点で改良することができる。

【６５４５】

遊技機ＢＩ１において、前記所定の表示演出は、表示領域の中央側に表示される場合よりも、表示領域の端側に表示される場合の方が、識別性が低下するよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＩ２。

【６５４６】

遊技機ＢＩ２によれば、遊技機ＢＩ１の奏する効果に加え、表示領域のどの位置に表示されるかによって、所定の表示演出に対する注目力の調整を行うことができる。

【６５４７】

なお、識別性を低下させる態様は何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、半透明で表示するようにしても良いし、表示の大きさを小さくするようにしても良い。

【６５４８】

遊技機ＢＩ１又はＢＩ２において、前記変更は、所定の操作手段が操作されることにより実行されることを特徴とする遊技機ＢＩ３。

【６５４９】

遊技機ＢＩ３によれば、遊技機ＢＩ１又はＢＩ２の奏する効果に加え、所定の表示演出

の表示態様の変更を実行するか否かを、遊技者に選択させることができる。これにより、遊技者の遊技への参加意欲を高めることができる。

【６５５０】

＜ボタン操作絡み＞

遊技に関する所定の演出を実行可能な演出実行手段と、前記所定の演出の実行中に所定の操作手段が操作されることにより、前記所定の演出を第１の状態から第２の状態に切り替え可能に構成される演出切替手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＢＩＺ１。

【６５５１】

パチンコ機等の遊技機において、大当たり遊技が終了して特図変動遊技が可能な状態へ移行する遊技機がある（例えば、特開２０１５－０１９７４３号公報を参照）。しかし、上述した従来の遊技機では、大当たり遊技におけるラウンド遊技の終了から特図変動遊技が可能な状態へ移行するまでの間に遊技者が手持無沙汰となるため、ハンドルを握ったままとなり易いが、この場合に誤って遊技球を発射してしまう事態が生じ易いという問題点があった。

【６５５２】

これに対し、遊技機ＢＩＺ１によれば、所定の演出中に、所定の操作手段を操作することで実行される演出を切り替え可能とされるので、所定の演出中における暇な時間を、所定の操作手段を操作する時間に当てることができる。操作手段を操作することにより演出が切替可能とされるので、遊技者の操作手段の操作意欲を効果的に高めることができる。これにより、遊技者の手をハンドルから離させ易くすることができるので、遊技球の誤発射を防止し易くすることができる。

【６５５３】

遊技機ＢＩＺ１において、前記所定の操作手段を操作可能であることを報知可能な操作報知手段を備え、前記操作報知手段の報知に従い前記所定の操作手段を操作することで、前記所定の演出の態様が切り替えられることを特徴とする遊技機ＢＩＺ２。

【６５５４】

遊技機ＢＩＺ２によれば、遊技機ＢＩＺ１の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が操作報知手段により補助されることから、不慣れな遊技者であっても迷うことなく所定の操作手段を操作することができる。

【６５５５】

遊技機ＢＩＺ２において、前記操作報知手段からの報知は、前記所定の演出の継続期間の一部の時間において実行されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ３。

【６５５６】

遊技機ＢＩＺ３によれば、遊技機ＢＩＺ２の奏する効果に加え、操作報知手段からの報知が所定の演出の継続時間の一部の時間で実行されるので、その他の時間においては所定の演出を視認させる余裕を持たせることができる。

【６５５７】

なお、操作報知手段からの報知のタイミングは何ら限定されるものではなく、種々の態様が例示される。例えば、所定の演出の途中から操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良いし、所定の演出の途中まで操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良いし、所定の演出の実行中に亘り操作報知手段からの報知が実行されるようにしても良い。また、所定の演出の実行中に亘り操作報知手段からの報知が実行される場合において、その報知の実行中に亘って操作が有効となっても良いし、操作が無効となる時間を含むようにしても良い。

【６５５８】

遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ３のいずれかにおいて、前記所定の演出の後半の所定期間において、前記所定の操作手段の操作により演出が切り替えられないよう構成されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ４。

【６５５９】

遊技機ＢＩＺ４によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ３のいずれかの奏する効果に加え

、所定の演出の後半の所定期間における所定の操作手段の操作を無効とすることで、後半の所定期間における所定の演出に注目させることができる。

【６５６０】

遊技機ＢＩＺ４において、前記所定の演出の後半の前記所定期間において、表示手段の表示領域における前記操作報知手段の表示を非表示とすることを特徴とする遊技機ＢＩＺ５。

【６５６１】

遊技機ＢＩＺ５によれば、遊技機ＢＩＺ４の奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が無効となる期間に入ったことを、表示手段の表示領域を視認することで把握することができる。

【６５６２】

遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ５のいずれかにおいて、前記所定の操作手段の操作により切り替えられる演出が複数種類用意されている場合において、前記所定の操作手段の操作により実行される演出を予測させるための付属報知手段を備えることを特徴とする遊技機ＢＩＺ６。

【６５６３】

遊技機ＢＩＺ６によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ５のいずれかの奏する効果に加え、付属報知手段により所定の操作手段の操作により実行される演出が予測できるので、所定の操作手段を操作したにも関わらず予想外の演出に切り替えられたという残念感や徒労感を低減することができ、遊技者は好みの演出に切り替えられる時にのみ所定の操作手段を操作すれば良いので、繰り返し所定の操作手段を操作する煩わしさを解消することができる。

【６５６４】

遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ６のいずれかにおいて、前記所定の操作手段の操作は、前記所定の演出の途中から可能となることを特徴とする遊技機ＢＩＺ７。

【６５６５】

遊技機ＢＩＺ７によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ６のいずれかの奏する効果に加え、所定の操作手段の操作が可能となるまでの間は、所定の演出に注目させることができる。

【６５６６】

遊技機ＢＩＺ６又はＢＩＺ７において、前記付属報知手段は、特定の操作タイミングを示唆するための表示を備えており、前記特定の操作タイミングは、前記所定の演出の終了時点までに所定の調整期間を確保可能なタイミングとして設定されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ８。

【６５６７】

遊技機ＢＩＺ８によれば、遊技機ＢＩＺ６又はＢＩＺ７の奏する効果に加え、調整期間の長さ次第で特定の操作タイミングが変化し得るので、特定の操作タイミングから、所定の操作手段を操作した後の演出の展開を予想させることができる。

【６５６８】

遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ８のいずれかにおいて、前記所定の操作手段を操作したことで切り替えられた演出の態様は、所定の条件で、切り替えられる前の態様に戻されることを特徴とする遊技機ＢＩＺ９。

【６５６９】

遊技機ＢＩＺ９によれば、遊技機ＢＩＺ１からＢＩＺ８のいずれかの奏する効果に加え、所定の条件で演出の態様が切り替えられる前の状態に戻されるので、再び所定の操作手段を操作させることができる。これにより、所定の操作手段の操作回数を多くすることができ、遊技者が遊技に参加している雰囲気を高めることができる。

【６５７０】

遊技機ＢＩＺ２から遊技機ＢＩＺ９のいずれかにおいて、前記操作報知手段からの報知は、同時に操作される前記所定の操作手段の個数が異なる複数種類の態様が設けられてい

ることを特徴とする遊技機ＢＩＺ１０。
【６５７１】
遊技機ＢＩＺ１０によれば、遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ９のいずれかの奏する効果に加え、同時に操作される所定の操作手段の個数が１個の場合と、２個以上となる場合とが設けられることになるので、敢えて２個の所定の操作手段を操作させるようにすることで、遊技球を発射する必要のないタイミングでの暇を紛らわせて遊技に熱中させることができる。この場合、遊技者の手を球発射用のハンドルから離させることができるので、遊技球の誤発射を抑制でき、発射した遊技球が無駄になることによる不要な不利益の発生を回避することができる。
【６５７２】
遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ１０のいずれかにおいて、前記操作報知手段からの報知は、所定の入球口に入球した場合に得られる所定の利益が上限となった場合に実行される報知を含むことを特徴とする遊技機ＢＩＺ１１。
【６５７３】
遊技機ＢＩＺ１１によれば、遊技機ＢＩＺ２からＢＩＺ１０のいずれかの奏する効果に加え、操作報知手段からの報知を視認させることで、所定の入球口に入球した場合に得られる所定の利益が上限となったことを遊技者に把握させることができる。
＜振分部材Ｃ１７０～Ｃ３１７０を一例とする発明の概念について＞
球の通過経路に少なくとも一部が配設され球の重量で変位可能に形成される変位部材を備えた遊技機において、前記通過経路を通過する第１の球が前記変位部材に達すると、前記第１の球の重量で前記変位部材が所定位置から変位され、前記第１の球が第１の通路へ案内され、前記変位部材が前記第１の球の重量で前記所定位置から変位された状態では、前記第１の球の後続となる第２の球が第２の通路へ案内され、前記変位部材は、前記球の重量が作用されていない状態では、前記所定位置に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ１。
【６５７４】
ここで、遊技球の重さで動作して、遊技球を第１の通路と第２の通路とに振り分ける振分部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１４８１８９号公報）。しかしながら、上述した従来の技術では、到達した遊技球の状態に関わらず、到達した順番に第１の通路と第２の通路へ交互に振り分けるのみであるので、かかる振り分け動作を遊技者に着目させることができず、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【６５７５】
これに対し、遊技機ＣＡ１によれば、通過経路を通過する第１の球が変位部材に達すると、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位され、第１の球が第１の通路へ案内され、変位部材が第１の球の重量で変位された状態では、第１の球の後続となる第２の球が第２の通路へ案内され、変位部材は、球の重量が作用されていない状態では、所定位置に配置されるので、第１の球に第２の球が所定量以下の間隔を隔てて連なる場合には、第１の球を第１の通路へ案内し、且つ、第１の球の重量で所定位置から変位されている変位部材により第２の球を第２の通路へ案内することができる一方、第１の球に第２の球が所定量を越える間隔を隔てて連なる場合には、第１の球を第１の通路へ案内し、且つ、第２の球が到達する前に変位部材が所定位置へ配置されることで、第２の球も第１の通路へ案内することができる。このように、球の連なりの状態（先行の球と後行の球との間隔）に応じて案内する通路を変化させられるので、球の状態を遊技者に着目させて、遊技の興趣を向上することができる。
【６５７６】
なお、第１の球の後続となる第２の球とは、第１の球に対して所定量よりも小さい間隔を隔てて後行する球を意味する。よって、第２の球は第１の球に当接した状態で転動や流下するものであっても良い。
【６５７７】
遊技機ＣＡ１において、前記変位部材の前記所定位置への変位は、前記変位部材の重量

により行われることを特徴とする遊技機ＣＡ２。
【６５７８】
遊技機ＣＡ２によれば、遊技機ＣＡ１の奏する効果に加え、変位部材の前記所定位置への変位は、変位部材の重量により行われるので、付勢ばねを利用する場合と比較して、構造を簡素化できる。また、付勢ばねを利用する場合と比較して、変位部材への変位を低速とできるので、第２の球を第２の通路へ案内する前に変位部材が所定位置へ配置されることを抑制できる。更に、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を付与できる。
【６５７９】
遊技機ＣＡ２において、前記変位部材は、前記球を前記第１の通路または第２の通路へ案内する本体部と、その本体部に連結され前記本体部を前記所定位置へ変位させる錘として機能する錘部とを備え、前記錘部の少なくとも一部が遊技者から視認可能とされることを特徴とする遊技機ＣＡ３。
【６５８０】
遊技機ＣＡ３によれば、遊技機ＣＡ２の奏する効果に加え、球を第１の通路または第２の通路へ案内する本体部と、その本体部に連結され本体部を所定位置へ変位させる錘として機能する錘部とを備え、錘部の少なくとも一部が遊技者から視認可能とされるので、錘部の位置（状態）に基づいて、球が案内される方向を遊技者に認識させることができる。また、本体部を変位させるための錘としての役割と球の案内方向を認識させる部位としての役割とを錘部に兼用させることができ、その分、製品コストを低減できる。
【６５８１】
遊技機ＣＡ１からＣＡ３において、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面を備えることを特徴とする遊技機ＣＡ４。
【６５８２】
遊技機ＣＡ４によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ３のいずれかにおいて、変位部材は、第１の通路へ案内される第１の球が転動する第１面を備えるので、第１の球が第１面を転動している間、その球の重量を変位部材に作用させることができる。よって、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位された状態（即ち、第２の球を第２の通路へ案内可能な状態）を維持しやすくできる。
【６５８３】
遊技機ＣＡ４において、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第２面は、前記軸と鉛直方向において重なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ５。
【６５８４】
遊技機ＣＡ５によれば、遊技機ＣＡ４の奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第２面は、軸と鉛直方向において重なる位置に配設されるので、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。よって、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。
【６５８５】
遊技機ＣＡ４又はＣＡ５において、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面が前記第２面よりも長くされることを特徴とする遊技機ＣＡ６。
【６５８６】
遊技機ＣＡ６によれば、遊技機ＣＡ４又はＣＡ５の奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面が第２面よりも長くされるので、第２の球が第２面を転動する間、同時に、第１の球が第１面を転動する状態を形成しやすくできる。即ち、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ

向けて変位されることを抑制できる。よって、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。

【６５８７】

遊技機ＣＡ４からＣＡ６のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面は、前記軸から離間する方向へ延設されることを特徴とする遊技機ＣＡ７。

【６５８８】

遊技機ＣＡ７によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ６のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面は、軸から離間する方向へ延設されるので、第１の球が第１の通路へ向けて転動するに従って、その第１の球の重量を変位部材に効果的に作用させることができる。よって、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。従って、第２の球を安定して転動させることができる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。

【６５８９】

遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸を挟んで配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ８。

【６５９０】

遊技機ＣＡ８によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸を挟んで配置されるので、変位部材の配置の自由度を高めることができる。

【６５９１】

遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸に対して同じ側に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ９。

【６５９２】

遊技機ＣＡ９によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ７のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面を備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸に対して同じ側に配置されるので、第１の球が第１面から排出されたとしても、第２の球の重量を利用して、変位部材の姿勢を、第２の球を第２の通路へ案内するための姿勢とすることができる。その結果、第１面の長さを短くすることができ、その分、変位部材の配置の自由度を高めることができる。

【６５９３】

遊技機ＣＡ４からＣＡ９のいずれかにおいて、前記第１面へ向けて球が転動する上流面を備え、前記第１面は、前記上流面から転動された前記第１の球の転動方向を反転させることを特徴とする遊技機ＣＡ１０。

【６５９４】

遊技機ＣＡ１０によれば、遊技機ＣＡ４からＣＡ９のいずれかの奏する効果に加え、第１面へ向けて第１の球が転動する上流面を備え、第１面は、上流面から転動された第１の球の転動方向を反転させるので、その反転に要する時間の分、第１の球が第１面に滞留する時間を確保できる。よって、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位されることを抑制できる。従って、第２の球を安定して転動させることが

できる。また、第２の球の後続となる第３の球も第２の通路へ案内できる可能性を確保できる。更に、第１面の長さを短くすることができ、その分、変位部材の配置の自由度を高めることができる。

【６５９５】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸と、前記ベース部材に配設され前記第１面へ向けて球が転動する上流面とを備え、前記軸は、前記上流面を前記球が転動する方向と鉛直方向とに直交する姿勢で配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ１１。

【６５９６】

遊技機ＣＡ１１によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、軸は、上流面を球が転動する方向と鉛直方向とに直交する姿勢で配設されるので、ベース部材に変位部材が配設されたユニットの小型化を図ることができる。特に、上流面を球が転動する方向を遊技機の幅方向に沿わせてベース部材を配設することで、遊技機の幅方向を有効活用して、変位部材を配設するスペースを確保しやすくできる。

【６５９７】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかにおいて、ベース部材を備え、そのベース部材に前記変位部材がスライド変位可能に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ１２。

【６５９８】

遊技機ＣＡ１２によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１０のいずれかの奏する効果に加え、ベース部材に変位部材がスライド変位可能に配設されるので、例えば、変位部材が回転可能にベース部材に軸支される場合と比較して、変位部材を小型化でき、その分、ベース部材における他の部材の配設スペースを確保できる。

【６５９９】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１２のいずれかにおいて、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸と、前記ベース部材に配設され前記第１面へ向けて球が転動する上流面とを備え、前記変位部材は、前記第１の球の重量で前記変位部材が前記所定位置から変位された状態で前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面を備え、前記第１の球の重量で前記変位部材が前記所定位置から変位された状態では、前記上流面の下流端よりも前記第２面の上流端が鉛直方向下方に位置することを特徴とする遊技機ＣＡ１３。

【６６００】

ここで、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位されると、その変位された際の衝撃で変位部材が跳ね上がることがあり、この変位部材の跳ね上がりにより、上流面の下流端よりも第２面の上流端が上方に位置すると、第２の球を上流面から第２面へ転動させることができなくなる虞がある。特に、跳ね上がった変位部材の上流端（第２面の上流端）に第２の球が衝突すると、その衝撃で変位部材が更に跳ね上げられ（第２の球で変位部材が押し上げられ）、第１の球が転動するべき通路（第１面）へ第２の球が流入する虞がある。

【６６０１】

これに対し、遊技機ＣＡ１３によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位された状態では、上流面の下流端よりも第２面の上流端が鉛直方向下方に位置するので、その分、第１の球の重量で所定位置から変位された際の衝撃で変位部材が跳ね返った場合に、上流面の下流端よりも第２面の上流端が上方へ位置することを抑制できる。よって、第２の球を上流面から第２面へスムーズに転動させることができる。

【６６０２】

遊技機ＣＡ１３において、前記第２面の上流端は、前記上流面へ向けて下降傾斜されることを特徴とする遊技機ＣＡ１４。

【６６０３】

遊技機ＣＡ１４によれば、遊技機ＣＡ１３の奏する効果に加え、第２面の上流端は、上

流面へ向けて下降傾斜されるので、第１の球の重量で所定位置から変位された際の衝撃で変位部材が跳ね返り（跳ね上がり）、その跳ね上がった変位部材の上流端（第２面の上流端）に第２の球が衝突した際に、第２の球から変位部材へ作用する力を、変位部材を押し下げる方向の力として作用させることができる。その結果、第２の球を上流面から第２面へスムーズに転動させることができる。

【６６０４】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１４のいずれかにおいて、前記第１面へ向けて球が転動する上流面を備え、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面を備え、前記第１面は、前記上流面から転動された前記第１の球の転動方向を反転させ、前記変位部材が第１の球の重量で前記所定位置から変位される際には、前記第１面の反転する位置にある前記第１の球の前記上流面側の変位軌跡よりも前記変位部材の前記上流面側の変位軌跡が前記上流面から離間された位置とされることを特徴とする遊技機ＣＡ１５。

【６６０５】

遊技機ＣＡ１５によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１４のいずれかの奏する効果に加え、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位される際には、第１面の反転する位置にある第１の球の上流面側の変位軌跡よりも変位部材の上流面側の変位軌跡が上流面から離間された位置とされるので、第２の球が第１面に誤って流入される（受け入れられる）ことを抑制できる。即ち、第１の球に第２の球を当接させて第２の球を第１面から離間させておくと共に、第１の球の重量で所定位置から変位する変位部材の上流面側の端部で第２の球を第１面から離間する方向へ押しのけることができる。

【６６０６】

遊技機ＣＡ１５において、前記変位部材は、前記第１の球の重量で前記所定位置から所定以上の変位がされるまでは、前記第１面の転動方向を反転させる位置に前記第１の球を留めることを特徴とする遊技機ＣＡ１６。

【６６０７】

遊技機ＣＡ１６によれば、遊技機ＣＡ１５の奏する効果に加え、変位部材は、第１の球の重量で所定位置から所定以上の変位がされるまでは、第１面の転動方向を反転させる位置に第１の球を留めるので、第２の球が第１面に誤って流入される（受け入れられる）ことをより確実に抑制できる。即ち、第１の球に第２の球を当接させて第２の球を第１面から離間させておくと共に、第１の球の重量で所定位置から変位する変位部材の上流面側の端部で第２の球を第１面から離間する方向へ押しのける動作をより確実に実行できる。

【６６０８】

遊技機ＣＡ１からＣＡ１６のいずれかにおいて、流入部と、その流入部から流入された球が往復変位可能に転動する往復面と、その往復面から球を流出させる流出部とを備え、前記流出部が前記通過経路において前記変位部材よりも上流側に位置することを特徴とする遊技機ＣＡ１７。

【６６０９】

遊技機ＣＡ１７によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ１６のいずれかの奏する効果に加え、流入部と、その流入部から流入された球が往復変位可能に転動する往復面と、その往復面から球を流出させる流出部とを備え、流出部が通過経路において変位部材よりも上流側に位置するので、第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連ならせ、これら第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連なった状態で変位部材に到達させやすくできる。即ち、流入部から流入される際の第１の球と第２の球との間隔が所定量よりも大きな間隔であっても、往復面を往復変位されることで、これら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせる（間隔を所定量以下とする）ことができる。

【６６１０】

遊技機ＣＡ１７において、前記往復面の幅寸法は、１の球が通過可能な幅寸法に設定されることを特徴とする遊技機ＣＡ１８。

【６６１１】

遊技機ＣＡ１８によれば、遊技機ＣＡ１７の奏する効果に加え、往復面の幅寸法は、１の球が通過可能な幅寸法に設定されるので、流入部から往復面へ流入され往復面を往復変位される第１の球と第２の球とがすれ違うことを抑制できる。よって、第１の球と第２の球とが往復面を往復変位される際に、それら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせやすく（間隔を所定量以下としやすく）できる。

【６６１２】

遊技機ＣＡ１８において、前記往復面は、一側および他側のそれぞれへ向かうに従って上昇傾斜され、前記流出部は、前記往復面の最下方に配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ１９。

【６６１３】

遊技機ＣＡ１９によれば、遊技機ＣＡ１８の奏する効果に加え、往復面は、一側および他側のそれぞれへ向かうに従って上昇傾斜され、流出部は、往復面の最下方に配置されるので、往復面を往復変位される慣性が弱まった状態で第１の球と第２の球とを流出部から流出させることができる。即ち、第１の球と第２の球とを所定量以下の間隔で連ならせた状態を維持して流出させやすくできる。

【６６１４】

遊技機ＣＡ１９において、前記往復面は、上面視直線状に形成されることを特徴とする遊技機ＣＡ２０。

【６６１５】

遊技機ＣＡ２０によれば、遊技機ＣＡ１９の奏する効果に加え、往復面は、上面視直線状に形成されるので、第１の球と第２の球とが往復面を往復変位される際に、それら第１の球と第２の球との間隔を詰まらせやすく（間隔を所定量以下としやすく）できる。

【６６１６】

遊技機ＣＡ１からＣＡ２０のいずれかにおいて、磁石の吸着力を球に作用可能に形成され少なくとも下面を下降傾斜させた姿勢で配設される吸着部材を備えることを特徴とする遊技機ＣＡ２１。

【６６１７】

遊技機ＣＡ２１によれば、遊技機ＣＡ１からＣＡ２０のいずれかの奏する効果に加え、磁石の吸着力を球に作用可能に形成され少なくとも下面を下降傾斜させた姿勢で配設される吸着部材を備えるので、かかる吸着部材により球の通過経路を形成して、遊技の興趣を向上できる。即ち、吸着部材の下降傾斜した下面に球を吸着させると、球を自重により摺動させ吸着部材の下面に沿って変位させることができる。この場合、球の状態（球に作用される慣性力と吸着力との関係）によって、吸着部材の下面から球が落下する可能性（即ち、通過経路（吸着部材の下面）の終端まで球が到達できない可能性）を持たせた不安定な状態とできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６６１８】

遊技機ＣＡ２１において、前記吸着部材は、磁性体から板状に形成される下面形成部材と、その下面形成部材に磁力を作用させる磁石とを備えることを特徴とする遊技機ＣＡ２２。

【６６１９】

遊技機ＣＡ２２によれば、遊技機ＣＡ２１の奏する効果に加え、吸着部材は、磁性体から板状に形成される下面形成部材と、その下面形成部材に磁力を作用させる磁石とを備えるので、球が摺動する面を下面形成部材の下面により形成する構造とすることで、吸着力の調整と摩擦力の適正化を容易として、球の通過経路を簡素な構造で確実に形成できる。

【６６２０】

遊技機ＣＡ２１又はＣＡ２２において、前記吸着部材は、前記第２の通路の少なくとも一部を形成することを特徴とする遊技機ＣＡ２３。

【６６２１】

遊技機ＣＡ２３によれば、遊技機ＣＡ２１又はＣＡ２２の奏する効果に加え、吸着部材は、第２の通路の少なくとも一部を形成するので、遊技の興趣を向上できる。即ち、第２

の球が変位部材により案内されて第２の通路へ到達できるのは、第１の球に第２の球が所定量以下の間隔を隔てて連なった状態で変位部材に到達した場合のみであり、その可能性は比較的低い。そのような低い可能性を経て到達した第２の球を、落下する可能性（吸着部材の下面の終端まで到達できない可能性）がある不安定を状態で変位させることで、無事に通過することを遊技者に期待させて、遊技の興趣を向上できる。

【６６２２】

遊技機ＣＡ２３において、ベース部材と、そのベース部材に前記変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、前記変位部材は、前記第１の通路へ案内される前記第１の球が転動する第１面と、前記第２の通路へ案内される前記第２の球が転動する第２面とを備え、前記第１面と第２面とは、少なくとも一部が前記軸を挟んで配置されることを特徴とする遊技機ＣＡ２４。

【６６２３】

遊技機ＣＡ２４によれば、遊技機ＣＡ２３の奏する効果に加え、ベース部材と、そのベース部材に変位部材を回転可能に軸支する軸とを備え、変位部材は、第１の通路へ案内される第１の球が転動する第１面と、第２の通路へ案内される第２の球が転動する第２面とを備え、第１面と第２面とは、少なくとも一部が軸を挟んで配置されるので、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位される（第１面の位置が下方へ変位される）ことで、第２面の位置を上方へ変位させることができる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。

【６６２４】

遊技機ＣＡ２４において、前記第２面は、前記軸と鉛直方向において重なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＣＡ２５。

【６６２５】

遊技機ＣＡ２５によれば、遊技機ＣＡ２４の奏する効果に加え、第２面は、軸と鉛直方向において重なる位置に配設されるので、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位される（第２面の位置が下方へ変位される）ことを抑制できる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。

【６６２６】

遊技機ＣＡ２４又はＣＡ２５において、前記第１面が前記第２面よりも長くされることを特徴とする遊技機ＣＡ２６。

【６６２７】

遊技機ＣＡ２６によれば、遊技機ＣＡ２４又はＣＡ２５の奏する効果に加え、第１面が第２面よりも長くされるので、第２の球が第２面を転動する間、同時に、第１の球が第１面を転動する状態を形成しやすくできる。即ち、第２の球が第２面を転動する間、第１の球の重量を変位部材に作用させておくことで、第２面を転動する第２の球の重量によって変位部材が所定位置へ向けて変位される（第２の面の位置が下方へ変位される）ことを抑制できる。よって、第２面を転動する第２の球を吸着部材の下面に吸着させやすくできる。

＜皿部材Ｃ１２０，Ｃ２１２０，Ｃ４１２０を一例とする発明の概念について＞

球の通路を備えた遊技機において、前記通路は、前後方向に球を往復動可能とする第１の通路と、その第１の通路に連通され、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路と、を備えることを特徴とする遊技機ＣＢ１。

【６６２８】

ここで、球を往復動可能とする通路部材（ステージ）を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。しかしながら、上述した遊技機では、遊技の興趣が十分ではないという問題点があった。

【６６２９】

これに対し、遊技機ＣＢ１によれば、通路は、前後方向に球を往復動可能とする第１の通路と、その第１の通路に連通され、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路と、を備えるので、遊技の興趣を高めることができる。

【６６３０】
遊技機ＣＢ１において、前記第２の通路を第１の球とその第１の球の後続となる第２の球とが通過する場合に、それら第１の球と第２の球との間隔に応じて、前記第１の球および前記第２の球の案内先となる通路が変化されることを特徴とする遊技機ＣＢ２。
【６６３１】
遊技機ＣＢ２によれば、遊技機ＣＢ１の奏する効果に加え、第２の通路を第１の球とその第１の球の後続となる第２の球とが通過する場合に、それら第１の球と第２の球との間隔に応じて、第１の球および第２の球の案内先となる通路が変化されるので、球が所定の通路へ案内されること（即ち、第１の球と第２の球との間隔が所定の間隔となること）を遊技者に期待させ、遊技の興趣を高めることができる。
【６６３２】
この場合、第１の通路における往復動によって第１の球と第２の球の間隔とが決定されるところ、それら第１の球および第２の球が、球を左右方向に沿って通過させる第２の通路へ第１の通路から流下されるので、第１の球と第２の球との間隔を遊技者に視認させ易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６６３３】
遊技機ＣＢ２において、前記第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔が所定量以下の場合には、前記間隔が所定量を超える場合に案内される通路よりも有利な通路へ少なくとも第２の球が案内され、前記第１の通路は、第１の球と第２の球とが前記往復動されることで、それら第１の球と第２の球との間隔を減少可能に形成されることを特徴とする遊技機ＣＢ３。
【６６３４】
遊技機ＣＢ３によれば、遊技機ＣＢ２の奏する効果に加え、第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔が所定量以下の場合には、間隔が所定量を超える場合に案内される通路よりも有利な通路へ少なくとも第２の球が案内され、第１の通路は、第１の球と第２の球とが往復動されることで、それら第１の球と第２の球との間隔を減少可能に形成されるので、第２の通路を通過する際の第１の球と第２の球との間隔を所定量以下とし易くできる。その結果、有利な通路へ案内されることを遊技者に期待させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【６６３５】
遊技機ＣＢ１からＣＢ３のいずれかにおいて、中央が開口された遊技盤を備え、前記第２の通路は、前記遊技盤の開口に配置されることを特徴とする遊技機ＣＢ４。
【６６３６】
遊技機ＣＢ４によれば、遊技機ＣＢ１からＣＢ３のいずれかに記載の遊技機の奏する効果に加え、中央が開口された遊技盤を備え、第２の通路は、遊技盤の開口に配置されるので、前後方向のスペースを有効に活用できる。よって、第２の通路の全長を確保し易くできる。
＜磁性部Ｃ２４００，ｃ５４００，ｃ６４００（通路部ＣＲｔ２００４）を一例とする発明の概念について＞
球の通過経路に少なくとも一部が配設され球の重量で変位可能に形成される変位部材を備えた遊技機において、前記通過経路を通過する第１の球が前記変位部材に達すると、前記第１の球の重量で前記変位部材が所定位置から変位され、前記変位部材が前記第１の球の重量で前記所定位置から変位された状態では、前記第１の球の後続となる第２の球が前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して前記第１の球とは異なる通路へ案内されることを特徴とする遊技機ＣＣ１。
【６６３７】
ここで、遊技球の重さで動作して、遊技球を第１の通路と第２の通路とに振り分ける振分部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１４８１８９号公報）。しかしながら、上述した従来の技術では、球は重量方向下方へ流下するのみであるので、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【６６３８】
これに対し、遊技機ＣＣ１によれば、通過経路を通過する第１の球が変位部材に達すると、第１の球の重量で変位部材が所定位置から変位され、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位された状態では、第１の球の後続となる第２の球が変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して第１の球とは異なる通路へ案内されるので、遊技の興趣を高めることができる。
【６６３９】
遊技機ＣＣ１において、前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して前記第２の球が案内される通路は、球を磁力により吸着可能な磁性部により形成されることを特徴とする遊技機ＣＣ２。
【６６４０】
遊技機ＣＣ２によれば、遊技機ＣＣ１の奏する効果に加え、変位部材の上方へ持ち上げられる部分を通過して第２の球が案内される通路は、球を磁力により吸着可能な磁性部により形成されるので、かかる通路の途中で球が落下される態様を形成できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。
【６６４１】
遊技機ＣＣ２において、前記磁性部は、前記変位部材の上方へ持ち上げられる部分よりも上方に位置することを特徴とする遊技機ＣＣ３。
【６６４２】
遊技機ＣＣ３によれば、遊技機ＣＣ２の奏する効果に加え、磁性部は、変位部材の上方へ持ち上げられる部分よりも上方に位置するので、変位部材が第１の球の重量で所定位置から変位されていない場合には、上方へ持ち上げられるべき部分を第２の球が通過したとしても、その第２の球を磁性部に吸着させない態様を確実に形成できる。
【６６４３】
遊技機ＣＣ２又はＣＣ３において、前記変位部材は、回転可能に軸支され、その回転軸を挟んで、前記第１の球の重量が作用される部分と、前記上方へ持ち上げられる部分とが位置することを特徴とする遊技機ＣＣ４。
【６６４４】
遊技機ＣＣ４によれば、遊技機ＣＣ２又はＣＣ３の奏する効果に加え、変位部材は、回転可能に軸支され、その回転軸を挟んで、第１の球の重量が作用される部分と、上方へ持ち上げられる部分とが位置するので、上方へ持ち上げられる部分を第２の球が通過する際に、第１の球の重量を利用して、第２の球が通過する部分を上方へ持ち上げられた状態に維持しやすくできる。
＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に変位され、前記通路への球の入球されやすさを変化させることを特徴とする遊技機ＤＡ１。
【６６４５】
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【６６４６】
これに対し、遊技機ＤＡ１によれば、変位部材は、通路に球が入球された場合に変位され、通路への球の入球されやすさを変化させるので、よって、第１の球が通路へ入球され、更に、第２の球が通路へ入球されることを期待する場合、或いは逆に、第１の球が通路へ入球された状態では、第２の球が通路へ入球されないことを期待する場合に、通路へ第２の球が入球されるか否かを着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６６４７】
遊技機ＤＡ１において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に、前記通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ２。
【６６４８】
遊技機ＤＡ２によれば、遊技機ＤＡ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路に球が入球された場合に、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるので、通路へ入球された球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）を通路へ入球されやすくできる。即ち、通路へ１の球が入球されれば、後行する球が連続して通路へ入球されやすい状態を形成でき、後行する球が通路へ入球されれば、その後行する球の通路への入球に起因して、次の後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できる。よって、通路への球の入球により、通路への入球の連鎖の発生を遊技者に期待させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６６４９】
遊技機ＤＡ１において、前記変位部材は、前記通路に球が入球された場合に、前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ３。
【６６５０】
遊技機ＤＡ３によれば、遊技機ＤＡ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路に球が入球された場合に、通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、第１の球が通路へ入球された状態では、第２の球が通路へ入球されないことを期待する場合に、第２の球が通路へ入球され難くできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６６５１】
遊技機ＤＡ１からＤＡ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ４。
【６６５２】
遊技機ＤＡ４によれば、遊技機ＤＡ１からＤＡ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
【６６５３】
遊技機ＤＡ２又はＤＡ３において、前記通路に入球された球が転動可能とされ前記転動される球の重さで変位される転動部材と、その転動部材の変位を前記変位部材へ伝達する伝達手段とを備え、前記変位部材は、前記転動する球の重さで前記転動部材が変位され、その転動部材の変位が前記伝達手段により伝達されることで、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ５。
【６６５４】
遊技機ＤＡ５によれば、遊技機ＤＡ２又はＤＡ３の奏する効果に加え、通路に入球された球が転動可能とされ、転動される球の重さで変位される転動部材と、その転動部材の変位を変位部材へ伝達する伝達手段とを備え、変位部材は、転動する球の重さで転動部材が変位され、その転動部材の変位が前記伝達手段により伝達されることで、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、球が転動部材を転動している間、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材を変位させておくことができる。即ち、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。
【６６５５】
遊技機ＤＡ５において、前記転動部材を複数備えることを特徴とする遊技機ＤＡ６。
【６６５６】
遊技機ＤＡ６によれば、遊技機ＤＡ５の奏する効果に加え、転動部材を複数備えるので

、その分、球が転動する区間（転動可能距離）を確保して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が変位されている期間を長くできる。即ち、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【６６５７】

遊技機ＤＡ５又はＤＡ６において、前記通路へ入球された球は、前記転動部材をその転動部材の下降傾斜によって転動され、前記転動部材は、回転可能に軸支され、球が転動されている状態における前記転動部材の下降傾斜が、球が非転動の状態における前記転動部材の下降傾斜よりも小さくされることを特徴とする遊技機ＤＡ７。

【６６５８】

遊技機ＤＡ７によれば、遊技機ＤＡ５又はＤＡ６の奏する効果に加え、通路へ入球された球は、転動部材をその転動部材の下降傾斜によって転動され、転動部材は、回転可能に軸支され、球が転動されている状態における転動部材の下降傾斜が、球が非転動の状態における転動部材の下降傾斜よりも小さくされるので、転動部材を転動する球に勢いが付与されることを抑制できる。よって、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【６６５９】

遊技機ＤＡ５からＤＡ７のいずれかにおいて、前記転動部材は、前記球の重量で変位される前の状態に自重により復帰されることを特徴とする遊技機ＤＡ８。

【６６６０】

遊技機ＤＡ８によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ７のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、球の重量で変位される前の状態に自重により復帰されるので、転動部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。

【６６６１】

遊技機ＤＡ５からＤＡ８のいずれかにおいて、前記転動部材を転動する球に作用する作用手段を備えることを特徴とする遊技機ＤＡ９。

【６６６２】

遊技機ＤＡ９によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ８のいずれかの奏する効果に加え、転動部材を転動する球に作用する作用手段を備えるので、球の転動に影響を与えることができる。即ち、作用手段の作用により球の転動に抵抗を付与し、その転動の速度を低くすることができる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【６６６３】

遊技機ＤＡ９において、前記作用手段は、前記通路の内側面から突設され鉛直方向に沿って延設される突部として形成され、前記転動面を転動する球の転動方向に沿って所定間隔を隔てつつ複数が配設されることを特徴とする遊技機ＤＡ１０。

【６６６４】

遊技機ＤＡ１０によれば、遊技機ＤＡ９の奏する効果に加え、作用手段は、通路の内側面から突設され鉛直方向に沿って延設される突部として形成され、転動面を転動する球の転動方向に沿って所定間隔を隔てつつ複数が配設されるので、球が転動面を転動する際には、突部（作用手段）が当接されることで、球の転動に抵抗を付与して、その転動速度を低くすることができる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【６６６５】

一方で、突部（作用手段）は、鉛直方向に沿って延設されるので、鉛直方向へ移動する球には抵抗が付与され難くできる。よって、転動部材の転動面から球が上方へ跳ね上がっ

た場合には、その球を下方（転動面）へ速やかに落下させることができる。従って、球の上方への跳ね上がりに伴って、転動部材が上方へ変位した場合でも、かかる転動部材が球の重量により変位された状態に速やかに復帰させることができる。その結果、通路へ球が入球されやすくなる側へ球の重量によって変位されていた変位部材が、転動面からの球の跳ね上がりによって、初期位置（通路へ球が入球する前の位置）へ復帰される不具合の発生を抑制できる。

【６６６６】

遊技機ＤＡ１０において、前記転動部材は、球が転動する転動面が球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面として形成されることを特徴とする遊技機ＤＡ１１。

【６６６７】

遊技機ＤＡ１１によれば、遊技機ＤＡ１０の奏する効果に加え、転動部材は、球が転動する転動面が球の転動方向に沿って滑らかに連なる平滑面として形成されるので、転動面を転動する球が上方（鉛直方向）へ跳ね上がることを抑制できる。よって、通路へ球が入球されやすくなる側へ球の重量によって変位されていた変位部材が、転動面からの球の跳ね上がりによって、初期位置（通路へ球が入球する前の位置）へ復帰される不具合の発生を抑制できる。

【６６６８】

なお、転動面は、平坦面である必要はなく、起伏を有する面（断面形状が円弧を滑らかに連ねて形成される面）であっても良い。即ち、転動面は、少なくとも球の直径の１／１０以上の高さの段差を有していなければ良い。

【６６６９】

遊技機ＤＡ１０又はＤＡ１１において、前記突部は、前記通路の内側面であって前記転動面を挟んだ両側に形成され、一方の内側面の突部と他方の内側面の突部とが前記転動部材の転動面に沿って千鳥状に配置されることを特徴とする遊技機ＤＡ１２。

【６６７０】

遊技機ＤＡ１２によれば、遊技機ＤＡ１０又はＤＡ１１の奏する効果に加え、突部は、通路の内側面であって転動面を挟んだ両側に形成され、一方の内側面の突部と他方の内側面の突部とが転動部材の転動面に沿って千鳥状に配置されるので、球が転動面を転動する際に、球を突部に当接させやすくできる。これにより、球が転動部材を通過するのに要する時間を長くできる。その結果、通路へ球が入球されやい状態または通路へ球が入球され難い状態を維持しやすく（長く）できる。

【６６７１】

遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかにおいて、前記転動部材は、回転可能に軸支され、前記通路へ入球された球は、前記軸支された部位へ向けて前記転動部材を転動することを特徴とする遊技機ＤＡ１３。

【６６７２】

遊技機ＤＡ１３によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、回転可能に軸支され、通路へ入球された球は、軸支された部位へ向けて転動部材を転動するので、球が転動部材を転動する際には、その初期段階において転動部材の変位を最大とできる。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側への変位部材の変位を、球が通路へ入球し転動部材に達した際に速やかに行わせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的小さい場合（例えば、両球が連なって流下される場合）に、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。

【６６７３】

また、球の転動が進行するに従って、転動部材の変位量を徐々に小さくできる。即ち、球の転動が進行するに従って、通路へ球が入球されやすくなる側にあった変位部材を初期位置（通路へ球が入球され難くされる側）へ向けて徐々に変位させることができる。これにより、通路へ球が入球する期待を変化させ、遊技の興趣を高めることができる。

【６６７４】

更に、通路へ入球された球が転動部材に落下される場合には、落下された球を、転動部材の変位量が大きい位置（軸支された部位から離れた位置）で受け止めることができる。よって、落下された球の運動エネルギーを、転動部材の変位により吸収（消費）して、球が上方へ跳ね上がることを抑制できる。その結果、球の重量を転動部材に安定して作用させ、変位部材の状態を安定させる（例えば、通路へ球が入球され難くされる側または通路へ球が入球され易くなる側へ変位部材が一時的に変位されることを抑制）できる。

【６６７５】

遊技機ＤＡ１３において、前記通路へ入球された球は、前記転動部材に落下されることを特徴とする遊技機ＤＡ１４。

【６６７６】

遊技機ＤＡ１４によれば、遊技機ＤＡ１３の奏する効果に加え、通路へ入球された球は、転動部材に落下されるので、落下された球の運動エネルギーを利用して、転動部材を速やかに変位させることができる。その結果、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位部材の変位を速やかに行わせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的小さい場合（例えば、両球が連なって流下される場合）でも、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。

【６６７７】

また、通路部材へ入球した球を、転動部材とは別の部材（固定された非変位の部材）に落下させる場合には、別の部材の破損を招きやすくなるところ、本発明によれば、落下された球の運動エネルギーを、転動部材の変位により吸収（消費）して、破損を抑制できる。よって、球の落下を許容できる分、通路の設計の自由度を高めることができる。

【６６７８】

遊技機ＤＡ１３において、前記転動部材を転動する球は、少なくとも前記転動部材の前記軸支された部位まで転動されることを特徴とする遊技機ＤＡ１４。

【６６７９】

遊技機ＤＡ１４によれば、遊技機ＤＡ１３の奏する効果に加え、転動部材を転動する球は、少なくとも転動部材の軸支された部位（回転軸）まで転動されるので、転動部材の軸支された部位（回転軸）に到達する前に球が排球される場合と比較して、球の排球に伴う慣性力の影響（球の重量が作用されなくなる影響）を抑制して、転動部材が回転方向にばたつくことを抑制できる。よって、変位部材の状態を安定させる（例えば、通路へ球が入球されやすくされる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が一時的に変位されることを抑制）できる。

【６６８０】

遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかにおいて、前記転動部材は、回転可能に軸支され、前記通路へ入球された球は、前記軸支された部位から離間される方向へ向けて前記転動部材を転動することを特徴とする遊技機ＤＡ１６。

【６６８１】

遊技機ＤＡ１６によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１２のいずれかの奏する効果に加え、転動部材は、回転可能に軸支され、通路へ入球された球は、軸支された部位から離間される方向へ向けて転動部材を転動するこので、球が転動部材を転動する際には、その後期段階（所定量を越えて転動した段階）において転動部材の変位を最大とできる。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材が変位するタイミングを遅らせることができる。よって、通路へ入球された球と、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）との間の間隔が比較的大きい場合に、後行する球を通路へ入球されやすく又は通路へ入球され難くできる。

【６６８２】

また、球の転動が進行するに従って、転動部材の変位量を徐々に大きくできる。即ち、球の転動が進行するに従って、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ向けて変位部材を徐々に変位させることができる。これにより、通路へ球

が入球する期待を変化させ、遊技の興趣を高めることができる。
【６６８３】
遊技機ＤＡ５からＤＡ１６のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記転動部材が球の重量により変位されていない状態では、前記通路へ球が入球がされやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側への変位が規制されることを特徴とする遊技機ＤＡ１７。
【６６８４】
遊技機ＤＡ１７によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１６の奏する効果に加え、変位部材は、転動部材が球の重量により変位されていない状態では、通路へ球が入球がされやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位が規制されるので、変位部材を、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ強制的に変位させる不正を抑制できる。
【６６８５】
遊技機ＤＡ１７において、前記転動部材が球の重量により変位されていない状態では、前記伝達手段の変位が前記転動部材に規制されることで、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側への前記変位部材の変位が規制されることを特徴とする遊技機ＤＡ１８。
【６６８６】
遊技機ＤＡ１８によれば、遊技機ＤＡ１７の奏する効果に加え、転動部材が球の重量により変位されていない状態では、伝達手段の変位が転動部材に規制されることで、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側への変位部材の変位が規制されるので、変位部材の強制的変位を規制するための部品を別途設ける必要がなく、伝達手段を流用することができる。即ち、変位部材を強制的に変位させる不正を抑制するための構造を簡素化できる。
【６６８７】
遊技機ＤＡ５からＤＡ１８のいずれかにおいて、前記転動部材と前記伝達手段との間には、所定の隙間が形成され、球の重量で変位された前記転動部材は、前記隙間を埋めた後に前記伝達手段に当接されることを特徴とする遊技機ＤＡ１９。
【６６８８】
遊技機ＤＡ１９によれば、遊技機ＤＡ５からＤＡ１８のいずれかの奏する効果に加え、転動部材と伝達手段との間には、所定の隙間が形成され、球の重量で変位された転動部材は、隙間を埋めた後に伝達手段に当接されるので、転動部材の変位が比較的小さい場合には、伝達手段を介して、転動部材の変位を変位部材へ伝達することができない。即ち、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位部材を変位させるためには、隙間を越える変位を転動部材に形成する必要があり、よって、遊技機を叩いて転動部材を変位させることや、針金等の異物で転動部材を変位させようとする不正を成功し難くできる。
＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材の変位速度が変化可能に形成されることを特徴とする遊技機ＤＢ１。
【６６８９】
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【６６９０】
これに対し、遊技機ＤＢ１によれば、変位部材の変位速度が変化可能に形成されるので、通路への球の入球のされやすさの変化速度を変化させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６６９１】
遊技機ＤＢ１において、前記変位部材は、前記通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、前記通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも速くされることを特徴とする遊技機ＤＢ２。
【６６９２】
遊技機ＤＢ２によれば、遊技機ＤＢ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも速くされるので、通路へ球が入りやすくされた状態を素早く形成して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、テンポの良い演出を行うことができる。また、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度が相対的に遅くされることで、通路へ球が入りやすくされた状態の期間を確保して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、通路への入球が間に合うか否かを着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６６９３】
遊技機ＤＢ１において、前記変位部材は、前記通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、前記通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも遅くされることを特徴とする遊技機ＤＢ３。
【６６９４】
遊技機ＤＢ３によれば、遊技機ＤＢ１の奏する効果に加え、変位部材は、通路へ球が入球されやすくなる側への変位速度が、通路へ球が入球され難くなる側への変位速度よりも遅くされるので、通路への球の入りやすさを徐々に増加させ、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、その期待を徐々に高まらせることができる。また、通路へ球が入球され難くされた状態を素早く形成して、通路への球の入球を期待する遊技者に対し、テンポの良い演出を行うことができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６６９５】
遊技機ＤＢ１からＤＢ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＢ４。
【６６９６】
遊技機ＤＢ４によれば、遊技機ＤＢ１からＤＢ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記変位部材を複数備え、前記複数の変位部材のうちの一の前記変位部材は、他の前記変位部材と変位態様が異なることを特徴とする遊技機ＤＣ１。
【６６９７】
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【６６９８】
これに対し、遊技機ＤＣ１によれば、変位部材を複数備え、複数の変位部材のうちの一の変位部材は、通路他の変位部材と変位態様が異なるので、それら複数の変位部材の変位態様の組み合わせにより、通路への球の入球のされやすさの変化を大きくできる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６６９９】
なお、変位態様としては、変位を開始する時期（タイミング）、変位方向、変位速度、

これらの組み合わせが例示される。
【６７００】
遊技機ＤＣ１において、前記一の変位部材の変位の開始は、前記他の変位部材の変位が開始され、所定時間の経過後とされることを特徴とする遊技機ＤＣ２。
【６７０１】
遊技機ＤＣ２によれば、遊技機ＤＣ１の奏する効果に加え、一の変位部材の変位の開始は、他の変位部材の変位が開始され、所定時間の経過後とされるので、通路への球の入球のされやすさが変化される位置を異ならせると共にそのタイミングを異ならせることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６７０２】
遊技機ＤＣ１又はＤＣ２において、前記通路へ球を流下させる上流通路を備え、前記変位部材の変位方向は、前記上流通路における球の転動方向と略平行とされることを特徴とする遊技機ＤＣ３。
【６７０３】
遊技機ＤＣ３によれば、遊技機ＤＣ１又はＤＣ２の奏する効果に加え、通路へ球を流下させる上流通路を備え、変位部材の変位方向は、上流通路における球の転動方向と略平行とされるので、上流通路を転動する球の転動方向や転動位置と変位部材の変位方向や変位位置とを、通路への球の入球のしやすさに関係づけることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６７０４】
遊技機ＤＣ１からＤＣ３のいずれかにおいて、前記変位部材は、前記通路に入球された球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＣ４。
【６７０５】
遊技機ＤＣ４によれば、遊技機ＤＣ１からＤＣ３のいずれかの奏する効果に加え、変位部材は、通路に入球された球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるので、変位部材を駆動するためのアクチュエータやそのアクチュエータを制御するためのセンサを不要とでき、その分、製品コストを低減できる。
＜下側フレームＤ８６ｂ～Ｄ８０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され前記通路への球の入球のされやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機において、前記通路に入球された球が転動可能に形成される転動部材を備え、前記変位部材は、前記転動部材を転動する球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側または前記通路へ球が入球され難くなる側へ変位され、前記転動部材は、球の転動経路の途中で球が落下可能に形成されることを特徴とする遊技機ＤＤ１。
【６７０６】
球が入球可能な通路と、変位可能に形成され、通路への球の入球のしやすさを変化させる変位部材とを備えた遊技機が知られている（特開２０１７－１２４１６９）。該先行文献には、電動式チューリップ（開閉爪１５ａ）を開閉させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【６７０７】
これに対し、遊技機ＤＤ１によれば、通路に入球された球が転動可能に形成される転動部材を備え、変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側または通路へ球が入球され難くなる側へ変位され、転動部材は、球の転動経路の途中で球が落下可能に形成されるので、球が転動経路を転動する距離に応じて、球の重量を利用できる期間を変化させることができる。即ち、転動部材を転動する球の状態に応じて、通路への球の入球のされやすさを変化させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６７０８】

遊技機ＤＤ１において、前記変位部材は、前記転動部材を転動する球の重量を利用して、前記通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されることを特徴とする遊技機ＤＡ２。

【６７０９】

遊技機ＤＤ２によれば、遊技機ＤＤ１の奏する効果に加え、変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるので、通路へ入球された球が転動部材を転動する間、その球に後行する球（通路へ入球されていない他の球、後続の球）を通路へ入球されやすくできる。

【６７１０】

即ち、通路へ１の球が入球され、その球が転動部材を転動している間は、後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成でき、後行する球が通路へ入球され転動部材を転動すれば、次の後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できる。よって、通路への球の入球により、通路への入球の連鎖の発生を遊技者に期待させることができる。一方で、通路へ入球された球が転動部材の転動経路の途中で落下されると、球の重量を利用できなくなり、後行する球が通路へ入球されやすい状態を形成できなくなる。これにより、球の転動状態（転動経路の終端に達することができるか否か）を遊技者に注目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６７１１】

遊技機ＤＤ１において、前記転動部材を所定数以上の球が転動する場合に、前記転動する球を前記転動部材から落下させやすくする落下手段を備えることを特徴とする遊技機ＤＤ３。

【６７１２】

遊技機ＤＤ３によれば、遊技機ＤＤ１の奏する効果に加え、転動部材を所定数以上の球が転動する場合に、転動する球を転動部材から落下させやすくする落下手段を備えるので、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下されるか否かを遊技者に着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６７１３】

なお、遊技機ＤＤ３における変位部材は、転動部材を転動する球の重量を利用して、通路へ球が入球されやすくなる側へ変位されるものであっても良く、通路へ球が入球され難くなる側へ変位されるものであっても良い。前者の場合には、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下される可能性が高くなるので、かかる別の球が通路へ流下されるか否かを行方を遊技者に着目させやすくできる。後者の場合には、転動部材を球が転動している状態において、別の球が更に通路へ流下される可能性を低くできるので、遊技者に安心感を付与できる。

【６７１４】

遊技機ＤＤ２又はＤＤ３において、前記転動部材の転動経路の途中で落下した球が通過する落下通路を備え、前記落下通路を通過した球には、前記通路を通過した球よりも有利な遊技条件が付与されることを特徴とする遊技機ＤＤ４。

【６７１５】

遊技機ＤＤ４によれば、遊技機ＤＤ２又はＤＤ３の奏する効果に加え、転動部材の転動経路の途中で落下した球が通過する落下通路を備え、落下通路を通過した球には、通路を通過した球よりも有利な遊技条件が付与されるので、転動部材の転動経路の途中で球が落下するか否かをより強く遊技者に着目させることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：下降傾斜されたトゲトゲステージが往復駆動、ステージを下降傾斜に沿って流下する際にトゲトゲで流下先にランダム性を持たせる。トゲトゲによる球の保持を往復駆動で抑制＞

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、前記通路部材の少なくとも一部を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＡ１。

【６７１６】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【６７１７】

これに対し、遊技機ＥＡ１によれば、通路部材の少なくとも一部を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えるので、変位手段により通路部材が変位されることで、通路部材を移動する球の移動方向の変化を多様化できる。これにより、球の移動方向の変化が単調となることを抑制できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６７１８】

遊技機ＥＡ１において、前記通路部材に配設され前記球の移動方向に変化を付与する付与手段を備え、前記通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、前記付与手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えることを特徴とする遊技機ＥＡ２。

【６７１９】

遊技機ＥＡ２によれば、遊技機ＥＡ１の奏する効果に加え、通路部材に配設され球の移動方向に変化を付与する付与手段を備え、通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、付与手段は、通路部材の転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、通路部材（転動部）を転動する際の球の移動方向の変化を多様化して、球の移動方向の変化が単調となることを抑制できる。

【６７２０】

また、球の移動方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくできる。即ち、転動部を転動する球は比較的移動速度が低く、転動部の移動に比較的時間を要するところ、突部または凹部から受ける作用により球の移動に要する時間を更に嵩ませることができる。その結果、球の移動方向が変化される態様を遊技者に視認させやすくでき、遊技の興趣を向上できる。

【６７２１】

遊技機ＥＡ２において、前記変位手段は、前記通路部材の転動部を転動する球の転動方向と平行な変位成分を少なくとも備える変位方向に前記通路部材を変位させることを特徴とする遊技機ＥＡ３。

【６７２２】

遊技機ＥＡ３によれば、遊技機ＥＡ２の奏する効果に加え、変位手段は、通路部材の転動部を転動する球の転動方向と平行な変位成分を少なくとも備える変位方向に通路部材を変位させるので、球の転動方向と平行な変位成分を突部に形成することができる。その結果、球の移動方向に変化を付与しやすくできる。また、球の移動方向の変化を多様とできる。

【６７２３】

遊技機ＥＡ２又はＥＡ３において、前記突部は、前記突部どうしの間を球が移動可能な間隔を少なくとも備えて配置されることを特徴とする遊技機ＥＡ４。

【６７２４】

遊技機ＥＡ４によれば、遊技機ＥＡ２又はＥＡ３の奏する効果に加え、突部は、突部どうしの間を球が移動可能な間隔を少なくとも備えて配置されるので、球が通路部材（転動部）に留まることを抑制できる。よって、球が通路部材（転動部）に留まることを抑制するために、通路部材（転動部）を複雑な軌跡で変位させることや、大きな変位量や変位速度で変位させることを抑制できる。その結果、変位手段を簡素化できる。

＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：ステージを通過したら所定の価値付与＞

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、前記通路部材の球の通過のしやすさを変化させる変化手段を備え、前記通路部材を通過した球に対して所定の価値を付与可能に形成されることを特徴とする遊技機ＥＢ１。

【６７２５】
球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球が通過できるか否か（ステージを渡り切って終端に到達できるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができず、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。
【６７２６】
これに対し、遊技機ＥＢ１によれば、通路部材の球の通過のしやすさを変化させる変化手段を備え、通路部材を通過した球に対して所定の価値を付与可能に形成されるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６７２７】
遊技機ＥＢ１において、前記変化手段は、前記通路部材の少なくとも一部を変位させる変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＢ２。
【６７２８】
遊技機ＥＢ２によれば、遊技機ＥＢ１の奏する効果に加え、変化手段は、通路部材の少なくとも一部を変位させる変位手段を備えるので、球が通路部材を移動する際に、変位手段により通路部材が変位されることで、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過する（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得る）ことを阻害する又は補助する手段として、変位手段（通路部材の変位）を機能させることができるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６７２９】
遊技機ＥＢ２において、前記通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、前記変化手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えることを特徴とする遊技機ＥＢ３。
【６７３０】
遊技機ＥＢ３によれば、遊技機ＥＢ２の奏する効果に加え、通路部材は、球が転動可能に形成される転動部を備え、変化手段は、前記通路部材の転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、転動部を転動する球の転動方向（移動方向）にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過する（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得る）ことを阻害する又は補助する手段として突部や凹部を機能させることができるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を高めることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。
【６７３１】
遊技機ＥＢ１からＥＢ３のいずれかにおいて、前記通路部材は、第１通路部材と、その第１通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、前記所定の価値は、前記第２通路部材を通過した球に対して付与可能に形成され、前記変化手段は、前記第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、前記第２通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様とを異ならせることが可能に形成されることを特徴とする遊技機ＥＢ４。
【６７３２】
遊技機ＥＢ４によれば、遊技機ＥＢ１からＥＢ３のいずれかの奏する効果に加え、通路部材は、第１通路部材と、その第１通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、所定の価値は、第２通路部材を通過した球に対して付与可能に形成され、変化手段は、第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、第２通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様とを異ならせることが可能に形成さ

れるので、球が通路部材を通過できるか否か（通路部材を渡り切って、所定の価値が付与される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なる態様として、遊技者に付与することができる。その結果、かかる遊技性を多様化して、遊技の興趣を向上できる。

【６７３３】

なお、球の通過のしやすさを変化させる手段としては、例えば、通路部材の形状や姿勢（傾斜）、通路部材の変位態様（変位の種類（回転、直線変位、曲線変位、これらの組み合わせ）、変位方向、変位速度、往復動作の態様（周期、振幅）など）、通路部材の球が移動する面（転動面）の態様（突部や凹部の有無、突部や凹部の態様（大きさ、形状、配置など））が例示される。即ち、第１通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様と、第２通路部材において球の通過のしやすさを変化させる態様とが異なるとは、上述した手段の少なくとも一部または全部が、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なることを意味する。

＜下側フレームＥ８６ｂ～Ｅ１７０８６ｂを一例とする発明の概念について：球を滞留させる滞留手段＞

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機において、入球された球に対して所定の価値を付与可能に形成される入球手段と、前記通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備え、前記通路部材および前記第２通路部材は、球の移動経路の途中で球が落下可能に形成され、前記第２通路部材を通過した球は、前記通路部材を通過した球よりも前記入球手段へ入球されやすくされることを特徴とする遊技機ＥＣ１。

【６７３４】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、ステージの所定位置から流下された球は、入賞口（入球口）へ直接入球されるため、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。

【６７３５】

これに対し、遊技機ＥＣ１によれば、入球された球に対して所定の価値を付与可能に形成される入球手段と、通路部材を通過した球が移動可能に形成される第２通路部材と、を備えるので、通路部材を通過した球が第２通路部材を移動することで、その分、入球手段に球が入球されるまでに要する時間を嵩ませることができる。即ち、入球手段への入球を期待できる期間を長くして、遊技者の期待感を盛り上げることができる。特に、第２通路部材を通過した球は、通路部材を通過した球よりも入球手段へ入球されやすくされるので、入球手段へ球が今から入球されるという高揚感を遊技者に持たせて、球の行方を追わせることができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６７３６】

遊技機ＥＣ１において、前記第２通路部材は、球が転動可能に形成される転動部と、その転動部から突出される複数の突部または前記転動部に凹設される複数の凹部を備えることを特徴とする遊技機ＥＣ２。

【６７３７】

遊技機ＥＣ２によれば、遊技機ＥＣ１の奏する効果に加え、第２通路部材は、球が転動可能に形成される転動部と、その転動部から突出される複数の突部または転動部に凹設される複数の凹部を備えるので、第２通路部材（転動部）を転動する際の球の移動方向を変化させ、球が第２通路部材を通過できるか否か（第２通路部材を渡り切って、入球手段に入球される可能性を得ることができるか否か）を楽しむ遊技性を遊技者に付与することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６７３８】

また、球の移動を遊技者に視認させやすくできる。即ち、転動部を転動する球は比較的移動速度が低く、転動部の移動に比較的時間を要するところ、突部や凹部から受ける作用により球の移動に要する時間を更に嵩ませることができる。その結果、球の行方を遊技者

に追わせやすくできると共に、入球手段への入球を期待できる期間を長くして、遊技者の期待感を盛り上げることができる。

【６７３９】

遊技機ＥＣ１又はＥＣ２において、前記通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＣ３。

【６７４０】

遊技機ＥＣ３によれば、遊技機ＥＣ１又はＥＣ２の奏する効果に加え、通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される変位手段を備えるので、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過して第２通路部材に到達することを阻害する又は補助する手段として、変位手段（通路部材の変位）を機能させることができる。よって、球が通路部材を通過できるか否か（球が第２通路部材に到達できるか否か、ひいては、入球手段に入球できるか否か）を楽しむ遊技性を形成することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６７４１】

遊技機ＥＣ３において、前記第２通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される第２変位手段を備えることを特徴とする遊技機ＥＣ４。

【６７４２】

遊技機ＥＣ４によれば、遊技機ＥＣ３の奏する効果に加え、第２通路部材を変位させ球の移動方向に変化を付与可能に形成される第２変位手段を備えるので、球の移動方向にランダム性を付与することができる。即ち、球が通路部材を通過して第２通路部材に到達すること、及び、球が第２通路部材と通過して入球手段に入球すること、を阻害する又は補助する手段として、第２変位手段（第２通路部材の変位）を機能させることができる。よって、通路部材を通過した球が第２通路部材へ到達できるか否か、及び、その到達した球が第２通路部材を通過できるか否か（球が入球手段に入球できるか否か）を楽しむ遊技性を形成することができる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６７４３】

遊技機ＥＣ４において、前記変位手段による前記通路部材の変位態様と、前記第２変位手段による前記第２通路部材の変位態様とが異なる態様であることを特徴とする遊技機ＥＣ５。

【６７４４】

遊技機ＥＣ５によれば、遊技機ＥＣ４の奏する効果に加え、変位手段による通路部材の変位態様と、第２変位手段による第２通路部材の変位態様とが異なる態様であるので、球の変位態様を多様化できる。その結果、遊技の興趣を向上できる。

【６７４５】

なお、変位手段による通路部材の変位態様と、第２変位手段による第２通路部材の変位態様とが異なる態様であるとは、例えば、変位の種類（回転、直線変位、曲線変位、これらの組み合わせ）、変位方向、変位速度、往復動作の態様（周期、振幅）などの少なくとも一部または全部が、第１通路部材と第２通路部材とにおいて異なることを意味する。

＜下側フレームＦ８６ｂ～Ｆ５０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成される第１手段と、前記第１手段が受け取った球の重量により変位される第２手段と、を備え、前記第２手段は、前記被流入部の大きさを変更する方向へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＡ１。

【６７４６】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。

【６７４７】
遊技機ＦＡ１によれば、所定の球が被流入部へ向かう場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、第２手段が被流入部の大きさを変更する方向へ変位されるので、所定の球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くできる。よって、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【６７４８】
遊技機ＦＡ１において、前記被流入部の大きさを変更する方向へ前記第２手段が変位された状態を維持する維持手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ２。
【６７４９】
遊技機ＦＡ２によれば、遊技機ＦＡ１の奏する効果に加え、第１手段に球の重量が作用しなくなっても、所定の球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くした状態を維持できる。よって、球の流入を期待できる期間または期待し難い期間を確保でき、遊技の興趣を高めることができる。
【６７５０】
遊技機ＦＡ２において、前記維持手段による維持を解除する解除手段を備え、前記維持手段は、前記第１手段が受け取った球の重量により前記第２手段が前記被流入部の大きさを大きくする方向へ変位された状態を維持し、前記解除手段による解除は、前記被流入部に少なくとも１の球が流入された場合に行われることを特徴とする遊技機ＦＡ３。
【６７５１】
遊技機ＦＡ３によれば、遊技機ＦＡ２の奏する効果に加え、少なくとも１の球が被流入部に流入されるまでの間、被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位された状態が維持されるので、被流入部への球の流入を確実化できる。よって、遊技者に安心感を付与できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６７５２】
遊技機ＦＡ３において、前記維持手段により維持された状態では、球を受け取ることで変位された位置に前記第１手段が維持されることを特徴とする遊技機ＦＡ４。
【６７５３】
遊技機ＦＡ４によれば、遊技機ＦＡ３の奏する効果に加え、維持手段による維持がされた状態（被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位された状態）であることを、第１手段の変位位置からも遊技者に理解させやすくできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６７５４】
遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ４のいずれかにおいて、前記第１手段から球が流下することを遅延させる遅延手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ５。
【６７５５】
遊技機ＦＡ５によれば、遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ４の奏する効果に加え、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間）を長くできる。よって、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。
【６７５６】
遊技機ＦＡ５において、前記遅延手段は、前記第１手段に形成される開口と、その開口の周囲に沿って球が転動可能とされ前記第１手段に形成される第１転動部とを備え、前記第１転動部を転動し前記開口へ流入されることで、球が前記第１手段から流下されることを特徴とする遊技機ＦＡ６。
【６７５７】
遊技機ＦＡ６によれば、遊技機ＦＡ５の奏する効果に加え、開口の周囲に沿って第１転動部を転動することで、球の速度を低下させられるので、その分、第１手段からの球の流下を遅延させられる。即ち、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間）を長くできる。よって

、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。
【６７５８】
遊技機ＦＡ６において、前記第１転動部は、前記開口の周囲に沿って連続して形成され、前記遅延手段は、前記第１転動部における前記開口から偏心した位置へ向けて球が転動可能とされ前記第１手段に形成される第２転動部を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ７。
【６７５９】
遊技機ＦＡ７によれば、遊技機ＦＡ６の奏する効果に加え、第１転動部が、開口の周囲に沿って連続して形成されるので、第１転動部において球を周回させることができる。また、第２転動部が、第１転動部における開口から偏心した位置へ向けて球が転動可能とされるので、第１転動部における球の周回を形成しやすくできる。その結果、球の重量が第１手段に作用している期間（第１手段が所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間）を長くできる。よって、被流入部の大きさが大きくされている期間を長くできる。
【６７６０】
遊技機ＦＡ７において、前記第１転動部を球が転動する状態では、前記第１転動部の鉛直方向における高さが前記開口の周囲に沿って略同一に設定されることを特徴とする遊技機ＦＡ８。
【６７６１】
遊技機ＦＡ８によれば、遊技機ＦＡ７の奏する効果に加え、高低差が形成されることを抑制して、第１転動部において球を周回させやすくできる。
【６７６２】
遊技機ＦＡ５から遊技機ＦＡ８のいずれかにおいて、前記遅延手段は、球が転動可能とされ前記第１手段に形成される転動部と、その転動部に球を保持する保持手段と、を備え、前記保持手段に保持された球は、前記第１手段が球の重量により所定量だけ変位されることで、前記保持手段を乗り越えて転動可能とされることを特徴とする遊技機ＦＡ９。
【６７６３】
遊技機ＦＡ９によれば、遊技機ＦＡ５から遊技機ＦＡ８のいずれかの奏する効果に加え、球の転動を一時的に停止させることができる。よって、第１手段が球の重量により所定位置（球を受け取る前の位置、初期位置）から変位されている期間を長くできる。その分、被流入部が大きくされている期間を長くできる。また、第１手段の姿勢変化を利用して保持手段の保持が解除される（球が転動を再開する）ので、解除する手段を設けることを不要とできる。
【６７６４】
遊技機ＦＡ９において、前記遅延手段は、前記第１手段が球の重量により所定量だけ変位された場合に、前記保持手段により保持された球に作用する作用手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ１０。
【６７６５】
遊技機ＦＡ１０によれば、遊技機ＦＡ９の奏する効果に加え、作用手段の作用により、保持手段による球の保持の解除を確実化できる（球が保持手段を乗り越えやすくすることができる）。
【６７６６】
遊技機ＦＡ９又は遊技機ＦＡ１０において、前記第１手段へ球が流下可能に形成される流下部を備え、球の重量により前記第１手段が変位される方向は、少なくとも前記転動部が前記流下部から離間される方向であることを特徴とする遊技機ＦＡ１１。
【６７６７】
遊技機ＦＡ１１によれば、遊技機ＦＡ９又は遊技機ＦＡ１０の奏する効果に加え、流下部から流下した後行の球の衝突により、保持手段による保持が解除されることを抑制できる。
【６７６８】

遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ１１のいずれかにおいて、前記第１手段の変位を前記第２手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＡ１２。

【６７６９】

遊技機ＦＡ１２によれば、遊技機ＦＡ１から遊技機ＦＡ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第２手段を変位させられる。よって、第２手段を変位させるための駆動源を不要とできる。

【６７７０】

遊技機ＦＡ１２において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第２手段の重量により、前記第１手段および前記第２手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＡ１３。

【６７７１】

遊技機ＦＡ１３によれば、遊技機ＦＡ１２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を復帰させるための手段を不要として、製品コストを抑制できる。

＜下側フレームＦ６０８６ｂ～Ｆ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が流入可能な被流入部と、その被流入部へ向けて球が移動可能に形成される経路と、を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成される第１手段と、前記第１手段が受け取った球の重量により変位され前記経路を移動する球に作用可能に形成される第２手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１。

【６７７２】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。

【６７７３】

遊技機ＦＢ１によれば、所定の球が経路を移動する場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、経路を移動する所定の球に第２手段が作用可能とされる。よって、経路を移動する所定の球の被流入部への流入の可能性が第２手段の作用により変化させることができる。その結果、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。

【６７７４】

遊技機ＦＢ１において、前記第１手段球が受け取った球の重量により変位された位置から変位される前の位置へ向かう前記第２手段の変位方向には、前記経路を前記第２手段へ向けて移動する球の移動方向成分が含まれることを特徴とする遊技機ＦＢ２。

【６７７５】

遊技機ＦＢ２によれば、遊技機ＦＢ１の奏する効果に加え、経路を第２手段へ向けて移動する球が第２手段へ当接した際に、その球の移動方向へ第２手段も変位（初期位置へ向けて後退）して、衝撃を吸収できる。よって、第２手段の破損を抑制できる。

【６７７６】

遊技機ＦＢ２において、前記第１手段が受け取った球の重量により変位された前記第２変位手段は、前記経路を移動する球に対して、前記被流入部へ流入され易くなるように作用することを特徴とする遊技機ＦＢ３。

【６７７７】

遊技機ＦＢ３によれば、遊技機ＦＢ２の奏する効果に加え、被流入部へ球を流入させ易くできるので、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【６７７８】

遊技機ＦＢ２又はＦＢ３において、前記経路は、傾斜して形成される傾斜部を備え、前記第２手段は、前記傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に変位可能とされることを特徴

とする遊技機ＦＢ４。
【６７７９】
遊技機ＦＢ４によれば、遊技機ＦＢ２又はＦＢ３の奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球は徐々に速度を低下させるので、球の移動と、その球への第２手段の作用とを遊技者に視認させやすくできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６７８０】
遊技機ＦＢ４において、前記傾斜部は、傾斜して形成される第１傾斜部と、その第１傾斜部と反対方向へ傾斜して形成される第２傾斜部とを備え、前記第１傾斜部および前記第２傾斜部を球が往復移動可能に形成され、前記第２手段は、前記第１傾斜部または前記第２傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ５。
【６７８１】
遊技機ＦＢ５によれば、遊技機ＦＢ４の奏する効果に加え、傾斜部（第１傾斜部および第２傾斜部）における球の往復移動により、第２手段からの作用を受けることが可能な位置に球を複数回到達させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６７８２】
遊技機ＦＢ４又は遊技機ＦＢ５において、前記第２手段が前記傾斜部を上昇する球に作用可能とされる位置は、前記傾斜部を上昇する球が到達可能な最大到達位置よりも下方となる位置であることを特徴とする遊技機ＦＢ６。
【６７８３】
ここで、最大到達位置では、球の速度が低く（又は速度が０となり）、球の勢いが弱いため、傾斜部を上昇する球に作用可能な位置に第２手段が変位され、第２手段に球が当接したとしても、被流入部へ流入されやすくなる方向へ球を案内できない虞がある。これに対し、遊技機ＦＢ６によれば、遊技機ＦＢ４又は遊技機ＦＢ５の奏する効果に加え、最大到達位置よりも下方となる位置において、傾斜部を上昇する球に第２手段が作用可能とされることで、球の速度が確保されている状態で、球を第２手段に当接させることができる。よって、球の勢いを利用して、被流入部へ流入されやすくなる方向へ案内しやすくできる。
【６７８４】
また、第１傾斜部および第２傾斜部を球が往復移動する構成においては、第２手段からの作用を受けることが可能な位置に球を複数回到達させやすくできる。
【６７８５】
遊技機ＦＢ６において、前記第２手段は、前記傾斜部を上昇する球に作用可能とされる位置に変位された状態では、前記傾斜部を下降する球に作用可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ７。
【６７８６】
遊技機ＦＢ７によれば、遊技機ＦＢ６の奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球が通過した後に、第２手段が球に作用可能な位置に変位された場合であっても、傾斜部の頂部に達して下降する球に作用を与える可能性を形成できる。
【６７８７】
遊技機ＦＢ４から遊技機ＦＢ７のいずれかにおいて、前記第２手段は、円弧状の湾曲に沿って球を案内可能に形成される案内部を備え、前記傾斜部を上昇する球は、前記案内部に沿って移動されることで、前記被流入部へ流入されやすくなる方向へ案内されることを特徴とする遊技機ＦＢ８。
【６７８８】
遊技機ＦＢ８によれば、遊技機ＦＢ４から遊技機ＦＢ７のいずれかの奏する効果に加え、傾斜部を上昇する球を、湾曲に沿って徐々に案内（移動方向を転換）することができる。即ち、被流入部へ流入されやすくなる方向へ確実に案内できる。
【６７８９】
遊技機ＦＢ８において、前記第２手段は、前記傾斜部から突出可能に形成され、前記第

２手段が前記傾斜部から非突出とされた状態では、前記第２手段が前記傾斜部の一部とされることを特徴とする遊技機ＦＢ９。

【６７９０】

ここで、傾斜部の側方から傾斜部の幅方向（傾斜部を球が上昇する方向と直交する方向）に沿って第２手段（案内部）を突出させる構成では、第２手段（案内部）を収納するためのスペースとして傾斜部の幅と同等のスペースを傾斜部の側方に確保する必要があり、大型化する。これに対し、遊技機ＦＢ９によれば、遊技機ＦＢ８の奏する効果に加え、第２手段（案内部）の収容に必要なスペースを傾斜部の側方に確保する必要がなく、また、傾斜部の厚み方向のデッドスペースを有効に活用できるので、その分、小型化できる。

【６７９１】

また、傾斜部の側方から傾斜部の幅方向（傾斜部を球が上昇する方向と直交する方向）に沿って第２手段（案内部）を突出させる構成では、第２手段（案内部）に必要な変位量が大きい分、第２手段を変位させるのに要する時間が嵩む。これに対し、遊技機ＦＢ８によれば、遊技機ＦＢ７の奏する効果に加え、第２手段（案内部）に必要な変位量が抑制できる分、第２手段を変位させるのに要する時間を短縮できるので、傾斜部を上昇する球に作用する位置に第２手段を速やかに配置できる。

【６７９２】

遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ９のいずれかにおいて、前記経路を移動する球に作用可能な位置に前記第２手段が変位された状態を維持する維持手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１０。

【６７９３】

遊技機ＦＢ１０によれば、遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ９のいずれかの奏する効果に加え、第１手段に球の重量が作用しなくなっても、所定の球を被流入部へ流入させやすくした状態を維持できる。よって、球の流入を期待しやすくでき、遊技の興趣を高めることができる。

【６７９４】

遊技機ＦＢ１０において、前記維持手段による維持を解除する解除手段を備え、その解除手段による解除は、前記被流入部に少なくとも１の球が流入された場合に行われることを特徴とする遊技機ＦＢ１１。

【６７９５】

遊技機ＦＢ１１によれば、遊技機ＦＢ１０の奏する効果に加え、被流入部への球の流入を確実化できる。即ち、被流入部の大きさが大きくされる方向へ第２手段が変位されれば、少なくとも１の球が流入されるまでの間、安心感を付与できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【６７９６】

遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ１１のいずれかにおいて、前記第１手段の変位を前記第２手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＢ１２。

【６７９７】

遊技機ＦＢ１２によれば、遊技機ＦＢ１から遊技機ＦＢ１１のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第２手段を変位させられる。よって、第２手段を変位させるための駆動源を不要とできる。

【６７９８】

遊技機ＦＢ１２において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第２手段の重量により、前記第１手段が前記所定位置へ変位可能に形成され、前記第２手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＢ１３。

【６７９９】

遊技機ＦＢ１３によれば、遊技機ＦＢ１２の奏する効果に加え、第１手段および第２手段を復帰させるための手段を不要として、コストを抑制できる。

＜下側フレームＦ８６ｂ～Ｆ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞

球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、球を受け取り可能に形成され前記受

け取った球の重量により前記被流入部への球の流入のし易さを変化させるための第１手段と、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態で前記受け取った球とは別の球の影響を前記第１手段が受けることを抑制する抑制手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ１。

【６８００】

球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。

【６８０１】

遊技機ＦＣ１によれば、所定の球が被流入部へ向かう場合に、第１手段が球（所定の球に先行または後行する球）を受け取ると、被流入部への所定の球の流入のし易さを変化させることができる。よって、第１手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。この場合、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制手段で抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【６８０２】

遊技機ＦＣ１において、前記第１手段へ向けて球が移動可能に形成される経路を備え、前記抑制手段は、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態において、前記経路を移動する球が前記第１手段へ向けて移動し難くする第１規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ２。

【６８０３】

遊技機ＦＣ２によれば、遊技機ＦＣ１の奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第１規制手段により、経路を移動する球が第１手段へ向けて移動し難くすることができるので、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。

【６８０４】

遊技機ＦＣ２において、球を受け取り可能に形成され前記受け取った球の重量により前記被流入部への球の流入のし易さを変化させるための第２手段を備え、前記経路は、前記第１手段および前記第２手段へ向けて球が移動可能に形成され、前記第１規制手段は、前記受け取った球の重量が前記第１手段に作用された状態において、前記経路を移動する球が前記第１手段よりも前記第２手段へ移動し易くすることを特徴とする遊技機ＦＣ３。

【６８０５】

遊技機ＦＣ３によれば、遊技機ＦＣ２の奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第１規制手段により、経路を移動する球を第２手段へ向けて移動し易くできるので、被流入部への所定の球の流入のし易さの変化を継続させ易くできる。即ち、第１手段に球の重量が作用されている状態では、その状態が中断される（例えば、経路を移動する球が第１手段に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制しつつ、経路を移動する球を第２手段に受け取らせ、その受け取った球の重量が第２手段に作用された状態を形成することで、第２手段によっても、被流入部への所定の球の流入のし易さが変化された状態を形成できる。よって、遊技の興趣を高めることができる。

【６８０６】

遊技機ＦＣ３において、前記第１手段または前記第２手段が受け取った球の重量により変位される第３手段を備え、前記第３手段は、前記被流入部の大きさを変更する方向へ変

位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＣ４。
【６８０７】
遊技機ＦＣ４によれば、遊技機ＦＣ２又はＦＣ３の奏する効果に加え、第３手段の変位により球を被流入部へ流入させ易く又は流入させ難くできる。よって、第１手段および第２手段による球の受け入れの有無を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【６８０８】
遊技機ＦＣ１から遊技機ＦＣ４のいずれかにおいて、前記抑制手段は、前記受け取った球の重量が作用された状態において、前記第１手段の少なくとも側面に前記別の球が当接し難くする第２規制手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ５。
【６８０９】
遊技機ＦＣ５によれば、遊技機ＦＣ１から遊技機ＦＣ３のいずれかの奏する効果に加え、受け取った球の重量が第１手段に作用された状態では、第２規制手段により、第１手段の少なくとも側面に球が当接し難くすることができるので、第１手段が別の球の影響を受ける（例えば、別の球が第１手段の側面に衝突し、第１手段に重量を作用させていた球が第１手段から脱落する）ことを抑制できる。よって、被流入部への球の流入のし易さの変化が途中で中断されることを抑制でき、遊技の興趣を高めることができる。
【６８１０】
なお、第１手段に重量を作用させていた球に別の球が当接する場合には、重量を作用させていた球が第１手段から脱落しても、その球に代わって、別の球が第１手段に重量を作用させることができる場合がある。また、第１手段の上面（重量を作用させる球が保持または転動される部位）に別の球が当接する場合には、重量を作用させていた球に加え、別の球も第１手段に重量を作用させることができる場合がある。よって、別の球が少なくとも第１手段の側面へ当接し難くできれば有効となる。
【６８１１】
遊技機ＦＣ２において、前記第１手段の変位を前記第１規制手段へ伝達する伝達手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＣ６。
【６８１２】
遊技機ＦＣ６によれば、遊技機ＦＣ２の奏する効果に加え、第１手段の変位（即ち、球の重量）を利用して、第１規制手段を変位させられる。よって、第１規制手段を変位させるための駆動源を不要とできる。
【６８１３】
遊技機ＦＣ６において、前記第１手段に球の重量が非作用となる状態では、前記第１手段および前記第１規制手段の重量により、前記第１手段および前記第１規制手段が初期位置へ変位可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＣ７。
【６８１４】
遊技機ＦＣ７によれば、遊技機ＦＣ６の奏する効果に加え、第１手段および第１規制手段を復帰させるための手段を不要として、製品コストを抑制できる。
【６８１５】
遊技機ＦＣ５において、前記第１手段へ球が流下可能に形成される流下部を備え、球の重量により前記第１手段が変位される方向は、少なくとも前記第１手段が前記流下部から離間される方向であることを特徴とする遊技機ＦＣ８。
【６８１６】
遊技機ＦＣ８によれば、遊技機ＦＣ５の奏する効果に加え、流下部から流下した後行の球が第１手段の側面に当接することを抑制できる。
＜下側フレームＦ１１０８６ｂを一例とする発明の概念について＞
球が流入可能な被流入部を備えた遊技機において、前記被流入部へ球が移動可能に形成される経路と、前記被流入部への球の流入のし易さを変化させる変化手段と、を備え、第１位置から前記経路へ流入し前記経路を移動する球が、第２位置から前記経路へ流入し前記経路を移動する球よりも前記被流入部へ流入し易くされることを特徴とする遊技機ＦＤ

１。
【６８１７】
球が移動可能に形成される通路部材を備えた遊技機が知られている（特開２０１６－１９８６０７号公報）。該先行文献には、ステージ（通路部材）に沿って球を往復転動させる技術が開示される。しかしながら、上述した従来の遊技機では、球の移動方向の変化が単調であり、遊技の興趣が不十分であるという問題点があった。本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、遊技の興趣を向上することができる遊技機を提供することを目的とする。
【６８１８】
遊技機ＦＤ１によれば、被流入部への球の流入のし易さを変化手段により変化させることができるので、経路を移動する球に対する変化手段の影響を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【６８１９】
この場合、第１位置から経路へ流入し経路を移動する球が、第２位置から経路へ流入し経路を移動する球よりも被流入部へ流入し易くされるので、球が経路へ流入する位置（第１位置または第２位置）を遊技者に意識させることができ、遊技の興趣を高めることができる。
【６８２０】
なお、第１位置からの球が入り易くする構成としては、例えば、当接部Ｆ６１５４が例示される。
【６８２１】
遊技機ＦＤ１において、前記第１位置から前記経路へ流入する球を検出可能に形成される検出手段を備え、少なくとも前記検出手段により球が検出されることを条件に、前記被流入部へ球が流入し易くなるように前記変化手段による変化が行われることを特徴とする遊技機ＦＤ２。
【６８２２】
遊技機ＦＤ２によれば、遊技機ＦＤ１が奏する効果に加え、遊技者に期待感を持たせて、遊技の興趣を高めることができる。即ち、第１位置から経路へ流入し経路を移動する球は、第２位置から経路へ流入し経路を移動する球よりも被流入部へ流入し易くされるところ、更に、被流入部へ球が流入し易くなるように変化手段による変化が行われるので、被流入部への流入の期待を遊技者に持たせることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６８２３】
なお、変化手段による変化（被流入部へ球が流入し易くなる動作）が行われる条件としては、検出手段により球が検出されることに加え、所定時間の経過、抽選の当選、或いは、これらの組み合わせを条件としても良い。また、変化手段による変化が行われる期間としては、所定時間で区切っても良く、動作の回数で区切っても良い。
【６８２４】
遊技機ＦＤ２において、前記第１位置および前記第２位置が形成される形成手段を備え、前記形成手段は、前記第１位置と前記第２位置との間を球が移動可能に形成されることを特徴とする遊技機ＦＤ３。
【６８２５】
遊技機ＦＤ３によれば、遊技機ＦＤ２の奏する効果に加え、第１位置と第２位置との間を球が移動可能に形成されるので、第１位置または第２位置のどちらから経路へ球が流下するか、形成手段における球の移動を遊技者に注視させることができる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６８２６】
遊技機ＦＤ２又はＦＤ３において、前記経路は、前記第１位置から流下した球が移動可能に形成される第１経路と、前記第２位置から流下した球が移動可能に形成される第２経路とを備え、前記第１経路と前記第２経路との間を球が移動可能に形成されることを特徴

とする遊技機ＦＤ４。
【６８２７】
遊技機ＦＤ４によれば、遊技機ＦＤ２又は遊技機ＦＤ３の奏する効果に加え、第１経路と第２経路との間を球が移動可能に形成されるので、第１位置（第２位置）から流入した球が第１経路（第２経路）のみを移動可能に形成される場合と比較して、一定のスペース内に形成できる球の移動可能な経路の種類をより多く確保できる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６８２８】
遊技機ＦＤ４において、前記第１経路または前記第２経路から突設され球が当接可能に形成される１又は複数の当接手段を備えることを特徴とする遊技機ＦＤ５。
【６８２９】
遊技機ＦＤ５によれば、遊技機ＦＤ４の奏する効果に加え、第１経路または第２経路を移動する球が当接手段に当接されることで、球の移動方向に変化を付与して、第１経路と第２経路との間での球の移動を形成し易くできる。その結果、遊技の興趣を高めることができる。
【６８３０】
＜複数の手段を異なる契機で動作させる構造＞
第１位置と第２位置とを変位可能な変位手段と、その変位手段を変位させ得る第１手段と、前記変位手段の変位を防止できる第１状態と前記変位手段の変位を防止できない第２状態とで状態変化可能な第２手段と、前記第１手段の動作に基づいて前記第２手段の状態を前記第１状態と前記第２状態とで変化可能に構成される変化手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ１。
【６８３１】
パチンコ機等の遊技機において、変位手段を所定位置から変位させる演出を行う演出役物において、変位手段を所定位置に保持する保持手段と、変位手段を所定位置に変位させるための駆動力を伝達する伝達手段と、を備える遊技機がある（例えば、特開２０１５－２３１４３４号公報を参照）。
【６８３２】
しかし、上述した従来の遊技機では、保持手段と伝達手段とで、駆動装置が別であることから、例えば、伝達手段の駆動装置が故障している時に、保持手段の駆動装置が動かされ変位手段が所定位置から移動（落下）された場合に、変位手段を所定位置に復帰させることができなくなるので、変位手段の演出効果を低下させる可能性があるという問題点があった。即ち、上述した従来の遊技機では、変位手段の演出効果の面で改善の余地があるという問題点があった。
【６８３３】
これに対し、遊技機ＫＡ１によれば、変化手段により、第２手段の状態の変化が第１手段の動作に基づくので、第１手段が動作し得ない状態において、第２手段が第１状態から第２状態に変化されることを防止することができる。これにより、変位手段が所定位置に復帰できないにも関わらず第２手段が第１状態から第２状態に変化されてしまい変位手段が所定位置から変位させられる事態が生じることを防止することができるので、変位手段の演出効果の向上を図ることができる。
【６８３４】
遊技機ＫＡ１において、前記第１位置は前記第２位置よりも上側に位置し、前記第２手段は、前記変位手段が所定位置よりも前記第１位置側に配置されている状態で前記所定位置よりも前記第２位置側に進入することで前記第１状態に変化されることを特徴とする遊技機ＫＡ２。
【６８３５】
遊技機ＫＡ２によれば、遊技機ＫＡ１の奏する効果に加え、第２手段が第１状態にされる際に変位手段と第２手段との間に隙間を生じさせることで、摩擦力が生じることを回避でき、動作不良を防止することができる。

【６８３６】
更に、変位手段と第２手段とは第１手段により連動することから、動作タイミングがずれることを避け易いことに加え、第２手段を別の駆動機構で動作させる場合には必要となる変位手段が所定位置よりも第１位置側に位置したことを検出する検出センサを不要とすることができる。
【６８３７】
遊技機ＫＡ１又はＫＡ２において、前記第２手段は、所定の回転軸を中心に回転動作可能に構成され、前記第１状態において、前記変位手段からの荷重を前記回転軸へ向けさせる形状から構成されることを特徴とする遊技機ＫＡ３。
【６８３８】
遊技機ＫＡ３によれば、遊技機ＫＡ１又はＫＡ２の奏する効果に加え、変位手段からの荷重で第２手段の状態が変化される事態を回避し易くすることができる。
【６８３９】
遊技機ＫＡ１からＫＡ３のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段の状態が前記第１状態から前記第２状態へ変化する場合に、前記変位手段と前記第２手段との間に隙間を空ける第１連動状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＫＡ４。
【６８４０】
遊技機ＫＡ４によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ３のいずれかの奏する効果に加え、第２手段を第１状態から第２状態へ変化させる場合における変位手段と第２手段との間の動作抵抗を小さくすることができる。
【６８４１】
遊技機ＫＡ１からＫＡ４のいずれかにおいて、前記第１手段は、前記第２手段の状態が前記第１状態から前記第２状態へ変化する場合に、前記第２手段を前記変位手段に擦らせる第２連動状態を構成可能とされることを特徴とする遊技機ＫＡ５。
【６８４２】
遊技機ＫＡ５によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ４のいずれかの奏する効果に加え、第２手段の位置を基準にして変位手段の位置を特定することができるので、変位手段の変位開始位置を安定させることができる。
【６８４３】
遊技機ＫＡ４又は遊技機ＫＡ５において、前記第１連動状態と前記第２連動状態とでは、前記第１手段の動作方向が反転されることを特徴とする遊技機ＫＡ６。
【６８４４】
遊技機ＫＡ６によれば、遊技機ＫＡ４又は遊技機ＫＡ５の奏する効果に加え、第１手段の停止状態から、第１連動状態での連動が生じるのか、第２連動状態での連動が生じるのかを遊技者に分からせ難くすることができる。
【６８４５】
遊技機ＫＡ１からＫＡ６のいずれかにおいて、前記変位手段が前記第１位置に配置されている状態において前記第２手段が前記第１状態から前記第２状態へ変化された場合に、変位手段は、前記第１手段に支持されない状態での非支持変位を実行可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＡ７。
【６８４６】
遊技機ＫＡ７によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ６のいずれかの奏する効果に加え、変化手段に支持されていないことから第２手段との連動ではない動作態様で変位手段を動作させることができる。
【６８４７】
遊技機ＫＡ７において、前記変位手段に前記非支持変位をさせる場合に、前記変位手段と前記第１手段との間を仕切るように配設される接触防止部を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ８。
【６８４８】
遊技機ＫＡ８によれば、遊技機ＫＡ７の奏する効果に加え、非支持変位において第１手

段と変位手段とが誤って接触し、破損することを避けることができる。
【６８４９】
遊技機ＫＡ１からＫＡ８のいずれかにおいて、前記第２手段を前記第１状態から前記第２状態に変化させる場合に、前記変化手段が重力方向に下降変位されることを特徴とする遊技機ＫＡ９。
【６８５０】
遊技機ＫＡ９によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ８のいずれかの奏する効果に加え、第２手段が第１状態から第２状態へ変化する際に、変化手段の変位に要する力を重力で補助させることができる。
【６８５１】
遊技機ＫＡ１からＫＡ９のいずれかにおいて、前記変位手段の変位量を、前記第１手段の変位量に対して第１の比で変化させる第１変位量変化手段と、前記第２手段の変位量を、前記第１手段の変位量に対して第２の比で変化させる第２変位量変化手段と、を備えることを特徴とする遊技機ＫＡ１０。
【６８５２】
遊技機ＫＡ１０によれば、遊技機ＫＡ１からＫＡ９のいずれかにおいて、第１手段の変位に伴う変位手段の変位量と第２手段の変位量とを異ならせることができるので、連動の設計自由度を向上させることができる。
【６８５３】
＜付勢力での移動の停止位置が複数あるように構成＞
移動可能な第１移動手段と、その第１移動手段の移動に連動して第１位置から第２位置へ移動可能な第２移動手段と、その第２移動手段を前記第１位置から前記第２位置へ向けて付勢する付勢手段と、を備える遊技機において、前記第２移動手段が前記第１位置と前記第２位置との間の所定位置に配置された場合の前記第１移動手段の移動を防止可能な防止手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＢ１。
【６８５４】
パチンコ機等の遊技機において、付勢力により液晶表示装置の前側に張り出す移動手段を備える遊技機がある（例えば、特開２００９－２４０３８６号公報を参照）。
【６８５５】
しかし、上述した従来の遊技機では、移動手段の配置は、液晶表示装置の前側か、液晶表示装置の前側とは異なる位置かの２位置に限定されており、取り得る状態のバリエーションが少ないことから遊技者が飽きてしまう可能性があり、移動手段を利用した演出効果に関して改善の余地があるという問題点があった。
【６８５６】
これに対し、遊技機ＫＦ１によれば、防止手段が第１移動手段の移動を防止することにより、第２移動手段を第１位置と第２位置との間の所定位置で止めることができるので、第２移動手段の停止位置として、第１位置または第２位置の２種類だけでなく、所定位置も使うことができる。これにより、第２移動手段の取り得る状態のバリエーションを増やすことができ、第２移動手段の演出効果を向上させることができる。
【６８５７】
遊技機ＫＢ１において、駆動手段と、その駆動手段の駆動力を前記第１移動手段に伝達可能な伝達手段と、を備え、前記伝達手段は、前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態を維持しながら所定範囲で動作可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ２。
【６８５８】
遊技機ＫＢ２によれば、遊技機ＫＢ１の奏する効果に加え、所定範囲においては伝達手段の配置が定まっていなくても第２移動手段を所定位置に維持することができるので、駆動手段の制御を簡素化することができる。
【６８５９】
遊技機ＫＢ２において、前記伝達手段は、駆動手段の駆動方向に因らず、前記所定範囲

における動作が生じた場合に前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態を維持させるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ３。
【６８６０】
遊技機ＫＢ３によれば、遊技機ＫＢ２の奏する効果に加え、付勢手段の付勢力に沿う方向の動作か、付勢力に抗する方向の動作かによらず、第２移動手段を所定位置に維持し易くすることができる。これにより、第２移動手段を高速移動させた後に所定位置で急速停止させる動作態様を、動作方向に因らず、簡素な制御で実現可能とすることができる。
【６８６１】
遊技機ＫＢ２又はＫＢ３において、前記伝達手段は、前記第１移動手段側に配設される第１伝達手段と、前記駆動手段側に配設される第２伝達手段と、を備え、前記第２伝達手段は、前記第１伝達手段の凹設部に進入した状態において第１伝達手段の動作を停止させる動作停止手段を備え、前記遊技機は、前記動作停止手段の配置を検出する検出手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＢ４。
【６８６２】
遊技機ＫＢ４によれば、遊技機ＫＢ２又はＫＢ３の奏する効果に加え、動作停止手段に複数の機能を兼用させることができ、動作停止手段の形状を簡素化させることができる。
【６８６３】
遊技機ＫＢ４において、前記第２移動手段が所定位置に配置されるか否かで、前記検出手段の出力が切り替えられるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＢ５。
【６８６４】
遊技機ＫＢ５によれば、遊技機ＫＢ４の奏する効果に加え、検出手段の出力から第２移動手段が所定位置に配置されているか否かを判定することができる。
【６８６５】
遊技機ＫＢ１からＫＢ５のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記第１位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが直交することを特徴とする遊技機ＫＢ６。
【６８６６】
遊技機ＫＢ６によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ５のいずれかの奏する効果に加え、第２移動手段が第１位置に配置された状態における、第２移動手段からの力による第１移動手段の移動を防止することができる。これにより、第２移動手段を第１位置で停止させることができる。
【６８６７】
遊技機ＫＢ１からＫＢ６のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記第２位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが直交することを特徴とする遊技機ＫＢ７。
【６８６８】
遊技機ＫＢ７によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ６のいずれかの奏する効果に加え、第２移動手段が第２位置に配置された状態における、第２移動手段からの力による第１移動手段の移動を防止することができる。これにより、第２移動手段を第２位置で停止させることができる。
【６８６９】
遊技機ＫＢ１からＫＢ７のいずれかにおいて、前記第２移動手段が前記所定位置に配置された状態において、前記第１移動手段の移動可能方向と、前記第２移動手段の移動可能方向とが平行となることを特徴とする遊技機ＫＢ８。
【６８７０】
遊技機ＫＢ８によれば、遊技機ＫＢ１からＫＢ７のいずれかの奏する効果に加え、所定位置に配置された第２移動手段への力の伝達効率を向上させることができる。
【６８７１】
＜スライド移動する部材のスライド開始時までの助走範囲を構成＞
所定軸を中心に回転移動可能に支持される第１手段と、その第１手段の回転移動と連動

して第１位置から第２位置へ移動可能な第２手段と、を備え、前記第２手段を前記第１位置から前記第２位置へ移動開始させる場合に、予め移動を開始されている前記第１手段の移動方向が、前記第２手段の移動方向に沿う方向になるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ１。

【６８７２】

パチンコ機等の遊技機において、回転移動する第１手段と移動する第２手段とを備え、第１手段の周方向の力を第２手段に伝達させることで、第２手段を移動させる遊技機がある（例えば、特開２００７－０９８０２７号公報を参照）。

【６８７３】

しかし、上述した従来の遊技機では、第２手段としての扉部材に力を伝達させる第１手段としてのピニオンは、第２手段の配置に関係なく荷重を与えるものであり、扉部材および自身の慣性に打ち勝って回転するために必要な駆動力が大きいことから、駆動装置が励磁されてからピニオンの回転が開始されるまでの時間差が長くなり易いという問題点があった。即ち、第２手段の動作に改善の余地があるという問題点があった。

【６８７４】

そのため、遊技機の演出に合わせたタイミングで駆動装置が励磁されても、ピニオン及び扉部材の動作タイミングが遅れることになるので、演出に合致しないタイミングでピニオン及び扉部材が動作することになり、演出効果が低下する可能性がある。即ち、上述した従来の遊技機では、第２手段の演出効果に改善の余地があるという問題点があった。

【６８７５】

これに対し、遊技機ＫＣ１によれば、第２手段を第１位置から第２位置へ移動させる際に、第１手段の移動方向が第２手段の移動方向に沿うので、第１手段の回転の勢いを利用して第２手段の慣性に容易に打ち勝つことができ、第２手段の移動タイミングの時間遅れを短くすることができるので、第２手段の動作を改善することができ、第２手段の演出効果を改善することができる。

【６８７６】

遊技機ＫＣ１において、前記第１手段の移動方向が前記第２手段の移動方向に沿う場合に、前記第１手段の回転先端が前記所定軸よりも下側に位置するよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ２。

【６８７７】

遊技機ＫＣ２によれば、遊技機ＫＣ１の奏する効果に加え、第１手段の移動方向が第２手段の移動方向に沿う姿勢で第１手段を安定させ易くすることができる。

【６８７８】

遊技機ＫＣ１又はＫＣ２において、前記第１手段に所定方向で当接し得る当接手段を備え、前記第１手段が前記当接手段と当接し停止されることに基づいて、前記第２手段が前記第２位置に維持可能とされることを特徴とする遊技機ＫＣ３。

【６８７９】

遊技機ＫＣ３によれば、遊技機ＫＣ１又はＫＣ２の奏する効果に加え、第１手段が当接手段と当接し停止されることに基づいて、第２手段が第２位置に配置されることから、第２手段を係止する必要を無くすことができるので、第２手段を第２位置で停止させるために第２手段に大きな荷重がかけられるという事態を避けることができ、第２手段の破損を防止することができる。

【６８８０】

遊技機ＫＣ３において、前記当接手段は、前記第１手段に回転方向から当接する面であって、前記第２手段の移動方向に対して傾斜する傾斜面として構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ４。

【６８８１】

遊技機ＫＣ４によれば、遊技機ＫＣ３の奏する効果に加え、傾斜面に第１手段が当接している状態で、第１手段に第２手段の移動方向の荷重が加えられた場合に、その荷重を、所定軸へ向かう方向と、第１手段の回転方向とに分散させることができる。これにより、

所定軸が受ける荷重を低減することができる。
【６８８２】
遊技機ＫＣ１からＫＣ４のいずれかにおいて、前記第１手段が所定方向に回転動作され前記第２手段が前記第１位置から前記第２位置まで移動された後に継続される前記第１手段の回転動作により、前記第２手段が移動されないように構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ５。
【６８８３】
遊技機ＫＣ５によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ４のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の過回転による第２手段の配置のずれを回避し易くすることができる。
【６８８４】
遊技機ＫＣ１からＫＣ５のいずれかにおいて、前記第２手段を前記第２位置から前記第１位置へ移動開始させる場合に、予め移動を開始されている前記第１手段の移動方向が、前記第２手段の移動方向に沿う方向になるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ６。
【６８８５】
遊技機ＫＣ６によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ５のいずれかの奏する効果に加え、第１移動手段の移動方向に因らず第２手段の移動タイミングの時間遅れを短くすることができるので、第２手段の演出効果を改善することができる。
【６８８６】
遊技機ＫＣ１からＫＣ６のいずれかにおいて、前記第１手段の回転量に比例して前記第２手段の移動方向で移動可能とされる第３手段を備えることを特徴とする遊技機ＫＣ７。
【６８８７】
遊技機ＫＣ７によれば、遊技機ＫＣ１からＫＣ６のいずれかの奏する効果に加え、第２手段の移動を開始させる前に予め第１手段を回転させている状態において、第３手段を移動させることができるので、遊技機の演出効果を向上させることができる。
【６８８８】
遊技機ＫＣ３からＫＣ７のいずれかにおいて、前記第１手段の回転量には、前記第３手段の移動が生じない程度の限界値が設定されており、前記第２手段が前記第２位置に到達してから前記第１手段が前記当接手段に当接するまでの回転量は、前記限界値以下となるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ８。
【６８８９】
遊技機ＫＣ８によれば、遊技機ＫＣ３からＫＣ７のいずれかの奏する効果に加え、第１手段の過回転により第３手段が位置ずれすることを回避することができる。
【６８９０】
遊技機ＫＣ７又はＫＣ８において、前記第２手段を移動させない範囲における前記第１手段の往復動作を可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＣ９。
【６８９１】
遊技機ＫＣ９によれば、遊技機ＫＣ７又はＫＣ８の奏する効果に加え、第２手段の移動が生じる場合に比較して、第３手段を抵抗少なく移動させることができる。
【６８９２】
遊技機ＫＣ９において、前記第１手段への駆動力伝達が、第１手段の所定量の移動を待たずに停止されるよう制御されることを特徴とする遊技機ＫＣ１０。
【６８９３】
遊技機ＫＣ１０によれば、遊技機ＫＣ９の奏する効果に加え、駆動力による勢いで移動した第１手段が、第２手段の慣性抵抗（静止摩擦）により停止されることになるので、第１手段の所定量の移動中において駆動力伝達を生じさせ続ける場合に比較して、第２手段の誤動作を回避し易くすることができる。
【６８９４】
＜球に対する光の見え方を演出に利用するように発光手段を配置する＞
遊技球が入球可能な入球領域と、遊技球を前記入球領域へ向かわせる状態を形成可能な

形成手段と、光を照射可能な光照射手段と、を備え、前記入球領域へ向かう第１流下態様または前記入球領域へ向かわない第２流下態様で遊技球を流下させ得るよう構成され、遊技球が前記第１流下態様で流下している場合における前記光照射手段からの光の見え方と、遊技球が前記第２流下態様で流下している場合における前記光照射手段からの光の見え方とを異ならせるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＤ１。

【６８９５】

パチンコ機等の遊技機において、入球領域に遊技球を案内可能な状態と案内不能な状態とを切り替える可動体よりも上流側の下側領域に光照射手段を配置し、発光演出を行う遊技機がある（例えば、特開２０１６－１２０２２０号公報を参照）。

【６８９６】

しかし、上述した従来の遊技機では、光照射手段の上側に形成される坂の上を遊技球が流下するものであり、光照射手段からの光が照射される領域には遊技球が入り込まないよう構成されているので、遊技球が流下した場合に光の見え方が変化することは無く光照射手段の付近では遊技球が明るく見えるのだが、可動体と光照射手段との間に若干の距離があるために可動体側に光が届きにくく、可動体付近が暗く視認されてしまい、通常の注目力で行う遊技では入球領域に遊技球が入っているのかどうかが判別し難い。

【６８９７】

そのため、遊技者に可動体付近を覗き込む遊技を強いることになり、遊技者の遊技負担を大きくさせ、興趣の向上を図れなくなる可能性があった。即ち、上述した従来の遊技機では、遊技者の興趣の向上の観点で改善の余地があるという問題点があった。

【６８９８】

これに対し、遊技機ＫＤ１によれば、遊技球が入球領域へ向かう第１流下態様で流下しているか、遊技球が入球領域へ向かわない第２流下態様で流下しているかによって、光照射手段からの光の見え方を異ならせるよう構成されているので、光照射手段からの光を視認することにより、遊技球が入球領域へ向かっているか否かを遊技者に把握させることができる。これにより、遊技者の遊技負担を低減させることができ、遊技者の興趣の向上を図ることができる。

【６８９９】

遊技機ＫＤ１において、前記光照射手段は、前記第１流下態様で流下する遊技球に光が遮蔽されない位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ２。

【６９００】

遊技機ＫＤ２によれば、遊技機ＫＤ１の奏する効果に加え、遊技球が入球領域に入球を継続している場合においても、光照射手段からの光による演出効果を維持することができる。

【６９０１】

遊技機ＫＤ１又はＫＤ２において、前記光照射手段は、前記形成手段を光で照らす位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ３。

【６９０２】

遊技機ＫＤ３によれば、遊技機ＫＤ１又はＫＤ２の奏する効果に加え、形成手段の視認性が低下することを回避し易くすることができる。

【６９０３】

遊技機ＫＤ３において、前記形成手段よりも正面側に配置され遊技球の流下経路を覆う覆設手段を備え、前記覆設手段の正面側に描かれる形状は、前記形成手段の形状に沿う形状とされることを特徴とする遊技機ＫＤ４。

【６９０４】

遊技機ＫＤ４によれば、遊技機ＫＤ１からＫＤ３のいずれかの奏する効果に加え、形成手段の視認性が向上されることに伴って、覆設手段の視認性を向上させることができる。即ち、形成手段を介して視認される光により覆設手段の正面側に描かれる形状を明るく照らすことができ、演出効果を向上させることができる。

【６９０５】

遊技機ＫＤ４において、前記覆設手段に描かれる前記形状は、後方を視認し易い第１視認部と、その視認容易部よりも視認性が劣る第２視認部とから形成され、前記第１視認部は、少なくとも前記第１流下態様における遊技球の流下経路の前方に形成され、前記形成手段を介して進行する光は、前記第１視認部を通過することを特徴とする遊技機ＫＤ５。

【６９０６】

遊技機ＫＤ５によれば、遊技機ＫＤ４の奏する効果に加え、第１流下態様で流下する遊技球に対する注目力を向上させることができると共に、第１視認部を明るくすることで後方の視認性を向上させることができる。

【６９０７】

遊技機ＫＤ１からＫＤ５のいずれかにおいて、形成手段を支持する支持手段を備え、その支持手段は、形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射可能に形成される反射部を備えることを特徴とする遊技機ＫＤ６。

【６９０８】

遊技機ＫＤ６によれば、遊技機ＫＤ１からＫＤ５のいずれかの奏する効果に加え、形成手段の色味が反射部を介しても視認されるように構成することができる。

【６９０９】

遊技機ＫＤ６において、前記反射部は、前記形成手段が遊技球を前記入球領域へ向かわせる状態では形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射可能とされ、前記形成手段が遊技球を前記入球領域へ向かわせない状態では形成手段から反射する光を正面側へ向けて反射不可能とされることを特徴とする遊技機ＫＤ７。

【６９１０】

遊技機ＫＤ７によれば、遊技機ＫＤ６の奏する効果に加え、反射部の視認態様と、形成手段の状態とが対応づけられる。これにより、形成手段の状態の変化が分かり難い場合であっても、反射部を視認することで形成手段の状態を把握することができるので、遊技者の遊技負担を軽減させることができる。

【６９１１】

遊技機ＫＤ６又はＫＤ７において、前記反射部は、遊技球の流下経路よりも上側に形成されることを特徴とする遊技機ＫＤ８。

【６９１２】

遊技機ＫＤ８によれば、遊技機ＫＤ６又はＫＤ７の奏する効果に加え、流下経路を流下する遊技機により反射部が隠される事態を回避し易くすることができる。

【６９１３】

遊技機ＫＤ３からＫＤ８のいずれかにおいて、前記覆設手段は、前記形成手段を背景として視認可能な位置に前記形成手段よりも小さな形状部を備えることを特徴とする遊技機ＫＤ９。

【６９１４】

遊技機ＫＤ９によれば、遊技機ＫＤ３からＫＤ８のいずれかの奏する効果に加え、形成手段を背景とした形状部の視認態様と、形成手段を背景としない形状部の視認態様とを異ならせることで、固定の覆設手段の見え方を変化させることができる。

【６９１５】

遊技機ＫＤ９において、前記形状部が、前記形成手段の上流側位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＤ１０。

【６９１６】

遊技機ＫＤ１０によれば、遊技機ＫＤ９の奏する効果に加え、形状部により注目させる箇所を形成手段の上流側位置とすることで、形状部付近で遊技者に視認された遊技球が入球領域に入球するまでの時間を長く確保することができる。これにより、遊技者に入球領域への入球を確認させる時間的余裕を与えることができる。

【６９１７】

＜化粧板の背後の変位手段の見え方が配置によって異なる＞

遊技球が入球可能な入球領域と、遊技球を前記入球領域へ向かわせる第１位置と遊技球

を前記入球領域へ向かわせない第２位置とに変位可能な変位手段と、光透過性材料から形成され、所定方向視で前記変位手段の少なくとも一部と重なるよう配置される透過手段と、を備え、前記透過手段には所定の装飾が施され、前記変位手段が前記第１位置に配置されるか前記第２位置に配置されるかによって、前記所定方向視における前記変位手段と前記透過手段との重なる領域が変化し得ることを特徴とする遊技機ＫＥ１。

【６９１８】

パチンコ機等の遊技機において、入球領域の正面側に覆設される化粧部材が可動とされ、その化粧部材を動かすことで入球領域付近の見え方を変化させる遊技機がある（例えば、特開２０１５－１０７２９３号公報を参照）。

【６９１９】

しかし、上述した従来の遊技機では、化粧部材を動作させるための駆動手段や伝達機構が別途必要となることから、入球領域付近の領域が駆動手段や伝達機構により圧迫され易く、入球領域付近の設計自由度が低くなるという問題点があった。

【６９２０】

これに対し、遊技機ＫＥ１によれば、透過手段を通して変位手段が視認される構造において、変位手段の配置が変化することで透過手段と変位手段とが重なる領域が変化することから、透過手段を動作させなくても透過手段の所定の装飾を異なる態様で視認させることができる。これにより、駆動手段や伝達機構が配設されるスペースを空けることができ、入球領域付近の設計自由度を向上させることができる。

【６９２１】

遊技機ＫＥ１において、前記変位手段が前記第１位置に配置された状態で、前記変位手段が前記所定の装飾の背景とされることで、前記変位手段が前記第２位置に配置された状態に比較して前記所定の装飾を判別し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＫＥ２。

【６９２２】

遊技機ＫＥ２によれば、遊技機ＫＥ１の奏する効果に加え、変位手段が第１位置に配置された状態で所定の装飾を判別し易くなるので、所定の装飾に注目することで、変位手段の状態を把握し易くすることができる。更に、判別し易い状態において変位手段が遊技球を入球領域に向かわせることで、更に入球領域付近への注目力を上昇させることができる。

【６９２３】

遊技機ＫＥ１又はＫＥ２において、前記所定の装飾は、前記入球領域と関連する形状とされることを特徴とする遊技機ＫＥ３。

【６９２４】

遊技機ＫＥ３によれば、遊技機ＫＥ１又はＫＥ２の奏する効果に加え、所定の装飾への注目を、入球領域への注目へと誘導させ易くすることができる。

【６９２５】

遊技機ＫＥ１からＫＥ３のいずれかにおいて、前記入球領域は、前記所定方向視とは異なる方向視であって、前記所定の装飾と前記変位手段とが重ならない方向視において視認可能な位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＥ４。

【６９２６】

遊技機ＫＥ４によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ３のいずれかの奏する効果に加え、所定の装飾における視認態様の変化を煩わしく感じる遊技者に対して、遊技負担を低減させることができる。

【６９２７】

遊技機ＫＥ１において、前記変位手段が前記第１位置に配置された状態で、前記変位手段が前記所定の装飾の後方から退避されることで、前記変位手段が前記第２位置に配置された状態に比較して前記所定の装飾を判別し易いように構成されることを特徴とする遊技機ＫＥ５。

【６９２８】

遊技機ＫＥ５によれば、遊技機ＫＥ１の奏する効果に加え、変位手段が第１位置に配置された状態で所定の装飾を判別し易くなるので、所定の装飾に注目することで、変位手段の状態を把握し易くすることができる。更に、判別し易い状態において変位手段が遊技球を入球領域に向かわせることで、更に入球領域付近への注目力を上昇させることができる。

【６９２９】

遊技機ＫＥ１からＫＥ５のいずれかにおいて、前記入球領域を複数備え、前記所定の装飾が、各入球領域に対応して複数設けられることを特徴とする遊技機ＫＥ６。

【６９３０】

遊技機ＫＥ６によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ５のいずれかの奏する効果に加え、所定の装飾を視認することで、複数の入球領域のどこに遊技球が案内されるのかを把握し易くすることができる。

【６９３１】

遊技機ＫＥ６において、複数の前記所定の装飾は、異なる大きさで形成されることを特徴とする遊技機ＫＥ７。

【６９３２】

遊技機ＫＥ７によれば、遊技機ＫＥ６の奏する効果に加え、所定の装飾による遊技球の入球先の判別をしやすくすることができる。また、複数の入球領域の利益差に応じて、所定の装飾の大小関係が設定されることで、遊技者に直感的に得られる利益を把握させることができる。

【６９３３】

遊技機ＫＥ６又はＫＥ７において、複数の前記所定の装飾は、一方の内部に他方が配置される態様で設けられることを特徴とする遊技機ＫＥ８。

【６９３４】

遊技機ＫＥ８によれば、遊技機ＫＥ６又はＫＥ７の奏する効果に加え、複数の所定の装飾に注目させる場合に、遊技者が目線を変えることを不要することができる。これにより、遊技者の遊技負担を軽減することができる。

【６９３５】

遊技機ＫＥ１からＫＥ８のいずれかにおいて、前記透過手段は、前記変位手段の位置を合わせる位置合わせ部を備えることを特徴とする遊技機ＫＥ９。

【６９３６】

遊技機ＫＥ９によれば、遊技機ＫＥ１からＫＥ８のいずれかの奏する効果に加え、位置合わせ部により、変位手段が第１状態とされた場合における変位手段と所定の装飾との位置ずれを抑制することができる。

【６９３７】

遊技機ＫＥ９において、前記位置合わせ部は、前記所定の装飾とは異なる位置に配設されることを特徴とする遊技機ＫＥ１０。

【６９３８】

遊技機ＫＥ１０によれば、遊技機ＫＥ９の奏する効果に加え、所定の装飾の視認性を確保することができる。

【６９３９】

＜複数の層を組み合わせて一連の装飾となる構造＞

第１の層に第１手段が配置可能とされ、所定方向視において前記第１の層の後方の第２の層に第２手段が配置可能とされる遊技機において、前記第２手段は、前記第１手段に対して独立して変位可能であり、前記所定方向視において所定領域に配置される前記第１手段および前記第２手段が、一連で視認され得ることを特徴とする遊技機ＫＦ１。

【６９４０】

パチンコ機等の遊技機において、はさみの刃を模した形状から形成される第１手段および第２手段を備え、第１手段および第２手段により一連で視認される遊技機がある（例えば、特開２０１１－１１０２５５号公報を参照）。

【６９４１】
しかし、上述した従来の遊技機では、第１手段および第２手段が互いに連動しているため、動作速度が遅くなり、第１手段および第２手段が液晶表示装置の外方に配置された状態から、第１手段および第２手段が液晶表示装置の前方に配置されて一連で視認させる状態に変化するまでに時間が長くかかることになり、演出の自由度が低くなる可能性があるという問題点があった。即ち、第１手段および第２手段の演出効果に改善の余地があるという問題点があった。
【６９４２】
これに対し、遊技機ＫＦ１によれば、第１手段が、第２手段に対して独立して変位可能に構成されているので、第１手段の動作速度が第２手段の重さにより制限されることを避けることができ、第１手段および第２手段の動作の迅速化を図ることができ、第１手段および第２手段の演出効果を向上させることができる。なお、第１の層や第２の層は、表示装置の前方に配置される層でも良いし、表示装置の内部に設けられる層や、表示のレイヤーでも良い。
【６９４３】
遊技機ＫＦ１において、前記第１手段が可動とされる状態と非可動とされる状態とを切替可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＦ２。
【６９４４】
遊技機ＫＦ２によれば、遊技機ＫＦ１の奏する効果に加え、第１手段で動的に演出する状態と、第１手段を非可動として一連の形状に注目させる状態とを切り替えることができる。
【６９４５】
遊技機ＫＦ１又はＫＦ２において、前記第１手段が非可動とされる状態において前記第２手段が可動とされることを特徴とする遊技機ＫＦ３。
【６９４６】
遊技機ＫＦ３によれば、遊技機ＫＦ１又はＫＦ２の奏する効果に加え、第２手段についても第１手段に独立して変位可能とされることから、動作演出のバリエーションを増加させることができる。
【６９４７】
遊技機ＫＦ１からＫＦ３のいずれかにおいて、前記第１手段は、動作手段と被動作手段とを備え、動作手段の変位が、被動作手段の状態に対応して生じるよう構成されることを特徴とする遊技機ＫＦ４。
【６９４８】
遊技機ＫＦ４によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ３のいずれかの奏する効果に加え、動作手段と被動作手段とが独立動作する場合のように互いに衝突することを防止することができる。
【６９４９】
遊技機ＫＦ１からＫＦ４のいずれかにおいて、前記第１手段と前記第２手段とが一連で視認されない状態から、前記第１手段と前記第２手段とが移動することで互いに近づいた近接状態において一連で視認されることを特徴とする遊技機ＫＦ５。
【６９５０】
遊技機ＫＦ５によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ４のいずれかの奏する効果に加え、一連で視認される範囲を狭めることができるので、遊技者の遊技負担を低減することができる。
【６９５１】
遊技機ＫＦ１からＫＦ５のいずれかにおいて、前記第１手段または前記第２手段は、前記所定領域で動作が停止され、前記所定領域以外の領域では動作が継続され得ることを特徴とする遊技機ＫＦ６。
【６９５２】
遊技機ＫＦ６によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ５のいずれかの奏する効果に加え、所定

領域において一連で視認される場合以外における第１手段または第２手段の視認態様を継続動作により変化させることができるので、一連で視認される態様への注目力を向上させることができる。

【６９５３】

遊技機ＫＦ１からＫＦ６のいずれかにおいて、前記第１手段で囲われる領域に前記第２手段が配置され、前記第２手段の発光態様に対応して、前記第１手段の発光態様が変化されることを特徴とする遊技機ＫＦ７。

【６９５４】

遊技機ＫＦ７によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ６のいずれかの奏する効果に加え、発光態様を対応させることにより第１手段および第２手段による演出効果を向上させることができる。

【６９５５】

遊技機ＫＦ１からＫＦ７のいずれかにおいて、前記所定方向視において前記第１手段または前記第２手段と重なり得る位置に表示領域を有する表示装置を備え、前記表示領域からの光が、前記第１手段または前記第２手段に対応する領域で照らされることを特徴とする遊技機ＫＦ８。

【６９５６】

遊技機ＫＦ８によれば、遊技機ＫＦ１からＫＦ７のいずれかの奏する効果に加え、表示装置の表示領域からの光により第１手段または第２手段を明るく照らすことができ、演出効果を向上させることができる。

【６９５７】

遊技機ＫＦ８において、前記表示領域からの光の態様が、前記第１手段または前記第２手段の変位中と、前記第１手段または前記第２手段の非変位中とで変化可能とされることを特徴とする遊技機ＫＦ９。

【６９５８】

遊技機ＫＦ９によれば、遊技機ＫＦ８の奏する効果に加え、第１手段または第２手段の見せ方を、変位中と非変位中とで異ならせることができるので、一連で視認させる状態と、それ以外の状態とで、第１手段または第２手段の見せ方にバリエーションを設けることができる。

【６９５９】

遊技機ＫＦ８又はＫＦ９において、前記表示領域で、前記第１手段または前記第２手段の視認態様に対応した表示がされることを特徴とする遊技機ＫＦ１０。

【６９６０】

遊技機ＫＦ１０によれば、遊技機ＫＦ８又はＫＦ９の奏する効果に加え、第１手段または第２手段が透過性材料で構成されている場合に、表示領域における表示と第１手段または第２手段自体の装飾とが組み合わされた視認態様で視認させることができる。

【６９６１】

また、第１手段または第２手段に動作不良が生じた場合であっても、表示領域における表示を第１手段または第２手段に代替させることができ、演出効果の低下を最小限に留めることができる。

【６９６２】

＜ベース板の裏側に基板を配置＞

正面側に遊技領域が形成される遊技盤と、その遊技盤に光を照射する光照射手段と、を備え、前記光照射手段は、前記遊技盤の厚さ方向に対して交差する方向で光が前記遊技盤に進入し得る位置に配置されることを特徴とする遊技機ＫＧ１。

【６９６３】

パチンコ機等の遊技機において、遊技盤の背面側に発光基板が配設され、発光基板に配設されるＬＥＤ等の発光手段から正面側へ向けて光が照射されることで、遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材を明るく照らすように構成される遊技機がある（例えば、特開２００６－３３３８８７号公報を参照）。

【６９６４】
しかし、上述した従来の遊技機では、限られた発光手段で遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材の広い範囲を明るく照らすために、発光基板を遊技盤からある程度離して配設する必要があるため、そのためのスペースを遊技盤の背面側に確保する必要がある一方で、発光基板と遊技盤との間に演出用の可動役物を配設してしまうと、遊技盤や遊技盤に組み付けられる光透過性の部材に可動役物の影が映ることで暗くなってしまうため、この観点からは発光手段を遊技盤側に寄せて可動役物の配設スペースを作りたいという、相反する課題があった。即ち、光照射手段の配置に関して改善の余地があるという問題点があった。
【６９６５】
これに対し、遊技機ＫＧ１によれば、光照射手段からの光は遊技盤の厚さ方向に対して交差する方向で遊技盤に進入し得る位置に配置されることから、遊技盤の厚さ幅の内側で光の照射範囲を拡げられ、光により照らす面積を増大させることができることから遊技盤を明るく視認させることができると共に、光照射手段を遊技盤の後方に離して配置する必要がないので、遊技盤の背面側に可動役物の配設スペースを十分確保することができる。即ち、光照射手段の配置を改善することができる。
【６９６６】
遊技機ＫＧ１において、前記光照射手段は、前記遊技盤の後方に配設されることを特徴とする遊技機ＫＧ２。
【６９６７】
遊技機ＫＧ２によれば、遊技機ＫＧ１の奏する効果に加え、光照射手段を遊技盤で隠すように配設することができ、見栄えを良くすることができる。
【６９６８】
遊技機ＫＧ１又はＫＧ２において、前記遊技盤は前記遊技領域が形成される範囲外において背面側に凹設される凹設部を備え、その凹設部により形成される空間に前記光照射手段が配置されることを特徴とする遊技機ＫＧ３。
【６９６９】
遊技機ＫＧ３によれば、遊技機ＫＧ１又はＫＧ２の奏する効果に加え、光照射手段を遊技盤の厚み寸法内に収めることができるので、遊技盤の背面側のスペースを確保し易くすることができる。
【６９７０】
遊技機ＫＧ１からＫＧ３のいずれかにおいて、前記遊技盤は、背面側面に前記光照射手段からの光を正面側へ向けさせるための変化部を備えることを特徴とする遊技機ＫＧ４。
【６９７１】
遊技機ＫＧ４によれば、遊技機ＫＧ１からＫＧ３のいずれかの奏する効果に加え、変化部の配置により正面視における光の見え方を容易に設計することができる。
【６９７２】
遊技機ＫＧ４において、前記遊技盤は、前記変化部にシボ加工が形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ５。
【６９７３】
遊技機ＫＧ５によれば、遊技機ＫＧ４の奏する効果に加え、変化部で光を拡散させることができ、変化部を明るく視認させるためのＬＥＤ等の光照射部の個数を削減させることができる。
【６９７４】
遊技機ＫＧ４又はＫＧ５において、前記変化部は、前記光照射手段から所定の光軸で発射される光が到達し得る複数位置に形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ６。
【６９７５】
遊技機ＫＧ６によれば、遊技機ＫＧ４又はＫＧ５の奏する効果に加え、所定の光軸で発射される光により変化部が明るく視認される範囲を広げることができる。
【６９７６】

遊技機ＫＧ４からＫＧ６のいずれかにおいて、前記変化部は、前記遊技盤の内側の開口部の縁部に周状に形成されることを特徴とする遊技機ＫＧ７。

【６９７７】

遊技機ＫＧ７によれば、遊技機ＫＧ４からＫＧ６のいずれかの奏する効果に加え、遊技盤の内側の開口部の縁部を略円環状に照らすことができる。これにより、開口部内側に配置される表示装置への視線誘導をし易くすることができる。

【６９７８】

遊技機ＫＧ７において、前記変化部は、前記開口部の縁部前端よりも縁部後端の方が開口が大きくなるように構成されることを特徴とする遊技機ＫＧ８。

【６９７９】

遊技機ＫＧ８によれば、遊技機ＫＧ７の奏する効果に加え、開口部の縁部前端を基準として遊技盤にセンターフレームを配設することができ、変化部を介する光によりセンターフレームを明るく照らすことができる。

【６９８０】

遊技機ＫＧ１からＫＧ８のいずれかにおいて、前記光照射手段から前記遊技盤に進入した光の進行方向が正面側へ向けられるまでの間、その光は前記遊技盤の厚み寸法内を進行することを特徴とする遊技機ＫＧ９。

【６９８１】

遊技機ＫＧ９によれば、遊技機ＫＧ１からＫＧ８のいずれかの奏する効果に加え、正面側へ向けられる前の光が遊技領域内を進行する場合と異なり、遊技領域を流下する球に光が遮られることを回避することができる。

【６９８２】

遊技機ＫＧ９において、前記光照射手段から前記遊技盤に進入した光は、前記遊技領域に配設される入球領域に入球した遊技球の通過経路を通過可能に構成されることを特徴とする遊技機ＫＧ１０。

【６９８３】

遊技機ＫＧ１０によれば、遊技機ＫＧ９の奏する効果に加え、光照射手段から進入した光が遮蔽された場合と、遊技球が入球領域に入球したこととを対応付けることができるので、光照射手段から照射される光に対する注目力を向上させることができる。

【６９８４】

遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１からＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１からＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１０及びＫＧ１からＫＧ１０のいずれかにおいて、前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機Ｚ１。中でも、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（ストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発

生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【６９８５】

遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１からＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１からＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１０及びＫＧ１からＫＧ１０のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機であることを特徴とする遊技機Ｚ２。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて球を所定の遊技領域へ発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（又は作動口を通過）することを必要条件として、表示手段において動的表示されている識別情報が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞装置（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【６９８６】

遊技機Ａ１からＡ１０、Ｂ１からＢ１０、Ｃ１からＣ１１、Ｄ１からＤ１２、Ｅ１からＥ１１、ＷＡ１－０からＷＡ１－５、ＷＡ２－１からＷＡ２－５、ＷＢ１－１からＷＢ１－６、ＷＢ２－１からＷＢ２－８、ＷＢ３－１からＷＢ３－３、ＷＣ１－１からＷＣ１－４、ＷＣ２－１からＷＣ２－５及びＷＤ１－１からＷＤ１－５、遊技機ＹＡ１からＹＡ１１、ＹＢ１からＹＢ１０、ＹＣ１からＹＣ１１、ＹＤ１からＹＤ５、ＹＥ１からＹＥ３、ＹＦ１からＹＦ３及びＹＧ１からＹＧ３、遊技機ＢＡ１からＢＡ１３、ＢＢ１からＢＢ３、ＢＢＺ１からＢＢＺ１１、ＢＣ１からＢＣ１１、ＢＤ１からＢＤ１３、ＢＥ１からＢＥ３、ＢＥＺ１からＢＥＺ１０、ＢＧ１からＢＧ１６、ＢＨ１からＢＨ１１、ＢＩ１からＢＩ３及びＢＩＺ１からＢＩＺ１１、遊技機ＣＡ１からＣＡ２６、ＣＢ１からＣＢ４、ＣＣ１からＣＣ４、ＤＡ１からＤＡ１９、ＤＢ１からＤＢ４、ＤＣ１からＤＣ４、ＤＤ１からＤＤ４、ＥＡ１からＥＡ４、ＥＢ１からＥＢ４及びＥＣ１からＥＣ５、遊技機ＦＡ１からＦＡ１３、ＦＢ１からＦＢ１２、ＦＣ１からＦＣ８又はＦＤ１からＦＤ５、遊技機ＫＡ１からＫＡ１０、ＫＢ１からＫＢ８、ＫＣ１からＫＣ１０、ＫＤ１からＫＤ１０、ＫＥ１からＫＥ１０、ＫＦ１からＫＦ１０及びＫＧ１からＫＧ１０のいずれかにおいて、前記遊技機はパチンコ遊技機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機Ｚ３。中でも、融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、或いは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として球を使用すると共に、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【符号の説明】
【６９８７】
１０　パチンコ機（遊技機）
１６　ガラスユニット（前側面構成手段）
８１　第３図柄表示装置（表示装置）
Ａ６０　ベース板（流下手段）
Ａ４００　第１動作ユニット（演出手段）
Ａ４００ｂ　回転動作ユニット（変位手段）
Ａ４１４　案内長孔（度合い変化手段、態様変化手段の一部）
Ａ４２３ａ　ベルト（無端ベルト）
Ａ４２７　連結機構（当接部）
Ａ４３０　基礎板部材（軸側手段、変位手段）
Ａ４４０　移動部材（構成手段の一部、第１構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ４４４　機能長孔（態様変化手段の一部）
Ａ４４８　柱状突設部（配置部）
Ａ４４９　配線（電気配線）
Ａ４５０　方向切替部材（構成手段の一部、第２構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ４６０　装飾部材（構成手段の一部、第２構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ５００　第２動作ユニット（演出手段）
Ａ５００ｂ　回転動作ユニット（変位手段）
Ａ５１４　案内長孔（度合い変化手段、態様変化手段の一部）
Ａ５２３ａ　ベルト（無端ベルト）
Ａ５２７　連結機構（配置部）
Ａ５３０　基礎部材（軸側手段、変位手段）
Ａ５３３　機能長孔（態様変化手段の一部）
Ａ５４０　移動部材（構成手段の一部、第１構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ５４６　柱状突設部（当接部）
Ａ５５０　方向切替手段（構成手段の一部、第２構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ５６０　変化部材（構成手段の一部、第２構成手段、相対変位手段の一部）
Ａ６６２　回転板部材（変位手段）
Ａ６７４　円弧状貫通孔（態様変化手段の一部）
Ａ７１０　枠状部材（押圧手段の一部）
Ａ７２０　発光基板（第１手段）
Ａ７２４　正面発光部（第１発光手段、複数の発光部）
Ａ７２５　背面発光部（第２発光手段、複数の発光部）
Ａ７３０　前側板部材（第１受光手段）
Ａ７４０　後側板部材（第２受光手段）
Ａ７５０　前カバー部材（押圧手段の一部、支持手段）
Ａ７５３　締結部（第１突設部）
Ａ７５４　円柱状締結部（第２突設部）
Ａ８０３ｚ　前側部材（正面側手段）
Ａ８０６　視認態様変化シート（方向選択手段）
Ａ８２０　正面発光基板（第１手段の一部、板状部材）
Ａ８３０　背面発光基板（第１手段の一部、板状部材）

Ａ４９２０　導光変位部材（方向選択手段の一部、板状手段）
Ａ４９３０　覆設部材（方向選択手段の一部、板状手段）
Ａ４９３３ａ　発光手段（光照射手段）
ＡＪ１　回転軸棒（回転軸）
ＡＪ２　回転軸棒（回転軸）
ＡＭＴ１　駆動モータ（駆動手段）
ＡＭＴ２　駆動モータ（駆動手段）
ＡＭＴ４　駆動モータ（駆動手段）
ＡＳＥ１　検出センサ（検出手段）
ＡＴＬ１　左側流路（第１の流路）
ＡＴＬ２　右側流路（第２の流路）
Ｗ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｗ２００，Ｗ２２００，Ｗ４２００，Ｗ７２００，Ｗｂ２００，Ｗｅ２００，Ｗｊ２００，Ｗｌ２００，Ｗｍ２００，Ｗｏ２００，Ｗｑ２００，Ｗｒ２００，Ｗｔ２００，Ｗｖ２００　ボックスカバー（第１部材、第２部材）
Ｗｊ２１４ａ　背面壁部（遮蔽手段）
Ｗｊ２１４ｂ　規制壁部（抑制手段）
Ｗ２２０　平面部（被当接部）
Ｗ２２３　両端壁部（当接部）
Ｗ２２４ａ，Ｗ２２４ｂ　凹部
Ｗｊ２５０　第２規制部（規制手段）
Ｗ３００，Ｗ２３００，Ｗ４３００，Ｗ５３００，Ｗ６３００，Ｗｂ３００，Ｗｅ３００，Ｗｊ３００，Ｗｋ３００，Ｗｍ３００，Ｗｎ３００，Ｗｓ３００，Ｗｕ３００　ボックスベース（第１部材、第２部材）
Ｗｋ３１２ｆ　係止部（規制手段）
Ｗ３２０，Ｗｅ３２０　平面部（被当接部）
Ｗ３２１　両端壁部（当接部）
Ｗ５３２６，Ｗ６３２６　凹部
Ｗ５００，Ｗ２５００，Ｗ３５００，Ｗ４５００，Ｗ５５００，Ｗ８５００，Ｗ９５００，Ｗａ５００，Ｗｂ５００，Ｗｃ５００，Ｗｄ５００，Ｗｅ５００，Ｗｆ５００，Ｗｇ５００，Ｗｈ５００，Ｗｉ５００，Ｗｊ５００，Ｗｋ５００，Ｗｌ５００，Ｗｍ５００，Ｗｎ５００，Ｗｏ５００，Ｗｐ５００，Ｗｑ５００，Ｗｕ５００，Ｗｖ５００，Ｗｗ５００，Ｗｘ５００，Ｗｙ５００　保護カバー（係合部材）
Ｗ５０１　下壁部（当接部）
Ｗ５０２　左壁部（本体部）
Ｗ５１０，Ｗ２５１０，Ｗ３５１０，Ｗｐ５１０，Ｗｑ５１０　背面壁部（本体部）
Ｗ５１０　背面壁部（当接部）
Ｗ５２０，Ｗ２５２０，Ｗ３５２０，Ｗｐ５２０，Ｗｑ５２０　正面壁部（本体部）
Ｗ５２０　正面壁部（当接部）
Ｗ５３０ａ，Ｗ２５３０ａ，Ｗ３５３０ａ，Ｗｂ５３０ａ，Ｗｅ５３０ａ，Ｗｆ５３０ａ，Ｗｇ５３０ａ，Ｗｊ５３０ａ，Ｗｌ５３０ａ，Ｗｏ５３０ａ，Ｗｐ５３０ａ，Ｗｑ５３０ａ，Ｗｖ５３０ａ，Ｗｙ５３０ａ　係合部
Ｗ５３０ａ　係合部（第１係合部、第２係合部）
Ｗ５３０ｂ，Ｗ２５３０ｂ，Ｗ３５３０ｂ，Ｗｂ５３０ｂ，Ｗｍ５３０ｂ，Ｗｎ５３０ｂ，Ｗｕ５３０ｂ　係合部（第１部分、第２部分）
Ｗ５３０ｂ　係合部（第１係合部、第２係合部）
Ｗ５３０ｂ１　係合部（第２係合部）
Ｗ５３０ｂ２　係合部（第１係合部）

Ｗ５３１ａ，Ｗｅ５３１ａ，Ｗｆ５３１ａ　連結片（連結部）
Ｗｅ５３１ａ　連結片（変更手段、当接部、連結部、一側連結部、他側連結部）
Ｗ５３１ｂ，Ｗ２５３１ｂ，Ｗ３５３１ｂ，Ｗ８５３１ｂ，Ｗ９５３１ｂ，Ｗｗ５３１ｂ，Ｗｘ５３１ｂ　連結片（連結部）
Ｗ９５３１ｂ１　第１部（第２部分）
Ｗ９５３１ｂ２　第２部（第１部分）
Ｗ４５３４，Ｗ５５３４，Ｗｑ５３４，Ｗｕ５３４，Ｗｖ５３４　突起（突部）
Ｗｄ５４０　立設部（規定部）
Ｗａ５５０，Ｗｂ５５０，Ｗｙ５５０　切断部（変更手段）
Ｗｂ５６０，Ｗｄ５６０　ガイド部（当接部）
Ｗｏ５８０　抜け止めピン（取付部材）
Ｗｏ５８３　係止部（突部）
ＷＳＬ　封印シール（配設部材）
１０　パチンコ機（遊技機）
１３　遊技盤（遊技盤本体）
６０　ベース板（遊技領域構成手段の一部）
６７　普通入賞口（検出手段、第２検出手段）
１１２ａ　球発射ユニット（遊技球発射装置）
６４０　第２入賞口（第２入球口）
６４０ａ　電動役物（動作手段）
６４３　右側案内部（第１動作部、第１流下位置）
６４５　左側案内部（第２動作部、第２流下位置）
７００　経路構成装置（遊技領域構成手段の一部）
７３４　第１球送球部（零れ防止手段）
７３６ａ　球通過孔（被案内入球口）
７４０　屈曲部材（案内手段の一部）
７５０　介設部材（案内手段の一部）
７６０　振分け部材（案内手段の一部）
７６５　普通入賞口（検出手段、第１検出手段）
９３０　入賞口ユニット（遊技領域構成手段の一部）
９４５　羽部材（移動手段、動作手段）
９４５ｅ　板状部（動作手段の一部、第１流下位置）
９４５ｍ　羽状本体（動作手段の一部、第２流下位置）
９８０　振分ユニット（遊技領域構成手段の一部、構成手段の一部）
３７６５　普通入賞口（検出手段、第２検出手段）
ＢＫ３　第３分岐通路（第２経路の一部）
ＳＥ３　検出装置（第１入球口）
ＳＥ４，ＳＥ５　検出装置（検出手段）
ＳＥ６　検出装置（第２入球口）
ＴＲ１　第１通路（第１経路の一部）
ＴＲ２　第２通路（第１経路の一部）
Ｂ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｂ１３　遊技盤（遊技盤）
Ｂ２２　枠ボタン（操作手段の一部）
Ｂ６４ｂ　第３入賞口（検出手段、第２検出手段、第１検出手段）
Ｂ６６，Ｂ６７　スルーゲート（開閉抽選入球口）
Ｂ８１　第３図柄表示装置（演出実行手段の一部、報知手段の

一部、変更手段の一部、演出切替手段の一部、操作報知手段の一部、表示手段）
Ｂ１１３　音声ランプ制御装置（演出実行手段の一部、報知手段の一部、変更手段の一部、演出切替手段の一部、操作報知手段の一部）
Ｂ４１０　板部材（入球制限手段の一部）
Ｂ４１３　中央開口部（入球領域の一部、下流側領域の一部、分岐位置の一部（第２位置）の後方に配置）
Ｂ４１４　球通過開口（入球領域の一部）
Ｂ４２０　前意匠部材（防止手段の一部）
Ｂ４２２　接合部（案内手段の一部、防止手段）
Ｂ４２３　仕切り板（案内手段の一部、防止手段）
Ｂ４２８　球案内突条（下流側領域の一部）
Ｂ４３０　中段部材（流下経路制限手段の一部）
Ｂ４３１　中央流路（案内手段の一部、中間部、流下手段の一部、非分岐位置の一部、案内経路の一部、所定部）
Ｂ４４０　上段部材（流下経路制限手段の一部）
Ｂ４５０　スライド部材（案内手段の一部、流下手段の一部、切替手段の一部、第１可動部）
Ｂ４５１　先端部（所定部、第１部）
Ｂ４５２　左案内板部（所定手段の一部、非分岐位置の一部）
Ｂ４５２ａ　傾斜面部（接近手段、重なり部、傾斜部）
Ｂ４５３　右案内板部（所定手段の一部、非分岐位置の一部）
Ｂ４５３ａ　傾斜面部（接近手段、重なり部、傾斜部）
Ｂ４７０　傾倒部材（案内手段の一部、下流側部、分岐位置の一部（第２位置）に配置、第２部、第２可動部）
Ｂ６４０　第２入賞口（検出手段、第１検出手段、第２検出手段）
Ｂ６４０ａ　電動役物（案内手段の一部、切替手段の一部）
Ｂ７００ａ　第２特定入賞口（流下領域、案内球選択手段の一部）
Ｂ７１５　貯留板部（下流側領域の一部、第１流下領域の一部、案内球選択手段の一部、滞留手段の一部）
Ｂ７３０　移動上蓋部材（開閉手段）
Ｂ７４０　移動床部材（滞留手段の一部、状態切替手段、当接可能手段）
Ｂ７５１　開口部（第２流下領域、案内球選択手段の一部）
Ｂ７８２　球抜き開口（第１流下領域の一部）
Ｂ８１０　特定表示（所定の表示演出の一部）
Ｂ８１１　時間表示（報知手段の一部、時間報知手段）
Ｂ８１２　終端位置（報知手段の一部、終了手段）
Ｂ８１３　枠ボタン表示（操作報知手段の一部）
Ｂ８１５　注意コメント表示（付属報知手段の一部）
Ｂ８１９　第２注意コメント表示（付属報知手段の一部）
ＢＢ３　球配置（分岐位置の一部、第１位置）
ＢＤＲ１　経路（流下領域の一部）
Ｂ２４５８ａ　球干渉突設部（減速手段）
Ｂ２４５８ｂ　球干渉突設部（減速手段）
Ｂ５７７０　切替装置（変位手段）
Ｂ５７７２　球受凹部（球受部）
Ｂ６８１１　発射時間表示（疑似時間報知手段）
Ｂ６８２２　目標示唆表示（示唆表示の一部）
Ｂ６８４１　遊技準備示唆表示（示唆表示の一部）

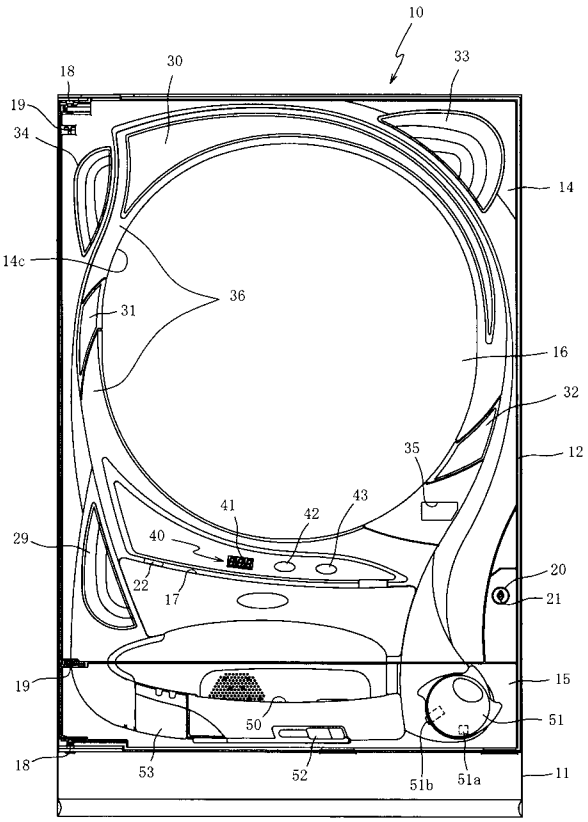
Ｂ７８１７	過去光量表示（差分報知手段）
Ｂ７８１８	過去音量表示（差分報知手段）
Ｃ１３	遊技盤
Ｃ６０	ベース板（遊技盤）
Ｃ６０ａ	開口
Ｃ１２２，Ｃ２１２２，Ｃ４１２２	下側底面部（往復面、第１の通路）
Ｃ１２２ａ	流出面（流出部）
Ｃ１２３ａ，Ｃ４１２３ａ	切り欠き部（流入部）
Ｃ１３０，Ｃ２１３０	背面部材（ベース部材）
Ｃ１４０，Ｃ２１４０	第１中間部材（ベース部材）
Ｃ１４２，Ｃ２１４２	底面部（上流面、第２の通路）
Ｃ１４４，Ｃ２１４４	通路部（第１の通路）
Ｃ１７０，Ｃ２１７０，Ｃ３１７０	振分部材（変位部材、本体部）
Ｃ１７２，Ｃ２１７２	受入部（第１面）
Ｃ１７２ｂ，Ｃ２１７２ｂ	底面部（第１面）
Ｃ１７３，Ｃ２１７３	転動部（第２面）
Ｃ２１７４	軸
Ｃ１９０	装飾部材（錘部）
Ｃ１９２	軸
Ｃ２３００	磁石（吸着部材）
Ｃ２４００，Ｃ５４００	磁性部（吸着部材、下面形成部材）
ＣＯＰｉｎ，ＣＯＰ２０００ｉｎ	受入口（流入部）
ＣＲｔ２	第２通路（第１の通路）
ＣＲｔ３	第３通路（第２の通路）
ＣＲｔ４	第４通路（第１の通路）
ＣＲｔ５	第５通路（第２の通路）
ＣＲｔ２００１	第１通路（第１の通路）
ＣＲｔ２００２	第２通路（第２の通路）
ＣＲｔ２００３	第３通路（第１の通路）
ＣＲｔ２００４	第４通路（第２の通路）
ＣＲｔ２００５	第５通路（第２の通路）
ＣＢ１	球（第１の球）
ＣＢ２	球（第２の球）
Ｄ１３	遊技盤（遊技機）
Ｄ１３１ｆ	突部（作用手段、突部）
Ｄ１３１ｆａ	第２突部（落下手段）
Ｄ１４１ｇ	突部（作用手段、突部）
Ｄ１７０，Ｄ３１７０，Ｄ８１７０	転動部材
Ｄ１８０	変位部材
Ｄ１９０，Ｄ２１９０，Ｄ３１９０，Ｄ５１９０，Ｄ７１９０	伝達部材（伝達手段）
Ｄ４２２０	第２転動部材（転動部材）
ＤＲｔ３	第３通路（上流通路）
ＤＲｔ６	第６通路（通路）
ＤＲｔ９	第９通路（落下通路）
Ｅ１３５ｂ	中央通路（入球手段）
Ｅ１５０，Ｅ６１５０，Ｅ７１５０，Ｅ８１５０，Ｅ１２１５０，Ｅ１３３１５０，Ｅ１４１５０，Ｅ１５１５０	振分通路（通路部材、第１通路部材）
Ｅ２１５０，Ｅ３１５０，Ｅ１１１５０	振分通路（通路部材）
Ｅ４１５０，Ｅ１６１５０	第２振分通路（通路部材、第２通路部材）
Ｅ５１５０，Ｅ１７１５０	第３振分通路（通路部材、第２通路部材）

Ｅ１５１，Ｅ１２１５１，Ｅ１３１５１，Ｅ１４１５１，Ｅ１５１５１　突起部（付与手段、突部、変化手段、変位手段）
Ｅ２１５１，Ｅ３１５１　転動面（転動部）
Ｅ１６０　中央通路（入球手段）
Ｅ１９０，Ｅ４１９０，Ｅ５１９０　駆動手段（変化手段、変位手段、第２変位手段）
Ｅ２１９０　弾性ばね（変位手段）
Ｅ１９６，Ｅ１９６ａ　ピニオンギヤ（変位手段）
Ｅ１９６ｂ，Ｅ１９６ｃ　ピニオンギヤ（第２変位手段）
Ｅ５１９６　第２ピニオンギヤ（第２変位手段）
Ｆ１３０　変位部材（第１変位手段）
Ｆ１３１ｂ　転動面（第２転動部）
Ｆ１３１ｃ　凹部（遅延手段、第１転動部）
Ｆ１３１ｄ　第３通路貫通孔（開口）
Ｆ１４３　開閉部材（第２変位手段）
Ｆ１４３Ｌ　左側開閉部材（第２変位手段）
Ｆ１４３Ｒ　右側開閉部材（第２変位手段）
Ｆ１４４　スライド部材（伝達手段）
Ｆ１４５　連結部材（伝達手段）
Ｆ５１２１　第２通路部（流下部）
Ｆ５１２３　第２通路壁部（第２規制手段）
Ｆ５１２５　第３通路壁部（第２規制手段）
Ｆ５１５４　振り分け部材（抑制手段）
Ｆ５１５４ｃ　振り分け部（抑制手段、第１規制手段）
Ｆ５１５５　変位部材（第１変位手段、第１手段）
Ｆ５１５５Ｌ　左側変位部材（第１変位手段、第１手段）
Ｆ５１５５Ｒ　右側変位部材（第１変位手段、第２手段）
Ｆ５１５５ｄ１　凹部（遅延手段、第１転動部）
Ｆ５１５５ｄ２　貫通孔（開口）
Ｆ５１５５ｅ　保持部（第２転動部、転動部、保持手段）
Ｆ５１５７　スライド部材（伝達手段）
Ｆ５１５８　開閉部材（第２変位手段）
Ｆ５１５８ａ　遮断部（第３手段）
Ｆ５１５８Ｌ　左側開閉部材（第２変位手段）
Ｆ５１５８Ｒ　右側開閉部材（第２変位手段）
Ｆ５１６２　通路部材（解除手段）
Ｆ５１６３　係合部材（維持手段）
Ｆ６１１２　下側通路（経路）
Ｆ６１１４　上側通路（経路）
Ｆ６１１４　上側通路（経路、傾斜部）
Ｆ６１１４ｃ　第１傾斜部（傾斜部）
Ｆ６１１４ｄ　第２傾斜部（傾斜部）
Ｆ６１６０　第１通路部材（形成手段）
Ｆ６１６２　凹部（形成手段）
Ｆ６１７４　変位通路部材（第１変位手段）
Ｆ６１７３　変位部材（第２変位手段、変化手段）
Ｆ６１７３ｂ１　湾曲面（案内部）
Ｆ６１７５　連結部材（伝達手段）
Ｆ７１８１　第２変位通路部材（第１変位手段）
Ｆ１１００１　センサ（変化手段）

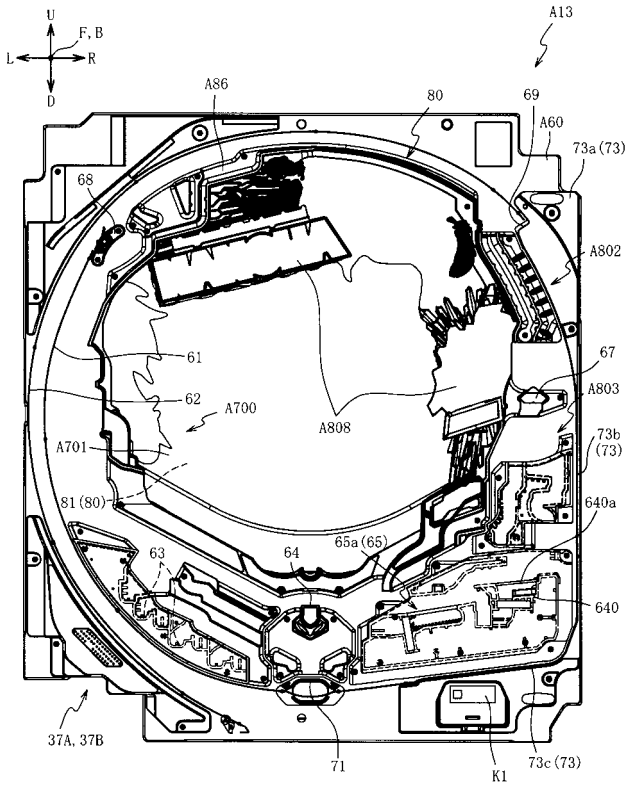
Ｆ１１００２　ソレノイド（変化手段）
Ｆ１１００３ａ　第１領域（第１位置）
Ｆ１１００３ｂ　第２領域（第２位置）
ＦＯＰｆ１，ＦＯＰｆ５１，ＦＯＰｆ６１　流入口（被流入部）
ＦＲｔ３　第３通路（第１転動部、第２転動部）
ＦＲｔ５２　第２通路（流下部、経路）
ＦＲｔ６３　第３通路（経路、傾斜部）
Ｋ１０　パチンコ機（遊技機）
Ｋ１３　遊技盤
Ｋ６０　ベース板（遊技盤）
Ｋ６０ａ　第１形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｂ　第２形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｃ　第３形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６０ｄ　第４形成凹部（凹設部の一部）
Ｋ６３　一般入賞口（入球領域の一部）
Ｋ６５ａ　第１特定入賞口（入球領域の一部）
Ｋ８１　第３図柄表示装置（表示装置）
Ｋ２０１　ベース部材（支持手段）
Ｋ２０７ａ　上縁部（反射部）
Ｋ２１２　発光部（光照射手段）
Ｋ２２０　化粧カバー（覆設手段、透過手段）
Ｋ２２１ａ　大形意匠（所定の装飾の一部）
Ｋ２２１ｂ　小形意匠（所定の装飾の一部）
Ｋ２２４　傾斜形成部（位置合わせ部）
Ｋ２５１　可動板（形成手段の一部、変位手段の一部）
Ｋ４００　前層側可動装置（第１手段の一部）
Ｋ４３０　回転部材（第１手段）
Ｋ４４４　突設部（接触防止部）
Ｋ４７０　状態変化装置（変化手段）
Ｋ４７６　上側回転部材（第２手段）
Ｋ５００　昇降装置（変位手段、動作手段）
Ｋ６４０ａ　電動役物（形成手段の一部、変位手段の一部）
Ｋ６４０　第２入賞口（入球領域の一部）
Ｋ７０１　第２可動手段（被動作手段）
Ｋ７１６　検出センサ（検出手段）
Ｋ７３０　伝達装置（伝達手段）
Ｋ７３１　駆動側二層ギア（第２伝達手段）
Ｋ７３２　円弧状部（防止手段、動作停止手段）
Ｋ７３３　伝達側二層ギア（第１伝達手段）
Ｋ７３５　アーム部材（第１移動手段）
Ｋ７６０　主装飾部材（第２移動手段）
Ｋ８００　後層側可動装置（第２手段）
Ｋ８２０　中側開閉部材（第３手段）
Ｋ８３０　前側開閉部材（第２手段）
Ｋ８６７　傾斜形成部（当接手段）
Ｋ８７４　延設回転部材（第１手段）
Ｋ９００　表示ランプ（第１手段の一部）
Ｋ２０６０　ベース板（遊技盤）
Ｋ２０６０ｅ　外形傾斜部（変化部）
Ｋ２０６０ｗ　傾斜開口部（変化部）

Ｋ２１００	光照射装置（光照射手段）
Ｋ３１００	光照射装置（光照射手段）
ＫＭＴ７１	駆動モータ（駆動手段）
ＫＳＰ７４	コイルスプリング（付勢手段）

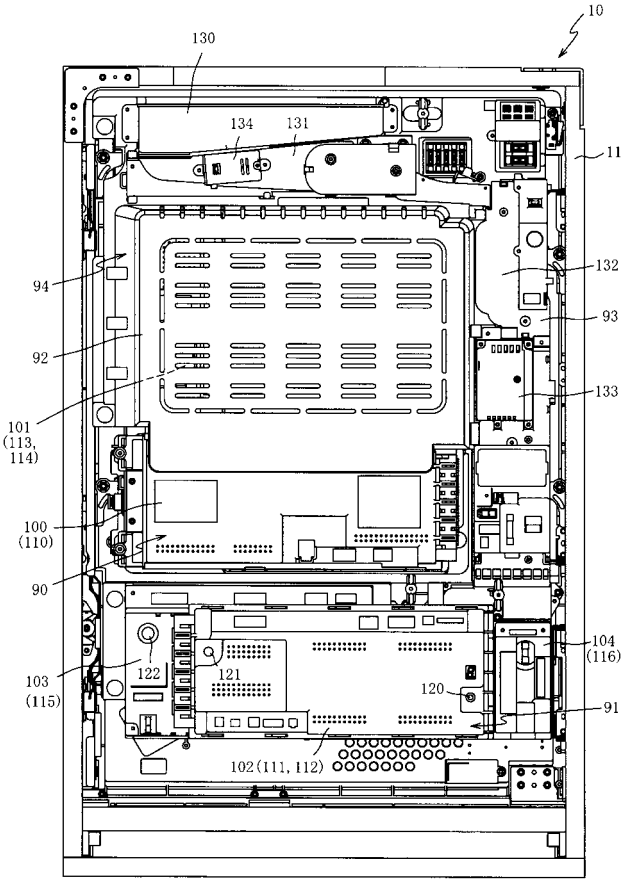
【図１】



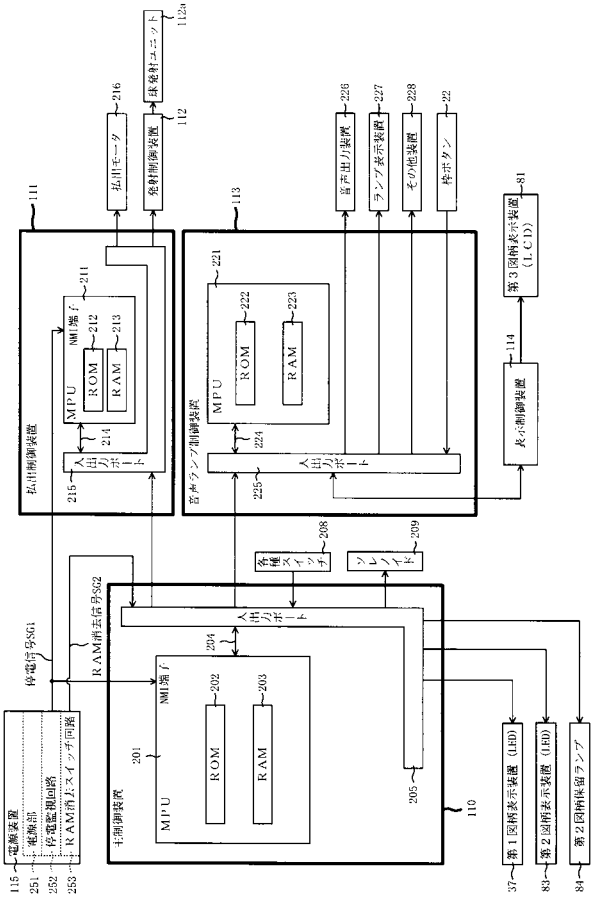
【図２】



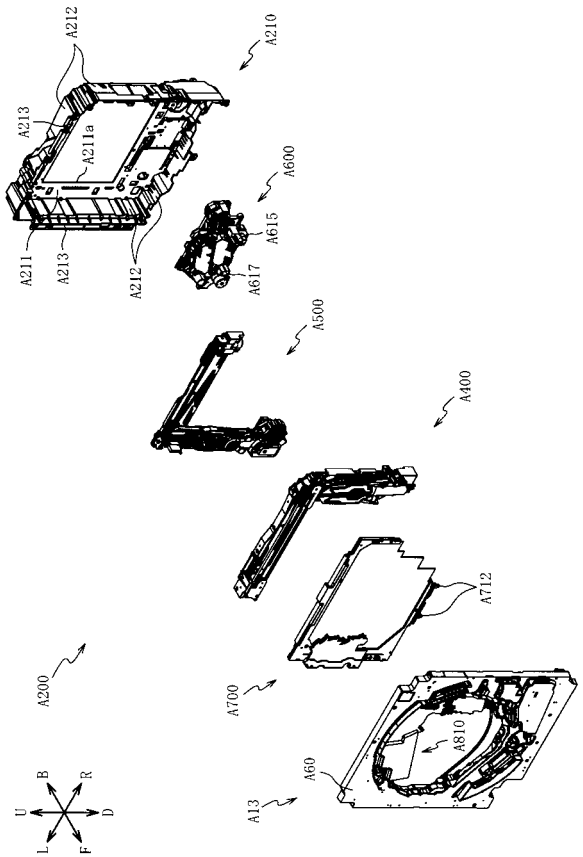
【図３】


10
130
134
131
11
132
93
133
94
92
101
(113,
114)
100
(110)
90
103
(115)
122
121
120
104
(116)
91
102(111, 112)

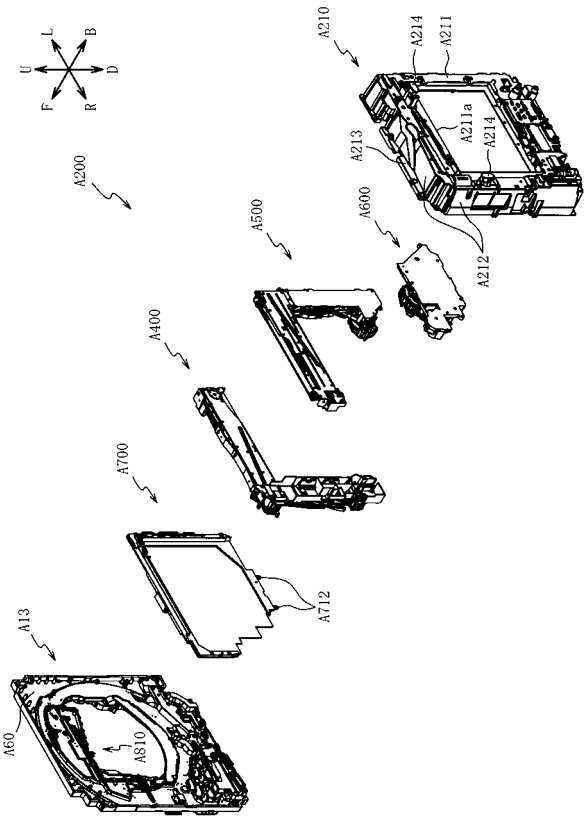
【図４】


払出制御装置
音声ランプ制御装置
主制御装置
電源装置
MPU
ROM
RAM
NMI端子
入出力ポート
払出モータ
発射制御装置
発射モータユニット
音声出力装置
ランプ表示装置
その他装置
枠ボタン
第3図柄表示装置
(LCD)
表示制御装置
各種スイッチ
ソレノイド
停電信号SG1
RAM消去信号SG2
電源部
停電監視回路
RAM消去スイッチ回路
第1図柄表示装置 (LED)
第2図柄表示装置 (LED)
第2図柄保留ランプ

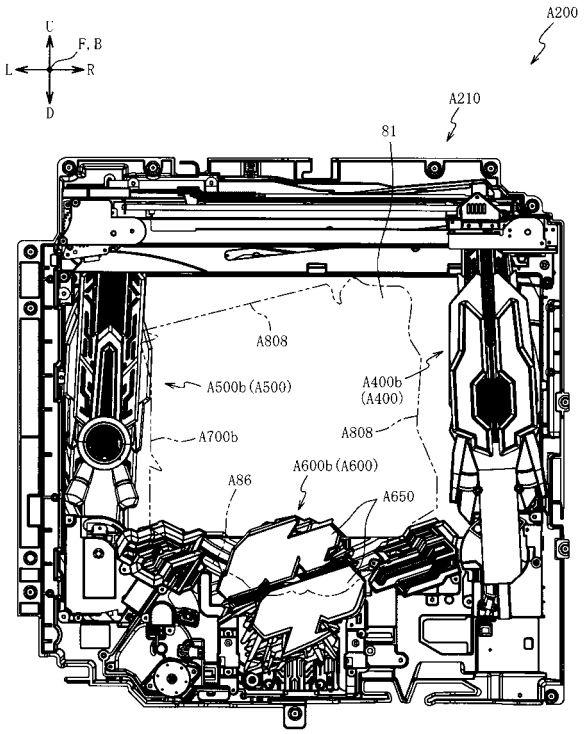
【図５】


A200
A210
A211
A212
A213
A211a
A600
A615
A617
A500
A400
A700
A712
A810
A60
A13
U
D
L
R
F
B

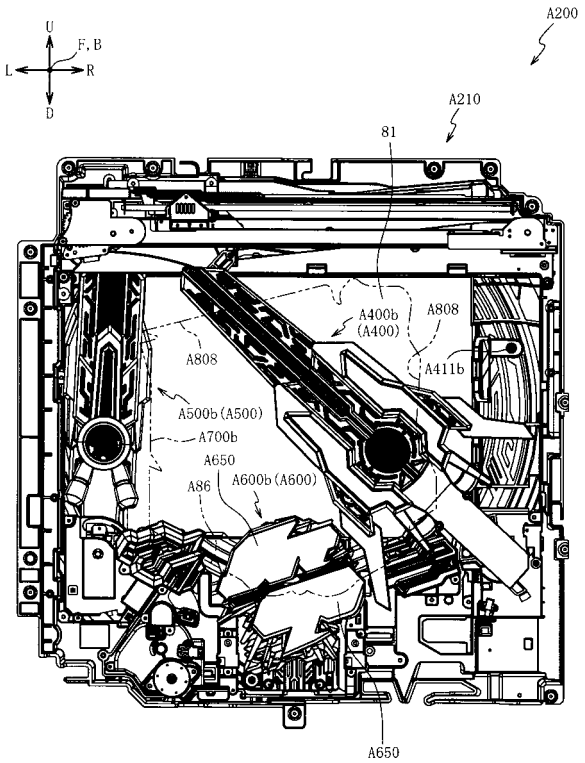
【図６】


A200
A210
A211
A212
A213
A214
A211a
A600
A500
A400
A700
A712
A810
A60
A13
U
D
L
R
F
B

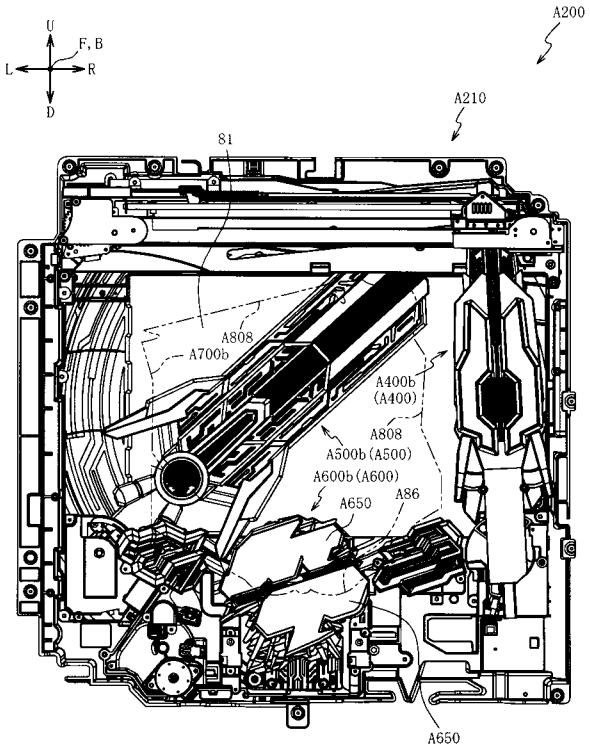
【図７】


U
F, B
L
R
D
A200
A210
81
A808
A500b (A500)
A400b (A400)
A700b
A808
A600b (A600)
A86
A650

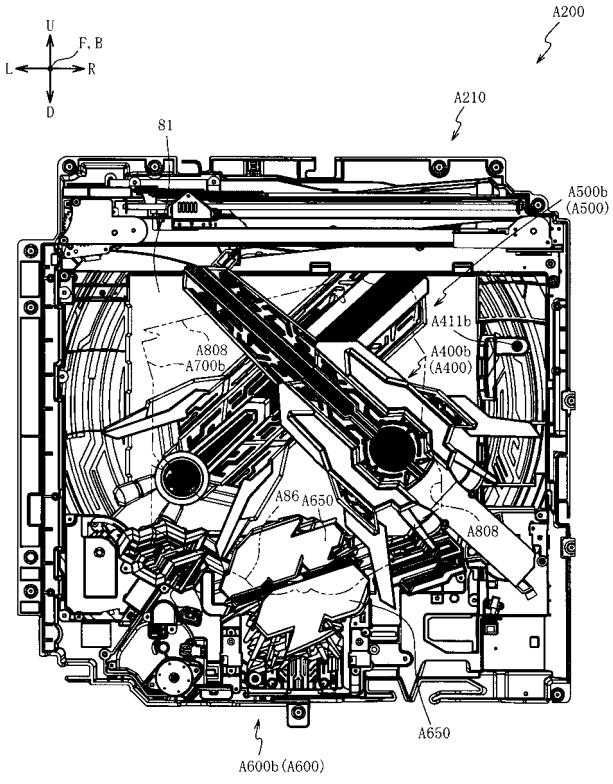
【図８】


U
F, B
L
R
D
A200
A210
81
A400b (A400)
A808
A808
A411b
A500b (A500)
A700b
A650
A86
A600b (A600)
A650

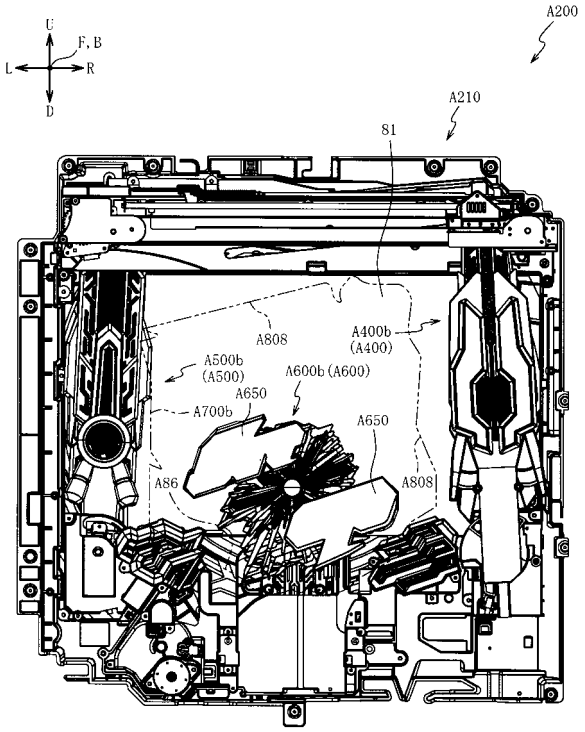
【図９】


U
F, B
L
R
D
A200
A210
81
A808
A700b
A400b (A400)
A808
A500b (A500)
A600b (A600)
A650
A86
A650

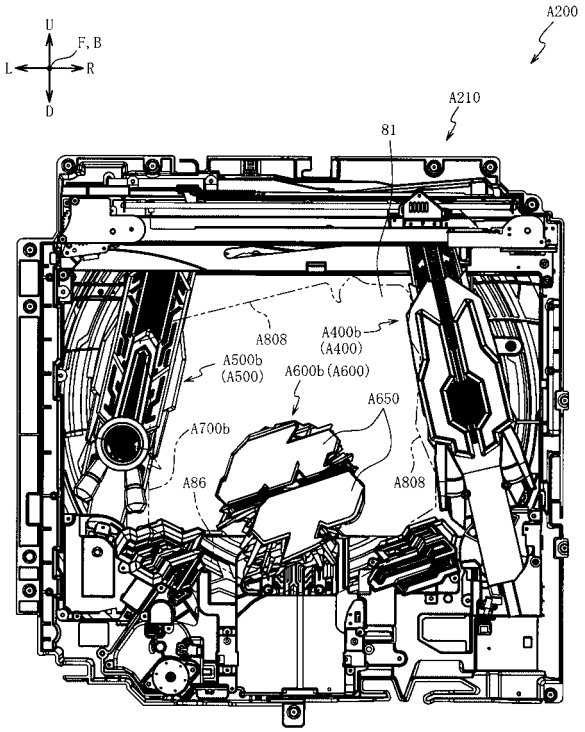
【図１０】


U
F, B
L
R
D
A200
A210
81
A500b (A500)
A411b
A808
A700b
A400b (A400)
A86
A650
A808
A650
A600b (A600)

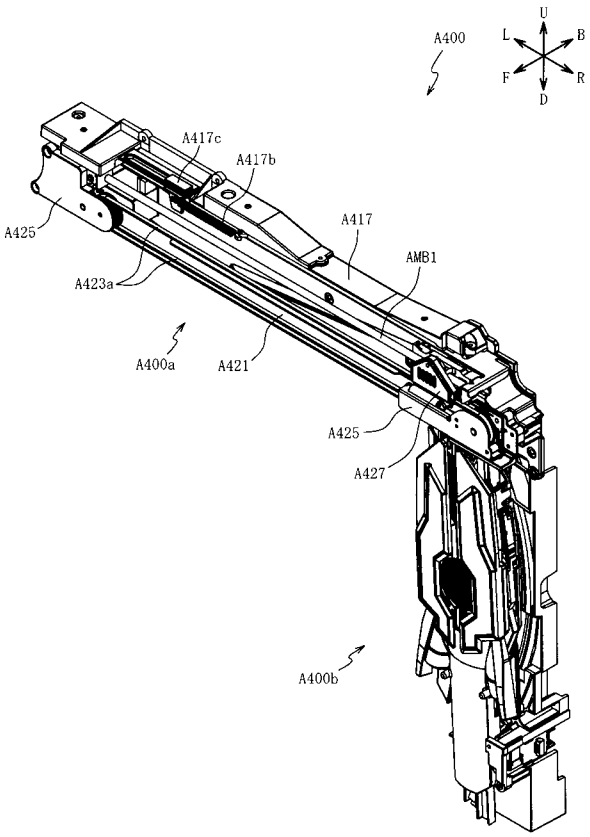
【図１１】



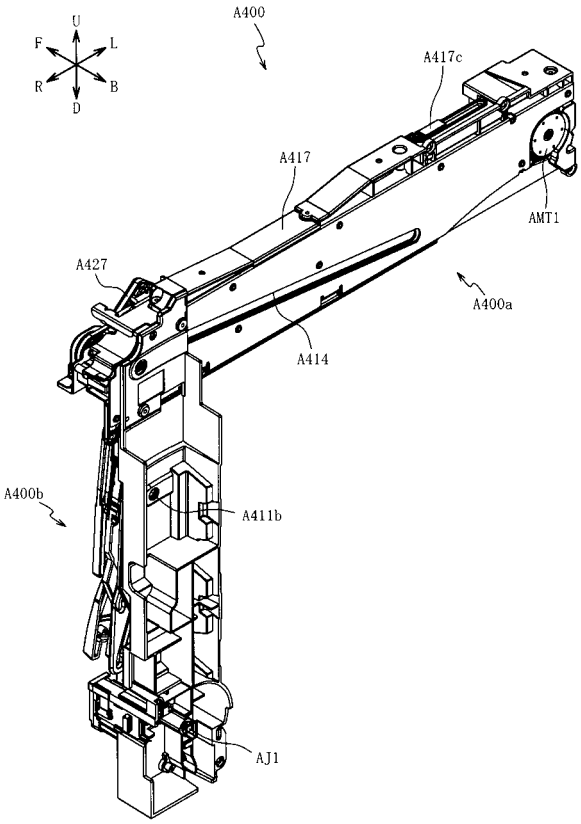
【図１２】



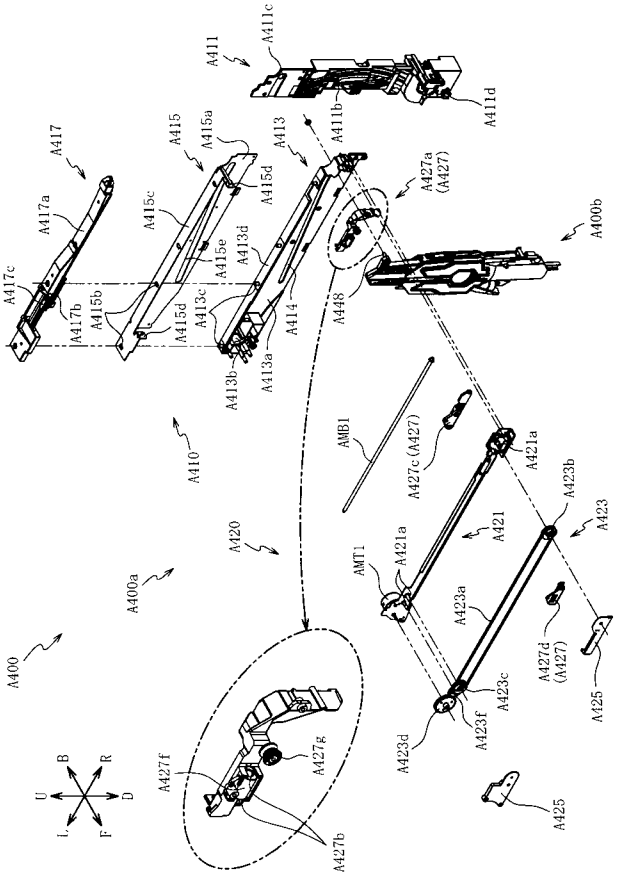
【図１３】



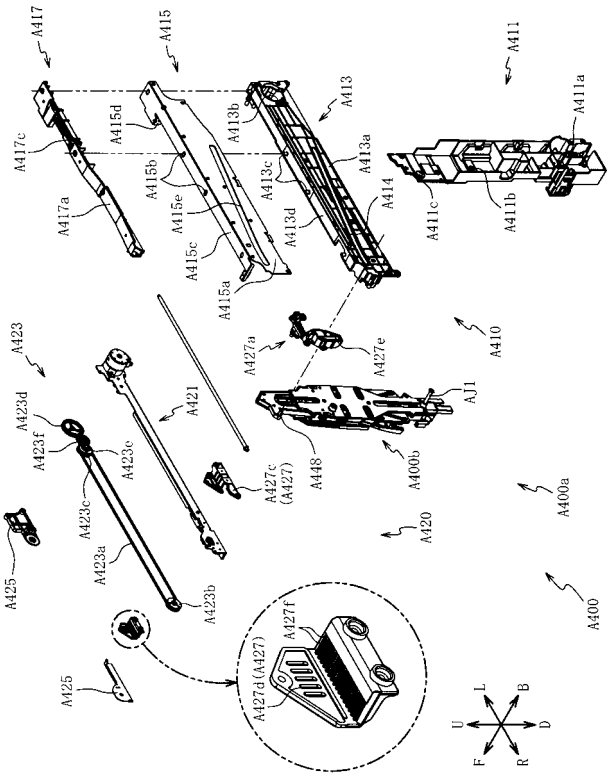
【図１４】



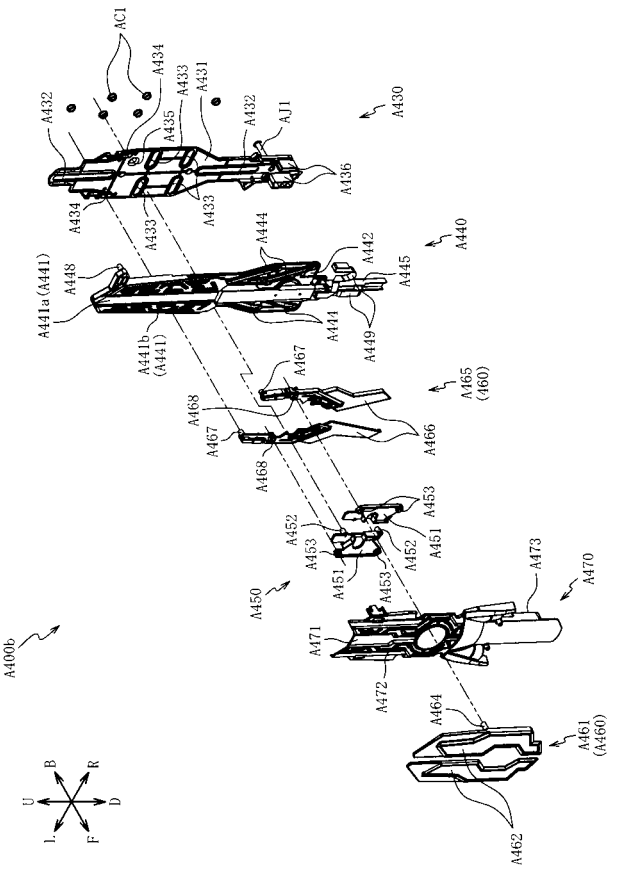
【図１５】



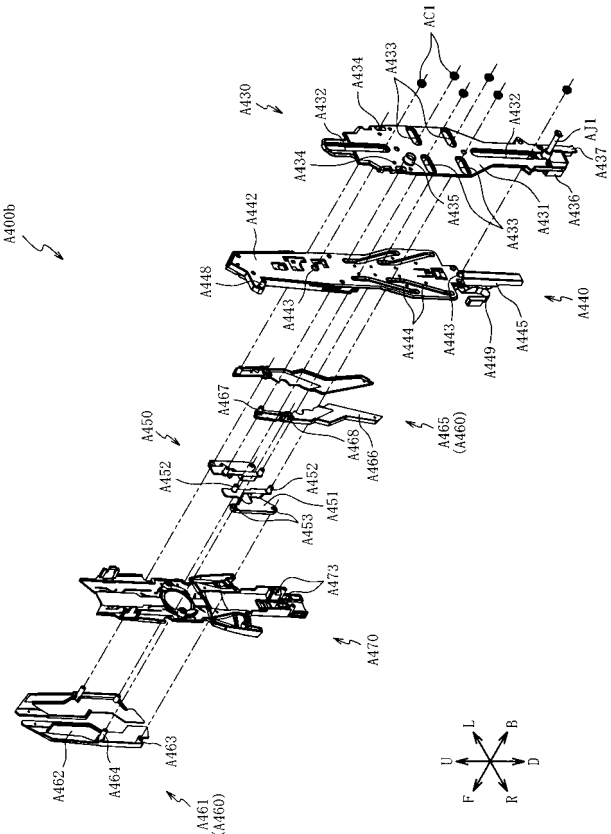
【図１６】



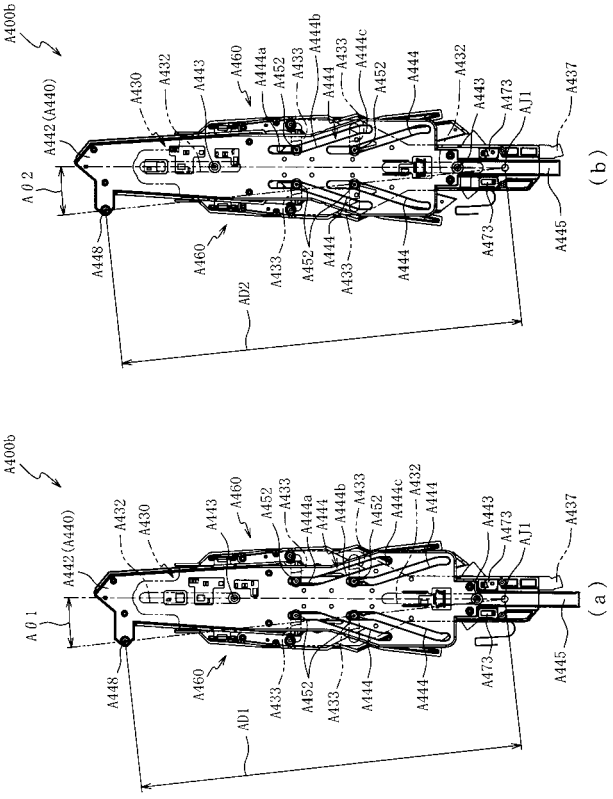
【図１７】



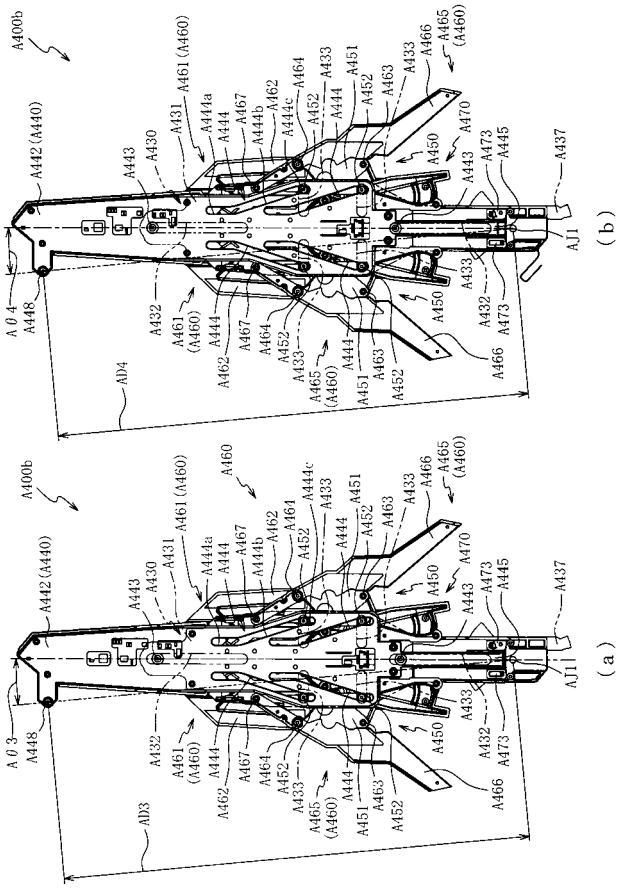
【図１８】



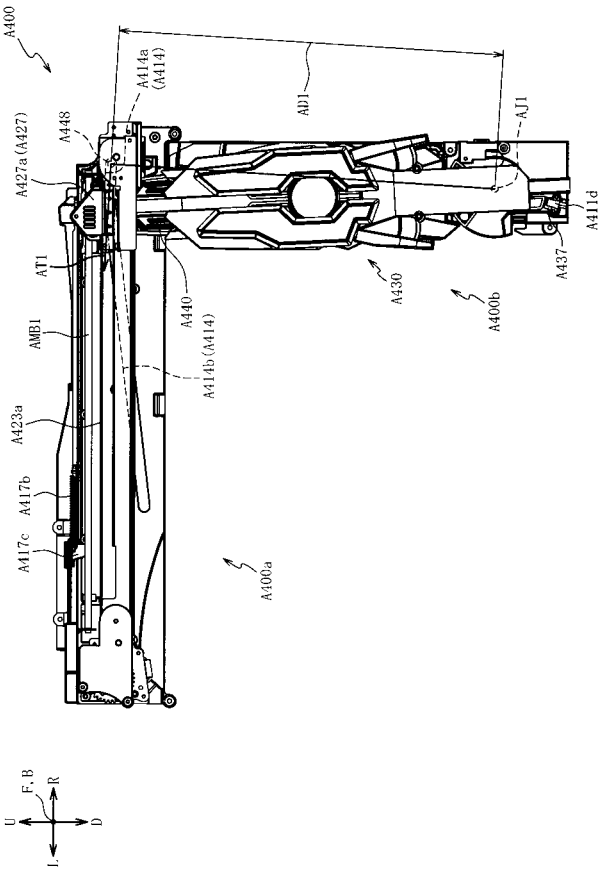
【図１９】



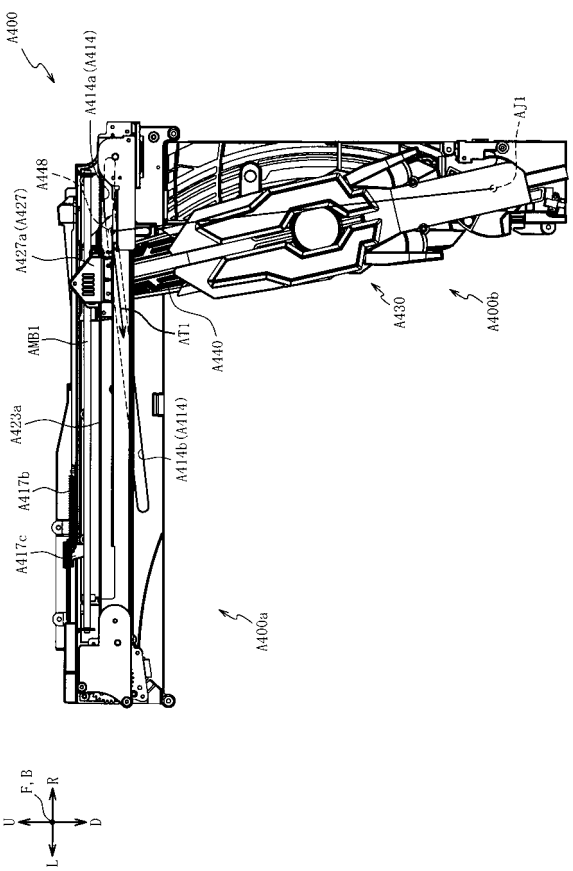
【図２０】



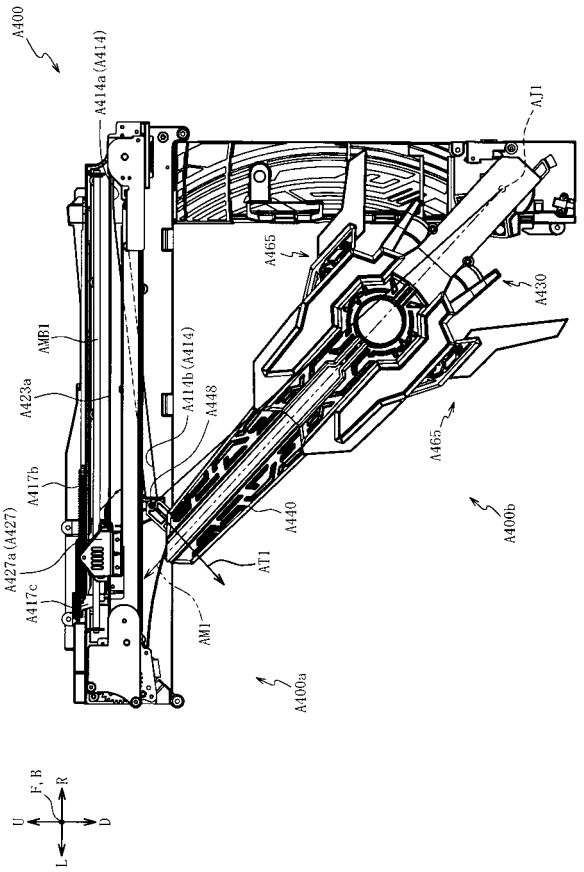
【図２１】



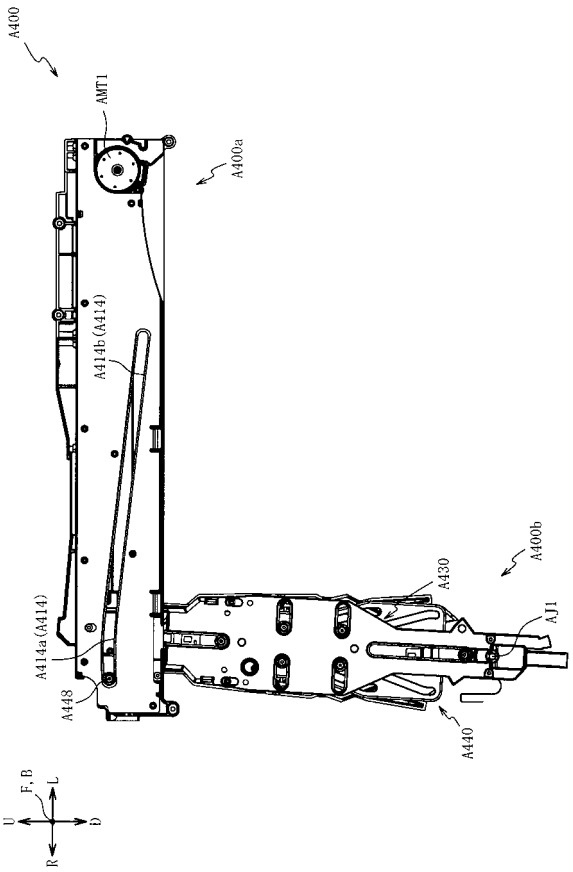
【図２２】



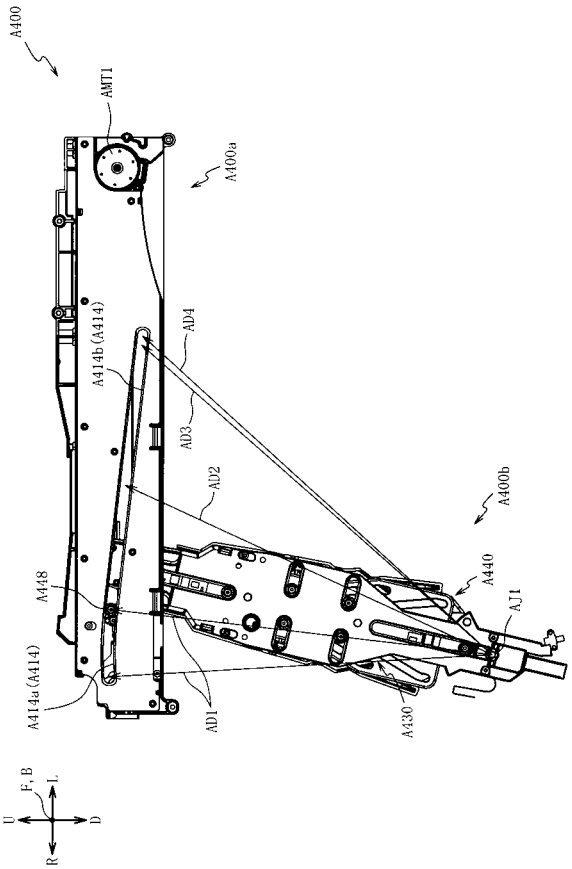
【図２３】



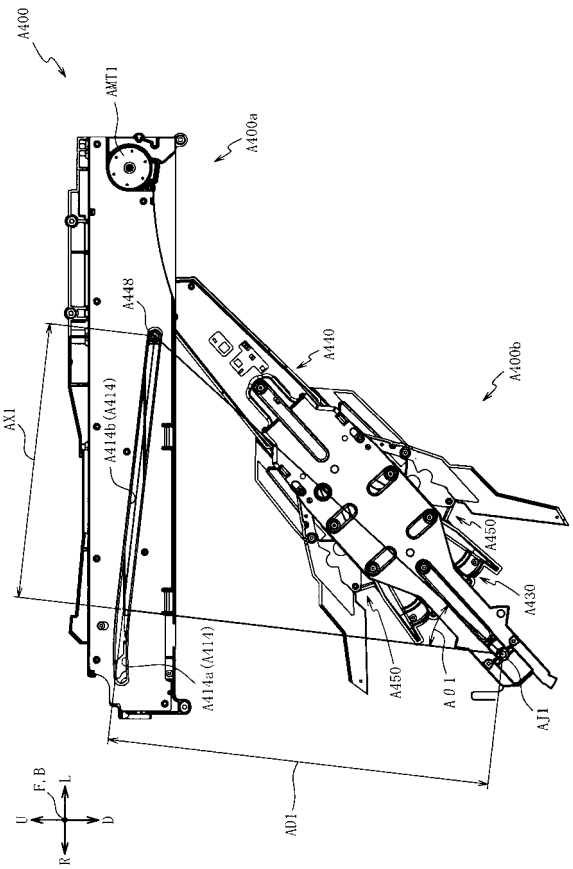
【図２４】



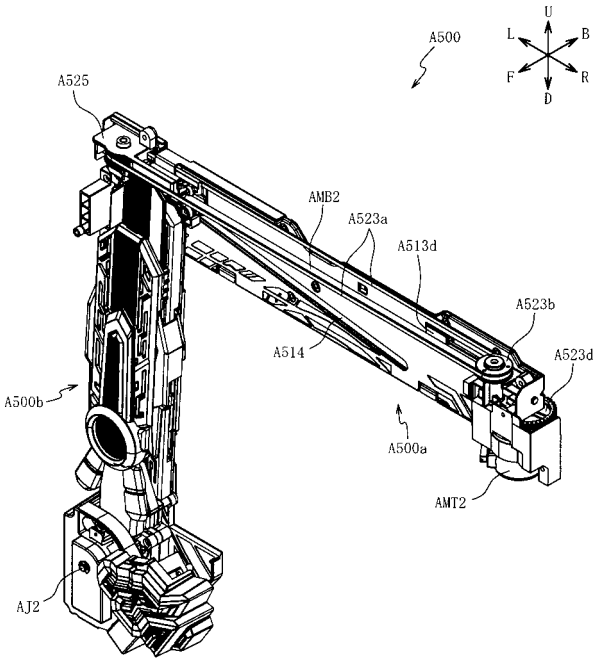
【図２５】



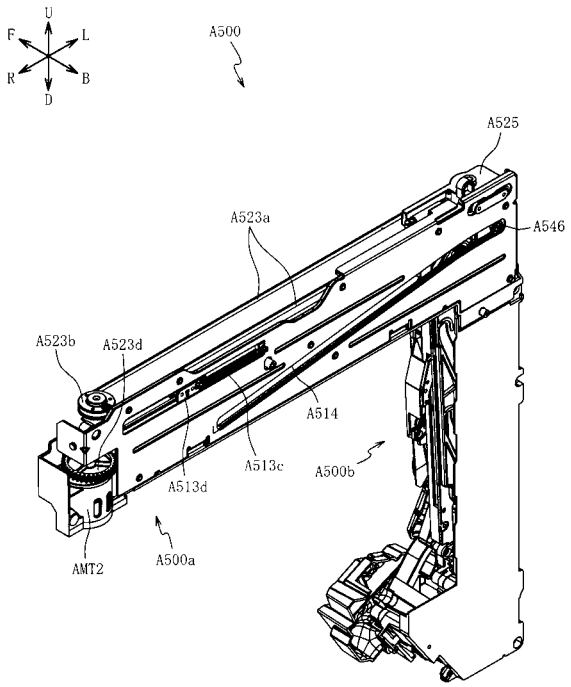
【図２６】



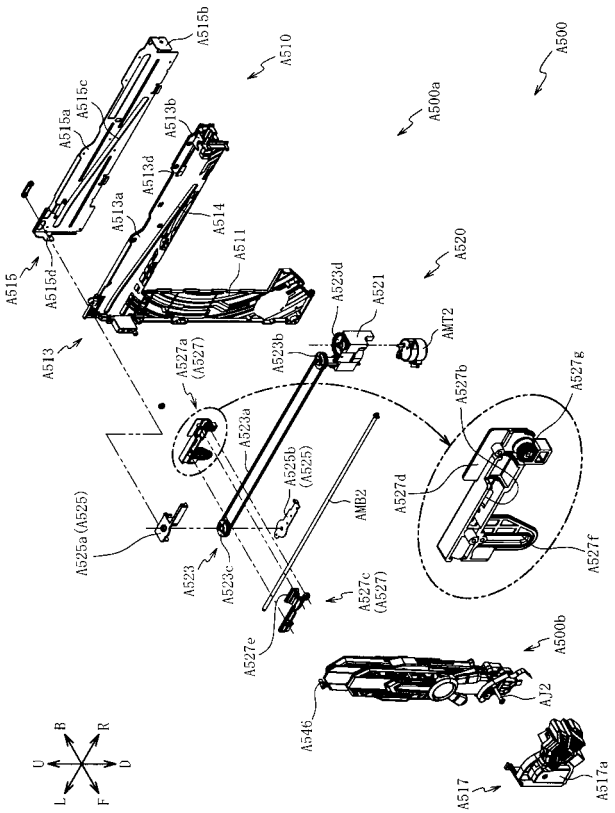
【図２７】



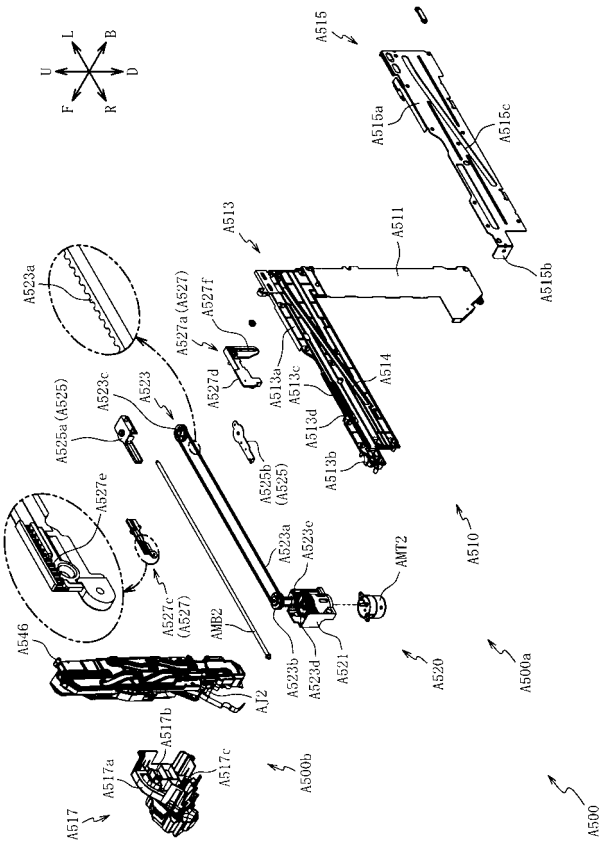
【図２８】



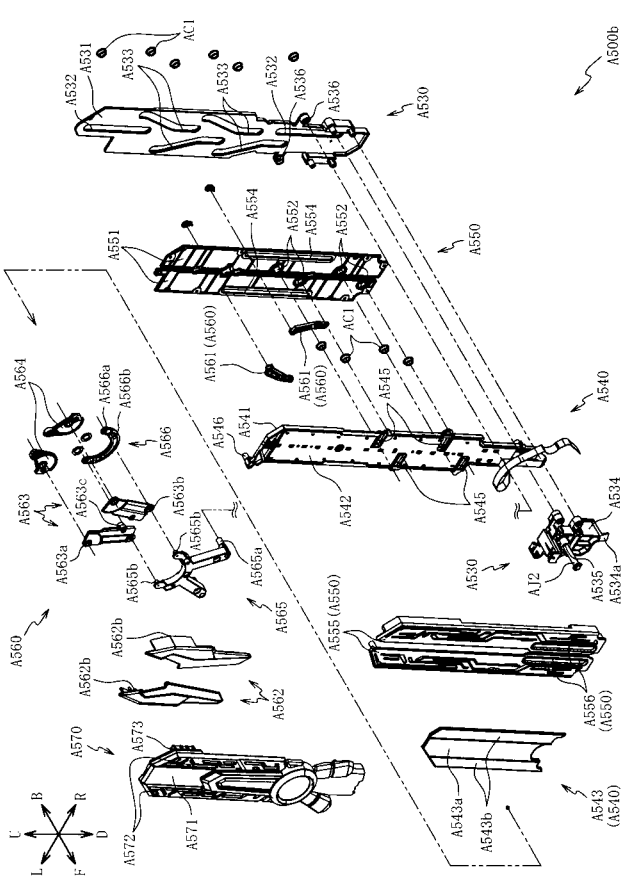
【図２９】



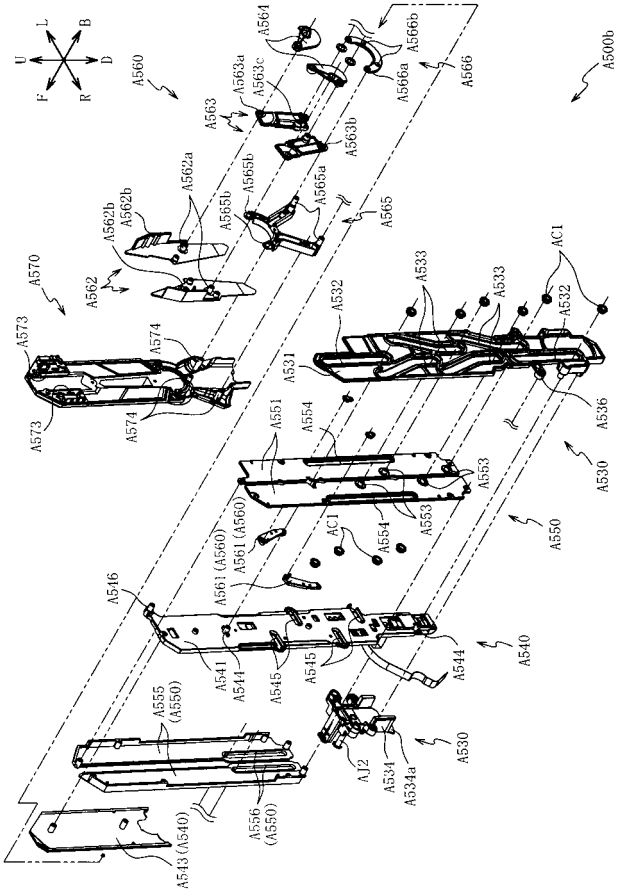
【図３０】



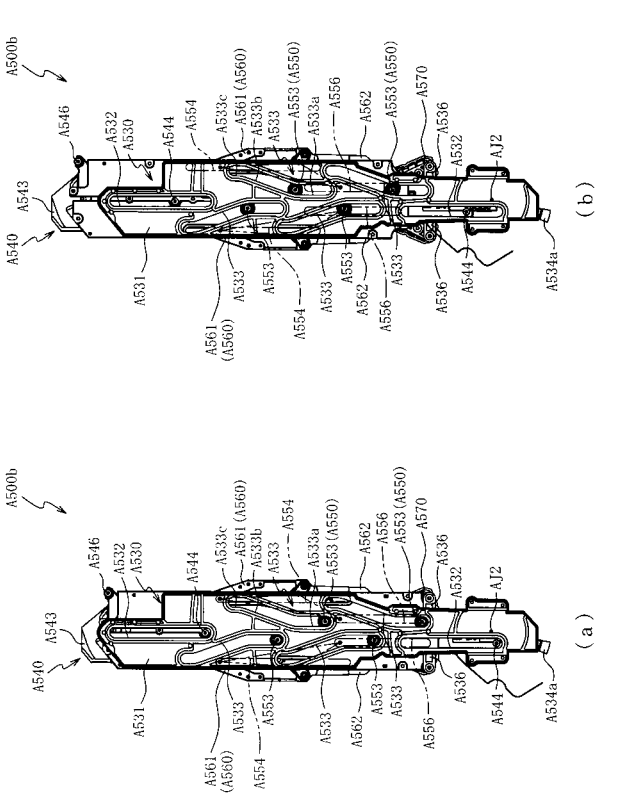
【図３１】



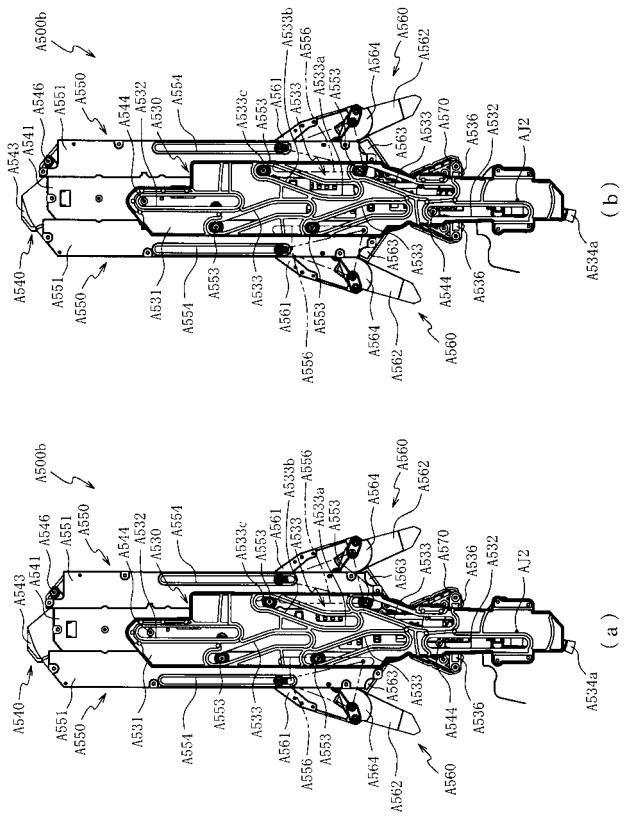
【図３２】



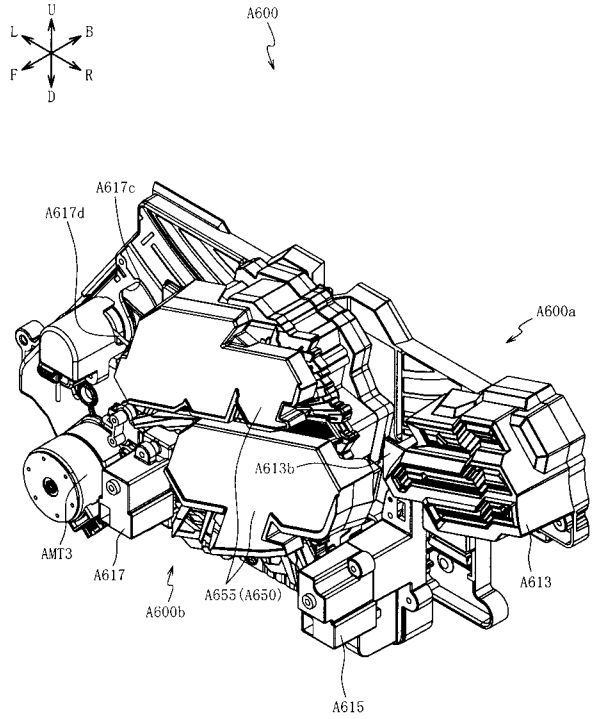
【図３３】



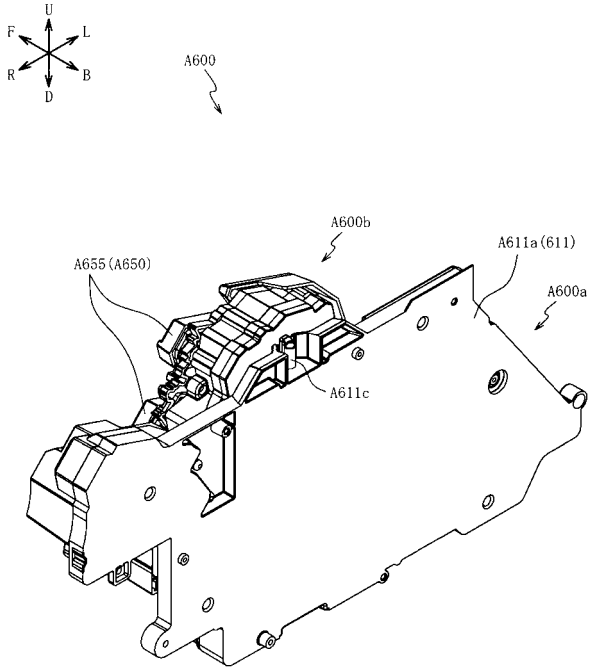
【図３４】



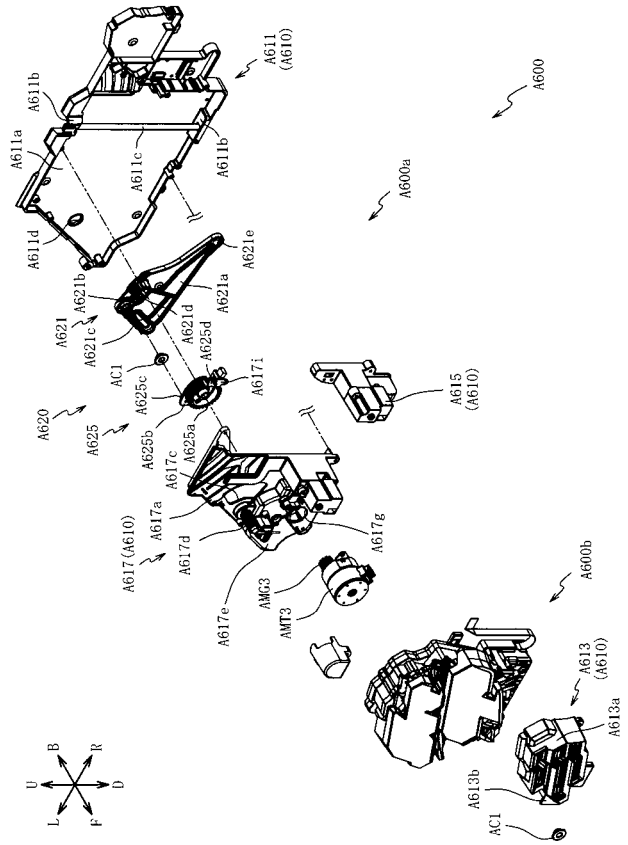
【図３５】



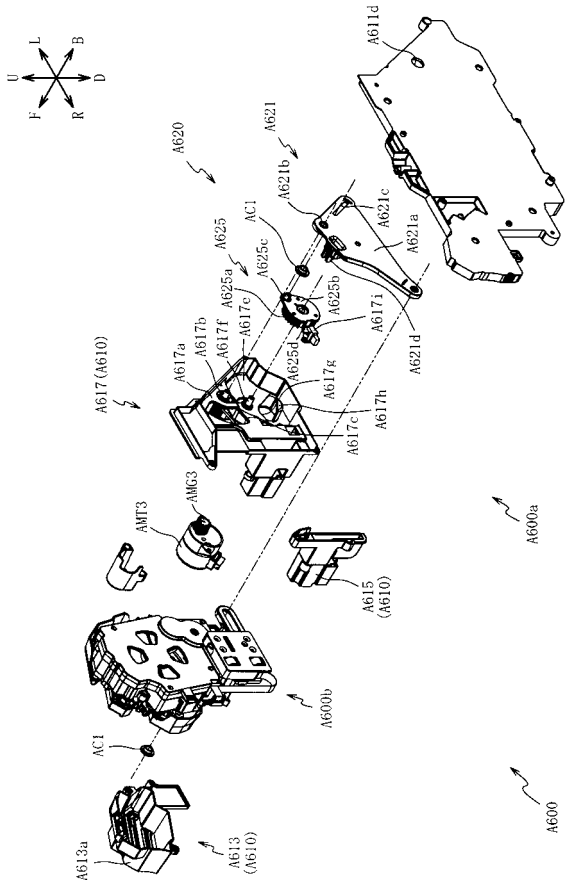
【図３６】



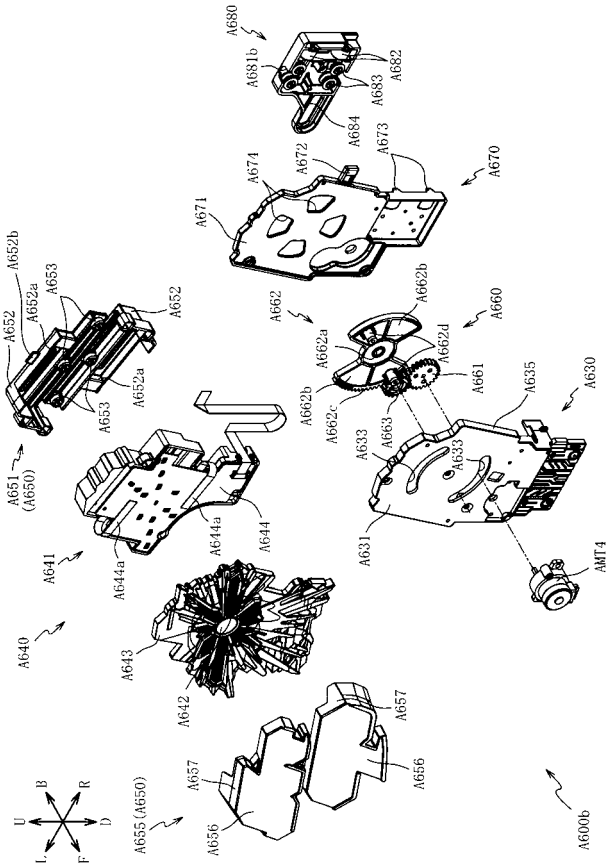
【図３７】



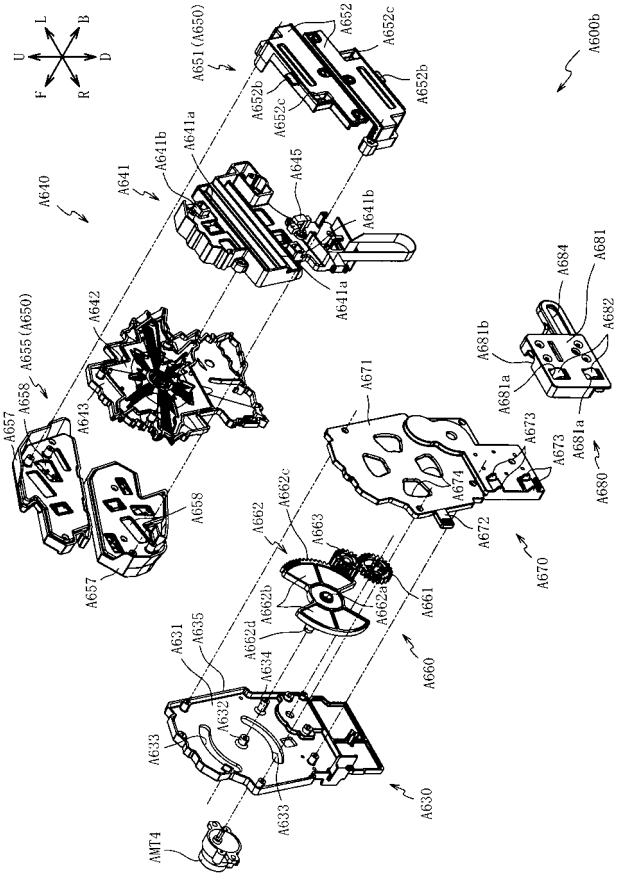
【図３８】



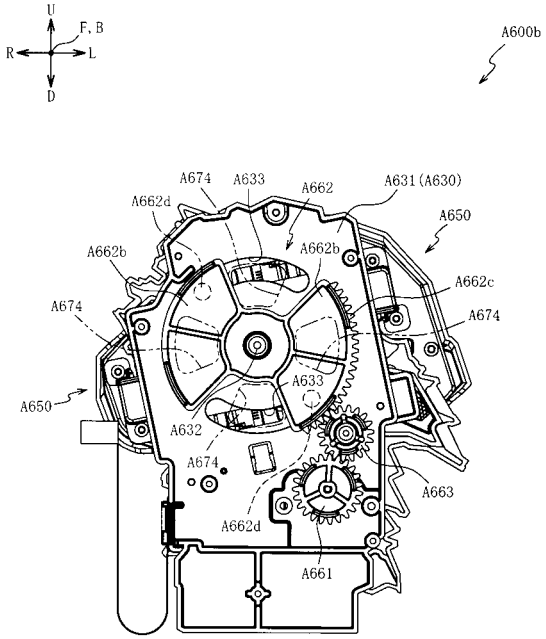
【図３９】



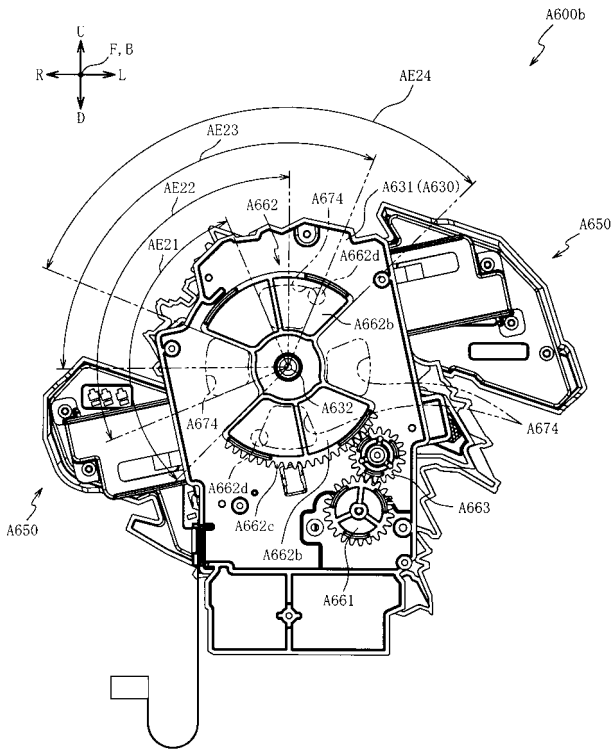
【図４０】



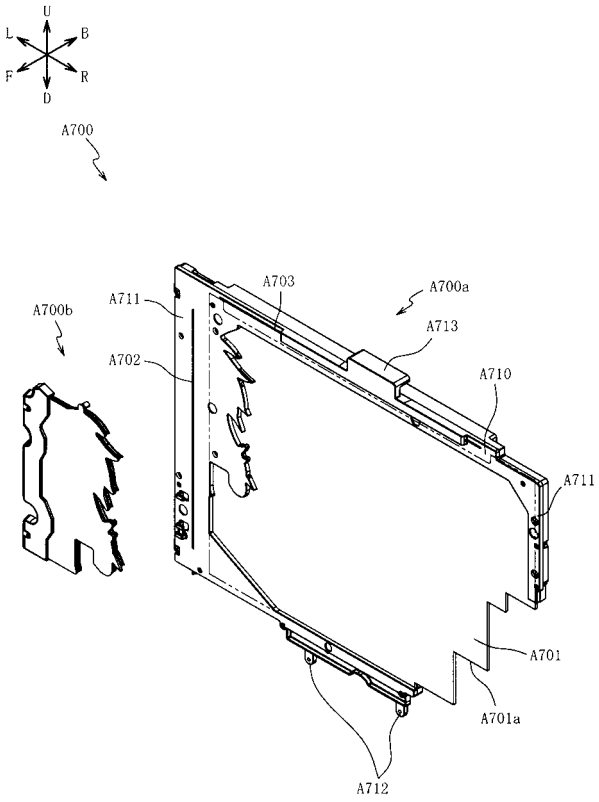
【図４１】



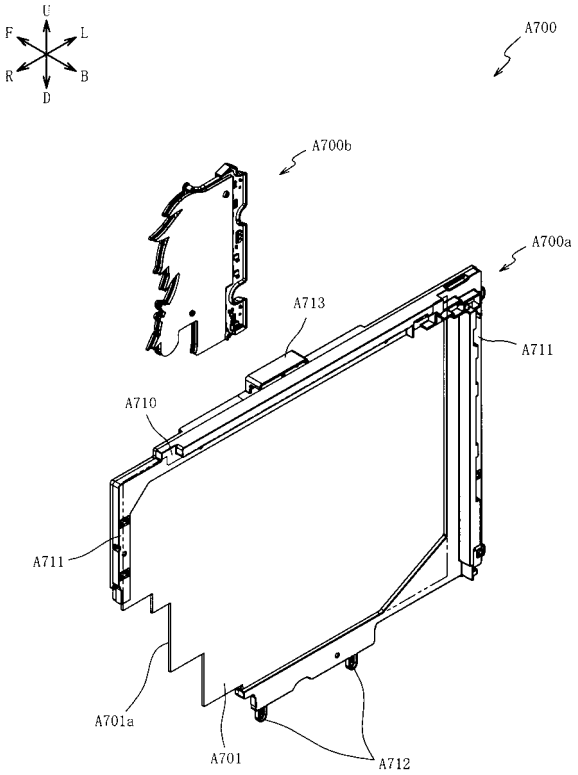
【図４２】



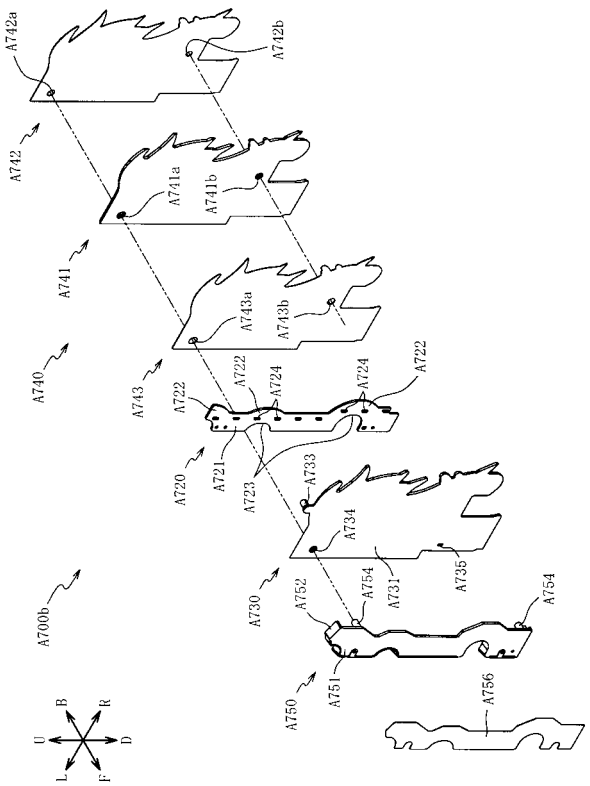
【図４３】



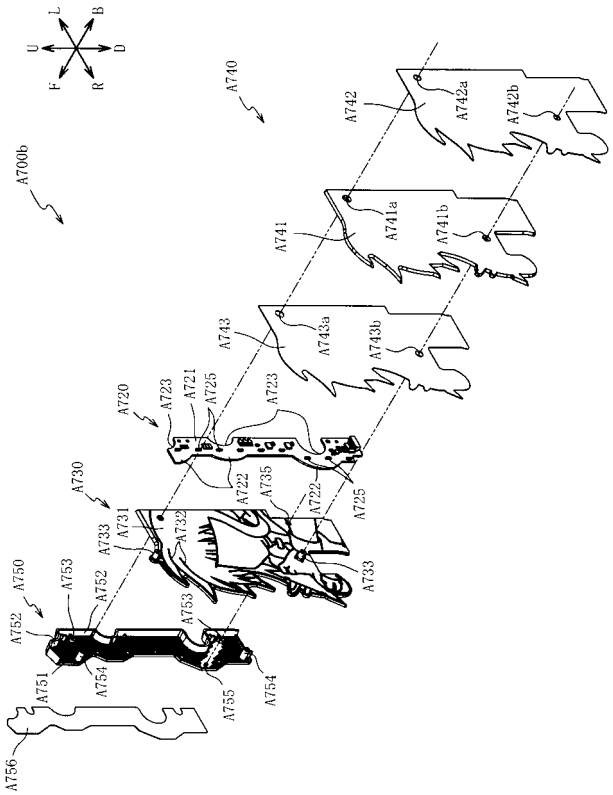
【図４４】



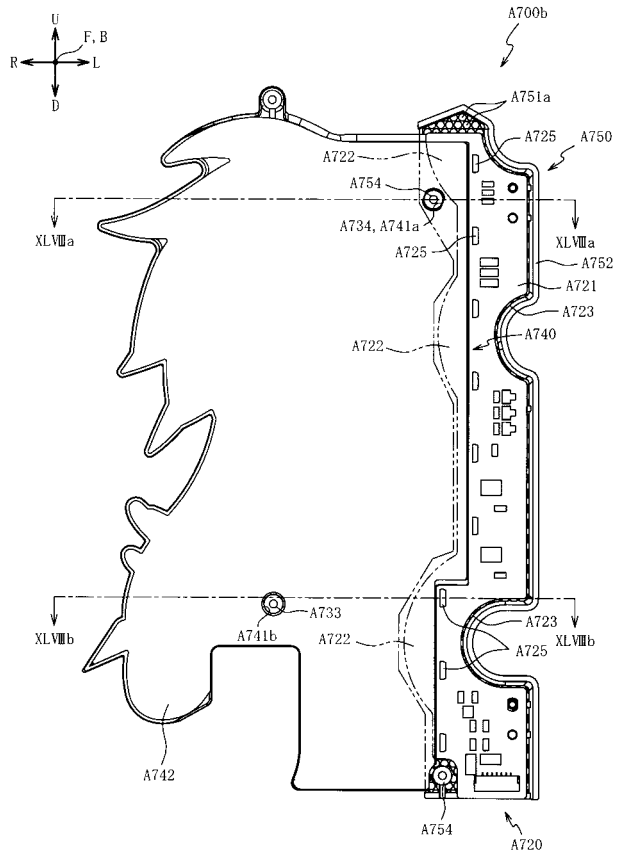
【図４５】



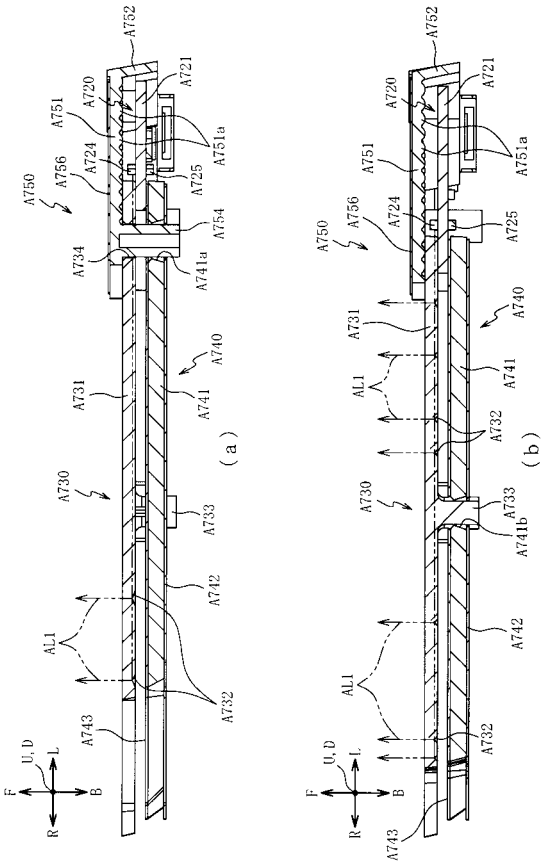
【図４６】



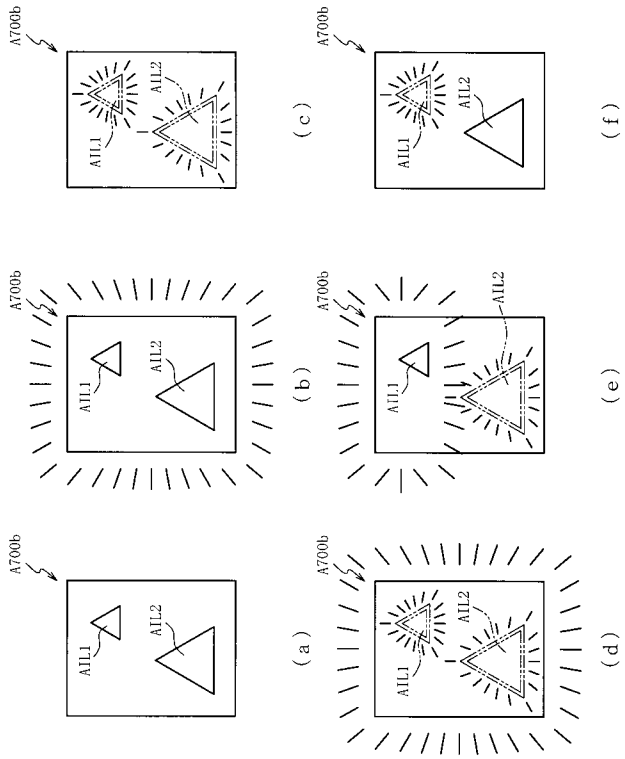
【図４７】



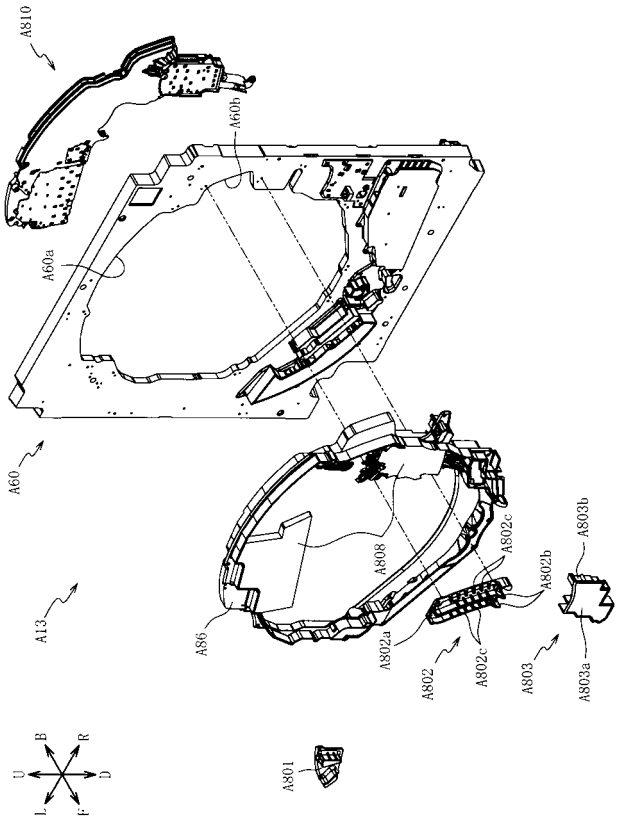
【図４８】



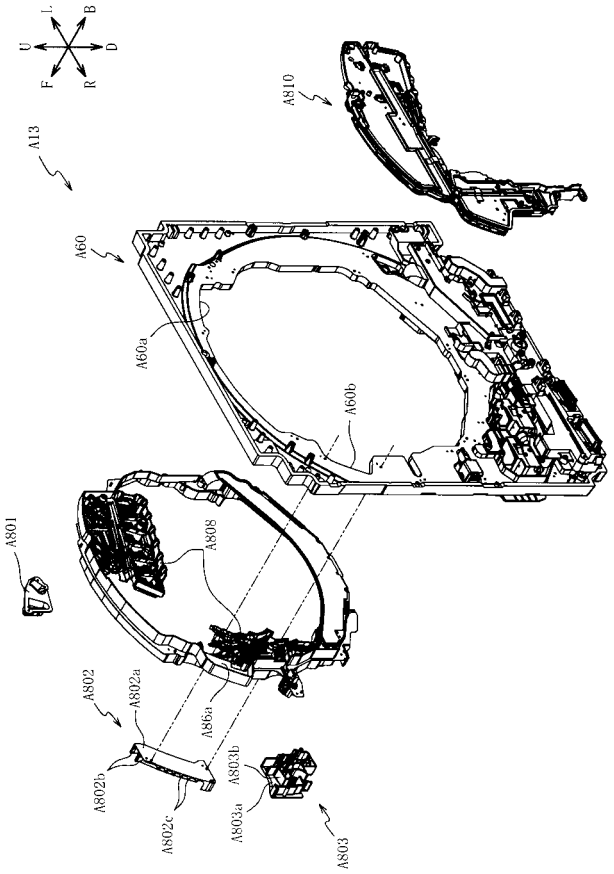
【図４９】



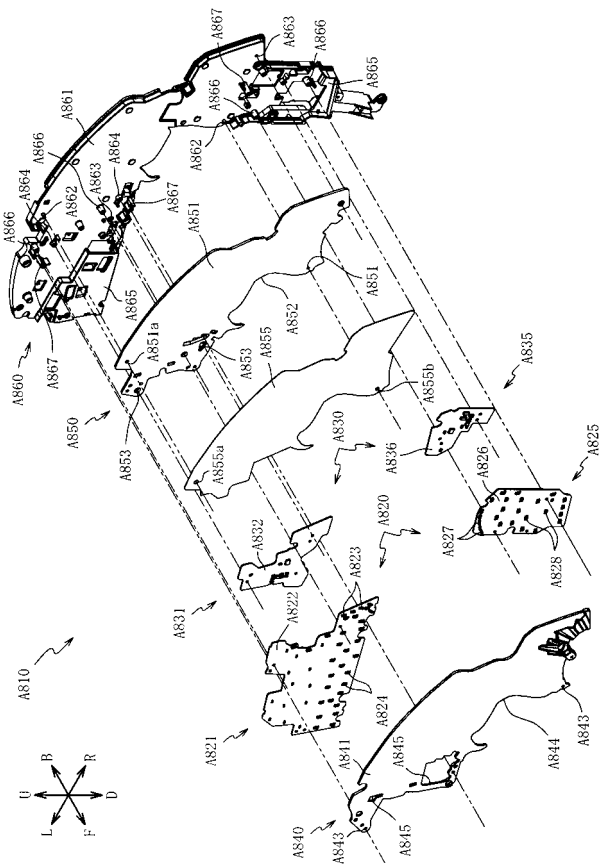
【図５０】



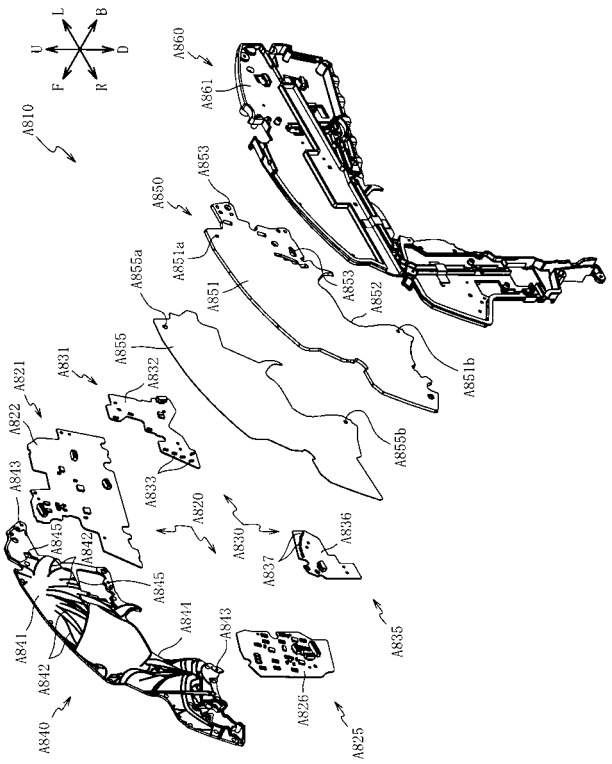
【図５１】



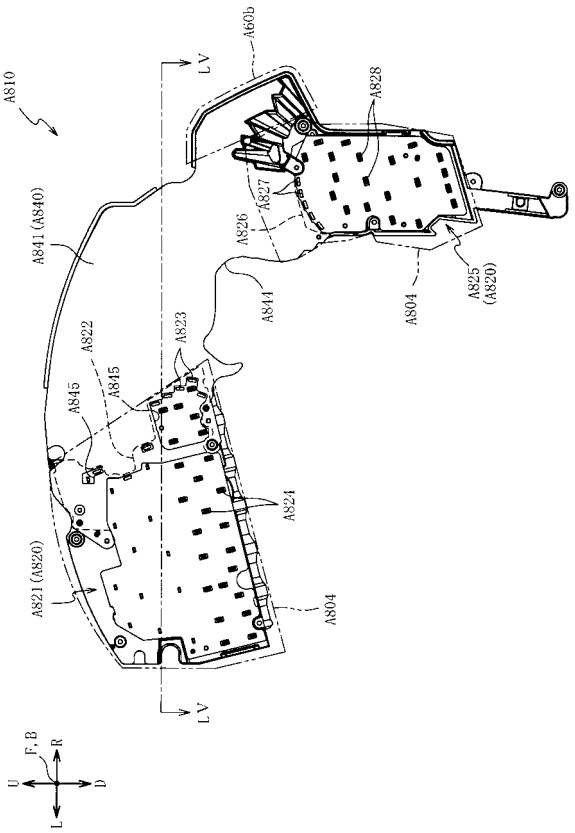
【図５２】



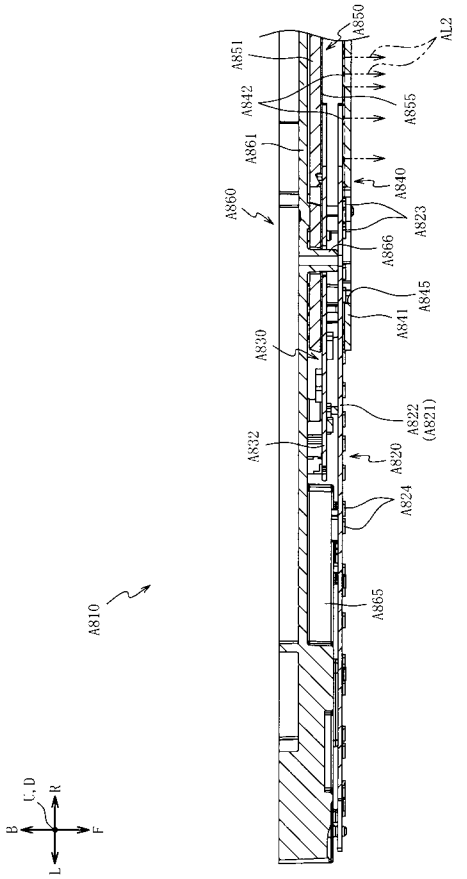
【図５３】



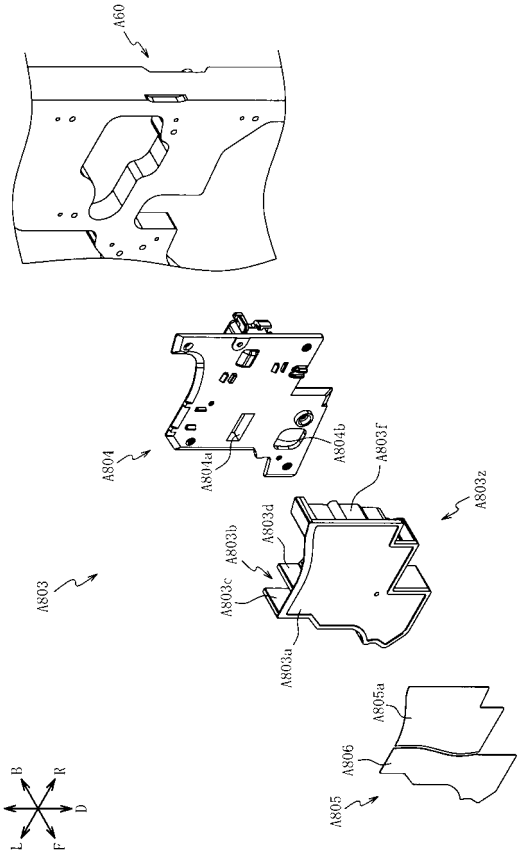
【図５４】



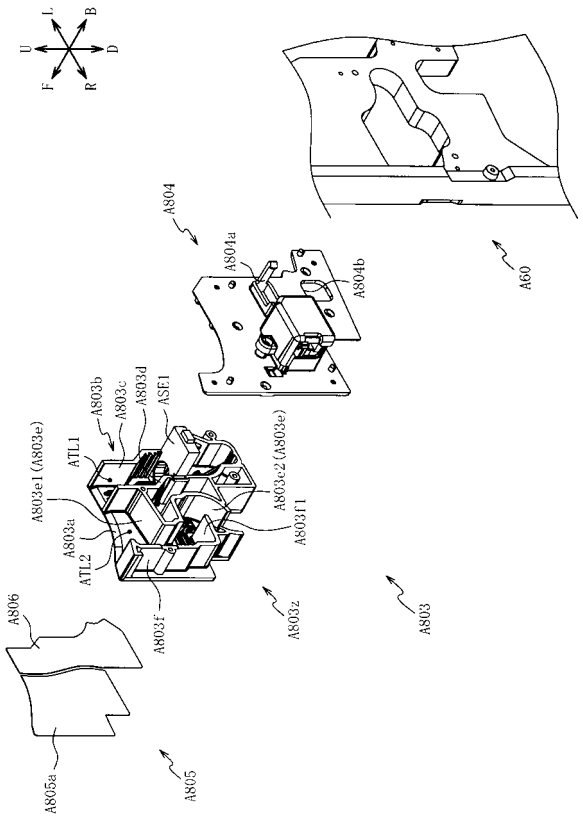
【図５５】



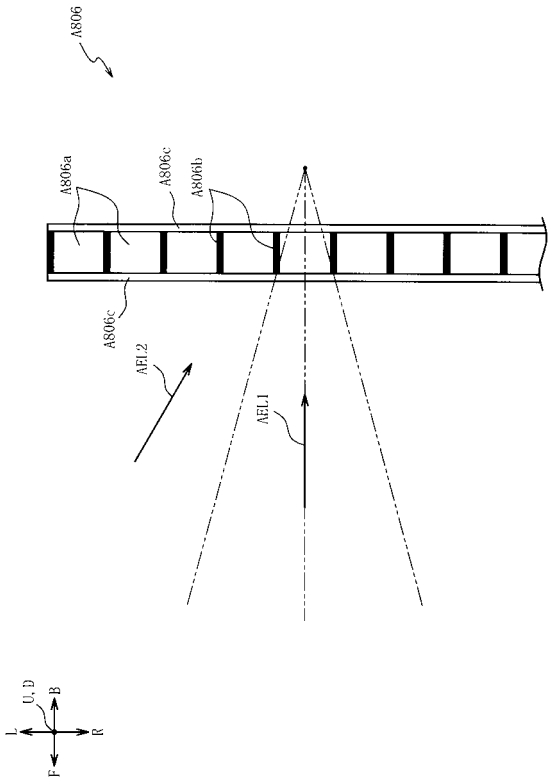
【図５６】



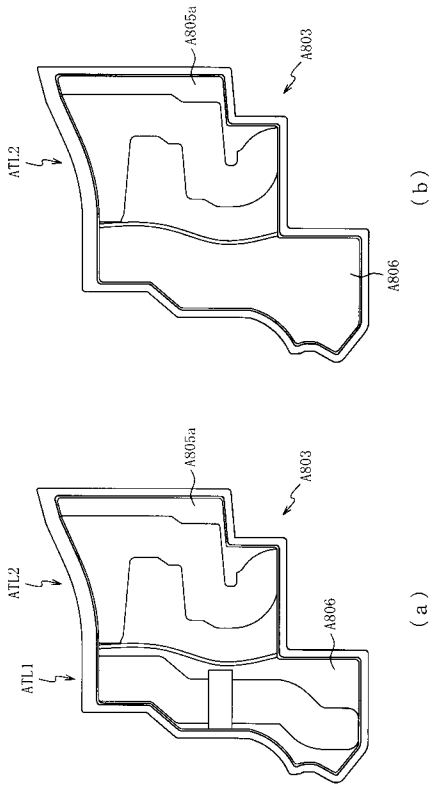
【図５７】



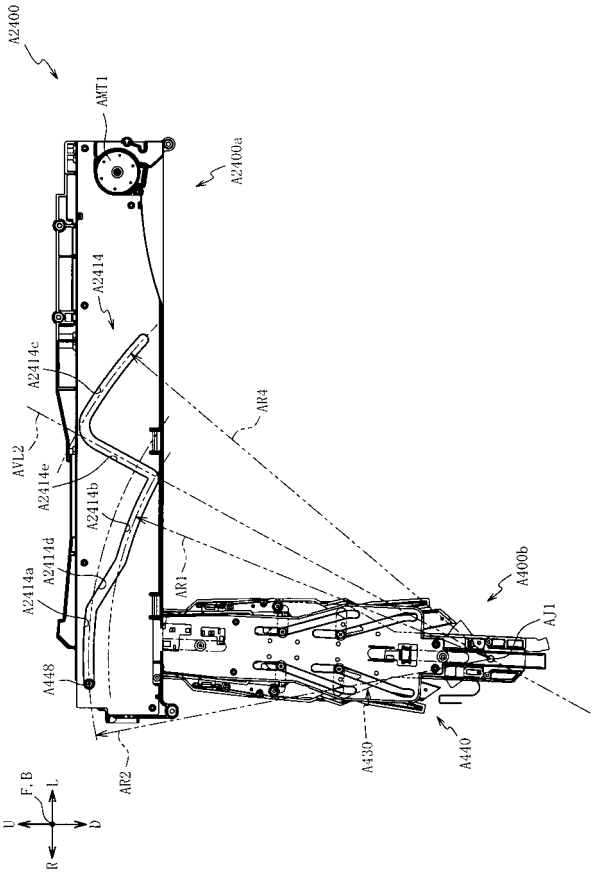
【図５８】



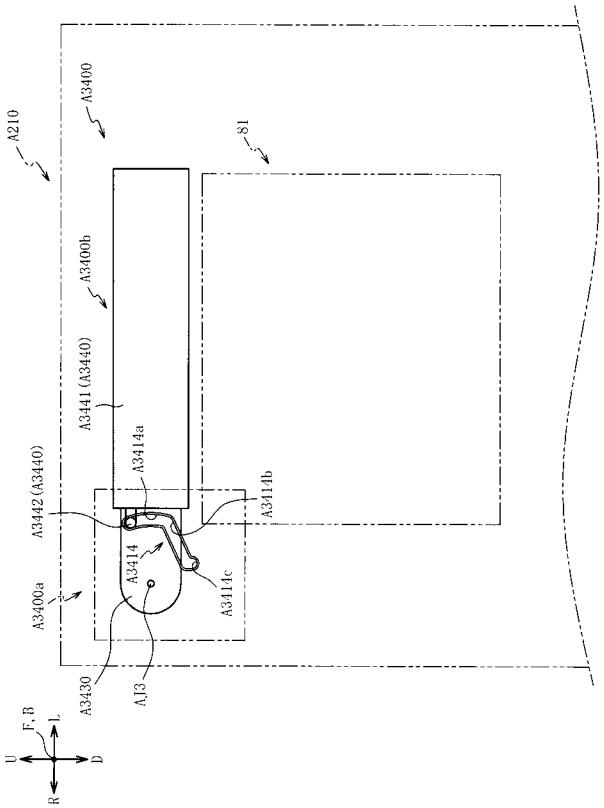
【図５９】



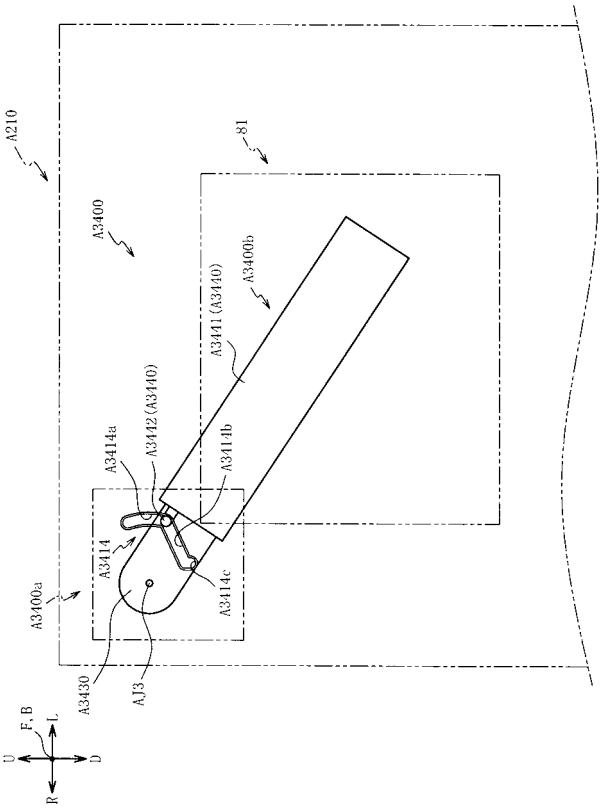
【図６０】



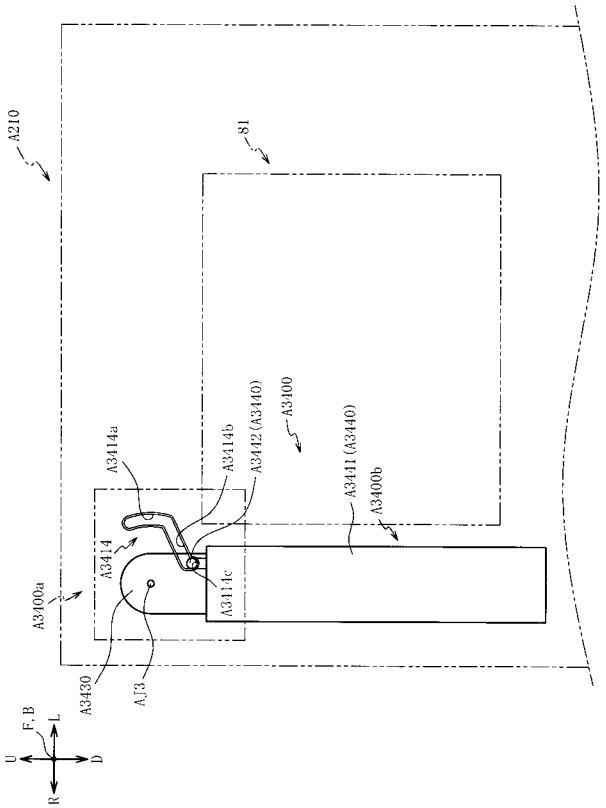
【図６１】



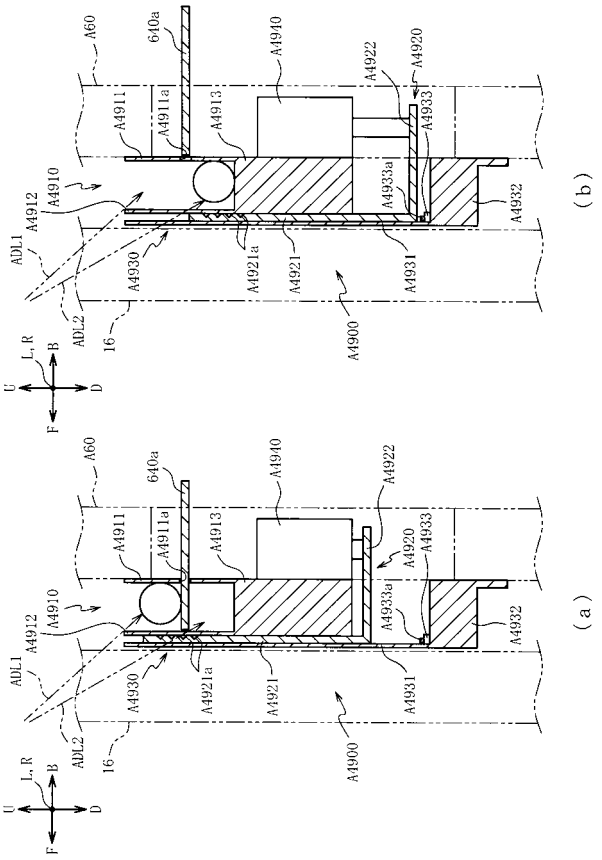
【図６２】



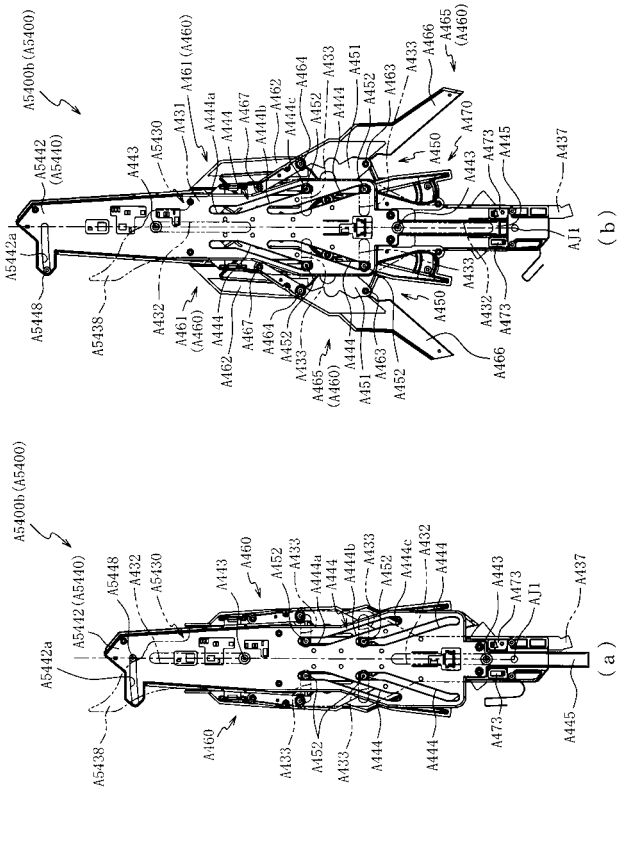
【図６３】



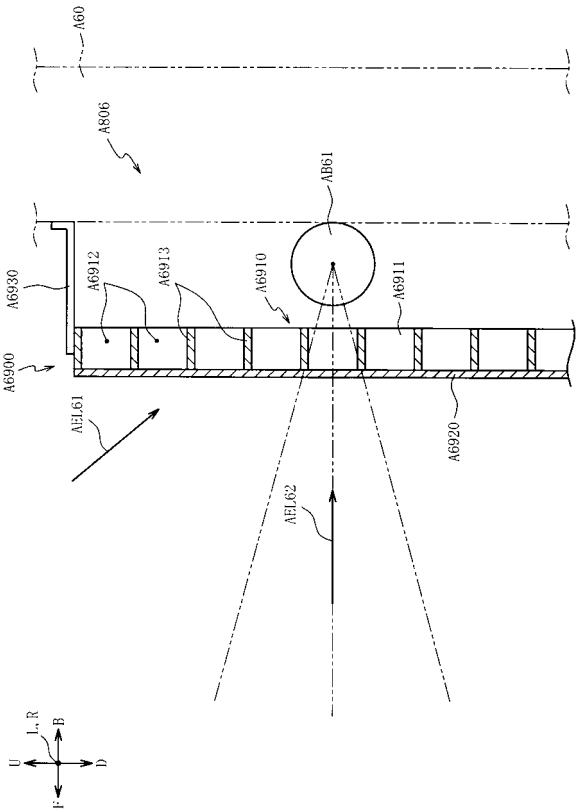
【図６４】



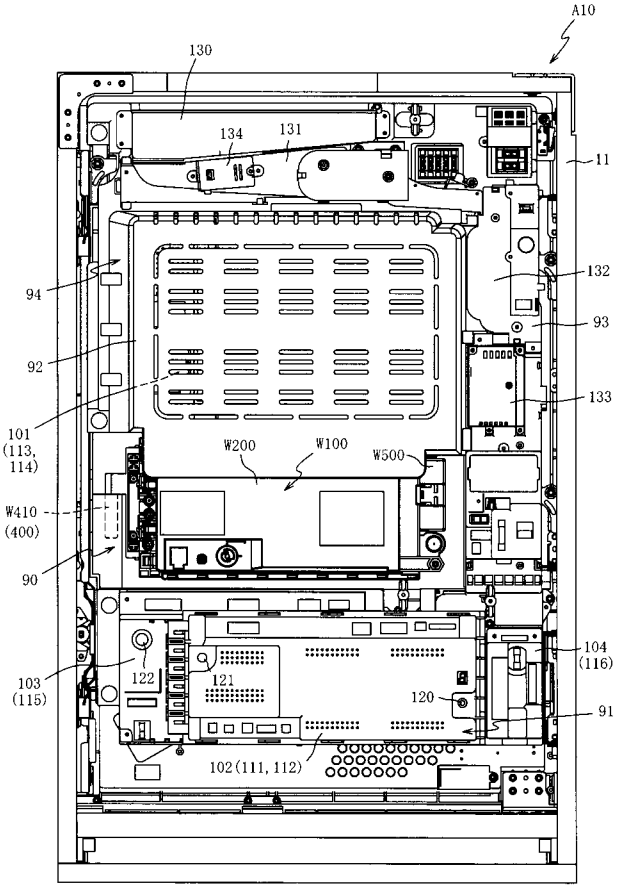
【図６５】



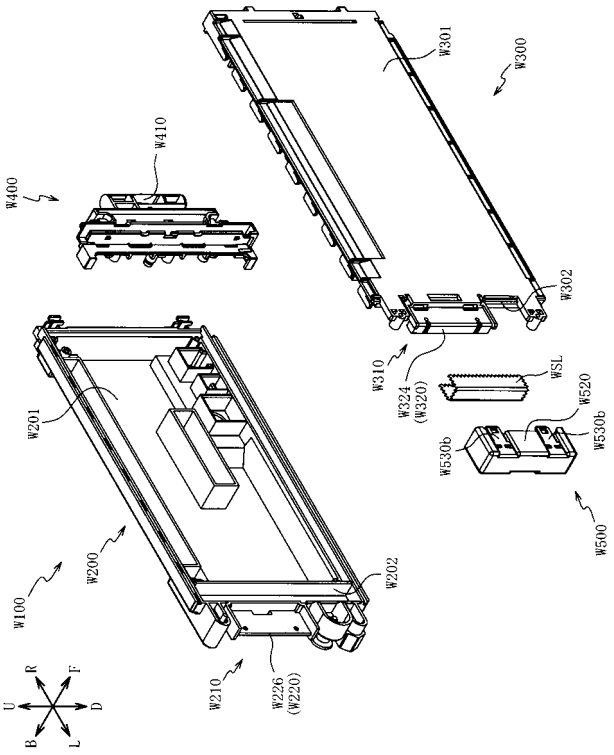
【図６６】



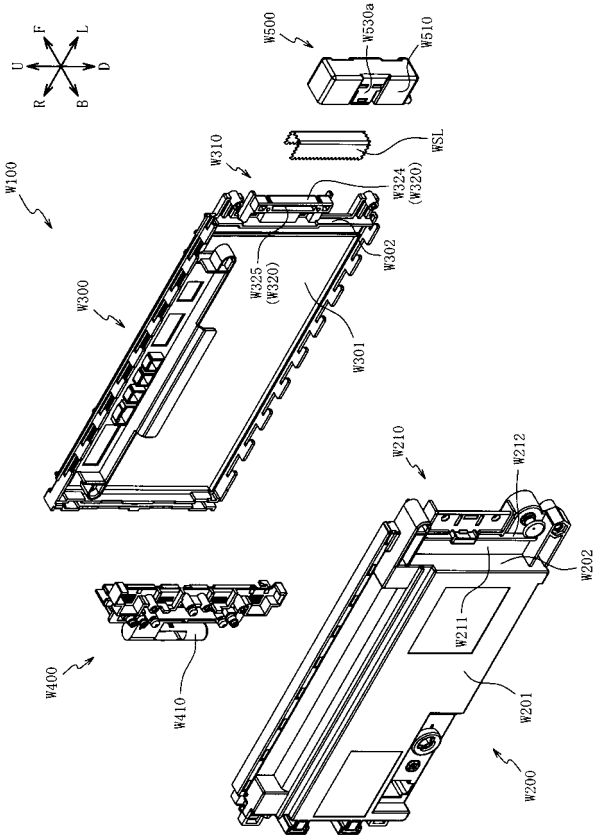
【図６７】



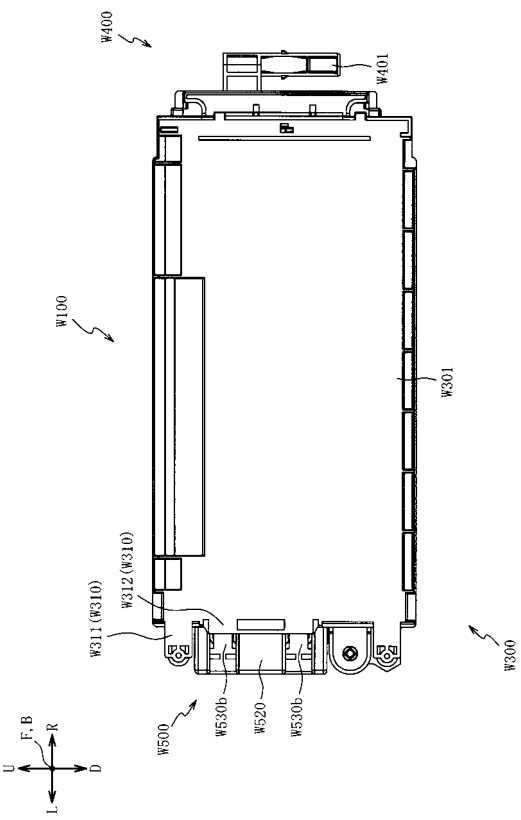
【図６８】



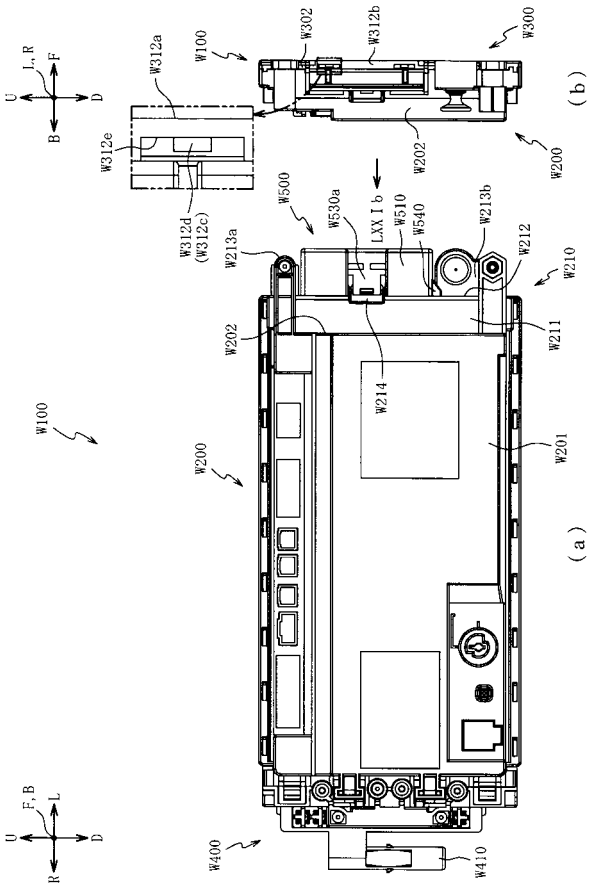
【図６９】



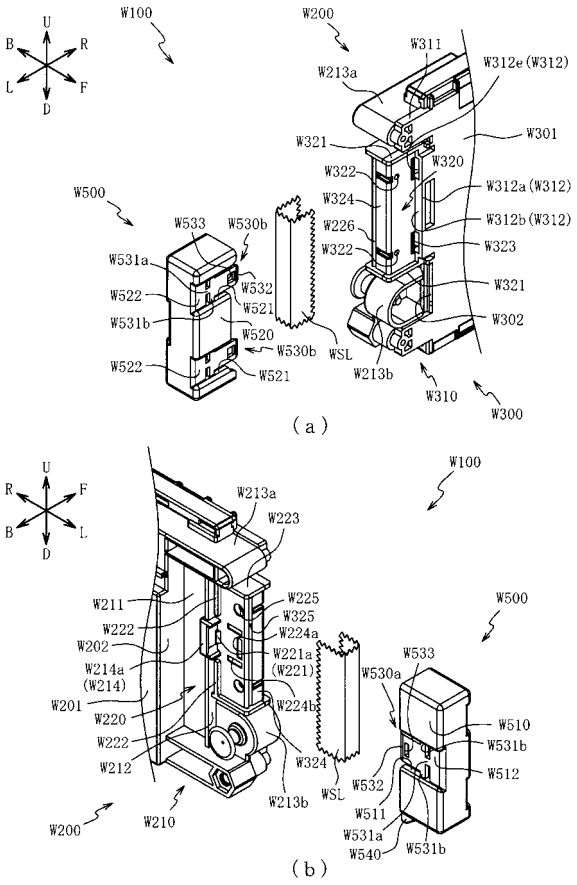
【図７０】



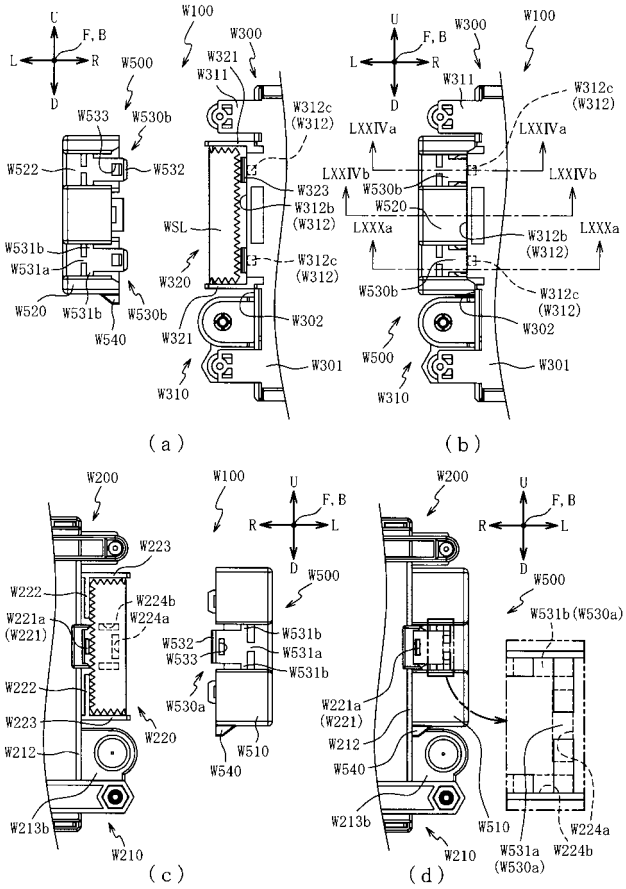
【図７１】



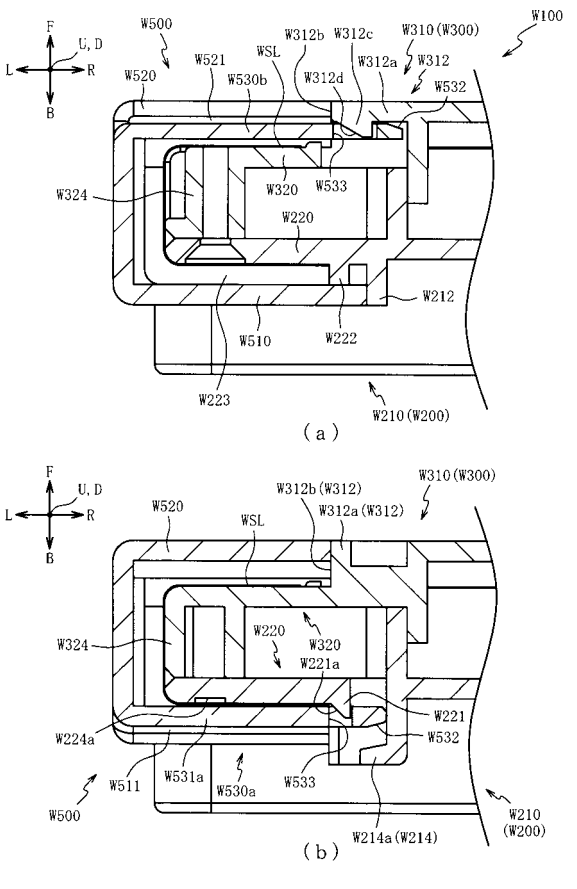
【図７２】



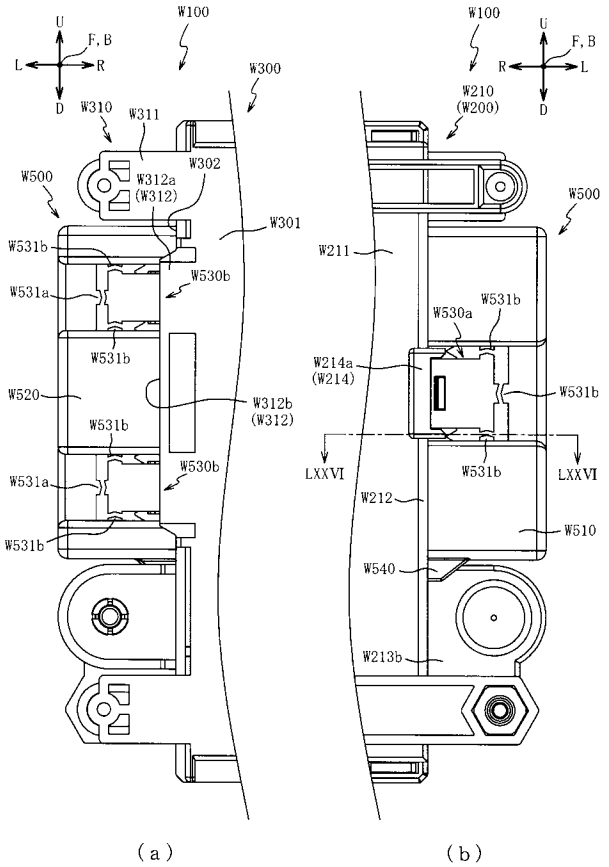
【図７３】



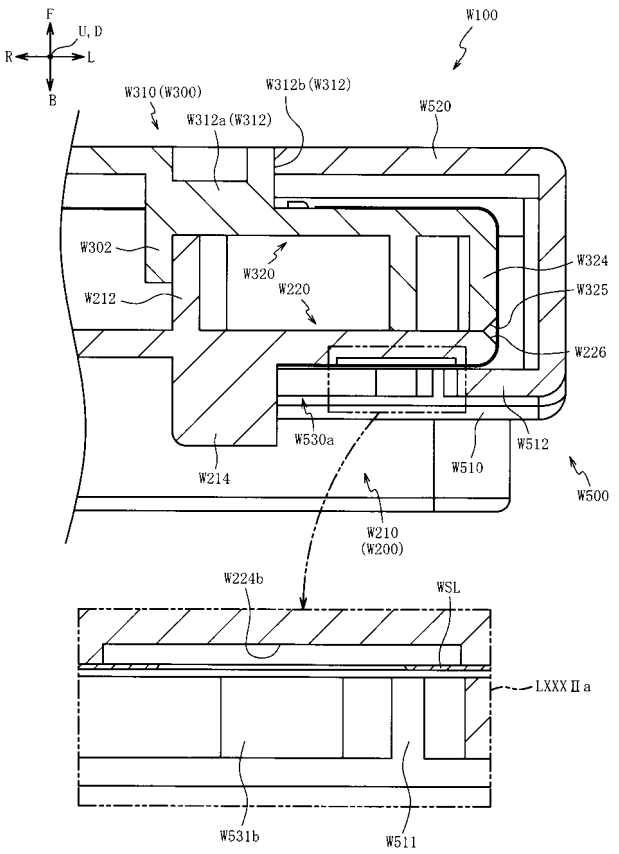
【図７４】



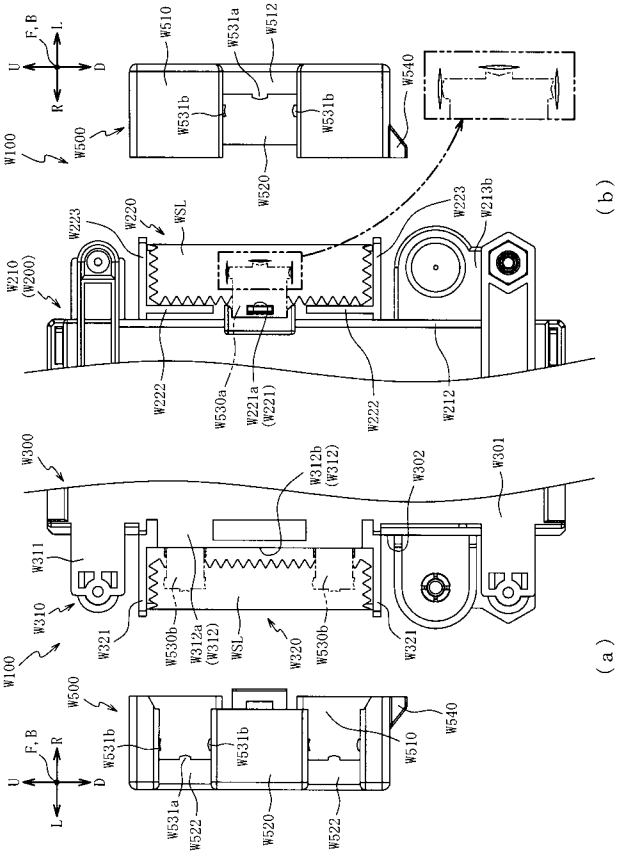
【図７５】



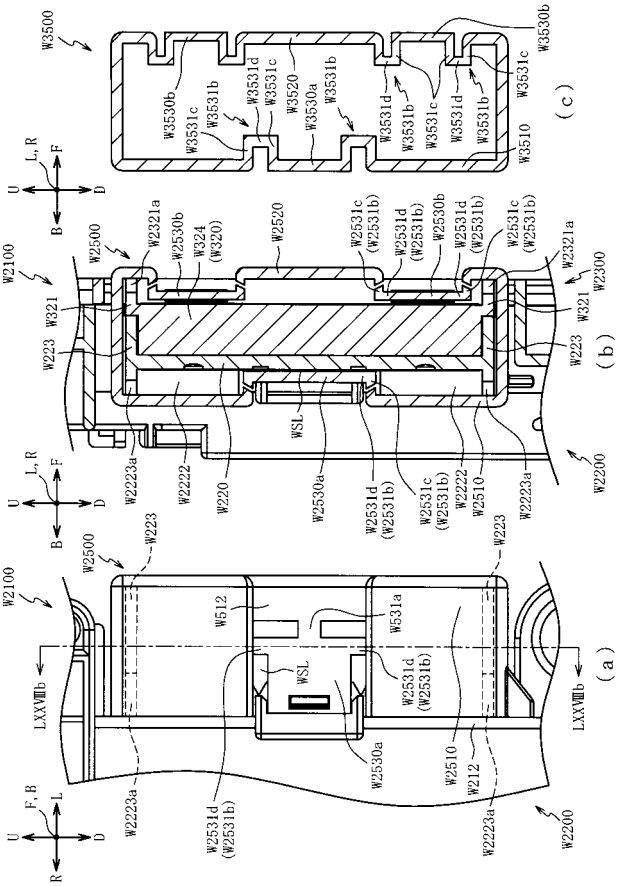
【図７６】



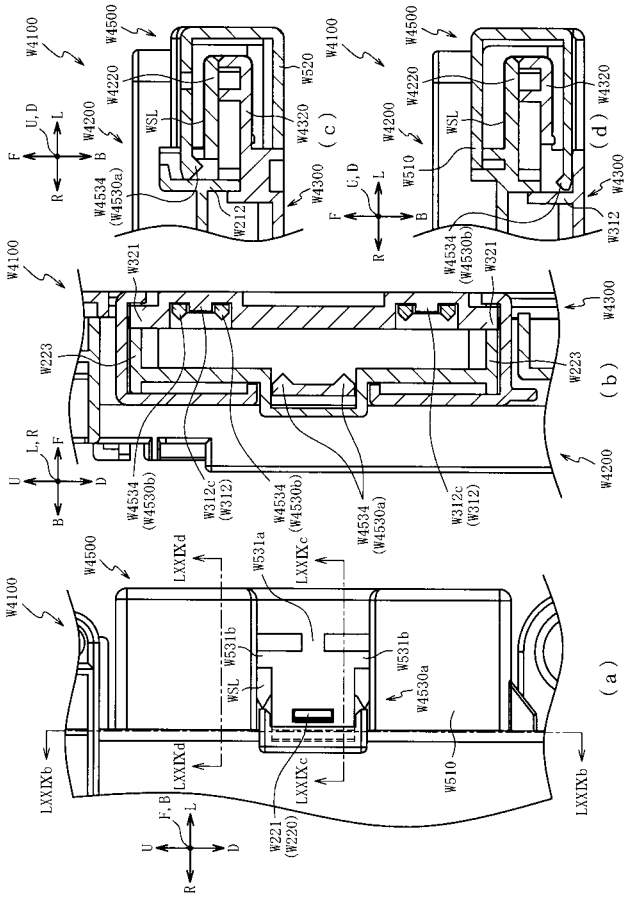
【図７７】



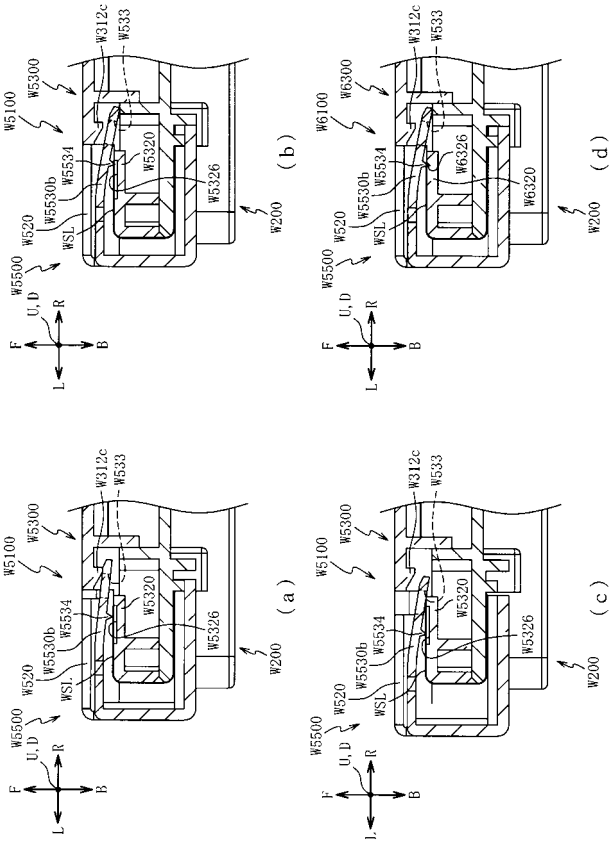
【図７８】



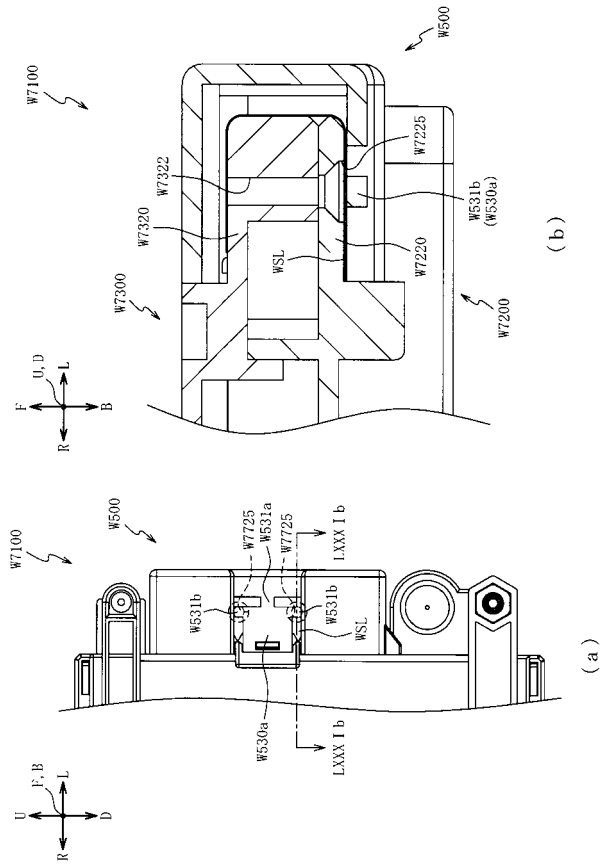
【図７９】



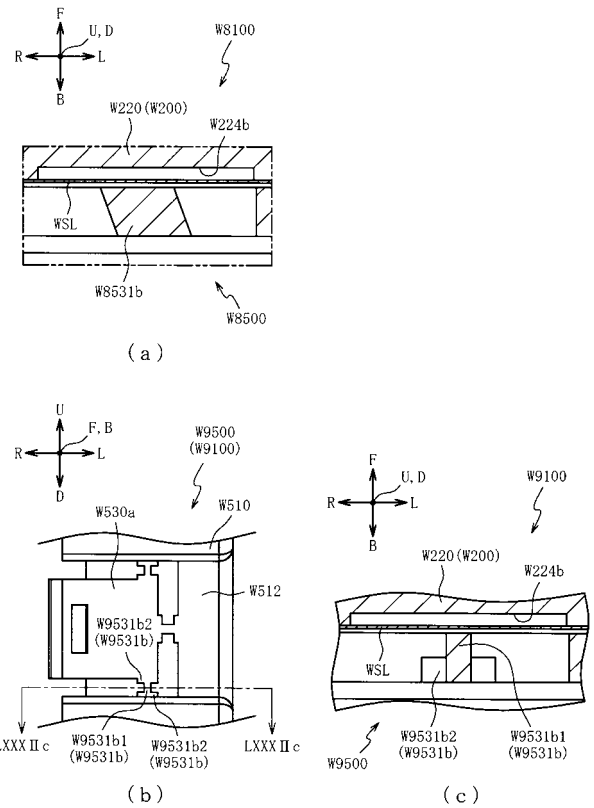
【図８０】



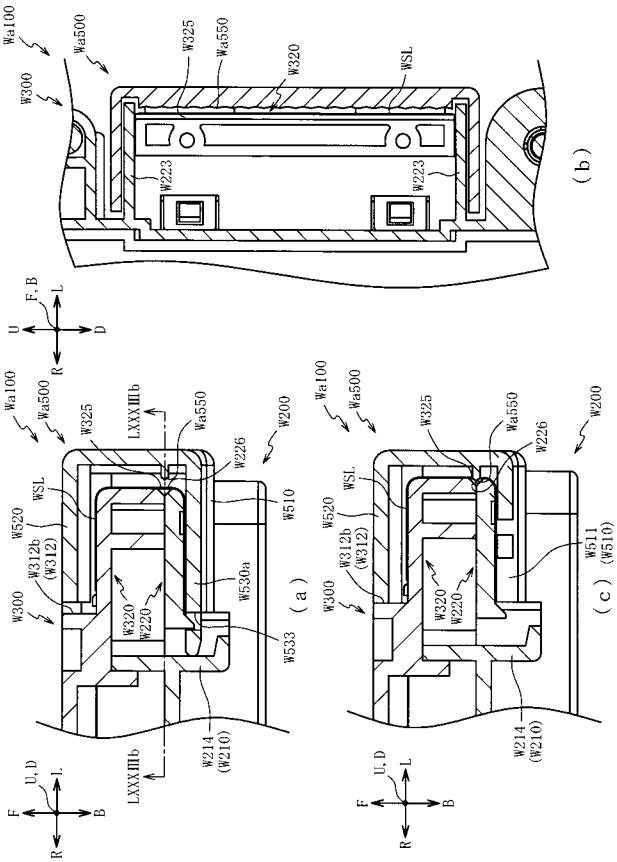
【図８１】



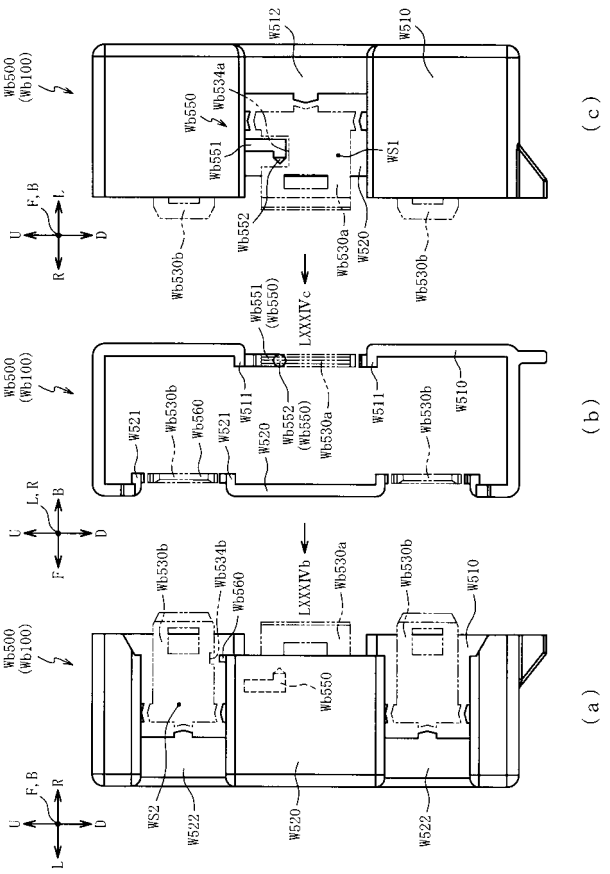
【図８２】



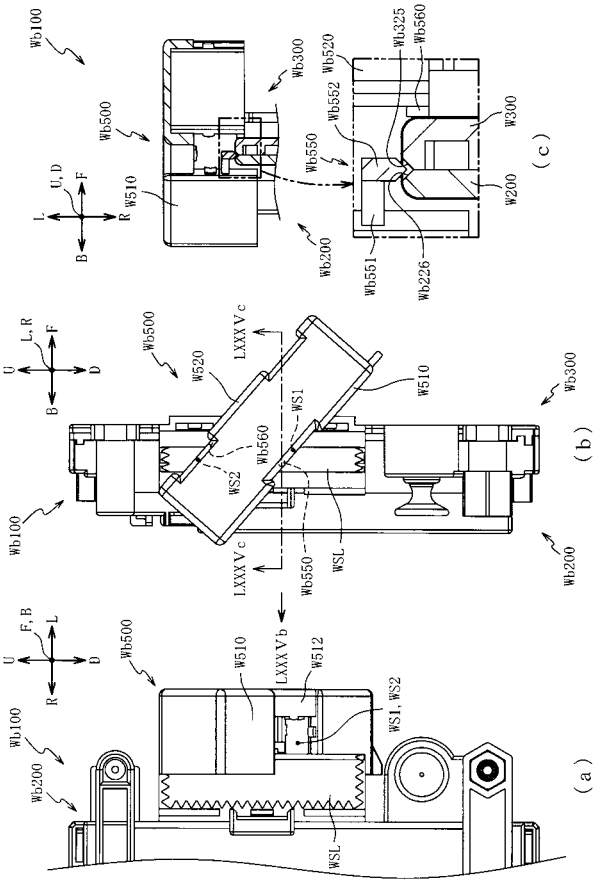
【図８３】



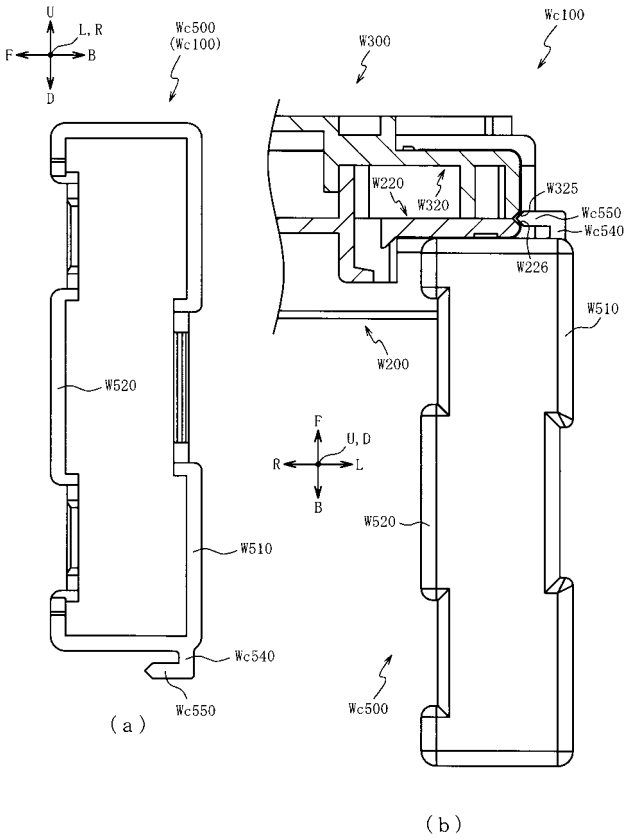
【図８４】



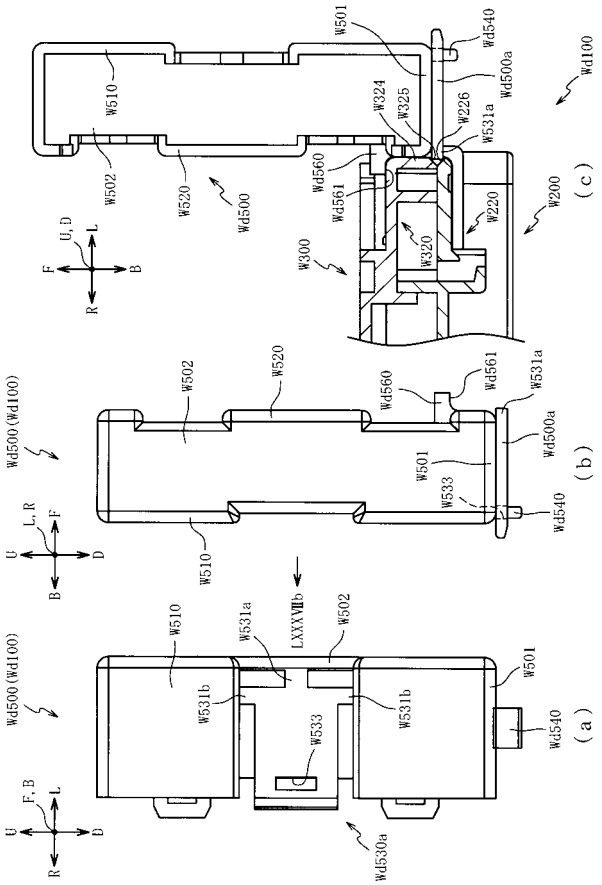
【図８５】



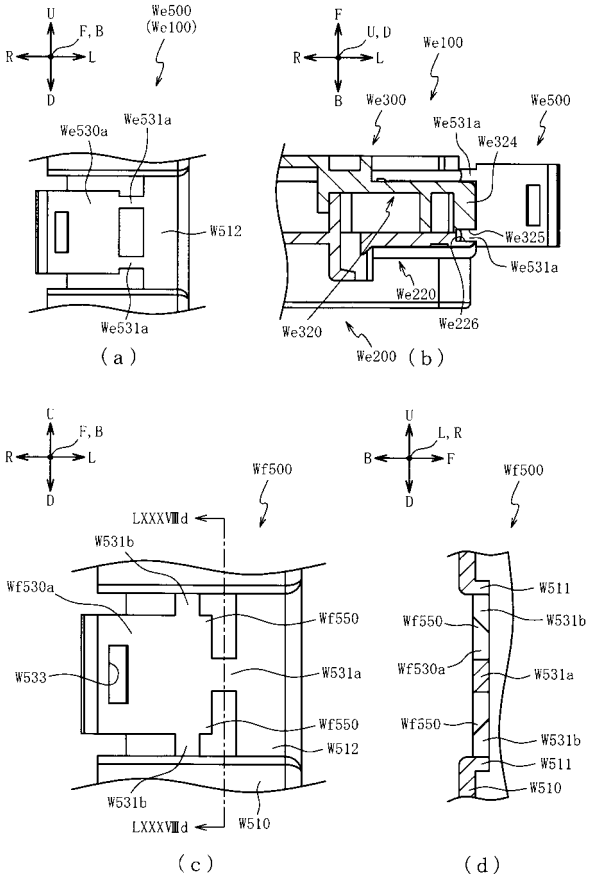
【図８６】



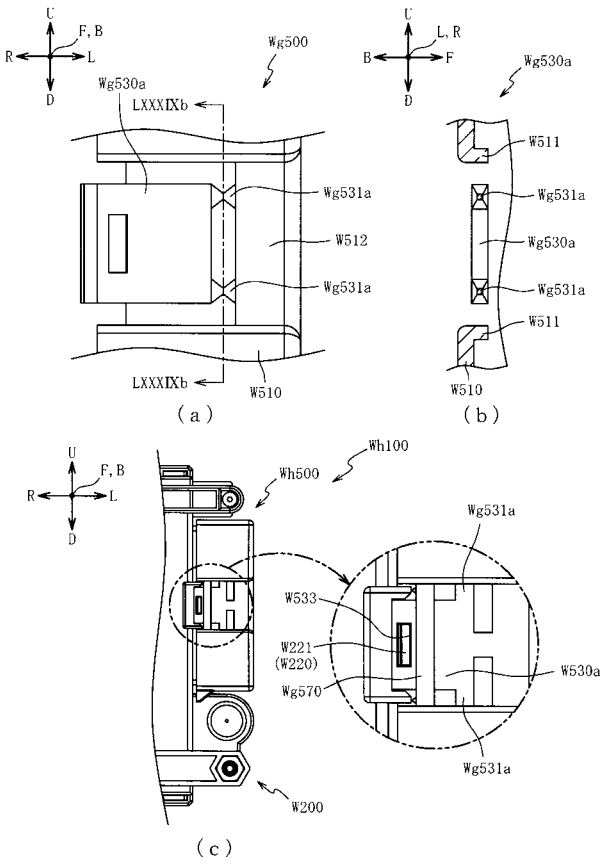
【図８７】



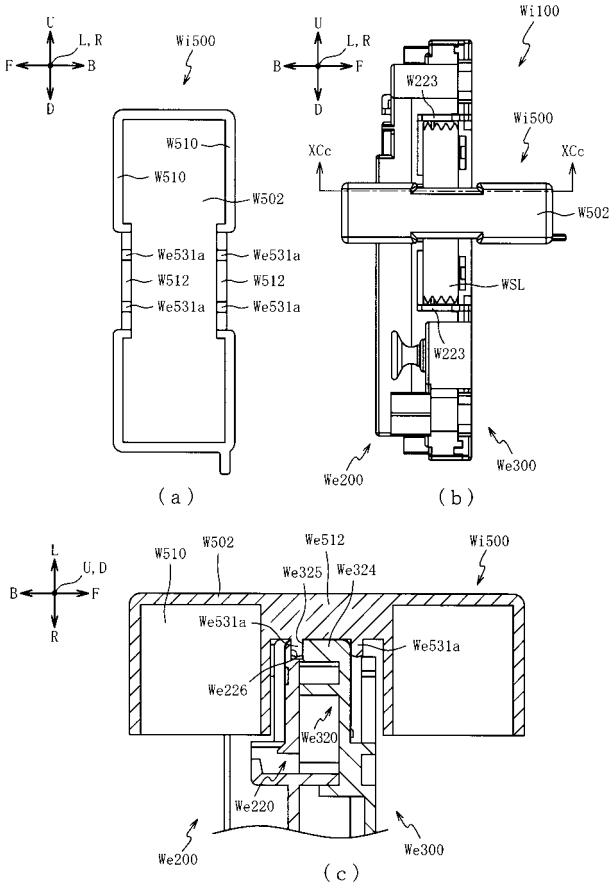
【図８８】



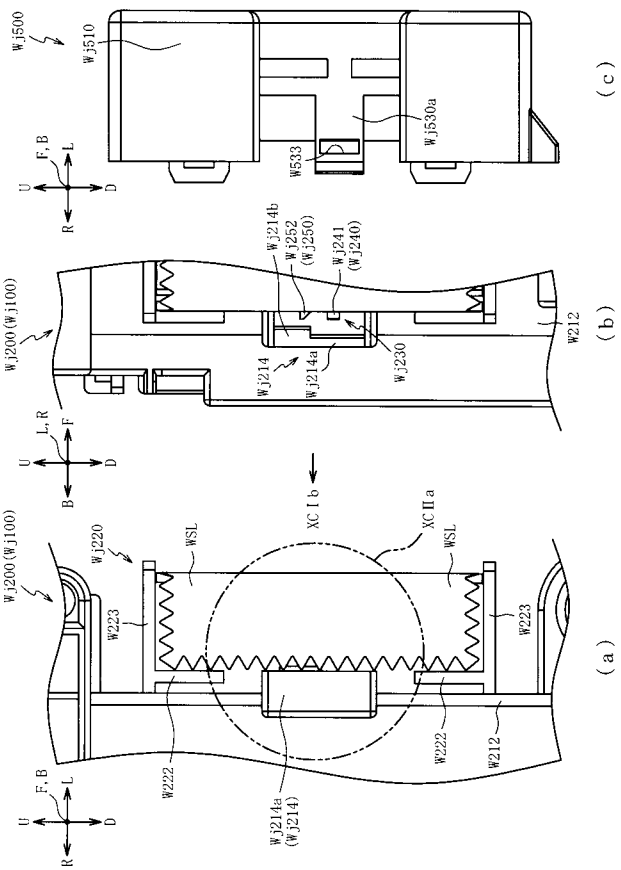
【図８９】



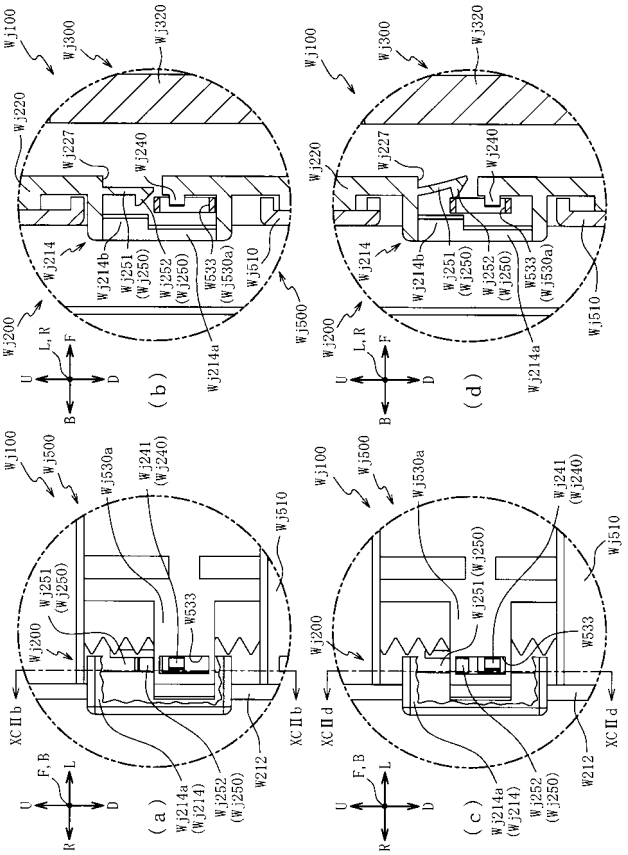
【図９０】



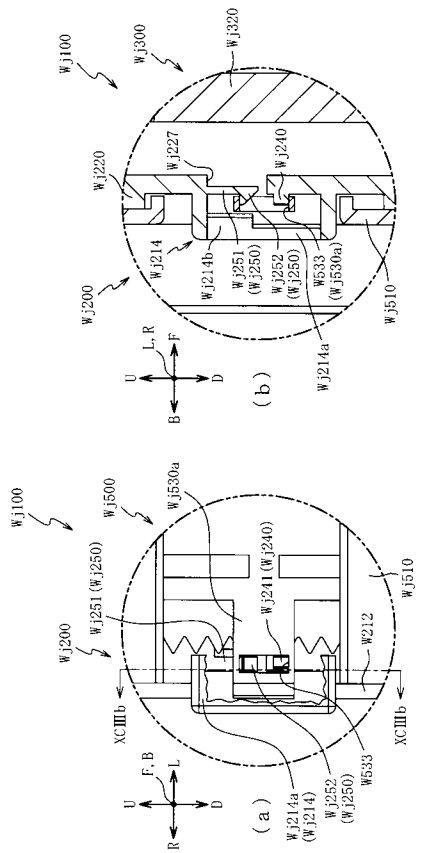
【図９１】



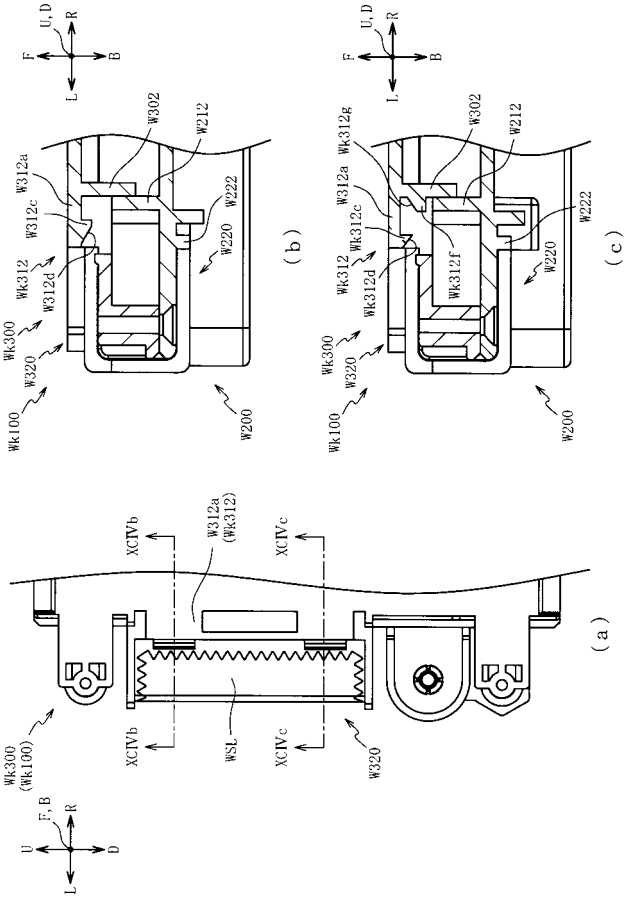
【図９２】



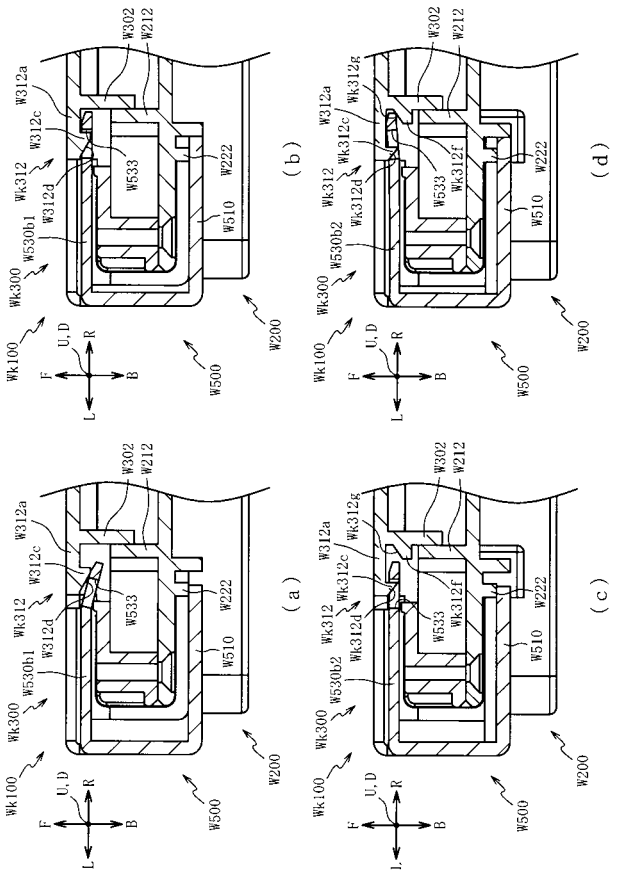
【図９３】



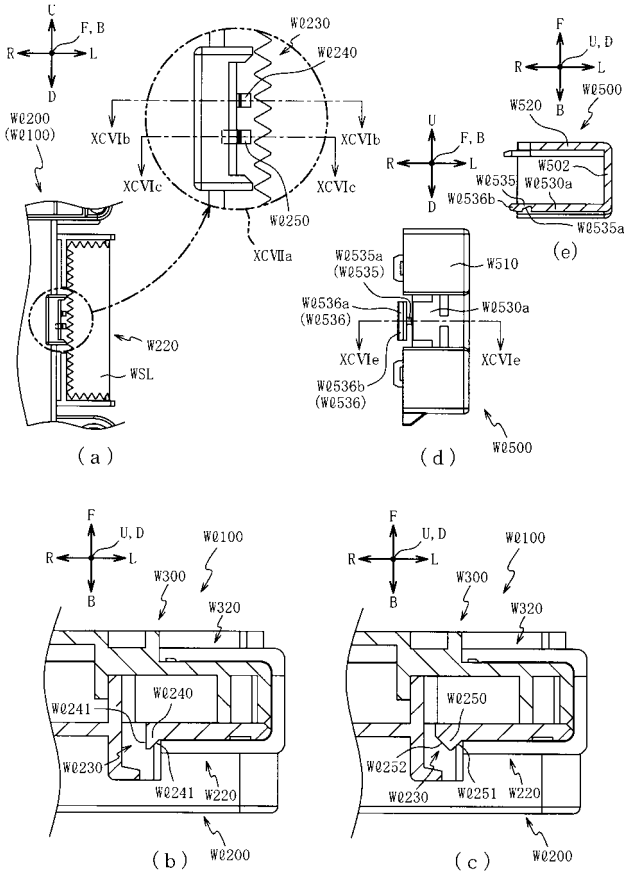
【図９４】



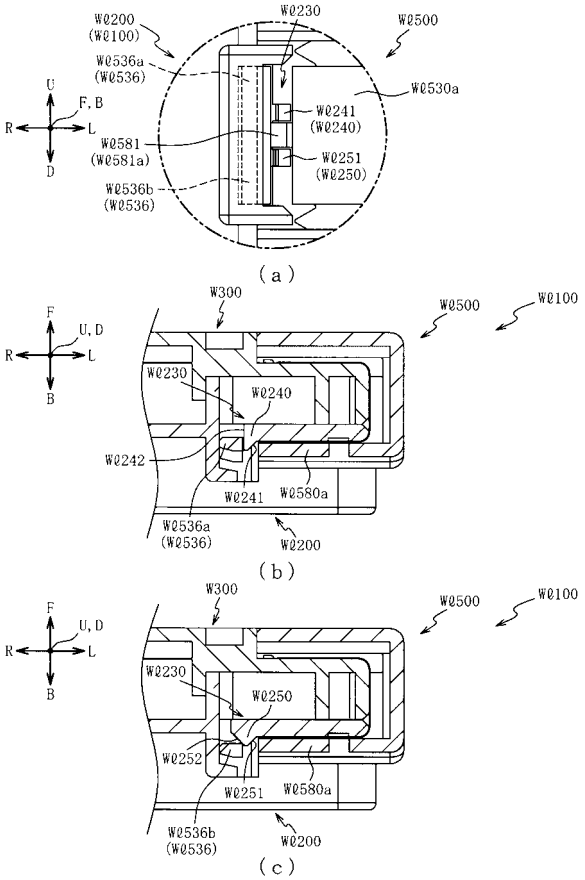
【図９５】



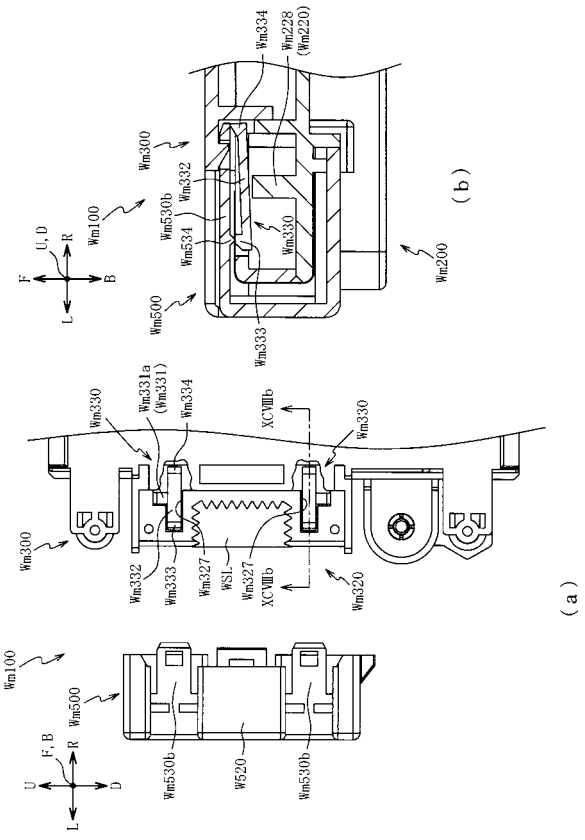
【図９６】



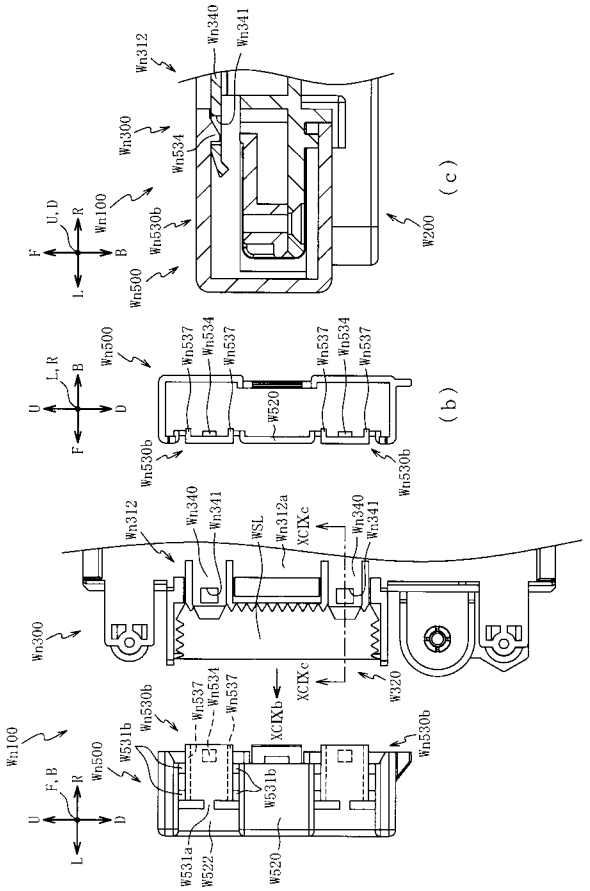
【図９７】



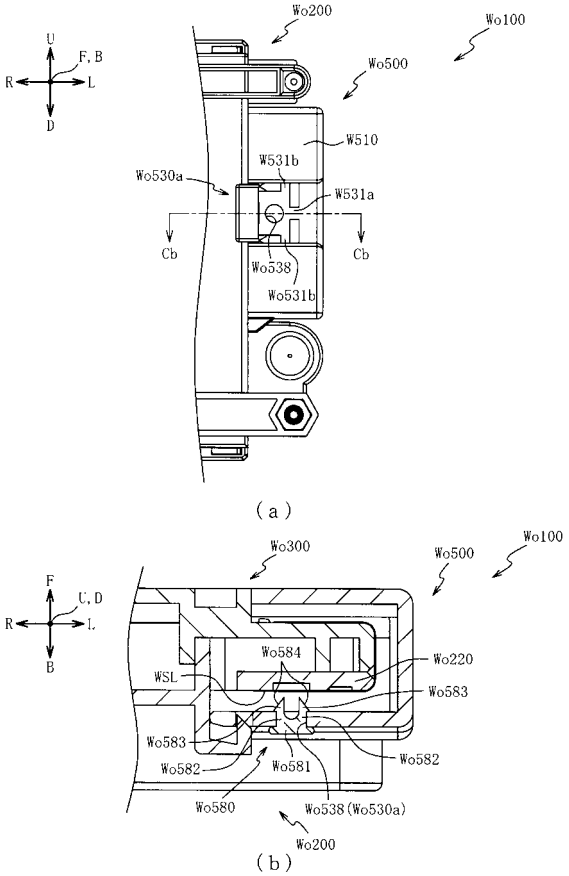
【図９８】



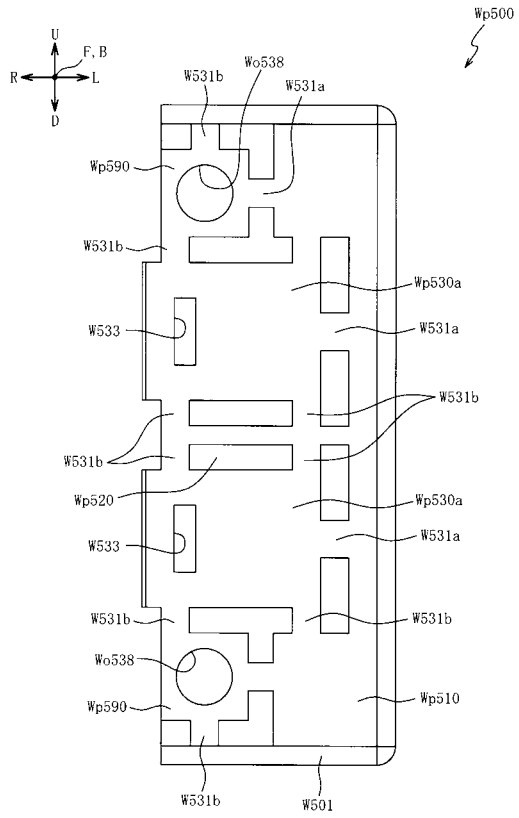
【図９９】



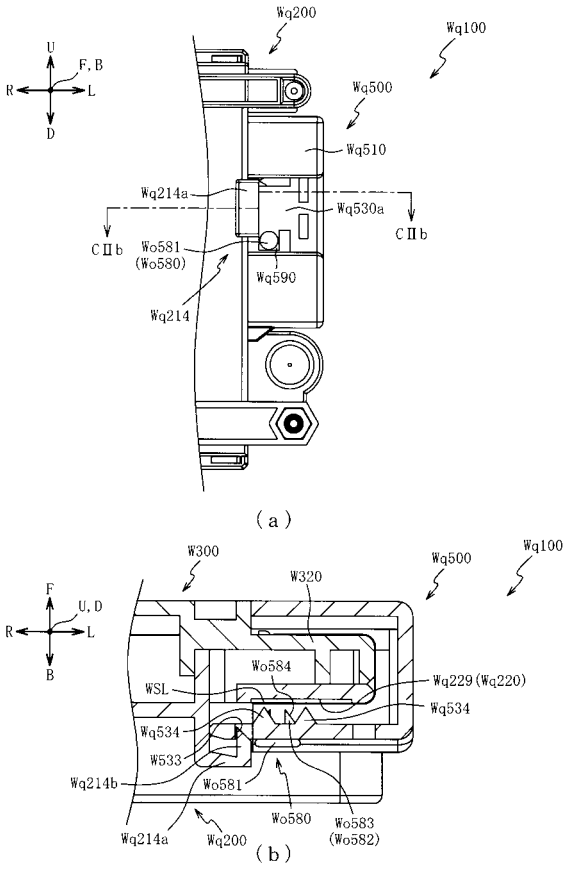
【図１００】



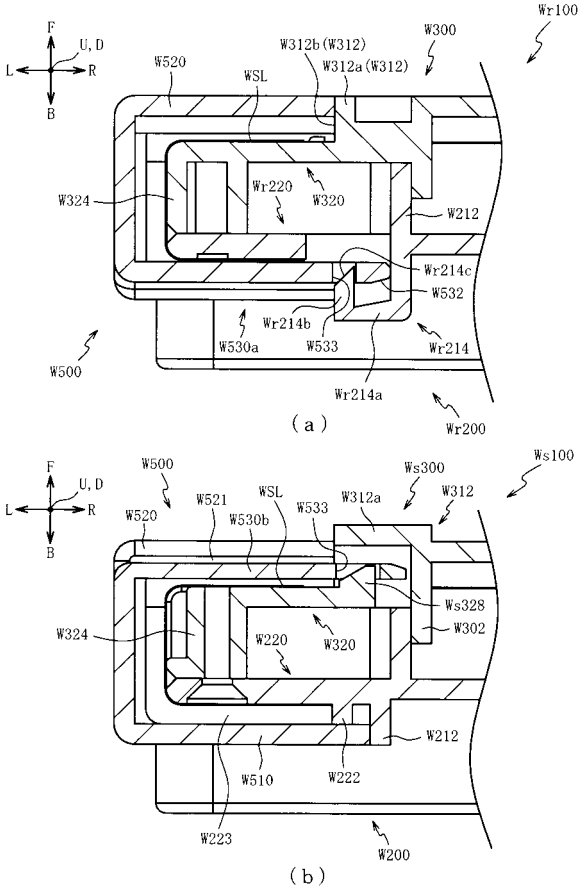
【図１０１】



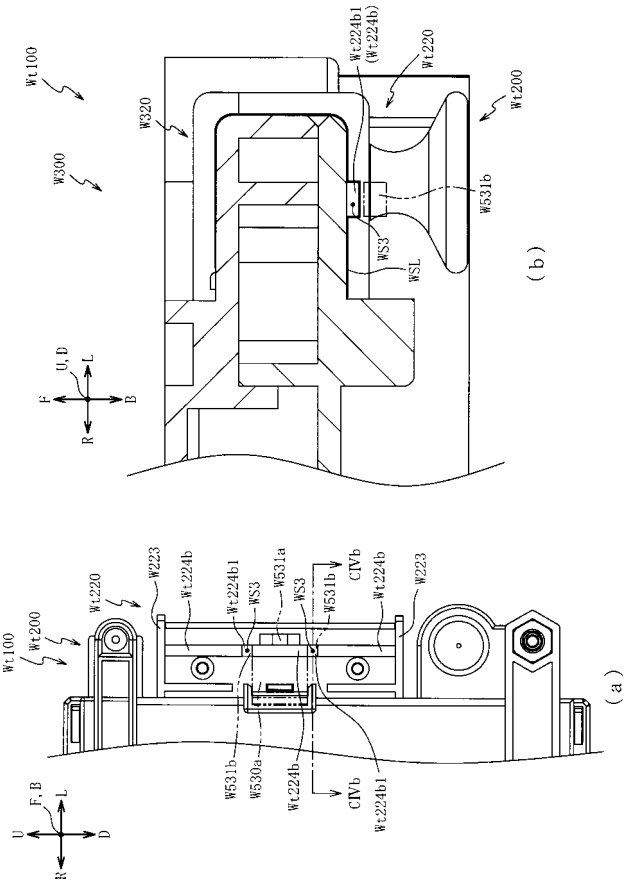
【図１０２】



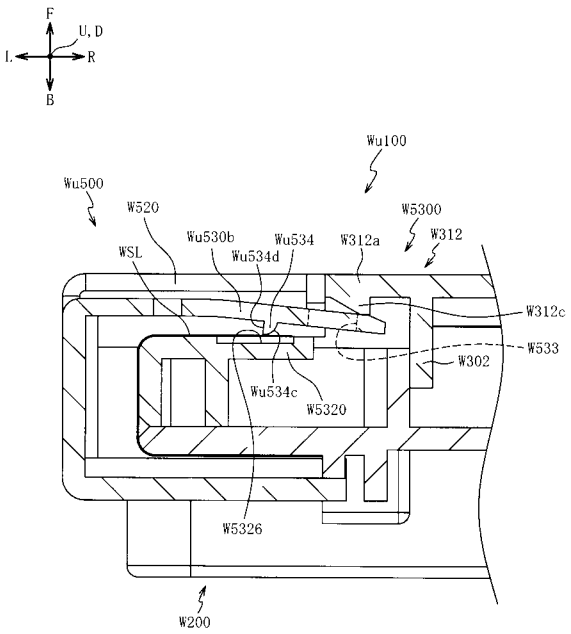
【図１０３】



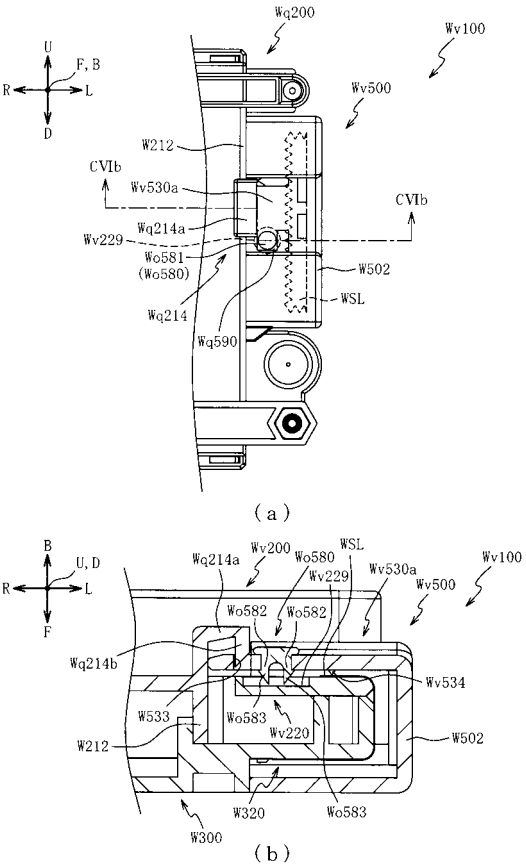
【図１０４】



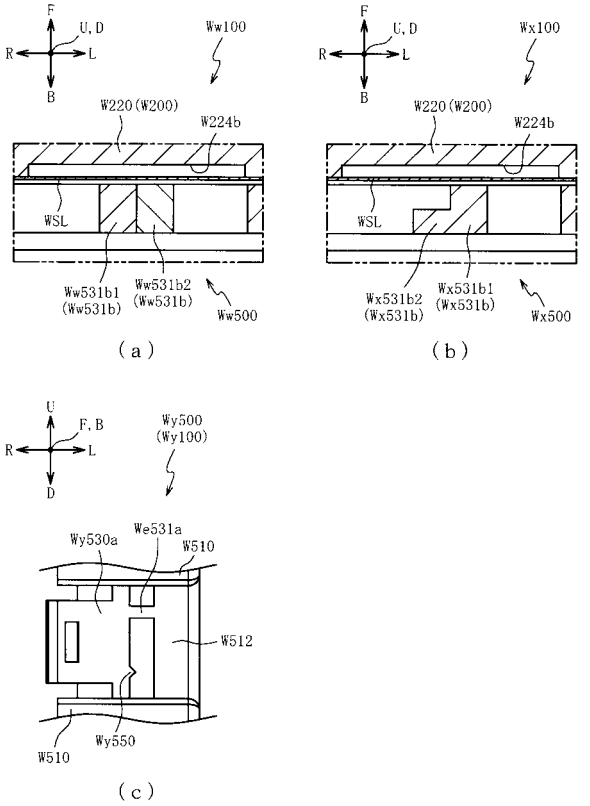
【図１０５】



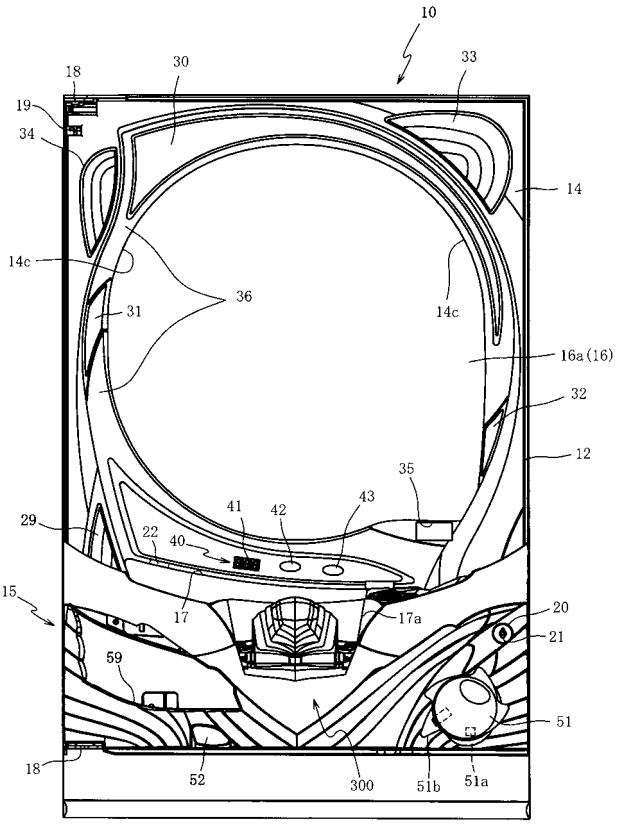
【図１０６】



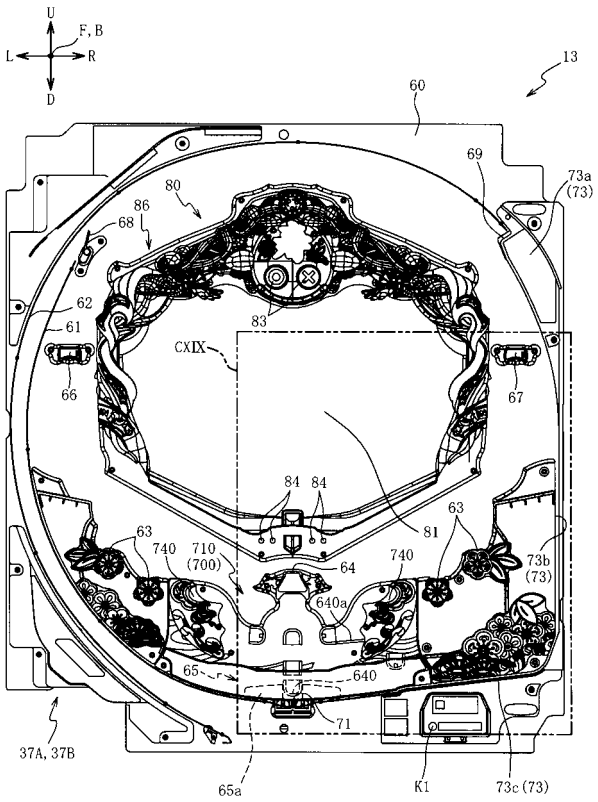
【図１０７】



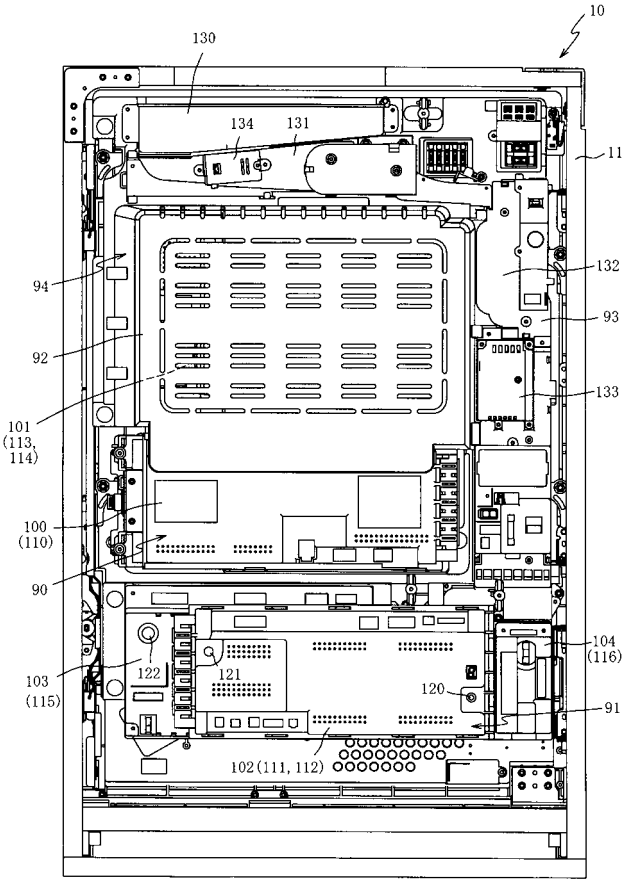
【図１０８】



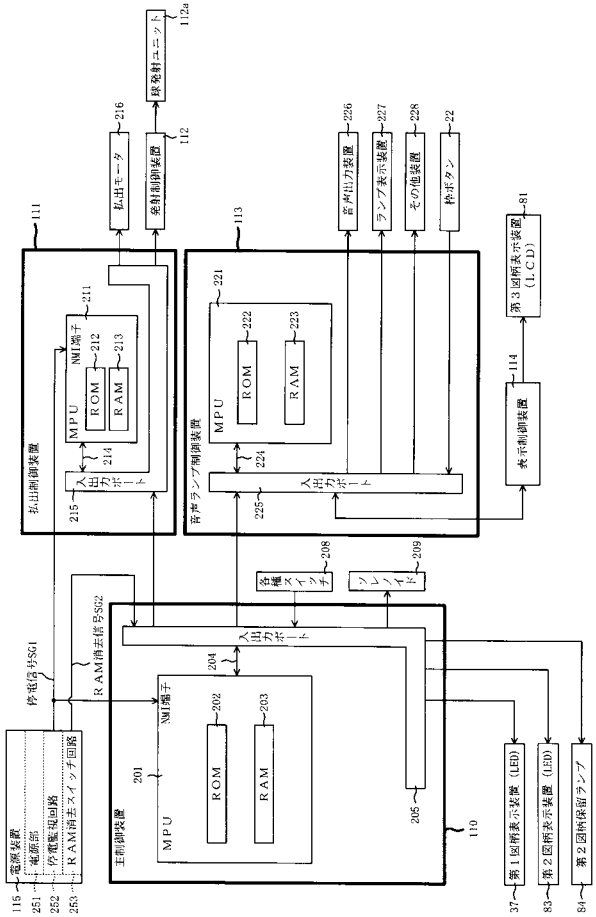
【図１０９】



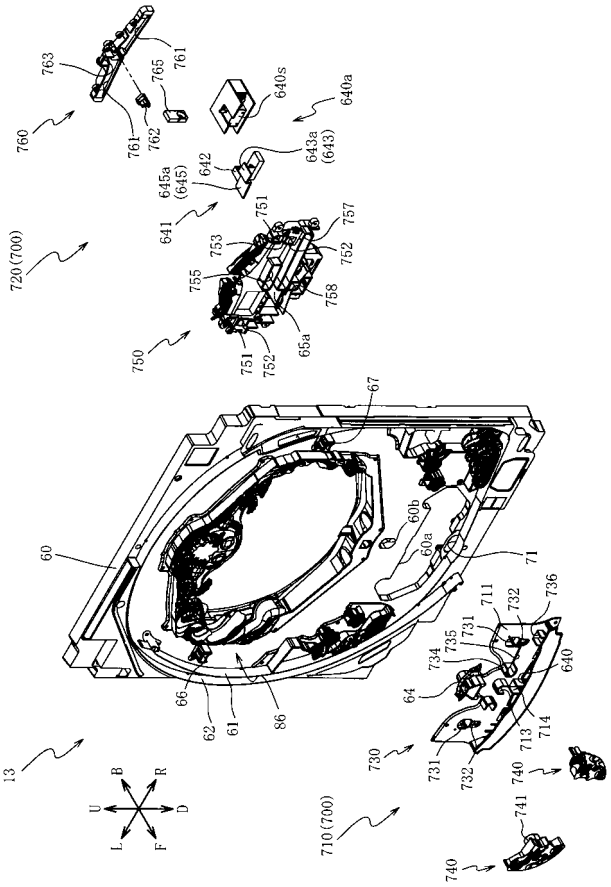
【図１１０】



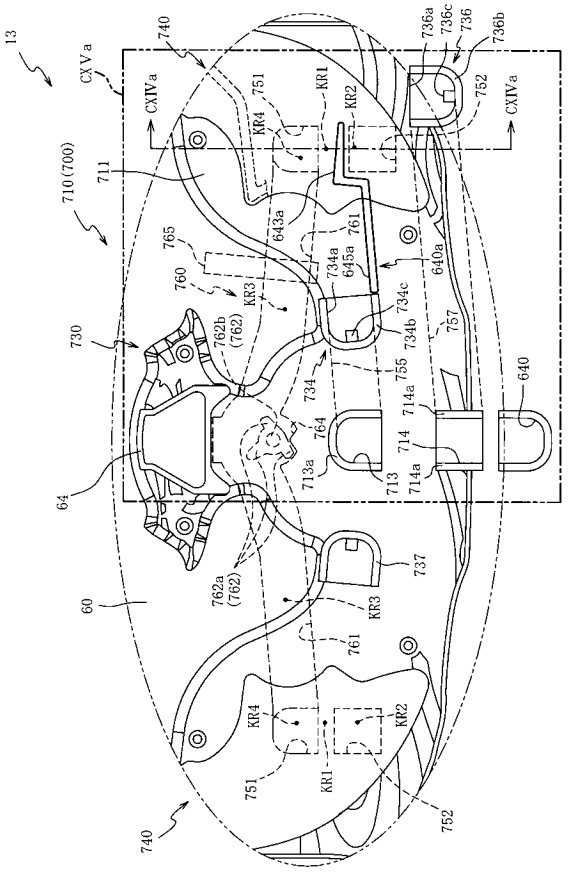
【図１１１】



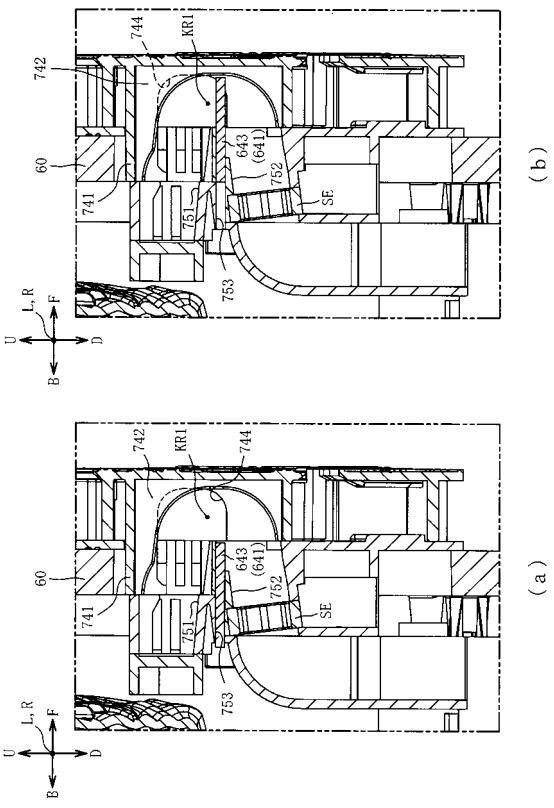
【図１１２】



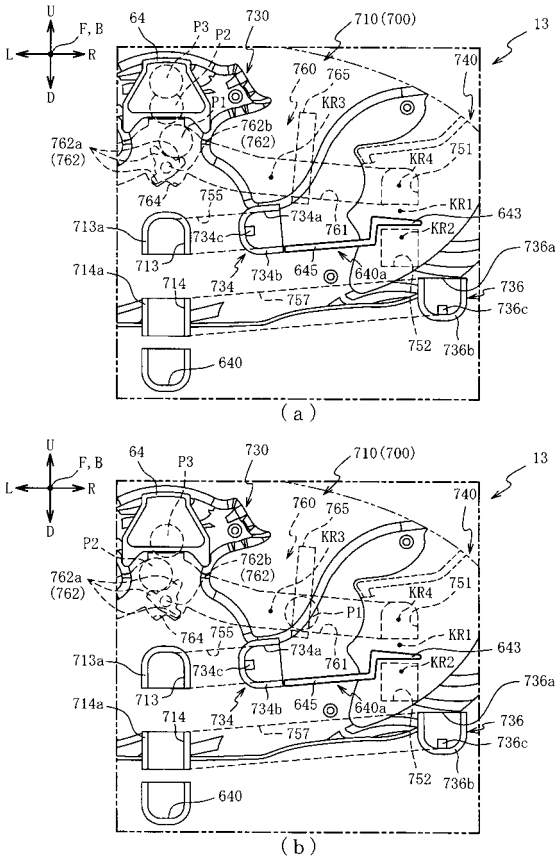
【図１１３】



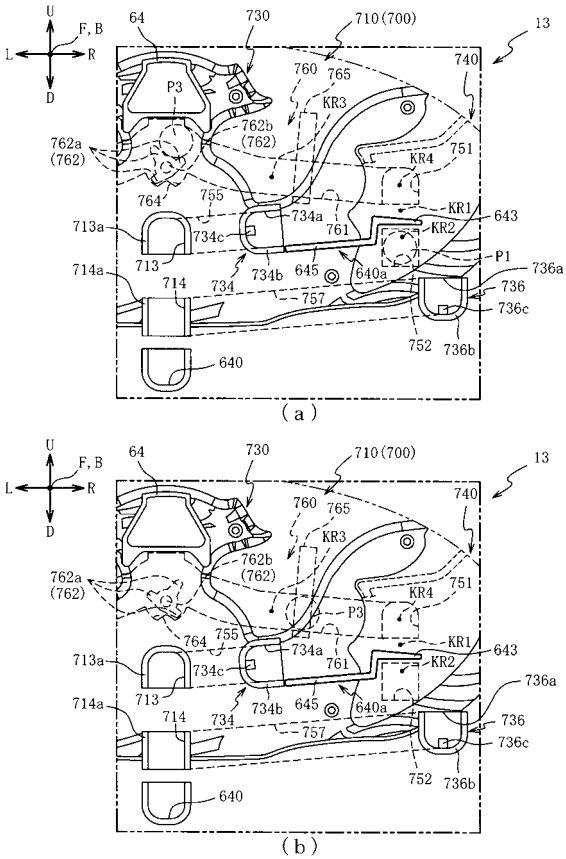
【図１１４】



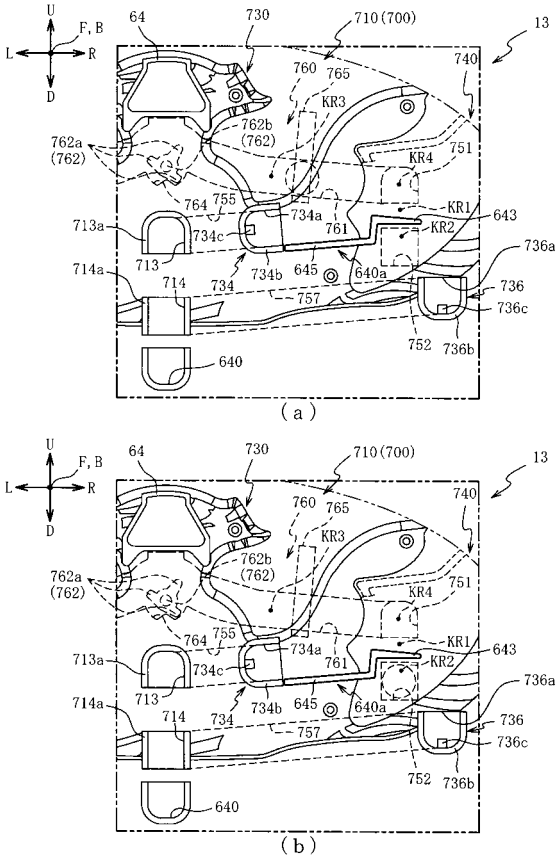
【図１１５】



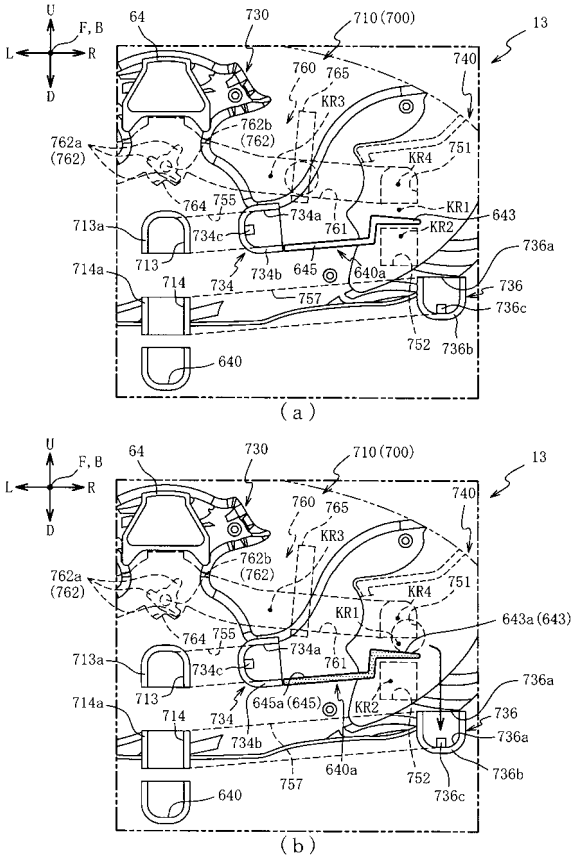
【図１１６】



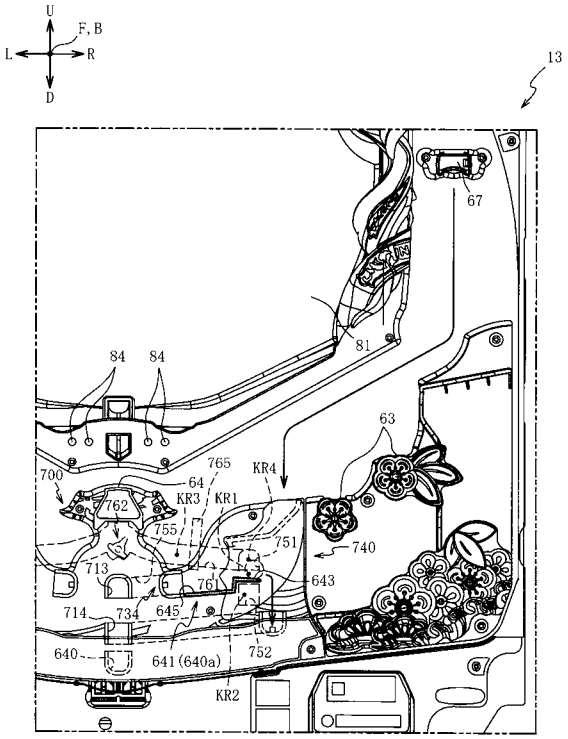
【図１１７】



【図１１８】



【図１１９】



【図１２０】

(a)

ROM（主制御装置）	202
第１当たり乱数テーブル	202a
第１当たり種別選択テーブル	202b
第２当たり乱数テーブル	202c
変動パターン選択テーブル	202d

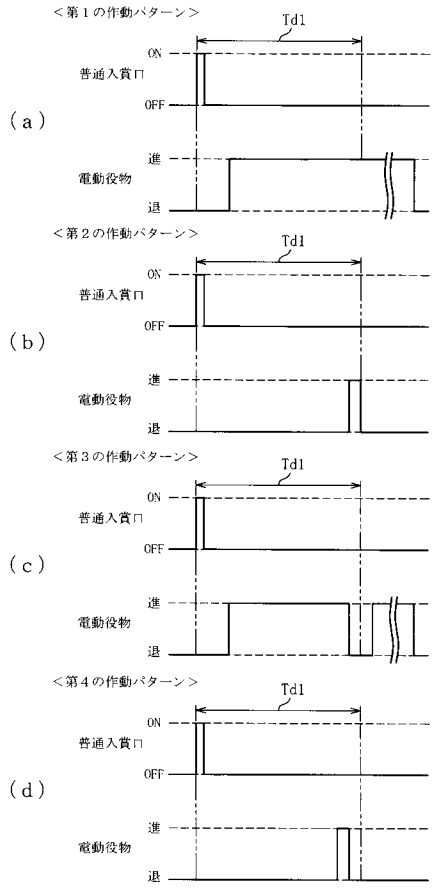
(b) 第１当たり種別選択テーブル202b

大当たり種別		第１当たり種別カウンタＣ２の値（0～99）		ラウンドカウント	電動役物作動パターン	継続期間
特別図柄１	大当たりA	0～19	202b1	15R 10C	第１の作動パターン	次回まで
	大当たりB	20～49	202b2	8R 10C	第２の作動パターン	
	大当たりC	50～99	202b3	4R 10C	第２の作動パターン	100回転（左）
特別図柄２	大当たりa	0～19	202b4	15R 10C	第１の作動パターン	次回まで
	大当たりb	20～49	202b5	15R 10C	第１の作動パターン	
	大当たりc	50～99	202b6	15R 10C	第３の作動パターン	100回転（右）

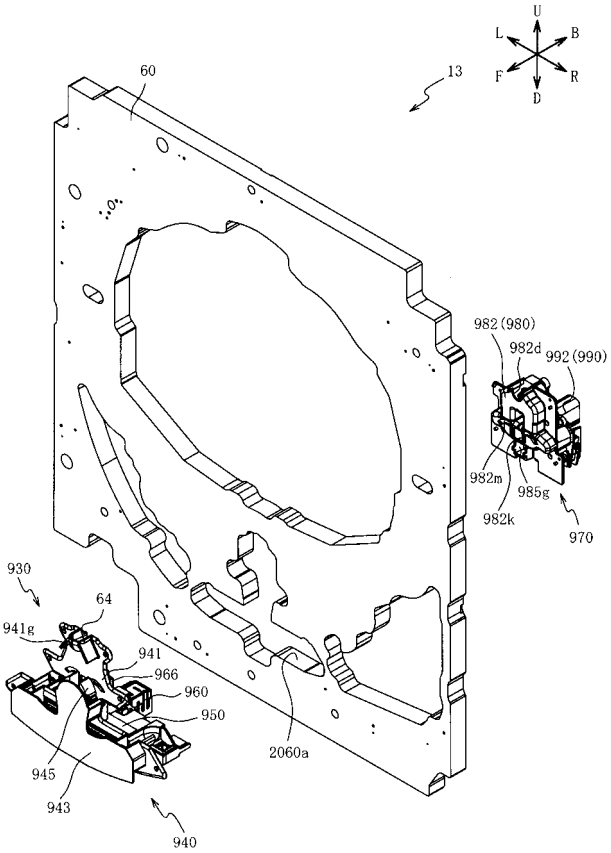
(c) 第２当たり乱数テーブル202c

乱数テーブル	第２当たり乱数カウンタＣ４の値（0～239）	
低確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～204	202c1
高確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～204	202c2

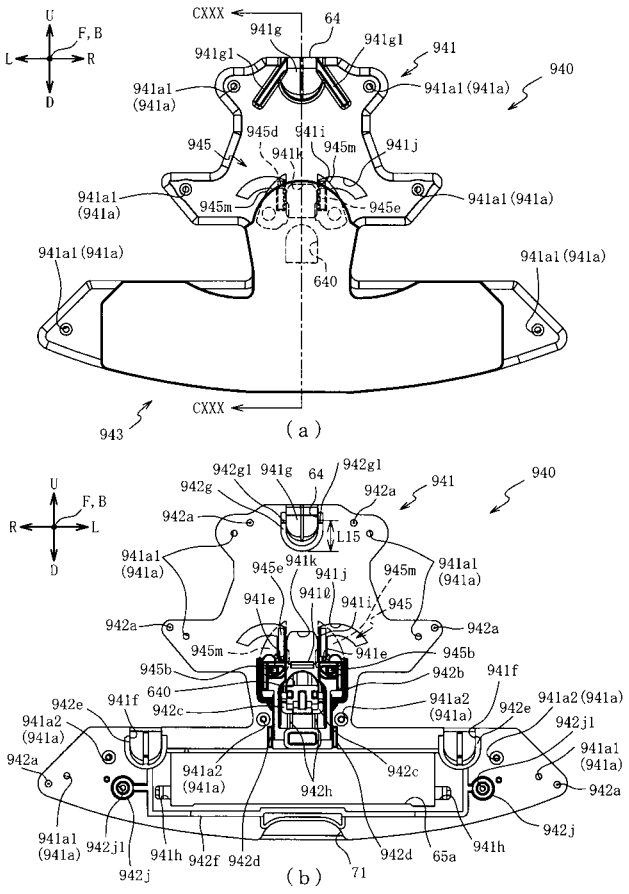
【図１２１】



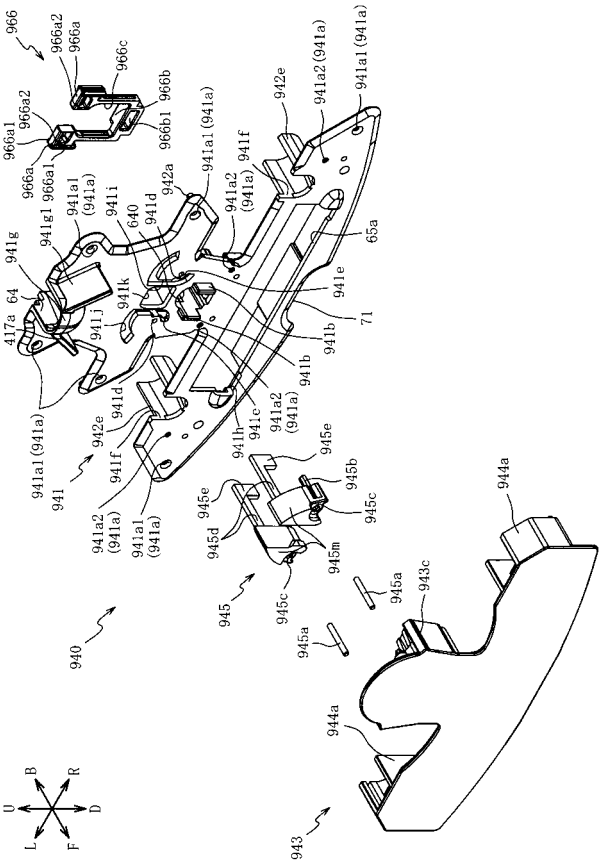
【図１２２】



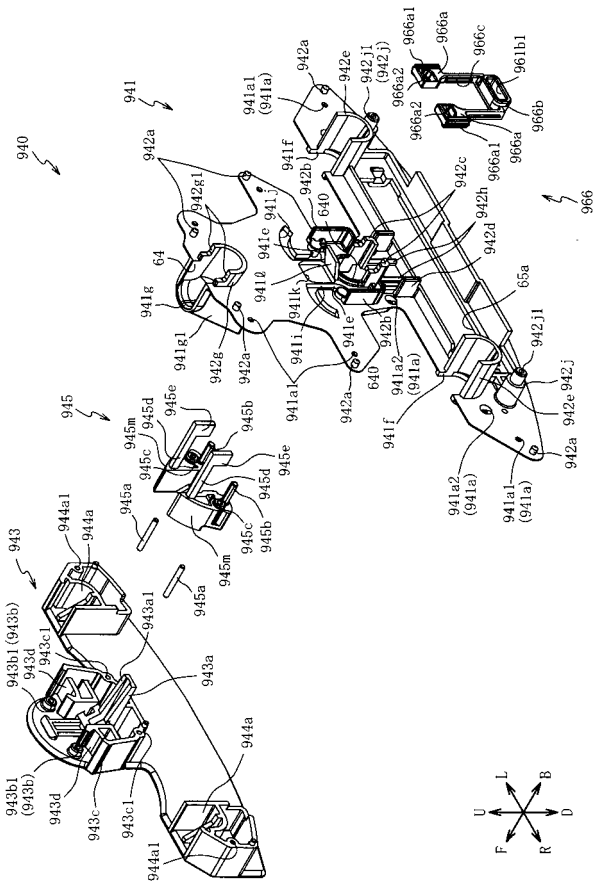
【図１２３】



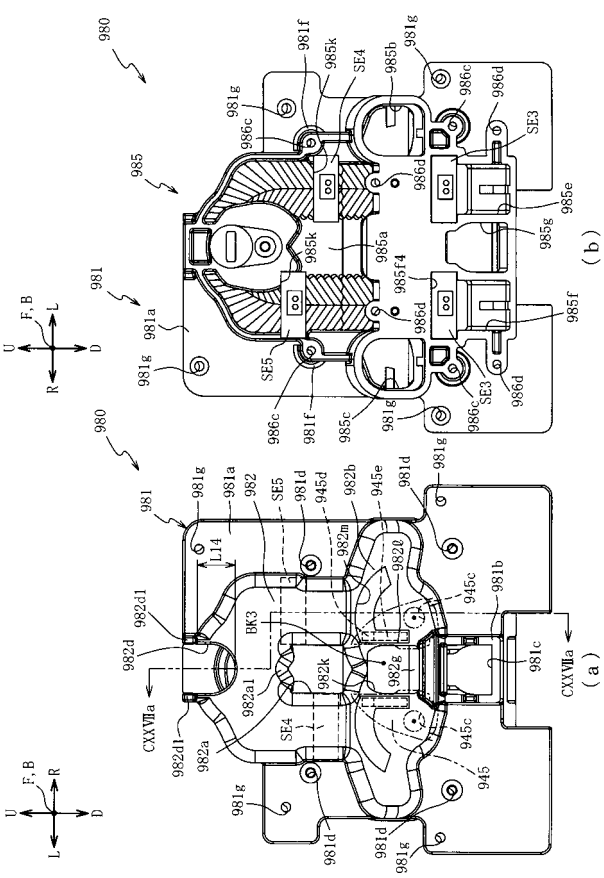
【図１２４】



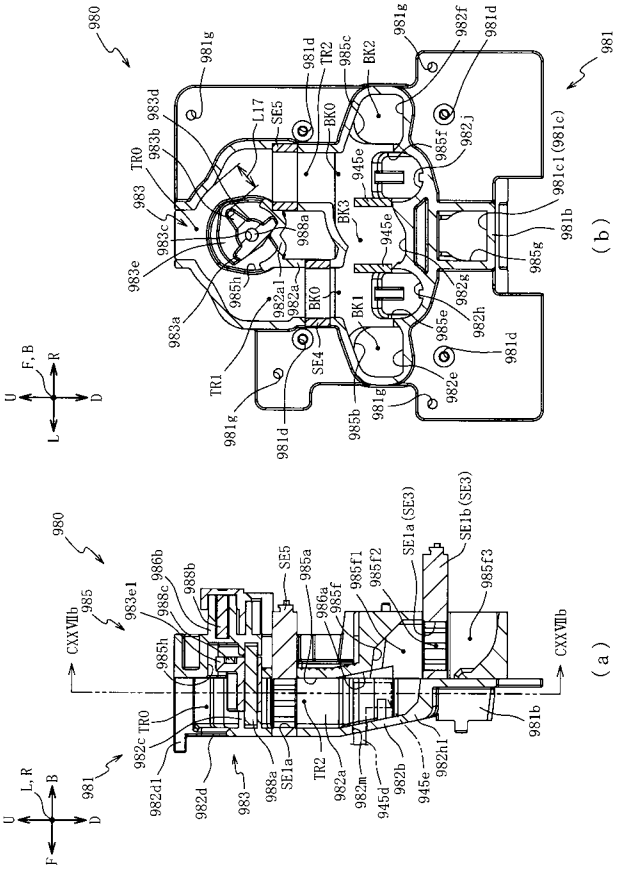
【図１２５】



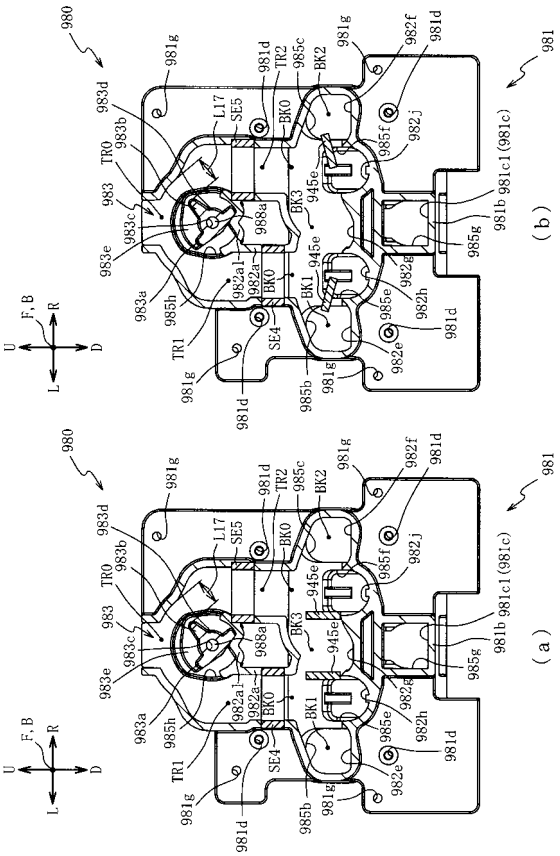
【図１２６】



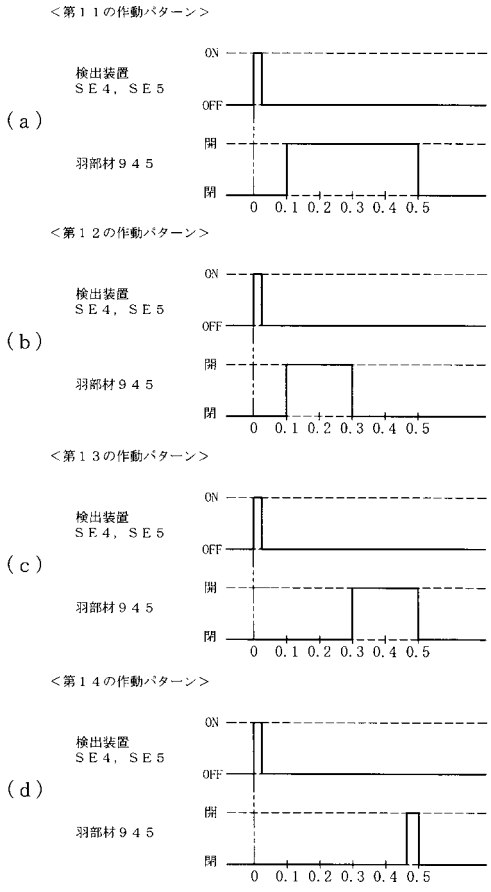
【図１２７】



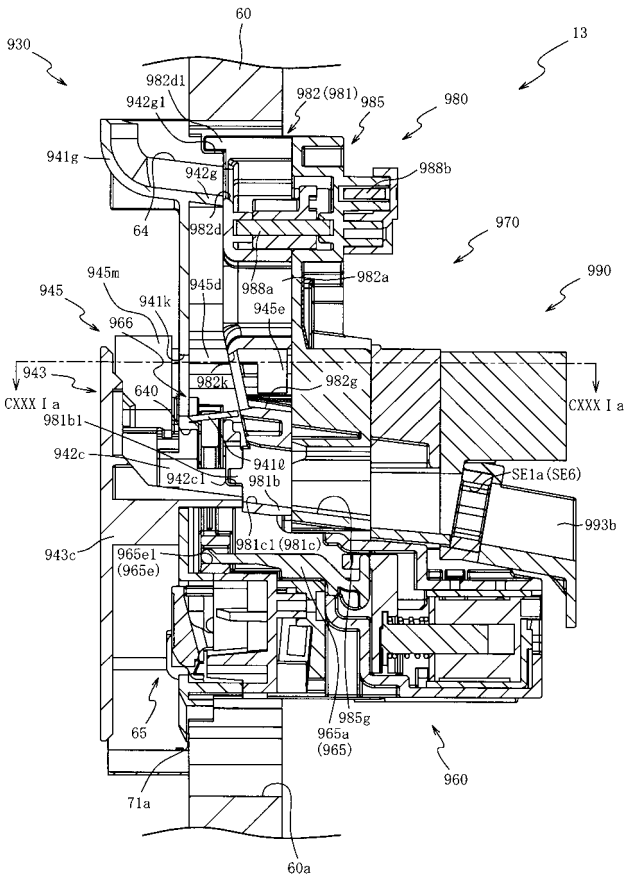
【図１２８】



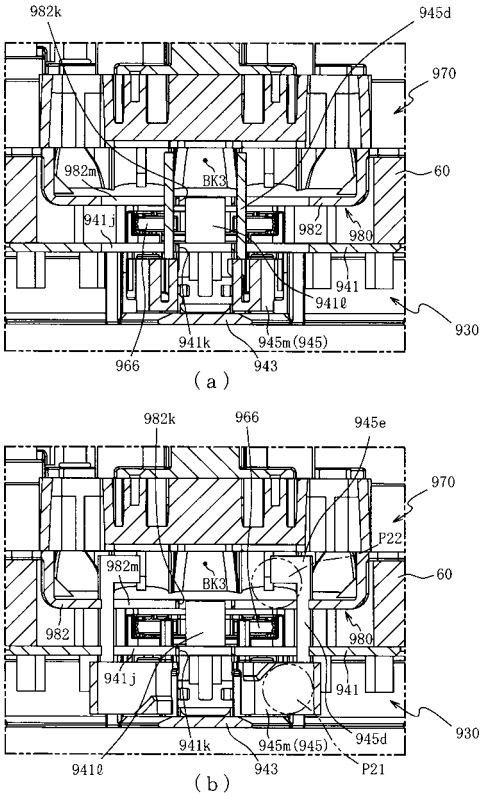
【図１２９】



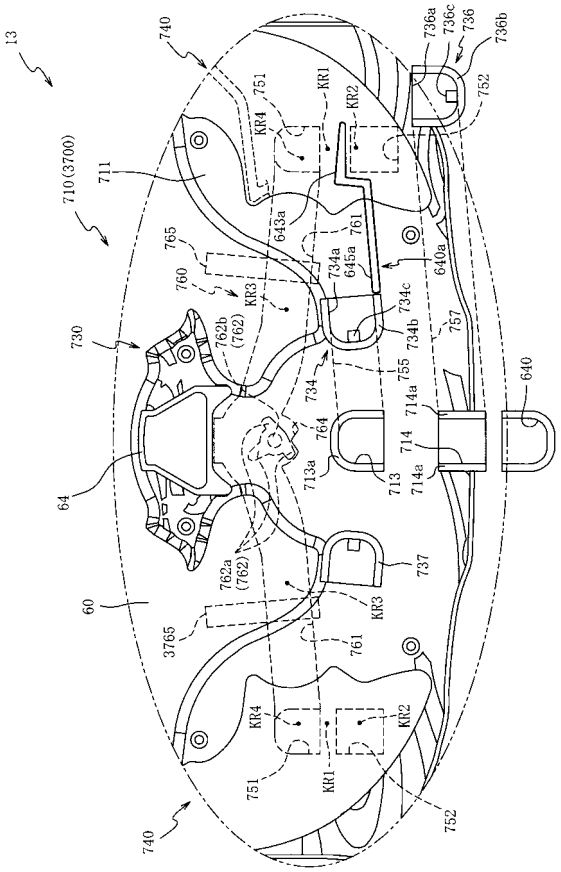
【図１３０】



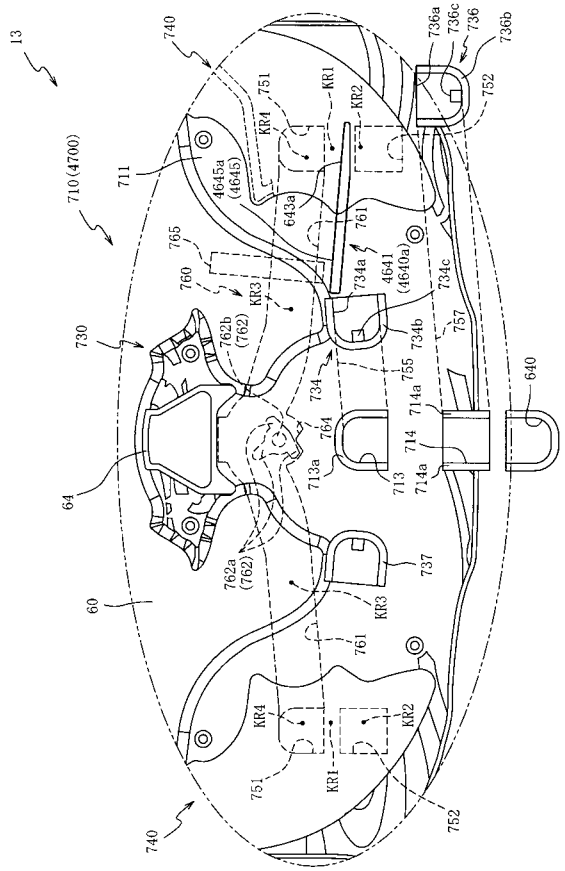
【図１３１】



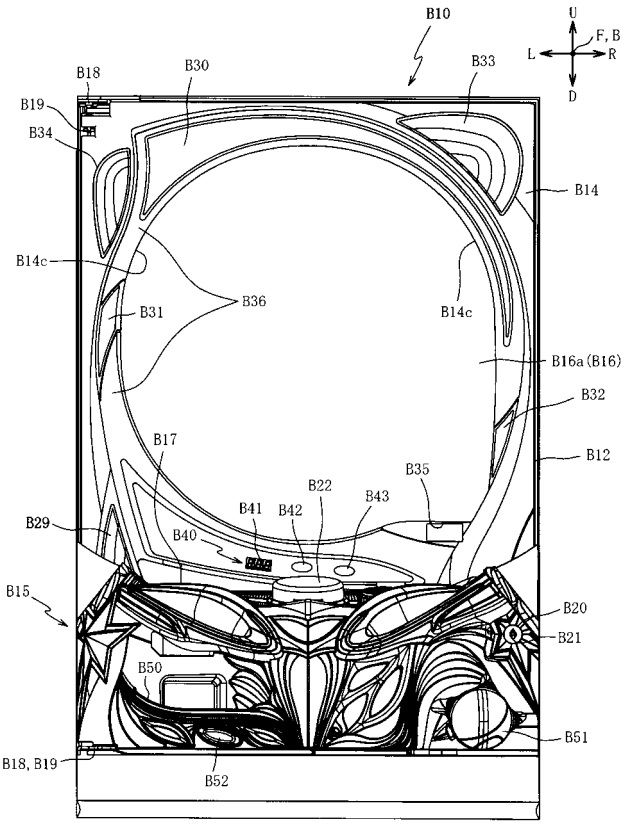
【図１３２】



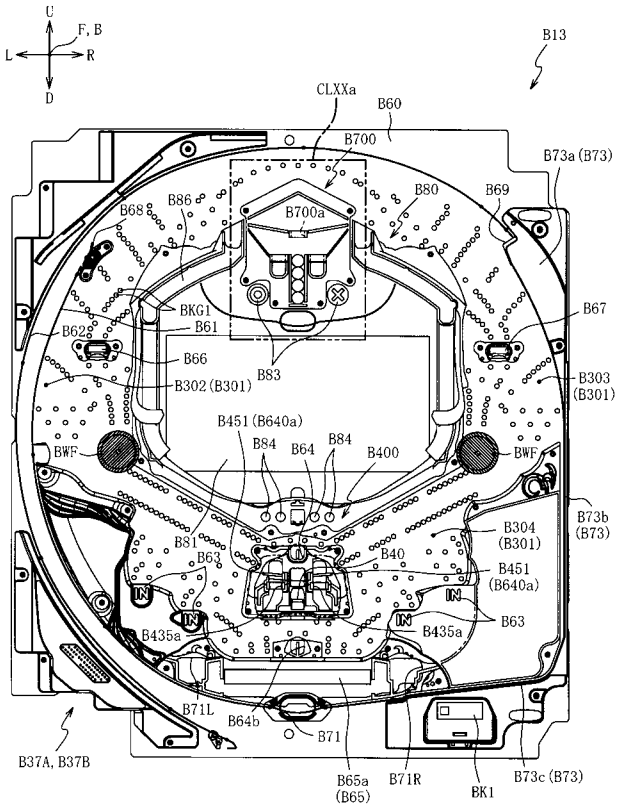
【図１３３】



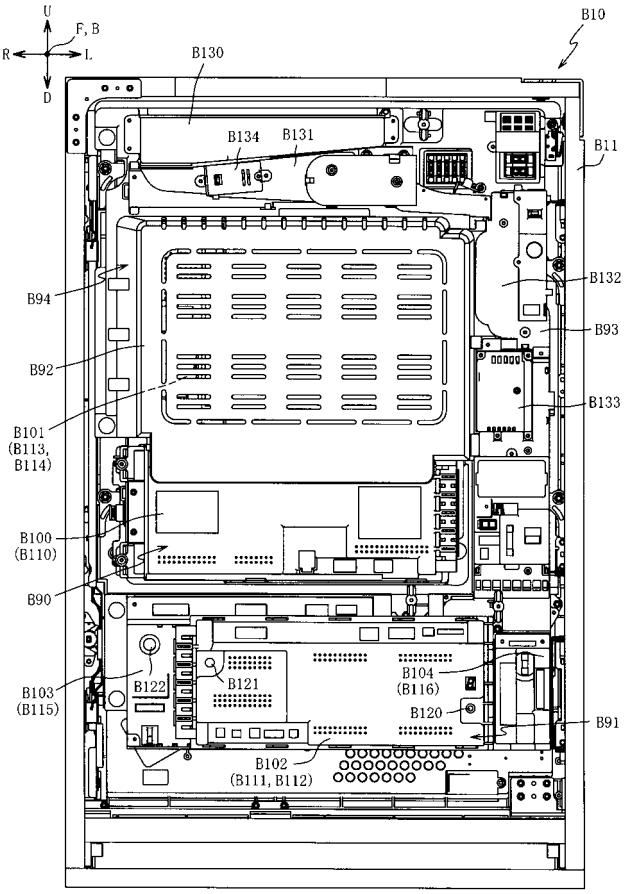
【図１３４】



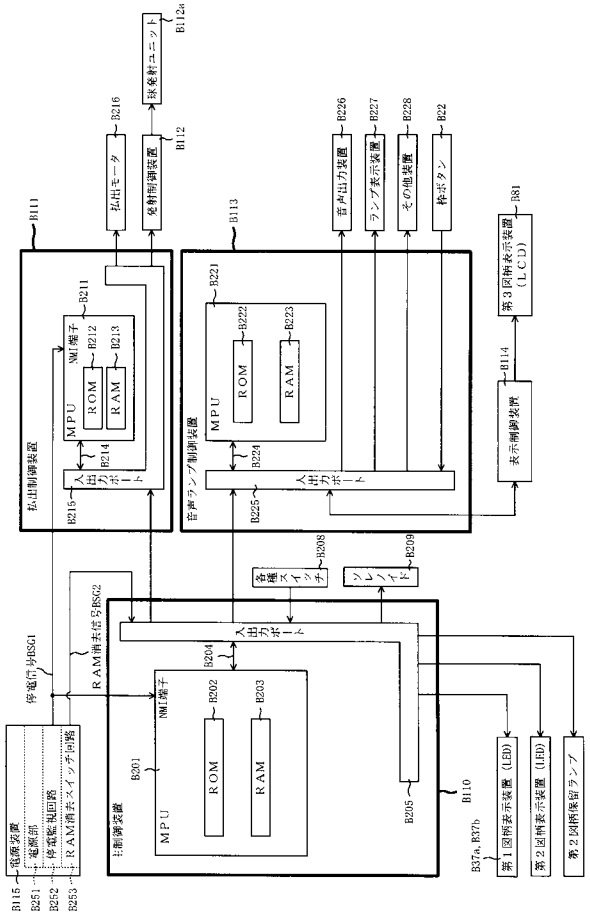
【図１３５】



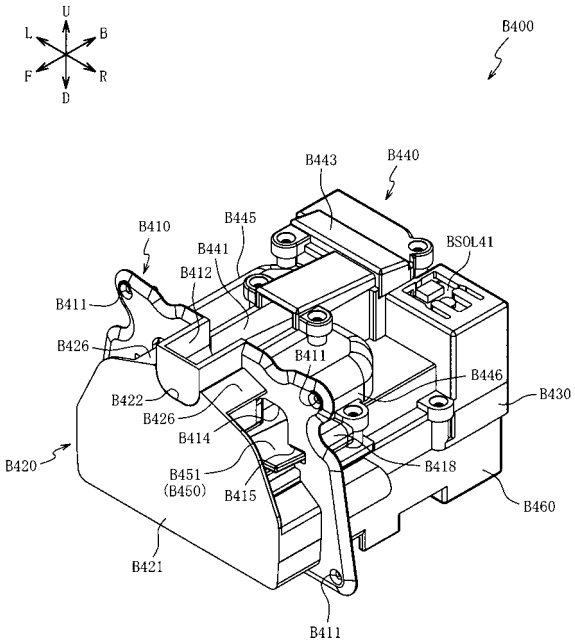
【図１３６】



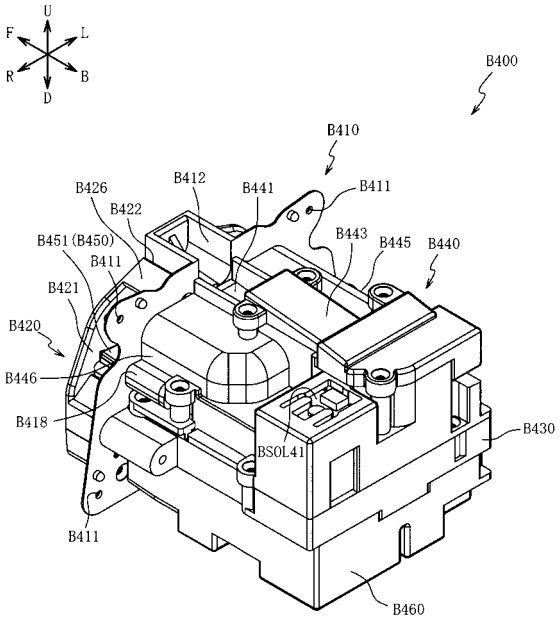
【図１３７】



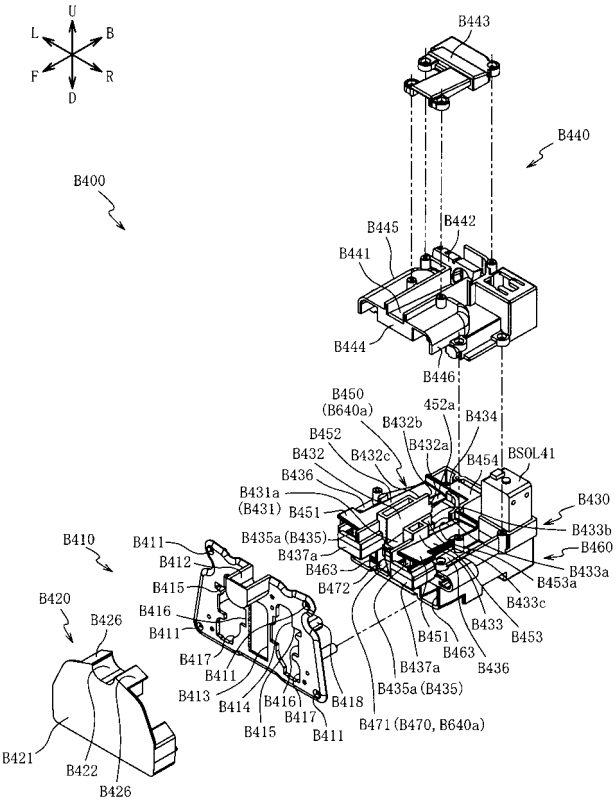
【図１３８】



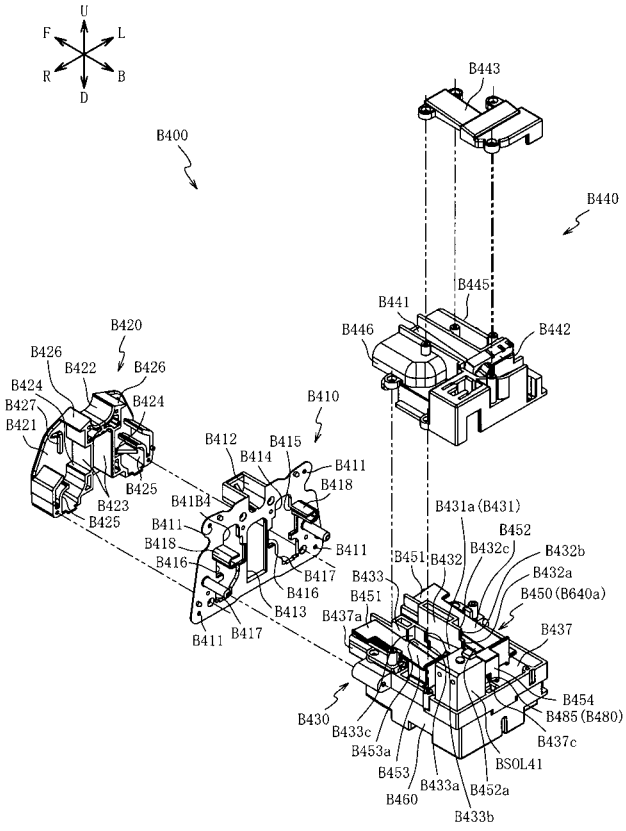
【図１３９】



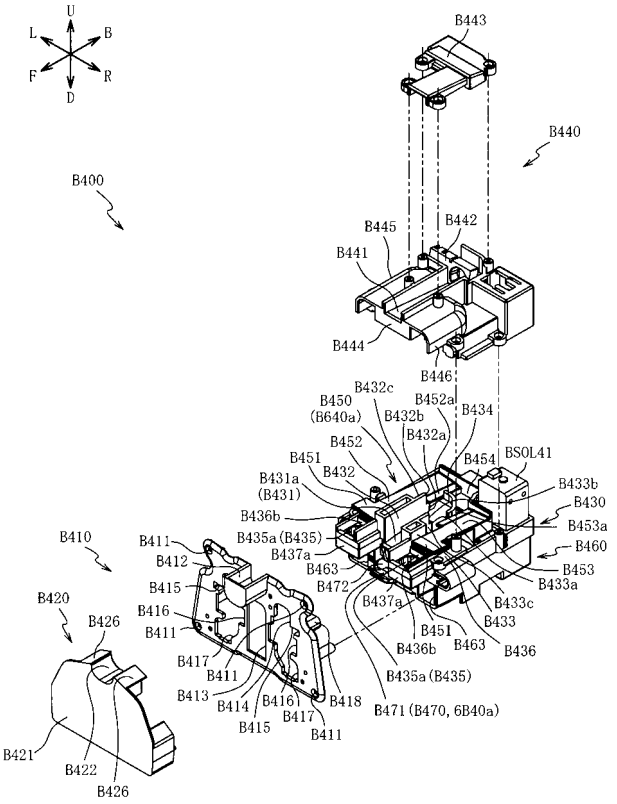
【図１４０】



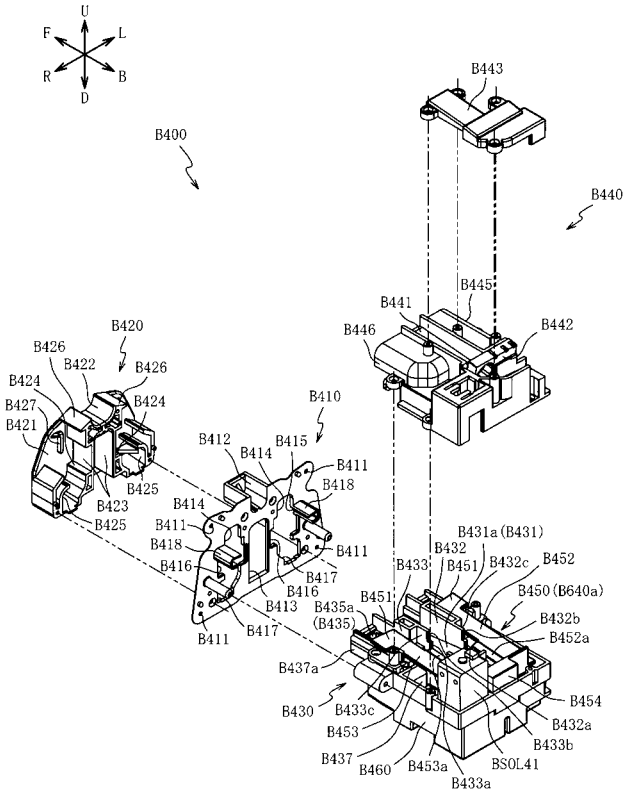
【図１４１】



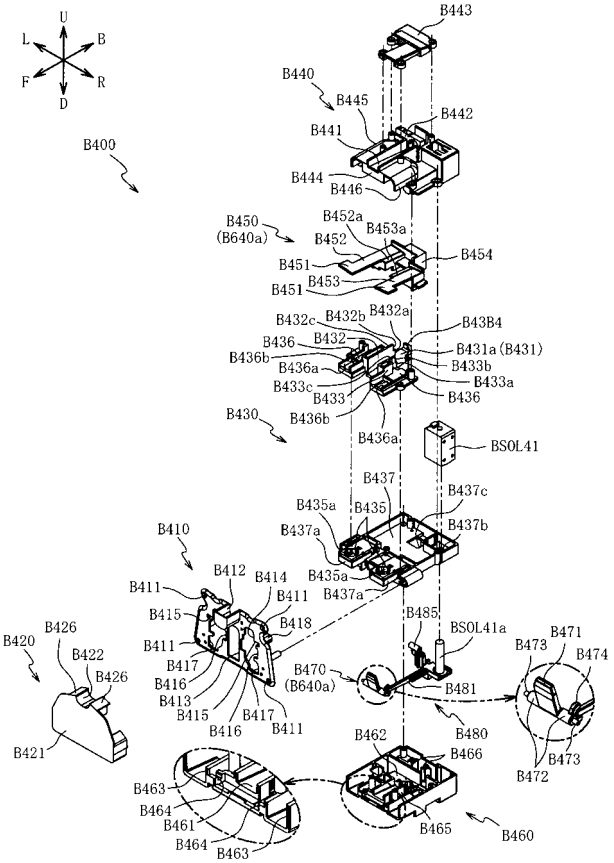
【図１４２】



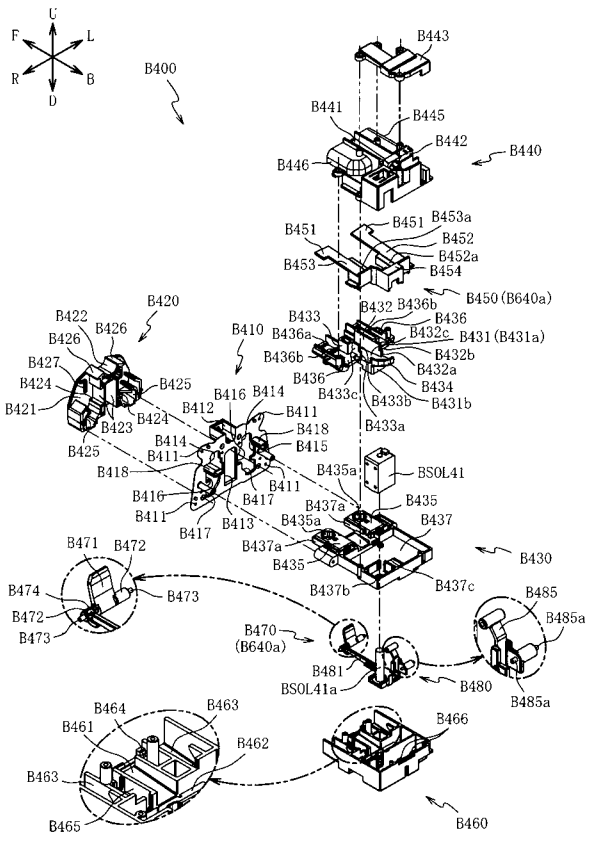
【図１４３】



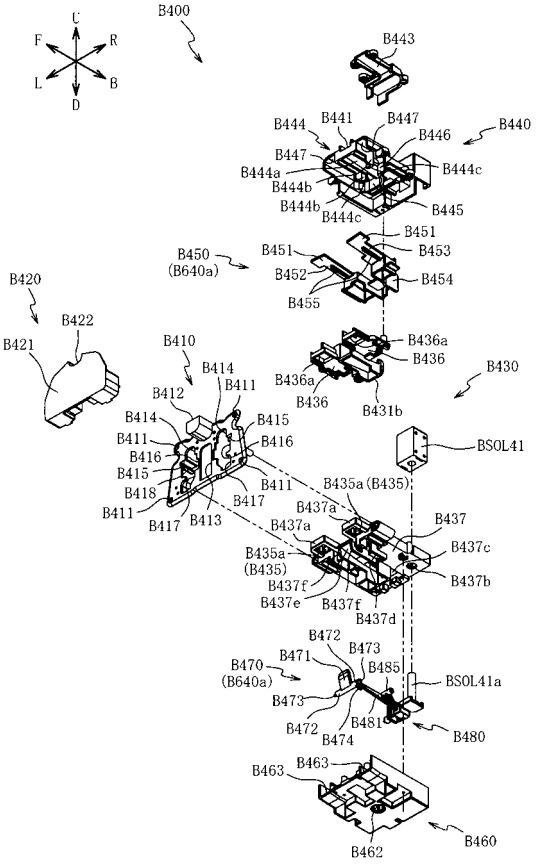
【図１４４】



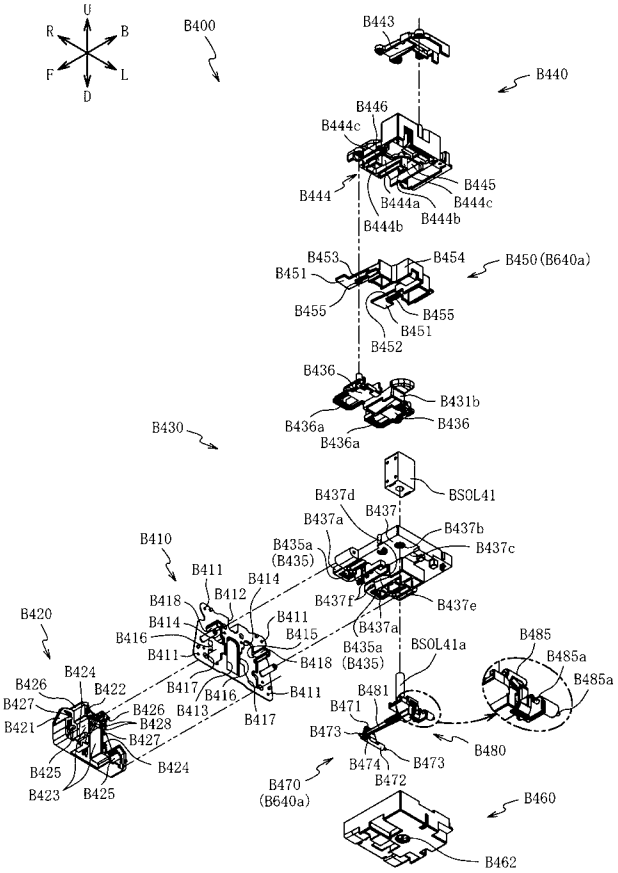
【図１４５】



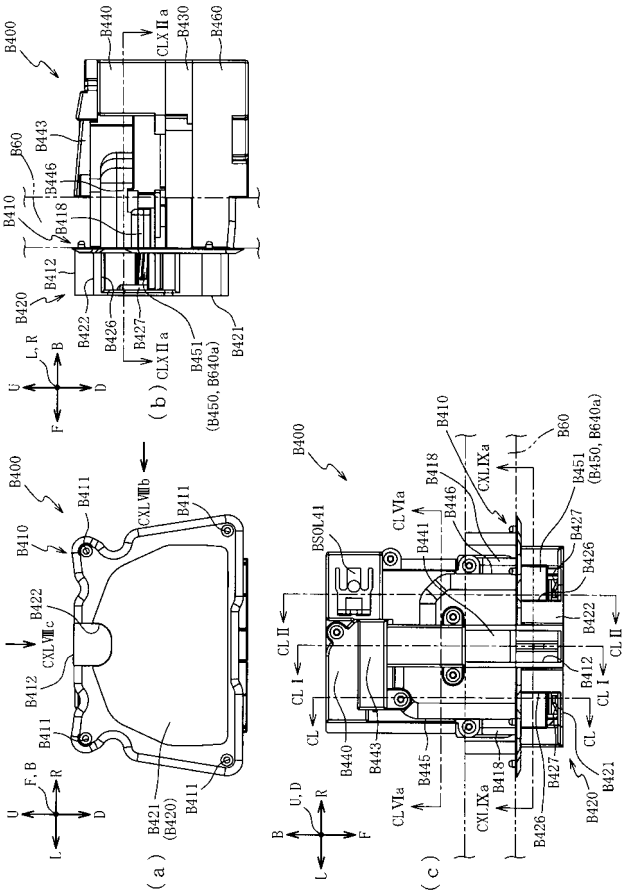
【図１４６】



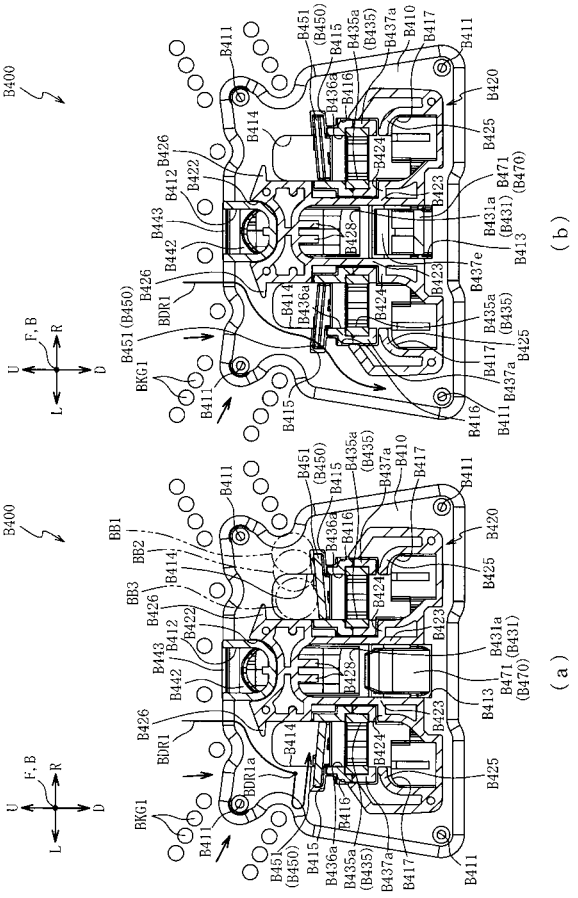
【図１４７】



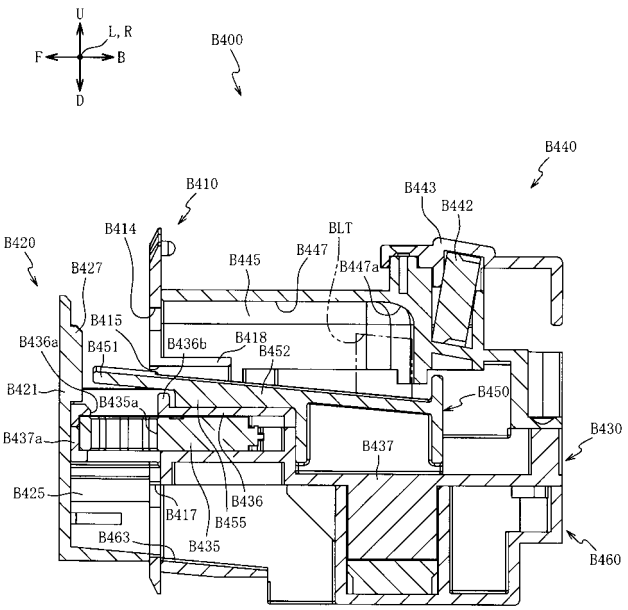
【図１４８】



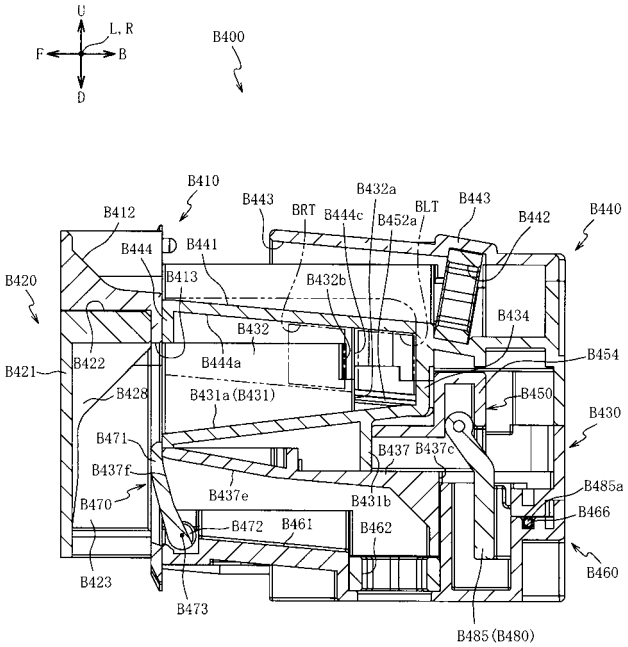
【図１４９】



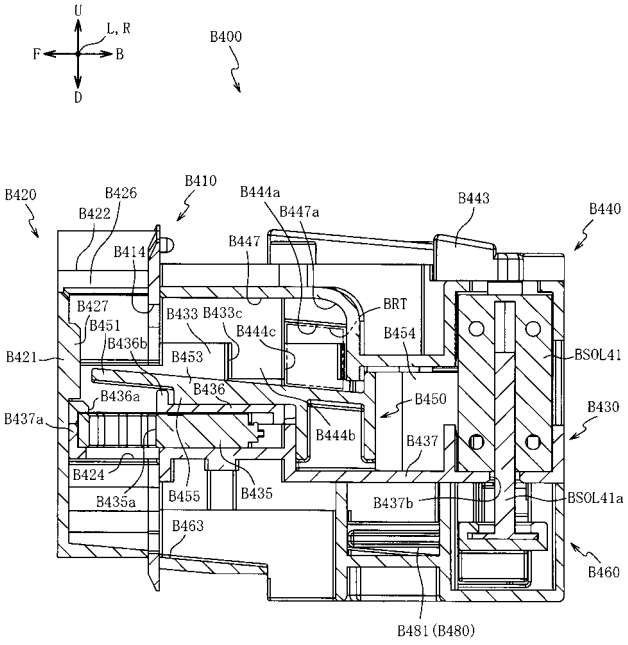
【図１５０】



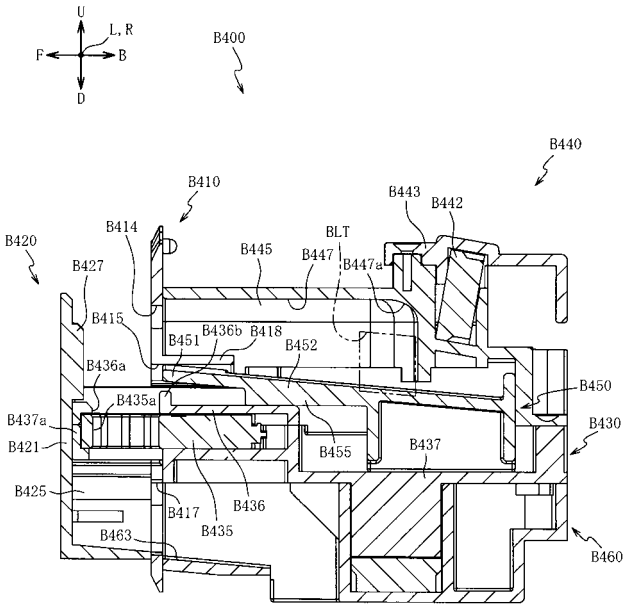
【図１５１】



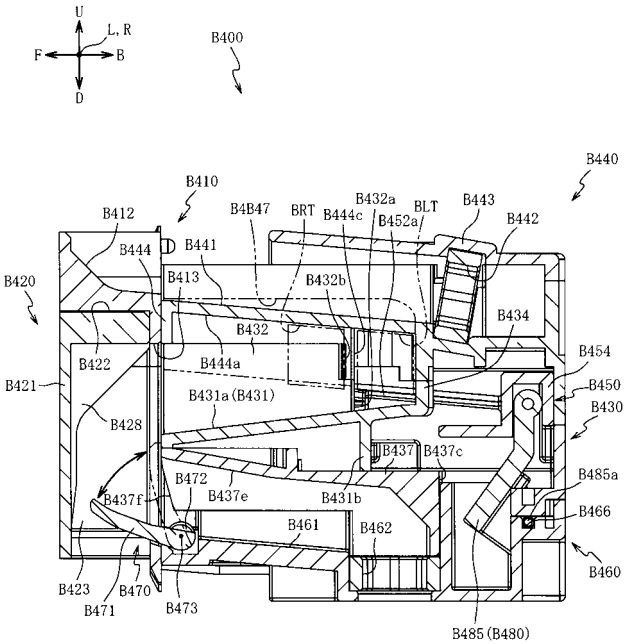
【図１５２】



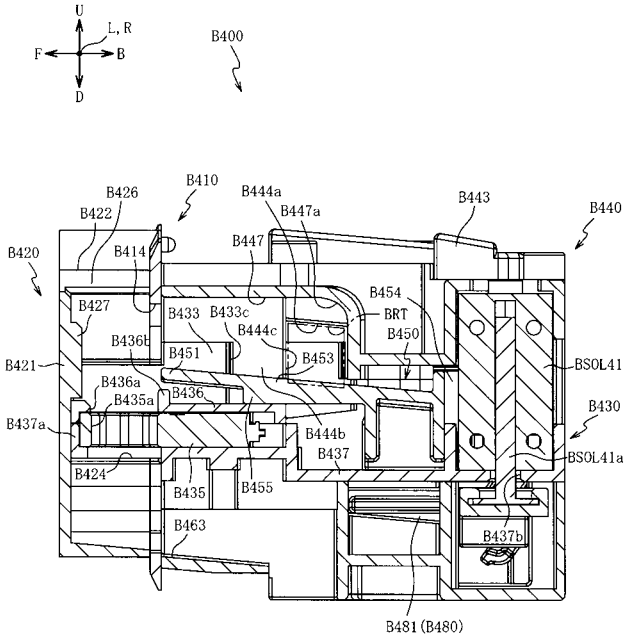
【図１５３】



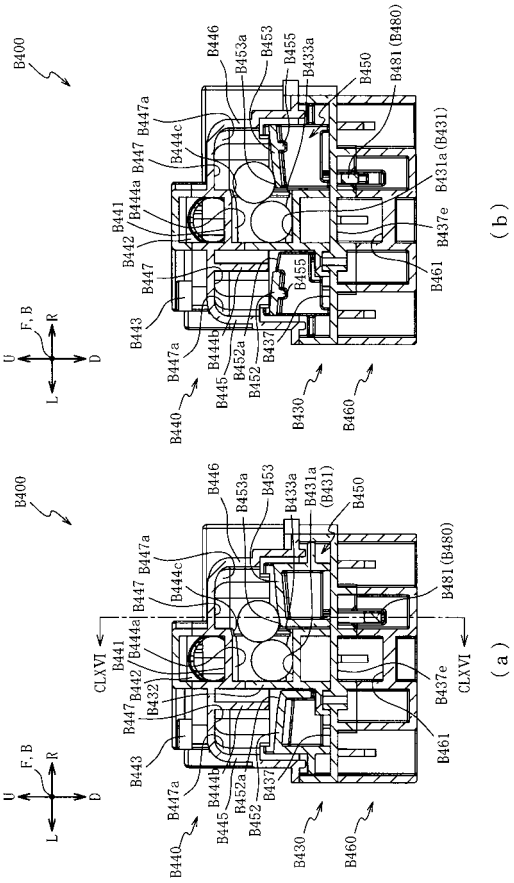
【図１５４】



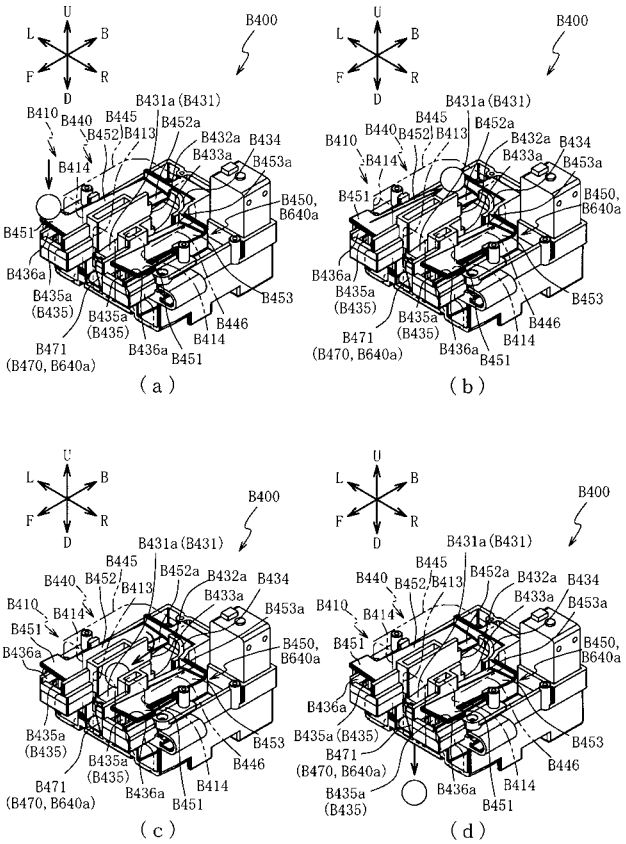
【図１５５】



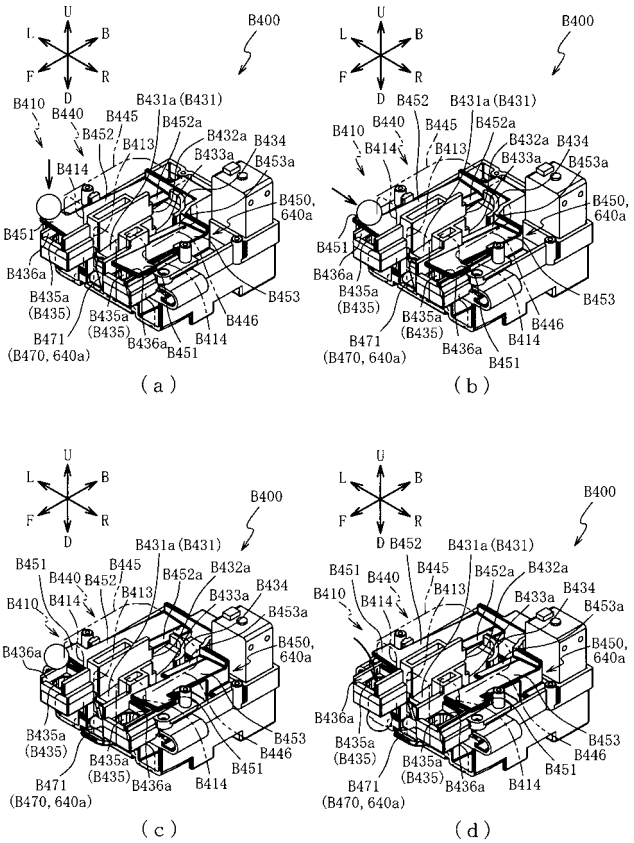
【図１５６】



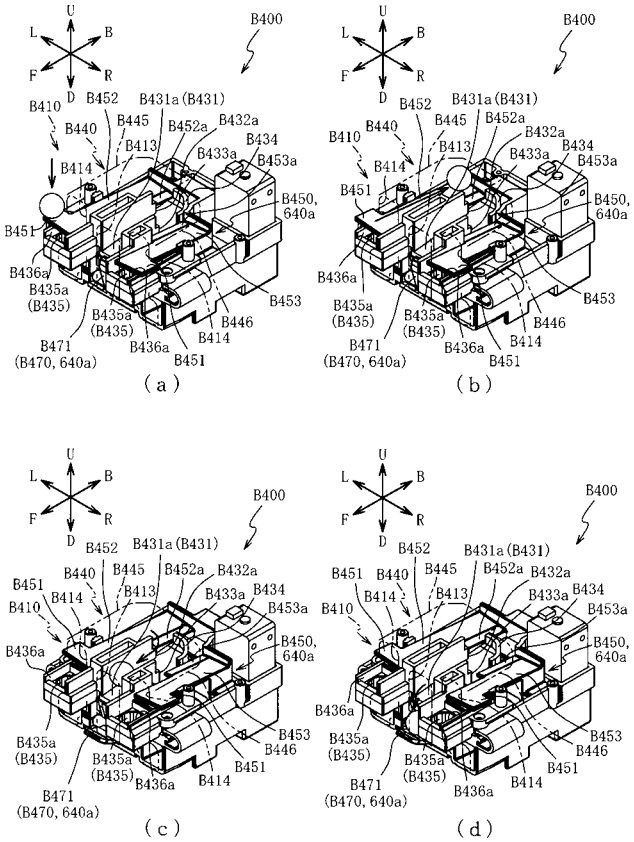
【図１５７】



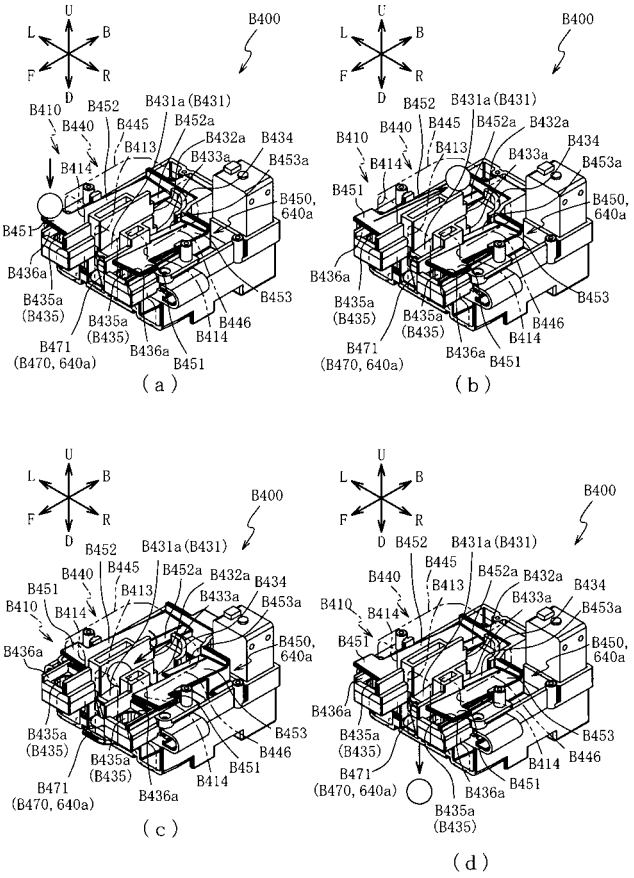
【図１５８】



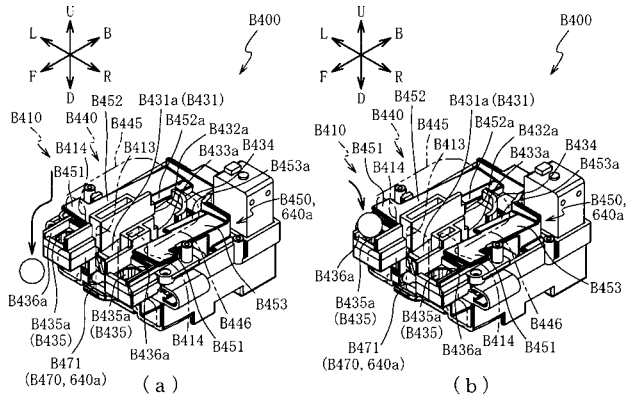
【図１５９】



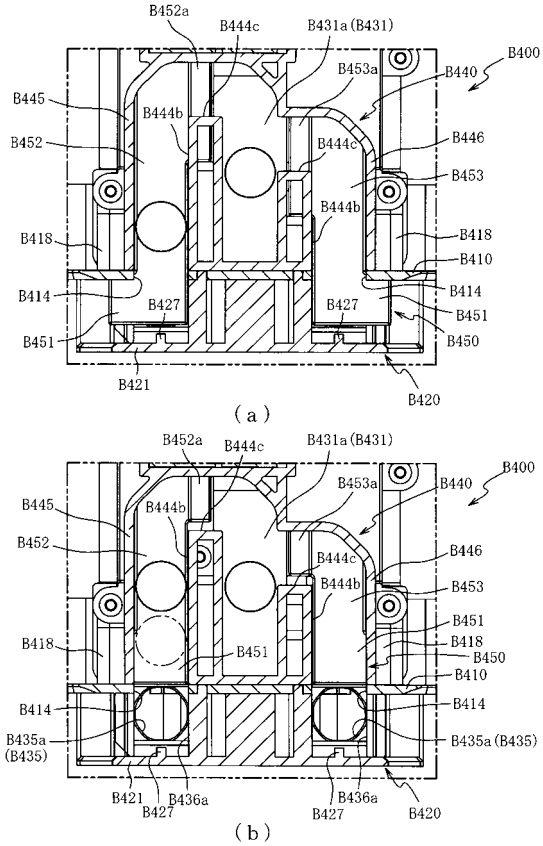
【図１６０】



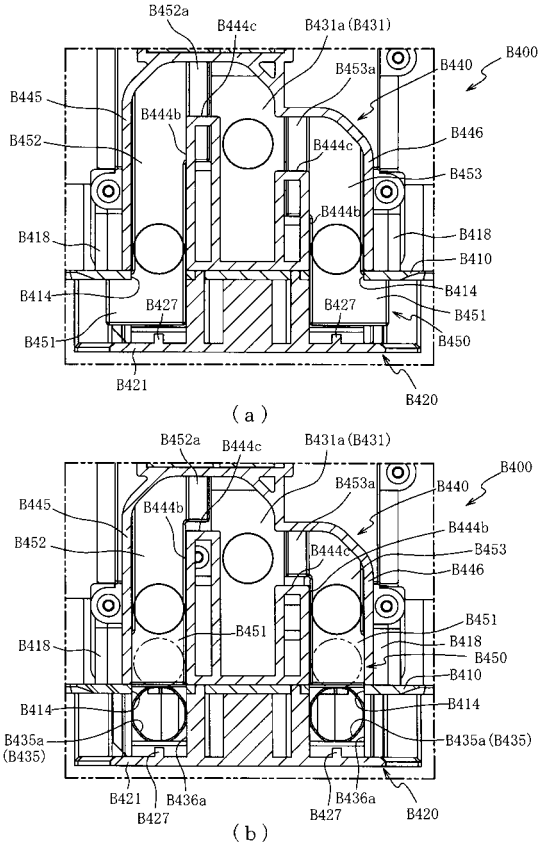
【図１６１】



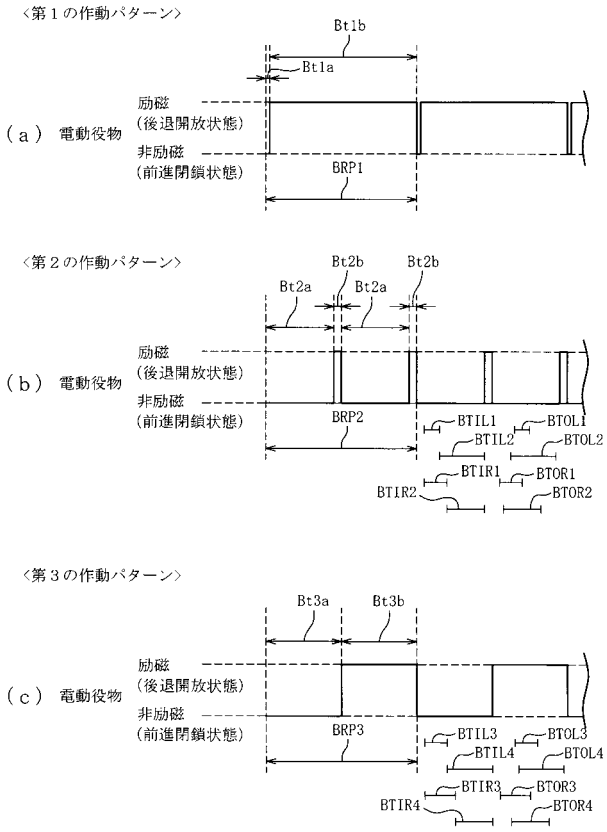
【図１６２】



【図１６３】



【図１６４】

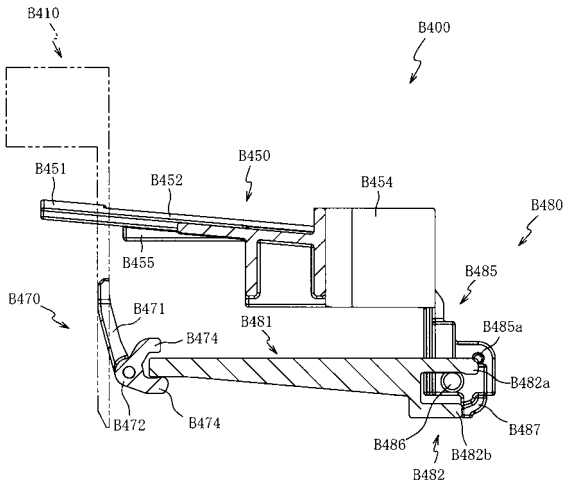


【図１６５】

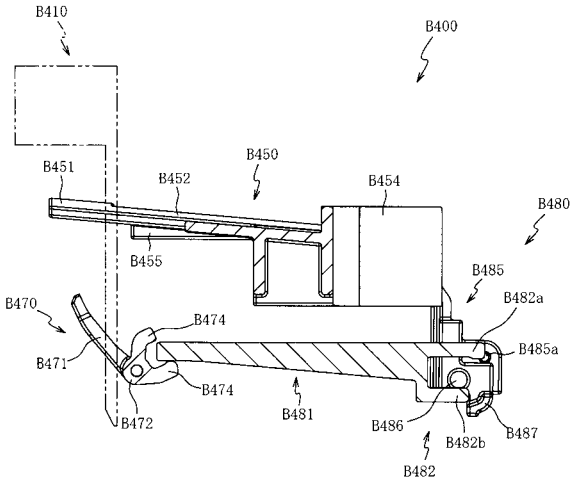
遊技状態および図柄と変動時間との関係

保留種別	遊技状態	図柄種別	変動時間
特別図柄２	低確率状態	はずれ図柄	１０分
		小当たり図柄	
		大当たり図柄	２０秒
	高確率状態	はずれ図柄	５秒または２０秒
		小当たり図柄	２秒
		大当たり図柄	２０秒

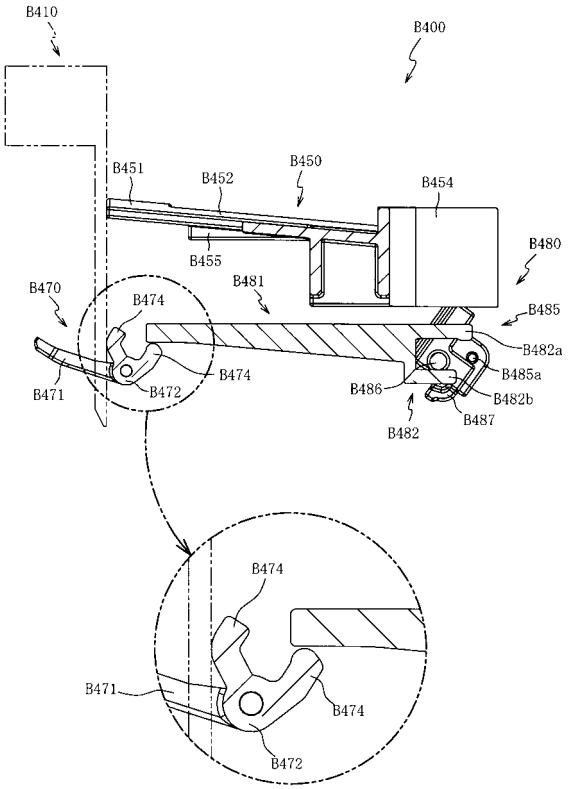
【図１６６】



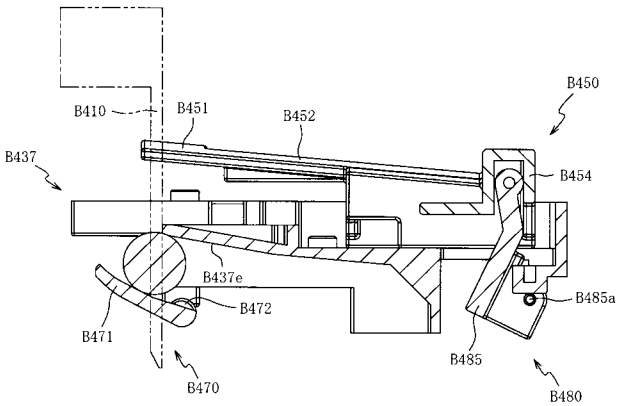
【図１６７】



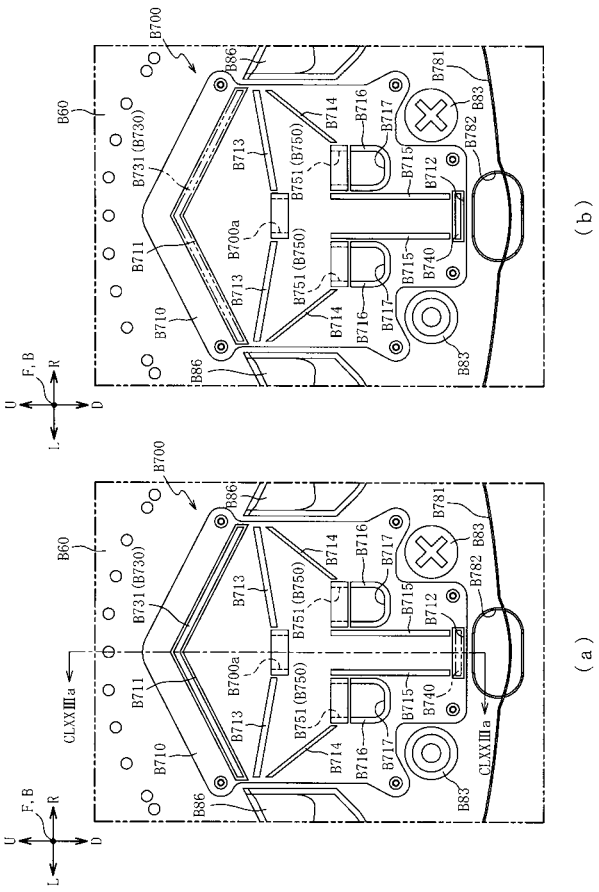
【図１６８】



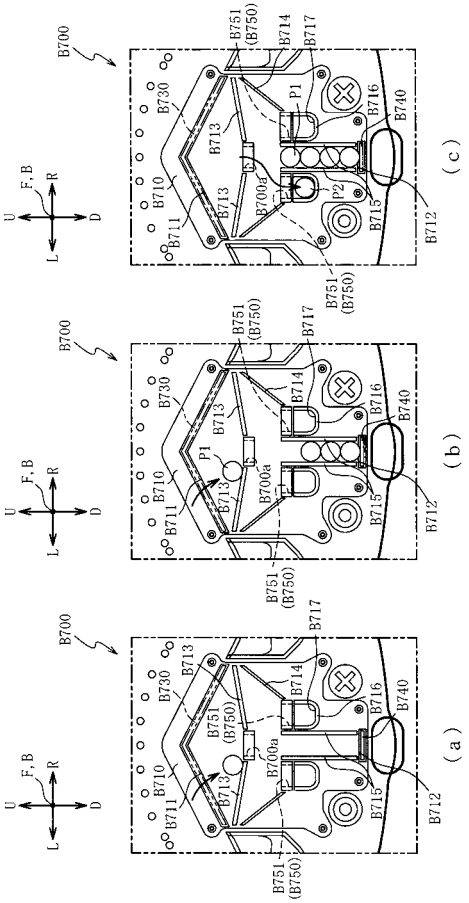
【図１６９】



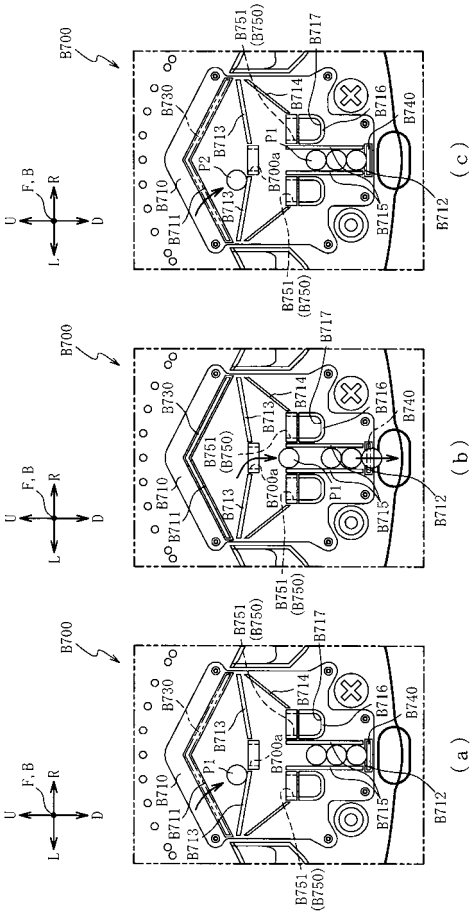
【図１７０】



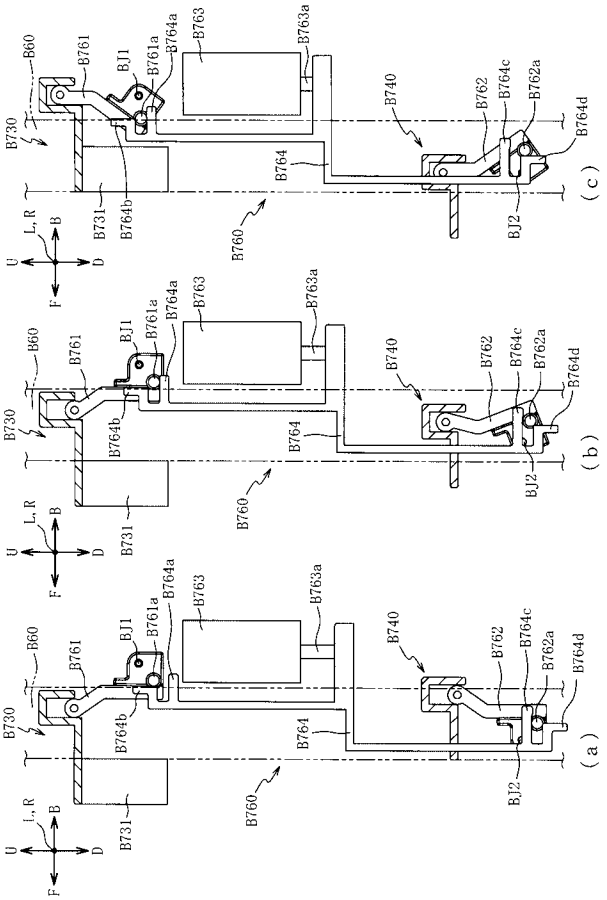
【図１７１】



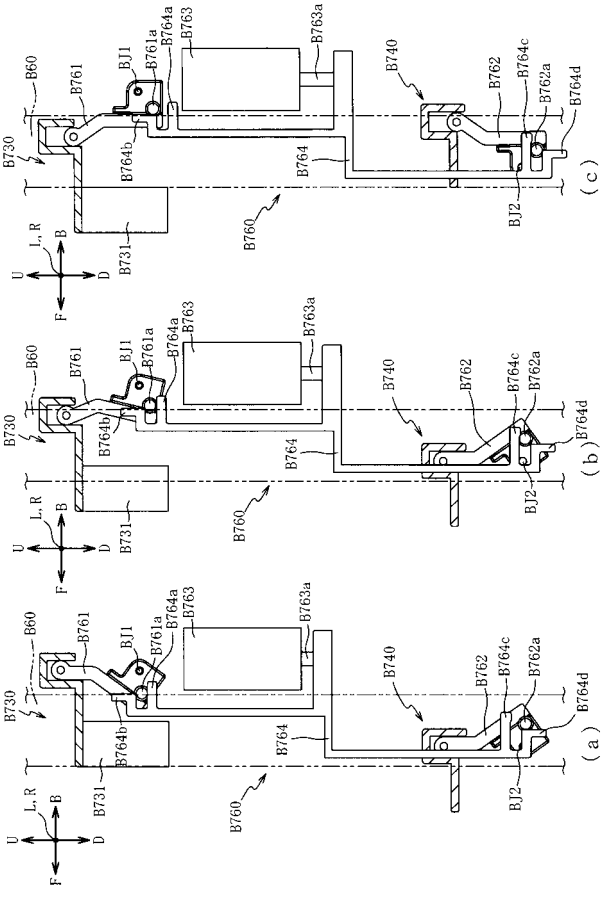
【図１７２】



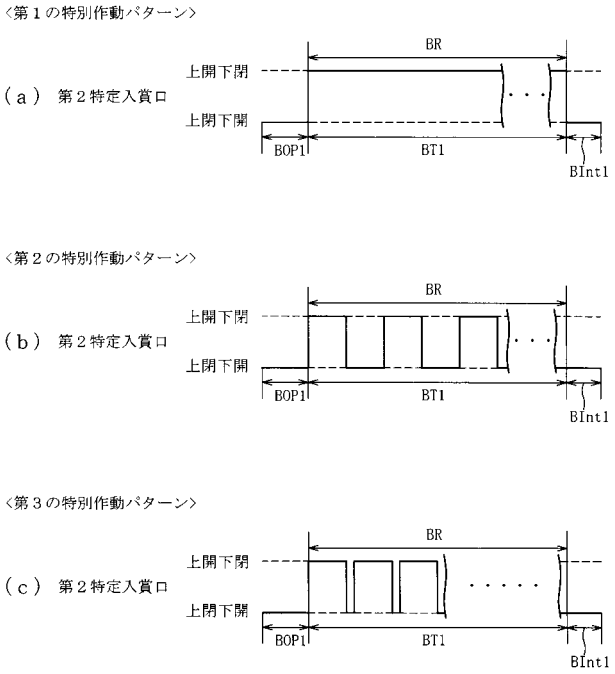
【図１７３】



【図１７４】



【図１７５】



【図１７６】

（ａ）

ＲＯＭ（主制御装置）	B202
第１当たり乱数テーブル	B202a
第１当たり種別選択テーブル	B202b
第２当たり乱数テーブル	B202c
変動パターン選択テーブル	B202d

（ｂ）

第１当たり乱数テーブル	B202a
特別図柄１乱数テーブル	B202a1
特別図柄２乱数テーブル	B202a2

（ｃ） 特別図柄１乱数テーブルB202a1

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ３（0～319）
大当たり判定値	0
外れ判定値	1～319

（ｄ） 特別図柄２乱数テーブルB202a2

判定値	第１当たり乱数カウンタ値Ｃ３（0～319）
大当たり判定値	0
小当たり判定値	1～318
外れ判定値	319

【図１７７】

第１当たり種別選択テーブルB202b

大当たり種別		第１当たり種別カウンタＣ２の値（0～99）		ラウンドカウント	1ラウンド目における作動パターン	大当たり終了後の遊技状態	大当たり確率	終了後の電動役物の作動パターン	継続期間
特別図柄1	大当たりA	0～19	B202b1	15R 10C	第１の特別作動パターン	特殊確変	高確率	第３の作動パターン	次回まで
						確変		第２の作動パターン	
	大当たりB	20～49	B202b2	8R 10C					
	大当たりC	50～99	B202b3	4R 10C	第２の特別作動パターン	時短	低確率	第２の作動パターン	100回転
特別図柄2	大当たりa	0～29	B202b4	15R 10C	第１の特別作動パターン	特殊確変	高確率	第３の作動パターン	次回まで
						確変		第２の作動パターン	
	大当たりb	30～49	B202b5	8R 10C					
	大当たりc	50～99	B202b6	4R 10C	第３の特別作動パターン	時短or確変	低確率or高確率	第２の作動パターン	100回転or次回まで

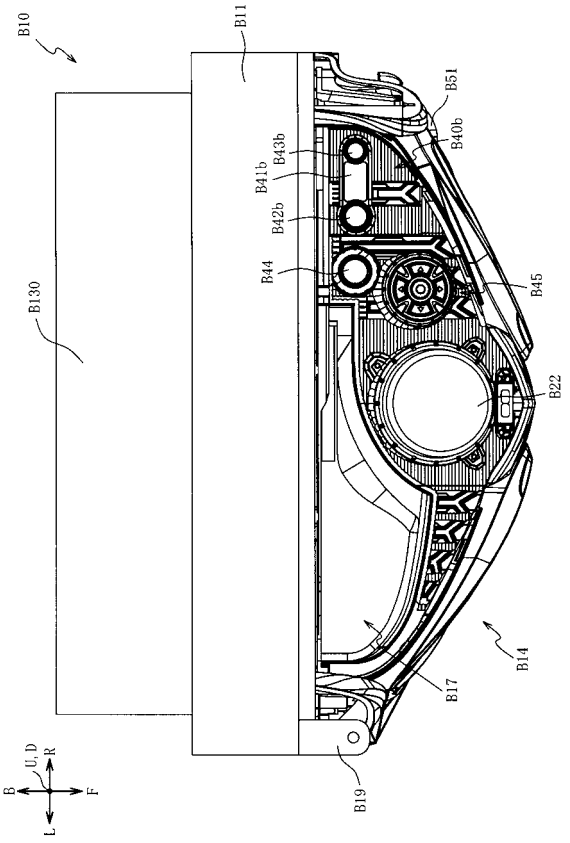
（ａ）

第２当たり乱数テーブルB202c

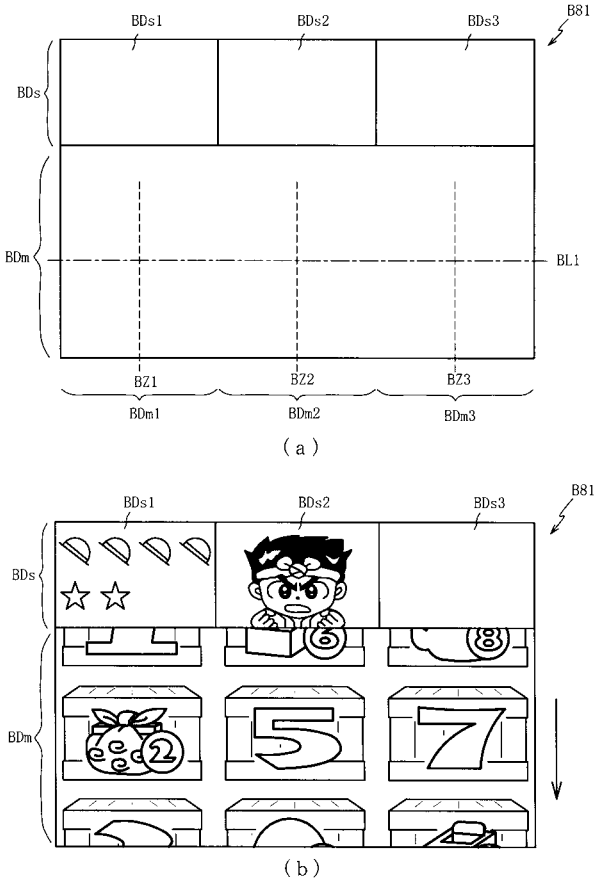
乱数テーブル	第２当たり乱数カウンタＣ４の値（0～239）	
	B202c1	B202c2
低確率時用の第２当たり乱数テーブル	5～204	
高確率時用の第２当たり乱数テーブル		5～239

（ｂ）

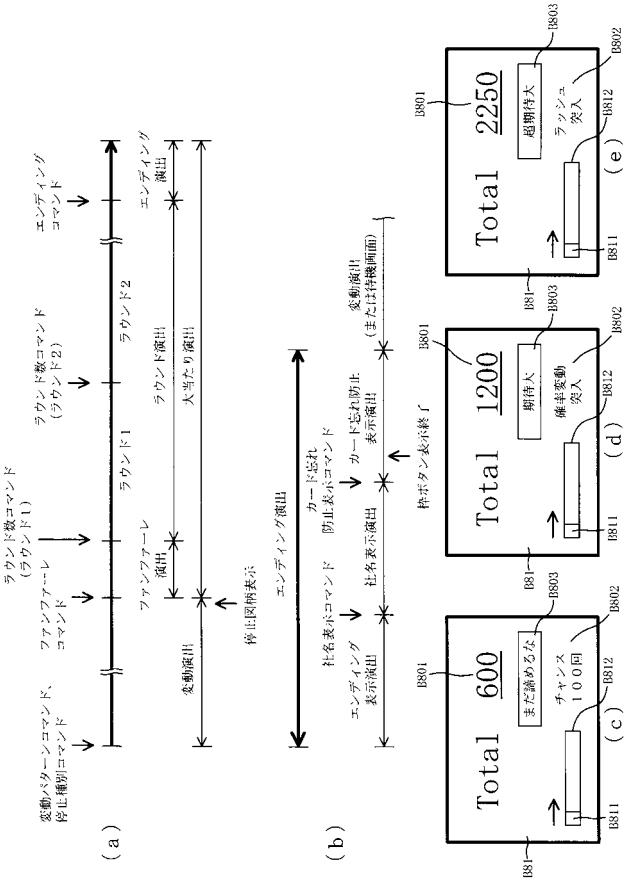
【図１７８】



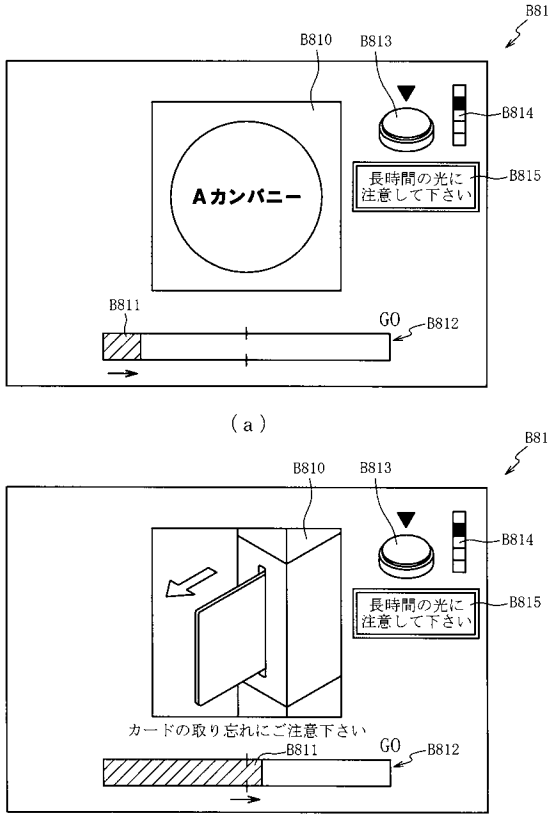
【図１７９】



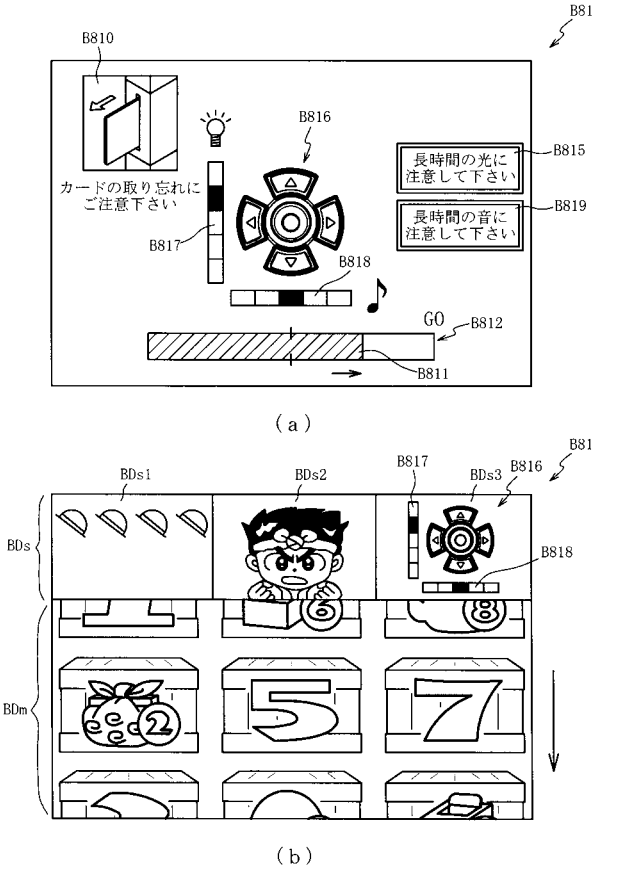
【図１８０】



【図１８１】



【図１８２】

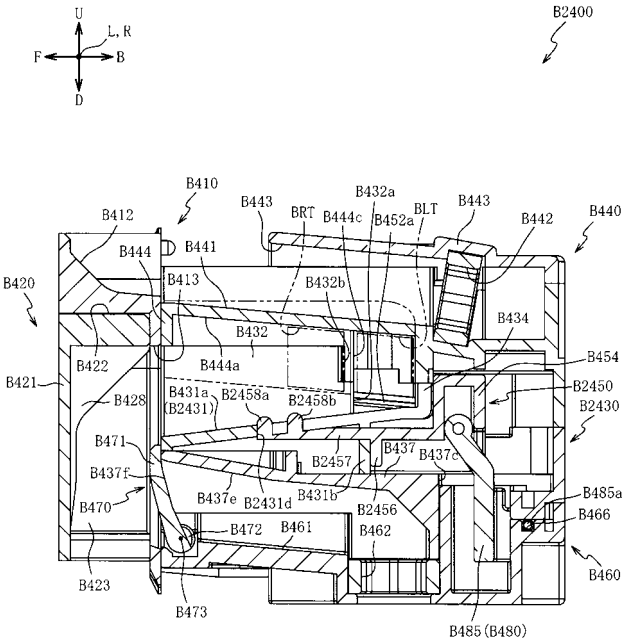


【図１８３】

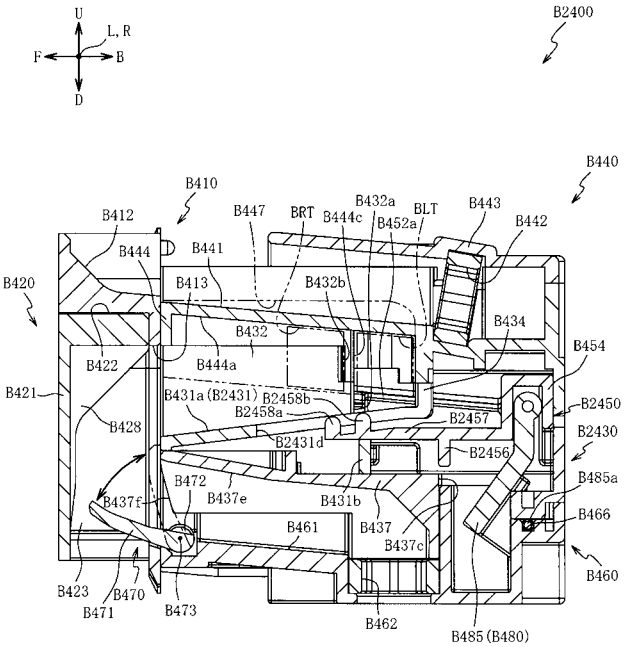
エンディング演出の組合せ

大当たり種別		エンディング表示演出	社名表示演出	カード忘れ防止表示演出
特別図柄1	大当たりA	○	○	○
	大当たりB	○	×	○
	大当たりC	○	×	×
特別図柄2	大当たりa	○	○	○
	大当たりb	○	×	○
	大当たりc	○	×	×

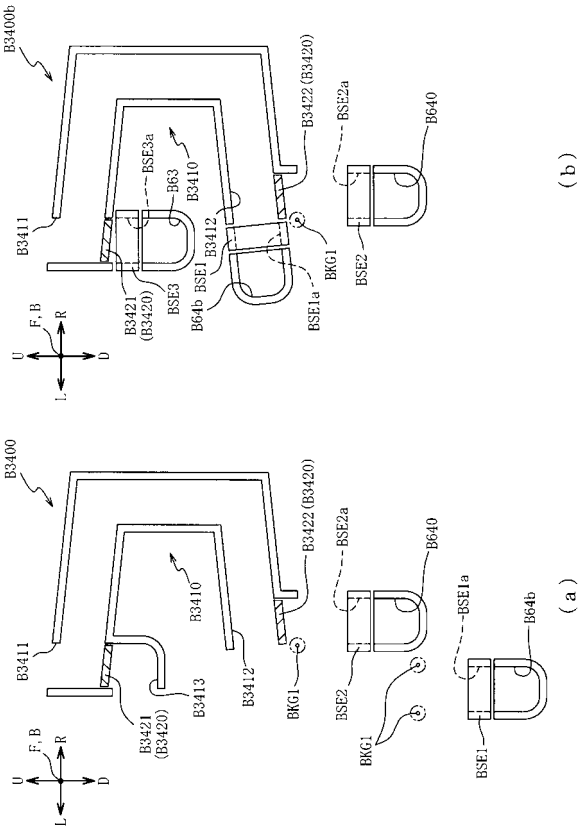
【図１８４】



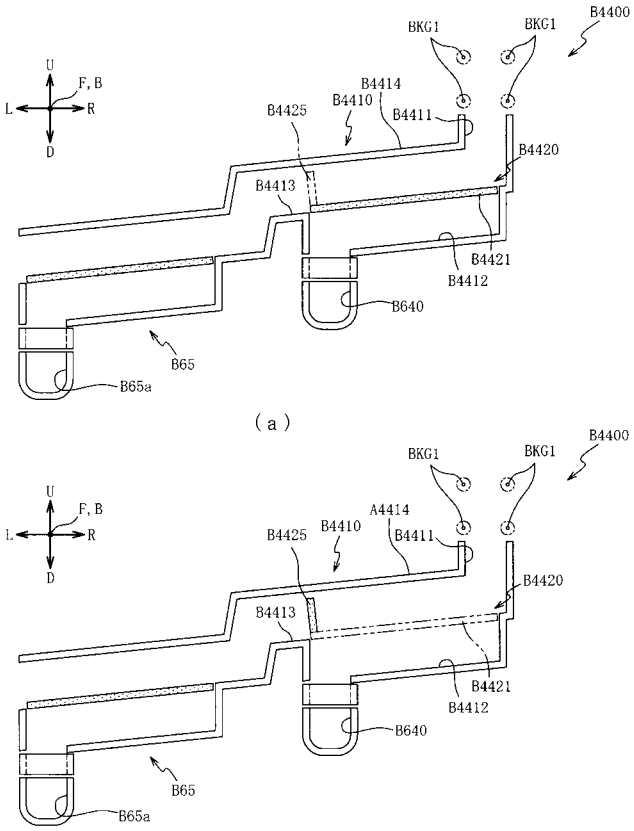
【図１８５】



【図１８６】



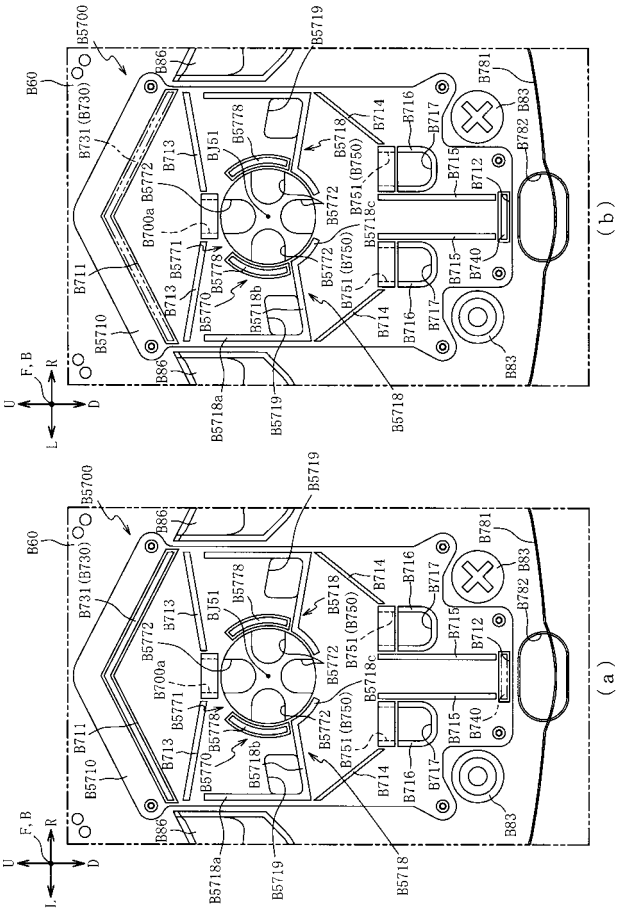
【図１８７】



（ａ）

（ｂ）

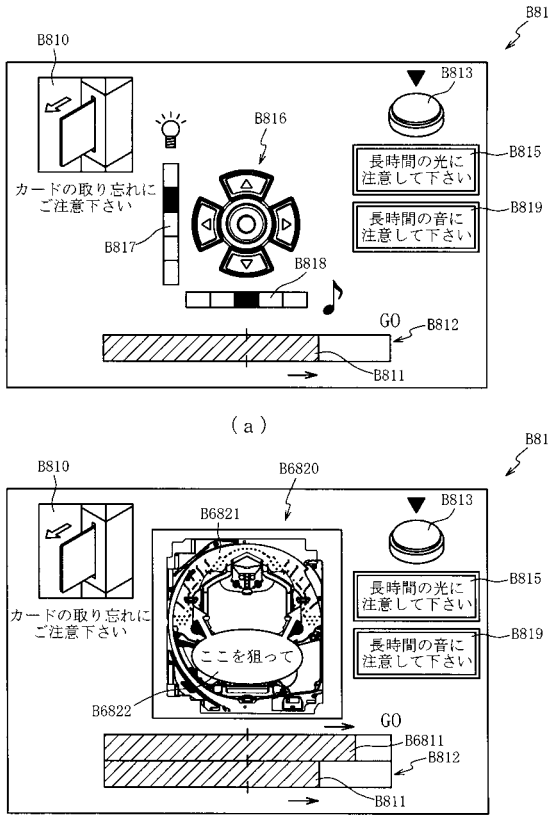
【図１８８】



（ｂ）

（ａ）

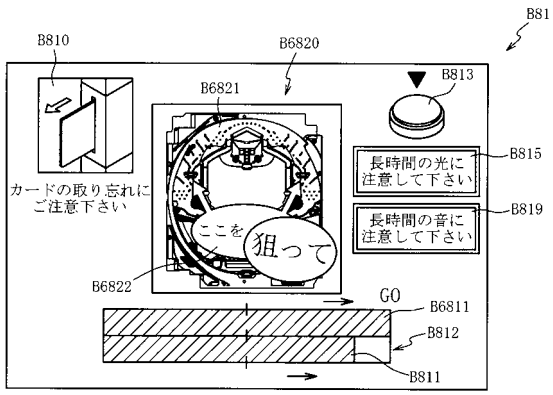
【図１８９】



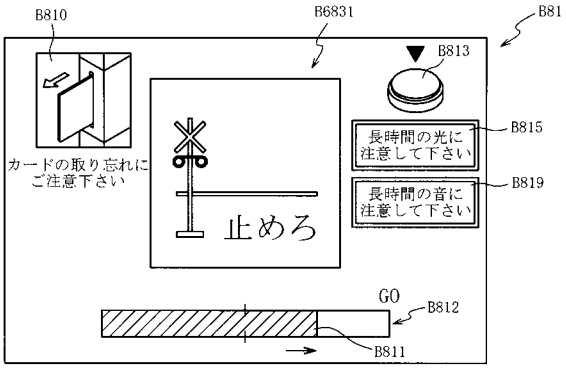
（ａ）

（ｂ）

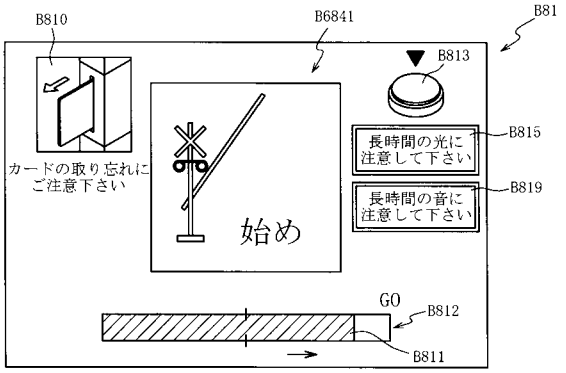
【図１９０】



【図１９１】

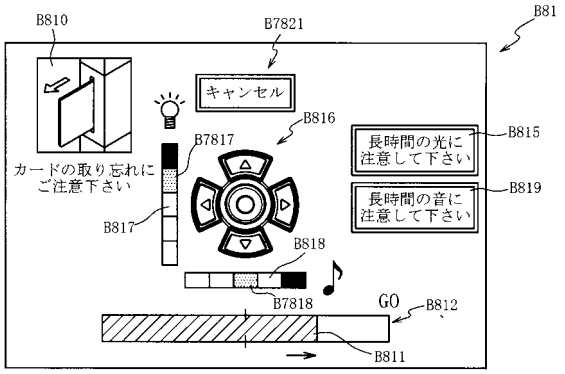


（ａ）

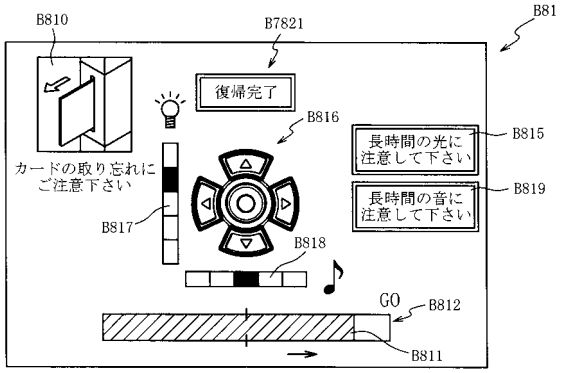


（ｂ）

【図１９２】

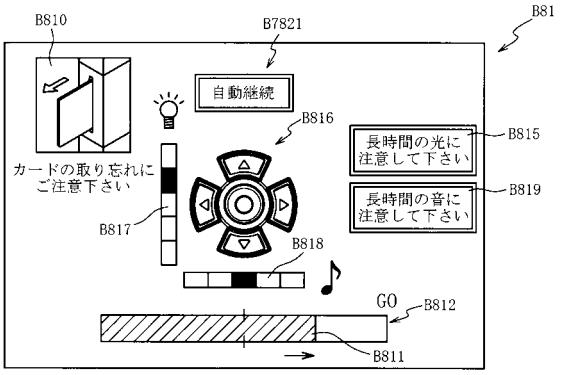


（ａ）

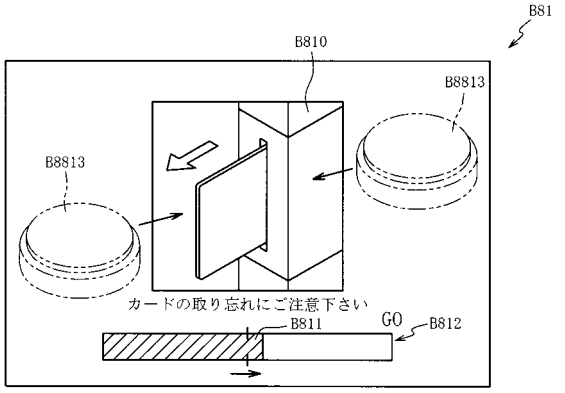


（ｂ）

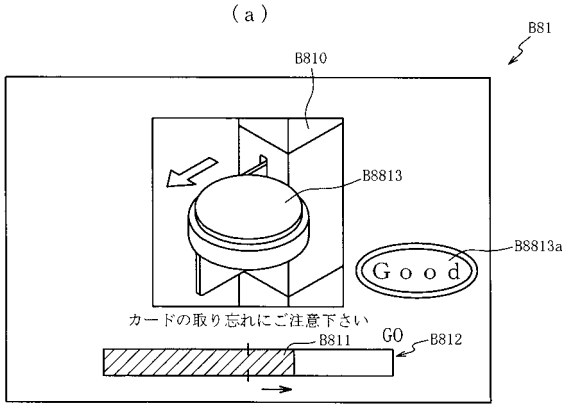
【図１９３】



【図１９４】

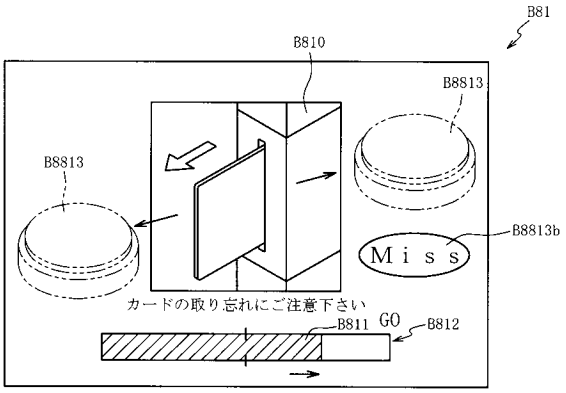


（ａ）

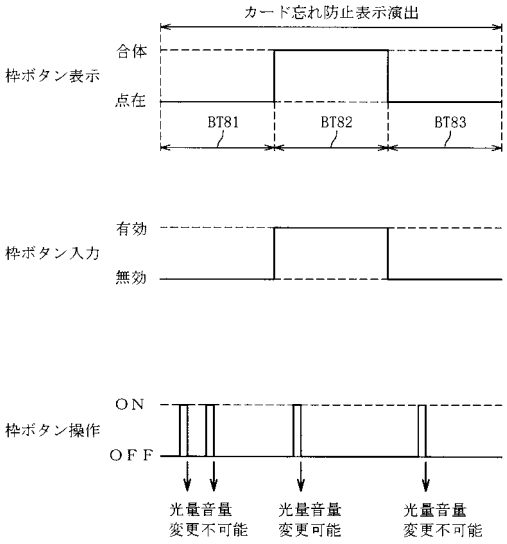


（ｂ）

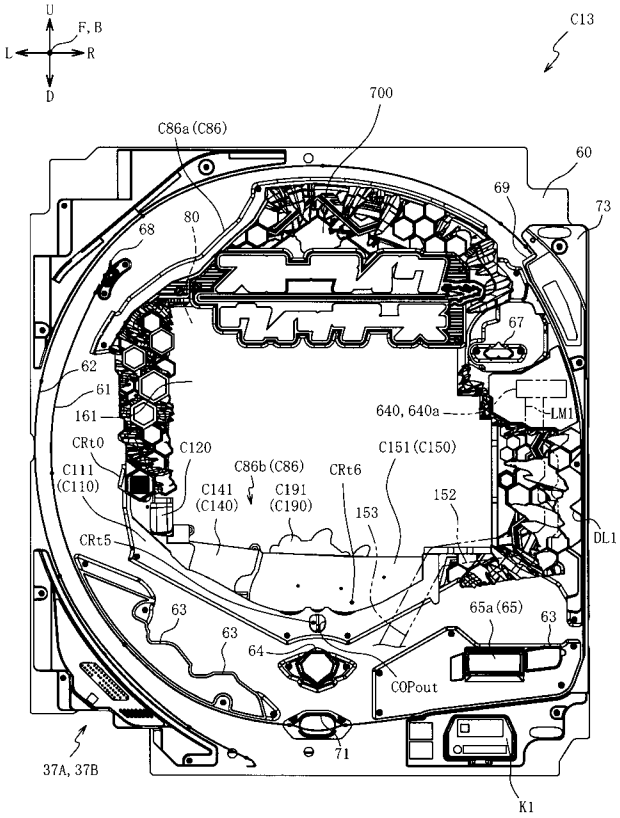
【図１９５】



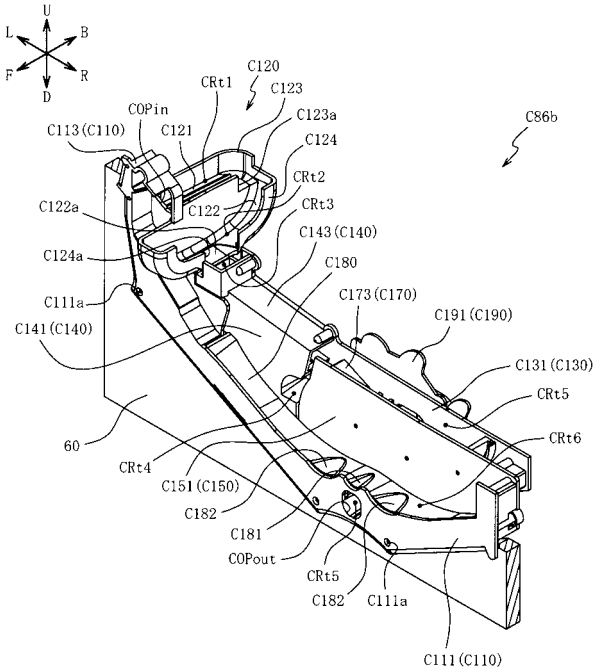
【図１９６】



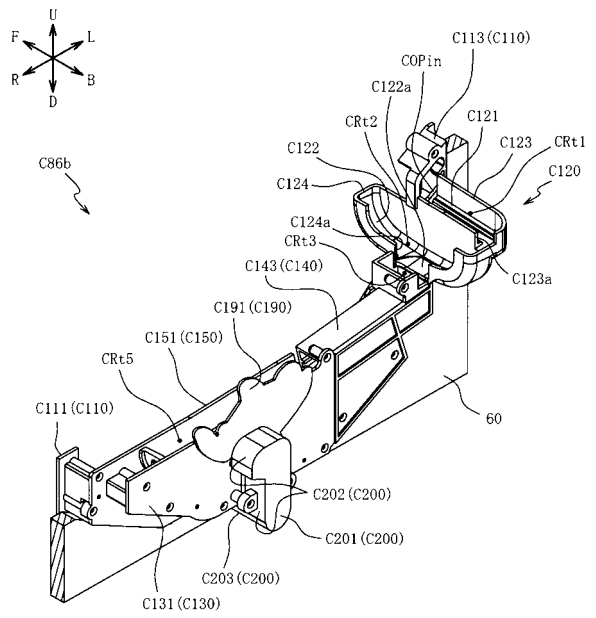
【図１９７】



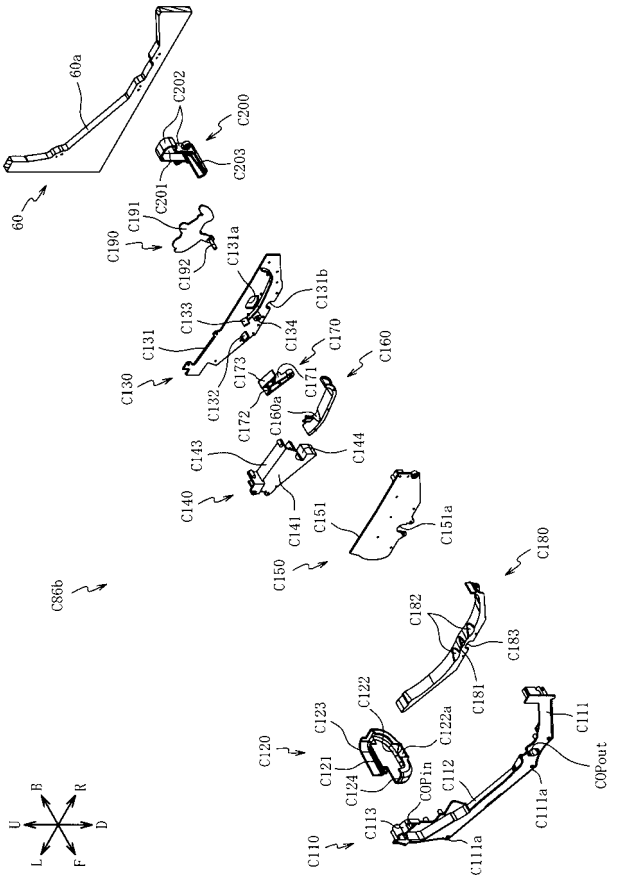
【図１９８】



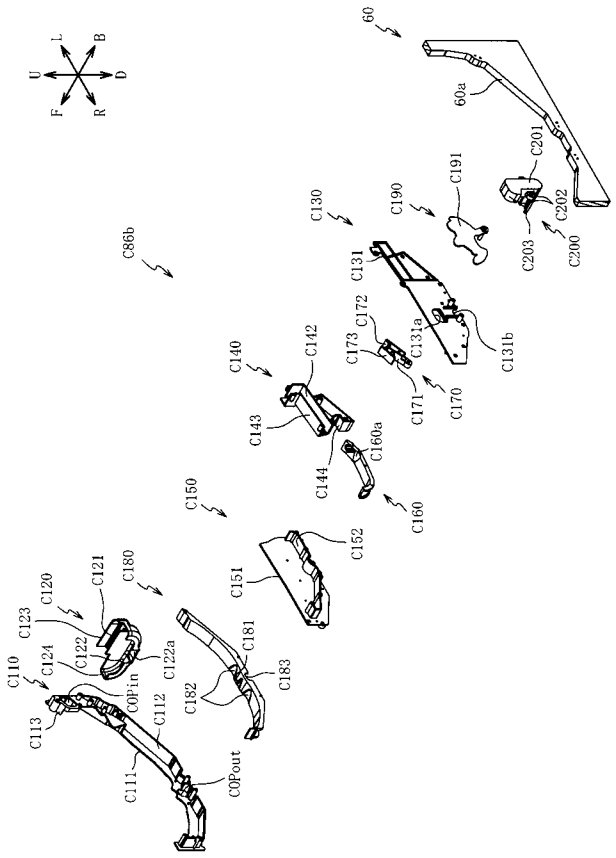
【図１９９】



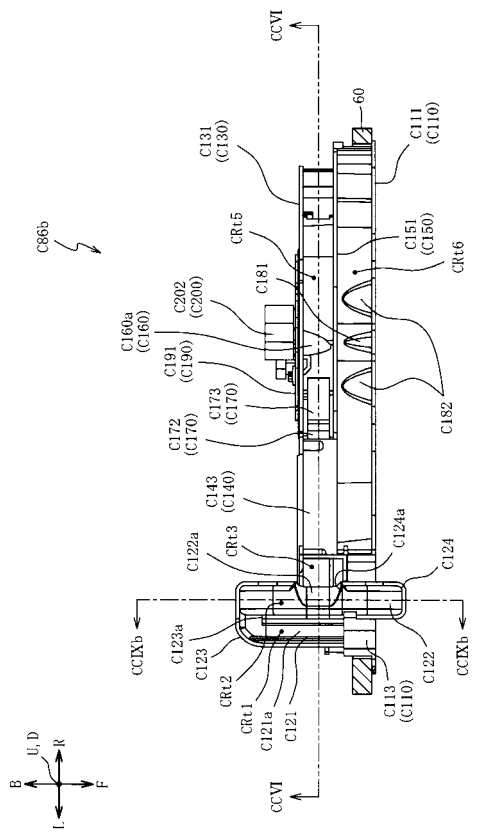
【図２００】



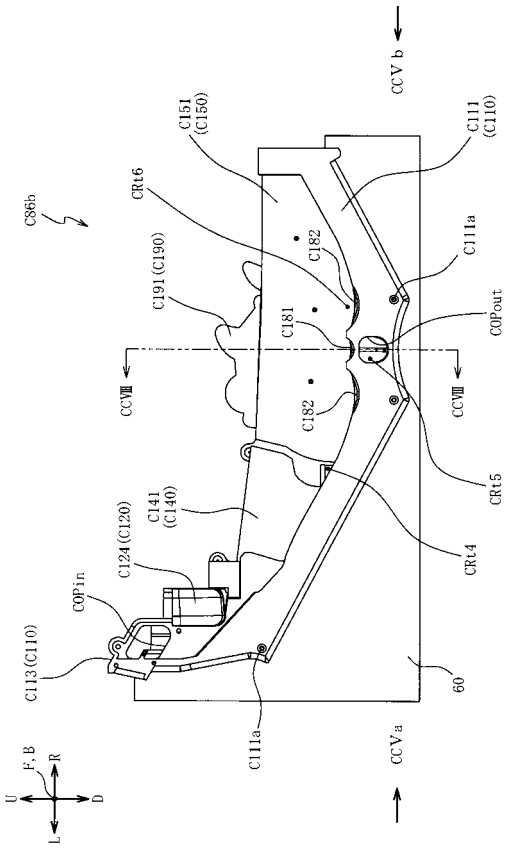
【図２０１】



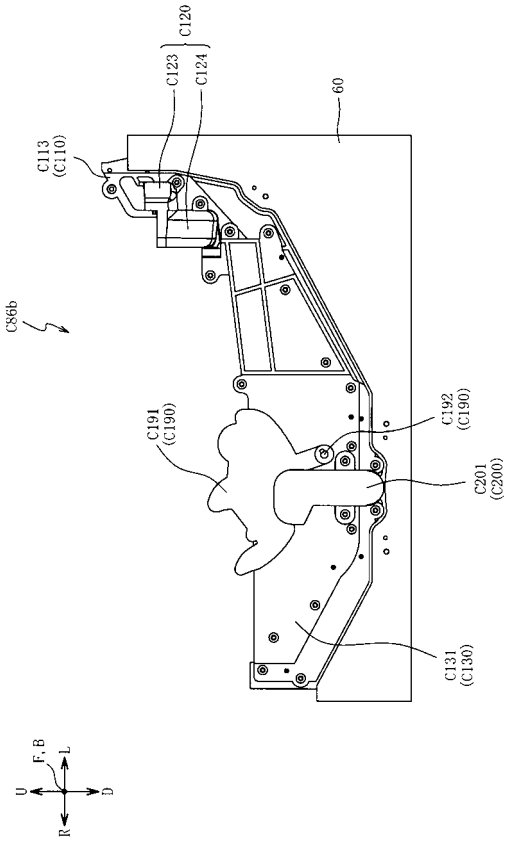
【図２０２】



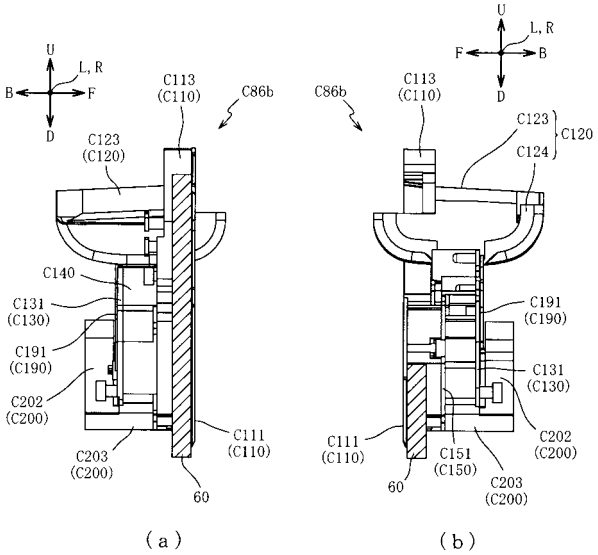
【図２０３】



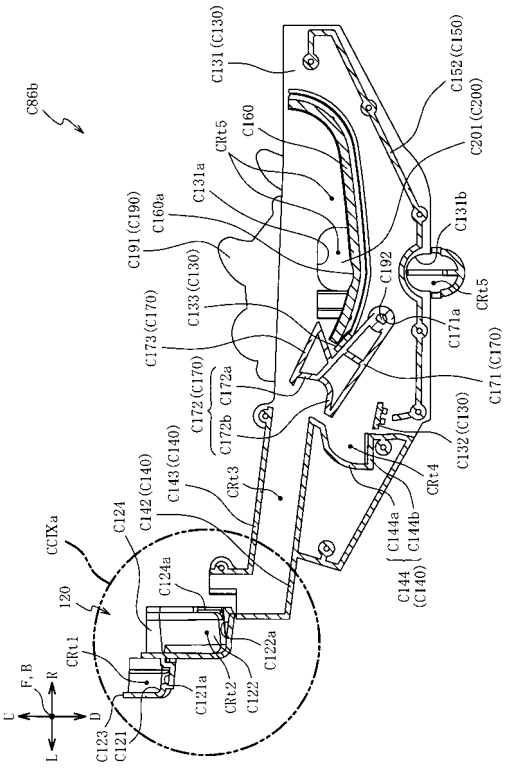
【図２０４】



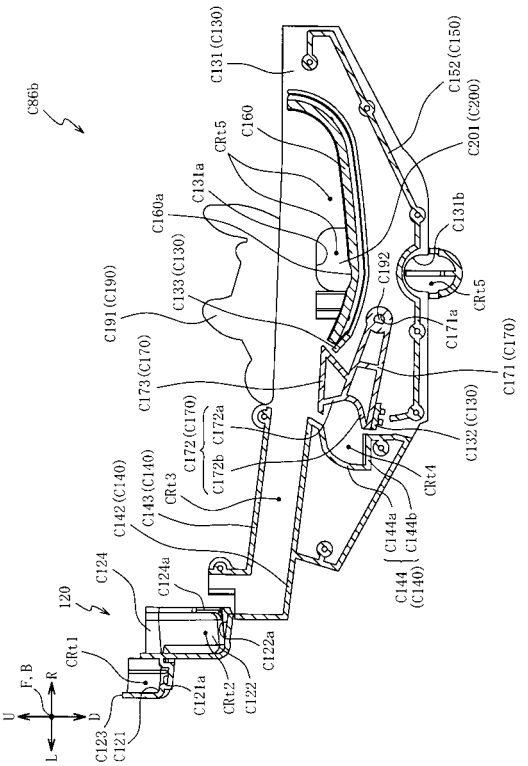
【図２０５】



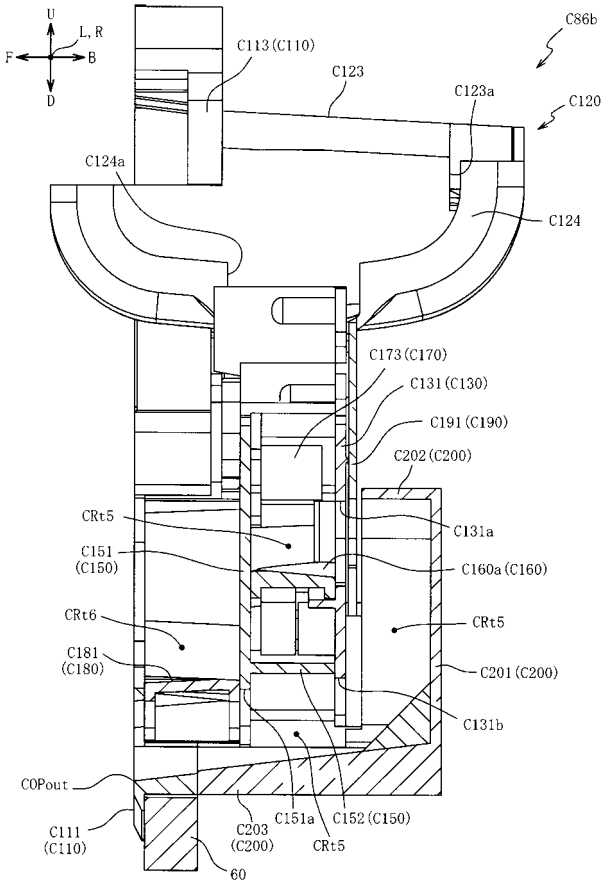
【図２０６】



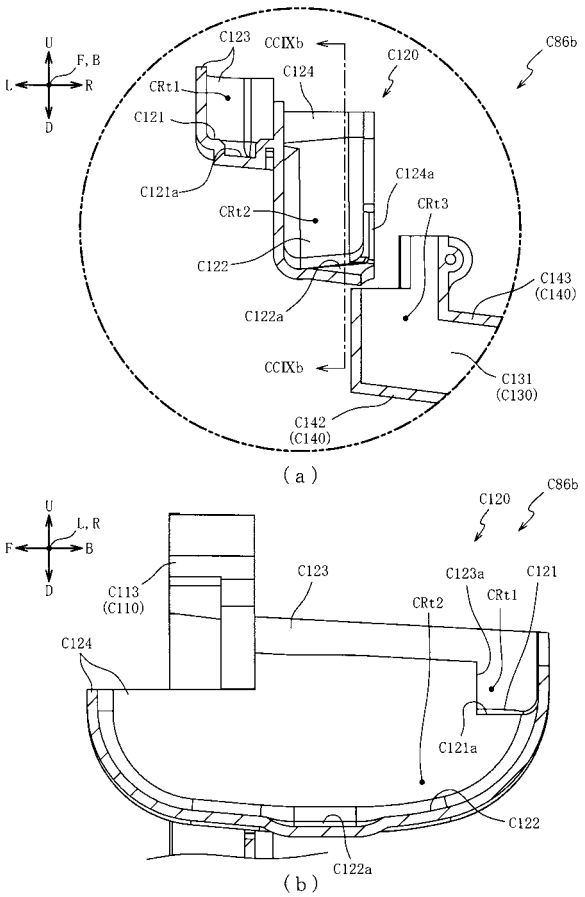
【図２０７】



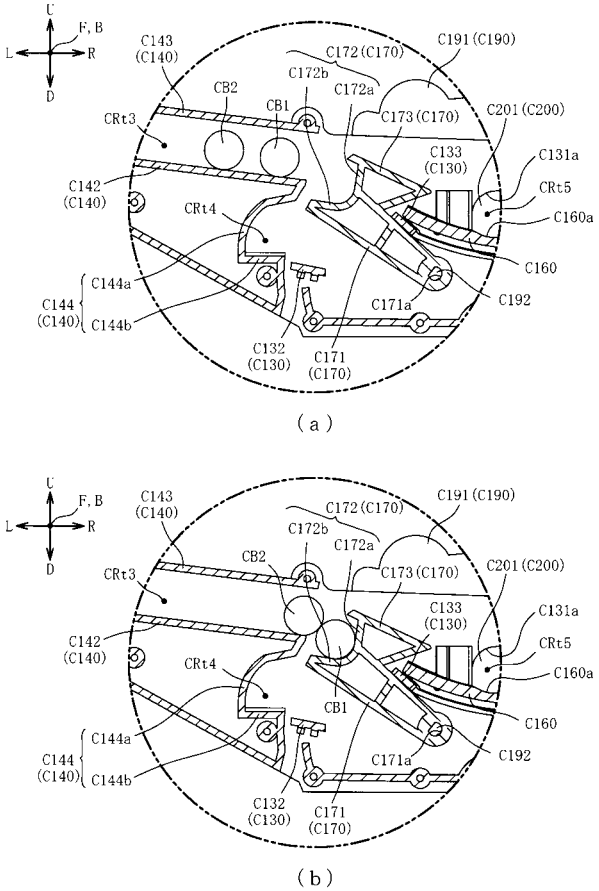
【図２０８】



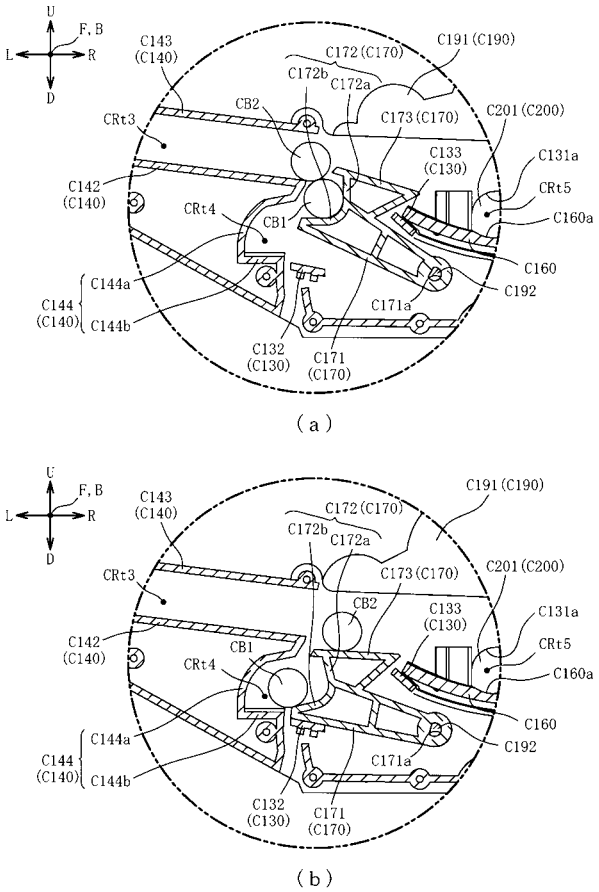
【図２０９】



【図２１０】



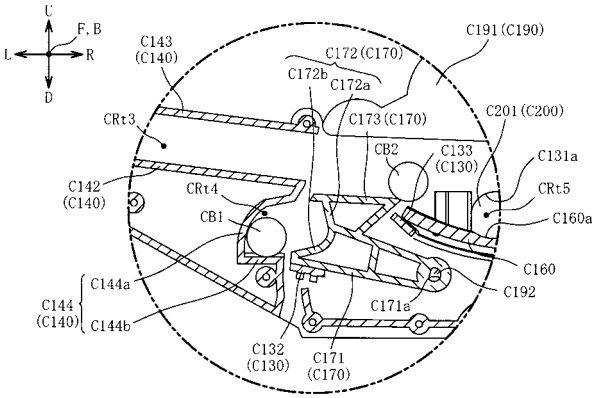
【図２１１】



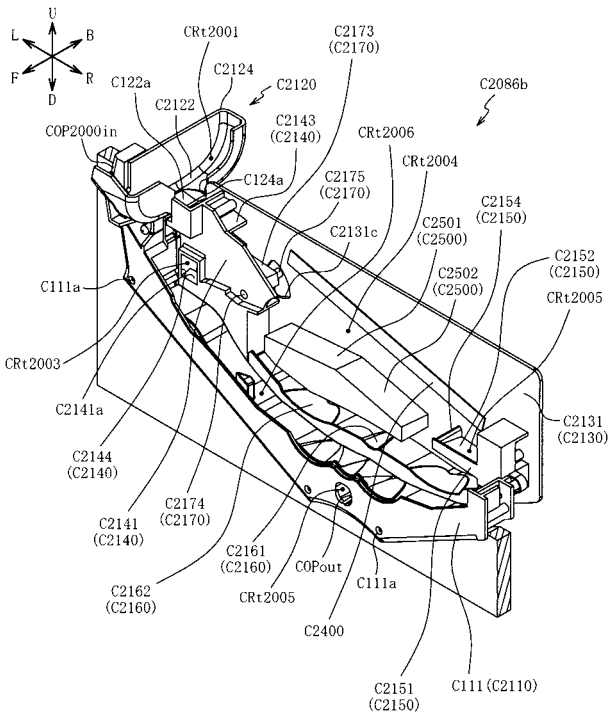
（ａ）

（ｂ）

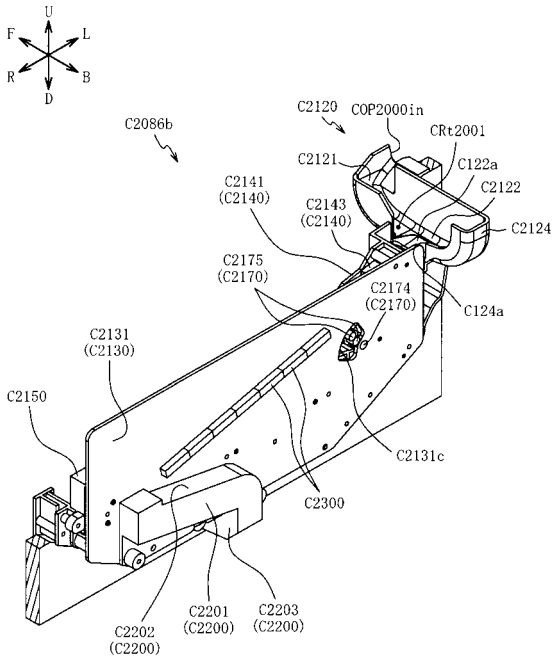
【図２１２】



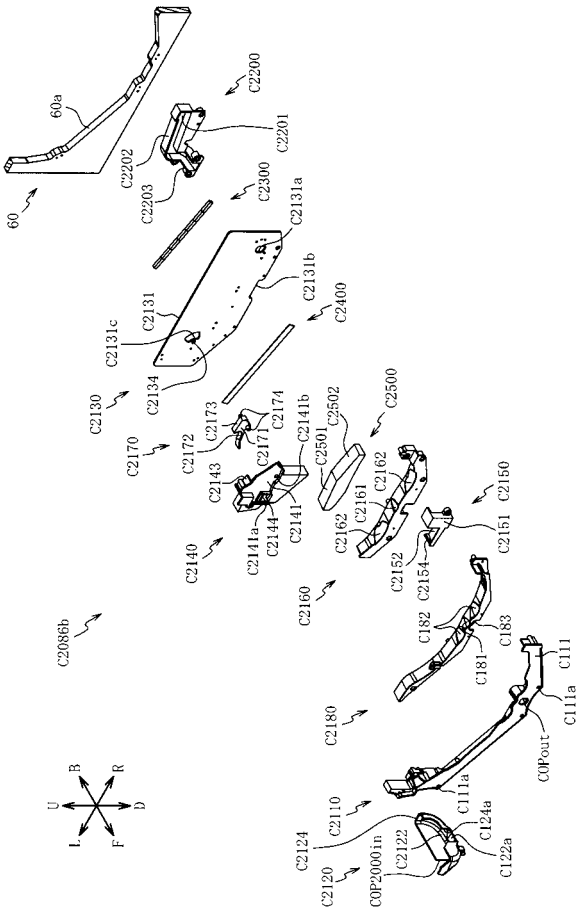
【図２１３】



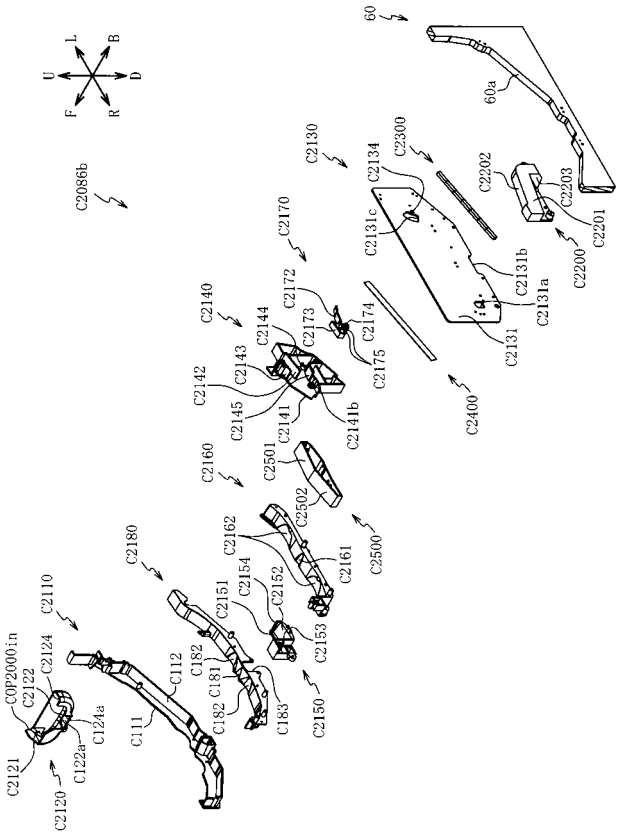
【図２１４】



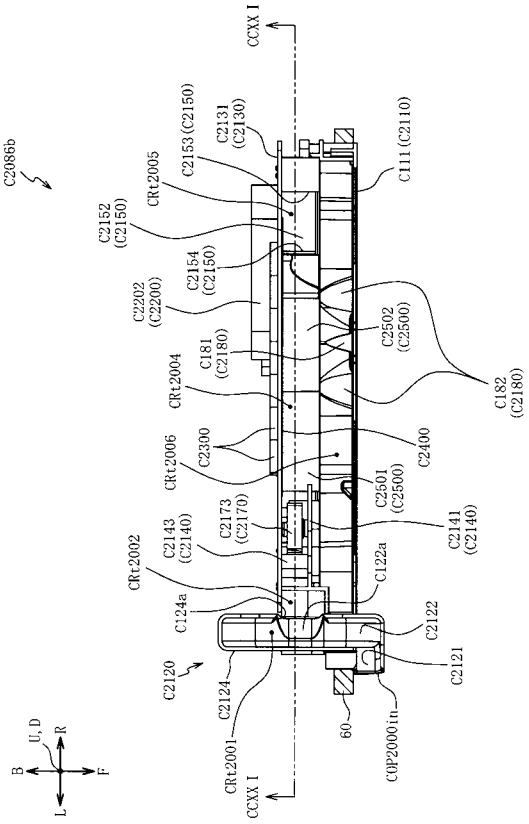
【図２１５】



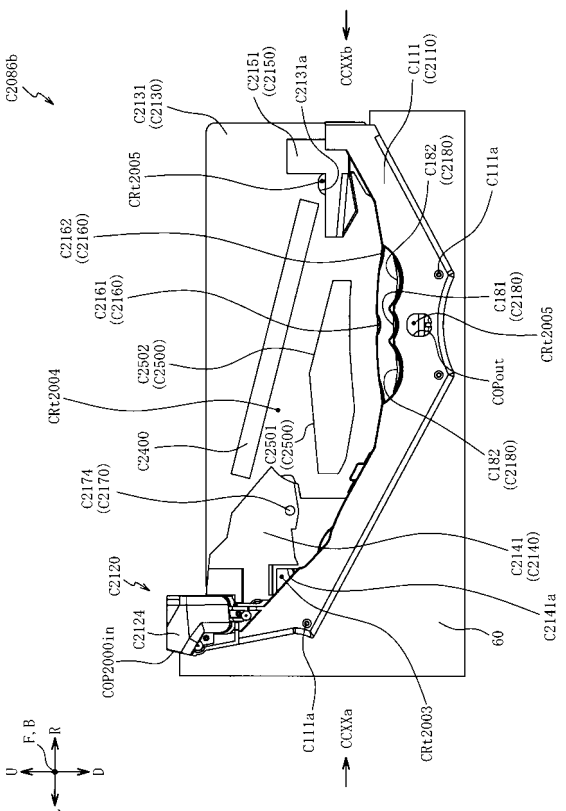
【図２１６】



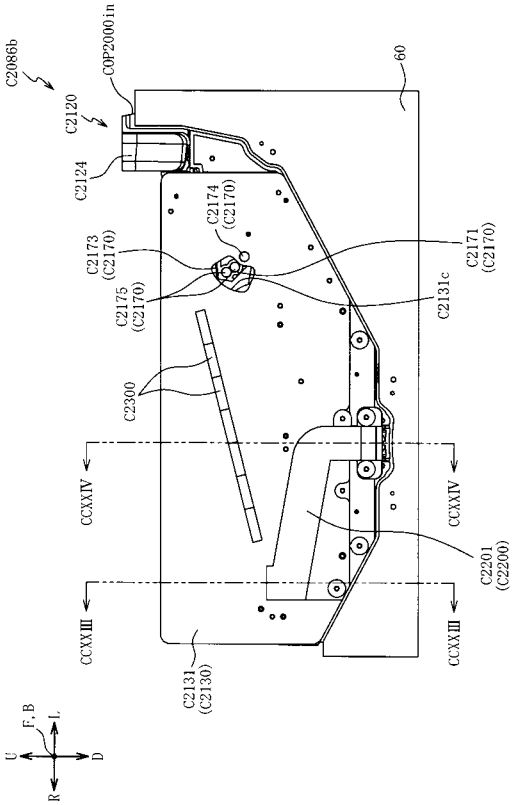
【図２１７】



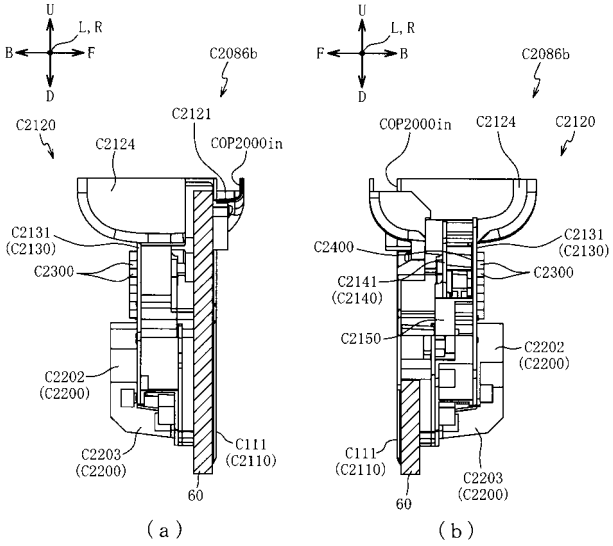
【図２１８】



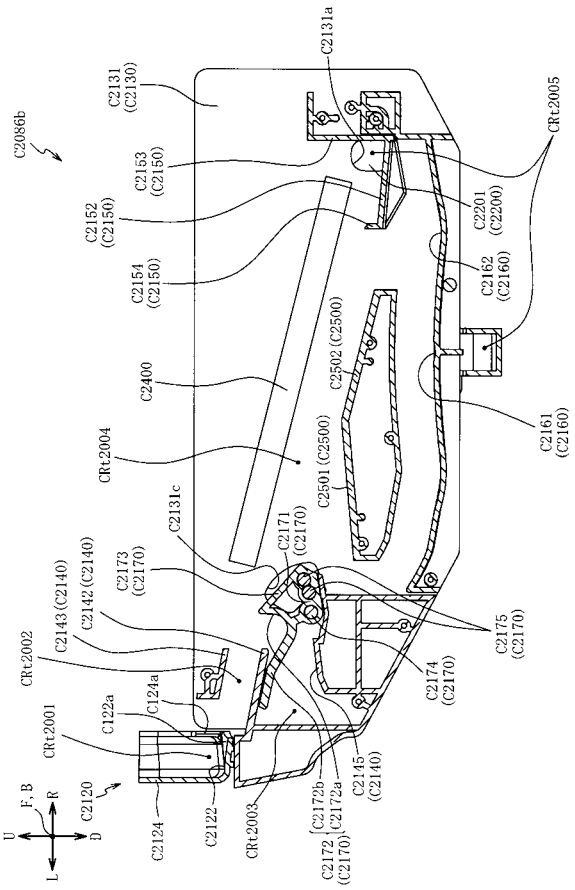
【図２１９】



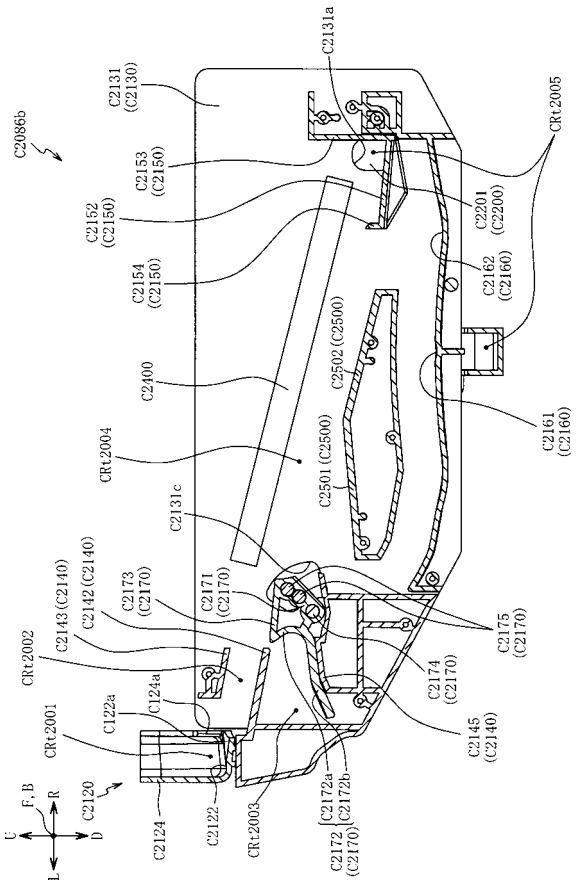
【図２２０】



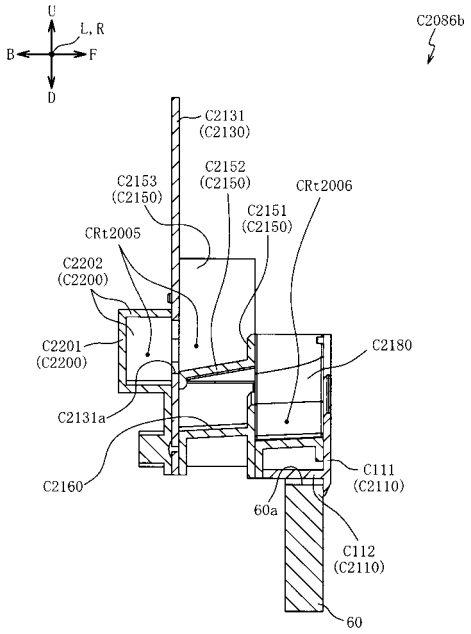
【図２２１】



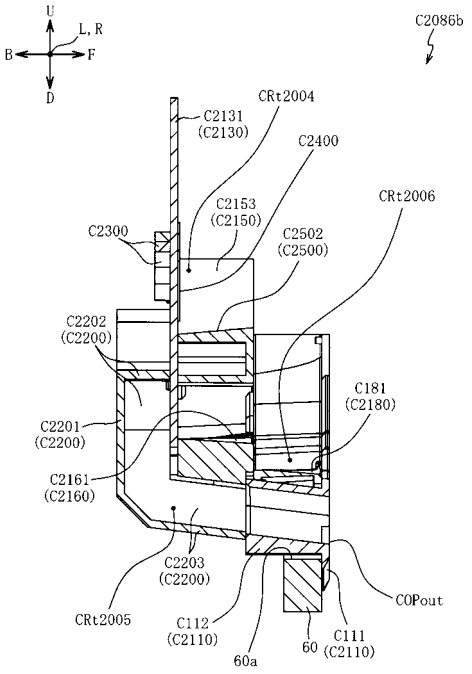
【図２２２】



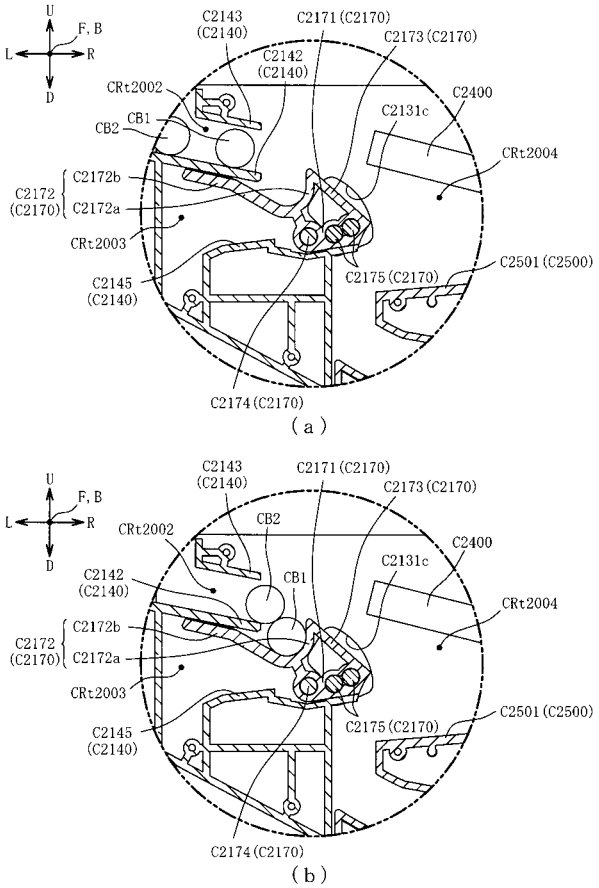
【図２２３】



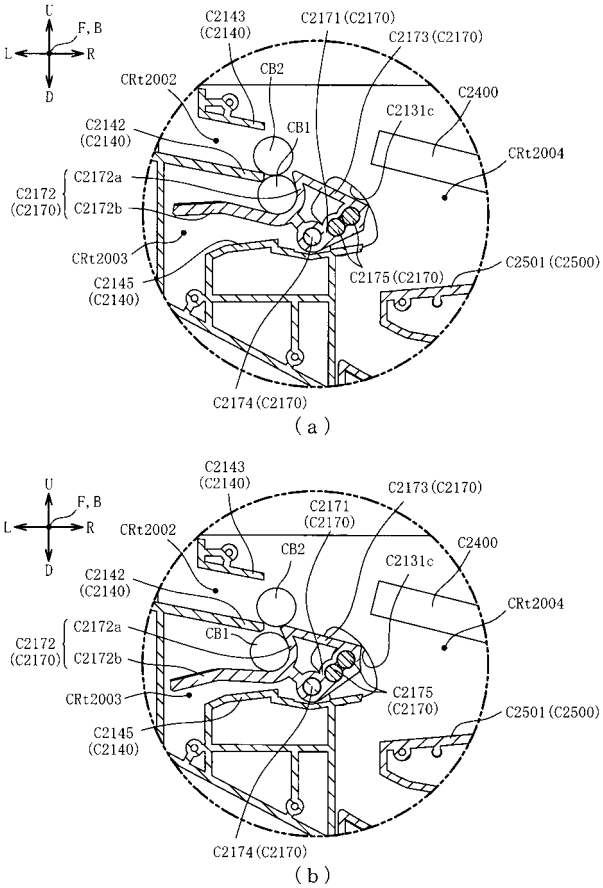
【図２２４】



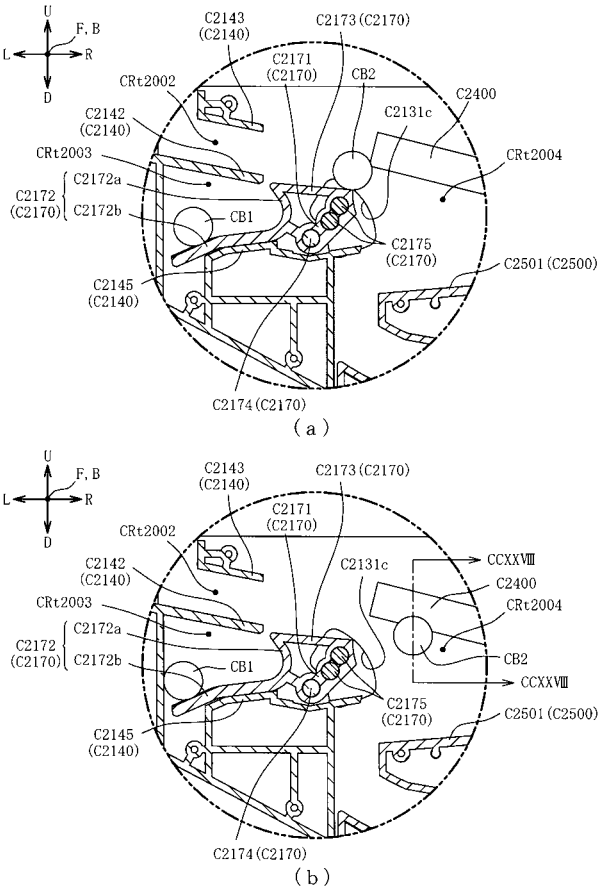
【図２２５】



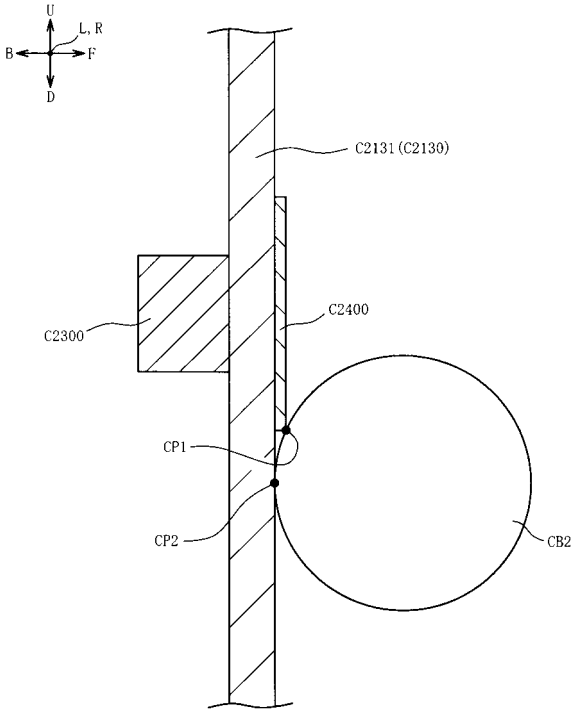
【図２２６】



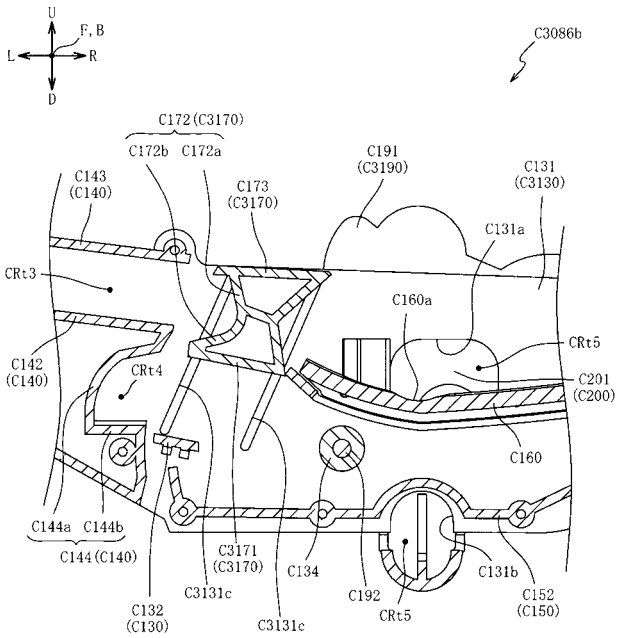
【図２２７】



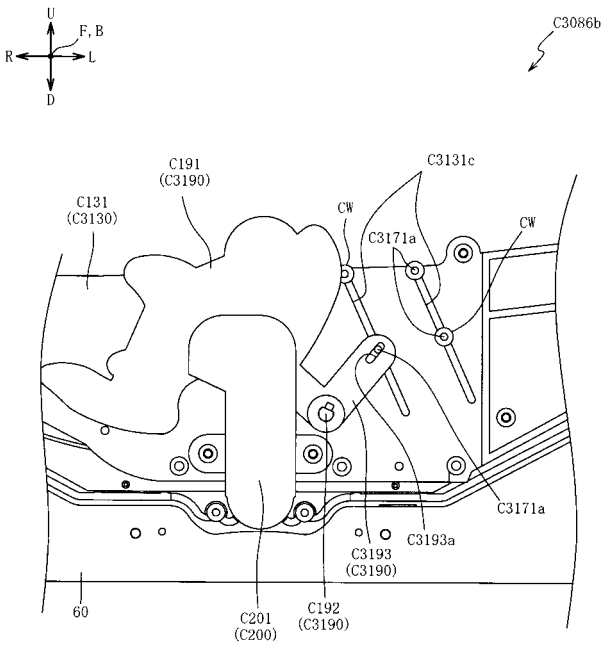
【図２２８】



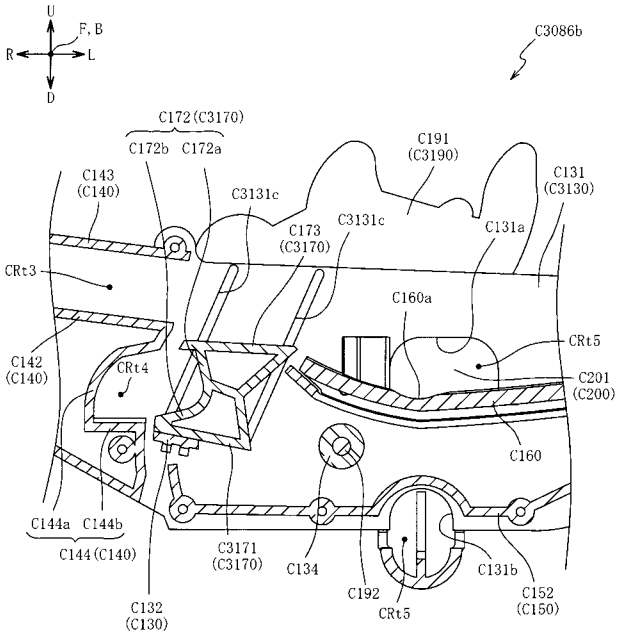
【図２２９】



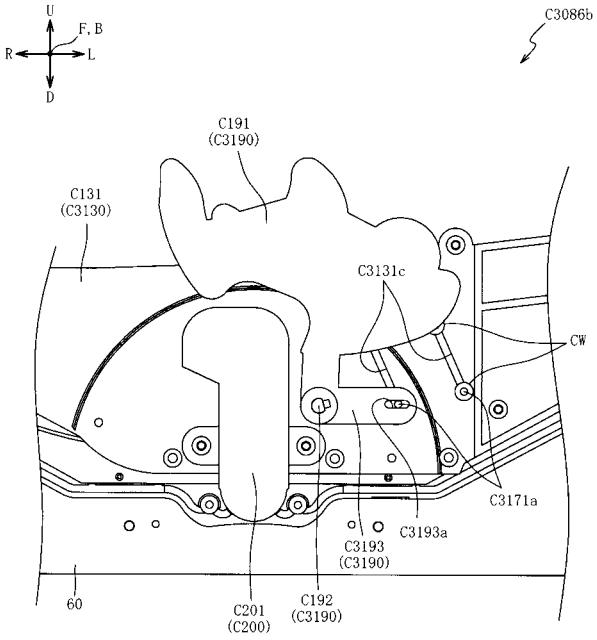
【図２３０】



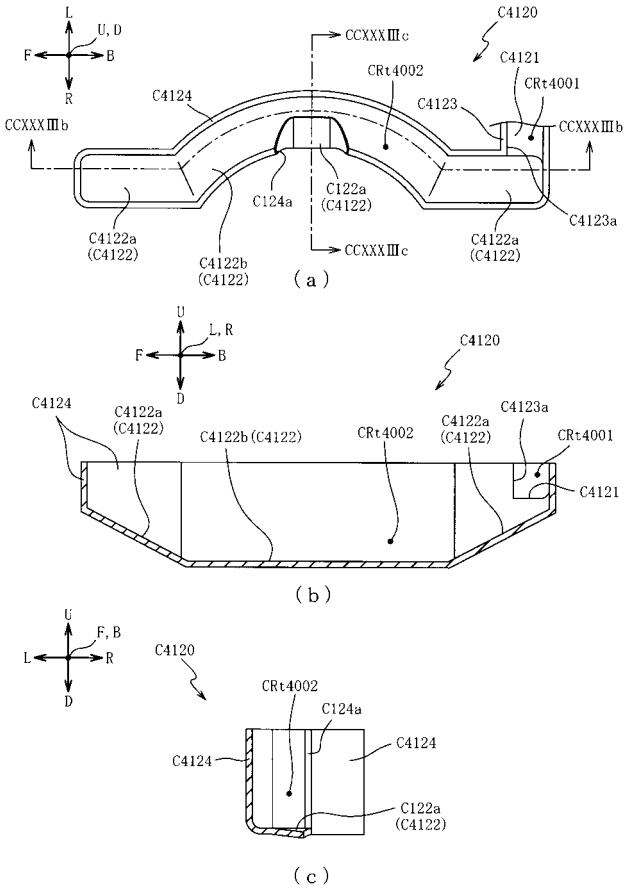
【図２３１】



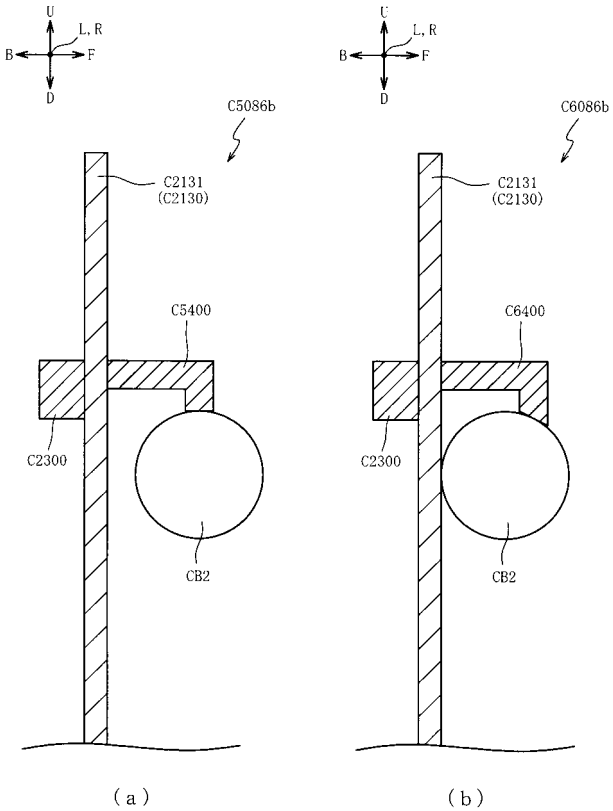
【図２３２】



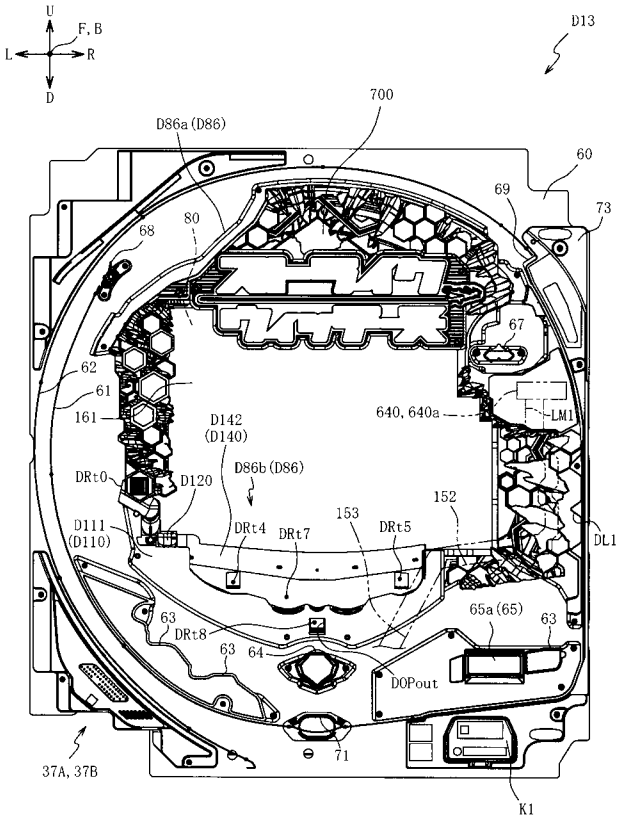
【図２３３】



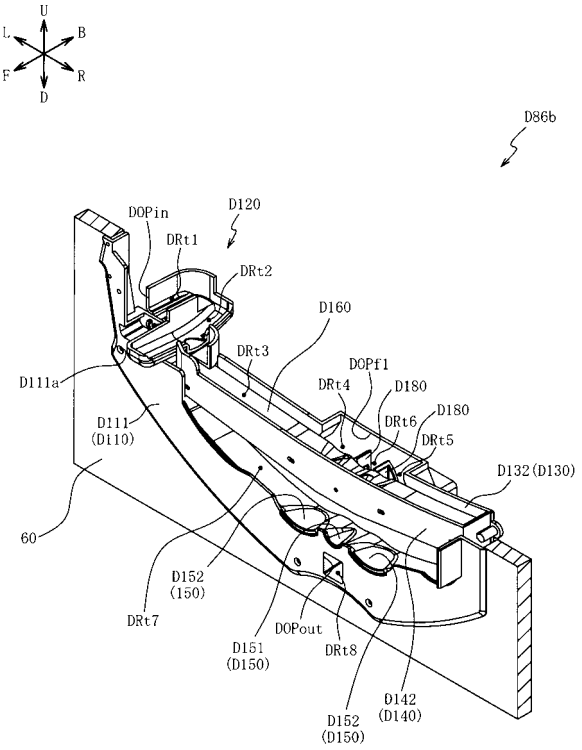
【図２３４】



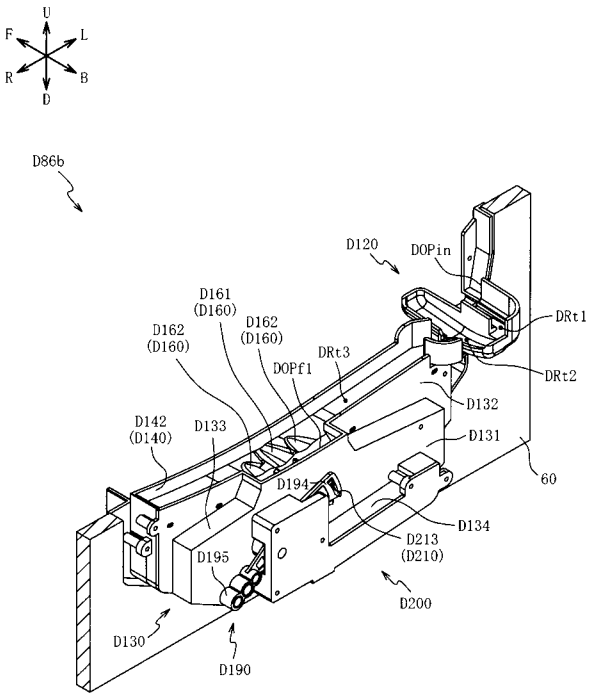
【図２３５】



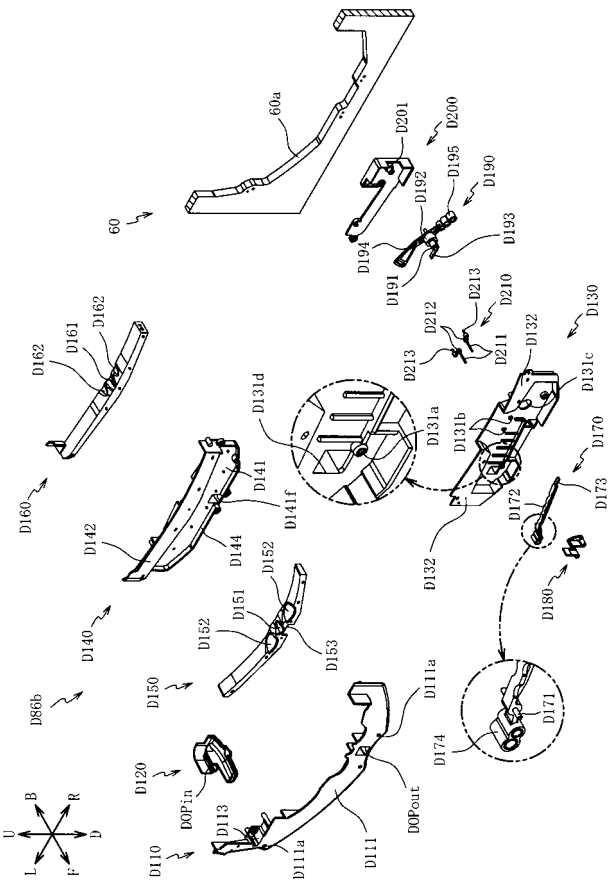
【図２３６】



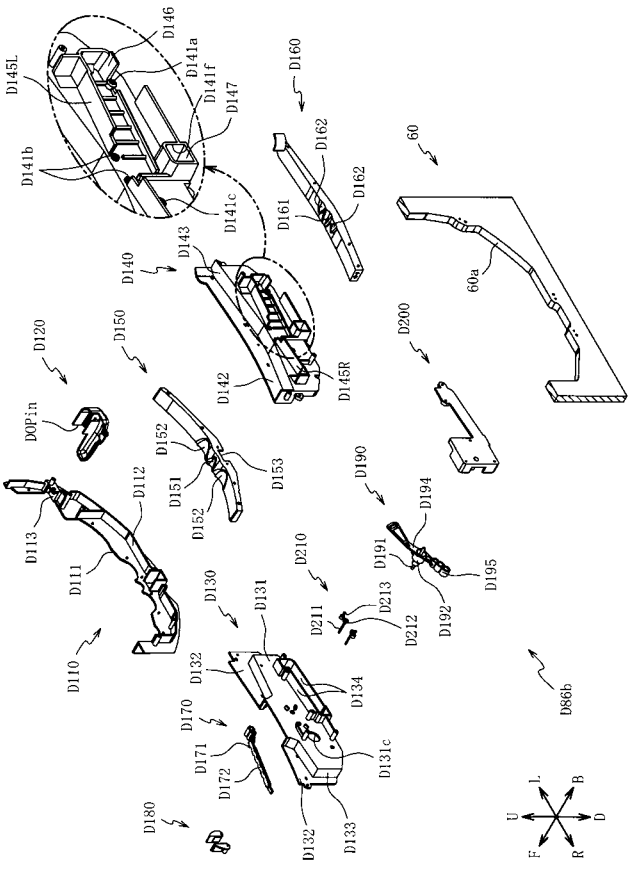
【図２３７】



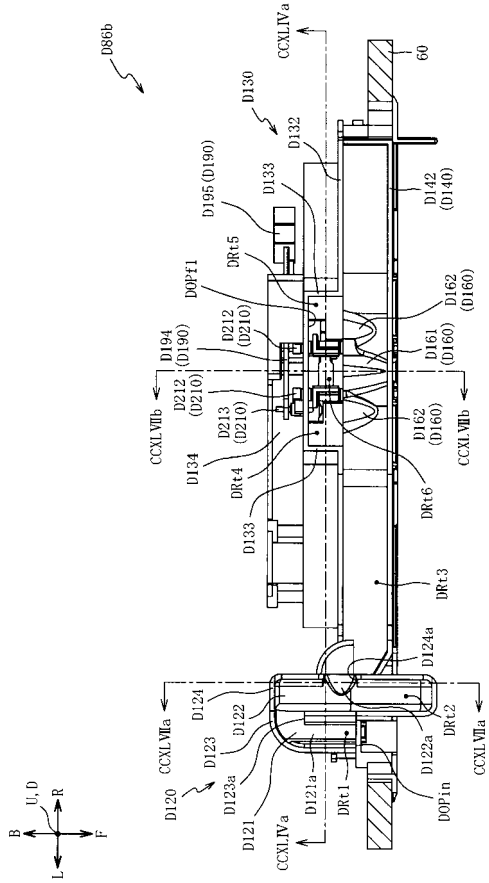
【図２３８】



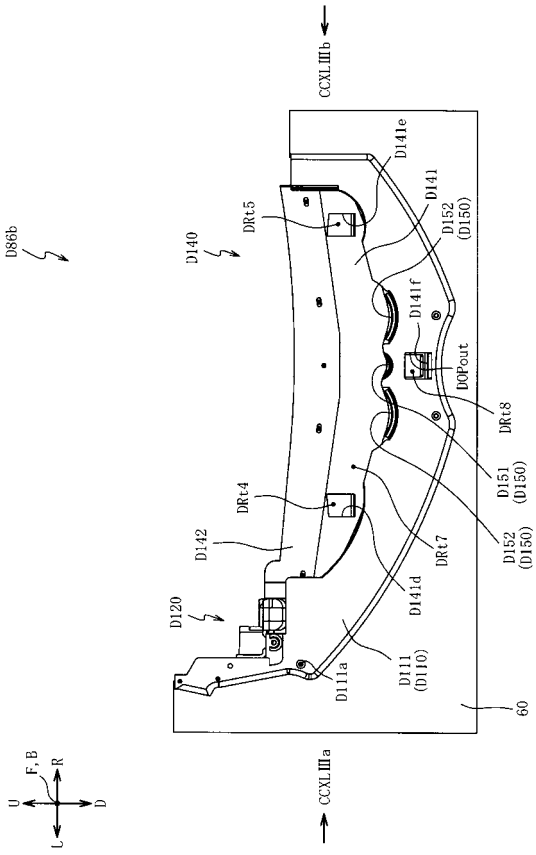
【図２３９】



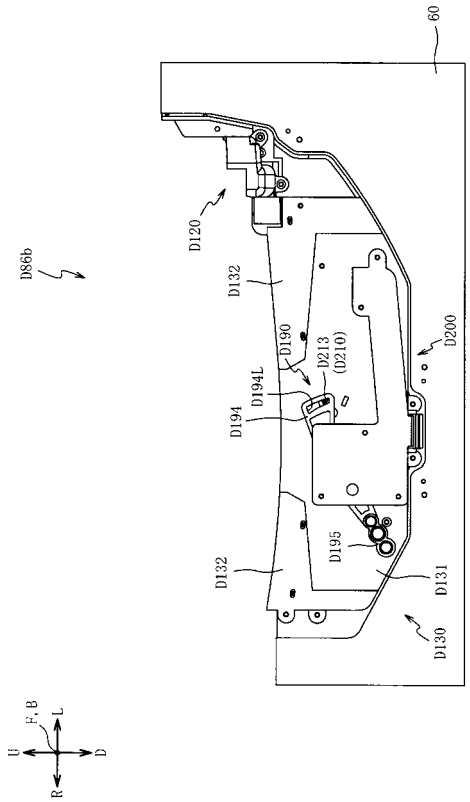
【図２４０】



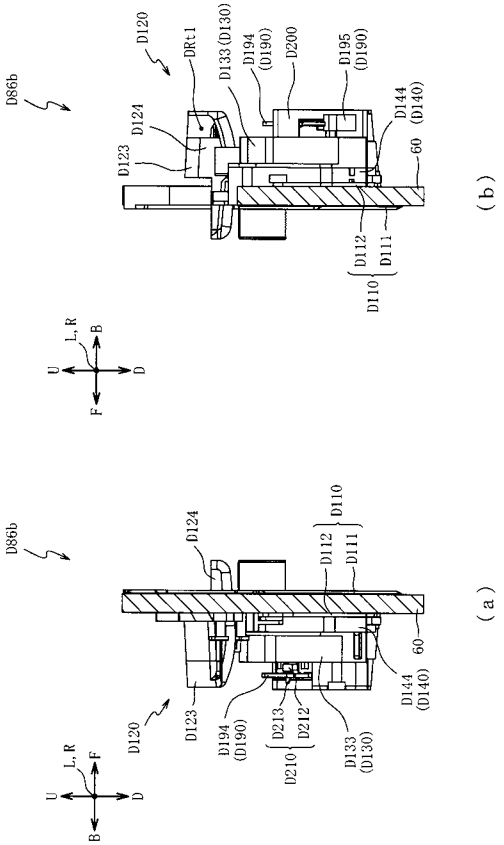
【図２４１】



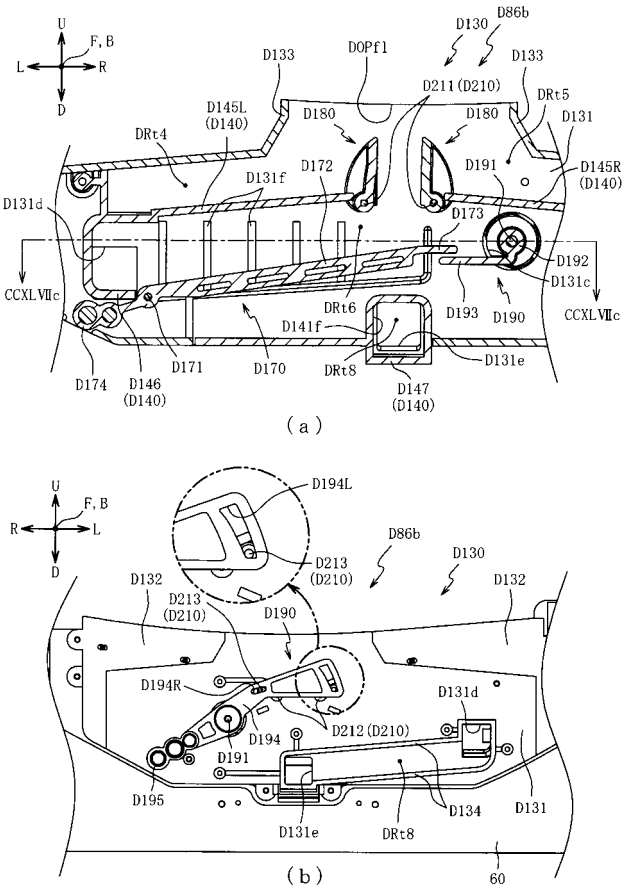
【図２４２】



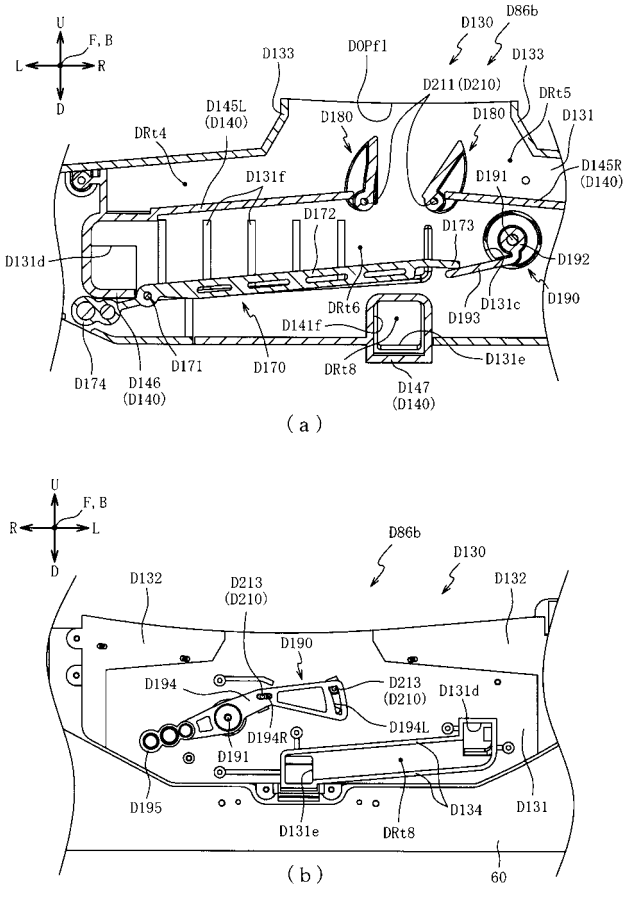
【図２４３】



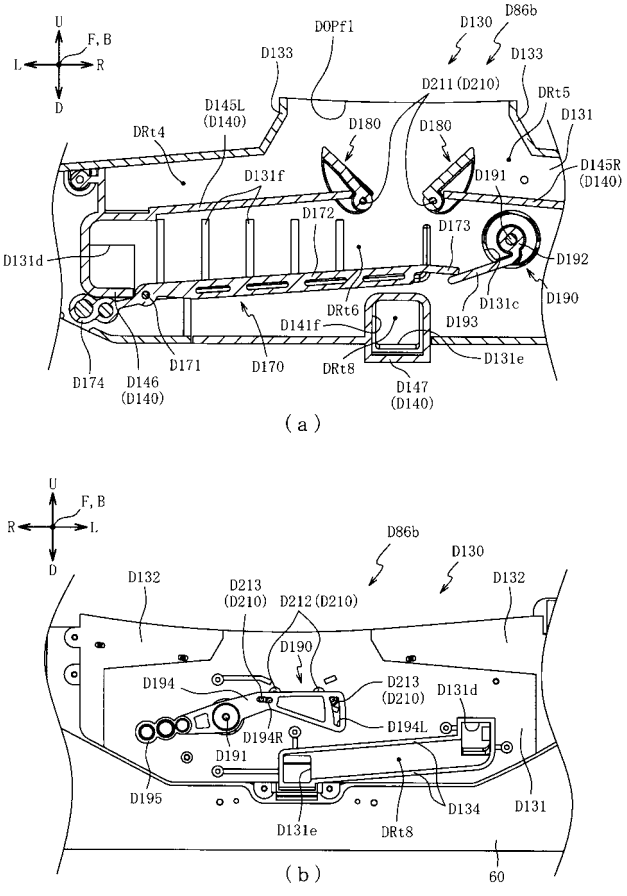
【図２４４】



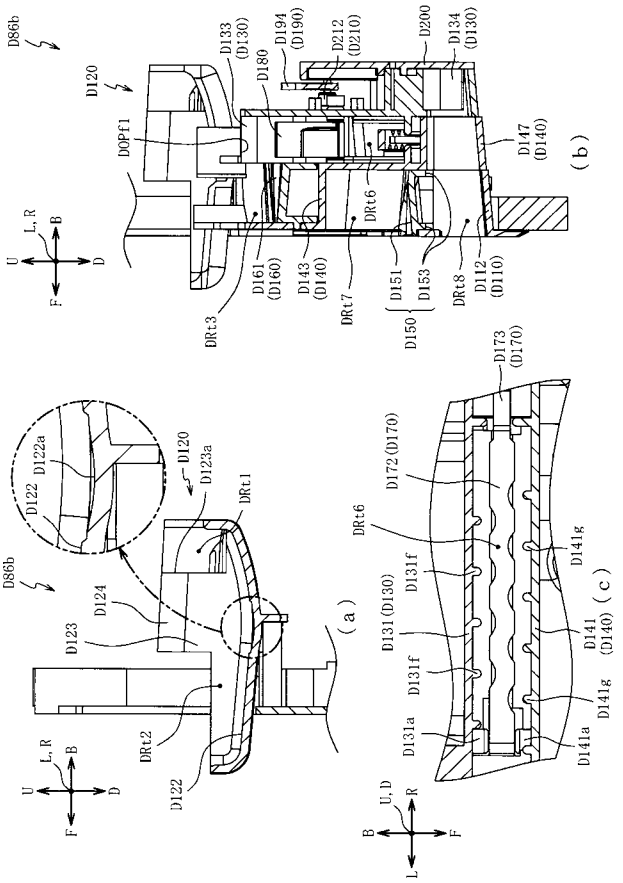
【図２４５】



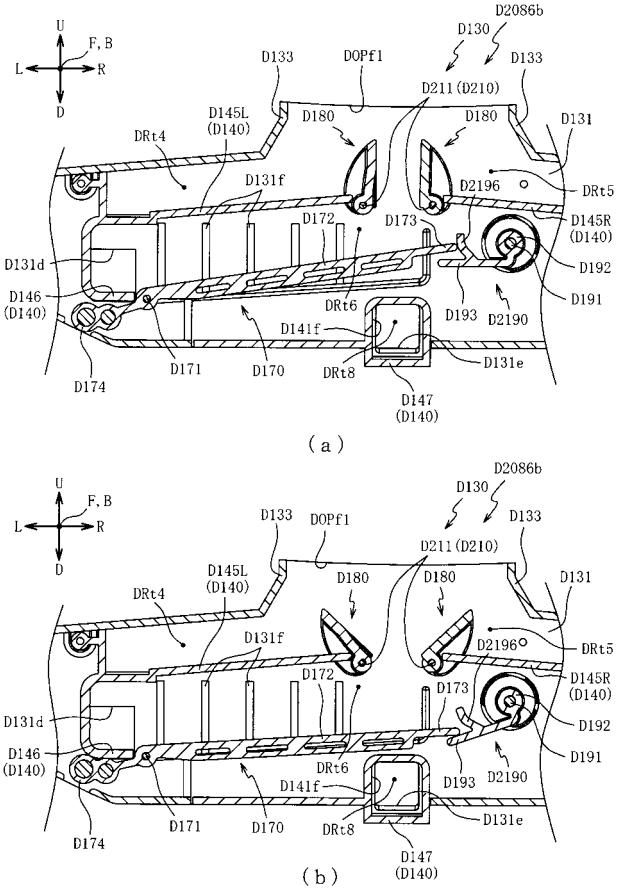
【図２４６】



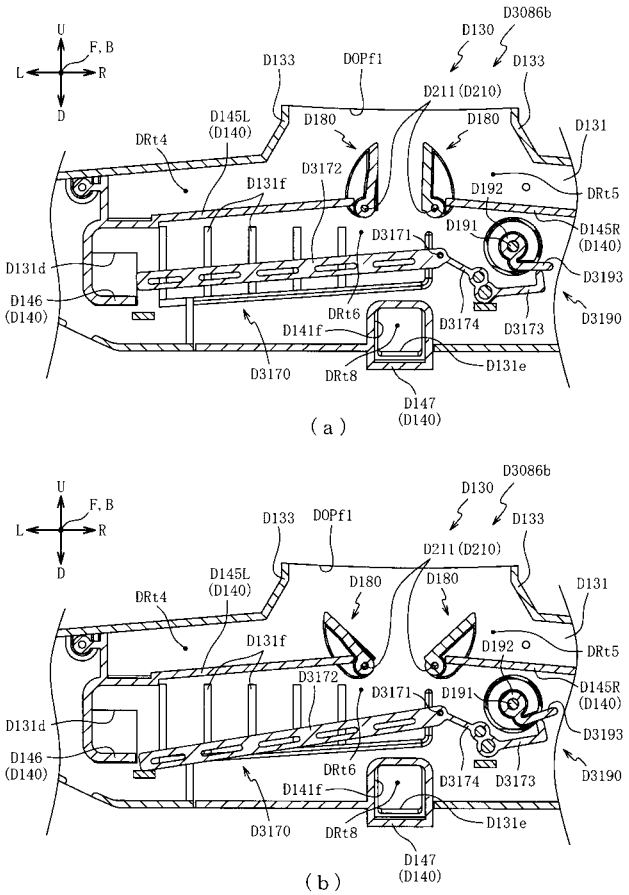
【図２４７】



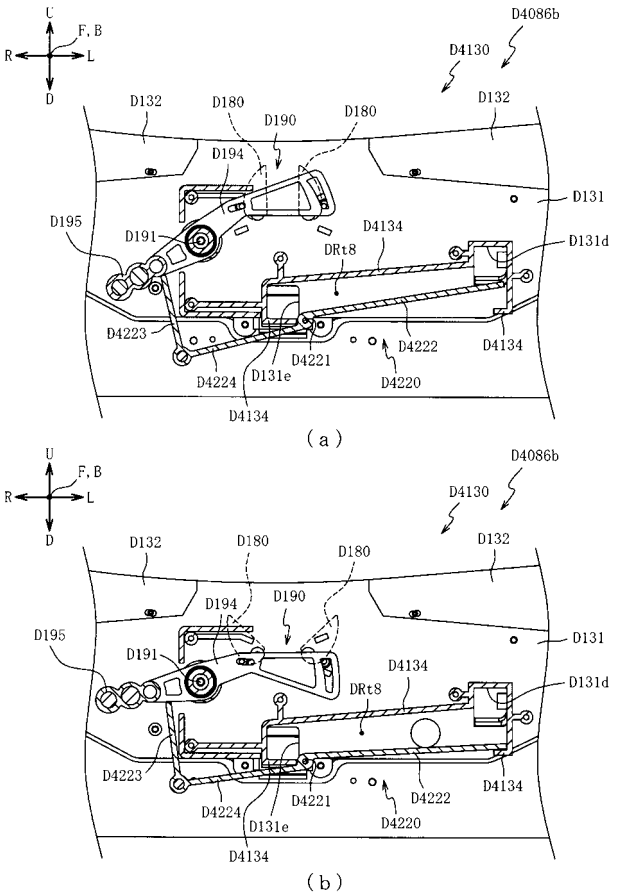
【図２４８】



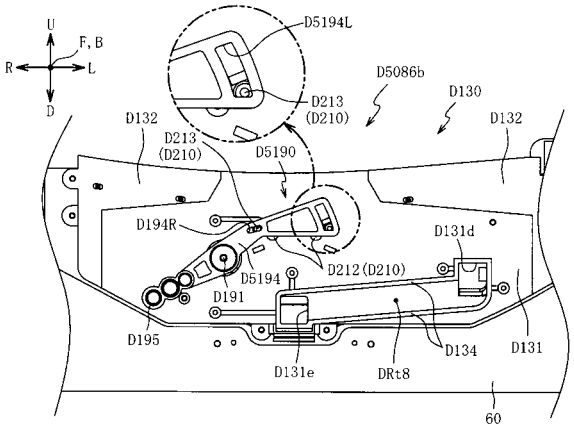
【図２４９】



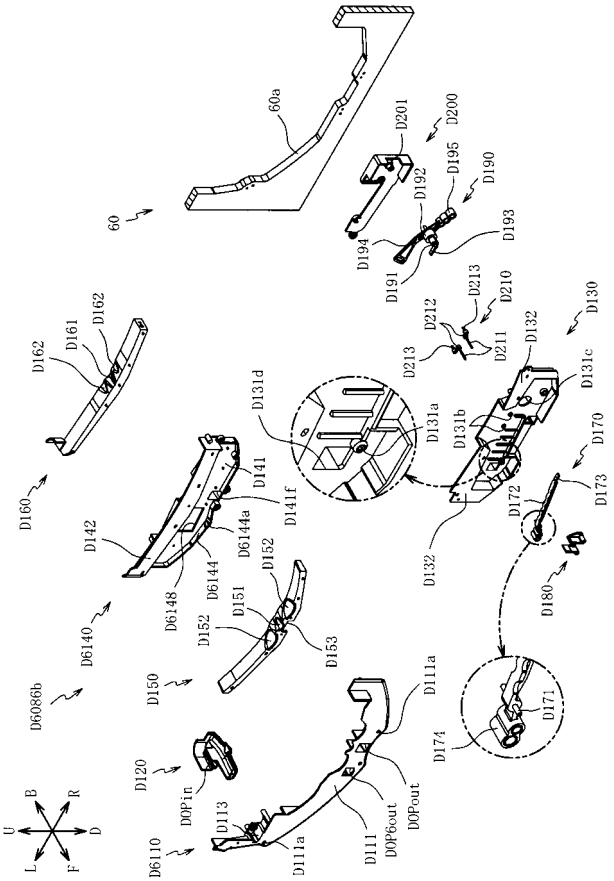
【図２５０】



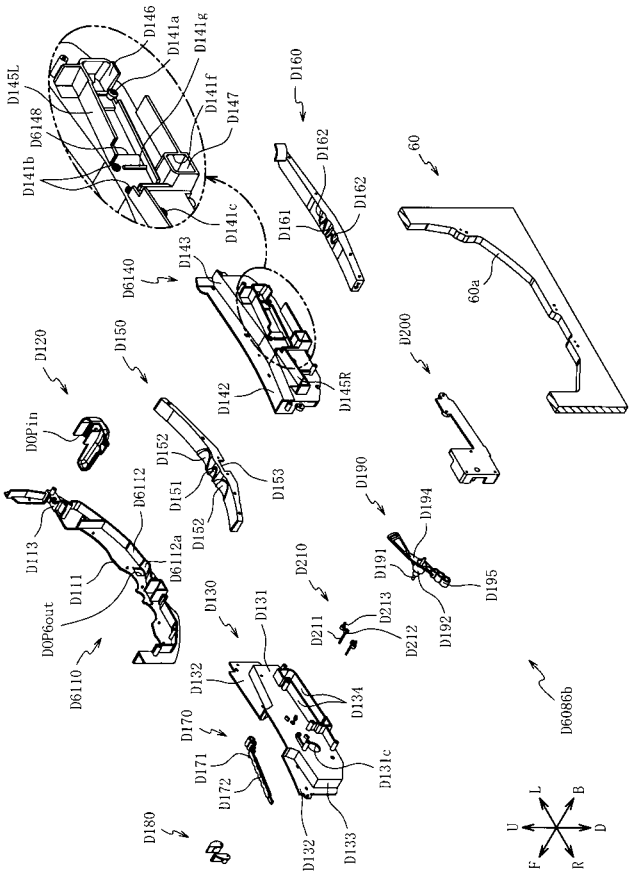
【図２５１】



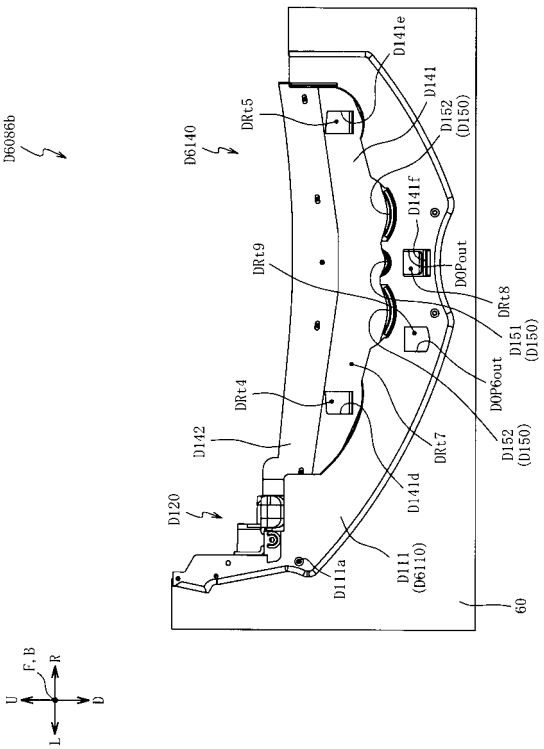
【図２５２】



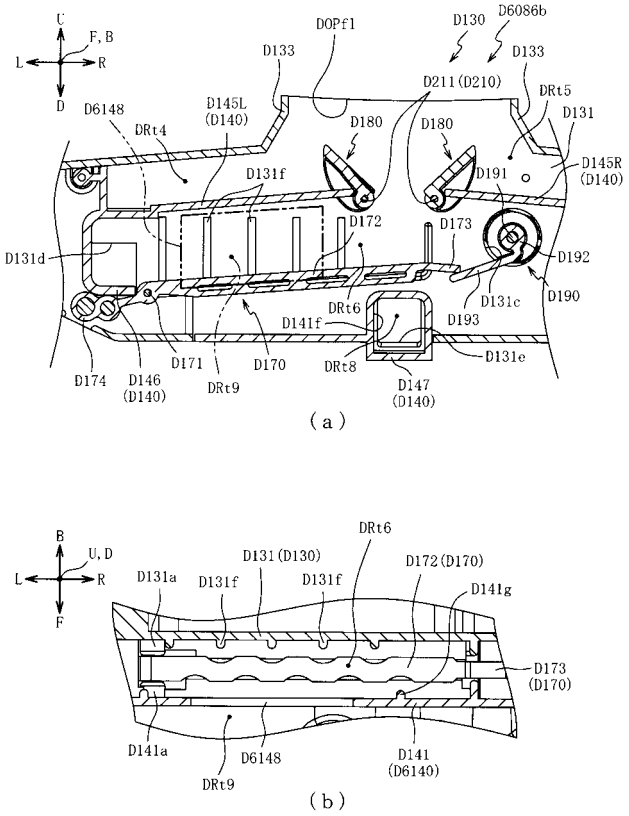
【図２５３】



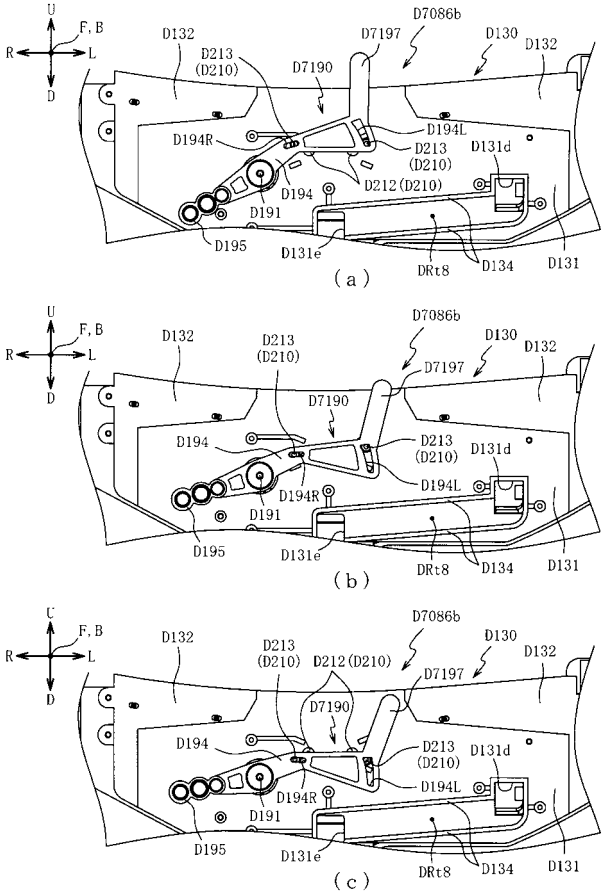
【図２５４】



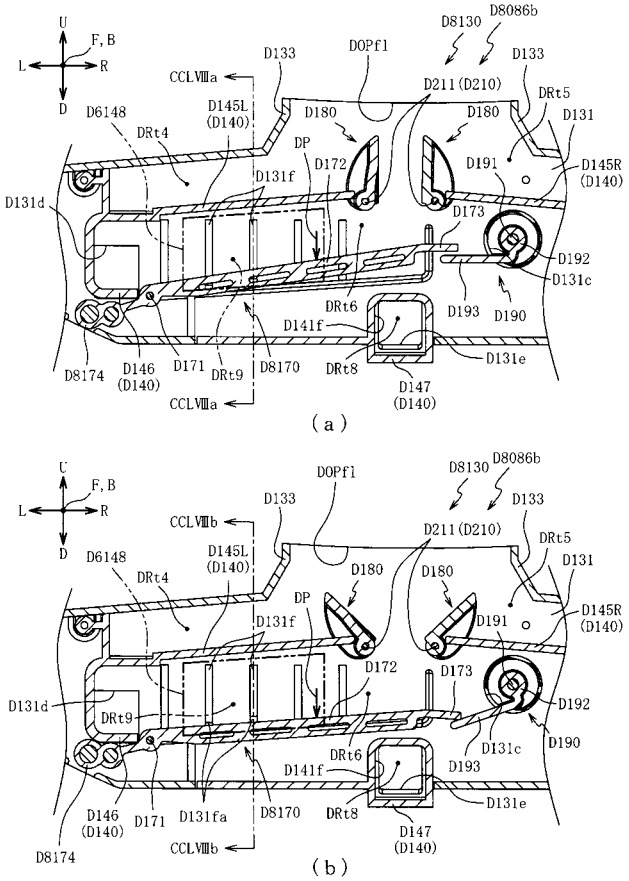
【図２５５】



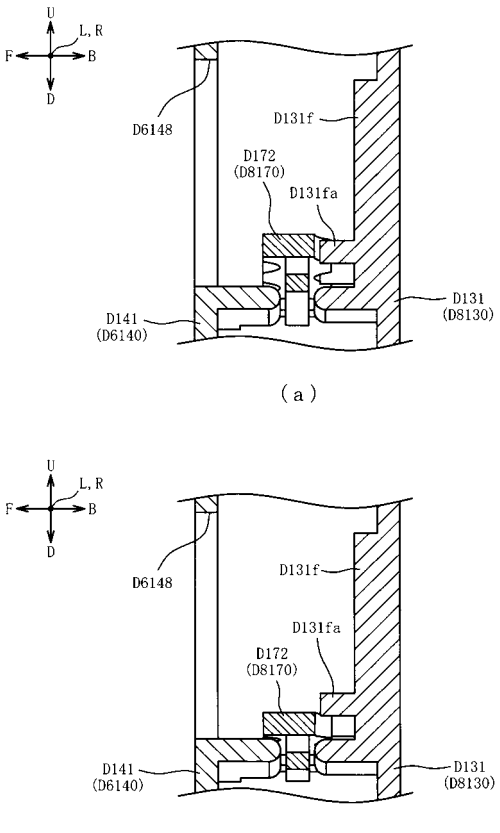
【図２５６】



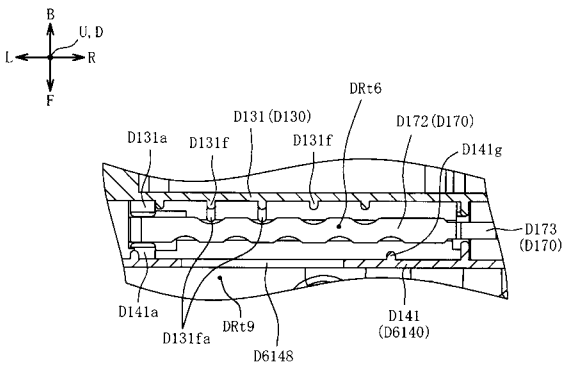
【図２５７】



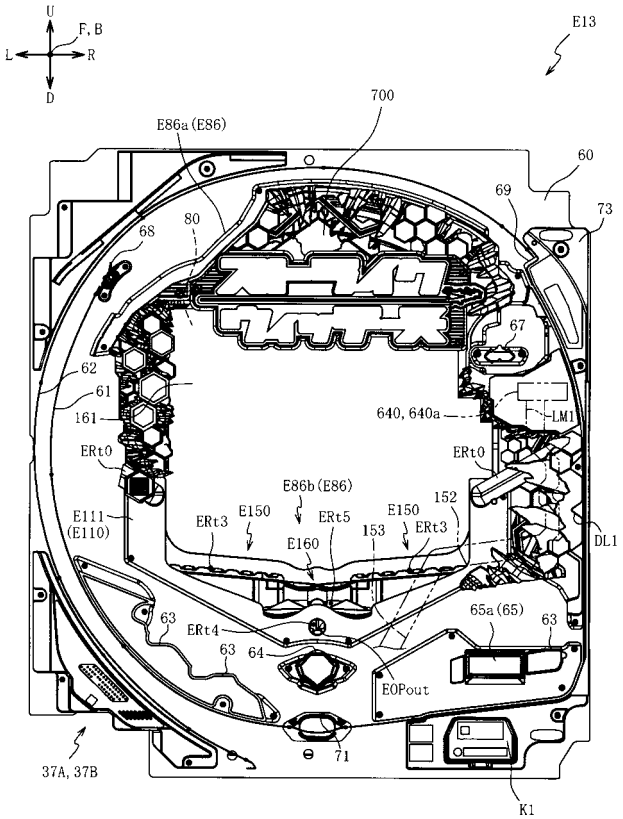
【図２５８】



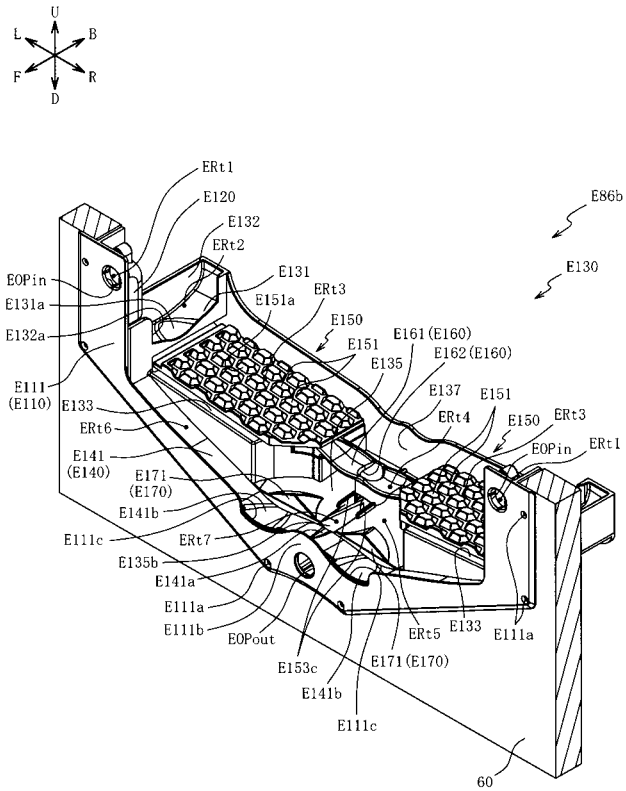
【図２５９】



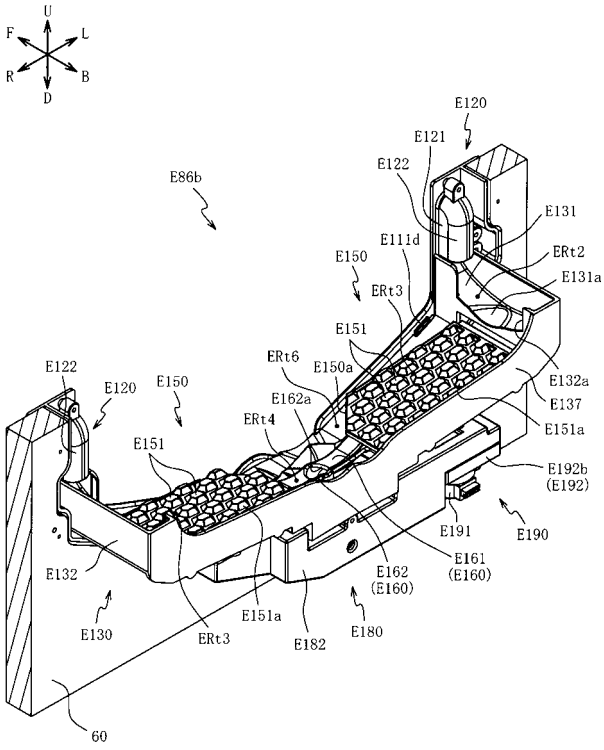
【図２６０】



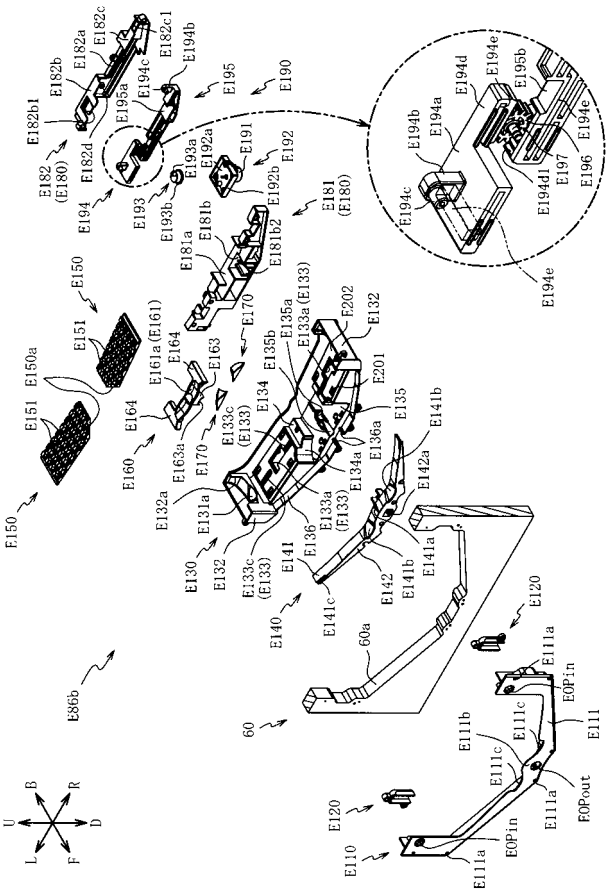
【図２６１】



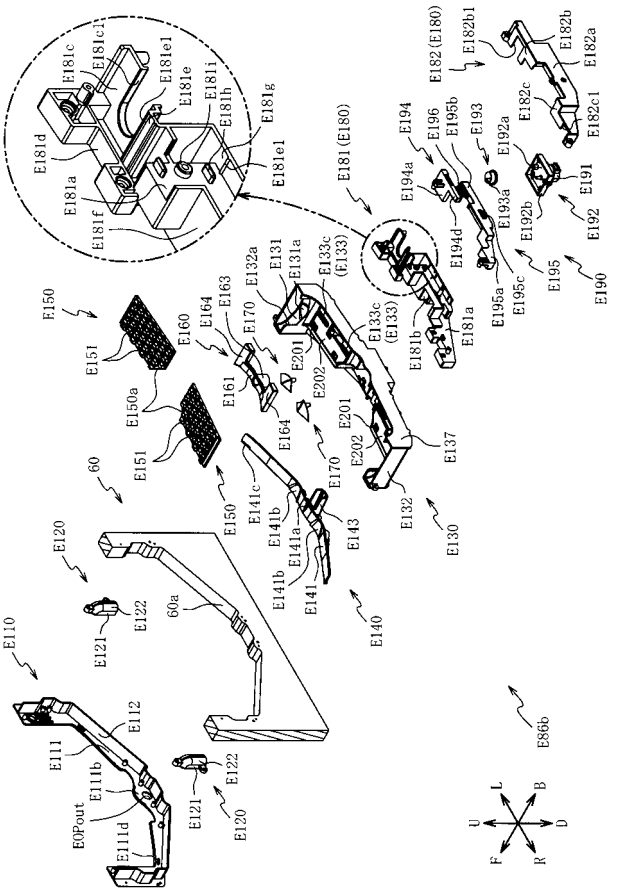
【図２６２】



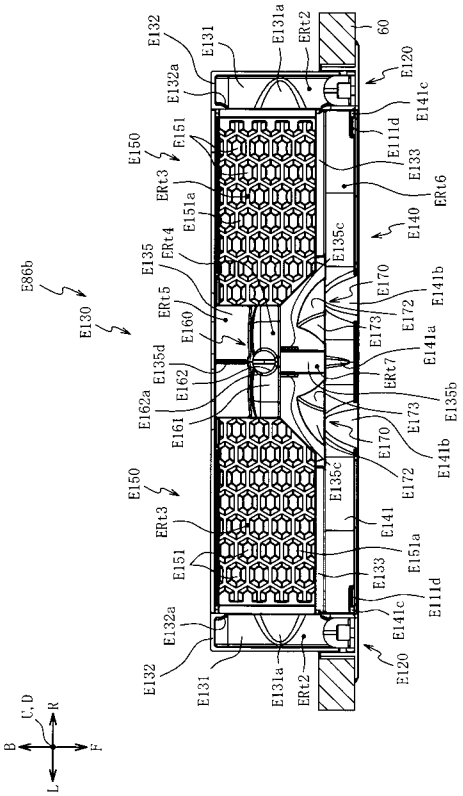
【図２６３】



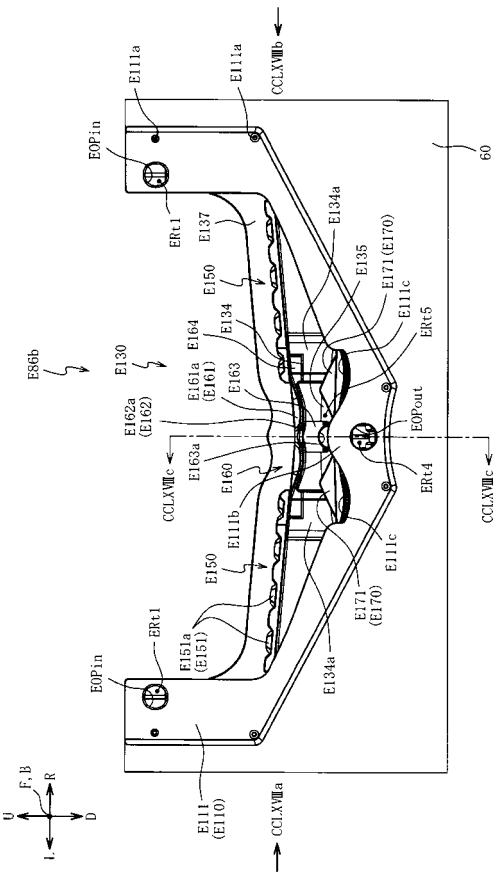
【図２６４】



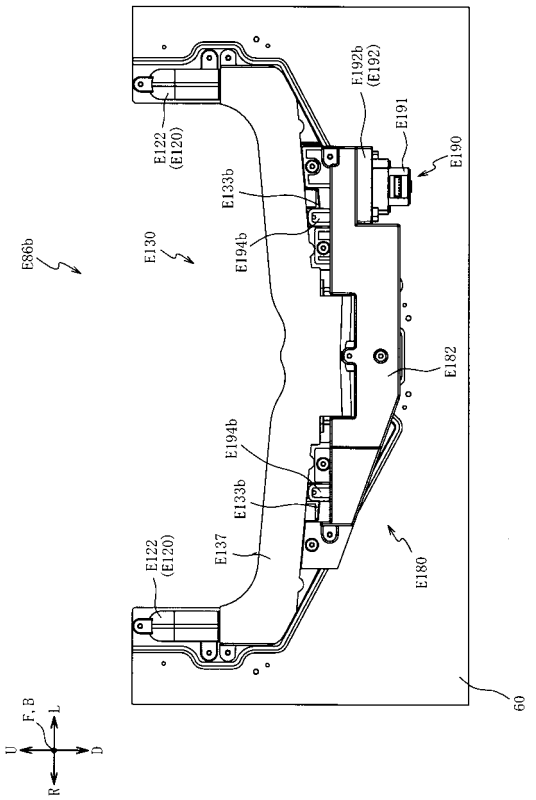
【図２６５】



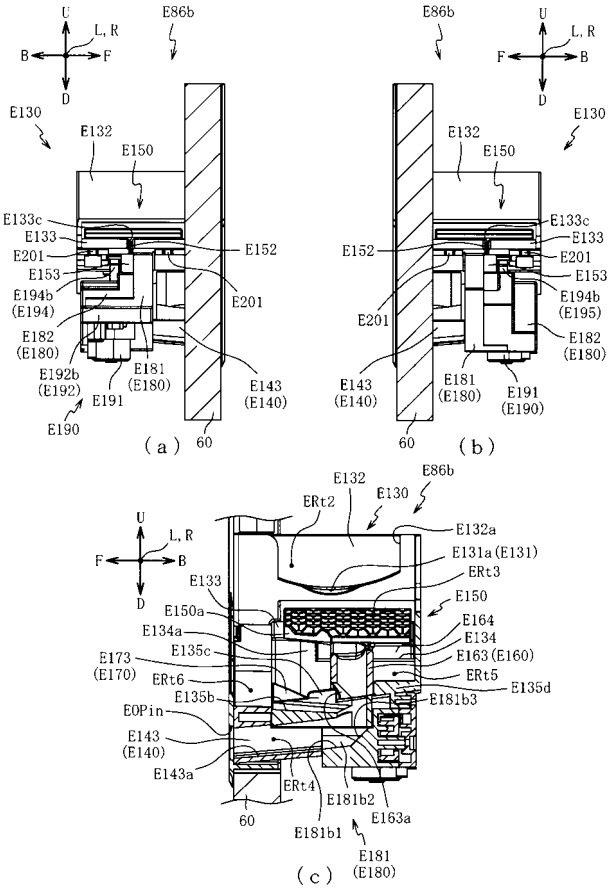
【図２６６】



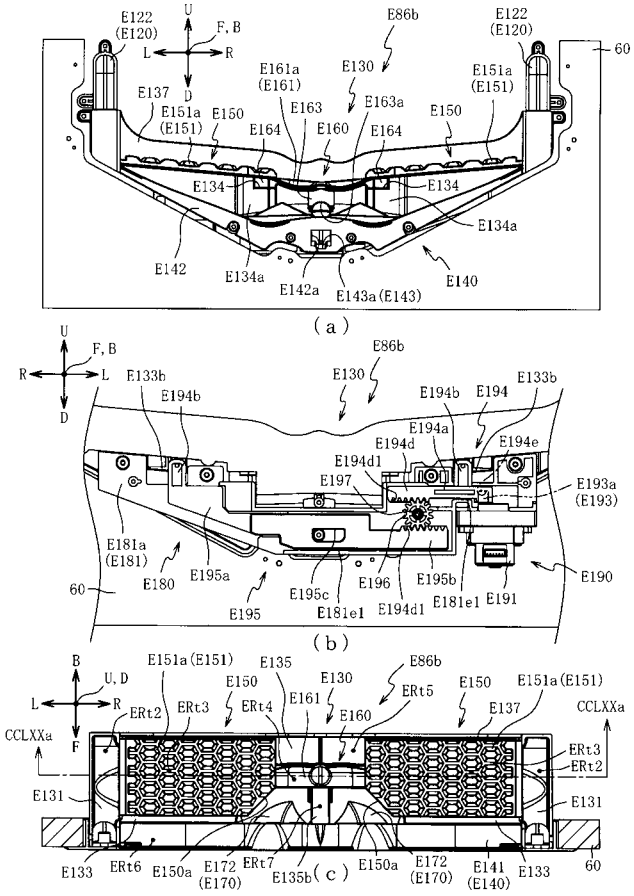
【図２６７】



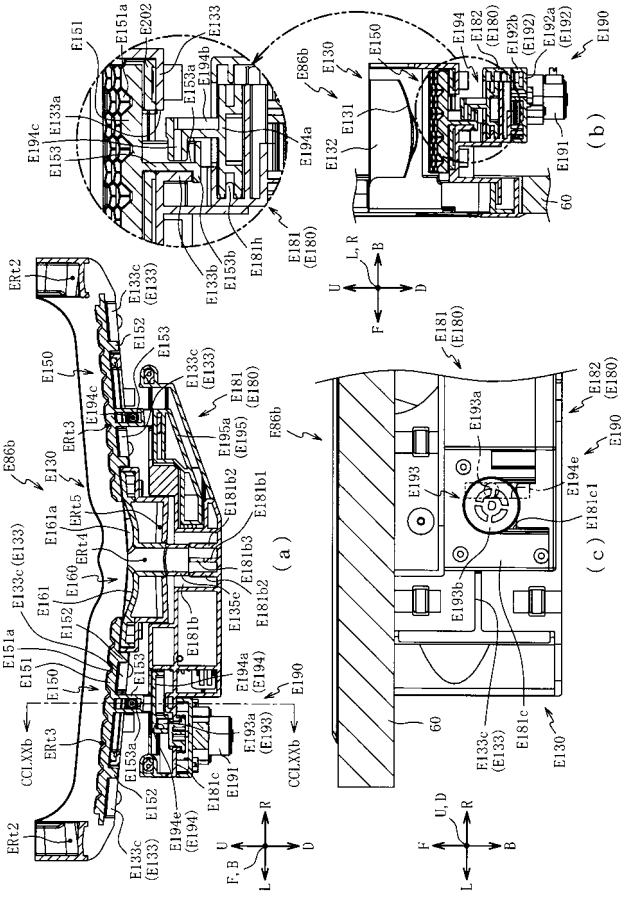
【図２６８】



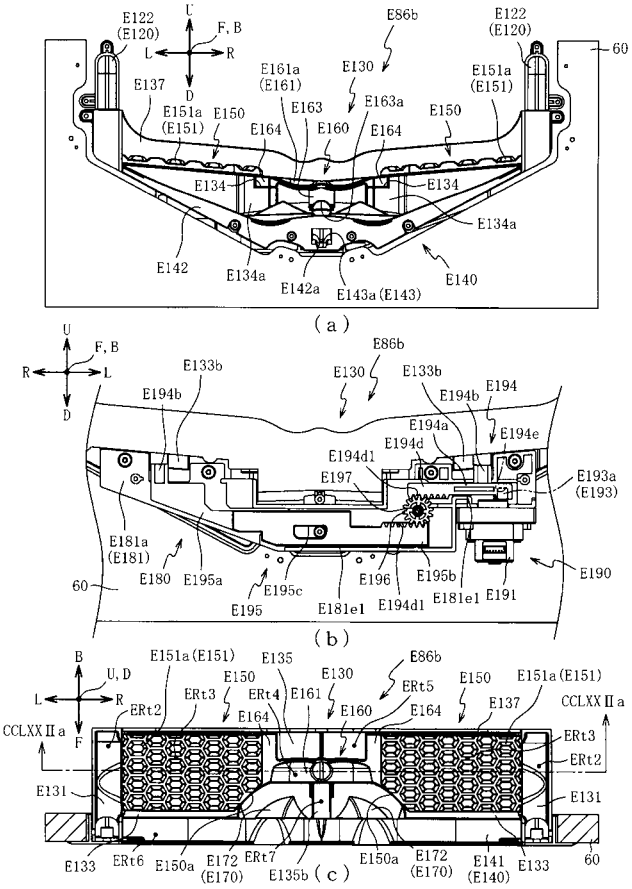
【図２６９】



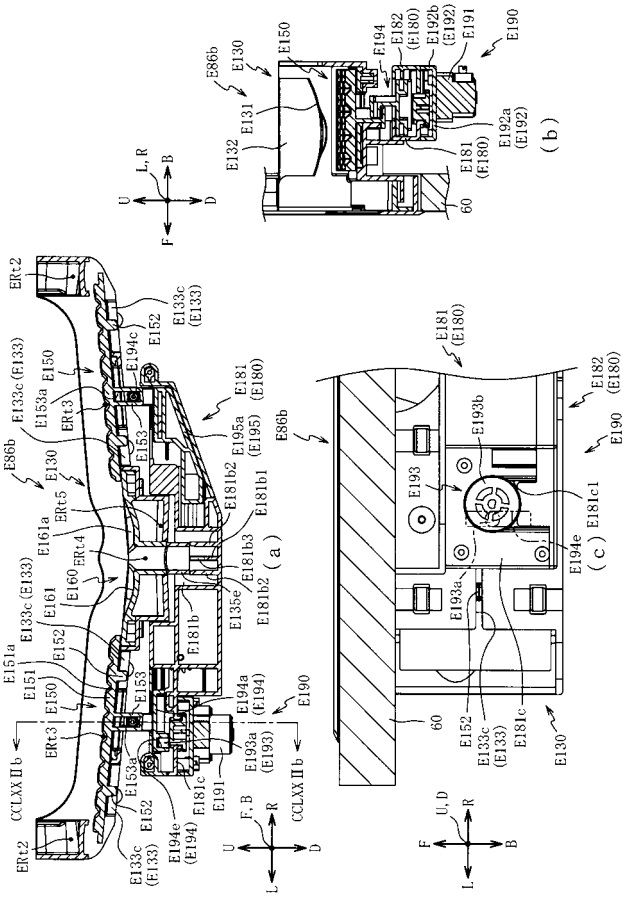
【図２７０】



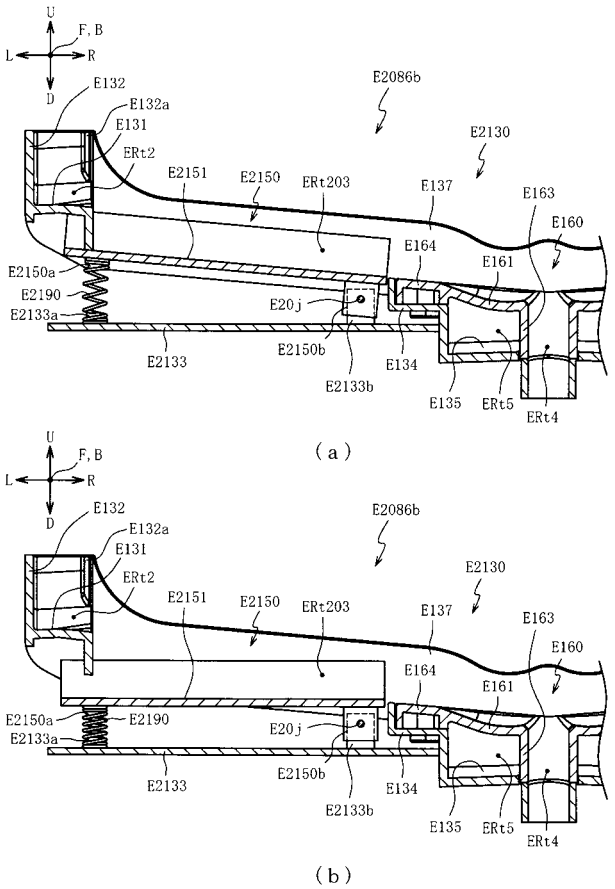
【図２７１】



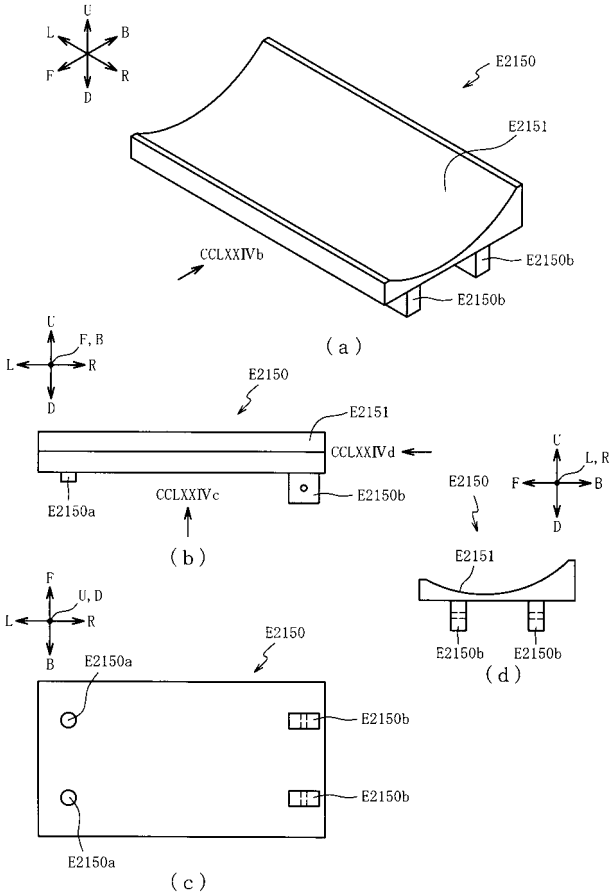
【図２７２】



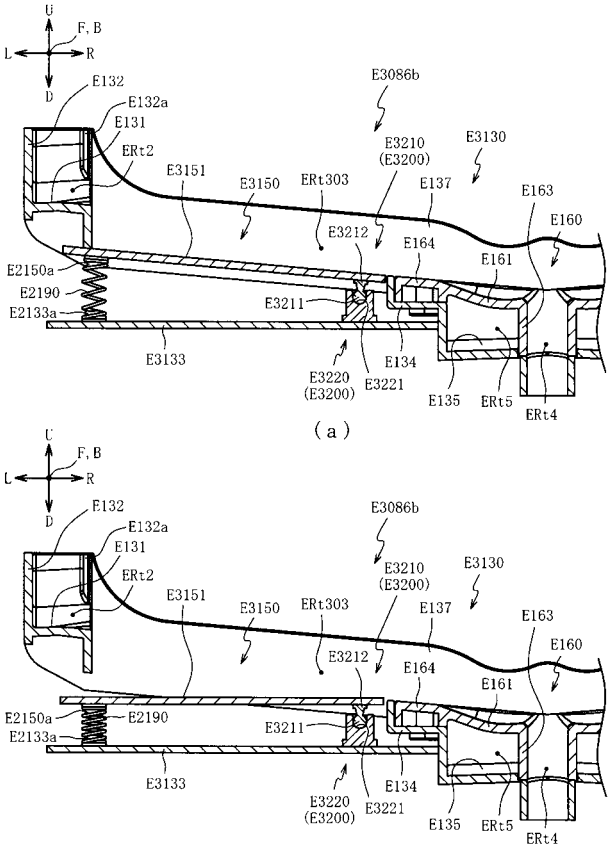
【図２７３】



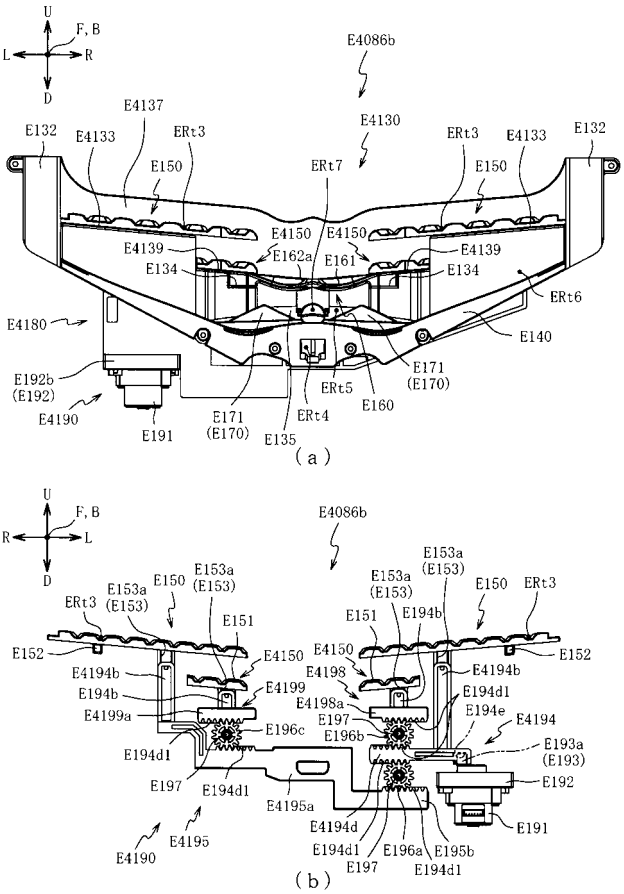
【図２７４】



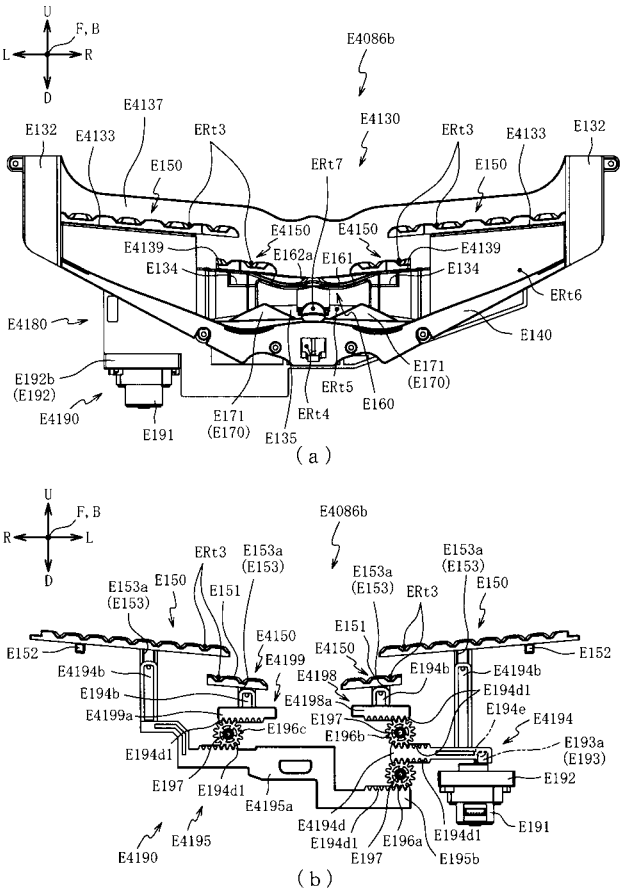
【図２７５】



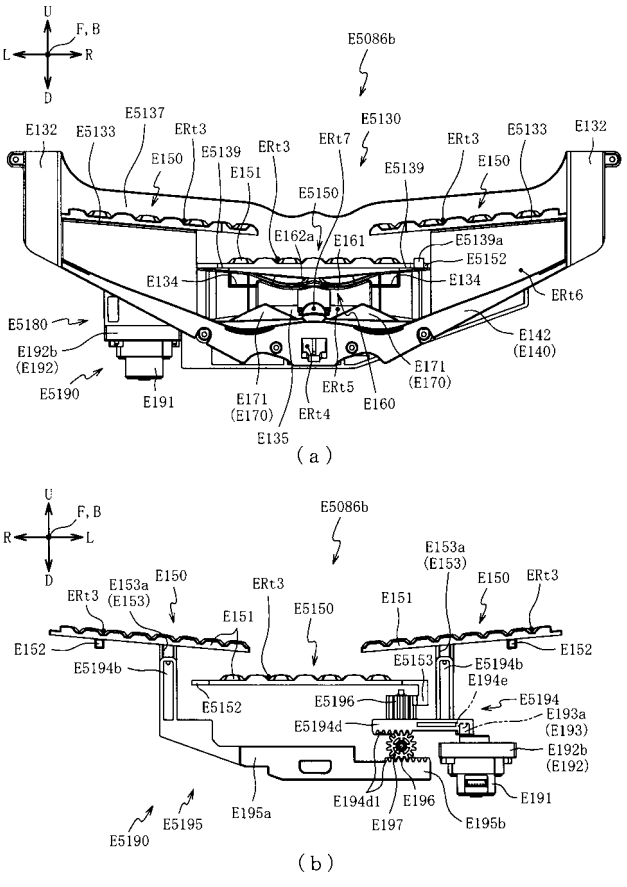
【図２７６】



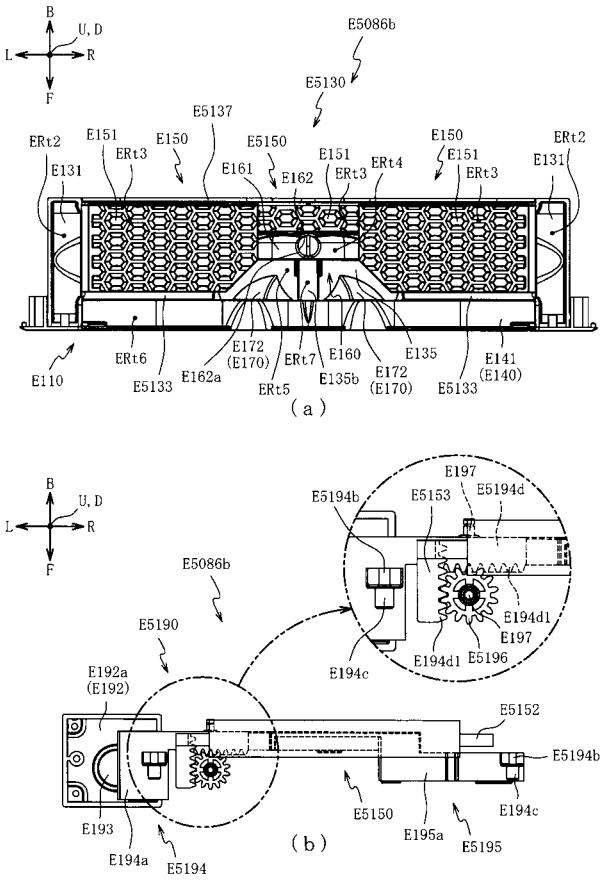
【図２７７】



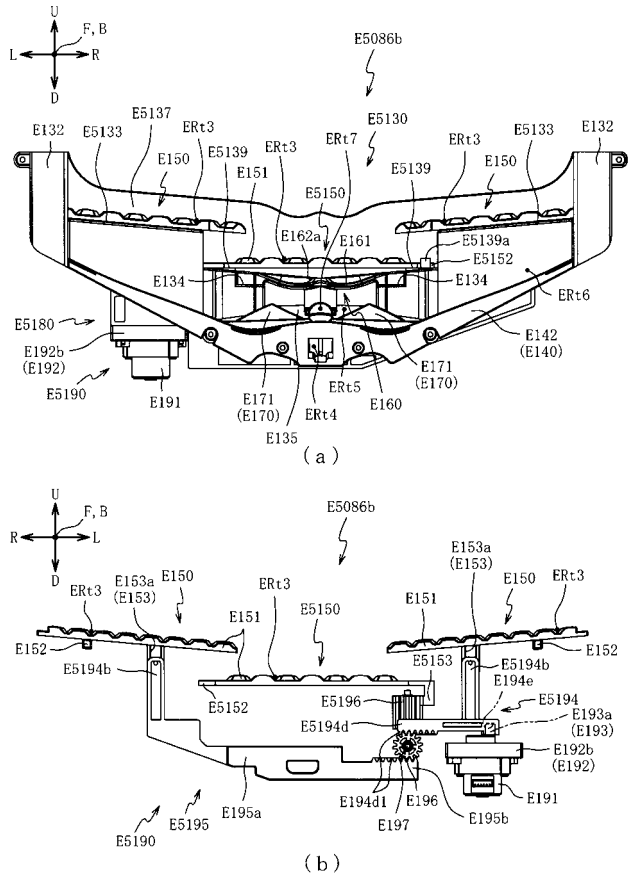
【図２７８】



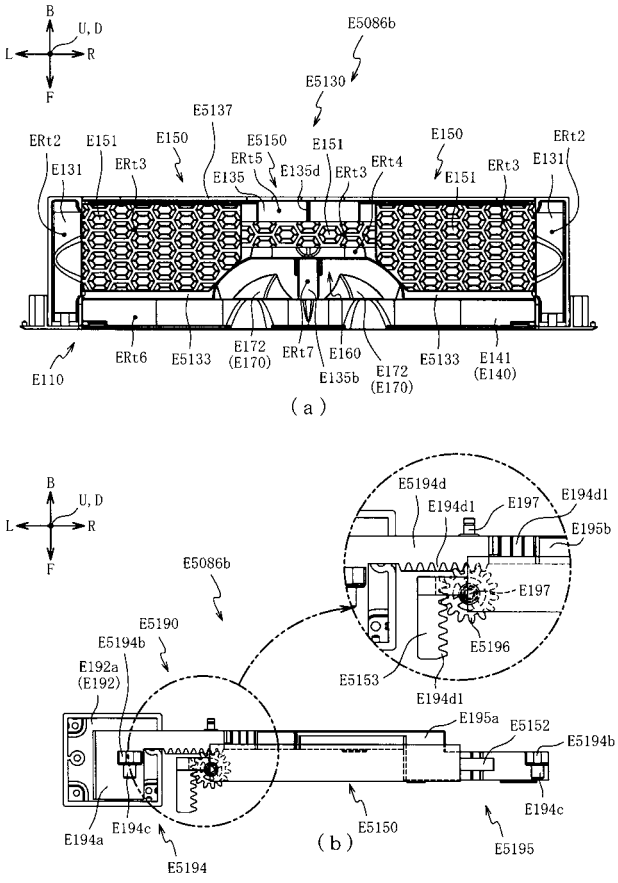
【図２７９】



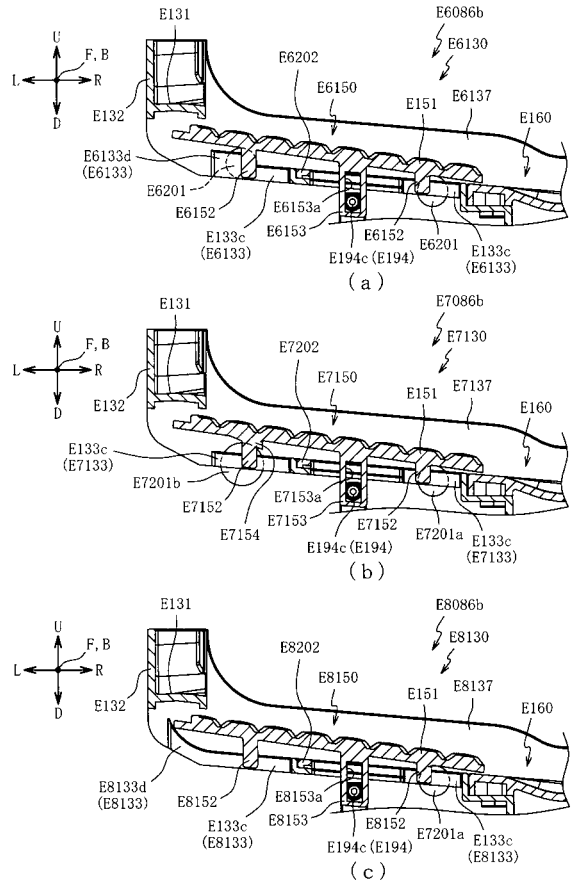
【図２８０】



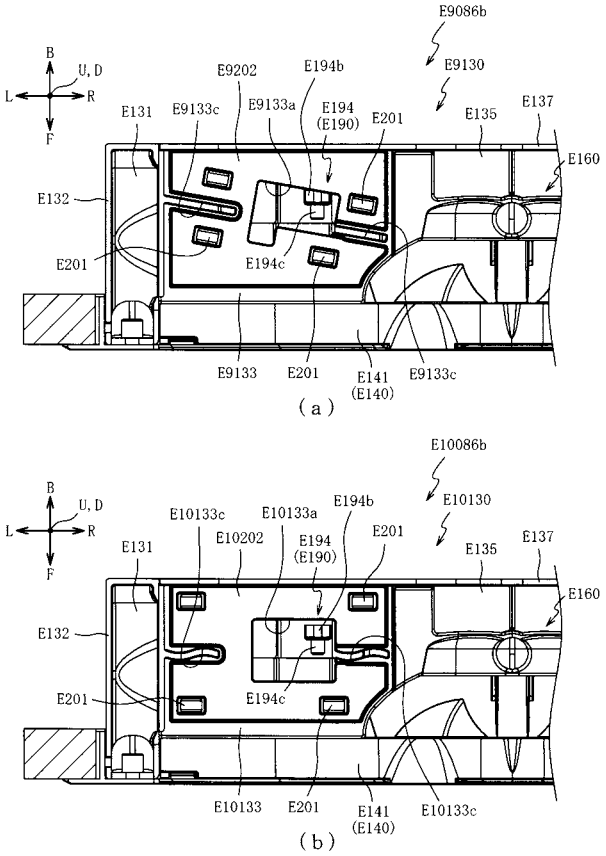
【図２８１】



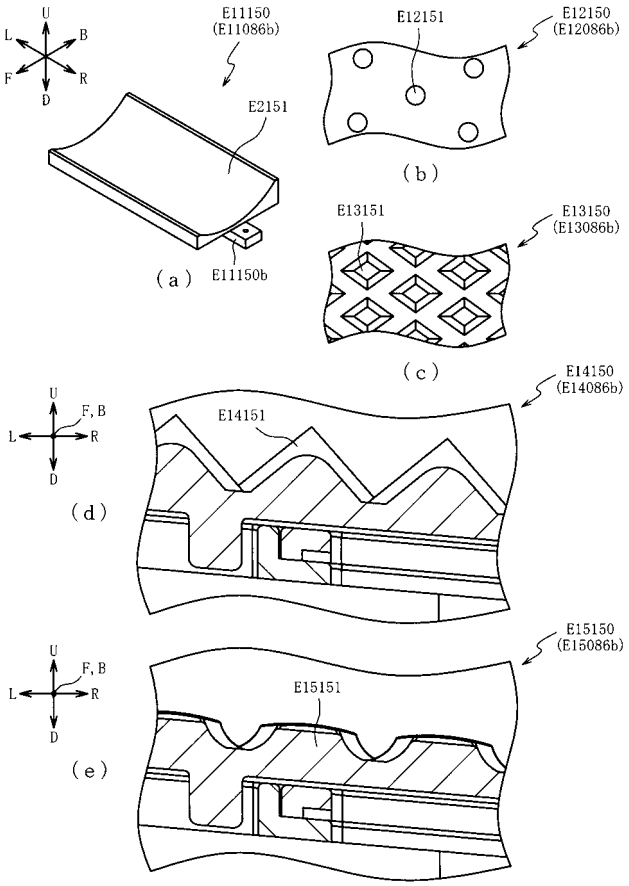
【図２８２】



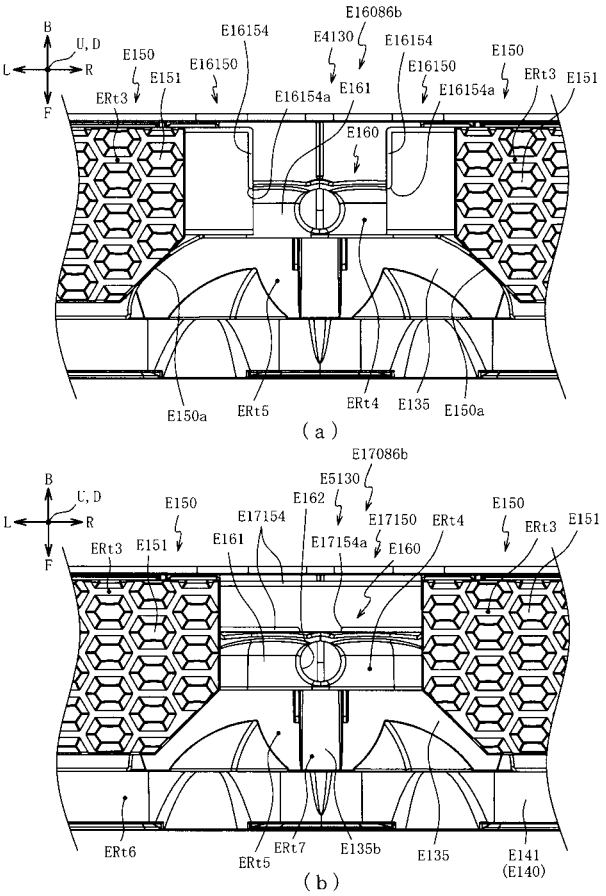
【図２８３】



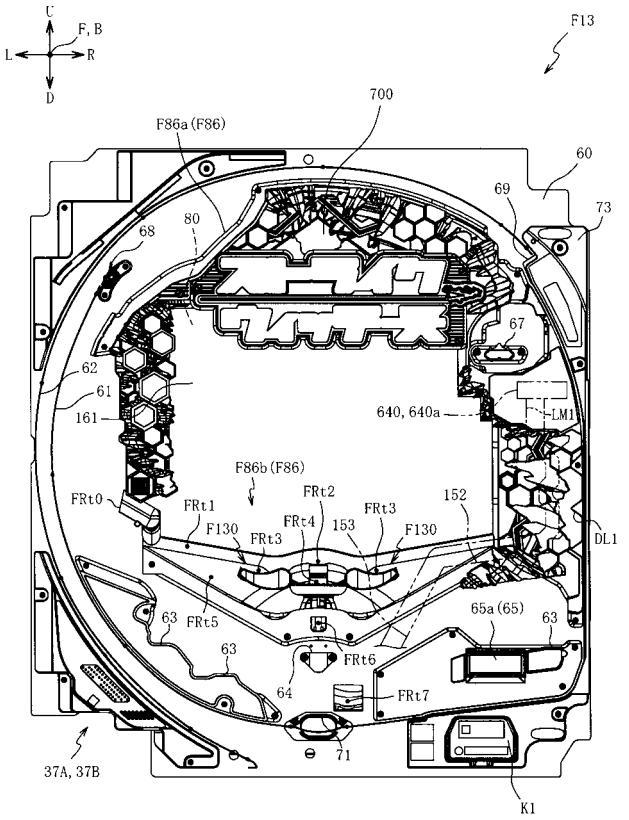
【図２８４】



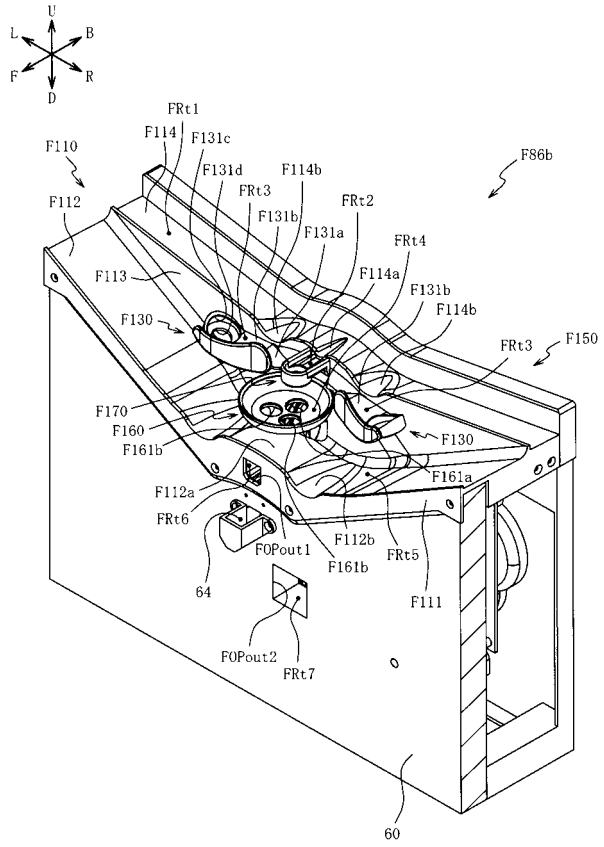
【図２８５】



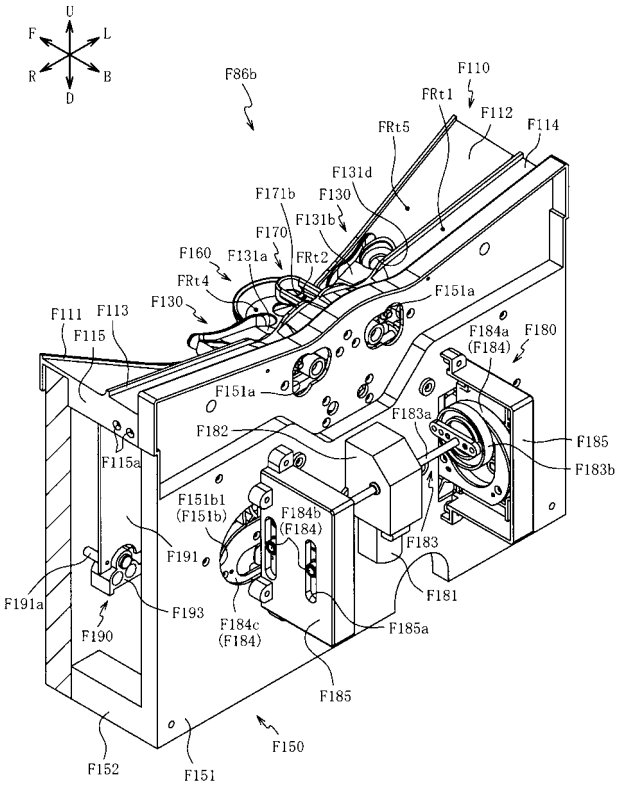
【図２８６】



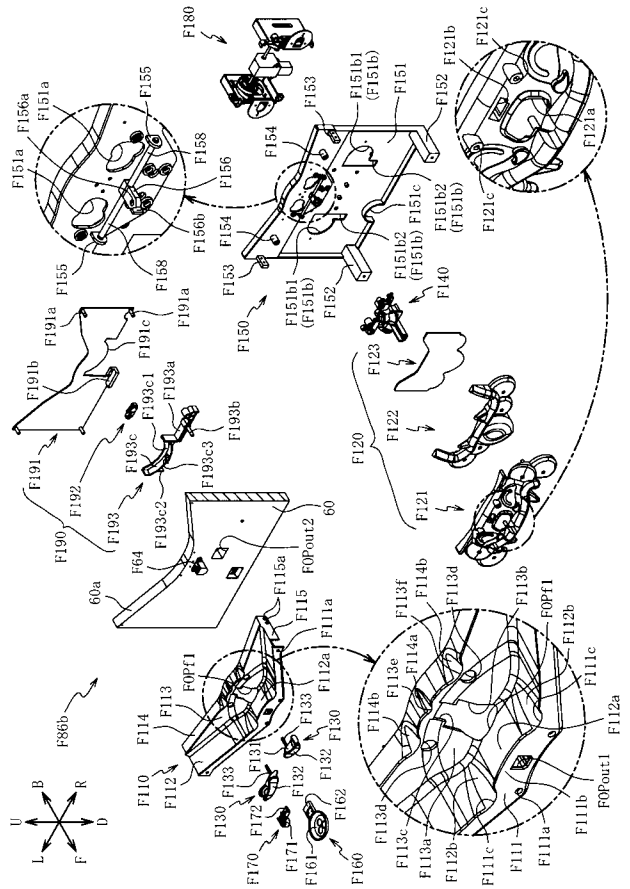
【図２８７】



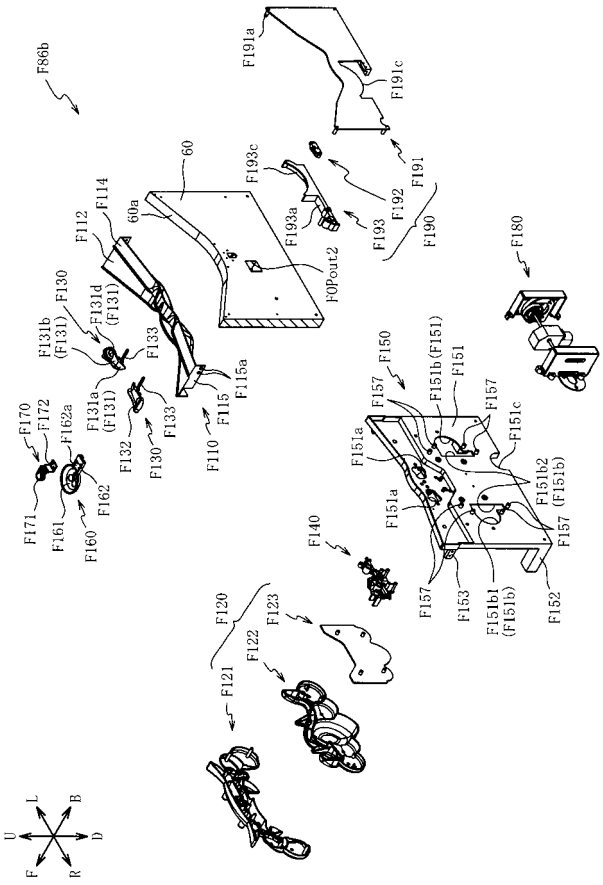
【図２８８】



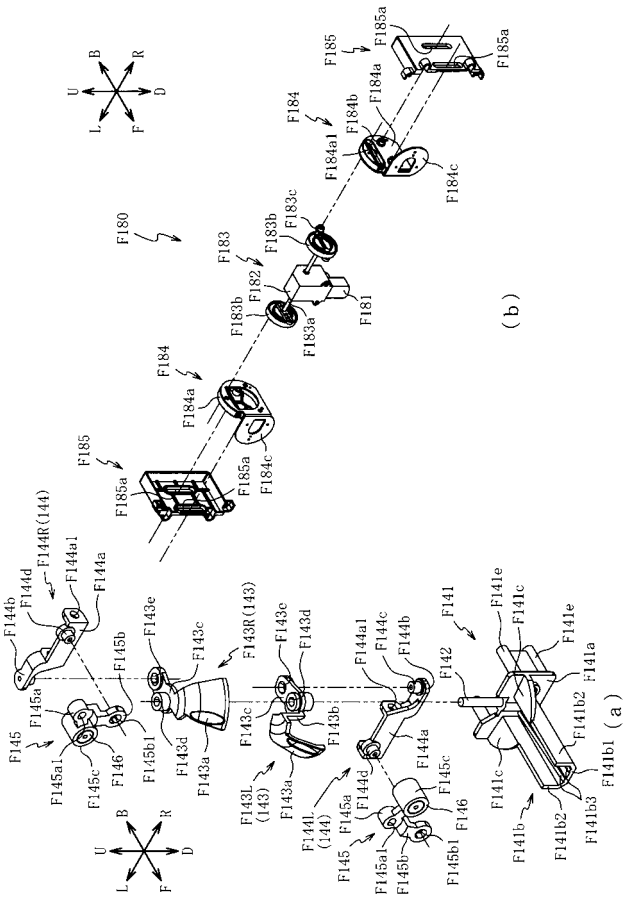
【図２８９】



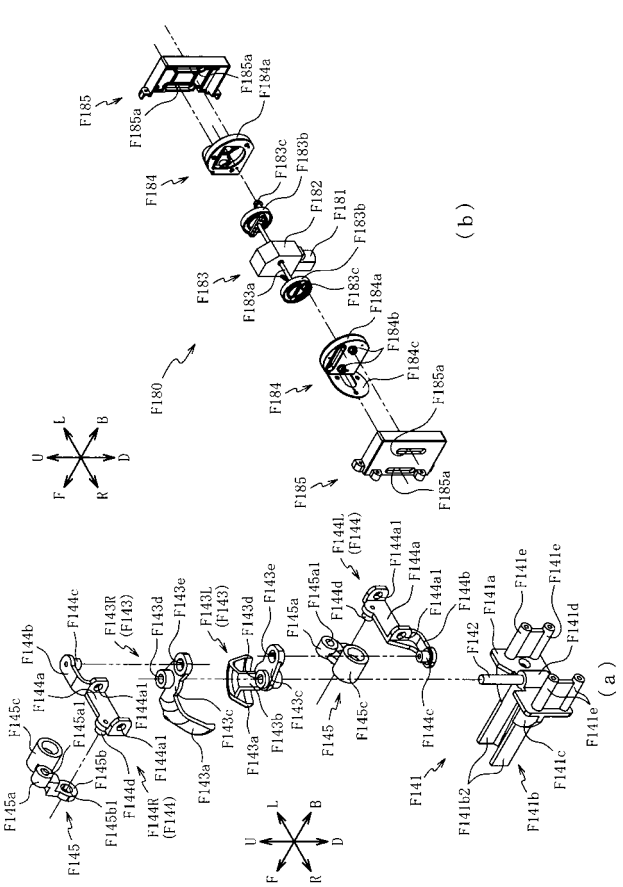
【図２９０】



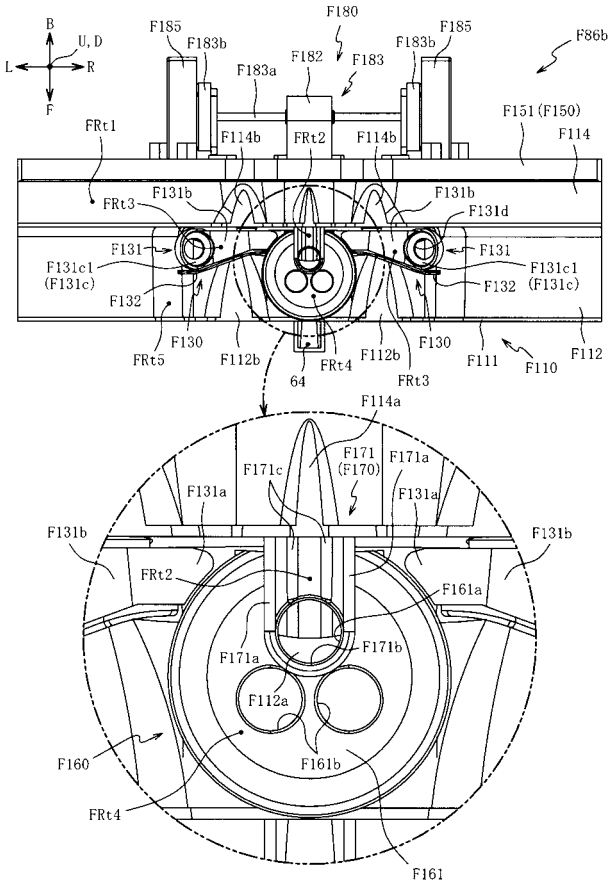
【図２９１】



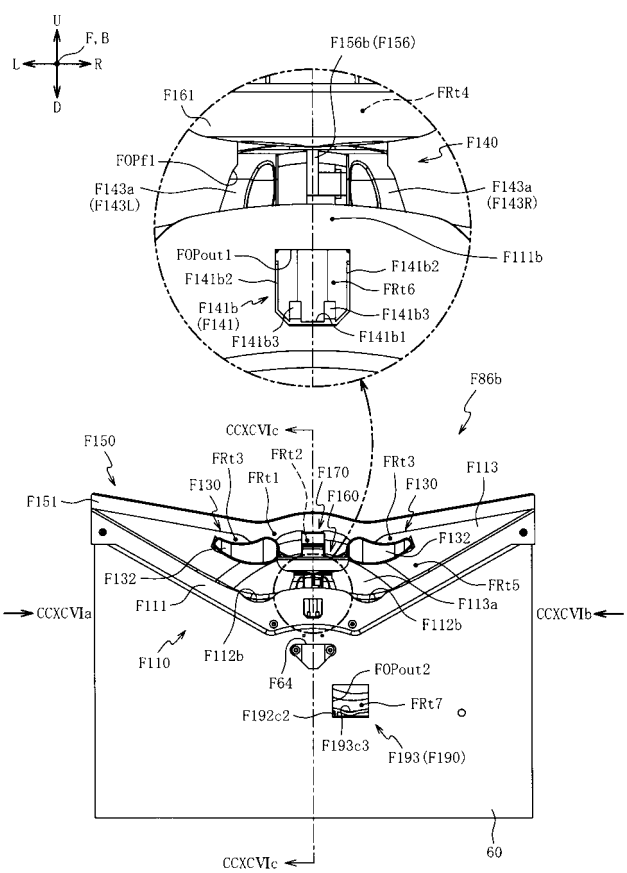
【図２９２】



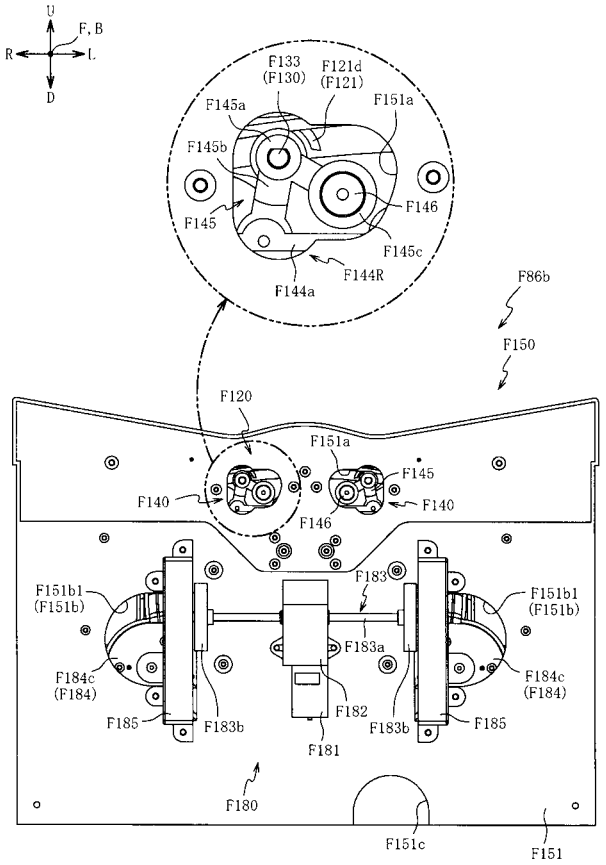
【図２９３】



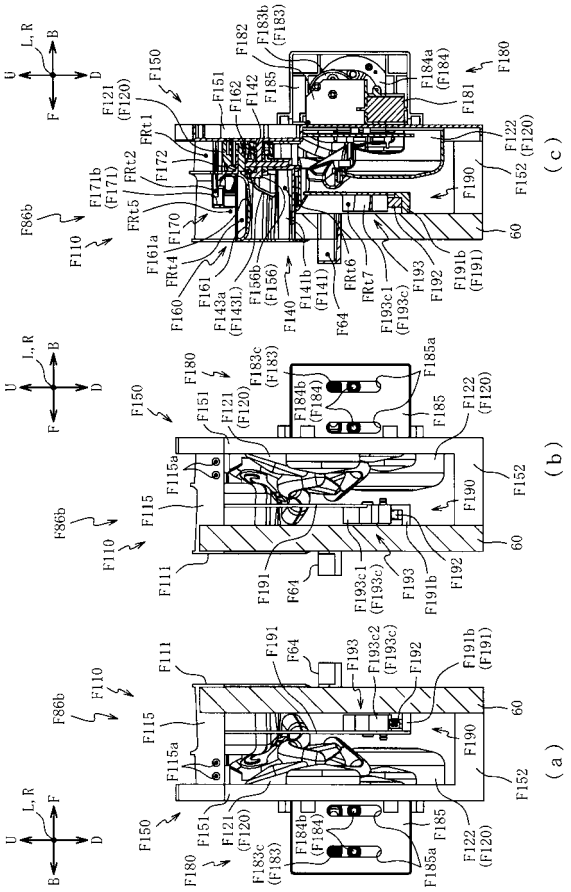
【図２９４】



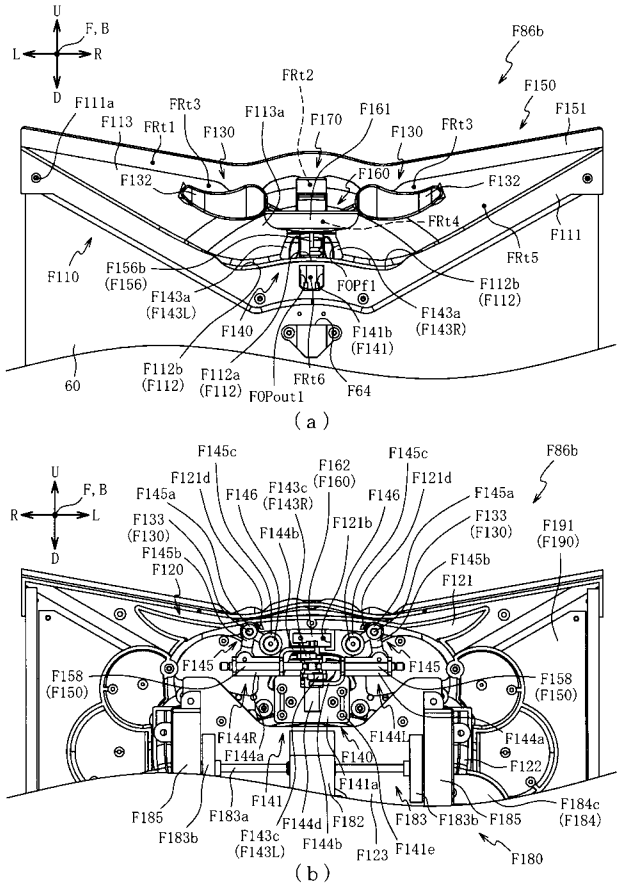
【図２９５】



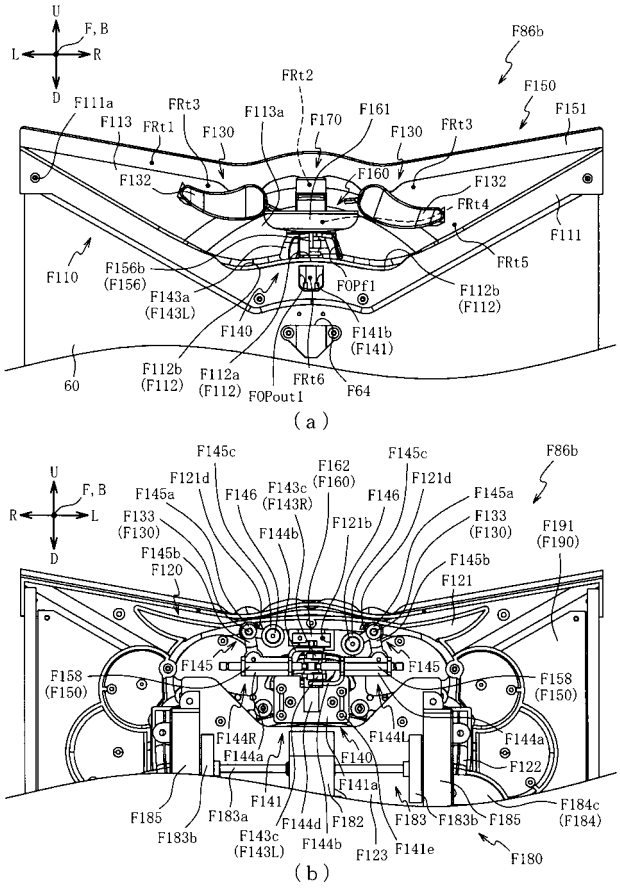
【図２９６】



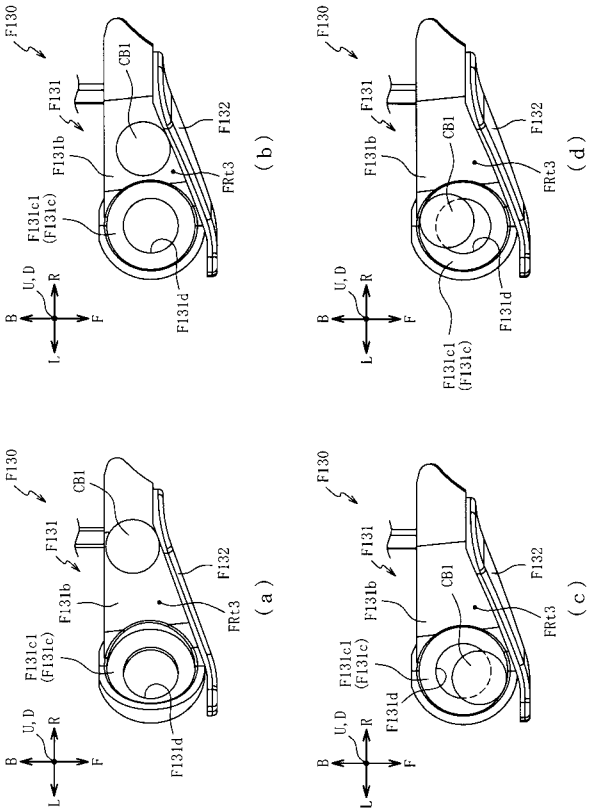
【図２９７】



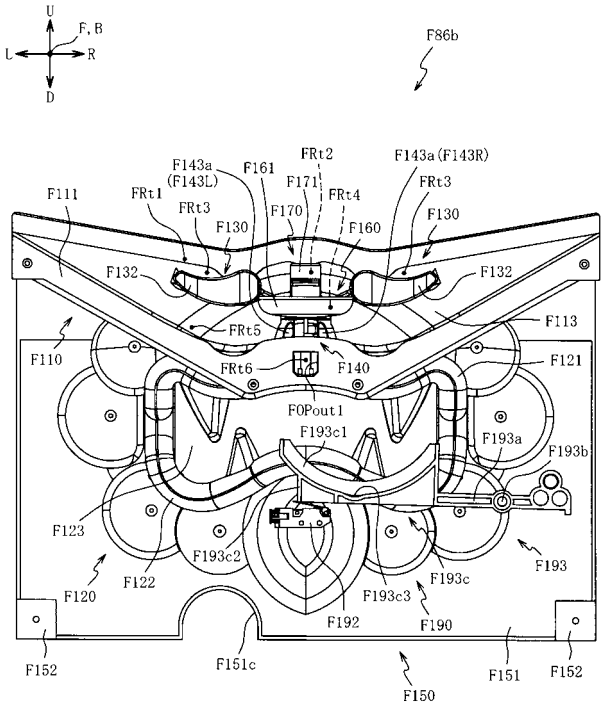
【図２９８】



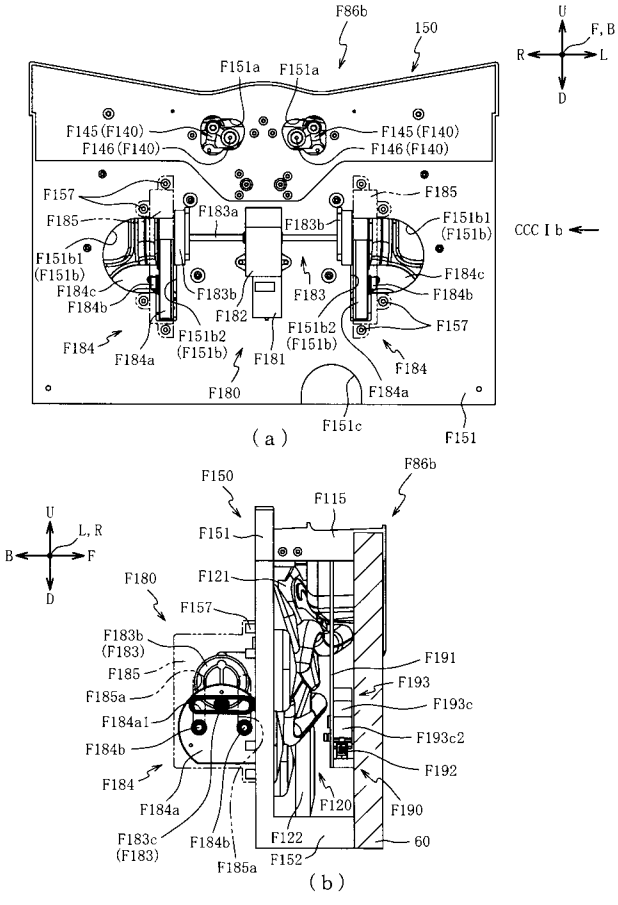
【図２９９】



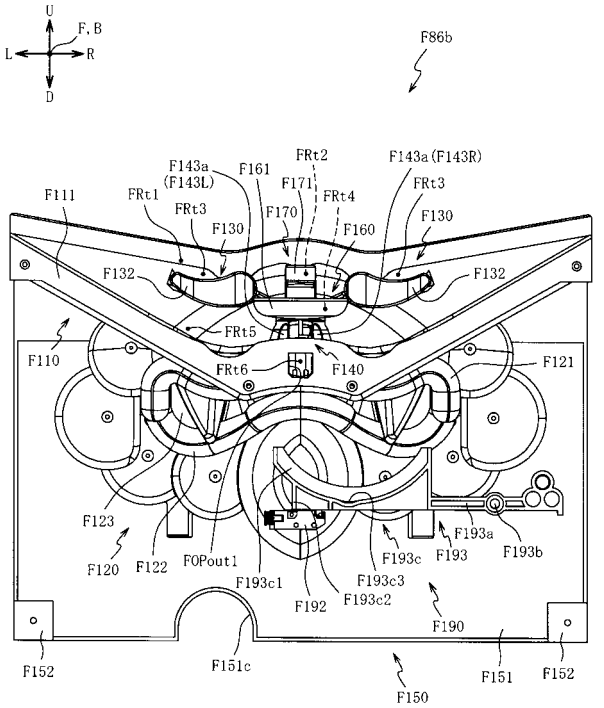
【図３００】



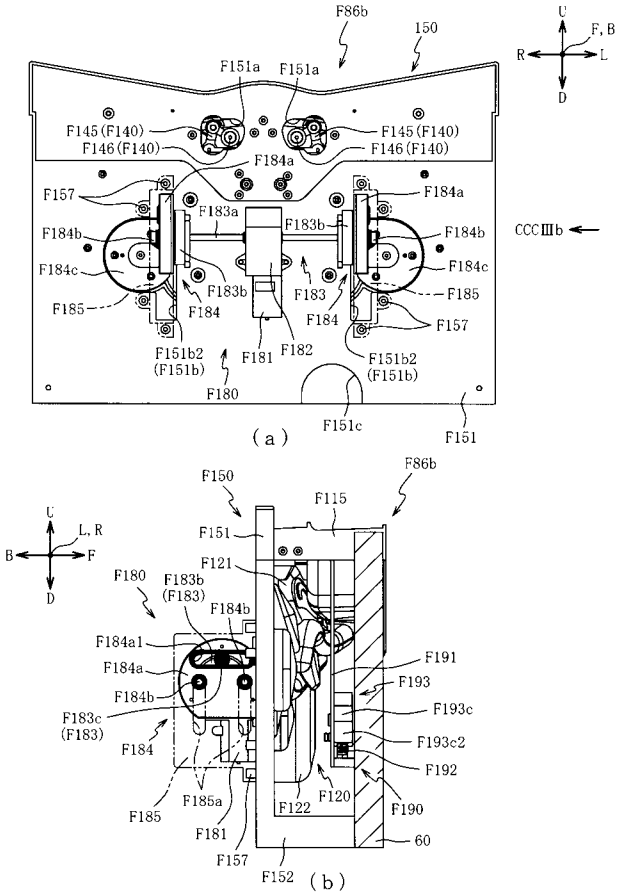
【図３０１】



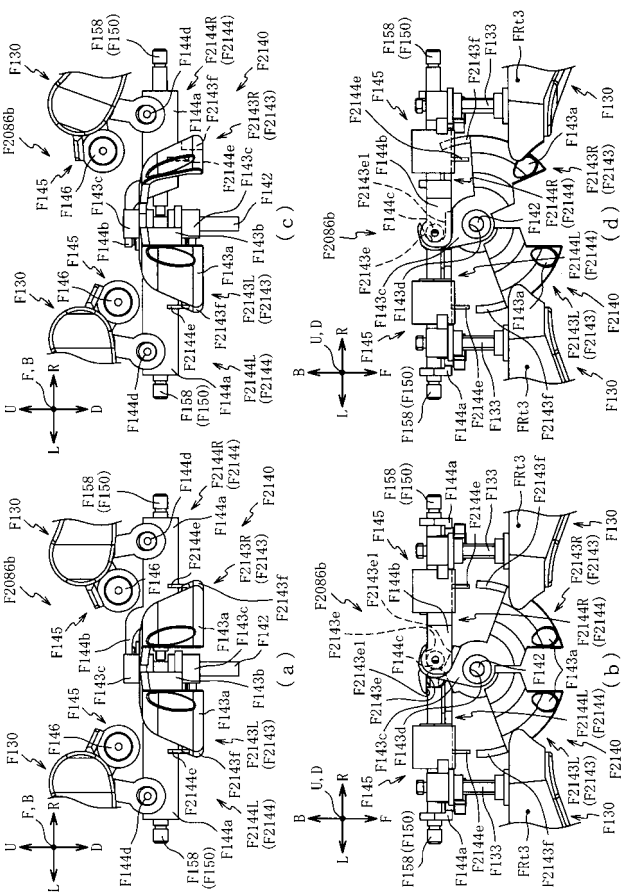
【図３０２】



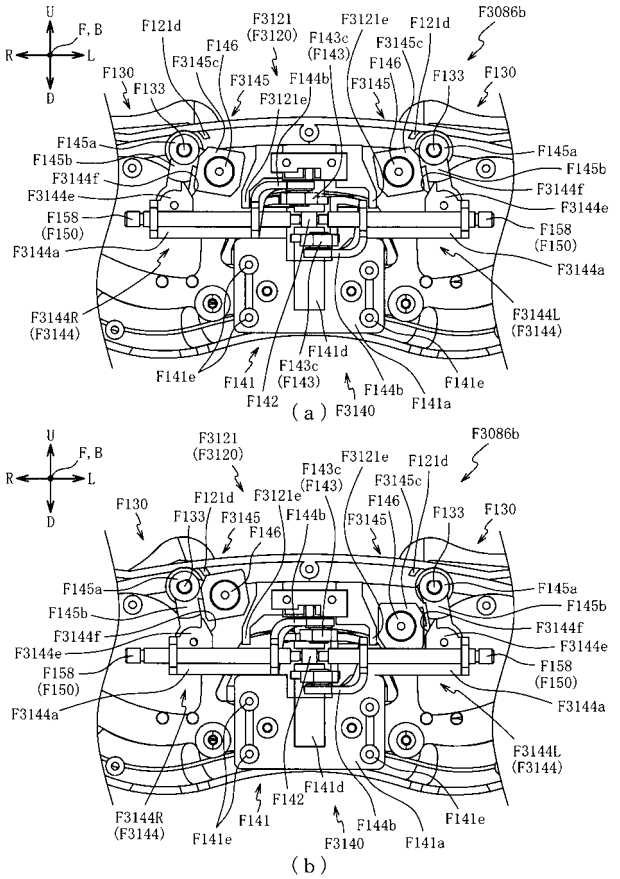
【図３０３】



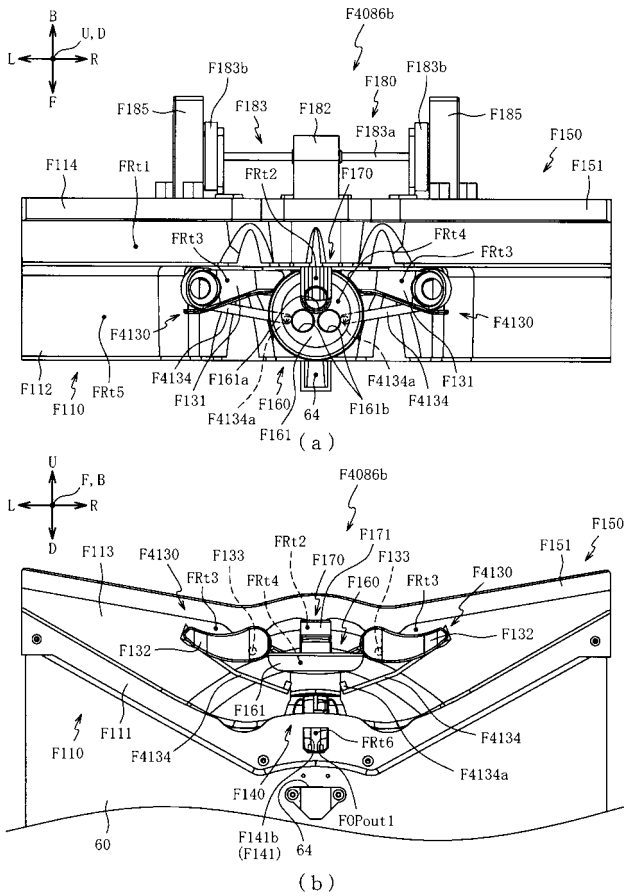
【図３０４】



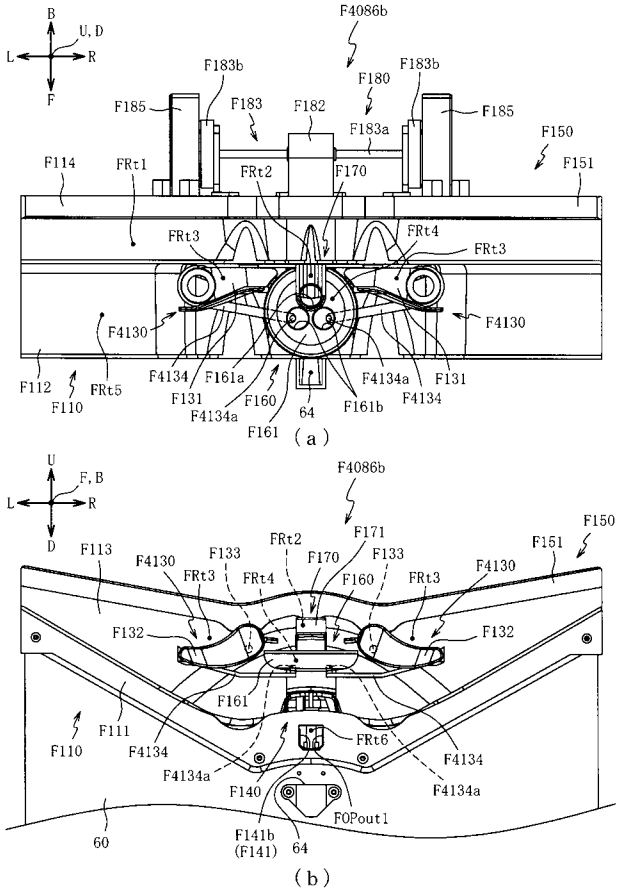
【図３０５】



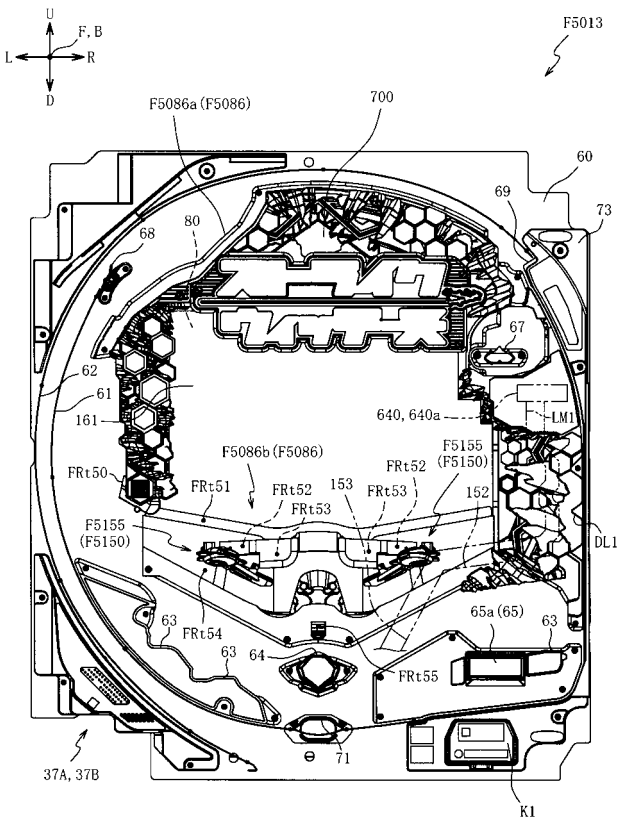
【図３０６】



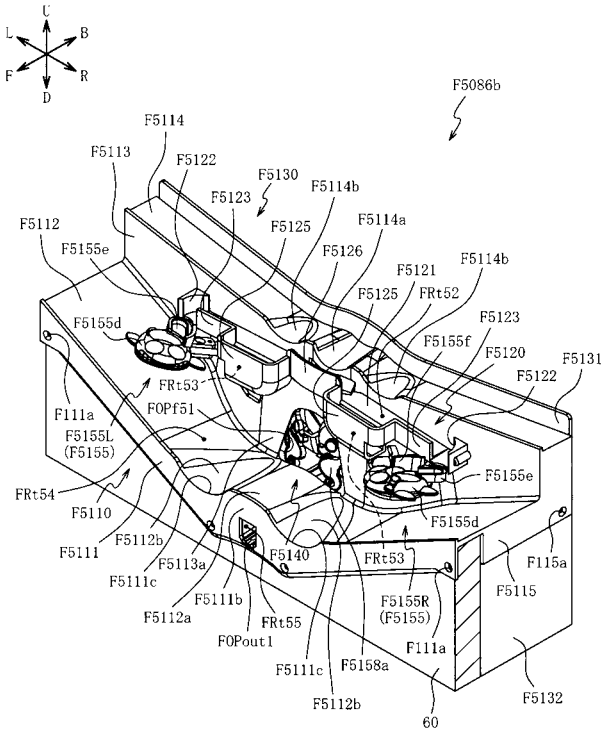
【図３０７】



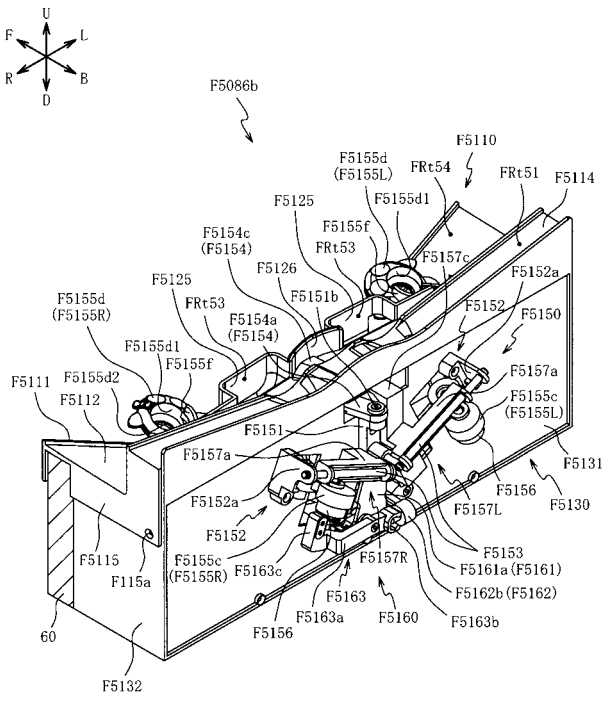
【図３０８】



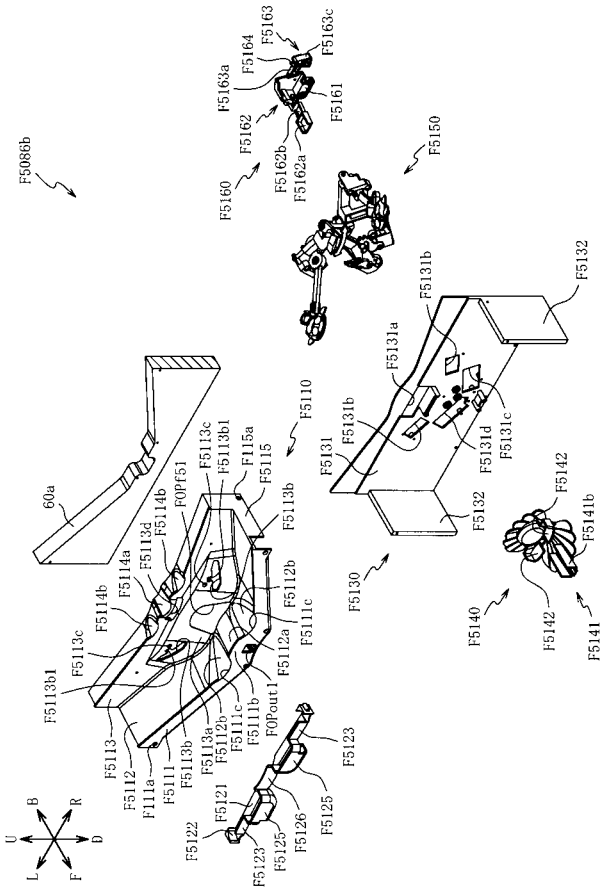
【図３０９】



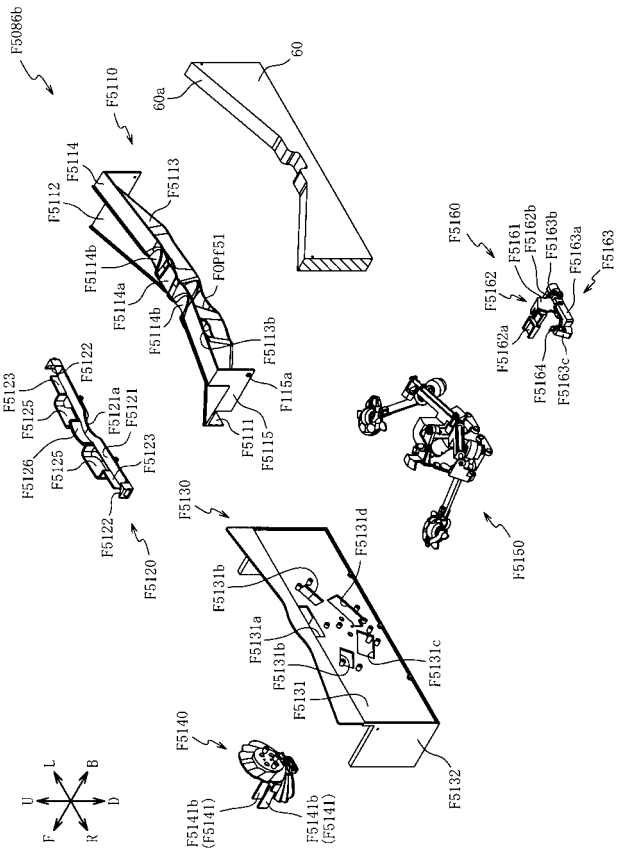
【図３１０】



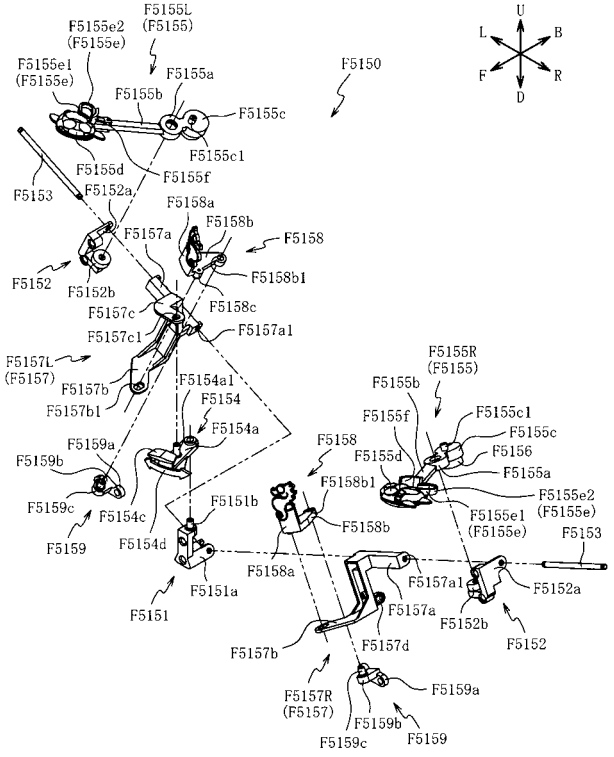
【図３１１】



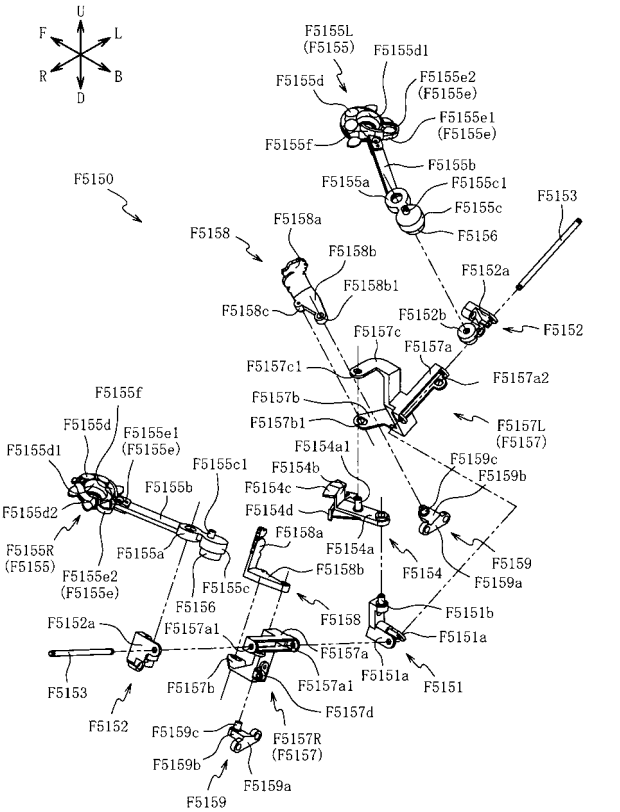
【図３１２】



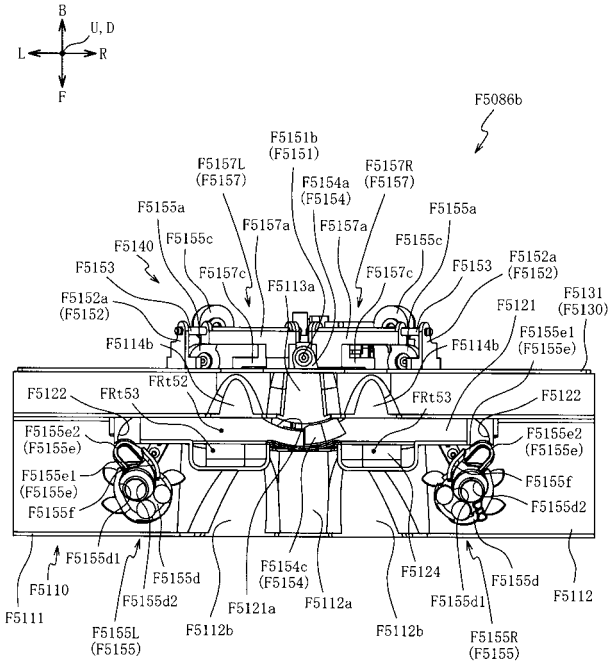
【図３１３】



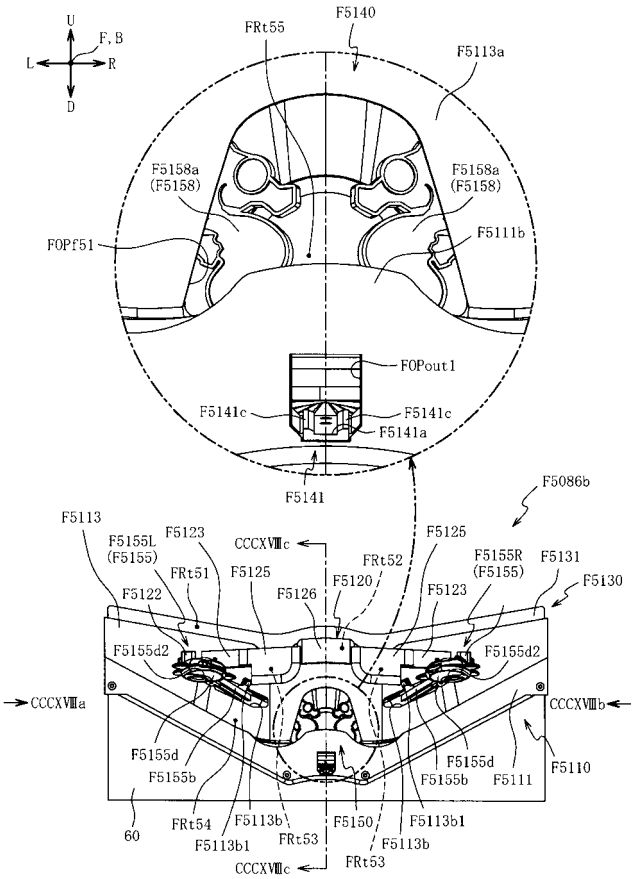
【図３１４】



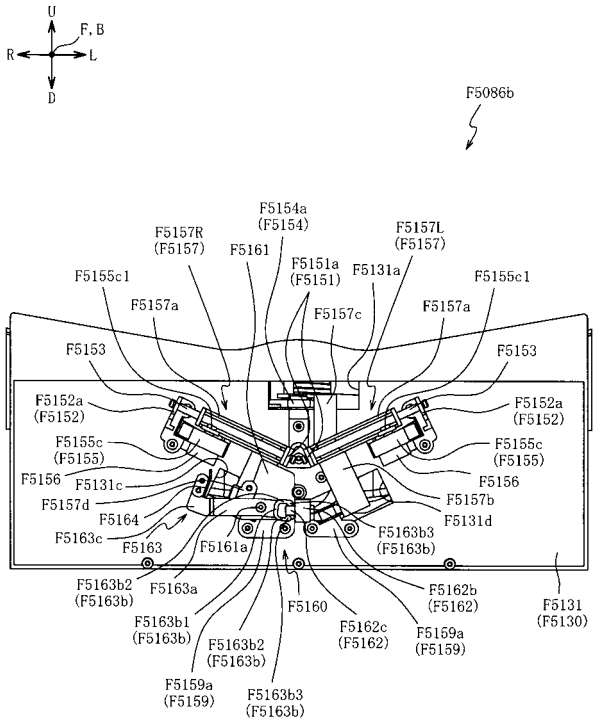
【図３１５】



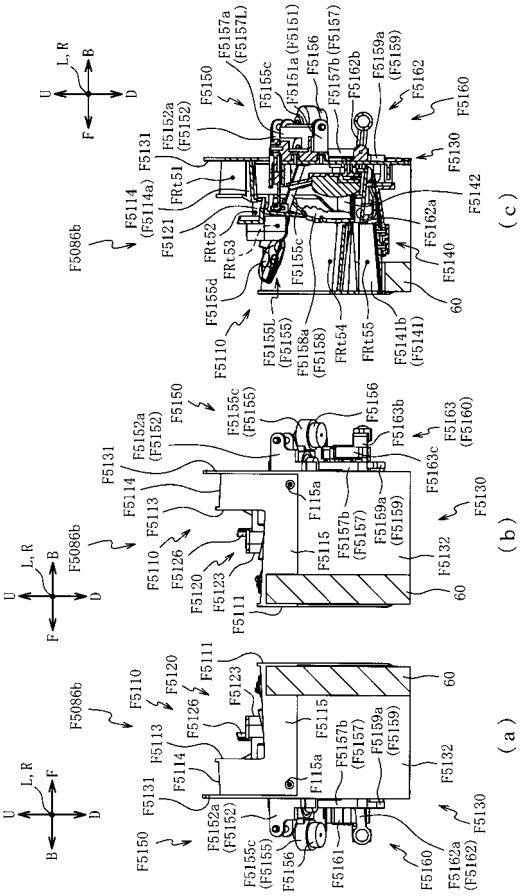
【図３１６】



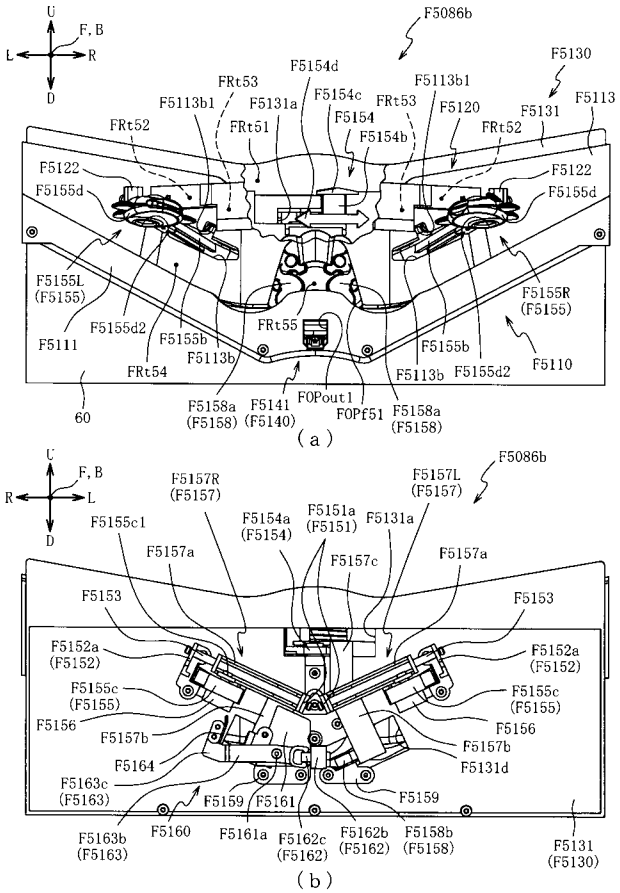
【図３１７】



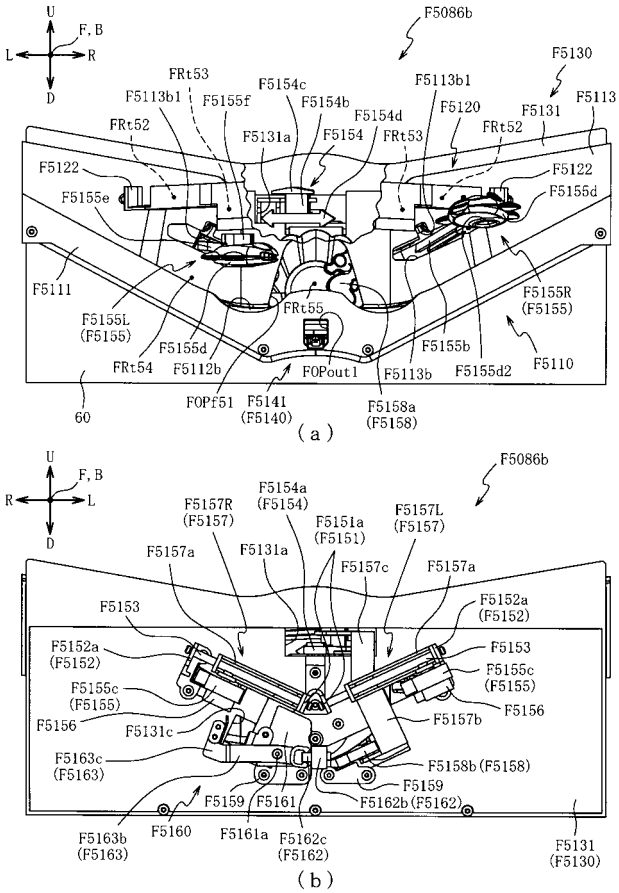
【図３１８】



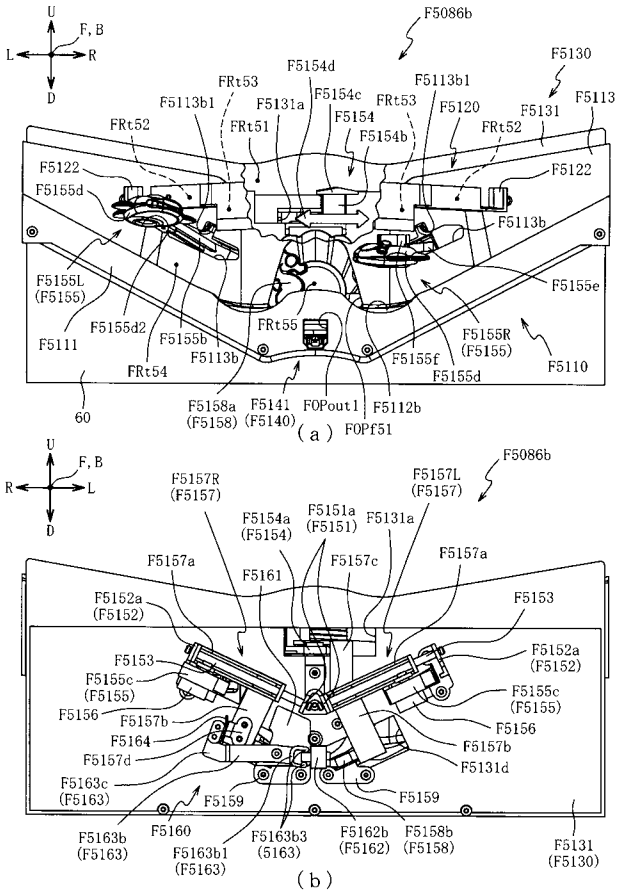
【図３１９】



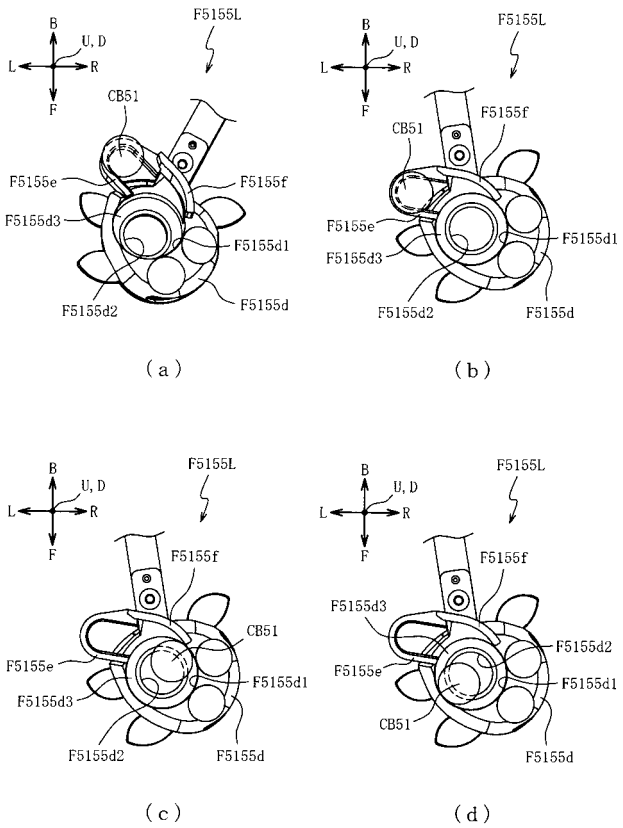
【図３２０】



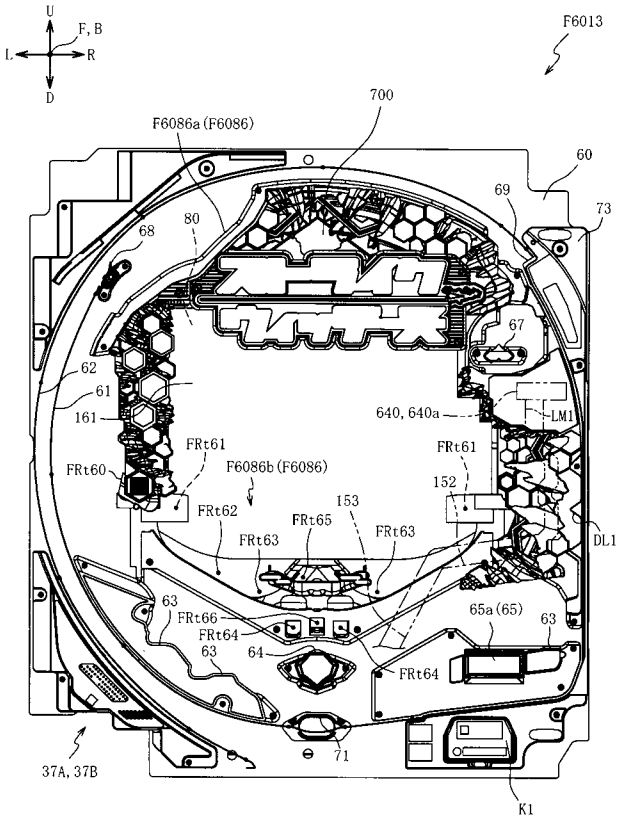
【図３２１】



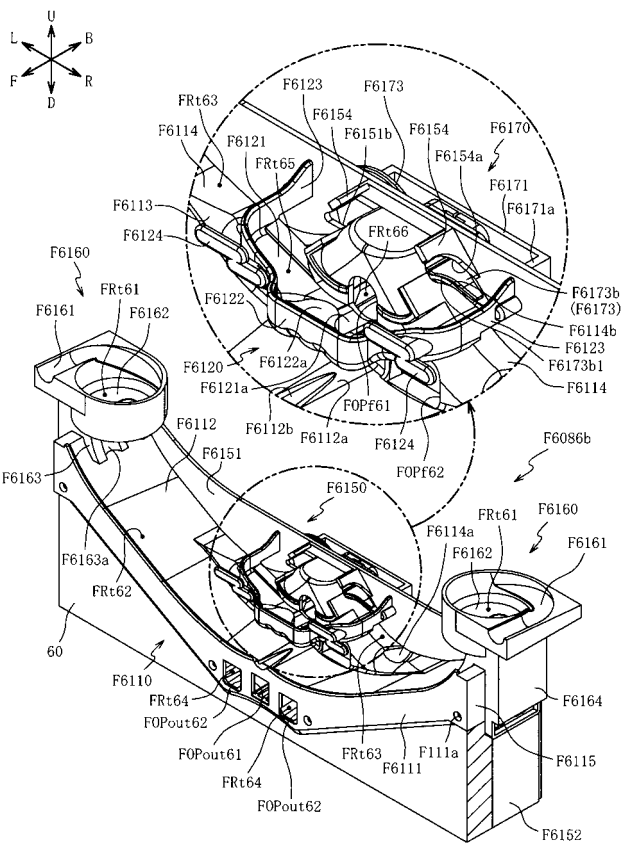
【図３２２】



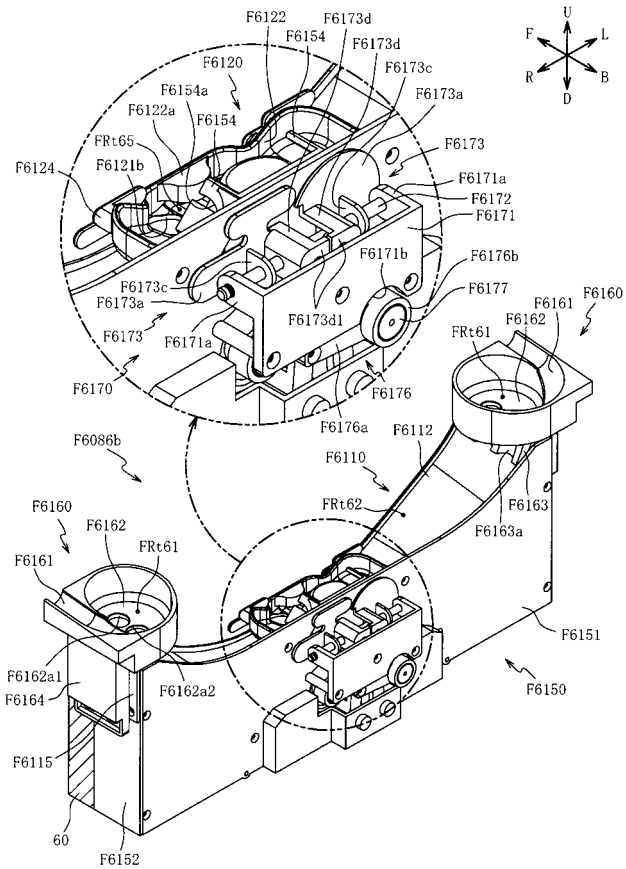
【図３２３】



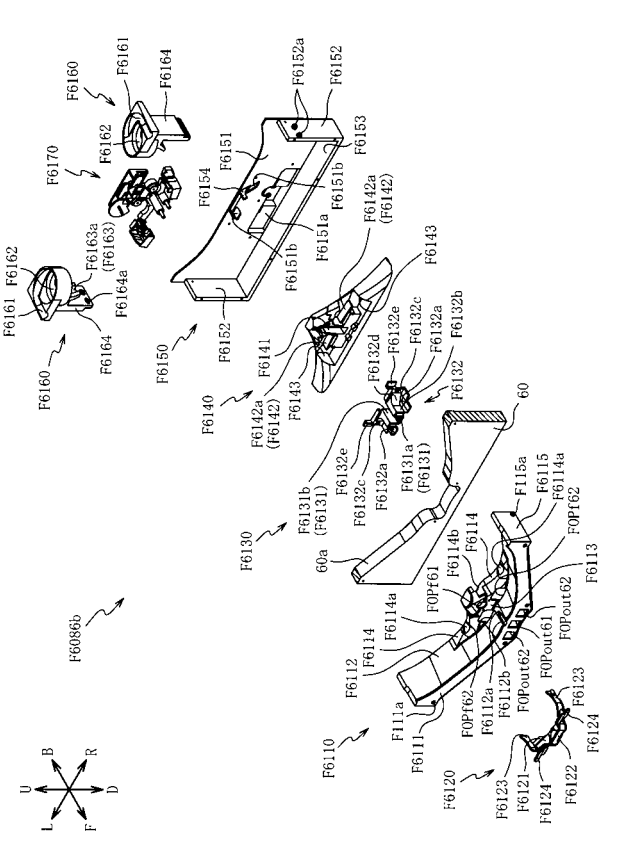
【図３２４】



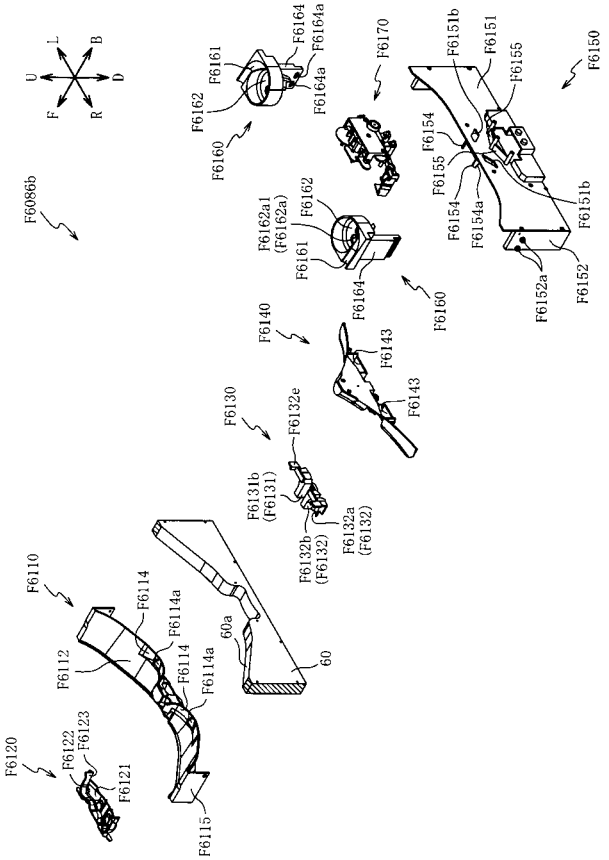
【図３２５】



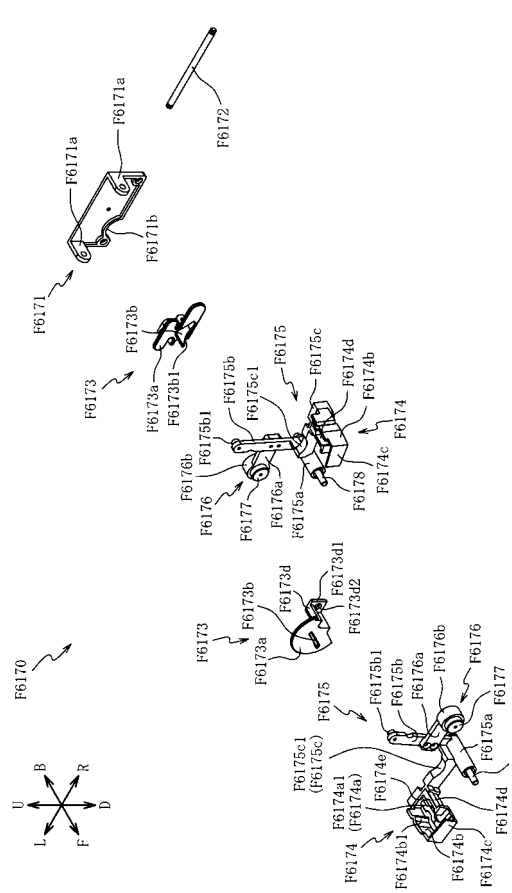
【図３２６】



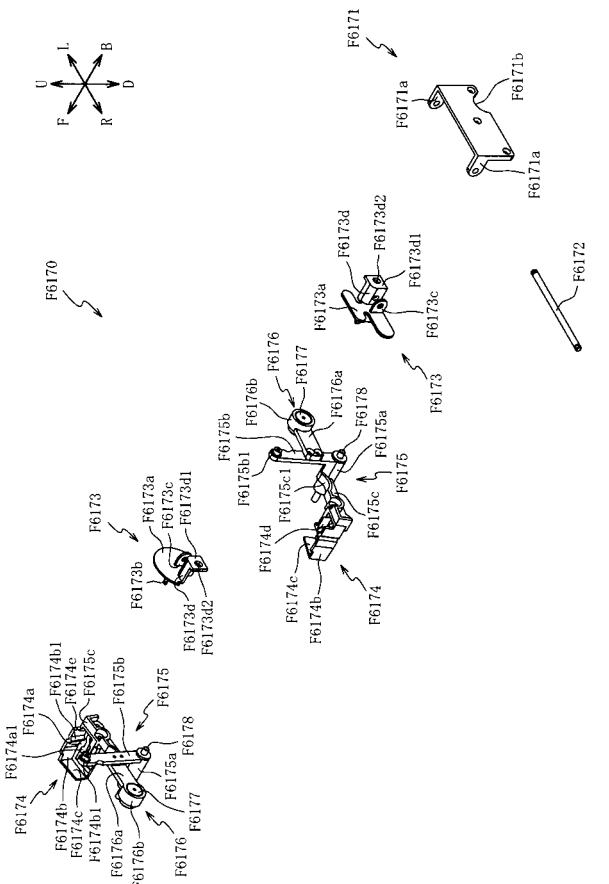
【図３２７】



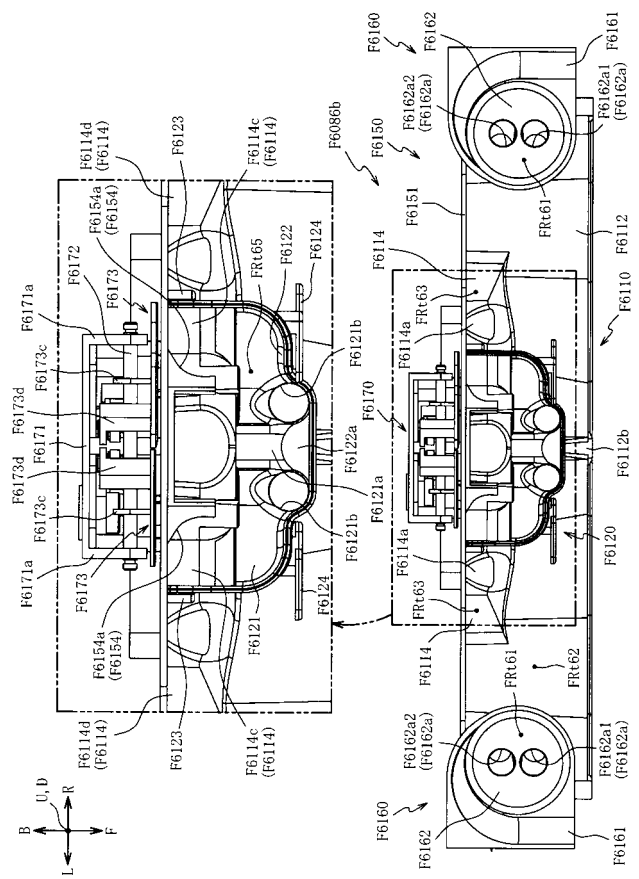
【図３２８】



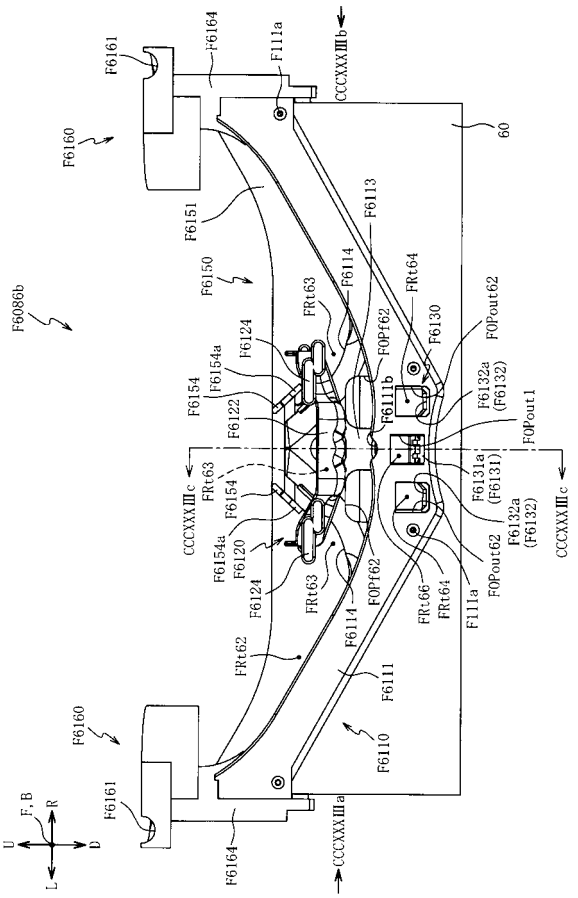
【図３２９】



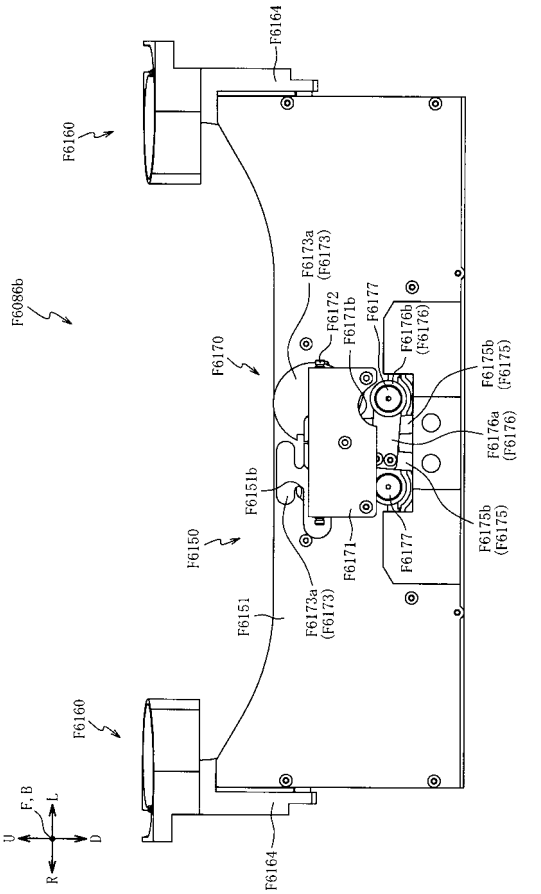
【図３３０】



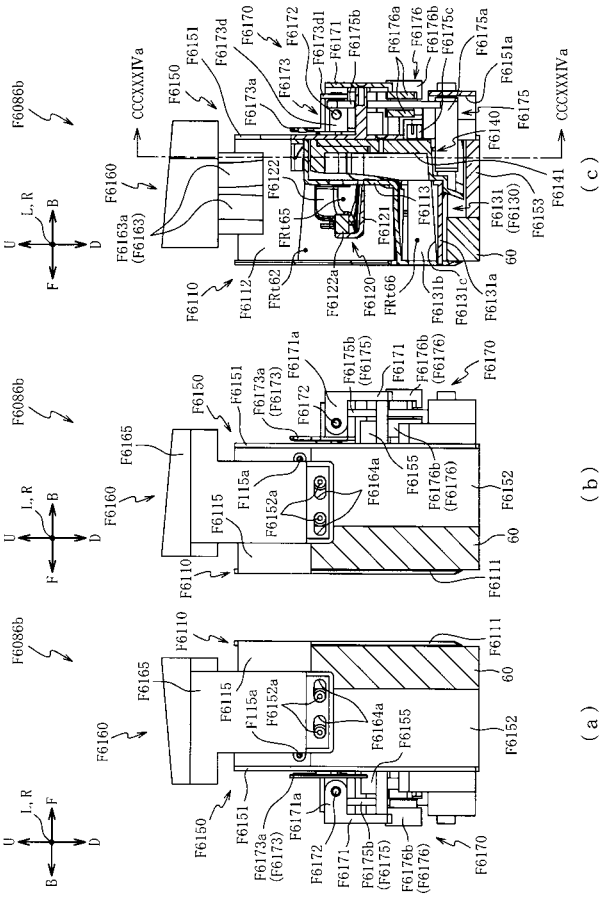
【図３３１】



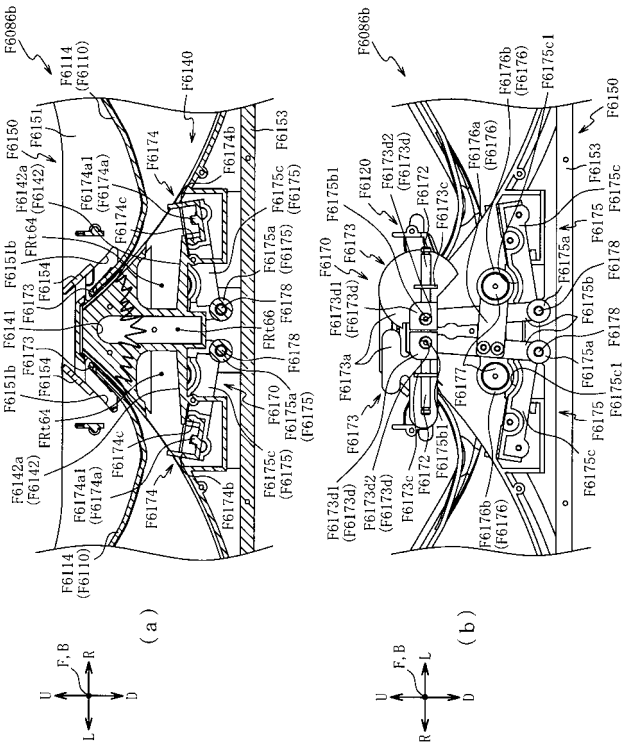
【図３３２】



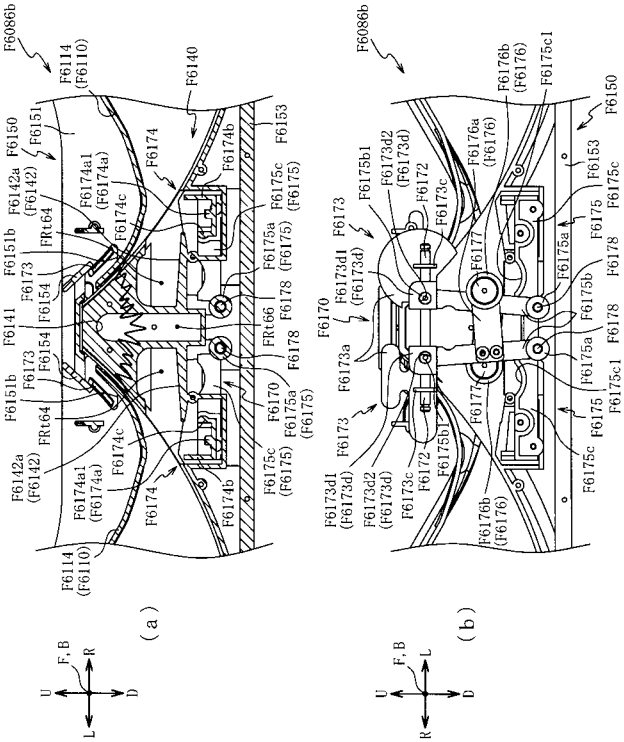
【図３３３】



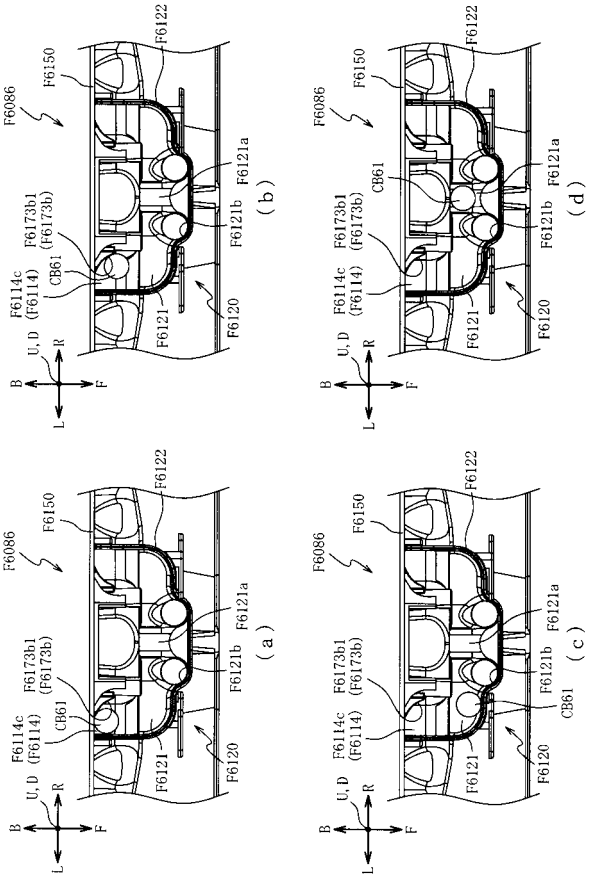
【図３３４】



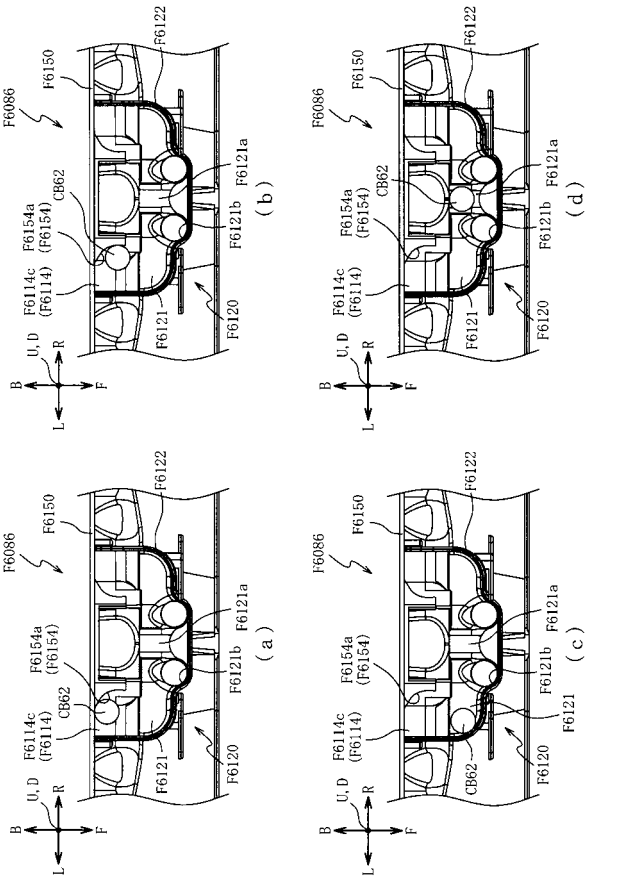
【図３３５】



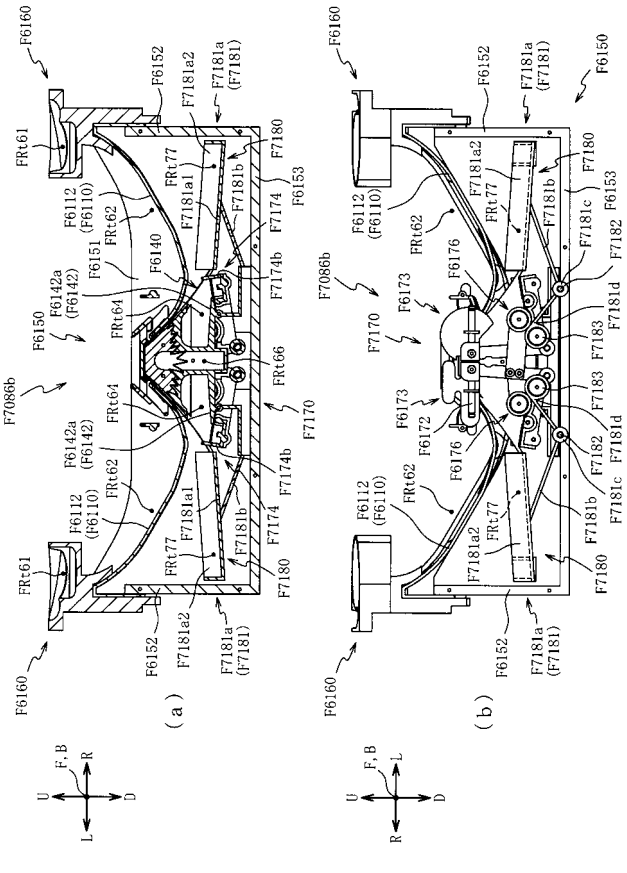
【図３３６】



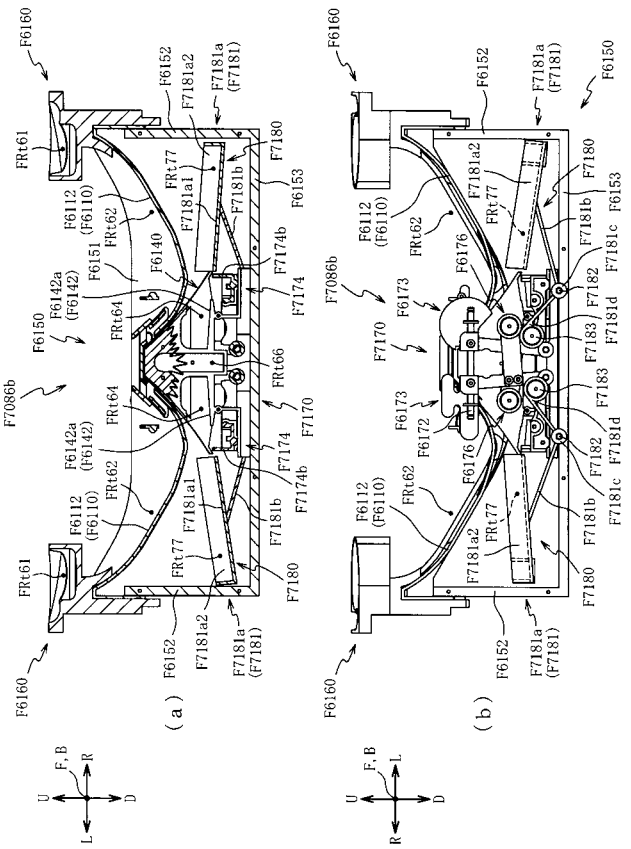
【図３３７】



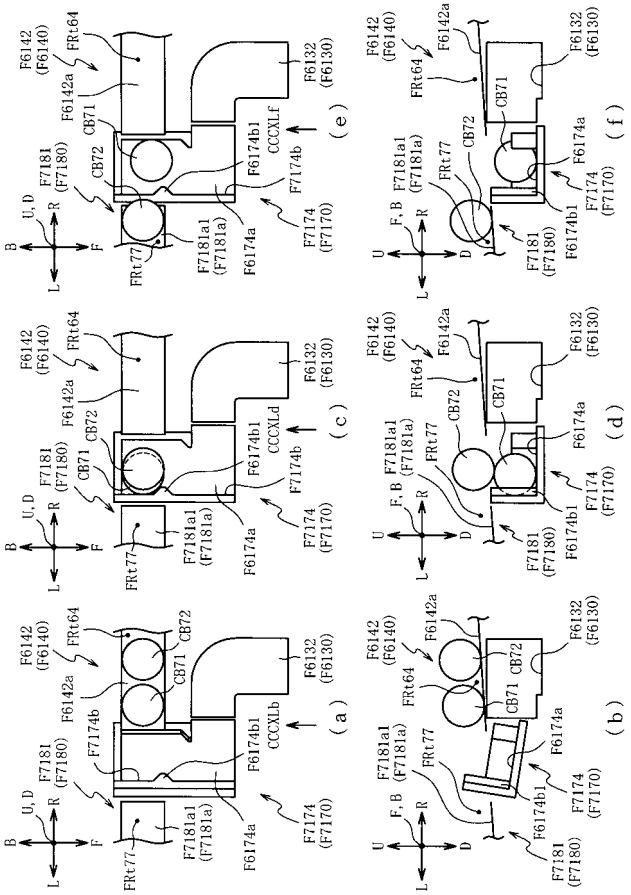
【図３３８】



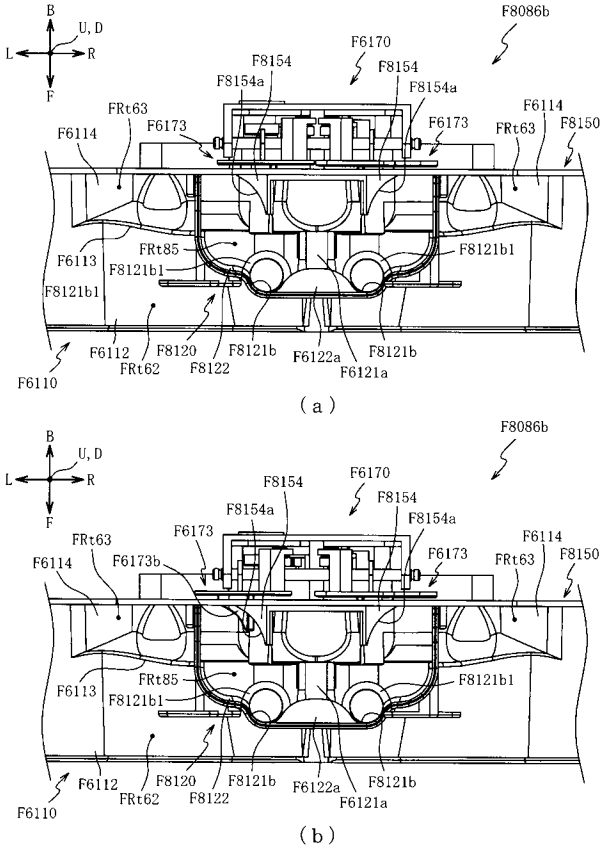
【図３３９】



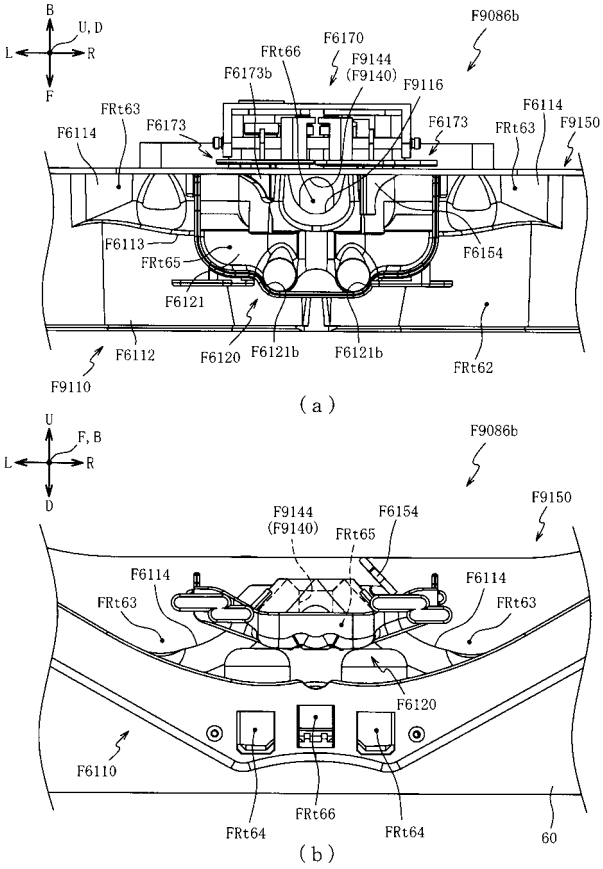
【図３４０】



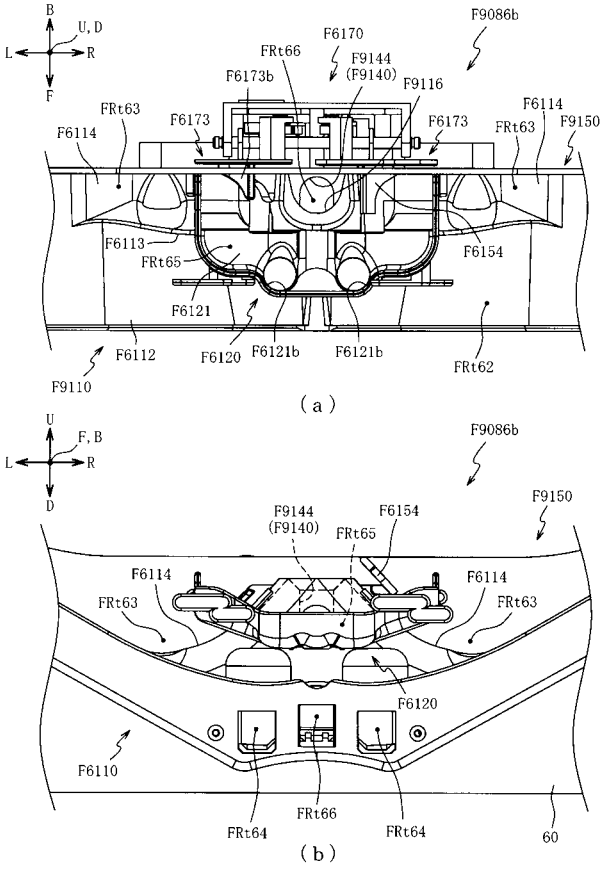
【図３４１】



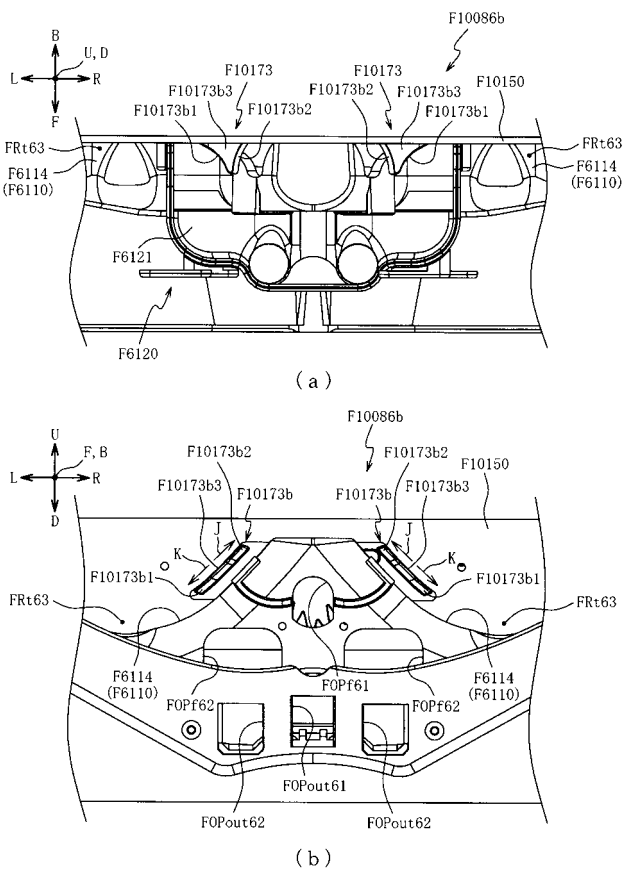
【図３４２】



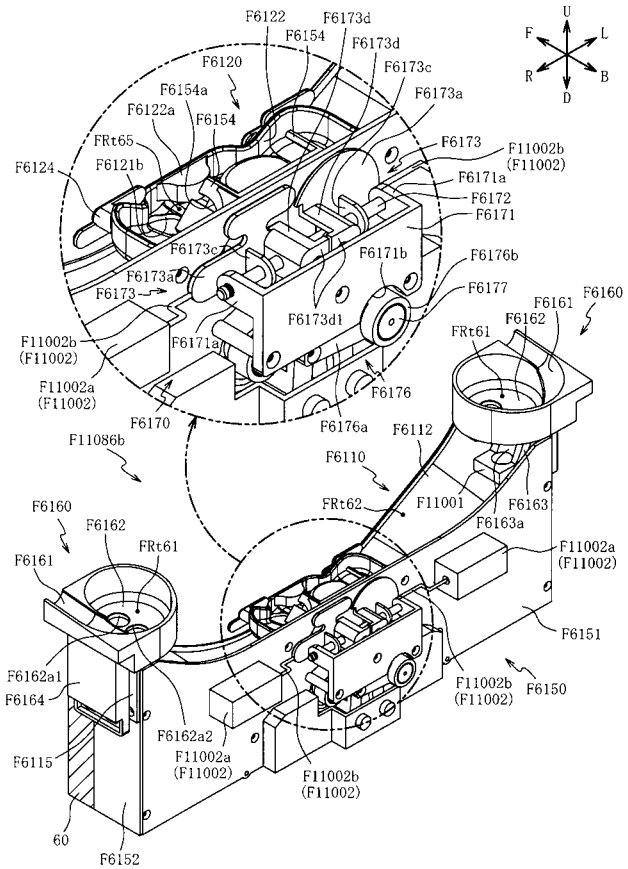
【図３４３】



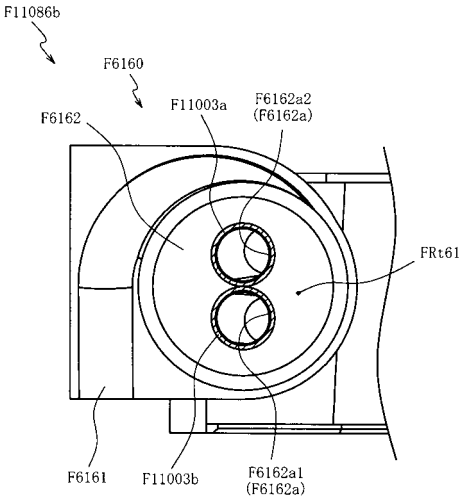
【図３４４】



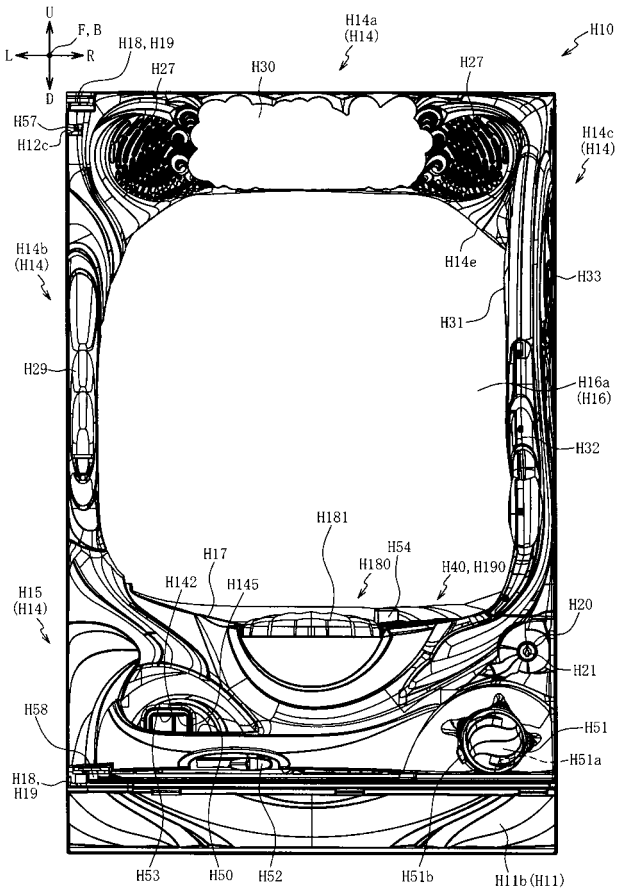
【図３４５】



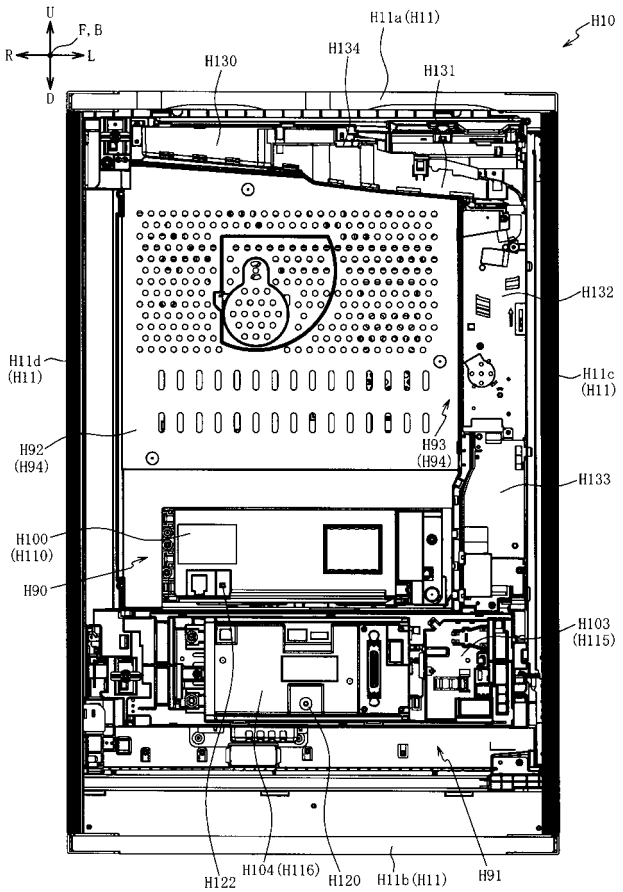
【図３４６】



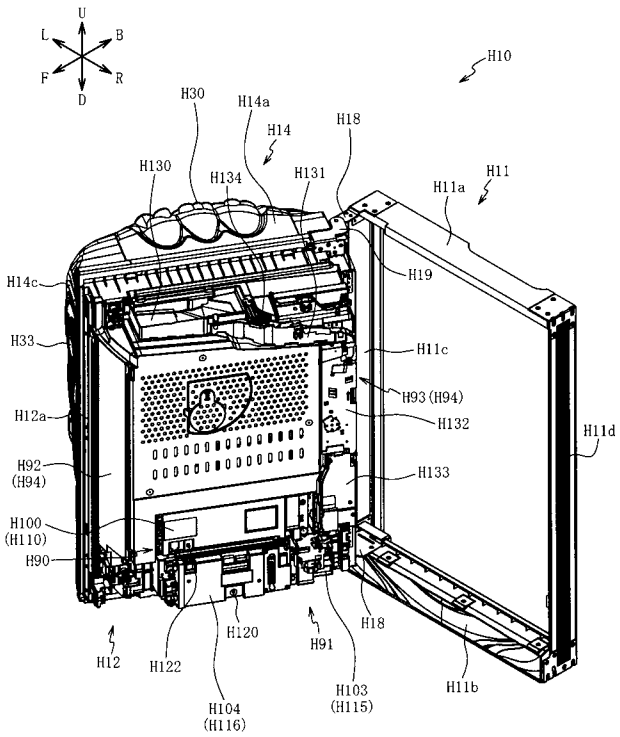
【図３４７】



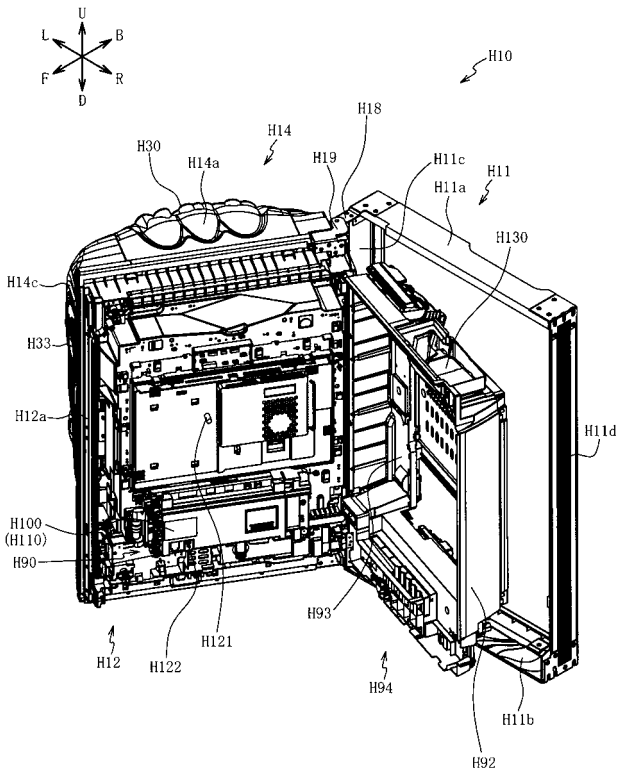
【図３４８】



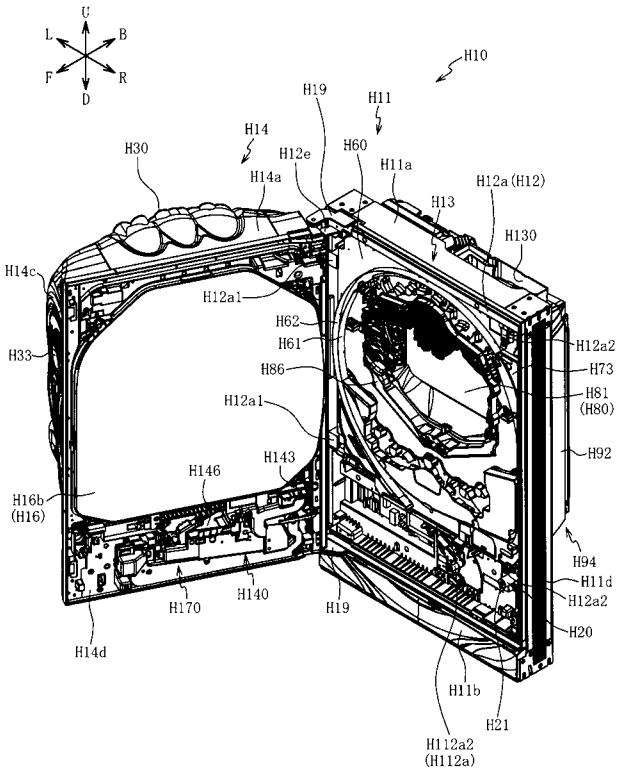
【図３４９】



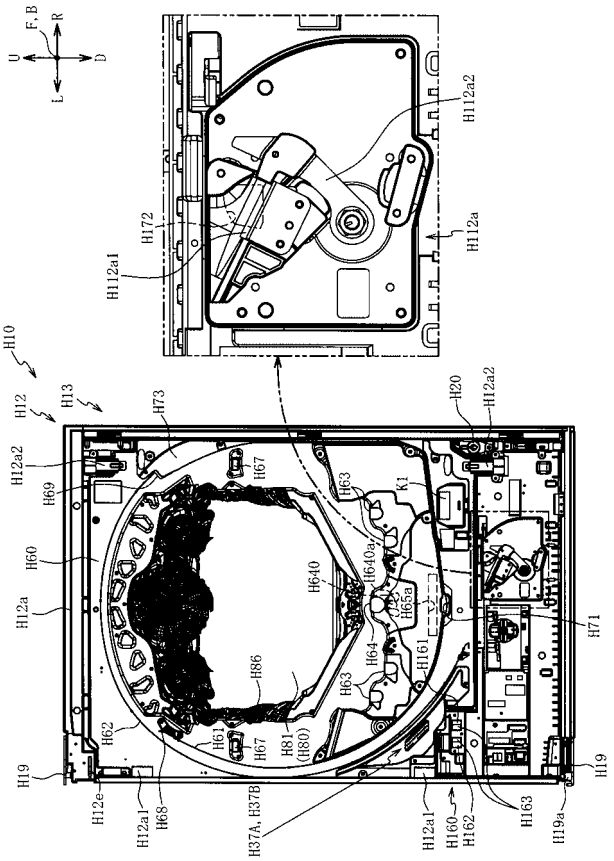
【図３５０】



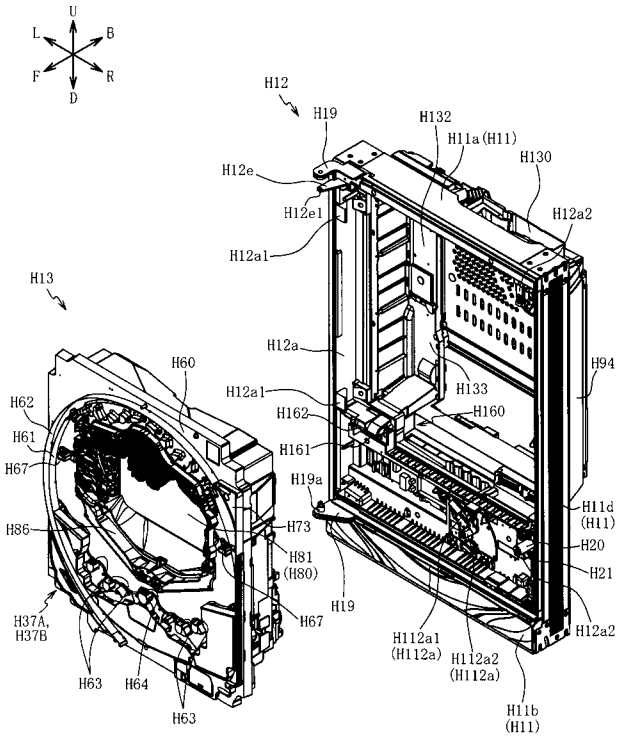
【図３５１】



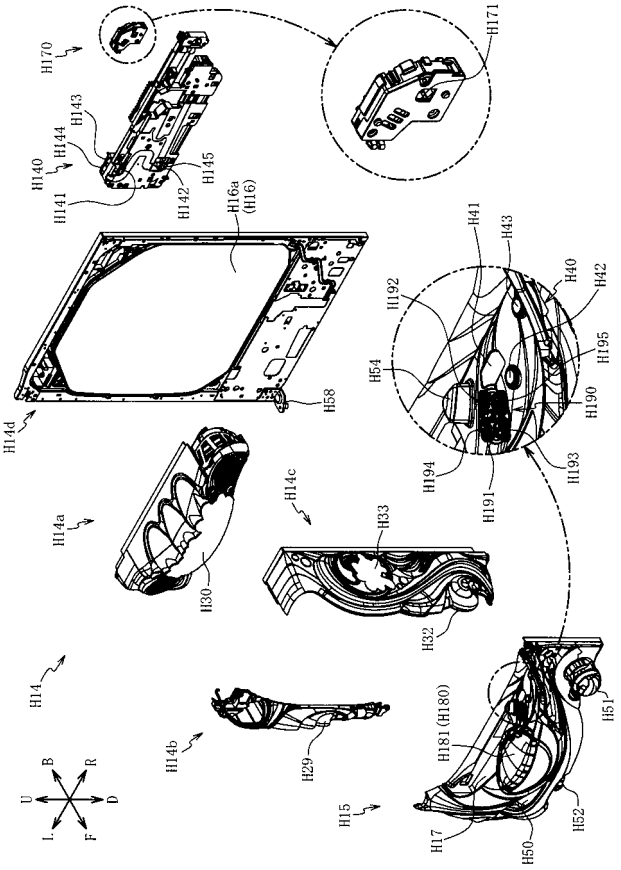
【図３５２】



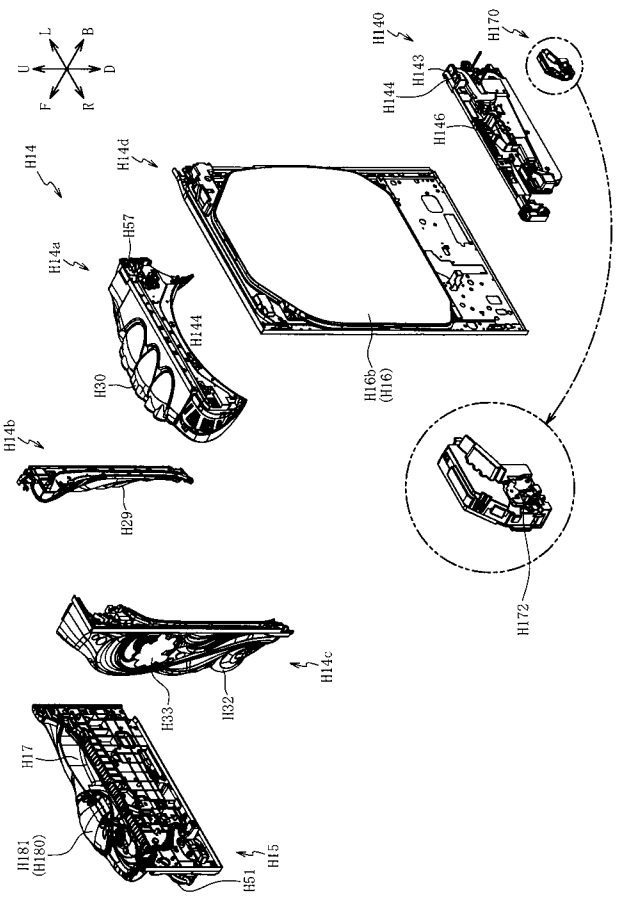
【図３５３】



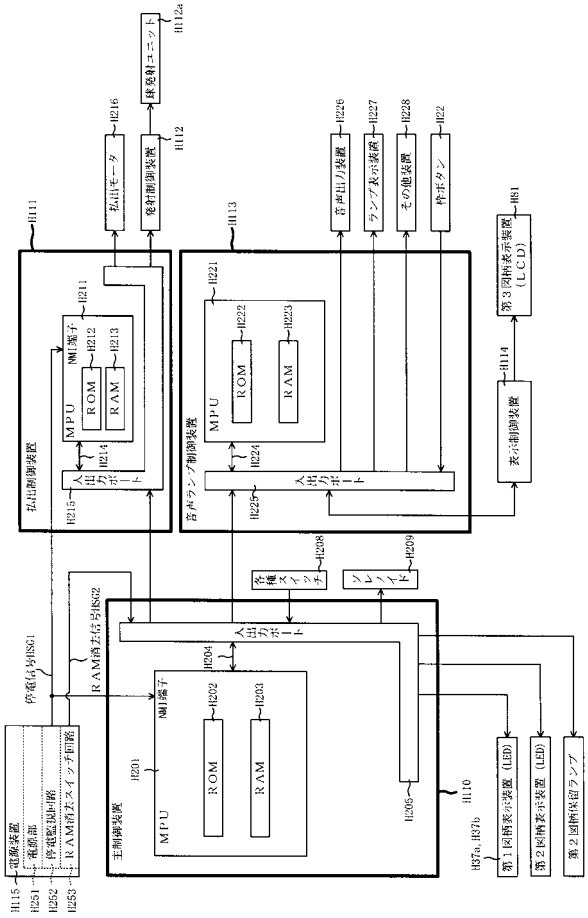
【図３５４】



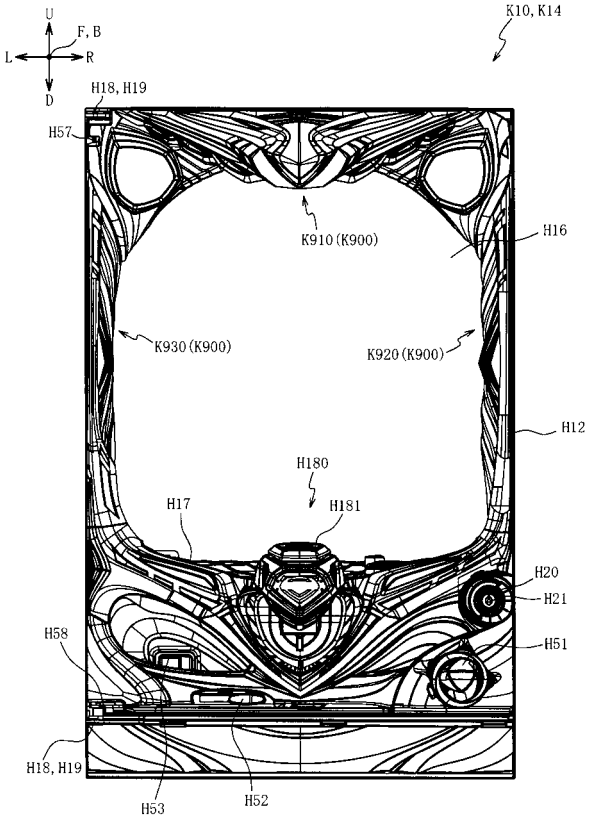
【図３５５】



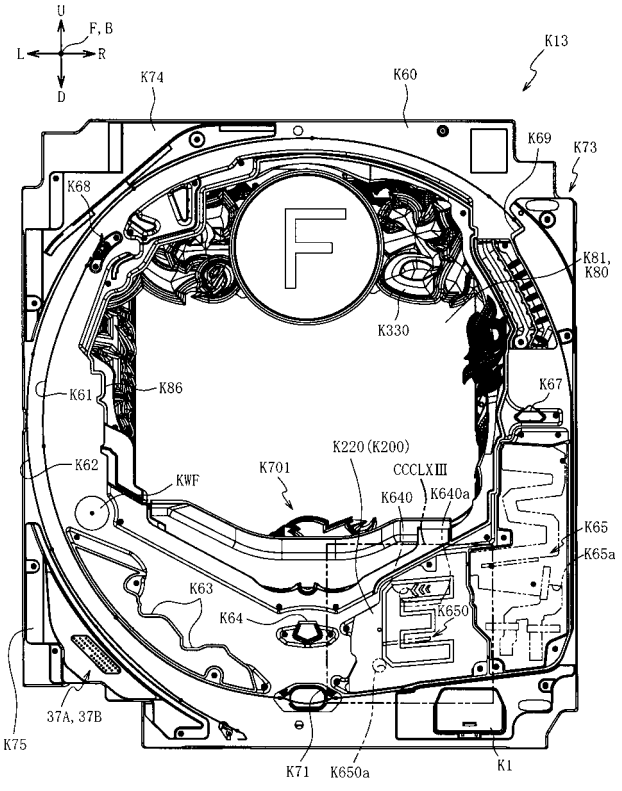
【図３５６】



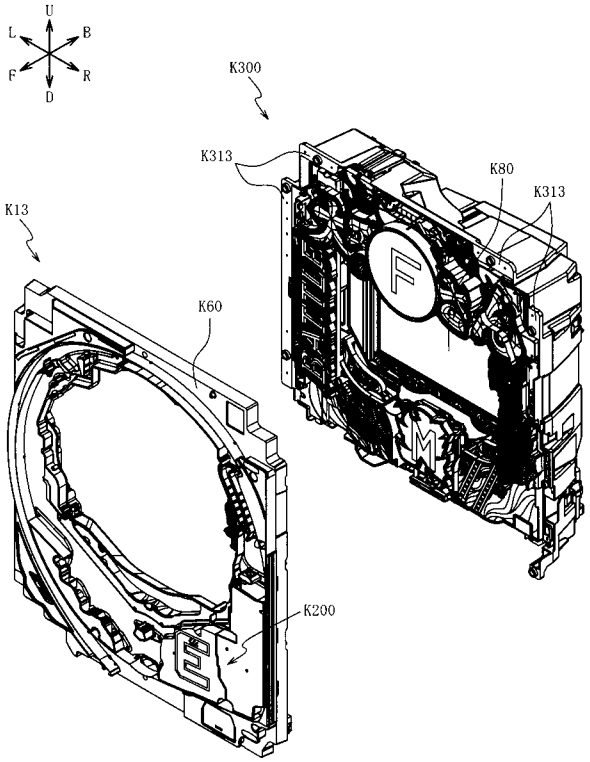
【図３５７】



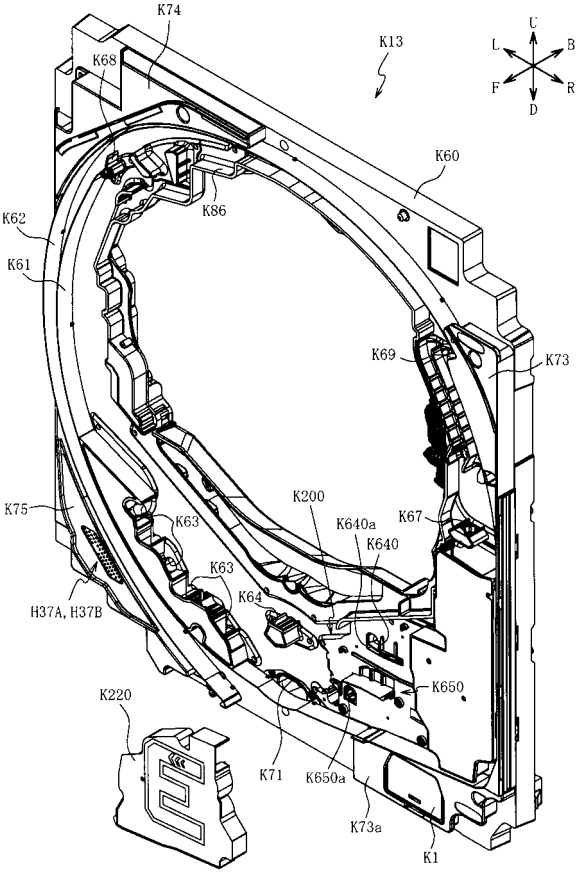
【図３５８】



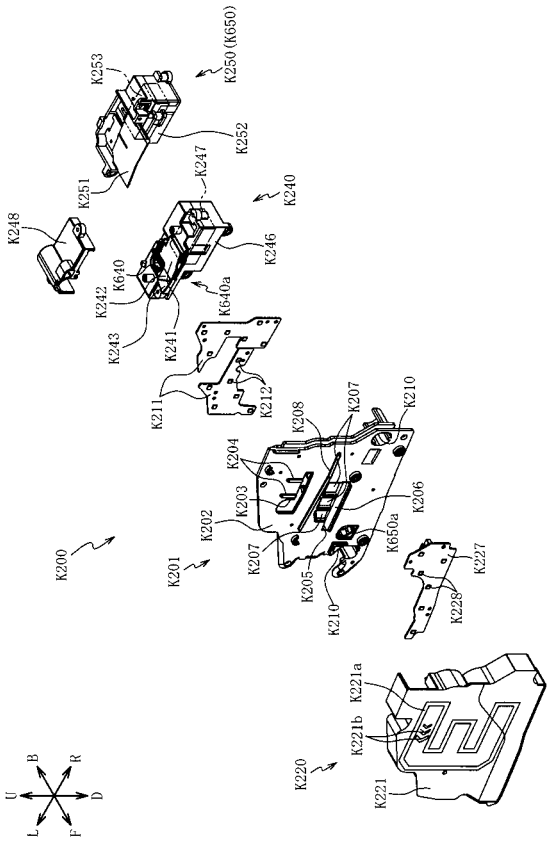
【図３５９】



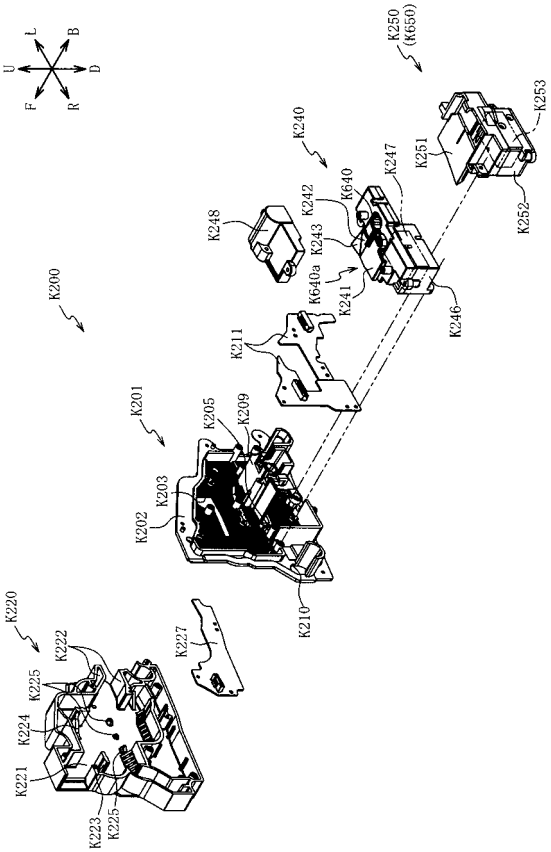
【図３６０】



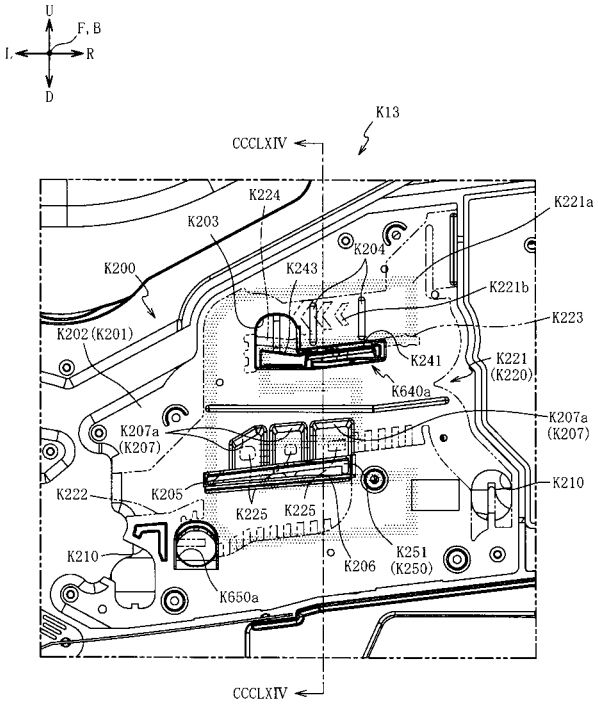
【図３６１】



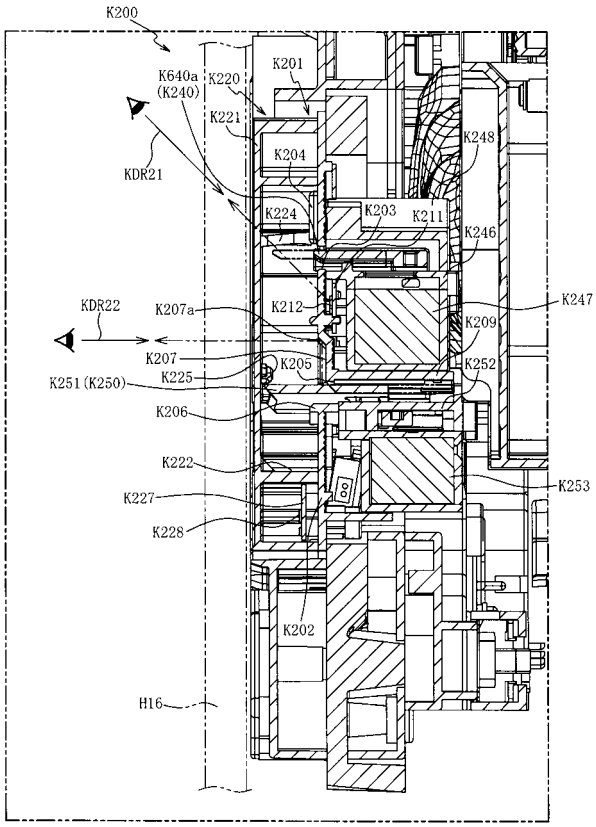
【図３６２】



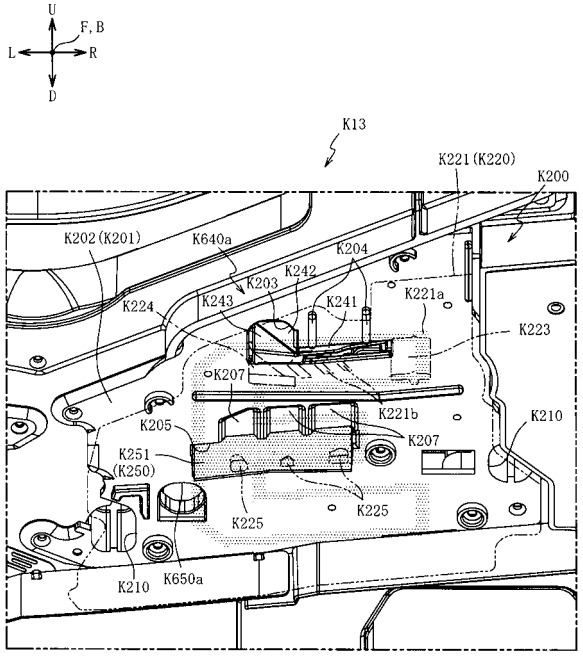
【図３６３】



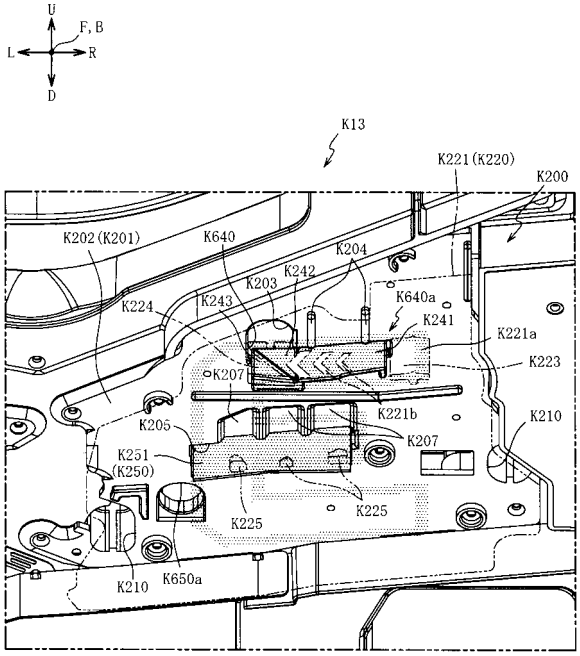
【図３６４】



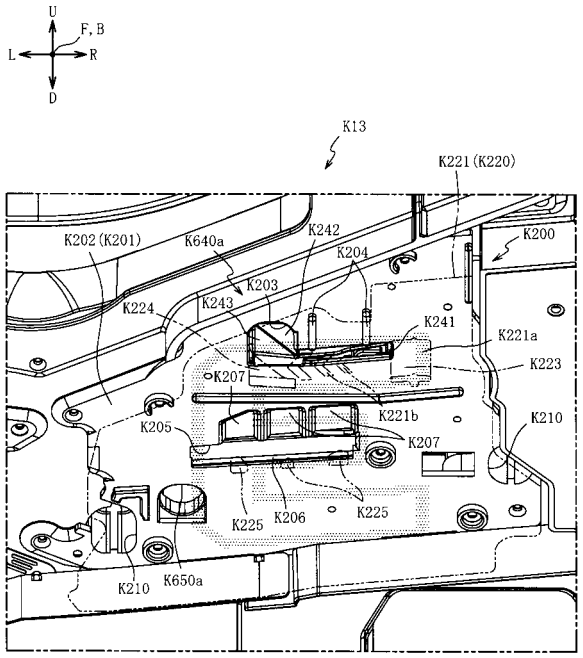
【図３６５】



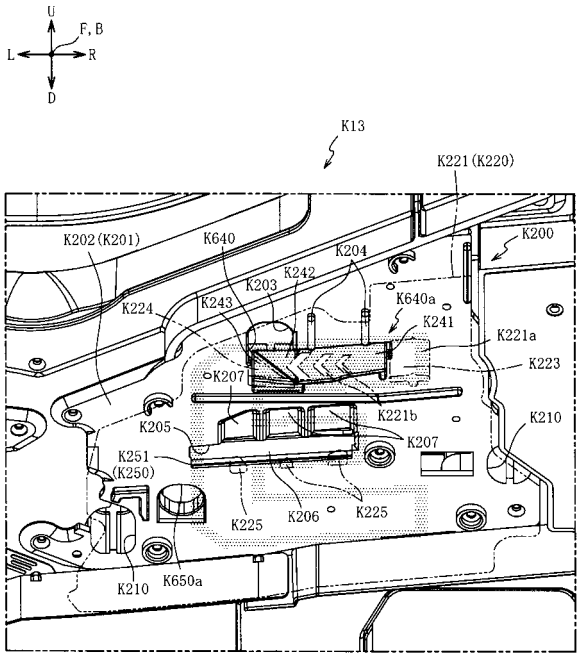
【図３６６】



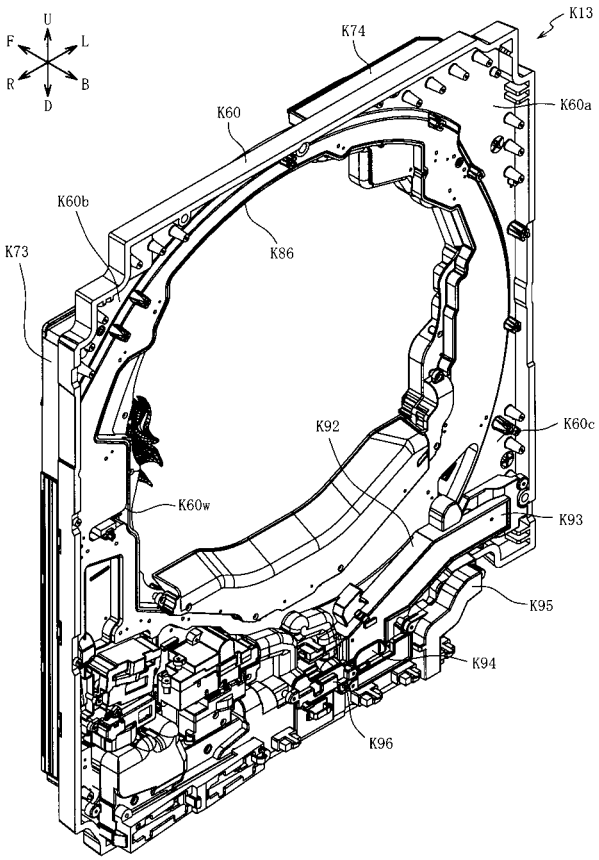
【図３６７】



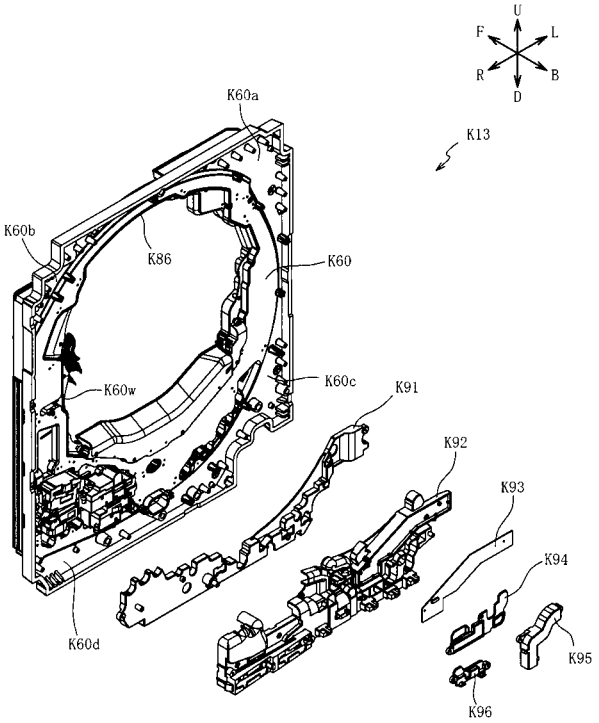
【図３６８】



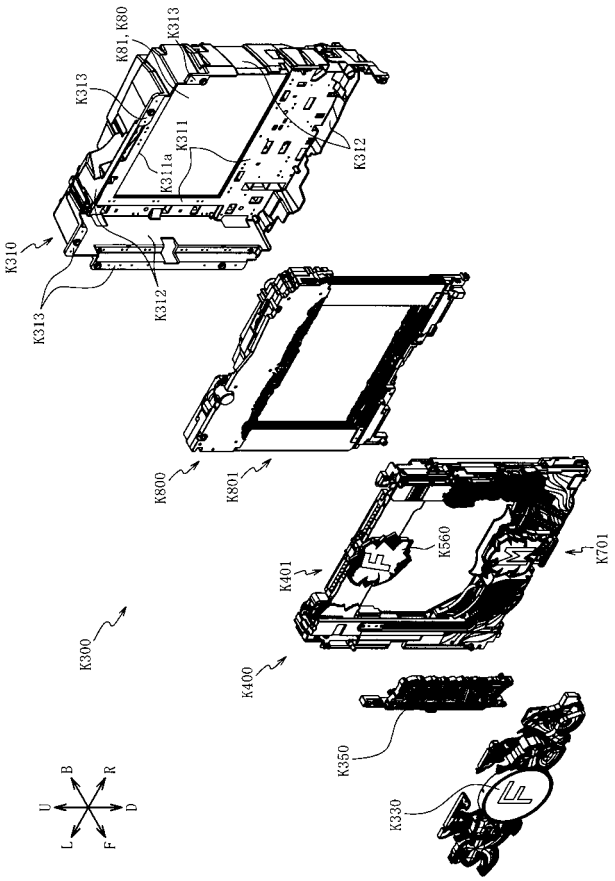
【図３６９】



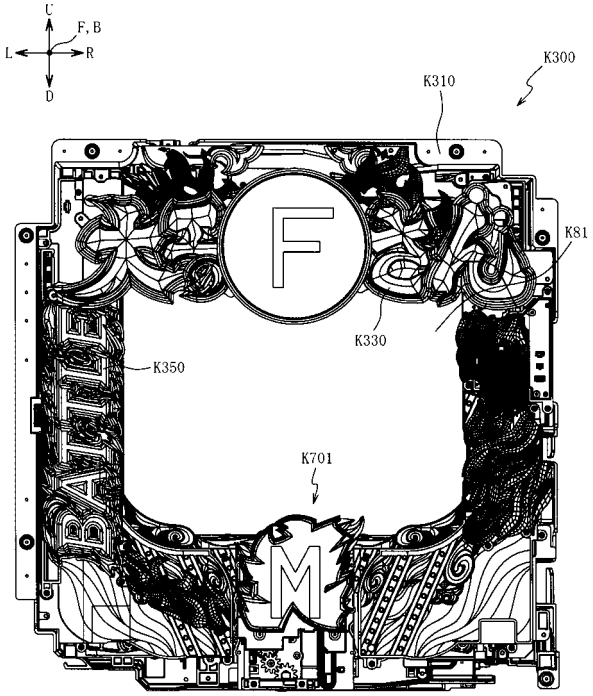
【図３７０】



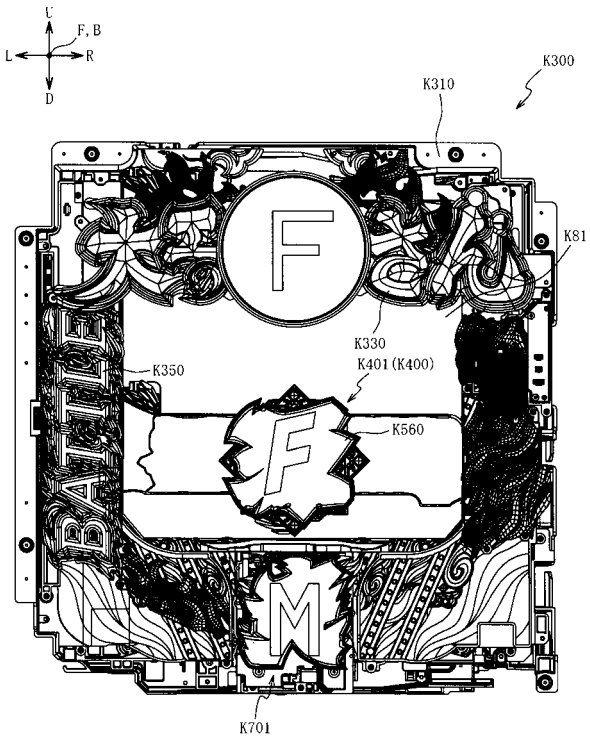
【図３７１】



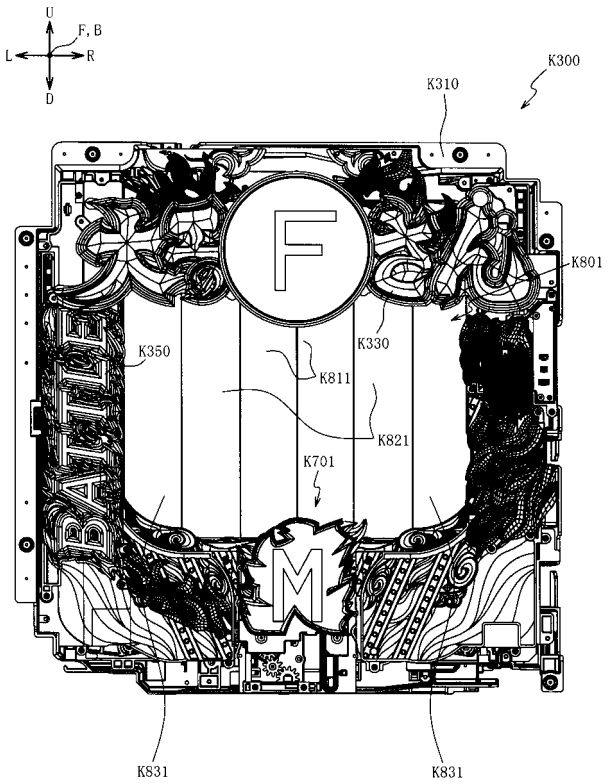
【図３７２】



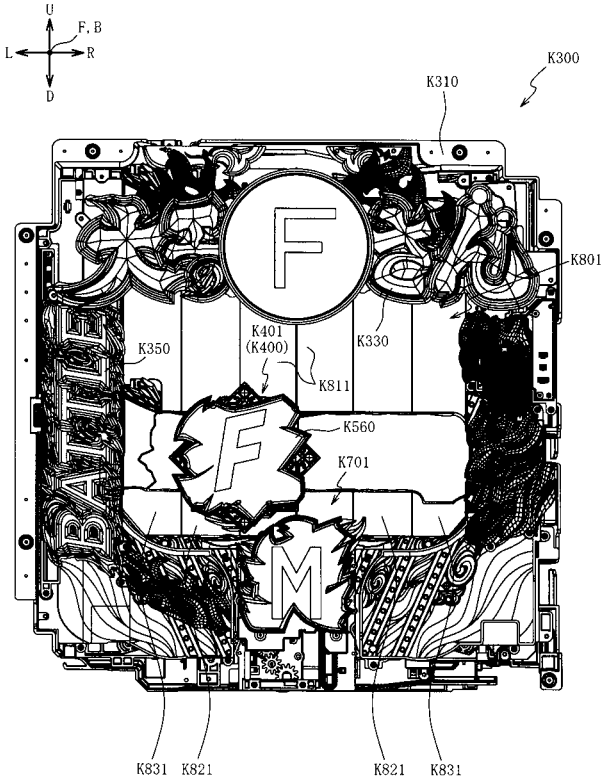
【図３７３】



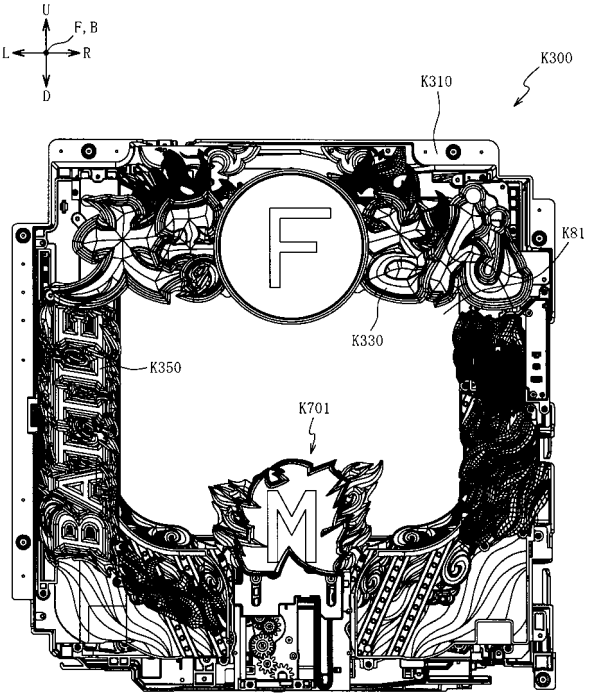
【図３７４】



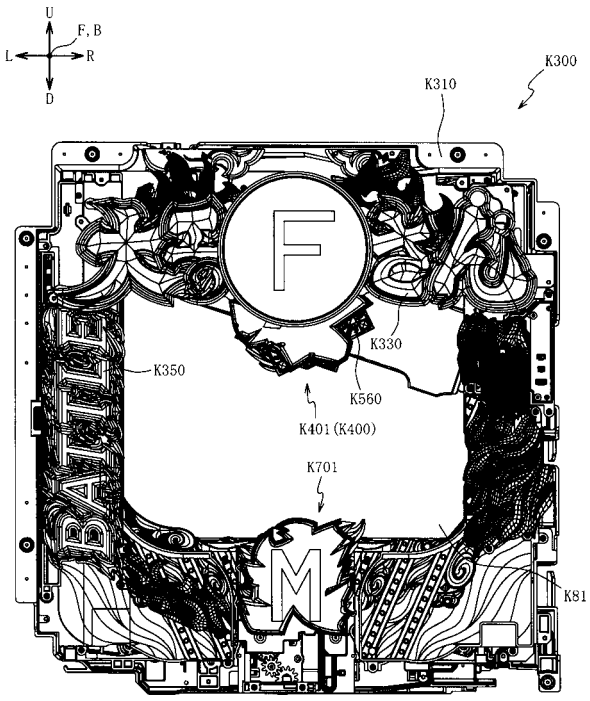
【図３７５】



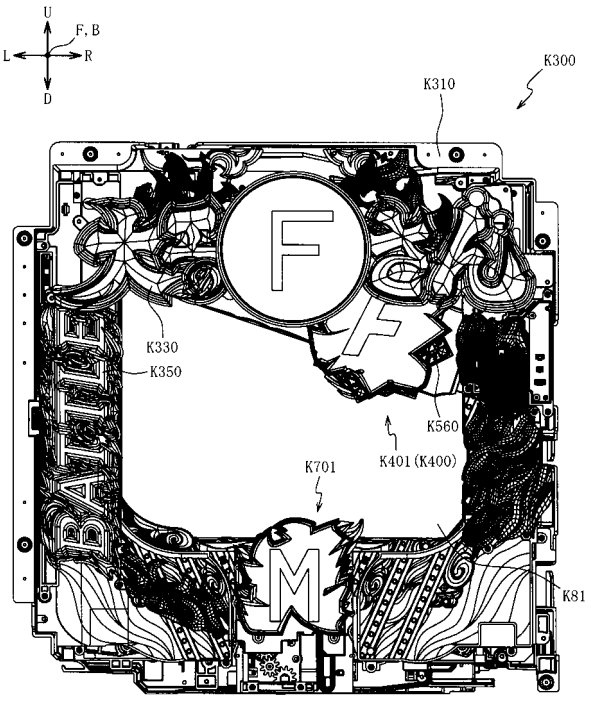
【図３７６】



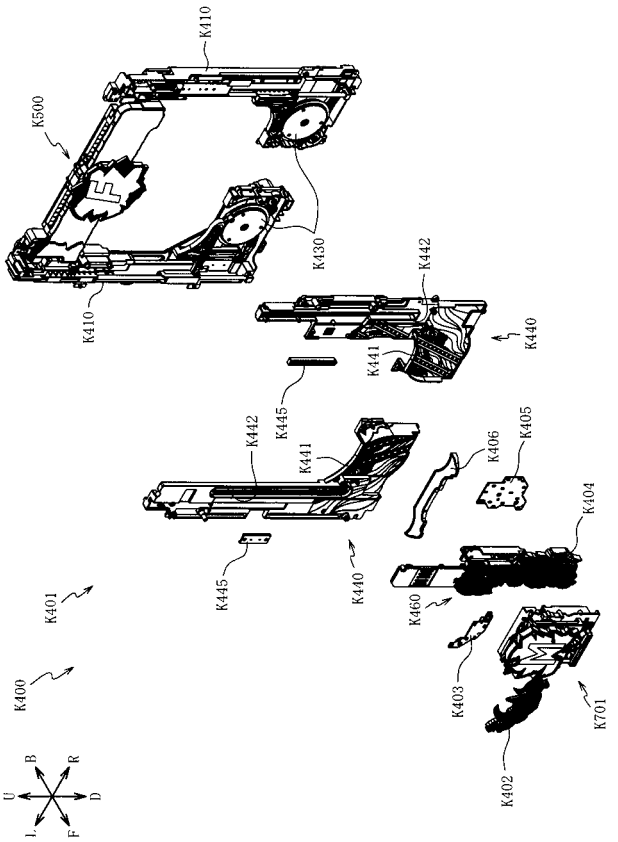
【図３７７】



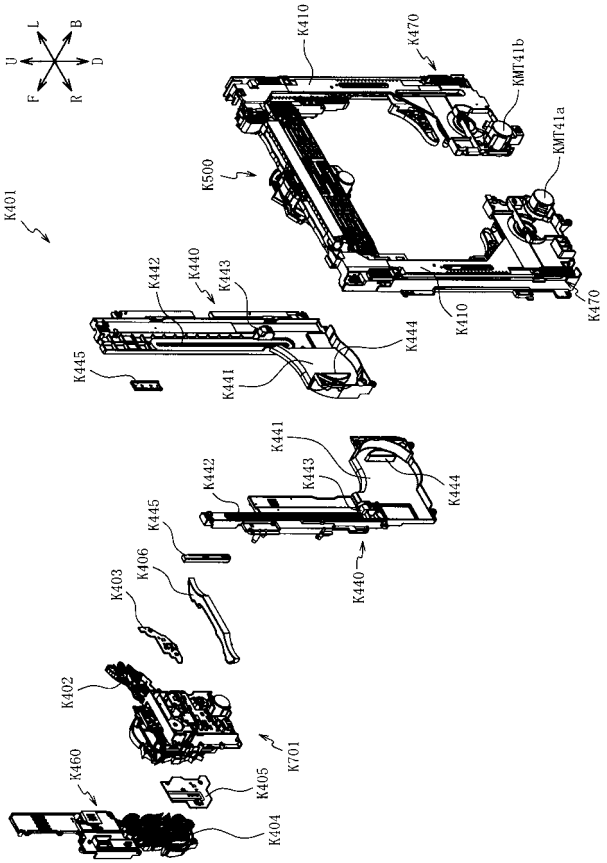
【図３７８】



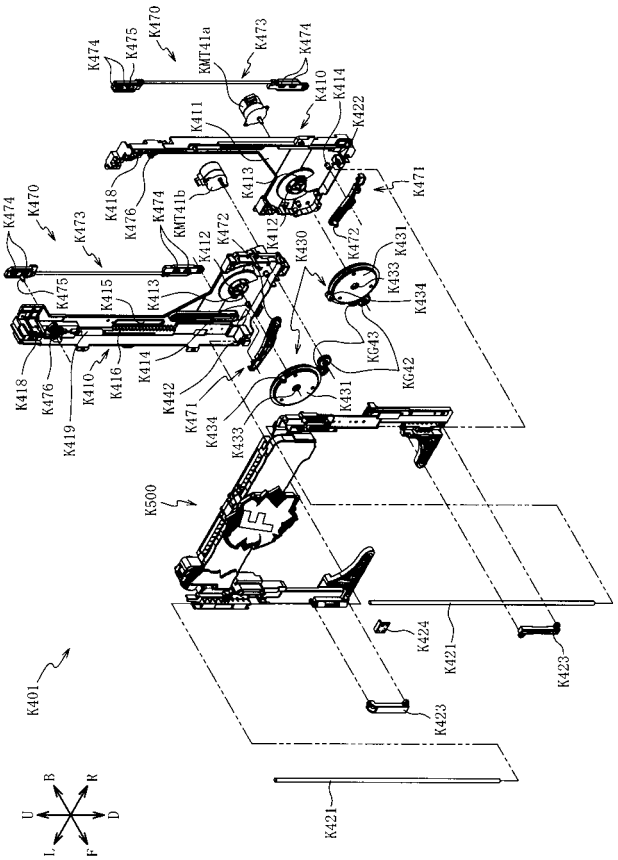
【図３７９】



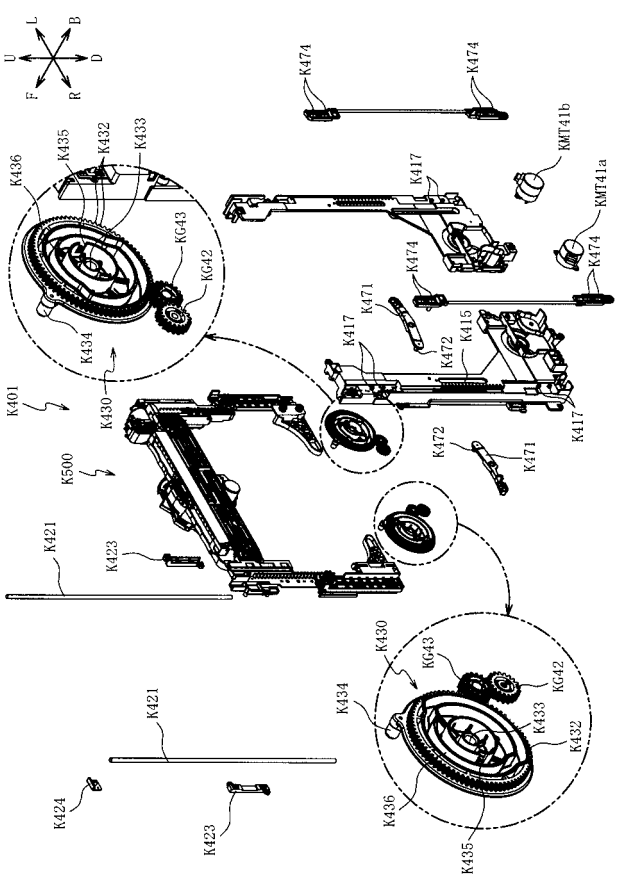
【図３８０】



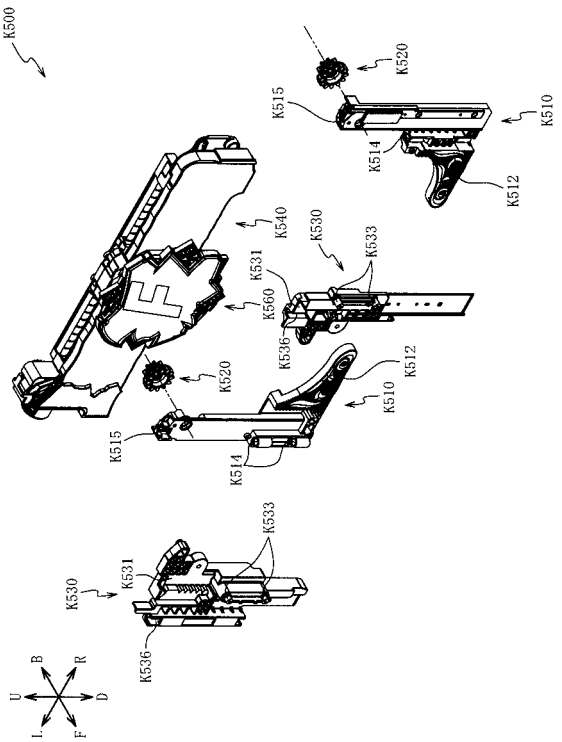
【図３８１】



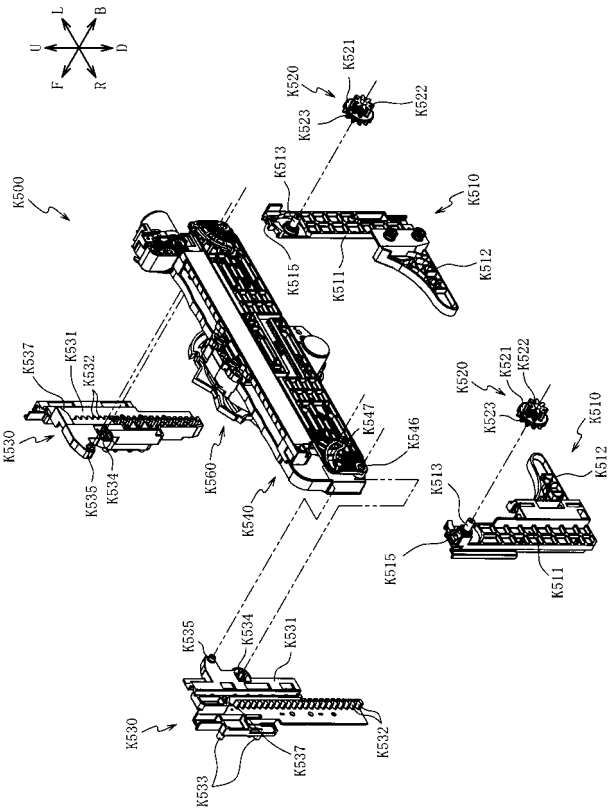
【図３８２】



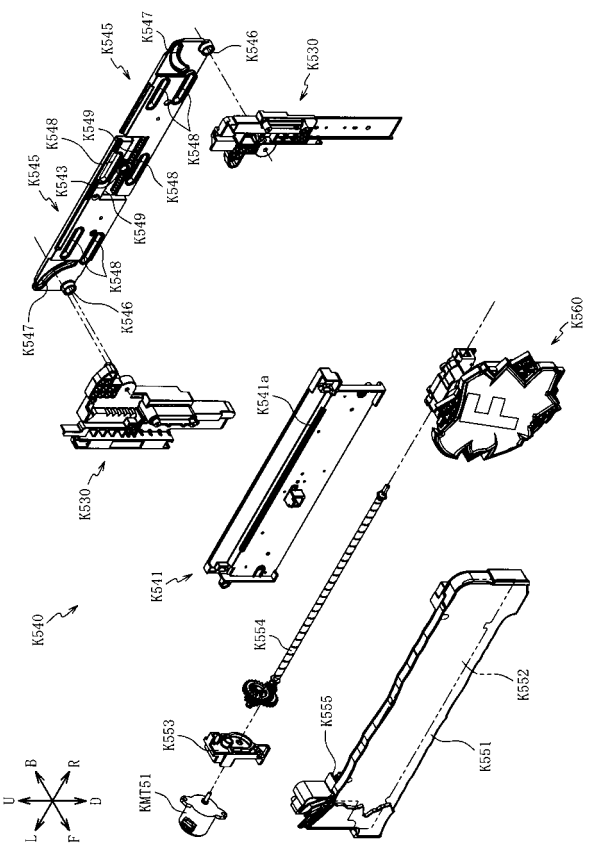
【図３８３】



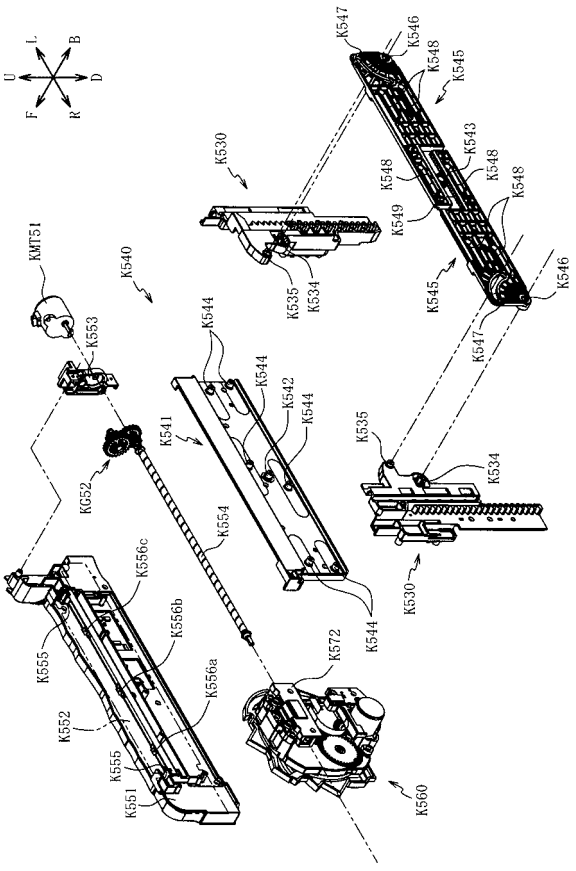
【図３８４】



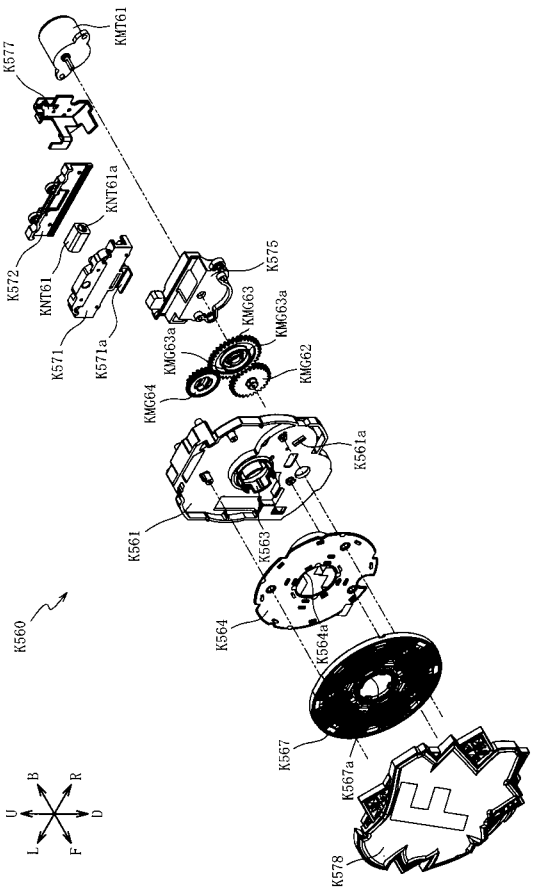
【図３８５】



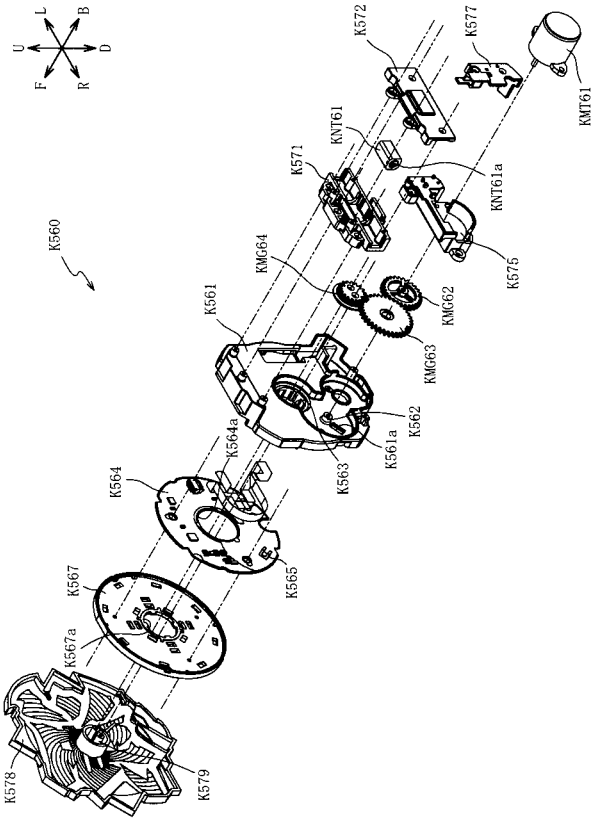
【図３８６】



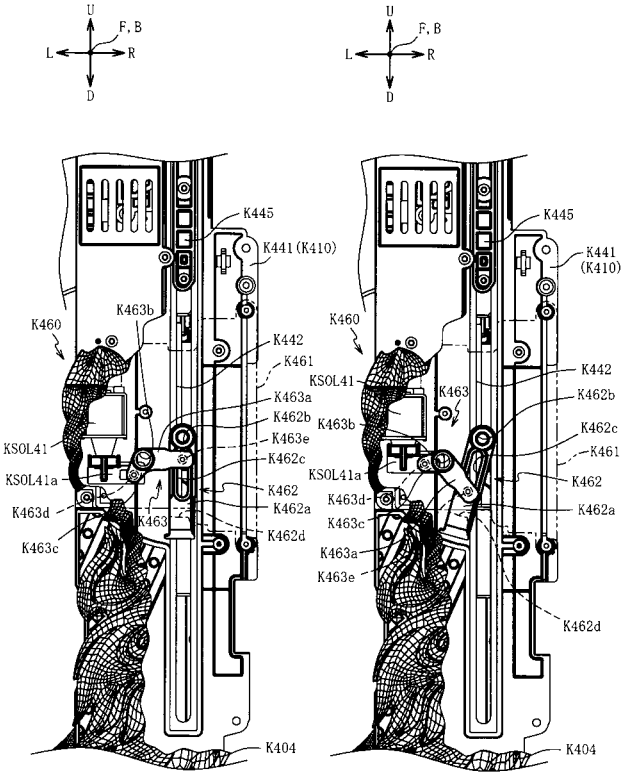
【図３８７】



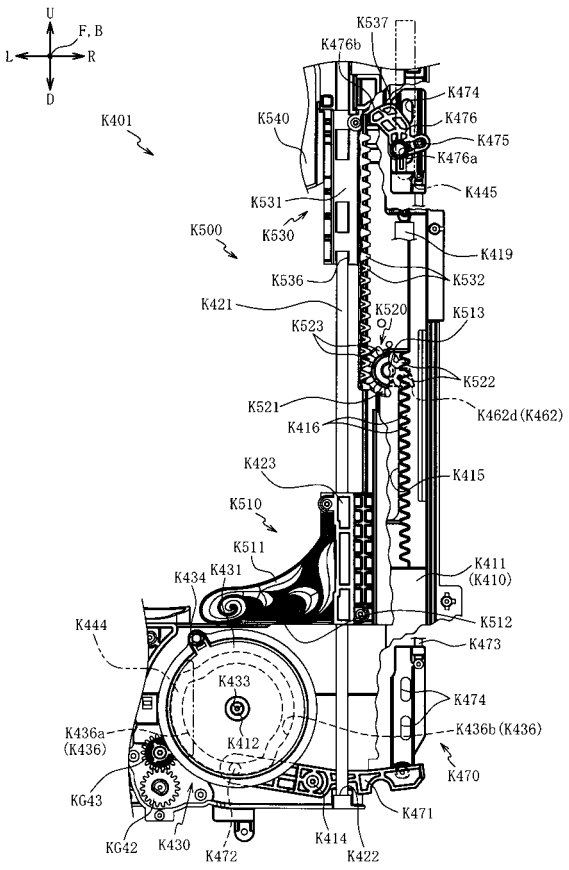
【図３８８】



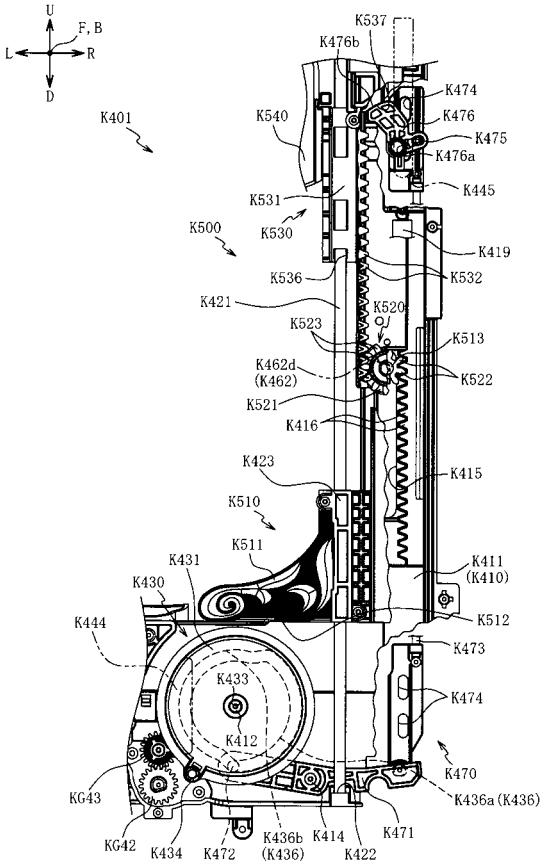
【図３８９】



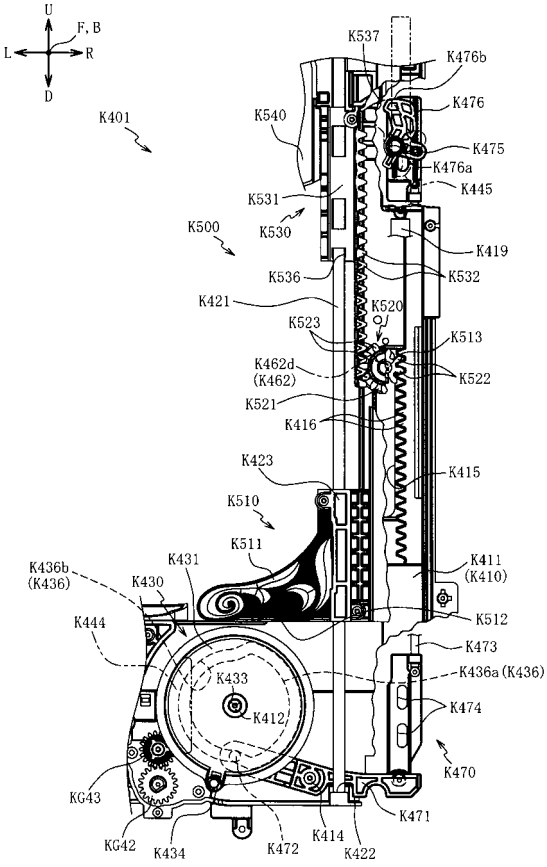
【図３９０】



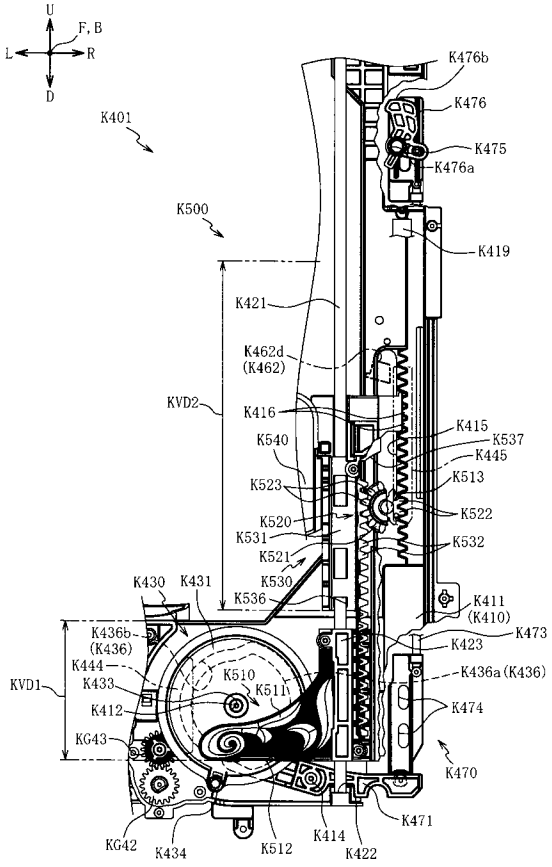
【図３９１】



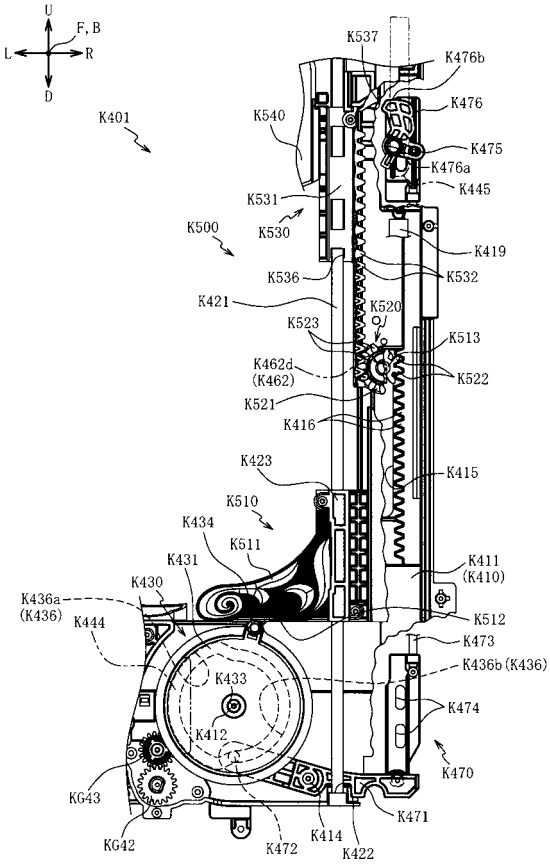
【図３９２】



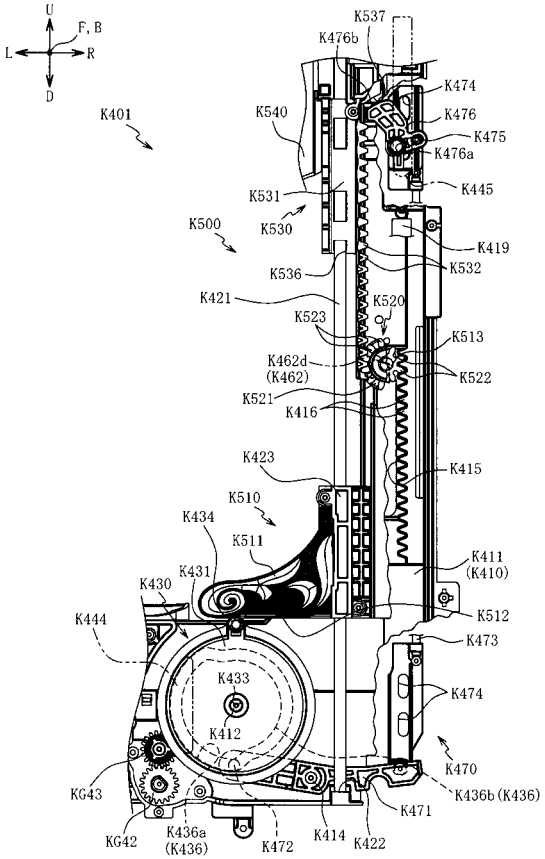
【図３９３】



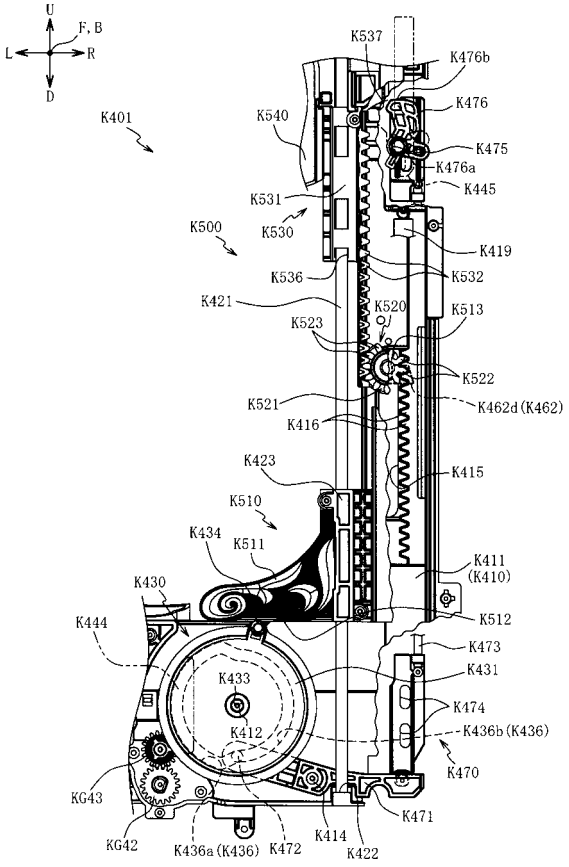
【図３９４】



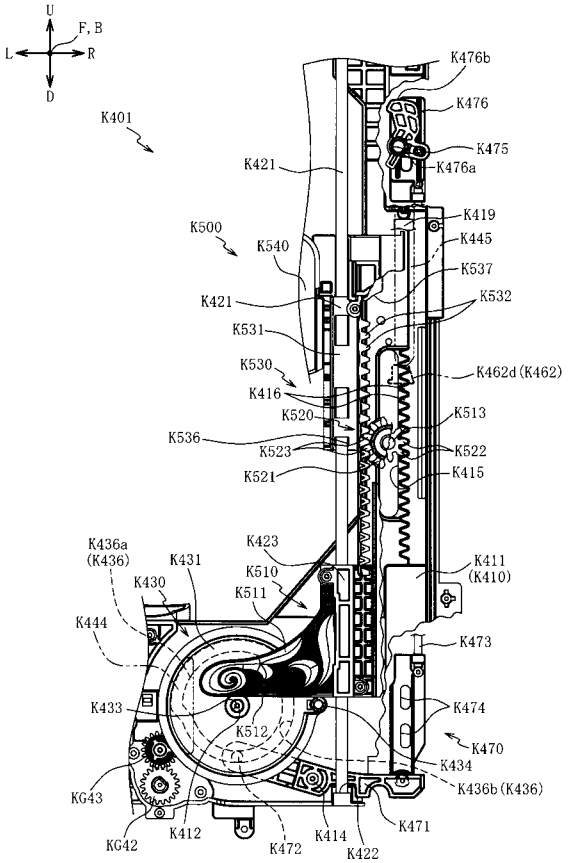
【図３９５】



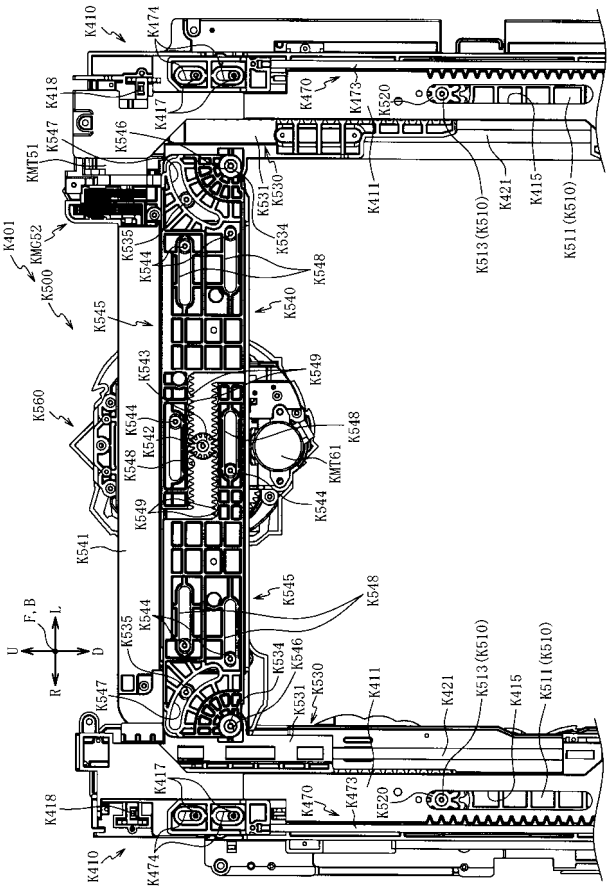
【図３９６】



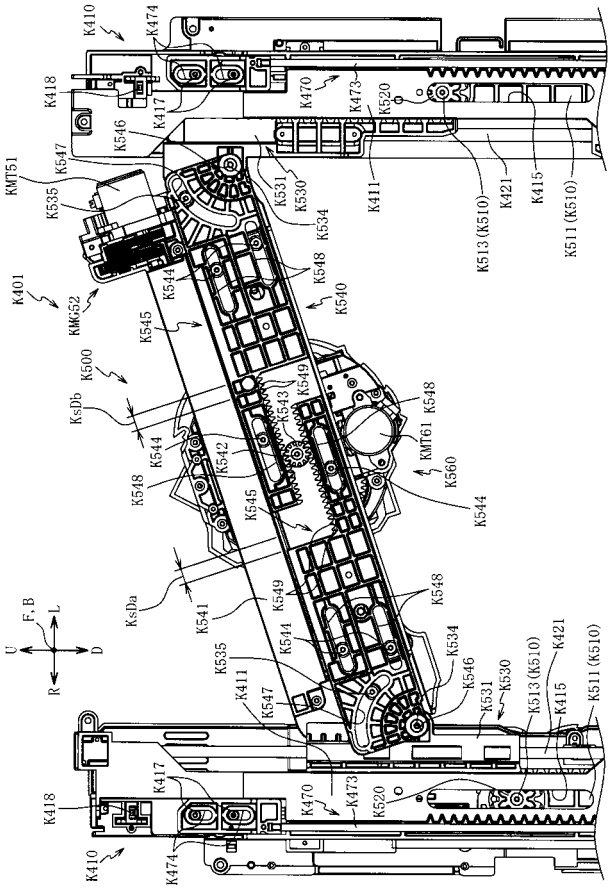
【図３９７】



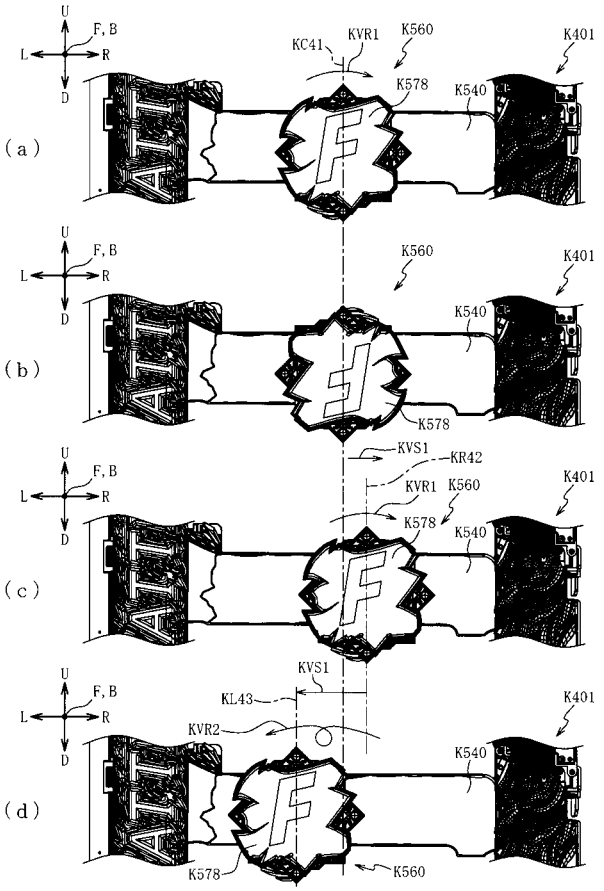
【図３９８】



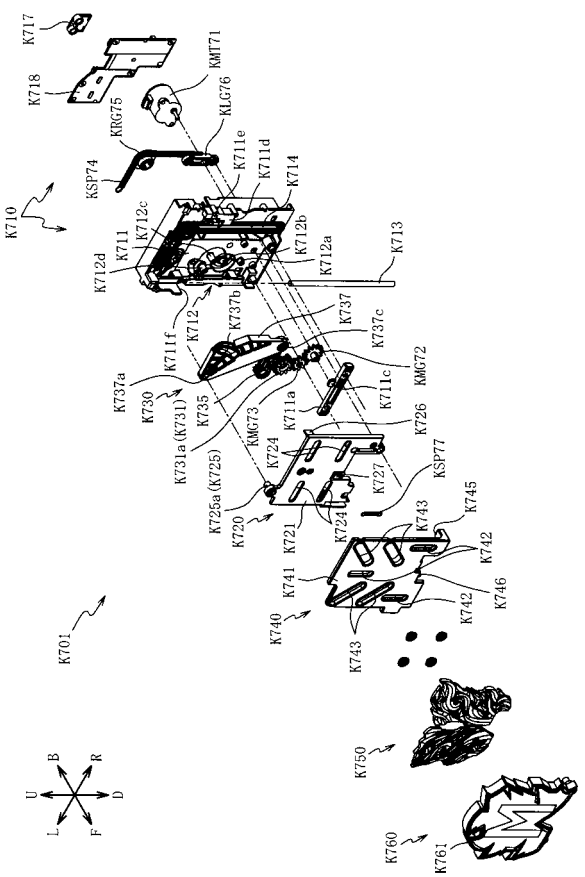
【図３９９】



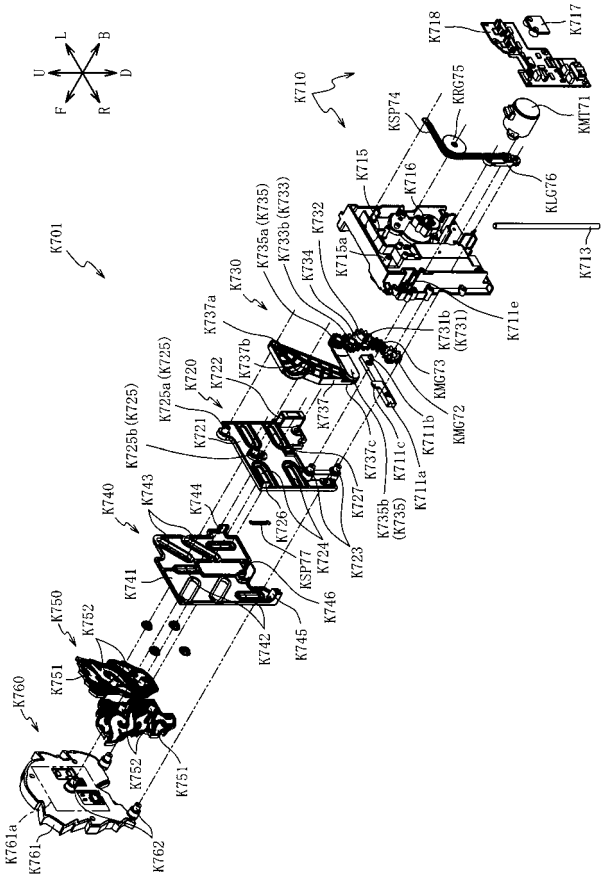
【図４００】



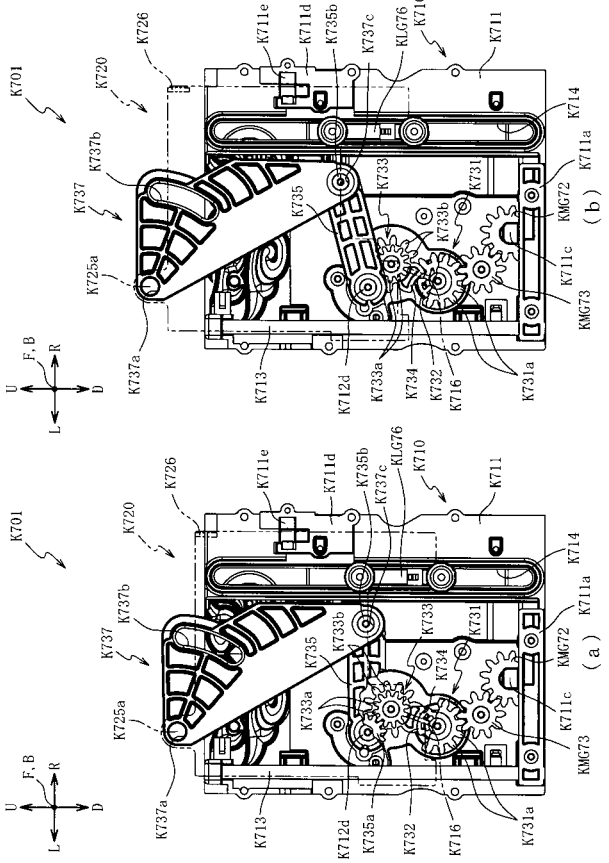
【図４０１】



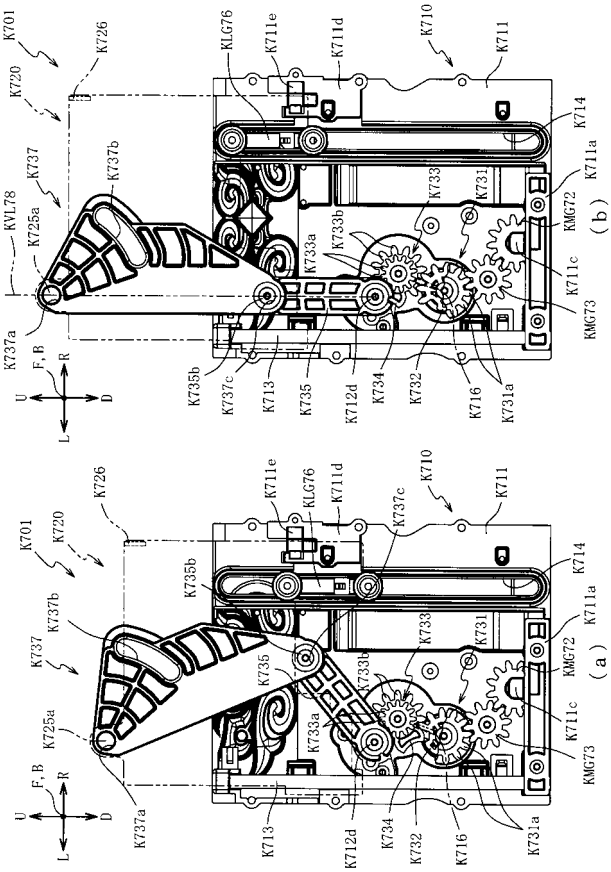
【図４０２】



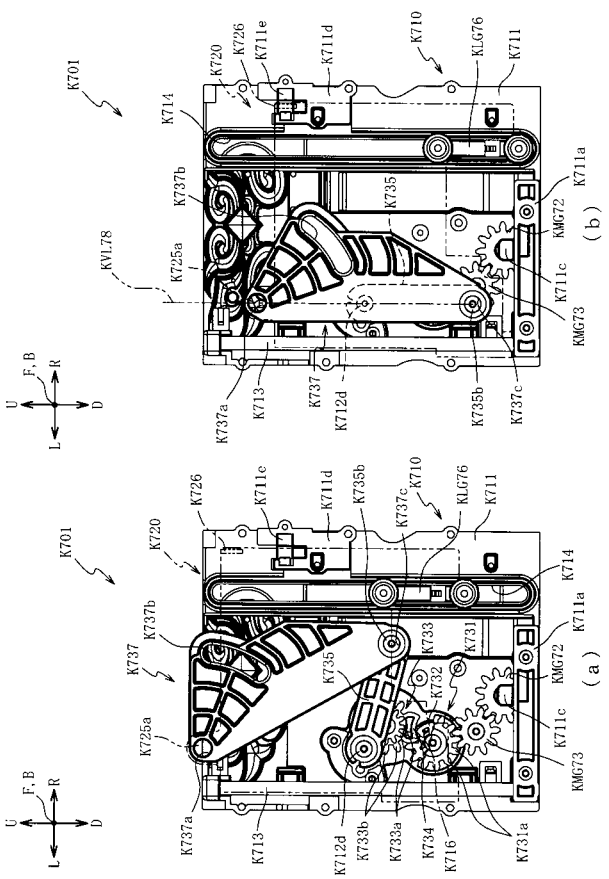
【図４０３】



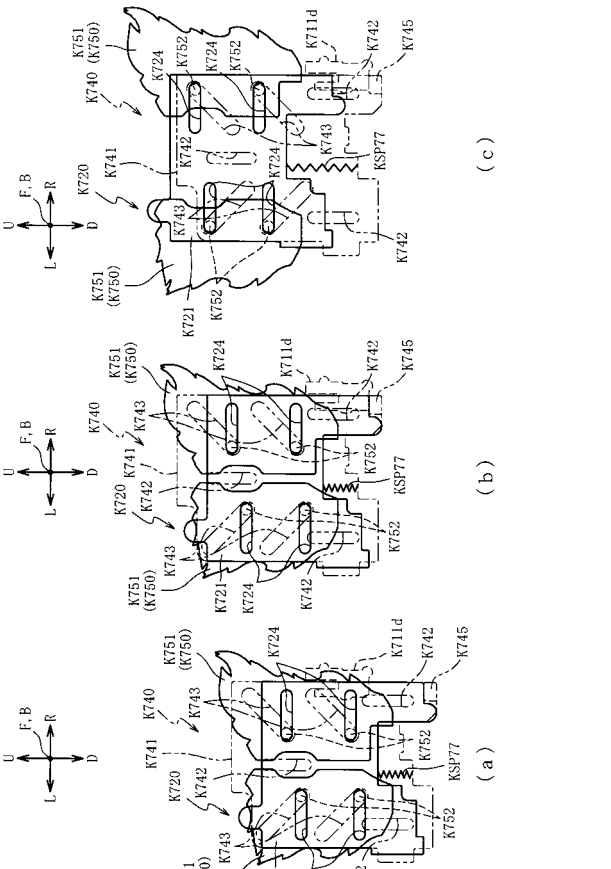
【図４０４】



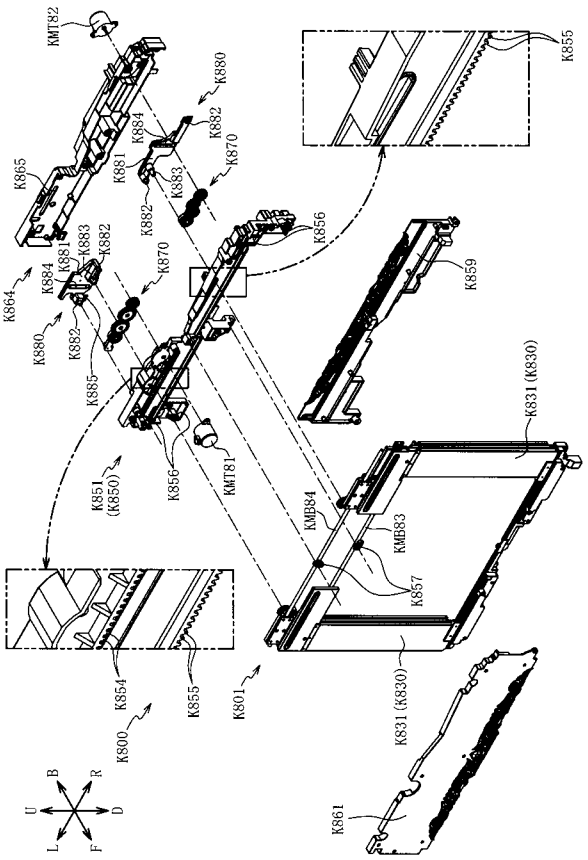
【図４０５】



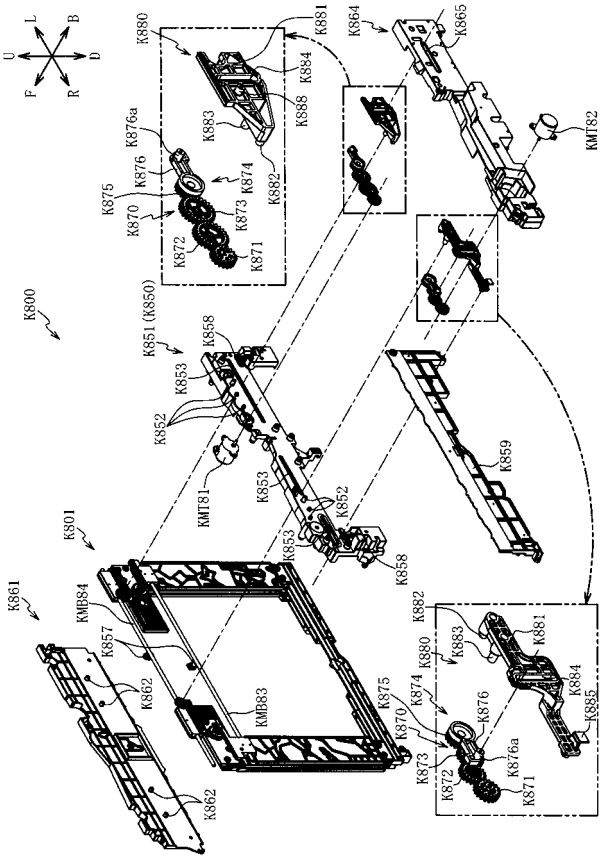
【図４０６】



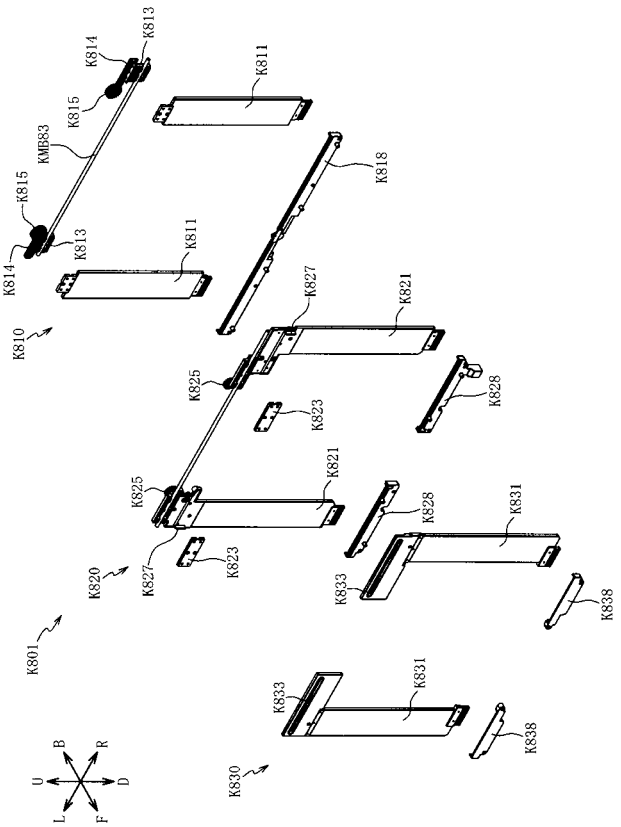
【図４０７】



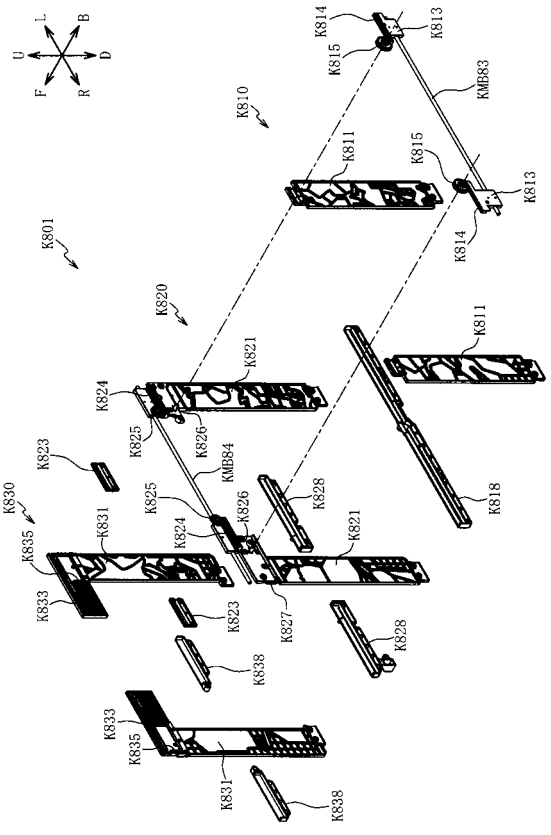
【図４０８】



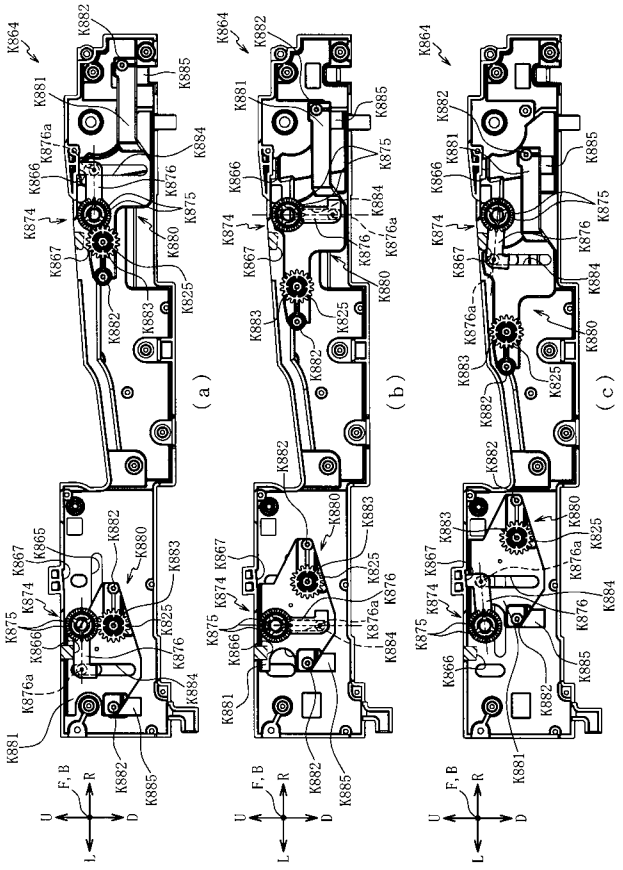
【図４０９】



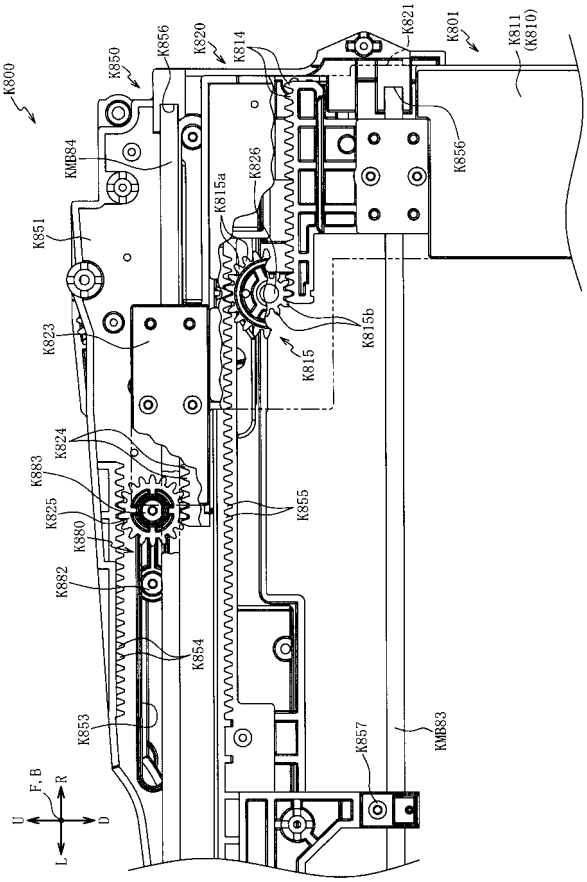
【図４１０】



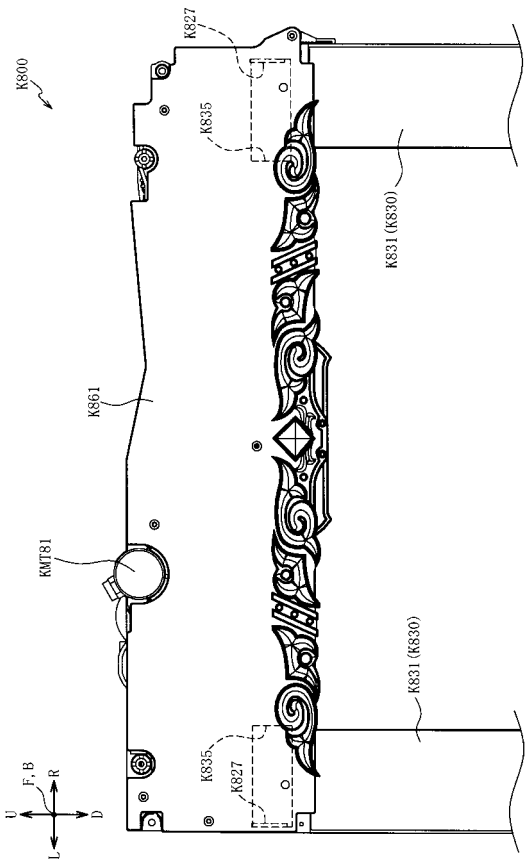
【図４１１】



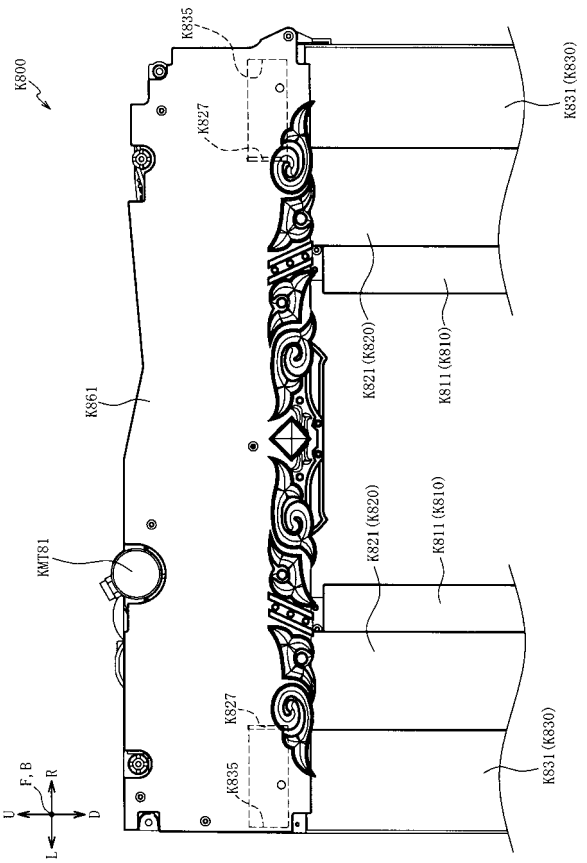
【図４１２】



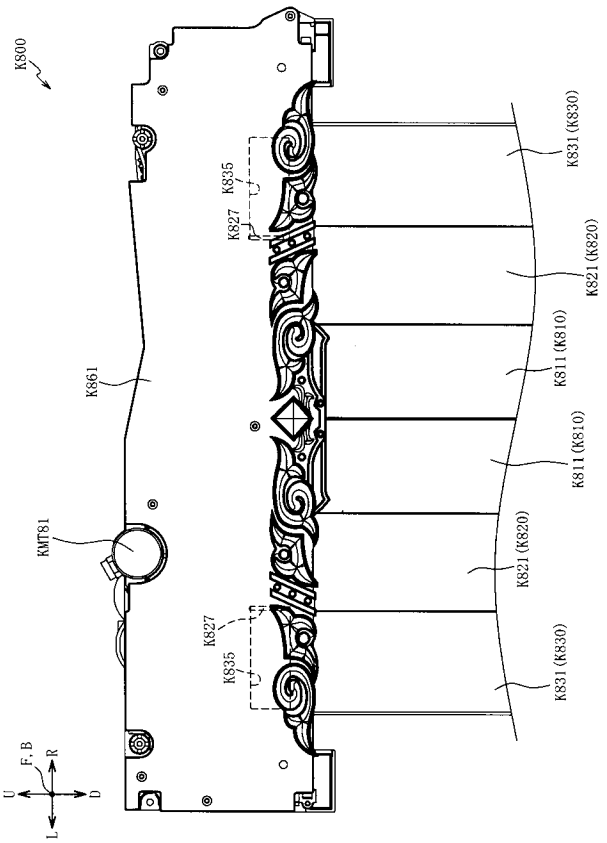
【図４１３】



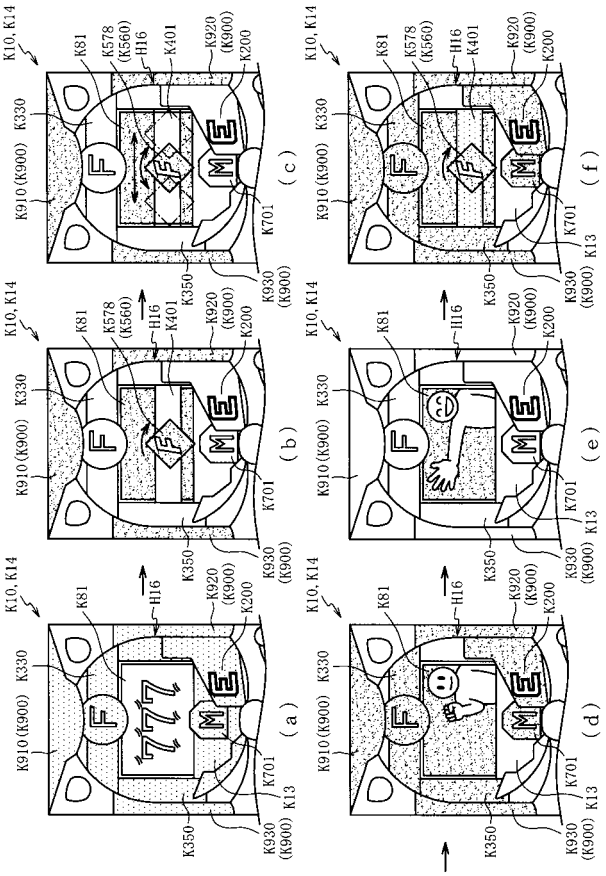
【図４１４】



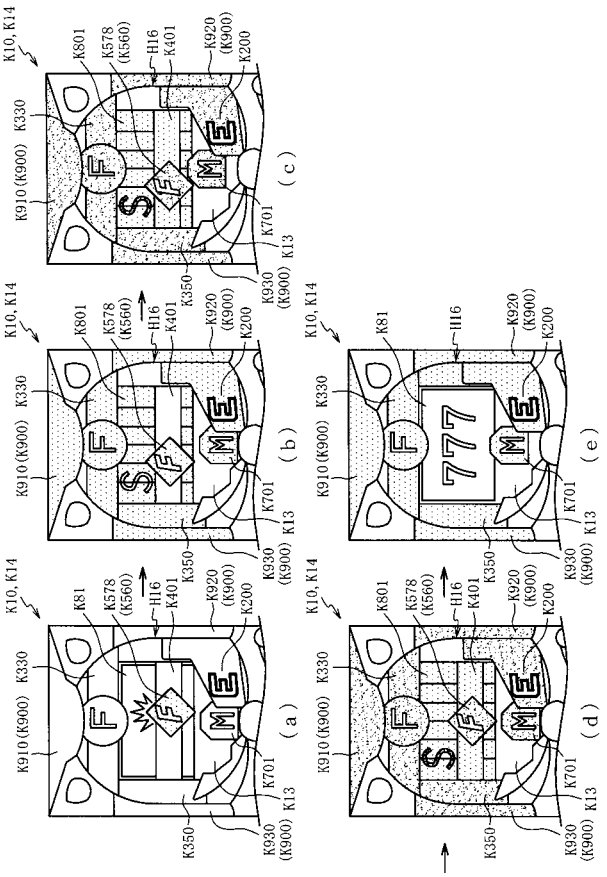
【図４１５】



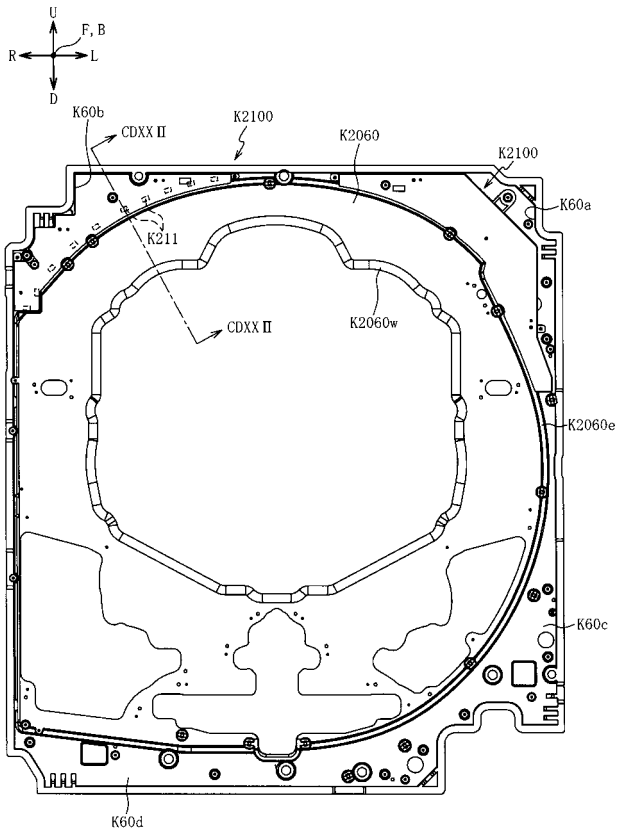
【図４１６】



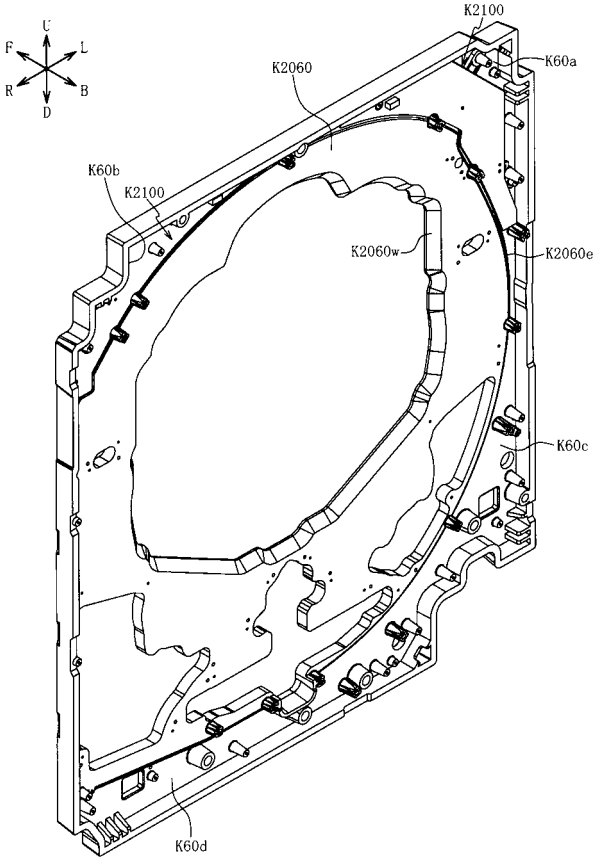
【図４１７】



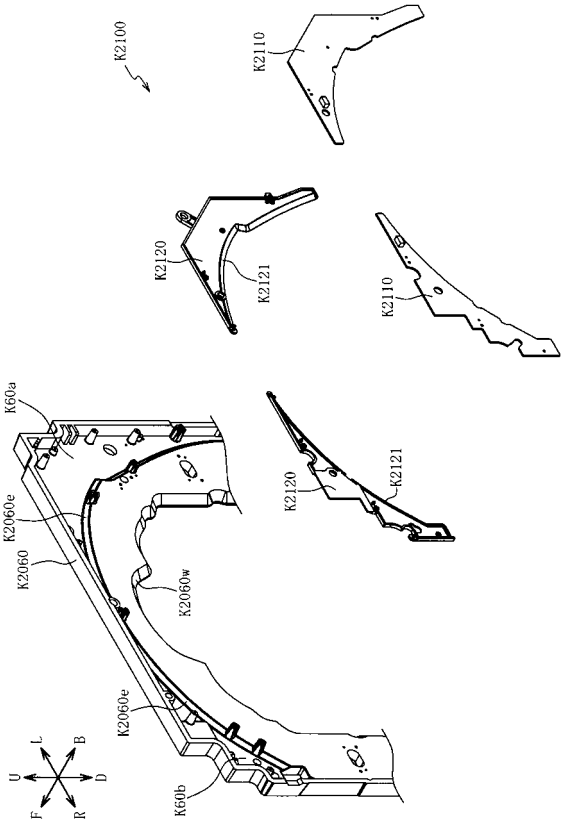
【図４１８】



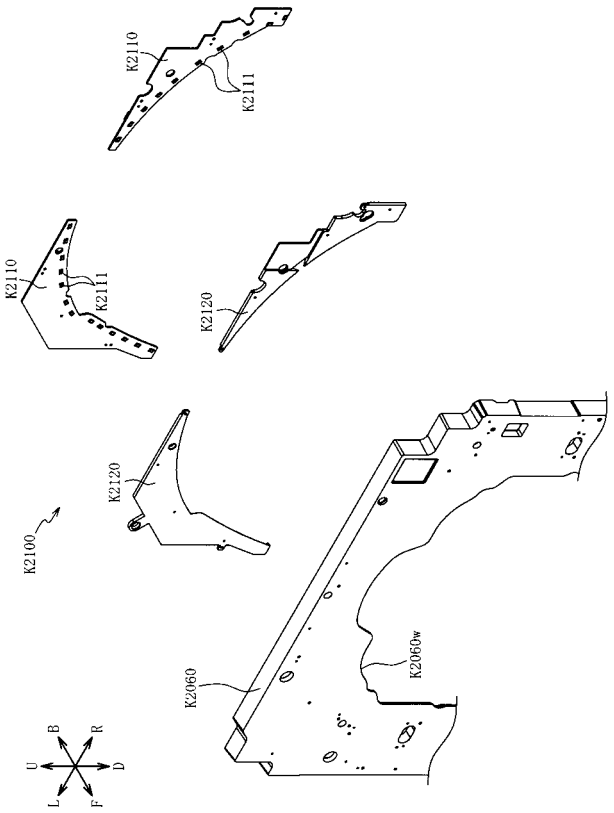
【図４１９】



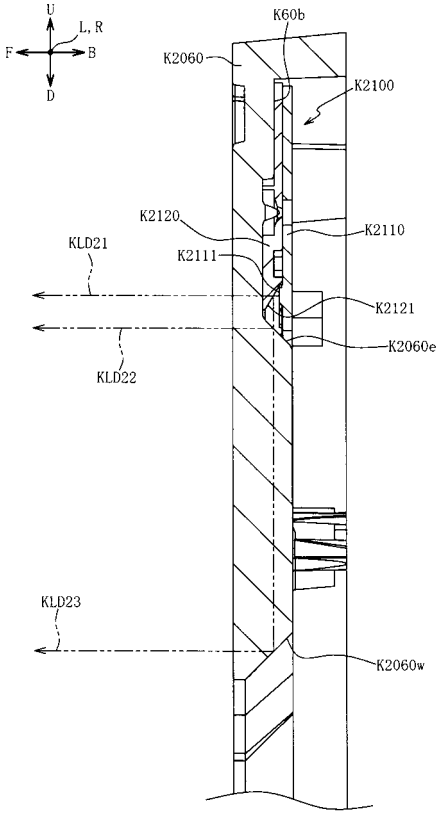
【図４２０】



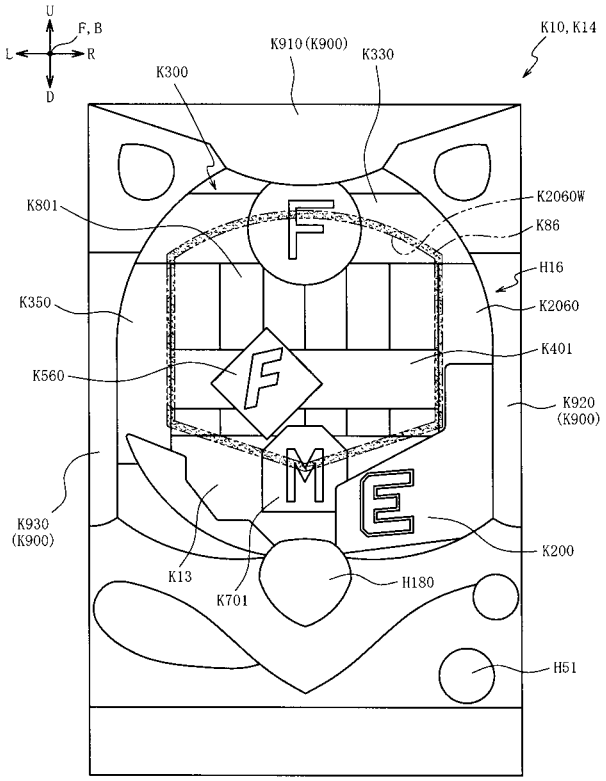
【図４２１】



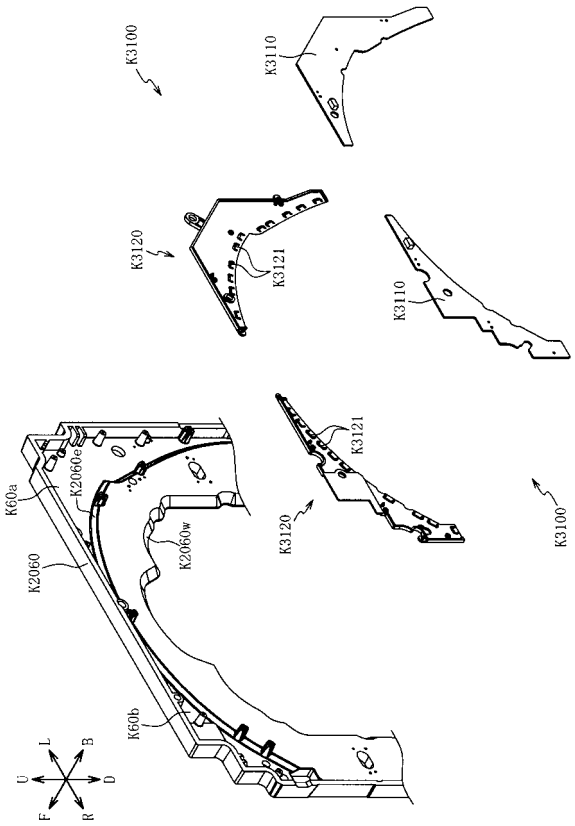
【図４２２】



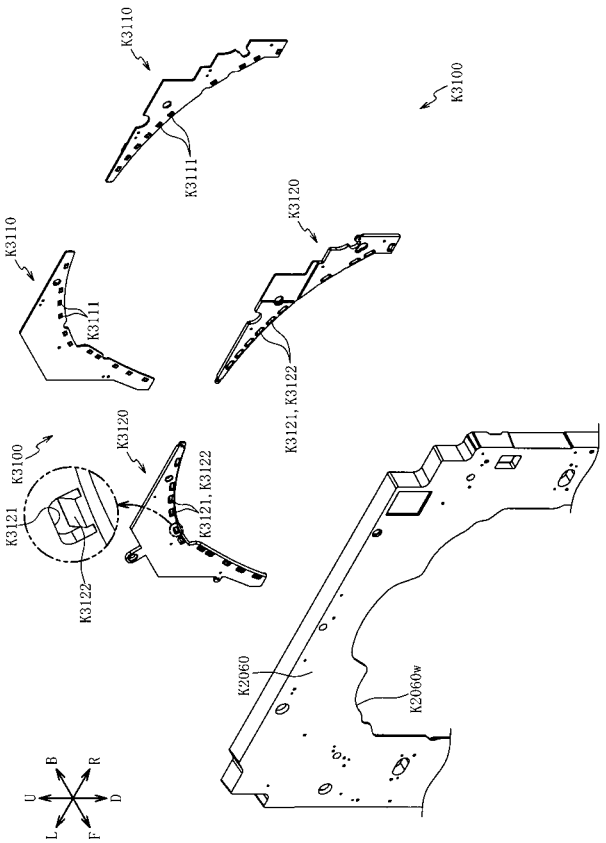
【図４２３】



【図４２４】



【図４２５】



【図４２６】

